servicenow

# ワシントンDCアプリケーションの構築または変更

最終更新日: **2025**年**12**月**17**日

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておりません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

自動翻訳

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

# 目次


N....4
アプリケーションの構築....5
ServiceNow Now Platform での開発についての学習....8
ServiceNow 開発者向け製品をすばやく検索....8
プログラミングの基礎....24
アプリケーションの構造....27
個人開発者インスタンスガイド....41
早期の可用性ガイド....55
ローコード開発とプロコード開発....58
アプリケーションの変更と構築....60
さまざまな UI エクスペリエンスを理解する....61
開発者向けのサポート....63
アプリケーションコラボレーション....64
コンテキスト開発環境....69
ライセンス....108
アプリケーションスコープにわたる作成制限....108
アプリケーションの計画立案....110
アプリ開発のためのアイデアの送信....111
アプリケーションのデータを指定....113
Delegated Development と展開....114
Table Administration....126
Team Development....247
アプリケーションの開発....285
App Engine でのローコードアプリケーションの構築....287
プロコードアプリケーションの構築....761
ビルダーライブラリ....1219
アプリケーションのテストとデバッグ....1704
ATF を使用したアプリのテスト....1705
アプリケーションの展開....2098
システム更新セット....2100
アプリケーションの管理....2139
アプリケーションのメンテナンス....2200


自動翻訳


© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

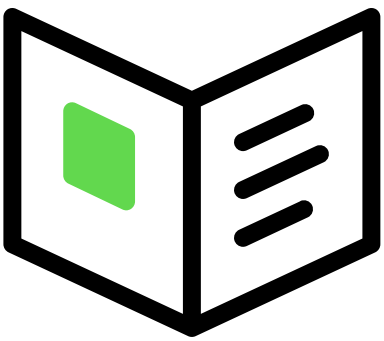
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# アプリケーションの構築

Now Platform ローコードツールを使用してアプリケーション開発者になる方法を学びます。知識のある所から始めて、再利用可能なコンポーネントと公開済みアプリケーションのライブラリを使用して、従来のプロセスを最新化するようにしてください。

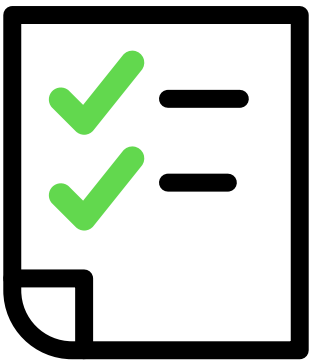
## 開始するには

### アプリケーション作成についての学習



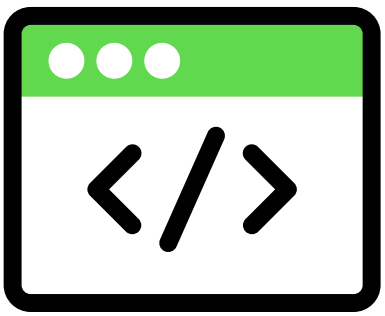
アプリケーション開発に関する基本情報を学びます。

### フェーズ **1:**アプリケーションの計画立案



アプリケーションの動作を計画します。

### フェーズ **2:**アプリケーションの開発

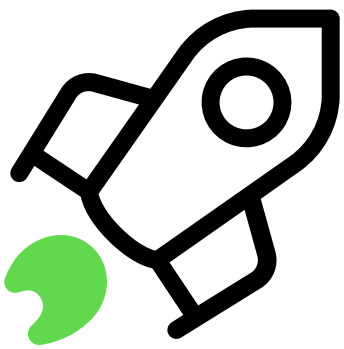


コンポーネントとコンテンツをアプリケーションに追加します。

### フェーズ **3:**アプリケーションのテストとデバッグ

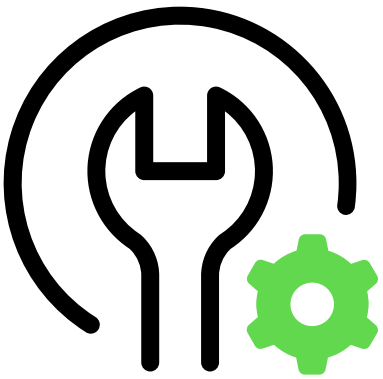
アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。

### フェーズ **4:**アプリケーションのデプロイ



アプリケーションを運用環境にデプロイします。

### フェーズ **5:**アプリケーションのメンテナンス



アプリケーションのステータスを確認し、必要に応じて変更します。

## アプリ開発フェーズ

アプリケーション作成についての学習

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

新しいアプリケーションを構築するか、既存のアプリケーションを拡張するかを決定します。既存のソリューションについては、ServiceNow Store と ServiceNow Community を確認してください。

最初のアプリケーションを構築する前に、アプリケーション開発に関する基本情報を理解しておく必要があります。このフェーズはオプションであり、他のフェーズの作業中にいつでも完了することができます。

- ServiceNow AI Platform がテーブルとレコードでどのように構成されているか。スプレッドシートをレコードデータに変換する方法を学習します。
- アプリケーションの作成を練習するために開発インスタンスの取得方法。
- サブスクリプションが必要なアプリケーション機能のライセンスを確認する方法。
- アプリケーション開発について質問するための開発者向けのサポートへの連絡方法。

## フェーズ 1：アプリケーションの計画立案

アプリケーション開発プロセスは計画立案から始まります。そのアプリケーションがどのように機能するか、誰が使用するか、それによってユーザーエクスペリエンスがどのように向上するかを検討してください。アプリケーション計画では、次の質問に答える必要があります。

- アプリケーションの目標、目的、および出力は何ですか？
- 誰がアプリケーションを使用しますか？
- アプリケーションのパーツにアクセスできるのは誰ですか？
- ユーザーはアプリケーションを使用してどのようなタスクを実行しますか？
- データをどこから取得しますか？
- ユーザーはどのような方法でアプリケーションを操作しますか？
- アプリケーションはどのようなプロセスをサポートする必要がありますか？
- アプリケーションはどのような UI エクスペリエンスを使用しますか？
- 使用または拡張できる ServiceNow Store または ServiceNow Community で利用可能な既存のアプリケーションはありますか？
- アプリケーションにはどのサブスクリプションが必要ですか？

## フェーズ 2：アプリケーションの開発

開発フェーズでは、アプリケーションのコンポーネントとコンテンツを追加します。ほとんどのアプリケーションは、次の要素で構成されています。

データ

情報は、構成したテーブルを介してアプリケーションに保存されます。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。

エクスペリエンス

エクスペリエンスは、ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。

ロジックと自動化

ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときに管理者に通知を送信するフローを構築できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティ

ロールとアクセス制御を構成して、アプリケーションを使用できるユーザーを限定します。たとえば、アプリケーションデータへのアクセスを、特定のロールを持つユーザーに制限できます。

アプリケーションが提供するユーザーエクスペリエンスのタイプに一致するビルダーを選択してください。

- ローコード開発の詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリの構築」を参照してください。
- フローデザイナー または プレイブック を使用した自動化の作成については、「Build workflows」を参照してください。
- 特殊なアプリケーションリソースについては、「ビルダーライブラリ」を参照してください。

### フェーズ 3：アプリケーションのテストとデバッグ

アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。 テストには次の要素を含める必要があります。

- 作成、読み込み、更新、削除などのレコード操作
- ビューや UI ポリシーなどのユーザーインターフェイス要素
- ビジネスルールやイベントスクリプトアクションなどの実行時の操作

### フェーズ 4：アプリケーションの展開

アプリケーションをテストしたら、ビルダーツールを使用して本番環境に展開します。

- App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理 の詳細については、「App Engine 管理センター」を参照してください。
- ServiceNow アプリケーションリポジトリ の詳細については、「アプリケーションリポジトリ」を参照してください。
- 更新セットを使用した従来の展開については、「システム更新セット」を参照してください。

### フェーズ 5：アプリケーションのメンテナンス

フェーズ 2 ビルダーツールを使用して、アプリケーションを更新および変更します。
フェーズ 3 テストツールを使用して、アプリケーションが引き続き正常に機能することを検証します。

## アプリケーションと機能

- ServiceNow Now Platform での開発についての学習
- アプリケーションの計画立案
- アプリケーションの開発
- アプリケーションのテストとデバッグ
- アプリケーションの展開
- アプリケーションのメンテナンス

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# ServiceNow Now Platform での開発についての学習

ServiceNow の Creator Workflow 製品を使用すると、強力な Now Platform で実行される直感的なエクスペリエンスを作成できます。

## このドキュメントの内容

このドキュメントを使用して、次の方法を確認します。

- すべて検索 ServiceNow 開発者向け製品
- ローコードとプロコードの開発を理解する
- 理解 ServiceNow ライセンス
- 開発者としてサポートを受ける
- さまざまなことを理解する ServiceNow ユーザーインターフェイス
- 開発者としての基礎を学ぶ

読者フィードバック機能を使用して、他のトピックを提案してください。

# ServiceNow 開発者向け製品をすばやく検索

Now Platform で優れた製品を構築するのに役立つ ServiceNow 開発者向け製品を検索します。

## 必要な開発者向け製品を見つける

ServiceNow 開発者向け製品を検索するには、次のツールを使用します。

- ServiceNow ウィジェット 開発者向け製品を案内する
- ServiceNow テーブル 開発者向け製品を一覧表示する

どこから始めればよいかわからない場合は、営業担当者にお問い合わせください。解決しようとしている問題とその解決方法を理解するのに役立ちます。

## ServiceNow 開発者向け製品の検索

次のウィジェットを使用して、強力な Now Platform で実行されるアプリケーションの作成に役立つ ServiceNow 開発者向け製品を検索します。

## アプリケーションの構築に役立つ製品を検索

適切な ServiceNow 開発者向け製品と情報を見つけるには、次のいずれかのタイルを選択します。

| 私はコーディングに慣れています | 私はコードを書いたり、スクリプトを書いたりしません |
| --- | --- |
| | |
| カスタムコードでアプリを構築します ServiceNow 。 | ローコード環境内でアプリを構築 ServiceNow します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

何を実行しますか？

以下のオプションを選択します。

| | | |
|---|---|---|
| アプリの構築<br> <br>プラットフォームでの開発 ServiceNow について説明します。 | 自分のアプリを管理する<br> <br>アプリケーションをカスタマイズします ServiceNow 。 | 顧客とのエンゲージメント<br> <br>プラットフォームを使用して ServiceNow 顧客とコミュニケーションを取る方法について説明します。 |
| レポートの作成<br> <br>ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。 | プラットフォームの詳細ServiceNow<br> <br>プラットフォームで何が ServiceNow できるかをご覧ください。<br> | ヘルプ<br> <br>プラットフォームに役立つ ServiceNow リソースを検索します。 |

アプリの構築

ServiceNow プラットフォームを使用してアプリを構築します。

| | |
|---|---|
| AES<br> <br>開発と展開を迅速に行うため、構造化された環境でアプリを構築します。 | モバイルアプリビルダー<br> <br>モバイルアプリケーションを構築します ServiceNow 。<br> |
| **VS Code** 拡張機能<br> <br>VS Code 向け ServiceNow 拡張を活用して、Visual Studio Code で ServiceNow アプリケーションを編集します。 | ServiceNow スタジオ<br> <br>プラットフォームを使用してカスタムアプリケーションを構築します ServiceNow 。 |

アプリケーションを管理

ServiceNow アプリを管理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| | | |
|---|---|---|
| 自分のアプリのカスタマイズ<br> <br>プラットフォーム上で ServiceNow アプリをカスタマイズします。 | 自分のアプリの自動化<br> <br>アプリケーションを自動化します ServiceNow 。 | アプリの保護<br> <br>アプリケーションをセキュリティで保護します ServiceNow 。 |
| 自分のアプリのテスト<br> <br>プラットフォームでアプリ ServiceNow をテストします。 | 自分のアプリの展開<br> <br>プラットフォームを使用してアプリをデプロイします ServiceNow 。 | 自分のアプリのメンテナンス<br> <br>プラットフォーム上で ServiceNow アプリをメンテナンスします。 |

自分のアプリのカスタマイズ

ServiceNow アプリをカスタマイズします。

| | |
|---|---|
| **UI** ビルダー<br> <br>プラットフォームでカスタムエクスペリエンスを作成する方法を学びます ServiceNow 。 | **Table Builder**<br> <br>テーブルビルダー を使用してデータをカスタマイズします。 |
| **Workspace Builder**<br> <br>を使用して ワークスペースビルダーデータをカスタマイズします。 | スクリプト<br> <br>プラットフォームでカスタムスクリプトを使用します ServiceNow 。 |

アプリの自動化

ServiceNow アプリを自動化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| | | |
|---|---|---|
| オートメーションディスカバリー<br> <br>プラットフォーム上のワークフローの ServiceNow 自動化機会を特定します。 | フローデザイナー<br> <br>プロセスオーナーがプラットフォームの作業 ServiceNow を自動化できるようにします。 | ディシジョンビルダー<br> <br>開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。 |
| プレイブック<br> <br>プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。 | プレイブックエクスペリエンス<br> <br>デフォルトの Playbook ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズして、目的のビジネスプロセスワークフローとやり取りできます。 | ビジネスルール<br> <br>ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。 |

アプリの保護

ServiceNow アプリを保護します。

| | | |
|---|---|---|
| App Engine Studio ロールと権限<br> <br>アプリの使用または編集を許可するユーザーを制御します。 | エッジ暗号化<br> <br>社内の機密データを暗号化してから、インスタンスをインターネット経由で送信します (送信中に暗号化)。 | **UI** ポリシー<br> <br>フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。 |
| ロール<br> <br>アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。 | アクセス制御<br> <br>インスタンスにアクセスできるカスタマーサービスおよびサポートの従業員とそのタイミングをコントロールします。 | ユーザーとグループ<br> <br>システムにユーザーとして定義することで、インスタンスにアクセスできる個人を管理します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのテスト

ServiceNow アプリをテストします。

| | | |
|---|---|---|
| 自動テストフレームワーク (ATF)<br> <br>自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。 | テスト管理<br> <br>テストプロセスの管理を簡素化し、ソフトウェア製品をより効率的かつ少ないエラー数で提供できるようにします。 | スクリプトデバッガ<br> <br>セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。 |
| スクリプトトレーサー<br> <br>デバッグの検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を素早く絞り込みます。 | セッションログ<br> <br>ビジネスルール、スクリプトインクルード、およびカスタム UI のセッションログを表示およびダウンロードします。 | ユーザーの代理操作<br> <br>テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。 |
| **NOW** コマンドラインインターフェイス **(CLI)**<br> <br>コマンドラインインターフェイスでローカルシステムからインスタンス操作を実行します。 | | |

アプリを展開する

ServiceNow アプリを展開します。

## Next Experience

App Engine 管理センター

本番インスタンスで (AEMC) を使用してApp Engine 管理センター、(AES) 要求、展開、アプリケーション、および共同開発者を追跡および管理App Engine Studioします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コア UI 技術スタック

### アプリケーションリポジトリ

プラットフォームでの開発
ServiceNow について説明します。

### Cloud Provisioning and Governance

この ServiceNow® Cloud Provisioning and Governance アプリケーションは、クラウドリソースにアクセスし、クラウド製品をカタログに公開し、それらのリソースの使用状況を管理するための単一のインターフェイスを提供します。

### アプリのメンテナンス

ServiceNow アプリをメンテナンスします。

## Next Experience

### システムアップデートセット

この機能により、管理者は一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

### サービスマッピング

ServiceNow® サービスマッピング アプリケーションは、組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、それらのアプリケーションサービスで使用するすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップを構築します。

### 顧客へのエンゲージメント

ServiceNow アプリを使用して顧客とやり取りします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## チャットボット

### 仮想エージェントデザイナー

プラットフォームを使用した ServiceNow 仮想エージェントトピックの作成および管理。

### 仮想エージェント ダッシュボード

会話型分析ダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとのやり取りを改善する 仮想エージェント のに役立ちます。

## 人工知能

### **Natural Language Understanding** ワークベンチ

を使用して NLU ワークベンチ 、人間の言語の形態学的表現を作成します。

### プラットフォームアナリティクス

仮想エージェントと機械学習を使用して プラットフォームアナリティクスプロセスを最適化し、生産性を向上させます。

### 予測インテリジェンス

アプリケーション全体の ServiceNow 機能を強化する人工知能のレイヤーを提供し、より良い作業エクスペリエンスを提供します

## レポートの作成

ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。

### **Performance Analytics and Reporting**

仮想エージェントと機械学習を使用して パフォーマンスアナリティクスプロセスを最適化し、生産性を向上させます。

### アナリティクスハブ

アナリティクスハブ は、より詳細な分析に使用されるインジケーターの探索的ビューです。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示することができます。

### アナリティクスセンター

アナリティクスセンターは、インスタンスのすべてのダッシュボード、ビジュアル化、 プラットフォームアナリティクス 分析回答、およびインサイトを 1 つのページでワークスペースに提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| | | |
|---|---|---|
| パフォーマンスアナリティクス ダッシュ ボード<br> <br>ServiceNowダッシュボード製品を使用すると、複数のパフォーマンス分析、レポート、およびその他のウィジェットを 1 つの画面に表示できます。<br> | 仮想エージェント ダッシュボード<br> <br>会話型分析ダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとのやり取りを改善する 仮想エージェント のに役立ちます。<br> | |

何を実行しますか？

以下のオプションを選択します。

| | | |
|---|---|---|
| アプリの構築<br> <br>プラットフォームでの開発 ServiceNow について説明します。 | 自分のアプリを管理する<br> <br>アプリケーションをカスタマイズします ServiceNow 。 | 顧客とのエンゲージメント<br> <br>プラットフォームを使用して ServiceNow 顧客とコミュニケーションを取る方法について説明します。 |
| レポートの作成<br> <br>ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。 | プラットフォームの詳細ServiceNow<br> <br>プラットフォームで何が ServiceNow できるかをご覧ください。<br> | ヘルプ<br> <br>プラットフォームに役立つ ServiceNow リソースを検索します。 |

アプリの構築

ServiceNow プラットフォームを使用してアプリを構築します。

| | |
|---|---|
| AES<br> <br>開発と展開を迅速に行うため、構造化された環境でアプリを構築します。 | モバイルアプリビルダー<br> <br>モバイルアプリケーションを構築します ServiceNow 。<br> |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの管理

ServiceNow アプリを管理します。

| | | |
|---|---|---|
| 自分のアプリのカスタマイズ<br> <br>プラットフォーム上で ServiceNow アプリをカスタマイズします。 | 自分のアプリの自動化<br> <br>アプリケーションを自動化します ServiceNow 。 | アプリの保護<br> <br>アプリケーションをセキュリティで保護します ServiceNow 。 |
| 自分のアプリのテスト<br> <br>プラットフォームでアプリ ServiceNow をテストします。 | 自分のアプリの展開<br> <br>プラットフォームを使用してアプリをデプロイします ServiceNow 。 | 自分のアプリのメンテナンス<br> <br>プラットフォーム上で ServiceNow アプリをメンテナンスします。 |

自分のアプリのカスタマイズ

ServiceNow アプリをカスタマイズします。

| | |
|---|---|
| **UI** ビルダー<br> <br>プラットフォームでカスタムエクスペリエンスを作成する方法を学びます ServiceNow 。 | **Table Builder**<br> <br>テーブルビルダー を使用してデータをカスタマイズします。 |
| **Workspace Builder**<br> <br>を使用して ワークスペースビルダーデータをカスタマイズします。 | |

アプリの自動化

ServiceNow アプリを自動化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| | | |
|---|---|---|
| オートメーションディスカバリー<br> <br>プラットフォーム上のワークフローの ServiceNow 自動化機会を特定します。<br> | フローデザイナー<br> <br>プロセスオーナーがプラットフォームの作業 ServiceNow を自動化できるようにします。<br> | ディシジョンビルダー<br> <br>開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。 |
| プレイブック<br> <br>プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。<br> | プレイブックエクスペリエンス<br> <br>デフォルトの Playbook ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズして、目的のビジネスプロセスワークフローとやり取りできます。 | ビジネスルール<br> <br>ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。 |

アプリの保護

ServiceNow アプリを保護します。

| | | |
|---|---|---|
| App Engine Studio ロールと権限<br> <br>アプリの使用または編集を許可するユーザーを制御します。 | エッジ暗号化<br> <br>社内の機密データを暗号化してから、インスタンスをインターネット経由で送信します (送信中に暗号化)。<br> | **UI** ポリシー<br> <br>フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。<br> |
| ロール<br> <br>アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。<br> | アクセス制御<br> <br>インスタンスにアクセスできるカスタマーサービスおよびサポートの従業員とそのタイミングをコントロールします。<br> | ユーザーとグループ<br> <br>システムにユーザーとして定義することで、インスタンスにアクセスできる個人を管理します。<br> |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのテスト

ServiceNow アプリをテストします。

| | | |
|---|---|---|
| 自動テストフレームワーク (ATF)<br> <br>自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。 | テスト管理<br> <br>テストプロセスの管理を簡素化し、ソフトウェア製品をより効率的かつ少ないエラー数で提供できるようにします。<br> | スクリプトデバッガ<br> <br>セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。 |
| スクリプトトレーサー<br> <br>デバッグの検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を素早く絞り込みます。 | セッションログ<br> <br>ビジネスルール、スクリプトインクルード、およびカスタム UI のセッションログを表示およびダウンロードします。 | ユーザーの代理操作<br> <br>テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。<br> |
| **NOW** コマンドラインインターフェイス **(CLI)**<br> <br>コマンドラインインターフェイスでローカルシステムからインスタンス操作を実行します。 | | |

アプリを展開する

ServiceNow アプリを展開します。

## Next Experience

App Engine 管理センター

本番インスタンスで (AEMC) を使用してApp Engine 管理センター、(AES) 要求、展開、アプリケーション、および共同開発者を追跡および管理App Engine Studioします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コア UI 技術スタック

### アプリケーションリポジトリ

プラットフォームでの開発
ServiceNow について説明します。

### Cloud Provisioning and Governance

この ServiceNow® Cloud Provisioning and Governance アプリケーションは、クラウドリソースにアクセスし、クラウド製品をカタログに公開し、それらのリソースの使用状況を管理するための単一のインターフェイスを提供します。

### アプリのメンテナンス

ServiceNow アプリをメンテナンスします。

## Next Experience

### システムアップデートセット

この機能により、管理者は一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

### サービスマッピング

ServiceNow® サービスマッピング アプリケーションは、組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、それらのアプリケーションサービスで使用するすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップを構築します。

### 顧客へのエンゲージメント

ServiceNow アプリを使用して顧客とやり取りします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## チャットボット

### 仮想エージェントデザイナー

プラットフォームを使用した ServiceNow 仮想エージェントトピックの作成および管理。

### 仮想エージェント ダッシュボード

会話型分析ダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとのやり取りを改善する 仮想エージェント のに役立ちます。

## 人工知能

### **Natural Language Understanding** ワークベンチ

を使用して NLU ワークベンチ 、人間の言語の形態学的表現を作成します。

### プラットフォームアナリティクス

仮想エージェントと機械学習を使用して プラットフォームアナリティクスプロセスを最適化し、生産性を向上させます。

### 予測インテリジェンス

アプリケーション全体の ServiceNow 機能を強化する人工知能のレイヤーを提供し、より良い作業エクスペリエンスを提供します

## レポートの作成

ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。

### **Performance Analytics and Reporting**

仮想エージェントと機械学習を使用して パフォーマンスアナリティクスプロセスを最適化し、生産性を向上させます。

### アナリティクスハブ

アナリティクスハブ は、より詳細な分析に使用されるインジケーターの探索的ビューです。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示することができます。

### アナリティクスセンター

アナリティクスセンターは、インスタンスのすべてのダッシュボード、ビジュアル化、 プラットフォームアナリティクス 分析回答、およびインサイトを 1 つのページでワークスペースに提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| パフォーマンスアナリティクス ダッシュ ボード | 仮想エージェント ダッシュボード | |
|---|---|---|
| ServiceNowダッシュボード製品を使用すると、複数のパフォーマンス分析、レポート、およびその他のウィジェットを 1 つの画面に表示できます。 | 会話型分析ダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとのやり取りを改善する 仮想エージェント のに役立ちます。 | |

## 問題を解決する **ServiceNow** 製品

このテーブルを使用して、問題の解決に役立つ ServiceNow 製品を検索します。

| したいこと | 使用 | ServiceNow 製品またはトピック |
|---|---|---|
| 開発の概要を把握する | | • 定義説明 ServiceNow？<br>• 開発インスタンスの取得<br>• 実演<br>• How the ServiceNow AI Platform works<br>• ライセンス<br>• ローコード開発とは？ |
| アプリケーション開発の支援を受ける | | • Getting started on the ServiceNow AI Platform<br>• ServiceNow 開発者コミュニティ<br>• カスタマーサポート<br>• ナレッジベース<br>• Customer Success Center<br>• ServiceNow トレーニング<br>• 追加サポート<br>• 既知のエラーポータル |
| アプリケーションの作成を計画する | | • Team Development<br>• Delegated Development<br>• App Engine Studio での Delegated Development |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| したいこと | 使用 | ServiceNow 製品またはトピック |
|---|---|---|
| | | • ソースコントロール<br>• Common Service Data Model |
| アプリケーションを作成 | • ノーコード<br>• Next Experience | App Engine Studio |
| | • コーディングとスクリプティング<br>• コア UI 技術スタック<br>• フォームとリスト | • ServiceNow Studio<br>• Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張<br>• REST APIs<br>• ガイド付きアプリケーションクリエーター<br>• ServiceNow AI Platform forms, fields, and lists |
| | Mobile Platform | • モバイルアプリビルダー<br>• モバイルカードビルダー |
| アプリケーションをカスタマイズする | UI ページ | • UI ビルダー<br>• Workspace Builder (App Engine Studio 内のみ) |
| | データ、テーブル | テーブルビルダー |
| | スクリプト | • ノーコードのスクリプティング (アクションデザイナー - カスタムアクションの構築 )<br>• コードエディター<br>• クライアント側スクリプティング<br>• サーバー側スクリプティング<br>• スクリプトデバッガー<br>• ServiceNow CLI |
| | サービスポータル | • を使用したページの作成および編集 サービスポータル デザイナー<br>• サービスポータルウィジェット<br>• 構成： Next Experience テーマと設定 |
| 自動化を追加する | | • Automation Discovery<br>• フローデザイナー |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| したいこと | 使用 | ServiceNow 製品またはトピック |
| --- | --- | --- |
| | | • ディシジョンビルダー<br>• プレイブック<br>• Playbook Experience の設定<br>• Journey Designer<br>• クラシックビジネスルール |
| とアプリケーションのデータ連携 ServiceNow | 自動化とフロー | • 統合ハブ<br>• フローデザイナー |
| | API 一覧 | • REST API reference<br>• Server API reference<br>• Client API reference<br>• Browse APIs by product<br>• アクションデザイナー - カスタムアクションの構築<br>• 統合ハブ リモートプロセス同期 |
| アプリケーションを保護 | ノーコード (App Engine Studio のみ) | AES のペルソナとロールの構成 |
| | コーディングとスクリプティング、コア UI 技術スタック | • Edge Encryption<br>• UI policies<br>• Managing roles<br>• ServiceNow® access control<br>• User administration |
| 顧客へのエンゲージメント | チャットボットダイアログのカスタマイズ | • の開始 仮想エージェントデザイナー<br>• 会話型分析ダッシュボード |
| | 人工知能 | • ビジネスプロセスの分析と最適化 Now Intelligence<br>• 予測インテリジェンス |
| アプリケーションのテスト | App Engine Studio アプリの場合 | Automated Test Framework |
| | コーディング、コア UI 技術スタック | • Automated Test Framework<br>• Test Management アプリケーション |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| したいこと | 使用 | ServiceNow 製品またはトピック |
|---|---|---|
| | | • スクリプトデバッガー<br>• スクリプトトレーサー<br>• セッションログ<br>• Impersonate a user<br>• ServiceNow CLI |
| アプリケーションの展開 | ノーコード (App Engine Studio のみ) | App Engine Management Center |
| | コーディング、コア UI 技術スタック | • ServiceNow アプリケーションリポジトリ<br>• Cloud Provisioning and Governance |
| アプリケーションのメンテナンス | | • Maintaining and monitoring the ServiceNow AI Platform<br>• Maintaining and monitoring the ServiceNow AI Platform システム更新セット<br>• サービスマッピング<br>• インスタンスデータレプリケーション (IDR)<br>• MetricBase |
| レポートの作成 | | • CMDB Workspace の CMDB 360 ビュー<br>• ビジネスプロセスの分析と最適化 - Performance Analytics レポート<br>• 分析ハブ<br>• 分析センター<br>• 会話型分析ダッシュボード |
| インスタンスのコピー | | インスタンスデータレプリケーション (IDR) |
| エクスペリエンスのパーソナライズ | | Personalize your experience |

## プログラミングの基礎

通常、ソフトウェア開発には標準的な一連のステップが含まれます。アプリケーションの開発が初めての場合は、このまま読み進めてください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 開発者としての仕事

アプリケーション開発が初めての場合でも、ServiceNow には App Engine Studio と呼ばれるローコード開発プラットフォームが用意されており、アプリケーションを作成できます。開発を初めて行う方にも、ローコードツールは簡単に使用できます。ためらわずにアプリを開発してください。

ソフトウェア開発者は多くのことを行いますが、共通しているのはコンピューターコードを使用して問題を解決することです。ServiceNow は、コーディング経験、中程度のコーディング経験、および専門的なコーディング経験を必要としないコーディングプラットフォームを提供します。必要なコーディングが少ないほど、コーディングプラットフォームが行う作業が多くなります。したがって、経験豊富なソフトウェア開発者でも、App Engine Studio などの低～中レベルのコーディングプラットフォームを評価します。

## ソフトウェア開発ライフサイクル

アプリケーション開発の一般的なステージは次のとおりです。

1. 問題を定義します。
2. ソリューションを計画します。
3. ソリューションをコーディングします。
4. アプリケーションをテストします。
5. アプリケーションを展開します。
6. アプリケーションを文書化します。

これらのステップは、一般にソフトウェア開発ライフサイクルと呼ばれます。 ServiceNow 開発者ドキュメント は、これらの手順に従ってグループ化されます。

## 本当に新しいアプリケーションを作成する必要があるか

最初のステップは、アプリケーションの作成が必要かどうかを判断することです。次の点を考慮してください。

- 新しいアプリケーションを作成する代わりに、既存のアプリケーションを拡張できますか？
- アプリケーションは何人のユーザーにサービスを提供しますか？多くない場合、取り組む価値はありますか？
- 時間の経過とともに変化するアプリケーションをメンテナンスしますか？
- どのくらいの頻度でこのアプリケーションを使用しますか？頻繁でない場合、取り組む価値はありますか？

新しいアプリケーションを作成することに意味がある場合は、次に進みます。

## 問題の定義

アプリケーションの作成を計画している場合は、何を実行するのかについての考えが必要です。ただし、ソリューションの詳細なアイデアがない場合があります。少なくとも、以下を詳細に定義する必要があります。

- 必要なアプリケーション出力
- アプリケーションに入るデータ

取り込まれるデータは通常、データのテーブルから取得されます。テーブル名とその中のデータのタイプを知る必要があります。Table Builder などの ServiceNow ツールを使用して、データを格納およびカスタマイズできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

目的とする出力は、ダッシュボード、テーブルに格納されているデータ、または従業員に送信される機器です。出力を決定する前に、出力のモックアップを多くの人に示して、出力の改善を提案できるかどうかを確認します。このステップをスキップしないでください。

## ソリューションの計画立案

必要な出力を生成するアルゴリズムを作成するには、さまざまな方法があります。最も簡単な方法は、入力データから始まり、出力につながるプロセスの各ステップを示すフローチャートを使用することです。フローチャートを使用すると、実行したいことの全体像に焦点を当て、それを実行する方法を避けることができます。フローチャートを注意深く見てプロセスを最適化します。

データのテーブルを使用するための権限、またはアプリケーションを作成するための権限が必要になる場合があります。たとえば、市民開発者には App Engine Management Center を通じてアプリ開発権限が付与されます。

ServiceNow 計画立案ツールの詳細については、「アプリケーションの計画立案」を参照してください。

## アプリケーションのコーディング

アプリケーションをコーディングするには、以下を使用します。

- App Engine Studio などのローコード ServiceNow ツール
- ServiceNow Studioなどのプロコード ServiceNow ツール

ServiceNow コーディングプラットフォームの詳細については、「アプリケーションの開発」を参照してください。

## アプリケーションのテスト

アプリケーションをテストするには、結果が正確であることを確認するためのデータを入力する必要があります。誤ったデータであっても大量のデータを入力して、アプリケーションが正しい入力と誤った入力をどの程度処理するかを確認することが重要です。大きすぎるデータまたは間違ったタイプのデータを入力してください。データをまったく入力しないでください。ユーザーによる中断を防ぐため、アプリケーションの中断を試みてください。エラー条件を適切に処理することは、優れたカスタマーエクスペリエンスにとって重要です。

ServiceNow テストツールの詳細については、「アプリケーションのテストとデバッグ」を参照してください。

## アプリケーションの展開

アプリケーションのテストが完了したので、顧客が使用できるように展開します。アプリケーションの展開は、開発者ではなくシステム管理者が行います。

ServiceNow 展開ツールの詳細については、「アプリケーションの展開」を参照してください。

## アプリケーションのメンテナンス

アプリケーションのメンテナンスでは、サーバーの過負荷、アプリケーションエラー、機能の更新などの問題に対処します。機能の更新を管理するのは開発者の仕事です。アプリケーションの動作状況を確認するのはシステム管理者の仕事です。

アプリケーションのメンテナンスに役立つ ServiceNow ツールの詳細については、「アプリケーションのメンテナンス」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### アプリケーションの文書化

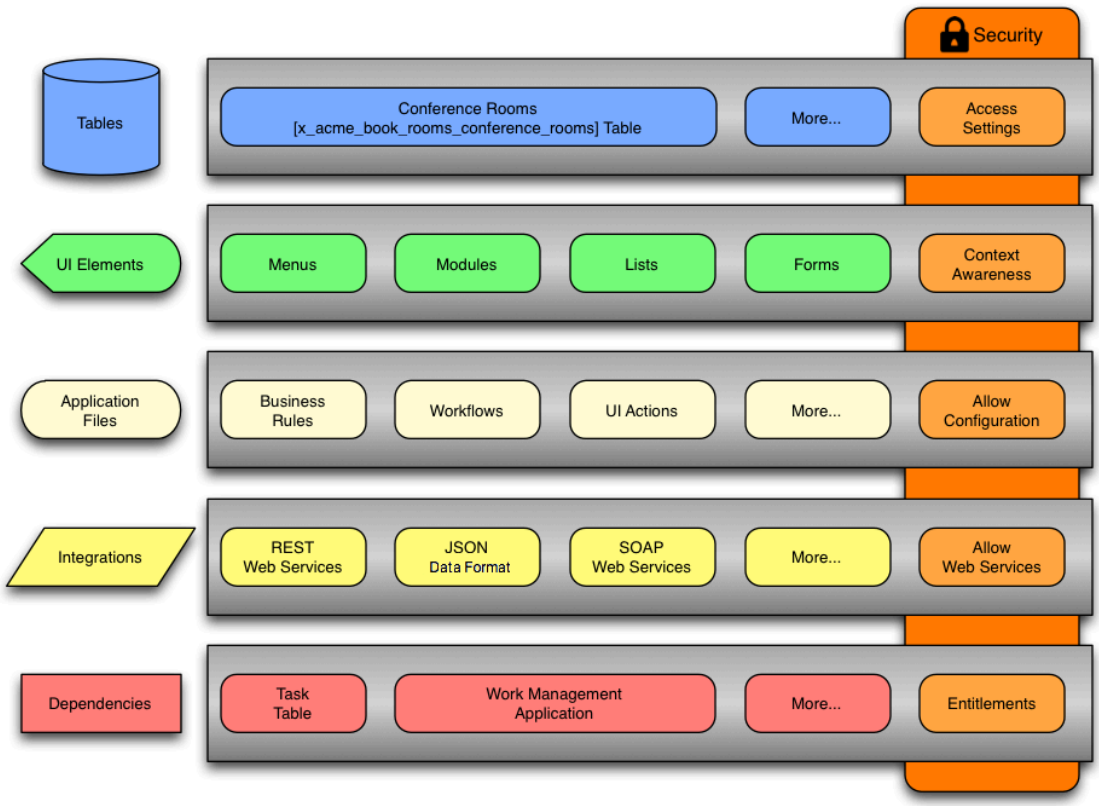
アプリケーション開発は、アプリケーションが文書化されるまで完了しません。アプリケーションを文書化する理由は多数あります。

- 内部メモは、他の開発者がアプリケーションで作業するのに役立ちます。プログラミングの決定と方法論の背後にある理由を理解するには、多くの時間がかかります。これらを文書化すると、将来の開発者がアプリケーションをメンテナンスするのに役立ちます。
- ユーザーはアプリケーションの使用方法を知る必要があります。アプリケーションの透明性を高くしたつもりでも、使用しようとすると不満を感じる人も少なくありません。アプリケーションとドキュメントのユーザビリティテストを実行して、ユーザーが問題に遭遇する箇所を確認します。対象者が広いほど、アプリケーションが重要になり、ドキュメントが重要になります。経験豊富なテクニカルライターを使用してドキュメントを作成することを検討してください。

## アプリケーションの構造

アプリケーションは、いくつかのタイプのファイルとレコードで構成されており、それらの集合としてサービスを提供します。

アプリケーションモデル




### カスタムアプリケーションレコード

カスタムアプリケーションレコードは、アプリケーションとそれに関連するすべてのアーティファクトを定義し、識別します。

これは、アプリケーションの最新の構成が格納される点で、テーブルや列のシステムディクショナリーレコードと似ています。カスタムアプリケーションレコードは、アプリケーション作成のプロセス中に自動的に作成されます。アプリケーション開発者は、このレコードを使用して次のタスクを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーション名を変更する。
- アプリケーションのバージョンを変更する。
- アプリケーションファイルと設定レコードを識別するためにシステムが使用するスコープを表示する。
- スコープ指定管理を有効にする。
- アプリケーションの設計時および実行時のアクセスを管理する。
  - アプリケーションでサポートする JavaScript 標準を選択する。
  - 実行時の API 操作の追跡方法を選択する。
  - テーブルに対する他のアプリケーションからのアクセスを許可または制限する。
- サブスクリプションを監視または適用する。
- アプリケーション モジュールを表示するデフォルトのメニューを選択する。
- アプリケーションに対するアクセスに必要なユーザーロールを設定する。
- ロゴを追加または更新する。
- すべてのアプリケーションファイルを表示する。
- アプリケーションが依存する他のアプリケーションのリソースを表示する。
- アプリケーションがアクセスを許可されている実行時リソースを表示する。
- アプリケーションがアクセスを許可されている設計時リソースを表示する。

## アプリケーションバージョン

インストールされる各アプリケーションには、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーション レコードに定義したバージョンが設定されます。

システムは、このバージョン情報を使用して、ServiceNow Application Repository または ServiceNow Store から入手可能な更新があるかどうかを判断します。

## アプリケーションスコープ

アプリケーションスコープは、アプリケーションファイルやデータに対するアクセスを識別して制限することによって、アプリケーションを保護します。

管理者は、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるようにするのかを、以下から指定することができます。

- カスタムアプリケーションレコード。
- 各アプリケーション テーブル レコード。

たとえば、会議室予約アプリケーションをそのアプリケーション独自のアプリケーションスコープで作成するとします。デフォルトでは、そのアプリケーションはアプリケーション自体のテーブルとビジネスロジックにアクセスして変更できますが、他のアプリケーションは、明示的な権限が付与されないかぎり、それらのテーブルやビジネスロジックにアクセスして変更することはできません。アプリケーションスコープにより、次のことが保証されます。

- 会議室予約アプリケーションがコアビジネスサービスを中断しない。
- 他のアプリケーションによって、このアプリケーションの通常機能が妨げられることはありません。

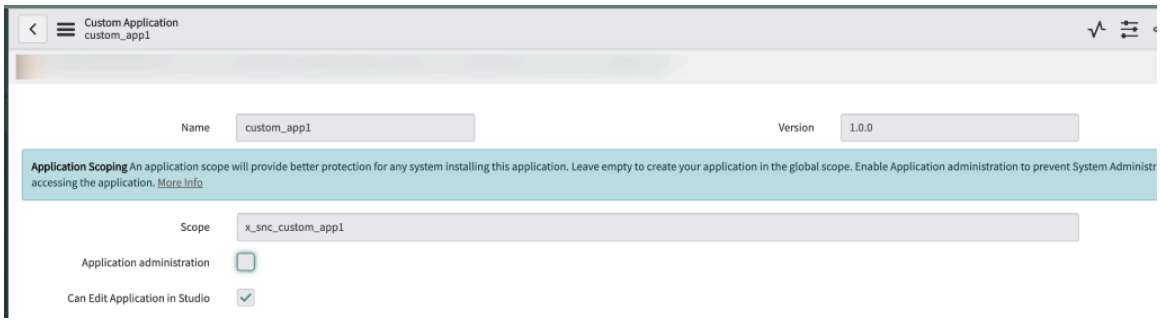
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトでは、すべてのカスタムアプリケーションにプライベートスコープがあり、アプリケーション自体とその関連アーティファクトが名前空間識別子によって一意に識別されます。アプリケーションスコープにより命名の競合を防止し、コンテキスト開発環境では、許可する変更 (変更がある場合) を判断することができます。アプリケーション開発者は、アプリケーションを作成するときにアプリケーションスコープを指定します。

ヒント:
グローバルアプリが、変更したくないデータを変更する可能性があります。スコープ対象のアプリを活用して新しいテーブルを作成し、古いテーブルをスコープ対象のアプリに移行することを検討する必要があります。これにより、Delegated Development で責任を分割できます。委任開発の詳細については、「Delegated Development と展開」を参照してください。

**[Studio** でアプリケーションの編集が可能] オプションを選択しても、インスタンスで開発中のカスタムアプリケーションまたはグローバルアプリケーションには影響しません。アプリケーションの所有者がアプリケーションの公開を選択した場合は、Studio でのカスタマイズの開発を制限できます。**[Studio** でアプリケーションの編集が可能] を false に設定してから公開すると、アプリケーションを自分のインスタンスにダウンロードしたユーザーは、そのアプリケーションを Studio で編集できなくなります。ただし、Studio 内の ソースコントロールの統合 機能にはアクセスできます。




関連情報

アプリケーションテーブルへの実行時アクセス

## グローバルスコープ

グローバルスコープは、アプリケーションスコープが実装される前に開発されたアプリケーションや、他のすべてのグローバルアプリケーションにアクセスできることを意図したアプリケーションを識別する、特別なアプリケーションスコープです。

グローバル スコープ内のアプリケーションでは、アプリケーション名に一意の名前空間識別子が付加されません。開発者が複数のグローバル アプリケーションを同じ名前で作成すると、グローバルアプリケーション間で命名の競合とデータの衝突が起こる可能性があります。

すべてのグローバルアプリケーションは同じスコープ内にあるため、スコープ保護をバイパスします。グローバル アプリケーションでは、他のグローバル アプリケーションがテーブルにアクセスして以下の処理を実行できます。

- レコードを読み取る。
- API リクエストを実行する。
- 設定レコードを作成する。

グローバルスコープ内には、通常、ServiceNow が提供するアプリケーションのみが属します。ただし、アプリケーションスコープが実装される前に作成されたカスタムアプリケーションもまた、グローバルスコープ内に属します。さらに、sn_g_app_creator.app_creator ロールを持つ開発者は、グローバルスコープ内でアプリケーションを作成できます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グローバルスコープ内のアプリケーションは、ServiceNow Store ではなく、アプリケーションリポジトリへのアップロードが適しています。

関連情報

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開
- ServiceNow Store にアプリケーションを公開する

### 名前空間識別子

システムにより、テーブル、スクリプト、および設定レコードなどのアプリケーションアーティファクトの先頭に名前空間識別子が付加されます。

この識別子は、変更したりアプリケーション アーティファクトから削除したりすることはできません。それにより、常に正しいアプリケーションに関連付けられ、一意な名前を持つことが保証されます。

システムは、以下の情報から名前空間識別子を生成します。

名前空間識別子を生成するために使用される要素

| 要素 | 要件 | サンプル値 |
|---|---|---|
| スコープ対象のアプリケーションのプリフィックス文字 | スコープ対象のアプリケーションは常にプリフィックス x_ で始まります。 | x_ |
| お客様のインスタンスプリフィックス (glide.appcreator.company.code) | この文字列の長さは 2 ～ 5 文字です。ServiceNow が顧客ごとにこのプリフィックスを生成します。インスタンスは、プリフィックスを *glide.appcreator.company.code* システム プロパティに格納します。 | ACME |
| アプリケーション ID | この文字列の長さは最大 40 文字です。文字列が 18 文字を超える場合、アプリケーション名は切り捨てられ、プリフィックス x_<glide.appcreator.company.code>_ に追加されます。アプリケーション開発者が、アプリケーションを作成するときにこの ID を設定します。デフォルトでは、システムによってアプリケーション名が使用されます。 | book_rooms |

このサンプル値からは、x_acme_book_rooms という名前空間識別子が生成されます。

### 名前空間識別子の例

次の例は、アプリケーション、テーブル、およびフィールドの名前空間識別子の生成を示しています。

名前空間識別子の例

| アクション | 生成される要素 | 説明 |
|---|---|---|
| 1. Book Rooms と呼ばれるプライベート スコープ アプリケーションの名前空 | x_acme_book_rooms | これは、ベンダー プリフィックスとアプリケーション ID の組み合わせです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前空間識別子の例 (続く)

| アクション | 生成される要素 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 間識別子を生成する。 | | |
| 2. Marketing Events と呼ばれるグローバルスコープ アプリケーションの名前空間識別子を生成する。 | なし | グローバル アプリケーションについては、システムによって名前空間プリフィックスは生成されません。 |
| 3. Book Rooms アプリケーションに conference rooms テーブルを追加する。 | x_acme_book_rooms_conference_rooms | このテーブルは Book Rooms のスコープ内にあるため、先頭に名前空間識別子が付加されます。 |
| 4. グローバル アプリケーションに Marketing Event テーブルを追加する。 | u_marketing_event | グローバル スコープ内のカスタム テーブルには、常に名前空間識別子 u_ が使用されます。 |
| 5. アプリケーション ピッカーで Book Rooms を選択し、conference room テーブルに キャパシティ フィールドを追加する。 | capacity | このフィールドはテーブルと同じスコープ内にあるため、独自の名前空間識別子はありません。ただし、スクリプトでこのフィールドをドット連結する場合、x_acme_book_rooms_conference_rooms.capac のように、テーブルの名前空間識別子を含む完全パスを使用します。 |
| 6. アプリケーション ピッカーで Book Rooms を選択し、Marketing Event テーブルに **Theme** フィールドを追加する。 | x_acme_book_rooms_theme | このフィールドはテーブルとは異なるスコープ内にあるため、名前空間識別子 x_acme_book_rooms がプリフィックスとして付加されます。スクリプトでこのフィールドをドット連結する場合、u_marketing_event.x_acme_book_rooms_theme のように、フィールドの名前空間識別子を含む完全パスを使用します。<br>**注:** この例では、Marketing Event テーブルで、他のアプリケーションスコープでのフィールドの追加が許可されていることを前提としています。 |
| 7. アプリケーション ピッカーで Marketing Events を選択し、Marketing Event テーブ | u_theme | グローバルスコープ内のカスタムフィールドには、プリフィックス **u_** が使用されます。スクリプトでこのフィールドをドット連結するには、u_marketing_event.u_theme を使用します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前空間識別子の例 (続く)

| アクション | 生成される要素 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| ルに **Theme** フィールドを追加する。 | | |

## アプリケーション テーブル

アプリケーション開発者は、ユーザーがレコードを追加および更新できるように、テーブルと、それに関連付けられたリストとフォームを作成します。

アプリケーションはテーブルの所有者であり、他のアプリケーションがそのテーブルのリソースにアクセスできるかどうかを決定します。たとえば、Book Rooms アプリケーションは、conference room データを Conference Rooms [x_acme_book_rooms_conference_rooms] テーブルに保存し、他のアプリケーションがこのデータを読み取ることを許可できます。

システムは、標準のアクセスコントロールを使用して、アプリケーションデータに対するユーザーアクセスを管理します。開発者は、アプリケーションの作成時に、これらのアクセスコントロールにアプリケーション固有のユーザーロールを指定できます。また、アプリケーションのアクセス設定を使用して、アプリケーションテーブルに対するランタイムアクセスおよび設計時アクセスを管理することもできます。

**注:**
特定の Now Platform サブスクリプションには、カスタムテーブル資格付与が含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用管理者がサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、以下を参照してください Map custom tables to a product subscription in Subscription Management 。

次のデータベースの制限に注意してください。

- システムがテーブルごとに設定できるのは最大で 1000 列です。1000 列は指定された制限ですが、この制限は、テーブル内に物理的に 1000 列を持つことができるという意味ではありません。テーブル内の列数は、Now Platform ではなく ServiceNow データセンターで使用されるデータベースによって定義されます。
- ストレージエンジンに関係なく、すべてのテーブルの最大行サイズは 65,535 バイトです。ストレージエンジンでは、この制限に追加の制約が課せられ、有効な最大行サイズが減少する場合があります。
- 1 つのテーブルに中程度の長さ以上の 文字列 フィールドを 10 個を超えて含めることはできません。11 以上の文字列フィールドに多数の文字を保存しようとすると、次のエラーが発生する可能性があります：データベースによって検出された構文エラーまたはアクセスルール違反 (行サイズが大きすぎる (> 8126))。
- フィールドを作成すると、u_プリフィックスが自動的に列名に追加されます。入力した列ラベルの先頭に数字が含まれている場合は、u_ プレフィックスに置き換えられます。

データベースの制限と ServiceNow インスタンス内のテーブルに関する一般的な質問の詳細については、KB0749585 を参照してください。

関連情報

アプリケーションのアクセス設定

自動翻訳

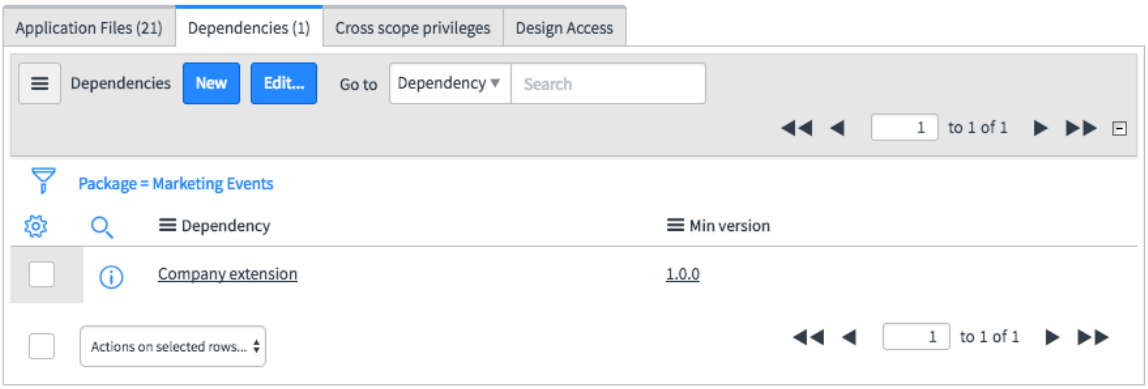
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## カスタムアプリケーションの依存関係

すべてのカスタムアプリケーションレコードには、他のアプリケーションとの依存関係を識別する関連リストが含まれます。

管理者は、このリストをレビューして、アプリケーションが既存のプロセスやデータにリスクを与えるかどうかを判断できます。アプリケーション開発者は、このリストを使用して、アプリケーションに他のアプリケーションに対する正当なアクセス権限を持たせることができます。

アプリケーション依存関係の例




## アプリケーションファイル

アプリケーションファイルは、開発者がアプリケーションの機能を拡張できるようにする設定レコードです。

アプリケーション開発者は、ビジネスルール、ワークフロー、スクリプトインクルードなど、アプリケーション ロジックの設定レコードを追加するときに、アプリケーションファイルを作成します。スコープ対象のアプリケーションは、これらのテーブルの所有者ではありませんが、これらのテーブル内のレコード (ファイル) の所有者です。たとえば、使用可能な部屋を Conference Room テーブルで確認するビジネス ルールを追加すると、ビジネス ルール [sys_script] テーブルにアプリケーション ファイルが追加されます。アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションレコードからアプリケーションファイルの完全なリストを表示できます。

アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルは、設定レコードを含むすべてのテーブルの親テーブルです。これは、設定レコードの属性を定義する一連の標準フィールドを提供します。設定レコードを含むテーブルは、アプリケーションファイルテーブルを拡張します。たとえば、ビジネスルール [sys_script] テーブルは、アプリケーション ファイル テーブルを拡張します。

開発者が、アプリケーションファイルテーブルからアプリケーションファイルレコードを直接作成することはありません。そうではなく、設定レコードを作成または変更すると、関連するアプリケーションファイルレコードがシステムによって作成または変更されます。ほとんどの設定レコードテーブルでは、アプリケーションファイルテーブルの参照フィールドまたは関連リストは表示されません。デフォルトでは、アプリケーション ファイル テーブルへの参照が存在するのは、アプリケーション [sys_scope] とテーブル [sys_db_object] のみです。

システムは、更新セットのアプリケーションファイルレコードも追跡します。アプリケーション ファイル レコードまたは関連する設定レコードが変更されるたびに、対応するレコードがシステムによってカスタマー アップデート [sys_update_xml] テーブルに追加されます。システムは、単一の更新レコードを使用することで、インスタンス間でアプリケーションを転送するときに設定レコードとそのアプリケーションファイルの同期が維持されるようにします。衝突を避けるために、別の更新セットで以前に編集されたアプリケーションファイルを編集するときに警告が表示されます。

管理者は、以下の操作を実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 設定レコードのファイル プロパティを表示する。
- アップグレード中にアプリケーションファイルが変更されないようにする。
- 設定レコード間の親子関係を表示する。

関連情報

アプリケーションファイルをアプリケーションに追加する

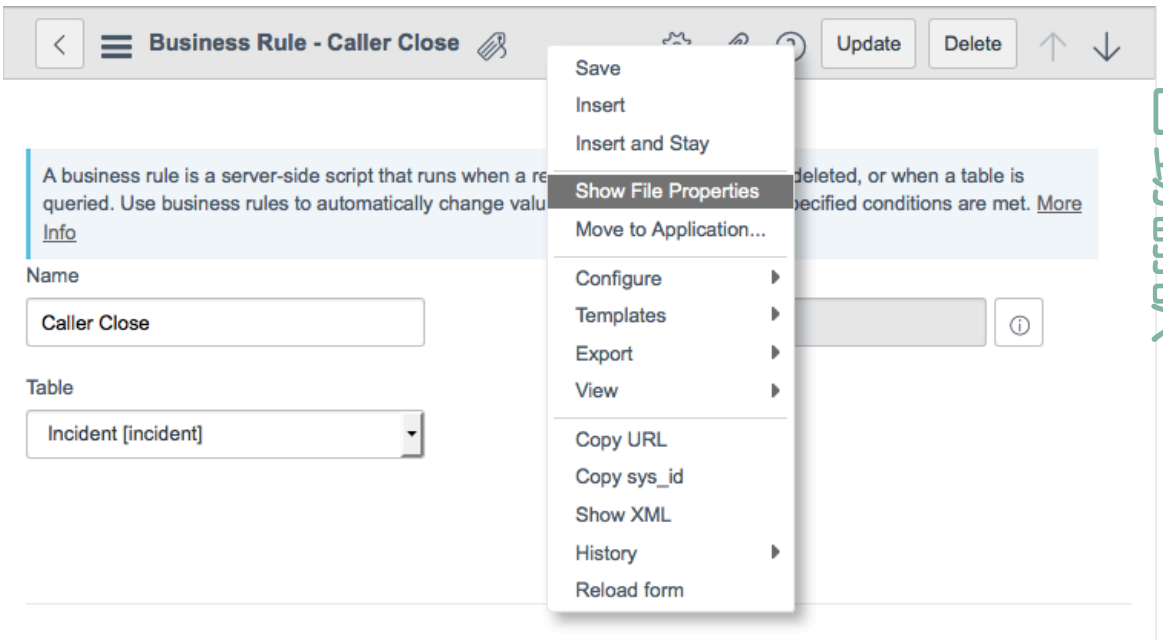
ファイルプロパティの表示

管理者は、1 つのレコードのアプリケーションファイルプロパティを表示できます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

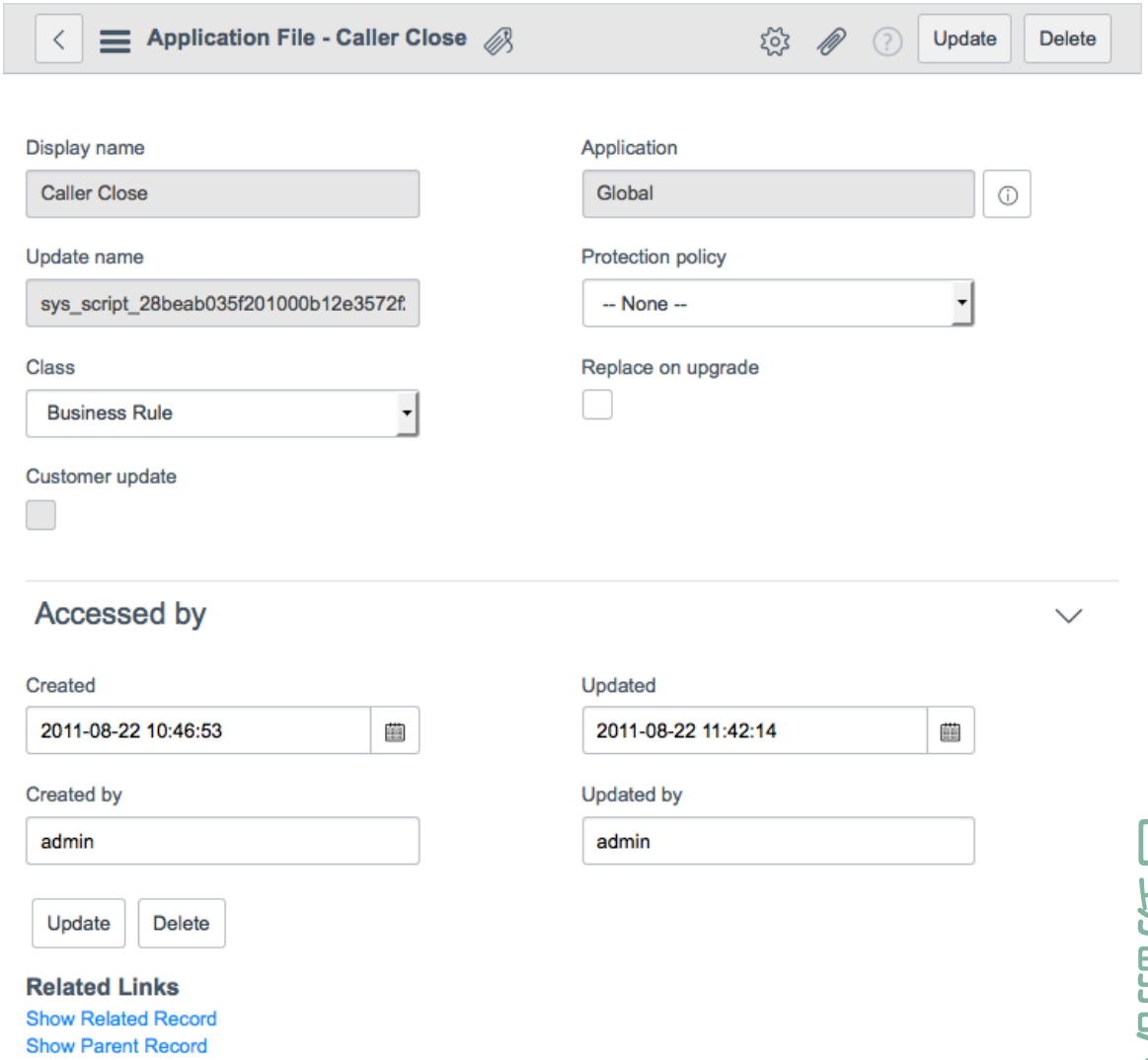
1. 設定レコードのフォーム ビューに移動します。
   たとえば、次の場所に移動します。 すべて > システム定義 > ビジネスルール をクリックし、インシデントテーブルのビジネスルールを選択します。
2. フォーム ヘッダーを右クリックし、 を選択します。




   アプリケーションファイルテーブルは、設定レコードの属性を定義する一連の標準フィールドを提供します。

3. 設定レコードのビューに戻るには、 関連リンクをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. カスタマーアップデートレコード、ファイルプロパティビュー、および設定レコード ビューの間を移動します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 関連リンク | 設定レコードに移動します。 |
| 関連リンク | 現在の設定レコードの親レコードに移動します。 |
| 関連リンク | フィールドラベルの翻訳など、子の設定レコードを表示します。 |

### アプリケーションファイルフォーム

アプリケーションファイルフォームを使用して、アプリケーションと設定レコードの関係を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションファイルフォームのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 表示名 | 設定レコードの表示名です。 |
| 更新名 | この設定レコードに対する一意の識別子です。この値は、レコードのバージョンと更新を識別するために使用されます。 |
| クラス | この設定レコードを含むテーブルです。 |
| アプリケーション | この設定レコードを含むアプリケーションです。 |
| 保護ポリシー | 設定レコードが変更から保護されているかどうかを判別するポリシーです。詳しくは「保護されたアプリケーションファイル」を参照してください。 |
| 作成日時 | この設定レコードの作成日です。 |
| 作成者 | この設定レコードを作成したユーザーです。 |
| 更新日時 | この設定レコードの最終更新日です。 |
| 更新者 | この設定レコードを最後に更新したユーザーです。 |
| 関連するレコード バージョン | 関連する設定レコードのバージョン レコードです。バージョン レコードは、ユーザーが関連レコードを変更するたびに作成されます。このリストを使用して、設定レコードのバージョンを比較したり、以前のバージョンに戻したりします。詳しくは「バージョン」を参照してください。 |
| 関連するレコードの更新 | 関連する設定レコードのローカル更新レコードです。更新レコードは、特定の更新セット内にある関連レコードに対する最新の変更について作成されます。詳しくは「更新セット」を参照してください。 |

**注:**
このフォームに [所有者] (owned_by) フィールドを手動で追加すると便利な場合があります。アプリケーションごとに、IT 内の誰がアプリケーションを所有し、それに関する情報の管理責任を担っているかを示します。データ認定機能は、このフィールドを使用して、四半期ごとまたは設定された任意の時間間隔で認定タスクを送信します。認定タスクを他のユーザーにアサインできますが、このフィールドを使用すると構成作業が制限されます。フォームへのフィールドの追加と Data Certification の詳細については、「Using the form designer」および「Data Certification」を参照してください。

### アプリケーションファイル保護ポリシー

読み取り専用の保護ポリシーは、アプリケーションファイルまたはその関連レコードが変更されないようにします。

ServiceNow システムに付属する一部のアプリケーション コードには特別な保護が必要です。この保護ポリシーを変更し、アプリケーションファイルやその関連レコードを変更できるのは、ServiceNow の従業員のみです。ServiceNow の従業員は、このポリシー指定を変更してからでないと、保護されたファイルを編集できません。

カスタマイズした内容がシステムのアップグレードによって上書きされないようにするため、アップグレード プロセスでは、顧客が更新したレコードに対する変更を自動的にスキップします。アップグレード時に後から読み取り専用と指定されたアプリケーションファイルまたは関連レコードを変

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更すると、アプリケーションファイルは、デフォルトの保護ポリシーである書き込みのまま維持します。このため、既存の変更を維持したまま、レコードを引き続き変更できます。

**注:**
カスタマイズされたファイルをベースライン状態に戻すと、レコードは新しい保護ポリシーも継承します。たとえば、レコードが書き込みの保護ポリシーから読み取り専用の保護ポリシーに変更されます。

### 設定レコード間の関係

アプリケーションファイルタイプテーブルは、設定レコード間の親子関係を定義します。

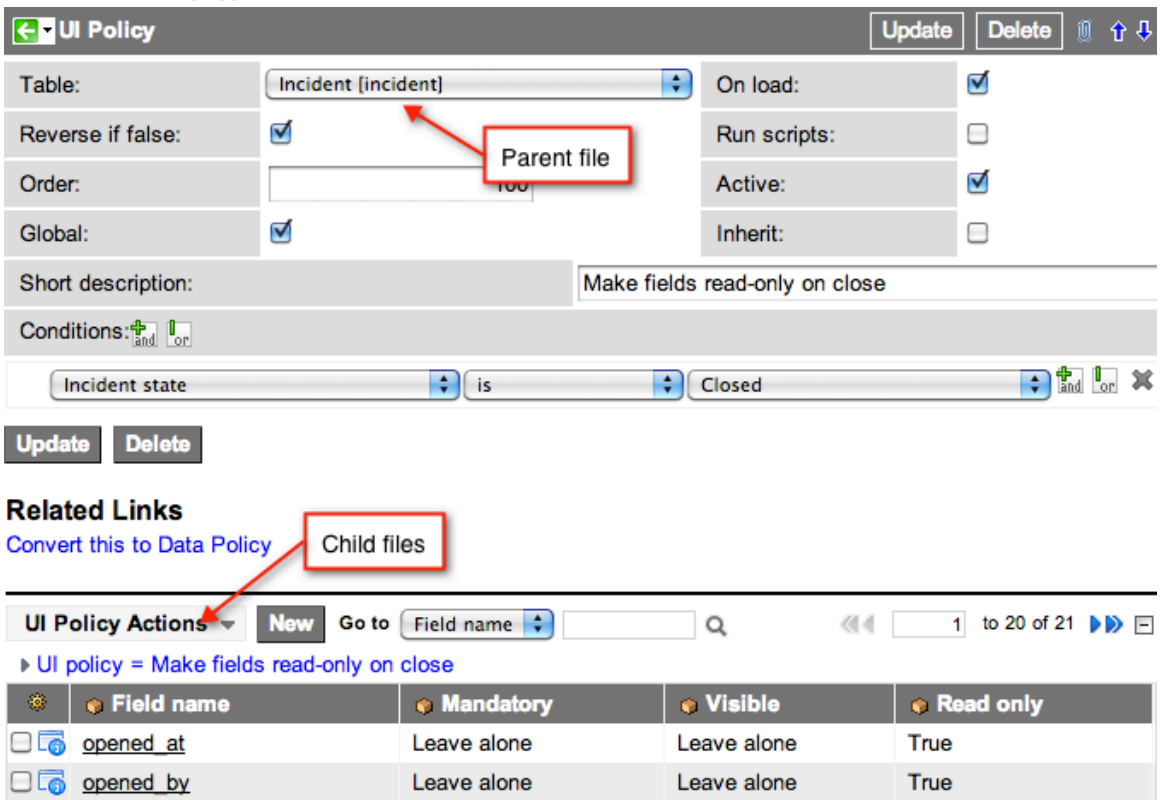
システムは、この構造を使用して、通常は同じアプリケーション内にまとめられる設定レコードを保持します。

**注:**
アプリケーションファイルタイプテーブルは、システム機能を提供するものであるため変更しないでください。

たとえば、UI ポリシーの親子関係を考えてみましょう。

- UI ポリシーは、アプリケーション テーブルの子である。
- UI ポリシー アクションは、UI ポリシーの子である。
- UI ポリシー アクションには、親にあたる UI ポリシーと祖父母にあたるアプリケーション テーブルがある。
- UI ポリシー アクションと UI ポリシーは、すべてアプリケーション テーブルの子孫である。

設定レコードの関係の例




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

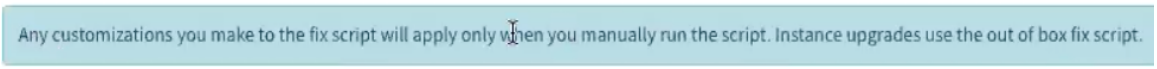
## 修復スクリプト

修正スクリプトは、アプリケーションのインストールまたはアップグレード後に実行するサーバー側 JavaScript コードです。

修正スクリプトは、アプリケーションのデータ完全性や製品安定性に必要な変更を加えるために含めます。

管理者は、修正スクリプトを作成、管理、および実行できます。script_fix_admin ロールを持つユーザーは、修正スクリプトを作成および管理できますが、修正スクリプトを実行することはできません。

**注:**
既存の修正スクリプトを開くか、新しい修正スクリプトを作成すると、次のメッセージを含む注釈が表示されます。




### 修正スクリプトの作成

修正スクリプトを作成して、システムがアプリケーションを適切にインストールまたは更新できるようにします。

#### 始める前に
必要なロール： script_fix_admin または admin

#### このタスクについて
修正スクリプトを使用して、ルール、スクリプト、プロパティ設定を含むデータを追加、更新、および削除します。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > 修復スクリプト.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力して、修正スクリプトを定義します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 修正スクリプトの一意の分かりやすい名前。 |
| 読み込み不能 | 修正スクリプトの実行時に顧客アップデートレコード [sys_update_xml] を作成するオプション。<br><br>修正スクリプトテストでは、[読み込み不能] オプションが強制されます。 |
| 前 | アプリケーションをインストールまたはアップグレードする前に修正スクリプトを実行するオプション。 |
| ロールバック用に記録 | 必要に応じて元に戻せるように、スクリプトの実行を記録するオプション。 |
| 説明 | 修正スクリプトの説明。 |
| スクリプト | 修正スクリプトのコード。 |

4. [送信] をクリックします。
5. 修正スクリプトをテストし、必要な変更を行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 修正スクリプトのテスト

修正スクリプトをテストして、期待どおりにアプリケーションがインストールまたは更新されることを確認します。

### 始める前に
必要なロール：管理者

### このタスクについて
修正スクリプトでは、ルール、スクリプト、プロパティ設定を含むデータが追加、更新、削除されます。

> **注:**
> 本番インスタンスで修正スクリプトをテストしないでください。

### 手順

1. 修正スクリプト レコードを開きます。
2. コード設計をレビューして、同じシステム上で複数回実行しても支障を与えないようにします。たとえば、デフォルトでプロパティにロールを追加する修正スクリプトを記述することが考えられます。最初のインストール後にスクリプトを再実行する必要がない場合でも、既存のデータを上書きせずに同じシステム上で複数回実行できるようにスクリプトを設計してください。
3. 関連リンクをクリックします。
   テストでは [読み込み不能] オプションを強制します。
4. スクリプトの実行方法を確認します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| バックグラウンドで進行 | 実行に時間が掛かるスクリプトの場合、または予想される実行時間がわからない場合は、このオプションを使用します。 |
| 続行 | スクリプトを直ちに実行し、結果を確認ウィンドウに表示する場合は、このオプションを使用します。 |

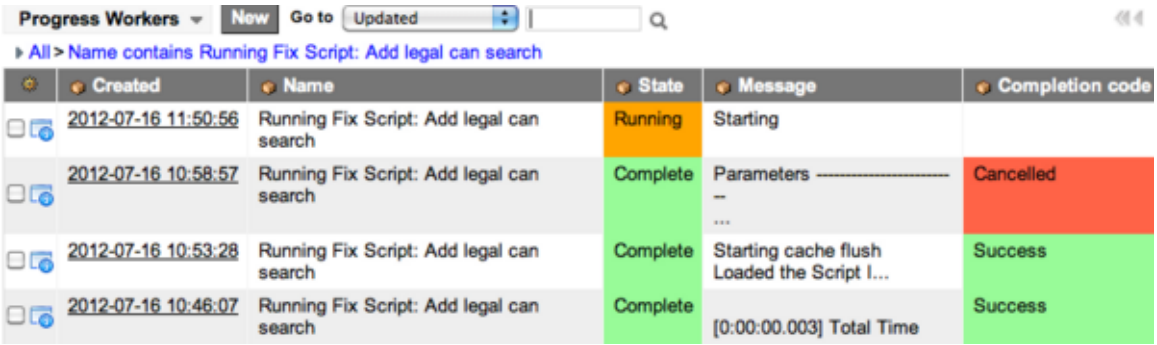
5. 関連リストで結果をレビューし、必要な変更を行います。
6. 実行中の修正スクリプトを手動で停止するには、次の操作を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** 関連リストから 状態のワーカーを選択します。

**b.** 関連リンクを選択します。




### 修正スクリプトの実行

修正スクリプトは、最初のインストール時に実行されるか、アプリケーションに追加された後に更新されます。ただし、以前の修正スクリプトは後続のアプリケーションの更新では実行されないため、必要な修正スクリプトを手動で実行する必要があります。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### このタスクについて
修正スクリプトを実行するには、次の操作を実行します。

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > システム定義 > 修復スクリプト.

**2.** フィルターを編集してアプリケーション名を検索します。
たとえば、 | [次の値に等しい ] | [Book Rooms] のように指定します。

**3.** 修正スクリプト レコードを開きます。

**4.** [修正スクリプトの実行] をクリックします。

## フルフィルメントテーブル

本番インスタンスで ServiceNow Store アプリの使用資格を適用できるようにするには、レコードの所有者または登録済みアプリのユーザーだけが更新できるテーブルを構成します。

カスタムアプリケーションをサポートするために開発者が作成または拡張するすべてのテーブルについて、そのテーブルをフルフィルメントテーブルとして指定できます。フルフィルメントテーブルでは、登録済みの履行者ユーザーのみが履行者アクション (一般には、所有していないレコードの作成/更新/削除) を実行できます。

これに対し、フルフィルメントテーブルではないテーブルの場合、登録していないユーザーであっても依頼者として関与できます。その目的は、使用管理者が、そのアプリケーションを実装しているすべての本番インスタンスでサブスクリプションを適用できるようにすることです。

### フルフィルメントテーブルのレコードの所有権
履行者アクションをシステムが識別できるようにするために、テーブル内のレコードの所有権を決定する方法を定義します。 アプリケーション開発者は、ユーザーがレコードを所有しているかどうかを判断する一連の条件を指定します。たとえば、*UserA* がレコードを開いたか、別のリソースが *UserA* の代わりにレコードを開いた場合、*UserA* はタスクテーブルのレコードを所有します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブスクリプションが必要なタスク拡張テーブル、タイムカード、アプリの場合、テーブルはデフォルトでフルフィルメントテーブルとして設定され、所有権条件が自動で割り当てられます。アプリをサポートするために作成したテーブルでは、テーブルをフルフィルメントテーブルとしてマーク付けし、所有権条件を指定できます (たとえば、フィルター **[opened_by][is][currentUser] OR [caller_id][is][currentUser]** を使用します)。

### システムのデフォルトの所有権条件

| アクション | 所有権条件 **[owner_condition]** |
|---|---|
| タスク拡張 | opened_by (読み取り専用) |
| カタログ要求 | requested_for (読み取り専用) |
| サブスクリプションが必要なアプリ内の他のテーブル | sys_created_by (読み取り専用) |
| サブスクリプションが必要なアプリに対して開発者が作成したテーブル | 開発者によって指定 |

#### テーブルがフルフィルメントテーブルであることの指定

テーブルをフルフィルメントテーブルとして設定すると、アプリに登録していないユーザーによる更新を防止できます。ServiceNow Store アプリでは、テーブルをフルフィルメントテーブルとして設定し、フルフィルメントの使用をサブスクリプション使用ポリシーに準拠させることができます。

始める前に
必要なロール：usage_admin、admin

手順

1. テーブルを操作しているときに、[ テーブルサブスクリプション構成 ] 関連リストを開きます。
2. [フルフィルメントテーブル] を選択します。
3. レコードを所有するエンドユーザーと登録済みの履行者ユーザーの両方がレコードを更新できるように、システムがテーブル内のレコードの所有権を決定する方法を指定します。所有権条件を指定します。
   たとえば、フィルターを **[opened_by]**[次の値に等しい **(=)][currentUser] OR [caller_id]**[次の値に等しい **(=)][currentUser]** と指定します。

## 個人開発者インスタンスガイド

ServiceNow® では、Now Platform® 開発者プログラムのメンバーに無料の個人開発者インスタンス (PDI) を提供し、Now Platform® を学習、探索、および試用できるようにします。

ServiceNow® では、Now Platform® でアプリケーションを開発したりスキルを向上させたりしたい開発者プログラムメンバーに、無料の個人開発者インスタンス (PDI) を提供しています。PDI は、Now Platform を試してビジネスのためのより大きな価値を構築するためのサンドボックス環境をメンバーに提供します。ServiceNow® 開発者プログラムでは、各メンバーがインスタンスを 1 つだけ持つことができ、すべての開発者プログラムメンバーがこの貴重なリソースを最大限に活用できます。

個人開発者インスタンス (PDI) を使用すると、顧客またはパートナーのインスタンスに影響を与えることなく、アプリケーションのアイデアをテストできます。PDI の使用目的は、Now Platform® の学習、探索、および試用です。PDI は、ビジネス目的または本番目的での使用を意図したものではありません。ビジネスまたは本番で PDI を使用することは、ServiceNow® 開発者プログラムの契約に

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

違反します。PDI を使用すると、Now Platform® が提供するすべての機能に対する管理者レベルのアクセス権が付与されます。PDI を継続的に使用すれば、永久に使用できます。

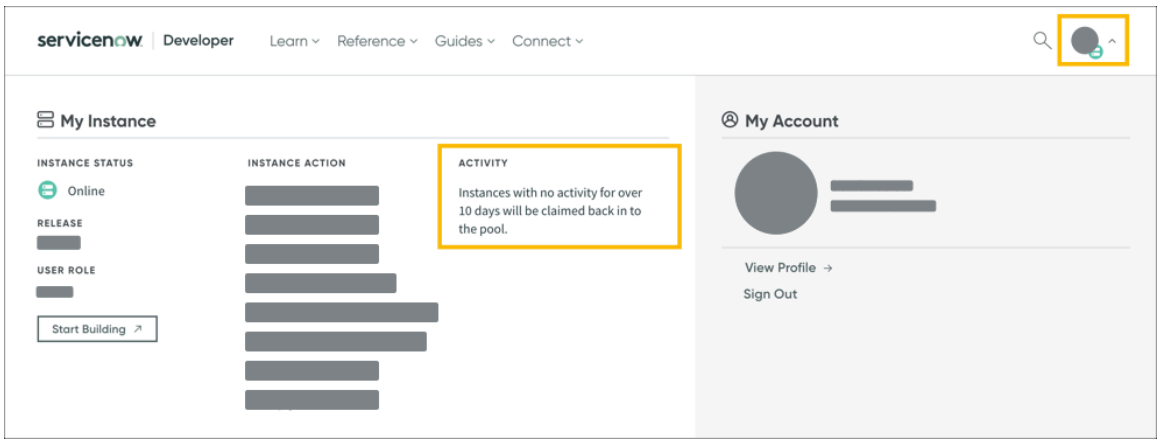
## PDI について

PDI では、特定のリリースを選択し、一貫した使用を維持して休止状態を回避する必要があります。

開発者サイトにサインインして、PDI をアクティブなままにします。一定期間非アクティブになると、インスタンスは再利用されます。データの損失を防ぐために、定期的に作業をバックアップしてください。

> **注:**
> 作業を保存するには、作業をソースコントロールにコミットするか、更新セットを作成します。保存されていない作業は、インスタンスの再利用によって失われる可能性があります。

PDI が再利用されると、インスタンスのアサインが解除され、元の状態にリセットされて別の開発者プログラムのメンバーに再アサインされます。インスタンスを再利用することで、開発者プログラムは無料のインスタンスでアクティブなプログラムメンバーをサポートできます。開発者サイトヘッダーの [アカウント] メニューの [アクティビティ] セクションには、非アクティブ状態が 10 日間継続していることを示すリマインダーが含まれています。




インスタンスでサインインするか、次のような開発者タイプのアクティビティを実行して、PDI をアクティブな状態に保ちます。

- アプリケーションの作成
- テーブルの作成
- テーブルへのフィールドの追加
- スクリプトインクルードの作成

## 休止状態

開発者プログラムを無料に保ち、PDI を必要とするすべてのユーザーに PDI を提供するために、インスタンスはアイドル状態のときに休止状態になります。PDI が休止状態になると、コンピューティングリソースを節約するためにデータベースとアプリケーションサーバーがシャットダウンされます。PDI が休止状態になったときは、すべてのデータが保持されます。開発者サイトにサインインすることで、休止状態のインスタンスを起動させることができます。インスタンスを休止状態から起動させると、10 日間の非アクティブカウントダウンがリセットされます。

さらに、次の点にも注意する必要があります。

- PDI は、10 日間使用されない場合、利用可能なインスタンスのプールに返されます。期間は空き状況により変更される場合があります。
- 空き状況は保証されません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

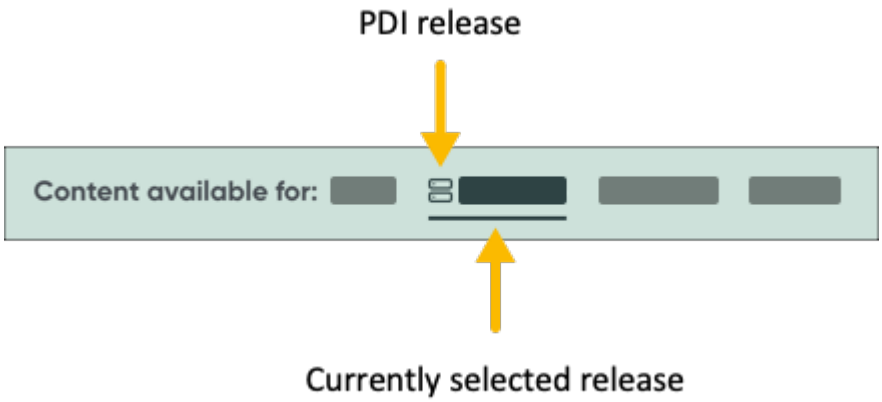
- PDI は、顧客またはパートナーのインスタンスのクローンターゲットまたはクローンソースにすることはできません。
- PDI は ServiceNow® に属しているため、Team Development を介して顧客またはパートナーのインスタンスにリンクすることはできません。
- PDI は、ServiceNow Application Repository や ServiceNow® ストアにアプリケーションを公開することはできません。
- PDI は、機械学習、Instance Data Replication、または MetricBase では機能しません。
- 多くの ServiceNow® Store アプリケーションは PDI にインストールできません。

## メンテナンス

ServiceNow® は、PDI に関連付けられた基礎となるインフラストラクチャのメンテナンスを実行する必要がある場合があります。メンテナンスには、ソフトウェア、ファームウェアの更新とパッチ適用、およびハードウェアの交換が含まれます。メンテナンス中は、PDI にアクセスできない場合があります。メンテナンスに必要な時間は、メンテナンスのタイプによって異なります。利用可能な場合、[自分のインスタンス (My Instance)] ページには、計画メンテナンスの予想完了時間が表示されます。PDI の作業とデータは、計画メンテナンスの影響を受けません。

## PDI とリリースセレクター

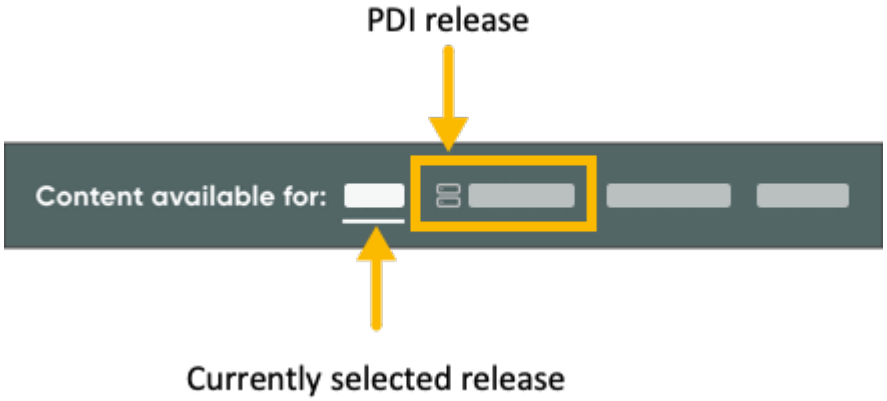
さまざまなリリースのコンテンツが利用可能な場合は、リリースセレクターを使用してリリースを選択します。リリース名の横にあるサーバーアイコンは、PDI のリリースを示します。リリース名の下のバーは、選択したリリースを示します。PDI で作業するときは、コンテンツが PDI と一致していることを確認してください。




コンテンツが PDI リリースと一致しない場合は、サーバーアイコンのあるリリースをクリックして、PDI のリリースと一致するコンテンツを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




セレクターには、コンテンツが PDI リリースで利用できない場合を除き、コンテンツの現在のページが利用可能なリリースのみが表示されます。コンテンツが PDI リリースで利用できない場合、PDI リリースはグレー表示され、選択できません。

PDI が最新リリースでない場合は、PDI のアップグレード手順に従って最新リリースを入手してください。

## 開発インスタンスの取得

アプリケーションを構築およびテストするための個人開発インスタンスを要求します。

### 始める前に

必要なロール：なし

### このタスクについて

無料の ServiceNow 個人開発者インスタンス (PDI) を取得します。サンドボックス内でアプリケーションを構築して、アプリケーションビルダーと展開戦略をテストします。

### 手順

1. ブラウザーで開発者サイトに移動します。
2. ServiceNow 開発者アカウントがない場合は、[サインイン] または [サインアップして構築を開始 **(Sign up and Start Building)]** を選択します。
3. ServiceNow 開発者サイトにログインした後、[ガイド] を選択します。
4. [ガイドの概要 **(Guides Overview)]**を選択します。
5. サイドナビゲーションで [個人開発者インスタンス **(PDI)** ガイド **(Personal Developer Instance (PDI) Guide)]** を選択します。
6. 指示に従って、個人開発者インスタンスを取得します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## PDI の取得

新しいインスタンスを取得して、最新の一般提供リリースで PDI を実行します。

### 始める前に

必要なロール：なし

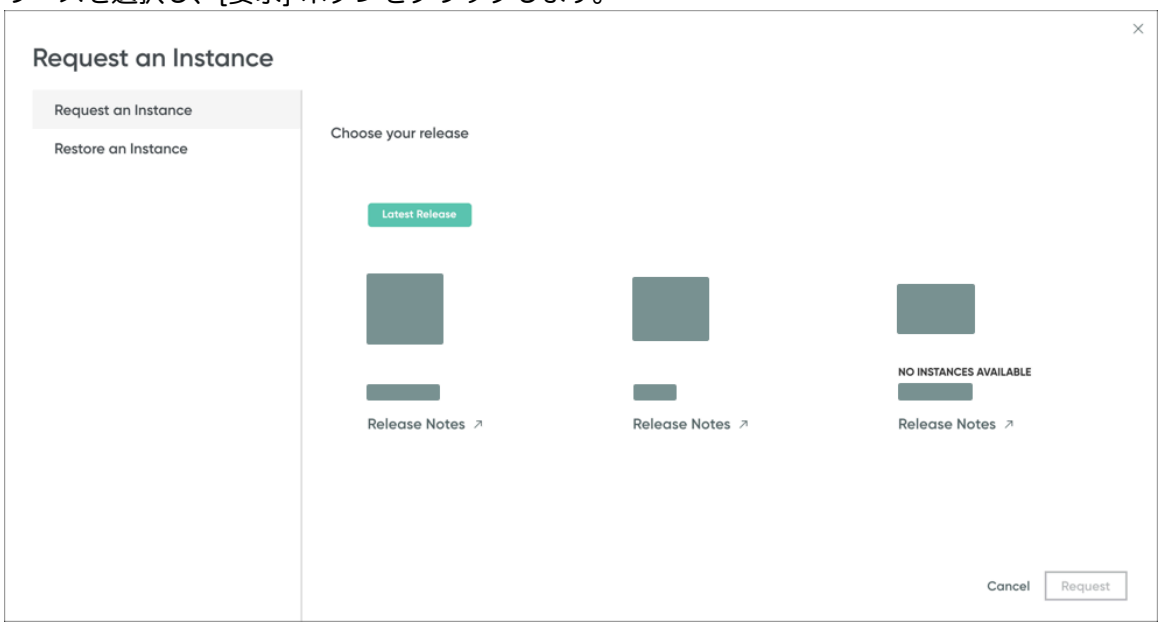
### このタスクについて

開発者サイトに初めてサインインすると、最新の一般提供リリースを実行している PDI が提供されます。この PDI は、アクティブにしておく限り使用できます。以前のリリースを実行している PDI が必要な場合は、PDI をリリースして新しいインスタンスを要求します。

PDI をリリースしたか、10 日間以上アクティビティがなかったために PDI がない場合は、が新しいインスタンスを要求できます。

### 手順

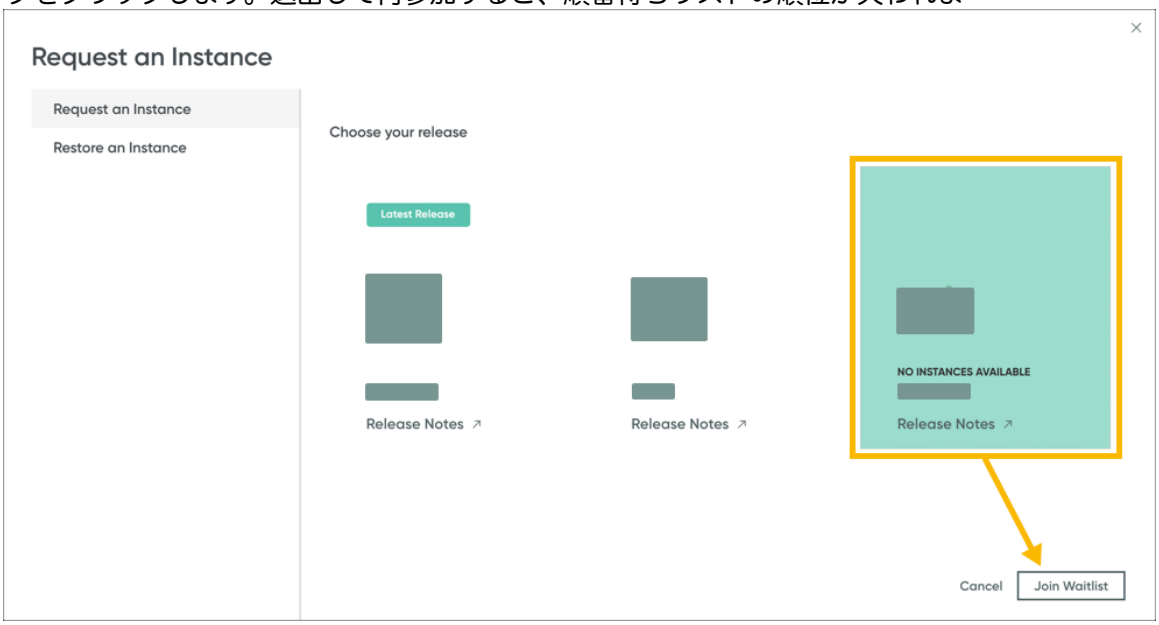
1. 開発者サイトにサインインします。
2. ヘッダーの [インスタンスの要求] ボタンをクリックします。
3. [インスタンスの要求 **(Request an Instance)]** ダイアログで、インスタンスの ServiceNow® リリースを選択し、[要求] ボタンをクリックします。



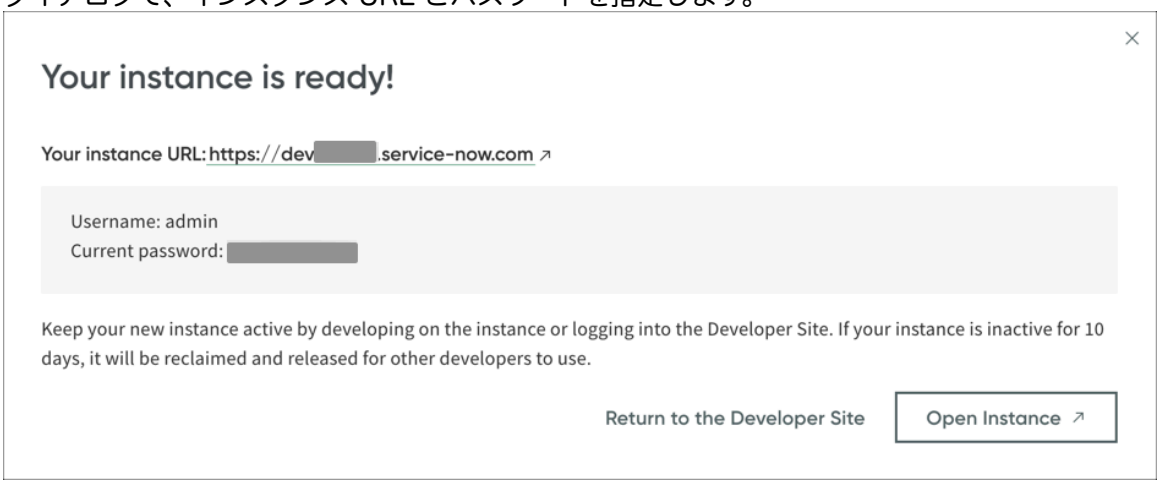

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- PDI は限られたリソースです。目的のリリースで利用可能な PDI がない場合は、リリースのリリースカードを選択し、[順番待ちリストに参加 **(Join Waitlist)]** ボタンをクリックします。PDI が利用可能になると通知されます。
- 順番待ちリストから退出するには、ヘッダーの [順番待ちリストから退出 **(Leave Waitlist)]** リンクをクリックします。退出して再参加すると、順番待ちリストの順位が失われます。




4. インスタンスがアサインされると、 [インスタンスの準備ができました **(Your instance is ready!)]** ダイアログで、インスタンス URL とパスワードを指定します。




5. [インスタンスを開く] ボタンをクリックして、新しいブラウザータブでインスタンスを開きます。

## PDI へのアクセス

PDI を開き、インスタンスで構築を開始します。

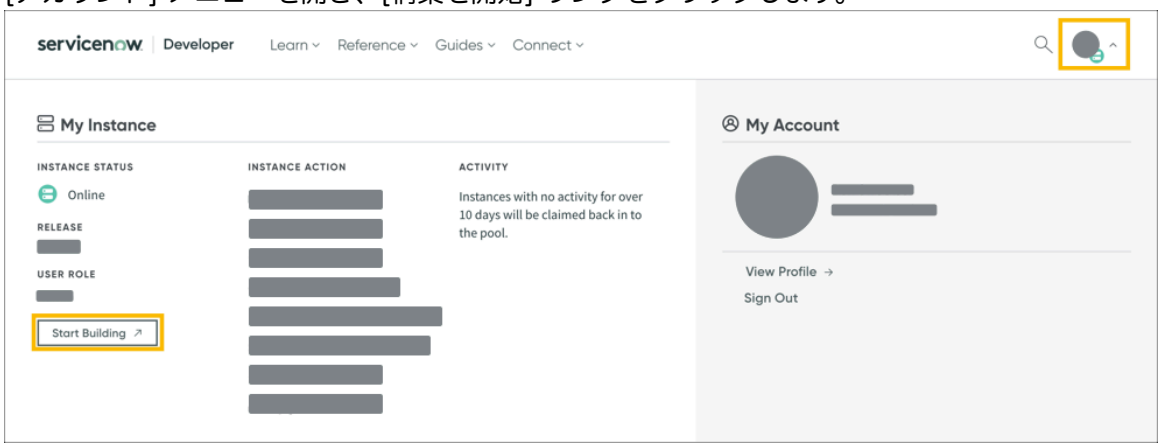
始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
PDI を取得したら、[アカウント] メニューからインスタンスを開くことができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 開発者サイトにサインインします。
2. [アカウント] メニューを開き、[構築を開始] リンクをクリックします。




3. PDI が休止中の場合は、PDI が起動してアクセスできるようになるまで数分待ちます。
   開発者サイトにサインインすると、PDI は自動的に休止状態から起動します。
4. 開発者サイトにサインインしている間に PDI が休止状態になった場合は、[インスタンスを更新] インスタンスアクションを選択し、[インスタンスを起動 **(Wake Instance)]** ボタンをクリックして、PDI を休止状態から起動させます。
5. インスタンスがメンテナンス中の場合は、メンテナンスが完了するまで待ってから PDI にアクセスする必要があります。
6. PDI へのアクセスに問題がある場合は、このガイドの「インスタンスのサポートを受ける」セクションで実行できる手順を確認してください。

## PDI からのプラグインのアクティブ化

インスタンスの使用を開始する 1 つのオプションは、PDI のプラグインを直接アクティブ化することです。

始める前に
必要なロール：なし

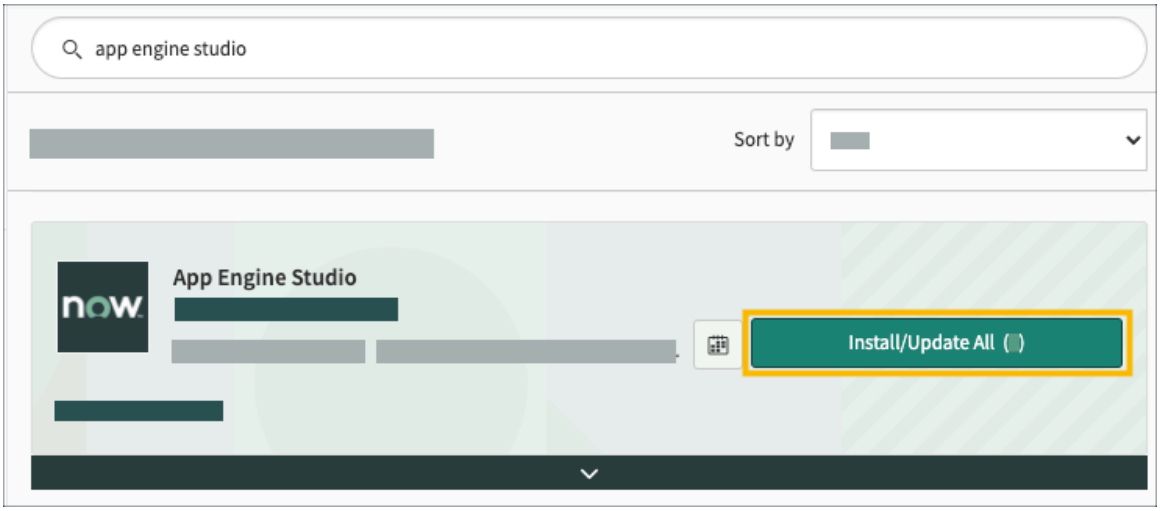
このタスクについて
ほとんどのプラグインは PDI で直接アクティブ化できます。Activate a plugin の指示に従います。

手順

1. PDI で、以下を開きます。 システム定義 > プラグイン.
2. [検索] フィールドに、<インストールするプラグインの名前> (app engine studio など) を入力します。

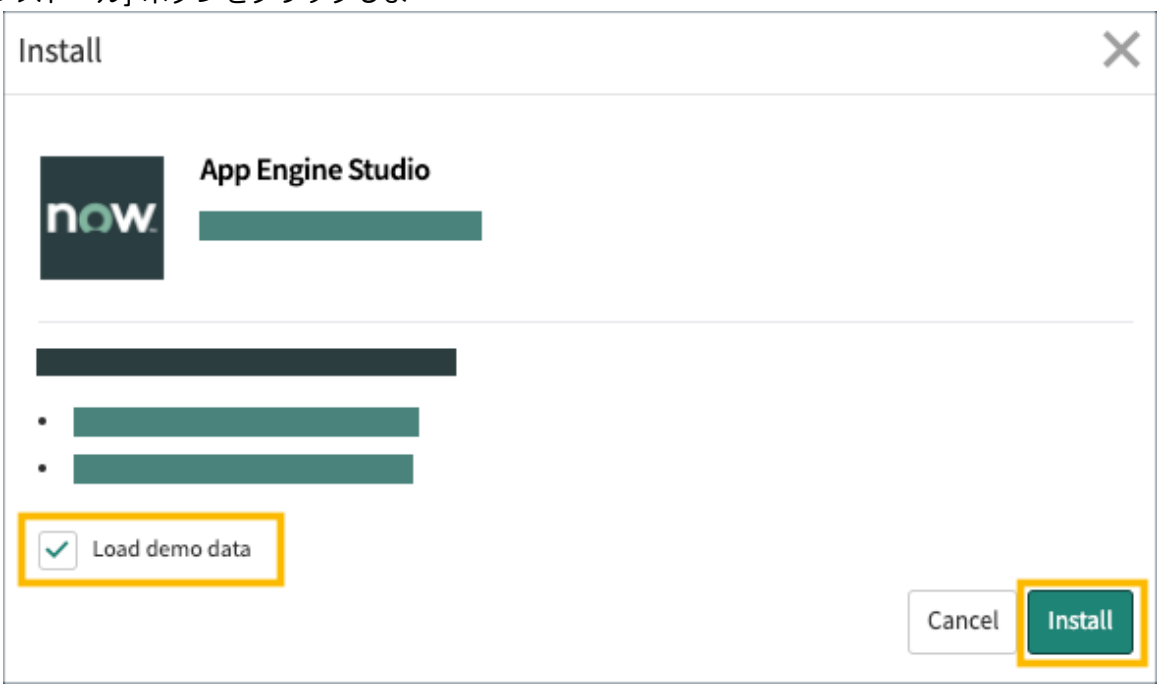
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. プラグインのカードで、[インストール/すべて更新] ボタンをクリックしま


す。

4. オプション：[インストール] ダイアログで、[デモデータのロード] オプションを選択して、プラグインのサンプルデータをインストールします。

5. [インストール] ボタンをクリックしま


す。

6. インストールが完了したら、[インストール] ダイアログの [閉じる] ボタンをクリックします。

## 開発者サイトからの **PDI** プラグインのアクティブ化

開発者サイトから PDI プラグインを有効にして、インスタンスでの作業を開始します。

### 始める前に

必要なロール：なし

### このタスクについて

一部のプラグインは、会社およびパートナーのインスタンスで ServiceNow® 担当者によるアクティブ化が必要です。プラグインリストからこれらのプラグインをアクティブ化することはできません。これらのプラグインは、[アカウント] メニューの [自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションから有効にできる場合があります。

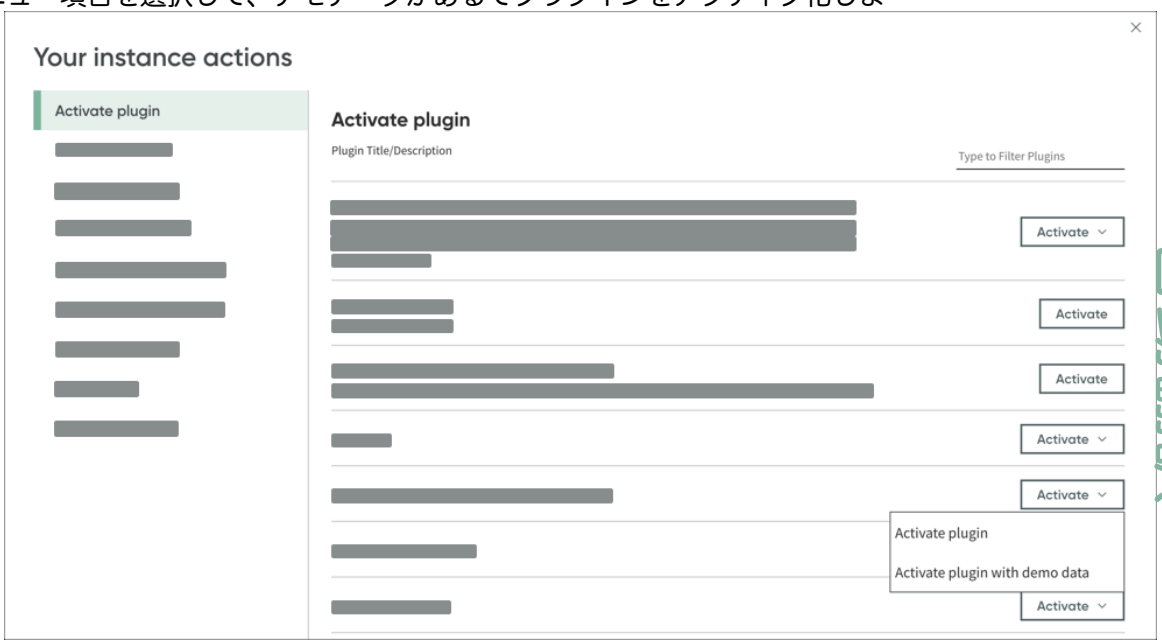
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

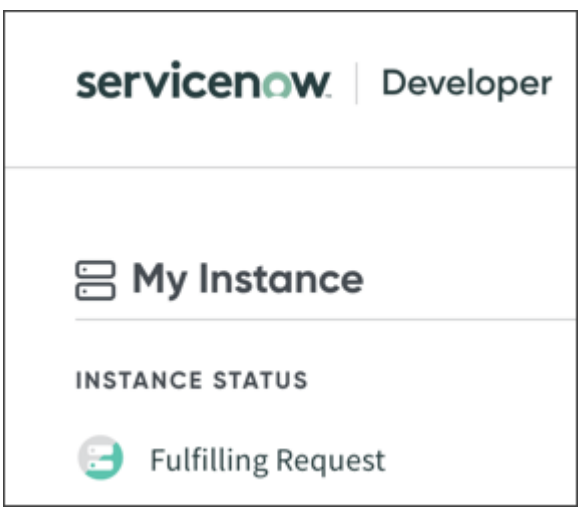
注:
多くの ServiceNow® Store アプリケーションは PDI にインストールできません。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
2. [プラグインのアクティブ化] インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで、プラグインを見つけて [アクティブ化] ボタンをクリックします。
4. プラグインにデモデータがある場合は、次の手順を実行します。
   a. [プラグインのアクティブ化] メニュー項目を選択して、デモデータがないプラグインをアクティブ化します。
   b. [デモデータがあるプラグインのアクティブ化 **(Activate plugin with demo data)]** メニュー項目を選択して、デモデータがあるでプラグインをアクティブ化します。




プラグインがアクティブになっている間は、他のインスタンスアクションを実行できません。プラグインがアクティブになっている間は、[インスタンスステータス] は [要求の実行中 **(Fulfilling Request)]** です。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
プラグインのアクティブ化が完了すると、開発者サイトからメールを受信します。ServiceNow® 担当者によるアクティブ化が必要なプラグインは、PDI のプラグインリストに表示されません。[利用可能なプラグイン] ダイアログにプラグインのアクティブ化ステータスが表示されません。

プラグインを使用するには、PDI にログインしたブラウザーウィンドウを再ロードします。

## PDI のメールプロパティの管理

PDI 内のプロパティを設定して、メールの送受信を開始します。

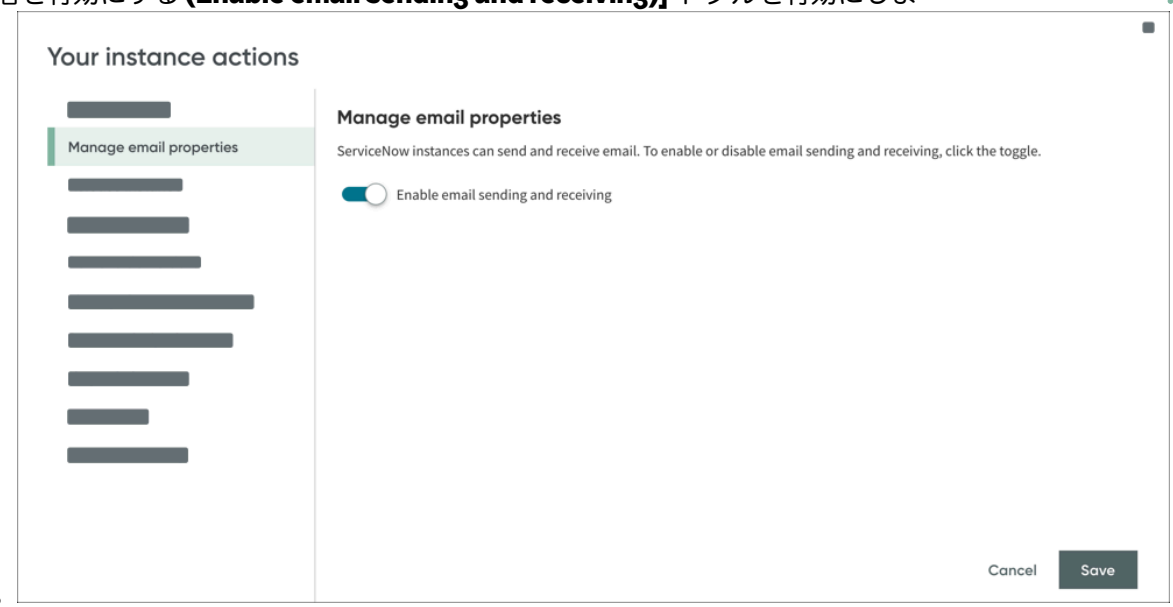
始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ServiceNow® インスタンスはメールを送受信できます。メールの構成は通常、アプリケーション開発者ではなくシステム管理者の責任です。PDI でメールを送受信するには、メールの送受信を設定する必要があります。

残念ながら、個人開発者インスタンス (PDI) は、スパムメールを送信するために誤って悪意を持って使用されてきました。スパムを防止しつつ PDI での通知を許可するために、メールサーバーの送信先を単一ドメイン guerrillamail.com に制限しました。PDI は、guerrillamail.com を除くすべてのドメインからメールを受信できます。

手順

1. 開発者サイトからのメール送受信を有効にするには、次の手順を実行します。
   a. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
   b. [メールプロパティの管理] インスタンスアクションをクリックします。
   c. [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで、[メールの送受信を有効にする **(Enable email sending and receiving)]** トグルを有効にします。




   d. [保存] ボタンをクリックします。
2. メールの送受信を無効にするには、[メールの送受信を有効にする **(Enable email sending and receiving)]**トグルを無効にします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## PDI のリリース

PDI をリリースしてインスタンスのアサインを解除し、元の状態にリセットして、別の開発者プログラムのメンバーに再アサインします。

### 始める前に
必要なロール：なし

### このタスクについて
PDI が不要になった場合、または長期間使用できない場合は、作業を保存してインスタンスをリリースします。PDI がリリースされると、インスタンスのアサインが解除され、元の状態にリセットされて別の開発者プログラムのメンバーに再アサインされます。インスタンスを要求するか、インスタンスを復元すると、異なるインスタンス名と URL の PDI を受け取ります。

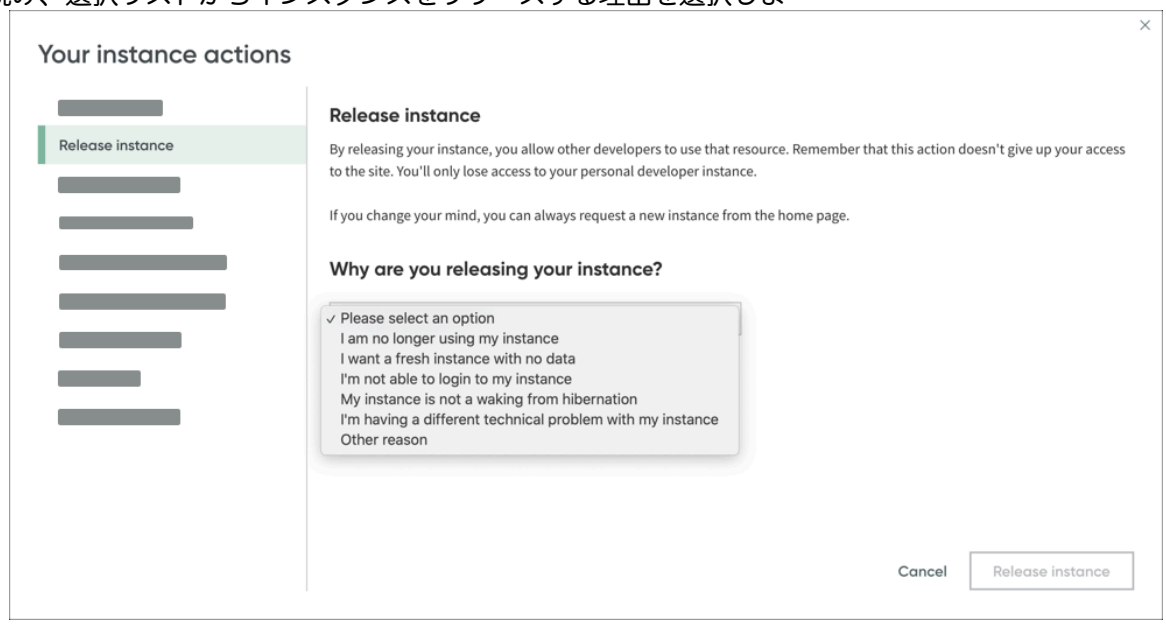
### 手順

PDI をリリースするには、次の手順を実行します。

**a.** [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。

**b.** [インスタンスをリース**(Release instance)]** インスタンスアクションをクリックします。

**c.** [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで詳細を読み、選択リストからインスタンスをリリースする理由を選択します。




**d.** [インスタンスをリース **(Release instance)]** ボタンをクリックします。

## インスタンスのユーザーロールの変更

さまざまなビューとアクセスレベルを使用するには、PDI ユーザーロールを App Engine Studio 作成者または管理者に変更します。

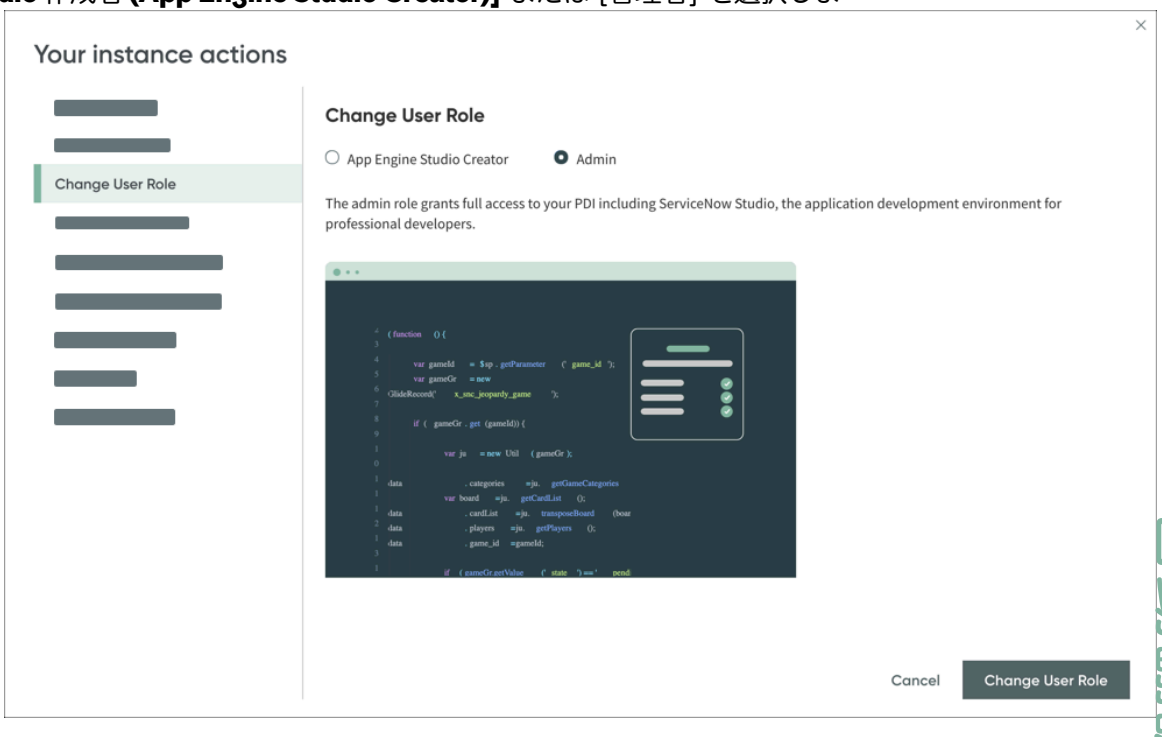
### 始める前に
必要なロール：なし

### このタスクについて
学習またはテストのニーズに応じて、PDI のユーザーロールを変更する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ユーザーロールを変更するには、次の手順を実行します。
   a. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションにアクセスします。
   b. [ユーザーロールを変更 **(Change User Role)**] インスタンスアクションをクリックします。
   c. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで、**[App Engine Studio** 作成者 **(App Engine Studio Creator)]** または [管理者] を選択します。




   d. [ユーザーロールを変更 **(Change User Role)**] ボタンをクリックします。
   e. ユーザーロールの変更要求が正常に完了すると、メッセージが表示されます。
2. ユーザーロールの変更を表示するには、次の手順を実行します。
   a. 開いている PDI ブラウザータブをすべて閉じます。
   b. [アカウント] メニューの [構築開始 **(Start building)**] ボタンをクリックして、PDI を再起動します。

## PDI からのデモデータの削除

デフォルトで含まれている PDI のデモデータが不要な場合は、PDI から削除します。

### 始める前に
必要なロール：なし

### このタスクについて
デフォルトでは、PDI にはデモデータが含まれています。開発者サイトで PDI からデモデータを削除できます。

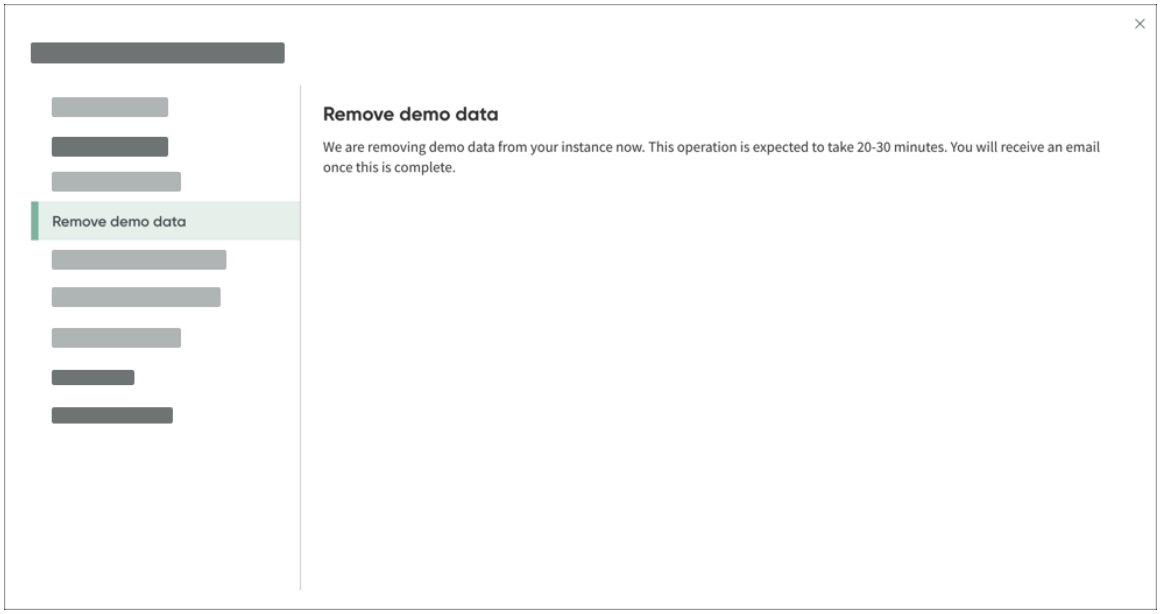
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
2. [デモデータの削除] インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで説明を読み、デモデータを復元できないことを確認し、[デモデータの削除] ボタンをクリックします。

タスクの結果
デモデータの削除には 20 ～ 30 分かかります。プロセスが完了すると、開発者サイトからメールが送信されま




す。

## **PDI** の初期状態へのリセット

PDI を初期状態にリセットして、新しいインスタンスで作業を開始します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
新しいアプリケーションで作業を開始する場合、または新しいインスタンスで作業する場合は、PDI を初期状態にリセットできます。

> **注:**
> インスタンスをリセットしてワイプすると、PDI に対して行ったカスタマイズと構成が失われます。作業をソースコントロールにコミットするか、更新セットを作成して、保存したい作業を必ずバックアップしてください。

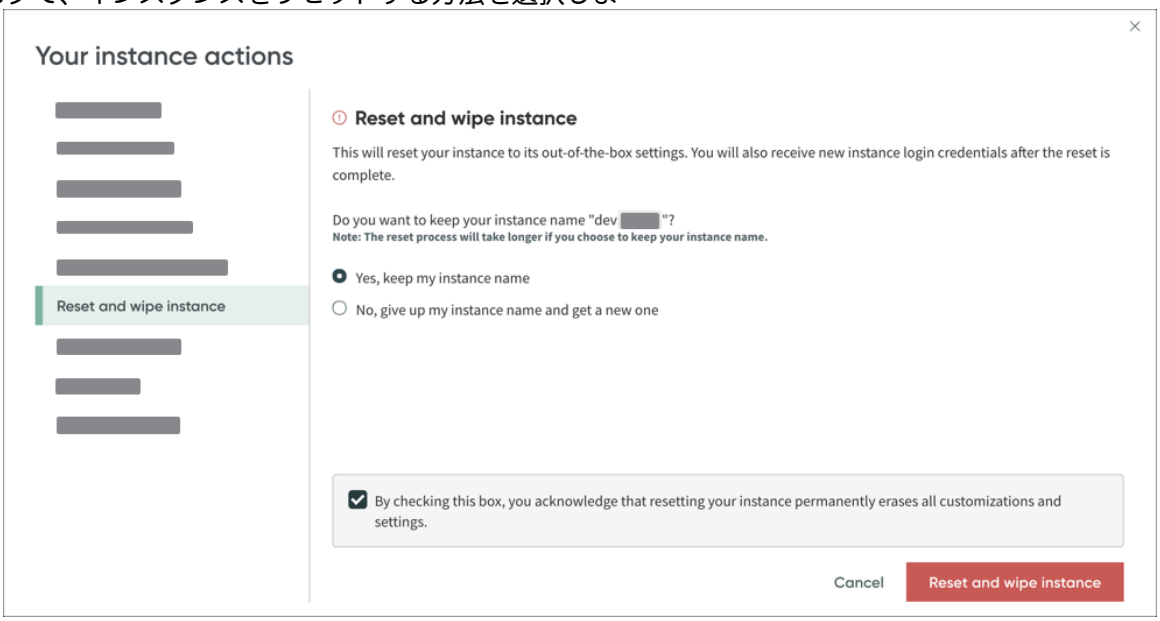
手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
2. [インスタンスをリセットおよびワイプ **(Reset and wipe instance)]** インスタンスアクションをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで、インスタンスをリセットする方法を選択します。




   - [はい、インスタンス名を保持します **(Yes, keep my instance name)**]：インスタンスをデフォルトステータスにリセットします。インスタンスのリセットとワイプが完了するまでに数時間かかる場合があります。プロセスが完了すると、メールが届きます。
   - [いいえ、インスタンス名を破棄し、新しいインスタンス名を取得します **(No, give up my instance name and get a new one)**]：リセットプロセスを待たずに新しいインスタンスを取得します。
4. [このボックスをオンにすると、インスタンスをリセットするとすべてのカスタマイズと設定が完全に消去されることを確認したことになります **(By checking this box, you acknowledge that resetting your instance permanently erases all customizations and settings)**] 免責事項を選択します。
5. [インスタンスをリセットおよびワイプ **(Reset and wipe instance)**] ボタンをクリックします。

## PDI のアップグレード

インスタンスにパッチまたは新しいリリースを適用して、PDI をアップグレードします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ServiceNow がパッチと新しいリリースをリリースしたら、開発者サイトからパッチまたはリリースを PDI に適用できます。PDI のアップグレードには 2 つのオプションがあります。

> 注:
> ServiceNow パッチ適用プログラム へのコンプライアンスを維持するために、リリースのパッチは、最大で月に 1 回 PDI に自動的に適用されます。通常のパッチ適用スケジュール以外にパッチを適用できるようになる場合があります。[インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)**] オプションを使用して、パッチを手動で適用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
2. [インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション] ダイアログで、PDI に適用するパッチまたはリリースを選択し、[インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** ボタンをクリックします。

タスクの結果
インスタンスのアップグレードが完了するまでに数時間かかる場合があります。アップグレードを実行する時間ができるまで、アップグレードを実行しないでください。

アップグレードが完了すると、メールを受信します。

### インスタンスのサポートを受ける

インスタンスへのアクセスに関する一般的な問題についてサポートを受け、フィードバックを提供します。

PDI にアクセスできない場合、または [インスタンスは現在オフラインです **(Your instance is currently offline)]** ページが表示される場合は、PDI が休止状態から起動処理中か、PDI がパッチ適用を完了したばかりで再起動が必要である可能性があります。PDI は 5 分以内に利用可能になります。

5 分経っても PDI が利用できない場合は、開発者サイトにサインインし、[自分のインスタンス] ページを確認して、PDI がまだメンテナンス中であるかどうかを確認します。

PDI に問題がある場合は、すべての開発者サイトページのフッターにある [フィードバックを追加] ボタンを使用します。必ず詳細な説明を含めてください。

## 早期の可用性ガイド

Early Availability では、市場投入によりすべての顧客が使用できるようになる 1 か月以上前に、最新リリースに独占的にアクセスできます。

ServiceNow 開発者プログラムは、プレリリースバージョンに対する Early Availability を提供します。ServiceNow 開発者サイトから、プレリリースバージョンとリソースにアクセスできます。開発者プログラムのメンバーは、Early Availability によって、市場投入によりすべての顧客が使用できるようになる 1 か月以上前に、最新の ServiceNow リリースに独占的にアクセスできます。Early Availability には次のものが含まれます。

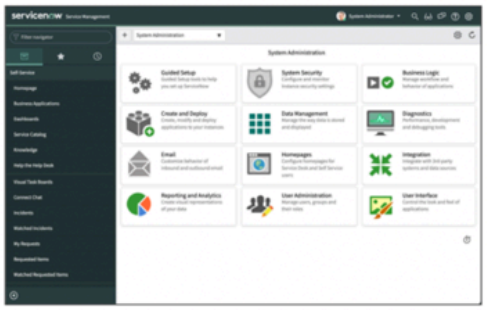
- 個人開発者インスタンス (PDI)
- 学習計画
- トレーニングコース
- API 一覧
- ドキュメント

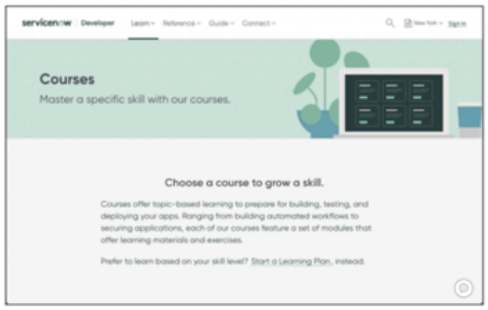
開発者プログラムのメンバーは、Early Availability を通じて最新の ServiceNow リリースに最初に精通することができます。Early Availability では、業界の他の開発者とは一線を画すスキルを学ぶ

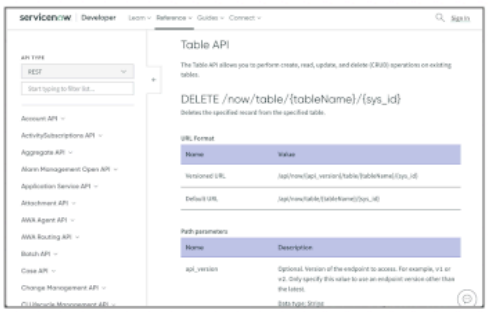
自動翻訳

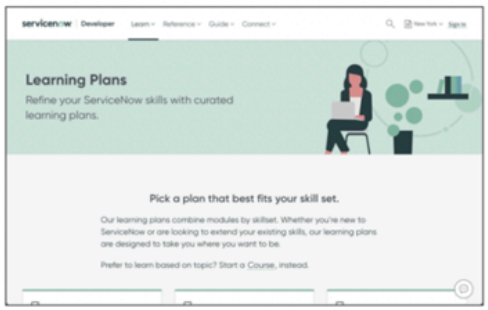
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機会を提供します。最新の機能とアップグレードを活用して、新しいアプリケーションを構築できま






す。

## **Early Availability** 個人開発者インスタンス

Early Availability では、最新リリースを実行している個人開発者インスタンスに誰よりも先にアクセスできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 注:
   PDI の管理方法の詳細については、「個人開発者インスタンスガイド」を参照してください。

   Early Availability リリースを実行している新しい個人開発者インスタンス (PDI) を要求するには、次の手順を実行します。

   a. 開発者サイトにサインインします。

   b. ヘッダーの [インスタンスの要求] ボタンをクリックします。

   c. インスタンスがアサインされると、インスタンス URL と管理者資格情報が [自分のインスタンス] ページに追加されます。

   d. インスタンスのリンクをクリックして、新しいブラウザータブでインスタンスを開きます。

2. 新しい PDI を要求したときに Early Availability リリースが利用できない場合は、利用可能なリリースの新しい PDI を要求してから、それを Early Availability リリースにアップグレードします。

3. 既に PDI がある場合は、既存の PDI を Early Availability リリースにアップグレードします。

   a. [自分のインスタンス **(My Instance)**] メニューを開きます。

   b. [インスタンスアクション] で [インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)**] アクションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. Early Availability リリースを選択します。

d. [インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** ボタンをクリックします。

4. PDI で以前のリリースを使用する場合は、次の手順を実行します。

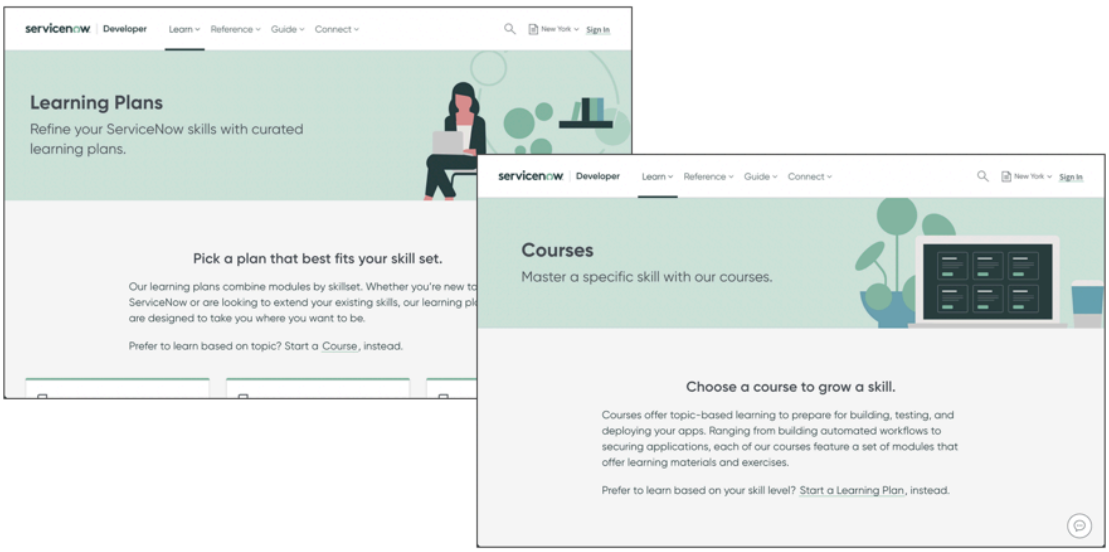
a. PDI をリリースします。
PDI のリリース方法の詳細については、「PDI のリリース」を参照してください。

b. 選択したリリースを実行する新しい PDI を要求します。
新しい PDI を要求するには、PDI をリリースしてから 15 分待つ必要があります。

## 早期の可用性学習計画とトレーニングコース

Early Availability では、最新リリース専用の学習計画とトレーニングコースにアクセスできます。

開発者プログラムでは、自分のペースでリリースを調べるために必要なトレーニングを提供します。Early Availability では、最新リリース専用の学習計画とトレーニングコースにアクセスできます。現在の知識と経験に基づいて、わかりやすいトレーニングコースまたは学習計画から選択してください。どちらを選択しても、最新の Now Platform でアプリケーション開発スキルを構築または向上させることができます。




## Early Availability API ドキュメント

Early Availability には、最新リリースの API ドキュメントへのアクセスが含まれます。

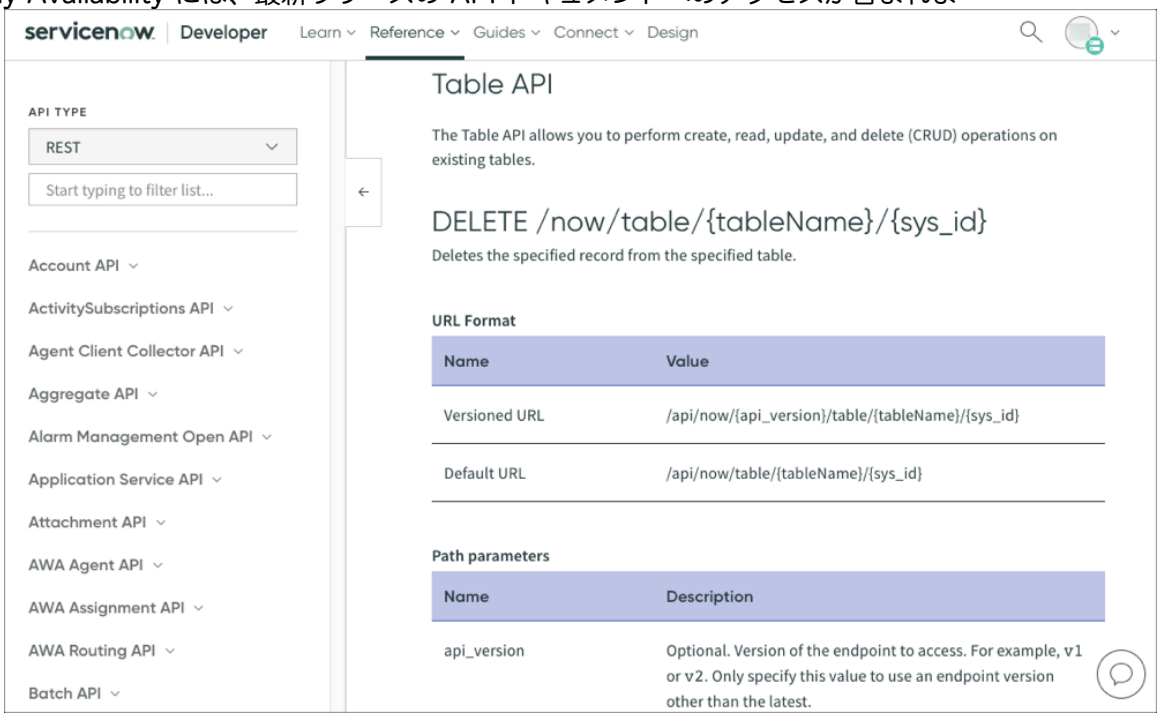
開発者プログラムには、以下に関する API ドキュメントも含まれています。

- サーバーサイド API (スコープ対象およびグローバル)
- クライアントサイド API
- REST APIs
- Now Experience UI フレームワーク

サーバーサイドのスコープ対象の API は、スコープ対象のアプリケーション内で使用するためのものであり、グローバルスコープ内では動作が異なる場合があります。サーバーサイドの従来の API は、グローバルスコープでの開発作業用に文書化されています。新しいアプリケーションは、スコープ対象の API を使用して構築する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Early Availability には、最新リリースの API ドキュメントへのアクセスが含まれます。




## ローコード開発とプロコード開発

Now Platform でのローコードとプロコードのソリューションの違いについて学習します。

### ローコード開発とは？

ローコード開発は、コーディング経験が少ないユーザーでも強力なアプリを作成できる、アプリ作成の新しいアプローチです。ローコード開発プラットフォームは、手動でのコーディングではなく、グラフィカルインターフェイスと構成に依存しています。これらの新しいローコード開発プラットフォームにより、より多くのユーザーがアプリを迅速かつ効率的に作成して展開できるようになります。

### ローコード開発のメリット

ローコードアプリ開発により、開発プロセスが簡素化され、より多くのアプリをより迅速に構築できます。ローコードソリューションでは、開発者数が少なくて済み、開発者以外のユーザーもアプリを構築できます。構築済みのテンプレートを使用すると、開発者はアプリの構築をすぐに開始できます。システム管理者は、アプリ開発を一元管理し、他の開発者と共同作業を行うことができます。Now Platform で事前定義されたワークフローを使用して、アプリの展開にかかる時間を短縮します。

### ServiceNow ローコード開発ツール

- App Engine Studio
- UI ビルダー
- テーブルビルダー
- Flow Designer
- Workspace Builder
- ディシジョンビルダー

自動翻訳

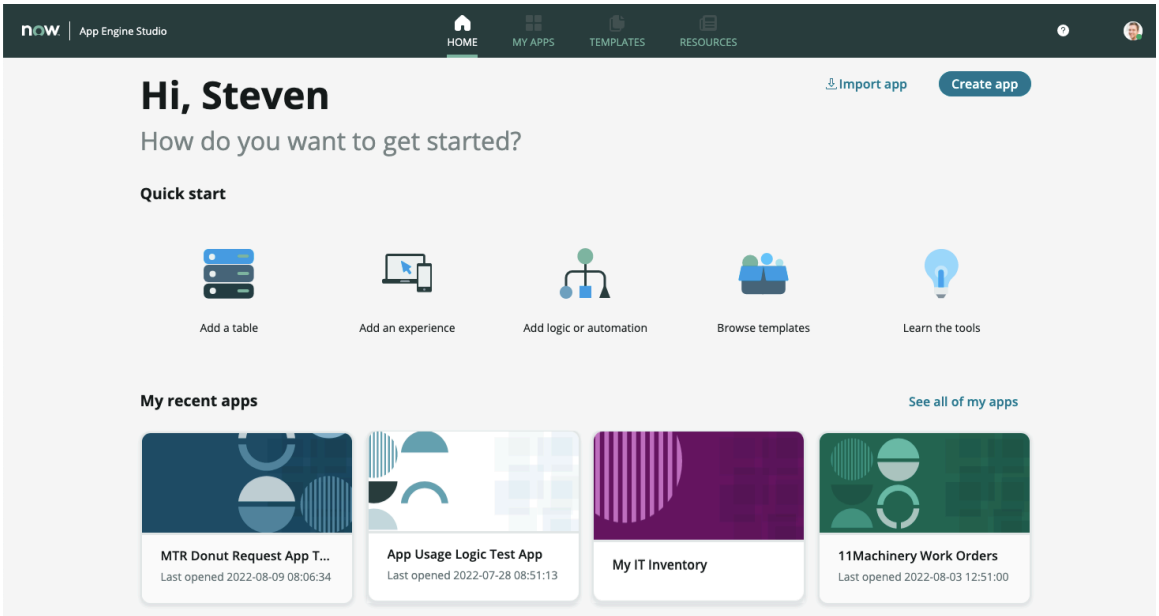
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローコード開発ツールの詳細については、「App Engine でのローコードアプリケーションの構築」を参照してください。

## ローコード開発ツールの例

App Engine Studio (AES)は、ローコード開発者が Now Platform の機能を活用できるようにして、企業のローコード開発のニーズに対応するように設計されています。ガイダンス主導型のフローとカスタマイズしやすいテンプレートにより、市民開発者はすぐに使い始めることができます。

**AES** ランディングページ




## プロコード開発とは？

プロコード開発は、開発者がローコードツールでは構築できない複雑なアプリを作成するために使用します。従来、プロコード開発は、カスタムコードを使用してゼロからアプリを作成し、ビジネスニーズを解決するために使用されました。開発者には、コーディングの知識と、アプリを構築するためのプログラミング言語の使用方法が必要です。

## プロコード開発のメリット

プロコード開発の利点は、ツールの制限なしでカスタムアプリを作成できることです。ビジネスニーズに合わせた独自のカスタムアプリを無制限に構築できます。開発者は、会社のブランディングに合わせたカスタムルックアンドフィールでアプリを作成できます。

## **ServiceNow** プロコード開発ツール

- UI ビルダー
- ServiceNow Studio
- Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張
- REST APIs
- ガイド付きアプリケーションクリエーター
- スクリプティング

プロコード開発ツールの詳細については、「プロコードアプリケーションの構築」を参照してください。

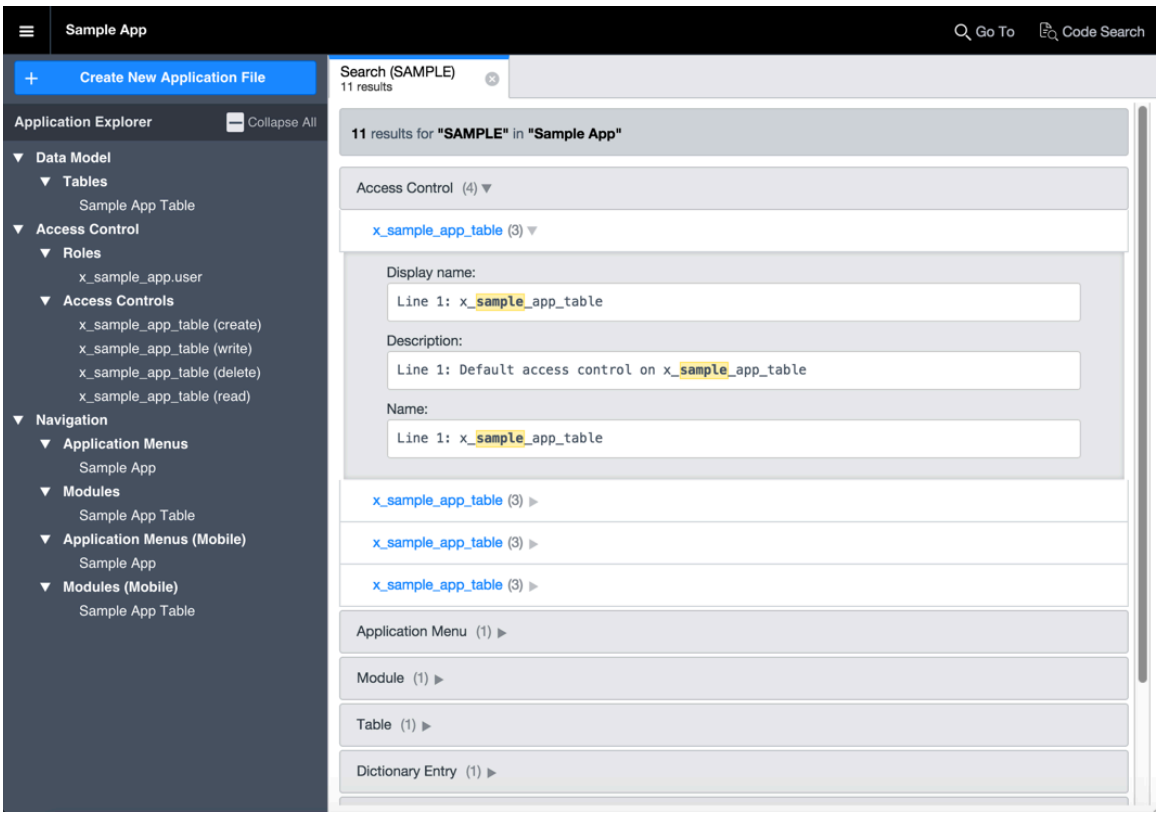
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## プロコード開発ツールの例

ServiceNow Studio は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを 1 か所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

**ServiceNow Studio** サンプルアプリ




## ローコードとノーコード

ローコードとノーコードという用語は同じ意味で使用される傾向がありますが、まったく同じものではありません。ローコードとノーコードのソリューションはどちらもアプリ開発を簡素化するためのツールを提供しますが、その違いは考慮する価値があります。

ローコード

ローコードプラットフォームは、プロの開発者や技術者以外のビジネスユーザー向けに設計されています。トレーニングや経験はほとんど必要なく、ビジュアルベースのモデリングを使用して開発プロセスを簡素化します。また、コーディング経験があるユーザーは、必要に応じて手動でコーディングすることもできます。

ノーコード

ノーコードプラットフォームは開発経験を必要とせず、市民開発者とビジネスユーザー向けに特別に設計されています。ノーコードソリューションは、実質的にすべてのユーザーにアプリ開発を可能にしますが、シャドー IT (組織内の認可されていないアプリ開発) につながる可能性があります。

# アプリケーションの変更と構築

アプリケーションのライフタイムには、新しいアプリケーションを作成して古いアプリケーションを置き換えた方が合理的であるというタイミングがあります。新しいアプリで利用可能なコスト削減、メンテナンスの労力、および機能は、新しいアプリケーションを構築するか既存のアプリケーションを変更するかを判断するのに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

次の理由から、新しいアプリケーションを構築することを検討してください。

- 既存のアプリケーションが古いため、新しいハードウェアで正常に動作しません。
- 新しいアプリケーションを構築すると、既存のアプリケーションを更新および維持するよりもコストを削減できます。
- 既存のアプリケーションは基本的にビジネスニーズを満たしていません。
- 既存のアプリケーションの機能を新しいアプリケーションに簡単に移行できます。
- 既存のアプリケーションを更新すると、追加する機能がサポートされていないため、UI とワークフローが大幅に中断されます。
- 新しいアプリケーションは、既存のアプリケーションよりも UI が更新され、機能が多く、使いやすいため、より多くのユーザーに支持されます。
- App Engine Studio (AES) のようなローコードプラットフォームでは、既存のアプリケーションを管理するよりも、新しいアプリケーションを構築する方が迅速で簡単です。

## さまざまな UI エクスペリエンスを理解する

Next Experience UI、ワークスペース UI、クラシック環境、およびコア UI の Now Platform ユーザーインターフェイスで開発できます。このトピックでは、これらのユーザーインターフェイスについて説明します。

次の表の情報を使用して、自分とチームに最適な UI エクスペリエンスを選択してください。

**Now Platform の UI エクスペリエンス**

| UI エクスペリエンス | メリット |
| --- | --- |
| Next Experience UI | 統一ナビゲーション<br>• 使用しているアプリケーションに関係なく、コンテキストアプリピル、メニューアイテム、検索などのアプリシェルアイテムに、プラットフォーム全体を通じて 1 つの場所からアクセスできます。<br>• ナビゲーションメニューを固定および固定解除して、メニューアイテムにアクセスしたり、画面のスペースを解放したりします。<br>その他のメニュー<br>• [お気に入り]、 [履歴]、および [ワークスペース] メニューアイテムを使用して、重要なリソースに移動して固定します。<br>• コア UI アプリケーションと構成可能なワークスペースを簡単に切り替えることができます。<br>• 1 つのメニューで最近表示したアイテムを検索します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Now Platform の UI エクスペリエンス (続く)**

| UI エクスペリエンス | メリット |
| --- | --- |
| | • エンドユーザー向けのカスタムメニューを作成します。詳細については、「Configure custom menus for Unified Navigation」を参照してください。 |
| Configurable Workspace UI | エージェントの効率向上<br>最適化された直感的なレイアウトで複数の問題を同時に処理します。<br>迅速な解決<br>機械学習を利用した自動提案により、問題を迅速に解決します。<br>重大なインシデントの予測<br>問題の頻度と影響度に基づいて、潜在的な重大インシデントを通知します。<br>エージェントの可視性の向上<br>ライブアクティビティフィードと分析により、最新情報を常に把握し、重要なインサイトを得ることができます。 |
| Working in the classic environment | リストとフォームでの作業<br>従来の Now Platform 環境で作業し、レコードからリストを作成します。<br>強力なアプリの作成と開発<br>Now Platform のすべての機能を使用してアプリケーションを作成します。 |
| Working in Core UI | コア UI インターフェイスは、外観を更新し使いやすさを向上させます。<br><br>注目すべき機能には、リアルタイムのフォーム更新、ユーザーのプレゼンス、[お気に入り] タブと [履歴] タブを備えた再設計されたアプリケーションナビゲーター、改善されたアクティビティストリームなどがあります。コア UI は、新しいインスタンスのデフォルトのユーザーインターフェイスです。アップグレードされたインスタンスの場合、管理者はコア UI を有効にする必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# 開発者向けのサポート

ServiceNow 開発者がサポートを受けられる場所は次のとおりです。

開発者サポートを受けられる場所

| リソース | 説明 |
| --- | --- |
| ServiceNow コミュニティ または ServiceNow Community | • 製品ハブ：製品エリアを選択します。<br>  ○ リソースに接続し、統合について学習します。<br>  ○ エキスパートおよびピアのアドバイスを取得します。<br>  ○ ピアとのネットワーク。<br>• 開発者ディスカッション - 開発者とつながり、質問したり、ソリューションを提供したり、一緒に構築したりできます。<br>• 開発者ブログ - 開発者支援チームの意見を参照してください。 |
| 開発者サイト | • 無料のアカウントで Now Platform にサインアップして構築を開始します。<br>• ServiceNow 開発者プログラムに参加します。<br>• 学習リソースにアクセスします。<br>• 製品およびリリースのドキュメント、API、CLI、およびコンポーネントのドキュメントにアクセスします。<br>• Now Platform の概要と、新規または経験豊富な開発者向けの開始方法に関するガイドにアクセスします。<br>• 同様の問題に取り組んでいる他のユーザーとつながり、協力する方法を学びます。 |
| ServiceNow 24 時間 365 日サポート | 方法：<br>• 迅速なソリューションを取得します。<br>• ケースを送信し、その進捗状況を追跡します。<br>• 世界中のテクニカルサポートに問い合わせます。 |
| ServiceNow トレーニング | トレーニングと認定を開始します。 |
| ServiceNow | ServiceNow へのアクセス |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発者サポートを受けられる場所 (続く)

| リソース | 説明 |
| --- | --- |
| Now Support | • サポートケースを追跡します。<br>• 最新リリースのインスタンスとセキュリティ FAQ、ドキュメント、ブログ、およびセキュリティ修正の概要を表示します。 |

## アプリケーションコラボレーション

管理者権限を持つユーザーは、アプリケーションで共同作業する開発者の権限を管理できます。

### コラボレーション記述子

アクティベーションを行う標準の事前定義されたコラボレーション記述子を使用するか、カスタムのコラボレーション記述子を作成できます。コラボレーション記述子を使用すると、委任開発権限をアサイン、管理、および監視できます。

コラボレーション記述子

| 記述子 | 説明 |
| --- | --- |
| 所有者 | 他の協力者を管理し、アプリケーションを削除できるアプリケーションの所有者。 |
| 編集者 | 協力者を招待するための標準記述子。 |
| カスタム | ユーザーによって作成された非標準 (カスタム) 記述子。 |

### 開発権限

権限を設定することで、システムの制御を保持できます。開発者 (またはアプリケーションを展開するユーザー) に権限をアサインして、アプリケーションを開発または展開できるようにします。

開発権限

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション管理 | アプリケーションおよびバージョンのソースコントロールアクセスを削除する機能。 |
| ファイルタイプアクセス | ユーザーがアクセスできるファイルタイプ。 |
| セキュリティ/エンタイトルメント | アプリケーションセキュリティを管理する機能。 |
| プログラミングツール | スクリプトフィールドにアクセスするための機能。 |
| 展開 | 展開機能。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーションコラボレーションユーザー

アプリコラボレーションユーザーを作成することで、個々のユーザーにコラボレーション記述子をアサインできます。ユーザーには、任意のアプリケーションの 1 つのコラボレーション記述子のみをアサインできます。

## アプリケーションコラボレーショングループ

アプリコラボレーショングループを作成することで、ユーザーのグループにコラボレーション記述子をアサインできます。グループには、任意のアプリケーションの 1 つのコラボレーション記述子のみをアサインできます。

## アプリコラボレーションアプリケーションのインストール

UI でコラボレーション機能を表示できるように、アプリコラボレーションアプリケーションをインストールします。

### 始める前に

コラボレーション機能を表示できるように、アプリコラボレーションアプリケーションをダウンロードします。

App Engine ライセンスが必要です 。

必要なロール：管理者

### 手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. 画面の中央にある検索アイコン ( ) をクリックして、アプリケーションコラボレーションアプリケーションを検索します。
3. [インストール]をクリックします。

   注:
   アプリコラボレーションがすでにインストールされている場合、[インストール] ボタンは非アクティブです。

4. [アクティブ化] をクリックします。

### タスクの結果

アプリコラボレーション機能がアクティブになります。

注:
アプリコラボレーションプラグインをインストールしてアクティブ化すると、委任されたすべての開発者は、現在の権限とアプリケーションに基づいてカスタムコラボレーション記述子を受け取ります。ベースシステムテーブルは、コラボレーション機能で使用される標準の所有者および編集者のコラボレーション記述子を提供します。

注:

アプリケーション用の App Engine Studio (AES) なしでこのプラグインをインストールする場合は、このプラグインを使用して委任開発権限を管理するか、以前の [開発者の管理] 画面を使用して権限を管理する必要があります。委任開発権限を管理するために、プラグインと [開発者の管理] 画面の両方を使用しないでください。

以前の [開発者の管理] 画面を使用するには、アプリケーションを選択し、フォームの関連リンクで [開発者の管理] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 権限をアサインするためのコラボレーション記述子の作成

ユーザーまたはグループに権限をアサインできるように、コラボレーションアプリケーションで記述子を作成します。

### 始める前に

必要なロール：admin

### このタスクについて

> **注:**
> グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を standard = TRUE に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AESでレンダリングされません。

アクティブ化を行う標準の事前定義されたコラボレーション記述子を使用するか、カスタムコラボレーション記述子を作成します。コラボレーション記述子を使用すると、アプリケーションごとに、または複数のアプリケーションにわたり均一に、委任開発権限をアサイン、管理、および監視できます。1 つのアプリケーションで 1 つのコラボレーション記述子を各協力者にアサインできます。ただし、コラボレーション記述子がすでにアサインされているグループにユーザー属している場合、そのユーザーは同時に複数のコラボレーション記述子を保持できます。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > コラボレーション > 記述子.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

アプリコラボレーション記述子フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 記述子の名前。 |
| 説明 | 権限機能を含む記述子の説明。次に例を示します。<br>○ 所有者<br>○ 編集者 |
| アプリケーション | コラボレーション記述子のスコープ。現在、すべてのコラボレーション記述子をグローバルスコープに作成する必要があります。 |
| 標準 | このロールを持つ他の協力者を招待するためのオプション。 |

4. [送信] をクリックします。

## コラボレーション記述子への権限の追加

コラボレーション記述子に権限を追加して、アプリケーションの削除や協力者の管理など、ユーザーの機能を管理します。

### 始める前に

必要なロール：管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > コラボレーション > 記述子.
2. 権限を変更するには、関連リストからコラボレーション記述子を選択します。
3. 権限のオプションを表示するには、関連リストで [編集...] をクリックします。
4. 記述子の権限を追加または削除するには、矢印をクリックします。
   権限のリストについては、「コラボレーション権限」を参照してください。
5. [保存] または [更新] をクリックします。

## ユーザーへのコラボレーション記述子のアサイン

特定のアプリケーションのコラボレーション記述子をユーザーにアサインし、これらのユーザーの特定の権限を定義できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 関連リストで、[アプリケーションコラボレーションユーザー] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コラボレーションユーザーフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| コラボレーションアプリケーション | ユーザーが作業するアプリケーション。 |
| コラボレーションユーザー | アプリケーションで作業するユーザー。 |
| コラボレーション記述子 | このアプリケーションのユーザーの記述子。 |

4. [送信] をクリックします。

## グループへのコラボレーション記述子のアサイン

特定のアプリケーションのユーザーグループにコラボレーション記述子をアサインし、これらのユーザーグループの特定の権限を定義できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 関連リストで、[アプリケーションコラボレーショングループ] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コラボレーショングループフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| コラボレーションアプリケーション | グループが作業するアプリケーション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コラボレーショングループ | コラボレーショングループの名前。 |
| コラボレーション記述子 | このアプリケーションのグループの記述子。 |

4. [送信] をクリックします。

## コラボレーション権限

権限を割り当てて、協力者ができることを定義します。

コラボレーション権限

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| プレイブック | プレイブック 設計環境を操作してプロセスを作成するためのアクセス権を付与します。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、**Flow Designer** 権限が必要です。 |
| すべてのメタデータ | すべてのメタデータを操作するためのアクセス権を付与します。 |
| 統合 | Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権を付与します。 |
| UI ビルダー | UI ビルダー を使用してより複雑なインターフェイスを構築するためのアクセス権を付与します。 |
| モバイルビルダー | モバイルアプリビルダー などを使用してモバイルエクスペリエンスを構築するためのアクセス権を付与します。 |
| セキュリティ管理 | アクセス制御リストやロールなどのセキュリティ管理ファイルへのアクセス権を付与します。 |
| サービスポータル | サービスポータル のエディターとツールを操作するためのアクセス権を付与します。 |
| Notifications | 自動電子メール通知を作成し、電子メールテンプレートを操作するためのアクセス権を付与します。 |
| 協力者を招待 | 開発者をアプリで共同作業するよう招待するためのアクセス権を付与します。 |
| ワークフロー | ワークフローエディターおよびアクティビティクリエーターへのアクセス権を付与します。 |
| Reporting | レポートおよびレポートスケジュールへのアクセス権を付与します。 |
| フローデザイナー | フローとアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権を付与します。 |
| サービスカタログ | カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプを操 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コラボレーション権限 (続く)

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| | 作して、カタログアイテムをアプリに追加するためのアクセス権を付与します。 |
| テーブルとフォーム | テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなど、モデルおよびレイアウト関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。 |
| ディシジョンテーブル | ディシジョンテーブル を操作して、複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するためのアクセス権を付与します。 |

## コンテキスト開発環境

このプラットフォームは、コンテキスト開発環境であり、現在選択されているアプリケーションを表示する、すべてのアプリケーション アーティファクトのスコープを特定する、アプリケーションのアクセス設定に違反する変更を防ぐことができます。

アプリケーション開発者は、コンテキスト開発環境を使用して以下のことを実行できます。

- アプリケーション コンテキストを決定する。
- アプリケーションを表示および選択する。
- アプリケーションのバージョン標準を適用する。
- アプリケーション リソースの抑制を実施する。
- スクリプト保護ポリシーを実施する。

### アプリケーションコンテキスト

アプリケーション開発者が新しいレコードを作成すると、アプリケーション ピッカー内で現在選択されているアプリケーションに対して自動的にレコードが割り当てられます。

アプリケーション開発者が既存のレコードを変更しようとしたときは、現在選択されているアプリケーションがアプリケーション アーティファクトのスコープと一致するかどうかがチェックされます。一致した場合、アプリケーション開発者はアーティファクトに変更を保存できます。異なる場合、システムによってユーザーインターフェイスが次のように変更されます。

- 現在のレコードのすべてのフィールドが読み取り専用になる。
- アプリケーションアーティファクトが別のスコープに属しているという警告メッセージが表示される。

### アプリケーションのアクセス設定

アプリケーションのアクセス設定によって、あるアプリケーションが別のアプリケーションのリソースにアクセスできるかどうかが決まります。

アプリケーションのアクセス設定は、特定のリソースに対するアクセスを制限できる点でアクセスコントロール (ACL) と似ていますが、ユーザーに対してテーブルやレコードを制限するのではなく、他のアプリケーションに対してアプリケーション リソースを制限します。クロススコープ アクセスを設定する方法はいくつかあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 設定タイプ | 使用方法 | 説明 | アクセス設定場所 |
| --- | --- | --- | --- |
| アプリケーションの設計時と実行時の設定 | アプリケーションまたはアプリケーション スクリプトがクロススコープ リソースにアクセスする必要があります。 | アプリケーション設計者は、アプリケーション全体に対して以下のアプリケーション アクセス設定を設定できます。<br>• 設計時のアクティビティでクロススコープ テーブルを選択できるかどうかを指定します。<br>• クロススコープ リソースでスクリプトを実行できるタイミングを指定します。<br>• アプリケーションでサポートする JavaScript 標準を指定します。 | 呼び出し元アプリケーションが所有するクロススコープ権限レコードによって決定されるアクセス |
| テーブルの設計時と実行時の設定 | クロススコープ アプリケーションまたは Web サービスがテーブルの CRUD 操作を実行するためのアクセス権限を必要とします。 | アプリケーション開発者は、個々のテーブルのアプリケーション アクセス設定を設定することもできます。<br>• テーブルを他のアプリケーションスコープで使用できるかどうかを指定します。<br>• テーブルがサポートする、他のアプリケーションスコープからの実行時の操作を指定します。<br>• 設計時のアクティビティでテーブルを選択できるかどうかを指定します。<br>• Web サービスからテーブルにアクセスできるかどうかを指定します。 | ターゲット テーブルでの設定によって決定されるアクセス |
| 限定呼び出し元アクセス特権の設定 | クロススコープ アプリケーションまたはスクリプトがアプリケーションまたはアプリケーション リソースにアクセスする必要があります。 | 管理者ユーザーは、アプリケーションスコープまたはアプリケーションリソースの全体に対して以下のアプリケーションアクセス設定を設定できます。<br>• クロススコープスクリプトがアプリケーションスコープまたはアプリケーションリソースにアクセスできるかどうかを指定します。<br>• アプリケーション リソースに対するアクセスのクロススコープ要求を追跡します。<br>• アプリケーション リソースにアクセスするためのクロススコープ要求を承認または拒否します。 | ターゲットアプリケーションが所有する制限付きの申請者アクセスレコードによって決定されるアクセス。 |

### アプリケーションの設計時と実行時の設定

アプリケーションの設計時と実行時の設定によって、アプリケーションがクロススコープ リソースにアクセスできるかどうかが決まります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

設計時および実行時のフィールド

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| JavaScript モード | このアプリケーションがサポートする JavaScript 標準です。**ECMAScript 2021 (ES12)** を選択して ECMAScript 12th エディションの機能をサポートするか、**ES5 Standards Mode** を選択して ECMAScript 5th エディションの機能をサポートします。互換モードを選択すると初期の ECMAScript エディションをサポートします。 |
| 実行環境アクセス追跡 | 他のアプリケーションのリソースに対するスクリプト アクセス要求をこのアプリケーションでどのように処理するかを指定します。無しを選択するとログインなしで全てのクロススコープリソースにアクセスする権限を与えます。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するすべてのアクセス要求をログに記録して許可します。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するアクセス要求をログに記録しますが、管理者が各要求を許可する必要があります。 |
| テーブル選択を制限 | アプリケーションの設計時のクロススコープ テーブルの可用性です。そのオプションをクリアすると、アプリケーションが他のアプリケーションスコープからテーブルを見ることを許します。そのオプションを選択すると、設計の選択を同じアプリケーション内のテーブルのみに制限できます。 |

### 実行時のアクセストラッキング

管理者は、実行時のアクセス追跡により、実行を許可するスクリプト操作とターゲットのリストを作成して、アプリケーション リソースに対するスクリプト アクセスを管理できます。

実行時のアクセス追跡には、次のオプションがあります。

実行時のアクセス追跡のオプション

| オプション | 追跡内容 | 許可内容 | 結果 |
| --- | --- | --- | --- |
| なし | システムは、実行時のアクセス要求を追跡しません。 | システムは、アクセス要求を実行するのに許可を必要としません。 | アプリケーション スクリプトは、テーブルレベルのアクセス設定で許可されている限り、他のアプリケーションのリソースにアクセスできます。 |
| 追跡中 | 開発中は、システムが実行時のアクセス要求ごとにクロススコープ特権レコードを作成します。<br><br>インストール後は、システムが新たに実行時のアクセス要求を追跡することはありません。 | システムは、クロススコープ権限レコードのステータスを に設定します。 | システムは、テーブルレベルのアクセス設定で許可されている限り、追跡された操作を実行します。 |
| 強制 | 開発中は、システムが実行時のアクセス要求ごとにクロススコープ特権レコードを作成します。<br><br>インストール後は、システムが新たに実行時のア | システムは、クロススコープ権限レコードのステータスを [要求済み] に設定します。 | 管理者がステータスを手動で に変更し、かつ、テーブルレベルのアクセス設定で許可されていない限り、追跡された操作は実行されません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行時のアクセス追跡のオプション (続く)

| オプション | 追跡内容 | 許可内容 | 結果 |
|---|---|---|---|
| | クセス要求を追跡することはありません。 | | |

開発中に、アプリケーション設計者は、アプリケーションのスクリプトロジックをすべて実行して、他のアプリケーションに対するアクセス要求が追跡され許可されるようにする必要があります。

### クロススコープ特権レコード

実行時のアクセス追跡では、クロススコープ特権レコードを使用して、システムが実行を許可するスクリプト操作とターゲットを特定します。

システムは、以下の場合にクロススコープ権限レコードを作成します。

- 実行時のアクセス追跡が  または  に設定されているとき。
- スクリプトが別のアプリケーションに対するアクセスを試みたとき。

クロススコープ特権 [sys_scope_privilege] テーブルの各クロススコープ特権レコードには、次の情報が含まれます。

クロススコープ特権フィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ソース スコープ | 他のアプリケーションのリソースに対して実行時アクセスを要求するアプリケーション。 |
| ターゲットスコープ | リソースが要求されているアプリケーション。 |
| ターゲット名 | 要求されているテーブル、スクリプト インクルード、またはスクリプト オブジェクトの名前。 |
| ターゲットタイプ | 要求のタイプ：テーブル、スクリプト インクルード、またはスクリプト オブジェクト。 |
| 操作 | スクリプトがターゲットに対して実行する操作。ターゲット タイプによって、使用可能な操作が決まります。テーブルでは、読み取り、書き込み、作成、および削除の操作がサポートされます。スクリプトインクルードおよびスクリプトオブジェクトでは、API 実行操作のみがサポートされます。 |
| ステータス | このレコードの許可：要求済み、許可、または拒否。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理者は、アクセスするクロススコープ リソースをアプリケーション開発者に伝える前に、開発者のクロススコープ特権レコードを手作業で作成できます。たとえば、これらのクロススコープ特権レコードを作成することで、Incident Management のリソースに対するアクセスをアプリケーション開発者に許可することができます。

クロススコープ特権レコードの例

| ソース スコープ | ターゲットスコープ | ターゲット名 | 操作 | ステータス |
|---|---|---|---|---|
| 自分のアプリケーション | グローバル | incident | 読み取り | 許可 |
| 自分のアプリケーション | グローバル | incident | 書き込み | 許可 |
| 自分のアプリケーション | グローバル | ScopedGlideRecord | API の実行 | 許可 |

アプリケーション開発者は、テスト中にアプリケーション スクリプト ロジックをすべて実行して、必要なクロススコープ特権レコードがシステムによって確実に作成されるようにする必要があります。アプリケーションの公開後は、有効なクロススコープ特権レコードを持つ実行時要求のみが実行を許可されます。

**注:**
テーブル特権の付与は、最大でテーブルオブジェクト (sys_db_object) レコードに設定されている権限に制限されます。たとえば、インシデントのテーブルオブジェクトで「スコープの削除可能」が許可されていない場合、テーブルインシデントに削除するスコープ特権を付与することはできません。

### アプリケーション設計時アクセス レコード

管理者は、アプリケーション設計時アクセス レコードを使用して、アプリケーション作成中に開発者が使用できるその他のアプリケーションを指定します。

管理者がアプリケーションのテーブル選択を制限する場合、アプリケーション設計時アクセス レコードを作成して、選択したアプリケーションのテーブルに対するアクセスを開発者に対して許可できます。

各アプリケーション設計時アクセス レコードには、以下の情報が含まれています。

アプリケーション設計時アクセス フィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ソース スコープ | 他のアプリケーションのテーブルに対して設計時アクセスを要求するアプリケーション。 |
| ターゲットパッケージ | 設計時アクセスの対象にできるテーブルを持つアプリケーション。 |
| アプリケーション | このレコードが属するアプリケーション。 |

管理者は、アプリケーション設計時アクセス レコードを使用して、アプリケーション開発者が使用できるリソースを完全にコントロールすることができます。アプリケーション開発者が設定レコードを作成するときに、別のアプリケーションからテーブルを選択できるのは、そのアプリケーションに対するアクセスを許可するアプリケーション設計時アクセス レコードがある場合に限定されます。たとえば、管理者は、次のアプリケーション設計時アクセスレコードを作成することで、Incident ManagementとProblem Managementのテーブルに対するアクセスを開発者に対して許可できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション設計時アクセス レコードの例

| ソース スコープ | ターゲットパッケージ |
| --- | --- |
| 自分のアプリケーション | インシデント |
| 自分のアプリケーション | Problem Management |

開発者が他のアプリケーションに対する設定レコードを作成すると、システムではこれらのアプリケーションが依存関係があるものとして表示されます。

### テーブルの設計時と実行時の設定

アプリケーション アクセス フィールドは、設計時または実行時の操作中に他のアプリケーションからテーブルにアクセスできるかどうかを決定します。

アプリケーション アクセス フィールド

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | このチェック ボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルに格納されているレコードを読み取ることができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのデータに対するクエリを実行できます。他の API レコード操作を許可するには、先に読み取りアクセスを選択する必要があります。 |
| 書き込み可能 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルに格納されているレコードを変更することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのフィールド値を変更できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトはこのテーブルに格納されているデータを変更できなくなります。 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルにレコードを作成することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルに新しいレコードを挿入できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトはこのテーブルにレコードを作成できなくなります。 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルからレコードを削除することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルからレコードを削除できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション アクセス フィールド (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトはこのテーブルからレコードを削除できなくなります。 |
| Web サービスでのやり取りを許可 | このチェック ボックスをオンにすると、ユーザーはこのテーブルに対して受信 Web サービス クエリを実行することができます。このオプションは設計時保護と実行時保護の両方を提供します。このチェック ボックスをオンにしている場合でも、クエリを実行するユーザーは、このテーブルにアクセスするための適切な権限を持っている必要があります。<br><br>このチェック ボックスをオフにすると、ユーザーはこのテーブルに対して Web サービス クエリを実行できません。 |

### アプリケーションテーブルへの実行時アクセス

実行時アクセスでは、API または Web サービスの呼び出しをアプリケーション テーブルに対して実行できるかどうかを決定します。

以下のアクセスポイントに対してアクセス権限を設定できます。

実行時アクセスポイント

| アクセスポイント | 説明 |
| --- | --- |
| スクリプト API | GlideRecord 呼び出しなど、スコープ指定のシステム API からの、サポートされているオブジェクトまたはメソッドの呼び出し。 |
| Web サービス | REST、JSON、SOAP Web サービスなど、サポートされている Web サービスの呼び出し。 |

システムは、アプリケーション テーブルに対する API または Web サービスの呼び出しを作成できないようにするのではなく、その API または Web サービスの呼び出しをアプリケーション テーブルに対して実行できるかどうかを判断します。アプリケーション テーブルのアクセス権限に違反する API または Web サービスの呼び出しが行われると、エラーになります。たとえば、保護されたアプリケーションテーブルに対して Web サービス呼び出しを行うと、403 Forbidden の HTTP エラーが発生します。

### デフォルトの実行時アクセス権限

デフォルトの実行時アクセス権限は、新しいアプリケーション データ テーブルに適用されます。

デフォルトでは、新しいアプリケーション テーブルでは、他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスのみが許可されます。

デフォルトの実行時アクセス

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| **Accessible from** | すべてのアプリケーションスコープ |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | 有効 |

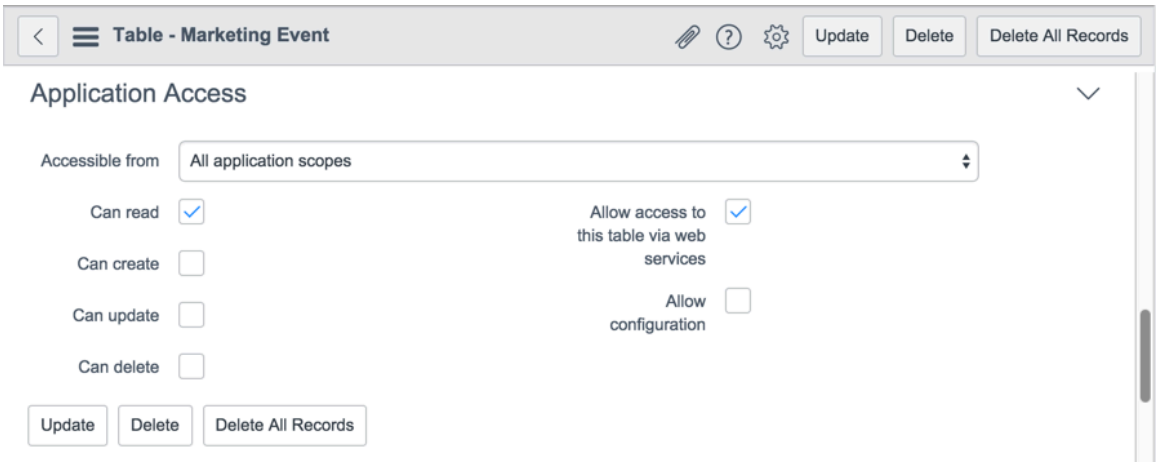
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトの実行時アクセス (続く)

| フィールド | 値 |
|---|---|
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | 無効 |
| **Web** サービスでのやり取りを許可 | 有効 |

テーブル レコードのアプリケーション アクセス権限




## アプリケーション テーブルへの実行時アクセスの設定

これらのアクセス権限は、実行時にアプリケーション テーブルを保護するために設定します。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション.
2. 編集するアプリケーション タイプのボタンをクリックします。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 開発 | このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。 |
| ダウンロード | このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。 |

3. 操作するアプリケーション名またはアプリケーションの  ボタンをクリックします。
4. 関連リストから、アクセス権限を設定するテーブルを選択します。
5. セクションで、実行時アクセス権限を設定します。
6. [更新] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルへのすべての実行時アクセスを拒否する例

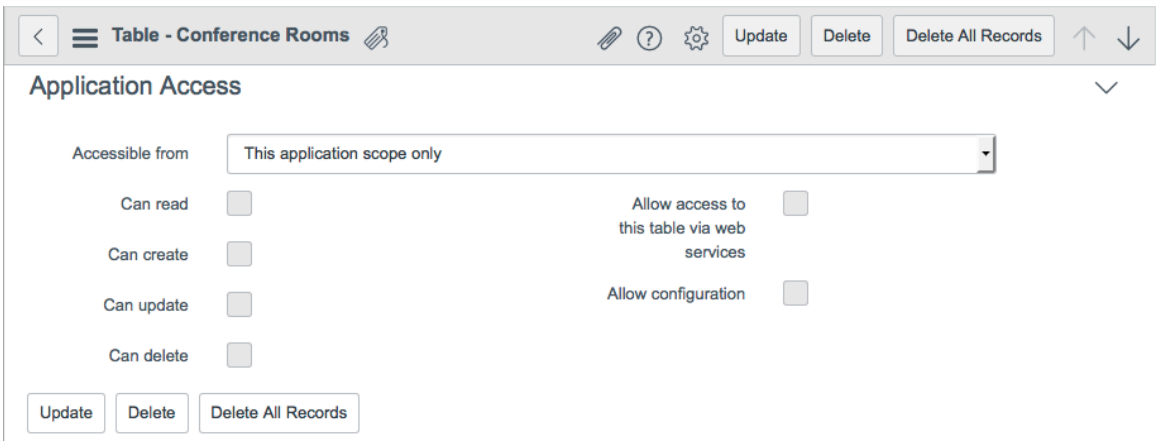
他のアプリケーションスコープからのスクリプト API および Web サービスの呼び出しを防ぐことができます。

通常、これは他のアプリケーションがテーブル内のデータを作成または変更するのを防ぐことを目的とします。アクセスを拒否するためには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

すべての実行時アクセスの拒否

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| **Accessible from** | このアプリケーションスコープのみ |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | 無効 |
| **Web** サービスでのやり取りを許可 | 無効 |

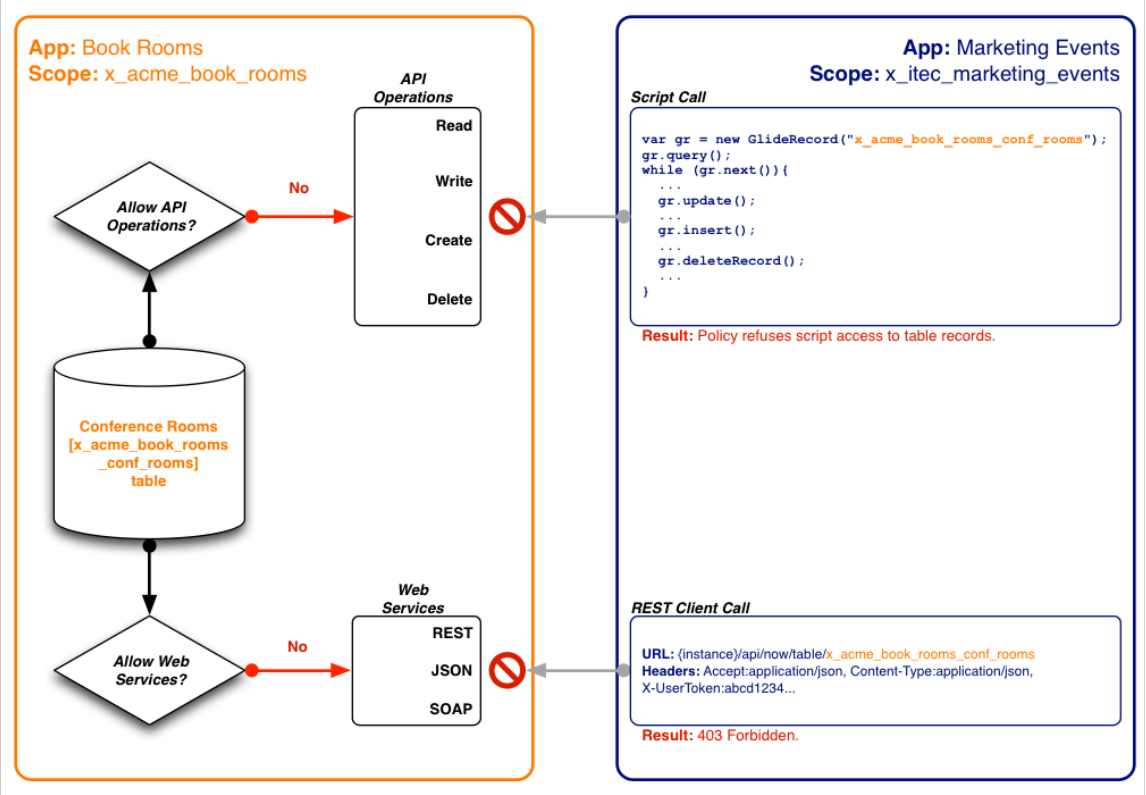
実行時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する




次の図は、他のアプリケーションスコープがスクリプト API と Web サービスの呼び出しからアプリケーション テーブルにアクセスするのを拒否する場合の影響を示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション テーブルに対するすべての実行時アクセス権限を拒否する




テーブルへのすべての実行時アクセスを許可する例

他のアプリケーションスコープからの実行時スクリプト API および Web サービスの呼び出しを、一部またはすべて許可することができます。

アクセスを許可するには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

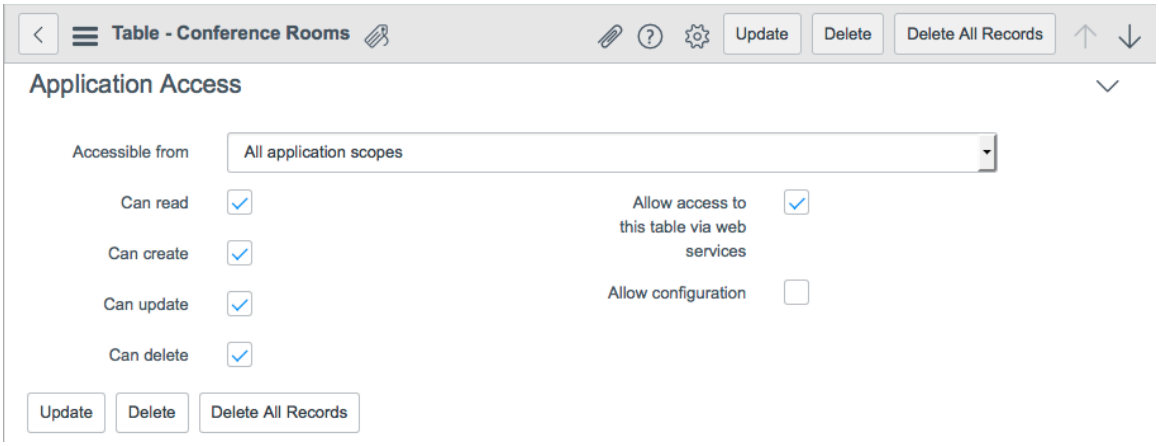
すべての実行時アクセスの許可

| フィールド | 値 |
|---|---|
| **Accessible from** | すべてのアプリケーションスコープ |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | 有効 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | 有効 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | 有効 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | 有効 |
| **Web** サービスでのやり取りを許可 | 有効 |

自動翻訳

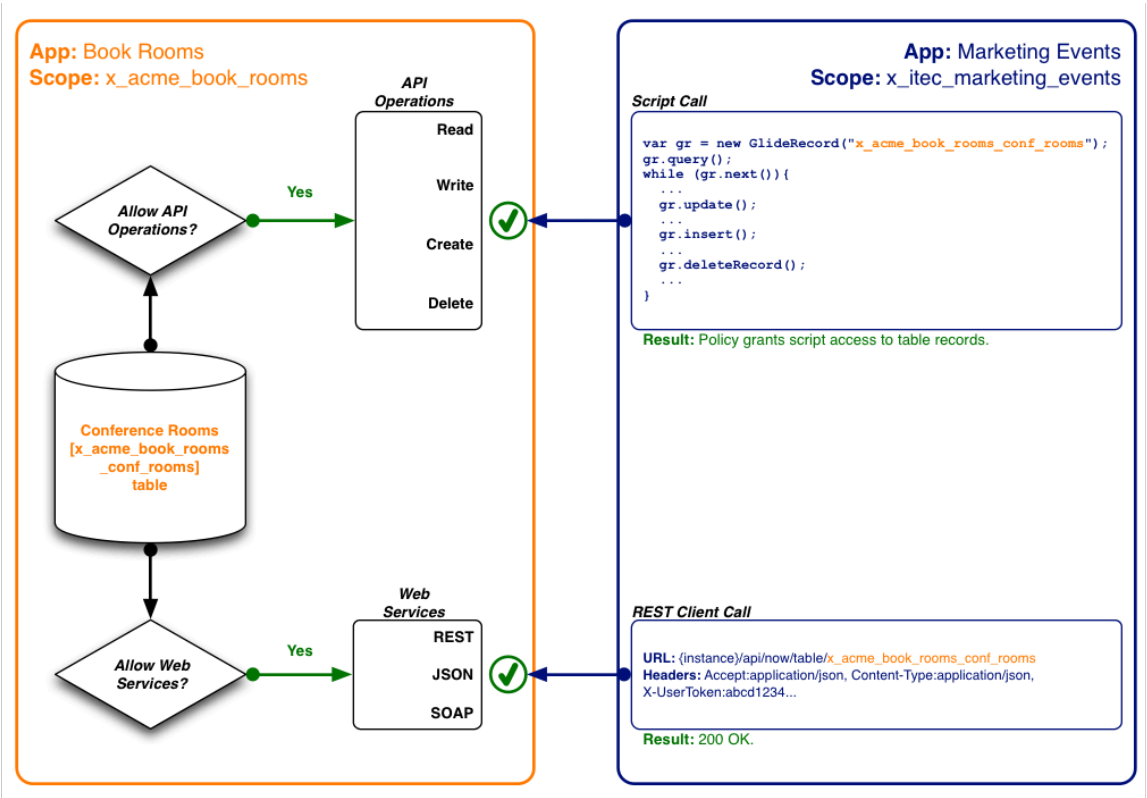
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他のアプリケーションスコープにすべての実行時アクセス権限を許可する




次の図は、他のアプリケーションスコープが API コールと Web サービスからアプリケーションテーブルにアクセスするのを許可する場合の影響を示します。

アプリケーションテーブルへの許可されたアクセス




## アプリケーションテーブルへの設計時アクセス

アプリケーション開発者は、設定レコードを作成する権限を他のアプリケーションに対して付与または拒否することができます。設定レコードは、アプリケーションの機能を拡張するもので、アプリケーションファイルとも呼ばれます。

この権限は、次のような、アプリケーション データ テーブルの機能を拡張するあらゆるプラットフォーム機能に適用されます。

- ビジネスルール
- UI アクション
- クライアントスクリプト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのアクセス権限によって、設計時にアプリケーション データ テーブルが保護されます。システムは、 フィールドのオプションとしてアプリケーション データ テーブルを表示しないことで、設定レコードを作成できないようにします。たとえば、保護されたアプリケーション テーブルは、UI アクションやクライアントスクリプトなどの設定レコードを作成するときにオプションとして表示されません。

設定レコードを作成する権限が付与されている場合でも、一部の設定レコードには、他のアプリケーションスコープからの不要な変更からアプリケーションデータを保護するための追加の制限事項があります。

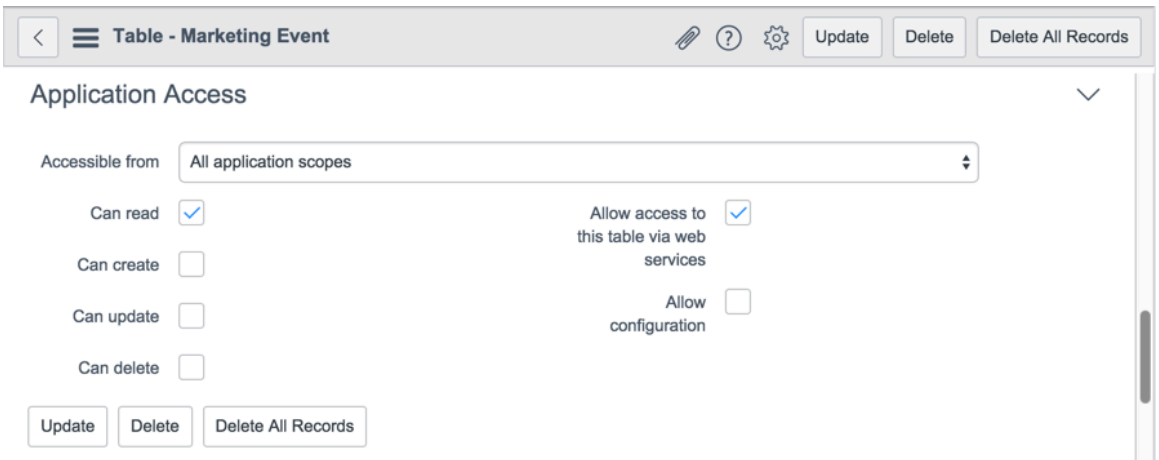
### デフォルトの設計時アクセス権限

デフォルトでは、新しいアプリケーション テーブルでは、他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成することはできません。これにより、他のアプリケーションがテーブルの機能を変更するのを防ぐことができます。

デフォルトの設計時アクセス

| フィールド | 値 |
|---|---|
| **Accessible from** | すべてのアプリケーションスコープ |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | 有効 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | 無効 |
| **Web** サービスでのやり取りを許可 | 有効 |
| 構成を許可 | 無効 |

設定レコードに対するデフォルトのアクセス権限




### アプリケーションテーブルへの設計時アクセスの設定

これらのアクセス権限は、設計時にアプリケーション テーブルを保護するために設定します。

始める前に
必要なロール：管理者

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
実行時アクセス権限を設定するには、次のように操作します。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. 編集するアプリケーション タイプのボタンをクリックします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 開発 | このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。 |
| ダウンロード | このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。 |

3. 操作するアプリケーション名またはアプリケーションの  ボタンをクリックします。
4. 関連リストから、アクセス権限を設定するテーブルを選択します。
5. セクションで、設計時アクセス権限を設定します。
6. [更新] をクリックします。

関連情報

テーブルへのすべての設計時アクセスを拒否する例

テーブルの設定レコードを許可する例

テーブルへのすべての設計時アクセスを拒否する例

他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成するのを拒否することができます。

通常、これは他のアプリケーションがテーブルの機能を変更しないようにするのが目的です。アクセスを拒否するためには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

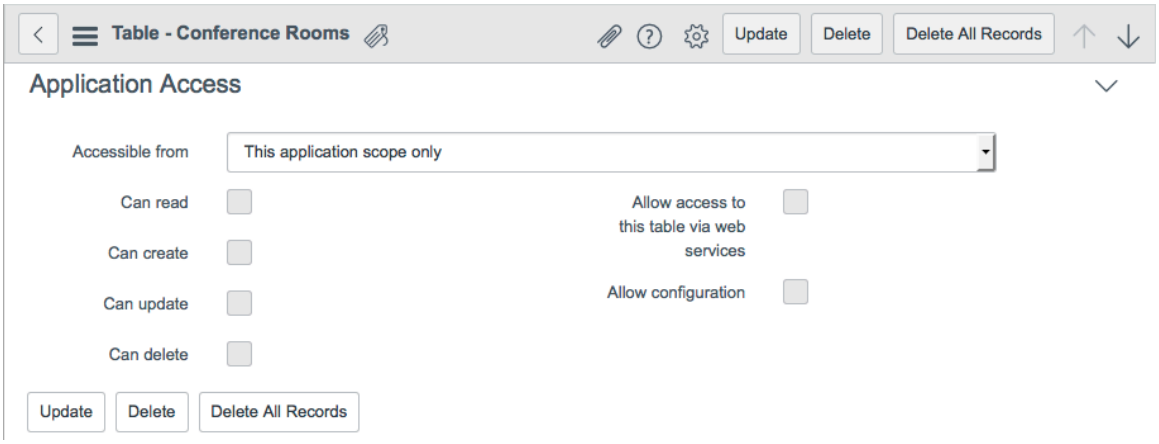
すべての設計時アクセスの拒否

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| **Accessible from** | このアプリケーションスコープのみ |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | 無効 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | 無効 |
| **Web** サービスでのやり取りを許可 | 無効 |
| 構成を許可 | 無効 |

自動翻訳

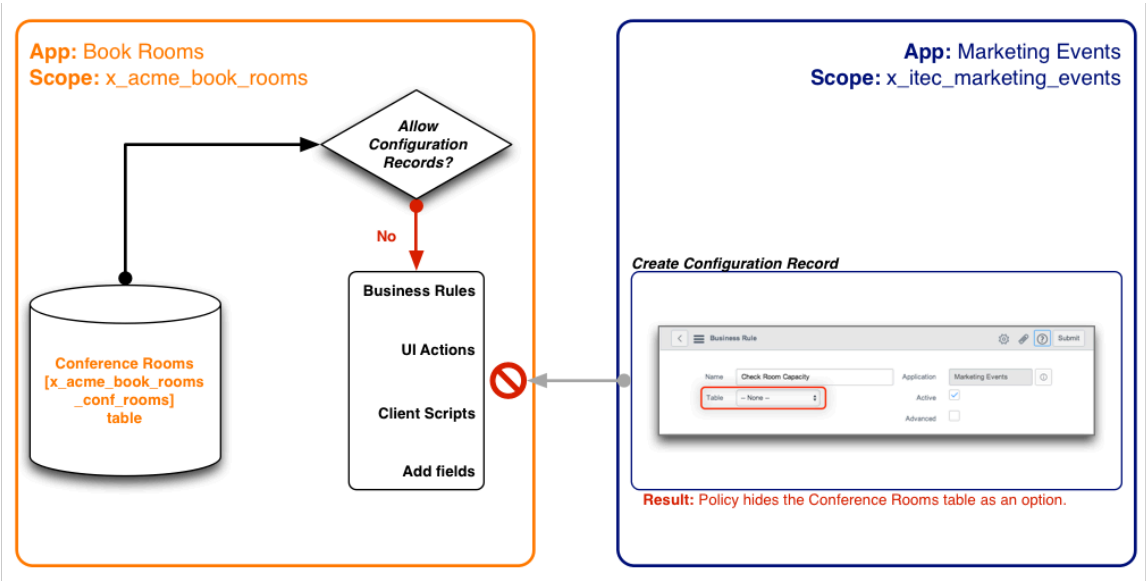
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設計時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する




次の図は、他のアプリケーションスコープによる設定レコードの作成を拒否する場合の影響を示しています。

設計時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する




テーブルの設定レコードを許可する例

他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成するのを許可することができます。

これらの設定を使用して、次の設定レコードに対するアクセスを許可できます。

設定レコードに対するアクセスの許可

| 設定レコード | アクセスを許可するために必要な設定 |
|---|---|
| アクセス制御 | • [アクセス可能] を [すべてのアプリケーションスコープ] に設定<br>• [他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] をオン |
| ビジネスルール | |

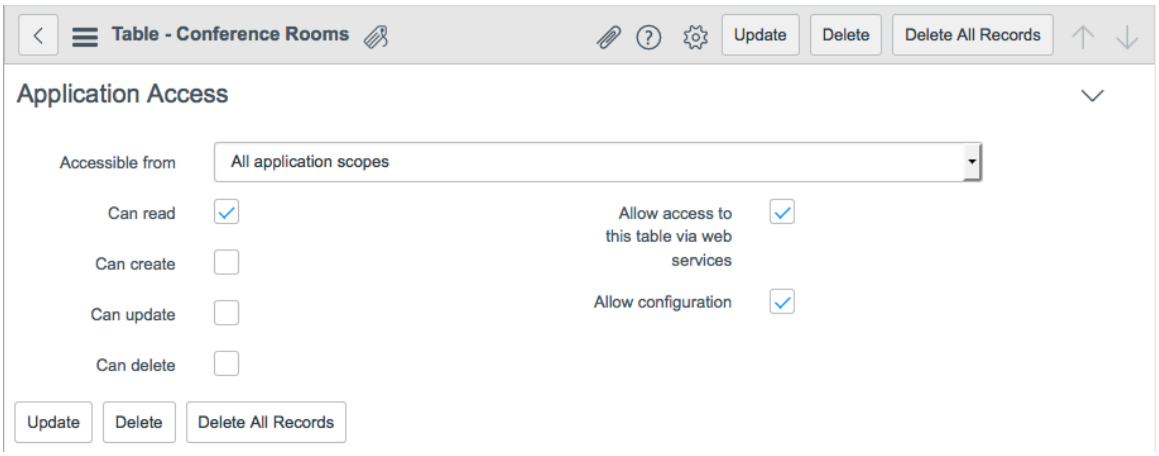
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定レコードに対するアクセスの許可 (続く)

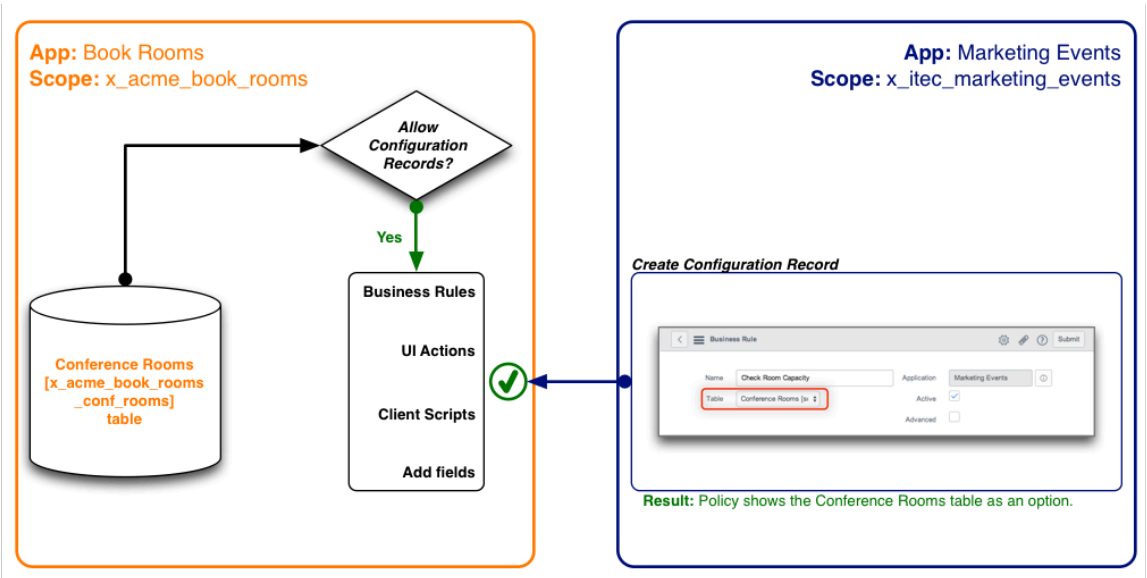
| 設定レコード | アクセスを許可するために必要な設定 |
| --- | --- |
| クライアントスクリプト | • [アクセス可能] を [すべてのアプリケーションスコープ] に設定<br>• [他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] をオン<br>• をオン |
| ディクショナリー エントリー (新しいフィールドのみ) | |
| UI アクション | |

他のアプリケーションスコープに設計時アクセスを許可




次の図は、他のアプリケーションスコープによる設定レコードの作成を許可する場合の影響を示しています。

設定レコードへのアクセスの許可




限定呼び出し元アクセス特権の設定

アプリケーション、アプリケーションリソース (アクセス制御ロール、ビジネスルール、UI アクション、スクリプトインクルードなど)、またはイベントへのクロススコープアクセスを定義します。これらの設定を使用して、アクセス要求を許可または拒否することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 限定呼び出し元アクセス特権の設定の概要

限定呼び出し元アクセス [sys_restricted_caller_access] レコードは、Now Platform でのアプリケーション、アプリケーションリソース、またはイベントに対するアクセスを要求するクロススコープアプリケーションやスクリプトを追跡します。Now Platform は、次のいずれかのアクションが発生したときに sys_restricted_caller_access レコードを作成します。

- 呼び出し元アクセスが  または  に設定されているとき。
- クロススコープ スクリプトがアプリケーション リソースまたはイベントに対してアクセスを試みたとき。

> **注:**
> システムスコープ対ターゲットスコープは、クロススコープの一例です。

これらのレコードを使用して、次のタスクを実行できます。

- アプリケーション リソースに対するアクセスのクロススコープ要求を追跡する。アクセス要求を使用して、他のアプリケーションスコープのリソースとデータにアクセスする必要があるアプリケーションを特定できます。
- アプリケーション リソースまたはイベントに対するアクセスに対するクロススコープ要求を承認または拒否する。たとえば、限定呼び出し元アクセスレコードを作成して、すべてのスコープ対スコープ要求についてアクセスを許可できる。

詳細については、「要求された制限付きの申請者アクセス (RCA)」を参照してください。

## 限定呼び出し元アクセス特権の設定の組み合わせ

限定呼び出し元アクセスの特権設定のさまざまな組み合わせを定義し、関係ごとにアクセスを許可するか制限するかを指定できます。このプロセスにより、アプリケーションに、不要なスコープではなく、正しいスコープにアクセスするための特権を確保します。次の設定のさまざまな組み合わせを定義できます。

スコープ
: 選択したソース スコープまたはターゲット スコープ内にあるすべてのアプリケーション リソースアプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

ソース
: 選択したソース スコープ内にある特定のアプリケーション リソース

ターゲット
: 選択したターゲット スコープ内にある特定のアプリケーション リソース

これらの限定呼び出し元アクセス特権設定の組み合わせには、次の組み合わせが含まれますが、これらに限定されません。

- スコープ対スコープ
- スコープ対ターゲット
- ソース対スコープ
- ソース対ターゲット

> **注:**
> これらのアクセス設定の組み合わせの詳細と、各組み合わせの作成方法については、「 アプリケーションスコープ、アプリケーションリソース、およびイベントへのアクセスの設定」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーション限定呼び出し元アクセスのアクティブ化

次のいずれかの方法で、アプリケーション限定呼び出し元アクセスをアクティブ化できます。

- スコープ対象のアプリケーション限定呼び出し元アクセス プラグイン (com.glide.scope.access.restricted_caller) をアクティブ化する。
- HR サービスデリバリ (HRSD) または セキュリティインシデントレスポンス のアプリケーションを要求する。これらのアプリケーションでは、限定呼び出し元アクセスはデフォルトでアクティブ化されている。
- フローデザイナー の限定呼び出し元アクセスシステムプロパティをアクティブ化します。

詳細については、「アプリケーションの制限付きの申請者アクセスのアクティブ化」を参照してください。

### アプリケーションの制限付きの申請者アクセスのアクティブ化

admin ロールがある場合は、スコープ指定アプリケーション限定呼び出し元アクセス プラグイン (com.glide.scope.access.restricted_caller) をアクティブ化できます。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

   **注:**
   ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

#### 関連情報

プラグインのリスト (madrid)

### アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義

アプリケーションリソースへのアクセスのクロススコープ要求を追跡し、要求を承認または拒否します。

#### 始める前に
ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理が有効である場合、アプリケーションに対するアクセスを設定できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーション管理者のみです。アプリケーション管理が有効でない場合、管理者ユーザーがアプリケーションに対するアクセスを設定できます。

必要なロール：admin または application admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
アプリケーション固有の管理者ロールと委任開発の詳細については、「アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール」および「Delegated Development と展開」を参照してください。

手順

1. アプリケーション リソースに対するアクセスを定義するには、アプリケーション リソース レコードに移動します。
   利用可能なアプリケーションリソースには、次のオプションが含まれます。
   - テーブル
   - スクリプトインクルード
2. [アクセス可能] フィールドを [すべてのアプリケーションスコープ] に設定します。
   [このアプリケーションスコープのみ] に設定されている場合、他のアプリケーションスコープはリソースにアクセスできません。
3. [呼び出し元アクセス] フィールドで適切なアクセス レベルを選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| なし | リソースに対するクロススコープ呼び出しは、 フィールドの値に基づいて承認または拒否されます。 |
| 申請者制限 | リソースに対する呼び出しは手動で承認する必要があります。アクセス要求は、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。 |
| 申請者追跡 | リソースに対する呼び出しは自動的に承認されます。呼び出しは、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。 |

4. 呼び出し元アプリケーションからのアクセス要求を許可または拒否します。
   クロススコープアプリケーションが [申請者制限] に設定されたリソースにアクセスしようとすると、システムはリソースへのアクセスを拒否し、 [要求済み] ステータスのレコードを [制限付きの申請者アクセス] テーブルに作成します。管理者ユーザーまたはアプリケーション管理者は、要求を許可または拒否する必要があります。アクセスが許可されると、以後のすべてのアクセス試行は制限付きのリソースへのアクセス権を取得します。

   申請元のリソースが変更された場合 (ビジネスルールのスクリプトが変更された場合など)、制限付きの申請者アクセスレコードのステータスは [無効] に変わります。管理者ユーザーまたはアプリケーション管理者は、ステータスを更新して または にする必要があります。

   a. アプリケーション レコードで、 タブに移動します。

   b. ステータスが [要求済み] のレコードを確認します。
      それぞれの制限付きの申請者アクセス特権レコードには、実行された操作、コールソースに関する情報、および要求されたターゲットリソースに関する情報がリストされます。

   c. 列で、値を から または に設定します。

   コールソースが許可されると、以後のすべてのコールが許可されます。

### アプリケーションスコープ、アプリケーションリソース、およびイベントへのアクセスの設定

限定呼び出し元アクセス特権 [sys_restricted_caller_access] テーブルにレコードを作成して、クロススコープリソースアクセス要求を設定します。ソーススコープまたはソーススコープのアプリ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ケーションリソースからターゲットスコープまたはターゲットスコープのアプリケーションリソースへの要求を承認または拒否します。

始める前に
ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理が有効である場合、アプリケーションに対するアクセスを設定できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーション管理者のみです。アプリケーション管理が有効でない場合、管理者ユーザーがアプリケーションに対するアクセスを設定できます。

必要なロール：application admin または admin

**注:**
アプリケーション固有の管理者ロールと委任開発の詳細については、「アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール」および「Delegated Development と展開」を参照してください。

このタスクについて
次の限定呼び出し元アクセス特権設定の組み合わせを設定できます。

- スコープ対スコープ
- スコープ対ターゲット
- ソース対スコープ
- ソース対ターゲット

**注:**
Rome リリースでは、リソースへのアクセスを許可するために RCA 権限レコードがターゲットアプリケーションに存在する必要があります。つまり、ターゲットスコープがアプリケーションスコープと一致する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション制限付きの申請者アクセス.
2. フォームのフィールドに入力します。

限定呼び出し元アクセスのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 操作 | ターゲットリソースで実行された操作<br>○ 読み取り<br>○ 書き込み<br>○ 作成<br>○ 削除<br>○ API の実行 |
| ソース | 制限付きのアプリケーションリソースにアクセスしているクロススコープレコード。 |
| ソース スコープ | 呼び出し元アプリケーションスコープ |
| ソーステーブル | ソース レコードを含むテーブル |
| ソースタイプ | アプリケーションリソースを呼び出すレコードのタイプ： |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ ACL<br>○ ビジネスルール<br>○ ドキュメントタイトル<br>○ フロー<br>○ フローアクション<br>○ GlideScopedEvaluator<br>○ 受信メールスクリプト<br>○ オーケストレーション RunScript アクティビティ<br>○ レコードプロデューサースクリプト<br>○ サービスポータルウィジェット<br>○ スケジュール設定済みスクリプト<br>○ スコープ<br>○ スクリプトインクルード<br>○ UI アクション<br>○ UI マクロ<br>○ UI ページ<br>○ ワークフローアクティビティ<br><br>たとえば、アプリケーション全体からのアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。 |
| ステータス | アクセス要求のステータス：<br>○ 要求済み<br>○ 拒否<br>○ 許可<br>○ 無効<br><br>**注:**<br>呼び出し元のリソースが変更された場合、限定呼び出し元アクセス レコードのステータスは に変化します。アプリケーション管理を有効にした場合、要求のステータスを更新できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーション管理者のみです。 |
| ターゲット | 要求されたリソースのレコード |
| ターゲットスコープ | 要求されたリソースのスコープ |
| ターゲットテーブル | ターゲット レコードを含むテーブル |
| ターゲットタイプ | 要求されたリソースのタイプ |

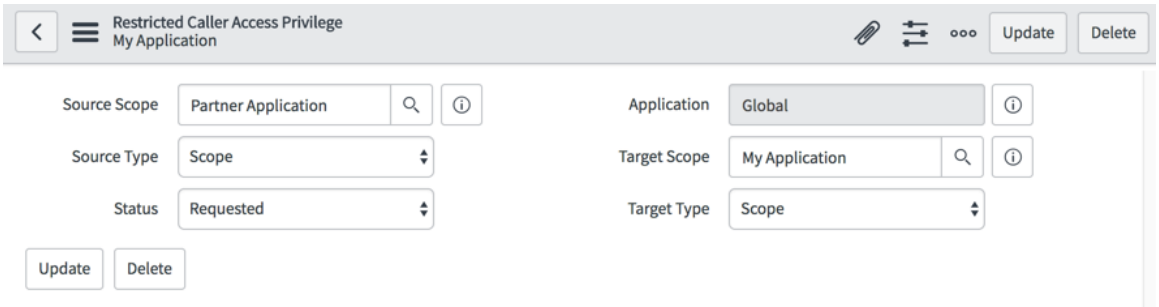
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ イベント<br><br>**注:**<br>イベントは、限定呼び出し元アクセスのターゲットの特別なタイプです。ターゲットスコープ内のイベントを選択することにより、ターゲットアプリケーションの一部として登録されたイベントをソースアプリケーションがキューに入れることを許可します。ただし、イベント登録の申請者アクセスを [なし] に設定すると、イベントへのクロススコープアクセス呼び出しは阻止されます。この設定の組み合わせは 1 対 1 の関係です。イベントとその機能の詳細については、「イベント」を参照してください。イベント登録で申請者アクセスを [なし] に設定した場合、イベントへのクロススコープアクセス呼び出しは拒否されます。<br><br>○ スコープ<br>○ テーブル<br>○ スクリプトインクルード<br><br>たとえば、アプリケーション全体に対するアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。 |

### スコープ対スコープ設定

ソーススコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。この設定の組み合わせは、多対多の関係です。




スコープ対スコープの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

| フィールド | エントリ |
| --- | --- |
| ソース スコープ | ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ |
| ソースタイプ | アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプアプリケーション全体からのアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。 |
| ステータス | アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。 |
| ターゲットスコープ | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



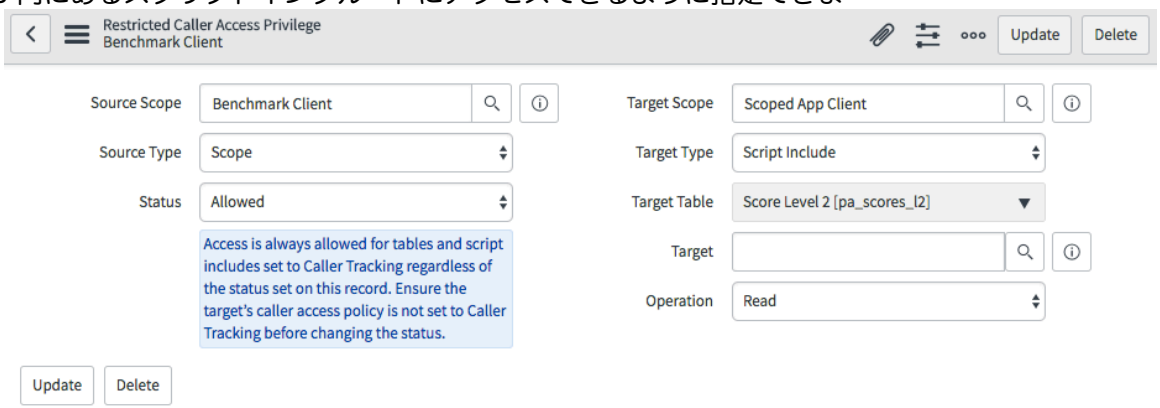
自動翻訳

| フィールド | エントリ |
| --- | --- |
| ターゲットタイプ | 要求されたリソースのタイプ ターゲットスコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。 |

### スコープ対ターゲット設定

ソーススコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にある特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、テーブル、スクリプトインクルード、イベントなど) へのアクセスを許可または拒否します。

この設定の組み合わせは、多対 1 の関係です。たとえば、ソーススコープ A 内にあるすべてのアプリケーションリソースが、ターゲットスコープ B 内にあるスクリプトインクルードにアクセスできるように指定できます。




スコープ対ターゲットの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

| フィールド | エントリ |
| --- | --- |
| ソース スコープ | ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ |
| ソースタイプ | アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプソーススコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。 |
| ステータス | アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。 |
| ターゲットスコープ | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。 |
| ターゲットタイプ | 要求されたリソースのタイプソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、UI ページ、イベントなど) を選択します。 |
| 操作 | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、ターゲットアプリケーションリソースにおける操作のタイプ (読み取り、書き込みなど)。 |

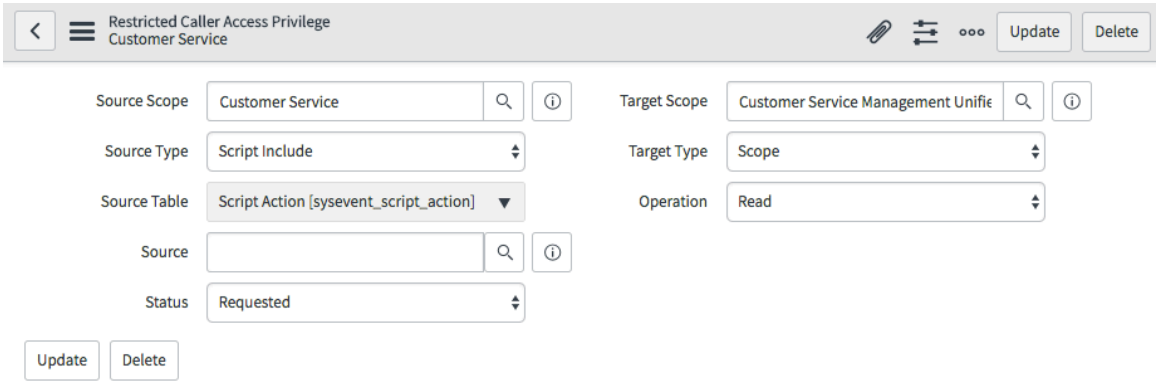
### ソース対スコープ設定

ソーススコープ内にある特定のアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この設定の組み合わせは 1 対多の関係です。たとえば、ソーススコープ A 内にある特定のビジネスルールが、ターゲットスコープ B 内にあるすべてのアプリケーションリソースにアクセスできるように指定できます。




ソース対スコープの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

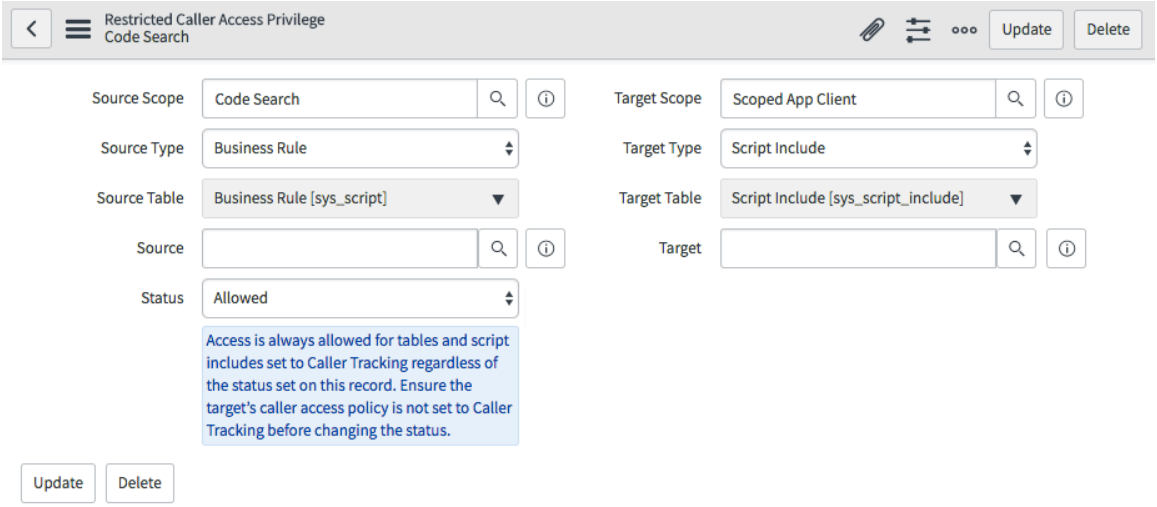
| フィールド | エントリ |
|---|---|
| ソース スコープ | ターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求するソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ。 |
| ソースタイプ | アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプ指定したターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルールやスクリプトインクルードなど) を選択します。 |
| ステータス | アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。 |
| ターゲットスコープ | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。 |
| ターゲットタイプ | 要求されたリソースのタイプ選択したターゲットスコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。 |
| 操作 | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、ターゲットアプリケーションリソースにおける操作のタイプ (読み取り、書き込みなど)。 |

### ソース対ターゲット設定

ソーススコープ内にある特定のアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にある特定のアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。

この設定の組み合わせは 1 対 1 の関係です。 、ソーススコープ A 内の特定のビジネスルールが、ターゲットスコープ内の特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、テーブル、スクリプトインクルード、イベントなど) にアクセスできるように指定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ソース対ターゲットの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

| フィールド | エントリ |
| --- | --- |
| ソース スコープ | ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ |
| ソースタイプ | アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプ指定したターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、UI ページなど) を選択します。 |
| ステータス | アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。 |
| ターゲットスコープ | ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。 |
| ターゲットタイプ | 要求されたリソースのタイプソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、イベントなど) を選択します。 |

### 要求された制限付きの申請者アクセス **(RCA)**

要求済み RCA を使用して、次のファミリリリースを待たずに、 Now Platform の保護されたリソースへのアクセスをストアアプリに付与できます。システム管理者またはアプリケーション管理者ロールを保持している場合は、要求済み RCA をレビューして、それらを承認または拒否できます。

RCA は次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 実際の RCA：sys_scope==target_scope
- 要求済み RCA：sys_scope!=target_scope

例：実際の RCA レコードは、アプリケーションスコープとターゲットスコープが一致するレコードです。要求済み RCA は、ターゲットスコープへのアクセスの承認を待機中のレコードです。

アプリケーションをインストールすると、ジョブスケジュールによって、ソースアプリケーションにパッケージ化されている要求済み RCA レコードごとに、ターゲットアプリケーションで [要求済み] ステータスの RCA レコードが生成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
アップグレードサマリが実行されると、ジョブが生成されます。

## ストアアプリがテーブルにアクセスする方法の例

HR 統合フレームワークというストアアプリが人事コアケーステーブルにアクセスするとします。このテーブルは、[統合サービス] テーブルの「ケースの検索」と呼ばれるビジネスルールにあります。

アクセスを要求するために、HR 統合フレームワークアプリでは、次のように RCA 特権が専用のスコープにパッケージ化されている必要があります。

- sys_scope = HR 統合フレームワーク
- ターゲット = 人事コアケース
- ステータス = 許可
- target_scope = 人事：コア
- ソース = ケースの検索

## 開発者向けのアプリ開発の例

アプリケーションの開発中に、ターゲットに申請者制限がある場合、実際の RCA が [要求済み] ステータスで生成されます。ターゲットに申請者トラッキングがある場合、ステータスは [許可] になります。開発者は、アプリケーションが機能するために必要なすべての実際の RCA レコードをレビューして確定できます。たとえば、ステータスが [許可] の RCA などです。

開発者は、関連リンクの [現在のアプリで **RCA** 権限を生成] をクリックして、現在のアプリケーションにパッケージ化されている要求済み RCA を生成できます。要求済み RCA は実際の RCA と同期されます。つまり、実際の RCA が更新または削除されると、要求済み RCA も更新または削除されます。

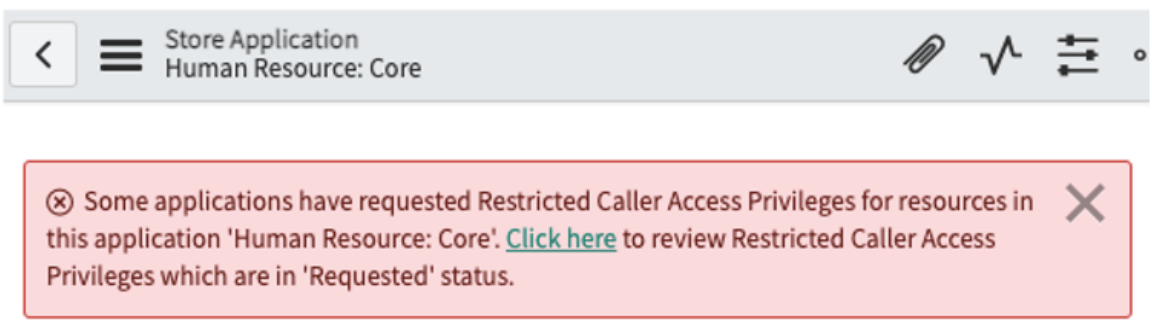
これで、HR 統合フレームワークアプリケーションをパッケージ化し、お客様のインスタンスにインストールできるようになりました。

## 管理者向けのアプリインストール例

お客様のインスタンスにアプリをインストールすると、ターゲットアプリケーションに実際の RCA が生成されます。実際の RCA には、ステータスが [要求済み] の [人事：コア] が含まれます。このプロセスは、スケジュール設定済みジョブで非同期に実行されるため、遅延時間が発生する可能性があります。

RCA のレビュー待ちについてターゲットアプリ管理者に通知するために、メッセージがアプリケーションページに追加されました。次に例を示します。

**RCA** レビュー待ちメッセージ




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ストアアプリの下位互換性

ストアアプリに互換性があり、Rome より前のインスタンスにインストールできる場合は、ステータスが [許可] の専用スコープ内の RCA レコードをパッケージ化する必要があります。

**注:**
このプロセスにより、ストアアプリは確実にすべてのバージョンで機能するようになります。

Rome にアップグレードする場合は、1 回限りの修正スクリプトを構成して、ソーススコープ内の RCA をターゲットスコープに移動できます。Rome では、ターゲットアプリに必要な RCA レコードがすでに存在する場合、ソースアプリによってパッケージ化される RCA の RCA レコードは生成されません。

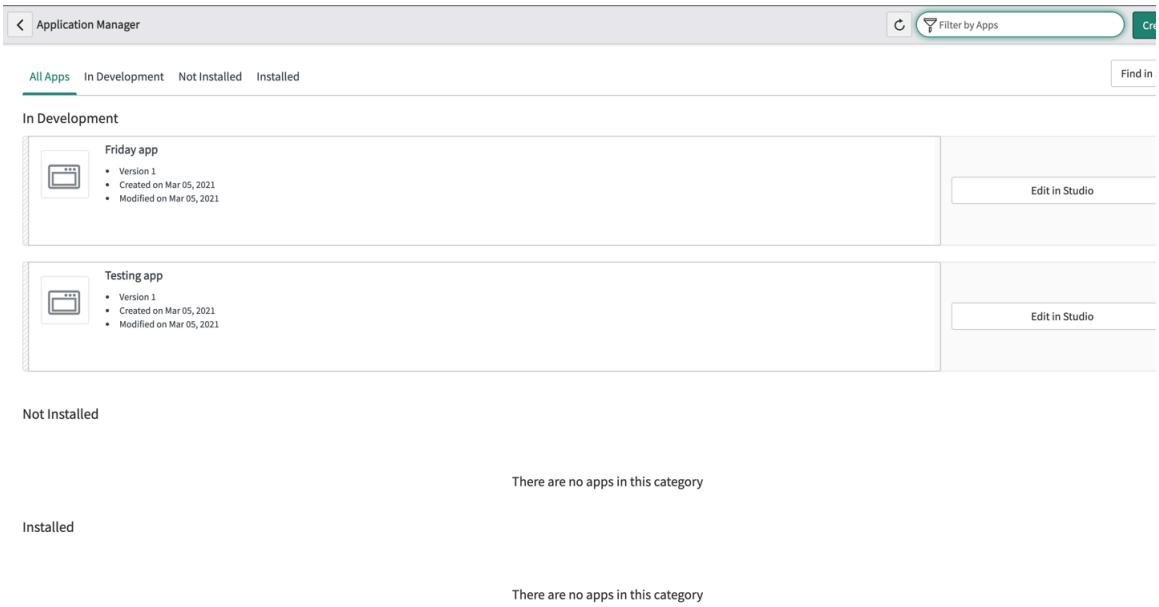
## アプリケーションリスト

アプリケーションリストを使用すると、アプリケーション開発者はアプリケーションを表示および選択できます。

アプリケーション開発者は、アプリケーション リストを使用してカスタムアプリケーション レコードを開くことができます。別のアプリケーションスコープでアプリケーション アーティファクトを編集していることがコンテキスト開発環境によって検出された場合は、警告メッセージが表示され、別のアプリケーションに切り替えるために使用できます。

管理者は、アプリケーション リストから次のオプションを選択できます。

### アプリケーション リストの例




### アプリケーション リストのオプション

| タブ名 | 使用可能なオプション | アプリケーション ソース |
|---|---|---|
| 開発 | • 新規アプリケーションの作成<br>• 既存アプリケーションの編集 | このインスタンスで開発されたアプリケーション |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション リストのオプション (続く)

| タブ名 | 使用可能なオプション | アプリケーション ソース |
|---|---|---|
| | • アプリケーションの共有<br>• アプリケーションを削除します | |
| ダウンロード | • インストール<br>• インストールされたファイルの表示<br>• インストールされたファイルの編集<br>• アンインストール | • 会社のアプリケーションリポジトリで共有されるアプリケーション<br>• 共有されるアプリケーション ServiceNow Store |
| 更新 | • 更新<br>• バージョン情報の表示 | • 会社のアプリケーションリポジトリで共有されるアプリケーション<br>• 共有されるアプリケーション ServiceNow Store |

アプリケーション リストには、次の情報が表示されます。

アプリケーション リスト

| タイプ | 説明 |
|---|---|
| 開発 | このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。 |
| ダウンロード済み | このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。 |
| 更新 | このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションで使用可能な更新を表示します。 |

## アプリケーションピッカー

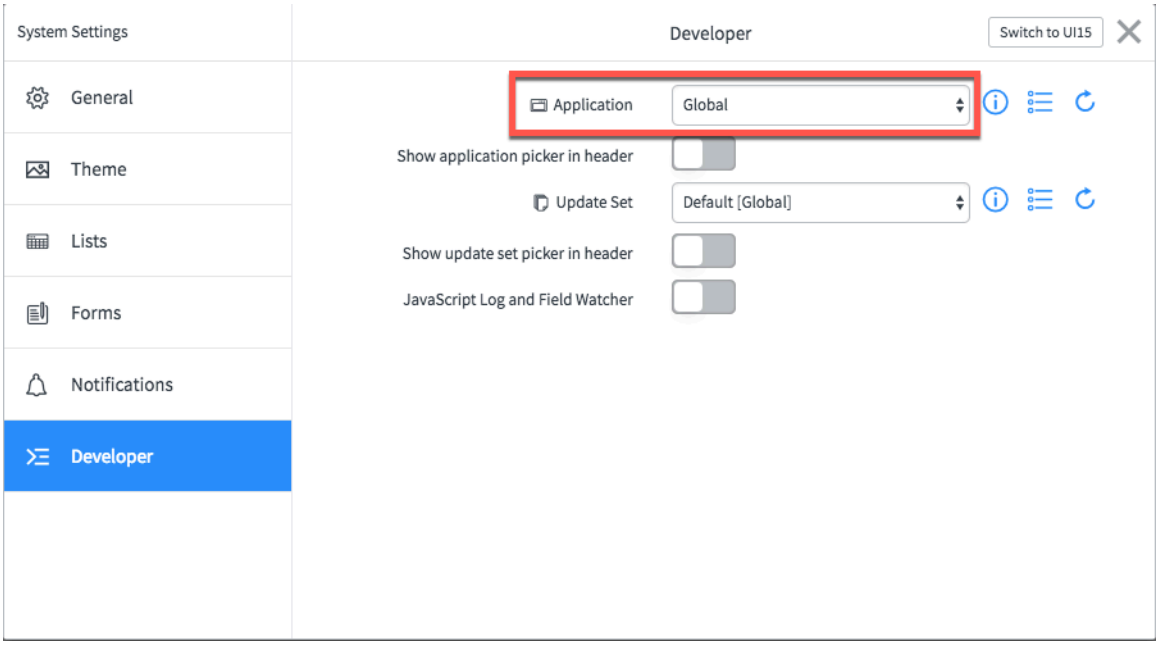
アプリケーション ピッカーを使用すると、アプリケーション開発者は、変更が適用されるアプリケーションを表示および選択できます。

アプリケーションピッカーは、バナーフレームにある歯車アイコンの下のシステムメニューから選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションピッカー




## スコープ対象のアプリケーションのリストとフォーム

スコープ対象のアプリケーションのリストやフォームを操作するときに使用できるカスタマイズやフォーム設計のオプションは、現在のアプリケーションコンテキストによって決まります。

ユーザーインターフェイスでは、ビジュアルインジケーターを使用して、同一または異なるアプリケーションスコープ内のリストまたはフォームを特定します。

### 使用可能なレイアウトと設計アクション

カスタムアプリケーションのリストまたはフォームを操作する際は、次のレイアウトおよび設計のアクションが可能です。

使用可能なレイアウトと設計アクション

| アクション | 許可されるアクセス | メモ |
|---|---|---|
| リスト ビューを作成する | 常に許可 | このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。 |
| フォーム ビューを作成する | 常に許可 | このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。 |
| フォームセクションの作成 | 常に許可 | このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。 |
| ビューに表示するフィールドを選択する | 現在のスコープと一致するビュー内のセクションに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者もこの制限はバイパスできません。 |
| ビュー内のセクションの順序を変更する | 現在のスコープと一致するビューに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者もこの制限はバイパスできません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なレイアウトと設計アクション (続く)

| アクション | 許可されるアクセス | メモ |
|---|---|---|
| セクションに表示するフィールドを選択する | 現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者もこの制限はバイパスできません。 |
| セクションの列を追加または削除する | 現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者もこの制限はバイパスできません。 |
| フォーム セクションを削除する | 現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者もこの制限はバイパスできません。 |
| 新規フィールドを作成する | オプションが有効な場合に、現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。 | この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。管理者はこの制限をバイパスできません。 |

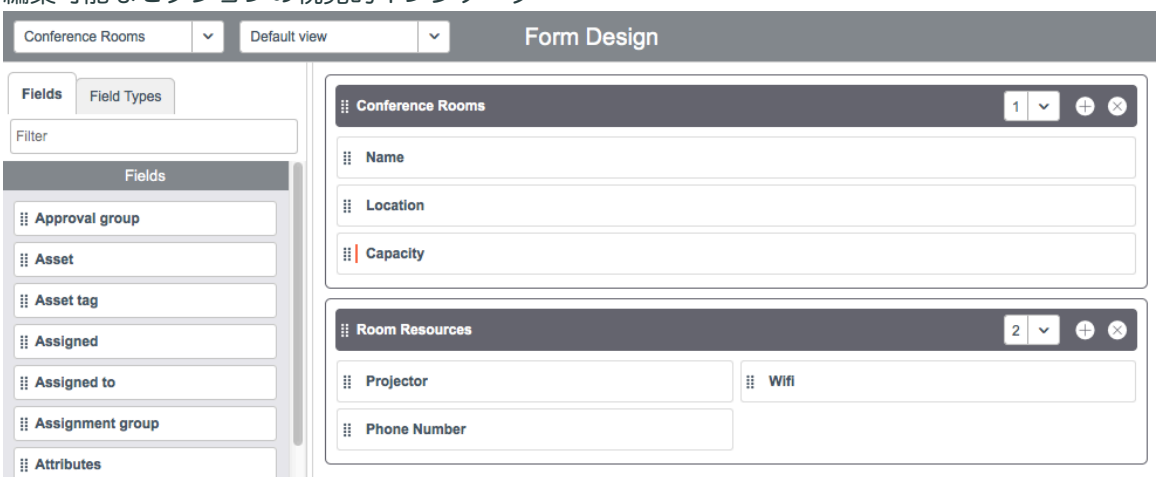
## フォーム設計のビジュアルインジケーター

カスタムアプリケーションでフォームを設計するときは、UI に次の視覚的インジケーターが表示されます。

ビューとセクションは、フォームと同じアプリケーションスコープ内にある場合にのみ編集できます。編集可能なセクションには次の項目が表示されます。

- 単色の背景を持つセクション見出し
- セクションの周りの実線
- 列数を設定するコントロール
- ボタン
- セクション見出しの横にあるグリップ アイコン
- フィールドの横にあるグリップ アイコン

編集可能なセクションの視覚的インジケーター

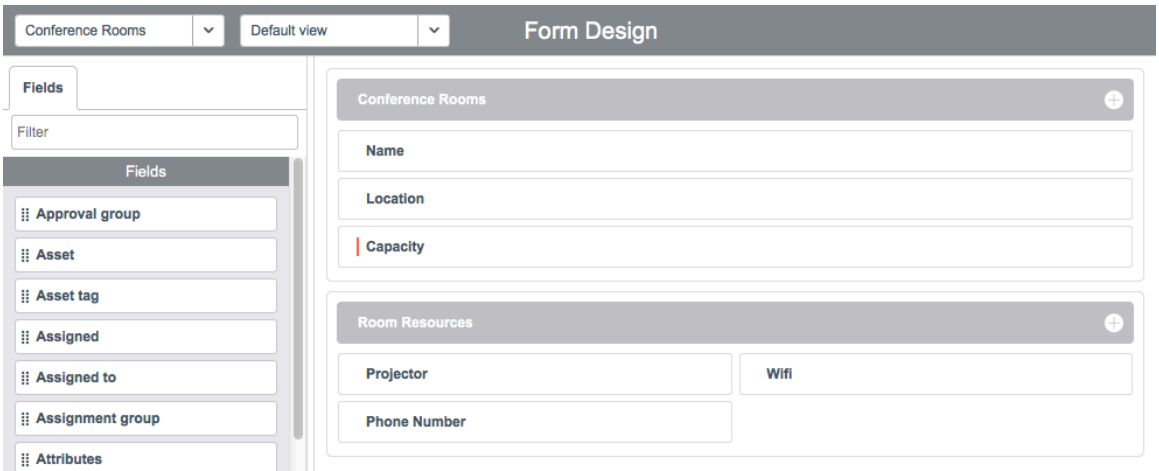



別のアプリケーションスコープ内にあるビューとセクションは、読み取り専用として表示されます。読み取り専用のセクションには次の項目があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- グレーの背景を持つセクション見出し
- セクションの周りのグレーの線
- 列数を設定するコントロールはありません
- ボタンはありません
- セクション見出しの横にグリップ アイコンはありません
- フィールドの横にグリップ アイコンはありません

読み取り専用セクションのビジュアルインジケーター




デフォルトのフォームデザイン権限

新しいアプリケーション データ テーブルには、デフォルトで次のフォーム設計のアクセス権限が設定されます。

デフォルトのフォームデザイン権限

| フォーム設計アクション | 権限設定 |
|---|---|
| 別のアプリケーションスコープに属するテーブルに新しいセクションを作成する。 | 許可 |
| 同じアプリケーションスコープに属するセクションに新しいフィールドを作成する。 | デフォルトは拒否。アプリケーション テーブルの場合は、アプリケーション設計者が に設定する必要があります。 |
| 同じアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドを追加または削除する。 | 許可 |
| 同じアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドの順序を変更する。 | 許可 |
| 同じアプリケーションスコープに属するセクションの順序を変更する。 | 許可 |
| 別のアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドを追加または削除する。 | 拒否 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトのフォームデザイン権限 (続く)

| フォーム設計アクション | 権限設定 |
|---|---|
| 別のアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドの順序を変更する。 | 拒否 |
| 別のアプリケーションスコープに属するセクションの順序を変更する。 | 拒否 |
| 別のアプリケーションスコープに属するセクションに新しいフィールドを作成する。 | 拒否 |

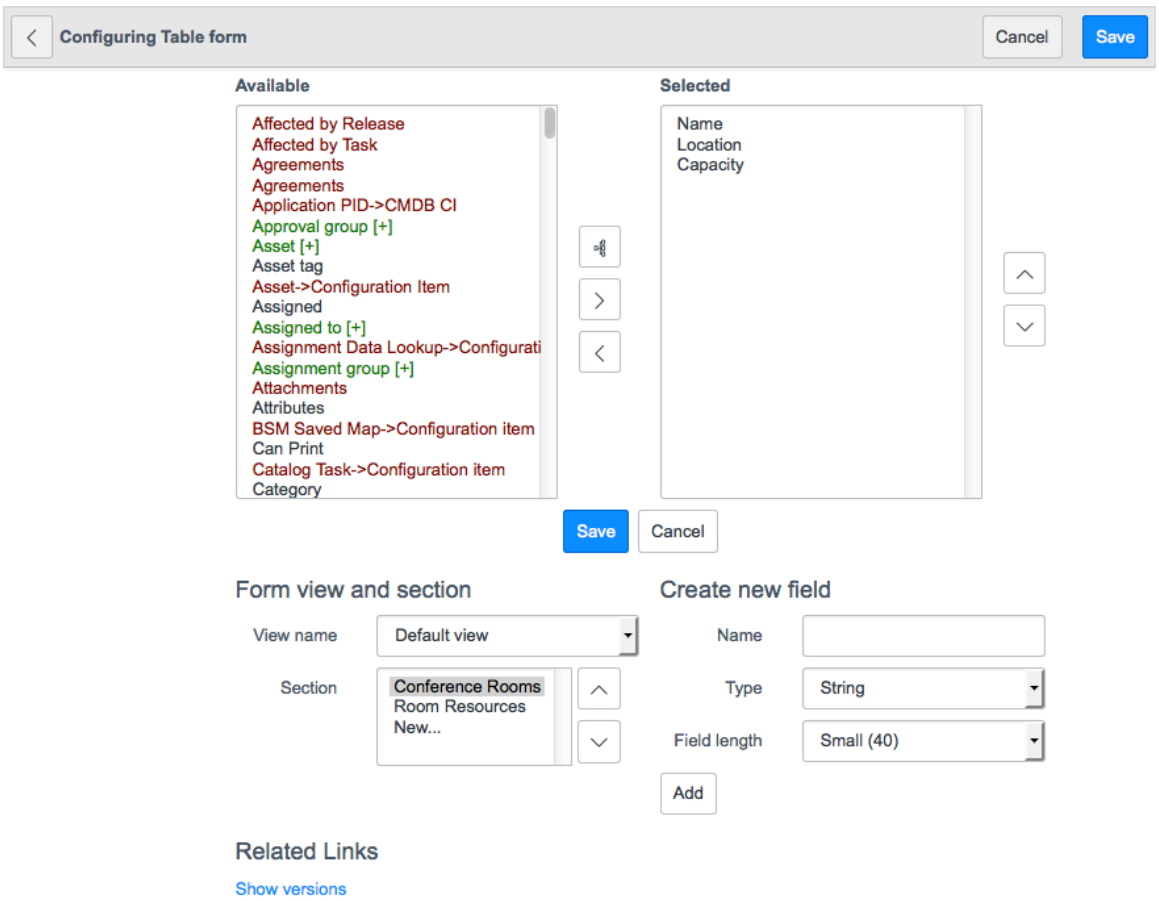
### レイアウトのビジュアルインジケーター

カスタムアプリケーションのリストまたはフォームのレイアウトを設定するときは、UI に次の視覚的インジケーターが表示されます。

フォームと同じアプリケーションスコープ内にいる場合は、フィールド、ビュー、およびセクションのみを編集できます。編集可能なセクションには次の項目が表示されます。

- 白色の背景を持つフィールド選択。
- フィールドを追加または削除するボタン。
- 青色の背景の ボタン。
- セクションの編集可能なフィールド。

編集可能なセクションの視覚的インジケーター



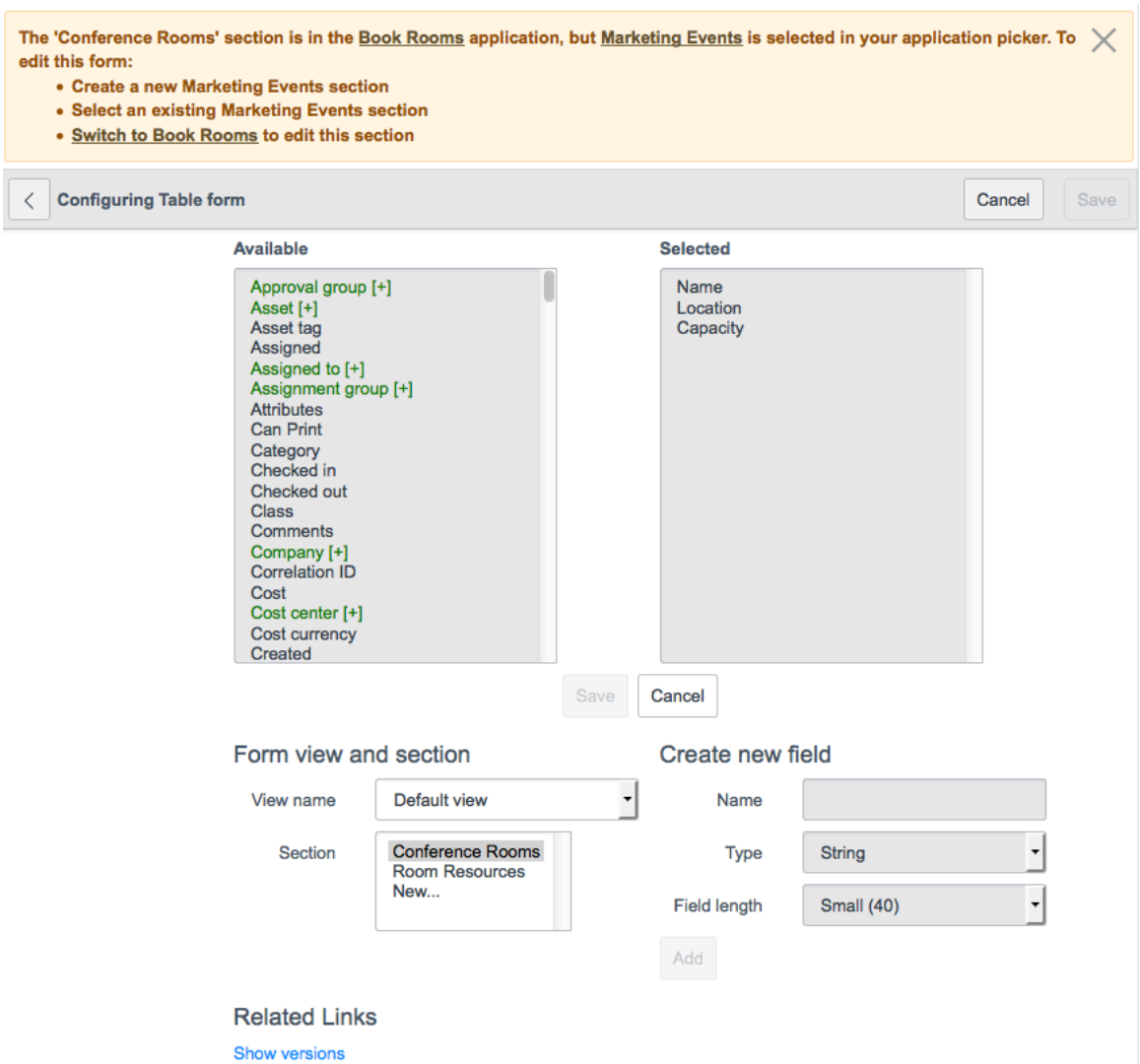

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別のアプリケーションスコープ内にあるビューとセクションは、読み取り専用として表示されます。読み取り専用のセクションには次の項目があります。

- 現在選択されているアプリケーションスコープとフォームのスコープに関する警告メッセージ。
- グレーの背景を持つフィールド選択。
- フィールドを追加または削除するボタンはない。
- グレーの背景の ボタン。
- セクションの読み取り専用フィールド。

読み取り専用セクションのビジュアルインジケーター




関連情報

スコープ対象のアプリケーションのリストとフォーム

使用可能なレイアウトと設計アクション

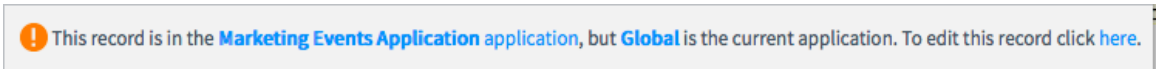
フォーム設計のビジュアルインジケーター

コンテキスト開発の編集メッセージ

別のアプリケーションスコープにいるときに、ストアアプリケーションレコードを編集しようとすると、プラットフォームからメッセージが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション コンテキスト編集メッセージ



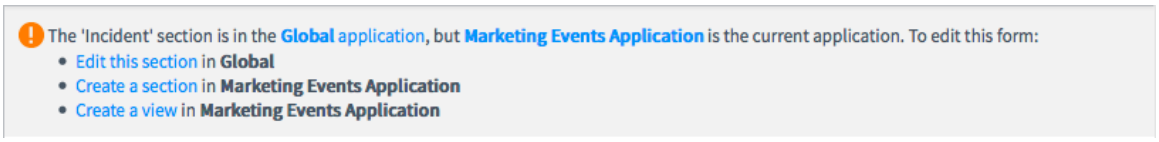

このメッセージは次の目的で使用できます。

- 現在の設定レコードが属するアプリケーションを開く。
- アプリケーション ピッカーで現在選択されているアプリケーションのアプリケーションを開く。
- 現在の設定レコードが属するアプリケーションに一時的に切り替えて編集する。

**注:**
レコードを保存またはキャンセルすると、現在のアプリケーション コンテキストに戻ります。

ユーザーが別のアプリケーションスコープから作業しているときにリストまたはフォーム レイアウトを設定しようとした場合も、メッセージが表示されます。

フォームのレイアウトまたは設計のアプリケーション コンテキストの編集メッセージ




このメッセージには、有効なオプションのリストが表示されます。

- 現在のセクションを所有するアプリケーションに一時的に切り替えて、現在のセクションを編集する。
- 現在のアプリケーション コンテキストに新しいセクションを作成する。
- 現在のアプリケーション コンテキストで新しいビューを作成する。

**注:**
レコードを保存またはキャンセルすると、現在のアプリケーションコンテキストに戻ります。

## スクリプト保護ポリシー

アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションの一部として公開されているスクリプトインクルードの保護ポリシーを設定できます。このポリシーは、アプリケーションをインスタンスにインストールした後に、スクリプト インクルードを表示または編集できるようにするかどうかを決定します。

アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションのスクリプトインクルードを保護するために次のオプションを使用できます。

スクリプト インクルードの保護ポリシーのオプション

| 保護ポリシー | 説明 |
|---|---|
| なし | 他のアプリケーション開発者がスクリプト インクルードをカスタマイズできるようにするには、このオプションを選択します。 |
| 読み取り専用 | 他のアプリケーション開発者がスクリプト ロジックを表示できるが変更はできないようにするには、このオプションを選択します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

スクリプト インクルードの保護ポリシーのオプション (続く)

| 保護ポリシー | 説明 |
| --- | --- |
| 保護 | 他のアプリケーション開発者が知的財産を変更できないようにするには、このオプションを選択します。 |

## アプリケーション管理

アプリケーション管理を使用してユーザーがアプリケーション固有のロールを取得する方法を制限することにより、機密のアプリケーションデータを保護します。

## アプリケーション管理の機能

アプリケーション管理を使用して以下を行うことができます。

- 権限のないユーザーが財務記録や個人特定可能な情報などの機密データにアクセスするのを防止する。
- アプリケーション固有のロール (アプリケーションの管理者および指定された開発者など) を割り当てることができるユーザーを制限する。
- システムレベルの admin ロールを持つユーザーが以下の操作をできないようにする。
  - 保護されたアプリケーション ロールを自分自身に割り当てる。
  - 保護されたアプリケーション ロールを含むグループを自分自身に割り当てる。
  - アクセス制御を作成して、保護されたアプリケーションに対する既存のアクセス制御をバイパスする。
  - 保護されたアプリケーション ロールを持つユーザーのパスワードを変更する。
  - 開発者または管理者が保護されたアプリケーションロールを持っていない場合に、そのロールを持つユーザーとして代理操作を行う。
  - 保護されたアプリケーションロールを継承する。
  - 保護されたアプリケーションに対する既存のアクセスコントロールを上書きする。
  - 保護されたアプリケーション レコードにアクセスするスクリプトを実行する。

## アプリケーション管理におけるロール

[ロール構成 (Role Configuration)] で [アプリケーション管理者] チェックボックスをオンにすると、任意のロールをアプリケーション固有の管理者にすることができます。詳細については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。慣例により、次のロールを作成します。

アプリケーション管理ロール

| ロール名 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション固有の管理者 | このロールを持つユーザーは、他のユーザーをそのアプリケーションのアプリケーション固有のロールに割り当てることができます。たとえば、 my_application.admin という名前のロールを作成できます。アプリケーションの admin ロールであることを示すサフィックス「admin」を付けて、制限付きのアプリケーションの名前を含める必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション管理ロール (続く)

| ロール名 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション固有の開発者 | このロールを持つユーザーは、制限付きアプリケーションにアクセスできます。たとえば、my_application.developer という名前のロールを作成できます。アプリケーションの開発者ロールであることを示すサフィックス「developer」を付けて、制限付きのアプリケーションの名前を含める必要があります。開発者ロールには、アプリケーションファイルを変更するためのアプリケーション管理者と委任開発の両方の権限が必要です。<br><br>詳細については、「Delegated Development と展開」と「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。 |

## アプリケーション固有の **admin** ロール

アプリケーション固有の admin ロールにより、ユーザーは特定のアプリケーションにアクセスできますが、その他の管理者権限をユーザーに付与することはできません。ユーザーが次のタスクを実行できるようにするには、システムレベルの admin ロールをユーザーにアサインします。

- フォームとリストのレイアウトを設定する。
- アプリケーションのテーブルとフィールドを変更します。
- 新しいユーザーにアプリケーション固有の admin ロールを割り当てる。

アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーにシステムレベルの admin ロールを付与しない場合は、以下のようにします。

- システムレベルの admin ロールをユーザーに割り当てない。アプリケーション固有の admin ロールのみを割り当てる。
- ユーザーが自分自身にアプリケーション固有の開発者ロールを割り当てる。

アプリケーション固有の管理者は、システムレベルの admin ロールを持たなくても管理タスクのサブセットを実行できます。

**注:**
アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーに割り当てます。これにより、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーが退職しても、アプリケーションを変更できます。

## アプリケーション管理の有効化とアプリケーション固有のロールの割り当て

アプリケーションレコードからアプリケーションのアプリケーション管理を有効にし、ユーザーロールレコードからのアプリケーション固有のロールの割り当てを制限することができます。

**注:**
アプリケーションの開発を完了した後、アプリケーションレコードを追加する前にアプリケーション管理を有効にし、アプリケーション固有のロールを割り当ててください。このプラクティスにより、アプリケーションレコード内の機密データが権限のないユーザーによるアクセスから保護されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターゲットインスタンスには、アプリケーション固有の admin ロールを持つ承認されたユーザーが少なくとも 1 人必要です。

- アプリケーションのアプリケーション管理を有効にしても、アプリケーション固有のロールを割り当てない場合、ユーザーはアプリケーションにアクセスできません。
- アプリケーション固有のロールを 1 つだけアサインした場合、そのロールは削除できません。

アプリケーションのアプリケーション管理を有効にしても、アプリケーションのロールのアサインに必要なアプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーがいない場合は、警告が表示されます。この警告により、アプリケーションの管理者および開発者のアプリケーション固有のロールを割り当てるよう通知されます。

複数のユーザーがアプリケーション固有の admin ロールを保持することを必須にするには、*[scoped_app_name].min_admin_count property* を設定します。アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーにアサインすると、スコープ対象のアプリケーションからロックアウトされるリスクが軽減されます。*[scoped_app_name].min_admin_count* プロパティには次の制限事項があります。

- プロパティに無効な値を指定すると、少なくとも 1 人のアプリケーション固有の管理者をアサインするというデフォルト要件が適用されます。
- プロパティに有効な値を指定すると、指定された値を超えない限り、アプリケーション固有の管理者を削除することはできません。たとえば、値を 2 に指定し、アプリケーション固有の管理者が 3 人いる場合は、そのうちの 1 つのロールのみを削除できます。
- アサインされたアプリケーション固有の管理者の実際の数よりも大きい値を指定できます。ただし、指定された値を超えないかぎり、アプリケーション固有の管理者は削除できません。たとえば、値を 6 に指定しても、アプリケーション固有の管理者が 3 人しかいない場合、それらのいずれのロールも削除できません。

手順については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。

## アプリケーション管理によるアプリケーションの開発

アプリケーション管理によって保護されているアプリケーションを展開するには、開発者インスタンスと本番インスタンスの両方でシステムレベルの admin ロールが必要です。プロセスについては、以降のステップで概説します。

1. 開発インスタンス上でアプリケーションを開発します。
2. アプリケーション固有の admin ロールを作成します。
3. アプリケーション固有の admin ロールをシステムレベルのすべての管理者ユーザーに付与します。
4. アプリケーションレコードを更新してアプリケーション管理を有効にし、アプリケーションへのアクセスを制限します。
5. アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
6. 本番インスタンスから、アプリケーションリポジトリのアプリケーションをインストールします。
7. 本番インスタンスにおけるシステムレベルの管理者として、アプリケーション固有の admin ロールを適切なユーザーに付与します。
8. システムレベルの admin ロールを持つすべてのユーザーからアプリケーション固有の admin ロールを削除します。

アプリケーション管理を有効にしてアプリケーション固有のロールの割り当てを制限する手順については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## トレーニング

ServiceNow® 開発者サイト には「アプリケーションの保護」のトレーニングがあります。

関連情報

Delegated Development と展開

### アプリケーションへのアクセスの制限

権限のないユーザーがアプリケーションに管理権限を割り当てたり、アプリケーションレコード内の機密情報にアクセスしたりすることを防止するために、アプリケーションの管理とそのアプリケーションへのアクセスを制限します。

#### 始める前に

- 必要なレコード：
  - アプリケーション固有の admin ロールとしてロールを指定するロールレコード
  - アプリケーション固有の admin ロールをユーザーに割り当てるユーザーレコード
  - 特定のアプリケーションに対してアプリケーション管理を有効にするアプリケーションレコード
- 必要なロール：admin

アプリケーション固有の admin ロールがまだ存在しない場合は、この手順を開始する前にそのロールを作成します。たとえば、制限付きアプリケーションの名前にサフィックス "admin" を付けた my_application.admin という名前のロールを作成して、それがアプリケーションの admin ロールであることを示すことができます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムセキュリティ > ユーザーとグループ > ロール または ユーザー管理 > ロール.
2. アプリケーション固有の admin ロールのロールレコードを開きます。
3. フォームを設定して フィールドを追加します。

   **注:**
   [アプリケーション管理者] チェックボックスが [アサイン担当者] フィールドに取って代わっています。デフォルトでは、Jakarta 以前のリリースを Kingston 以降のリリースにアップグレードすると、[アサイン担当者] フィールドにあったロールはアプリケーション固有の admin ロールとして定義され、[アプリケーション管理者] チェックボックスが選択されます。

4. ロールレコードで、[アプリケーション管理者] チェックボックスをオンにして、[更新] をクリックします。
5. 移動先 システムセキュリティ > ユーザーとグループ > ユーザー.
6. 管理者ユーザーのユーザーレコードを開きます。
7. [ロール] タブで、アプリケーション固有のロールを追加します。
   アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーのみがアプリケーションのアプリケーション管理を有効にすることができます。

   **注:**
   アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーに割り当てます。これにより、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーが退職しても、アプリケーションの変更を実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [更新] をクリックします。
9. ログアウトしてから、アプリケーション固有の admin ロールでログインします。
10. 移動先 システムアプリケーション > アプリケーション.
11. アプリケーション管理を有効にするアプリケーションを選択します。
12. アプリケーションレコードで、[アプリケーション管理 **(Application administration)**] を選択します。
13. [更新] をクリックします。
    以下の要件が満たされていることがシステムによって確認されます。
    - アプリケーション固有の admin ロールがあること ([アプリケーション管理者] がオンになっているロールが少なくとも 1 つあること)。
    - 現在のユーザーがアプリケーション固有の admin ロールを持っていること。

    確認に合格すると、システムによってアプリケーション レコードが更新します。それ以外の場合、次のエラーメッセージが表示され、アプリケーションレコードは更新されません。

    > Application Administration uses the 'Application Administrator' role to define what users are application administrators. None of the roles defined by this application have 'Application Administrator' enabled.

14. オプション: 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。

| 関連リンク | 説明 |
|---|---|
| 開発者の管理 | アプリケーション固有の管理者が次のタスクを管理できるようにするモーダル<br>○ アプリケーションの開発者を指定する。<br>○ 自分自身を委任開発者にする。アプリケーション固有の管理者が委任開発者になると、アプリケーション固有の管理者はシステムレベルの admin ロールを持たなくても管理タスクのサブセットを実行できます。<br>詳細を見る： Delegated Development と展開 |
| すべての管理者にアプリケーション管理を付与。 | システムレベルの admin ロールの包含ロール [sys_user_role_contains] レコードを作成するモーダル。これにより、アプリケーション固有の admin ロールがシステムレベルの admin ロールの包含ロールとして追加されます。<br>**注:** このレコードを使用してアプリケーションを公開すると、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーは、インストール後にアプリケーションにアクセスできます。 |

### アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール

デフォルトでは、スコープ対象のアプリケーションに対してアプリケーション管理が有効になっている場合、スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが適用されます。スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合は、グローバル ACL ルールを適用できます。

この動作は、アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブルに作成された設定レコードにのみ適用されます。デフォルトの動作を変更することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション管理アプリのアクセスコントロール (ACL) ルールが定義されていない場合、アプリケーション管理アプリの設定レコードにグローバル ACL ルールを適用できます。詳細については、「アプリケーションファイル」を参照してください。

> **注:**
> すべてのアプリケーションがグローバル ACL ルールを使用するわけではありません。期待どおりにアクションを実行できない場合は、アプリケーションがグローバル ACL ルールを許可していることを確認してください。そうでない場合は、一部のアプリケーションに対して特定の ACL ルールを作成する必要があります。

アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル ACL ルールを継承できるようにするには、 システムのプロパティが true であることを確認し、アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル ACL ルールを継承するための構成 で説明されている手順に従います。

- glide.security.scoped_administration.honor_global_acl システム プロパティ：スコープ指定の ACL ルールが定義されていない場合、アプリケーション管理アプリはグローバル ACL ルールを継承できる。デフォルトでは、このプロパティは、新しいインスタンスとアップグレードされたインスタンスに対して有効。
- アプリケーション管理 ACL の継承 [sys_scoped_admin_acl_inheritance] テーブル：アプリケーション管理アプリの ACL ルールが見つからない場合、このリストに追加されたテーブルはグローバル ACL ルールを継承する。この構成テーブルのアプリケーション管理アプリが所有するレコードの追加、削除、読み取りを実行できるのは、アプリケーション管理アプリの管理者のみ。

### アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル **ACL** ルールを継承するための構成

アプリケーションでグローバル ACL (アクセス制御ルール) が重複しないようにするため、スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合はグローバル ACL を継承するように、アプリケーション管理アプリのアプリケーションファイルテーブルを設定できます。

#### 始める前に
必要な役割：アプリケーションの admin ロール

#### 手順

1. ナビゲーション フィルターに sys_scoped_admin_acl_inheritance.list と入力します。
   アプリケーション管理 ACL の継承テーブル [sys_scoped_admin_acl_inheritance] が開きます。
2. [新規] をクリックします。
3. [テーブル] フィールドで、アプリケーション管理アプリからアプリケーション ファイル テーブル (アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブル) を選択します。
   この設定テーブルのアプリケーション管理アプリが所有するレコードの追加、削除、読み取りを実行できるのは、アプリケーション管理アプリの管理者のみです。
4. [送信] をクリックします。
   アプリケーション管理アプリの ACL ルールが見つからない場合、このリストに追加されたテーブルはグローバル ACL ルールを継承します。

## ServiceNow Store アプリへのアクセスの適用

すべての本番インスタンスは、ServiceNow Store アプリの使用パターンに関するレポートを監視、生成します。サブスクリプションの適用が有効になっていると、アプリに登録していないユーザーは、アプリで履行者アクションを実行できません。

### 概要
本番インスタンスで、利用資格に基づく ServiceNow Store アプリの使用を強制できるようにするには、次のアクションが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 組織の使用管理者は、サブスクリプション管理 アプリケーションを使用して、履行者ユーザーをサブスクリプションに割り当てることができます。
2. 次のいずれかの強制モードを決定します。
   - 強制なしで使用状況を監視および報告する (デフォルト)
   - 使用状況のモニタリングとレポートに加えて、すべての使用状況は登録済み履行者ユーザーによるものでなければならないことを強制します。
3. 登録済みユーザーのみの使用を強制するには、レコード所有者または登録済み履行者ユーザーのみが更新できるテーブルをフルフィルメント テーブルとして設定します。

## ライセンス

ServiceNow アプリケーションで利用可能なさまざまなタイプのソフトウェアライセンスとサブスクリプションを理解します。

### ライセンス

**注:**
契約に固有の情報については、ライセンスについて ServiceNow アカウント担当者と話し合ってください。

アプリケーションのエンタイトルメントを取得するにはライセンスが必要です。特定のアプリのエンタイトルメントがある場合は、ServiceNow Store でアクティブ化できます。

すべてのソフトウェアライセンスは、著作権法を侵害することなくソフトウェアを使用する方法を正確に示しています。ソフトウェアライセンスにはさまざまなサブカテゴリがあります。これらのカテゴリは必ずしも排他的ではありません。異なる種類のソフトウェアが重複することがよくあります。

さまざまなタイプのソフトウェアライセンスの詳細については、「ソフトウェアライセンスとは？」を参照してください。

### サブスクリプション

サブスクリプションを使用すると、ServiceNow Store とやり取りせずにファミリーリリースをアップグレードできます。たとえば、Tokyo を使用中でアプリのサブスクリプションを持っている場合、Washington DC が一般リリースになった時点で自動アップグレードされます。

サブスクリプションのタイプによって、ユーザーの割り当て、アプリケーションへのアクセス、カスタムアプリケーションとテーブルのエンタイトルメントが決まります。ServiceNow アプリケーションで利用可能なサブスクリプションのタイプの詳細については、「サブスクリプションのタイプ」を参照してください。

## アプリケーションスコープにわたる作成制限

現在のアプリケーションスコープが設定レコードのターゲットテーブルのアプリケーションスコープと一致しない場合は、一部の設定レコードの作成が制限されます。

これらの制限は、ターゲットテーブルが別のアプリケーションに属している設定レコードを作成する場合にのみ適用されます。これらの制限は、ターゲット テーブルが別のアプリケーションに属している設定レコードを作成する場合にのみ適用されます。同じアプリケーションスコープに属する設定レコードには、これらの制限はありません。

開発者が別のアプリケーションスコープに属する設定レコードを追加すると、常に以下の作成制限が適用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

設定レコードの作成制限

| 設定レコードのタイプ | ターゲットテーブルが別のアプリケーションスコープ内にある場合の作成制限 |
| --- | --- |
| アクセス制御 | • ロールベースの要件を持つフィールドレベルのアクセスコントロールのみを作成できます。<br>• 別のアプリケーションスコープ内のテーブル用のテーブルレベルのアクセスコントロールを作成することはできません。<br>• すべてのフィールドに適用されるフィールドレベルのアクセスコントロールを作成することはできません。<br>• 条件を使用するアクセスコントロールを作成することはできません。<br>• スクリプトベースの条件を使用するアクセスコントロールは作成できません。 |
| ビジネスルール | • 次のいずれかのオプションを使用して、 が のルールを作成できます。<br>◦ 、、および のデータベース操作。 は選択できない。<br>◦ アクションとスクリプト ( フィールド)。<br>• 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [次の前] であるルールを作成できます。<br>◦ 、、および のデータベース操作。 は選択できない。<br>◦ アクションのみ。データポリシー |
| 計算されたフィールド | 別のアプリケーションスコープ内のテーブル用に計算されたフィールドを作成することはできません。 |
| データ ポリシー | • 別のアプリケーションスコープ内のフィールド用にデータポリシールールを作成することはできません。<br>• フィールドを必須にすることはできません。 |
| フィールドスタイル | 別のアプリケーションスコープ内のフィールド用にフィールドスタイルを作成することはできません。 |
| フォームセクション | • 別のアプリケーションスコープ内で作成された既存のフォームセクションは変更できません。<br>• 新しいフォームセクションを作成できます。 |
| レコードプロデューサー | レコードプロデューサーからレコードを作成するには、アプリケーションテーブルに対する作成アクセス権限が必要です。 |
| UI ポリシー | • 別のアプリケーションスコープ内のフィールド用に UI ポリシールールを作成することはできません。<br>• フィールドを必須にすることはできません。 |
| UI スクリプト | スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定レコードの作成制限 (続く)

| 設定レコードのタイプ | ターゲットテーブルが別のアプリケーションスコープ内にある場合の作成制限 |
| --- | --- |
| ビュー | • 新しいビューを作成できます。<br>• 別のアプリケーションスコープ内で作成された既存のビューは変更できません。 |

# アプリケーションの計画立案

アプリケーション開発プロセスは計画立案から始まります。そのアプリケーションがどのように機能するか、誰が使用するか、それによってユーザーエクスペリエンスがどのように向上するかを検討してください。

## **Next Experience** での計画立案

### アプリ取り込み

入念に計画されたアイデアがあれば、App Engine Studio (AES) で承認および開発するために Application Intake 経由で送信する準備ができています。

### アプリケーションレコードのテーブルとフィールドの定義

アプリケーションは、テーブルとレコードを使用して、インシデント、問題、CMDB などのデータとプロセスを管理します。

### セキュリティ：App Engine Studio のロールと権限

管理者はロールを割り当てて、AES を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

## **UI16** での計画立案

### Delegated Development

Delegated Development により、システム管理者のロールを持たない指定ユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。

### テーブルのスキーママップ

スキーママップは、テーブルの詳細とテーブル間の関係を視覚的に表示し、管理者がデータベーススキーマのさまざまな部分を表示して、簡単にアクセスできるようにします。

### Table Administration

管理者は、Table Administration を使用してデータベース構造を表示および変更できます。

### Team Development

チーム開発 は、複数の非本番 ServiceNow インスタンス上の並列開発をサポートします。

## 関連アプリケーションと機能

### セキュリティ：アクセス制御

デフォルトでは、スコープ対象のアプリケーションに対してアプリケーション管理が有効になっている場合、スコープ対象のアプリケーションのアクセス制御 (ACL) ルール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

が適用されます。スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合は、グローバル ACL ルールを適用できます。

セキュリティ：Edge Encryption®

ServiceNow Edge Encryption は、社内の機密データを暗号化し (送信中に暗号化)、インターネット経由で ServiceNow インスタンスに送信します。インスタンスでは保存時もデータは暗号化されたままです。

セキュリティ：ロール

UI ビルダー インスタンスのセキュリティとロールを設定します。UI ビルダー のセキュリティとロールは、アプリケーションスコープ、ドメイン分離、および保護ポリシーの設定によって制御されます。

セキュリティ：UI ポリシー

UI ポリシーを作成して、タスクのカスタムプロセスフローを定義します。

セキュリティ：ユーザーとグループ

Now Platform ユーザー管理機能を使用して、新しいユーザーとグループを作成します。

ServiceNow Application Repository

カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開することで、会社のインスタンスで使用できるようにすることができます。

ソースコントロールの統合

アプリケーション開発者が Git ソースコントロールリポジトリと統合できるようにします。非本番インスタンスから、アプリケーションの複数のバージョンを保存および管理します。

## アプリ開発のためのアイデアの送信

入念に計画されたアイデアがあれば、App Engine Studio (AES) で承認および開発するためにアプリケーション取り込み経由で送信する準備ができています。

### 始める前に

まだ [市民開発の申請] 標準カタログアイテムをアクティブ化していない場合は、この手順を実行する前にアクティブ化する必要があります。

必要なロール：なし

### このタスクについて

取り込み要求プロセスは、アプリ開発のアイデアの送信を簡素化します。アプリケーション取り込みを使用すると、アイデアはレビューのために App Engine Studio 管理者と共有されます。管理者は、アイデアのビジネス価値の販売実績に基づいて、要求を承認または拒否します。

アイデアが承認されると、開発者は App Engine Studio が提供するガイド付きの直感的なアプリ開発環境を使用してアプリを構築できます。

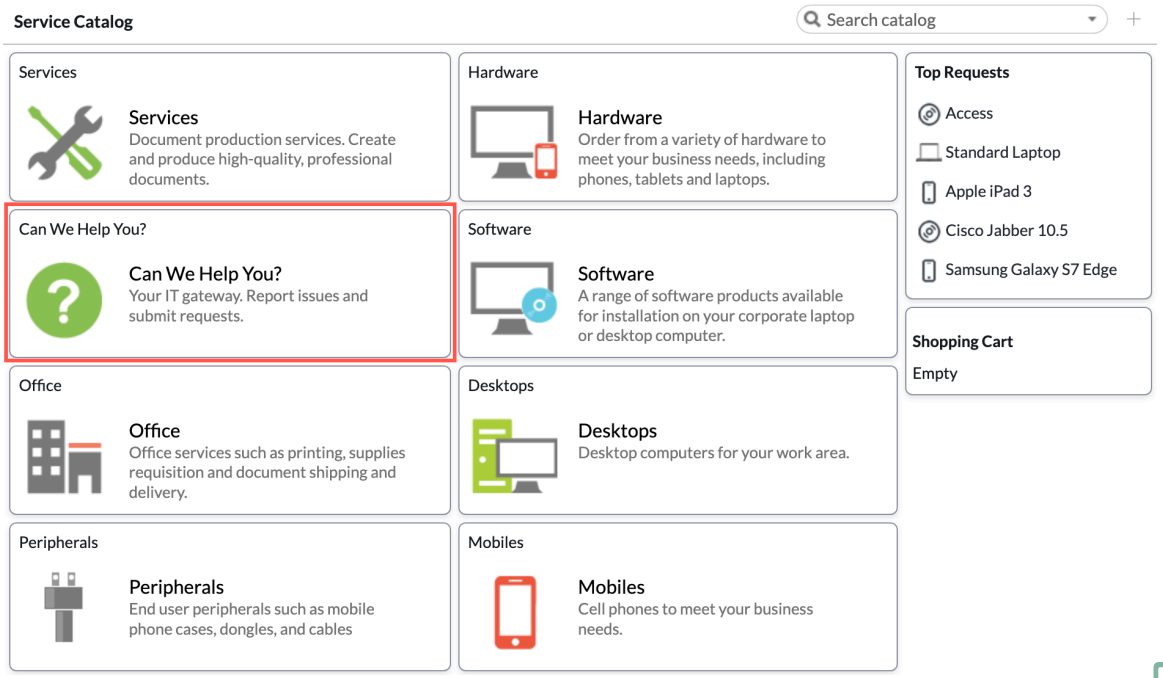
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

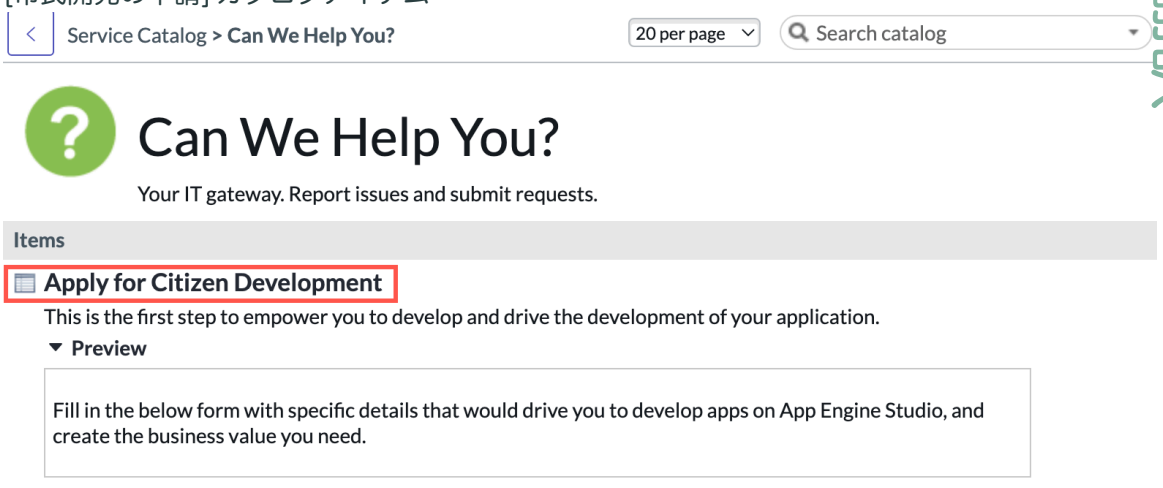
**1.** 移動先 すべて > セルフサービス > サービスカタログ.

サービスカタログ




**2.** Service Catalog で [何かお困りですか？] カテゴリを選択します。

[市民開発の申請] カタログアイテム




**3.** [市民開発の申請] カタログアイテムを選択して、[アプリケーション取り込み] フォームを開きます。

**4.** フォームのフィールドに入力します。

[市民開発の申請] フォームのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アプリケーション名 | アプリの一意の名前。 |
| アイデアの簡単な説明 | アプリケーションの簡単な説明。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| プロセスは繰り返し可能ですか？ | アプリのアイデアをビジネスの他の領域で使用できるかどうかを示すオプション。 |
| メールまたは Excel ベースのプロセスはありますか？ | このアプリケーションで置き換える既存のプロセスがあるかどうかを示すオプション。 |
| これには何人のユーザーが関与していますか？ | 作成されたアプリケーションを使用するユーザーの数。 |
| これに機密/PII データは含まれますか？ | アプリケーションがユーザーの健康、財務、または個人識別情報を使用するかどうかを示すオプション。 |
| 他の部門のデータが必要ですか？ | 他の部門がアプリケーションにデータを提供する必要があるかどうかを示すオプション。 |
| このアプリケーションのデータにアクセスできるユーザーは誰ですか？ | アプリケーションへのアクセスを必要とするユーザーまたはグループ。 |

5. [今すぐ注文] を選択します。

### タスクの結果

管理者が要求を承認すると、App Engine Studio でアプリの構築を開始できます。アプリを構築するためのアクセス権を含む確認メールが届きます。

要求を承認する管理者の場合は、「AEMC 要求の管理」の詳細を参照してください。

## アプリケーションのデータを指定

最も基本的な形式では、Now Platform でアプリケーションを構築することは、何らかの方法でデータを格納して使用することを意味します。アプリケーションのデータモデルの定義はユーザー次第であり、構築するアプリケーションのタイプに基づいています。

次の 3 つの方法を自由に組み合わせて、アプリケーションのデータモデルを定義できます。

- 既存のテーブルとフィールドを再利用してレコードデータを格納します。たとえば、既存のタスクテーブルを使用して、インシデントや問題などの既存のレコードタイプを処理します。通常、このオプションは、グローバルスコープ内のテーブルまたはすべてのアプリケーションスコープでデータを使用できるようにするテーブルでのみ使用できます。
- 既存のテーブルを拡張してレコードデータを格納します。たとえば、タスクテーブルを拡張して VIP インシデントを作成します。拡張テーブルは親テーブルからフィールドを継承しますが、必要に応じて新しいフィールドを追加できます。
- 新しいテーブルとフィールドを作成してレコードデータを格納します。利用可能なさまざまなツールを使用して、新しいテーブルを作成できます。App Engine Studio へのアクセス権がある場合は、アプリケーションを構築するときに テーブルビルダー を使用して新しいテーブルとフィールドを作成します。または、Now Platform の基本的な Table Administration を使用して、アプリケーション開発とは別にテーブルとフィールドを作成できます。

### その他のリソース

これらの概念については、App Engine Studio、テーブルビルダー、および Table Administration のドキュメントで詳しく説明されています。

アプリケーションのデータモデルの作成

App Engine Studio で構築するアプリにデータを追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### Table Administration

現在、Table Administration には、テーブルを管理するためのより包括的な機能とオプションが含まれています。

### Table Builder

テーブルビルダー を使用すると、Now Platform でテーブルとフォームを視覚的に構築できます。

## Delegated Development と展開

Delegated Development により、システム管理者のロールを持たない指定されたユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。

アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールがある場合は、アプリケーションレベルで指定された開発者にアプリケーション開発を委任することができます。

### 委任展開タスク

開発者や、管理者以外のユーザー (変更管理担当者など) に、展開タスク (アプリケーションの公開、初回インストール、または更新) を委任することもできます。展開タスクは、アプリケーション レベルで特定のユーザーに委任するか、インスタンス レベルで特定のユーザーロールを割り当てることで委任します。

| 割り当て方法 | 適用先 | 利用可能なオプション |
|---|---|---|
| で展開権限を設定します。「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。 | 特定のアプリケーション | 特定のアプリケーションの公開とアップグレード。公開オプションには、アプリケーションリポジトリ、ServiceNow Store、更新セットも含まれます。 |
| 特定のユーザーに展開ユーザーロールを割り当てます。「インスタンス固有の展開ユーザーロール」を参照してください。 | ローカル非本番インスタンス (開発や QA など) | 現在のインスタンスと同じ会社を含むすべてのアプリケーションの初回インストールおよびアップグレード。<br><br>たとえば、ABC 社と XYZ 社のアプリケーションは [アプリケーションクライアント] ページに表示されます。このロールを持つユーザーは、XYZ 社のインスタンスにログインしている場合にのみ、XYZ 社のアプリケーションをインストールできます。このユーザーは ABC 社のアプリケーションをインストールすることはできません。 |

### アプリケーション固有の権限

開発者権限と展開権限は、アプリケーション固有です。たとえば、あるアプリケーションのすべてのファイルタイプにアクセスする権限を持っている開発者が、別のアプリケーションの開発者権限を持っているとは限りません。管理者は、各アプリケーションの開発者権限 (およびオプションで展開権限) を設定する必要があります。管理者は、開発者権限を設定するためには、アプリケーションファイルとシステムテーブルの構造に精通している必要があります。たとえば、詳細なビジネスルー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルを作成することが想定される開発者には、[すべてのファイルタイプ] と [スクリプティングを許可] の両方の開発者権限が必要です。

**重要:**
アプリケーション管理が有効になっている場合、ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理者のみが、アプリケーションの開発者を委任できます。アプリケーション管理者にはシステム管理者権限がありません。委任された開発者が開発者権限で付与された機能を実行できるようにするには、委任された開発者にもアプリケーション管理者ロールが付与されている必要があります。

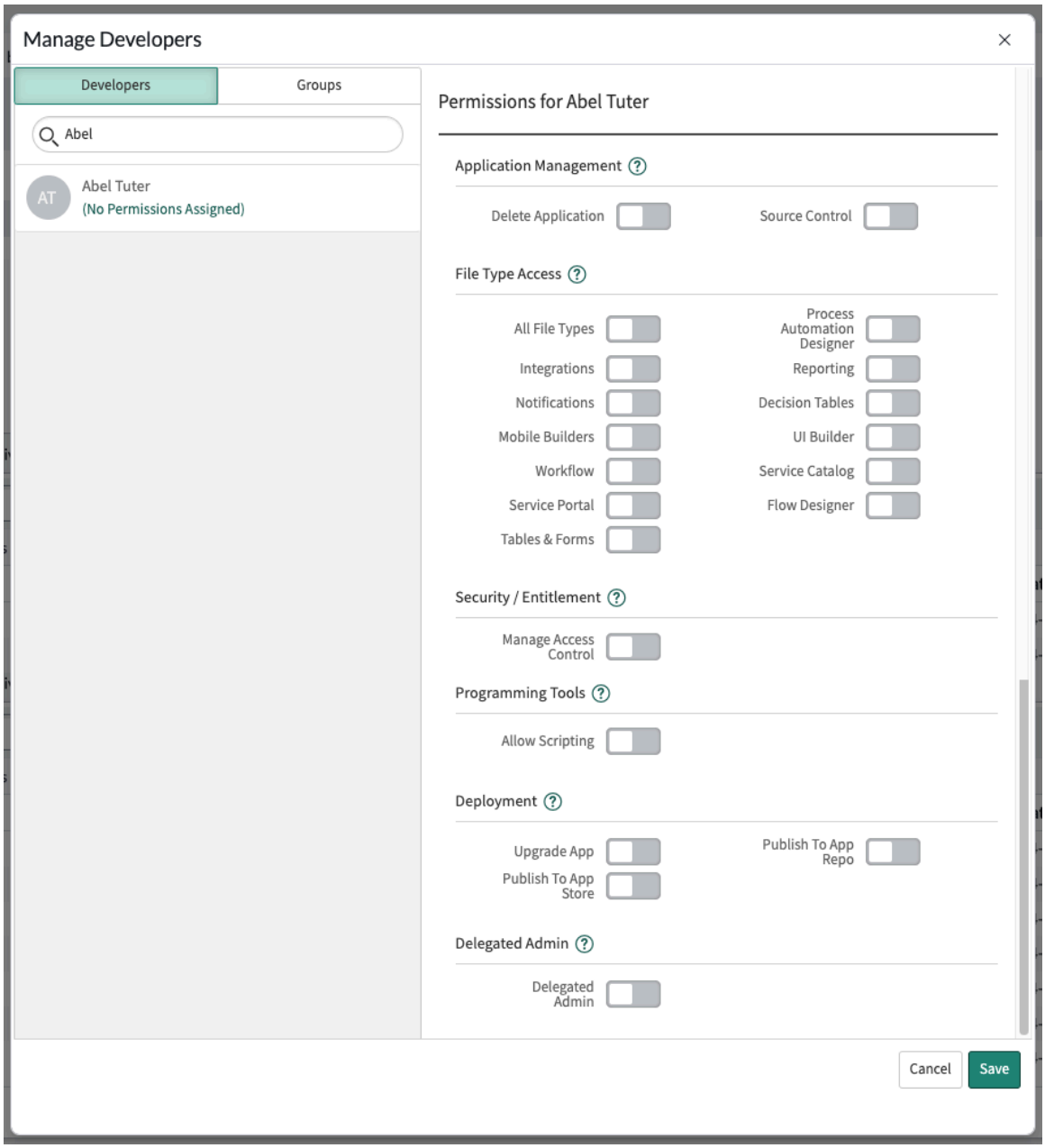
各権限を設定すると、1 つ以上のシステム管理の Delegated Development ロールが付与され、システムアドミンはシステムのコントロールを保持できます。システムアドミンは、アプリケーションの開発や展開を行えるようにするために、開発者 (またはアプリケーションを展開するユーザー) をシステムアドミンロールに昇格させる必要がなくなります。

## 開発者権限と展開権限の例

システム管理者として、開発インスタンス内の特定のアプリケーションについて、特定の開発者権限と展開権限を Abel Tuter に割り当てる必要があります。開発者権限と展開権限の詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




自動翻訳

関連情報

- アプリケーションファイル
- ServiceNow Store アプリケーションのインストール
- ServiceNow Store アプリケーションへの更新のインストール
- アプリケーションの共有

## 開発と展開の権限を担当者に委任する

システムアドミンは、管理者以外のユーザーまたはグループを、特定のアプリケーションの開発者または展開リソースとして割り当てることができます。割り当てられたユーザーが現在のインスタンスで実行できる特定のアクションを指定するアクセス許可を設定することも、ユーザーを代理管理者にしてすべてのアクセス許可へのアクセス権を一度に付与することもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：admin または application administrator

  アプリケーション管理が有効になっている場合は、ターゲット アプリケーションのアプリケーション管理者のみが、アプリケーションに開発者を委任できます。アプリケーション管理が有効になっていない場合は、admin ユーザーが開発者を委任できます。

- 必要なレコード：
  - アプリケーション
  - ユーザー
  - グループ

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. 開発者を追加するアプリケーションの名前を選択します。
   アプリケーション レコードが開きます。
3. [開発者の管理] を選択します。

   **注:**
   アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

   [開発者権限] ウィンドウが表示されます。

   **注:**
   [開発者権限] は、グローバルアプリではなく、スコープ対象アプリでのみ使用できます。

4. 割り当てる開発者 (またはシステムアドミンロールを持たないユーザー) のタイプを選択します。
5. または  に、開発者権限または展開権限を付与するユーザーまたはグループの名前を入力します。
6. アプリケーションの特定の開発者権限と展開権限を選択するか、[ 代理管理者] を選択してアプリケーションのすべての権限へのアクセス権をすばやく付与します。
   詳細については、「開発者権限と展開権限」を参照してください。
7. [保存] を選択します。
   アプリケーションの指定された開発者権限と展開権限がアサインされます。

### 開発者権限と展開権限

管理者は、開発者の管理を使用して、特定のアプリケーションについて、グループまたはユーザーに 1 つ以上の開発者権限と展開権限を割り当てることができます。これらの権限は、割り当てられたユーザーがアプリケーションに対して実行できる特定のアクションを指定します。

たとえば、アプリケーションのアップグレードと、アプリケーションリポジトリおよび ServiceNow Store への公開はできるが、更新セットへの公開はできないようにする権限をユーザーに付与できます。

## 開発者権限

**注:**
アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーションを削除 | スコープ対象のアプリ内でアサインされた開発者に、アプリケーションを削除する権限を付与します。 |
| ソースコントロール | アサインされた開発者にソースコントロールへのフルアクセス権を付与します。 |
| すべてのファイル タイプ | 他のオプションでは付与されないものを含め、すべてのアプリケーションファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。この権限は、ユーザーに admin ロールを付与するのと同じですが、いくつかの制限があります。具体的には、Application Creator の [開発者の管理] タスクに従ってアプリケーションで構成されているすべてのファイルタイプへのアクセス権を提供します。このようなファイルタイプの例については、「Delegated Development と展開」の権限の例を参照してください。 |
| プレイブック | プロセスを作成するための プレイブック 設計環境へのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、**Flow Designer** 権限が必要です。 |
| 統合 | Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| レポート | レポートおよびスケジュール設定済レポートへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| 通知 | 割り当てられた開発者に、自動メール通知を操作するためのアクセス権を付与します。 |
| ディシジョンテーブル | 複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するために、アサインされた開発者に ディシジョンテーブル へのアクセス権を付与します。 |
| モバイルビルダー | アサインされた開発者に、モバイルアプリビルダー などのモバイルビルダーへのアクセス権を付与します。 |
| UI ビルダー | エクスペリエンスのページを作成するために、アサインされた開発者に UI ビルダー へのアクセス権を付与します。 |
| ワークフロー | ワークフローエディターとアクティビティクリエーターへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| Service Catalog | アサインされた開発者に、カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。 |
| Service Portal | Service Portal のエディターとツールへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| フローデザイナー | フローおよびアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。スクリプトアクションのステップでは、[スクリプティングを許可 **(Allow Scripting)**] 権限が必要です。 |
| テーブルとフォーム | テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなどのモデルとレイアウトに関連したファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| ACL とロールの管理 | アクセス制御やユーザーロールなどのセキュリティ関連のファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| スクリプティングを許可 | ビジネスルール、クライアントスクリプト、フローデザイナー のスクリプトアクションステップなどでのスクリプトフィールドへの書き込みアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。 |
| 協力者の管理 | ユーザーとグループを招待して管理する機能がアサインされた開発者に付与されます。この権限により、委任開発者はさらに他の開発者をアプリケーションに招待して管理することができます。 |
| 協力者を招待 | ユーザーとグループを招待する機能がアサインされた開発者に付与されます。この権限により、委任開発者はさらに他の開発者をアプリケーションに招待することができます。 |
| 代理管理者 | すべての Delegated Development 権限に対するアクセス権を付与し、個別に権限を付与する必要がないようにします。 |

## 展開権限

更新セットの展開権限はデフォルトでは非表示になっており、システム管理者がシステムのプロパティを使用してアクティブ化する必要があります。詳細については、「更新セットの展開権限を表示または非表示にする」を参照してください。

[展開の送信]、[協力者の管理]、および [協力者を招待] の委任開発権限セットは、開発者協力者機能でのみ使用できます。[開発者の管理] には表示されません。

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリをアップグレード | 現在のインスタンスにインストールされた後に、関連アプリケーションをアップグレードする権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。 |
| 更新セットに公開 | 関連アプリケーションを現在のインスタンスの更新セットに公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。<br>**注:**<br>この権限を持つユーザーは、[更新セットの管理] 権限を持つことはできません。 |
| アプリストアに公開 | 関連アプリケーションを現在のインスタンスの ServiceNow Store に公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。<br>**注:**<br>デフォルトでは、[アプリをアップグレード]、[アプリリポジトリに公開]、および [アプリストアに公開] 権限が表示されます。[更新セットに公開] 権限は、システム管理者が手動でアクティブ化した場合にのみ表示されます。詳細については、「更新セットの展開権限を表示または非表示にする」を参照してください。 |
| 更新セットの管理 | ローカルおよび取得された更新セットを管理する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。この権限により、ユーザーはローカル更新セットの作成、更新、削除、および取得した更新セットのプレビュー、競合の解決、およびコミットを行うことができます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>この権限を持つユーザーは、[更新セットに公開] 権限を持つことはできません。 |
| アプリリポジトリに公開 | 関連アプリケーションを現在のインスタンスのアプリケーションリポジトリに公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。 |
| 展開の送信 | アサインされた委任開発者ロールのアクセス許可を持つユーザーに、関連アプリケーションをレビューと展開のために送信する権限を付与します。 |

### 開発者の削除

ユーザーを開発者として削除すると、ユーザーは現在のインスタンスでアプリケーションを開発、変更、または展開することができなくなります。

#### 始める前に

必要なロール：admin または application administrator

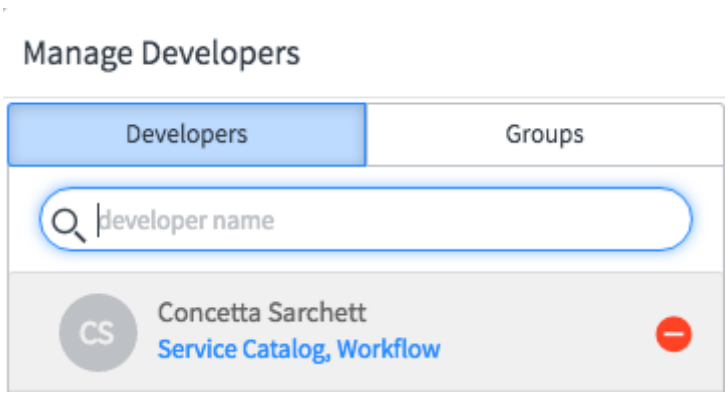
アプリケーション管理が有効になっている場合は、ターゲット アプリケーションのアプリケーション管理者のみが、アプリケーションに開発者を委任できます。アプリケーション管理が有効になっていない場合は、admin ユーザーが開発者を委任できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション.
2. 開発者を削除するアプリケーションのアプリケーション名を選択します。
   アプリケーション レコードが開きます。
3. [開発者の管理] を選択します。

   **注:**
   アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

   [開発者権限] ウィンドウが表示されます。
4. 削除する開発者をポイントします。
   開発者名の横にマイナスアイコンが表示されます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 開発者名の横にあるマイナスアイコンを選択します。
   開発者および関連するすべてのアプリケーションロールが削除されます。

## 更新セットの展開権限を表示または非表示にする

[開発者の管理] ダイアログから更新セットの展開権限を表示または非表示にします。

### 始める前に

必要なロール：admin

### このタスクについて

[更新セットに公開 ] および **[Update Sets** の管理 **(Manage Update Sets)]** 権限の可視性は、システムプロパティによって制御されます。デフォルトでは、更新セットの展開権限は両方とも非表示になっています。

### 手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力します。
   システムプロパティ [sys_properties] テーブル内のプロパティの全リストが表示されます。

   **注:**
   システムプロパティを追加して有効にする方法の詳細については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。

2. 次のシステムプロパティを追加または更新して、特定の展開権限を有効または無効にします。

   展開権限

| システムプロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| com.snc.dd.manage_update_set_enabled | **[Update Sets** の管理 **(Manage Update Set)]** 権限の表示を有効または無効にします。<br><br>このシステムプロパティのデフォルト値は **false** です。この権限の表示を有効にするには、この値を **true** に設定します。 |
| com.snc.dd.publish_to_app_repo_enabled | [アプリリポジトリに公開] 権限の表示を有効または無効にします。<br><br>このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。 |
| com.snc.dd.publish_to_app_store_enabled | [アプリ ストアに公開] 権限の表示を有効または無効にします。<br><br>このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。 |
| com.snc.dd.publish_to_update_set_enabled | 権限の表示を有効または無効にします。<br><br>このシステム プロパティのデフォルト値は **false** で、この権限の表示は無効になっていま |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| システムプロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| | す。この権限の表示を有効にするには、この値を **true** に設定します。 |
| com.snc.dd.upgrade_app_enabled | 権限の表示を有効または無効にします。<br><br>このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。 |

## インスタンス固有の展開ユーザーロール

管理者以外のユーザーが特定のインスタンス内ですべてのアプリケーションをインストールまたはアップグレードできるようにするロールを割り当てます。インスタンスごとに特定のユーザーロールを手動で割り当てることで、これらのタスクを委任します。

たとえば、変更管理担当者にユーザーロールを割り当てて、非本番 (開発または QA) インスタンスでアプリケーションをインストールできるようにすることができます。

**重要:**
インストールとアップグレードのユーザーロールを、どのユーザーに、どのインスタンスで割り当てるかは、慎重に検討してください。これらのロールを、非本番インスタンス (開発や QA など) の非システムアドミンにのみ割り当てて、本番インスタンスでは割り当てないようにすることもできます。アプリケーションのインストールとアップグレードの潜在的な影響を考慮して、本番インスタンスでのインストールとアップグレードの責任をシステム管理者に任せたい場合もあります。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

### 展開ユーザーロールの追加

システムアドミンは、最初のアプリケーションのインストールのみを実行できるようにするユーザーロールや、ローカル インスタンスでアプリケーションをインストールおよびアップグレードできるようにするユーザーロールを、特定の担当者に割り当てることができます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー ユーザーレコードを開きます

   **注:**
   ユーザーにロールを割り当てる方法の詳細については、「ユーザーロールの割り当て」を参照してください。

2. [ロール] 関連リストで、[編集] を選択します。
3. [コレクション] リストで目的の展開ロールを選択し、[追加] を選択します。

委任展開ロール

| ユーザーロール | 説明 |
| --- | --- |
| sn_appclient.app_client_company_installer | 指定されたユーザーが、現在のインスタンスと同じ会社を含む、[アプリケーション クライアント] ページに表示されているアプリケーションの初 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| ユーザーロール | 説明 |
| --- | --- |
| | 回インストールを実行できるようにします。このロールを持つユーザーは、別の会社のアプリケーションをインストールすることはできません。<br><br>たとえば、ABC 社と XYZ 社のアプリケーションは [アプリケーションクライアント] ページに表示されます。このロールを持つユーザーは、XYZ 社のインスタンスにログインしている場合にのみ、XYZ 社のアプリケーションをインストールできます。このユーザーは ABC 社のアプリケーションをインストールすることはできません。<br><br>**注:**<br>このロールではユーザーにアプリケーションのアップグレード権限は付与されませんが、初回インストールの実行後に委任開発者にアップグレード ロールが自動的に追加されます。その後、ユーザーはローカルインスタンス内でアプリケーションのアップグレードを実行できます。詳細については、「システム管理の開発者ロールと展開ロール」を参照してください。 |
| sn_appclient.app_client_user | 指定されたユーザーが、[アプリケーション クライアント] ページに表示されているすべてのアプリケーションをインストールおよびアップグレードできるようにします。 |

**4.** [保存] を選択します。

### システム管理の開発者ロールと展開ロール

システム管理者はユーザーロールを手動でアサインおよび削除できますが、以下の委任開発者ロールはシステムで管理することをお勧めします。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

| ロール | 説明 |
| --- | --- |
| delegated_developer | ユーザーに 1 つ以上の開発者権限があります。 |
| プリフィックス sn_dd で始まるロール (sn_dd_<app_name>_upgrade_app など) | ユーザーにアプリケーション固有の開発者権限があります。ロール名は、適用されるアプリケーションスコープを示します。<br><br>たとえば、sn_appclient.app_client_company_installer ロールを持つユーザーが会社のアプリケーションをインストールすると、sn_dd_<app_name>_upgrade_app という委任展開ロールが自動的に付与されます。このロールにより、今後の更新が [アプリケーション クライアント] ページに公開されたときに、ユーザーはアプリケーションをアップグレードできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ロール | 説明 |
| --- | --- |
| glide.security.add_admin_contained_roles_to_system | デフォルト値：true<br><br>プロパティが true の場合、admin ロールに直接的または間接的に含まれるすべてのロール (scoped-admin ロールを含む) がシステムユーザーに追加されます。<br><br>**注:**<br>プロパティを false に設定すると、以前の動作になります。この場合、システムユーザーは admin ロールを保持しますが、admin ロールに含まれる scoped-admin ロールは保持しません。<br><br>例：admin ロールに *sn_templated_snip.template_snippet_admin* ロールが含まれている<br><br>以前の動作：システムユーザーには *sn_templated_snip.template_snippet_admin* ロールがありません。<br><br>新しい動作：システムユーザーは、*sn_templated_snip.template_snippet_admin* ロールとそれに含まれる他のスコープ対象のロールを保持します。 |

**注:**
委任開発者ロールを持つユーザーは、システムの admin ロールを追加または削除することはできません。

自動翻訳

## ソースコントロール権限のアサイン

特定のスコープのソースコントロールへのフルアクセス権を委任開発者にアサインする機能。[ソースコントロール] メニューは、使用しているアプリケーションの適切な権限を持っている場合にのみ表示されます。

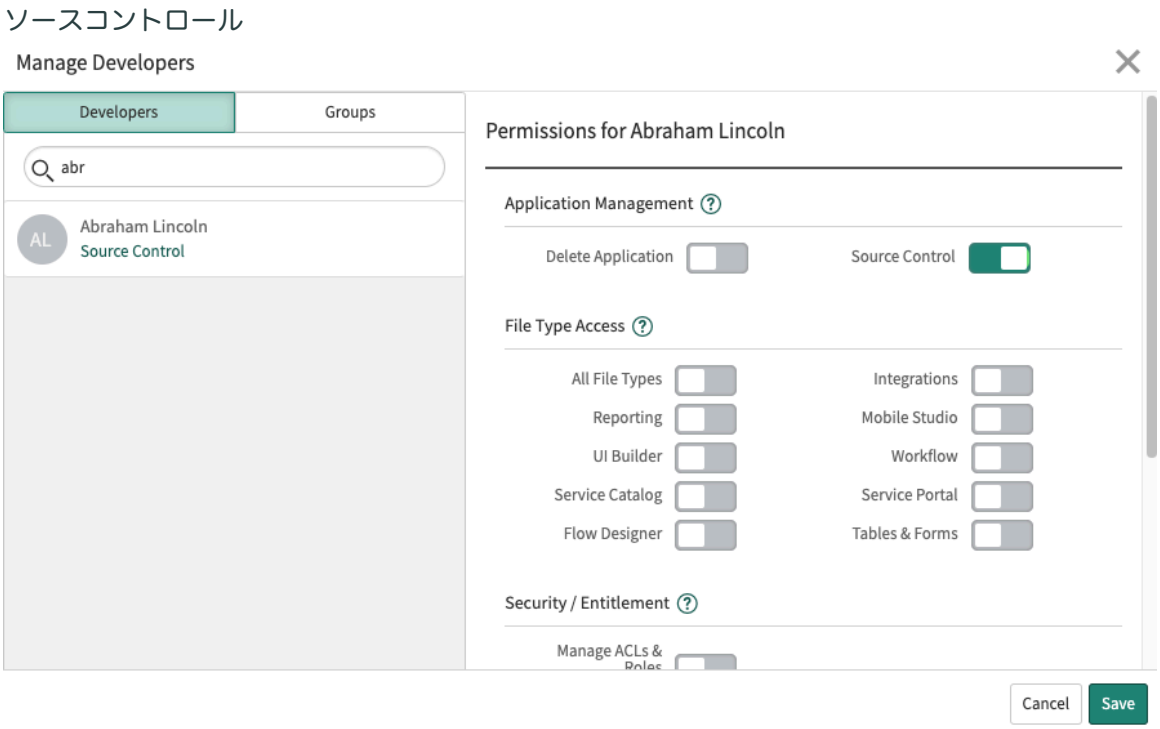
### 始める前に

必要なロール：管理者

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. 委任開発者権限をアサインするアプリケーションを開きます。
3. システム管理者として、 ファイル > マネージャー開発者.
4. 委任開発者権限を適用する開発者を選択します。
5. [ソースコントロール] をオンにして、[保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. 委任開発者は、[ソースコントロール] メニューオプションにアクセスできるようになりました。ソースコントロールのオプションの詳細については、「利用可能なソースコントロール操作」を参照してください。

## 削除権限のアサイン

アプリケーションを削除する機能を委任開発者にアサインする機能。

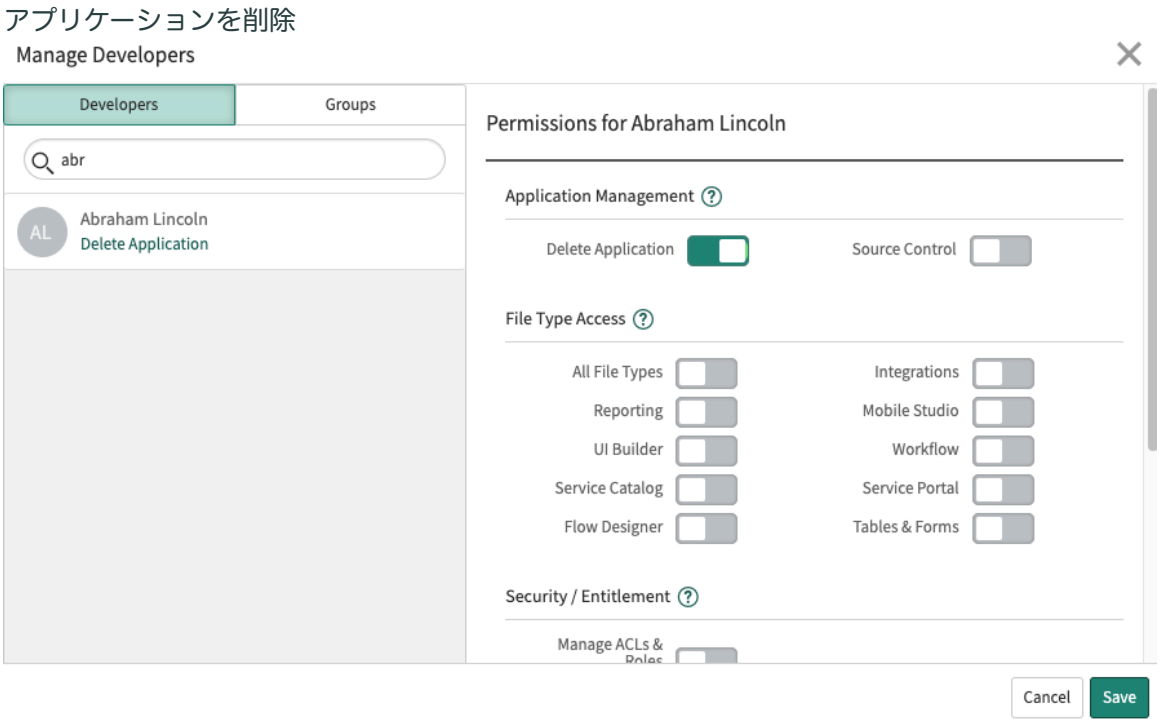
始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. 委任開発者権限をアサインするアプリケーションを開きます。
3. システム管理者として、 ファイル > マネージャー開発者.
4. 委任開発者権限を適用する開発者を選択します。
5. [アプリケーションを削除] をオンにして、[保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. 委任開発者がアプリケーションを削除できるようになりました。

### ドメイン分離と **Delegated Development**

ドメイン分離は、Delegated Development 機能ではサポートされていません。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

### サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

## Table Administration

テーブルとは、データベース内のレコードのコレクションです。各レコードはテーブルの行に対応し、レコードの各フィールドはそのテーブルの列に対応します。

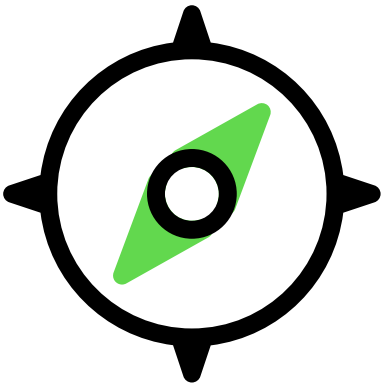
### 概要

ServiceNow® のテーブル、レコード、およびフィールドの概要については、この 9 分間のビデオをご覧ください。 このビデオでは、ServiceNow インフラストラクチャについて説明し、テーブル、レコードおよびフィールドの概念、テーブルクラスおよびその他のテーブル関係、スキーママップについて紹介します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

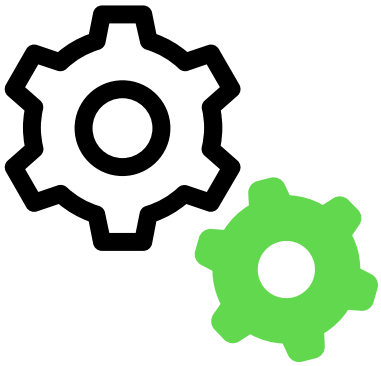
## 開始するには

### Now Platform® テーブルの探索



テーブルの基本とテーブル管理について学習します。

### テーブルの管理



データの関係を表示し、データのロールバックとリカバリを実行します。

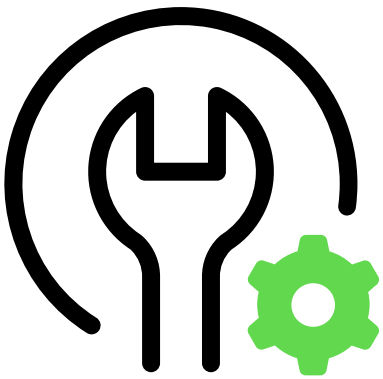
### テーブルの作成

インスタンスのレコードを格納するテーブルを作成および削除し、タスクを処理し、レコード間のリレーショナル接続を作成します。

### タスクテーブルの使用

タスクテーブルシステムを使用してタスク固有の機能を追跡し、インシデントテーブルおよび問題テーブルに接続します。

### レポート用のデータベースビューの作成



詳細設定を使用して、レポートのビューを作成します。

## トラブルシューティングとヘルプ

- ServiceNow コミュニティフォーラム
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



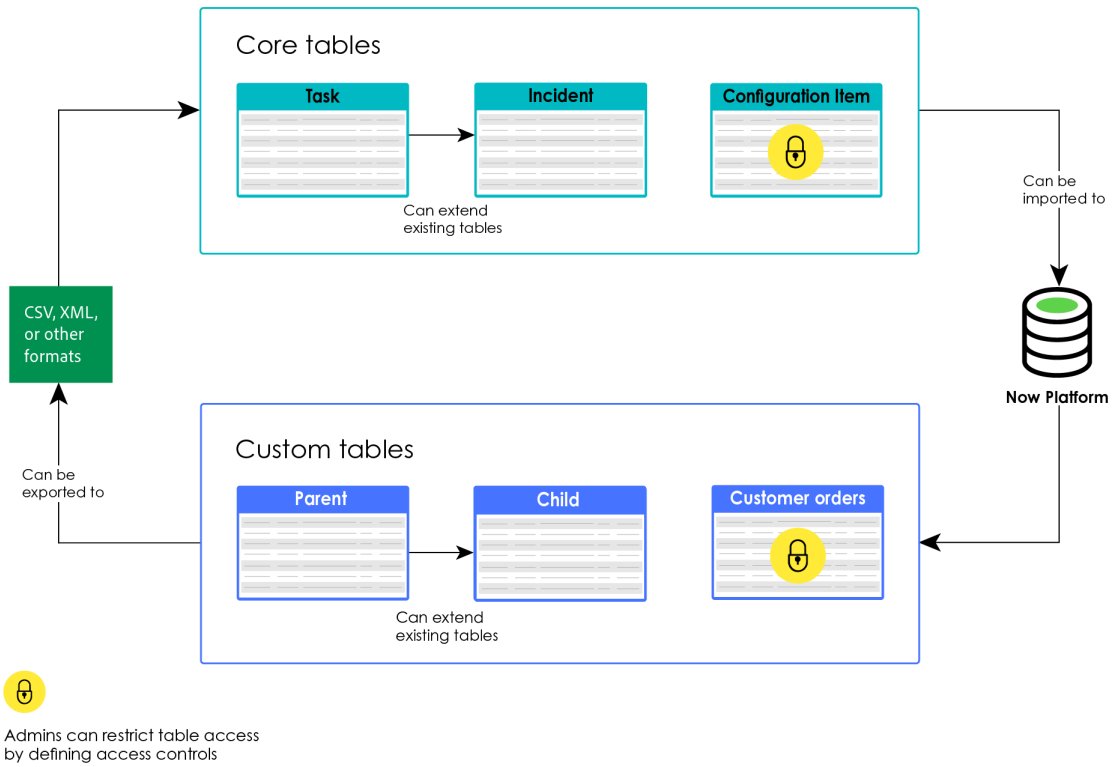
自動翻訳

# Now Platform® テーブルの探索

アプリケーションは、テーブルとレコードを使用して、インシデント、問題、CMDB などのデータとプロセスを管理します。テーブルは、親テーブルと子テーブルを作成して他のテーブルを拡張できます。

## 概要

Now Platform® は、テーブルベースのデータ構造を使用して情報を格納および整理します。一般的な IT Service Management (ITSM) プロセス用に構築済みのテーブルが含まれており、そのデータは CSV、XML、またはその他の形式で完全にインポートおよびエクスポートできます。管理者は、特定のビジネス要件に合わせてカスタムテーブルを作成したり、フィールドプロパティを定義したり、テーブル間の関係を作成したり、元のテーブルを変更せずに既存のテーブルを拡張したりすることもできます。管理者が使用できるその他のオプションには、承認されたユーザーのみにレコードへのアクセスを許可するアクセス制御、さまざまなタスクのビジネスルール、未使用のレコードおよび古いレコードのテーブルクリーンアップポリシーなどがあります。




## Table Administration のメリット

| メリット | 機能 | ユーザー |
|---|---|---|
| インスタンスのレコードを保存します。 | テーブルの作成 | Admin |
| 単一のフィールドではなく、複数のエントリの別のリストにリストを接続します。 | 多対多のテーブル関係の作成 | Admin |
| インスタンスから不要なテーブルを削除します。 | テーブルの削除 | Admin |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| メリット | 機能 | ユーザー |
| --- | --- | --- |
| パッチのアップグレードを取り消し、プラグインとバックグラウンドスクリプトを非アクティブ化し、消去されたレコードを復元します。 | ロールバックと削除の復旧 | Admin |
| テーブルに格納されているデータをすばやく検索します。 | テーブルインデックスの作成 | Admin |
| テーブルのリストを表示し、その内容を変更します。 | テーブルモジュール | Admin |
| レポート作成の目的でテーブルを接続します。 | レポート用のデータベースビューの作成 | Admin |
| テーブルとそのコンテンツの視覚的参照を作成します。 | テーブルのスキーママップ | Admin |
| 複数のテーブル間のモデルとエンティティの関係を定義します。 | データ辞書テーブル | Admin |

### テーブル拡張とクラス

1 つまたは複数の子テーブルがフィールドとレコードを親テーブルと共有できるようにします。管理者とアプリケーション開発者は、テーブルの作成中にのみテーブルを拡張できます。

管理者とアプリケーション開発者は通常、テーブルを拡張して、情報を共有する一連の関連レコードを作成します。たとえば、ベースシステムでは、タスクテーブルと構成アイテムテーブルに複数の拡張があります。

ベースシステムのサンプル拡張テーブル

| 元のテーブル | 元のテーブルから拡張した関連テーブル |
| --- | --- |
| タスク [task] | • インシデント [incident]<br>• 問題 [problem]<br>• 変更要求 [change_request] |
| 構成アイテム [cmdb_ci] | • アプリケーション [cmdb_ci_appl]<br>• コンピューター [cmdb_ci_computer]<br>• データベース [cmdb_ci_database] |

別のテーブルを拡張するテーブルは「子クラス」と呼ばれ、これが拡張するテーブルが「親クラス」になります。テーブルは同時に親クラスと子クラスになり、他のテーブルを拡張したり、他のテーブルに拡張を提供したりすることができます。別のテーブルの拡張ではない親クラスは、「基底クラス」と呼ばれます。

管理者は、これらのツールを使用してクラス間の関係を確認できます。

- スキーママップ
- システム辞書
- テーブルモジュール

テーブルの拡張：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新しいテーブルを拡張テーブルにリンクします。
- 新しいテーブルにシステムフィールドを作成します。
- 親クラスと子クラスを格納するデータベーステーブルを 1 つまたは複数作成します。システムが作成するテーブルの数は、テーブルの作成時に選択した拡張モデルによって異なります。

## 拡張モデル

Now Platform には次のような拡張モデルがあります。

- クラス別テーブル
- 階層別テーブル
- パーティション別テーブル

拡張モデルによってこれらの属性が決まります。

- 作成されたデータベーステーブルの数
- 親クラスからのフィールドの派生
- 子クラスからのレコードの複製

## クラス別テーブル

作成されたテーブル
: 親クラスと子クラスごとに個別のデータベーステーブルを作成します。

親クラスから派生したフィールド
: 子クラスは、親クラスからフィールドを派生させます。

親クラス用に作成された辞書レコード
: 親クラスには、コレクションと、そこから派生可能な各フィールドの辞書レコードがあります。たとえば、契約 [ast_contract] テーブルには、テーブルとそのフィールドを定義する 59 件の辞書レコードがあります。

子クラス用に作成された辞書レコード
: 各子クラスには、そのクラスに固有のフィールドの辞書エントリのみがあります。

複製されたレコード
: 親クラスは、子クラスに格納されている各レコードを複製します。各子クラスには、クラスに固有のレコードのみが格納されます。複製されたレコードには、各テーブルに同じ Sys ID 値があります。子レコードに加えた変更は、親テーブル内の一致するレコードに複製されます。たとえば、契約 [ast_contract] テーブルは、リース [ast_lease] テーブルと保証 [ast_warranty] テーブルのレコードを複製します。

## 階層別テーブル

作成されたテーブル
: 親クラスに対して 1 件のデータベーステーブルを作成します。親クラスと子クラスのレコードは、すべてここに格納されます。子クラスには個別のデータベーステーブルはありません。

親クラスから派生したフィールド
: 子クラスは、親クラスからフィールドを派生させます。たとえば、インシデントテーブルはタスクテーブルからフィールドを派生させます。

親クラス用に作成された辞書レコード

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

親クラスには、コレクションと、そこから派生可能な各フィールドの辞書レコードがあります。たとえば、タスクテーブルは、テーブルとそのフィールドを定義する 66 件の辞書レコードを含む親クラスです。

親クラスの辞書エントリには、各レコードが属する子クラスを示す値を含む sys_class_name 列が含まれています。たとえば、インシデントレコードの sys_class_name 値は incident で、変更レコードの sys_class_name 値は change です。

子クラス用に作成された辞書レコード

各子クラスには、そのクラスに固有のフィールドの辞書エントリのみがあります。たとえば、インシデントテーブルには、タスクテーブルでまだ定義されていない 22 件の辞書レコードしかありません。

複製されたレコード

親クラスは「階層」に属するすべてのレコードを格納するため、レコードの複製は必要ありません。たとえば、タスクテーブルには、変更テーブル、インシデントテーブル、問題テーブルなど、その子クラスのすべてのレコードが含まれています。

## パーティション別テーブル

作成されたテーブル

親クラスに対して 1 件のデータベーステーブルを作成します。親クラスと子クラスのレコードは、すべてここに格納されます。子クラスには個別のデータベーステーブルはありません。データベーステーブルがストレージの上限に達すると、ストレージテーブル (「パーティション」) が動的に追加され、追加のレコードが格納されます。

親クラスから派生したフィールド

子クラスは、親クラスからフィールドを派生させません。代わりに、各子クラスにはフィールドの独自のリストがあります。たとえば、ベース構成アイテム [cmdb]、構成アイテム [cmdb_ci]、およびハードウェア [cmdb_ci_hardware] テーブルはすべて、独自のフィールド定義があります。

親クラス用に作成された辞書レコード

親クラスには、コレクションと、そこに関連する各フィールドの辞書レコードがあります。たとえば、ベース構成アイテム [cmdb] テーブルは、48 件の辞書レコードを持つ親クラスです。

親クラスの辞書エントリに加えられた変更は、子クラスの辞書エントリに複製されます。たとえば、親クラスのベース構成アイテム [cmdb] テーブルの [名前] 列を変更すると、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルやハードウェア [cmdb_ci_hardware] テーブルなどの子クラスの辞書エントリに複製されます。

親クラスの辞書エントリには、各レコードが属する子クラスを示す値を含む sys_class_name 列と sys_class_path 列が含まれています。たとえば、ハードウェアレコードの sys_class_name 値は cmdb_ci_hardware で、コンピューターレコードの sys_class_name 値は cmdb_ci_computer です。

データベーステーブルがストレージの上限に達すると、システムは親クラスの辞書エントリを更新し、sys_storage_alias と storage_table_name の列を含めます。これらのストレージ列の辞書エントリにより、管理者は親クラスとそのストレージテーブルを単一の論理ユニットとして管理できます。

子クラス用に作成された辞書レコード

各子クラスには、コレクションと、それに関連する各フィールドの辞書レコードがあります。たとえば、ハードウェアテーブルには、親クラスの列を複製するレコードを含む 73 件の辞書レコードがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複製されたレコード

親クラスは「階層」に属するすべてのレコードを格納するため、レコードの複製は必要ありません。たとえば、ベース構成アイテム [cmdb] テーブルには、アプリケーション [cmdb_ci_appl]、コンピューター [cmdb_ci_computer]、ハードウェア [cmdb_ci_hardware] テーブルなど、その子クラスのすべてのレコードが含まれています。

### テーブルモジュール

テーブル [sys_db_object] テーブルには、データベース内の各テーブルのレコードが含まれています。

テーブルのリストを表示するには、次の場所に移動します。 システム定義 > テーブル.

既存のテーブルのレコードを開くには、テーブルラベルをクリックします。以下のことを行うことができます。

- 検索およびソート可能な埋め込みリストを使用した列の表示、追加、または変更。自動番号形式の定義。テーブルを他のテーブルで拡張可能にする。テーブルのモジュール作成。
- [スキーママップを表示] 関連リンクのクリックによるテーブルのスキーママップの起動。
- フォームヘッダーを右クリックして [辞書レコードを表示] を選択し、テーブルの辞書エントリを開く。
- [リストを表示] または [フォームを表示] 関連リンクをクリックして、テーブルのデフォルトリストまたはフォームビューに直接移動。
- [すべてのレコードを削除] をクリックして、テーブルからすべてのレコードを削除。

関連情報

テーブルのスキーママップ

システム辞書

テーブル内のすべてのレコードの削除

Table Administration

## テーブルの管理

データバックアップを処理し、インスタンスのデータを視覚的に表示します。

### テーブルのスキーママップ

スキーママップは、テーブルの詳細とテーブル間の関係を視覚的に表示し、管理者がデータベーススキーマのさまざまな部分を表示して、簡単にアクセスできるようにしますます。

スキーママップは、ブラウザーから直接印刷することもできます。

サポートされているスキーマ関係タイプと、そこで使用される色は次のとおりです。

テーブルのスキーママップ

| 関係性タイプ | 使用色 |
|---|---|
| 参照元 | 赤 |
| 参照 | オレンジ |
| 拡張者 | 緑 |
| 拡張 | 青 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

デフォルトでは、これらすべての関係タイプが表示されますが、それぞれのタイプを表示または非表示にすることができます。

### スキーママップの生成

スキーママップを生成して、データベーススキーマのさまざまな部分を表示し、簡単にアクセスできるようにします。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

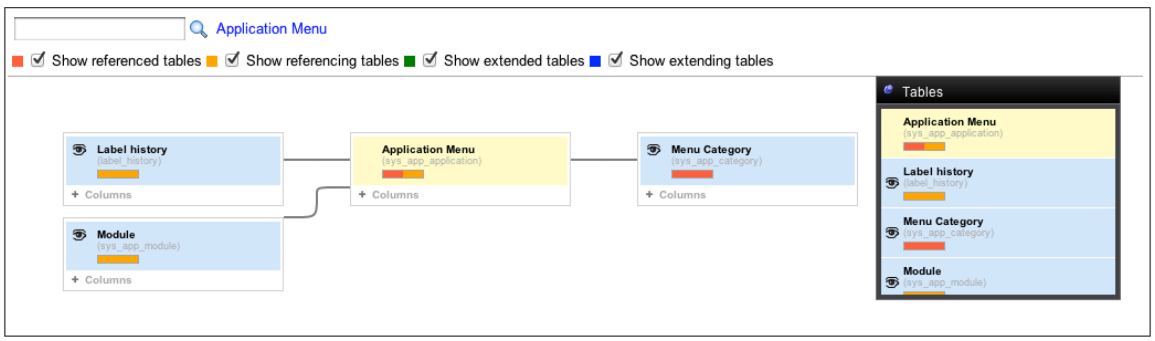
1. 移動先 すべて > システム定義 > テーブルと列.
2. [テーブル名] ペインでテーブルを選択します。
3. [スキーママップ] をクリックします。

   選択したテーブルのスキーママップが別のタブまたはウィンドウで開きます。

   必要に応じて、ブラウザーからこのマップを印刷できます。

### スキーママップの表示

スキーママップでは選択したテーブルが黄色で通常は中央に表示され、そのテーブルに関連するすべてのテーブルが通常は両側に表示されます。




このマップから：

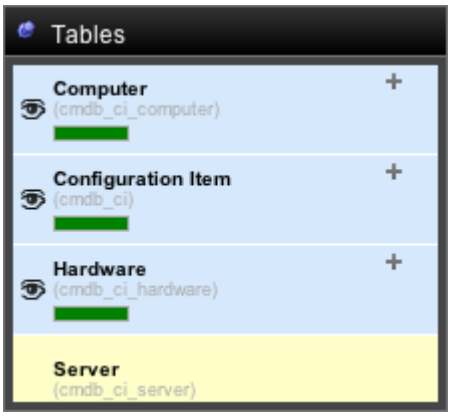
- 上部のチェックボックスを使用すると、表示する関係を制御できます。関係タイプを選択またはクリアすると、選択したテーブルとの関係があるテーブルが表示または非表示になります。
- 関連する各テーブルには、選択されたテーブルとの関係を示す色付きのバーがあります。
- コネクタラインをポイントすると、2 つのテーブル間の関係の詳細が表示されます。

**注:**
関係性は簡潔にするために一本の線で示されているため、レンダリングされる図はエンティティ関係図ではありません。

テーブルセレクターの使用：

スキーママップをリストとして表示するには、右隅にあるテーブルセレクターをポイントします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




以下のことを行うことができます。

- リスト内のテーブルをクリックして、スキーママップを該当のテーブルまでスクロールする
- リストされたテーブルの横にある目のアイコンをクリックして、スキーママップでのテーブルの表示と非表示を切り替える
- セレクターの固定アイコンをクリックしてリストを開いたままにする

関連テーブルの使用：

テーブルノードヘッダーを右クリックすると、次の機能を含むコンテキストメニューが表示されます。

- このテーブルにフォーカス：選択したテーブルを新しいフォーカステーブルにし、新しい選択に基づいてスキーママップを再描画します。

  新しいフォーカステーブルは上部にブレッドクラムとして追加され、いつでも前のテーブルに戻ることができます。

- リストに移動：テーブルのレコードリストを表示します。
- 辞書に移動：選択したテーブルにフィルタリングされたシステム辞書を表示します。

関連するテーブルを非表示にするには、ノードヘッダーにある目のアイコンをクリックします (テーブルセレクターでノードを再度表示できます)。

独自の派生階層の一部であるテーブルの場合は、ノードヘッダーの展開ボタン (**[+]**) をクリックして、派生階層をスキーママップに追加します。

## 詳細情報の表示

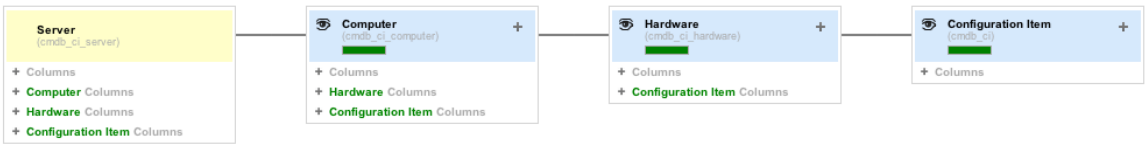
[列] の横にある展開ボタン (**[+]**) をクリックすると、テーブルフィールドが展開されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| Columns - | |
|---|---|
| Business resolve time: | integer |
| Caller: | reference to User |
| Category: | string |
| Caused by Change: | reference to Change Request |
| Change Request: | reference to Change Request |
| Child Incidents: | integer |
| Close code: | string |
| Incident state: | integer |
| Notify: | integer |
| Parent Incident: | reference to Incident |
| Problem: | reference to Problem |
| Reopen count: | integer |
| Resolve time: | integer |
| Severity: | integer |
| Subcategory: | string |

参照フィールドには、参照先のテーブルが赤い表記で示されます。

いずれかのテーブルがテーブルから拡張されている場合、その列は派生した逆順に表示されます。
例：




この例では、サーバー [cmdb_ci_server] テーブルは、コンピューター [cmdb_ci_computer]、ハードウェア [cmdb_ci_hardware]、および構成アイテム [cmdb_ci] から拡張され、これらのテーブルの列を表示しています。

同様に、コンピューターテーブルには、ハードウェアテーブルと構成アイテムテーブルの列が表示されています。

## ロールバックと削除の復旧

ロールバックコンテキストを使用すると、パッチのアップグレード、プラグインのアクティブ化、バックグラウンドスクリプトの実行などの特定のアクションをロールバックでき、レコードの削除と関連するすべての変更を復元できます。

ロールバックおよび削除復旧の機能は、MySQL および MariaDB データベースを使用するインスタンスで使用できます。Oracle データベースを使用するインスタンスは、ロールバックのみをサポートしています。SQL Server を使用するインスタンスは、ロールバックも削除復旧もサポートしていません。

### ロールバックと削除復旧に対するデータベースサポート

| データベースタイプ | ロールバック | 削除の復旧 |
|---|---|---|
| MySQL | はい | はい |
| MariaDB | はい | はい |
| Oracle | はい | いいえ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### 削除されたレコードモジュール

このモジュールは、監査対象テーブルのレコードに対して機能します。カスケードされた削除済みレコードの復旧は、レコードの削除から 7 日以内に行う必要があります。7 日が経過すると、削除を監査するテーブルのデータレコードと参照のみを復元できます。これは以前のリリースと同じ機能です。

このモジュールを見つけるには、次の場所に移動します。 システム定義 > 削除されたレコード.

### 削除の復旧モジュール

このモジュールは、削除されたすべてのレコードに対して機能します。この復旧は、レコードの削除から 7 日以内に行う必要があります。

このモジュールを見つけるには、次の場所に移動します。 ロールバックおよび復旧 > 削除を復旧.

### スクリプト実行履歴モジュール

このモジュールは、スクリプト - バックグラウンドモジュールを使用して実行されるスクリプトで動作します。この履歴には、7 日間のスクリプト実行のみが含まれます。

このモジュールを見つけるには、次の場所に移動します。 ロールバックおよび復旧 > スクリプト実行履歴.

### ロールバックコンテキスト

ロールバックコンテキストには、ソフトウェアのアップグレードまたはプラグインのアクティブ化をロールバックするために必要なものがすべて含まれています。これには、削除されたレコード、パッチの更新、スクリプト - バックグラウンドスクリプトの実行、データベースアクション、およびプラグインのアクティブ化が含まれます。ロールバックコンテキストは、ファミリ内のパッチアップグレードごとに作成されます。また、プラグインがロールバックコンテキストをサポートしている場合には、プラグインのアクティブ化ごとにも作成されます。

ロールバックコンテキストを使用するには、削除済みレコードの復元プラグインと削除の復旧プラグインをアクティブ化します。

ロールバックは通常、アップグレードで問題の根本原因を見つける前に機能を復元する必要がある本番前のインスタンスで実行されます。ロールバックするとデータが削除されるため、ロールバックが必要になった問題を見つけにくくなることがよくあります。

ロールバックコンテキストは、次の場合に作成されます。

- `GlideRecord.delete()` または `GlideRecord.deleteMultiple()` でレコードを削除した場合。
- パッチのアップグレードが行われた場合。
- ロールバックコンテキストをサポートするプラグインをアクティブ化した場合。
- スクリプト - バックグラウンドモジュールを使用してスクリプトが実行され、[ロールバック用に記録] チェックボックスをオンにすることでロールバックが有効になっていた場合。

ロールバックは他のデータベースアクティビティに影響を与えません。データベースアクティビティがロールバックコンテキストの一部であるレコードを変更する場合、ロールバックはそのレコードに影響を与えません。

ロールバックコンテキストには大量のデータが含まれているため、ロールバックコンテキストは 10 日後に削除されます。したがって、ロールバックは最新のアップグレードから 10 日以内に実行する必要があります。システムプロパティ glide.rollback.expiration_days_upgrade を使用して日数を設

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

定します。ロールバックタイプのリストを表示するには、「パッチのアップグレードまたはプラグインのアクティブ化のロールバック」を参照してください。

> **注:**
> カスタマーサービス & サポートで確認するまで、ロールバックコンテキストをロールバックしないでください。ロールバックによってデータが削除され、アップグレードまたはアクティブ化の問題の証拠が削除され、問題のデバッグができない場合があります。

ロールバックは、パッチのアップグレードまたはプラグインのアクティブ化から 10 日以内に行う必要があります。

このモジュールを見つけるには、次の場所に移動します。 ロールバックおよび復旧 > ロールバックコンテキスト.

ロールバック中に次の操作のいずれかが発生した場合、ロールバックコンテキストは作成されません。

- テーブルまたは列がスキーマから削除される。

  > **注:**
  > インデックスの削除は問題ありません。

- テーブルの切り捨て。
- テーブルまたは列の名前の変更。
- 列の親の変更または昇格。
- 列タイプの変更。
- 列幅の縮小。

Now Support のロールバックプロセスは次のことを行います。

- 報告された WAR をロールバック後のバージョンに更新します。割り当てられた WAR はロールバック前のバージョンに設定されたままです。
- インスタンスのプロパティ `glide.war.no_upgrade` をロールバック前のバージョンに設定します。
- メッセージ「必要な WAR はプロパティ [`glide.war.no_upgrade`] で指定された復旧済み WAR と一致します。(Desired war matches reverted war specified by property.) アップグレードスクリプトは実行されません。(Upgrade script will NOT run)」を表示します。
- ステータスを [期限切れ **(Expired)]** に変更します。保存されたデータはロールバックによりすべて消去されます。

## パッチのアップグレードまたはプラグインのアクティブ化のロールバック

[ロールバックコンテキスト] モジュールを使用して、パッチのアップグレードとプラグインのアクティブ化をロールバックします。

### 始める前に

必要なロール：admin

ロールバックを実行する前に、この情報と要件を確認してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- ロールバックは、同じソフトウェアリリース内のパッチ間でのみ可能です。たとえば、Orlando パッチ 2 からパッチ 1 にロールバックすることはできますが、Orlando から New York にロールバックすることはできません。
- ロールバックは、最新のアップグレードまたはプラグインのアクティブ化から 10 日以内に行う必要があります。
  - アップグレードの場合、*glide.rollback.expiration_days_upgrade* システムプロパティを使用して日数を設定します。デフォルトは 10 です。
  - プラグインの場合、*glide.rollback.expiration_days_plugin* システムプロパティを使用して日数を設定します。デフォルトは 15 です。
  - アプリのインストールの場合、*glide.rollback.expiration_days_app_install* システムプロパティを使用して日数を設定します。デフォルトは 15 です。
  - アプリのバッチインストールの場合、*glide.rollback.expiration_days_batch_app_install* システムプロパティを使用して日数を設定します。デフォルトは 10 です。
- 直前のバージョンにのみロールバックできます。

  たとえば、パッチ 3 からパッチ 1 にロールバックするには、2 回のロールバックが必要です。
- Restore Deleted Records プラグインおよび Delete Recovery プラグインをアクティブ化する必要があります。
- 一度にロールバックできるアクティブなインスタンスは 1 つだけです。

  複数ノードでのコンテキストのロールバックはサポートされていません。
- ロールバックによってデータが削除され、アップグレードまたはアクティベーションレコードの証拠が削除されて、ロールバックが必要になった問題のデバッグが困難になる場合があります。
- 割り当てられたWAR の前のパッチバージョンにロールバックする場合は、カスタマーサービス & サポートにロールバックを要求してください。

手順

1. 移動先 すべて > ロールバックおよび復旧 > ロールバックコンテキスト.
2. ロールバックするコンテキストを選択します。
3. [関連リンク] で、[ロールバック] をクリックします。
4. ロールバックを確定します。
   ロールバックの進行状況を示すインジケーターが表示されます。*glide.war* がロールバックバージョンに更新されます。ログには、ロールバックプロセスのステージが表示されます。
5. ロールバックが完了したら、インスタンスからログアウトし、再度ログインします。
6. 新しいタブを開き、コンテキストステータスが [ロールバック済み] に変更されたかどうかを確認します。
   変更されていない場合は、カスタマーサービス & サポートにお問い合わせください。

### 削除されたレコードモジュールを使用して削除されたレコードを復元

監査済みテーブルにある削除済みレコードを復元できます。

始める前に
必要なロール：管理者

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このタスクについて
インスタンスでは、任意のテーブルで削除を、監査対象テーブルで参照を追跡できますが、一部例外があります。次の状況では、レコードの削除は追跡されません。

- no_audit_delete=true 辞書属性を持つテーブルでは、レコードの削除は追跡されません。
- sys プリフィックスがあるテーブルからの削除は、デフォルトでは監査されません。システムテーブルの監査を有効化 できます
- 参照フィールドが監査対象テーブルにあり、Restore Deleted Record プラグインがアクティブ化されている場合にのみ、参照が復元されます。
- [画像] フィールドタイプを使用する参照は復元されません。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > 削除されたレコード.
2. 復元する削除済みレコードを開きます。

   注:
   削除済みレコードとその関連参照は一度に 1 つだけ復元できます。

3. レコードを復元するには、次のいずれかを実行します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 関連による削除取り消し | レコード、カスケードされたすべての削除、および削除に起因するその他のデータベースアクションを復元します。<br><br>このオプションは、ロールバックコンテキストが削除に利用可能な場合に表示されます。 |
| 操作全体を復元 | このレコードが別の削除の一部として削除された場合、親削除から生じたすべてのカスケード削除やその他のデータベースアクションを含めて、親削除のレコードがすべて復元されます。これがトップレベルの削除である場合、これは [関連による削除取り消し **(Undelete with Related)]** と同じ動作になります。<br><br>このオプションは、ロールバックコンテキストが削除に利用可能な場合に表示されます。 |
| レコードの削除取り消し | このレコードのみを復元します。 |

   処理と制限事項を説明する手順ページが表示されます。
4. [削除済みレコードを復元] をクリックします。
   [進行状況] ページには、復元プロセスの進行状況と、復元された参照の数が表示されます。

タスクの結果
処理が完了すると、[復元の概要 (Restore Summary)] に変更が列記され、復元されたレコードを表示したり、削除済みレコードリストに戻ったりするためのリンクが表示されます。

削除を復旧モジュールを使用して削除されたレコードを復元

削除されたレコードと関連するすべての変更を復元できます。復旧は、レコードの削除から 7 日以内に行う必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：管理者

このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > ロールバックおよび復旧 > 削除を復旧.
2. [削除を復旧] リストで、復旧するアイテムをクリックします。
   [削除を復旧] フォームが表示されます。
3. [関連リンク] で、[ロールバック...] をクリックします。
4. [操作全体をロールバック **(Rollback entire operation)]** フォームに `yes` と入力し、**[OK]** をクリックします。
   [進行状況] ページには、復元プロセスの進行状況と、復元された参照の数が表示されます。

タスクの結果
処理が完了すると、[復元の概要 **(Restore Summary)]** に変更が列記され、復元されたレコードを表示したり、[削除の復旧 **(Delete Recoveries)]** リストに戻ったりするためのリンクが表示されます。

### スクリプト実行履歴モジュールを使用してスクリプト - バックグラウンド実行をロールバック

スクリプト - バックグラウンドモジュールを使用して、実行されたスクリプトのデータベースアクションをロールバックできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
スクリプト - バックグラウンドモジュールを使用してスクリプトを実行した場合、[ロールバック用に記録] アイテムをチェックする必要があります。

スクリプトを実行した後もスクリプト - バックグラウンドモジュールを使用している場合は、[ここで利用可能なスクリプト実行履歴とリカバリ **(Script execution history and recovery available here)]** リンクを使用して、[スクリプト実行履歴] フォームにアクセスできます。

手順

1. 移動先 すべて > ロールバックおよび復旧 > スクリプト実行履歴.
2. ロールバックするスクリプト実行をクリックします。
3. [関連リンク] で、[ロールバックスクリプトの実行] をクリックします。

## テーブルの作成

管理者は、Table Administration ツールを使用してデータベース構造を表示および変更できます。

### データ辞書テーブル

システムは、データ辞書、データモデリング、およびエンティティ関係情報を複数のテーブルで定義します。

- テーブル [sys_db_object]：各テーブルのレコードが含まれています。
- 辞書エントリ [sys_dictionary]：各テーブルの追加の詳細と、各テーブルのすべての列の定義が含まれています。各行は、テーブルの列またはテーブルのいずれかを表します。
- フィールドラベル [sys_documentation]：人間が判読できるラベルと言語情報が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

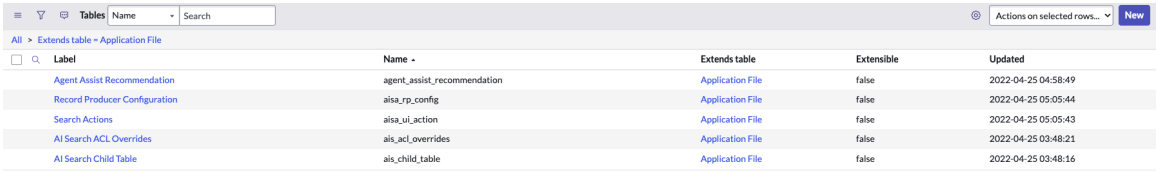
## テーブル

テーブル [sys_db_object] テーブルには、データベース内の各テーブルのレコードが含まれています。

[テーブル] リストにアクセスするには、次の場所に移動します。 システム定義 > テーブル. 管理者は、カスタムテーブルを作成したり、検索やソートが可能な埋め込みリストの列を追加または変更したり、自動番号形式を定義したりすることができます。

次の画像は、アプリケーションファイルテーブルを拡張するテーブルのリストを示しています。

テーブル




## テーブルの列と行のデータベース制限

**注:**
特定の Now Platform サブスクリプションには、カスタムテーブル資格付与が含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用管理者がサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、以下を参照してください Map custom tables to a product subscription in Subscription Management 。

次のデータベースの制限に注意してください。

- システムがテーブルごとに設定できるのは最大で 1000 列です。1000 列は指定された制限ですが、この制限は、テーブル内に物理的に 1000 列を持つことができるという意味ではありません。テーブル内の列数は、Now Platform ではなく ServiceNow データセンターで使用されるデータベースによって定義されます。
- ストレージエンジンに関係なく、すべてのテーブルの最大行サイズは 65,535 バイトです。ストレージエンジンでは、この制限に追加の制約が課せられ、有効な最大行サイズが減少する場合があります。
- 1 つのテーブルに中程度の長さ以上の 文字列 フィールドを 10 個を超えて含めることはできません。11 以上の文字列フィールドに多数の文字を保存しようとすると、次のエラーが発生する可能性があります：データベースによって検出された構文エラーまたはアクセスルール違反 (行サイズが大きすぎる (> 8126))。
- フィールドを作成すると、u_プリフィックスが自動的に列名に追加されます。入力した列ラベルの先頭に数字が含まれている場合は、u_ プレフィックスに置き換えられます。

データベースの制限と ServiceNow インスタンス内のテーブルに関する一般的な質問の詳細については、KB0749585 を参照してください。

## 辞書エントリ

辞書エントリ [sys_dictionary] テーブルはシステム辞書とも呼ばれ、システム内のすべてのテーブルとフィールドを定義します。これには、フィールドのデータタイプ、文字数制限、デフォルト値、依存関係、およびその他の属性に関する情報が含まれています。

次のいずれかの方法でシステム辞書にアクセスします。

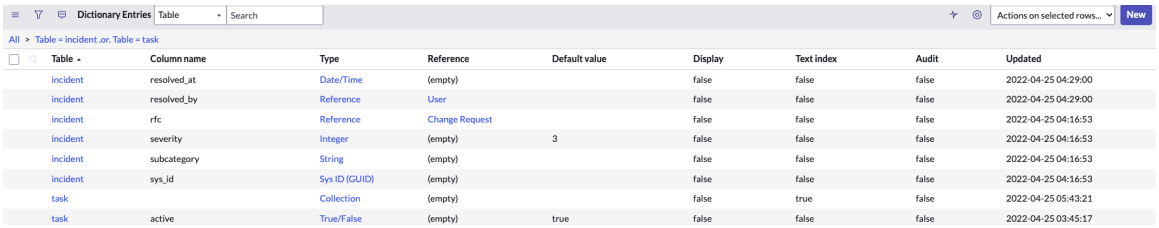
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- システム辞書リストビューを表示するには、次に移動します システム定義 > ディクショナリ.
- 特定の辞書定義を表示するには、リストヘッダー、フォームヘッダー、またはフィールドラベルを右クリックし、[辞書を設定 **(Configure Dictionary)]** を選択します。

次の画像は、インシデントテーブルとそれが拡張するタスクテーブルの辞書エントリをフィルタリングしたリストを示しています。

辞書 **Inc** タスク




| Table | Column name | Type | Reference | Default value | Display | Text index | Audit | Updated |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| incident | resolved_at | Date/Time | (empty) | | false | false | false | 2022-04-25 04:29:00 |
| incident | resolved_by | Reference | User | | false | false | false | 2022-04-25 04:29:00 |
| incident | rfc | Reference | Change Request | | false | false | false | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | severity | Integer | (empty) | 3 | false | false | false | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | subcategory | String | (empty) | | false | false | false | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | sys_id | Sys ID (GUID) | (empty) | | false | false | false | 2022-04-25 04:16:53 |
| task | | Collection | (empty) | | false | true | false | 2022-04-25 05:43:21 |
| task | active | True/False | (empty) | true | false | false | false | 2022-04-25 03:45:17 |

## フィールドラベル

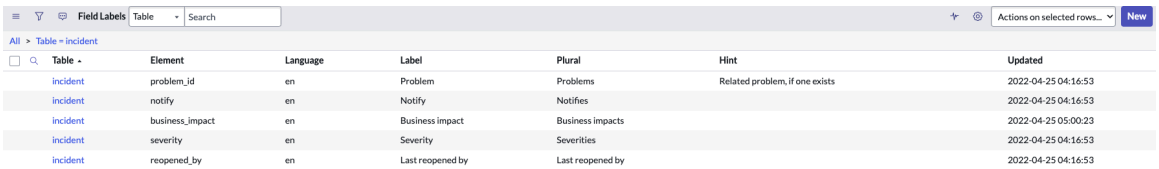
フィールドラベル [sys_documentation] テーブルは言語ファイルとも呼ばれ、ラベルに関する情報と、システム内の各テーブルおよび列のヒントが含まれています。

次のいずれかの方法で言語ファイルにアクセスします。

- リストビューを表示するには、次に移動します。 システム定義 > 言語ファイル.
- 特定のフィールドのフィールドラベルを表示するには、フォームのフィールドラベルを右クリックします。

次の画像は、インシデントテーブルにラベルのみを表示するようにフィルタリングされた言語ファイルを示しています。

フィールドラベル




| Table | Element | Language | Label | Plural | Hint | Updated |
|---|---|---|---|---|---|---|
| incident | problem_id | en | Problem | Problems | Related problem, if one exists | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | notify | en | Notify | Notifies | | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | business_impact | en | Business impact | Business impacts | | 2022-04-25 05:00:23 |
| incident | severity | en | Severity | Severities | | 2022-04-25 04:16:53 |
| incident | reopened_by | en | Last reopened by | Last reopened by | | 2022-04-25 04:16:53 |

## システム辞書

システム辞書は辞書エントリ [sys_dictionary] と呼ばれ、インスタンス内にある各テーブルの詳細と、各テーブルのすべての列の定義が含まれています。

システム辞書の各行は、テーブルまたはいずれかのテーブルの列を表します。システム辞書は、管理者がテーブルとフィールドを変更し、リストとフォームを定義するオプションを提供します。

変更は機能に大きな影響を与える可能性があるため、システム辞書レコードを変更する場合は注意が必要です。特に、sys_で始まるテーブルであるシステムテーブルの辞書エントリを変更する場合には、更新セットを使用できないなどシステム全体の問題が発生する可能性があります。

辞書の変更を元に戻すことは困難です。また、辞書の変更はすべての拡張テーブルに自動的に適用されますが、辞書オーバーライドが定義されている場合は例外です。本番インスタンスに適用する前に、変更が十分にテストされていることを確認してください。

## 作成オプション

システム辞書からフィールドを作成すると、デフォルトのフォームビューの最初のセクションの末尾に自動的に追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ほとんどの場合、システム辞書に直接エントリを作成するのではなく、次のインターフェイスを使用します。

- テーブルとフィールドを作成するには、テーブルモジュールを使用します。
- フィールドを作成するには、テーブルフォームを設定します。

### 辞書オーバーライド

辞書オーバーライドにより、親テーブルのフィールドとは異なる方法で拡張テーブルのフィールドを定義できるようになります。

たとえば、タスク [task] テーブルのフィールドの場合、辞書オーバーライドは、タスク [task] または変更 [change] のデフォルト値に影響を与えずに、インシデント [incident] テーブルのデフォルト値を変更できます。

管理者は、フィールドの次の側面を上書きできます。

- 参照修飾子
- 辞書属性
- デフォルト値
- 計算
- フィールドの依存関係
- デフォルトの列表示値
- 必須および読み取り専用ステータス

### 辞書オーバーライドの定義

辞書オーバーライドを使用すると、子テーブルのフィールドが親テーブルの同じフィールドとは異なる値または動作を使用できるようになります。たとえば、辞書オーバーライドにより、優先度フィールドのデフォルト値が親テーブルの 4 からインシデントテーブルの 5 に変更されます。

#### 始める前に

必要なロール：admin

#### このタスクについて

辞書オーバーライドは、テーブルの拡張をサポートするテーブルでのみ使用できます。

辞書オーバーライドは拡張テーブルによって継承されるため、拡張テーブルのフィールドの値を変更するには、追加のオーバーライドを定義する必要があります。たとえば、cmdb_ci.install_status のデフォルト値を 3 に定義し、cmdb_ci_hardware の同じフィールドの上書きを 5 に作成すると、ハードウェアテーブルから拡張されたすべてのテーブルもデフォルトで 5 に設定されます。cmdb_ci_computer.install_status を 3 にするには、別の上書きが必要です。

スコープ対象のアプリに辞書オーバーライドを追加できますが、オーバーライドの追加はスコープ対象のアプリコンテキストでの作業中に行う必要があり、子テーブルはそのスコープ内からのみ選択できます。スコープ対象のアプリを開き、フィールドの辞書エントリを編集し、新しい辞書オーバーライドを追加し、子テーブルを選択して、オーバーライドの詳細を入力します。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > ディクショナリ.
2. フィールドのレコードを開きます。
3. [辞書オーバーライド] 関連リストで、[新規] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. フォームのフィールドに適宜入力します (表を参照)。
5. [送信] をクリックします。

### 辞書エントリの変更

辞書エントリを変更するには、フォームのフィールドを設定するか、辞書モジュールからフィールドを設定します。

#### 手順

1. 次のいずれかの手順を実行します。
   - フォーム上のフィールドに移動し、フィールドを右クリックして [辞書を設定 **(Configure Dictionary)]** または **[<フィールド名> を表示 (Show <field name>)]** を選択します。該当のフィールドのシステム辞書エントリフィールド が開きます。
   - 移動先 システム定義 > ディクショナリをクリックし、フィールドまたはテーブルのエントリをクリックします。テーブルのエントリは、[タイプ] が [コレクション] に設定されています。
2. 辞書エントリのフィールドを更新します。
3. [更新] をクリックします。

### 辞書エントリフォーム

辞書エントリフォームは、詳細ビューと追加フィールドを提供するように再設計されました。すべてのフィールドを表示するようにフォームを設定する必要があります。

辞書エントリフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| テーブル | 要素が作成されるテーブルを定義します。<br><br>**注:**<br>これは、フィールドを追加するためのスコープ保護を満たすテーブルだけを表示します。 |
| タイプ | 列のフィールドタイプを定義します。または、[タイプ] が [コレクション] の場合は、辞書エントリがテーブルを表すことを示します。詳細については、「フィールドの管理」を参照してください。<br><br>フィールドのタイプを変更できます。既存のデータを保持するには、データベース上の同じ物理タイプにマップする論理タイプ間でのみ変更します。たとえば、Choice や String などです。 |
| アクティブ | フィールドを有効または無効にします。このチェックボックスをオフにすると、このフィールドはシステムによって使用されません。 |
| 機能フィールド | 選択すると、数学演算、フィールド長計算、曜日計算など、データベース関数の結果を表示するフィールドが作成されます。<br><br>新しい関数レコードが保存されると、チェックボックスをオフにしてそのフィールドを通常のフィールドにすることはできません。 |
| 読み込み専用 | ユーザーがフィールド値を変更できるかどうかを決定します。このチェックボックスをオンにすると、ユーザーは値を変更できません。フィールドのデータが計算されて表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>拡張テーブルでは、このオプションを上書きできます。 |
| 監査 | テーブルの監査を有効または無効にします。テーブルの監査 (履歴) をオンにします。<br>注:<br>このオプションはテーブルのみに適用されます。 |
| テキストインデックス | 検索でテーブル内のテキストにインデックス作成するかどうかを決定します。<br>注:<br>このオプションはテーブルのみに適用されます。フィールドをインデックス作成から除外するには、「特定のフィールドのインデックスの削除」を参照してください。 |
| 列ラベル | 列の一意のラベルを定義します。ラベルは、列のリストヘッダーとフォームフィールドに表示されます。<br>• [列ラベル] フィールドを更新すると、(現在の言語の) 言語ファイルのラベルも更新されます。<br>• 新しい列を作成すると、列名はラベルに基づいて自動的に入力されます。ラベルには、カスタムであることを示す「u_」がプリフィックスとして付いています。たとえば、列ラベルとして **Activity Description** を入力すると、列名はデフォルトで **u_activity_description**になります。 |
| 列名 | 列のフィールド名を定義します。新しいフィールドを作成すると、この名前は次のようにラベルとプリフィックスに基づいて自動的に入力されます。<br>• 別のスコープ内にあるテーブルのフィールドの場合、名前にはスコープがプリフィックスとして付き、カスタムであり、そのアプリケーションの一部ではないことが示されます。<br>• 同じスコープ対象のアプリケーション内のテーブルにあるフィールドの場合、名前にはアプリケーションの一部であることを示すプリフィックスがありません。<br>• グローバルアプリケーションのフィールドの場合、名前にはカスタムであることを示すために「u_」がプリフィックスとして付けられます。<br><br>プリフィックスは変更できません。ただし、名前の残りの部分を変更することはできます。名前には、小文字、英数字の ASCII 文字およびアンダースコア (_) だけを使用できます。既存の辞書レコードの名前は変更できません。<br>注:<br>列名に連続した (2 個の) アンダースコアを入力することはできません。たとえば、列名として my__sample_name と入力すると、辞書エントリを保存すると自動的に my_sample_name に変更されます。<br><br>] |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 最大長 | ユーザーインターフェイスでの文字列フィールドの表示方法と、物理データベースのデータタイプにマップする方法を決定するために、文字列フィールドのサイズに論理的な制限を提供します。<br><br>長さが 255 文字未満の文字列フィールドは、1 行のテキストフィールドとして表示されます。254 文字を超える長さの文字列フィールドは、複数行テキストボックスとして表示されます。<br><br>フィールドの長さは、データベースで利用可能な最も近い物理データタイプにマップされます。これにより、使用可能な長さが最初に指定された長さより長くなることがあります。たとえば、長さ 50 を入力すると、VARCHAR(100) という最も近い物理データタイプにマップされます。これは、最大 100 文字制限になり、要求されたフィールド長の 2 倍の長さになります。同様に、長さ 1000 を入力すると、MEDIUMTEXT という最も近い物理データタイプにマップされます。これは、最大 4000 文字制限になり、要求されたフィールド長の 4 倍の長さになります。<br><br>**注:**<br>• この値は、[文字列] フィールドに対してのみ変更できます。その他のタイプのフィールドでは、変更は無視されます。<br>• Oracle インスタンスのユーザーは、アプリケーション UI で文字列フィールドの最大長を 4000 より大きくすることはできません。これは、Oracle で CLOB データタイプが必要になるためです。このサイズを超えて増加させるには、 テクニカルサポートでインシデントをログに記録し、変更を要求してください。<br>• データが失われないようにするには、新しいアプリケーションを開発する場合にのみ文字列フィールドの長さを短くし、フィールドにデータが含まれているときは短くしないでください。カスタムフィールドへの変更によってデータが失われると、警告が表示されます。ベースシステムフィールドでは、データの損失が起きるような変更を行うことはできません。 |
| 必須 | レコードを保存するためにこのフィールドに値を含める必要があるかどうかを決定します。詳細については、「フィールドの必須化」を参照してください。<br><br>**注:**<br>拡張テーブルでは、このオプションを上書きできます。 |
| 表示 | このフィールドが参照フィールドの表示値であることを示します。リストおよびフォーム上のこのテーブルへのリンクに表示されるテキストとして値を使用する 1 つのフィールドに対して、これを true に設定します。デフォルトでは、「番号」フィールドはすべてのタスクテーブルの表示値です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>• このオプションは、リストまたはフォームがこのフィールドをレイアウトの一部として表示するかどうかは制御しません。代わりに、「リスト構成」と「フォームのカスタマイズ」を参照してください。<br>• テーブルから個々のレコードを表示する場合、表示値はフォームタイトルの一部になります。<br>• 辞書オーバーライドを使用すると、拡張テーブルに親テーブルの表示値とは異なる表示値を設定できます。 |
| 機能の定義 | フィールドが実行する関数を定義します。<br><br>glidefunction: で始まり、そのあとに実行される操作 (concat など)、関数のパラメーターが続きます。定数は単一引用符で囲む必要があります。<br><br>たとえば、次の関数定義では、簡単な説明、空白、発信者名の順に示すフィールドが作成されます。<br><br>glidefunction:concat(short_description, ' ', caller_id.name)<br><br>**注:**<br>関数パラメーターはドット連結をサポートします。「Dot-walking to data in related tables」を参照してください。 |
| 属性 [詳細ビュー] | フィールドまたはフィールドに依存する機能の動作を変更します。詳細については、「辞書属性」を参照してください。属性は、辞書オーバーライドを使用して拡張テーブルで上書きできます。「属性」関連リストからこの辞書エントリの属性を構成することもできます。 |
| デフォルト値 | |
| 動的フィルターを使用 [詳細ビュー] | 動的フィルターに基づいて動的に生成されるデフォルト値を指定できます。 |
| 動的フィルター値 [詳細ビュー] | [動的なデフォルトを使用 **(Use dynamic default)**] オプションが選択されている場合にデフォルト値を決定する動的フィルターを指定します。 |
| デフォルト値 | 新しいレコードのフィールドのデフォルト値を指定します。この値が正しいフィールドタイプを使用していることを確認してください。たとえば、整数フィールドではデフォルト値に 2 を使用できますが、デフォルト値に two を使用することはできません。このような値は、辞書オーバーライドで上書きできます。 |
| 参照仕様 | |
| 参照 | フィールドを参照フィールドにします。<br><br>既存のテーブルと一致しない名前を入力すると、辞書レコードに変更を保存する時点で新しいテーブルが作成されます。現在のテーブルのアプリケーションナビゲーターにモジュールがある場合、新しいテーブルのモジュールが同じアプリケーションメニューに自動的に作成されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 参照修飾子を使用 [詳細ビュー] | 次のように使用する修飾子のタイプを指定します。<br>• シンプル：参照修飾子の条件を指定できる一連の選択リスト<br>• 動的：修飾子を作成するために使用できる動的フィルター<br>• 詳細：修飾子の作成に使用できる静的にエンコードされたクエリ文字列または JavaScript コード |
| 参照修飾子の条件 | 簡易修飾子タイプが選択されている場合に参照修飾子が実行されるときの条件を指定します。 |
| 動的参照修飾子 [詳細ビュー] | 動的修飾子タイプが選択されている場合に参照修飾子を決定する動的フィルターの作成オプション を指定します。 |
| 参照修飾子 [詳細ビュー] | 詳細修飾子タイプが選択されている場合、参照フィールドで使用可能なレコードをフィルターします。参照修飾子は、辞書オーバーライドで上書きできます。 |
| 参照キー [詳細ビュー] | 参照フィールドの一意の識別子として使用する sys_id 以外のフィールドを識別します。 |
| 参照カスケードルール [詳細ビュー] | 参照しているレコードが削除された場合にレコードをどのように処理するかを定義します。次のオプションのいずれかを選択します。<br>• クリア：参照をクリアします (デフォルト)。<br>• 削除：すべての参照レコードを削除します。<br>• 制限：参照しているレコードがある場合、レコードの削除を防止します。<br>• なし：参照レコードを変更しません。 |
| 参照フロート [詳細ビュー] | 1 対多の関係の関連リストで [編集] ボタンを有効にします。 |
| 動的作成 [詳細ビュー] | 参照フィールドの場合、既存のレコードと一致しない値を入力すると、参照されるテーブルにレコードが作成されるかどうかを決定します。選択した場合は、[動的作成スクリプト] フィールドを使用してレコードの作成方法を定義します。 |
| 動的作成スクリプト [詳細ビュー] | [動的作成フィールド] を選択すると、参照テーブルにレコードを作成するためのスクリプトを入力できます。 |
| 依存フィールド | |
| フィールドに依存 [詳細ビュー] | 現在のフィールドが依存するフィールドを指定します。詳細については、「フィールドの必須化 」を参照してください。<br>**注:**<br>拡張テーブルに対してこの値を上書きできます。<br>。 |
| 選択リストの仕様 | |
| 選択 | 次のいずれかの方法で、ユーザーが推奨値のリストを表示できるようにします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • [-- なし --] のないリストメニュー<br>• [-- なし --] のあるリストメニュー<br>• 提案フィールドタイプ<br><br>選択肢を使用する場合は、選択リスト を定義するか、選択肢テーブルと[選択肢]フィールドを使用して、辞書内の別のフィールドから選択肢をコピーします。 |
| 選択肢テーブル [詳細ビュー] | フィールド選択肢に別の選択肢フィールドと同じ値を入力します。[選択肢] フィールドが「なし」以外に設定されている場合は、選択肢の値を引き出すテーブルを選択します。フィールド [選択肢フィールド] も入力する必要があります。<br><br>たとえば、[選択肢テーブル] がインシデント [incident] テーブルに設定されている場合、このフィールドにはインシデントの選択肢フィールドの 1 つと同じ選択リストがあります。選択肢フィールド (以下を参照) によって、どのフィールドが決定されるかが決まります。 |
| 選択肢フィールド [詳細ビュー] | フィールド選択肢に別の選択肢フィールドと同じ値を入力します。[選択肢] フィールドがなし以外に設定されている場合は、選択肢テーブルのために選択したテーブルからフィールドを選択します。たとえば、[選択肢テーブル] フィールドがインシデント [incident] テーブルに設定され、[選択肢フィールド] が [優先度] に設定されている場合、このフィールドは、それらの選択肢が変更されても、インシデントの [優先度] フィールドと同じ選択肢となります。<br><br>**注:**<br>このフィールドは選択肢フィールドである必要があります。 |
| 計算対象値 | |
| 計算対象 (Calculated) [詳細ビュー] | フィールドの値が他の値から計算されるかどうかを決定します。選択した場合は、[計算] フィールドを使用して計算の実行方法を定義します。[計算タイプ] フィールドでは、列値の計算をスクリプトベースにするか計算式ベースにするかを選択できます。計算対象フィールドでフィルタリング、ソート、またはグループ化する場合、ソート順は、フィールドが最後に表示されたときではなく、フィールドが最後に更新されたときから格納されたフィールド値に基づきます。<br><br>**注:**<br>ビジネスルールに関連して、ビジネスルールが実行される前であっても、ビジネスルールの前に計算対象フィールドが最初に入力されます。計算対象フィールドは、必要に応じて、ビジネスルールが実行される前に再度入力されます。 |
| 計算タイプ [詳細ビュー] | 列をスクリプトベースの計算にするか計算式ベースの計算にするかを選択できるようにします。定義済みの関数とサンプル式の詳細については、「 の列値の式 テーブルビルダー. |
| 計算 [詳細ビュー] | 選択した計算タイプに基づいてスクリプトまたは式を入力できます。<br><br>[計算タイプ] が [計算式] の場合、フィールドの値を計算するための事前定義された関数または計算式を入力できます。事前定義された計算式を使用することも、他の計算式を組み合わせて要件に従って計算式を作成することもできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | [計算タイプ] が [スクリプト] の場合、フィールドの値を計算するためのスクリプトを入力できます。これらは、辞書オーバーライドを使用して拡張テーブルのために上書きできます。このスクリプトでは、現在のオブジェクトを使用できます。アクセス制御ルールと同様に、スクリプトは次のことができます。<br>• true または false に評価します。<br>• true または false に設定された回答変数を返します。<br>• `current.display_name = "name"` のように、フィールド値を直接設定します。<br>**注:**<br>計算されたスクリプトが適用されると、フィールドは読み取り専用として表示されます。たとえば、[アクティブ] に設定されている辞書レコードの計算フィールドにスクリプトを追加すると、フォーム上で [アクティブ] フィールドが読み取り専用になります。リストビューからの [アクティブ] フィールドのインライン編集も無効になります。 |
| 追加フィールド | |
| クラス | 現在のテーブルが拡張するテーブルを識別します。他のテーブルを拡張しないテーブルは、このフィールドに独自の名前を指定します。詳細については、「」を参照してください。 |
| Defaultsort | 廃止 |
| サイズクラス | クエリ中に各行に格納されるメモリの量を減らすことによって、プラットフォームがこのテーブルを大きなテーブルとして処理するかどうかを決定します。このフィールドの値を実行および設定するスケジュール設定済みジョブがあります。 |
| スペルチェック | フィールドのスペルチェックを有効または無効にします。 |
| 一意 | フィールド値は一意である必要があります。<br>**警告:**<br>対応するテーブルのフィールドの値がそのフィールドのために既に異なる場合にフィールドを一意にすると、データが失われます。フィールドに一意性を強制する前に、テーブル内の、どのレコードにもそのフィールドの値がないこと、またはすべてのレコードが同じ値であることを確認します。 |
| UI アクション | |
| デフォルトビューまたは詳細ビュー | フォームビューをデフォルトビューまたは詳細ビューに変更します。フィールドはビューに基づいて変更されます。デフォルトのビューを使用している場合は、詳細ビューのフィールドで提供されているものと同じタスクを実行するスクリプトを作成する必要があります。 |
| 関連リスト | |
| アクセス制御 | テーブル内のデータへのアクセスを許可または制限するアクセス制御へのアクセスを提供します。 |
| 選択肢 | 編集中の選択リストフィールドのオプションへのアクセスを提供します。 |
| 辞書オーバーライド | このフィールドの辞書オーバーライドへのアクセスを提供します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

辞書エントリフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 属性 | このエントリの辞書属性へのアクセスを提供します。 |
| ラベル | 編集中のテーブルまたはフィールドに使用されるラベルへのアクセスを提供します。 |

辞書属性

辞書属性は、辞書レコードが記述するテーブルまたはフィールドの動作を変更します。管理者は、辞書属性を追加または変更できます。

## 属性の追加

テーブルまたはフィールドの属性を追加または削除するには、辞書レコードを開き、[詳細] リンクを選択して、[属性] フィールドを変更します。または、辞書レコードで [属性] 関連リストの [新規] を選択します。辞書エントリの変更の詳細については、「辞書エントリの変更」を参照してください。

属性はカンマで区切ります。複数の属性が辞書レコードに存在する場合は、追加する属性の前に、スペースなしでカンマを追加します。

true/false 値を使用可能な属性の場合：

- true の値を指定するには、「attribute」または「attribute=true」のいずれかを入力します。
- false の値を指定するには、属性が表示されないことを確認するか、または「attribute=false」と入力します。アップグレードの際に値を維持するには、デフォルトでテーブルに設定されている属性を削除しないでください。

## アップグレードのための属性値の維持

ベースシステムの一部である属性を削除すると、アップグレード中に自動的に復元されます。アップグレードによってシステムの動作が変更されないようにするには、属性をテーブルまたはフィールドに残し、その値を必要に応じて設定します。

たとえば、デフォルトでフィールドに属性 knowledge_search=true がある場合は、属性を削除せずに false にします。knowledge_search=false と設定してください。

## 使用可能な辞書属性

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| allow_null | True/False | field_name フィールド | 存在するか true の場合、フィールドとして None を入力できます。 |
| allow_public | True/False | table_name フィールド | true の場合、table_name フィールドには、現在のスコープだけでなくすべてのスコープのテーブルが表示されます。 |
| allow_references | True/False | field_name フィールド | true の場合、ドット連結できるように、参照フィールドを含む選択対象のツリーが表示されます。 |
| allowHugeAlter | True/False | 任意のテーブル | true の場合、1 億行を超えるテーブルに列を追加できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| approval_user | このフィールドが表す承認タイプのユーザーを含むフィールドの名前 | 整数フィールド | テーブルフィールドは、照合を使用してルックアップを実行するために使用されます。*approval_user=<field_name>* の属性を持つテーブルフィールドとして承認を指定します。ここで <field_name> は、この承認タイプのユーザーを含むテーブルのフィールドを示します。<br>• この属性を持つフィールドには、承認の順序を示す整数値が含まれます。<br>• シーケンス番号が同一であるすべての承認フィールドは、続行する前に複数の承認が必要であることを示しています。<br>• 承認はシーケンス番号順に要求されます。たとえば、シーケンス番号が 100 である承認はすべて、シーケンス番号 200 の承認が要求される前に承認される必要があります。 |
| attachment_index | True/False | 任意のテーブル | true の場合、テーブルの添付ファイルは検索のためにインデックス付けされます。詳細については、「テーブルのインデックス添付ファイル」を参照してください。 |
| バーコード | True/False | 文字列フィールド | 文字列フィールドを有効にして、モバイルデバイスのカメラにアクセスし、バーコードをスキャンして処理します。 |
| base_table | ベーステーブルタイプの名前 | table_name フィールド | table_name フィールドでは、この属性で指定されたテーブルから派生した任意のテーブルを選択できます。デフォルトでは、ベーステーブル自体もリストに含まれています (ただし、この動作をオフにする場合は *skip_root* を参照してください)。 |
| calendar_elements | セミコロン (「;」) で区切られたフィールド名のリスト | 任意のカレンダーイベントテーブル | カレンダーイベントの説明を作成するときに使用するフィールドのリストを指定します。指定しない場合は、表示名と簡単な説明が使用されます。<br>*calendar_elements* 属性は、派生 (ドット連結) フィールドをサポートしていません。 |
| collection_interval | 「HH:MM:SS」で指定された間隔 (たとえば「01:02:30」は | コレクションフィールド | 測定基準の収集間隔を指定します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | 1 時間 2 分 30 秒) | | |
| close_states | 非アクティブ状態の整数値 | タスクステータスフィールド | `TaskStateUtil` API によって使用され、セミコロン (「;」) で区切られた非アクティブ状態値のリストを識別します。 |
| critical | True/False | [apm_application] テーブルの任意のフィールド | アプリケーションに関する重要な情報であるフィールドを定義します。これにより、重要な情報の入力を追跡できます。 |
| current_location | True/False | 文字列フィールド | 文字列フィールドを有効にして、モバイルデバイスの GPS 位置情報にアクセスします。 |
| disable_execute_now | True/False | sys_auto から派生した任意のテーブル | 存在するか true の場合、通常の [今すぐ実行] ボタンを無効にします。スケジュールを使用する Now Platform アプリケーション (ディスカバリー など) は、この属性を使用して、より適切な独自のアクションに置き換えます。 |
| default_rows | 整数値 | マルチテキストフィールド | マルチテキストフィールドのデフォルトの行数を設定します。 |
| default_close_state | ステータスの整数値 | タスクステータスフィールド | `TaskStateUtil` API によって、タスクテーブルのデフォルトのクローズ状態値を識別するために使用されます。 |
| default_work_state | ステータスの整数値 | タスクステータスフィールド | `TaskStateUtil` API によって、タスクテーブルのデフォルトの動作状態値を識別するために使用されます。 |
| details_row | 詳細行に表示するフィールドの名前 | 任意のテーブル | 指定したフィールドの値を、リストビューの各レコードのリスト として表示します。この属性を使用するには、UI15 が必要です。<br><br>**注:**<br>親テーブルと子テーブルに異なる `detail_row` 属性が定義されている場合、子テーブル属性が使用されます。 |
| display_image | True/False | user_image タイプのフィールドを持つテーブル | 存在するか true の場合、user_image タイプのレコードを画像形式で表示します。レコードが [sys_user] テーブル内にあり、画像が利用できない場合、ユーザーのイニシャルが表示されます。 |
| document_viewer_audit | 表示、ダウンロード、またはすべて | 任意のテーブル | ドキュメントビューアーが有効になっている場合、この属性は添付ファイルに対して実行されたユーザーアクションのレコードを保持します。値： |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | • 表示 **(view)**：ユーザーが添付ファイルを表示するときに監査を有効にします<br>• ダウンロード **(download)**：ダウンロードした添付ファイルのみの監査情報を提供します<br>• すべて **(all)**：添付ファイルが表示およびダウンロードされたときに監査情報を表示します |
| email_client | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、フォームヘッダーのその他のオプションメニューにアイコン (エンベロープアイコン) が表示されます。クリックすると、ポップアップメールクライアントが表示されます。 |
| exclude_auto_recovery | True/False | 任意のテーブル | このテーブルとその拡張のドラフトレコードの自動リカバリを無効にします。 |
| exclude_from_rollback | True/False | 任意のテーブル | このテーブル (およびその派生テーブル) をロールバックの記録から除外します。たとえば、この属性を使用すれば、自動テストから作成されたレコードを保持できます。デフォルトで除外されるテーブルについては、「自動テスト実行後にロールバックから除外されるテーブル」を参照してください。 |
| extensions_only | True/False | 任意のテーブル | テーブルが、それを拡張するレコードのみをテーブル内に持つよう指定します。たとえば、タスクレコードではなくインシデント、問題、変更レコードを作成するため、タスクテーブルにはこの属性があります。 |
| field_list_selector | True/False | 任意の glide_list | ユーザーが依存テーブルからフィールドを選択できるようにします (依存テーブルが指定されていない場合は現在のテーブルから選択できます)。一部のワークフローアクティビティはこの属性を使用します。 |
| field_decorations | セミコロン (「;」) で区切られた UI マクロ名リスト | ほとんどのフィールド (リストおよび複数行のテキストフィールドを除く) | *ref_contributions* と同様に、フィールドがフォームにレンダリングされた時点で名前付き UI マクロが呼び出されます。 |
| format | 形式名 | 任意の数値フィールド | 標準の数値形式の代わりに使用する名前付き形式を指定します。オプションは次のとおりです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | • **glide_duration**：ミリ秒単位で指定された時間を **ddd hh:mm:ss** 形式にします。<br>• **none**：自動番号書式設定を無効にします (たとえば 2,500 を 2500 に変更)。<br>注:<br>この属性は表示値にのみ適用され、ユーザー入力値には適用されません。 |
| glide.db.oracle.ps.query | True/False | 任意のテーブル | 存在し、かつ false の場合、Oracle が準備したクエリーをテーブルで使用できなくなります。 |
| global_visibility | True/False | sys_domain 列を持つ任意のテーブル | 存在するか true の場合、ドメイン制限がある (つまり sys_domain フィールドに値がある) 場合でも、このテーブルはグローバルに表示されます。 |
| hasLabels | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、ある時点でこのテーブルをラベルのターゲットとしてマークします。この属性は手動で設定できますが、通常はラベルが生成されるたびに自動的に設定されます。true の場合、ラベルエンジンはテーブルの変更時に実行され、必要に応じてラベルが更新されます。 |
| hasListeners | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、このテーブルは、リスナーがイベント (挿入、更新、削除) を取得するために利用できるものとしてマークされます。 |
| hasWorkflow | True/False | 任意のテーブル | テーブルへの変更をリッスンし、特定のワークフローに関連付けられたレコードが変更されたときにワークフローにイベントを発生させるように、ワークフローエンジンに指示します。 |
| html_sanitize | True/False | 任意の HTML または翻訳された HTML フィールド | 存在するか true の場合、選択した HTML または翻訳済み HTML フィールドの HTML サニタイズを有効にします。デフォルトでは、すべての HTML フィールドおよび翻訳済み HTML フィールドで HTML サニタイズが実行されます。サニタイズを無効にするには、この属性を false に設定します。 |
| html_sanitize_config | カスタムサニタイザー構成ファイルの名前 | 任意の HTML または翻訳された HTML フィールド | 存在する場合、デフォルトのプラットフォームサニタイザーの代わりに、指定された構成ファイルを使用してサニタイズを実行します。たとえば、埋め込みヘルプ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | [sys_embedded_help_content] テーブルは、ヘルプの [コンテンツ] フィールドに指定されたファイル (EmbeddedHelpSanitizerConfig) を使用します。 |
| アイコン | JavaScript クラスの名前 | 任意のワークフローフィールド | ワークフローアイコンを生成する JavaScript クラスを指定します。 |
| ignore_filter_on_new | True/False | 任意のフィールド | true の場合、フォーム上のフィールドにフィルター済みリストの値は入力されなくなります。 |
| image | 画像ファイルの相対パス | 任意のテーブル | モジュールまたは BSM マップがこのテーブルを使用するときに使用するイメージファイルを指定します。この指定は、テーブルに使用されるアイコンより優先されます。 |
| include_container_types | True/False | 任意の internal_type フィールド | コンテナー (分割) タイプと他のタイプでフィールドをレンダリングします。 |
| ip_data_control | • none<br>• canonical<br>• expanded<br>• canonicalize_when_possible (デフォルト値) | 任意のテーブルのフィールドタイプ | *ip_data_control* 属性を使用してデータを正規化する必要があるかどうかをチェックします。<br>• 属性が none の場合、変換は行われず、データはそのまま挿入されます。<br>• 属性が canonical の場合、値は小さい正規形式で挿入されます。<br>• 属性が expanded の場合、比較しやすいように、値はより大きな展開形式で挿入されます。<br>• 属性が canonicalize_when_possible の場合、値が有効な IP の場合は正規形式で挿入され、そうでない場合はそのままになります。 |
| isOrder | True/False | 任意のフィールド | 指定されたフィールドを、リスト内のソート順に使用されるデフォルトフィールドとして設定します。**ORDERBY** URL パラメーターまたはユーザーのソート設定が優先されます。 |
| iterativeDelete | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、すべての行の削除を強制的に繰り返し実行します。それ以外の場合は、一部の削除をより効率的な一括メソッドを使用して実行できます。 |
| json_view | True/False | 任意のテーブル | JSON オブジェクトがフィールドに関連付けられている場合は、フィールドの横にアイコンが表示され、それをク |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | リックするとデータ交換情報が表示されます。 |
| knowledge_custom | JavaScript 関数の名前 | 任意のフィールド | カスタムナレッジ検索を実装するための JavaScript 関数を指定します (*knowledge_search* を参照)。 |
| knowledge_search | True/False | 文字列フィールド | 存在するか true の場合、フィールドの横にナレッジ検索アイコン (小さな本のアイコン) が表示されます。カスタムナレッジ検索機能が指定されていない場合、このアイコンをクリックすると、ナレッジベースを検索するためのポップアップウィンドウが起動します。詳細については、「*knowledge_custom*」を参照してください。 |
| largeTable | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、このテーブルを「大規模」としてマークし、特定の MySQL データベース操作 (列/インデックスの追加/削除、テーブルの圧縮) によるテーブルのロックを防止します。この属性 (または *smallTable* 属性) がない場合、テーブルが大規模かどうかは *glide.db.large.threshold* プロパティ、またはデフォルト値 **5,000** で決まります。 |
| listen | True/False | 任意のフィールド | 存在するか true の場合、*<tableName>_<fieldName>Listen* という名前の JavaScript 関数を呼び出します。また、その関数が存在しない場合は *globalListen* を呼び出します。引数を指定して関数を呼び出します (*tableName*、*fieldName*、*oldValue*、*newValue*)。 |
| live_feed | True/False | 任意のフィールド | 存在するか true の場合、インシデント、タスク、および問題のアクティビティフォーマッターヘッダーに切り替えオプションを作成します。この切り替えにより、そのレコードの **[Live Feed]** (別名ドキュメントフィード) または既に使用されているアクティビティフォーマッターフィールドを選択できます。詳細については、「アクティビティフォーマッター」を参照してください。 |
| long_label | True/False | 任意の参照フィールド | 長いラベルまたは短いラベルは、フォームの参照フィールドに表示されるラベルを参照します。<br><br>たとえば、参照フィールドに発信者のメールアドレスが含まれている場合、長いラベルは [発信者メール (Caller |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | Email)] になり、短いラベルは [メール] になります。<br>• 通常は、フォーム上の参照フィールドの配置によってフィールドが何を表しているかが明確になります。<br>• グローバルプロパティ (*glide.short.labels*) を使用して、任意のフォームのすべての参照フィールドに表示されるラベルのタイプを指定します。<br>• 参照フィールドの辞書で *short_label=true* または *long_label=true* の属性を設定することで、任意の参照フィールドのグローバルプロパティを上書きできます。 |
| maintain_order | True/False | 任意の glide_list | 存在するか true の場合、選択したアイテムのリストの右側に上下矢印の順序ボタンが表示されます。<br>**注:**<br>順序ボタンを表示するには、[複数を追加] ボタンを使用する必要があります。 |
| mode_toggler | True/False | 任意の composite_name フィールド | 存在するか true の場合、名前モード切り替えアイコン (小さな右向きの三角形) がラベルの右側に表示されます。このアイコンをクリックすると、フィールドのレンダリングが、<tablename>.<fieldname> を受け付けるテキストフィールドから、参照選択ボックスのペア (テーブル用に 1 個、フィールド用に 1 個) に変わります。後者がデフォルトです。 |
| model_class | バイナリ Java クラス名 | glide_var タイプの任意フィールド | Java コード内のモデル変数を指定します。モデルには、IVariablesModel インターフェイスを実装するクラスが必要です。 |
| model_field | 説明を参照 | glide_var タイプの任意フィールド | モデルが定義されているレコード内の参照フィールドを識別します。<br>たとえば、ワークフローアクティビティはアクティビティ定義に関連付けられています。アクティビティ定義には、そのアクティビティ定義のモデルを構成する質問の関連リストがあります。activity_definition をアクティビティの model_field として使用することで、参照されるアクティビティ定義に定義されている質問を読み取り、 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | ワークフローアクティビティモデルを構築します。 |
| nibble_size | 正の整数 | テーブルクリーナーの影響を受ける任意のテーブル。 | テーブルクリーナーが 1 回の操作で削除できるレコードの最大数を指定します。この属性のデフォルト値は **250** です。 |
| nibble_sleep | True/False | テーブルクリーナーの影響を受ける任意のテーブル。 | false の場合、テーブルクリーナーは各操作の間に一時停止することなくクリーンアップ操作を実行します。 |
| no_add_me | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、[ウォッチリスト] フィールドなどの特定のフィールドの横に表示される [自分を追加] アイコンを非表示にします。 |
| no_attachment | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、添付ファイルアイコン (クリップのアイコン) がフォームヘッダーに表示されないようにします。 |
| no_attachments | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、添付ファイルはチェックされず、このテーブルのレコードが削除されたときに削除されます。添付ファイルがなくアクティビティの多いテーブルに使用されます。 |
| no_audit | True/False | 任意のテーブル | 存在する場合、テーブルが監査されていても、このフィールドは監査されません。true または false の値は無視されます。 |
| no_audit_delete | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、このテーブルからレコードを削除するときに sys_audit_delete レコードは作成されません。sys_audit_delete 情報が不要でアクティビティの多いテーブルに使用されます。 |
| no_auto_map | True/False | 任意のテーブル | true の場合、このフィールドはインポートセット中にマッピングされません。主に LDAP のインポートに使用されます。 |
| no_email | True/False | sys_user を参照する glide_list フィールド | 存在するか true の場合、メールボックスは [ウォッチリスト] フィールドと同様に glide_list フィールドから削除されます。 |
| no_multiple | True/False | 任意の glide_list フィールド | 複数選択アイコンを非表示にします。 |
| no_optimize | True/False | テーブルクリーナーの影響を受ける任意のテーブル。 | 存在するか true の場合、指定したテーブルで MySQL テーブル圧縮操作が実行されないようにします。通常、テーブル圧縮操作は、指定されたテーブルのデータの少なくとも 50 % が |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | テーブルクリーナーで削除された後に実行されます。 |
| no_separation | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、このテーブルはドメイン分離に参加していないものとしてマークされます。詳細については、「サービスプロバイダーのドメイン分離」を参照してください。 |
| no_text_index | True/False | テキストインデックス付きテーブルの任意のフィールド、またはテキストインデックス付きテーブルの任意の子テーブル | テーブルがテキストインデックス化されている場合、*no_text_index* フィールド属性は、このフィールドまたは子テーブルがテキストインデックスに含まれないようにします。 |
| no_truncate | True/False | 任意の文字列フィールド | リストビューで、リスト内のマルチテキスト値のテキスト値全体を切り捨てずに表示します。この属性がない場合、文字列は UI プロパティ [リストセルに表示する文字数] (デフォルトで **40**) に基づいて切り捨てられます。 |
| no_update | True/False | テーブル | レコードが挿入または削除されたが更新されていないテーブルの場合は true。テーブルの作成時、そのテーブルに sys_mod_count、sys_updated_by、sys_updated_on フィールドを作成しないようにします。テーブルの更新を停止するわけではありません。この属性設定は、syslog や sys_audit などの大量のシステムテーブルのスペースを節約するために使用されます。 |
| no_view | True/False | 任意の glide_list フィールド | ビューで選択されたアイテムのアイコンを非表示にします。 |
| onlineAlter | True/False | 任意のテーブル | *onlineAlter* 属性を持つテーブルは、オンラインスキーマ変更を使用して MySQL データベース操作を実行します。<br>• オンラインスキーマ変更は、列の追加、変更、または削除時、およびインデックスの追加または削除時に、ロックを使用しないテーブルアップグレードを提供します。オンラインスキーマの変更がない場合、データベースへのこれらの変更は実行中に書き込みアクセスをロックします。<br>• オンラインスキーマ変更では、追加のシステムリソースが使用されます。Oracle データベースは、デ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | フォルトではテーブルをロックせず、オンラインスキーマ変更を使用しません。 |
| order | 数値 | モデル変数フィールド | 内部使用のみ (モデル変数の場合)。 |
| pop-up_processor | バイナリ Java クラス名 | 任意のフィールドまたはテーブル | フィールド (またはテーブル内のすべてのフィールド) を処理するためのカスタムポップアッププロセッサーを指定します。 |
| readable | True/False | 任意の条件フィールド | true の場合、リストビューの条件フィールドは、データベースに格納されているエンコードされたクエリではなく人間が判読可能な条件としてレンダリングされます。 |
| ref_ac_columns | セミコロンで区切られたフィールド名のリスト | オートコンプリートを使用する参照フィールド (ref_auto_completeを参照) | 名前に加えてオートコンプリートリストに表示される表示値の列を指定します。詳細については、インシデントフォームの cmdb_ci フィールド ([構成アイテム]) で実際の例を参照してください。 |
| ref_ac_columns_search | True/False | オートコンプリートを使用する参照フィールド (ref_auto_completeを参照) | *ref_ac_columns* 属性で指定されたすべてのフィールドでオートコンプリートが機能するようにします。この属性は、表示値列のみを検索するデフォルトの動作をオーバーライドします。詳細については、「任意の参照フィールドのテキストと一致するようにオートコンプリートを構成する」を参照してください。 |
| ref_ac_display_value | True/False | オートコンプリートを使用する参照フィールド (ref_auto_completeを参照) | 参照フィールドで表示値列を非表示にして、オートコンプリート関数が *ref_ac_columns* 属性にリストされている列のテキストのみに一致するようにします。<br><br>この機能を使用するには、*AJAXTableCompleter* クラスと *ref_ac_columns*、*ref_ac_columns_search*、および *ref_ac_display_value* 属性を使用する必要があります。詳細については、「表示値列を削除する」を参照してください。<br><br>**注:** ref_ac_display_value 関数は、カタログアイテム変数では機能しません。 |
| ref_ac_order_by | フィールド名 | オートコンプリートを使用する | オートコンプリートリストのソートに使用する列を指定します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | 参照フィールド (ref_auto_completer を参照) | |
| ref_auto_completer | JavaScript クラス名 | 任意の参照フィールド (テーブルに適用して、テーブルのすべての参照フィールドに影響を与えることができます)。 | 選択肢のオートコンプリートリストを作成する JavaScript クラス (クライアント側) の名前を指定します。有効なクラス値は次のとおりです。<br>• `AJAXReferenceCompleter`：一致するオートコンプリートの選択肢をリストとして表示します。参照テーブルの [表示値] 列のみが表示されます。他のオートコンプリートのクラスが指定されていない場合、参照フィールドはこのクラスを自動的に使用します。<br>• `AJAXTableCompleter`：一致するオートコンプリートの選択肢をテーブルの行として表示します。参照テーブルの表示値列とともに、*ref_ac_columns* 属性にリストされている列が表示されます。<br>• `AJAXReferenceChoice`：一致するオートコンプリートの選択肢をリストとして表示します。参照テーブルの表示値列、および最大 25 件の一致する選択肢のみが表示されます。オートコンプリートの選択肢が 25 件を超える場合、参照フィールドには、`AJAXTableCompleter` クラスの選択肢が代わりに表示されます。<br>詳細については、「参照フィールドのオートコンプリート」を参照してください。 |
| ref_contributions | セミコロン (「;」) で区切られた UI マクロ名リスト | 任意の参照フィールド | フィールドがフォームに表示されると、名前付き UI マクロが呼び出されます。 |
| ref_decoration_disabled | True/False | 任意の参照フィールド | true に設定すると、選択したフィールドの参照アイコンの表示が無効になります。 |
| ref_list_label | ラベル テキスト | 任意のテーブル | リストバナーで使用するタイトルを指定します。 |
| ref_qual_elements | セミコロン (「;」) で区切られたフィールド名リスト | reference_qual フィールドがあるすべての参照フィールド | 更新された参照を取得するためにサーバーに返されるフィールドのリストを指定します。 |
| ref_sequence | 参照テーブル内の、トップハット | 任意の参照フィールド | リストの順序付けに使用する参照テーブルのフィールドを指定します。この |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | (「^」) で区切られたフィールドのリスト | | 属性は SQL の ORDER BY 節と同様に機能し、各要素を昇順にします。 |
| reference_types | クリック可能な有効な参照タイプをセミコロン (「;」) で区切ったリスト | field_name フィールド | ツリーに表示される参照フィールドを指定されたタイプに制限します。 |
| remoteDependent | データベースとテーブルの名前 (「model.matcher」など) | 任意のスクリプトフィールド | スクリプトが依存するリモート (別のデータベースなど) テーブルを定義します。 |
| repeat_type_field | フィールド名 | スケジュールローテーションの繰り返し回数フィールド | 繰り返しタイプ (日次、週次、月次、または年次) を含むフィールドを指定します。 |
| ro_collapsible | True/False | 任意の複数行フィールド | 存在するか true の場合、フィールドラベルの横にアイコン (「+」または「-」) が表示され、フィールド自体の展開や折りたたみができるようになります。 |
| saver_exempt | • exempt_always= フィールドは、すべてのインストールコンテキストの xml への書き込みから除外されます。<br>• exempt_never= フィールドは xml への書き込みから除外されません (デフォルト)。<br>• exempt_vcs_only= フィールドは、ソースコントロールコンテキストでのみ xml への書き込みから除外されます。 | メタデータレコードのフィールド | 存在する場合、フィールドがレコードの xml 表現に書き込まれるかどうかを決定します。属性がない場合は、exempt_never と同じです。exempt_always の場合、エクスポート (公開、ソースコントロールへのコミット、更新セット) 時にフィールドが書き込みから除外されます。exempt_vcs_only の場合、ソースコントロールコンテキストでのみ、xml への書き込みからフィールドが除外されます。 |
| scale | 整数 | 10 進数フィールド | 10 進数フィールドタイプで使用する小数点以下の桁数を設定します。デフォルトは 2 です。この属性は、フィールドの最大長属性設定に適用されます。フィールドの小数点以下の桁数は、最大長属性設定とスケール属性の組み合わせです。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | たとえば、フィールドで小数点以下に 4 桁が必要な場合は、最大長属性のデフォルトである 15 に 4 を加えて、19 にします。スケール属性を 4 に設定して、小数点以下の桁数を示します。小数点以下 6 桁の場合、最大長を 21 に設定し、スケール属性を 6 に設定する必要があります。<br>**注:** この属性を増やすには、最大長属性を 15 より大きい値にしてください。 |
| スクリプト | フィールドの内容を返す関数 | 任意のスラッシュバケットフィールド | スラッシュバケットフィールドに何をロードするかを定義するスクリプトを記述できます。 |
| short_label | True/False | 任意の参照フィールド | 長いラベルまたは短いラベルは、フォームの参照フィールドに表示されるラベルを参照します。<br>たとえば、参照フィールドに発信者のメールアドレスが含まれている場合、長いラベルは [発信者メール (Caller Email)] になり、短いラベルは [メール] になります。<br>• 通常は、フォーム上の参照フィールドの配置によってフィールドが何を表しているかが明確になります。<br>• グローバルプロパティ (*glide.short.labels*) は、任意のフォームのすべての参照フィールドに表示されるラベルのタイプを指定します。<br>• 参照フィールドの辞書で *short_label=true* または *long_label=true* の属性を設定することで、任意の参照フィールドのグローバルプロパティを上書きできます。 |
| show_all_tables | True/False | ドキュメント ID フィールド | ユーザーがシステムテーブルからドキュメントを選択できるようにします。たとえば、sys_script や sys_user などです。デフォルトでは、ユーザーはシステムテーブルからレコードを選択できません。 |
| show_condition_count | True/False | 条件フィールド | 一連の条件のレコード数をプレビューするための条件数ウィジェットを有効または無効にします。詳細については、「条件フィールドに条件カウントを追加する」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| skip_root | True/False | table_name フィールド | 存在するか true の場合、ベーステーブルをリストから削除します。詳細については、base_table を参照してください。 |
| sla_basis | セミコロン (「;」) で区切られたテーブル名のリスト | 日付タイプの任意のフィールド (glide_date_time、または datetime) | このフィールドが SLA の開始 (開いた) 時間を決定するテーブルを定義します。glide_date、due_date、date、 |
| sla_closure | セミコロン (「;」) で区切られたテーブル名のリスト | 日付タイプの任意のフィールド (glide_date_time、または datetime) | このフィールドが SLA の終了 (閉じた) 時間を決定するテーブルを定義します。glide_date、due_date、date、 |
| slushbucket_ref_no_expand | True/False | 任意の参照フィールド | 存在するか true の場合、ユーザーがフォームまたはリストのスラッシュバケットからフィールドを展開できないようにします。 |
| smallTable | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、クエリーのためにこのテーブルを小規模 (つまり大規模ではない) としてマークします。この属性 (または *largeTable* 属性) がない場合、テーブルが大規模かどうかは *glide.db.large.threshold* プロパティ、またはデフォルト値 **5,000** で決まります。 |
| start_locked | True/False | 任意の glide_list フィールド | フィールドをデフォルトでロックするかロック解除するかを決定します。デフォルトでフィールドのロックを解除するには、値を false に設定します。 |
| staticDependent | テーブルの名前 | 任意のスクリプトフィールド | スクリプトが依存するテーブルを指定します。 |
| strip_html_in_pdf | True/False | 任意のフィールド | フィールドが PDF にエクスポートされるときに、そのフィールドから HTML タグを削除しようとします。この属性は HTML フィールドで最も役立ちます。 |
| synch_attachments | True/False | 任意のテーブル | *update_synch* に似ていますが、これはレコードの添付ファイルを更新セットに書き込みます。詳細については、「テーブルのインデックス添付ファイル」を参照してください。 |
| テーブル | テーブルの名前 | field_name フィールド | 指定されたテーブルフィールドを表示します。 |
| tableChoicesScript | スクリプトインクルードの名前 | table_name フィールド | *process()* メソッドが選択するテーブル名のアレイを返すスクリプトインクルードの名前を指定します。 |
| target_field | percent_complete_target | 任意の完了率フィールド | target_threshold_colors 属性と組み合わせて機能し、完了率 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| | 10 進数フィールド名 | 任意の 10 進数フィールド | フィールドのしきい値を定義します。target_threshold の色の説明を参照してください。<br><br>例：<br><br>target_field=percent_complete_target,target_threshold_colors=0:tomato;50:khaki;90:lightgreen<br><br>追加の target_field 属性を指定して、タスクの実際の完了率と、この時点でのタスクの必要な位置を指定する別の 10 進数フィールドのターゲットパーセンテージと比較します。10 進数フィールドの列名を使用します。<br><br>例：<br><br>target_field=percent_complete_target,target_threshold_colors=0:tomato;50:khaki;90:lightgreen,target_field=u_expected_completion<br><br>追加の target_field を指定しない場合、ターゲット値 100 が使用され、単一のフィールド値で色のしきい値を使用できます。詳細については、「ターゲットしきい値の色属性」を参照してください。 |
| target_form | フォームの名前 | 任意のテーブル | このテーブルが参照フィールドのポップアップウィンドウを経由して参照された場合に使用する、代替フォームを指定します。 |
| target_threshold_colors | しきい値制限：色 | target_field 属性を持つ完了率フィールド | target_field 属性と組み合わせて機能し、完了率フィールドのしきい値を定義します。target_field の説明を参照してください。 |
| text_index_filter_junk | True/False | 任意のテーブル | 値を false に設定すると、テーブルのジャンクフィルターを有効または無効 になります。<br><br>• デフォルトでは、Zing はインデックスを作成したり、 2 桁の数字や 1 文字の単語を検索したりしません (中国語または日本語の文字を除く)。<br>• ジャンクフィルターを無効にした後、インデックスを再生成します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | この属性を使用すると、テーブルインデックスが大きくなります。<br>• パフォーマンスの最適化のため、これは必要でない限り適用しないでください。 |
| text_search_only | True/False | table_name フィールド | リストされるテーブルを、テキスト検索可能なテーブルに制限します。 |
| text_index_translations | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、翻訳された文字列が追加されたときにインデックスが強制的に再計算されます。この属性を変更するには、sys-admin ロールが必要です。これは、翻訳されるインデックス付きフィールドと、翻訳のあるインデックス作成中のフィールドに自動的に設定されます。デフォルトで true の *glide.i18n.force_index system* プロパティは、この属性を上書きします。 |
| time_zone_field | タイムゾーンを含むフィールドの名前 | 任意のスケジュール日時フィールド | このフィールドの参照タイムゾーンを含む親レコードのフィールドを指定します。 |
| timeDimension | True/False | タスクテーブルのサブクラスになっているテーブルにある、日付タイプの任意のフィールド (glide_date_time、または datetime) | 存在するか true の場合、OLAP で使用する時間ディメンションデータの作成を有効にします (四半期、週、またはその他の期間に基づいてレポートを作成するため)。<br>**注:** OLAP 機能は廃止されました。 |
| tree_picker | True/False | 階層テーブルへの参照フィールド | ツリー表示 (場所など) に参照値の階層を表示します。<br>**注:** モバイルアプリケーションを使用している場合、ツリー表示階層は参照フィールドに表示されません。 |
| ts_weight | 整数値 | 任意のフィールド | テキスト検索の対象となるフィールドでの一致の相対的な重要度を制御します。詳細については、「フィールドの相対的な重みの設定」を参照してください。 |
| types | セミコロン (「;」) で区切られた有効な要素タイプのリスト | field_name フィールド | フィールドの表示を指定されたタイプに制限します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 値 | ターゲット要素 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| update_exempt | True/False | update_synch が true に設定されているテーブルの任意のフィールド | 存在するか true の場合、レコードの残りの部分への更新をスキップせずにこのフィールドを変更できます。ソフトウェアのアップグレード中、このフィールドの値は保持されますが、残りのレコードはアップグレードを受け取ります。デフォルトでは、追跡対象テーブルの [アクティブ] フィールドは、属性が存在しない場合でも update_exempt として扱われます。 |
| update_synch | True/False | 任意のテーブル | テーブルの変更が更新セットで追跡されることを示します。管理者はこの属性を変更できません。データを移行するには、別の ServiceNow インスタンスからのインポート を使用します。 |
| use_document_viewer | True/False | 任意のテーブル | 存在するか true の場合、ユーザーはファイルを自分のファイルシステムに直接ダウンロードするのではなく、プラットフォーム内のドキュメントビューアでサポートされている添付ファイルを開くことができます。 |
| use_workflow | True/False | 配送計画があるか、またはワークフローを使用するテーブル | 存在するか true の場合、配送計画の代わりにワークフローが使用されます。 |
| user_preference | True/False | 任意のフィールド | 存在するか true の場合、通常のデフォルト値の代わりに任意のユーザー設定が使用されます。 |

### Glide 期間の形式の変更

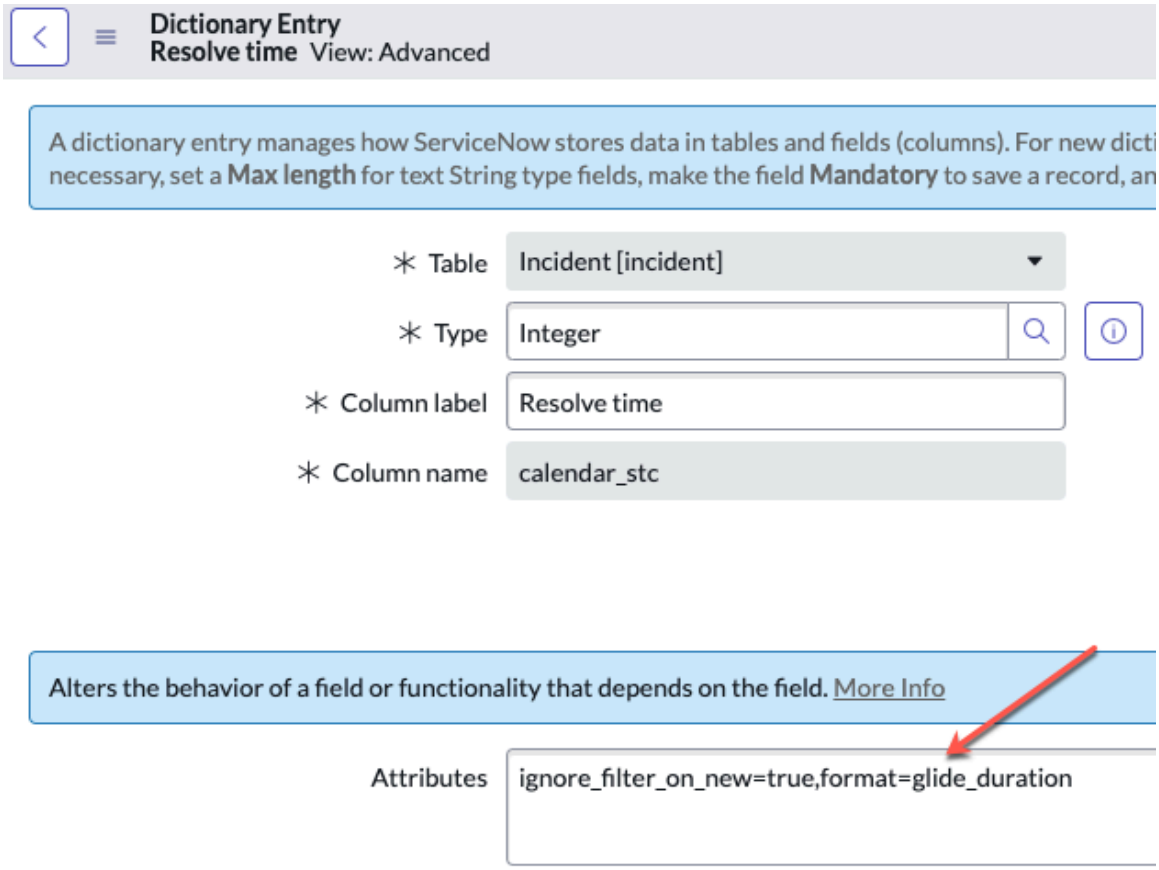
ミリ秒単位で表示されるフィールド (インシデントテーブルの「解決時間」など) を期間形式 (月/日/時間/秒) に変換するには、辞書の属性フィールドに format=glide_duration と入力します。

値は期間としてリストに表示され、計算の構成機能で使用できるようになりました。これは、平均修理時間などの ITIL KPI を説明するために役立つ場合があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド辞書

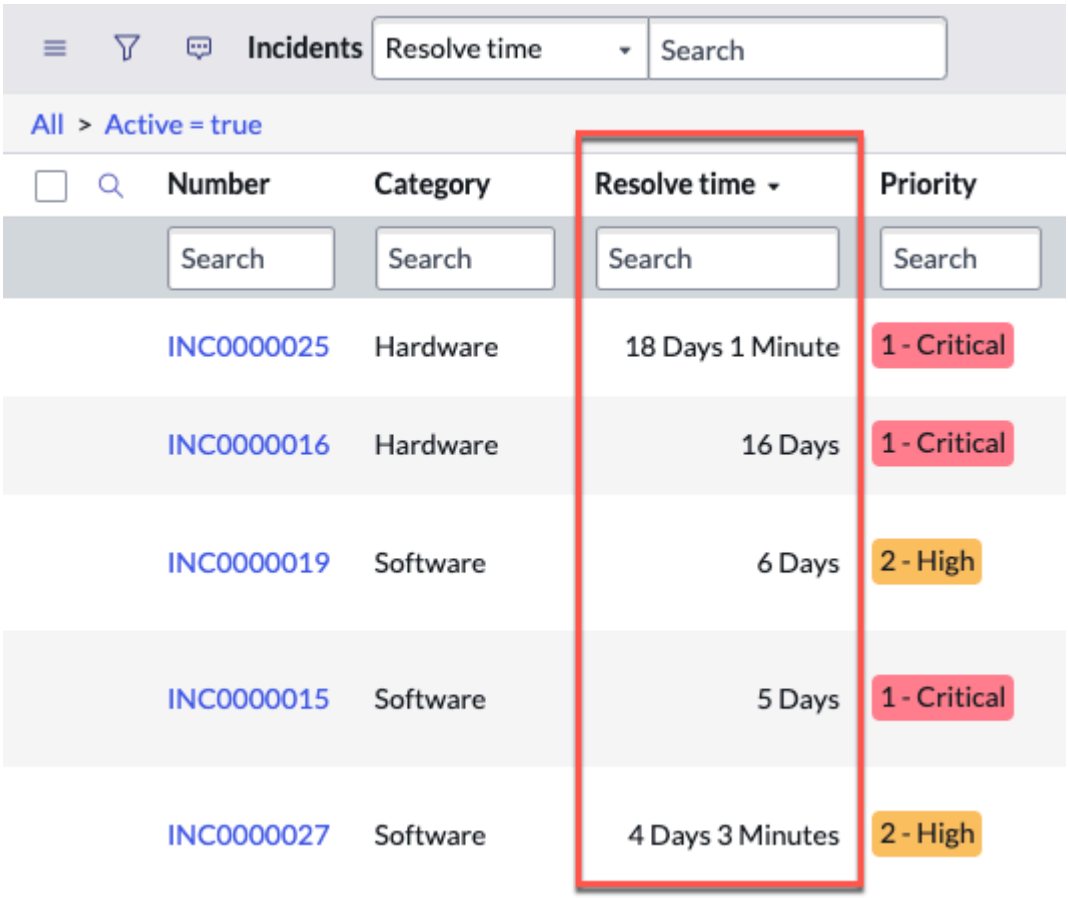



リスト内の結果：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスト内の結果




テーブルの作成

管理者とアプリケーション開発者は、アプリケーションデータを保存するカスタムテーブルを作成できます。テーブルを作成した後、フィールドタイプとフィールドラベルを変更することもできます。

始める前に
必要なロール：管理者

新しいテーブルを作成する前に、必ずライセンスとエンタイトルメントを確認してください。詳細については、「ライセンス」を参照してください。

このタスクについて
Now Platform アプリケーションサブスクリプションにはカスタムテーブルエンタイトルメントが含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用管理者がサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、以下を参照してください Map custom tables to a product subscription in Subscription Management 。

**注:**
ツールを使用してアプリケーションを構築する場合は、テーブルを作成することをお勧めします。詳細については、「アプリケーションの構築」を参照してください。インスタンス内の不要なテーブルや無関係なテーブルの存在を最小限に抑えるために、テーブルを作成し過ぎないようにしてください。管理タスクを最小限に抑え、アップグレード時間を短縮するために必要なテーブルのみを作成します。[sys_choice] テーブルは拡張しないでください。[sys_choice] テーブルの拡張はサポートされていません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > テーブル.
2. [新規] をクリックして、フォームに入力します。

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | テーブルの一意のラベル (「ラップトップ」や「 シンクライアント」 など) を入力します。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。[ラベル] フィールドを更新すると、現在の言語の言語ファイルのラベル レコードも更新されます。「データ辞書テーブル」のフィールドラベルを参照してください。 |
| 名前 | テーブル名を編集します。これはテーブルのラベルとプリフィックスに基づいて、次のように自動的に入力されます。<br>◦ スコープ対象のアプリケーションのテーブルの場合、名前にはアプリケーションの一部であることを示す名前空間識別子がプリフィックスとして付けられます。<br>◦ グローバルアプリケーションのテーブルの場合、名前には文字列「`u_`」がプリフィックスとして付けられます。<br>◦ スコープ対象のアプリケーションのリモートテーブルの場合、名前にはリモートでアプリケーションの一部であることを示す名前空間識別子と文字列 `st_` がプリフィックスとして付きます。<br>◦ グローバルアプリケーションのリモートテーブルの場合、名前には文字列 `u_st_` がプリフィックスとして付きます。<br>プリフィックスは変更できません。ただし、残りのテーブル名を変更することはできます。名前には、小文字、英数字の ASCII 文字およびアンダースコア (_) だけを使用できます。 |
| 拡張テーブル | 拡張するテーブルを選択します。ベーステーブルを拡張すると、元のテーブルのすべてのフィールドが組み込まれ、新しいテーブルのシステムフィールドが作成されます。拡張可能とマークされたテーブルは、同じスコープ内にある場合、または他のスコープからの構成が許可されている場合に拡張可能です。<br>[スクリプト可能テーブル **(Scriptable Table)]** チェックボックスを選択して、このテーブルをスクリプト可能と指定した場合、このオプションは使用できません。 |
| アプリケーション | [読み取り専用] このテーブルに関連付けられたアプリケーションを表示します。アプリケーションで作業している場合、またはアプリケーションレコードからテーブルを作成している場合、フィールドはデフォルトでそのアプリケーションに設定されます。それ以外の場合は、このフィールドのデフォルトは [グローバル] です。モジュールやセキュリティルールなど、テーブルレコードから作成されたすべてのレコードは、デフォルトでこのアプリケーションに割り当てられます。 |
| リモートテーブル | このテーブルをリモートテーブルとして指定するオプション。リモートテーブルは、外部データソースからデータを取得するためのスクリプト定義を関連付けることができるテーブルです。標準の内部テーブルとは異なり、現在のインスタンスにあるレコードからはデータは取得されません。<br>このチェックボックスをオンにすると、スクリプト可能テーブルを他のテーブルから拡張できないため、[拡張テーブル **(Extends Table)]** オプションにアクセスできません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>スクリプト可能テーブルの詳細については、以下を参照してください。<br>○ リモートテーブルを使用した外部データの取得とキャッシュ<br>○ リモートテーブルの作成<br>○ リモートテーブルのスクリプト定義の作成 |
| モジュールを作成 | チェックボックスをオンにして [モジュールをメニューに追加 **(Add module to menu)**] フィールドに入力して、アプリケーションメニューにリストモジュールを作成します。<br>このオプションは、テーブルを作成する場合にのみ使用できます。 |
| モジュールをメニューに追加 | 既存のメニューを選択するか、[新規作成] を選択して新しいメニュー名を入力します。このオプションは、[モジュールを作成] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。 |

**3.** [列] セクションで、[テーブルの列] 埋め込みリストを使用してテーブルに列を追加します。

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| 列ラベル | 列に一意のラベルを定義します。ラベルは、列のリストヘッダーとフォームフィールドに表示されます。[列のラベル] フィールドを更新すると、現在の言語の言語ファイルのラベルも更新されます。 |
| タイプ | [必須] 列のフィールドタイプを定義します。「フィールド管理」および「フィールドタイプ」を参照してください。既存のデータを保持するには、同じ基本タイプの間のフィールドのみを変更します ( **Choice** と **String** など)。カスタムフィールドへの変更によってデータが失われると、警告が表示されます。ベースシステムフィールドを変更することはできません。変更するとデータが失われます。 |
| 参照 | 参照テーブル名を入力して、フィールドを参照フィールドタイプにします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>このフィールドでは、動的参照の作成が有効になっています。したがって、既存のテーブルと一致しないテーブル名を入力すると、現在のテーブルレコードに変更を保存する時点で新しいテーブルが作成されます。現在のテーブルのアプリケーションナビゲーターにモジュールがある場合、新しく作成されたテーブルのモジュールが同じアプリケーションメニューに自動的に作成されます。 |
| 最大長 | [文字列フィールドのみ] フィールドの長さを制限します。長さが 254 未満のテキストフィールドは、1 行のテキストフィールドとして表示されます。255 文字以上になると、複数行のテキストボックスとして表示されます。<br>**注:**<br>○ この値は、フィールドの [タイプ] が [文字列] である場合にのみ変更できます。その他のタイプのフィールドでは、変更は無視されます。<br>○ Oracle インスタンスでは、文字列フィールドの最大長を 4000 より大きくすることはできません。これは、Oracle で CLOB データタイプが必要になるためです。このサイズを超えて増加するには、ServiceNow テクニカルサポートでインシデントをログに記録し、変更を要求してください。<br>○ データが失われないようにするには、新しいアプリケーションを開発する場合にのみ文字列フィールドの長さを短くし、フィールドにデータが含まれているときは短くしないでください。カスタムフィールドへの変更によってデータが失われると、警告が表示されます。ベースシステムフィールドでは、データの損失が起きるような変更を行うことはできません。 |
| デフォルト値 | 新しいレコードのフィールドのデフォルト値を指定します。この値が正しいフィールドタイプを使用していることを確認してください。たとえば、整数フィールドではデフォルト値に *2* を使用できますが、デフォルト値に *two* を使用することはできません。このような値は、辞書オーバーライドで上書きできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| 表示 | このフィールドが表示値 であるかどうかを示します (このテーブルを参照するレコードに表示されます)。<br>注:<br>このフィールドをリストとフォームのどちらに表示するかを制御するオプションではありません。 |

**4.** [コントロール] セクションで、追加のテーブルオプションを定義します。

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| 拡張可能 | 他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするには、チェックボックスをオンにします。追加の子テーブルが作成されないようにするには、チェックボックスをオフにします。既存の子テーブルは変更されません。 |
| ライブ フィード | テーブルのレコードフィードを有効にするには、チェックボックスをオンにします。このオプションにより、[ライブフィードを表示] アイコン ( ) がフォームヘッダーに追加されます。 |
| 自動番号 | チェックボックスをオンにして、自動付番フィールドをテーブルに追加する場合の番号形式を定義します。このチェックボックスは、テーブルに数値形式が存在しない場合にのみ使用できます。それ以外の場合は、既存の数値形式を編集できます。 |
| アクセス制御ルールを作成 | チェックボックスをオンにして、[ユーザーロール] フィールドに入力して、テーブルの基本セキュリティルールを作成します。 |
| ユーザーロール | 新しい名前を入力するか、このテーブルにアクセスするために必要な既存のユーザーロールを選択します。このオプションは、[アクセス制御ルールを作成] チェックボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。 |

**5.** [アプリケーションのアクセス] セクションをクリックして、テーブルのスコープ保護を定義します。詳細については、「アプリケーションのアクセス設定」を参照してください。

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス可能 | テーブルにアクセスできるアプリケーションスコープを指定します。<br>すべてのアプリケーションスコープ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| | 任意のアプリケーションスコープからアクセスできます。<br>このアプリケーションスコープのみ<br>現在のアプリケーションスコープからのみアクセスできます。 |
| 他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可 | このチェックボックスがオンの場合、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトが、このテーブルに格納されているレコードを読み取ることができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのデータに対するクエリを実行できます。他の API レコード操作を許可するには、先に読み取りアクセスを選択してください。 |
| 他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトがこのテーブルにレコードを作成できるようになります。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルに新しいレコードを挿入できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトはこのテーブルにレコードを作成できなくなります。 |
| 他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可 | このチェックボックスがオンの場合、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトが、このテーブルに格納されているレコードを変更できるようになります。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのフィールド値を変更できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトはこのテーブルに格納されているデータを変更できなくなります。 |
| 他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトが、このテーブルからレコードを削除できるようになります。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケー |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| コントロール | 説明 |
| --- | --- |
| | ション内のスクリプトでこのテーブルからレコードを削除できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトはこのテーブルからレコードを削除できなくなります。 |
| Web サービスからのアクセス許可 | このチェックボックスをオンにすると、ユーザーはこのテーブルに対して受信 Web サービス Web サービスクエリを実行できるようになります。このオプションは設計時保護と実行時保護の両方を提供します。このチェック ボックスをオンにしている場合でも、クエリを実行するユーザーは、このテーブルにアクセスするための適切な権限を持っている必要があります。<br><br>このチェック ボックスをオフにすると、ユーザーはこのテーブルに対して Web サービス クエリを実行できません。 |
| 構成を許可 | このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのアプリケーションが、このテーブルの機能を変更する構成レコードを作成できるようになります。たとえば、アプリケーション設計者は、ビジネスルール、クライアントスクリプト、または UI アクションの [テーブル] リストからこのテーブルを選択できます。このオプションは設計時保護を提供します。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、構成レコードを作成するときにアプリケーション設計者がこのテーブルを選択できなくなります。 |

6. [送信] をクリックします。

### 次のタスク

テーブルのフィールドラベルまたはテーブル自体のラベルを変更するには、次のタスクを実行します。

1. フィールドラベル [sys_documentation] テーブルに移動し、テーブルをフィルタリングして、変更するフィールドを含むテーブルを表示します。テーブル自体を表すラベルを見つけるには、要素が空になっているレコードをフィルタリングします。
2. 変更するフィールドレコードを開き、更新します。各フィールドの説明については、「フィールドラベルテーブル」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### グローバルなデフォルトフィールド

新しいカスタムテーブルを作成すると、いくつかのフィールドが [テーブルの列] 埋め込みリストに表示されます。すべてのテーブルで、必須のシステムフィールドが自動的に追加されます。これらのフィールドは、削除や変更はできません。

別のテーブルを拡張するテーブルの場合、親テーブルのフィールドは、現在のテーブルの [テーブルの列] 埋め込みリストにも表示されます。これらのフィールドを変更する場合、親テーブルのフィールドに対するすべての変更は、現在のテーブルだけでなく、すべての子テーブルにも影響することに注意してください。

次の必須システムフィールドがすべてのテーブルに追加されます。

#### 必須システムフィールド

| フィールド | タイプ | 説明 |
|---|---|---|
| クラス [sys_class_name] | システムクラス名 | テーブルが拡張可能である場合、どの子テーブルにレコードが含まれているかを示す文字列フィールド。 |
| 作成済み [sys_created_on] | 日付/時刻 | レコードがいつ作成されたかを示すタイムスタンプフィールド。 |
| 作成者 [sys_created_by] | 文字列 | レコードを作成したユーザーを示す文字列フィールド。 |
| Sys_id [sys_id] | Sys ID | レコードの一意のレコード識別子。 |
| 更新 [sys_mod_count] | 整数 | レコード作成以降のこのレコードの更新回数をカウントする数値フィールド。 |
| 更新者 [sys_updated_by] | 文字列 | レコードを更新した直近のユーザーを示す文字列フィールド。 |
| 更新日時 [sys_updated_on] | 日付/時刻 | 最新の更新日時を示すタイムスタンプフィールド。 |

### テーブルの削除

管理者は、不要になったカスタムテーブルを削除することができます。たとえば、ビジネス要件が変更されたために開発中のアプリケーションからテーブルを削除するような場合です。

テーブルは、管理者が作成した場合はカスタムになり、システムのアップグレードやプラグインのアクティブ化には含まれません。カスタムテーブル名は常に `u_` で始まり、スコープテーブルの場合は `x_` で始まります。

**⚠ 警告:**
ベースシステムテーブルは削除できません。このようなテーブルを誤って削除してしまった場合、インスタンスをアップグレードすると自動的に再作成されます。

テーブルに、そこから拡張されたテーブルが関連付けられている場合、そのテーブルは削除できません。

テーブル自体を削除する前に、まずテーブル内のすべてのレコードを削除する必要があります。最初にレコードを削除しないと、親テーブルがレコードを参照している場合、親テーブルでエラーが発生する可能性があります。レコードを削除すると、親テーブルから参照が削除されます。詳細については、「テーブル内のすべてのレコードの削除」を参照してください。

### カスタムテーブルの削除

カスタムテーブルが不要になった場合は、テーブル内のすべてのレコードを削除した後でテーブルを削除できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > テーブル.
2. 削除するテーブルを開きます。
3. [すべてのレコードを削除 **(Delete All Records)]** を選択します。

   テーブルを削除する前にすべてのレコードを削除すると、ビジネスロジックが正しく実行されます(参照カスケードルールや他のビジネス削除ルールなど)。最初にテーブルからすべてのレコードを削除しなかった場合は、テーブルの削除によって影響を受ける他のレコードまたはテーブルを手動で修正する必要があります。カスケード削除もこのステップで処理されます。

4. [削除] を選択します。
   [ 削除 ] ボタンは、u_ (グローバル) またはx_ (スコープ対象) で始まるカスタムテーブルでのみ使用できます。
5. 確認ダイアログボックスで、`delete` と入力し、**[OK]** をクリックします。

   テーブルと、テーブルを参照する次のようなアイテムがすべて削除されます。

   - 選択リストアイテム
   - フォーム、フォームセクション、リスト、および関連リスト
   - レポートとパフォーマンスアナリティクスウィジェット
   - テーブルを参照する参照フィールド
   - アクセス制御

関連情報

テーブルの削除

テーブル内のすべてのレコードの削除

テーブル自体を削除せずに、テーブルのすべてのレコードを削除することもできます。たとえば管理者は、インシデントテーブル自体を削除せずに、テストインスタンスのインシデントをすべて削除したい場合があります。

このタスクについて
テーブルから大量のレコード削除を準備する際には、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えるために、次のガイドラインを考慮してください。

- 1 回の削除アクションで削除するレコードの数を制限して、テーブルがロックされないようにします。「setLimit」で説明されている `setLimit()` メソッドを使用します。
- この削除の結果として過剰な数のビジネスルールがトリガーされるのを最小限に抑えます。「setWorkflow」で説明されている `setWorkflow(Boolean e)` メソッドを使用します。

**注:**
テーブルのすべてのレコードを削除すると、そのテーブルを拡張するテーブルのレコードも削除されます。

テーブルレコードを削除するには、いくつかの方法があります。削除するレコードの数に応じて、環境で最も効率的な方法を選択してください。この方法は慎重に使用してください。この手順を実行する前に、レコードが不要であることを確認してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

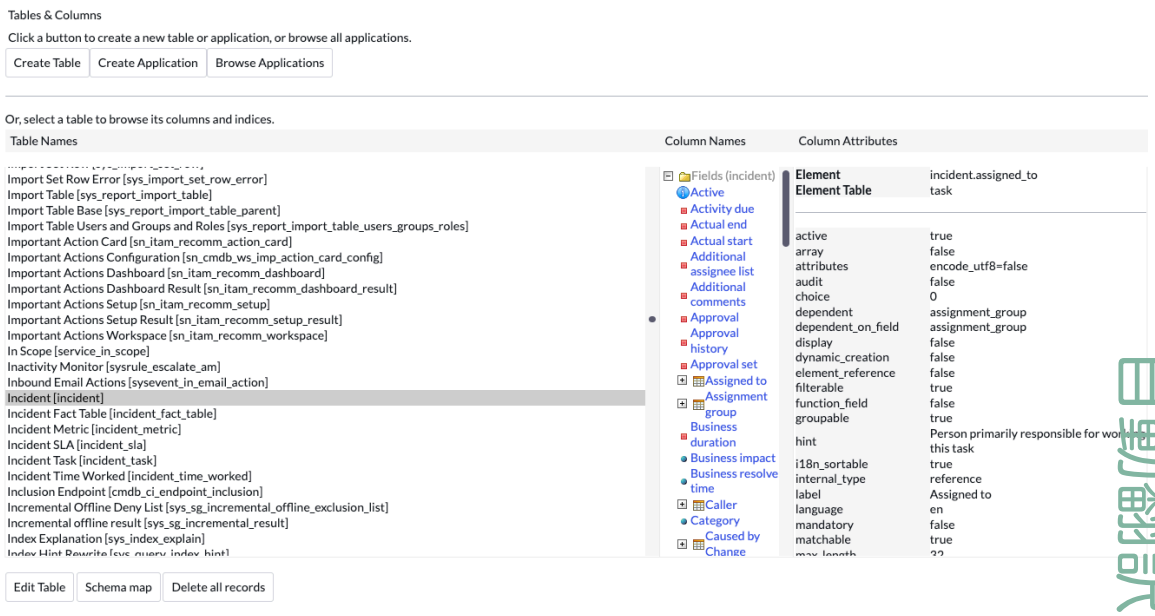
手順

- [テーブルと列] モジュールから、次の手順を実行します。

1. 移動先 システム定義 > テーブルと列.

2. レコードを削除するテーブルを選択します。

   注:
   レコードを削除するテーブルがスコープ対象のアプリケーションに属している場合は、スコープピッカーでそのアプリケーションを選択します。または、スコープ対スコープアクセスを構成することもできます。「限定呼び出し元アクセス特権の設定」を参照してください。




   注:
   システムテーブルには、このレコードの削除方法が許可されていないものがあります。たとえば、ユーザーレコード [sys_user] をすべて削除することはできません。テーブルのリストには、レコードを削除できないシステムテーブルは含まれていません。

3. [すべてのレコードを削除] をクリックします。

4. 確認ダイアログボックスで、delete と入力し、**[OK]** をクリックします。

- リストビューから、次の手順を実行します。

1. リスト v2 で、テーブルレコードを表示するリストビューに移動し、コンテキストメニューをクリックして [表示] に移動します。
2. リスト v3 で、フッターの **[<数値>** 行/ページ] をクリックします。
3. 表示する最大数を、1 ページあたりの行数で設定します。
4. ページ上のすべての行を選択します。
5. [選択した行のアクション] をクリックし、[削除] をクリックします。
6. すべてのレコードが削除されるまで、ページ上のすべての行の削除を続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
選択したテーブルにはレコードがありません。テーブルはまだ存在し、他のテーブル上のそのテーブルへの参照 (ビジネスルールや参照フィールドなど) は保持されます。

### テーブルインデックスの作成

インデックスを構築すると、テーブルに保持されているデータに簡単にアクセスできます。インデックスは、データベース内で情報が格納されている場所へのポインターを作成することで、順序付けされていないテーブルを整理し、テーブル内の列のクエリを効率的に高速化します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

**注:**
効果的なインデックスを構築するには、データベースアーキテクチャに関する専門知識が必要です。この専門知識がない場合は、専門知識がある人に相談してください。

手順

1. 次のいずれかの方法で、インデックスクリエータにアクセスします。
2. インデックスに含めるフィールドを選択します
   フィールドを選択する順序は、インデックスの動作に影響します。データベース設計の専門知識がない場合は、専門知識がある人に相談してください。
3. 一意のインデックスを作成するには、[一意のインデックス] チェックボックスをオンにします。
4. [インデックスの作成] を選択します。
   [テーブル名] フィールドは参照専用です。デフォルトを上書きしても効果はありません。

### カスタムインデックスの削除

カスタム インデックスをテーブルから削除して削除します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > テーブル.
2. 削除するカスタムインデックスを含むテーブルを選択します。
3. [テーブル] フォームで、[データベースインデックス] 関連リストを選択します。
4. 一覧で、削除するカスタム インデックスを選択します。
5. [データベース インデックス] フォームで、[ 削除] を選択します。

タスクの結果
カスタム インデックスがテーブルから削除されます。

### 多対多のテーブル関係の作成

多対多の関係では、リストは単一のフィールドではなく、エントリのリストを指すことができます。

始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ナレッジベース記事が関連する構成アイテムのリストを指している場合は、関連リストが使用されます。ただし、すべてのリストを関連リストとして使用できるわけではありません。リストを別のリストに関連付けるには、両方のテーブルを参照する多対多の関係が存在する必要があります。

多対多の定義 [sys_m2m] テーブルを使用すると、管理者は多対多のカスタム関係を作成できます。

多対多テーブルはカスタムテーブルとは見なされず、カスタムテーブルの割り当てにはカウントされません。

手順

1. ナビゲーションフィルターで「sys_m2m.list」と入力します。
2. [新規] をクリックします。
3. **[From** テーブル] フィールドで、親テーブルを指定します。
4. **[To** テーブル] フィールドで、子テーブルを指定します。
   [多対多] フォームでは、他のフィールドに推奨値が自動的に入力されます。
5. オプション: 必要に応じて、他のフィールド値を編集します。

> **注:**
> [多対多] テーブル名は 30 文字以内にする必要があります。

関連情報

デフォルトの多対多関係の参照

### デフォルトの多対多関係の参照

多対多の関係には、デフォルトで定義されているものがあります。

基本システムで利用可能な多対多の関係を参照する場合、管理者はナビゲーションフィルターに「sys_collection.list」と入力します。

> **注:**
> このテーブルは、ベースシステムで多対多の関係を表示する場合にのみ使用してください。新しい関係を作成するには、常に多対多リレーションの定義テーブルを使用します。

## タスクテーブルの使用

タスク [task] は、ベースシステムで提供されるコアテーブルの 1 つです。

タスク [task] テーブルには、タスクを拡張する各テーブル (インシデント [incident] テーブルや問題 [problem] テーブルなど) で使用される、一連の標準フィールドがあります。さらに、タスクを拡張するテーブルはいずれも、タスクを推進するためにタスク固有の機能を利用できます。

Planned Task プラグインは、計画タスク [planned_task] テーブルを提供します。このテーブルは、タスク [task] テーブルを拡張して、期間と工数を測定するタスクのフィールドを増やします。

### タスクテーブルの構造

タスクテーブルの構造は、タスク関連データを整理して保存するためのフレームワークを提供し、広範なカスタマイズオプションを含んでいます。

### 重要なタスクテーブルのフィールド

タスクテーブルは、Incident Management、Problem Management、Change Management などのコア ITSM アプリケーションのフィールドを提供する基底クラスです。タスクテーブルを拡張するアプリケーションはすべて、これらのフィールドを共有します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| ラベル | 名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|---|
| 有効 | active | ブーリアン | タスクに対して作業がまだ行われているかどうか、またはタスクの作業が完了しているかどうかを指定します。デフォルトでは、アプリケーション固有のビジネスルールのみがこのフィールドの値を設定します。たとえば、*incident autoclose*ビジネスルールは、1 日間更新されていない解決済みのインシデントをクローズします。 |
| 追加コメント | コメント | journal_input | タスクレコードに関するコメントを表示して入力できるようにします。各コメントは [アクティビティ] フィールドに挿入されます。詳細については、「ジャーナルフィールドタイプ」を参照してください。 |
| 承認履歴 | approval_history | journal | レコードの承認履歴を表示します。詳細については、「承認」を参照してください。 |
| アサイン先 | assigned_to | 参照 | タスクを完了するためにアサインされたユーザーを指定します。デフォルトでは、このフィールドは参照修飾子を使用して、itil ロールを持つユーザーのみを表示します。<br><br>アプリケーションの中には、親参照修飾子をオーバーライドして関連するユーザーを表示するものがあります。たとえば、サービスオーダーテーブルとプロジェクトタスクテーブルは、スキルに基づいてユーザーをフィルタリングします。 |
| 作成日時 | sys_created_on | glide_date_time | タスクレコードが作成された日付と時刻が表示されます。 |
| 説明 | 説明 | 文字列 | 実施する作業の説明を複数行で表示し、入力できるようにします。 |
| エスカレーション | escalation | 整数 | タスクが開いてからの時間を示します。エスカレーションは、タスクが各エスカレーションステータスに留まる期間を指定するサービスレベルアグリーメントを使用して動的に入力されます。エスカレーション状態は、[標準 **(Normal)]**から[中]、[高]の順に移行し、最後に[期限切れ]になります。レコードリストでは、各タスクをエスカレーションステータス別に色分けしています。 |
| 番号 | 番号 | 文字列 | 各タスクレコードの識別番号を表示します。このフィールドはタスクテーブルの表示値です。タスクが作成される際に、この番号が生成されます。<br><br>番号の生成を管理するには、「レコードの番号付け」を参照してください。 |
| オープン | open_at | glide_date_time | 手動で最初にタスクレコードを開いた日時を表示します。 |
| 優先度 | priority | 整数 | アサイニーに対するタスクの優先度を指定します。デフォルトでは、*calculatePriority* ビジネス |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|---|
| | | | ルールは [影響度] と [緊急度] の値に基づいてこの値を計算します。レコードリストでは、各タスクを優先度別に色分けしています。 |
| 簡単な説明 | short_description | 文字列 | タスクの簡単な説明を表示して入力できるようにします。これは、人間に判読可能なレコードタイトルにします。 |
| ステータス | state | 整数 | タスクのステータスの選択リストを表示します。<br>• 処理待ち<br>• オープン<br>• 対応中<br>• 完了してクローズ<br>• 未完了でクローズ<br>• スキップしてクローズ<br><br>アプリケーションは通常、辞書オーバーライドを使用してアプリケーション固有のステータスを表示します。 |
| Sys ID | sys_id | GUID | 一意のレコード識別子 を表示します。 |
| タスクタイプ | sys_class_name | sys_class_name | 子クラスに対応するタスクのタイプを指定します。子テーブルにレコードが作成されると、この値が設定されます。 |
| 作業時間 | time_worked | タイマー | フォームビューでレコードが開いている時間を測定するタイマーを表示します。 |
| ウォッチリスト | watch_list | glide_list | レコードが更新されたときにメール通知/SMS 通知 を受信するユーザーを指定します。デフォルトでは、Incident、Change、および Service Catalog アプリケーションのみが、このフィールドにリストされているユーザーに通知します。その他のタスクベースのアプリケーションでは、このフィールドにリストされているユーザーに送信されるカスタムメール通知を作成する必要があります。 |
| 作業メモ | work_notes | journal_input | ITIL ユーザーのみに表示できるコメントを表示して入力を許可します。各コメントは [アクティビティ] フィールドに挿入されます。詳細については、「ジャーナルフィールドタイプ 」を参照してください。 |
| 作業メモリスト | work_notes_list | glide_list | 作業メモがレコードに追加されたときにメール通知/SMS 通知 を受信するユーザーを指定します。デフォルトでは、Change、Problem、および Service Catalog アプリケーションのみが、このフィールドにリストされているユーザーに通知します。その他のタスクベースのアプリケーションでは、このフィールドにリストされているユーザーに送信されるカスタムメール通知を作成する必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ジャーナルフィールド

ジャーナルフィールドは、タスクの処理中に変更とコメントのログを連携して作成します。

**注:**
ジャーナルフィールドは、監査対象のテーブルでのみ機能します。

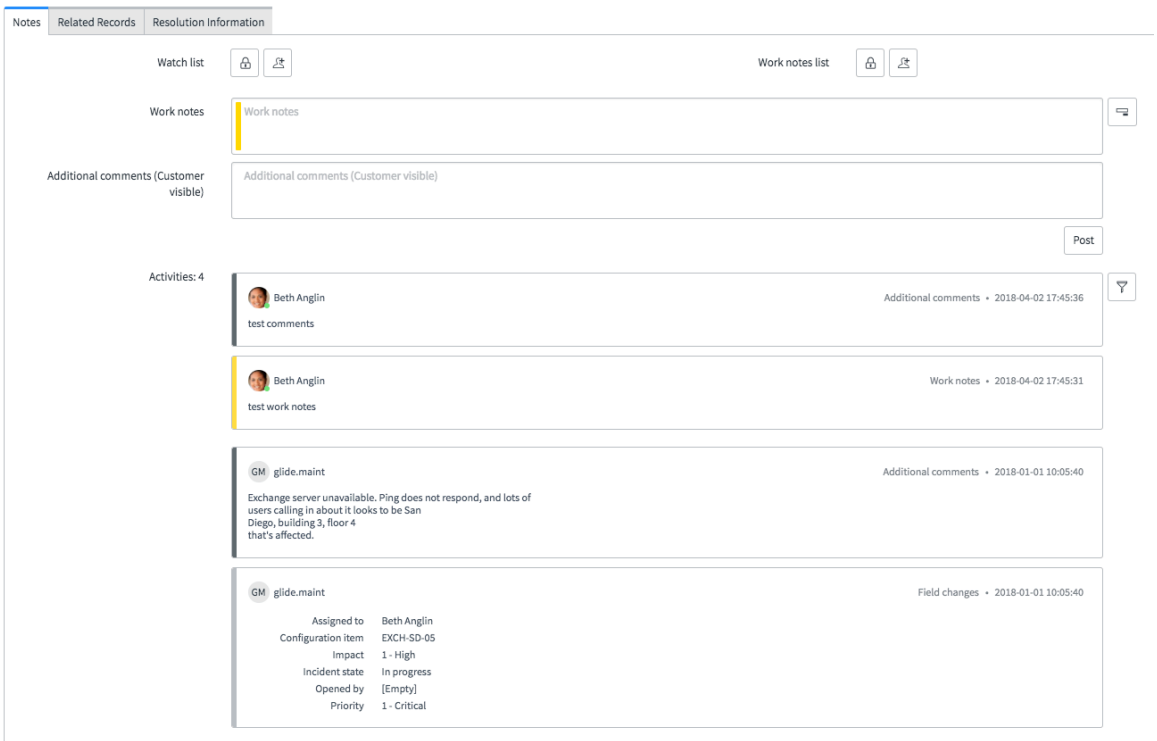
journal_input タイプのフィールドは複数行のテキストボックスで、保存時に [アクティビティ] フィールドに注釈付きでコメントを追加します。TinyMCE が有効になっている場合は、これを使用してジャーナルフィールドのフィールドテキストをカスタマイズできます。

#### ジャーナルへの入力を受け入れるフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 追加コメント | 任意のユーザーが更新できます。 |
| 作業メモ | ITIL ユーザーが更新できます。 |

これらのコメント、およびレコードに対する変更や、レコードが原因で送信されたメール通知は、アクティビティフォーマッターに表示され、フィールドと同じようにフォームに追加できます。

ジャーナルフィールドのアクティビティフォーマッター




### リマインダーテーブル

リマインダー [reminder] テーブルは、タスクのリマインダーを自動生成する方法を提供します。

インシデント [incident] テーブルなど、タスクテーブルを拡張するすべてのテーブルで、リマインダー [reminder] テーブルを使用できます。

リマインダーを関連リストとしてインシデントフォームに追加するには、フォームのコンテキストメニューを開き、次の場所に移動します。 構成 > 関連リストをクリックし、[ **Reminders->Task**] を追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

デフォルトでは、管理者のみがリマインダーレコードを作成または変更できます。管理者以外のユーザーがリマインダーを作成できるようにするには、作成および読み取り ACL ルールをリマインダー [reminder] テーブルに追加し、ユーザーのロールを指定する必要があります。

リマインダーテーブルにアクセスするには、フィルターナビゲーターに reminder.do と入力します。

リマインダーテーブル

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| タスク | 親タスクレコードを参照します。 |
| ユーザー | システムにログインしたユーザーを指定します。 |
| 後で通知する | リマインダーを送信するまでの時間を指定します。使用可能な値は、**[15** 分]、**[30** 分]、**[1** 時間]、および **[2** 時間] です。必要に応じて、このフィールドに値を追加できます。<br>**注:**<br>システム内部では、値は常に分に変換されてから [後で通知する] フィールドに保存されます。 |
| 前 | 親タスクレコードの日付フィールドを参照します。<br>**注:**<br>[アクティビティ期限] フィールドと **[SLA** 期限] フィールドは従来のフィールドです。値は [不明] となり、使用できません。[期日 **(Due date)]** フィールドと [フォローアップ **(Follow up)]** フィールドのみが使用可能です。<br>[前 **(Before)]** フィールドの使用に関する次の詳細に注意してください。<br>• 親タスクレコードでは、指定するフィールドに値が含まれている必要があります。たとえば、[期日 **(Due date)]** を選択した場合、リマインダーを保存するには、親タスクレコードに [期日 **(Due date)]** の値が必要です。<br>• 次の手順を実行すると、[期日 **(Due date)]** または [フォローアップ **(Follow up)]** 以外の日付フィールドを使用できます。<br>**1.** [前 **(Before)]** フィールドで、[期日 **(Due date)]**または [フォローアップ **(Follow up)]** のいずれかを選択します。<br>**2.** リマインダーを保存します。<br>**3.** 次のいずれかの方法を使用して、リストビューでリマインダーを見つけます。<br>▪ 親タスクレコードでフォームを設定し、関連リストとしてリマインダーを追加します。<br>▪ reminder.do に移動し、リマインダーを見つけます。<br>**4.** リストビューで、[前 **(Before)]** フィールドの値を親タスクとは異なる日付フィールドに変更します。フィールド名を使用し、フィールド |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リマインダーテーブル (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | に値があることを確認します。たとえば、代わりに [作業開始日時] フィールドを使用するには、「work_start」と入力します。<br><br>[前 **(Before)]** フィールドの値を [期日 **(Due date)]** または [フォローアップ **(Follow up)]** のいずれかに戻さないと、リマインダーフォームで追加の変更を行うことはできません。 |
| 使用 | リマインダーを送信する方法を指定します。利用可能なオプションは [メール送信] と **[Outlook** 予定表] です。 |
| 件名 | リマインダーの件名または理由を指定します。フィールドに入力できる最大文字数は 100 です。 |
| メモ | リマインダーに関するコメントを入力できるスペースを提供します。このフィールドに入力できる最大文字数は 8000 です。 |

### タスクテーブルの変更

タスクテーブルに加えられた変更は、すべての子テーブルに適用されます。

行われている変更が、すべての子テーブルに適切であることを確認してください。フィールドの追加は、そのフィールドが不要なテーブルでは非表示にできるため、影響の少ない変更です。ただし、フィールドがテーブル間で使用されている場合、フィールドを削除すると不用意にデータが失われる可能性があります。

**注:**
タスクテーブルの選択リストに選択リストエントリを追加する際には、エントリの値が一意であることを確認し

辞書オーバーライドを使用すると、すべての子テーブルに適用されない方法で、フィールド定義の一部を変更することができます。

### タスクの操作

タスクテーブルは、タスクを作成して完了し、インスタンス内のワークフローを追跡するための手段を提供します。

### タスクの作成

タスクは、タスクテーブルに直接作成されるわけではありません。タスク子テーブルに作成されます。

#### 手順

1. ナビゲーションフィルターで、「task.list」と入力します。
2. タスクレコードリストの [新規] ボタンを選択すると、タスクインターセプターが起動します。
3. タスクを拡張するテーブルを選択します。
4. タスクに関する情報をフォームに入力します。
5. [送信] を選択します。

### タスクワークフロー

管理者は、特定の条件を満たすタスクに適用する特定のワークフロープロセスを指定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

条件を満たすタスクが作成されると、ワークフローはプロセスをタスクに適用し、承認の申請、ユーザーへの通知、他のタスクの生成、スクリプト実行、その他の動作を実行します。

### タスクを完了するためのツール

タスクを完了するために利用できるツールがいくつかあります。

これらのツールは、タスクを拡張する任意のテーブルで実行できます。

- Approvals

  承認は、承認ルールに従って、手動または自動で承認者のリストに対して生成できます。承認はワークフローに組み込むことも、スタンドアロンにすることもできます。詳細については、「プロセスの承認」を参照してください。

  承認は、タスクを拡張しないテーブルで使用できます。

- アサイン

  アサインルールはユーザーまたはグループにタスクを自動的にアサインし、最適なチームメンバーが確実にタスクを処理できるようにします。詳細については「アサインルールの定義」を参照してください。

- サービスレベル

  サービスレベルアグリーメントは、タスクがオープンになっている時間を追跡し、割り当てられた時間内にタスクが完了するようにすることができます。

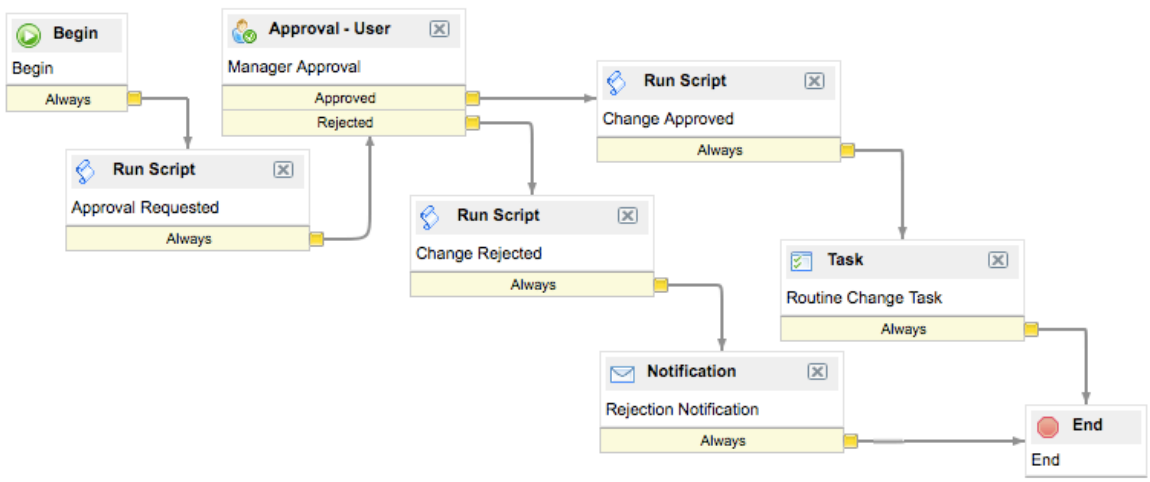
- 滞留アクティビティモニター

  滞留アクティビティモニターは、事前定義された期間タスクが未処理である場合に、ユーザーに通知してタスクが途中で失敗しないようにします。詳細については、「滞留アクティビティモニターの設定 (Setting Inactivity Monitors)」を参照してください。

- Workflow

  管理者は、特定の条件を満たすタスクに適用する特定のワークフロープロセスを指定できます。条件を満たすタスクが作成されると、ワークフローは自動プロセスをタスクに適用します。プロセスは、グラフィカルワークフローエディターで定義されます。

  グラフィカルワークフローエディター

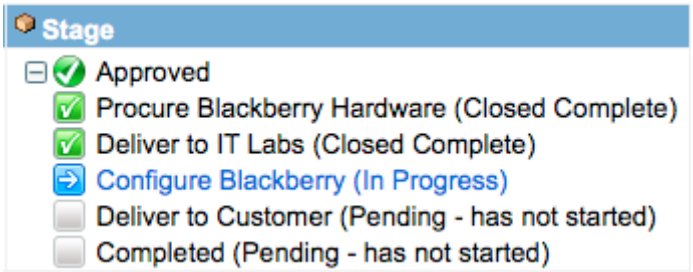



プロセスが実行されると、ワークフローフィールドとして指定されたフィールドが更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローフィールド




ワークフローはタスクに固有ではありませんが、タスク固有のワークフローアクティビティ (タスクアクティビティや承認アクティビティなど) があります。詳細については、「ワークフローの概要」を参照してください。

### アサインルールの定義

データルックアップルールとアサインルールを使用して、事前定義された条件に基づいて、タスクを自動的にユーザーまたはグループにアサインできます。

### アサインルールモジュール

アサインルールモジュールを使用すると、一連の条件が発生した場合に、assigned_to および assignment_group フィールドに自動的に値を設定できます。

アサインルールを実行するには、次の追加基準も満たす必要があります。

- タスクレコードが作成または更新されていること。フォーム上の保存されていない変更箇所にアサインルールは適用されません。
- タスクレコードのアサインを解除する必要があります。レコードでは、*assigned_to* または *assignment_group* フィールドのいずれかに値を格納することはできません。アサインルールは、既存のアサイン (デフォルト値で設定されたアサインまたは以前に実行されたアサインルールを含む) を上書きすることはできません。
- アサインルールは、テーブルと条件に一致する最初のルールです。複数のアサインルールが条件に一致する場合、順序値が最も小さいルールのみが実行されます。

### データルックアップルール

データルックアップルールは、割り当てフィールドだけでなく、任意のフィールド値を変更する汎用的な手段です。

データルックアップとレコード照合サポート では、アサインモジュールに比べて次の点が改善されています。

- アサインフィールドに限らず、任意のフィールド値を変更可能
- ルールが実行されるタイミングを定義するオプションの増加：
  - フォームの変更 (保存されていない変更箇所にアサインルールの適用を許可)
  - レコードの挿入
  - レコードの更新
- 既存の値を置き換えるオプション (デフォルト値を含む)

**注:**
データルックアップとアサインルールを同時に定義できます。データルックアップ定義オプションを使用して既存の値を置き換える場合を除いて、インシデントがアサインされた後、重複するルールはすべて無視されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

データルックアップ、アサイン、およびビジネスルール間の優先順位

データルックアップ、アサイン、およびビジネスルール間の優先順位

スクリプト、アサインルール、ビジネスルール、ワークフロー、エスカレーション、およびエンジンはすべて、挿入や更新などのデータベース操作に関連して有効です。多くの場合、これらのイベントの順序は重要です。

**注:**
ブラウザで Ajax を使用したり JavaScript として実行したりするクライアントベースのコードは、常にサーバーへフォームを送信する前に実行されます。

実行順序は次のとおりです。

1. ビジネスルールの前：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
2. エンジンの前：以下は、特定の順序で実行されません。
   - 承認エンジン (タスクおよび sys_approval_approver テーブル用)
   - 割り当てルールエンジン (タスクテーブル用)
   - データポリシーエンジン
   - エスカレーションエンジン
   - フィールド正規化エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - 実行計画エンジン (タスクテーブル用)
   - バージョン エンジンの更新 - sys_update_xml エントリが書き込まれるときにバージョン エントリを作成 (sys_update_xml テーブル用)
   - データ検索エンジンの挿入または更新
   - ワークフローエンジン (デフォルトのワークフロー用)
3. ビジネスルールの前：1000 以上の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
4. データベース操作 (挿入、更新、削除)
5. ビジネスルールの後：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
6. エンジンの後：以下は、特定の順序で実行されません。
   - ラベルエンジン
   - リスナーエンジン
   - テーブル通知エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - テキストインデックス作成エンジン
   - 同期エンジンの更新
   - ワークフローエンジン (保留ワークフロー用)
   - トリガーエンジン (すべての フローデザイナー フロー用)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. メール通知：通知レコードの重みに基づいて、以下が実行されます。
   - 挿入、更新、または削除時に送信される通知
   - イベントベースの通知
8. ビジネスルールの後 (アクティブなレコードのみ)。1000 以上の順序のデータベース運用の後に実行するように構成されたスクリプト。

関連情報

ビジネスルール

### ワークフローアサイン

データルックアップまたはアサインルールを作成する代わりに、ワークフローの一部としてタスクレコードをアサインするワークフロータスクを 1 つまたは複数作成することもできます。

特定のグループに要求の承認を求めるなど、プロセスに複数のステップまたは条件が含まれている場合は、アサインにタスクワークフローアクティビティ を使用することを検討してください。

ワークフローを使用してタスクのアサインを管理する場合は、ワークフローの開始に簡単なタイマーワークフローアクティビティ を追加します。このタイマーアクティビティがない場合、親レコード (現在のレコード) がデータベースに挿入される前にワークフローが実行されます。タイマーアクティビティが完了すると、元の現行レコードではなくデータベースの親レコード情報を使用してワークフローが再開されます。この方法でワークフローを一時停止しても、デフォルトのワークフローが保留ワークフローに変わることはありません。ワークフローエンジンがデータベースとやり取りする方法の詳細については、「ワークフローエンジン操作命令 」を参照してください。

### ベースラインアサインルールの例

ベースラインインスタンスには、特定のアサインルールが含まれています。

#### ベースラインインスタンスルール

| 名前 | テーブル | 条件 | アサイン先ユーザー、アサイン先グループ、またはスクリプト |
|---|---|---|---|
| ネットワーク | incident | カテゴリはネットワークである | ユーザー：システム管理者<br>グループ：ネットワーク |
| データベースまたはソフトウェア | incident | カテゴリが「要求」、「照会/ヘルプ」、「ソフトウェア」、「ハードウェア」のいずれか | ユーザー：システム管理者<br>グループ：ソフトウェア |
| SC アイテムフルフィルメント - フィールドサービス | チケット | Parent.Task タイプが「要求アイテム」 | グループ：フィールドサービス |
| リリース計画 | release_phase | 名前が「プラン」 | スクリプト： |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースラインインスタンスルール (続く)

| 名前 | テーブル | 条件 | アサイン先ユーザー、アサイン先グループ、またはスクリプト |
|---|---|---|---|
| | | | current.release.product.service.assigned_to; |
| IT ハードウェア | sc_req_item | 承認が「承認済み」で、<br>Item.Category が「コンピューターとハードウェアの要求」 | ユーザー：システム管理者<br>グループ：ハードウェア |
| Service Desk | incident | アクティブ = true | グループ：サービスデスク |

アサインルールを作成

アサインルールの 1 つ以上の条件に従ってレコードを自動的にアサインします。アサインルールは、レコードを開いた時点で実行されるように設計されています。

始める前に
必要なロール：assignment_rule_admin または admin

手順

1. 移動先 すべて > システムポリシー > ルール > アサイン.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[アサインルール] フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | アサインルールの内容がわかるような名前。 |
| アクティブ | アサインルールをアクティブ化するオプション。 |
| 適用先 | |
| テーブル | アサインルールを適用するレコードがあるテーブル。<br><br>このリストには、アサインルールと同じスコープ内にあるテーブルとデータベースビューのみが表示されます。タスクテーブルを拡張するカスタムテーブルを選択する場合や、アサインルールを正しく機能させるためには、https://<instance_name>.service-now.com/cache.do に移動してインスタンスキャッシュをクリアする必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **重要:**<br>システムキャッシュをクリアすると全体的なパフォーマンスに影響が及ぼされて、システムの応答時間が低下する可能性があります。キャッシュのフラッシュは営業時間中には実行せず、自動でトリガーしないようにします。 |
| 条件 | アサインルールが適用される条件。 |
| アサイン先 | |
| ユーザー | イベントが割り当てられているユーザー。 |
| グループ | イベントが割り当てられているグループ。 |
| スクリプト | |
| スクリプト | 高度なアサインルール機能を指定するスクリプト。current.variable_pool 変数セットを使用できます。<br>**注:**<br>スクリプトの入力が正しいこと、および入力タイプがアサインルールスクリプトのフィールドタイプと一致していることを確認してください。たとえば、アサインルールスクリプトが整数フィールドの値を設定し、スクリプトの値が文字列に設定されている場合、アサインルールによって予期しない結果が生じる可能性があります。 |
| オブションのフィールド | |
| 一致条件 | 任意<br>いずれかの条件が満たされた場合、アサインルールが適用されます。<br>すべて<br>すべての条件が満たされた場合、アサインルールが適用されます。 |
| 実行順序 | アサインルールが処理される順番。アサインルールが競合する場合、順序値が小さい方のルールが大きい値のルールよりも優先されます。設定されている順序値が同じである場合、最初に一致する条件を備えたアサインルールが他のルールよりも優先されます。一致条件を備えた最初のアサインルールのみがレコードに対して実行されます。 |

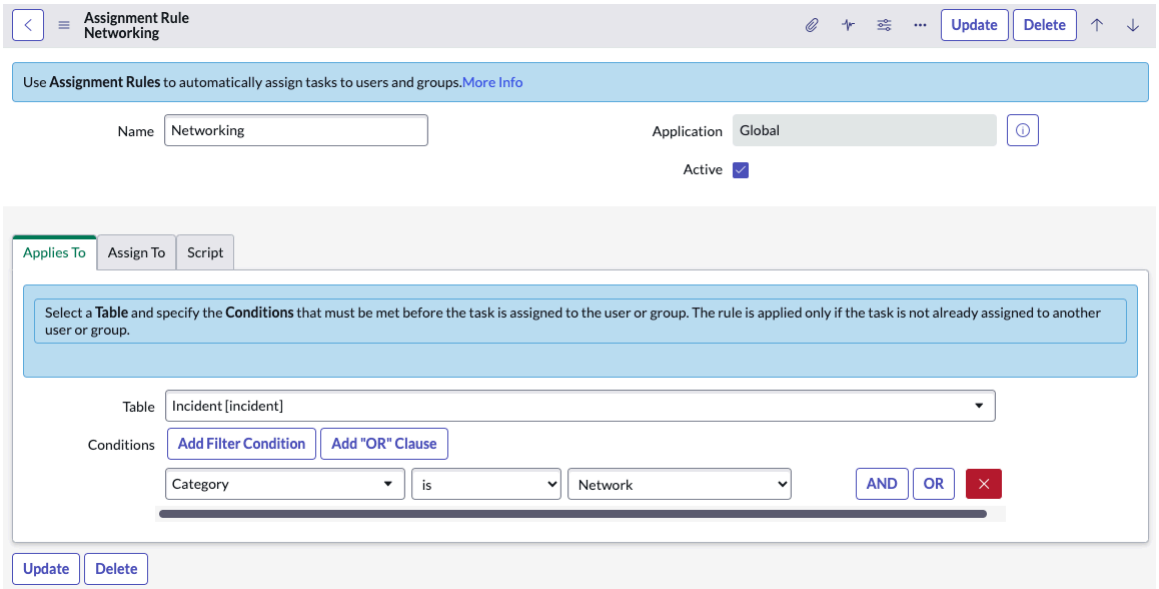
**Example:** 条件エディター

この例では、条件ステートメントによって、ネットワークカテゴリでオープンされたすべてのインシデントがネットワークアサイン先グループのシステム管理者に自動的にアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

適用先




アサイン先

## アサインデータのルックアップルールを作成する

データルックアップとレコード一致を使用して、レコードを自動的にアサインします。

### 始める前に

必要なロール：assignment_rule_admin または admin

### 手順

1. 移動先 すべて > システムポリシー > ルール > アサインルックアップルール.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

#### アサインデータのルックアップフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| カテゴリ | データルックアップが照合対象とするカテゴリ |
| サブカテゴリ | データルックアップが照合対象とするサブカテゴリ |
| 構成アイテム | データルックアップが照合対象とする構成アイテム |
| ロケーション | データルックアップが照合対象とする場所 |
| アサイン先グループ | インシデントをアサインするアサイン先グループ |
| アサイン先 | インシデントをアサインするユーザー |
| アクティブ | ルールを実行するか、またはルールを非アクティブ化するかのオプション |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 順序 | 同じテーブルの他のルールと比較してルールを実行する順序。 Data Lookup プラグインは、最小の順序と一致する値でルールを実行します。 |

4. [送信] を選択します。

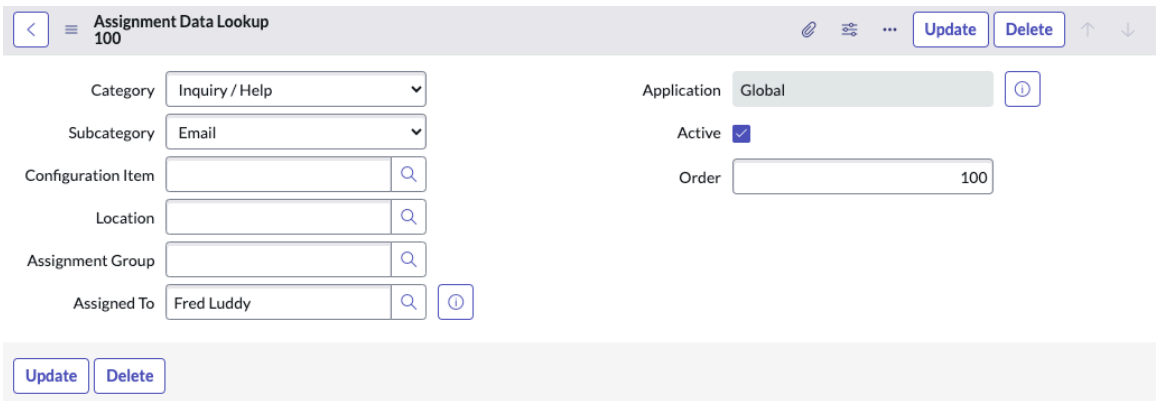
### タスクの結果

ルールは、[カテゴリ]、[サブカテゴリ]、[構成アイテム]、および [場所 **(Location)]** で選択された値を基に、[アサイン先グループ] および [アサイン先] フィールドの値にインシデントをアサインします。有効なアサインルックアップルールには、少なくとも 1 つの照合フィールドと 1 つのセッターフィールドが必要です。

### **Example:** 割り当てデータルックアップ

この例では、 アサインデータのルックアップルールにより、問い合わせ/ヘルプのカテゴリとメールのサブカテゴリを備えたインシデントはすべて、自動的に Fred Luddy にアサインされます。

アサインデータのルックアップ




### 予定されているタスクを使用したタスクテーブルの拡張

Planned Task プラグインは、タスク [task] テーブルを拡張する計画タスク [planned_task] テーブルを提供します。

Planned Task プラグインを個別にアクティブ化することはできません。Project Management プラグインをアクティブ化する際に (PPM Standard プラグインを介して) アクティブになります。

計画タスクは、予定されたマルチステージプロセスの一環として、時間と労力に関連する追加フィールドを提供します。

> **注:**
> Geneva 以降のリリースへのアップグレード時に Planned Task_v2 (com.snc.planned_taskv2) プラグインがアクティブな場合、計画タスク [planned_task] テーブルに [タスク] 列が追加されます。[タスク] 列のタイプは総合フィールドで、タスクの簡単な説明と番号を格納します。アップグレード中、システムは計画タスクテーブルのすべてのレコードを更新します。

### 計画タスクの作成

計画タスクは、計画タスクの子テーブルに作成されます。

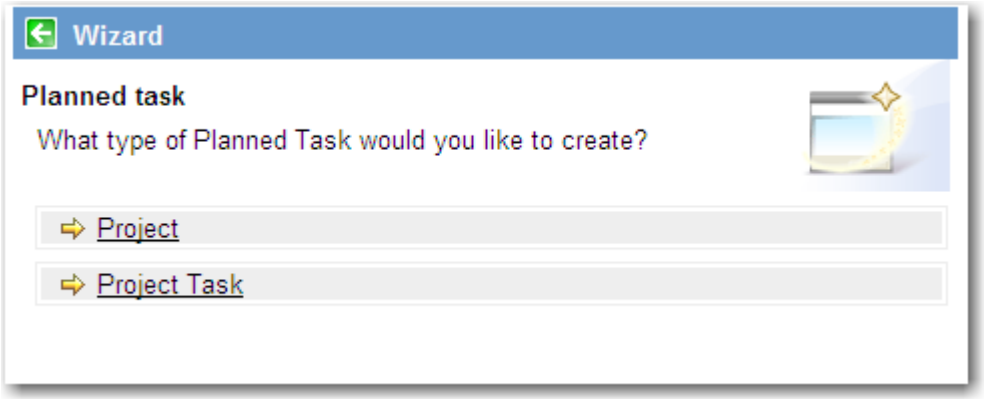
#### このタスクについて

計画タスクのレコードリストで [新規] ボタンをクリックすると、計画タスクインターセプターが起動します。これにより、計画タスクを作成する子テーブルを選択するためのプロンプトが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



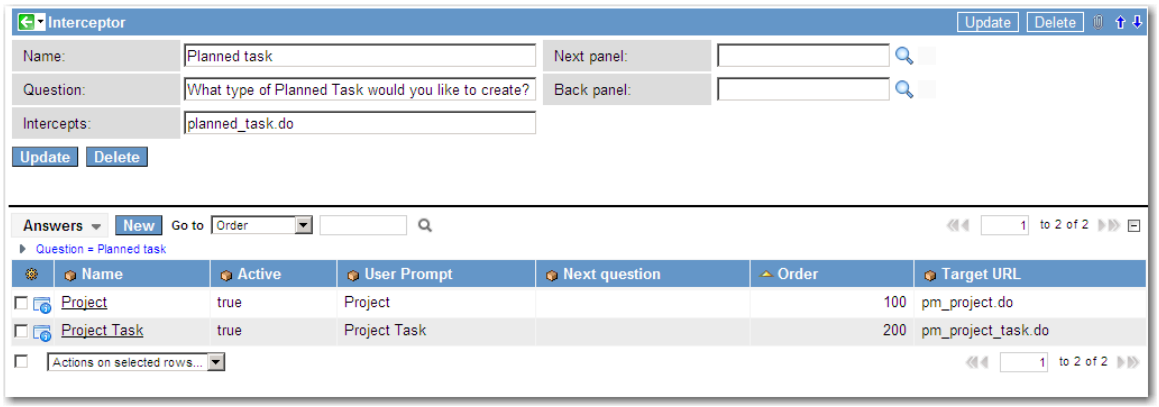
自動翻訳




計画タスクインターセプターを変更するには：

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > インターセプター (このモジュールを有効にする必要がある場合があります)。
2. [計画タスク] インターセプターを選択します。
3. [回答] 関連リストでは、表示する選択肢と選択後にユーザーがリダイレクトされる場所を指定します。必要に応じてリストを変更します。



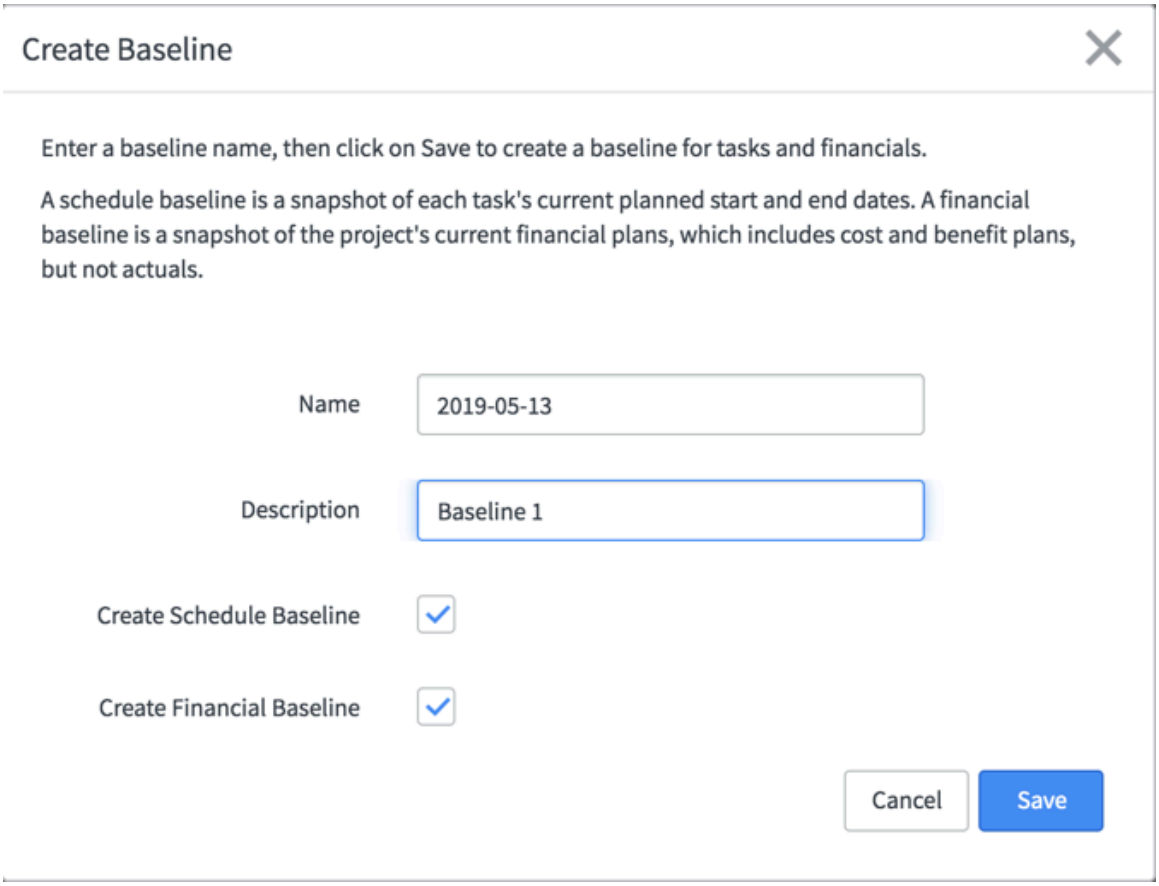

## ベースラインを作成

計画タスクベースラインは、特定の時点での計画タスクの開始時間と終了時間のレコードです。

ベースラインを作成するには、先頭の計画タスクのフォームに移動し、[ベースラインの作成 **(Create a Baseline)]** 関連リンクを選択します。

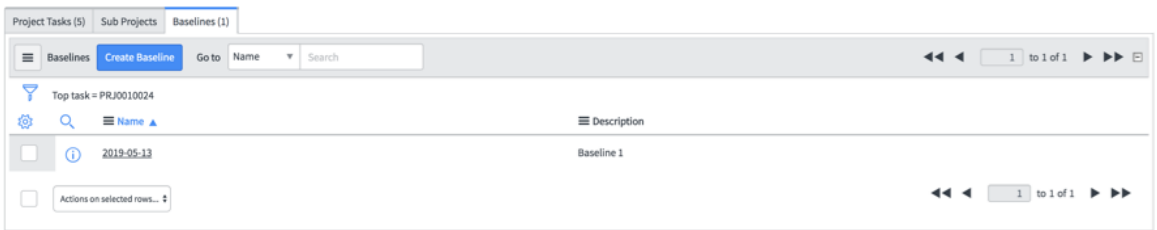
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースラインの作成




ベースラインを表示するには、ベースラインの関連リストを追加するように関連リストを設定します。

[ベースライン] タブ




ベースラインは、関連リンクを使用してガントチャートで表示できます。

### 時間と工数の測定

計画タスク [planned_task] テーブルには、期間と工数を追跡するための標準フィールドが用意されています。

期間は、開始日から終了日までの時間を測定します。工数は、プロジェクトに費やされた作業時間を測定します。

期間

- 計画された期間：計画タスクの予測時間。
- 実際の期間：計画タスクに関してこれまで実際にかかった時間。
- 残り期間：予定期間から実際の期間を引いたもの。残りの予測期間を表します。

工数

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 計画工数：計画タスクに費やされる予測時間。
- 実績工数：計画タスクに既に費やされた実際の時間。
- 残り労力：計画工数から実績工数を引いたもの。プロジェクトの残りの作業量を表します。
- 完了率：親タスクの場合、完了率フィールドは編集できません。次の式を使用して子タスクの完了率からロールアップされます。

  親タスクの完了率 = 合計 (子タスクの計画期間 * 子タスクの完了率) / 合計 (子タスクの計画期間)

  子タスクの場合、完了率は手動で入力します。

日付計算：子タスクのすべての予定日と実際の日付は、自動的に親タスクにロールアップされます。子タスクの終了予定日は、開始予定日と計画期間に基づいて計算されます。実際の開始日が存在する場合、終了予定日は実際の開始日と計画期間から計算されます。

依存関係：外部依存関係を除くすべてのタイプのタスク依存関係は、計画タスクによってサポートされます。さまざまな依存関係タイプの詳細については、「プロジェクトタスクの関係と依存関係」を参照してください。

### 計画タスクテーブルの重要フィールド

計画タスクテーブルには、次のフィールドがあります。

計画タスクテーブルの重要フィールド

| ラベル | 名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|---|
| 実績コスト | work_cost | currency | 計画タスクの実際のコスト。予定コストと比較されます。 |
| 実際の期間 | work_duration | glide_duration | 計画タスクの実際の作業時間長 (開始時間から終了時間まで)。計画期間と比較されます。 |
| 実際の作業量 | work_efforce | glide_duration | 作業に費やされた実際の時間。計画工数と比較されます。 |
| クリティカルパス | critical_path | ブーリアン | |
| 推定コスト | コスト | currency | 計画タスクの推定コスト。実際のコストと比較されます。 |
| HTML の説明 | html_description | HTML | HTML マークアップを受け付ける説明フィールド。 |
| 完了率 (%) | percent_complete | 10 進数 | 完了した作業の割合。[計画工数] および [実績工数] フィールドを使用して生成されます。 |
| 計画された期間 | 期間 | glide_duration | 計画タスクの推定所要時間 (開始時間から終了時間まで)。 |
| 計画工数 | 工数 | glide_duration | 計画タスクの作業に費やされる推定時間。 |
| 終了予定日 | end_date | glide_date_time | 計画タスクの推定終了日時。 |
| 開始予定日 | start_date | glide_date_time | 計画タスクの推定開始日時。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画タスクテーブルの重要フィールド (続く)

| ラベル | 名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|---|
| 残り期間 | remaining_duration | glide_duration | 計画された期間と実際の期間の差。計画タスクの残り時間を表します。 |
| 残り労力 | remaining_effort | glide_duration | 計画工数と実績工数の差。計画タスクに残っている作業時間を表します。 |
| ロールアップ | rollup | ブーリアン | システムによって管理される読み取り専用フィールド。子タスクがあるものとしてタスクを識別します。ロールアップタスクには、子から計算された複数のフィールドがあるため、これらのフィールドは読み取り専用です。 |
| 時間の制約 | time_contraint | 文字列 | 計画タスクに適用される時間制約の説明。 |
| トップタスク | top_task | 参照 (planned_task) | さまざまな計画タスクが階層状に積み重ねられている場合、このフィールドには最上位レベルの親タスクが入力されます。たとえば、プロジェクト A に子プロジェクト B があり、プロジェクト B に子プロジェクト C がある場合、プロジェクト C のトップタスクはプロジェクト A です。プロジェクト A の [トップタスク] フィールドは空白です。 |
| 実開始日 | work_start | glide_date_time | 計画タスクで作業が開始される実際の日付。 |
| 終了実績日時 | work_end | glide_date_time | 計画されたタスクで作業が終了する実際の日付。 |

## 計画タスクのスクリプト

重要な [計画タスク] フィールドの動的計算は、複数のビジネスルールと 1 つのスクリプトインクルードで決定されます。

計画タスクのスクリプト

| ビジネスルール | 説明 |
|---|---|
| 実際の作業開始日時を設定 | [状態] がデフォルトの作業状態に設定されている場合に、計画タスクの実開始日を設定します。 |
| 非アクティブのクローズデータを設定 | タスクが非アクティブになった場合の、計画タスクのクローズデータを設定します。 |
| 再計算 | スケジュールフィールドのいずれかが変更されると、計画タスクスケジュールフィールドが再計算されます。 |
| 計画タスクのグローバルイベント | 計画タスクレコードの挿入または更新のたびにグローバルイベントを発生させます。詳細については、「グローバルイベント」を参照してください。 |
| 親の実績工数を更新 | 実績工数を子タスクから親タスクにロールアップします。 |
| 親の工数を更新 | 計画工数を子タスクから親タスクにロールアップします。 |
| 親の完了率を更新 | 完了率を子タスクから親タスクにロールアップします。 |
| 期間を検証 | [計画された期間] フィールドの値が 0 または負でないことを検証します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画タスクのスクリプト (続く)

| ビジネスルール | 説明 |
|---|---|
| 完了率を検証 | [完了率 (%) (Percent Complete)] フィールドの値が 0 ～ 100 であることを検証します。 |
| 作業開始日時より前の作業終了日時を検証 | 終了実績日時が開始実績日時より前でないことを検証します。 |
| トップタスクを設定 | タスクの階層を維持するトップタスクを設定します。 |
| 子にトップタスクを設定 | タスクの階層を維持するトップタスクを子タスクに設定します。 |

## 計画タスク階層

計画タスクで使用可能なタスク階層ツールは、親と子の計画タスク間の関係を表示します。

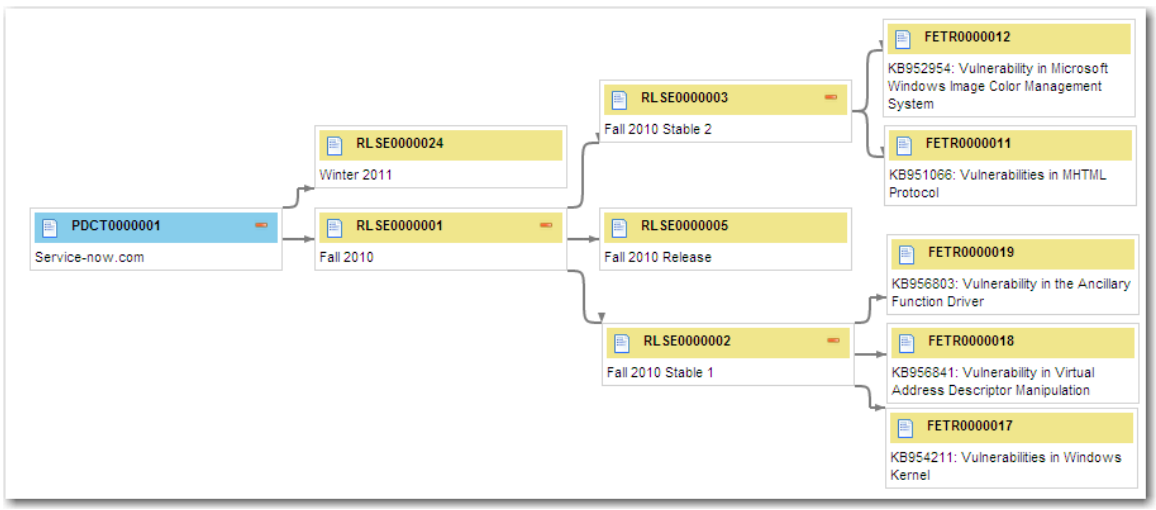
### このタスクについて

すぐに使用可能なタスク階層ツールは、プロジェクト管理とリリース管理の両方で使用できます。

異なる計画タスクテーブルでは、タスク階層を起動するための UI アクションが異なります。

- プロジェクトの階層を表示するには、[タスク階層] コンテキストメニューアクションに移動します。
- リリース v2 で製品の階層を表示するには、製品に移動して [製品階層] 関連リンクをクリックします。
- リリース v2 でリリースの階層を表示するには、リリースに移動して [リリース階層] 関連リンクをクリックします。

**Rm2** 階層




タスク階層は、次の方法で計画タスクテーブルに追加できます。

### 手順

1. への移動 システム **UI** > **UI** アクション.
2. 既存のタスク階層 UI アクションの 1 つを選択します (たとえば、 Project Management がアクティブになっている場合のタスク階層など)。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. テーブルを目的のテーブルに変更し、必要に応じて UI アクションの名前を変更して挿入します。

   これで、階層が新しいテーブルのフォーム上の UI アクションとして使用できるようになります。

### 計画タスクフィールドのロールアップ構成

計画タスクフィールドを設定して、親エンティティのフィールド値をロールアップすることができます。

#### このタスクについて

デフォルトでは、次のフィールドは、計画タスクおよび計画タスクの派生物に対してロールアップするように構成されています。

[コスト]、[予算]、[工数 **(Effort)]**、[実際の日付]、[予定日 **(Planned date)]**、[期間 **(Duration)]**、[完了率 **(%) (Percent Complete)]**

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > テーブル.
2. [予定タスクのロールアップ] テーブルを開きます。
3. [関連リンク] で [リストを表示] をクリックします。
4. [新規] をクリックします。
5. 計画タスクロールアップフォームに記入します (表を参照)。
6. [送信] をクリックします。

計画タスクロールアップフォームのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 子 | 使用するテーブルまたは除外するテーブルを選択します。 |
| フィールド | 使用する列名または除外する列名を選択します。 |
| ナビゲーター | 値をロールアップする必要がある親の参照列。 |
| 親 | 親テーブルを選択します。 |
| アプリケーション | 自動生成される値。 |
| ロールアップ | ロールアップを許可するには、チェックボックスをオンにします。フィールドをロールアップから除外するには、フィールドをオフのままにします。 |

### 多対多のタスク関係の作成

デフォルトでは、子インシデントのグループに関する問題や子カタログタスクのグループのあるカタログ要求などの親子関係を使用して、タスクを相互に関連付けることができます。

ただし、タスクレコード間の関係性を正確に記録しておくと便利な場合があります。アクティブ化すると、Many-to-Many Task Relations プラグインにより、管理者は異なるタスク間の関係を定義できるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 多対多のタスク関係の要求

Many to Many Task Relations プラグインは、いくつかのプラグインに含まれています。プラグインのアクティブ化は単独で要求できます。

### 始める前に

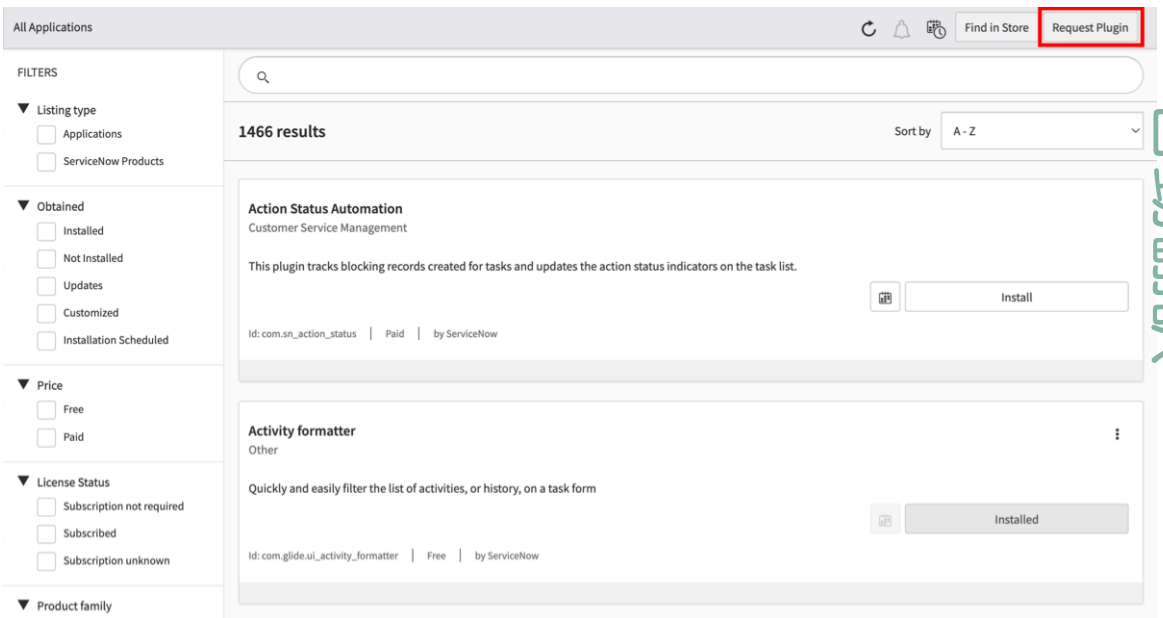
必要なロール：admin

### このタスクについて

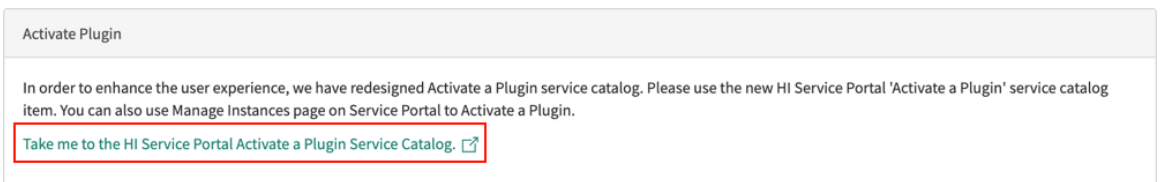
- 予定されているタスク
- Field Service Management
- Project Management
- Governance, Risk, and Compliance

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。




3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。




4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

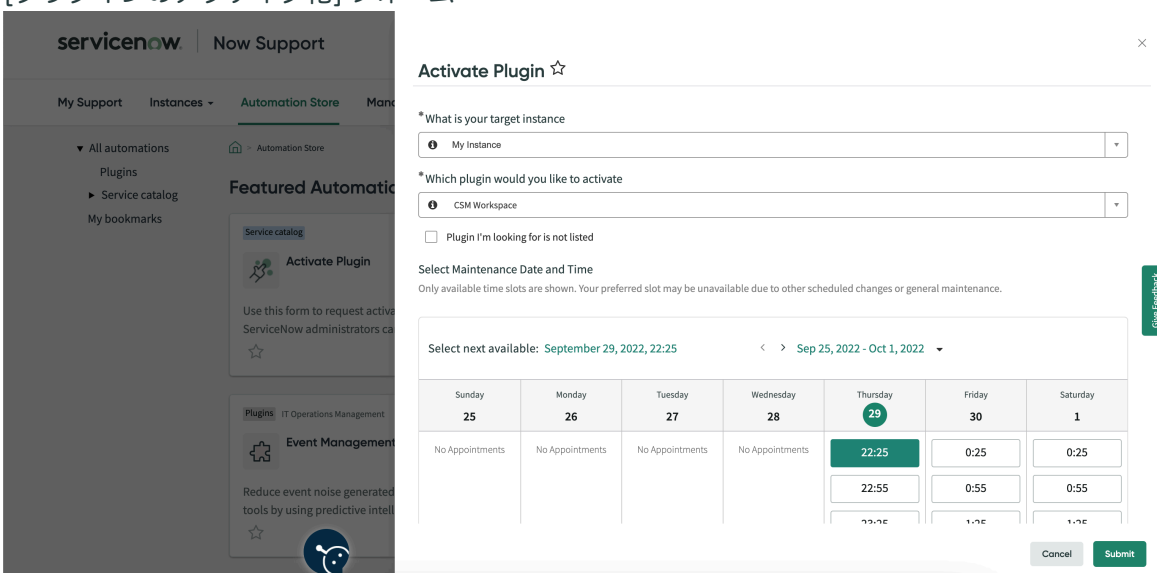
| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ターゲットインスタンスは何ですか | プラグインをアクティブ化するインスタンス。 |
| どのプラグインをアクティブ化しますか | アクティブ化するプラグインの名前です。<br>**注:**<br>必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。 |
| メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time) | プラグインをアクティブ化する日時。<br>**注:**<br>プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/ Comments)]** フィールドに要求を入力します。 |

自動翻訳

**Example**

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求の詳細については、次を参照してください。 の Service Catalog [KB0751715] 記事からのプラグインの要求 Now Support ナレッジベース。

### プラグインマニフェスト

プラグインがアクティブになると、特定のモジュールで Task Relationships アプリケーションを使用できるようになります。

プラグインがアクティブになると、以下のモジュールで *Task Relationships* アプリケーションを使用できるようになります。

**Task relationships**

**Task relationships**

| タイトル | 説明 |
|---|---|
| ナレッジ関連タイプ | ナレッジ記事とタスクの間に設定可能な関係のタイプの定義が含まれています。 |
| ナレッジリレーションシップ | 既存のタスクとナレッジ記事の間に定義されたすべての関係を表示します。 |
| リレーションシップタイプ | タスク間に設定可能な関係のタイプの定義が含まれています。 |
| リレーションシップ | 既存のタスク間に定義されたすべての関係が含まれています。 |

デフォルトでは、次の関連タイプを使用できます。

- ソリューションの文書化の場所::ソリューションの文書化の対象
- 原因 (Caused By)::原因 (Causes)
- 包含::タスク
- ソリューションの文書化の対象::ソリューションの文書化の場所
- 調査担当者::調査
- 永続的修正の対象::永続的修正者
- 関連先::関連先
- 要求::要求者
- 解決者::解決

### リレーションシップタイプの定義

親タスクと子タスクの関係を定義するタイプコードを作成します。

#### 始める前に

最初に Many to Many Task Relations プラグインをアクティブ化する必要があります。詳細については、多対多のタスク関係の要求 を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > タスクリレーションシップ > 関係タイプ をクリックし、「 新規」をクリックします。
2. [親記述子] フィールドと [子記述子] フィールドに、[原因 *(Caused By)]* の親記述子と [原因 *(Caused By)]* の子記述子など、2 つのタスク間の関係の簡単な説明を入力します。
3. フォームヘッダーバーを右クリックし、[保存] を選択します。[名前] フィールドには、親記述子と子記述子が自動的に入力されます。

### 許可されたタスクリレーションシップをタスクリレーションシップタイプレコードから定義

許可されたタスクリレーションシップは、タスクリレーションシップタイプレコードから定義できます。

手順

1. 関連リストまで下にスクロールし、[新規] を選択します。
2. 親テーブルと子テーブルに入力して、関係を受け入れることができるテーブルを定義します。
3. オプション: 実行するスクリプトを [親] および [子] スクリプトフィールドで定義します。

   (Optional) これらのスクリプトは、親または子レコードを実行して他のタスク (子または親) を自動的に生成するときに実行されます。これらのスクリプトは、スクリプトをトリガーしたソースレコードではなく、新しいレコードの現在の値を使用します。
4. [送信] を選択します。

### 表示されるフィールドの変更

参照ルックアップのリストビューでは、[タスク関係] フィールドと編集インターフェイスに表示されるフィールドを定義します。

このタスクについて
表示されるフィールドを変更するには：

手順

1. [タスク関係] フィールド内で、表示値を変更したいテーブルを参照するフォームに移動します。
2. 虫眼鏡をクリックして、参照ルックアップリストビューを表示します。
3. リストヘッダーを右クリックし、 構成 > リストレイアウト.

   選択したリストレイアウトは、[タスク関係] フィールド内のレコードの表示値として使用されます。

### [解決策としてマーク] ボタン

このボタンは KB ポップアップビューに追加され、タスクレコードからナレッジベースを検索するときに表示されます。

このボタンをクリックすると、タスク/KB 関係 [task_rel_kb] テーブルにレコードが作成され、KB 記事がタスクに関連付けられます。このボタンを無効にするには、UI マクロ「solution_button」でアクティブフィールドを false とマークします。

### UI アクションによるタスク関係の定義

タスク関係が定義されると、UI アクションを使用して、新しいタスクを古いタスクから作成するときにタスク関係を定義できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

以下にいくつかの例を示します。

> ⚠ 警告:
> これらの例は、すべてのインスタンスで機能するとは限りません。これらは、説明のための例として提供されています。

## UI アクションの例

インシデントを発生させる

この UI アクションにより、変更管理チームは変更要求から直接インシデントを記録し、変更によってインシデントが発生したことを記録できます。

変更要求 [change_request] テーブルに UI アクションを作成し、スクリプトに以下の内容を記述します。

```
var inccaus =new GlideRecord("incident");
inccaus.short_description= current.short_description;
inccaus.comments= current.comments.getHTMLValue();
// inccaus.parent = current.sys_id;
inccaus.insert();
CauIncident();

gs.addInfoMessage("Incident "+ inccaus.number+" created");
action.setRedirectURL(current);
action.setReturnURL(inccaus);



function CauIncident(){
var m2m =new GlideRecord('task_rel_task');
m2m.initialize();
m2m.child= current.sys_id;
m2m.parent= inccaus.sys_id;
m2m.type.setDisplayValue("Caused by::Causes");
m2m.insert();}
```

問題を発生させる

この UI アクションにより、変更管理チームは変更要求から問題を記録し、変更によって問題が発生したことを記録できます。

変更要求 [change_request] テーブルに UI アクションを作成し、スクリプトに以下の内容を貼り付けます。

```
var probcaus =new GlideRecord("problem");
probcaus.short_description= current.short_description;
probcaus.comments= current.comments.getHTMLValue();
// probcaus.parent = current.sys_id;
probcaus.insert();
CauProblem();

gs.addInfoMessage("Problem "+ probcaus.number+" created");
action.setRedirectURL(current);
action.setReturnURL(probcaus);



function CauProblem(){
var m2m =new GlideRecord('task_rel_task');
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
m2m.initialize();
m2m.child= current.sys_id;
m2m.parent= probcaus.sys_id;
m2m.type.setDisplayValue("Caused by::Causes");
m2m.insert();}
```

問題の修正

この UI アクションを使用すると、問題から変更要求を生成し、変更によって問題が修正されたことを記録できます。

問題 [problem] テーブルに UI アクションを作成し、次のコードを貼り付けます。

```
var fixchg =new GlideRecord("change_request");
fixchg.short_description= current.short_description;
fixchg.comments= current.comments.getHTMLValue();
// fixchg.parent = current.sys_id;
fixchg.insert();
FixChange();

gs.addInfoMessage("Change "+ fixchg.number+" created");
action.setRedirectURL(current);
action.setReturnURL(fixchg);



function FixChange(){
var m2m =new GlideRecord('task_rel_task');
m2m.initialize();
m2m.child= current.sys_id;
m2m.parent= fixchg.sys_id;
m2m.type.setDisplayValue("Fixes::Fixed by");
m2m.insert();}
```

自動翻訳

## タイムカード管理

タイムカード管理機能を使用すると、タスクの割当先などのタイムカードユーザーは、割り当てられたタスクの時間を報告および追跡できます。

プロジェクトの時間追跡機能を設定し、時間を入力して、タイムカードを承認する方法を説明するビデオ。 時間追跡機能のセットアップ、時間の入力、および承認については、こちらの 5 分間のビデオをご覧ください。

タイムカード管理は、タスクテーブルと連携して、プロジェクト、インシデント、問題、変更要求などのさまざまなタスクタイプで作業した時間を記録します。

タイムカード管理機能：

- タイムカードユーザーは、タイムカードとタイムシートを使用して、タスクの作業時間を記録できます。ユーザーは、タイムカードとタイムシートを承認のために送信できます。
- タイムカードとタイムカードは承認のために、ユーザータイムシートポリシーの [プロジェクト以外の時間承認者] および [プロジェクト時間の承認者] フィールドに基づいてルーティングされます。タイムカード承認者ロールを持つユーザーマネージャーは、時間を記録し、リソースのタイムシートを送信することもできます。
- タイムカード承認者は、次のタスクを実行できます。
  - 送信されたタイムシートのタイムカードを確認し、承認または却下します。
  - 承認されたタイムシートまたはタイムカードを取り消して、修正のためにユーザーに返却します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ダッシュボードを使用して、タイムカードとタイムシートの例外レポートを表示し、ユーザーによって報告された時間を分類します。
- 時間がない場合や利用できない場合に、別のタイムカード承認者に委任して、リソースのタイムシートを処理することができます。委任の際には、次の点に注意してください。
  - 個々のリソースに対してのみ承認を委任することはできません。
  - 委任されたタイムカード承認者は、タイムシート承認をこれ以上委任することはできません。

project_manager ロールと resource_manager ロールには、ベースシステムの timecard_approver ロールが含まれています。ただし、timecard_approver ロールは、これらのロールがなくても独立して使用できます。

- タイムカード管理者は、タイムシートポリシーを作成および管理できます。また、例外により承認または却下し、タイムシートを処理することもできます。タイムカードのステータスが [処理待ち] または [却下済み] の場合、タイムカード管理者は任意のユーザーのタイムカードを作成または編集することもできます。

**注:**
[変更管理 - リスク アセスメント] プラグインが有効化されているときは、「 タイムカード 管理プラグイン はタイムカードを使用するために必要です。一部の手順では、タイムカードを自動的に有効化するプロジェクト管理機能が必要です。詳細については、プロジェクト管理 (com.snc.financial_planning_pmo) を参照してください。

## タイムカード管理におけるドメイン分離

ドメイン分離は、ドメイン固有のユーザーに対して完全なデータ分離を提供します。Time Card Management は、データのみのレベルでドメイン分離に準拠しています。

### **Time Card Management** の有効化

管理者は タイムカード Management プラグイン (com.snc.time_card) を有効化できます。プラグインは、Performance Analytics - Content Pack - Project Portfolio Suite Dashboards プラグイン (com.snc.pps_dashboards) を有効化できます。ただし、ダッシュボードを使用するには パフォーマンスアナリティクス ライセンスが必要です。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### このタスクについて
**注:**
タイムカード Management プラグインは、PPM 標準 プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) の一部としても有効になります。

#### 手順
1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

> **注:**
> ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

### タイムシートポリシー

タイムシートポリシーには、タイムシートまたはタイムカードで遵守する必要があるポリシーが含まれています。

デフォルトでは、デフォルトのタイムシートポリシーがシステムで利用可能です。タイムカード管理者は、組織内のさまざまな要件とワークフローに基づいて、複数のタイムシートポリシーを作成できます。たとえば、各部門またはチームのタイムシートポリシーを指定し、適切なユーザーを割り当てます。

タイムシートポリシーでは、プロジェクトおよび非プロジェクトタスクに適切な承認ワークフローを指定することもできます。

タイムシートポリシーは、デフォルトポリシーとして設定できます。デフォルトのポリシーは、タイムシートポリシーにアサインされていない他のすべてのユーザーに適用される、グローバルタイムシートポリシーです。1 つのタイムシートポリシーのみをデフォルトポリシーとして設定できます。

移動先 タイムシート > 管理 > タイムシートポリシー をクリックして、タイムシート ポリシーの一覧を表示します。

### タイムシートポリシーの作成

タイムカード管理者は、タイムシートポリシーを作成して、タイムカードユーザーが作業時間を記録するための要件を定義できます。タイムカード承認者は、該当するタイムシートポリシーに基づいてタイムシートを確認し、処理する必要があります。

#### 始める前に
必要なロール：timecard_admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > 管理 > タイムシートポリシー.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

タイムシートポリシーのフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 一意のポリシー名。 |
| 空のタイムカードを許可する | 承認のために空のタイムカードを送信できるようにするオプション。<br><br>デフォルトでは、このオプションが選択されていません。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 予定されているタスク更新時にタイムカードを自動作成する | 次の条件が満たされている場合に、予定されているタスクの更新時にタイムカードを自動的に作成するオプション。<br>○ あなたがタイムカードユーザーであること。<br>○ [アサイン先] または [追加のアサイン先リスト] フィールドからタスクにアサインされていること。<br>○ タスクのステータスが処理待ちでないこと。<br>デフォルトでは、このオプションが選択されていません。 |
| 作業時間の入力によりタイムカードを自動入力する | タスクフォームの [作業時間] フィールドに時間を入力すると、タイムカードを自動的に入力するオプション。<br>タスクのタイムカードが存在しない場合、次の条件が満たされていれば、作業時間が更新されたときにタイムカードが作成されます。<br>○ あなたがタイムカードユーザーであること。<br>○ [アサイン先] または [追加のアサイン先リスト] フィールドからタスクにアサインされていること。<br>デフォルトでは、このオプションが選択されていません。 |
| タイムカードを毎週自動作成する | タイムシートポリシーに割り当てられたすべてのユーザーのスケジュール設定済みジョブを通じて、毎週自動的にタイムカードを生成するオプション。タイムカードは、ユーザーの計画されたタスク割り当てとハード割り当てされたリソース計画に基づいて生成されます。<br>デフォルトでは、このオプションが選択されています。 |
| リソース計画/レポートの実績時間とコストを更新 | 承認済みタイムカードに入力された時間に基づいて、関連するリソース計画の実績時間と実績コストを更新するオプション。<br>選択すると、以下の方法で、選択したタスクに関連するリソース計画をタイムカードに関連付けることができます。<br>○ タスクに複数のリソース計画がある場合、適切な計画を選択できます。<br>○ タスクにリソース計画が 1 つある場合、そのプランがデフォルトで選択されます。<br>タイムカードエントリからの時間と時間単位のリソースレートは、関連するリソース計画の [実績時間] と [実績コスト] の値を更新するために使用されます。<br>**注:**<br>タスクにリソース計画がない場合、関連するレコードは対応するプロジェクトを更新します。<br>デフォルトでは、このオプションが選択されていません。 |
| 取り消しを許可 | タイムシートまたはタイムカードが承認および処理された後に取り消しアクションを有効にするオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | デフォルトでは、このオプションが選択されています。 |
| 許可された取り消し期間 (日数) | タイムシートまたはタイムカードを取り消すことができる日数。<br>このフィールドは、[取り消しを許可] オプションを選択すると表示されます。<br>デフォルト値は 30 です。 |
| 週の開始日 | タイムシートの開始曜日。<br>デフォルト値は日曜です。<br>**注:**<br>このフィールドを使用したタイムシートのフィルタリングの詳細については、Now Support ナレッジベース の KB0852458 の記事を参照してください。 |
| 1 日あたりの最大時間数 | タイムシートに毎日入力できる最大時間数。<br>デフォルト値は 24 です。<br>このフィールドを -1 に設定すると、リソースは次のように入力できます。<br>○ 毎日の作業時間としての 0 から 24 までの値<br>○ 以前に入力したタイムカードを修正するための負の値。 |
| 週あたりの最大時間数 | タイムシートで 1 週間に許容される最大時間数。<br>タイムシートの 1 週間の合計時間の値は、その週の 1 日あたりに入力された時間の合計です。-1 に設定されている場合、許容される 1 週間あたりの合計時間は最大 168 (24 x 7) 時間です。<br>デフォルト値は 40 です。 |
| プロジェクト以外の時間の承認者 | プロジェクト以外のタスクがアサインされているタイムカードを送信するときに必要な承認のタイプ。<br>○ 自動：タイムカードは送信時に自動承認されます。<br>○ ユーザーマネージャー：タイムカードは、送信時に承認のためにユーザーマネージャーにルーティングされます。<br>ユーザーマネージャーはタイムカード承認者ロールを持ち、[ユーザー] フォームでタイムカードユーザーのマネージャーとしても選択されます。<br>○ なし：timecard_admin ロールを持つユーザーは、送信時にタイムカードを承認できます。 |
| プロジェクト時間の承認者 | プロジェクトタスクがアサインされているタイムカードを送信するときに必要な承認のタイプ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ 自動：タイムカードは送信時に自動承認されます。<br>○ プロジェクトマネージャー：プロジェクトタスクのタイムカードは、送信時に承認のためにそれぞれのプロジェクトマネージャーにルーティングされます。プロジェクトマネージャーは、時間を送信する対象のタスクから選択されます。<br>○ ユーザーマネージャー：タイムカードは、送信時に承認のためにユーザーマネージャーにルーティングされます。<br>○ 両方：タイムカードは、送信時に承認のためにユーザーマネージャーおよびプロジェクトマネージャーの両方にルーティングされます。<br>いずれかの承認者のみがタイムカードを承認した場合、タイムカードは[送信済み]ステータスのままになります。<br>○ なし：time_card admin ロールを持つユーザーは、タイムカードを承認できます。<br>**注:**<br>○ プロジェクトマネージャーとユーザーマネージャーは、承認のためにルーティングされたタイムカードのみを表示できます。<br>○ タイムカードがまだ承認されていない間にユーザーマネージャーまたはプロジェクトマネージャーが変更された場合、システムはタイムカードの承認者を自動的に更新します。<br>○ プロジェクトマネージャーまたはユーザーマネージャーの名前がそれぞれのフォームに入力されていない場合は、time_card admin ロールを持つユーザーがタイムカードを承認できます。 |
| 複数のレートタイプを許可 | 経費ラインの生成時に使用するレートタイプをタイムカードに提供するオプション。<br>このオプションを選択すると、タイムカードフォームに [レートタイプ] フィールドが表示され、レートタイプを選択できるようになります。<br>詳細については、「賃金レートカードのレートタイプ」を参照してください。 |
| デフォルトレートタイプ | タイムカードにデフォルトで使用されるレートタイプ。<br>[なし] を選択すると、[標準料金タイプ] オプションが使用されます。<br>このフィールドは、[複数のレートタイプを許可] チェックボックスが選択された場合に表示されます。 |
| デフォルトポリシー | タイムシートポリシーをデフォルトとして設定するオプション。デフォルトのポリシーは、タイムシートポリシーにアサインされていない他のすべてのユーザーに適用される、グローバルタイムシートポリシーです。<br>デフォルトとして設定できるタイムシートポリシーは 1 つだけです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | デフォルトポリシーとして設定したタイムシートポリシーは削除できません。最初に、別のポリシーをデフォルトポリシーとして設定する必要があります。 |

4. [送信] をクリックします。

### 次のタスク

- 必要に応じて、タイムシートポリシーをデフォルトポリシーとして設定します。
- タイムシートポリシーをユーザーにアサインします。

## タイムシートポリシーをデフォルトポリシーとして設定する

タイムカード管理者は、タイムシートポリシーをデフォルトのポリシーとして設定できます。デフォルトのポリシーは、タイムシートポリシーにアサインされていない他のすべてのユーザーに適用される、グローバルタイムシートポリシーです。

### 始める前に

必要なロール：timecard_admin

### このタスクについて

1 つのタイムシートポリシーのみをデフォルトポリシーとして設定できます。

### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > 管理 > タイムシートポリシー.
2. タイムシートポリシーレコードを開きます。
3. [デフォルトとして設定] 関連リンクをクリックします。

> **注:**
> 関連リンクは、デフォルトポリシーとしてまだ設定されていないタイムシートポリシーに対してのみ表示されます。

### タスクの結果

[レコードフォーム] の [デフォルトポリシー] オプションは、現在のタイムシートポリシーがデフォルトポリシーとして設定されていることを示すために選択されています。以前のデフォルトのタイムシートポリシーの [デフォルトポリシー] オプションはクリアされます。

デフォルトのタイムシートポリシーは削除できません。現在のデフォルトポリシーを削除するには、最初に別のポリシーをデフォルトポリシーとしてマークする必要があります。

## タイムシートポリシーをユーザーにアサインする

タイムカード管理者は、タイムシートポリシーをユーザーに割り当てることができます。

### 始める前に

必要なロール：timecard_admin

### このタスクについて

ユーザーに割り当てることができるタイムシートポリシーは 1 つだけです。

### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > 管理 > タイムシートポリシー.
2. タイムシートポリシーレコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [ユーザー]関連リストで、[編集]をクリックします。
4. [メンバーの編集] フォームで、ユーザーを [ユーザーリスト] に移動します。
5. [保存] をクリックします。

### タスクの結果
選択したユーザーが [ユーザー] 関連リストに表示されます。選択したユーザーにタイムシートポリシーが割り当てられます。

## レートタイプの作成

レートタイプは、レートタイプ機能を使用して作成できます。

### 始める前に
必要なロール：timecard_admin

### このタスクについて
レートタイプ機能は、さまざまなタイプの作業を分類するために使用されます。たとえば、標準と残業などです。また、実行された作業の性質について下流のサードパーティ製品に指示することもできます。

たとえば、

- 日中に作業時間の延長があるユーザーは、標準時間を残業と区別する必要があります。
- タスクの実行に関連した作業タイプに基づいて、技術者に高いレートで給与が支払われることがあります。
- 装置の修理タスクは、最初の 1 時間と残りの時間を別々のレートで請求される場合があります。
- サービスコールは 4 時間続き、その間に専用の機器が 1 時間使用されます。企業は、追加請求から法務コンプライアンスや保証の追跡などの目的のために、特殊な機器の使用を把握する必要があります。

### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > 管理 > レートタイプ.
2. [新規] をクリックし、フォームに入力します。
3. [送信] をクリックします。

### タスクの結果

- レートタイプが [レートタイプ] リストに表示されます。
- レートタイプがアクティブな場合は、[賃金レートカード] フォーム、[作業時間] フォーム、[タイムカード] フォーム、およびタイムシートポータルの [レートタイプ] フィールドにも表示されます。

## タイムシートポータル

タイムシートポータルでは、特定の週に割り当てられたすべてのタスクを 1 つのビューに分類して表示します。ポータルを使用すると、タスクに費やされた時間を毎日記録し、一回でタイムシートを送信できます。

タイムシートポータルは、タスクテーブルと連携して、プロジェクト、インシデント、問題、変更要求などのさまざまなタスクタイプに費やした時間を記録します。タスクに対して入力した時間、タスクカテゴリ、および 1 週間の日数の完全なブレークダウンが表示されます。これにより、次のことが可能になります。

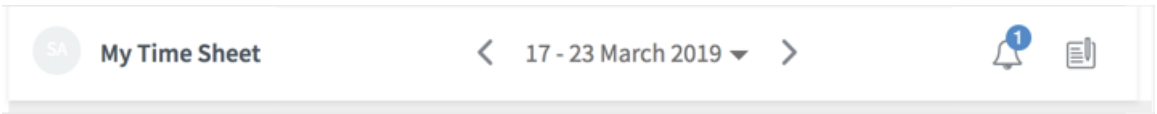
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 割り当てられたプロジェクトまたはプロジェクトタスクのタイムカードを生成します。
- 前のタイムシートからタイムカードをコピーします。
- 割り当て済みのタスクリストに表示されていないタスクのタイムカードを検索して作成します。
- タイムカードのメモを編集、削除、または追加します。
- タイムシートを送信、承認、却下、取り消します。
- 送信済み、却下済み、取り消し済みのタイムシートまたはタイムカードの通知を表示します。

タイムシートポータルは、次のセクションで構成されています。

### ヘッダー



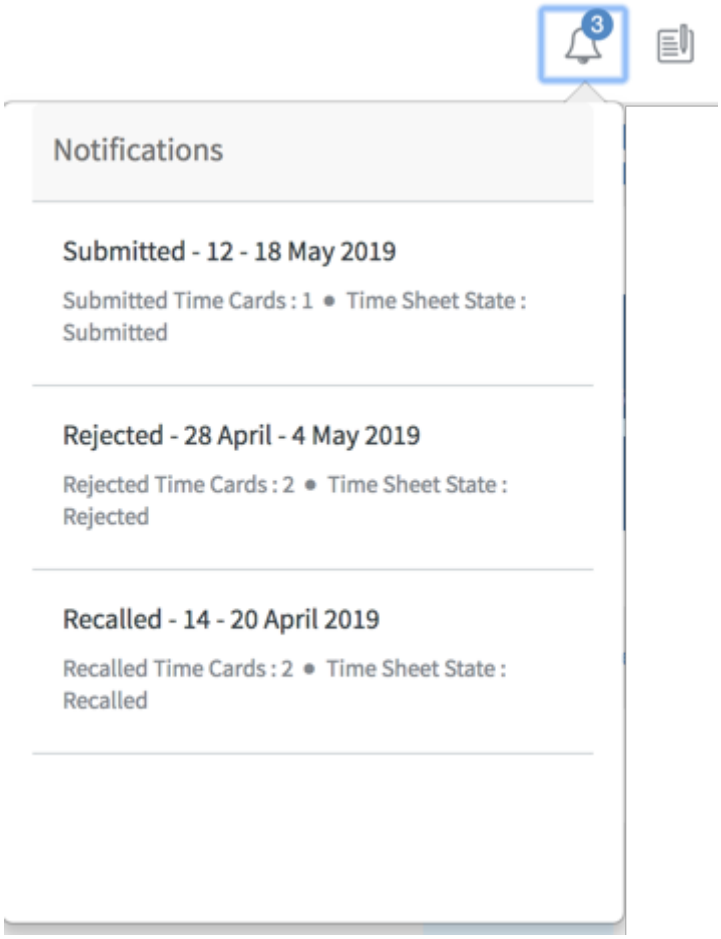

タイムシートポータルのヘッダー：

- 選択した週のタイムシートの日付範囲を表示し、前週または翌週のタイムシートに移動するオプションを提供します。
- 日付範囲とカレンダーを提供します。カレンダーの日付をクリックすると、選択した日付の週のタイムシートが表示されます。
- 別のタイムシートを表示しているときに、現在の週のタイムシートに移動するためのリンクを提供します。
- [自分のタイムシート] の下に、リソースのタイムシートを開いて編集できるオプションがあります。このオプションは、ユーザーマネージャーのみが使用できます。
- タイムシートフォームビューアイコン ( ) を使用して、フォームビューでタイムシートを表示するオプションを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

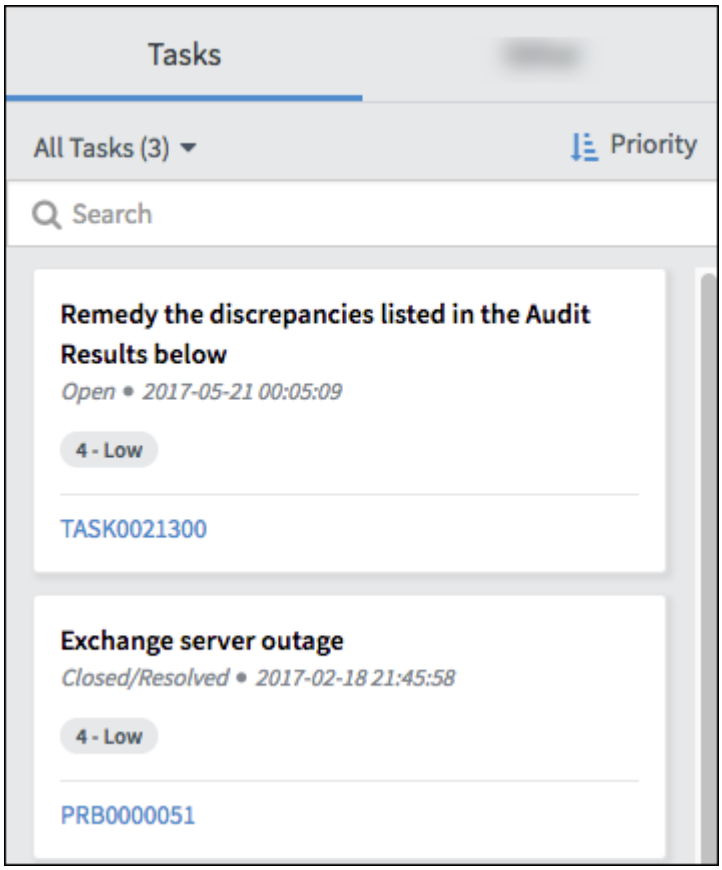
- 送信済み、却下済み、または取り消し済みのタイムシートの通知を、通知を表示アイコン (1) の下に表示します。各エントリには、タイムカードの数とステータスが表示されます。通知アイテムをクリックして、タイムシートを開きます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## タスク




[タスク] タブに割り当てられたタスクがカードとして表示されます。各カードには、簡単な説明、ステータス、最終更新日時、優先度など、タスクに関する情報が記載されています。タスクは、次のフィルター条件から派生します。

- あなたに割り当てられたすべてのアクティブなインシデント、問題、または変更要求。
- 選択した週であなたに割り当てられたすべてのクローズ済みのインシデント、問題、または変更要求。
- 選択した週にハードアサインされたすべてのタスク。
- あなたに割り当てられたすべてのプロジェクトまたはプロジェクトタスクで、選択した週にアクティブであるものすべて。プロジェクトまたはプロジェクトタスクは、次の条件から派生します。
  - すでに開始され、実際の開始日が選択した週の終わりより前のプロジェクトまたはプロジェクトタスク。
  - すでにクローズされ、実際の終了日が週の始まりより後のプロジェクトまたはプロジェクトタスク。
  - プロジェクトの実績日付がない場合、プロジェクトの予定日は選択した週内である必要があります。
- 自分に割り当てられているすべてのアクティブなストーリー。
- 自分にアサインされた、または選択した週にクローズされたすべてのアクティブなスクラムタスク。
- 自分に割り当てられているすべてのアクティブなテストプラン。
- 自分にアサインされた、または選択した週にクローズされたすべてのアクティブな欠陥および拡張。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
カスタマーサービス管理 (CSM) プラグイン (com.sn_customerservice) が有効になっている場合、選択した週にアクティブおよびクローズされている割り当て済みタスクも、次のテーブルから派生します。

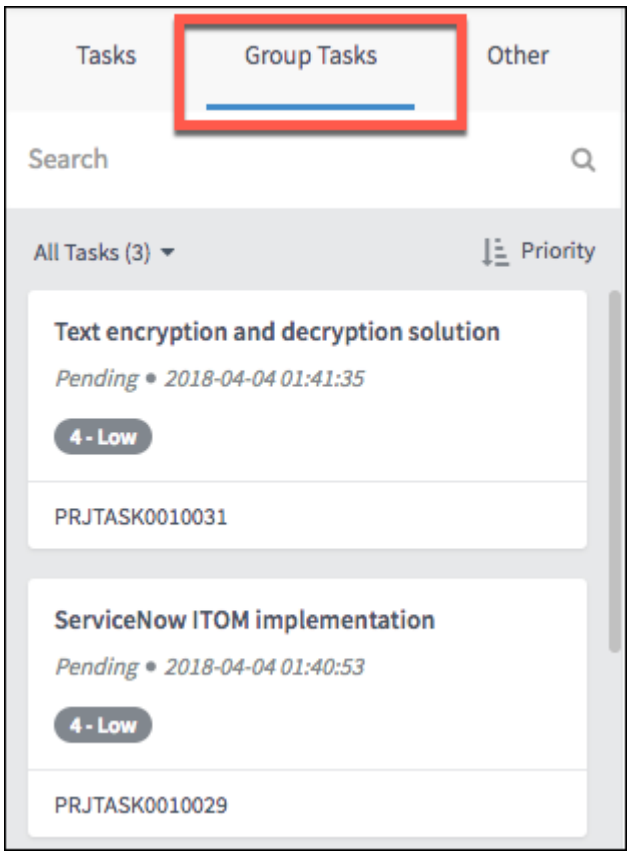
- ケース [sn_customerservice_case]
- 作業指示 [wm_order]
- 作業指示タスク [wm_task]

[タスク] タブでは、次の操作を実行できます。

- 検索フィールドにキーワードを入力すると、キーワードにマッチする詳細を含んだカードのみが表示されます。
- タスクタイプに関係なく、優先度に基づいて昇順または降順でカードをソートします。
- プロジェクト、プロジェクトタスク、インシデント、問題、変更、欠陥、拡張、テストプラン、スクラムタスクなどのカテゴリに基づいてカードを表示します。
- 割り当てられたタスクのタイムカードを作成します。「タイムシートポータルを使用してタイムカードを作成して時間を記録する」を参照してください。

注:
タイムシートポリシー はタイムカードを作成または編集するときに適用されます。

## グループタスク



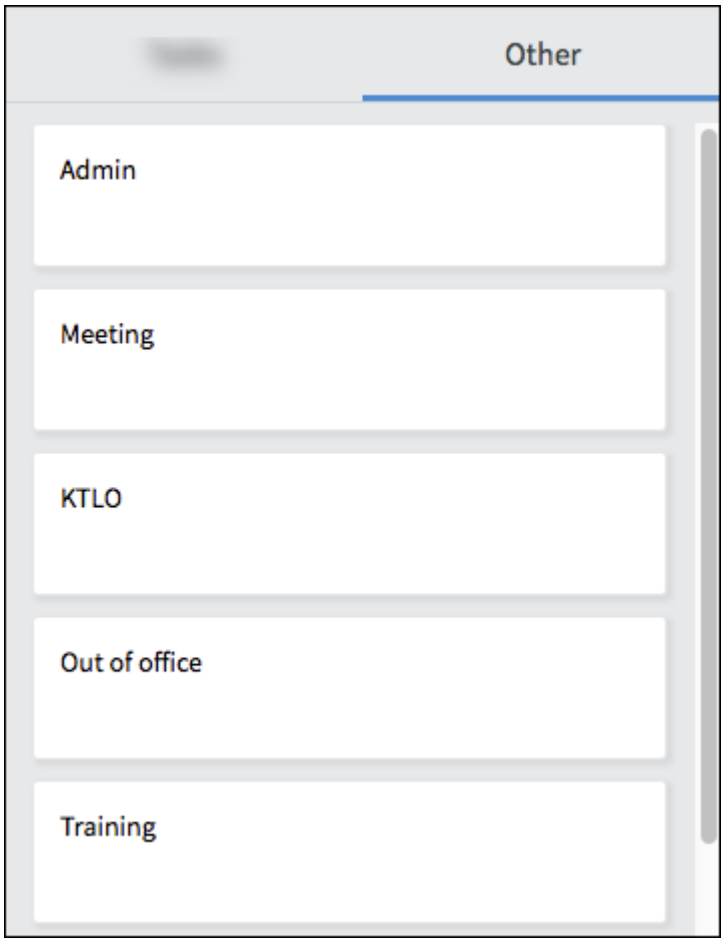

[グループタスク] タブには、自分のアサイン先グループにアサインされたタスクが表示されます。グループタスクは、タブにカードとして表示されます。カードには、簡単な説明、ステータス、最終更新日時、優先度など、タスクに関する情報が記載されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

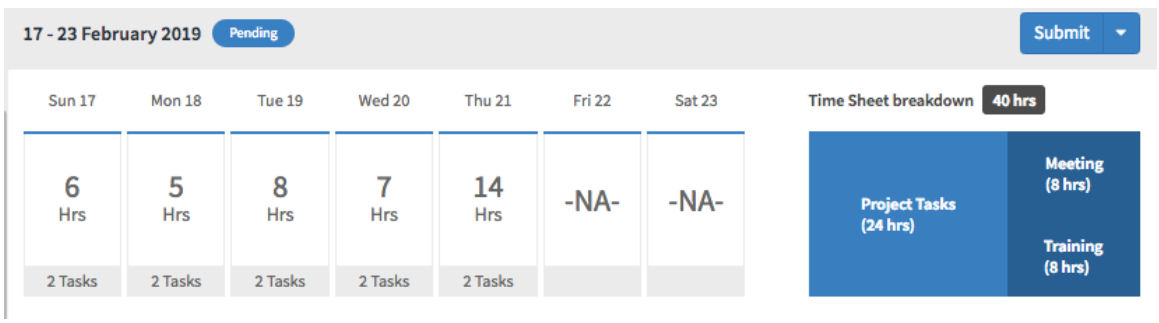
### その他




[その他] タブでは、管理、会議、KTLO などの運用作業で時間記録のために使用されるカードが表示されます。

> **注:**
> タイムカードのカテゴリのリストは、[その他] タブに表示されるカードのリストを制御します。管理者がタイムカードでいずれかのカテゴリを非アクティブとしてマークした場合、それらのカテゴリは [その他] タブに表示されません。

### タイムシート




[タイムシート] セクション：

- 選択した週のタイムシートの日付範囲を表示します。
- 表示されているタイムシートのステータスを示します。

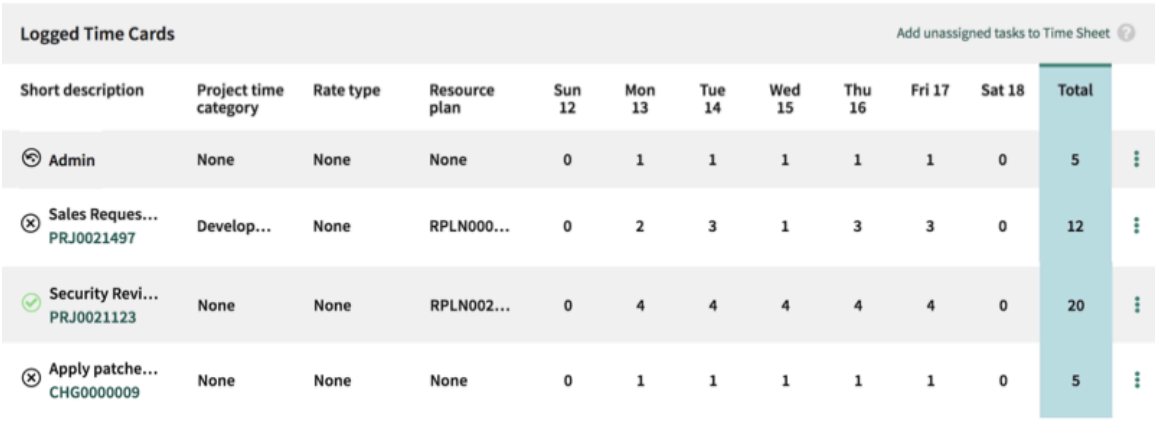
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 1 週間の各日に入力したタスクの合計数と時間を表示します。タイムシートで日をクリックすると、その日の列が [タイムシート] セクションと [記録されたタイムカード] セクションの両方で強調表示されます。[タイムシート] セクションに表示される最初の曜日は、ユーザーの [タイムシートポリシー] の [週の開始日] フィールドで指定された値に基づきます。たとえば、[週の開始日] フィールドが金曜日に設定されている場合、[タイムシート] セクションは金曜日から始まります。
- タイムシートに入力した合計時間数を示します。タイムシートの内訳には、プロジェクトタスク、管理者、会議、後続タスク、変更要求など、さまざまな作業カテゴリでユーザーが入力した時間のブレークダウンも表示されます。
- タイムシートを送信し、以前のタイムシートからタイムカードをコピーできるオプションを提供します。承認者は、送信されたタイムシートを承認または却下し、処理済みのタイムシートを取り消すオプションを利用できます。

## ログが記録されたタイムカード




[ログが記録されたタイムカード] セクションの各行は、特定の週のタイムカードエントリを表します。タイムカードのステータスのアイコン、タスクの簡単な説明、プロジェクト時間カテゴリ、レートタイプ、リソース計画、ログに記録された時間などの詳細が表示されます。タイムカードの各行には、タイムカードのメモを編集、削除、または追加できるオプションが含まれています。詳細については、「タイムシートポータルを使用してタイムカードを作成して時間を記録する」を参照してください。

**注:**

- [レートタイプ] 列は、ユーザーのタイムシートポリシーで [複数のレートタイプを許可] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
- [リソース計画]列は、ユーザーのタイムシートポリシーで[リソースプラン/レポートの実績時間とコストを更新]オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

行についての簡単な説明の横にあるアイコンは、タイムカードのステータスを示します。タイムカード行の結合アイコン ( ) は、同じタスクに対して重複するタイムカードがタイムシートに存在することを示し、それらを単一のタイムカードに結合するオプションを提供します。

タイムカードがない場合、[ログに記録されたタイムカード] セクションには、タイムカードを作成するための [タイムカードを生成] および [以前のタイムシートからコピー] ボタンが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
タイムシートポータルはモバイルデバイス用に設計されていないため、このドキュメントに示されているとおりに表示されない場合があります。

### タイムシートポータルを使用してタイムカードを作成して時間を記録する

タイムシートポータルでタイムカードを作成した後、タイムカードに時間を記録します。

#### 始める前に
必要なロール：timecard_ user

#### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > タイムシートポータル.
2. 次のいずれかのオプションを使用して、[ログに記録されたタイムカード] セクションでタイムカードを作成します。

   プロジェクトの [設定] タブの [タイムカードレポートを許可する] フィールド設定に基づいて、[タイムシートに追加] および [選択項目をタイムシートに追加] オプションがタイムシートポータルに表示されます。

   タイムカードに重複するタイムカードが存在する場合、処理済み、承認済み、または取り消し済みステータスのタイムカードを除き、両方のタイムカードを結合して単一のタイムカードにすることができます。重複するタイムカードは、タイムカードの [簡単な説明]、[ステータス]、[タスク]、[カテゴリ]、[レートタイプ]、[リソースプラン]、または [プロジェクト時間カテゴリ] フィールドの値を比較することによって識別されます。
3. [ログが記録されたタイムカード] セクションで、タイムカードに時間を記録します。

### タイムシートポータルからタイムシートを送信

特定の週の作業時間でタイムシートを更新したら、承認のために送信します。

#### 始める前に
必要なロール：timecard_ user

#### このタスクについて
タイムシートを送信すると、タイムカードは割り当てられたタイムシートポリシーに照らして検証されます。タイムシートポリシーが割り当てられていない場合、タイムカードはデフォルトのタイムシートポリシーに照らして検証されます。ビジネスルールにより、違反が見つかった場合は、タイムシートを送信することはできません。

#### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > タイムシートポータル.
2. **[Submit** (送信)] をクリックします。
   タイムシートが [送信済み] ステータスに移行します。

### 時間を記録し、リソースのタイムシートを送信する

ユーザーマネージャーは、時間を記録したり、リソースのタイムシートを送信できます。

#### 始める前に
タイムカードを作成および編集し、他のタイムカードユーザーのタイムシートを送信するために、ユーザーマネージャーにはタイムカード承認者ロールが必要です。ユーザーマネージャーは、必要なロールのいずれかを持ち、タイムカードユーザーのマネージャーとして一覧表示されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：timecard_approver

手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > タイムシートポータル.
2. [自分のタイムシート] 選択リストをクリックし、[自分のリソース] でタイムシートを承認または却下するユーザーを選択します。

   [自分のリソース] セクションには、自分の部下であるタイムカードユーザーが一覧表示されます。

   注:
   [自分のタイムシート] 選択リストは、ユーザーマネージャーのみが使用できます。

3. 必要に応じて タイムシートポータルを使用してタイムカードを作成して時間を記録する。
4. [送信] をクリックします。

タスクの結果

- 選択したユーザーのタイムシートが [送信済み] ステータスに移行します。タイムカードユーザーに割り当てられたタイムシートポリシーは、タイムシートを送信する際の検証に使用されます。
- タイムシートに関連付けられているすべてのタイムカードも自動的に送信され、[送信済み] ステータスに移行します。
- [タイムシート] セクションに [承認] および [却下] ボタンが表示されます。前述した 2 つのボタンは、ユーザーマネージャーに対してのみ表示されます。

次のタスク
リソースのタイムシートを送信したら、[承認] または [却下] をクリックして承認または却下できます。ユーザーマネージャーにルーティングされたタイムカードのみが承認または却下されます。承認へのルーティングは、タイムカードユーザーのタイムシートポリシーの [プロジェクト以外の時間承認者] および [プロジェクト時間の承認者] フィールドに基づいて実行されます。

### タイムシート

タイムシートには、特定の週におけるユーザーのすべてのタイムカードがグループ化されます。

タイムシートでは以下のことができます。

- タイムカードユーザーは、タイムシートを使用するとワンステップで 1 週間の作業をすべて送信できます。
- タイムカード承認者は、タイムシートを承認することで、ユーザーのタイムシート内のすべてのタイムカードをワンステップで承認できます。特定のユーザーの複数のタイムカードを個別に承認する必要はありません。
- タイムシートフォームの [アクティビティ] セクションで、タイムシートを送信または承認したユーザーなど、タイムシートのアクティビティを追跡します。このタイムシートアクティビティ監査は、タイムカード処理の責任を別のユーザーに委任した場合の追跡に役立ちます。アクティビティを追跡するには、タイムカードアクティビティを監査するためにタイムカード [time_card] テーブルの [ステータス] フィールドを有効にします (まだ有効になっていない場合)。詳細については、「 監査にテーブルフィールドを含める 」を参照してください。

タイムシートのステータスは次のいずれかになります。

処理待ち
: タイムシートが作成されましたが、送信前にユーザーはまだ変更を行っています。

送信済み

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

タイムシートが承認のために送信されました。承認者はそれを承認または却下できます。

承認済み

タイムシートが承認されました。タイムシートが自動的に [処理済み] に更新されない場合は、タイムシートに関連付けられたタスクがなかったことを意味します。

処理済み

タイムシートがシステムによって処理されました。タイムシートが承認されると、後 (After) ビジネスルール [承認されたタイムカードから経費を作成 (Create expense from approved time card)] がトリガーされます。このビジネスルールは、関連するタスクの経費明細を作成し、ステータスを [処理済み] に更新します。

却下

変更のためにタイムシートが送信者に返送されました。

取り消し済み

送信者が修正のためにタイムシートを取り消しました。

## タイムシートを作成

タイムカードユーザーとして、指定された週のすべてのタイムカードをグループ化するタイムシートを作成し、ワンステップで送信します。

### 始める前に

必要なロール：timecard_user

### このタスクについて

ユーザーは、1 週間に 1 つのタイムシートしか作成できません。

**注:**
ユーザーが 1 週間のタイムカードを作成すると、その週のタイムシートも自動的に作成されます。

### 手順

1. これらのオプションのいずれかを使用してタイムシートを作成します。

2. フォームのフィールドに入力します。

#### タイムシートのフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 週の開始日 | タイムシートが作成される週の開始曜日。<br>**注:**<br>[タイムシートポリシー][週の開始日]は、週の開始日を制御します。 |
| 合計時間 | ユーザーがその週に作業した時間数。このフィールドは、関連付けられたタイムカードに記録された時間から自動的に入力されます。 |
| ユーザー | タイムシートが作成されるユーザーの名前。 |
| ステータス | タイムシートの現在のステータス。すべての新しいタイムシートは [処理待ち] として開始されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| | デフォルトのステータス：[処理待ち]、[送信済み]、[承認済み]、[処理済み]、[却下済み]、[取り消し済み]。 |
| コメント | タイムシートに関連するコメント。 |
| メモ | その他の追加情報。 |

3. [送信] をクリックします。

### 次のタスク
タイムシートにタイムカードを追加します。関連リンクと関連リストを使用して、タイムカードを追加できます。タイムシートポータルを使用してタイムカードを追加することもできます。

タイムシートフォームの関連リンクとリスト

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 関連リンク | |
| タイムカードを生成 | 割り当てられたプロジェクトタスクのタイムカードを生成するリンク。 |
| 前のタイムシートからコピー | 以前のタイムシートからタイムカードをコピーするための [タイムシートをコピー] ウィンドウを開くためのリンク。 |
| タイムシートポータル | タイムシートを表示および管理するためのタイムシートポータルを開くためのリンク。 |
| 関連リスト | |
| タイムカード | タイムシートの一部であるタイムカードのリスト。<br>タイムカードを作成するには、[新規] をクリックします。 |

## タイムシートを送信
タイムシートが作業した時間で更新されたら、その週のタイムシートとその週のすべてのタイムカードをまとめて送信できます。

### 始める前に
必要なロール：timecard_user

### このタスクについて
タイムシートを送信する際、ユーザーに割り当てられた タイムシートポリシーは検証に使用されます。ユーザーにタイムシートポリシーが割り当てられていない場合、タイムカードはデフォルトのタイムシートポリシーが使用されます。ビジネスルールにより、ユーザーの違反が見つかった場合は、タイムシートを送信することはできません。

**注:**
このタスクは、 タイムシートポータルからも実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 手順

1. 次のいずれかのオプションを使用して、タイムシートに移動します。
   - [保留中] ステータスのタイムシートを送信するには、次に移動します。タイムシート > 自分のタイムシート > **Pending** (保留中).
   - 今週のタイムシートを送信するには、次に移動します。 タイムシート > 自分のタイムシート > 現在のタイムシート.
   - 却下済みステータスのタイムシートを送信するには、 タイムシート > 自分のタイムシート > 却下. 却下コメントに提案されている必要な変更を加えて、却下されたタイムシートを再送信することができます。
2. タイムシートリストで送信するには、タイムシートを開きます。
3. 必要に応じてコメントを追加します。
4. [タイムシートの送信] をクリックします。

### タスクの結果

- タイムシートが [送信済み] ステータスに移行します。
- タイムシートに関連付けられているすべてのタイムカードも自動的に送信され、[送信済み] ステータスに移行します。

## タイムシートの承認または却下

指定された週のユーザーのタイムシートまたはタイムカードを 1 つのステップで表示、承認、または却下します。

### 始める前に
必要なロール：timecard_approver または timecard_admin

### このタスクについて
ユーザーマネージャーは、必要なロールのいずれかを持ち、タイムカードユーザーのユーザーフォームの [マネージャー] フィールドで選択されます。

休暇中、ユーザーマネージャーは、タイムシート承認者として必要なロールを持つ別のユーザーにタイムシートの承認を委任する などの操作を行うことができます。委任されたユーザーは、指定された期間、タイムカードユーザーが送信したすべてのタイムシートを受信して処理します。

### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > タイムシート > 承認待ち.
2. [タイムシート] リストで、承認または却下するタイムシートを開きます。
3. 必要に応じてコメントを追加します。
4. 承認または却下をクリックします。

### タスクの結果

- タイムシートが [承認済み] または [却下] ステータスに移行します。

**注:**

タイムシートが却下された場合、 タイムシートポータルの [通知を表示] アイコン ( ) の下にある却下済みのタイムシートの通知に一覧表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タイムシートに関連付けられているすべてのタイムカードも、自動的に承認または却下されます。
- タイムシートポリシーとして定義されているタイムシート内のいずれかのタイムカードが承認者の誰かによる承認待ちの場合、シートは [送信済み] ステータスのままになります。

注:

- 1 つ以上のタイムカードを選択して承認または却下することで、タイムシート内のタイムカードを選択的に承認または却下することもできます。
- タイムシートが却下された場合、[送信済み] ステータスの関連するすべてのタイムカードも自動的に却下されます。タイムシートの [承認済み] および [処理済み] ステータスのタイムカードは影響を受けません。
- タイムシート内のすべてのタイムカードが承認されると、タイムシートは自動的に [承認済み] ステータスに移行します。
- タイムシート内のタイムカードが [却下済み] ステータスの場合、タイムシート内の他のタイムカードのステータスに関係なく、タイムシートも[却下済み]ステータスに移行します。

### タイムカード

タイムカードは、タスクの割当先がタスクに費やした時間を記録するために使用されます。

タイムカード管理機能は、タスクテーブルと連携して、プロジェクト、インシデント、問題、および変更要求の作業時間を記録します。

タスクの割当先は、タスクレコードの [作業時間] フィールドに作業時間を記録するか、タイムカードに直接時間を入力することができます。一部のテーブルでは、開始日と終了日フィールドに基づくタイムカードの自動作成に対応しています。

タイムカードフォームの [アクティビティ] セクションで、タイムカードを送信または承認したユーザーなど、タイムカードのアクティビティを追跡します。このタイムカードアクティビティ監査は、タイムシート処理の責任を別のユーザーに委任した場合の追跡に役立ちます。アクティビティを追跡するには、タイムカードアクティビティを監査するためにタイムカード[time_card]テーブルの[ステータス]フィールドを有効にします (まだ有効になっていない場合)。詳細については、「 監査にテーブルフィールドを含める 」を参照してください。

プロジェクトタスクや、会議やトレーニングなどの他のタスクカテゴリのタイムカードを、関連するリソース計画 に関連付けることができます。

タイムカードを承認すると、タイムカードに記録された時間が、日ごとにタイムカード日次 [time_card_daily] テーブルに保存されます。日次のタイムログデータを使用して、タイムカードが属するタイムシート期間に関係なく、任意の期間のタイムカードレポートを日単位で生成できます。たとえば、月初日から最終日までのタイムカードを含む月次タイムカードレポートを作成できます。

タイムカードには、プロジェクトマネージャーがタイムカードを承認するためのオプションの承認メカニズムもあります。管理者とタイムカード承認者は、その週のすべてのタイムカードを表示できます。タスクの作業を担当するロールに属するすべてのユーザーは、自分のタイムカードにアクセスすることもできます。タイムカードのステータスは、次のいずれかになります。

#### タイムカードのステータス

| ステータス | 説明 |
|---|---|
| 処理待ち | 承認のために送信されていないタイムカード。 |
| 送信済み | 承認のために送信されたタイムカード。 |
| 承認済み | 承認済みのタイムカード。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムカードのステータス (続く)

| ステータス | 説明 |
| --- | --- |
| 処理日時 | 関連タスクの経費ラインを含む承認済みのタイムカード。 |
| 却下 | 却下されたタイムカード。 |
| 取り消し済み | 必要な調整のために取り消される承認済みのタイムカード。 |

## タイムカードを作成

タイムカードを作成して、実行した作業の時間を記録できます。

### 始める前に

必要なロール：timecard_user

### このタスクについて

[プロジェクトフォーム] の [タイムカードレポートを有効にする] フィールドによって、プロジェクトタスクのタイムカードを作成できるレベルが決まります。

> **注:**
> プロジェクトフォームから作成されたタイムカードは、ランダム割り当てを避けるためにリソース計画に自動的に入力されません。詳細については、Now Support ナレッジベース の記事 KB0814884 を参照してください。

タイムカードは、自動または手動で作成できます。

- 自動：タイムカードを自動的に生成するには、次のオプションを使用します。
  - タスクを更新する：

    タスク更新時にタイムカードを自動作成する

    ユーザーがタスクレコードを更新したときに作成されるタイムカードを設定します。割り当てられたタイムシートポリシーの [タスク更新時にタイムカードを自動作成] 設定がこの動作を制御するため、デフォルトでは false に設定されています。

    作業時間の入力によりタイムカードを自動入力する

    ユーザーが作業時間を記録した時にタイムカードが作成されるように設定します。タスクのタイムカードが存在しない場合、タイムカードが作成されます。タイムシートポリシーの [作業時間の入力によりタイムカードを自動入力する] は、この動作を制御するため、デフォルトでは false に設定されています。

    [プロジェクトタスク]、[インシデント]、[問題]、および [変更] のレコードで、[作業時間] フィールドはデフォルトでは表示されないため、フォームで設定する必要があります。

  - スケジュール設定済みジョブ別：スケジュール設定済みジョブを通じて、ユーザーに対して自動的に生成されるプロジェクトタスクのタイムカードを設定します。管理者だけがスケジュール設定済みジョブを設定できます。

    > **注:**
    > モバイルインターフェイスを使用している場合、タイムカードを自動的に作成することはできません。自動タイムカード機能を使用する場合は、デスクトップインターフェイスを使用します。

- 手動：タスクごとにタイムカードを作成し、手動で時間を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかのオプションを使用して、タイムカードを作成します。

2. フォームのフィールドに入力します。

タイムカードフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 週の開始日 | タイムシートの週の開始曜日。<br>注:<br>[タイムシートポリシー][週の開始日]は、週の開始日を制御します。タイムカードの開始週がリソース計画の日付外である場合に、リソース計画をタイムカードに関連付けようとすると、メッセージが表示されます。 |
| ステータス | タイムカードの現在のステータス。新しいタイムカードはすべて [処理待ち] 状態で開始されます。<br>タイムカードのステータスには、[処理待ち]、[送信済み]、[承認済み]、[処理済み]、[却下済み]、[取り消し済み] があります。 |
| カテゴリ | タイムカードが作成されるタスクのタイプ。 |
| タスク | タイムカードに関連付けられているタスク。 |
| プロジェクト時間カテゴリ | 時間が報告されるプロジェクト内のアクティビティタイプ。<br>このフィールドは、[カテゴリ] フィールドで [プロジェクト/プロジェクトタスク] または [タスク作業] を選択すると表示されます。 |
| ユーザー | タイムカードが作成されるユーザーの名前。 |
| レートタイプ | 経費ラインの生成時に考慮されるレートタイプ。<br>詳細については、「賃金レートカードのレートタイプ」を参照してください。<br>注:<br>このフィールドは、ユーザーの割り当てられたタイムシートポリシーで [複数のレートタイプを許可] オプションが選択されている場合に表示されます。 |
| リソースプラン | タイムカードに関連付けられているタスクのリソースプラン。タイムカードが承認されると、タイムカードエントリからの時間と時間単位のリソースレートは、関連するリソース計画の [実績時間] と [実績コスト] の値を更新するために使用されます。<br>リソース計画は、次の方法でタイムカードに関連付けられます。<br>○ タスクに複数のリソース計画がある場合、適切な計画を選択できます。<br>○ タスクにリソース計画が 1 つある場合、そのプランがデフォルトで選択されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>◦ タスクにリソース計画がない場合、関連するレコードは対応するプロジェクトを更新します。<br>◦ リソース計画の日付が時間送信週の日付外である場合、タイムカードにメッセージが表示されます。<br>◦ このフィールドは、ユーザーの割り当てられたタイムシートポリシーで [リソース計画/レポートの実績時間とコストを更新] オプションが選択されている場合に表示されます。 |
| 残り労力 | 計画されたタスクの残りの作業時間。残り労力は、 計画されたタスクテーブルの残り労力であり、次のように計算されます。<br>`残り労力 = 計画工数 - 実績工数`<br>**注:**<br>デフォルトでは、このフィールドはタイムカードフォーム上では利用できません。必要に応じて、フォームを設定してこのフィールドを追加します。 |

3. [送信] をクリックします。

### タスクの結果

- 選択したタイムカード期間のタイムカードが作成されます。
- その週のタイムシートが存在しない場合は、タイムカード週のタイムシートが作成されます。

### 次のタスク

タイムカードの作成後、タスクにかかった時間をタスクレコードの [作業時間] フィールドから自動的にインクリメントできます。タイムシートポリシーの[作業時間の入力によりタイムカードを自動入力する] は、タイムカードでの時間の更新方法を制御します。デフォルトでは、このポリシーは *[false]* に設定されています。作業時間の自動更新が設定されていない場合、ユーザーはタイムカードを手動で更新する必要があります。

### 関連情報

運用作業タイプにタイムカードカテゴリをマップ

## 以前のタイムシートからタイムカードをコピー

タイムカードを作成するもう 1 つのオプションは、既存のタイムシートからタイムカードをコピーすることです。これにより、選択したタイムシートから (プロジェクトおよびプロジェクト以外のタスクの) すべてのタイムカードがコピーされます。

### 始める前に

必要なロール：timecard_user

### このタスクについて

このタスクは、 タイムシートポータルからも実行できます。

### 手順

1. タイムカードを作成するタイムシートレコードを開きます。
2. [以前のタイムシートからコピー] 関連リンクをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. [タイムシートを選択] フィールドで、タイムカードをコピーする以前のタイムシートを選択します。
4. オプション: 以前のタイムシートのタスクについて記録された時間をコピーできます。[ログに記録された時間をコピー] チェックボックスをオンにします。
5. **[OK]** をクリックします。

### タスクの結果

プロジェクトタスクのタイムカード

今週進行中または予定されているすべてのプロジェクトタスクのタイムカードが、選択したタイムシートからコピーされます。選択した週にプロジェクトタスクのタイムカードが存在する場合、コピー中は重複するタイムカードは作成されません。

タスク以外のカテゴリのタイムカード

会議やトレーニングなど、タスク以外のすべてのカテゴリのタイムカードが、選択したタイムシートからコピーされます。選択した週にタスク以外のカテゴリのタイムカードが存在する場合、コピー中に重複するタイムカードが作成されます。

**注:**

- 以前のタイムシートにレートタイプがあり、ユーザー のタイムシートポリシーでレートタイプが許可されている場合、レートタイプも現在のタイムシートにコピーされます。
- 以前のタイムシートにレートタイプがあっても、ユーザーのタイムシートポリシーでレートタイプが許可されなくなった場合、レートタイプは現在のタイムシートにコピーされません。
- 以前のタイムシートに非アクティブなレートタイプがある場合、そのレートタイプはコピーされません。必要に応じて、ユーザーは個々のタイムカードを保存する前に別のレートタイプを入力できます。

## タイムカードを自動生成

管理者は、タイムカードユーザーに割り当てられたプロジェクトタスクのタイムカードを自動的に生成するように、スケジュール設定済みジョブを設定できます。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### このタスクについて

手動オプション [タイムカードを生成] に加えて、スケジュール設定済みジョブを実行して、プロジェクトタスクのタイムカードを自動的に生成することもできます。たとえば、毎週日曜日にジョブを毎週実行するようにスケジュールして、翌週のすべてのユーザーのタイムシートを生成することができます。組織のビジネスプロセスに基づいて、スケジュール設定済みジョブをいつ実行するかを設定できます。デフォルトでは、スケジュール設定済みジョブはオフになっています。詳細については、「 スクリプト実行のスケジュール 」を参照してください。

**注:**
スケジュール設定済みジョブでは、割り当てられたタイムシートポリシーで [タイムカードを毎週自動作成する] オプションが true に設定されているユーザーに対してのみ、タイムカードが自動生成されます。

### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [ジョブスケジュール] リストで、[タイムカードの自動生成] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. ビジネス要件に従って、スクリプトで次のパラメーターを構成します。
   - 実行対象 (CURRENT_WEEK, NEXT_WEEK, LAST_WEEK)
   - グループ名 (includeGroups、excludeGroups)

   注:
   - タイムカードの週にプロジェクトタスクのタイムカードが存在する場合、重複するタイムカードは作成されません。
   - タイムカードは、週中に進行中または予定されているプロジェクトタスクに対してのみ生成されます。
   - [プロジェクトフォーム] の [タイムカードレポートを許可]フィールドによって、プロジェクトタスクのタイムカードを作成できるレベルが決まります。

**Example:**
次のスクリプト例は、スケジュール設定済みジョブが実行され、データベースグループとハードウェアグループの現在の週のタイムカードが生成されるときに実行されます。

```
// Clone this schedule job to run separately for different groups at different times
// One of the following values
// TimeCardConstants.CURRENT_WEEK
// TimeCardConstants.NEXT_WEEK
// TimeCardConstants.LAST_WEEK
var runFor = TimeCardConstants.CURRENT_WEEK;

// Comma separated group sys ids or group names. TimeSheet/TimeCards will be auto
 generated for time card users in the given groups.
var includeGroups = [Database,Hardware];
var excludeGroups = [];

var generator = new TimeCardGenerator();
generator.generateFromConfig(runFor, includeGroups, excludeGroups);
```

自動翻訳

## タイムカードを送信

タイムカードユーザーは、その週のタイムカードが作業した時間で更新されると、個別にタイムカードを送信できます。

### 始める前に
[処理待ち] または [却下済み] ステータスのタイムカードを送信できます。

必要なロール：timecard_user

### このタスクについて
タイムカードを送信する際、ユーザーに割り当てられた タイムシートポリシーは検証に使用されます。ユーザーにタイムシートポリシーが割り当てられていない場合、タイムカードはデフォルトのタイムシートポリシーが使用されます。ビジネスルールにより、ユーザーの違反が見つかった場合は、タイムカードを送信することはできません。

### 手順
1. 移動先：
   - タイムシート > 私のタイムカード > すべて
   - タイムシートのタイムカード関連リスト。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 送信するタイムカードは複数選択できます。

2. [タイムカード] リストで、送信するタイムカードを開きます。
3. [タイムカードを送信] をクリックします。

### タスクの結果

- タイムカードが [送信済み] ステータスに移行します。
- タイムカードは、ユーザーに割り当てられたタイムシートポリシーの[プロジェクト時間の承認者]フィールドと[プロジェクト以外の時間承認者]フィールドに設定された値に基づいて承認者に送信されます。

> **注:**
> タイムカードの送信後にプロジェクトまたはユーザーマネージャーが変更された場合、タイムカードは承認のために新しいプロジェクトまたはユーザーマネージャーに自動的にリダイレクトされます。

## タイムカードの承認または却下

タイムカード承認者は、送信されたタイムカードを表示して承認または却下できます。

### 始める前に

必要なロール：timecard_approver または timecard_admin

### このタスクについて

承認のために送信されたタイムカード、または他のユーザーマネージャーによってタイムカード承認者として委任されたタイムカードのみを表示できます。ユーザーに割り当てられたタイムシートポリシーによって、承認プロセスが決まります。

### 手順

1. 移動先 すべて > タイムシート > タイムカード > 承認待ち.
2. 承認または却下するタイムカードを選択します。
3. 承認または却下をクリックします。

### タスクの結果

- タイムカードが [承認済み] または [却下済み] ステータスに移行します。
- 承認されたタイムカードの経費ラインが作成されます。
- 承認されたタイムカードの場合、タイムカード日次レコードが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- ユーザーマネージャーは、1 つ以上のタイムカードを選択して承認することで、タイムシート内のタイムカードを承認することもできます。タイムシート内のすべてのタイムカードが承認されると、タイムシートは自動的に [承認済み] ステータスに移行します。

  ユーザーマネージャーは、タイムカードユーザーのユーザーフォームのマネージャーフィールドで選択されます。

- タイムカードが [却下] ステータスの場合、タイムシート内の他のタイムカードのステータスに関係なく、関連するタイムシートも [却下] ステータスに移行します。

  注:

  タイムシートが却下された場合、 タイムシートポータルの [通知] アイコン (1) の下にある却下済みタイムシートの通知に一覧表示されます。

- 割り当てられたタイムシートポリシーで [プロジェクト時間の承認者] が [両方] に設定されている場合、タイムカードは双方の承認者が承認した場合にのみ [送信済み] ステータスになります。承認者のいずれかが却下した場合、タイムカードのステータスは [却下済み] に設定され、[承認者] フィールドがクリアされ、再送信時に両方の承認者の承認が必要になります。

### 作業時間の記録

タイムカードは、プロジェクトで発生した時間またはタスクテーブルの任意のレコードの作業に費やされた時間を [作業時間] フィールドから取得します。

このフィールドは、[プロジェクトタスク]、[インシデント]、[問題]、および [変更] フォームでデフォルトでは表示されません。フォームをパーソナライズして追加する必要があります。このフィールドに記録された時間は、既存のタイムカードを入力するため、またはタイムカードが存在しない場合は新しいタイムカードを作成するために使用されます。タイムシートポリシーは、この動作を制御します。

注:

作業時間が更新されると、タイムカードは次の場合にのみ作成されます。

- ユーザーがタイムカードユーザーであり、かつ
- ユーザーが [アサイン先] または [追加のアサイン先リスト] フィールドからタスクにアサインされている。

[作業時間] フィールドには、レコードに使われた時間の間、ストップウォッチのように機能するカウンターがあります。フィールドのボタンで、カウンターを停止および開始できます。デフォルトでは、 作業時間カウンターは有効になっており、レコードを開くと経過時間の記録を開始します。停止ボタンでカウンターを停止し、開始ボタンで再開します。

タイムカウンターが開始しました：

作業時間が開始されました

タイムカウンターが停止しました：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

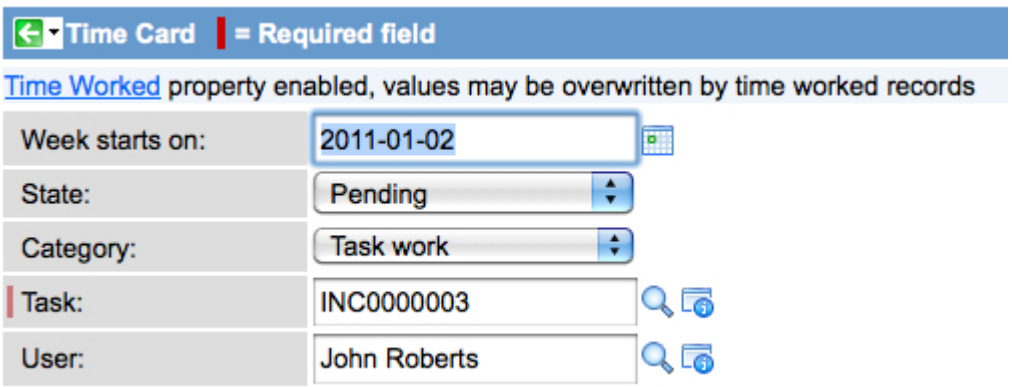


自動翻訳

作業時間が停止されました

作業時間エントリからタイムカードを作成する場合は、[作業時間] 関連リストを追加してタイムカードフォームに作業時間レコードを表示するように管理者に依頼することができます。また、タイムカードには、作業時間レコードへの変更がタイムカードの値よりも優先されることを知らせる情報メッセージが表示されます。これは フォーマッター を使用して表示され、フォームを設定することで追加または削除できます。

作業時間の通知




### コストを管理

コスト管理機能を有効にすると、Cost Management アプリケーションでタイムカードを使用して人件費を管理できます。

プロジェクトタスクのタイムカードが承認されると、プロジェクトに関連付けられた対応する人件費の経費ラインが生成されます。プロジェクトにレートモデル が関連付けられている場合、経費ラインの人件費を計算するための時給はレートモデルから算出されます。レートモデルがプロジェクトに関連付けられていない場合は、賃金レートカードに記載されているレートが考慮されます。適用可能な賃金レートカードがない場合は、プロパティ `com.snc.time_card.default_rate` によってデフォルトの時給が定義されます。

## ロール

timecard_admin ロールを使用すると、ユーザーは他のユーザーのタイムカードを承認、変更、削除できます。

関連情報

コスト管理を有効化

### Domain Separation とタイムカード

Domain Separation はタイムカードでサポートされています。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

## サポートレベル：ベーシック

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、Domain Separation を完全にサポートしています。ドメイン分離には、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

タイムカード でのドメイン分離の使用の詳細については、「https://community.servicenow.com/community?id=community_article&sys_id=616d706edbb318d066f1d9d9689619c1」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

## レポート用のデータベースビューの作成

データベースビューでは、レポートの目的でテーブルの結合を定義します。

たとえば、データベースビューはインシデントテーブルを測定基準の定義テーブルや測定基準インスタンステーブルに結合できます。このビューはインシデント測定基準のレポートに使用でき、これら 3 つのテーブルのいずれかのフィールドを含めることができます。

いくつかの便利なデータベースビューが、Database View プラグインおよび Database Views for Service Management プラグインとともにインストールされます。これらのデータベースビューは、ほとんどの測定基準レポートのニーズに対応し、新しいビューを定義する必要性を大幅に低減します。

レポートを作成できるユーザーは、データベースビューをレポートソースとして使用できますが、基礎となるテーブルの ACL が優先されます。

**注:**

- ビューに含まれるテーブルの数とそれらのテーブルに含まれるレコードの数が増えると、パフォーマンスへの累積的な影響が大きくなります。データベースビューのパフォーマンスを最大化するには、データベースビューで定義されている「where」節がインデックス付きフィールドに基づいていることを確認してください。
- データベースビューはカスタムテーブルのように扱われないため、ライセンスの影響はありません。
- データベースビューテーブルは FTP エクスポートには含まれません。

### 制限事項

- テーブルローテーションに参加するテーブルにデータベースビューを作成することはできません。
- データベースビュー出力のデータを編集することはできません。
- データベースビューテーブルをクローン要求のデータリザーバーとして追加することはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## ACL とデータベースビュー

ビュー内のフィールドに ACL を作成する必要はありません。システムは、基礎となるテーブルに存在するコンテキスト ACL (条件またはスクリプト付き ACL) を優先します。非コンテキスト ACL (ロールチェックのみの ACL) は、以前のリリースと同様に引き続き使用されます。

明示的に読み取った ACL をデータベースビューに追加するように要求するには、*glide.security.expander.view.legacy* プロパティを **true** に設定します。アップグレードされたインスタンスで、このシステムプロパティを追加して **true** に設定します。

データベースビューで追加の ACL を作成することもできます。これらの ACL は最後に評価され、常に優先されます。

## データベースビューの予約語

これらの用語を使用すると、意図しないパフォーマンスや望ましくないパフォーマンスが発生する可能性があります。詳細については、MySQL の予約語に関するドキュメント を参照してください。

### データベースビューの作成

テーブルを結合するデータベースビューを作成します。その後、データベースビューに基づいてレポートを作成できます。

[データベースビュー] モジュールを使用して、テーブルを結合するデータベースビューを作成し、ビュー内の各テーブルのデータを結合する疑似テーブルを作成します。レポートにテーブルとしてデータベースビューを追加することで、このデータに関するレポートを作成できます。データベースビューへのアクセスには、データベースへのアクセスは必要ありません。

### データベースビューの作成

データベースビューを作成します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > データベースビュー.
2. [新規] を選択します。
3. 新しいテーブルの命名と同じように、ビューに名前を付けます。
   アプリケーションにより、大文字が小文字に、スペースがアンダースコアに変換されます。
4. ラベルと複数形を指定します。

   [ラベル] フィールドと [複数形] フィールドは、リストおよびフォームでデータベースビューがどのようにラベル付けされるかを定義します。

5. オプション: 他のユーザーがその目的を把握できるように、データベースビューの説明を入力します。
6. [送信] を選択します。

#### タスクの結果
データベースビューが作成され、[データベースビュー] モジュールからアクセスできるようになります。

#### 次のタスク
データベースビューへのテーブルの追加

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## データベースビューへのテーブルの追加

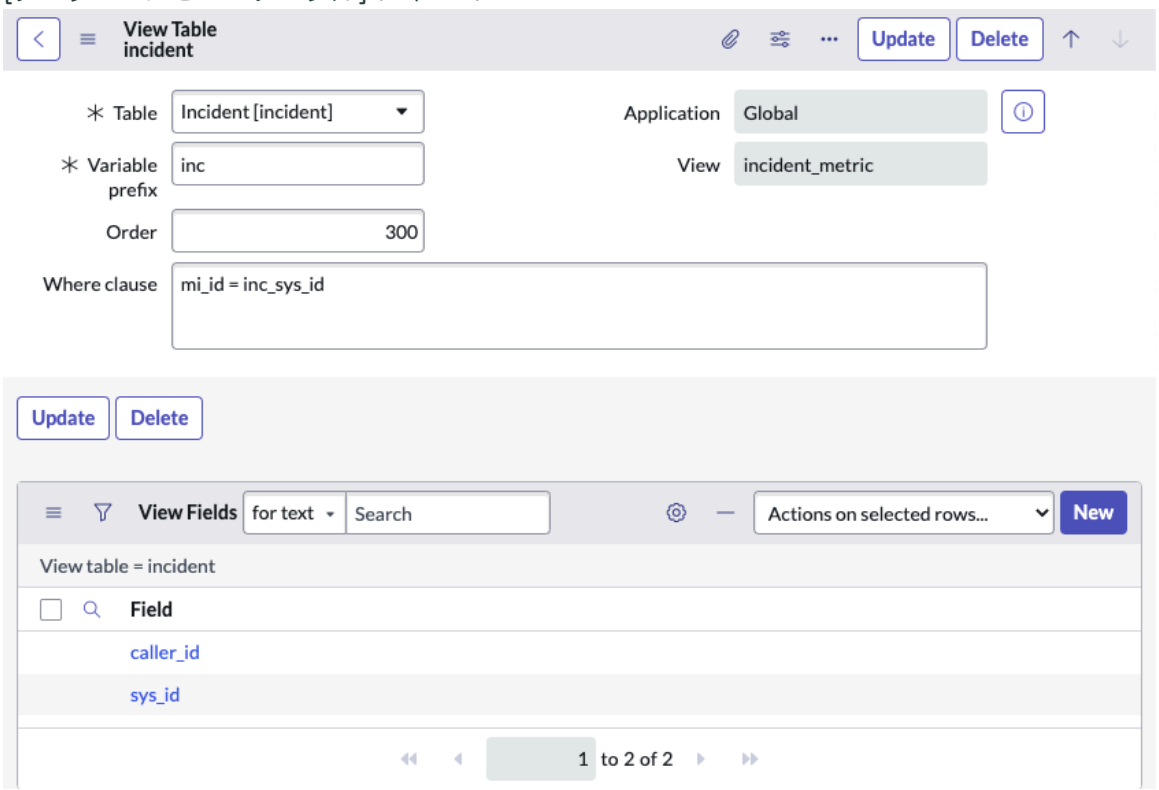
データベースビューに結合するテーブルを指定します。

### 始める前に
必要なロール：admin

### このタスクについて
[ビューテーブル] フォームの [テーブル] フィールドは、データベースビューに結合するテーブルを指定します。結合の条件を定義する **where** 節を指定する場合は、変数プリフィックスを割り当てます。これらの条件は任意のフィールドを参照できますが、通常はテーブル内のフィールドをデータベースビューの別のテーブル内のフィールドと照合することで、結合を定義します。

**where** 節を記述する場合は、テーブルの変数プリフィックスにアンダースコアを付けてフィールド名を追加します。次の例では、**[mi_id]** は、測定基準インスタンス [metric_instance] テーブル (mi) の **[id]** フィールドを参照しており、**[inc_sys_id]** はインシデント [incident] テーブル (inc) の **[sys_id]** フィールドを参照しています。

[データベースビューテーブル] フォーム




**注:**

- テーブルローテーション に参加するテーブルにデータベースビューを作成することはできません。
- 変数プリフィックスには小文字のみを使用してください。大文字を使用すると、リストにデータベースビューが表示されない場合があります。

左結合を使用してビューを作成する例については、「データベースビューの作成における左結合の例」を参照してください。

**[Where 節]** でサポートされる JavaScript 条件演算子は次のとおりです。

- =
- !=

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 次の値未満 (<)
- <=
- >
- >=
- &&
- ||

データベースビューの **Where** 節では、Like 条件や CONTAINS 条件はサポートされていません。リストのフィルタリング、Glide クエリの実行、またはレポートの実行時に、= 演算子を使用して sys_id に基づいてテーブルをリンクします。

手順

1. [データベースビュー] フォームで、[ビューテーブル] 関連リストの [新規] をクリックします。
2. フォームを構成 フォームを構成し、[左結合] フィールド (チェックボックス) をフォームに追加します。
3. [保存] を選択します。
4. フォームに入力し、[左結合] チェックボックスをオンにします。
   - [左結合] を選択すると、結合条件で右側のテーブルに一致するレコードが見つからなくても、データベースビューの左側のテーブルにすべてのレコードが表示されます。**Where** 節を指定するテーブルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。**[Where** 節] のないビューテーブルで [左結合] を選択しても、クエリーには影響しません。
   - 結合されたテーブルは、[順序] 値が最小から最大の順に、左から右に並べられます。
5. [送信] を選択します。
6. [ビューテーブル] 関連リストをカスタマイズして、[左結合] 列を表示します。
   [左結合] フィールドは **true** です。
7. レコードを選択してテーブルを表示します。
8. Where 節に OR を追加するには、|| を使用します。

   たとえば、「RFC に関連するすべてのインシデント」と「変更要求の親であるすべてのインシデント」を OR 条件で照会するには、「inc_rfc = chg_sys_id || chg_parent = inc_sys_id」という構文を使用します。

### データベースビューの作成における左結合の例

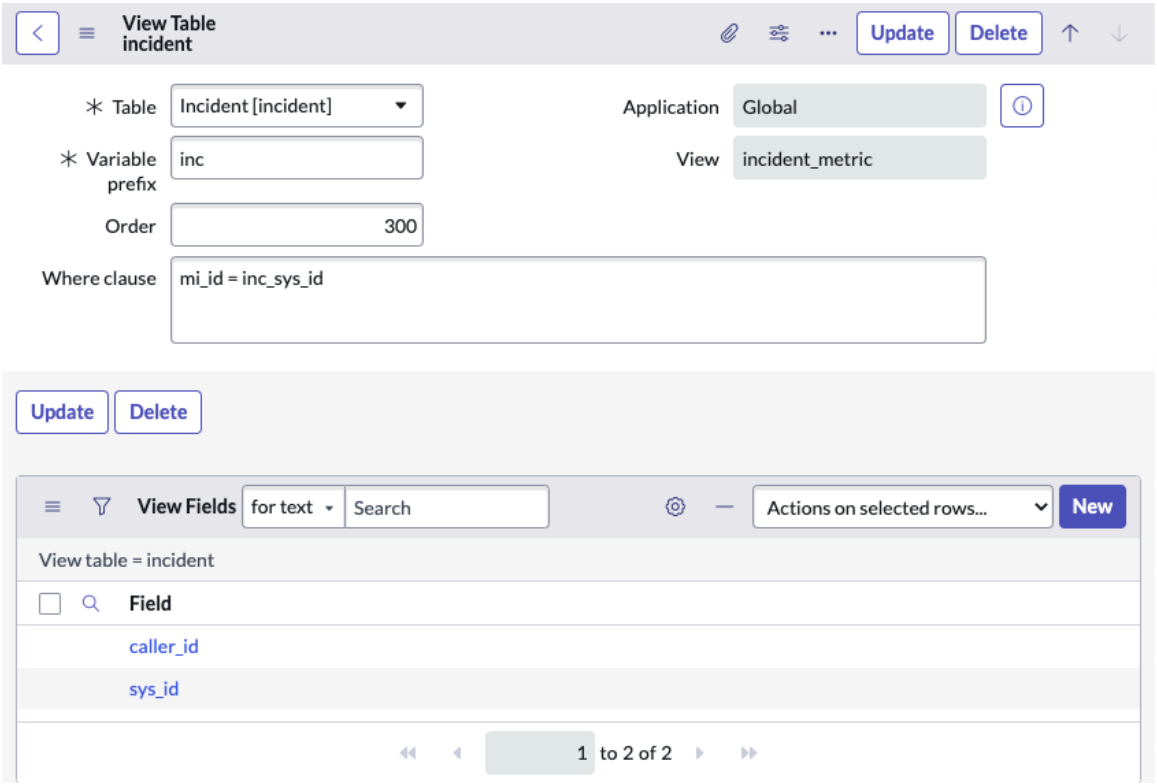
この例は、左結合を使用してデータベースビューにテーブルを追加する場合の適切な設定を示しています。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
次の手順は、カタログタスクとその親のリストを含むデータベースビューを作成する方法を示しています。ほとんどの手順は [ビューテーブル] フォームで実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > データベースビュー.
2. 編集するビューを選択します。
   [データベースビュー] ページが表示されます。[ビューテーブル] 関連リストで、データベースビューに使用するテーブルを指定します。
3. [ビューテーブル] 関連リストで [新規] を選択します。
4. フォームレイアウトを構成 して、[左結合] チェックボックスをフォームに追加します。
5. フォームに次のデータを入力し、カタログタスク [sc_task] テーブルをデータベースビューに追加してから [送信] を選択します。 結合されたテーブルは、[順序] 値が最小から最大の順に、左から右に並べられます。

| フィールド | 値 |
|---|---|
| テーブル | カタログタスク [sc_task] |
| 変数プリフィックス | cat |
| 順番 | 100 |
| Where 節 | 空白のまま |

   [データベースビュー] ページが、[カタログタスク] テーブルとともに [ビューテーブル] テーブルに表示されます。
6. [ビューテーブル] テーブルで [新規] を選択し、フォームに次のデータを入力してから [送信] を選択することで、要求アイテム [sc_req_item] テーブルをデータベースビューに追加します。 結合されたテーブルは、[順序] 値が最小から最大の順に、左から右に並べられます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| テーブル | 要求アイテム [sc_req_item] |
| 変数プリフィックス | アイテム |
| 順番 | 200 |
| Where 節 | cat_parent=item_sys_id |
| [左結合] チェックボックス | true |

[データベースビュー] ページが、[要求アイテム] テーブルとともに [ビューテーブル] テーブルに表示されます。

7. [ビューテーブル] テーブルで [新規] を選択し、フォームに次のデータを入力してから [送信] を選択することで、要求 [sc_request] テーブルをデータベースビューに追加します。

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| テーブル | 要求 [sc_request] |
| 変数プリフィックス | req |
| 順番 | 300 |
| Where 節 | cat_parent=req_sys_id |
| [左結合] チェックボックス | true |

[データベースビュー] ページが、[要求] テーブルとともに [ビューテーブル] テーブルに表示されます。

8. [ビューテーブル] テーブルで [新規] を選択し、フォームに次のデータを入力してから [送信] を選択することで、ユーザー [sys_user] テーブルをデータベースビューに追加します。

| フィールド | 値 |
| --- | --- |
| テーブル | ユーザー [sys_user] |
| 変数プリフィックス | ユーザー |
| 順番 | 400 |
| Where 節 | cat_opened_by=user_sys_id |
| [左結合] チェックボックス | False |

   - [データベースビュー] ページが、[ユーザー] テーブルとともに [ビューテーブル] テーブルに表示されます。
   - カタログタスクの親レコードが要求アイテムの場合、要求テーブルのすべてのフィールドが空白になります。
   - 親レコードが要求の場合、要求アイテム内のフィールドがすべて空白になります。
   - 左結合が 2 個あるため、親が空であるか、要求アイテムでも要求でもない場合であっても、[カタログタスク] レコードが返されます。
   - ユーザーは左結合ではないため、カタログタスク行が返されるようにするには、その行の [オープン者] フィールドに一致するユーザーが sys_user に存在する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. オプション: 次の手順を実行すると、左結合がデータベースビューに与える影響の詳細を確認できます。
   左結合を作成する場所で：
   - ユーザーが true の場合、[作成者] が空の行が返されます。
   - 要求アイテムが false の場合、要求アイテムを親として持つカタログタスクのみが返されます。
   - 要求が false の場合、要求を親として持つカタログタスクのみが返されます。
   - 要求アイテムと要求が false の場合、行は返されません。これは、要求アイテムと要求を親として持つことはできないためです。

### 返すフィールドの指定

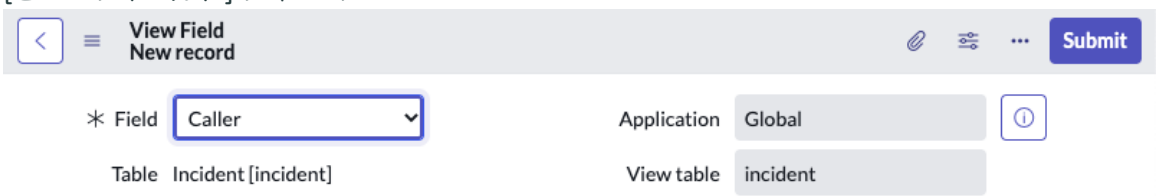
結合されたテーブルによって返されるフィールドは制限または指定できます。

[ビューテーブル] 関連リストにフィールドを追加することで、データベースビューの出力に表示されるフィールドを制限できます。

データベースビューレコードでビューテーブルを選択し、[ビューフィールド] 関連リストで [新規] を選択します。[ビューフィールド] フォームで、データベースビューの出力に表示するフィールドを選択します。

[ビューフィールド] 関連リストにフィールドが定義されていない場合は、すべてのフィールドが返されます。フィールドが定義されている場合は、それらのフィールドのみが返されます。たとえば、すべてのユーザーに表示させるべきではないフィールドがある場合は、表示を制限できます。

[ビューフィールド] フォーム




フィールドを制限する場合は、親レコードの *where* 節からの結合フィールド用に、ビューフィールドレコードを作成する必要があります。このフィールドのレコードを省略すると、レコードを返すことができず、結合は失敗します。

前の例では、*where* 節はインシデントテーブルの *[sys_id]* フィールドを使用して結合を確立します。制限付きフィールドリストで結合を成功させるには、*[sys_id]* フィールドのレコードを、[ビューフィールド] 関連リストに含める必要があります。

データベースビューレコードの [試行] 関連リンクを使用して変更を確認します。「データベースビューのテスト」を参照してください。

### 列のラベル変更

場合によっては、2 つの異なるテーブルに、名前が同じで両方とも重要なフィールドが含まれることがあります (sys_updated_on フィールドを持つ 2 つのテーブルなど)。わかりやすくするために、どちらかのフィールドのラベルを付け直してください。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
明確なレポートを作成するために、フィールドの名前を変更せずにデータベースビュー [sys_db_view] テーブルのフィールドのラベルを変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > 言語ファイル.
2. [新規] を選択します。
3. 次のようにフォームに入力します。

新規言語ファイルのフィールド

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | データベースビューの名前 |
| ラベル | ラベルの表示 |
| 複数形 | 表示ラベルの複数形 |
| 要素 | データベースビューのフィールド名 |

4. [送信] を選択します。

### 返すレコード数の指定

ビューがスクリプトで使用されている場合に、データベースビューで返すレコードの数を指定します。

*glide.db.max_view_records* というプロパティは、スクリプト内で GlideRecord クエリーを実行するときに返される最大行数制御します。このプロパティのデフォルト値は 10000 です。この値を変更するには、システムプロパティ [sys_properties] テーブルにプロパティを追加し、返す行数を編集します。

このプロパティは、スクリプトで [データベースビュー] テーブルを照会する場合にのみ適用されます。[データベースビュー] テーブルがリストまたはレポートで使用されている場合、このプロパティは適用されません。データベースビューに基づくレポートまたはリストは、ビュー内のすべての行を使用します。

### データベースビューのテスト

データベースビューが正しく機能することを確認します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > > システム定義 > データベースビュー.
2. テストするデータベースビューを選択します。
3. [試行] 関連リンクをクリックして、ビューをテストします。

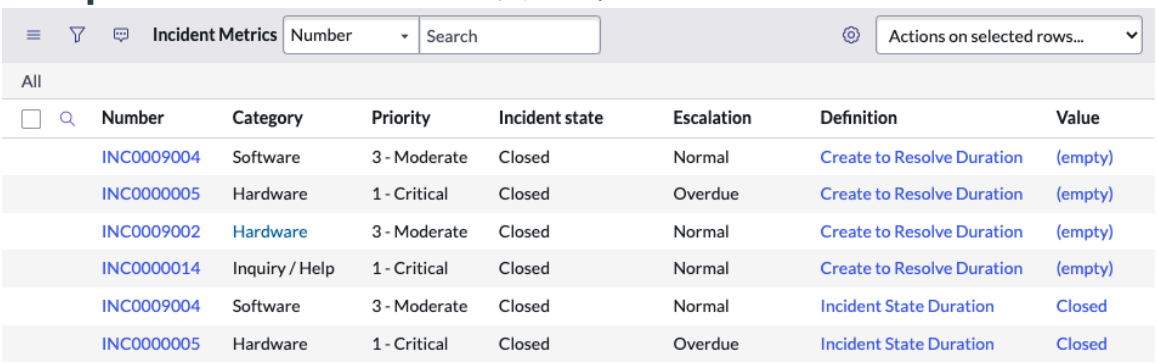
> **注:**
> [試行] リンクが表示されない場合、ビューに必要なテーブルは存在しません。この問題が発生した場合は、サポートテーブルを作成するために必要なプラグインがアクティブ化されていない可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データベースビューが実行され、アイテムのリストが表示されます。各テーブルの [ビューフィールド] 関連リストにフィールドが指定されている場合、出力はそれらのフィールドに制限されます。ビューフィールドを指定したのにビューが正しく表示されない場合は、各テーブルの [ビューフィールド] 関連リストを確認し、**Where** 節のフィールドが含まれていることを確認します。

### **Example:** サンプルのインシデント測定基準データベースビューの出力


Incident Metrics | Number | Search | Actions on selected rows...

All

| Number | Category | Priority | Incident state | Escalation | Definition | Value |
|---|---|---|---|---|---|---|
| INC0009004 | Software | 3 - Moderate | Closed | Normal | Create to Resolve Duration | (empty) |
| INC0000005 | Hardware | 1 - Critical | Closed | Overdue | Create to Resolve Duration | (empty) |
| INC0009002 | Hardware | 3 - Moderate | Closed | Normal | Create to Resolve Duration | (empty) |
| INC0000014 | Inquiry / Help | 1 - Critical | Closed | Normal | Create to Resolve Duration | (empty) |
| INC0009004 | Software | 3 - Moderate | Closed | Normal | Incident State Duration | Closed |
| INC0000005 | Hardware | 1 - Critical | Closed | Overdue | Incident State Duration | Closed |

## データベースビューでの関数の結果の表示

関数フィールドを出力に追加して関数の結果を表示することで、データベースビューの表示を拡張できます。

関数フィールドでは、一般的なデータベース変換やシステムのフィールドに関する計算が実行されます。関数フィールドはデータを格納しませんが、関数が実行されたときのデータベースクエリーの結果を表示します。

たとえば、[簡単な説明] フィールドの長さを計算する関数フィールドを追加することで、文字数が 10 文字未満のため、説明の効率がよくないインシデントを特定できます。

## データベース関数を実行する関数フィールドの作成

数学演算、フィールド長の計算、曜日の計算などのデータベース関数の結果を表示する関数フィールドを作成します。

### 始める前に

必要なロール：admin

物理テーブルから関数フィールドを選択するか、データベースビューで関数フィールドを直接作成することができます。

データベースビューで直接関数フィールドを作成する場合は、関数定義のデータベースビューの変数プリフィックスを使用して列を識別する必要があります。関数フィールドを作成する前に、データベースビューの変数プリフィックスをメモします。

たとえば、インシデントテーブルの変数プリフィックスが inc2 で、説明フィールドの長さを返す場合、関数定義は glidefunction:length(inc2_description) になります。測定基準インスタンステーブルの変数プリフィックスが mi で、 [定義] フィールドと [値] フィールドを連結する場合、関数定義は glidefunction:concat(mi_definition.name,' ',mi_value) になります。

### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > ディクショナリ.
2. [新規] を選択します。
3. [機能フィールド] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数フィールドフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 関数フィールドが追加されるテーブルまたはデータベースビュー。<br><br>データベースビューを選択する場合は、[関数の定義] フィールドにデータベースビューの変数プリフィックスを含める必要があります。 |
| タイプ | フィールドのタイプ：文字列、数値、日付など |
| 列ラベル | 列のラベル。 |
| 列名 | 列の名前。このフィールドは [列ラベル] フィールド値に基づいて自動的に設定されます。 |
| 最大長 | 返り値の最大長。 |
| 機能フィールド | 選択すると、数学演算、フィールド長計算、曜日計算など、データベース関数の結果を表示するフィールドが作成されます。<br><br>新しい関数レコードが保存されると、チェックボックスをオフにしてそのフィールドを通常のフィールドにすることはできません。 |
| 機能の定義 | フィールドが実行する関数。<br><br>関数の形式は glidefunction: で始まり、そのあとに実行される操作 (concat など)、関数のパラメーターが続きます。定数は単一引用符で囲む必要があります。<br><br>**重要:**<br>物理テーブルではなくデータベースビューに基づいて関数フィールドを作成する場合は、[関数の定義] フィールドに、データベースビューの変数プリフィックスを含める必要があります。 |

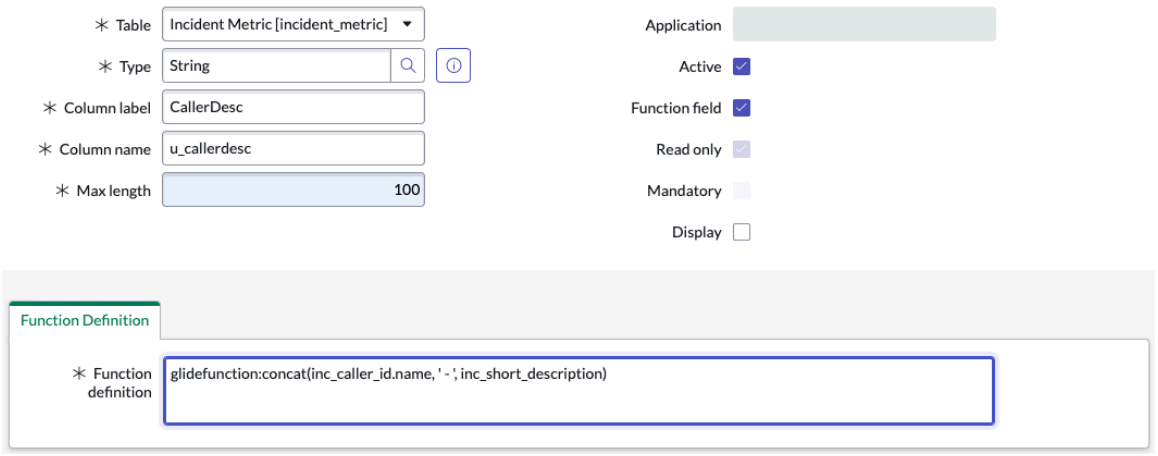
**5.** [送信] を選択します。

### **Example:** インシデント測定基準データベースビューでの関数フィールドの作成

この例では、新しい [関数] フィールドである CallerDesc が、インシデント測定基準データベースビューに追加されます。このフィールドでは、発信者名、ハイフン、および簡単な説明が連結されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




関数フィールドが物理テーブルではなくインシデント測定基準データベースビューで定義されているため、変数プリフィックス inc が含まれています。プリフィックスは、使用する [short_description] 列と [caller_id] 列をデータベースビューの一部であるテーブルと区別するために必要です。

### 次のタスク
データベースビューでの関数の結果の表示

## データベースビューでの関数の結果の表示

関数フィールドをデータベースビューの出力に追加して、関数がどのようになるか確認します。

### 始める前に
必要なロール：管理者

### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > データベースビュー.
2. データベースビューを選択します。
3. [試行] 関連リンクを選択します。
4. 関数フィールドをデータベースビューの出力に追加します。
   「Configure items on forms or in lists using a list collector」を参照してください。
5. 予想される値が返されない場合、または戻り値が関数の定義が無効であることを示す場合は、関数の定義を確認してください。
   - 「無効な関数 **(Invalid function)**」というメッセージが返された場合、文字列フィールドタイプの関数の定義が無効です。
   - 空の値が返された場合は、その他のフィールドタイプの機能の定義が無効です。
   - 予期しない値が返された場合は、関数の定義のフィールドの定義を確認してください。

### タスクの結果
関数フィールドの操作が実行され、結果がデータベースビューの出力に表示されます。

## 複雑なクエリーでの分離の使用

ServiceNow は、クエリー内で分離ステートメントの前に結合ステートメントを実行します。

複雑なクエリーを作成する場合は、クエリー要素が適切にグループ化されるように、必要に応じて分離を括弧で囲む必要があります。たとえば、クエリー `(md_table = 'incident' || md_table = 'task') && mi_definition = md_sys_id && mi_id = inc_sys_id` では括弧の使用が

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要です。このクエリーから括弧を削除すると、md_table の値が *incident* であるレコードがすべて返されます。

### ベースシステムのデータベースビュー

一部のビューは、Database Views プラグインと Database Views for Service Management プラグインとともにベースシステムに含まれています。

#### データベースビュー

| 名前 | 説明 | ラベル |
|---|---|---|
| change_request_metric | 変更の測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「カテゴリによってクローズされた変更」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | 変更測定基準 |
| change_request_sla | change_request を sla(task_sla) に結合し、変更カテゴリ別に sla によって解決された変更要求などのレポートを作成できるビューを作成します。 | 変更要求 SLA |
| change_task_metric | 変更タスクの測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「ステータス変更によってクローズされた変更タスク」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | 変更タスク測定基準 |
| change_task_sla | change_task を sla(task_sla) に結合し、sla によって解決された変更タスクなどのレポートを作成できるビューを作成します。 | 変更タスク SLA |
| change_task_time_worked | 変更タスクをタスク作業時間に結合し、インシデントに関連付けられた作業時間エントリをプルします。 | 変更タスク作業時間 |
| incident_metric | インシデントの測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「カテゴリによる最初のコールで解決されたインシデント」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | インシデント測定基準 |
| incident_sla | インシデントを sla (task_sla) に結合し、インシデントカテゴリ別に sla によって解決されたインシデントなどのレポートを作成します。 | インシデント SLA |
| incident_time_worked | インシデントをタスク作業時間に結合し、インシデントに関連付けられた作業時間エントリをプルします。 | インシデント作業時間 |
| pm_project_metric | pm_project を測定基準インスタンスに結合し、「名前または日付によってクローズされたプロジェクト」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | プロジェクト測定基準 |
| pm_project_sla | pm_project を sla (task_sla) に結合し、sla によるプロジェクト名などをレポートします。 | プロジェクト SLA |
| pm_project_task_metric | pm_project_task 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「名前または日付によってクローズされたプロジェクトタスク」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | プロジェクトタスク測定基準 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データベースビュー (続く)

| 名前 | 説明 | ラベル |
|---|---|---|
| pm_project_task_sla | pm_project を sla (task_sla) に結合し、sla によるリリースタスクなどをレポートします。 | プロジェクトタスク SLA |
| pm_project_task_time_worked | pm_project_task をタスク作業時間に結合し、プロジェクトタスクに関連付けられた作業時間エントリをプルします。 | プロジェクトのタスク作業時間 |
| problem_metric | 問題の測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「カテゴリによる最初のコールで解決された問題」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | 問題の測定基準 |
| problem_sla | 問題を sla (task_sla) に結合して、問題のステータス別に sla によって解決された問題などをレポートします。 | 問題 SLA |
| release_feature_metric | release_feature 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「製品によってクローズされたリリース機能」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | リリース機能測定基準 |
| release_project_metric | release_project の測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「カテゴリによってクローズされたリリース」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | リリース測定基準 |
| release_task_metric | release_task 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「機能によってクローズされたリリース機能」のようなレポートを作成できるビューを作成します。 | リリースタスク測定基準 |
| release_task_sla | release_task を sla (task_sla) に結合し、sla によるリリースタスクなどをレポートします。 | リリースタスク SLA |
| sc_request_metric | sc_request 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「カテゴリによってクローズされた要求」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | カタログ要求測定基準 |
| sc_request_sla | sc_request を sla (task_sla) に結合し、sla による要求などをレポートします。 | カタログ要求 SLA |
| sc_req_item_metric | sc_request_item 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「アイテムによってクローズされた要求アイテム」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | カタログ要求アイテム測定基準 |
| sc_req_item_sla | sc_req_item を sla (task_sla) に結合し、sla による要求アイテムなどをレポートします。 | カタログ要求 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データベースビュー (続く)

| 名前 | 説明 | ラベル |
|---|---|---|
| | | アイテム SLA |
| sc_task_metric | sc_task 測定基準定義を測定基準インスタンスに結合し、「アイテムによってクローズされたカタログタスク」などのレポートを作成できるビューを作成します。 | カタログタスク測定基準 |
| sc_task_sla | sc_task を sla (task_sla) に結合し、sla によるタスクなどをレポートします。 | カタログタスク SLA |

## Team Development

チーム開発は、複数の非本番ServiceNowインスタンス上の並列開発をサポートします。

チーム開発は次の機能を提供します。

- インスタンス間のレコードバージョンのプッシュとプルを含む分岐操作。
- 開発インスタンスを他の開発インスタンスと比較する機能。
- すべてのチーム開発活動の中心的なダッシュボード。

### チーム開発

チーム開発を使用すると、開発者は開発プロセスを通じてコードを共有して競合を解決しながら、別々の開発インスタンスで作業できます。

インスタンス階層を設定すると、ローカル開発インスタンスの変更を開発できます。チームダッシュボードを使用して、次のようなチーム開発活動を管理します：

- ローカルな変更を追跡し、親開発インスタンスに昇格する変更を決定する。
- 親インスタンスからの変更を引き出し、ローカル変更を伴う競合があれば解決する。
- インスタンスを他の開発インスタンスと比較し、他の開発プロジェクトとの競合があれば解決する。
- ある機能がテストされ、親開発インスタンスに昇格する準備ができると、変更をプッシュする。

開発インスタンスと親インスタンスへの管理アクセス権を持つ開発者は、チーム開発を使用できます。別のアクセス設定については、開発者へのアクセス権の付与を参照してください。

関連情報

インスタンス階層を設定する

#### チーム開発を使用すべき場合

チーム開発では、複数の開発者がアプリケーション上で働けます。

| 展開オプション | 適する場面 | 今後の検討事項 |
|---|---|---|
| 更新セット | ベースラインまたはインストールされたアプ | 特定のアプリケーションバージョンを格納する更新セットを手動で作成できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 展開オプション | 適する場面 | 今後の検討事項 |
| --- | --- | --- |
| | リケーションに変更を保存する。<br><br>特定のバージョンのアプリケーションを保存して適用する。<br><br>エクスポート用のファイルを作成する。 | 更新セットを使用して、インストールされているアプリケーションへのパッチまたは変更を展開します。<br><br>**注:**<br>アプリケーションをインストールするために更新セットを使用しません。代わりに、アプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeを使ってアプリケーションをインストールします。 |
| アプリケーションリポジトリ | すべての会社インスタンスでのアプリケーションのインストールと更新。<br><br>アプリケーション更新セットを自動的に管理する。<br><br>同じ会社にアプリケーションへのアクセスを制限する。<br><br>完成したアプリケーションをエンドユーザーに展開します。 | アプリケーションを他のユーザーと共有するようServiceNow Storeにアップロードすることを検討します。<br><br>最新のアプリケーションバージョンのみのインストールと更新を許可します。<br><br>更新セットを使用して、以前のアプリケーションのバージョンを保存します。<br><br>**注:**<br>チーム開発と使用する場合は、親インスタンスからアプリケーションのみを発行します。 |

### ローカル変更

ローカル変更テーブルは、カスタマイズされたレコードのうち、現在のバージョンが開発インスタンスに存在し、親インスタンスには存在しないものを追跡します。

ローカル変更を使用して、プッシュの準備の変更を収集します。

プッシュする準備ができているローカル変更をキューします。各開発インスタンスは、変更を開発またはキューに入れる人に関係なく、単一のキューを維持します。プッシュしたくないローカル変更を無視します。たとえば、開発インスタンスと本番インスタンスを視覚的に区別するカラースキームの変更を無視したいかもしれません。変更をキューから削除するか、変更を無視して停止できます。

親インスタンスまたは調整を変更すると、キューに入れられていないか無視されているローカル変更のリストを再作成します。以前にローカル変更をキューまたは無視していた場合、その指定は維持されます。

### ローカル変更リスト

チームダッシュボードでは、ローカル変更リストには、次のプッシュのためにキューに入れられていないか、すべてのプッシュに対して無視されたローカルの変更を表示します。

プッシュ準備完了リストには、キューに入れられた変更が表示され、無視された リストは無視された変更を示します。これらの方法のいずれかを使用して、ローカル変更のリストをナビゲートします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### ローカル変更

| アクション | オプション |
| --- | --- |
| 行の横にある参照アイコンをクリックする。 | ローカル変更レコード自体を開きます。 |
| 最初の列のリンクをクリックする。 | カスタマイズしたレコードを開きます。 |
| 行を右クリックし、最後のプルから変更を表示するを選択する。以前のバージョンが存在しないケースでは (たとえば、新しく作成されたレコードの場合)、エラーメッセージが表示されます。以前のバージョンが利用可能な場合は、比較ウィンドウからそのバージョンに戻すことができます。 | 現在のローカルバージョンと、最近親から取得または親にプッシュされたバージョンとの比較を表示します。 |
| 行を右クリックし、アプリケーションファイルを表示するを選択する。 | カスタマイズされたレコードのアプリケーションファイルを開きます。 |
| 行を右クリックし、バージョンを表示するを選択する。 | 現在のバージョンレコードを開きます。 |

### 例外をプルする

特定の条件が発生したときにプルするとバージョンを無視します。

### プル例外テーブル

| 問題 | 説明 |
| --- | --- |
| 一致する除外ポリシー | 除外ポリシーは、ポリシー条件に一致するレコードの変更をプルするのを防ぎます。プルは変更を識別するが、これらのレコードのバージョンは含みません。 |
| プライベートプロパティ | プライベートプロパティは、全ての更新セットから除外され、プルします。 |
| 競合 | プルされたバージョンと現在のローカルバージョンの両方に同じレコードに対する変更が含まれている場合、競合が検知されます。プッシュする前に競合を解決しなければなりません。 |
| 以前に解決済みの競合 | プルされたバージョンまたはローカルバージョンのレコードを受け入れて競合を解決したとき、プルはその決定を記憶し、「以前に解決された競合」として示したバージョンを受け入れます。 |
| スキップ | バージョンが壊れているか欠落しているなど、バージョンレコードに問題がある場合は、バージョンをスキップする。 |

### チームダッシュボード

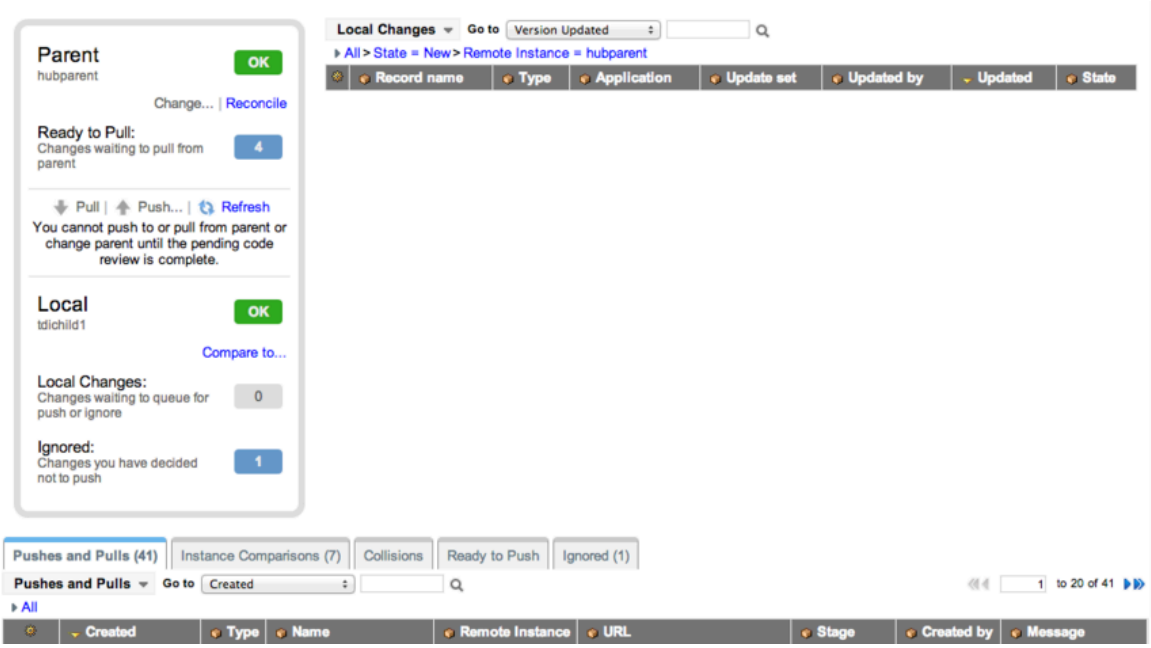
チームダッシュボードは、開発インスタンス上のすべてのチーム開発アクティビティを管理するための中心的な場所を提供します。

ローカル変更を追跡し、ローカルインスタンスと親インスタンス間で変更をプルおよびプッシュし、ローカルインスタンスを他の開発インスタンスと比較して、競合を解決することができます。また、現在の親インスタンスと調整したり、親インスタンスを変更することもできます。

ダッシュボードにアクセスするには、次の場所に移動します。 チーム開発 > チームダッシュボード.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




左上のコントロールパネルは、ステータスインジケータとチーム開発アクションを提供します。

- 親：親インスタンスへの接続の状態を示す。問題または警告が検知された場合は、インジケータにポイントしてエラーメッセージを表示するか、インジケータをクリックしてリモートインスタンスレコードを開く。
- 変化 ：親インスタンスを変更する。親インスタンスの変更を見る。
- 照合 ：開発インスタンスを親インスタンスと比較する。照合を参照。
- プル準備完：ローカルインスタンスにプルされていない親の変更の数を示す。
- プル ：プルを開始する。プルバージョン を見る。
- プッシュ ：プッシュ前に変更内容を確認できるページが開く。プッシュバージョンを見る。
- リフレッシュ ：コントロールパネルの状態インジケータを更新する。ダッシュボードは、ページをリロードまたは更新するときにのみ更新する。
- ローカル：別のインスタンスとの最新の比較の状態を示す。競合が検知された場合は、インジケータをクリックしてリストを開き、競合を解決する。「チーム開発の競合を解決する」を参照してください。
- 競合：ローカルの変更が親から引き出されたバージョンと競合し、競合の数を示す場合にのみ表示される。インジケータをクリックしてリストを開き競合を解決する。「チーム開発の競合を解決する」を参照してください。
- 比較する ：ローカルインスタンスと比較して別の開発インスタンスを選択できる。ピアインスタンスとの比較を参照。
- プッシュ準備完：次のプッシュのためにキューに入れられたローカル変更の数を示す。キューイングとローカル変更の無視を見る。
- ローカル変更：キューに入れられていないか無視されていないローカル変更の数を示す。インジケータをクリックすると、これらの変更のリストが表示される。
- 無視：ローカルの変更が無視され、無視された変更の数を示す場合にのみ表示される。インジケータをクリックすると、これらの変更のリストが表示される。

チームダッシュボードには、ローカルの変更を追跡したり、チーム開発アクティビティの履歴を表示するためのリストが含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ローカル変更：キューに入れられていないか無視されていないローカル変更が表示される。
- プッシュとプル：プッシュとプルの履歴を提供する。行を展開して、プッシュまたはプルの一部としてバージョンが転送されカスタマイズされたレコードを表示する。
- インスタンス比較：他の開発インスタンスとの比較履歴を提供する。
- 競合：次のプルまたはプッシュ前に解決する必要がある競合をリストする。行を右クリックして競合を解決する。競合の解決を参照。
- プッシュの準備でき：次のプッシュのためにキューに入れられたローカル変更をリストする。
- 無視：すべてのプッシュに対して無視されるローカルの変更をリストする。

関連情報

チーム開発

バージョンをプル

例外をプルする

チーム開発の競合を解決する

複数の競合を解決する

ローカル変更

ローカル変更リスト

プッシュのローカル変更をキューに入れる

ローカル変更を無視する

ローカル変更を取り消す

バージョンをプッシュ

プッシュを承認または却下する

プッシュされた変更のレビュー状態を確認します

コードレビュー要求をキャンセル

ピアインスタンスと比較

親インスタンスを変更

変更を検証する

自動翻訳

プッシュを承認または却下する

コードレビュー担当者はチーム開発アプリケーションからのプッシュを承認または拒否する必要があります。

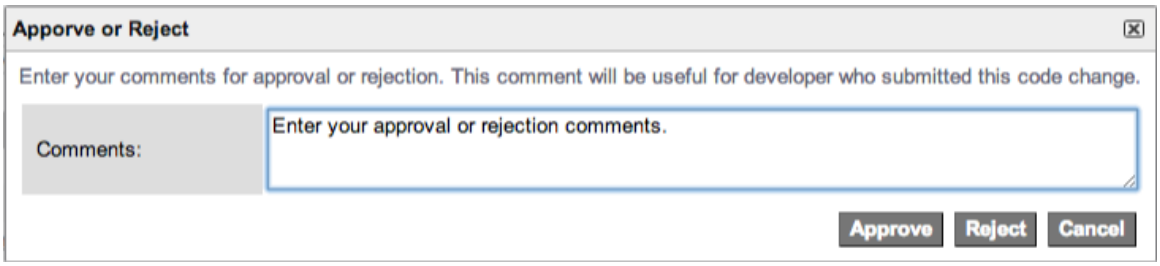
このタスクについて
レビュー担当者は、プッシュ内で個々のバージョンを確認できますが、プッシュ全体を承認または拒否する必要があります。

手順

1. コードレビューが必要な親インスタンスにログインします。
2. 移動先 チーム開発 > コードレビュー要求.
3. コードレビューを待つステージにある変更を選択します。
4. プッシュまたはプルバージョン関連リストにある変更をレビューします。
5. 承認または却下をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. オプション: コメントにコメントコメントを入力。
   これらのコメントは、プッシュとプルの履歴を見れる人には見えます。
7. 承認するまたは拒否 のいずれかを適切にクリックします。



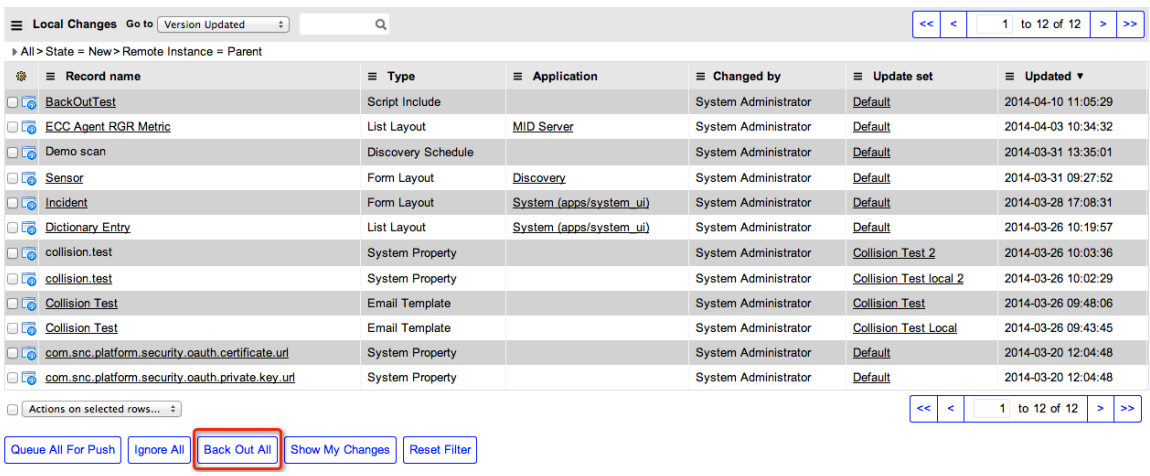

> **注:**
> *URL*とリモートインスタンスフィールドには、変更が発生したインスタンスのアドレスと名前が表示される。

### ローカル変更を取り消す

すべてのローカル変更を取り消して、親インスタンスとの最新のバージョンを回復します。

#### 手順

1. 親インスタンスを定義します。
2. 親インスタンスからの変更をプルします。
3. 移動先 チーム開発 > チームダッシュボード.
4. ローカル変更リストをフィルターして、元に戻す変更のみを表示します。
5. 次のいずれかのアクションを実行します。
   - すべてを取り戻す をクリックします。
   - 取り消したいローカルの変更を右クリックし、取り消し をクリックします。




### コードレビュー要求をキャンセル

開発者はコードレビューを待つステージにある提出したプッシュをキャンセルできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
要求を取り消すと、プッシュを提出するインスタンス上でコードレビュー要求がキャンセルされたステージに設定します。サブミット インスタンスはプッシュのバージョン履歴を保持しますが、親インスタンスは保持しません。

手順

1. 変更をプッシュしたインスタンスにログインします。
2. 移動先 チーム開発 > プッシュおよびプル.
3. 取り消したいプッシュをフィルターします。

   注:
   承認または拒否されているプッシュはキャンセルできません。

4. プッシュまたはプルレコードを選択します。
5. コードレビューをキャンセルをクリックする。

### 親インスタンスを変更

インスタンス階層を変更する必要が生じた場合は、開発インスタンスの親を変更できます。

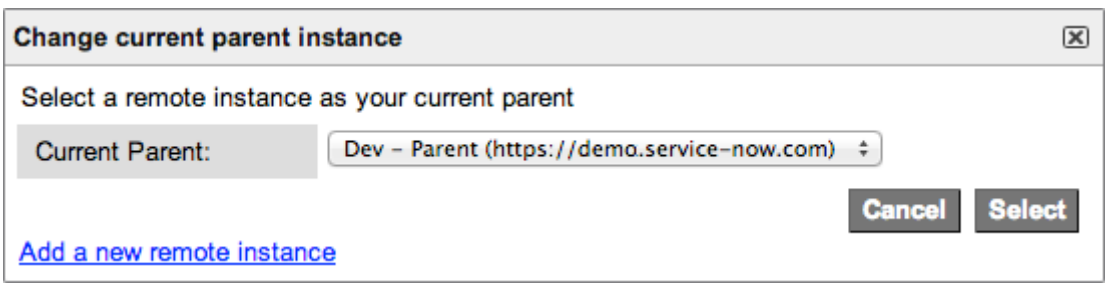
このタスクについて
親を変更すると、開発インスタンスと新しい親インスタンスの完全な比較を開始します。比較速度を最適化してその後にレビューが必要な競合とローカル変更の数を減らすには、新しい親インスタンスが適切なインスタンス(たとえば、本番インスタンスなど)から最近クローンされたことを確認します。親インスタンスを変更する前に、変更が変更管理プロセスまたは他の開発努力と競合していないことを確認します。

開発インスタンスの親を変更するには：

手順

1. 開発インスタンスで、次の場所に移動します。 チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、変更をクリックします。
3. 親として使用するリモートインスタンスを選択し、 選択 をクリックします。

   別の方法として、新しいリモートインスタンスを定義するへのリンクをクリックします。次に、手順1～3を繰り返し、定義したリモートインスタンスを選択します。




   システムは、ローカルインスタンスを親と比較してローカル変更のリストを生成し、親からプルする準備ができた変更の数を計算する調整を開始します。

4. 完了ページで、チームダッシュボードをクリックします。
5. 親インスタンスからプルバージョンしそして競合があれば解決します。
6. ローカル変更リストをレビューし、適切に 変更をキューまたは無視する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### プッシュされた変更のレビュー状態を確認します

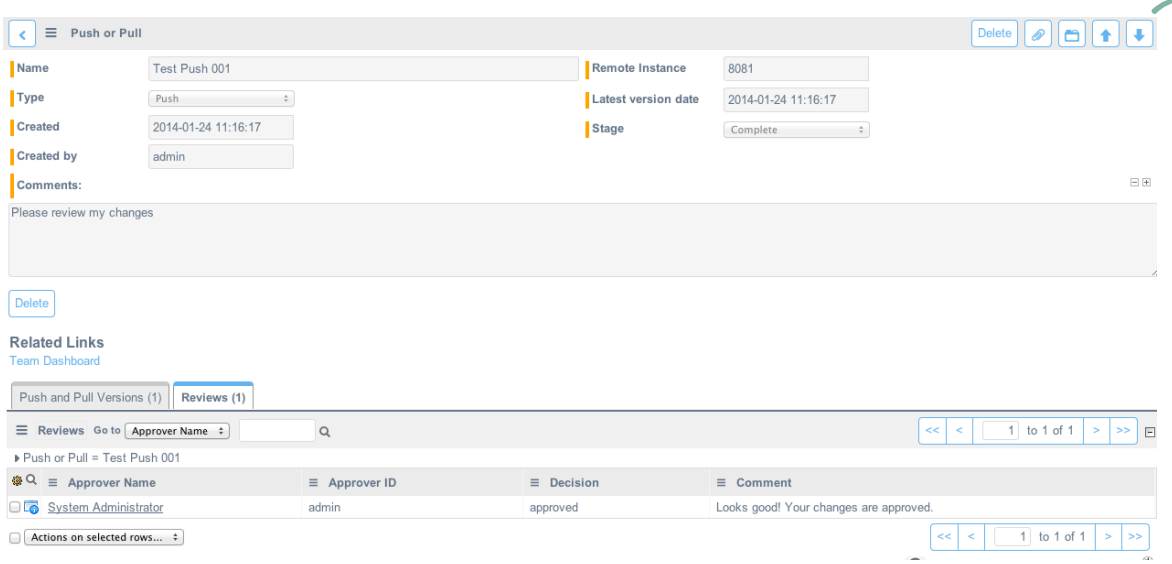
親インスタンスでプッシュされた変更がコードレビューを受ける必要がある場合、変更はコードレビューを待つステージに置かれます。

#### このタスクについて

通知を提出するように親インスタンスを構成した場合、プッシュされた変更が承認または拒否されたときに、提出する開発者に通知を送ります。開発者は、提出するインスタンス上のプッシュとプルモジュールからプッシュされた変更の状態を手動で確認することもできます。

#### 手順

1. レビューのためにコードを提出したインスタンスにログインします。
2. 移動先 チーム開発 > プッシュおよびプル.
3. レビューしたいプッシュをフィルタリングします。
   - 完了ステージでのプッシュは承認され、親インスタンスに適用されます。
   - 競合したステージでのプッシュは競合のために拒絶されます。
   - コードレビューを待つステージにあるプッシュはレビューを待っています。
   - コード変更拒否ステージにあるプッシュは審査員によって拒絶されます。
   - コードレビュー要求がキャンセルされたステージにあるプッシュは、提出する開発者によってキャンセルされます。
4. レビュー関連のリストをクリックして以下の情報を見ます。
   - 誰がレビュー決定を提出しましたか。
   - 決定はどちらだったか：承認か拒否ですか。
   - 査読者が提供した場合コメントは何ですか。




### プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する

コードレビュー担当者は、プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較して、変更の可能性ある影響を確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. コードレビューが必要なインスタンスにログインします。
2. 移動先 チーム開発 > コードレビュー要求.
3. コードレビューを待つステージにある変更を選択します。
4. プッシュまたはプルバージョン関連リストにある変更をレビューします。
5. リスト内の行を右クリックし、そして現在と比較をクリックします。
   プッシュされたバージョンとローカルバージョンの違いの比較が表示される。

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

## ピアインスタンスと比較

ローカルインスタンスを他のリモートインスタンスと比較し、開発インスタンスのリモートインスタンスから現在のバージョンを収容できます。

### このタスクについて

比較すると、共通の親にプッシュしなくてもインスタンス間でコードを共有できます。

インスタンスを比較しても、ローカルインスタンスのバージョンは自動的に収容されません。リモートインスタンスのすべての変更とローカルインスタンスのすべての変更の完全比較を開始し、どのカスタマイズされたレコードが異なった現バージョンを持っているかを報告します. リモートインスタンスからバージョンを選択的に収容するか、ローカルインスタンスのバージョンと比較することができます。差異の評価が終了すると、インスタンス比較レコードを削除できます。

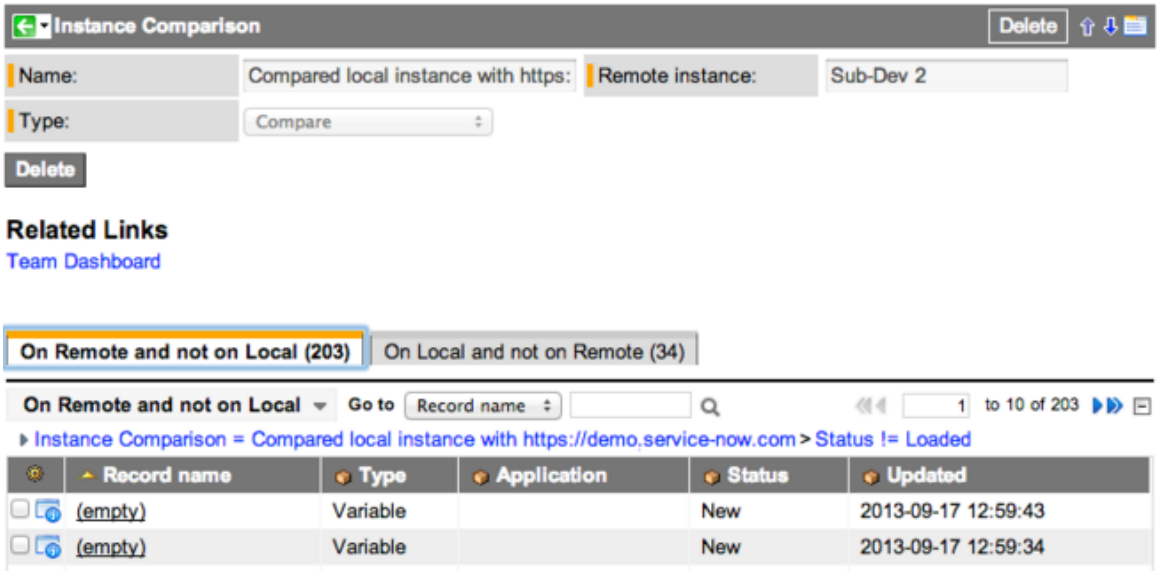
ローカル インスタンスとピア インスタンスを比較するには、次のようにします。

手順

1. ピアインスタンスがリモートインスタンスとして定義されるのを確認します。
2. 移動先 チーム開発 > チームダッシュボード.
3. コントロールパネルで、比較する をクリックします。
4. ローカルインスタンスと比較するピアインスタンスを選択し、比較 をクリックします。
5. 完了ページで、結果を示す をクリックします。インスタンス比較レコードが開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. そのリモートでローカルではないに関連するリストをレビューし，ピアインスタンスの現在のバージョンがローカルインスタンスにない所のカスタマイズされたレコードを表示します。カスタマイズされたレコードごとに、以下を行えます。

   - 現在のリモートバージョンと現在のローカルバージョンを比較するには、行を右クリックして、現在と比較を選択します。
   - 現在のリモートバージョンを現在のローカルバージョンとしてロードするには、行を右クリックし、この変更をロードするを選択する。

### ローカル変更を無視する

ローカル変更を無視すると、レコードの更新によってローカル変更リストに新しいバージョンが生成されなくなります。

このタスクについて
無視されたローカル変更は常にレコードの現在のバージョンを指します。無視されたレコードを別のインスタンスにプッシュすることはできません。

#### ローカル変更アクションリスト

| アクション | 結果 |
|---|---|
| プッシュのためにキューに入れられたバージョンを持つレコードを無視する。 | キューに入れられた変更は削除されます。 |
| コードレビューのためにキューに入れられたバージョンを持つレコードを無視する。 | キューに入れられた変更は削除されます。 |
| 無視されたレコードの変更をプルする。 | 衝突 |
| 親バージョンを採用して競合を解決する。 | 無視するローカル変更がなくなります。 |
| ローカルバージョンを維持して競合を解決する。 | 無視された変更はローカルインスタンスに残ります。 |

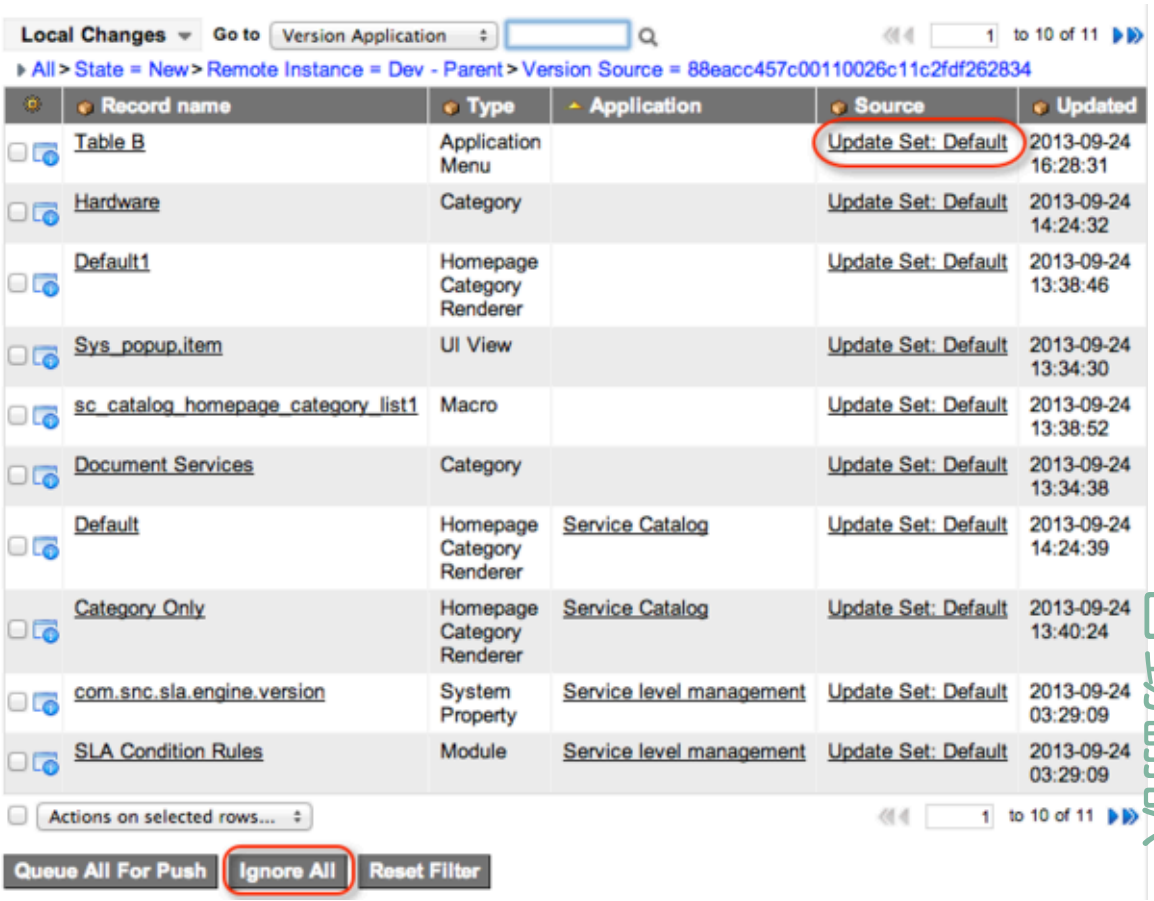
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. ローカル変更リストをフィルタリングして無視したい変更のみを表示します。

   たとえば、リストをフィルタリングして、デフォルトの更新セットのすべての変更を表示します。



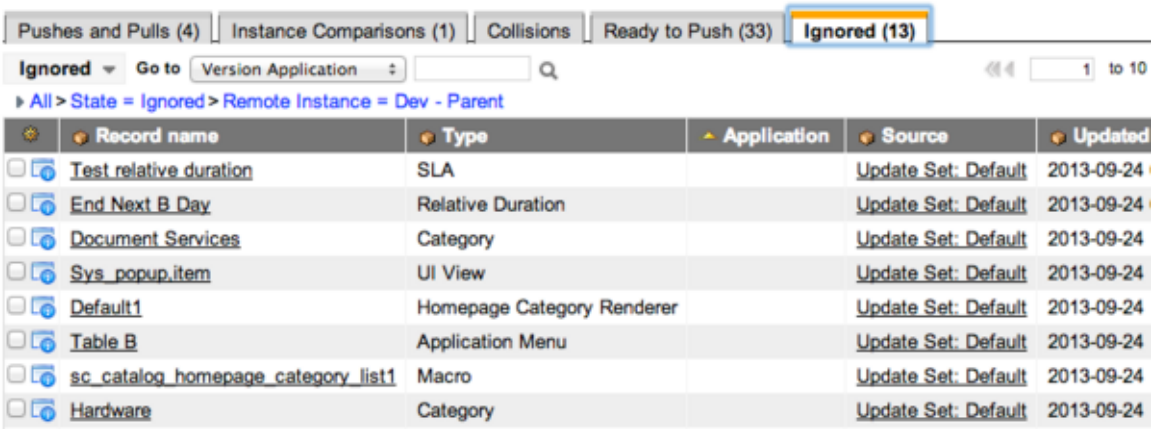

3. 全無視をクリックします。
4. [推奨] 無視されたリストをレビューし正しい変更が無視されることを確認します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 変更の無視を停止するには | 行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから無視しないを選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 変更を無視するのを止めその代りにそれらをキューに追加するには | 行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストからプッシュをキューを選択します。 |




### バージョンをプル

プルは、カスタマイズされたバージョンのレコードを親インスタンスから取り出し、それらを開発インスタンスに追加します。プルでは、システムのアップグレードによって変更されたバージョンは取得しないが、現在のバージョンだけでなく、ユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得します。

### このタスクについて

プルは、まだ開発インスタンスにプルされていないユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得しますが、プルするバージョンを選択することはできません。親インスタンスから初めてプルすると、ユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得します。その後のプルでは、最後のプルから新しいバージョンを取得します。各プルは開発インスタンスのsys_sync_history テーブルのプッシュまたはプルで記録されます。履歴バージョンは、履歴 の状態で保存します。

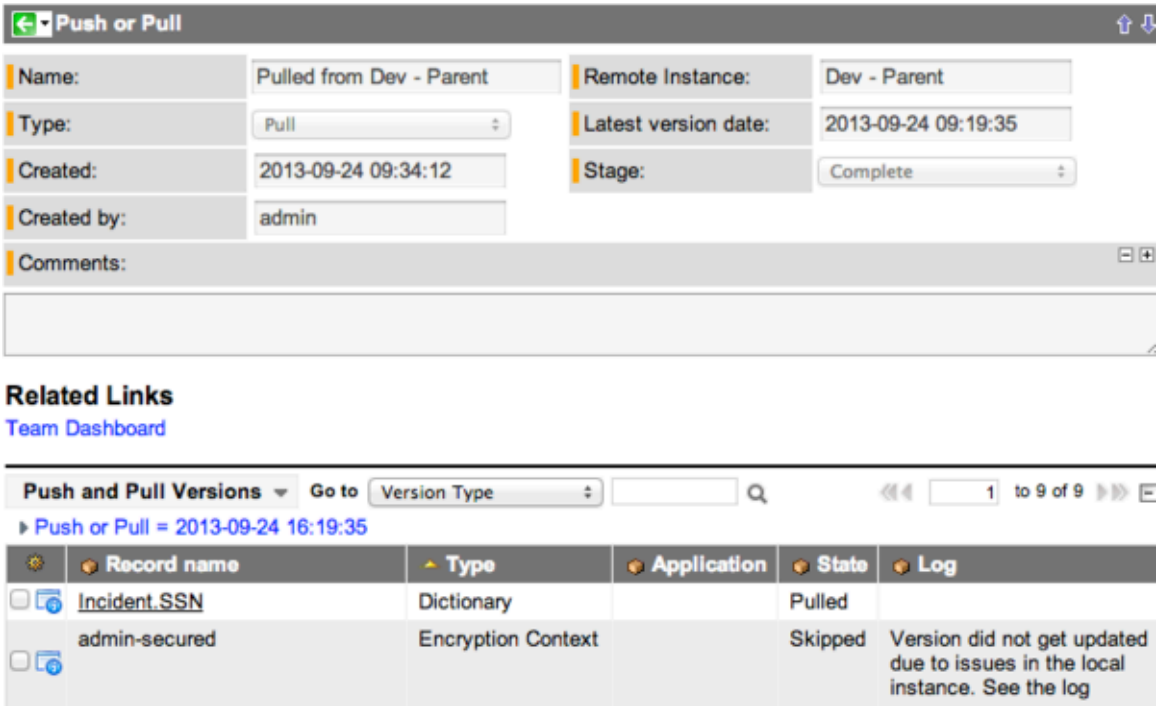
### 手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、プルをクリックします。
3. 完了ページで、結果を示す をクリックします。
   プッシュまたはプルフォームが開きます。

   プッシュとプルバージョン関連リストは、バージョンが取得されたカスタマイズされたレコードを表示し、プルの例外が存在するかどうかを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. 競合を解決します。

### バージョンをプッシュ

プッシュは、開発インスタンスから親インスタンスへの変更を促進し、開発インスタンス上のカスタマイズされたレコードの現バージョンを親インスタンスの現バージョンとして収容します。

#### このタスクについて

プッシュは、すべての開発バージョンではなく、現開発バージョンのみを親に追加します。

> **注:**
> 異なるアプリケーションからのレコードの更新は、同じプッシュ/プルでプッシュ/プルすることはできません。他のアプリケーションへの更新が混在しているケースでエラーを解決するには、他のアプリケーションへの更新を戻しキューします。1アプリケーションのプッシュ1つのアプリケーションへの更新を再キューします。プッシュしてから、必要に応じて繰り返します。

プッシュすると、完了したとマークされた親にローカル更新セットを作成します。プッシュされた変更は、親のローカルの変更としても追跡します。したがって、更新セットを転送するか、ローカルの変更をプッシュすることで、開発およびテストの階層構造を通じて変更を促進できます。各プッシュは、開発インスタンスのプッシュまたはプルテーブルに記録します。

#### 手順

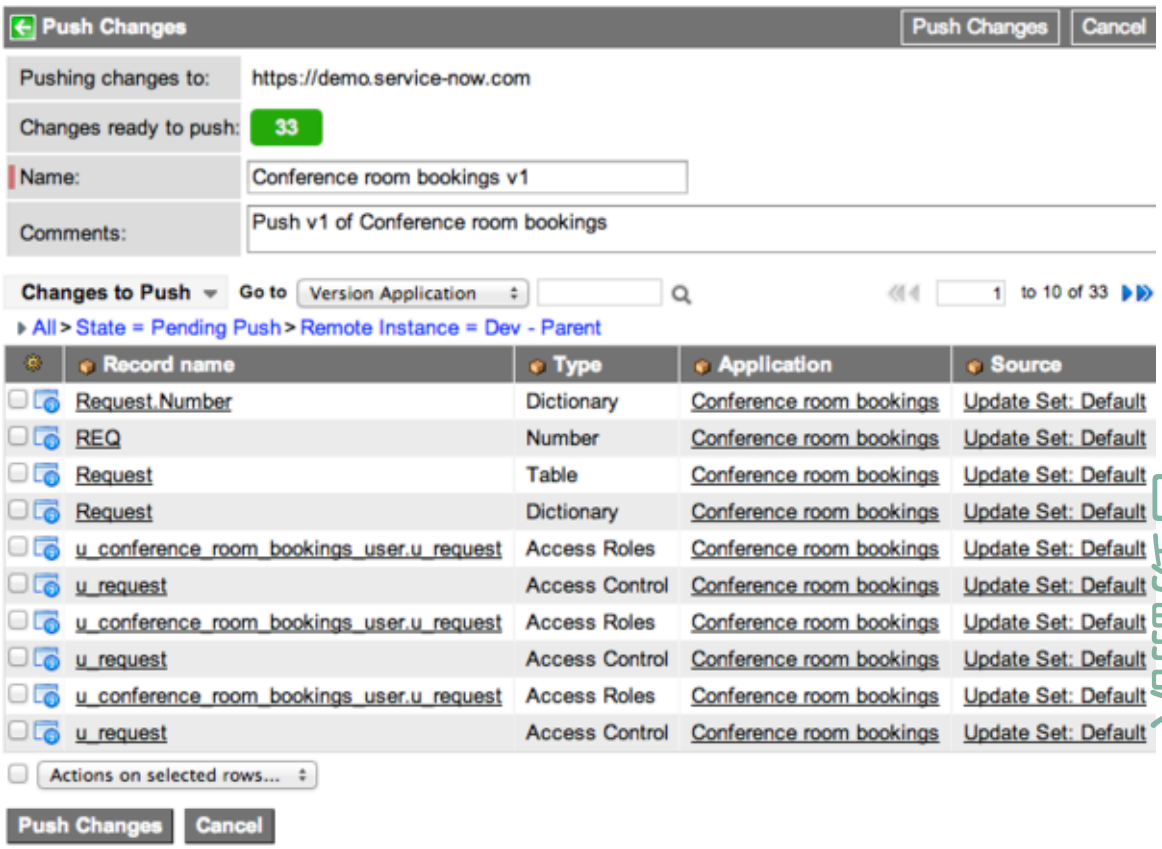
1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. プッシュする準備ができているローカルの変更をキューに入れます。
3. 親インスタンスからプルバージョンしそして競合があれば解決します。

   競合が検知された場合、親インスタンスに変更をプッシュすることはできません。
4. コントロールパネルで、プッシュをクリックします。
   のページが開きます。
5. 変更のために名を提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 変更のリストをレビューして、正しい変更がインクルードされていることを確認します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| プッシュしたくない変更を削除するには | 行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストからプッシュしないを選択します。 |
| 変更を追加するには | キャンセルをクリックし、ステップ2 から手順を繰り返します。 |




7. オプション: 名前を編集。
名前は、開発インスタンスのプッシュレコードと、親インスタンスのローカル更新セットレコードを識別します。
8. オプション: コメントを入力。
コメントは、開発インスタンスのプッシュレコードと親インスタンスのローカル更新セットレコードに追加します。
9. プッシュ変更をクリック。

システムはプッシュを開始して、プッシュが進む前に競合がないことを確認します。

- 競合が検知された場合、プッシュは自動的にキャンセルされ、ステップ3 から手続きを繰返す必要があります。
- 競合が検知されない場合、変更は親インスタンスでステージングされます。親では、各バージョンは検証され、レコード間の依存関係を維持するために正しい順序で収容されます。たとえば、新しいテーブルがそのテーブルのフィールドの前に収容され、そのテーブル上のフィールドが正しく作成されていることを確認します。

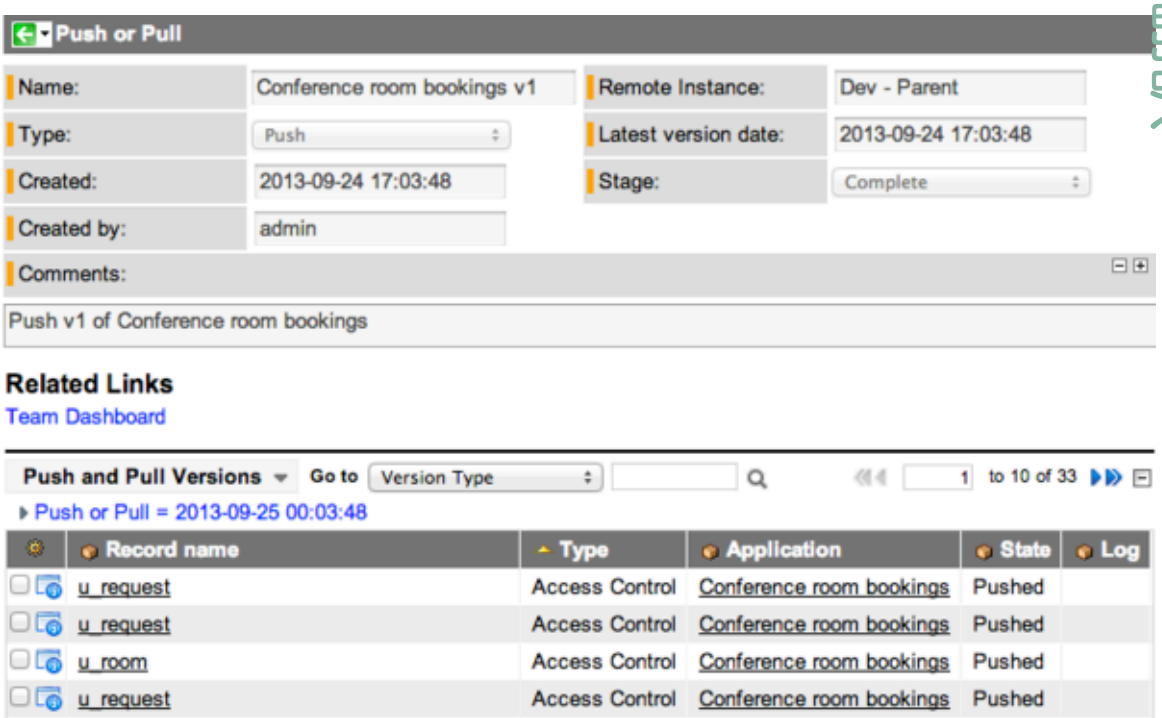
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> インスタンス間にバージョンの競合がある、またはプッシュするインスタンスにコードレビューを待つステージにある変更がある場合にはプッシュできません。

10. 完了ページで、結果を示す をクリックします。
11. エラーまたはスキップされた変更のプッシュレコードをレビューします。
    - プッシュされた状態の変化は親インスタンスで収容されます。
    - スキップされた状態を持つ変化は親インスタンスで収容されず、開発インスタンスでローカル変更としてキューに入ったままになります。
12. スキップされた各変更について、ログメッセージを確認して、変更がスキップされた理由を判断します。

    親インスタンスで目的のバージョンを収容するために必要な変更を開発し、それをプッシュします。変更がスキップされる理由の例は次を含みます：
    - テーブルは、開発インスタンス上でプラグインをアクティブ化したときに作成されたため、親には存在しません。親でそのプラグインが有効になっていることを確認し、変更を再度プッシュします。
    - プッシュ中にエラーが発生したもう一度プッシュしてみます。
    - 現在のバージョンは無効以前のバージョンに戻して、バージョンが有効であることを確認するために再度変更を行います。
    - プッシュ中に親にエラーが発生したプッシュレコードのログフィールドは例外メッセージを含みます。親インスタンスのシステムログをレビューし、インスタンスの問題のトラブルシューティングを行います。




### プッシュを取り消す

アプリケーション開発者は、望ましくない変更を削除するためにプッシュを取り消せます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. チーム開発>プッシュとプルに行きます。
2. 取り消すプッシュを選択します。
3. 取り消しをクリックします。
4. 確認メッセージが表示されるとOKをクリックする。

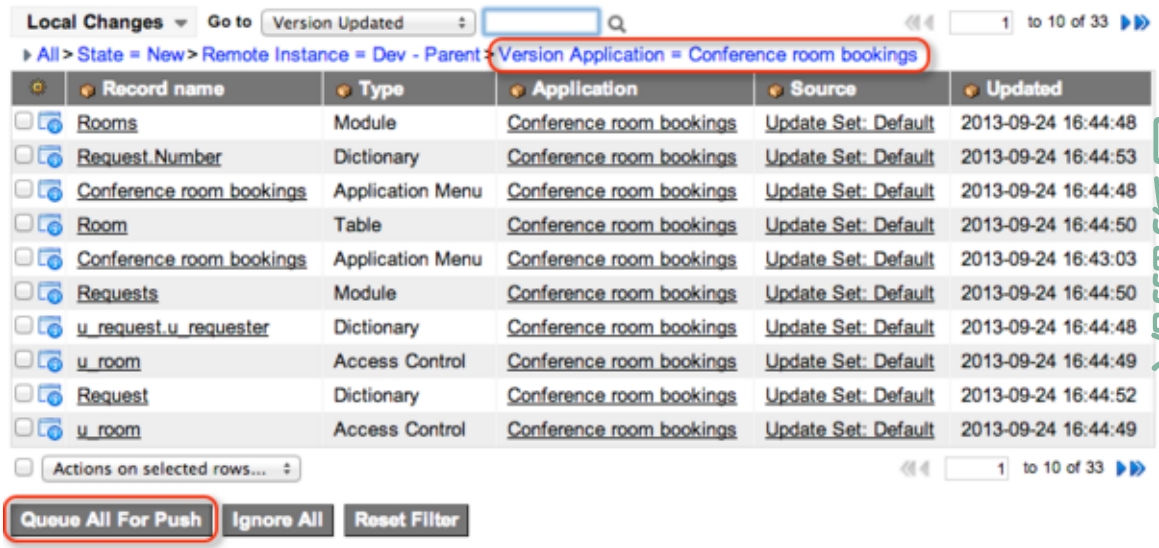
### プッシュのローカル変更をキューに入れる

アプリケーション開発者はプッシュのローカル変更をキューに入れ、変更が他の開発者に利用可能であることを保証するプッシュをします。

手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. ローカル変更リストをフィルタリングして、プッシュする準備ができた変更のみを表示します。

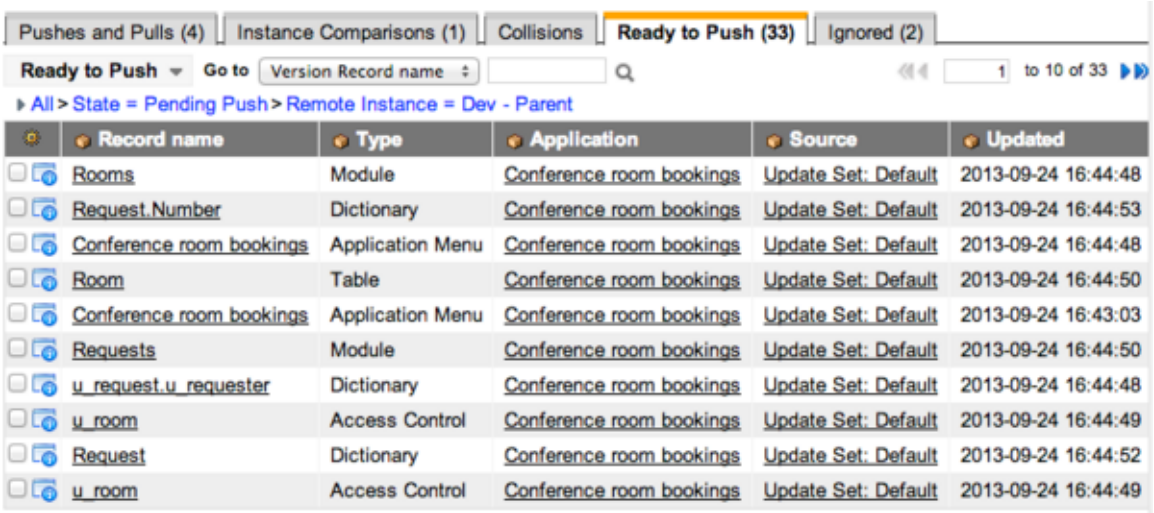
   たとえば、リストをフィルタリングして、特定のアプリケーションに関連付けられた変更のみを表示します。




3. すべてをプッシュのキューをクリックします。
4. [推奨] プッシュ準備完了リストをレビューし、キューに正しい変更が含まれていることを確認します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| キューから変更を削除するには | 行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから プッシュしないを選択します。 |
| 変更をキューから削除し、代わりに無視することを選択するには | 行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから この変更を無視するを選択します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
ローカル変更リストについて、フィルターをリセットするをクリックし、追加したフィルタ条件をすべて削除し、キューに入れられていないか無視されているローカル変更をすべて見る。

### 変更を検証する

最初に比較検証すると、ローカルインスタンスを親と比較し、それからローカル変更のリストを生成し、親からプルする準備ができた変更の数を計算します。

### このタスクについて

比較検証は、親インスタンスを選択すると自動的に行われます。クローンやフェールオーバーなど、親インスタンスで外部からの障害イベントが発生した後に手動で比較検証する必要がある場合があります。

**注:**
このプロセスは、インスタンスのサイズと経過時間に応じて完了するまでに時間がかかることがあります。

### 手順

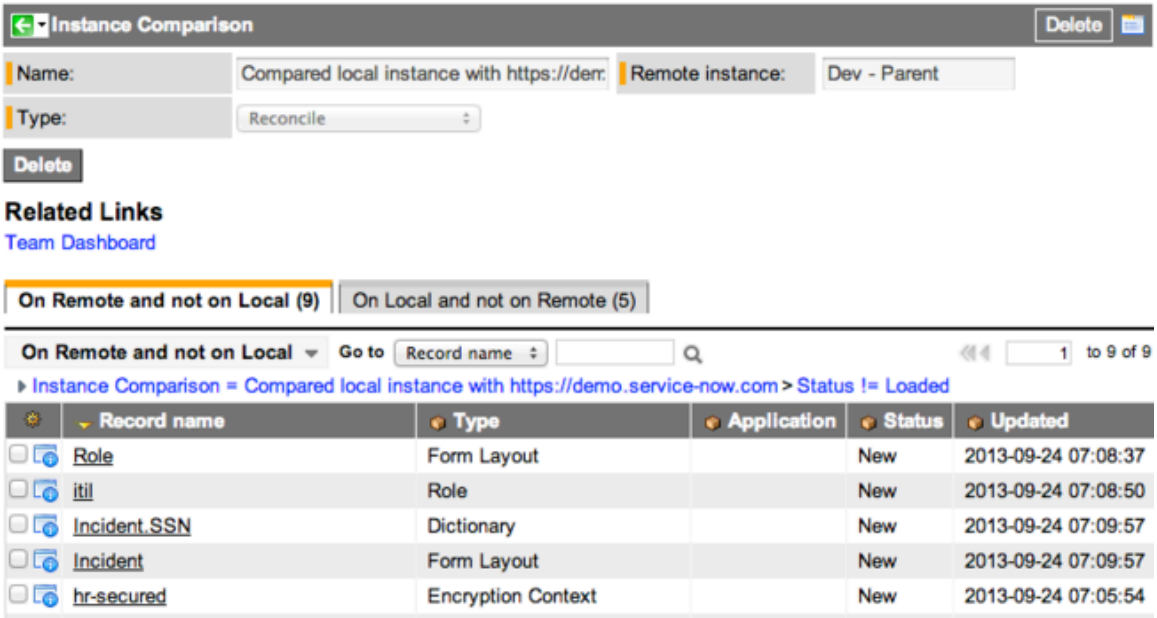
1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、をクリックします。比較検証をクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで **OK**をクリックします。

   キューに入れられていないか無視されたローカル変更のリストが再作成されます。以前にローカル変更をキューまたは無視していた場合、その指定は維持されます。
4. オプション: 完了ページで、結果を示す をクリックします。

   インスタンス比較レコードをレビューします。
   - リモートでローカルではない関連リストには、親から引き出す準備ができているバージョンが表示されます。
   - ローカルで、リモートではない関連リストにはキューまたは無視する準備ができているローカルバージョンが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




5. チームダッシュボードをクリックします。
6. 親インスタンスからプルバージョンし競合があれば解決します。
7. ローカル変更リストをレビューし、適切に 変更をキューまたは無視する。

### チーム開発の競合を解決する

競合はプルされたバージョンと現在のローカルバージョンが別のバージョンの変更である場合に検知され、他の誰かがあなたが変更した同じレコードを変更したことを示します。チームダッシュボードには、ローカルインスタンスと親インスタンスの間の競合の数が表示されます。

### このタスクについて

変更が他の開発作業と競合しないようにするには、競合が特定されるとすぐに解決する必要があります。プッシュする前に競合を解決しなければなりません。

### 手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、競合をクリックするかまたは競合数をクリックします。
   競合のリストが開きます。
3. 行を右クリックし、競合を解決するを選択します。
   または、レコードを開いて、[競合を解決 **(Resolve Collision)]** 関連リンクをクリックします。
   [競合を解決 (Resolve Collision)] ページには、親から取得したバージョンとローカルレコードの比較が表示されます。そのページには違いが強調表示されています。
4. 違いを確認し、アクションを実行します。
   システムはそのアクションを実行し、将来のプッシュ/プルについても競合をクリアします。
5. 残りの競合ごとにこのプロセスを繰り返します。

### タスクの結果

システムはマージされた変更を保存し、競合を解決する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

### レコードの更新に関する制限

現在と競合の解決ページを比較して違いを解決する間に、結合できないレコードがいくつかあります。

### プルしたまたは現在のレコードを元に戻すか受け入れるかだけを選択できるレコードタイプ

次のレコードタイプでは、個々の値を結合することはできません。代わりに、次のレコードタイプに関連する違いは、読み取り専用の比較を表示し、更新と復帰のどちらかを選択できます：

- sys_choice [選択]
- sys_choice_set [選択セット]
- sys_ui_form [フォーム]
- sys_ui_list [リスト]
- sys_ui_related_list [関連リスト]
- sys_ui_section [フォームセクション]
- wf_workflow [ワークフロー]
- wf_workflow_version [ワークフローバージョン]

チーム開発、競合の解決ページ： プルしたバージョンの使用そしてローカルバージョンを使用するオプション。

アップグレード履歴、現在のページと比較：非現在の更新バージョンと現在の更新バージョンの比較。ベースシステムに戻すオプションのみ許可します。

### 結合をサポートしないフィールド型

次のフィールドタイプは、バージョンまたは更新の個々の結合をサポートしていません：

- auto_increment [自動インクリメント]
- auto_number [自動番号]
- breakdown_element [ブレークダウン要素]
- catalog_preview [カタログプレビュー]
- collection [コレクション]
- color_display [カラー表示]
- composite_field [複合フィールド]
- compressed [圧縮]
- counter [カウンター]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- currency [通貨]
- data_array [アレイデータ]
- data_object [オブジェクトデータ]
- data_structure [構造データ]
- date
- datetime
- days_of_week [曜日]
- document_id [ドキュメントID]
- due_date [期限日付]
- Email [電子メール]
- external_names [外部名]
- field_list [フィールドリスト]
- float [浮動小数点数]
- glide_action_list [UIアクションリスト]
- glide_precise_time [正確な時刻]
- glide_var [グライド変数]
- image
- index_name [インデックス名]
- int
- integer_time [整数時間]
- ip_address [IPアドレス]
- journal [定期報告]
- journal_input [ジャーナル入力]
- journal_list [ジャーナルリスト]
- long
- mask_code [マスクコード]
- metric_absolute [メトリック絶対]
- metric_counter [メトリックカウンタ]
- metric_derive [メトリック導出]
- metric_gauge [メトリックゲージ]
- mid_config [MID サーバー構成]
- month_of_year [年中の月]
- multi_small [複数行小テキストエリア]
- name_values [名前/値]
- nl_task_int1 [NL タスク整数1]
- order_index [指数インデックス]
- password [パスワード (1 方向暗号化)]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- percent_complete [パーセント 完全]
- ph_number [電話番号]
- phone_number [電話番号 (使用せず)]
- phone_number_e164 [電話番号(E164)]
- price [価格]
- reference_name [参照名]
- related_tags [関連タグ]
- reminder_field_name [リマインダーフィールド名]
- repeat_count [繰り返し回数]
- repeat_type [繰り返しタイプ]
- replication_payload [レプリケーションペイロード]
- schedule_date_time [スケジュールの日付/時刻]
- short_field_name [ショート フィールド名]
- short_table_name [短いテーブル名]
- Slushbucket [スクラッシュ バケット]
- source_id [ソース ID]
- source_name [ソース名]
- source_table [ソーステーブル]
- string_boolean [<なし>]
- sys_class_name [システムクラス名]
- sysrule_field_name [システムルールフィールド名]
- table []
- text []
- time []
- timer [タイマー]
- translated [翻訳された]
- tree_code [ツリーコード]
- tree_path [ツリーパス]
- user_image [画像]
- user_input [ユーザー入力]
- variables [変数]
- version [バージョン]
- video [ビデオ]
- week_of_month [月の週]
- wide_text [幅広テキスト]
- wms_job [WMS ジョブ]
- workflow [ワークフロー]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

チーム開発の競合を解決する

### 複数の競合を解決する

ローカルとプルされたバージョンの違いをレビューすることなく、複数の競合を解決できます。

手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、競合回数をクリックします。
   競合のリストが開きます。
3. 解決したい行の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. [アクション *(Actions)*] 選択リストで、次のいずれかの方法を使用して競合を解決します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 親から引き出されたバージョンを、選択されたすべての競合の現在のバージョンとして読み込みます。 | プルされたバージョンを使用を選択します。 |
| 選択したすべての競合の現バージョンとしてローカル バージョン(ローカル レコード)を維持します。<br><br>プルされたバージョンは、レコードのバージョン履歴に追加します。 | ローカルバージョンを使用を選択します。 |

## チーム開発のセットアップ

複数の非本番インスタンスで並列開発を可能にするために、管理者はチーム開発インスタンス階層を設定し、開発者にアクセス権を付与できます。

### 開発者のアクセス権

チーム開発を使用するには、アプリケーション開発者はチーム開発階層内の各インスタンスの認証情報セットを持っていることが必要です。

チーム開発の階層内のインスタンスの配置は必要とする認証情報を決定します。

チーム開発アクセスの認証情報

| 希望するアクセス | 認証情報の要件 |
| --- | --- |
| チーム開発アプリケーションへのアクセス | アクセスしているインスタンスで管理者ロールを持つユーザー |
| リモートインスタンスを登録するための権利 | 次の内のいずれか:<br>• 登録しているインスタンスでadminロールを持つユーザー<br>• 登録しているインスタンスでteamdev_userロールを持つユーザー |
| 開発インスタンスから親インスタンスへの変更をプッシュする権利 | 次の内のいずれか: |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チーム開発アクセスの認証情報 (続く)

| 希望するアクセス | 認証情報の要件 |
| --- | --- |
| | • 親インスタンスでadminロールを持つユーザー<br>• 親インスタンス上のteamdev_userロールを持つユーザー |
| 登録されたリモートインスタンスと比較する権利 | 次の内のいずれか:<br>• 登録された開発インスタンスの管理者ロールを持つユーザー<br>• 登録された開発インスタンスでteamdev_user ロールを持つユーザー |
| コードレビューリクエストモジュールへのアクセス | 次の内のいずれか:<br>• 親インスタンスでadminロールを持つユーザー<br>• 親インスタンスに対する teamdev_code_reviewer ロールを持つユーザー |

**注:**
teamdev_user ロールはチーム開発アプリケーションへのアクセスを許可しません。また、開発者がローカル開発インスタンスで作業することを意図していません。親インスタンスやピア開発インスタンスなどのリモートインスタンスへの非管理者アクセスを開発者に付与することを目的としている。

### 除外ポリシーを作成

アプリケーション開発者は、チーム開発階層内の特定のインスタンスへのプッシュまたはプルを防止するための除外ポリシーを作成できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > 除外ポリシー.
2. [新規] をクリックします。
3. 除外ポリシーのフォームを完了します(表を参照ください)。
4. [送信] をクリックします。

除外ポリシーフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ポリシーのユニークな記述を入力します。 |
| ポリシー | ポリシーが適用されるときに選択します。次のオプションが含まれます。<br>○ プッシュのみ<br>○ プッシュおよびプル<br>○ プルのみ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| リモートインスタンス | [オプション]プル操作中からの変更を無視する特定のリモートインスタンスを選択します。このフィールドを空白のままにすると、すべてのリモートインスタンスからの変更を無視します。 |
| テーブル | 変更を無視するテーブルを選択します。 |
| 条件 | 変更が表名以外を無視するために満たさなければならない追加条件を選択します。このフィールドは、ポリシーがプッシュのみの時にのみ表示されます。 |

### リモートインスタンスを定義

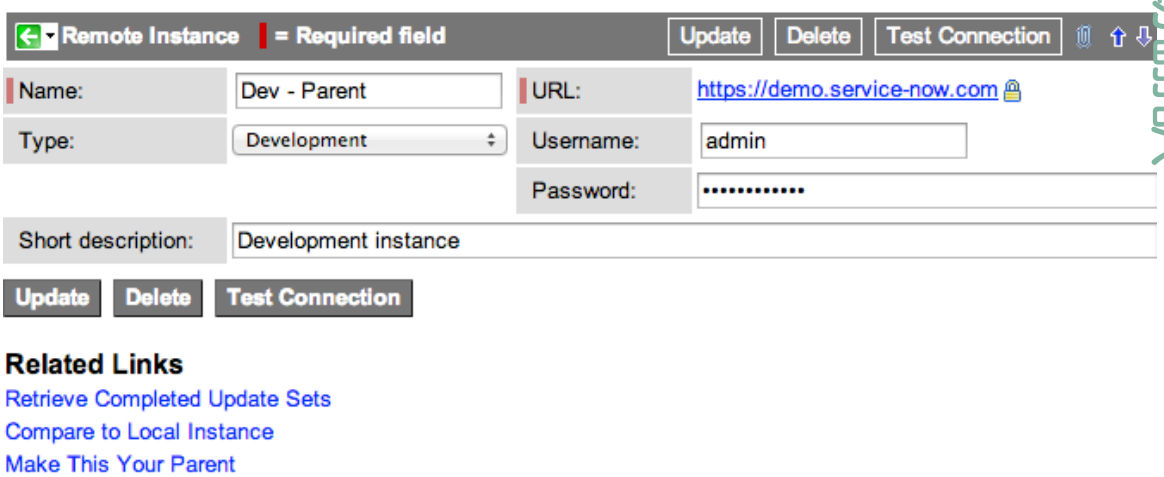
各インスタンスについて、階層内の他のインスタンスをリモートインスタンスとして定義します。

#### このタスクについて

たとえば、Sub-Dev 1のリモートインスタンスを設定するには：

#### 手順

1. IP アドレスアクセスコントロールが有効な場合は、リモートインスタンスにログインし、Sub-Dev 1を例外として追加します。
2. Sub-Dev 1で、次に移動します。 チーム開発 > リモートインスタンス.
3. [新規] をクリックします。
4. フォームを完了することによって、Dev-Parentなどのリモートインスタンスを定義します(表参照)。




5. [送信] をクリックします。
6. このインスタンスがプッシュしてプルする必要がある階層内の各インスタンス(Sub-Dev 2やSub-Dev 3など)に対してステップ1 からステップ5 までを繰り返します。

#### リモートインスタンスフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | インスタンスを説明する一意の名前を入力します。 |
| タイプ | リモートインスタンスが開発、テスト、またはUATインスタンスのいずれであるかを指定します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 有効 | ローカルインスタンスがチーム開発のメンバーとしてリモートインスタンスと通信するかどうかを指定します。インスタンス間の変更の比較や親インスタンスの選択などのチーム開発操作は、アクティブなリモートインスタンスでのみ使用できます。 |
| URL | 適切な転送プロトコルを使用してリモートインスタンスのURLを指定します。各リモートインスタンスレコードにはユニークなURLが必要です。同じURLを持つ重複レコードを作成すると、エラーが発生する可能性があります。 |
| ユーザー名 | インスタンスに対するチーム開発操作を認可するリモートインスタンスにユーザーを入力します。このユーザーアカウントには、リモートインスタンスに対して適切なロールが必要です。 |
| パスワード | 承認ユーザーのパスワードを入力します。 |
| 簡単な説明 | [オプション]リモートインスタンスに関するその他の関連情報を入力します。 |

### コードレビューを有効にする

インスタンスにプッシュされたすべての変更のコードレビューを要求できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > プロパティ.
2. このプロパティが*Yes*に設定されている場合、このインスタンスにプッシュする前にコードレビューが必要であるのチェックボックスにはいを選択します。
   (com.snc.teamdev.requires_codereview)。
3. [保存] をクリックします。

   このプロパティを設定すると、コードレビューリクエストモジュールがアプリケーションメニューに追加され、このインスタンスにプッシュされたすべての変更がコードレビューを待つステージにチーム開発コード審査員グループの誰かがそれらを承認するまで留まる。

### 親インスタンスを選択する

インスタンスは、複数のピアインスタンスを持つことができますが、親インスタンスは1つのみです。

#### このタスクについて

親インスタンスは、そこから変更をプルしそして変更をプッシュできる唯一のインスタンスです。

親インスタンスは、ローカルインスタンスと同じリリースファミリになければなりません。たとえば、Genevaリリースファミリの開発インスタンスには、Genevaリリースファミリの親インスタンスも必要です。異なるリリースファミリから親を選択すると、チーム開発ダッシュボードにエラーメッセージが表示され、変更をプルし比較検証することはできなくなります。別のパッチリリースから親を選択した場合、ダッシュボードには警告メッセージが表示されますが、変更を取り込んで調整できます。

プロダクションインスタンスまたはテストインスタンスでチーム開発を使用しません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テストまたは本番インスタンスをチーム開発の親インスタンスとして使用しない。
- どのインスタンスも本番インスタンスの親としない。
- 本番インスタンスは親を持ってはいけない。

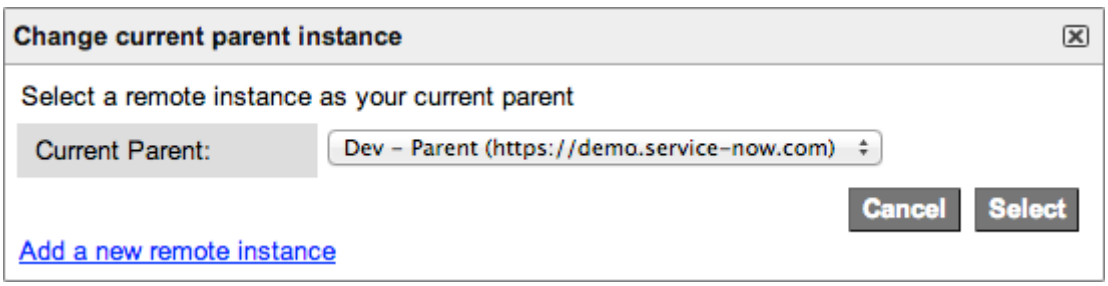
チーム開発インスタンス上の変更を取り消す場合、その変更をソースインスタンス上の仕事を戻すことを含めて、その連鎖の最後に戻るまで取り消します。この行動はテストと本番インスタンスに重要な問題を引き起こすかもしれません。

手順

1. 移動先 すべて > チーム開発 > チームダッシュボード.
2. コントロールパネルで、適切なリンクをクリックします。

チームダッシュボードコントロールパネルのオプション

| オプション | 説明 |
|---|---|
| <instance name and URL> を使用する | 最後に定義されたリモートインスタンスを親インスタンスとして選択します。 |
| 別のインスタンスを選択 | 別のリモートインスタンスを選択したり、新しいリモートインスタンスを定義したりするためのダイアログボックスを開きます。 |
| 新しいインスタンスを登録するか、すべてのリモートインスタンスをリスト表示する | 新しいインスタンスを定義できるリモートインスタンスフォームまたはリストを開きます。これらのオプションは、リモートインスタンスが定義されていない場合に使用できます。 |




3. 手順2で新しいリモートインスタンスを定義した場合は、ステップ1 からステップ2 までを繰り返しそして定義したリモートインスタンスを選択します。

   システムは、ローカルインスタンスを親と比較する比較検証を開始します。その後、ローカル変更のリストを生成し、親から引き出す準備ができた変更の数を計算します。比較検証は、インスタンスのバージョンも検証します。

4. 両方のインスタンスが同じリリースファミリにある場合は、親インスタンスからすべての変更をプルします。

   注:
   親インスタンスは、 `glide.apps.hub.current` システムプロパティに保存する。

### インスタンス階層を設定する

開発ライフサイクルを最もよくサポートするインスタンス階層を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
この例では、いくつかのピアサブ開発インスタンスが同じ親開発インスタンスを持つインスタンス階層を設定する方法を提示しますが、複数のプロジェクトチームや他の顧客要件を処理するためにより複雑な構成が必要な場合があります。

プロダクションインスタンスまたはテストインスタンスでチーム開発を使用しません。

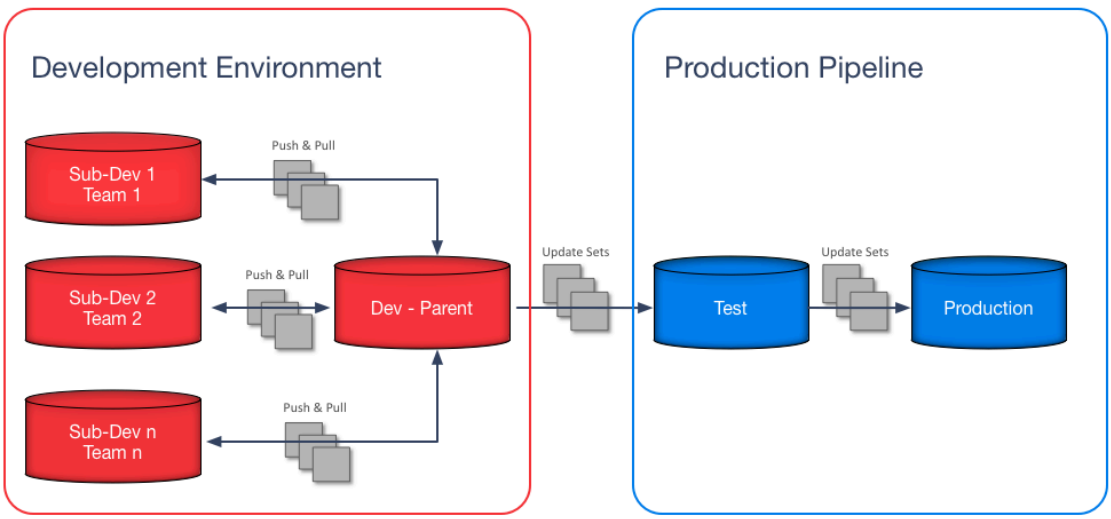
- テストまたは本番インスタンスをチーム開発の親インスタンスとして使用しない。
- どのインスタンスも本番インスタンスの親としない。
- 本番インスタンスは親を持ってはいけない。

チーム開発インスタンス上の変更を取り消す場合、その変更をソースインスタンス上の仕事を戻すことを含めて、その連鎖の最後に戻るまで取り消します。この行動はテストと本番インスタンスに重要な問題を引き起こすかもしれません。

手順

1. プロダクションなどのターゲットインスタンスとして、Dublinなどの同じソフトウェアバージョンで親開発インスタンスを使えるようにします。
2. [推奨]本番インスタンスを親開発インスタンスにクローンします。
3. 親開発インスタンスと同じソフトウェアバージョンのサブ開発インスタンスを使えるようにします。
4. オプション: 親開発インスタンスにログインし、サブ開発インスタンスにクローンします。
5. 各サブ開発インスタンスで：

   a. リモートインスタンス接続をこのインスタンスがプッシュおよびプルする必要がある階層内の他のインスタンスに向けて定義します。
   b. 親インスタンスを定義します。
   c. すべての変更を親インスタンスからプルします。
   d. 適切な開発者にアクセス権を与えます。




## コードレビュー

チーム開発管理者は、プッシュを受け入れる前にプッシュをコードレビューする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードレビューが有効になっている場合、変更を親インスタンスにプッシュすると、コードレビューワークフローをトリガします。デフォルトでは、teamdev_code_reviewerロールを持つユーザーは変更を確認するための通知を受け取り、変更を承認または拒否できます。チーム開発コード査読者には、teamdev_code_reviewer ロールがあります。

各変更について、査読者は以下の情報を見ることができます。

- どのリモートインスタンスからプッシュされた変更が来ているか。
- 誰が変更を親にプッシュしたのか。
- 何が変わったのか。
- いつ変更が作成されたのか。
- 変更に含まれるバージョン。

査読者はチーム開発アプリケーションからのプッシュを承認または拒否する必要があります。

変更が親インスタンスでレビューされている間、子インスタンスは親インスタンスに関連する次のアクティビティを実行できません：

- 親インスタンスへ変更をプッシュする。
- 親インスタンスからの変更をプルする。
- 親インスタンスで変更を比較検証する。
- 親インスタンスを別のインスタンスに変更する。
- 親インスタンスのリモートインスタンスレコードを削除する。

## コードレビューの通知

コードレビュー通知を送付するには、そのインスタンスのコードレビューが必要なインスタンスで電子メール通知を有効にする必要があります。

チーム開発コードレビューワークフローは、次の場合にチーム開発コード審査員グループのメンバーに通知を送ります。

- プッシュにはコードレビューが必要です。
- ユーザーはプッシュをキャンセルします。

変更をプッシュしたユーザーが、コードレビューが必要なインスタンスに電子メールアドレスを持つユーザーレコードがある場合、ユーザーは承認ステージが完了 (承認済み)またはコード変更拒否 に設定されたときに通知を受け取ります。

コードレビュー通知には、次の情報が含まれています。

### コードレビュー通知テーブル

| 通知の名称 | テーブル | コンテンツ |
| --- | --- | --- |
| 開発者向けコードレビューの更新 | プッシュまたはプル [sys_sync_history] | • プッシュ名<br>• プッシュの承認段階(承認済みまたは却下済み)<br>• コードレビュー要求が行われたインスタンスへのリンク |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードレビュー通知テーブル (続く)

| 通知の名称 | テーブル | コンテンツ |
| --- | --- | --- |
| キャンセルされたレビューのコードレビュー担当者に Notify する | プッシュまたはプル [sys_sync_history] | • レビューをキャンセルしたユーザー<br>• キャンセルされたプッシュ |

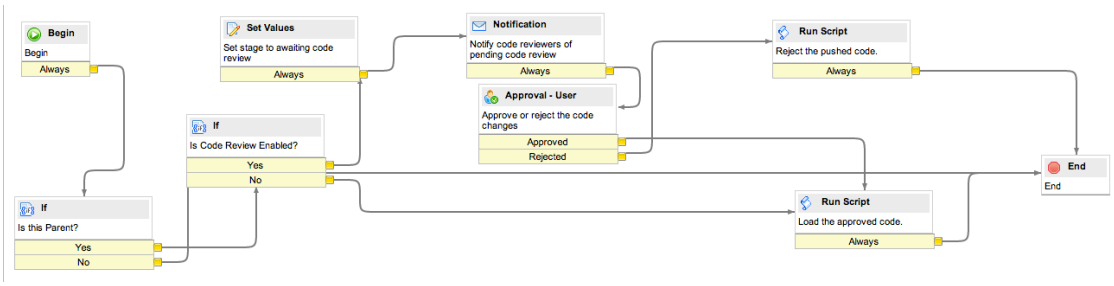
## コードレビューワークフロー

チーム開発コードレビューワークフローは、変更がどのように親にプッシュされるかを管理します。

デフォルトでは、このワークフローは：

- 変更が親インスタンスにプッシュされたときに開始する。
- コードレビュープロパティが親インスタンスでアクティブであることを検証する。
- 承認が必要な変更のステージを コードレビューを待つに設定する。
- 設定されている場合は、プッシュされた変更をレビューするようにチーム開発コード査読者グループに通知する。
- 承認された変更をロードするか、ステージをコード変更拒否 にセットする。

チーム開発コードレビューワークフロー




**警告:**
コードレビュー機能が適切に機能しない可能性があるため、このワークフローを変更するときは注意が必要である。

## 除外ポリシー

除外ポリシーを作成すると、特定のファイルを変更追跡から除外できます。

変更が除外ポリシーと一致する場合、変更はローカル変更リストにレコードを生成しません。この変更は、ローカルバージョンレコードと更新セットレコードを正常として生成します。除外ポリシーの作成を参照してください。

**注:**
除外ポリシーは、調整操作中に特定された変更に適用します。比較検証後に除外ポリシーを作成すると、チーム開発は引き続き次の調整まで変更を追跡します。

## インスタンス階層

チーム開発は、複数のServiceNow各インスタンスがソースリポジトリまたはブランチとして機能するインスタンスの間で分散バージョンコントロールシステムを設定するのを許可します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発者は、別々のインスタンスを使用して、異なる機能、アプリケーション、または製品リリースを同時に処理します。チーム開発を使用すると、開発者はこれらのインスタンス間でコードを共有し、開発プロセス全体で競合を解決できます。

チーム開発はインスタンス間の階層関係を確立する必要に応じて更新セットプロセスと統合するインスタンス間の変更を転送するためのメカニズムを提供するのを可能とします。チーム開発インスタンス階層では、各非本番インスタンスには親インスタンスがあります。親インスタンスが同じインスタンスはピアインスタンスです。共有親インスタンスは中央ハブまたはリポジトリになり、そしてすべてのピアインスタンスがそれに同期する。

## プッシュおよびプル

開発者は、カスタマイズされたレコードのバージョンをプルおよびプッシュし、親インスタンスと開発インスタンスのバージョン間の競合を解決することによって、インスタンスを親インスタンスに同期させます。

開発者は、バージョンを親インスタンスにプッシュする前に、ピアインスタンスを互いに比較し、コードを共有したり、競合を解決したりすることができます。

親からプルすると、カスタマーアップデートを含むレコードのバージョンが取得されます。プルでは、履歴インスタンスを含む、開発インスタンスにまだプルされていないすべてのバージョンが取得されます。プルするバージョンを選択することはできません。さらにプルまたはプッシュする前に、競合があれば解決する必要があります。

親にプッシュすると、すべての開発バージョンではなく、現在の開発バージョンのみが親に追加されます。親にプッシュする変更を選択できます。プッシュすると、完了したとマークされた親にローカル更新セットを作成します。プッシュされたバージョンは、親のローカル変更としても追跡されます。したがって、更新セットを転送するか、ローカルの変更をプッシュすることで、開発およびテストの階層構造を通じて変更を促進できます。

比較することで、２つのピアインスタンスの違いをレポートします。ピアインスタンスからプルするバージョンを選択できます。

チームダッシュボードの [プッシュとプル] 関連リストには、変更を作成したユーザーと、変更が作成されたリモートインスタンスが表示されます。

## チーム開発手順

基本的なチーム開発プロセスは、インスタンス階層を設定し、開発者のアクセス権を付与し、開発インスタンスからテストインスタンスへの開発変更の移動を管理し、アプリケーションを本番インスタンスに昇格させます。

### 手順

1. インスタンス階層を設定するに述べたように開発インスタンスの階層を設定します。
   a. ターゲットインスタンスと同じソフトウェアバージョンで開発インスタンスを使えるようにします。たとえば、本番インスタンスで実行されているソフトウェアバージョンを使用します。
   b. [推奨]ターゲットを開発インスタンスにクローンします。
   c. 各インスタンスについて、親インスタンスを定義します。
   d. [オプション]各インスタンスに対して、ピアインスタンスを定義します。
   e. 各インスタンスについて、すべての変更を親インスタンスからプルします。
2. サブ開発インスタンスの場合は、適切な開発者にアクセス権を与えます。
3. サブ開発インスタンスのカスタマイズを開発します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チームダッシュボードを使用して開発活動を追跡します。

- 他のサブ開発インスタンスからプッシュされたバージョンなど、親インスタンスからバージョンをプルします。必要に応じて、現在のローカルバージョンとの競合を調整します。
- ローカル変更を追跡します。親開発インスタンスにプッシュする準備ができている変更をキューに入れます。
- ピアインスタンスのバージョンを比較します。競合を調整します。

4. 機能が親開発インスタンスに昇格する準備ができると、カスタマイズされたレコードの現在のバージョンをプッシュします。
5. オプション: コードレビュー担当者に、プッシュされたバージョンを承認または却下してもらいます。
6. テストおよびリリース管理プロセスに従って、機能をテストし、プロダクションにプロモートする。

関連情報

Team Development

開発者のアクセス権

バージョンをプッシュ

## チーム開発ロール

チーム開発を使用するには、開発者が開発インスタンスに管理者権限を持っている必要があります。

親インスタンスにプッシュを許可するには、リモートインスタンス接続は親インスタンスへの管理アクセス権を持つユーザーアカウントで定義する必要があります。

開発者の親インスタンスへのアクセスを制限するには、開発者にアクセス権を与えるを参照下さい。

コードレビュー機能を使用するには、teamdev_code_reviewerロールが必要です。コードレビューを参照してください。

## バージョン

バージョンレコードは、管理者が後で特定のバージョンと比較したり元に戻したりできるように、カスタマイズされたレコードの変更を時間とともに追跡します。

管理者は、更新セットまたはチーム開発を使用してインスタンス間でバージョンを転送できる。

### バージョンレコードナビゲーション

オブジェクトのバージョンのリストを表示するには、さまざまな方法があります。

- フォームの場合は、ヘッダーを右クリックして 構成 > フォームレイアウト.
- リストには、リストバージョンに合わせて適切なアクションを実行する。
  - リスト v2:ヘッダーを右クリックして、 構成 > リストレイアウト.
  - リスト V3: リストタイトルメニューを開き、リストレイアウト選択する。
- バージョンの表示関連リンクをクリックする。

自動翻訳

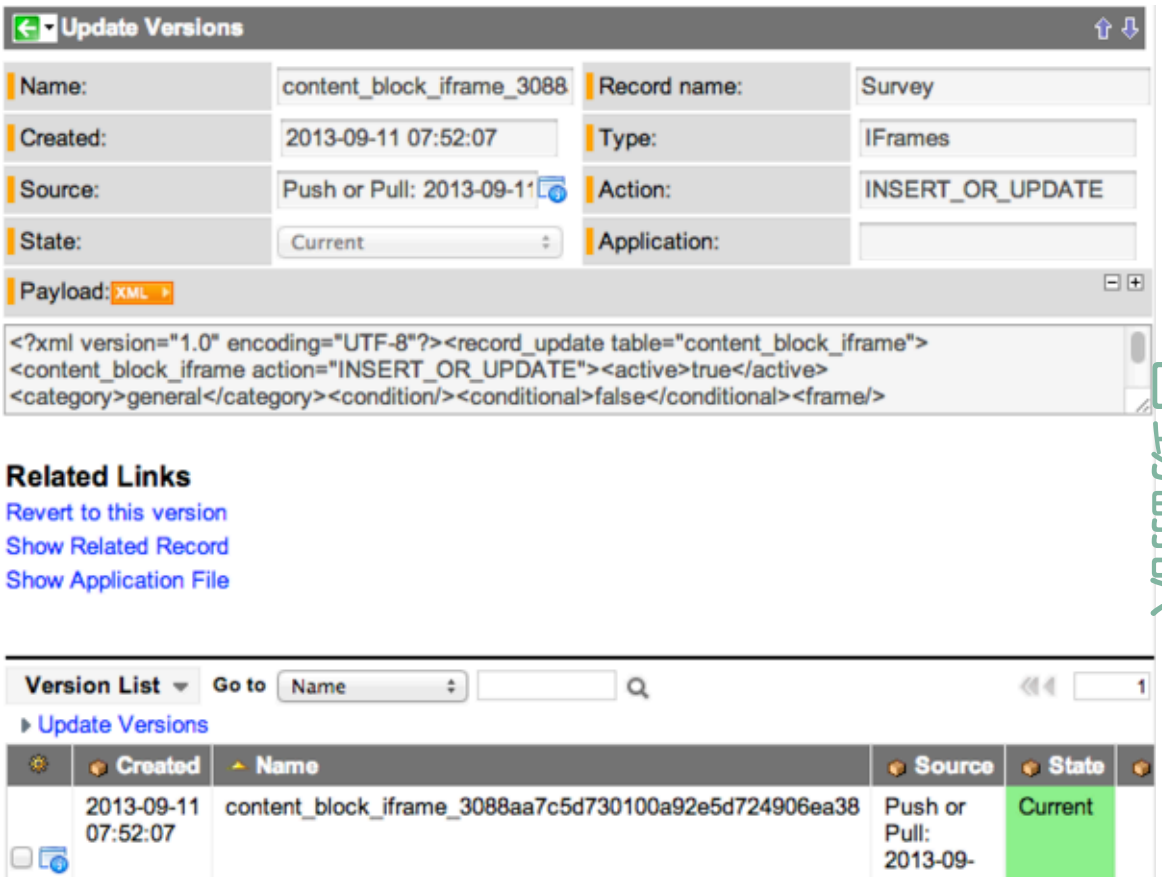
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- update_synchプロパティを使用するテーブルの場合は、 バージョンに関連するリストをフォームに追加する。このリストは、ビジネスルール、UIアクション、クライアントスクリプトなど、デフォルトでいくつかの形式で表示されます。
- カスタマイズ可能なオブジェクトの場合は、フォームヘッダーを右クリックし、アプリケーションファイルを表示し、次にスクロールダウンして関連レコード バージョン関連リストに行く。

バージョン レコードから次のものに行ける:

- カスタマイズされたオブジェクト： 関連レコードを表示関連リンクをクリックする。
- オブジェクトのアプリケーションファイルレコード： アプリケーションファイルを表示する関連リンクをクリックする。

バージョンレコード




転送するバージョン

管理者は、更新セットまたはチーム開発アプリケーションでカスタマイズを移動して、インスタンス間でバージョンレコードを転送します。

- 更新セット：更新セットを収容するとバージョンが追加となる。更新セットの各更新には、更新に対応するバージョンがローカルインスタンスに追加される。
- チーム開発:
  - プルすると、親インスタンスから、まだプルされていないカスタマイズされたレコードのすべてのバージョンが取得され、ローカルインスタンスに追加される。
  - プッシュすると、すべてのローカルバージョンではなく、現在のローカルバージョンのみが親インスタンスに追加される。
  - ピアインスタンスから変更をロードすると、選択したバージョンがローカルインスタンスに追加される。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### バージョンレコード

更新バージョン [sys_update_version] テーブルには、特定の時間にカスタマイズ可能なオブジェクトの状態を表すレコードが含まれています。

カスタマイズ可能なレコードは、ビジネスルールやスクリプトインクルードなど、更新セットによって追跡されるオブジェクトです。ユーザーがカスタマイズ可能なレコードを変更するか、カスタマイズ可能なレコードのアプリケーションファイルを変更するたびに、新しいバージョンレコードが自動的に作成されます。

レコードは、最新のアップグレードで提供されたベースシステムオブジェクトのバージョンを表します。ベースラインバージョンは、ユーザーによって変更されたオブジェクトに対してのみ作成され、システムがアップグレードされるたびに更新されます。

#### 更新バージョンテーブル

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 同様にカスタマイズされたレコードのバージョンを統合するための一意の識別子。 |
| レコード名 | カスタマイズされたレコードの名前。 |
| ソース | インスタンスにバージョンがどのように追加されたかを示すインジケータ。<br>• システムアップグレード：ソフトウェアアップグレード(ベースラインバージョン)から。<br>• 更新セット：インスタンス上で作成または収容された更新セットから。<br>• プルヒストリー：チーム開発のプルから。 |
| ステータス | そのバージョンがインスタンスにロードされているかどうかを示すインジケータ。<br>• 現在：バージョンが現在ロードされています。<br>• 以前：以前にバージョンがインスタンスにロードされていました。現在のバージョンが新しいバージョンに置き換えられると、それは以前のバージョンになります。<br>• 履歴：バージョンはインスタンスにはロードされたことはなく、チーム開発で親からバージョンを取得するなど、来歴上の目的でのみ挿入されました。 |
| アプリケーション | それがアプリケーションに割り当てられている場合のカスタマイズされたレコードのためのアプリケーション。 |
| ペイロード | このバージョンのカスタマイズされたレコードのデータ。 |
| リストビューの追加フィールド | |
| 戻す前 | このバージョンが古いバージョンに戻すことで作成された場合、古いバージョンのレコードへの参照。 |
| フォームを構成することによって追加できるフィールド | |
| インスタンス名 | バージョンが最初に作成されたリモートインスタンスの名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新バージョンテーブル (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| インスタンスID | 元々バージョンが作成されたリモートインスタンスのURL。 |
| フォームビューでの関連したリスト | |
| バージョンリスト | インスタンスで使用可能なカスタマイズされたレコードのすべてのバージョン。 |

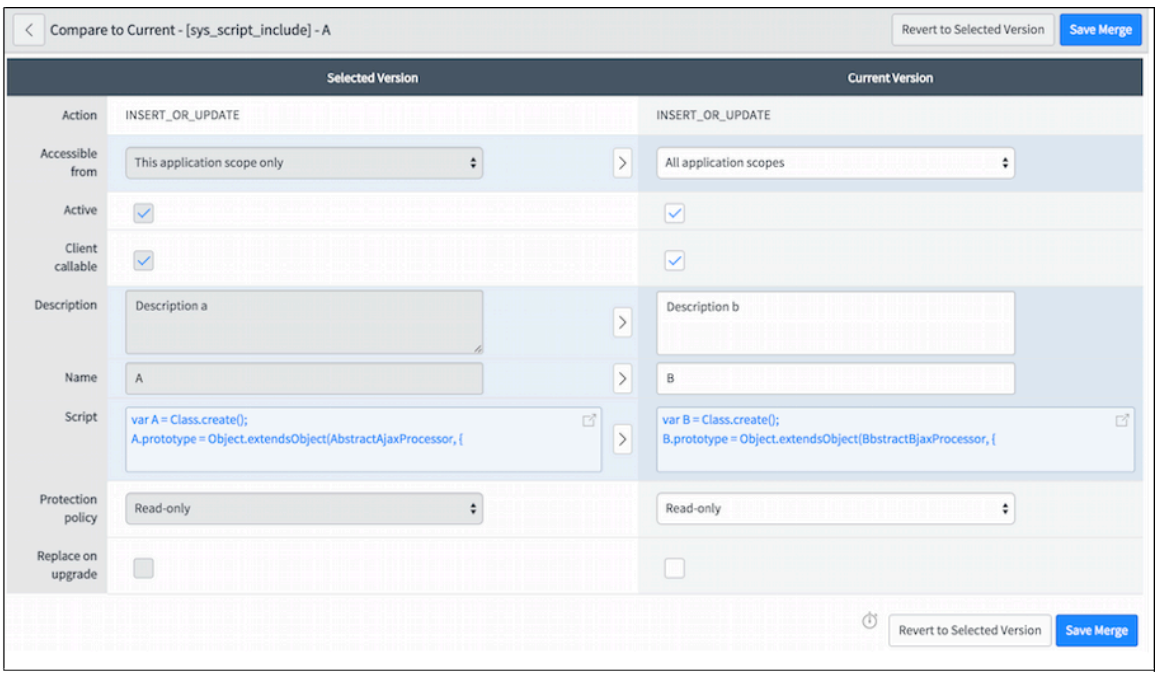
関連情報

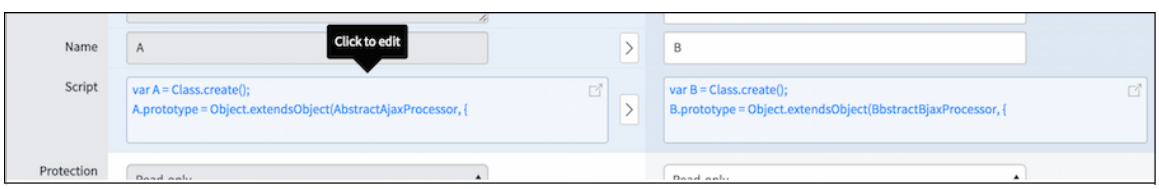
Team Development

結合用ツール

差異結合ツールを使用すると、管理ユーザーはレコードの2つのバージョン間の相違点を比較できます。

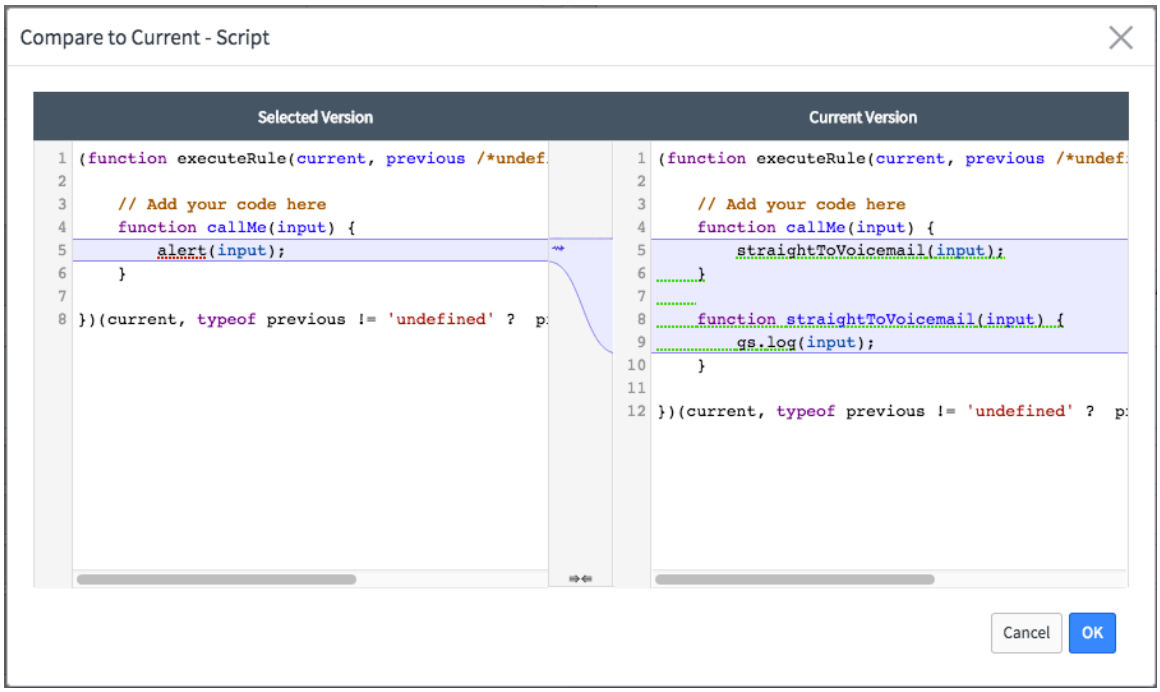
管理者は、2つのバージョン間のフィールドレベルの変更を比較したり、Move Rightフィールドレベルのコピー機能を使用して変更を適用し、その後で結果を結合したり、非現行バージョンに戻せます。差異結合ツールには、開発中またはアップグレード後にバージョンの比較、競合の解決、または競合の解決によってアクセスできます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## アクセス可能性機能

このプラットフォームは、ウェブコンテンツアクセスアクセシビリティガイドライン (WCAG) 2.0 レベル A に対応し、障害のあるユーザーがインターフェイスにアクセスできるようにするアクセシビリティ機能が含まれています。これらの機能により、プラットフォーム機能にアクセスする際のユーザーエクスペリエンスがアクセシビリティ機能の使用によって向上します。

一般的に、次の一連の標準的なキーボードナビゲーション機能を使用できます。

- タブを押すことでモジュール内の標準インターフェイスコントロール(フィールドとリスト)間の移動、タブ内のレコード間の移動など、あらかじめ定義された順序で主要なグループをナビゲートできます。
- シフトタブを押すと、あらかじめ定義された順序で逆方向に移動します。

視覚障害のあるユーザーは、差異結合ツールでナビゲートできます。画面リーダーはすべての重要なページのコンテンツを読めます。クリティカルなセクションを読む必要がある場合は、すべてのリンクとボタンにアクセスできます。ボイスオーバーで可聴な手がかりは、読み上げる必要のあるセクションの内容を述べます。

アクセス可能性機能を有効にするには、管理者は次のsys_propertiesを設定する必要があります。

1. **glide.ui.javascript_editor** をfalseに設定すると、次の関数がアクセス可能になります。
   - スクリプトフィールド(Script Includeなど)。
   - サイドバイサイドスクリプトの比較。
2. sys_propertiesのカラー設定を設定すると、コントラストの高い視認性が得られ、視覚障害のあるユーザーが左右の列にアクセスしやすくなり、読みやすくなります。
   - **mergetool.bg.left.highlight** - バージョン間で値が異なる場合は、左列のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.right.highlight** - バージョン間で値が異なる場合は、右側のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.left** - バージョン値が同じ場合、左列のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.right** - バージョン値が同じ場合は、右列のセルを着色する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

## 現在のバージョンと比較

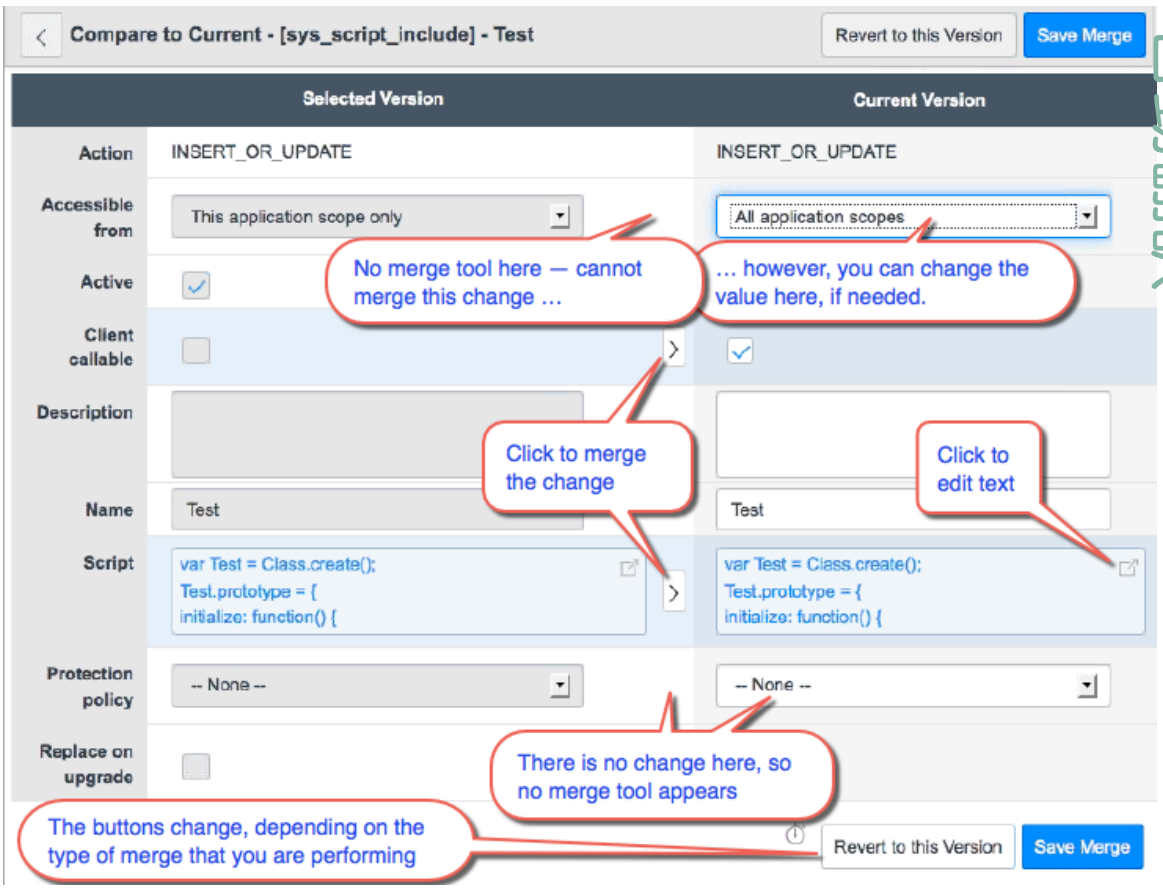
フォームレイアウトやビジネスルールなど、ユーザーが変更したカスタマイズ可能なオブジェクトのバージョンを現在のバージョンと比較できます。チーム開発では、オブジェクトのローカルおよび現在のプルバージョンを比較できます。管理者は特定のテーブルのバージョンを非表示にできる。

### このタスクについて

バージョンをオブジェクトの現在のバージョンと比較するには：

### 手順

**1.** 次のテーブルに示すいずれかの方法を使用して、[現在と比較] ページを開きます。




**2.** [現在と比較] ページで、異なるフィールドを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

変更を元に戻す

古いバージョンに戻すことで、カスタマイズしたレコードの変更を元に戻せます。

手順

1. オブジェクトのバージョンレコードリストを表示します。
2. オプション: 現在のバージョンと古いバージョンを比較して、必要な変更を元に戻すことを確認します。
3. 古いバージョンを右クリックし、このバージョンに戻すを選択します。
   確認ダイアログ ボックスが表示されます。

   このバージョンに戻すと、データベーススキーマが変更されるためにデータが失われる場合、ダイアログボックスに警告メッセージが表示されます。
4. **OK** をクリックするとそのアクションを確認します。
   - 現在のバージョンは以前のバージョンとしてマークされます。
   - 前の手順で選択したバージョンを複製した新しいバージョンレコードが追加されます。この新しいバージョンは現在のバージョンとしてマークされます。

   **注:**
   最新のベースラインバージョンに戻せます。古いベースラインバージョンには戻せない。

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- チーム開発の競合を解決する
- 個々のレコードの競合の解決
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

バージョンを表示しない

管理者は、[sys_update_version] 表のバージョンのカスタマイズを追跡しないようにテーブルを構成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

> ⚠ 警告:
> テーブルのバージョンを非表示にすると、チーム開発が正しく動作しない可能性があり、テーブルのレコードのバージョンを比較したり元に戻すことができない場合があります。

手順

1. **sys_properties.list** に移動します。
2. 新しいプロパティを作成します。
   - 名：glide.update.suppress_update_version
   - タイプ：文字列
   - 値：テーブルのコンマ分離リストデフォルト値：sys_user、sys_import_set_row

## バージョンとローカル変更

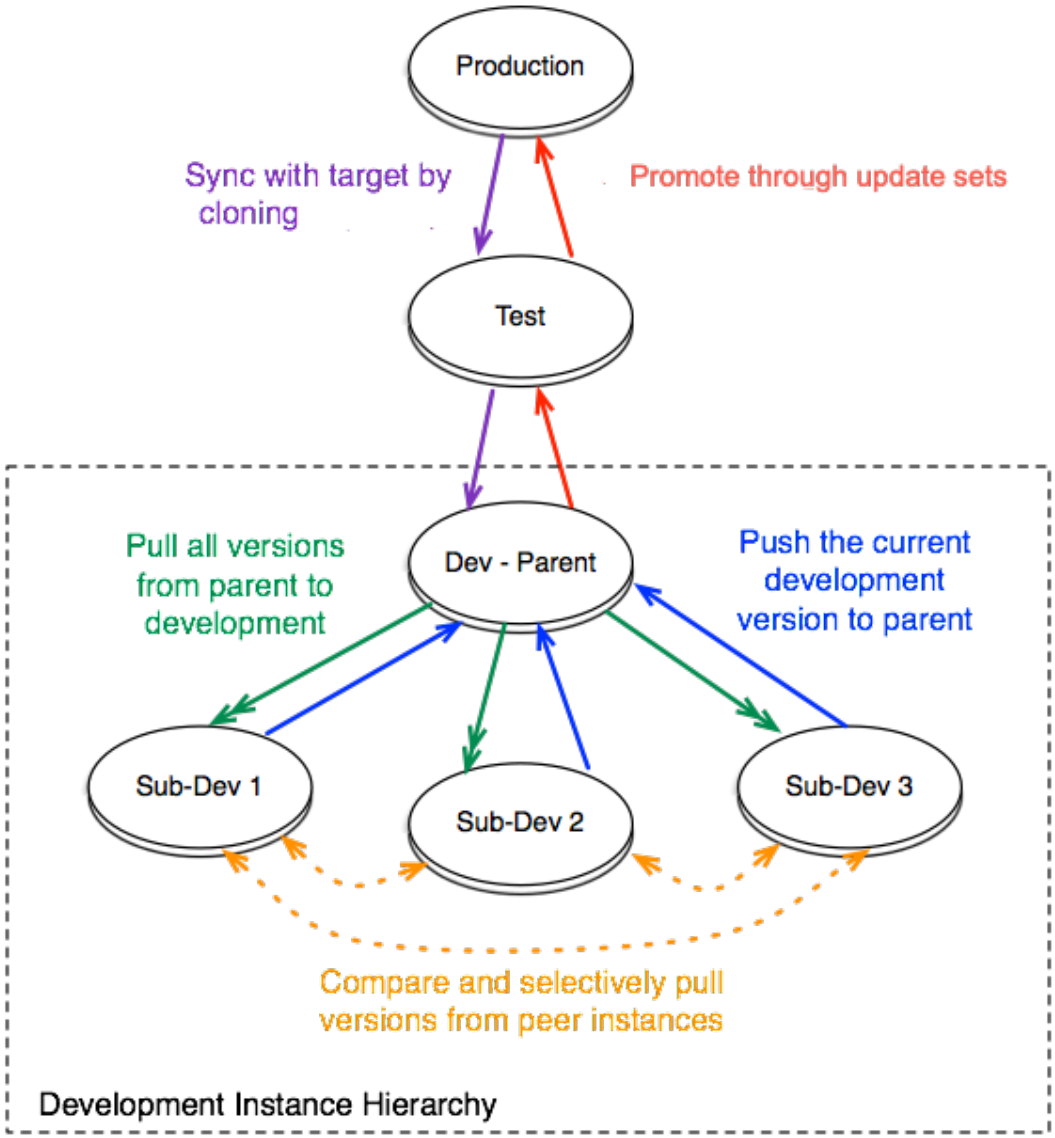
バージョンレコードは、後で特定のバージョンと比較または元に戻すことができるように、カスタマイズ可能なレコードへの変更を追跡します。

開発者がカスタマイズ可能なレコードを変更するたびにバージョンレコードが作成されるため、単一のレコードに複数のバージョンレコードを関連付けできます。開発者がカスタマイズ可能なレコードを変更するたびに、現在のバージョンを参照するようにローカルの変更レコードが作成または更新されるため、１つのレコードに関連付けられたローカルの変更レコードは１つだけです。

ローカル変更レコードは、カスタマイズされたレコードが親インスタンスにない開発インスタンスの変更を追跡するので、プッシュの準備のために変更を収集できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



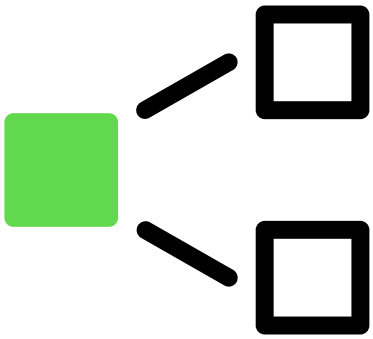
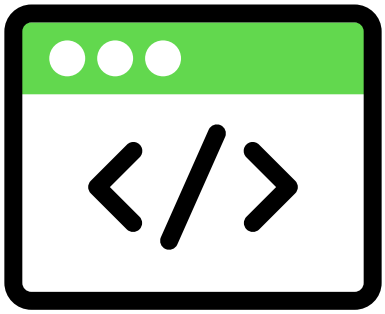

開発者は、カスタマイズ可能なレコードの以前のバージョンを回復するために、ローカルの変更を取り消せます。取り消しアクションは、ローカルのカスタマイズ可能レコードを、調整アクションによって識別された最後のリビジョンに設定します。

## アプリケーションの開発

組織のビジネスニーズを満たすカスタムアプリケーションを構築します。作成するユーザーエクスペリエンスまたはワークフローのタイプに適したビルダーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| App Engine でのローコードアプリケーションの構築 | プロコードアプリケーションの構築 | ビルダーライブラリ |
| --- | --- | --- |
|  |  | |
| より多くのクリエイターと複雑さの軽減でイノベーションを加速します。あらゆるスキルレベルの開発者が大規模にアプリケーションを構築できるようにします。 | 既存のアプリケーションとユーザーエクスペリエンスを拡張または維持します。企業全体のアプリケーションとデータを接続します。 | ビルダーツールを選択して、アプリケーションを迅速に開発します。 |

自動翻訳

## App Engine でのローコードアプリケーションの構築

ローコードアプリを迅速に構築し、作成者を増やし、複雑さを軽減します。ユーザーが必要とする企業間エクスペリエンスを安全に拡張します。

### 作成者を支援

ミッションクリティカルなタスクのために、Creator Workflows アプリを迅速に本番環境に移行します。包括的なローコード開発エクスペリエンスに含まれるガイダンスとテンプレートを使用して設計します。

### ローコード開発のスケール

ビジネスと IT でローコードアプリ開発のコラボレーション、管理、および統制を可能にします。 開発ガードレールの設定、標準の適用、コンプライアンスのチェックを一元的に行います。

### プロセスの自動化の促進

ネイティブ統合とローコードにより、プロセスを迅速に自動化し、価値を迅速に示します。ワークフローをシンプルなものから複雑なものに拡張し、企業全体で一貫性を保ちます。

### ユーザーのエンゲージメント

わかりやすく統一された最新のエクスペリエンスでユーザーを引き付けます。直感的なローコードデザイナーを使用して、モバイルファーストのエクスペリエンスを構築します。

## プロコードアプリケーションの構築

きめ細かな制御を設定したアプリを構築し、展開します。コードをデバッグし、ソースコントロールを管理し、中央ハブからアプリを公開します。

### アプリの迅速な構築

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべての作業を一元的に行うことで、コーディングから展開までのプロセスを迅速化できます。

ソースの管理

統合されたソースコントロールを使用して、Git リポジトリーにコミット、分岐、および結合します。

チームとしての作業

特定のアプリケーションリソースへの個々の開発者アクセスを提供して、コラボレーションを強化します。

### ビルダーライブラリ

各ビルダーは、ディシジョンビルダー、UI ビルダー、ワークスペースビルダー などの特定のニーズを満たしたり、特定タイプのデータを生成したりします。ビルダーの全リストについては、「ビルダーライブラリ」を参照してください。

## App Engine でのローコードアプリケーションの構築

シンプルなローコード環境でカスタムアプリケーションを作成および管理します。

App Engine Studio

ガイド付きローコード開発に App Engine Studio を使用して、カスタムアプリをゼロから、またはテンプレートを使用して構築します。

クリエータースタジオ

便利なテンプレートを使用して、要求/フルフィルメントアプリサービスカタログをすばやく作成するために使用しますクリエータースタジオ。

ERP キャンバス

ERP キャンバス を使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続し、ERP モデルを作成し、ERP システムからデータ (受注、データレコード、購買ドキュメントなど) を抽出します 。これで、Now Platform でローコードアプリを構築するときに ERP データを使用できるようになります。

ERP Customization Mining

ERP Customization Mining を使用して、SAP から Now Platform へのプラットフォーム移行など、ERP システムのカスタムアプリケーションを検索します。

ServiceNow CLI

ServiceNow CLI を使用すると、カスタムコマンドを作成して、ローカルシステムのコマンドラインからアプリケーションを管理できます。

### 関連アプリケーションと機能

ディシジョンビルダー

ディシジョンビルダー を使用して、意思決定テーブルを作成および管理します。ビジネスロジックを一連の if-then 意思決定ルールに埋め込みます。

Flow Designer

フローデザイナー は、プロセスと反復作業を自動化し、効率とエクスペリエンスを向上させます。

テーブルビルダー

テーブルビルダー を使用して、単一のユーザーインターフェイスにより視覚的にテーブル、フォーム、およびフローを設計します。

UI ビルダー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio によって生成されたワークスペースとポータル、または Next Experience コンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのための Web ユーザーインターフェイスを構築します。

Workflow Studio

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。

ワークスペースビルダー

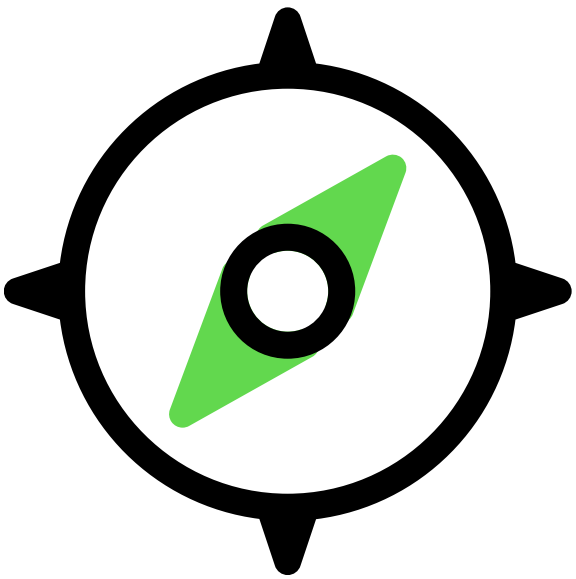
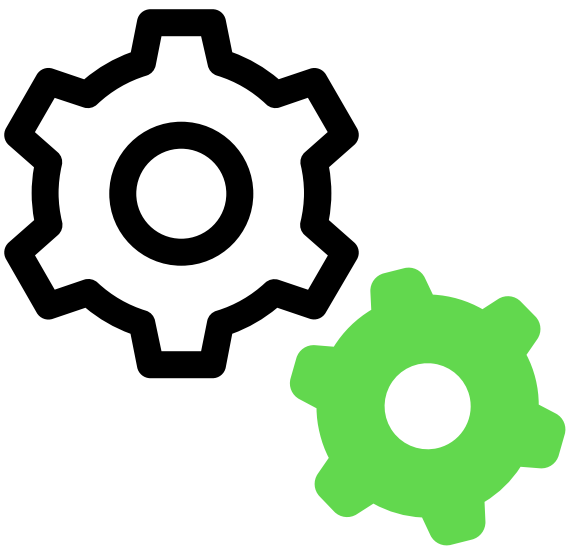
ワークスペースビルダー for App Engine により、App Engine Studio (AES) からカスタムワークスペースを迅速かつ効率的に作成できます。

## ビルド要求 - アプリのフルフィルメント - クリエータースタジオ

クリエータースタジオ を使用すると、テンプレートを使用して要求アプリを迅速に構築できるため、開発時間とオーバーヘッドを削減できます。

### 概要

### はじめに

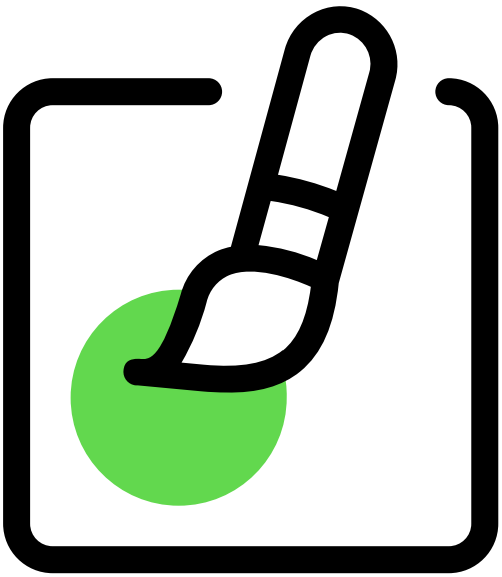
| 探索 | のインストールと構成 |
| --- | --- |
| クリエータースタジオ | クリエータースタジオ |
|  |  |
| 概念と機能について説明します クリエータースタジオ 。 | ツールをインストールして構成 クリエータースタジオ し、アクセスします。 |

自動翻訳

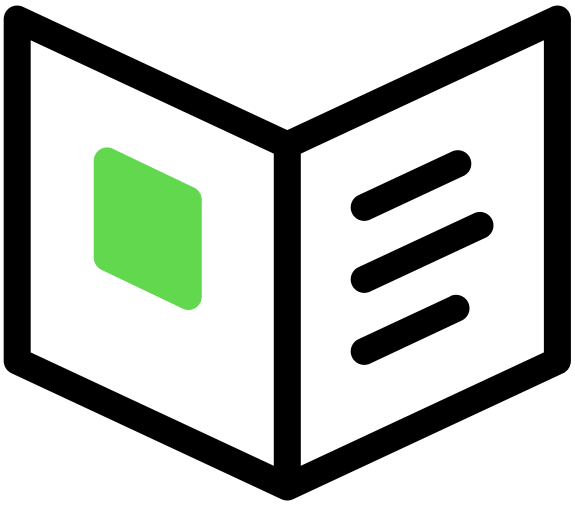
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

での要求アプリの構築

クリエータースタジオ



のテンプレートを使用して要求/実行アプリを構築/履行します クリエータースタジオ。



フィールド、テーブル、プロパティなどのコンポーネントの詳細 クリエータースタジオ を取得します。

## トラブルシューティングとヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

  会社の顧客管理者にお問い合わせください
- で質問や回答をする クリエータースタジオ コミュニティフォーラム
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 独自のアプリを作成する方法の詳細については、開発者サイトを参照してください。
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

### クリエータースタジオ の詳細

クリエータースタジオ かっこいいです。

## クリエータースタジオ の概要

## クリエータースタジオ のワークフロー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## クリエータースタジオ のメリット

| メリット | 機能 | ユーザー |
| --- | --- | --- |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

### クリエータースタジオ の構成

クリエータースタジオ をインストールして設定します。

## 構成の概要

## **Guided Setup** を使用した の実装

Guided Setup には一連のタスクがあり、ServiceNow のインスタンスで を設定するために役立ちます。の Guided Setup を開くには、次に移動します。 .

詳細については、「」を参照してください。

### クリエータースタジオ とドメイン分離

クリエータースタジオ ではドメイン分離はサポートされていません。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

## サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### を使用したアプリの構築 クリエータースタジオ

で クリエータースタジオ優れた要求実行アプリを構築します。

### クリエータースタジオ 参照

の クリエータースタジオ参照。

## **App Engine Studio** を使用したアプリの構築

ServiceNow® App Engine Studio (AES) はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。かつて管理者にアサインされていた作業は、AES を使用したトレーニングをほとんどまたはまったく受けていない社員に委任できるようになりました。

このビデオでは、App Engine Studio を使用したアプリ作成プロセスの概要を視覚的に示しています。

App Engine Studio の概要

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

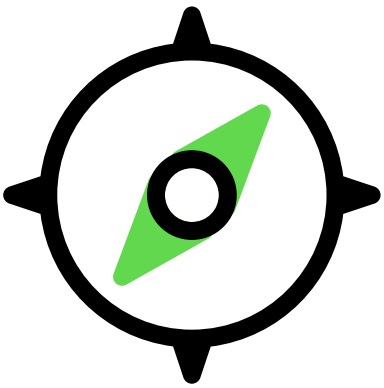
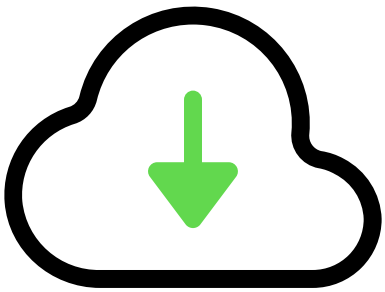
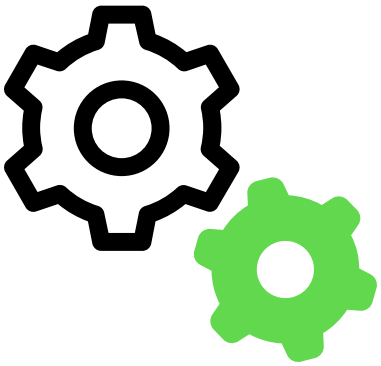


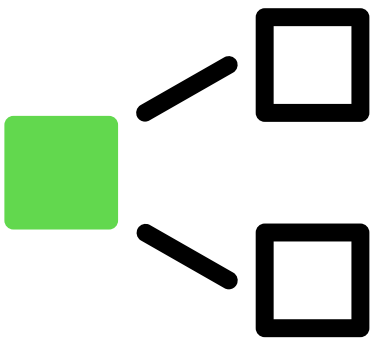
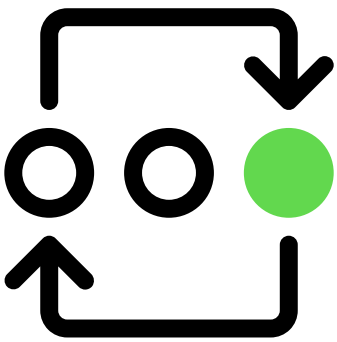
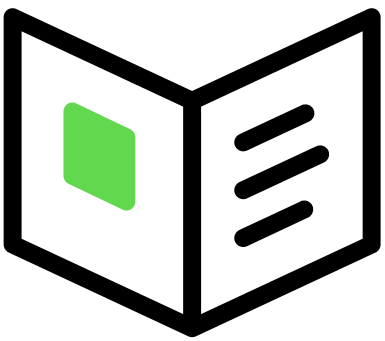
自動翻訳

## 開始するには

組織内の市民開発者に開発を委任することで、管理者はより戦略的なシステム全体の優先事項に取り組むことができます。AES は、次のことを行うのに役立ちます。

- ガイド付きワークフローやテンプレートなどの一連の開発ツールを使用して、あらゆるビジネスニーズに合わせて強力なアプリを迅速に構築します。
- カタログビルダー、、、、およびその他の統合ツールを使用して、ワークフロースタジオワークスペースビルダーモバイルアプリビルダーユーザーに好まれるエクスペリエンスを作成します。
- App Engine 管理センター (AEMC) などの、市民開発者とプロ開発者の両方をサポートする簡単なガバナンスとツールを使用して、スプロール化することなくアプリを拡張します。

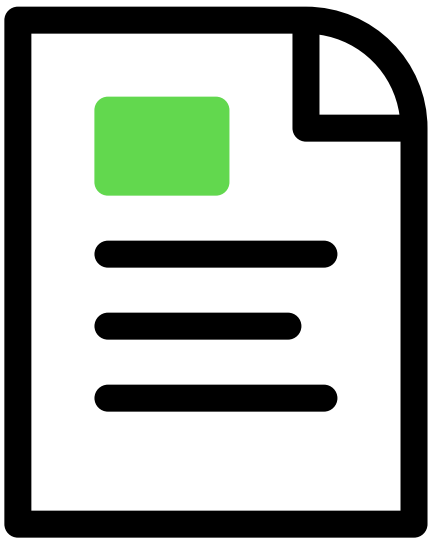
| 探索 | インストール | 構成 |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
| 概念と機能について説明します App Engine Studio 。 | インストールとそれに関連するアプリ。App Engine Studio | 環境、ツール、およびユーザーアクセスを構成します。 |

| ビルド | 展開 | 参照 |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
| を使用して App Engine Studioアプリケーションを構築します。 | 開発から本番まで、パイプライン内のインスタンスにアプリケーションをデプロイします。 | フィールド、テーブル、プロパティなどのコンポーネントの詳細 App Engine Studio を取得します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## App Engine Studio のその他のリソース

| App Engine Studio に関する詳細 | ServiceNow のリソース |
| --- | --- |
| App Engine Studio はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。 | <br>App Engine Studio でアプリを迅速に作成 |
| |  <br>App Engine でアプリを迅速に構築 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| App Engine Studio に関する詳細 | **ServiceNow** のリソース |
| --- | --- |
| | <br>App Engine Studio の開始 |

## ストアで **AES** を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

AES を使用する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、インスタンスに表示する前にローカルキャッシュをクリアする必要があります。

## **App Engine Studio** のヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

  会社の顧客管理者にお問い合わせください
- で質問や回答をする App Engine Studio コミュニティフォーラム
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 独自のアプリを作成する方法の詳細については、開発者サイトを参照してください。
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

### **App Engine Studio** の詳細

ローコードアプリ開発ツールである App Engine Studio (AES) を使用して、Guided Setup、事前定義されたテンプレート、およびワークフローを使用して強力なアプリケーションを構築する方法について説明します。

このビデオでは、App Engine Studio を使用したアプリ作成プロセスの概要を視覚的に示しています。

App Engine Studio の概要

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## App Engine Studio を使用してアプリを作成するためのワークフロー

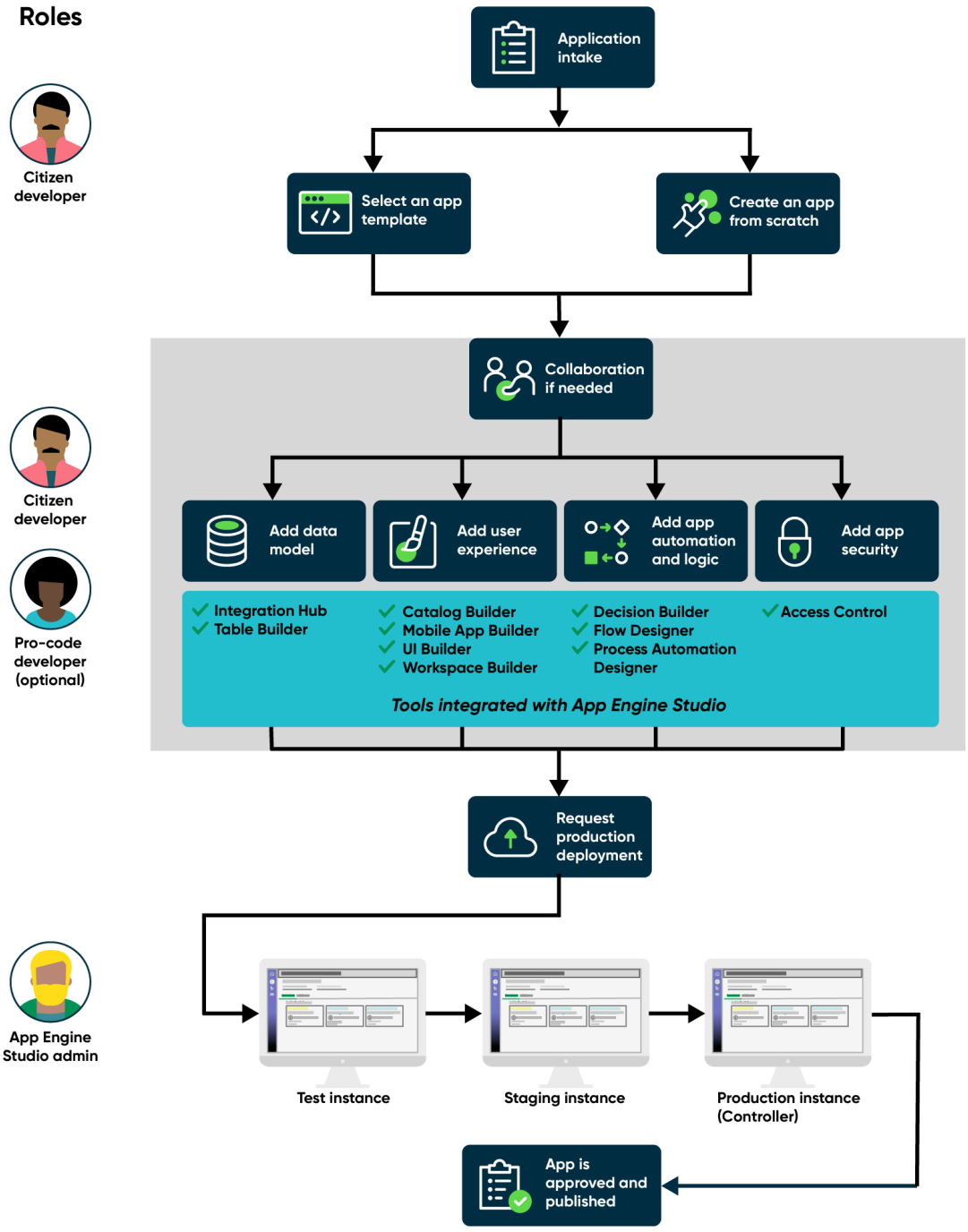
次の図は、App Engine Studio を使用したアプリの作成に関連する基本的なタスクを示しています。詳細な手順については、「App Engine Studio でのアプリの構築」を参照してください。

注:
画像を選択すると拡大されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**AES** を使用したアプリケーション作成プロセス




App Engine Studio でアプリを作成するためのワークフローは次のとおりです。

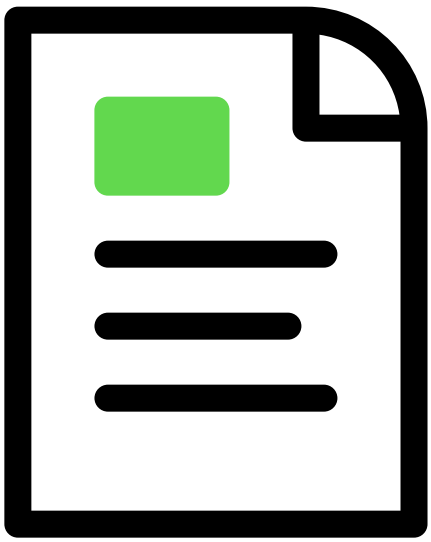
1. 市民開発者は、AES の承認と開発のために、アプリケーション取り込みからアプリの計画を提出します。
2. AES 管理者が取り込み要求をレビューします。却下された場合、要求はクローズされます。ただし、いつでもアイデアを更新して新しい要求を提出できます。
3. 要求が承認されたら、事前定義されたテンプレートを使用してアプリを作成するか、ゼロから作成するかを決定する必要があります。利用可能なテンプレートを探索する必要があります。テンプレートにより時間を大幅に節約できます。
4. 次に、自分でアプリを構築するためのリソースがあるかどうかを判断する必要があります。支援が必要な場合は、コラボレーションを要求することもできます。また、AES 管理者にコラボレーションする開発者をアサインしてもらうこともできます。
5. テンプレートを使用すると、基本データモデル、ユーザーエクスペリエンス、自動化

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



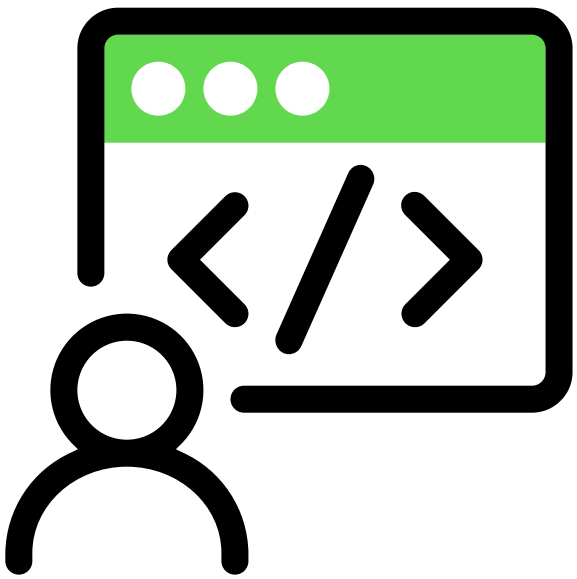
自動翻訳

# App Engine Studio のその他のリソース

| App Engine Studio に関する詳細 | ServiceNow のリソース |
| --- | --- |
| App Engine Studio はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。<br><br>**注:**<br>AES には App Engine サブスクリプションまたはそれがパッケージ化された製品が必要です。詳細については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。 | <br>App Engine Studio プレイリスト<br><br>  <br>App Engine Studio とStudio |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| App Engine Studio に関する詳細 | **ServiceNow** のリソース |
| --- | --- |
| | <br>ServiceNow コミュニティサイト |
| |  <br>初めての App Engine Studio アプリケーションの構築 - ServiceNow Developer サイト |

## AES の紹介

AES は、ローコード開発者が Now Platform の機能を活用できるようにして、企業のローコード開発のニーズに対応するように設計されています。ガイダンス主導型のフローとカスタマイズしやすいテンプレートにより、市民開発者はすぐに使い始めることができます。

市民開発者は、スキルレベルに関係なく、AES を使用することで生産性が向上します。カスタムアプリをゼロから構築する場合でも、テンプレートを使用する場合でも、AES の簡素化されたローコードエクスペリエンスにより、Now Platform での開発がスピードアップします。

AES の主な機能は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 初めてのユーザー向けのガイド付きエクスペリエンス： AES開発者向けのガイド付きエクスペリエンスを備えているため、環境を簡単にナビゲートできます。初めてガイダンスを使用するときは、アプリケーションを作成するプロセス全体を直線的に進めます。その後、作業している内容に関連する支援がガイダンスに表示されます。ガイダンスを非表示にするには、[今後これを表示しない] を選択してポップアップを終了します。
- アプリテンプレート：アプリテンプレートはアプリ開発プロセスを簡素化します。実証済みのユースケースに基づくテンプレートを使用することで、開発者は学習曲線なしで強力なアプリを作成できます。
- ガードレール： 市民開発者は、途中でツールヒントと推奨事項を受け取りながら作業を進めます。承認のためにアプリを提出することで、品質も保証されます。
- コラボレーション：あらゆるスキルレベルの開発者が、AES のローコード環境でアプリ開発にシームレスに協力できます。
- 統合ツール：AES が複数との統合である場合に、なぜ複数のローコードツールを使用するのでしょうか？テーブルの設計からカタログの構築、カスタムフローの作成まで、AES にはすべてが揃っています。

## App Engine Studio のメリット

App Engine Studio には次のメリットがあります。

| メリット | 機能 | ロール |
|---|---|---|
| アプリのアイデアを送信し、管理者が承認します。 | アプリ開発のためのアイデアの送信 | 市民開発者 |
| 新しいアプリをすばやく作成してカスタマイズするための開始点として、Procurement ポータルや休暇申請などの標準的なアプリケーションタイプのテンプレートを使用します。 | アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成 | 市民開発者 |
| テーブルビルダー や ワークスペースビルダー など、1 つのインターフェイスで複数の開発ツールにアクセスします。 | AES の統合開発ツール | 市民開発者 |
| 展開前にアプリケーションをレビューおよびテストするプロセスを維持しながら、開発を拡張します。 | App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理 | 管理者 |

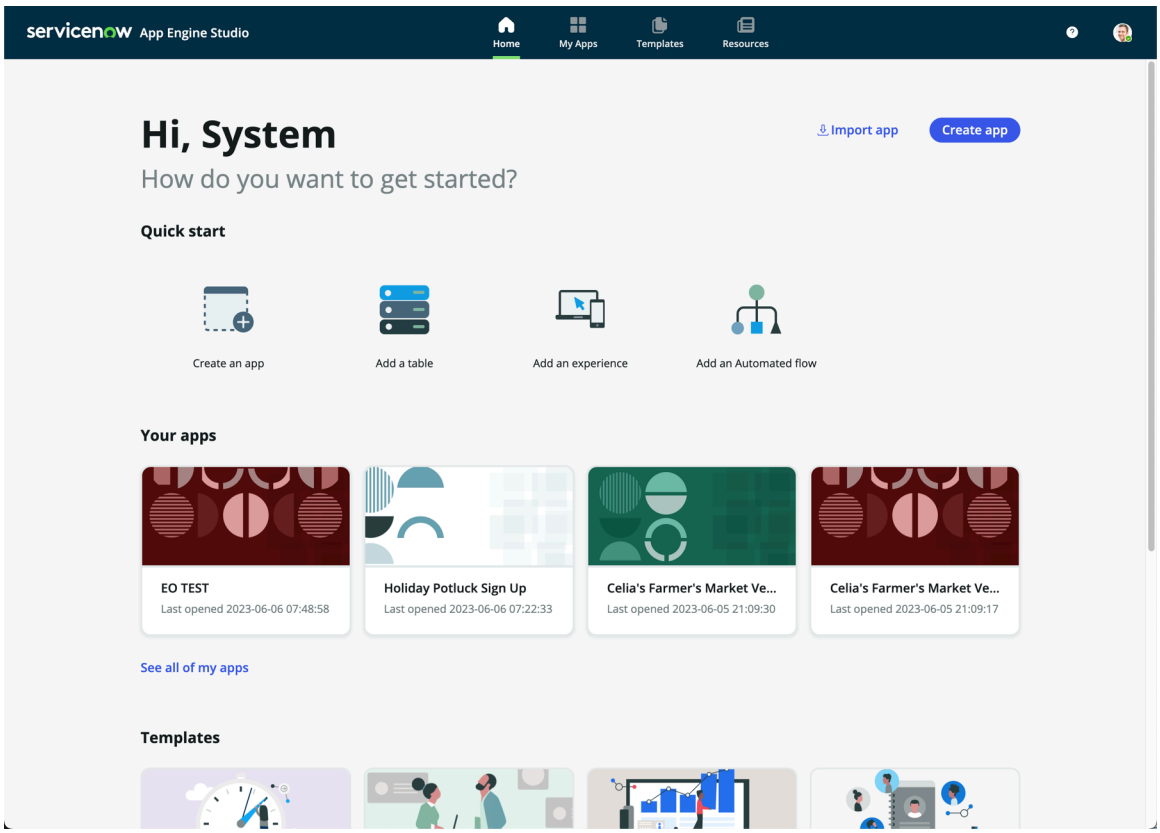
## AES でローコード開発を促進

App Engine Studio のローコード開発環境を使用すると、市民開発者は高品質のアプリを迅速に構築できます。市民開発者とは、組織内の個人であり、経験豊富なプログラマーではありませんが、アプリ作成のためのアイデアを持っている該当分野の専門家です。承認されたアイデアを使用して、市民開発者はアプリテンプレートを選択し、いくつかのパラメーターを入力して AES アプリを構築します。作成されたアプリケーションには、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティが含まれ、すべて組織のニーズに合わせてカスタマイズできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**AES** ランディングページ




テンプレートから作成されたアプリは、市民開発者が定義した要件を満たすように簡単に変更できます。また、新しいアプリを最初から作成することもできます。

AES を使用して作成されたアプリをカスタマイズするには、次のタスクを実行できます。

| タスク | 説明 |
|---|---|
| データ基盤を簡単に作成 | App Engine Studio テンプレートには、ベースシステムアプリ機能を提供するために必要なものがすべて組み込まれたデフォルトのデータテーブルがあります。AES に組み込まれている テーブルビルダー アプリを使用すると、新しいテーブルの編集または追加、列の追加と削除、テーブルタイプの変更などを行うことができます。<br><br>スプレッドシートから既存のデータをインポートして、既存の手動でのスプレッドシート主導型のワークフローを簡単に自動化することもできます。 |
| 優れたエクスペリエンスの提供 | エクスペリエンスは、エンドユーザーがアプリを操作するためにアクセスするロールベースのユーザーインターフェイスです。AES には、構成可能なワークスペース、ポータル、カタログアイテム、モバイルエクスペリエンスなど、いくつかの異なるエクスペリエンスタイプが含まれています。<br><br>いくつかの簡単な手順に従って、エクスペリエンスを追加できます。たとえば、名前と説明、URL、およびワークスペースにアクセスできるロールを追加して、ワークスペースをすばやく作成できます。次に、AES 内の ワークスペースビルダー ツールを使用して、組織のニーズに合わせてワークスペースエクスペリエンスを調整できます。より高度な構成は UI ビルダー で編集できます。 |
| ワークフローテンプレートを使用し | AES テンプレートには、ユーザーエクスペリエンスを簡素化し、生産性を向上させ、ビジネスプロセスを強化するために使用できる、一連の強力なデジタルワークフローが含まれています。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| たアプリの自動化 | 一般的な自動化アクティビティのリストから選択するだけで、ウィザードに従ってワークフローの構成をすばやく行うことができます。テンプレートで生成されたワークフローをニーズに合わせるには、フローデザイナー アプリを起動してワークフローを編集します。 |
| アプリのセキュリティの維持 | AES にロールを追加することで、アプリを使用するユーザーに対する制御を維持できます。アプリテンプレートには事前定義されたロールが含まれているため、セキュリティ面で有利なスタートを切ることができます。既存のロールを追加または削除したり、セキュリティニーズを満たすロールを作成したりできます。 |

## 監視を維持しながらの開発の拡張

App Engine Studio を使用すると、ガードレールを確立して維持しながら、組織全体での開発を拡張できます。AES へのアクセスを制御できます。市民開発者によって作成されたアプリを、パイプライン経由で移動させて本番環境に公開する前にレビューすることもできます。このレビュープロセスにより、作成、リリース、および展開するアプリの品質を信頼性の高いものにできます。

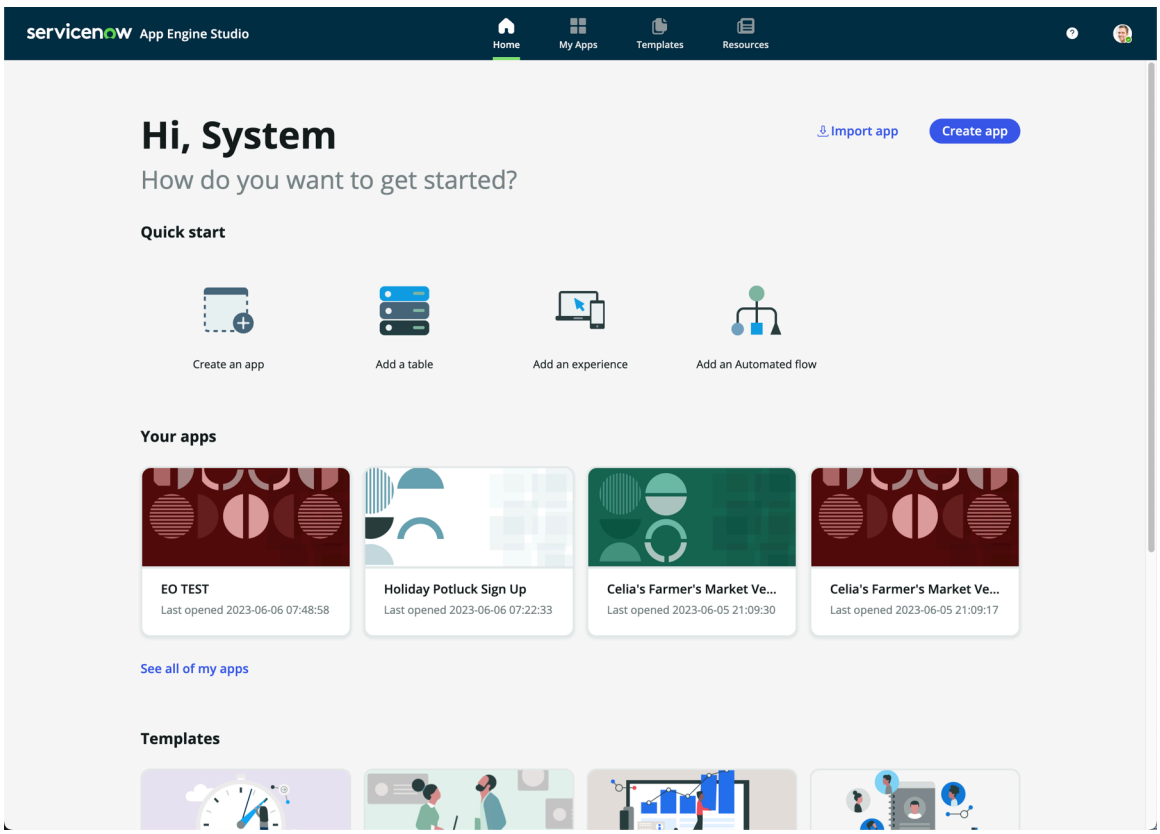
### AES ユーザーインターフェイス

App Engine Studio (AES) ユーザーインターフェイスについて説明します。

AES は組織のカスタムアプリケーションを構築するための Web ユーザーインターフェイスです。組織のニーズに合わせてカスタマイズできるテンプレートを使用して、アプリケーションを構築できます。

### App Engine Studio ホーム

App Engine Studio のホームページでは、アプリの作成、アプリの表示、クイックスタートアクション、およびテンプレートに簡単にアクセスできます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

上部のナビゲーションバーを使用すると、アプリの表示、アプリテンプレートへのアクセス、ヘルプリソースの検索ができます。右上の を選択して、Help Center にアクセスすることもできます。

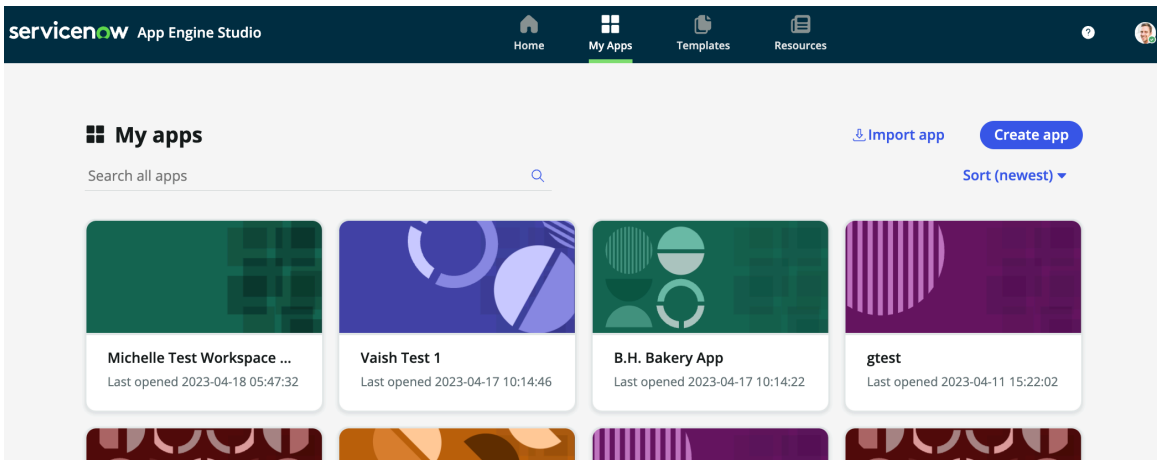
ユーザーは、AES では次の操作にアクセスできます。

- [アプリを作成]：アプリケーションを最初から作成します。
- [クイックスタート]：アプリへのオブジェクトの追加、アプリテンプレートの参照、および App Engine Studio ツールの詳細確認のためのリンクです。
- [最近のアプリ]：App Engine Studio を使用して最近アクセスしたアプリケーションのリストです。
- [テンプレート]：事前設定されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを使用してアプリケーションを作成するために使用できるテンプレートのリストです。

> **注:**
> App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、このタブにテンプレートは表示されません。

## [自分のアプリ] タブ

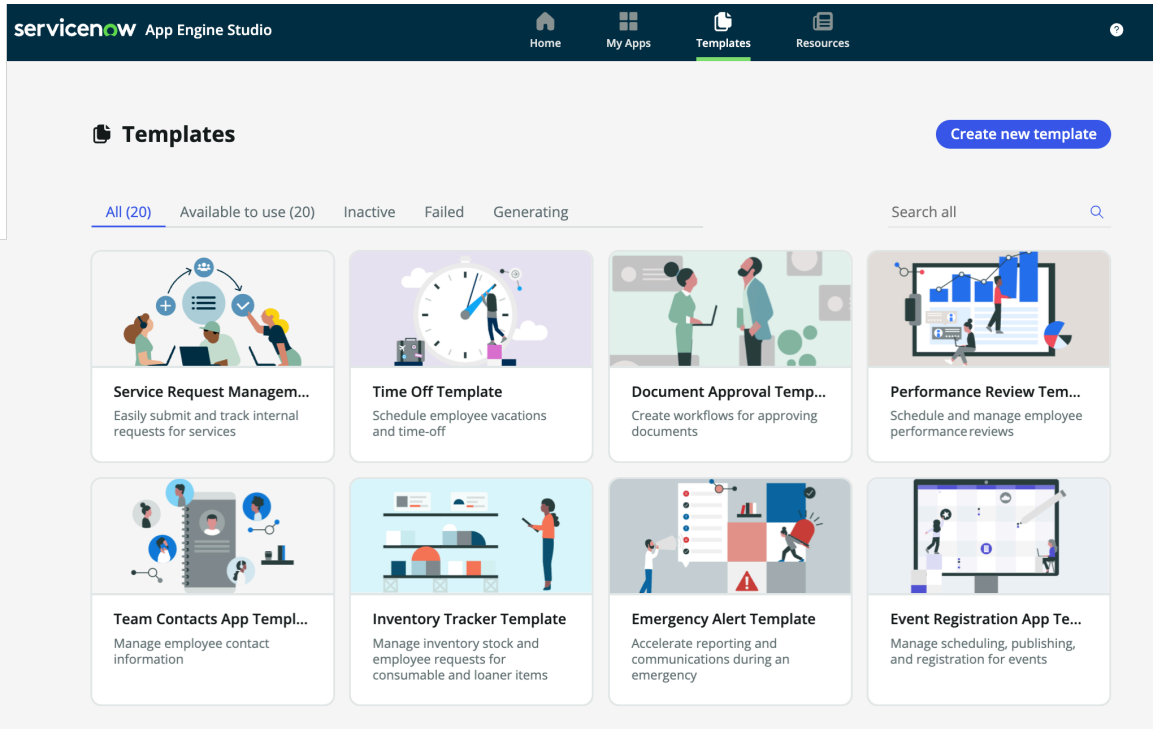
自分が作成したアプリケーションを表示および検索します。




## [テンプレート] タブ

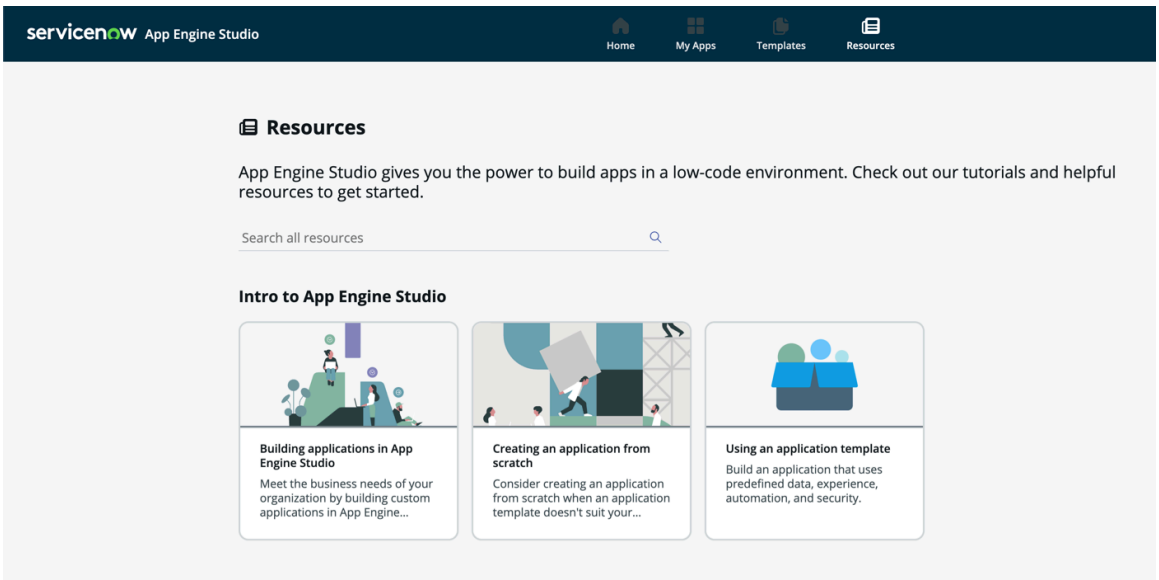
利用可能なアプリテンプレートのリストを示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## [リソース] タブ

AES を開始するためのチュートリアルと役に立つリソースを表示します。



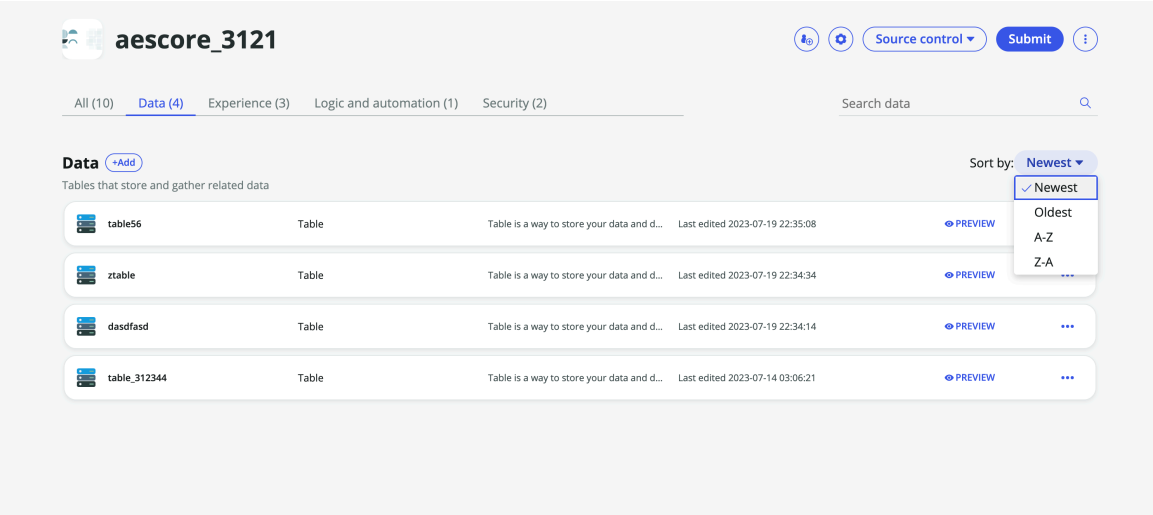

## アプリホーム

アプリホームでは、アプリにデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを追加します。

**注:**
AESでアプリのホームページを表示しているときに、3 つを超えるアイテムを含むセクション (テーブルやエクスペリエンスなど) にタブ移動した場合、[ソート基準] オプションを使用して、アルファベット順または一時的に、[新しい順] または [古い順] でアイテムを表示できます。

自動翻訳

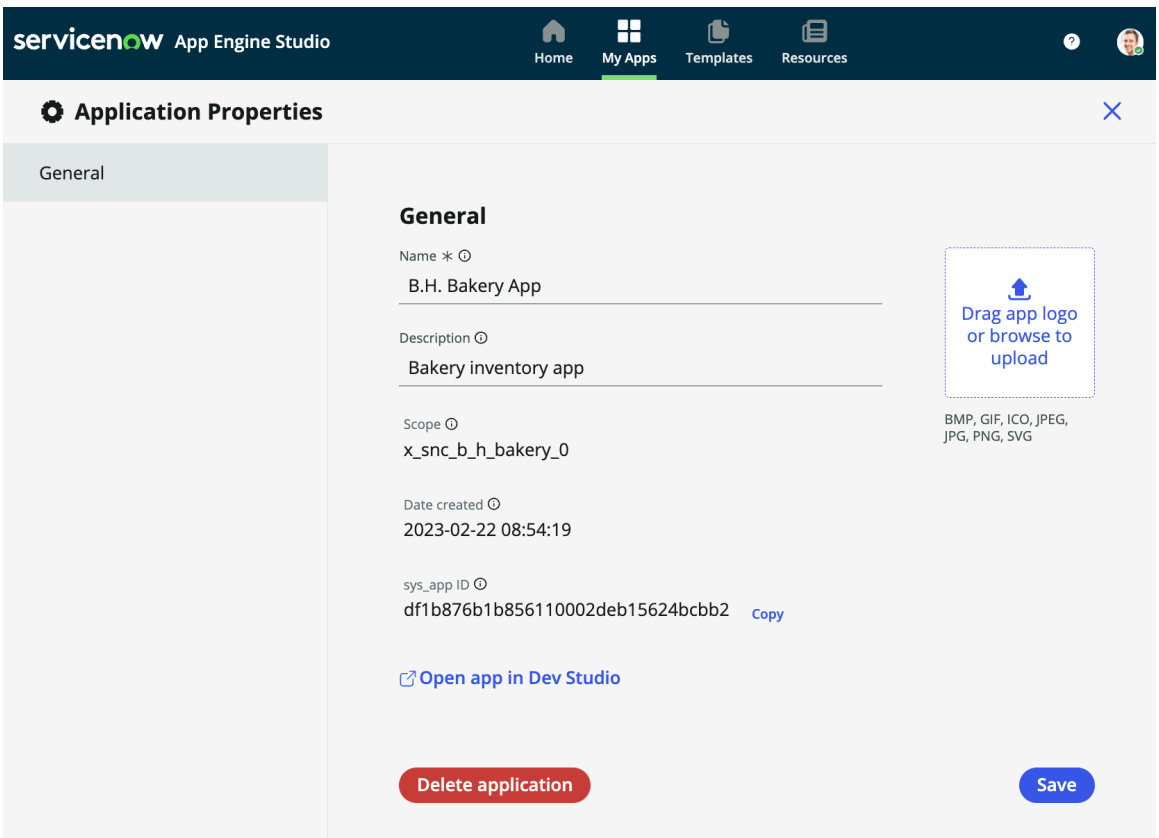
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ロールに応じて、一部のオブジェクトにアクセスする必要があります。[システム管理者にお問い合わせください] を選択して委任開発者になると、アクセス権を要求できます。委任開発者ロールの詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

## アプリケーションプロパティ

名前、説明、ロゴなど、アプリケーションの全般設定を表示します。また、ServiceNow スタジオでは自分のアプリケーションを開いたり、削除したりできます。

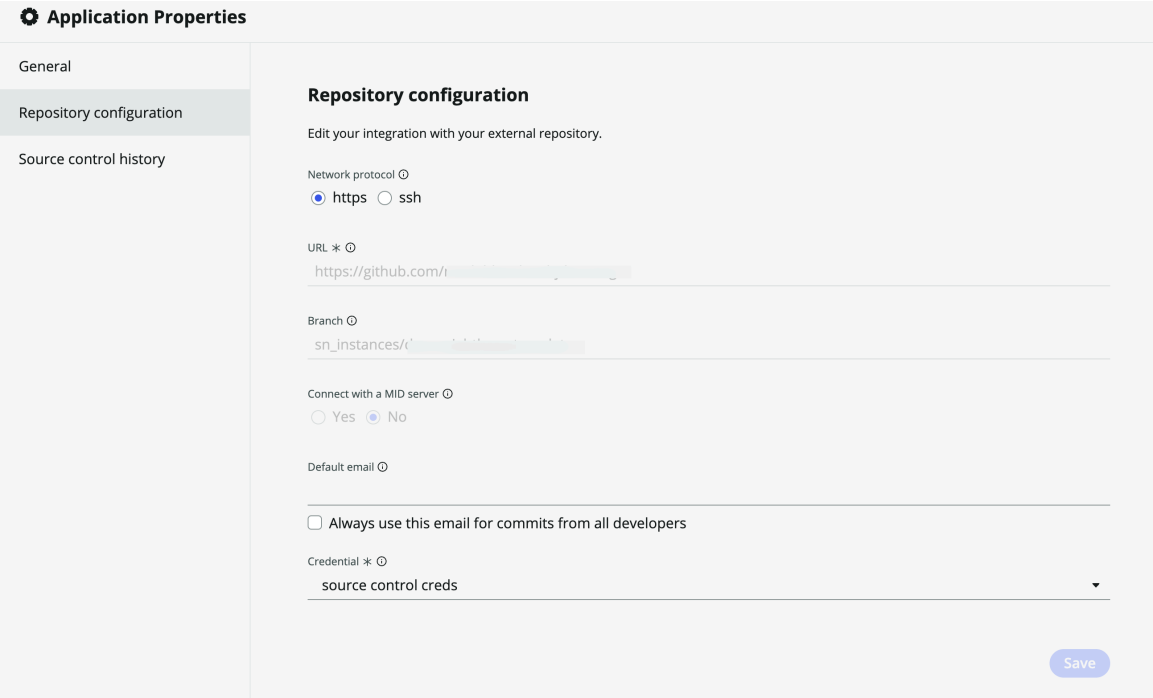



## リポジトリ構成

アプリケーションのソースコントロールリポジトリ設定を表示および編集します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




### AES の統合開発ツール

App Engine Studio (AES) を使用すると、Now Platform 開発スイートで利用可能ないくつかのツールにすぐにアクセスできます。

[store-future: BEGIN review]New[End] App Engine Studio を使用してアプリを作成すると、これらの強力な開発ツールで機能を拡張できます。

**App Engine Studio** の開発ツールと機能

| ツール | 説明 | 参照 |
|---|---|---|
| [store-future: BEGIN review]New[End]アクセス制御 | アプリケーションのアクセス制御とロールを操作します。 | 「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。 |
| カタログビルダー | サービスカタログを構築するためのガイド付きツールに、レコードプロデューサーカタログアイテムを追加します。 | 「標準カタログアイテムの追加」を参照してください。 |
| Decision Builder | 意思決定テーブルを使用して、意思決定ルールを追加して意思決定ロジックをコードから切り離します。 | 「意思決定の追加」を参照してください。 |
| メール通知 | レコードが作成または更新されたときに自動的に送信されるメール通知を作成および編集します。メール通知は、フローで参照として使用されるか、またはイベントによってトリガーすることもできます。 | 「メール通知の追加」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**App Engine Studio** の開発ツールと機能 (続く)

| ツール | 説明 | 参照 |
|---|---|---|
| ERP キャンバス | ERP (エンタープライズリソースプランニング) データモデルを構築し、ERP システムからデータを抽出します。 | 「ERP キャンバス」を参照してください。 |
| ERP Customization Mining (ERP-CM) | ERP システムのすべてのカスタマイズを特定します。 | 「ERP Customization Mining (ERP-CM)」を参照してください。 |
| Flow Designer | フローを追加してアプリケーションプロセスを自動化します。 | 「フローを最初から追加」を参照してください。 |
| Integration Hub - インポート | データをインポートして既存のテーブルにマッピングします。 | 「データ統合を作成する」を参照してください。 |
| Mobile App Builder | モバイルエクスペリエンスを追加します。 | 「モバイルエクスペリエンスの追加」を参照してください。 |
| Process Automation Designer | 部門横断型プロセスを編集し、自動化されたタスク指向のビューに統合します。 | 「プロセスの変更」を参照してください。 |
| Table Builder | 表形式のデータモデルを操作します。テーブルビルダー は App Engine Studio 専用であり、アプリの作成に必要です。 | 「空白のテーブルを作成する」を参照してください。 |
| UI Builder | 高度に構成可能な UI 開発ツールを使用して、ワークスペースとポータルエクスペリエンスを編集します。 | 「ワークスペースの追加」および「ポータルの追加」を参照してください。 |
| Workspace Builder | カスタムワークスペースをすばやく構築して、ユーザーがサービスデスクのようなエクスペリエンスでチケットを管理できるようにします。 | 次のトピックを参照してください。<br>• AES でのワークスペースの構築<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**App Engine Studio** の開発ツールと機能 (続く)

| ツール | 説明 | 参照 |
| --- | --- | --- |
| | | • ワークスペースビルダー で ワークスペースのレコード ページを構成します。<br>• ワークスペースビルダー での ワークスペースのリストの構成<br>• ワークスペースビルダー での ワークスペースの分析の構成 |

### App Engine および App Engine Studio

App Engine は、ワークフローを自動化することで生産性を向上させる Now Platform® 製品スイートです。スターターバージョンと完全 App Engine バージョンがあります。完全バージョンには、ローコードアプリを構築するための App Engine Studio (AES) が含まれています。

App Engine によるアプリ開発の合理化

## App Engine スターターバージョンと完全バージョン

次の表は、利用可能なアプリと、App Engine スターターバージョンと完全 App Engine バージョンの違いを示しています。

**App Engine** スターターと完全 **App Engine**

| App Engine スターター | 完全 App Engine バージョン |
| --- | --- |
| 制限付きカスタムテーブル | カスタムテーブルに制限なし |
| 構築できるアプリの数が限られている | 無制限のアプリを構築 |
| 標準の App Engine アプリ作成ツール：<br>• UI ビルダー<br>• 自動テストフレームワーク (ATF)<br>• 委託開発<br>• ワークフロースタジオ のフロー<br>• サービスクリエーター<br>• サービスポータル<br>• スタジオ IDE<br>• ガイド付きアプリケーションクリエーター®<br>• Now Mobile®<br>• モバイルアプリビルダー<br>• エージェントワークスペース<br>• ワークフロースタジオのプレイブック | 標準の App Engine アプリ作成ツール：<br>• UI ビルダー<br>• 自動テストフレームワーク (ATF)<br>• 委託開発<br>• ワークフロースタジオ のフロー<br>• サービスクリエーター<br>• サービスポータル<br>• スタジオ IDE<br>• ガイド付きアプリケーションクリエーター®<br>• Now Mobile®<br>• モバイルアプリビルダー<br>• エージェントワークスペース<br>• ワークフロースタジオのプレイブック |
| 適用外 | 追加の製品およびオファリング： |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**App Engine** スターターと完全 **App Engine** (続く)

| App Engine スターター | 完全 App Engine バージョン |
| --- | --- |
| | • App Engine 管理センター (AEMC)<br>• App Engine 内の App Engine Studio 専用アプリ<br>  ○ App Engine 向け テーブルビルダー<br>  ○ App Engine 向け ワークスペースビルダー<br>• 動的翻訳<br>• Mobile Publishing<br>• 構築済みアプリ、フロー、および UI テンプレート<br>• パフォーマンスアナリティクス<br>• 予測インテリジェンス<br>• ユニバーサル要求 Pro<br>• 仮想エージェント |

App Engine スターターはすべての製品に含まれています (つまり、無料です)。App Engine スターター以外の追加機能にアクセスするには、App Engine サブスクリプションの有料ライセンスが必要です。完全 App Engine バージョンでは、ユーザーは無制限のカスタムアプリと無制限のカスタムテーブルの履行者として機能できます。顧客のエンタイトルメントは、購入した App Engine サブスクリプションのタイプによって異なる場合があります。エンタイトルメントの確認については、アカウントチームにお問い合わせください。

自動翻訳

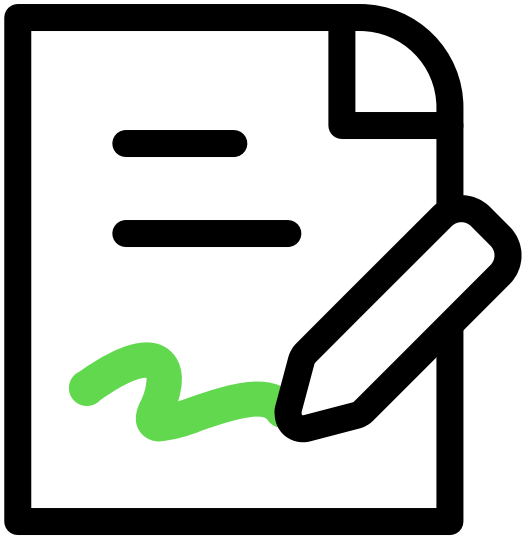
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## App Engine に関する追加情報

| App Engine に関する詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow は App Engineに関するいくつかの追加リソースを提供します。 | <br>App Engine Enterprise の購入概要とバージョンの比較<br> <br>App Engine Enterprise データシート (PDF) |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| App Engine に関する詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  <br>サブスクリプション製品のエンタイトルメント<br> <br>カスタムテーブルガイド (PDF) |

**App Engine Studio** の使用を開始するための学習計画

ServiceNow は、市民開発者に App Engine Studio (AES) でローコードアプリの構築を開始するためのいくつかのクイックトレーニングモジュールを提供します。

ServiceNow 開発者サイトでは、AES でアプリを開発するための多数のリソースを提供しています。

次の学習モジュールを使用すると、アプリを構築する方法をすぐに確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ServiceNow** 開発者サイトの学習モジュール

| コース | 説明 |
| --- | --- |
| 初めての App Engine Studio アプリケーションの構築 | AES を使用してコレクションを追跡するアプリケーションを作成します。アプリケーションは安全で自動化され、魅力的なユーザーエクスペリエンスを提供します。 |
| アプリとデータモデルの作成 | アプリケーションで使用されるデータモデルを含む AES を使用して、ゼロからアプリケーションを作成します。データモデルは、他の学習モジュールでアプリケーションにユーザーエクスペリエンス、ロジック、自動化、およびセキュリティを追加する方法を学習するための基盤です。 |
| レコードプロデューサーのユーザーエクスペリエンスの作成 | AES にレコードプロデューサーカタログアイテムを作成します。ユーザーは、サービスポータルの Service Catalog アイテムを使用して、要求を送信したり、タスクを作成したりできます。 |
| ワークスペースのユーザーエクスペリエンスの作成 | AES で作成されたアプリケーションでデータをレポートおよび管理するためのワークスペースを作成します。 |
| モバイルのユーザーエクスペリエンスの作成 | AES でモバイルエクスペリエンスを作成してテストし、ユーザーがどこからでもアプリケーションにアクセスできるようにします。 |
| フローによるプロセスの自動化 | AES でフローを作成して、ビジネスプロセスを自動化します。フローは人為的なミスを減らし、効率を向上させ、アプリの動作を改善します。 |
| 安全なアプリとデータ | AES を使用して、ロールを作成し、ユーザーにロールを割り当て、アプリケーションデータへのユーザーアクセスをテストすることで、アプリケーションを保護します。 |

その他の学習リソース

| アプリケーション開発の詳細を見る |
| --- |
| 市民開発者がイノベーションを創出する方法 については、ServiceNow ブログで学ぶことができます。 |
| アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義と要求の承認または拒否の詳細については、「アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義」を参照してください。 |

### **App Engine Studio** および関連アプリの構成

App Engine Studio (AES) の Guided Setup では、実装プロセスが 1 ステップずつ説明されます。各セットアップ手順を終了すると、次の手順を開始するように求められます。

AES の構成が完了したら、AES に関連する他の製品を構成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

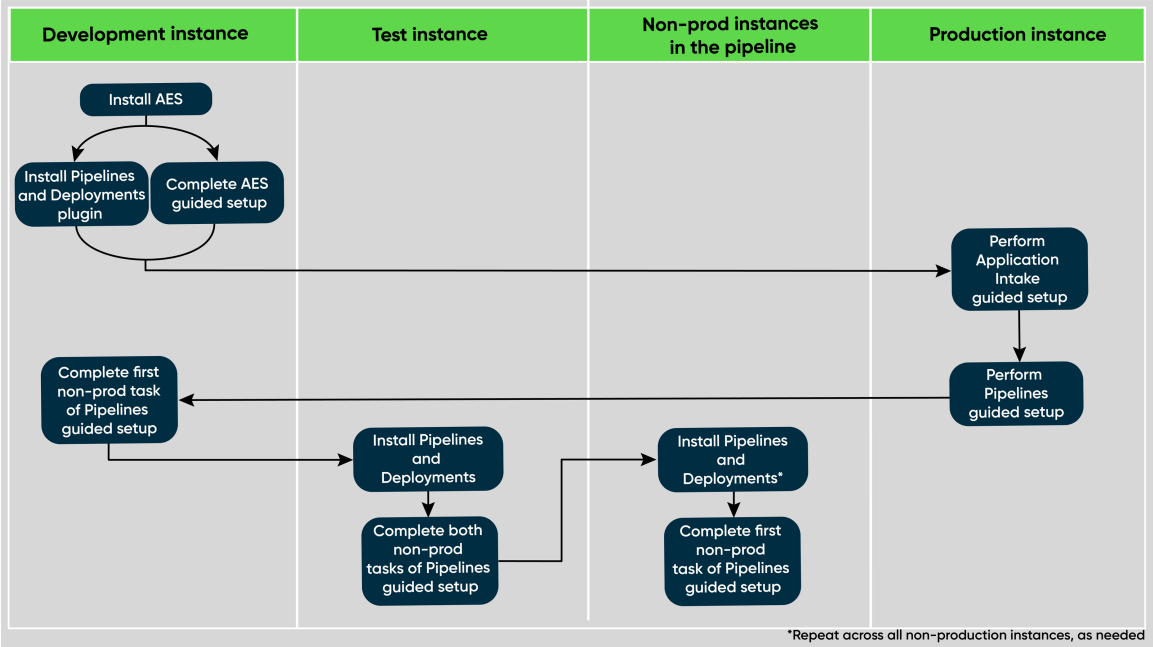
- App Engine 管理センター (AEMC)
- Application Intake
- パイプラインと展開

これらの各製品には、それぞれの Guided Setup があります。1 つまたは複数の製品を構成済みで、それを再度構成するように求められた場合は、その指示を無視してかまいません。次の図は、AES および関連アプリケーションを実装するための推奨方法を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### AES の実装




AES 通常、実装は次の手順に従います。

1. 開発インスタンスで、AES と パイプラインと展開 プラグインをインストールします。詳細については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。
2. AES Guided Setup を完了します。詳細については、「App Engine Studio の構成」を参照してください。
3. 本番インスタンス：
   a. アプリケーション取り込み Guided Setup を完了します。詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。
   b. パイプラインと展開 Guided Setup を完了します。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。
4. 開発インスタンスで、パイプラインと展開 Guided Setup の最初の非本番タスクを完了します。
5. テストインスタンスで、パイプラインと展開 をインストールします。
6. テストインスタンスで、パイプラインと展開 Guided Setup の両方の非本番タスクを完了します。
7. パイプライン内の他のすべての非本番インスタンス：
   a. パイプラインと展開 をインストールします。
   b. パイプラインと展開 Guided Setup の最初の非本番タスクを完了します。
8. 必要に応じて、すべての非本番インスタンスでステップ 7 を繰り返します。
9. パイプライン内の各インスタンスに AEMC プラグインをインストールします。詳細については、「App Engine 管理センター の構成」を参照してください。

   AEMC を使用すると、管理者はアプリ開発を取り込みから本番インスタンスでの本番稼働まで管理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「System clone」と「AES によるインスタンスのクローン作成」を参照してください。

### AES とドメイン分離

App Engine Studio (AES) ではドメイン分離はサポートされていません。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

#### サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### App Engine Studio のインストール

admin ロールを持っている場合は、App Engine Studio (AES) アプリケーション (com.snc.app-engine-studio) をインストールできます。このアプリケーションは、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

## AES の試用版

ライセンスを購入する前に AES を試すには、ライセンスを個人開発者インスタンスにインストールします。詳細については、 ServiceNow 開発者プログラム .

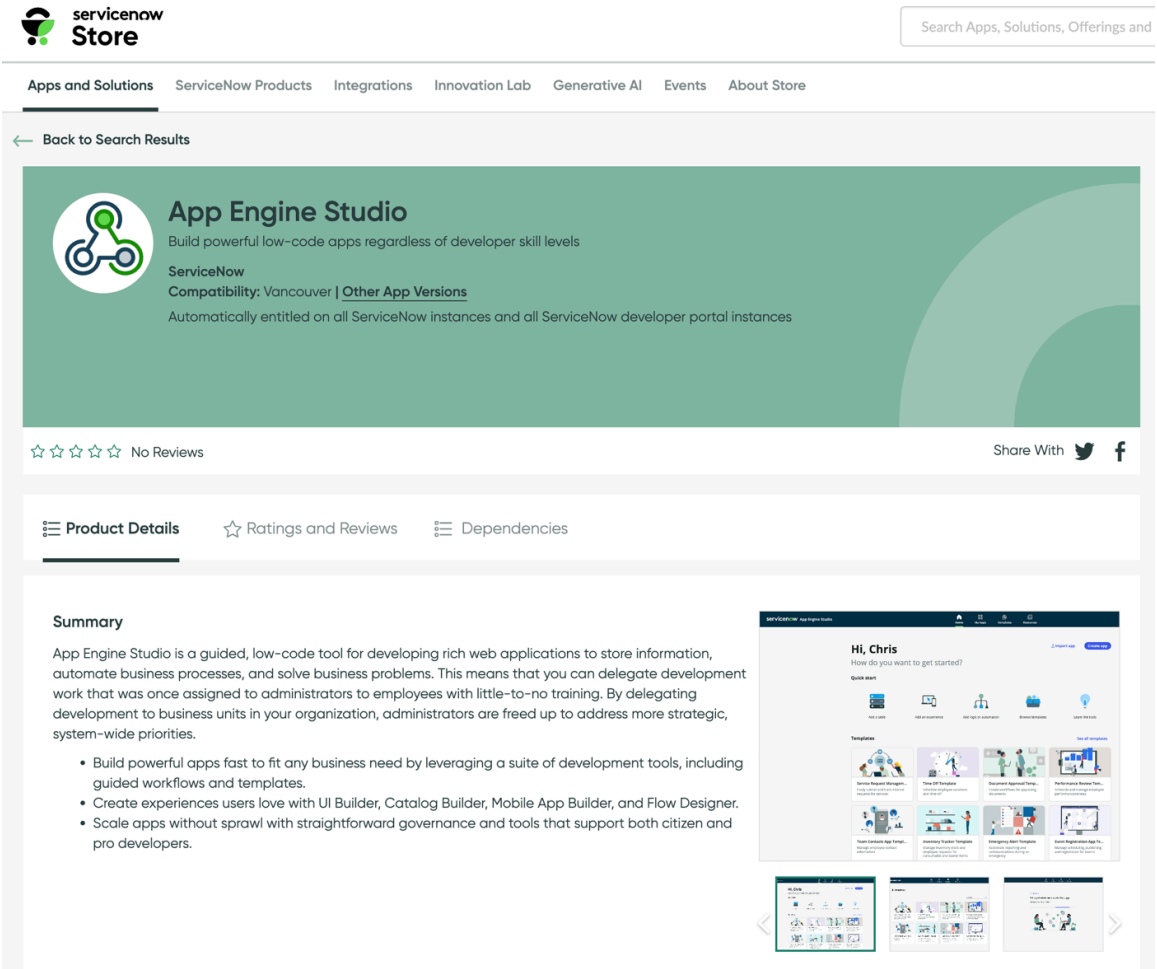
注:
本番インスタンスまたは非本番インスタンスにインストールするには、App Engine Studio のサブスクリプションが必要です。詳細は、ServiceNow 担当者にお問い合わせください。

## ServiceNow Store による AES のインストール

ServiceNow Store を使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。たとえば、App Engine Studio は、テーブルビルダー や モバイルアプリビルダー などの多数のツールやアプリケーションを含む製品です。完全な AES 製品ではなく、基本的な AES アプリケーションをインストールした場合、すべての機能とツールを使用することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「AES アプリのエンタイトルメントの取得」を参照してください。

AES をインストールすると、次の関連アイテムもインストールされます。

- ロールとグループ
- テーブル
- プラグイン

詳細については、「AES とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

## AES のインストールワークフロー

AES を初めてインストールするときに実行する必要があるタスクの概要は、次のとおりです。

1. あなたの開発 のインスタンス戦略 AES.
2. のエンタイトルメントを取得 AES ライセンスがあることを確認します。
3. インストール AES (アプリケーションではなく完全な製品) ServiceNow Storeから。
4. をインストールする AES の統合とプラグイン.

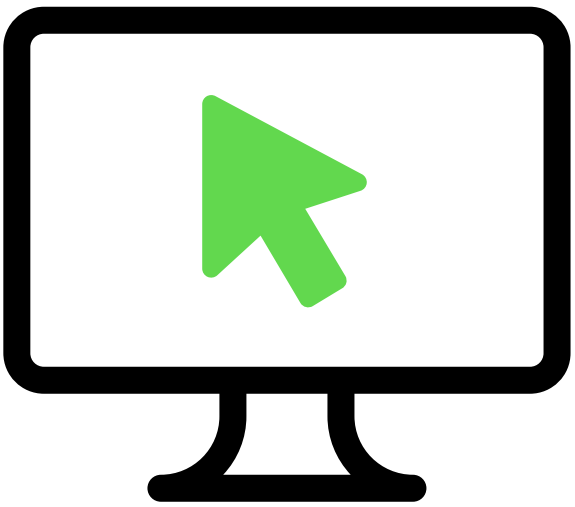
または、次の手順を実行して、既存の AES インストールを更新することもできます。

- 以前にインストールした AES バージョンの更新
- AES インスタンスの次のファミリリリースへのアップグレード

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| AES インストールの詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow には、App Engine Studio のインストールと管理に関する追加リソースがいくつかあります。 |  <br>App Engine Studio release notes<br> <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES インストールの詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| | ServiceNow University の概要 App Engine Studio オンデマンドコース |

### AES のインスタンス戦略

ユーザーがアプリケーションを開発するすべての ServiceNow インスタンスに、App Engine Studio (AES) をインストールする必要があります。

AES に対する会社のインスタンス戦略を確立する必要があります。次のようなことを決定する必要があります。

- 社内の誰もが AES にアクセスしてアプリの構築を開始できるようにするかどうか。
- 選択したユーザーグループにアクセス権を付与するかどうか。
- 個人が構築しようとしているアプリに関する情報を入力できるフォームを設定して、ケースバイケースでアクセス権を付与するかどうか。その後、IT が、それらの個人にそのアプリを構築するためのアクセス権を付与するかどうかを決定します。

本番インスタンスと同様に構成された非本番インスタンスが、テスト環境の最適な候補です。これにより、アプリケーションを本番環境に展開した場合に発生する可能性のある問題をより正確に見つけることができます。

> **注:**
> 本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「System clone」と「AES によるインスタンスのクローン作成」を参照してください。

インスタンス戦略を確立したら、承認またはレビューのプロセスを確立して自動化する必要があります。AES は非本番環境で実行される製品です。複数の非本番環境を運用する組織では、どの非本番環境で AES を実行するか決定する必要があります。また、どのパイプラインを使用して特定の非本番インスタンスからテストインスタンスにアプリを昇格させるか、そして最終的にそのアプリの実際の本番環境に昇格させるか、決定する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

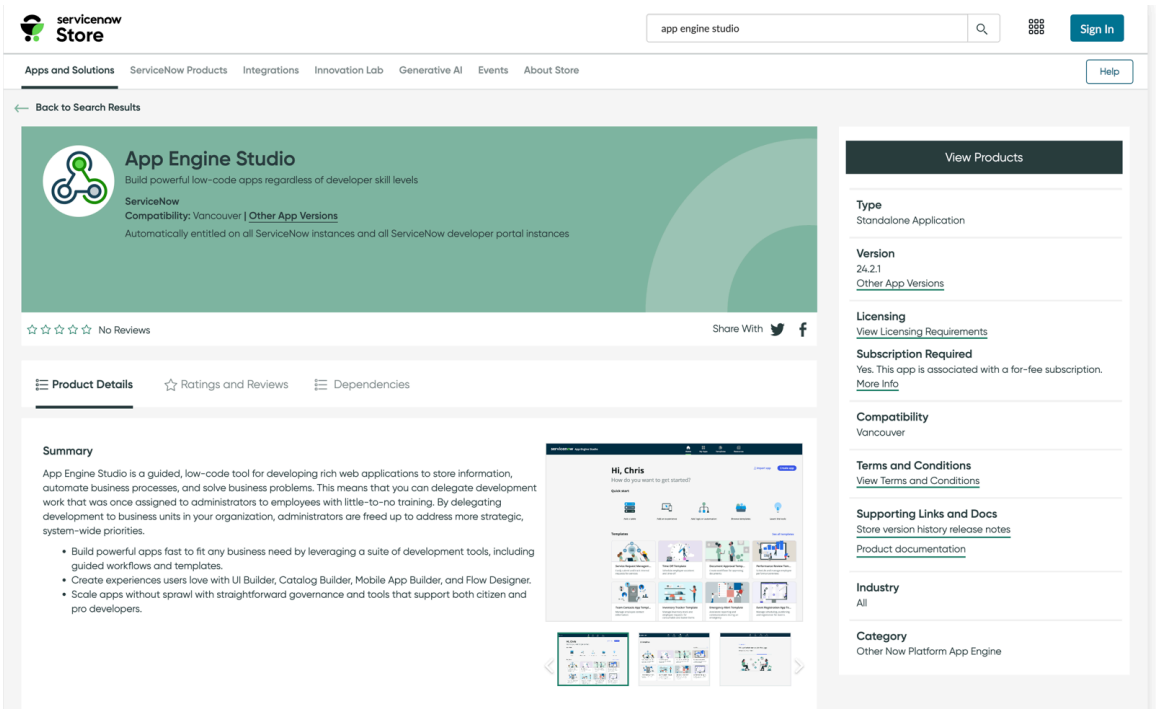
### AES および ServiceNow Store

App Engine Studio (AES) を使用すると、新しい機能や更新された機能をより迅速に取得できます。AES を使用する前に、そのためのエンタイトルメントがあること、つまり使用するための有効なライセンスがあることを確認する必要があります。続いて、AES とそのプラグインを ServiceNow Store からインストールできます。

## ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

### AES にリストされています ServiceNow Store




## AES のインストール方法

AES を取得するために使用するプロセスは、初めて AES をインストールしているか、以前に ServiceNow Store からインストールした AES のバージョンを更新しているか、またはあるファミリリリースから次のファミリリリースにアップグレードしているかによって異なります。

### AES アプリのエンタイトルメントの取得

アプリケーションまたは製品に有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認して、App Engine Studio (AES) をインストールします。エンタイトルメントとは、その製品をインストールするライセンスがあることを意味します。

#### 始める前に

**注:**
本番インスタンスまたは非本番インスタンスにインストールするには、App Engine Studio のサブスクリプションが必要です。詳細は、ServiceNow 担当者にお問い合わせください。

エンタイトルメントを実行する個人には、Now Support アカウントと、検討中のインスタンスのアプリケーションを要求する権限が必要です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

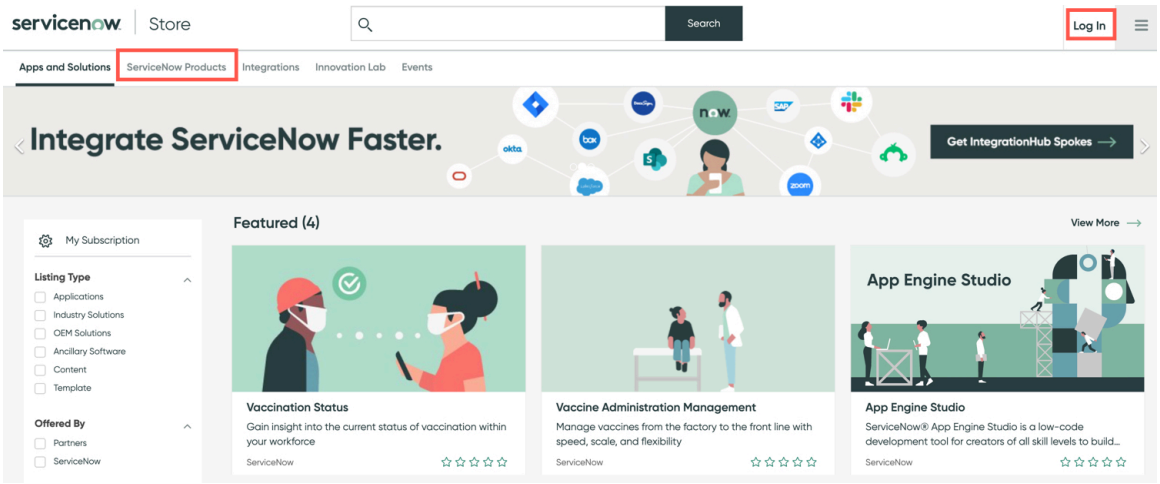


自動翻訳

必要なロール：管理者

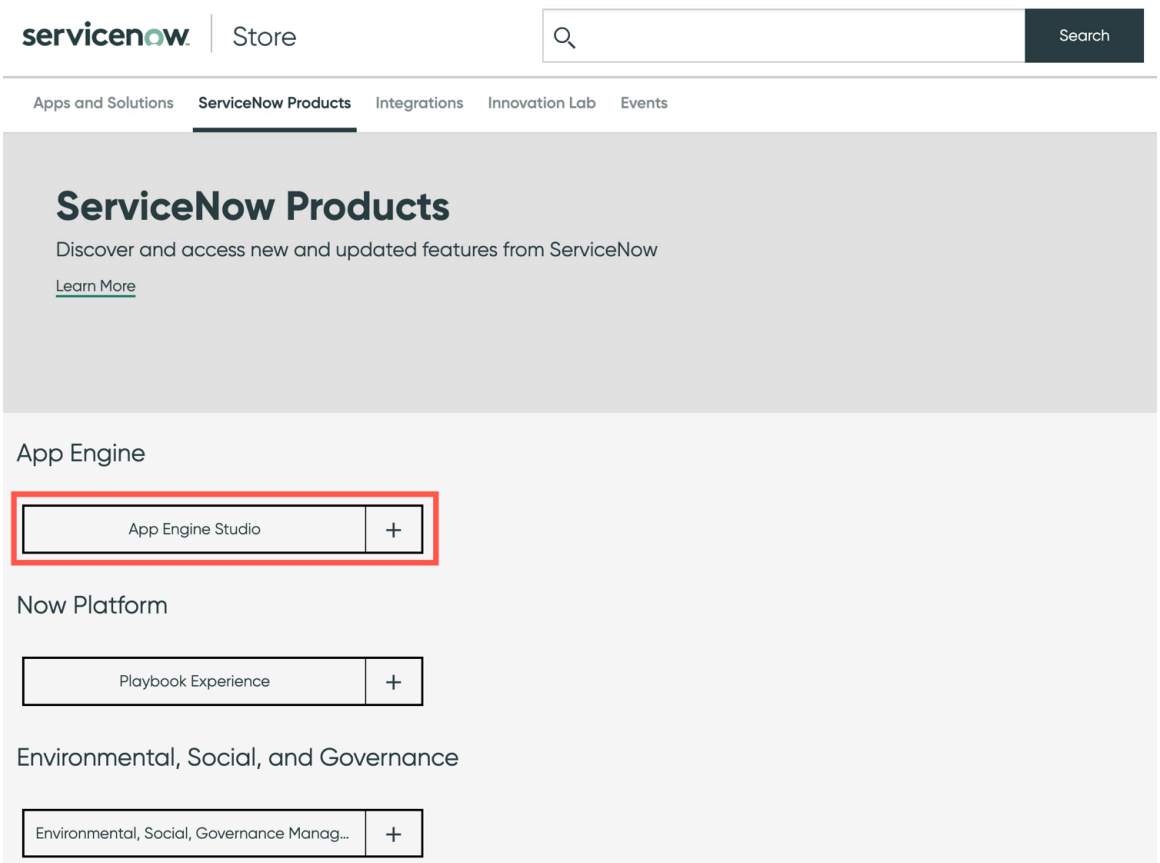
手順

1. に移動します。 ServiceNow Store .
2. [ログイン] を選択し、Now Support 資格情報を使用してログインします。




統合とその他のタイプのコンテンツが [認定アプリ **(Certified Apps)]** タブに表示されます。

3. **[ServiceNow** 製品] タブを選択して、利用可能なすべての ServiceNow 製品を表示します。



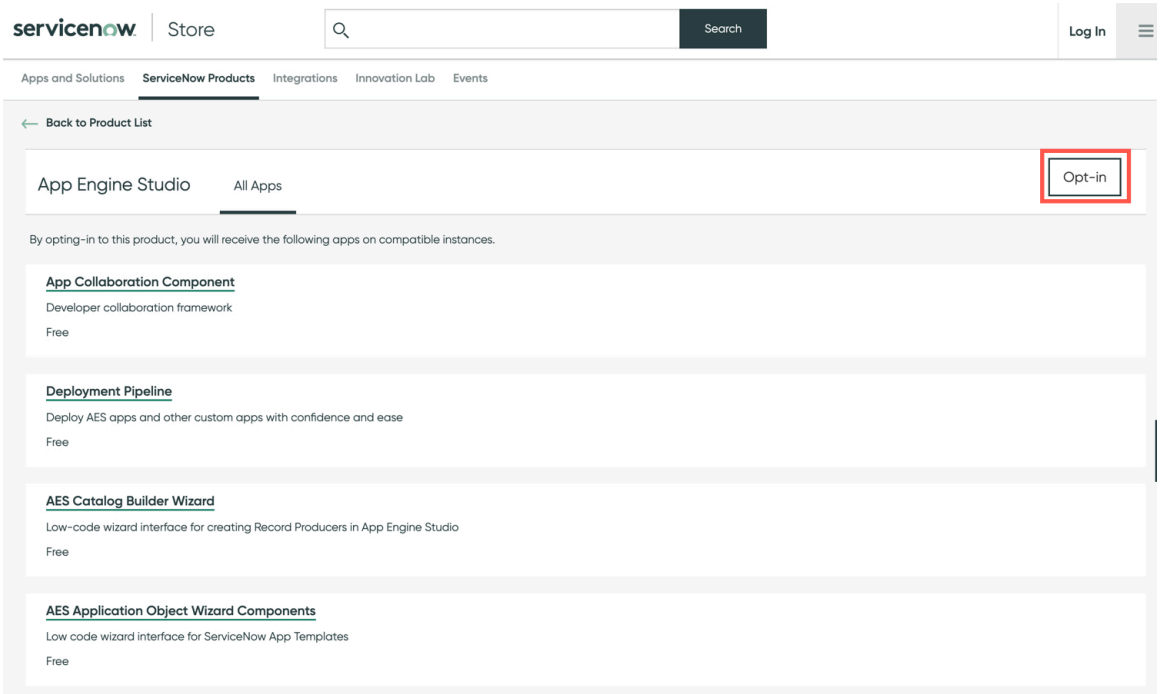

4. **[App Engine Studio]** を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

> **注:**
> コア製品のエンタイトルメントを取得すると、その下にリストされているアプリケーションについてもエンタイトルメントを取得します。



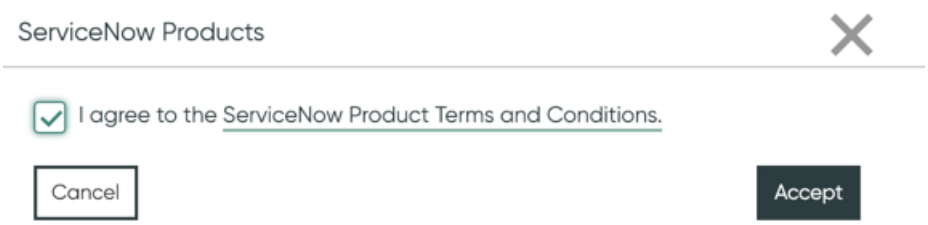

このページには、エンタイトルメントを取得している AES 製品に関連付けられているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。

5. [オプトイン] を選択して、製品とアプリケーションのエンタイトルメントがあることを確認します。

> **注:**
> AES サブスクリプションを購入しない限り、[オプトイン] ボタンは使用できません。

6. ServiceNow Store で ServiceNow の契約条件を読んで同意することを求められたら、チェックボックスをオンにして [承認] を選択します。

エンタイトルメントについてのオプトインは、製品ごとに 1 回限りのプロセスです。




製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)**] ボタンが表示されます。このボタンは、ユーザーが製品とその関連アプリケーションに登録されていることを示します。

7. [エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)**] ボタンを選択し、次のいずれかのオプションを指定して、エンタイトルメントを持つアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- すべてのエンタイトルメントを解除する **(Remove all existing entitlements)**
- すべてのインスタンスにエンタイトルメント **(Entitle all instances)**
- 選択したインスタンスにエンタイトルメント **(Entitle selected instances)**

タスクの結果
AES をインストールしてアクティブ化します。移動先 すべて > 会社のアプリケーション をクリックし、.App Engine Studio

### **ServiceNow Store** から初めて **AES** をインストールする

ServiceNow Store から App Engine Studio (AES) を初めてインストールします。インストールにはいくつかの簡単な手順が含まれます。ServiceNow Store で実行される手順と、Now Platform のインスタンスで実行される手順があります。

始める前に
必要なロール：admin

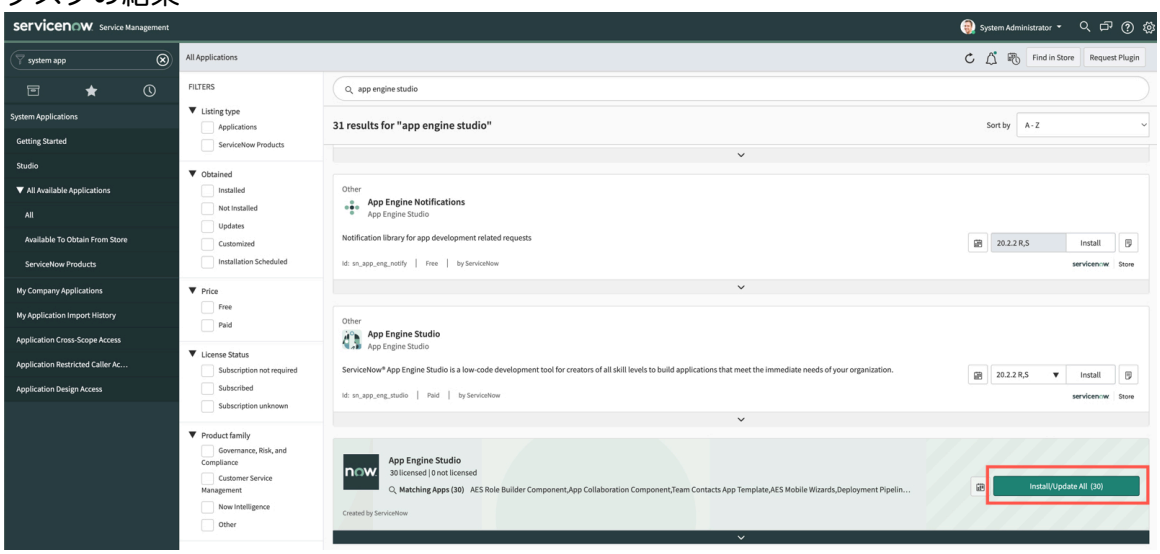
このタスクについて
ServiceNow Store を使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。たとえば、App Engine Studio は、テーブルビルダー や モバイルアプリビルダー などの多数のツールやアプリケーションを含む製品です。完全な AES 製品ではなく、基本的な AES アプリケーションをインストールした場合、すべての機能とツールを使用することはできません。

AES 製品とともにインストールされるすべての依存関係とツールのリストについては、ServiceNow Store のリストを参照してください。

手順

1. ServiceNow Store で、製品とその依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
2. からインストールAES ServiceNow Store .
3. インスタンスでインストールを実行し、すべてのプラグインを承認します。

タスクの結果




### **AES** 製品と統合のインストール

App Engine Studio (AES) 製品をインストールして、すべての依存関係、統合、ツール (テンプレートやビルダーなど) を取得したことを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
ストアのインストールには Now Support アカウントが必要です。サポートしているインスタンスのアプリケーションを要求する権限も必要です。

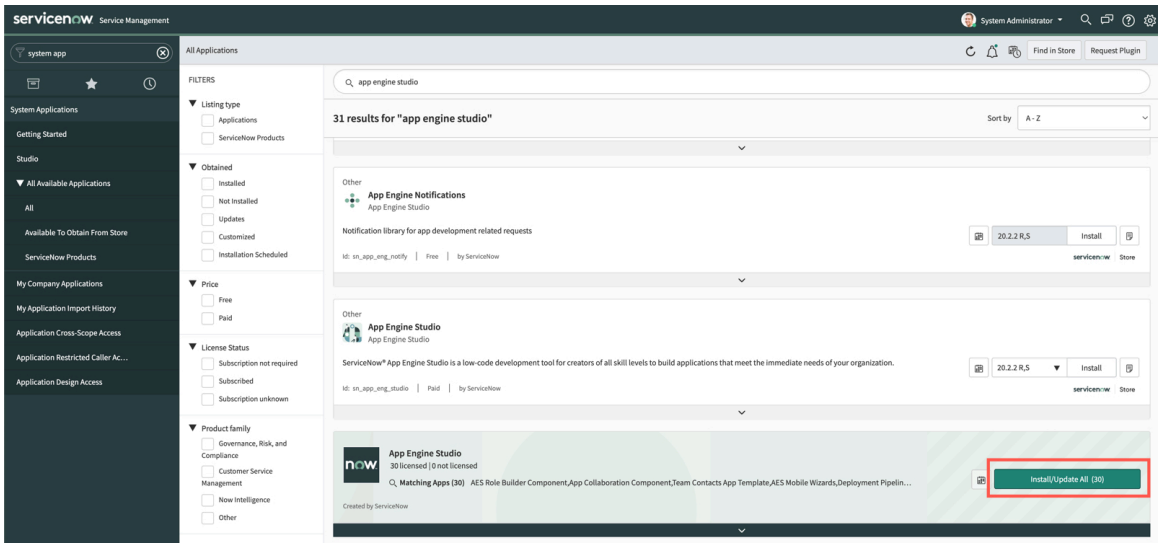
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. App Engine Studio 製品 (アプリケーションではなく) を見つけて、[インストール] をクリックします。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

   **注:**
   アプリケーションではなく、AES 製品を選択する必要があります。




3. [インストール] ダイアログボックスで、インストールするアプリケーションと依存関係のリストを確認します。
   依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、App Engine Studio をインストールする前にインストールする必要があります。
4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   **重要:**
   インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [インストール] を選択します。

タスクの結果
App Engine Studio が使用しているインスタンスにインストールされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

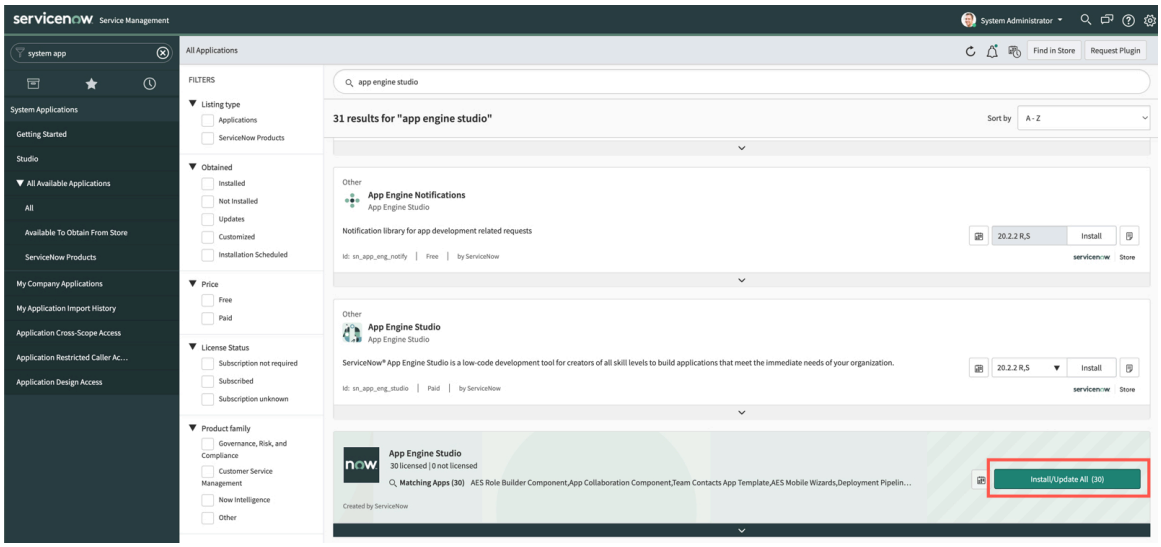
### 以前にインストールした AES バージョンの更新

以前に ServiceNow Store から App Engine Studio (AES) をインストールしていて、新しいバージョンが利用可能な場合は、インスタンスのバージョンを更新します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. App Engine Studio を検索します。




3. 更新するバージョンを選択し、[更新] または [インストール/すべて更新 **(Install/Update All)**] を選択します。

#### タスクの結果
App Engine Studio は、インスタンス上で自動的に更新されます。

### AES インスタンスの次のファミリリリースへのアップグレード

現在ファミリリリース (Rome など) を実行していて、App Engine Studio (AES) を次のリリースにアップグレードする場合は、ServiceNow Store からアプリケーションを取得する必要はありません。

プラットフォームが必要な最低バージョンに更新されると、アプリケーションが自動的に更新されます。

### AES とともにインストールされるコンポーネント

いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロールなど) が、App Engine Studio (AES) プラグインのアクティブ化とともにインストールされます。

**注:**
アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## インストールされるロール

| ロール タイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| App Engine Studio admin<br><br>[app_engine_admin] | ユーザー、アプリ構成、その他の管理タスクを含む AES を管理します。<br><br>このロールは、App Engine Studio 管理者グループのユーザーに自動的にアサインされます。 | • sn_request_read<br>• sn_request_write<br>• sn_app_eng_studio.user |
| App Engine Studio アプリテンプレート管理者<br><br>[app_template_admin] | テンプレートの使用、共有、アクティブ化または非アクティブ化を管理します。<br><br>このロールは、管理者によって個々のユーザーに割り当てられます。詳細については、「テンプレートアクセスの管理」を参照してください。 | • app-template-author<br>• app-template-runner<br>• flow-designer<br>• flow-operator |
| App Engine Studio ユーザー<br><br>[sn_app_eng_studio.user] | App Engine Studio でアプリケーションを構築します。<br><br>このロールは、App Engine Studio ユーザーグループのユーザーに自動的にアサインされます。詳細については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。 | • catalog_builder_editor<br>• app_template_runner<br>• sn_g_app_creator.app_creator<br>• sn_table_builder.user |

## インストールされるテーブル

| テーブル | 説明 |
|---|---|
| アプリの詳細<br><br>[sn_app_eng_studio_app_details] | 開発者が App Engine Studio でアプリケーションを作成するために使用した操作の詳細。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションを構築すると自動的に更新されます。 |
| プロジェクト内のアプリケーション<br><br>[sn_app_eng_studio_project_application_m2m] | 開発者が App Engine Studio で作成するアプリケーション。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションを構築すると自動的に更新されます。 |
| 環境 | アプリケーションの開発、テスト、または起動に使用するインスタンス。App Engine |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| テーブル | 説明 |
| --- | --- |
| [sn_pipeline_environment] | Studio の環境を定義するときに、このテーブルを更新します。 |
| 展開要求<br><br>[sn_deploy_pipeline_deployment_request] | App Engine Studio で開発者が作成したアプリケーションのレビューと公開を要求します。レビュー担当者は、展開要求フォームで、アプリケーションをさまざまな環境に展開したり、アプリケーションを承認または却下したり、開発者にフィードバックを送信したりできます。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。 |
| パイプライン<br><br>[sn_pipeline_pipeline] | アプリケーションをさまざまな環境に展開するための構成。一度にアクティブ化できるパイプラインは 1 つだけです。App Engine Studio からアプリケーションを展開するためのパイプラインを作成するときに、このテーブルを更新します。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。 |
| プロジェクト管理<br><br>[sn_app_eng_studio_project] | App Engine Studio 開発セッションの詳細。開発者が App Engine Studio でアプリケーションを作成すると、プロジェクトが自動的に作成されます。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションを構築すると自動的に更新されます。 |
| リソースコンテンツ<br><br>[sn_app_eng_studio_resources_content] | App Engine Studio で開発者がアクセスできるヘルプリソース。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。 |
| リソースコンテンツのトピック<br><br>[sn_app_eng_studio_resources_content_topic] | App Engine Studio のヘルプリソースの分類。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。 |
| 分類<br><br>[sn_app_eng_studio_taxonomy] | App Engine Studio で開発者が作成するアプリケーションファイル。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションを構築すると自動的に更新されます。 |
| 分類カテゴリ<br><br>[sn_app_eng_studio_taxonomy_category] | App Engine Studio のアプリケーションファイルの分類。デフォルトでは、アプリケーションファイルはデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、またはセキュリティとして分類されます。このテーブルには、App Engine |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| テーブル | 説明 |
| --- | --- |
| | Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。 |
| 分類の詳細<br><br>[sn_app_eng_studio_taxonomy_details] | App Engine Studio で開発者が作成するアプリケーションファイルの詳細。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。 |

**注:**
パイプラインに関連するテーブルに、次のデータプリザーバーが追加されます。

- 環境
- パイプライン
- パイプライン環境注文
- パイプラインタイプ

データプリザーバーは、非本番インスタンスでのクローン作成中に、これらのテーブルのレコードが上書きされないようにします。詳細については、「クローン作成ターゲットインスタンスのデータ保持」を参照してください。

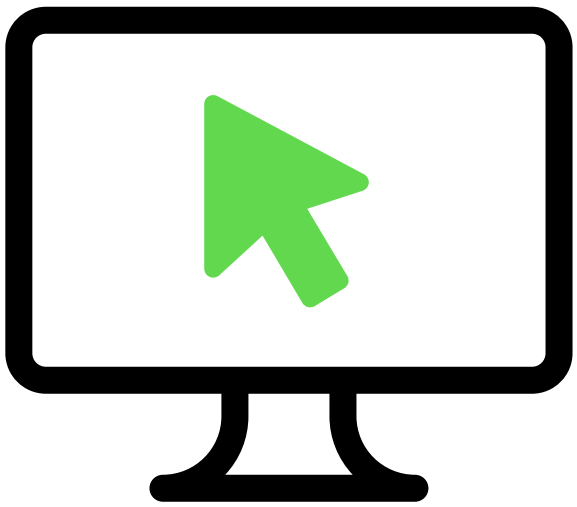
### App Engine Studio の構成

App Engine Studio (AES) の Guided Setup には一連のタスクがあり、使用している ServiceNow インスタンスで AES を構成するために役立ちます。

App Engine Studio は、アプリケーションを開発する予定のインスタンスにインストールする必要があります。以前のバージョンでは、パイプライン内のすべてのインスタンスに AES をインストールする必要がありました。

本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES 構成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow には、App Engine Studio の構成と管理に関するいくつかの追加リソースがあります。 |  <br>App Engine Studio release notes<br> <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

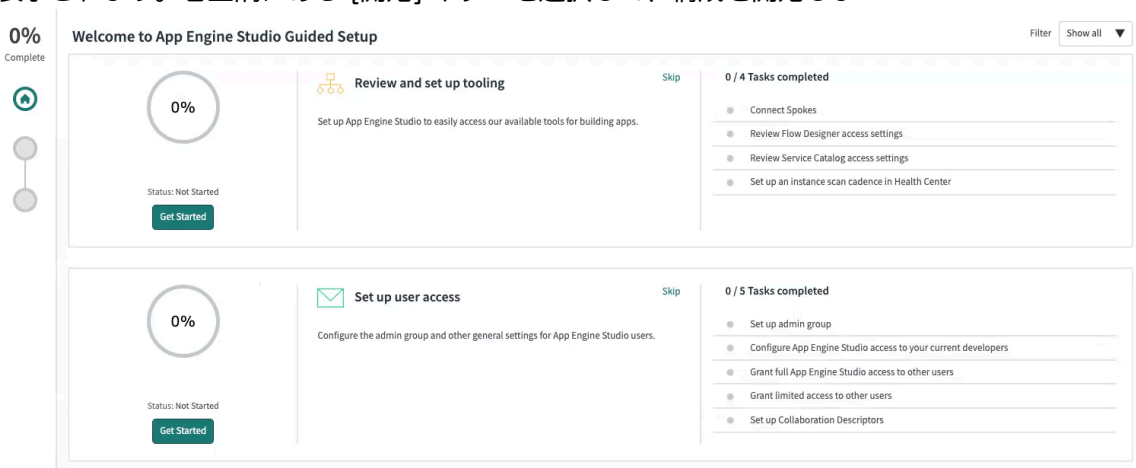
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES 構成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| | セキュリティの追加に関する App Engine Studio ビデオ |

## AES を構成するための Guided Setup

ガイド付き設定を開く App Engine Studio には、次に移動します すべて > **App Engine** > **App Engine Studio** > 構成 > ガイド付き設定.

ランディングページには、さまざまなツールとユーザーアクセスに関する情報が表示されます。右上隅にある [開始] ボタンを選択して、構成を開始します。




App Engine Studio の [Guided Setup] ページには、さまざまなカテゴリのリストが表示されます。各カテゴリの下にある [開始] ボタンを選択して、App Engine Studio の構成を開始します。

> **注:**
> 以前にいずれかの Guided Setup タスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

Guided Setup から開始されたタスクの詳細な手順については、「AES 構成タスクの実行」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### AES のペルソナとロールの構成

スタッフの責任は、各メンバーにアサインされるロールによって制御されます。ペルソナは明示的に App Engine Studio (AES) の一部ではありませんが、管理者はロールをアサインして、チームメンバーに AES を構成または使用する権限を付与します。

ローコード/市民開発者

ローコード/市民開発者は技術に精通しており、アプリの作成に興味があります。正式なコーディングやアプリ開発のトレーニングを受けていない場合でも、市民開発者は新しいアプリのアイデアを送信し、承認された場合は AESを使用して構築できます。

App Engine Studio admin

App Engine Studio 管理者は、AES のアプリ開発に関連するすべてのプロセスを管理します。通常は App Engine 管理センターで、新しいアプリのアイデアをレビューし、アプリ開発と展開を管理し、協力者を管理します。

アプリテンプレート管理者

アプリテンプレート管理者は、App Engine Studio のアプリ開発用に適切なユーザーが事前定義されたカスタムテンプレートにアクセスできるようにします。

アプリテンプレート作成者

アプリテンプレート作成者は、App Engine Studio でカスタムアプリテンプレートを作成および編集し、他のユーザーまたはグループと共有できます。

セキュリティ管理者

セキュリティ管理者は、アプリのロールとアクセス制御リストを作成および変更します。このロールはプラットフォームレベルで設定され、App Engine Studio のロールを更新するために必要です。

システム管理者

システム管理者は、セキュリティ上の制約に関係なく、すべてのシステム機能、機能、およびデータにアクセスできます。この権限は慎重に付与してください。保護する必要がある HR レコードなどの機密情報がある場合は、その領域のカスタム admin ロールを作成し、それらのレコードを表示する権限を持つユーザーを管理者としてトレーニングする必要があります。

プロフェッショナルの ServiceNow 開発者

プロフェッショナルの ServiceNow 開発者は、通常は市民開発者の協力者として App Engine Studio で作業できます。ただし、コーディングの知識と開発の経歴により、より複雑な構築ツールを使用して Now Platformでアプリを構築およびカスタマイズする可能性が高くなります。

### AES のペルソナ

| ペルソナ | 必要なロール | 役割 |
| --- | --- | --- |
| ローコード/市民開発者 | App Engine Studio ユーザーグループ (sn_app_eng_studio.user) | • App Engine Studio で構築する新しいカスタムアプリケーションの要求を送信します。<br>• ServiceNow およびアプリケーション開発のベストプラクティスを理解します。<br>• App Engine Studio でアプリケーションを構築およびテストします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**AES** のペルソナ (続く)

| ペルソナ | 必要なロール | 役割 |
| --- | --- | --- |
| | | • IT レビューのために App Engine Studio アプリケーションを送信します。<br>• 取り込みプロセス中に決定された場合、アプリケーションをライフサイクル中に管理および変更します。 |
| | App Engine Studio ユーザー制限グループ (sn_app_eng_studio.user) | • 表示する権限を与えられたアプリケーションで他のユーザーとコラボレーションします。<br>• IT レビューのために App Engine Studio アプリケーションを送信します。<br>• ServiceNow およびアプリケーション開発のベストプラクティスを理解します。<br>**注:** App Engine Studio ユーザー制限グループのユーザーは新しいアプリを作成できません。 |
| App Engine Studio 管理グループ | • atf_test_designer<br>• scan_admin<br>• app_engine_admin | • App Engine Studio のプロセスとプロパティを管理します。<br>• システム管理者によって定義された取り込みガードレールに基づいて、送信されたアプリケーション要求をレビューして承認/却下します。<br>• App Engine Studio ユーザーアクセスをプロビジョニングします。<br>• 送信された App Engine Studio アプリケーションをレビューします。<br>• 展開要求を管理します。<br>• インスタンス全体で App Engine Studio アプリケーションの昇格を管理します。<br>• テストインスタンスで ATF テスト/スイートを実行します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**AES** のペルソナ (続く)

| ペルソナ | 必要なロール | 役割 |
| --- | --- | --- |
| | | • インスタンススキャンが適切な定義で実行されていることを確認します。<br>• システム管理者と協力して、プラットフォームで発生するアプリケーションの競合を解決します。 |
| アプリテンプレート管理者 | app_template_admin | • カスタムテンプレートと事前定義されたテンプレートへのアクセスを制御します。<br>• テンプレートをアクティブ化または非アクティブ化します。<br>• テンプレートをグローバルに共有するか、ユーザーやグループと共有します。 |
| アプリテンプレート作成者 | app_template_author | • App Engine Studio でカスタムテンプレートを作成および編集します。<br>• カスタムテンプレートをユーザーまたはグループと共有します。 |
| セキュリティ管理者 | security_admin | • ロールとアクセス制御リストを作成および変更します。<br>• App Engine Studio のロールを更新するために必要です。 |
| システム管理者 | 管理 | • App Engine Studio とその依存アプリをインストールして構成します。<br>• 環境を定義します。<br>• パイプラインを構成します。<br>• App Engine Studio 管理者グループへのアクセスをプロビジョニングします。<br>• App Engine Studio アプリケーションをアップグレードします (該当する場合)。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**AES** のペルソナ (続く)

| ペルソナ | 必要なロール | 役割 |
| --- | --- | --- |
| | | • AES 管理者がアプリケーション取り込み要求を承認または却下できるガードレールを定義します。<br>• プロフェッショナルの ServiceNow 開発者と協力して、プラットフォームのインスタンススキャン定義を作成します。<br>• AES 管理者と協力して、プラットフォームで発生するアプリケーションの競合を解決します。 |
| プロフェッショナルの ServiceNow 開発者 | • atf_test_admin<br>• delegated_developer<br>• scan_admin<br>• sn_app_eng_studio.user | • ServiceNow スタジオ および App Engine Studioでアプリケーションを構築およびテストします。<br>• 必要に応じて市民開発者と協力して、App Engine Studio でアプリケーションを展開します。これには次のタスクが含まれます。<br>○ 市民開発者が、アプリケーション開発と組織のベストプラクティスに従うことを確認します。<br>○ 送信された App Engine Studio アプリケーションのレビューとテストを支援します。<br>○ UI ビルダー、モバイルアプリビルダー、フローデザイナー、またはその他のビルダーツールを使用して複雑な構成を構築します。<br>• アプリケーションの ATF テスト/スイートを作成します。<br>• システム管理者と協力して、プラットフォームのインスタンススキャン定義を作成します。 |

### **AES** 構成タスクの実行

App Engine Studio (AES) Guided Setup の手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## 環境、ツール、ユーザーアクセスの設定

App Engine Studio を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。

### App Engine Studio 構成タスク

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| 開発インスタンスに App Engine Studio をインストールします。 | admin ロールを持っている場合は、App Engine Studio アプリケーション (com.snc.app-engine-studio) をインストールできます。<br>このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。<br>詳細な手順については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。 |
| インスタンス資格情報を設定します。 | 使用しているインスタンスごとに、接続情報と認証情報エイリアスを作成します。エイリアスタイプが [接続および資格情報]ではなく、[資格情報] であることを確認します。<br>詳細な手順については、「インスタンス資格情報の設定」を参照してください。 |
| プレイブックをアクティブ化します。 | App Engine Studio でプロセスを編集できますが、開始するには、App Engine Studio の プレイブック を有効にし、**Process Automation Designer for App Engine [com.glide.pad.license]** プラグインを有効にする必要があります。 詳細については、「Activate Playbooks」を参照してください。 |
| IntegrationHub スポークを設定します。 | スポークをアクティブ化して、統合専用のコンテンツで フローデザイナー および App Engine Studio エクスペリエンスを向上させます。<br>App Engine Studio では次のスポークを使用できます。<br>• Gmail スポーク<br>• Google Sheets Spoke<br>• Jira スポーク<br>• Microsoft 365 Excel Spoke<br>• Microsoft Teams スポーク<br>• Slack スポーク<br>• Twilio スポーク<br>• Twitter スポーク<br>• Zoom スポーク |
| 開発インスタンスで Flow Designer のアクセス設定を確認します。 | 開発者が最適な編集機能を使用できるようにします。 |

自動翻訳

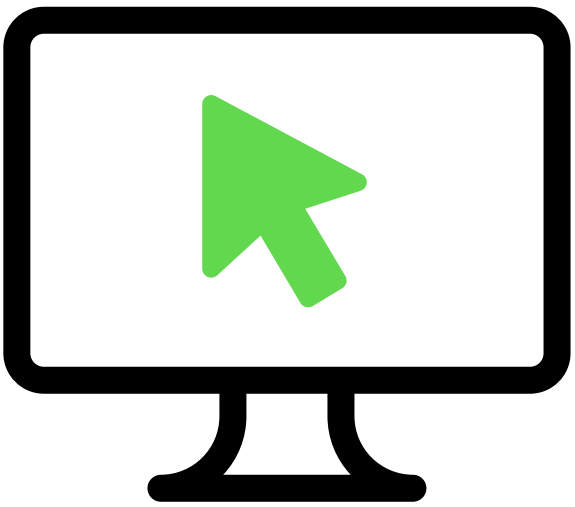
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**App Engine Studio** 構成タスク (続く)

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| | 詳細な手順については、「Flow Designer のアクセス設定を確認」を参照してください。 |
| カタログビルダーのアクセス設定を確認します。 | 開発者が適切なカタログとカテゴリにアイテムを追加できるようにします。<br><br>詳細な手順については、「カタログビルダーのアクセス設定の確認」を参照してください。 |
| Health Center でインスタンスのスキャン周期を設定します。 | App Engine Studio でのアプリケーション開発で発生する可能性のある問題を特定できるように、インスタンスの定期的なスキャンをスケジュールします。<br><br>詳細な手順については、「Health Center でのインスタンスのスキャン周期の設定」を参照してください。 |
| 本番インスタンスで、App Engine Studio 管理者グループにユーザーを追加します。 | メンバーをグループに追加して、アプリや展開に関連する要求をレビューできるようにします。また、グループの連絡先のメールアドレスを定義します。<br><br>詳細な手順については、「App Engine 管理者グループへのユーザーの追加」を参照してください。 |
| 開発インスタンスで、App Engine Studio ユーザーグループに開発者を追加します。 | 組織内の開発者が App Engine Studio でアプリケーションを構築できるようにします。<br><br>詳細な手順については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。 |
| 開発インスタンスで、App Engine Studio ユーザー制限グループにユーザーを追加します。 | 組織内の開発者が App Engine Studio で作成したアプリケーションで共同作業できるようにします。<br><br>詳細な手順については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。 |
| コラボレーション記述子の設定 | App Engine Studio で使用するグローバルスコープ内のカスタムコラボレーション記述子を設定します。<br><br>詳細な手順については、「カスタムコラボレーション記述子の設定」を参照してください。 |
| 非本番インスタンスで、アプリテンプレート管理者を指定します。 | App Engine Studio でテンプレートのアクティブ化、非アクティブ化、共有を管理するユーザーに、app_template_admin ロールを付与します。<br><br>詳細な手順については、「テンプレートアクセスの管理」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES 構成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow には、App Engine Studio の構成と管理に関するいくつかの追加リソースがあります。 |  <br>App Engine Studio release notes<br> <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES 構成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| | セキュリティの追加に関する App Engine Studio ビデオ |

### App Engine 管理者グループへのユーザーの追加

本番インスタンスの App Engine 管理者グループにユーザーを追加して、App Engine Studio (AES) に対する管理権限を付与します。グループの連絡先のメールアドレスも指定する必要があります。App Engine 管理者グループのメールアドレスを構成すると、メンバーはアプリ開発関連の要求 (アプリ取り込み要求など) の通知を受信できます。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
パイプラインを使用していない場合は、開発インスタンスの App Engine 管理者グループにもユーザーを追加する必要があります。

#### 手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > グループ.
2. App Engine 管理者グループを開きます。
3. [グループメンバー] 関連リストを選択し、[編集] を選択します。
4. [コレクション] リストで 1 つ以上の名前を選択します。
5. また、グループの連絡先のメールアドレスを入力します。
6. [追加] を選択します。
7. [保存] を選択します。

### AES へのユーザーアクセスの許可

AESユーザーグループまたは AES ユーザー制限グループにユーザーを追加して、App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築できるユーザーを制御します。

#### 始める前に
必要なロール：user_admin または管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
組織の開発インスタンスの App Engine Studio ユーザーグループにユーザーを追加することで、AES 内でアプリケーションを構築するためのアクセス権を付与します。各グループメンバーには、sn_app_eng_studio.user ロールが自動的にアサインされます。

ユーザーのアクセスを制限して、App Engine Studio での作業はできるものの、アプリの作成やテンプレートの表示はできないようにするには、ユーザーを App Engine Studio ユーザー制限グループに追加します。

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > グループ.
2. **[App Engine Studio** ユーザー] グループまたは **[App Engine Studio** ユーザー制限] グループを選択して、ユーザーを追加します。
   a. [グループメンバー] 関連リストで、[編集] を選択します。
   b. [メンバーの編集] ページで、各開発者を [コレクション] から [グループメンバーリスト **(Group Members List)]** に移動します。
   c. [保存] を選択します。
   d. グループレコードで、[更新] を選択します。

関連情報

AES とともにインストールされるコンポーネント

## テンプレートアクセスの管理

app_template_admin ロールを使用して、どのユーザーが App Engine Studio (AES) のテンプレートにアクセスできるか制御します。アプリテンプレートの管理者は、テンプレートをアクティブ化および非アクティブ化し、他のユーザーにテンプレートを共有するためのアクセス権を付与します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
管理者は、テンプレートのアクティブ化、非アクティブ化、共有を管理するユーザーに、app_template_admin ロールを付与します。このロールは、App Engine Studio ユーザーがテンプレートを作成および使用する非本番インスタンスで付与する必要があります。

AES でアプリを作成してテンプレートを操作するには、ユーザーが管理者または App Engine Studio ユーザーグループに属している必要があります。AES ユーザー制限グループに属している場合は、既存のアプリの編集のみが可能で、新しいアプリの作成はできません。

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー.
2. app_template_admin ロールを付与するユーザーを選択します。
3. [ロール] 関連リストで、[編集] を選択します。
4. **app_template_admin** を [コレクション] リストから [ロール] リストに移動します。
5. [保存] を選択します。

## カスタムコラボレーション記述子の設定

Guided Setup を使用して、App Engine Studio (AES) にリストする開発協力者のセットをカスタマイズします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
所有者と編集者のコラボレーション記述子は AES ですぐに利用可能で、特別な機能があります。各記述子に含まれる開発権限は、プラットフォームのニーズに合わせて構成できます。AES で使用できるように、グローバルスコープでカスタム記述子を作成することもできます。

> **注:**
> グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を `standard = TRUE` に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AES でレンダリングされません。

協力者を招待する管理者または委任開発者は、これらの記述子を使用してさまざまなタイプの作業を委任できます。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio** > ガイド付き設定.
2. [開始する] を選択します。

> **注:**
> 以前にいずれかの Guided Setup タスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

3. [ユーザーアクセスの設定] セクションで、[コラボレーション記述子の設定] を選択します。
4. [コラボレーション記述子の設定] セクションで、[構成] を選択します。
5. [新規] を選択します。
6. 新しいアプリコラボレーション記述子に名前と説明を付けます。
7. [送信] を選択します。

次のタスク
App Engine Studio で協力者の権限をさらにカスタマイズします。詳細については、「協力者の権限の変更」を参照してください。

### AES を使用する開発者の委任

Delegated Development により、システム管理者のロールを持たない指定ユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。これにより、管理者と委任開発者が連携して、App Engine Studio (AES) を用いてカスタムアプリケーションを提供できます。

管理者は要求をレビューしてから、組織の開発環境で App Engine Studio を開くリンクを開発者に提供することで、開発作業を委任します。管理者は、以下の操作を実行できます。

- リンクをメールで開発者に直接送信する
- ポータルページにリンクを投稿する
- 委任開発者が App Engine Studio へのアクセスを要求するためのカタログアイテムを作成する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## AES の委任開発者ロール

委任開発者ロールを使用すると、管理者は、次の特定のアクセス権 App Engine Studioを持つ専用のロールにユーザー権限を昇格させることができます。

委任開発者が持つ権限は、ユーザーよりも多いですが、管理者よりは少なくなります。委任開発者にはそれぞれ独自の権限があります。

1 人の管理者に複数の委任開発者がいて、それぞれが独自の権限セットを持つ場合があります。たとえば、休暇申請を作成するために指定された開発者と、サポートチケットを作成するための別の権限を持つ他の開発者が必要な場合があります。

権限によっては、委任開発者が AES の一部の機能にアクセスできない場合があります。ロールにより、オブジェクトへのアクセスとその編集、追加が可能です。App Engine Studio の機能を利用できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Delegated Development とアクセス権の詳細については、「Delegated Development と展開」を参照してください。

## アプリを作成する制限付き機能

Delegated Development に加えて、管理者は、AES ユーザーがアプリを作成できるか、既存のアプリでのみ作業できるかを定義できます。

- 組織の開発インスタンスの App Engine Studio ユーザーグループにユーザーを追加することで、AES 内でアプリケーションを構築するためのアクセス権を付与します。各グループメンバーには、sn_app_eng_studio.user ロールが自動的にアサインされます。
- ユーザーのアクセスを制限して、App Engine Studio での作業はできるものの、アプリの作成やテンプレートの表示はできないようにするには、ユーザーを App Engine Studio ユーザー制限グループに追加します。

### Git ソースコントロールリポジトリと AES の統合

アプリケーション開発者が App Engine Studio (AES) を Git ソースコントロールリポジトリと統合し、非本番インスタンスから複数のバージョンのアプリケーションを保存および管理できるようにします。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスですべてのアプリケーション開発者が次の操作を実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

## 統合の要件

アプリケーションをソースコントロールにリンクするには

- ユーザーには管理者ロールが必要です。
- 非本番インスタンスには、Git リポジトリへのネットワークアクセスが必要です。
- 各アプリケーションは、それ自体の Git リポジトリ内に存在する必要があります。
- リポジトリユーザーの資格情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**注:**
インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 組の資格情報を共有します。

### App Engine Studio で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は、App Engine Studioをリポジトリ管理に使用できます。開発者は App Engine Studio から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの資格情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

ソースコントロール統合は、本番インスタンスでのアプリケーションの管理をサポートしていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

### Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、sn_source_control.properties と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *path* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを src/app サブフォルダーに移動した場合は、*path* を `path=src/app` に設定します。

システムは、App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに checksum.txt ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。
- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

Git 統合は、sn_source_control.properties ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### MID Server のサポート

既存の MID Server を使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID Server を介してアプリケーションを接続すると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

### ソースコントロール権限

ロールと協力者の詳細については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

### アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをソースコントロールにリンクすると、アプリケーション開発者は Git リポジトリから App Engine Studio (AES) の変更を管理できます。

#### 始める前に

- アプリケーションのカスタマイズの管理 の詳細を確認してください。
- アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。セキュリティを強化するには、Git リポジトリに対するマルチファクター認証をアクティブ化します。
- 資格情報レコードを作成しながら、パスワードとマルチファクター認証パスキーの代わりにソースコントロール統合で使用できるアクセストークンを生成します。個人アクセストークンを GitHub または GitLab で検索する。
- アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセス権を付与します。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- 必要なロール：admin

#### このタスクについて

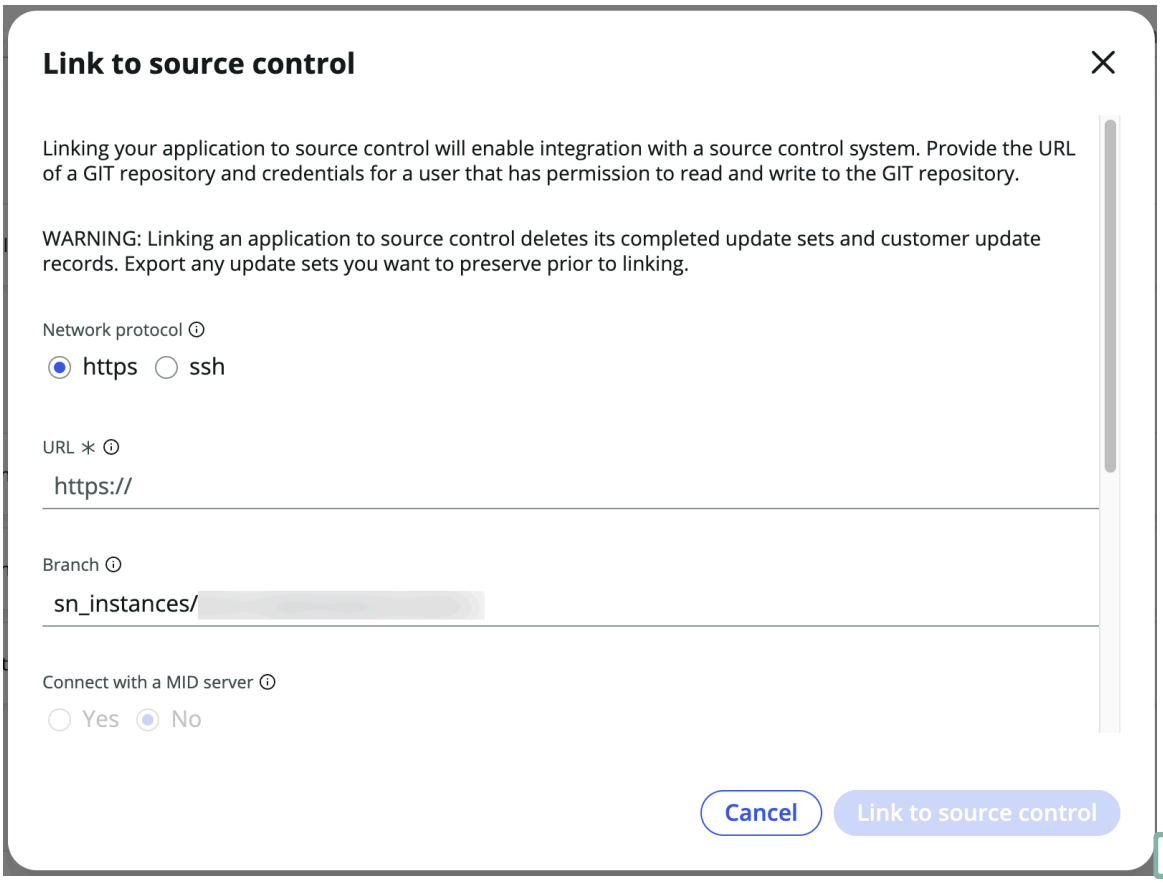
ソースコントロール統合は、本番インスタンス上のアプリケーションまたはカスタマイズへのリンクをサポートしません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio から本番インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > ソースコントロールにリンク.
   App Engine Studio に [ソースコントロールにリンク] ダイアログボックスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**4.** Git リポジトリの接続の詳細を入力します。

ソースコントロール接続の詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ネットワークプロトコル | セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする HTTPS または SSH 資格情報タイプ。 |
| URL | アプリケーションファイルを保存する Git リポジトリの URL。SSH プロトコルの場合は、コマンドを使用して秘密キー ssh-keygen -t rsa -m PEM -b 4096 -C "email@address" を生成します。<br>**注:**<br>Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。 |
| 分岐 | アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>この分岐はコミットに使用されます。リモートリポジトリにまだ設定されていない場合、デフォルトの分岐は「メイン」に設定されます。リモートの Git リポジトリにデフォルトの分岐がない場合、インスタンスは「メイン」という名前の新しいデフォルトの分岐を作成します。これは、glide.source_control.git_default_branch システムのプロパティを使用して構成されます。 |
| MID Server 名 | リンクが経由する既存の MID Server の名前。<br>**注:**<br>ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID Server を使用します。<br>MID Server のユーザーが sys_attachment テーブルにファイルを作成でき、そのテーブルが「バンドル」タイプのファイルを受け入れることができることを確認してください。<br>MID Server を介したリンクまたはアプリケーションを使用すると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。詳細については、「MID Server」を参照してください。 |
| デフォルトのメール | コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| 資格情報 | 選択したプロトコルで使用する資格情報。資格情報の作成の詳細については、「Getting started with credentials」を参照してください。<br>**注:**<br>SSH ネットワークプロトコルを選択した場合は、SSH 秘密キータイプの有効な資格情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証資格情報タイプの有効な資格情報を入力します。 |
| コミットのコメント | リポジトリまたはアプリケーションの付随的説明 |

**注:**
インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、1 組のリポジトリ資格情報を共有します。

5. [ソースコントロールにリンク] を選択します。
システムは接続とユーザーの資格情報を検証し、成功メッセージを表示します。

インスタンスのすべてのアプリケーション開発者は、リンクされた Git リポジトリを使用して変更を管理できます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

MID Server

資格情報の開始

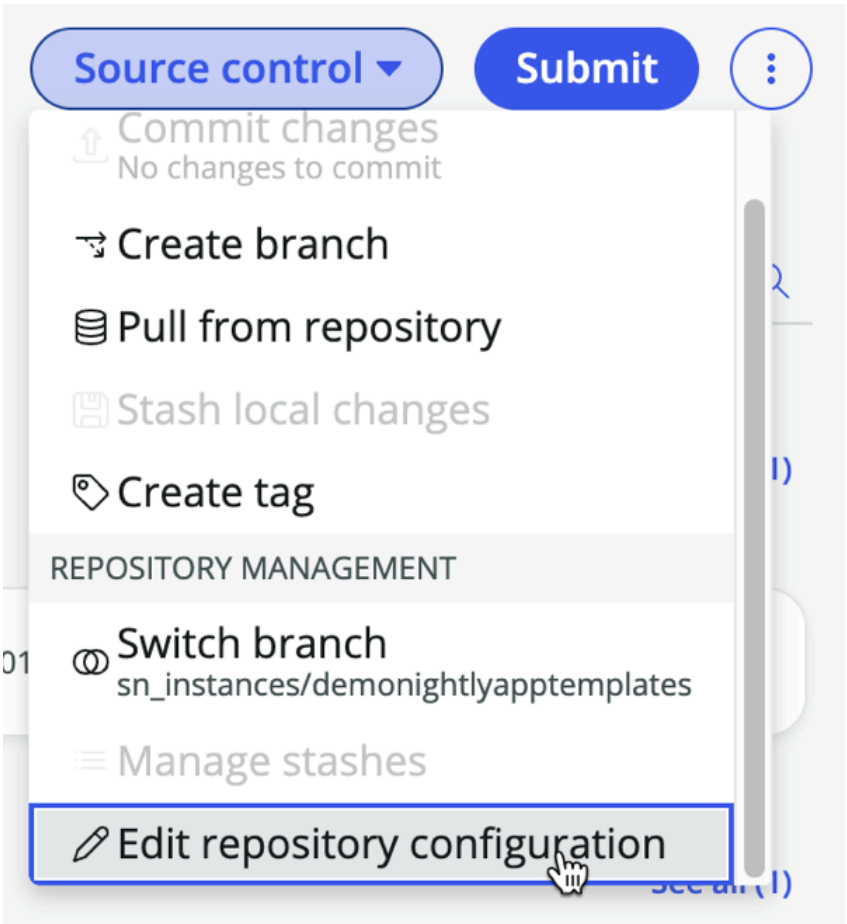
### Git リポジトリ構成の編集

Git リポジトリの App Engine Studio (AES) との 統合を編集して、ネットワークプロトコルの選択、資格情報、またはその他のフィールドエントリを変更できます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > リポジトリ構成を編集.




4. フォームのフィールドに入力します。

リポジトリ構成フィールド

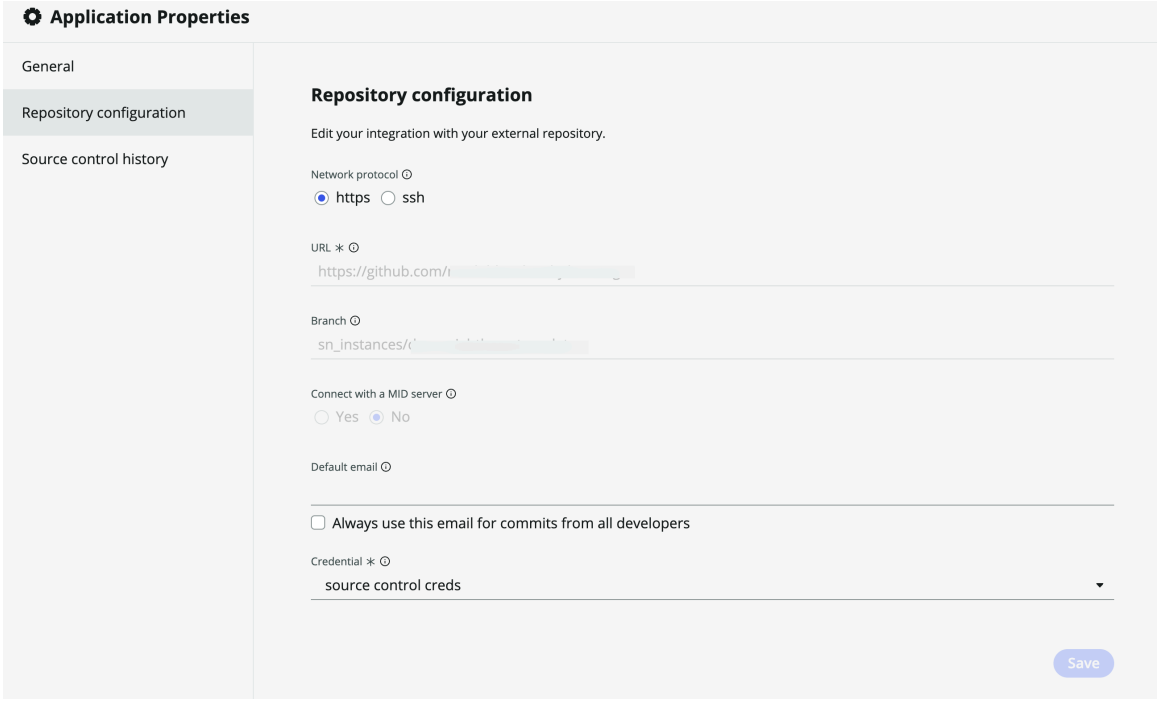
| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| ネットワークプロトコル | ソースコントロールのプロトコル (**https** または **ssh**)。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| URL | リポジトリの URL アドレス。 |
| 分岐 | リポジトリの現在の分岐。 |
| MID Server に接続する | ファイアウォールの背後にあるリポジトリへのアクセスを可能にする MID Server 接続を使用するかどうか。<br><br>**注:**<br>MID Server 名がない場合は、ドロップダウンリストから新しい名前を選択できます。新しい MID Server を選択する場合は、[ソースコントロール] メニューで選択してからその後のソースコントロール操作を行って、エラーを回避します。 |
| デフォルトのメール | コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。<br><br>コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力し、[すべての開発者からのコミットには常にこのメールを使用します] チェックボックスをオンにして、後で変更することもできます。 |
| 認証情報 | ソースコントロール接続に使用する保存済み資格情報。<br><br>インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 つの資格情報のセットを共有します。資格情報の操作の詳細については、「Getting started with credentials」を参照してください。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




5. [保存] を選択します。

## App Engine 管理センター の構成

App Engine 管理センター (AEMC) Guided Setup を使用して、Application Intake および パイプラインと展開 アプリケーションの初期設定を行います。Application Intake Guided Setup はオプションですが、AEMC を使用する場合は、パイプラインと展開 Guided Setup が必要です。

### 始める前に

必要なロール：admin

### このタスクについて

基本的に、AEMC Guided Setup には、Application Intake と パイプラインと展開 の両方のアプリケーションの Guided Setup ステップが含まれています。これらのアプリケーションのいずれかまたは両方を既に構成している場合は、Guided Setup のこれらの手順をスキップできます。

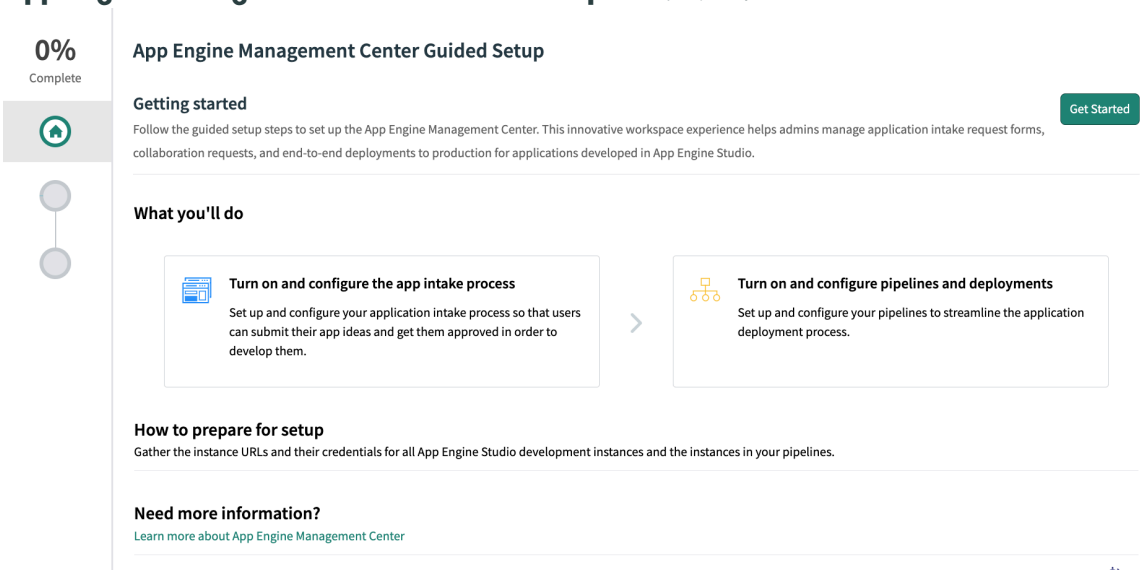
### 手順

1. 本番インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > **App Engine** > 管理 > ガイド付き設定.
   ランディングページには、構成する必要がある 2 つのアプリケーション (Application Intake と パイプラインと展開) に関する情報が表示されます。

自動翻訳

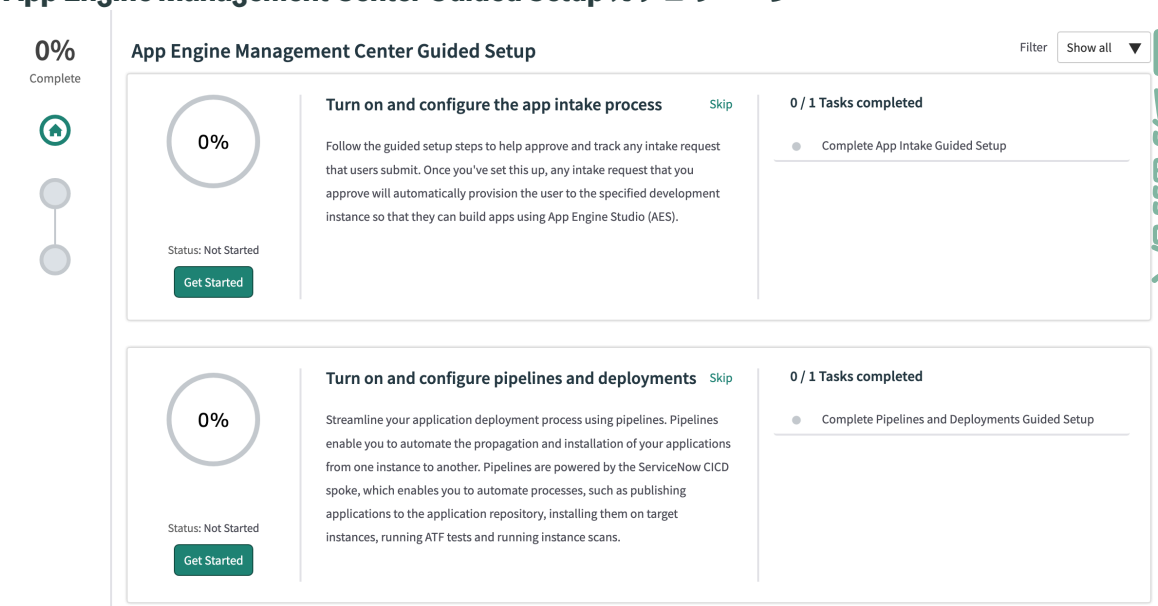
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**App Engine Management Center Guided Setup** ランディングページ




**2.** Guided Setup を開始するには、[開始] を選択します。
[App Engine 管理センター Guided Setup] カテゴリページには、AEMC を使用する前に完了する必要があるさまざまなカテゴリのタスクのリストが表示されます。

**App Engine Management Center Guided Setup** カテゴリページ




自動翻訳

**注:**
以前にいずれかの Guided Setup タスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

**3.** 最初の [開始] ボタンを選択して、Application Intake Guided Setup を開始します。
完了する必要があるいくつかのApplication Intake 構成タスクがあります。

**a.** [市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化。

**b.** App Engine 管理者グループへのユーザーの追加。

**c.** 開発環境レコードの作成。
このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 次の [開始] ボタンを選択して、パイプラインと展開 Guided Setup を開始します。
   完了する必要があるいくつかのパイプラインと展開 構成タスクがあります。

   本番インスタンス：

   a. 環境資格情報の構成。
   b. パイプライン環境の構成。
   c. パイプラインの構成。
   d. App Engine 管理者グループへのユーザーの追加。
   e. テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加。

      注:
      ATF およびインスタンススキャンスイートをテスト用に追加できるのは、それらを既に作成してテストインスタンスを設定している場合のみです。まだ行っていない場合は、このステップに戻る必要があります。

   f. 統合を有効にする変更管理。
   g. 統合するプロパティの構成 変更管理。

   テストインスタンスで次の手順を実行します。

   a. 環境資格情報の構成。
   b. コントローラーインスタンスの構成。
   c. Automated Test Framework (ATF) のプロパティをアクティブ化する。
   d. Automated Test Framework (ATF) スイートを構成します。
   e. インスタンススキャンスイートを構成します。

   他の非本番インスタンスで次の手順を実行します。

   a. 環境資格情報の構成。
   b. コントローラーインスタンスの構成。
   2 番目のカテゴリのタスクを完了すると、[カテゴリ] ページが再び表示されます。これで、App Engine 管理センターの Guided Setup を完了しました。
5. オプション: で AEMCシステムの動作を制御するために使用する追加のプロパティを構成します。

### **Application Intake** の構成

App Engine Studio (AES) Application Intake Guided Setup を使用して、Application Intake アプリケーションの初期設定を行います。各ステップの詳細な手順については、製品ドキュメントの後続のセクションを参照してください。

#### 始める前に

Application Intakeを使用してアプリケーションのアイデアを送信する前に、 App Engine Studio アプリケーションがインストールされました.

#### 必要なロール：管理者

#### このタスクについて

Application Intake Guided Setup には一連のタスクがあり、Now Platform® で Application Intake アプリを構成するために役立ちます。各タスクの詳細については、「Application Intake 構成タスク」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

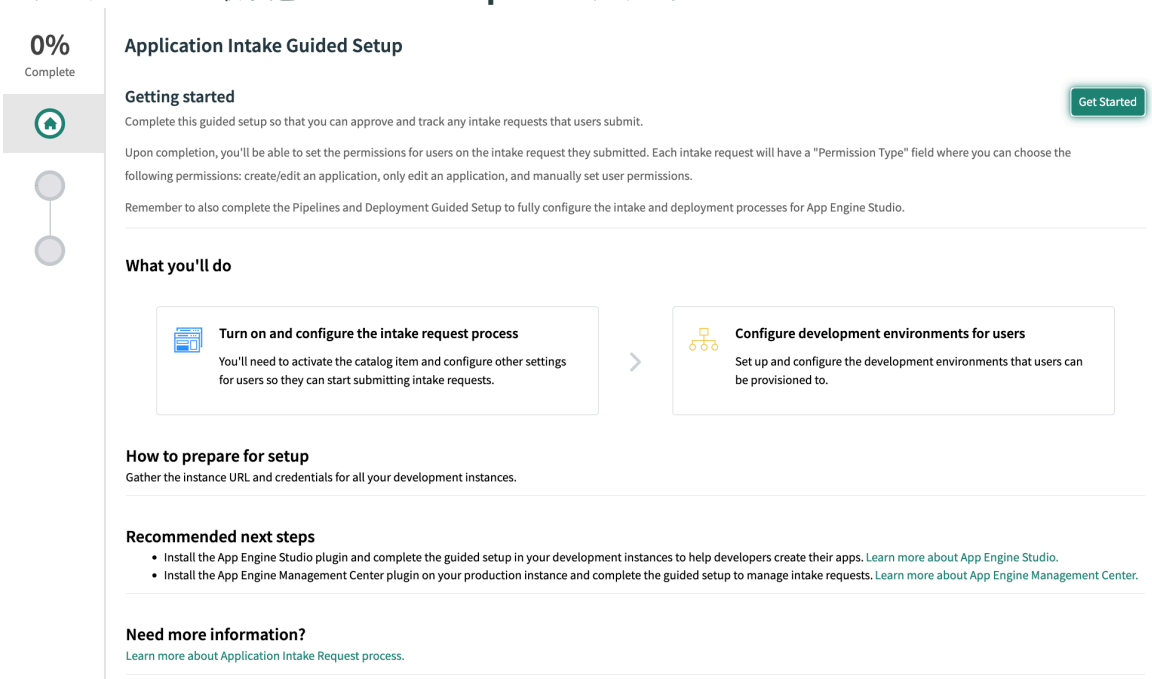
Guided Setup の詳細については、「Guided setup」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > アプリケーション取り込み > ガイド付き設定.

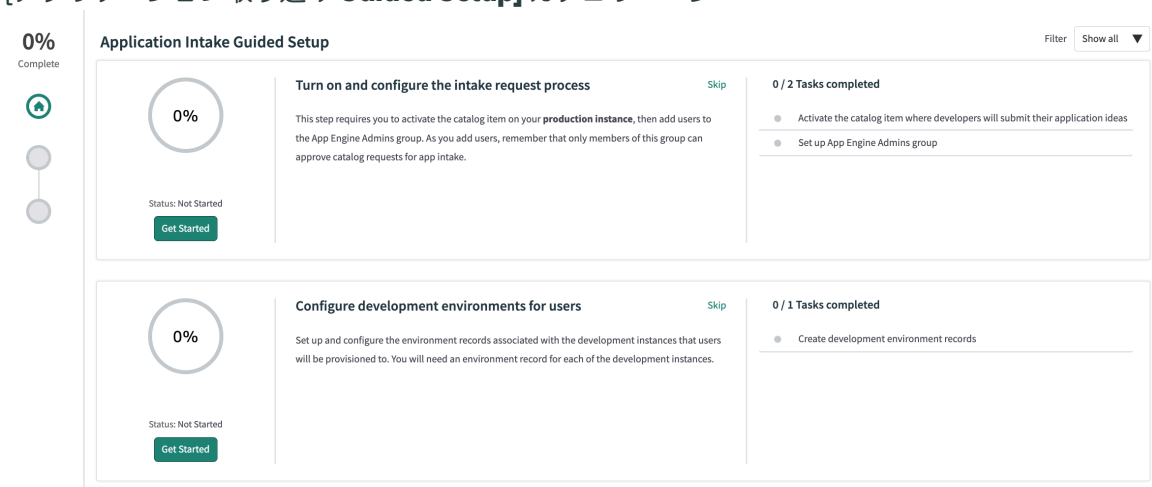
   ランディングページには、さまざまなカテゴリ、ツール、ユーザーアクセスに関する情報が表示されます。

   アプリケーション取り込み **Guided Setup** のランディングページ




2. Guided Setup を開始するには、[開始] を選択します。
   [Application Intake Guided Setup] ページには、アプリケーション取り込みを使用して要求を送信する前に完了する必要がある、さまざまなタスクのリストが表示されます。

   [アプリケーション取り込み **Guided Setup]** カテゴリページ




   **注:**
   以前にいずれかの Guided Setup タスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

3. 最初の [開始] ボタンを選択して、Application Intake Guided Setup を開始します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

完了する必要があるいくつかのApplication Intake 構成タスクがあります。

**a.** [市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化。

**b.** App Engine 管理者グループへのユーザーの追加。
このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。

4. 次の [開始] ボタンを選択して、ユーザーの開発環境を構成するタスクの実行を開始します。
本番インスタンスで、ユーザーをプロビジョニングする開発インスタンスごとに開発環境レコードを作成します。このプロセスにより、本番インスタンスを開発インスタンスに接続できるようになります。

> **注:**
> これらのレコードがパイプラインと展開の Guided Setup ですでに設定されている場合は、この手順をスキップできます。2 番目のカテゴリのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。

おめでとうございます! これで、Application Intakeの Guided Setup を完了しました。

### Application Intake 構成タスク

App Engine Studio (AES) Application Intake Guided Setup の手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

## 取り込み要求プロセスのアクティブ化と構成、および開発環境の設定

Application Intake を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。

**Application Intake 構成タスク**

| タスク | 説明 |
|---|---|
| 開発者がアプリケーションアイデアを送信するカタログアイテムをアクティブ化する | 市民開発者がアプリケーションのアイデアを送信できるように、[市民開発の申請] カタログアイテムをアクティブ化します。<br><br>詳細な手順については、「[市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化」を参照してください。 |
| [市民開発の申請] カタログアイテムの設定 | 迅速にセットアップして使用するには、カタログビルダーで事前定義された [市民開発の申請] カタログアイテムを使用します。アプリ取り込みフォームをカスタマイズするには、[市民開発の申請] カタログアイテムを更新するか、AES アプリの取り込みテンプレートを開始点として使用し、必要に応じて質問とフィールドを追加します。<br><br>詳細な手順については、「カタログビルダーのアプリ取り込みフォームのカスタマイズ」を参照してください。 |
| App Engine 管理者グループへのユーザーの追加 | App Engine 管理者グループにユーザーを追加します。App Engine 管理者グループのメールアドレスが構成されると、メンバーはアプリ開発関連の要求 (アプリケーション取り込み要求など) の通知を受信できます。<br><br>**注:**<br>すでに AES Guided Setup または パイプラインと展開 の構成 Guided Setup を使用して本番インスタンスにユーザーを追加している場合は、この手順をスキップできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Application Intake** 構成タスク (続く)

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| | 詳細な手順については、「App Engine 管理者グループへのユーザーの追加」を参照してください。 |
| 開発環境レコードの作成 | 本番インスタンスで、ユーザーをプロビジョニングする開発インスタンスごとに「開発」タイプの環境レコードを作成します。これにより、本番インスタンスを開発インスタンスに接続できるようになります。<br>**注:**<br>これらのレコードがパイプラインと展開の Guided Setup ですでに設定されている場合は、この手順をスキップできます。<br>詳細な手順については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。 |

Guided Setup を完了したら Application Intake 、「」に進みます。 パイプラインと展開 ガイド付き設定 を完全に構成 App Engine Studioするには、.

### [市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化

市民開発者がアプリケーションのアイデアを送信できるようにするには、[市民開発の申請] カタログアイテムをアクティブ化します。これは、App Engine Studio (AES) Application Intake アプリを構成する最初のステップです。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > アプリケーション取り込み > ガイド付き設定.
   詳細については、「App Engine Studio の構成」を参照してください。
2. プロセスを開始するか、進行中のプロセスを続行します。
   - プロセスを開始するには、[ようこそ] を選択します。
   - それまでに 1 つ以上のタスクを完了している場合は、[続行] を選択します。
3. [取り込み要求プロセスをオンにして構成する] セクションで、[開始] を選択します。
4. [開発者がアプリケーションのアイデアを送信するカタログアイテムを有効にする] セクションで、[構成] を選択します。
5. [市民開発の申請]カタログアイテムレコードで、[アクティブ] チェックボックスを選択します。
6. [更新] を選択します。
7. ブラウザーウィンドウを閉じて、Application Intake Guided Setup に戻ります。

### カタログビルダーのアプリ取り込みフォームのカスタマイズ

カタログビルダーの App Engine Studio (AES) [アプリ取り込み] フォームのフィールドと質問を編集して、組織のカスタムアプリ取り込みエクスペリエンスを作成します。

始める前に
必要なロール：管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > カタログビルダー.
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブの [アプリの取り込み] フォームで質問を定義します。

5. 変更するフォームのその他の設定を編集します。
6. [レビューと送信] タブで、フォームのプレビューを確認し、[プレビュー] を選択して必要な修正を行います。
7. 変更内容を保存します。
   - フォームを送信せずに変更を保存するには、[保存] を選択します。
   - フォームを送信するには、[送信] を選択します。

### アプリ取り込みフォームの質問の順番の変更

質問が表示される順番を変更して、[アプリ取り込み] フォームをカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > カタログビルダー.
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブで、移動する質問をポイントします。
5. 質問の左側で、行のドラッグアンドドロップグリッパーアイコン ( アイコン) を選択し、質問を新しい位置にドラッグします。

### 既存の [アプリ取り込み] フォームの質問の動的動作を定義する

他の質問への回答に基づいて、[アプリ取り込み] フォームで質問の動的動作を定義します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ユーザーが [アプリ取り込み] フォームの 1 つの質問に対して特定の回答をした場合、さらに情報を収集するためにフォローアップの質問が必要になることがあります。たとえば、ServiceNow トレーニングを受けたかどうかを尋ね、その回答が「いいえ」の場合、ユーザーは次の表示されている質問に進みます。回答が「はい」の場合、完了したトレーニングコースを尋ねる別の質問が表示されます。このタイプの動的な動作を定義するには、次の手順を使用します。

手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > カタログビルダー.
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [質問] タブで、更新する質問をポイントします。
5. 更新する質問の横にある [動的な動作を追加] アイコン ( ) を選択します。
6. [新しい動作を定義] を選択します。
7. [アクション] タブで、特定の条件が満たされたときの質問の動作を指定します。

[アクション] タブ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| トリガー条件が満たされたときのこの質問の動作を指定します | |
| 質問を必須にする | 次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの必須ステータスにどのように影響するかを指定します。<br>○ 何もしない<br>○ あり<br>○ いいえ |
| 質問を表示する | 次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの表示ステータスにどのように影響するかを指定します。<br>○ 何もしない<br>○ あり<br>○ いいえ |
| 質問を読み取り専用にする | 次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの読み取り専用ステータスにどのように影響するかを指定します。<br>○ 何もしない<br>○ あり<br>○ いいえ |
| 値をクリア | 質問値をクリアするオプション。 |

8. [条件] タブで、この質問に対するアクションをトリガーする条件を指定します。条件を構築するステートメントの詳細については、「Condition builder」を参照してください。
9. [設定] タブで、動作設定が適用されるシナリオを指定します。

設定タブ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 適用 | |
| この動的な動作が適用されるシナリオ | |
| アイテムが要求されているときに適用 (Applies when the item is being requested) | アイテムが要求されているときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。 |
| 要求の送信後、カタログタスクを表示するときに適用 (Applies while viewing the catalog tasks after the request is submitted) | 要求の送信後、カタログタスクを表示するときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 要求の送信後、要求されたアイテムレコードを表示するときに適用されます | 送信されたレコードを表示するときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。 |

10. [動作を追加] を選択します。

### [アプリ取り込み] フォームからの質問の非アクティブ化

[アプリ取り込み] フォームからの質問を非アクティブ化します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > カタログビルダー.
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブで、削除する質問をポイントします。
5. [質問の非アクティブ化] アイコン ( ⊗ ) を選択して、フォームから質問を削除します。
6. [非アクティブ化] を選択します。

### パイプラインと展開 の構成

App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 Guided Setup を使用して、パイプラインと展開の初期設定を行います。各ステップの詳細な手順については、製品ドキュメントの後続のセクションを参照してください。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
パイプラインと展開 Guided Setup には一連のタスクがあり、Now Platform® で パイプラインと展開 を構成するために役立ちます。各タスクの詳細については、「パイプラインと展開 構成タスク」を参照してください。

Guided Setup の詳細については、「Guided Setup の使用」を参照してください。

#### 手順

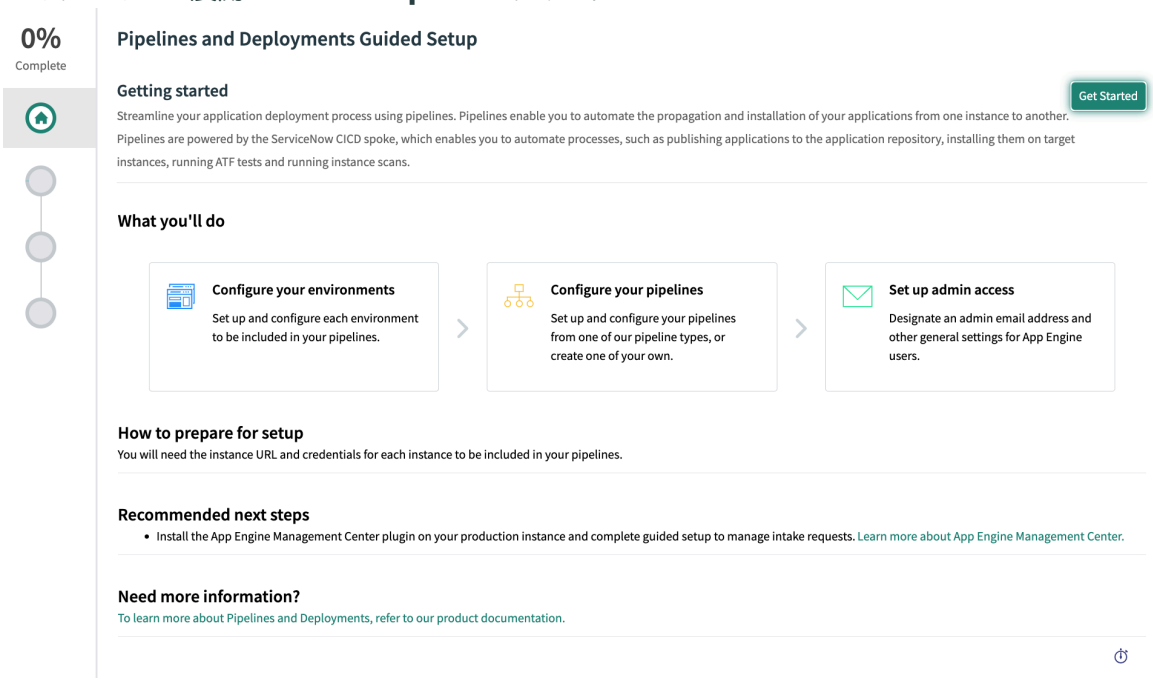
1. 移動先 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > ガイド付き設定.

   ランディングページには、さまざまなカテゴリ、ツール、ユーザーアクセスに関する情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 **Guided Setup** のランディングページ




**2.** Guided Setup を開始するには、[開始] を選択します。

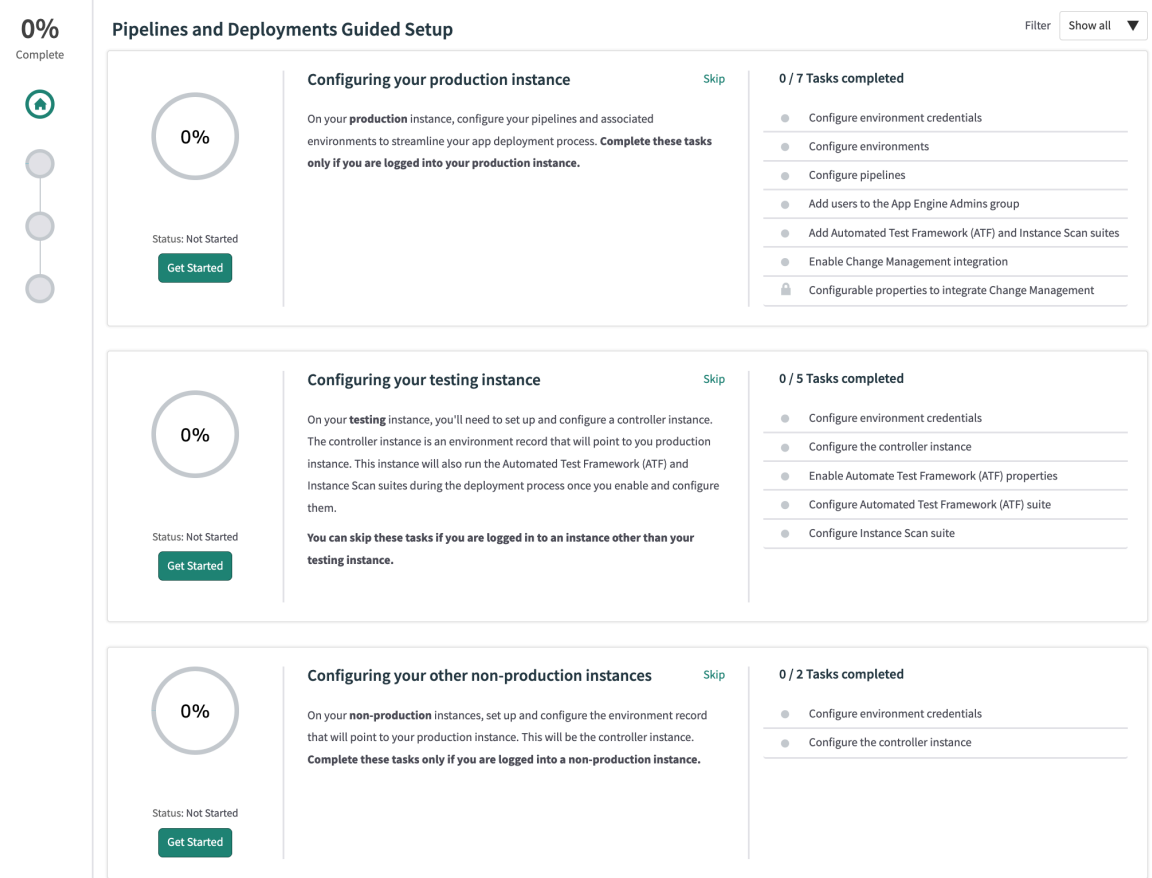
[パイプラインと展開 Guided Setup] カテゴリページには、パイプラインと展開を使用する前に完了する必要があるさまざまなカテゴリのタスクのリストが表示されます。

**注:**
以前にいずれかの Guided Setup タスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 **Guided Setup** のカテゴリページ




**重要:**
ここに表示されている各カテゴリのタスクは、パイプライン内のさまざまな環境で実行されることに注意してください。

**3.** 最初の [開始] ボタンを選択して、本番環境で構成タスクの実行を開始します。

**a.** 環境資格情報の構成。

**b.** パイプライン環境の構成。

**c.** パイプラインの構成。

**d.** App Engine 管理者グループへのユーザーの追加。

**e.** テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加。

**注:**
ATF およびインスタンススキャンスイートをテスト用に追加できるのは、それらを既に作成してテストインスタンスを設定している場合のみです。まだ行っていない場合は、このステップに戻る必要があります。

**f.** 統合を有効にする変更管理。

**g.** 統合するプロパティの構成 変更管理。

このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、Guided Setup 画面が再び表示されます。

**4.** 次の [開始] ボタンを選択して、テスト環境で構成タスクの実行を開始します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 環境資格情報の構成。

b. コントローラーインスタンスの構成。

c. Automated Test Framework (ATF) のプロパティをアクティブ化する。

d. Automated Test Framework (ATF) スイートを構成します。

e. インスタンススキャンスイートを構成します。

このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、Guided Setup 画面が再び表示されます。

5. 最後の [開始] ボタンを選択して、パイプラインの他のすべての非本番 (テスト、開発、ステージングなど) インスタンスのタスクの実行を開始します。

a. 環境資格情報の構成。

b. コントローラーインスタンスの構成。
おめでとうございます! これで、パイプラインと展開アプリケーションの Guided Setup を完了しました。

パイプラインと展開 構成タスク

パイプラインと展開 Guided Setup の手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

## 環境、パイプラインレコード、ユーザーアクセスの設定

パイプラインと展開 を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。これらのタスクは相互に構築されているため、Guided Setup に一覧表示されている順序で完了することが重要です。

パイプラインと展開 構成タスク

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| 環境資格情報を構成する。 | AEMC で使用されるフローがパイプライン内のインスタンスにアクセスできるように、パイプライン内の各インスタンスの資格情報を構成します。<br><br>詳細な手順については、「環境資格情報の構成」を参照してください。 |
| 環境を構成する。 | 各インスタンスへのアクセスに使用する URL と資格情報を追加して、本番環境と非本番環境 (開発、テスト、ステージングなど) を設定します。<br><br>詳細な手順については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。 |
| パイプラインを構成します。 | 各パイプラインを構成および構成するために、パイプラインに名前を付け、そのパイプラインに関連付けられるそれぞれの環境を特定し、そのパイプライン内の環境間にアプリを展開する順番を指定します。<br><br>詳細な手順については、「パイプラインの構成」を参照してください。 |
| App Engine 管理者グループにユーザーを追加する。 | このタスクのフローに関連するユーザーを App Engine 管理者グループに追加します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

パイプラインと展開 構成タスク (続く)

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>すでに AES Guided Setup または Application Intake の構成 Guided Setup を使用して本番インスタンスにユーザーを追加している場合は、この手順をスキップできます。<br><br>詳細な手順については、「App Engine 管理者グループへのユーザーの追加」を参照してください。 |
| 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) およびインスタンススキャンスイートの追加 | AEMC の標準であるインスタンススキャンおよび ATF テストスイートに加えて、カスタマイズされたテストスイートをアプリケーション展開の一部として追加します。<br><br>詳細な手順については、「テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加」を参照してください。 |
| 非本番インスタンスでコントローラーインスタンスを構成する。 | パイプライン展開フローを含むコントローラーインスタンスと、パイプラインに関連付けられているすべてのデータを特定します。各インスタンスは、アサインされたタスクを完了すると、コントローラーインスタンスと通信して展開の次のステージの実行場所を決定します。<br><br>**注:**<br>本番インスタンスはコントローラーとして特定されます。<br><br>詳細な手順については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。 |
| タイプがテストのインスタンスで ATF のプロパティをアクティブ化する。 | 展開プロセス中に ATF スイートを実行できるようにするシステムプロパティをアクティブ化します。これらのプロパティをアクティブ化しない場合、展開プロセス中に警告が表示されますが、展開は続行できます。<br><br>**注:**<br>本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする場合は、これらの設定のデータプリザーバーを作成するか、本番インスタンスでこれらの設定をアクティブ化する必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。<br><br>詳細な手順については、「Automated Test Framework (ATF) のプロパティをアクティブ化する」を参照してください。 |
| 統合を有効にする変更管理 | 既存の 変更管理 プログラムを AEMC に接続して、変更要求のステータスと予定されている変更時間帯に基づいて、パイプラインから本番環境への展開が自動的にスケジュールされるようにします。<br><br>詳細な手順については、「統合を有効にする変更管理」を参照してください。 |
| 統合するプロパティの構成 変更管理 | 変更要求と構成アイテム (CI) は、既存の 変更管理 プログラムで設定された仕様を使用して作成されます。アプリの展開中に使用される変更モデル、変更テンプレート、または CI 作成サブフローを変更する |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

パイプラインと展開 構成タスク (続く)

| タスク | 説明 |
| --- | --- |
| | 場合は、Guided Setup でこれらのプロパティを設定する必要があります。<br><br>詳細な手順については、「統合するプロパティの構成 変更管理」を参照してください。 |

環境資格情報の構成

App Engine 管理センター (AEMC) で使用されるフローが異なるインスタンスにアクセスできるように、本番インスタンスで資格情報を構成します。

### 始める前に

パイプラインで使用する資格情報を作成するには、管理者権限を持つ機能ユーザーアカウントを使用する必要があります。このユーザーアカウントには、次の特性が必要です。

- 組織内のユーザーに関連付けることはできません。
- パスワードを定期的にリセットする必要はありません。
- 管理者が制御する必要があります。
- パイプライン内のすべてのインスタンスに対する管理者権限が必要です。

パイプライン資格情報専用の新しい機能ユーザーアカウントを作成するか、これらの特性を持つ以前に作成したアカウントを使用できます。いずれにせよ、パイプライン資格情報を作成する前に、このユーザーアカウントを作成する必要があります。このユーザーの作成の詳細については、「Create a user」を参照してください。

必要なロール：admin

### このタスクについて

[sys_users] テーブルで作成した機能ユーザーアカウントを使用して、パイプライン資格情報を作成します。たとえば、Pipeline Runner というユーザーアカウントを作成し、管理者権限を付与します。このアカウントのユーザー名とパスワードは、資格情報レコードの設定に使用されます。

### 手順

1. 移動先 すべて > 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス.
2. [新規] を選択します。
3. フォームで、[タイプ] を [資格情報] に変更します。
   タイプを変更すると、いくつかのフィールドがフォームから削除されます。
4. フォームの残りのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 資格情報レコードの一意の名前。「Pipeline Credentials (パイプライン資格情報)」など。 |
| アプリケーション | レコードが作成されるスコープ。これはグローバルである必要があります。 |
| ID | 資格情報レコードの一意の ID。このフィールドは名前に基づいて自動的に入力されます。ID は [scope_name.credential_name] の形式で |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 記述されます。アプリケーションがグローバルスコープ内にある場合を除き、ID は単なる資格情報名です。 |

5. [送信] を選択します。
   [接続および資格情報エイリアス] テーブルが再度開きます。
6. 作成した資格情報を開き、資格情報レコードを追加します。
7. [資格情報] タブで、[新規] を選択します。
8. [作成する資格情報の種類は？**(What kind of Credentials would you like to create?)**] リストから [基本認証資格情報 **(Basic Auth Credentials)**] を選択します。

   注:
   パイプラインで代わりに OAuth 資格情報を使用する場合は、「で使用する OAuth 資格情報の設定 パイプラインと展開」を参照してください。

9. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 基本認証資格情報レコードの一意の名前。「Pipeline Credentials (パイプライン資格情報)」など。 |
| 順序 | 使用しているフローが資格情報レコードを読み取る順序。たとえば、バックアップ用の資格情報が複数ある場合は、100、200、300 のように並べます。フローはリストの一番上から読み取ります。 |
| ユーザー名 | 機能アカウントのユーザー名。例：pipeline.runner |
| パスワード | 機能ユーザーアカウントのパスワード。 |
| アクティブ | レコードを有効にするオプション。 |
| 資格情報エイリアス | 資格情報レコード ID から繰り返されるレコードのエイリアス。エイリアスが存在するのは、特定のユーザーのみがユーザー名とパスワードを確認できるようにするためです。フローが実行されると、アプリをインストールできるように資格情報エイリアスが使用されます。 |

10. [送信] を選択します。
11. パイプライン内の各非本番インスタンスでこのプロセスを繰り返します。
    資格情報レコードには、パイプラインが本番インスタンスにアクセスするために使用するユーザー名とパスワードを使用します。

### で使用する **OAuth** 資格情報の設定 パイプラインと展開

パイプラインで OAuth 資格情報を使用して、パイプラインに別のレベルのセキュリティを追加します。このタスクは、パイプラインで使用する OAuth 資格情報を作成および構成するのに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。個別のブラウザタブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。次のタスクは、3 つのインスタンスの環境の手順を示しています。ただし、他の非本番インスタンス (ステージなど) を使用する場合は、そのインスタンスでタスクを繰り返す必要があることを詳述するステップがあります。

必要なロール：admin

このタスクについて
OAuth 資格情報の作成と接続は、指定された順序で完了する必要があるいくつかのタスクで構成されています。各ステップで正しいインスタンスを操作するように注意してください。詳細については、「OAuth 2.0」を参照してください。

手順

1. 指定されたインスタンスの 外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成 の下にあるすべての手順を完了します。
2. 指定されたインスタンスの サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成 の下にあるすべての手順を完了します。
3. 指定されたインスタンスの OAuth を使用してパイプライン資格情報を作成する の下にあるすべての手順を完了します。

次のタスク
パイプライン環境の構成ときは、構成しているインスタンスの正しいインスタンス資格情報レコードを選択していることを確認してください。

### 外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントの作成

OAuth API エンドポイントを作成して、コントローラーインスタンスが非本番インスタンスと双方向通信できるようにします。指定されたインスタンスで各ステップを慎重に実行してから、サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成に進みます。

始める前に
インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

個別のブラウザータブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。

必要なロール：admin

このタスクについて
外部クライアント用の OAuth API エンドポイントを作成して、パイプラインで OAuth を使用するには、パイプライン内の異なるインスタンスでそれぞれ複数のレコードを作成する必要があります。本番インスタンスであるコントローラーインスタンスで開始します。

手順

1. 本番インスタンスで、次に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
2. [新規] を選択します。
3. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Pipeline Controller Client」と入力します。 |
| リダイレクト URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンス、開発インスタンス、およびテストインスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に oauth_redirect.do を付けます。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>3 つの URL はそれぞれカンマとスペースで区切ります。例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<development instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<test instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do |

5. [送信] を選択します。

> **重要:**
> 開発インスタンスの次の手順を完了します。

6. 開発インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
7. [新規] を選択します。
8. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Pipeline Development Client」と入力します。 |
| リダイレクト URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスと開発インスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に oauth_redirect.do を付けます。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>2 つの URL はカンマとスペースで区切ります。例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<development |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| | instance name>.service-now.com/ oauth_redirect.do |

10. [送信] を選択します。

> **重要:**
> テストインスタンスの次の手順を完了します。

11. テストインスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
12. [新規] を選択します。
13. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。
14. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Pipeline Test Client」と入力します。 |
| リダイレクト URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスとテストインスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に oauth_redirect.do を付けます。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>2 つの URL はカンマとスペースで区切ります。例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<test instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do |

15. [送信] を選択します。
16. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) について、このプロセスの手順 11 ~ 15 を繰り返します。

### 次のタスク

指定されたインスタンスで、サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成の手順に従います。

## サードパーティ **OAuth** プロバイダーレコードの作成

サードパーティ OAuth プロバイダーレコードを作成して、作成した API エンドポイントに各インスタンスがアクセスできるようにします。

### 始める前に

外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成のタスクを完了します。

インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

個別のブラウザタブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。本番インスタンスで以下の手順を開始します。

必要なロール：管理者

手順

1. 本番インスタンスで、次に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
   ここでは、3 つのインスタンス (開発、テスト、本番) のそれぞれに 1 つずつ、合計 3 つのレコードを作成する必要があります。追加の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、ここに示す方法に従って、それぞれのインスタンスのレコードを作成します。
2. [新規] を選択します。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、開発インスタンスのレコードを作成します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Dev Instance Connection」と入力します。 |
| クライアント ID | **a.** 開発インスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リスト (すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー).<br>**b.** [パイプライン開発クライアント] レコードを開きます。<br>**c.** クライアント **ID** をコピーします。<br>**d.** 本番インスタンスで、開発インスタンスからクライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。 |
| クライアントシークレット | **a.** 開発インスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リスト (すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー).<br>**b.** [パイプライン開発クライアント] レコードを開きます。<br>**c.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーします。<br>**d.** 本番インスタンスで、開発インスタンスからクライアントシークレットを [クライアントシークレット] フィールドに貼り付けます。 |
| デフォルトの権限許可タイプ | [認証コード] に変更します。 |
| 認証 URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 開発インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_auth.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| | 例：https://<development instance name>.service-now.com/oauth_auth.do |
| トークン URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 開発インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_token.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<development instance name>.service-now.com/oauth_token.do |

5. [送信] を選択します。
6. [新規] を選択します。
7. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、テストインスタンスのレコードを作成します。
8. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Test Instance Connection」と入力します。 |
| クライアント ID | **a.** テストインスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リスト (すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー).<br>**b.** [パイプラインテストクライアント] レコードを開きます。<br>**c.** クライアント **ID** をコピーします。<br>**d.** 本番インスタンスで、テストインスタンスからクライアント ID を [クライアント **ID**] フィールドに貼り付けます。 |
| クライアントシークレット | **a.** テストインスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リスト (すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー).<br>**b.** [パイプラインテストクライアント] レコードを開きます。<br>**c.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーします。<br>**d.** 本番インスタンスで、テストインスタンスからクライアントシークレットを [クライアントシークレット] フィールドに貼り付けます。 |
| デフォルトの権限許可タイプ | [認証コード] に変更します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 認証 URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** テストインスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_auth.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<test instance name>.service-now.com/oauth_auth.do |
| トークン URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** テストインスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_token.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<test instance name>.service-now.com/oauth_token.do |

9. [送信] を選択します。
10. [アプリケーションレジストリ] リストで、[ パイプラインコントローラークライアント ] レコードを選択します。
11. クライアント **ID** をコピーし、メモアプリケーションなどの場所に貼り付けます。
12. [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーして、クライアント ID とともにメモに貼り付けます。
13. [アプリケーションレジストリ] リストに戻り、[ 新規] を選択します。
14. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
15. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Prod Instance Connection」と入力します。 |
| クライアント ID | **a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。<br>**b.** クライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。 |
| クライアントシークレット | **a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。<br>**b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。 |
| デフォルトの権限許可タイプ | [認証コード] に変更します。 |
| 認証 URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_auth.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| | 例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do |
| トークン URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_token.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do |

16. [送信] を選択します。

> **重要:**
> 開発インスタンスの次の手順を完了します。

17. 開発インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
18. [新規] を選択します。
19. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
20. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Prod Instance Connection」と入力します。 |
| クライアント ID | **a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。<br>**b.** クライアント ID を [クライアント **ID**] フィールドに貼り付けます。 |
| クライアントシークレット | **a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。<br>**b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。 |
| デフォルトの権限許可タイプ | [認証コード] に変更します。 |
| 認証 URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_auth.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| トークン URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_token.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do |

21. [送信] を選択します。

> **重要:**
> テストインスタンスの次の手順を完了します。

22. テストインスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > システム **OAuth** > アプリケーションレジストリー.
23. [新規] を選択します。
24. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
25. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Prod Instance Connection」と入力します。 |
| クライアント ID | **a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。<br>**b.** クライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。 |
| クライアントシークレット | **a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。<br>**b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。 |
| デフォルトの権限許可タイプ | [認証コード] に変更します。 |
| 認証 URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_auth.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。<br>例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do |
| トークン URL | **a.** フィールドをロック解除します。<br>**b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「oauth_token.do」と入力します。<br>**c.** フィールドをロックします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| | 例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do |

26. [送信] を選択します。
27. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) について、手順 22 ~ 26 を繰り返します。

### 次のタスク
OAuth を使用するための事前作業が完了したので、指定されたインスタンスでOAuth を使用してパイプライン資格情報を作成するのすべての手順を完了します。

## OAuth を使用してパイプライン資格情報を作成する

各インスタンスで資格情報レコードを作成し、パイプラインでそれを OAuth で使用できるようにします。

### 始める前に
外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成とサードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成のタスクを完了します。

インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

個別のブラウザータブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。

必要なロール：admin

### このタスクについて
資格情報を正しく構成するには、本番インスタンスで本番インスタンスと非本番インスタンスのそれぞれのレコードを作成する必要があります。次に、非本番インスタンスのそれぞれに本番インスタンスのレコードを作成し、それらをすべて接続する必要があります。各セクションのビデオを使用して、手順を実行します。本番インスタンスで開始します。

### 手順
1. 本番インスタンスで、次に移動します。 すべて > 接続 & 認証情報 > 接続 & 資格情報エイリアス.
   本番インスタンスで資格情報レコードを作成する
2. [新規] を選択します。
3. [タイプ] を [資格情報] に変更します。
4. [名前] フィールドに「Pipeline Dev OAuth」と入力します。
5. [送信] を選択します。
6. 作成したレコード (Pipeline Dev OAuth) を再び開きます。
7. [資格情報] 関連リストで、[ 新規] を選択します。
8. **[OAuth 2.0** 資格情報] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

**OAuth 2.0** 資格情報フォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Dev OAuth」と入力します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| OAuth エンティティプロファイル | [開発インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Dev Instance Connection default profile)**]を検索して選択します。 |

10. [送信] を選択します。
11. **[Dev OAuth]** 資格情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
12. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
開発インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
13. [許可] を選択します。
14. [Connection & Credential Aliases] リストに戻ります (すべて > 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス).
15. [新規] を選択します。
16. [タイプ] を [資格情報] に変更します。
17. [名前] フィールドに「Pipeline Test OAuth」と入力します。
18. [送信] を選択します。
19. 作成したレコード (Pipeline Test OAuth) を再び開きます。
20. [資格情報] 関連リストで、[ 新規] を選択します。
21. **[OAuth 2.0** 資格情報] を選択します。
22. フォームのフィールドに入力します。

**OAuth 2.0** 資格情報フォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Test OAuth」と入力します。 |
| OAuth エンティティプロファイル | [テストインスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Test Instance Connection default profile)**]を検索して選択します。 |

23. [送信] を選択します。
24. [Test OAuth] 資格情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
25. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
テストインスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
26. [許可] を選択します。
27. [Connection & Credential Aliases] リストに戻ります (すべて > 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス).
28. [新規] を選択します。
29. [タイプ] を [資格情報] に変更します。
30. [名前] フィールドに「Pipeline Prod OAuth」と入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

31. [送信] を選択します。
32. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
33. [資格情報] 関連リストで、[ 新規] を選択します。
34. **[OAuth 2.0** 資格情報] を選択します。
35. フォームのフィールドに入力します。

**OAuth 2.0** 資格情報フォーム

| フィールド | アクション |
|---|---|
| 名前 | 「Prod OAuth」と入力します。 |
| OAuth エンティティプロファイル | [本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。 |

36. [送信] を選択します。
37. [Prod OAuth] 資格情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
38. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
39. [許可] を選択します。
40. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、上記の方法を使用して、本番インスタンスでそれぞれの資格情報レコードを作成します。

> **重要:**
> 本番インスタンスで上記の手順を完了したら、以下の手順に従って、非本番インスタンスのそれぞれに 1 つの資格情報レコードを作成し、本番インスタンスに接続します。開発インスタンスの次の手順を完了します。

41. 開発インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス.
開発インスタンスに資格情報レコードを作成し、本番環境に接続します。
42. [新規] を選択して、開発インスタンスを本番インスタンスに接続するレコードを作成します。
43. [タイプ] を [資格情報] に変更します。
44. [名前] フィールドに「Pipeline Prod OAuth」と入力します。
45. [送信] を選択します。
46. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
47. [資格情報] 関連リストで、[ 新規] を選択します。
48. **[OAuth 2.0** 資格情報] を選択します。
49. フォームのフィールドに入力します。

**OAuth 2.0** 資格情報フォーム

| フィールド | アクション |
|---|---|
| 名前 | 「Prod OAuth」と入力します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| OAuth エンティティプロファイル | [本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)**]を検索して選択します。 |

50. [送信] を選択します。
51. [Prod OAuth] 資格情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
52. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
53. [許可] を選択します。

> **重要:**
> テストインスタンスの次の手順を完了します。

54. テストインスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス.
テストインスタンスに資格情報レコードを作成し、本番環境に接続します。
55. [新規] を選択して、テストインスタンスを本番インスタンスに接続するレコードを作成します。
56. [タイプ] を [資格情報] に変更します。
57. [名前] フィールドに「Pipeline Prod OAuth」と入力します。
58. [送信] を選択します。
59. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
60. [資格情報] 関連リストで、[ 新規] を選択します。
61. **[OAuth 2.0** 資格情報] を選択します。
62. フォームのフィールドに入力します。

**OAuth 2.0** 資格情報フォーム

| フィールド | アクション |
| --- | --- |
| 名前 | 「Prod OAuth」と入力します。 |
| OAuth エンティティプロファイル | [本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)**]を検索して選択します。 |

63. [送信] を選択します。
64. [Prod OAuth] 資格情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
65. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
66. [許可] を選択します。
67. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、手順 54 ～ 66 を使用して、そのインスタンス上で本番用の資格情報レコードを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

次のタスク
インスタンスを接続するすべての資格情報レコードを作成したので、それらのレコードを使用してパイプライン環境を構成できます。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

パイプライン環境の構成

各インスタンスへのアクセスに使用する URL と資格情報を追加して、App Engine Studio (AES) 本番環境と非本番環境 (開発、テスト、ステージングなど) を設定します。

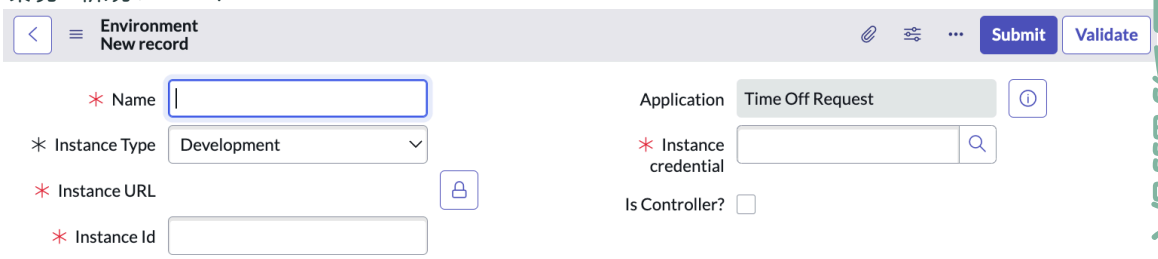
始める前に
必要なロール：admin

> **注:**
> システム管理者 (admin) ロールを持つユーザーのみが、 環境のインスタンス資格情報を定義できます。App Engine 管理者 [sn_app_eng_notify.app_engine_admin] ロールを持つユーザーは、環境レコードを表示できます。ただし、[インスタンス資格情報] フィールドは表示されません。

手順

1. 本番インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > 環境.
2. [新規] を選択します。

環境 - 新規レコード




3. フォームのフィールドに入力します。

[環境] フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 環境の名前。開発、テスト、または本番環境としてインスタンスを区別する名前を入力します。たとえば、開発環境を定義する場合は、名前に Dev を含めることができます。 |
| インスタンスタイプ | 定義する環境のタイプ：<br>○ サンドボックス<br>○ 開発<br>○ テスト<br>○ ステージング<br>○ 本番 |
| インスタンス URL | ServiceNow インスタンスの Web アドレス。 |
| インスタンス ID | インスタンスの instance_id sys_property。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>他のすべてのフィールドに入力して [検証] を選択すると、インスタンス ID が自動的に生成されます。 |
| アプリケーション | 環境のアプリケーションスコープ。 |
| インスタンス資格情報 | 環境として構成しているインスタンスに関連する認証データ。<br>**注:**<br>OAuth 2.0 資格情報を使用している場合は、インスタンスレコードの適切な資格情報を選択します。たとえば、開発インスタンスレコードでは OAuth 開発資格情報を選択し、テストインスタンスレコードでは OAuth テスト資格情報を選択します。 |
| コントローラーとは？ | このインスタンスがコントローラーかどうかを示します。これは、展開要求を管理する予定の本番環境レコードに対して選択する必要があります。詳細については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。 |

4. [送信] を選択します。
5. パイプラインの残りの各環境を定義するときには、それまでの手順を繰り返します。
たとえば、本番環境を定義した場合は、手順をもう一度繰り返して開発環境を定義します。次に、その手順をもう一度繰り返してテスト環境を定義します。

## パイプラインの構成

App Engine Studio (AES) パイプラインを構成して、管理者がアプリケーションをある環境から別の環境にすばやく移動できるようにします。

### 始める前に

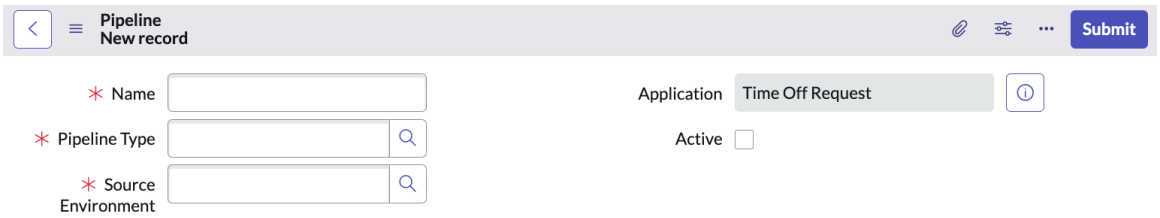
これらの手順を完了する前に、すべてのパイプライン環境レコードを作成する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

必要なロール：admin または app_engine_admin

### 手順

1. 本番インスタンスで、次の場所に移動します。 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > パイプライン.
2. [新規] を選択します。

パイプライン - 新規レコード




3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

[パイプライン] フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | パイプラインの名前。このパイプラインを他のパイプラインと区別する名前を入力します。 |
| パイプラインタイプ | 定義しているパイプラインのタイプ。パイプラインの最も一般的なユースケースは [アプリケーションの展開] を選択することですが、必要に応じて他のタイプを定義できます。 |
| ソース環境 | このパイプラインの環境 (通常は開発環境)。 |
| アプリケーション | パイプラインのアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このパイプラインをアクティブ化するには、このチェックボックスをオンにします。 |

4. [送信] を選択します。
5. 作成したパイプラインレコードを再度開きます。
6. [パイプライン環境注文] セクションで、[ソース環境] を除くパイプラインの環境を選択し、パイプラインを介してアプリを展開する順番を指定します。
7. [更新] を選択します。

## コントローラーインスタンスの構成

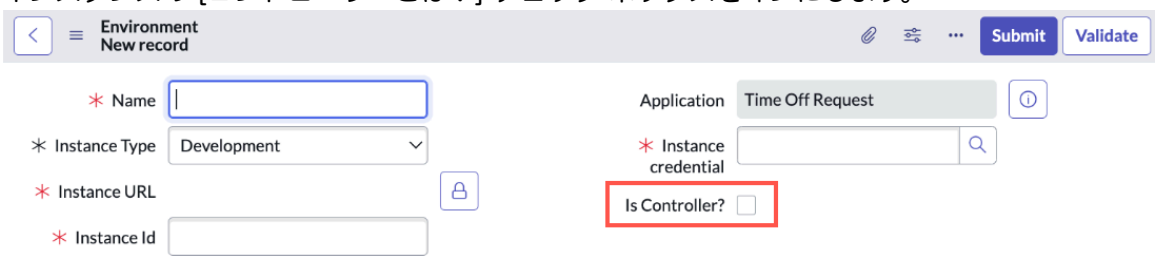
App Engine Studio (AES) パイプライン内のいずれかのインスタンスをコントローラーインスタンスとして特定する必要があります。パイプライン内のアプリケーションの展開順番を含む、パイプラインのインスタンス間のすべての通信は、コントローラーインスタンスで行われます。

### 始める前に
必要なロール：admin

### このタスクについて
通常、本番インスタンスがコントローラーインスタンスとして特定されます。すべての要求レコードと承認レコードは、コントローラーインスタンスに保存されます。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > 環境.
2. パイプライン環境を構成するときは、コントローラーとして使用するインスタンスを決定し、そのインスタンスの [コントローラーとは？] チェック ボックスをオンにします。




3. [保存] を選択します。
パイプラインのワークフローが実行されると、非本番インスタンスはコントローラーインスタンスと通信して、次にアプリを展開するインスタンスを決定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加

AEMC の標準であるインスタンススキャンおよび Automated Test Framework (ATF) テストスイートに加えて、カスタマイズされたテストスイートをアプリケーション展開の一部として追加します。

#### 始める前に

ATF およびインスタンススキャンスイートはテストインスタンスにのみ存在するため、このタスクを完了するにはパイプラインを設定する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

必要なロール：管理者

#### 手順

1. 本番インスタンスで、次に移動します。 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > スキャンスイート.
2. このテーブルを初めて表示する場合は、[デフォルトのスイートを入力] を選択して、ServiceNow が提供するインスタンスと ATF スキャンスイートをロードします。
3. [新規] を選択して、新しいスキャンスイートを追加します。
4. フォームのフィールドに入力します。

スキャンスイートフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| スイート | テストインスタンスに存在するすべての ATF およびインスタンススキャンスイートを含むテーブル。 |
| エラーの重大度 | テストに合格しないスキャンスイートの重大度を示すエラーオプション。 |
| インスタンスタイプ | スキャンスイートが実行されるインスタンスのタイプ。このフィールドは [テスト] に設定する必要があります。 |

5. [送信] を選択します。
   追加したスイートは、テスト中に選択したインスタンスにインストールされているアプリで実行されます。

### Automated Test Framework (ATF) のプロパティをアクティブ化する

App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 アプリには、アプリケーション展開テストスイートと呼ばれるアプリケーションテストフレームワーク (ATF) スイートが含まれています。2 つのシステムプロパティが、アプリがテスト環境に展開されるたびにテストを自動的に実行するかどうかを制御します。

#### 始める前に

必要なロール：admin

#### このタスクについて

アプリケーション展開テストスイートのテストは本番インスタンスで実行できます。ただし、ベースシステムに含まれるフローは非本番 (テスト) インスタンスでのみ実行されます。また、テストは [テスト中] の [インスタンスタイプ] で定義されたインスタンスでのみ実行する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**注:**
本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする場合は、これらの設定のデータプリザーバーを作成するか、本番インスタンスでこれらの設定をアクティブ化する必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. 次の 2 つのプロパティを見つけます。
   - sn_atf.runner.enabled
   - sn_atf.schedule.enabled
3. アプリをテストインスタンスに展開するたびに、これらのテストを非本番インスタンスで自動的に実行する場合は、各プロパティレコードを開き、[値] フィールドを [true] に変更して [更新] を選択します。

### 統合を有効にする変更管理

とのデータ連携AEMCを有効に変更管理して、パイプラインから本番環境への展開が、変更要求のステータスと予定されている変更時間帯に基づいて自動的にスケジュールされるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このタスクは Guided Setup システム内で完了でき、[ 構成] を選択すると Guided Setup 内で開きます。必要に応じて、以下の手順に従って、Guided Setup の外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.enabled を見つけます。
3. [値] フィールドを AEMCtrue に変更して、既存の変更管理プロセスをに接続します。
4. [更新] を選択します。
5. Guided Setup で パイプラインと展開 、[ 完了としてマーク] を選択します。
   イネーブルメントステップを完了としてマークすると、変更モデル、変更テンプレート、CI 作成サブフローなど、統合に関連する 変更管理 プロパティを構成できます。詳細については、「統合するプロパティの構成 変更管理」を参照してください。

### 統合するプロパティの構成 変更管理

ガイド付き設定でパイプラインと展開事前定義されたプロパティを設定し、会社のニーズに合わせて統合をカスタマイズし変更管理AEMCます。これらのプロパティの設定はオプションです。

### 変更モデルの構成

アプリケーションの展開時に使用する変更モデルを構成します。構成されていない場合は、デフォルトで 通常の 変更モデルが使用されます。

始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
特定のユースケースに合わせて変更アクティビティとフローを調整するために使用できる変更モデルがいくつかあります。各タイプのモデルの詳細については、を参照してください Change models 。以下の手順を使用して、アプリの展開中に使用する変更モデルを選択します。

このタスクは Guided Setup システム内で完了でき、[ 構成] を選択すると Guided Setup 内で開きます。必要に応じて、以下の手順に従って、Guided Setup の外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.default.model を見つけます。
このプロパティの値、つまり使用されているモデルを変更するには、切り替え先の変更モデルの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. 移動先 すべて > 変更 > 管理 > 変更モデル.
   b. アプリ展開のデフォルトにする変更モデル ( 標準など) を選択します。
   c. レコードのヘッダー バーを右クリックし、[ **sys_id**のコピー] を選択します。
3. **sn_deploy_pipeline.change_management.default.model** プロパティで、コピーしたsys_idを [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. ガイド付き設定の パイプラインと展開 [ 変更モデルの構成 ] セクションで、[ 完了としてマーク] を選択します。

### 変更テンプレートの構成

アプリの展開時に作成する各変更要求の変更テンプレートの **sys_id** を構成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
変更要求を作成するためのデフォルトテンプレートとして使用するテンプレートがいくつかあります。詳細については、「Create a change request template 」を参照してください。以下の手順を使用して、アプリの展開中に使用する変更テンプレートを選択します。

このタスクは Guided Setup システム内で完了でき、[ 構成] を選択すると Guided Setup 内で開きます。必要に応じて、以下の手順に従って、Guided Setup の外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.default.template を見つけます。
このプロパティの値、つまり使用されているテンプレートを変更するには、切り替え先の変更テンプレートの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. 移動先 すべて > 変更 > 標準変更 > すべてのテンプレート.
   b. アプリ展開のデフォルトにする変更テンプレートを選択します。
   c. テンプレートレコードのヘッダーバーを右クリックし、[ **sys_id**をコピー] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **sn_deploy_pipeline.change_management.default.template** プロパティで、コピーしたsys_id を [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. ガイド付き設定の パイプラインと展開 [ 変更テンプレートを構成 ] セクションで、[ 完了としてマーク] を選択します。

### CI 作成サブフローの構成

を使用して、アプリケーション展開 AEMC中に構成アイテム (CI) を作成する方法をカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
デフォルトでは、[CMDB CI が存在しない場合は作成] サブフローが展開中に自動的に実行され、アプリケーションの **CI** が存在しない場合 は作成されます。ただし、次の手順を使用して、展開中に構成アイテム (CI) を作成する方法を変更できます。

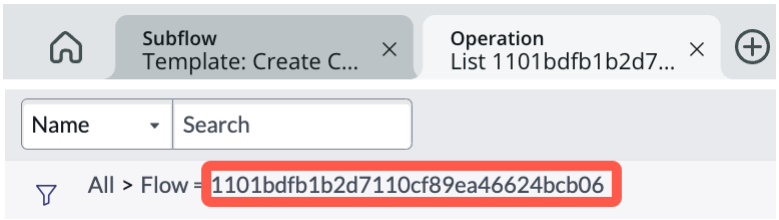
手順

1. ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.config_ci_creation_subflow を見つけます。
   このプロパティの値、つまり使用されているテンプレートを変更するには、切り替え先のサブフローの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. 移動先 すべて > フローデザイナー.
   b. [サブフロー] タブを選択します。
   c. [名前] 列で、テンプレート:存在しない場合は CMDB CI を作成、または存在しない場合は CMDB CI を作成を検索して開きます。
   d. [その他のアクション] メニューアイコン ( ⋮ ) を選択し、[ サブフローのコピー] を選択します。
   e. サブフローの名前を入力し、アプリケーションが 展開パイプライン スコープ内にあることを確認します。
   f. コピー を選択します。
   g. サブフローを変更し、 [ 保存] を選択します。
   h. サブフローのsys_idを見つけるには、[その他のアクション] メニューアイコン ( ⋮ ) を選択し、[実行] を選択します。
   i. sys_idをコピーします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

sys_idは、[ すべて**>Flow=**] の後、ページの上部に表示されます。




3. **sn_deploy_pipeline.change_management.config_ci_creation_subflow** プロパティで、コピーしたsys_idを [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. パイプラインと展開 Guided Setup の [**CI** 作成サブフローを構成] セクションで、[完了としてマーク] を選択します。

### **AES** によるインスタンスのクローン作成

システムクローンを使用して本番環境から非本番環境にインスタンスをコピーするときに、App Engine Studio で作成したデータ、テーブル、およびテンプレートを保護する方法について説明します。

## クローン作成時のデータとテーブルの保持

AES を使用してインスタンスをクローンするための要件は次のとおりです。

1. すべての AES プラグインがすべてのインスタンスにインストールされていることを確認します。
2. 本番インスタンスをクローンする場合は、本番インスタンスで 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) および インスタンススキャン プロパティをアクティブ化する必要があります。
3. 開発および展開データを収集する場合は、App Engine 管理センター (AEMC) プラグインをすべてのインスタンスにインストールする必要があります。

本番インスタンスから非本番インスタンスにデータとテーブルをクローン作成すると、非本番テーブルのデータが上書きされる可能性があります。開発環境でデータが失われないようにするには、コラボレーション用のクローン作成戦略を作成します。

1. 次のテーブルには、インスタンス間でテーブルが正しくクローンされるようにデータが保持されています。

   **注:**
   次のテーブルの場合、保持はグローバルスコープのみに適用されます。

   - コラボレーション記述子テーブル：
     - アプリコラボレーション記述子 (sys_appcollab_descriptor)
     - アプリコラボレーション記述子の権限 (sys_appcollab_permission_m2m)
   - コラボレーションユーザーおよびグループテーブル：
     - アプリコラボレーションユーザー (sys_appcollab_user)
     - アプリコラボレーショングループ (sys_appcollab_group)

   データ保持により、開発インスタンスのテーブルにデータが確実に保持されます。
2. 次のテーブルにはクローン除外があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コラボレーション記述子テーブル：
  - アプリコラボレーション記述子 (sys_appcollab_descriptor)
  - アプリコラボレーション記述子の権限 (sys_appcollab_permission_m2m)
- コラボレーションユーザーおよびグループテーブル：
  - アプリコラボレーションユーザー (sys_appcollab_user)
  - アプリコラボレーショングループ (sys_appcollab_group)

クローン除外により、本番インスタンスのデータが開発インスタンスにコピーされないようにします。

3. AES が資格情報テーブルを使用する唯一のアプリケーションである場合は、資格情報エイリアス、基本認証、および Discovery 資格情報のデータプリザーバーを作成することを検討してください。それ以外の場合は、本番インスタンスを非本番インスタンスにクローンするときにこれらのテーブルが上書きされないようにする必要があります。
4. 次のユーザーは、クローン作成後にロールを再アサインされる必要があります。
   - AES ユーザーグループのユーザー
   - AES ユーザー制限グループのユーザー
   - 非本番インスタンスで sn_app_eng_studio.user ロールを持つユーザー
5. クローン後、[コラボレーション権限を再同期] クローン後クリーンアップスクリプトが自動的に実行されるため、本番インスタンスと開発インスタンスで同じだったアプリケーションには、自動的に協力者が同期されます。開発者はすぐに開発を再開できます。

   **注:**
   クローンされたインスタンスでは、コラボレーションプラグインが有効化されている必要があります。

6. 一部のアプリケーションがクローン作成前にバックアップされ、クローン作成後に取得された場合は、sys_app レコードの [コラボレーション権限を再同期] 関連リンクを使用して、ユーザーとグループを適切な委任開発権限に再アサインできます。
7. クローン後にコラボレーション記述子がユーザーまたはグループに関連付けられなくなった場合 (開発アプリがソースインスタンス内になかったためにクローン中にワイプされた場合)、[空の参照のあるレコードをクリーンアップ] 関連リンクを選択して、参照されていないユーザーまたはグループをコラボレーションテーブルから削除します。この UI アクションは、クローン作成が完了し、保持されているすべてのアプリケーションが取得された後 ([コラボレーション権限を再同期] が既に実行されているとき) に実行する必要があります。

次のテーブルには、インスタンス間でテーブルが正しくクローンされるようにデータが保持されています。

- パイプラインインスタンス
- 認証要求キー
- 展開要求
- 展開環境の要求

## クローン作成時にアプリテンプレートを保持

管理者は、クローンプロセス中にカスタムテンプレートが上書きされないように保護する必要があります。保護しないと、AES で作成されたテンプレート (既存のアプリケーションから作成したものと最初から作成したものの両方) がクローン作成中に消えてしまう可能性があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

AES でテンプレートを作成すると、インスタンスのカスタムアプリケーション [sys_app.list] テーブルにスコープ対象のアプリが自動的に生成されます。内容は異なりますが、テンプレートアプリケーションと標準カスタムアプリケーションは Now Platform で同様に扱われます。そのため、システムクローン作成中のアプリテンプレートの保存は、アプリケーションの保存と同じように機能します。

非本番インスタンスでアプリテンプレートを保護するには、「システムクローン中の開発におけるアプリケーションとカスタマイズの保持」のプロセスに従います。

## クローン作成とデータ保持に関する詳細情報

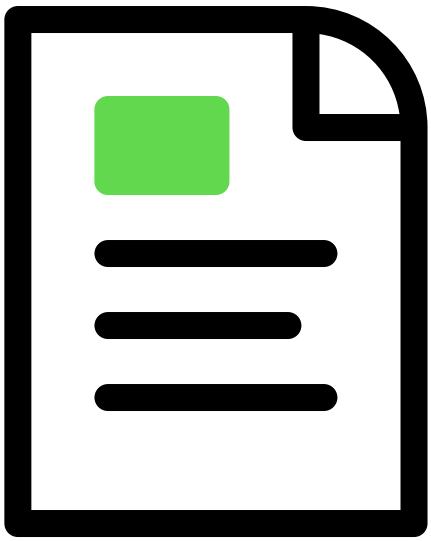
クローン作成とデータ保持の詳細については、次のトピックを参照してください。

- システムクローン ツールの使用の詳細については、「システムクローン」を参照してください。
- データ保持の詳細については、「クローン作成ターゲットインスタンスのデータ保持」を参照してください。
- AES を使用したインスタンスのクローン作成の詳細については、ServiceNow University の『App Engine Studio システム管理者ガイド』を参照してください。

| AES でのインスタンスのクローン作成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow は、App Engine Studio を使用したインスタンスのクローン作成に関する追加リソースをいくつか提供しています。 | <br>クローン作成の基本ナレッジ記事 |

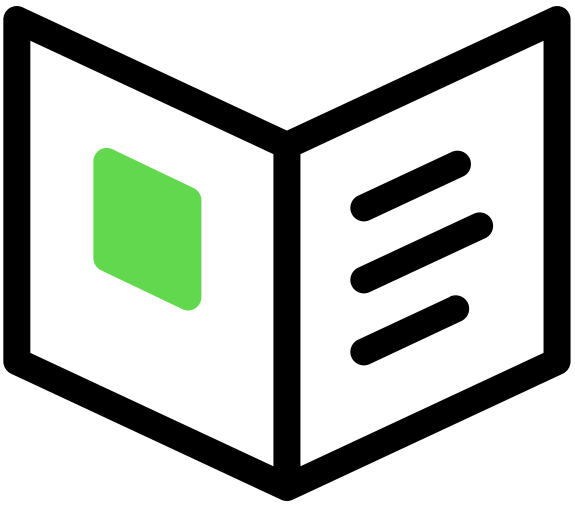
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES でのインスタンスのクローン作成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  <br>ンスタンスのクローン作成のヒントと秘訣ナレッジ記事 |
| | <br>インスタンスのクローン作成に関する広範な FAQ ナレッジ記事 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES でのインスタンスのクローン作成の詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  <br>App Engine Enterprise - システムクローン中のデータ保持に関するホワイトペーパー<br>注:<br>このリソースにアクセスするには、にログイン ServiceNow University する必要があります。 |

### **App Engine Studio** でのアプリの構築

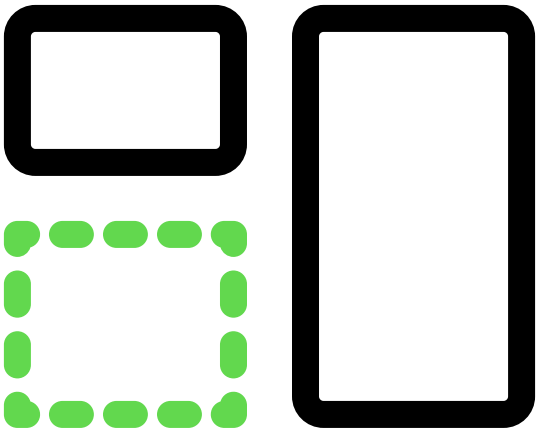
App Engine Studio (AES) でカスタムアプリケーションを構築して、組織のビジネスニーズを満たします。

## **App Engine Studio** の構築プロセス

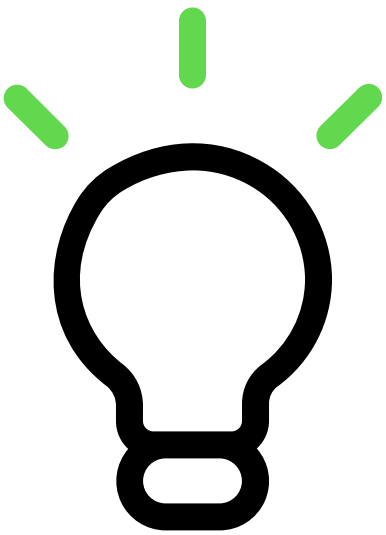
高いレベルでは、App Engine Studio で新しいアプリケーションを構築するための主な手順が 6 つあります。各ステップを選択すると、詳細が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



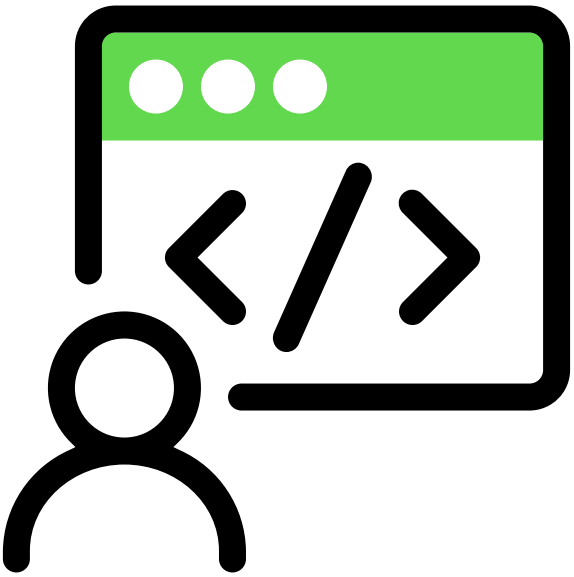
アプリ開発の計画



アプリ開発のためのアイデアの送信

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

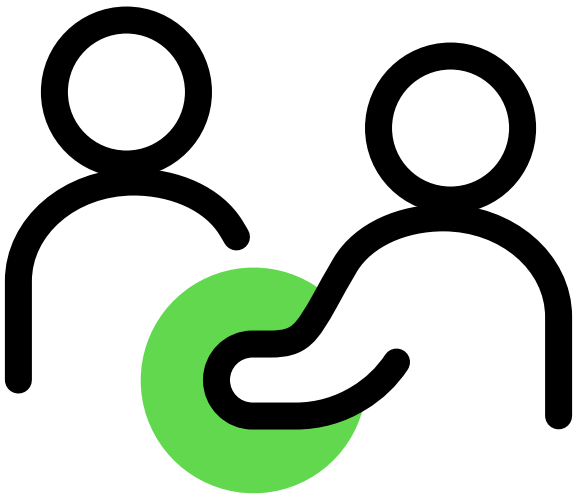


**AES** を使用して開発者を委任する

アプリの作成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



他の開発者とのコラボレーション

承認と公開のためのアプリの送信

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を使用したアプリの展開の管理 パイプラインと展開

## 考慮事項

App Engine Studio でアプリケーションを構築する際に念頭におく必要があるいくつかの考慮事項があります。

- アクセス App Engine Studio するには、 **App Engine Studio** > **App Engine Studio** または、次の Web アドレスを使用します <instance-name>.service-now.com/now/appenginestudio。有効なリンクがない場合は、管理者にお問い合わせください。
- App Engine Studio で異なるアプリケーション間を移動すると、それに応じてアプリケーションスコープが変更されます。

## データ、エクスペリエンス、自動化、およびセキュリティの操作

App Engine Studio を使用すると、必要な数のデータテーブル、エクスペリエンスのタイプ、ロジックと自動化、セキュリティロールを必要に応じて追加できます。ただし、アプリが必要としない場合は、4 つのカテゴリすべてをアプリに追加する必要はありません。

### アプリ開発の計画

[store-future...BEGIN review] New [End]

App Engine Studio (AES) のアプリケーション開発プロセスは、次の効果的なアプリのアイデアを出すことから始まります。ビジネスに利益を提供するアプリを開発するには、慎重に計画することが重要になります。

## **Now Platform** への適合性

アプリケーションの特性を考慮して、Now Platform に適しているかどうかを判断します。

| 適合性が高い場合 | 適合性が低い場合 |
| --- | --- |
| • 簡易フォーム<br>• タスク管理<br>• Request Management<br>• スプレッドシート駆動のプロセス<br>• 繰り返し可能なプロセス | • 非構造化データ<br>• 繰り返し不可能なプロセス<br>• グラフィック処理が必要なコンテンツ<br>• ストリーミングオーディオまたはビデオ<br>• 高度にカスタマイズされたユーザーインターフェイス |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する 各社の 商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 質問 | 回答と考慮事項 |
| --- | --- |
| のユーザーよりも増やしたり減らしたりする必要がありますか？ | |
| アプリケーションの主な使用目的は何ですか？ アプリケーションは、情報の提供、情報の収集、情報のルーティング、情報の検索、要求、または情報の共同作業に使用されていますか？ | アプリケーションの目的を特定することで、アプリケーションに構築する必要がある機能を確立できます。 |
| アプリケーションで情報を入力する必要がありますか？ それともアプリケーション内のデータが ServiceNow インスタンス (つまりユーザーデータ) に存在しますか？データは外部ソースからインポートされますか？ | 利用可能なデータソースを可能な限り使用して、データの重複を回避し、ビジネス目標を達成するために必要なデータがアプリケーションに含まれるようにします。 |
| ユーザーはアプリケーションをどのように操作しますか？ユーザーはコンピューターまたはモバイルデバイスを使用してアプリケーションにアクセスしますか？ | ユーザーがアプリケーションにアクセスする手段を把握することは、アプリケーションの機能の構築方法に影響します。 |
| アプリケーションについてステークホルダーにどのようにレポートしますか？ | アプリケーションがビジネス目的を満たしている場合は、アプリケーションに関連する使用状況、定着、および主要な事業達成目標を示すレポートを提供する必要があります。 |
| このアプリケーションをどのように維持しますか？ | アプリケーションのメンテナンスを最初に計画することで、開発プロセスの障害を防ぐことができます。 |

これらの質問に対する回答は、事前定義されたテンプレートに基づいてアプリケーションを作成するか、または新規にアプリを作成するかを決定するために役立ちます。

## 不可逆的な考慮事項

アプリケーションの構築時に実行する一部のアクションは、取り消すことができません。そういったアクションを意識して事前に計画してください。

| アクション | 考慮事項 |
| --- | --- |
| スコープ対象のアプリケーションまたはグローバルアプリケーションの作成 | アプリケーションを作成するときは、プライベートスコープ (スコープ対象のアプリケーション) またはグローバルスコープ (グローバルアプリケーション) のどちらで作成するかを選択できます。スコープ対象のアプリケーションには、開発、アプリケーション展開、およびデータセキュリティを管理するための追加機能があります。デフォルトでは、すべてのアプリケーションはプライベートスコープで作成されます。 市民開発者は通常、スコープ対象のアプリケーションを操作する必要があります。 |
| 異なるインスタンスの使用 | Proof of concept (PoC) アプリケーションは、次から取得した個人開発者インスタンス (PDI) で構築できます。 ServiceNow 開発者サイト . |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アクション | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | • PDI 名は dev12345.service-now.com のようになります。<br>• PoC アプリケーションは PDI で再構築できます。PoC アプリを PDI にインポートしないでください。<br><br>組織が使用する本番アプリケーションは、組織のテストおよび展開プロセスに従うことができるように、開発インスタンスで作成する必要があります。最終的に組織の本番インスタンスに展開されるアプリケーションの開発に使用するインスタンスについては、ServiceNow 管理者にお問い合わせください。 |
| アプリケーション名の選択 | オートコンプリートは、アプリケーションの表示名に基づいて、アプリケーションスコープとも呼ばれる内部名の提案を表示します。アプリケーションスコープは x_[会社コード]_[app_name] の形式で記述され、たとえば x_acme_legal_request のようになります。<br><br>アプリケーションで作成されたすべてのプロパティはアプリケーションスコープ名を継承するため、アプリケーションの開発を開始する前に慎重に選択してください。<br><br>**注:**<br>アプリケーションの表示名はいつでも変更できますが、アプリケーションスコープ名は変更できません。 |
| テーブル名とフィールドの選択 | アプリケーションを作成したら、テーブルとフィールドの作成を開始します。テーブルとフィールドには、作成時にのみ編集する必要がある内部データベース名があります。 |

## アプリケーション取り込みプロセス

組織のメンバーは、アプリケーション取り込みと呼ばれるプロセスを通じてアプリ開発のアイデアを送信できます。アイデアが送信されて承認されると、開発者は App Engine Studio のガイド付きの直感的なアプリ開発環境を使用してアプリの構築を開始できます。

アプリケーション取り込み要求プロセスには、次のメリットがあります。

- アプリのアイデアを要求、承認、追跡、保存するプロセスを簡素化します。
- すべてのアプリアイデアを可視化することで、計画を強化します。
- 繰り返しの要求を除外するための効率的なプロセスを提供します。

詳細については、「アプリ開発のためのアイデアの送信」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 取り込み要求フォームは、標準 サービスカタログ から入手できます。このフォームを変更する方法については、「サービスカタログアイテム」を参照してください。
- 取り込み要求プロセスは フローデザイナー を使用して承認フローを決定します。承認フローを調整する場合は、「フロー」を参照してください。
- 管理者は、次で取り込みアプリケーション要求をレビューします：App Engine 管理センター 。詳細については、「App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理」を参照してください。

## アプリケーションテンプレート

アプリケーションテンプレートは、特定の目的をサポートするための事前定義されたコンテンツを提供します。たとえば、出張要求テンプレートは、従業員の出張要求を送信および承認するためのアプリケーションコンテンツを提供します。アプリケーションの目標に最も適したテンプレートを選択してください。

利用可能なテンプレートがアプリケーションの目的に適合しない場合は、最初からアプリを作成し、開発プロセスのすべての側面を制御できます。

### アプリの作成

App Engine Studio (AES) のテンプレートを使用して、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリケーションに自動的に組み込みます。または、最初からアプリを作成し、必要に応じてカスタマイズします。

App Engine Studio でアプリケーションを構築するには、次のコンテンツを追加します。

データ

: アプリケーションに保存されている情報です。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。テーブルを使用してアプリケーションデータを設定します。

エクスペリエンス

: ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。

ロジックと自動化

: ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときに管理者に通知を送信するフローを構築できます。

セキュリティ

: アプリケーションを使用できるユーザーを限定するロールとアクセス制御です。

**注:**
AES でアプリを作成するには、管理者であるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

アプリケーションテンプレートを使用する場合、1 つ以上のこれらのアイテムがアプリケーションに自動的に追加されます。その後でそれらを編集して、特定のビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。テンプレートを使用して作成したアプリケーションに、さらにデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、またはセキュリティを追加することもできます。

アプリケーションを新規に構築するには、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリケーションに追加し、それぞれを編集します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成

事前定義されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを使用するアプリケーションを App Engine Studio (AES) で構築します。アプリをテンプレートコンテンツに追加し、組織に合わせてカスタマイズします。

### 始める前に

> **注:**
> AES でアプリを作成するには、管理者であるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

### このタスクについて

App Engine Studio でテンプレートを使用すると、アプリケーション作成の時間と労力を節約できます。ServiceNow Store からいくつかのテンプレートをダウンロードすることも、既存のアプリケーションからテンプレートを作成することもできます。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

テンプレートからアプリを作成する短いビデオ

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [テンプレート] タブで、利用可能なテンプレートを参照します。
3. 使用するテンプレートにカーソルを合わせ、[テンプレートを使用] を選択します。
4. アプリケーションの名前と説明を入力します。
5. オプション: 画像を AES ページにドラッグするか、コンピューターでファイルを参照して、ロゴを追加します。
6. [続行] を選択します。
7. サマリー画面で、[アプリホームに移動] を選択します。
8. アプリホームから、テンプレートを使用して作成されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを確認します。
   ビジネスニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズするために、これらの事前定義されたアイテムを編集したり、独自のアイテムを追加したりできます。詳細については、「アプリの拡張」を参照してください。

### 次のタスク

アプリケーションの構築が完了したら、承認のためにアプリケーションを送信し、管理者にレビューと展開を実施してもらいます。詳細については、「承認と公開のためのアプリの送信」を参照してください。

## 利用可能なテンプレート

App Engine Studio (AES) でアプリケーションテンプレートを使用して、事前設定されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを使用してアプリケーションを作成します。

テンプレートは、構築する可能性のある多くのアプリケーションの開始点として適しています。テンプレートを使用してアプリケーションを開始し、アプリケーションをカスタマイズすることもできます。以下のテンプレートのいずれかを使用して本格的なアプリケーションを構築するか、ニーズに合わせてカスタマイズされたアプリを作成するための開始点として使用します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

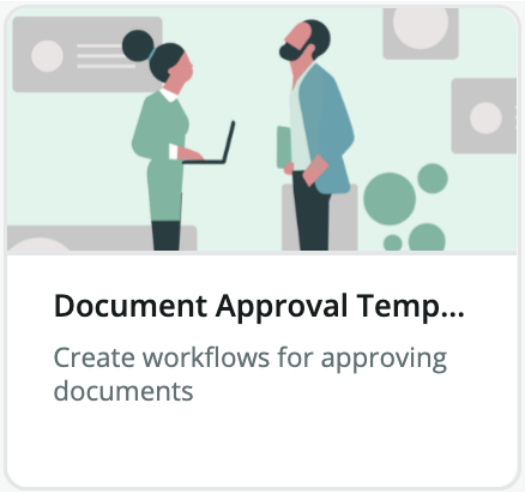


自動翻訳

### ドキュメント承認テンプレート

ドキュメント承認テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、組織内のドキュメントの承認を管理します。

ドキュメント承認テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




ドキュメント承認アプリを使用すると、ユーザーがドキュメント承認ワークフローをすばやく作成して使用できます。ドキュメント所有者と送信者は、承認が必要なドキュメントをアップロードし、それらの承認の進捗状況を確認できます。指定された承認者は、ドキュメントを承認または却下するか、コメントを付けて返すことができます。

管理者は、ドキュメント承認アプリケーションを使用して、ドキュメントタイプごとに異なるワークフローを作成できます。

このアプリテンプレートは、ドキュメントを処理するための内部ワークフローを迅速かつ効率的に作成するための方法として理想的です。ドキュメント所有者と送信者は、独自のワークフローを介して自動的に送信を行うシンプルなアップロード機能を使用して、承認が必要なドキュメントをポータルにアップロードできます。ドキュメントが受信されると、指定されたユーザーがドキュメントを承認、却下、または編集のために返却する間、送信者はドキュメントの進捗状況をフォローします。送信者と承認者はどちらも、コメントを使用して、今後の参照のためにシステムに保存されるメモとフィードバックを送信に追加します。このアプリをさらに多様化するために、管理者は、各ドキュメントタイプとユーザー向けにカスタマイズされたワークフローを無制限に作成し、ドキュメントカテゴリに必要な内容に応じて複数のステージと承認者を設定できます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### ドキュメント承認テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のドキュメント承認テンプレートに含まれています。

#### ドキュメント承認アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| ドキュメント承認者テーブル<br><br>[x_ <company-code>_ <document_approver>] | ドキュメント承認者、そのコメント、およびドキュメントのステータスを追跡します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| テーブルラベル [name] | 説明 |
| --- | --- |
| ドキュメント承認カテゴリテーブル<br><br>[x_ <company-code>_<br><document_approval_category>] | ドキュメント承認要求のカテゴリを追跡します。 |
| ドキュメント承認テーブル<br><br>[x_ <company-code>_<br><document_approval>] | ドキュメント承認要求を追跡します。 |

## ドキュメント承認アプリテンプレートでのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| ドキュメント承認 \| デフォルトビュー | フォーム | ドキュメント承認要求を作成するためのフォーム。 |
| ドキュメント承認 \| ポータル | フォーム | ドキュメント承認要求を作成するためのシンプルなフォーム。 |
| ドキュメント承認カテゴリ \| デフォルトビュー | フォーム | ドキュメント承認レコードにフローを添付するためのフォーム。 |
| ドキュメント承認カテゴリ \| ワークスペース | フォーム | ドキュメント承認レコードにフローを添付するためのフォーム。 |
| アプリ名ワークスペース | ワークスペース | メインのドキュメント承認アプリワークスペースでは、ワークスペースでドキュメントのアップロード、承認ステータスの確認、ドキュメントの編集、送信の表示を行うことができます。承認者は、アサインされた承認を表示し、以前の送信を表示して、送信を承認または却下できます。 |
| ドキュメント承認者 \| ワークスペース | フォーム | ドキュメント承認者をレコードにアサインするためのフォーム。 |
| ドキュメント承認 \| ワークスペース | フォーム | ドキュメント承認要求を作成するためのフォーム。 |
| ドキュメント承認者 \| デフォルトビュー | フォーム | 承認者は、アサインされた承認を表示し、送信を承認または却下できます。 |
| アプリ名ポータル | ポータル | 承認のためにドキュメントを送信し、以前の送信を管理するためのメインポータル。 |
| ドキュメント承認モバイルエクスペリエンス | モバイル体験 | 従業員とマネージャーが承認ステータスを確認し、ドキュメントを承認または却下して、組織の iOS または Android アプリ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| | | を使用して送信を表示できるモバイルアプリ。 |

## ドキュメント承認アプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| ドキュメント承認 - マスターフロー | フロー - レコード | 新しいドキュメント承認レコードが送信されたときに実行されます。その後で、ドキュメントカテゴリから実行するフローを取得して実行します。 |
| ドキュメント承認通知 | メール | ドキュメント承認の変更をユーザーに通知します。 |
| 単一ステージ承認 | フロー | ユーザーのマネージャーが承認者になり、承認、返却、または却下時に基本的なメール通知を生成できるようにします。 |

## ドキュメント承認アプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| 承認者<br><br>[x_<company-name>_<document_approval_app>.approver] | 承認者は、すべてのドキュメントの作成、読み取り、削除、およびドキュメント承認カテゴリテーブルの読み取りを行うことができます。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて) |
| 管理者<br><br>[x_<company-name>_<document_approval_app>.admin] | 管理者は、ドキュメント承認 [x_ <company-code>_<document_approval>] およびドキュメント承認カテゴリ [x_ <company-code>_<document_approval_category>] テーブルで、作成、読み取り、書き込み、および削除を行うことができます。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 (すべて) |
| 送信者<br><br>[x_<company-name>_<document_approval_app>.submitter] | 送信者は、ドキュメントの作成し、自分のドキュメントの読み取り、ステータスが送信済み以外の場合に自分のドキュメントの編集、自分のドキュメントの削除を実行できます。ドキュメント承認カテゴリからデータを読み取ることもできます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、編集 (ステータスが送信済み以外で自分のもの)、削除 (自分のもの) |

### 緊急アラートテンプレート

緊急アラートテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、緊急時に通信を管理し、重要なリソースを追跡します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

緊急アラートテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

緊急アラートアプリを使用すると、自然災害や COVID-19 などの感染症の際に、組織が従業員に情報を提供し、接続を維持できます。

緊急アラートテンプレートを使用して、コマンドセンターのダッシュボードとモバイルアプリを作成し、最新のニュースを監視して従業員に通知できます。従業員は、自分のステータスを自己報告し、在宅勤務または休暇を申請し、緊急時に指示を受けることができます。マネージャーは、それぞれのチームへの影響の評価、要求の承認または却下、ステータスの要求を行い、さらに緊急時に実行するアクションに関する指示を自動的に受け取ることができます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### 緊急アラートテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の緊急アラートテンプレートに含まれています。

## 緊急アラートアプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| ステータスレポート要求テーブル<br><br>[x_<company>_<my emergency_alert_app>_status_report_requests] | 従業員によってレポートされた緊急事態の重大度を追跡します。たとえば、ステータス、危険レベルに関連付けられた色、条件などです。 |
| セルフレポートテーブル<br><br>[x_<company>_<my emergency_alert_app>_status_report] | 従業員またはマネージャーによって作成されたレポート済みの緊急事態を追跡します。たとえば、緊急事態の詳細、ステータス、期間、感染した個人などです。 |
| 緊急アラートテーブル<br><br>[x_<company>_<my emergency_alert_app>_emergency_alert] | 会社の緊急アラートを追跡します。たとえば、緊急タイプ、アラートの作成者、アラートの閲覧者などです。 |
| 作業ステータス要求タスクテーブル | 緊急の作業ステータス要求を追跡します。たとえば、要求者、アサイニー、作業のステータスなどです。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| テーブルラベル [name] | 説明 |
| --- | --- |
| [x_<company>_<my emergency_alert_app>_work_status_request_task] | |

## 緊急アラートアプリテンプレートでのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 緊急アラート \| SendEmergency AlertWS | フォーム | 新しい緊急アラートレコードを作成するフォーム。 |
| セルフレポート \| 従業員ビュー | フォーム | 従業員が緊急事態をレポートするためのフォーム。 |
| セルフレポート \| デフォルトビュー | フォーム | 従業員が緊急事態をレポートするためのフォーム。 |
| 緊急アラート - ポータル | ポータル | 従業員が、レポートされた緊急事態やチームのステータスを表示し、セルフレポートを送信できるポータル。 |
| 緊急アラート \| デフォルトビュー | フォーム | 新しい緊急アラートを作成し、ナレッジリソースをそれに接続するフォーム。 |
| セルフレポート \| レポートを更新 | フォーム | 従業員が自身の健康状態を自己報告するためのフォーム。 |
| セルフレポート \| アクティビティビュー | フォーム | セルフレポートに関するコメントを追加するフォーム。 |
| セルフレポート \| RequestReportWS | フォーム | 特定の期間内の緊急事態を自己報告するフォーム。 |
| ステータスレポート要求 \| デフォルトビュー | フォーム | 緊急事態に関する最新情報と時間と場所の詳細を送信するフォーム。 |
| セルフレポート \| ステータスレポートを更新 | フォーム | 緊急事態に関する最新情報を追加するフォーム。 |
| アプリ名ワークスペース | ワークスペース | 管理者が通知を設定および送信し、ダッシュボードを表示し、リストとフォームを構成できるワークスペース。 |
| 作業ステータス要求タスク \| デフォルトビュー | フォーム | 作業ステータス要求について従業員に最新情報を通知するフォーム。 |

## 緊急アラートアプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Emergency report/update state for managers | メール | ソースが空の場合に緊急レポートを更新するようにマネージャーに通知します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Emergency Alert App - Please report or update status | フロー - レコード | 作業のステータス更新を要求します。 |
| Emergency Alert App - Status request for employees from manager | フロー - レコード | マネージャーによってステータス要求が行われたことを従業員に通知します。 |
| Self report submitted without manager | メール | 従業員がマネージャーをリストせずに経費要求を送信したことを通知します。 |
| Emergency Alert App - Create Work Status Task When Self Report is created | フロー - レコード | セルフレポートの緊急事態が送信されたときに作業ステータスタスクを開始します。 |
| Emergency Alert App - Create Status Report Requests for Affected | フロー | ステータスレポート要求を作成または更新します。 |
| Emergency alert app - Create App Self Reports | フロー - レコード | レポート要求が作成または更新されたときに通知を送信します。 |
| Emergency Alert App - Request for WFH/Time off submitted | フロー - レコード | 在宅勤務または休暇申請の承認フローを開始します。 |
| Emergency instructions for employees | メール | ステータスの更新が要求された場合にユーザーに通知します。 |
| Emergency Alert App - Employee emergency report changes to submitted | フロー - レコード | 従業員のセルフレポートが送信されたときに通知を送信します。 |
| Emergency Alert App - Request for WFH/Time off approved/denied | フロー - レコード | 在宅勤務申請や休暇申請が承認または拒否されたときに従業員に通知を送信します。 |
| Emergency Alert App - Employee emergency report request response submitted | フロー - レコード | 従業員の緊急レポートが送信されたときに通知を送信します。 |
| Request for WFH approved | メール | 在宅勤務の要求が承認されたことを従業員に通知します。 |
| Emergency alert app - Emergency instructions for employees | フロー - レコード | 緊急時に従う指示を従業員に送信します。 |
| Please report/update status of employee | メール | 従業員のステータスに関する情報を要求します。 |
| Self-report submitted for manager | メール | 緊急アラートが作成され、レビューが必要であることをマネージャーに通知します。 |
| Emergency Instructions for managers | メール | 要求が作成され、要求に関する情報がチームに送信されることをマネージャーに通知します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Please report/update status | メール | ステータスの変更がコミットされたときに通知を送信します。 |
| Request for WFH/Time off submitted | メール | 在宅勤務または休暇の申請が正常に送信されたことを従業員に通知します。 |
| Employee Emergency report submitted | メール | 緊急レポートが正常に送信されたことを従業員に通知します。 |
| Emergency Alert App - Manager emergency request submitted | フロー - レコード | マネージャーの緊急レポートが送信されたときに通知を送信します。 |
| Emergency Alert App - Employee emergency report submitted | フロー - レコード | 従業員が緊急レポートの変更を送信したときに通知を送信します。 |
| KB 記事を作成 | フロー - レコード | 新しい緊急アラートが作成されたときにナレッジベース記事を作成します。 |
| Employee emergency report request submit | メール | ステータスの要求が送信され、マネージャーに通知されることを従業員に通知します。 |
| Emergency Alert App - Cancel work status task if self report closed | フロー - レコード | セルフレポートがクローズされた場合に作業ステータス要求をキャンセルします。 |
| Manager emergency request submitted | メール | 緊急レポートが送信されたことをマネージャーに通知します。 |
| Please report/update status of employee | メール | セルフレポートに対して必要なアクションを従業員に通知します。 |
| Request for WFH denied | メール | 在宅勤務の要求が拒否されたことを従業員に通知します。 |
| Emergency Alert App - Emergency report/update state for managers | フロー - レコード | 緊急アラートレポートの変更に基づいて通知を送信します。 |

## 緊急アラートアプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| 緊急アラート管理者<br><br>[x_<company-code>_ <my emergency_alert_app>.emergency_alert_admin] | 管理者はアプリを管理し、ダッシュボードを設定します。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 |
| 緊急アラートマネージャー<br><br>[x_<company-code>_ <my emergency_alert_app>.manager] | マネージャーは、要求の承認または却下、ダッシュボードへのアクセス、通知の送信を行うことができます。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて) |

自動翻訳

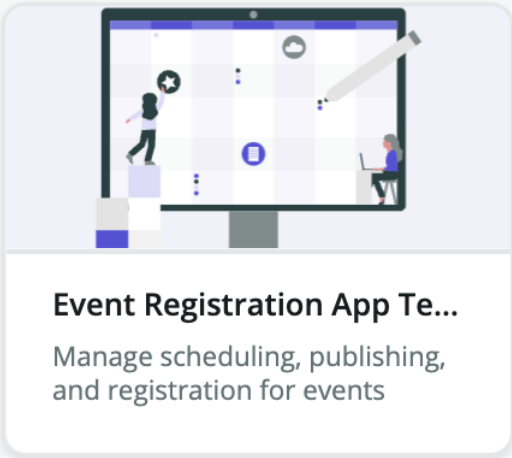
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
| --- | --- | --- |
| 緊急アラート従業員<br><br>[x_<company-name>_ <my emergency_alert_app>.emergency_alert_employee] | 緊急アラートのセルフレポート | 作成、読み取り (自分のもの)、編集 (自分のもの) |
| 管理者 | システム管理者ロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 |
| 公開 | public ロールで機能にアクセスするのにログインは必要ありません。 | デフォルトではアクセスできません。 |

### イベント登録テンプレート

イベント登録テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、会社のイベントのスケジュール、予約、および登録を管理します。

イベント登録テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




内部イベント登録アプリを使用すると、イベント主催者はイベントのリストを従業員に公開し、一元化されたデータベースで出席者を集めることができます。このアプリは、イベントの検出と登録のプロセスを簡素化するのに役立ちます。

イベント主催者は、イベントと順番待ちリストを管理し、新しいイベントを公開し、登録済みユーザーの詳細を表示できます。従業員と参加者は、イベントのリストを表示し、イベント情報を表示して、ポータルで参加を登録できます。主催者はイベントのサイズを設定することができ、要求者は自動的に順番待ちリストに追加されます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成の詳細については、「アプリケーションテンプレートの使用」を参照してください。

### イベント登録テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のイベント登録テンプレートに含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## イベント登録アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| 出席者テーブル<br><br>[x_<company-code>_<attendee>] | 名前、ステータス、送信日などのイベント出席者の情報を追跡します。 |
| イベントテーブル<br><br>[x_<company-code>_<event>] | イベント名、イベントの日付、キャパシティなどのイベント情報を追跡します。 |
| イベントの場所テーブル<br><br>[x_<company-code>_<event_location>] | キャパシティや場所などのイベントの場所の詳細を追跡します。 |

## イベント登録アプリテンプレートでのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| イベントの場所 \| ワークスペース | フォーム | 主催者と管理者がイベントを設定し、イベントアプリケーションを作成して、リストを表示できるワークスペース。 |
| アプリ名ポータル | ポータル | 主催者がイベントの詳細を作成および表示するためのメインポータル。 |
| 出席者 \| デフォルトビュー | フォーム | 出席者がイベント名を表示し、ステータスを変更して、イベントに関するメモを取ることができるフォーム。 |
| イベント \| デフォルトビュー | フォーム | 主催者がイベントを作成するために使用できるフォーム。 |
| アプリ名ワークスペース | ワークスペース | ユーザーがイベントに登録することができ、管理者/主催者が登録情報を管理できるワークスペース。 |
| イベントの場所 \| デフォルトビュー | フォーム | 主催者がイベントの場所名、住所、ステータス、およびキャパシティを追加するためのフォーム。 |
| イベント \| ワークスペース | フォーム | 主催者がイベント名、場所の詳細、タイムライン、およびコメントを追加するためのフォーム。 |
| 出席者 \| ワークスペース | フォーム | 出席者がイベントに登録し、イベントに関するメモを追加するためのフォーム。 |
| 主催者向けモバイルアプリ | モバイル体験 | 主催者は、組織の iOS または Android アプリを使用して、イ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | ベントを表示または編集し、出席者を表示できます。 |

## イベント登録アプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Event Details Have Changed | メール | イベントの変更をユーザー/出席者に通知します。 |
| Event Reminder - Confirmed attendees | メール | イベントに関するリマインダーを確認済みの出席者に送信します。 |
| Attendee registered confirmed | メール | 確認済みの登録を出席者に通知します。 |
| Send Event Reminder Email | フロー | イベント出席者にリマインダーメールを送信します。 |
| Send Event Details Changed Email | フロー - レコード | イベントの詳細が変更された場合、またはイベントがキャンセルされた場合に、すべての確認済みおよび順番待ちリストに登録された出席者にメールを送信します。 |
| Send Waitlist Confirmation Email | フロー - レコード | 出席者がイベントの順番待ちリストに追加されたときにメールを送信します。 |
| Event Registration cancelled events | フロー - レコード | イベントがキャンセルされたときに出席者レコードを更新します。 |
| Update Event Registration attendee records | フロー | イベントがキャンセルされたときまたは終了日が過ぎたときに出席者レコードを更新します。 |
| Attendee waitlisted confirmed | メール | イベント順番待ちリストに登録された出席者を確認します。 |
| Event Registration expired events | フロー | イベントの終了後に [イベントのステータス] フィールドを [期限超過] に設定し、[出席者] フィールドを [イベント終了] に設定します。 |
| Send On Hold Confirmation | フロー - レコード | 出席者がイベントへの参加を保留しているときに、主催者が出席者にメールを送信できるようにします。 |
| Event Registration Confirmation Email | フロー - レコード | 出席者がイベントへの参加を確定したときに出席者にメールを送信します。 |
| Attendee registration on hold | メール | 登録が保留中であることを出席者に通知します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Event Has Been Cancelled | メール | イベントのキャンセルをユーザーに通知します。 |
| Event Registration Process Flow | フロー | すべての要求処理待ちを処理します。 |

### イベント登録アプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| 主催者<br><br>[x_<company-name>_<my events app>.organizer] | 主催者がイベントを作成および管理します。 | 作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)。 |
| 出席者<br><br>[x_<company-name>_<my events app>.attendee] | 出席者は、イベントの検索、サインアップ、および出欠の返信を行うことができます。 | 作成、読み取り (すべて)、更新 (自分のもの)。 |
| 管理者<br><br>[x_<company-name>_<my events app>.admin] | 管理者は、イベントの場所とアプリケーションを設定します。 | 作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除。 |
| 公開<br><br>[x_<company-name>_<my events app>.public] | public ロールで機能にアクセスするのにログインは必要ありません。 | デフォルトではアクセスできません。 |

自動翻訳

### 経費事前承認テンプレート

経費事前承認テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、組織内で計画される経費を作成、追跡、および管理します。

経費事前承認テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

**Expense Pre-Approval Te...**

Create, track, and manage planned expenses in your organization

従業員は、経費事前承認アプリケーションを使用して予定経費を簡単に送信し、複数レベルの承認を受けることができます。マネージャーは、送信されたすべての要求をレビューできます。承認済み

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

の要求は予算レビューグループにアサインされます。そこで要求を承認または却下できます。従業員は、要求の最終ステータスを示す通知を受け取ります。

コンプライアンスを確保して財務計画を改善するために、管理者は意思決定テーブルを使用して既存のフローと承認のレベルをカスタマイズできます。詳細については、「Decision Builder」を参照してください。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### 経費事前承認テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の経費事前承認テンプレートに含まれています。

## 経費事前承認アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| 予算定義<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>_budget_definition] | すべての予算の説明。 |
| 経費要求<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>expense_request] | 従業員によって送信された経費要求。 |
| 経費明細<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>_expense_line_item] | 経費要求の各経費明細。 |

## 経費事前承認アプリテンプレートでのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| 経由要求 \| デフォルトビュー | フォーム | 新しい経費要求を作成するためのフォーム。 |
| 予算定義 \| デフォルトビュー | フォーム | 指定された期間の予算を定義するフォーム。 |
| 予算レビュー担当者 | モバイル体験 | 予算レビュー担当者のモバイルエクスペリエンスを定義する方法。 |
| 経費要求 \| ワークスペース | フォーム | 新しい経費要求を作成するためのフォーム。 |
| 経費要求 \| コスト承認 | フォーム | 管理者からの新しい経費要求を作成するフォーム。 |
| マネージャー | モバイル体験 | マネージャーのモバイルエクスペリエンスを定義する方法。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 予算定義 \| ワークスペース | フォーム | 指定された期間の予算を定義するワークスペースビューのフォーム。 |
| アプリ名 - 予算ワークスペース | ワークスペース | すべての予算要求の概要を構成する方法。 |
| 経費要求 | レコードプロデューサー | 従業員が経費要求を送信する方法。 |
| 経費明細 \| デフォルトビュー | フォーム | 経費要求に経費明細を追加するフォーム。 |
| 経費要求 SLA \| デフォルトビュー | フォーム | Service Level Agreement (SLA) の違反に基づいて経費要求を作成するためのフォーム。 |
| 予算定義 \| コスト承認 | フォーム | 指定された期間の予算を定義するコスト承認ビューのフォーム。 |
| アプリ名 - マネージャーワークスペース | ワークスペース | マネージャーがアサインされた経費要求を承認または却下できるワークスペース。 |
| コスト承認モバイルアプリ | モバイル体験 | 次のアクションに使用される iOS または Android アプリ：<br>• 経費要求の承認または却下。<br>• 予算と経費要求を比較するための履歴データを表示するダッシュボードの表示。<br>• 予算レビュー担当者による予算の作成または変更。 |
| コスト承認ワークスペース - 予算レビュー担当者 | ワークスペース | 予算レビュー担当者は、次のアクションにワークスペースを使用できます。<br>• 経費要求の承認または却下。<br>• 予算の作成または変更。<br>• 割り当て済み、消費済み、利用可能、および将来のために割り当てられた予算資金に関するデータの表示。<br>• 予算と経費要求を比較するための履歴データを表示するダッシュボードの表示。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 経費事前承認アプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Expense request approved - reviewer | メール | 経費要求が承認されたことをユーザーに通知します。 |
| Expense Request Assigned | メール | 経費要求がアサインされたことをユーザーに通知します。 |
| Expense request - SLA breached | メール | Service Level Agreement (SLA) に違反していることをユーザーに通知します。 |
| Budget Creation | フロー - レコード | 予算レビュー担当者が予算を作成するときに実行されます。経費要求の開始日をチェックし、要求を対応する期間の予算に関連付けます。 |
| Expense request - SLA-close to due | メール | Service Level Agreement (SLA) の期日が近いことをユーザーに通知します。 |
| Expense Request Reassigned | メール | 要求が再アサインされたことをユーザーに通知します。 |
| Expense request comment added - Assigned | メール | 要求に追加されたコメントについてユーザーに通知します。 |
| New Expense Request or manager approval | メール | 新しい経費要求についてユーザーに通知します。 |
| Expense request reject | メール | 要求が却下されたことをユーザーに通知します。 |
| Budget state update | フロー | 優先度別に各予算レコードを更新します。 |
| Expense Request Inserted - Requestor | メール | 要求が正常に作成されたことをユーザーに通知します。 |
| Expense Request Approved | メール | 要求が承認されたことをユーザーに通知します。 |
| Expense request work note added | メール | 要求に作業メモが追加されたことをユーザーに通知します。 |
| Notify Team - Work note added | メール | 要求に作業メモが追加されたことをチームに通知します。 |
| Expense request comment added - Employee | メール | 要求にコメントが追加されたことをユーザーに通知します。 |
| Expense Request Rejected | メール | 要求が却下されたことをユーザーに通知します。 |
| Budget Updation | フロー - レコード | 予算レビュー担当者が予算を変更するときに実行されます。予算が変更された後に、このフローは対応する経費要求の [予算] フィールドを更新します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Notify Requestor - Comments added | メール | 要求にコメントが追加されたことをユーザーに通知します。 |
| SLA Notification - Expense Request - warning | フロー - レコード | 潜在的な Service Level Agreement (SLA) の問題について管理者に警告します。 |
| Budget Approval Process | フロー - レコード | 次のシナリオで経費承認を取得するために実行されます。<br>• 従業員がマネージャーの承認を得るために経費要求を送信した場合。<br>• マネージャーの承認後、経費要求は最終レベルの承認のために予算レビュー担当者に送信されます。 |
| Budget Calculations | フロー | 予算レビュー担当者が次のいずれかのアクションを実行したときに、費やされた予算と利用可能な予算を再計算します。<br>• 予算を作成する<br>• 既存の予算を変更する<br>• 経費要求を承認する |

## 経費事前承認アプリテンプレートのロール

| ロールラベル [名前] | 説明 |
| --- | --- |
| 予算レビュー担当者<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>.Budget reviewer] | 予算レビュー担当者は、予算を作成または変更し、経費要求に対して最終レベルの承認を提供できます。 |
| マネージャー<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>.Manager] | マネージャーは、第 1 レベルで経費要求を送信、表示、承認、または却下できます。 |
| 従業員<br><br>[x_<company-code>_<expense_approval_app>.Employee] | 従業員は経費要求を送信および追跡できます。 |
| 管理者 | システム管理者ロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。 |

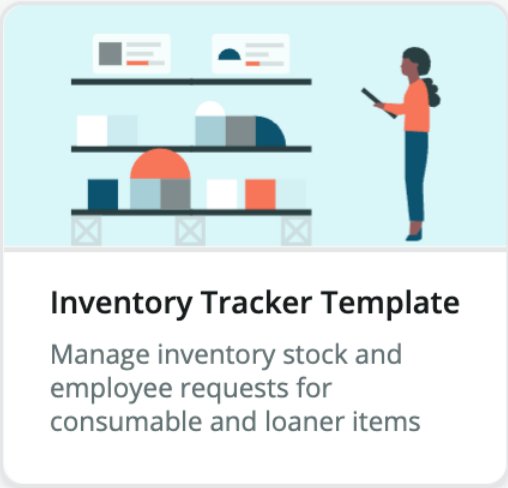
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### インベントリトラッカーテンプレート

インベントリトラッカーテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、在庫と資産のステータスを追跡します。

インベントリトラッカーテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




インベントリトラッカーアプリを使用すると、会社とチームが、何を持っているか、どこにあるか、誰が持っているかを簡単に追跡できます。いつでも、どこでも、どのデバイスでも。会社がアイテムの在庫を追跡する必要がある場合は、このアプリを自宅または倉庫で在庫管理ツールまたはインベントリトラッカーとして使用できます。

このアプリは、消耗品、貸与、製造中止の 3 つのインベントリユースケースをカバーしています。従業員は、モバイルアプリまたは Web ポータルを介して任意の倉庫からアイテムを要求できます。インベントリマネージャーは再注文レベルを設定でき、アイテムの在庫が減少した場合に自動的に通知されます。未処理の在庫がある製造中止アイテムは引き続き要求できますが、インベントリマネージャーに再注文を要求することはありません。インベントリマネージャーは、手動で、またはスプレッドシートをアップロードして、アイテムを作成できます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### 在庫トラッカーテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の在庫トラッカーテンプレートに含まれています。

#### 在庫トラッカーアプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| インベントリ管理テーブル<br><br>[inventory_ x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_inventory_control] | ビジネスで使用するアイテムの在庫を追跡します。たとえば、アイテム名、メーカー、画像、カテゴリ、場所などです。 |
| インベントリ要求テーブル<br><br>[x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_inventory_request] | 従業員によって送信されたインベントリ要求を追跡します。たとえば、要求者の名前と部門、在庫の場所、数、要求日、返却日などです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| テーブルラベル [name] | 説明 |
| --- | --- |
| 在庫の場所テーブル<br><br>[x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_stock_location] | 在庫アイテムの場所を追跡します。たとえば、名前、住所、インベントリマネージャーなどです。 |

## 在庫トラッカーアプリテンプレートのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| インベントリ管理 \| ポータル | フォーム | 管理者およびマネージャーがインベントリアイテムを追加し、在庫数量を表示し、在庫の場所を追加するためのフォーム。 |
| インベントリ要求 \| ワークスペース | フォーム | 従業員がインベントリ要求を送信および管理するためのフォーム。 |
| インベントリ管理 \| デフォルトビュー | フォーム | 管理者およびマネージャーがインベントリアイテムを管理し、在庫数量を表示し、在庫の場所を管理するためのフォーム。 |
| アプリ名 \| ポータル | ポータル | すべてのユーザーがインベントリ要求と追跡を管理できるポータル。 |
| インベントリ要求 \| デフォルトビュー | フォーム | 管理者およびマネージャーが、インベントリアイテム、在庫数量、在庫の場所を表示し、メモを追加するためのフォーム。 |
| インベントリ要求 \| ポータル | フォーム | 管理者およびマネージャーがインベントリアイテムを要求するためのフォーム。 |
| アプリ名 \| ワークスペース | ワークスペース | すべてのインベントリトラッカーアプリ構成を管理するワークスペース。 |
| 在庫の場所 \| ワークスペース | フォーム | インベントリマネージャーが在庫名、住所、および説明を追加するためのフォーム。 |
| 在庫の場所 \| デフォルトビュー | フォーム | インベントリマネージャーが在庫名、住所、説明、部門を追加するためのフォーム。 |
| インベントリ管理 \| ワークスペース | フォーム | 管理者およびマネージャーがインベントリアイテムを管理し、在庫数量と在庫の場所を表示するためのフォーム。 |
| Inventory Tracker アプリ | フォーム | 従業員が、組織の iOS または Android アプリを使用して、インベントリリストを表示、在庫数の確認、アイテムの要求、要 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 求のステータスの確認を行うためのフォーム。 |

## 在庫トラッカーアプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Inventory Tracker Request Completed - Admin/Manager | フロー - レコード | 在庫要求が完了したときに通知を送信します。 |
| Request Update as Submitted - Manager | メール | 要求アイテムに新しい更新があることをマネージャーに通知します。 |
| Item Out of Stock- Admin | メール | 在庫切れのアイテムを管理者に通知します。 |
| Return Date Updated - Manager | メール | 更新された返却日をマネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Request Submitted - Manager | フロー - レコード | 在庫要求が送信されたときにマネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Inventory track Created - Admin | フロー - レコード | 在庫追跡が作成されたときに管理者に通知します。 |
| Stock Location Updated - Admin | メール | 更新された在庫の場所を管理者に通知します。 |
| Inventory Tracker Checked Out - Employee | フロー - レコード | アイテムがチェックアウトされたときに従業員に通知します。 |
| Request Overdue - Manager | メール | 期限切れの要求をマネージャーに通知します。 |
| Item Returned - Manager | メール | 返却されたアイテムをマネージャーに通知します。 |
| Request Completed - Manager | メール | 完了した要求をマネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Request Approved - Employee/ Admin/Manager | フロー - レコード | 在庫要求が承認されたときに従業員、管理者、マネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Request Submitted - Employee | フロー - レコード | 在庫要求が送信されたときに従業員に通知します。 |
| Checked Out - Employee | メール | チェックアウトされたアイテムを従業員に通知します。 |
| Inventory Tracker Out of Stock - employee | フロー - レコード | 在庫アイテムが在庫切れの場合に従業員に通知します。 |
| Return Date Updated - Admin | メール | 更新された返却日を管理者に通知します。 |
| Request Canceled - Manager | メール | 要求がキャンセルされたときにマネージャーに通知します。 |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Inventory Tracker Stock Location Updated - Admin | フロー - レコード | 在庫の場所が更新されたときに管理者に通知します。 |
| Item Out of Stock - Manager | メール | アイテムが在庫切れになったときにマネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Item Returned - Employee/ Manager | フロー - レコード | アイテムが返却されたときに従業員またはマネージャーに通知します。 |
| Inventory Tracker Inventory track updated- Admin | フロー - レコード | 在庫追跡が更新されたときに管理者に通知します。 |
| Item returned - Employee | メール | 返却されたアイテムを従業員に通知します。 |
| Request Denied - Admin | メール | 拒否された要求を管理者に通知します。 |
| Inventory Tracker Stock Location Created - Admin | フロー - レコード | 在庫の場所が作成されたときに管理者に通知します。 |
| Inventory Item Discontinued - Admin | メール | 製造中止になったアイテムを管理者に通知します。 |
| Request Approved - Manager | メール | 承認された要求をマネージャーに通知します。 |
| Inventory Item Updated - Admin | メール | 更新された在庫アイテムを管理者に通知します。 |
| Inventory Tracker Inventory track Created - Admin | フロー - レコード | 在庫追跡が作成されたときに管理者に通知します。 |
| Out of stock - Employee | メール | 在庫切れになったアイテムを従業員に通知します。 |
| Inventory Tracker Request Denied - Admin | フロー - レコード | 在庫要求が却下されたときに管理者に通知します。 |
| Request Approved - Employee | メール | 承認された要求を従業員に通知します。 |
| Inventory Tracker Item Out of stock - Admin/Manager | フロー - レコード | 在庫アイテムが在庫切れの場合に管理者とマネージャーに通知します。 |
| Request Approved - Admin | メール | 承認された要求を管理者に通知します。 |
| Request submitted - Manager | メール | 送信された要求を管理者に通知します。 |
| Request Overdue - Admin | メール | 期限切れになった要求を管理者に通知します。 |
| Request Denied - Manager | メール | 拒否された要求をマネージャーに通知します。 |
| Stock Location Created - Admin | メール | 在庫の場所が作成されたときに管理者に通知します。 |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Overdue - Employee | メール | 期限切れになったアイテムを従業員に通知します。 |
| Inventory Tracker Request Updated - Manager | フロー - レコード | 在庫要求が更新されたときにマネージャーに通知します。 |
| Request Denied - Employee | メール | 拒否された要求を従業員に通知します。 |
| Inventory Tracker Inventory Discontinued - Admin | フロー - レコード | 在庫アイテムが製造中止になったときに通知を送信します。 |
| Inventory tracker Return Date Changes - Admin/ Manager | フロー - レコード | 返却日が変更されたときに管理者とマネージャーに通知を送信します。 |
| Comments Added - Manager | メール | 追加されたコメントについてマネージャーに通知します。 |
| Comments Added - Admin | メール | 追加されたコメントについて管理者に通知します。 |
| Inventory tracker Request Denied - Employee | フロー - レコード | 在庫要求が拒否されたときに従業員に通知を送信します。 |
| Request Submitted - Employee | メール | 従業員が要求を送信したときに従業員に通知します。 |
| Request created - Admin | メール | 要求が作成されたときに管理者に通知します。 |
| Inventory Tracker Comments Added - Admin/Manager | フロー - レコード | 在庫要求にコメントが追加されたときに管理者とマネージャーに通知を送信します。 |
| Request Canceled - Admin | メール | キャンセルされた要求を管理者に通知します。 |
| Inventory Tracker Request Overdue - Employee/ Manager/Admin | フロー | 要求が期限切れになった場合に従業員、マネージャー、管理者に通知を送信します。 |
| Inventory Item created - admin | メール | 在庫アイテムが作成されたときに管理者に通知します。 |
| Request Completed - Admin | メール | 要求が完了したときに管理者に通知します。 |
| Inventory tracker Request Cancelled - Admin/Manager | フロー - レコード | 従業員が在庫要求をキャンセルしたときに管理者とマネージャーに通知を送信します。 |
| Inventory tracker Request Created - Admin | フロー - レコード | インベントリ要求が作成されたときに管理者に通知を送信します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

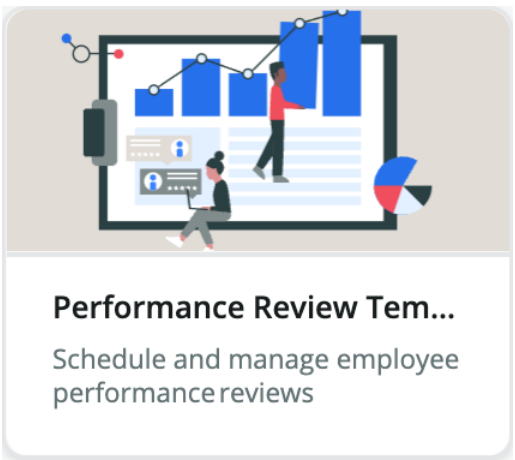
## 在庫トラッカーアプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| 従業員<br><br>[x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.employee] | 従業員は、インベントリリストの表示、在庫の確認、アイテムの要求、要求のステータスの確認を行うことができます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの) |
| 管理者<br><br>[x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.admin] | 管理者は、複数の在庫マネージャーと在庫の場所を設定できます。 | 作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除 |
| インベントリマネージャー<br><br>[x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.inventory_manager] | インベントリマネージャーは、在庫アイテムの作成、アイテムのタイプの定義、在庫レベルの監視、ベンダー情報の更新を行うことができます。 | 作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて) |
| 公開<br><br>[x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.public] | 公開ユーザーは、public ロールで機能にアクセスするためにログインする必要はありません。 | ロールを含みません。 |

### パフォーマンスレビューテンプレート

パフォーマンスレビューテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、パフォーマンスレビューのスケジュール、通知、およびフィードバックを自動化します。

パフォーマンスレビューテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




パフォーマンスレビューアプリは、年次または四半期レビューのスケジュール設定、従業員のパフォーマンスのレビュー、マネージャーのフィードバックの提供のプロセスを自動化します。アプリにはデフォルトでレポート情報が表示され、マネージャーは従業員のパフォーマンスレビューを表示、更新、要求できます。

従業員は、Web ポータルを介して自己評価を完了し、ステータスを監視し、評価を確認できます。アプリは、自動的に従業員とマネージャーに評価を送信するように通知します。

マネージャーは、自己評価の更新の要求、マネージャー評価の送信、評価の確認を行い、さらにポータルを介してチームの送信のステータスを監視することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HR/管理者ロールは、年ごと、半年ごと、または四半期ごとのレビュープロセススケジュールを選択し、自己評価テンプレートとマネージャー評価テンプレートの両方を編集できます。HR/管理者は、部門、組織、またはマネージャー別のすべての評価ステータスを監視できます。

次の機能を組み込むことで、このテンプレートを改善できます。

- 継続オプションをレビュープロセスとして追加する
- Playbook を使用してレビュースケジュールを管理する
- セルフレビューとマネージャーレビューの両方に HR レビュー/エスカレーションプロセスを含める
- ピアレビュープロセスを追加する
- 目標設定または目標と主要な結果 (OKR) を追加する
- HR ソフトウェアとのデータ連携を追加する
- スキルセットアセスメント測定基準を追加する
- パフォーマンス改善計画 (PIP) プロセス/個々の開発計画を追加する
- 報酬情報/年次パフォーマンス評価 (APR) を含める

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### パフォーマンスレビューテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のパフォーマンスレビューテンプレートに含まれています。

## パフォーマンスレビューアプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| パフォーマンスレビューテーブル<br><br>[x_<company-code>_<my performance_review_app>_performance_review] | 従業員とマネージャーによって作成されたパフォーマンス評価を追跡します。たとえば、従業員の名前、レビューのステータス、マネージャーのフィードバックなどです。 |

## パフォーマンスレビューアプリテンプレートのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| パフォーマンスレビュー \| 設定の編集 | フォーム | マネージャーがパフォーマンスレビュー設定を構成し、通知を追加できるフォーム。 |
| アプリ名 \| ワークスペース | ワークスペース | 管理者とマネージャーがレビュースケジュールを設定し、評価テンプレートを更新し、すべての評価のステータスを監視できるワークスペース。 |
| パフォーマンスレビューテスト \| 従業員マネージャーのフィードバック | フォーム | マネージャーが従業員評価の質問を作成し、ステータスを監視し、フィードバックを残すためのフォーム。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| パフォーマンスレビュー \| マネージャーレビュー | フォーム | マネージャーが質問を含め、従業員の回答をレビューし、フィードバックを残すために使用できるフォーム。 |
| パフォーマンスレビュー \| セルフレビュー WS | フォーム | 従業員がセルフレビューの質問に入力するためのフォーム。 |
| パフォーマンスレビュー \| ワークスペース | フォーム | マネージャーがチームの送信のステータスを監視するためのフォーム。 |
| アプリ名 \| ポータル | ポータル | 従業員が評価を送信、更新、レビュー、および確認できるポータル。 |
| パフォーマンスレビュー \| デフォルトビュー | フォーム | マネージャーと従業員がパフォーマンスレビューを表示するために使用できるフォーム。 |
| パフォーマンスレビュー \| セルフレビュー | フォーム | 従業員とマネージャーが自分のパフォーマンスの自己評価を送信するために使用できるフォーム。 |
| モバイルアプリ | モバイル体験 | 従業員は、組織の iOS または Android アプリを使用してパフォーマンスレビューにアクセスできます。 |

## パフォーマンスレビューアプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Perf Review - Send PR Employee Update Self-Eval email | フロー - レコード | PR 従業員更新の自己評価メールをトリガーします。 |
| PR Employee Manager - Eval submitted | メール | 評価が送信されたことをマネージャーに通知します。 |
| Perf Review - Send PR Employee Complete Evaluation email | フロー - レコード | PR 従業員評価完了メールをトリガーします。 |
| PR Employee Manager - Eval submitted DJ | メール | 自己評価が送信されたことをマネージャーに通知します。 |
| PR Admin Eval Deadline Passed | メール | 評価期限が過ぎたときに管理者に通知します。 |
| PR Reminder: Manager need to submit eval | メール | マネージャーに評価を送信するように通知します。 |
| PR Manager Self Evaluation Submitted | メール | マネージャーが自己評価を送信したことを管理者に通知します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Perf Review - Send PR Employee Manager - Eval submitted | フロー - レコード | PR Employee Manager - Eval submitted メールをトリガーします。 |
| PR Reminder - Employee Self Evaluation | メール | 自己評価を送信するように従業員に通知します。 |
| Perf Review - Send deadline email | フロー | システムのプロパティで指定された日付に期限リマインダーメールをトリガーします。 |
| PR Employee Complete Evaluation | メール | 評価が完了したことを従業員に通知します。 |
| PR Employee Update Self Evaluation | メール | 自己評価を更新する必要があることを従業員に通知します。 |
| Perf Review - Main Flow | フロー | レビューのトリガー、メールのリマインダー、およびレビュー期間の終了のタイミングを制御します。これは、毎日トリガーされるメインフローです。 |
| Perf Review - Send reminder emails | フロー | sys_properties で指定された日付にリマインダーメールをトリガーします。 |
| Perf Review - Create records | フロー | sys_properties で指定された日付にレビューレコードをトリガーします。 |
| Perf Review - Set review inactive | フロー | sys_properites で指定されたレビュー期間の終了日にレビューを無効にします。 |
| PR Admin Self - Eval Submitted w/o Manager | メール | マネージャーまたは役職なしで自己評価が送信された場合に管理者に通知します。 |
| PR Reminder Employee Update Self Eval | メール | 自己評価を更新するように従業員に通知します。 |
| Perf Review - Send Manager/Admin Self-Evaluation Submitted email | フロー - レコード | マネージャーなしで PR Admin Self-Evaluation Submitted メールをトリガーするか、PR Manager Self Evaluation Submitted メールをトリガーします。 |

## パフォーマンスレビューアプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| 従業員<br><br>[x_<company-name>_ <my performance_review_app>.employee | 従業員は自己評価を完了/更新し、評価を確認できます。 | 読み取り (自分のもの) と更新 (自分のもの) |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



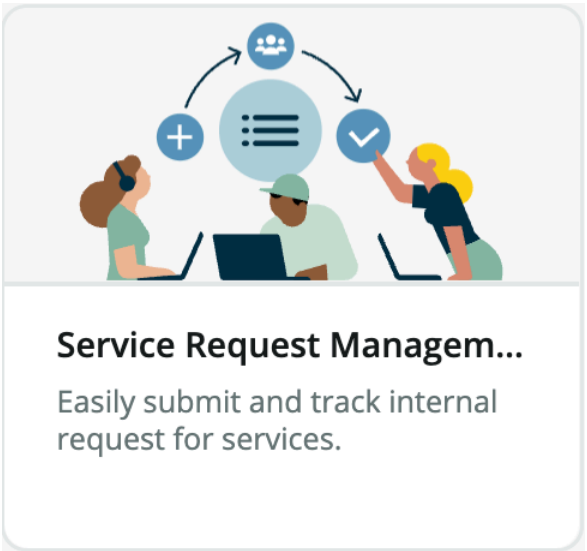
自動翻訳

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
| --- | --- | --- |
| HR/管理者<br><br>[x_<company-name>_ <my performance_review_app>.admin] | HR/管理者は、レビューのスケジュール設定 (年ごと、半年ごと、カスタム、または手動)、自己評価およびマネージャー評価テンプレートの編集、すべてのレビューのステータスの監視を行うことができます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (すべて) |
| マネージャー<br><br>[x_<company-name>_ <my performance_review_app>.manager] | マネージャーは、自己評価の更新を要求し、マネージャー評価を送信し、評価の送信に関連する問題を監視することができます。 | 読み取り (自分のチーム) と更新 (自分のチーム) |

### サービス要求管理テンプレート

サービス要求管理テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) にアプリケーションを構築し、組織内のサービス要求を作成、追跡、管理します。

サービス要求管理テンプレートを使用するには、 アプリケーションを ServiceNow Store からインストールします。




## サービス要求管理テンプレートのペルソナ

このテンプレートには、何らかの形でアプリを使用する可能性がある個人またはグループに対応するいくつかの重要なロールが含まれています。次の情報は、各ペルソナが構築するアプリケーションとやり取りする方法について説明しています。各ロールに含まれる権限の詳細については、「セキュリティ」セクションを参照してください。

要求者

要求を持っている人です。

問題：職務を完了するためにサービスまたは物理的なアイテムが必要です。要求が進行中であることを確認し、進行していることを確認する必要があります。質問がある場合や要求が変更された場合は、要求の作業者にそのことを伝える必要があります。

アプリの目標：必要な情報は何か、などのプロセスを通じて従業員を支援すること。承認プロセスを透明にし、要求のステータスと結果を常に最新の状態に保ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

履行者

タイムリーにタスクを完了する必要がある個人またはチームです。

問題：タスクをアサインするタイミングを、タスクを実行する準備ができている場合、つまり、必要な承認または依存タスク (関連する場合) がクローズされた後のみに限定してほしいと思っています。特に SLA に準拠している場合は、要求が適切なタイミングでクローズされるようにする必要があります。

アプリの目標：履行者の注意を自分とそのチームにアサインされたタスクに向けること。要求情報や SLA などの必要な情報を提供することで、顧客を支援します。

履行者のマネージャー

実行チームのマネージャーであり、タスクを実行できます。

問題：チームによってタスクが効率的にクローズされていることを確認する必要があります。サービス要求が多すぎてタスクのバックログができる、履行者のパフォーマンスが低い、承認が遅いため履行者がタスクを完了できない、などのボトルネックを特定したいと思っています。

アプリの目標：SLA が満たされるように、履行者のマネージャーに即時の対応が必要なタスクを指示すること。必要に応じて作業の優先順位を変更できるように、チームの作業内容を明確に示します。

サービスオーナー

アプリ内のサービスの所有者です。

問題：サービスの実行状況を分析し、注意が必要なサービスを特定する必要があります。必要に応じて、プロセスの改善を推奨するのに役立つ情報が必要です。

アプリの目標：解像度と応答時間で測定された各サービスのパフォーマンスを示す集計情報を提供すること。

承認者

ゲートキーパーであり、要求に応答または拒否することで、履行者の時間を節約できます。

問題：要求を実行チームに割り当てる前にレビューして、チケットが適切であることを確認する必要があります。

アプリの目標：承認が必要な要求に承認者の注意を向けること。要求や SLA 情報などの必要な情報を提供することで、顧客を支援します。

## 関連概念

サービス要求管理アプリケーションのサービスを設定する方法については、「サービスカタログのセットアップ」を参照してください。

### サービス要求管理テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のサービス要求管理テンプレートに含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## サービス要求管理 アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| プライマリ<br><br>[x_ <company-code>_<primary>] | タスクテーブルを拡張し、サービス要求管理：プライマリカタログアイテムに対して発生した要求の詳細を格納するテーブル。新しいサービスとテーブルを作成するには、この [プライマリ] テーブルを拡張します。 |
| 要求の例<br><br>[x_ <company-code>_<example_request>] | 出張要求カタログアイテムから送信された詳細を格納する [プライマリ] テーブルを拡張して作成された [要求] テーブルの例。 |
| 履行者タスク<br><br>[x_ <company-code>_<fulfiller_task>] | 履行者タスクを格納し、管理者がサービス要求を整理するのを支援します。 |

## サービス要求管理アプリテンプレートのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| 出張要求 \| 履行者ビュー | フォーム | 履行者が出張要求レコードを作成するためのフォーム。 |
| プライマリ \| 履行者ビュー | フォーム | 履行者がサービス要求レコードを作成するためのフォーム。 |
| 履行者タスク \| デフォルトビュー | フォーム | ユーザーが履行者タスクを作成するためのフォーム。 |
| 履行者ワークスペース | ワークスペース | 履行者が注意の必要な要求を確認し、要求を作成し、要求のアサインを表示し、要求に関連するデータと分析を確認するためのワークスペース。 |
| 承認者ワークスペース | ワークスペース | 承認者が承認待ちの要求を表示し、要求を承認または拒否し、要求に関連するデータと分析を確認するためのワークスペース。 |
| 履行者タスク \| 履行者タスクビュー | フォーム | ユーザーが履行者タスクを作成するためのフォーム。 |
| サービス要求管理：プライマリ | レコードプロデューサー | サービス要求に関連する情報を追加し、ドキュメントを添付するための質問が含まれています。 |
| 出張要求 | レコードプロデューサー | 出張要求に関連する情報を追加し、ドキュメントを添付するための質問が含まれています。 |
| プライマリ \| デフォルトビュー | フォーム | ユーザーがサービス要求レコードを作成するためのフォーム。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 履行者のマネージャー | ワークスペース | 履行者のマネージャーが、承認待ちの要求を表示し、要求を作成し、要求を承認または拒否し、自分やチームの要求に関連するデータや分析を確認するためのワークスペース。 |
| 出張要求 \| デフォルトビュー | フォーム | ユーザーが出張要求レコードを作成するためのフォーム。 |

## サービス要求管理アプリテンプレートでの自動化ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 履行者タスク作業メモを追加 | メール | 履行者タスクに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、および [ウォッチリスト] のユーザーに通知します。 |
| 履行プロセスのトリガー | メール | 履行者タスクが作成されたが、デフォルトの履行者または履行アサイン先グループがない場合に、サービスオーナーに通知します。 |
| 空の挿入時のアサイン先 | メール | 要求レコードが作成され、アサイニーがいない場合にアサイン先グループに通知します。 |
| 挿入時/アサイン先の変更 | メール | 要求レコードがアサインされたことをユーザーに通知します。 |
| アサインプロセス | フロー - レコード | アサイン、承認、および実行プロセスを移動するときに、新しいレコードを作成および更新します。 |
| 履行者の意思決定 | 意思決定テーブル | 各サービスのデフォルトの履行者ユーザーと履行者アサイン先グループを定義します。 |
| 承認プロセス | フロー | 承認プロセスを通じてレコードを移動します。 |
| 承認者の意思決定 | 意思決定テーブル | 各サービスのデフォルトの承認者と承認者アサイン先グループを定義します。 |
| 履行プロセス | フロー | 履行プロセスを通じてレコードを移動します。 |
| 追加された子作業メモ | メール | 出張要求タスクに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、および [ウォッチ] リストで指定されたユーザーに通知します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| プライマリ作業メモを追加 | メール | [プライマリ] テーブルの要求レコードに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、ウォッチリストのユーザーに通知します。 |

### サービス要求管理アプリテンプレートでのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 |
| --- | --- |
| 承認者<br><br>[x_<company-name>_<app_name>.approver] | 承認者ワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>] および出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。 |
| アプリ管理者<br><br>[x_<company-name>_<app_name>.app_admin] | サービス要求管理データおよびワークスペースへの完全なアクセス権を付与します。 |
| 履行者のマネージャー<br><br>[x_<company-name>_<app_name>.fulfillers_manager] | 履行者マネージャーワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>]、出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブル、および履行者タスク [x_ <company-code>_<fulfiller_task>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。 |
| リクエスタ<br><br>[x_<company-name>_<app_name>.requestor] | サービスポータルからデフォルトレコードプロデューサーの要求を送信するためのアクセスを提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>] および出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。 |
| 履行者<br><br>[x_<company-name>_ <app_name>.fulfiller] | 履行者ワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>]、出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブル、および履行者タスク [x_ <company-code>_<fulfiller_task>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。 |
| admin<br><br>[x_<company-name>_ <app_name>.admin] | システム管理者ロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。 |

### チーム連絡先テンプレート

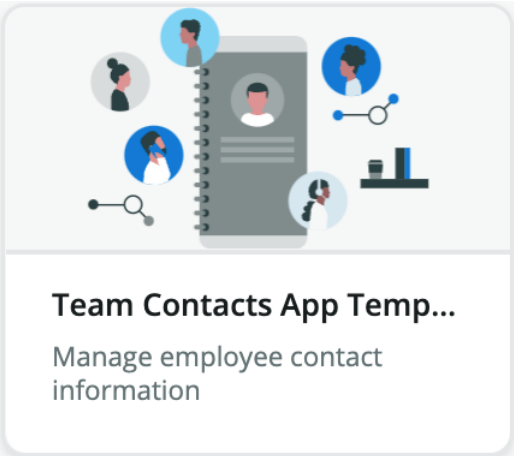
チーム連絡先テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、組織内のユーザーの連絡先情報を管理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

チーム連絡先テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




チーム連絡先アプリは、モバイルエクスペリエンスを使用して、従業員の連絡先情報を表示し、お気に入りにタグを付け、プライバシーメモを追加します。アプリでは、デフォルトでレポート情報を表示し、従業員が従業員を検索したり、従業員プロファイルを表示したり、お気に入りの従業員の連絡先リストを作成したりできます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### チーム連絡先テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のチーム連絡先テンプレートに含まれています。

## チーム連絡先アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| 連絡先の関係性テーブル<br><br>[x_<company-code>_<team_contact>_relationship_contact] | 従業員の連絡先情報を追跡します。たとえば、連絡先名、作成日、お気に入り、更新などです。 |
| リマインダーテーブル<br><br>[x_<company-code>_<team_contact>_relationship_contact_reminders] | チームによって作成されたリマインダーを追跡します。たとえば、リマインダーを送信するタイミングとリマインダーの件名などです。 |
| 関係メモテーブル<br><br>[x_<company-code>_<team_contact>_relationship_notes] | 従業員が相互に作成するメモを追跡します。たとえば、従業員の名前、連絡先の理由、HTML メモ、連絡先をお気に入りとしてマークするオプションなどです。 |

## チーム連絡先アプリテンプレートのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| 従業員モバイルエクスペリエンス | モバイル体験 | 従業員が組織の iOS または Android アプリを使用して、従業員ディレクトリおよび関係メ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | モにアクセスできるようにします。 |
| チーム連絡先 | ポータル | 従業員とマネージャーが、Web サイトを使用して従業員プロファイルを表示し、お気に入りの連絡先をマークし、関係メモを追加できるポータル。チーム連絡先ポータルには、サインインページ、ホームページ、および関係メモを追加するためのページが含まれています。 |
| メモ \| デフォルトビュー | フォーム | 連絡先情報にメモを追加するフォーム。 |
| 連絡先の関係性 | フォーム | 連絡先情報を表示するフォーム。 |
| リマインダー \| ポータル | フォーム | 従業員とマネージャーがリマインダーを設定するためのフォーム。 |
| リマインダー \| デフォルトビュー | フォーム | 従業員とマネージャーがリマインダーを設定するためのフォーム。 |
| メモ \| ポータル | フォーム | マネージャーと従業員が連絡先にメモを追加するためのフォーム。 |

## チーム連絡先アプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| Team Contact Reminder Push | メール | リマインダープッシュを従業員に送信します。 |
| Notify Contact Reminder | フロー - レコード | 従業員が関係メモに設定したリマインダーに関する通知を送信します。通知には、関係メモの詳細が含まれています。 |
| Team Contact Reminder Notification | メール | リマインダーを従業員に送信します。 |
| Team Contact Reminder Ackn Notification | メール | 通知を確認するためのリマインダーを従業員に送信します。 |

## チーム連絡先アプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
| --- | --- | --- |
| マネージャー<br><br>[x_<company-name>_ <app-name>.manager] | マネージャーは、プロファイル情報を表示し、関係メモを追加し、直属の部下を確認できます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (自分のもの) |

自動翻訳

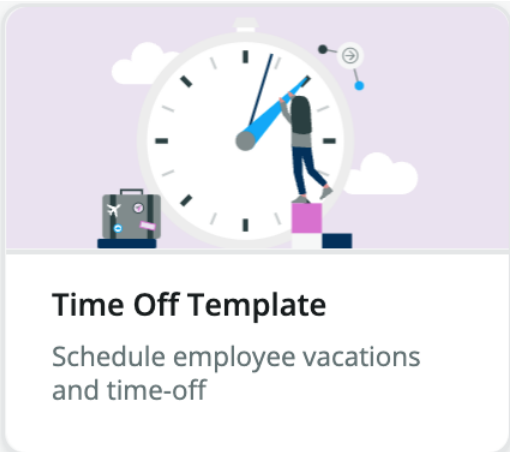
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
| --- | --- | --- |
| 管理者<br><br>[x_<company-name>_ <app-name>.admin] | マネージャーは、チーム連絡先アプリを設定し、アプリへのアクセス権を付与できます。 | 読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除 |
| 従業員<br><br>[x_<company-name>_ <app-name>.employee] | 従業員は、チームに関する情報の表示、従業員の検索、従業員プロファイルの表示、お気に入りの連絡先のマーク付けを行うことができます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (自分のもの) |
| キャンバスユーザー | キャンバスコアアプリケーションのユーザーロール | |

### 休暇テンプレート

休暇申請テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションを構築し、従業員の休暇をスケジュールできるようにします。

休暇テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。




休暇申請を作成して、従業員が単一のモバイルまたは Web ベースのフォームで休暇を申請するプロセスを簡素化します。要求が送信されると、マネージャーにメールで通知されます。モバイルアプリまたは Web ベースのポータルを使用して、従業員またはチーム全体の要求の履歴および要求処理待ちを月別または年別に表示できます。これにより、マネージャーは情報に基づいた意思決定を行い、今後の作業の計画を改善し、シフトをカバーする必要がある部分を特定できます。要求が承認または却下されると、その理由とともに従業員に自動的に通知されます。計画の変更や承認済みの要求の更新が必要な場合、従業員はポータルを使用して要求を編集し、承認を得るために再送信できます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

### 休暇テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の休暇テンプレートに含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 休暇アプリテンプレートのテーブル

| テーブルラベル **[name]** | 説明 |
|---|---|
| 休暇申請テーブル<br><br>[x_<company-code>_<my_time_off_request_app>_request] | Time Off Request アプリを使用して、従業員が作成した休暇申請を追跡します。たとえば、従業員名、作成日、マネージャー、要求された休暇、休暇申請のステータスなどです。 |

## 休暇アプリテンプレートのエクスペリエンス

| エクスペリエンス | エクスペリエンスタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| 休暇申請 \| デフォルトビュー | フォーム | マネージャーおよび管理者が休暇申請のテンプレートとして使用するフォーム。 |
| 休暇申請 \| ワークスペース | フォーム | マネージャーが休暇申請を表示、送信、承認または却下できるワークスペース。ワークスペースには、チーム、従業員、および時間別に表示できる履歴レコードも含まれています。 |
| アプリ名 \| ポータル | ポータル | マネージャーおよび管理者が休暇申請を表示、送信、承認または却下し、従業員が休暇申請を表示、編集、レビュー、またはキャンセルするためのポータル。 |
| アプリ名 \| ワークスペース | ワークスペース | マネージャーおよび管理者が休暇申請を表示、送信、承認または却下するために使用できるワークスペース。 |
| 休暇申請 ｜ レコード | フォーム | マネージャーが休暇申請を表示、送信、承認、または却下するために使用できるフォーム。 |
| 休暇申請 \| 新規 | フォーム | ユーザーは、休暇申請の新規作成 (保存、送信、またはキャンセル)、更新 (保存、送信、削除、またはキャンセル)、およびレビュー (承認または却下) を行うことができます。 |
| モバイルアプリ | モバイル体験 | 従業員は休暇を申請し、その申請にアクセスできます。マネージャーは、組織の iOS または Android アプリを使用して、休暇申請を送信、表示、更新、承認、または却下できます。 |
| ダッシュボード | モバイル体験 | マネージャーおよび管理者は、組織の iOS または Android アプリを使用して、休暇申請を表示できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 休暇アプリテンプレートの自動ワークフロー

| ワークフロー名 | ワークフロータイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Time off request - Send comments | フロー - レコード | 休暇申請にコメントが追加されたときに、従業員またはマネージャーに通知を送信します。 |
| Daily Time Off inactivating records | フロー | 残り日数が 0 に設定されるまで休暇申請レコードの残り時間を更新します。 |
| Time Off Req Approved | メール | 承認された休暇申請を従業員に通知します。 |
| Time Off Req Updated/ resubmitted | メール | 更新/再送信された休暇申請をマネージャーに通知します。 |
| Time Off Comments | メール | 休暇申請にコメントが追加されたことを従業員またはマネージャーに通知します。 |
| Time Off requests - Send notifications | フロー - レコード | 休暇申請のステータスが変更されたときに、従業員またはマネージャーに通知を送信します。通知には、休暇申請の詳細が含まれています。 |
| Time Off Request Cancelled | メール | 休暇申請がキャンセルされたことを従業員またはマネージャーに通知します。 |
| Time Off Request Rejected | メール | 却下された休暇申請を従業員に通知します。 |
| Time Off Request - updated/ resubmitted | フロー - レコード | 休暇申請が更新/再送信されたことの通知を従業員またはマネージャーに送信します。 |
| Time Off Req Submitted | メール | 休暇申請が送信されたときにマネージャーに通知します。 |
| 休暇申請 | メール | 従業員は休暇申請をドラフト作成、要求、承認、却下、およびキャンセルできます。 |

## 休暇アプリテンプレートのロール

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
|---|---|---|
| マネージャー<br><br>[x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.manager] | マネージャーは休暇申請を送信、表示、承認、または却下することができます。 | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて) |
| 従業員<br><br>[x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.employee] | 従業員は休暇申請を送信、表示、編集、キャンセルできます。 | 作成、読み取り (自分のもの)、編集 (自分のもの)、削除 (自分のもの) |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ロールタイトル [名前] | 説明 | ロールを含む |
| --- | --- | --- |
| 管理者<br><br>[x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.admin] | 管理者は休暇アプリを管理し、すべてのレコードを表示できます | 作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 (すべて) |
| 公開 | 公開ユーザーは、アプリケーションの機能にアクセスするためにログインする必要はありません。 | デフォルトでは、ロールにはアクセス権がありません。 |

### カスタムテンプレートの構築

App Engine Studio (AES) には、事前定義されたさまざまなアプリケーションテンプレートがあります。ただし、あるアプリケーションのタイプを複数回作成する場合は、カスタムテンプレートを作成すると本番稼働までの時間を短縮できます。

カスタムテンプレートを最初から作成することも、既存のコンテンツを開始点として使用することもできます。事前定義された AES テンプレートにニーズに近いものがある場合は、そのテンプレートを拡張し、ニーズに合わせてカスタマイズすることを検討してください。データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、アクセスのためのセキュリティロールを追加およびカスタマイズして、テンプレートを完成させます。

### 既存のアプリケーションからのカスタムテンプレートの構築

既存のアプリケーションを開始点として使用して、App Engine Studio (AES) でカスタムテンプレートを構築します。アプリケーションの既存のデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティロールが、カスタムテンプレートに自動的に追加されます。

#### 始める前に

必要なロール：admin、app_template_author

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [テンプレート] ページで、[新規テンプレートを作成] を選択します。
3. [既存のアプリ] を選択し、[続行] を選択します。
4. [アプリの選択] 画面でカスタムテンプレートを作成用の既存のアプリケーションを選択し、[続行] を選択します。
   次の結果が考えられます。

   - [すべてのアイテムがサポートされています (All items are supported)]：カスタムテンプレートが作成されます。すべてのオブジェクトがカスタムテンプレートとそのカスタムテンプレートから作成されたアプリで使用できます。
   - [一部のアイテムはサポートされていません]：テンプレートの作成は続行できますが、このカスタムテンプレートで使用できないアイテムがあります。カスタムテンプレートや、そのテンプレートから作成されたアプリには影響しません。
   - [一部のアイテムが拒否されました (Some items are denied)]：カスタムテンプレートの作成者にはエラーメッセージが表示され、そのエラーを修正するまで続行できません。 作成者は、アプリを既存のアプリから作成した場合はアプリを変更し、最初から作成した場合はテンプレートを変更する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 詳細については、「カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ」を参照してください。

5. カスタムテンプレートの名前と説明を入力します。
6. アプリケーションのロゴを承認または変更します。
   - 既存のアプリケーションに SVG 形式のロゴがある場合は、同じロゴがカスタムテンプレートに適用されます。
   - ロゴがないか、あっても SVG 以外の形式の場合は、**[SVG** 画像を参照またはドラッグする] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、カスタムテンプレートの SVG ロゴをアップロードします。
7. [続行] を選択します。
8. このテンプレートにアクセスできるユーザーまたはグループを指定します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 特定のユーザーとグループとの共有 | **a.** [共有先] リストから、[特定のユーザーとグループ] を選択します。<br>**b.** ユーザーを個別またはグループで追加します。<br>**c.** [アクセス権を付与] を選択します。<br>**d.** [続行] を選択します。 |
| すべてのユーザーおよびグループと共有する | **a.** [共有先] リストから、[すべてのユーザーとグループ] を選択します。<br>**b.** [続行] を選択します。 |

テンプレートの共有と権限の詳細については、「アプリテンプレートの共有」を参照してください。

9. 次のいずれかの方法で、カスタムテンプレートにアクセスします。

### タスクの結果
カスタムテンプレートが作成され、使用できるようになりました。カスタムテンプレートがアクティブ化され、アクセス権を持つ App Engine Studio ユーザーが使用できるようになります。

## カスタムテンプレートを最初から構築する

事前定義された App Engine Studio (AES) テンプレートがどれもビジネスニーズに合わない場合、または開始点になるような既存のアプリケーションがない場合は、カスタムテンプレートを最初から構築します。

### 始める前に
必要なロール：admin、app_template_author

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [テンプレート] ページで、[新規テンプレートを作成] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. [最初から開始] を選択し、[続行]を選択します。
4. カスタムテンプレートの名前と説明を入力します。
5. オプション: **[SVG** 画像を参照またはドラッグする] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、カスタムテンプレートにロゴを追加します。
6. [続行] を選択します。
   空のカスタムテンプレートが作成されると、進行状況メッセージが表示されます。
7. このテンプレートにアクセスできるユーザーまたはグループを指定します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 特定のユーザーとグループとの共有 | **a.** [共有先] リストから、[特定のユーザーとグループ] を選択します。<br>**b.** ユーザーを個別またはグループで追加します。<br>**c.** [アクセス権を付与] を選択します。<br>**d.** [続行] を選択します。 |
| すべてのユーザーおよびグループと共有する | **a.** [共有先] リストから、[すべてのユーザーとグループ] を選択します。<br>**b.** [続行] を選択します。 |

   テンプレートの共有と権限の詳細については、「アプリテンプレートの共有」を参照してください。
8. [テンプレートの詳細] 画面で、[テンプレートダッシュボードに移動します] を選択します。
9. カスタムテンプレートに、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティ対策を追加します。
   詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - アプリケーションのデータモデルの作成
   - アプリケーションエクスペリエンスの追加
   - ロジックと自動化の追加
   - アプリケーションセキュリティの追加
10. [保存] を選択します。

### 次のタスク

カスタムテンプレートの概要を指定し、テンプレートをアクティブ化して、テンプレートライブラリから App Engine Studio ユーザーが使用できるようにします。詳細については、「カスタムテンプレートのコンテンツとプロパティの更新」を参照してください。

## アプリテンプレート作成エラーの特定と修正

サポートされていない機能またはメタデータが App Engine Studio (AES) のテンプレート作成プロセスを停止した場合に、アプリを特定して修正する方法について説明します。

### サポートされていない機能

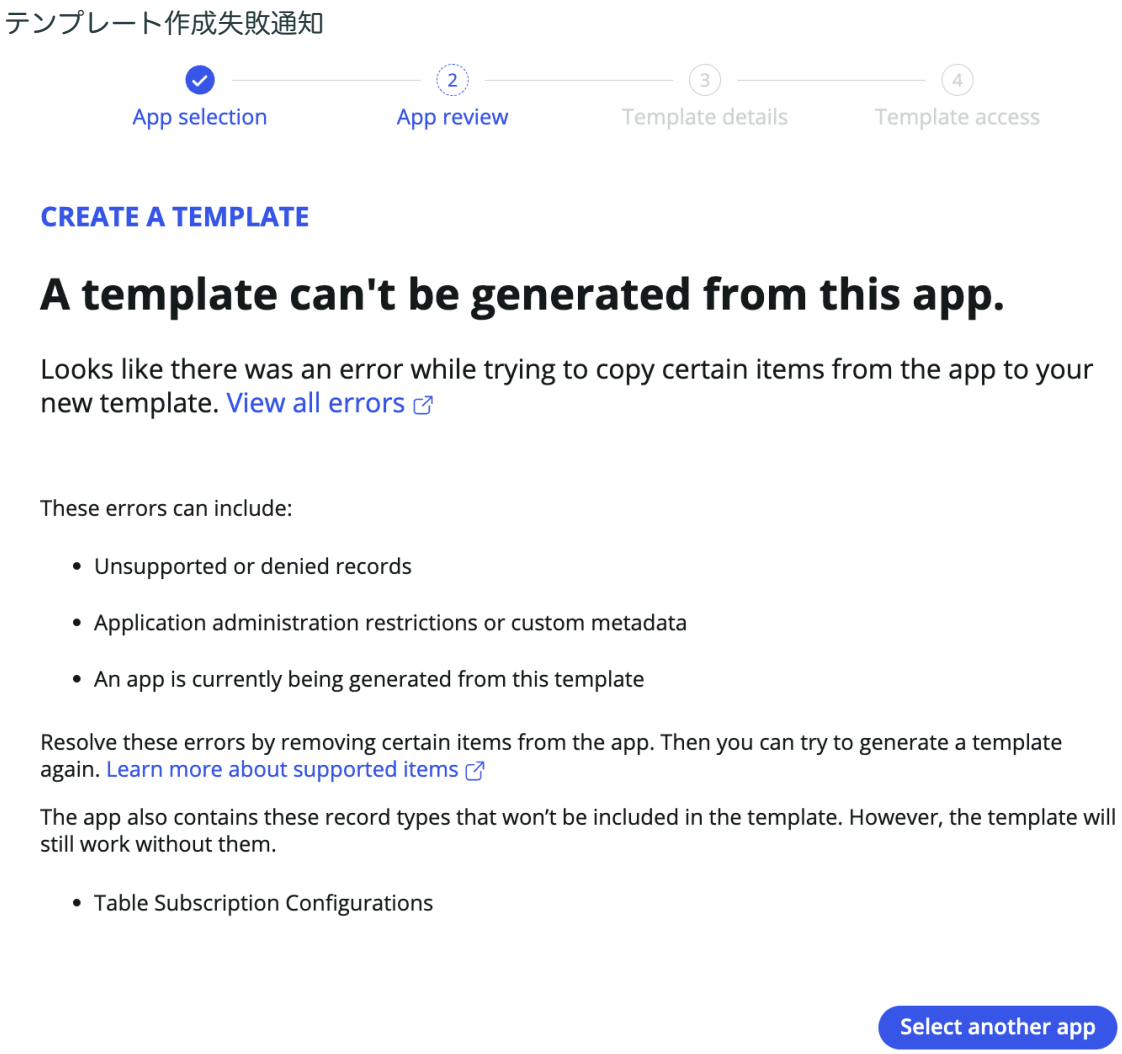
カスタムテンプレートを作成したソースアプリケーションのアイテムが、テンプレートでサポートされていない場合があります。アプリケーションからテンプレートを作成する前に、サポートされていないアイテムを削除する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

テンプレートの作成プロセス中にエラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。




[すべてのエラーを表示] を選択すると、アプリケーションのどの要素がテンプレートの作成プロセスを失敗させているかを特定できます。これにより、スキャン失敗 [sys_app_scan_failure] テーブルが表示されます。テーブル内のエラーとその原因の詳細については、「スキャン失敗テーブルのテンプレート作成エラー」を参照してください。

### スキャン失敗テーブルのテンプレート作成エラー

スキャン失敗 [sys_app_scan_failure] テーブルに表示されるカスタムテンプレートの作成中に発生したエラーとその原因。

## エラーメッセージ

許可およびスキップされるレコードのタイプの詳細については、「カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ」を参照してください。

| エラーメッセージ | 定義 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| Unsupported_table | 許可ルールがなく、不明なレベルのサポートがあるレコードクラス。 | 1 つ以上のサポートされていないレコードが App Engine Studio によって認識されません。テンプ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| エラーメッセージ | 定義 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| | | レートの作成プロセスを続行するには削除する必要があります。 |
| Denied_table | 拒否ルールがあり、テンプレートの作成がサポートされていないレコードクラス。 | レコードクラスは明示的に拒否され、テンプレートの作成プロセスを続行するには削除する必要があります。 |
| Scripted_record | アプリ内の各レコードで実行されるスクリプト化されたルール。 | 現在のスクリプト化された拒否ルールには次のものが含まれます。<br>• カスタムメタデータ：アプリには sys_metadata テーブルを拡張するテーブルがあります。<br>• スコープ指定管理：アプリでスコープ指定管理がオンになっています。<br>• テンプレート実行中：ソースアプリに関連付けられたテンプレートが現在実行されています。 |
| Scripted_app | アプリに対して 1 回実行されるスクリプト化されたルール。 | |

### カスタムテンプレートを公開する権限のアサイン

カスタムテンプレートをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。特定のカスタムテンプレートを公開するか、App Engine Studio (AES) の既存のすべてのカスタムテンプレートを公開する権限を付与できます。

### 個別のカスタムテンプレートを公開する権限のアサイン

個別の App Engine Studio (AES) カスタムテンプレートをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。

#### 始める前に

必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > テンプレート > アプリケーションテンプレート.
2. [リストをカスタマイズ] アイコン (⚙) を選択します。
3. [パッケージ] 列を追加するには、[パッケージ] の値を [対応可能] リストから [選択されました] リストに移動し、**[OK]** を選択します。
4. [パッケージ] 列から、カスタムテンプレートのパッケージリンクを選択します。
5. [関連リンク] 見出しで、[協力者の管理]を選択します。
6. 新規または既存の協力者に権限をアサインします。

#### タスクの結果

これで、指定されたユーザーまたはグループが、個別のカスタムテンプレートを公開する権限を持ちます。

### カスタムテンプレートおよびアプリを公開する権限のアサイン

カスタムの App Engine Studio (AES) テンプレートおよびアプリケーションをアプリリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > コラボレーション > 記述子.
2. [すべてのコラボレーション記述子 (All Collaboration Descriptors)] ページの [名前] フィールドで、[所有者 **(Owner)]** を検索して選択します。
3. [開発権限セット] タブで、[編集] を選択します。
4. [アプリリポジトリに公開 **(Publish To App Repo)]** および [アプリストアに公開 **(Publish To App Store)]** の値を [コレクション] リストから [開発権限セット] リストに移動します。
5. [保存] を選択します。

タスクの結果
これで、アプリケーションを所有する開発者は、すべてのカスタムテンプレートを自分のアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するためのプラットフォームレベルの権限を持つことになります。

## カスタムテンプレートの公開

App Engine Studio (AES) を使用して、ゼロから、または既存のアプリケーションから構築されたカスタムテンプレートを公開できます。

始める前に
カスタムテンプレートを公開するには、権限が必要です。詳細については、「カスタムテンプレートを公開する権限のアサイン」を参照してください。

必要なロール：admin、app_template_author

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio** > テンプレート.
2. カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン ( ••• アイコン) を選択して、[プロパティ] を選択します。
3. [全般] タブで、[このテンプレートをアクティブ化] チェックボックスをオンにします。
4. [テンプレートを公開] を選択します。
5. オプション: カスタムテンプレートをゼロから作成する場合は、[公開する] を選択します。

   (Optional) App Engine Studio に[テンプレートを公開] フィールドが表示されます。
6. フィールドに入力します。

### バージョン番号とリリースノートを入力してください

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| バージョン | カスタムテンプレートの新しいバージョン番号を入力します。 |
| リリースノート | カスタムテンプレートに加えられた変更の簡単な説明を入力します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| オプションを公開 | カスタムテンプレートを公開する場所を選択します。<br>○ テンプレートを自分のアプリケーションリポジトリに公開するには、[自分のアプリケーションリポジトリ (アプリを自分のインスタンスで使用可能にします)] を選択します。<br>○ テンプレートを ServiceNow Store に公開するには、**[ServiceNow Store** (レビューのためにこのアプリを **ServiceNow Store**に送信してください)] を選択します。 |

7. [続行] を選択します。
8. 確認画面で、[クローズ] を選択します。

### タスクの結果
カスタムテンプレートが公開され、アプリテンプレート管理者と共有しているユーザーがそれを使用できるようになります。

## カスタムテンプレートのコンテンツとプロパティの更新

App Engine Studio (AES) のコンテンツまたはプロパティを更新して、カスタムテンプレートの有効性を向上させます。

### 始める前に
必要なロール：admin、app_template_author

### 手順
1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [テンプレート] タブを選択します。
3. テンプレートのさまざまな側面を変更して、ニーズに合わせてより役立つようにします。

## テンプレートのアクティブ化の管理

テンプレートのアクティブ化と非アクティブ化を管理して、App Engine Studio (AES) でアプリを作成するユーザーがニーズに最適なアプリケーションテンプレートにアクセスできるようにします。

### 始める前に
必要なロール：app_template_admin

### このタスクについて
アプリテンプレート管理者は、非本番インスタンスでアクティブなテンプレートを管理し、どのユーザーがそれらのテンプレートを表示および使用できるか決定します。管理者は、会社の標準から逸脱したカスタムテンプレートやユーザーのニーズに合わないカスタムテンプレートを非アクティブ化することもできます。

### 手順
1. 移動先 すべて > **App Engine** > テンプレート > アプリケーションテンプレート.
2. アクティブ化または非アクティブ化するテンプレートをリストから選択します。
3. テンプレートを編集するには、表示されるメッセージの [ここ] を選択します。
4. テンプレートをアクティブ化または非アクティブ化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テンプレートをアクティブ化するには、[アクティブ **(Active)]** チェックボックスをオンにします。
- テンプレートを非アクティブ化するには、[アクティブ **(Active)]** チェックボックスをオフにします。

**5.** [更新] を選択します。

### アプリテンプレートの共有

App Engine Studio (AES) で事前定義されたテンプレートとカスタムテンプレートにアクセスできるユーザーとグループを指定します。

## 暗黙的な共有

テンプレートは組織内の一部のユーザーと暗黙的に共有されます。つまり、共有を決定する共有レコードは存在しません。暗黙的な共有を管理する 3 つのルールは次のとおりです。

- インスタンス管理者は、すべてのテンプレートを表示して使用できます。
- アプリテンプレート管理者 (app_template_admin ロールを持つユーザー) も、すべてのテンプレートを表示して使用できます。
- アプリテンプレート作成者 (app_template_author ロールを持つユーザー) は、テンプレートが存在するスコープを編集する権限を持っている場合に、共有されていないテンプレートを表示できます。

これらの共有ルールは、テンプレートがアクティブかどうかに関係なく適用されます。

## 明示的な共有

組織内の任意のユーザーとアプリテンプレートを共有するには、そのユーザーまたはグループの共有レコードを作成します。ただし、共有権限に関係なく、そのユーザーまたはグループは、テンプレートを表示して使用するための sn_app_eng_studio.user ロールを持っている必要があります。テンプレートを共有する 3 つの方法は次のとおりです。

- 組織内のすべてのユーザーとグローバルに共有する
- 指定されたユーザーグループと共有する
- 指定された 1 人のユーザーと共有する

**注:**
個別のユーザーとのテンプレートの共有を停止しても、そのユーザーがそのテンプレートを共有しているグループに含まれる場合、そのユーザーは引き続きそのテンプレートを表示および使用できます。

### テンプレート共有権限の管理

App Engine Studio (AES) テンプレートをグローバル、グループ、または個別のユーザーと共有して、それらのユーザーが適切なテンプレートにアクセスできるようにします。

#### 始める前に
必要なロール：app_template_admin

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > **App Engine** > テンプレート > アプリケーションテンプレート.

**2.** 共有権限を変更するテンプレートを選択します。

**3.** [テンプレート共有権限] 関連リストで、[新規] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

4. 共有オプションを選択します。

5. [送信] を選択します。

### アプリケーションのゼロからの作成

App Engine Studio (AES) で利用可能なアプリケーションテンプレートがアプリケーションの目的に適合しない場合は、データ、エクスペリエンス、ロジック、自動化、およびセキュリティを追加できる空のアプリケーションを作成します。

#### 始める前に

> **注:**
> AES でアプリを作成するには、管理者であるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [アプリを作成] を選択します。
3. アプリケーションの名前と説明を入力します。
4. オプション: [アプリのロゴをアップロードするには、ドラッグまたは参照します] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、ロゴを追加します。
5. [続行] を選択します。
6. ロールを追加またはカスタマイズすることで、アプリケーションのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。
   アプリにセキュリティロールを追加するには、[ロールを追加] を選択し、ロールの名前と説明を入力します。

   > **注:**
   > アプリケーションセキュリティを更新するには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

7. [続行] を選択します。
8. サマリー画面で、[アプリダッシュボードに移動します] を選択します。
9. オプション: ウィンドウの左下隅にある [ガイダンス] トグル ( ) をアクティブ化して、アプリケーションの各セクションのガイド情報を確認します。
10. データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリに追加して、アプリケーションの構築を続行します。
    詳細は、以下のトピックを参照してください。
    - アプリケーションのデータモデルの作成
    - アプリケーションエクスペリエンスの追加
    - ロジックと自動化の追加
    - アプリケーションセキュリティの追加

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
アプリケーションの構築が完了したら、承認のためにアプリケーションを送信し、管理者にレビューと展開を実施してもらいます。詳細については、「承認と公開のためのアプリの送信」を参照してください。

### 承認を受けるアプリの準備

アプリの名前の変更、アプリの説明の編集、アプリの画像の置換などの必要な変更を加えて、承認プロセスに対してアプリを準備します。間違えて処理した場合は、そのアプリを App Engine Studio (AES) から削除することもできます。

始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

このタスクについて
自分の権限に基づいて、アプリケーションの特定の機能を変更できます。削除する権限を要求するには、管理者にお問い合わせください。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリホームから、[アプリケーションプロパティの編集] アイコン ( アイコン) を選択します。
4. アプリケーションプロパティを更新します。
   - アプリケーションの名前を変更するには、[名前] フィールドを更新します。
   - アプリケーションの説明を書き換えるには、[説明] フィールドを更新します。
   - 画像を置き換えるには、[画像の削除] を選択してから新しい画像を追加します。
   - アプリケーションを削除するには、[アプリケーションを削除] を選択し、「削除」と入力して選択を確定し、[削除] を選択します。
5. [保存] を選択します。

### アプリの拡張

App Engine Studio (AES) でテンプレートを使用する場合もゼロからアプリを作成する場合も、データモデル、ユーザーエクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを作成してアプリを拡張する必要があります。

アプリケーションを構築するときは、次のトピックをガイドとして使用してください。

### アプリを拡張するためのリソース

データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティをアプリケーションに追加するときには、Now Platform のさまざまな部分を操作する可能性があります。次の表のリンクは、App Engine Studio、テーブルビルダー、UI ビルダー、ディシジョンビルダー、App Engine 管理センター、Now Platform にコンテンツを追加するためのリソースを示しています。

アプリケーションにコンテンツを追加するためのリソース

| データを追加 | エクスペリエンスの追加 | ロジックと自動化の追加 | セキュリティの追加 |
|---|---|---|---|
| App Engine Studio でアプリケーションにデータを追加します。 | App Engine Studio で作業して、アプリケーションにエクスペリエンスを追加します。 | App Engine Studio でアプリケーションにロジックと自動化を構築します。 | でアプリケーションのセキュリティ App Engine Studioを管理 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションにコンテンツを追加するためのリソース (続く)

| データを追加 | エクスペリエンスの追加 | ロジックと自動化の追加 | セキュリティの追加 |
| --- | --- | --- | --- |
| • アプリケーションのデータモデルの作成<br>• 空白のテーブルを作成する<br>• スプレッドシートを使用してデータを追加する<br>• PDF を使用してデータテーブルを作成する<br>• データ統合を作成する<br>• アプリケーションデータテーブルの変更 | • アプリケーションエクスペリエンスの追加<br>• レコードプロデューサーの追加<br>• 標準カタログアイテムの追加<br>• ワークスペースの追加<br>• ポータルの追加<br>• モバイルエクスペリエンスの追加<br>• App Engine Studio でのエクスペリエンスの編集 | • ロジックと自動化の追加<br>• テンプレートを使用した構築済みフローの追加<br>• フローを最初から追加<br>• 意思決定の追加<br>• メール通知の追加<br>• プロセスの変更 | するロールを構成します。<br>• アプリケーションセキュリティの追加<br>• アプリケーションの新しいロールの構築<br>• アプリケーションに対する既存のロールの使用<br>• 他の開発者とのコラボレーション<br>• ロールのアクセス設定の変更<br>• ロールの削除 |
| Table Builder の使用にシームレスに移行して、アプリケーションのデータを拡張します。<br>• テーブルビルダー の詳細<br>• テーブルビルダー 内のデータ<br>• テーブルビルダー のフォーム<br>• テーブルビルダー でのポリシーとルール<br>• テーブルビルダー のフロー | アプリケーションのエクスペリエンスをさらに向上させるために、およびUI ビルダーを使用しますワークスペースビルダー。<br>• ワークスペースの追加<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成<br>• UI ビルダー および構成可能なワークスペース<br>• UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する<br>• コンポーネントを使用した UI ビルダーページのカスタマイズ | アプリケーションのビジネスロジックを簡単に管理するために使用します ディシジョンビルダー 。<br>• ディシジョンビルダー に意思決定テーブルを作成<br>• Excel での意思決定テーブルの管理<br>• ディシジョンビルダー での意思決定テーブル構造の変更 | とApp Engine 管理センターを使用して、組織とアプリケーションのNow Platformロールを設定および管理します。<br>• AES のペルソナとロールの構成<br>• Configure users and groups<br>• App Engine 管理者グループへのユーザーの追加<br>• AES を使用する開発者の委任<br>• AEMC を使用した開発者の管理<br>• コラボレーション要求の管理 |

自動翻訳

アプリケーションのデータモデルの作成

アプリケーションデータを収納するテーブルを作成することで、アプリケーションのデータモデルを App Engine Studio (AES) に作成します。新規にテーブルを作成するか、スプレッドシートまたは PDF をアップロードするか、既存のテーブルをテンプレートとして使用して、アプリケーション

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

で使用するデータテーブルを作成します。スプレッドシートをアプリケーションの既存のテーブルにマッピングすることで、データインポートを作成してスケジュール設定することもできます。

データモデルを作成してユーザーインターフェイスにデータを入力することは、新しいアプリケーションでは絶対に必要な出発点です。ユーザーはフォームに入力するときに名前や電話番号などのデータを入力でき、他のユーザーは要求を実行するときにそのデータを参照できます。

App Engine Studio では、アプリケーションデータがテーブル形式で格納されます。ユーザーがアプリケーションデータを更新すると、テーブルに行が作成されるか、既存の行が変更されます (各行はデータレコードとも呼ばれます)。既存の Now Platform テーブル、またはスプレッドシートや PDF からテーブルを作成することも、アプリケーションでレコードを保存するためのまったく新しいテーブルをカスタマイズすることもできます。

アプリケーションに保存されるデータレコードは、複数のソースから取得される場合があります。あるテーブルには、アプリケーションを使用しているユーザーが入力したデータレコードが格納される場合があります。別のテーブルには、スプレッドシートからのデータのインポートとマッピング、または別の Now Platform テーブルからのデータでデータレコードを更新するスクリプトを介して入力される場合があります。

## アプリケーションテンプレートとデータ

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにデータを追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成する場合は、追加されたテーブルを編集したり、さまざまなテーブルを追加したりすることができます。

## フォーム

アプリにデータを追加すると、関連するフォームビューがアプリの [エクスペリエンス] セクションに表示されます。フォームを編集するには、[エクスペリエンス] セクションでフォームを選択します。フォームビューは、テーブルビルダー の [フォーム] タブで編集できます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

## テーブル拡張

組織が他のアプリケーションですでに使用している可能性があるテーブルがいくつかあります。たとえば組織では、構成データを格納するアプリケーションとして構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを使用することがあります。このような既存のテーブルを拡張することで、自分のアプリケーションのテーブルを作成できます。

テーブル拡張を使用すると、テーブルのフィールドとレコードを親テーブルと共有できます。ユーザーがアプリケーションのさまざまなフォームビューで同様のフィールドに入力することが想定される場合は、テーブルを拡張することもできます。たとえば、チケットタイプのテーブルを作成するには、タスク [task] テーブルを拡張します。タスクテーブルには、[番号] や [担当者 **(Assigned to)**] など、ほとんどの作業チケットに標準的なフィールドが含まれています。

多くの組織では、市民開発者がアプリを設計するときに使用するための拡張可能な標準化されたテーブルを作成します。これにより、開発者は組織内の複数のアプリケーションでデータを使用する方法を標準化できます。

アプリケーションのテーブルを拡張可能にするには、テーブルの作成時に [拡張性を高める] を選択します。既存のテーブルを拡張した後、列を追加してその新しいテーブルをさらにカスタマイズできます。

次の表は、Now Platform で一般的に拡張されるテーブルのリストです。一般的に拡張されるテーブルおよび拡張用のモデルの詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的に拡張されるテーブル

| テーブル | 簡単な説明 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| タスク | タスク | Incident Management、Problem Management、Change Management などのコアアプリケーションのフィールドを格納します。タスクを拡張する各テーブルで使用される、一連の標準フィールドがあります。タスクテーブルを拡張するテーブルはいずれも、タスクを推進するためにタスク固有の機能を利用できます。 |
| cmdb_ci | 構成アイテム | 構成アイテムを格納します。このテーブルは、ハードウェアやサービスなどの構成アイテム用に拡張できます。 |
| sn_customerservice _case | Customer Service ケース | カスタマーサービスケースレコードを保存します。 |
| sm_order | サービスオーダー | 実行する必要がある作業を定義および管理するデータを格納します。 |
| sm_task | サービスタスク | 1 つのセッション (1 つの場所で 1 回) で 1 人のユーザーが実行する作業のユニットを格納します。 |
| planned_task | 計画タスク | 計画されたマルチステージプロセスの一環として、時間と労力に関連するタスクの追加フィールドを格納します。 |
| cmn_location | ロケーション | 場所情報を格納します。 |
| cmdb_serviceorder _product_model | サービスオーダーモデル | サービスオーダーテンプレートを格納します。 |
| cmdb_servicetask _product_mode | サービスタスクモデル | サービスタスクテンプレートを格納します。 |
| cmdb_qb_result _base | クエリ結果 | CMDB クエリビルダーによって作成されたクエリ結果を格納します。 |
| alm_asset | 資産 | 資産に関する一般的、財務的、契約上の情報を格納します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的に拡張されるテーブル (続く)

| テーブル | 簡単な説明 | 説明 |
|---|---|---|
| cmdb_ci_service | ビジネスサービス | ビジネスプロセスを直接サポートする IT サービスデータを格納します。 |
| sys_user | ユーザー | ユーザーデータを格納します。ユーザーテーブルには、すべてのシステムユーザーとその関連部門のリストが表示されます。 |
| sys_user_group | ユーザーグループ | 共通の目的を共有する一連のユーザーを格納してグループ化します。グループは、変更要求の承認、インシデントの解決、メール通知の受信、作業指示タスクの実行などのタスクを実行できます。 |
| core_company | 会社 | 会社の情報を格納します。 |
| cmn_schedule | スケジュール | タイムゾーンとスケジュールのタイプを指定し、1 つ以上のスケジュールエントリを使用するレコードを格納します。 |
| cmn_department | 部門 | すべての部門と関連する事業部門のリストを格納します。 |
| cmn_cost_center | コストセンター | コストセンターレコードを格納します。これは、財務システムと IT の間の参照です。コストセンターレコードはビジネスエンティティを表し、コストセンターのビジネスサービス消費を測定する CI コストセンターリレーションシップの関連リストがあります。 |
| cmdb_model | 製品モデル | 特定のバージョンまたはさまざまな構成の資産です。モデルは、Product Catalog、Asset Management、Procurement などのさまざまな ServiceNow プラットフォーム資産アプリケーションを通じて、資産の管理や追跡をするために使用されます。 |
| life_cycle_stage | ライフサイクルステージ | CI のライフサイクルステージを追跡するための標準フィールドと値を格納します。これらの標準値をアプリケーション全体で使用することで、ライフサイクルの移行を通じて効率よく資産を追跡することができます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的に拡張されるテーブル (続く)

| テーブル | 簡単な説明 | 説明 |
|---|---|---|
| life_cycle_stage<br><br>_status | ライフサイクルステータス | CI のライフサイクルステージステータスを追跡するための標準フィールドと値を格納します。これらの標準値をアプリケーション全体で使用することで、ライフサイクルの移行を通じて効率よく資産を追跡することができます。 |
| incident | インシデント | 予想される運用基準からの逸脱を格納します。 |
| sysapproval | 承認 | 作業が終了する前に、タスクに関する承認を要求できるようにするデータを格納します。すべてのタスクに対して承認を定義し、ユーザーまたはグループをタスクに関連付けてそれらを承認または却下することができます。 |

[store-future: BEGIN review]

### **ERP Customization Mining** で抽出されたカスタムデータテーブルの使用

SoR (SAP など) でテーブル内のフィールドがカスタマイズされている場合、管理者は ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用してそのフィールドをマッピングできます。

マッピングすると、AES を使用してカスタムデータでアプリを簡単に作成できます。SoR に存在するカスタムフィールドは Now Platform を使用して構築したアプリで活用できますが、SoR には残ります。

詳細については、「ERP Customization Mining (ERP-CM)」を参照してください。

[End]

以下にリストされている方法を使用して、データモデルを作成し、アプリケーションにデータを追加します。

### 空白のテーブルを作成する

自分または他のユーザーが以前に作成した既存のテーブルから、またはゼロからアプリケーションにデータテーブルを追加します。

#### 始める前に

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [空白のテーブルを作成する] を選択し、[続行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**5.** 次の選択肢から選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新テーブルの作成 | 空白のテーブルを最初から作成するには、このオプションを選択します。<br>**a.** [新テーブルの作成] を選択します。<br>**b.** [続行] をクリックします。 |
| 拡張可能なテーブルから作成 | Now Platform の既存の拡張可能テーブルから新しい空のテーブルを作成するには、このオプションを選択します。<br>**a.** [拡張可能なテーブルから作成] を選択します。<br>**b.** 既存のテーブルを検索して選択します。<br>**注:** 既にアプリにあるテーブルがリストの最初に表示され、次に推奨される Now Platform テーブルが、テーブルに格納されている情報のタイプの簡単な説明とともに表示されます。<br>**c.** [続行] を選択します。 |

**6.** フォームで、新しいテーブルのプロパティを入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル ラベル | テーブルを識別する一意のラベル。 |
| テーブル名 | テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。 |
| 自動番号 | 一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。 |
| プリフィックス | レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。 |
| 開始番号 | テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。 |
| 桁数 | レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。 |

**7.** [続行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   > **注:**
   > テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

9. [続行] を選択して新しいテーブルを追加します。
10. アプリケーションのホームページに戻るか、テーブルの編集を続行します。
    - [完了] を選択すると、アプリケーションのホームページに戻ります。
    - [テーブルの編集] を選択し、テーブルビルダー で、テーブルに追加された列を確認して編集を続行します。
11. 編集を続行する場合は、新しいタブを開いてテーブルの列を確認します。

    各テーブル列は テーブルビルダー では行として表示されます。

    拡張されたテーブルの列の横に、ロックアイコン ( ) が表示されます。これらの列は変更できません。

12. テーブルの列を追加してテーブルをカスタマイズします。

    a. テーブルビルダー で、**[+** 新しいフィールドを追加] を選択します。

    b. 空の行で、フィールドに入力します。

テーブル列のプロパティ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 列ラベル | 列の一意のラベル。 |
| 列名 | 列のデータベース名。 |
| タイプ | 列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。<br><br>選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。<br><br>「フィールドタイプ」を参照してください。 |
| 参照 | 列に関連付けられているテーブル。このフィールドは、列タイプが [参照] の場合にのみ適用されます。 |
| 最大長 | ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数。 |
| デフォルト値 | 新しいレコードが作成された後にフィールドに自動的に入力される値。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示 | その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)**] 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)**] フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。<br><br>テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。 |

**13.** [保存] を選択します。

### 次のタスク
テーブルビルダー の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

## スプレッドシートを使用してデータを追加する

Microsoft Excel スプレッドシートをアップロードして、アプリケーションにデータテーブルとレコードを追加します。

### 始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

### 手順

次の手順でスプレッドシートをアップロードし、それを使用してデータテーブルを作成し、データレコードをインポートします。
最初にスプレッドシートをインポート手順を使用してスプレッドシートをアップロードし、必要に応じてスプレッドシートのインポートからデータテーブルを作成します。

## スプレッドシートをインポート

Microsoft Excel スプレッドシートをアップロードし、それを使用してアプリケーションデータモデルを作成します。

### 始める前に
スプレッドシートが次の要件を満たしていることを確認します。

- 水平列とそれぞれのヘッダーラベルでフォーマットされている
- XLSX ファイルタイプとして保存されている

> **注:**
> アップロードする Excel スプレッドシートには複数のワークシートタブを含めることができますが、そのいずれもデータテーブルの作成に使用できます。複数のワークシートが存在する場合は、ファイルのアップロード後にどのワークシートのタブを使用してテーブルを作成するかの選択を求められます。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

**1.** 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.

**2.** [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [スプレッドシートをインポート] を選択した後、[続行] を選択します。
5. スプレッドシートをアップロードした後、[続行] を選択します。

   スプレッドシートファイルを App Engine Studio にドラッグするか、コンピューターを参照できます。

6. 次のいずれかのパスが表示されます。
   - スプレッドシートのワークシートタブが 1 つしかない場合は、次のステップに進みます。
   - スプレッドシートに複数のワークシートタブがある場合は、シートのリストが表示されて、そこから選択します。このシートのリストから、最初にアプリケーションにテーブルとして追加するワークシートタブを選択できます。

   a. [テーブルヘッダーの行数を入力します] フィールドに、シートの列ヘッダーの行番号を入力します。
   たとえば、ヘッダーが 2 行目にある場合は、「2」と入力します。

   b. オプション: シートの列ヘッダーの下にある情報 (すなわちスプレッドシートのデータ) をアップロードするには、[スプレッドシートデータをインポート] オプションを選択します。
   列ヘッダーのみをアップロードするには、このチェックボックスをオフのままにします。このテーブルをテンプレートとして使用し、他のデータを自分の AES テーブルに追加しない場合は、ヘッダーのみをアップロードします。

7. 次のいずれかを選択します。
   - 複数のワークシートタブを含む Excel ファイルをアップロードした場合は、[テーブルに変換します] を選択して、選択したワークシートタブをテーブルに変換してから、次のステップに進みます。
   - 単一のワークシートタブを含む Excel ファイルをアップロードした場合は、[続行] を選択します。

   ファイルのインポート先のオプションが表示されます。
8. スプレッドシートデータで何を実行するかに基づいて、次のいずれかの手順に移動して続行します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| スプレッドシートのインポートから直接新しいテーブルを作成する | 次の手順については、「スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する」を参照してください。 |
| 既存のテーブルを拡張して新しいテーブルを作成し、スプレッドシートのインポートを使用して更新する | 次の手順については、「拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する」を参照してください。 |
| スプレッドシートのインポートを使用して既存のアプリケーションテーブルを更新する | 次の手順については、「スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する」を参照してください。 |

### スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する

Microsoft Excel スプレッドシートのインポートから直接新しいテーブルを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に

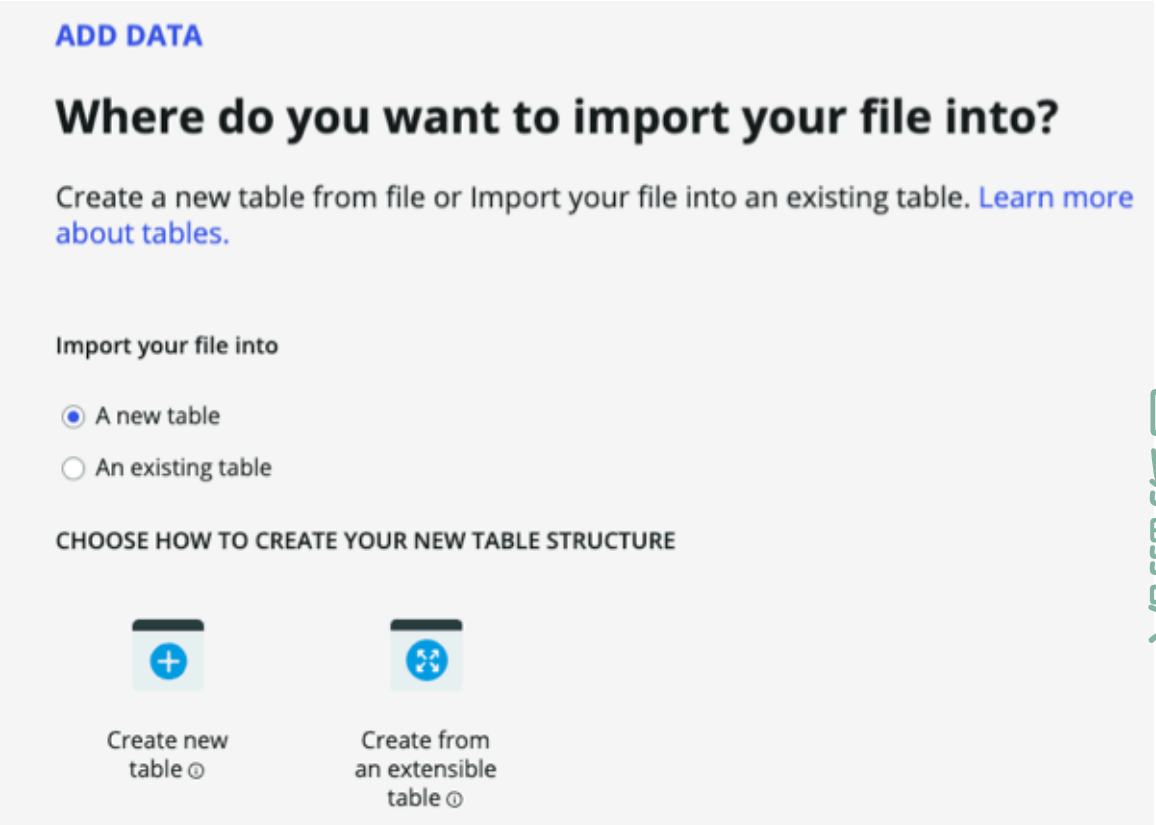
- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードで、インポートされたデータで実行する処理を選択します。

スプレッドシートから新しいテーブルを作成する




   a. [新しいテーブル] を選択します。
   b. [新テーブルの作成] を選択します。
2. [続行] を選択します。
3. [オプションを展開します]ドロップダウンを使用してさらにプロパティを表示して、各列ヘッダーのプロパティを確認します。

| 列ヘッダープロパティ | 説明 |
|---|---|
| フィールドラベル | 列の一意のラベル。 |
| フィールド名 | 列のデータベース名。 |
| タイプ | 列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 列ヘッダープロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| | 選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。<br><br>「Field types」を参照してください。 |
| 文字数制限 | 格納できる文字列の最大長。 |
| 表示 | その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)]** 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。<br><br>テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。 |
| 必須 | 新しいレコードを保存する前に、その列が値を持つ必要があるかどうかのオプション。 |

テーブルに別の列を追加するには、[新しいフィールドを追加] を選択します。

列を削除するには、ごみ箱アイコン (🗑) を選択します。

4. [続行] を選択してテーブルのプロパティを定義します。
5. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル ラベル | テーブルを識別する一意のラベル。 |
| テーブル名 | テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。 |
| 自動番号 | 一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。 |
| プリフィックス | レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。 |
| 開始番号 | テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 桁数 | レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。 |

6. [続行] を選択します。
7. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   **注:**
   テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

8. [続行] を選択して、スプレッドシートから作成した新しいテーブルをアプリに追加します。
9. オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。

   - **注:**
     変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については 拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する を参照)。
   - 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。

10. サマリー画面で、[完了] を選択します。
    または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

### 次のタスク

テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

## 拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する

既存のテーブルを拡張して新しいテーブルを作成し、Microsoft Excel スプレッドシートのインポートを使用して更新またはカスタマイズします。

### 始める前に

- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、データのインポートとマッピングのオプションを表示するには、「統合」の委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

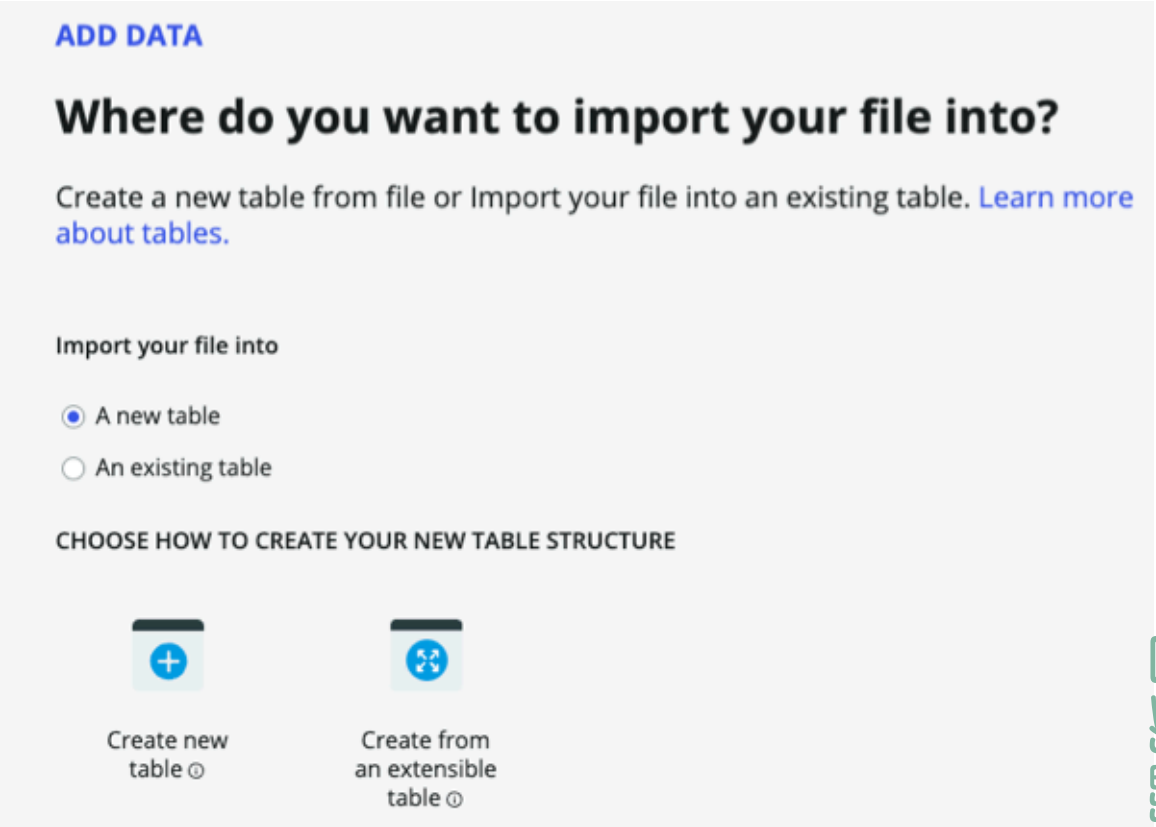
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードでファイルをインポートする場所を選択します。

新しいデータテーブルへのインポート




   a. [新しいテーブル] を選択します。

   b. [拡張可能なテーブルから作成] を選択します。

2. [続行] を選択します。

3. 既存の [テーブル] を検索して、そのテーブルのデータをアプリに追加し、分岐ロジックを使用して拡張を作成します。

   注:
   既にアプリにあるテーブルがリストの最初に表示され、次に推奨される Now Platform テーブルが、テーブルに格納されている情報のタイプの簡単な説明とともに表示されます。

4. [続行] を選択します。

5. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| テーブル ラベル | テーブルを識別する一意のラベル。 |
| テーブル名 | テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。 |
| 自動番号 | 一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。 |
| プリフィックス | レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。 |
| 開始番号 | テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。 |
| 桁数 | レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。 |

6. [続行] を選択します。
7. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   **注:**
   テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

8. [続行] を選択します。

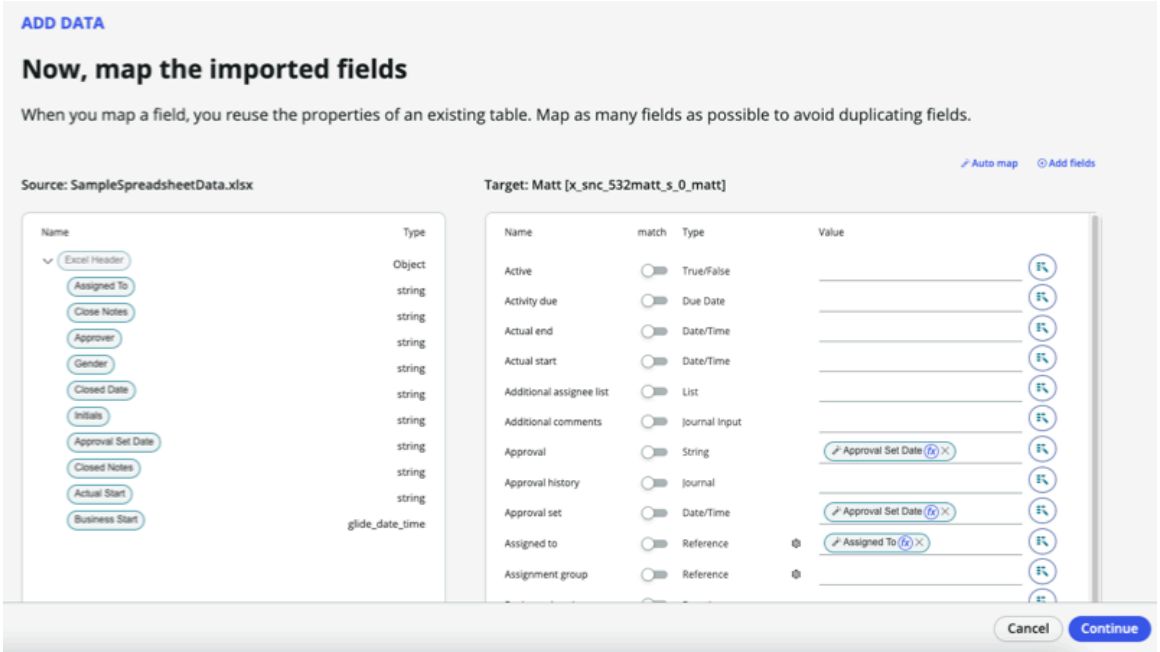
   **注:**
   これでテーブルにデータを格納する準備ができました。次のステップでは、インポートのフィールドが新しく拡張されたテーブルのフィールドと照合されます。マッピングを調整するか、インポートから新しいフィールドを作成することができます。

9. [続行] を選択してマッピングフィールドに進みます。
   左側のソーススプレッドシートのフィールド列を、右側に作成した新しく拡張されたターゲットテーブルのフィールド列にマッピングできる画面が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートされたフィールドのマッピング




**10.** このステップでは、次の選択肢を使用できます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 自動マッピングを使用したフィールドのバッチマッピング | スプレッドシートのフィールドを選択したターゲットテーブルの表示されたフィールドに自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。 |
| ドラッグアンドドロップによるフィールドのマッピング | インポートされたスプレッドシートの列を表すデータピルをターゲットテーブルの [値] 列にドラッグして、インポートからターゲットテーブルにフィールドをマッピングします。各ターゲットテーブルフィールドの右側にあるピルピッカーを使用して、フィールドをマッピングすることもできます。 |
| データピッカーを使用したフィールドのマッピング | ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングします。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。 |
| 変換オプション | 右側のペインで FX アイコン ( ) をクリックして、マッピングされた個々のスプレッドシートフィールドの変換オプションを追加します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | たとえば、大文字変換機能を使用して、入力文字列をすべて大文字に変換できます。これらを使用してインポートされたスプレッドシートフィールドのデータをトリミングする方法については、「Transform functions」を参照してください。<br><br>**注:**<br>Flow Designer で利用可能なすべての変換関数が利用できるわけではありません。 |
| データレコードの照合をアクティブ化する | システムが一致するデータをチェックする必要があるフィールドを指定し、見つかった場合は、ターゲットテーブルで [一致] トグルをアクティブ化して、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。<br><br>○ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。<br><br>○ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。 |
| 参照および選択肢フィールドの動作の構成 | [選択肢] および [参照] フィールドタイプの動作を構成します。<br><br>**a.** 歯車アイコン (⚙) をクリックします。<br><br>**b.** [フィールド] で、ターゲットテーブルの受信レコード値を照合するフィールド列を選択します。<br><br>**c.** [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、そのレコードがターゲットテーブルに見つからない場合の対処方法を指定します。<br><br>▪ [新しい選択肢/レコードを作成]：フィールドにインポートされたデータから、ターゲットテーブルの一致するフィールド列に選択肢またはレコードを作成します。 |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ▪ [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドを無視し、null のままにします。<br>▪ [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード (行) 全体の追加をスキップします。<br>**d.** [完了] をクリックします。 |
| ターゲットテーブルへの新しいフィールド列の追加 | インポートからターゲットテーブルにマッピングされていないフィールド列を追加するか、ターゲットテーブルに新しいフィールドを作成します。<br>**a.** 右側のターゲットテーブルの上にある [フィールドを追加] を選択します。<br>**b.** 左側のチェックボックスをオンにしてターゲットテーブルに追加するフィールドを選択するか、[すべて] を選択してすべてのフィールドを選択します。<br>**c.** 次の機能を実行することもできます。<br>▪ インポートされたフィールドの [フィールドラベル] を編集します。<br>▪ インポートされたフィールドのフィールドプロパティを編集するには、[編集] アイコン ( ) を選択します。<br>▪ ウィンドウの右上隅にある [新規フィールドの作成] をクリックして、新しいフィールドを作成します。<br>**d.** [フィールドを追加] を選択して、選択したフィールドをターゲットテーブルに追加します。 |

11. [続行] を選択してデータインポートマッピングを作成し、ターゲットテーブルを更新します。
12. オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。
    - **注:**
      変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する を参照)。
    - 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。
13. サマリー画面で、[完了] を選択します。
    または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

次のタスク
テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

## スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する

Microsoft Excel スプレッドシートのインポートを使用して、既存のアプリケーションテーブルを更新します。

### 始める前に

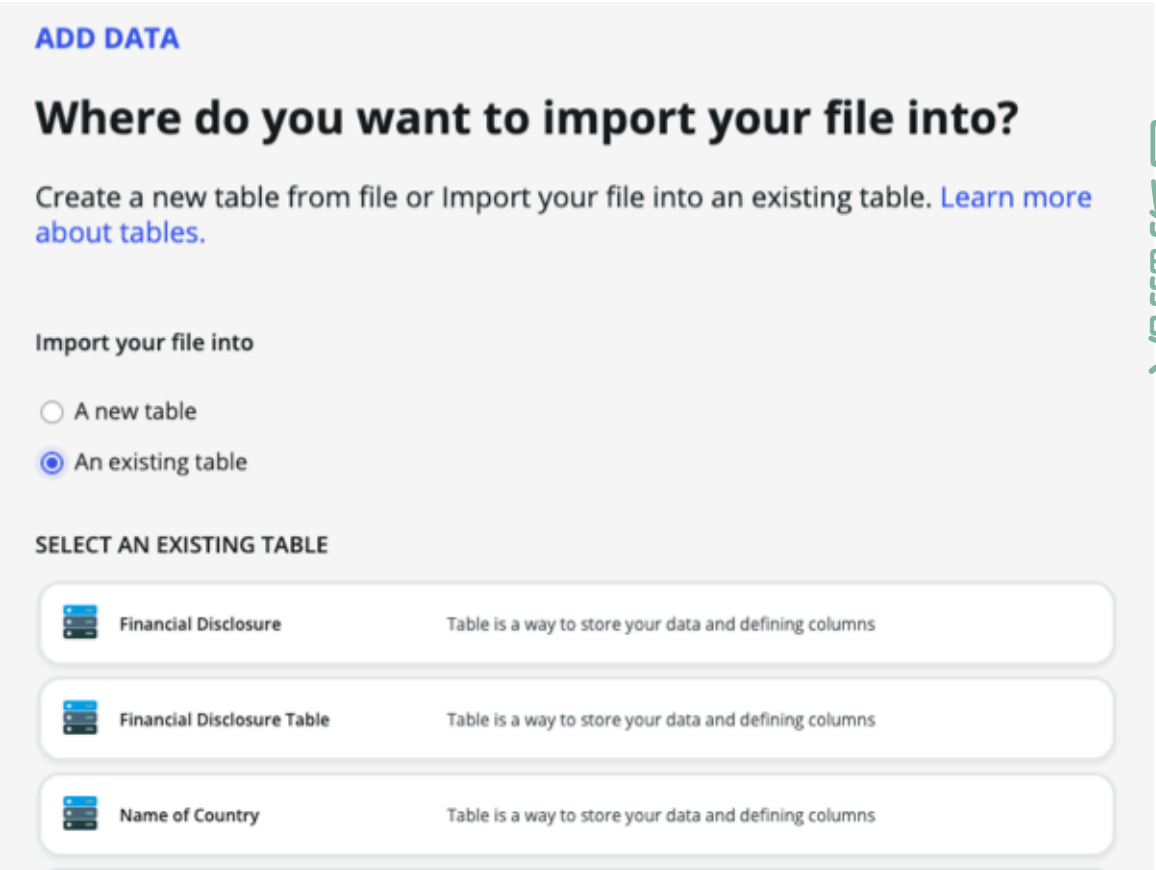
- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードでファイルをインポートする場所を選択します。

既存のアプリケーションテーブルへのインポート



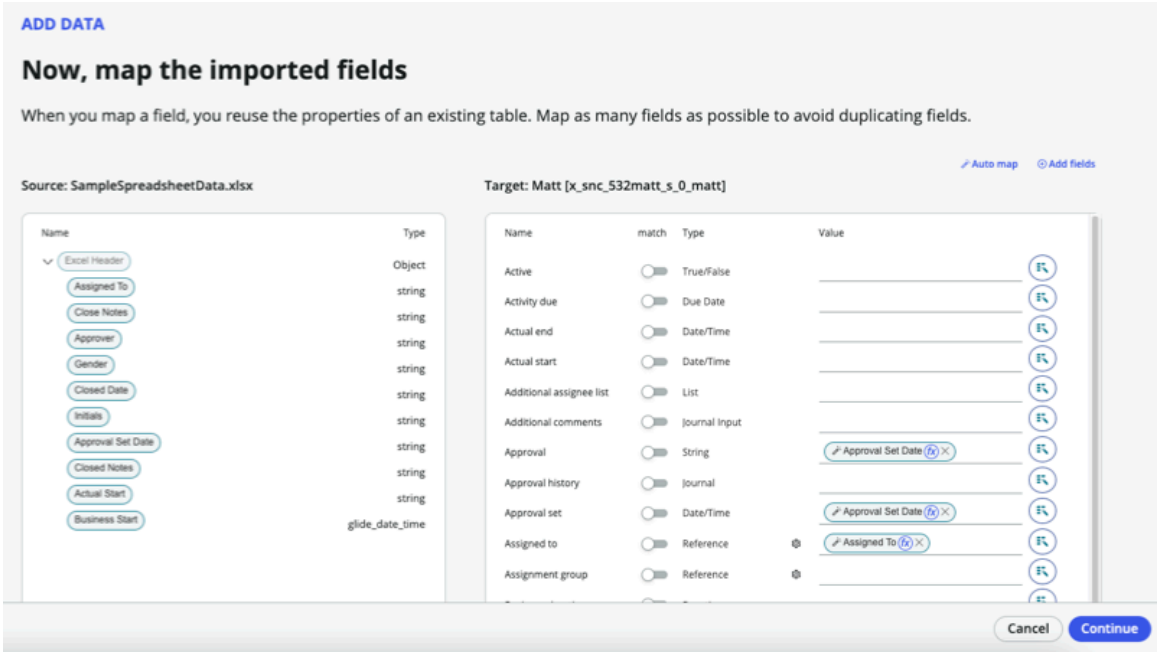

   a. [既存のテーブル] を選択します。
   b. 表示されるリストから既存のアプリケーションテーブルを選択します。
2. [続行] を選択します。
   左側のソーススプレッドシートのフィールド列を、右側の既存のターゲットアプリケーションテーブルのフィールド列にマッピングできる画面が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
マッピングを調整するか、インポートから新しいフィールドを作成することができます。

インポートされたフィールドのマッピング




**3.** このステップでは、次のアクションを使用できます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 自動マッピングを使用したフィールドのバッチマッピング | スプレッドシートのフィールドを選択したターゲットテーブルの表示されたフィールドに自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。 |
| ドラッグアンドドロップによるフィールドのマッピング | インポートされたスプレッドシートの列を表すデータピルをターゲットテーブルの [値] 列にドラッグして、インポートからターゲットテーブルにフィールドをマッピングします。各ターゲットテーブルフィールドの右側にあるピルピッカーを使用して、フィールドをマッピングすることもできます。 |
| データピッカーを使用したフィールドのマッピング | ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングします。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 変換オプション | 右側のペインで FX アイコン (fx) をクリックして、マッピングされた個々のスプレッドシートフィールドの変換オプションを追加します。たとえば、大文字変換機能を使用して、入力文字列をすべて大文字に変換できます。これらを使用してインポートされたスプレッドシートフィールドのデータをトリミングする方法については、「Transform functions」を参照してください。<br>**注:** Flow Designer で利用可能なすべての変換関数が利用できるわけではありません。 |
| データレコードの照合をアクティブ化する | システムが一致するデータをチェックする必要があるフィールドを指定し、見つかった場合は、ターゲットテーブルで [一致] トグルをアクティブ化して、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。<br>○ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。<br>○ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。 |
| 参照および選択肢フィールドの動作の構成 | [選択肢] および [参照] フィールドタイプの動作を構成します。<br>**a.** 歯車アイコン (⚙) をクリックします。<br>**b.** [フィールド] で、ターゲットテーブルの受信レコード値を照合するフィールド列を選択します。<br>**c.** [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、そのレコードがターゲットテーブルに見つからない場合の対処方法を指定します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ▪ [新しい選択肢/レコードを作成]：フィールドにインポートされたデータから、ターゲットテーブルの一致するフィールド列に選択肢またはレコードを作成します。<br>▪ [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドを無視し、null のままにします。<br>▪ [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード (行) 全体の追加をスキップします。<br>**d.** [完了] をクリックします。 |
| ターゲットテーブルへの新しいフィールド列の追加 | インポートからターゲットテーブルにマッピングされていないフィールド列を追加するか、ターゲットテーブルに新しいフィールドを作成します。<br>**a.** 右側のターゲットテーブルの上にある [フィールドを追加] を選択します。<br>**b.** 左側のチェックボックスをオンにしてターゲットテーブルに追加するフィールドを選択するか、[すべて] を選択してすべてのフィールドを選択します。<br>**c.** 次の機能を実行することもできます。<br>▪ インポートされたフィールドの [フィールドラベル] を編集します。<br>▪ インポートされたフィールドのフィールドプロパティを編集するには、[編集] アイコン ( ) を選択します。<br>▪ ウィンドウの右上隅にある [新規フィールドの作成] をクリックして、新しいフィールドを作成します。<br>**d.** [フィールドを追加] を選択して、選択したフィールドをターゲットテーブルに追加します。 |

**4.** [続行] を選択してデータインポートマッピングを作成し、ターゲットテーブルを更新します。

> **注:**
> スプレッドシートにマッピングされていないフィールドが残っている場合は、プロンプトが表示されます。これらのフィールドをマッピングすることも、マッピングせずに続行することもできます。

**5.** オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 注:
  変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または 拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する を参照)。

- 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。

6. サマリー画面で、[完了] を選択します。
   または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

### 次のタスク

テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

## PDF を使用してデータテーブルを作成する

App Engine Studio の PDF エクストラクターツールを使用して、PDF フォームからテーブルを作成します。

注:
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

### 概要

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用すると、PDF をアップロードしてから、カスタムアプリで使用するテーブルフィールドを抽出できます。これにより、フィールドラベルを手動で入力する必要がなくなるため、既存の PDF フォームからアプリケーションデータテーブルを構築するプロセスが簡素化されます。

注:
Now Platform に既に存在するテーブルの再作成について、十分考慮するようにしてください。たとえば、ユーザーの人口統計データを含む PDF で、PDF から新しいテーブルを作成せずに既存のユーザーデータテーブルを参照するかどうかを決定します。

### 一般的なナビゲーション

次の表は、PDF エクストラクターツール内の他の基本的なナビゲーション要素の一部のリストを示しています。

**PDF エクストラクターのナビゲーション要素**

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 折りたたみ/展開アイコン<br> | これらのアイコンを選択して、PDF ペインとテーブルペインの折りたたみと展開を切り替えます。 |
| [選択] ボタン | [選択] ボタンをクリックして、テキスト選択モードに切り替えます。PDF 内のフレーズをクリックして、テキストをフィールド名として抽出します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**PDF** エクストラクターのナビゲーション要素 (続く)

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| ( ) | |
| [移動] ボタン<br>( ) | ドキュメントが拡大されたら、[移動] を選択して移動モードに切り替えます。移動モードでは、マウスでクリックしてドラッグすることで、PDF 内を簡単に移動できます。ドキュメントがページに合わせて縮小されると、[移動] ボタンがグレー表示になります。 |
| ページコントロール<br>( ) | PDF の下部にある矢印を使用して、ドキュメントを 1 ページずつ移動するか、ドキュメントの最初または最後に直接移動します。 |
| ズームコントロール<br>( ) | ズームコントロールを使用して、PDF をズームインまたはズームアウトします。 |
| [新しいフィールドを追加] アイコン<br>( ) | **[+** 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。 |
| [参照テーブルを追加] アイコン<br>( ) | 右側のパネルで [参照テーブルを追加] を選択して、新しいテーブルを指す参照フィールドをテーブルに追加します。 |
| [データテーブルとフォームを開く] アイコン<br>( ) | [データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。 |
| テーブルの他のアクションリスト ( ) | テーブルの他のアクションメニューを使用してテーブルの基本プロパティを編集するか、参照テーブルを追加した場合は [削除] を選択してテーブルを削除します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**PDF** エクストラクターのナビゲーション要素 (続く)

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| ゴミ箱アイコン<br>(🗑) | テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン (🗑) を選択します。 |

## PDF 解析の制限

現在、このツールを使用して PDF をアップロードする場合は、次の制限があります。

- PDF は画像から変換できません。
- PDF は 25 ページを超えることはできません。
- PDF ファイルサイズは 5 MB を超えることはできません。
- 現在、英語とフランス語以外の言語はサポートされていません。

### PDF フォームからのテーブルの作成

App Engine Studio で PDF をアップロードして、アプリケーションにデータテーブルを追加します。

#### 始める前に

**注:**
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

PDF が次の要件を満たしていることを確認します：

- PDF は画像から変換できません。
- PDF は 25 ページを超えることはできません。
- PDF ファイルサイズは 5 MB を超えることはできません。
- 現在、英語とフランス語以外の言語はサポートされていません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [空白のテーブルを作成する] を選択し、[続行] を選択します。
5. **[PDF** をアップロード] を選択した後、[続行] を選択します。
6. PDF を選択してアップロードします。

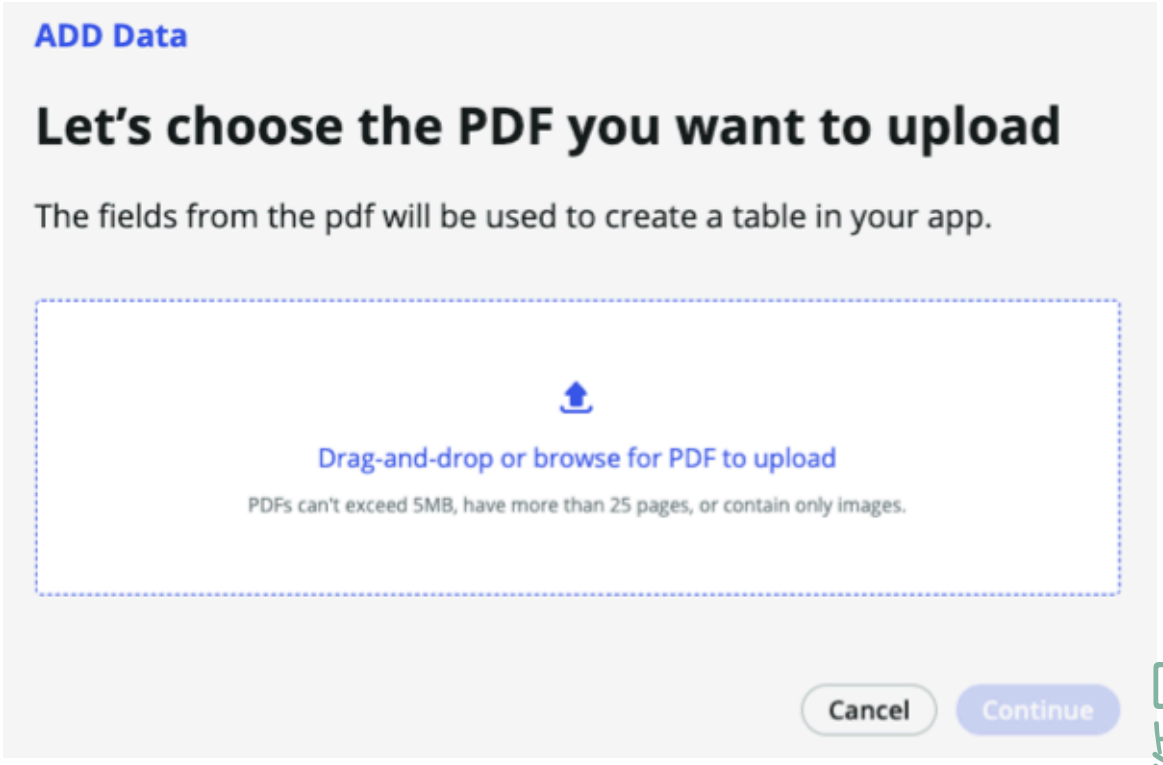
   PDF ファイルを App Engine Studio にドラッグすることも、コンピューターを参照することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
PDF のロードに少し時間がかかる場合があります。ゴミ箱アイコン (🗑) を選択して、PDF の選択を解除します。

アップロードする **PDF** を選択する




**7.** [続行] を選択します。

注:
PDF の解析には最大 1 分かかる場合があります。

**8.** 新しいテーブルのプロパティを定義します。

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| テーブル ラベル | テーブルを識別する一意のラベル。 |
| テーブル名 | テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。これが作成されると、このフィールドは読み取り専用になります。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。 |
| 自動番号 | 一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| プリフィックス | レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。 |

9. [続行] を選択します。
   新しいデータテーブルの権限を構成できるようになりました。
10. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

    テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

    注:
    テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

11. テーブルの権限を構成したら、[続行] を選択します。
12. **[PDF** エクストラクターに移動] を選択して、PDF エクストラクターで PDF を開きます。

次のタスク
次に、アップロードされた PDF からフィールドを追加します。PDF フォームからの新しいフィールドの追加 の手順に従って、新しいデータテーブルにフィールド列を入力します。

### **PDF** フォームからの新しいフィールドの追加

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用して、フィールド列をデータテーブルに追加します。

始める前に

注:
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

手順

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
   - 前の手順で説明した手順に従って、PDF をアップロードします (PDF フォームからのテーブルの作成 を参照)。
   - 既に PDF をアップロードしている場合は、テーブルビルダー の [フォーム] タブまたは [テーブル] タブで **[PDF** エクストラクターツールを開く] 要素を選択して、PDF エクストラクターツールを起動します。

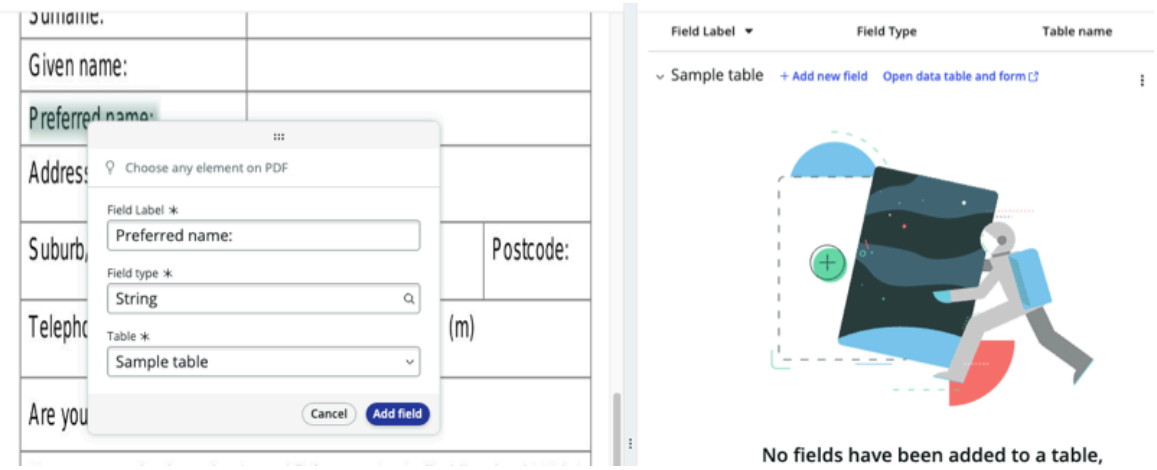
   PDF フォームが表示されます。
2. PDF を確認します。
   [PDF] ペインのナビゲーションコントロールを使用して、フィールドの追加を開始します。「一般的なナビゲーション」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [選択] をクリックしてテキスト選択モードにします。
4. PDF で、フィールドまたはテキストフレーズをクリックしてハイライト表示し、新しいフィールドの基礎として使用します。

**PDF** からのフィールドの追加




5. 必要に応じて、追加する新しいフィールドの [フィールドラベル] で抽出されたテキストを編集します。
6. [フィールドタイプ] を選択します。

   フィールドタイプは、新しい列に格納されるデータのタイプを参照します。たとえば、列にプレーンテキストを格納する場合は、[文字列] を選択します。基本的なフィールドプロパティを理解するには、「 Add and customize a field in a table」を参照してください。

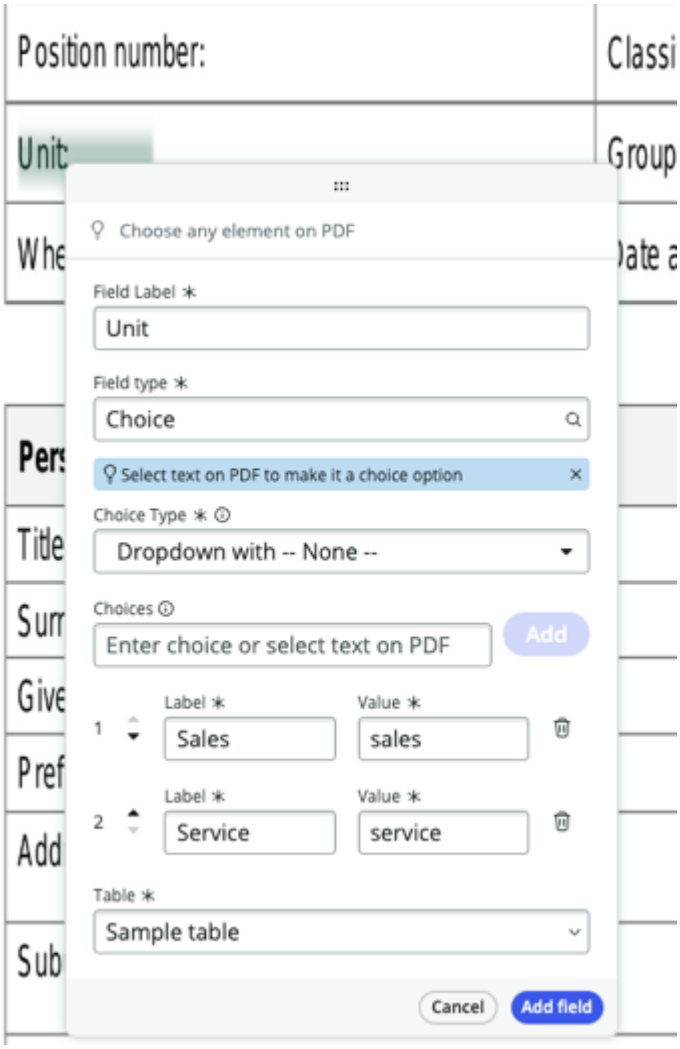
   選択したタイプによっては、テーブルの列をさらに定義するために、他のフィールドへの入力が必要になる場合があります。たとえば、参照フィールドタイプを使用して、参照する適切なデータテーブルを検索して選択します。

   a. オプション: 選択肢フィールドの作成を選択した場合は、次のアクションを実行して選択肢フィールドのオプションを入力します。
      i. メニューから [選択肢タイプ] を選択します。これは、リストにオプションとして [なし] があるかどうかをコントロールします。
      ii. [選択肢] フィールドをクリックし、テキストを手動で入力するか、PDF のテキストを選択して自動的に抽出します。
      iii. [追加] をクリックして、選択内容をリストに追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢フィールドの追加




**b.** オプション: 選択肢フィールドにすべての選択肢が追加されるまで、前の手順を繰り返します。

**7.** 新しいフィールドを追加する [テーブル] を選択します。
参照テーブルを追加した場合は、複数のオプションが表示されることがあります。デフォルトでは、元のテーブルが選択されています。

**8.** [フィールドを追加] を選択して、右側のテーブルのフィールドのリストにフィールドを追加します。

**注:**
右側のテーブルに追加したフィールドは、PDF 内で緑色で強調表示されたままになり、それらから関連フィールドを作成したことがわかります。右側のテーブルからフィールドを削除すると、抽出されたテキストはハイライト表示されなくなります。

**9.** PDF から追加するすべてのフィールドを追加するまで、上記の手順を繰り返します。

**注:**
右側のテーブルで [+新しいフィールドを追加] をクリックし、テーブルビルダー の [テーブル] タブでフィールドを追加するのと同じように詳細を直接入力することで、フィールドを手動で追加することもできます。

**10.** テーブルのフィールドを確認し、必要に応じて編集します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

テーブルペインのアクション

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル間でのフィールドの移動 | PDF エクストラクター内のテーブル間でフィールドを移動するには、選択した [テーブル名] を目的のテーブルの場所に変更します。 |
| 参照テーブルを削除 | テーブルの右上隅にある [他のアクション] リスト (⋮) から [削除] を選択して、追加した他の参照テーブルを削除します。 |
| 新しいフィールドを追加 | [+ 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。 |
| フィールドを編集 | フィールドのプロパティ (フィールドタイプなど) を編集するには、フィールドのプロパティをクリックして選択し、編集します。 |
| フィールドを削除する | テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン (🗑) を選択します。 |
| テーブルビルダー 内でテーブルを開く | [データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。 |

**11.** [保存] を選択します。

### 次のタスク

テーブルビルダーでデータテーブルを開くには、表示されたテーブルの上にある [データテーブルとフォームを開く] を選択します。テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

参照テーブルを追加するには、「PDF フォームからの参照テーブルの追加」を参照してください。

## PDF フォームからの参照テーブルの追加

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用して、新しい参照データテーブルにフィールドを移動します。

### 始める前に

**注:**
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

### このタスクについて

フォーム情報の一部を、元のテーブルから参照され、他のテーブルから参照できる個別のテーブルに追加する場合があります。たとえば、保険会社で働いている場合、情報が単一の PDF フォームから

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

抽出されていても、別々のデータテーブルとして参照できる別々のデータテーブルを作成することができます。

参照フィールドを追加し、対応する参照データテーブルを App Engine Studio の PDF エクストラクターから直接作成できます。

> **注:**
> アプリの新しい参照テーブルを作成する前に、Now Platform に既に存在するテーブルを誤って再作成していないことを確認することをお勧めします。

手順

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
   - 前の手順で説明した手順に従って、PDF をアップロードします (PDF フォームからのテーブルの作成 を参照)。
   - 既に PDF をアップロードしている場合は、テーブルビルダー の [フォーム] タブまたは [テーブル] タブで **[PDF** エクストラクターツールを開く] 要素を選択して、PDF エクストラクターツールを起動します。

   PDF フォームが表示されます。
2. 右側のパネルで [参照テーブルを追加] を選択して、参照テーブルをテーブルに追加します。
3. 参照テーブルの次のプロパティを入力します。

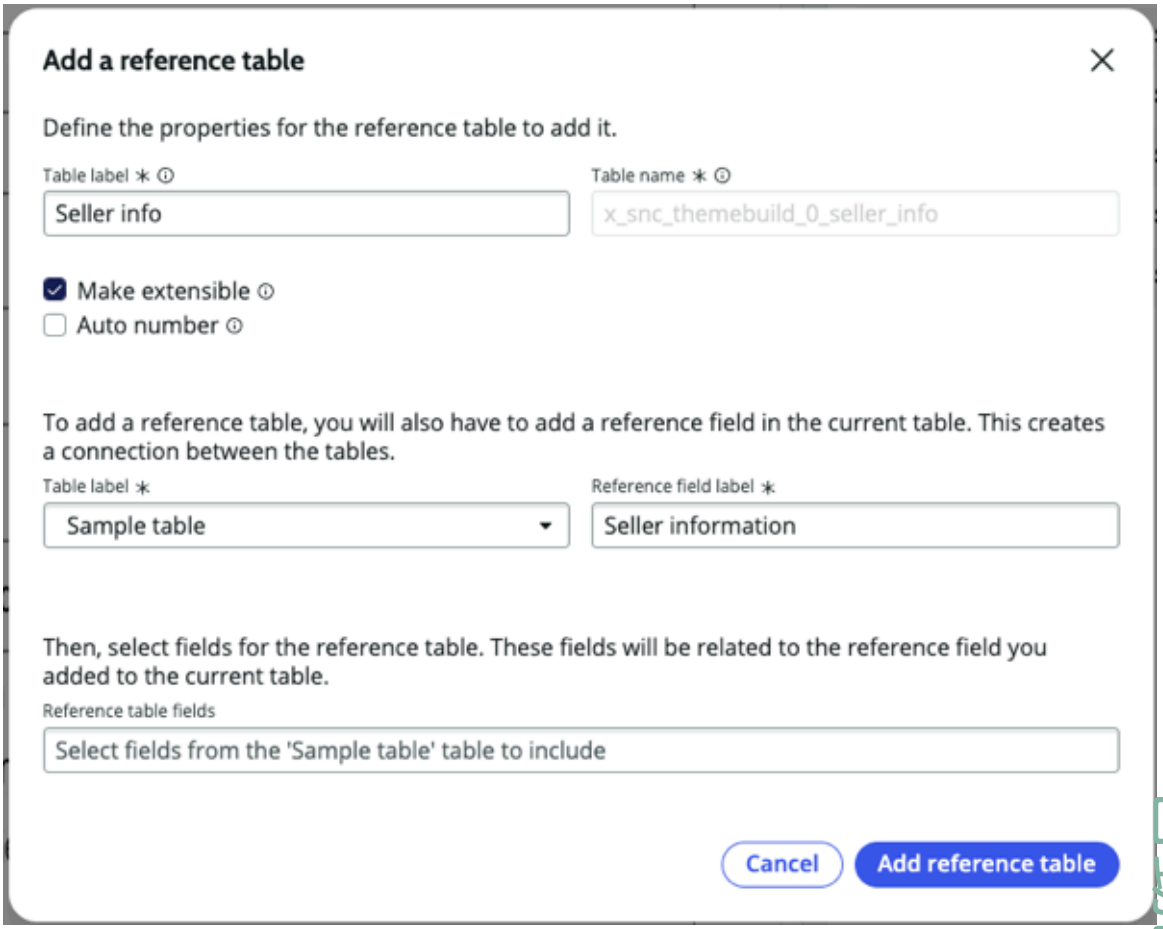
| 列ヘッダープロパティ | 説明 |
|---|---|
| テーブル ラベル | 参照テーブルの一意のラベル。 |
| テーブル名 | 参照テーブルのデータベース名。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。 |
| 自動番号 | 一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。 |

   次に、編集している元のテーブルに参照フィールドを追加します。これにより、テーブル間の接続が作成されます (「販売者情報」など)。
4. 参照フィールドを追加するテーブルの [テーブルラベル] を選択します (デフォルトでは元のテーブルが選択されています)。
   [テーブルラベル] フィールドでは、デフォルトで元のテーブルが選択されています。
5. この新しい参照フィールドの [参照フィールドラベル] (「販売者情報」など) を入力します。
6. 元のテーブルからフィールドを選択して、新しい参照テーブルに追加します。
   これらのフィールドは、現在のテーブルに追加した参照フィールドに関連しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照テーブルを追加




自動翻訳

7. [参照テーブルを追加] を選択します。
   参照テーブルが、元のテーブルで選択したフィールドが含まれた状態で下に表示されます。
8. フィールドとテーブルのプロパティを確認し、必要に応じて編集します。

テーブルペインのアクション

| アクション | 説明 |
|---|---|
| テーブル間でのフィールドの移動 | PDF エクストラクター内のテーブル間でフィールドを移動するには、選択した [テーブル名] を目的のテーブルの場所に変更します。 |
| 参照テーブルを削除 | テーブルの右上隅にある [他のアクション] リスト (⋮) から [削除] を選択して、追加した他の参照テーブルを削除します。 |
| 新しいフィールドを追加 | **[+** 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。 |
| フィールドを編集 | フィールドのプロパティ (フィールドタイプなど) を編集するには、フィールドのプロパティをクリックして選択し、編集します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| フィールドを削除する | テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン (🗑) を選択します。 |
| テーブルビルダー 内でテーブルを開く | [データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。 |

テーブルペインのその他のナビゲーションコントロールの詳細については、「一般的なナビゲーション」を参照してください。

9. [保存] を選択します。

### 次のタスク

テーブルビルダーでデータテーブルを開くには、表示されたテーブルの上にある [データテーブルとフォームを開く] を選択します。テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

## データ統合を作成する

統合ハブ の機能を使用してアプリケーション内の既存のテーブルにインポートすることで、新しい情報または更新された情報を現在のデータセットに追加します。特定の時刻にデータを追加するために、将来のインポートをスケジュールします。

### 始める前に

- アプリケーションに既存のテーブルが必要です。詳細については、「空白のテーブルを作成する」を参照してください。

  **注:**
  現在、ユーザーがアップロードできるデータ形式は Excel ファイルのみです。

- 必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または「統合」の委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [データ統合を作成する] を選択します。

### データインポートソースを構成

5. 次の手順を実行して、データインポートソースを構成します。

   a. データ統合のフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 統合の名前 |
| 簡単な説明 | 統合の説明。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | 統合のアプリケーションスコープの名前。 |

**b.** [保存して続行] を選択します。

**c.** データソースタイプを選択するための [ソースタイプ] メニューを使用します。

- Excel ファイルまたは CSV ファイルを選択するには、 アドホック > > ファイルの次に **Excel** または **CSV** のいずれかです。[ファイルのアップロード] セクションで、XLSX、XLS、CSV または ZIP ファイルをアップロードします。
- データストリームアクションを選択するには、[スポーク] を選択します。アクティブ化されているデータストリームがスポーク別に整理され、アルファベット順にリストされます。[接続] セクションで、接続エイリアスを選択します。接続エイリアスを使用するデータストリームアクションでは、デフォルトの接続エイリアスをその子エイリアスで上書きできます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

**d.** データソースの設定

- Excel スプレッドシートを設定するには、使用するシートとヘッダーに使用する行番号を指定します。1 つのシートと 1 つのヘッダーのみを指定できます。
- CSV ファイルを設定するには、区切り文字を選択します。
- データストリームアクションを設定するには、必要な入力項目を入力します。このセクションは、データストリームアクションに入力すべき項目がある場合にのみ表示されます。入力のあるデータストリームアクションには一意の入力があるため、このセクションのフィールドは、選択されたデータストリームアクションとその設定によって異なります。スポーク入力によって既に設定されているデフォルト値は、事前に入力されています。データストリームアクションの詳細を表示するには、その横にある情報アイコン (ⓘ) をクリックします。このアイコンをクリックすると、フローデザイナー にデータストリームアクションの設定ページが開きます。

**6.** [**Save**] ボタンを選択します。

ターゲットテーブルを選択し、インポートオプションを構成します

**7.** [ターゲットにマッピング] タブを選択します。

**8.** 作成するデータ統合のターゲットテーブルとオプションを選択します。
ソースデータをターゲットテーブルにマッピングすることで、アップロードしたデータをシステムでどのように処理するかを制御できます。

**a.** [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、[テーブルを追加する] をクリックします。

**b.** マッピングプロパティウィンドウで、次のフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ターゲットテーブル | データの変換先のテーブルの名前。 |
| インポート時にテーブルのビジネ | データをインポートするときにターゲットテーブルのビジネスルールを実行するオプション。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| スルールを実行する | |
| インポートを同期的に実行 | インポートを同期的に実行するオプション。データが並列変換され、特定の結合値を持つ複数のソースレコードが存在する場合、このオプションをオンにすると、その結合値を持つレコードが一度に 1 つだけ挿入されます。詳細については、「同時インポート」ページの「挿入を同期する」セクションを参照してください。 |

**c.** [保存] を選択します。

統合には複数のターゲットテーブルを追加できます。追加するターゲットテーブルごとに、ステップ 4a ~ 4c を繰り返します。

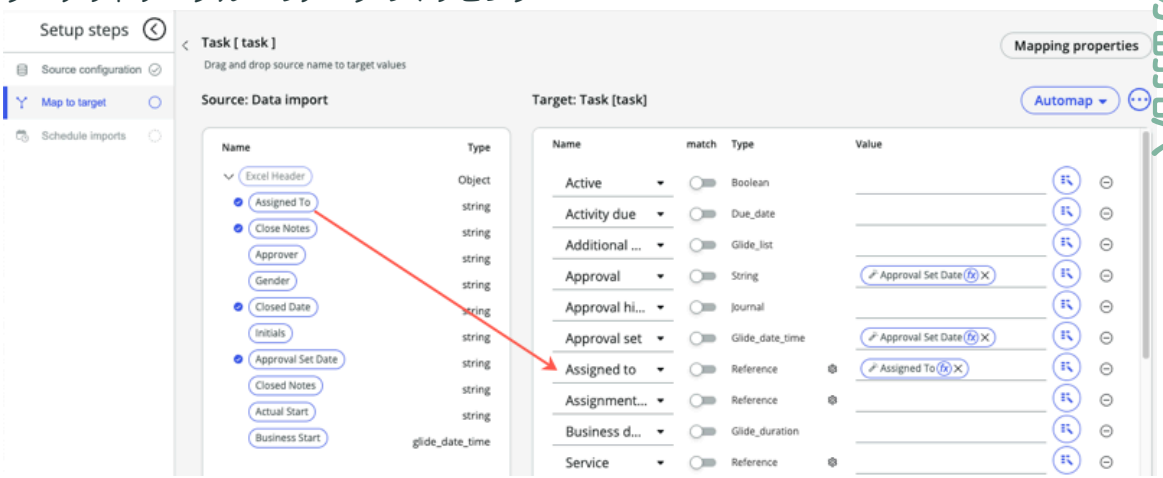
テーブルは、追加された順に一覧表示されます。各テーブルカードの左側にあるドラッグアイコン を使用してカードを別の位置にドラッグすると、順序を変更できます。テーブルカードの順序によって、実行時にデータがターゲットテーブルに変換される順序が決まります。

> **注:**
> 同じテーブルを複数回選択することはできません。また、拡張テーブルまたは既に統合に含まれているテーブルの親テーブルを選択することもできません。

インポートフィールドをターゲットテーブルにマッピング

**9.** 次のアクションを実行して、インポートのフィールドをターゲットテーブルにマッピングします。

ターゲットテーブルへのデータのマッピング




**a.** [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、マッピング先のターゲットテーブルのボタンを選択します。
これにより、テーブルのデータマッピングセクションが開きます。ページの左側にはソースデータが表示されます。右側はターゲットテーブル用です。

**b.** [フィールドを追加 **(Add a field)**]、[すべてのフィールドを追加] または [自動マッピング] ボタンを使用して、ターゲットサイドを設定し、マッピングデータを開始します。

- ターゲットテーブルのすべてのフィールドを追加するには、[すべてのフィールドを追加] を選択します。フィールドはアルファベット順に追加されます。
- フィールドを個別に追加するには、[フィールドを追加 **(Add a field)**] を選択し、リストからフィールド名を選択します。フィールドは 1 回のみ追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フィールドを追加して自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。[自動マッピング] ボタンには 2 つのオプションがあります。
  - [ターゲットテーブル内のすべての一致フィールド] に、すべてのフィールドが追加され、一致するフィールドがマッピングされます。
  - [ターゲット選択でマッピングされていないすべてのフィールド] は、既に追加されているがまだマッピングされていないフィールドのみをマッピングします。フィールドがまだ追加されていない場合、このオプションは使用できません。

- 既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。

  デフォルトでは、自動マップは最大 1 つのソースエンティティをターゲットエンティティにマッピングします。これを変更するには、*glide.ih.automap.extractone* プロパティを false に設定します。

  自動マッピングは、80% 以上一致する列名を探して、ソースとターゲットのエンティティを照合します。これは、*glide.ih.automap.minimum.score* のプロパティで変更できます。たとえば、60% の類似性に基づいて照合するには、*glide.ih.automap.minimum.score* を 60 に設定します。

**c.** データをマッピングするには、データピルをソースからターゲットテーブルの [値]列にドラッグします。

ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングすることもできます。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。

ソースフィールドをターゲットフィールドにマッピングすると、ソースフィールド名の横に小さなチェックマークアイコン ( ) が表示されます。カーソルをチェックマークに移動すると、ソースフィールドがマッピングされているターゲットフィールド (最大 5 つのフィールド) がツールヒントに一覧表示されます。

**d.** オプション: [一致] トグルスイッチを使用して、一致するデータをシステムがチェックするフィールドを指定し、見つかった場合は、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。

(Optional) たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。

- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。
- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。

**e.** オプション: 選択フィールドと参照フィールドでは、データのマッピング先の列を指定します。

**i.** 歯車アイコン ( ) を選択します。

**ii.** [フィールド] で、マッピング先の列を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

iii. [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、その列が利用できない場合の対処方法を指定します。
- [新しい選択肢/レコードを作成]：ターゲットテーブルに選択肢またはレコードを作成します。
- [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドのみを無視します。
- [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード全体をスキップします。

iv. [完了] を選択します。

f. オプション: 変換機能を適用して、データを変更または修正します。
たとえば、大文字変換機能を使用して、入力文字列をすべて大文字に変換できます。詳細については、変換機能に関する フローデザイナー ドキュメントを参照してください。

> **注:**
> フローデザイナー で利用可能なすべての変換機能が 統合ハブ - インポートで利用できるわけではありません。

i. 変換機能アイコン ( ) を選択します。

ii. メニューから変換機能を選択し、**[OK]** を選択します。

iii. 追加の変換関数を適用するには、[新しい変換を追加] を選択します。変換機能は、選択された順序で適用されます。

iv. すべての変換機能を追加したら、[完了] を選択します。

10. マッピングが完了したら、[保存] をクリックします。

ファイルのインポート、またはデータインポートのスケジュール

11. 作成してマッピングしたデータインポートの処理方法を選択します。
- アップロードしたデータセットを今すぐインポートするには、[インポート実行] を選択します。
- データを後でインポートするように設定するには、[インポートをスケジュール] を選択します。「Run or schedule a data import」を参照してください。

12. オプション: インポートを実行した場合は、テーブルをプレビューして追加のコンテンツが表示されることを確認するために、ターゲットテーブルに戻り、ブラウザー画面を更新して、[プレビュー] をクリックします。

13. オプション: インポート中に新しい列を追加してそれらをターゲットテーブルに表示する場合は、[リストをカスタマイズ] を選択して表示される列を編集します。

### アプリケーションデータテーブルの変更

テーブルビルダーを使用して、アプリケーションで使用されるデータテーブルを変更します。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

アプリケーションに関連付けられたデータテーブルを変更するには：

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しで、アプリケーションの既存のテーブルの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データテーブルをクリックするか、[他のアクション] メニュー (•••) の [編集] を選択してアプリケーションのデータを編集すると、テーブルビルダー が起動します。テーブルビルダー は、アプリケーションに追加したデータテーブルを編集するためのツールです。

テーブルビルダー では次のアクションを実行できます。

- [データ] タブでアプリケーションデータテーブルを管理します。
  - テーブルのフィールドを管理します。
  - テーブルとフィールドの列のプロパティを編集します。
  - データテーブル間のスキーマ関係を表示します。

    **注:**
    この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

- フォームビューを作成および管理し、[フォーム] タブのテーブルに関連付けられているロジックを表示します。
- [フロー] タブでテーブルの更新時または作成時にトリガーされるフローを作成および管理します。

**注:**
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

テーブルビルダー でのテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。

**注:**
アプリケーションからテーブルを削除するには、アプリケーションの既存のテーブルの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[削除] を選択して指示に従います。

### アプリケーションエクスペリエンスの追加

App Engine Studio (AES) を使用してエクスペリエンスをアプリに追加します。エクスペリエンスは、ユーザーがアプリを操作する方法のインターフェイスまたはラッパーです。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにエクスペリエンスを追加します。

#### エクスペリエンスのタイプ

| エクスペリエンス | 定義 | 例 | 参照 |
|---|---|---|---|
| 標準カタログアイテム | 標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要求レコードを生成します。さらに、生成された要求 | 休暇を要求するためのフォームなどのカタログアイテムフォームを作成します。そのフォームを送信すると、マネージャーが承認または却下するための要求が作成されます。 | • 標準カタログアイテムの追加<br>• 標準カタログアイテムのサンプル |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスのタイプ (続く)

| エクスペリエンス | 定義 | 例 | 参照 |
| --- | --- | --- | --- |
| | アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムを買い物かごに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。 | | |
| レコードプロデューサー | レコードプロデューサーは、ユーザーが入力するフォームを表示する簡易タイプのカタログアイテムで、設定したカスタムターゲットテーブルを選択して新しいデータレコードを挿入できます。このタイプのカタログアイテムを使用すると、ユーザーはインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できます (標準のカタログアイテムの使用に伴うより複雑な機能 (要求の作成など) は使用しません)。サービスカタログフォームで、要求ではない簡易タイプのレコード (インシデント、変更、拡張などのタスクレコードなど) を作成する場合は、レコードプロデューサーを使用します。 | 要求の代わりに、インシデントなどのタスクレコードを生成するサービスカタログフォームを作成します。 | • レコードプロデューサーの追加<br>• レコードプロデューサーのサンプル |
| ワークスペース | ワークスペースは、エージェント、ケースマネージャー、ヘルプデスク担当者、その他マネージャーが、顧客の質問に回答し、顧客 | 従業員がラップトップやその他のアイテムを要求できる機器フルフィルメントダッシュボードを作成します。ワークスペースはポー | • ワークスペースの追加<br>• AES でのワークスペースの構築 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスのタイプ (続く)

| エクスペリエンス | 定義 | 例 | 参照 |
|---|---|---|---|
| | の問題を解決する際に役立つツール群です。 | タルに似ていますが、範囲が限定されます。 | • ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成<br>• ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成<br>• ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成<br>• 構築できるサンプルワークスペース |
| ポータル | ポータルは、組織内のユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるサイトです。 | 従業員が要求を行いナレッジベースを参照するためのセルフサービスポータル、またはエントリーポイントを作成します。これにより、追加のワークスペースとカタログを設定できます。 | • ポータルの追加<br>• 構築できるサンプルポータル |
| モバイル | モバイルエクスペリエンスを使用すると、ユーザーは ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできます。その後、アプリにデータを入力する必要があります。 | モバイル用の休暇要求アプリケーションを作成して、マネージャーがモバイルデバイスの Now Mobile アプリで要求を承認または却下できるようにします。 | • モバイルエクスペリエンスの追加<br>• モバイルエクスペリエンスのサンプル |

レコードプロデューサーとカタログアイテムのいずれかの選択

App Engine Studio (AES) のレコードプロデューサーと標準カタログアイテムの両方が、ユーザーがサービスポータルを介して要求を送信できるエクスペリエンスを作成します。ただし、レコードプロデューサーはより拡張性があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## カスタマイズのレベルの検討

レコードプロデューサーを使用すると、より多くのカスタマイズが可能になり、App Engine ツールを最大限に活用してエクスペリエンスを新規に構築できます。

カタログアイテムは、ユーザーが要求できるサービスまたはアイテムを表します。すべてのアイテムのカタログはサービスカタログと呼ばれ、サービスカタログ管理の一部です。

## レコードプロデューサーと標準カタログアイテムの比較

| 機能エリア | レコードプロデューサー | カタログアイテム |
|---|---|---|
| 目的 | App Engine 自動化ツールを使用して、カスタム履行エクスペリエンスを作成します。 | IT ハードウェアとソフトウェアの要求など、事前定義された承認および認定プロセスが存在するシンプルな Request Management アプリケーションをサポートします。 |
| 拡張性 | カスタマイズ可能。 | 事前定義済み。 |
| 例 | パスワードリセット要求を作成するパスワードリセットフォーム。 | 駐車許可を要求するフォーム。 |
| 開発モデル | プロセスは次のとおりです。<br>**1.** ビジネスに焦点を当てたデータモデルを設定します。<br>**2.** ユーザーが利用するエクスペリエンスの種類を定義します。<br>**3.** 自動化またはビジネスロジックを定義します。<br>**4.** アプリを使用するユーザーロールを定義します。 | カタログアイテムは、正確で一貫した中心的なデータソースである サービスカタログ で定義されたアイテムを履行するための要求履行プロセスに大きく依存しています。 |
| レポート | 専用のデータモデルを使用すると、ダッシュボードを簡単に作成できます。 | データベースビューを作成し、変数を他のテーブルに収集して特定のレポートを構成するためのスクリプトを作成する必要があります。 |
| スケーラビリティ | ビジネスに焦点を当てたアプリを使用すると、より簡単にローコード環境でリソースを見つけてアプリを変更することができます。 | 通常は、各カタログを管理する専任チームによるサービスカタログ管理運用の一部です。 |
| セキュリティ | スコープ対象のアプリを使用すると、管理者でなくとも権限を柔軟に管理できます。 | カタログアイテムは通常、特定のスコープで構築され、柔軟性が低くなります。 |

## レコードプロデューサーと標準カタログアイテムに関するヘルプトピック

詳細は、以下のトピックを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- レコードプロデューサー：
  - レコードプロデューサーの追加
  - レコードプロデューサーのサンプル
- 標準カタログアイテム：
  - 標準カタログアイテムの追加
  - 標準カタログアイテムのサンプル

## レコードプロデューサーの追加

レコードプロデューサーを使用すると、ユーザーが要求を作成せずに、App Engine Studio (AES) で作成したアプリでインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できるようになります。簡素化されたフォームを使用して要求を標準化することで、エンドユーザーのエクスペリエンスを向上させることができます。

### 始める前に

ユーザーがフォームに入力したときにレコードプロデューサーが新しいレコードを追加するデータテーブルを作成します。詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

レコードプロデューサーは、ユーザーが入力するフォームを表示する簡易タイプのカタログアイテムで、設定したカスタムターゲットテーブルを選択して新しいデータレコードを挿入できます。このタイプのカタログアイテムを使用すると、ユーザーはインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できます (標準のカタログアイテムの使用に伴うより複雑な機能 (要求の作成など) は使用しません)。サービスカタログフォームで、要求ではない簡易タイプのレコード (インシデント、変更、拡張などのタスクレコードなど) を作成する場合は、レコードプロデューサーを使用します。 レコードプロデューサーを追加すると、レコードプロデューサーの基本バージョンが作成されます。展開する準備ができるまで、カタログビルダーで編集を続ける必要があります。

> **注:**
> テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、レコードプロデューサーがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [レコードプロデューサー] を選択して [開始] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

レコードプロデューサーフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | レコードプロデューサーの名前。 |
| 簡単な説明 | レコードプロデューサーの簡単な概要。 |

6. [レコードプロデューサーを編集] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. カタログビルダーで、必要な情報を指定します。
   各ステップを完了したら、[保存] を選択します。

カタログビルダーのステップ

| ステップ | 説明 |
| --- | --- |
| 詳細 | ○ 基本情報：レコードプロデューサー名と簡単な説明。<br>○ アイテムの詳細：レコードプロデューサーの説明。<br>**注:** グラフィック、画像、ビデオ、または外部ソースの情報へのリンクなどのファイルを添付することができます。 |
| 移動先 | レコードプロデューサーがレコードを作成するテーブル。 |
| ロケーション | ○ カタログ：レコードプロデューサーが属するカタログの名前。<br>○ カテゴリ：レコードプロデューサーにリンクできる使用可能なカテゴリ。 |
| 質問 | レコードプロデューサーの質問。<br>[新しい質問の挿入] リストから、追加の質問セット、質問、非アクティブ化した質問、1 列コンテナー、2 列コンテナー、改行を含めることができます。質問とサポートされている質問タイプの作成については「Create a question for a catalog item in Catalog Builder」を参照してください。<br>質問には動的フォーム動作も追加できます。動的フォーム動作の追加については「Edit a question in Catalog Builder」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ステップ | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>○ 質問セット内の質問は編集できません。質問セットは、ドラッグ & ドロップすることで並べ替えることができます。<br>○ テンプレートで指定された質問セットは削除できませんが、ユーザーが追加した質問セットは削除できます。<br>○ 質問セットを削除してもアイテムに対する関連付けが削除されるだけで、質問セットは削除されません。<br>○ 1 列の質問セットは、1 列または 2 列のコンテナーに追加できます。2 列の質問セットはコンテナに追加できません。 |
| 設定 | レコードプロデューサーの動作をカスタマイズするオプション。<br>○ [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示：レコードプロデューサーの [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示にするオプション。<br>○ [添付ファイル] ボタンを非表示：レコードプロデューサーの [添付ファイル] ボタンを非表示にするオプション<br>○ 添付を必須に設定：レコードプロデューサーの [添付ファイル] フィールドを必須にするオプション。 |
| アクセス | レコードプロデューサーを使用可能または使用不可能なグループまたは個々のユーザー。 |
| レビューと送信 | レコードプロデューサーをレビューおよび送信します。 |

8. ポータルまたは Now Mobile でカタログアイテムをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

   注:
   アイテムをプレビューする際は、アイテムを操作できますが送信できません。

   a. ポータルでアイテムをプレビューするには、[次での表示] フィールドで [ポータル] を選択します。

      注:
      ポータルプレビューは、カタログビルダー用に構成されたポータル URL に基づいて表示されます。

   b. Now Mobile でアイテム表現を表示するには、[次での表示] フィールドで **[Now Mobile]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 新しいタブでプレビューを開くには、[新しいタブでプレビューを開く] を選択します。

> **注:**
> アイテムを変更して保存すると、開いているタブでプレビューが動的に更新されます。

9. [送信] を選択します。

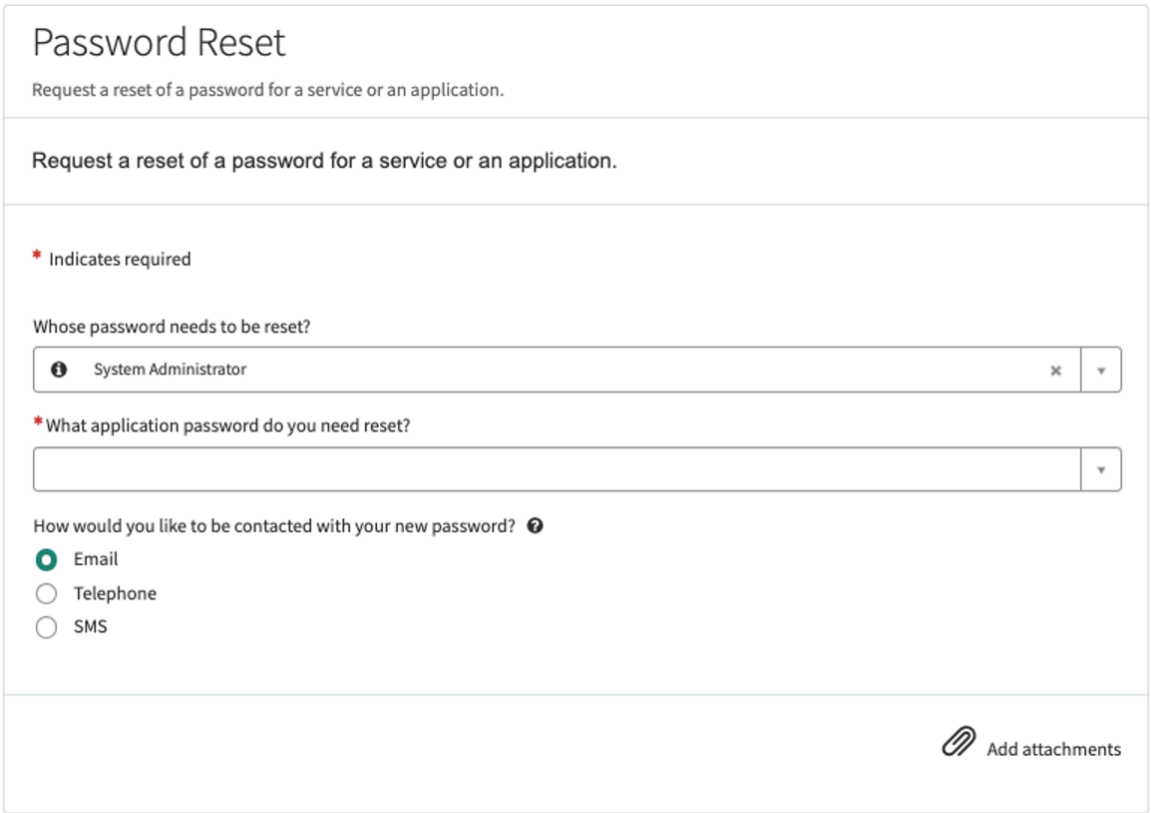
### 次のタスク
編集するレコードプロデューサーのメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

### レコードプロデューサーのサンプル

App Engine Studio (AES) で作成するレコードプロデューサーエクスペリエンスは、要求ではなくタスクレコード (インシデントなど) を生成する Service Catalog フォームです。

## レコードプロデューサーの例

次に、パスワードリセット要求を作成するレコードプロデューサーの例を示します。




### 標準カタログアイテムの追加

App Engine Studio (AES) でアプリケーションに標準カタログアイテムを追加して、ユーザーがサービスとオファリングの要求を送信できるようにします。

### 始める前に
必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて
標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

求レコードを生成します。さらに、生成された要求アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムを買い物かごに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。 標準カタログアイテムを追加するときは、カタログアイテムの基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、カタログビルダーで編集を続行する必要があります。

> **注:**
> テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、標準カタログアイテムがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [標準カタログアイテム] を選択し、[開始] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

**[ADD EXPERIENCE]** フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 標準カタログアイテムの名前。 |
| 簡単な説明 | 標準カタログアイテムの簡単な概要。 |

6. [カタログアイテムの編集] を選択します。
7. 必要な情報を指定します。

   各ステップを完了したら、[保存] を選択します。

カタログビルダーのステップ

| ステップ | 説明 |
|---|---|
| 詳細 | ○ 基本情報：標準カタログアイテム名と簡単な説明。<br>○ アイテムの詳細：標準カタログアイテムの説明。<br>**注:** グラフィック、画像、ビデオ、または外部ソースの情報へのリンクなどのファイルを添付することができます。 |
| ロケーション | ○ カタログ：標準カタログアイテムが属するカタログの名前。<br>○ カテゴリ：標準カタログアイテムとリンクできる利用可能なカテゴリ。 |
| 質問 | 標準カタログアイテムに対する質問。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ステップ | 説明 |
| --- | --- |
| | [新しい質問の挿入] リストから、追加の質問セット、質問、非アクティブ化した質問、1 列コンテナー、2 列コンテナー、改行を含めることができます。質問とサポートされている質問タイプの作成については「Create a question for a catalog item in Catalog Builder」を参照してください。<br><br>質問には動的フォーム動作も追加できます。動的フォーム動作の追加については「Edit a question in Catalog Builder」を参照してください。<br><br>注:<br>○ 質問セット内の質問は編集できません。質問セットは、ドラッグ & ドロップすることで並べ替えることができます。<br>○ テンプレートで指定された質問セットは削除できませんが、ユーザーが追加した質問セットは削除できます。<br>○ 質問セットを削除してもアイテムに対する関連付けが削除されるだけで、質問セットは削除されません。<br>○ 1 列の質問セットは、1 列または 2 列のコンテナーに追加できます。2 列の質問セットはコンテナに追加できません。 |
| 設定 | 要求の方法に基づいて標準カタログアイテムを構成します。<br><br>要求の方法：<br>○ 注文：この方法は、企業のラップトップ要求などのシナリオ、で使用します。<br>○ 要求：この方法は、コードアクセス要求などのシナリオ、で使用します。<br>○ 送信：この方法は、パスワードのリセット要求などのシナリオ、で使用します。<br><br>その他のオプション：<br>○ [買い物かごに追加] ボタンを非表示：標準カタログアイテムの [買い物かごに追加] ボタンを非表示にするオプション。このオプションは、[要求の方法] が [要求] または [送信] の場合は自動的に選択されます。<br>○ [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示：標準カタログアイテムで [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示にするオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ステップ | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ 数量セレクターを非表示：標準カタログアイテムで [数量] リストを非表示にするオプション。<br>○ 配送日時を非表示：標準カタログアイテムで [配送日時] フィールドを非表示にするオプション。このオプションは、[要求の方法] を [送信] に設定した場合は自動的に選択されます。<br>○ [添付ファイル] ボタンを非表示：標準カタログアイテムで [添付ファイル] ボタンを非表示にするオプション。<br>○ 添付を必須に設定：標準カタログアイテムで [添付ファイル] フィールドを必須にするオプション。 |
| アクセス | 標準カタログアイテムを利用できるまたは利用できないグループまたは個々のユーザーを指定します。 |
| 達成 | 標準カタログアイテムを関連付けられるフロー。このフローは、標準カタログアイテムの履行プロセスを定義します。フローの詳細については、「フロー」を参照してください。 |
| レビューと送信 | 標準カタログアイテムを確認して送信します。 |

8. ポータルまたは Now Mobile でカタログアイテムをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

   注:
   アイテムをプレビューする際は、アイテムを操作できますが送信できません。

   a. ポータルでアイテムをプレビューするには、[次での表示] フィールドで [ポータル] を選択します。

      注:
      ポータルプレビューは、カタログビルダー用に構成されたポータル URL に基づいて表示されます。

   b. Now Mobile でアイテム表現を表示するには、[次での表示] フィールドで **[Now Mobile]** を選択します。

   c. 新しいタブでプレビューを開くには、[新しいタブでプレビューを開く] を選択します。

      注:
      アイテムを変更して保存すると、開いているタブでプレビューが動的に更新されます。

9. [送信] を選択します。

次のタスク
編集する標準カタログアイテムのメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

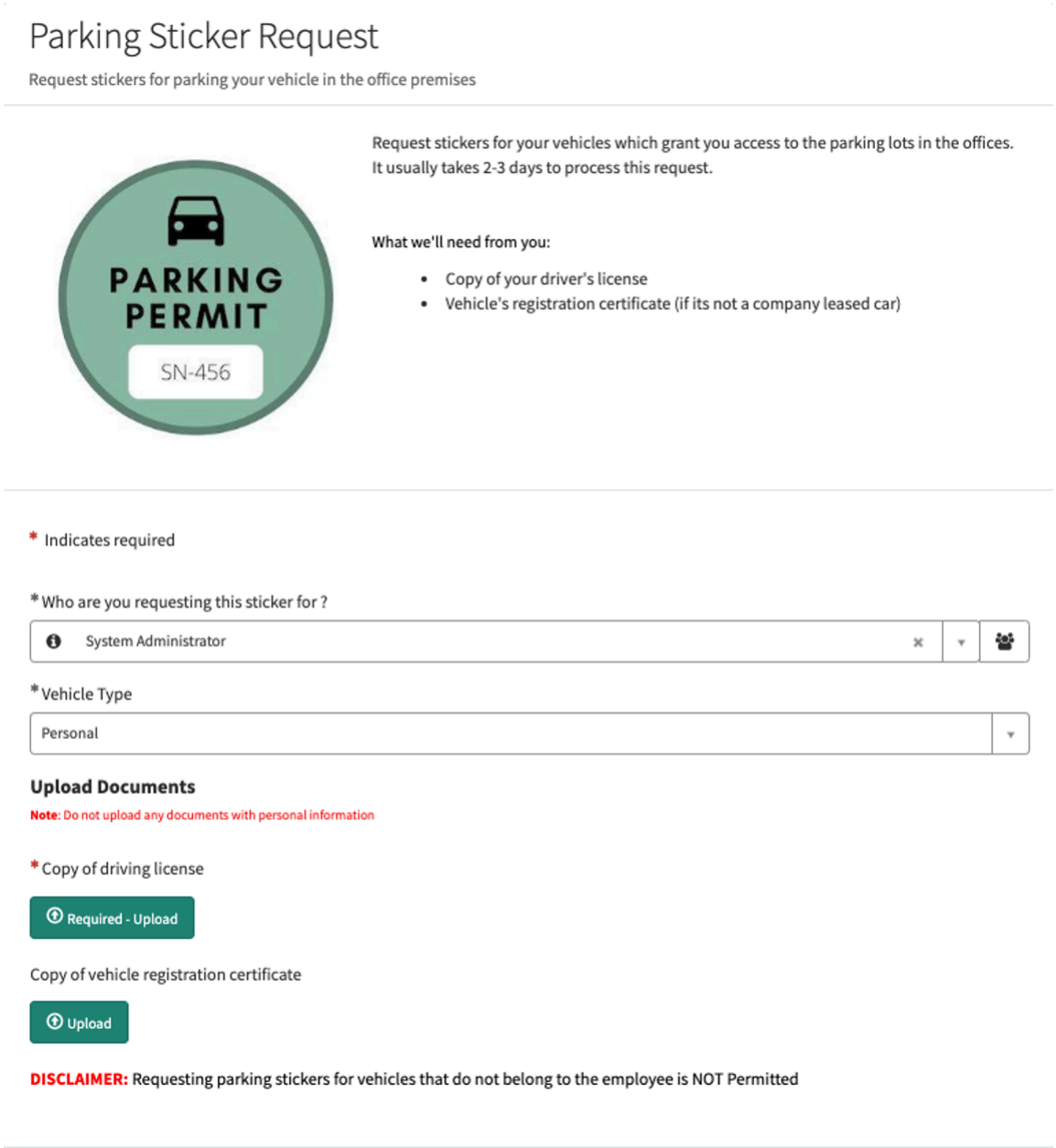
### 標準カタログアイテムのサンプル

標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要求レコードを生成します。さらに、生成された要求アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムを買い物かごに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。

たとえば、従業員は [カタログアイテム] フォームに入力して休日の休暇を申請できます。そのフォームを送信すると、マネージャーが承認または却下するための要求が作成されます。

### 標準カタログアイテムの例

次に、駐車許可を要求するための標準カタログアイテムの例を示します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースの追加

App Engine Studio (AES) でワークスペースを作成して、エージェント、ケースマネージャー、ヘルプデスク担当者、マネージャーが顧客の質問に回答し、顧客の問題を解決できるスペースを構築します。 ワークスペースは主に、チケットを管理するサービスデスクなどの要求および履行プロセスに使用されます。

## 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

## このタスクについて

ワークスペースを追加するときは、その基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、ワークスペースビルダー で編集を続行する必要があります。 より複雑なカスタマイズを行うには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

App Engine Studio のワークスペースエクスペリエンステンプレートからワークスペースを作成すると、ワークスペースビルダー でホームページ、リスト、レコードページを編集できます。ただし、アプリケーションテンプレートを使用してワークスペースを作成する場合は、UI ビルダー でそのワークスペースのページとオブジェクトの一部を編集する必要があります。

## 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [ワークスペース] を選択し、[開始] を選択し ます。
5. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | ユーザーに表示されるワークスペースの名前。デフォルトでは、ワークスペースはアプリケーションと同じ名前を共有します。<br>ヒント:<br>他のエクスペリエンスからそのワークスペースを一意に識別できる名前を使用します。たとえば、「Office art requests workspace (オフィスのアート要求ワークスペース)」などです。 |
| 説明 | ワークスペースの説明。 |
| URL | ワークスペースの一意の Web アドレス。デフォルトでは、ワークスペースの URL はアプリケーション名に基づいていますが、編集可能です。 |
| ロール | ワークスペースにアクセスできるユーザーを限定するユーザーロール。<br>○ ワークスペースへのアクセス権を付与するには、少なくとも 1 つのロールを指定する必要があります。<br>○ ワークスペースに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ **(Security)**] で作成する必要があります。<br>詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。 |

6. [続行] を選択してワークスペースのデータを定義します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

7. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| [プライマリ] テーブル | ワークスペースユーザーが表示または更新するデータテーブル。 |
| セカンダリテーブル | ワークスペースユーザーが表示および更新する追加データテーブル。 |

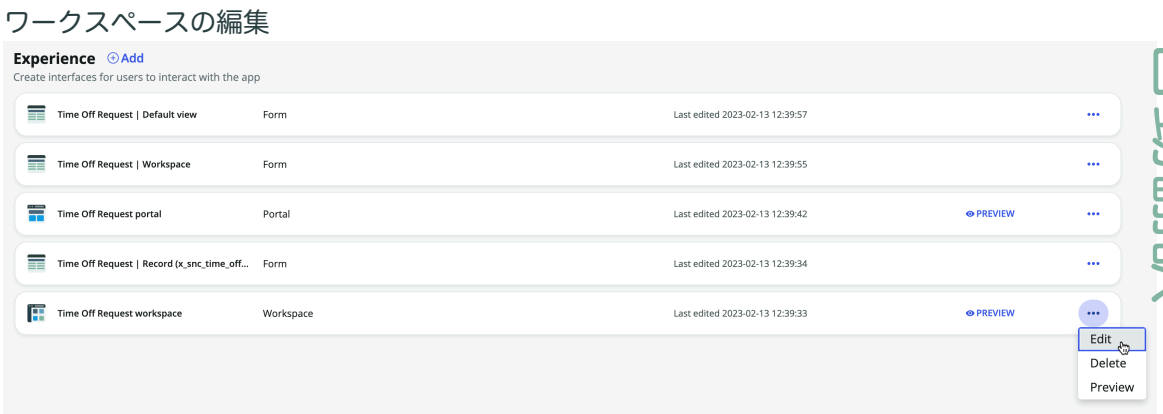
> **注:**
> デフォルトビューのテーブルのみを選択できます。 アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。

ワークスペースビルダー は、選択したテーブルのレコードページを自動的に生成します。

8. [続行] を選択し、[完了] を選択します。
AES でワークスペースを作成した後、ワークスペースビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成して、そのワークスペースを編集する必要があります。

9. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。




10. オプション: [プレビュー] を選択して、インラインエディターでワークスペースホームページを編集します。

a. ワークスペースのホームページで、[編集] を選択します。
[編集] が表示されない場合は、そのワークスペースホームページの編集に必要な権限がない可能性があります。

b. ワークスペースにアクセス制御リスト (ACL) がない場合は、 [続行するにはユーザー ロールを追加] モーダルにアクセスする必要があるロールを入力し、 [ ロールの追加 ] ボタンを選択します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」と「Access Control List Rules」を参照。

c. サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。

ワークスペースのホームページの編集は、ワークスペースでのダッシュボードの編集と同様に機能します。詳細については、「Edit Platform Analytics dashboards」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> ワークスペースが Tokyo より前に作成された場合は、UI ビルダー で編集する必要があります。詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI Builder** で開くように求めます。

**d.** [新しい要素を追加] を選択して、ワークスペースのホームページにアイテムを追加します。

**e.** [編集モードを終了] を選択して、インラインエディターでの編集を停止します。

**11.** ワークスペースビルダー でワークスペースを編集します。詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成」を参照してください。

必要に応じて、ワークスペースにさらにレコードページを追加することもできます。

> **注:**
> デフォルトのワークスペースレコードページは読み取り専用であり、編集することはできません。各レコードページのコンテンツを変更するには、ページのバリアントを作成し、そのバリアントを編集します。

### 構築できるサンプルワークスペース

App Engine Studio (AES) は、ホームページ、レコードページ、リスト、アナリティクスセンター、その他の機能を含む基本的なワークスペースを提供します。

App Engine Studio で作成するワークスペースには、複数のデフォルトページが含まれています。これらのページをそのまま使用することも、ビジネスニーズに合わせて編集することもできます。

次に、追加した後にワークスペースに適用できるページのカスタマイズの例を示します。

- ホームページへ。
- リスト ページ
- レコードページ
- 検索ページ
- アナリティクスセンター

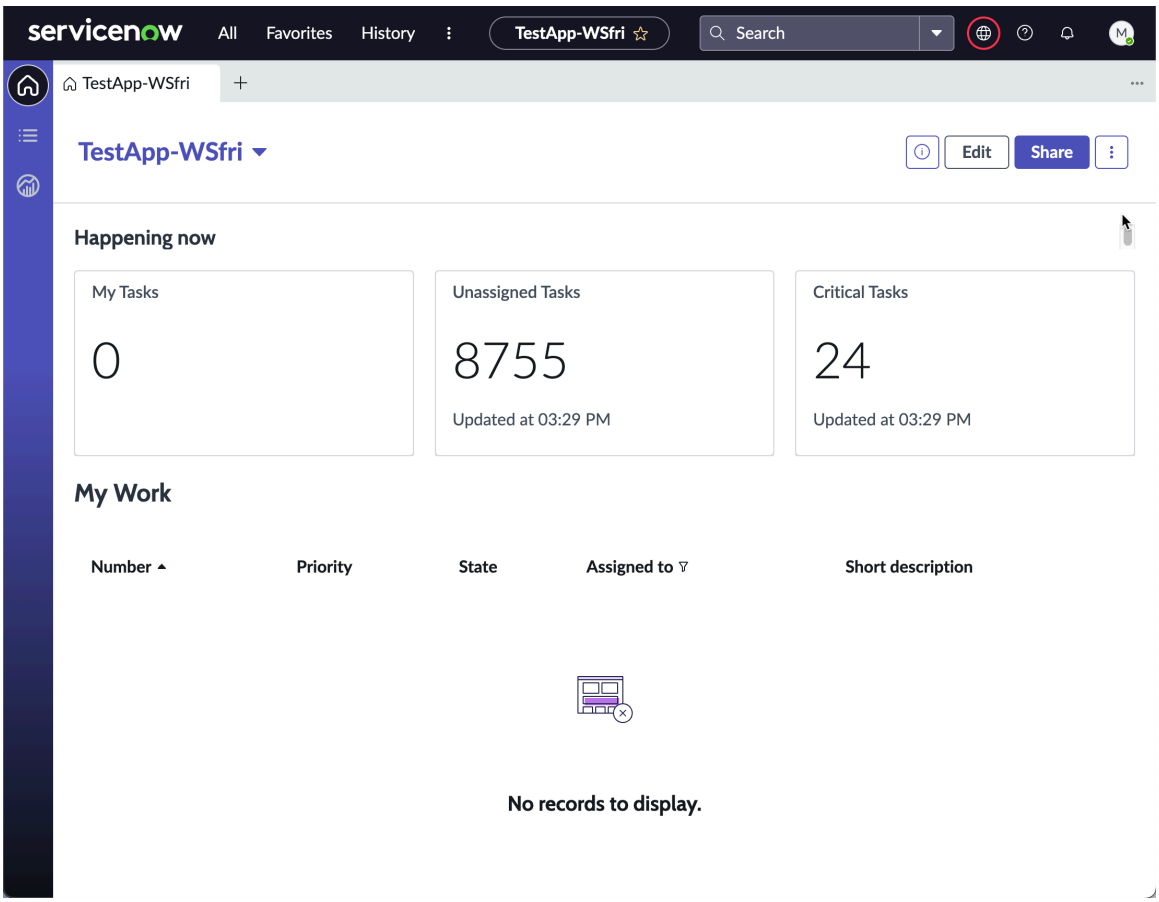
## ワークスペースのホームページ

> **注:**
> ホームページに変更を加えることはできますが、他のすべてのページを編集するには、ページのバリアントまたはコピーを作成する必要があります。ページを直接編集すると、システムアップグレードで最新のコードが取得されません。

自動翻訳

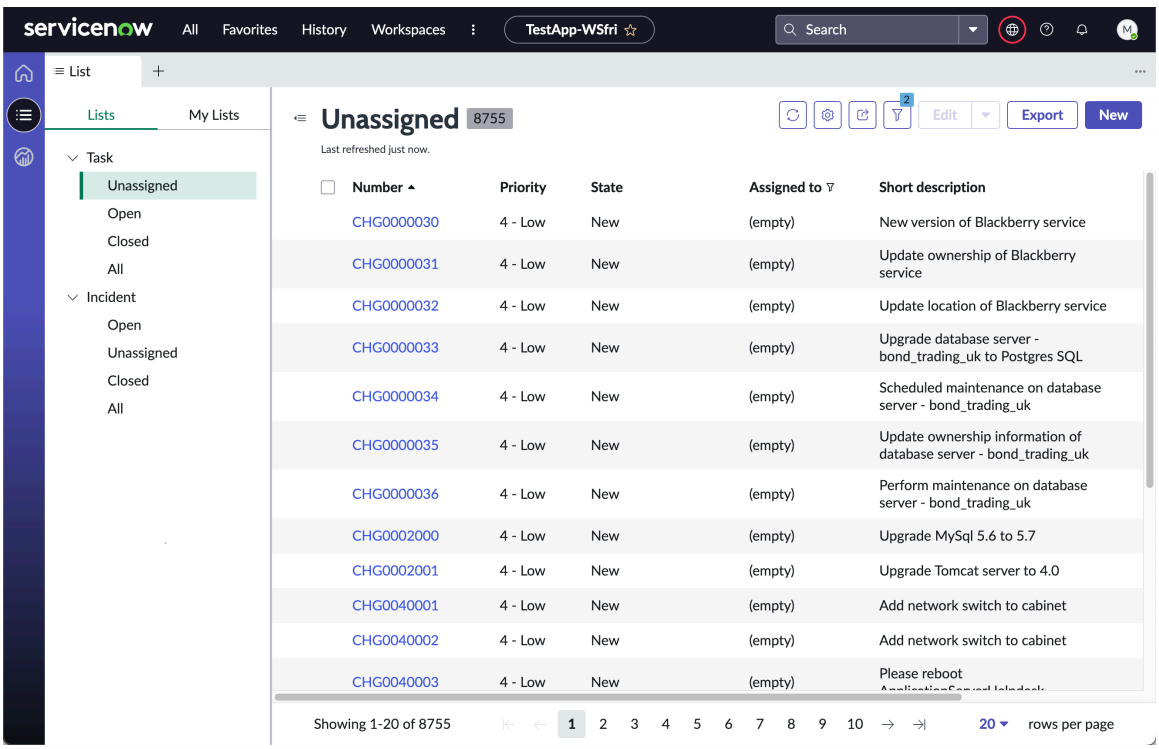
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ホームページへ。




## ワークスペースのリストページ

リスト ページ

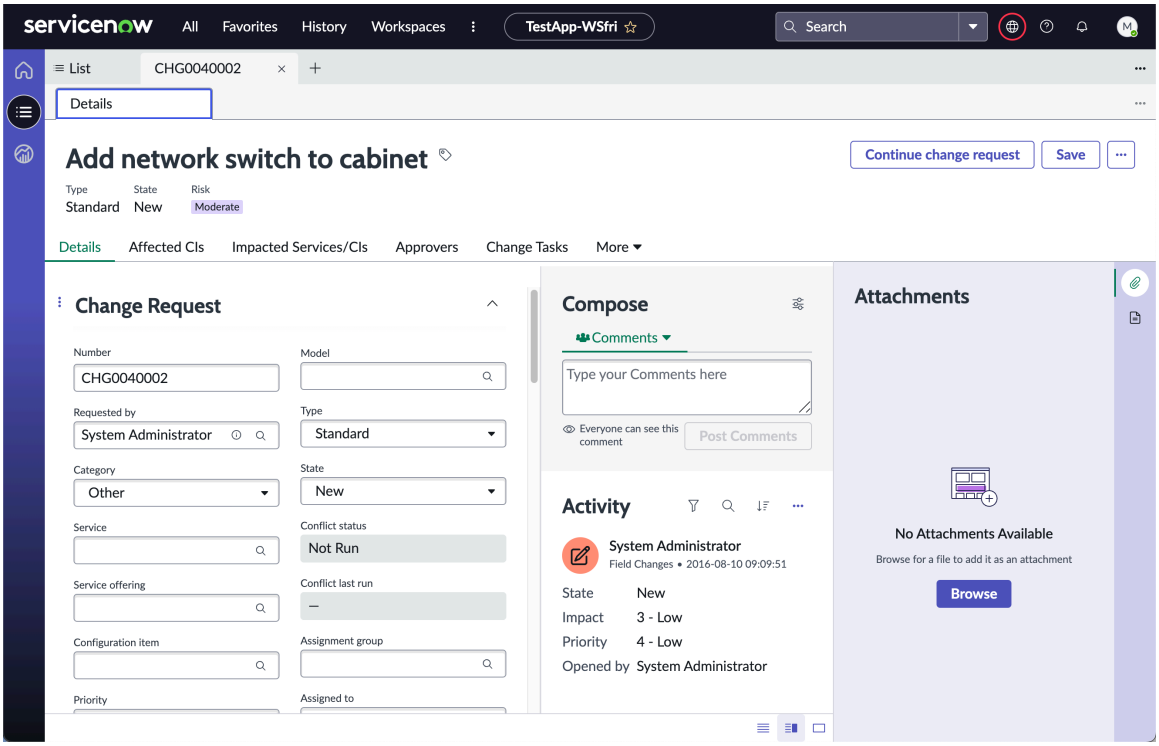



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

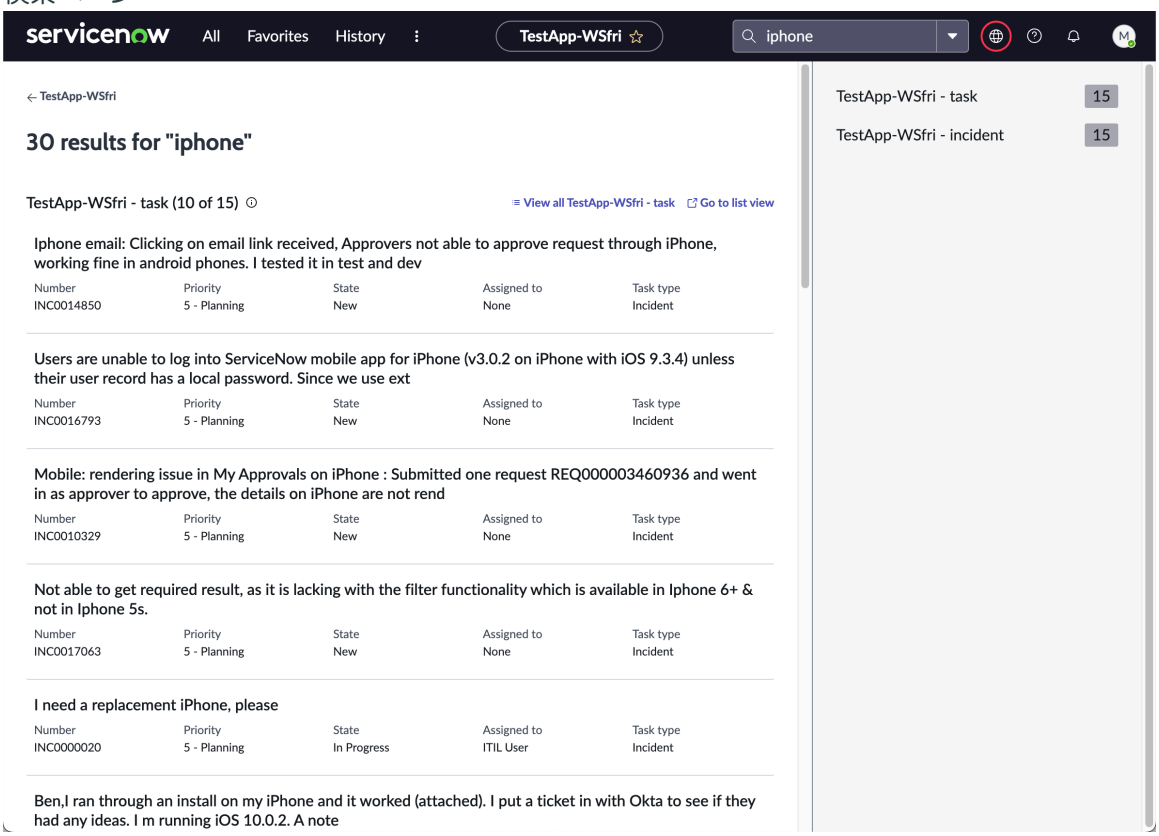
# ワークスペースのレコードページ

## レコードページ




# ワークスペースの検索ページ

## 検索ページ




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ワークスペース アナリティクスセンター

アナリティクスセンターには次のコンポーネントが含まれます。

分析 Q&A

プロセスの傾向と健全性について自然言語で質問できるフィールドです (自然言語クエリ機能が必要です)。

インジケータースコアカード

ロールに基づいてアクセスが許可されている パフォーマンスアナリティクス インジケーターのリストです。構成によっては、インジケーターを選択すると KPI 詳細で開くことができます。

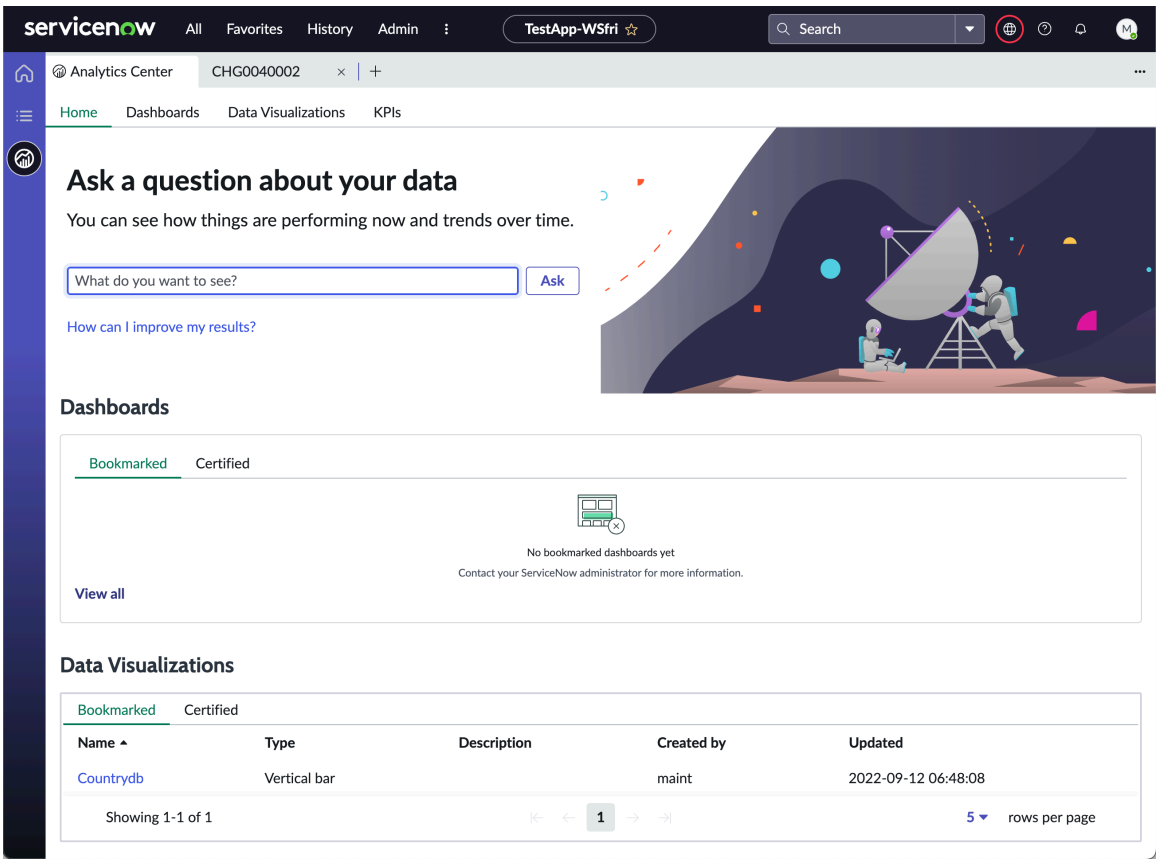
ダッシュボードの概要

インスタンス上のアクセスが許可されている各ダッシュボードのタイルのセットです。タイルを選択すると、そのダッシュボードが開きます。

> **注:**
> ダッシュボードをインラインで作成および編集できます。詳細については、「Configure Platform Analytics dashboard details」を参照してください。

アナリティクスセンター の詳細については、「Analytics Center」を参照してください。

アナリティクスセンター




## AES でのワークスペースの構築

ワークスペースビルダー for App Engine は、App Engine Studio (AES) 内から迅速かつ効率的にカスタムワークスペースを作成できる、簡素化されたノーコード環境です。

ワークスペースビルダー を使用することで、Washington DC 以降で構築されたワークスペースのワークスペースをすばやく作成できます。ワークスペースビルダー を使用すると、ワークスペースのホームページ、リストページ、レコードページのコンテキストサイドパネルを ワークスペースビル

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ダー プレビューキャンバスで直接編集できます。Washington DC より前に作成されたワークスペースの場合、またはより堅牢な機能と構成が必要な場合は、AES 内のタブから UI ビルダー でワークスペースを編集します。

ワークスペースビルダー で構築されたアプリを非本番から本番インスタンスに昇格するには、Tokyo パッチ 4 まで待つ必要があります。

## ワークスペースの構成要素

次のページと要素を含めて、ワークスペースを構築します。

### ワークスペースのページと要素

| コンポーネント | 定義 |
| --- | --- |
| ホーム | ワークスペースのランディングページ。ダッシュボードが含まれており、ユーザーが最初にワークスペースにアクセスしたときに表示されます。<br><br>**注:** ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。<br><br>ホームページの構成の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成」を参照してください。<br><br>ワークスペースの基本設定の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」を参照してください。 |
| リスト | 指定されたテーブルのレコードリストページ。ユーザーがワークスペース内の個々のレコードを検索する際に役立ちます。<br><br>**注:** リストページやルートを削除する場合は、ワークスペースビルダー ではなく UI ビルダー を使用してワークスペースを編集する必要があります。<br><br>リストカテゴリを作成し、リストカテゴリごとにフィルター済みリストを追加できます。フィルター済みリストは一意の条件を適用し、レコードのフィルター済みサブセットのみが表示されるようにします。<br><br>ワークスペースビルダー でのリストの追加と編集の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成」を参照してください。 |
| 分析 | カスタマイズ可能な アナリティクスセンター を使用すると、ユーザーはインスタンスのダッシュボード、データ可視化、およびインスタン |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースのページと要素 (続く)

| コンポーネント | 定義 |
| --- | --- |
| | スのインサイトを使用してレコードと使用率を追跡および分析できます。<br><br>**注:** ワークスペースに対するアナリティクスセンターのページやルートが存在しなくても、ワークスペースビルダー は使用できますが、アナリティクスセンター タブがワークスペースに表示されません。<br><br>ワークスペースの アナリティクスセンター の有効化の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成」を参照してください。 |
| レコードページ | ユーザーがタスク、問題、またはインシデントを処理するのに有用な情報を提供するテーブル内のページ。有用な情報には、優先度、ステータス、アクティビティなどを含めることができます。<br><br>レイアウトのさまざまなセクションでコンテナとコンポーネントを使用して、レコードページを作成およびカスタマイズします。レコードページに プレイブックエクスペリエンス を追加することもできます。<br><br>詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。 |

**注:**
ワークスペースを ワークスペースビルダー で編集するには、ホームページとリストが必要です。ホームページとリストが存在しない場合は、UI ビルダー でワークスペースを編集する必要があります。

## ワークスペースビルダー のレイアウト

初めて ワークスペースビルダー にアクセスすると、ワークスペースビルダー で実行できる内容の簡単なツアーがオンボーディングモーダルに表示されます。

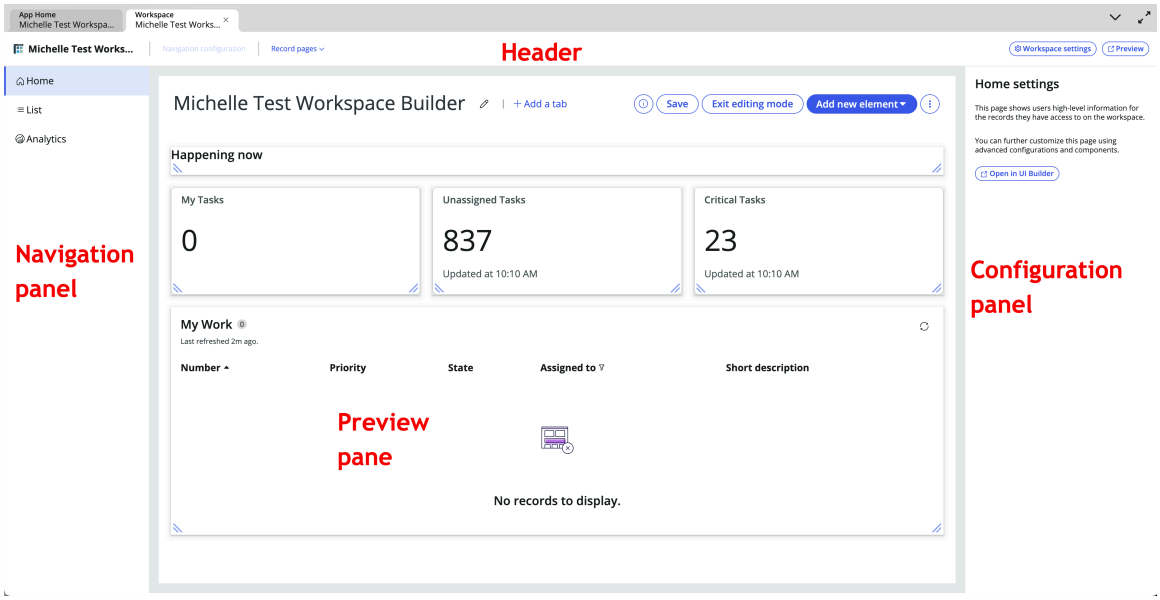
ワークスペースビルダー は、次のセクションで構成されています。

- ユーザーがワークスペース内で移動できるページを構成するための左側のナビゲーションパネル
- 中央キャンバスのワークスペースのプレビュー
- 選択したワークスペースコンポーネントを構成するための右側の構成パネル
- 新しいブラウザータブでワークスペースをプレビューするオプション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースビルダー レイアウト




ワークスペースビルダー のヘッダーには、タブの真下に次のナビゲーションオプションがあります。そこから次の操作を行うことができます。

- ナビゲーション構成
- レコードページ

## ワークスペースビルダー プラグイン

ワークスペースビルダー を使用するには、sn_ws_builder スコープで com.devsnc_sn_workspace_builder プラグインを有効にする必要があります。これは com.snc.aes.starter_workspace_template の依存関係です。

### ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成

ワークスペースビルダー でワークスペースを編集して、App Engine Studio (AES) をカスタマイズします。

始める前に
ワークスペースビルダー でワークスペースを構成する前に、まずワークスペースを作成する必要があります。「ワークスペースの追加」を参照してください。

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
ワークスペースビルダー では、重要な要素とコンポーネントをカスタマイズできます。より複雑な構成の場合、または AES の完全なエンタイトルメントがない場合は、UI ビルダー でそのワークスペースを編集する必要があります。

手順

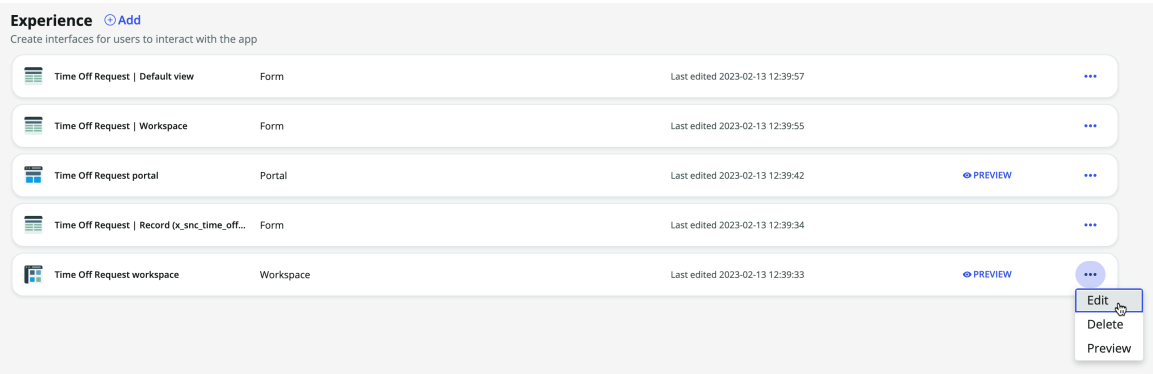
1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

ワークスペースの編集

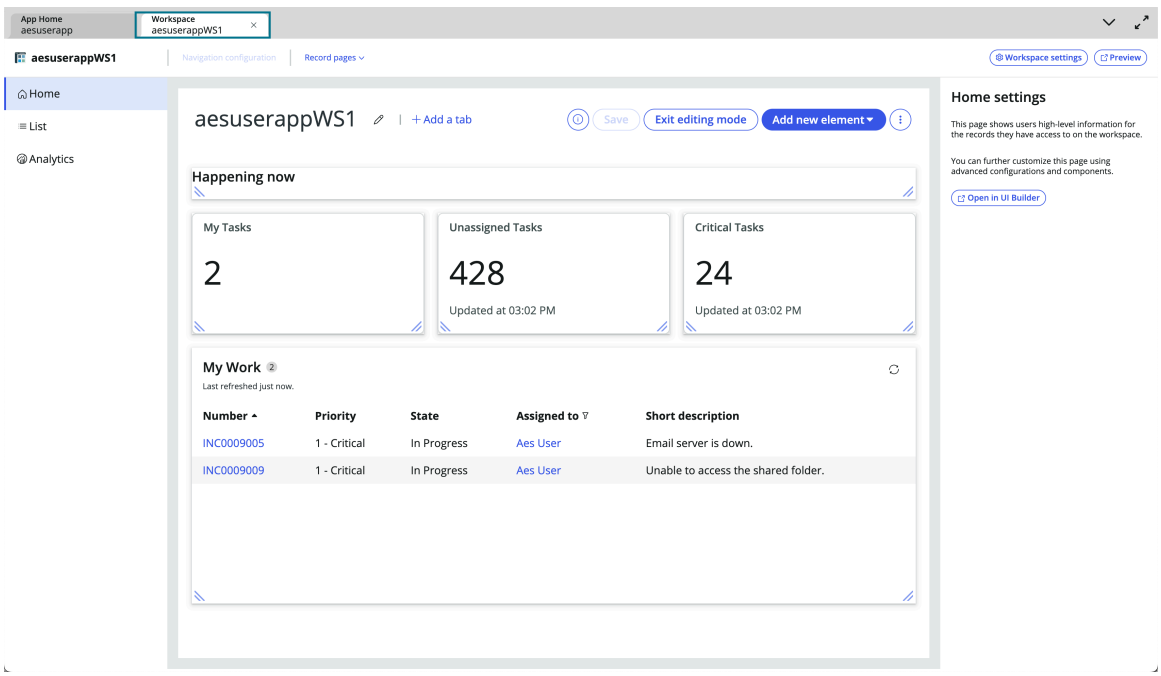



[ワークスペースビルダー] タブには、AES 内のワークスペースが表示されます。

- 左側のナビゲーションパネルは、ワークスペースに含めることができるページ、コンポーネント、またはページの構成要素のリストです。

  **注:**
  ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。

- 中央のキャンバスは、Tokyo 以降の AES で作成されたワークスペースのホームページ用のインライン編集スペースです。リストやその他のページの場合、中央のキャンバスは、右側の構成パネルで構成した内容のプレビューです。Tokyo より前で構築されたワークスペースのホームページは ワークスペースビルダー でプレビューできますが、UI ビルダー で編集する必要があります。
- 右側の構成パネルは、選択したコンポーネントを操作するための構成パネルです。




テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI Builder** で開くように求めます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [ワークスペースの設定] を選択して、ワークスペースの基本設定を編集します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」を参照してください。
5. サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。

   クリック可能なホームページの編集の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成」を参照してください。

   注:
   ワークスペースが Tokyo より前に作成された場合は、UI ビルダー で編集する必要があります。詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

6. リストカテゴリと後続のフィルター済みリストを追加または編集します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成」を参照してください。
7. オプション: ワークスペースの アナリティクスセンター をアクティブ化します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成」を参照してください。
8. レコードページを追加および編集して、ワークスペースでサポートする必要がある設定、テーブル、および関連リンクを構成します。

   レコードページを作成するとき、レコードのタイプに応じたレコードページテンプレートを使用して、メタデータビュー (シェル) を作成します。次に、テーブルビルダー でレコードページを編集します。ワークスペースビルダー 内では、コンテキストサイドパネルと関連アイテムのみを変更できます。

   詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。

9. [プレビュー] をクリックして、新しいブラウザータブでワークスペースをプレビューします。

### タスクの結果

UI ビルダー のワークスペースに対して、コンテキストサイドパネルやカスタムコンポーネントへのカスタム追加など、より複雑な構成を行った場合、それらの変更が ワークスペースビルダー に表示されないことがあります。

注:
ワークスペースを ワークスペースビルダー で編集するには、ホームページとリストが必要です。ホームページとリストが存在しない場合は、UI ビルダー でワークスペースを編集する必要があります。

## ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成

App Engine Studio (AES) でワークスペース設定を定義して、名前やレコードページのナビゲーションなど、ワークスペースの基本機能をコントロールします。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

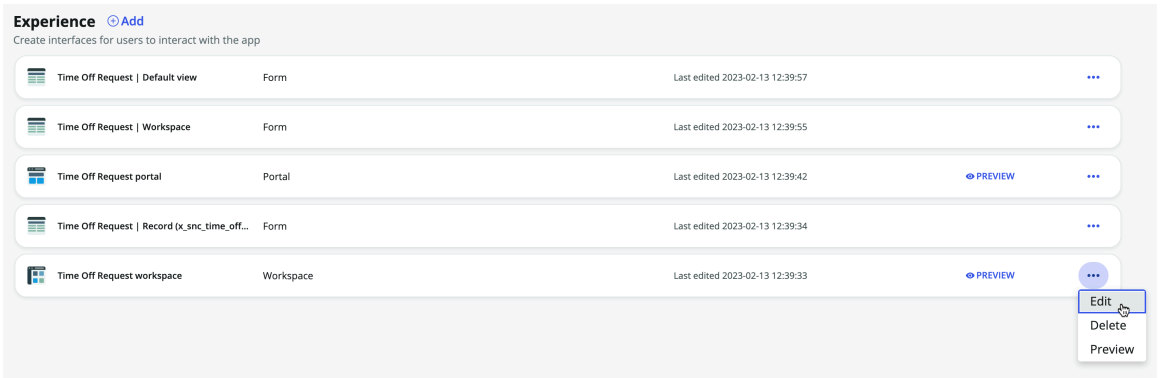


自動翻訳

3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

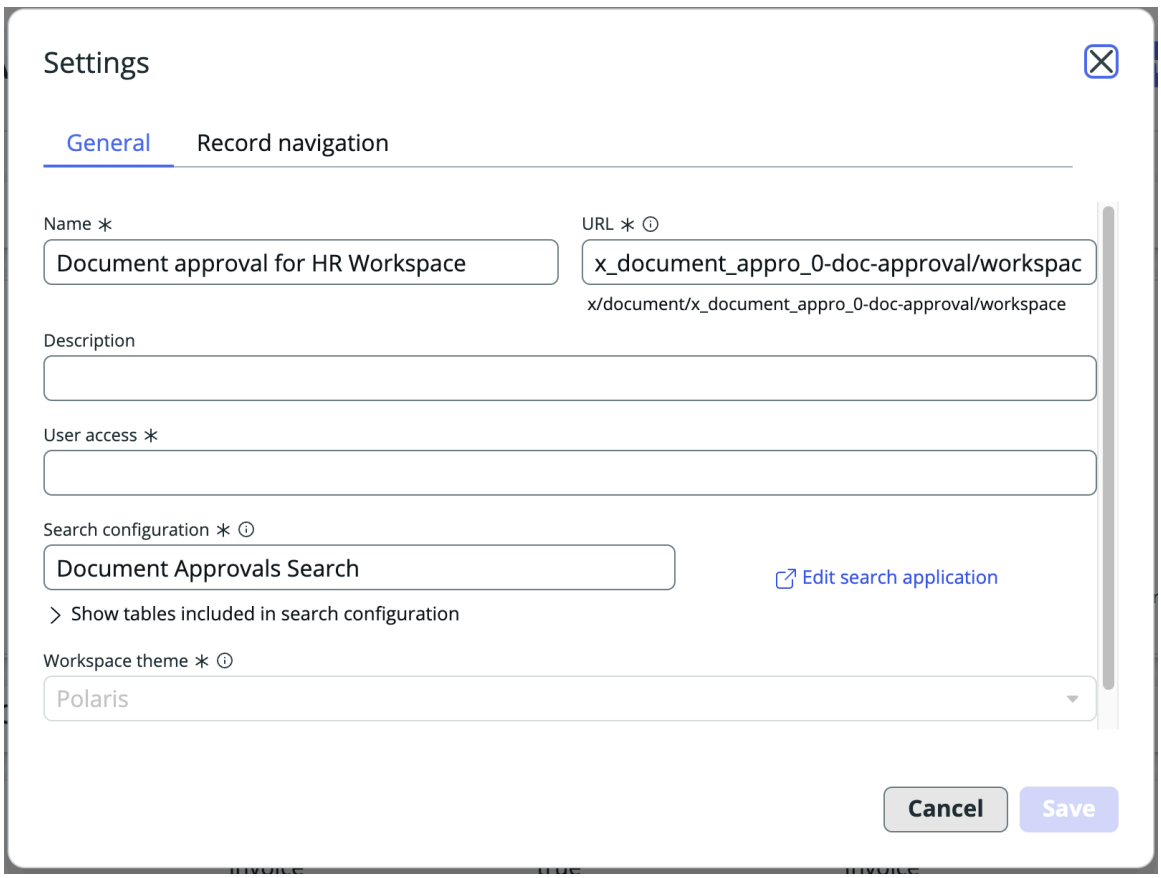
   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

   ワークスペースの編集




   ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。

4. ワークスペースビルダー ヘッダーの [ワークスペース設定] を選択して、[設定] フォームを表示します。




5. フォームの [全般] タブで、編集可能なフィールドに入力して、ワークスペースの基本設定を指定または変更します。

   **注:**
   一部の設定はワークスペースの追加時に指定され、変更できません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースの全般設定

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ユーザーに表示されるワークスペースの名前。 |
| URL | ワークスペースの相対 URL。パスはワークスペースの名前に基づいて自動的に作成され、先頭にインスタンス URL が付きます。ただし、このフィールドのパスはカスタマイズできます。 |
| 説明 | ワークスペースの目的の簡単な説明。 |
| ユーザーアクセス | ワークスペースにアクセスできるユーザーとグループ。ワークスペースへの無制限のアクセスを許可するには、このフィールドを空のままにします。 |
| 検索構成 | ユーザーがワークスペースで検索を実行するときの情報ソース。メニューからプロファイルを選択することで、既存の検索構成を再利用できます。[検索アプリケーションを編集] リンクを選択して、追加の高度な構成変更を行います。<br><br>AI 検索 プロファイルを選択すると、次の機能を使用できます。<br>○ 複数のファセット値を同時に選択し、条件ビルダーを使用して適用できる機能。<br>○ ダウンロード可能な、リンクされた添付ファイルを含む親ドキュメントを表示する機能。<br>○ ダークモード。<br><br>**注:**<br>AI 検索 プロファイルを選択するには、インスタンスで AI 検索 を有効にする必要があります。<br><br>詳細については、「AI Search」を参照してください。 |
| 検索構成に含まれるテーブルを表示 | ワークスペースがソースとして検索する 1 つ以上のテーブルを表示するオプション。 |
| ワークスペースのテーマ (Workspace theme) | ワークスペースの表示スタイルを定義するテーマ。インスタンスで Polaris が有効になっていない場合にのみ選択できます。テーマは、UX テーマ [**sys_ux_theme**] テーブルから取得されます。詳細については、「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」を参照してください。 |

**Trouble?**
一度に 1 つの ユーザー アクセス ロールのみを追加します。詳細については、この ナレッジ記事を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

7. フォームの [レコードナビゲーション] タブを選択し、フィールドに入力して、ユーザーが作成できるレコードのタイプを指定します。

レコードナビゲーションワークスペースの設定 **(Record navigation workspace settings)**

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| ナビゲーションタイプ | ユーザーがワークスペースを操作または移動する方法です。<br><br>[タブ付きナビゲーション] では、ページごとに個別のタブが作成されるため、ユーザーは一度に複数のレコードで作業できます。ユーザーがレコード間をすばやく移動する必要があると予想される場合は、タブを選択します。タブを使用すると、ユーザーはナビゲーションから直接レコードを作成できます。<br><br>**注:**<br>AES に組み込まれたワークスペースのデフォルトのナビゲーションタイプはタブを使用しており、ワークスペースの作成後に変更することはできません。ブレッドクラムナビゲーションを指定するには、UI ビルダー にワークスペースを作成する必要があります。ワークスペースの作成後にナビゲーションタイプを変更することはできません。 |
| テーブル | ユーザーがレコードを作成するときに追加されるデータテーブル。選択したテーブルには、リストが自動的に関連付けられます。<br><br>**注:**<br>ワークスペースの作成時に指定されたテーブルが自動的に表示されます。[テーブルを追加します] を選択し て、追加のテーブルをワークスペースに組み込みます。<br><br>テーブルを削除するには、その削除アイコンを選択します ( )。確認メッセージは表示されませんが、[キャンセル] を選択して削除内容を元に戻すことができます。 |
| ラベル | ユーザーが新しいレコードメニューを選択したときに表示されるオプションの簡単なラベル。ユーザーに対してレコードの用途を伝えるラベルを指定します。 |

8. [保存] を選択します。

## ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成

App Engine Studio (AES) でワークスペースのホームページを編集します。ワークスペース (ダッシュボード) に初めてアクセスしたときに表示される内容を調整します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
Tokyo 以降に作成されたワークスペースに対してのみ、ワークスペースビルダー でワークスペースのホームページを編集できます。UI ビルダー で古いワークスペースを編集できます。

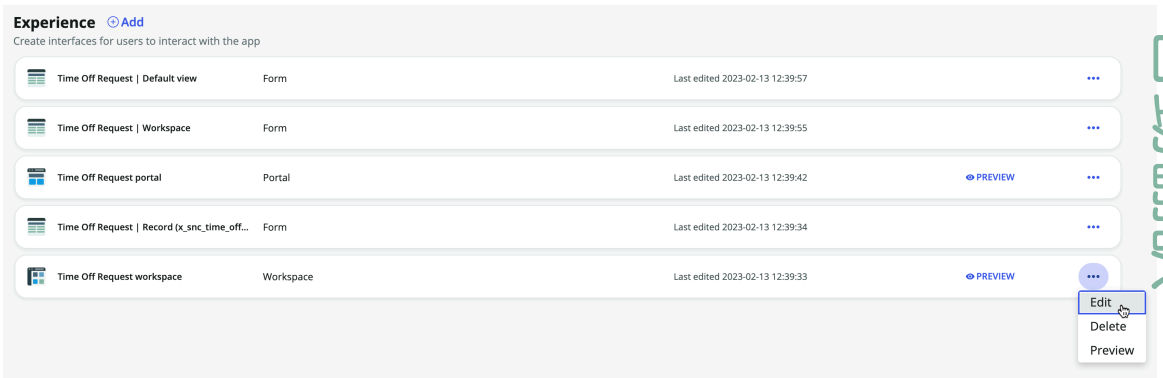
> **注:**
> ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

   ワークスペースの編集

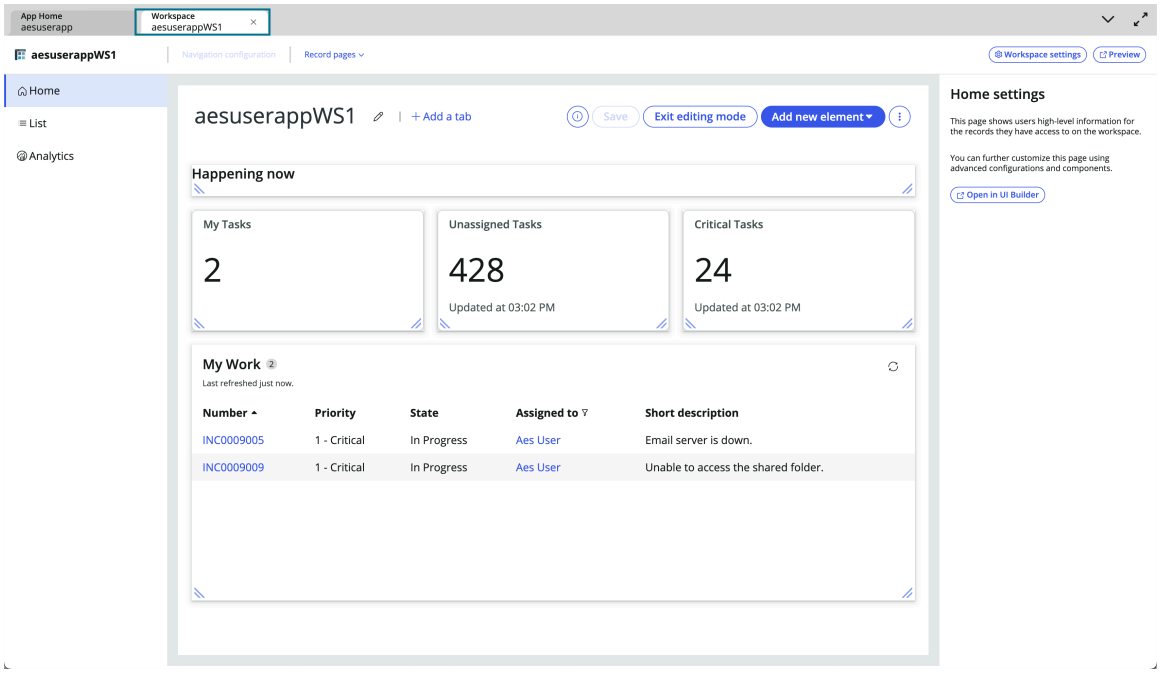
   ワークスペースのホームページが ワークスペースビルダー に表示され、そこで要素やコンポーネントをドラッグしてページを設計できます。

   テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI Builder** で開くように求めます。

4. ページに要素を追加します。
   ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** ナビゲーションパネルで、[ホーム] を選択します。




**b.** ホームページのキャンバスで、[新しい要素を追加] を選択します。

**c.** リストから、追加する要素またはコンポーネントを選択します。

たとえば、指定したテーブルからデータのグラフィックを追加するには、[データの可視化] を選択し、[新規データの可視化] または [保存済みデータの可視化] を選択します。

ワークスペースビルダー のホームページに次の要素を追加できます。

ホームページ要素

| 要素 | 説明 | 詳細情報 |
|---|---|---|
| データの表示方法 | 現在のインスタンスデータのグラフィカルでビジュアルな表現。 [ライブラリから可視化を選択] モーダルで選択し、[ダッシュボードに追加] を選択することで、新しいデータの可視化を作成したり、既存のデータ可視化を再利用したりすることができます。<br><br>データのビジュアル化に加えて、ライブラリ要素を選択して、既に保存されているデータのビジュアル化をホームページに追加できます。 | ▪ Data visualizations in Platform Analytics<br>▪ Create a single score data visualization in the Visualization Designer or on a dashboard<br>▪ 開発者サイトのデータビジュアル化コンポーネントのリスト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要素 | 説明 | 詳細情報 |
| --- | --- | --- |
| フィルター | 指定された基準に基づいてダッシュボードのビジュアル化を洗練します。フィルターは、テーブルとインジケーターの両方に適用できます。 | ▪ Filters in Platform Analytics<br>▪ 開発者サイトフィルターコンポーネントのリスト |
| 見出し | ホームページまたはセクションの上部のタイトルまたはテキスト。 | ▪<br>▪ 開発者サイトの見出しコンポーネントのリスト |
| 画像 | ワークスペースの静的な画像やアニメーションの画像、または写真。 | ▪<br>▪ 開発者サイトの画像コンポーネントのリスト |
| リスト：簡易 | ダッシュボードの対象者用にカスタマイズできるテーブルデータ。 | ▪ Simple List widget または リスト - 簡易な使用法 - 開発者サイト<br>▪ 開発者サイトリスト - シンプルなコンポーネントのリスト |

ホームページの ワークスペースビルダー コンポーネント にはホームページ要素の詳細が含まれています。詳細については、「Platform Analytics dashboard overview」を参照してください。

[新しい要素を追加] メニューで利用できない追加の要素を含める場合は、UI ビルダー のワークスペースを編集する必要があります。に追加 UI ビルダーできる要素の完全なリストについては、 のコンポーネントドキュメントを参照してください。 ServiceNow.

要素がダッシュボードに表示され、そこで編集を行うことができます。

**d.** 要素をドラッグして、移動またはサイズ変更します。

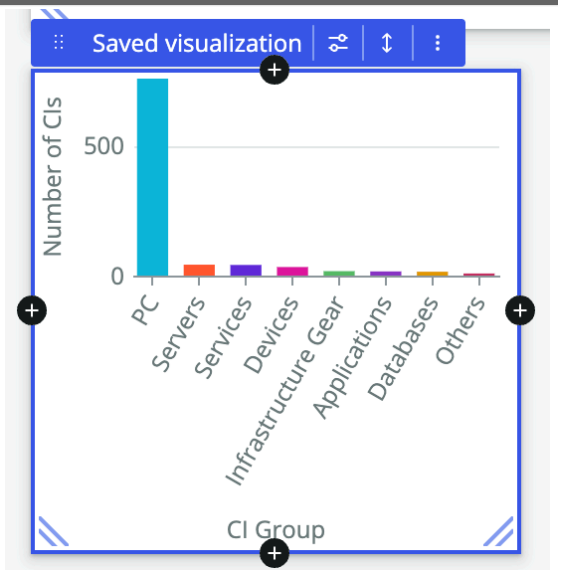
**e.** キャンバスヘッダーで、[保存] を選択します。

**5.** オプション: 必要に応じて、要素の追加の変更を行います。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 要素を編集する | **a.** データのビジュアル化など、編集する要素を選択します。<br>(Optional) 要素タイプの名前とともにヘッダーが表示されます。 |

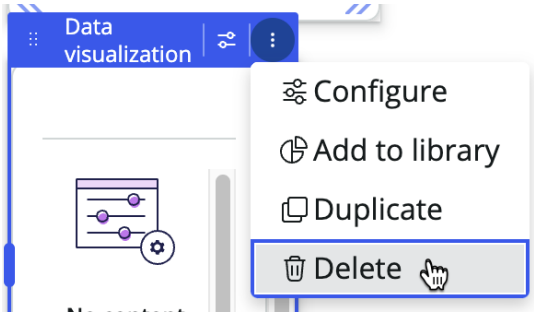
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

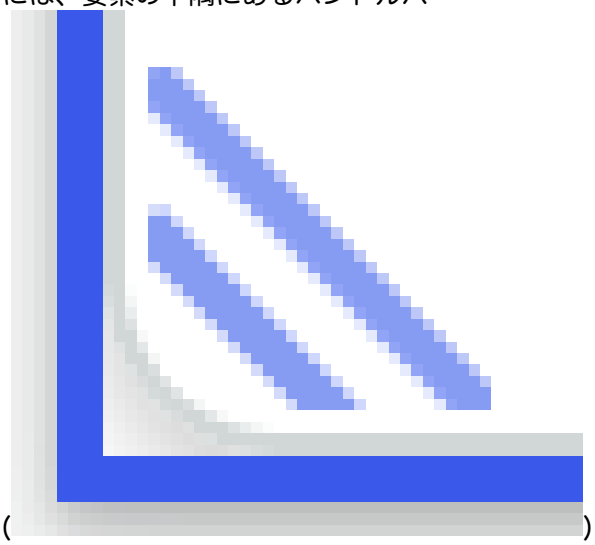
| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| |  <br>**b.** 要素ヘッダーで設定アイコン ( ) を選択して、キャンバス内の構成パネルを開きます。<br>注:<br>コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[構成] を選択して要素を編集することもできます。<br>**c.** 必要に応じて、構成パネルで要素の構成を編集します。<br>(Optional) たとえば、データビジュアル化を編集する場合は、ソーステーブルを指定する必要があります。コンポーネントの編集の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。<br>**d.** キャンバスヘッダーで、[保存] を選択します。 |
| ホームページで再利用する要素をコピーする | コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[複製] を選択して要素をコピーします。その後、コピーした要素に追加の変更を加えることができます。 |
| 再利用のためにライブラリに要素を追加する | コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[ライブラリに追加] を選択して、ライブラリに要素を追加して他のダッシュボードで再利用します。 |
| ワークスペースのダッシュボードから要素を削除する | **a.** 削除する要素を選択します。<br>(Optional) 要素タイプの名前とともにヘッダーが表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

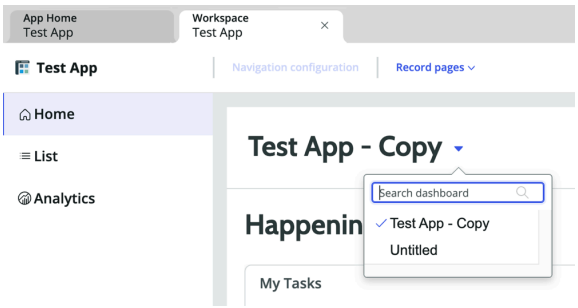
| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | **b.** ヘッダーで、コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[削除] を選択します。<br>  <br>**注:**<br>確認メッセージはありません。要素がダッシュボードに表示されなくなります。 |

**6.** オプション: 必要に応じて、ダッシュボードの追加の構成変更を行います。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ダッシュボードのレイアウトを設定する | 要素全体を選択してドラッグし、ダッシュボードレイアウト内で動かします。<br><br>(Optional) 要素のサイズを変更するには、要素の下隅にあるハンドルバー<br>  <br>( )を選択してドラッグします。 |
| ダッシュボードを複製 | ダッシュボードのコピーを作成するには、次の手順を実行します。<br>○ ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択します。<br>○ [複製] を選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ コピーしたダッシュボードの新しい名前と説明をモーダルに入力します。<br>○ [複製] を選択します。<br>編集モードを終了し、ダッシュボード名のドロップダウンメニューから新しいダッシュボードを選択して、複製されたダッシュボードにアクセスします。<br>  |
| ワークスペースにタブを追加し、必要に応じて編集する | **a.** [タブを追加] を選択して、ホームページにタブを追加します。<br>最初のタブをホームページのダッシュボードに追加すると、レイアウトの新しい部分がタイトルの下に表示されます。タブに追加した要素は、ユーザーがどのタブにいるかに関係なく表示されます。<br>[無題] というラベルの付いたタブが既存のタブの横に追加されます。<br>**b.** タブ名を選択し、編集アイコン ( ) を選択し、新しい名前を入力して **Enter** キーを押して、タブの名前を変更します。<br>**c.** タブを選択し、新しい位置にドラッグして、タブを並べ替えます。<br>**d.** タブの削除アイコン ( ) を選択し、[削除] を選択して、タブを削除します。<br>**注:** 確認メッセージは表示されません。タブがダッシュボードに表示されなくなります。 |
| ワークスペースのプレビューとインライン編集 | インラインエディターを使用してワークスペースをプレビューするときに、基本的な編集を行います。<br>**a.** ワークスペースビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。<br>**b.** 新しいブラウザータブに表示されるプレビューで、[編集] を選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | **c.** サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。<br><br>詳細については、「Edit Platform Analytics dashboards」を参照してください。<br><br>**d.** [新しい要素を追加] を選択して、ワークスペースのホームページにアイテムを追加します。<br><br>**e.** [編集モードを終了] を選択して、インラインエディターでの編集を停止します。 |
| ダッシュボードの印刷対応バージョンを開く | ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[印刷対応] を選択して、印刷に適した形式でワークスペースのホームページを表示します。 |
| アナリティクスセンター へのブックマークの追加 | ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[ブックマークに追加] を選択して、アナリティクスセンター ブックマークセクションにワークスペースのブックマークを含めます。 |
| ホームページの追加構成または詳細構成 | 構成パネルで、**[UI Builder** で開く] を選択します。 |
| ダッシュボードの削除 | ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[削除] を選択します。確認するには、[削除] を再度選択する必要があります。<br><br>**注:**<br>ワークスペースには、少なくとも 1 つのダッシュボードホームページが必要です。 |

**7.** ダッシュボードを共有します。

**a.** ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[共有] を選択します。

**b.** モーダルのフィールドに入力します。

ダッシュボード共有のオプション

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス権を付与 | ダッシュボードにアクセスできるユーザーとグループ。 |
| 受信者がこのダッシュボードに関連付けられた共有権限を追加、編集、削除できるようにします | ダッシュボードを共有しているユーザーとグループが、任意のユーザー、グループ、またはロールの共有権限を追加、編集、および削除できるようにするオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 閲覧者として追加/エディターとして追加 | ダッシュボードの読み取り専用アクセスまたは書き込みアクセスを指定するオプション。 |
| アクセスを管理 | ダッシュボードにアクセスできるロール。検索ボックスでロールを検索して選択します。アクセス権を持つロールごとに、アクセスレベルを選択します。<br>▪ 編集可能<br>▪ 表示可能<br>▪ 共有可能 |
| フィルターを含むリンクをコピー | 現在適用されているフィルターを使用して、指定されたユーザーとロールのダッシュボード URL をコピーするボタン。 |
| リンクをコピー | フィルターを使用せずに、指定されたユーザーとロールのダッシュボード URL をコピーするボタン。 |

**c.** [確認] を選択します。

**8.** ワークスペースビルダー ヘッダーで、[保存] を選択します。

### ホームページの ワークスペースビルダー コンポーネント

いくつかの UI ビルダー コンポーネントを、ワークスペースビルダー でホームページとコンテキストサイドパネルを構築する要素として使用できます。ワークスペースビルダー を使用すると App Engine Studio (AES) で素早くワークスペースを作成できます。

すべての要素とコンポーネントの詳細については、 ServiceNow® 開発者サイト.

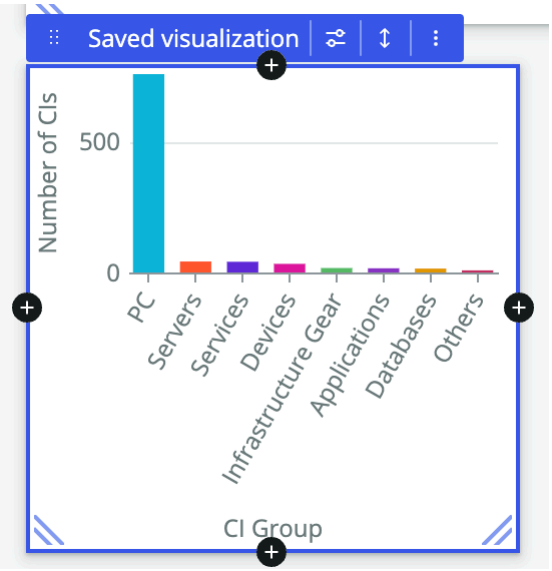
## データビジュアル化コンポーネント

データ可視化コンポーネントは、ワークスペースビルダー ホームページで利用可能なチャートタイプのコンテナです。アプリケーションに応じてさまざまな方法でデータを表示するチャートタイプを選択します。 [ライブラリから可視化を選択] モーダルで選択し、[ダッシュボードに追加] を選択することで、新しいデータの可視化を作成したり、既存のデータ可視化を再利用したりすることができます。

データ可視化コンポーネントの詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- Data visualizations in Platform Analytics
- Create a single score data visualization in the Visualization Designer or on a dashboard
- 開発者サイトのデータビジュアル化コンポーネントのリスト

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## フィルターコンポーネント

フィルターを使用すると、ビジュアル化を変更せずにデータのビジュアル化をフィルタリングできます。キャンバスでホームページを操作するときに、フィルター要素を追加します。次に、テーブル、フィールド、およびその他のプロパティを選択してフィルターを構成します。ユーザーがフィールドの値を 1 つ以上選択すると、同じデータソースに基づくデータビジュアル化にフィルターが適用されます。

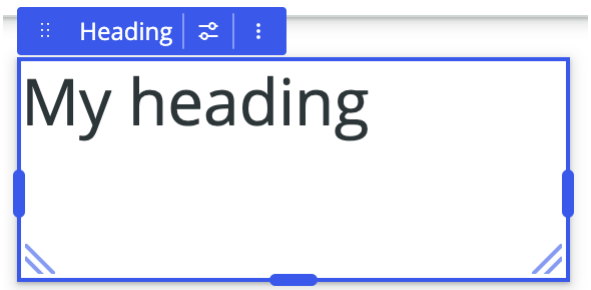
フィルターコンポーネントを使用してワークスペースを構築する方法の詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- Next Experience フィルター
- 開発者サイトフィルターコンポーネントのリスト

## 見出しコンポーネント

見出しコンポーネントは、ワークスペースのホームページで使用できます。 見出しコンポーネントを使用してランディングページにタイトルを追加します。

次の画像は、「My Heading」という見出しを示しています。




見出しコンポーネントの詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- 開発者サイトの見出しの概要
-

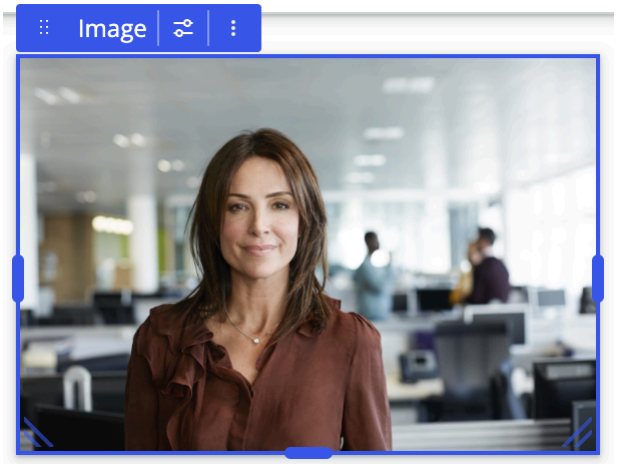
## 画像コンポーネント

画像コンポーネントを使用してランディングページに画像を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[画像コンポーネント] アイコン ( Image ) をプレビューペインにドラッグすると、変更やサイズ変更が可能なストック画像が表示されます。画像の URL を指定することで、ストック画像を変更できます。

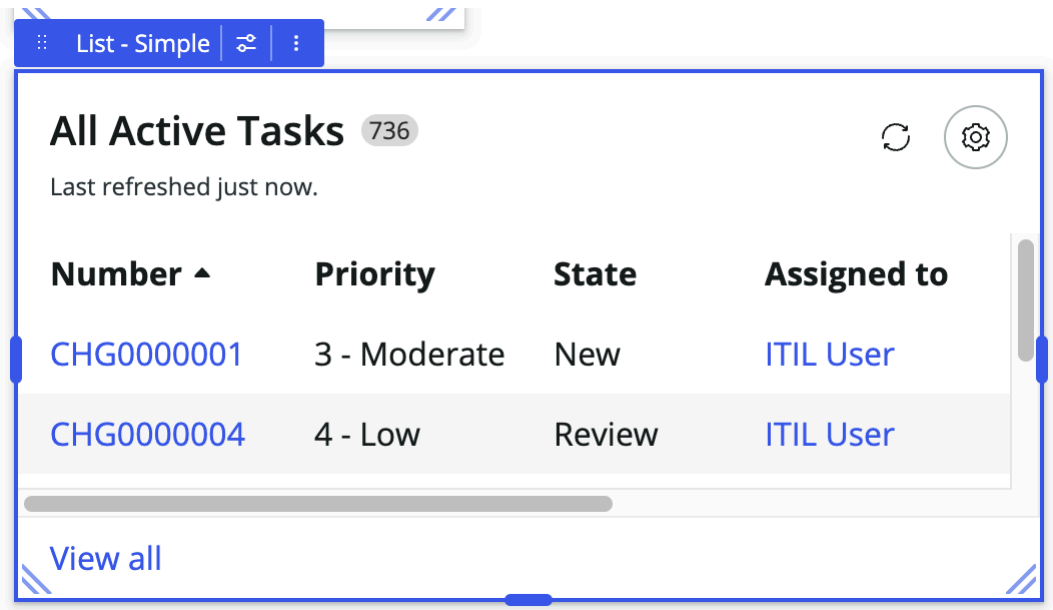



画像コンポーネントの詳細については、「」を参照してください。

## リストコンポーネント

リストコンポーネントを使用して、ランディングページにリストを追加します。

[リストコンポーネント] アイコン ( List ) をプレビューペインにドラッグすると、サンプルリストが表示されます。

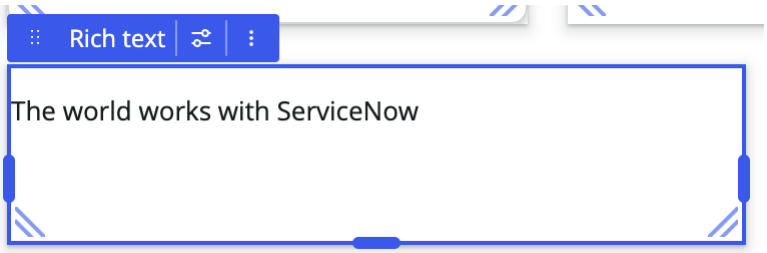



リストコンポーネントの詳細については、「」を参照してください。

## リッチテキストコンポーネント

ランディングページの一部を説明するリッチテキストコンポーネントを使用してランディングページに追加します (たとえば、「これらの優先度 1 のインシデントに対処してください」)。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




リッチテキストコンポーネントの詳細については、「」を参照してください。

ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。

App Engine Studio (AES) でワークスペースのレコードページを構成します。コンテナとコンポーネントを使用して、エクスペリエンスを通じてユーザーをガイドします。各レコードページは 1 つのデータテーブルにのみリンクされています。

始める前に
必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
コンポーネントはページの構成要素です。コンポーネントをページに追加して、ワークスペースエクスペリエンスを構築またはカスタマイズします。たとえば、ユーザーが要求を送信できるボタンコンポーネントをページに追加します。

コンテナは、他のコンポーネントを含めることができるコンポーネントの一種です。コンテナにはレイアウトプロパティが適用されています。ページレイアウトと表示スタイルを変更して、レコードページを独自のエクスペリエンスにします。

注:
AES ワークスペース UI テンプレート v22.0.3 リリース以降に構築されたワークスペースからは、ワークスペースビルダー でレコードページを操作できます。旧式のワークスペースでは、UI ビルダー でレコードページを編集する必要があります。

ワークスペース用に構成したテーブルのレコードページが表示されない場合は、 このナレッジ記事 で詳細を参照してください。

手順

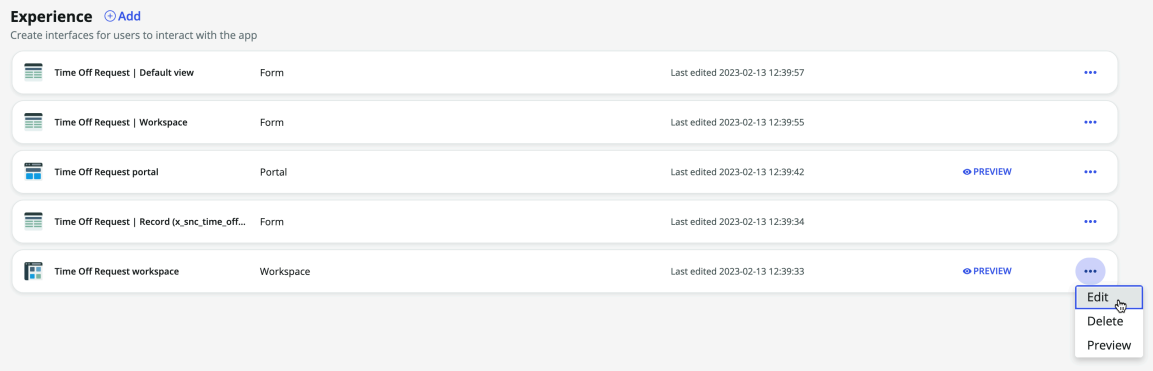
1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースの編集




ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。

4. レコードページを作成します。
AES は、ワークスペースの作成時に選択したテーブルのレコードページを自動的に生成します。

   a. ワークスペースビルダー のヘッダーで、[レコードページ] メニューから [新規作成] を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

レコードページ設定

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | レコードページの目的を識別する簡単な名前。 |
| テーブル | レコードページがリンクされて更新されるテーブル。<br><br>次のルールが適用されます。<br>▪ 自分または組織の誰かが作成したテーブルを使用している場合、そのテーブルには少なくとも 1 つの新しいフィールドまたは列が含まれている必要があります。そうでない場合、フォームビューとテーブルのレコードを作成できません。<br>▪ 各テーブルは 1 つのレコードページにのみリンクできます。<br>アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。 |

   c. [作成] を選択します。

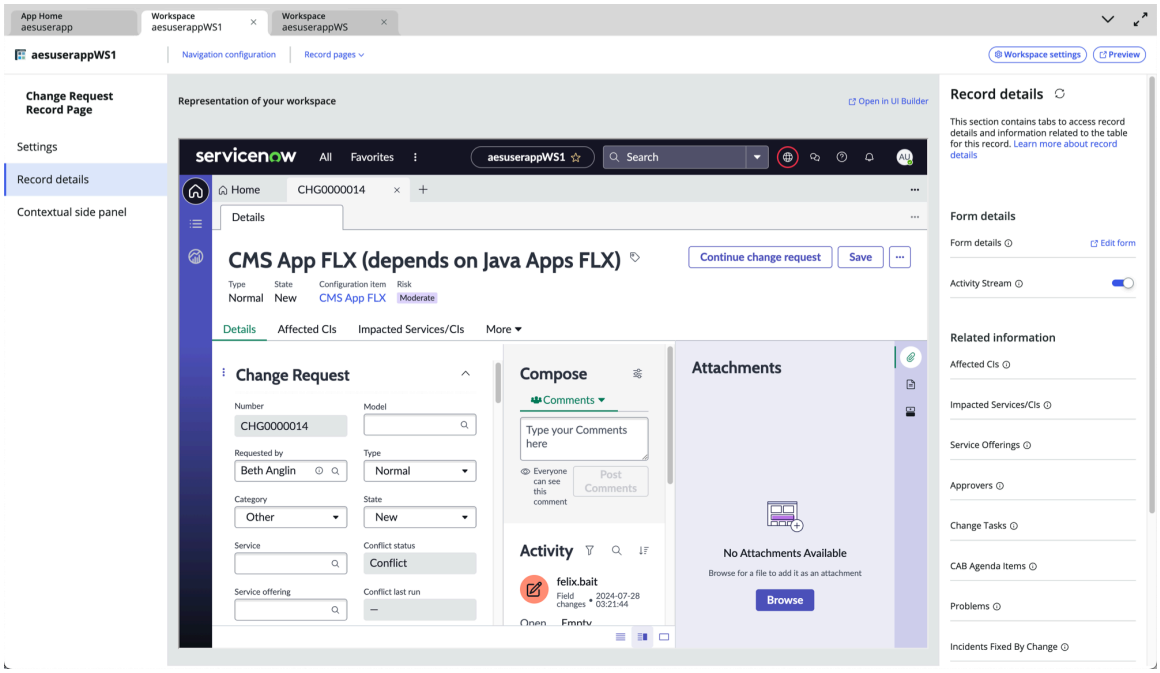
   ページが作成され、プレビューパネルに表示されます。[レコードページ] メニューからページを選択できます。

5. レコードページのレコードの詳細を編集します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** ナビゲーションパネルで、[レコード詳細] を選択します。




**b.** 表示される構成パネルの [フォームの詳細] セクションで、フォームに入力します。

レコードページのフォームの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フォームの詳細 | AES 内の テーブルビルダー タブでフォームを編集するためのリンク。<br><br>AES は、フォームの選択されたビューに対して、テーブルビルダー でフォームビルダーを自動的に開きます。<br><br>**注:**<br>レコードページの テーブルビルダー タブを終了すると、このページをリロードすることを求めるダイアログが表示されます。<br><br>レコードページのフォームの編集の詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。 |
| アクティビティストリーム | レコードページの アクティビティストリームを有効にするオプション。<br><br>アクティビティストリーム を使用すると、ワークスペースユーザーは要求者とやり取りして、レコードに対して行われた作業に関する内部メモを記録できます。アクティビティストリーム の詳細については、「Activity streams」を参照してください。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. レコードページの構成パネルの関連情報セクションで、関連情報を設定します。
関連情報には、[子インシデント] などのタブとして表示される、レコードに関連するテーブルが含まれます。関連情報の構成の詳細については、「Related lists」を参照してください。

   注:
   レコードページに関連情報のテーブルを作成することはできません。テーブルは Now Platform に存在する必要があります。

   a. 関連リストがまだ存在しない場合は、[関連情報] セクションで [タブを追加] を選択して、新しい関連リストを追加します。
   レコードページに関連リストが存在する場合は、構成パネルの [関連情報を管理] リンクを選択します。

   b. AES 内の新しいタブに表示されるフォームで、タブとして表示する関連リストを [利用可能] パネルから [選択済み] パネルに移動します。

   c. 矢印ボタンを使用して、選択したリストを表示する順番に移動します。

   d. [保存] を選択し、AES 内の [ワークスペースビルダー] タブに戻ります。

   e. 表示されるダイアログボックスで [このページをリロード] を選択して、行った変更を表示します。

   各関連情報コンポーネントには、選択するとその関連テーブルが表示される情報アイコン ( ⓘ ) があります。

7. プレイブック を指定することで、ビジネス間のワークフローの可視性と、これらのワークフローを完了するために使用される実行可能なタスクを履行者に提供します。
Playbook の詳細については、「About Playbook Experience」を参照してください。

   注:
   プレイブックエクスペリエンス プラグインをインストールしておく必要があります。テンプレートを使用してアプリを作成した場合、Playbook をレコードページに追加することはできません。テンプレートから作成されたワークスペースに Playbook を追加する方法の詳細については、このナレッジベース記事を参照してください。

   a. 構成パネルの Playbook セクションで、**[Playbook** を追加] を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

**Playbook** の詳細

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タブ名 | プレイブック を含むレコードタブのラベル。 |
| Playbook Experience | レコードに追加する既存の プレイブック。<br>注:<br>テーブルで利用可能な Playbook からのみ選択できます。 |

   c. [追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**d.** 設定アイコン ( ) を選択し、変更を行ってから、[更新] を選択して、プレイブックを更新します。

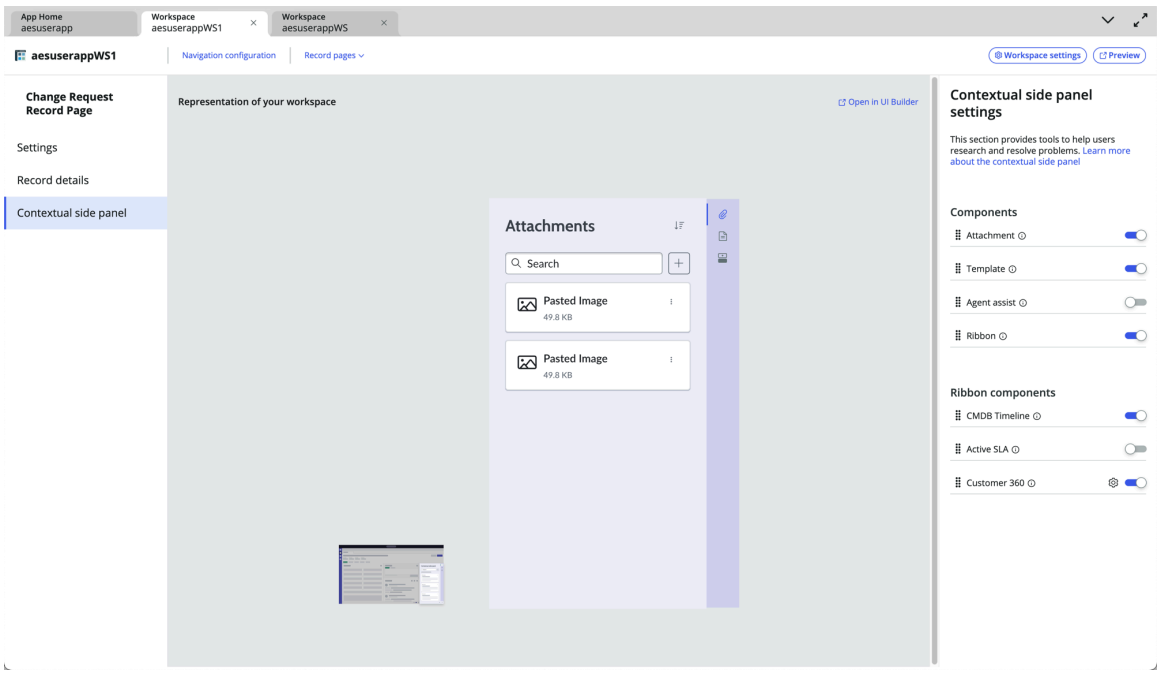
> **注:**
> プレイブック にさらに変更を加える場合は、プレイブック で プレイブック を開いて編集する必要があります。

**e.** Playbook の削除アイコン ( ) を選択し、確認ダイアログで [削除] を選択して、ワークスペースから Playbook を削除します。

**8.** レコードページのコンテキストサイドパネルを構成します。このパネルには、ページの右側に表示されるツールのアイコンが含まれています。
コンテキストサイドパネルには、エージェントがさまざまな Now Platform ツールを使用して問題を調査および解決できるようにするためのアイコンがあります。組織が UI ビルダー で右側タブのカスタムコンポーネントを作成した場合は、それらも追加できます。詳細については、「」を参照してください。

> **注:**
> テンプレートを使用してアプリを作成した場合、コンテキストサイドパネルをレコードページに追加することはできません。

**a.** レコードページのナビゲーションパネルで、[コンテキストサイドパネル] を選択します。




**b.** 構成パネルで、レコードページに表示する各コンポーネントとリボンコンポーネントの切り替えスイッチを選択します。
たとえば、レコードに対して エージェントアシスト と添付ファイルを含めることができます。添付ファイルとテンプレートはデフォルトでアクティブ化されていますが、切り替えオプションの選択を解除することで無効にできます。

ワークスペースビルダー の [コンテキストサイドパネル] では、次のコンポーネントが利用可能です。既存のカスタムコンポーネントを追加するには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コンテキストサイドパネル] のコンポーネント

| ツール | タイプ | 説明 | 詳細情報 |
|---|---|---|---|
| アクティブな SLA | リボン コンポーネント | 残り時間、Service License Agreements (SLA) ステータス、違反など、ケースのアクティブな SLA が表示されます。 | SLA リボン |
| エージェントアシスト | コンポーネント | エージェントが開いているレコードに対して考えられる解決策を示す、自動検索結果が表示されます。 | エージェント支援 |
| 添付ファイル | コンポーネント | 画像や PDF などの添付ファイルをレコードに追加します。 | Attachments |
| 構成管理データベース (CMDB) タイムライン | リボン コンポーネント | ステータスの変更や、エージェントと要求者 (通常は顧客) 間のやり取りなど、ケースのアクティビティの時系列の概要が表示されます。リボンには、履行者と要求者がケースに費やした時間も表示されます。 | タイムラインのリボンコンポーネント |
| Customer 360 | リボン コンポーネント | 連絡先またはコンシューマーの名前、メールアドレス、電話番号などの顧客情報が表示されます。 | Customer 360 リボンコンポーネント |
| リボン | コンポーネント | エージェントが問題を解決する際に役立つツールを含むコンテキストサイドパネルリボンを表示します。<br><br>リボンコンポーネントには、他のコンポーネントを追加できます。 | Viewing ribbon information in the contextual side panel |
| テンプレート | コンポーネント | レコードフィールドに自動的に入力することで、エージェントが要求者への応答に費やす時間を短縮するのに役立つテンプレートを表示します。 | |

選択したツールがレコードページのプレビューキャンバスに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**c.** 構成パネルで、コンポーネントをドラッグして並べ替えます。

**d.** オプション: 設定アイコン ( ⚙ ) を選択して、コンポーネントの追加の構成を完了します。
たとえば、Customer 360 では、コンポーネントがレコードページで機能する前に、追加の設定を指定する必要があります。

ワークスペースビルダー は、コンテキストサイドパネルへの変更を自動的に保存します。

**9.** 追加の変更と構成を完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| レコードページの名前を更新する | **注:** ページを作成した後で、レコードページがリンクされているテーブルを変更することはできません。レコードページのテーブルを変更するには、別の新しいレコードページを作成する必要があります。<br>**a.** [レコードページ] メニューから、編集するページを選択します。<br>レコードページのプレビューが表示されます。<br>**b.** ナビゲーションパネルで、[設定] を選択します。<br>**c.** 表示される [レコードページ設定] 構成パネルで、新しいページ名を入力します。<br>**d.** [保存] を選択します。 |
| 新しいブラウザータブでレコードページをプレビュー | ワークスペースビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。<br>レコードページがワークスペースに表示されます。テーブルのデータが存在しない場合、AES はテーブルにデータを追加できるページを表示します。 |
| レコードページを削除 | **a.** [レコードページ] リストから、ページを選択します。<br>**b.** ナビゲーションパネルで、[設定] を選択します。<br>**c.** 構成パネルの下部で、[レコードページを削除] を選択します。<br>**d.** 確認ダイアログで、[削除] を選択します。 |

## ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成

テーブルレコードをリストするページを追加するには、App Engine Studio (AES) でリストカテゴリを作成します。フィルター条件を追加し、列を変更してリストにバリエーションを作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

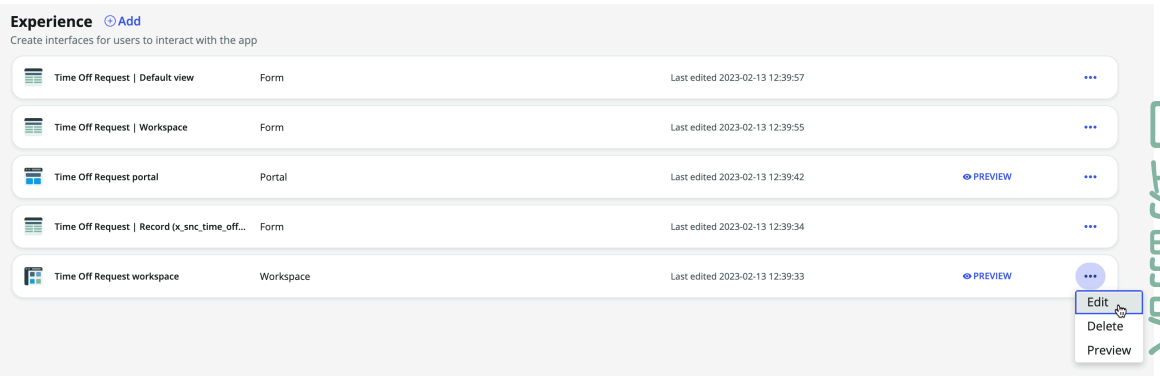
**注:**
リストページやルートを削除する場合は、ワークスペースビルダー ではなく UI ビルダー を使用してワークスペースを編集する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

   ワークスペースの編集

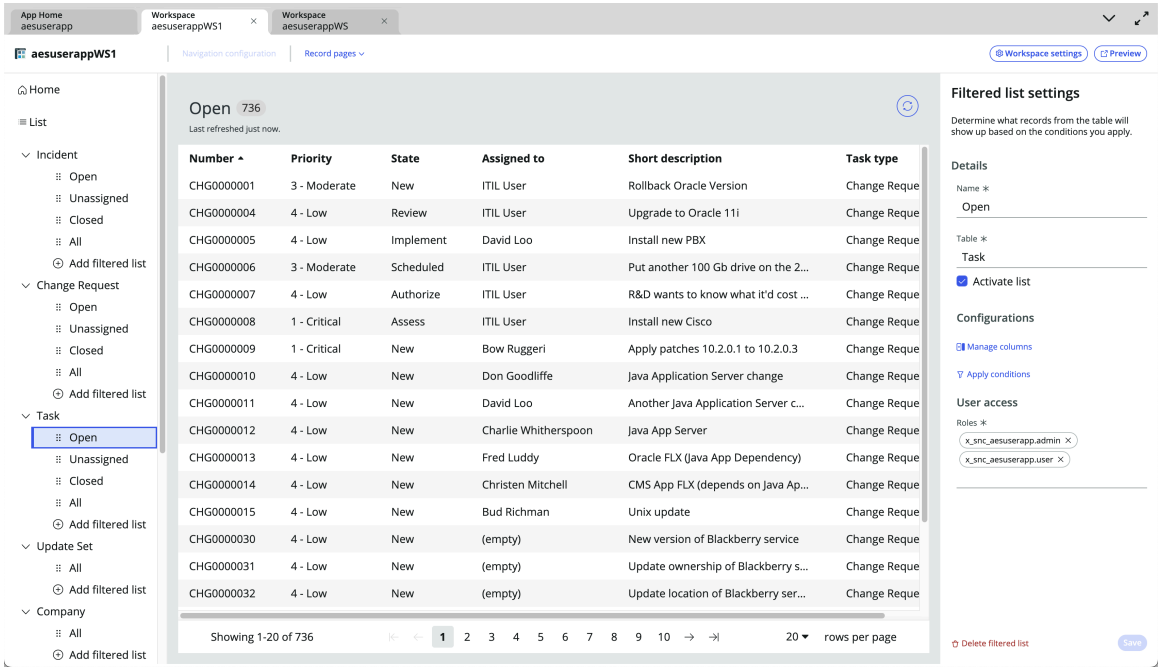
   
   

   ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。
4. リストがまだアクティブ化されていない場合は、リストをアクティブ化してワークスペースでアクティブ化します。
   ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。

   a. ナビゲーションパネルで、[リスト] を選択します。

   b. 構成パネルで、[リストをアクティブ化] オプションを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**5.** リストカテゴリを追加します。

**a.** [リスト] セクションのナビゲーションパネルで、[リストカテゴリを追加] を選択します。
ワークスペースに関連付けられているテーブルがコアテーブルでない場合は、新しいリストカテゴリを追加する必要があります。

**b.** フォームのフィールドに入力します。

リストカテゴリの設定

| フィールド | 定義 |
|---|---|
| 名前 | リストカテゴリを識別するための名前。 |
| 説明 | 開発者が目的を理解するのに役立つ、リストカテゴリのコンテンツの簡単な説明。<br>**注:**<br>この説明は、ワークスペースのユーザーには表示されません。 |

**c.** [追加] を選択します。

**6.** オプション: 表示されるオーダーリストのカテゴリを並べ替えるには、新しい位置にドラッグします。

**7.** フィルター済みリストをリストカテゴリに追加します。
たとえば、タスクテーブルのリストカテゴリで、[オープン]、[未割り当て]、および [クローズ (Closed)] のタスクに対して個別のフィルター済みリストを作成できます。

**a.** ナビゲーションパネルで、フィルター済みリストを作成するリストカテゴリを展開します。

**b.** [フィルター済みリストを追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**c.** フォームのフィールドに入力します。

フィルター済みリストの設定

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| 名前 | フィルター済みリストを識別する名前。 |
| テーブル | フィルター済みリストに表示されるレコードのサブセットを含むテーブル。アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。 |

**d.** [追加] を選択します。

プレビューキャンバスには、フィルター済みリストの内容が表示されます。

**8.** フィルター条件を追加して表示内容を絞り込み、フィルター済みリストの内容を絞り込みます。フィルター済みリストに追加の構成を行うことができます。

**a.** ナビゲーションパネルで、変更するフィルター済みリストを選択します。

**b.** 構成パネルで、追加の設定を指定します。

フィルター済みリストの追加の設定

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| リストをアクティブ化 | ユーザーがフィルター済みリストを操作できるようにするオプション。 |
| 列を管理 | 表示される列を選択して配置するためのオプション。<br><br>[列の管理] ダイアログボックスで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動し、ドラッグして列を並べ替え、[適用] を選択します。<br><br>ドット連結することで、関連テーブルのフィールドを選択できます。詳細については、「Dot-walking to data in related tables」を参照してください。 |
| フィルター条件の追加 | フィルター条件をリストに追加するためのオプション。表示されるダイアログボックスでは、次の操作を実行できます。<br><br>▪ 事前定義されたフィルターを適用するには、[既存のフィルターを使用] を選択してフィルターを検索します。<br>▪ 既存の条件を表示するには、[フィルターの概要] セクションを展開します。<br>▪ フィルター条件を作成するには、条件ビルダーを使用します。条件構築の詳細につい |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| | ては、「Condition builder」を参照してください。<br>▪ フィルター結果のソート順を変更するには、[ソート基準] セクションを展開して変更を加えます。<br>▪ 作成したフィルター条件を再利用のために保存するには、[フィルターの保存] を選択します。<br>フィルター条件の作成が完了したら、[フィルターを適用] を選択します。<br>リストのフィルターの操作の詳細については、「Filters」を参照してください。 |

**c.** 構成パネルで、[保存] を選択します。

**9.** リストの追加アクションを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| リストカテゴリの編集 | **a.** ナビゲーションパネルで、リストカテゴリを選択します。<br>**b.** 構成パネルで、[リストカテゴリ設定] を指定します。<br>**c.** [保存] を選択します。 |
| ナビゲーションパネルでリストを選択して、フィルター済みリストの表示方法を変更する | **a.** 構成パネルで、[列の管理] を選択します。<br>**b.** 表示されるフォームで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動し、ドラッグして列を並べ替え、**[OK]** を選択します。<br>**c.** キャンバスヘッダーでリフレッシュアイコン ( ) を選択して、キャンバスのプレビューをリフレッシュします。 |
| リストカテゴリを削除 | **a.** ナビゲーションパネルで、リストカテゴリを選択します。<br>**b.** 構成パネルで、[リストカテゴリを削除] を選択します。<br>**c.** 確認ダイアログで、[削除] を選択します。 |
| フィルター済みリストを削除 | **a.** ナビゲーションパネルで、フィルター済みリストを選択します。<br>**b.** 構成パネルで、[フィルター済みリストを削除] を選択します。<br>**c.** 確認ダイアログで、[削除] を選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成

App Engine Studio (AES) でワークスペースの アナリティクスセンター を有効化します。アナリティクスセンター を使用すると、ユーザーはインスタンスのダッシュボード、データ可視化、およびインスタンスのインサイトを使用してレコードと使用率を追跡および分析できます。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限 ([すべてのファイルタイプ])。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

ワークスペースに対するアナリティクスセンターのページやルートが存在しなくても、ワークスペースビルダー は使用できますが、アナリティクスセンター タブがワークスペースに表示されません。

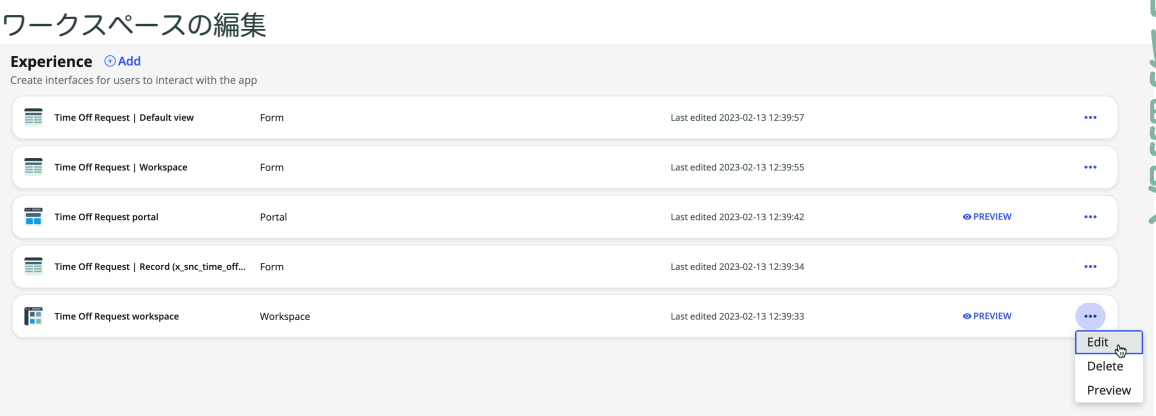
アナリティクスセンター は常に、現在の更新されたコンテンツを表示します。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

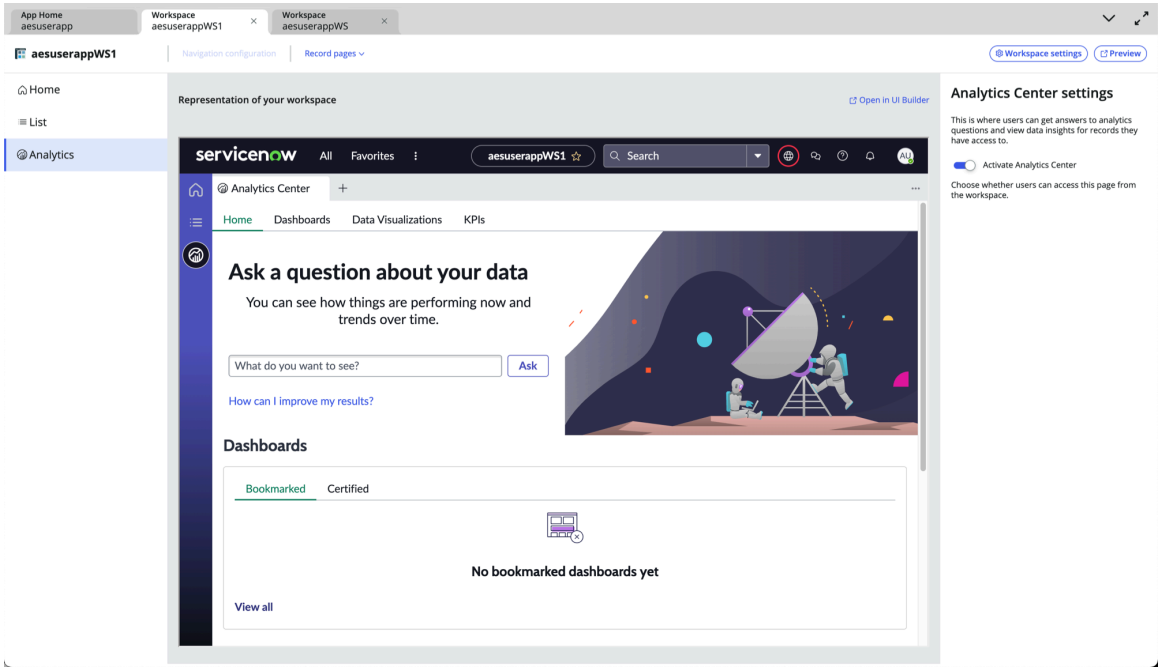
   ワークスペースの編集

   ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。
4. ナビゲーションパネルで、[分析] を選択します。
   ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。
   アナリティクスセンター のモックアップがプレビューパネルに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




5. 構成パネルで、[分析センターをアクティブ化] 切り替えオプションを選択します。
6. キャンバスヘッダーの **[UI Builder** で開く] リンクを選択して、アナリティクスセンター に対して追加の構成更新を行います。

### タスクの結果

アナリティクスセンター の操作の詳細については、「Platform Analytics dashboards」を参照してください。

## ポータルの追加

App Engine Studio (AES) でポータルを作成して、ユーザーが情報を検索し、要求を作成し、ビジネスタスクを完了できるサイトを提供します。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

ポータルを追加するときは、その基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、UI ビルダー で編集を続行する必要があります。

> **注:**
> テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ポータルがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

ほとんどの会社は最大 3 つのポータルを実装し、そこにカタログを追加します。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [ポータル **(Portal)]** を選択し、[開始] を選択します。

自動翻訳

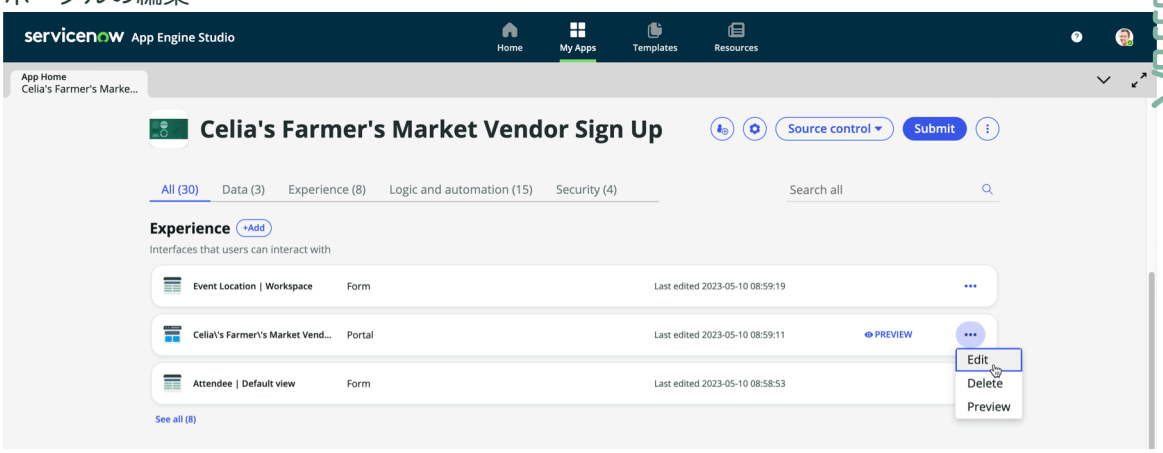
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ポータルの名前。デフォルトでは、ポータルはアプリケーションと同じ名前を共有します。<br><br>ヒント:<br>他のエクスペリエンスからそのポータルを一意に識別できる名前を使用します。たとえば、「Office art portal (オフィスのアートポータル)」などです。 |
| 説明 | ポータルの説明。 |
| URL | ポータルの Web アドレス。デフォルトでは、URL はアプリケーション名に基づきます。 |
| ロール | ポータルにアクセスできるユーザーを限定するユーザーロール。ポータルに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ (Security)] で作成する必要があります。詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。 |

6. [続行] を選択し、[完了] を選択します。
AES でポータルを作成した後、UI ビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成してそのポータルを編集する必要があります。
7. 作成したポータルの横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

ポータルの編集




8. UI ビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成してそのポータルを編集します。
必要に応じて、ポータルにさらにページを追加することもできます。

注:
デフォルトのポータルページは読み取り専用であり、編集はできません。各ページのコンテンツを変更するには、ページのバリアントを作成し、そのバリアントを編集します。

次のタスク
UI ビルダー を使用してポータルを編集する方法の詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 構築できるサンプルポータル

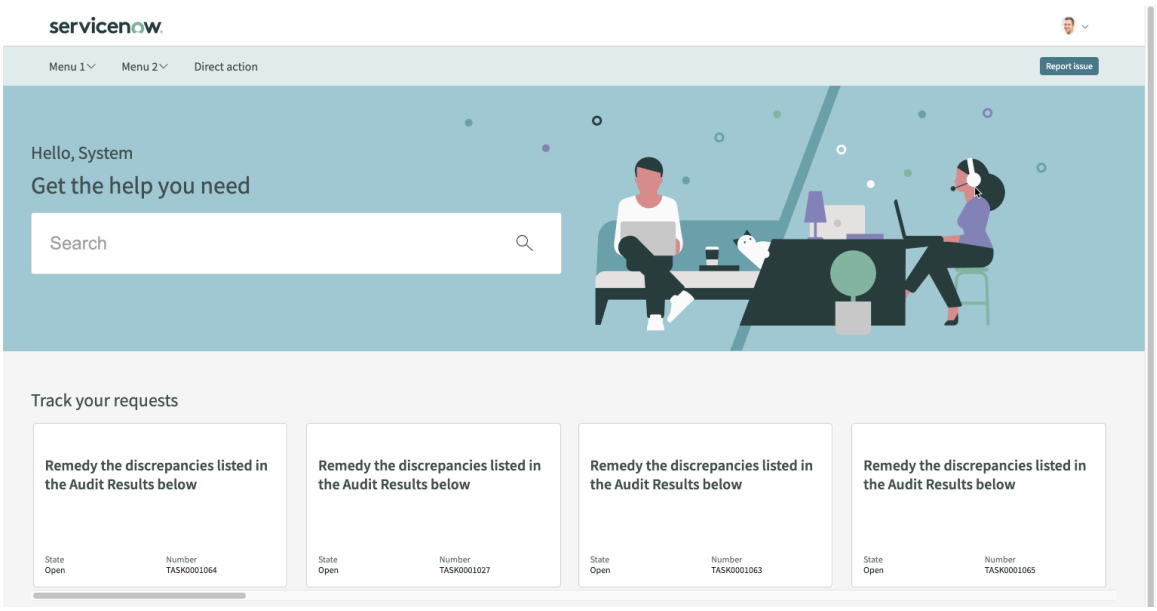
ポータルは、組織内のユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるサイトです。

App Engine Studio で作成するポータルには、いくつかのデフォルトページが含まれています。これらのページをそのまま使用することも、ビジネスニーズに合わせて編集することもできます。

- 記事ページ
- カタログアイテムページ
- ランディング ページ
- ログイン
- 注文の成功
- レコードページ (要求)
- レコードページ (タスク)
- 検索ページ
- 設定ページ
- タスク承認済み
- 却下されたタスク

**注:**
サービスポータル とは異なり、App Engine Studio で作成できるポータルは Next Experience UI フレームワーク に構築されます。UI ビルダー でページとコンポーネントを構成して、ポータルを編集します。

ホームページへ。




### モバイルエクスペリエンスの追加

モバイルエクスペリエンス (インターフェイス) を追加して、ユーザーが ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできるようにします。

#### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio (AES) ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
モバイルエクスペリエンスを追加するときは、そのモバイルアプリの基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、モバイルアプリビルダー で編集を続行する必要があります。

モバイルアプリビルダー を使用して、AES で構築したモバイルアプリ内でワークフローを構成する画面とレコードを構築して管理します。たとえば、電話アプリでタブとして表示される Web ページやリストを追加できます。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [モバイル体験] を選択し、[開始] を選択します。
5. エクスペリエンスを追加する場所を選択し、[続行] を選択します。
   - モバイルエージェント
   - Now Mobile
6. フォームのフィールドに入力します。

**[ADD EXPERIENCE]** フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アイコンを追加 | この画面の内容を最もよく反映しているアイコン。 |
| エクスペリエンスのラベル | 画面の説明。 |
| ロール | 画面にアクセスできるロール。複数のロールを指定できますが、[ロール] フィールドへの入力を開始すると表示されるリストから、1 つずつ選択する必要があります。<br>**注:** ロールを指定しない場合、すべてのユーザーがモバイルエクスペリエンスにアクセスできます。 |
| オフラインで利用可能 | エクスペリエンスをオフラインで利用できるようにするオプション。<br>**注:** オフラインエクスペリエンスは モバイルエージェント アプリでのみ利用できます。 |

7. [続行] を選択します。
8. 追加する画面のタイプを選択し、[続行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面のタイプのオプション

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| リスト | 既存のデータテーブルから取得した情報を一覧表示する画面です。これは次のステップで選択します。<br>**注:**<br>リスト画面を作成すると、データテーブルのすべての値がモバイルエクスペリエンスに追加されます。 |
| Web ページ | 既存の Web ページを表示する画面で、次のステップで URL を指定します。 |

9. モバイルエクスペリエンスにリストページを追加するには、次の操作を行います。

   a. 画面にリストとして表示されるテーブルを選択します。
   データテーブルを選択すると、そのコンテンツの一部がページに表示されます。

   b. テーブルを条件付きにするには、[このテーブルの条件を設定] を選択し、データを表示するための条件を Condition Builder を使用して定義します。

   詳細については、「Condition builder」を参照してください。

   c. [続行] を選択します。

   d. テーブルから抽出されたデータの属性を指定し、[続行] を選択します。

テーブルデータの識別子

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アイコンを追加 | テーブル内のデータを反映しているアイコン。 |
| 画面ラベル | リスト画面を説明する簡単なラベル。 |

10. モバイルエクスペリエンスに Web ページを追加するには、次の操作を行います。

    a. テーブルデータの属性を指定し、[続行] を選択します。

テーブルデータの識別子

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アイコンを追加 | Web ページを反映するアイコン。 |
| 画面ラベル | Web ページを説明する簡単なラベル。 |
| URL | Web ページの絶対 URL または相対 URL。 |

11. 操作を完了したかどうかに応じて、次のいずれかを実行します。

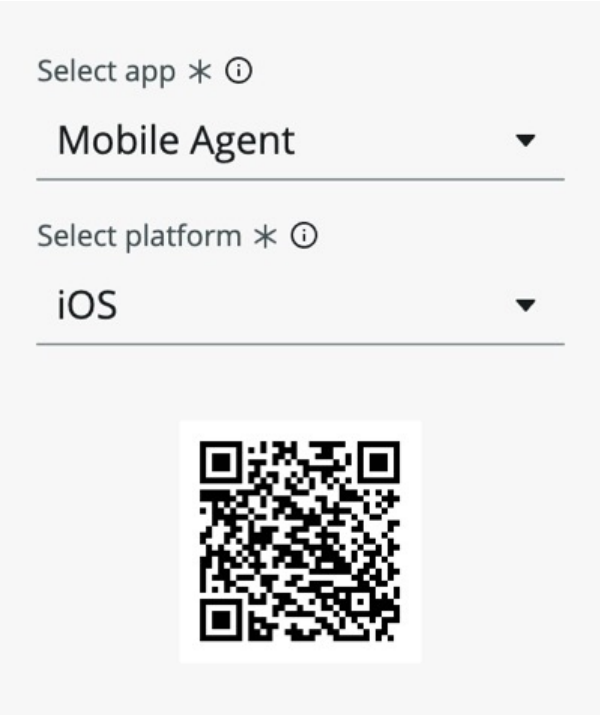
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- モバイルエクスペリエンスへの画面の追加が完了したら、[画面の追加が完了しました] を選択します。
- モバイルエクスペリエンスにさらに画面を追加するには、[画面をさらに追加] を選択します。

12. モバイルエクスペリエンスの作成を終了するには、[完了] を選択します。
AES でモバイルエクスペリエンスを作成した後、モバイルアプリビルダー で編集する必要があります。
13. 作成したモバイルエクスペリエンスの横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。
14. モバイルアプリビルダー でモバイルエクスペリエンスを編集します。
詳細については、「Mobile App Builder」を参照してください。

次のタスク
[アプリを選択] フィールドと [プラットフォームを選択] フィールドを使用して、モバイルエクスペリエンスの QR コードをスキャンまたはコピーします。




モバイルエクスペリエンスの変更の詳細については、「Mobile App Builder」を参照してください。

### モバイルエクスペリエンスのサンプル

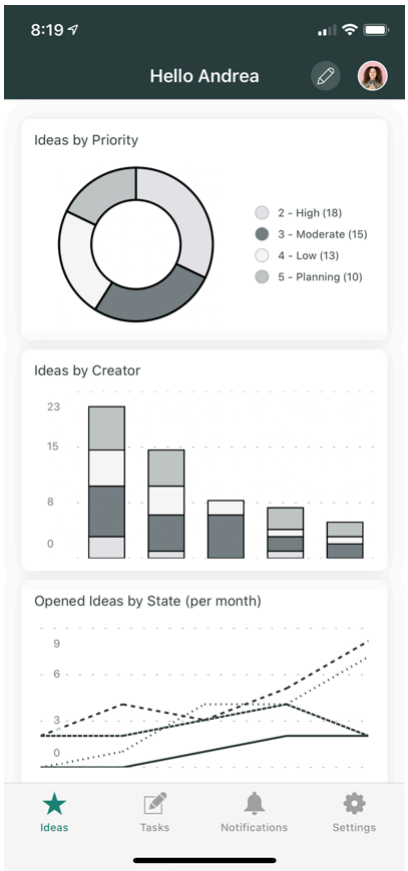
モバイルエクスペリエンスを使用すると、ユーザーは ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできます。

## モバイルエクスペリエンスの例

次に、モバイルエクスペリエンスの例を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




### **App Engine Studio** でのエクスペリエンスの編集

モバイルアプリやカタログアイテムなどのインターフェイスを App Engine Studio (AES) で構築することで、ビジネスニーズに合わせてアプリのエクスペリエンスをカスタマイズします。

## ワークスペースの編集：ワークスペースビルダー

ワークスペースビルダー は、AES に組み込まれたカスタムワークスペースをすばやく簡単に構成できる、簡素化されたノーコードツールです。ワークスペースビルダーの使用に関する詳細については、AES でのワークスペースの構築を参照してください。 より複雑なカスタマイズを行うには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

## テーブルビルダー で作成されたフォームの編集

アプリにデータを追加すると、関連するフォームビューがアプリの [エクスペリエンス] セクションに表示されます。フォームを編集するには、[エクスペリエンス] セクションでフォームを選択します。フォームビューは、テーブルビルダー の [フォーム] タブで編集できます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

### エクスペリエンスのプレビュー

App Engine Studio (AES) に組み込まれたアプリケーションエクスペリエンスをブラウザーでプレビューして、ユーザーにどのように表示されるかを確認します。

#### 始める前に

アプリケーションにエクスペリエンスを追加します。詳細については、「アプリケーションエクスペリエンスの追加」を参照してください。

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

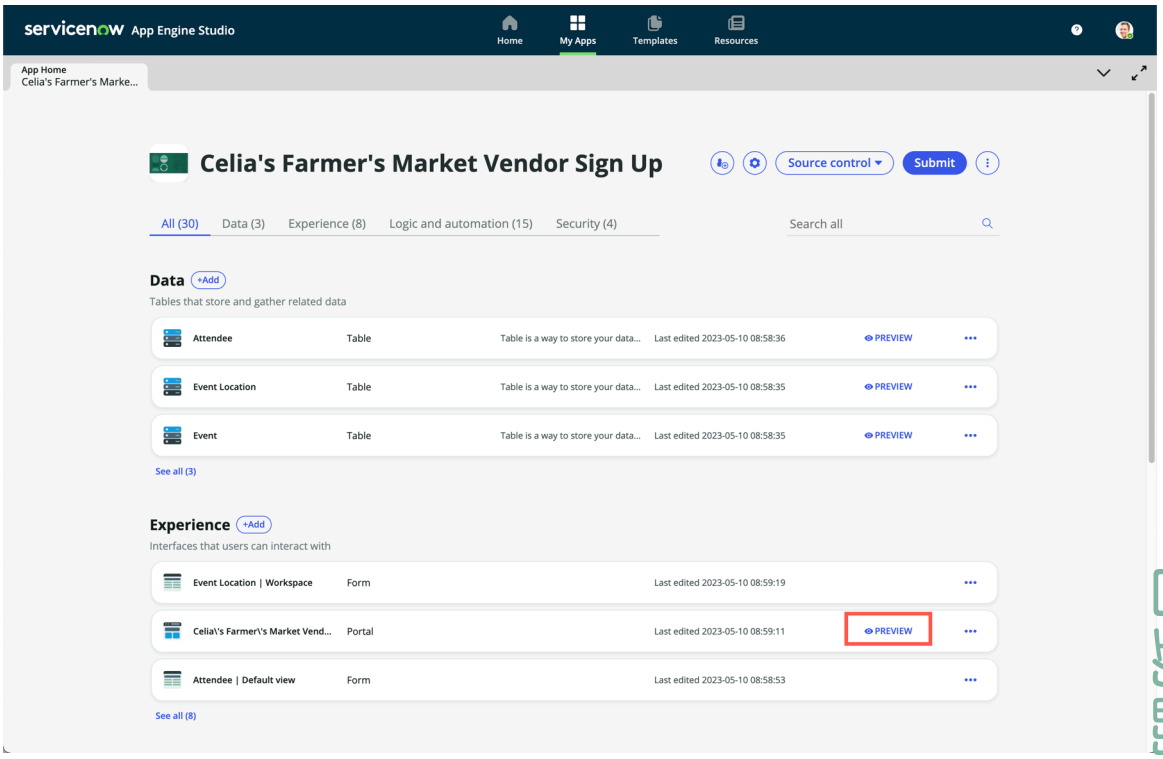
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. エクスペリエンスの横にある [プレビュー] を選択します。

エクスペリエンスのプレビュー




4. ブラウザータブが開いたら、エクスペリエンスを確認します。

次のタスク
エクスペリエンスの外観や動作が予想と異なる場合は、エクスペリエンスを編集します。

## エクスペリエンスの削除

App Engine Studio (AES) 内で不要になったエクスペリエンス (ポータルやレコードプロデューサーフォームなど) を削除します。

始める前に
必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

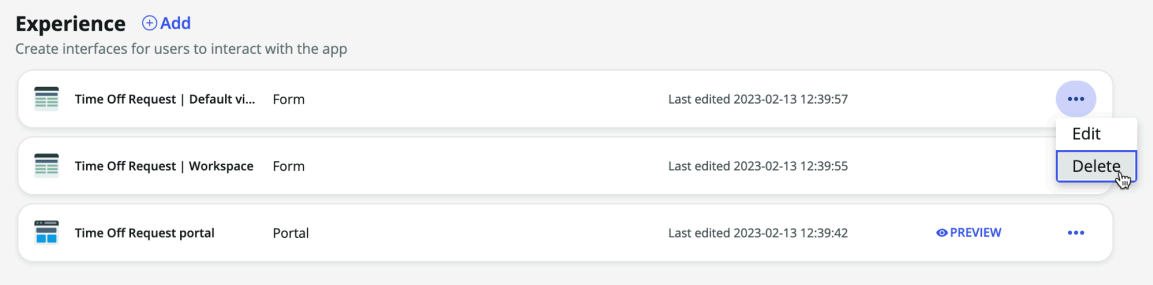
手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. エクスペリエンスの横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[削除] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスの削除




**4.** 表示されるダイアログボックスで、「delete」と入力し、[削除] を選択します。

## ロジックと自動化の追加

App Engine Studio (AES) でアプリにロジックと自動化を追加することで、手動作業を置き換えます。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにロジックと自動化を追加します。

### 自動化のタイプ

| 自動化 | 定義 | 例 | 参照 |
|---|---|---|---|
| 決定 | 既存のレコード、外部データソース、または実行時に提供されるデータからデータを評価する入力など、意思決定ルールを作成することでコードからロジックを切り離す決定です。 | 注文個数の増加に基づいて、さまざまな製品に対して自動的にカスケード割引を適用します。 | • 意思決定の追加<br>• ディシジョンビルダー での意思決定テーブル構造の変更 |
| メール通知 | 通知は、指定された条件が満たされたときに自動的に送信されるメールです。 | 新しいサポートレコードが作成されたときに、メールを自動的に送信します。 | • メール通知の追加<br>• メール通知の変更 |
| フロー | フローは一連の再利用可能なアクションで、トリガーイベントによって開始され、アクション間で変数を渡します。 | インシデントがクローズされたときに自動的に Twitter の投稿を生成したり、特定のテーブルのレコードが更新または作成されたときにメールを送信したり | • フローを最初から追加<br>• フローの変更 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化のタイプ (続く)

| 自動化 | 定義 | 例 | 参照 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | します (レコードベースのフロー)。 | • Table Builder でのレコードベースのフローの操作<br>注:<br>この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダーがインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。 |
| プロセス | プロセスは、単一の統一されたプロセスを作成できるようにする企業間ワークフローです。プロセスには複数のフローを含めることができます。 | エージェントが VIP ユーザーとのチャットインタラクションを処理する方法を標準化および自動化します。 | • Create a playbook<br>• プロセスの変更 |

注:
ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、管理者が Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、管理者がフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

### テンプレートを使用した構築済みフローの追加

構築済みのフローを使用して、App Engine Studio (AES) で構築中のアプリの手動作業を迅速に自動化します。

#### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [フロー] のカードを選択します。

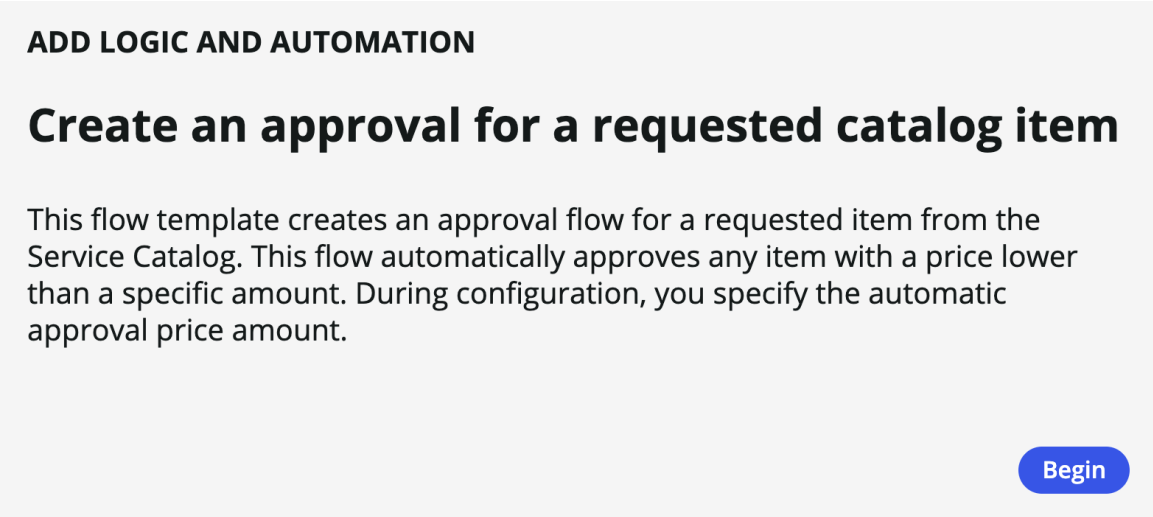
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

5. 自動化テンプレートのギャラリーで、テンプレートを選択して [開始] を選択します。

テンプレートの自動化




6. 選択したテンプレートのウィザードを完了します。
7. サマリー画面で、[完了] を選択します。

### 次のタスク

フローを編集して、ビジネスニーズに合わせて調整できます。自動化の操作の詳細については、「フローの変更」を参照してください。

## フローを最初から追加

既存の自動化テンプレートがアプリケーションの目的に合致しない場合は、App Engine Studio (AES) で新しいフローを構築して、カスタム自動化を定義します。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

構築済みのフローがすでに存在する場合は、そのテンプレートをアプリに簡単に追加してカスタマイズできます。詳細については、「テンプレートを使用した構築済みフローの追加」を参照してください。

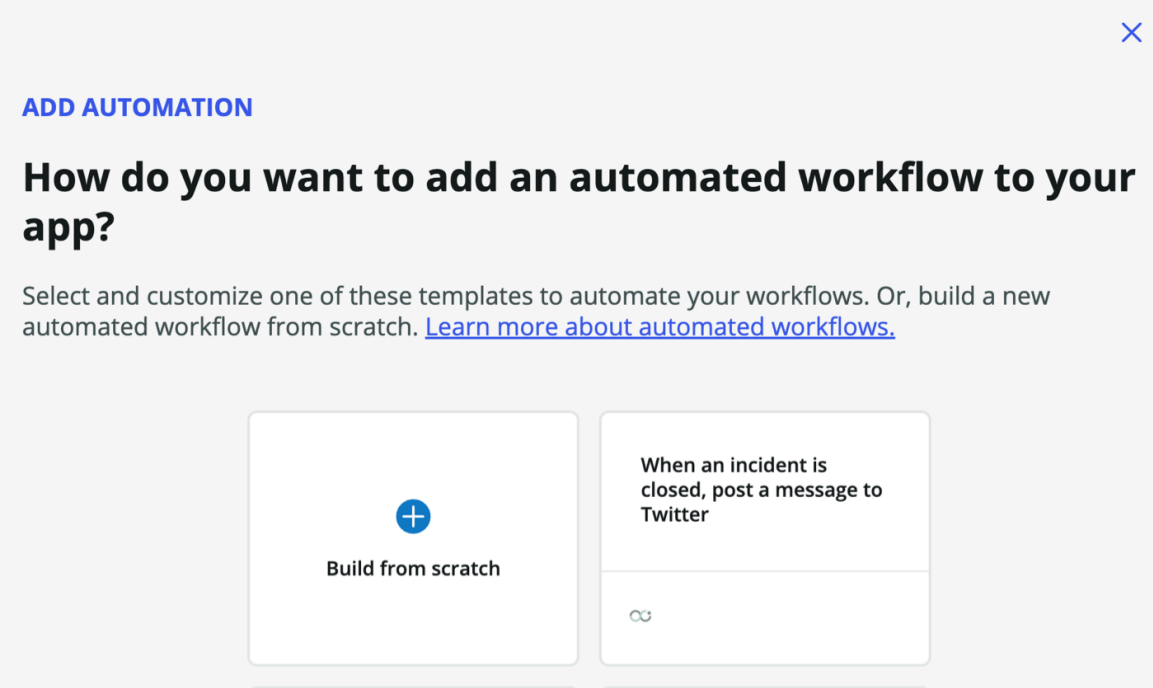
### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [フロー] のカードを選択します。
5. [ゼロから構築します] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ゼロから構築します




**6.** フォームでフィールドに入力し、[続行] を選択します。

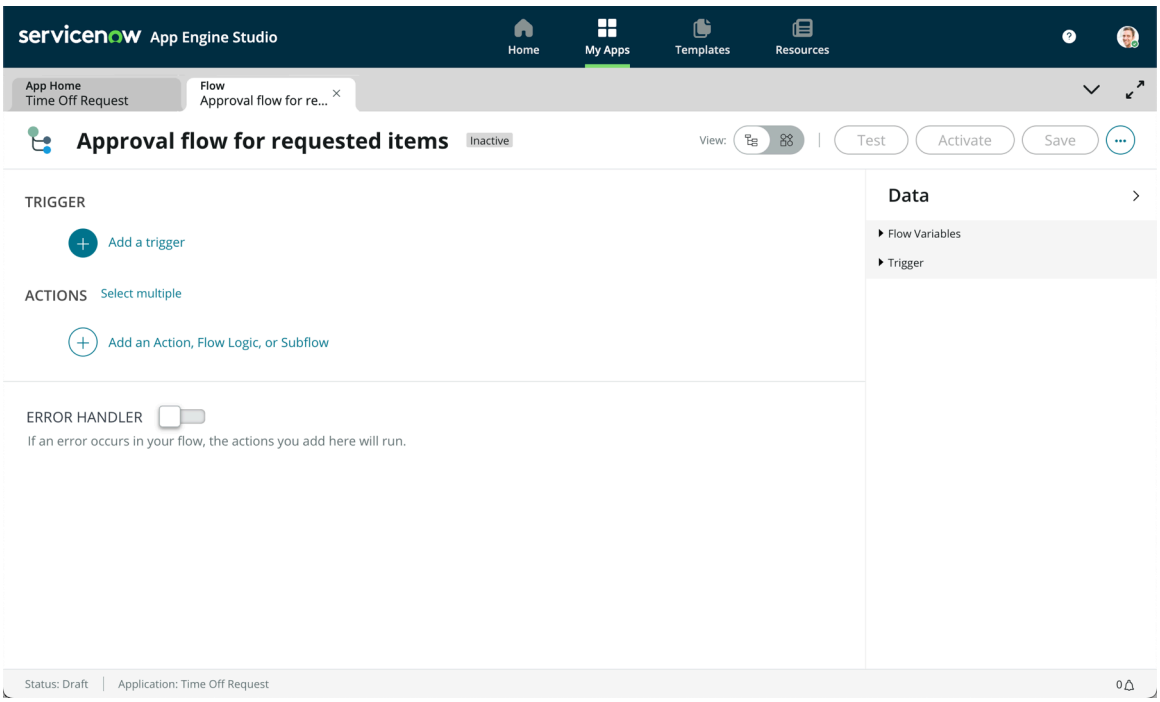
| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | フローを識別する名前です。 |
| 説明 | フローの説明です。 |
| 保護 | フローのアクセス設定です。次のいずれかのオプションを選択できます。<br>-- なし --<br>他のユーザーがフローを編集できるようにするオプション。<br>読み取り専用<br>他のユーザーがフローを表示できても編集できないようにするオプション。 |
| 実行方法 | そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定する選択肢です。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、[セッションを開始するユーザー] を選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合です。 |
| ロールを使用して実行 | フローを実行するロールです。[実行方法 **(Run as)]** が [セッションを開始するユーザー] に設定されている場合にのみ、このオプションを利用できます。<br>フローに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ **(Security)]** で作成する必要があります。詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**7.** 概要画面で、 このフローを編集する を選択してフロー を開きます。

フローデザイナー




フローの構築方法の例については、「Flow Designer で最初のフローを構築する」を参照してください。

**8.** フローにトリガーを追加します。

**a.** [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

**b.** [トリガー] リストから、フローの実行を開始するトリガーを選択します。
トリガー タイプの詳細については、「Flow Designer trigger types」を参照してください。
選択したトリガーのタイプに応じて、一連のフィールドが表示されます。

**c.** フィールドに入力してトリガーを設定します。
たとえば、レコードベースのトリガーの場合、テーブルを選択し、フィールド条件を設定します。この条件が満たされると、フローの実行が開始されます。

**d.** [完了] をクリックします。

**9.** アクション、フロー、サブフロー、またはフローロジックを追加するには、[アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。

**a.** オプションを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクション | 目的のアクションを選択します。フローデザイナー には、フローとサブフローで使用可能な Flow Designer actions が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加するアクショ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ンを作成できます。Integration Hub プラグインと Spokes プラグインは、追加のアクションをインストールします。<br><br>[その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。<br><br>ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。<br><br>注:<br>[スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や フローデザイナー のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。 |
| フローロジック | 条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。 |
| サブフロー | 公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。 |

フロー内のアクションの順序を変更するには、アクションの左側にあるハンドルを目的の場所にドラッグします。

選択したオプションに応じて、一連のフィールドが表示されます。

**b.** アクション、フローロジック、またはサブフローを設定するには、フィールドに入力します。

**c.** [完了] を選択します。

**d.** 完了するまでアクションの追加を繰り返します。

**10.** アプリでのエラー処理方法を指定するには、[エラーハンドラー **(ERROR HANDLER)]** スイッチをアクティブ化してフィールドに入力します。
フローでのエラー処理方法の構成の詳細については、「フローエラーハンドラー」を参照してください。

**11.** [保存] を選択します。
によって Now Platform 、フロー、トリガー、およびアクションのドラフトが保存されます。

### 次のタスク

フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

注:
アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。

## フローの変更

構築 App Engine Studio したアプリの既存のフローを更新または変更するには (AES)、アプリを編集します。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



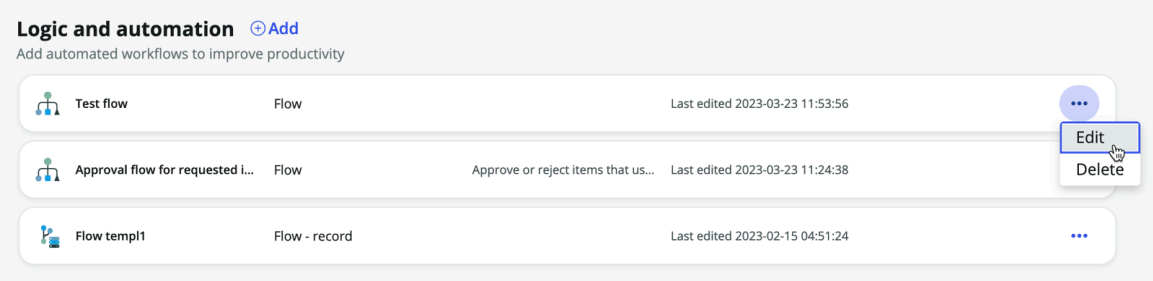
自動翻訳

アプリケーションにロジックと自動化を追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ロジックと自動化がすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。カスタムロジックと自動化の追加の詳細については、「ロジックと自動化の追加」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. フローの横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。

フローを編集する




**注:**
データテーブルでのレコードの作成または更新によってフローがトリガーされる場合、そのフローはレコードベースのフローと呼ばれます。レコードベースのフローは、ロジックと自動化のリスト上に個別のアイコン ( ) で表示されます。これらのフローは、App Engine のテーブルビルダー のライセンスがあり、インストールされている場合、テーブルビルダーの [フロー] タブ内で開きます。詳細については、アカウントチームにお問い合わせください。テーブルビルダー のフロー機能の詳細については、「テーブルビルダー のフロー」を参照してください。

4. 該当する操作を実行してフローを編集します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| フロー名、説明、またはロールを変更する | メインヘッダーで [プロパティ] を選択し、該当するフィールドに適切な値を入力して [更新] を選択します。 |
| トリガーを編集するには | フローでトリガーの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。<br>**注:** トリガーを変更すると、参照されているアクション構成が削除される可能性があります。 |
| 既存のアクションを編集するには | フローでアクションの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。 |
| 新しいアクションを追加するには | フローで [アクション] セクションのプラスアイコンを選択し、新しいフローにアクションを追加する場合と同じように続行します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローの編集の詳細については、「フローを編集する」を参照してください。

5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

### 次のタスク

フローをテストして、想定どおりに機能することを確認します。フローのテストの詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

## 意思決定の追加

App Engine Studio (AES) 内の ディシジョンビルダー を使用して、意思決定を自動化します。自動化は、意思決定ルールを作成および管理できるようにすることで、意思決定ロジックをコードから切り離します。

### 始める前に

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [ロジックと自動化を追加] 画面で、[決定] を選択してから [開始] を選択します。
5. 意思決定テーブルの名前とスコープを指定します。

意思決定テーブルフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 意思決定テーブルの名前。 |
| アクセス可能 | 意思決定テーブルを使用できるスコープ。可能な値：<br>○ すべてのアプリケーションスコープ<br>○ このアプリケーションスコープのみ |

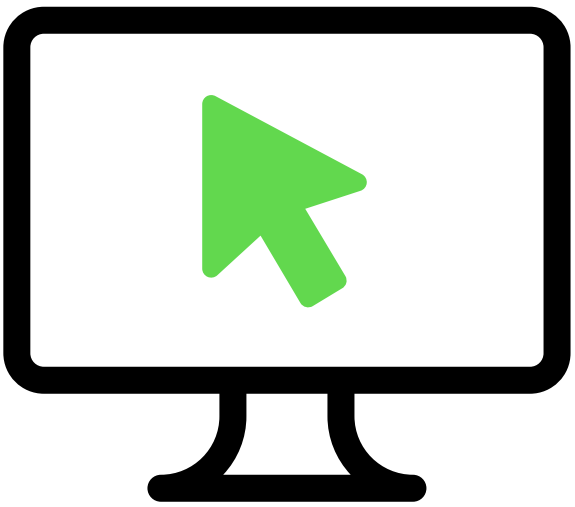
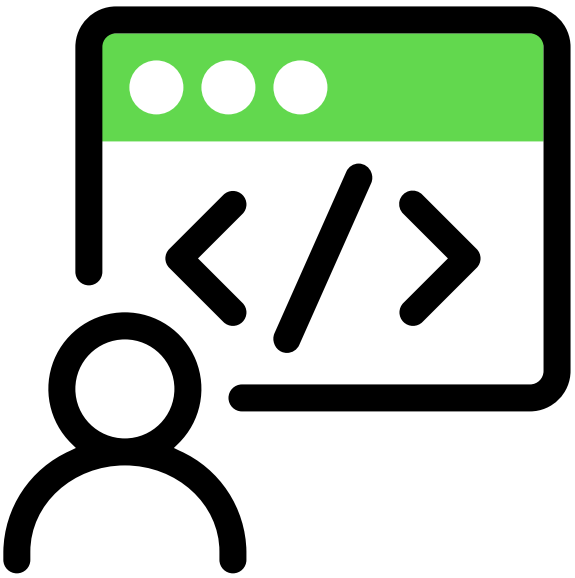
6. [完了] を選択します。

### 次のタスク

意思決定テーブルを作成したら、それを編集して入力とトリガーを指定する必要があります。意思決定テーブルの編集に関する詳細については、「ディシジョンビルダー での意思決定テーブル構造の変更」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES での意思決定に関する詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ServiceNow には、App Engine Studio のインストールと管理に関する追加リソースがいくつかあります。 |  <br>Decision Builder YouTube ビデオの開始 |
| |  <br>初めてApp Engine Studioのアプリケーションの構築 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES での意思決定に関する詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| | ServiceNow University の概要 App Engine Studio オンデマンドコース |

### 意思決定の変更

App Engine Studio (AES) で構築したアプリの既存の意思決定を更新または変更するには、ディシジョンビルダー で編集します。

#### 始める前に

アプリケーションにロジックと自動化を追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ロジックと自動化がすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。カスタムロジックと自動化の追加の詳細については、「ロジックと自動化の追加」を参照してください。

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 意思決定の横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。
4. 該当するアクションを実行して、意思決定を編集します。
   意思決定テーブルの編集の詳細については、「Modifying decision tables in Decision Builder (Decision Builder での意思決定テーブルの変更)」を参照してください。
5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

### メール通知の追加

App Engine Studio (AES) の通知の作成は、テンプレートまたはカスタムメッセージを使用してイベントの自動メール通知を作成します。

#### 始める前に

アプリケーションの管理者または開発者は、このタスクを実行できます。必要な開発者権限は、[すべてのファイルタイプ] です。アプリケーションの開発者であることの詳細について

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、「Delegated development in App Engine Studio (App Engine Studio の Delegated Development)」を参照してください。

必要なロール：許可された開発者または管理者

## このタスクについて

メール通知を使用すると、インシデントの更新や変更要求など、システム内の特定のアクティビティについて、選択したユーザーにメールを送信できるようになります。

> **注:**
> 現在、他のタイプ (SMS メッセージなど) の自動通知を作成することはできません。

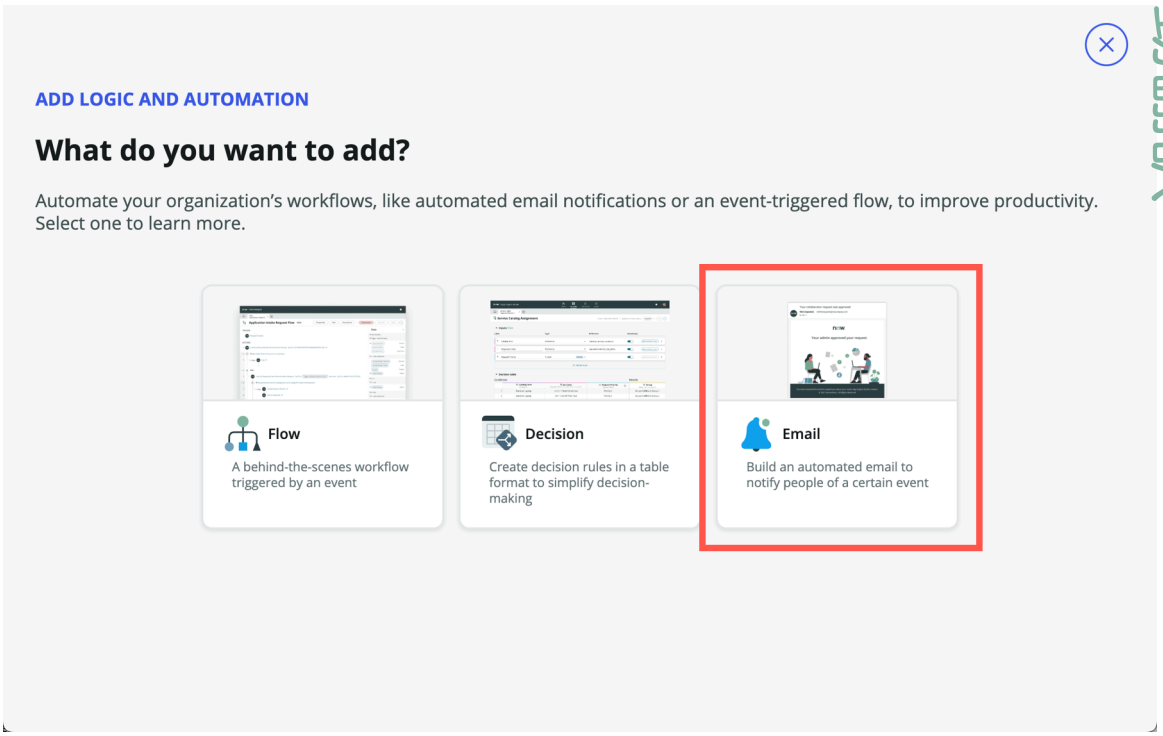
メール通知を作成するときに、送信時期、受信者、内容を指定できます。

管理者が Now Platform でメールテンプレートを作成してある場合は、それをそのまま使用することも、内容を上書きすることもできます。メールテンプレートの詳細については、「メールテンプレート」を参照してください。

## 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [メール] のカードを選択します。

メール通知の追加




5. フォームで、基本設定のフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知フォームの基本設定の追加

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | メール通知の名前。記述的な名前はメール通知の目的を特定するのに役立ちます。たとえば、「Incident Opened＆Unassigned (未アサインのオープンインシデント)」などです。 |
| 簡単な説明 | 通知の目的の簡単な説明。 |

**6.** フォームの [通知トリガー設定] セクションで、フィールドに入力します。

通知フォームの [通知トリガー設定] の追加

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| メール通知の送信 | 通知が送信される状況 (何かが発生した後やテーブルが変更された場合など) です。選択肢は次のとおりです。<br>○ レコードが作成または更新されたとき<br>○ レコードが作成された場合のみ<br>○ レコードが更新された場合のみ<br>○ フローアクションを介してトリガーされたとき<br>○ イベントが発生したとき<br>このフィールドは自動的に [レコードが作成または更新されたとき] に設定されます。<br>フローアクション をトリガーとしてメール通知を作成した後、フローデザイナー でフローを作成するときにその通知を指定します。詳細については、「「通知」ステップ 」を参照してください。 |
| テーブル | 通知トリガーのリンク先のレコードをホストするデータベーステーブル。たとえば、インシデント [incident] テーブルです。<br>[メール通知の送信] フィールドを次のいずれかの値に設定する場合は、テーブルが必要です。<br>○ レコードが作成または更新されたとき<br>○ レコードが作成された場合のみ<br>○ レコードが更新された場合のみ<br>アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。 |
| イベント名 | 通知をトリガーするイベント。このフィールドは、[メール通知の送信] フィールドで [イベントが発生した場合] を選択した場合にのみ表示されます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

同じトリガーが複数の通知を生成する場合、通知は 1 つだけ送信されます。他のすべての通知は、件名と本文が異なる場合でもシステムで重複しているとみなされます。「重複を無視する」のビジネス ルールで、この機能を制御します。

7. Condition Builder を使用してトリガーを条件付きにします。

   通知トリガーで満たす必要がある条件セットと値を定義します。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。

   > **注:**
   > 通知トリガーがフローアクションであることを指定した場合、Condition Builder は使用できません。

8. フォームの [受信者] セクションで、通知の受信者を指定します。

   以下のことを行うことができます。

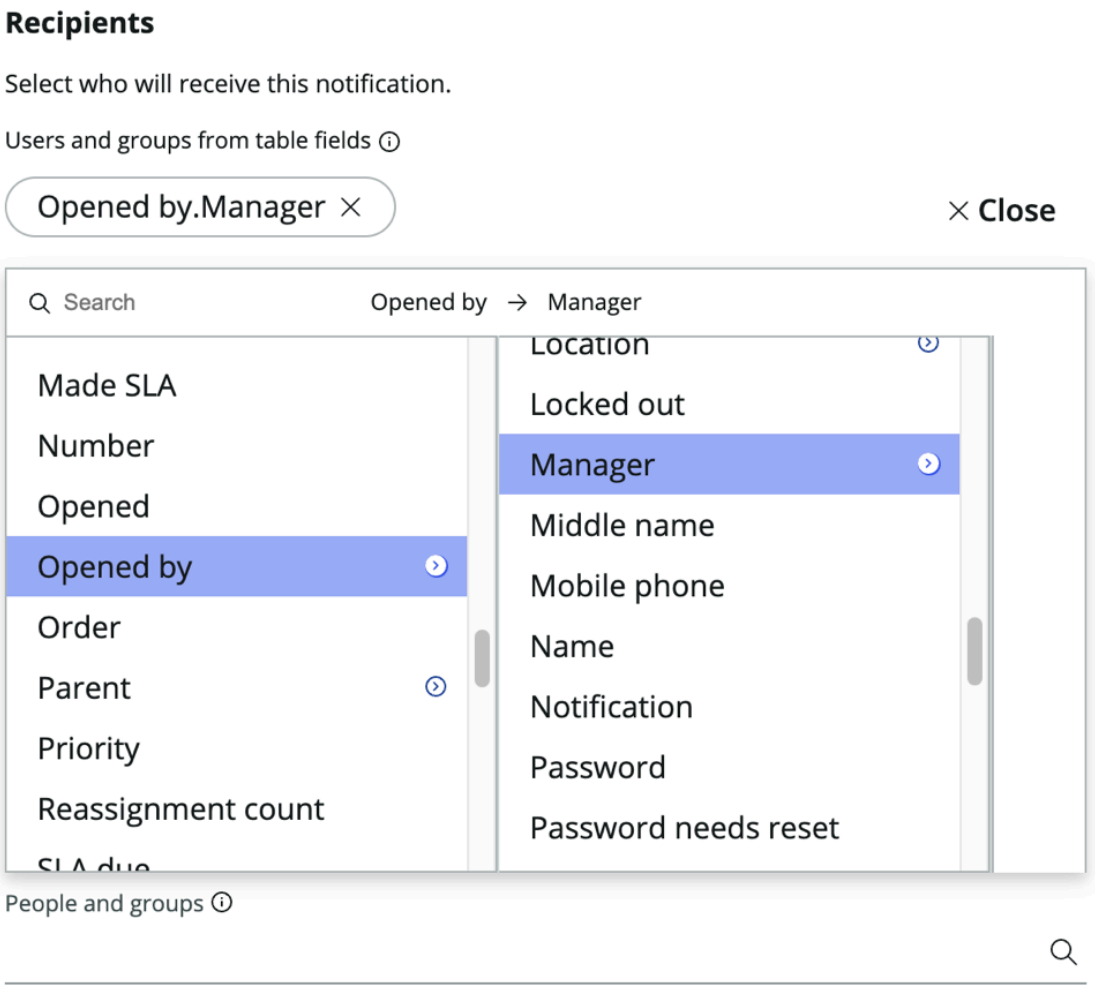
   - ユーザーとグループの検索。
   - [追加] を選択して動的受信者を定義します。その場合は通知トリガーの詳細でテーブルを指定する必要があります。

   通知フォームの [受信者設定] の追加

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブルフィールドからのユーザーとグループ (Users and groups from table fields) | テーブルに基づいてメールを受信する動的なユーザーとグループ。たとえば、通知でインシデント [incident] テーブルが使用されている場合は、[開始者] フィールドを選択すると、インシデントを開始したユーザーまたはグループに通知を送信できます。一部のフィールドでは、次のような参照フィールドに含まれる値を選択することもできます。 **Opened by** (オープン者) > マネージャー.<br><br>[追加] ボタンを選択して、指定したテーブルのフィールドに基づいて動的なユーザーとグループを検索します。<br><br>**注:**<br>テーブルを指定しない場合、[追加] ボタンは使用できません。 |
| 人とグループ (People and groups) | メール通知を受信するユーザーとグループの静的アドレス。ユーザーとグループを検索することもできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




9. フォームの [メールコンテンツ] セクションで、テンプレートを選択するか、独自のコンテンツを記述します。

通知フォームの [メールコンテンツ設定 **(Email content settings)]** の追加

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| メールテンプレート | 既存のコンテンツを適用するために使用できる事前定義されたメールテンプレートで、上書きもできます。次の条件に該当するテンプレートのみを選択できます。<br>○ 通知と同じテーブル<br>○ テーブルが指定されていない<br><br>テンプレートを使用して上書きしない場合、管理者がそのテンプレートを更新すると、それを使用したメール通知の内容も自動的に更新されます。 |
| テンプレートを上書き | 選択したメールテンプレートの内容を上書きするオプション。<br><br>メールテンプレートを使用する場合、そのテンプレートに含まれる画像は、それを上書きす |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

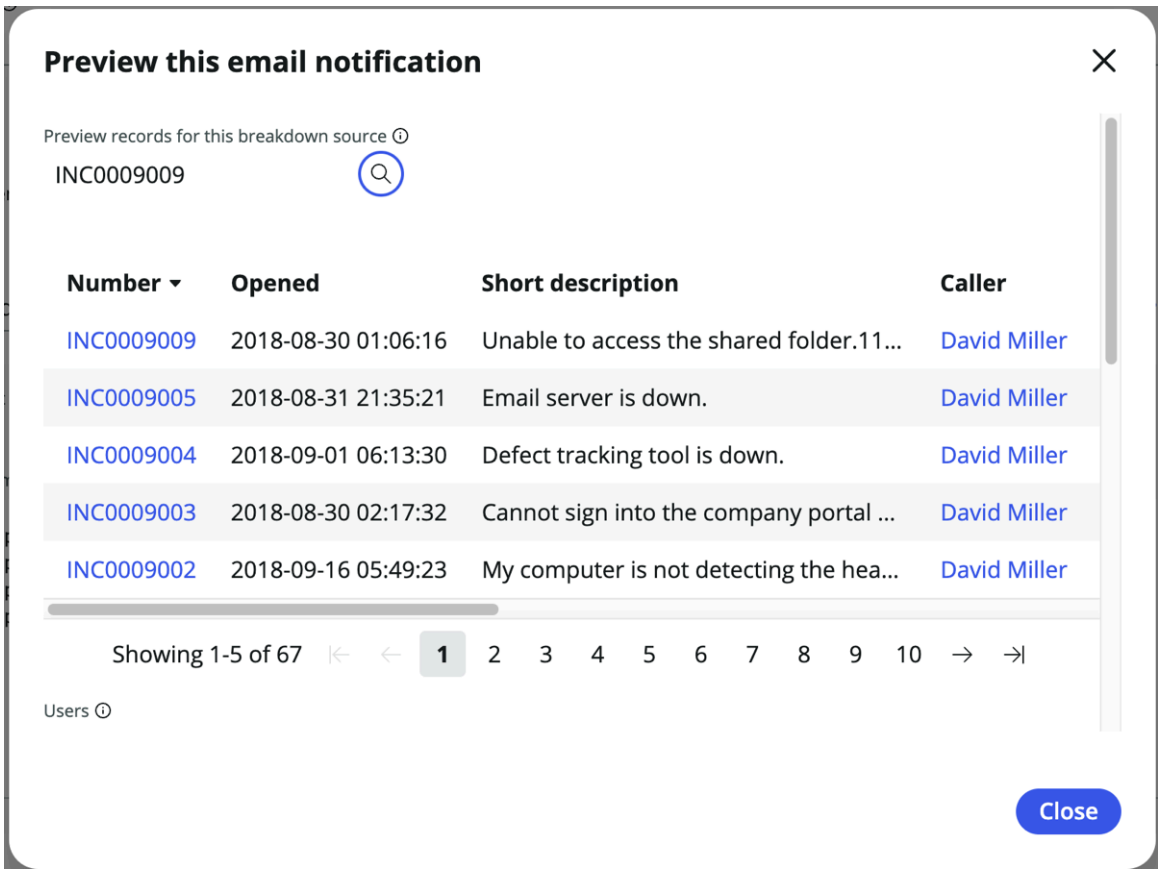
| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | るかどうかにかかわらず引き続きテンプレートに属します。管理者がテンプレートを更新すると、通知に含まれる画像も自動的に更新されます。<br><br>メールテンプレートを上書きして選択したテンプレートを変更すると、上書きが削除され、新しいテンプレートのコンテンツに置き換えられます。 |
| 件名 | メールの件名。<br><br>件名を動的にするには、[メールメッセージ] の横にある [メール変数] フィールドを使用してメッセージ本文に変数構文を生成します。次に、変数構文をコピーして件名に貼り付けます。<br><br>空の場合は、[メール テンプレート] の [件名] の値が使用されます。このフィールドに値を入力すると、テンプレートが上書きされます。 |
| メールメッセージ | メール通知メッセージの内容で、変数を含めることができます。<br><br>リッチテキストエディターのアイコンを使用して、メールメッセージの内容を書式設定できます。<br><br>空の場合は、[メール テンプレート] の [メッセージ **(Message)]** の値が使用されます。このフィールドに値を入力すると、入力値でテンプレートの値が上書きされます。 |
| 変数を追加 | 指定されたテーブルのフィールドから派生した動的変数または値。<br><br>**注:**<br>[変数を追加] ボタンを表示するには、テーブルを指定する必要があります。<br><br>[メール変数] フィールドで変数を選択し、矢印を使用してそれらを [メールメッセージ] に移動します。<br><br>変数を使用して、インシデントの短い説明やコメント、作業メモなど、テーブルのレコードの値を含めることができます。変数は、指定されたテーブルの利用可能なフィールドです。 |

10. [作成] を選択します。
    通知が保存され、プレビューできます。
11. [プレビュー] を選択して、メール通知がどのように表示されるかを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示されるプレビューを確認します。通知がどのように表示されるかを確認するには、プレビューで検索アイコンを選択し、プレビューするレコードを選択します。




### タスクの結果

AES で通知を作成すると、その通知は現在構築しているアプリケーションにのみ保存されます。

## メール通知の変更

App Engine Studio (AES) でアプリ用に作成されたメール通知を編集して変更します。たとえば、メール通知を送信するタイミング、受信者、内容を変更します。

### 始める前に

アプリケーションの管理者または開発者は、このタスクを実行できます。必要な開発者権限は、[すべてのファイルタイプ] です。アプリケーションの開発者であることの詳細については、「Delegated development in App Engine Studio (App Engine Studio の Delegated Development)」を参照してください。

必要なロール：許可された開発者または管理者

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 通知の横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。
4. 適切なアクションを実行して通知を編集します。
   通知フィールドの操作の詳細については、「メール通知の追加」を参照してください。
5. 使用しているテンプレートを変更します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [メールテンプレート] フィールドから別のテンプレートを選択します。

メールテンプレートを上書きして選択したテンプレートを変更すると、上書きが削除され、新しいテンプレートのコンテンツに置き換えられます。

b. 表示されるダイアログボックスで [変更テンプレート] を選択して、以前のテンプレートを上書きして行った変更がなくなることを確認します。

6. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

### プロセスの変更

App Engine Studio (AES) で構築したアプリの既存のプロセスを更新または変更するには、プレイブック で編集します。

#### 始める前に

プロセスを編集する前に、プレイブック にプロセスを追加する必要があります。詳細については、「プロセス定義の作成」を参照してください。

App Engine Studio でプロセスを編集できますが、開始するには、App Engine Studio の プレイブック を有効にし、**Process Automation Designer for App Engine [com.glide.pad.license]** プラグインを有効にする必要があります。 詳細については、「Activate Playbooks」を参照してください。

必要なロール：App Engine Studio ユーザーロールおよび委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. プロセスの横にあるメニューアイコン ( ••• ) を選択し、[編集] を選択します。
4. 該当するアクションを実行して、プロセスを編集します。
5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

#### 次のタスク

プロセスをテストして、想定どおりに機能することを確認します。プロセスのテストの詳細については、「プロセスをテストする」を参照してください。

### アプリケーションセキュリティの追加

App Engine Studio (AES) でロールを設定して、アプリケーションの使用または編集を許可するユーザーを制御します。

App Engine Studio、UI Builder、カタログビルダーでのセキュリティの追加

## ロールの操作

ロールを定義することで、アプリケーションにセキュリティを追加します。ロールは、アプリケーションへのアクセスを制限および制御するために使用されます。ロールに対して定義したアクセス権は、そのロールにアサインされるすべてのユーザーに付与されます。

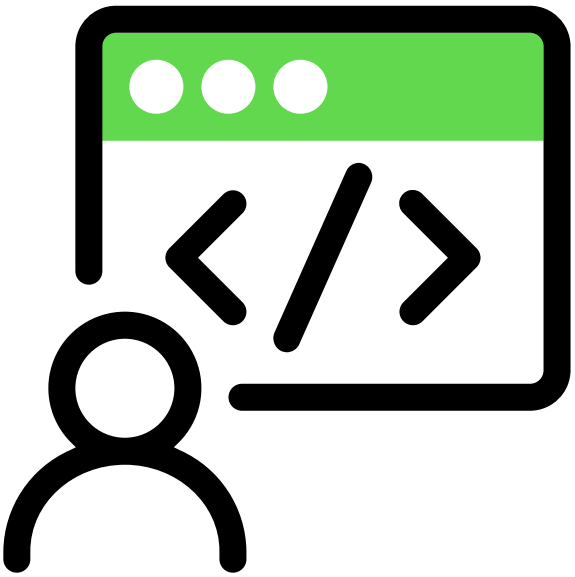
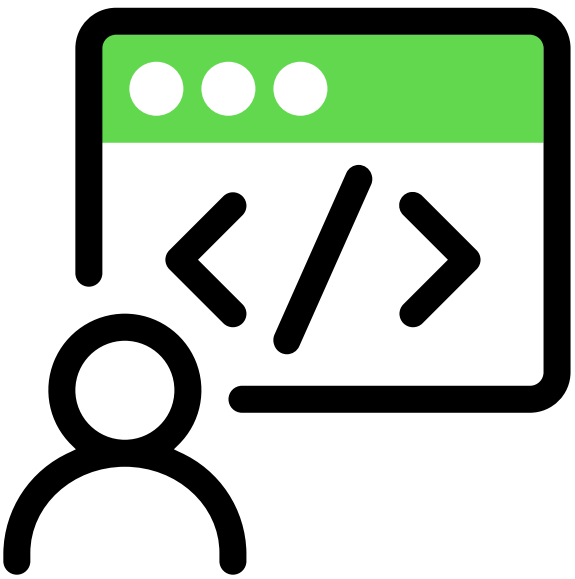
**注:**
アプリのロールを操作する権限がない場合は、[セキュリティ] セクションの [追加] ボタンが表示されますが、選択することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

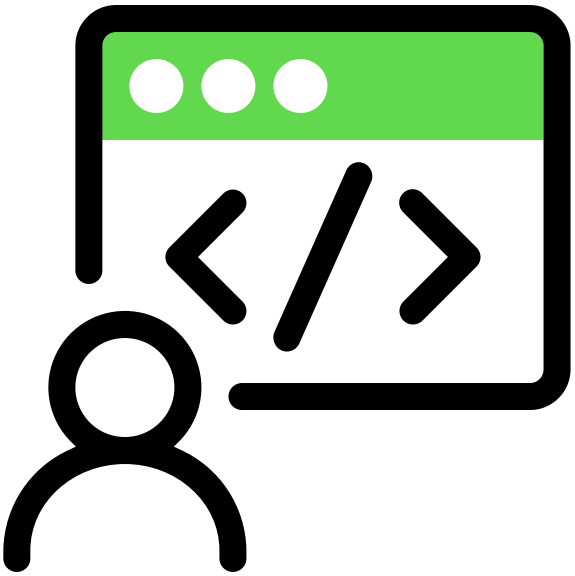
管理者は、ロールが許可する作業の種類に基づいて、適切なユーザーにロールをアサインします。たとえば、マネージャーが従業員の要求を読み取って承認できるようにするには、管理者が、関連するテーブルのレコードを読み取って更新するためのアクセス権を持つロールをアサインします。このロールには、マネージャーが要求を表示するポータルまたはワークスペースへのアクセス権も必要です。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにセキュリティを追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成する場合は、追加されたロールを編集したり、さまざまなロールを追加したりすることができます。

| AES のロールとセキュリティの詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| App Engine Studio には、アプリケーションに使用できるデフォルトのロールが含まれています。<br><br>または、アプリケーションのカスタムロールを構築することもできます。<br><br>ユーザーがアプリケーションを送信した後に、管理者が、定義されたロールをアサインすることで要求元のチームをオンボーディングします。 |  <br>セキュリティとは- ServiceNow 開発者サイト<br><br>  <br>セキュリティとロール - ServiceNow 開発者サイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| AES のロールとセキュリティの詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  特権の昇格 - ServiceNow 開発者サイト |

アプリケーションの新しいロールの構築

App Engine Studio (AES) で、アプリケーションのカスタムロールを作成します。

始める前に
必要なロール：admin、security admin

注:
管理者の場合は、必ず自分のロールを昇格してください。

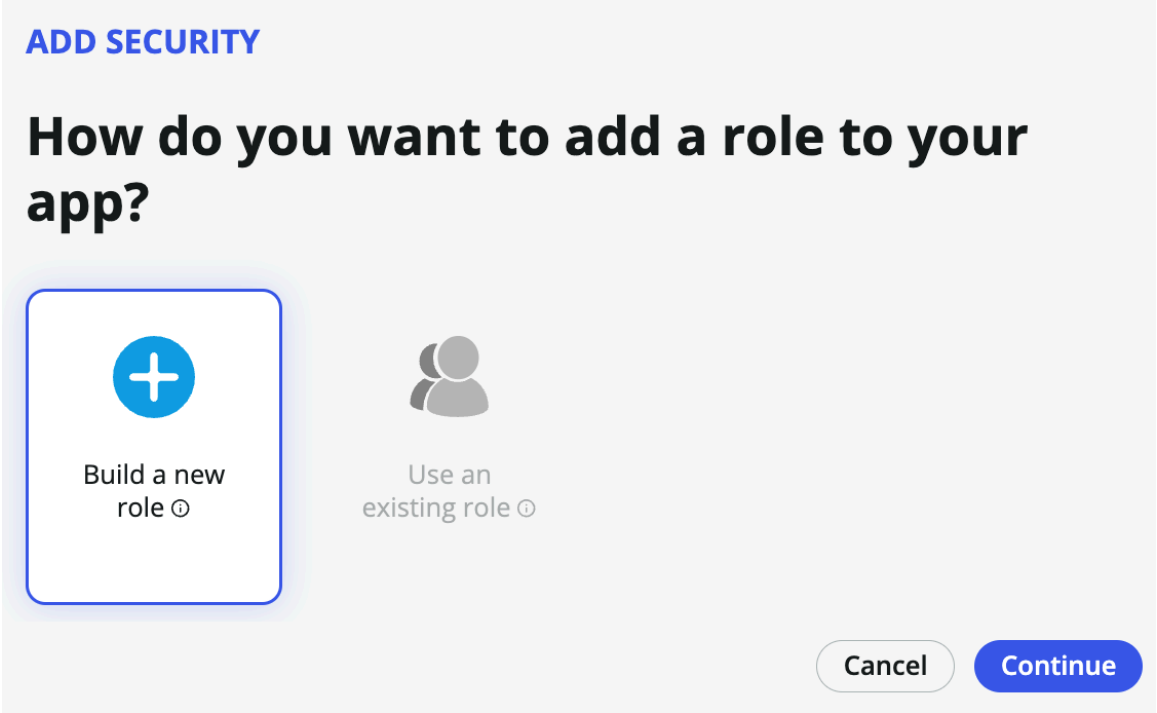
手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[セキュリティ (Security)] の横にある追加アイコン (⊕) をクリックします。
4. [新しいロールを構築します] を選択し、[続行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいロールを構築するオプション




**5.** ロールの名前と説明を入力し、[続行]を選択します。

ヒント:
既存のロール名との一貫性を保つために、ロール名はすべて小文字でスペースの代わりにアンダースコアを使用してください。たとえば、オフィスのアート要求者ロールの場合は、「office_art_requester」と入力します。

**6.** アプリケーションのテーブルごとに、このロールのアクセス制御を 1 つ以上選択します。

作成
: このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り
: このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み
: このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除
: このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

**7.** [エクスペリエンス] タブを選択し、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。

**8.** [続行] を選択し、[サマリー (summary)] 画面で [完了] を選択します。

### アプリケーションに対する既存のロールの使用

App Engine Studio (AES) で、以前に作成したロールをアプリケーションに使用します。

始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

自動翻訳

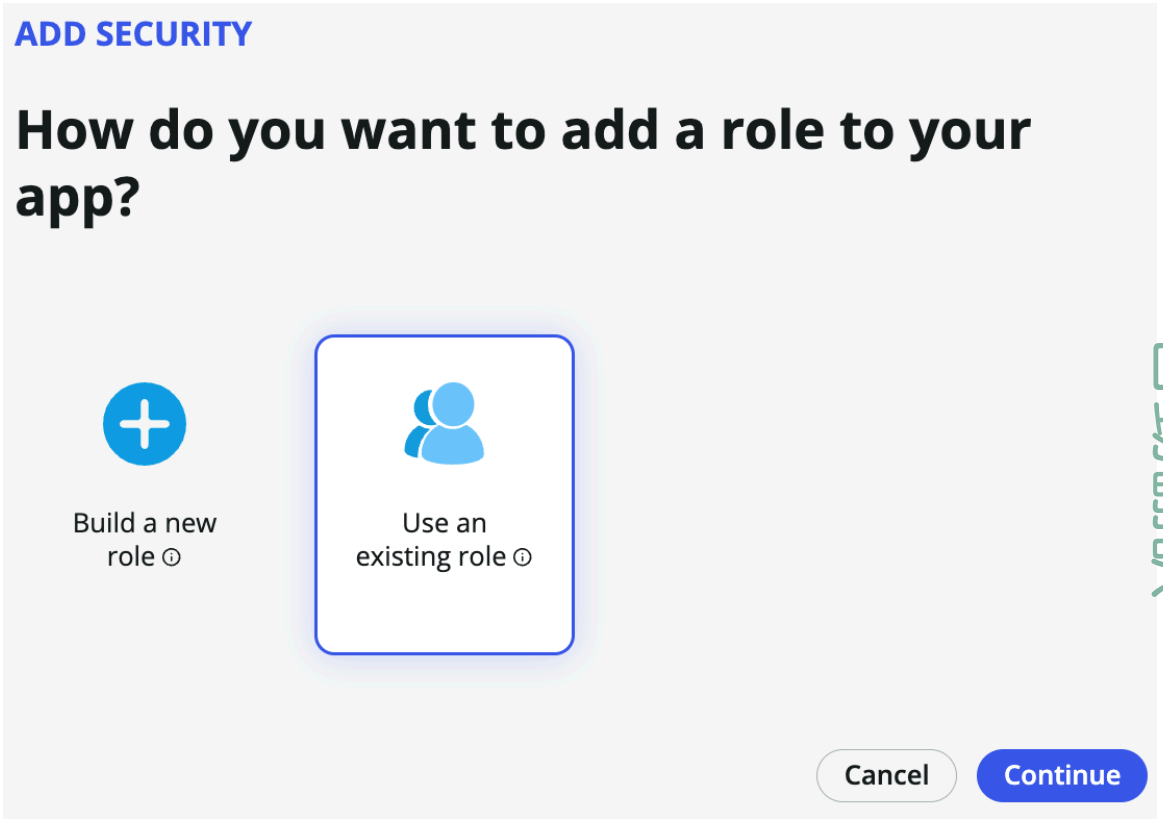
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
App Engine Studio には、アプリケーションに使用できるデフォルトのロールが含まれています。デフォルトのロールに関する詳細については、「Base system roles」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[セキュリティ (Security)] の横にある追加アイコン (⊕) をクリックします。
4. [既存のロールを使用します] を選択し、[続行] を選択します。

既存のロールを使用するためのオプション




5. 検索フィールドを選択し、リストからロールを選択します。
6. [編集] を選択します。
既存のロールのアクセス制御を設定するための新しいタブが開きます。
7. [エクスペリエンス] セクションで、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。
8. [データ] セクションで、利用可能な各テーブルのアクセス制御を設定します。

作成
このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り
このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除

このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

**9.** [保存] を選択します。

### ロールのアクセス設定の変更

App Engine Studio (AES) でロールのアプリケーション権限を制御します。

#### 始める前に

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

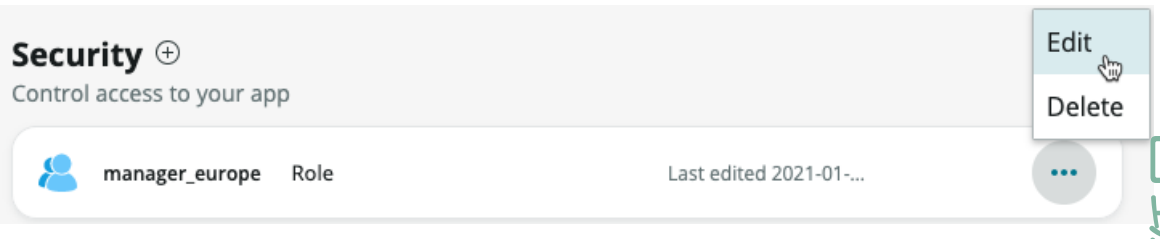
#### 手順

**1.** 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.

**2.** [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

**3.** ロールの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

ロールの編集




ロールを編集するための新しいタブが開きます。

**4.** [エクスペリエンス] セクションで、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。

**5.** [データ] セクションで、利用可能な各テーブルのアクセス制御を設定します。

作成

このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り

このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み

このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除

このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

**6.** [保存] を選択します。

### ロールの削除

App Engine Studio (AES) で不要になったロールを削除します。

#### 始める前に

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

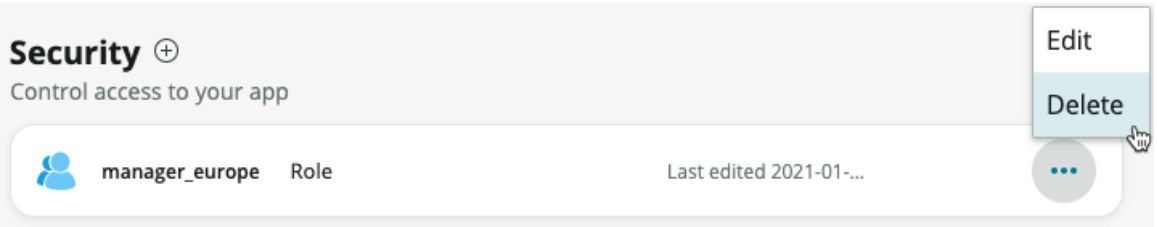
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. ロールの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[削除] を選択します。

ロールの削除




4. 表示されるダイアログボックスで、「delete」と入力し、[削除] を選択します。

## 他の開発者とのコラボレーション

App Engine Studio (AES) では、アプリケーションについて協力者になるユーザーやグループを追加または削除できます。

市民開発者向けの Delegated Development

ユーザーは、コラボレーション機能のアクションについてさまざまなレベルの権限を持ちます。高レベル：

| 次の権限を持つユーザーは | 次のアクションを実行できます |
|---|---|
| アプリケーションについての協力者の委任開発の管理の権限 | 可能な操作：<br>• 協力者とその記述子のリストの表示<br>• ユーザーとグループの検索<br>• ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 (ただし、ユーザーはカスタマイズされたユーザーまたはグループを変更できず)<br>• 招待の送信による協力者の追加<br>• ユーザーまたはグループの削除 (ただし、ユーザーはカスタマイズされたユーザーまたはグループを削除できず)<br><br>不可能な操作:<br>• ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ<br>• 更新セットを介して展開 |
| アプリケーションについての協力者の委任開発への招待の権限 | 可能な操作：<br>• 協力者とその記述子のリストの表示<br>• ユーザーとグループの検索<br>• 招待の送信による協力者の追加 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 次の権限を持つユーザーは | 次のアクションを実行できます |
| --- | --- |
| | 不可能な操作：<br>• ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更<br>• ユーザーまたはグループの削除<br>• ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ |
| アプリケーションに対する協力者関連のロールがない | 協力者とその記述子の読み取り専用リストを表示できます。<br>不可能な操作：<br>• ユーザーとグループの検索<br>• ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更<br>• 招待の送信による協力者の追加<br>• ユーザーまたはグループの削除<br>• ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ |
| 管理者 | コラボレーション機能を使用するには、管理者がsecurity_adminロールに昇格する必要があります。詳細については、「Elevated privilege roles」を参照してください。<br>管理者は、以下の操作を実行できます。<br>• 協力者とその記述子のリストの表示<br>• グループのメンバーの表示/非表示<br>• ユーザーとグループの検索<br>• ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 (カスタマイズされたユーザーまたはグループの変更、および所有者の変更を含む)<br>• 招待の送信による協力者の追加<br>• ユーザーまたはグループの削除 (カスタマイズされたユーザーおよびグループの削除、および所有者が 1 人のみの場合の所有者の削除を含む)<br>• ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ |

**注:**
グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を `standard = TRUE` に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AES でレンダリングされません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーまたはグループを追加すると、コラボレーションタスクが生成され、承認フローが開始されます。すべてのコラボレーションタスクを検索するには、次に移動します すべて > **App Engine** > コラボレーション > コラボレーションタスク. コラボレーションタスクは、開発者がどのアプリケーションに追加され、どの権限が付与されるかについての情報を提供します。承認者は、開発者をアプリケーションに追加する前に、これらのタスクレコードを確認しなければならない場合があります。

管理者は、フローデザイナー を使用してコラボレーション要求フローを変更できます。ベースシステムのコラボレーション要求フローは、次のようにコラボレーション要求を処理します。

- ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを以前に使用したことがある場合、コラボレーション要求承認レコードは自動承認されます。
- ユーザーが AES または委任開発者権限を持たず、そのプラットフォームを初めて使用する場合は、承認が必要です。

管理者は、開発者が委任開発権限をアサインするために使用するコラボレーション記述子を変更できます。ベーステーブルには、所有者と編集者のコラボレーション記述子があります。デフォルトでは、所有者には「協力者の委任開発の管理」権限が設定され、編集者には「協力者の委任開発への招待」権限が設定されています。

**注:**
ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、管理者が Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、管理者がフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

### ユーザーまたはグループのコラボレーションへの追加

コラボレーション機能を使用して、App Engine Studio (AES) で他の開発者と共同作業する権限をユーザーまたはグループに付与します。

#### 始める前に
必要なロール：admin、協力者の委任開発の管理ロール、または協力者の委任開発への招待ロール

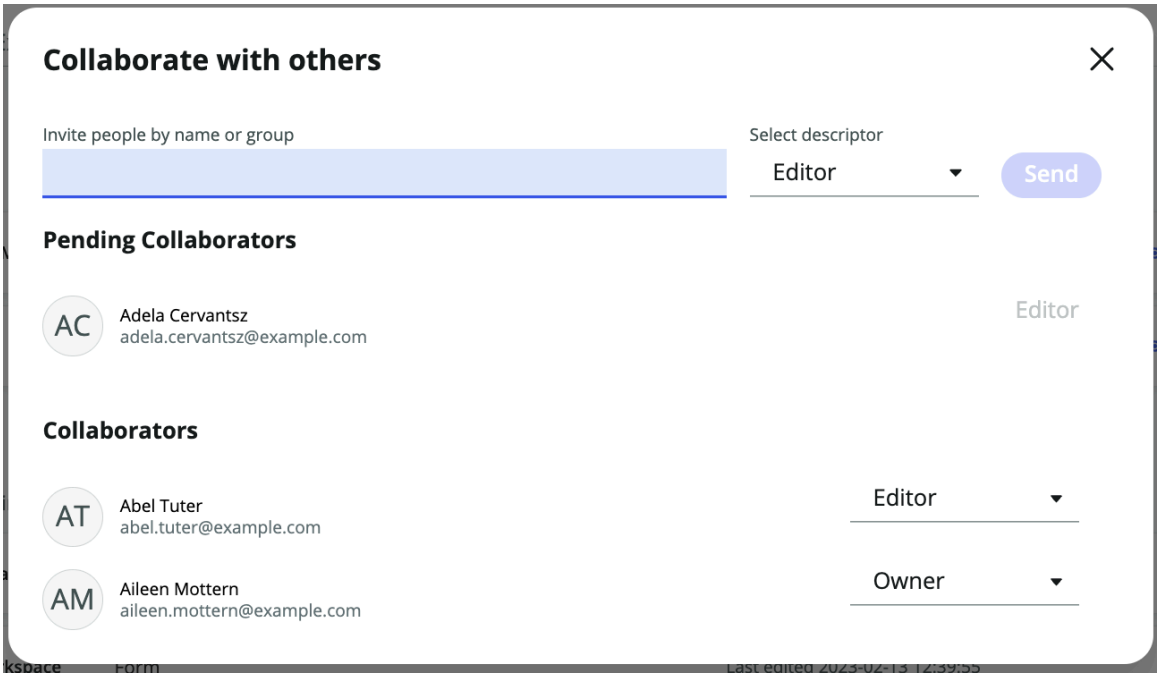
#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他のユーザーとのコラボレーション




4. 別のユーザーまたはグループを協力者として追加するには、[名前またはグループでユーザーを招待] フィールドにユーザー名またはグループ名を入力します。
5. 名前の最初の数文字を入力して、特定のユーザーまたはグループを検索します。
一致するユーザー名とグループのドロップダウンリストが表示され、追加するユーザーまたはグループを選択できます。ドロップダウンリストに表示されているユーザーまたはグループを選択できない場合は、既に協力者として追加されており、再度選択することはできません。
6. 追加するユーザーまたはグループのコラボレーション記述子を選択します。
コラボレーション権限のリストについては、「委任開発およびコラボレーション権限」を参照してください。

   **注:**
   [協力者を招待] 権限を持つユーザーはこれを行うことができず、デフォルトで [エディター] オプションが使用されます。

   グローバルスコープで定義され、標準オプションが選択されているアプリコラボレーション記述子のみがリストに表示されます。

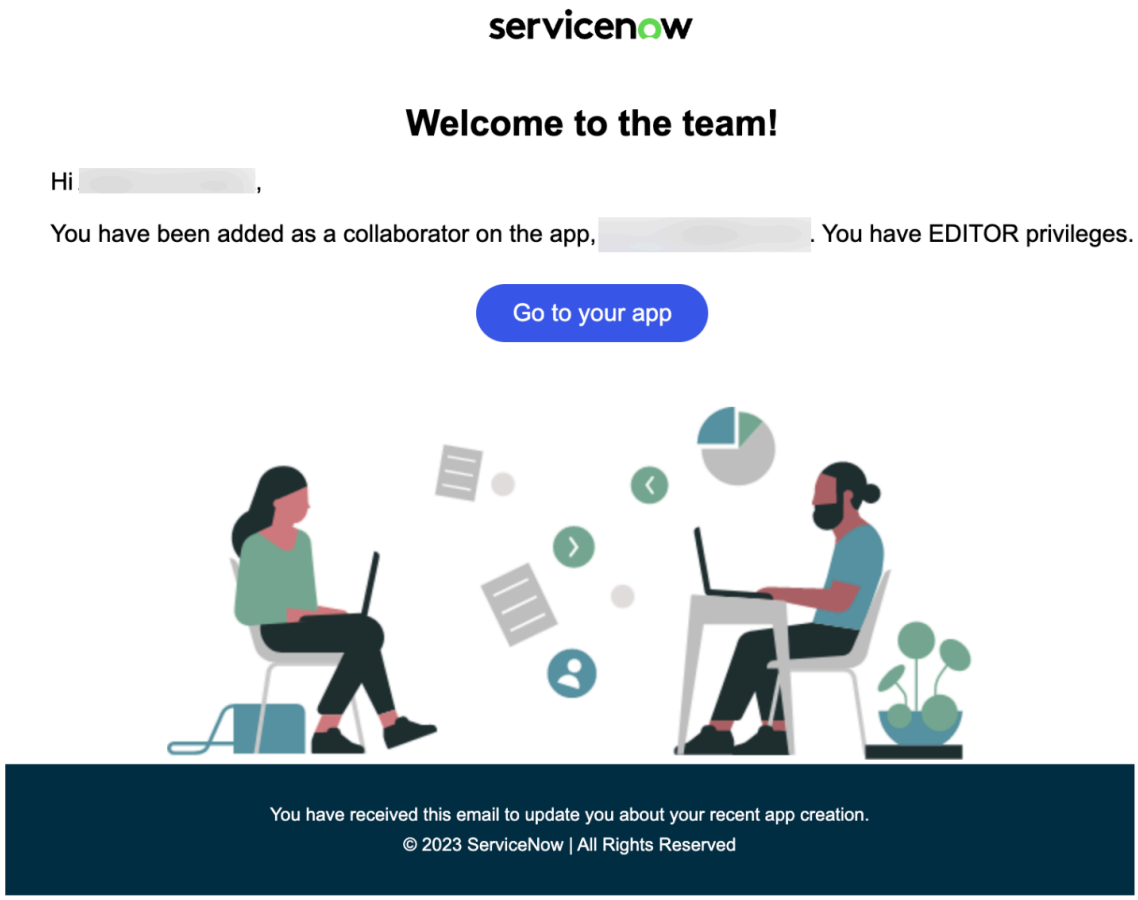
7. [送信] を選択します。

   - ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを初めて使用する場合、そのユーザーは [要求処理待ち] セクションにリストされ、承認が必要になります。要求が承認されると、要求者とユーザーの両方

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に、ユーザーがアプリケーションに追加されたことを示すメールが送信されま




す。

- ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを以前に使用したことがある場合、コラボレーション要求は自動承認されます。要求者とユーザーの両方に、ユーザーがアプリケーションに追加されたことを示すメールが送信されます。

> **注:**
> コラボレーション要求の作成元のインスタンスで有効なコントローラーが構成されている場合、そのコントローラーインスタンスにコラボレーション要求タスクが作成されます。作成元のインスタンスがコントローラーで構成されていない場合、承認が付与される前にインスタンスを構成する必要があることを示す作業メモが、要求レコードに自動的に追加されます。作成元インスタンスがコントローラーであるか、有効なコントローラーが構成されていない場合、コラボレーション要求タスクは要求インスタンスに作成されます。詳細については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。

### 協力者の権限の変更

協力者に割り当てられている権限を変更するか、カスタムコラボレーション権限を作成して、App Engine Studio (AES) でユーザーができることを有効にします。

#### 始める前に

必要なロール：admin または協力者の委任開発の管理ロール

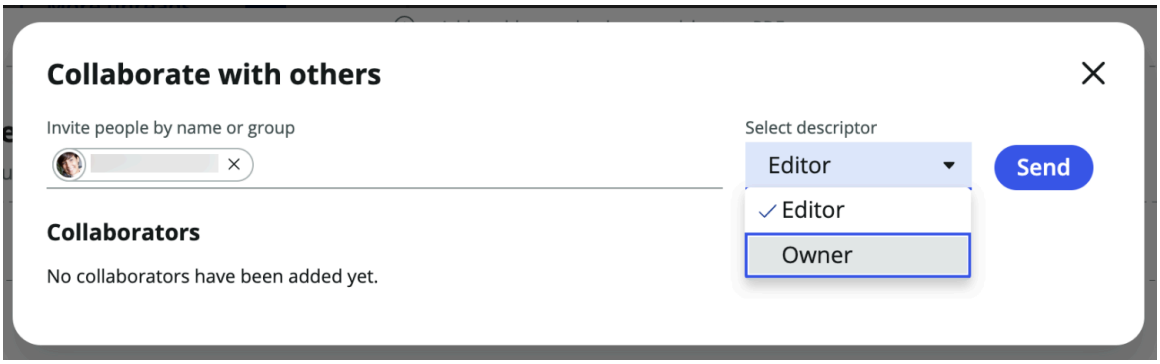
#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 変更するユーザーまたはグループについて、ドロップダウンリストから別の協力者記述子を選択します。




カスタマイズされたユーザーとグループは、管理者以外は編集できません。

5. 管理者のみ：アプリケーションの特定のユーザーに対してカスタム コラボレーション権限を作成します。

   a. AES で、ユーザーの名前の横にあるドロップダウンリストから [権限をカスタマイズ] を選択します。

   b. ユーザーまたはグループの委任開発の権限を選択またはクリアします。
   コラボレーション権限のリストについては、「委任開発およびコラボレーション権限」を参照してください。

   別の標準的なコラボレーション記述子の選択と一致する選択をした場合は、続行する前にプロンプトが表示されます。各委任開発権限の詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

6. [保存] を選択します。

### 委任開発およびコラボレーション権限

コラボレーション権限は、App Engine Studio (AES) でユーザーが実行できる内容を定義します。

## ファイルタイプのアクセス権限

ファイルタイプのアクセス権限は、アプリケーションファイルタイプにアクセス権を付与します。

### ファイルタイプのアクセス権限

| 権限 | 説明 |
|---|---|
| すべてのファイルタイプ | すべてのファイルタイプで共同作業するためのアクセス権を付与します。<br>**注:** このオプションには、個別の権限にリストされていない追加のファイルタイプへのアクセスが含まれます。 |
| 統合 | Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権を付与します。 |
| Reporting | レポートおよびレポートスケジュールへのアクセス権を付与します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルタイプのアクセス権限 (続く)

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| モバイルビルダー | モバイルアプリビルダー などを使用してモバイルエクスペリエンスを構築するためのアクセス権を付与します。 |
| UI ビルダー | UI ビルダー を使用してより複雑なインターフェイスを構築するためのアクセス権を付与します。 |
| ワークフロー | ワークフローエディターおよびアクティビティクリエーターへのアクセス権を付与します。 |
| サービスポータル | サービスポータル のエディターとツールを操作するためのアクセス権を付与します。 |
| フローデザイナー | フローとアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権を付与します。スクリプトアクションのステップでは、スクリプティングを許可 **(Allow Scripting)** 権限が必要です。 |
| サービスカタログ | カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプを操作して、カタログアイテムをアプリに追加するためのアクセス権を付与します。 |
| テーブルとフォーム | テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなど、モデルおよびレイアウト関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。 |
| プレイブック | プレイブック 設計環境を操作してプロセスを作成するためのアクセス権を付与します。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、**Flow Designer** 権限が必要です。 |
| ディシジョンテーブル | ディシジョンテーブル を操作して、複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するためのアクセス権を付与します。 |
| 通知 | アプリで自動メール通知を作成するためのアクセス権を付与します。 |

## セキュリティ/エンタイトルメント権限

**[ACL** とロールの管理] 権限は、アクセス制御リストやロールなどのセキュリティ管理ファイルへのアクセス権を付与します。

## プログラミングツールの権限

[スクリプティングを許可 **(Allow scripting)]** 権限は、ビジネスルール、UI アクション、クライアントスクリプトなどのスクリプトフィールドへのアクセス権を付与します。

## アプリケーション管理権限

アプリケーション管理権限は、協力者の管理などの基本的なアプリ管理機能へのアクセス権を付与します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

アプリケーション管理権限

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーションを削除 | スコープ対象のアプリ内で協力者に、アプリケーションを削除する権限を付与します。 |
| 協力者の管理 | アプリの協力者を管理および招待するためのアクセス権を付与します。 |
| ソースコントロール | ソースコントロールを使用するためのフルアクセス権を付与します。 |
| 協力者を招待 | 開発者をアプリで共同作業するよう招待するためのアクセス権を付与します。 |

## 展開権限

展開権限は、アプリのインストール、アップグレード、および公開へのアクセス権を付与します。

展開権限

| 権限 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリをアップグレード | 現在のインスタンスにインストールされた後、関連アプリケーションをアップグレードするためのアクセス権を付与します。 |
| 展開の送信 | レビューおよび展開のために関連アプリケーションを送信するためのアクセス権を付与します。 |
| アプリリポジトリに公開 | 関連アプリケーションを現在のインスタンスのアプリケーションリポジトリに公開するためのアクセス権を付与します。 |
| アプリストアに公開 | 関連アプリケーションを現在のインスタンスの ServiceNow Store に公開するためのアクセス権を付与します。 |

### ユーザーまたはグループのコラボレーションからの削除

コラボレーションからユーザーとグループを削除して、アプリの所有や編集を制限します。

#### 始める前に

必要なロール：admin または協力者の委任開発の管理ロール

#### このタスクについて

アプリの最終的な所有者と編集者を削除できます。アプリに所有者がなく、所有者が必要な場合は、管理者が追加する必要があります。

#### 手順

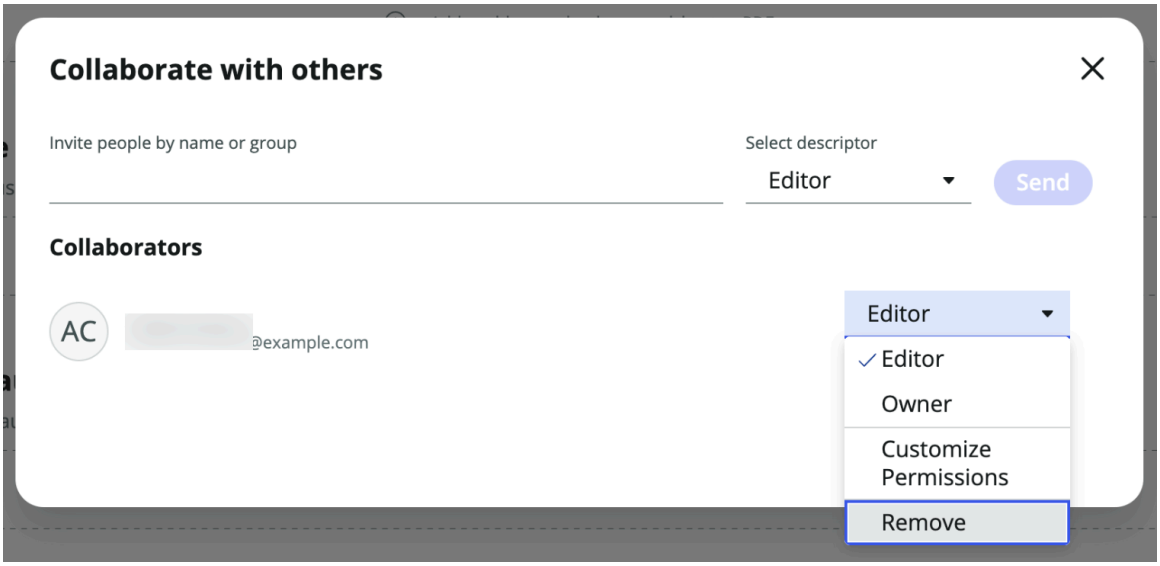
1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[他のユーザーとコラボレーション] モーダルに、現在の協力者のリストが表示されます。

4. ユーザーまたはグループを協力者として削除するには、ドロップダウンリストから [削除] を選択しま




す。

## AES と Git ソースコントロールリポジトリの使用

App Engine Studio (AES) で作業するアプリ開発者は、さまざまな方法でデータリポジトリを管理できます。

管理者がアプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスのすべてのアプリケーション開発者が次のアクションを実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

**注:**
ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、管理者が Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、管理者がフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

## App Engine Studio で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は App Engine Studio を使用してリポジトリを管理できます。開発者は App Engine Studio から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの資格情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロール統合は、本番インスタンスでのアプリケーションの管理をサポートしていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

## Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、sn_source_control.properties と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *path* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを src/app サブフォルダーに移動した場合は、*path* を path=src/app に設定します。

システムは、App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに checksum.txt ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。
- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

ソースコントロール統合は、sn_source_control.properties ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

## MID Server のサポート

既存の MID Server を使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID Server を介してアプリケーションにアクセスすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

### App Engine Studio でのソースコントロールの操作

ソースコントロール統合は、主に App Engine Studio (AES) から操作をサポートしますが、一部の操作を直接 Git リポジトリからサポートすることもできます。

利用可能なソースコントロール操作

| 操作 | 説明 | 入手先 |
|---|---|---|
| ソースコントロールからインポート | アプリケーションをリポジトリからローカルインスタンスにインポートします。詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート」を参照してください。 | App Engine Studio |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

| 操作 | 説明 | 入手先 |
|---|---|---|
| ソースコントロールにリンク | 開発者は Git リポジトリからアプリケーションの変更を管理できます。詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください。 | App Engine Studio |
| リポジトリ構成を編集 | Git リポジトリのユーザー資格情報を更新します。詳細については、「Git リポジトリ構成の編集」を参照してください。 | App Engine Studio |
| リモート変更を適用 | リポジトリのバージョンと一致するようにアプリケーションのローカルバージョンを更新します。詳細については、「リポジトリからの変更のプル」を参照してください。 | App Engine Studio |
| 変更を収容 | ローカルバージョンと一致するように、アプリケーションのリポジトリバージョンを更新します。詳細については、「リポジトリに変更をコミット」を参照してください。 | App Engine Studio |
| ローカルな変更を隠す | 後で作業するためにローカルの変更を削除して保存します。詳細については、「ローカル変更をスタッシュ」を参照してください。 | App Engine Studio |
| 分岐を切り替え | アプリケーションのローカルバージョンを更新して、リポジトリ分岐バージョンと一致させます。詳細については、「分岐の切り替え」を参照してください。 | App Engine Studio |
| 分岐を作成 | リポジトリに分岐を作成して、異なるバージョンのアプリケーションを保存します。詳細については、「ブランチを作成」を参照してください。 | • App Engine Studio<br>• Git リポジトリ |
| タグを作成 | 特定のアプリケーションバージョンにリンクするようタグをリポジトリに作成します。詳細については、「特定のアプリケーションバージョンにリンクするためのタグを作成する」を参照してください。 | • App Engine Studio<br>• Git リポジトリ |
| しまいこみを管理 | 開発者がしまい込んだ変更を適用または削除できるようにします。詳細については、「スタッシュを管理」を参照してください。 | App Engine Studio |
| リポジトリを作成する | アプリケーションの変更を保存するリポジトリを作成します。 | Git リポジトリ |
| 資格情報の作成 | リポジトリへの資格情報を作成します。 | Git リポジトリ |
| リポジトリへのア | 特定の資格情報セットに関連付けられたリポジトリへの読み書きアクセスを提供します。 | Git リポジトリ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

| 操作 | 説明 | 入手先 |
| --- | --- | --- |
| クセスを許可する | | |

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート

このインスタンスで開発を続行するために、ソースコントロールリポジトリからアプリまたはアプリのカスタマイズを App Engine Studio (AES) にインポートします。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- リポジトリに有効なアプリケーションが含まれていることを確認する。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル [sys_user] レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- アプリケーションのカスタマイズの詳細については、「アプリケーションのカスタマイズの管理」を参照してください。

このタスクについて

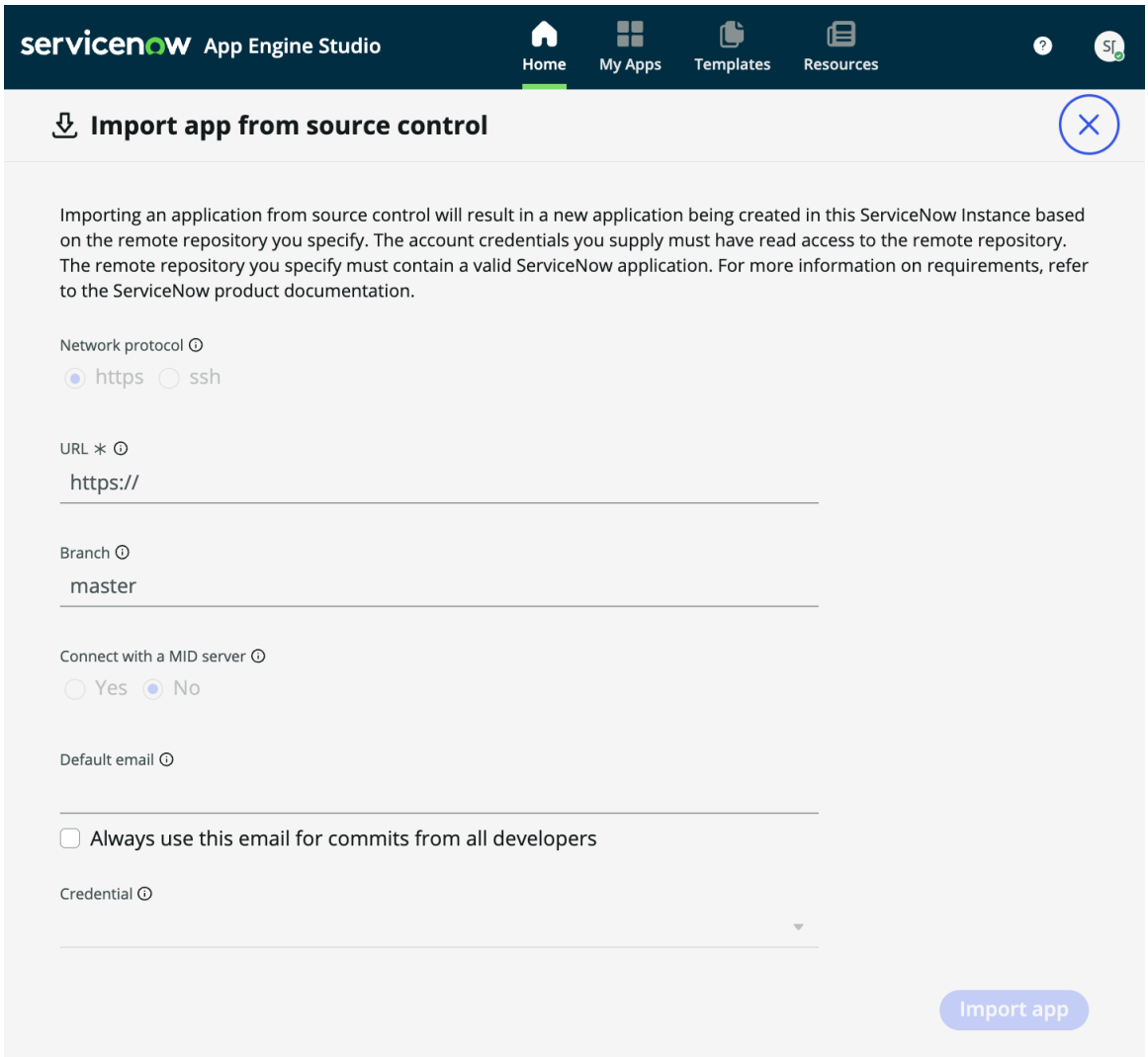
ソースコントロール統合では、制作インスタンス上のアプリケーションのインポートはサポートされていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio から制作インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [アプリをインポート] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




自動翻訳

**3.** フォームのフィールドに入力します。

ソースコントロールフィールドからのインポート

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ネットワークプロトコル | セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする https または ssh 資格情報タイプ。 |
| URL | アプリケーションファイルが存在する Git リポジトリの URL。<br>**注:**<br>Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。 |
| 分岐 | アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。<br>**注:** |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | デフォルトの分岐には、インスタンスの名前が付けられます。名前を選択しない場合、分岐はデフォルトで [マスター] になります。 |
| MID Server 名 | 既存の MID Server を選択して、企業ファイアウォールの背後に格納されている Git リポジトリにリンクします。<br>**注:** ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID Server を使用します。<br>詳細については、「MID Server」を参照してください。 |
| デフォルトのメール | コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| 資格情報 | Git リポジトリの資格情報を選択します詳細については、「資格情報の開始」を参照してください。<br>**注:** ssh ネットワークプロトコルを選択した場合は、[SSH プライベートキー] タイプの有効な資格情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証資格情報タイプの有効な資格情報を入力します。 |

**注:** インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための資格情報を共有します。

4. [アプリをインポート] を選択します。
   checksum.txt ファイル内のチェックサムが、現在のチェックサムと比較されます。チェックサム値が一致すると、統合は検証をスキップしてアプリケーションをインポートします。チェックサム値が一致しない場合、統合は最初にアプリケーションファイルを検証してサニタイズしてから、それらをインポートします。
5. [アプリケーションを選択] を選択します。
   App Engine Studio アプリケーションをウィンドウに新しい選択肢として表示します。

### 次のタスク

- インポート中にアプリケーションファイルに適用されたサニタイズのアップグレードログを確認します。
- インポートしたアプリケーションを選択して編集する。

### 関連情報

MID Server

資格情報の開始

## Git での変更の操作

App Engine Studio (AES) を使用する開発者は、Git リポジトリで変更をプルおよびコミットできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**注:**
ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、管理者が Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、管理者がフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

### リポジトリからの変更のプル

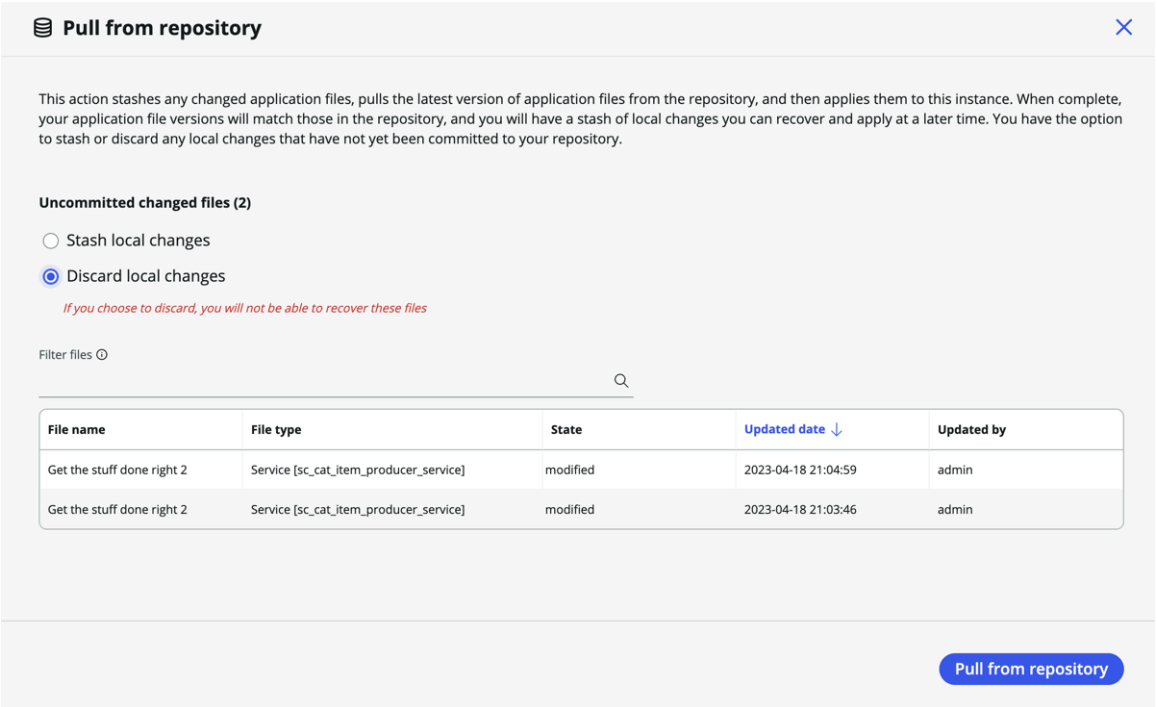
App Engine Studio (AES) を使用するアプリ開発者は、リンクされた Git リポジトリから変更をプルして、リモート変更をローカルインスタンスに適用できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > リポジトリからプル.
4. コミットされていないファイルを確認し、[ローカル変更をスタッシュ] または [ローカル変更を破棄] を選択します。




5. [リポジトリからプル] を選択します。
次の操作が行われます：
   - システムは、リモートリポジトリから最新の変更を取ってくる。
   - システムは、リモート変更をインスタンスに適用する。
   - システムは解決を必要とする変更の競合を特定する。
競合が発生した場合、システムは競合を解決するためのウインドウを表示します。

   システムプロパティのデフォルトでデルタロードがアクティブ化されているため、データは削除されません。データを自動的に削除する場合は、この機能を無効にします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
変更の競合を解決します。

## リポジトリに変更をコミット

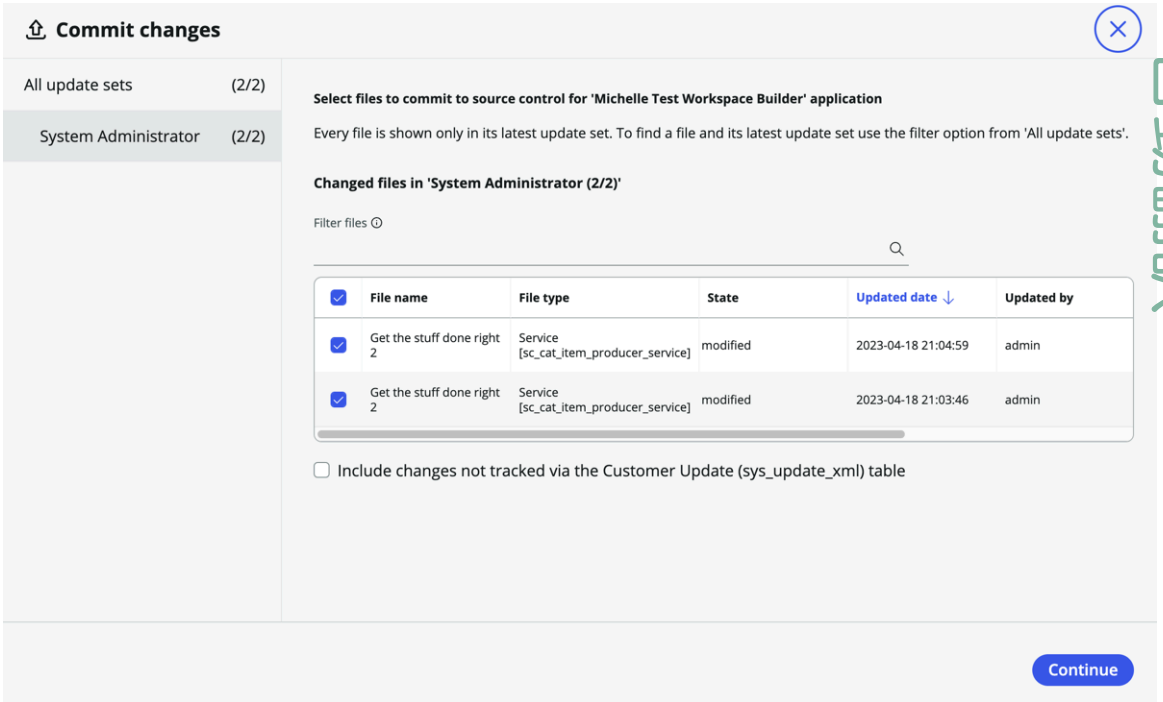
App Engine Studio (AES) でアプリケーションに加えられた変更を、リンクされた Git リポジトリにコミットします。変更をいくつか選択してコミットすることも、インスタンスに対するすべての変更を一度にコミットすることもできます。

### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > 変更を収容.
   [ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ウィンドウが表示されます。すべての更新セットからのファイル変更が表示されます。デフォルトでは、現在の更新セットからのファイル変更が表示されます。




4. コミットするファイル変更を選択します。
5. 追跡されていない変更を含めるには、[顧客アップデート **[sys_update_xml]** テーブルを介して追跡されない変更を含める] チェックボックスをオンにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- このチェックボックスのデフォルトは、**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティを介して設定されます。
  - プロパティは、**[include_untracked]** または **[exclude_untracked]** に設定できます。
  - **[include_untracked]** モードは、sys_update_xml レコードを生成しないアプリケーションに対する更新とともに、ユーザーが選択した更新をコミットします。
  - **[exclude_untracked]** モードでは、[ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ダイアログでユーザーが選択した更新のみがコミットされます。
- プロパティのベースシステム設定は **[exclude_untracked]** です。
- チェックボックスを非表示にして **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値を使用するには、**[sn_devstudio.vcs.allow_commit_mode_selection]** プロパティを作成して [false] に設定します。
- このチェックボックスをオンにすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

**注:**

次の場合、コミットは常に **[include_untracked]** モードで発生します。

- 初めてソースコントロールにリンクするとき (詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください)。
- App Engine Studio からソースコントロールにリンクされたアプリケーションを公開するとき。
- 選択的コミットモードが無効のとき。

6. [続行] を選択します。
7. [コメントをコミット] に、変更のコメントを入力します。
8. [コミットファイル] を選択します。
   次の操作が行われます：
   - システムは全てのローカルな変更を識別します。
   - システムは、リモートリポジトリにすべてのローカル変更を収容します。

**注:**
顧客更新レコードがなく、追跡もされていない既知のファイルのリストについては、「Customer Updates table」を参照してください。

### Git でのバージョンと分岐の作成

App Engine Studio (AES) を使用するアプリ開発者は、Git リポジトリにバージョンと分岐を作成できます。

### 特定のアプリケーションバージョンにリンクするためのタグを作成する

App Engine Studio (AES) の特定のアプリバージョンにリンクするためのタグをリポジトリに作成します。

#### 始める前に

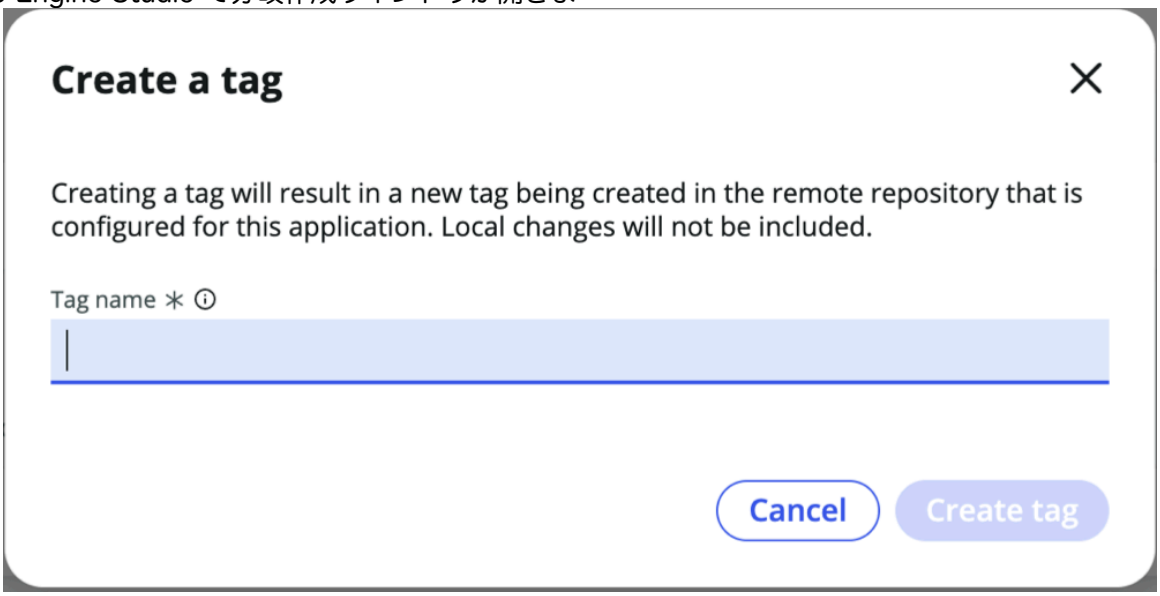
- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > タグを作成.
   App Engine Studio で分岐作成ウィンドウが開きま




す。

4. [タグ名] を入力します。
5. [タグを作成] を選択します。
   App Engine Studio でタグが作成されます。
6. [クローズ] を選択します。

次のタスク
新しい分岐への変更をコミットします。

### 分岐の切り替え

アプリケーション開発者は App Engine Studio (AES) を使用して、別のリポジトリ分岐に切り替えて、アプリケーションの別のバージョンで作業できます。

始める前に

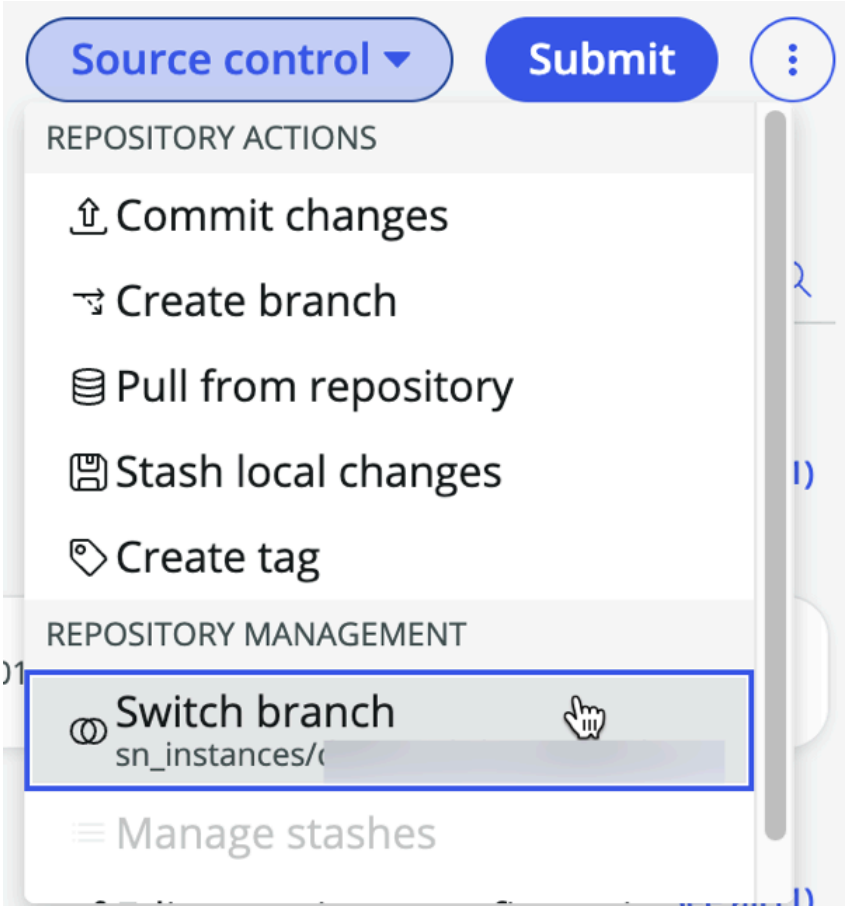
- 必要なロール：admin
- 1 つ以上の利用可能な分岐を持つ Git リポジトリ

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > 分岐を切り替え.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




[分岐を切り替え] ウィンドウが表示されます。

4. オプション: インスタンスにローカルで変更があった場合は、それらを保存または破棄できます。

   注:
   ローカルな変更を破棄するときは注意します。すべてのアプリケーション開発者はリポジトリの資格情報を共有するため、1 組のユーザー変更だけを破棄する方法はありません。後で破棄した変更を回復することはできません。

5. 切り替え先の分岐を選択します。
6. [分岐を切り替え] を選択します。
   App Engine Studio ではリポジトリからの分岐バージョンと一致するようにローカルアプリケーションが更新されます。

### ブランチを作成

アプリケーション開発者は、App Engine Studio (AES) で分岐を作成して、既存のアプリの新しいバージョンで作業できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

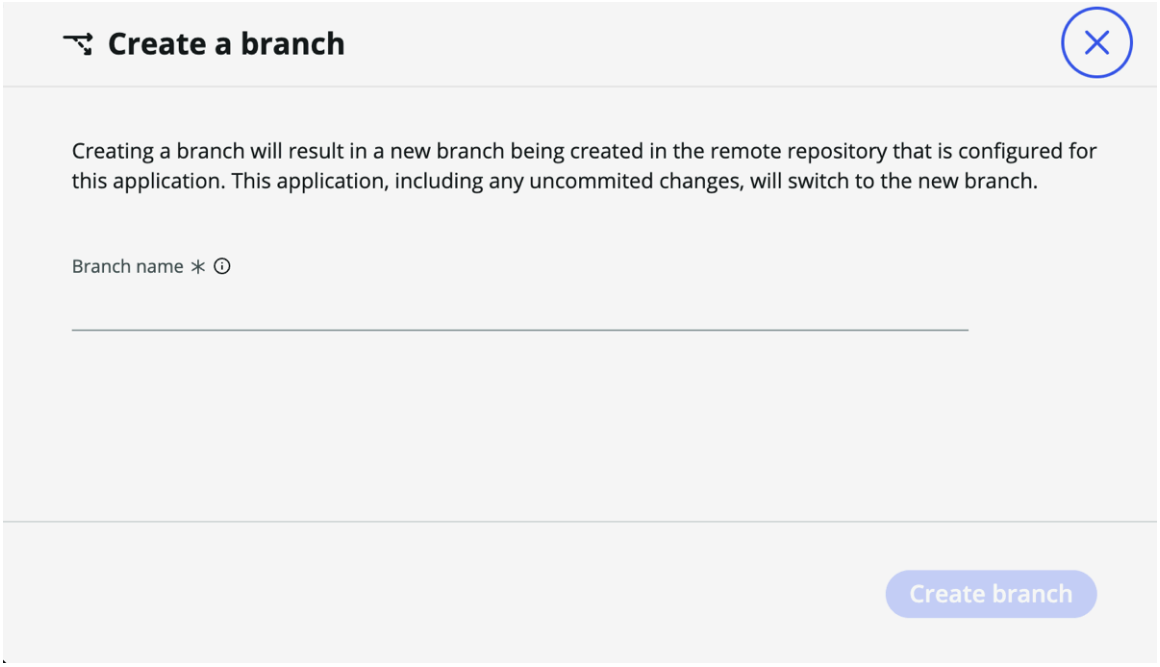
#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

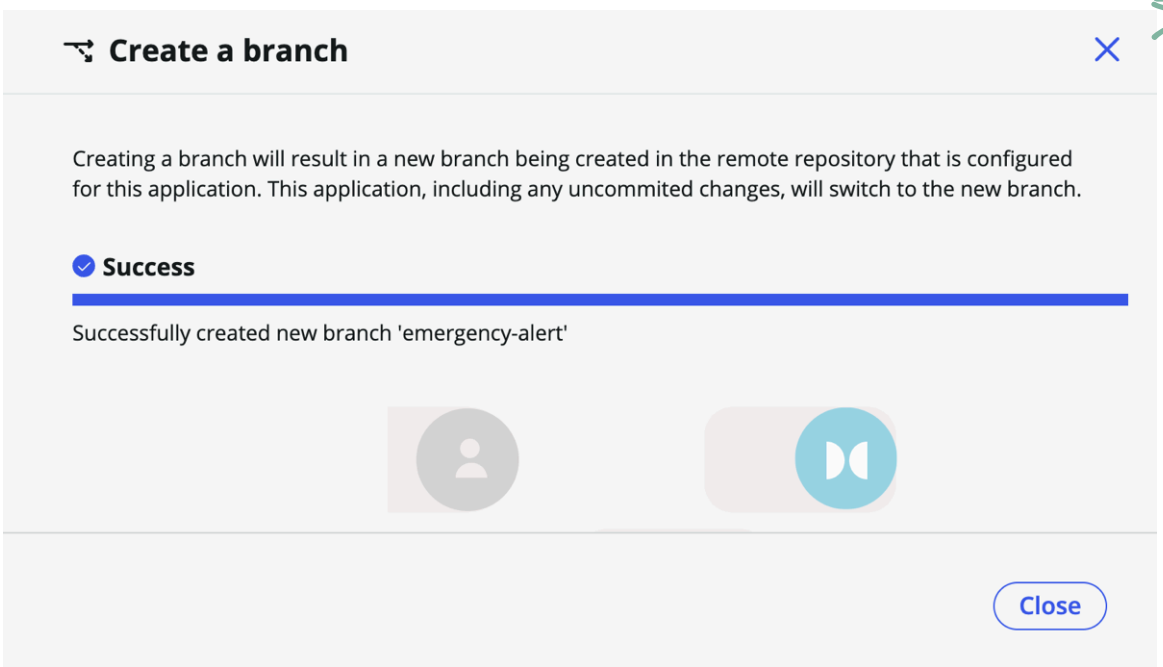
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 選択 ソースコントロール > ブランチを作成.
   App Engine Studio で分岐作成ウィンドウが開きます。




4. [分岐名] を入力します。
5. オプション: タグから分岐を作成するには、[タグから作成] ドロップダウンリストを選択して既存のタグを選択します。
6. [分岐を作成]を選択します。
   App Engine Studio で分岐が作成されます。




7. [クローズ] を選択します。

次のタスク
新しい分岐への変更をコミットします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### デフォルト分岐の設定

新しい変更またはメインの App Engine Studio (AES) 開発リポジトリとしてメイン以外の分岐を使用する場合は、デフォルト分岐を設定します。

#### 始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

#### 手順

1. Add a system property の手順に従ってください。
2. **[glide.source_control.default_branch_name]** プロパティを追加し、(プル要求、コードコミットなどの) 作業をする Git ソースコントロールリポジトリのデフォルト分岐の名前を指定します。アプリケーション開発者の作業は、特に指定されていない限り、デフォルトの分岐から管理され、そこに保存されます。変更されない限り、この値のデフォルトは「sn_instances/<instance_name>」に設定されます。

### スタッシュの変更

開発者は App Engine Studio (AES) から、変更を削除して後で適用するためにローカルに保存し、スタッシュされた変更を管理できます。

### ローカル変更をスタッシュ

アプリ開発者は App Engine Studio (AES) で、変更を削除して後で適用するためにローカルに保存できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- 1つまたは複数のアプリケーションファイルを変更する。

#### このタスクについて

変更をしまい込むと、現アプリケーションからその変更が除去され、後ほど開発者が適用または削除するために保存します。

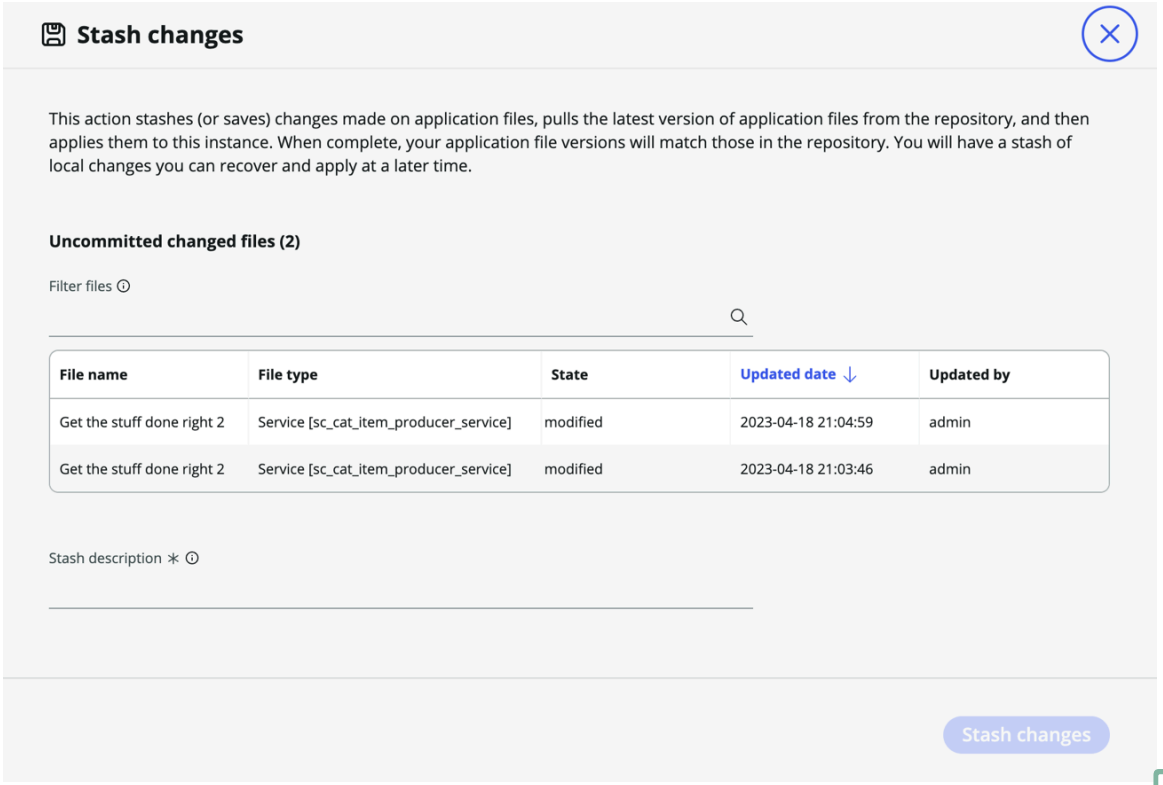
#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > ローカル変更をスタッシュ.
   システムがローカルで変更されたファイルのリストを表示します。
4. 説明を入力します。
5. [スタッシュの変更] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムは現在の変更を保存し、成功メッセージを表示します。




### 次のタスク

- ダイアログを閉じる
- スタッシュを管理

詳細については、「資格情報の開始」を参照してください。

## スタッシュを管理

アプリ開発者は App Engine Studio (AES)から、スタッシュされた変更を適用または削除できます。

### 始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする。
- １つまたは複数のアプリケーションファイルの変更をしまい込む。

### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 選択 ソースコントロール > スタッシュを管理.
   システムはローカルにしまい込まれた変更のリストを表示します。
4. 管理するスタッシュの横にあるアクションをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 適用 | アプリケーションにしまい込まれた変更を収容し、競合をチェックします。 |
| 削除 | しまい込まれた変更を削除する。 |

競合の解決

アプリ開発者は、App Engine Studio (AES) でリモートの変更またはスタッシュされた変更を適用するときに使用する、アプリファイルのバージョンを選択できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- しまい込んだ変更の適用

このタスクについて

競合は、同じアプリケーションファイルに複数の変更バージョンがある場合に発生します。1 つはリモートまたはスタッシュされたバージョンの変更セットで、もう 1 つはローカルバージョンの変更セットです。App Engine Studio では、開発者はリモートまたはスタッシュされた変更を適用する前に競合を解決する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. リポジトリからプルするか、ローカル変更をスタッシュします。
   システムが競合を識別すると、[競合の解決] ダイアログを表示します。
4. 競合を解決する方法を選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクションを選択 | すべてのしまい込み変更を適用または破棄します。ステップ 3 に進みます。 |
| 変更を手動で合併 | 適用する変更を個別に選択します。ステップ 6 に進みます。 |

5. 全てのしまい込まれた変更を適用または破棄したい場合には、アクションを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| しまい込んだ変更を取得 | しまい込んだ変更からアプリケーションファイルのバージョンを適用します。 |
| しまい込んだ変更を破棄 | リポジトリから最新引出したものからアプリケーションファイルのバージョンを適用します。 |

6. [スタッシュされた変更を適用] を選択します。
   選択した変更を適用します。
7. [ダイアログを閉じる] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 競合する変更を結合する場合は、[手動で適用] を選択します。
   バージョン差異のリストをフィールド毎に表示します。
9. 合併されたアプリケーションファイルに含めたいフィールドの値を選択します。
10. [結合の保存] を選択します。
    選択した変更が適用されます。

### 収容の履歴を表示

アプリ開発者は App Engine Studio (AES) で、ソースコントロールリポジトリにリンクされているアプリのコミット履歴を表示できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：admin
- Git リポジトリへの既存のリンク

#### 手順

1. 移動先 すべて > ソースコントロール > 履歴を表示 .
   履歴ウィンドウを表示します。
2. ソートの注文タイプの収容を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 日付 | 収容日付でソートします。 |
| コミット担当者 | ユーザー名でソートします。 |

3. ソート順の方向を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 降順 | 最も新しい日付から最も古い日付までにソートします。ユーザー名を逆アルファベット順でZからAに並べ替えます。 |
| 昇順 | 最も古い日付から最新の日付までにソートします。アルファベット順でAからZにユーザー名をソートします。 |

   システムは、選択したソート順で収容をソートします。
4. 収容を選択します。
   選択した収容の収容の詳細が表示されます。
5. 収容の詳細を確認します。

#### 収容の詳細

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| コミット担当者 | 変更を収容したユーザー |
| 日付 | 収容の日時スタンプ |
| SHA-1 | リポジトリ内のこの収容を識別する確実なハッシュ値 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| メッセージ | この収容に関連する収容メッセージ |
| ファイル | この収容で変更されたアプリケーションファイルのリスト |

6. 履歴ウィンドウを閉じます。

### Git リポジトリのアプリケーションファイルの移動

App Engine Studio (AES) での作業時に、ソースコントロールにリンクされたアプリケーションファイルをリポジトリの任意のフォルダーに移動します。アプリケーション開発者は、サポートするアプリケーションと同じリポジトリに自動テストなどのサポートコンテンツを保存できます。

#### 始める前に

- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク
- 必要なロール：書き込みアクセス権を持つソースコントロール資格情報

#### このタスクについて

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、リポジトリのルートレベルで、sn_source_control.properties と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。そのプロパティファイルは、アプリケーションファイルを含むフォルダーを指定します。統合は checksum.txt ファイルを生成することで、これらのアプリケーションファイルに対する変更を追跡します。チェックサムが一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサムが一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。統合は、アプリケーションパス外のすべてのリポジトリコンテンツを無視します。

> **注:**
> システムのプロパティ **[glide.source_control.checksum_required]** を設定すると、オプションのチェックサムの検証とサニタイズが有効になり、**[glide.source_control.checksum_quick_install]** を設定すると、チェックサムが一致したときにサニタイズのステップをバイパスできます。詳細については、「Available system properties」を参照してください。

#### 手順

1. アプリケーションにリンクされたソースコントロールリポジトリにログインします。
2. アプリケーションファイルの移動先フォルダーを作成します。

   **Example**
   たとえば、src/app フォルダーを作成します。
3. アプリケーションファイルを含むフォルダーを移動先フォルダーに移動します。

   **Example**
   たとえば、demo_my_app フォルダーを src/app に移動します。
4. リポジトリのルートレベルに移動します。
5. テキストエディターで sn_source_control.properties テキストファイルを開きます。
6. `path=` プロパティには、アプリケーションファイルを移動したフォルダーパスを入力します。

   **Example**
   たとえば、「`path=src/app`」と入力します。
7. プロパティファイルを保存します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

次のタスク
インスタンスにログインし、App Engine Studio からApp Engine Studio でのソースコントロールの操作を実行します。

### アプリの公開

App Engine Studio (AES) でアプリが完成したら、承認と公開のために提出する必要があります。使用するプロセスは、自分がソースコントロールにリンクされているかどうかによって異なります。

### 承認と公開のためのアプリの送信

App Engine Studio (AES) で構築したアプリケーションを管理者レビューのために送信して、公開するプロセスを開始します。

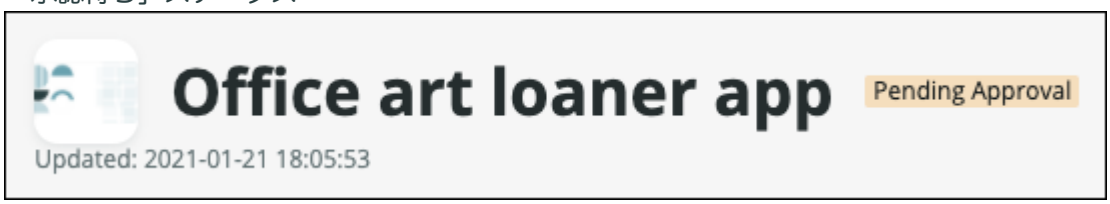
始める前に
必要なロール：権限を持つ委任開発者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリホームから、[送信] を選択します。
4. 表示されるダイアログボックスで、送信の詳細を確認し、[送信] を選択します。

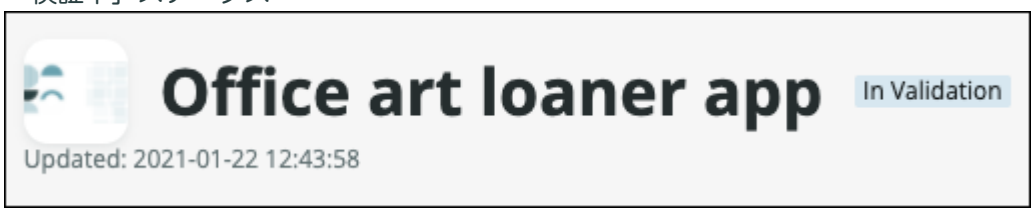
次のタスク
管理者は送信されたアプリケーションをレビューし、潜在的な問題がないかチェックします。アプリケーションのステータスは、App Engine Studio のアプリケーションホームから確認できます。

「承認待ち」ステータス




レビュー担当者がアプリケーションのテストを開始すると、ステータスが [検証中] に変わります。

「検証中」ステータス




管理者は、アプリケーションのさまざまなロール用のテストアカウントを提供する場合があります。これらの各アカウントでログインし、アプリケーションが想定どおりに機能することを確認します。

レビュー担当者がアプリケーションを却下すると、ステータスが [却下] に変わります。レビュー担当者のコメントを含むメールを受け取ることもあります。フィードバックを使用してアプリケーションを改善してから、アプリケーションを再送信します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「却下」ステータス

アプリケーションがテストに合格すると、管理者がアプリケーションを公開し、ステータスが [公開] に変更されます。管理者がアプリケーションを要求したチームをオンボーディングします。たとえば、アプリケーションに特定のセキュリティロールを指定した場合、管理者はそのロールを関連するユーザーに割り当てます。

「公開」ステータス

関連情報

AES を使用する開発者の委任

**App Engine Studio** からのアプリの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)

ソースコントロールにリンクされている場合、App Engine Studio (AES) からカスタムアプリケーションを公開できます。

始める前に
必要なロール：admin

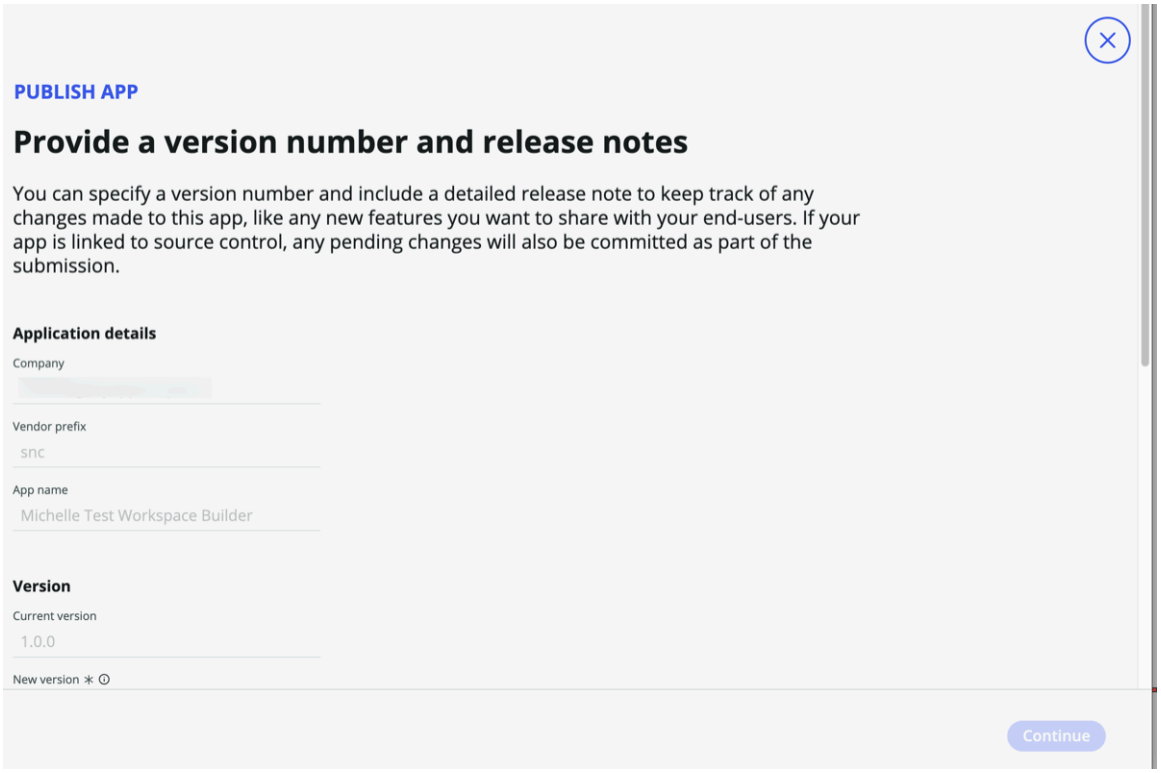
このタスクについて
ソースコントロールにリンクされている App Engine Studio からアプリケーションを公開すると、sys_app または sys_store_app の [公開] 関連リンクを介して公開する場合とは異なる結果になります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリホームから、[公開] を選択します。
   App Engine Studio に [アプリを公開] フィールドが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. 次のフィールド値を入力します。

   バージョン番号とリリースノートを入力してください

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| バージョン | 現在のアプリバージョンを表示し、アプリケーションの新しいバージョン番号を入力します。 |
| リリースノート | アプリケーションに加えた変更の簡単な説明を入力します。 |
| オプションを公開 | アプリケーションをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するかどうかを選択します。 |

   注:
   インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための資格情報を共有します。

5. [続行] を選択します。
6. 追跡されていない変更やコミットされていない変更を含む、アプリケーションの現在のステータスがソースコントロールにコミットされます。
   **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値は無視されます。
   これは、アプリケーションが公開されるときに、追跡されない変更やコミットされない変更もすべて公開されるために発生します。したがって、Git リポジトリ内のアプリケーションのステータスは、公開されているものと一致します。**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの詳細については、「リポジトリに変更をコミット」のトピックを参照してください。
7. 新しいバージョンのソースコントロールタグが作成され、アプリケーションが公開されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要に応じて、sys_app レコードが新しいストア相関 ID で更新されます。

> **注:**
> アプリケーションがソースコントロールにリンクされ、App Engine Studio の外部で新しいバージョンを公開すると、ソースコントロールのコミットとタグは作成されません。

## パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理

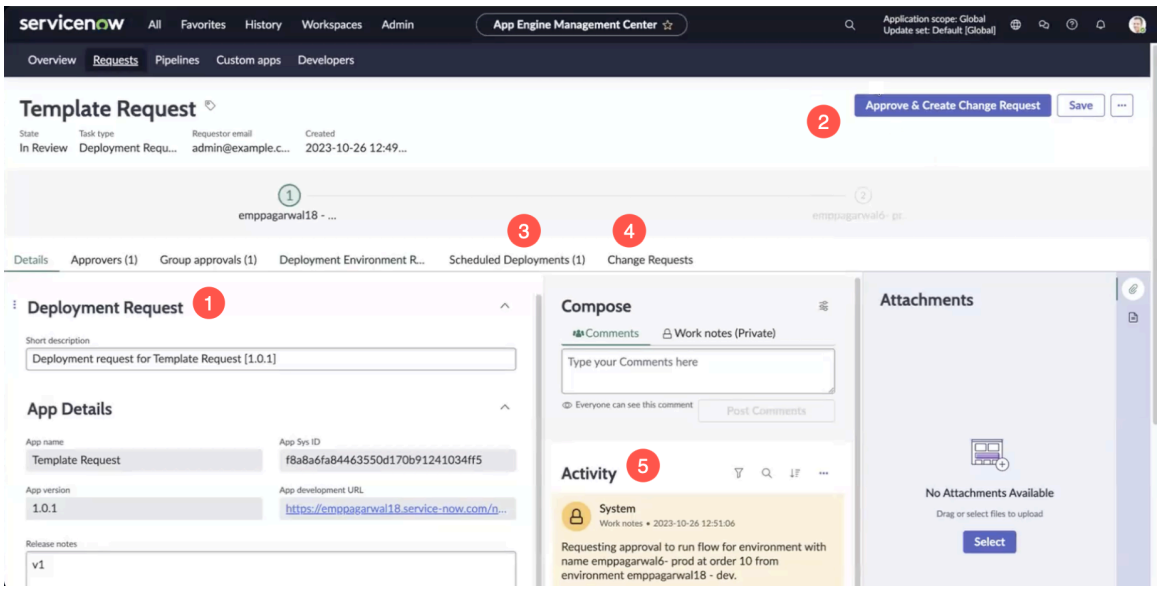
開発者が App Engine Studio (AES) を使用して構築したアプリケーションを確認し、自信を持って展開できるようにします。

## 展開要求

開発者が App Engine Studio でアプリケーションを送信すると、展開要求が作成されます。展開要求は、送信されたアプリケーションのレビューを追跡するためのレコードです。

レビュー担当者は、App Engine 管理センター を使用して、アプリをテスト環境に展開、却下、または公開できます。既存の 変更管理 プログラムを AEMCと統合し、アプリを実稼働環境にデプロイする準備ができている場合は、変更要求を作成し、指定した変更期間内にアプリをデプロイできます。

展開要求




1. 展開要求と展開中のアプリケーションの詳細を表示します。
2. アプリの展開の準備ができたら、[ 承認] **&** [変更要求の作成 ] を選択します。このアクションにより、 変更管理 Guided Setup を使用して設定したプロセスが開始されます。

   > **注:**
   > と統合されたパイプラインと展開既存の変更管理プログラムがない場合は、[アプリの承認と展開] を選択して展開を次のステージに移動します。

3. [ スケジュールされた展開 ] タブで展開の詳細を表示および編集します。
4. [ 変更要求 ] タブで変更要求の詳細を表示します。ロールによっては、要求の詳細を変更できる場合があります。
5. **Activity** Stream で、テスト結果、変更要求の進捗状況、およびその他の展開の詳細を確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

> **注:**
> パイプライン内のすべてのインスタンスをアップグレードせずに展開要求を送信した場合は、既存のパイプラインが引き続き使用されます。

展開要求のレビューの詳細については、「パイプラインと展開 アプリの [展開要求] フォーム」を参照してください。

## アプリケーションのテスト

送信されたアプリケーションを公開する前に、非本番インスタンスでテストします。テストを開始するには、管理者が展開要求を開いて [承認] を選択する必要があります。パイプラインレコードを読み取って、要求の次のステータスを決定します。

アプリケーションをテストする目的は、本番インスタンスの実行可能性を確認することです。アプリが [テスト中] ステータスに移行すると、適切なプロパティがアクティブ化されている場合に ServiceNow 自動テストフレームワーク (ATF) のテストが実行されます。

アプリケーションがテストに合格しない場合は、展開要求を却下します。

## テスト環境への展開

アプリケーションをテスト環境に展開またはインストールすると、次の 2 つのジョブが自動的に実行されます。

- アプリケーション展開テストスイート
- スコープ対象アプリ定義のインスタンススキャン

これらのテストは、管理者がアプリを展開する前に問題を診断するのに役立ちます。アプリケーション展開中の詳細については、「パイプラインと展開 ワークフローバージョン 24.1.2」を参照してください 。

展開中に自動的に実行されるジョブ

| ジョブ | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション展開テストスイート | Automated Test Framework (ATF) の一連のテストです。このスイートは、[ログ] と呼ばれる単一のテストで構成されています。テストが実行されると、スキャン結果がテスト結果 [sys_atf_test_result] テーブルに記録されます。<br><br>**注:**<br>アプリケーション展開テストスイートを実行するには、次の 2 つのシステムプロパティをアクティブ化する必要があります。<br>• sn_atf.runner.enabled<br>• sn_atf.schedule.enabled<br><br>これらがアクティブ化されていない場合は、インスタンススキャンのみが実行されます。詳細については、「Automated Test Framework (ATF) のプロパティをアクティブ化する」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

展開中に自動的に実行されるジョブ (続く)

| ジョブ | 説明 |
| --- | --- |
| スコープ対象アプリ定義のインスタンススキャン | インスタンススキャンは、非本番インスタンスの健全性の問題を診断し、ベストプラクティスに対応するのに役立ちます。詳細については、次を参照してください： インスタンススキャン.<br><br>インスタンススキャンでは、タスク [task] を拡張するアプリ内のすべてのテーブルがチェックされます。 |

管理者は、展開要求の [展開環境の結果] タブを選択することで、トラブルシューティングのためにスキャンの結果を表示できます。

インスタンスのレコードを開くだけです。結果は 3 つのタブに分割されます。

- **ATF** の結果
  - テストスイート名
  - テスト URL
  - 成功と失敗の件数
  - 全体のエラー数
- インスタンススキャン結果
  - スキャンスイート名
  - スキャン URL
  - スキャンの結果数
- [結果 **(JSON)]** には、ATF のフォーマットされていない JSON コードとインスタンスのスキャン結果、およびスキャン中に特定されたすべてのエラーが含まれます。この JSON は [メモ **(Notes)]** 関連リストにもあります。

## アプリケーションの公開

アプリケーションがテストに合格した場合は、展開要求を開き、アプリケーションを本番環境に展開します。これで組織内のすべての従業員がアプリケーションを利用できるようになります。詳細については、「AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理」を参照してください。

## 詳細について

詳細情報が必要な場合は、ServiceNow が提供している外部ガイドをご覧ください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| パイプラインと展開 に関する詳細 | 追加の ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| パイプラインと展開 アプリは、App Engine Studio を使用して作成しているアプリを、インスタンス間に事前定義された順番で展開するために使用されます。<br><br>以前のバージョンとは異なり、パイプラインと展開 を使用すると、アプリの作成、テスト、ステージング、本番の各インスタンスにアプリを無制限に展開できます。 | <br>AES パイプラインを介したアプリの昇格<br><br> <br>App Engine Studio でアプリを迅速に作成 |

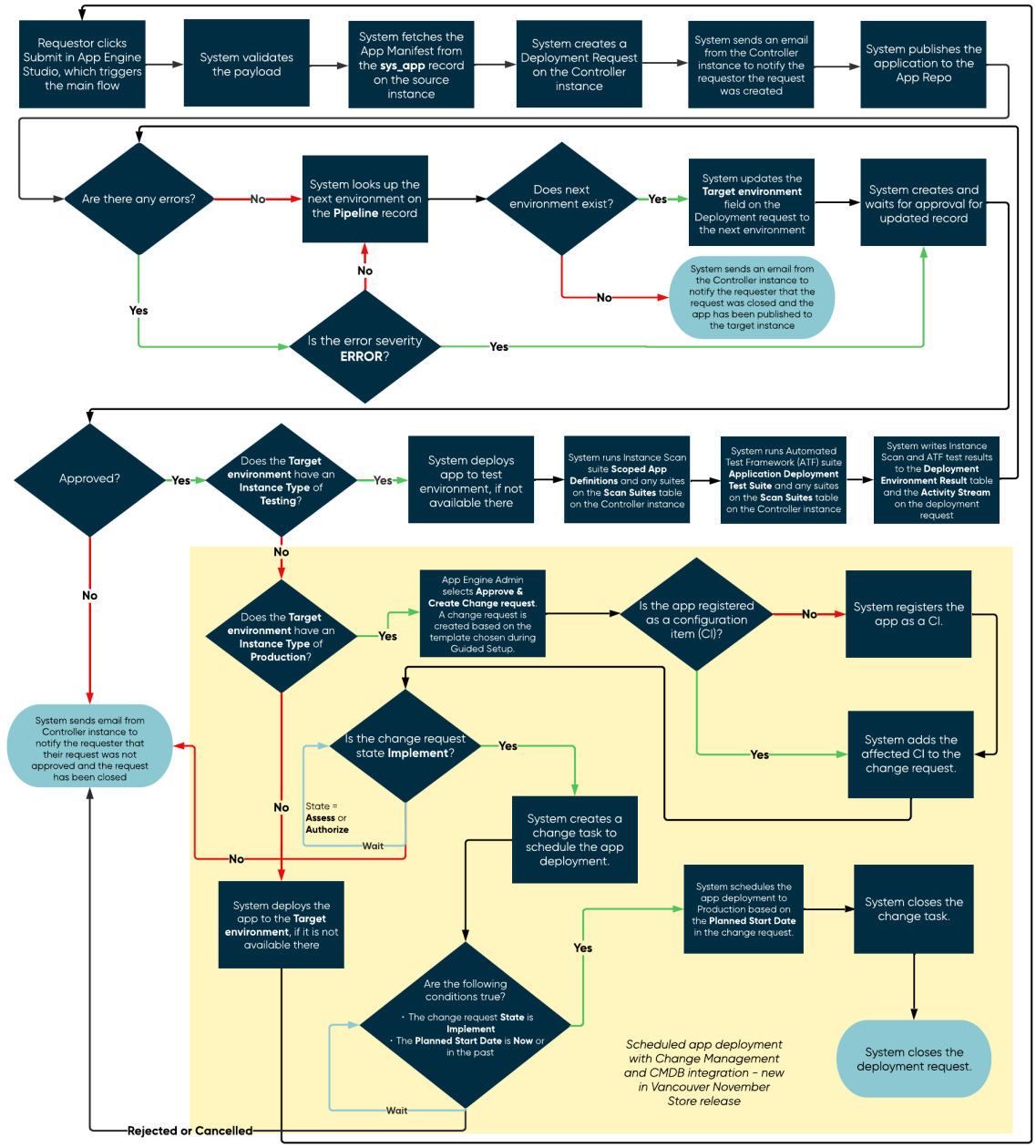
パイプラインと展開 ワークフローバージョン **24.1.2**

()AEMC でアプリ展開の要求を管理する場合は、このワークフローを使用して、2023 年 11 月にリリースされたバージョン 24.1.2 でApp Engine 管理センターアプリの展開がパイプラインをどのように移動するかを理解します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 のワークフロー




このワークフローの場合：

1. 要求者が App Engine Studio で [送信] を選択すると、メインフローがトリガーされます。
2. システムは、バックグラウンドで次のタスクを実行します。
   a. ペイロードを検証します。
   b. ソースインスタンスの **sys_app** レコードからアプリマニフェストをフェッチします。
   c. コントローラーインスタンスで展開要求を作成します。
   d. コントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が作成されたことを要求者に通知します。
   e. アプリケーションを アプリケーションリポジトリ に公開します。
3. 公開中にエラーがあるかどうかに応じて、システムは異なるアクションを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アプリの公開にエラーがあり、エラーの重大度が [エラー] の場合、システムは更新されたレコードを作成して承認を待機します。

b. エラーがない場合、またはエラーはあるがエラーの重大度が [エラー]ではない場合、システムは [パイプライン **(Pipeline)]** レコードで次の環境を検索します。

i. 次の環境がない場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求がクローズされ、アプリがターゲットインスタンスに公開されたことを要求者に通知します。このアクションにより、ワークフローが終了します。

ii. 次の環境がある場合、システムは展開要求の [ターゲット環境 **(Target environment)]** フィールドを次の環境に更新します。次に、システムは更新されたレコードを作成し、承認を待ちます。

4. 新しいレコードが承認されたかどうかに応じて、システムはさまざまなアクションを実行します。

a. レコードが承認されなかった場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が承認されず、クローズされたことを要求者に通知します。このアクションにより、ワークフローが終了します。

b. レコードが承認され、 [ターゲット環境 **(Target environment)]** が [テスト中 **(Testing)]** である場合、システムは次のアクションを実行します。

i. アプリがテスト環境で利用できなければ、アプリをテスト環境に展開します。

ii. [スコープ対象アプリの定義 **(Scoped App Definitions)]** インスタンスのスキャンスイート、およびコントローラーインスタンスの [スキャンスイート] [scan_suites] テーブルの他のスイートを実行します。

iii. [アプリケーション展開テストスイート **(Application Deployment Test Suite)]** の Automated Test Framework (ATF) スイート、およびコントローラーインスタンスの [スキャンスイート] [scan_suites] テーブルの任意のスイートを実行します。

iv. インスタンススキャンと ATF のテスト結果を、展開要求の [展開環境の結果 **(Deployment Environment Result)]** テーブルと [アクティビティストリーム **(Activity Stream)]** に書き込みます。

v. ワークフローをステップ 3 に戻して、エラーがないかをチェックします。

c. レコードが承認され、 ターゲット環境 が 本番環境の場合、アプリは Change Management 統合を使用してスケジュールされた展開プロセスを開始します。

i. App Engine 管理者が **[Approve & Create Change Request**] を選択する。Guided Setup で選択したテンプレートに基づいて変更要求が作成されます。

ii. アプリが構成アイテム (CI) として登録されているかどうかに応じて、システムはさまざまなアクションを実行します。

1. アプリが CI として登録されていない場合、システムはアプリを CI として登録し、影響を受ける CI を変更要求に追加します。

2. アプリが CI として登録されている場合、システムは影響を受ける CI を変更要求に追加します。

iii. 変更は、変更要求が [実装] ステータスにあるかどうかに応じて、さまざまなアクションを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 変更要求のステータスが 実装でなく、ステータスが [アセスメント ] または [許可] でない場合、システムはコントローラインスタンスからメールを送信して、要求が承認されずにクローズされたことを要求者に通知します。これでワークフローは終了です。
2. 変更要求のステータスが 実装でなく、ステータスが [評価 ] または [許可] の場合、システムはステータスが 実装になるまで待機します。
3. 変更要求が [実装] ステータスの場合、システムによって変更タスクが作成され、アプリの展開がスケジュールされます。

iv. 変更要求のステータスが [実装 ] で、 開始予定日 が 現在 または過去の日付ではない場合、システムはこれら 2 つの条件が満たされるまで待機します

v. 変更要求のステータスが [実装 ] で、[ 開始予定日 ] が [ 現在 ] または過去であるが、要求が [ 却下 ] または [キャンセル] である場合、システムはコントローラインスタンスからメールを送信して、要求が承認されずクローズされたことを要求者に通知します。これでワークフローは終了です。

vi. 変更要求のステータスが [実装 ] で、[開始 予定 日] が [ 現在 ] または過去の場合、システムは変更要求の [ 開始予定日 ] に基づいて本番環境へのアプリの展開をスケジュールします。変更タスクがクローズされてから、展開要求がクローズされます。これでワークフローは終了です。

d. レコードが承認され、[ターゲット環境 **(Target environment)]** が[テスト中 **(Testing)]** でも [本番] でもない場合、ターゲット環境でアプリを利用できなければ、システムはアプリをターゲット環境に展開します。

要求者が App Engine Studio で [送信] を再度選択すると、ワークフローが再開されます。

### **App Engine Studio** からのアプリの削除

適切な権限がある場合は、App Engine Studio (AES) からアプリケーションを削除できます。

#### 始める前に

必要なロール：admin、アプリケーション削除、または権限を持つ委任開発者詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### このタスクについて

委任開発者は、権限に基づいてアプリケーションを削除できます。削除する権限を要求するには、管理者にお問い合わせください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > **App Engine Studio**.
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[アプリケーションプロパティの編集] アイコン ( アイコン) を選択します。
4. [アプリケーションを削除] を選択します。
5. ダイアログボックスに、「削除」と入力してから、[削除] を選択します。

### **App Engine** 管理センター を使用したアプリ開発の管理

本番インスタンスで App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio (AES) の要求、展開、アプリケーション、共同開発者を追跡および管理します。 さらに、AEMC を使用すると、管理者はアプリ開発を取り込みから本番まで管理できます。

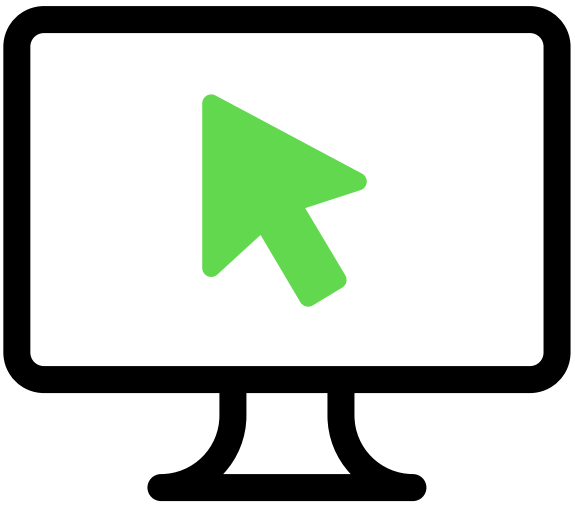
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

AEMC は、パイプラインと展開 を使用して、さまざまなインスタンスを介してアプリケーションを展開します。パイプラインと展開 は、アプリケーションリポジトリ を使用してこれらの展開を管理します。詳細については、「ServiceNow アプリケーションリポジトリ」を参照してください。

各アプリケーションは、アプリケーションリポジトリ または システムアップデートセット を使用して展開できます。過去に更新セットを使用していても、アプリケーションリポジトリ を使用するように切り替えたい場合は、代わりに アプリケーションリポジトリ を使用して 1 回限りの変換を行い、アプリを展開できます。すべてのアプリが同じ展開に従う必要はありません。詳細については、「アプリケーションリポジトリでカスタムアプリケーションを変換してアップグレードする」と「システム更新セット」を参照してください。

| App Engine 管理センター に関する詳細 | ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| AEMC はどのインスタンスでも使用できますが、完全に機能させるには AEMC を本番インスタンスにインストールする必要があります。また、本番環境のコントローラーインスタンスを使用して展開パイプラインを設定する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。 |  <br>App Engine Management Center を使用して大規模なローコードアプリ開発を管理する<br> <br>クリエーターツールボックス \| App Engine Management Center |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## AEMC のナビゲーション

AEMC の概要画面から、プライマリナビゲーション バーのアイコンを選択して、[要求]、[パイプライン]、[カスタムアプリ]、[開発者] の 4 つの追加ビューに移動できます。

### AEMC プライマリナビゲーションバー

| ページ | 説明 |
|---|---|
| 概要 | すべての取り込みアプリケーション、コラボレーション、展開要求の概要ビューです。過去 90 日間の各タイプの新しい要求を示すグラフがあります。また、パイプラインとアプリケーション測定基準の概要を表示することもできます。 |
| 要求 | 承認ステータス別に分類された各要求タイプの完全なリストです。 |
| パイプライン | 各インスタンスおよび各パイプライン内のオープンな展開要求の数の概要ビューです。パイプラインまたはパイプライン内の環境を選択すると、すべてのアクティブな展開要求が表示されます。<br>**注:** 本番インスタンスの展開要求を表示すると、その環境のすべての [クローズ済み (公開済み)] の展開要求が一覧表示されます。 |
| カスタムアプリケーション | アクティブなアプリケーションのステータスを示すチャートとグラフ、および開発中または本番環境のすべてのカスタムアプリのリスト。使用情報、展開履歴、協力者など、個々のアプリの詳細を表示できます。 |
| 開発者 | 開発者の総数とアクティブ開発者、および部門別の開発者を示すチャートおよびグラフです。協力者として関与したアプリや要求履歴など、個々の開発者の詳細を表示できます。 |

### AEMC を使用した要求の管理

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio を通じた 3 つの要求タイプ (アプリケーション取り込み、コラボレーション、展開) を追跡できます。

より効率的に作業するために、要求をフィルタリングして検索することもできます。

#### アプリケーション取り込み要求の管理

App Engine Studio App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードで開発者によって送信されたアプリケーション取り込み要求の詳細を表示し、それを承認または却下します。

##### 始める前に

アプリケーション取り込み要求を AEMC に表示する前に、Application Intake アプリケーションが適切に構成されていることを確認する必要があります。詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。ユーザーがアプリケーション取り込み要求を送信する方法の詳細については、「アプリ開発のためのアイデアの送信」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

手順

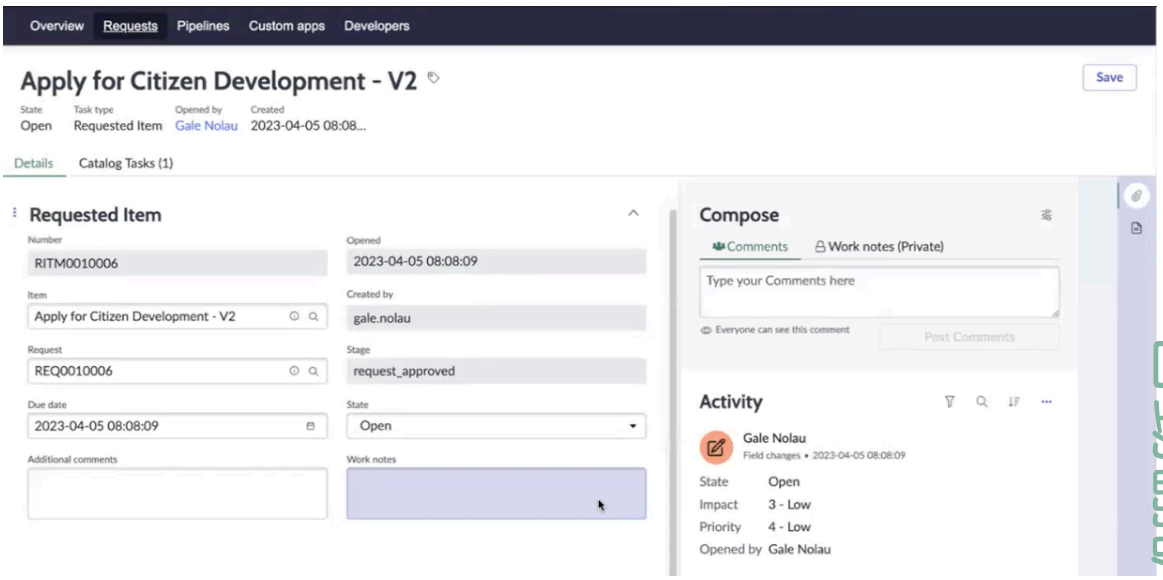
1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.

   AEMC ダッシュボードには、処理待ちのアプリケーション取り込み要求の数が表示されます。

   > **注:**
   > すべての取り込みアプリケーション要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. アプリケーション取り込み要求を選択して、その詳細を確認します。

   処理待ちのアプリケーション取り込み要求




3. [詳細] タブに戻って要求を確認します。

   > **注:**
   > [アドミニストレーション] セクションには [開発インスタンス] フィールドが含まれています。開発者が使用する予定の開発インスタンスが選択されていることを確認します。また、ユーザーがそのインスタンスで定義されていない場合は、メッセージが表示され、そのインスタンスにユーザーを手動で追加する必要があります。詳細については、「Create a user」を参照してください。

4. その要求を承認または却下します。
   - 要求が承認されると、ユーザーは App Engine Studio ユーザーグループに追加され、App Engine Studio ユーザーロールが付与されます。AES ユーザーロールにより、開発者は承認されたインスタンスで AES のアプリケーションの作成を開始できます。ユーザーは、プロビジョニングされたインスタンスへのリンクを含むメール通知も受信します。AES ユーザーロールの詳細については、「App Engine Studio とともにインストールされるコンポーネント (Components installed with App Engine Studio)」を参照してください。
   - 要求が却下された場合は、却下メールがユーザーに送信されます。ユーザーは新しい要求を送信できます。ただし、却下された要求は編集できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コラボレーション要求の管理

管理者は App Engine Studio App Engine 管理センター (AEMC) で、アプリケーションの構築を支援する開発者からのコラボレーション要求を表示し、承認または却下します。

### 始める前に

AEMC でコラボレーション要求を表示するには、最初に本番インスタンスでパイプラインと展開を設定する必要があります。そうしないと、要求は元のインスタンス (App Engine Studio (AES) がインストールされたインスタンス) で作成されます。

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

### このタスクについて

コラボレーション権限を持つ開発者は、アプリケーションの特定の部分にアクセスして開発できます。

> **注:**
> すでに AES ユーザーロールを持つ協力者からの要求は、自動的に承認されます。コラボレーションと権限の管理の詳細については、「他の開発者とのコラボレーション」を参照してください。

### 手順

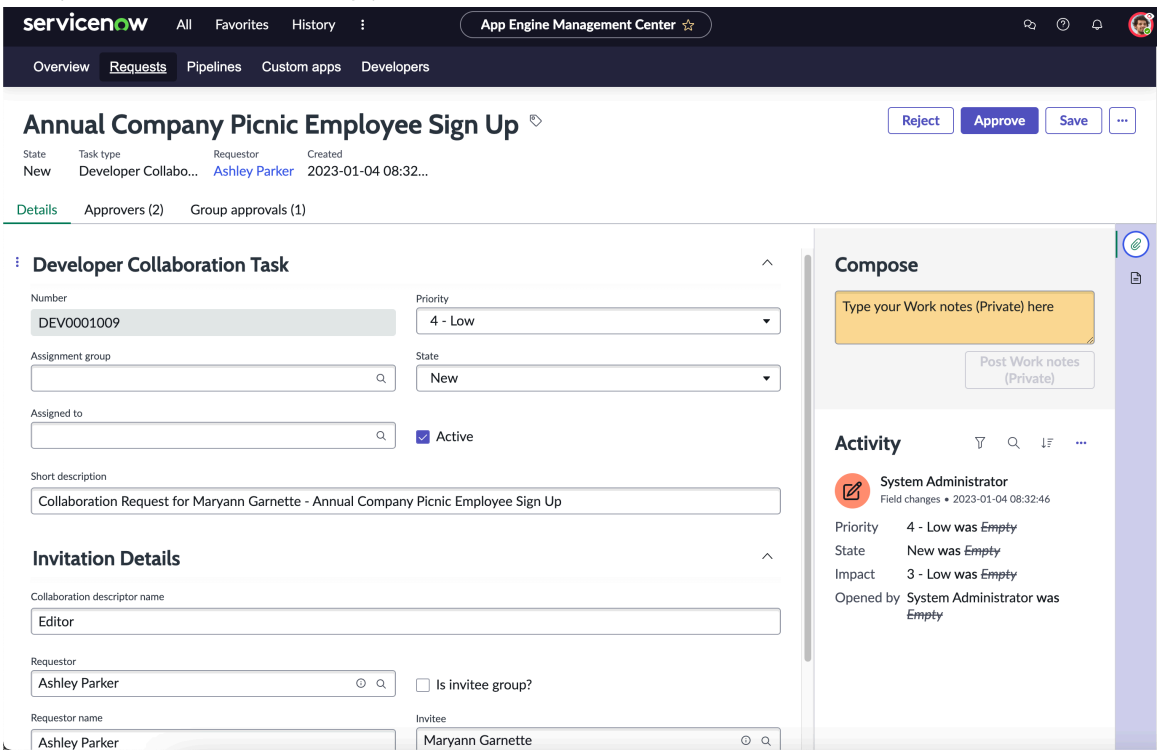
1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.

   AEMC ダッシュボードには、処理待ちのコラボレーション要求の数が表示されます。

   > **注:**
   > すべてのコラボレーション要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. コラボレーション要求を選択して、その詳細を確認します。

処理待ちのコラボレーション要求レコード




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [詳細] タブに戻って要求を確認します。
4. その要求を承認または却下します。
   - 要求が承認されると、協力者として招待されたユーザーが指定されたアプリに開発者として追加されます。その協力者は、コラボレーション記述子で定義されたアプリの一部で作業できるようになりますが、AES で同時に他のアプリを開発することはできません。AES ユーザーロールの詳細については、「App Engine Studio とともにインストールされるコンポーネント (Components installed with App Engine Studio)」を参照してください。
   - 要求が却下された場合、その要求はクローズされ、プライマリ開発者にメールで通知されます。

## 展開要求の管理

アプリケーションが開発から本番に移行するときに、App Engine Studio App Engine 管理センター (AEMC) で展開要求をレビューして承認または却下します。

### 始める前に

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

### このタスクについて

AEMC で展開要求を表示するには、パイプラインを正しく構成する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。

### 手順

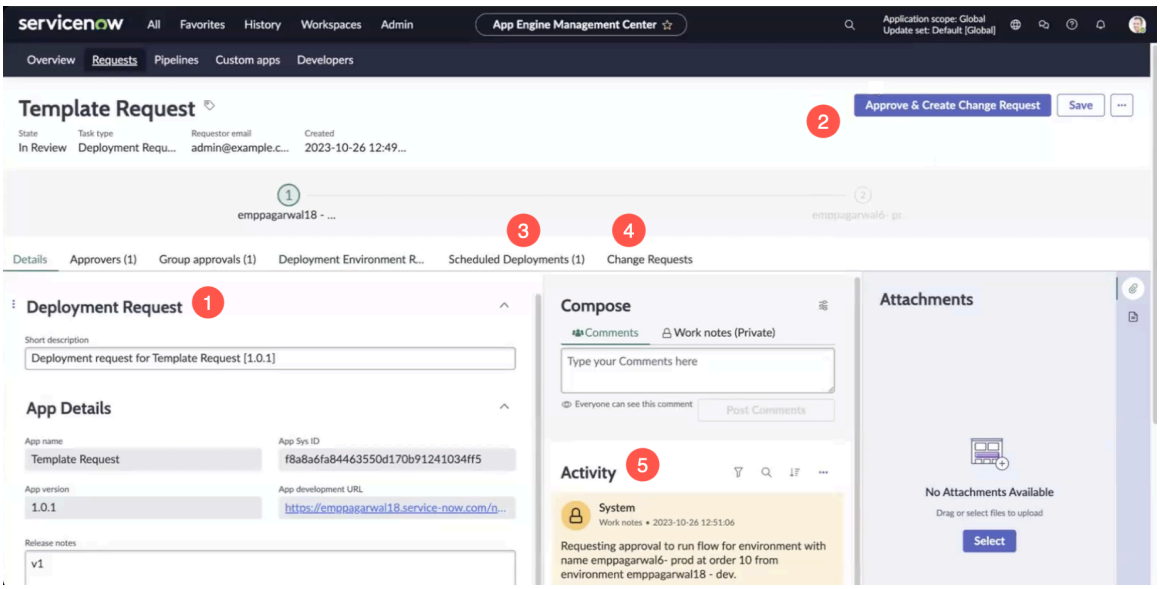
1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.

   AEMC ダッシュボードには、展開要求の数が表示されます。

   > **注:**
   > すべての展開要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. 展開要求を選択して、その詳細を確認します。

   処理待ちの展開要求レコード




3. 展開要求の詳細を確認しますが、それにはアプリケーション、展開を要求した開発者、展開プロセスについての詳細などが含まれます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

各展開要求の上部には、パイプライン内のアプリの現在の位置が表示されます。

> **注:**
> 要求がテスト環境にある場合は、[アクティビティストリーム] または [展開環境の結果] タブで、(ATF) テストとインスタンススキャンの結果を確認できます自動テストフレームワーク (ATF)。

4. アプリマニフェストのメモとアプリケーションアクティビティ、および開発者が追加した重要な詳細を確認します。
5. 別の App Engine Studio (AES) 管理者がデプロイ要求を確認する必要がある場合は、要求のアサイニーを更新し、 [ 保存] を選択します。
6. その要求を承認または却下します。
   - アプリケーションを次のデプロイ ステージに移動するには、 [ アプリの承認とデプロイ] を選択します。
   - 既存の 変更管理 プロセスを AEMCと統合している場合は、[ **Approve & Create Change Request]** を選択します。このアクションにより変更要求が作成されます。[ 変更要求 ] タブで表示および監視できます。
   - アプリケーションの準備ができていないか、次の展開ステージに移行した場合に問題が発生する可能性がある場合は、[却下] を選択します。[作業メモ] を追加して、却下された理由と、アプリケーションを展開するために必要な変更を特定します。

> **注:**
> ロールが割り当てられ 変更管理 ていない限り、[ 変更要求 ] タブのほとんどの情報は読み取り専用です。変更要求を監視し、ステータスの変化を確認できます。ただし、権限がある場合は 変更管理 、開始予定日と終了予定日、ステータスなど、変更要求の特定のフィールドを更新できる場合があります。

### AEMC での要求のフィルタリングと検索

App Engine 管理センター (AEMC) アプリケーションには、要求を見つけるためのツールがあります。要求レコードのグローバル検索を実行するか、現在の要求のリストをフィルタリングして、作業する要求を見つけることができます。

## 要求のフィルタリング

[要求]、[パイプライン]、[カスタムアプリ]、および [開発者] のページでは、いくつかの異なる基準で要求のリストをフィルタリングできます。

フィルターを作成するには、フィルターアイコン ( ) を選択し、[詳細ビュー] を選択して、基準を追加します。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加して、フィルターを作成します。既存のフィルターを使用して作成した内容を保存し、フィルターを使用できるユーザーを制限することができます。**[or]** および **[and]** コネクタを使用して、より複雑なフィルターを作成します。必要な数のフィルターを追加し、[更新] を選択します。

[パイプライン] タブでフィルタリングすると、フィルタリング基準に一致する要求があるインスタンスのみで情報が表示されます。たとえば、パイプラインの 3 つのインスタンスで要求データが表示される場合、そのうちの 1 つのインスタンスでのみ使用されるアプリ名でフィルタリングすると、そのインスタンスのみが結果を返します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

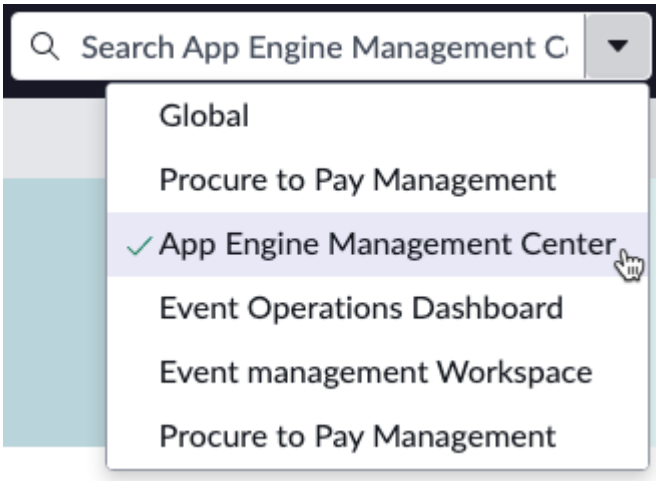


自動翻訳

## 要求の検索

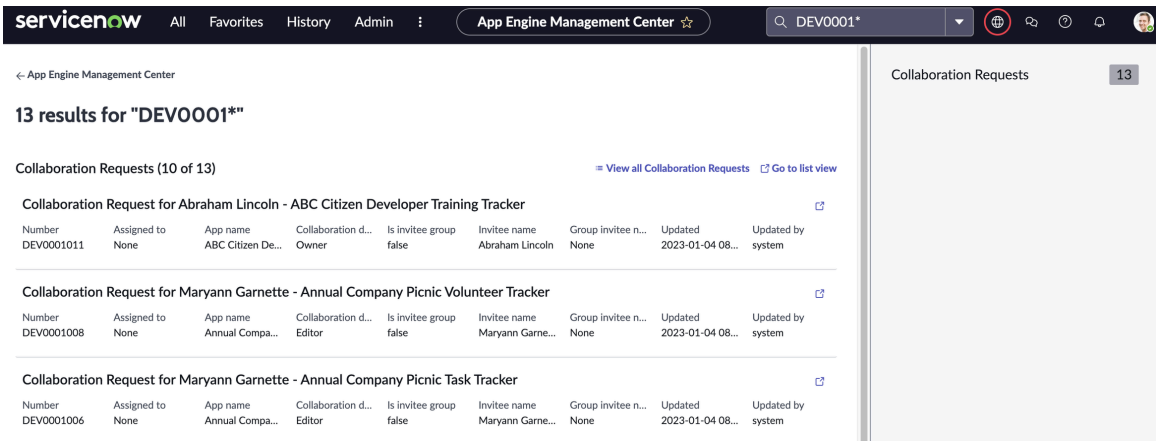
任意の AEMC 画面の上部にある [検索] フィールドを使用して、送信された要求を検索できます。要求番号の全部または一部 (アスタリスクのワイルドカード文字を使用) を入力し、[結果を表示] を選択します。

検索




たとえば、「DEV0001*」と入力して [結果を表示] を選択すると (または単に **Enter** キーを押すと)、DEV0001 で始まるすべてのコラボレーション要求のリストが返されます。

検索結果




次に、レビューするレコードを選択できます。

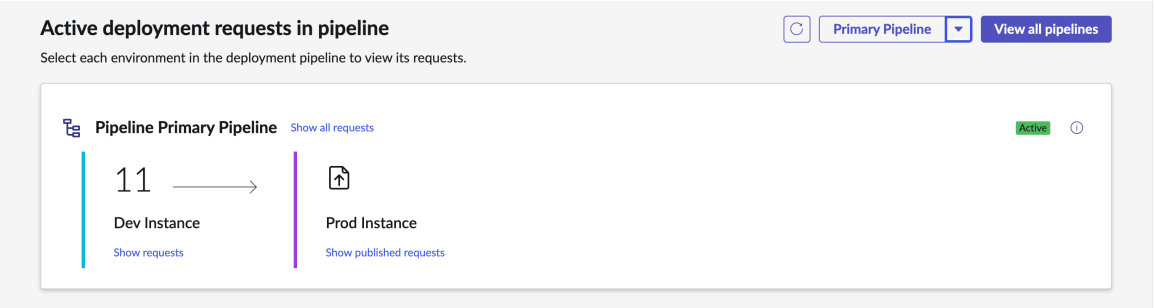
### AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理し、複数のパイプラインを表示し、展開要求を承認または却下します。

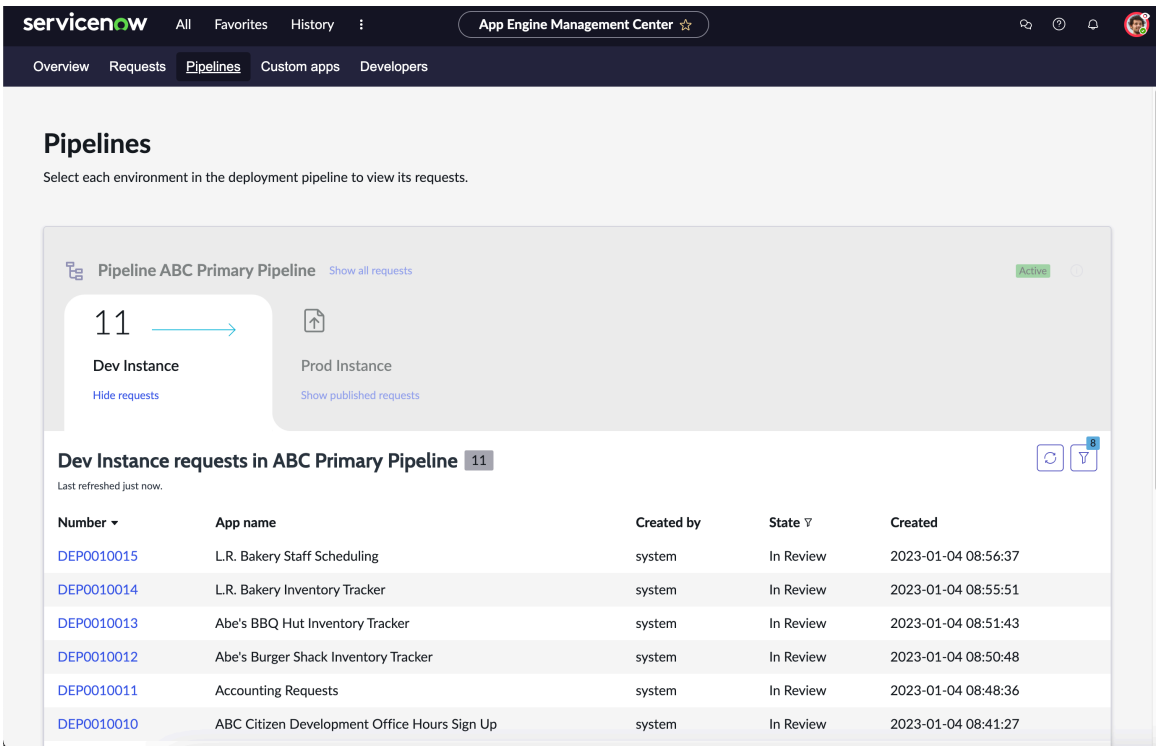
AEMC 概要ページの [パイプライン] セクションのアクティブな展開要求には、各パイプライン内の各展開段階でのアプリの数が表示されます。対応するセクションの横にある [すべての要求を表示]、[要求を表示]、または [公開要求を表示] を選択すると、要求の各グループの概要を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




すべてのパイプライン展開要求の全体像については、AEMCの [パイプライン] ページにアクセスしてください。すべてのパイプラインを表示し、各展開要求レコードにすばやくアクセスし、各パイプラインセクションをフィルタリングして、基準に一致する要求のみを表示します。




自動翻訳

## 変更管理 の統合

既存の 変更管理 プログラムをアプリ展開プロセスと統合して、展開に監視を追加し、スケジュールされた変更ウィンドウに従ってアプリを展開できます。詳細については、「展開要求の管理」を参照してください。

### AEMC でのアプリの展開のスケジュール

App Engine 管理センター (AEMC) を使用し、システムの負荷を分散するために、後で本番環境にアプリを展開するようにスケジュールします。

始める前に
必要なロール：admin または app_engine_admin

このタスクについて
パイプラインを介してアプリを展開するには、ある程度の処理能力が必要です。組織のニーズに応じて、他の場所で必要な処理能力が少ないときや、一般的に都合の良いときに展開をスケジュールすることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.
2. [要求] ページで、本番環境に移行する準備ができているアプリケーションの展開要求を選択します。
3. [アプリを展開] を選択します。
4. 今すぐアプリを展開するか、将来の展開時間を設定します。
   - 今すぐ展開するには、[展開] を選択します。
   - 将来展開するには、[後で使用するためにスケジュール] を選択します。
5. オプション: 後でデプロイをスケジュールした場合は、日時ピッカーを使用してアプリを展開するタイミングを選択し、[OK]、[デプロイ] の順に選択します。
   アクティビティストリームには、展開の詳細と、選択した日時に展開されるアプリのバージョンが表示されます。アプリは、選択した展開時間の 15 分以内に展開されます。この期間を変更する場合は、次に移動して展開ワークフローでスケジュール済み展開レコードをチェックする頻度を更新します すべて > システム定義 > ジョブスケジュール > スケジュール済みの展開.
6. [**Save** (保存)] を選択します。

### **AEMC** での展開要求の更新

App Engine 管理センター (AEMC) で展開要求の詳細を変更します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.
2. [要求] ページで、更新する展開要求を選択します。
3. [スケジュール済み展開] タブで、更新する展開レコードを選択します。
4. [スケジュール済み展開日] フィールドで、アプリを本番環境に展開する更新された日時を選択します。
5. [保存] を選択します。

### **AEMC** でのスケジュール済み展開のキャンセル

アプリを本番環境に展開する必要がなくなった場合は、App Engine 管理センター (AEMC) でスケジュール済みのアプリの展開をキャンセルします。スケジュール済みの展開要求をキャンセルすると、スケジュール済みの展開と要求自体もキャンセルされます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **App Engine** > 管理 > **App Engine** 管理センター.
2. [要求] ページで、更新する展開要求を選択します。
3. 展開要求で、[展開をキャンセル] を選択します。

### **AEMC** を使用したカスタムアプリの管理

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、カスタムアプリの測定基準を確認し、開発ライフサイクルを通じてアプリを管理します。

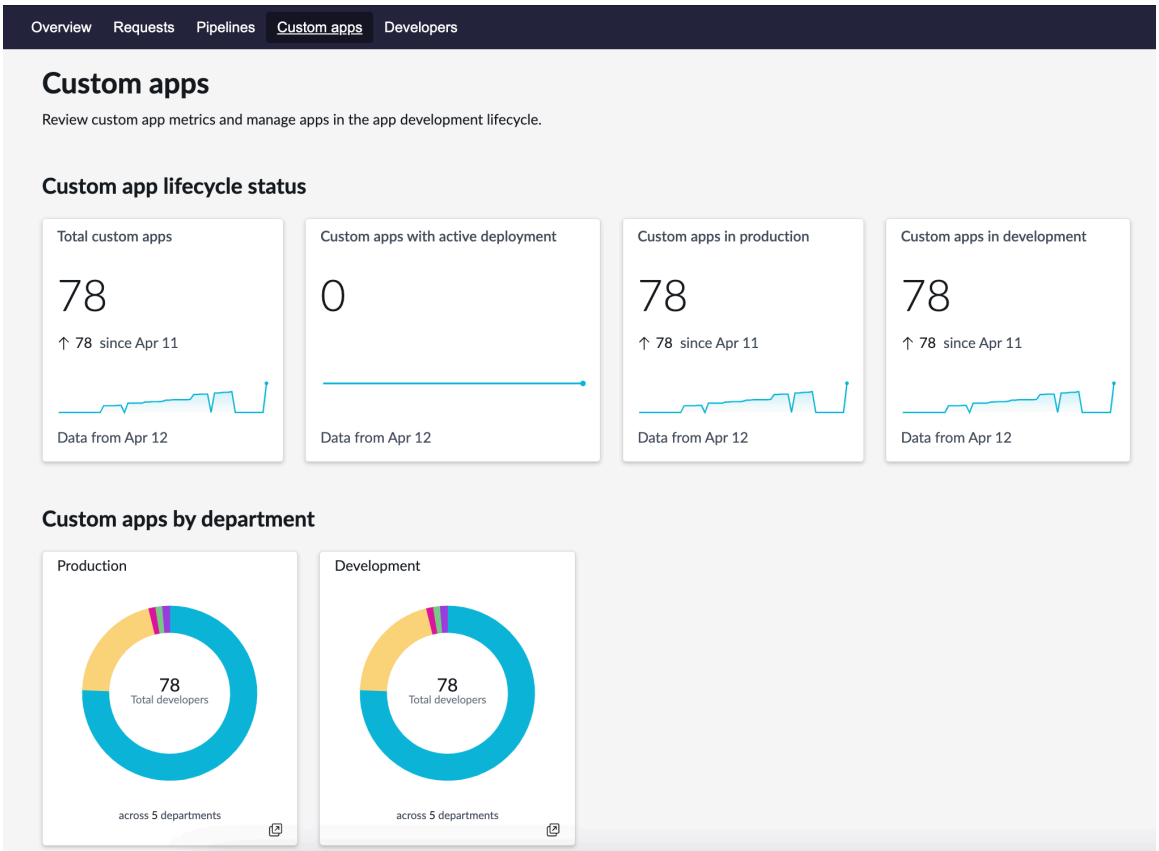
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



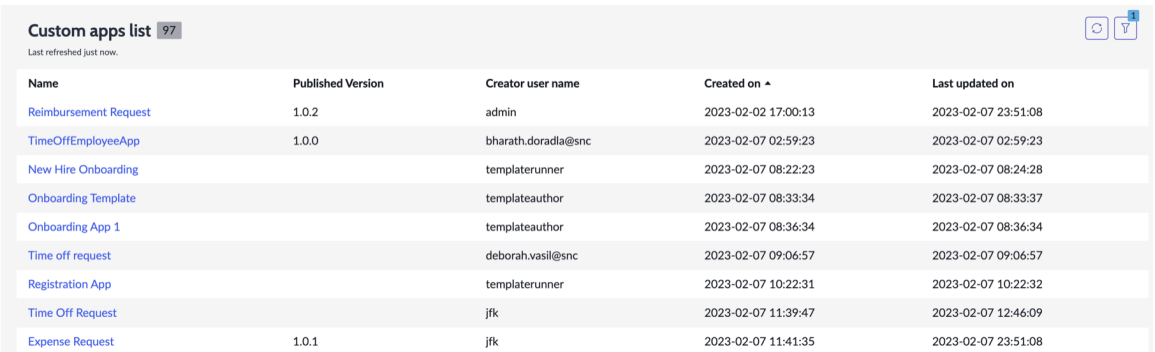
自動翻訳

AEMC 概要ページの App Engine 定着測定基準セクションには、開発環境と本番環境にあるアプリの数が表示されます。各 [カスタムアプリ] カードで大きな番号を選択して、より多くの情報にアクセスします。

AEMC の [カスタムアプリ] ページには、より詳細な測定基準とアプリケーションの完全なリストが表示されます。[カスタム アプリのライフサイクルの状態] セクションの各タイルには、過去 90 日間の傾向データが表示されます。[カスタムアプリ] リスト内のすべてのアプリを表示するか、フィルターを使用して特定のタイプのアプリケーションのみに制限することができます。傾向グラフを選択して、これらの基準でリストをフィルタリングします。




また、[カスタムアプリ] ページには、すべてのアプリケーションが個別にリストされ、アプリケーションごとに 1 つのレコードが表示されます。アプリが本番環境に公開されている場合は、[発行済みのバージョン] 列にバージョン番号が表示されます。[発行済みのバージョン] 列が空白の場合、アプリは開発中には存在しますが、本番環境に公開されていません。



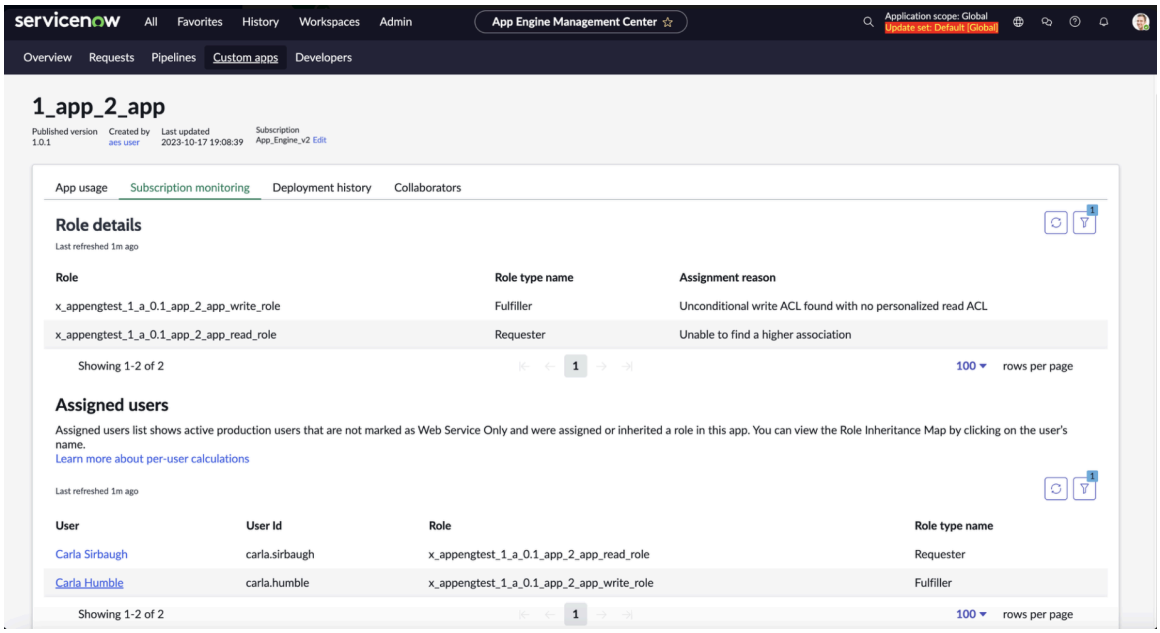
Custom apps list 97

Last refreshed just now.

| Name | Published Version | Creator user name | Created on ▲ | Last updated on |
|---|---|---|---|---|
| Reimbursement Request | 1.0.2 | admin | 2023-02-02 17:00:13 | 2023-02-07 23:51:08 |
| TimeOffEmployeeApp | 1.0.0 | bharath.doradla@snc | 2023-02-07 02:59:23 | 2023-02-07 02:59:23 |
| New Hire Onboarding | | templaterunner | 2023-02-07 08:22:23 | 2023-02-07 08:24:28 |
| Onboarding Template | | templateauthor | 2023-02-07 08:33:34 | 2023-02-07 08:33:37 |
| Onboarding App 1 | | templateauthor | 2023-02-07 08:36:34 | 2023-02-07 08:36:34 |
| Time off request | | deborah.vasil@snc | 2023-02-07 09:06:57 | 2023-02-07 09:06:57 |
| Registration App | | templaterunner | 2023-02-07 10:22:31 | 2023-02-07 10:22:32 |
| Time Off Request | | jfk | 2023-02-07 11:39:47 | 2023-02-07 12:46:09 |
| Expense Request | 1.0.1 | jfk | 2023-02-07 11:41:35 | 2023-02-07 23:51:08 |

リストからアプリケーション名を選択すると、アプリの使用率データ、 サブスクリプション監視の詳細 、展開履歴、協力者 (存在する場合) が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**[App Engine Studio** で開く] を選択してアプリのコンテンツを表示し、詳細情報にアクセスします。App Engine Studio アプリケーションが新しいブラウザーウィンドウで開きます。

## アプリ使用率

[アプリ使用率] タブを選択して、本番インスタンスのアプリの使用率データの概要を表示します。データには、現在の月に集計されたユーザー数、挿入数、および更新数が含まれます。

- ユーザー数：アプリケーションにアクセスしたユーザーの数。
- 挿入数：アプリケーション内のテーブルの新しいレコードの数。
- 更新数：更新されたアプリケーション内のレコードの数。

アプリケーションの使用率データを知ることには、いくつかのメリットがあります。

- アプリが使用されているかどうかを検出します。ユーザーはアプリを使用していますか？レコードを作成していますか？そうでない場合は、アプリを更新または削除することを検討してください。
- アプリの問題を調査して修正します。データがいつ、どのように変更されたかを知ることは、問題が発生した場所を特定するのに役立ちます。
- アプリのトラフィックが常に増加する可能性がある状況を確認して、インスタンスの処理能力の負荷分散が必要かどうかを判断します。

[User Experience Analytics] ダッシュボードセクションでエクスペリエンスを選択すると、アクティブなユーザー、セッション、ページビューなどの詳細データを表示します。このデータを理解して使用する方法の詳細については、「User Experience Analytics を使用する」を参照してください。

## サブスクリプション監視

カスタムアプリケーションで使用されるロールと、ライセンスとサブスクリプションへの影響を理解します。このセクションのデータには、各ロールと各ロールに割り当てられたユーザーの詳細が含まれています。

各アプリケーションのサブスクリプションとライセンスのデータ情報を知ることには、いくつかのメリットがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カスタムアプリケーションでアクティブなロールを検出します。
- 各ロールが割り当てられているユーザーと、そのユーザーが持つアクセス許可レベルを検出します。
- 各ライセンスの種類のコストへの影響と、アプリでのどこで使用されているかを確認します。

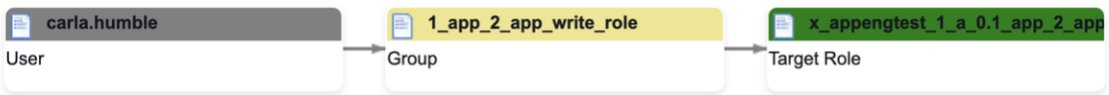
システム管理者は、アプリがマッピングされているサブスクリプションを確認でき、オプションでサブスクリプションを変更できます。いくつかの要因がこのセクションの内容に影響します。

- アプリがサブスクリプションに App Engine マップされている場合は、[ サブスクリプションの監視] タブが表示されます。
- アプリが ITSM などの別のサブスクリプションにマッピングされている場合、[ サブスクリプションの監視] タブは表示されません。
- アプリが にマップ App Engineされ、別のサブスクリプションに切り替えられ App Engineてから に戻ると、[ サブスクリプションの監視] タブが再び表示されます。

App Engine 管理者には、サブスクリプションを変更する権限がありません。ただし、アプリが運用環境にあり、[ サブスクリプションの監視] タブがある場合、 App Engine 管理者はアプリがサブスクリプションに App Engine マップされていると推測できます。[ サブスクリプションの監視 ] タブが表示されていない場合、そのアプリは にマップ App Engineされません。

[割り当てられたユーザー] セクションでユーザーの名前を選択すると、ロール継承マップを表示できます。このマップは、このユーザーが親ロール、グループの割り当て、または別の継承からどのようにロールを継承したかを示します。この情報は、自分が持つべきではないと考えている役割が他のユーザーにあり、それを変更したい場合に、アクションを実行するのに役立ちます。

ロール継承マップ




## アプリの展開

[展開履歴] タブで、アプリが実行した展開のリストを表示します。

展開履歴情報を知ることには、いくつかのメリットがあります。

- アプリが本番環境に展開されたときに欠陥がある場合は、アプリがいつ展開されたかをすばやく確認し、問題を追跡できます。
- アプリが複数回展開されている場合は、複数回の展開にわたって変更内容をすばやく追跡できます。
- アプリが本番環境に展開されている場合は、アプリの展開を承認したユーザーをすばやく確認できます。

## アプリ協力者

[協力者] タブを選択して、アプリの協力者を表示します。すべての協力者は開発インスタンスに保存されます。

問題や欠陥を修正するためにアプリケーションでクイックアクションを実行する必要がある場合は、アプリを変更できるユーザーとその権限をすばやく確認できます。

自動翻訳

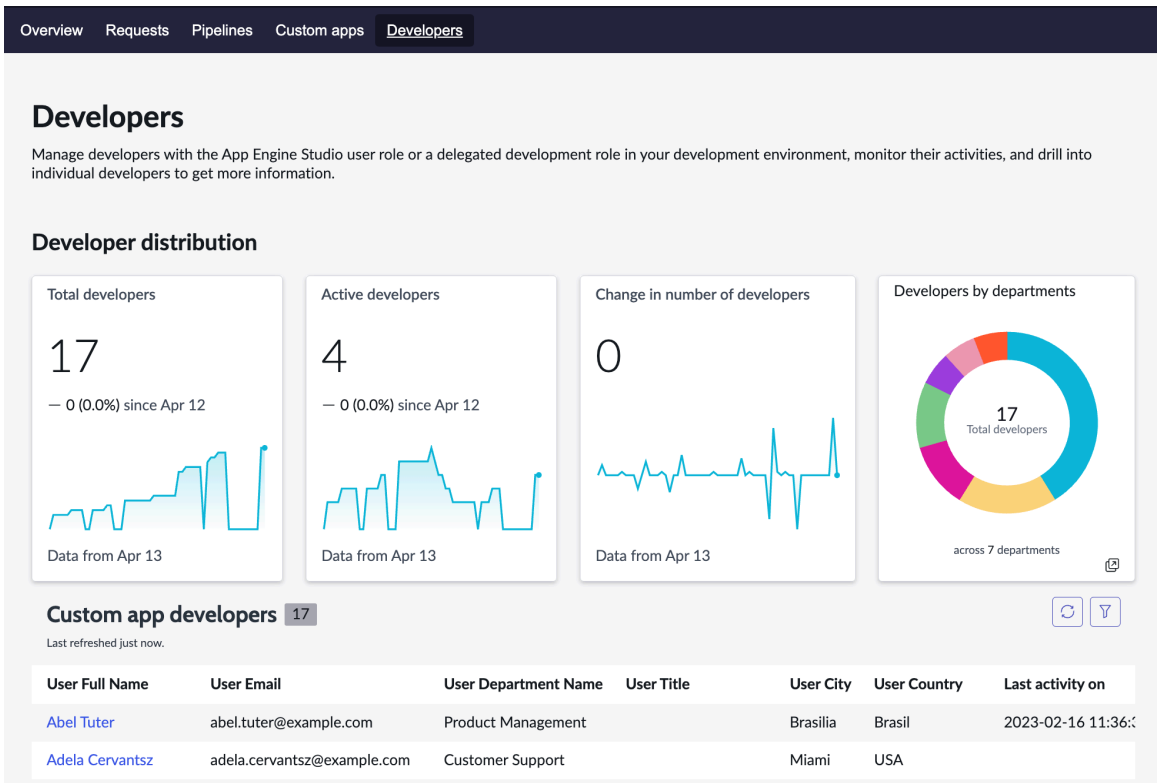
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## AEMC を使用した開発者の管理

App Engine Studio ユーザーグループ、App Engine Studio ユーザー制限グループ、または App Engine 管理センター (AEMC) を使用するその他の委任開発者に関する詳細を表示します。

AEMC 概要ページの App Engine 定着測定基準セクションには、App Engine Studio (AES) で作業している開発者の数とその部門が表示されます。[開発者] ページを選択して、より多くの情報にアクセスします。

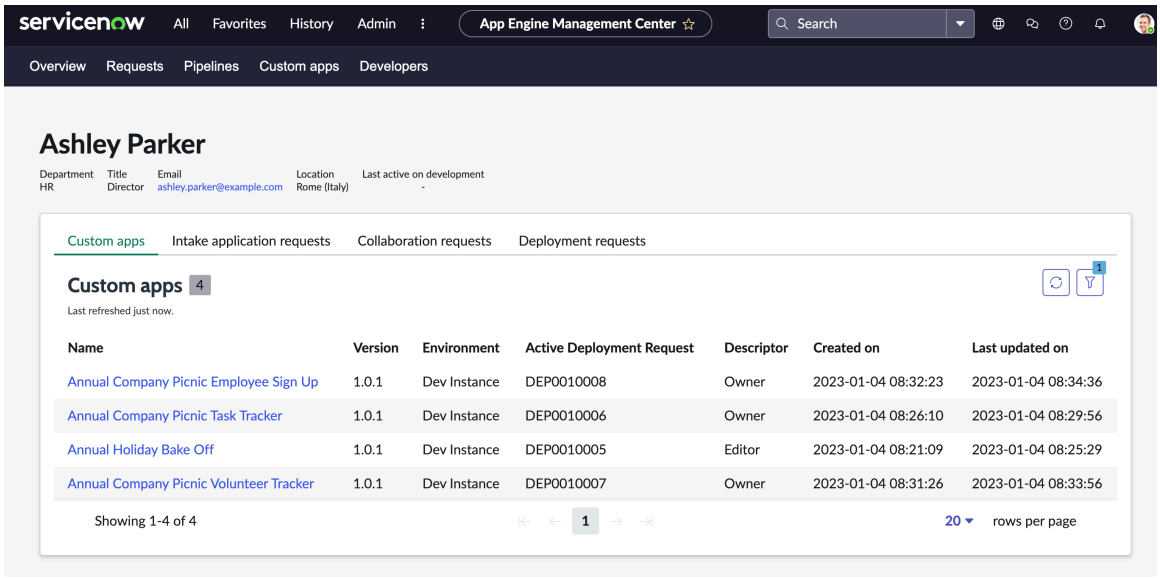
AEMC の [開発者] ページには、開発環境で AES ユーザーロール、AES ユーザー制限ロール、または委任開発ロールを持つすべての開発者が表示されます。このページでは、アクティビティを監視し、個々の開発者を選択して詳細情報を取得できます。




開発者レコードを選択すると、作成したカスタムアプリとその取り込みアプリケーション要求、コラボレーション要求、および展開要求に関する詳細情報が表示されます。各タブのコンテンツをフィルタリングして特定の結果を探したり、このページからアプリを選択して、その使用率、展開履歴、および協力者を表示したりできます。表示されたレコードのいずれかを選択して、履歴を表示するか、要求を承認、却下、または削除します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## App Engine Studio 参照

参照トピックには、App Engine Studio (AES) を構成および管理するために使用しているリストとフォームに関する追加情報があります。

## AES の用語集

App Engine Studio (AES) 固有の用語や概念について説明します。

アプリケーションテンプレート

特定のユースケースをサポートするために、事前定義されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを提供します。たとえば、出張要求テンプレートは、従業員の出張要求を送信および承認するためのアプリケーションコンテンツを提供します。

使用可能なテンプレートの詳細については、「利用可能なテンプレート」を参照してください。

ロジックと自動化

ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときに管理者に通知を送信するフローを構築できます。

データ

アプリケーションに保存されている情報です。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。テーブルを使用してアプリケーションデータを設定します。

展開要求

送信されたアプリケーションのレビューを追跡するチケットです。レビュー担当者は、展開要求フォームで、アプリケーションをさまざまな環境に展開したり、アプリケーションを承認または却下したり、開発者にフィードバックを送信したりできます。

環境

アプリケーションの開発、テスト、起動に使用するインスタンスです。App Engine Studio を設定するには、環境として使用している各インスタンスで、環境を定義する必要があります。

エクスペリエンス

ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。使用可

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

能なアプリケーションエクスペリエンスの詳細については、「アプリケーションエクスペリエンスの追加」を参照してください。

パイプライン

アプリケーションをさまざまな環境に展開するための構成です。

セキュリティ

アプリケーションを使用できるユーザーを限定するロールとアクセス制御です。

### AES のプロパティ

システムプロパティは、システムの動作を制御します。このセクションのプロパティは、App Engine Studio (AES) アプリケーションに固有のものです。のシステムプロパティ AES にアクセスするには、次の場所に移動します。 すべて > **App Engine Studio** > 構成 > プロパティ.

sn_app_eng_studio.aes_admin_contact

App Engine Studio 管理者の連絡先メールを定義します。システムは、このプロパティにリストされている各メールアドレスに展開要求通知を送信します。詳細については、「App Engine 管理者グループへのユーザーの追加」を参照してください。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：なし

sn_app_eng_studio.illustration_supported_content_types

分類カテゴリの図のサポートされているコンテンツタイプを定義します。このプロパティは読み取り専用です。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：image/svg+xml

sn_app_intake.instance_can_provision_users

現在のインスタンスがユーザーのプロビジョニングをサポートできるかどうかを決定します。このインスタンスのユーザーは別のインスタンスにプロビジョニングされます。ユーザーのプロビジョニングの詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false

### パイプラインと展開 アプリの [展開要求] フォーム

[展開要求] フォームには、App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 アプリ内からアクセスします。

[展開要求] フォームを表示するには、次の場所に移動します。 すべて > **App Engine** > パイプラインと展開 > 展開要求 レコードを開きます

#### [展開要求] フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 数値 | 展開要求を追跡する番号。 |
| アサイン先グループ | 展開要求がアサインされているグループ。 |
| ステータス | 展開要求のステータス。すべてのステータスは、パイプラインフローによって自動的に更新されます。<br>新規 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[展開要求] フォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 送信された要求は新規です。<br>レビュー中<br>送信された要求はレビューする準備ができています。<br>クローズ済み (公開済み)<br>送信された要求が本番インスタンスに展開されました。<br>却下してクローズ<br>送信された要求は公開する準備ができていません。展開プロセス中に関連する承認レコードで [却下] を選択すると、このステータスが有効になります。申請が却下される理由を入力するように求められます。これらのコメントは、[要求者の詳細] 関連リストの [要求者メール] フィールドに含まれているアドレスにメールで送信されます。<br>クローズ済み (失敗)<br>このステータスは、何らかの理由でパイプラインフローまたはサブフローが失敗した場合に有効になります。<br>キャンセル<br>送信された要求がキャンセルされました。 |
| アサイン先 | この要求がアサインされているアサイン先グループのユーザー。 |
| 簡単な説明 | 要求の簡単な説明。 |
| リリースノート | 公開後にこのアプリケーション用に表示される ServiceNow Store テキスト。 |
| アプリの詳細 | |
| アプリ名 | 送信されたアプリケーションの名前。 |
| アプリバージョン | 送信されたアプリケーションのバージョン。 |
| アプリの Sys ID | 送信されたアプリケーションのシステム ID。 |
| App Development URL | App Engine Studio でのアプリへのリンク。 |
| 要求者の詳細 | |
| 要求者の姓名 | アプリの展開を要求したユーザーの姓名。 |
| 要求者ユーザー ID | アプリの展開を要求したユーザーの ID。 |
| 要求者メール | アプリの展開を要求したユーザーのメールアドレス。 |
| 展開の詳細 | |
| 作成元環境 | 作成元環境のインスタンス。 |
| パイプライン | 展開に使用されているパイプライン。 |
| 現在の環境 | アプリのターゲット環境。 |
| メモ | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[展開要求] フォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 追加コメント (顧客に表示) | アプリのマニフェストなど、顧客と共有する追加のコメント。アプリ内の各ファイルタイプの数が一覧表示され、ATF またはインスタンスのスキャン結果が表示されます。 |
| 作業メモ | 内部メモ。 |

フォームを保存すると、承認関連の情報用の追加タブが表示されます。管理者は AES これらのタブを使用して要求を承認できます。

### カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ

App Engine Studio (AES) のカスタムテンプレートは、テーブル、フォーム、ロール、ACL、レコードプロデューサー、シンプルなワークスペース、フロー、アクションなど、ほとんどの機能とメタデータをサポートしています。

カスタムテンプレートは、ゼロから作成するか、既存のスコープ対象アプリケーションを開始点として使用して作成できます。

カスタムテンプレートを作成すると、事前スキャンでアプリケーションのすべてがサポートされていることが確認されます。考えられる結果は次の 3 つです。

- [すべてのアイテムがサポートされています (All items are supported)]：カスタムテンプレートが作成されます。すべてのオブジェクトがカスタムテンプレートとそのカスタムテンプレートから作成されたアプリで使用できます。
- [一部のアイテムはサポートされていません]：テンプレートの作成は続行できますが、このカスタムテンプレートで使用できないアイテムがあります。カスタムテンプレートや、そのテンプレートから作成されたアプリには影響しません。
- [一部のアイテムが拒否されました (Some items are denied)]：カスタムテンプレートの作成者にはエラーメッセージが表示され、そのエラーを修正するまで続行できません。 作成者は、アプリを既存のアプリから作成した場合はアプリを変更し、最初から作成した場合はテンプレートを変更する必要があります。

テンプレートの作成プロセスの詳細については、「カスタムテンプレートの構築」を参照してください。

### サポートされているメタデータ

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| アクセス制御 | sys_security_acl |
| アクセス許可ロール | sys_security_acl_role |
| アクションのアサイン | sys_declarative_action_assignment |
| アクセス制御 | sys_security_acl |
| アクセス許可ロール | sys_security_acl_role |
| アクションのアサイン | sys_declarative_action_assignment |
| アクションカテゴリ | sys_hub_category |
| アクション定義 | sys_declarative_action_definition |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| アクションの除外 | sys_workspace_declarative_action_exclusion |
| アクションの入力 | sys_hub_action_input |
| アクションインスタンス | sys_hub_action_instance |
| アクションアイテム | sys_sg_write_back_action_item |
| アクションモデルフィールド | sys_declarative_action_model_field |
| アクションの出力 | sys_hub_action_output |
| アクション パラメーターのマッピング | sys_sg_action_param_map |
| アクションペイロード定義 | sys_declarative_action_payload_definition |
| アクションペイロードフィールド | sys_declarative_action_payload_field |
| アクションペイロードマッピング | sys_declarative_action_payload_mapping |
| アクションタイプ | sys_hub_action_type_definition |
| アクティビティ定義 | sys_pd_activity_definition |
| Activity Stream 画面 | sys_sg_activity_stream_screen |
| 分析プレビュー | sys_sg_chart |
| 分析セクション | sys_sg_chart_section |
| アプリケーションメニュー | sys_app_application |
| アプリケーションメニュー | sys_ui_application |
| アプリケーション検索ソース | m2m_search_context_config_search_source |
| 対象者 | sys_ux_applicability |
| 基本認証構成 | sys_auth_profile_basic |
| ビルダーテンプレート | sys_uib_template |
| ビジネスルール | sys_script |
| カード | sys_sg_view_config |
| カード要素 | sys_sg_view_config_element |
| カード要素の属性 | sys_sg_view_config_element_attribute |
| カードテンプレート | sys_sg_view_template |
| カードテンプレート要素 | sys_sg_view_template_slot |
| カードテンプレート要素の属性 | sys_sg_view_template_slot_attribute |
| カタログクライアントスクリプト | catalog_script_client |
| カタログアイテム | sc_cat_item |
| 利用可能なカタログアイテム | sc_cat_item_user_criteria_mtom |
| カタログアイテムカテゴリ | sc_cat_item_category |
| 利用不可のカタログアイテム | sc_cat_item_user_criteria_no_mtom |
| カタログアイテムカタログ | sc_cat_item_catalog |
| カタログ UI ポリシー | catalog_ui_policy |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| カタログ UI ポリシーアクション | catalog_ui_policy_action |
| カタログ変数セット | io_set_item |
| カテゴリプロパティ | sys_properties_category_m2m |
| チャートの色 | sys_report_chart_color |
| チャート画面 | sys_sg_chart_screen |
| 選択肢 | sys_choice |
| 選択肢セット | sys_choice_set |
| クライアントスクリプト | sys_script_client |
| 色定義 | sys_report_color |
| 複合オブジェクト | sys_complex_object |
| 復号データブローカー | sys_ux_data_broker_composite |
| 含まれているロール | sys_user_role_contains |
| クロススコープ権限 | sys_scope_privilege |
| データブローカースクリプトレット | sys_ux_data_broker_scriptlet |
| データブローカーサーバースクリプト | sys_ux_data_broker_transform |
| データ アイテム | sys_sg_data_item |
| データパラメーター | sys_sg_item_parameter |
| データポリシー | sys_data_policy2 |
| データポリシールール | sys_data_policy_rule |
| 意思決定 | sys_decision_question |
| 意思決定条件 | sn_decision_table_decision_condition |
| 意思決定の入力 | sys_decision_input |
| 意思決定テーブル | sys_decision |
| 意思決定テーブルの複数の結果 | sys_decision_multi_result |
| 画面の詳細 | sys_sg_details_screen |
| 辞書エントリ | sys_dictionary |
| 辞書エントリに上書きする | sys_dictionary_override |
| 動的フィルターオプション | sys_filter_option_dynamic |
| Email Address Filter | sys_email_address_filter |
| メールアドレスフィルタードメイン | sys_email_address_filt_domain |
| メールクライアントの構成 | sys_email_client_configuration |
| メールクライアントの送信元アドレス | sys_email_client_from_address |
| メールクライアントテンプレート | sys_email_client_template |
| メールフィルター | sys_email_filter |
| メールレイアウト | sys_email_layout |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
|---|---|
| メール返信セパレーター | sys_email_reply_separator |
| Email スクリプト | sys_script_email |
| メールテンプレート | sysevent_email_template |
| 埋め込みヘルプロール優先度 | sys_embedded_help_role |
| 空ステータス | sys_sg_empty_state |
| EVAM データフィルター | sys_ux_composite_data_filter |
| EVAM データソースフィルター | sys_ux_composite_datasource_filter |
| EVAM データソース | sys_ux_composite_datasource |
| EVAM データソース M2M | sys_ux_composite_data_m2m_datasource |
| EVAM 定義 | sys_ux_composite_data |
| EVAM ビュー構成 | sys_ux_composite_data_template_predicate |
| EVAM ビュー構成アクションアサイン M2M | sys_ux_predicate_m2m_action_assignment |
| EVAM ビュー構成バンドル | sys_ux_composite_data_template_predicate_bundle |
| EVAM ビュー構成バンドル M2M | sys_ux_composite_data_m2m_predicate_bundle |
| イベント登録 | sysevent_register |
| エクスポート定義 | sys_export_definition |
| エクスポートセット | sys_export_set |
| エクスポートターゲット | sys_export_target |
| 拡張フローロジック入力 | sys_hub_flow_logic_ext_input |
| 拡張ステップ入力変数 | sys_hub_step_ext_input |
| 拡張ステップ出力変数 | sys_hub_step_ext_output |
| 拡張インスタンス | sys_extension_instance |
| 拡張ポイント | sys_extension_point |
| ファセット | sys_search_facet |
| フィールドラベル | sys_documentation |
| フィールドマップ | sys_impex_entry |
| フィルター | sys_filter |
| フィルターアクション | sys_email_filter_action |
| フロー | sys_hub_flow |
| フローカタログ変数 | sys_flow_cat_variable |
| フロー入力 | sys_hub_flow_input |
| フローロジックインスタンス | sys_hub_flow_logic |
| フロースナップショット | sys_hub_flow_snapshot |
| フローステージ | sys_hub_flow_stage |
| フロー変数 | sys_hub_flow_variable |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| フォーム | sys_ui_form |
| フォームヘッダー | sys_aw_form_header |
| フォームセクション | sys_ui_section |
| 関数 | sys_sg_button |
| 機能インスタンス | sys_sg_button_instance |
| GraphQL データブローカー | sys_ux_data_broker_graphql |
| ハイライト表示される値 | sys_highlighted_value |
| ハイライト表示される値の条件 | sys_highlighted_value_condition |
| HTTP ヘッダー | sys_rest_message_headers |
| HTTP ヘッダー | sys_rest_message_fn_headers |
| HTTP メソッド | sys_rest_message_fn |
| REST メッセージ関数パラメーター定義 | sys_rest_message_fn_param_defs |
| アイコン | sys_sg_icon |
| アイコンセクション宛先ランチャー | sys_sg_navigation_section_destination_applet_launcher |
| イメージ | db_image |
| インポートエクスポートマップ | sys_impex_map |
| Inbound Email Actions | sysevent_in_email_action |
| インデックス | sys_index |
| ランチャーのヘッダータイトル | sys_sg_applet_launcher_header |
| ランチャー画面 | sys_sg_applet_launcher |
| ランチャーのセクションマッピング | sys_sg_applet_launcher_m2m_section |
| [ランチャー] タブ | sys_sg_applet_launcher_tab |
| レイアウト適用性 | sys_ux_applicability_m2m_layout |
| 従来のカード | sys_sg_item_view |
| 従来のアイコンセクション | sys_sg_icon_section |
| リスト | sys_ui_list |
| リスト適用性 | sys_ux_applicability_m2m_list |
| リストコントロール | sys_ui_list_control |
| リストアイテム構成 | sys_sg_master_item |
| リスト画面 | sys_sg_list_screen |
| リストストリーム | sys_sg_item_stream |
| M2M アクションアサインの UX アクション構成 | sys_ux_m2m_action_assignment_action_config |
| M2M ワークスペースヘッダーの UX ヘッダー構成 | sys_ux_m2m_workspace_header_ux_header_config |
| 多対多リレーションの定義 | sys_m2m |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| メッセージ | sys_ui_message |
| モバイル UI のルール | sys_sg_ui_rule |
| モバイル UI のルールのアクション | sys_sg_ui_rule_action |
| モジュール | sys_ui_module |
| モジュール | sys_app_module |
| ナビゲーションタブマップ | sys_sg_navigation_tab_map |
| 新規レコード メニュー アイテム | sys_aw_new_menu_item |
| 通知 | sys_notification |
| 通知 | sysevent_email_action |
| 通知カテゴリ | sys_notification_category |
| 通知の一般的なコンテンツ | sys_notification_common_content |
| 通知ルート | notification_route |
| 通知ワークスペースのコンテンツ | sys_notification_workspace_content |
| 番号 | sys_number |
| Playbook アクティビティの上書き | sys_playbook_activity_renderer |
| Playbook アクティビティ UI | sys_playbook_experience_activity_ui |
| Playbook Experience アクション割り当てマップ | sys_playbook_experience_action_assignment_map |
| Playbook Experience レコードジェネレーター | sys_playbook_experience_record_generator |
| Playbook Experience | sys_playbook_experience |
| プロセス定義 | sys_pd_process_definition |
| プロセス定義スイムレーン画像 | sys_pd_swim_lane_image |
| プロセスフロートリガープラン | sys_flow_trigger_plan |
| 公開ページ | sys_public |
| プッシュ通知 | sys_sg_push_notification |
| プッシュ通知インストール | sys_push_notif_app_install |
| プッシュ通知メッセージ | sys_push_notif_msg |
| プッシュ通知メッセージコンテンツ | sys_push_notif_msg_content |
| 質問の選択肢 | question_choice |
| クイックアクションメニュー | sys_sg_alp_quick_action_map |
| 受信者の修飾子 | sys_recipient_qualifier |
| レコードプロデューサー | sc_cat_item_producer |
| レコード画面 | sys_sg_form_screen |
| レコード画面セグメント | sys_sg_form_segment |
| レコードセクション | sys_sg_item_section |
| リダイレクト宛先フィールド | sys_sg_redirect_dest_field |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
|---|---|
| 関連リスト | sys_ui_related_list |
| 関係 | sys_relationship |
| 関係性データアイテム | sys_sg_relationship_data_item |
| レポート | sys_report |
| レポートユーザーおよびグループ | sys_report_users_groups |
| REST データブローカー | sys_ux_data_broker_rest |
| REST メッセージ | sys_rest_message |
| 結果 | sys_decision_multi_result_element |
| ロール | sys_user_role |
| ルート構成 | sys_ux_dynamic_route_config |
| ルートマッピング | sys_ux_dynamic_route_mapping |
| 予定スクリプトの実行 | sysauto_script |
| 画面適用性 | sys_ux_applicability_m2m_screen |
| 画面の各フィールド | sys_sg_screen_field |
| 画面パラメーターのマッピング | sys_sg_screen_param_map |
| 画面セグメント | sys_sg_item_stream_segment |
| [画面] タブ | sys_sg_applet_tab |
| 画面 UI ポリシー | sys_sg_ui_policy |
| スクリプトアクション | sysevent_script_action |
| スクリプトインクルード | sys_script_include |
| Scripted REST API | sys_ws_definition |
| スクリプト化済み REST クエリパラメーター | sys_ws_query_parameter |
| スクリプト化済み REST クエリパラメーターの関連性 | sys_ws_query_parameter_map |
| スクリプト化済み REST リソース | sys_ws_operation |
| アプリケーション構成を検索 | sys_search_context_config |
| 検索構成 | sys_sg_global_search |
| M2M アイテム構成の検索 | sys_sg_global_search_m2m_master_item |
| 検索ソース | sys_search_source |
| セカンダリ値 | sys_aw_form_header_secondary_values |
| サービス遂行の承認ステップ | sc_service_fulfillment_approval_step |
| サービス遂行ステージ | sc_service_fulfillment_stage |
| サービス遂行手順 | sc_service_fulfillment_step |
| サービス遂行タスクのステップ | sc_service_fulfillment_task_step |
| サービスオファリング SLA | service_offering_sla |
| SLA 定義 | contract_sla |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| SLA タイマー構成 | sla_timer_config |
| SLA タイマー構成マッピング | sla_timer_config_mapping |
| ステップインスタンス | sys_hub_step_instance |
| ストリーム M2M アイテム構成 | sys_sg_item_stream_m2m_master_item |
| ストリーム M2M セグメント | sys_sg_item_stream_m2m_segment |
| スタイル | sys_ui_style |
| サブフローインスタンス | sys_hub_sub_flow_instance |
| サブフローインスタンス入力 | sys_hub_sub_flow_instance_inputs |
| 提案リーダーと提案リーダーグループの関係 | m2m_sys_suggestion_reader_sys_suggestion_reader_group |
| 提案リーダーグループ | sys_suggestion_reader_group |
| システム UX M2M アクションレイアウトアイテム | sys_ux_m2m_action_layout_item |
| システム UX M2M のハイライト表示される値の構成 | sys_ux_m2m_highlighted_value_config |
| Sys Ux M2m ワークスペースビュールール Ux ビュールール構成 | sys_ux_m2m_workspace_view_rule_ux_view_rule_config |
| システムのプロパティ | sys_properties |
| システムプロパティカテゴリ | sys_properties_category |
| テーブル | sys_db_object |
| タスクリレーションシップタイプ | task_rel_type |
| 許可されたタスクリレーションシップ | task_rel_allowed |
| テンプレート | sys_template |
| 変換スクリプト | sys_transform_script |
| トリガー定義 | sys_pd_trigger_definition |
| トリガーの実行 | sys_flow_trigger_auto_script |
| トリガーインスタンス | sys_hub_trigger_instance |
| UI アクション | sys_ui_action |
| UI アクションのレイアウト | sys_aw_form_uiaction_layout |
| UI アクションロール | sys_ui_action_role |
| UI フォーマッター | sys_ui_formatter |
| UI ページ | sys_ui_page |
| UI のパラメーター | sys_sg_ui_parameter |
| UI ポリシー | sys_ui_policy |
| UI ポリシーアクション | sys_ui_policy_action |
| UI ポリシー ルール | sys_sg_ui_policy_rule |
| UI スクリプト | sys_ui_script |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
| --- | --- |
| UI ビュー | sys_ui_view |
| UIB 画面テスト値 | sys_uib_screen_test_values |
| UX アクション構成 | sys_ux_action_config |
| UX アドオンイベントマッピング | sys_ux_addon_event_mapping |
| UX アプリ構成 | sys_ux_app_config |
| UX アプリルート | sys_ux_app_route |
| UX アプリのテーマ | m2m_app_config_theme |
| UX アプリケーション | sys_ux_page_registry |
| UX アプリケーションカテゴリ M2M | sys_ux_registry_m2m_category |
| UX 資産 | sys_ux_lib_asset |
| UX クライアントスクリプト | sys_ux_client_script |
| UX クライアントスクリプトインクルード | sys_ux_client_script_include |
| ユーザーエクスペリエンスカスタムコンテンツ拡張 | sys_ux_custom_content_root_elem |
| UX ダッシュボードのルート権限 | sys_ux_route_permission |
| UX イベント | sys_ux_event |
| UX フォームアクション | sys_ux_form_action |
| UX フォームアクションレイアウト | sys_ux_form_action_layout |
| UX フォームアクションレイアウトグループ | sys_ux_form_action_layout_group |
| UX フォームアクションレイアウトアイテム | sys_ux_form_action_layout_item |
| UX ヘッダー構成 | sys_ux_header_config |
| UX のハイライト表示される値の構成 | sys_ux_highlighted_value_config |
| UX リスト | sys_ux_list |
| UX リストカテゴリ | sys_ux_list_category |
| UX リストメニュー構成 | sys_ux_list_menu_config |
| UX Macroponent 定義 | sys_ux_macroponent |
| ユーザーエクスペリエンスページ要素の権限 | sys_ux_page_element_m2m_role |
| ユーザーエクスペリエンスページプロパティ | sys_ux_page_property |
| UX リボン構成 | sys_ux_ribbon_config |
| UX 画面 | sys_ux_screen |
| UX 画面コレクション | sys_ux_screen_type |
| UX 画面条件 | sys_ux_screen_condition |
| UX テーマ | sys_ux_theme |
| UX テーマ資産 | sys_ux_theme_asset |
| UX テーマ資産 | sys_ux_theme_m2m_asset |
| UX ビュールール構成 | sys_ux_view_rules_configuration |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
|---|---|
| 変数 | item_option_new |
| 変数セット | item_option_new_set |
| SOAP メッセージパラメーター | sys_rest_message_fn_parameters |
| 表示ルール | sysrule_view_workspace |
| 表示ルール | sysrule_view |
| ビューテンプレート | sys_ux_composite_data_template |
| ワークスペース | sys_aw_master_config |
| ワークスペース グローバル検索の構成 | sys_aw_global_search_config |
| ワークスペースリスト | sys_aw_list |
| ワークスペース リスト カテゴリ | sys_aw_list_category |
| ワークスペースモジュール | sys_aw_module |

## スキップされる機能とメタデータ

テンプレート作成プロセスは、テンプレートまたはテンプレートから作成されたアプリに影響を与えないアイテムのみをスキップします。

| ラベル | 名前 |
|---|---|
| Activity Designer | wf_element_activity |
| アクティビティ変数 | wf_activity_variable |
| コンテンツリンク | content_link |
| コンテンツテーマ | content_theme |
| コンテンツタイプ | content_type |
| データベースビュー | sys_db_view |
| 詳細ページ | content_type_detail |
| 詳細コンテンツ | content_block_detail |
| 実行中のテンプレートが存在する場合、「最初から作成」テンプレートを再テンプレート化することを禁止する | |
| ダイナミックコンテンツ | content_block_programmatic |
| Flash ムービー | content_block_flash |
| フローテンプレートマッピング | sys_app_flow_template_mapping |
| IFrames | content_block_iframe |
| 入力の詳細 | sys_app_template_input_detail |
| コンテンツリスト | content_block_lists |
| ログインルール | content_page_rule |
| メニューアイテム | menu_item |
| メニューセクション | menu_section |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ラベル | 名前 |
|---|---|
| メタタグ | content_page_meta |
| ナビゲーションメニュー | content_block_menu |
| ページ | content_page |
| ペイロード | sys_app_scan_payload |
| ペイロードローダールール | sys_app_payload_loader_rule |
| ペイロードルール | sys_app_payload_unloader_rule |
| プロセッサ | sys_processor |
| サイト | content_site |
| スポークの構成 | sys_app_template_spoke_configuration |
| ステージのデフォルト | wf_stage_default |
| スタティック コンテンツ | content_block_static |
| スタイルシート | content_theme_css |
| サブテンプレート | sys_app_subtemplate |
| テンプレート | sys_app_template |
| テンプレートの依存関係 | sys_app_template_dependency |
| テンプレート依存関係定義 | sys_app_template_dependency_definition |
| テンプレートの詳細 | sys_app_template_detail |
| テンプレート機能タイプ | sys_app_template_function_type |
| テンプレート入力変数 | sys_app_template_input_var |
| テンプレートマニフェスト | sys_app_template_manifest |
| テンプレート出力変数 | sys_app_template_output_var |
| テンプレートページ | sys_app_template_page |
| テンプレートページの構成 | sys_app_template_page_configuration |
| テンプレートウィザード | sys_app_template_wizard |
| 変数 | sys_app_scan_variable |
| 変数タイプ | sys_app_scan_variable_type |
| ビューフィールド | sys_db_view_table_field |
| ビューテーブル | sys_db_view_table |
| ワークフロー | wf_workflow |
| ワークフローアクティビティ定義 | wf_activity_definition |
| ワークフローインスタンス | wf_workflow_instance |
| ワークフロー SC 変数 | wf_variable |
| ワークフロースケジュール | wf_workflow_schedule |
| ワークフロー UI ポリシー | wf_ui_policy |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ServiceNow CLI

ServiceNow CLI は、ローカルシステムからインスタンス操作を実行できるコマンドラインインターフェイスです。CLI を拡張して、アプリケーションのニーズを満たす新しいコマンドを含めることができます。

### 利点

ServiceNow CLI では次のことができます。

- インスタンス内のレコードに対して基本的な CRUD 操作を実行します。
- カスタムコンポーネントを開発し、インスタンスに展開して UI をカスタマイズします。
- コマンドラインからカスタムアプリケーションを管理できるようにするカスタムコマンドを作成します。
- スクリプトで ServiceNow CLI を使用すると、セットアップタスクと運用アクティビティが簡素化されます。

### アーキテクチャ

コマンドは、接続先のインスタンスのテーブルに保存されます。ServiceNow CLI がインスタンスに接続すると、そのインスタンスでサポートされているすべての利用可能なコマンドを受け取ります。

コマンドは、非同期で実行される REST エンドポイントにマッピングされます。詳細については、「ServiceNow CLI でのカスタムコマンドの作成」を参照してください。

## ServiceNow CLI のアクティブ化

ServiceNow Store から要求することで、ServiceNow CLI をインストールします。 ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

### 構成ファイル

ServiceNow CLI は、デフォルトでは次のパスのホームディレクトリに格納される config.json ファイルにプロファイル情報を格納します。

- Linux および Mac：~/.snc/config.json
- Windows：%USERPROFILE%\.snc\config.json

CLI はこのファイルを使用して、インスタンスへの接続に使用する情報と、出力の生成に使用する設定を決定します。デフォルトでは、ServiceNow CLI はデフォルトのプロファイルの設定を使用してインスタンスに接続します。別の設定を使用する場合は、追加の名前付きプロファイルを作成して参

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

照することができます。 詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

次の例は、デフォルトプロファイルと名前付きプロファイルを含む構成ファイルを示しています。各プロファイルは、異なる資格情報を使用し、異なるホストと出力形式を指定できます。

```
{
  "profiles":{
    "default":{
      "host":"https://myinstance.service-now.com",
      "loginmethod":"basic",
      "username":"admin",
      "output":"json",
      "hostversion":"Paris",
      "appversion":"1.0"
      },
    "user1":{
      "host":"https://otherinstance.service-now.com",
      "loginmethod":"basic",
      "username":"user1",
      "output":"yaml",
      "hostversion":"Paris",
      "appversion":"1.0"
      }
    }
}
```

**注:**
機密の資格情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

## コマンド構造

ServiceNow CLI コマンドは次の構造に従います。

1. `snc` プログラムへの基本呼び出し。
2. トップレベルのコマンドグループとそれに続く子コマンドグループ。
3. 実行する操作を指定するコマンド。
4. 操作に必要な一般的な CLI 引数。引数は任意の順序で指定できます。

```
$ snc <command-group> <command> [arguments]
```

引数は、数値、文字列、JSON オブジェクトなどのさまざまなタイプの入力値を取ることができます。サポートされるタイプは、指定するコマンドによって異なります。

## 引数の値

ServiceNow CLI 内の引数の値の多くは、次の例のテーブルやテーブル名のように、単純な文字列または数値です。

```
$ snc record create --table incident --data "{short_description: 'New Incident'}"
```

スペース文字を含まない文字列も、引用符で囲むことができます (任意)。ただし、1 つ以上のスペース文字を含む文字列は、引用符で囲む必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 出力の形式

ServiceNow CLI は次の 4 つの出力形式をサポートしています。

- `json`：出力は JSON としてフォーマットされます。これがデフォルトです。

```
{
  "default": {
    "appversion": "1.0.8",
    "host": "https://myinstance.service-now.com",
    "hostversion": "Paris",
    "loginmethod": "basic",
    "output": "json",
    "username": "admin"
  },
  "user1": {
    "appversion": "1.0.8",
    "host": "https://otherinstance.service-now.com",
    "hostversion": "Paris",
    "loginmethod": "basic",
    "output": "yaml",
    "username": "admin"
  }
}
```

- `yaml`：出力は YAML としてフォーマットされます。YAML を使用して、YAML 形式の文字列を発行または使用するサービスおよびツールで出力を処理します。

```
default:
  appversion: 1.0.8
  host: https://myinstance.service-now.com
  hostversion: Paris
  loginmethod: basic
  output: json
  username: admin
user1:
  appversion: 1.0.8
  host: https://otherinstance.service-now.com
  hostversion: Paris
  loginmethod: basic
  output: yaml
  username: admin
```

- `text`：出力は、タブ区切りの文字列値の複数の行としてフォーマットされます。この出力は、grep、sed、awk などの従来の UNIX テキストツールと、PowerShell によって実行されるテキスト処理で使用します。

```
default   https://myinstance.service-now.com   Paris   1.0.8   basic   admin   json
user1   https://otherinstance.service-now.com   Paris   1.0.8   basic   admin   yaml
```

- `table`：出力は、人間が判読可能な形式で情報が表示されるテーブルとしてフォーマットされます。

```
NAME   HOST   HOST   VERSION   APP   VERSION   LOGIN   METHOD   USERNAME
 OUTPUT
--------------------------------------------------------------------------------
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
default   myinstance   Paris   1.0.8   basic   admin   json
user1   otherinstance   Paris   1.0.8   basic   admin   yaml
```

- none：CLI は出力をコンソールに出力しません。成功、エラー、および進捗状況のメッセージは引き続き表示されます。

コマンド出力は、次の 2 とおりの方法で指定できます。

構成ファイルの名前付きプロファイルで output オプションを使用する

次の例では、デフォルトの出力形式をテキストに設定します。

```
{
   "profiles":{
     "default":{
       "output":"text"
     }
}
```

コマンドラインで --output 引数を使用する

次の例では、単一のコマンドの出力を JSON に設定します。コマンドのこのオプションは、構成ファイルに現在設定されている値を上書きします。

```
$ snc record query --table incident --query 'active=true' --output json
```

### ServiceNow CLI をインストールする

Mac、Windows、または Linux マシンへの ServiceNow CLI のインストール

始める前に
ServiceNow CLI の最新バージョンは 1.1.0 です。インストールされているバージョンを見つけて更新する必要があるかどうかを確認するには、snc version を実行します。

ServiceNow CLI のインストールには次のものが必要です。

- マシンにソフトウェアをインストールするための管理者権限。
- ダウンロードしたパッケージを展開または解凍するためのソフトウェア。

すべての CLI 機能をサポートするには、sn_cl_metadata プラグインをインスタンスにインストールする必要があります。

必要なロール：Admin

次のオペレーティングシステムで使用できます。

- Mac
- Windows
- Linux

### ServiceNow CLI の Mac へのインストール

インストーラーを使用して Mac OS に ServiceNow CLI をインストールします。

始める前に
Apple がサポートする Mac OS (64 ビットバージョン) が必要です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. お使いのブラウザで、 からインストーラバンドルをダウンロード ServiceNow Store.
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. snc-1.0.0-osx-installer ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。

   a. プロンプトが表示されたら、[パスに追加 **(Add to PATH)]** オプションが選択されていることを確認します。
   このオプションには、ルートアカウントアクセスが必要です。

5. インストールが成功したことを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
$ which snc

/usr/local/bin/snc
```

```
$ snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

### ServiceNow CLI の Windows へのインストール

インストーラーを使用して Windows OS に ServiceNow CLI をインストールします。

始める前に
Windows 10 以降 (64 ビットバージョン) が必要です。

手順

1. お使いのブラウザで、 からインストーラバンドルをダウンロード ServiceNow Store.
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. snc-1.0.0-windows-x64-installer.exe ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。
   デフォルトでは、CLI は C:\Program Files\ServiceNow CLI にインストールされます。
5. インストールを確認するには、次のコマンドを使用してコマンドラインでバージョンを確認します。

```
C:\>snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

   Windows がプログラムを見つけることができない場合は、コマンドプロンプトウィンドウを閉じてから再度開き、パスを更新します。

### ServiceNow CLI の Linux へのインストール

インストーラーを使用して Linux マシンに ServiceNow CLI をインストールします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
CentOS または Ubuntu の最新のディストリビューション (64 ビットバージョン) が必要です。

手順

1. お使いのブラウザで、 からインストーラバンドルをダウンロード ServiceNow Store.
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. snc-1.0.0-linux-x64-installer.run ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。
   a. プロンプトが表示されたら、[パスに追加 **(Add to PATH)]** オプションが選択されていることを確認します。
   このオプションには、ルートアカウントアクセスが必要です。
5. インストールが成功したことを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
$ which snc

~/ServiceNow CLI/bin/snc
```

```
$ snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

### ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理

接続プロファイルを作成して、インスタンスへの接続、接続プロファイルの表示、接続および利用可能なコマンドの更新、不要になったプロファイルの削除を行います。

このタスクについて
ServiceNow CLI は、デフォルトでは次のパスのホームディレクトリに格納される config.json ファイルにプロファイル情報を格納します。

- Linux および Mac：~/.snc/config.json
- Windows：%USERPROFILE%\.snc\config.json

CLI はこのファイルを使用して、インスタンスへの接続に使用する情報と、出力の生成に使用する設定を決定します。デフォルトでは、ServiceNow CLI はデフォルトのプロファイルの設定を使用してインスタンスに接続します。別の設定を使用する場合は、追加の名前付きプロファイルを作成して参照することができます。 詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

次の例は、デフォルトプロファイルと名前付きプロファイルを含む構成ファイルを示しています。各プロファイルは、異なる資格情報を使用し、異なるホストと出力形式を指定できます。

```
{
  "profiles":{
    "default":{
      "host":"https://myinstance.service-now.com",
      "loginmethod":"basic",
      "username":"admin",
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "output":"json",
      "hostversion":"Paris",
      "appversion":"1.0"
      },
    "user1":{
      "host":"https://otherinstance.service-now.com",
      "loginmethod":"basic",
      "username":"user1",
      "output":"yaml",
      "hostversion":"Paris",
      "appversion":"1.0"
      }
    }
}
```

### デフォルトプロファイルの作成

ServiceNow CLI がデフォルトで使用する接続プロファイルを作成します。インスタンスとの CLI の初期接続を設定するには、デフォルトのプロファイルを作成する必要があります。

#### このタスクについて

デフォルトでは、使用するプロファイルを明示的に指定していないコマンドを実行すると、このプロファイルの情報が使用されます。

> **注:**
> 機密の資格情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

#### 手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc configure profile set
   ```

   CLI では、詳細情報の入力を求められます。
2. 要求された値を入力します。
   情報の入力を求めるときに、CLI は現在の値を角括弧 [ ] で囲んで表示します。既存の値を保持するには、Enter キーを押します。

| 要求された情報 | 説明 |
|---|---|
| ホスト | 接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。 |
| ログイン方法 | インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、OAuth、および OAuth + MFA をサポートします。 |
| ユーザー名 | インスタンスへの接続に使用するユーザー名。 |
| パスワード | インスタンスへの接続に使用するパスワード。 |
| クライアント ID | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。 |
| クライアントシークレット | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。 |
| 認証コード | ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要求された情報 | 説明 |
| --- | --- |
| デフォルトの出力形式 | コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは json、yaml、text、および table です。 |

**Example**

```
$ snc configure profile set

Host:
https://myinstance.service-now.com

Login Method (Basic, OAuth, OAuth + MFA):
Basic

Username:
myusername

Password:
mypassword
```

3. コマンドから `--profile` 属性を省略して、デフォルトのプロファイルで指定された値を使用してコマンドを実行します。

**Example**

```
$ snc record create
```

このコマンドは、指定された接続オプションを使用して、デフォルトプロファイルで指定されたインスタンスにレコードを作成します。

### 名前付きプロファイルの作成

特定のコマンドで使用する名前付き接続プロファイルを作成します。これにより、特定のコマンドに異なるインスタンスまたは接続プロトコルを指定できます。

#### 始める前に

インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

#### このタスクについて

**注:**
機密の資格情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

#### 手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。
2. *`profile-name`* 引数に名前付きプロファイルの名前を指定します。

```
$ snc configure profile set [--profile profile-name]
```

CLI では、詳細情報の入力を求められます。

3. 要求された値を入力します。
情報の入力を求めるときに、CLI は現在の値を角括弧 [ ] で囲んで表示します。既存の値を保持するには、Enter キーを押します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要求された情報 | 説明 |
| --- | --- |
| ホスト | 接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。 |
| ログイン方法 | インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、OAuth、および OAuth + MFA をサポートします。 |
| ユーザー名 | インスタンスへの接続に使用するユーザー名。 |
| パスワード | インスタンスへの接続に使用するパスワード。 |
| クライアント ID | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。 |
| クライアントシークレット | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。 |
| 認証コード | ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。 |
| デフォルトの出力形式 | コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは json、yaml、text、および table です。 |

**Example**

```
$ snc configure profile set --profile user1

Host:
https://mytestinstance.service-now.com

Login Method (Basic ,OAuth ,OAuth + MFA):
Basic

Username:
myusername

Password:
mypassword
```

4. コマンドに --profile⌧ <profile-name>属性を追加して、名前付きプロファイルで指定された値を使用してコマンドを実行します。

**Example**

```
$ snc record create --profile user1
```

このコマンドは、指定された接続オプションを使用して、user1 プロファイルで指定されたインスタンスにレコードを作成します。

### プロファイルの表示

構成ファイルに設定されているすべての接続プロファイルを表示するか、特定のプロファイルに関する情報を表示します。

始める前に
インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### このタスクについて
プロファイルごとに、CLI にホスト情報、バージョンの詳細、ユーザー名、ログイン方法、優先出力形式が表示されます。パスワードやクライアント ID などの機密情報は表示されません。

### 手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

単一のプロファイルの接続情報を表示するには、[--profile profile-name] 引数を含めます。それ以外の場合、CLI はすべてのプロファイルの情報をリストします。

```
$ snc configure profile list [--profile profile-name]
```

**Example**

このコマンドは、構成されているすべてのプロファイルを表示します。

```
$ snc configure profile list
```

CLI は次の出力を提供します。

```
{
  "profiles":{
    "default":{
    "host":"https://myinstance.service-now.com",
    "loginmethod":"basic",
    "username":"admin",
    "output":"json",
    "hostversion":"Paris",
    "appversion":"1.0"
  }
}
```

## プロファイルの削除

不要になった名前付き接続プロファイルを構成ファイルから削除します。

### 始める前に
インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

### このタスクについて
このコマンドを使用してデフォルトの接続プロファイルを削除することはできません。デフォルトの接続プロファイルを削除するには、構成ファイルを手動で編集します。

### 手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。
2. *profile-name* 引数に名前付きプロファイルの名前を指定します。

```
$ snc configure profile remove [--profile profile-name]
```

### タスクの結果
CLI は、指定されたプロファイルを構成ファイルから削除します。

## 接続のリフレッシュ

指定されたプロファイルのインスタンスから利用可能なコマンドを更新します。CLI を最新の状態に保つために、対応するインスタンスのいずれかのコマンドを変更した後は接続を更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

名前付きプロファイルからの接続情報をリフレッシュするには、[--profile profile-name] 引数を含めます。引数を含めない場合、CLI はデフォルトのプロファイルをリフレッシュします。

```
$ snc configure profile refresh [--profile profile-name]
```

タスクの結果
CLI は指定された接続プロファイルのインスタンスに接続し、変更された可能性があるコマンドを更新します。

### ServiceNow CLI のヘルプ

利用可能なコマンド、コマンドオプション、例を表示するか、デバッグログ出力を生成します。

始める前に

- ServiceNow CLI をインストールする
- ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理
- 必要なロール：なし

このタスクについて
デバッグログ出力オプションに加えて、CLI は次の場所にあるログファイルにすべてのコマンド実行を記録します。

- Linux および Mac： ~/.snc/.logs。
- Windows：%USERprofile%\.snc\.logs。

手順

1. 利用可能なコマンドと引数を表示するには、システムのコマンドラインツールを開き、ヘルプを参照したいコマンドを入力し、続けて --help 引数を指定します。

   **Example**

   次の例では、使用可能なトップレベルのコマンドのヘルプを表示しています。

   ```
   $ snc --help
   ```

   **Example**

   次の例では、使用可能なプロファイル固有のコマンドを表示しています。

   ```
   $ snc configure profile --help
   ```

   CLI は、要求されたコマンドのヘルプを 8 つのセクションに分割して表示します。

   名前

   コマンドの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Name**
set

説明

コマンドの実行内容とその戻り値の説明。

**Description**
Configure connection profiles. This command is interactive and will prompt you for each configuration value.

概要

コマンドとそのオプションを使用するための基本的な構文。

**Synopsis**
snc configure profile set [arguments]

利用可能なコマンド

現在のコマンドグループで使用可能なコマンド。

**Available Commands**
list : Lists the configured connection profiles.
refresh : Updates the available commands from the instance for the given profile.
remove : Removes the specified connection profile.
set : Configures connection profiles in order to communicate with an instance.

コマンドグループ

現在のコマンドグループで使用可能なコマンドグループ。

**Command Groups**
profile : Set, view, and remove connection profiles.

引数

コマンドが受け入れる各引数の説明。

**Arguments**
-p, --profile string : Use a specific connection profile when executing a command.

グローバル引数

コマンドが受け入れるグローバル引数。

**Global Arguments**
-d, --debug Print logs to console.
-h, --help Display detailed help information.
-o, --output string Set the format for printing command output.

例

要求されるコマンドの例。

**Examples**
Create a new profile to save as the default:

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
$ snc configure profile set
  Host:
  Login method:
  Username:
  Password:
  Client id:
  Client secret:
```

2. デバッグログ出力を生成するには、システムのコマンドラインツールを開き、デバッグするコマンドに続けて `--debug` 引数を入力します。

**Example**

次の例では、操作を実行しようとすると、デバッグログ出力が生成されます。

```
$ snc record delete --table incident --sysid 552c48888c033300964f4932b03eb092 --debug
```

CLI は、コマンドを実行するとデバッグログ出力を生成します。

### ServiceNow CLI を使用したレコード操作の実行

ServiceNow CLI コマンドラインツールを使用して、インスタンスのレコードの作成、読み取り、更新、削除、クエリを行います。

#### 始める前に

- ServiceNow CLI をインストールする
- ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理

> **注:**
> レコード操作を実行するには、接続先のインスタンスの ServiceNow Store から CLI メタデータアプリケーションをインストールします。

#### レコードを作成

指定されたテーブルに単一のレコードを挿入します。

#### このタスクについて

> **注:**
> このコマンドを使用して複数のレコードを挿入することはできません。

#### 手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record create [--table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
|---|---|
| table | 必須です。レコードを保存するテーブルの名前。 |
| data | 必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
指定されたテーブルにレコードが作成され、新しいレコードのフィールドと値のペアが返されます。

**Example:**

```
$ snc record create --table incident, --data "{'short_description': 'Unable to open file',
 'impact':'3'}"
```

レコードは JSON 形式で返されます。


```
{
  "result": {
    "active": "true",
    "activity_due": "",
    "additional_assignee_list": "",
    "approval": "not requested",
    "approval_history": "",
    "approval_set": "",
    "assigned_to": "",
    "assignment_group": "",
    "business_duration": "",
    "business_service": "",
    "business_stc": "",
    "calendar_duration": "",
    "calendar_stc": "",
    "caller_id": "",
    "category": "inquiry",
    "caused_by": "",
    "child_incidents": "0",
    "close_code": "",
    "close_notes": "",
    "closed_at": "",
    "closed_by": "",
    "cmdb_ci": "",
    "comments": "",
    "comments_and_work_notes": "",
    "company": "",
    "contact_type": "",
    "contract": "",
    "correlation_display": "",
    "correlation_id": "",
    "delivery_plan": "",
    "delivery_task": "",
    "description": "",
    "due_date": "",
    "escalation": "0",
    "expected_start": "",
    "follow_up": "",
    "group_list": "",
    "hold_reason": "",
    "impact": "3",
    "incident_state": "1",
    "knowledge": "false",
    "location": "",
    "made_sla": "true",
    "notify": "1",
    "number": "INC0010005",
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "opened_at": "2021-01-27 22:49:11",
    "opened_by": {
      "link":
 "https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be
04be441",
      "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
    },
    "order": "",
    "parent": "",
    "parent_incident": "",
    "priority": "5",
    "problem_id": "",
    "reassignment_count": "0",
    "reopen_count": "0",
    "reopened_by": "",
    "reopened_time": "",
    "resolved_at": "",
    "resolved_by": "",
    "rfc": "",
    "route_reason": "",
    "service_offering": "",
    "severity": "3",
    "short_description": "Unable to open file",
    "sla_due": "",
    "state": "1",
    "subcategory": "",
    "sys_class_name": "incident",
    "sys_created_by": "admin",
    "sys_created_on": "2021-01-27 22:49:11",
    "sys_domain": {
      "link": "https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
      "value": "global"
    },
    "sys_domain_path": "/",
    "sys_id": "6a6a4f5cdbcae850d7055268dc9619d4",
    "sys_mod_count": "0",
    "sys_tags": "",
    "sys_updated_by": "admin",
    "sys_updated_on": "2021-01-27 22:49:11",
    "task_effective_number": "INC0010005",
    "time_worked": "",
    "universal_request": "",
    "upon_approval": "proceed",
    "upon_reject": "cancel",
    "urgency": "3",
    "user_input": "",
    "watch_list": "",
    "work_end": "",
    "work_notes": "",
    "work_notes_list": "",
    "work_start": ""
  }
}
```


### レコードの削除

指定されたテーブルから指定されたレコードを削除します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record delete [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
|---|---|
| table | 必須です。レコードを削除するテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。削除するレコードの sys_id。 |

**Example:**

```
$ snc record delete --table incident --sysid 552c48888c033300964f4932b03eb092
```

### レコードの取得

指定された sys_id に基づいて指定されたテーブルから単一のレコードを取得します。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record get [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
|---|---|
| table | 必須です。レコードの取得元のテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。取得するレコードの sys_id。 |

**Example:**

```
$ snc record get --table incident --sysid 552c48888c033300964f4932b03eb092
```

レコードは JSON 形式で返されます。


```
{
  "result": {
    "active": "true",
    "activity_due": "",
    "additional_assignee_list": "",
    "approval": "not requested",
    "approval_history": "",
    "approval_set": "",
    "assigned_to": "",
    "assignment_group": "",
    "business_duration": "",
    "business_service": "",
    "business_stc": "",
    "calendar_duration": "",
    "calendar_stc": "",
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "caller_id": {
      "link":
"https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/005d500b536073005e0addeeff
7b12f4",
      "value": "005d500b536073005e0addeeff7b12f4"
    },
    "category": "inquiry",
    "caused_by": "",
    "child_incidents": "0",
    "close_code": "",
    "close_notes": "",
    "closed_at": "",
    "closed_by": "",
    "cmdb_ci": "",
    "comments": "",
    "comments_and_work_notes": "",
    "company": "",
    "contact_type": "",
    "contract": "",
    "correlation_display": "",
    "correlation_id": "",
    "delivery_plan": "",
    "delivery_task": "",
    "description": "",
    "due_date": "",
    "escalation": "0",
    "expected_start": "",
    "follow_up": "",
    "group_list": "",
    "hold_reason": "",
    "impact": "3",
    "incident_state": "1",
    "knowledge": "false",
    "location": "",
    "made_sla": "true",
    "notify": "1",
    "number": "INC0010112",
    "opened_at": "2019-07-29 18:48:43",
    "opened_by": {
      "link":
"https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be
04be441",
      "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
    },
    "order": "",
    "parent": "",
    "parent_incident": "",
    "priority": "5",
    "problem_id": "",
    "reassignment_count": "0",
    "reopen_count": "0",
    "reopened_by": "",
    "reopened_time": "",
    "resolved_at": "",
    "resolved_by": "",
    "rfc": "",
    "route_reason": "",
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "service_offering": "",
    "severity": "3",
    "short_description": "Assessment :  ATF Assessor",
    "sla_due": "",
    "state": "1",
    "subcategory": "",
    "sys_class_name": "incident",
    "sys_created_by": "admin",
    "sys_created_on": "2019-07-29 18:49:28",
    "sys_domain": {
      "link": "https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
      "value": "global"
    },
    "sys_domain_path": "/",
    "sys_id": "552c48888c033300964f4932b03eb092",
    "sys_mod_count": "0",
    "sys_tags": "",
    "sys_updated_by": "admin",
    "sys_updated_on": "2019-07-29 18:49:28",
    "task_effective_number": "INC0010112",
    "time_worked": "",
    "universal_request": "",
    "upon_approval": "proceed",
    "upon_reject": "cancel",
    "urgency": "3",
    "user_input": "",
    "watch_list": "",
    "work_end": "",
    "work_notes": "",
    "work_notes_list": "",
    "work_start": ""
  }
}
```


自動翻訳

### レコードのクエリ

指定されたテーブルから複数のレコードを取得します。

#### 手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record query [--displayvalue displayValue --fields fields --limit limit --offset offset
 --query query --table table]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
|---|---|
| displayValue | 参照フィールドと選択フィールドの表示値をデータベースから取得するには、--displayvalue を含めます。実際の値を取得するためにこのパラメーターを含めないでください。 |
| フィールド | データベースから返すカンマで区切られたフィールド名のリストです。 |
| limit | 返されるレコードの最大数。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| offset | レコード取得を開始する開始レコードインデックス。この値を使用して、レコード取得をページネーションします。 |
| クエリ | 必須です。次の形式で結果セットをフィルタリングするために使用されるエンコードされたクエリ： `--query '<column_name><operator><value>'` |
| table | 必須です。レコードのクエリを実行するテーブルの名前。 |

**Example:**

```
$ snc record query --displayvalue --fields short_description,state --query
'123TEXTQUERY321=email' --table incident
```

CLI はクエリに一致するレコードを返します。

```
{
  "result": [
    {
      "short_description": "Unable to connect to email",
      "state": "Closed"
    }
  ]
}
```

### レコードを更新

指定されたレコードを指定されたデータ属性で更新します。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record update [--sysid sys_id --table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| table | 必須です。レコードを保存するテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。更新するレコードの sys_id。 |
| data | 必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。 |

**Example:**

```
$ snc record update --sysid 9ef81de2db0d6090d7055268dc961978 --table incident --data
"{'short_description': 'Email servers down', 'urgency':'1'}"
```

更新されたレコードのフィールドと値のペアが返されます。

```
{
  "result": {
    "active": "true",
    "activity_due": "",
    "additional_assignee_list": "",
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "approval": "not requested",
    "approval_history": "",
    "approval_set": "",
    "assigned_to": "",
    "assignment_group": {
      "link":
"https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/287ebd7da9fe198100f92cc8d1d2154e",
      "value": "287ebd7da9fe198100f92cc8d1d2154e"
    },
    "business_duration": "",
    "business_service": "",
    "business_stc": "",
    "calendar_duration": "",
    "calendar_stc": "",
    "caller_id": "",
    "category": "inquiry",
    "caused_by": "",
    "child_incidents": "0",
    "close_code": "",
    "close_notes": "",
    "closed_at": "",
    "closed_by": "",
    "cmdb_ci": "",
    "comments": "",
    "comments_and_work_notes": "",
    "company": "",
    "contact_type": "",
    "contract": "",
    "correlation_display": "",
    "correlation_id": "",
    "delivery_plan": "",
    "delivery_task": "",
    "description": "",
    "due_date": "",
    "escalation": "0",
    "expected_start": "",
    "follow_up": "",
    "group_list": "",
    "hold_reason": "",
    "impact": "2",
    "incident_state": "1",
    "knowledge": "false",
    "location": "",
    "made_sla": "true",
    "notify": "1",
    "number": "INC0010003",
    "opened_at": "2020-12-15 21:17:05",
    "opened_by": {
      "link":
"https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be04be441",
      "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
    },
    "order": "",
    "parent": "",
    "parent_incident": "",
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "priority": "2",
    "problem_id": "",
    "reassignment_count": "0",
    "reopen_count": "0",
    "reopened_by": "",
    "reopened_time": "",
    "resolved_at": "",
    "resolved_by": "",
    "rfc": "",
    "route_reason": "",
    "service_offering": "",
    "severity": "3",
    "short_description": "Email servers down",
    "sla_due": "",
    "state": "1",
    "subcategory": "",
    "sys_class_name": "incident",
    "sys_created_by": "admin",
    "sys_created_on": "2020-12-15 21:17:05",
    "sys_domain": {
      "link": "https://my-instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
      "value": "global"
    },
    "sys_domain_path": "/",
    "sys_id": "9ef81de2db0d6090d7055268dc961978",
    "sys_mod_count": "1",
    "sys_tags": "",
    "sys_updated_by": "admin",
    "sys_updated_on": "2021-01-27 22:56:33",
    "task_effective_number": "INC0010003",
    "time_worked": "",
    "universal_request": "",
    "upon_approval": "proceed",
    "upon_reject": "cancel",
    "urgency": "1",
    "user_input": "",
    "watch_list": "",
    "work_end": "",
    "work_notes": "",
    "work_notes_list": "",
    "work_start": ""
  }
}
```


自動翻訳

### **ServiceNow CLI** でのカスタムコマンドの作成

ServiceNow CLI でカスタムコマンドを作成して、コマンドラインからカスタムアプリケーションを管理します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ServiceNow CLI コマンドは、エンドポイント [sn_cl_metadata_end_point] テーブルのスクリプト化された REST エンドポイントにマッピングされます。スクリプト化された REST エンドポイントを定義してカスタムアプリケーションで機能を実行するか、既存の REST エンドポイントを使用できます。次に、CLI コマンドをマッピングして REST 呼び出しを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow CLI コマンドで REST エンドポイントを使用できるようにします。

   a. 移動先 コマンドラインインターフェイス **(CLI)** > エンドポイント.

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| リソースパス | 必須です。コマンドのマッピング先のインスタンス上のエンドポイントへのパス。受信 REST API またはスクリプト化された REST API へのパスを指定できます。例：api/now/table/{table}/{sysid}。詳細については、「利用可能な REST APIs」および「Scripted REST APIs」を参照してください。 |
| HTTP メソッド | 必須です。ユーザーが関連付けられたコマンドを実行するときに使用する HTTP メソッド。 |
| アプリケーション | エンドポイントの読み取り専用アプリケーションスコープです。 |

2. オプション: コマンドグループを作成します。
   または、既存のコマンドグループに新しいコマンドを追加することもできます。

   a. 移動先 コマンドラインインターフェイス **(CLI)** > コマンドグループ.

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 必須です。コマンドグループの名前。 |
| 親グループ | 親コマンドグループ。 |
| 参照グループ | 参照するコマンドグループ。たとえば、既存のコマンドグループのエイリアスとして新しいコマンドグループを作成できます。ユーザーが新しいコマンドグループを使用して参照したコマンドを呼び出すと、元のコマンドが実行されます。これにより、新しいコマンドと既存のコマンドの両方を含むカスタムアプリケーションに固有のコマンドグループを作成できます。 |
| 簡単な説明 | 必須です。コマンドグループの簡単な説明。 |
| 説明 | ユーザーがコマンドグループで `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドグループの説明。 |
| アプリケーション | コマンドグループの読み取り専用アプリケーションスコープ。 |
| 有効 | 選択すると、コマンドグループがアクティブになります。 |

3. コマンドを作成します。

   a. 移動先 コマンドラインインターフェイス **(CLI)** > コマンド.

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 必須です。コマンドの名前。 |
| コマンドグループ | 必須です。コマンドが属するコマンドグループ。 |
| 参照コマンド | 参照するコマンド。たとえば、既存のコマンドのエイリアスとして新しいコマンドを作成できます。ユーザーが新しいコマンドを呼び出すと、元のコマンドが実行されます。これにより、既存の機能を実行するカスタムアプリケーションに固有のコマンドを作成できます。<br>**注:**<br>コマンドは、別のコマンドを参照するコマンド、または子孫コマンド、先祖コマンド、またはコールバックコマンドを参照することはできません。 |
| API エンドポイント | 必須です。ユーザーがコマンドを実行するときに実行する API 呼び出し。 |
| 簡単な説明 | 必須です。コマンドの簡単な説明。 |
| アプリケーション | コマンドの読み取り専用アプリケーションスコープ。 |
| 有効 | 選択すると、コマンドがアクティブになります。 |
| コールバックコマンドである | true の場合、コマンドをコールバックコマンドとして指定します。CLI クライアントからのコマンドを非表示にして、ユーザーがコマンドラインからそのコマンドを呼び出せないようにするには、このオプションを選択します。<br>このフィールドは、プライマリコマンドの [コールバック] セクションで使用します。コールバックコマンドは、プライマリコマンドが完了すると実行されます。 |
| ヘルプテキスト | |
| 説明 | ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドの説明。 |
| 例 | ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドの例。 |
| 式 | |
| 成功の式 | サーバーからの応答を評価し、コマンドが成功したかどうかを判断するために使用される式。例：result.code = 1。 |
| 失敗の式 | サーバーからの応答を評価し、コマンドが失敗したかどうかを判断するために使用される式。 |
| メッセージ | |
| 成功メッセージ | コマンドが成功したときに CLI クライアントに表示されるメッセージ。 |
| 進行状況メッセージ | コマンドの処理中に CLI クライアントに表示されるメッセージ。 |
| 失敗メッセージ | コマンドが失敗したときに CLI クライアントに表示されるメッセージ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コールバック | |
| コールバック式 | コールバックコマンドを実行するかどうかを決定するために使用される式。たとえば、実行時間の長いプロセスをチェックする式を記述できます。式が特定の結果を生成すると、コールバックが実行されます。 |
| コールバックコマンド | [コールバック式] が満たされたときに実行するコマンド。[コールバックコマンドである] フィールドが選択されたコマンドである必要があります。 |
| コールバック間隔 | コールバックコマンドの実行間隔。<br><br>単位：ミリ秒<br><br>デフォルト：1,000 |
| 最大再試行回数 | コールバックコマンドを実行する最大回数。<br><br>デフォルト：10 |

**c.** [コマンド引数] 関連リストで、コマンドに必要なコマンド引数を作成します。

コマンド引数を作成して、ユーザーがコマンドの実行時にオプションを設定できるようにします。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 必須です。コマンド引数の名前 (例： `data`)。 |
| 短い名前 | コマンド引数の短い名前 (例：`d`)。 |
| データタイプ | 必須です。コマンド引数の想定されるデータタイプ。次のオプションが含まれます。<br>▪ 文字列：ユーザーが文字列を入力できるようにします。<br>▪ 整数：ユーザーが数値を入力できるようにします。<br>▪ ブーリアン：ユーザーが入力として `true` または `false` を入力できるようにします。<br>▪ ファイル入力：ユーザーが入力としてファイルをアップロードできるようにします。次のステップで、この引数を [API エンドポイント引数] 関連リストの本文の [パラメータータイプ] にマッピングします。ユーザーは、プレーンテキスト、YAML、JSON、または REST API で受け入れられる別のファイルタイプを渡すことができます。ユーザーが YAML ファイルを送信すると、CLI クライアントはデフォルトで JSON 形式にファイルを変換します。[前処理をスキップ **(Skip Pre-processing)**] フィールドを使用して、この動作を無効にします。<br>▪ パスワード：ユーザーがパスワードを安全に入力できるようにします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>ファイル入力データタイプの場合、ファイルサイズ制限はデフォルトで 10 MB です。ただし、*glide.rest.scripted.max_inbound_content_length_mb* システムのプロパティを使用してこの制限を変更できます。 |
| 前処理をスキップ (Skip Pre-processing) | CLI クライアントが YAML ファイルを要求で送信する前に JSON 形式に変換しないようにするには、このフラグを設定します。[データタイプ] が [ファイル入力] に設定されている場合、ユーザーが YAML ファイルを送信すると、デフォルトでは、CLI クライアントはコマンドを実行する前にファイルを JSON に変換します。<br>注:<br>[データタイプ] が [ファイル入力]に設定されている場合にのみ適用されます。 |
| デフォルト値 | ユーザーが値を渡さない場合に使用するデフォルト値。 |
| 簡単な説明 | 必須です。コマンド引数の簡単な説明。ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されます。 |
| アプリケーション | 引数の読み取り専用アプリケーションスコープ。 |
| コマンド | 必須です。引数の適用先のコマンド。 |
| 必須 | 選択した場合、ユーザーは関連付けられたコマンドを実行するときに引数の値を入力する必要があります。 |
| プロンプト | ユーザーからの情報を要求するためのプロンプト。ユーザーがコマンドに必要な引数を含めていない場合、CLI で情報の入力を求められます。 |
| 可視性の式 | CLI が引数を要求するかどうかを決定するために使用される式。通常、前の引数に指定された値に基づいて引数を表示するために使用されます。 |
| 順番 | 引数の入力を要求する順番。 |

**d.** [API エンドポイント引数] 関連リストで、コマンドに必要な任意の API エンドポイント引数を作成します。

[コマンド引数] 関連リストのコマンド引数を、REST エンドポイントのパラメーターにマッピングします。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 必須です。引数の名前。 |
| 値 | 必須です。REST エンドポイントに渡すコマンドの値。静的な値、または {flags.table} などの式を渡すことができます。コマンド引数にアクセスするには、flags グローバル変数を使用します。 |
| パラメータタイプ | 必須です。[値] を渡す REST エンドポイントのパラメーターのタイプ。たとえば、[本文] を選択すると、CLI は [値] フィールドの値 を REST エンドポイント本文に渡します。次のオプションが含まれます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ▪ 本文<br>▪ ヘッダー<br>▪ パス<br>▪ クエリ |
| アプリケーション | 引数の読み取り専用アプリケーションスコープ。 |
| コマンド | 必須です。引数の適用先のコマンド。 |

**e.** [戻り値] 関連リストで、コマンドに必要な戻り値を作成します。

応答から特定のキーのみを返す戻り値を作成します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| パス式 | 必須です。返すキーへのパスを表す式。 |
| エイリアス | 戻り値を割り当てる変数名。 |
| アプリケーション | コマンドの読み取り専用アプリケーションスコープ。 |
| コマンド | 必須です。戻り値が適用されるコマンド。 |

タスクの結果
ユーザーが ServiceNow CLI コマンドを実行すると、関連付けられた REST API 呼び出しが実行され、結果が ServiceNow CLI に返されます。

### ServiceNow CLI 拡張の管理

ServiceNow CLI に拡張を追加して、追加の機能やコマンドをロードしたり、既存の拡張を更新したり、不要になった拡張を削除したりします。

手順

**1.** 利用可能な拡張を検索します。

**a.** システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc extension list-available -o table
```

利用可能な拡張と関連付けられた詳細がリストされます。

```
NAME      DESCRIPTION                          VERSION         INSTALLED
-------------------------------------------------------------------------------
ui-component       Build and deploy components             19.0.0-alpha.15     false
```

**2.** 拡張をインストールします。

**a.** システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc extension add --name <extension-name>
```

**3.** オプション: 拡張を更新します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc extension update --name <extension-name>
```

4. オプション: 拡張を削除します。

a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc extension remove --name <extension-name>
```

### ServiceNow CLI の利用可能なコマンド

ベースシステム ServiceNow CLI で使用可能なコマンドとコマンド引数。

## グローバルコマンド引数

コマンド引数を使用して、任意の CLI コマンドのオプションを設定します。

--help

説明、サポートされている引数、例を含む、指定されたコマンドのヘルプ情報を提供します。詳細については、「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

```
$ snc --help
```

--debug

コマンドの実行時に、デバッグログ記録出力を提供します。詳細については、「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

```
$ snc record delete --table incident --sysid 552c48888c033300964f4932b03eb092
 --debug
```

--profile

コマンドに使用する名前付きプロファイルを指定します。詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

```
$ snc configure profile set --profile <profilename>
```

--output

コマンドに使用する出力形式を指定します。ServiceNow CLI は次の出力形式をサポートしています。

- `json`：出力は JSON としてフォーマットされます。これがデフォルトです。

```
{
  "default": {
    "appversion": "1.0.8",
    "host": "https://myinstance.service-now.com",
    "hostversion": "Paris",
    "loginmethod": "basic",
    "output": "json",
    "username": "admin"
  },
  "user1": {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "appversion": "1.0.8",
    "host": "https://otherinstance.service-now.com",
    "hostversion": "Paris",
    "loginmethod": "basic",
    "output": "yaml",
    "username": "admin"
  }
}
```

- yaml：出力は YAML としてフォーマットされます。YAML を使用して、YAML 形式の文字列を発行または使用するサービスおよびツールで出力を処理します。

```
default:
  appversion: 1.0.8
  host: https://myinstance.service-now.com
  hostversion: Paris
  loginmethod: basic
  output: json
  username: admin
user1:
  appversion: 1.0.8
  host: https://otherinstance.service-now.com
  hostversion: Paris
  loginmethod: basic
  output: yaml
  username: admin
```

- text：出力は、タブ区切りの文字列値の複数の行としてフォーマットされます。この出力は、grep、sed、awk などの従来の UNIX テキストツールと、PowerShell によって実行されるテキスト処理で使用します。

```
default  https://myinstance.service-now.com  Paris  1.0.8  basic  admin  json
user1  https://otherinstance.service-now.com  Paris  1.0.8  basic  admin
 yaml
```

- table：出力は、人間が判読可能な形式で情報が表示されるテーブルとしてフォーマットされます。

```
NAME  HOST  HOST  VERSION  APP  VERSION  LOGIN  METHOD
 USERNAME  OUTPUT
-------------------------------------------------------------------------------
default  myinstance  Paris  1.0.8  basic  admin  json
user1  otherinstance  Paris  1.0.8  basic  admin  yaml
```

- none：CLI は出力をコンソールに出力しません。成功、エラー、および進捗状況のメッセージは引き続き表示されます。

```
$ snc record query --table incident --query 'active=true' --output json
```

--no-interactive

CLI がユーザーに引数値の入力を要求しないようにします。ユーザーが必須引数の値を渡さない場合は、デフォルト値が使用されます。デフォルト値が定義されていない場合は、エラーがスローされます。

--no-verbose

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

コマンドはメッセージなしでサイレント実行されます。自動テストシナリオでは、この引数を使用します。

## プロファイルの設定

接続プロファイルを作成して、インスタンスへの接続、接続プロファイルの表示、接続および利用可能なコマンドの更新、不要になったプロファイルの削除を行います。 プロファイルの設定の詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

### デフォルトプロファイルの設定

ServiceNow CLI がデフォルトで使用する接続プロファイルを作成します。インスタンスとの CLI の初期接続を設定するには、デフォルトのプロファイルを作成する必要があります。

```
$ snc configure profile set
```

次の情報の入力を求められます。

| 要求された情報 | 説明 |
|---|---|
| ホスト | 接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。 |
| ログイン方法 | インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、OAuth、および OAuth + MFA をサポートします。 |
| ユーザー名 | インスタンスへの接続に使用するユーザー名。 |
| パスワード | インスタンスへの接続に使用するパスワード。 |
| クライアント ID | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。 |
| クライアントシークレット | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。 |
| 認証コード | ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。 |
| デフォルトの出力形式 | コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは json、yaml、text、および table です。 |

### 名前付きプロファイルの設定

特定のコマンドで使用する名前付き接続プロファイルを作成します。これにより、特定のコマンドに異なるインスタンスまたは接続プロトコルを指定できます。

```
$ snc configure profile set [--profile profile-name]
```

次の情報の入力を求められます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要求された情報 | 説明 |
| --- | --- |
| ホスト | 接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。 |
| ログイン方法 | インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、OAuth、および OAuth + MFA をサポートします。 |
| ユーザー名 | インスタンスへの接続に使用するユーザー名。 |
| パスワード | インスタンスへの接続に使用するパスワード。 |
| クライアント ID | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。 |
| クライアントシークレット | ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。 |
| 認証コード | ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。 |
| デフォルトの出力形式 | コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは json、yaml、text、および table です。 |

プロファイルの表示

構成ファイルに設定されているすべての接続プロファイルを表示するか、特定のプロファイルに関する情報を表示します。

```
$ snc configure profile list [--profile profile-name]
```

プロファイルの削除

不要になった名前付き接続プロファイルを構成ファイルから削除します。

```
$ snc configure profile remove [--profile profile-name]
```

プロファイルのリフレッシュ

指定されたプロファイルのインスタンスから利用可能なコマンドを更新します。CLI を最新の状態に保つために、対応するインスタンスのいずれかのコマンドを変更した後は接続を更新します。

```
$ snc configure profile refresh [--profile profile-name]
```

## レコード操作の実行

ServiceNow CLI コマンドラインツールを使用して、インスタンスのレコードの作成、読み取り、更新、削除、クエリを行います。 レコード操作の実行の詳細については、「 ServiceNow CLI を使用したレコード操作の実行」を参照してください。

レコードを作成

指定されたテーブルに単一のレコードを挿入します。

```
$ snc record create [--table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| table | 必須です。レコードを保存するテーブルの名前。 |
| data | 必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。 |

レコードの削除

指定されたテーブルから指定されたレコードを削除します。

```
$ snc record delete [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| table | 必須です。レコードを削除するテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。削除するレコードの sys_id。 |

レコードの取得

指定された sys_id に基づいて指定されたテーブルから単一のレコードを取得します。

```
$ snc record get [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| table | 必須です。レコードの取得元のテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。取得するレコードの sys_id。 |

レコードのクエリ

指定されたテーブルから複数のレコードを取得します。

```
$ snc record query [--displayvalue displayValue --fields fields --limit limit --offset
 offset --query query --table table]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| displayValue | 参照フィールドと選択フィールドの表示値をデータベースから取得するには、--displayvalue を含めます。実際の値を取得するためにこのパラメーターを含めないでください。 |
| フィールド | データベースから返すカンマで区切られたフィールド名のリストです。 |
| limit | 返されるレコードの最大数。 |
| offset | レコード取得を開始する開始レコードインデックス。この値を使用して、レコード取得をページネーションします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| クエリ | 必須です。次の形式で結果セットをフィルタリングするために使用されるエンコードされたクエリ： `--query '<column_name><operator><value>'` |
| table | 必須です。レコードのクエリを実行するテーブルの名前。 |

レコードを更新

指定されたレコードを指定されたデータ属性で更新します。

```
$ snc record update [--sysid sys_id --table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| table | 必須です。レコードを保存するテーブルの名前。 |
| sysid | 必須です。更新するレコードの sys_id。 |
| data | 必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。 |

## 拡張の操作

ServiceNow CLI に拡張を追加して、追加の機能やコマンドをロードしたり、既存の拡張を更新したり、不要になった拡張を削除したりします。詳細については、「ServiceNow CLI 拡張の管理」を参照してください。

利用可能な拡張の検索

```
$ snc extension list-available -o table
```

拡張のインストール

```
$ snc extension add --name <extension-name>
```

拡張の更新

```
$ snc extension update --name <extension-name>
```

拡張の削除

```
$ snc extension remove --name <extension-name>
```

## UI コンポーネント拡張の使用

UI コンポーネント拡張の追加

UI コンポーネントエクステンション を ServiceNow CLI に追加します。

```
$ snc extension add --name ui-component
```

プロジェクトの設定

コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントの開発に必要なファイルのセットを作成します。インスタンスに接続してコンポーネントのアプリケーションスコープを作成するか、後で検証するためにスコープを予約することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
$ snc ui-component project [--name name --description description --scope scope
 --offline]
```

これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| name | 必須です。プロジェクト名。有効な一意の npm パッケージ名である必要があります。 |
| 説明 | npm レジストリとインスタンスのプラグインリストで使用できるプロジェクトの説明。 |
| scope | このプロジェクトとそのコンポーネントにアサインする提案されたアプリケーションスコープ。指定されている場合、インスタンスは名前を検証します。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。<br><br>最大：18 文字。<br><br>ケース：スネークケース。<br><br>デフォルト：x_customerprefix_componentname、ここで：<br>• customerprefix は、インスタンスの *glide.appcreator.company.code* システムのプロパティの値です。<br>• componentname は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの name パラメーターで指定された値です。<br><br>または、now-ui.json ファイルで scopeName パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。 |
| offline | true の場合、インスタンスから切断されている間にコンポーネントを作成してスキャフォールディングします。指定されたスコープ名の検証をスキップします。<br><br>デフォルト値：false。 |

開発サーバーの実行

コンポーネントコードを追加し、ローカルの開発サーバーを使用してテストします。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port --host host]
```

これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| エントリー | コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。<br><br>デフォルト： example/index.js。 |
| open | デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | デフォルト値：false。 |
| port | 開発サーバーが実行されているポート。<br><br>デフォルト：8081。 |
| host | ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は 0.0.0.0 に設定します |

インスタンスへのコンポーネントの展開

アプリケーションプラグインとしてインスタンスに表示するコンポーネントを展開します。

```
$ snc ui-component deploy [--open --force]
```

これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| open | true の場合、デフォルトのブラウザーが開き、インスタンスの UI ビルダー に移動します。<br><br>デフォルト値：false |
| force | コンポーネントの変更を展開し、既存のコンポーネントレコードを上書きします。<br><br>デフォルト値：false。 |

**CMDB** アプリケーションの **CLI** および **API** とともにインストールされるコマンド

app-cmdb-api-cli プラグインがインストールされている場合に ServiceNow CLI で使用できるコマンドとコマンドグループ。

## ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

企業全体の自動化をサポートする重要な操作をスクリプト化するために、ユーザーインターフェイスを使用する代わりに、API を活用するか、CMDB アプリケーション CLI および API ストアアプリが提供するコマンドライン操作を実行できます。CMDB アプリケーション CLI および API ストアアプリは、アプリケーションサービスに関連するすべての API と、それらの API へのインターフェイスにアクセスできるようにするコマンドラインを統合する堅牢なフレームワークを提供します。

CMDB アプリケーションの CLI および API コマンドは、次のタスクを有効にします。

- アプリケーションサービスの登録と作成、およびアップストリームの関係の確立
- 指定されたアプリケーションサービスとそのアップストリームの関係の詳細の取得
- ビジネスアプリケーションやビジネスサービスオファリングなどの上位レベルの構成要素の接続

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 指定された入力タイプのアプリケーションサービスへの入力
- アプリケーションサービスのステータスの変更

REST API ソリューションについては、「SG サービス API」を参照してください。

## アプリケーションサービスへの変換

手動または空のタイプのアプリケーションサービスを計算されたアプリケーションサービスに変換します。変換中、アプリケーションサービスレコードは新しくアサインされたクラスとともに [cmdb_ci_service_calculated] テーブルに移動します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service convert --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| levels | 変換に含めるレベルの数。<br><br>データタイプ：文字列 |
| number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| sys_id | アプリケーションサービスの sys_id。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service convert --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","levels":8}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## アプリケーションサービス関係の作成

ビジネスアプリケーション、ビジネスサービスオファリング、その他のアプリケーションサービスなどのアップストリームの関係を構築します。 このコマンドを実行すると、1 つの親と対応する子オブジェクトを含む入力を取得して、関係が作成されます。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service create-relationship --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| child | 関係を作成する子アプリケーションサービスを特定する情報。アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブル内にある子。<br><br>動的 CI グループは子として追加できますが、親になることはできません。<br><br>データタイプ：オブジェクト<br><br>`"child": {`<br>`"<IRE field name>": "String",`<br>`"number": "String",`<br>`"sys_id": "String"`<br>`}` |
| child.<IRE field name> | 子アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| child.number | 子アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| child.sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされている子アプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |
| parent | 関係の作成に使用する親アプリケーションサービスを特定する詳細情報。<br><br>データタイプ：オブジェクト<br><br>`"parent": {`<br>`"<IRE field name>": "String",`<br>`"number": "String",`<br>`"sys_id": "String",`<br>`"class_name": "String"`<br>`}` |
| parent.<IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| parent.number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| parent.sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| parent.class_name | アプリケーションサービスを含むクラスの名前。<br><br>親クラス名は、次のいずれかのテーブルからのものである必要があります。<br>• cmdb_ci_service_auto<br>• cmdb_ci_service_discovered<br>• cmdb_ci_service_by_tags<br>• cmdb_ci_service_calculated<br>• service_offering<br>• cmdb_ci_business_app<br><br>デフォルト：cmdb_ci_service_auto<br><br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service create-relationship --data
 '{"child":{"name":"wdfsdf","environment":"Test","version":"1.0"},"parent":{"sys_id":
"abcdefg","name":"business App1","class_name":"service_offering"}}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## アプリケーションサービスの削除

アプリケーションサービスを削除します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service delete --data '{JSON}'
```

引数

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service delete --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## アプリケーションサービス関係の削除

アプリケーションサービスのアップストリームの関係を削除します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
snc service-graph app-service delete-relationship --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| child | サービスアプリケーションから削除する子の関係を説明する情報。<br><br>データタイプ：オブジェクト<br><br>`"child": {`<br>`"<IRE field name>": "String",`<br>`"number": "String",`<br>`"sys_id": "String"`<br>`}` |
| child.<IRE field name> | 子アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| child.number | 子アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| child.sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされている子アプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |
| parent | 関係の削除元となる親アプリケーションサービスを特定する詳細情報。<br><br>データタイプ：オブジェクト<br><br>`"parent": {`<br>`"<IRE field name>": "String",`<br>`"number": "String",`<br>`"sys_id": "String",`<br>`"class_name": "String"`<br>`}` |
| parent.<IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| | データタイプ：文字列 |
| parent.number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br>データタイプ：文字列 |
| parent.sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br>データタイプ：文字列 |
| parent.class_name | アプリケーションサービスを含むクラスの名前。<br>親クラス名は、次のいずれかのテーブルからのものである必要があります。<br>• cmdb_ci_service_auto<br>• cmdb_ci_service_discovered<br>• cmdb_ci_service_by_tags<br>• cmdb_ci_service_calculated<br>• service_offering<br>• cmdb_ci_business_app<br>デフォルト：cmdb_ci_service_auto<br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service delete-relationship --data '{"child":{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"},"parent":{"name":"business
 Service Offering1","class_name":"service_offering"}}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## アプリケーションサービスの検索

指定されたアプリケーションサービスとそのアップストリームの関係の詳細を検索します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

app_service_admin – このロールは、アプリケーションサービスを無制限に表示できます。

app_service_user – このロールは、運用ステータスのアプリケーションサービスのみを表示できます。

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service find --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service find --data '{"name" : "Test App Service1"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
    "aliases": null,
    "asset": null,
    "asset_tag": null,
    "assigned": "",
    "assigned_to": null,
    "assignment_group": null,
    "attestation_score": null,
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
"attested": "0",
"attested_by": null,
"attested_date": "",
"attributes": null,
"bucket": null,
"business_contact": null,
"business_need": null,
"business_relation_manager": null,
"business_unit": null,
"busines_criticality": "4 - not critical",
"can_print": "0",
"category": null,
"change_control": null,
"checked_in": "",
"checked_out": "",
"checkout": null,
"comments": null,
"company": null,
"compatibility_dependencies": null,
"consumer_type": "internal",
"correlation_id": null,
"cost": null,
"cost_cc": "USD",
"cost_center": null,
"delivery_date": "",
"delivery_manager": null,
"department": null,
"discovery_source": "Manual Entry",
"dns_domain": null,
"due": "",
"due_in": null,
"duplicate_of": null,
"end_date": "",
"environment": null,
"fault_count": "0",
"first_discovered": "2021-07-19 20:09:48",
"fqdn": null,
"gl_account": null,
"hide_from_dashboard": "0",
"install_date": "",
"install_status": "1",
"invoice_number": null,
"ip_address": null,
"justification": null,
"last_discovered": "2021-07-19 20:09:48",
"last_review_date": "",
"layer": null,
"lease_id": null,
"life_cycle_stage": null,
"life_cycle_stage_status": null,
"location": null,
"mac_address": null,
"maintenance_schedule": null,
"managed_by": null,
"managed_by_group": null,
"manufacturer": null,
"model_id": null,
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
"model_number": null,
"monitor": "0",
"monitoring_requirements": null,
"name": "Test App Service1",
"number": "SNSVC0001014",
"operational_status": "2",
"order_date": "",
"owned_by": null,
"parent": null,
"portfolio_status": "pipeline",
"po_number": null,
"prerequisites": null,
"price_model": "per_unit",
"price_unit": null,
"published_ref": null,
"purchase_date": "",
"schedule": null,
"serial_number": null,
"service_classification": "Application Service",
"service_level_requirement": null,
"service_owner_delegate": null,
"service_status": "requirements",
"severity": null,
"short_description": null,
"skip_sync": "0",
"sla": null,
"spm_service_portfolio": null,
"spm_taxonomy_node": null,
"stakeholders": null,
"start_date": "",
"state": null,
"subcategory": null,
"supported_by": null,
"support_group": null,
"sys_class_name": "cmdb_ci_service_auto",
"sys_class_path": "/!!/!7/!(",
"sys_created_by": "admin",
"sys_created_on": "2021-07-19 20:09:48",
"sys_domain": "global",
"sys_domain_path": "/",
"sys_id": "a2f0618040697410f87713b656474255",
"sys_mod_count": "0",
"sys_updated_by": "admin",
"sys_updated_on": "2021-07-19 20:09:48",
"unit_description": null,
"unverified": "0",
"used_for": "Production",
"user_group": null,
"vendor": null,
"version": null,
"view_service": "61e1cb757f23220002d31ccebefa9120",
"warranty_expiration": "",
"relationships": [
 {
  "name": "Test Biz App1",
  "sys_id": "0250a94040697410f87713b656474250",
  "number": "APM0001001",
```


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "class_name": "cmdb_ci_business_app",
      "relationship": "Consumes::Consumed by"
    },
    {
      "name": "Tech Service Offering1",
      "sys_id": "98d0ed4040697410f87713b6564742ef",
      "number": "BSN0001005",
      "class_name": "service_offering",
      "relationship": "Contains::Contained by"
    }
  ]
 }
}
```

## アプリケーションサービスの入力

サービスの作成方法を使用して、アプリケーションサービスを設定します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

### 必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

### コマンド構造

```
snc service-graph app-service populate --data '{JSON}'
```

### 引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| 番号 | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | データタイプ：文字列 |
| population_method | 必須です。入力するコンテンツを識別するための入力方法とそれに付随するプロパティを識別します。<br><br>タイプごとに 1 つの付随オブジェクトのみが有効です。<br><br>データタイプ：オブジェクト |
| population_method.group_id | cmdb_group 入力タイプで構成された CMDB グループのグループ ID。<br><br>データタイプ：「文字列」<br><br>`"population_method": {`<br>`"group_id": "String",`<br>`"type": "cmdb_group"`<br>`}`<br><br>関連付けられた入力タイプ：cmdb_group |
| population_method.levels | サービスの構築に使用するレベルの数。レベル値が指定されていない場合、システムは値の sys_property をチェックします。svc.manual.convert.levels.default_value が入力されていない場合は、デフォルト値の 3 が使用されます。<br><br>データタイプ：数値<br><br>`"population_method": {`<br>`"levels": Number,`<br>`"type": "dynamic_service"`<br>`}`<br><br>関連する入力タイプ：dynamic_service<br><br>デフォルト：sys_property にレベル値が設定されていない場合は 3 |
| population_method.service_candidate | サービス候補の一意の識別子。<br><br>データタイプ：文字列<br><br>`"population_method": {`<br>`"service_candidate": "String",`<br>`"type": "tag_based_service_family"`<br>`}`<br><br>関連する入力タイプ：tag_based_service_family |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| population_method.service_relations | アプリケーションサービス内の CI の階層データを含むオブジェクトのリスト。すべての CI は親および子 CI とのペアを形成します。アプリケーションサービスのエントリーポイントと呼ばれるトップレベル CI には親 CI がありません。<br><br>データタイプ：アレイ<br><br>`"population_method": {`<br>`"service_relations":[`<br>`{`<br>`"child": "String",`<br>`"parent": "String"`<br>`}`<br>`],`<br>`"type": "service_hierarchy"`<br>`}`<br><br>関連する入力タイプ： service_hierarchy |
| population_method.service_relations.child | CI に関連する子 CI の名前。<br><br>データタイプ：文字列 |
| population_method.service_relations.parent | CI に関連する親 CI の名前。<br><br>データタイプ：文字列 |
| population_method.tags | CI に関連付けるタグを含むオブジェクトのリスト。この情報は、キー値 [cmdb_key_value] テーブルにあります。<br><br>データタイプ：アレイ<br><br>`"population_method": {`<br>`"tags": [`<br>`{`<br>`"tag": "String",`<br>`"value": "String"`<br>`}`<br>`],`<br>`"type": "tag_list"`<br>`}`<br><br>関連付けられた入力タイプ：tag_list |
| population_method.tags.tag | タグ名。<br><br>データタイプ：文字列 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| population_method.tags.value | タグ値。<br>データタイプ：文字列 |
| population_method.type | 必須です。アプリケーションサービスに追加する入力タイプ。<br>データタイプ：オブジェクト<br>有効な値：<br>• cmdb_group<br>• service_hierarchy<br>• dynamic_service<br>• tag_list<br>• tag_based_service_family |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service populate --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","population_method":{"group_id":"S
tring","type":"cmdb_group"}}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## アプリケーションサービスの登録

アプリケーションサービス、タグを作成し、ビジネスアプリケーション、ビジネスサービスオファリング、その他のアプリケーションサービスなどのアップストリームの関係を構築します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

コマンド構造

```
snc service-graph app-service register --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| number | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| relationships | タイプ別に分類されたアップストリームの関係。<br><br>データタイプ：オブジェクト<br><br>`"relationships": {`<br>`"business_app": [Array],`<br>`"business_service_offering": [Array],`<br>`"parent_app_service": [Array],`<br>`"technical_service_offering": [Array]`<br>`}`<br><br>関係の最大数は 25 です。 |
| relationships.business_app | ビジネスアプリケーション関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のいずれかのアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。<br>• <IRE field name><br>• number<br>• sys_id<br><br>データタイプ：アレイ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| relationships.business_service_offering | ビジネスサービスオファリング関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。<br>• <IRE field name><br>• number<br>• sys_id<br>データタイプ：アレイ |
| relationships.parent_app_service | アプリケーションサービス関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。<br>• <IRE field name><br>• number<br>• sys_id<br>データタイプ：アレイ |
| relationships.technical_service_offering | テクニカルサービスオファリング関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。<br>• <IRE field name><br>• number<br>• sys_id<br>データタイプ：アレイ |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br>データタイプ：文字列 |
| tags | キーと値のペアとしてのタグ定義を含むオブジェクトのリスト。<br>`"tags": [ { "key": "String", "value": "String" }]` |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| | データタイプ：アレイ |
| tags.key | タグカテゴリ名。<br>データタイプ：文字列 |
| tags.value | タグ値。<br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service register --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","number":"
 SNSVC0001014","relationships":{"business_application":[{"sys_id":"0250a9404069
7410f87713b656474250"},{"number":"APM0001002"},{"name":"Test Biz
 App1"}],"business_service_offering":[{"sys_id":"ed32e98040697410f87713b656474
259"}],"technical_service_offering":[{"sys_id":"80e12d8040697410f87713b6564742
1c"},{"number":"BSN0001005"},{"name":"Tech Service
 Offering2"}],"parent_app_service":[{"sys_id":"a2f0618040697410f87713b65647425
5"}]},"tags":[{"key":"key1","value":"value1"},{"key":"key2","value":"value2"}]}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
    "app_service": {
      "sys_id": "99b2a54040697410f87713b6564742ad",
      "name": "Test Register",
      "number": "SNSVC0001014"
    },
    "message": "Service registered successfully",
    "status": "INSERT"
  }
}
```

## アプリケーションサービスの更新

提供された既存のアプリケーションサービスを更新し、指定されたアプリケーションサービスのタグを作成します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
snc service-graph app-service update --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <fields or tags to update> | キーと値のペアを使用して、更新する各フィールドまたはタグを特定します。<br><br>基本的な情報のみを更新できます。アップストリームの関係は更新できません。<br><br>データタイプ：文字列 |
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br><br>データタイプ：文字列 |
| 番号 | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br><br>データタイプ：文字列 |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br><br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service update --data '{"name": "Test Register", "version":
 "2.0"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
    "sys_id": "99b2a5404069741 0f87713b6564742ad",
    "name": "Test Register",
    "number": "SNSVC0001014",
    "version": "2.0"
  }
}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーションサービスステータスの更新

アプリケーションサービスのライフサイクルステータスをアクティブ化、非アクティブ化、または廃止に変更します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

### 必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

### コマンド構造

```
snc service-graph app-service update-state --data '{JSON}'
```

### 引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

**JSON** オブジェクトのプロパティ

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <IRE field name> | アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。<br>データタイプ：文字列 |
| 番号 | アプリケーションサービスを特定する一意の番号。<br>データタイプ：文字列 |
| state | 必須です。アプリケーションサービスのライフサイクルステータス。これらの値は、アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブル内で更新されます。<br>有効な値：<br>• ACTIVATE – ライフサイクルが運用中で、使用中です。<br>◦ operational_status=Operational<br>◦ life_cycle_stage=Operational<br>◦ life_cycle_stage_status=In Use<br>• DEACTIVATE – ライフサイクルが運用されておらず、設計段階です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**JSON** オブジェクトのプロパティ (続く)

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ operational_status=Non-Operational<br>○ life_cycle_stage=Design<br>○ life_cycle_stage_status=Build<br>• 廃止 – 提供終了。<br>○ operational_status=Retired<br>○ life_cycle_stage=End Of Life<br>○ life_cycle_stage_status=Retired<br>データタイプ：文字列 |
| sys_id | アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。<br>データタイプ：文字列 |

例

```
snc service-graph app-service update-state --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"}'
```

戻り値

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

## を使用してクリーンな **ERP** コアを作成 **Now Platform**

を使用してERP キャンバス従来の ERP (Enterprise Resource Planning) システムにアクセスし、()ERP-CM を使用してERP Customization Miningカスタマイズを特定します。その後、(AES) フローデザイナー などのApp Engine Studio追加のNow Platformアプリを使用して、ERP データを整理および再プラットフォーム化できます。

ERPシステムの可能性を最大限に引き出す

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上に構築されたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

## アプリの統合 **ERP** キャンバス と **ERP-CM** 再プラットフォーム化のメリットを組み合わせる

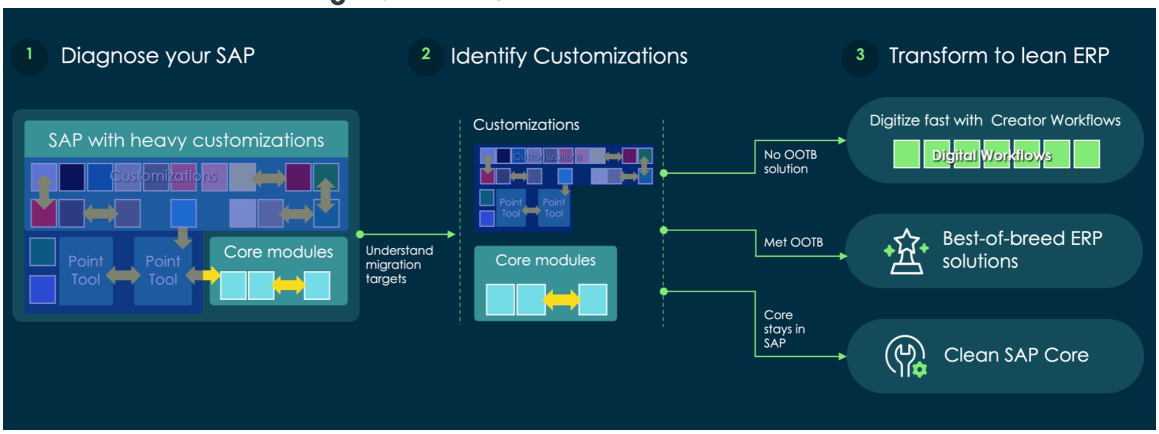
SAP などの従来の SoR には、新しいバージョンの SoR に移行するためにより多くの時間と労力を必要とする、古くて複雑なカスタムコードとデータが含まれている場合があります。ERP キャンバス と ERP-CM を使用して SoR をスキャンし、カスタムコードを見つけてデジタル化されたワークフローに置き換えることで、クリーンな ERP コアを実現します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**ERP Customization Mining** とクリーンなコア




レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベース管理者と開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

再プラットフォーム化されたデータはすぐに利用でき、管理しやすいテーブルやアプリに反映されます。ユーザーはデータベース管理者に情報を要求して数週間待つ必要がなくなります。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

## および のワークフロー **ERP** キャンバス**ERP-CM**

ERP キャンバスソリューション統合コンサルタントは、AND ERP-CM を併用することで、次のワークフローを実装できます。

1. 管理者にアプリ 接続情報と認証情報 を使用して、ERP 記録システムに接続 ERP キャンバス するための資格情報を構成してもらいます。詳細については、「Connections and Credentials」を参照してください。
2. 構成した接続および資格情報エイリアスを使用して、ERP キャンバス で ERP システムを作成します。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」を参照してください。
3. で ERP キャンバス、開発インスタンスで ERP システム、ERP モデル、およびテーブルを構築します。
   a. SoR 内の指定された ERP モジュールで利用可能なテーブルとフィールドをスキャンする ERP モデルを作成またはクローンします。抽出テーブルとリモートテーブルで使用する ERP モデルのテーブルとフィールドに注意してください。詳細については、「ERP キャンバス での ERP モデルのクローン」を参照してください。
   b. ERP モデルに追加のデータを含めるための新しいテーブル、フィールド、および結合条件を追加します。

   **注:**

   リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

   - リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
   - 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

   詳細については、以下を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ERP モデルへのテーブルの追加
- ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加

**c.** でアプリ App Engine Studioを構築する場合などに、リモートテーブルを構築してカスタマイズし、データソースとして使用できるようにします。詳細については、以下を参照してください。

- ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集
- ERP キャンバス で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
- ERP キャンバス を使用したリモートテーブルのクエリ

**d.** ETL 抽出テーブルを使用して、SoR を定期的にスキャンし、データをステージングテーブルに抽出します。

- サポートされている国ごとに 1 つずつなど、必要に応じて個別の抽出テーブルを作成します。詳細については、「ERP キャンバス でのデータの抽出と変換」を参照してください。
- 最初に、(SoR 上の) ソーステーブルを Now Platform の Glide テーブルに接続するテーブル変換マップを作成する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。
- 抽出プロセスは、それらを使用する ServiceNow アプリで構成されます 。たとえば、フローデザイナー です。
- 抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「Import sets」を参照してください。

**4.** を使用してモダナイズおよび再プラットフォーム ERP-CM化するための従来の ERP システムのカスタマイズを特定します。

**5.** ERP キャンバス準備ができたら、システム、ERP モデル、テーブルを本番環境に移動します。詳細については、「ERP キャンバス で ERP 開発パイプラインを管理する」を参照してください。

**a.** 顧客と面談し、顧客の ERP SoR で ERP Customization Mining を使用して分析を実行することに同意します。

**b.** ERP キャンバス を使用して、顧客の ERP SoR を ServiceNow インスタンスに接続します。

> **注:**
> ほとんどの顧客は独自のインスタンスを持っています。

ERP-CM は、ERP キャンバス で構成されたシステム接続を使用します。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの操作」を参照してください。

**c.** 前のワークフローステップで指定した利用可能なリモートテーブルのフィールドから ERP モデルを構築するために使用します ERP キャンバス 。

**d.** ERP Customization Mining を実行して候補を検索します。候補は、ServiceNow アプリで置き換えることができる、SoR 内のカスタムコードです。詳細については、「ERP-CM で候補の概要を参照する」を参照してください。

**e.** 再プラットフォーム化する候補を選択します。詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。

**f.** ERP-CM 内の候補の詳細を、候補に関連するコメントを入力して添付ファイルを保存する中心的な場所として使用します。詳細については、「ERP-CM で候補の詳細を表示して操作する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. 候補の詳細で、再プラットフォーム化された単一アプリに結合できる類似の候補を特定します。詳細については、「ERP-CM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください 。

h. ERP キャンバス に戻って、リモートテーブルと抽出テーブルを使用してデータモデルの構築を続行します。必要なすべてのデータが Now Platform で利用可能であることを確認します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。

6. Now Platform でアプリを構築するときには、次のような、データソースとして使用できる ERP データを使用します。
   - App Engine Studio：詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。
   - フローデザイナー：詳細については、「Flow Designer data」を参照してください。
   - テーブルビルダー：詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。
   - UI ビルダー：詳細については、「UI Builder ページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
   - ワークスペースビルダー：詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。
7. お好みの分析ツールで適用可能な測定基準とパラメーターを使用して、新しいアプリのパフォーマンスを測定および監視します。

## とのデータ連携 **ERP** キャンバス の要件 **ERP-CM**

1. インストール ERP キャンバス の要件は次のとおりです。
   - 有効なライセンス
   - Now Platform プラグイン
   - MID サーバー構成
   - スポークの統合
   - SAP 構成

   詳細については、「ERP キャンバス のインストール要件」を参照してください。
2. インストール ERP-CM の要件は次のとおりです。
   - ライセンスと資格付与。詳細については、「ERP キャンバス のインストール」を参照してください。
   - Now Platform プラグイン。詳細については、「ERP キャンバス のインストール」を参照してください。
   - SAP 構成。詳細については、「SAP を ERP-CM 用に構成する」を参照してください。

## **ERP** キャンバスと の開始**ERP-CM**

以下のタスクを開始 ERP キャンバス して ERP-CM 完了してください。

1. ERP キャンバス をインストールして設定します。詳細については、「ERP キャンバス の構成」を参照してください。
2. ERP-CM をインストールして設定します。詳細については、「ERP Customization Mining の構成」を参照してください。
3. 次のような、ERP データを使用する追加の Now Platform アプリとビルダーをインストールして構成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- App Engine Studio のインストール
- Configuring Flow Designer
- テーブルビルダー の詳細
- Getting started with Process Automation
- UI Builder クイックスタート
- Workflow Studio
- ワークスペースビルダー

## ERP キャンバス

ERP キャンバス (エンタープライズリソースプランニング) は ServiceNow のスコープ対象アプリで、SAP など、SoR の ERP データの使用を簡素化できます。

ERP キャンバスと App Engine

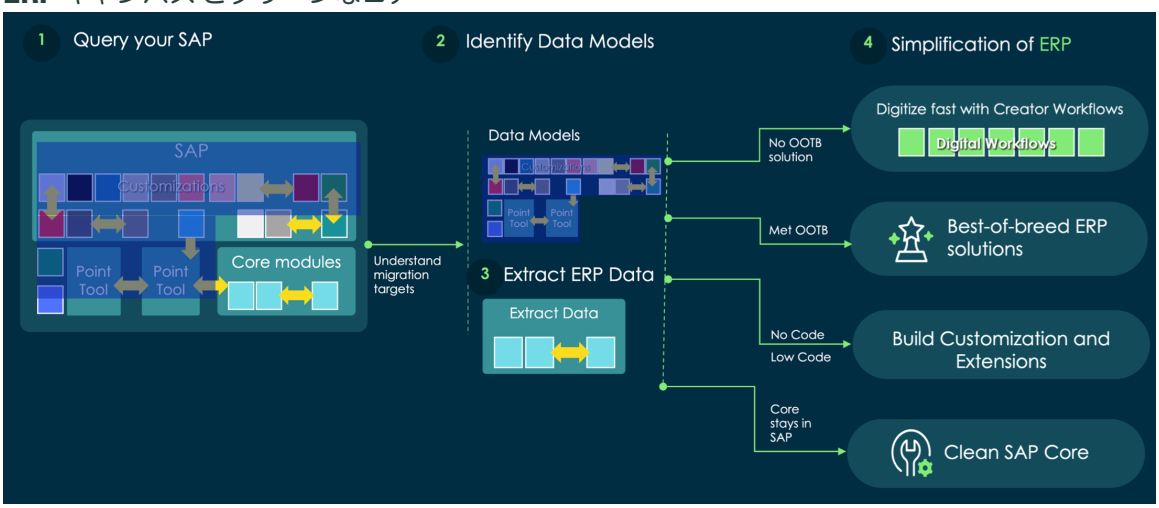
ERP キャンバス は ERP モデルを使用して、Now Platform のデータを整理します。 ERP モデルは、特定のビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された独自の機能セットを表します。ERP モデルには、SoR の複数のテーブルと、API および ETL プロセスが含まれ、全体的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

SAP などの従来の SoR には、新しいバージョンの SoR に移行するためにより多くの時間と労力を必要とする、古くて複雑なカスタムコードとデータが含まれている場合があります。ERP キャンバス と ERP-CM を使用して SoR をスキャンし、カスタムコードを見つけてデジタル化されたワークフローに置き換えることで、クリーンな ERP コアを実現します。

ERP アプリのデータ基盤として ERP モデルを使用します。これらのモデルには、リモートテーブルと抽出テーブルの ERP システムデータが含まれます。ERP モデルを作成すると、抽出されたそのデータと変換されたデータを使用して、ERP モデルにアクセスする App Engine Studio などのアプリをすばやく構築できます。

レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベース管理者と開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

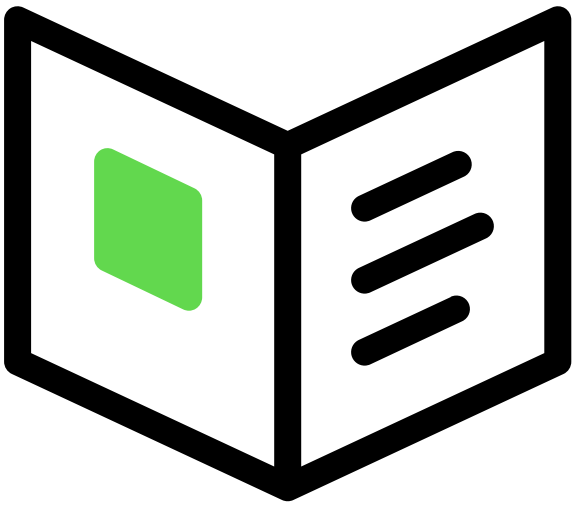
**ERP** キャンバス とクリーンなコア




自動翻訳

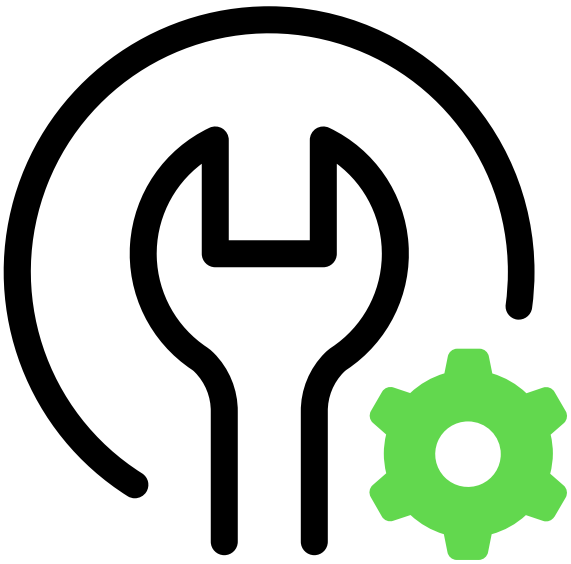
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索



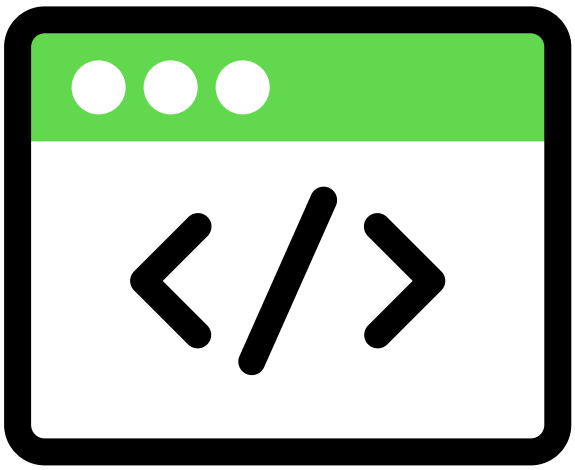
概念と機能について説明します ERP キャンバス 。

構成



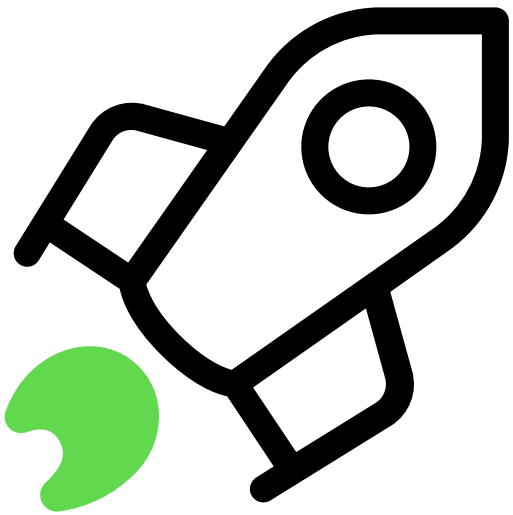
リモートテーブルと接続をインストールして構成します ERP キャンバス 。

勤務先



ERP キャンバスリモートテーブルと抽出テーブルを使用して ERP モデルを構築します。

参照



テーブルや用語などのコンポーネントの詳細 ERP キャンバス を取得します。

自動翻訳

## ストアで **ERP** キャンバス を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ト情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ERP キャンバス を使用する前に、まず ServiceNow Store からアプリケーションをダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、ERP キャンバス がインスタンスに表示される前にローカルキャッシュのクリアが必要な場合があります。

## ERP キャンバス のヘルプ

ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

会社の顧客管理者にお問い合わせください

### ERP キャンバス の詳細

ERP キャンバス を使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続し、リモートテーブルと抽出テーブルにデータを抽出して Now Platform で使用することができます。

## ERP キャンバス の概要

ERP キャンバス は ServiceNow 内のプラットフォームとして機能し、ERP システムの統一データモデルが提供されます。ERP キャンバス を使用すると、ERP モデル内でグループ化された標準フィールドとカスタムフィールドの両方を含むテーブルを管理できます。 データセットのサイズや更新のニーズに応じて、これらの ERP テーブルからデータを抽出し、リモートテーブルや抽出テーブルに格納できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
- 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

Now Platform の統合データモデルにより、ERP データが Now Platform にシームレスに統合され、ユーザーは効率的かつ簡単にビジネスデータにアクセスして使用できます。ERP キャンバス によって ERP データ管理は簡素化され、Now Platform や ServiceNow のインスタンス内でデータにアクセスして実行できるようになります。

> **注:**
> ERP キャンバス は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

ERP キャンバス で利用可能なリモートテーブルのリストについては、「ERP キャンバス の標準リモートテーブル」を参照してください。

## ERP キャンバス のワークフロー

1. 管理者は 接続情報と認証情報 アプリを使用して、ERP SoR に接続するための資格情報を構成します。詳細については、「Connections and Credentials」を参照してください。
2. 構成した接続および資格情報エイリアスを使用して、ERP キャンバス で ERP システムを作成します。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」を参照してください。

> **注:**
> 残りのワークフローの手順は ERP キャンバス にあります。開発インスタンスで ERP システム、ERP モデル、およびテーブルを構築し、準備ができたらそれらを本番インスタンスに昇格させます。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. SoR 内の指定された ERP モジュールで利用可能なテーブルとフィールドをスキャンする ERP モデルを作成またはクローンします。抽出テーブルとリモートテーブルで使用する ERP モデルのテーブルとフィールドに注意してください。詳細については、「ERP キャンバス での ERP モデルのクローン」を参照してください。
4. ERP モデルに追加のデータを含めるための新しいテーブル、フィールド、および結合条件を追加します。詳細については、以下を参照してください。
   - ERP モデルへのテーブルの追加
   - ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加
5. App Engine Studio でアプリを構築する場合などに、リモートテーブルを操作してデータソースとして使用できるようにします。詳細については、以下を参照してください。
   - ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集
   - ERP キャンバス で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
   - ERP キャンバス を使用したリモートテーブルのクエリ
6. ETL 抽出テーブルを使用して、SoR を定期的にスキャンし、データをステージングテーブルに抽出します。
   - サポートされている国ごとに 1 つずつなど、必要に応じて個別の抽出テーブルを作成します。詳細については、「ERP キャンバス でのデータの抽出と変換」を参照してください。
   - 最初に、(SoR 上の) ソーステーブルを Now Platform の Glide テーブルに接続するテーブル変換マップを作成する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。
   - 抽出プロセスは、それらを使用する ServiceNow アプリで構成されます 。たとえば、フローデザイナー です。
   - 抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「Import sets」を参照してください。
7. ERP システム、ERP モデル、テーブルの準備ができたら、本番環境に移行します。詳細については、「ERP キャンバス で ERP 開発パイプラインを管理する」を参照してください。
8. Now Platform でアプリを構築するときには、次のような、データソースとして使用できる ERP データを使用します。
   - App Engine Studio：詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。
   - フローデザイナー：詳細については、「Flow Designer data」を参照してください。
   - プレイブック：詳細については、「Getting started with Process Automation」を参照してください。
   - テーブルビルダー：詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。
   - UI ビルダー：詳細については、「UI Builder ページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
   - ワークスペースビルダー：詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# ERP キャンバス のメリット

**ERP** キャンバス の主な特長

| メリット | 機能 | ロール |
| --- | --- | --- |
| SoR への接続を構成する | ERP キャンバス での ERP システムの操作 | sn_erp_integration.erp_admin |
| ミラーリングされた ERP データを整理するための ERP モデルを構築する | ERP データを操作する ERP モデルの構築 | sn_erp_integration.erp_admin |
| リモートテーブルを操作し、クエリを実行して SoR の ERP データを表示する | ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの使用 | • リモートテーブルを変更するには: sn_erp_integration.erp_admin<br>• リモートテーブルを読み込むには:sn_erp_integration.erp_user |
| 標準リモートテーブルへのアクセス | ERP キャンバス の標準リモートテーブル | • sn_erp_integration.erp_user<br>• 追加のテーブル固有ロールが必要です。詳細については、「ERP キャンバス ロール」を参照してください。 |
| ERP システムからカスタムデータを定期的にプルするように抽出テーブルを構成する | ERP キャンバス でのデータの抽出と変換 | sn_erp_integration.erp_admin |

自動翻訳

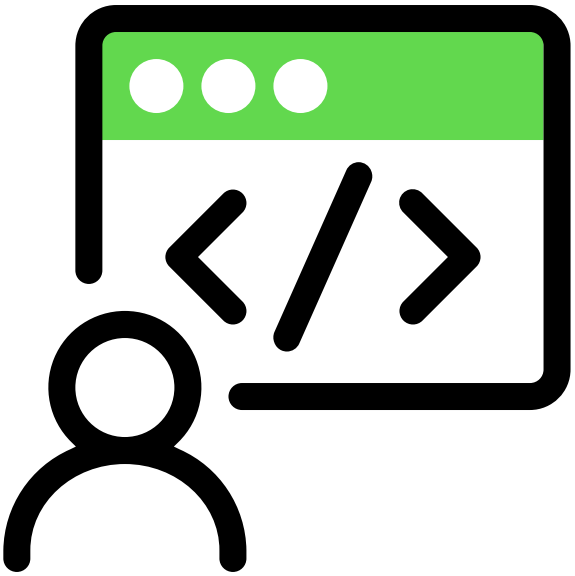
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# ERP キャンバス のその他のリソース

| ERP キャンバス に関する詳細 | ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ERP キャンバスServiceNowは、SAP などの記録システムの ERP データを簡素化して使用できるようにするアプリです。 | <br>の ERP Clean Core with App Engine の概要 ServiceNow University<br>注:<br>このリソースにアクセスするには、にログイン ServiceNow University する必要があります。<br> <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ERP キャンバス に関する詳細 | ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  ビデオ: ERP システムの可能性を最大限に引き出す |

**ERP** キャンバス を使用して **ERP** システムからデータを抽出した後の次の手順

ERP キャンバス で ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを識別して抽出した後に、そのデータを Now Platform で製品およびアプリのデータソースとして使用できます。

## **ERP** データを使用する **ServiceNow** アプリの構築

SoR の ERP データは、ERP キャンバス で構成するリモートテーブルと ERP 抽出テーブルで使用できます。テーブル変換マップを使用して、抽出された ERP データを Glide テーブルに格納することもできます。

ERP データが Now Platform のテーブルで使用可能になると、それらのテーブルをアプリビルダーの基盤として使用できます。たとえば、App Engine Studio でデータを追加するときに、ERP テーブルをデータソースとして使用できます。詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。

## **ServiceNow** ローコードおよびプロコードビルダー

カスタムデータを使用してアプリを作成するには、次の ServiceNow ビルダーのいずれかを使用します。

- App Engine Studio
- フローデザイナー
- Playbooks
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

## **Glide** を使用した **ERP** データのクエリ

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

詳細については、「ERP キャンバス での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ」を参照してください。

### ERP キャンバス で ERP 開発パイプラインを管理する

ERP システム、ERP モデル、テーブルの準備ができたら、開発インスタンスから本番環境に移行します。

ERP キャンバス で開発インスタンスを使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムとモデル、およびリモートテーブルと ERP 抽出テーブルを作成します。準備ができたら、変更を本番インスタンスに昇格させる必要があります。

次のような変更は、開発インスタンスから本番インスタンスに昇格させることができます。

- テーブルへのフィールドの追加
- ERP モデルへのテーブルの追加
- ERP モデルを構築するための、結合とフィールドの追加とテーブルのリンク

> **注:**
> 開発は非本番インスタンスで実行する必要があります。本番インスタンスで変更を行い、変更を非本番インスタンスから本番インスタンスに昇格させると、以前に本番インスタンスで行った変更はすべて上書きされます。

Now Platform の本番インスタンスに変更を移動するには、いくつかの方法があります。

1. システムアップデートセット を使用して、開発インスタンスから非本番インスタンスに、その後本番インスタンスに変更を転送すします。詳細については、「システム更新セット」を参照してください。
2. 変更を ServiceNow Store に追加し、[他のユーザーと共有 **(Share with others)**] オプションを使用して、本番インスタンスに更新をインストールします。詳細については、「更新セットにアプリケーションを公開する」を参照してください。

ERP 更新を公開する方法の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

### ERP キャンバス と ERP-CM で再プラットフォーム化する ERP 候補の特定

ERP キャンバス を使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR に接続し、そのデータを整理できます。

## 従来の ERP アプリの Now Platform への再プラットフォーム化

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上に構築されたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

ERP キャンバス を使用して、リモートテーブルと ERP 抽出テーブルの標準フィールドにアクセスできますが、 ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用すると、SoR から Now Platform への再プラットフォーム化に適した候補を見つけることができます。

ERP-CM は、候補と可能な次のステップ (ERP データにアクセスするためのリモートテーブルや抽出テーブルの更新など) を提案します。リモートテーブルは、データを添付ファイルとして ServiceNow インスタンスに送信します。このデータは、AI/ML を使用して分析され、再プラットフォーム化する類似の候補が特定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ERP キャンバス および ERP-CM でのリモートテーブルと抽出テーブルの使用

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
- 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

リモートテーブルは、SoR のような、外部ソースから取得するデータのスキーマを記述します。Now Platform をサードパーティソースまたは別のインスタンスに接続して、外部データを取得して必要に応じてメモリにキャッシュできるようにします。リストまたはフォームで外部データを表示して、標準の Glide スクリプトで処理することができます。また、標準の内部テーブルの場合と同様に、データをグループ化、ソート、集計、フィルタリングできます。

リモートテーブルを使用すると、外部ソースから、または REST サービスあるいは SOAP サービスを使用して別のインスタンスからデータを取得できます。外部データは読み取り専用モードでメモリ内に存在するため、Now Platform 内でデータは一時的なものになります。外部データをインポートしたり保存したりすることなく、外部データを表示および操作できます。詳細については、「Remote tables」を参照してください。

大量の ERP データを処理するには、抽出テーブルを使用します。ERP 抽出テーブルは、Now Platform 上のローカル変換テーブルに定期的にデータを保存し、それを処理して、再プラットフォーム化されたアプリのデータ基盤として使用できます。

### ERP キャンバス カスタムフィールドの例

ERP キャンバス は、カスタム ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリや SoR 内のフィールドをすばやく特定し、Now Platform でそれらのデータに簡単にアクセスできるようにします。ERP システムには、ERP キャンバス によってアクセスされる標準フィールドとカスタムフィールドの両方を含めることができます。

## ERP カスタムデータの再プラットフォーム化の例

この例では、ある農業従事者が販売するための収穫を行います。その農業従事者は、重量や販売価格などの標準値のエントリをテーブルに持っています。

ただし、穀物の販売価格は、穀物の含水率に依存します。穀物の収穫の前日に降った場合、生産者は水分量を反映するように販売価格を調整する必要があります。したがって、[日付] や [重量] などの標準フィールドに加えて、ERP システムで収穫量を追跡する従来のテーブルには、カスタムの [含水率] フィールドが必要です。

この農業従事者は、ERP キャンバス を使用して従来の SoR に接続し、カスタムフィールドを含むテーブルを特定できます。次に、[含水率] フィールドを含むリモートテーブルまたは抽出テーブルを使用して ERP キャンバス で ERP モデルを作成できます。

カスタムデータが入った ERP モデルがあれば、App Engine Studio または他の ServiceNow 製品を使用して、穀物の売上を追跡するアプリを短期間で構築できます。グレイン販売アプリが消費するデータは、従来の SoR に引き続き存在します。

### ERP キャンバス とセキュリティ

ロールベースのセキュリティとアクセス制御に加えて、ERP キャンバス は他の方法で個人を特定できるデータを保護します。

個人を特定できるデータは、ERP キャンバス と ERP-CM を使用していくつかの方法で保護されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ERP モデルとリモートテーブルをカスタマイズして、メールアドレスなどの特定のフィールドの個人データを除外できます。
- すべてのリモートテーブルは、アクセス制御ルール (ACL) を使用して保護されます。機密データを含むリモートテーブルがある場合は、ACL を使用してそのテーブルを ServiceNow ユーザーから制限します。詳細については、「ServiceNow® access control」を参照してください。

### ERP キャンバス の構成

ERP キャンバス をインストールして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR、および ERP Customization Mining、フィールドサービス管理の調達、プロセスマイニング などの他の ServiceNow 製品への接続を構成します。

ERP キャンバス は基本認証を使用して、ServiceNow インスタンスを SoR (SAP など) 上のインスタンスに接続します。

接続を構成した後、リモートテーブルを使用して、ERP キャンバス で SoR にアクセスできます。さらに、ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用して、従来のアプリケーションの中から再プラットフォーム化に適切な候補を特定し、そのデータを Now Platform ですぐに使用可能にできます。詳細については、「ERP Customization Mining (ERP-CM)」を参照してください。

## 複数のインスタンスへの接続

ServiceNow インスタンスごとに保持できる ERP 接続の数は、ライセンスによって異なります。ERP-CM ライセンスをお持ちの場合は、インスタンスごとに 1 つの接続を取得します。

### ERP キャンバス のインストール要件

ERP キャンバス をインストールする前に、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムと Now Platform の両方でいくつか構成を完了する必要があります。

## ライセンス

インストールには、ERP キャンバス のライセンスとエンタイトルメントの取得が必要です。詳細については、「ライセンス」を参照してください。

## Now Platform プラグイン

ERP キャンバス をインストールするには、次のプラグインとサーバーが必要です。

- 統合ハブ プラグイン
- リモートテーブル プラグイン
- MID Server：ERP キャンバス をインストールするには、MID Server を構成する必要があります。詳細については、次のセクションを参照してください。

## MID Server の要件

MID Server を介して SoR と通信するには、有効な接続および資格情報エイリアスが必要です。

> **注:**
> ERP キャンバス 接続に指定する資格情報は、SoR のサービスユーザー資格情報と一致する必要があります。

ERP キャンバス および ERP-CM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

で MID Server Now Platform を探す すべて > **MID** サーバー > サーバー. 選択し、以下を追加します。

1. [サポートされているアプリケーション] タブで、ERP キャンバス を含めるようにリストを編集します。
2. [機能 **(Capabilities)**] タブで、ERP キャンバス を含めるようにリストを編集します。

詳細については、「MID Server」を参照してください。

### 必要な SAP 認証

資格情報には、次の SAP 認証オブジェクトを必要とする SoR の SAP サービスタイプのユーザーアカウントを使用します。

- S_RFC
  - RFC_TYPE = FUGR, FUNC
  - RFC_NAME = RFC_GET_FUNCTION_INTERFACE, RFC_READ_TABLE, DDIF_FIELDINFO_GET
  - ACTVT = 16
- S_RFCACL
- S_TABU_DIS
- S_TABU_NAM

該当する場合は、[アクティビティ] フィールドに `*` を追加する必要があります。

### スポークの統合

必要なスポークについては、SAP ECC RFC アカウントの管理者に連絡し、次の SAP 独自の JAR およびその他の必要なファイルを入手してください。

- 「SAP Jco Dll」というレコードを作成し、`sapjco3.dll` を添付します。MID Server が Windows Server にインストールされている場合は、このファイルを使用します。
- 「SAP Jco so」というレコードを作成し、`libsapjco3.so` を添付します。MID Server が Linux Server にインストールされている場合は、このファイルを使用します。
- 「SAP Jco Jar」というレコードを作成し、`sapjco3.jar` を添付します。このファイルは、Windows と Linux の両方で使用します。
- MID Server は、このプロセス中に複数回再起動します。

スポーク統合の詳細については、「SAP ECC RFC Spoke」を参照してください。

### SAP 構成

ERP キャンバス をインストールする前に、JCO コネクタを構成する必要があります。詳細については、SAP のドキュメントを参照してください。

他にも ERP システムには次のものが必要です。

- SAP ECC (SAP Netweaver 7.3 以上)
- SAP S/4HANA (すべてのバージョンがサポートされています)
- SAP Java Connector

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス のインストール

ServiceNow Store の管理者ロールがある場合は、ERP キャンバス (エンタープライズリソースプランニング) アプリケーション (sn_erp_integration) をインストールします。

#### 始める前に
ERP キャンバス をインストールするためのすべての前提条件については、「ERP キャンバス のインストール要件」を参照してください 。

必要なロール：admin

#### 手順

1. ServiceNow Store で、製品と依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
   インスタンスのホームページで [インストールするアプリをレビュー] を選択してストアにアクセスできます。
2. **ERP** キャンバスを検索し、[インストール] を選択します。
3. [インストール] を選択し、ERP キャンバス のインストールを確認します。
   インストールが完了したら、[クローズ **(Close)]** を選択して、ストアに戻ります。
4. ERP キャンバスを検索し、[インストール] を選択します。
5. [インストール] を選択し、ERP キャンバス フレームワークのインストールを確認します。

#### 次のタスク
ERP キャンバス をインストールした後、ユーザーが ERP モデルをカスタマイズできるように、*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。

### ERP キャンバス の ガイド付きセットアップ を実行する

ガイド付きセットアップ を実行して ERP キャンバス を構成します。

#### 始める前に
まず、ServiceNow Store から ERP キャンバス をダウンロードしてインストールする必要があります。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

#### このタスクについて
ガイド付きセットアップの使用に関する詳細については、Guided setupを参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスガイド付き設定.
2. [MID Server セットアップ (MID Server setup)] セクションで MID Server を設定します。

   a. **[MID** ユーザーを作成 **(Create MID user)]** を選択し、MID Server に接続する ServiceNow インスタンスのユーザーアカウントを作成します。
   たとえば、mid.user を作成できます。

   b. **[MID** をダウンロードおよびインストール **(Download and install MID)]** を選択し、指示に従って、オペレーティングシステムに適した MID Server インストーラーアーカイブをダウンロードします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[MID Server** ファイルを構成 **(Configure MID server files)]** を選択し、「ガイド付きセットアップ」に記載されている指示に従って、必要な MID Server ファイルを構成します。
詳細については、「ERP キャンバス のインストール」を参照してください。

3. 接続と資格情報を設定します。
   a. **[ERP** システムの資格情報レコードを作成 **(Create credential record for the ERP system)]** を選択し、手順に従います。
   b. **[ERP** キャンバスの接続レコードを作成 **(Create a connection record for ERP Canvas)]** を選択し、手順を完了します。
   c. [接続と機能を構成 **(Configure connection and capabilities)]** を選択し、手順を完了します。
   または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP キャンバス 資格情報と接続の構成」を参照してください。
4. ERP システムを作成して検証します。
   a. [システムを作成 **(Create system)]** を選択し、手順に従います。
   b. [システムを検証 **(Validate system)]** を選択し、手順に従います。
   または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」を参照してください。
5. リモートテーブルと抽出ソースを構成します。
   a. [リモートテーブルを構成 **(Configure remote tables)]** を選択し、手順に従います。
   または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集」を参照してください。
   b. [抽出ソースを構成 **(Configure extraction sources)]** を選択し、手順に従います。
   または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP キャンバス での新しい ERP 抽出テーブルの追加」を参照してください。

### **ERP** キャンバス 資格情報と接続の構成

ERP キャンバス を SoR (SAP など) のインスタンスに接続して、リモートテーブルと抽出テーブルにアクセスできるようにします。ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムを設定するときは、構成済みの既存の接続を選択する必要があります。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
ERP キャンバス および ERP-CM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

> **注:**
> ERP キャンバス 接続に指定する資格情報は、SoR のサービスユーザー資格情報と一致する必要があります。

または、ガイド付きセットアップ を実行できます。詳細については、「ERP キャンバス の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。

#### 手順
1. 移動先 すべて > 接続 **&** 認証情報 > 資格情報.
2. 資格情報を追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

接続情報と認証情報 の詳細については、「Connections and Credentials」を参照してください。

a. [資格情報] テーブルリストページで、[新規] を選択します。

「作成する資格情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

b. [基本認証資格情報] を選択します。

c. フォームのフィールドに入力します。
フィールド値の説明については、「ERP キャンバス の基本認証資格情報フィールド」を参照して ください。

d. [送信] を選択します。

3. ERP キャンバス 接続を設定します。

a. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.

b. サイドパネルでシステムアイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。

c. [接続] 列で、[(空の) **(empty)**] セルを選択します。

> **重要:**
> 新しい行を作成するのではなく、空の行を選択する必要があります。

d. 表示される検索ボックスで、検索アイコン ( ) を選択します。

e. [接続および資格情報エイリアス] ダイアログで、**[sn_erp_integration.ERP_Integration]** を選択します。

f. 選択アイコン ( ) を選択します。

4. 接続の詳細を指定します。

a. [接続] テーブルリストで、接続の [名前] を選択します。

b. フォームのフィールドに入力します。
フィールド値の説明については、「ERP キャンバス のシステム接続フィールドの説明」を参照して ください。

c. [更新] を選択します。

### **ERP** キャンバス ロール

管理者はロールを割り当てて、ERP キャンバス を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

> **重要:**
> ユーザーに ERP キャンバス (エンタープライズリソースプランニング) ロールをアサインする場合は、 スコープを含める必要があります。たとえば、erp_admin ではなく、sn_erp_mining.erp_admin ロールを割り当てます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ロールの割り当ての詳細については、「Assign a role to a user」を参照してください。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

## ERP キャンバス ロール

**注:**
必要なロールはすべて、開発インスタンスと本番インスタンスで同じです。ただし、本番インスタンスのデータの読み取りに必要なのは sn_erp_integration.erp_user のみです。

**ERP キャンバス ロール**

| ロール | 説明 | 追加アクセス |
|---|---|---|
| sn_erp_integration.erp_admin | アプリケーション設定を更新するためのアクセス権をユーザーに付与します。 | sn_erp_integration.erp_user が含まれています。 |
| sn_erp_integration.erp_data_pill | リモートテーブル 要求を行うために必要なすべてのテーブルへの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。<br><br>このロールは、任意の単一の リモートテーブル ロールと組み合わせることができます。たとえば、sn_erp_integration.erp_data_pill と sn_erp_integration.sap_company_code_user を組み合わせると、SAP 会社コードのリストが有効になります。 | -- |
| sn_erp_integration.erp_mid_server | MID Server が添付ファイルを ServiceNow インスタンスに送り返すことができるように、API を使用するアクセス権をユーザーに付与します。 | -- |
| sn_erp_integration.erp_user | すべてのリモートテーブルの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。 | sn_erp_integration.erp_data_pill とすべての リモートテーブル ロールが含まれています。<br><br>• sn_erp_integration.sap_company_code_use<br>• sn_erp_integration.sap_country_user<br>• sn_erp_integration.sap_currency_user<br>• sn_erp_integration.sap_customer_invoice_u<br>• sn_erp_integration.sap_distribution_channe<br>• sn_erp_integration.sap_division_user<br>• sn_erp_integration.sap_language_user<br>• sn_erp_integration.sap_material_stock_use |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** キャンバス ロール (続く)

| ロール | 説明 | 追加アクセス |
| --- | --- | --- |
| | | • sn_erp_integration.sap_purchase_documen<br>• sn_erp_integration.sap_purchasing_organiz<br>• sn_erp_integration.sap_sales_customer_use<br>• sn_erp_integration.sap_sales_delivery_user<br>• sn_erp_integration.sap_sales_document_us<br>• sn_erp_integration.sap_sales_organization_<br>• sn_erp_integration.sap_sales_revenue_reco<br>• sn_erp_integration.sap_vendor_invoice_use<br>• sn_erp_integration.sap_vendor_user |

## 追加の **ERP** データモデルロール

ユーザーに購入や請求書など特定の ERP データモデルを操作するためのアクセス権が必要な場合は、ERP キャンバス の次のロールとアクセス権をアサインします。

**ERP** キャンバス の **ERP** データモデル固有のロール

| ペルソナ | ロール | アクセス |
| --- | --- | --- |
| ERP MID Server ユーザー | erp_mid_server | • sys_attachments<br>• sn_erp_integration_queue |
| 顧客請求書ユーザー | sap_customer_invoice_user | sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice |
| 品目在庫ユーザー | sap_material_stock_user | sn_erp_integration_st_sap_material_stock |
| 購買ドキュメントユーザー | sap_purchase_document_user | sn_erp_integration_st_sap_purchase_docume |
| 購買組織ユーザー | sap_purchasing_organization_user | sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organ |
| 営業顧客ユーザー | sap_sales_customer_user | sn_erp_integration_st_sap_sales_customer |
| 営業デリバリユーザー | sap_sales_delivery_user | sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery |
| 営業ドキュメントユーザー | sap_sales_document_user | sn_erp_integration_st_sap_sales_document |
| 営業組織ユーザー | sap_sales_organization_user | sn_erp_integration_st_sap_sales_organization |
| 営業収益認識ユーザー | sap_sales_revenue_recognition_user | sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_rec |
| ベンダー請求書ユーザー | sap_vendor_invoice_user | sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice |
| ベンダーユーザー | sap_vendor_user | sn_erp_integration_st_sap_vendor |

### **ERP** キャンバス での **ERP** システムの操作

ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。たとえば、受注またはベンダー請求書です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ERP システムによる SoR への接続の整理

このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP キャンバス には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

## ERP システムの構成と接続の確認

ERP システムは ServiceNow 管理者によって構成されます。 ERP キャンバス を 1 つインストールするごとに、システムが 10 個まで追加可能になります。ただし、ERP キャンバス は、一度に 1 つのライブ ERP システムにのみ接続できます。

ERP キャンバス は、ERP システム接続への ping が現在成功しているかどうかを示す最新のハートビートについて、接続されているすべての ERP システムを定期的にスキャンします。

### ERP キャンバス での ERP システムの作成

ERP キャンバス で ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムを構成し、SoR への接続を整理します。

#### 始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

#### このタスクについて

ERP キャンバス を 1 つインストールするごとに、システムが 10 個まで追加可能になります。ただし、ERP キャンバス は、一度に 1 つのライブ ERP システムにのみ接続できます。

または、ガイド付きセットアップ を実行できます。詳細については、「ERP キャンバス の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。

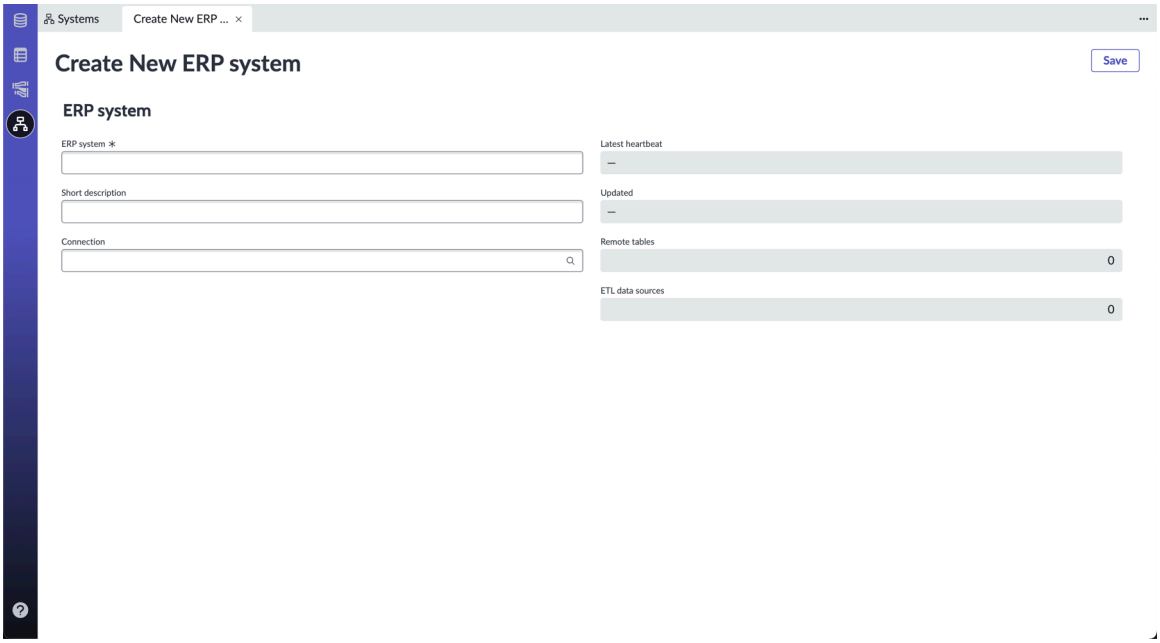
#### 手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルでシステムアイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。
3. [新規] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **ERP** システムの作成




4. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス の新しいシステムフィールドの説明」を参照して ください。
5. [保存] を選択します。

タスクの結果
システムを作成したら、[ERP システム] リストページでその健全性と接続ステータスを表示できます。詳細については、「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照してください。

## **ERP** システムの健全性の表示と監視

ERP キャンバス の ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムリストを確認し、ERP システムへの接続の監視とトラブルシューティングを行います。

始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

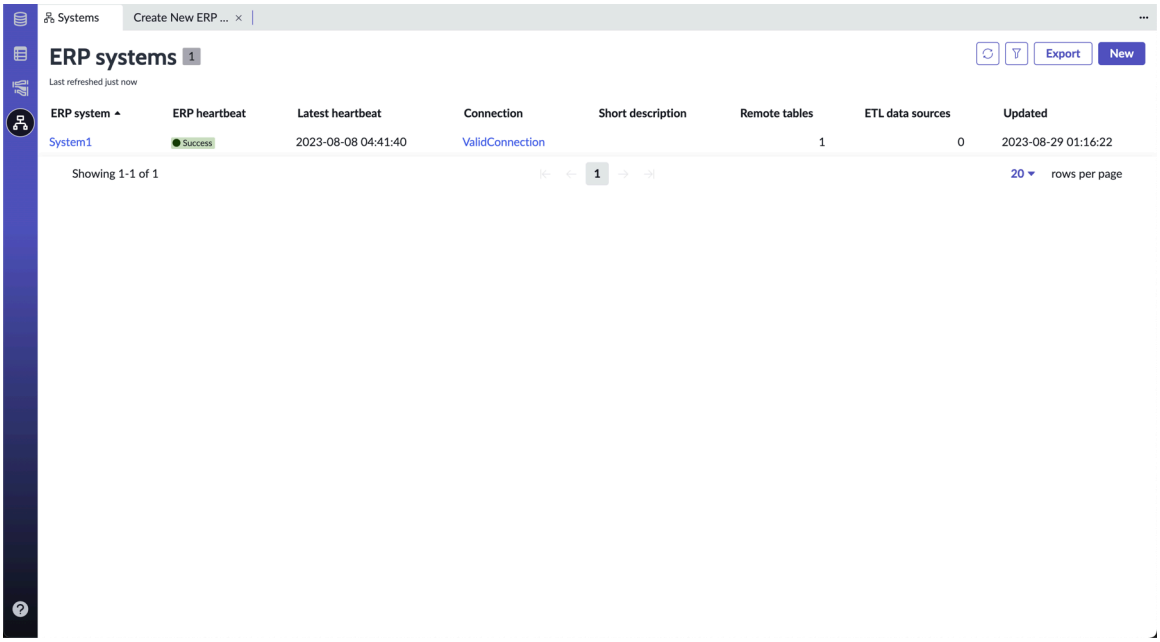
手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルでシステムアイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** キャンバス システムのリスト




3. 各システムの情報をチェックし、接続の問題がないことを確認します。
   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス のシステムリストフィールドの説明」を参照して ください。

## **ERP** モデル、抽出テーブル、およびリモートテーブルの操作

ERP キャンバス を使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデル、リモートテーブル、抽出テーブルを操作し、SoR の ERP データを Now Platform に統合します。

ERP キャンバス のワークフローは、通常、メインセクションで構成されています。各メインセクションには、コンテキストサイドパネルのセクションアイコンを選択してアクセスします。

リモートテーブルと抽出テーブルを使用して ERP モデルを構築し、ERP データを整理、ロード、変換します。

**ERP** キャンバス の一部

| ERP キャンバス セクション | 説明 |
|---|---|
| ERP モデル | ERP モデルは、ERP データへのアクセスに利用できる一連のテーブルのテンプレートとして機能します。標準の ERP キャンバス モデルをそのまま使用しても、クローンを作成して変更してもかまいません。<br><br>詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。 |
| リモートテーブル | リモートテーブルを使用すると、Now Platform の ERP SoR からデータを表示してクエリすることができます。リモートテーブルの行数の上限は 1,000 行です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** キャンバス の一部 (続く)

| ERP キャンバス セクション | 説明 |
| --- | --- |
| | 詳細については、「ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの使用」を参照してください。 |
| ERP 抽出テーブル | 抽出テーブルは、ETL プロセスを使用して ERP システムから定期的に大量のデータを抽出し、それらを Glide テーブルに変換して保存します。<br><br>詳細については、「ERP キャンバス でのデータの抽出と変換」を参照してください。 |

### **ERP** データを操作する **ERP** モデルの構築

ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルは、ERP データへのアクセスが可能なテーブルセットのテンプレートとして機能します。標準の ERP キャンバス モデルをそのまま使用しても、クローンを作成して変更してもかまいません。

## データセットを表し、ステージング領域を作成する **ERP** モデル

ERP モデルは、エンタープライズリソースプランニング (ERP) システムからのデータの論理構造と編成を表します。ERP モデルは、ERP システム内のビジネスプロセスとデータ要素をキャプチャして表すエンティティ、属性、結合条件、および関係を定義します。ERP キャンバス を最初に開くと、インスタンスの ERP モデルのリストが表示されます。

ERP キャンバス には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP モデルは、ビジネス要件を満たすように ERP システムを構成、カスタマイズ、統合するための詳細計画として機能します。 ERP モデルは、リモートテーブルおよび抽出テーブルに追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、リモートテーブルと抽出テーブルを Now Platform のデータソースとして使用できます。

既存の ERP モデルのリストを表示することも、新しいモデルを追加してカスタムデータセットを作成することもできます。リモートテーブルを追加したら、結合を作成し、結合条件を編集できます。また、ERP システムから大量のフィルター済みデータを定期的にプルする抽出テーブルを作成することもできます。

ERP モデルは必要な数だけ作成できますが、フィールド名は編集できません。

## **ERP** モデルの構造

各モデルは、SoR の ERP テーブルと、Now Platform のリモートテーブルと ERP 抽出テーブルにリンクされています。 同じテーブルを、複数の異なる ERP モデルに接続できます。

ERP モデルは、モデルごとに 1 つの ERP システムに接続されています。接続された ERP システム：

- フィールドとテーブルの情報にアクセスできるようにします。
- データの同期、共有、コラボレーションを調整し、ERP モデルと ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP キャンバス の ERP モデルには、統合的なデータセットを作成するために、SoR からのリモートテーブルと、API および ERP 抽出テーブルが含まれています。たとえば、受注用の ERP モデルとインベントリ用の別の ERP モデルを使用できます。

**注:**

ERP キャンバス をインストールした後、ユーザーが ERP モデルをカスタマイズできるように、*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。

### ERP モデルの表示と編集

ERP キャンバス で ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを構築し、ERP システムからのリモートテーブルと抽出テーブルを含めて、統合的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP モデルとインベントリ用の別の ERP モデルを使用できます。

#### 始める前に

ERP モデルとテーブルを編集、カスタマイズ、クローン作成するには、管理者が *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。プロパティは、非本番ステータスまたは本番ステータスのいずれかに対して構成する必要があります。

**注:**
正しいスコープで *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。本番インスタンスで *sn_erp_integration.enableModelModification* を有効にすると、ERP キャンバス に新しいモデルとフィールドが追加されたときに、新しいメタデータレコードを作成できます。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

#### このタスクについて

ERP モデルは、リモートテーブルおよび抽出テーブルに追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、リモートテーブルと抽出テーブルを Now Platform のデータソースとして使用できます。

ERP キャンバス には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

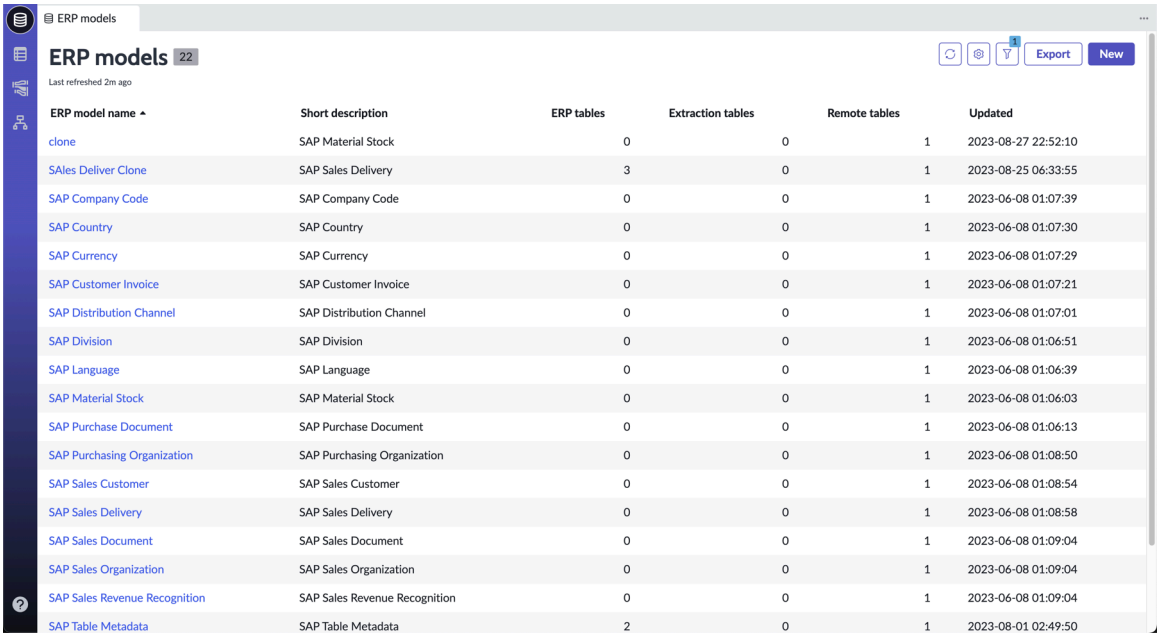
#### 手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルで ERP モデルアイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** キャンバス モデル




| ERP model name | Short description | ERP tables | Extraction tables | Remote tables | Updated |
|---|---|---|---|---|---|
| clone | SAP Material Stock | 0 | 0 | 1 | 2023-08-27 22:52:10 |
| SAles Deliver Clone | SAP Sales Delivery | 3 | 0 | 1 | 2023-08-25 06:33:55 |
| SAP Company Code | SAP Company Code | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:07:39 |
| SAP Country | SAP Country | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:07:30 |
| SAP Currency | SAP Currency | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:07:29 |
| SAP Customer Invoice | SAP Customer Invoice | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:07:21 |
| SAP Distribution Channel | SAP Distribution Channel | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:07:01 |
| SAP Division | SAP Division | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:06:51 |
| SAP Language | SAP Language | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:06:39 |
| SAP Material Stock | SAP Material Stock | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:06:03 |
| SAP Purchase Document | SAP Purchase Document | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:06:13 |
| SAP Purchasing Organization | SAP Purchasing Organization | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:08:50 |
| SAP Sales Customer | SAP Sales Customer | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:08:54 |
| SAP Sales Delivery | SAP Sales Delivery | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:08:58 |
| SAP Sales Document | SAP Sales Document | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:09:04 |
| SAP Sales Organization | SAP Sales Organization | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:09:04 |
| SAP Sales Revenue Recognition | SAP Sales Revenue Recognition | 0 | 0 | 1 | 2023-06-08 01:09:04 |
| SAP Table Metadata | SAP Table Metadata | 2 | 0 | 1 | 2023-08-01 02:49:50 |

**3.** ERP モデルのリストを確認します。

**ERP** モデル列

| 列 | 説明 |
|---|---|
| ERP モデル名 | ERP モデルの名前。 |
| 簡単な説明 | ERP モデルが表す内容の簡単な説明。 |
| ERP テーブル | SoR の ERP テーブルの数。 |
| 抽出テーブル | ERP モデルにリンクされている Now Platform 上の抽出テーブルの数 |
| リモートテーブル | ERP モデルにリンクされている Now Platform 上のリモートテーブルの数 |
| 更新日時 | ERP モデルが最後に更新された日時。 |

**4.** ERP モデルを選択し、そのモデルの詳細を表示および編集します。

**ERP** モデルの [詳細] タブ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ERP モデル名 | ERP モデルの名前。 |
| ERP モジュール | SoR 上の ERP ビジネスエリアの簡単な名前。 |
| ERP システム | ERP SoR のビジネスセクションへの接続を表す ERP システム |
| アプリケーション | ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタム モデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。 |
| Short description (簡単な説明) | ERP モデルが表す内容の簡単な説明。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 長いテキスト | ERP データモデルに関する説明や情報。 |

5. オプション: ERP モデルの [詳細] タブで、以下を表示して操作します。
   - 公開コメントとプライベート作業メモを表示および追加します。
   - モデルの アクティビティストリーム。
   - 添付ファイルを表示および追加します。
6. [保存] を選択します。
7. ERP モデルレコードの [モデルテーブル] タブを選択して、モデルに含まれるテーブルを表示します。
   [モデルテーブル] でテーブル名を選択して、そのテーブルの詳細を編集できます。

   **ERP** モデルタブの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | SoR のモデルテーブルの名前。 |
| エイリアス | 結合と結合条件を作成するために使用できるテーブルのエイリアス。<br><br>エイリアスは、テーブルの代替名を参照します。 エイリアスを使用すると、容易に参照および識別できるようにわかりやすい名前を割り当ててカスタマイズすることができます。<br><br>エイリアスは最大 40 文字で、a ～ z、A ～ Z、0 ～ 9、およびアンダースコアを含めることができます。 |
| ステータス | 取得されたテーブルデータなど、 データ同期のステータス。 |

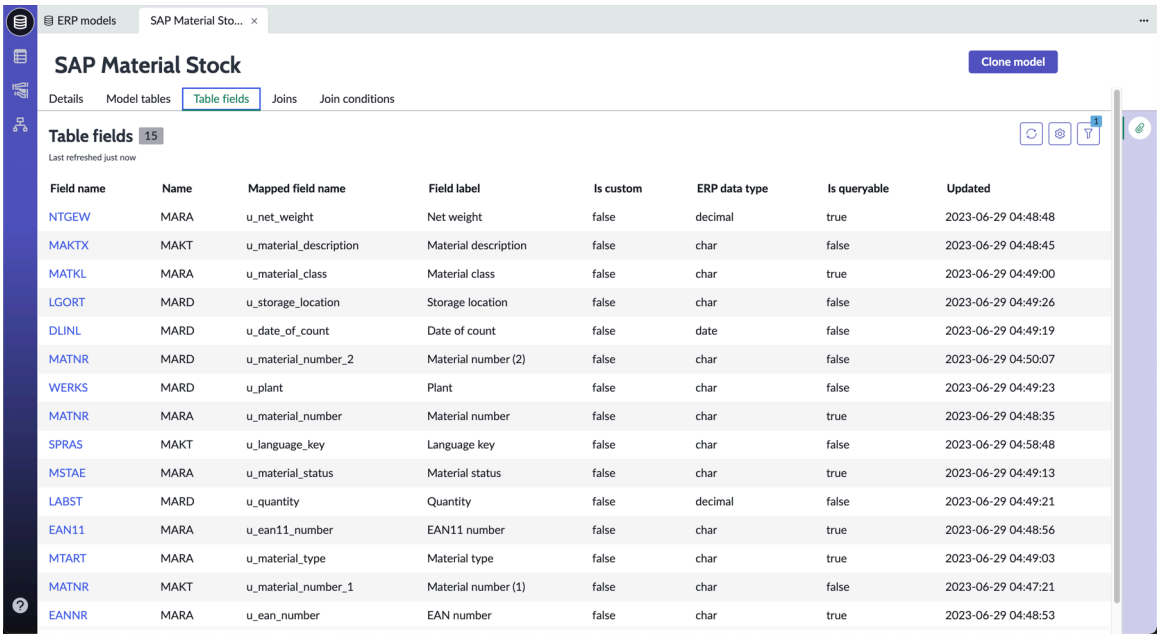
8. ERP モデルレコードの [テーブルフィールド] タブを選択して、ERP モデルに含まれるテーブルフィールドを表示して、確認します。
   ERP モデルに追加したいフィールドをメモします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、「ERP キャンバス の ERP モデルテーブルフィールドの説明」を参照して ください。

**ERP** キャンバス テーブルフィールド




| Field name | Name | Mapped field name | Field label | Is custom | ERP data type | Is queryable | Updated |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| NTGEW | MARA | u_net_weight | Net weight | false | decimal | true | 2023-06-29 04:48:48 |
| MAKTX | MAKT | u_material_description | Material description | false | char | false | 2023-06-29 04:48:45 |
| MATKL | MARA | u_material_class | Material class | false | char | true | 2023-06-29 04:49:00 |
| LGORT | MARD | u_storage_location | Storage location | false | char | false | 2023-06-29 04:49:26 |
| DLINL | MARD | u_date_of_count | Date of count | false | date | false | 2023-06-29 04:49:19 |
| MATNR | MARD | u_material_number_2 | Material number (2) | false | char | false | 2023-06-29 04:50:07 |
| WERKS | MARD | u_plant | Plant | false | char | false | 2023-06-29 04:49:23 |
| MATNR | MARA | u_material_number | Material number | false | char | true | 2023-06-29 04:48:35 |
| SPRAS | MAKT | u_language_key | Language key | false | char | false | 2023-06-29 04:58:48 |
| MSTAE | MARA | u_material_status | Material status | false | char | true | 2023-06-29 04:49:13 |
| LABST | MARD | u_quantity | Quantity | false | decimal | false | 2023-06-29 04:49:21 |
| EAN11 | MARA | u_ean11_number | EAN11 number | false | char | true | 2023-06-29 04:48:56 |
| MTART | MARA | u_material_type | Material type | false | char | true | 2023-06-29 04:49:03 |
| MATNR | MAKT | u_material_number_1 | Material number (1) | false | char | false | 2023-06-29 04:47:21 |
| EANNR | MARA | u_ean_number | EAN number | false | char | true | 2023-06-29 04:48:53 |

次のタスク
使用可能なフィールドとテーブルを確認した後に、SoR から ERP テーブルをリンクし、結合を使用して ERP キャンバス で ERP モデルを構築できます。詳細については、「ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加」を参照してください。

## **ERP** キャンバス での **ERP** モデルのクローン

ERP キャンバス に同梱されている標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルのクローンを作成します。たとえば、新しいフィールドやテーブルを追加することで、変更を加えることができます。

始める前に
ERP モデルとテーブルを編集、カスタマイズ、クローン作成するには、管理者が *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。プロパティは、非本番ステータスまたは本番ステータスのいずれかに対して構成する必要があります。

> **注:**
> 正しいスコープで *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。本番インスタンスで *sn_erp_integration.enableModelModification* を有効にすると、ERP キャンバス に新しいモデルとフィールドが追加されたときに、新しいメタデータレコードを作成できます。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP キャンバス には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP モデルをクローンしてカスタマイズすることで、変更によって他の Now Platform アプリケーションへの接続が切断されることがなくなります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルで ERP モデルアイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. クローンを作成する ERP モデルを選択します。
4. [ モデルの複製 ] ボタンを選択します。
5. [このモデルをクローン (Clone this model)] ダイアログで、新しい **ERP** モデル名を入力します。
6. [このモデルをクローン] ボタンを選択します。
   Now Platform では ERP モデルのクローンが作成され、クローン化されたモデルの詳細が表示されて編集できます。
7. 名前を更新するなどして、[詳細] タブで ERP モデルの詳細を変更します。

   ⚠ 警告:
   ERP モデルに接続されている ERP システムを変更すると、利用可能なリモートテーブルと抽出テーブルに影響します。ERP システムを変更する場合は、警告モーダルで変更を確認する必要があります。

   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス のクローンモデルフィールドの説明」を参照して ください。
8. 必要に応じて、クローンされた ERP モデルに追加の変更を加えます。
   - ERP モデルへのテーブルの追加
   - リモートテーブルへのモデルの追加
   - ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加

新しい **ERP** モデルの追加

ERP キャンバス に ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを追加し、SoR の ERP テーブル (リモートテーブル、抽出テーブル) を含むデータセットを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP モデルは、リモートテーブルおよび抽出テーブルに追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、リモートテーブルと抽出テーブルを Now Platform のデータソースとして使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルで ERP モデルアイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. [新規] を選択します。
4. 新規モデルタブで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス の新しいモデルフィールドの説明」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 次のタスク
新しい ERP モデルを追加した後、テーブル、結合、結合条件、テーブルフィールドを編集できます。詳細については、「ERP モデルへのテーブルの追加」と「ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加」を参照してください。

## ERP モデルへのテーブルの追加

リモートテーブルと ERP (エンタープライズリソースプランニング) 抽出テーブルを ERP モデルに追加して、ERP キャンバス に ERP モデルを構築します。

### 始める前に
テーブルを追加する前に、ERP モデルのシステム詳細で ERP システムを指定する必要があります。

> **注:**
> 標準 ERP モデルにテーブルを追加するには、最初にそのモデルのクローンを作成する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP モデルのクローン」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

### このタスクについて
ERP モデルは、リモートテーブルおよび抽出テーブルに追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、リモートテーブルと抽出テーブルを Now Platform のデータソースとして使用できます。 SoR からテーブルを追加すると、リモートテーブルにそれらを追加できるようになります。

リモートテーブルを ERP モデルに追加すると、アプリケーションスコープにのみリモートテーブルが追加されます。

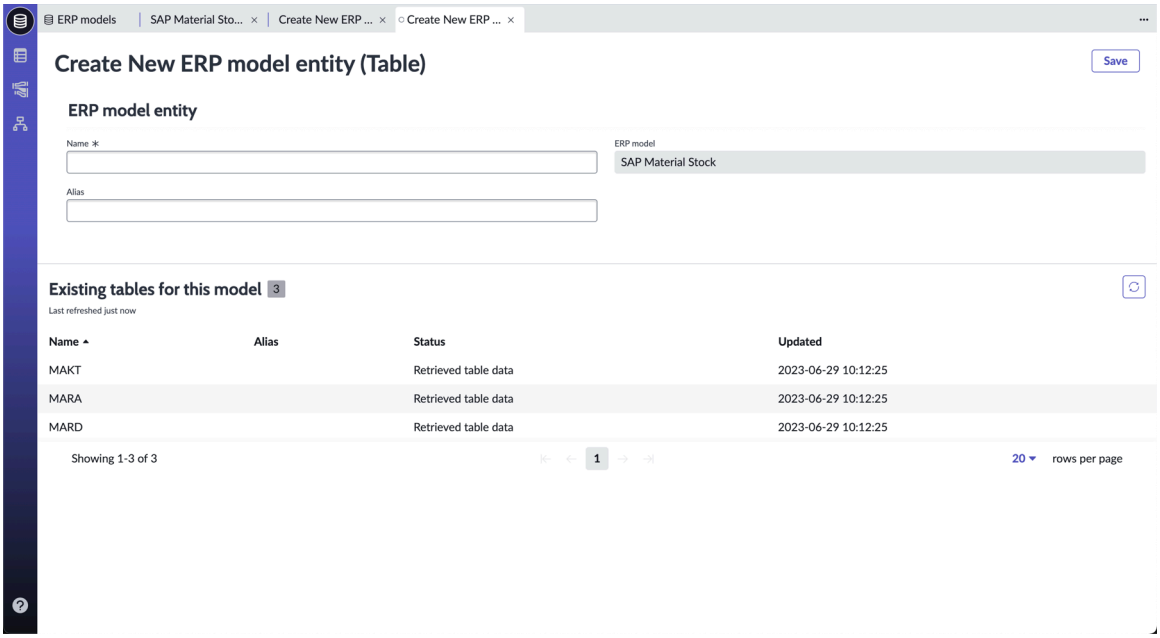
リンクされた ERP システムを Now Platform でオンデマンドでスキャンし、[モデルフィールドをフェッチ **(Fetch model fields)]** ボタンを選択することで、新しいフィールドが利用可能かどうかを確認できます。

### 手順

1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルで ERP モデルアイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. テーブルの追加先のモデルの **[ERP** モデル名 **(ERP model name)]** を選択します。
4. [モデルテーブル] タブを選択して、ERP モデルに接続されているシステムの ERP テーブルを表示します。
5. [新規] ボタンを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP キャンバス によるモデルへのテーブルの追加




**6.** フォームのフィールドに入力します。

[モデル] テーブルのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | SoR の ERP テーブルの名前。<br><br>テーブルは、SoR に同じ名前で存在している必要があります。<br><br>**注:**<br>同じ ERP テーブルが複数の ERP モデルに存在する可能性があります。 |
| ERP モデル | リモートテーブルの追加先の現在の ERP モデルの名前。<br><br>別の ERP モデルのリモートテーブルを追加するには、ERP モデルのリストからその ERP モデルを選択する必要があります。 |
| エイリアス | ERP テーブルの一意のラベル。<br><br>新しい ERP テーブルを ERP モデルに追加する場合、エイリアスは代替名または置換名です。 エイリアスを使用すると、容易に参照および識別できるようにわかりやすい名前を割り当ててカスタマイズすることができます。<br><br>同じテーブルが、異なるテーブル結合用に複数のエイリアスを持つことができます。<br><br>エイリアスは最大 40 文字で、a ～ z、A ～ Z、0 ～ 9、およびアンダースコアを含めることができます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [保存] を選択します。
   モデルテーブルのリストが更新され、各テーブルの [ステータス] が表示されます。
   - 取得されたテーブルデータ
   - 保留中
   - 接続エラー

### タスクの結果
新しいテーブルが ERP システムに接続された場合、[テーブルフィールド] タブに自動的に入力されます。

### 次のタスク
その後、ERP モデルのテーブル間で結合を作成できます。詳細については、「ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加」を参照してください。

## ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加

SoR から複数の ERP (エンタープライズリソースプランニング) テーブルをリンクし、結合を使用して ERP キャンバス で ERP モデルを構築します。

### 始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

### このタスクについて
テーブル結合は、共有フィールドを介して異なるテーブルをリンクします。結合を使用すると、テーブル間の論理関係に基づいて複数のテーブルのデータにアクセスできます。関係は条件付きにすることができ、結合条件を使用して指定します。

結合フィールドは、子テーブルのレコードを対応する親レコードに接続するために使用される共通の属性またはキーを定義します。

### 手順
1. 移動先 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルで ERP モデルアイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. テーブル結合と結合条件の追加先モデルの **[ERP** モデル名 **(ERP model name)]**を選択します。
4. テーブルの詳細を表示しているときに [結合] タブを選択します。
5. [新規] ボタンを選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

結合テーブルフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 親結合フィールド | 子テーブルとの関係を確立する親テーブルのフィールド。 |
| 子結合フィールド | 親テーブルとの関係を確立する子テーブルのフィールド。 |

**[ERP** モデル **(ERP model)]** と [エンティティタイプ **(Entity type)]** は編集できません。

7. [保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

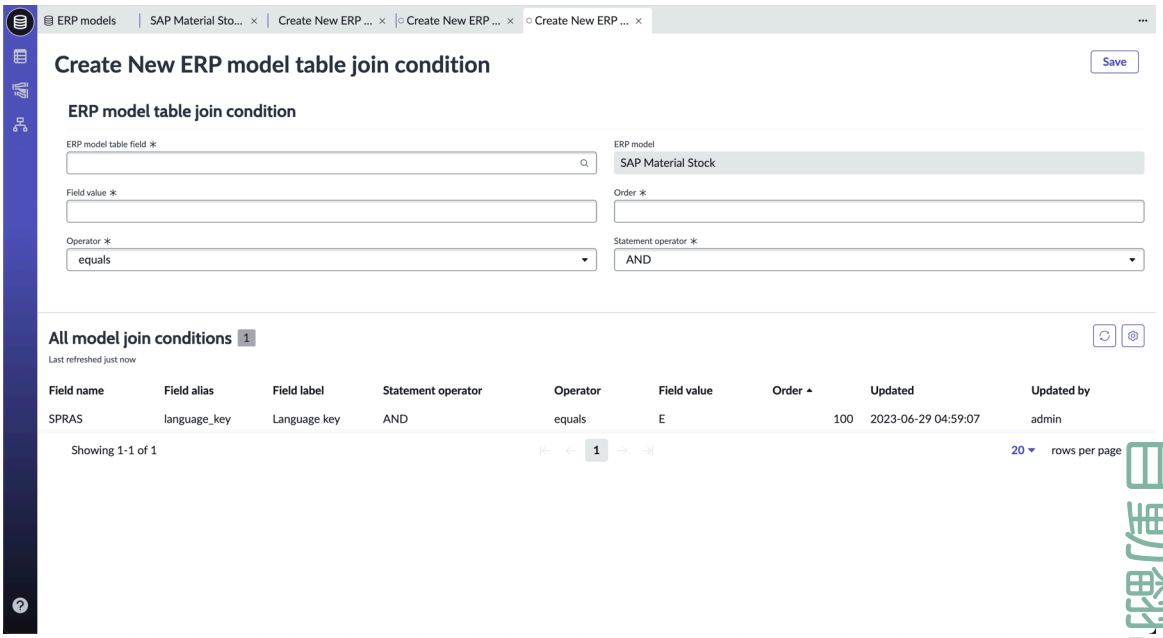


自動翻訳

8. [テーブルフィールド] タブを選択して ERP モデルのテーブルフィールドを表示し、リモートテーブルに追加できるフィールドを確認します。
   ERP テーブルを ERP モデルに追加すると、Now Platform によってテーブルフィールドの自然言語エイリアスが自動的に作成されます。
9. [結合条件] タブを選択して、結合条件を表示します。
10. 新しい結合条件を追加して、テーブル間の条件付き関係を構築します。

    a. [結合条件] タブで [新規] を選択します。

**ERP** キャンバス による結合条件の追加




    b. フォームのフィールドに入力します。
       フィールド値の説明については、「ERP キャンバス テーブル結合条件フィールドの説明」を参照して ください。

    c. [保存] を選択します。

タスクの結果
ERP モデルを構築した後、リモートテーブルを操作して、含めるフィールドをカスタマイズします。詳細については、「ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの使用」を参照してください。

## **ERP** キャンバス での **ERP** リモートテーブルの使用

ERP キャンバス で ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルを使用すると、Now Platform の ERP SoR からデータを表示してクエリすることができます。

**注:**
ERP キャンバス は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

## リモートテーブルの **ERP** モデルへのリンク

各 ERP リモートテーブルは 1 つ以上の ERP モデルに接続されており、リモートテーブルを ERP システムやその他の関連値にリンクさせます。リモートテーブルを構築する際、ERP モデルを介して接続されている ERP SoR をスキャンするときに ERP キャンバス が検出するフィールドを追加で

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

きます。フィールドをスキャンして追加すると、アプリを構築するときにテーブルをデータソースとして使用する場合などに、必要なフィールドをすべて利用できます。

リモートテーブルの [詳細] タブで指定された、関連付けられた ERP モデルによって、利用可能なフィールドがリモートテーブルで制御されます。リモートテーブルの ERP モデルを変更すると、使用可能なフィールドも変更されます。

## リモートテーブルの制限事項

データの整合性を確保するために、ERP キャンバス に新しいリモートテーブルを作成することはできませんが、既存の ERP モデルのクローンを作成し、標準の ERP リモートテーブルを拡張してカスタマイズすることはできます。詳細については、「ERP キャンバス での ERP モデルのクローン」を参照してください。

ERP リモートテーブルのレコード数は 1,000 に制限されています。大量のデータが必要な場合は、ERP 抽出テーブルを使用します。詳細については、「ERP キャンバス でのデータの抽出と変換」を参照してください。

### ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集

添付ファイルの設定や簡単な説明など、ERP キャンバス の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルの詳細を表示および編集します。

始める前に
必要なロール：

- リモートテーブルを変更するには: sn_erp_integration.erp_admin
- リモートテーブルを読み込むには:sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
データの整合性を確保するために、ERP キャンバス に新しいリモートテーブルを作成することはできませんが、既存の ERP モデルのクローンを作成し、標準の ERP リモートテーブルを拡張してカスタマイズすることはできます。詳細については、「ERP キャンバス での ERP モデルのクローン」を参照してください。

リモートテーブルのフィールドの追加や削除の詳細については、「ERP キャンバス で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする」を参照してください。

ERP リモートテーブルのレコード数は 1,000 に制限されています。大量のデータが必要な場合は、ERP 抽出テーブルを使用します。詳細については、「ERP キャンバス でのデータの抽出と変換」を参照してください。

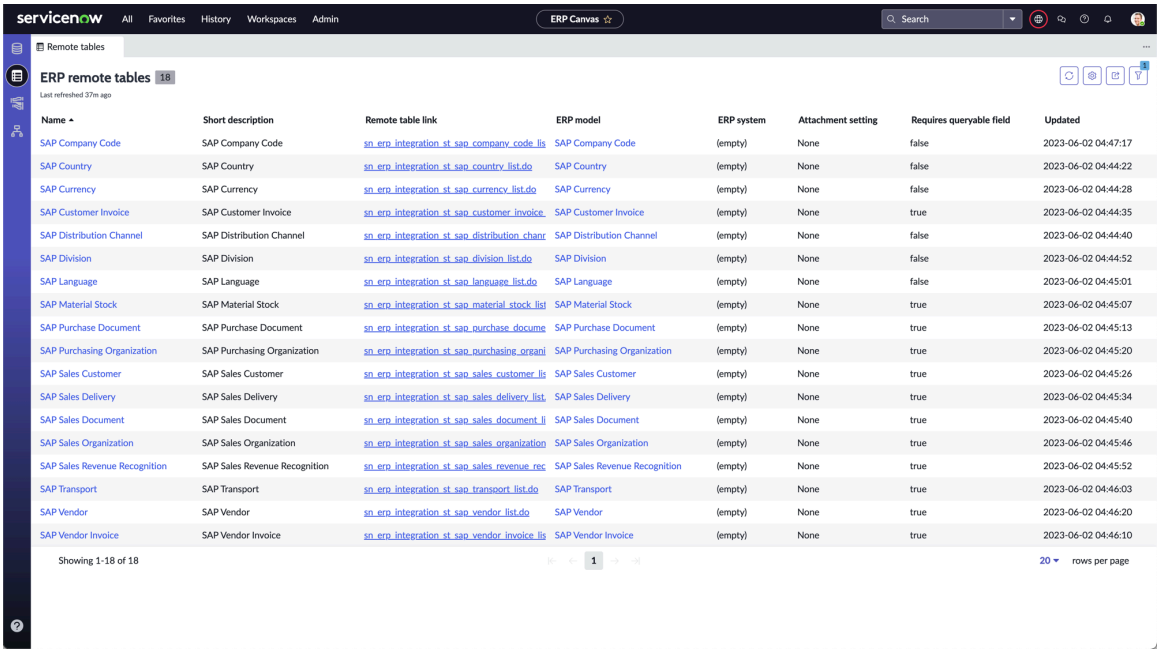
手順

1. 次の場所に移動して、利用可能なリモートテーブルを参照します。 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルのリモートテーブルアイコン ( ) を選択して、[リモートテーブル] ページを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス リモートテーブルのページ




3. リモートテーブルの [名前] を選択して、リモートテーブルの詳細を表示します。
4. オプション: [ 添付ファイルデータの更新] ボタンを選択して、スケジュールされたサイクル外にリモートテーブル添付ファイルに保存されているデータを更新します。
   リモートテーブル添付ファイルは、ERP システムからキャッシュされた応答です。リモートテーブルの [添付ファイル設定 ] フィールドが [ 添付ファイルを使用] に設定されている場合、 ERP キャンバス 誰かがリモートテーブルからデータをフェッチしたときに ERP システムを呼び出しません。
5. 必要に応じてリモートテーブルの詳細を編集します。
   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス のリモートテーブルフォームフィールドの説明」を参照して ください。
6. [リモートテーブルフィールド] タブを選択して、リモートテーブルのフィールドを表示します。
7. オプション: [リモートテーブルリストを開く **(Open remote table** list)] ボタンを選択して、ERP リモートテーブルを .list Now Platform として表示します。
8. **[Save** (保存)] を選択します。

## ERP キャンバス で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする

ERP キャンバス でリモートテーブルの列を追加または削除して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを作成します。たとえば、誕生日などの機密情報を含むフィールドを削除することができます。

### 始める前に

必要なロール：

- リモートテーブルを変更するには: sn_erp_integration.erp_admin
- リモートテーブルを読み込むには:sn_erp_integration.erp_user

### このタスクについて

ERP キャンバス が ERP モデルの SoR をスキャンし、リモートテーブルに追加できる利用可能なすべてのフィールドを検索します。ERP モデルの ERP システムから利用可能なすべてのフィールドを表示できます。[フィールドを管理 (Manage fields)] モーダルを使用して、ERP システムからリモートテーブルに利用可能な列を追加すると、リモートテーブルに列が自動的に作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブルの [詳細] タブで指定された、関連付けられた ERP モデルによって、利用可能なフィールドがリモートテーブルで制御されます。リモートテーブルの ERP モデルを変更すると、使用可能なフィールドも変更されます。

> **注:**
> リモートテーブルのフィールド名を編集することはできませんが、フィールドの新しいラベルを追加することはできます。

手順

1. 次の場所に移動して、利用可能なリモートテーブルを参照します。 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルのリモートテーブルアイコン ( ) を選択して、[リモートテーブル] ページを開きます。
3. [名前] を選択して、作業するテーブルを選択します。
4. [フィールドを管理 **(Manage fields)**] ボタンを選択して、列を管理してリモートテーブルを構築します。

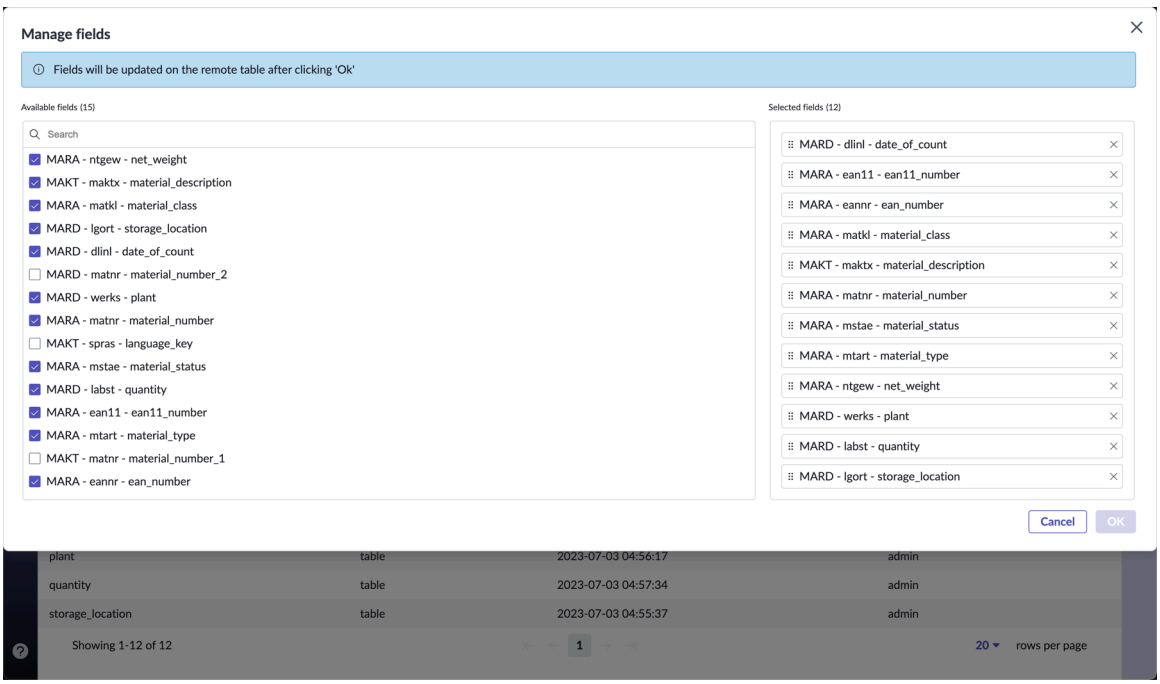
   a. モーダルで、検索ボックスを使用して、リモートテーブルに追加するフィールドを見つけて選択します。

   b. ボタンを選択して、フィールドを [利用可能なフィールド] リストから [選択されたフィールド]リストに移動します。

   c. フィールドをドラッグして並べ替えて、テーブル内での表示を調整します。

   d. すべてのフィールドの追加が完了したら、**[OK]** を選択して変更を保存します。
   Now Platform は、リモートテーブルのフィールドを変更内容で更新します。

**ERP** キャンバス によるリモートテーブルのカスタマイズ




5. [リモートテーブルフィールド] タブを選択して、フィールドがリモートテーブルの列として正しく表示されることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ERP キャンバス を使用したリモートテーブルのクエリ

ERP キャンバス を使用して、[すべて] メニューから直接 SoR の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルをクエリします。

### 始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_user

### このタスクについて

SoR をクエリし、ERP プロセスの ERP モデルを作成できます。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。

> **注:**
> ERP キャンバス は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

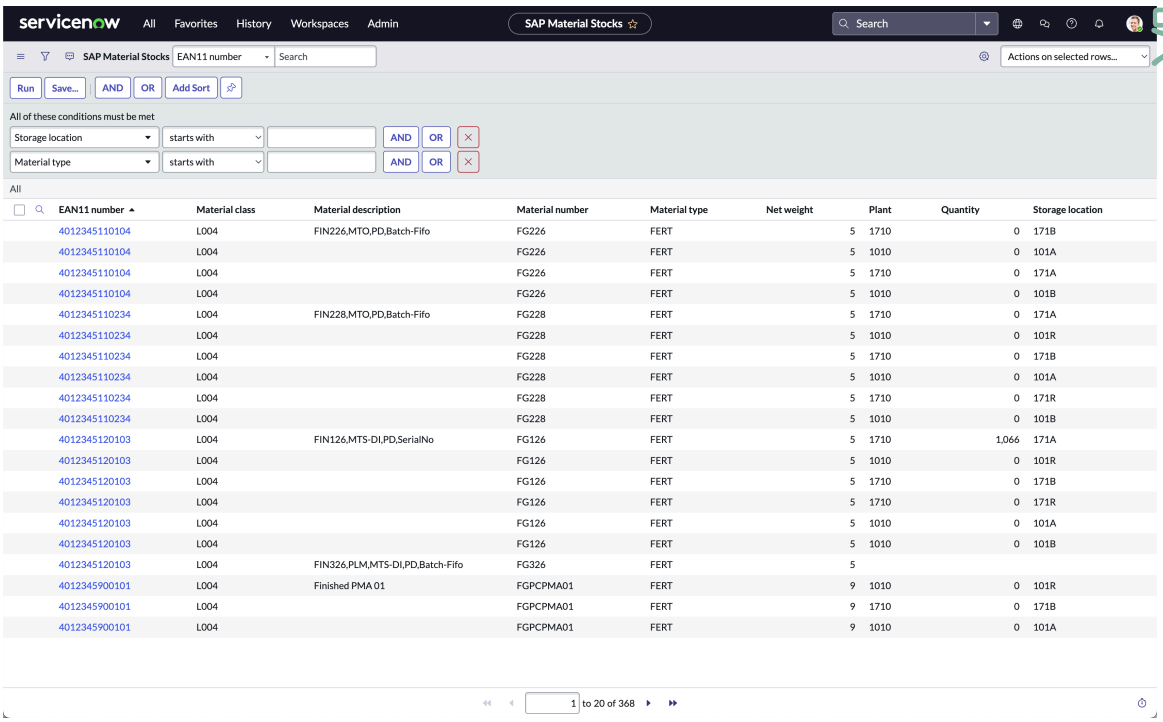
### 手順

1. 次の場所に移動して、利用可能なリモートテーブルを参照します。 すべて > **ERP** キャンバス 利用可能なリモートテーブルのリストを確認します。
2. ナビゲーションメニューから、**SAP** 品目在庫などのリモートテーブルを選択します。
3. Glide for SAP を使用してリモートテーブルをクエリします。

   たとえば、[ストレージの場所] などの列を右クリックして、[この値で絞り込み] のレコードを選択できます。

   条件ビルダーなどの標準的な Now Platform の検索、ソート、およびフィルタリングを使用して、SAP データにアクセスして操作できます。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。

**ServiceNow** テーブルでの **SoR** からのデータの表示




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス でのデータの抽出と変換

ERP (エンタープライズリソースプランニング) 抽出テーブルを使用すると、大量のデータを抽出する日次プロセスを作成できます。次に、抽出したデータを ERP キャンバス の ERP モデルに含めることができます。

## 抽出テーブルに大量のデータを保持する

ETL (抽出、変換、およびロード) データソースである抽出テーブルを使用して、毎日大量のデータを抽出します。抽出テーブルを使用すると、リモートテーブルで使用可能な最大 1,000 行を超える行を保存できます。

たとえば、当月のすべての未完了の発注書を 1 日 1 回、設定された時刻に SAP システムから Glide テーブルに抽出することができます。その後、Source-to-Pay オペレーション、または App Engine Studio で作成された PO ワークスペースなどの Now Platform を介してそのデータにアクセスできます。

抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「Import sets」を参照してください。

## 抽出テーブルによる変換テーブルマップの使用

ERP 抽出テーブルは、Now Platform のローカル変換テーブルにデータを保存します。変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。たとえば、インポート後に、抽出テーブルは変換テーブルで Glide クエリを実行し、出力を複数の異なるターゲットテーブルに保存できます。

カスタム変換テーブルを使用する場合は、最初に Now Platform にテーブルを作成する必要があり、そのテーブルはアプリケーションスコープ内にある必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。

ERP キャンバス の ETL プロセスは、ERP キャンバス ではなく、データを必要とする Now Platform アプリで構成されます。たとえば、フローデザイナー で抽出プロセスを構成できます。

## 自動的に利用可能な標準の抽出テーブル

ERP キャンバス をインストールすると、Now Platform によって作業用に標準の ERP 抽出テーブルが自動的にロードされます。たとえば、売上テーブル、配送テーブル、調達テーブルなどです。標準の抽出テーブルのリストについては、「ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP Customization Mining をインストールした場合、そのアプリは、ERP アプリケーションアクティビティ、コレクターディレクトリデータ、名前空間データなどの追加の抽出テーブルに入力します。

### ERP 抽出テーブルの表示

ERP キャンバス で ETL (抽出、変換、ロード) プロセスを操作し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムから大量の ERP データを抽出します。抽出されたデータは、Now Platform の Glide テーブルに格納されます。

#### 始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_user

#### このタスクについて
ERP 抽出テーブルは、データを抽出し、Now Platform の変換テーブルに保存します。 変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

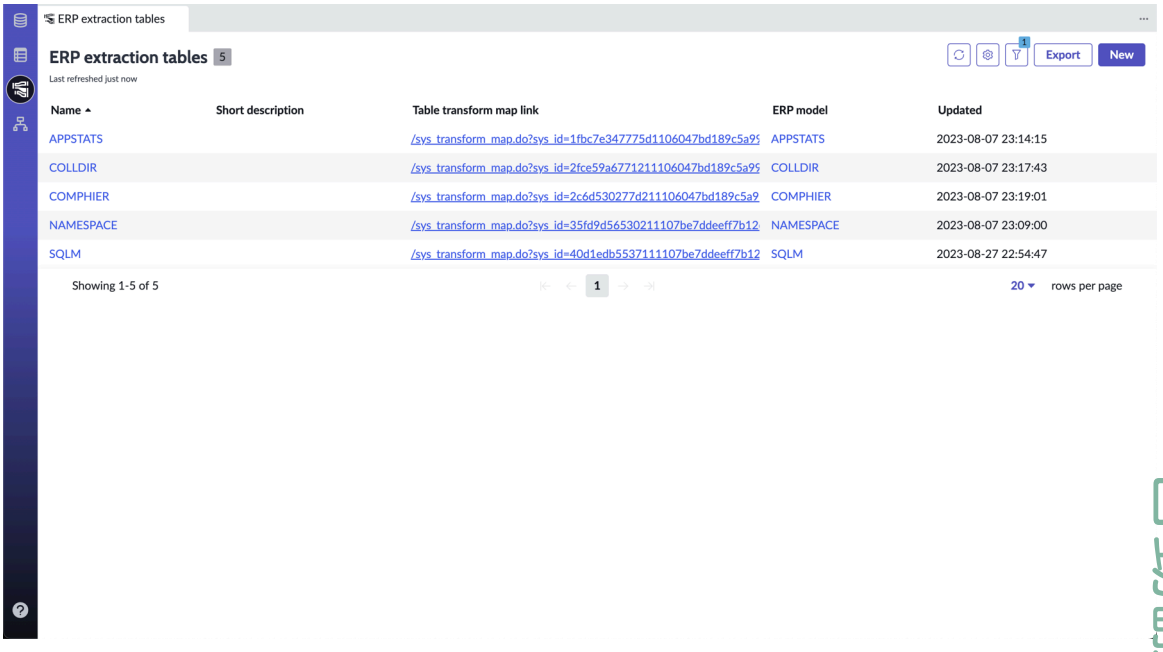


自動翻訳

データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。

手順

1. 次の場所に移動して、利用可能なリモートテーブルを参照します。 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルの ERP 抽出テーブルアイコン ( ) を選択して、ERP 抽出テーブルページを開きます。




3. ERP 抽出テーブルのリストを表示し、ERP モデルの構築に使用できるテーブルを確認します。

**ETL** ソース列

| 列 | 説明 |
|---|---|
| 名前 | ETL プロセスの名前。 |
| 簡単な説明 | ETL プロセスの目的の簡潔な説明。 |
| テーブル変換マップリンク | 抽出されたデータがキャッシュされて保存されるテーブル。<br><br>テーブル名を選択すると、新しいブラウザタブで Now Platform のテーブルが表示されます。<br><br>テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。 |
| ERP モデル | ETL 抽出で使用される ERP モデル。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| | ERP モデル名を選択して、その詳細を表示します。詳細については、「ERP モデルの表示と編集」を参照してください。 |

4. オプション: 抽出テーブルのテーブル名を選択して、その詳細を表示します。

次のタスク
抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「Import sets」を参照してください。

### ERP キャンバス での新しい ERP 抽出テーブルの追加

新しい ERP (エンタープライズリソースプランニング) 抽出テーブルを作成し、毎日 SoR から大量のデータをキャプチャし、変換 (ステージング) テーブルにデータを保存します。データは Now Platform で使用可能になり、抽出データを ERP モデルやリモートテーブルに追加することができます。

始める前に
ソーステーブル、ターゲットテーブル、およびテーブル変換マップを構成してから、これらのテーブルを ERP 抽出テーブルに追加する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。

必要なロール：

- 抽出テーブルを変更するには: sn_erp_integration.erp_admin
- 抽出テーブルを読み込むには:sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP キャンバス には多数の標準の抽出テーブルが用意されており、そのまま使用できます。標準の抽出テーブルを変更する必要がある場合は、テーブルをコピーしてから、コピーしたバージョンを更新します。

複数の ERP 抽出テーブルを作成でき、複数の抽出テーブルで同じ ERP モデルを使用できます。たとえば、販売契約、販売照会、および古い受注に関して個別の抽出テーブルを作成します。

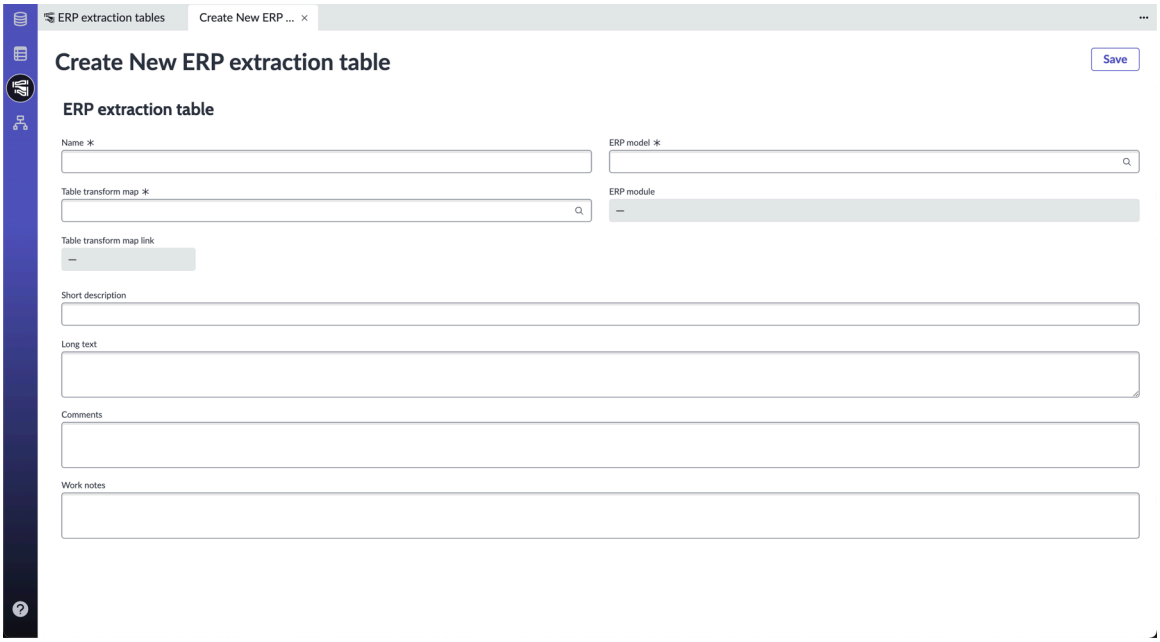
手順

1. 次の場所に移動して、利用可能なリモートテーブルを参照します。 すべて > **ERP** キャンバス > **ERP** キャンバスホーム.
2. サイドパネルの ERP 抽出テーブルアイコン ( ) を選択して、ERP 抽出テーブルページを開きます。
3. [新規] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス での抽出テーブルの追加




4. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP キャンバス の抽出テーブルフィールドの説明」を参照して ください。
5. [保存] を選択します。

### ERP キャンバス の参照

ERP (エンタープライズリソースプランニング) テーブルの詳細や用語集など、ERP キャンバス の参照情報を検索します。

### ERP キャンバス の用語集

ERP キャンバス に適用される ERP (エンタープライズリソースプランニング) の用語や概念について説明します。

候補

候補は、システム内のカスタムトランザクション (ERP ルート) に基づいてアプリケーションを作成するために使用できる推奨リモートテーブルのグループです。従来の ERP SoR 上に存在する既存のアプリケーションを候補にすることもできます。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR から読み取るが書き込みはしない小さなアプリケーションである傾向があります。

候補スコア

スコアは、カスタムアプリケーション (ERP ルート) がリモートテーブルにどの程度適合するかを示す測定基準です。

接続および資格情報エイリアス

資格情報エイリアスは、ServiceNow 資格情報エイリアスで管理されているシステム接続アクセスの実現要因です。資格情報エイリアスは、SoR へのアクセスに使用されます。

カスタムフィールド

カスタムフィールドは、顧客がテーブルに追加する値です。

ERP アプリケーション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

再プラットフォーム化するカスタムアプリケーションは、ERP システムの ERP ルートです。

ERP モデル

ERP モデルは、特定のビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された独自の機能セットを表します。ERP モデルには、SoR の複数のテーブルと、API および ETL プロセスが含まれ、全体的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

ERP モジュール

ERP システムの機能的なビジネスエリア。ERP ルートでは、1 つのビジネスエリアのみを選択できます。

ERP システム

ERP システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP テーブル

ERP システムの個々のテーブル (カスタムテーブルと標準テーブルの両方) は、リモートテーブルの一部です。たとえば、営業では、ERP テーブルに VBAK、VBAP、VBFA、VBPA、VBEP、MKPF、または MSEG を含めることができます。

潜在的な

可能性は、リモートテーブル、カスタム/標準テーブル、およびフィールドがどの程度適合するかを示す ERP-CM の測定基準です。

リモートテーブル

リモートテーブルは、1 つのテーブルに収集されたときに値を提供する SoR のテーブルの集計です。リモートテーブルは、ERP モデルの基盤です。候補は複数のリモートテーブルで構成できます。

SoR

ERP SoR とは、データが格納されており、たとえば SAP などからデータを配布する場所です。

### ERP キャンバス とドメイン分離

ERP キャンバス (エンタープライズリソースプランニング) では、ドメイン分離はサポートされていません。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

### サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ

Glide API を介して ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR のデータにアクセスします。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

### ERP キャンバス の標準のテーブル、フィールド、およびモデル

ERP キャンバス の標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) のリモートテーブル、抽出テーブル、フィールド、モデルに関する詳細を参照してください。

### ERP キャンバス の標準リモートテーブル

ERP キャンバス は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの複数の標準リモートテーブルにアクセスします。

次のリモートテーブルは、ERP キャンバス および ERP-CM から利用できます。

**ERP キャンバス と ERP-CM のリモートテーブル**

| ラベル | 名前 | ERP モジュール |
|---|---|---|
| SAP 会社コード | sn_erp_integration_st_sap_company_code | 基準 |
| SAP 国 | sn_erp_integration_st_sap_country | 基準 |
| SAP 通貨 | sn_erp_integration_st_sap_currency | 基準 |
| SAP 言語 | sn_erp_integration_st_sap_language | 基準 |
| SAP 品目在庫 | sn_erp_integration_st_sap_material_stock | 調達 |
| SAP 購買ドキュメント | sn_erp_integration_st_sap_purchase_document | 調達 |
| SAP 購買組織 | sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organization | 調達 |
| SAP 顧客請求書 | sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice | 営業 |
| SAP 流通チャネル | sn_erp_integration_st_sap_distribution_channel | 営業 |
| SAP 部門 | sn_erp_integration_st_sap_division | 営業 |
| SAP 営業顧客 | sn_erp_integration_st_sap_sales_customer | 営業 |
| SAP 営業デリバリ | sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery | 営業 |
| SAP 営業ドキュメント | sn_erp_integration_st_sap_sales_document | 営業 |
| SAP 営業組織 | sn_erp_integration_st_sap_sales_organization | 営業 |
| SAP 営業収益認識 | sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_recognition | 営業 |
| SAP ベンダー | sn_erp_integration_st_sap_vendor | 営業 |
| SAP ベンダー請求書 | sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice | 営業 |
| SAP トランスポート | sn_erp_integration_st_sap_transport | トランスポート (Transport) |

リモートテーブルの操作の詳細については、「Remote tables」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ServiceNow 製品でアプリを構築する場合は、次のような標準リモートテーブルをデータソースとして使用できます。

- App Engine Studio
- フローデザイナー
- Playbooks
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

### リモートテーブル内の標準 **ERP** キャンバス フィールド

ERP キャンバス で使用できる標準の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルには、追加の SAP テーブルのフィールドが含まれています。

標準のリモートテーブルには、次の追加フィールドが含まれています。標準テーブルの詳細については、「ERP キャンバス の標準リモートテーブル」を参照してください。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VBELN | document_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | ERDAT | date_of_document |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | ERZET | time_of_document |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VBTYP | document_category |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUART | document_type |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUGRU | order_reason |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | LIFSK | delivery_block |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | FAKSK | billing_block |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUFNR | order_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | NETWR | document_value |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | WAERK | currency_code |
| SAP 営業ドキュメント | VBUK | LFGSK | delivery_status |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | MATNR | material_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | ARKTX | material_description |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | ERP フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | KWMENG | ordered_quantity |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | KLMENG | confirmed_quantity |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | NETWR | item_value |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | VRKME | sales_unit |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | ROUTE | delivery_route |
| SAP 営業ドキュメント | MARA | MTART | material_type |
| SAP 営業ドキュメント | VBUP | GBSTA | overall_item_status |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | LAND1 | country_code |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | NAME1 | name |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | ORT01 | city |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | PSTLZ | postal_code |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STRAS | street |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STKZU | vat_liable |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STCEG | vat_reg_number |
| SAP 営業顧客 | KNVV | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業顧客 | KNVV | VTWEG | distribution_channel |
| SAP 営業顧客 | KNVV | SPART | division |
| SAP 営業顧客 | KNVV | INCO1 | inco_terms |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | VBELN | document_number |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | FKART | billing_type |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | WAERK | currency_code |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | ZTERM | payment_terms |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | NETWR | document_value |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | KUNRG | payer |
| SAP 顧客請求書 | VBUK | GBSTK | overall_document_status |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | MATNR | material_number |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | ARKTX | material_description |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | NETWR | item_value |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | FKLMG | billing_quantity |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | VRKME | sales_unit |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | SHKZG | is_returns_item |
| SAP 顧客請求書 | VBUP | GBSTA | overall_item_status |
| SAP 営業組織 | TVKO | VKORG | sales_organization |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業組織 | TVKO | EKORG | purchase_organization |
| SAP 営業組織 | TVKO | BUKRS | company_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | EBELN | document_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BUKRS | company_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BSTYP | document_category |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | LIFNR | vendor_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | ZTERM | payment_terms |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | EKORG | purchase_organization |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | WAERS | currency_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | IHREZ | ext_reference |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | RESWK | supplying_plant |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BEDAT | date_of_document |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MATNR | material_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | EMATN | supplier_material_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MENGE | ordered_quantity |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MEINS | order_unit |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | NETPR | item_value |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MWSKZ | vat_applicable |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | ELIKZ | fully_delivered |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | REPOS | fully_invoiced |
| SAP 品目在庫 | MARA | MATNR | material_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | MTART | material_type |
| SAP 品目在庫 | MARA | MATKL | material_class |
| SAP 品目在庫 | MARA | NTGEW | net_weight |
| SAP 品目在庫 | MARA | EANNR | ean_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | EAN11 | ean11_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | MSTAE | material_status |
| SAP 品目在庫 | MAKT | MAKTX | material_description |
| SAP 品目在庫 | MARD | WERKS | plant |
| SAP 品目在庫 | MARD | LGORT | storage_location |
| SAP 品目在庫 | MARD | LABST | 数量 |
| SAP 品目在庫 | MARD | DLINL | date_of_count |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | BELNR | document_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | GJAHR | document_year |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | EBELN | purchase_document_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | EBELP | purchase_document_item |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MATNR | material_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | BUKRS | company_code |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | WERKS | plant |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | WRBTR | amount |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | SHKZG | credit_debit_indicator |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MWSKZ | vat_applicable |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MENGE | 数量 |
| SAP 購買組織 | T024E | EKORG | purchase_organization |
| SAP 購買組織 | T024E | EKOTX | name |
| SAP 購買組織 | T024E | BUKRS | company_code |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | VBELN | document_number |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ERDAT | date_of_document |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ERZET | time_of_document |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | LFART | delivery_type |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ROUTE | delivery_route |
| SAP 営業デリバリ | VBUK | GBSTK | overall_document_status |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | MATNR | material_number |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | CHARG | batch_number |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | WERKS | plant |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | LFIMG | 数量 |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | NTGEW | net_weight |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | GEWEI | delivery_unit |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | VOLUM | volume |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | VOLEH | volume_unit |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | ARKTX | material_description |
| SAP ベンダー | LFA1 | LIFNR | vendor_number |
| SAP ベンダー | LFA1 | NAME1 | name |
| SAP ベンダー | LFA1 | ORT01 | city |
| SAP ベンダー | LFA1 | PSTLZ | postal_code |
| SAP ベンダー | LFA1 | STRAS | street |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP ベンダー | LFA1 | STCEG | vat_reg_number |
| SAP ベンダー | LFA1 | WERKS | plant |
| SAP ベンダー | LFM1 | EKORG | purchase_organization |
| SAP ベンダー | LFM1 | WEBRE | gr_invoice_indicator |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | VBELN | document_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | POSNR | document_item |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | SAKRR | accr_val_clearing_account_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | SAKRRK | offset_clearing_account_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | ACC_VALUE | total_accrued_value |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | WRBTR | amount |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | RVAMT | revenue_amount |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | WAERK | currency_code |
| SAP 国 | T005 | LAND1 | country_code |
| SAP 国 | T002 | SPRAS | language_code |
| SAP 国 | T002 | LAISO | language_iso_code |
| SAP 国 | T005T | LANDX | 説明 |
| SAP 言語 | T002 | SPRAS | language_code |
| SAP 言語 | T002 | LAISO | language_iso_code |
| SAP 通貨 | TCURC | WAERS | currency_code |
| SAP 通貨 | TCURC | ISOCD | currency_iso_code |
| SAP 通貨 | TCURT | LTEXT | 説明 |
| SAP 流通チャネル | TVTW | VTWEG | distribution_channel |
| SAP 流通チャネル | TVTWT | VTEXT | 説明 |
| SAP 部門 | TSPA | SPART | division |
| SAP 部門 | TSPAT | VTEXT | 説明 |
| SAP 会社コード | T001 | BUKRS | company_code |
| SAP 会社コード | T001 | BUTXT | 説明 |
| SAP 会社コード | T001 | LAND1 | country_code |
| SAP 会社コード | T001 | WAERS | currency_code |
| SAP 会社コード | T001 | SPRAS | language_code |
| SAP トランスポート | E071 | AS4DATE | date_of_transport |
| SAP トランスポート | E071 | AS4TIME | time_of_transport |
| SAP トランスポート | E071 | AS4USER | ユーザー |
| SAP トランスポート | E071 | TRFUNCTION | type |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP トランスポート | E071 | TRKORR | 番号 |
| SAP トランスポート | E071 | TRSTATUS | ステータス |
| SAP トランスポート | E071 | OBJECT | object_type |
| SAP トランスポート | E071 | OBJ_NAME | object_name |
| SAP トランスポート | E071 | PGMID | program_id |

### **ERP** キャンバス の標準 **ERP** モデルと抽出テーブル

ERP キャンバス には、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルにリンクできる多数の標準抽出テーブルが用意されています。

ERP モデルは、ERP データへのアクセスに利用できる一連のテーブルのテンプレートとして機能します。標準の ERP キャンバス モデルをそのまま使用しても、クローンを作成して変更してもかまいません。

次の抽出テーブルは、ERP キャンバス から利用できます。

**ERP** キャンバス の抽出テーブル

| ラベル | **ERP** モジュール |
|---|---|
| SAP 会社コード | 基準 |
| SAP 国 | 基準 |
| SAP 通貨 | 基準 |
| SAP 言語 | 基準 |
| SAP 品目在庫 | 調達管理 |
| SAP 購買ドキュメント | 調達管理 |
| SAP 購買組織 | 調達管理 |
| SAP 顧客請求書 | 営業 |
| SAP 流通チャネル | 営業 |
| SAP 部門 | 営業 |
| SAP 営業顧客 | 営業 |
| SAP 営業デリバリ | 営業 |
| SAP 営業ドキュメント | 営業 |
| SAP 営業組織 | 営業 |
| SAP 営業収益認識 | 営業 |
| SAP ベンダー | 営業 |
| SAP ベンダー請求書 | 営業 |
| SAP トランスポート | トランスポート (Transport) |

リモートテーブルの操作の詳細については、「Remote tables」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス フィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) のフィールド説明のテーブルの中には、タスクトピックで管理するには大きすぎるものがあります。このセクションにある大きいテーブルに関する情報を参照してください。

### ERP キャンバス の基本認証資格情報フィールド

接続情報と認証情報 の [基本認証資格情報] フォームを使用すると、ERP キャンバス で ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム接続の資格情報を作成できます。

#### 基本認証資格情報フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 資格情報レコードを識別する一意の名前です。たとえば、SAPserviceuser です。 |
| ユーザー名 | リモートテーブルにアクセスするために SoR にログインするためのユーザー名。 |
| パスワード | 認証して SoR にログインするためのパスワード。 |
| アクティブ | 資格情報レコードを使用するオプションです。ERP キャンバス または ERP-CM の資格情報を有効にするオプションを選択します。 |
| 順序 | この資格情報を適用する順番です。たとえば、100 です。 |
| 資格情報エイリアス | スポークに関連付けられた資格情報エイリアスです。 |

### ERP キャンバス のシステム接続フィールドの説明

ERP キャンバス のタスクリストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続に関する詳細情報が含まれています。

#### 接続フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 接続の名前。 |
| アクティブ | 接続をアクティブにして使用可能にするオプション。 |
| 資格情報 | スポークの資格情報レコードです。 |
| ドメイン | アクションを実行するドメインです。 |
| 接続エイリアス | 接続に関連付けられているエイリアスレコードです。 |
| ホスト | SAP サーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾アドレスです。 |
| Override default port (デフォルト ポートに上書きする) | 接続で使用されるターゲットポート。3200 である必要があります。 |
| MID Server を使用 | この接続で MID Server を使用するためのオプション。チェックボックスを選択し、**[MID Server** 詳細構成] タブでフィールドを定義します。 |
| (属性) u_client | SAP インスタンスがインストールされているターゲットホストのクライアント値。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| (属性) u_system_number | SAP インスタンスがインストールされているターゲットホストのシステム番号。 |
| (属性) u_lang | SAP インスタンスがインストールされているターゲットホストの言語。 |

### ERP キャンバス の新しいシステムフィールドの説明

ERP キャンバス の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続詳細に関する情報が含まれています。

新しい **ERP** システムフィールドの作成

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ERP システム | ビジネスエリアを識別するための ERP システムの名前 |
| 最新のハートビート | Now Platform が ERP システムに最後に接続した日時。<br><br>このフィールドは編集できません。ERP システムが正常に保存され、接続された場合にのみ値が設定されます。 |
| 簡単な説明 | ERP システムの目的 (注文など) の簡単な説明。 |
| 更新日時 | ERP システム設定が最後に保存された日時 |
| 接続 | SoR に接続するために構成した接続資格情報のエイリアス。ERP キャンバス スコープ内の接続からのみ選択できます。<br><br>詳細については、「ERP キャンバス 資格情報と接続の構成」を参照してください。 |
| リモートテーブル | ERP システム内のリモートテーブルの数。<br><br>ERP キャンバス の ERP リモートテーブルレコードにシステムを追加して、システムをリモートテーブルにリンクします。詳細については、「ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集」を参照してください。 |
| ETL データソース | ERP システム内の ERP 抽出テーブルの数。<br><br>ERP キャンバス の ERP 抽出テーブルレコードにシステムを追加して、システムを抽出テーブルにリンクします。詳細については、「ERP キャンバス での新しい ERP 抽出テーブルの追加」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP キャンバス のシステムリストフィールドの説明

ERP キャンバス の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続詳細に関する情報が含まれています。

#### ERP システムリストの詳細

| 列 | 説明 |
|---|---|
| ERP システム | ERP システムの名前。 |
| ERP ハートビート | ERP システム接続への ping が現在成功しているかどうかを示します。 |
| 最新のハートビート | Now Platform が ERP システムに最後に接続した日時。 |
| Connection (接続) | 接続の資格情報のエイリアス。値を選択して、保存された接続と資格情報を開きます。<br><br>接続情報と認証情報 の詳細については、「Connections and Credentials」を参照してください。 |
| 簡単な説明 | ERP システムの用途に関する簡単な説明。たとえば、受注またはベンダー請求書です。 |
| リモートテーブル | ERP システム内のリモートテーブルの数。 |
| ETL データソース | ERP システム内の ERP 抽出ソースの数。 |
| 更新日時 | Now Platform で ERP システム設定が最後に変更された日時。 |

### ERP キャンバス の ERP モデルテーブルフィールドの説明

ERP キャンバス の ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの [テーブルフィールド (Table fields)] リストには、ERP モデルに含まれるテーブルフィールドが表示されます。

#### [テーブルフィールド (Table fields)] タブの詳細

| 列 | 説明 |
|---|---|
| フィールド名 | SoR のフィールドの名前。 |
| 名前 | フィールドを含む SoR のテーブルの名前 |
| マッピングされたフィールド名 | マッピングされたフィールドの名前。<br><br>Now Platform は SoR 上のリンクされたテーブルをスキャンした後、ERP モデル内にマッピングされたこのフィールドの名前を自動的に作成します。 |
| フィールド ラベル | Now Platform で自動的にマッピングされたフィールドの自然言語フィールド名 |
| カスタムか | 記録システムのフィールドが標準かカスタマイズかを示すオプション。 |
| ERP データタイプ | フィールドに含まれるデータタイプ。オプションは次のとおりです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[テーブルフィールド **(Table fields)**] タブの詳細 (続く)

| 列 | 説明 |
|---|---|
| | • char (文字)<br>• date<br>• 10 進数<br>• numc (番号)<br>• time |
| クエリ可能 | ソーステーブルのクエリを行わずにフィールドからデータを取得できるかどうかを示すオプション<br><br>通貨テーブルなどの小さなテーブルでは、データをローカルに格納できるため、フィールドを取得するためのクエリは必要ありません。 |
| 更新日時 | フィールドが最後に更新された日時。<br><br>リンクされた ERP システムを Now Platform でオンデマンドでスキャンし、[モデルフィールドをフェッチ **(Fetch model fields)**] ボタンを選択することで、新しいフィールドが利用可能かどうかを確認できます。 |

### **ERP** キャンバス のクローンモデルフィールドの説明

ERP キャンバス の [ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルのクローン (Clone ERP (Enterprise Resource Planning) model)] フォームを使用すると、ERP モデルをクローンして変更を加えることができます。

**ERP** モデルのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ERP モデル名 | ERP モデルの名前。 |
| ERP モジュール | SoR の ERP モジュール。たとえば、受注や在庫です。<br><br>ERP モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された個別の機能セットを表します。 |
| ERP システム | ERP モデルが接続する ERP システム。<br><br>接続された ERP システムにより、フィールドとテーブルに関する情報へのアクセス、およびモデルと接続された ERP システム間のインタラクションが可能になります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」と「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** モデルのフィールド (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタム モデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。 |
| Short description (簡単な説明) | ERP モデルが表す内容の簡単な説明。 |
| 長いテキスト | ERP データモデルに関する説明や情報。 |
| 作業メモ | ERP モデルに関するメモ。作業メモはプライベートであり、他の Now Platform ユーザーは表示できません。 |
| コメント | ERP モデルに関するコメント。コメントは公開され、他の Now Platform ユーザーに表示されます。 |

### **ERP** キャンバス の新しいモデルフィールドの説明

ERP キャンバス の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの詳細情報が含まれています。

**ERP** モデルのフィールド

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| ERP モデル名 | ERP モデルの名前。 |
| ERP モジュール | SoR 内の ERP モジュール (受注や在庫など)。<br><br>ERP モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された個別の機能セットを表します。 |
| ERP システム | ERP モデルが接続する ERP システム。<br><br>接続された ERP システムにより、フィールドとテーブルに関する情報へのアクセス、およびモデルと接続された ERP システム間のインタラクションが可能になります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」と「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照してください。 |
| アプリケーション | ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタム モデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。 |
| Short description (簡単な説明) | ERP モデルが表す内容の簡単な説明。 |
| 長いテキスト | ERP データモデルに関する説明や情報。 |
| 作業メモ | ERP モデルに関するメモ。作業メモはプライベートであり、他の Now Platform ユーザーは表示できません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP** モデルのフィールド (続く)

| フィールド | 定義 |
| --- | --- |
| コメント | ERP モデルに関するコメント。コメントは公開され、他の Now Platform ユーザーに表示されます。 |

### **ERP** キャンバス テーブル結合条件フィールドの説明

ERP キャンバス の [テーブル結合条件フォーム (Table join condition )] フォームを使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルのテーブルに対する結合条件を作成および編集できます。

テーブル結合は、共有フィールドを介して異なるテーブルをリンクします。結合を使用すると、テーブル間の論理関係に基づいて複数のテーブルのデータにアクセスできます。関係は条件付きにすることができ、結合条件を使用して指定します。

結合フィールドは、子テーブルのレコードを対応する親レコードに接続するために使用される共通の属性またはキーを定義します。

詳細については、「ERP モデルへのテーブル結合と結合条件の追加」を参照してください。

新しいテーブル結合条件フィールドの作成

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ERP モデルテーブルのフィールド | ERP SoR の結合フィールドの名前。データが保存されるテーブルの属性または列を表します。 |
| ERP モデル | 結合条件の適用先となる ERP モデル。 |
| フィールド値 | 結合をトリガーする ERP モデルテーブルのフィールドの値。 |
| 順序 | 結合のどの部分が最初に発生するかを示す数値。<br><br>この数値により、他のアイテムに対する相対的な結合条件の順序や優先順位が決定されます。 |
| 演算子 | クエリの条件を定義する演算子。<br><br>演算子は、クエリ結果で値を評価およびフィルタリングする方法を決定します。現在、次の演算子がサポートされています。<br>• 次の値と等しい<br>• 次の値を含む<br>• は次の値を超える (>)<br>• は次の値以上 (>=)<br>• は次の値未満 (<)<br>• は次の値以下 (<=)<br>• 等しくない |
| ステートメント演算子 | ステートメントの条件または比較を定義する演算子。オプションは AND と OR です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ERP キャンバス のリモートテーブルフォームフィールドの説明

ERP キャンバス のリモートテーブルフォームを使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルでリモートテーブルを作成および編集できます。

### リモートテーブルの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | Now Platform のリモートテーブルの名前。 |
| ERP モデル | リモートテーブルに接続されている ERP モデル。ERP モデルは、リモートテーブルで利用可能なフィールドを制御します。<br><br>**注:**<br>ERP モデルを変更すると、新しいモデルでは使用できない、以前に構成されたテーブルフィールドが削除されます。<br><br>ERP リモートテーブルのモデルを変更するには、 **ERP** モデルフィールドの ロック解除 ボタンを選択し、確認ダイアログで モデル変更の ロック解除 ボタンを選択する必要があります。 |
| ERP モジュール | ERP システム内の機能エリアまたはコンポーネント。モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティのセットに対応するように調整された個別の機能セットを表します。 |
| ERP システム | リモートテーブルのリンク先の ERP システム。<br><br>接続されたシステムは、モデルにリンクされている ERP インスタンスを表し、モデルと接続された ERP システム間のデータフローとインタラクションを可能にします。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの作成」を参照してください。 |
| リモートテーブルリンク | Now Platform のリモートテーブルの名前とリンク。<br><br>リモートテーブルリンクを選択すると、リモートテーブルの探索、クエリ、管理を実行できる新しいブラウザタブが開きます。 |
| 添付ファイルの設定 | リモートテーブルが ERP システムのリモートデータを含む添付ファイルを使用する方法。<br><br>オプションは次のとおりです。<br>• なし：リモートテーブルに添付ファイルは使用されません。<br>• 添付ファイルの保存: スケジュールされたクエリで指定されている場合、または [添付ファイ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブルの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ル データの更新] ボタンを選択して、新しい添付ファイルを生成します。<br>• 添付ファイルを使用 **(Use attachment)**：現在の添付ファイルが利用可能な場合、ローカルで使用されます。 |
| 簡単な説明 | ERP リモートテーブルの簡単な説明。 |
| 長いテキスト | リモートテーブルのコンテンツに関するその他の詳細。 |
| クエリ可能なフィールドが必要 | ソーステーブルのクエリを行わずにリモートテーブルからデータを取得できるかどうかを示します。<br><br>通貨テーブルなどの小さなテーブルでは、データをローカルに格納できるため、フィールドを取得するためのクエリは必要ありません。 |
| スケジュールの有効化 | 添付ファイルデータの新しいバージョンをフェッチするためのスケジュール済みクエリ (ETL 抽出) を作成するオプション。<br><br>**注:**<br>このオプションを使用するには、[添付ファイル設定] フィールドを [添付ファイルを保存 **(Save attachment)]** または [添付ファイルを使用] に設定する必要があります。 |
| 日次スケジュール時間 | スケジュールを毎日実行する時刻を 24 時間形式で示したもの。 |
| スケジュール済みエンコードクエリ | リモートテーブルに対するスケジュール済み抽出クエリの詳細。<br><br>リモートテーブルリストのフィルターを使用してエンコードされたクエリ文字列を作成し、その文字列を [エンコードクエリ] フィールドに貼り付けます。エンコードされたクエリの作成の詳細については、「Encoded query strings」を参照してください。 |

## **ERP** キャンバス の抽出テーブルフィールドの説明

ERP キャンバス の抽出テーブルフォームを使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルで抽出テーブルを作成および編集できます。

新しい **ERP** 抽出テーブルフィールド

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ERP 抽出テーブルの名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **ERP** 抽出テーブルフィールド (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ERP モデル | 抽出テーブルソースの ERP モデル。選択できるように構成されている必要があります。 |
| テーブル変換マップ | 抽出されたデータがキャッシュされて保存されるテーブル。<br><br>変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。<br><br>指定された Glide テーブルは、抽出されたデータのソース ERP 抽出テーブルとターゲットテーブルを接続します。<br><br>カスタム変換テーブルを使用する場合は、最初に Now Platform にテーブルを作成する必要があり、そのテーブルはアプリケーションスコープ内にある必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「Create a transform map」を参照してください。 |
| ERP モジュール | ERP 抽出テーブルにリンクされた ERP モジュールの名前。ERP モデルによって制御されます。 |
| テーブル変換マップリンク | 抽出された ERP データがキャッシュされて保存される Glide テーブルへのリンク。<br><br>抽出テーブルを保存した後、リンクを選択すると、Now Platform テーブルが新しいブラウザタブで開きます。 |
| System | SoR で ETL (抽出、変換、ロード) プロセスがデータを抽出する ERP システム。システムがすでに構成されている必要があります。 |
| 簡単な説明 | ETL ソースの簡単な説明。 |
| 長いテキスト | ERP 抽出テーブルを説明する追加のテキスト。 |
| コメント | ERP 抽出テーブルで作業しているすべてのユーザーに表示される公開コメント。 |
| 作業メモ | 自分だけが表示できるプライベートメモ。 |

## ERP Customization Mining (ERP-CM)

ServiceNow® ERP Customization Mining (ERP-CM) 製品を使用すると、ソリューション統合コンサルタントは、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム内のカスタマイズされたコードを使用してアプリケーション候補を見つけることができます。ERP-CM は、Now Platform に再プラットフォーム化する候補の適合性をランク付けします。

ERP Customization Mining と App Engine

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

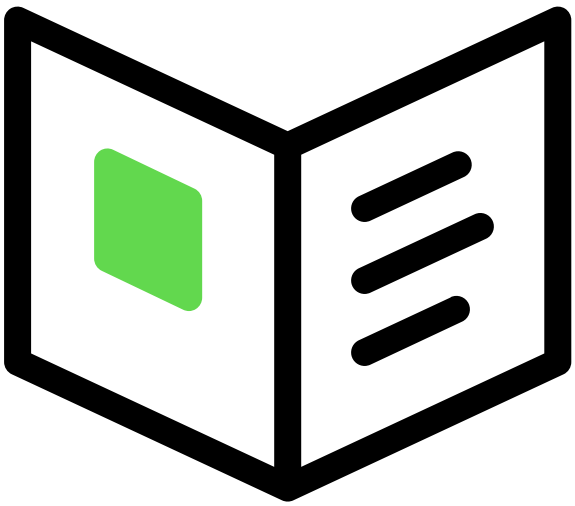
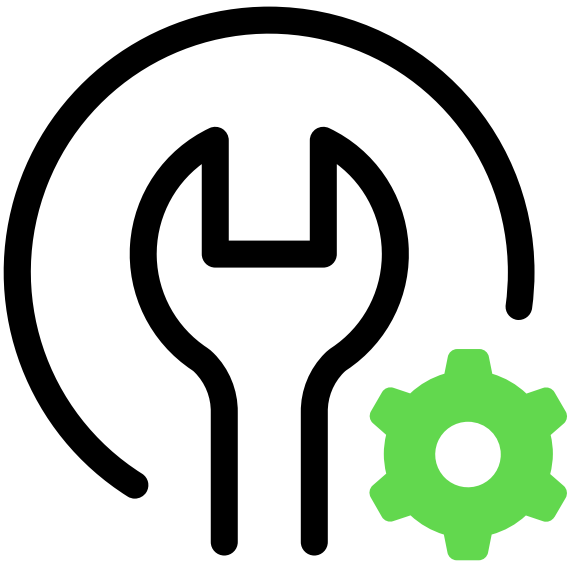


自動翻訳

ERP キャンバス と ERP Customization Mining (ERP-CM) は、ServiceNow のクリーンなコア製品です。これらは、企業による従来のコードの最新化とオーケストレーションを支援し、SAP などの既存の SoR では不十分なプロセスと統合を補完します。ERP キャンバス と ERP-CM を併用することで、従来の ERP システムのデータを使用して、Now Platform でのアプリケーションの構築を迅速かつ簡単に行うことができます。

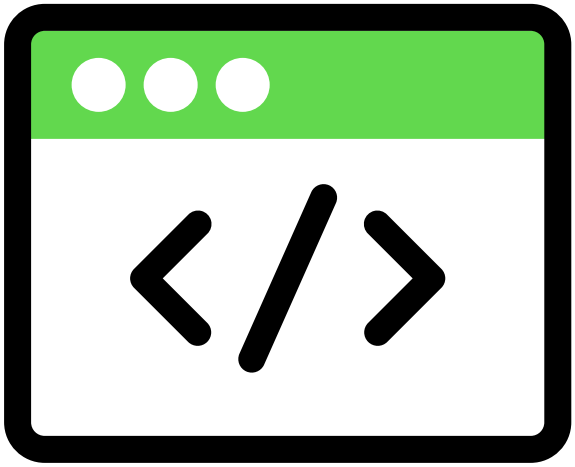
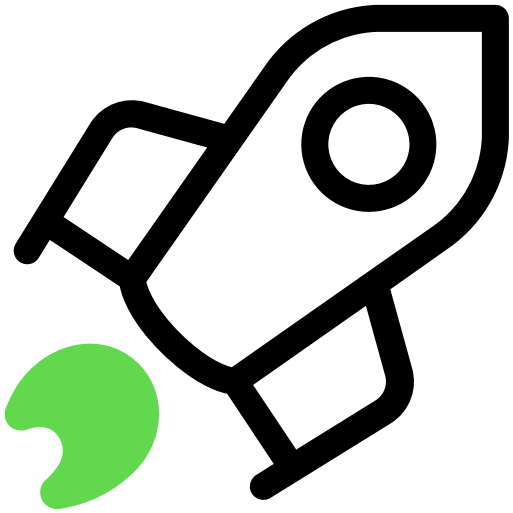
再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上に構築されたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベース管理者と開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

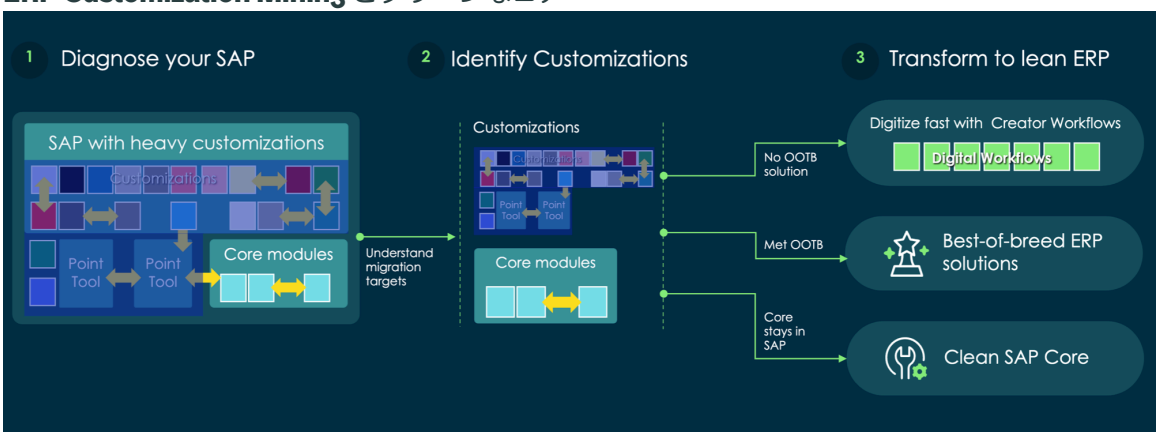
| 探索 | 構成 |
| --- | --- |
|  |  |
| 概念と機能について説明します ERP Customization Mining 。 | 接続をインストールして 構成します ERP-CM 。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 勤務先 | 参照 |
| --- | --- |
|  |  |
| 再プラットフォーム化の候補を特定するために使用します ERP-CM 。 | テーブルや用語などのコンポーネントの詳細 ERP-CM を取得します。 |

**ERP Customization Mining** とクリーンなコア




## ストアで **ERP Customization Mining** を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ERP-CM を使用する前に、まず ServiceNow Store から ERP-CM をダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、ERP-CM がインスタンスに表示される前にローカルキャッシュのクリアが必要な場合があります。

ERP-CM をダウンロードしたら、インスタンスにインストールします。詳細については、「ERP Customization Mining のインストール」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## ERP Customization Mining のヘルプ

ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

会社の顧客管理者にお問い合わせください

### ERP Customization Mining の詳細

ERP Customization Mining (ERP-CM) では、再プラットフォーム化の候補を特定できます。これらの候補は、迅速な再プラットフォーム化を必要とする、従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム上に構築されたカスタムアプリケーションです。

## ERP-CM で再プラットフォーム化する候補の特定

従来の ERP システムには、メンテナンスが困難になったカスタムフィールドを含む古いテーブルが含まれている場合があります。ERP キャンバス と ERP-CM を使用して、カスタムフィールドを持つ候補を特定し、リモートテーブルまたは抽出テーブルとしてインスタンスに抽出します。そうすることで、ローコード開発者は、従来の ERP フィールドを App Engine Studio などの Now Platform で構築されたアプリのデータソースとして使用し、再プラットフォーム化できるようになります。

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
- 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上に構築されたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

再プラットフォーム化する ERP 候補が見つかると、ERP-CM は次のアクションや類似の候補を提案します。 ERP-CM は、管理者が ERP キャンバス で構成する ERP モジュールまたは機能領域をサポートしています。モジュールの例としては、経理、調達、営業などがあります。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。

再プラットフォーム化されたデータはすぐに利用でき、管理しやすいテーブルやアプリに反映されます。ユーザーはデータベース管理者に情報を要求して数週間待つ必要がなくなります。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

## カスタマイズされた ERP アプリケーションを再プラットフォーム化するためのワークフロー

ソリューション統合コンサルタントは、次のワークフローを完了して、using ERP Customization Mining (ERP-CM) の記録Now Platformシステムからのカスタムコードを使用してレガシー ERP データを再プラットフォーム化します。

1. 顧客と面談し、顧客の ERP SoR で ERP Customization Mining を使用して分析を実行することに同意します。
2. ERP キャンバス を使用して、顧客の ERP SoR を ServiceNow インスタンスに接続します。

> **注:**
> ほとんどの顧客は独自のインスタンスを持っています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP-CM は、ERP キャンバス で構成されたシステム接続を使用します。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの操作」を参照してください。

3. ERP キャンバス を使用して、利用可能なリモートテーブルのフィールドから ERP モデルを構築します。詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - ERP データを操作する ERP モデルの構築
   - ERP キャンバス での ERP リモートテーブルの使用
4. ERP Customization Mining を実行して候補を検索します。候補は、ServiceNow アプリで置き換えることができる、SoR 内のカスタムコードです。詳細については、「ERP-CM で候補の概要を参照する」を参照してください。
5. 再プラットフォーム化する候補を選択します。詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。
6. ERP-CM 内の候補の詳細を、候補に関連するコメントを入力して添付ファイルを保存する中心的な場所として使用します。詳細については、「ERP-CM で候補の詳細を表示して操作する」を参照してください。
7. 候補の詳細で、再プラットフォーム化された単一アプリに結合できる類似の候補を特定します。詳細については、「ERP-CM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください 。
8. ERP キャンバス に戻って、リモートテーブルと抽出テーブルを使用してデータモデルの構築を続行します。必要なすべてのデータが Now Platform で利用可能であることを確認します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。
9. App Engine Studio (AES) または別の ServiceNow アプリケーションで、再プラットフォーム化されたデータをソースとして使用してスコープ対象アプリを構築します。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリの構築」を参照してください。
10. お好みの分析ツールで適用可能な測定基準とパラメーターを使用して、新しいアプリのパフォーマンスを測定および監視します。

自動翻訳

## ERP-CM のメリット

### ERP キャンバス のメリット

| メリット | 機能 | ロール |
| --- | --- | --- |
| ERP 管理者の介入を待たずに、カスタムコードを使用して迅速に候補を特定し、再プラットフォーム化します。 | 再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存 | sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp |
| 再プラットフォーム化の次の手順とアクションの提案を表示します。 | ERP-CM で候補の推奨事項を確認する | sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp |
| 選択した候補を保存してリストにまとめます。 | 再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存 | sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp |

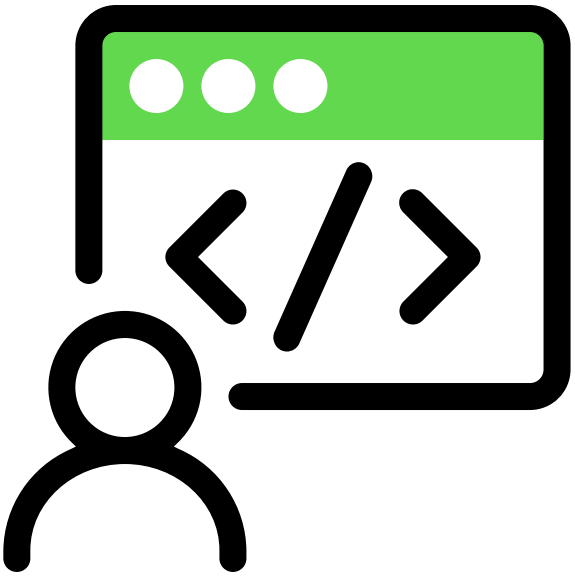
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ERP-CM のその他のリソース

| ERP-CM に関する詳細 | ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| ERP-CM を使用すると、ソリューション統合コンサルタントは、ERP システム内のカスタマイズされたコードを使用してアプリケーション候補を見つけることができます。 | <br>の ERP Clean Core with App Engine の概要 ServiceNow University<br>注:<br>このリソースにアクセスするには、にログイン ServiceNow University する必要があります。<br> <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ERP-CM に関する詳細 | ServiceNow リソース |
| --- | --- |
| |  <br>ビデオ: ERP システムの可能性を最大限に引き出す |

### データを抽出および処理する方法**ERP-CM**

ERP Customization Mining (ERP-CM) は、エクストラクターを使用して ERP (Enterprise Resource Planning) システムからデータを取得し、 でデータが使用可能 Now Platformになる前に処理します。

SAP エクストラクターを使用して ERP データソースを分析し、構文を検証します。次のエクストラクターを使用して、ERP システムからデータを取得できます。

- アプリ統計
- コンフィエ
- ティッカー

サポートされているすべてのエクストラクターは、テーブルを使用して Now Platform データを処理します。

#### **SAP** データエクストラクター

| エクストラクター | フルネーム | 説明 | Now Platform 処理テーブル | 入力された Now Platform テーブル |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| アプリ統計 | アプリケーション統計 | ERP アプリケーションからシステムレベルの統計情報とパフォーマンス測定基準を収集して分析します。 | sn_erp_mining_erpstat_data_stg_application<br>sn_erp_mining_erpstat_data_stg_user | sn_erp_mining_erpstat_data_application<br>sn_erp_mining_erpstat_data_user |
| コンフィエ | コンポーネント階層 | ビジネスプロセスやモジュール構成など、SAP のさまざまなコンポーネント間の階層と | sn_erp_mining_erpcomp_hier_data_stg_application<br>sn_erp_mining_erpcomp_hier_data_stg_module | sn_erp_mining_erpcomp_hier_data_application<br>sn_erp_mining_erpcomp_hier_data_module |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**SAP** データエクストラクター (続く)

| エクストラクター | フルネーム | 説明 | Now Platform 処理テーブル | 入力された Now Platform テーブル |
|---|---|---|---|---|
| | | 関係を分析します。 | | |
| ティッカー | SQL モニター | 実行中の ABAP アプリケーションによって実行されるすべての SQL 命令および操作の監視を有効にします。SQLM によって収集されたデータは、実行されたすべてのデータベース操作の集計されたパフォーマンス指標 (実行回数、実行時間、影響を受けた行数など) を提供します。 | sn_erp_mining_erp_sql_data_staging<br>sn_erp_mining_erp_sql_data_agg | sn_erp_mining_erp_application<br>sn_erp_mining_erp_table<br>sn_erp_mining_erp_application_ta<br>sn_erp_mining_erp_application_u |

自動翻訳

## **ERP-CM** による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法

ERP Customization Mining (ERP-CM) は、従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補の Now Platform への再プラットフォーム化の可能性をランク付けするスコアを生成します。

すべての候補は、候補の詳細で指定された ERP モジュールを ERP-CM に持っています。ERP モジュールは、再プラットフォーム化の候補の潜在的なスコア、およびモデルに含まれるリモートテーブルと抽出テーブルを評価するために使用されます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
- 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

**注:**

管理者は、最初に ERP キャンバス で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの操作」を参照してください。

### 候補の潜在的能力に対する高スコアと低スコア

ERP-CM は、テーブルとフィールドが Now Platform でどの程度サポートされているかに基づいて候補を評価します。

- 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ERP-CM 。
- 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP キャンバス の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。

### スコアの計算方法

候補の潜在的なスコアは、次の測定基準を使用して計算されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ERP モデル：候補がリモートテーブルと抽出テーブルを使用する ERP モデルの数。
- 類似の候補：テーブルベースの類似性とモデルベースの類似性の両方を考慮に入れた上で、しきい値を超える類似スコアを持つ候補の数。

  しきい値はシステムプロパティ [sys_properties] テーブルで調整でき、デフォルトの OR 条件は AND に変更できます。

- サポートされているテーブルのスコア：ERP モデルでサポートされているカスタムアプリテーブルの数と、カスタムアプリテーブルの数の比率。

  **注:**
  テクニカルまたは ServiceNow のテーブルクラスターに属するテーブルは、これらの計算から無視されます。

- サポートされているテーブルの使用率：カスタムアプリで使用されている、関連する ERP モデルでサポートされているテーブルの比率。
- サポートされていないモデルのペナルティ：ERP モデルのテーブルでサポートされていない操作の数に対するペナルティ。サポートされていない操作の数はシグモイド関数を介して渡されるため、範囲は 0.0 ～ 1.0 になります。
- サポートされていないテーブル拡張：モデル拡張としても提案されているカスタムアプリテーブルの数。
- モデルの不正確さ：関連する ERP モデルでサポートされているテーブルの中で、カスタムアプリで使用されず、シグモイド関数を介して渡されるテーブルの数。

### ERP-CM と ERP キャンバス およびリモートテーブルとの連携の仕組み

ERP キャンバス を使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR に接続し、そのデータを整理できます。

ERP キャンバス を使用して、リモートテーブルと ERP 抽出テーブルの標準フィールドにアクセスできますが、 ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用すると、SoR から Now Platform への再プラットフォーム化に適した候補を見つけることができます。

ERP-CM は、候補と可能な次のステップ (ERP データにアクセスするためのリモートテーブルや抽出テーブルの更新など) を提案します。リモートテーブルは、データを添付ファイルとして ServiceNow インスタンスに送信します。このデータは、AI/ML を使用して分析され、再プラットフォーム化する類似の候補が特定されます。

再プラットフォーム化する候補を特定し、ERP-CM で推奨されるアクションを実行したら、リモートテーブルと抽出テーブルにアクセスするために ERP キャンバス のみ使用する必要があります。これらのテーブルは、アプリ、フロー、およびワークスペースを構築するためのデータソースです。

## ERP キャンバス および ERP-CM でのリモートテーブルと抽出テーブルの使用

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。レコードの数は 1,000 に制限されています。
- 抽出テーブルは、スケジュール設定済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

リモートテーブルは、SoR のような、外部ソースから取得するデータのスキーマを記述します。Now Platform をサードパーティソースまたは別のインスタンスに接続して、外部データを取得して必要に応じてメモリにキャッシュできるようにします。リストまたはフォームで外部データを表

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

示して、標準の Glide スクリプトで処理することができます。また、標準の内部テーブルの場合と同様に、データをグループ化、ソート、集計、フィルタリングできます。

リモートテーブルを使用すると、外部ソースから、または REST サービスあるいは SOAP サービスを使用して別のインスタンスからデータを取得できます。外部データは読み取り専用モードでメモリ内に存在するため、Now Platform 内でデータは一時的なものになります。外部データをインポートしたり保存したりすることなく、外部データを表示および操作できます。詳細については、「Remote tables」を参照してください。

大量の ERP データを処理するには、抽出テーブルを使用します。ERP 抽出テーブルは、Now Platform 上のローカル変換テーブルに定期的にデータを保存し、それを処理して、再プラットフォーム化されたアプリのデータ基盤として使用できます。

### ERP-CM の推奨事項と類似の候補

ERP Customization Mining (ERP-CM) の各候補のレコードには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリの再プラットフォーム化に役立つ、推奨される次の手順や類似の候補に関する情報が表示されます。

## 候補に関する推奨アクション

候補を表示すると、ERP-CM に推奨されるアクションまたは次のステップの数が表示されます。 候補の詳細には [推奨事項] タブもあり、提案されたアクションを表示し、それらを選択して関連するアプリを Now Platform で開くことができます。

たとえば、ある候補のワークフローを フローデザイナー で作成し、別の候補の統合スポークを更新し、3 番目の候補の抽出テーブルまたはリモートテーブルを読み取る必要がある場合があります。

推奨アクションにはそれぞれ工数概算があります。これは、Now Platform にどの程度一致している機能があるか評価する数値スコアです。緑のアクションはほとんどまたはまったく労力を必要としませんが、赤いアクションはより困難です。

推奨アクションの詳細については、「ERP-CM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。

## 候補の詳細での類似の候補

ERP-CM は各候補の [類似の候補 **(Similar candidates)]** タブを表示し、それぞれの類似の候補、2 つの候補の関連性を表す数値スコア、他の類似の候補へのリンクを一覧表示します。

同様の候補は、従来のアプリを最適に再プラットフォーム化する方法を計画するときに役立ちます。 SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそらく、Now Platform でローコードツールを使用して構築された単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。

### ERP-CM でアプリを ServiceNow に再プラットフォーム化する場合の次の手順

ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用して従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) の候補を特定したら、Now Platform のその他の製品とリソースを使用してアプリを再プラットフォーム化します。

まず、ERP-CM を使用して ERP システムから再プラットフォーム化するカスタマイズを特定します。

次に、候補のマイニング結果でリンクされているリモートテーブルと抽出テーブルを使用して、ERP データに迅速にアクセスします。

この ERP データは、App Engine Studio などで Now Platform に新しいアプリを構築するときにデータソースとして使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## ERP データを使用する ServiceNow アプリの構築

クリーンなコアに向けた再プラットフォーム化の次のステップは、ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを使用するアプリを Now Platform に構築することです。

従来のアプリを Now Platform 上に再プラットフォーム化する場合は、データの取得元を考慮して行ってください。 たとえば、古いアプリでは、サードパーティのデータを SoR に取得する場合があります。再プラットフォーム化された新しいアプリを Now Platform 上に構築する際に、ERP キャンバス モデルで、ERP システムからデータをプルするのではなく、そのサードパーティから直接プルするように新しいアプリを構成できます。そうすることで、取得対象のステップを追加できます。

### アプリを再プラットフォーム化する際に類似の候補を使用する

ERP-CM が候補に類似の候補が多数あることを示している場合は、プラットフォームを再構築するときに、類似の候補の一部またはすべてのニーズを満たす 1 つのアプリを構築することを検討してください。

SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそらく、Now Platform でローコードツールを使用して構築された単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。 App Engine Studio は最も簡単に使用できるアプリですが、ライセンスに応じて他のビルダーも利用できます。

## ServiceNow ローコードおよびプロコードビルダー

再プラットフォーム化する ERP データを特定すると、市民開発者は ServiceNow ビルダーを使用してデータから迅速にアプリを作成できます。SAP などの ERP SoR に存在するカスタムフィールドは、Now Platform を使用して構築するアプリで活用できます。市民開発の詳細については、「Delegated Development と展開」を参照してください。

カスタムデータを使用してアプリを作成するには、次の ServiceNow ビルダーのいずれかを使用します。

- App Engine Studio
- フローデザイナー
- Playbooks
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

たとえば AES では、テンプレートを使用し (またはアプリをゼロから構築し)、ERP モデルとリモートテーブルを使用してリモートテーブルを組み込みます。ERP モデルおよびリモートテーブルの従来のデータを、テーブル内の他の ServiceNow データと組み合わせることができます。

## Glide を使用した ERP データのクエリ

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

Gilde クエリの例については、「ERP Customization Mining での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ」を参照してください 。

### カスタムコードを ServiceNow アプリに再プラットフォーム化した後

Now Platform の再プラットフォーム化されたアプリは、コードを書き戻すことなく、SoR のライブデータを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

再プラットフォーム化する候補を特定し、ERP-CM で推奨されるアクションを実行したら、リモートテーブルと抽出テーブルにアクセスするために ERP キャンバス のみ使用する必要があります。これらのテーブルは、アプリ、フロー、およびワークスペースを構築するためのデータソースです。

SoR の従来のコードが他のどこでも参照されていないことが確実な場合は、ServiceNow インスタンスに再プラットフォーム化した後にシステムから削除できます。

### ERP Customization Mining の構成

ERP Customization Mining (ERP-CM) を設定して、アプリが SoR をスキャンして再プラットフォーム化する候補を探せるようにします。管理者は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) 接続の健全性をすばやく確認して問題を調査したり、エラーに関連するナレッジ記事を表示したりすることもできます。

ERP Customization Mining をインストールする前に、ERP キャンバス をインストールし、接続と ERP データモデルを構成する必要があります。

#### サーバーの要件

資格情報には、次の S_RFC SAP 認証オブジェクトを必要とする SoR の SAP サービスタイプのユーザーアカウントを使用します。

- RFC_TYPE = FUGR, FUNC
- RFC_NAME = SAPWL_WORKLOAD_GET_STATISTIC, SQLM_API_GET_NEXT_DATA_PACKAGE, SWNC_COLLECTOR_GET_AGGREGATES, SWNC_COLLECTOR_GET_DIRECTORY
- ACTVT = 16

ERP キャンバス には追加の認証が必要です。詳細については、「ERP キャンバス の構成」を参照してください。

**注:**
ERP キャンバス 接続に指定する資格情報は、SoR のサービスユーザー資格情報と一致する必要があります。

#### 利用可能な接続のタイプと数

ERP キャンバス および ERP-CM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

**注:**
各インストールは ERP-CM 、最大 10 台のシステムの追加をサポートします。ただし、 ERP-CM 一度に接続できるライブ ERP システムは 1 つだけです。

ERP-CM をインストールして構成する前に、ERP キャンバス をインストールして資格情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス 資格情報と接続の構成」を参照してください。

ServiceNow インスタンスごとに保持できる ERP 接続の数は、ライセンスによって異なります。ERP-CM ライセンスをお持ちの場合は、インスタンスごとに 1 つの接続を取得します。

接続情報と認証情報 の詳細については、「Connections and Credentials」を参照してください。

### ERP Customization Mining のプラグイン

次のプラグインをインストールする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ECM** のプラグイン

| プラグイン | フルネーム | 依存関係 |
|---|---|---|
| ERP キャンバス | com.snc.sn_erp_integration | com.glide.script.vtable |
| ERP Customization Mining | com.snc.uib.sn_erp_mining | • com.snc.sn_erp_integration<br>• com.glide.platform_ml |

## ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

### **SAP** を **ERP-CM** 用に構成する

ERP Customization Mining (ERP-CM) をインストールする前に、本番システムで SQLM (SQL モニター) を有効にし、日次作業負荷の ST03 (作業負荷モニター) が収集されていることを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて

**警告:**
本手順の SAP 構成を実行せず、SAP にデータがない場合、ERP-CM は機能しません。

手順

1. SAP システムで SQLM を有効にして、本番環境から SQLM 情報を収集します。
   a. 本番システムで、トランザクション SQLM を開始します。
   詳細については、「SAP SQL Monitor documentation (SAP SQL モニタードキュメント)」を参照してください。
   b. [アクティブ化ステータス **(Activation state)]** フィールドが [グローバルにアクティブ **(Globally active)]** に設定されていることを確認します。
   c. SQLM がアクティブでない場合は、トランザクション SQLM を再度開始します。
   d. 移動先 **SQL** モニター > 設定 > 全般設定.
   e. **[Delete Older Than [Days]**([日] より古いものを削除)] オプションが最小の 365 日に設定されていることを確認し、[確認] を選択します。
   f. [すべてのサーバー] を選択して、設定を有効にします。
2. 本番環境から毎日の作業負荷の ST03 が収集されていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** 本番システムで、トランザクション ST03 を開始します。

**b.** [作業負荷データ **(Workload data)**] フィールドが [日次 **(Daily)**] に設定されていることを確認します。

### ERP Customization Mining のインストール

ServiceNow Store からの管理者ロールを持っている場合は、ERP Customization Mining (ERP-CM) アプリケーション (sn_erp_mining) をインストールします。

始める前に
次のことを行う必要があります。

- アプリケーションをインストールする前に、ライセンスを持ち、ERP-CM のエンタイトルメントを取得してください。

  詳細については、「ライセンス」を参照してください。

- ERP キャンバス をインストールします。アプリケーションを使用して、SoR および ERP (エンタープライズリソースプランニング) データモデルへの接続を構成します。
- ERP-CM をインストールする前に、JCO コネクタを構成します。詳細については、SAP のドキュメントを参照してください。

次のプラグインが必要です。

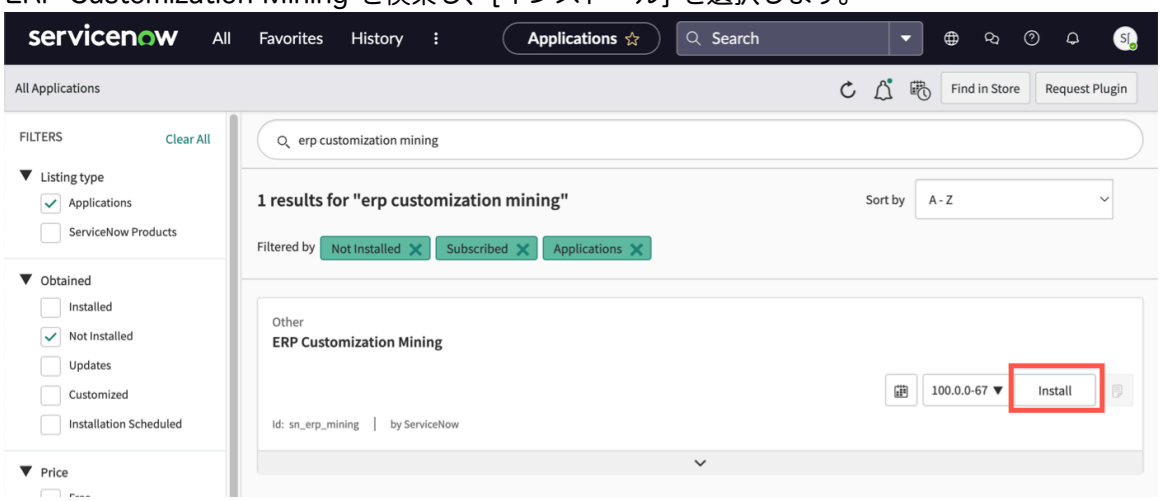
- ERP キャンバス
- 予測インテリジェンス

必要なロール：admin

このタスクについて

手順

1. ServiceNow Store で、製品と依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
   インスタンスのホームページで [インストールするアプリをレビュー] を選択してストアにアクセスできます。
2. ERP Customization Mining を検索し、[インストール] を選択します。




3. オプション: [デモデータのロード] を選択して、アプリでデモデータを作成します。
4. [インストール] を選択して、ERP-CM のインストールを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
これでインストールは完了です。[終了 **(Close)]** を選択し、ServiceNow Store に戻ります 。

次のタスク
ERP-CM をインストールすると、接続された SoR からの ERP データが ERP キャンバス の ERP 抽出テーブル (ERP アプリケーションアクティビティ、コレクターディレクトリデータ、名前空間データなど) に入力されます。その後、抽出されたデータを ERP データモデルとリモートテーブルに組み込んで、ServiceNow でアプリを構築するときにデータソースとして使用できます。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP 抽出テーブルの表示
- ERP キャンバス の標準 ERP モデルと抽出テーブル

### **ERP Customization Mining** の ガイド付きセットアップ を実行する

ガイド付きセットアップ を実行して ERP Customization Mining (ERP-CM) を構成します。

始める前に
まず、ServiceNow Store から ERP-CM をダウンロードしてインストールする必要があります。

必要なロール:sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

このタスクについて
ガイド付きセットアップの使用に関する詳細については、Guided setupを参照してください。

または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「新しい ERP Customization Mining 接続の設定」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP Customization Mining** > **ERP Customization Mining** ガイド付き設定.
2. **[ERP** キャンバスの構成 **(Configure ERP Canvas)]** を選択して、ERP キャンバス の ガイド付きセットアップ を完了します。

   ERP キャンバス は ERP-CM がシステムに接続するために必要です 。

   手順に従って ERP キャンバス を構成し、[続行 **(Continue)]** を選択します。詳細については、「ERP キャンバス の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。
3. ERP Customization Mining を ERP システムに接続します 。
   a. [接続する **ERP** システムの選択 **(Select the ERP system to connect)]** を選択し、手順に従って [続行 **(Continue)]** を選択します。
   b. [接続状態の検証 **(Validate the connection status)]** を選択し、手順に従って [続行 **(Continue)]** を選択します。

### 新しい **ERP Customization Mining** 接続の設定

ERP Customization Mining (ERP-CM) の 接続情報と認証情報 エイリアスを指定し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続します。

始める前に
ERP-CM をインストールして構成する前に、ERP キャンバス をインストールして資格情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス 資格情報と接続の構成」を参照してください。

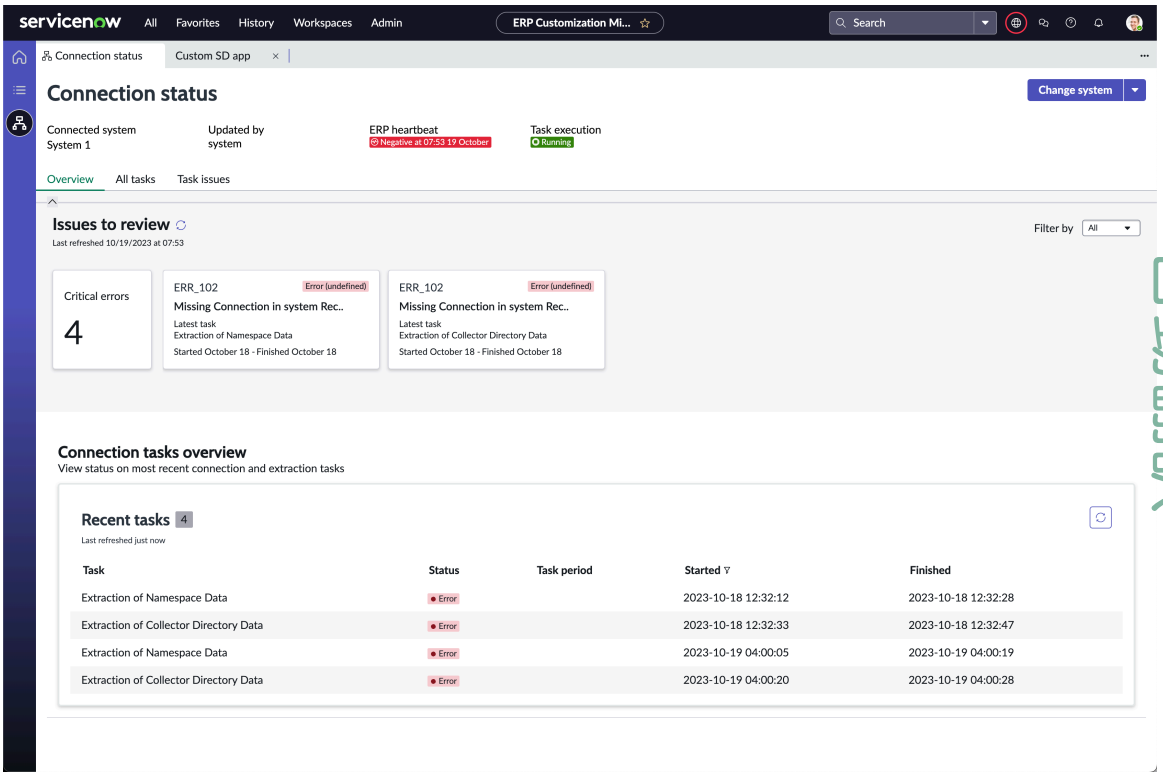
必要なロール:sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP** 基盤 > **ERP Customization Mining**.
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
3. [接続を選択] ボタンを選択します。
   システム接続をすでに構成済みで、別の接続と資格情報を使用する場合は、「」を参照してください ERP-CM 接続の更新。
4. [接続および資格情報エイリアス] ボックスで、ERP キャンバス で構成した資格情報を [接続および資格情報エイリアスの選択] フィールドから選択します。
5. [接続] を選択します。
   ERP-CM は接続からデータの抽出を開始します。
6. [レビューする問題] リストと [実行済みタスク] リストを、それぞれのリフレッシュアイコンを選択してリフレッシュします ( [ します)。




次のタスク
システムが接続されたら、[接続ステータス] ページでいつでも接続ステータスを確認し、エラーを調査できます。詳細については、「のデータ更新ステータスの確認とトラブルシューティング ERP Customization Mining」を参照してください。

## **ERP-CM** 接続の更新

ERP Customization Mining (ERP-CM) の 接続情報と認証情報 エイリアスを更新し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへの接続を変更します。たとえば、非本番システムから本番システムに変更する場合があります。

始める前に
ERP-CM をインストールして構成する前に、ERP キャンバス をインストールして資格情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス 資格情報と接続の構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

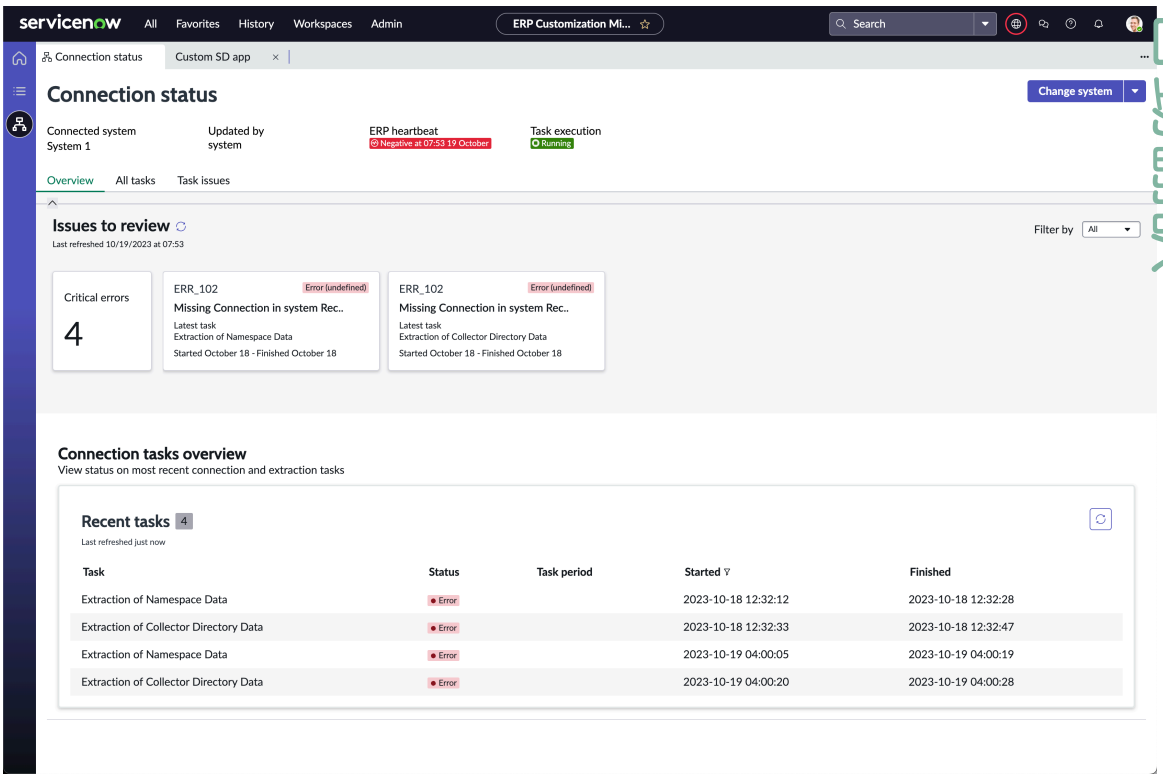
必要なロール:sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

このタスクについて

> **⚠ 警告:**
> システムおよび資格情報エイリアスを変更すると、ワークスペース内の ERP-CM 既存のデータがすべて削除され、データ統合プロセスが再開されます。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP 基盤** > **ERP Customization Mining**.
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
3. [ システムの変更 ] ボタンを選択します。
4. [システムの変更とデータの削除] ボックスで、[変更するシステムの選択] フィールドから構成したERP キャンバスシステムを選択します。
5. [ はい、システムを変更してデータを削除します ] オプションを選択して、選択を確定します。
6. [データを変更して削除 **(Change and delete data)]** ボタンを選択します。
   ERP-CM で現在のデータの削除が開始され、データ統合プロセスが再開されます。
7. [レビューする問題] リストと [実行済みタスク] リストを、それぞれのリフレッシュアイコンを選択してリフレッシュします ( [ します)。




次のタスク

システムが接続されたら、[接続ステータス] ページでいつでも接続ステータスを確認し、エラーを調査できます。詳細については、「のデータ更新ステータスの確認とトラブルシューティング ERP Customization Mining」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## のデータ更新ステータスの確認とトラブルシューティング ERP Customization Mining

データリフレッシュステータスをチェックし、ERP Customization Mining (ERP-CM) が最後に SoR から ERP (エンタープライズリソースプランニング) データをロードしたタイミングを確認します。

### 始める前に

必要なロール：sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp_user

### このタスクについて

Now Platform® が ERP SoR と同期されていることを確認するために、Now Platform は SoR から 24 時間ごとにデータを再ロードします。

### 手順

1. 移動先 すべて > **ERP 基盤** > **ERP Customization Mining**.
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
   [概要] タブに、確認する必要がある接続問題の概要と、最新のアクティブな接続タスクのリストが表示されます。
3. [接続ステータス] ページのヘッダーで、最も重要な接続の詳細を確認します。

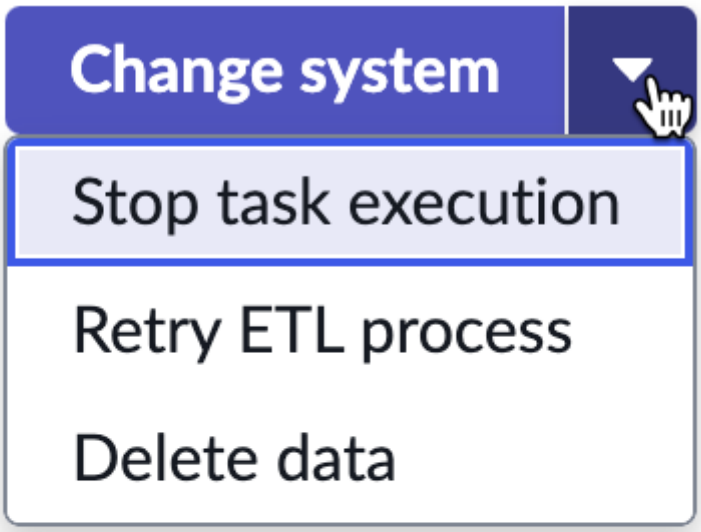
   接続ステータスヘッダーの詳細

| フィールド | 定義 |
|---|---|
| 資格情報エイリアス | ERP キャンバス で構成された接続資格情報のエイリアス。 |
| 更新者 | 接続資格情報を更新する最後のアカウントの名前。 |
| ERP ハートビート | 接続への ping が現在成功しているかどうかを示します。 |
| タスク実行 | Now Platform® が現在インスタンスへの接続を試行しているかどうかを示します。 |

4. オプション: 次のいずれかのタブを選択して、接続タスクの絞り込まれたサブセットを表示します。
5. システム接続の問題をトラブルシューティングします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



**Trouble?**

- [ システムの変更 ] ボタンを選択し、[タスクの実行の停止] を選択して、 タスクの実行を一時停止します。
- [ システムの変更 ] ボタンを選択し、[ **ETL** プロセスの再試行] を選択して、ETL (抽出、変換、読み込み) プロセスを再開します。
- すべてのデータ ERP-CM を削除して最初からやり直すには、[ システムの変更 ] ボタンを選択し、[ データの削除] を選択します。確認ダイアログで、[ はい、データを削除します ] オプションを選択し、[ データの削除 ] ボタンを選択する必要があります。

> ⚠ 警告:
> このアクションにより、 ERP-CM ワークスペース内の既存のデータがすべて削除され、データ統合プロセスが再開されます。

6. 各タスクの情報を表示し、タスクリストまでスクロールして必要なアクションを確認します。
フィールド値の説明については、「ERP-CM のタスクリストフィールドの説明」を参照して ください。

   任意の列で、[その他のオプション] アイコン ( ⋮ ) を選択して、[この値で絞り込み] や [除外] などの追加のアクションを実行できます。

7. オプション: エラーが発生しているオープンタスクのステータスを更新し、そのステータの変更を示します。
ERP-CM でエラーを直接解決することはできませんが、[解決済み (Resolved)] または [該当なし (Irrelevant)] としてマークできます。

自動翻訳

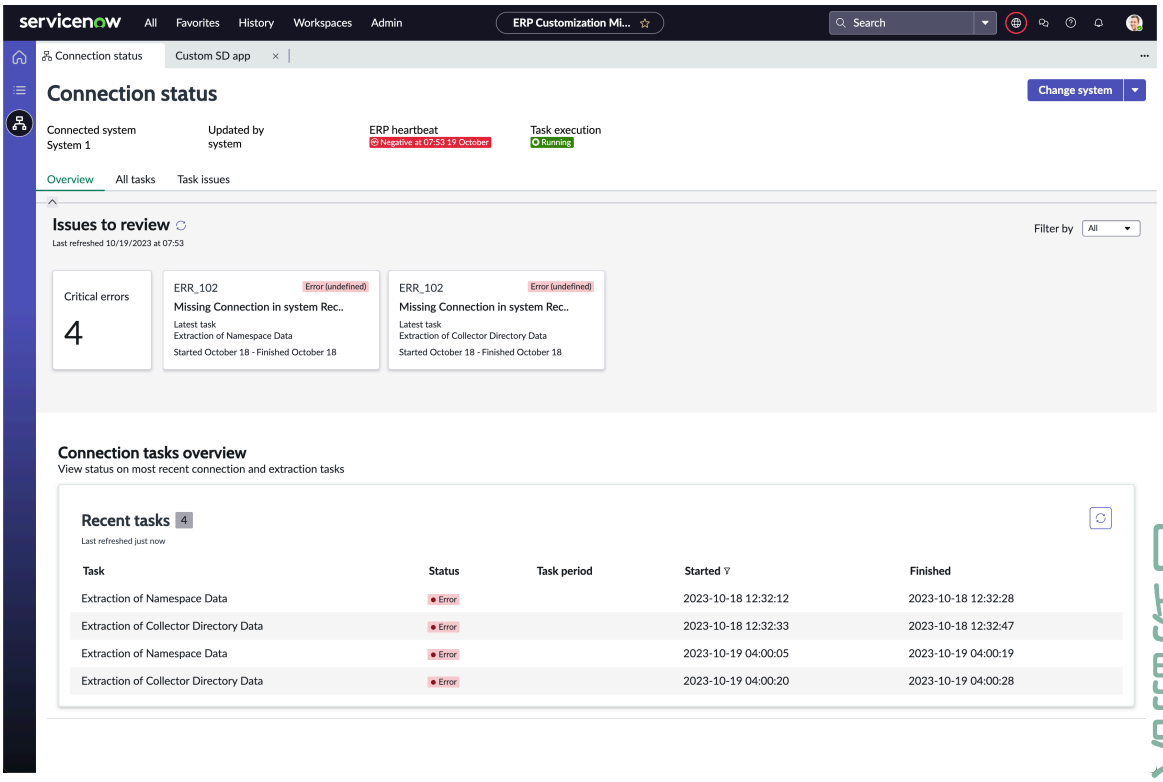
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** [タスク] タブを選択します。

**b.** [タスク] タブで、更新するタスクを選択します。

**c.** タスクレコードの [ステータス] を [解決済み **(Resolved)]** または [該当なし **(Irrelevant)]** に更新します。

**8.** [レビューする問題] リストと [実行済みタスク] リストを、それぞれのリフレッシュアイコンを選択してリフレッシュします ( [ ] します)。




自動翻訳

### ERP Customization Mining ロール

管理者はロールをアサインし、ERP Customization Mining (ERP-CM) を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

> **重要:**
> ユーザーに ERP-CM ロールをアサインする場合は、 スコープを含める必要があります。たとえば、erp_admin ではなく、sn_erp_mining.erp_admin ロールを割り当てます。

ロールの割り当ての詳細については、「Assign a role to a user」を参照してください。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

### ERP-CM ロール

| ロール | 説明 | 追加アクセス |
|---|---|---|
| sn_erp_mining.erp_admin | アプリケーション設定を更新するためのアクセス権をユーザーに付与します。 | sn_erp_mining.erp_user が含まれています。 |
| sn_erp_mining.erp_user | ERP Customization Mining に必要なすべてのテーブル | 次のロールが含まれています。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP-CM** ロール (続く)

| ロール | 説明 | 追加アクセス |
| --- | --- | --- |
| | に対する読み取りアクセス権と、sn_erp_mining_app_candidate テーブルの一部のフィールドレベルの書き込みアクセス権を付与します。 | • sn_erp_integration.erp_data_pill<br>• sn_erp_integration.erp_user |

### **ERP-CM** とセキュリティ

ロールベースのセキュリティとアクセス制御に加えて、ERP Customization Mining (ERP-CM) は他の方法で個人を特定できる ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを保護します。

個人を特定できるデータは、ERP キャンバス と ERP-CM を使用していくつかの方法で保護されます。

- ERP モデルとリモートテーブルをカスタマイズして、メールアドレスなどの特定のフィールドの個人データを除外できます。
- すべてのリモートテーブルは、アクセス制御ルール (ACL) を使用して保護されます。機密データを含むリモートテーブルがある場合は、ACL を使用してそのテーブルを ServiceNow ユーザーから制限します。詳細については、「ServiceNow® access control」を参照してください。

### 再プラットフォーム化の候補を見つけて使用する

ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用して、再プラットフォーム化の対象となる潜在的な ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補を特定します。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上に構築されたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

ERP Customization Mining がアプリケーション候補を評価し、数値スコアを表示します。スコアが高いほど、候補が再プラットフォーム化に適しています。

- 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ERP-CM 。
- 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP キャンバス の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR から読み取るが書き込みはしない小さなアプリケーションである傾向があります。

**注:**

ERP-CM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

ERP-CM が候補に類似の候補が多数あることを示している場合は、プラットフォームを再構築するときに、類似の候補の一部またはすべてのニーズを満たす 1 つのアプリを構築することを検討してください。

### **ERP-CM** で候補の概要を参照する

ERP Customization Mining (ERP-CM) のホームページで、Now Platform に再プラットフォーム化する ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補の概要を確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
管理者は、最初に ERP キャンバス で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの操作」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

手順

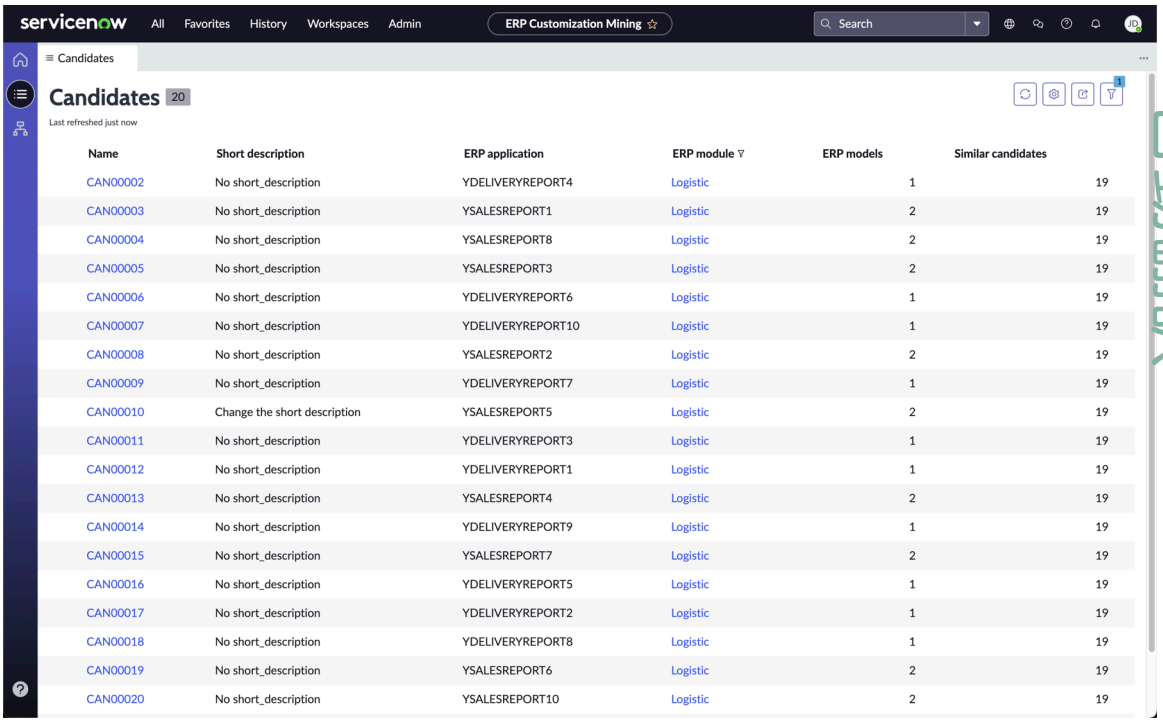
1. 移動先 すべて > **ERP** 基盤 > **ERP Customization Mining**.
2. オプション: [ERP モジュールごとにグループ化された候補] セクションでモジュールのカードを選択して、ERP モジュールで潜在的な候補をフィルタリングします。
3. 潜在的な候補のリストを表示します。

   フィールド値の説明については、「ERP-CM の候補リストフィールドの説明」を参照して ください。

   **注:**

   コンテキストサイドパネルで候補アイコン ( ) を選択すると、同じ候補のリストを表示できます。

   **ERP-CM** の候補リスト




| Name | Short description | ERP application | ERP module | ERP models | Similar candidates |
|---|---|---|---|---|---|
| CAN00002 | No short_description | YDELIVERYREPORT4 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00003 | No short_description | YSALESREPORT1 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00004 | No short_description | YSALESREPORT8 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00005 | No short_description | YSALESREPORT3 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00006 | No short_description | YDELIVERYREPORT6 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00007 | No short_description | YDELIVERYREPORT10 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00008 | No short_description | YSALESREPORT2 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00009 | No short_description | YDELIVERYREPORT7 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00010 | Change the short description | YSALESREPORT5 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00011 | No short_description | YDELIVERYREPORT3 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00012 | No short_description | YDELIVERYREPORT1 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00013 | No short_description | YSALESREPORT4 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00014 | No short_description | YDELIVERYREPORT9 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00015 | No short_description | YSALESREPORT7 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00016 | No short_description | YDELIVERYREPORT5 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00017 | No short_description | YDELIVERYREPORT2 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00018 | No short_description | YDELIVERYREPORT8 | Logistic | 1 | 19 |
| CAN00019 | No short_description | YSALESREPORT6 | Logistic | 2 | 19 |
| CAN00020 | No short_description | YSALESREPORT10 | Logistic | 2 | 19 |

4. 候補を選択して、候補の詳細を表示および編集します。
   詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。

## **ERP-CM** で候補の詳細を表示して操作する

ERP Customization Mining (ERP-CM) で、候補の詳細と推奨アクションを表示して編集します。ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムのスキャン結果、リンクされている ERP モデル、使用状況、類似の候補を分析します。

始める前に
必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **ERP** 基盤 > **ERP Customization Mining**.
2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。
3. 候補リストで候補の [名前] を選択し、ERP-CM の新しいタブで候補の基本的な詳細を表示して編集します。

   または、ERP-CM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ERP-CM で候補の概要を参照する」を参照してください。

   候補の [詳細] タブでは、基本的な詳細の確認や更新を行ったり、コメント、添付ファイル、アクティビティストリーム を操作したりできます。

   候補の基本的な詳細

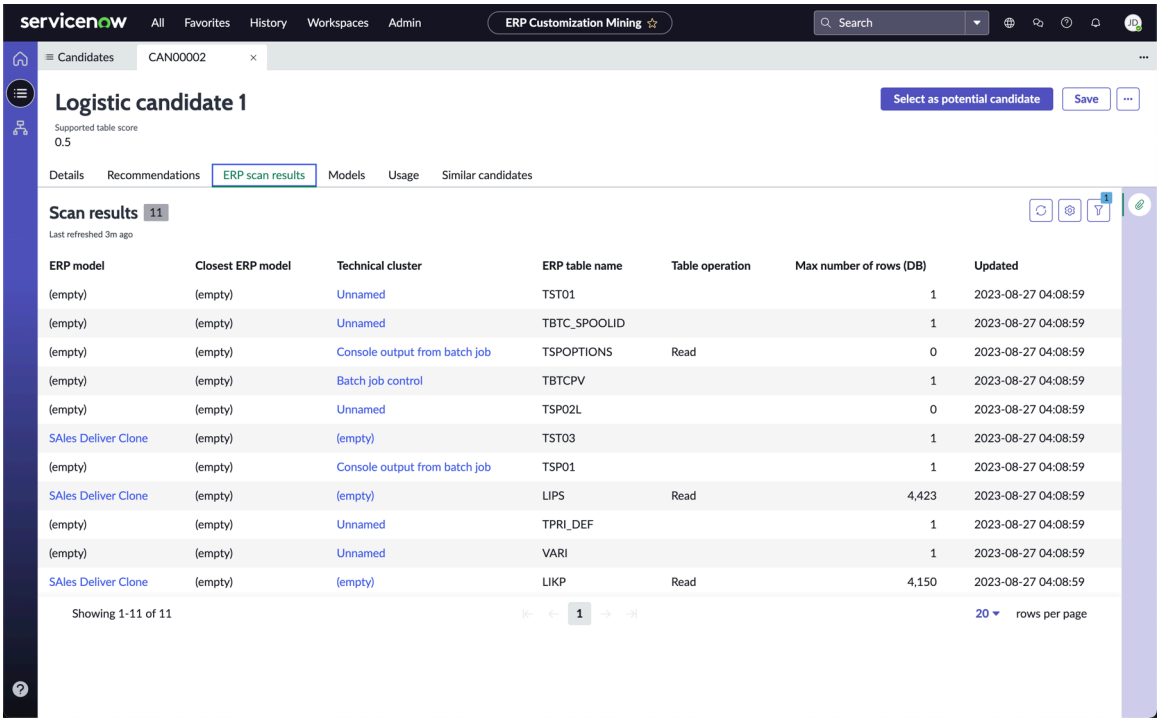
| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 自動的に生成される潜在的な候補のレコード番号 |
| ステータス | 候補のステータス ([ドラフト] または [潜在])。<br><br>ドラフト候補を評価し、その候補が再プラットフォーム化に適していると判断したら、ステータスを [ドラフト] から [潜在] に変更できます。 |
| ERP アプリケーション | ERP システム上の ERP アプリケーションの名前。 |
| ERP モジュール | 営業など、ERP システムの機能別のビジネスエリア。 |
| 簡単な説明 | 候補の簡単な説明、アプリケーションの内容。 |
| 長いテキスト | 候補に関するその他の詳細情報。 |

4. [推奨事項 **(Recommendations)]** タブを選択し、推奨される次の手順を実行します。
   詳細については、「ERP-CM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。
5. **[ERP** スキャン結果 **(ERP Scan Results)]** タブを選択し、候補に関連したテーブルの詳細と、ERP システムでのスキャンの詳細を表示します。
   フィールド値の説明については、「ERP-CM の候補スキャン結果フィールドの説明」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

候補のスキャン結果




6. [モデル] タブを選択し、ERP-CM が候補に関連すると特定した ERP モデルを確認し、メモします。

[モデル] タブの詳細

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| モデルタイプ | 候補に関連する ERP モデル。これは、(ERP キャンバス で操作する) 標準 ERP モデル、ワークフロー、またはカスタムビジネスエリアになります。 |
| 実装との関連性 | 再プラットフォーム化に ERP モデルが必要であるかどうかです。 |
| モジュール | 営業など、SoR 上のモデルの ERP ビジネスエリア。 |
| テーブル名 | ERP システム上の ERP モデルのテーブルの名前。 |
| 更新日時 | リストが最後に更新された日時。 |

ERP キャンバス では、どの ERP モデルで作業するかを確認できます。

7. オプション: [ 使用率 ] タブを選択して、候補アプリケーションを使用するシステムユーザーの数を確認します。
8. [類似の候補 **(Similar candidates)**] タブを選択し、現在の候補と各テーブルに関連する候補を調査します。

同様の候補は、従来のアプリを最適に再プラットフォーム化する方法を計画するときに役立ちます。 SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

らく、Now Platform でローコードツールを使用して構築された単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。

フィールド値の説明については、「ERP-CM の類似候補フィールドの説明」を参照して ください。

9. [保存] ボタンを選択し、候補の詳細に加えた変更を保存します。

### 次のタスク

候補の詳細を操作して類似の候補を特定した後に、次のことができます。

- ERP-CM で候補の推奨事項を確認する。
- 再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存。
- ERP キャンバス で関連する ERP モデルのリモートテーブルと抽出テーブルの構築を続行し、Now Platform でデータを利用できるようにします。詳細については、「ERP モデル、抽出テーブル、およびリモートテーブルの操作」を参照してください。

**注:**

ERP-CM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

## **ERP-CM** で候補の推奨事項を確認する

ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補の再プラットフォーム化を容易にするために、ERP Customization Mining (ERP-CM) が提案するアクションを確認します。

### 始める前に

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

### このタスクについて

候補を表示すると、ERP-CM に推奨されるアクションまたは次のステップの数が表示されます。

たとえば、ある候補のワークフローを フローデザイナー で作成し、別の候補の統合スポークを更新し、3 番目の候補の抽出テーブルまたはリモートテーブルを読み取る必要がある場合があります。

### 手順

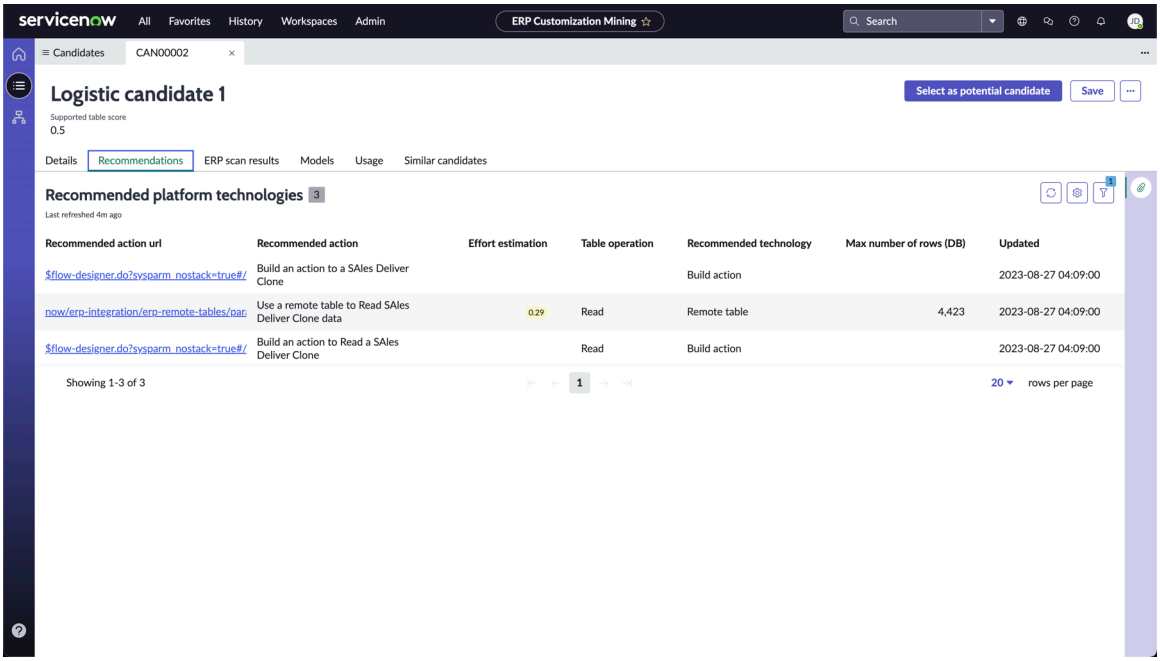
1. 移動先 すべて > **ERP** 基盤 > **ERP Customization Mining**.
2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。
   または、ERP-CM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ERP-CM で候補の概要を参照する」を参照してください。
3. 推奨される次のアクションを表示する候補を選択します。
4. 提案された各アクションの概要を示す [推奨事項 **(Recommendations)]** タブを選択します。

   フィールド値の説明については、「ERP-CM の候補推奨事項フィールドの説明」を参照して ください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**ERP-CM** の推奨事項




5. 推奨アクションの **URL** を選択して、新しいブラウザータブでNow Platform関連する宛先を開きます。
   たとえば、推奨事項が抽出テーブルの読み取りである場合は、[推奨アクション **(Recommended action)]** リンクを選択して ERP キャンバス で ERP モデルを開き、提案されたテーブルを追加できます。

## 再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存

ERP Customization Mining (ERP-CM) を使用して、再プラットフォーム化の対象となる ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補を保存します。

### 始める前に

管理者は、最初に ERP キャンバス で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP キャンバス での ERP システムの操作」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

### このタスクについて

候補は、ERP システムのカスタムアプリケーションです。ERP-CM は SoR をスキャンし、アプリケーションログとデータベースアクティビティログに基づいてプロファイルを構築します。ERP-CM は、カスタマイズされた名前空間やその他の基準に基づいてカスタムアプリケーションもスキャンします。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

**注:**

ERP-CM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

### 手順

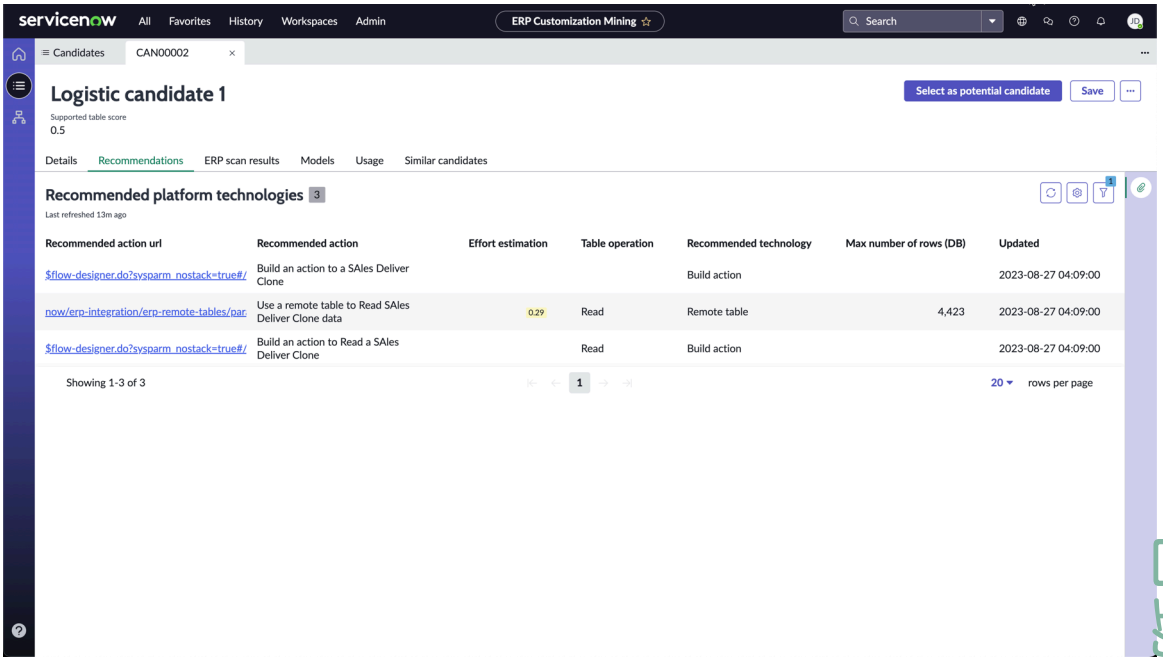
1. 移動先 すべて > **ERP** 基盤 > **ERP Customization Mining**.
   ERP-CM は、SoR のインスタンスを呼び出すリモートテーブルにアクセスし、Now Platform でそのデータを一時的にミラーリングします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。
3. 潜在的な候補として保存する候補を選択します。
   または、ERP-CM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ERP-CM で候補の概要を参照する」を参照してください。
4. [潜在的な候補として選択 **(Select as potential candidate)]** ボタンを選択します。

潜在的な候補の保存




状況が変わり、潜在的な候補リストから候補を削除する場合は、[ドラフト候補に変更 **(Change to draft candidate)]** ボタンを選択します。

## タスクの結果

候補を潜在的な候補として選択すると、候補のステータスが [ドラフト] から [潜在] に変わります。選択した候補が、ホームページの [選択した潜在的な候補 (Your selected potential candidates)] リストに追加されます。

## 次のタスク

候補を特定したら、ERP キャンバス を使用してリモートテーブルと抽出テーブルのカスタムフィールドを表示し、ERP モデルに追加します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。

ERP-CM は、各候補に考えられる次の手順を推奨しています。詳細については、「ERP-CM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。

## **ERP Customization Mining** に関する参照情報

テーブルの詳細や用語集など、ERP Customization Mining (ERP-CM) に関する ERP (エンタープライズリソースプランニング) の参照情報を検索します。

## **ERP Customization Mining** の用語集

ERP Customization Mining (ERP-CM) に適用される ERP (エンタープライズリソースプランニング) の用語や概念について説明します。

候補

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

候補は、システム内のカスタムトランザクション (ERP ルート) に基づいてアプリケーションを作成するために使用できる推奨リモートテーブルのグループです。従来の ERP SoR 上に存在する既存のアプリケーションを候補にすることもできます。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR から読み取るが書き込みはしない小さなアプリケーションである傾向があります。

候補スコア

スコアは、カスタムアプリケーション (ERP ルート) がリモートテーブルにどの程度適合するかを示す測定基準です。

接続および資格情報エイリアス

資格情報エイリアスは、ServiceNow 資格情報エイリアスで管理されているシステム接続アクセスの実現要因です。資格情報エイリアスは、SoR へのアクセスに使用されます。

カスタムフィールド

カスタムフィールドは、顧客がテーブルに追加する値です。

ERP アプリケーション

再プラットフォーム化するカスタムアプリケーションは、ERP システムの ERP ルートです。

ERP モデル

ERP モデルは、特定のビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された独自の機能セットを表します。ERP モデルには、SoR の複数のテーブルと、API および ETL プロセスが含まれ、全体的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

ERP モジュール

ERP システムの機能的なビジネスエリア。ERP ルートでは、1 つのビジネスエリアのみを選択できます。

ERP システム

ERP システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP テーブル

ERP システムの個々のテーブル (カスタムテーブルと標準テーブルの両方) は、リモートテーブルの一部です。たとえば、営業では、ERP テーブルに VBAK、VBAP、VBFA、VBPA、VBEP、MKPF、または MSEG を含めることができます。

潜在的な

可能性は、リモートテーブル、カスタム/標準テーブル、およびフィールドがどの程度適合するかを示す ERP-CM の測定基準です。

リモートテーブル

リモートテーブルは、1 つのテーブルに収集されたときに値を提供する SoR のテーブルの集計です。リモートテーブルは、ERP モデルの基盤です。候補は複数のリモートテーブルで構成できます。

SoR

ERP SoR とは、データが格納されており、たとえば SAP などからデータを配布する場所です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ERP Customization Mining とドメイン分離

ERP Customization Mining (ERP-CM) ではドメイン分離はサポートされていません。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

#### サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### ERP Customization Mining での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ

Glide API を介して ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR のデータにアクセスします。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

### ERP-CM システムの接続タスク

ERP Customization Mining (ERP-CM) は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへの接続時に多くのタスクを実行します。

- ERP アクティビティの日次抽出の集計
- 候補の特定
- 最終インポートのカーブアウトとビューデータの準備
- コレクターディレクトリデータの抽出
- 日次 ERP アプリケーションアクティビティの抽出
- 日次 ERP アプリケーション SQL アクティビティの抽出
- 日次 ERP モジュールアクティビティの抽出
- 名前空間データの抽出
- ML 類似性分析の実行

### ERP-CM の標準のテーブルとフィールド

ERP Customization Mining (ERP-CM) の標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) のリモートテーブル、抽出テーブル、フィールドの詳細を参照します。

### ERP-CM の標準リモートテーブル

ERP Customization Mining (ERP-CM) は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) データの複数の標準リモートテーブルにアクセスします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のリモートテーブルは、ERP キャンバス および ERP-CM から利用できます。

**ERP** キャンバス と **ERP-CM** のリモートテーブル

| ラベル | 名前 | ERP モジュール |
|---|---|---|
| SAP 会社コード | sn_erp_integration_st_sap_company_code | 基準 |
| SAP 国 | sn_erp_integration_st_sap_country | 基準 |
| SAP 通貨 | sn_erp_integration_st_sap_currency | 基準 |
| SAP 言語 | sn_erp_integration_st_sap_language | 基準 |
| SAP 品目在庫 | sn_erp_integration_st_sap_material_stock | 調達 |
| SAP 購買ドキュメント | sn_erp_integration_st_sap_purchase_document | 調達 |
| SAP 購買組織 | sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organization | 調達 |
| SAP 顧客請求書 | sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice | 営業 |
| SAP 流通チャネル | sn_erp_integration_st_sap_distribution_channel | 営業 |
| SAP 部門 | sn_erp_integration_st_sap_division | 営業 |
| SAP 営業顧客 | sn_erp_integration_st_sap_sales_customer | 営業 |
| SAP 営業デリバリ | sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery | 営業 |
| SAP 営業ドキュメント | sn_erp_integration_st_sap_sales_document | 営業 |
| SAP 営業組織 | sn_erp_integration_st_sap_sales_organization | 営業 |
| SAP 営業収益認識 | sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_recognition | 営業 |
| SAP ベンダー | sn_erp_integration_st_sap_vendor | 営業 |
| SAP ベンダー請求書 | sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice | 営業 |
| SAP トランスポート | sn_erp_integration_st_sap_transport | トランスポート (Transport) |

リモートテーブルの操作の詳細については、「Remote tables」を参照してください。

ServiceNow 製品でアプリを構築する場合は、次のような標準リモートテーブルをデータソースとして使用できます。

- App Engine Studio
- フローデザイナー
- Playbooks
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### リモートテーブル内の標準 **ERP-CM** フィールド

ERP Customization Mining (ERP-CM) で使用できる標準の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルには、その他の SAP テーブルのフィールドが含まれています。

標準のリモートテーブルには、次の追加フィールドが含まれています。標準テーブルの詳細については、「ERP-CM の標準リモートテーブル」を参照してください。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VBELN | document_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | ERDAT | date_of_document |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | ERZET | time_of_document |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | VBTYP | document_category |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUART | document_type |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUGRU | order_reason |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | LIFSK | delivery_block |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | FAKSK | billing_block |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | AUFNR | order_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | NETWR | document_value |
| SAP 営業ドキュメント | VBAK | WAERK | currency_code |
| SAP 営業ドキュメント | VBUK | LFGSK | delivery_status |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | MATNR | material_number |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | ARKTX | material_description |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | KWMENG | ordered_quantity |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | KLMENG | confirmed_quantity |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | NETWR | item_value |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | VRKME | sales_unit |
| SAP 営業ドキュメント | VBAP | ROUTE | delivery_route |
| SAP 営業ドキュメント | MARA | MTART | material_type |
| SAP 営業ドキュメント | VBUP | GBSTA | overall_item_status |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | LAND1 | country_code |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | NAME1 | name |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | ORT01 | city |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | PSTLZ | postal_code |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STRAS | street |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STKZU | vat_liable |
| SAP 営業顧客 | KNA1 | STCEG | vat_reg_number |
| SAP 営業顧客 | KNVV | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業顧客 | KNVV | VTWEG | distribution_channel |
| SAP 営業顧客 | KNVV | SPART | division |
| SAP 営業顧客 | KNVV | INCO1 | inco_terms |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | VBELN | document_number |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | FKART | billing_type |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | WAERK | currency_code |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | ZTERM | payment_terms |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | NETWR | document_value |
| SAP 顧客請求書 | VBRK | KUNRG | payer |
| SAP 顧客請求書 | VBUK | GBSTK | overall_document_status |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | MATNR | material_number |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | ARKTX | material_description |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | NETWR | item_value |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | FKLMG | billing_quantity |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | VRKME | sales_unit |
| SAP 顧客請求書 | VBRP | SHKZG | is_returns_item |
| SAP 顧客請求書 | VBUP | GBSTA | overall_item_status |
| SAP 営業組織 | TVKO | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業組織 | TVKO | EKORG | purchase_organization |
| SAP 営業組織 | TVKO | BUKRS | company_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | EBELN | document_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BUKRS | company_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BSTYP | document_category |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | LIFNR | vendor_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | ZTERM | payment_terms |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | EKORG | purchase_organization |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | WAERS | currency_code |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | IHREZ | ext_reference |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | RESWK | supplying_plant |
| SAP 購買ドキュメント | EKKO | BEDAT | date_of_document |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MATNR | material_number |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | EMATN | supplier_material_number |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MENGE | ordered_quantity |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MEINS | order_unit |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | NETPR | item_value |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | MWSKZ | vat_applicable |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | ELIKZ | fully_delivered |
| SAP 購買ドキュメント | EKPO | REPOS | fully_invoiced |
| SAP 品目在庫 | MARA | MATNR | material_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | MTART | material_type |
| SAP 品目在庫 | MARA | MATKL | material_class |
| SAP 品目在庫 | MARA | NTGEW | net_weight |
| SAP 品目在庫 | MARA | EANNR | ean_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | EAN11 | ean11_number |
| SAP 品目在庫 | MARA | MSTAE | material_status |
| SAP 品目在庫 | MAKT | MAKTX | material_description |
| SAP 品目在庫 | MARD | WERKS | plant |
| SAP 品目在庫 | MARD | LGORT | storage_location |
| SAP 品目在庫 | MARD | LABST | 数量 |
| SAP 品目在庫 | MARD | DLINL | date_of_count |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | BELNR | document_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | GJAHR | document_year |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | EBELN | purchase_document_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | EBELP | purchase_document_item |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MATNR | material_number |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | BUKRS | company_code |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | WERKS | plant |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | WRBTR | amount |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | SHKZG | credit_debit_indicator |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MWSKZ | vat_applicable |
| SAP ベンダー請求書 | RSEG | MENGE | 数量 |
| SAP 購買組織 | T024E | EKORG | purchase_organization |
| SAP 購買組織 | T024E | EKOTX | name |
| SAP 購買組織 | T024E | BUKRS | company_code |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | VBELN | document_number |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 営業デリバリ | LIKP | KUNNR | customer_number |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ERDAT | date_of_document |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ERZET | time_of_document |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | VKORG | sales_organization |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | LFART | delivery_type |
| SAP 営業デリバリ | LIKP | ROUTE | delivery_route |
| SAP 営業デリバリ | VBUK | GBSTK | overall_document_status |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | MATNR | material_number |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | CHARG | batch_number |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | WERKS | plant |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | LFIMG | 数量 |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | NTGEW | net_weight |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | GEWEI | delivery_unit |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | VOLUM | volume |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | VOLEH | volume_unit |
| SAP 営業デリバリ | LIPS | ARKTX | material_description |
| SAP ベンダー | LFA1 | LIFNR | vendor_number |
| SAP ベンダー | LFA1 | NAME1 | name |
| SAP ベンダー | LFA1 | ORT01 | city |
| SAP ベンダー | LFA1 | PSTLZ | postal_code |
| SAP ベンダー | LFA1 | STRAS | street |
| SAP ベンダー | LFA1 | STCEG | vat_reg_number |
| SAP ベンダー | LFA1 | WERKS | plant |
| SAP ベンダー | LFM1 | EKORG | purchase_organization |
| SAP ベンダー | LFM1 | WEBRE | gr_invoice_indicator |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | VBELN | document_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | POSNR | document_item |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | SAKRR | accr_val_clearing_account_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | SAKRRK | offset_clearing_account_number |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | ACC_VALUE | total_accrued_value |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | WRBTR | amount |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | RVAMT | revenue_amount |
| SAP 営業収益認識 | VBREVK | WAERK | currency_code |
| SAP 国 | T005 | LAND1 | country_code |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** キャンバス テーブルと **ERP-CM** テーブル (続く)

| リモートテーブル | ソーステーブル | **ERP** フィールド名 | マッピングされたフィールド名 |
|---|---|---|---|
| SAP 国 | T002 | SPRAS | language_code |
| SAP 国 | T002 | LAISO | language_iso_code |
| SAP 国 | T005T | LANDX | 説明 |
| SAP 言語 | T002 | SPRAS | language_code |
| SAP 言語 | T002 | LAISO | language_iso_code |
| SAP 通貨 | TCURC | WAERS | currency_code |
| SAP 通貨 | TCURC | ISOCD | currency_iso_code |
| SAP 通貨 | TCURT | LTEXT | 説明 |
| SAP 流通チャネル | TVTW | VTWEG | distribution_channel |
| SAP 流通チャネル | TVTWT | VTEXT | 説明 |
| SAP 部門 | TSPA | SPART | division |
| SAP 部門 | TSPAT | VTEXT | 説明 |
| SAP 会社コード | T001 | BUKRS | company_code |
| SAP 会社コード | T001 | BUTXT | 説明 |
| SAP 会社コード | T001 | LAND1 | country_code |
| SAP 会社コード | T001 | WAERS | currency_code |
| SAP 会社コード | T001 | SPRAS | language_code |
| SAP トランスポート | E071 | AS4DATE | date_of_transport |
| SAP トランスポート | E071 | AS4TIME | time_of_transport |
| SAP トランスポート | E071 | AS4USER | ユーザー |
| SAP トランスポート | E071 | TRFUNCTION | type |
| SAP トランスポート | E071 | TRKORR | 番号 |
| SAP トランスポート | E071 | TRSTATUS | ステータス |
| SAP トランスポート | E071 | OBJECT | object_type |
| SAP トランスポート | E071 | OBJ_NAME | object_name |
| SAP トランスポート | E071 | PGMID | program_id |

### **ERP-CM** フィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) のフィールド説明のテーブルの中には、タスクトピックで管理するには大きすぎるものがあります。このセクションにある大きいテーブルに関する情報を参照してください。

### **ERP-CM** のタスクリストフィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) のタスクリストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続タスクに関する情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクリストの詳細

| 列 | 定義 |
| --- | --- |
| タスク | Now Platform 内のタスクの名前 (抽出用のバックグラウンドスクリプト、ETL タスク、分析トレーニングスクリプトなど)。 |
| 簡単な説明 | 接続タスクエラーの簡単な説明。<br>注:<br>この列は [タスクの問題 **(Task issues)**] タブにのみ表示されます。 |
| コード番号 | エラーまたは警告のエラーコード番号。<br>注:<br>この列は [タスクの問題 **(Task issues)**] タブにのみ表示されます。 |
| カテゴリ | 問題のタイプ ([エラー] または [警告])。 |
| ステータス | タスクのステータス ([新規] または [データ不足 **(Insufficient data)**] など)。 |
| 現在のステップ | Now Platform が現在実行している接続タスクのステップ。 |
| 総ステップ数 | 接続タスクを完了するために必要な合計ステップ数。 |
| タスク期間 | 接続タスクが最後に更新された日付。 |
| 開始 | 接続タスクの実行が開始された日時。 |
| 完了 | 接続タスクの実行が終了した日時。 |

### **ERP-CM** の候補リストフィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) の候補リストには、各候補の基本的な詳細に関する情報が表示されます。

候補リストの詳細

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | アプリケーション候補の名前 (Now Platform 上のレコード番号)。 |
| 簡単な説明 | 候補がアクセスするテーブルに関する簡単な情報。 |
| ERP アプリケーション | 候補の ERP アプリケーションのレコード。 |
| ERP モジュール | SoR 内の ERP 機能エリアの名前。たとえば、ロジスティクス、調達、営業などです。 |
| 潜在的な | 候補が再プラットフォーム化にどの程度適しているかの評価。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

候補リストの詳細 (続く)

| 列 | 説明 |
| --- | --- |
| | 値は、候補のリモートテーブルと抽出テーブルがアプリケーションとどの程度一致しているかを示します。<br>• 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ERP-CM 。<br>• 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP キャンバス の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。<br>**注:**<br>この列は、ホームページではなく、[候補] ページの候補リストでのみ使用できます。 |
| 類似候補 | 類似の候補の数。類似性はリモートテーブルに基づいています。 |
| ERP モデル | 候補が属する ERP モデルの数。<br>ERP モデルは ERP キャンバス で構成されます。ERP モデルは、リモートテーブルおよび抽出テーブルに追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、リモートテーブルと抽出テーブルを Now Platform のデータソースとして使用できます。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルの構築」を参照してください。<br>**注:**<br>この列は、ホームページではなく、[候補] ページの候補リストでのみ使用できます。 |
| 更新日時 | ERP キャンバス が最後に候補を評価した日時。 |

### **ERP-CM** の候補スキャン結果フィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) の候補リストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの最新のスキャンに関する情報が表示されます。

**[ERP** スキャン結果 **(ERP Scan Results)]** タブの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ERP モデル | 候補が使用する関連 ERP モデル。ERP キャンバス で構成されています。<br>ERP モデルを選択し、ERP キャンバス でモデル を開きます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**[ERP** スキャン結果 **(ERP Scan Results)]** タブの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 最も近い ERP モデル | ERP キャンバス でテーブルを追加できる、提案された最も近い一致する ERP モデル 。<br><br>この列は、標準の ERP モデルの一部ではないため、**[ERP** モデル] 列にテーブルがリスト表示されないカスタムテーブルの場合に役立ちます。ERP モデルを選択し、ERP キャンバス で モデル を開きます。 |
| テクニカルクラスター | ERP システムのテーブルのタイプ。 |
| ERP テーブル名 | ERP システムのテーブルの名前。 |
| テーブルの操作 | ERP-CM がスキャンされたテーブルに対して実行したアクション (作成、読み取り、更新、または削除)。 |
| 最大行数 (DB) | スキャンされたテーブル上の最大行数です。候補の制限を把握するのに役立ちます。 |
| 更新日時 | テーブルが最後にスキャンされた日時。 |

## **ERP-CM** の候補推奨事項フィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) の候補推奨事項リストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補を再プラットフォーム化するために推奨される次のアクションに関する情報が表示されます。

推奨事項リストの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 推奨アクションの URL | 推奨アクションへのリンク。<br><br>推奨事項のリンクを選択し、Now Platform で関連するリンク先を開きます 。たとえば、[ワークフローの構築 **(Build a workflow)]** の推奨 URL は フローデザイナー のフローにリンクされます。 |
| 推奨アクション | ERP-CM が再プラットフォーム化の際に候補に対して実行を提案するアクションの簡単な説明。 |
| 工数概算 | 推奨アクションに必要な工数を示す数値スコア。<br><br>推奨アクションにはそれぞれ工数概算があります。これは、Now Platform にどの程度一致している機能があるか評価する数値スコアです。緑のアクションはほとんどまたはまったく労力を必要としませんが、赤いアクションはより困難です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

推奨事項リストの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブルの操作 | テーブルに実行する必要があるアクション ([読み取り] や [更新] など) |
| 推奨テクノロジー | 推奨アクションを実行する Now Platform 上のアプリまたは製品。 |
| 最大行数 (DB) | 推奨アクションで許可される SoR のデータベース行の最大数。 |
| 更新日時 | 推奨アクションが最後に更新された日時。 |

### **ERP-CM** の類似候補フィールドの説明

ERP Customization Mining (ERP-CM) の [類似の候補 (Similar candidates)] タブには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリを再プラットフォーム化するための類似の候補に関する情報が表示されます。

[類似の候補 **(Similar candidates)**] タブの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 類似候補 | 類似候補のレコード番号です。Now Platform によって自動的に生成されます 。 |
| 簡単な説明 | 類似候補の簡単な説明。たとえば、類似の候補が読み取るテーブルなどです。 |
| ERP アプリケーション | ERP システム上の ERP アプリケーションの名前。 |
| ERP モジュール | 営業など、ERP システムの機能別のビジネスエリア。 |
| 類似性 | 候補の類似度を表す数値スコア (0 ～ 1)。<br><br>スコアが高いほど (0.94 など)、候補が非常に類似していることを示します。<br><br>詳細については、「ERP-CM の推奨事項と類似の候補」を参照してください。 |
| 潜在的な | 候補が再プラットフォーム化にどの程度適しているかの評価。<br><br>値は、候補のリモートテーブルと抽出テーブルがアプリケーションとどの程度一致しているかを示します。<br>• 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ERP-CM 。<br>• 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP キャンバス の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[類似の候補 **(Similar candidates)**] タブの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 詳細については、「ERP-CM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください。 |
| 類似の候補 | 類似の候補の数。<br><br>この列の値を選択し、その他の類似候補のリストを表示します。 |
| ERP モデル | 類似の候補が表示される ERP モデルの数。<br><br>ERP モデルは ERP キャンバス で構成および管理されます。 |
| 更新日時 | 類似候補の詳細が最後に更新された日時。 |

## プロコードアプリケーションの構築

従来のプロコードツールを使用して、カスタムアプリケーションをゼロから作成および管理します。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、Now Platform でアプリケーションを構築するための直感的な開発インターフェイスを提供します。ステップバイステップのプロセスで、最初のアプリケーションの構築をガイドします。

### Service Creator

Service Creator を使用すると、部門はサービスカタログを通じてカスタムサービスを提供できます。たとえば、HR 部門は、継続教育のための奨学制度を提供できます。

### Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張

VS Code エディターの ServiceNow 拡張機能を使用すると、アプリケーションをオフラインで ServiceNow インスタンス内で編集できます。

### ServiceNow Studio

ServiceNow Studio は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを 1 か所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

## スクリプティング

### アクションデザイナー

アクションデザイナー を使用して、フロー内の繰り返し可能なタスクを一連の関連ステップとして自動化します。フロー作成者が最小限の設定で複数のフローにアクションを追加できるようにします。

### クライアント側スクリプティング

クライアントスクリプトを使用すると、フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、システムがクライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行できます。

### Now コードエディター

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now コードエディターは、カスケードスタイルシート (CSS)、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML)、JavaScript、拡張マークアップ言語 (XML)、および JavaScript Object Notation (JSON) をサポートするリッチテキストエディターインターフェイスを提供します。Now コードエディターを使用して、Next Experience UI ビルダー コンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアント側およびサーバー側のスクリプトを変更します。

### サーバー側スクリプティング

サーバースクリプトはサーバーまたはデータベースで実行されます。スクリプトは Now Platform の外観や動作を変更するため、またレコードやテーブルへのアクセスや変更に対するビジネスルールとして実行するために使用できます。

## コア機能

### グループ

グループにロールを割り当てることで、ユーザー管理を簡素化します。グループを参照するビジネスルール、アサインルール、システムロール、または属性は、すべてのグループメンバーに自動的に適用されます。

### 通知

ServiceNow 通知を使用して、システムメールの管理、システム通知の作成、受信メールへのシステムの応答方法の設定を行います。

### ロール

ロールは、アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。admin ロールは、すべての機能へのアクセスを提供します。

### ServiceNow プラグイン

プラグインは、ServiceNow インスタンス内で特定の機能を提供するソフトウェアコンポーネントです。

### UI ポリシー

UI ポリシーは、フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。

### ユーザー

ユーザーレコードは、個人と ServiceNow インスタンスとの関係を確立します。ユーザーレコードは、ユーザー名、パスワード、および個人に関する情報 (連絡先情報、場所、役職など) で構成されます。

## 関連アプリケーションと機能

### JavaScript API

アプリケーションの機能を変更したり、新しいアプリケーションを作成したりする場合に記述するスクリプトで JavaScript API を使用します。

### UI Builder

UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio によって生成されたワークスペースとポータル、または Next Experience コンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのための Web ユーザーインターフェイスを構築します。

## ガイド付きアプリケーションクリエーター

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、Now Platform® でアプリケーションを構築するための直感的な開発インターフェイスです。最初のアプリケーション構築をガイドするステップバイステップのプロセスを提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

Guided Application Creator を使用して、インポートされたスプレッドシートでワークスペース、モバイル、クラシック用の新しいアプリケーションを作成する方法について説明します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター の開始方法については、この 4 分間のビデオをご覧ください。

**注:**
ビデオでは ガイド付きアプリケーションクリエーター でのワークスペースの作成について説明していますが、この機能はサポートされなくなりました。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションの構築」を参照してください。

## ガイド付きアプリケーションクリエーター の使用

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションの設定には以下が含まれます。

- アプリケーションレコードの作成
- ユーザーロールの定義
- データテーブルの指定
- さまざまなユーザーエクスペリエンスに合わせたアプリケーションの設計

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用してアプリケーションレコードを作成し、後で スタジオ で構成することもできます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーターでのアプリケーションレコードの作成」を参照してください。

## ユーザーエクスペリエンス

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定すると、アプリケーションを次のユーザーエクスペリエンスで使用できるようになります。

| ユーザーエクスペリエンス | 説明 |
|---|---|
| モバイル | ServiceNow エージェント モバイルアプリ。モバイルデバイスで作業するユーザーをサポートするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。 |
| クラシック | クラシック Now Platform エクスペリエンス。ユーザーがリストとフォームを使用してアプリケーションで作業できるようにするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。 |

## ガイド付きアプリケーションクリエーター およびアプリケーション作成プロセス

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定しても、アプリケーションの作成プロセス全体がキャプチャされるわけではありません。これはプロセスの 1 つのステップにすぎません。ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定する前に、ビジネス要件に必要なアプリケーションの種類を計画してから構築します。

でアプリケーションをセットアップした後、を使用してアプリケーションを ガイド付きアプリケーションクリエーターさらに開発できます スタジオ, フローデザイナー、および チーム開発. アプリケーションの構築が完了したら、アプリケーションをテストして、それをユーザーと共有できます。

アプリケーション作成プロセスの詳細については、「アプリケーションの構築」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アクティベーション情報

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、ガイド付きアプリケーションクリエーター (com.glide.sn-guided-app-creator) プラグインを介して有効になります。このプラグインは、Now Platform でデフォルトでアクティブになっています。

ガイド付きアプリケーションクリエーター で作業するには、別のブラウザーを使用します。Internet Explorer 11 のサポートの詳細については、KB0683275 を参照してください。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションの設定

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定して、情報を保存し、ビジネスプロセスを管理します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用して、ServiceNow プラットフォームでノーコードアプリケーションを迅速かつ簡単に作成する方法を示します。

**注:**
ビデオでは ガイド付きアプリケーションクリエーター でのワークスペースの作成について説明していますが、この機能はサポートされなくなりました。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションの構築」を参照してください。

## 要件

アプリケーションを構築する前に計画します。組織のビジネス要件を定義し、アプリケーションが追跡する情報を特定します。アプリケーション開発プロセスの詳細については、「アプリケーションの構築」を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター で作業するには、別のブラウザーを使用します。Internet Explorer 11 のサポートの詳細については、KB0683275 を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター にアクセスするには、sn_g_app_creator.app_creator ロールまたは admin ロールが必要です。

## 実行すべきこと

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成。

   ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションレコードを作成して、カスタムアプリケーションを識別します。

2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義。

   カスタムアプリケーションを使用する組織のメンバーのために、 ガイド付きアプリケーションクリエーター でロールを作成または選択します。

3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択。

   ユーザーが ServiceNow エージェント モバイルアプリまたはリストとフォームを使用してアプリケーションにアクセスできるようにします。

4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定。

   既存のテーブルを選択するか、ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルを作成して、カスタムビジネスアプリケーションのデータを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ。

   選択した各ユーザーエクスペリエンスでのアプリケーションのビジュアル化をカスタマイズします。

> **ヒント:**
> ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定するプロセス全体を完了します。終了する場合は、スタジオ およびさまざまなフォーム間でアプリケーションの設定を続行する必要があります。ガイド付きアプリケーションクリエーター で中断したところから再開することはできません。

## 次のステップ

アプリケーションはすぐに使用できますが、組織のニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズする必要があります。

受信 ServiceNow スタジオ構成：

- システム通知
- フォームレイアウト
- UI ポリシー
- レポート

プロセスを自動化し、アプリケーションのビジネスロジックを作成する方法についても学習できます フローデザイナー.

### ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションレコードを作成して、カスタムアプリケーションを識別します。

#### 始める前に

デフォルトでは、開発者は ガイド付きアプリケーションクリエーター でグローバルスコープにアプリケーションを作成することはできません。追加のロールをアサインすることで、グローバルアプリケーションの開発を特定の開発者に制限できます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可」を参照してください。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > **Studio**をクリックし、[ アプリケーションの作成] を選択します。
   ガイド付きアプリケーションクリエーター を初めて起動する場合は、ようこそ画面で [始めましょう。] をクリックします。
2. 画面でフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | アプリケーションの名前。 |
| 説明 | 自分のアプリケーションの説明です。 |
| スコープ | 自分のアプリケーションのスコープです。アプリケーションに名前を付けると、アプリケーションスコープが自動的に設定されます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | グローバルスコープが利用可能な場合は、ここでアプリケーションを作成することもできます。<br><br>アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。 |

3. オプション: アプリケーションにロゴ画像を指定します。
[ロゴ] フィールドに画像をドラッグアンドドロップするか、[ロゴをアップロードするには、ドラッグアンドドロップまたは参照してください。] を選択します。

4. [作成] を選択してアプリケーションのロールをアサインします。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションの構築を続行するには、ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義 の手順に従います。

[このアプリのいくつかのロールを作成しましょう。] 画面で ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了して、アプリケーションを保存し、後で機能を追加することもできます。終了するには、**[X]** を選択して画面を閉じ、[はい、閉じます] を選択します。

ヒント:
ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定するプロセス全体を完了します。終了する場合は、スタジオ およびさまざまなフォーム間でアプリケーションの設定を続行する必要があります。ガイド付きアプリケーションクリエーター で中断したところから再開することはできません。

### タスクの結果
アプリケーションレコードは、カスタムアプリケーション [sys_app] テーブルに保存されます。作成者はアプリケーションの委任開発者として追加されます。アプリケーションを後で表示するには、次の場所に移動します。 システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.

## ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

カスタムアプリケーションを使用する組織のメンバーのために、 ガイド付きアプリケーションクリエーター でロールを作成または選択します。

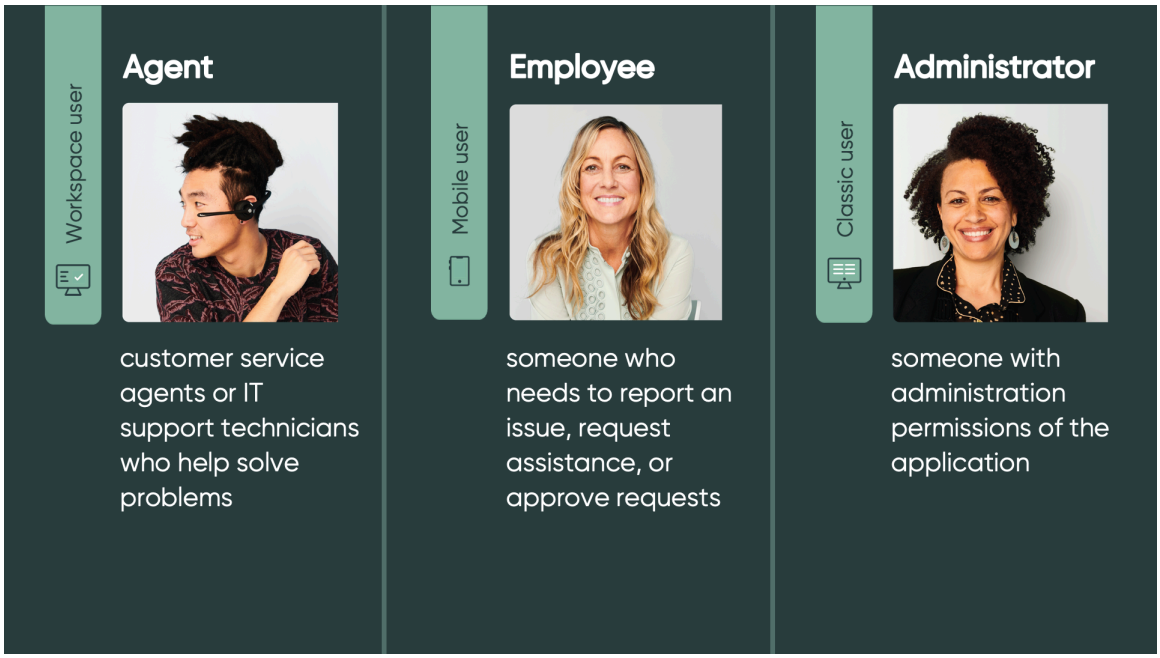
### 始める前に
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成」の手順を完了してください。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて




手順

1. アプリケーションのロールを定義します。

   既存のロールを選択するか、ロールを作成できます。

2. [続行] を選択します。

   アプリケーションのユーザーエクスペリエンスを選択する画面が表示されます。

   注:
   ロールを作成した場合は、[続行] を選択してインスタンスにロールを保存する必要があります。[続行] を選択する前に ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、作成したロールは保存されません。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択

ユーザーが ServiceNow エージェント モバイルアプリまたはリストとフォームを使用してアプリケーションにアクセスできるようにします。

始める前に
完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

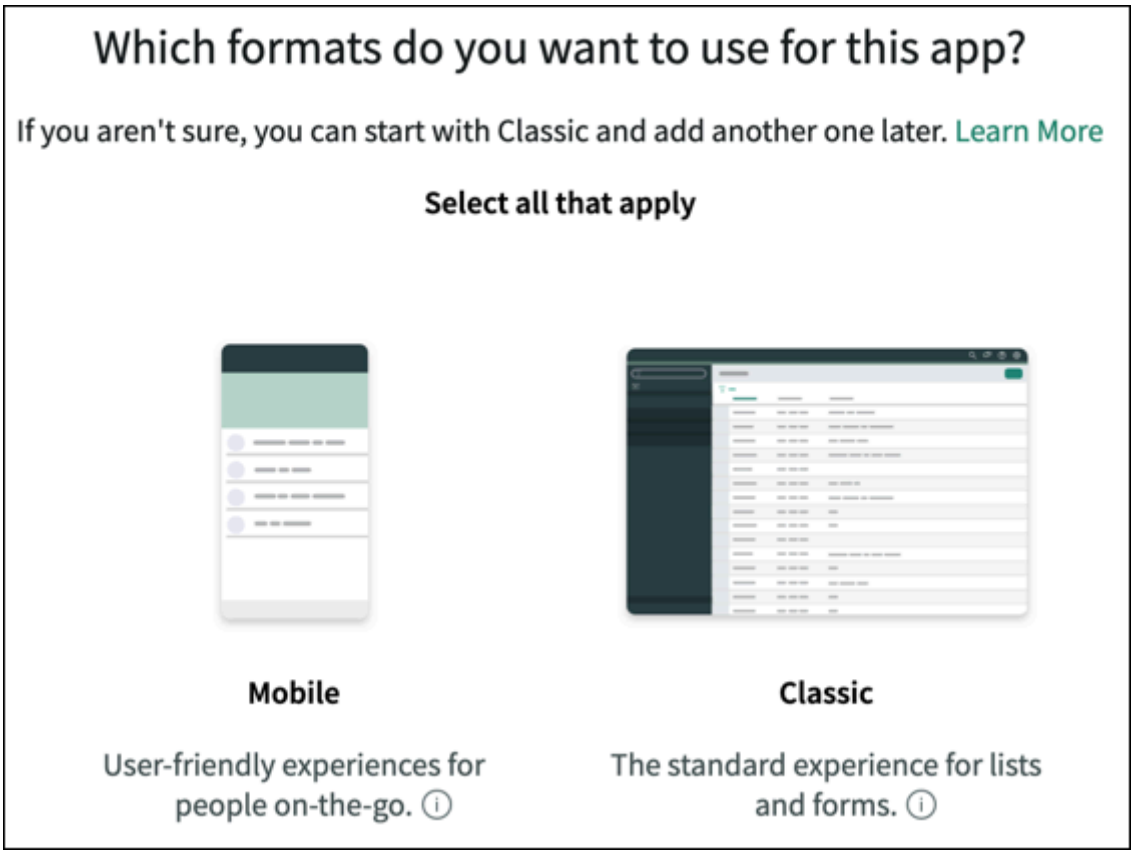
必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アプリケーションを利用可能にするユーザーエクスペリエンスを選択します。




| ユーザーエクスペリエンス | 説明 |
|---|---|
| モバイル | ServiceNow エージェント モバイルアプリ。モバイルデバイスで作業するユーザーをサポートするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。 |
| クラシック | クラシック Now Platform エクスペリエンス。ユーザーがリストとフォームを使用してアプリケーションで作業できるようにするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。 |

ガイド付きアプリケーションクリエーター には、ワークスペースを作成するオプションはありません。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションの構築」を参照してください。

2. [続行] を選択してアプリケーションのデータテーブルを指定します。

次のタスク

「ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、選択したユーザーエクスペリエンスはアプリケーションに保存されません。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

既存のテーブルを選択するか、ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルを作成して、カスタムビジネスアプリケーションのデータを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

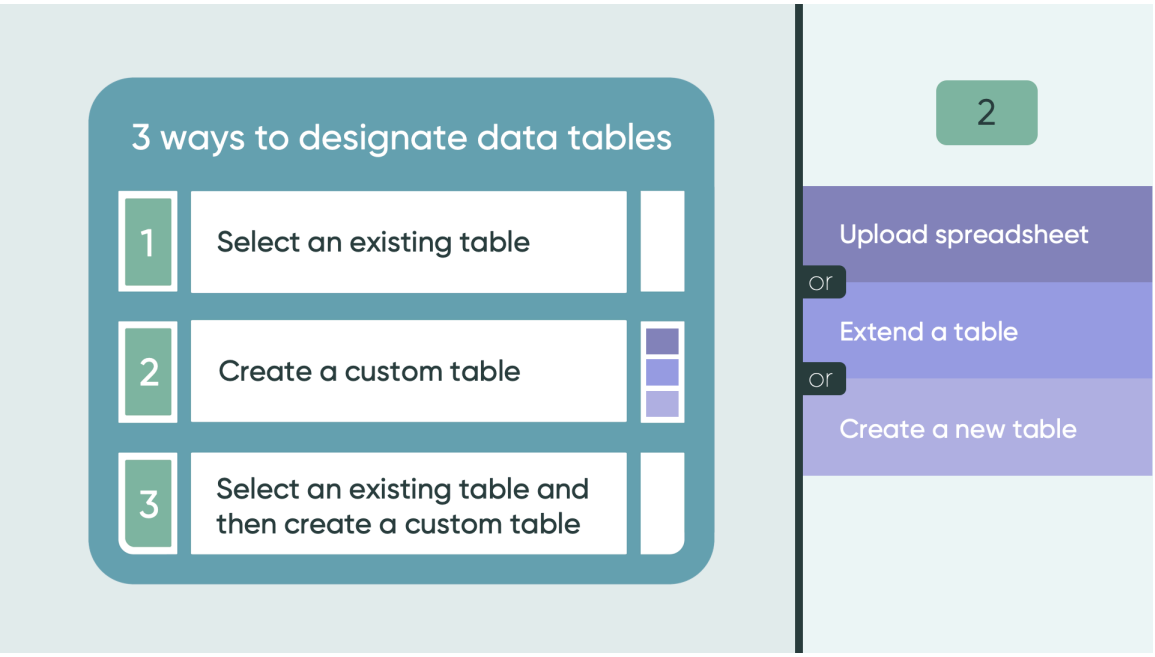
始める前に
完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択

カスタムデータテーブルを作成する予定の場合は、ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルガイドライン を確認して、テーブルの作成後にシステムが期待どおりに動作することを確認します。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

このタスクについて




手順

アプリケーションのデータテーブルを指定します。
既存のテーブルを選択することも、カスタムテーブルを作成することもできます。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、指定したデータテーブルはアプリケーションに保存されません。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター へのスプレッドシートのアップロード

スプレッドシートを ガイド付きアプリケーションクリエーター のカスタムテーブルに変換して、カスタムアプリケーションのデータを保存します。

始める前に
完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

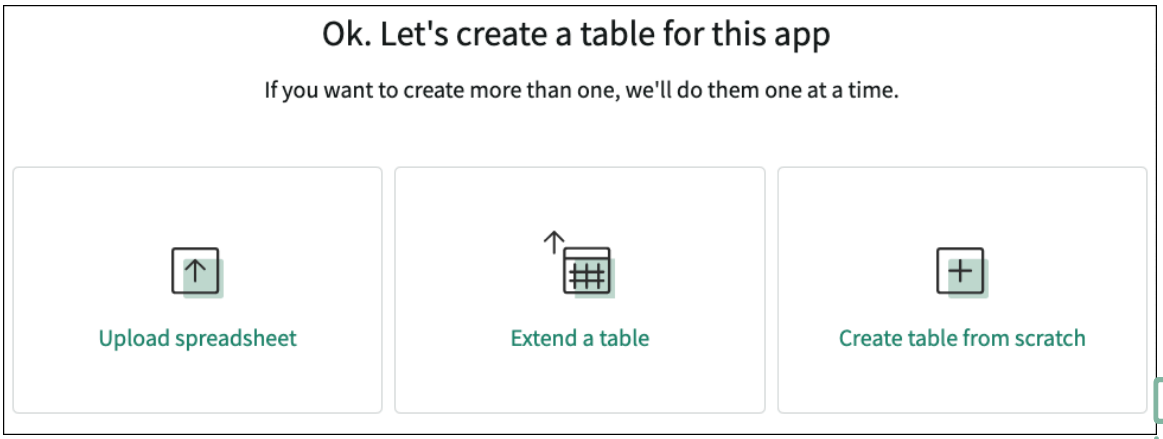
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

スプレッドシートのガイドラインを確認し、データが想定どおりにアップロードされていることを確認します。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [スプレッドシートをアップロード] を選択し、[続行] を選択します。




2. スプレッドシートをアップロードします。

   スプレッドシートファイルをドラッグアンドドロップするか、システムを参照してスプレッドシートファイルを選択できます。

3. [テーブルヘッダーの行を入力してください。] に、スプレッドシートのヘッダー行の番号を入力します。

   たとえば、(次の画像のように) スプレッドシートに 2 つの列があり、ヘッダーが 2 行目にある場合は、「2」と入力します。

| | A | B |
|---|---|---|
| 1 | | |
| 2 | **Client name** | **Phone number** |
| 3 | Beth Anglin | 555-555-5551 |
| 4 | Fred Luddy | 555-555-5552 |
| 5 | David Loo | 555-555-5553 |
| 6 | John Jason | 555-555-5554 |
| 7 | David Miller | 555-555-5555 |
| 8 | | |

4. [スプレッドシートデータをインポート] オプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [続行] を選択します。

   スプレッドシートのコンテンツがカスタムテーブルのフィールドに解析されます。

6. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フィールドラベル | フィールドの一意のラベル。 |
| フィールド名 | データベース内のフィールド名。 |
| フィールドタイプ | フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。<br><br>デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプリケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。 |
| 表示 | 参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。 |
| 必須 | レコードを保存するには、そのフィールドに値を含める必要があります。 |

7. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
8. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル ラベル | テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。 |
| テーブル名 | データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。<br><br>詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。 |
| 自動番号 | 数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。 |
| アクセスを管理 | アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択したロールごとに、さまざまなレベルのアクセス権を付与できます。<br>作成<br>ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。<br>読み取り<br>ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。<br>書き込み/更新 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。<br>削除<br>ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。 |

9. [続行] を選択します。
10. 確認画面で、[続行] を選択します。
11. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
12. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

## ガイド付きアプリケーションクリエーター のテーブルの拡張

ガイド付きアプリケーションクリエーター のテーブルを拡張して、既存のテーブルをコピーするカスタムテーブルを作成します。子テーブルにさらにフィールドを追加できます。

始める前に
完了：

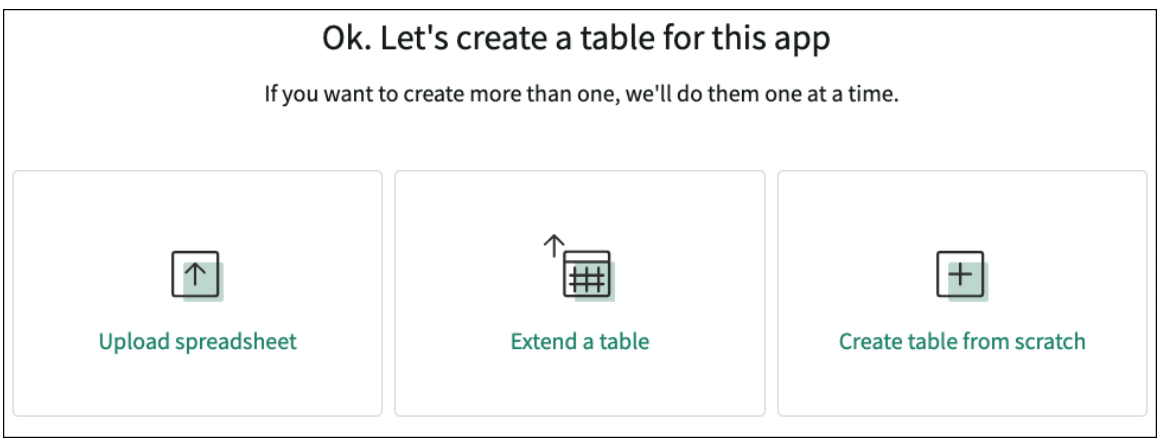
1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

どのテーブルを拡張するか計画します。「拡張モデル」を確認して、自分のテーブルを拡張した後にどのデータベーステーブルが作成されたか追跡できるようにします。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [テーブルを拡張] を選択します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [テーブル] フィールドで拡張するテーブルを選択します。
3. [続行] を選択します。

   親テーブルのフィールドがカスタムテーブルにコピーされます。コピーされたフィールドを変更することはできません。
4. 子テーブルにフィールドを追加するには、**[+ 新しいフィールドを追加 (+ Add a new field)]** を選択してフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| フィールドラベル | フィールドの一意のラベル。 |
| フィールド名 | データベース内のフィールド名。 |
| フィールドタイプ | フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。<br><br>デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプリケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。 |
| 表示 | 参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。<br><br>**注:**<br>拡張テーブルは、親テーブルの表示値を継承します。拡張テーブルに個別の表示値を設定すると、親テーブルの表示値が上書きされます。 |
| 必須 | レコードを保存するには、そのフィールドに値を含める必要があります。 |

5. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
6. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| テーブル ラベル | テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。 |
| テーブル名 | データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。<br><br>詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。 |
| 自動番号 | 数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アクセスを管理 | アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択した各ロールに、さまざまなアクセスのレベルを指定できます。<br>作成<br>ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。<br>読み取り<br>ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。<br>書き込み/更新<br>ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。<br>削除<br>ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。 |

7. [続行] を選択します。
8. 確認画面で、[続行] を選択します。
9. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
10. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

### 次のタスク

「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

## ガイド付きアプリケーションクリエーター でのテーブルの作成

ガイド付きアプリケーションクリエーター にテーブルを作成し、ビジネスニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズします。

### 始める前に

完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

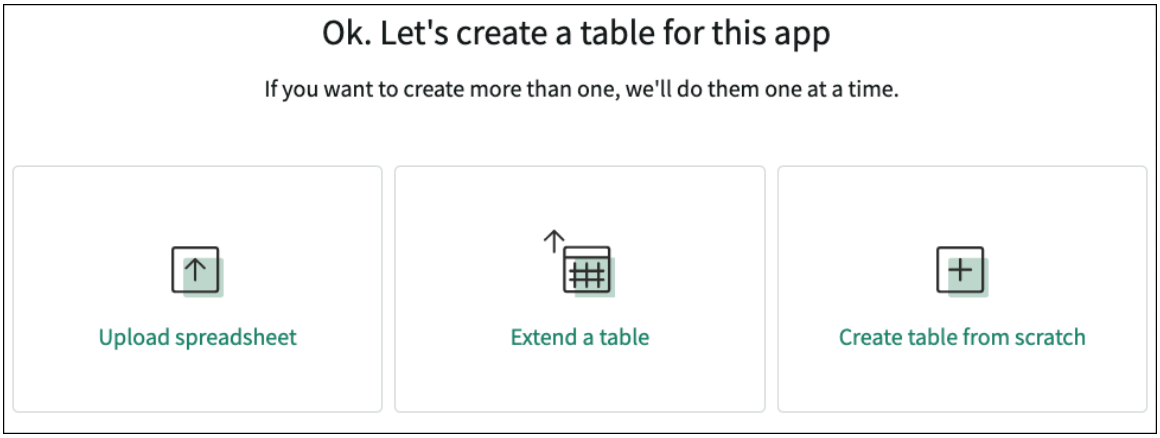
必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [テーブルを最初から作成] を選択し、[続行] を選択します。




2. カスタムテーブルにフィールドを追加します。

   a. **[+ 新しいフィールドを追加 (+ Add a new field)]** を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| フィールドラベル | フィールドの一意のラベル。 |
| フィールド名 | データベース内のフィールド名。 |
| フィールドタイプ | フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。<br><br>デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプリケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。 |
| 表示 | 参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。 |
| 必須 | レコードを保存する前に、そのフィールドに値を指定する必要があるかどうかのオプション。 |

3. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
4. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル ラベル | テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。 |
| テーブル名 | データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。 |
| 拡張性を高める | 他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。<br>詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。 |
| 自動番号 | 数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。 |
| アクセスを管理 | アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択した各ロールに、さまざまなアクセスのレベルを指定できます。<br>作成<br>ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。<br>読み取り<br>ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。<br>書き込み/更新<br>ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。<br>削除<br>ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。 |

5. [続行] を選択します。
6. 確認画面で、[続行] を選択します。
7. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
8. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

### 次のタスク

「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションの構築を続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

## ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ

選択した各ユーザーエクスペリエンスでのアプリケーションのビジュアル化をカスタマイズします。

### 始める前に

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

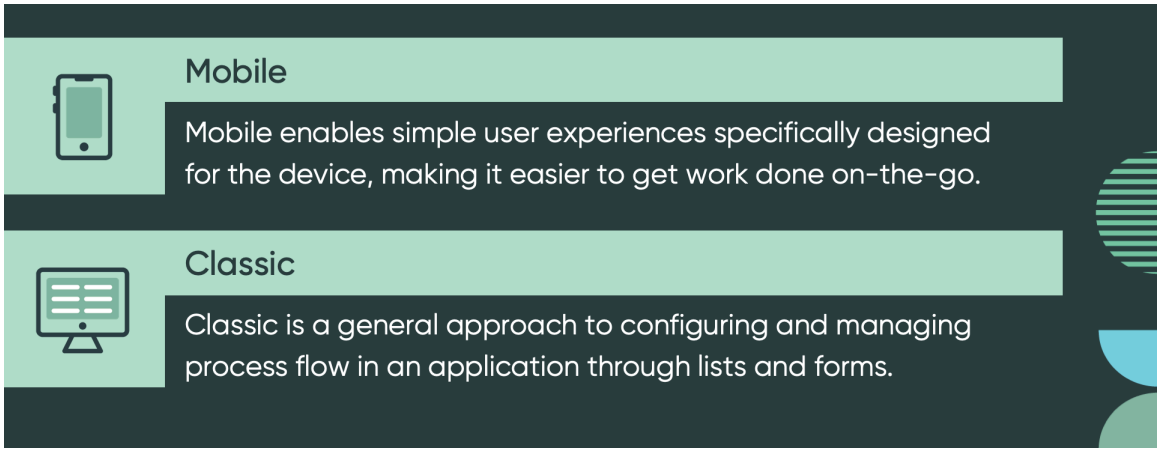
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

このタスクについて




### アプリケーションを モバイルエージェント モバイルアプリ用にカスタマイズする

アプリケーションのユーザーエクスペリエンスとして モバイルエージェント モバイルアプリを選択した場合は、モバイルアプリでのそのアプリケーションの表示方法をカスタマイズできます。

手順

1. [モバイル] の横にある [開始] を選択して、アプリケーションの詳細を設定します。
2. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アプリアイコン | モバイルアプリのアプリケーションホームページに表示されるアイコン。 |
| オフラインで利用可能 | ユーザーがオフラインモードでアプリケーションレコードを更新できるようにするオプション。このオプションは、SG Offline Support (com.glide.sg.offline) プラグインがアクティブ化されている場合にのみ使用できます。<br><br>オフラインモードの詳細については、「Updating records without an internet connection (インターネット接続なしでレコードを更新する)」を参照してください。 |
| 名前 | アプリケーションのホームページに表示されるアプリケーションの名前。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーション名です。 |
| 説明 | 自分のアプリケーションの説明です。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーションの説明です。 |
| テーブル | モバイルアプリでアプレットとして表示されるテーブル。アプレットはアプリケーションの下のサブセクションであり、アプリケーション内の情報とビジネスプロセスを分類します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ロール | モバイルアプリでアプリケーションにアクセスできるユーザーロール。デフォルトでは、これらの値は以前に定義したロールです。 |

3. [作成] を選択します。

次のタスク
これで、モバイルエージェント モバイルアプリ用のアプリケーションのカスタマイズが完了しました。別のユーザーエクスペリエンスを選択した場合は、次にそのユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。カスタマイズするユーザーエクスペリエンスがこれ以上ない場合は、[アプリで完了しました] を選択します。

### Now Platform のクラシックエクスペリエンス用のアプリケーションのカスタマイズ

アプリケーション用に Now Platform のクラシックエクスペリエンスを選択した場合は、アプリケーションナビゲーターでのそのアプリケーションの表示方法をカスタマイズできます。

手順

1. [クラシック] の横にある [開始] を選択して、アプリケーションの詳細を設定します。
2. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | アプリケーションナビゲーターに表示されるアプリケーションの名前。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーション名です。 |
| 説明 | 自分のアプリケーションの説明です。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーションの説明です。 |
| テーブル | アプリケーションのテーブル。アプリケーションモジュールはテーブルごとに作成されます。デフォルトでは、これらの値は以前に指定したデータテーブルです。 |
| ロール | アプリケーションにアクセスできるユーザーロール。デフォルトでは、これらの値は以前に定義したロールです。 |

3. [作成] を選択します。

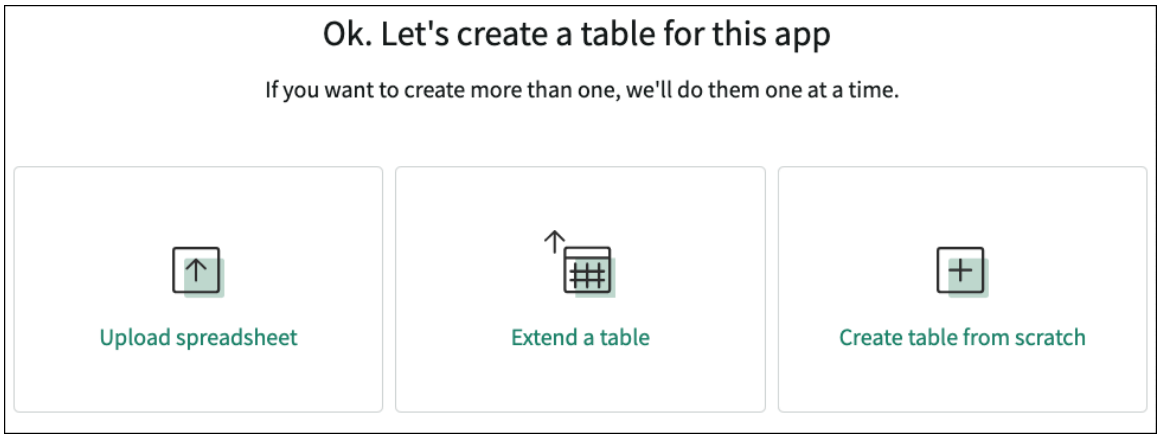
次のタスク
これで、クラシックの Now Platform エクスペリエンス用のアプリケーションのカスタマイズは終了しました。別のユーザーエクスペリエンスを選択した場合は、次にそのユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。カスタマイズするユーザーエクスペリエンスがこれ以上ない場合は、[アプリで完了しました] を選択します。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを作成する場合は、オプションでアプリケーションのデータテーブルを作成できます。サブスクリプションの制限内であること、およびアプリケーションが想定どおりに動作することを確認するために、データテーブルを作成する前にデータテーブルガイドラインを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**

Now Platform アプリケーションサブスクリプションにはカスタムテーブルエンタイトルメントが含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用管理者がサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、以下を参照してください Map custom tables to a product subscription in Subscription Management。

カスタムテーブルをサブスクリプションに割り当て、エンタイトルメントの制限内に抑えるには、「カスタムテーブルのマッピング」の手順に従います。

スプレッドシートのガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター に新しいデータテーブルを作成する 1 つの方法は、外部スプレッドシートをアップロードすることです。データをシームレスに転送してカスタムアプリケーションを迅速に構築できるように、事前にスプレッドシートを準備します。

スプレッドシートが次の状態であることを確認します。

- 水平列とそれぞれのヘッダーラベルでフォーマットされている
- XLSX ファイルタイプとして保存されている

たとえば、スプレッドシートを次のようにフォーマットします。

| | A | B |
|---|---|---|
| 1 | | |
| 2 | **Client name** | **Phone number** |
| 3 | Beth Anglin | 555-555-5551 |
| 4 | Fred Luddy | 555-555-5552 |
| 5 | David Loo | 555-555-5553 |
| 6 | John Jason | 555-555-5554 |
| 7 | David Miller | 555-555-5555 |
| 8 | | |

ガイド付きアプリケーションクリエーター で 2 行目をヘッダー行として指定し、[クライアント名] と [電話番号] をテーブルフィールドとしてアップロードします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### テーブル拡張のガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター でデータテーブルを作成するオプションの 1 つは、既存のデータテーブルをコピーして、新しく作成されたテーブルにフィールドを追加することです。データテーブルを拡張する前に、テーブルの拡張モデルを確認して、拡張後にどのデータベーステーブルが作成されたか追跡できるようにします。

ベーステーブルを拡張すると、元のテーブルのすべてのフィールドが組み込まれ、新しいテーブルのシステムフィールドが作成されます。拡張可能とマークされたテーブルは、同じスコープ内にある場合、または他のスコープからの構成が許可されている場合に拡張可能です。

拡張モデルの詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

### テーブル作成のガイドライン

オプションで ガイド付きアプリケーションクリエーター に新しいテーブルを作成できますが、サブスクリプションで許可されるよりも多くのカスタムテーブルを作成する可能性があります。確実にサブスクリプションの制限内に収めるには、組織のカスタムテーブルエンタイトルメントを確認してください。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可

デフォルトでは、開発者は ガイド付きアプリケーションクリエーター でグローバルスコープにアプリケーションを作成することはできません。追加のロールをアサインすることで、グローバルアプリケーションの開発を特定の開発者に制限できます。

#### 始める前に

**重要:**
グローバルスコープで作成したアプリケーションはスコープの保護をバイパスするため、ライセンスの問題が発生する可能性があります。グローバルスコープでアプリケーションを作成する場合の想定については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

必要なロール：admin

#### このタスクについて

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用するユーザーを指定するには、そのユーザーに sn_g_app_creator.app_creator ロールをアサインします。sn_g_app_creator.global ロールもアサインすると、このユーザーはグローバルスコープでアプリケーションを作成できるようになります。

または、sn_g_app_creator.app_creator ロールを持つすべてのユーザーがグローバルスコープでアプリケーションを作成できるようにするには、*sn_g_app_creator.allow_global* システムプロパティを追加して **[true]** に設定します。プロパティ追加の詳細については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。

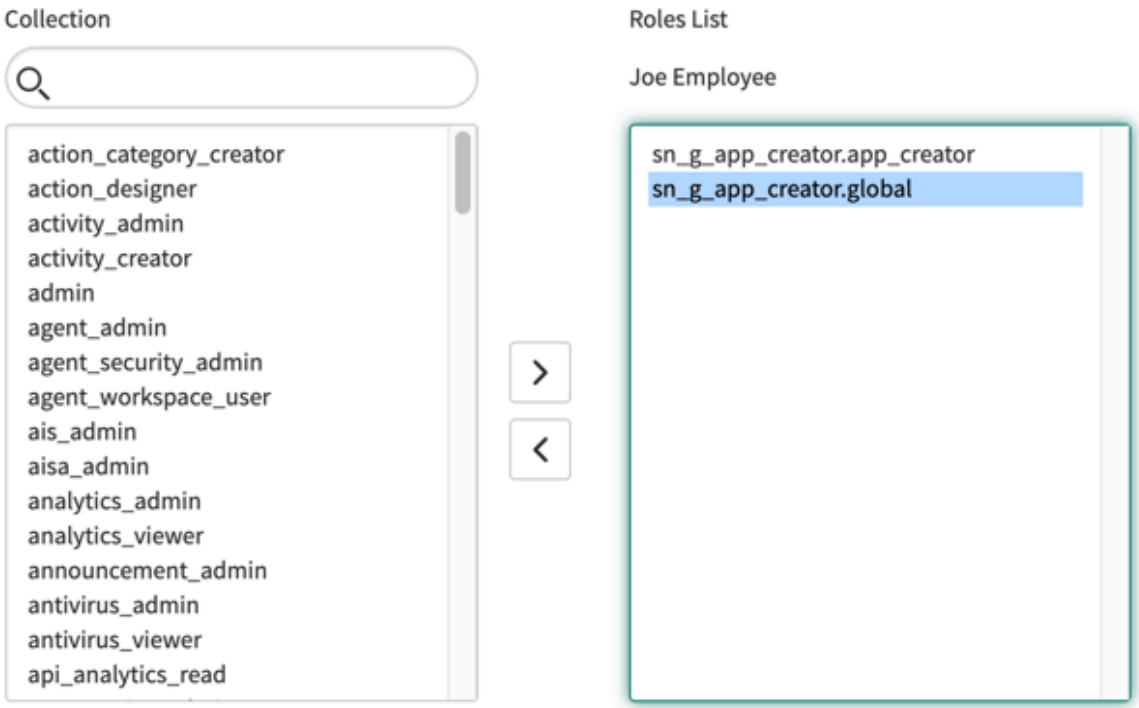
**注:**
admin ロールを持つユーザーは、sn_g_app_creator.global ロールを持っているかどうかに関係なく、グローバルスコープでアプリケーションを作成できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー をクリックし、開発者のユーザーレコードを開きます。
2. [ロール] 関連リストで、[編集...] を選択します。
3. [メンバーの編集] ページで、sn_g_app_creator.global ロールを [コレクション] から [ロールリスト **(Roles List)**] に移動します。

自動翻訳

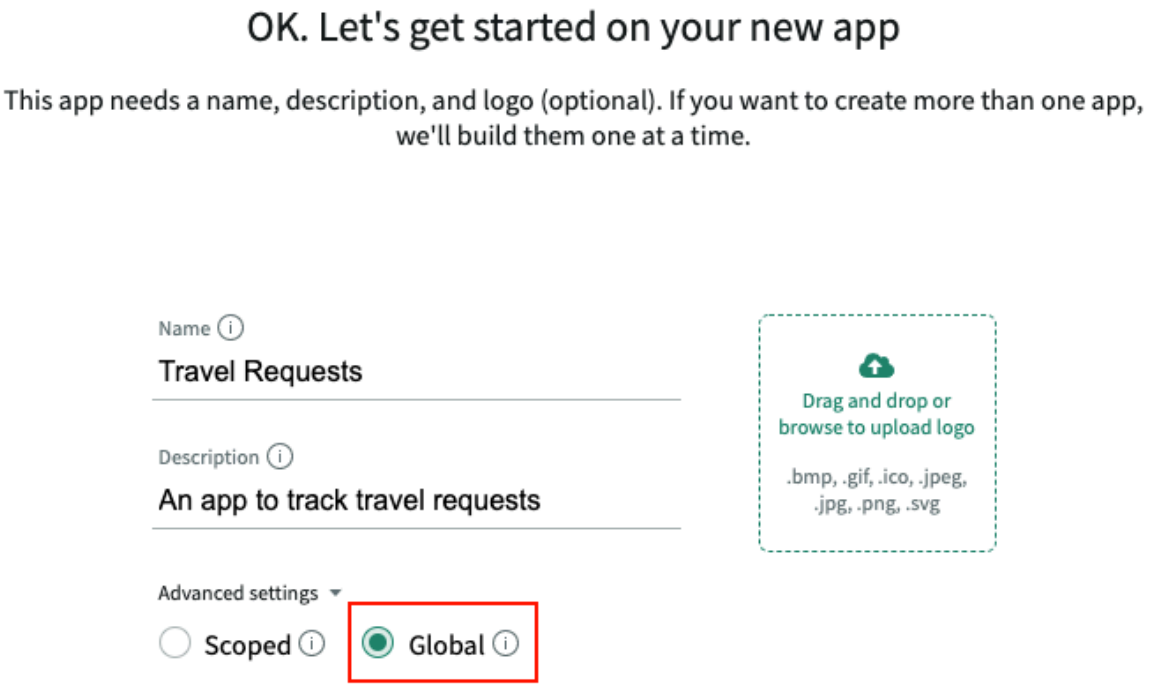
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




sn_g_app_creator.app_creator ロールも選択されていることを確認します。ガイド付きアプリケーションクリエーター のグローバルスコープでアプリケーションを作成する開発者には、sn_g_app_creator.app_creator ロールと sn_g_app_creator.global ロールの両方が必要です。

4. [保存] を選択します。
5. ユーザーレコードで、[更新] を選択します。

タスクの結果
グローバルスコープでアプリケーションを作成するオプションは、sn_g_app_creator.global ロールを持つ開発者が使用できます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加

ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルにフィールドを追加する場合、デフォルトでは 18 個のフィールドタイプしか使用できません。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを含めることができます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Now Platform で使用可能なフィールドタイプのリストについては、「フィールドタイプ」を参照してください。

手順

1. 次の設定を使用して、システムプロパティを追加します。
   - 名前： *sn_g_app_creator.field_types*
   - タイプ：文字列
2. [値] フィールドに、フィールドタイプ名のカンマ区切りリストを入力します。
   たとえば、[イメージ (Image)] および [ドキュメント ID] というフィールドタイプを追加するには、「user_image,document_id」と入力します。
3. [送信] を選択します。

## スクリプティング

スクリプトを使用して、標準構成を超えてインスタンスを拡張します。スクリプトを使用すると、プロセスの自動化、機能の追加、インスタンスと外部アプリケーションの統合などを行うことができます。

API (アプリケーションプログラミングインターフェイス) は、スクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供し、機能を定義します。ServiceNow は、統合のための JavaScript クラス、Web サービス、およびその他の接続ポイントとして API を提供します。一般的に使用される JavaScript オブジェクト (DOM や Window など) にはアクセスできないことに注意してください。Jelly スクリプトは一部のモジュールでも使用されます。Jelly は XML を HTML に変換するために使用され、クライアントサイドとサーバーサイドの両方のスクリプトを含めることができます。

スクリプトは、サーバーサイドにするか (サーバーまたはデータベースで実行)、クライアントサイドにするか (ユーザーのブラウザーで実行)、または MID Server で実行できます。

**注:**
スクリプトを作成する際には、予約語を使用できません。

インスタンスのカスタマイズを開始する前に JavaScript を理解し、Jelly スクリプトを展開する場合は Jelly も理解しておきます。

### サーバーサイドスクリプト

データベース操作を実行します。たとえば、サーバーサイドスクリプトを使用してレコードを更新します。スコープ対象のアプリケーションまたはグローバルスコープでスクリプトを作成します。各実行コンテキストには、使用可能な API のセットが含まれています。

#### スコープ付き環境

スコープ対象のアプリケーションでスクリプティングする場合は、スコープ付き API を使用します。スコープ付き *Glide* API には、グローバル *Glide* API に含まれているすべてのメソッドは含まれていません。また、スコープ対象のアプリケーションではグローバル *Glide* API を呼び出すことはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

グローバル環境

グローバルスコープは、アプリケーションスコープが実装される前に開発されたアプリケーションや、他のすべてのグローバルアプリケーションにアクセスできることを意図したアプリケーションを識別する、特別なアプリケーションスコープです。グローバルスコープでスクリプティングする場合はグローバル API を使用します。

サーバーサイドスクリプトの詳細については、「サーバーサイドスクリプト」を参照してください。
アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

## クライアントサイドのスクリプト

フォームの外観を変更したり、入力された値に基づいてさまざまなフィールドを表示したり、その他のカスタム表示オプションを変更したりします。

- onLoad クライアントスクリプトは、フォームまたはページが読み込まれたときに実行されます
- onChange クライアントスクリプトは、特定のものが変更され、かつフォームやページが読み込まれたときに実行されます
- onSubmit クライアントスクリプトは、フォームが送信されたときに実行されます

クライアントスクリプトは、UI ポリシーを含む他のスクリプトまたはモジュールで呼び出すこともできます。クライアントサイドスクリプトの詳細については、「クライアント側スクリプティング」を参照してください。

### 利用可能なスクリプトタイプ

スクリプトは多くの場所で使用できます。最も重要な点は、スクリプトがクライアントまたはサーバーのどちらで実行されるかです。

スクリプトのタイプと実行場所

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
|---|---|---|
| アクセス制御 | 指定された操作のアクセス権が特定のエンティティに付与されるかどうかを決定します。<br>• 保護されているエンティティのタイプ<br>• 保護されている操作<br>• オブジェクトを説明する一意の識別子<br><br>ロール、条件式、またはスクリプトで定義できます。 | サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。 |
| Ajax スクリプト | クライアントがサーバーからデータを取得して、ページ全体を再ロードすることなくページに動的に組み込むことができるようにします。<br>• Ajax クライアントスクリプトは、情報やアクション、またはその両方を要求します。<br>• Ajax サーバースクリプトは、Ajax クライアントスクリプトの要求を実行します。 | • クライアント - Ajax クライアントスクリプトはクライアントで実行されます。<br>• サーバー - Ajax サーバースクリプトはサーバーで実行されます。 |
| ビジネスルール | システムの動作をカスタマイズします。 | サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
| --- | --- | --- |
| | • データベースアクション (クエリ、挿入、更新、または削除) が発生したときに実行されます。<br>• スクリプトは次のように実行される可能性があります。<br>  ○ データベースアクションの実行前または後 (データベース操作の一部として実行)<br>  ○ 非同期 (データベース操作後の特定の時点)<br>  ○ 表示中 (データをフォームに表示する場合) | |
| Service Catalog UI ポリシー | 変数セットまたはカタログアイテム (サービスカタログから) の表示を定義します。 | • クライアント - [True の場合実行] フィールドまたは [False の場合実行] フィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。<br>• サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。 |
| クライアントスクリプト | フォームの外観を変更したり、入力された値やその他のカスタム表示オプションに基づいてさまざまなフィールドを表示したりするために使用されます。<br>• onLoad は、フォームまたはページが読み込まれたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。<br>• onChange は、特定のものが変更され、かつフォームやページが読み込まれたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。<br>• onSubmit は、フォームが送信されたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。<br><br>クライアントスクリプトは、UI ポリシーを含む他のスクリプトまたはモジュールで呼び出すこともできます。 | クライアント |
| スクリプトアクション | イベントが発生したときに実行されるスクリプトが含まれています。以下にそのイベントの例を示します。<br>• 承認がキャンセルされた<br>• 変更が承認された<br>• 問題が割り当てられた<br><br>それが true のときにスクリプトを実行する条件を指定できます。通常は、スクリプトインクルードを呼び出すために使用されます。 | サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

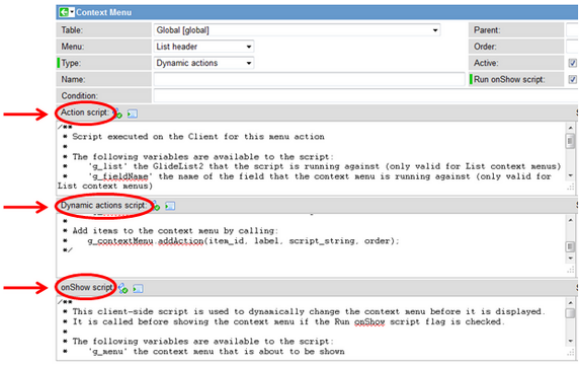
スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
| --- | --- | --- |
| スクリプトインクルード | 関数またはクラスにすることができるスクリプトが含まれます。これらのスクリプトは、他のスクリプト (多くの場合、ビジネスルール) によって呼び出された場合にのみ実行されます。<br><br>複雑なまたは再利用可能なサーバースクリプト (とりわけ、複雑なビジネスルール) は、スクリプトインクルードにする必要があります。 | server |
| 変換マップ | データのインポートに使用されます。<br>• テーブル間のマッピング関係を定義します。<br>• そのデータをインポートするために、ビジネスルール、その他のスクリプトやその他のオプションを使用できます。<br><br>スクリプトが含まれないこともあります。 | server |
| UI アクション | ボタンやリンクのクリックなどの特定のアクションを選択する機能を作成します。<br><br>UI アクションは、次のアイテムをフォームとリストに配置します。<br>• ボタン<br>• リンク<br>• コンテキストメニューアイテム<br>• リスト選択肢 | • クライアント - [クライアント] ボックスをオンにすると、スクリプトフィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。<br>• サーバー - [クライアント] ボックスをオフにすると、スクリプトフィールドのスクリプトはサーバーで実行されます。<br>• クライアント - [クライアント] ボックスをオンにすると、onClick スクリプトが使用可能になります。このスクリプトには JavaScript を含めることができますが、通常はスクリプトフィールドで指定された関数を呼び出します。<br>• サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

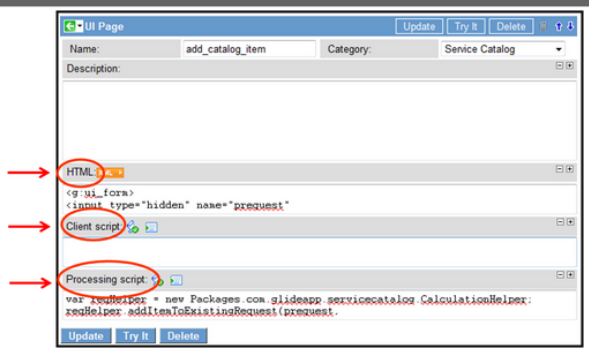
スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
| --- | --- | --- |
| UI コンテキスト メニュー | どの「右クリックメニュー」をどの領域にポップアップさせるか、および利用可能なメニューの選択肢を定義します<br>  <br><br>**注:**<br>左利き用のマウス構成を使用する場合、「右クリック」とは「反対側のボタンをクリックする」ことを意味します。 | • クライアント - onShow スクリプトはクライアントで実行されます。<br>• クライアント - アクションスクリプトはクライアントで実行されます。<br>• サーバー - 動的アクションスクリプトはサーバーで実行されます。<br>• サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。 |
| UI マクロ | Jelly を含めることができ、UI ページによって呼び出されるモジュール式の再利用可能なコンポーネントが含まれます。また、さまざまなタイプのスクリプトが含まれており、同じページで複数回呼び出される場合があります。<br>**注:**<br>Jelly は XML を HTML に変換します。 | • サーバー - UI マクロ自体はサーバーで実行されます。<br>• サーバー - サーバー上で実行されるコンテンツ (Jelly 式または Jelly 構成内の JavaScript) が含まれる場合があります。<br>• クライアント - クライアントで実行される出力を生成する場合があります (次に埋め込まれた JavaScript : <script> tags) |
| UI ページ | フォーム、ダイアログ、リスト、その他の UI コンポーネントの作成と表示に使用されます。スタンドアロンベースで表示することも、使用可能なコンポーネントとして、より大きなページの一部として呼び出すこともできます。 | • サーバー - Jelly XML がサーバー上で実行され、HTML が生成されます。<br>• クライアント - HTML には、クライアントで実行される埋め込み JavaScript が含まれている場合があります。<br>• クライアント - クライアントスクリプトはク |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
| --- | --- | --- |
| |  <br>次が含まれる可能性があります。<br>• クライアントスクリプト<br>• 処理スクリプト (サーバースクリプト)<br>• HTML<br>• Jelly<br>• UI マクロ<br>• また、他のスクリプトを呼び出すこともあります。<br>**注:**<br>Jelly は XML を HTML に変換します。 | ライアントで実行されます。<br>• サーバー - 処理スクリプトはサーバーで実行されます。 |
| UI ポリシー | フォーム上のフィールドの動作と可視性を定義します。<br>• 必須<br>• 表示<br>• 読み取り専用<br>可能な場合は常に、クライアントスクリプトではなく UI ポリシーを使用します。<br>• UI ポリシーは常に 1 つのテーブルに添付されます<br>• UI ポリシーには多くの場合、それが true の場合に実行する条件を持ちます。 | • クライアント - [True の場合実行] フィールドまたは [False の場合実行] フィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。<br>• サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。 |
| UI プロパティ | インスタンスがどのように表示されるかを指定します。 | • サーバー - プロパティはサーバーで設定されます。<br>• クライアント - 結果はクライアントに表示されます。<br>スクリプトなし |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

| スクリプト | 説明 | 実行場所 |
|---|---|---|
| UI スクリプト | 再利用のために格納されたクライアントスクリプトが含まれます。他のスクリプトから呼び出された場合にのみ使用されます。<br><br>使用は推奨されません。 | クライアント |
| 妥当性検証スクリプト | 値が指定された形式になっていることを検証します。<br><br>たとえば、検証スクリプトは、特定のフィールドで許可されている値が整数のみであることを確認できます。 | クライアント |
| ワークフローエディター | ワークフローを作成または変更するために使用されます。スクリプトは、ワークフロー内の任意の時点で実行することができます。異なるスクリプトは異なる時点で実行できます。<br><br>スクリプトはすべてのワークフローアクティビティ内にあり、変更することもできます (ただし、その際は十分注意してください)。 | サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。 |

### Glide クラスの概要

ServiceNow Glide クラスは、JavaScript の API を公開しており、スクリプトを使用してテーブルを便利に操作することができます。

Glide API を使用すると、SQL クエリを記述せずにデータベース操作を実行したり、UI ページを表示したり、UI アクションを定義したりできます。次の表に、Glide クラスの要約と詳細情報へのリンクを示します。

サーバーサイドの **Glide** クラス

| クラス | 説明 |
|---|---|
| GlideRecord | SQL クエリを記述する代わりに、このクラスをデータベース操作に使用します。GlideRecord は、JavaScript でネイティブ JavaScript クラスとまったく同じように使用できる特別な Java クラスです。GlideRecord は、1 つのテーブルのレコードを含むオブジェクトです。「GlideRecord」を参照してください。 |
| GlideElement | このクラスを使用して、現在の GlideRecord のフィールドを操作します。「GlideElement」を参照してください。 |
| GlideSystem | このクラスを使用して、システムに関する情報を取得します。「GlideSystem」を参照してください。 |
| GlideAggregate | このクラスを使用して、COUNT、SUM、MIN、MAX、AVG などのデータベース集計クエリを実行し、計算されたフィールドでカスタマイズされたレポートや計算を作成します。「GlideAggregate」を参照してください。 |
| GlideDateTime | このクラスを使用して、date-time 計算、date-time の書式設定、date-time 形式間の変換などの date-time の操作を実行します。「GlideDateTime」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントサイドの **Glide** クラス

| クラス | 説明 |
|---|---|
| GlideAjax | このクラスを使用して、クライアントからサーバーサイドコードを実行します。「GlideAjax」を参照してください。 |
| GlideDialogWindow | このクラスを使用して、ダイアログウィンドウを表示します。「GlideDialogWindow」を参照してください。 |
| GlideForm | このクラスを使用して、フォームをカスタマイズします。「GlideForm」を参照してください。 |
| GlideList2 | このクラスを使用して、通常リストや関連リストを含む (v2) リストをカスタマイズします。「GlideList2」を参照してください。 |
| GlideMenu | このクラスを使用して、UI コンテキストメニューのアイテムをカスタマイズします。「GlideMenu」を参照してください。 |
| GlideUser | このクラスを使用して、現在のユーザーと現在のユーザーロールに関するセッション情報を取得します。「GlideUser」を参照してください。 |

### **Glide** スタック

Glide は、Java で記述された拡張可能な Web 2.0 開発プラットフォームであり、フォームベースのワークフローアプリケーション (作業指示書、トラブルチケット、プロジェクト管理など) の迅速な開発を支援します。

ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップ

| **Java** パッケージ | | 使用されているテクノロジー |
|---|---|---|
| | ユーザーインターフェイス (ブラウザー) | • AngularJS<br>• HTML<br>• CSS<br>• JavaScript |
| com.glide.ui<br>com.glide.jelly | GlideServlet | Apache Jelly |
| com.glide.script | ビジネスルール | Mozilla Rhino |
| com.glide.db | 永続 | JDBC |

ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップの説明

| 名前 | 説明 | 属性 |
|---|---|---|
| GlideServlet | Glide のプライマリドライバーであり、システム内の唯一のサーブレットは GlideServlet.java にあります。GlideServlet は次を実行します。 | • 受信アクション要求を処理<br>• ページを表示<br>• データをフォームと結合 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

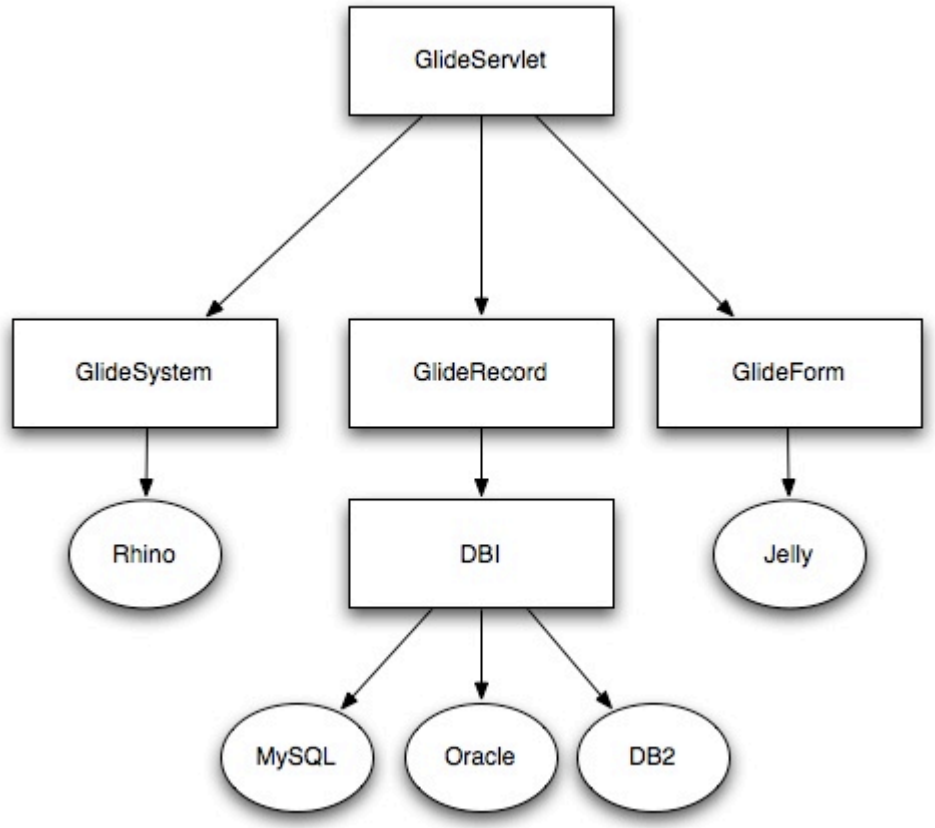
ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップの説明 (続く)

| 名前 | 説明 | 属性 |
| --- | --- | --- |
| | | • ユーザーに提示<br>• スクリプトレイヤーを使用したインターフェイス |
| ビジネスルール | | • Mozilla Rhino に基づく ECMA/JavaScript の実装<br>• JDBC レコードセットインターフェイスを使用した永続レイヤーがあるインターフェイス<br>• 簡単な相関付けのために永続レイヤーのメタデータをデータと結合 |
| 永続 | | • 永続は任意の格納を意味<br>  ○ RDBMS<br>  ○ LDAP<br>  ○ ファイルシステム<br>• 格納のタイプに関係なくアクセスを統一<br>• QUID およびメタデータ機能を提供<br>• インターフェイスを発信者に提示<br>  ○ RecordSet<br>  ○ TableDescriptor<br>  ○ ElementDescriptor |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Glide** サーブレット




スクリプトとエンジンの実行順序

スクリプト、アサインルール、ビジネスルール、ワークフロー、エスカレーション、およびエンジンはすべて、挿入や更新などのデータベース操作に関連して有効です。多くの場合、これらのイベントの順序は重要です。

**注:**
ブラウザで Ajax を使用したり JavaScript として実行したりするクライアントベースのコードは、常にサーバーへフォームを送信する前に実行されます。

実行順序は次のとおりです。

1. ビジネスルールの前：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
2. エンジンの前：以下は、特定の順序で実行されません。
   - 承認エンジン (タスクおよび sys_approval_approver テーブル用)
   - 割り当てルールエンジン (タスクテーブル用)
   - データポリシーエンジン
   - エスカレーションエンジン
   - フィールド正規化エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - 実行計画エンジン (タスクテーブル用)
   - バージョン エンジンの更新 - sys_update_xml エントリが書き込まれるときにバージョン エントリを作成 (sys_update_xml テーブル用)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データ検索エンジンの挿入または更新
- ワークフローエンジン (デフォルトのワークフロー用)

3. ビジネスルールの前：1000 以上の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
4. データベース操作 (挿入、更新、削除)
5. ビジネスルールの後：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
6. エンジンの後：以下は、特定の順序で実行されません。
   - ラベルエンジン
   - リスナーエンジン
   - テーブル通知エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - テキストインデックス作成エンジン
   - 同期エンジンの更新
   - ワークフローエンジン (保留ワークフロー用)
   - トリガーエンジン (すべての フローデザイナー フロー用)
7. メール通知：通知レコードの重みに基づいて、以下が実行されます。
   - 挿入、更新、または削除時に送信される通知
   - イベントベースの通知
8. ビジネスルールの後 (アクティブなレコードのみ)。1000 以上の順序のデータベース運用の後に実行するように構成されたスクリプト。

自動翻訳

### データタイプ別のフィールドのスクリプト評価

スクリプトフィールドは、入力のフィールドタイプに基づいてデータを評価します。

#### データタイプ別のフィールドの評価

| タイプ | スクリプト内での評価 | 例 |
|---|---|---|
| 文字列 | 文字列 | "dog" > "dog" |
| 10 進数 | 小数点以下第 2 位までの数字 | 12.34 > 12.34 |
| 整数 | 小数点以下の桁がない数字 | 12 > 12 |
| True/False | true または false | ☑ > true<br>☐ > false |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ別のフィールドの評価 (続く)

| タイプ | スクリプト内での評価 | 例 |
| --- | --- | --- |
| 日付 | yyyy-mm-dd 形式の日付 | 2008-11-04 |
| 日付と時刻 | yyyy-mm-dd hh:mm:ss 形式の日時 | 2008-11-04 06:46:20 |
| 期間 | 「1970 年 1 月 1 日 00:00:00 + 保存された期間」の日付 | > "1970-01-01 00:00:00"<br>> "1970-01-02 02:03:04" |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ別のフィールドの評価 (続く)

| タイプ | スクリプト内での評価 | 例 |
| --- | --- | --- |
| | **注:** この日付はシステムのタイムゾーンに対応しています。別のユーザーのタイムゾーンが指定されている場合、そのユーザーには異なる日付と時刻の値が表示されることがあります。 | |
| 選択肢 | その選択肢に関連付けられたsys_choiceレコードの値フィールドの内容を返します。選択リスト | > "2" (この値は文字列であることに注意してください) |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ別のフィールドの評価 (続く)

| タイプ | スクリプト内での評価 | 例 |
| --- | --- | --- |
| | 内の特定のアイテムに関連付けられた値を返す方法の詳細については、「選択リスト」を参照してください。 | |
| ジャーナル | そのジャーナルフィールドに対して作成されたすべてのエントリの文字列を返します。ジャーナルタイプフィールドのスクリプティングについては、「ジャーナルフィールド」を参照してください | Web サーバーが停止している > Web サーバーが停止している |
| 参照 | 参照されるレコードの sys_id を返します | > "287ee6fea9fe198100ada7950d0b1b73" |
| 画像 | 画像へのパスを返します | > images/icons/image_name.gif |
| URL | 文字列を返します | > "http://www.service-now.com" |
| Glide リスト | カンマ区切りのシステム ID の文字列を返します | > 5137153cc611227c000bbd1bd8cd2007,46d14f04a9fe19810142e40c6b071512 |

自動翻訳

アラート、情報、およびエラーメッセージのスクリプティング

メッセージは、アラート、情報メッセージ、またはエラーメッセージとして顧客に送信できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールおよびその他の汎用スクリプト

| スクリプト | 結果 |
| --- | --- |
| current.field_name.setError("Hello World"); | 赤色のエラーメッセージで、指定されたフィールドの下に Hello World を追加します。 |
| gs.addInfoMessage("Hello World"); | 青色の情報メッセージで、ブラウザーウィンドウの上部に Hello World を追加します。 |
| gs.addErrorMessage("Hello World"); | 赤色のエラーメッセージで、ブラウザーウィンドウの上部に Hello World を追加します。 |
| gs.print("Hello World"); | Hello World をファイルシステムのテキストログに書き込みますが、データベースの sys_log テーブルには書き込みません。 |
| gs.log("Hello World"); | Hello World をデータベースとログファイルに書き込みます。<br>**注:**<br>gs.log を頻繁に使用すると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。 |

クライアントサイドスクリプト

| スクリプト | 結果 |
| --- | --- |
| alert("Hello World"); | Hello World が表示さた、**[OK]** ボタンがあるウィンドウを表示します。 |
| confirm("Hello World"); | Hello World が表示された、**[OK]** ボタンと [キャンセル] ボタンがあるウィンドウを表示します。 |
| g_form.showFieldMsg("field_name", "Hello World", "error"); | 赤色のエラーメッセージで、指定されたフィールドの下に Hello World を追加します。 |
| g_form.hideFieldMsg("field_name"); | 指定されたフィールドの最新のメッセージを非表示にします。 |

**重要:**
この表のメソッドは、クライアントスクリプトでのみ使用します。

必要に応じてクライアントスクリプトを使用して、他のカスタムメッセージをフォームに追加することもできます。

画面上部の情報およびエラーメッセージのテキストサイズはカスタマイズ可能です。2 つのプロパティでこれを制御します。フォームを構成したら、次のプロパティの追加が必要になる場合があります。

**注:**
クライアントスクリプトアラートオプションは、Automated Test Framework (ATF) では使用できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラーおよびアラートのテキストサイズのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| css.outputmsg.info.text.font-size | 情報メッセージのサイズを設定します。デフォルトは 11 ポイントです。 |
| css.outputmsg.error.text.font-size | エラーメッセージのサイズを設定します。デフォルトは 11 ポイントです。 |

### サーバーサイドスクリプトでの正規表現の使用

JavaScript 正規表現では、拡張された正規表現エンジンが自動的に使用されます。これにより、パフォーマンスが向上し、Mozilla JavaScript で定義されている標準正規表現のすべての動作がサポートされます。拡張正規表現エンジンは、正規表現での Java 構文の使用をサポートしています。

*SNC.Regex* API はスコープ対象のアプリケーションには使用できません。スコープ対象のアプリケーションの場合は、 *SNC.Regex* API を削除し、標準の JavaScript 正規表現を使用します。

JavaScript 正規表現の詳細については、正規表現と RegExp に関する Mozilla JavaScript のドキュメントを参照してください。

#### **JavaScript** 正規表現での **Java** 構文の使用

拡張正規表現エンジンには、Java 構文を JavaScript 正規表現で使用できるようにするための追加のフラグが含まれています。

追加フラグを含む正規表現は、正規表現が予期される String.prototype.split や String.prototype.replace などのすべての場所で機能します。正規表現で Java 構文を使用するには、Java インラインフラグ「j」を使用します。例： /(?ims)ex(am)ple/j

拡張正規表現フラグ

| フラグ | 説明 |
| --- | --- |
| j | Java 正規表現エンジンを使用して実行する正規表現を定義します。これを使用すると、正規表現の Java 専用機能 (後読み、否定後読みなど) にアクセスしたり、Java 正規表現を JavaScript 正規表現に変換せずに使用したりすることができます。例： var regex = /ex(am)ple/j; |

#### **SNC** 正規表現を拡張正規表現に変換

Eureka パッチ 5 以降のリリースにアップグレードする場合は、*SNC.Regex* API を使用するスクリプトを、正規の JavaScript 式を使用するように変換する必要があります。

手順

1. SNC.Regex("/expr/is"); などの元の式から、スラッシュを削除したパターンを使用して、新しい正規表現オブジェクトを作成します。

   **Example**

   ```
   new RegExp('expr');
   ```

2. Java のインラインフラグの特別な構成を使用して、*SNC.Regex* フラグを式の先頭に移動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

```
new RegExp('(?is)expr');
```

3. RegExp に「*j*」フラグを追加して、式を Java 式として扱うようにエンジンに指示します。

   **注:**
   変換されるスクリプトが Java 構文を使用していないとわかっている場合は、「*j*」フラグを使用する必要はありません。

   **Example**

   ```
   new RegExp('(?is)expr', 'j');
   ```

4. 複数の一致またはグローバル置換を処理するには、「*g*」フラグを追加します。

   **Example**

   ```
   new RegExp('(?is)expr', 'jg');
   ```

**Example:**
SNC.Regex の使用

```
var r = new SNC.Regex('/world/');
var str = 'helloworld';
var replaced = r.replaceAll(str, 'there');
// replaced == 'hellothere'
```

JavaScript 正規表現の使用

```
var r = new RegExp('world', 'jg');
var str = 'helloworld';
var replaced = str.replace(r, 'there');
// replaced == 'hellothere'
```

### Now Assist コード生成用

テキストまたはコードプロンプトに基づく AI 生成コードを使用して、スクリプトを迅速に記述できるようにするコード生成に使用します ServiceNow　Now Assist 。

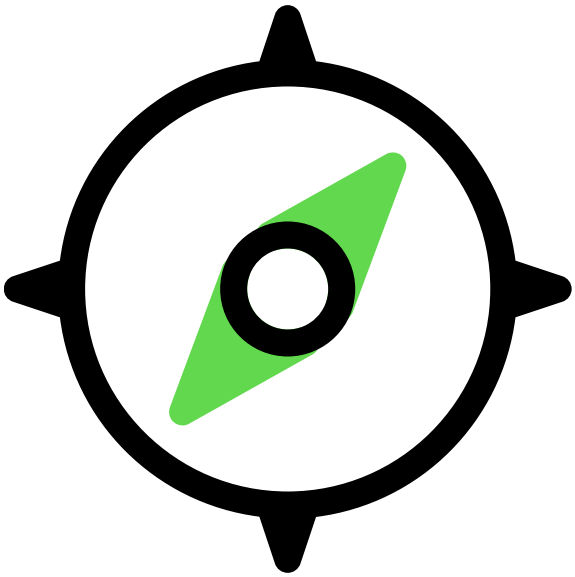
スクリプトエディターでのコード生成。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

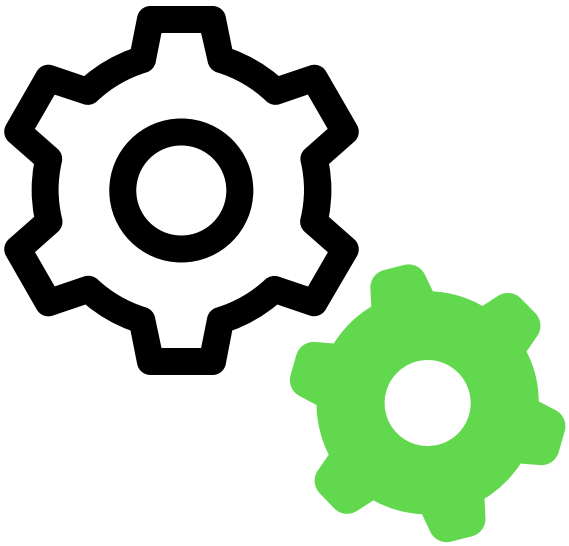
## 開始するには

### 探索



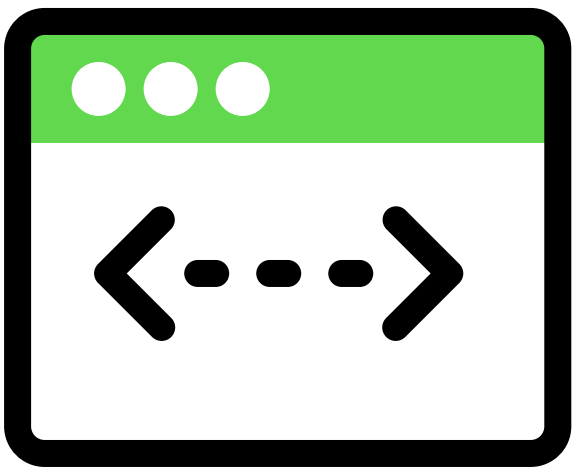
開発者が AI で生成されたコードを使用してスクリプトを作成する方法について説明します。

### 構成



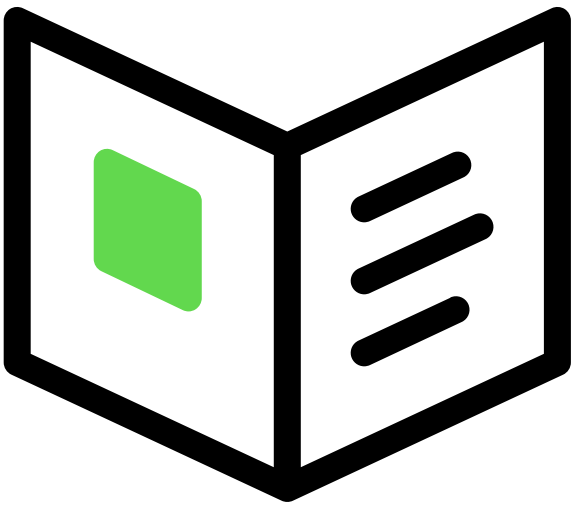
インスタンスのコード生成機能を構成します。

### プロンプトからスクリプトを生成する



AI で生成されたコードを使用してスクリプトをすばやく記述します。

### 参照



プロパティ、ロールなどの詳細を取得します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## トラブルシューティングとヘルプ

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

## AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに適した精度についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、必要に応じて人間によるレビューを採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることを強くお勧めします。これは、医療、財務、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。

## データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータルから利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

## データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは for コード生成が呼び出される Now Assist スクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「Now Assistオプトアウトに関するページ」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、次を参照してください。 Now Assist ドキュメント.

### コード生成の詳細

AI が生成するコードが、Now Platform でスクリプトを作成する開発者にとってどれだけ役立つかを説明します。

## コード生成の概要

コード生成では、 および のスクリプトステップフローデザイナーのフォームNow Platform上の JavaScript エディターで、テキストコード変換およびコード補完の提案が提供されます。での Now Platform スクリプティング経験のレベルが異なる開発者は、コード生成を使用してカスタムスクリプトの作成を開始したり、スクリプトをより効率的に反復処理したりできます。

> **注:**
> コード生成を使用するには、開発者に now.assist.creator ロールが割り当てられている必要があります。コード生成の使用の詳細については、次のリンクを参照してください AI を利用したコード生成を使用してプロンプトからスクリプトを生成する。

コード提案を生成するために、次のタイプのプロンプトを表示できます。

テキストからコードへ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

コードの目的を説明する、コードコメント内のテキスト。例：

```
// Validate emails using regex
```

コード補完

自動的に完了する関数の開始。例を次に示します。

```
var email = current.getValue('email');
var regex =
```

単一 (テキストとコードの組み合わせ)

コードの目的と、コードをどのように開始するかの例を記述した、コードコメント内のテキスト。例を次に示します。

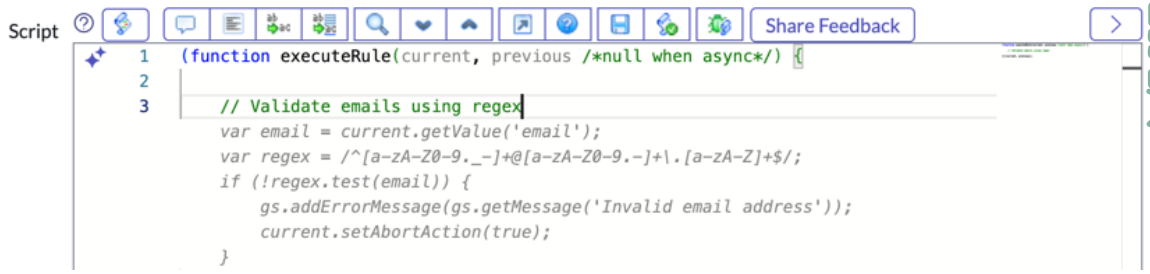
```
// Validate emails using regex
var email = current.getValue('email');
var regex =
```

## コード生成ワークフロー

1. 開発者は、コード コメント、コード、またはテキストとコードを組み合わせて、テキスト形式でプロンプトを提供します。
2. 開発者は、コード提案の生成をトリガーします。インスタンスで自動コード提案が有効になっている場合、開発者は入力やカーソルの移動を 2.5 秒間停止したときにコード提案を受け取ります。

   次の例では、プロンプトは 3 行目の `// Validate email using regex` (正規表現を使用したメールの検証) です。コード提案はプロンプトの後の行に表示されますが、承認するまでスクリプトには追加されません。

   **AI** が生成したコード提案

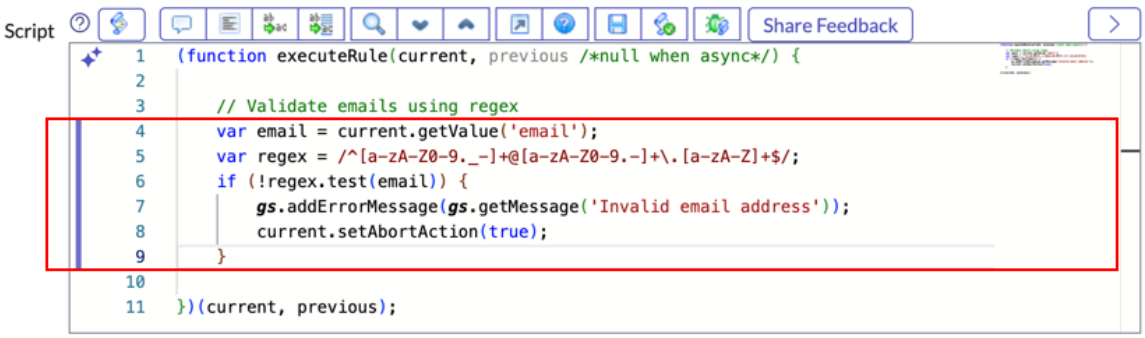
3. 開発者は、AI が生成したコード提案をレビューし、承認または却下します。
   - 承認すると、コードがスクリプトに追加され、レビューに基づいて必要な編集を行うことができます。
   - 却下すると、コードはスクリプトに追加されず、プロンプトを変更して新しいコード提案を生成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例では、行番号の横にある行は、AI によって作成され、編集されていないコードを示します。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。

**AI** が生成したコード行




## コード生成の利点

| メリット | 機能 | ユーザー |
|---|---|---|
| スクリプトの品質を向上させる | テキストからコードへ、およびコード補完 | 開発者 |
| 繰り返しのコーディングタスクを自動化する | | |
| コードの検索や呼び出しにかかる時間を短縮する | | |
| AI が生成したコード提案を自動的に取得する | 自動コード提案 | 開発者、管理者 |
| AI が生成したコードを特定する | AI が生成したコードの追跡 | 開発者、管理者 |

## プロンプトの作成とコードのレビュー

コード生成を使用して有用で正確なスクリプトを作成するには、強力なプロンプトの記述、プロンプトの改訂の実験、プロンプト ガイダンスの文書化、AI で生成されたコードのレビューが必要です。より適切なコード提案を生成するには、次のガイダンスに従い、プロンプトの例については次の表を参照してください。

プロンプトの作成：

- 明確で具体的、かつ簡潔なプロンプトを記述してください。
- 期待される結果とコンテキストを指定し、タスク要件、特定の API (既知の場合)、制約などの必要な詳細を含めます。

プロンプトを試す：

- タスクの指示を調整し、例を組み込んでから、さまざまなプロンプトのスタイルと詳細レベルでコード提案がどのように異なるかを観察してください。
- 単一のプロンプトでスクリプトを開始する方法の例として、短いコードスニペットを含めてみてください。
- 変更や仕様を満たすプロンプトを生成するための指示を含めて、プロンプトを追跡します。この追跡によって、比較分析のために過去の結果を簡単に再生成できます。

改良して実験すると、 はこの Now LLM フィードバックを使用して学習し、改善します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

コードのレビュー：

- AI で生成されたコードの厳格で詳細なレビューを実装して、その精度、効率、およびコーディング標準への準拠度を判断します。
- 管理された環境でテストケースに対してコードを実行し、要件に従って機能することを確認します。

### コード生成のプロンプトの例

| 強力なプロンプト | 弱いプロンプト | メモ |
|---|---|---|
| // get incidents with related tasks (// 関連タスクを含むインシデントを取得する) | // get incidents with tasks(// タスクを含むインシデントを取得する) | 十分な詳細が含まれています。 |
| // use glide aggregate to count number of P1 incidents closed between 3rd March to 13 April assigned to admin (// Glide 集計を使用し、3 月 3 日から 4 月 13 日の間に管理者にアサインされたクローズ済みの P1 インシデントの数をカウントする) | // count P1 incidents between 3-3 and 4-13 (// 3-3 から 4-13 の間の P1 インシデントをカウントする) | API 名とより具体的な言語が含まれています。 |
| // if open change request is P1, do not allow reducing the severity unless it's the creator (// オープンな変更要求が P1 である場合、作成者でない限り重大度を引き下げることはできない) | // don’t allow changing P1 change requests (// P1 変更要求の変更は許可しない) | 変更すべきではない点について、より具体的な指示が含まれています。 |
| // gliderecord of the most recent change (// 直近の変更の GlideRecord) | // latest change (// 最新の変更) | API 名とより具体的な言語が含まれています。 |

### コード生成の構成

開発者がインスタンスでコード生成を使用する方法を設定します。

### コード生成用のインストール**Now Assist**

からアプリケーションServiceNow® Storeをインストールして、ServiceNow® Now Assist for Creatorコード生成のために取得Now Assistします。

#### 始める前に

- のレビュー Now Assist for Creator のアプリケーションリスト ServiceNow Store 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、を参照してください。 For Code Generation アプリケーション (sn_now_assist_code) をインストールしますNow Assist。 Now Assist for Creator

必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

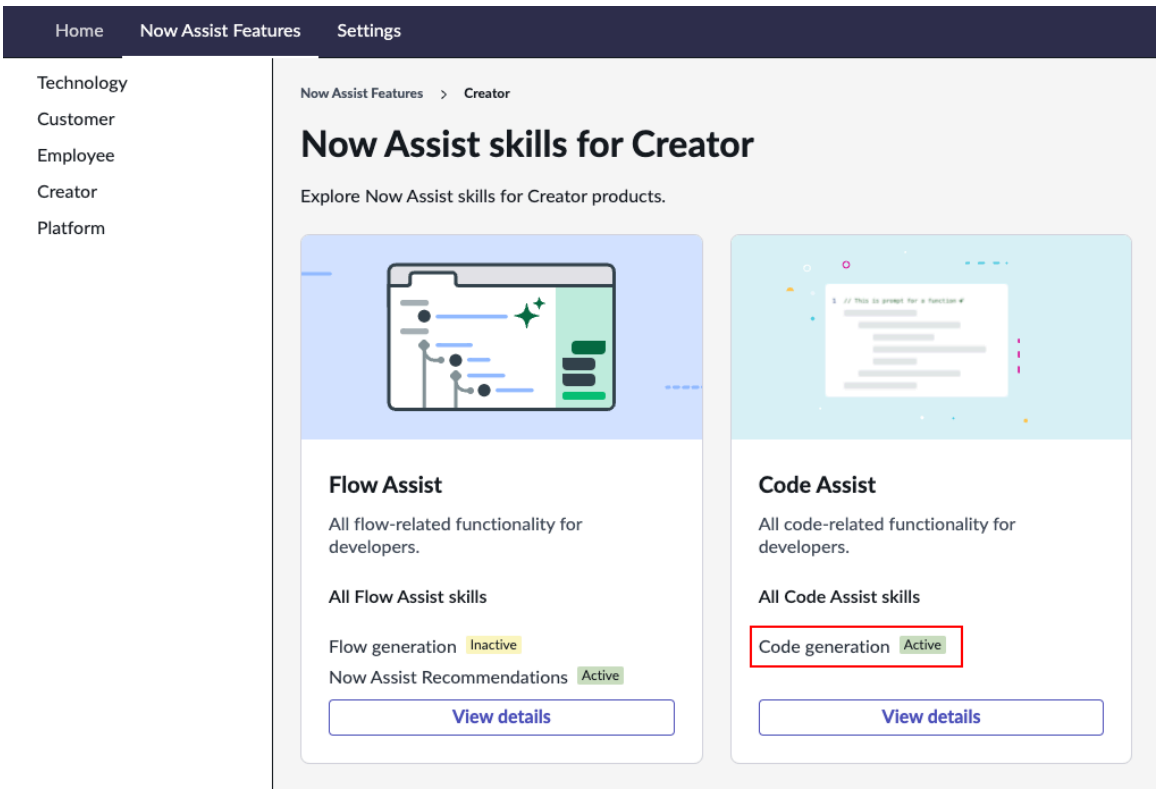
手順

1. ServiceNow Store の Now Assist for Creator アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
2. 承認が付与されたら、インスタンスで次の場所に移動します。 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
3. 検索バーを使用して、Now Assist for Creator アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
4. [インストール] を選択します。
5. Now Assist for Creator がインストールされていることを確認します。

   a. 移動先 すべて > *Now Assist Admin* > さまざまな機能.

   b. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

   c. コード補完カードで、コード生成スキルがアクティブであることを確認します。




Now Assist Admin の詳細については、「Now Assist」を参照してください。

次のタスク
コード生成を使用する各ユーザーに now.assist.creator ロールを付与します。

関連情報

Install Now Assist for Creator

自動コード提案の有効化

コード生成を手動でトリガーすることなく、スクリプトエディターで AI で生成されたコード提案を取得します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
デフォルトでは、キーボードショートカットを使用して、スクリプトエディターでコード提案の生成をトリガーする必要があります。自動コード候補では、プロンプトを入力し、カーソルの入力または移動を 2.5 秒間停止すると、コード候補が表示されます。次のいずれかの条件に当てはまる場合、コード候補は自動的には届きません。

- 最後に入力されたキーがスペース、タブ、改行などのホワイトスペースである。
- 入力したプロンプトが無効である。
- 最後の編集が行の途中で行われた。
- 最後の変更がコード提案の承認だった。

さらに、2.5 秒の期間より前にコード提案の生成を手動でトリガーし続けることもできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターで、「sys_properties.list」と入力します。
2. [名前] 列のフィルターに *sn_now_assist_code.enable_auto_trigger* を入力し、システムのプロパティ [sys_properties] リストをフィルタリングします。
3. *sn_now_assist_code.enable_auto_trigger* を選択し、プロパティレコードを開きます。
4. [値] フィールドに「true」と入力します。
5. [更新] を選択します。

### AI が生成したコードの追跡

コードが AI によって生成されたものであることを追跡し、それを表示するタイミングを制御します。

コード提案を受け入れると、AI で生成されたコード行が追跡され、スクリプトエディターの行番号の横の行で示されます。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。

AI が生成したコードの追跡のオンとオフを切り替えたり、スクリプトエディターで AI が生成したコードを記録し表示する期間を設定したりできます。デフォルトでは、AI で生成されたコードは記録され、6 か月間表示されます。

### AI が生成したコードを表示する期間を構成する

コード提案を受け入れた後、指定された期間にスクリプトエディターで AI によってコードが生成されたことを示します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターで「sys_auto_flush.list」と入力します。
2. **[Tablename]** 列のフィルターに *sn_now_assist_code_ai_generated_lines* を入力し、自動フラッシュ [sys_auto_flush] リストをフィルタリングします。
3. *sn_now_assist_code_ai_generated_lines* を選択してレコードを開きます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [経過時間 (秒)] フィールドに、AI が生成したコードを作成後に記録し表示する期間を秒単位で入力します。
5. [更新] を選択します。

### タスクの結果
設定された期間より前に作成された AI 生成コードは記録されず、スクリプトエディターに表示されません。

## AI が生成したコードの追跡をオフにする

AI が生成したコードを追跡して表示する機能をオフにします。

### 始める前に
必要なロール：admin

### このタスクについて
AI が生成したコードを追跡して表示するには、更新セットに含まれる変更が必要です。更新セットにこれに関連する変更を含めない場合は、AI が生成したコードを追跡して表示する機能をオフにすることができます。

### 手順
1. ナビゲーションフィルターで、「sys_properties.list」と入力します。
2. [名前] 列のフィルターに *sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker* を入力し、システムのプロパティ [sys_properties] リストをフィルタリングします。
3. *sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker* を選択し、プロパティレコードを開きます。
4. [値] フィールドに「false」と入力します。
5. [更新] を選択します。

### タスクの結果
AI 生成コードは記録されず、スクリプトエディターに表示されません。

## AI を利用したコード生成を使用してプロンプトからスクリプトを生成する

テキスト、コード、またはその両方の組み合わせを含むプロンプトを提供することで、AI が生成したコードを使用してスクリプトをすばやく作成します。

### 始める前に
より適切なコード候補を生成するためのプロンプトを記述する方法について説明します。詳細については、「プロンプトの作成とコードのレビュー」を参照してください。

必要なロール：now.assist.creator

### このタスクについて
インスタンスでコード生成が有効になっている場合、スクリプトエディターの上部に Now Assist アイコン ( ✦ ) が表示されます。

### 手順
1. スクリプトフィールドのあるフォームに移動します。

   **Example**
   たとえば、スクリプトインクルードフォームを開くには、次の場所に移動します すべて > システム定義 > スクリプトインクルード をクリックし、[ 新規 ] を選択するか、ナビゲーション フィルターに 「sys_script_include.do 」 と入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. スクリプトフィールドに、次のいずれかのタイプのプロンプトを入力します。

   **Example**
   これらの例では、開発者は、メールアドレスを持つレコードを挿入する前に正規表現を使用してメールアドレスが有効かどうかを確認するスクリプトを記述するためのヘルプを探しています。

3. 次のいずれかのキーボードショートカットを使用して、コード提案の生成をトリガーします。

   コード生成をトリガーするときは、カーソルの前のコードは 1,000 文字未満である必要があります。

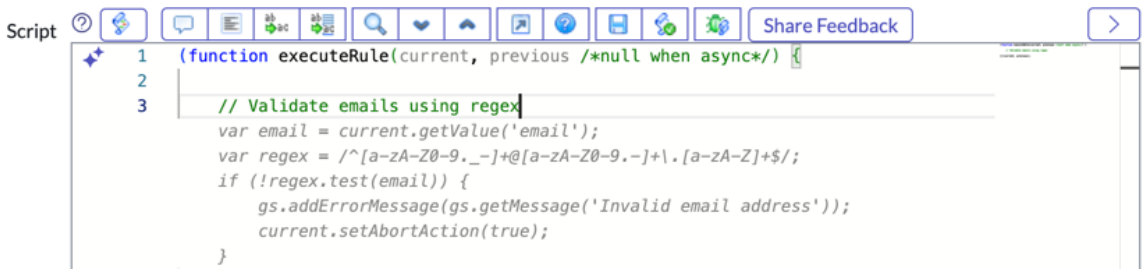
   > **注:**
   > 自動コード提案が有効になっている場合、プロンプトを入力し、入力またはカーソルの移動を 2.5 秒間停止すると、自動的にコード提案が取得されます。詳細については、「自動コード提案の有効化」を参照してください。

   - Windows：Ctrl キーを押しながら Enter キーを押します。
   - Mac：Command キーを押しながら Enter キーを押します。

   > **ヒント:**
   > ヘルプアイコン ( ) を選択すると、関連するキーボードショートカットのリストにアクセスできます。

   コード生成をトリガーした後にプロンプトを編集することはできません。コード提案が返される前にプロンプトを編集する必要がある場合は、Backspace キーを押してコード生成をキャンセルできます。

   スピナーアイコン (スピ ) は、提案の生成中に表示されます。コード提案はプロンプトの後の行に表示されますが、承認するまでスクリプトには追加されません。

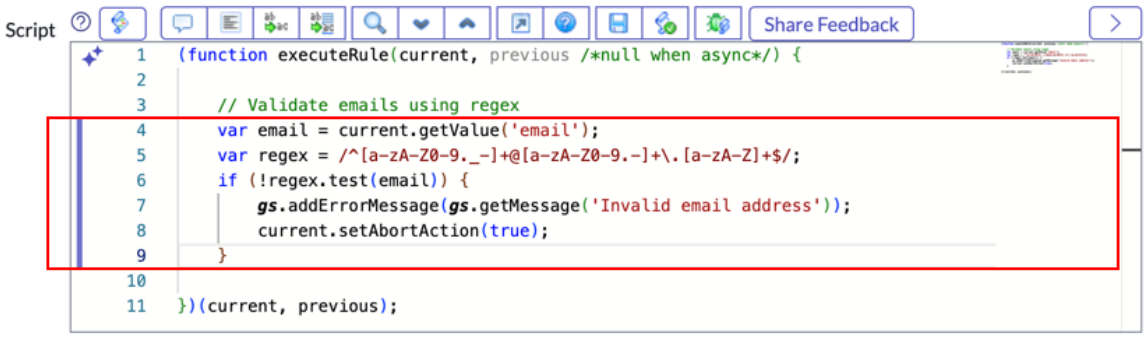



4. スクリプトに含める場合はコードを承認し、スクリプトから削除する場合はコードを却下します。
   - 承認：Tab キーまたは右矢印キーを押します。提案されたコード内で選択しても、提案は承認されます。
   - 却下：Esc キー、左矢印キー、または上矢印キーを押します。スクリプト内で提案されたコードの外側で入力または選択すると、その提案も削除されます。

   コード提案を受け入れると、行番号の横の行は、AI によって作成され、編集されていないコードを示します。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**Trouble?**
コード提案が要件を満たしていない場合は、プロンプトガイダンスに従ってプロンプトを変更して新しい提案を生成してください。

5. [送信] または [更新] を選択し、変更を保存します。

### コード生成リファレンス

参照トピックには、構成プロパティ、ロールなどに関するその他の情報が記載されています。

### コード生成プロパティ

いくつかの詳細プロパティを使用して、インスタンスでのコード生成機能を調整できます。

**注:**
システムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力します。

#### コード生成のプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| sn_now_assist_code.enable_code_assist | サポートされているスクリプトエディターでコード生成を使用できるようにします。<br>• タイプ：true \| false<br>• デフォルト値：true<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル<br>• 詳細を見る: からコード生成 Now Assist Adminを有効にすることもできます。詳細については、「Activate a Now Assist skill」を参照してください。 |
| sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker | AI が生成したコード行を追跡できるようにします。このコードは、スクリプトエディターのコード行の横に線で示されます。AI が生成したコードを編集する場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コード生成のプロパティ (続く)

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| | • タイプ：true \| false<br>• デフォルト値：true<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル<br>• 詳細を見る： AI が生成したコードの追跡 |
| sn_now_assist_code.enable_auto_trigger | プロンプトを入力した後、カーソルの入力または移動を 2.5 秒間行わなかった後に、コード候補を自動的に返すかどうかを指定します。さらに、2.5 秒の期間より前に、提案のコード生成を手動でトリガーし続けることもできます。<br>false の場合は、キーボード ショートカットを使用してコード生成を手動でトリガーする必要があります。<br>• タイプ：true \| false<br>• デフォルト値：false<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル<br>• 詳細を見る： 自動コード提案の有効化 |
| sn_now_assist_code.collect_schema_for_code_assist | コード生成を使用するときに、ビジネスルールまたはクライアントスクリプトが実行されるテーブルのデータスキーマを収集するかどうかを指定します。このプロパティを false に設定すると、コード提案をより迅速に受け取ることができますが、コンテキスト提案が少なくなる可能性があります。<br>• タイプ：true \| false<br>• デフォルト値：true<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |

## コード生成ロール

コード生成で使用するために、次のロールがインストールされます。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### Now Assist Creator [now.assist.creator]

AI を利用したコード生成を使用してスクリプトを記述します。

グループ

デフォルトでは、このロールはどのグループにも割り当てられません。

ロールを含む

このロールにはロールは含まれていません。

昇格

このロールは昇格したロールではありません。

特別な考慮事項

なし

#### JavaScript シンタックスエディター

シンタックスエディターは、JavaScript スクリプトの編集をサポートしています。

シンタックスエディターには次のような機能があります。

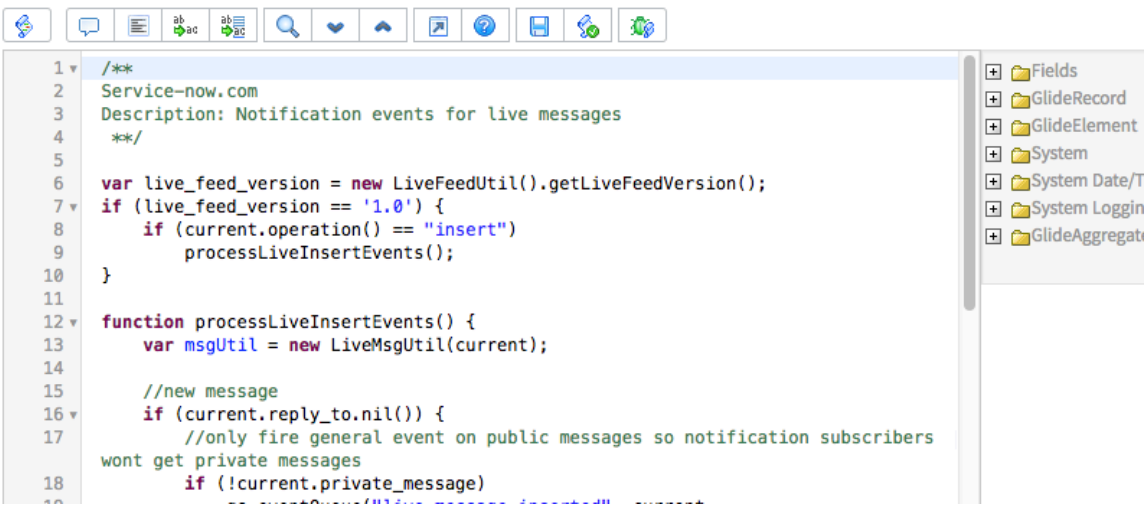
- JavaScript 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- JavaScript のサポート
- ESLint ユーティリティを使用したリンティング

> **注:**
> システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.syntax_editor.linter.eslint_config* プロパティにアクセスして、デフォルトのリンティング構成を変更または表示します。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

- スクリプトインクルード、API、テーブルのコンテキストメニュー
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

この機能には、シンタックスエディター (com.glide.syntax_editor) プラグインが必要です。

**JavaScript エディター**




#### シンタックスエディタープラグイン

シンタックスエディターを使用するには、シンタックスエディタープラグインを有効にします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

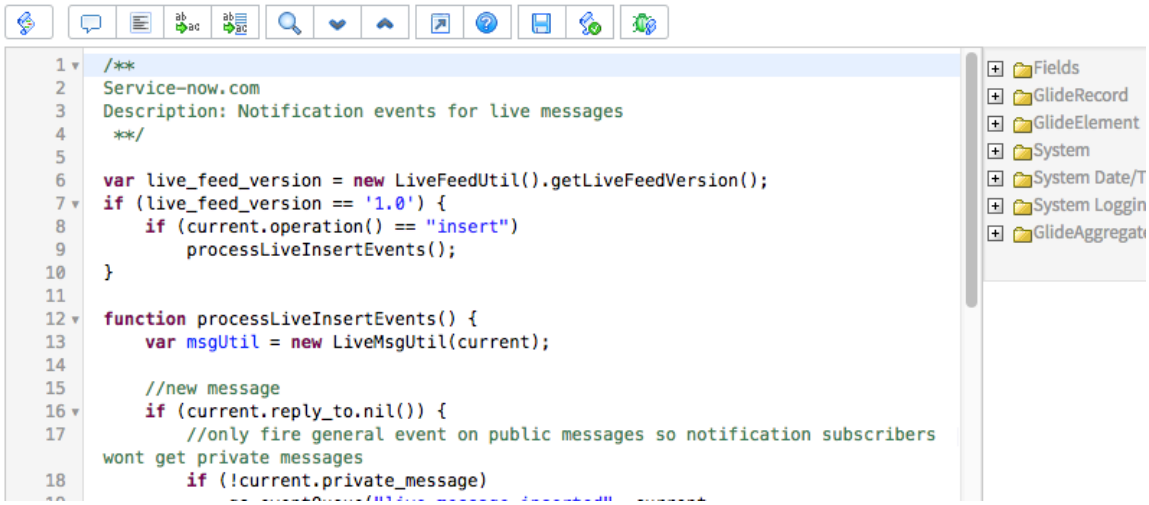


自動翻訳

シンタックスエディターは、すべてのスクリプトフィールドで次の機能を有効にします。

- JavaScript 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- コード編集機能
- コード構文チェック
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

**JavaScript** シンタックスエディター




シンタックスエディターを無効または有効にするには、sys_properties.list の *glide.ui.javascript_editor* プロパティを変更します。さらに、管理者は *glide.ui.syntax_editor.show_warnings_errors* プロパティを変更することで、エラーを含むコード行の横にエラーインジケーターと警告インジケーターを表示するようにシンタックスエディターを構成できます。sys_properties.list の詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

**注:**
管理者は、ユーザー初期設定に関係なく、すべてのユーザーに対してシンタックスエディターを無効または有効にすることができます。

### シンタックスエディターの **JavaScript** のサポート

シンタックスエディターは、JavaScript スクリプトの編集をサポートする編集機能を備えています。

### **JavaScript** 編集機能

| アイコン | キーボードショートカット | 名前 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | 適用外 | シンタックスエディターの切り替え | シンタックスエディターを無効にします。もう一度ボタンをクリックすると、シンタックスエディターは有効になります。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アイコン | キーボードショートカット | 名前 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | アクセスキー + R | コードの書式設定 | スクリプトに適切なインデントを適用します。 |
| | アクセスキー + C | 選択したコードのコメント化 | 選択したコードをコメント化します。 |
| | アクセスキー + U | 選択したコードのコメント解除 | 選択したコードからコメントコードを削除します。 |
| | 適用外 | 構文のチェック | コードの構文エラーをチェックします。デフォルトでは、スクリプトフィールドの入力時に、自動的に構文エラーがチェックされます。エラーまたは警告が見つかった場合、シンタックスエディターではエラーまたは警告を含むスクリプト行の横に中黒が表示されます。このチェックはすべてのスクリプトフィールドで行われます。 |
| | アクセスキー + \ | 検索の開始 | スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。アイコンをクリックし、検索用語を入力して、**Enter** キーを押します。正規表現 をスラッシュで囲んで、検索用語を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。 |
| | アクセスキー + [ | 次を探す | スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。 |
| | アクセスキー + ] | 前を探す | スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。 |
| | アクセスキー + W | 置換 | スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。<br>**1.** アイコンをクリックし、置換する文字列を入力し、**Enter** キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。<br>**2.** 置換文字列を入力して、**Enter** キーを押します。 |
| | アクセスキー + ; | すべて置換 | スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。<br>**1.** アイコンをクリックし、置換する文字列を入力し、**Enter** キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。<br>**2.** 置換文字列を入力して、**Enter** キーを押します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アイコン | キーボードショートカット | 名前 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | 適用外 | 保存 | 現在のビューを離れずに変更を保存します。このボタンを全画面モードで使用すると、標準のフォームビューに戻らずに保存できます。 |
| | アクセスキー + L | 全画面表示モードの切り替え | スクリプトフィールドを展開して、全画面のフォームビューで編集しやすくします。このボタンをもう一度クリックすると、標準フォーム ビューに戻ります。この機能は Internet Explorer では使用できません。 |
| | アクセスキー + P | ヘルプ | キーボードショートカットのヘルプ画面を表示します。 |

## JavaScript 編集のヒント

- コードブロックを折りたたむには、ブロックの最初の行の横にあるマイナス記号をクリックします。マイナス記号は、折りたたみ可能なブロックの横にのみ表示されます。コードブロックを展開するには、プラス記号をクリックします。
- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift + Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行内をクリックし、Shift + Tab キーを押します。

## JavaScript のリソース

スクリプトは ECMA 262 標準の JavaScript を使用します。役立つリソースには、次のようなものがあります。

- Mozilla：http://developer.mozilla.org/en/docs/Core_JavaScript_1.5_Reference
- ECMA 標準 (PDF 形式)： http://www.ecma-international.org/publications/files/ECMA-ST/Ecma-262.pdf
- 履歴と概要：http://javascript.crockford.com/survey.html
- JavaScript 番号参照：http://www.hunlock.com/blogs/The_Complete_Javascript_Number_Reference

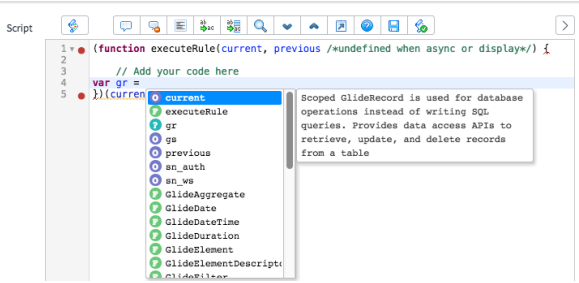
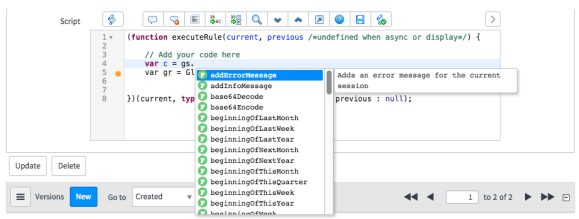
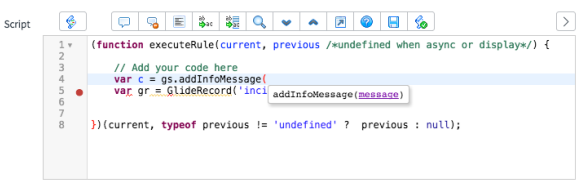
### シンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション

シンタックスエディターには、コードの記述を支援するキーボードショートカットとアクションが用意されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

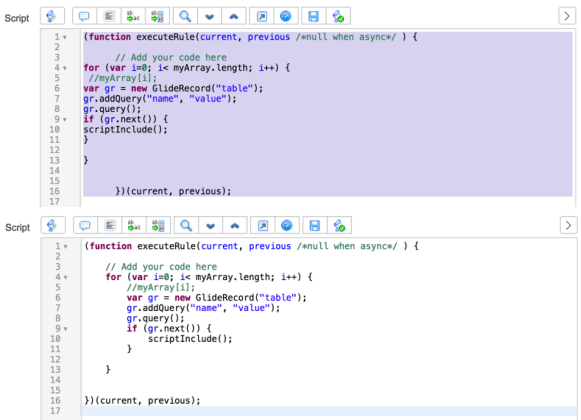
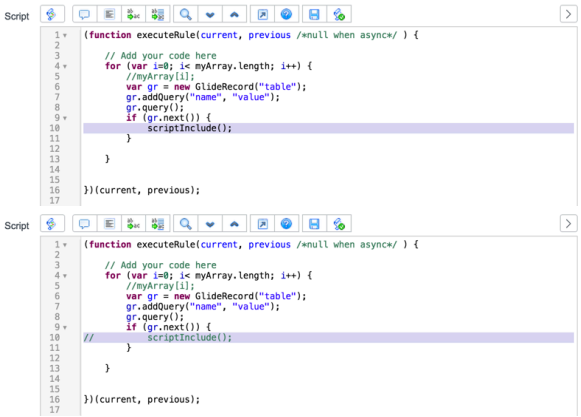
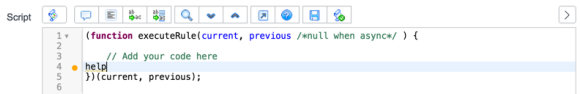
コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション

| キーボードショートカットまたはアクション | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| コードの記述 | | |
| スクリプト支援機能<br><br>Control + スペースバー | 挿入ポイントに次のような有効な要素のリストを表示します。<br>• クラス名<br>• 関数名<br>• オブジェクト名<br>• 変数名<br><br>エントリーをダブルクリックして、スクリプトに追加します。<br><br>**注:**<br>これらの要素は、サーバーまたはクライアントタイプのスクリプトに基づいています。ただし、使用できる要素は選択した UI タイプに基づいたものです。たとえば、spUtil は Service Portal のクライアントスクリプトに使用でき、g_navigation はデスクトップスクリプトに使用できます。 |  |
| 有効なクラス名の後にピリオド文字を入力します。 | クラスのメソッドのリストを表示します。<br><br>エントリーをダブルクリックして、スクリプトに追加します。 |  |
| 有効なクラス、関数、メソッド名の後に開き丸括弧文字を入力します。 | クラスまたはメソッドに想定されるパラメーターを表示します。<br><br>必要に応じて、想定されるパラメーターを入力します。 |  |
| 全画面表示モードの切り替え<br><br>Control + M | フォームの全画面表示と通常表示を切り替えます。 | |

自動翻訳

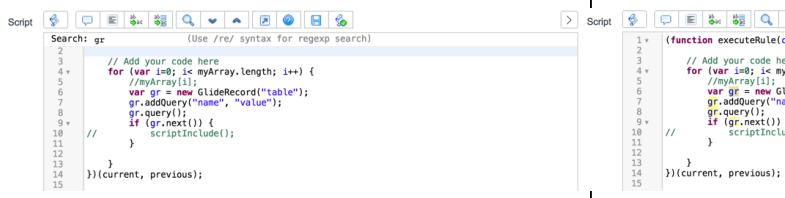
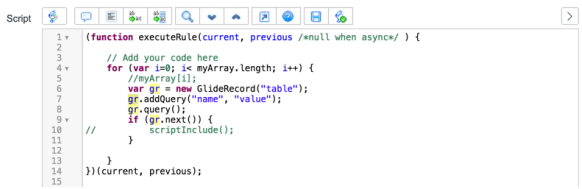
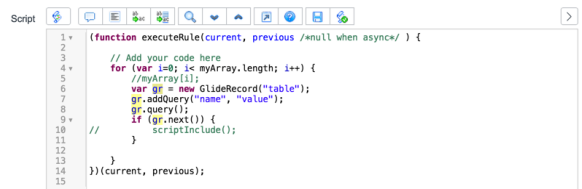
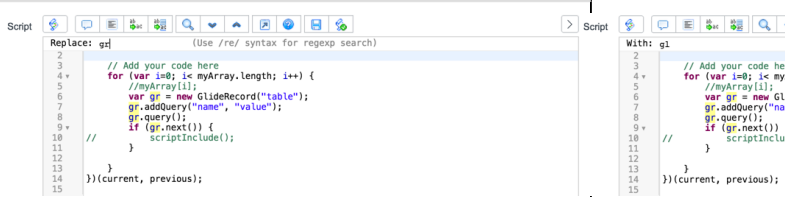
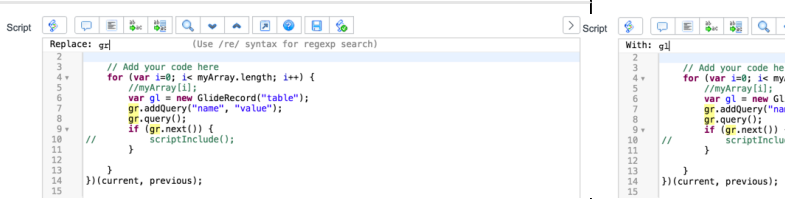
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

| キーボードショートカットまたはアクション | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| コードの書式設定<br>• Windows：Control + Shift + B<br>• Mac：Command + Shift + B | 選択した行を書式設定して読みやすくします。 |  |
| コメントの切り替え<br>• Windows：Control+/<br>• Mac：Command +/ | 選択した行のコメント文字 // を追加または削除します。 |  |
| マクロテキストの挿入<br>1. [スクリプト] フィールドに、マクロキーワードのテキストを入力します。たとえば、「help」です。<br>2. Tab キーを押します。 | 現在の位置にマクロテキストを挿入します。 |  |
| 検索 | | |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

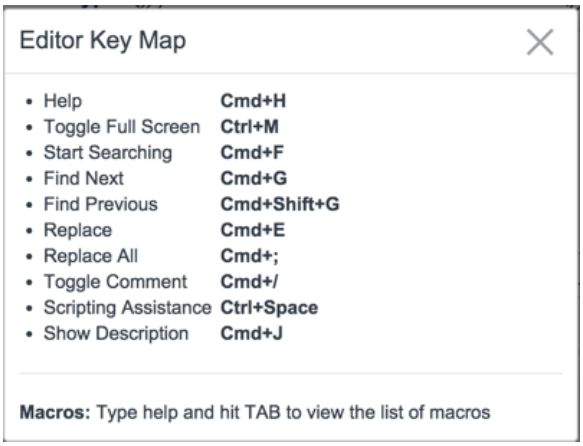
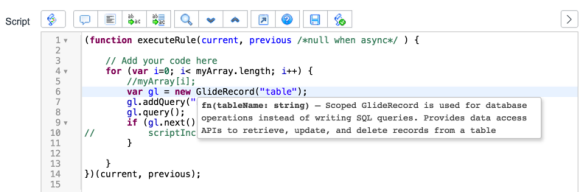
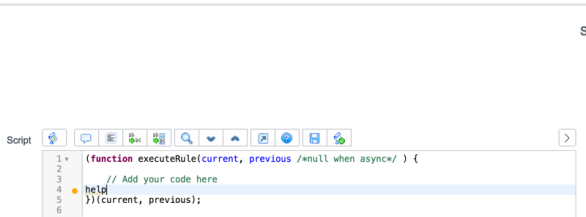
コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

| キーボードショートカットまたはアクション | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| 検索の開始<br>• Windows：Control + F<br>• Mac：Command + F | スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。<br><br>検索用語をスラッシュ文字で囲むことで、正規表現 を作成できます。たとえば、検索用語 /a{3}/ を入力すると、文字列 aaa を検出できます。 |  |
| 次を探す<br>• Windows：Control + G<br>• Mac：Command + G | スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。 |  |
| 前を探す<br>• Windows：Control + Shift + G<br>• Mac：Command + Shift + G | スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。 |  |
| 置換<br>• Windows：Control + E<br>• Mac：Command + E | スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。 |  |
| すべて置換<br>• Windows：Control + ;<br>• Mac：Command + ; | スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。 |  |
| ヘルプ | | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

| キーボードショートカットまたはアクション | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| ヘルプ<br>• Windows：Control + H<br>• Mac：Command + H | シンタックスエディターキーボードショートカットのリストを表示します。 |  |
| 説明を表示<br>• Windows：Control + J<br>• Mac：Command + J | 現在のカーソル位置にあるスクリプト要素の API ドキュメントを表示します。 |  |
| マクロを表示<br>1. [スクリプト] フィールドに「help」と入力します。<br>2. Tab キーを押します。 | 利用可能なシンタックスエディターマクロのリストをスクリプトフィールド内にテキストとして表示します。 |  |

自動翻訳

## シンタックスエディターマクロ

スクリプトマクロは、よく使用されるコードを入力するためのショートカットを提供します。スクリプトフィールドにマクロテキストを挿入するには、 マクロキーワードに続けてタブを入力します。

vargr

- 単一の値に対する標準の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var now_GR = new GlideRecord("");
gr.addQuery("name", "value");
gr.query();
if (gr.next()) {
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
}
```

vargror

- OR 条件で 2 つの値の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var now_GR = new GlideRecord('');

var qc = gr.addQuery('field', 'value1');

qc.addOrCondition('field', 'value2');
gr.query();

while (gr.next()) {

}
```

for

- アレイを使用して標準の再帰ループを挿入します。
- 出力：

```
for (var i=0; i< myArray.length; i++) {
 //myArray[i];

}
```

情報

- *GlideSystem* 情報メッセージを挿入します。
- 出力：

```
gs.addInfoMessage("");
```

メソッド

- 空白の JavaScript 関数テンプレートを挿入します。
- 出力：

```
/*_____________________________________________________________
  * Description:
  * Parameters:
  * Returns:
  _____________________________________________________________*/
: function() {

},
```

doc

- 関数またはパラメーターを説明するためのコメントブロックを挿入します。
- 出力：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
/**
 * Description:
 * Parameters:
 * Returns:
*/
```

### スクリプトマクロのメンテナンス

管理者は、新しいスクリプトマクロを定義したり、既存のスクリプトマクロを変更したりすることができます。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### このタスクについて
スクリプトマクロは、よく使用されるコードを入力するためのショートカットを提供します。いくつかのスクリプトマクロがデフォルトで利用可能です。管理者は、新しいスクリプトマクロを定義したり、既存のスクリプトマクロを変更したりすることができます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > シンタックスエディターマクロ.
2. [新規] をクリックするか、編集するマクロを選択します。
3. 以下のテーブルにリストされているフィールドを使用して、マクロの詳細を定義します。

エディターマクロのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | ユーザーがマクロテキストを挿入するために入力するマクロキーワードテキスト。 |
| コメント | マクロの説明。このテキストは、ユーザーが「*help*」と入力すると表示されます。 |
| テキスト | エディター内でマクロ名を置き換える完全なマクロテキスト。 |

### コンテキストメニュー

JavaScript エディターで、スクリプトインクルード、Glide API、およびテーブルのコンテキストメニューを有効にします。

コンテキストメニューオプションを使用して、ユーザーは次の場所に移動できます。

- スクリプトインクルード定義
- Glide API ドキュメント
- システムおよびカスタムテーブルの定義とデータ

シンタックスエディターでは、コンテキストメニューがあるトークンに太字フォントが使用されます。トークンを右クリックすると、コンテキストメニューオプションが表示されます。Mac を使用している場合は、Command キーを押しながらクリックするショートカットを使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテキストメニューのオプション

| トークンタイプ | コンテキストメニューのオプション | 説明 |
|---|---|---|
| スクリプトインクルード | 定義を開く | 新しいウィンドウでのスクリプトインクルードの定義。 |
| | 参照を検索 | スクリプトインクルードを参照するファイルのリスト。<br>**注:**<br>• ファイルのプレビューを表示するには、[スクリプトをプレビュー] アイコン をクリックします。<br>新しいウィンドウでファイルを開くには、[ファイルを開く] をクリックします。<br>• スクリプトインクルードを参照するすべてのファイルを表示するには、[すべてのファイルを表示] をクリックします。 |
| Glide API | ドキュメントを表示 | Glide API のドキュメントページ。 |
| テーブル | 定義を表示 | システムテーブルまたはカスタムテーブルの定義を新しいウィンドウで表示します。 |
| | データを表示 | 現在のユーザーのロールに基いて、テーブル内のレコードを表示します。 |

システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.syntax_editor.context_menu* プロパティを使用して、スクリプトエディターのコンテキストメニューを有効または無効にします。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

**注:**
コンテキストメニューのオプションにアクセスできるのは、ブラウザーが SharedWorker をサポートしている場合のみです。たとえば、GoogleChrome および Mozilla Firefox です。

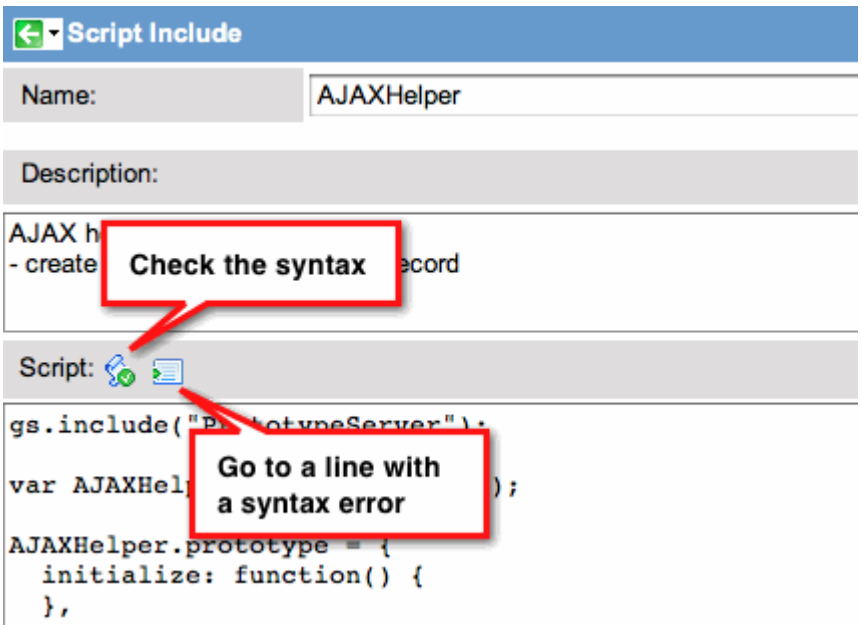
### スクリプト構文エラーチェック

すべてのスクリプトフィールドで、エラーの構文をチェックし、エラーが発生した場合は、その場所を簡単に見つけるためのコントロールを提供します。スクリプトエディターでは、構文エラーの箇所にカーソルを置き、スクリプト内のエラーの行番号を検索できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

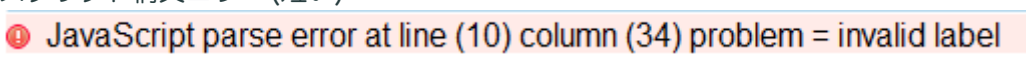
スクリプト構文チェック




スクリプトエディターは、次の状況でスクリプトの構文エラーを通知します。

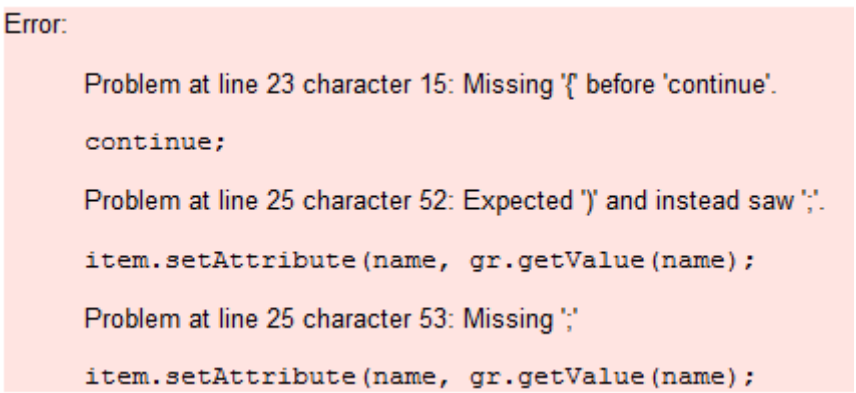
- 新しいレコードを保存するか、既存のレコードを更新したとき。最初のエラーの場所 (行番号と列番号) を示すバナーがエディターの下部に表示され、エラーの箇所にカーソルが表示されます。保存または更新時に提示される警告では、一度に 1 つのエラーのみが表示されます。

  スクリプト構文エラー (短い)

- レコードを保存または更新する前に、構文チェックアイコンをクリックしたとき。スクリプト内のすべてのエラーの場所を示すバナーがエディターの下部に表示され、最初のエラーの箇所にカーソルが表示されます。

  スクリプト構文エラー

### 行ごとのエラーの検索

大きなスクリプト内でエラーの正確な位置を特定するには、[行に移動] アイコンをクリックします。

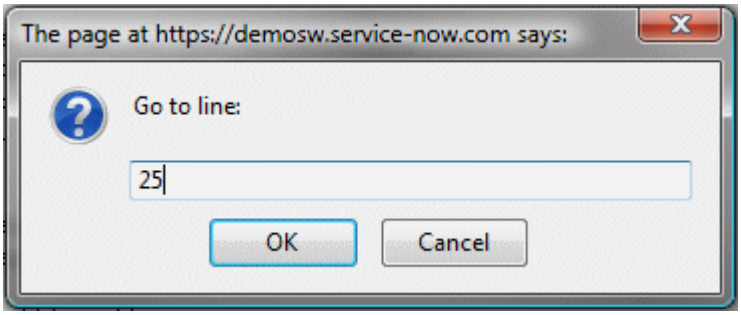
この機能は、ServiceNow レコード自体ではなくログファイルで構文エラーが発生した場合に特に役立ちます。この場合に、レコードに移動して、エラーの行番号を検索できます。表示されるダイアログボックスで、エラーの行番号を入力し、**[OK]** をクリックします。エラーの場所にビューが移動し、カーソルによって正しい行と列がマークされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
この機能を使用するには、シンタックスエディターを無効にする必要があります。

スクリプトエラーに移動




行番号に移動

シンタックスエディターが無効になっている場合、ユーザーは [行に移動] アイコン ( ) を使用して、コード内の特定の行に移動できます。

始める前に
シンタックスエディターを無効にします。

必要なロール：admin

手順

1. [行に移動] アイコン ( ) をクリックします。

   注:
   このアイコンは、エディターが有効になっている場合は使用できません。

2. フィールドに番号を入力し、**Enter** キーを押します。

### HTML シンタックスエディター

HTML シンタックスエディターは、HTML および Jelly スクリプトの編集をサポートし、ページが表示されるときにレンダリングされる内容を定義します。HTML シンタックスエディターには、静的 XHTML または Jelly として定義された動的に生成されたコンテンツを含めることができ、スクリプトインクルードと UI マクロを呼び出すことができます。

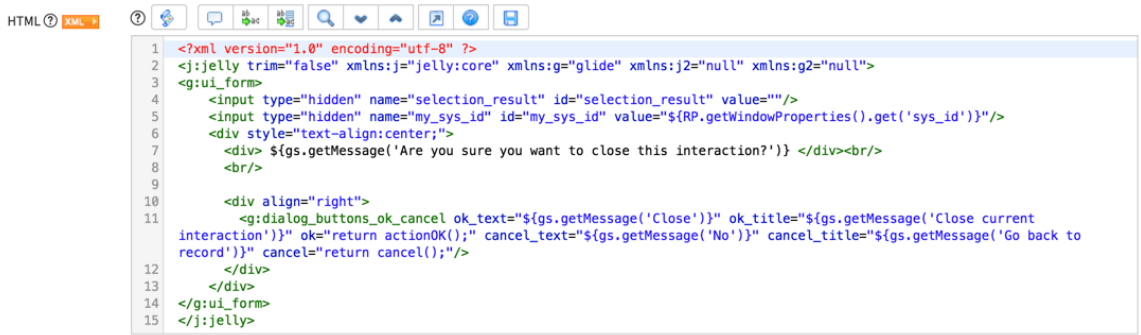
シンタックスエディターには次のような機能があります。

- HTML および Jelly スクリプトのサポート
- HTML および Jelly 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- HTML および Jelly タグの自動提案
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### HTML シンタックスエディター




### HTML および Jelly 編集機能

| アイコン | キーボードショートカット | 名前 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | 適用外 | シンタックスエディターの切り替え | シンタックスエディターを無効にします。[シンタックスエディターの切り替え] アイコン ( ) を再度クリックすると、シンタックスエディターは有効になります。 |
| | Cmd +/ | コメントの切り替え | 選択したコードをコメント化します。 |
| | Cmd +E | 置換 | スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。<br>**1.** [置換] アイコン ( ) をクリックして、置換する文字列を入力し、Enter キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、`/a{3}/` と入力すると、`aaa` を検出できます。<br>**2.** 置換文字列を入力して、Enter キーを押します。 |
| | Cmd | すべて置換 | スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。<br>**1.** [すべて置換] アイコン ( ) をクリックして、置換する文字列を入力し、Enter キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、`/a{3}/` と入力すると、`aaa` を検出できます。<br>**2.** 置換文字列を入力して、Enter キーを押します。 |
| | Cmd +F | 検索の開始 | スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、検索語を入力し、Enter キーを押します。 |
| | Cmd +G | 次を探す | スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、現在の検索語を変更します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**HTML** および **Jelly** 編集機能 (続く)

| アイコン | キーボードショートカット | 名前 | 説明 |
|---|---|---|---|
| | Cmd +Shift +G | 前を探す | スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、現在の検索語を変更します。 |
| | Ctrl +M | 全画面表示の切り替え | スクリプトフィールドを展開して、全画面のフォームビューで編集しやすくします。[全画面表示の切り替え] アイコン ( ) を再度クリックすると、標準のフォームビューに戻ります。この機能は Internet Explorer では利用できません。 |
| | Cmd +H | ヘルプ | キーボードショートカットのヘルプ画面を表示します。 |
| | 適用外 | 保存 | 現在のビューを離れずに変更を保存します。全画面モードで [保存] アイコン ( ) をクリックすると、標準フォームビューに戻らずに保存を実行できます。 |

## 編集のヒント

- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift+Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行をクリックして Shift+Tab キーを押します。

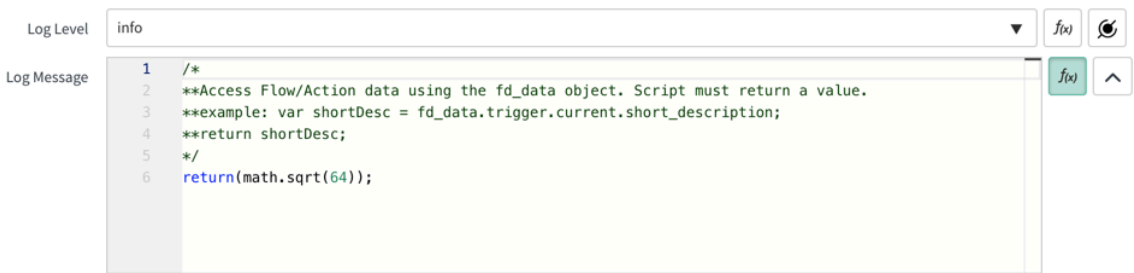
### コードエディター

コードエディターは、テキストエディターでプログラミング言語サービスを使用するためのサポートを提供し、スクリプトで使用されます。

コードエディターには、サポートされている言語サービスおよびインラインスクリプト用の機能があります。

- 構文の色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- 自動提案およびオートコンプリート

コードエディター




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 編集のヒント

- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift+Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行をクリックして Shift+Tab キーを押します。
- 変数を宣言するには、`var` キーワードを使用して、適切な JavaScript スコープ内に留まるようにします。

### サーバーサイドスクリプト

サーバースクリプトはサーバーまたはデータベースで実行されます。それらは ServiceNow の外観や動作を変更したり、レコードやテーブルがアクセスまたは変更されたときのビジネスルールとして実行したりできます。

サーバーサイド Glide API (アプリケーションプログラミングインターフェイス) は、サーバーサイドのタスクを実行するためにスクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供します。

## 即時実行関数

スクリプトが変換マップの作成などの単一のコンテキストで実行されると、即時実行関数が使用されます。複数のコンテキストから実行される関数は、代わりにスクリプトインクルードを使用します。

即時実行関数でスクリプトを囲むと、次のことができます。

- グローバル変数の上書きなどによって、スクリプトが製品の他の領域に影響を与えないようにすることができます。
- 有用な変数またはオブジェクトをパラメーターとして渡します。
- スタックトレースで関数名を特定します。
- 個別の関数呼び出しを行う必要がなくなります。

即時実行関数式は次の形式で記述します。

```
(function functionName(parameter){

 //The script you want to run

})('value');//Note the parenthesis indicating this function should run.
```

即時実行関数の中で関数を宣言できます。これらの内部関数は、即時実行関数内からのみアクセスできます。

```
(function functionName(parameter){

 function helperFunction(parameter){//return some value}

 var value = helperFunction(parameter);//Valid function call.

 //perform any other script actions

})('value');
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var value2 = helperFunction(parameter);//Invalid. This function is not accessible from outside
 the self-executing function.
```

### Glide サーバー API

ServiceNow は Glide サーバー用の API を提供します。

### GlideAggregate

*GlideAggregate* クラスは *GlideRecord* の拡張であり、データベース集計 (COUNT、SUM、MIN、MAX、AVG) クエリを実行できます。これは、カスタマイズされたレポートの作成や計算フィールドの計算に役立ちます。

> **注:**
> この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

詳細については、GlideAggregate API を参照してください。

### GlideAggregate の例

*GlideAggregate* は *GlideRecord* の拡張であり、一連の例を参照することでその使用法を最もよく理解できます。

> **注:**
> この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

以下は、テーブル内のレコード数を取得する簡単な例です。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addAggregate('COUNT');
count.query();
var incidents = 0;
if(count.next())
  incidents = count.getAggregate('COUNT');
```

前の例に関連付けられたクエリはありません。オープンであったインシデントの数を取得する場合は、*GlideRecord* を使用するときと同じようにクエリを追加するだけです。アクティブなインシデントの数を取得する例を次に示します。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addQuery('active','true');
count.addAggregate('COUNT');
count.query();
var incidents = 0;
if(count.next())
  incidents = count.getAggregate('COUNT');
```

すべてのオープンインシデントの数をカテゴリ別に取得する場合、コードは次のようになります。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addQuery('active','true');
count.addAggregate('COUNT','category');
count.query();
while(count.next()){
 var category = count.category;
 var categoryCount = count.getAggregate('COUNT','category');
 gs.log("The are currently "+ categoryCount +" incidents with a category of "+ category);}
```

出力は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
*** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of Data
    *** Script: The are currently 11.0 incidents with a category of Enhancement
    *** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of Implementation
    *** Script: The are currently 197.0 incidents with a category of inquiry
    *** Script: The are currently 13.0 incidents with a category of Issue
    *** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of
    *** Script: The are currently 47.0 incidents with a category of request
```

次の例では、複数の集計を使用して、[最小値]、[最大値]、および [平均] の値を使用してレコードが変更された回数を確認します。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addAggregate('MIN','sys_mod_count');
count.addAggregate('MAX','sys_mod_count');
count.addAggregate('AVG','sys_mod_count');
count.groupBy('category');
count.query();
while(count.next()){
  var min = count.getAggregate('MIN','sys_mod_count');
  var max = count.getAggregate('MAX','sys_mod_count');
  var avg = count.getAggregate('AVG','sys_mod_count');
  var category = count.category.getDisplayValue();
  gs.log(category +" Update counts: MIN = "+ min +" MAX = "+ max +" AVG = "+ avg);}
```

出力は次のとおりです。

```
    *** Script: Data Import Update counts: MIN = 4.0 MAX = 21.0 AVG = 9.3333
    *** Script: Enhancement Update counts: MIN = 1.0 MAX = 44.0 AVG = 9.6711
    *** Script: Implementation Update counts: MIN = 4.0 MAX = 8.0 AVG = 6.0
    *** Script: inquiry Update counts: MIN = 0.0 MAX = 60.0 AVG = 5.9715
    *** Script: Inquiry / Help Update counts: MIN = 1.0 MAX = 3.0 AVG = 2.0
    *** Script: Issue Update counts: MIN = 0.0 MAX = 63.0 AVG = 14.9459
    *** Script: Monitor Update counts: MIN = 0.0 MAX = 63.0 AVG = 3.6561
    *** Script: request Update counts: MIN = 0.0 MAX = 53.0 AVG = 5.0987
```

次のさらに複雑な例は、ある月と翌月のアクティビティを比較する方法を示しています。

```
var agg = new GlideAggregate('incident');
agg.addAggregate('count','category');
agg.orderByAggregate('count','category');
agg.orderBy('category');
agg.addQuery('opened_at','>=','javascript:gs.monthsAgoStart(2)');
agg.addQuery('opened_at','<=','javascript:gs.monthsAgoEnd(2)');
agg.query();
while(agg.next()){
  var category = agg.category;
  var count = agg.getAggregate('count','category');
  var query = agg.getQuery();
  var agg2 = new GlideAggregate('incident');
  agg2.addAggregate('count','category');
  agg2.orderByAggregate('count','category');
  agg2.orderBy('category');
  agg2.addQuery('opened_at','>=','javascript:gs.monthsAgoStart(3)');
  agg2.addQuery('opened_at','<=','javascript:gs.monthsAgoEnd(3)');
  agg2.addEncodedQuery(query);
  agg2.query();
  var last ="";
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
 while(agg2.next()){
    last = agg2.getAggregate('count','category');}
 gs.log(category +": Last month:"+ count +" Previous Month:"+ last);

}
```

出力は次のとおりです。

```
*** Script: Monitor: Last month:6866.0 Previous Month:4468.0
*** Script: inquiry: Last month:142.0 Previous Month:177.0
*** Script: request: Last month:105.0 Previous Month:26.0
*** Script: Issue: Last month:8.0 Previous Month:7.0
*** Script: Enhancement: Last month:5.0 Previous Month:5.0
*** Script: Implementation: Last month:1.0 Previous Month:0
```

次の例は、グループクエリでフィールドの個別のカウントを取得する方法です。

```
var agg = new GlideAggregate('incident');
agg.addAggregate('count');
agg.addAggregate('count(distinct','category');
agg.addQuery('opened_at', '>=', 'javascript:gs.monthsAgoStart(2)');
agg.addQuery('opened_at', '<=', 'javascript:gs.monthsAgoEnd(2)');
//
agg.groupBy('priority');
agg.query();
while (agg.next()) {
// Expected count of incidents and count of categories within each priority value (group)
  gs.info('Incidents in priority ' + agg.priority + ' = ' + agg.getAggregate('count') +
          ' (' + agg.getAggregate('count(distinct','category') + ' categories)');
}
```

出力は次のとおりです。

```
*** Script: Incidents in priority 1 = 13 (3 categories)
*** Script: Incidents in priority 2 = 10 (5 categories)
*** Script: Incidents in priority 3 = 5 (3 categories)
*** Script: Incidents in priority 4 = 22 (6 categories)
```

SUM 集計は、*`groupBy()`* メソッドの使用の有無にかかわらず実施できます。*`groupBy()`* メソッドを使用しない場合、SUM の結果は、SUM を要求したフィールドのさまざまな値の累積値になります。たとえば、固定資産テーブルの total_cost フィールドを SUM で集計する場合、固定資産テーブルに合計で 12 のレコードが含まれていると、次のようになります。

- total_cost が $12 である 3 つのレコード
- total_cost が $10 である 4 つのレコード
- total_cost が $5 である 5 つのレコード

レコードセットを SUM で集計すると、*`getAggregate()`* メソッドは $36、$40、$25 の 3 つの異なる合計を返します。

次のコードは、*`groupBy()`* メソッドを使用せずに SUM 集計を実施する方法を示しています。

```
var totalCostSum = new GlideAggregate('fixed_asset');
totalCostSum.addAggregate('SUM', 'total_cost');
totalCostSum.query();
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
while (totalCostSum.next()) {
  var allTotalCost = 0;
  allTotalCost = totalCostSum.getAggregate('SUM', 'total_cost');
  aTotalCost = totalCostSum.getValue('total_cost');
  gs.print('Unique field value: ' + aTotalCost + ', SUM = ' + allTotalCost + ', ' +
 allTotalCost/aTotalCost + ' records');
}
```

この例の出力は次のとおりです。

```
*** Script: Unique field value: 12, SUM = 36, 3 records
*** Script: Unique field value: 10, SUM = 40, 4 records
*** Script: Unique field value: 5, SUM = 25, 5 records
```

前の例と同じデータポイントを使用して、*groupBy()* メソッドを使用すると、SUM 集計は指定されたフィールドのすべての値の合計を返します。

次の例は、*groupBy()* メソッドを使用して SUM 集計を実施する方法を示しています。

```
var totalCostSum = new GlideAggregate('fixed_asset');
totalCostSum.addAggregate('SUM', 'total_cost');
totalCostSum.groupBy('total_cost');
totalCostSum.query();
if(totalCostSum.next()){  // in case there is no result
   var allTotalCost = 0;
   allTotalCost = totalCostSum.getAggregate('SUM', 'total_cost');
   gs.print('SUM of total_cost: = ' + allTotalCost);
}
```

この例の出力は次のとおりです。

```
*** Script: SUM of total_cost: 101
```

### GlideRecord

*GlideRecord* は、JavaScript でネイティブ JavaScript クラスとまったく同じように使用できる特別な Java クラス (*GlideRecord.java*) です。

*GlideRecord*：

- SQL クエリを記述する代わりにデータベース操作に使用されます。
- 1 つのテーブルからの 0 個以上のレコードを含むオブジェクトです。別の言い方をすると、GlideRecord は順序付きリストです。

GlideRecord にはレコード (行) とフィールド (列) の両方が含まれます。フィールド名は、基礎となるデータベースの列名と同じです。詳細については、「GlideRecord - スコープ対象」を参照してください。

**注:**
gs.sql() スクリプト構文の使用は Geneva で廃止されました。代わりに標準 *GlideRecord* 構文を使用します。

### GlideRecordSecure の使用

*GlideRecordSecure* は *GlideRecord* から継承されるクラスであり、*GlideRecord* と同じ関数を実行し、ACL も適用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 書き込み不可能なフィールド

*GlideRecordSecure* を使用すると、書き込み不可能なフィールドがデータベースへの書き込み試行時に NULL に設定されることに注意してください。デフォルトでは、列上の *canCreate()* が列上の *canWrite()* で置き換えられます。false を返す場合、列の値は NULL に設定されます。

### NULL 値の確認

ACL がアクセスを制限するために要素を読み取ることができない場合、このレコードのメモリに NULL 値を作成します。GlideRecord を使用する場合、レコードへの読み取りアクセスを制限する可能性のある ACL を明示的にチェックする必要があります。これを行うには、レコードを読み取ることができるかどうかを確認する、次のような if ステートメントが必要です。

```
if ( !grs.canRead() ) continue;
```

*GlideRecordSecure* を使用する場合、*canRead()* を使用して読み取りアクセスを明示的にチェックする必要はありません。代わりに、*next()* 自体を使用して次のレコードに移動できます。次の例は、*GlideRecord* と *GlideRecordSecure* の比較を示しています。

```
var count  = 0;
var now_GR  = new GlideRecord('mytable');
now_GR. query();
while (now_GR. next()) {
   if (!now_GR. canRead()) continue;
   if (!now_GR. canWrite()) continue;
   if (!now_GR. val. canRead() || !now_GR. val. canWrite())
      now_GR. val = null;
   else
      now_GR. val = "val-" + now_GR. id;
   if (now_GR. update())
      count ++;
}
```

```
var count  = 0;
var grs  = new GlideRecordSecure('mytable');
grs. query();
while (grs. next()) {
   grs. val = "val-" + grs. id;
   if (grs. update())
      count ++;
}
```

### 例

これらは *GlideRecordSecure* を使用する簡単な 2 つの例です。

```
var att  = new GlideRecordSecure ('sys_attachment');
att. get('$[sys_attachment.sys_id]');
var sm  = GlideSecurityManager.get();
var checkMe  = 'record/sys_attachment/delete';
var canDelete  = sm.hasRightsTo(checkMe,att);
gs. log('canDelete: ' + canDelete);
canDelete;
```

```
var grs = new GlideRecordSecure('task_ci');
grs.addQuery();
grs.query();
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var count  = grs. getRowCount();
if (count  > 0 ) {
   var allocation  = parseInt(10000/count) / 100;
   while (grs.next()) {
     grs.u_allocation = allocation;
     grs.update();
   }
}
```

### GlideSystem

*GlideSystem* API は、情報を取得するためのメソッドを提供します。

*GlideSystem* (ビジネスルールでは変数名「*gs*」で参照) は、システムや現在ログインしているユーザーなどの情報を取得するための多数の便利なメソッドを提供しています。たとえば、メソッド *addInfoMessage()* は、ユーザーとの通信を許可します。

```
gs.addInfoMessage('Email address added for notification');
```

*GlideSystem* メソッドの多くは、日付をクエリ範囲に簡単に含めることができ、フィルターとレポートで最もよく使用されます。

詳細については、「GlideSystem」を参照してください。

### GlideDateTime

GlideDateTime クラスは、*GlideDateTime* オブジェクトのインスタンス化や*glide_date_time*フィールドの操作など、*GlideDateTime* オブジェクトに対する操作を実行するためのメソッドを提供します。

上で説明したインスタンス化メソッドに加えて、*getGlideObject()* メソッドを使用して *glide_date_time* フィールドから GlideDateTime オブジェクトをインスタンス化できます (例：var gdt = gr.my_datetime_field.getGlideObject();)。

一部のメソッドでは、日付と時刻の値を取得または変更するときに Java 仮想マシンのタイムゾーンを使用します。このようなメソッドを使用すると、予期しない動作が発生する可能性があります。可能な限り、同等の現地時間と UTC メソッドを使用してください。

関連情報

GlideDateTime フィールド値の変更

### GlideDate と GlideDateTime の例

*GlideDate* および *GlideDateTime* API を使用して、日時の値を操作します。

> **注:**
> この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

詳細については、「GlideDate API」および「GlideDateTime API」を参照してください。

GlideDate オブジェクトを GlideDateTime コンストラクターのパラメーターとして渡すことにより、*GlideDate* オブジェクトから*GlideDateTime* オブジェクトを作成できます。デフォルトでは、 *GlideDateTime* オブジェクトは、内部形式 yyyy-MM-dd HH:mm:ss とシステムタイムゾーン UTC で表されます。

```
var gDate = new GlideDate();
gDate.setValue('2015-01-01');
gs.info(gDate);
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var gDT = new GlideDateTime(gDate);
gs.info(gDT);
```

出力：

```
2015-01-01
2015-01-01 00:00:00
```

関連項目：

- GlideDateTime フィールド値の変更
-

### スクリプトでの期間フィールド値の設定

期間フィールド値の設定に使用できる JavaScript の例。

> **注:**
> 負の期間値はサポートされていません。

## GlideDateTime.subtract() メソッドの使用

GlideDateTime の *`subtract(GlideDateTime start, GlideDateTime end)`* メソッドを使用すると、指定された開始日時と終了日時を使用して期間値を設定できます。タスクがオープンされた時間に期間を設定する方法の例：

```
var duration = GlideDateTime.subtract(start, end);
```

数値で返される値を日付または期間の計算に使用する場合は、戻り値をミリ秒に変換します。

```
var time = GlideDateTime.subtract(start,end).getNumericValue();
```

イベントと現在の日付/時刻の間の時間に期間を設定する場合：

```
<duration_field> = GlideDateTime.subtract(new
 GlideDateTime(<start_time>.getValue()),gs.nowDateTime());
```

*`GlideDateTime.subtract`* に示される時間値は、ユーザーのタイムゾーン、ユーザーの形式であることが予期されます。

### 期間フィールドのデフォルト値の設定

期間フィールドのデフォルト値の設定は、前のトピックで使用した方法と似ています。

### クライアントスクリプトでの期間フィールド値の設定

このスクリプトは、クライアントスクリプトで *`duration_field`* 値を設定します。インスタンスのフィールド名で *`duration_field`* を置き換えます。

```
g_form.setValue('<duration_field>','11 01:02:03');
```

### クライアントスクリプトを使用した期間の計算と設定

クライアントスクリプトを使用して値を返したり入力したりする方法の例を次に示します。

次のコードを含む `onChange` クライアントスクリプトを作成します。`onLoad` スクリプトまたはその他の方法で計算を実行する必要がある場合は、このスクリプトを変更できます。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
var strt = g_form.getValue('<start_field>');
var end = g_form.getValue('<end_field>');
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
var ajax = new GlideAjax('AjaxDurCalc');
  ajax.addParam('sysparm_name','durCalc');
  ajax.addParam('sysparm_strt',strt);
  ajax.addParam('sysparm_end',end);
  ajax.getXMLWait();
  var answer = ajax.getAnswer();
  g_form.setValue('<duration_field>', answer);}
```

要求を処理する *AjaxDurCalc* というシステムスクリプトインクルードファイルを作成します。これは他の関数でも再利用できます。

```
var AjaxDurCalc = Class.create();
AjaxDurCalc.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor,{
 durCalc:function(){return
 GlideDuration.subtract(this.getParameter('sysparm_strt'),this.getParameter('sysparm_end'));}
});
```

### 期間フィールド値の変更

時間を加算/減算して期間の値を操作する場合は、期間の数値を取得および設定できる関数を使用します。期間の数値の測定単位はミリ秒です。次の例は、現在のレコードの *duration* フィールドに 11 秒を追加します。

```
var timems = current.duration.dateNumericValue();
timems = timems + 11*1000;
current.duration.setDateNumericValue(timems);
```

### 解決時間の書式設定

[解決時間] または [ビジネス解決時間] フィールドを期間として書式設定して、大きい整数ではなく期間として表示するには、これらのフィールドに次の属性を追加します。

```
format=glide_duration
```

フィールドの辞書エントリを変更し、 属性を追加します。既存の属性がある場合は、複数の属性をカンマで区切ります。

### 最大測定単位の設定

*max_unit* 辞書属性は、期間で使用される時間の最大単位を定義します。たとえば、max_unit=minutes の場合、期間が 3 時間 5 分 15 秒であれば、185 分 15 秒と表示されます。期間の最大測定単位を設定するには、次の辞書属性を *duration* フィールドに追加します。

```
max_unit=<unit>
```

#### 日付と時刻の形式のガイドライン

特定の日付と時刻パターンの文字列シーケンスを使用して、日付形式を指定できます。パターン文字列は、A から Z までの 1 つ以上の大文字と小文字で構成されます。引用符で囲まれたテキストは無視され、代わりに日付出力にコピーされます。

| 文字列 | 説明 | 出力形式 | 例 |
|---|---|---|---|
| G | 年代指定子 | テキスト | AD |
| y | 年 | 年 | 2019; 19 |
| Y | 年の週 | 年 | 2019; 19 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 文字列 | 説明 | 出力形式 | 例 |
|---|---|---|---|
| M | 年の月 (日付内) | 月次 | July; Jul; 07 |
| L | 年の月 (スタンドアロン値) | 月次 | July; Jul; 07 |
| w | 年の週 | 番号 | 52 |
| W | 月の週 | 番号 | 1 |
| D | 年の日 | 番号 | 365 |
| d | 月の日 | 番号 | 2 |
| F | 月の曜日 | 番号 | 3 |
| E | 曜日名 | テキスト | Wednesday; Wed |
| u | 週の日の番号 | 番号 | 3 |
| a | 午前または午後 | テキスト | p.m. |
| H | 0 ～ 23 の日の時間 | 番号 | 0 |
| k | 1 ～ 24 の日の時間 | 番号 | 24 |
| K | 午前または午後 0 時から 11 時までの時間 | 番号 | 0 |
| h | 午前または午後 1 時から 12 時までの時間 | 番号 | 12 |
| m | 分 | 番号 | 59 |
| s | 秒 | 番号 | 1 |
| S | ミリ秒 | 番号 | 500 |
| z | デフォルト形式のタイムゾーン | デフォルト形式のタイムゾーン | 太平洋標準時; PST |
| Z | RFC 822 形式のタイムゾーン | RFC 822 形式のタイムゾーン | -0800 |
| X | ISO 8601 形式のタイムゾーン | ISO 8601 形式のタイムゾーン | -08; -0800; -08:00 |

自動翻訳

## クラシックビジネスルール

ビジネスルールとは、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルに対してクエリが実行されるときに実行する、サーバー側スクリプトです。

ビジネスルールは、特定のサーバー側の条件が満たされたときに実行されるスクリプトです。ビジネスルール条件には、データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミングと、ビジネスルールが適用されるレコード操作が含まれます。クライアントスクリプトや UI アクションなど、クライアント側の条件に関してプラットフォームで利用できる他のスクリプトオプションがあります。

**注:**
ビジネスルールは、スクリプティングに依存する従来の自動化ソリューションです。新しいプロセス自動化に フローデザイナー を使用して、拡張、再利用、理解、アップグレードが容易な自動化を作成します。多くの組織が本番環境でビジネスルールを用意しているため、このドキュメントを使用して既存のビジネスルールを操作する方法を学習してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールの仕組み

ビジネスルールを構成するには、最初にビジネスルールを実行するタイミングと実行するアクションを決定する必要があります。

## ビジネスルールの実行タイミング

ビジネスルールは次の 2 つの基準セットに基づいて実行されます。

- データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミング。
- ビジネスルールが適用されるレコード操作。

ビジネスルールを実行するタイミングを決定するために、次のオプションが提供されています。

ビジネスルールを実行するタイミング

| オプション | ルールが実行されるタイミング |
|---|---|
| 前 | ユーザーがフォームを送信した後で、データベース内のレコードに対してアクションが実行される前。 |
| 後 | ユーザーがフォームを送信した後で、さらにデータベース内のレコードに対してアクションが実行された後。 |
| 非同期 | ユーザーがフォームを送信した後と、ビジネスルールから作成されたスケジュール設定済みジョブがスケジューラーによって実行された後。ユーザーがフォームを送信してから、データベース内のレコードに対して何らかのアクションが実行されるまでに、システムがビジネスルールからスケジュール設定済みジョブを作成します。<br>**注:**<br>新しく作成されたビジネスルールはアップグレード中に実行されます。 |
| 表示 | フォームがユーザーに提示された後で、データがデータベースから読み取られた直後。 |

**注:**

- 非同期ビジネスルールは、以前のバージョンのレコードにはアクセスできません。そのため、`changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` `GlideElement` メソッドは非同期ルールスクリプトでは機能しません。ただし、条件ビルダーと条件フィールド (詳細ビュー) はどちらも `changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` メソッドをサポートしています。
- ビジネスルールは、優先するように指定されるまで ACL を優先しません。詳細については、「ビジネスルールとアクセス制御ルール (ACL) の関係」を参照してください。

ビジネスルールを適用するレコード操作を決定するために、次のオプションが提供されています。

ビジネスルールが適用されるレコード操作

| オプション | ルールが実行されるタイミング |
|---|---|
| 挿入 | ユーザーが新しいレコードを作成し、システムがそれをデータベースに挿入するとき。 |
| 更新 | ユーザーが既存のレコードを変更したとき。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

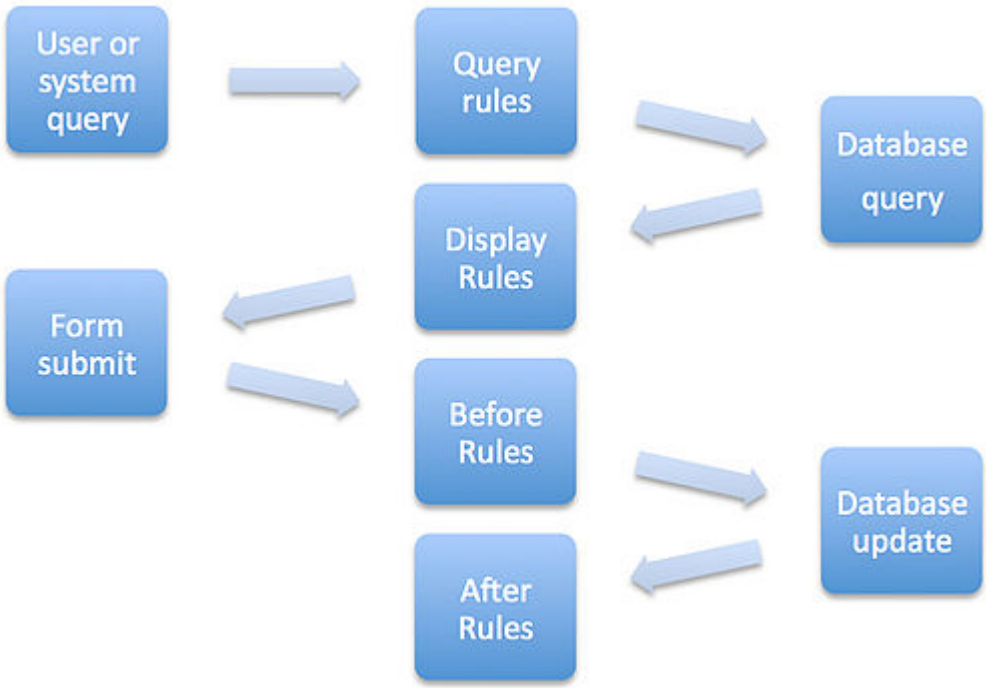
ビジネスルールが適用されるレコード操作 (続く)

| オプション | ルールが実行されるタイミング |
|---|---|
| クエリ | レコードまたはレコードリストのクエリをユーザーがデータベースに送信したとき。通常は、ビジネスルールの前にクエリ操作を使用する必要があります。 |
| 削除 | ユーザーがレコードを削除したとき。 |

**注:**
ビジネスルールでは、GlideRecord API から呼び出された場合にのみレコード操作が実行されます。一部のアプリケーションは、意図的にビジネスルールの処理をバイパスして、レコード操作を直接実行します。さらに、ビジネスルールは setWorkflow() メソッドを false に設定して実行された API 呼び出しを無視します。

この画像は、さまざまなタイプのビジネスルールの実行タイミングを示しています。

ビジネスルールの処理フロー




**注:**
ビジネスルールは、フォーム、リスト、または Web サービスからアクセスできるかどうかには関係なく、一貫してレコードに適用されます。これは、ビジネスルールと、フォームの編集時にのみ適用されるクライアントスクリプトとの間の大きな違いの 1 つです。

## ビジネスルールのアクション

ビジネスルールはさまざまなアクションを実行できます。一般的なアクションのタイプは次のとおりです。

- ユーザーが更新しているフォームのフィールド値を変更します。フィールド値は、そのフィールドで使用可能な特定の値、他のフィールドからコピーされた値、およびユーザーのロールによって決定される相対値に設定できます。
- ユーザーに情報メッセージを表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 親タスクの変更に基づいて子タスクの値を変更します。
- ユーザーがフォーム上の特定のフィールドにアクセスしたり、フィールドを変更したりできないようにします。
- 現在のデータベーストランザクションを中止します。たとえば、特定の条件が満たされている場合に、ユーザーがデータベースにレコードを保存できないようにします。

管理者は、スクリプトを作成せずにフィールド値の設定、情報メッセージの作成、トランザクションの中止を行うことができます。

## 再帰ビジネスルールの防止

ビジネスルールスクリプトでは `current.update()` を使用しないでください。`update()` メソッドは、挿入操作と更新操作のために同じテーブルで実行するビジネスルールをトリガーします。これにより、ビジネスルールが繰り返し呼び出されます。前のビジネスルールがすべて完了すると、前のビジネスルールに加えられた変更は自動的に保存されます。後のビジネスルールは、関連する、現行のものではないオブジェクトの更新に最適です。再帰ビジネスルールが検出されると、システムはそれを停止し、システムログにエラーを記録します。`current.update()` はシステムパフォーマンスの問題を引き起こすため、必要ありません。

false パラメーターを指定して `setWorkflow()` メソッドを使用すると、再帰ビジネスルールを防ぐことができます。`update()` および `setWorkflow()` メソッドの組み合わせは、上記の通常の前と後のガイドラインが要件を満たさない特別な状況でのみ推奨されます。

関連情報

データルックアップ、アサイン、およびビジネスルール間の優先順位

### スコープ対象アプリケーションのビジネスルール

すべてのビジネスルールは、プライベートアプリケーションスコープまたはグローバルスコープのいずれかに割り当てられます。

作成できるビジネスルールのタイプとそれらのルールへのアクセス方法は、ビジネスルールのスコープと、それが実行されるテーブルのスコープによって異なります。

**注:**
グローバルという用語は、ビジネスルールの 2 つの異なる側面、つまり、それが実行されるテーブルと、それが実行されるスコープを指します。ビジネスルールは、特定のテーブルに対して実行することも、グローバルにすることもできます。また、グローバルスコープまたはプライベートアプリケーションスコープに含めることもできます。

### 特定のテーブルのビジネスルール

ほとんどのビジネスルールは、[テーブル] フィールドで定義されている特定のテーブルで実行されます。同じスコープ内のテーブル、および別のアプリケーションスコープからの構成レコードを許可するテーブルに対して、ビジネスルールを作成できます。

ビジネスルールレコードとは異なるスコープ内のテーブルの場合は、ルールのタイプが制限されます。

- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [非同期] のルールを作成できます。
  - 、、および  のデータベース操作。 は選択できない。
  - アクションとスクリプト ( フィールド)。
- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [次の前] であるルールを作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 、、および のデータベース操作。 は選択できない。
- アクションのみ。スクリプトを書くことはできず、データベース トランザクションを中断することはできません。

- 異なるスコープのテーブルに他のタイプのビジネスルールを作成することはできません。

特定のテーブルに対するビジネスルールに、他のビジネスルールやスクリプトからアクセスすることはできません。

## グローバルビジネスルール

**警告:**
グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用することを検討してください。スクリプトインクルードは要求時にのみロードされますが、グローバルビジネスルールはシステム内のすべてのページでロードされます。

グローバルビジネスルールは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されているビジネスルールですグローバルビジネスルールは、スコープ保護に応じて、複数のテーブルでアクセスでき、他のスクリプトからアクセスできます。グローバルビジネスルールの場合は、[アクセス元] フィールドを設定して、スコープの保護を定義します。

- [このアプリケーションスコープのみ]：ビジネスルールとは異なるスコープ内のアプリケーションがこのビジネスルールを呼び出すことを防止します。
- [すべてのアプリケーションスコープ]：任意のアプリケーションによるこのビジネスルールの呼び出しを許可します。

**注:**
グローバルビジネスルールはドメイン分離をサポートしていません。

## スコープ対象のビジネスルールのスクリプト

ビジネスルールでスクリプトを作成すると、以下にアクセスできます。

- ビジネスルールと同じスコープ内のすべてのスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。
- 異なるスコープ内のアプリケーションに呼び出しを許可するスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。別のスコープから関数を呼び出すには、関数のスコープを指定する必要があります。
- 一意のスコープにあるビジネスルールの場合は、スコープ対象のシステム API にのみアクセスできます。

### ビジネスルールの作成

レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、あるいはテーブルに対してクエリが行われるときに実行される、任意のタイプのビジネスルールを作成できます。

#### このタスクについて

**注:**
これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラムを参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > ビジネスルール.
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じてフィールドに入力します。

> **注:**
> すべてのフィールドを表示するようにフォームを設定する必要があります。

ビジネスルールのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | ビジネスルールの名前を入力します。 |
| テーブル | ビジネスルールが実行されるテーブルを選択します。<br><br>**注:**<br>リストには、ビジネスルールのスコープ保護を満たすテーブルとデータベースビューのみが表示されます。データベースビューに対して定義されたビジネスルールは、クエリでのみ実行できます。データベースビューのビジネスルールは、挿入、更新、または削除では実行できません。 |
| アプリケーション | このビジネスルールを含むアプリケーション。 |
| アクセス可能 | グローバルビジネスルールのスコープ保護。<br><br>**注:**<br>このフィールドは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されている場合にのみ表示されます。特定のテーブルで実行されるルールには適用されません。 |
| アクティブ | ビジネスルールを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| 詳細 | フォームの詳細バージョンを表示するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| 実行タイミング | |
| 時期 | [上級] ビジネスルールの実行タイミングを選択します：データベース操作の完了に関連して、[表示]、[次の前]、[非同期]、または [次の後] から選択します。<br><br>**注:**<br>関連するスケジュール設定済みジョブを作成するときにこの値が使用されるため、非同期ビジネスルールに対して [優先度] を設定することを検討してください。<br><br>**注:**<br>新しく作成された非同期ビジネスルールは、アップグレード時に自動的に実行されます。<br><br>**注:**<br>既存の非同期ビジネスルールを移行して、新しい非同期動作を使用できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 順番 | [上級] このビジネスルールを実行する順序を示す番号を入力します。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールはここで指定された順序 (昇順) で実行されます。 |
| 挿入 | レコードがデータベースに挿入されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| 更新 | レコードが更新されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| 削除 | [上級] レコードがデータベースから削除されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| クエリ | [上級] テーブルに対してクエリが実行されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| フィルター条件 | 選択したテーブルのフィールド値に基づいてビジネスルールを実行する必要があるタイミングを決定するには、条件ビルダーを使用します。[条件] フィールドを使用して、スクリプトで条件を構築することもできます。<br>**注:**<br>文字列の比較に基づくフィルターでは、大文字と小文字が区別されます。 |
| ロールの条件 | テーブル内のレコードを変更するユーザーが実行するビジネスルールに対して保持している必要があるロールを選択します。 |
| アクション | |
| フィールド値の設定 | 選択リストを使用して、選択したテーブルのフィールドの値を設定します。<br>○ フィールド<br>○ 割り当てオペレーター：<br>▪ 次の値：厳密にそのとおりの値<br>▪ 次から取得：別のフィールドの値<br>▪ 次の値 (動的)： ビジネスルールを構成するユーザーまたは特定のロールを持つユーザーに関連する値<br>○ 値 |
| メッセージの追加 | このチェックボックスをオンにし、このビジネスルールが実行されたときに表示されるメッセージを入力します |
| アクションの中止 | 現在のデータベーストランザクションを中止するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。<br>このオプションを選択した場合、レコードに対する追加のアクション (フィールド値の設定やスクリプトの実行など) は実行できません。[メッセージの追加] チェックボックスをオンにしてメッセージを作成することにより、引き続きユーザーにメッセージを表示できます。 |
| 詳細 | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 条件 | ビジネスルールの実行タイミングを指定する JavaScript 条件ステートメントを作成します。このフィールドに条件ステートメントを追加することで、条件を個別に評価し、条件が true の場合にのみビジネスルールを実行するようにシステムに指示します。[スクリプト] フィールドに条件ステートメントを含める場合、または条件ビルダーを使用する場合は、このフィールドを空のままにします。非同期ビジネスルールを実行する前にインスタンスで条件ステートメントを再評価するには、システムプロパティ *glide.businessrule.async_condition_check* を追加し、値を true に設定します。 |
| スクリプト | [上級] 定義された条件が true である場合に実行されるスクリプトを作成します。このフィールドには、[時期] の値と一致する関数名が自動的に入力されます。<br>○ onAfter<br>○ onAsync<br>○ onBefore<br>○ onDisplay<br>**注:**<br>関数名は [時期] の値と一致する必要があります。<br>詳細と例については、「サンプルのビジネスルールスクリプト」を参照してください。 |
| 関連リスト：バージョン | |
| バージョン | ビジネスルールのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。 |

4. [送信] をクリックします。

### ビジネスルールのグローバル変数

ビジネスルールで使用するための定義済みのグローバル変数があります。

次の事前定義されたグローバル変数を使用して、ビジネスルールスクリプトでシステムを参照します。

| グローバル変数 | 説明 |
|---|---|
| *current* | 参照されるレコードの現在の状態。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。 |
| *previous* | 実行コンテキスト中に行われた更新の前に参照されたレコードの状態。実行コンテキストは、最初の更新または削除操作で始まり、スクリプトと参照されたビジネスルールが実行された後に終了します。1 つの実行コンテキスト内でレコードに複数の更新が行われた場合、*previous* は最初の更新または削除操作の前のレコードの状態を保持し続けます。更新および削除操作でのみ使用できます。非同期操作では使用できません。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。 |
| *g_scratchpad* | スクラッチパッドオブジェクトは表示ルールで使用でき、クライアントスクリプトからアクセスできるようにクライアントに情報を渡すために使用されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| グローバル変数 | 説明 |
| --- | --- |
| *gs* | GlideSystem 関数への参照。 |

変数 *current*、*previous*、*g_scratchpad* は、トランザクションに対して実行されるすべてのビジネスルールでグローバルです。

### null ポインター例外の防止

場合によっては、ビジネスルールの実行時にレコードの *current* の状態または *previous* の状態がないことがあります。これは、変数が null であることを意味します。変数を使用する前に null をチェックするには、次のコードをビジネスルールに追加します。

```
if (current == null) // to prevent null pointer exceptions.
return;
```

### 変数の定義

ユーザー定義変数のスコープは、デフォルトでグローバルです。新しい変数が順序 100 のビジネスルールで宣言されている場合、次に実行される順序 200 のビジネスルールも変数にアクセスできます。これにより、予期しない動作が発生する可能性があります。

このような予期しない動作を防ぐために、コードは必ず関数でラップしてください。これにより変数が、関数でラップされていない他のビジネスルール内のシステム変数やグローバル変数との競合を防ぐことができます。また、*current* などの変数を使用するには、関数が呼び出されたときに使用可能になっている必要があります。

次のスクリプトは、他のコードとの競合に対して脆弱です。変数 *now_GR* が他のルールで使用されている場合、変数の値が予期せず変更される可能性があります。

```
var now_GR = new GlideRecord('incident');
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {

  //do something

}
```

このスクリプトが関数でラップされている場合、変数はその関数内でのみ使用でき、*now_GR*という名前の変数を使用する他の関数と競合することはありません。

```
myFunction();

function myFunction() {
  var now_GR = new GlideRecord('incident');
  now_GR.query();
  while(now_GR.next()) {
    //do something
} }
```

#### ビジネスルールとクライアントスクリプトを使用したフィールド値の制御

フィールドにビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を実装し、ユーザーがフォームとリストの両方を使用してレコード値を正しく設定できるようにします。また、編集が行われるときにフォームの値が即座に変更されるようにします。

クライアントスクリプトまたはビジネスルールのみを使用してフィールドの更新を制御する場合の問題は、フォームまたはリストのいずれかでフィールドが変更される可能性があるということです。クライアントスクリプトと UI ポリシーはフォームでのみ実行され (クライアントサイド)、リストの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

編集には適用されません。フォーム内のフィールドでクライアントスクリプトを実行している状態でのリスト編集を許可すると、正しくないデータがレコードに保存されるおそれがあります。クライアントスクリプトまたは UI ポリシーがフォームに適用されるシステムでは、リスト編集を無効にするか、適切なビジネスルールまたはアクセス制御を作成して、リストエディターでの値の設定を制御します。この副作用として、クライアントスクリプトに実装されたセキュリティ対策は簡単に回避されるようになります。ユーザーに必要とされるのはリスト内のフィールドを編集することだけです。

フォームのビジネスルールは動的ではありません。変更を表示するには、ユーザーがレコードを更新する必要があります。そのために、クライアントスクリプトを使用してフォームのフィールド値を制御することをお勧めします。

ビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を使用してフィールド値を制御する場合、更新動作はシステム全体で同じです。これは、フォームのリストを使用して変更するかどうかでは、更新される値は異ならないことを意味します。これは、同じ機能を 2 回 (クライアントスクリプトに 1 回、ビジネスルールまたはアクセス制御に 1 回) 実装する必要があることを意味します。

## 例：ユーザーレコードのインポート中にビジネスルールを使用してメールアドレスを作成する

組織には、ユーザーのメールアドレスを first.last@company.com に設定するクライアントスクリプトがあります。管理者がこれを行うと、ユーザーの情報を入力すると即座にメールアドレスが表示されます。次に、管理者は、ユーザーの姓と名を含むスプレッドシートからユーザーの一括インポートを実行します。各ユーザーのメールアドレスは、フォームの編集時に自動的に設定されることが想定されています。クライアントスクリプトはフォーム (レコードへのインターフェイス) でのみ実行されるため、そのインターフェイスの外部からレコードにインポートされたデータに影響はなく、メールアドレスは作成されません。この問題を解決するために、管理者はインポート時に実行されるビジネスルールを実装し、メールアドレスを作成します。

## 例：フォームで編集できないフィールドのリスト編集を防止する

組織は、アサイン先グループが [開発] の場合、インシデントフォームの [優先度] フィールドを非表示にします。これを行うためにインシデントフォームで UI ポリシーを作成しますが、ユーザーは引き続きリストエディターを使用して [優先度] フィールドを表示および編集できます。これを修正するには、アサイン先グループが [開発] のときに [優先度] フィールドへの読み取りアクセスを防止するアクセス制御を適用します。

### フィールド値としての **NULL** の使用

文字列 NULL は、スクリプト内で特定のロールを持つ予約語です。

予約語はすべて大文字の NULL です。**Null** や **null** などの値を持つフィールドは受け入れ可能です。NULL は、特定のフィールドをクリアするためにのみ使用します。

インポートセットデータソースから取得された NULL フィールド値は、空のフィールド値としてステージングテーブルに挿入されます。インポートセット変換マップや、[名] フィールドまたは [姓] フィールドでは、フィールド値として NULL という用語を使用しないでください。また、参照フィールドでは NULL を使用しないでください。この値は予約語ではなく用語 NULL を含む文字列として解釈されます。

### ビジネスルールの表示

表示ルールは、ユーザーがレコードフォームを要求したときに処理されます。

データベースからデータが読み込まれ、表示ルールが実行されて、フォームがユーザーに表示されます。current のオブジェクトが利用可能で、データベースから取得されたレコードを表します。フィールドの変更はまだデータベースに送信されていないため、一時的なものです。クライアントには、フォームの値はデータベースの値のように見えます。値が表示ルールから変更された形跡は示されません。これは計算フィールドと同様の概念です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

表示ルールの主な目的は共有されるスクラッチパッドオブジェクト *g_scratchpad* を使用することです。このオブジェクトはフォームの一部としてクライアントにも送信されます。この動作は、表示されるレコードには通常含まれていないサーバーデータを必要とするクライアントスクリプトを構築する場合に役立つことがあります。ほとんどの場合、これによってクライアントスクリプトはサーバーへのコールバックが必要になります。フォームが表示される前にデータを判別できる場合は、初期ロード時にクライアントにデータを提供する方が効率的です。フォームスクラッチパッドオブジェクトは、デフォルトでは空のオブジェクトであり、データの名前:値ペアを格納するためにのみ使用されます。

表示ルールからデータをフォームスクラッチパッドに入力するには、次のようにします。

```
// From display business rule
g_scratchpad.someName = "someValue";
g_scratchpad.anotherName = "anotherValue";

// If you want the client to have access to record fields not being displayed on the form
g_scratchpad.created_by = current.sys_created_by;

// These are simple examples, in most cases you'll probably perform some other
// queries to test or get data
```

クライアントスクリプトからのフォームスクラッチパッドデータにアクセスするには、次のようにします。

```
// From client script
if(g_scratchpad.someName == "someValue") {
  //do something special
}
```

### タスクアクティブ状態管理ビジネスルール

このビジネスルールは、[状態] フィールドの変更に基づいてアクティブなフィールドの値を変更する必要があるかどうかを判断します。

タスクアクティブ状態管理ビジネスルールは、タスクレコードの状態が変更されたときに実行されます。実行順序は 50 で、他のほとんどのタスクビジネスルールの前に実行されます。

現在のタスクテーブルで、テーブルに *close_states* 属性が定義されている場合、または上位レベルのテーブルからそれが継承されている場合は、アクティブなフィールドを変更する必要があるかどうかがルールによって決定されます。これは、前のステータス値と現在のステータス値を比較することによって行われます。

- 状態がアクティブ状態から非アクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは false に設定されます。
- 状態が非アクティブ状態からアクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは true に設定され、タスクを効果的に再アクティブ化または再オープンします。

タスクを非アクティブまたはアクティブとしてマークする各タスクテーブルでルールを作成するのではなく、ビジネスルールで *(current.active.changesTo([true/false])* アクションを活用することをお勧めします。

### サンプルのビジネスルールスクリプト

組織の要件に役立つサンプルのビジネスルールスクリプトを検索します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラムを参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

### ビジネスルールでの日付フィールドの比較

ビジネスルール内の 2 つの日付フィールドまたは 2 つの日付と時刻のフィールドを比較し、それらが正しくない場合はレコードの挿入または更新を中止できます。

たとえば、開始日を終了日より前にすることが必要になる場合があります。スクリプトの例を次に示します。

```
if ((!current.u_date1.nil()) && (!current.u_date2.nil())) {
  var start = current.u_date1.getGlideObject().getNumericValue();
  var end = current.u_date2.getGlideObject().getNumericValue();
  if (start > end) {
    gs.addInfoMessage('start must be before end');
    current.u_date1.setError('start must be before end') ;
    current.setAbortAction(true);
 } }
```

この例はグローバルスクリプトでテストされています。スコープ付きスクリプトで機能させるためには、変更が必要になる場合があります。API の変更が必要になる可能性があることに加えて、スコープ付きスクリプトではセキュリティがより厳格になります。

ビジネスルールは、挿入および更新アクションの前のルールにすることをお勧めします。サンプルのスクリプトは次のようになります。

- *u_date1* と *u_date2* は 2 つの日付フィールドの名前です。これらの名前を独自のフィールド名に置き換えます。
- 最初の行では、両方のフィールドに実際に値があることを確認します。
- 次の 2 つの行では、日付の数値を持つ変数を作成します。
- 次の 2 つの行では、エンドユーザーに対して異なるアラートメッセージを作成します。1 つはフォームの上部に、もう 1 つはフォームの *[u_date1]* フィールドの横に表示されます。
- 日付フィールドが正しくない場合、最終行で挿入または更新は中止されます。

上記の比較のより複雑な例を次に示します。開始日と終了日のペアが複数ある場合は、アレイを次のように使用できます。また、このスクリプトでは、入力日付が特定の範囲内である必要があります。このケースでは、過去は 30 日以上、将来は 365 日以内です。

```
// Enter all start and end date fields you wish to check, as well as the previous values
// Make sure that you keep the placement in the sequence the same for all pairs
var startDate = new Array(current.start_date,current.work_start);
var prevStartDate = new Array(previous.start_date,previous.work_start);
var endDate = new Array(current.end_date,current.work_end);
var prevEndDate = new Array(previous.end_date,previous.work_end);

// The text string below is added to the front of ' start must be before end'
var userAlert = new Array('Planned','Work');

// Set the number of Previous Days you want to check
var pd = 30;
// Set the number of Future Days you want to check
var fd = 365;
```



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// You shouldn't have to modify anything below this line

var nowdt = new GlideDateTime();
nowdt.setDisplayValue(gs.nowDateTime());
var nowMs = nowdt.getNumericValue();
var pdms = nowMs;

// Subtract the product of previous days to get value in milliseconds
pdms -= pd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var fdms = nowMs;

// Add the product of future days to get value in miliseconds
fdms += fd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var badDate = false;

 // Iterate through all start and end date / time fields
for (x = 0; x < startDate.length; x ++) {
  if ((!startDate[x].nil()) && (!endDate[x].nil())) {
    var start = startDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
    var end = endDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
    if (start > end) {
      gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be before end');
      startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be before end');
      badDate = true; }
    else if ((prevStartDate[x]) != (startDate[x])) {
      if (start < pdms) {
        gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be fewer than ' + pd + ' days ago');
        startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be fewer than ' + pd  + ' days ago');
        badDate = true; } }
    else if ((prevEndDate[x]) != (endDate[x])) {
      if (end > fdms) {
        gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' + fd + ' days ahead');
        endDate[x].setError(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' + fd + ' days ahead');
        badDate  = true ;
} } } }
if (badDate == true ) {
  current. setAbortAction ( true ) ; }
```

### XML ペイロードの解析

XML 形式のフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。

ecc_event 行のペイロードなど、XML 形式でデータベースに挿入されるフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。*getXMLText* 関数は、文字列と XPATH 式を受け取ります。例：

```
var name = gs.getXMLText("<name>joe</name>", "//name");
```

文字列「joe」を返します。

フィールド「payload」に XML が含まれていると仮定すると、関数呼び出しは次のようになります。

```
var name = gs.getXMLText(current.payload, "//name");
```

XPATH の詳細については、「w3schools」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### 前のビジネスルールでのデータベースアクションの中止

前のビジネスルールスクリプトで、*setAbortAction()* メソッドを使用して現在のデータベースアクションをキャンセルまたは中止できます。

たとえば、前のビジネスルールが挿入アクション中に実行され、スクリプトに current.setAbortAction(true) を呼び出す条件がある場合、current に保存される新しいレコードはデータベース内には作成されません。このビジネスルールは *setAbortAction()* を呼び出した後も実行を継続し、後続のすべてのビジネスルールは正常に実行されます。このメソッドを呼び出すと、データベースアクションの実行のみが防止されます。

*isActionAborted()* メソッドを使用して、現在のデータベースアクション (挿入、更新、削除) を中止するかどうかを決定できます。 *isActionAborted()* は新しいスレッド用に初期化され、*next()* メソッドはその値を明示的に false に設定します。

**注:**
*setAbortAction()* は、アクションが中止されるレコードと同じスコープからのみ実行できます。current.setAbortAction は、別のスコープで定義されているビジネスルールで実行された場合、優先されません。

### ビジネスルールでトリガーされる操作の決定

複数のデータベースアクションでトリガーされるビジネスルールのスクリプトを作成できます。

イベントをトリガーしたアクションに応じてビジネスルールスクリプトを動的に分岐させる場合は、*operation()* 関数を使用できます。例：

```
if(current.operation() == "update") {
  current.updates ++; }
  if(current.operation() == "insert") {
    current.updates = 0; }
```

### ビジネスルールでの **OR** 条件の使用

**OR** 条件は、ビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。

**OR** 条件は、*addOrCondition()* メソッドによってビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。次の例は、優先度が 1 または 2 のすべてのインシデントを検索するためのクエリを示しています。最初の *addQuery()* 条件は変数として定義され、**OR** 条件で使用されます。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc = inc.addQuery('priority','1');
qc.addOrCondition('priority','2');
inc.query();
while(inc.next()) {
  // processing for the incident goes here
}
```

次のスクリプトはより複雑な例で、2 つのクエリ条件変数を使用して、(priority = 1 OR priority = 2) AND (impact = 2 OR impact = 3) と同等の実行をします。**OR** 条件の結果は、2 つの変数 *qc1* と *qc2* を使用して実行されます。これにより、IF 条件や WHILE ループ内など、スクリプトの後半でクエリ条件オブジェクトを操作できます。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc1 = inc.addQuery('priority','1');
qc1.addOrCondition('priority','2');
var qc2 = inc.addQuery('impact','2');
qc2.addOrCondition('impact','3');
inc.query();
while(inc.next()) {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  // processing for the incident goes here
}
```

### ビジネスルールからの Glide リストの参照

Glide リストとして定義されたフィールドは、単一のフィールドに格納される値のアレイです。

ビジネスルールを記述するときに glide_list フィールドを処理する方法の例を次に示します。通常、glide_list フィールドには、他のテーブルへの参照値のリストが含まれています。

### 例

たとえば、タスク内の [ウォッチリスト] フィールドは、ユーザーレコードへの参照を含む glide_list です。

次のコードに、フィールドを参照する方法を示します。

```
// list will contain a series of reference (sys_id) values separated by a comma
// array will be a javascript array of reference values
var list = current.watch_list.toString();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Reference value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Reference value is: 62826bf03710200044e0bfc8bcbe5df1
*** Script: Reference value is: c2826bf03710200044e0bfc8bcbe5d45
*** Script: Reference value is: 5f74e421c0a8010e01ec0d74a7ee2cc6
*** Script: Reference value is: 06826bf03710200044e0bfc8bcbe5d57
```

また、次に示すように `getDisplayValue()` メソッドを使用して、参照値に関連付けられた表示値を取得することもできます。

```
// list will contain a series of display values separated by a comma
// array will be a javascript array of display values
var list = current.watch_list.getDisplayValue();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Display value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Display value is: Abel Tuter
*** Script: Display value is:  Ashley Leonesio
*** Script: Display value is:  Charles Beckley
*** Script: Display value is:  Cherie Fuhri
```

### indexOf("searchString") を使用して Glide リスト内の文字列を検索する

Glide リストフィールド (ウォッチリストなど) に少なくとも 1 つの値がある場合は、`indexOf("searchString")` を使用してメソッドに渡される文字列の場所を返します。

フィールドが空の場合は、`undefined` が返されます。未定義の値を返さないようにするには、次のいずれかを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- フィールドを強制的に文字列にします。例：`watch_list.toString().indexOf("searchString")`
- `indexOf()` を使用する前に、条件がある空の Glide リストフィールドを確認します。例：if (`watch_list.nil()` || `watch_list.indexOf("searchString")` == -1)

### ユーザーアカウントのロック

ユーザーがアクティブでない場合は、ユーザーアカウントをロックできます。

次のビジネスルールスクリプトは、ユーザーが LDAP ディレクトリでアクティブでない場合、またはユーザーがインスタンスへのセルフサービス、itil、または管理者アクセス権を持っていない場合に、ユーザーアカウントをロックします。

```
// Lock accounts if bcNetIDStatus != active in LDAP and user does not
// have self-service, itil or admin role
var rls = current.accumulated_roles.toString();
if(current.u_bcnetidstatus == 'active' && (rls.indexOf(',itil,') > 0 ||
  rls.indexOf(',admin,') > 0 ||
  rls.indexOf(',ess,') > 0 )) {
  current.locked_out = false; }
else {
  current.locked_out = true; }

var now_GR = new GlideRecord("sys_user");
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {
  now_GR.update();
  gs.info("updating " + gr.getDisplayValue());
}
```

### デフォルトのクエリ前ビジネスルール

データベースクエリの実行前に実行されるクエリビジネスルールを使用できます。

このクエリビジネスルールを使用して、ユーザーが特定のレコードにアクセスできないようにします。インシデントレコードへのアクセスを制限するデフォルトのビジネスルールの以下の例を考慮してください。

- 名前：incident query
- テーブル：インシデント
- タイミング：クエリ前
- スクリプト：

```
if(!gs.hasRole("itil") && gs.isInteractive()) {
  var u = gs.getUserID();
  var qc =
 current.addQuery("caller_id",u).addOrCondition("opened_by",u).addOrCondition("watch_list","C
ONTAINS",u);
  gs.print("query restricted to user: " + u); }
```

この例では、ユーザーは、itil ロールを持っているか、または **[Caller]** あるいは **[Opened by]** フィールドでリストされていない限り、インシデントレコードにアクセスできません。そのため、セルフサービスユーザーがインシデントのリストを開くと、自分が送信したインシデントしか表示されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
ユーザーに表示されるレコードは、アクセス制御を使用して制限することもできます。

### スクリプトインクルード

スクリプトインクルードは、サーバー上で実行される JavaScript の格納に使用されます。

スクリプトインクルードを作成して、サーバースクリプトで使用できるように JavaScript の関数およびクラスを格納します。各スクリプトインクルードは、オブジェクトクラスまたは関数のいずれかを定義します。

スクリプトインクルードは要求時にのみロードされるため、グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用することを検討してください。

詳細については、「クライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定」と「Discovery スクリプトインクルード」を参照してください。

### スクリプトインクルードフォーム

スクリプトインクルードには、名前、説明、およびスクリプトがあります。また、それらがアクティブかどうか、およびクライアントスクリプトから呼び出すことができるかどうかも指定します。スクリプトインクルードフォームを使用して、既存のスクリプトインクルードを表示するか、新しいスクリプトインクルードを作成します。

スクリプトインクルードにアクセスするには、[システム定義] > [スクリプトインクルード] に移動します。

スクリプトインクルードフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | スクリプトインクルードの名前。クラスを定義する場合、これはクラスの名前、プロトタイプ、およびタイプと一致する必要があります。クラスレス (オンデマンド) スクリプトインクルードを使用する場合、名前は関数名と一致する必要があります。 |
| API 名 | 読み取り専用で自動入力される API 名。 |
| クライアントコール可能 | スクリプトインクルードをクライアントスクリプト、リスト/レポートフィルター、参照修飾子として使用できるように、または URL の一部として指定できるようにします。選択すると、[アクセス制御] 関連リンクが使用可能になります。詳細については、「クライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定」を参照してください。 |
| アプリケーション | このスクリプトインクルードが存在するアプリケーション。 |
| アクセス可能 | このスクリプトインクルードにアクセスできるアプリケーションを設定します。<br>すべてのアプリケーションスコープ<br>任意のアプリケーションスコープからアクセスできます。<br>このアプリケーションスコープのみ<br>現在のアプリケーションスコープからのみアクセスできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルードフォーム (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アクティブ | 選択すると、スクリプトインクルードが有効になります。アクティブなフィールドの選択を解除して、スクリプトインクルードを無効にします。 |
| 説明 | スクリプトインクルードに関する説明的なコンテンツを提供します。 |
| スクリプト | 他のスクリプトから呼び出されたときに実行するサーバーサイドスクリプトを定義します。<br><br>スクリプトは、単一の JavaScript クラスまたはグローバル関数を定義する必要があります。クラス名または関数名は [名前] フィールドと一致する必要があります。 |
| パッケージ | このスクリプトインクルードを含むパッケージ。 |
| 作成者 | このスクリプトインクルードを作成したユーザー。 |
| 更新者 | このスクリプトインクルードを最後に更新したユーザー。 |
| 保護ポリシー | スクリプトインクルードの保護レベルを設定します。<br>なし<br>このダウンロードまたはインストールされたスクリプトインクルードの読み取りと編集をすべてのユーザーに許可します。<br>読み取り専用<br>このダウンロードまたはインストールされたスクリプトインクルードからの値の読み取りをすべてのユーザーに許可します。スクリプトインクルードをダウンロードまたはインストールするインスタンスのスクリプト値は、どのユーザーも変更できません。<br>保護<br>アプリケーション開発者に知的財産権保護を提供します。スクリプトインクルードをダウンロードした顧客は、スクリプトフィールドの内容を表示できません。スクリプトは、権限のないユーザーがプレーンテキストで表示することを防ぐために、メモリ内で暗号化されます。 |
| フォームビューの関連リスト： | |
| バージョン | スクリプトインクルードのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。「バージョン」を参照してください。 |
| アクセス制御 | [クライアントコール可能] チェックボックスがオンになっていて、かつ標準のスクリプトインクルードから非表示になっている場合に使用可能になります。パブリックアクセスが許可されていない場合に、CCSI を不正使用から保護するために使用します。 |

## スクリプトインクルードの使用

スクリプトインクルードは [システム定義] または [システム UI] の下にあります。既存のスクリプトインクルードをスクリプトから呼び出すことも、新しいスクリプトインクルードを作成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

まったく新しいスクリプトインクルードを作成するときには、既存のいずれかのスクリプトインクルードの形式に従うこともできます。この例では、スクリプトインクルードの名前は *NewInclude* であり、myFunction と呼ばれる 1 つの関数があります。スクリプトインクルードの名前が、クラスの名前、プロトタイプ、およびタイプと一致することが重要です。新しいスクリプトインクルードを作成して名前を付けると、クラスとプロトタイプが適切に設定されたコードスニペットが提供されます。

```
var NewInclude =Class.create();

NewInclude.prototype={
 initialize :function(){},

 myFunction :function(){<Put function code here>},

 type :'NewInclude'};
```

次のように myFunction 行を使用できます。

```
var foo =new NewInclude();
foo.myFunction();
```

**注:**
ServiceNow 提供のスクリプトインクルードは変更しないでください。既存のスクリプトインクルードと類似の実行内容のスクリプトインクルードが必要な場合は、既存のものをコピーして変更するか、オブジェクトの拡張を検討してください。これは、GlideAjax を使用する場合の一般的な方法です。

### クライアントコール可能スクリプトインクルード

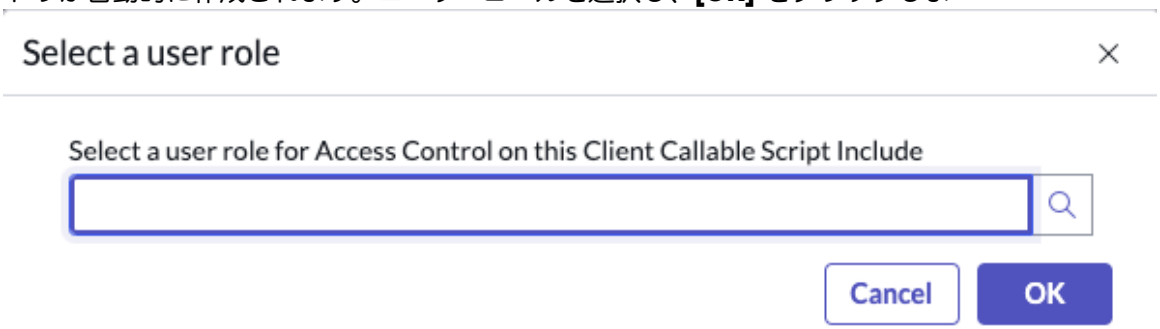
クライアントコール可能スクリプトインクルード (CCSI) は、クライアントスクリプト、リスト/レポートフィルター、参照修飾子、または URL の一部として指定された場合に、スクリプトインクルードを使用できるようにします。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 システム定義 > スクリプトインクルード.
2. [新規] を選択するか、表示または編集する既存のスクリプトインクルードを選択します。
   スクリプトインクルードの記述の詳細については、「スクリプトインクルードの使用」を参照してください。
3. フォームを完成させて、[クライアントコール可能] チェックボックスを選択します。

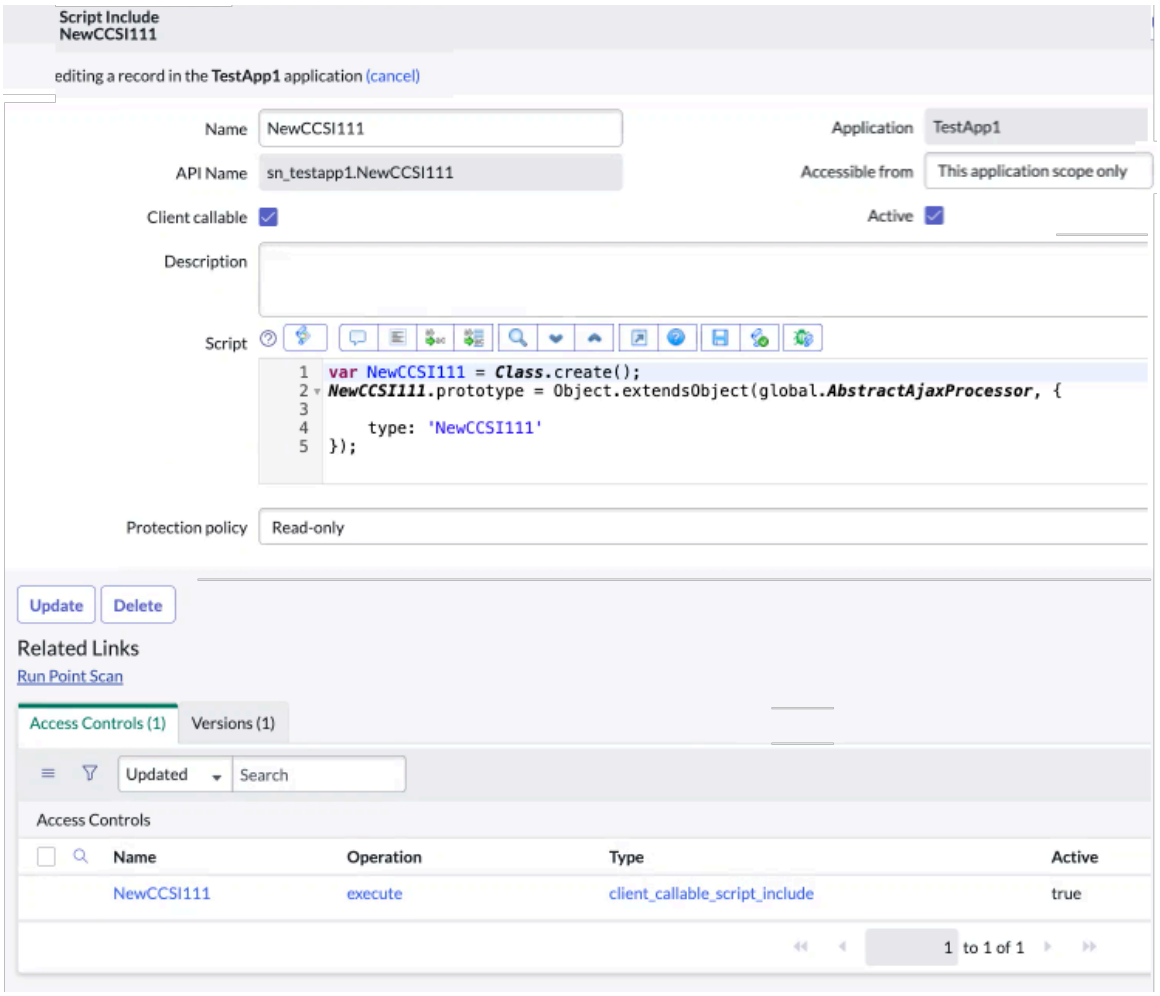
   ユーザーロールを選択するためのロールセレクターがポップアップし、アクセス制御エントリが自動的に作成されます。ユーザーロールを選択し、**[OK]** をクリックします。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> ロールセレクターウィンドウを無効にするには、*glide.script.ccsi.enable_acl_create_ux* を **false** に設定します。

ロールベースのアクセス制御を持つ新しい CCSI レコードが作成されます。アクセス制御関連リンクは、[クライアントコール可能] チェックボックスをオンにすると利用可能になります。




### クライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定

クライアントコール可能スクリプトインクルード (CCSI) のプライバシー設定により、クライアントコール可能スクリプトインクルードにアクセスできるユーザーが決定されます。

### プライベートプライバシー設定

プライベートプライバシー設定は、公開ページにアクセスするゲストがクライアントコール可能スクリプトインクルードにアクセスできないことを意味します。非公開スクリプトは、ログインしていないユーザーは実行できません。

### 公開プライバシー設定

公開プライバシー設定は、適切な HTTP 要求を作成するログインしていないユーザーが、クライアントスクリプトを実行できることを意味します。クライアントスクリプトが機密情報を提供する場合、これによりセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

次のスクリプトインクルードは、デフォルトでは公開のままです。これは、UI ページを公開または非公開にするが、次のスクリプトインクルードにアクセスする必要があるためです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- GlideSystemAjax
- SysMessageAjax
- KnowledgeMessagingAjax
- KnowledgeAjax
- PasswordResetAjax

## クライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシーの設定

### すべてのクライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定の変更

すべてのクライアントコール可能スクリプトインクルードをさらに制御するために、管理者は *glide.script.ccsi.ispublic* プロパティを追加できます。このプロパティは、すべてのクライアントコール可能スクリプトインクルードを公開または非公開にすることで、その可視性を変更します。プロパティを以下のとおり構成します。

プロパティの構成

| タイトル | プロパティ |
|---|---|
| 名前 | glide.script.ccsi.ispublic |
| タイプ | true \| false |
| 値 | false |

**注:**
このプロパティの詳細については、「インスタンスセキュリティ強化設定」の「クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー」を参照してください。

### 単一のクライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定の変更

*isPublic()* 関数を追加することにより、単一のクライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシー設定を変更します。

*isPublic()* 設定は *glide.script.ccsi.ispublic* プロパティよりも優先されます。たとえば、このプロパティが **false** に設定されていて、すべてのクライアントコール可能スクリプトインクルードが非公開で、かつスクリプトで *isPublic()* が **true** に設定されている場合、そのスクリプトは公開されます。

単一のクライアントコール可能スクリプトインクルードのプライバシーを変更するには、次のメソッドをスクリプトインクルードに追加します。

```
isPublic:function(){return[true/false];},
```

NewInclude クライアントスクリプトを非公開にします。

```
var NewInclude =Class.create();

NewInclude.prototype={
  initialize:function(){},

  myFunction:function(){//Put function code here},
  isPublic:function(){return false;},

  type:'NewInclude'};
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



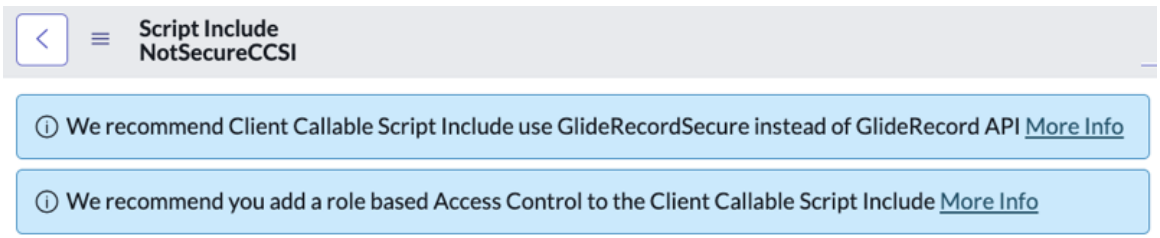
自動翻訳

### クライアントコール可能スクリプトインクルードのセキュリティ

クライアントコール可能スクリプトインクルード (CCSI) を不正使用から保護します。顧客アプリケーションで作成されたすべての CCSI レコードについて、セキュリティリスクを軽減するための推奨事項が表示されます。

CCSI を作成するときに、次のセキュリティ推奨事項がまだ構成されていない場合は、それらの推奨事項が表示されます。

- CCSI にパブリックアクセスがない場合は、アクセス制御を追加または定義します。
- スクリプトがデータベースにクエリを実行する場合は、*`GlideRecord`* API の代わりに *`GlideRecordSecure`* を使用してセキュリティを強化します。




> **注:**
> セキュリティ推奨メッセージを無効にするには、sys_properties テーブルでプロパティ *`glide.script.ccsi.customer_scoped.security_msgs_enabled`* を **false** に設定します。デフォルト値は **true** になっています。

セキュリティコンプライアンスの詳細については、「インスタンスセキュリティ強化設定」を参照してください。

### **Discovery** スクリプトインクルード

ディスカバリー スクリプトインクルードは、ディスカバリー タスクを実行するために使用できる JavaScript クラスを定義します。

> **注:**
> discovery_admin ロールを持つユーザーは、スクリプトインクルードを書き込むことができます。サーバー側およびクライアント側のスクリプティングのベストプラクティスに従って、セキュリティ上の問題を防止します。詳細については、ナレッジ記事「KB0550828」を参照してください。

## **GlideRecordUtil** を使用した **GlideRecord** の操作

*`GlideRecordUtil`* は、ディスカバリー 実行時に、GlideRecord 操作に役立つメソッドを提供するユーティリティクラスです。使用可能なメソッドの説明については、「GlideRecordUtil」を参照してください。

## **GlideRecord** インスタンスの取得

指定された構成アイテムの、正しいクラスとテーブルの *`GlideRecord`* インスタンスを取得するには、*`getCIGR(sys_id)`* メソッドを使用します。たとえば次のコードは、CI の GlideRecord を取得します。その sys_id は 2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56 です。

```
var now_GR = new GlideRecordUtil().getCIGR("2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
```

クラスタイプが未知の場合に階層テーブルを取得するには、*`getGR(base_table, sys_id)`* メソッドを使用します。たとえば、コンピュータークラス CI の GlideRecord を取得するには、コンピュータークラス、Windows サーバー、または Linux サーバークラスを区別することが必要になる場合があります。このメソッドを使用すると、GlideRecord が正しいクラスを持っていることが保

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

証されます。異なるクラスには異なる属性があります。このユースケースでは、Windows サーバーは Linux サーバーとは異なる属性を持ちます。次の例は、正しいクラスの GlideRecord をその属性とともに取得する方法を示しています。

```
var now_GR = new GlideRecordUtil().getGR( "cmdb_ci_computer",
 "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
```

### GlideRecord のすべてのフィールドの取得

*`getFields(now_GR)`* メソッドは、指定された GlideRecord に存在するすべてのフィールドまたは属性の JavaScript オブジェクト (ハッシュマップなど) を返します。

```
var now_GR = new GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer",
 "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
var fields = new GlideRecordUtil().getFields(now_GR);
gs.log(fields.join(" ")); // List all the fields that are in a computer CI
```

### GlideRecord オブジェクトフィールドの入力

*`populateFromGR(hashmap, gr,ignore)`* メソッドを使用すると、GlideRecord オブジェクトを取得して、そのフィールドと値を JavaScript オブジェクトに入力できます。3 番目の引数 (*`ignore`*) は、特定のフィールドを除外できるようにするオプションの JavaScript オブジェクトです。たとえば、GlideRecord の *`sys_created_by`* または *`sys_updated_by`* フィールドを気にする必要がない場合があります。

```
var objectToPopulate = { };
var now_GR = new GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer",
 "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
var ignore = {"sys_created_on": true, "sys_updated_by": true};
new GlideRecordUtil.03().populateFromGR(objectToPopulate, gr, ignore);
// Now the objectToPopulate contains field/value pairs from the computer GlideRecord
```

*`mergeToGR(hashmap, gr,ignore)`* メソッドを使用すると、GlideRecord にフィールド/値のペアのオブジェクトを入力できます。ignore 引数は、指定されたフィールドの更新を停止します。次のコード例では、コンピューターレコードの *`name`* フィールドと *`os`* フィールドが更新されますが、*`sys_created_by`* フィールドは更新されません。

```
var now_GR = new GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer",
 "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
var obj = {"name": "xyz", "os": "windows 2000", "sys_created_by", "aleck.lin"};
var ignore = {"sys_created_by": true};
new GlideRecordUtil().mergeToGR(obj, gr, ignore);
gr.update();
```

### テーブル階層の取得

*`getTables(table)`* メソッドは、次の例に示すように、テーブル階層のリストを返します。

```
var tables = new GlideRecordUtil().getTables("cmdb_ci_linux_server");
gs.log(tables.join(","));
// The result would be "cmdb_ci, cmdb_ci_computer, cmdb_ci_server, cmdb_ci_linux_server".
```

#### DiscoveryException と AutomationException の使用

ディスカバリー センサーとセンサー関連のスクリプトを記述するときに、 DiscoveryException または AutomationException を使用して、ディスカバリー から例外が発生したことを示すことができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

*DiscoveryException* スクリプトインクルードは *AutomationException* を拡張し、それは *GenericException* クラスを拡張します。次の例では、*DiscoveryException* を使用して例外をスローします。

```
function foo() {
  if(//condition matches) throw new DiscoveryException("The message", "The cause"); }
```

最初の引数は例外のメッセージを受け取り、2 番目の引数 (オプション) は例外の原因を受け取ります。次の例に示すように、例外を捕捉してログに記録することもできます。

```
try {
  foo();
}
catch(e) {
   if(e instanceof DiscoveryException)
     gs.log("A DiscoveryException occurred. It is " + e. getMessage() + " caused by " +
 e.getCause()); }
```

上記の例は、*AutomationException* にも適用されます。*DiscoveryException* は通常、特に Discovery に例外処理を提供するために使用され、*AutomationException* は Orchestration とディスカバリー の両方に適用される例外処理に使用されます。

### プロセッサー

プロセッサーは、任意のサーバーサイド JavaScript コードを実行して TEXT または JSON などを出力できる、カスタマイズ可能な URL エンドポイントを提供します。カスタムプロセッサーの作成は廃止されました。

**注:**
この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

**警告:**
プロセッサーを作成するときは、必ずプロセッサーに固有のパラメーター名を使用してください。たとえば、プロセッサーが法務レコードリストをエクスポートし、必要なパラメーターが受信者のメールアドレスである場合に、「email」といった語をパラメーター名として使用しないでください。プロセッサーの固有度が高いパラメーター名 (legal_export_recipient_email など) を作成します。これに従わずに、id、table、sys_id、service、catalog_id、view などをインスタンスパラメーター名として使用すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

## プロセッサーを作成するタイミング

カスタムプロセッサーを作成しないでください。この機能は廃止されました。カスタムプロセッサーを作成する代わりに REST API を使用してください。残りの情報は既存のプロセッサーのためにのみ残されます。

## プロセッサーフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | プロセッサーの一意の名前。 |
| タイプ | プロセッサースクリプトのプログラミング言語。<br><br>次のオプションが含まれます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • java：このオプションを選択しないでください<br>• スクリプト |
| アプリケーション | このレコードを含んでいるアプリケーションです。 |
| アクティブ | レコードを有効または無効にするフラグ。 |
| CSRF 保護 | インスタンスが CSRF トークンを使用しない限り、プロセッサーが実行されないように保護するオプション。 |
| 説明 | プロセッサーの機能または目的の説明。 |
| パラメーター | 利用可能な入力パラメーターのリスト。<br>URL のパラメーター値を *<parameter name>=<parameter value>*として指定します。<br>**注:**<br>パラメーター名はプロセッサー固有である必要があります。他のプロセッサーが使用する可能性がある一般的なパラメーター名は選択しないでください。プロセッサーで id、sys_id、table などの一般的なパラメーター名を使用すると、他の機能が中断させられる可能性があります。これは、そのパラメーターが URL に存在する場合に、プロセッサーの方が優先されるためです。たとえば、id パラメーターを持つプロセッサーは、同じレコード内のパス値に関係なく、ページ識別のためにそのパラメーターに依存する サービスポータル を中断します。 |
| パス | このプロセッサーを呼び出すために使用される URI パス。<br>URL から次のようにプロセッサーを呼び出します。<br>https://<instance name>.service-now.com/<Path>.do |
| スクリプト | システムがこのプロセッサーを呼び出すときに実行される、即時実行関数。<br>この関数は、次の API オブジェクトの入力パラメーターを自動的に提供します。<br>• g_request<br>• g_response<br>• g_processor |
| 保護ポリシー | このレコードのスクリプトを保護するために使用するポリシー。<br>次のオプションが含まれます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • なし<br>• 読み取り専用<br>• 保護 |

### プロセッサー API コンポーネント

プロセッサーは、専用の API クラス、オブジェクト、およびメソッドにアクセスできます。

プロセッサー API コンポーネント

| クラス、オブジェクト、またはメソッド | 説明 |
| --- | --- |
| g_response | HttpServletResponse タイプのオブジェクト。「GlideServletResponse」を参照してください。 |
| setContentType('text/html;charset=UTF-8') | クライアントに送信される応答のコンテンツタイプを設定する GlideServletResponse メソッド。 |
| g_request | HttpServletRequest タイプのオブジェクト。「HttpServletRequest」を参照してください。 |
| getParameter() | URL パラメーターの値を取得する Glide メソッド。 |
| canRead() | ユーザーがテーブルからデータを読み取ることができるかどうかを判断する GlideRecord メソッド。「GlideRecord」を参照してください。 |
| g_processor | プロセッサー用の簡素化されたサーブレット。「GlideScriptedProcessor」を参照してください。 |
| writeOutput() | クライアントに情報を表示する GlideScriptedProcessor メソッド。 |
| g_target | プロセッサー URL のターゲットテーブル名を含むオブジェクト。たとえば、incident.do という URI を含むプロセッサーは、インシデントテーブルに適用されます。 |

### プロセッサーのセキュリティ保護

ロール制限を使用してプロセッサーを不正使用から保護し、CSRF トークンを要求することで保護できます。

#### このタスクについて

**注:**
この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

テーブルのユーザーロール制限を再利用して、プロセッサーによるアクセスから保護することができます。この保護方法では、プロセッサーがテーブルデータにアクセスすることを前提としています。

#### 手順

1. プロセッサースクリプトが呼び出すテーブルにアクセスできるユーザーロールを作成または選択します。
2. 移動先 システム定義 > プロセッサー.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. [スクリプト] で、次のコードブロックを追加します。

```
var now_GR = new GlideRecord('your_table_name');
// canRead() compares the table's ACL to the user making this request, and returns true if
 the logged-in user has read access to this table
if(gr.canRead())
{
  // Perform table query here
  g_processor.writeOutput('Success!');
} else {
  g_processor.writeOutput('You do not have permission to read table your_table_name');
}
```

4. 必要に応じて他のアクセス制限を使用するようにコードブロックを更新します。

   使用可能なアクセス関数には、次のものがあります。

   - `canCreate()`
   - `canRead()`
   - `canWrite()`
   - `canDelete()`

5. [更新] をクリックします。

### CSRF トークンによるプロセッサーの保護

CSRF トークンを要求することで、プロセッサーを保護できます。

#### このタスクについて

スクリプトタイプのプロセッサーは、プロセッサーの実行前に CSRF トークンチェックを要求できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > プロセッサー.
2. プロセッサーレコードを開きます。
3. **[CSRF** 保護] オプションを選択します。
4. [更新] をクリックします。

### 単純なプロセッサーの作成

URL クエリからスクリプトを実行する単純なプロセッサーを作成します。この機能は廃止されました。

#### このタスクについて

> **注:**
> この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

次の手順では、独自のデモンストレーションインスタンスがあることを前提としています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > プロセッサー.
2. [新規] をクリックします。
3. 以下の情報を入力します。

4. [送信] をクリックします。
5. インスタンスへの URL クエリを https://instance.service-now.com/processor_name.do?parameter=value の形式で入力します。
   例：https://<instancename>.service-now.com/Hello.do?name=world

### 複数テーブルプロセッサーの作成

インスタンス上のテーブルの行数をレポートする複数テーブルプロセッサーを作成します。この機能は廃止されました。

このタスクについて

> **注:**
> この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

複数テーブルプロセッサーは、ユーザーがテーブルを読み取る権限を持っていることを確認することで、パフォーマンスとセキュリティの違反から保護します。大きすぎて安全に照会できない特定のテーブルについてはレポートしません。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > プロセッサー.
   プロセッサーのリストが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. 以下の情報を入力します。

| | |
|---|---|
| 名前 | TableSize |
| タイプ | **Javascript** を選択します |
| 説明 | テーブル内のレコード数を返します |
| パラメーター | サイズ |
| パス | <leave empty> |

スクリプト

```
g_response.setContentType('text/html;charset=UTF-8');
if(g_target === 'sys_email' || g_target === 'sys_log' )
{
  g_processor.writeOutput(g_target + ' table is too large to quickly count');
  } else {
    var count = new GlideAggregate(g_target);
    if( count.canRead() ) {
      count.addAggregate('COUNT');
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    count.query();
    var records = 0;
    if (count.next()) {
     records = count.getAggregate('COUNT');
    }
    g_processor.writeOutput('table ' + g_target + ' has ' + records + ' records');
    } else {
    g_processor.writeOutput('You do not have access to table ' + g_target);
 }
}
```

4. [保存] をクリックします。
5. 次の URL を入力して、新しいプロセッサーをテストします。
   https://<instancename>.service-now.com/incident.do?SIZE
   https://<instancename>.service-now.com/sys_user.do?SIZE
   インスタンスはテーブル内のレコードの数をレポートします。たとえば、テーブルインシデントには 82 のレコードがあります。

### カスタムプロセッサーの作成

URL クエリからスクリプトを実行するカスタムプロセッサーを作成できます。この機能は廃止されました。

#### このタスクについて

> **注:**
> この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

完了すると、次のことが可能になります。

- 新しいプロセッサーの作成
- URL クエリからのスクリプトの実行

次の手順の例では、独自のデモンストレーション インスタンスがあることを前提としています。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > プロセッサー.
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] に「Hello」と入力します。
4. [タイプ] に [スクリプト] を選択します。
5. [パス] に「Hello」と入力します。
6. [スクリプト] に、次のコードを入力します。

```
var name = g_request.getParameter("name");
g_processor.writeOutput("text/plain", "Hello " + name);
```

7. [送信] をクリックします。
8. インスタンスをログアウトし、新しいブラウザーウィンドウを開きます。
9. インスタンスへの URL クエリを https://instance.service-now.com/processor_name.do?parameter=value の形式で入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：https://<instance name>.service-now.com/Hello.do?name=world

10. プロンプトが表示されたら、有効なユーザーの資格情報を入力します。

### [スクリプト - バックグラウンド] モジュール

管理者は [スクリプト - バックグラウンド] モジュールを使用して、サーバーから任意の JavaScript コードを実行できます。

[スクリプト - バックグラウンド] モジュールは、次のコンポーネントで構成されています。

- JavaScript を入力するテキストボックス
- アプリケーションスコープを指定するセレクター
- [スクリプトの実行 **(Run script)]** ボタン
- 利用可能なスコープのリスト
- [ロールバック用に記録？ **(Record for rollback?)]** チェックボックス。デフォルトで選択されています。スクリプト実行のロールバックコンテキストを作成します。スクリプトが実行された後、[スクリプトの実行と利用可能な復旧はこちら **(Script execution and recovery available here)]** リンクをクリックして、スクリプトをロールバックできる [スクリプト実行履歴] フォームに移動します。
- [サンドボックスで実行？ **(Execute in sandbox?)]** チェックボックス。制限などのサンドボックスでスクリプトを実行できるようにします。オンにした場合、データの挿入、更新、削除ができなくなります。
- [スクリプトレットとして実行？ **(Execute as scriptlet?)]** チェックボックス。スクリプトをスクリプトレットとして実行できるようにします。これにより、グローバルスコープおよびサーバー側の機能またはオブジェクトへのアクセス権がスクリプトに付与されます。チェックボックスがオフの場合、スクリプトはグローバルスコープで実行されますが、サーバー側の機能やオブジェクトにはアクセスできません。
- **[4** 時間後にキャンセル **(Cancel after 4 hours)]** チェック ボックス。デフォルトで選択されています。スクリプトが 4 時間経過しても実行されている場合は、スクリプトの実行をキャンセルします。

スクリプトが実行されると、インスタンスは結果、情報、エラーメッセージを画面上部に表示します。

> **注:**
> フリーフォームの JavaScript を実行すると、システムが中断されたりデータが失われたりする可能性があります。本番インスタンスからはフリーフォームのスクリプトを実行しないでください。

デフォルトで、管理者は権限を昇格させずにこのモジュールにアクセスできます。このモジュールにアクセスするために昇格された権限が必要な場合は、システムプロパティ *glide.script_processor.admin* を *security_admin* に設定します。

### インストール設定

インストール設定は、計算された名前を持つグローバルビジネスルールです。インストール設定は、レコードが表示される直前に計算され、アクセス権とロールの動的な決定が容易になります。インストール設定では、設定をプログラムで決定できます。

フィールドとレコードへのアクセスを制御するインストール設定は、次のとおりです。

- CanRead()
- CanWrite()

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CanCreate()
- CanDelete()

これらの関数は、アクセスが許可されている場合は true を返し、許可されていない場合は false を返します。ロールを使用して計算された権限を使用する戻り値はありません。この関数は、変数 current コードを介して現在のレコードにアクセスします。

レコードの権限をチェックする関数の名前は、次のように設定名の前にレコード名を付けることによって形成されます。

```
record_nameCanRead()
```

同様に、レコード内のフィールドに対する権限は、関数名の前にレコード名、アンダースコア、およびフィールド名を付けることによって形成されます。

```
record_name_field_nameCanRead()
```

命名の例：

```
function incidentCanWrite() {} //  can user write to this record?
 function incident_numberCanWrite() {}  // can user write to the number field?
```

このサンプルビジネスルールは、以下に示すように、エントリが存在する場合に、sys_dictionary ファイルの名前フィールドの書き込みを制限します。

```
// the element name cannot be written unless this is a new record (not yet in database)
function sys_dictionary_nameCanWrite() {
  if (current.isNewRecord())
    return;

  return false;
}
```

### DurationCalculator を使用して期日を計算する

DurationCalculator スクリプトインクルードを使用すると、単純な期間またはスケジュールに基づく相対期間を使用して、期日を計算できます。

次のスクリプトは、グローバル API DurationCalculator を使用して期日を計算する方法を示しています。スクリプトの最初の部分は、setStartDateTime() メソッドを使用して開始日時を設定し、calcDuration() メソッドを使用して、指定された開始日時から経過した連続時間「x」(秒数) で期日を決定する方法を示しています。スクリプトの後半は、`DurationCalculator` を使用してスケジュールに基づいて期日を計算する方法を示しています。スケジュールを使用すると、計算に勤務週の日数のみを含めるなど、将来の時間に対して「フィルター」を適用できます。たとえば、期間の計算に「平日」(月曜日から金曜日のみを含む) というスケジュールを適用し、開始日時が金曜日の 5:00 pm だとすると、2 日間の期間が追加されたときに、期日は火曜日の 5:00 pm となります。スケジュールを使用しなかった場合、期日は日曜日の 5:00 pm になります。スケジュールの詳細については、「スケジュールの作成と使用」を参照してください。

このスクリプトは切り取って、[スクリプト - バックグラウンド] ページに貼り付け、そのまま実行できます。また、ビジネスルールや UI アクションを作成するためのサンプルとして役立てることができ、サーバーサイドスクリプトを作成できるその他の場所でも使用できます。

```
/**
 * Demonstrate the use of DurationCalculator to compute a due date.
 *
 * You must have a start date and a duration. Then you can compute a
 * due date using the constraints of a schedule.
 */
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

   // First we need a DurationCalculator object.
   var dc = new DurationCalculator();

   // --------------- No schedule examples ------------------

   // Simple computation of a due date without using a schedule. Seconds
   // are added to the start date continuously to get to a due date.
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 00:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   if(!dc.calcDuration(2*24*3600)){ // 2 days
     gs.log("*** Error calculating duration");
     return;
   }
   gs.log("calcDuration no schedule: " + dc.getEndDateTime()); // "2012-05-03 00:00:00" two
 days later

   // Start in the middle of the night (2:00 am) and compute a due date 1 hour in the future
   // Without a schedule this yields 3:00 am.
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 02:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   if(!dc.calcDuration(3600)){
     gs.log("*** Error calculating duration");
     return;
    }
   gs.log("Middle of night + 1 hour (no schedule): "+ dc.getEndDateTime()); // No scheduled
 start date, just add 1 hour


   // -------------- Add a schedule to the date calculator ---------------------
   addSchedule(dc);

   // Start in the middle of the night and compute a due date 1 hour in the future.
   // Since we start at 2:00 am the computation adds the 1 hour from the start
   // of the day, 8:00am to get to 9:00am
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 02:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   if(!dc.calcDuration(3600)){
     gs.log("*** Error calculating duration");
     return;
   }
   gs.log("Middle of night + 1 hour (with 8-5 schedule): " + dc.getEndDateTime()); // 9:00 am

   // Start in the afternoon and add hours beyond quiting time. Our schedule says the work day
   // ends at 5:00pm, if the duration extends beyond that, we roll over to the next work day.
   // In this example we are adding 4 hours to 3:00pm which gives us 10:00 am the next day.
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);

   if(!dc.calcDuration(4*3600)){
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    gs.log("*** Error calculating duration");
    return;}
  gs.log("Afternoon + 4 hour (with 8-5 schedule): " + dc.getEndDateTime()); // 10:00 am.

  // This is a demo of adding 2 hours repeatedly and examine the result. This
  // is a good way to visualize the result of a due date calculation.
  var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
  dc.setStartDateTime(gdt);
  for(var i=2; i<24; i+=1){
    if(!dc.calcDuration(i*3600)){
      gs.log("*** Error calculating duration");
      return;
    }
    gs.log("add "+ i +" hours gives due date: " + dc.getEndDateTime());
  }

  // Setting the timezone causes the schedule to be interpreted in the specified timezone.
  // Run the same code as above with different timezone. Note that the 8 to 5 workday is
  // offset by the two hours as specified in our timezone.
  dc.setTimeZone("GMT-2");
  var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
  dc.setStartDateTime(gdt);
  for(var i=2; i<24; i+=1){
    if(!dc.calcDuration(i*3600)){
      gs.log("*** Error calculating duration");
      return;
    }
      gs.log("add "+ i +" hours gives due date (GMT-2): " + dc.getEndDateTime());
  }
}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
  // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.
  var scheduleName = "8-5 weekdays excluding holidays";
  var grSched = new GlideRecord('cmn_schedule');
  grSched.addQuery('name', scheduleName);
  grSched.query();
  if(!grSched.next()){
    gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
    return;
  }
  durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");
}
```

### DurationCalculator を使用した単純な期間の計算

単純な期間とは、2 つの日時の間の秒数です。

スケジュールを使用しない場合は、単純な日時減算になります。スケジュールを使用する場合は、スケジュールを参照して非勤務時間を計算から除外します。「休日を除く平日の 8:00 am ～ 5:00 pm」というスケジュールを使用するとします。この場合、月曜日の正午から火曜日の正午までの勤

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

務時間は 9 時間です。単純な期間を計算するには、グローバル API `DurationCalculator` を初期化し、calcScheduleDuration() メソッドを呼び出します。

このスクリプトは、`DurationCalculator` を使用して単純な期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample script demonstrating use of DurationCalculator to compute simple durations
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

   // First we need a DurationCalculator object.
   var dc = new DurationCalculator();

   // Compute a simple duration without any schedule. The arguments
   // can also be of type GlideDateTime, such as fields from a GlideRecord.
   var dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-01", "2012-05-02");
   gs.log("calcScheduleDuration no schedule: " + dur); // 86400 seconds (24 hours)

   // The above sample is useful in limited cases. We almost always want to
   // use some schedule in a duration computation, let's load a schedule.
   addSchedule(dc);

   // Compute a duration using the schedule. The schedule
   // specifies a nine hour work day. The output of this is 32400 seconds, or
   // a nine hour span.
   dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-23 12:00:00","2012-05-24 12:00:00");
   gs.log("calcScheduleDuration with schedule: " + dur); // 32400 seconds (9 hours)

   // Compute a duration that spans a weekend and holiday. Even though this
   // spans three days, it only spans 9 work hours based on the schedule.
   dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-25 12:00:00", "2012-05-29 12:00:00");
   gs.log("calcScheduleDuration with schedule spaning holiday: " + dur); // 32400 seconds (9
 hours)

   // Use the current date time in a calculation. The output of this is
   // dependent on when you run it.
   var now = new Date();
   dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-15", new GlideDateTime());
   gs.log("calcScheduleDuration with schedule to now: " + dur); // Different on every run.
}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
   // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.
   var scheduleName = "8-5 weekdays excluding holidays";
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    var grSched = new GlideRecord('cmn_schedule');
    grSched.addQuery('name', scheduleName);
    grSched.query();
    if(!grSched.next()){
        gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
        return;
    }
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue());
}
```

### 相対期間の使用

相対期間は、差分計算から除外する 1 日の部分をスクリプトを使用して決定すること以外は、単純な期間とよく似ています。

このスクリプトはテーブルcmn_relative_durationに格納されており、次の場所に移動して確認できます。 システムスケジューラ > スケジュール > 相対期間. すぐに利用可能なインスタンスには、相対期間スクリプトの例がいくつかあります。

相対期間 sys_id は、初期化後にグローバル API DurationCalculator クラスのメソッド `calcRelativeDuration()` に渡されます。このメソッドが呼び出されると、DurationCalculator オブジェクトが変数 `calculator` として相対期間スクリプト (テーブル cmn_relative_duration に格納) に渡されます。したがって、作成して cmn_relative_duration に格納した相対期間スクリプトは、実行中の DurationCalculator に変数 `calculator` を介してアクセスでき ます。

次のスクリプトは、`DurationCalculator` を使用して相対期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample use of relative duration calculation.
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object. We will also use
    // the out-of-box relative duration "2 bus days by 4pm"
    var dc = new DurationCalculator();
    var relDur = "3bf802c20a0a0b52008e2859cd8abcf2"; // 2 bus days by 4pm if before 10am
    addSchedule(dc);

    // Since our start date is before 10:00am our result is two days from// now at 4:00pm.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 09:00:00");
    dc.setStartDateTime(gdt);
    if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
      gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
      return;
    }
    gs.log("Two days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());

    // Since our start date is after 10:00am our result is three days from
    // now at 4:00pm.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 11:00:00");
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  dc.setStartDateTime(gdt);
  if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
    gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
    return;
  }
  gs.log("Three days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
  // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.
  var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
  var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
  grSched.addQuery('name', scheduleName);
  grSched.query();
  if(!grSched.next()){
    gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
    return;}
  durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

### スクリプトでのテーブルのクエリ

GlideRecord API のメソッドを使用すると、テーブルからすべてのレコードを返したり、テーブルから特定の条件を満たすレコードを返したり、テキストインデックスグループ内の単一のテーブルまたは複数のテーブルから文字列を含むレコードを返したりできます。

GlideRecord API を使用してテーブルにクエリを実行します。API リファレンスについては、「GlideRecord - スコープ対象」を参照してください。

## テーブルからすべてのレコードを返す

テーブルにクエリを実行するには、最初に GlideRecord オブジェクトを作成します。GlideRecord を作成するには、スクリプトで次を作成します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
```

GlideRecord を作成すると、インシデントテーブルの GlideRecord オブジェクトである `target` 変数が作成されます。

インシデントテーブルのすべてのレコードを処理するには、次のスクリプトを追加します。

```
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

このスクリプトは、データベースに *`query()`* を発行します。*`next()`* を呼び出すたびに、処理のために次のレコードがロードされます。

## クエリ条件を満たすテーブルからレコードを返す

ほとんどの場合、特定のレコードまたは特定のレコードのセットを取得する必要があり、取得するレコードを定義するいくつかの基準 (クエリ条件) があります。たとえば、優先度の値が 1 のすべてのインシデントレコードを取得する必要があるとします。これを実行するコードを次に示します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addQuery('priority',1);
target.query(); // Issue the query to the database to get relevant records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

サンプルスクリプトに target.addQuery('priority', 1); が含まれていることに注目してください。この行は、*priority* フィールドが 1 に等しいレコードのみを要求していることを示しています。一般に、実行するクエリのほとんどは等価クエリです。つまり指定した値と等しいフィールドを持つレコードを検索するクエリです。そのため、等価演算子を指定する必要はありません。ただし、たとえば *priority* フィールドが 1 より大きいすべてのインシデントを検索するとします。この場合には、クエリに適用する演算子を指定します。

```
var target = new GlideRecord('incident') ;
target.addQuery('priority','>',1);
target.query(); // Issue the query to the database to get relevant records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

## テーブルから文字列を含むレコードを返す

予約名 '123TEXTQUERY321' を使用して、テーブルのすべてのフィールドで一致する文字列を検索します。たとえば、このスクリプトは、文字列 'email' を含むフィールド値を持つレコードをインシデントテーブルから返します。

```
var now_GR = new GlideRecord('incident');
gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email');
gr.query();
```

'123TEXTQUERY321' は、addQuery() メソッドの *name* パラメーターの予約済みオプションです。このオプションは、エンコードされたクエリ文字列で使用できます。たとえば、gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email'); の代わりに、gr.addEncodedQuery('123TEXTQUERY321=email') を使用できます。

文字列の検索では大文字と小文字が区別されません。email、Email、または EMAIL のいずれを検索しても、同じ結果が返されます。

**注:**
文字列検索を使用してクエリを実行する前に、検索するテーブルのテキストインデックス作成 (およびオプションで検索属性) を構成する必要があります。詳細については、「インデックス作成と検索のための単一のテーブルの構成」を参照してください。

## テキストインデックスグループの複数のテーブルから文字列を含むレコードを返す

テキストインデックスグループのテーブル内の文字列を検索するには、'123TEXTINDEXGROUP321' 予約名を使用します。このオプションは、テキストインデックスグループの設定を使用して計算された関連性スコアの結果を返します。

**注:**
テキストインデックスグループで一度にクエリできるテーブルは 1 つだけです。複数の単一テーブルクエリを発行して結果を結合し、関連性スコアで並べ替える場合は、このオプションを使用します。このオプションの利点は、個々のテーブルクエリの検索結果の関連性スコアが、テキストインデックスグループ内のすべてのテーブルで一貫して正規化されることです。

たとえば、このスクリプトは、「portal」インデックスグループに対して計算された関連性スコアと、キーワード「email」を含むレコードをナレッジテーブルから返します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
var now_GR = new GlideRecord('kb_knowledge');
gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email');
gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal');
gr.query();
```

検索する「ポータル」インデックスグループ内の追加のテーブルごとに同様のクエリを作成し、個々のクエリの結果を結合して、関連性スコアが最も高い結果を最初に表示することができます。これらの検索クエリはすべて同じテキストインデックスグループ検索設定を使用するため、結果の関連性スコアはすべて一貫して正規化されます。gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal') メソッドを使用せずに同じテーブルセットを検索した場合、個々のクエリの関連性スコアは異なる方法で正規化され、結合された結果セットをソートするための基準として役立ちません。

'123TEXTINDEXGROUP321' は、addQuery() メソッドの *name* パラメーターの予約済みオプションです。このオプションは、エンコードされたクエリ文字列で使用できます。たとえば、gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal'); の代わりに、gr.addEncodedQuery('123TEXTINDEXGROUP321=portal') を使用できます。

複数のテーブルの文字列の検索では大文字と小文字が区別されません。email、Email、または EMAIL のいずれを検索しても、同じ結果が返されます。

**注:**
インデックスグループ内のテーブルをクエリする前に、それらのテーブルのテキストインデックス作成と検索属性を構成し、インデックスグループにそれらを含める必要があります。詳細については、「インデックス作成と検索用の複数のテーブルの構成」を参照してください。インデックスグループ内のすべてのテーブルは、V4 インデックス形式を使用する必要があります。

### 使用可能な **JavaScript** 演算子

*addQuery()* 要求内で使用できる演算子について説明します。

使用可能な **JavaScript** 演算子

| フィールド | 定義 | addQuery |
|---|---|---|
| = | フィールドは、指定された値と等しい必要があります。 | addQuery('priority', '=', 1); |
| > | フィールドは、指定された値より大きい必要があります。 | addQuery('priority', '>', 1); |
| < | フィールドは、指定された値より小さい必要があります。 | addQuery('priority', '<', 3); |
| >= | フィールドは、指定された値以上である必要があります。 | addQuery('priority', '>=', 1); |
| <= | フィールドは、指定された値以下である必要があります。 | addQuery('priority', '<=', 3); |
| != | フィールドは、指定された値と等しくなっていない必要があります。 | addQuery('priority', '!=', 1); |
| STARTSWITH | フィールドは、指定された値で始まる必要があります。右側の例は、*short_description* フィールドが「Error」というテキストで始まるすべてのレコードを返します。 | addQuery('short_description', 'STARTSWITH', 'Error'); |
| CONTAINS | フィールドは、テキストのどこかに、指定された値が含まれている必要があります。右側の例では、*short_description* フィールド内のどこ | addQuery('short_description', 'CONTAINS', 'Error'); |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能な **JavaScript** 演算子 (続く)

| フィールド | 定義 | addQuery |
|---|---|---|
| | かに「Error」というテキストが含まれているすべてのレコードが返されます。<br><br>**注:** LIKE 操作はサポートされていません。管理者は、クエリで CONTAINS を使用する必要があります。 | |
| IN | カンマを許可する値のマップを取得し、他の要件を満たすレコードのコレクションを収集します。Select * from <table> where short_description IN ('Error', 'Success', 'Failure') と同じように動作します。これは Select * from <table> where short_description='Error' と同じです。たとえば、特定のアクティビティに属するすべての変数値のクエリを実行するには、*IN* 節を使用して、その sys_id をマップまたはカンマ区切りリストに格納します。次に、変数値テーブルにクエリを実行し、この sys_id のリストを指定します。 | addQuery('short_description', 'IN', 'Error,Success,Failure'); |
| ENDSWITH | フィールドは、指定された値で終了する必要があります。右側の例では、*short_description* フィールドが「Error」というテキストで終わるすべてのレコードを返します。 | addQuery('short_description', 'ENDSWITH', 'Error'); |
| DOES NOT CONTAIN | フィールドのパターンに一致しないレコードを選択します。この演算子は空のフィールドを取得しません。空の値の場合は、「is empty」または「is not empty」という演算子を使用します。右側の例では、*short_description* フィールドに「Error」という語が含まれていないすべてのレコードが返されます。 | addQuery('short_description', 'DOES NOT CONTAIN', 'Error'); |
| NOT IN | カンマを許可する値のマップを取得し、他の要件を満たすレコードのコレクションを収集します。次と同じように動作します。Select * from <table> where short_description NOT IN ('Error') | addQuery('short_description', 'NOT IN', 'Error,Success,Failure'); |
| INSTANCEOF | 拡張テーブルの指定された「クラス」のレコードのみを取得する特殊な演算子。右側のコード例は、コンピューターとして分類されているすべての構成アイテムを取得する方法を示しています。 | addQuery('sys_class_name', 'INSTANCEOF', 'cmdb_ci_computer'); |

フィルターとクエリに使用できる演算子の詳細については、「Operators available for filters and queries」を参照してください。

NULL または NOT NULL のデータを検索するために使用できる特殊なメソッドもあります。*short_description* フィールドが指定されていない (null である) すべてのインシデントを検索するには、次のクエリを使用します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addNullQuery('short_description');
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

*short_description* が指定されているすべてのインシデントを検索するには、次のクエリを使用します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addNotNullQuery('short_description');
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

*GlideRecord* API とその使用可能なメソッドの詳細については、「GlideRecord」を参照してください。

### GlideRecord クエリの例

これらの例は、さまざまな *GlideRecord* クエリを実行する方法を示しています。

クエリ

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.query();
while(rec.next()) {
  gs.print(rec.number + ' exists'); }
```

### update

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
while(rec.next()) {
  rec.active = false;
  gs.print('Active incident ' + rec.number = ' closed');
  rec.update(); }
```

### insert

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.initialize();
rec.short_description = 'Network problem';
rec.caller_id.setDisplayValue('Joe Employee');
rec.insert();
```

### delete

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',false);
rec.query();
while(rec.next()) {
  gs.print('Inactive incident ' + rec.number + ' deleted');
  rec.deleteRecord(); }
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## サービスカタログテーブルのクエリ

サービスカタログ要求アイテムテーブル [sc_req_item] の変数について直接クエリを実行することはできません。代わりに、変数名用と値用の 2 つのクエリを追加して、変数所有権テーブル [sc_item_option_mtom] にクエリを実行します。クエリは、要求アイテムにドット連結することができる多対多の関係を返します。次の例では、変数 *item_name* がありその値が *item_value* である要求アイテムを検索し、要求アイテム番号を表示します。

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_item_option_mtom');
gr.addQuery('sc_item_option.item_option_new.name','item_name');
gr.addQuery('sc_item_option.value','item_value');
gr.query();

while(gr.next()) {
  gs.addInfoMessage(gr.request_item.number); }
```

詳細については、「GlideRecord」を参照してください。

### 注文ガイドの自動実行

サービスカタログ注文ガイドを使用すると、複数の注文アイテムを生成できる単一のサービスカタログ要求を作成できます。管理者は注文ガイドを自動的に実行するように構成でき、サービスカタログ要求を手動で送信しなくてもワークフローまたはスクリプトから注文済みアイテムのセットを生成できます。管理者は、注文ガイドの失敗を確認して再処理することもできます。

ユースケースとして、新しい従業員のオンボーディングワークフローで自動的に注文ガイドを実行し、その従業員のアイテムを注文できます。

**注:**
注文ガイド (つまり、最初のランディングページのオプション) ではなく、カタログアイテムのみを保存できます。

### スクリプトからの注文ガイドの実行

サーバーサイドスクリプトを使用した注文ガイドの実行は、ワークフローを使用する場合よりも複雑ですが、柔軟性が高く、ワークフロー以外の状況でも使用できます。

たとえば、UI アクションまたはサーバーサイドのビジネスルールで注文ガイドスクリプトを使用できます。

**注:**
注文ガイドが自動的に実行されると、注文ガイドの UI ポリシーは適用されません。また、[オプションを選択] 画面のオプションは選択できないため、注文ガイドルールでこれらのオプションの合理的なデフォルトを定義して、処理の失敗を回避してください。

*SNC.ScriptableOrderGuide* Java クラスを使用して、スクリプトで注文ガイドを実行します。

*SNC.ScriptableOrderGuide(String orderGuideId)* コンストラクターを使用して、新しい ScriptableOrderGuide オブジェクトを作成します。

## メソッドの概要

| メソッド | リターン値 | 説明 |
|---|---|---|
| process(String json) | ブーリアン | 注文ガイドの入力として JSON エンコード文字列パラメーターを使用して、注文ガイドを実行します。処理が成功したかどうかに応じて *true* または *false* が返されます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| メソッド | リターン値 | 説明 |
|---|---|---|
| | | 注:<br>*opened_by* と *requested_for* の両方のパラメーターを注文ガイドに渡す必要があり、その両方に、有効なユーザーレコードの sys_id 値が必要です。<br><br>処理が成功し、注文ガイドによって要求が作成された場合は、*getRequest()* を使用して要求 GlideRecord を取得できます。<br><br>処理に失敗した場合は、*getFailure()* を使用して失敗した GlideRecord を取得し、reprocess を使用して再処理のためにスクリプトを送信できます。 |
| reprocess(GlideRecord failure) | ブーリアン | 失敗した GlideRecord に格納されている JSON エンコード文字列パラメーターを使用して、注文ガイドを再度実行します。 |
| getMessage() | 文字列 | 処理または再処理後に入力されたメッセージを取得します。 |
| getRequest() | GlideRecord | 要求 GlideRecord を取得します。 |
| getFailure() | GlideRecord | スクリプト可能注文ガイド失敗 [sc_script_order_guide_failure] テーブルから、失敗 GlideRecord を取得します。 |

## スクリプトの例

このスクリプトは、*IT Onboarding SOG* と呼ばれる注文ガイドを処理します。

```
// Creating the object to later be JSON encoded
var json =
 {"opened_by":"62826bf03710200044e0bfc8bcbe5df1","requested_for":"06826bf03710200044e0
bfc8bcbe5d8a","department":"221f3db5c6112284009f4becd3039cc9"};

var now_GR = new GlideRecord("sc_cat_item_guide");
if (gr.get("name","IT Onboarding SOG")) {
  var sog = new SNC.ScriptableOrderGuide(gr.getValue("sys_id"));
  var result = sog.process(new JSON().encode(json));
  if(!result)
    gs.log("Processing the scriptable order guide failed with message: " + sog.getMessage());
  else {
    var request = sog.getRequest();
    gs.log("Request created - " + request.sys_id); } }
```

### ワークフローからの注文ガイドの実行

より広範なワークフローベースのプロセスの一部として注文ガイドを含める場合は、ワークフローからの注文ガイドの実行が適しています。

たとえば、新しい従業員のオンボーディングワークフロー内のアクティビティで自動的に注文ガイドを実行し、その従業員のアイテムを注文できます。

注:
注文ガイドが自動的に実行されると、注文ガイドの UI ポリシーは適用されません。また、[オプションを選択] 画面のオプションは選択できないため、注文ガイドルールでこれらのオプションの合理的なデフォルトを定義して、処理の失敗を回避してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ワークフローから注文ガイドを実行するには、[スクリプト可能注文ガイド] ワークフローアクティビティを使用します。

ワークフローからの注文ガイドの実行

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 注文ガイド | このアクティビティが処理する注文ガイドの名前。たとえば、「サンプルの従業員オンボーディング **IT**」などです。 |
| スクリプト | 注文ガイドに情報を渡すスクリプトです。この情報は、*answer* 変数に割り当てられた JSON エンコード文字列パラメーターとして送信されます。<br><br>スクリプトは次の要件を満たす必要があります。<br>• スクリプト内の変数の名前は、注文ガイド内で使用されている名前と一致する必要があります。たとえば、注文ガイドがルール条件で *department* 変数を使用する場合、スクリプトは *department* パラメーターも渡す必要があります。<br>• *opened_by* と *requested_for* の両方のパラメーターを注文ガイドに渡す必要があり、その両方に、有効なユーザーレコードの sys_id 値が必要です。 |

## 結果

- 成功：アクティビティが注文ガイドを正常に処理しました。これは、要求が作成されたことを意味するものではありません。要求が作成された場合、要求 sys_id が、*sc_request* 変数の下のワークフロースクラッチパッドに追加されます。
- 失敗：注文ガイドの処理中にエラーが発生し、失敗レコードが作成されました。処理が失敗した場合は、失敗レコードを表示して編集できます。

## ワークフローの例

サンプルの従業員オンボーディング **IT** ワークフローというワークフローでは、この例を使用して、オンボーディングプロセスの一部として新しい従業員の IT カタログアイテムを生成します。

アクティビティは、このスクリプトを使用して次のことを行います。

1. 以前に HR 変更レコードから生成された JSON 文字列を取得します。
2. その文字列に必須の *opened_by* および *requested_for* パラメーターを追加します。
3. 注文ガイドで処理する新しい文字列を送信します。

```
var parameters  = new JSON().decode(current.payload);

// Need to amend the json object to include additional values.
parameters.opened_by = current.opened_by + "";
parameters.requested_for = current.opened_for + "";

answer = new JSON().encode(parameters);
```

### 注文ガイドの失敗の表示

たとえば、実行中の注文ガイドが存在しない場合、注文ガイドの処理は失敗する可能性があります。注文ガイドの処理中にエラーが発生した場合、[失敗した注文ガイド処理] サブモジュールを使用して、エラーを確認して再処理できます。各失敗のレコードが作成されます。初期エラーの原因となったエラーを修正した後で、失敗した注文ガイドを再処理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
失敗が発生した場合、スクリプト可能注文ガイド失敗 [sc_script_order_guide_failure] テーブルで失敗レコードが作成されます。

障害の詳細を表示するには、次に移動します。 サービスカタログ > カタログ管理 > 失敗した注文ガイド処理をクリックし、失敗レコードを開きます。

再処理の失敗

初期エラーの原因となったエラーを修正した場合は、失敗した注文ガイドを再処理できます。

手順

1. 移動先 サービスカタログ > カタログ管理 > 失敗した注文ガイド処理.
2. 失敗レコードを開きます。
3. [再処理] 関連リンクをクリックします。

1 つ以上の失敗を再処理するには、次のようにします。

a. 移動先 サービスカタログ > カタログ管理 > 失敗した注文ガイド処理.
b. 再処理する 1 つ以上のレコードの横にあるチェックボックスをオンにします。
c. [アクション] 選択リストから [再処理] を選択します。

### 実行計画のスクリプト可能なアサイン

各カタログアイテムには実行計画が関連付けられており、そのタイプのアイテムが注文されるたびに使用されます。計画が指定されていない場合は、デフォルトの計画が使用されます。このデフォルトはほとんどの組織で有効ですが、追加の基準に基づいて、実行計画を変更することが必要になる場合があります。

たとえば、基本システムのサービスカタログでは、新しい PC の要求は常に PC 配送計画を使用します。ただし、要求者がリモートの場所で作業している場合など、例外的な状況では、この計画を変更する必要があります。

この柔軟性を提供するために、スクリプトを使用して特定のカタログアイテムのデフォルトの実行計画を上書きできます。

### スクリプト実行時の制限

実行計画スクリプトには、実装時に考慮する必要がある制限があります。

実行計画スクリプトの実行中：

- カタログタスクは実行計画が選択された後にのみ作成されるため、カタログタスクを操作することはできません。
- [合計配送時間] や [期日] などの一部のフィールドはまだ計算されていませんが、要求自体は `current.request()` を介してスクリプト内で使用できます。
- 承認はまだ生成されていません。

### スクリプトの作成

実行計画スクリプトを記述するときは、次のガイドラインに従ってください。

実行計画スクリプトは、他のサーバーサイドの実行計画と同じグローバル変数や他の関数にアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- *current* は現在要求されているカタログアイテム sc_req_item です。
- *current.delivery_plan()* は、このカタログアイテムにアサインされた実行計画です。

スクリプトからの評価値は、実行計画の sys_id として使用されます。

簡単な例：

```
current.delivery_plan.setDisplayValue('PC Delivery Plan')
```

未定義または見つからないなどの無効な値が返された場合は、既存のアサイン値が使用されます。

複雑な例：

```
getexecutionplan();
function getexecutionplan() {
var location = current.request.requested_for.location.getDisplayValue();
// if we're in Atlanta
if (location == 'Atlanta') {
   // use the remote pc delivery plan instead of the normal one
   var remote_plan = new GlideRecord('sc_cat_item_delivery_plan');
   remote_plan.addQuery('name', 'Remote PC Delivery Plan');
   remote_plan.query();
   remote_plan.next();
   current.delivery_plan = remote_plan.sys_id;
   return remote_plan_sys_id;
   }
   return current_delivery_plan;
}
```

この例では、要求が Atlanta のユーザーに対するものである場合は常に、ServiceNow はリモート PC 配送計画を使用します。そうでない場合、実行計画は上書きされず、ServiceNow はカタログアイテムの通常の実行計画である PC 配送計画を使用します。

### スクリプトのカタログアイテムへの追加

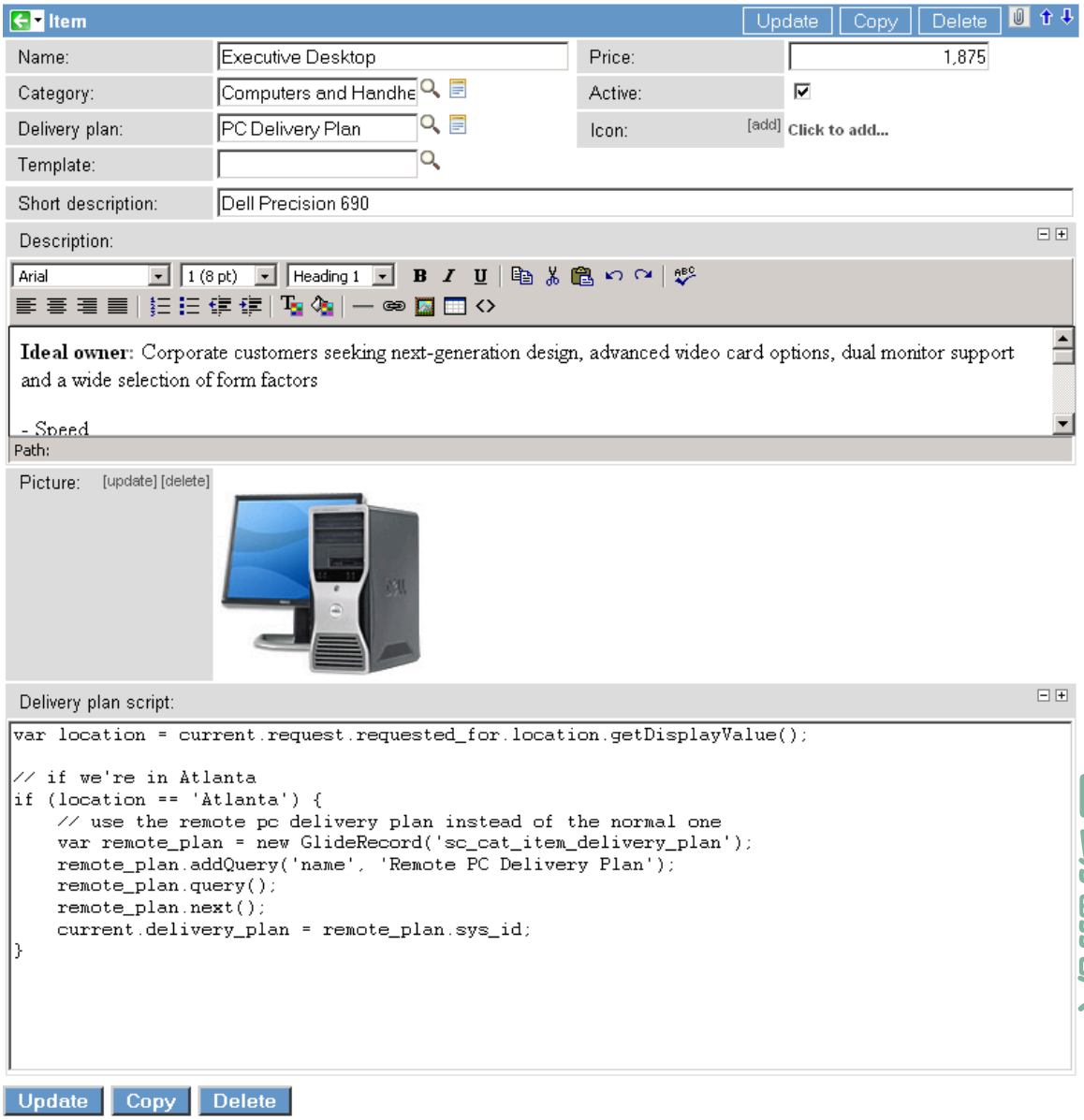
カタログアイテムにスクリプトを追加して、ユーザーがそのアイテムを要求するたびにスクリプトが実行されるようにすることができます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > アイテムの管理.
2. スクリプトを追加する関連カタログアイテムを選択します。
3. カタログアイテムフォームを構成して、実行計画スクリプトフィールド (たいていは「配送計画スクリプト」という名前) を追加します。
4. スクリプトの詳細を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**5.** アイテムフォームを変更して更新します。

### タスクの結果

アイテムが要求されるたびにスクリプトが実行され、そのアイテムで実行する実行計画が選択されます。

## スクリプトを使用した実行計画の承認

承認ルールスクリプトを使用して、実行計画を承認できます。

### 手順

**1.** 承認計画承認タスクを取得します。

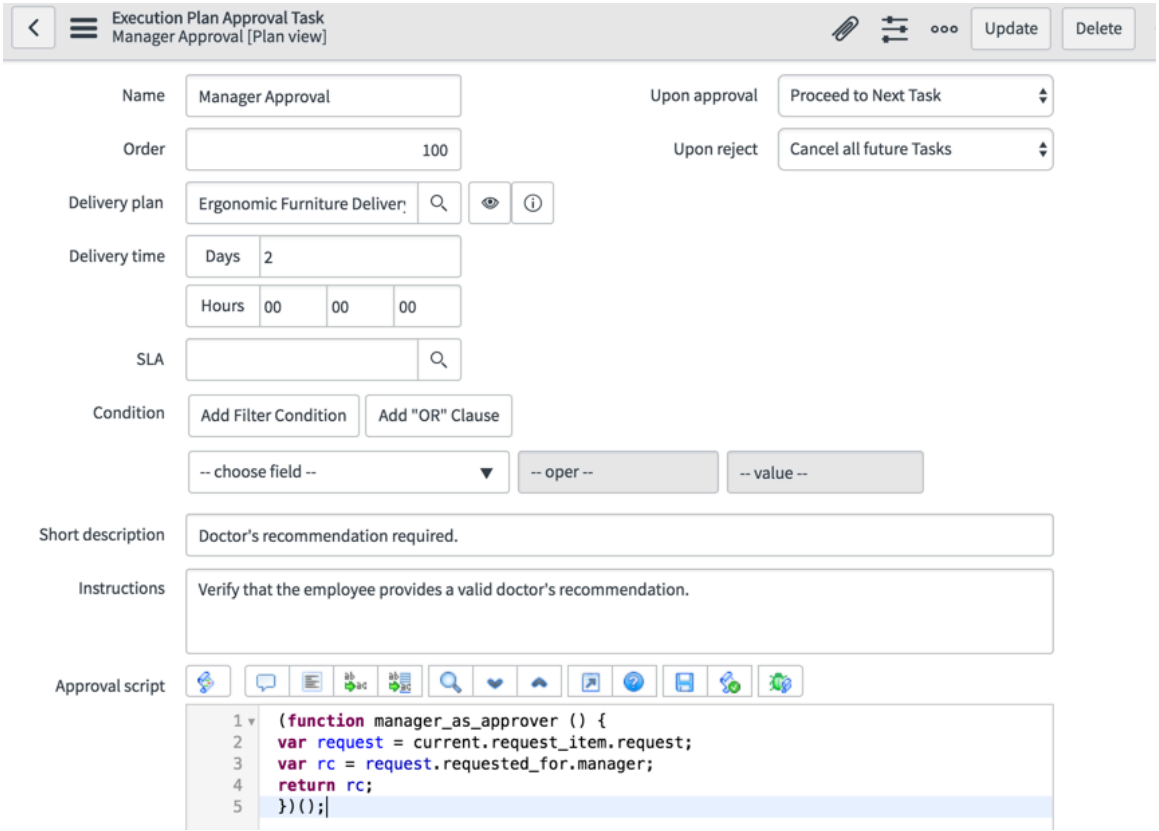
**2.** [承認スクリプト] フィールドを表示します。

**3.** 承認ルールで使用するものと同じ構文とルールを使用して、承認スクリプトを入力します。

**Example:**
たとえば、以下のスクリプトでは、要求者のマネージャーが承認者です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




### スクリプト可能サービスカタログ変数

スクリプティングを使用して、スコープ指定された環境およびスコープ指定されていない環境内のテーブルから任意の要求アイテム変数を参照できます。

変数参照の例を次に示します。

```
current.variables.<variable_name>
```

ここで current は現在のレコードを指し、*<variable_name>* は変数の名前です。

> **注:**
> JavaScript から変数を参照するには、その変数に名前が必要です。

変数が変数セットの一部である場合、変数を current.variables.<variable_name> または current.variables.<variable_set_name>.<variable_name> として参照できます。

変数セットは、Service Catalog の第一級要素でもあります。変数と同様に、変数セットには読み取り、書き込み、作成の各ロールがあります。変数セットにロールが指定されている場合、ロールはそのセット内の変数に適用されます。個々の変数のロールは、変数セットのロールによって上書きされます。

### 変数を出力する

```
var original = current.variables.original_number;
gs.print(original);
```

### 変数を設定する

```
current.variables.name = "Auto-Generated:" + current.variables.asset_tag;
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 変数からフィールドセットでインベントリアイテムを作成する

```
doCreation();

function doCreation ( ) {
var create = current.variables.create_item;
if (create == 'true') { // we want to create an asset
  var computer = new GlideRecord('cmdb_ci_computer');
  computer.initialize();
  computer.asset_tag = current.variables.asset_tag;
  computer.serial_number = current.variables.serial_number;
  computer.name = current.variables.name;
  computer.manufacturer = current.variables.company;
  computer.insert(); } }
```

### **GlideRecord** に関連付けられた変数と変数セットの **GlideElementVariable** を取得する

```
now_GR.variables
```

### **GlideRecord** に関連付けられた変数の名前の値のペアを取得する

```
now_GR.variables.getVariableValue();
```

### タスクレコード内の変数の **GlideElementVariable** のリストを取得する

```
now_GR.variables.getElements();
```

### タスクレコード内の変数 (複数行の変数セットを含む) の **GlideElementVariable** のリストを取得する

```
now_GR.variables.getElements(true);
```

**注:**
`getElements()` メソッドは、ラベル、ブレーク、コンテナ終了、コンテナ分割などのフォーマッター変数を除く、指定されたタスクレコードに存在するすべての変数を返します。

### **GlideElementVariable** の **API**

- `now_GR.variables.<var_name>.isMultiRow()`：GlideElementVariable が複数行の変数セットであるか変数であるかどうかを取得します。
- `now_GR.variables.<var_name>.getQuestion()`：変数の Question オブジェクトを取得します。変数 (`isMultiRow()` は false) にのみ適用され、複数行の変数セットには適用されません。
- `now_GR.variables.<var_name>.getLabel()`：GlideElementVariable のラベルを取得します。変数には、変数のラベルが返されます。複数行の変数セットには、変数セットのタイトルが返されます。
- `now_GR.variables.<var_name>.canRead()`：ユーザーが変数または複数行の変数セットを表示できるかどうかを取得します。
- `now_GR.variables.<var_name>.canWrite()`：ユーザーが変数または複数行の変数セットを編集できるかどうかを取得します。
- `now_GR.variables.<var_name>.getDecryptedValue()`：マスク済み変数の復号化された値を取得します。マスク済み変数にのみ適用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- *now_GR.variables.<var_name>.getRows()*：複数行の変数セットの行オブジェクトのリストを取得します。複数行の変数セット (*isMultiRow()* は true) にのみ適用されます。
- *now_GR.variables.<var_name>.getRowCount()*：複数行の変数セットの行数を取得します。複数行の変数セット (*isMultiRow()* は true) にのみ適用されます。

### タスクテーブルの GlideRecord の変数にアクセスする例

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_req_item');
if (now_GR.get('635a1f5387320300e0ef0cf888cb0b73')) {
    var variables = now_GR.variables.getElements();
    for (var i=0;i<variables.length;i++) {
        var question = variables[i].getQuestion();
        gs.log(question.getLabel() + ":" + question.getValue())
    }
}
```

### タスクテーブルの GlideRecord の複数行の変数セットにアクセスする例

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_req_item');
now_GR.get('02c38dcd87013300e0ef0cf888cb0bb2');

var vars = now_GR.variables.getElements(true);

for (var i=0; i<vars.length; i++) {
    var now_V = vars[i];
    if (now_V.isMultiRow()) {
        var rows = now_V.getRows();
        for (var j=0; j<now_V.getRowCount(); j++) {
            var row = rows[j];
            var cells = row.getCells();
            for (var k=0; k<cells.length; k++) {
                var cell = cells[k];
                gs.info(cell.getLabel() + ":" + cell.getCellDisplayValue())
            }
        }
    }
}
```

### 複数行の変数セット

複数行の変数セット

| 運用 | 使用法 |
|---|---|
| テーブルの操作 | |
| JSON アレイの値を文字列として返す | `now_GR.variables.table_var` |
| 複数行の変数セットの値を設定する | `now_GR.variables.table_var = <val>`<br>**注:** 順序付けされた (キー、値) ペアのアレイも入力として適用できます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数行の変数セット (続く)

| 運用 | 使用法 |
| --- | --- |
| 複数行変数セットの列 var1 の値を取得する | now_GR.variables.table_var.var1 |
| 変数セット var1 の値を設定する | now_GR.variables.table_var.var1 = <val><br>**注:**<br>順序付けされた (キー、値) ペアのアレイも入力として適用できます。 |
| 行の操作 | |
| 現在の行数を取得する | now_GR.variables.table_var.getRowCount() |
| 変数「i」で指定された行を返す - getRow(<int> i) | var row =<br>now_GR.variables.table_var.getRow(<int> i); |
| <var_name> にマップされた質問列のセル値を取得する | row.<var_name> |
| <var_name> にマップされた質問列のセル値を設定する | row.setCellValue('<var_name>',value) |
| <var_name> にマップされた質問列のセル値を設定する | row.<var_name> = value |
| テーブルの最後に空の行を追加し、スクリプト可能オブジェクトを返す | var row =<br>now_GR.variables.table_var.addRow() |
| 行を削除する | row.deleteRow() |

## 注意と制限

- // table_Var の単一の列
- now_GR.variables.table_var.var1
- now_GR.variables.table_var.var1 = <val>

1. 前のビジネスルールに変数を設定することのみが可能です。後のルールに設定された変数はデータベースに書き込まれません。
2. 変数との名前空間の衝突を防ぐ方法は用意されていません。computer_speed という名前の 2 つの変数を作成すると、そのうちの 1 つだけが表示され、2 番目の変数で最初の変数が上書きされます。
3. 日付/時刻変数は、システム内の他のすべての日付と同じタイムゾーンのフォーマットおよびストレージルールを使用します。それらは GMT で内部的に保存されますが、表示用にはユーザーのローカルのタイムゾーンと形式に変換されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### GlideRecord 変数を null に設定

GlideRecord 変数 (current を含む) は、データベース内での初期状態は null です。これらを空の文字列、スペース、または JavaScript null 値に戻しても、この初期状態には戻りません。

**注:**
この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

初期状態に設定を戻すには、値を「NULL」に設定します。*update()* 関数は、現在のオブジェクトではなくレコードで実行されることに注意してください。オブジェクトは、レコードから再度呼び出されるまで初期値を表示します。

**注:**
ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

#### 例 1

```
var grIncident = new GlideRecord('incident');
grIncident.addNotNullQuery("assigned_to");
grIncident.query();
if (grIncident.next()) {
  gs.log(“The incident record that is going to be updated is “ + grIncident.number);
  gs.log("Previous Value of 'Assigned To' field: " + grIncident.assigned_to);
  grIncident.assigned_to = "NULL";
  grIncident.update();
  gs.log("Current Value of 'Assigned To' field: " + grIncident.assigned_to);
}
```

#### 例 2 (ビジネスルール)

```
current.u_affected_value = 'NULL';
current.update();
```

### スケジュールページ

スケジュールページは、カレンダーまたはタイムライン表示のカスタム生成を可能にする、スクリプトのコレクションを含むレコードです。

タイムラインスケジュールページを作成するには、ページ/イベントフローを理解し、クライアントおよびサーバーサイドの JavaScript を作成できる必要があります。

### スケジュールページフォーム

スケジュールページにアクセスするには、次の場所に移動します。 システムスケジューラ > スケジュール > スケジュールページ.

フォームには、選択したビュータイプに応じて次のフィールドが表示されます。

スケジュールページフォーム

| フィールド | フィールドタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| 名前 | 文字列 | 現在のスケジュールページの識別に使用する一般名。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールページフォーム (続く)

| フィールド | フィールドタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| スケジュールタイプ | 文字列 | スケジュールタイプは、「sysparm_page_schedule_type」URI パラメーターを介してスケジュールページを一意に識別するために使用する文字列です。たとえば、次のようにスケジュールページにアクセスできます。<br><br>/show_schedule_page.do?sysparm_type=gantt_chart&sysparm_timeline_task_id=d530bf907f0000015ce594fd929cf6a4<br><br>または、「*sysparm_page_sys_id*」URI パラメーターをスケジュールページの 32 文字からなる 16 進数で構成される一意のシステム識別子に設定すると、スケジュールページにもアクセスできます。 |
| ビュータイプ | 選択肢 | 各ビュータイプには、異なるフィールドの組み合わせが表示されます。利用可能なオプションは 2 つあります。<br>• カレンダー<br>• タイムライン |
| 説明 | 文字列 | 現在のスケジュールページに関する詳細情報を表示する一般的な説明。このフィールドは必須ではありません。 |
| Init 関数名 | 文字列 | **注:**<br>この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。<br><br>init 関数名は、[カレンダー] タイプのスケジュールページの [クライアントスクリプト] 関数内で呼び出す JavaScript 関数の名前を指定します。 |
| HTML | 文字列 | **注:**<br>この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。<br><br>HTML フィールドは、Jelly によって解析され、カレンダーの残りの部分より前に表示ページに挿入される、スクリプト可能セクションです。これはサーバーから変数を渡すために使用し、必要かつ余分なフィールドを定義できます。 |
| クライアントスクリプト | 文字列 | クライアントスクリプトは、スケジュールページの表示オプションを設定できるスクリプト作成可能なセクションです。API はスケジュールページのビュータイプによって異なり、説明は次のとおりです。 |
| サーバー AJAX プロセッサー | 文字列 | **注:**<br>この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。<br><br>サーバー AJAX プロセッサーは、カレンダータイプのスケジュールページに特有のもので、表示するスケジュールアイテムとスパンのセットを返すために使用されます。 |

### タイムラインスケジュールページ

タイムラインスケジュールページは、時間ベースのポイントとスパンを「タイムライン」のような形式で表示するための構成情報を含む特定のレコードです。

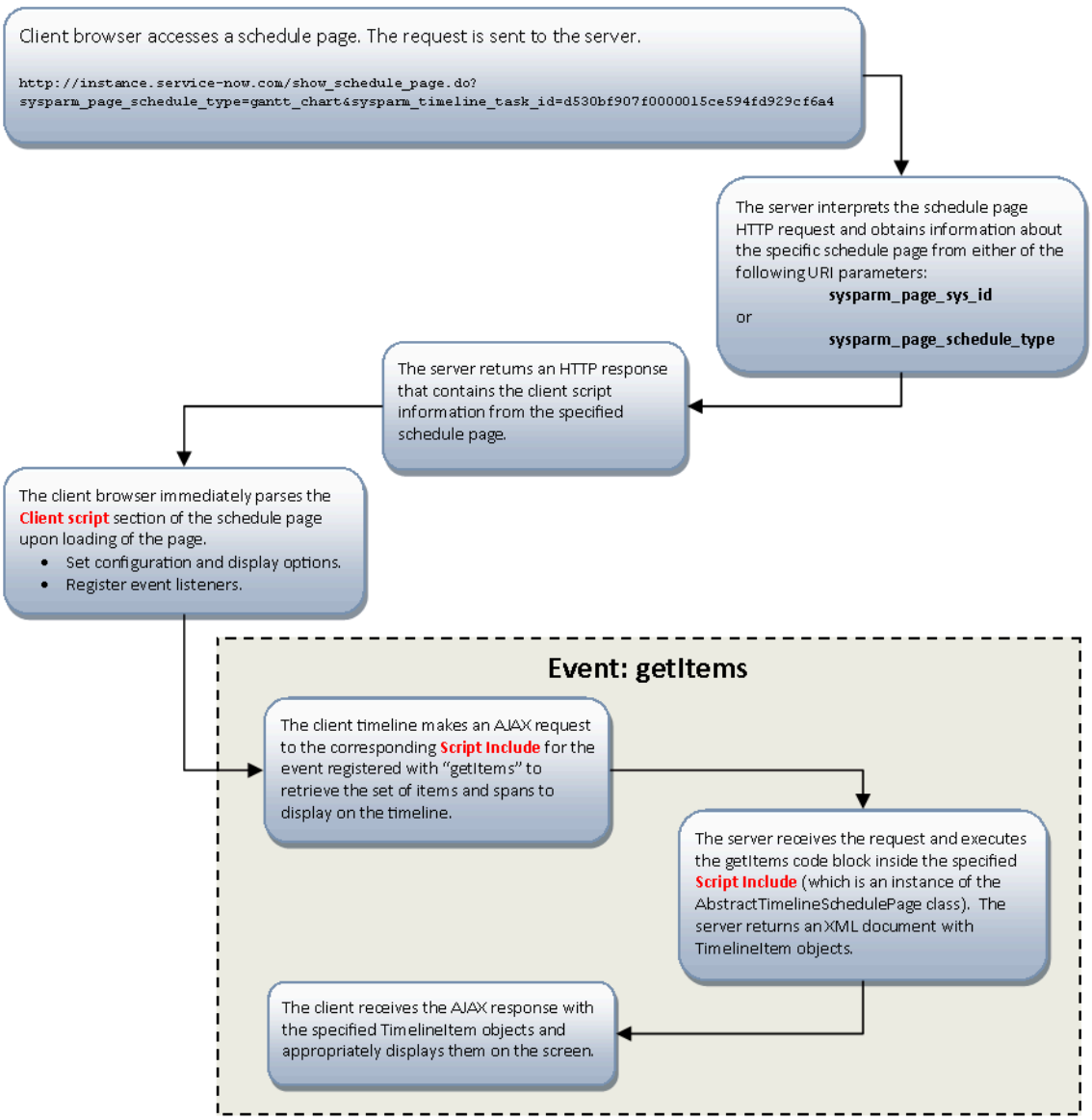
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインスケジュールページは、AbstractTimelineSchedulePage から拡張されたスクリプトインクルードを参照して、さまざまなイベントや条件に基づいてタイムラインを動的に変更します。スケジュールページとタイムライン生成用のスクリプトインクルードはどちらも、高度なカスタマイズが可能です。対応するアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を以下に示します。

次の図は、タイムラインのスケジュールページにアクセスしたときに発生する一連のイベントを示しています。タイムラインがロードされると、タイムラインのインタラクション (タイムラインスパンの移動など) から発生するイベントなど、後続のすべてのイベントは、灰色のイベントボックスに表示されるものと同じロジックフローに従います。

タイムラインフロー




## スケジュールページを使用してタイムラインを生成するアプリケーション

- プロジェクト管理
- メンテナンススケジュール
- グループオンコールローテーション
- Field Service Management

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### タイムラインスケジュールページの例

次の例は、上記の API の大部分を利用して、対応するスクリプトインクルードでタイムラインスケジュールページを作成する方法を示しています。

この例では、プロジェクトサポートマネージャーのインシデントサマリータイムラインを作成して、すべての新しいインシデントをビジュアル化します。すべての新しいインシデントは、ポイントアイコンの違いでインシデントの優先度が区別される、単一のポイントとして表示されます。さらに、すべてのクローズ済みインシデントは、クローズされる前のインシデントの期間を示す別のグループとしてタイムラインに表示する必要があります。プロジェクトマネージャーは、解決済みの新しいアイテムをフォームリストを使用せずに簡単にクローズできる必要があるため、垂直移動イベントを処理して、新しいインシデントをクローズ済みインシデントグループまたはその中のアイテムにドラッグできるようにします。

### スケジュールページ

次のプロパティで新しいスケジュールページを作成します。

- 名前：ハードウェアインシデント
- スケジュールタイプ：incident_timeline
- ビュータイプ：タイムライン
- クライアントスクリプト：

```
// Set our page configuration
glideTimeline.setReadOnly(false);
glideTimeline.showLeftPane(true);
glideTimeline.showLeftPaneAsTree(true);
glideTimeline.showTimelineText(true);
glideTimeline.showDependencyLines(false);
glideTimeline.groupByParent(true);
glideTimeline.setDefaultPointIconClass('milestone');

// We will define what items to display and provide a custom event handler for moving new
 items to the closed state
glideTimeline.registerEvent('getItems', 'IncidentTimelineScriptInclude');
glideTimeline.registerEvent('elementMoveY', 'IncidentTimelineScriptInclude');
```

### スクリプトインクルード

スケジュールページが作成されたので、登録されたイベントの一致するスクリプトインクルードを生成する必要があります。次のプロパティで新しいスクリプトインクルードを作成します。

- 名前： IncidentTimelineScriptInclude
- アクティブ：オン
- クライアントコール可能：オン
- **Script :**

```
// Class Imports

var IncidentTimelineScriptInclude = Class.create();
IncidentTimelineScriptInclude.prototype =
 Object.extendsObject(AbstractTimelineSchedulePage, {

 ////////////////////// // GET_ITEMS ////////////////////////////////////
 getItems:function() {
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
// Specify the page title
this.setPageTitle('My Custom Incident Summary Timeline');

var groupNew = new GlideTimelineItem('new');
groupNew.setLeftLabelText('New Incidents');
groupNew.setImage('../images/icons/all.gifx');
groupNew.setTextBold(true);
this.add(groupNew);

var groupClosed = new GlideTimelineItem('closed');
groupClosed.setLeftLabelText('Closed Incidents');
groupClosed.setImage('../images/icons/all.gifx');
groupClosed.setTextBold(true);
groupClosed.setIsDroppable(true);

// This allows us to drag an open incident onto the closed group row.
this.add(groupClosed);

// Get all the incidents and let's add only the new/closed ones appropriately
var now_GR = new GlideRecord('incident');
gr.query();
while(gr.next()) {
  // Only loop through new/closed incidents
  if(gr.incident_state != '1' && gr.incident_state != '7') continue;

  // Ok, we have a new/closed incident. Create the item and the span first.
  var item = new GlideTimelineItem(gr.getTableName(), gr.sys_id);
  var span = item.createTimelineSpan(gr.getTableName(), gr.sys_id);

  // Specific properties for a new incident
  if(gr.incident_state == '1') { // New
    item.setParent(groupNew.getSysId());
    item.setImage('../images/icons/open.gifx');
    span.setTimeSpan(gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericValue(),
                     gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericValue());

    // We'll show different colors based upon the priorities only for new incidents
    switch(gr.getElement('priority').toString()) {
      case '1': span.setPointIconClass('red_circle'); break;
      case '2': span.setPointIconClass('red_square'); break;
      case '3': span.setPointIconClass('blue_circle'); break;
      case '4': span.setPointIconClass('blue_square'); break;
      case '5': span.setPointIconClass('sepia_circle'); break;
      default: // Otherwise, the default point icon class will be used (Milestone)
    }
  }
  // Specific properties for a closed incident
  else if(gr.incident_state == '7') {
    item.setParent(groupClosed.getSysId());
    item.setImage('../images/icons/closed.gifx');
    span.setTimeSpan(gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericValue(),
                     gr.getElement('closed_at').getGlideObject().getNumericValue()); }

  // Common item properties
  item.setLeftLabelText(gr.short_description);

  // Common span properties
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      span.setSpanText(gr.short_description);
      span.setTooltip('<strong>' + GlideStringUtil.escapeHTML(gr.short_description) +
'</strong><br>' + gr.number);
      span.setAllowXMove(false);
      span.setAllowYMove(gr.canWrite() ? true:false);
      span.setAllowYMovePredecessor(false);
      span.setAllowXDragLeft(false);
      span.setAllowXDragRight(false);

      // Now we add the actual item
      this.add(item);
      } } ,


 ////////////////////// //
ELEMENT_MOVE_Y ////////////////////////////////////////////////////////////

 /**
 * This is one of the AbstractTimelineSchedulePage event handler methods that corresponds
to a vertical
 * move. The arguments for this function are defined in the API section of the event handler
methods.
 */
 elementMoveY: function(spanId, itemId, newItemId) {

  // Get information about the current incident
  var now_GR = new GlideRecord('incident');
  gr.addQuery('sys_id', spanId);
  gr.query();
  if(!gr.next())
    return this.setStatusError('Error', 'Unable to lookup the current incident.');

  // Only allow the new incidents to have their state adjusted.
  if(gr.incident_state != '1')
    return this.setStatusError('Error','Only new incidents can have their state adjusted.');

  // Get information about the dropped GlideTimelineItem. If it was dropped in an item on the
"New Incidents"
  // group let's do nothing. If it was dropped in the "Closed Incidents" then let's adjust the
state automatically.
  var grDropped = new GlideRecord('incident');
  grDropped.addQuery('sys_id', newItemId );
  grDropped.query();
  if(!grDropped.next() || grDropped.incident_state == '7') {
     // This means the dropped item was either the 'Closed Incidents' group (which has no
record or sys_id) or an
     // existing incident that is closed. The 'New Incidents' also has no sys_id; however, the
default behavior for
     // items without a sysId is to be non-droppable. This is why we explicitly denoted the
'Closed Incidents' to
     // be marked as "droppable".

     // Return a dialog prompt
     this.setStatusPrompt('Confirm', 'Are you sure you want to close: ' +
          '<div style="margin:10px 0 10px
14px;padding:4px;background-color:#EBEBEB;"><strong>' +
           GlideStringUtil.escapeHTML(gr.short_description) +
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            '</strong><br/><div class="font_smaller">' + now_GR. number + '</div></div>',
            'this._elementMoveYHandler_DoClose', // This function is for when the OK button is
clicked.
            'this._elementMoveYHandler_DoNothing', // This function is for when the Cancel
button is clicked.
            'this._elementMoveYHandler_DoNothing'); // This function is for when the Close
button is clicked.
    } } ,

 _elementMoveYHandler_DoClose: function(spanId, itemId, newItemId) {
   // Notice that this function takes the same function arguments as the original function for
which it
   // is a custom event handler for.

   // Update the database record from 'New' to 'Closed'.
   var now_GR = new GlideRecord('incident');
   gr.addQuery('sys_id', spanId);
   gr.query();
   gr.next();
   gr.setValue('incident_state', '7');
   gr.update();

   // This will re-render the timeline showing the updated item in the closed group.
   this.setDoReRenderTimeline(true);

   // Let's show a success message
   this.setStatusSuccess('Success', '<strong>' + gr.short_description + '</strong> was
successfully closed.'); } ,

 // Since the user clicked cancel or close we simply do nothing.
 _elementMoveYHandler_DoNothing: function(spanId, itemId, newItemId) { }

});
```

## スクリーンショット/結果

1. 移動先：

   http://[YOURINSTANCE]:8080/show_schedule_page.do?
   sysparm_page_schedule_type=incident_timeline

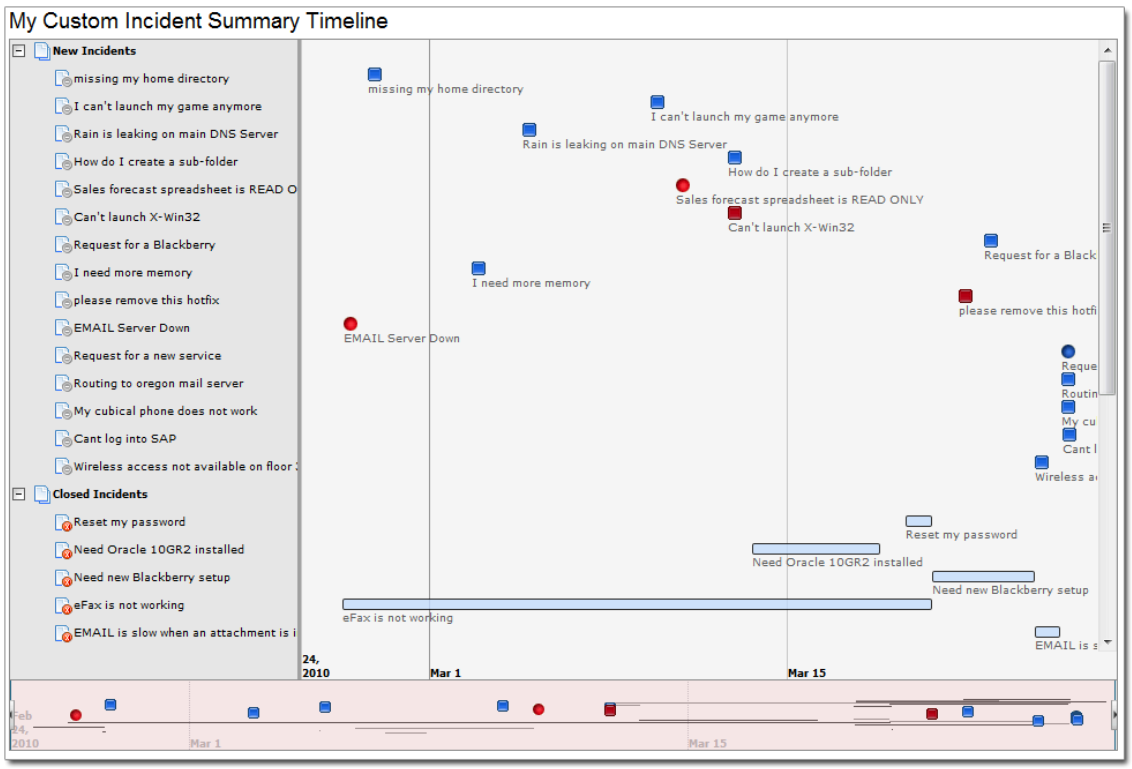
   太字のテキストは、スケジュールページの [スケジュールタイプ] フィールドの値です。

2. ページには、スケジュールページで指定されたタイムラインと作成されたスクリプトインクルードが表示されます。このページへのリンクを作成し、必要に応じてモジュールまたは UI アクションとして配置できます。

自動翻訳

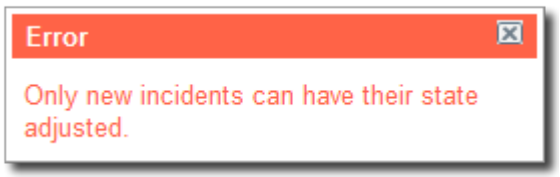
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインのインシデントのプレビューの例



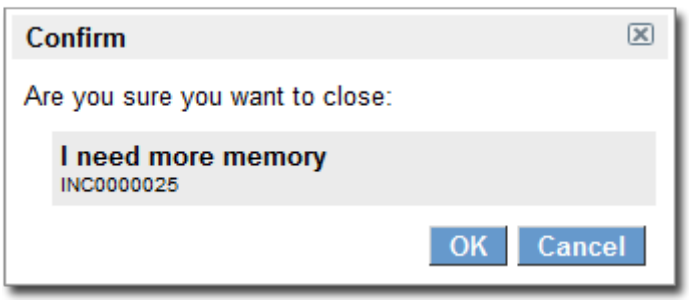

3. クローズ済みインシデントをいずれかの場所に移動しようとすると、予想されるエラーメッセージが表示されます。

タイムラインの移動エラーの例




4. インシデントの移動：次の確認ボックスに「さらにメモリが必要 *(I need more memory)*」と表示されます 。

タイムラインのクローズ確認の例

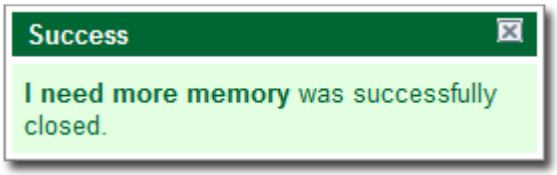



5. [キャンセル] ボタンをクリックすると、オーバーレイが閉じられます。**[OK]** ボタンをクリックすると、実際にはレコードの incident_state が更新され、次の成功ボックスが表示されます。

自動翻訳

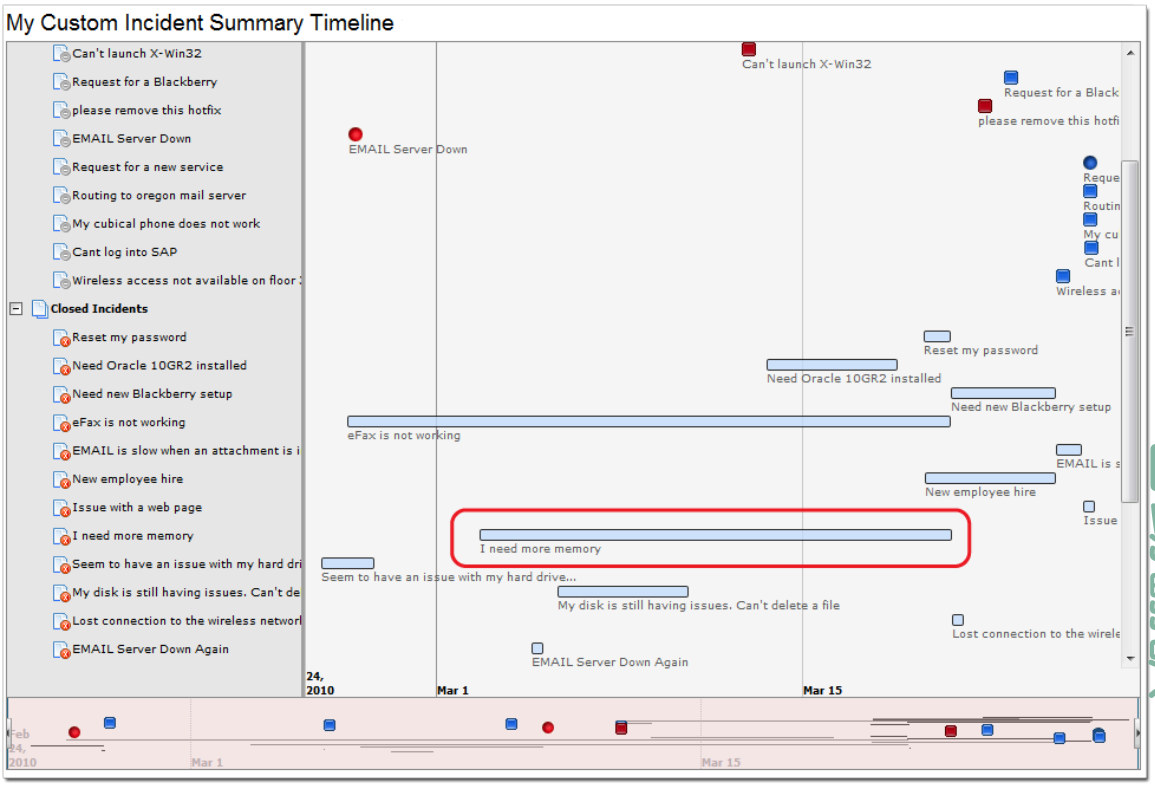
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインのクローズ成功の例




6. **[OK]** をクリックすると、インシデントは [クローズ済みインシデント] グループにリストされるようになります。

タイムラインのインシデント更新の例




## **XMLDocument** スクリプトオブジェクト

XML ドキュメント (文字列) から XML データを解析および抽出するための JavaScript オブジェクトラッパー。

この Javascript クラスを使用して、XML 文字列からオブジェクト (通常は Web サービスの呼び出しからの戻り値)、または ECC キューの XML ペイロードをインスタンス化します。Javascript ビジネスルールで XMLDocument オブジェクトを使用すると、XML 要素と属性から直接、値のクエリを実行できます。

### コンストラクター

スクリプトオブジェクトのコンストラクターは、使用するオブジェクトの新しいインスタンスを作成します。

```
var xmlString = "<test>" +
            "  <one>" +
            "    <two att=\"xxx\">abcd1234</two>" +
            "    <three boo=\"yah\" att=\"yyy\">1234abcd</three>" +
            "    <two>another</two>" +
            "  </one>" +
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            "  <number>1234</number>" +
            "</test>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString);
```

名前空間で修飾された XML 文字列の XML 解析を実行するには、XMLDocument コンストラクターの 2 番目の引数に「true」を指定します。次の例は、要素の名前空間修飾を含む XML 文字列の解析です。

```
var xmlString = "<bk:book xmlns:bk='urn:loc.gov:books'
 xmlns:isbn='urn:ISBN:0-395-36341-6'>" +
              "<bk:title>Cheaper by the Dozen</bk:title>" +
              "<isbn:number>1568491379</isbn:number>" +
            "</bk:book>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString, true); // XML document is name space aware
```

## ノードと要素の配置

XMLDocument オブジェクトを準備できたので、次の API を呼び出して、XML ドキュメントのノードと要素を検索したり、そこからテキストを直接抽出したりできます。ノードと属性を検索するためのクエリ構文は、XPath に基づいています。

**注:**
このオブジェクトの XML 解析は名前空間を認識しません。つまり、名前空間があるノード名 (たとえば「<names:myelement> ...」など) を検索する場合に、XPath 検索文字列は「//myelement」になります。

XPath でノードを検索し、結果のノードからテキスト値を取得する例を次に示します。

```
var str = xmldoc.getNodeText("//two"); // returns the first occurrence of the node
// str == "abcd1234"

str = xmldoc.getNodeText("//three");
// str == "1234abcd"

str = xmldoc.getNodeText("/test/one/*");
// str == "abcd1234"

str = xmldoc.getNodeInt("//number");
// str == 1234
```

次の例では、XPath でノードを検索し、ノードと要素で API を使用して属性と値を取得します。

```
var node = xmldoc.getNode("/test/one/two");
// node.getNodeName() == "two"
// node.getNodeType() == "1" // 1 == ELEMENT_NODE
// node.getLastChild().getNodeType() == "3" // 3 == TEXT_NODE
// node.getLastChild().getNodeValue() == "abcd1234"
```

または、次の便利な関数を使用してノード名とタイプを取得することもできます

```
str = xmldoc.getNodeName("//three");
// str == "three"

str = xmldoc.getNodeType("//three");
// str == "1"
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

反復できる、または位置により直接アクセスできるノードのリストを取得することもできます

```
var nodelist = xmldoc.getNodes("//one/*"); // two, three, and two
// nodelist.getLength() == "3"
// nodelist.item(0).getNodeName() == "two"
// nodelist.item(1).getNodeName() == "three"
```

次の例は、名前空間で修飾された XML 文字列の解析です。

```
var xmlString = "<bk:book xmlns:bk='urn:loc.gov:books'
 xmlns:isbn='urn:ISBN:0-395-36341-6'>" +
              "<bk:title>Cheaper by the Dozen</bk:title>" +
              "<isbn:number>1568491379</isbn:number>" +
            "</bk:book>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString, true);
var str = xmldoc.getNodeText("//bk:title"); // returns the first occurence of the node
gs.log(str);

str = xmldoc.getNodeText("/bk:book/*");
gs.log(str);

str = xmldoc.getNodeInt("//isbn:number");
gs.log(str);
```

## 属性値の取得

属性は単なるノードの拡張であるため、まったく同じ API を持ちます。

次の例は、ノードにクエリを実行して、その属性を位置で取得する方法を示しています

```
node = xmldoc.getNode("//two");
// node.getAttributes().item(0).getNodeValue() == "xxx"

str = xmldoc.getAttribute("//two", "att");
// str == "xxx"
```

XPath には、属性ノードを直接検索するためのクエリ構文もあります。以下に例を示します。

```
str = xmldoc.getNodeText("//*[@att=\"yyy\"]");
// str == "1234abcd"

str = xmldoc.getNode("//@boo").getNodeValue();
// str == "yah"
```

## 新しい要素の作成

XML ドキュメントが作成されれば、XML ドキュメントのどのレベルでも XML 要素を作成できます。*setCurrent* 関数を使用して新しい要素を子要素として作成する位置を指定し、*createElement* 関数を使用して要素を作成します。

```
var xmlString = "<test>" +
            "  <one>" +
            "    <two att=\"xxx\">abcd1234</two>" +
            "    <three boo=\"yah\" att=\"yyy\">1234abcd</three>" +
            "    <two>another</two>" +
            "  </one>" +
            "  <number>1234</number>" +
            "</test>";
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var xmldoc = new XMLDocument(xmlString);
xmldoc.createElement("new", "test"); // creates the new element at the document element
 level if setCurrent is never called
xmldoc.createElement("new2"); // calling without a value will create a new element by itself

var el = xmldoc.createElement("new3");
xmldoc.setCurrent(el); // this is now the parent of any new elements created subsequently
 using createElement()
xmldoc.createElement("newChild", "test");
```

結果の XML ドキュメントは次のようになります

```
<test>
 <one>
  <two att="xxx">abcd1234</two>
  <three boo="yah" att="yyy">1234abcd</three>
  <two>another</two>
 </one>
 <number>1234</number>
 <new>test<new>
 <new2/>
 <new3>
    <newChild>test</newChild>
 </new3>
</test>
```

### XMLHelper

XML ヘルパースクリプトインクルードを使用すると、スクリプト内の XML を簡単に解析できます。

XML を JSON に、または JSON を XML にエクスポートするには、次のメソッドを使用します。

- `toObject()` メソッドは、XML 要素を JSON プロパティとして返します。このメソッドは、指定されたパラメーターが XML ドキュメントまたは XML 文字列のどちらであるとしても正常に機能します。このメソッドには、 コンストラクターで XML 入力を指定する代替として、変換の XML 入力のオプションのパラメーターがあります。
- `toXMLDoc()` メソッドは、XML 要素として提供された JSON を返します。

**注:**
XML 内のアンパサンド文字 (&) はエスケープする必要があります。そうしないと、変換はサイレントで失敗します。

関連項目：

- 
- 
- 

#### 例

次の例は、XML ドキュメントを JSON に変換し、再帰関数を使用して各メンバーを出力する方法を示しています。再帰関数は、XML ドキュメント構造が JSON としてどのようにレンダリングされるかを示すのに役立ちます。

```
var xmlString = "<company>" + "<employee>" + "<id>10</id>"
 + "<firstname>Tom</firstname>" + "<lastname>Cruise</lastname>" +
 "<test>test1</test>"
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 + "<test>test3</test>" + "</employee>" + "<employee>" + "<id>20</id>" +
 "<firstname>Paul</firstname>"
 + "<lastname>Enderson</lastname>" + "<test>test6</test>" + "<test>test5</test>" +
 "</employee>" + "<employee>"
 + "<id>30</id>" + "<firstname>Paul</firstname>" + "<lastname>Bush</lastname>" +
 "<test>test2</test>"
 + "<test>test4</test>" + "</employee>" + "</company>";
var helper = new XMLHelper(xmlString);
var obj = helper.toObject();
logObj(obj, "*");

function logObj(obj, sep) {
  for (x in obj) {
    if (typeof obj[x] != "function") {
      gs.log(sep + x + ":: " + obj[x]);
    }
    logObj(obj[x], sep + "*");
  }
}
```

出力：

```
*** Script: *employee:: [object Object],[object Object],[object Object]
*** Script: **2:: [object Object]
*** Script: ***id:: 30
*** Script: ***test:: test2,test4
*** Script: ****0:: test2
*** Script: ****1:: test4
*** Script: ***firstname:: Paul
*** Script: ***lastname:: Bush
*** Script: **0:: [object Object]
*** Script: ***id:: 10
*** Script: ***test:: test1,test3
*** Script: ****0:: test1
*** Script: ****1:: test3
*** Script: ***firstname:: Tom
*** Script: ***lastname:: Cruise
*** Script: **1:: [object Object]
*** Script: ***id:: 20
*** Script: ***test:: test6,test5
*** Script: ****0:: test6
*** Script: ****1:: test5
*** Script: ***firstname:: Paul
*** Script: ***lastname:: Enderson
```

自動翻訳

### プラットフォーム上の **JavaScript** エンジン

サーバーサイドスクリプトを評価する JavaScript エンジンは、ECMAScript 2021 (ES12) 標準をサポートしています。

新しい JavaScript エンジンをインストールする際に、プラグインやプロパティは必要ありません。

新しいエンジンのメリットは次のとおりです。

- オプションのチェーン、デストラクチャリング、const 宣言、let 宣言、アロー関数などの最新のライブラリコードとスクリプト機能
- 標準 ECMAScript 2021 に準拠した動作

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 留意点

JavaScript エンジンは、スクリプトを開発するための改善された環境を提供します。

- Tokyo リリース以降、新規および既存のスコープ対象のアプリケーションは ECMAScript 2021 (ES12) モードで実行できます。
- 互換モードは、従来の JavaScript エンジンに対する従来の変更点をサポートしています。
- 従来のコードは引き続き機能します。

JavaScript エンジンが使用するモードは、アプリケーションのデザインおよびランタイム設定で構成します。使用可能なモードは、ECMAScript 2021 (ES12)、ES5 標準、および互換性です。

関連情報

カスタムアプリケーションレコードを更新する

### JavaScript のモード

JavaScript のモードは、カスタムアプリケーションの設計および実行時の設定です。既存のサーバーサイドスクリプトと、ECMAScript 2021 標準に合わせて新しく開発されたスクリプトをサポートするために、JavaScript エンジンには ECMAScript 2021 (ES12)、ES5 標準、および互換の 3 つのモードがあります。

アプリケーションはこの 3 つの JavaScript モードのいずれかを使用するように構成します。新しいスコープ対象のアプリケーションのデフォルトモードは ECMAScript 2021 (ES12) で、新しいグローバルアプリケーションのデフォルトモードは ES5 標準です。

JavaScript モードを変更するには

カスタムアプリケーションで JavaScript モードを変更するには、フルアクセスを許可する管理者または委任開発者ロールが必要です。

1. カスタムアプリケーション [sys_app] テーブルにリストされているカスタムアプリケーションを見つけて選択します。
2. [デザインとランタイム **(Design and Runtime)**] で、**[JavaScript** モード] メニューから利用可能なオプションを選択します。

併せて、「カスタムアプリケーションレコードを更新する」を参照してください。

### ECMAScript 2021 (ES12) モード

スコープ対象のアプリケーションを新しく作成する場合は、ECMAScript 2021 (ES12) モードがデフォルトモードになります。このモードは、Tokyo より前の JavaScript エンジンの従来動作を保持せず、グローバルスクリプトを操作しません。

ECMAScript 2021 (ES12) モードは、ECMAScript 2021 (ES12) および ECMAScript 2022 (ES13) 構文と機能のサブセットをサポートしており、それには次の機能が含まれます。

- デフォルトの関数パラメーター
- Rest パラメーター
- For-of ループ
- テンプレートリテラル
- デストラクチャリング

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

  - 宣言
  - アサイン
  - パラメーター
- const 宣言
- let 宣言
- アロー関数
- class 宣言
- マップセット
- オプションのチェーン演算子 (?.)

### ES5 標準モード

ES5 標準モードは、グローバルアプリケーションのデフォルトモードであり、スコープ対象のアプリケーションのオプションです。このモードは、Helsinki より前の JavaScript エンジンの従来動作を保持することはありません。

ES5 標準モードは、ECMAScript5 構文と機能をサポートしており、それには次の機能が含まれます。

- 「use strict」宣言
- オブジェクトの拡張性の制御
- オブジェクトの get プロパティと set プロパティ (アクセサー)
- オブジェクトプロパティの書き込み、構成、および列挙の制御
- 新しい Array メソッドと Date メソッド
- ネイティブ JSON のサポート
- lodash.js や moment.js などの最新のサードパーティ製ライブラリのサポート

ECMAScript 2021 (ES12) および ES5 標準モードでサポートされている機能の詳細については、「JavaScript エンジン機能のサポート」を参照してください。

### 互換性モード

互換性モードは、ES5 標準モードが追加される前に開発されたすべてのスクリプトに使用されます。互換性モードには、以前の JavaScript エンジンとは異なる点があります。

JSON サポートの変更 :

- `JSON.stringify()` および `JSON.parse()` は、ES5 ネイティブ JSON オブジェクトを使用して実装されています。
- 新しい `JSON().encode()` と新しい `JSON().decode()` は引き続きサポートされますが、レガシー動作が必要となる場合にのみ使用してください。

サードパーティの JavaScript ライブラリの使用は、互換性モードではサポート対象外です。

#### JavaScript エンジン機能のサポート

Washington DC の ECMAScript 2021 (ES12) と ES5 標準 JavaScript モード間の ECMAScript 機能を比較します。どちらのモードも ECMAScript 機能のサブセットをサポートしています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの機能の詳細については、Ecma International の Web サイトで ECMAScript 言語仕様 (ECMA-262) を参照してください。

### サポート定義

サポート対象

この機能はテストおよび検証済みです。

サポート対象外

この機能は現在のリリースでは検証されていません。

許可されていない

この機能は Now Platform プログラミングモデルに適合していないか、セキュリティまたはパフォーマンス上のリスクがあります。許可されていない機能はエラーになります。

## ECMAScript 2022 (ES13) の機能

**重要:**
コードを本番環境に展開する前に、サポートされている ECMAScript 2022 (ES13) 機能を使用してスクリプトを十分にテストする必要があります。これは、この ECMAScript バージョン全体で機能が新しく追加され、部分的にサポートされているためです。

### インスタンスクラスのフィールド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| public instance class fields | サポート対象 | サポート対象外 |
| private instance class fields basic support | サポート対象外 | サポート対象外 |
| private instance class fields initializers | サポート対象外 | サポート対象外 |
| optional private instance class fields access | サポート対象外 | サポート対象外 |
| optional deep private instance class fields access | サポート対象外 | サポート対象外 |
| computed instance class fields | サポート対象 | サポート対象外 |

### Static class fields

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| public static class fields | サポート対象 | サポート対象外 |
| static class fields use [[Define]] | サポート対象 | サポート対象外 |
| private static class fields | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed static class fields | サポート対象 | サポート対象外 |

### プライベートクラスのメソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| private instance methods | サポート対象外 | サポート対象外 |
| private static methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| private accessor properties | サポート対象外 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライベートクラスのメソッド (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| private static accessor properties | サポート対象 | サポート対象外 |

組み込みインデックス可能オブジェクトの **.at()** メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.at() | サポート対象外 | サポート対象外 |
| String.prototype.at() | サポート対象 | サポート対象外 |
| %TypedArray%.prototype.at() | 許可されていない | 許可されていない |

**Object.hasOwn**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| ToObject called before ToPropertyKey | サポート対象 | サポート対象外 |

**Error.cause** プロパティ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Error has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| Error.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| EvalError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| EvalError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| RangeError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| RangeError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| ReferenceError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| ReferenceError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| SyntaxError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| SyntaxError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| TypeError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| TypeError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| URIError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| URIError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| AggregateError has cause | サポート対象 | サポート対象外 |
| AggregateError.prototype lacks cause | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正規表現一致インデックス (「hasIndices」 / 「d」 フラグ)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| constructor supports it | サポート対象外 | サポート対象外 |
| shows up in flags | サポート対象外 | サポート対象外 |

### Ergonomic brand checks for private fields

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Ergonomic brand checks for private fields | サポート対象外 | サポート対象外 |

### Class static initialization blocks

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Class static initialization blocks | サポート対象 | サポート対象外 |

## ECMAScript 2021 (ES12) の機能

### Promise.any

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| fulfillment | 許可されていない | 許可されていない |
| AggregateError | 許可されていない | 許可されていない |

### WeakReferences

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| WeakRef minimal support | 許可されていない | 許可されていない |
| FinalizationRegistry minimal support | 許可されていない | 許可されていない |

論理アサイン

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| \|\|= basic support | サポート対象 | サポート対象外 |
| \|\|= short-circuiting behavior | サポート対象 | サポート対象外 |
| \|\|= setter not unnecessarily invoked | サポート対象 | サポート対象外 |
| &&= basic support | サポート対象 | サポート対象外 |
| &&= short-circuiting behavior | サポート対象 | サポート対象外 |
| &&= setter not unnecessarily invoked | サポート対象 | サポート対象外 |
| ??= basic support | サポート対象 | サポート対象外 |
| ??= short-circuiting behavior | サポート対象 | サポート対象外 |
| ??= setter not unnecessarily invoked | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

数値セパレーター

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| numeric separators | サポート対象 | サポート対象外 |

### String.prototype.replaceAll

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| String.prototype.replaceAll | サポート対象 | サポート対象 |

## ECMAScript 2020 (ES11) の機能

### String.prototype.matchAll

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| throws on non-global regex | サポート対象 | サポート対象外 |

### BigInt

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象外 | サポート対象外 |
| constructor | サポート対象外 | サポート対象外 |
| BigInt.asUintN | サポート対象外 | サポート対象外 |
| BigInt.asIntN | サポート対象外 | サポート対象外 |
| BigInt64Array | サポート対象外 | サポート対象外 |
| BigUint64Array | サポート対象外 | サポート対象外 |
| DataView.prototype.getBigInt64 | サポート対象外 | サポート対象外 |
| DataView.prototype.getBigUint64 | サポート対象外 | サポート対象外 |

### globalThis

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| "globalThis" global property is global object | 許可されていない | 許可されていない |
| "globalThis" global property has correct property descriptor | 許可されていない | 許可されていない |

### Optional chaining operator (?.)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| optional property access | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Optional chaining operator (?.) (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| optional bracket access | サポート対象 | サポート対象外 |
| optional method call | サポート対象 | サポート対象外 |
| optional function call | サポート対象 | サポート対象外 |
| spread parameters after optional chaining | サポート対象 | サポート対象外 |

### Promise.allSettled

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Promise.allSettled | 許可されていない | 許可されていない |

### Nullish coalescing operator (??)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| nullish coalescing operator (??) | サポート対象 | サポート対象外 |

## ECMAScript 2019 (ES10) の機能

### Symbol.prototype.description

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic | サポート対象 | サポート対象外 |
| empty description | サポート対象 | サポート対象外 |
| undefined description | サポート対象 | サポート対象外 |

文字列のトリミング

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| String.prototype.trimLeft | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.trimRight | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.trimStart | サポート対象 | サポート対象外 |
| String.prototype.trimEnd | サポート対象 | サポート対象外 |

### Array.prototype.{flat, flatMap}

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.flat | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.flatMap | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Array.prototype.{flat, flatMap} (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| flat and flatMap in Array.prototype[@@unscopables] | サポート対象 | サポート対象外 |

### Object.fromEntries

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.fromEntries | サポート対象 | サポート対象外 |

### オプションのキャッチバインディング

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic | 許可されていない | 許可されていない |
| await | 許可されていない | 許可されていない |
| yield | 許可されていない | 許可されていない |

### Function.prototype.toString revision

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| functions created with the Function constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| arrows | 許可されていない | 許可されていない |
| [native code] | 許可されていない | 許可されていない |
| class expression with implicit constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| class expression with explicit constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| unicode escape sequences in identifiers | 許可されていない | 許可されていない |
| methods and computed property names | 許可されていない | 許可されていない |

### JSON スーパーセット

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Line separator can appear in string literals | 許可されていない | 許可されていない |
| Paragraph separator can appear in string literals | 許可されていない | 許可されていない |

### Well-formed JSON.stringify

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Well-formed JSON.stringify | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ECMAScript 2018 (ES9) の機能

### オブジェクト REST/分散プロパティ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| object rest properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| object spread properties | サポート対象 | サポート対象外 |

### Promise.prototype.finally

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic support | 許可されていない | 許可されていない |
| don't change resolution value | 許可されていない | 許可されていない |
| change rejection value | 許可されていない | 許可されていない |

### 非同期反復子

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| async generators | 許可されていない | 許可されていない |
| for-await-of loops | 許可されていない | 許可されていない |

### s (dotAll) flag for regular expressions

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| s (dotAll) flag for regular expressions | サポート対象 | サポート対象外 |

### RegExp named capture groups

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| RegExp named capture groups | サポート対象 | サポート対象外 |

### RegExp Lookbehind Assertions

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| RegExp Lookbehind Assertions | サポート対象外 | サポート対象外 |

### RegExp Unicode Property Escapes

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| RegExp Unicode Property Escapes | サポート対象外 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートリテラルリビジョン

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| template literal revision | 許可されていない | 許可されていない |

## ECMAScript 2017 (ES8) の機能

オブジェクト静的メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.value | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.entries | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.getOwnPropertyDescriptors | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.getOwnPropertyDescriptors doesn't provide undefined descriptors | サポート対象外 | サポート対象外 |

文字列のパディング

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| String.prototype.padStart | サポート対象 | サポート対象外 |
| String.prototype.padEnd | サポート対象 | サポート対象外 |

関数構文末尾のカンマ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| in parameter lists | サポート対象 | サポート対象外 |
| in argument lists | サポート対象 | サポート対象外 |

非同期関数

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| return | 許可されていない | 許可されていない |
| throw | 許可されていない | 許可されていない |
| no line break between async and function | 許可されていない | 許可されていない |
| no "prototype" property | 許可されていない | 許可されていない |
| await | 許可されていない | 許可されていない |
| await, rejection | 許可されていない | 許可されていない |
| must await a value | 許可されていない | 許可されていない |
| can await non-Promise values | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

非同期関数 (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| cannot await in parameters | 許可されていない | 許可されていない |
| async methods, object literals | 許可されていない | 許可されていない |
| async methods, classes | 許可されていない | 許可されていない |
| async arrow functions in methods, classes | 許可されていない | 許可されていない |
| async arrow functions | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| async function prototype, Symbol.toStringTag | 許可されていない | 許可されていない |
| async function constructor | 許可されていない | 許可されていない |

共有メモリとアトミック

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| SharedArrayBuffer | 許可されていない | 許可されていない |
| SharedArrayBuffer[Symbol.species] | 許可されていない | 許可されていない |
| SharedArrayBuffer.prototype.byteLength | 許可されていない | 許可されていない |
| SharedArrayBuffer.prototype.slice | 許可されていない | 許可されていない |
| SharedArrayBuffer.prototype[Symbol.toStringTag] | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.add | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.and | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.compareExchange | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.exchange | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.wait | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.wake | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.isLockFree | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.load | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共有メモリとアトミック (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Atomics.or | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.store | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.sub | 許可されていない | 許可されていない |
| Atomics.xor | 許可されていない | 許可されていない |

**Object.prototype** の **getter/setter** メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| __defineGetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineGetter__, symbols | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineGetter__, ToObject(this) | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineSetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineSetter__, symbols | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineSetter__, ToObject(this) | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__, prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__, symbols | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__, ToObject(this) | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__, data properties can shadow accessors | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupSetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupSetter__, prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupSetter__, symbols | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Object.prototype** の **getter/setter** メソッド (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| __lookupSetter__, ToObject(this) | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupSetter__, data properties can shadow accessors | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ内部呼び出し、getter/**setter** メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| __defineGetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __defineSetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupGetter__ | 許可されていない | 許可されていない |
| __lookupSetter__ | 許可されていない | 許可されていない |

## ECMAScript 2016 (ES7) の機能

べき乗 **(**)** 演算子

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic support | サポート対象 | サポート対象外 |
| assignment | サポート対象 | サポート対象外 |
| early syntax error for unary negation without parentheses | 許可されていない | 許可されていない |

**Array.prototype.include**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.include | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.includes is generic | サポート対象外 | サポート対象外 |
| %TypedArray%.prototype.includes | 許可されていない | 許可されていない |

## ECMAScript 2015 (ES6) の機能

適切な末尾呼び出し (末尾呼び出しの最適化)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| direct recursion | 許可されていない | 許可されていない |
| mutual recursion | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトの関数パラメーター

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| explicit undefined defers to the default | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults can refer to previous parameters | サポート対象 | サポート対象外 |
| arguments object interaction | サポート対象 | サポート対象外 |
| temporal dead zone | 許可されていない | 許可されていない |
| separate scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| new Function() support | 許可されていない | 許可されていない |

**Rest** パラメーター

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| function 'length' property | サポート対象 | サポート対象外 |
| arguments object interaction | サポート対象外 | サポート対象外 |
| can't be used in setters | 許可されていない | 許可されていない |
| new Function() support | 許可されていない | 許可されていない |

反復可能なオブジェクトのスプレッド構文

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with arrays, in function calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with arrays, in array literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays, in function calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays, in array literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings, in function calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings, in array literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| with astral plane strings, in function calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with astral plane strings, in array literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generator instances, in calls | 許可されていない | 許可されていない |
| with generator instances, in arrays | 許可されていない | 許可されていない |
| with generic iterables, in calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generic iterables, in arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of iterables, in calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of iterables, in arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| spreading non-iterables is a runtime error | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### オブジェクトリテラル拡張

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| computed properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| shorthand properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| shorthand methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| string-keyed shorthand methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed shorthand methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed accessors | サポート対象 | サポート対象外 |

### For-of ループ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with astral plane strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| with generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing, break | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing, throw | サポート対象 | サポート対象外 |

### Octal and binary literals

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| octal literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| binary literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| octal supported by Number() | サポート対象外 | サポート対象外 |
| binary supported by Number() | サポート対象外 | サポート対象外 |

### テンプレートリテラル

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| toString conversion | サポート対象 | サポート対象外 |
| tagged template literals | サポート対象 | サポート対象外 |
| passed array is frozen | サポート対象 | サポート対象外 |
| line break normalization | 許可されていない | 許可されていない |
| TemplateStrings call site caching | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートリテラル (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| TemplateStrings permanent caching | サポート対象 | サポート対象外 |

正規表現の「y」および「u」フラグ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| "y" flag | サポート対象 | サポート対象外 |
| "y" flag, lastIndex | サポート対象 | サポート対象外 |
| "u" flag | サポート対象外 | サポート対象外 |
| "u" flag, non-BMP Unicode characters | サポート対象外 | サポート対象外 |
| "u" flag, Unicode code point escapes | サポート対象外 | サポート対象外 |
| "u" flag, case folding | サポート対象外 | サポート対象外 |

デストラクチャリング、宣言

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with astral plane strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| with generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in iterable patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| with objects | サポート対象 | サポート対象外 |
| object destructuring with primitives | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in object patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| throws on null and undefined | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| multiples in a single var statement | サポート対象 | サポート対象外 |
| nested | サポート対象 | サポート対象外 |
| in for-in loop heads | サポート対象 | サポート対象外 |
| in for-of loop heads | サポート対象 | サポート対象外 |
| in catch heads | サポート対象 | サポート対象外 |
| rest | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デストラクチャリング、宣言 (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| defaults, let temporal dead zone | 許可されていない | 許可されていない |

### Destructuring, assignment

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with astral plane strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| with generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterable destructuring expression | サポート対象 | サポート対象外 |
| chained iterable destructuring | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in iterable patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| with objects | サポート対象 | サポート対象外 |
| object destructuring with primitives | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in object patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| object destructuring expression | サポート対象 | サポート対象外 |
| parenthesized left-hand-side is a syntax error | 許可されていない | 許可されていない |
| chained object destructuring | サポート対象 | サポート対象外 |
| throws on null and undefined | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| nested | サポート対象 | サポート対象外 |
| rest | サポート対象 | サポート対象外 |
| nested rest | サポート対象 | サポート対象外 |
| empty patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults | サポート対象 | サポート対象外 |

デストラクチャリング、パラメーター

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with sparse arrays | サポート対象 | サポート対象外 |
| with strings | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デストラクチャリング、パラメーター (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| with astral plane strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| with generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| with generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| with instances of generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in iterable patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| with objects | サポート対象 | サポート対象外 |
| object destructuring with primitives | サポート対象 | サポート対象外 |
| trailing commas in object patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| throws on null and undefined | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| nested | サポート対象 | サポート対象外 |
| 'arguments' interaction | サポート対象 | サポート対象外 |
| new Function() support | 許可されていない | 許可されていない |
| in parameters, function 'length' property | サポート対象 | サポート対象外 |
| rest | サポート対象 | サポート対象外 |
| empty patterns | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults, separate scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| defaults, new Function() support | 許可されていない | 許可されていない |
| aliased defaults, arrow function | サポート対象 | サポート対象外 |
| shorthand defaults, arrow function | サポート対象 | サポート対象外 |
| duplicate identifier | 許可されていない | 許可されていない |

### Unicode code point escapes

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| in strings | サポート対象 | サポート対象外 |
| in identifiers | サポート対象外 | サポート対象外 |
| in property key definitions | サポート対象外 | サポート対象外 |
| in property key accesses | サポート対象外 | サポート対象外 |

### New.target

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| in constructors | サポート対象外 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**New.target** (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| assignment is an early error | 許可されていない | 許可されていない |

定数

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic support | サポート対象 | サポート対象 |
| is block-scoped | サポート対象 | サポート対象外 |
| scope shadow resolution | サポート対象 | サポート対象外 |
| cannot be in statements | 許可されていない | 許可されていない |
| redefining a const is an error | 許可されていない | 許可されていない |
| for loop statement scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| for-in loop iteration scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| for-of loop iteration scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| temporal dead zone | サポート対象外 | サポート対象外 |
| basic support (strict mode) | サポート対象 | サポート対象 |
| is block-scoped (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| scope shadow resolution (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| cannot be in statements (strict mode) | 許可されていない | 許可されていない |
| redefining a const (strict mode) | 許可されていない | 許可されていない |
| for loop statement scope (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| for-in loop iteration scope (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| for-of loop iteration scope (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| temporal dead zone (strict mode) | サポート対象外 | サポート対象外 |

**Let**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic support | サポート対象 | サポート対象外 |
| is block-scoped | サポート対象 | サポート対象外 |
| scope shadow resolution | サポート対象 | サポート対象外 |
| cannot be in statements | 許可されていない | 許可されていない |
| for loop statement scope | サポート対象 | サポート対象外 |
| temporal dead zone | サポート対象外 | サポート対象外 |
| for/for-in loop iteration scope | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Let (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| for-in loop binding shadowing parameter | 許可されていない | 許可されていない |
| basic support (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| is block-scoped (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| scope shadow resolution (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| cannot be in statements (strict mode) | 許可されていない | 許可されていない |
| for loop statement scope (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| temporal dead zone (strict mode) | サポート対象外 | サポート対象外 |
| for/for-in loop iteration scope (strict mode) | サポート対象 | サポート対象外 |
| for-in loop binding shadowing parameter (strict mode) | 許可されていない | 許可されていない |

### ブロックレベルの関数宣言

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| block-level function declaration | サポート対象 | サポート対象外 |

### アロー関数

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| 0 parameters | サポート対象 | サポート対象外 |
| 1 parameter, no brackets | サポート対象 | サポート対象外 |
| multiple parameters | サポート対象 | サポート対象外 |
| lexical "this" binding | サポート対象 | サポート対象外 |
| "this" unchanged by call or apply | サポート対象 | サポート対象外 |
| can't be bound, can be curried | サポート対象 | サポート対象外 |
| lexical "arguments" binding | サポート対象 | サポート対象外 |
| no line break between parameters and `=>` | 許可されていない | 許可されていない |
| correct precedence | 許可されていない | 許可されていない |
| no "prototype" property | サポート対象外 | サポート対象外 |
| lexical "super" binding in constructors | サポート対象 | サポート対象外 |
| lexical "super" binding in methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| lexical "new.target" binding | サポート対象外 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラス

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| class statement | サポート対象 | サポート対象外 |
| is block-scoped | サポート対象 | サポート対象外 |
| class expression | サポート対象 | サポート対象外 |
| anonymous class | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor | サポート対象 | サポート対象外 |
| prototype methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| string-keyed methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed prototype methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| optional semicolons | サポート対象 | サポート対象外 |
| static methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed static methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| accessor properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed accessor properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| static accessor properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed static accessor properties | サポート対象 | サポート対象外 |
| class name is lexically scoped | サポート対象 | サポート対象外 |
| computed names, temporal dead zone | サポート対象外 | サポート対象外 |
| methods aren't enumerable | サポート対象 | サポート対象外 |
| implicit strict mode | サポート対象外 | サポート対象外 |
| constructor requires new | サポート対象 | サポート対象外 |
| 拡張 | サポート対象 | サポート対象外 |
| extends expressions | サポート対象 | サポート対象外 |
| extends null | サポート対象 | サポート対象外 |
| new.target | サポート対象 | サポート対象外 |

**Super**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| statement in constructors | サポート対象 | サポート対象外 |
| expression in constructors | サポート対象 | サポート対象外 |
| in methods, property access | サポート対象 | サポート対象外 |
| in methods, method calls | サポート対象 | サポート対象外 |
| method calls use correct "this" binding | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor calls use correct "new.target" binding | サポート対象 | サポート対象外 |
| is statically bound | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Super** (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| super() invokes the correct constructor | サポート対象 | サポート対象外 |

ジェネレータ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| generator function expressions | 許可されていない | 許可されていない |
| correct "this" binding | 許可されていない | 許可されていない |
| can't use "this" with new | 許可されていない | 許可されていない |
| sending | 許可されていない | 許可されていない |
| %GeneratorPrototype% | 許可されていない | 許可されていない |
| %GeneratorPrototype% prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| %GeneratorPrototype%.constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| %GeneratorPrototype%.throw | 許可されていない | 許可されていない |
| %GeneratorPrototype%.return | 許可されていない | 許可されていない |
| yield operator precedence | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, arrays | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, sparse arrays | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, strings | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, astral plane strings | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, generic iterables | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, instances of iterables | 許可されていない | 許可されていない |
| yield * on non-iterables is a runtime error | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, iterator closing | 許可されていない | 許可されていない |
| yield *, iterator closing via throw() | 許可されていない | 許可されていない |
| shorthand generator methods | 許可されていない | 許可されていない |
| string-keyed shorthand generator methods | 許可されていない | 許可されていない |
| computed shorthand generators | 許可されていない | 許可されていない |
| shorthand generator methods, classes | 許可されていない | 許可されていない |
| computed shorthand generators, classes | 許可されていない | 許可されていない |
| shorthand generators can't be constructors | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

型付きアレイ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Int8Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Uint8Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Uint8ClampedArray | 許可されていない | 許可されていない |
| Int16Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Uint16Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Int32Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Uint32Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Float32Array | 許可されていない | 許可されていない |
| Float64Array | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Int8) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Uint8) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Int16) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Uint16) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Int32) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Uint32) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Float32) | 許可されていない | 許可されていない |
| DataView (Float64) | 許可されていない | 許可されていない |
| ArrayBuffer[Symbol.species] | 許可されていない | 許可されていない |
| constructors require new | 許可されていない | 許可されていない |
| constructors accept generic iterables | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chains | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.from | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.of | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.subarray | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.join | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.indexOf | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.lastIndexOf | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.slice | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.every | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.filter | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.forEach | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.map | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.reduce | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.reduceRight | 許可されていない | 許可されていない |



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

型付きアレイ (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| %TypedArray%.prototype.reverse | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.some | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.sort | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.copyWithin | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.find | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.findIndex | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.fill | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.keys | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.value | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype.entries | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%.prototype[Symbol.iterator] | 許可されていない | 許可されていない |
| %TypedArray%[Symbol.species] | 許可されていない | 許可されていない |

マップ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor arguments | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor requires new | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor accepts null | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor invokes set | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.set returns this | サポート対象 | サポート対象外 |
| -0 key converts to +0 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.size | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.delete | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.clear | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.forEach | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.keys | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.value | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype.entries | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype[Symbol.iterator] | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map.prototype isn't an instance | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map iterator prototype chain | サポート対象 | サポート対象外 |
| Map[Symbol.species] | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セット

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor arguments | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor requires new | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor accepts null | サポート対象 | サポート対象外 |
| constructor invokes add | サポート対象 | サポート対象外 |
| iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.add returns this | サポート対象 | サポート対象外 |
| -0 key converts to +0 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.size | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.delete | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.clear | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.forEach | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.keys | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.values | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype.entries | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype[Symbol.iterator] | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set.prototype isn't an instance | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set iterator prototype chain | サポート対象 | サポート対象外 |
| Set[Symbol.species] | サポート対象 | サポート対象外 |

### WeakMap

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor arguments | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor requires new | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor accepts null | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor invokes set | 許可されていない | 許可されていない |
| frozen objects as keys | 許可されていない | 許可されていない |
| iterator closing | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakMap.prototype.set returns this | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakMap.prototype.delete | 許可されていない | 許可されていない |
| no WeakMap.prototype.clear method | 許可されていない | 許可されていない |
| .has, .get and .delete methods accept primitives | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakMap.prototype isn't an instance | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### WeakSet

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor arguments | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor requires new | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor accepts null | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor invokes add | 許可されていない | 許可されていない |
| iterator closing | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakSet.prototype.add returns this | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakSet.prototype.delete | 許可されていない | 許可されていない |
| no WeakSet.prototype.clear method | 許可されていない | 許可されていない |
| .has and .delete methods accept primitives | 許可されていない | 許可されていない |
| WeakSet.prototype isn't an instance | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| constructor requires new | 許可されていない | 許可されていない |
| no "prototype" property | 許可されていない | 許可されていない |
| "get" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "get" handler, instances of proxies | 許可されていない | 許可されていない |
| "get" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| "set" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "set" handler, instances of proxies | 許可されていない | 許可されていない |
| "set" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| "has" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "has" handler, instances of proxies | 許可されていない | 許可されていない |
| "has" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| "deleteProperty" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "deleteProperty" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "getOwnPropertyDescriptor" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "getOwnPropertyDescriptor" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| "defineProperty" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "defineProperty" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| "getPrototypeOf" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "getPrototypeOf" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "setPrototypeOf" handler | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| "setPrototypeOf" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "isExtensible" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "isExtensible" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "preventExtensions" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "preventExtensions" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "ownKeys" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "ownKeys" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "apply" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "apply" handler invariant | 許可されていない | 許可されていない |
| "construct" handler | 許可されていない | 許可されていない |
| "construct" handler invariants | 許可されていない | 許可されていない |
| Proxy.revocable | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.isArray support | 許可されていない | 許可されていない |
| JSON.stringify support | 許可されていない | 許可されていない |

リフレクション

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Reflect.get | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.set | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.has | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.deleteProperty | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.getOwnPropertyDescriptor | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.defineProperty | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.getPrototypeOf | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.setPrototypeOf | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.isExtensible | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.preventExtensions | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リフレクション (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Reflect.ownKeys, string keys | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.ownKeys, symbol keys | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.apply | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct sets new.target meta-property | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct creates instances from third argument | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct, Array subclassing | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct, RegExp subclassing | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct, Function subclassing | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.construct, Promise subclassing | 許可されていない | 許可されていない |

**Promise**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| constructor requires new | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.prototype isn't an instance | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.all | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.all, generic iterables | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.race | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.race, generic iterables | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise[Symbol.species] | 許可されていない | 許可されていない |

記号

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | サポート対象 | サポート対象外 |
| typeof support | サポート対象 | サポート対象外 |
| symbol keys are hidden to pre-ES6 code | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

記号 (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.defineProperty support | サポート対象 | サポート対象外 |
| symbols inherit from Symbol.prototype | サポート対象 | サポート対象外 |
| cannot coerce to string or number | サポート対象外 | サポート対象外 |
| can convert with String() | サポート対象外 | サポート対象外 |
| new Symbol() throws | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object(symbol) | サポート対象外 | サポート対象外 |
| JSON.stringify ignores symbol primitives | サポート対象 | サポート対象外 |
| JSON.stringify ignores symbol objects | サポート対象外 | サポート対象外 |
| global symbol registry | サポート対象 | サポート対象外 |

既知の記号

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Symbol.hasInstance | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.isConcatSpreadable | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.iterator, existence | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.iterator, arguments object | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, existence | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Array.prototype.concat | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Array.prototype.filter | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Array.prototype.map | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Array.prototype.slice | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Array.prototype.splice | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, RegExp.prototype[Symbol.split] | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.species, Promise.prototype.then | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.replace | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.search | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.split | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.match | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.match, RegExp constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.match, String.prototype.startsWith | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.match, String.prototype.endsWith | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.match, String.prototype.includes | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.toPrimitive | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.toStringTag | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既知の記号 (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Symbol.toStringTag affects existing built-ins | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.toStringTag, new built-ins | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.toStringTag, misc. built-ins | 許可されていない | 許可されていない |
| Symbol.unscopables | 許可されていない | 許可されていない |

オブジェクト静的メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.assign | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.is | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.getOwnPropertySymbols | サポート対象 | サポート対象外 |
| Object.setPrototypeOf | サポート対象外 | サポート対象外 |

関数の「name」プロパティ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| function statements | サポート対象 | サポート対象 |
| function expressions | サポート対象 | サポート対象 |
| new Function | サポート対象外 | サポート対象外 |
| bound functions | サポート対象外 | サポート対象外 |
| variables (function) | サポート対象 | サポート対象外 |
| object methods (function) | サポート対象 | サポート対象外 |
| accessor properties | サポート対象外 | サポート対象外 |
| shorthand methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| shorthand methods (no lexical binding) | サポート対象 | サポート対象外 |
| symbol-keyed methods | サポート対象外 | サポート対象外 |
| class statements | サポート対象 | サポート対象外 |
| class expressions | サポート対象 | サポート対象外 |
| variables (class) | サポート対象 | サポート対象外 |
| object methods (class) | サポート対象外 | サポート対象外 |
| class prototype methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| class static methods | サポート対象 | サポート対象外 |
| isn't writable, is configurable | サポート対象外 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

文字列静的メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| String.raw | サポート対象 | サポート対象外 |
| String.fromCodePoint | サポート対象 | サポート対象外 |

### String.prototype methods

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| String.prototype.codePointAt | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.normalize | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.repeat | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.startsWith | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.startsWith throws on RegExp | サポート対象外 | サポート対象外 |
| String.prototype.endsWith | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.endsWith throws on RegExp | サポート対象外 | サポート対象外 |
| String.prototype.includes | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype[Symbol.iterator] | サポート対象 | サポート対象外 |
| String iterator prototype chain | サポート対象 | サポート対象外 |

### RegExp.prototype properties

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| RegExp.prototype.flag | サポート対象 | サポート対象外 |
| RegExp.prototype[Symbol.match] | サポート対象外 | サポート対象外 |
| RegExp.prototype[Symbol.replace] | サポート対象 | サポート対象外 |
| RegExp.prototype[Symbol.split] | サポート対象 | サポート対象外 |
| RegExp.prototype[Symbol.search] | サポート対象外 | サポート対象外 |
| RegExp[Symbol.species] | サポート対象 | サポート対象外 |

### Array static methods

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.from, array-like objects | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.from, generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.from, generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.from, instances of generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.from map function, array-like objects | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.from map function, generator instances | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.from map function, generic iterables | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Array static methods (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.from map function, instances of iterables | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.from, iterator closing | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.of | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array[Symbol.species] | サポート対象 | サポート対象外 |

### Array.prototype methods

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.copyWithin | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.find | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.findIndex | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.fill | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.keys | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.value | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype.entries | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype[Symbol.iterator] | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array iterator prototype chain | サポート対象 | サポート対象外 |
| Array.prototype[Symbol.unscopables] | サポート対象 | サポート対象外 |

自動翻訳

数値プロパティ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Number.isFinite | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.isInteger | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.isSafeInteger | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.isNaN | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.parseFloat | 許可されていない | 許可されていない |
| Number.parseInt | 許可されていない | 許可されていない |
| Number.EPSILON | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.MIN_SAFE_INTEGER | サポート対象 | サポート対象外 |
| Number.MAX_SAFE_INTEGER | サポート対象 | サポート対象外 |

計算メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Math.clz32 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.imul | サポート対象 | サポート対象外 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計算メソッド (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Math.sign | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.log10 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.log2 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.log1p | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.expm1 | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.cosh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.sinh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.tanh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.acosh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.asinh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.atanh | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.trunc | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.fround | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.cbrt | サポート対象 | サポート対象外 |
| Math.hypot | サポート対象 | サポート対象外 |

**Date.prototype[Symbol.toPrimitive]**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Date.prototype[Symbol.toPrimitive] | サポート対象 | サポート対象外 |

アレイはサブクラス化可能

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| length property (accessing) | 許可されていない | 許可されていない |
| length property (setting) | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.isArray support | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.concat | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.filter | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.map | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.slice | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.splic | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.from | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.of | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正規表現はサブクラス化可能

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype.exec | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype.test | 許可されていない | 許可されていない |

関数はサブクラス化可能

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| can be called | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| can be used with "new" | 許可されていない | 許可されていない |
| Function.prototype.call | 許可されていない | 許可されていない |
| Function.prototype.apply | 許可されていない | 許可されていない |
| Function.prototype.bind | 許可されていない | 許可されていない |

**Promise** はサブクラス化可能

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| correct prototype chain | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.all | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise.race | 許可されていない | 許可されていない |

その他のサブクラス化可能

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Boolean is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |
| Number is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |
| String is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |
| Error is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |
| Map is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |
| Set is subclassable | 許可されていない | 許可されていない |

バインドされた関数のプロトタイプ

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functions | 許可されていない | 許可されていない |
| generator functions | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バインドされた関数のプロトタイプ (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| arrow functions | 許可されていない | 許可されていない |
| classes | 許可されていない | 許可されていない |
| subclasses | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「get」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| ToPrimitive | 許可されていない | 許可されていない |
| CreateListFromArrayLike | 許可されていない | 許可されていない |
| instanceof operator | 許可されていない | 許可されていない |
| HasBinding | 許可されていない | 許可されていない |
| CreateDynamicFunction | 許可されていない | 許可されていない |
| ClassDefinitionEvaluation | 許可されていない | 許可されていない |
| IteratorComplete, IteratorValue | 許可されていない | 許可されていない |
| ToPropertyDescriptor | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.assign | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.defineProperties | 許可されていない | 許可されていない |
| Function.prototype.bind | 許可されていない | 許可されていない |
| Error.prototype.toString | 許可されていない | 許可されていない |
| String.raw | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp constructor | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype.flag | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype.test | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype.toString | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype[Symbol.match] | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype[Symbol.replace] | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype[Symbol.search] | 許可されていない | 許可されていない |
| RegExp.prototype[Symbol.split] | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.from | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.concat | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype iteration methods | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.pop | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.reverse | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.shift | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.splic | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ、内部「get」呼び出し (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.toString | 許可されていない | 許可されていない |
| JSON.stringify | 許可されていない | 許可されていない |
| Promise resolve functions | 許可されていない | 許可されていない |
| String.prototype.match | 許可されていない | 許可されていない |
| String.prototype.replace | 許可されていない | 許可されていない |
| String.prototype.search | 許可されていない | 許可されていない |
| String.prototype.split | 許可されていない | 許可されていない |
| Date.prototype.toJSON | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「set」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.assign | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.from | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.of | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.copyWithin | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.fill | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.pop | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.push | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.reverse | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.shift | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.splic | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.unshift | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「defineProperty」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| [[Set]] | 許可されていない | 許可されていない |
| SetIntegrityLevel | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「deleteProperty」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.copyWithin | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.pop | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.reverse | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.shift | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ、内部「deleteProperty」呼び出し (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.prototype.splic | 許可されていない | 許可されていない |
| Array.prototype.unshift | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「getOwnPropertyDescriptor」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| [[Set]] | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.assign | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.prototype.hasOwnProperty | 許可されていない | 許可されていない |
| Function.prototype.bind | 許可されていない | 許可されていない |

プロキシ、内部「ownKeys」呼び出し

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| SetIntegrityLevel | 許可されていない | 許可されていない |
| TestIntegrityLevel | 許可されていない | 許可されていない |
| SerializeJSONObject | 許可されていない | 許可されていない |

オブジェクトの静的メソッドはプリミティブを受け入れる

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.getPrototypeOf | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.getOwnPropertyDescriptor | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.getOwnPropertyNames | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.seal | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.freeze | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.preventExtensions | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.isSealed | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.isFrozen | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.isExtensible | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.keys | 許可されていない | 許可されていない |

独自のプロパティ順序

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.keys | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.getOwnPropertyNames | 許可されていない | 許可されていない |
| Object.assign | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

独自のプロパティ順序 (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| JSON.stringify | 許可されていない | 許可されていない |
| JSON.parse | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.ownKeys, string key order | 許可されていない | 許可されていない |
| Reflect.ownKeys, symbol key order | 許可されていない | 許可されていない |

更新された識別子構文

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| var â ¸ ¯; | 許可されていない | 許可されていない |
| var ð ‹€; | 許可されていない | 許可されていない |
| no escaped reserved words as identifiers | 許可されていない | 許可されていない |

非 **strict** 関数セマンティクス

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| hoisted block-level function declaration | 許可されていない | 許可されていない |
| labeled function statements | 許可されていない | 許可されていない |
| function statements in if-statement clauses | 許可されていない | 許可されていない |

**__proto__ in object literals**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic support | 許可されていない | 許可されていない |
| multiple __proto__ is an error | 許可されていない | 許可されていない |
| not a computed property | 許可されていない | 許可されていない |
| not a shorthand property | 許可されていない | 許可されていない |
| not a shorthand method | 許可されていない | 許可されていない |

**Object.prototype.__proto__**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| get prototype | 許可されていない | 許可されていない |
| set prototype | 許可されていない | 許可されていない |
| absent from Object.create(null) | 許可されていない | 許可されていない |
| present in hasOwnProperty() | 許可されていない | 許可されていない |
| correct property descriptor | 許可されていない | 許可されていない |
| present in Object.getOwnPropertyNames() | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### String.prototype HTML メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| existence | 許可されていない | 許可されていない |
| tags' names are lowercase | 許可されていない | 許可されていない |
| quotes in arguments are escaped | 許可されていない | 許可されていない |

### RegExp.prototype.compile

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| basic functionality | 許可されていない | 許可されていない |
| returns this | 許可されていない | 許可されていない |

#### 正規表現構文拡張

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| hyphens in character sets | 許可されていない | 許可されていない |
| invalid character escapes | 許可されていない | 許可されていない |
| invalid control-character escapes | 許可されていない | 許可されていない |
| invalid Unicode escapes | 許可されていない | 許可されていない |
| invalid hexadecimal escapes | 許可されていない | 許可されていない |
| incomplete patterns and quantifiers | 許可されていない | 許可されていない |
| octal escape sequences | 許可されていない | 許可されていない |
| invalid backreferences become octal escapes | 許可されていない | 許可されていない |

## ECMAScript 2009 (ES5) の機能

#### オブジェクト/アレイリテラル拡張

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Getter accessors | サポート対象 | サポート対象 |
| Setter accessors | サポート対象 | サポート対象 |
| Trailing commas in object literals | サポート対象 | サポート対象 |
| Trailing commas in array literals | サポート対象 | サポート対象 |
| Reserved words as property names | サポート対象 | サポート対象 |

#### オブジェクト静的メソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.create | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.defineProperty | サポート対象 | サポート対象 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オブジェクト静的メソッド (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Object.defineProperties | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.getPrototypeOf | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.keys | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.seal | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.freeze | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.preventExtensions | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.isSealed | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.isFrozen | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.isExtensible | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.getOwnPropertyDescriptor | サポート対象 | サポート対象 |
| Object.getOwnPropertyNames | サポート対象 | サポート対象 |

アレイメソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Array.isArray | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.indexOf | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.lastIndexOf | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.every | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.some | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.forEach | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.map | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.filter | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.reduce | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.reduceRight | サポート対象 | サポート対象 |
| Array.prototype.sort: compareFn must be function or undefined | サポート対象外 | サポート対象外 |
| Array.prototype.sort: compareFn may be explicit undefined | サポート対象 | サポート対象 |

文字列のプロパティおよびメソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Property access on strings | サポート対象 | サポート対象 |
| String.prototype.split | サポート対象 | サポート対象外 |
| String.prototype.trim | サポート対象 | サポート対象 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

日付のメソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Date.prototype.toISOString | サポート対象 | サポート対象 |
| Date.now | サポート対象 | サポート対象 |
| Date.prototype.toJSON | サポート対象外 | サポート対象外 |

不変グローバル

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| 未定義 | サポート対象 | サポート対象 |
| NaN | サポート対象 | サポート対象 |
| Infinity | サポート対象 | サポート対象 |

数値のメソッド

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Number.prototype.toExponential rounds properly | サポート対象 | サポート対象 |
| Number.prototype.toExponential throws on Â±Infinity fractionDigits | サポート対象 | サポート対象 |
| Number.prototype.toExponential does not throw on edge cases | サポート対象 | サポート対象 |

**Strict** モード **(Strict mode)**

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| reserved words | 許可されていない | 許可されていない |
| "this" is undefined in functions | 許可されていない | 許可されていない |
| "this" is not coerced to object in primitive methods | 許可されていない | 許可されていない |
| "this" is not coerced to object in primitive accessors | 許可されていない | 許可されていない |
| legacy octal is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |
| assignment to unresolvable identifiers is a ReferenceError | 許可されていない | 許可されていない |
| assignment to eval or arguments is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Strict モード (Strict mode) (続く)

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| assignment to non-writable properties is a TypeError | 許可されていない | 許可されていない |
| eval or arguments bindings is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |
| arguments.caller removed or is a TypeError | 許可されていない | 許可されていない |
| arguments.callee is a TypeError | 許可されていない | 許可されていない |
| (function(){}).caller and (function(){}).arguments is a TypeError | 許可されていない | 許可されていない |
| arguments is unmapped | 許可されていない | 許可されていない |
| eval() can't create bindings | 許可されていない | 許可されていない |
| deleting bindings is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |
| deleting non-configurable properties is a TypeError | 許可されていない | 許可されていない |
| "with" is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |
| repeated parameter names is a SyntaxError | 許可されていない | 許可されていない |
| function expressions with matching name and argument are valid | 許可されていない | 許可されていない |

### Function.prototype.bind

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| Function.prototype.bind | サポート対象 | サポート対象 |

### JSON

| 機能 | ECMAScript 2021 (ES12) | ES5 標準 |
|---|---|---|
| JSON | サポート対象 | サポート対象 |

### ES5 標準モードのスクリプトへのコードの移植

ES5 標準モードでは、互換モードで許容されるエラーが捕捉されます。

ES5 標準モードを使用して既存のスクリプトから新しいスコープ対象のスクリプトにコードを移植する際の注意事項

ECMAScript5 は、`new Boolean(false)` という語を true に評価します。互換モードでは false と評価されていました。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

存在しないプロパティが参照されると、ECMAScript5 は EcmaError をスローします。互換モードでは、エラーはスローされませんでした。

存在しない関数が呼び出されると、ECMAScript5 は EcmaError をスローします。互換モードでは、エラーはスローされませんでした。

ECMAScript5 は新しい行を正しく処理します。以前は、コメントの後の改行文字が認識されていましたが、これは誤りです。この例では、互換モードで 3 つの関数がすべて呼び出されます。ECMAScript5 では、最初の関数のみが呼び出されます。

```
var expr = doFoo();  // do foo
        doBar();  // do bar
        finish();   // all done
eval(expr);
```

ECMAScript5 では、末尾インクリメントとデクリメントが正しく処理されます。この例では、互換モードの場合に変数 *x* がインクリメントされた値を取得しますが、これは誤りです。

```
var x = gr.limit++;
```

### JavaScript API コンテキスト依存ヘルプ

構文エディターでは、コンテキスト依存の API 情報を表示できます。

JavaScript API コンテキスト依存ヘルプには、次の事柄を実行できる機能があります。

- カーソルの位置で有効なスクリプト要素を一覧表示します。ポップアップウィンドウに提案が表示されます。
- 選択したスクリプト要素をカーソルの位置に追加します。カーソルが部分的なエントリ内にあるかそれに隣接している場合は、選択したスクリプト要素でエントリを完了します。
- 選択した提案の API ドキュメントを表示します。
- 現在のスクリプト要素の想定されるパラメーターと形式を表示します。

カーソルがテキスト文字列に隣接している場合、このテキスト文字列で始まるスクリプト要素が検索されます。たとえば、カーソルが文字列 GlideR 内にあるかまたは隣接している間は、次のようなスクリプト要素が表示されます。

- *GlideRecord*
- *GlideRecordSecure*

コンテキスト依存の提案は、スクリプトタイプに基づきます。たとえば、ビジネスルールで作業している場合は、サーバー API からの提案と *current* や *previous* などのオブジェクトのみが表示されます。クライアントスクリプトの作業中は、クライアント API からの提案のみが表示されます。

### クライアント側スクリプティング

フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、クライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行します。

クライアント側の Glide API は、クライアントスクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供します。

### 事前準備

スクリプティング環境の制限を理解します。たとえば、サービスポータル またはモバイル環境のフォームで実行されるクライアントスクリプトには、特定の API のみを含めることができます。詳細については、「モバイル クライアント GlideForm (g フォーム) のスクリプトと移行」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### クライアント側のスクリプティングの設計と処理

クライアントスクリプトを適切に設計すれば、ユーザーのフォーム入力時間を短縮できます。

クライアント側の処理が適切に行われるようにするには、最初にフォームを読み込みます。フォームの読み込み前にレコードを更新すると、予期しない結果が発生し、クライアント側の処理がバイパスされる可能性があります。

フォームのフィールド値を制御するクライアントスクリプトを作成する場合は、別の方法を使用してリスト内でこれらのフィールド値を制御する必要があります。以下のようにすることができます。

- テーブルのリスト編集を無効にします。
- リスト編集に適したビジネスルールまたはアクセス制御を作成します。
- データポリシーを作成します。
- onCellEdit クライアントスクリプトを別に作成します。

### リストの編集の制限

フォーム上のフィールドに対して UI ポリシーまたはクライアントスクリプトを作成する場合、別の方法を使用して、それらのフィールドのデータがリストで同様に制御されるようにする必要があります。

onCellEdit クライアントスクリプトを除き、UI ポリシーとクライアントスクリプトはフォームにのみ適用されます。クライアントスクリプトを使用する場合は、次の方法を使用してリストの編集を制限します。

- テーブルのリスト編集を無効にします。
- リスト編集に適したビジネスルールまたはアクセス制御を作成します。
- データポリシーを作成します。
- onCellEdit クライアントスクリプトを別に作成します。

### サーバールックアップを最小限に抑制

クライアントデータをできるだけ使用することで、時間のかかるサーバールックアップが必要なくなります。

クライアントスクリプティングでは、クライアントで利用可能なデータまたはサーバーから取得したデータのいずれかを使用します。サーバーから情報を取得する主な方法は、g_scratchpad と非同期 GlideAjax ルックアップです。

これらの方法の主な違いは、g_scratchpad ではフォームがロードされたときに 1 回送信される (情報がサーバーからクライアントにプッシュされる) のに対し、GlideAjax はクライアントがサーバーに情報を要求すると動的にトリガーされることです。

**注:**
サーバー情報を取得するためには GlideRecord および g_form.getReference() も利用できます。ただし、パフォーマンスに影響するため、これらの方法は推奨されなくなりました。多くの場合、必要なフィールドは 1 つだけですが、どちらの方法でも要求された GlideRecord 内のすべてのフィールドが取得されます。

### Example: g_scratchpad を使用したサーバーデータの取得

g_scratchpad オブジェクトは、クライアントがフォーム上で利用できない情報を必要とする場合に、サーバーからクライアントに情報を渡します。

たとえば、フィールド u_retrieve にアクセスする必要があるクライアントスクリプトがあり、そのフィールドがフォーム上にない場合、クライアントスクリプトはデータを使用できません。この状況の一般的な解決策は、フォームにフィールドを配置してから、クライアントスクリプトまたは UI ポ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

リシーを使用して常に非表示にすることです。このソリューションは素早く構成できますが、実行は遅くなります。

フォームがロードされる前にクライアントがサーバーから必要とする情報がわかっている場合は、表示ビジネスルールでこの情報を保持する g_scratchpad プロパティを作成できます。g_scratchpad は、フォームが要求されるとクライアントに送信され、クライアント側のすべてのスクリプティングメソッドで使用できるようになります。これは、サーバーからクライアントに情報を送信する非常に効率的な手段です。ただし、この方法でデータをロードできるのは、フォームがロードされている場合のみです。ビジネスルールを動的にトリガーすることはできません。このような場合は、非同期 GlideAjax 呼び出しを使用します。

たとえば、インシデントをオープンし、次の情報をクライアントに渡す必要があるとします。

- システムプロパティ css.base.color の値
- 現在のレコードに添付ファイルがあるかどうか
- 呼び出し側のマネージャーの名前

表示ビジネスルールは、次のスクリプトを使用してこの情報をクライアントに送信します。

```
g_scratchpad.css = gs.getProperty('css.base.color');
g_scratchpad.hasAttachments = current.hasAttachments();
g_scratchpad.managerName = current.caller_id.manager.getDisplayValue();
```

クライアントスクリプトを使用してスクラッチパッドデータにアクセスするには、次のようにします。

```
// Check if the form has attachments
if (g_scratchpad.hasAttachments)
   // do something interesting here
else
   alert('You need to attach a form signed by ' + g_scratchpad.managerName);
```

### Example: 非同期 GlideAjax を使用したサーバーデータの取得

非同期 GlideAjax を使用すると、サーバーからの情報を動的に要求できます。

このスクリプトは、CI のサポートグループとインシデントのアサイン先グループを名前で比較します。

```
//Alert if the assignment groups name matches the support group
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

   if (isLoading)
      return;

   var ga = new GlideAjax('ciCheck');

   ga.addParam('sysparm_name', 'getCiSupportGroup');
   ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
   ga.addParam('sysparm_ag', g_form.getValue('assignment_group'));
   ga.getXML(doAlert); // Always try to use asynchronous (getXML) calls rather than
 synchronous (getXMLWait)
}

// Callback function to process the response returned from the server
function doAlert(response) {

   var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
   alert(answer);
}
```

このスクリプトは、付随するスクリプトインクルードに依存しています。

```
var ciCheck = Class.create();

ciCheck.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {

   getCiSupportGroup: function() {

      var retVal = ''; // Return value
      var ciID   = this.getParameter('sysparm_ci');
      var agID   = this.getParameter('sysparm_ag');
      var ciRec  = new GlideRecord('cmdb_ci');

      // If we can read the record, check if the sys_ids match
      if (ciRec.get(ciID)) {
         if (ciRec.getValue('support_group') == agID)
            retVal = 'CI support group and assignment group match';
         else
            retVal = 'CI support group and assignment group do not match';

         // Can't read the CI, then they don't match
      } else {
         retVal = 'CI support group and assignment group do not match';
      }

      return retVal;
   }

});
```

自動翻訳

### 参照フィールドに **setValue() displayValue** パラメーターを使用する

参照フィールドで setValue() を使用する場合は、追加のサーバー呼び出しを回避するために displayValue パラメーターを含めます。

参照フィールドで *`setValue()`* を使用する場合は、必ず参照フィールドの表示値を 3 番目のパラメーターとして含めてください。displayValue なしで値を設定すると、インスタンスは同期呼び出しを実行して、指定したレコードの表示値を取得します。サーバーとの余分なやり取りが発生することで、パフォーマンスに影響する可能性があります。

この例は、setValue を呼び出す間違った方法を示しています。

```
var id = '5137153cc611227c000bbd1bd8cd2005';

g_form.setValue('assigned_to', id); // Client needs to go back to the server to
                                    // fetch the name that goes with this ID
```

代わりに、表示値をオプションのパラメーターとして *`setValue()`* に含めます。

```
var id = '5137153cc611227c000bbd1bd8cd2005';
var name = 'Fred Luddy';

g_form.setValue('assigned_to', id, name); // No server call required
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### クライアントスクリプトの代わりに UI ポリシーを使用する

可能な場合は、クライアントスクリプトの代わりに UI ポリシーを使用することを検討してください。

UI ポリシーには、クライアントスクリプトに比べて次のメリットがあります。

- UI ポリシーには、クライアント側の操作が実行される順序を完全に制御できる [順序] フィールドがあります。
- UI ポリシーでは、フィールドを必須、読み取り専用にしたり、表示させたりするためのスクリプティングは必要ありません。

> **注:**
> UI ポリシーはクライアントスクリプトの後に適用されます。

### クライアントスクリプトを使用した入力の検証

クライアントスクリプトは、ユーザーからの入力を検証するのに最適です。

この検証により、ユーザーは情報を送信する前にデータの問題があるかどうかを確認できるため、ユーザーエクスペリエンスが向上します。

検証の例として、[影響度] フィールドの値が [優先度] フィールドの値とともに有効であることを確認します。この例では、[低] の影響度を [高] の優先度にすることはできません。

```
if (g_form.getValue('impact') == '3' && g_form.getValue('priority') == '1')
  g_form.showFieldMsg('impact', getMessage('Low impact now allowed with High priority'),
'error');
```

### クライアントスクリプトの順序の設定

[順序] フィールドを使用して、クライアントスクリプトの実行順序を制御します。2 つ以上のクライアントスクリプトが同時に実行されて競合することを避けるために、スクリプトを実行する順序を追加できます。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
クライアントスクリプトに順序を追加すると、番号が小さいものから大きいものの順に処理シーケンスが作成されます。2 つのスクリプトが競合する場合は、番号の小さいクライアントスクリプトが最初に実行されます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > クライアントスクリプト をクリックし、既存のクライアントスクリプトを開くか、[ 新規] をクリックします。
2. [順序] フィールドを含むようにフォームレイアウトを構成します。
3. 他のクライアントスクリプトとの関連で実行する順序に基づいて、[順序] フィールドに番号を追加します。
   最初に実行するスクリプトの数値は小さくしてください。

### DOM 操作の回避

可能であれば、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) の操作は避けてください。ブラウザーが更新されたときに、保守性の問題が発生する可能性があります。

代わりに、GlideForm API を使用するか、別の方法での解決を検討してください。一般に、DOM 操作メソッドを使用する場合は、ID または CSS セレクターを使用して DOM 内の要素を参照する

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

必要があります。すぐに利用可能な DOM 要素を参照する場合、DOM 内の要素 ID または配置が変更され、コードが機能しなくなったり、エラーが生成されたりするリスクがあります。事前に慎重に検討し、発生しているリスクを十分に理解してください。これらのオブジェクトを確認し、DOM 操作メソッドの使用をできるだけ減らします。

### グローバルクライアントスクリプトを避ける

グローバルクライアントスクリプトは、選択したテーブルがグローバルである任意のクライアントスクリプトです。グローバルクライアントスクリプトにはテーブルの制限がないため、システム内のすべてのページでロードされ、プロセスでブラウザーのロード遅延が発生します。

この種のスクリプトをすべてのページにロードするメリットはありません。

別の方法として、すべての子/拡張テーブルから派生できるベーステーブル (タスク [task] や構成アイテム [cmdb_ci] など) にクライアントスクリプトを移動する、よりモジュール式でスケーラブルなアプローチを検討してください。これにより、スクリプトをめったに必要としないホームページや Service Catalog など、UI のすべてのフォームでスクリプトをロードする必要がなくなります。

### 関数でコードを囲む

関数内のクライアントスクリプトでコードを囲みます。

関数のないクライアントスクリプトは、変数スコープに関する問題の原因となります。コードが関数で囲まれていない場合、変数やその他のオブジェクトは使用可能で、他のすべてのクライアント側のスクリプトで共有されます。同じ変数名を使用している場合は、競合する可能性があります。これにより、トラブルシューティングが困難な予期しない結果が生じる可能性があります。

次の例を考えてみましょう。

```
var state = "6";

function onSubmit() {

  if(g_form.getValue('incident_state') == state) {
    alert("This incident is Resolved");
  }
}
```

*state* 変数は関数で囲まれていないため、すべてのクライアント側のスクリプトからアクセスできます。他のスクリプトでも、共通の変数名 *state* を使用できます。重複する名前は競合し、予期しない結果につながる可能性があります。これらの問題は、切り分けて解決することが困難です。この問題を回避するには、すべてのコードが関数で囲まれていることを確認します。

```
function onSubmit() {

  var state = "6";

  if(g_form.getValue('incident_state') == state) {
    alert("This incident is Resolved");
  }
}
```

このソリューションは、変数 *state* のスコープが onSubmit() 関数に制限されているため、はるかに安全です。したがって、*state* 変数は、他のクライアント側のスクリプトの *state* 変数と競合しません。

### 必要なスクリプトのみを実行する

時間のかかるスクリプトを不必要に実行しないようにするには、クライアントスクリプトが必要なタスクのみを実行するようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例は、最初のコードサンプルの改善を示しています。各例は、パフォーマンスを向上させ、不要な呼び出しを回避するためのスクリプトの特定の拡張を示しています。

クライアントスクリプトには [条件] フィールドがないことに注意してください。これは、適切なフォームがロードされるたびに、onLoad() および onChange() スクリプト全体が実行されることを意味します。この例は、[構成アイテム] フィールドが変更されたときに実行されるように設定された非効率的な onChange() クライアントスクリプトです。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

   var ciSupportGroup = g_form.getReference('cmdb_ci').support_group;

   if (ciSupportGroup != '' && g_form.getValue('assignment_group') != '')
      g_form.setValue('assignment_group', ciRec.support_group.sys_id);
}
```

この例では、getReference() または GlideRecord ルックアップを非同期 GlideAjax 呼び出しに置き換えることで、最初の例を改善しています。

```
//Set Assignment Group to support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

   var ga = new GlideAjax('ciCheck');

   ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
   ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
   ga.getXML(setAssignmentGroup);
}

function setAssignmentGroup(response) {

   var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

   g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

*isLoading* フラグは、onChange スクリプトでブラウザーが不要なコードに時間を取られないようにする最も簡単な方法です。*isLoading* フラグは、フォームのロード中に実行する必要のないスクリプトの先頭で使用する必要があります。フィールドが最後に変更されたときにロジックが既に実行されているため、フォームのロード時にこのスクリプトを実行する必要はありません。スクリプトに *isLoading* チェックを追加すると、フォームをロードするたびに cmdb_ci ルックアップが実行されなくなります。

*isTemplate* フラグは、テンプレートがロード中であることを示します。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

   if (isLoading)
      return;

   var ga = new GlideAjax('ciCheck');

   ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
   ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
   ga.getXML(setAssignmentGroup);
}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
function setAssignmentGroup(response) {

   var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

   g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

ロード中に onChange スクリプトを実行する必要がある場合は、次の規則を使用します。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

   if (isLoading) {}; // run during loading

   // rest of script here

}
```

newValue チェックは、関連するフィールドに有効な値がある場合にのみ続行するようにこのスクリプトに指示します。これにより、フィールド値が削除または空白になったときにスクリプトが実行されなくなります。これにより、残りのスクリプトが実行されたときに常に有効な値が使用可能になります。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

   if (isLoading)
      return;

   if (newValue) {
      var ga = new GlideAjax('ciCheck');

      ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
      ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
      ga.getXML(setAssignmentGroup);
   }
}

function setAssignmentGroup(response) {

  var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

  g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

フォームのロード後に変更される値にスクリプトが反応するようにするには、newValue != oldValue チェックを使用します。

**注:**
この例では、ユーザーが値を変更してから元の値に戻すことはできません。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

   if (isLoading)
      return;

   if (newValue) {
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
      if (newValue != oldValue) {
         var ga = new GlideAjax('ciCheck');

         ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
         ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
         ga.getXML(setAssignmentGroup);
      }
   }
}

function setAssignmentGroup(response) {

  var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

  g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

この例では、サーバー呼び出しを実行する前にクライアントが利用できるものをできるだけ多くチェックするようにスクリプトを再配置することで、GlideAjax 呼び出しを 1 レベル深く埋めています。スクリプトは、GlideAjax 呼び出しを実行する前にアサインをチェックします。これにより、**assignment_group** フィールドが既に設定されている場合、サーバールックアップが防止されます。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

   if (isLoading)
      return;

   if (newValue) {
      if (newValue != oldValue) {
         if (g_form.getValue('assignment_group') == '') {
            var ga = new GlideAjax('ciCheck');

            ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
            ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
            ga.getXML(setAssignmentGroup);
         }
      }
   }
}

function setAssignmentGroup(response) {

  var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

  g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

### クライアントスクリプト

クライアントスクリプトを使用すると、フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、システムがクライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行できます。

クライアントスクリプト、スクリプトタイプ、API、および推奨プラクティスの概要

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

クライアントスクリプトを使用して、ユーザーがフォームを使用しているときに、フォーム、フォームフィールド、およびフィールド値を設定します。クライアントスクリプトでは次を行うことができます。

- フィールドの非表示または表示を切り替える
- フィールドを読み取り専用または書き込み可能にする
- ユーザーのロールに基づいてフィールドをオプションまたは必須にする
- 他のフィールドの値に基づいて 1 つのフィールドの値を設定する
- ユーザーのロールに基づいて選択リストのオプションを変更する
- フィールドの値に基づいてメッセージを表示する

## クライアントスクリプトが実行される場所

*onCellEdit* クライアントスクリプトを除き、クライアントスクリプトはフォームおよび検索ページにのみ適用されます。フォームのフィールド値を制御するクライアントスクリプトを作成する場合は、別の方法を使用してリスト内のフィールド値を制御する必要があります。

- フィールド値を編集できるユーザーを制限するアクセス制御を作成します。
- コンテンツを検証するビジネスルールを作成します。
- コンテンツを検証するデータポリシーを作成します。
- *onCellEdit()* クライアントスクリプトを作成してコンテンツを検証します。
- テーブルのリスト編集を無効にします。

**注:**
クライアントスクリプトは ServiceNow Mobile アプリケーションではサポートされていません。

## クライアントスクリプトフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | クライアントスクリプトの名前。 |
| テーブル | クライアントスクリプトを適用するテーブル。 |
| UI タイプ | クライアントスクリプトを適用するターゲットユーザーインターフェイス。 |
| タイプ | *onLoad()*：システムが最初にフォームをレンダリングするとき、およびユーザーがデータを入力できるようになる前に実行されます。通常、*onLoad()* クライアントスクリプトは、現在のフォームをクライアントサイドで操作するためやデフォルトのレコード値を設定するために使用されます。<br><br>*onSubmit()*：フォームが送信されると実行されます。通常、*onSubmit()* クライアントスクリプトがフォーム上のデータを検証して、フォームが正しく送信されるようにします。*onSubmit()* クライアントスクリプトから false を返すことでフォームの送信を取り消すこともできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | *onChange()*：フォーム上の特定のフィールド値が変更されたときに実行されます。*onChange()* クライアントスクリプトには、以下のパラメーターを指定する必要があります。<br>• *control*：値が変更された DHTML ウィジェット。<br>注:<br>*control* にはモバイルおよび Service Portal ではアクセスできません。<br>• *oldValue*：レコードがロードされたときのウィジェットの値。<br>注:<br>HTML フィールドタイプに対して古い値は返されません。<br>• *newValue*：変更後のウィジェットの値。<br>• *isLoading*：フォームのロードの一環として変更が行われるかどうかを示します。<br>• *isTemplate*：テンプレートのロードの一環として変更が行われるかどうかを示します。<br>*onCellEdit()*：リストエディターがセル値を変更したときに実行されます。*onCellEdit()* クライアントスクリプトには、以下のパラメーターを指定する必要があります。<br>• *sysIDs*：編集中の全アイテムの sys_id のアレイ。<br>• *table*：編集中のアイテムのテーブル。<br>• *oldValues*：編集中のセルの古い値。<br>• *newValue*：編集中のセルの新しい値。<br>• *callback*：コールバックによって、関連するその他のセル編集スクリプトの実行に進みます。*true* がパラメーターとして渡されると、他のスクリプトが実行されるか、他にスクリプトがない場合は変更がコミットされます。*false* がパラメーターとして渡されると、それ以上のスクリプトは実行されず、変更はコミットされません。 |
| フィールド名 | スクリプトが適用されるフィールドの名前。スクリプトがフィールド値の変更に応答する場合にのみ使用できます (onChange または onCellEdit スクリプトタイプ)。 |
| アプリケーション | このクライアントスクリプトが存在するアプリケーション。 |
| アクティブ | 選択すると、クライアントスクリプトが有効になります。クライアントスクリプトを無効にするには、このフィールドの選択を解除します。 |
| 継承 | クライアントスクリプトが拡張テーブルに適用されるかどうかを示します。 |
| グローバル | true の場合、クライアントスクリプトはテーブルのすべてのビューで実行されます。 |
| 表示 | [グローバル] が選択されていない場合にのみ表示されます。クライアントスクリプトが実行されるビュー。 |
| 説明 | クライアントスクリプトの機能と目的を説明するコンテンツ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| メッセージ | `getMessage('[message]')` を使用したローカライズ済みメッセージとして、クライアントスクリプトに提供されるテキスト文字列 (各行に 1 つ)。詳細については、「クライアントスクリプトメッセージの翻訳」を参照してください。 |
| スクリプト | クライアントスクリプトが含まれています。 |
| スクリプトを隔離 | 新しいクライアントスクリプトは、DOM への直接アクセスを無効にして、Strict モードで実行されます。jQuery、prototype、および window オブジェクトへのアクセスも無効になります。スクリプト単位でこれを無効にするには、このフォームを構成して [スクリプトを隔離] チェックボックスをオンにします。すべての新しいグローバルスコープのクライアント側スクリプトに対してこの機能を無効にするには、システムプロパティ glide.script.block.client.globals を false に設定します。 |

### UI スクリプト

UI スクリプトを使用すると、クライアント側の JavaScript を再利用可能な形式にパッケージ化できます。これは、スクリプトインクルードがサーバー側の JavaScript を格納する方法と似ています。管理者は、UI スクリプトを作成し、それらをクライアントスクリプト、他のクライアント側のスクリプトオブジェクト、および HTML コードから実行できます。

UI スクリプトはモバイルではサポートされていません。

### グローバル UI スクリプト

UI スクリプトを作成してグローバルとして指定すると、システム内の任意のフォームでスクリプトを使用できるようになります。スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。

UI スクリプトをグローバルとして指定すると、システム内の任意のフォームが使用できるようになります。たとえば、関数 `helloWorld()` を持ち、[グローバル] フィールドがオンになっている UI スクリプトを作成できます。

```
function helloWorld() {
  alert('Hi');
}
```

このグローバル UI スクリプトを作成した後、作成したクライアントスクリプトまたは UI ポリシーから `helloWorld()` 関数を呼び出すことができます。

### UI スクリプトの作成

再利用可能なクライアント側の JavaScript コードを定義する UI スクリプトを作成します。

#### 手順

UI スクリプトを作成するには、次の場所に移動します。 システム **UI** > **UI** スクリプト をクリックし、レコードを作成または編集します (フィールドの説明についてはテーブルを参照)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**UI** スクリプト

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| スクリプト名 | UI スクリプトの名前。名前がシステム上で一意であることを確認してください。 |
| API 名 | スコープとスクリプト名を含む、UI スクリプトの API 名 (x_custom_app.HelloWorld など)。 |
| アプリケーション | UI スクリプトを含むアプリケーション。 |
| アクティブ | UI スクリプトがアクティブかどうかを示すインジケーター。アクティブな UI スクリプトのみを実行できます。 |
| グローバル | スクリプトがシステム内のすべてのページでロードされるかどうかを示すインジケーター。<br>**注:** パフォーマンスに影響を与える可能性があるため、グローバル UI スクリプトを作成するときは注意が必要です。スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。 |
| 説明 | スクリプトの目的の概要。 |
| スクリプト | 他のスクリプトから呼び出されたときに実行するクライアント側のスクリプト。 |

### **UI** スクリプトの実行

UI スクリプトを実行するときは、次のガイドラインに従ってください。

## フォームからの **UI** スクリプトの実行

フォームで UI スクリプトを実行するには、フォーマッターを作成してフォームに追加します。関連する UI マクロで、 g:requires タグを含め、*name*= パラメーターの後に .jsdbx 拡張子を付けた UI スクリプト名を指定します。フォームビューにフォーマッターを追加します。

このコードにより、UI スクリプトの定義と結果をブラウザーですぐに利用できるようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide" xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">
   <g2:evaluate var="jvar_stamp">
      var now_GR = new GlideRecord('sys_ui_script');
      gr.orderByDesc('sys_updated_on');
      gr.query();
      gr.next();
      gr.getValue('sys_updated_on');
   </g2:evaluate>
   <g:requires name="<UI SCRIPT NAME>.jsdbx" params="cache=$[jvar_stamp]" />
</j:jelly>
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## HTML での UI スクリプトの呼び出し

HTML コードから UI スクリプトを実行するには、]]> タグを使用し<![CDATA[<script>、UI スクリプトの API 名として src= 引数を指定し、その後に .jsdbx 拡張子を付けます。たとえば、*CoolClock* という名前の UI スクリプトを次のコードに含めます。

```
<script language="javascript" src="CoolClock.jsdbx" />
```

## クライアント側のコードからの UI スクリプトの呼び出し

*g_ui_scripts* グローバルオブジェクトを使用して、クライアント側のコード内から UI スクリプトにアクセスします。詳細については、次を参照してください： GlideUIScript -クライアント.

**注:**
[グローバル] フィールドが true に設定されている UI スクリプトは、このクラスではサポートされません。

### カタログ クライアント スクリプト

クライアント側のスクリプトは、フォームに動的な効果と検証を追加できます。スクリプトは Service Catalog アイテムまたは変数セットに適用できるため、管理者は他のフォームで利用可能なものと同じ機能を使用できます。

クライアント側のサイドスクリプトを使用して、次のことができます。

- 変数値を取得または設定します。
- 変数を非表示にするか表示します。
- 変数を必須にするかどうかを指定します。
- フォームの送信を検証します。
- 買い物かごに追加します。
- すぐに注文します。

### カタログクライアントスクリプトの考慮事項

カタログクライアントスクリプトを作成するときは、次の考慮事項に注意してください。

- カタログクライアントスクリプトは、ユーザーがサービスカタログからアイテムを注文したときに実行されます。カタログクライアントスクリプトは、ユーザーがカタログアイテムを要求したときにカタログアイテムの変数または変数セットが表示されるときにも実行できます。
- カタログクライアントスクリプトを使用して変数にアクセスできるようにするには、変数名が必要です。名前のない変数は、利用可能な変数のリストに表示されません。
- [要求アイテム] フォームまたは [カタログタスク] フォームで標準のクライアントスクリプトを使用する場合は、変数と同じ名前のフィールドをメモしておきます。同じ名前のテーブルフィールドと変数の両方がフォームに存在する場合、スクリプトを使用してアクセスするとテーブルフィールドが照合されます。これが発生した場合は、変数に「variables.variable name」という名前を付けて、具体的に対処します。例：g_form.setValue('variables.replacement', 'false');
- レコードプロデューサーを使用して Service Catalog から他のタイプのレコードに変数を渡す場合、これらの変数は、[変更要求] フォームの変更変数エディター UI フォーマッターなどの変数エディターを使用して、それらのレコードに表示されます。これらの変数は、標準のクライアントスクリプトメソッド (setDisplay、setMandatory、setValue、getValue など) を使用して操作できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カタログクライアントスクリプトは、ウィザードに含まれるカタログアイテムに使用できます。
- g_form.refreshSlushbucket(fieldName) API を使用して、リストコレクター変数を更新できます。

### カタログクライアントスクリプトの違い

カタログクライアントスクリプトは、標準のクライアントスクリプトとよく似ていますが、いくつかの重要な違いがあります。

- スクリプトの [インシデント] などのテーブルを選択する代わりに、カタログアイテムまたは変数セットを選択します。システムには多数のカタログアイテムがある場合があるため、標準の [クライアントスクリプト] フォームで使用される選択リストではなく、参照フィールドを使用してカタログアイテムまたは変数セットを選択する必要があります。
- *onChange( )* カタログクライアントスクリプトを使用すると、フィールドではなく特定の変数にリンクされます。変数名選択リストには、選択したカタログアイテムまたは変数セットの名前付き変数が自動的に入力されます。

### カタログクライアントスクリプトの作成

カタログクライアントスクリプトを作成するには、次の手順に従います。

#### 手順

1. 移動先 すべて > サービスカタログ > カタログ管理 > カタログクライアントスクリプト.
   現在のカスタムカタログクライアントスクリプトのリストが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じてフィールドに入力します (表を参照)。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | カタログクライアントスクリプトの一意の名前を入力します。 |
| 適用先 | このクライアントスクリプトが適用されるアイテムタイプを選択します。<br>○ カタログアイテム：[カタログアイテム] フィールドを有効にします。<br>○ 変数セット：変数セットフィールドを有効にします。 |
| アクティブ | クライアントスクリプトを有効にするチェックボックスをオンにします。スクリプトを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。 |
| UI タイプ | デスクトップ、モバイル、またはその両方に適用するかどうかを指定します。 |
| スクリプト | サービスカタログアイテムで実行するべきクライアントスクリプトを入力します。 |
| タイプ | **onLoad** や **onSubmit** などのスクリプトを実行するタイミングを選択します。 |
| カタログアイテムまたは変数セット | リストからカタログアイテムまたは変数セットを選択します。使用可能なフィールド名とオプションは、[適用先] フィールドの選択によって異なります。 |
| カタログアイテムビューに適用 | サービスカタログの注文画面に表示されているカタログアイテムにカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。要求者のビューで利用可能です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 要求アイテムに適用 | アイテムが要求された後、[要求アイテム] フォームにカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。履行者のビューで利用可能です。「VEditor」を参照してください。 |
| カタログタスクに適用 | アイテムの [カタログタスク] フォームの表示中にカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。履行者のビューで利用可能です。「VEditor」を参照してください。 |
| ターゲットレコードに適用 | レコードプロデューサーを使用してタスク拡張テーブル用に作成されたレコードでカタログ UI ポリシーをサポートするには、このチェックボックスをオンにします。「デフォルトの変数エディター」を参照してください。 |

4. [送信] をクリックします。

### カタログクライアントスクリプトの例

一般的なアクションを実行するクライアントスクリプトの例。

#### **Example:** 変数の値の取得

カタログ変数の値を取得するには、次の構文を使用します。変数には名前が必要であることに注意してください。「variable_name」を変数の名前に置き換えます。

```
g_form.getValue('variable_name');
```

#### **Example:** ユーザーが変数に入力できる文字数を制限する

これは、アイテムが注文されたときではなく、変数が表示されたときに実行されるスクリプトの例です。

```
function onLoad(){
  var sd = g_form.getControl('short_description');
  sd.maxLength=80;
}
```

### モバイル クライアント **GlideForm (g** フォーム) のスクリプトと移行

モバイル用のクライアントスクリプトは、Web 用のスクリプトと同じですが、いくつかの例外があります。すべての新しいスクリプトは特定のガイドラインに準拠する必要があります。モバイルプラットフォームで影響を受けるアイテムは、クライアントスクリプト、UI ポリシー、ナビゲーターモジュール、および UI アクションです。

#### クライアントスクリプト

新しいスクリプトまたは既存のスクリプトをモバイルで有効にするには、次の要件に準拠する必要があります。

- `g_form.getControl()` の代わりに、新しいモバイルメソッドを使用する。
- 使用禁止メソッドは使用しない。
- サポート対象外のブラウザーオブジェクトは参照しない。
- 同期 JavaScript、`GlideAjax`、`GlideRecord` 呼び出しを使用しない。
- モバイルでは利用できないメソッドは呼び出さない。
- スクリプトをモバイル UI で実行できるようにする。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要件 | |
|---|---|
| 新しいモバイルメソッドを使用する | HTML を直接操作するのではなく、フォームフィールドを変更するための新しいメソッドがいくつか用意されています。これらのメソッドにより、以前使用していた `g_form.getControl()` は置き換えられ、モバイルプラットフォームで使用禁止になります。既存のスクリプトでは、モバイルプラットフォームで無効になったメソッドの代わりに、新しいメソッドが使用されるようにします。これらの新しいメソッドの詳細については、「Mobile GlideForm() API」を参照してください。 |
| 使用禁止メソッドを使用しない | HTML 要素への直接アクセスが許可されていないため、モバイルプラットフォームで次のメソッドが使用禁止になりました。<br>• `g_form.getControl()`<br>• `g_form.getFormElement()`<br>• `g_form.getElement()`<br>既存のスクリプトに互換性があることを確認するには、使用禁止メソッドへのすべての呼び出しをコードから削除します。新しいスクリプトの場合、スクリプトをモバイルで有効にするには、使用禁止メソッドを使用しないでください。<br>`g_form.getControl()` の場合、以前にこのメソッドに含まれていた機能のいくつかが個々のメソッドに抽出されています。`g_form.getControl()` の代わりに、開発者サイトに記載されている新しいメソッドを使用します。 |
| サポート対象外のブラウザーオブジェクトは参照しない | モバイルスクリプトでは、次のブラウザーオブジェクトはサポートされていません。<br>• ウィンドウ<br>• jQuery または Prototype ($、$j、または $$)<br>• ドキュメント<br>新しいスクリプトがこれらのオブジェクトを使用していないことを確認し、既存のスクリプトからこれらのオブジェクトを削除します。代わりに、`GlideForm (g_form)` を使用します。同じタスクを実行するために、`setLabel()`、`addDecoration()`、および `hasField()` などのメソッドが提供されています。 |
| 同期 JavaScript 呼び出しを使用しない | モバイルプラットフォームでは、同期 JavaScript 呼び出しは許可されていません。`g_form.getReference()` メソッドでは、コールバックパラメーターを定義しておく必要があります。例：<br>`g_form.getReference(fieldName, callback)`<br>すべての `g_form.getReference()` 呼び出しにコールバックパラメーターが含まれるようにします。たとえば、次のスクリプトにはコールバックが含まれないため、モバイルプラットフォームとは互換性がありません。<br>`var userName = g_form.getReference('assigned_to').user_name;`<br>`g_form.setValue('u_assigned_user_name', userName);` |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 要件 (続く) | |
|---|---|
| | 次のスクリプトは、コールバックが含まれるように更新されたため、モバイルプラットフォームと互換性があります。<br>`g_form.getReference('assigned_to', function(now_GR) {`<br>`  g_form.setValue('u_assigned_user_name', gr.user_name);`<br>`});` |
| 同期 Ajax 呼び出しを使用しない | モバイルプラットフォームは、同期 *GlideAjax* 呼び出しを許可していません。*GlideAjax* で *getXMLWait()* をどのように使用しても、モバイルプラットフォームでは機能しません。すべての *GlideAjax* 呼び出しが常に非同期になるようにします。*GlideAjax* 呼び出しと *getXMLWait()* の同期と非同期の詳細については、「AJAX」を参照してください。利用可能な *GlideAjax* メソッドの詳細については、「GlideAjax API」を参照してください。 |
| 同期 *GlideRecord* 呼び出しを使用しない | モバイルプラットフォームでは同期 GlideRecord 呼び出しは使用できません。既存の *GlideRecord* 呼び出しにコールバックが含まれるようにします。たとえば、次のスクリプトにはコールバックが含まれないため、モバイルプラットフォームとは互換性がありません。<br>`var now_GR = new GlideRecord('incident');`<br>`gr.addQuery('number', g_form.getValue('related_incident'));`<br>`gr.query();`<br>`gr.next();`<br>`g_form.setValue('u_related_incident_description', gr.short_description);`<br>次のスクリプトは、コールバックが含まれるように更新されたため、モバイルプラットフォームと互換性があります。<br>`var now_GR = new GlideRecord('incident');`<br>`gr.addQuery('number', g_form.getValue('related_incident'));`<br>`gr.query(function(now_GR) {`<br>`  gr.next();`<br>`  g_form.setValue('u_related_incident_description', gr.short_description);`<br>`});` |
| モバイルプラットフォームで利用できないメソッドは使用しないでください | モバイルプラットフォームによって課せられる制限と機能の低下により、次のメソッドは使用禁止されることはありませんが、モバイルプラットフォームでは利用できません。モバイルプラットフォームで実行されても、何も起こりません。<br>• *showRelatedList ()*<br>• *hideRelatedList ()*<br>• *showRelatedLists ()*<br>• *hideRelatedLists()*<br>• *flash()*<br>• *getSections()*<br>• *enableAttachments()*<br>• *disableAttachments()*<br>• *setReadonly()* (*setReadOnly()* は利用可能です)<br>• *getParameter()* |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要件 (続く)

| | |
|---|---|
| モバイル用スクリプトを有効にする | モバイルプラットフォームでスクリプトを有効にする必要があります。 |

注:
モバイルフォームでの要素のフォーカスはサポートされていません。

## UI ポリシー

モバイル プラットフォーム、デスクトップ、またはその両方でスクリプトを実行するかどうかを決定するには、**[UI** タイプでスクリプトを実行] フィールドを使用します。既存のポリシーがモバイルプラットフォームまたはその両方に適用されるように既存のポリシーを更新します。新しいスクリプトの場合は、モバイルオプションまたはその両方が選択されていることも確認します。

## ナビゲーターモジュール

既存のコードの場合、モジュールをモバイルプラットフォームで使用するには、sys_ui_application または sys_ui_module のいずれかのテーブルに転送する必要があります。新しいコードを開発する場合は、すべてのモジュールが sys_ui_application または sys_ui_module テーブルで作成されるようにしてください。

## UI アクション

UI アクションをモバイルプラットフォームで表示するには、sys_ui_ng_action テーブルに転送する必要があります。使用禁止メソッドを使用しない UI アクションスクリプトでは、スクリプト自体を変更する必要はありません。新しい UI アクションの場合は、sys_ui_ng_action テーブルで作成されるようにしてください。

### AJAX

AJAX (非同期 JavaScript および XML) は、非同期 Web アプリケーションの作成に使用される、相互に関連するクライアントサイド開発手法の集まりです。

AJAX を使用すると、Web アプリケーションは、表示される Web ページのユーザーエクスペリエンスに影響を与えることなく、バックグラウンドでサーバーとの間で情報を送受信できます。

### GlideAjax

`GlideAjax` クラスを使用すると、クライアントからサーバーサイドのコードを実行できます。`GlideAjax` 呼び出しはスクリプトインクルードにパラメーターを渡し、命名規則を使用してこれらのパラメーターを使用できるようにします。

注:
この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

`GlideAjax` の使用：

- 使用するスクリプトインクルードの名前で `GlideAjax` を初期化します。
- スクリプトインクルードを作成するときは、名前フィールドをクラス名とまったく同じに設定する必要があります。
- スクリプトインクルードを作成するときは、[クライアントコール可能] チェックボックスをオンにする必要があります。
- パラメーター　`sysparm_name` を指定します。`GlideAjax` は　`sysparm_name` を使用して、使用する関数を検索します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 追加のパラメーターを渡すことができます。すべてのパラメーターは「*sysparm_*」で始まる必要があります。事前定義されたパラメーター名は使用しないでください。
  - *sysparm_name*
  - *sysparm_function*
  - *sysparm_value*
  - *sysparm_type*
- 次に、*getXML()* または *getXMLWait()* 関数を使用してコードが実行されます。

詳細については、GlideAjax API を参照してください。

非同期 **GlideAjax** の例

非同期 *GlideAjax* スクリプトには、クライアント側のコードとサーバー側のコードの 2 つの部分があります。

## **Hello** World：サーバーから値を返す

### **Example:** クライアント側

このコードはクライアント (Web ブラウザー) で実行されます。クライアントスクリプト を通常通りに作成します。これにより、パラメーターがサーバーに送信され、サーバーが処理を行います。クライアントが結果を待たないように、コールバック関数を使用して結果を返し、*getXML()* 関数に渡します(この場合は「HelloWorldParse」と呼ばれます)。

*getXMLWait()* 関数には個別のコールバック関数は必要ありませんが、これによりクライアントがブロックされます。クライアント/サーバー間の通信に時間がかかる場合 (ネットワークが遅い場合など)、アプリケーションが応答せず、速度が低下しているように感じます。*getXMLWait()* の例は、次のセクションにあります。

```
var ga = new GlideAjax('HelloWorld');
ga.addParam('sysparm_name', 'helloWorld');
ga.addParam('sysparm_user_name', "Bob");
ga.getXML(HelloWorldParse);

function HelloWorldParse(response) {
 var answer = response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");
 alert(answer); }
```

### **Example:** サーバー側

上記の関数のサーバー側のコード。ビジネスルールを作成するのではなく、次の場所に移動します。スクリプトインクルード**>**システム定義 新しいスクリプトを作成します以下のコードを貼り付けます。

> **注:**
> スクリプトインクルードの名前を「HelloWorld」に設定する必要があります。

- *sys_script_include* コードは、*AbstractAjaxProcessor* クラスを拡張し、クライアントが呼び出すことができる必要があります。
- 「_」で始まる関数名はプライベートと見なされ、クライアントから呼び出すことはできません。
- 「initialize」を含む *AbstractAjaxProcessor* のメソッドは上書きしないでください。上書きしたスーパークラスオブジェクトのメソッドを呼び出すことはできますが、複雑なため、総じて避けることをお勧めします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var HelloWorld = Class.create();
HelloWorld.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {
  helloWorld:function() { return "Hello " + this.getParameter('sysparm_user_name') + "!"; } ,
  _privateFunction: function() { // this function is not client callable
   }
});
```

これにより、フォームを訪問すると「Hello Bob!」というアラートボックスが表示されます。

### 複数の値を返す

応答は XML ドキュメントであるため、単一の answer 値しか返せないわけではありません。複数の XML ノードと属性を返す、より複雑な例を次に示します。

#### **Example: AJAX** プロセッサースクリプトインクルード

```
/*
 * MyFavoritesAjax script include Description - sample AJAX processor returning multiple value
 pairs
 */
var MyFavoritesAjax = Class.create();
MyFavoritesAjax.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {

 /*
 * method available to client scripts call using:
 * var gajax = new GlideAjax("MyFavoritesAjax");
 * gajax.addParam("sysparm_name","getFavorites");
 */
 getFavorites: function() { // build new response xml element for result
       var result = this.newItem("result");
  result.setAttribute("message","returning all favorites");

  //add some favorite nodes with name and value attributes
       this._addFavorite("color","blue");
       this._addFavorite("beer","lager");
       this._addFavorite("pet","dog");
     },
 // all items are returned to the client through the inherited methods of AbstractAjaxProcessor
 _addFavorite: function(name, value) {
        var favs = this.newItem("favorite");
   favs.setAttribute("name",name);
   favs.setAttribute("value",value); },

 type:"MyFavoritesAjax"

});
```

#### **Example:** クライアントスクリプト

```
// new GlideAjax object referencing name of AJAX script include
var ga = new GlideAjax("MyFavoritesAjax");
// add name parameter to define which function we want to call
// method name in script include will be getFavorites
ga.addParam("sysparm_name","getFavorites");

// submit request to server, call ajaxResponse function with server response
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
ga.getXML(ajaxResponse);

function ajaxResponse(serverResponse) {
 // get result element and attributes
 var result = serverResponse.responseXML.getElementsByTagName("result");
 var message = result[0].getAttribute("message");

 //check for message attribute and alert user
 if(message) alert(message);

 //build output to display on client for testing
 var output = "";

 // get favorite elements
 var favorites = serverResponse.responseXML.getElementsByTagName("favorite");
 for(var i = 0; i < favorites.length; i ++) {
  var name = favorites[i].getAttribute("name");
  var value = favorites[i].getAttribute("value");
  output += name + " = " + value + "\n "; }

 alert(output); }
```

### Example: XML 応答

```
<xml sysparm_max= "15" sysparm_name="getFavorites"
 sysparm_processor="MyFavoritesAjax">
 <result message = "returning all favorites"></result>
 <favorite name = "color" value = "blue"></favorite>
 <favorite name = "beer" value = "lager"></favorite>
 <favorite name = "pet" value = "dog"></favorite>
</xml>
```

#### 同期 GlideAjax の例

*GlideAjax* 応答がないとスクリプトを続行できない場合は、同期を使用します。これにより、応答を受信するまでセッションが停止します。

ユースケースで、*GlideAjax* 応答を受信するまでそれ以上の処理を実行できないようにする必要がある場合は、*getXMLWait()* を使用できます。ただし、これによりコードの速度が低下し、応答を受信するまでユーザーセッションがロックされるため、通常はコールバック関数とともに *getXML()* を使用することをお勧めします。

**注:**
*AJAXEvaluateSynChronusly* は使用しないでください。

**注:**
*getXMLWait()* メソッドはスコープ対象のアプリケーションでは使用できません。

このコードにより、クライアント側でアラートが生成され、「The Server Says Hello Bob!」と表示されます。

クライアントコード。

```
var ga = new GlideAjax('HelloWorld') ;
ga.addParam('sysparm_name','helloWorld');
ga.addParam('sysparm_user_name',"Bob");
ga.getXMLWait();
alert(ga.getAnswer());
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サーバー側のスクリプトインクルードコード。

```
var HelloWorld = Class.create();
HelloWorld.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {
helloWorld: function()
 { return "The Server Says Hello " + this.getParameter('sysparm_user_name') + "!"; } } );
```

### AJAXClientHelper

Ajax クライアントから値を取得するためのヘルパー関数を Ajax クライアントに提供します。

## 使用する状況

Ajax クライアントから値を取得する必要がある場合は、このスクリプトインクルードを使用します。

## メソッドの概要

| メソッドの概要 | 説明 |
|---|---|
| `getDisplay()` | 選択リストから表示値を取得します。 |

## メソッドの詳細

| API メソッド | 説明 | 入力パラメーター | 出力リターン |
|---|---|---|---|
| `getDisplay()` | 選択リストから表示値を取得します。 | なし | 表示値。 |

### Example: cURL

```
// getDisplay
(function(table, sysId) {
    var ga = new GlideAjax('AjaxClientHelper');
    ga.addParam("sysparm_name", "getDisplay");
    ga.addParam('sysparm_table', 'incident');
    ga.addParam('sysparm_value', "0598b22b877313003c1c8467a7cb0b71");
    ga.getXMLWait();
    return ga.getAnswer();
}("incident", "0598b22b877313003c1c8467a7cb0b71")); // Returns 'INC0010001'
```

## 有用なスクリプト

コアシステムに含まれていない便利な機能を提供するスクリプト。

### ユーザーオブジェクトを取得する

ビジネスルールやその他のサーバースクリプトでは、`gs.getUser()` メソッドがユーザーオブジェクトを返します。ユーザーオブジェクトは、現在ログインしているユーザーの内部表現であり、ユーザーやさまざまなユーティリティ機能に関する情報を提供します。

#### このタスクについて

ユーザーオブジェクトで利用可能なスコープ対象メソッドのリストと説明については、「GlideUser」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 現在のユーザーを取得します。

```
var myUserObject = gs.getUser()
```

2. *getUserByID* メソッドを使用し、ターゲットレコードの user_name フィールドまたは sys_id を使用して別のユーザーをフェッチします。
例：

```
var ourUser = gs.getUser();
gs.print(ourUser.getFirstName()); //print the first name of the user you are currently logged in as
newUser = ourUser.getUserByID(<user_sys_id>); //fetch a different user, using the sys_id of the target user record.
gs.print(newUser.getFirstName()); //first name of the user you fetched above
gs.print(newUser.isMemberOf(–'Capacity Mgmt'));
```

### ビジネスルールからワークフロースクラッチパッドへのアクセス

カタログアイテムが要求されました。添付されたワークフローには、スクラッチパッドに値を入力するスクリプト実行アクティビティが含まれています。要求アイテムで実行されているビジネスルールから、スクラッチパッドの値を取得または設定します。

### 前提条件

必要なロール：admin

名前：ビジネスルールからのワークフロースクラッチパッドへのアクセス

タイプ：ビジネスルール

テーブル： sc_req_item (要求アイテム)

説明：カタログアイテムが要求されました。添付されたワークフローには、スクラッチパッドに値を入力するスクリプト実行アクティビティが含まれています。要求アイテムで実行されているビジネスルールから、スクラッチパッドの値を取得または設定します。

パラメーター：適用外

スクリプト：

```
//the run script activity sets a value in the scratchpad
workflow.scratchpad.important_msg = "scratch me";

//get the workflow script include helper
var workflow = new Workflow();

//get the requested items workflow context
//this will get all contexts so you'll need to get the proper one if you have multiple workflows for a record
var context = workflow.getContexts(current);
//make sure we have a valid context
if (context.next()) {
  //get a value from the scratchpad
  var msg = context.scratchpad.important_msg;
  //msg now equals "scratch me", that was set in the run script activity

  //add or modify a scratchpad value
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 context.scratchpad.status = "completed";
 //we need to save the context record to save the scratchpad
 context.update();
}
```

### サービスカタログのチェックアウトへのフィールドの追加

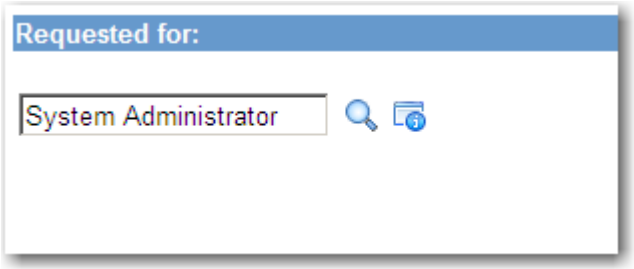
これは、買い物かご以外のレイアウトマクロを使用して、[要求元：] フィールドの下のチェックアウトに [会社 **(Company)]** フィールドを追加する例です。つまり、*glide.sc.use_cart_layouts* は falseです。

#### 始める前に

必要なロール：管理者

#### このタスクについて

フィールドの要求元




このフィールドは、そのフィールドの値をサービスカタログ要求の [会社] フィールドに渡します。

この例は、以下を前提としています。

- この例は、2 ステップチェックアウトを使用するインスタンス用です。2 ステップチェックアウトが有効になっていない場合は、開始する前に有効にしてください。
- この例では、サービスカタログ要求フォームの [会社] フィールドに値を入力します。フィールドがフォームに表示されない場合は、開始する前にフォームを構成します。

#### 手順

1. [システム **UI] > [UI** マクロ] に移動し、**[servicecatalog_cart_template]** を選択します。
2. 非表示の変数が宣言されている箇所を見つけて、次の行を追加します。

```
<input type="HIDDEN" name="cart_id" id="cart_id" value="$[sc_cart.sys_id]" />
```

3. 要求元コードを生成する次のコードを探します。

```
<tr class="header">
<td width = "30%">
 ${gs.getMessage('Requested for')}:
 </td>
 <td width="70%">
  <label for="requestor_location">${gs.getMessage('Deliver to')}:</label>
 </td>
</tr>
<tr><td>$[SP]</td>
</tr>
 <tr><td valign="top">
  <j2:if test="$[jvar_can_delta_rf == false]">
   $[sc_cart.requested_for.getDisplayValue()]
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
  </j2:if>
  <j2:if test="$[jvar_can_delta_rf != false]">
    <g2:catalog_requested_for />
  </j2:if>
 </td>
 <td>
  <textarea id="requestor_location" style="width:100%" rows="4"
name="requestor_location" wrap="soft" onChange="catDeliveryAddress('$[sc_cart.sys_id]',
'requestor_location');">
    $[sc_cart.delivery_address]
  </textarea>
 </td>
</tr>
<tr>
 <td>$[SP]</td>
</tr>
```

**4.** 後で次のコードを追加します。

```
<tr class="header">
 <td colspan="2">Company</td>
</tr>
<tr>
 <td>$[SP]</td>
</tr>
<tr>
 <td colspan="2">
  <g2:ui_reference name="core_company" table="core_company"
onchange="setCartValue()"/>
 </td>
</tr>
<tr>
 <td>$[SP]</td>
</tr>
```

**注:**
ui_reference マクロは参照フィールドを定義します。さまざまなフィールドタイプにいくつかのマクロがあります。これらのフィールドタイプの例は、[システム **UI] -> [UI** マクロ]で確認できます。これらのマクロは先頭が「ui_」で始まります。この例では、作成される参照フィールドの名前は **core_company** です。

**5.** [システム **UI] > [UI** ページ] に移動し、**[servicecatalog_checkout_one]** UI ページを選択します。

**6.** 次のスクリプトを [クライアントスクリプト] フィールドに追加します。

```
function setCartValue() {
 var newField = gel('core_company');
 var myCart = gel('cart_id');
 var cart_item = new GlideRecord('sc_cart_item');
 cart_item.addQuery('cart', myCart.value);
 cart_item.query();
 if(cart_item.next()) {
  cart_item.hints = "<hints><entry key='sysparm_processing_hint'
value='setfield:request.company=" + newField.value + "'/></hints>";
  cart_item.update();
 }
}
```

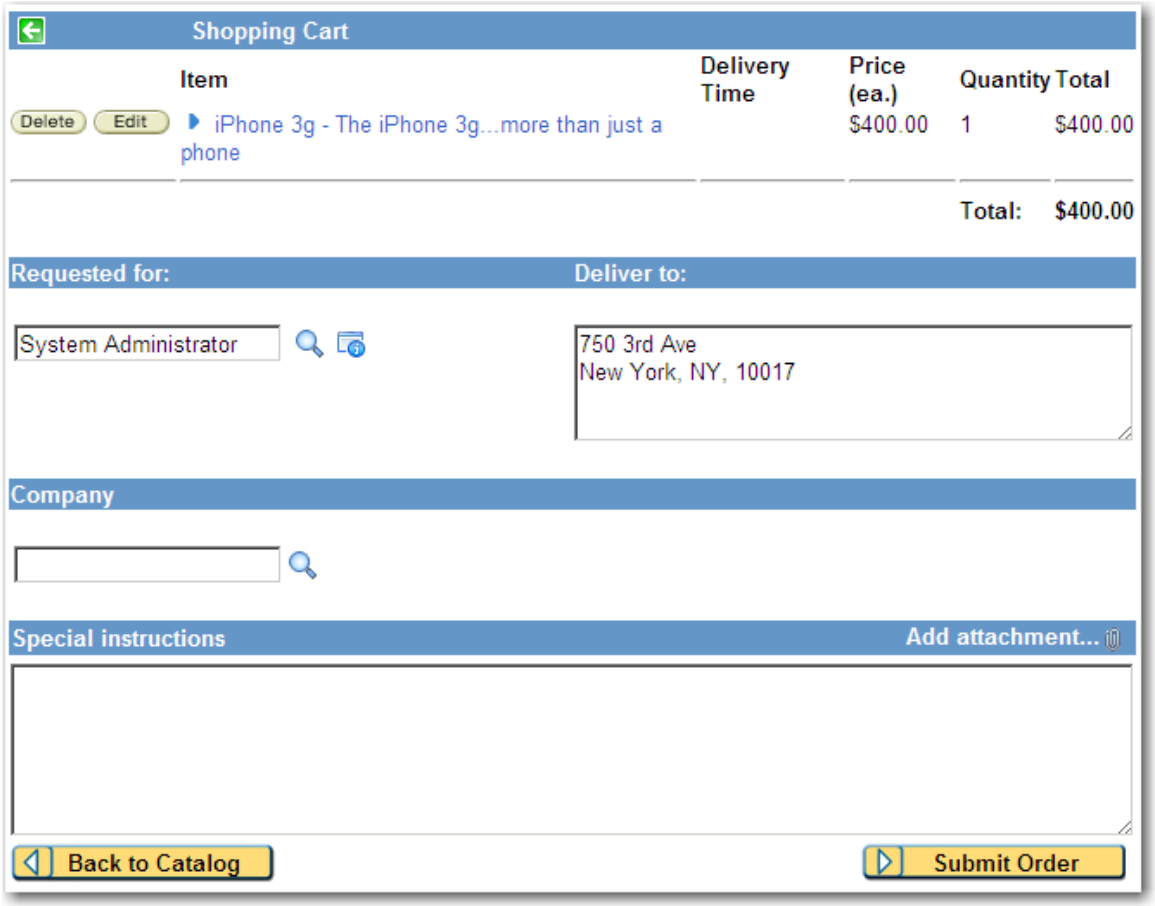
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、参照フィールドは **core_company** と呼ばれ、要求に応じて入力されるフィールドは **company** です。異なるフィールドを使用する場合：

- 次の行を探します。`var company = gel('core_company');`。次に、**core_company** をチェックアウトのフィールドの名前に置き換えます。
- 先頭が「`cart_item.hints`」で始まる行で、「`request.company`」を要求チケットに応じて入力されるフィールドの名前に置き換えます。ここで、「`request`」は生成される要求であり、「`company`」はフィールドの名前です。

タスクの結果
アイテムが注文されると、会社フィールドがカタログフォームに表示されます。




## 配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン

このアサインルールは、デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

必須条件

必要なロール：admin

> **警告:**
> ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

名前：配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイプ：アサインルール

テーブル：

説明：このアサインルールは、デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

パラメーター：

スクリプト：

```
//Return catalog items that have no group but do have a delivery plan assigned var ri  = new
 GlideRecord ( "sc_cat_item" ) ;
ri.addQuery("group", "=", null);
ri.addQuery("delivery_plan", "!=", null);
ri.query();
while(ri.next()) {
   gs.log("Found an item");
   //Return tasks that point to the same delivery plan as the above item
   var dptask = new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
   dptask.addQuery("delivery_plan", "=", ri. delivery_plan);
   dptask.query();
   while(dptask.next()) {
      gs.log("Found a task");
      var gp = dptask.group.getDisplayValue();
      gs.log(gp);
      //If the task is assigned to desktop, assign the item's group to desktop
      if (dptask.group.getDisplayValue() == "Desktop") {
         ri.group.setDisplayValue("Desktop");
         gs.log("updating " + ri.getDisplayValue());
         ri.update();
         break; } } }
```

### ステータス変更時のフォームの色の変更

ステータス変更時にフォームのフォームフィールドの色を変更します。スクリプトは、HTML DOM を介してアクセス可能なページ上のオブジェクトのプロパティを調整するために、簡単に変更できます。

**⚠ 警告:**
ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

名前：ステータス変更時のフォームの色の変更

タイプ：クライアントスクリプト

テーブル：

説明：ステータス変更時にフォームのフォームフィールドの色を変更します。スクリプトは、HTML DOM を介してアクセス可能なページ上のオブジェクトのプロパティを調整するために、簡単に変更できます。

パラメーター：

スクリプト：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {
 var elementID = gel("incident.priority");
  switch(newValue) {
    case "1": elementID.style.backgroundColor = "red"; break;
    case "2": elementID.style.backgroundColor = "tomato"; break;
    case "3": elementID.style.backgroundColor = "orange"; break;
    case "4": elementID.style.backgroundColor = "yellow"; break;
    case "5": elementID.style.backgroundColor = "green"; break;
    default: elementID.style.backgroundColor = "white"; break; } }
```

### UI ルーティングアクションの作成

このソリューションを使用すると、インシデントまたは要求アイテムのどちらであるかを知らなくても、サービスデスクでレコードを作成できます。その後、サービスデスクはレコードを適切なテーブルにルーティングできます。

#### このタスクについて

**注:**
ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

UI ルーティングアクションの作成方法：

#### 手順

1. タスクテーブルを拡張する新しいテーブルを作成します (「新規コール」など)。
2. 新しい新規コールレコードを作成するモジュールを作成します。
3. 新規コールテーブルに必要なフィールドを作成します。

   新規コールをインシデントまたは要求アイテムのどちらにルーティングするかを決定するために必要なフィールドのみが必要とされます。フォームに、インシデントまたは要求アイテムに渡すフィールドが含まれていることを確認します。この例では、フォームに次のものが作成されます。

   - 要求元 (参照)
   - 場所 (参照)
   - コールタイプ (インシデントと要求の 2 つの値を持つ選択肢)
   - 要求アイテム (sc_cat_item アイテムテーブルへの参照)
4. いくつかの UI ポリシーを追加して、いくつかのフィールドを必須に設定し、[コールタイプ] の選択に基づいて [要求アイテム] フィールドを非表示にします。
5. 不要なボタンや機能をフォームから削除します。
6. 新しい UI アクションボタンを作成します。
   このボタンにより、ユーザーはインシデントまたは要求にリダイレクトされます。また、インシデントレコードが作成され、インシデントと要求アイテムフォームに値がコピーされます。

```
var reqItem = current.u_item;
var requestedFor = current.u_requested_for;
var location = current.location;

if(current.u_incident_request == 'Incident'){
  //Create a new incident record and redirect to the new incident
  var rec = new GlideRecord('incident');
  rec.initialize();
  rec.caller_id = requestedFor;
  rec.location = location;
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  rec.insert();
  action.setRedirectURL(rec);
}

if(current.u_incident_request == 'Request'){
  //Build the url and route the user to the request item
  var url = '';
  if(current.u_item.sys_class_name == 'sc_cat_item_guide'){
    url =
 'com.glideapp.servicecatalog_cat_item_guide_view.do?sysparm_initial=true&sysparm_guid
e=' +
      reqItem + '&sysparm_user=' + requestedFor + '&sysparm_location=' + location;
  }
  else{
    url = 'com.glideapp.servicecatalog_cat_item_view.do?sysparm_id=' + reqItem +
 '&sysparm_user=' +
      requestedFor + '&sysparm_location=' + location;
  }
  action.setRedirectURL(url);
}
```

7. 前の例の [ルーティング] ボタンは、URL の [要求元] と [場所] の値を [要求アイテム] フォームに渡します。
次のクライアントスクリプトを使用して、これらの値をマッピングするアイテム、レコードプロデューサー、または注文ガイドに *requested_for* および *location* と呼ばれる変数があることを確認します。URL の長さには制限があるため、渡すことができる情報の量には制限があります。この方法を使用して長いテキストフィールドからの情報は送信しないでください。

```
function onLoad() {
  var url = document.location.toString();
  var userKey = 'sysparm_user=';
  var locKey = 'sysparm_location=';
  var userPosition = url.indexOf(userKey);
  var locPosition = url.indexOf(locKey)
  if (userPosition != -1) {
    var user = url.substr(userPosition+userKey.length, 32);
    g_form.setValue('requested_for',user);
  }
  if (locPosition != -1) {
    var loc = url.substr(locPosition+locKey.length, 32);
    g_form.setValue('location',loc);
  }
}
```

## カスタムキューを使用してイベントを処理する

大量のイベントや処理に時間がかかるイベントを作成するアプリケーションには、カスタムキューを使用できます。このタスクでは、カスタムキューとその監視プロセスを作成し、スクリプトを使用してキューにイベントを送信する方法を示します。

### 始める前に

必要なロール：admin

**注:**
この情報は、イベント処理を理解している上級ユーザーを対象としています。

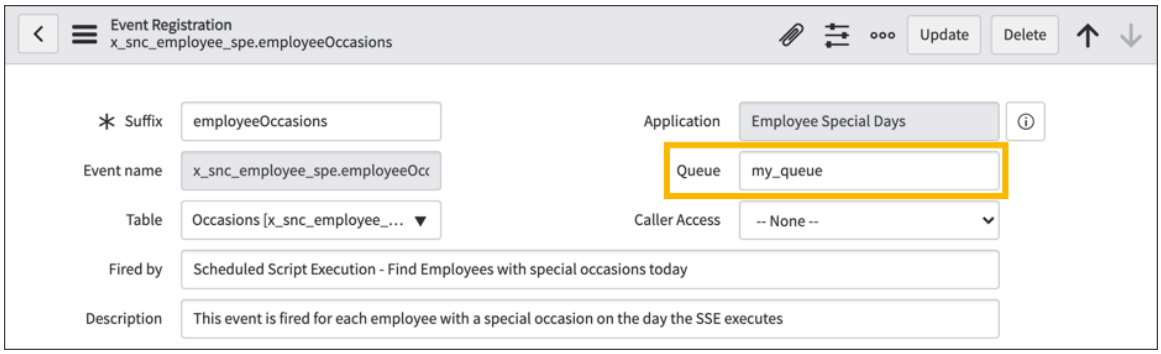
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

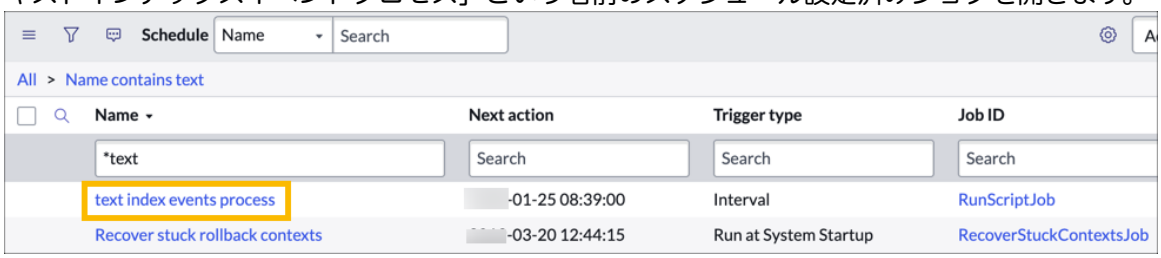
1. 移動先 システムポリシー > イベント > レジストリ.
2. カスタムキューを作成するイベントを選択します。
   [イベント登録] フォームが表示されます。
3. イベント登録でイベントの [キュー] フィールドに入力します。
   小文字のみを使用し、アンダースコア (_) 以外の特殊文字は使用しないでください。




4. [送信] をクリックします。
   新しいイベントがイベント [sysevent] テーブルに一覧表示されます。

   次の例では、employeeOccasion イベントが生成されると my_queue に追加されます。イベントはキューに留まります。この問題を解決するには、イベントのキューを監視するプロセスを作成します。

5. 移動先 システムスケジューラ > ジョブスケジュール > ジョブスケジュール をクリックし、「 テキストインデックスイベントプロセス」という名前のスケジュール設定済みジョブを開きます。



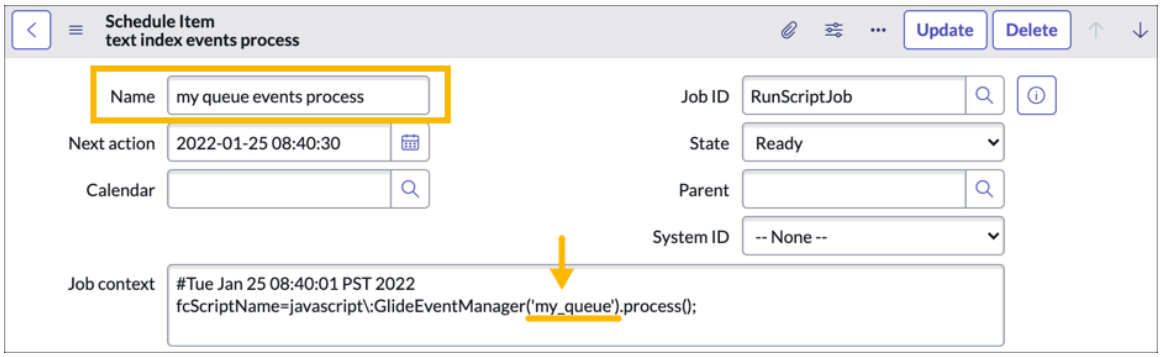

6. [他のアクション] メニューアイコン () をクリックし、[挿入と維持] を選択して [テキストインデックスイベントの処理] のコピーを作成します。

> **重要:**
> かならずジョブをコピーし、[テキストインデックスイベントの処理] のジョブスケジュールを上書きしないようにしてください。

7. コピーしたスケジュールアイテムで、[名前] フィールドの値を変更します。
8. [ジョブコンテキスト] フィールドで、`GlideEventManager()` パラメーターの値を新しいキューの名前に置き換えます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




キュー監視プロセスは、サンプルの **my_queue** イベントキューでイベントを検索して処理します。

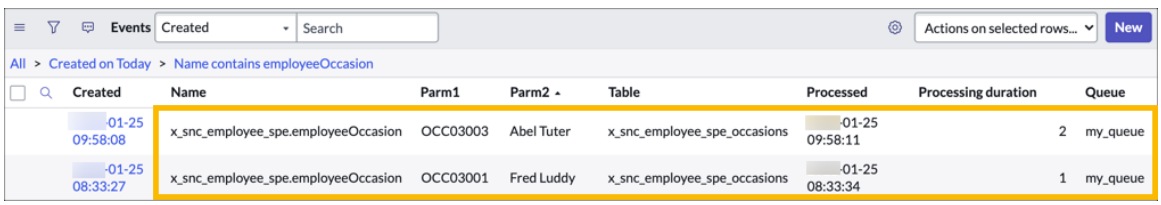
9. *gs.eventQueue()* メソッドの 5 番目のパラメーターを使用して、カスタムキューにイベントを送信します。

次のコードは、my_queue カスタムキューにイベントを送信する方法を示しています。

```
gs.eventQueue('x_60157_employee_spe.employeeOccasion', todaysOccasions,
 todaysOccasions.number, todaysOccasions.u_employee.name, 'my_queue');
```

> **注:**
> イベントが [イベント登録] にあり、キュー名が *gs.eventQueue* に指定されていない場合でも、[イベント登録] からのキューがイベントに割り当てられます。たとえば、gs.eventQueue('x_60157_employee_spe.employeeOccasion') は引き続きイベントを my_queue に関連付けます。gs.eventQueue() 呼び出しでキュー名が指定されている場合は、キューが優先されます。

[イベント] [sysevent] テーブルをチェックすることで、呼び出されたイベントが処理されたことを確認できます。




### フィールドメッセージの表示

JavaScript *alert()* を使用する代わりに、見た目をすっきりさせるために、フォーム自体にエラーを表示できます。メソッド *showFieldMsg()* および *hideFieldMsg()* を使用して、フィールド自体のすぐ下にメッセージを表示できます。

*showFieldMsg* と *hideFieldMsg* は、*g_form* オブジェクトで使用できるメソッドです。

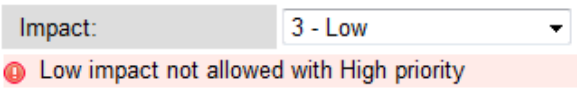
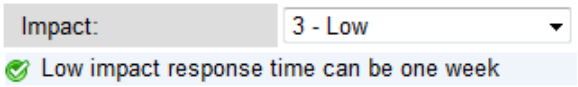
これらのメソッドは、レコード (インシデント、問題、および変更フォーム) のフォームビューを変更するために使用されます。これらのメソッドは他のクライアントスクリプトでも使用できますが、期待どおりに機能するかどうかを確認するためにテストする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロード時にフォームにフィールドメッセージが表示されると、フォームがスクロールしてフィールドメッセージが表示されます。フィールドメッセージが画面の外にあったためにユーザーが見落とすということがないようにします。

グローバルプロパティ *glide.ui.scroll_to_message_field* は、フォームフィールドが画面外にある場合の自動メッセージのスクロール (フォームからコントロールまたはフィールドまでスクロール) を制御します。

メソッドの詳細

| メソッドの詳細 | パラメーター | 例 |
|---|---|---|
| showFieldMsg(input, message, type, [scrollform]) | • 入力：フィールドまたはコントロールの名前<br>• メッセージ：表示するメッセージ<br>• タイプ：「情報」、「エラー」、または「警告」。指定しない場合のデフォルトは「情報」<br>• スクロールフォーム：(オプション) フィールドメッセージが画面外にスクロールしないようにするには、*scrollForm* を false に設定します | エラーメッセージ<br>`g_form.showFieldMsg('impact','Low impact not allowed with High priority','error');`<br>  <br>情報メッセージ<br>`g_form.showFieldMsg('impact','Low impact response time can be one week','info');`<br>`//or this defaults to info type`<br>`//g_form.showFieldMsg('impact','Low impact response time can be one week');`<br>  |
| hideFieldMsg(input) | • 入力：フィールドまたはコントロールの名前<br>• clearAll：(オプション) すべてのメッセージをクリアするかどうかを示すブールパラメーター。true の場合、フィールドのすべてのメッセージがクリアされます。false または空の場合、最後のメッセージのみが削除されます。 | メッセージの削除<br>`//this will clear the last message printed to the field`<br>`g_form.hideFieldMsg('impact');` |

## 従来のサポート

*showErrorBox()* と *hideErrorBox()* は引き続き使用できますが、これらはエラータイプの新しいメソッドを呼び出すだけです。新しいメソッドを使用する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ログ出力

GSLog は、呼び出し元ごとに識別される sys_properties 値によって選択可能なログ出力のレベルを実装することで、スクリプトのログ記録とデバッグを簡素化するスクリプトインクルードです。

### ログレベル

ログのレベルとして、Debug、Info、Notice、Warning、Err、または Crit (BSD syslog.h とフォロワーの後) を指定することができます。デフォルトのログ記録レベルは Notice であるため、状況に応じてレベルを選択する必要があります。

### 使用する状況

イベントログ記録を実装するサーバー側スクリプトに使用します。

API リファレンスについては、「GSLog()」を参照してください。

詳細については、「スクリプトのデバッグ」を参照してください。

#### GlideDateTime フィールド値の変更

この例では、サーバーサイドスクリプトを使用して `GlideDateTime` フィールド値を変更する方法を示します。

`GlideDateTime` フィールドまたはスクリプトオブジェクトを指定して、値を簡単に変更するさまざまな方法を示します。同じ概念が `GlideDate` オブジェクトにも適用されます。

**注:**
次のスクリプトは、グローバルアプリケーションのみを対象としています。

```
//You first need a GlideDateTime object
//this can be from instantiating a new object "var gdt = new GlideDateTime()"
//or getting the object from a GlideDateTime field
//getting the field value (for example: var gdt = current.start_date) only returns the string value,
 not the object
//to get the object use var gdt = current.start_date.getGlideObject();
//now gdt is a GlideDateTime object
var gdt = current.start_date.getGlideObject();

//All methods can use negative values to subtract intervals

//add 1 hour (60 mins * 60 secs)
gdt.addSeconds(3600);

//add 1 day
gdt.addDaysLocalTime(1);

//subtract 1 day
gdt.addDaysLocalTime(-1);

//add 3 weeks
gdt.addWeeksLocalTime(3);

//subtract 6 months
gdt.addMonthsLocalTime(-6);

//add 1 year, representing the date and time using the UTC timezone instead of the local user's
 timezone.
gdt.addYearsUTC(1);
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//set the value of the GlideDateTime object to the current session timezone/format
GlideSession.get().setTimeZoneName('US/Eastern');
gdt.setDisplayValue('2018-2-28 00:00:00');
gs.info('In ' + GlideSession.get().getTimeZoneName() + ": " + gdt.getDisplayValue());
```

関連情報

GlideDateTime

### cookie を使用した C Sharp リダイレクトによるサンプル ASP.NET

このサンプル ASP.NET コードは、簡易認証ポータルを作成し、暗号化されていない HTTP ヘッダーを cookie として渡します。

**注:**
ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

**注:**
cookie はドメイン固有であり、異なるネットワークドメイン間で使用することはできません。cookie を読み取ることができる唯一のドメインは、それを設定するドメインです。どのようなドメイン名を設定するかは関係ありません。SSO ポータルを ServiceNow インスタンスと同じネットワークドメインに置くことを選択できない場合 (たとえば、オンプレミス展開の場合)、代わりに URL *GET* または *POST* パラメーターを使用して SSO トークンを渡します。

この例では、以下を前提としています。

- Web サーバーは ASP .NET と C# をサポートしている
- ターゲットServiceNowインスタンスは https://<instance name>.service-now.com/
- SiteMinder または別のシングルサインオンアプリケーションがユーザーを事前認証している
- ターゲットServiceNowインスタンスは HTTP ヘッダー SM_USER を予期している

ユーザーを適切な ServiceNow インスタンスにリダイレクトするように ASP コードを変更します。

```
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" >
<head runat="server">
   <title>Portal Page Login</title>
<%--    <meta http-equiv="REFRESH" content="0;url=https://<instance
 name>.service-now.com/">--%>

</head>
<body>
   <form id="form1" runat="server">
   <h2><b> Portal Page Login </b></h2>
      <hr style="position: static" />
       <br />
       <asp:Label ID="Label2" runat="server" Font-Size="Larger" Height="21px"
 Style="position: static"
         Text="Instance URL:" Width="113px"></asp:Label>
      <asp:TextBox ID="urlBox" runat="server" Font-Size="Large" Style="position:
 static"></asp:TextBox><br />
      <br />
       <asp:Label ID="Label1" runat="server" Font-Size="Larger" Height="17px"
 Style="position: static;" Text="User Id:" Width="113px"></asp:Label>
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

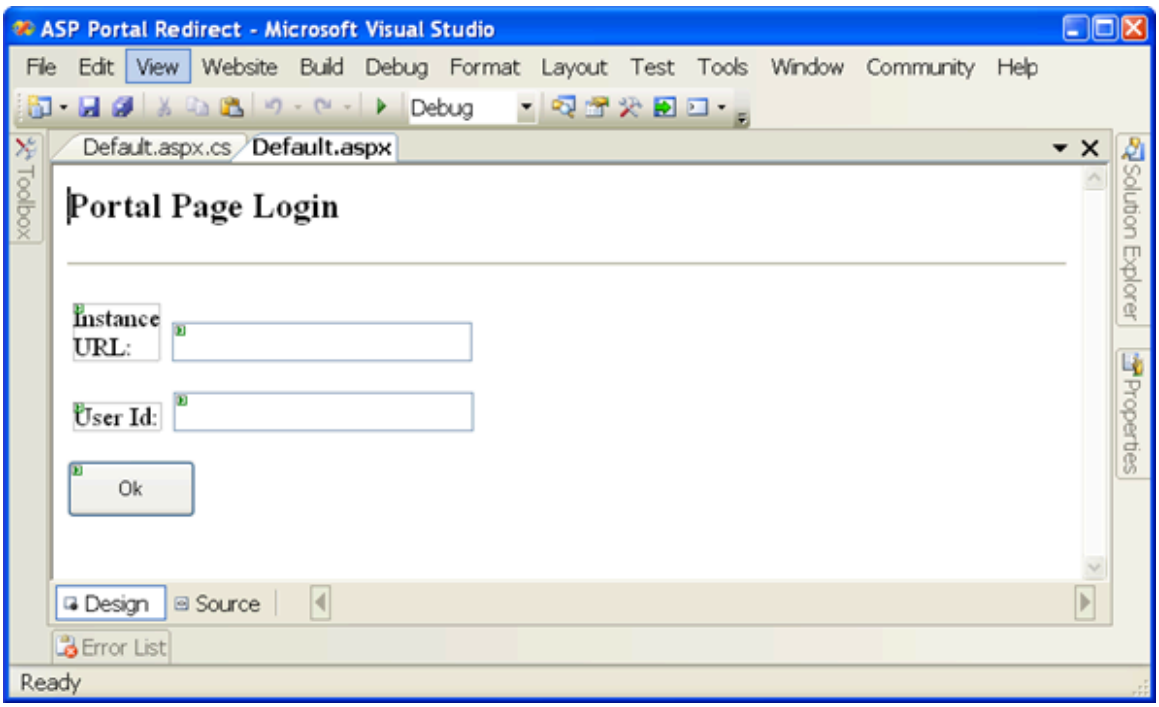


自動翻訳

```
    <asp:TextBox ID="userNameBox" runat="server" Font-Size="Large" Style="position:
static;"></asp:TextBox>

    <br />
    <br />
    <asp:Button ID="Button1" runat="server" Height="39px" Style="position: static;"
Text="Ok"
        Width="88px" OnClick="Button1_click" />
  </form>
</body>
</html>
</asp>
```

**ASP** ポータルリダイレクト




次の C# コードは、フォームの *OnClick* ボタンイベントを処理します。コード：

- cookie「SM_USER」を作成します
- ASP フォームで指定された URL へのリダイレクトを実行します。

C# コードを変更して、適切な cookie 名を作成します。

```
using System;
using System.Data;
using System.Configuration;
using System.Web;
using System.Web.Security;

public partial class _Default : System.Web.UI.Page
{
   protected void Page_Load(object sender, EventArgs e)
   {

   }
   protected void Button1_click(object sender, EventArgs e)
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  {
     try
     {
        HttpCookie myCookie = new HttpCookie("SM_USER");
        myCookie.Value = userNameBox.Text;
        Response.Cookies.Add(myCookie);
        Response.Redirect(urlBox.Text);

     }catch {}
  }
}
```

### 有用な承認アサインスクリプト

これは、有用な承認およびアサインスクリプトの検索可能なバージョンです。

> **警告:**
> ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

使いやすいバージョンについては、「有用なスクリプトポータル」を参照してください。

ESS 要求のグループのアサイン

タイプ：アサインルール

説明：このスクリプトは、すべての ESS 要求に対してグループを自動的にアサインします。

スクリプトの例：

```
if(current.opened_by.roles==""){
   current.assignment_group.setDisplayValue('Network');
   current.update();}
```

配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン

タイプ：アサインルール

説明：このアサインルールは、デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

```
//Return catalog items that have no group but do have a delivery plan assigned
var ri =new GlideRecord("sc_cat_item");
ri.addQuery("group","=",null);
ri.addQuery("delivery_plan","!=",null);
ri.query();
while(ri.next()){
   gs.log("Found an item");
   //Return tasks that point to the same delivery plan as the above item
   var dptask =new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
   dptask.addQuery("delivery_plan","=",ri.delivery_plan);
   dptask.query();while(dptask.next()){
      gs.log("Found a task");var gp = dptask.group.getDisplayValue();
      gs.log(gp);//If the task is assigned to desktop, assign the item's group to desktop
      if(dptask.group.getDisplayValue()=="Desktop"){
         ri.group.setDisplayValue("Desktop");
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        gs.log("updating "+ ri.getDisplayValue());
        ri.update();break;}}}
```

1 つのタスクでアイテムをアサイン

タイプ：アサインルール

説明：特定のグループに関連付けられた 1 つのタスクのみを持つカタログアイテムを自動的にアサインします。

```
//Get the catalog item for the current requested item
var scCatItem =new GlideRecord("sc_cat_item");
if(scCatItem.get('sys_id', current.cat_item)){
// If the catalog item already has an assignment group or if using workflow we don't need to
 make an assignment
 if(!scCatItem.delivery_plan.nil()&& scCatItem.group.nil()){
      var dpTask =new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
      dpTask.addQuery("delivery_plan","=",scCatItem.delivery_plan);
      dpTask.query();
      if(dpTask.getRowCount()==1&& dpTask.next()){
      // Check that there is only 1 record in the GlideRecord
         dpTask.group;}}}
```

作業負荷に基づく割り当て

タイプ：ビジネスルール

説明：アクティブなインシデントの数が最も少ないアサイン先グループメンバーに基づいて、アサイン先を入力します。

パラメーター：

- order：>1000 (アサインルールの後に実行する場合)
- condition：current.assigned_to == '' && current.assignment_group != ''
- when：before, insert/update

```
var assignTo = getLowestUser();
gs.addInfoMessage("assigning to is "+ assignTo);
current.assigned_to= assignTo;

function getLowestUser(){
  var userList =new Array();
  var cg =new GlideRecord('sys_user_grmember');
  cg.addQuery('group', current.assignment_group);
  cg.query();
  while(cg.next()){
    var tech = cg.user.toString();
    var cnt = countTickets(tech);
    gs.addInfoMessage("Tech counts "+ cg.user.name+' '+ cnt +" "+ tech);
    userList.push({ sys_id: tech,name: cg.user.name, count: cnt });}

  for(var i=0; i < userList.length; i++){
    gs.addInfoMessage(userList[i].sys_id+" "+ userList[i].name+" "+ userList[i].count);}
  userList.sort(function(a, b){
    gs.addInfoMessage("Sorting: "+ a.sys_id+"("+ a.count+");
    "+ b.sys_id+"("+ b.count+")");
    return a.count- b.count;});
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 if(userList.length<=0)return"";
 return userList[0].sys_id;}

function countTickets(tech){
 var ct =new GlideRecord('incident');
 ct.addQuery('assigned_to',tech);
 ct.addQuery('active',true);
 ct.query();
 return ct.getRowCount();}
```

カテゴリが変更されたときにアサインルールを実行

タイプ：クライアントスクリプト

テーブル：インシデント

説明：この例は、インシデント内のカテゴリフィールドの onChange クライアントスクリプトです。注意：このスクリプトは、同期 AJAX を使用していました (非同期動作は ajaxRequest 呼び出しの 3 番目のパラメーターで指定されます)。以下の実装では、非同期 AJAX を使用しています。同期バージョンを使用する場合の短所は、ネットワーク応答の問題によってブラウザーがハングアップする可能性があることです。

```
// Make an AJAX request to the server to get who this incident would be
// assigned to given the current values in the record. This runs the assignment
// rules thathave been defined in System Policy and returns the assigned_to and
// the assignment_group

function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
 if(isLoading){return;
 // No change, do not do anything
 }

  // Construct the URL to ask the server for the assignment
 var url ="xmlhttp.do?sysparm_processor=AJAXAssignment&sys_target=incident";
 var uv = gel('sys_uniqueValue');
 if(uv){
      url +="&sys_uniqueValue="+ uv.value;}
 // Make the AJAX request to the server and get the response
 var serial = g_form.serialize();
 // get all values currently assigned to the incident
 var response = ajaxRequest(url, serial,true, responseFunc);}

// This callback function handles the AJAX response.
function responseFunc(response){
 varitem= response.responseXML.getElementsByTagName("item")[0];
 // Process the item returned by the server
 if(item){
 // Get the assigned_to ID and its display value and put them on the form
   varname=item.getAttribute("name");
   var name_label =item.getAttribute("name_label");
   if(name_label &&name){
     g_form.setValue('assigned_to',name, name_label);}
   else{
     g_form.setValue('assigned_to','','');}
   // Get the assignment_group ID and its display value and put then on the form
   var group =item.getAttribute("group");
   var group_label =item.getAttribute("group_label");
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

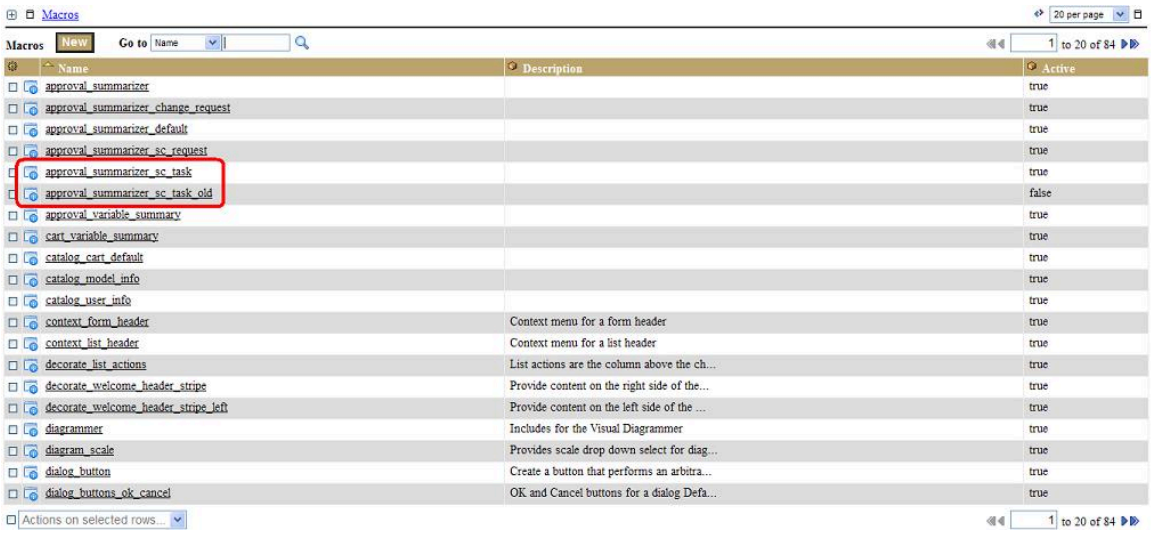
```
if(group_label && group){
  g_form.setValue('assignment_group', group, group_label);}
else{
  g_form.setValue('assignment_group','','');}}}
```

カスタム承認 UI マクロ

タイプ：UI マクロ

次のオプションは、新しい UI マクロを作成して、実行計画の [自分の承認] ビューから詳細を取得する方法を示しています。

- [システム **UI]** に移動して、**[UI** マクロ] をクリックします。
- 既存の「approval_summarizer_sc_task」という名前を「approval_summarizer_sc_task_old」などに変更して、無効にします。
- 同じ名前を使用して新しいマクロを作成します (「approval_summarizer_sc_task」)。名前は基本的に、マクロの実行内容と適用対象を示すものにする必要があります。ここでは、既存のものを置き換えるため、既存の名前を再利用することにしました。




次に、この記事の下部にある xml スクリプトを、新しい UI マクロの xml コードウィンドウにコピーします。これは、サービスカタログ実行計画内の承認タスクを使って品目の承認を行うときに、承認者に何らかの詳細を提供するのに最適な方法です。

## さまざまな方法

従来の方法

これは、従来の方法を使って承認タスクを使用するときに [自分の承認] に表示されるビューです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

承認者が実際に何を承認しようとしているのか、あまり詳しく書かれていないことに注意してください。タスクの簡単な説明は確認できますが、アイテムの詳細はわかりません。

新しい方法

これは、OOB (Out-Of-Box：すぐに利用可能な) UI マクロの代わりに以下の xml スクリプトを使用した場合に表示されるビューです。

この方法を使用すると、要求の承認と同様に詳細を表示できます。注文したアイテムへのリンク、簡単な説明 (アイテムから変数を展開する機能を含む)、価格、数量、合計価格があります。これは、より詳細な情報を示すという点で、承認者の助けとなります。実際に承認しているものを確認できるようになりました。

### 有用なフィールドスクリプト

フィールドカスタマイズスクリプトの一般的なユースケース。

> **警告:**
> ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

詳細については、「Server API reference」を参照してください。

## フィールドの自動入力

次の例は、クライアントスクリプトを使用して、選択した [サブカテゴリ] に基づいて簡単な説明を自動入力する方法を示しています。

この場合、テーブルには [サブカテゴリ] = パスワード、[簡単な説明] = パスワードリセットのレコードがあります。ユーザーがインシデントフォームで [サブカテゴリ] に [パスワード] を選択した場合、クライアントスクリプトは一致するレコードを検索し、[簡単な説明] をパスワードリセットに設定します。

クライアントスクリプト設定：

- *Type* = onChange
- *Table name* = incident
- *Field name* = Subcategory

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
   if(isLoading){return;}
   var newrec = gel('sys_row');
   //Check if new record
   if (newrec.value == -1) {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    var lookup = new GlideRecord('u_short_desc_lookup');
    lookup.addQuery('u_subcategory', g_form.getValue('subcategory'));
    lookup.query();
    var temp; //temp var - reusable
    if(lookup.next()){
       temp = lookup.u_short_description;
       if(null != temp) {
          //Set the form value from lookup if there is a lookup value
          g_form.setValue('short_description', temp);
       } else {
          g_form.setValue('short_description',"");
          }
     } else {
        //If a lookup record does not exist based on lookup.addQuery
        //Then set to UNDEFINED or NULL depending on type
        g_form.setValue('short_description',"");
        }
  }
}
```

### 説明の **HTML** タグを無効にする

このコードは、HTML タグを非実行バージョンに置き換えることで、[説明] および [簡単な説明] フィールド内の HTML タグを無効にします。

```
doit();

function doit(){
 var desc = current.description.toString();
 var shdesc = current.short_description.toString();
 if(desc.indexOf('script>')>-1|| shdesc.indexOf('script>')>-1){
   desc = desc.replace(/<script>/g,"(script)");
   current.description = desc.replace(/<\/script>/g,"(\/script)");
   shdesc = shdesc.replace(/<script>/g,"(script)");
   current.short_description = shdesc.replace(/<\/script>/g,"(\/script)");}
}
```

### フィールドの先頭と末尾のスペースの削除

このスクリプトの例では、sys_user の *`FirstName`* および *`LastName`* フィールドの末尾と先頭のスペースをトリミングします。

```
doit();

function doit(){
  var now_GR =new GlideRecord('sys_user');
  gr.query();
  while(gr.next()){
    if((gr.first_name.toString().length!=
 gr.first_name.toString().trim().length)||(gr.last_name.toString().length!=
 gr.last_name.toString().trim().length)){
     gr.first_name= gr.first_name.toString().trim();
     gr.last_name= gr.last_name.toString().trim();
     gr.autoSysFields(false);
     gr.update();}}
}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## フィールドラベルを点滅させる

次のクライアントスクリプトの例は、インシデントの番号フィールド用です。ラベルが 2 秒間点滅します。

```
g_form.flash("incident.number","#FFFACD",0);
```

flash メソッドの引数は次のとおりです。

- *tablename.fieldname*
- RGB カラーまたは受け入れ可能な CSS カラー (「blue」や「tomato」など)
- ラベルの点滅時間を決定する整数：
  - 1 秒間点滅の場合は 2
  - 2 秒間点滅の場合は 0
  - 3 秒間点滅の場合は -2
  - 4 秒間点滅の場合は -4

**注:**
指定した色でフィールドラベルを表示する場合は、この引数を指定しないでください。

## フィールドラベルを太字にする

このクライアントスクリプトは、特定のフィールドのラベルを太字にします。この場合、フィールドは [インシデントテーブル] の [簡単な説明] です。

```
function onLoad(){
  var l = g_form.getLabel('incident.short_description');
  l.style.fontWeight = 'bold';}
```

## フィールドを読み取り専用にする

この onLoad クライアントスクリプトにより、インシデント [incident] テーブルの次のフィールドは読み取り専用になります。

- インシデントステータス
- 影響
- 緊急度
- 優先度
- 構成アイテム
- アサイン先

また、このスクリプトにより、読み取り専用の参照フィールド ([構成アイテム] および [アサイン先]) の虫眼鏡が削除されます。

```
function onLoad(){
var incidentState = g_form.getValue('incident_state');
if( incidentState == '6'|| incidentState == '7'){
   g_form.setReadonly('incident_state',true);
   g_form.setReadonly('impact',true);
   g_form.setReadonly('urgency',true);
   g_form.setReadonly('priority',true);
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 g_form.setReadonly('cmdb_ci',true);
 g_form.setReadonly('assigned_to',true);}}
```

## フィールドへの現在の日付/時刻の設定

クライアントスクリプトとスクリプトインクルードで日付と時刻の値を設定できます。

### クライアントスクリプト

次の 2 行を使用して、日付/時刻フィールドに現在の日付と時刻を設定できます。このアプローチでは、値の適切な形式とタイムゾーンへの変換の問題を回避できます。

```
var ajax = new GlideAjax('MyDateTimeAjax');
 ajax.addParam('sysparm_name','nowDateTime');
 ajax.getXML(function(){
  g_form.setValue('put your field name here', ajax.getAnswer());});
```

クライアントでのサーバーサイドスクリプトの実行の詳細については、「GlideAjax」を参照してください。

### システムスクリプトインクルード

```
// Be sure the "Client callable" checkbox is checked

var MyDateTimeAjax = Class.create();
MyDateTimeAjax.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor,{
 nowDateTime:function(){
  return gs.nowDateTime();}});
```

## フィールド名でのタイマーフィールドの切り替え

次のクライアントスクリプトは、特定のフィールド名に基づいてタイマーフィールドを切り替えます。

```
function toggleTimerByFieldName(fieldName){
 //Step 1: Find the timer object
 //timeObjectName: the timer objects name as it would normally be referenced
 //timeObjectHidden: the hidden input node in the field td
 //timeObjectParent: the parent td node containing the field and it's constituent nodes
 //timeObjectFields: anchor tag with onclick to stop timer

 var timeObjectName = fieldName;
 var timeObjectHidden = gel(timeObjectName);

 //Step 2: simulate click stop button
 var timeObjectParent;
 var timeObjectFields;

 //verify that we got the correct object
 if(timeObjectHidden.type=="hidden"){

   //Get Parent td node
   timeObjectParent = timeObjectHidden.parentNode;

   //Get input fields
   timeObjectFields = timeObjectParent.getElementsByTagName("input");

   //simulate click of stop button
   var timerTestString ="paused";
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  var timerImg;

  //loop through input objects looking for the pause timer object
  for(var elIt=0; elIt < timeObjectFields.length; elIt++){
    if(timeObjectFields[elIt].id.match(timerTestString)){
      if(timeObjectFields[elIt].value=="false"){
        timeObjectFields[elIt].value="true";
        timerImg = timeObjectParent.getElementsByTagName("img")[0];
        timerImg.src="images/timer_start.gifx";}
    elseif(timeObjectFields[elIt].value=="true"){
        timeObjectFields[elIt].value="false";
        timerImg = timeObjectParent.getElementsByTagName("img")[0];
        timerImg.src="images/timer_stop.gifx";}}}}}
```

### GlideDateTime フィールド値の変更

次の例では、サーバーサイドスクリプトを使用して *GlideDateTime* フィールドにアクセスします。

次のサーバーサイドスクリプトの例は、*GlideDateTime* API を使用して値を変更する方法を示しています。同じ概念が *GlideDate* オブジェクトにも適用されます。

```
//You first need a GlideDateTime object
//this can be from instantiating a new object "var gdt = new GlideDateTime()"
//or getting the object from a GlideDateTime field
//getting the field value (for example: var gdt = current.start_date)
//only returns the string value, not the object
//to get the object use var gdt = current.start_date.getGlideObject();
//now gdt is a GlideDateTime object
var gdt = current.start_date.getGlideObject();

//All methods can use negative values to subtract intervals

//add 1 hour (60 mins * 60 secs)
gdt.addSecondsLocalTime(3600);

//add 1 day
gdt.addDaysLocalTime(1);

//subtract 1 day
gdt.addDaysLocalTime(-1);

//add 3 weeks
gdt.addWeeksLocalTime(3);

//subtract 6 months.
gdt.addMonthsLocalTime(-6);

//add 1 year, representing the date and time using the UTC timezone instead of the local user's
 timezone.
gdt.addYearsUTC(1);
```

### 有用なスケジュールスクリプト

ビジネスルールスクリプトは、ビジネスルールが実行するアクションを指定します。通常、スクリプトには、現在のレコードなどの、システム内のアイテムを参照するための事前定義されたグローバル変数が含まれています。グローバル変数はすべてのビジネスルールで使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **警告:**
> ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

スケジュールを指定して期間を計算

タイプ： ビジネスルールの更新/挿入前

テーブル：インシデント

説明：ビジネス期間は、特定の「スケジュールの作成と使用」に基づいて、インシデントのオープンからクローズまでの期間を計算します。スケジュールが指定されていない場合、スクリプトはクエリによって返された最初のスケジュールだけを使用します。

スクリプトの例：

次の例では、インシデントステータスが解決済みに移行するときの解決期間を設定します。

```
if(current.incident_state==6){
 var dur = calcDurationSchedule(current.opened_at,current.sys_updated_on);
 current.u_resolved_duration= dur;

 function calcDurationSchedule(start, end){
 // Get the user
 var usr =new GlideRecord('sys_user');
 usr.get(gs.getUserID());
 // Create schedule - pass in the sys_id of your standard work day schedule and pass in the
users timezone
 var sched =new GlideSchedule('08fcd0830a0a0b2600079f56b1adb9ae',usr.time_zone);
 // Get duration based on schedule/timezone
 return(sched.duration(start.getGlideObject(), end.getGlideObject()));}
```

今後の終了日を確認

タイプ：スケジュール設定済みスクリプト

説明：このスクリプトは、今後 90 日、50 日、または 10 日以内 (契約期間フィールドでの指定に応じる) に終了する契約の終了日を夜間にチェックします。

スクリプトの例：

```
function contractNoticeDue(){
var now_GR =new GlideRecord("contract");
gr.addQuery("u_contract_status","Active");
gr.query();
while(gr.next()){
  if((gr.u_termination_date<= gs.daysAgo(-90))&&(gr.u_contract_duration=="Long")){
    gr.u_contract_status="In review";}
  elseif((gr.u_termination_date<= gs.daysAgo(-50))&&(gr.u_contract_duration=="Medium")){
    gr.u_contract_status="In review";}
  elseif((gr.u_termination_date<= gs.daysAgo(-10))&&(gr.u_contract_duration=="Short")){
    gr.u_contract_status="In review";}
  gr.update();}

}
```

ビジネスルールでスクリプトを使用して、次のような一般的なタスクを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 2 つの日付フィールドを比較します。
- XML ペイロードを解析します。
- ビジネスルール内のデータベースアクションを中止します。

スクリプトでは、次のこともできます。

- ビジネスルールをトリガーする操作を指定します。
- スクラッチパッドと表示ビジネスルールを使用して、ユーザーがフォームをロードする直前にフォームの値を変更します。
- 条件ビルダーの場合と同様に OR 条件を使用します。

サーバーサイドスクリプトで使用可能なシステムのスクリプティング機能を利用することもできます。

ビジネスルールフォームのオプションを使用すると、スクリプトを記述せずに条件を構築し、フィールド値を設定して、アラートメッセージを表示できます。

### ビジネスルール内のデータベースアクションの中止

前のビジネスルールスクリプトの実行中に、current.setAbortAction(true) メソッドを使用して現在のデータベースアクションをキャンセルまたは中止できます。

たとえば、前のビジネスルールが挿入アクション中に実行され、スクリプトに current.setAbortAction(true) を呼び出す条件がある場合、current に保存される新しいレコードはデータベース内には作成されません。

### オートフィル機能の追加

オートフィル機能の追加は、インシデントテンプレート、自動アサイン、クイックコール、コールスクリプト、または自動入力とも呼ばれます。

選択した [サブカテゴリ] に基づいて [簡単な説明] を自動入力するとします。まず、ルックアップテーブルを作成し、キーフィールド (この場合は [サブカテゴリ]) とオートフィルされるフィールド [簡単な説明] に値を入力します。テーブルに、[サブカテゴリ] = パスワード、[簡単な説明] = パスワードリセットのレコードがあるとします。ユーザーがインシデントフォームで [サブカテゴリ] にパスワードを選択した場合、クライアントスクリプトは一致するレコードを検索し、[簡単な説明] をパスワードリセットに設定します。クライアントスクリプト設定...[タイプ] = *onChange*、[テーブル名] = インシデント、[フィールド名] = サブカテゴリ。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {
  if (isLoading) { return; }
  var newrec = gel('sys_row');
  //Check if new record
  if (newrec.value == -1) {
    var lookup = new GlideRecord('u_short_desc_lookup');
    lookup.addQuery('u_subcategory', g_form.getValue('subcategory'));
    lookup.query();
    var temp; //temp var - reusable
    if (lookup.next()) {
      temp = lookup.u_short_description;
        if (null != temp) { //Set the form value from lookup if there is a lookup value
          g_form.setValue('short_description', temp); }
        else {
          g_form.setValue('short_description', "" ); } }
   else {
     //If a lookup record does not exist based on lookup.addQuery
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
    //Then set to UNDEFINED or NULL depending on type
     g_form.setValue('short_description', ""); } }

}
```

多くのフィールドに値を入力したり、コールスクリプトの質問を [コメント] フィールドに入力して、コールセンターの担当者が技術者に提供する適切な情報を収集することもできます。類似の機能を実行するアサインルール、テンプレート、およびウィザードが既に組み込まれています。

### スクリプト例：デフォルトのクエリ前のビジネスルール

データベースクエリの前に実行されるクエリビジネスルールを使用して、ユーザーが特定のレコードにアクセスできないようにすることができます。

**警告:**
ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

インシデントレコードへのアクセスを制限するデフォルトのビジネスルールの以下の例を考慮してください。

#### デフォルトのビジネスルールでのインシデントレコードへのアクセスの制限

| 名前 | テーブル | 時期 |
|---|---|---|
| インシデントクエリ | インシデント | クエリ前 |

スクリプト例

この例では、ユーザーが [問い合わせユーザー*(Caller)*] または [作成者] フィールドにリストされている itil ロールを持っている場合を除き、インシデントレコードにアクセスできません。そのため、セルフサービスユーザーがインシデントのリストを開くと、自分が送信したインシデントしか表示されません。

```
if(!gs.hasRole("itil")&& gs.isInteractive()){
 var u = gs.getUserID();
 var qc = current.addQuery("caller_id", u).addOrCondition("opened_by",
u).addOrCondition("watch_list","CONTAINS", u);
 gs.print("query restricted to user: "+ u);}
```

**注:**
ユーザーに表示されるレコードは、アクセス制御を使用して制限することもできます。

平日のスケジュールスクリプト

タイプ：ビジネスルール/クライアントスクリプト

このスクリプトは平日のスクリプトをスケジュールします。「スクリプトをここに入力 (Your Script here)」と表示されている場所にスクリプトを挿入します。

```
var go ='false';
var now =new Date();

// Correct time zone, which is by default GMT -7
now.setHours(now.getHours()+8);
var day = now.getDay();
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// No go on Saturday or Sunday
if(day !=0&& day !=6){

// (your script here)

}
```

現在の日付に基づく日付フィールドの設定

このスクリプトは、現在の曜日に応じて日付フィールドを設定します。この例では、日が月曜日から水曜日の場合、日付は次の月曜日に設定されます。それ以外の場合は、日付フィールドは次の月曜日に設定されます。

```
function setCabDate(){
var today =new Date();
var thisDay = today.getDay();
//returns 0 for Sunday, 1 for Monday, etc. thru 6 for Saturday.
var thisMon =new GlideDateTime();
thisMon.setDisplayValue(gs.beginningOfThisWeek());
var nextMon = thisMon.getNumericValue();
nextMon +=(1000*60*60*24*7);

if((thisDay <4)&&(thisDay >0))
  //if today is Mon thru Wed (thisDay = 1, 2, or 3), set cab to this coming Monday.
  current.u_req_cab_rev_date.setDateNumericValue(thisMon.getNumericValue());
elseif((thisDay >=4)||(thisDay ==0))
  //if today is Thurs thru Sun (thisDay = 4, 5, 6, or 0), set cab to next Monday.
  current.u_req_cab_rev_date.setDateNumericValue(nextMon);
}
```

すべての日付/時刻フィールドの入力を検証するために、検証スクリプトで次を使用できます (システム定義 > 妥当性検証スクリプト). このスクリプトでは日付/時刻形式がハードコードされているため、インスタンスの日付/時刻形式と一致する必要があります。インスタンスの日付/時刻形式が変更された場合は、検証スクリプトを更新する必要があります。

検証スクリプトのタイプを [日付/時刻] に設定します。このようにすると、この検証スクリプトでユーザーが日付/時刻フィールドに誤った形式を入力した場合に、エラーメッセージを受け取ることになります。

```
function validate(value){
// empty fields are still valid dates
if(!value)returntrue;

// We "should" have the global date format defined always defined. but there's always that
 edge case...
if(typeof g_user_date_time_format !=='undefined')return isDate(value,
 g_user_date_time_format);

// if we don't have that defined, we can always try guessing
return parseDate(value)!==null;}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

日付/時刻の検証

### UI アクションでのクライアントおよびサーバーコードの使用

スクリプトを使用して、サーバー側でレコードを更新する前に、クライアント側で UI アクションがクリックされたときに入力を検証できます。ユーザーは、必須フィールドを検証してレコードを更新するのにボタンを 2 回クリックする必要はありません。

スクリプトはクライアント側の検証のためにクライアント関数を呼び出し、合格すると UI アクションがタスクを完了します。onclick なしで実行されるコードのステートメントは 、クライアント関数が実行されなくなるまでサーバー側の関数が実行されないようにします。成功すると、サーバー側の関数が実行され、レコードが更新されます。

```
// Client-side onclick function
function resolveIncident() {
  // Set the 'Incident state' and 'State' values to 'Resolved', and display mandatory fields
  g_form.setValue('incident_state', 6);
  g_form.setValue('state', 6);
  g_form.setValue('resolved_by', g_user.userID);

  // Call the UI action and skip the 'onclick' function
  gsftSubmit(null, g_form.getFormElement(), 'resolve_incident'); //MUST call the 'Action name'
 set in this UI Action
}

// Code that runs without 'onclick'
// Ensure call to server-side function with no browser errors
if (typeof window == 'undefined')
  serverResolve();

// Server-side function
function serverResolve() {
  current.incident_state = IncidentState.RESOLVED;
  current.state = IncidentState.RESOLVED;
  current.resolved_by = gs.getUserID();
  current.update();
}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## gsftSubmit(文字列 **control,** オブジェクト **form,** 文字列 **action_name)**

必須フィールドを確認し、*onSubmit()* クライアントスクリプトを実行した後、ユーザーが UI アクションをクリックした場合と同様にフォームを送信します。単一の UI アクションでクライアント側のコードとサーバー側のコードを呼び出すことができます。

パラメーター

| 名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|
| コントロール | 文字列 | ユーザーのクリックをシミュレートするフォームボタンの名前。それ以外の場合は null を使用します。 |
| フォーム | オブジェクト | オプション。送信された入力を含むフォーム要素。この値を取得するには、*g_form.getFormElement()* メソッドを呼び出します。 |
| action_name | 文字列 | アクション名。この値は、UI アクション [sys_ui_action] テーブルにリストされているレコードで提供されます。<br><br>たとえば、'resolve_incident' は、インシデント [incident] テーブルの [解決] ボタンのアクション名です。 |

関連情報

GlideForm - getFormElement()

Scoped GlideSystem - eventQueue(String name, Object instance, String parm1, String parm2, String queue)

GlideUser - Client

UI actions

### 暗号化されていないシングルサインオンの **ASP** スクリプト例

このサンプル ASP.NET コードは、簡易認証ポータルを作成し、暗号化されていない HTTP ヘッダーを URL パラメーターとして渡します。

このサンプルでは、以下を前提としています。

- Web サーバーが ASP .NET をサポートしている
- ターゲットインスタンスが https://<instance name>.service-now.com/ である
- SiteMinder または別のシングルサインオンアプリケーションがユーザーを事前認証している
- ターゲットインスタンスは HTTP ヘッダー SM_USER を予期している

ASP コードを変更して、ユーザーを適切なインスタンスにリダイレクトし、適切な HTTP ヘッダーを作成するようにします。

```
<html xmlns = "http://www.w3.org/1999/xhtml" > <head  runat = "server" > <title
 >Portal Page Login </ title > <%--    <meta http-equiv = "REFRESH" content =
"0;url=https://<instance name>.service-now.com/">--%>

   <script  runat = "server" >

      public void go_to(object sender, EventArgs e)
      {
         ////Send URL parameters
         String URL = urlBox.Text + "?SM_USER=" + userNameBox.Text;
         Response.Redirect(URL);
```

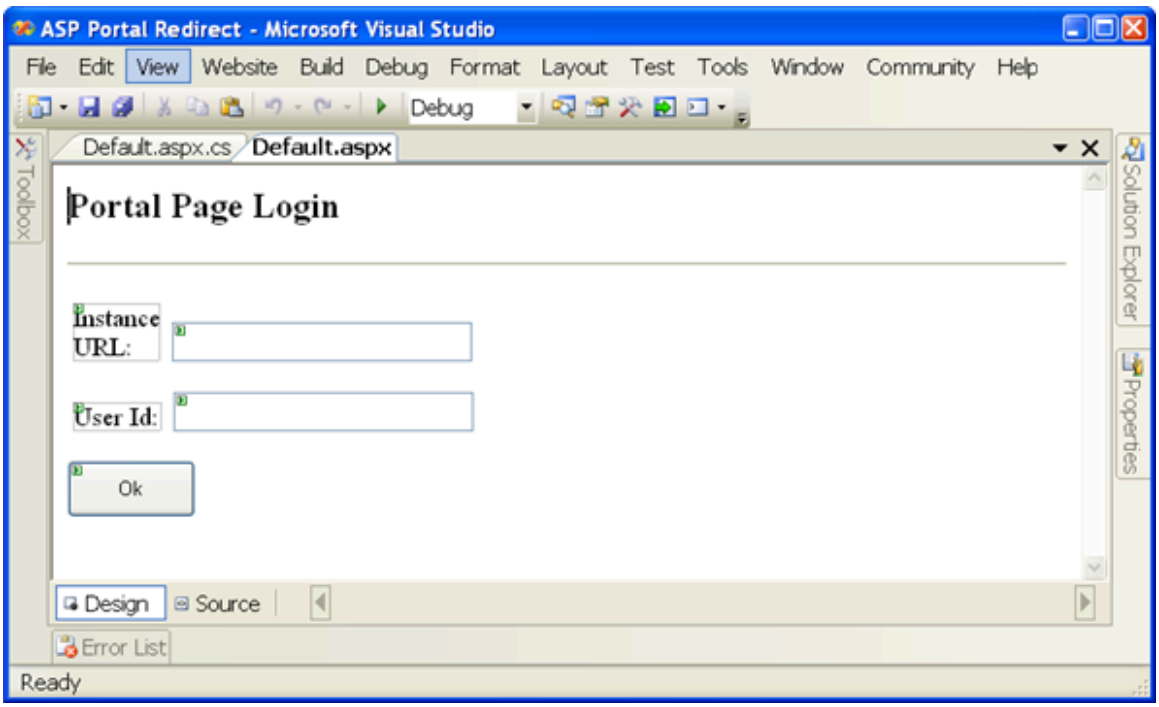
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    }
  </ script >


 </ head > <body > <form id = "form1"  runat = "server" > <h2 >< b > Portal Page Login
</ b >< / h2 > <hr style = "position: static" / > <br / > <asp:Label ID = "Label2"  runat =
"server"  Font- Size = "Larger" Height = "21px" Style = "position: static"Text = "Instance URL:"
Width = "113px" >< / asp:Label> <asp:TextBox ID = "urlBox"  runat = "server"  Font- Size =
"Large" Style = "position: static" >< / asp:TextBox> <br / > <br / > <asp:Label ID = "Label1"
 runat = "server"  Font- Size = "Larger" Height = "17px" Style = "position: static;"Text = "User
Id:" Width = "113px" >< / asp:Label> <asp:TextBox ID = "userNameBox"  runat = "server"
Font- Size = "Large" Style = "position: static;" >< / asp:TextBox> <br / > <br / > <asp:Button
ID = "Button1"  runat = "server" Height = "39px" Style = "position: static;" Text = "Ok"Width =
"88px" OnClick = "go_to" / > </ form > </ body > </ html >
```

デザイナー




## 日付と時刻の検証

すべての日付/時刻フィールドの入力を検証するために、検証スクリプトで次を使用できます (システム定義 > 妥当性検証スクリプト).

このスクリプトでは日付/時刻形式がハードコードされているため、インスタンスの日付/時刻形式と一致する必要があります。インスタンスの日付/時刻形式が変更された場合は、検証スクリプトを更新する必要があります。

検証スクリプトのタイプを「glide_date_time」に設定します。このようにすると、この検証スクリプトでユーザーが日付/時刻フィールドに誤った形式を入力した場合に、エラーメッセージを受け取ることになります。

```
function validate (value ) { if ( !value ) { return true ; } return (getDateFromFormat (value ,
'yyyy-MM-dd HH:mm:ss' ) != 0 ) ;

}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

日付/時刻の検証

期間の計算

タスクまたはプロセスの期限を指定する方法のユーザーへの提供が必要になることがよくあります。DurationCalculator スクリプトインクルードを使用すると、単純な期間または相対期間を使用して期日を計算できます。

通常、期日を設定するには、合計時間ではなく作業時間を計算する必要があります。期日を決定する際に考慮するのは、1 日のうちの作業が行われる部分のみです。たとえば、ある作業が 10 時間かかるものの、平日のスケジュールで制限されている場合などです。作業が月曜日の 10 am に開始される場合、以下で計算するように、火曜日の 12 pm が期限になります。

```
10am-5pm on Monday (6 hours) + 8am-12pm on Tuesday (4 hours)
```

DurationCalculator メソッドへの入力として使用できるスケジュールについては、「スケジュールの作成と使用」を参照してください。

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して期日を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Demonstrate the use of DurationCalculator to compute a due date.
 *
 * You must have a start date and a duration. Then you can compute a
 * due date using the constraints of a schedule.
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */function executeSample(){

   // First we need a DurationCalculator object.var dc =new DurationCalculator();

   // ---------- No schedule examples ----------
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  // Simple computation of a due date without using a schedule. Seconds// are added to the start date continuously to get to a due date.
  dc.setStartDateTime("5/1/2012");if(!dc.calcDuration(2*24*3600)){// 2 days
   gs.log("*** Error calculating duration");return;}
  gs.log("calcDuration no schedule: "+ dc.getEndDateTime());// "2012-05-03 00:00:00" two days later

  // Start in the middle of the night (2:00 am) and compute a due date 1 hour in the future// Without a schedule this yields 3:00 am.
  dc.setStartDateTime("5/3/2012 02:00:00");if(!dc.calcDuration(3600)){
     gs.log("*** Error calculating duration");return;}
  gs.log("Middle of night + 1 hour (no schedule): "+ dc.getEndDateTime());// No scheduled start date, just add 1 hour


  // ---------- Add a schedule to the date calculator ----------
  addSchedule(dc);

  // Start in the middle of the night and compute a due date 1 hour in the future.// Since we start at 2:00 am the computation adds the 1 hour from the start// of the day, 8:00am to get to 9:00am
  dc.setStartDateTime("5/3/2012 02:00:00");if(!dc.calcDuration(3600)){//
     gs.log("*** Error calculating duration");return;}
  gs.log("Middle of night + 1 hour (with 8-5 schedule): "+ dc.getEndDateTime());// 9:00 am

  // Start in the afternoon and add hours beyond quiting time. Our schedule says the work day// ends at 5:00pm, if the duration extends beyond that, we roll over to the next work day.// In this example we are adding 4 hours to 3:00pm which gives us 10:00 am the next day.
  dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");if(!dc.calcDuration(4*3600)){//
     gs.log("*** Error calculating duration");return;}
  gs.log("Afternoon + 4 hour (with 8-5 schedule): "+ dc.getEndDateTime());// 10:00 am.

  // This is a demo of adding 2 hours repeatedly and examine the result. This// is a good way to visualize the result of a due date calculation.
  dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");// for(var i=2; i<24; i+=1){if(!dc.calcDuration(i*3600)){//
        gs.log("*** Error calculating duration");return;}
     gs.log("add "+ i +" hours gives due date: "+ dc.getEndDateTime());}

  // Setting the timezone causes the schedule to be interpreted in the specified timezone.// Run the same code as above with different timezone. Note that the 8 to 5 workday is// offset by the two hours as specified in our timezone.
  dc.setTimeZone("GMT-2");
  dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");for(var i=2; i<24;
i+=1){if(!dc.calcDuration(i*3600)){//
        gs.log("*** Error calculating duration");return;}
     gs.log("add "+ i +" hours gives due date (GMT-2): "+ dc.getEndDateTime());}}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */function addSchedule(durationCalculator){//  Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  grSched.addQuery('name', scheduleName);
  grSched.query();if(!grSched.next()){
     gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');return;}
  durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

### 単純な期間と相対期間

タスクを完了するために必要な作業量を「相対期間」で表すことができます。

相対期間では、開始時間との相対関係で予想できる期限となる日時が決定されます。相対期間の例としては、「翌営業日の 4 pm まで」や「2 営業日後の 10:30 am まで」などがあります。

相対期間を計算するには、「翌営業日」が何を意味するかを判断するために、カレンダーとタイムゾーンを考慮する必要があります。これは、有効な営業日とはいつであるかを定義しているのがカレンダーであり、タイムゾーンも結果に影響するためです。例として、「翌営業日の 4 pm まで」を考えてみます。

- 開始が月曜日の 12 pm の場合：翌営業日の 4 pm => 火曜日の 4 pm
- 開始が金曜日の 2 pm の場合：翌営業日の 4 pm => 次の月曜日の 4 pm

**注:**
多くの場合、「翌営業日」は開始日時によって定義されます。たとえば、「2 pm より前であれば翌営業日の 4 pm」は、現在の時刻が営業日の 2 pm を過ぎていると、実際にはその日から 2 営業日後が期日になることを意味します。

### 単純な期間の計算

このビジネスルールとスクリプトの例は、単純な期間を計算する方法を示しています。

```
var dur =new DurationCalculator();
dur.setSchedule(current.schedule);
dur.setStartDateTime("");

if(current.duration_type==""){
       dur.calcDuration(current.duration.getGlideObject().getNumericValue()/1000);}else{
       dur.calcRelativeDuration(current.duration_type);}

  current.end_date_time= dur.getEndDateTime();
  current.work_seconds= dur.getSeconds();
```

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して単純な期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample script demonstrating use of DurationCalculator to compute simple durations
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

  // First we need a DurationCalculator object.
  var dc =new DurationCalculator();
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  // Compute a simple duration without any schedule. The arguments
  // can also be of type GlideDateTime, such as fields from a GlideRecord.
  var dur = dc.calcScheduleDuration("5/1/2012","5/2/2012");
  gs.log("calcScheduleDuration no schedule: "+ dur);
  // 86400 seconds (24 hours)

  // The above sample is useful in limited cases. We almost always want to
  // use some schedule in a duration computation, let's load a schedule.
  addSchedule(dc);

  // Compute a duration using the schedule. The schedule
  // specifies a nine hour work day. The output of this is 32400 seconds, or
  // a nine hour span.
  dur = dc.calcScheduleDuration("5/23/2012 12:00","5/24/2012 12:00");
  gs.log("calcScheduleDuration with schedule: "+ dur);
  // 32400 seconds (9 hours)

  // Compute a duration that spans a weekend and holiday. Even though this
  // spans three days, it only spans 9 work hours based on the schedule.
  dur = dc.calcScheduleDuration("5/25/2012 12:00","5/29/2012 12:00");
  gs.log("calcScheduleDuration with schedule spaning holiday: "+ dur);
  // 32400 seconds (9 hours)

  // Use the current date time in a calculation. The output of this is
  // dependent on when you run it.
  var now =new Date();
  dur = dc.calcScheduleDuration("5/15/2012",new GlideDateTime());
  gs.log("calcScheduleDuration with schedule to now: "+ dur);
  // Different on every run.}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
  //  Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.
  var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
  var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
  grSched.addQuery('name', scheduleName);
  grSched.query();if(!grSched.next()){
      gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
      return;}
   durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue());}
```

### 相対期間の計算

相対期間計算スクリプトの例。

このスクリプトは、「10 am を過ぎていれば翌日 4 pm」の相対期間を計算します。

```
// Next day at 4pm if before 10am
var days =1;
if(calculator.isAfter(calculator.startDateTime,"10:00:00"))
    days++;

calculator.calcRelativeDueDate(calculator.startDateTime, days,"16:00:00");
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して相対期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample use of relative duration calculation.
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

   // First we need a DurationCalculator object. We will also use
   // the out-of-box relative duration "2 bus days by 4pm"
   var dc =new DurationCalculator();
   var relDur ="3bf802c20a0a0b52008e2859cd8abcf2";
   // 2 bus days by 4pm if before 10am
   addSchedule(dc);

   // Since our start date is before 10:00am our result is two days from
   // now at 4:00pm.
   dc.setStartDateTime("5/1/2012 09:00:00");
   if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
      gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
      return;}
   gs.log("Two days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());

   // Since our start date is after 10:00am our result is three days from
   // now at 4:00pm.
   dc.setStartDateTime("5/1/2012 11:00:00");
   if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
      gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
      return;}
   gs.log("Three days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
 //  Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our duration calculator.
 var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
 var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
 grSched.addQuery('name', scheduleName);
 grSched.query();
 if(!grSched.next()){
      gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
      return;}
 durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 相対期間の実装方法

cmn_relative_duration テーブルと `DurationCalculator` スクリプトインクルードを作成することで、相対期間を実装できます。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. cmn_relative_duration テーブルを作成します。
2. DurationCalculator スクリプトインクルードを作成します。
3. サンプルの相対期間エントリを作成します (たとえば、「4 pm まででであれば翌営業日」)。
4. 相対期間をサポートするために必要なフィールドを SLA テーブルに追加します。
5. SLA の期間計算を変更します。
6. SLA の SLA パーセンテージタイマー計算を変更します (これは work_seconds を使用する必要があります)。
7. ワークフローにスケジュールフィールドを追加します： スケジュールとタイムゾーン (ワークフローテーブルのフィールドに基づいて選択)。
8. 期間サポートフィールドをワークフロータスクアクティビティに追加します。
9. タスクアクティビティの期間計算スクリプトを実装します。

### 相対期間テーブルと **DurationCalculator** メソッド

cmn_relative_duration テーブルは、期間または相対期間のどちらかでの期日の定義をサポートしています。

このテーブルは、[名前] と [スクリプト] の 2 つのフィールドで構成されています。[スクリプト] フィールドには、相対期間計算スクリプトが含まれています。このスクリプトには、期日の計算に使用される「calculator」変数が含まれています。

DurationCalculator スクリプトインクルードを使用して、期間の計算を実行できます。このスクリプトインクルードで使用できるメソッドは次のとおりです。

**DurationCalculator** スクリプトインクルードテーブル

| メソッド | 説明 |
|---|---|
| setSchedule(String schedID, [String timezone]) | 期日の計算に使用するスケジュールとタイムゾーンを設定します。 |
| setStartDateTime(GlideDateTime start) | 期間計算のための開始時刻を設定します。[開始] が空の場合、現在の日付/時刻が使用されます。 |
| calcDuration(int seconds) | 終了日時を計算します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。 |
| calcRelativeDuration(String relativeDurationID) | 指定された相対期間スクリプトを使用して期間を計算します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。 |
| getEndDateTime() | 期間の終了日時を示す、calcDuration/ calcRelativeDuration によって設定された this.endDateTime プロパティを取得します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**DurationCalculator** スクリプトインクルードテーブル (続く)

| メソッド | 説明 |
| --- | --- |
| getSeconds() | 期間中に実行される作業の合計秒数を示す、calcDuration/calcRelativeDuration によって設定された this.seconds プロパティを取得します。<br>**注:** これは、開始時間と終了時間の合計時間ではなく、合計作業時間であり、作業時間のパーセンテージを決定するために使用されます。 |
| getTotalSeconds() | 期間の開始時刻から終了時刻までの合計秒数を示す、calcDuration/calcRelativeDuration によって設定された this.totalSeconds プロパティを取得します。 |

相対期間スクリプトでは、次の関数が使用されます。

相対期間スクリプト関数

| 関数 | 説明 |
| --- | --- |
| boolean isAfter(GlideDateTime dt, String time) | 「time」は「dt」で指定された時刻より後になっているかどうか。dt が空白の場合、現在の日付/時刻が使用されます。時間は 24 時間形式の「hh:mm:ss」で表されます。 |
| calcRelativeDueDate(GlideDateTime start, int days, String endTime) | 「start」で始まり、スケジュールとタイムゾーンを使用して「days」を追加して、期日を計算します。作業の期日を特定できたら、その日の「endTime」に時間を設定します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。「endTime」が空白の場合は、作業終了日の終了時間を使用します。 |

### ServiceNow Sdk

ServiceNow ソフトウェア開発キット (SDK) を使用して、JavaScript モジュールとサードパーティ製ライブラリをアプリケーションにローカルに追加し、変更を Now Platformのインスタンスにアップロードします。

## ServiceNow SDK の概要

ServiceNow SDK を使用すると、開発者はカスタムモジュールとサードパーティライブラリVisual Studio Codeを含むスコープ対象のアプリケーションを作成および変更し、それらのアプリケーションをリリースのWashington DC非本番インスタンスに展開できます。インスタンスの外部でアプリケーションを作成すること ServiceNow で ServiceNow 、業界標準の開発手法と使い慣れたツールを使用して、実行時のみではなく構築時にエラーを捕捉できます。

SDK で作成または変換されたアプリケーションには、ソース コード ファイルと、アプリケーションのデータベース レコードから生成されたメタデータ XML ファイルが含まれます。package.json ファイルは、Node.js アプリケーションまたはノード パッケージ マネージャー (npm) パッケージと同様のアプリケーション構造を定義します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

SDK には、インスタンスとローカルアプリケーション間の変更を管理するためのコマンドラインインターフェイス (CLI) が含まれています。シンプルな CLI コマンドを使用して、アプリケーションを作成、変換、ビルド、デプロイ、およびフェッチできます。

## ServiceNow SDK ワークフロー

1. admin ロールを持つ開発者が SDK をインストールします。
2. 開発者は CLI を使用して、 `now-sdk auth` コマンドを使用してローカル環境とインスタンス間のインターフェイスとなる非本番インスタンスに対して認証を行います。
3. 開発者は、スコープ対象のアプリケーションを作成する (now-sdk create) か、インスタンスから既存のスコープ対象のアプリケーションを SDK で使用するために変換します (`now-sdk convert`)。
4. では Visual Studio Code、開発者はカスタム JavaScript モジュールを作成し、サードパーティのライブラリを追加します。
5. 開発者はアプリケーションを構築します。このアプリケーションは、ソースコードをコンパイルしてインスタンスのデータベースメタデータに変換し、展開可能パッケージ (now-sdk build) を生成します。
6. 開発者がアプリケーションをインスタンスにデプロイします (`now-sdk deploy`)。
7. 他のユーザーはインスタンスのアプリケーション メタデータを引き続き変更でき、開発者は SDK を使用して他のモジュールまたはスクリプトのモジュールのコードを再利用できます。
8. 開発者は、インスタンス上のアプリケーションをフェッチして、アプリケーションメタデータの最新の更新をローカルで取得します (`now-sdk fetch`)。

## ServiceNow SDK の利点

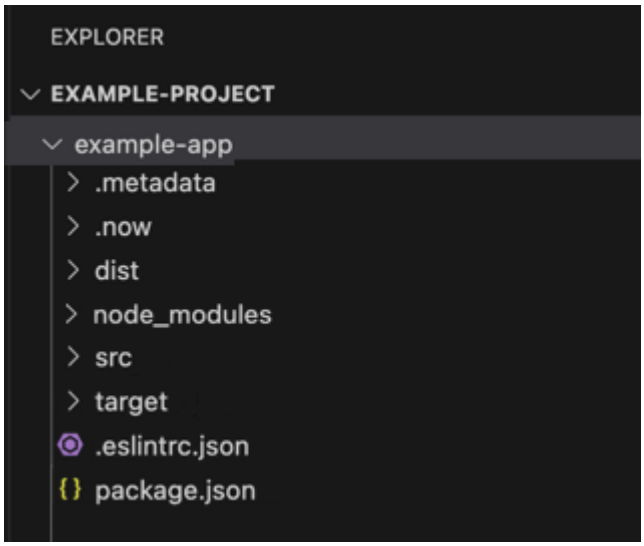
| メリット | 機能 | ユーザー |
| --- | --- | --- |
| カスタム JavaScript モジュールを記述して、スコープ対象のアプリケーション間でコードを整理して再利用します。 | • JavaScript モジュールとサードパーティ ライブラリ<br>• SDK を使用した ServiceNow アプリケーションの開発 | 開発者 |
| 既存のサードパーティ JavaScript ユーティリティを活用して、既存のオープンソース機能を書き換えないようにします。 | | |
| 生産性、効率性、最適化の向上により、アプリケーションの価値実現までの時間を短縮します。 | | |
| TypeScript、タイプ セーフ、Intellisense、依存関係の適用など、業界標準の JavaScript 機能を備えた使い慣れた開発ツールを使用します。 | SDK での ServiceNow TypeScript の使用 | |

## アプリケーション構造

SDK で作成されたアプリケーションには、次のディレクトリとファイルが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




注:
開発者は、 dist、 node_modules、 ターゲット ディレクトリ、および . で始まるファイルとディレクトリをソース管理で手動で編集したり永続化したりしないでください。

。メタデータ

既存の ServiceNow アプリケーションと同じディレクトリ構造で編成された、テーブルスキーマやビジネスルールなどのアプリケーションのメタデータ XML ファイルを含むディレクトリ。

このディレクトリには、デフォルトでサンプルビジネスルール (sys_script_<sysID>.xml) と、指定されている場合はサンプルテーブル (<scope>_to_do.xml) が含まれています。

注:
アプリケーションメタデータは、ローカルではなくインスタンスで編集する必要があります。

。今

ビルドプロセスと展開プロセスのキャッシュと測定基準の情報を含むディレクトリ。

ディストリクト

パッケージ化用のビルドアーティファクトを格納するディレクトリ。

node_modules

アプリケーションが依存するサードパーティ Node.js モジュールを含むディレクトリ。このディレクトリは、パッケージが npm と共にインストールされるときに追加されます。

Src

myfunction.js という名前のサンプルモジュールを含むモジュールコード (JavaScript または TypeScript ファイル) を含むディレクトリ。

target

インスタンスにアップロードする展開可能パッケージを含むディレクトリ。

.eslintrc.json

ESLint 構成を含むファイル。ESLintは、アプリケーションコードの問題を特定して修正するのに役立ちます。

package.json

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション、構成、 ServiceNow カスタムモジュールまたはサードパーティモジュールの依存関係に関する情報を含むファイル。package.json ファイルは、アプリケーションのベースディレクトリに存在する必要があります。

package.json ファイルでは、ServiceNowアプリケーション構成は `now` オブジェクトで定義されます。

```
"now": {
      "scope": "x_snc_example_app",
      "scopeId": "2f8400eb07426110f736e28f69d3017a",
      "moduleDir": "src"
   }
```

次のパラメーターを使用して、 package.json ファイル内のアプリケーションのディレクトリ構造を構成できます。

モジュールディレクトリ

: モジュールコード (JavaScript または TypeScript ファイル) を含むディレクトリ。デフォルト値は src です。

metadataDir

: アプリケーションのメタデータを XML ファイルとして格納するディレクトリ。デフォルト値は .metadata です。

compileOutputDir

: アプリケーションの構築時にパッケージ化するためにビルドアーティファクトを出力するディレクトリ。デフォルト値は dist/app です。

cpackOutputDir

: アプリケーションの構築時にインスタンスにアップロードする zip ファイルを出力するディレクトリ。デフォルト値は [ターゲット] です。

### JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

JavaScript モジュールを使用してコードベースを最適化し、関連するコードをグループ化したり、サードパーティライブラリを追加したりして、アプリケーション間でコードを再利用します。

## 概要

モジュールは JavaScript または TypeScript ファイルにすることができ、インスタンス上のアプリケーション間でエクスポートされて再利用される関連コードが含まれています。SDK を使用して ServiceNow 作成または変換されたスコープ対象のアプリケーションでは、 から JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ Visual Studio Codeを追加できます。

モジュールでは、 `エクスポート` ステートメントで再利用するコードを指定します。外部モジュールとスクリプトでモジュールコードにアクセスするには、アプリケーションの package.json ファイルの `exports` フィールドにエントリーポイントを追加します。次に、 `import` ステートメントまたは `require` ステートメントを使用して、アプリケーションの他の場所でコードを再利用します。アプリケーションは、モジュール コードを使用するために、他のアプリケーションまたはサードパーティのノード パッケージ マネージャー (npm) ライブラリへの依存関係を宣言する必要があります。

モジュールを追加してローカルアプリケーションをインスタンスに展開すると、モジュールは EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに格納されます。モジュールが複数のアプリケーションで使用されている場合は、EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに複数のレコードがあります。

JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs ウェブサイトの JavaScript モジュール ページを参照してください。アプリケーションで

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TypeScript を使用するには、「」を参照してください SDK での ServiceNow TypeScript の使用。

## 制限事項

- グローバルアプリケーションとアプリケーションのカスタマイズはサポートされていません。
- ECMAScript 機能のサブセットは、に従ってモジュール JavaScript エンジン機能のサポートでサポートされます。
- Node.js API はモジュールではサポートされていません。
- Web API に関連するグローバル変数はサポートされていません。
- `インポート` および `エクスポート` ステートメントは、ビジネスルールやスクリプトインクルードなどのスクリプトではサポートされていません。これらはモジュールでのみサポートされています。
- アプリケーションに追加されたサードパーティのライブラリは、API にアクセスしたり呼び出し ServiceNow たりすることはできません。
- グローバル Glide API は、デフォルトではモジュールでは使用できません。これらは @servicenow/glide パッケージからインポートできます。
- JavaScript モジュール [sys_module] をプラットフォームから変更することはできません。これらは、SDK を使用してインスタンス内で Visual Studio Code 変更し、デプロイする必要があります。

**重要:**
サポートされていない API や ECMAScript 機能など、サポートされていない機能に依存するサードパーティのライブラリを使用することはできません。

## モジュールのエクスポート

モジュールで、 *`export`* ステートメントで再利用するコードを指定します。名前付きエクスポートまたはデフォルトのエクスポートを使用できます。名前付きエクスポートは変数、定数、関数、またはクラスに適用できますが、デフォルトのエクスポートは関数またはクラスのみに適用できます。次の例は、モジュール内の複数の機能 (関数と変数) の名前付きエクスポートを追加する 1 つの方法です。

```
export { myFunction, myVariable };
```

異なるアプリケーションのスクリプトとモジュールがモジュールからコードにアクセスするには、package.json ファイルの *`exports`* フィールドを使用してアプリケーションへのエントリーポイントを定義します。次の例は、数学関数の "math" という名前のアプリケーション用です。

パッケージからのモジュールコードのエクスポート

| 手法 | 例 |
| --- | --- |
| モジュールを指す文字列値を指定します。 | `{ "name": "math", "version": "1.0.0", "exports": "./src/main.js" }` |
| "." が main.js モジュールのサブパスであるオブジェクトを使用します。 | `{ "name": "math", "version": "1.0.0",` |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

パッケージからのモジュールコードのエクスポート (続く)

| 手法 | 例 |
| --- | --- |
| | "exports": {<br>"." : "./src/main.js"<br>}<br>} |
| サブパスエクスポートとして add.js モジュールと subtract.js モジュールのみをエクスポートします。 | {<br>"name": "math",<br>"version": "1.0.0",<br>"exports": {<br>"./add": "./src/functions/add.js",<br>"./sub": "./src/functions/subtract.js"<br>}<br>} |
| 指定したパスから、サブディレクトリを含むすべてのファイルをエクスポートします。 | {<br>"name": "math",<br>"version": "1.0.0",<br>"exports": {<br>"./functions/*": "./src/functions/*"<br>}<br>} |
| 指定したパスから特定のファイルタイプのファイルのみをエクスポートします。 | {<br>"name": "math",<br>"version": "1.0.0",<br>"exports": {<br>"./functions/*.js": "./src/functions/*.js"<br>}<br>} |
| 特定のファイルタイプのファイルをエクスポートしますが、ディレクトリ内のフォルダはプライベートに保ちます。 | {<br>"name": "math",<br>"version": "1.0.0",<br>"exports": {<br>"./functions/*.js": "./src/functions/*.js",<br>"./functions/private-functions/*": null<br>}<br>} |

## モジュールのインポート

再利用するモジュールコードをインポートするには、他のモジュールで *import* ステートメントを使用するか、サーバー側スクリプトで *require* ステートメントを使用します。

次の例は、エクスポートされた機能をモジュールにインポートする 1 つの方法です。

```
import { feature } from "path/to/module";
```

次の例は、エクスポートされた機能をスクリプトにインポートする 1 つの方法です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
const { feature } = require("path/to/module");
```

短縮形を使用してモジュール コードをインポートするには、アプリケーションの package.json ファイルの *imports* フィールドでサブパスを使用します。例：

```
{
 "name": "math",
 "version": "1.0.0",
 "exports": {
  "./functions/*.js": "./src/functions/*.js",
  "./functions/private-functions/*": null
 },
 "imports": {
  "#calc": "calculus",
  "#derivative": "calculus/derivative"
 },
 "dependencies": {
  "calculus": "1.0.0"
 }
}
```

この例に基づいて、数学アプリケーションにインポートするたびにderivative.jsへの相対パスを書き出す代わりに、代わりに #derivative 短縮形を使用できます。サブパスを *imports* フィールドで使用して、 #calc などの依存関係の短縮形を使用することもできます。

```
import { derivative } from '#derivative';
import * as calculus from '#calc';
```

### 依存関係の追加

アプリケーションは、モジュールコードを使用するために、他のアプリケーションまたはサードパーティのライブラリへの依存関係を宣言する必要があります。アプリケーションの package.json ファイルに、依存関係のパッケージ名とバージョンを含めます。たとえば、"math" アプリケーションのモジュールを "test" アプリケーションで使用するには、"math" パッケージを依存関係として追加します。

```
{
 "name": "test",
 "version": "1.0.0",
 "dependencies": {
  "math": "1.0.0"
 }
}
```

#### **ServiceNow SDK** をインストールする

ノードパッケージマネージャー (npm) を使用して、 ServiceNow ソフトウェア開発キット (SDK) をローカルにインストールします。

始める前に
npm を使用して SDK をインストールするには、システムが次の要件を満たしている必要があります。

- Node.js v16 以降
- NPM v8 以降

Node.js または npm をインストールまたはアップグレードするには、npm Web サイトの インストール手順 を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

必要なロール：admin

### このタスクについて
SDK は、パブリック npm レジストリから npm パッケージ として入手できます。

### 手順
1. システムでコマンドラインツールを開きます。
2. システムが要件を満たしていることを確認します。
   a. `node –v` と入力して、Node.jsがインストールされているかどうか、およびどのバージョンであるかを確認します。
   b. `npm –v` と入力して、npm がインストールされているかどうか、およびどのバージョンかを確認します。
3. 次のコマンドを入力して SDK をインストールします。

```
npm install –global @servicenow/sdk
```

### 次のタスク
ServiceNow SDK を使用して、スコープ対象のアプリケーションを作成するか、SDK で使用するために既存のアプリケーションを変換します。詳細については、「SDK を使用してアプリケーションを作成または変換するServiceNow」を参照してください。

## SDK を使用した ServiceNow アプリケーションの開発

SDK を使用してアプリケーションを開発し、 ServiceNow JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用してコードベースを最適化します。

SDK のインストール後、インスタンスに対して認証を行って、スコープ対象のアプリケーションを作成したり、既存のアプリケーションを SDK で使用するように変換したりできます。これらのアプリケーションを使用すると、カスタム JavaScript モジュールを作成し、サードパーティのライブラリ Visual Studio Codeを に追加できます。

変更の準備ができたら、ローカルアプリケーションをビルドしてインスタンスにデプロイし直します。他のユーザーはインスタンスのアプリケーションメタデータを変更できるため、追加の変更を行う前に、アプリケーションメタデータへの変更をフェッチして、アプリケーションをローカルで最新の状態に保つ必要があります。

SDK を使用してアプリケーションの開発を開始する方法については、次のトピックを参照してください。

### 関連情報
- SDK での ServiceNow TypeScript の使用
- ServiceNow SDK CLI

## SDK を使用してアプリケーションを作成または変換するServiceNow

スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを変換して、アプリケーションで JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用します。

### 始める前に
ServiceNowノード パッケージ マネージャー (npm) を使用して SDK をインストールします。詳細については、「ServiceNow SDK をインストールする」を参照してください。

必要なロール：admin



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### このタスクについて

この手順では、 ServiceNow SDK コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用します。コマンドと使用可能なパラメータの詳細については、を参照してください ServiceNow SDK CLI。

### 手順

1. アプリケーションを追加するディレクトリーから、システム上でコマンド行ツールを開きます。
2. ServiceNow SDK を起動します。

   ```
   now-sdk
   ```

   SDK は、使用可能なコマンドに関する情報を返します。

   > **ヒント:**
   > コマンドに関する追加情報を取得するには、コマンドと - `-help` または `-h` パラメーターを入力します。たとえば、 `now-sdk auth --help` などです。

3. 非本番 ServiceNow インスタンスに対する認証。
   インスタンスはリリースである必要があります Washington DC 。

   a. `auth` コマンドでエイリアスを使用して、システムのデバイスキーチェーンまたは資格情報マネージャーにユーザー資格情報を保存します。

      ```
      now-sdk auth save [<alias>] [--host <instance url>] [--username <admin username>]
      ```

      このエイリアスをデフォルトのエイリアスとして設定するには、 `--default` または `-d` パラメーターをコマンドに追加します。

      **Example**
      例を次に示します。

      ```
      now-sdk auth save devuser1 --host https://myinstance.service-now.com --username user1
       --default
      ```

   b. プロンプトで、パスワードを入力します。

4. スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを SDK で使用するように変換します。

### タスクの結果

基本的なアプリケーション構造を持つスコープ対象のアプリケーションをローカルで使用できます。アプリケーションがビルドされ、インスタンスにデプロイされている場合、CLI はアプリケーションへの URL を返します (例: https://myinstance.service-now.com/sys_app.do?sys_id=<sysID>)。

作成時にインスタンスでアプリケーションをビルドおよび登録しないことを選択した場合、その時点までアプリケーションはインスタンスに展開されません。詳細については、「SDK を使用した ServiceNow アプリケーションのビルドとデプロイ」を参照してください。

### 次のタスク

アプリケーションで JavaScript モジュールまたはサードパーティライブラリを作成して使用します。詳細については、「アプリケーションでの JavaScript モジュールの作成と使用」と「アプリケーションでのサードパーティライブラリの使用」を参照。

#### アプリケーションでの **JavaScript** モジュールの作成と使用

JavaScript モジュールで再利用可能なコードブロックを定義して、コードベースを最適化します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に

- SDK を使用して ServiceNow スコープ対象のアプリケーションを作成するか、SDK で使用するために既存のアプリケーションを変換します。詳細については、「SDK を使用してアプリケーションを作成または変換するServiceNow」を参照してください。

- スコープ対象のアプリケーションでの JavaScript モジュールの使用のサポートと制限について説明します。詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs ウェブサイトの JavaScript モジュール ページを参照してください。アプリケーションで TypeScript を使用するには、「」を参照してください SDK での ServiceNow TypeScript の使用。

手順

1. で Visual Studio Code、スコープ対象のアプリケーション ディレクトリを開きます。
2. src ディレクトリに、再利用するモジュールコードを格納する JavaScript ファイルまたは TypeScript ファイルを作成します。
3. オプション: グローバル Glide API をインポートして、モジュールから呼び出します。

```
import { gs } from '@servicenow/glide'
```

4. 再利用するコードをエクスポートします。

   a. モジュールで、エクスポートするコードを `エクスポート` ステートメントで指定します。

   名前付きエクスポートまたは既定のエクスポートを使用できます。名前付きエクスポートは変数、定数、関数、またはクラスにすることができますが、デフォルトのエクスポートは関数またはクラスのみにすることができます。

   **Example**
   次の例は、モジュール内の複数の機能 (関数と変数) の名前付きエクスポートを追加する 1 つの方法です。

```
export { myFunction, myVariable };
```

   b. アプリケーションの package.json ファイルで、 *exports* フィールドでこのモジュールにアクセスするための外部モジュールと他のアプリケーションのスクリプトのエントリーポイントを宣言します。
   `エクスポートフィールド`には、すべてのサブパスキー (".") またはメインエントリ名キーのいずれかが含まれている必要があります。

   **Example**

   この例では、 main.js モジュールは数学アプリケーションのパッケージからエクスポートされます。

```
{
 "name": "math",
 "version": "1.0.0",
 "exports": {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  ".": "./src/main.js"
 }
}
```

5. 外部スクリプトまたは異なるアプリケーションのモジュールでモジュールコードを使用するには、モジュールを他のアプリケーションの依存関係として宣言します。

   a. 他のアプリケーションの package.json ファイルを開きます。

   b. モジュールのアプリケーションを 依存関係 フィールドとの依存関係として追加します。

   **Example**

   この例では、「math」アプリケーションのモジュールを使用するために、「test」アプリケーションはそのモジュールへの依存関係を宣言します。

```
{
 "name": "test",
 "version": "1.0.0",
 "dependencies": {
  "math": "1.0.0"
 }
}
```

6. エクスポートされたモジュールのコードをサーバー側スクリプトまたは他のモジュールで使用します。

次のタスク
JavaScript モジュールでサードパーティライブラリを使用するか、変更をビルドしてインスタンスに展開します。詳細については、アプリケーションでのサードパーティライブラリの使用およびSDKを使用した ServiceNow アプリケーションのビルドとデプロイを参照してください。

## アプリケーションでのサードパーティライブラリの使用

アプリケーションでサードパーティのライブラリを呼び出して、既存のオープンソース機能を使用します。

始める前に
JavaScript モジュールを作成します。詳細については、「アプリケーションでの JavaScript モジュールの作成と使用」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
サードパーティのライブラリーは JavaScript モジュールとしてアプリケーションに追加されます。JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs ウェブサイトの JavaScript モジュール ページを参照してください。

> **重要:**
> サポートされていない API や ECMAScript 機能など、サポートされていない機能に依存するサードパーティのライブラリを使用することはできません。サポートされていない機能の詳細については、次のリンクを参照してください JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. で Visual Studio Code、スコープ対象のアプリケーション ディレクトリを開きます。
2. アプリケーションディレクトリから、統合されたターミナルウィンドウを開きます。
3. ライブラリの npm パッケージをインストールします。

   **Example**

   ```
   npm install <package name>
   ```

   ライブラリのパッケージがアプリケーションの node_modules ディレクトリに追加され、ライブラリが依存関係としてアプリケーションの package.json ファイルに追加されます。

   ```
   "dependencies": {
     "<package name>": "<version>"
   }
   ```

4. JavaScript モジュールで、 `import` ステートメントを使用してライブラリをインポートします。

   **Example**

   この例では、モジュールに lodash モジュールの名前空間インポートが含まれています。

   ```
   import * as lodash from "lodash"
   ```

   この例では、モジュールには lodash モジュールの camelCase 関数の名前付きインポートが含まれています。

   ```
   import camelCase from 'lodash'
   ```

5. モジュール内のライブラリからインポートされたコードを呼び出して再利用します。

次のタスク
変更を構築してインスタンスに展開します。詳細については、「SDK を使用した ServiceNow アプリケーションのビルドとデプロイ」を参照してください。

## SDK を使用した ServiceNow アプリケーションのビルドとデプロイ

JavaScript モジュールまたはサードパーティライブラリを使用してローカルアプリケーションを構築し、 ServiceNow インスタンスに展開します。

始める前に
SDK を使用して ServiceNow 、スコープ対象のアプリケーションで JavaScript モジュールまたはサードパーティライブラリを作成して使用します。詳細については、「アプリケーションでの JavaScript モジュールの作成と使用」と「アプリケーションでのサードパーティライブラリの使用」を参照。

必要なロール：admin

このタスクについて
この手順では、 ServiceNow SDK コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用します。コマンドと使用可能なパラメータの詳細については、を参照してください ServiceNow SDK CLI。

手順

1. アプリケーションディレクトリから、システムでコマンドラインツールを開きます。
2. fetch コマンドを使用して、インスタンス上のメタデータの変更でアプリケーションをフェッチし、最新の状態に保つようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
now-sdk fetch --auth <alias>
```

> **注:**
> JavaScript モジュールの更新は、インスタンスからアプリケーションメタデータをフェッチする際には含まれません。

3. build コマンドを使用してアプリケーションをビルドします。
   ビルドアーティファクトは dist/ app ディレクトリに出力されます。これには、 dist/app/update ディレクトリ内の XML ファイルとしてのモジュールのメタデータが含まれます。展開可能パッケージが ターゲット ディレクトリに出力されます。
4. deploy コマンドを使用してアプリケーションをデプロイします。

```
now-sdk deploy --auth <alias>
```

> **警告:**
> deploy コマンドで --mode reinstall パラメーターを使用すると、インスタンスで他の開発者が作成したアプリケーションメタデータを削除できます。ビルドプロセス中に生成されたローカル展開パッケージに存在しないインスタンス上のアプリケーションメタデータは、展開中に削除されます。アプリケーションを構築する前に、 now-sdk fetch コマンドを使用して、ローカルメタデータをインスタンスのメタデータと同期します。

### タスクの結果

インスタンスでアプリケーションが更新され、ローカルの変更が反映されます。アプリケーションのモジュールは、インスタンスの EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加されます。

> **注:**
> EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに不要な以前のバージョンのモジュールがある場合、再インストールモード (now-sdk deploy --mode resetup) を使用してアプリケーションをデプロイすると、以前のバージョンのアプリケーションのモジュールがテーブルから削除されます。

## SDK での ServiceNow TypeScript の使用

SDK で JavaScript モジュールを作成する場合は、 ServiceNow TypeScript を使用します。

TypeScript は、静的型指定と型注釈を使用して、開発者が でコード Visual Studio Codeを記述しているときにエラーを早期に検出できるようにサポートします。

TypeScript の使用に関する一般的な情報については、typescriptlang.org Web サイトの TypeScript ドキュメント を参照してください。

### モジュールで TypeScript を使用する

アプリケーションに TypeScript のサポートを追加することで、モジュールで TypeScript を使用します。

#### 始める前に

TypeScript バージョン 4.8.4 以降をインストールします。インストール手順については、typescriptlang.org Web サイトの「 TypeScript のダウンロード 」を参照してください。

必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アプリケーションのベースディレクトリに、アプリケーションをコンパイルするためのオプションを定義する tsconfig.json ファイルを追加します。
outDir パラメーターの値は、アプリケーションの package.json ファイル内の moduleDir の値と一致する必要があります。デフォルトでは、 moduleDir は src に設定されています。

   **Example**

```
{
   "compilerOptions": {
     "outDir": "src",
     "rootDir": "src",
     "allowJs": true,
  },
  "include": ["./src/**/*"]
}
```

2. アプリケーションの package.json ファイルで、次の変更を行います。

   a. devDependencies オブジェクトで、TypeScript パッケージとバージョンを追加します。
   最新バージョンの TypeScript を使用することをお勧めします。

   **Example**

```
"devDependencies": {
      "@servicenow/glide": "25.0.0-alpha.10",
      "eslint": "8.50.0",
      "eslint-plugin-n":"16.2.0",
      "typescript": "5.3.3"
   }
```

   b. scripts オブジェクトで、TypeScript (.ts) モジュールをコンパイルするビルドスクリプトを、インスタンスで使用するために JavaScript (.js) に追加します。

   **Example**

```
{
   "scripts": {
      "build": "tsc --build --clean && tsc --build && now-sdk build"
   }
}
```

3. TypeScript モジュールを JavaScript ファイルにコンパイルし、アプリケーションをビルドします。

   a. アプリケーションディレクトリから、システムでコマンドラインツールを開きます。

   b. 次のコマンドを入力します。

```
npm run build
```

## API のタイプ定義を追加する

Glide API の外部にある API およびスクリプト可能オブジェクトの先行入力サポートを取得します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このタスクについて
SDK アプリケーションでモジュールを直接 ServiceNow 宣言して、先行入力をサポートするために API へのスタブ アクセスを行います。これらのモジュールはアプリケーション パッケージにはパッケージ化されませんが、アプリケーションのソース管理リポジトリで追跡し、開発者間で共有できます。

手順

1. アプリケーション ディレクトリで、型定義用の TypeScripe (.ts) ファイルを追加します。
2. TypeScript ファイルで、API とスクリプト可能オブジェクトのモジュールを宣言します。

**Example**

この例では、API 名前空間 (sn_app_api) を使用して API のモジュールを宣言します。

```
declare module '@servicenow/glide/sn_app_api' {
 class AppStoreAPI {
  static canUpgradeAnyStoreApp(): boolean
 }
}
```

この例では、スクリプトインクルード (x_1234_scope) のスコープを使用して、スクリプトインクルードで定義されたオブジェクトにアクセスするためのモジュールを宣言します。

```
declare module '@servicenow/glide/x_1234_scope' {
 class MyLogItemClass {
  myLogFunction()
 }
}
```

3. アプリケーションの JavaScript モジュールで、宣言されたモジュールをインポートします。

**Example**
この例では、AppStoreAPI に対して宣言されたモジュールをインポートします。

```
import { gs } from '@servicenow/glide'
import { AppStoreAPI } from '@servicenow/glide/sn_app_api'

export const canUpgradeStoreApp = function () {
 var canUpgrade = AppStoreAPI.canUpgradeAnyStoreApp()
 if (canUpgrade) {
  gs.addInfoMessage(`You can upgrade store apps!`)
 } else {
  gs.addInfoMessage(`You cannot upgrade store apps!`)
 }
}
```

この例では、MyLogItemClass オブジェクトの宣言されたモジュールをインポートします。

```
import { MyLogItemClass } from '@servicenow/glide/x_1234_scope'

export const myLogFunction = function (status) {
 const myLogItem = new MyLogItemClass()
 myLogItem.myLogFunction(status)
}
```

**注:**
モジュールは、グローバルスクリプト可能オブジェクトまたは同じアプリケーションスコープ内のスクリプト可能オブジェクトにのみアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ServiceNow SDK CLI

ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、ローカルアプリケーションとインスタンス上のアプリケーション間の変更を管理します。

システムのコマンドラインツールから、「 now-sdk 」と入力して CLI を起動し、使用可能なコマンドのリストを返すか、 now-sdk [command] を選択して SDK の使用 ServiceNow を開始します。

CLI には、次のコマンドとグローバル オプションが含まれています。

#### グローバルオプション

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| --バージョン | CLI のバージョンを返します。 |
| --help, -h | コマンド、サブコマンド、およびパラメーターに関する情報を戻します。 |

#### 認証

インスタンスを使用して認証し、システム上のインスタンスにアクセスするためのユーザー資格情報を格納、更新、または表示します。

auth コマンドには、保管、消去、表示、およびデフォルト設定サブコマンドと、次の構造があります。

```
now-sdk auth [<subcommand>]
```

#### 保存

システムのデバイス キーチェーンまたは認証情報マネージャーに認証情報を保存します。プロンプトで、インスタンスを認証するためのパスワードを入力します。

```
now-sdk auth save [<alias>] [--host <hostname>] [--username <username>] [--default]
```

#### 必要なパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
| --- | --- | --- | --- |
| エイリアス | 文字列 | ホストおよびユーザーの資格情報の一意の識別子。<br><br>エイリアスは、 作成、 変換、 フェッチ、および 展開 コマンドによる認証に使用できます。 | — |
| --ホスト | 文字列 | アクセスするターゲットインスタンス、およびアプリケーションを展開およびフェッチするターゲットインスタンス。インスタンスはリリースである必要があります Washington DC 。 | — |
| --名 | 文字列 | インスタンスを認証するためのユーザー名。ユーザーには管理者アクセス権が必要です。 | — |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| --default, -d | ブール | エイリアスをデフォルトの `エイリアス` として設定するオプション。 | false |

例：

```
now-sdk auth save devuser1 --host https://myinstance.service-now.com --username user1 --default
```

### クリア

システムのデバイスキーチェーンまたは資格情報マネージャーで資格情報を削除します。

```
now-sdk auth clear [<alias>]
```

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| エイリアス | 文字列 | ホストおよびユーザーの資格情報の一意の識別子。 | すべて |

例：

```
now-sdk auth clear devuser1
```

### リスト

システムのデバイス キーチェーンまたは認証情報マネージャーに保存されている認証情報を表示します。パスワードは返されません。

```
now-sdk auth list [<alias>]
```

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| エイリアス | 文字列 | ホストおよびユーザーの資格情報の一意の識別子。 | すべて |

例：

```
now-sdk auth list devuser1
```

### set-default

デフォルトでコマンドで使用される資格情報を設定します。

```
now-sdk auth set-default [<alias>]
```

必要なパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| エイリアス | 文字列 | ホストおよびユーザーの資格情報の一意の識別子。 | — |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：

```
now-sdk auth set-default devuser1
```

### 作成

カスタムスコープ対象のアプリケーションを作成し、指定されている場合はインスタンスに展開します。

create コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk create <projectName> <scopeName> [<directory>] [--description <description>]
 [--sampleTable <flag>] [--offline <flag>] [--auth <alias>] [--open-browser <flag>]
 [--interactive <flag>]
```

#### 必要なパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| projectName | 文字列 | アプリケーションの名前。<br><br>アプリケーション名は、NPM パッケージの名前付け規則に従う必要があります。 | — |
| scopeName | 文字列 | アプリケーションのスコープ。<br><br>スコープ名はインスタンス上で一意で、x_<prefix> で始まり、18 文字未満である必要があります。詳細については、「名前空間識別子」を参照してください。 | — |

#### オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| ディレクトリ | 文字列 | アプリケーションのディレクトリとファイルを作成するローカルディレクトリ。 | 現在の作業ディレクトリ |
| --説明 | 文字列 | アプリケーションの簡単な説明。 | — |
| --sampleTable | ブール | アプリケーションでサンプルテーブルを作成するためのオプション。<br><br>true の場合、サンプルテーブル (<scope>_to_do.xml) が .metadata ディレクトリに作成されます。 | false |
| --offline, -o | ブール | インスタンスへのアプリケーションの展開をスキップするためのオプション。<br><br>true の場合、スコープ名は作成中に検証されないため、インスタンスに展開する前にスコープ名が有効であることを確認する必要があります。 | false |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| | | **注:** auth パラメーターが設定されている場合、このパラメーターは無視されます。 | |
| --auth、-a | 文字列 | インスタンスへの認証に使用する資格情報のエイリアス。 | 設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。 |
| --open-browser, -b | ブール | アプリケーションを正常に展開した後に、デフォルトのブラウザーでアプリケーションレコード (sys_app) を開くオプション。<br>**注:** オフライン パラメーターが true に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。 | false |
| --インタラクティブ、-i | ブール | アプリケーションを作成するためのプロンプトのガイド付きセットに回答するオプション。 | false |

例：

```
now-sdk create example-app x_snc_example /path/to/app_folder --description
 example_app_description --sampleTable true --auth devuser1 --open-browser true
```

### convert

インスタンスから既存のアプリケーションを変換して、SDK を使用してServiceNowインスタンスでのVisual Studio Codeローカルの変更およびインスタンスへのアプリケーション変更の展開をサポートします。

convert コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk convert <scopeName> <packageName> [<directory>] [--auth <alias>] [--scopeId
 <app_scope_id>]
```

必要なパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| scopeName | 文字列 | 既存のアプリケーションのスコープ。<br>グローバルアプリケーションの場合は、アプリケーション名を使用します。 | — |
| パッケージ名 | 文字列 | package.json ファイルで使用されるアプリケーション パッケージの名前。<br>パッケージ名は、NPM パッケージの命名規則に準拠している必要があります。 | — |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| ディレクトリ | 文字列 | アプリケーションのディレクトリとファイルを作成するローカルディレクトリ。 | 現在の作業ディレクトリ |
| --auth、-a | 文字列 | インスタンスへの認証に使用する資格情報のエイリアス。 | 設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。 |
| --scopeId | 文字列 | 既存のアプリケーションのsys_id。<br>**注:** このパラメーターは、グローバルアプリケーションを変換するために必要です。 | — |

例：

```
now-sdk convert x_snc_example example-app /path/to/app_folder --auth user1-dev --scopeId example_app_scope_id
```

フェッチ

インスタンスからアプリケーションメタデータをダウンロードし、それに合わせてローカルアプリケーションのメタデータ XML ファイルを更新します。

fetch コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk fetch [--directory <package path>] [--mode <fetch mode>] [--auth <alias>]
```

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| --ディレクトリ | 文字列 | アプリケーションへのパス。 | 現在の作業ディレクトリ |
| --mode, -m | 文字列 | メタデータをフェッチするオプション。<br>• complete:アプリケーションのすべてのメタデータをフェッチします。<br>• 増分:前回のフェッチ以降にアプリケーションメタデータに加えられた変更のみをフェッチします。 | 増分 |
| --auth、-a | 文字列 | インスタンスへの認証に使用する資格情報のエイリアス。 | 設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。 |

例：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
now-sdk fetch --auth devuser1 --directory /path/to/package --mode incremental
```

構築

ソース ファイルをコンパイルし、配置可能なパッケージを生成します。サードパーティライブラリの依存関係は、アプリケーションとともにインストールできる XML ファイルに変換されます。

build コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk build <source> [--debug <flag>] [--generate-deletes <flag>] [--lint <flag>]
 [--optimize <flag>]
```

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| ソース | 文字列 | アプリケーションの package.json ファイルへのパス。<br><br>package.jsonは、アプリケーションのベースディレクトリにある必要があります。 | 現在の作業ディレクトリ |
| --debug, -d | ブール | ビルドプロセス中に生成されたデバッグログを返すオプション。 | false |
| --generate-deletes | ブール | ビルド間で削除されたファイルの削除レコードの更新を生成するオプション。 | true |
| --糸くず | ブール | ビルド前にソースファイルをリントするオプション。 | true |
| --optimize, -o | ブール | 変更されていない依存関係 XML ファイルを再利用してパッケージ化を最適化するオプション。 | true |

例：

```
now-sdk build /path/to/package --debug true --generate-deletes true --lint true --optimize
 true
```

**deploy**

アプリケーションをインスタンスに展開します。deploy コマンドを使用する前に、build コマンドを使用して配置可能パッケージを生成する必要があります。

deploy コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk deploy [--source <package path>] [--mode <deploy mode>] [--auth <alias>]
 [--open-browser <flag>]
```

オプションのパラメーター

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| --ソース | 文字列 | アプリケーションの package.json ファイルへのパス。<br><br>package.jsonは、アプリケーションのベースディレクトリにある必要があります。 | 現在の作業ディレクトリ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

| パラメーター | タイプ | 説明 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|
| --mode, -m | 文字列 | アプリケーションの展開方法のオプション。<br>• complete: アプリケーション全体をデプロイします。<br>• 再インストール:インスタンスのアプリケーションをアンインストールしてから再インストールし、インスタンスのメタデータがデプロイパッケージのメタデータと一致することを確認します。<br>⚠ 警告:<br>インスタンスにはあるがローカルアプリケーションにはないメタデータは削除されます。<br>• 増分: 最後のデプロイ以降のアプリケーション メタデータへの変更のみをデプロイします。 | 増分 |
| --auth, a | 文字列 | インスタンスへの認証に使用する資格情報のエイリアス。 | 設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。 |
| --オープンブラウザ、b | ブール | アプリケーションを正常に展開した後に、デフォルトのブラウザーでアプリケーションレコード (sys_app) を開くオプション。 | false |
| --info, -i | ブール | 更新されたステータスやレコードなど、このアプリケーションの最新の展開に関する詳細を返すオプション。このパラメーターを使用すると、アプリケーションはデプロイされません。 | false |

例：

```
now-sdk deploy --auth devuser1 --source /path/to/package --mode incremental --open-browser true
```

## カスタム UI ページと UI マクロの作成

UI ページを使用して、アプリケーションのカスタムページと、カスタムコントロールまたはインターフェイスの UI マクロを作成します。

すべての UI ページは Jelly テンプレートです。Jelly は XML を実行可能コードに変換します。UI ページは、AngularJS アプリケーションでの index.html ファイルの使用方法と同様に使用できます。UI ページフォームの HTML フィールドの Jelly タグには、AngularJS ロジックが含まれています。

UI マクロ を作成するには、Jelly スクリプトの知識が必要です。例および提案されたアプローチについては、既存の UI マクロを確認してください。JavaScript テクノロジーを使用してカスタムインターフェイスを構築する場合は、代替手段として Service Portal を検討してください。

### UI ページ

UI ページは、フォーム、ダイアログ、リスト、その他の UI コンポーネントの作成と表示に使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードのウィジェットとして UI ページを使用します。UI ページを見つけるには、次に移動します。 システム **UI** > **UI** ページ.

この機能を使用するには、HTML または Jelly のナレッジが必要です。UI ページを使用して簡単な AngularJS アプリケーションを作成することもできます。

UI ページフォームには、次のフィールドが含まれています。

**UI** ページ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | URL を介してページを呼び出すために使用される名前 (スペースを含めることはできません)。 |
| アプリケーション | 現在のアプリケーションスコープを表示します。 |
| 説明 | UI ページの説明とその使用目的。 |
| 直接 | 直接 UI ページ [sys_ui_page] の場合は、このチェックボックスをオンにします。直接 UI ページには、一般的な HTML、CSS、およびスクリプトは含まれません。この設定では、ページで使用するカスタム CSS と JavaScript を追加する必要があります。 |
| HTML | ページが表示されるときに何をレンダリングするかを定義する、ページのメインコンポーネント。静的 XHTML、Jelly として定義された動的に生成されたコンテンツを含めるか、またはスクリプトインクルードと UI マクロを呼び出すことができます。<br><br>**注:**<br>*GlideRecord/GlideDBQuery* を *GlideRecordSecure* の代わりに使用すると、セキュリティ推奨メッセージが表示されます。 |
| クライアントスクリプト | ボタンによって呼び出される機能など、ブラウザーで実行されるクライアント側の JavaScript を含みます。これは、ページがロードされた後にフィールドやその他のインタラクティブな DHTML 機能にフォーカスを設定するなど、必要なクライアント側の処理を実行することを目的としています。<br><br>UI ページのクライアントスクリプトは *<script/>* タグ内でブラウザーに展開されるため、HTML フィールド内で同様にコンテンツを定義できます。代わりに [クライアントスクリプト] フィールドを使用してこれらのスクリプトを簡潔に定義し、Jelly および HTML の管理性を維持することができます。 |
| 処理スクリプト | ページが送信されたときにサーバーで実行されるスクリプト。これは、ページに <g:ui_form/> または <g:form/> タグで定義されたフォームがある場合に便利です。<br><br>**注:**<br>*GlideRecord/GlideDBQuery* を *GlideRecordSecure* の代わりに使用すると、セキュリティ推奨メッセージが表示されます。 |
| obsolete-custom-processors | **注:**<br>この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。 |
| フォームビューの関連リスト： | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**UI** ページ (続く)

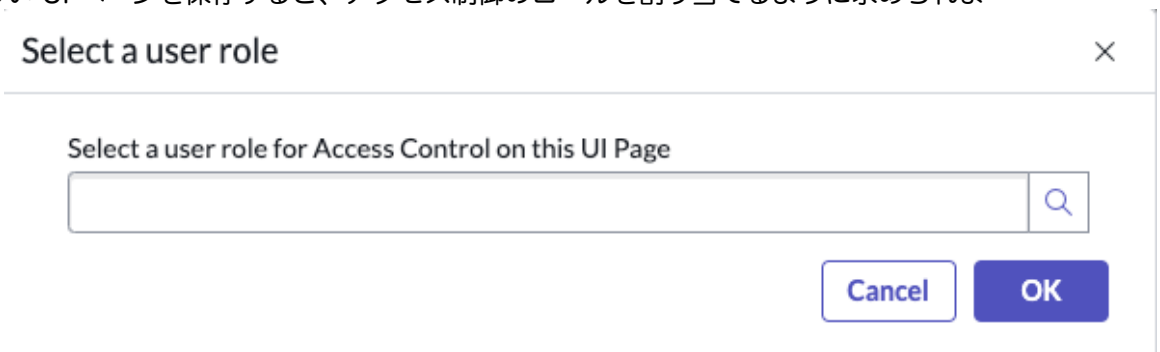
| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス制御 | UI ページのアクセス制御を表示および設定します。詳細については、「Use access controls on UI pages」を参照してください。 |
| バージョン | UI ページのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。 |

## アクセス制御

UI ページは、次のパラメーターを指定して ACL を作成することで保護できます。

- タイプ：*ui_page*
- 操作：読み取り
- 名前：保護する UI ページの名前
- ロール：レコードへのアクセスが許可されているユーザーロール

新しい UI ページを保存すると、アクセス制御のロールを割り当てるように求められま




す。

**注:**
UI ページと同じ名前のエントリーがアクセス制御テーブルに作成されます。

ACL ルールの作成の詳細については、「ACL ルールを作成する」を参照してください。

## 高リスク **UI** ページ

次のいずれかの属性がある UI ページは、高リスクと見なされます。

- *GlideRecordSecure* の代わりに *GlideRecord* または *GlideDBQuery* を使用している

  **注:**
  これは *[HTML]* および [処理] スクリプトフィールドに適用され、クライアントスクリプトには適用されません。

- 対応する ACL が設定されていない
- パブリック UI ページであると示され、*sys_public* レコードに入力されている
- 高リスク UI ページを示すメッセージを表示している
- *glide.installation.developer* が **true** に設定されているインスタンスの場合。
- リソースが顧客インスタンスのカスタマイズされたコンテンツである場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### UI ページへのアクセス

各 UI ページには、アプリケーションスコープ、ページ名、および .do ファイル拡張子から計算された URL があります。

たとえば、glidewindow_example というページをデモシステムで表示するには、https://<instance name>.service-now.com/glidewindow_example.do に移動します。ページが example_app と呼ばれるカスタムアプリケーションの一部である場合は、代わりに https://<instance name>.service-now.com/x_example_app_glidewindow_example.do に移動します。

ページの HTML セクション内で jelly 変数としてアクセスできる追加のパラメーターを URL に追加することもできます。つまり、引数を /my_test_page.do?sysparm_verbose=true のように URL に追加すると、次のようにアクセスできる *verbose* と呼ばれる jelly 変数が作成されます。

```
<j2:if test="$[!empty(sysparm_verbose)]"> <span>show extra stuff </span> </j2:if >
```

これの一般的で実用的な例は、表示用のデータベースレコードの取得です。ユーザーのロールのリストを構築するには、ユーザーの sys_id を使用してパラメーターを渡します。次の UI ページを呼び出して、そのユーザーのロールのリストを Jelly コードで次のように表示します。

role_select.do?sysparm_user=5137153cc611227c000bbd1bd8cd2007

```
<j:set var = "jvar_user_id" value = "${sysparm_user}" />

 <g:evaluate> var userRoles = new GlideRecord('sys_user_has_role');
  userRoles.addQuery('user','${jvar_user_id}');
  userRoles.query();
 </g:evaluate>

 <select id='select_role'>
    <j:while test = "${userRoles.next()}">
       <option value = "${userRoles.sys_id}"> ${userRoles.role.name} </option>
    </j:while>
 </select>
```

ただし、予約済みの変数名 sys_id は注意すべき例外です。この変数には、URL の指定に関係なく、常に UI ページ自体の ID が含まれます。一般的な代替変数名は sysparm_id です。

URL パラメーターを使用してクライアントスクリプトを UI ページにロードしないでください。システムは、URL パラメーターによって渡されたスクリプトを評価しなくなりました。ご利用の実装がこの動作に依存している場合は、システムプロパティ [glide.security.disable_ui_pages_sysparm_client_script] を追加して **false** に設定すると、UI ページでスクリプトを渡す URL パラメーターの評価が一時的に許可されます。

### UI ページでアクセス制御を使用する

UI ページレコードを作成または編集するときに、[UI ページ] フォームから直接アクセス制御を確認し、ロールベースのアクセス制御を追加します。

#### 始める前に

既存の UI ページに追加されたアクセス制御は、関連リンクの下にある UI ページレコードを開くことでアクセスおよび編集できます。

必要なロール：security_admin および admin

#### 手順

1. **security_admin** ロールに昇格させます。
   ロールの昇格の詳細については、「特権ロールへの昇格」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 移動先 すべて > システム **UI** > **UI** ページ.
3. [新規] を選択します。
4. フォームに入力します。
   UI フィールドの詳細については、「UI ページ」を参照してください。
5. [送信] または [保存] を選択します。
   UI ページのロールベースのアクセス制御を作成するように求めるモーダルが表示されます。

6. ロールを選択します。
7. **[OK]** を選択してロールをアサインします。
   UI ページのリストに戻ります。

既存の UI ページのアクセス制御を追加、編集、または表示します。

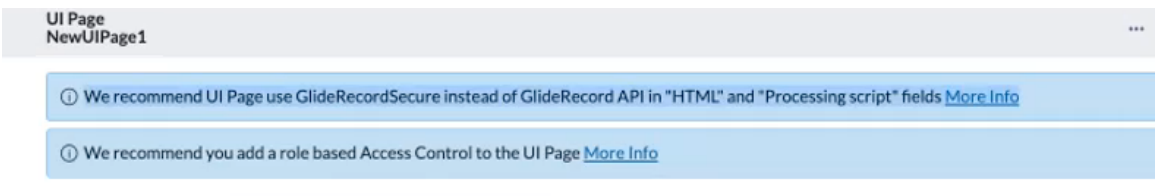
8. UI ページテーブルから UI ページを開きます。
9. 関連リストの [アクセス制御] を表示します。
10. [新規] を選択して新しいアクセス制御を作成するか、既存のエントリを選択して編集します。
    [アクセス制御] フォームがロードされます。UI ページの詳細が表示されます。
11. フォームに入力し、UI ページにロールを割り当てます。
    アクセス制御の詳細については、「ACL ルールの作成」を参照してください。
12. 新しいアクセス制御の場合は [送信] を、編集する場合は [更新] を選択します。

> **注:**
> UI ページごとに複数のアクセス制御を設定できます。

### 保護された **UI** ページ

アクセス制御と関連するセキュリティメッセージは、セキュリティを強化するためにリスクの高い UI ページに統合されています。

高リスク UI ページに情報メッセージが表示され、ロールベースのアクセス制御を UI ページに追加するように顧客に通知されます。

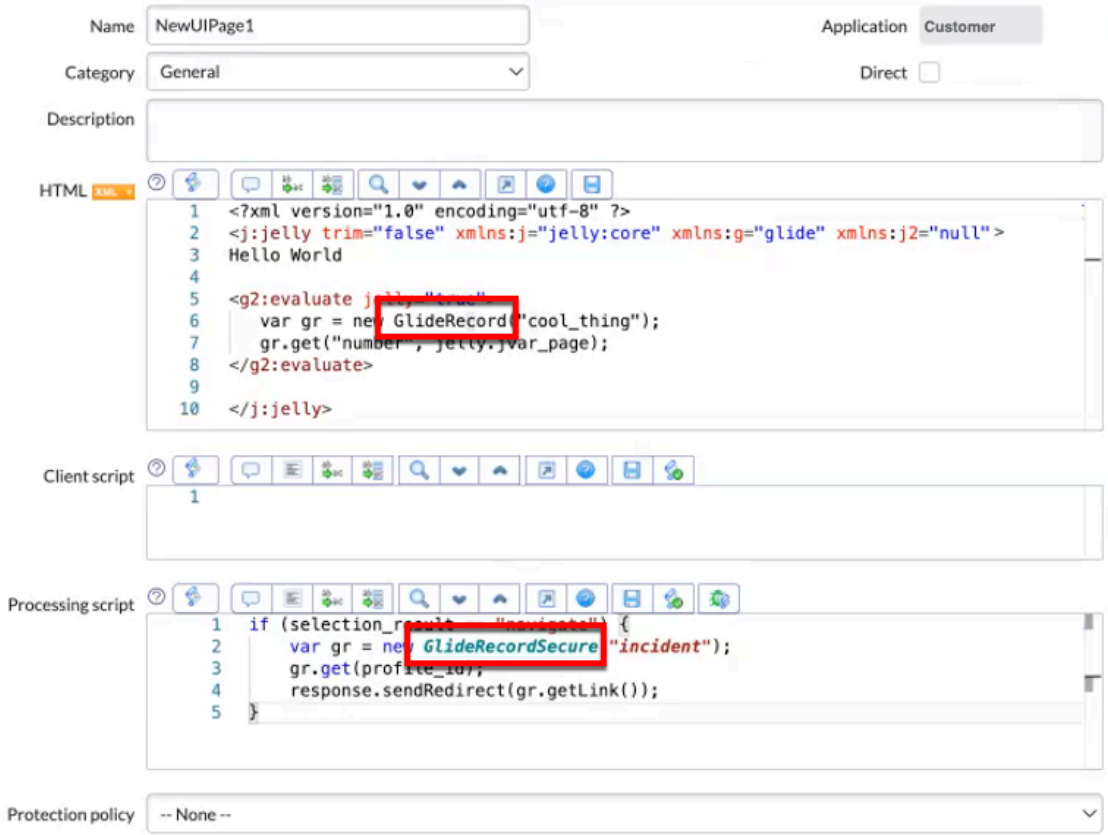



このメッセージは、次の条件で表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ACL (アクセス制御リスト) がない場合
- **[HTML]** セクションまたは [処理スクリプト] セクション




で

`GlideRecordSecure` の代わりに `GlideRecord/GlideDBQuery` が使用されている場合

- `sys_public`で UI ページがパブリックとして設定されている場合

> **注:**
> パブリック UI ページまたは `GlideRecord` を使用する場合は、ACL 欠落の警告は表示されません。

高リスク UI ページの詳細については、「UI ページ」を参照してください。

## セキュリティに関する推奨事項のメッセージが表示される条件

このメッセージは、次の条件で表示されます。

- `glide.installation.developer=true` であるすべての内部インスタンス eclipse/IJ
- 顧客のすべてのスコープ対象 UI ページのリソース
- `glide.script.ui_page.customer_scoped.security_msgs_enabled` プロパティが `true` に設定されている場合のカスタマイズされた UI ページ(デフォルト値は `true`)。

## セキュリティに関する推奨事項のメッセージが表示されない条件

次の条件では、メッセージは表示されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- UI ページが公開されていない
- UI ページが [グローバル] スコープにある
- *glide.script.ui_page.customer_scoped.security_msgs_enabled* が *false* に設定されている

**注:**
ロールベースの ACL 作成プロンプトを無効にするには、*glide.ui_page.enable_acl_create_ux* プロパティを **[false]** に設定します。プロパティはデフォルトで **[true]** に設定されています。

### UI ページプロセススクリプト

UI ページにフォームが含まれている (*<g:form>* タグを使用している) 場合は、フォームを送信してプロセススクリプトを実行できます。

処理スクリプトは、フォーム上のフィールドに自然にアクセスできます。たとえば、フォームに *application_sys_id* フィールドが含まれている場合は、次のようにします。

```
<g:ui_form>
  <p>Click OK to run the processing script.</p>
  <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
  <input type="hidden" name="application_sys_id"
 value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da" />
</g:ui_form>
```

このフィールドには、*application_sys_id* を使用してアクセスできます。

```
var application = new GlideRecord('hr_application');
 application.get(application_sys_id);
 application.status = "Rejected";
 application.update();
 var urlOnStack = GlideSession.get().getStack().bottom();
 response.sendRedirect(urlOnStack);
```

**重要:**
上記のスクリプトは、グローバルアプリケーションでのみ使用できます。

ダイアログの UI ページを使用している場合は、上記のコードを使用してスタック上の最新の URL を参照し、その場所に応答を送信することもできます。これは、ダイアログの処理スクリプトで何らかの内容を更新し、ダイアログが表示された画面を再表示する場合に便利です。

### UI マクロ

UI マクロは、管理者がユーザーインターフェイスに追加できる個別のスクリプト化されたコンポーネントです。

通常、UI マクロは既存のフィールド タイプによって提供されない入力または情報を提供するコントロールです。デフォルトでは、以下のようなさまざまなユーザーインターフェイス要素の UI マクロが提供されます。

- すべてのフォーマッター
- Service Catalog 買い物かご
- フィールドの横にあるアクション アイコン
- フォームおよびリストのアクション アイコン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンテンツ管理システムのウィジェット
- Orchestration アクティビティデザイナー

管理者は、独自の UI マクロを作成して、カスタムコントロールまたはインターフェイスを提供できます。UI マクロを作成するには、Jelly スクリプトの知識が必要です。例および提案されたアプローチについては、既存の UI マクロを確認してください。JavaScript テクノロジーを使用してカスタムインターフェイスを構築する場合は、代替手段として Service Portal を検討してください。

**注:**
使用可能な UI マクロを表示するには、 すべての > システム UI > **UI** マクロに移動します。

### **UI** マクロの基本

UI マクロを使用すると、使用可能なカタログ変数タイプを使用して構築できないソリューションを構築できます。

## アクセシブルな **UI** マクロ

UI マクロ [ui_macros] テーブルでは、いくつかの UI マクロを使用できます。これらの UI マクロの名前は ui_ で始まり、UI ページで使用する標準フォームフィールドタイプのサブセットの動作をエミュレートします。たとえば、ui_date_time UI マクロは、UI ページのglide_date_timeフィールドのように機能し、入力可能な入力フィールドに日付/時刻セレクターを提供できます。

UI マクロは、<g:> Jelly タグを使用して UI ページに含めることができます。次の例には、UI マクロに 2 つのオプションの属性を提供する ui_date_time UI マクロが含まれています。

```
<g:ui_date_time name="due_date" value="2023-11-24 08:30:00"
 onchange="checkDateValue()" />
```

<g:> Jelly タグの属性値は、jvar プリフィックスが付いた変数として UI マクロに提供されます。UI マクロは、その XML で接頭辞が付いた jvar 変数を使用できます。

**jvar** 接頭辞付き変数として使用される **Jelly** タグ属性

| 属性 | **jvar** プリフィックス付き変数 |
|---|---|
| name | jvar_name |
| value | jvar_value |
| Onchange | jvar_onchange |

**注:**
これらの UI マクロは、対応するフォームフィールドタイプのすべての機能をサポートするためのものではありません。多くの場合、マクロは特定の ServiceNow アプリケーションのユースケースのみを対象としています。

ui_プリフィックスが付いた UI マクロには、UI ページの <g:> Jelly タグで指定できる (または指定する必要がある) サポート対象属性を指定する説明が含まれています。使用可能な UI マクロを表示するには、 すべての > システム UI > **UI** マクロに移動します。

/

## カスタム **UI** マクロ

ui_example UI マクロは、接頭辞が付いた 3 つの jvar 変数 (jvar_name、jvar_test_attribute、およびjvar_laptop_type) を使用します。これらの変数は、UI ページの <g:> Jelly タグの名前、test_attribute、およびlaptop_type属性として UI マクロに指定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ui_example UI マクロの作成

**[All** > **System** UI > **UI Macros]** に移動し、[**New**] を選択します。

マクロに ui_example 名前を付け、次のスクリプトを **XML** フィールドに追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="true" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide">
   <div>name jvar: ${jvar_name}</div>
   <div>test_attribute jvar: ${jvar_test_attribute}</div>
   <div>laptop_type jvar: ${jvar_laptop_type}</div>
</j:jelly>
```

UI ページでのマクロの使用

[すべての > システム UI > **UI** ページ] に移動し、[新規] を選択します。管理者ロールを選択するように求められます。

UI ページに名前を付けて、次のスクリプトを **HTML** フィールドに追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide" xmlns:j2="null"
 xmlns:g2="null">
   <div style="text-decoration:underline">Template include one:</div>
   <g:ui_example name="Fred Luddy" test_attribute="I am an attribute"
 laptop_type="ThinkPad" />
   <hr/>
   <div style="text-decoration:underline">Template include two:</div>
   <g:ui_example name="Pat Casey" test_attribute="I am a different attribute"
 laptop_type="Macbook Pro" />
</j:jelly>
```

出力の確認

UI ページで、[ 試行 ] をクリックして結果を表示できます。

**UI** マクロでフォーマットされた出力を含む **UI** ページ

**注:**
マクロを作成しても UI ページに期待どおりに表示されない場合は、キャッシュをクリアすると役立つことがあります。インスタンスのキャッシュをクリアするには、ブラウザーで「<server_url>/cache.do」と入力します。

関連情報

UI ページ

Jelly のタグ

<g:ui_form/>

<g:ui_input_field />

<g:ui_checkbox/>

**UI** マクロの呼び出し

管理者は、ユーザーインターフェイスに関連付けられた特定のレコードタイプから UI マクロを呼び出すことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### レコードタイプ別の UI マクロの呼び出し

| レコードタイプ | 例 |
|---|---|
| 辞書属性 | 参照フィールドのアイコンを表示します。<br>`ref_contributions=ui_macro_name` |
| UI ページ | UI ページに何かを表示します。<br>`<g:macro_invoke macro="ui_macro_name" />` |
| UI マクロ | 別の UI マクロから UI マクロを呼び出します。<br>`<?xml version= "1.0" encoding="utf-8" ?>`<br>`<j:jelly trim= "false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide" xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">`<br>`<g:ui_macro_name />`<br>`<g:ui_macro_name_2 />`<br>`</j:jelly>` |

### UI マクロフォーム

各 UI マクロレコードは、Jelly コードで記述された名前と XML ドキュメントで構成されます。

### UI マクロフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 一意でわかりやすいマクロの名前。 |
| アクティブ | チェックボックスをオンにすると、要素が定義されたとおりにレンダリングされます。コードを削除せずに要素を無効にするには、チェックボックスをオフにします。たとえば、**email_reply** マクロはデフォルトでは非アクティブです。 |
| 説明 | マクロとそれに渡されるパラメーターの目的を説明します。 |
| XML | マクロを定義する Jelly スクリプト。 |

### カスタム承認 UI マクロ

このセクションでは、カスタム承認 UI マクロの作成方法について説明します。

**警告:**
ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

スクリプト名：カスタム承認 UI マクロ

タイプ：UI マクロ

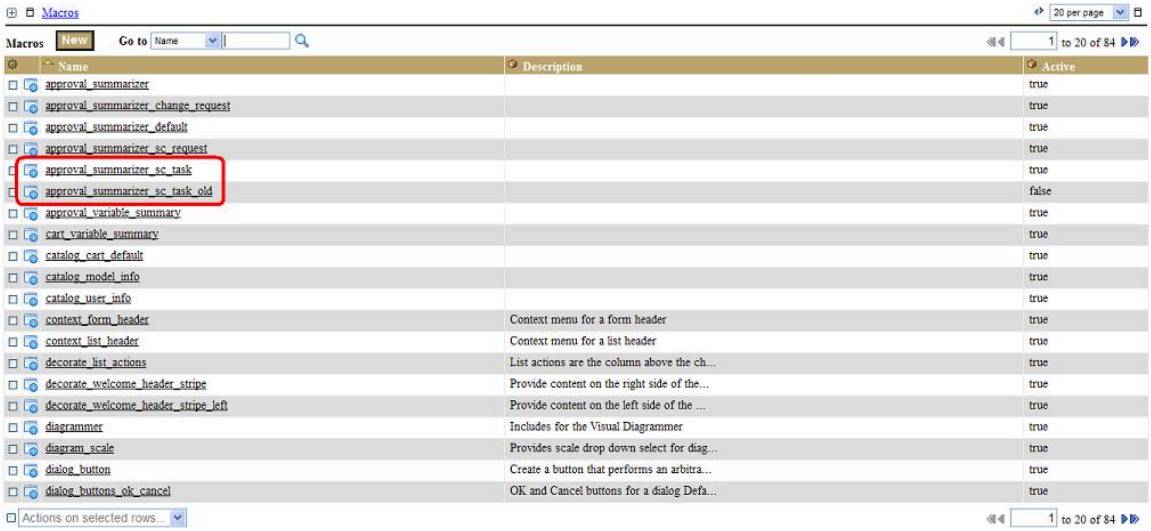
説明：実行計画の [自分の承認] ビューから詳細を取得するオプションがあります。これは、新しい UI マクロを作成することで実行できます。[システム **UI**] に移動して、**[UI** マクロ] をクリックしま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。まず、既存の approval_summarizer_sc_task という名前を approval_summarizer_sc_task_old などに変更して、無効にする必要があります。次に、同じ名前 (approval_summarizer_sc_task) を使用して新しいマクロを作成する必要があります。名前は基本的に、マクロの実行内容と適用対象を示すものにする必要があります。ここでは、既存のものを置き換えるため、既存の名前を再利用することにしました。

承認マクロ




次に、この記事の下部にある xml スクリプトを、新しい UI マクロの xml コードウィンドウにコピーする必要があります。これは、サービスカタログ実行計画内の承認タスクを介してアイテムを承認する際に、承認者に何らかの詳細を提供するのに最適な方法です。

## 従来の方法

これは、従来の方法で承認タスクを使用するときに [自分の承認] に表示されるビューです。

自分の承認 (従来の方法)

承認者が実際に何を承認しようとしているのか、あまり詳しく書かれていないことに注意してください。タスクの簡単な説明は確認できますが、アイテムの詳細はわかりません。

## 新しい方法

これは、OOB (Out-Of-Box：すぐに利用可能な) UI マクロの代わりに以下の xml スクリプトを使用した場合に表示されるビューです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分の承認

この方法を使用すると、要求の承認と同様に詳細を表示できます。注文したアイテムへのリンク、簡単な説明 (アイテムから変数を展開する機能を含む)、価格、数量、合計価格があります。これは、より詳細な情報を示すという点で、承認者の助けとなります。実際に承認しているものを確認できるようになりました。

スクリプト：

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
  <j:jelly trim="true" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide" xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">
  <tr>
    <td class="label_left" width="100%">
      <label style="margin-left: 10px">
        ${gs.getMessage('Summary of Item being approved')}:
        <input style="visibility: hidden" NAME="make_spacing_ok"></input>
      </label>
    </td>
  </tr>
  <g:evaluate var="jvar_ni" expression="
    var sc_task = ${ref}.sysapproval;
    var sc_req_labels = new GlideRecord('sc_req_item');
    sc_req_labels.initialize();
    var sc_req_item = new GlideRecord('sc_req_item');
    sc_req_item.addQuery('request_item', sc_task.request_item.sys_id);
    sc_req_item.query();
  " />
  <tr>
    <td width="100%">
      <table width="100%">
        <tr>
          <td class="label_left" width="150px">
            <label style="margin-left: 10px">
              ${sc_task.request_item.request.opened_by.sys_meta.label}:
            </label>
          </td>
          <td>
            ${sc_task.request_item.request.opened_by.getDisplayValue()}
          </td>
        </tr>
        <tr>
          <td class="label_left" width="150px">
            <label style="margin-left: 10px">
              ${sc_task.request_item.request.requested_for.sys_meta.label}:
            </label>
          </td>
          <td>
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                ${sc_task.request_item.request.requested_for.getDisplayValue()}
              </td>
            </tr>
            <tr>
              <td class="label_left" width="150px">
                <label style="margin-left: 10px">${gs.getMessage('Total')}:</label>
              </td>
              <td>
                <g:currency_format value="${sc_task.request_item.request.price}" />
              </td>
            </tr>
          </table>
        </td>
      </tr>
      <j:set var="jvar_line_num" value="0" />
      <tr>
        <td width="100%">
          <table width="100%">
            <tr class="header">
              <td colspan="2">
                ${sc_req_labels.number.sys_meta.label}
              </td>
              <td>
                ${sc_req_labels.description.sys_meta.label}
              </td>
              <td>
                ${sc_req_labels.price.sys_meta.label}
              </td>
              <td>
                ${sc_req_labels.quantity.sys_meta.label}
              </td>
              <td>
                ${gs.getMessage('Total')}
              </td>
            </tr>
            <j:set var="jvar_item_price" value="${sc_task.request_item.price *
sc_task.request_item.quantity}"/>
            <j:set var="jvar_overall_total" value="${jvar_overall_total + jvar_item_price}"/>
            <j:set var="jvar_line_color" value="odd"/>
            <j:set var="jvar_line_num" value="${jvar_line_num + 1}"/>
            <j:if test="${jvar_line_num % 2 == 0}">
              <j:set var="jvar_line_color" value="even"/>
            </j:if>
            <g:evaluate var="ni" expression="
              var smart_description = sc_task.request_item.cat_item.short_description;
              if (smart_description == null || smart_description == '' || smart_description ==
'undefined')
                smart_description = sc_task.request_item.cat_item.name;
            "/>
            <tr class="${jvar_line_color}">
              <td valign="top">
                <g2:evaluate var="jvar_pop_target"
expression="$[ref].getRecordClassName()" />
                <a class="linked" target="gsft_main"
    href="sc_req_item.do?sys_id=${sc_task.request_item.sys_id}"
                  onmousemove="popListDiv(event, 'sc_req_item',
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
'${sc_task.request_item.sys_id}','${sysparm_view}')"
onmouseout="lockPopup(event)">
                    <img src="images/icons/hover_icon.gifx" class="clsshort"/>
                  </a>
                </td>
                <td valign="top">
                  <a class="linked" target="gsft_main"
href="sc_req_item.do?sys_id=${sc_task.request_item.sys_id}">
                    ${sc_task.request_item.number}
                  </a>
                </td>
                <td valign="top" width="50%">
                  <g:call function="variable_summary_approval.xml"
                    question_name="${sc_task.request_item.sys_id}"
                    question_help_tag="${smart_description}"
                    sc_req_item="${sc_task.request_item.sys_id}"
                    help_class="${jvar_line_color}"/>
                </td>
                <td valign="top"> <g:currency_format value="${sc_task.request_item.price}"/>
</td>
                <td valign="top"> ${sc_task.request_item.quantity}</td>
                <td valign="top"> <g:currency_format value="${jvar_item_price}"/></td>
              </tr>
            </table>
          </td>
        </tr>
</j:jelly>
```

**Jelly** のタグ

Jelly を使用して XML を HTML に変換します。

Now Platform で Jelly を使用する方法については、次の紹介ビデオをご覧ください。

- Jelly スクリプティングの概要 - 第 1 回 (ビデオ)
- Jelly スクリプティングの概要 - 第 2 回 (ビデオ)
- Jelly スクリプティングの概要 - 第 3 回 (ビデオ)

## **Jelly** のタグ

if

- 説明：if タグは、文字どおりの if タグです。これはプログラミング言語の if ステートメントに似ていますが、elseif タグも else タグもないことに注意してください。そういった構造を作成する場合は、 choose/when/otherwise 構文を使用してください。
- パラメーター：test - ブロックが実行されるかどうかを判断するために評価する条件。
- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
  var now_GR = new GlideRecord("incident");
  now_GR.addQuery("active", true);
  now_GR.query();
  now_GR;
</g:evaluate>
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
<j:if test="${!jvar_now_GR.hasNext()}">
  We did not find any active incidents.
</j:if>
<j:if test="${jvar_now_GR.next()}">
  We found ${jvar_now_GR.getRowCount()} active incidents.
</j:if>
```

while

- 説明：while タグは while ループを実行します。
- パラメーター：test - ステートメントがループしているかどうかを判断するために評価する条件。これは、true または false に評価される ${} または $[] で囲まれた式である必要があります。
- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
  var now_GR = new GlideRecord("incident");
  now_GR.addQuery("active", true);
  now_GR.query();
  now_GR;
</g:evaluate>

<j:while test="${jvar_now_GR.next()}">
 <a
 href="incident.do?sys_id=${jvar_now_GR.getValue('sys_id')}">${jvar_now_GR.g
etValue('number')}</a>
</j:while>
```

set

- 説明：set タグは変数を設定します。
- パラメーター：
  - var：設定する変数。多くの場合、これらの変数には一貫性のために jvar_ というプリフィックスが付けられます。
  - value：var に設定する値。多くの場合、これは ${} または $[] で囲まれた式です。
  - defaultValue：値が null または空の場合、この値は var に格納されます。
- 例：

```
<j:set var="jvar_incident_number"
 value="${jvar_now_GR.getValue('number')}"/>
```

set_if

- 説明：set タグは test に基づいて変数を設定します。このタグは、他のプログラミング言語の ternary 演算子 (var = <test> ? <if_true> : <if_false>) に類似しています。
- パラメーター：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- var：設定する変数。多くの場合、これらの変数には一貫性のために jvar_ というプリフィックスが付けられます。
- test：ステートメントが true 値を評価するか false 値を評価するかを決定するために評価する条件。これは、true または false に評価される ${} または $[] で囲まれた式である必要があります。
- true：test が true と評価された場合に変数に設定する値。このパラメーターはオプションであるため、フィールドが空白で、テストが true と評価された場合、変数は空白のままになります。
- false：test が false と評価された場合に変数に設定する値。このパラメーターはオプションであるため、フィールドが空白で、test が false と評価された場合、変数は空白のままになります。

choose

- 説明：choose タグは、コードの choose ブロックを開始するのに使用します。これは、ほとんどのプログラミング言語の if-elseif-else 構文に似ています。choose タグでは、when タグと otherwise タグを使用して、他のコードブロックを指定できます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<j:choose>
  <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We found
 multiple records!</j:when>
  <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
  <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

when

- 説明：when タグは、条件を示すために choose ブロック内で使用されます。このタグは、条件を指定し、内部コンテンツを実行し、if-elseif 構造を終了するために最後にブレークを指定するという点で、if または elseif に似ています。
- パラメーター：test - ステートメントがループしているかどうかを判断するために評価する条件。これは、true または false に評価される ${} または $[] で囲まれた式である必要があります。
- 例：

```
<j:choose>
  <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We found
 multiple records!</j:when>
  <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
  <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

otherwise

- 説明：otherwise タグは、choose/when/otherwise ブロック内で使用され、else または default に似ています。
- パラメーター名：なし
- 例：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
<j:choose>
  <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We found
 multiple records!</j:when>
  <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
  <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

## Glide タグ

### evaluate

- 説明：evaluate タグは JavaScript コード (サーバー側) を評価し、将来のコードで変数を表示できるようにします。他のタグとは異なり、evaluate タグは、タグ内のコンテンツをサーバー側の JavaScript として評価します。

  コンテキストは、システムのスクリプトインクルードと同じです。その他のスクリプトインクルード、グローバルビジネスルール、*GlideRecord*、*GlideSystem*、および Jelly 変数 (パラメーター jelly="true" が設定されている場合は、先頭に jelly が付きます) を使用できます。

- パラメーター：
  - var：スクリプトの結果に設定される変数の名前。
  - オブジェクト：true に設定すると、式の結果はプリミティブ変数 (文字列または整数の変数値) ではなくオブジェクトとして扱われます。
  - jelly：true に設定すると、Jelly コンテキスト変数をスクリプトで参照できるようになります。
  - 式：これは、var に入力する値に対して実行される式です。式は 2 つの場所のいずれかで使用できます。まず、evaluate タグ自体の属性にすることができます。それ以外の場合は、開始タグと終了タグの間のコンテンツが式になります。式の最後の行は、var に渡される実際の値です。
- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
 var now_GR = new GlideRecord("incident");
 now_GR.addQuery("active", "true");
 now_GR.query();
 now_GR; // this is the variable put into the variable jvar_now_GR
</g:evaluate>
```

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true" expression="
 var now_GR = new GlideRecord('incident');
 now_GR.addQuery('active', 'true');
 now_GR.query();
 now_GR; // this is the variable put into the variable jvar_now_GR" />
```

### messages

- 説明：messages タグは翻訳に役立ちます。*gs.getMessage()* がページ上の任意の場所で呼び出された場合、翻訳が見つかる可能性のある場所は 2 か所あります。まず、ページで翻訳のローカルキャッシュをチェックします。次に、ページでサーバーに対して AJAX 呼び出しを行い、翻訳を検索します。g:messages の機能は、ページが特定のメッセージをキャッシュできるようにすることです。
- パラメーター名：なし

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 例：

```
<g:messages>
 Yes
 No
 Cancel
</g:messages>
```

### breakpoint

- 説明：breakpoint タグが呼び出されると、現時点での Jelly 内のすべての変数のリストがそれぞれの値とともに出力されます。変数が指定されている場合は、要求された変数とその値が出力されます。出力はシステムログに格納されます。
- パラメーター：var - (オプション) 値をログに記録する変数。var が指定されていない場合、すべての変数がログにダンプされます。
- 例：

```
<g:breakpoint />
```

```
<g:breakpoint var="sysparm_view"/>
```

### no_escape

- 説明：システムは、デフォルトで、セキュリティ対策としてエスケープされた出力を使用します。no_escape タグ内に配置された出力は、出力の前にエスケープされません。これらのタグを使用する場合は注意が必要です。ここにユーザー入力が表示されると、ページのセキュリティ脆弱性が生じる可能性があります。
- パラメーター名：なし
- 例 (フェーズ 1) – 含まれているすべての ${} 式の自動出力エスケープを無効にします。

```
<g:no_escape>
 ${jvar_raw_html_data}
</g:no_escape>
```

- 例 (フェーズ 2) – NOESC を使用して、指定された文字列のエスケープを無効にします。これは、式が文字列に評価される必要があることを意味します。

```
<g:no_escape>$[NOESC:jvar_expr]</g:no_escape>
```

フェーズ 1 とフェーズ 2 の評価の詳細については、このセクションの最初にリストされている Jelly の紹介ビデオを参照してください。

### macro_invoke

- 説明：macro_invoke タグは、データベースで指定した UI マクロを呼び出します。タグ名で指定して UI マクロを呼び出すこともできます。たとえば、my_macro という名前の UI マクロがある場合、そのマクロを <g:my_macro/> タグで呼び出すことができます。詳細については、「 UI マクロ 」を参照してください。
- パラメーター：
  - マクロ：実行する UI マクロの名前。タグ名が「g:macro_invoke」の場合、マクロ属性はマクロの名前を指定します。タグ名にマクロの名前が含まれている場合は、マクロ属性を含める必要はありません。
  - その他の属性：指定した属性ごとに、その名前の変数が UI マクロのコンテキストで使用可能になり、プリフィックス「jvar_」が付きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 例：

```
<!-- Will invoke the contents of the UI macro named "sample_macro", which will have the variable jvar_message available within it-->
<g:macro_invoke macro="sample_macro" message="This is a sample macro variable." />
```

```
<!-- Will invoke the contents of the UI macro named "sample_macro", which will have the variable jvar_message available within it-->
<g:sample_macro message="This is a sample macro variable." />
```

if_polaris

- 説明：if_polaris タグは、現在のページで Next Experience が有効かどうかを確認します。子タグ <g:then /> または <g:else /> の少なくとも 1 つを含める必要があります。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:if_polaris>
   <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
   <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:then><a href="…">Click here to see what’s new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

次に

- 説明：then タグは、Next Experience が有効になっている場合に、if_polaris ブロック内でページコンテンツを設定するために使用されます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:if_polaris>
   <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
   <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:then><a href="…">Click here to see what’s new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

それ以外の場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 説明：else タグは、Next Experience が有効になっていない場合に、if_polaris ブロック内でページコンテンツを設定するために使用されます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:if_polaris>
   <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
   <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:then><a href="…">Click here to see what's new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
   <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

### Jelly エスケープタイプ

JavaScript と HTML で文字をエスケープする場合は、別の方法を使用します。JavaScript はバックスラッシュ文字を使用し、HTML はアンパサンド文字を使用します。

> **注:**
> この機能を使用するには、JavaScript、HTML、および Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

Jelly から出力を生成するときに必要なエスケープには、次の 2 つのタイプがあります。

- JavaScript
- HTML

これらのそれぞれのエスケープは次のように構成されます。

getHTMLValue() 関数を使用して HTML をエスケープすることもできます。これにより、すべての改行が強制され、上記の文字がエスケープされます。次のように使用できます。

```
${test.getHTMLValue()}
```

### Jelly 置換へのエスケープの追加

Jelly ファイルで文字エスケープを処理できます。XML エスケープの動作は、security_admin ロールを持つユーザーのみが変更できます。

#### このタスクについて

> **注:**
> この機能を使用するには、JavaScript、HTML、および Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

#### 手順

実行するエスケープを示すプリフィックスを ${式} または $[式] に追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
${JS:expression}
${HTML:expression}
```

プリフィックスは、式の結果を取得し、出力する前にエスケープするようにシステムに指示します。エスケープは、プリフィックスのカンマ区切りリストを指定することで組み合わせることができます。

```
${JS,HTML:expression}
```

### Jelly 構文の拡張

Apache の Jelly 構文は、フォーム、リスト、UI ページ、および ServiceNow でレンダリングされるその他の多くのものをレンダリングするために使用されます。

Jelly を使用すると、ロジックを静的コンテンツ内に埋め込み、計算された値を静的コンテンツに挿入できます。

**重要:**
この機能を使用するには、Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

Apache のページ http://commons.apache.org/jelly/tags.html には、標準の Jelly タグの概要が記載されています。

#### 名前空間

Jelly は、タグを呼び出すときに複数の名前空間を含めることがよくあります。

「j」名前空間は標準の Jelly ですが、「g」名前空間は ServiceNow スクリプトに固有です。たとえば、<g:evaluate> タグは ServiceNow によって提供され、JavaScript を使用して値を計算できるようにします。標準の Jelly タグ <j:test> は条件を評価するために使用されます。

#### フェーズ

通常、名前空間によって示されるフェーズには、<j> と <j2> および <g> と <g2> の 2 つがあります。

「2」のない名前空間は処理の最初のフェーズで発生し、UI ページで使用される場合を除いてキャッシュされます。「2」が付いているものはキャッシュされません。効率を向上させて正しい結果を得るために、フェーズ 1 とフェーズ 2 のどちらを使用するかを選択するときは注意が必要です。

名前空間に加えて、静的コンテンツに値を挿入するために使用される構文は、値を指定するフェーズによって異なります。ドル記号と中括弧で値を囲むことで、値がフェーズ 1 に挿入されます。たとえば、${jvar_ref} は、jelly プロセスのフェーズ 1 で値 jvar_ref を挿入します。ドル記号と角括弧で値を囲むことで、値がフェーズ 1 に挿入されます。たとえば、$[jvar_ref] は、フェーズ 2 で値 jvar_ref を挿入します。引用符に囲まれた値は文字列として処理されます。たとえば、'[jvar_ref]' は、フェーズ 2 で値 jvar_ref を文字列として挿入します。

```
 <script>
if (confirm("$[gs.getMessage('home.delete.confirm') ]"))
  ...
</script>
```

```
<input type="hidden" id="${jvar_name}" name="${jvar_name}" value="${jvar_value}"
 class="${jvar_class}" />
```

### If test

Jelly スクリプトでも if ステートメントを使用できます。

true かどうかのテストをするには、次のようにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
<j:if test="${jvar_something}">...do something...</j:if>
<j:if test="${!jvar_something}">...do something...</j:if>
```

このステートメントが機能するのは、Jelly では jvar_something のような用語は以下の場合に if タグ内で「真」になるためです。

1. ブール値で true
2. 文字列で「true」、「yes」、「on」、または「1」

存在するかどうかのテストをするには、次のようにします。

```
<j:if test="${empty(jvar_something)}">...do something...</j:if>
```

このステートメントが機能するのは、JEXL の empty 関数は引数が次の場合に true を返すためです。

1. null
2. 空白文字列
3. 長さゼロのコレクション
4. キーのないマップ
5. 空白のアレイ

> **注:**
> JEXL 式で javascript 変数と jvar 変数を混在させることはできません。これらは個別の式に分割する必要があります。

### set_if

test が true か false かに応じて、変数を 2 つの異なる値のいずれかに設定します。

```
<g2:set_if var="jvar_style" test="$[gs.getPreference('table.compact') != 'false']"
  true="margin-top:0px; margin-bottom:0px;"
  false="margin-top:2px; margin-bottom:2px;" />
```

## <g:insert>、<g:inline>、および **<g:call>**

このページでは、<g:insert>、<g:inline>、および <g:call> の 3 つのタグの比較説明を行います。

### <g:insert>

<g:insert> タグは、Jelly ファイルを新しいコンテキストで Jelly に挿入します。これは、Jelly で以前に確立した変数にアクセスできないことを意味します。

```
<g:insert template="get_target_form_function.xml" />
```

### <g:inline>

<g:inline> タグは、Jelly ファイルを同じコンテキストで Jelly に挿入します。これは、挿入された Jelly が以前に確立した変数にアクセスでき、それらの変数の値を変更できることを意味します。

```
<g:inline template="element_default.xml" />
```

### <g:call>

より適切にカプセル化するには、<g:call> タグを使用します。関数は、渡された値にのみアクセスできます。Jelly コンテキストは、コール後もコール前と同じように見えます。つまり、ここでグロー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バル変数を設定して後で読み込むことはできません。また、誤って「jvar_temp」というグローバル変数を設定して、他のユーザーが依存していた変数を上書きすることもできません。

値を渡す必要がある場合は、<g:call> 行にパラメーターの名前を含め、その後に等号と引用符で囲んだ値を続けることで、明示的に行うことができます。

```
<g:call function="collapsing_image.xml" id="${jvar_section_id}" image="$[jvar_cimg]"
  first_section_id="${jvar_first_section_id}" image_alt="${jvar_cimg_alt}"/>
```

値が渡され、デフォルトまたは必須のパラメーターが必要な場合は、関数で参照される Jelly に、パラメーターが必須かデフォルト値があるかを宣言する行を含める必要があります。

```
<g:function id="REQUIRED" image="REQUIRED" image_prefix="" image_alt="REQUIRED"/>
```

上記の例は、3 つのパラメーターが必須であり、1 つのパラメーターが空のデフォルト値を持つオプションであることを示しています。値を渡さない場合、またはデフォルト値や必須値が必要な場合は、<g:function> 行を含める必要はありません。ただし、一般的には <g:function> 行を含めます。

パラメーターの名前の先頭に「jvar_」プリフィックスを追加することで、値をテンプレートで参照できるようになります。

```
<img id="img.${jvar_id}" src="images/${jvar_image}" alt="${jvar_image_alt}"
 onclick="toggleSectionDisplay('${jvar_id}', '${jvar_image_prefix}','${jvar_first_section_id}');"/>
```

<g:call> では、「arguments」パラメーターの名前付き変数のリストとしてパラメーターを暗黙的に渡すこともできます。

```
<g:call function="item_link_default.xml"
arguments="sysparm_view,ref_parent,jvar_target_text"/>
```

個別のタグ引数を介して関数に変数を渡す代わりに、単一の「arguments」引数で変数のリストを渡すことができます。*argument* パラメーターの名前 (カンマ区切り) で識別されるすべての変数は、まったく同じ名前で関数内に再導入されます (たとえば、関数テンプレート内では、変数 sysparm_view、ref_parent、および jvar_target_text を使用できます)。

関数テンプレートは、return= 属性を使用して呼び出し元テンプレートに値を返すことができます。関数内では、jvar_answer 変数で戻り値を設定します。

```
<g:call function="item_body_cell_calc_style.xml" arguments="jvar_type" return="jvar_style"/>
```

### <g:evaluate>

<g:evaluate> タグは、Rhino JavaScript で記述された式を評価するために使用され、場合によっては変数を式の値に設定するために使用されます。

式の最後のステートメントは、変数に含まれる値です。

```
<g2:evaluate var="jvar_page" jelly="true">
    var page = "";
    var pageTitle = "";
    var pageGR = new GlideRecord("cmn_schedule_page");
    pageGR.addQuery("type", jelly.jvar_type");
    pageGR.query();
    if (pageGR.next()) {
      page = pageGR.getValue("sys_id");
      pageTitle = pageGR.getDisplayValue();
    }
    page;
</g2:evaluate>
```

```
<g2:evaluate var="not_important" expression="sc_req_item.popCurrent()"/>
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### object="true"

評価でオブジェクト (アレイなど) を返す場合は、引数 object="true" を使用します。

```
<g2:evaluate object="true" var="jvar_items"
 expression="SncRelationships.getCMDBViews()" />
```

### jelly="true"

評価内の Jelly 変数にアクセスする場合は、評価に jelly="true" を含め、Jelly 変数の名前の前に「jelly.」を追加します。たとえば、GlideJellyContext にアクセスするには、次のようにします。

```
<g2:evaluate var="jvar_row_no" jelly="true">
  var gf = jelly.context.getGlideForm();
  var row = gf.getRowNumber();
  row;
</g2:evaluate>
```

jelly="true" パラメーターを使用して jvar にアクセスする別の例を示します。`jvar_h` の値は以前に設定されており、`evaluate` 内でアクセスできます。

```
$[NLBR:jvar_h.getHTMLValue('newvalue')]
<g2:evaluate var="jvar_fix_escaping" jelly="true">
   var auditValue = jelly.jvar_h.getHTMLValue('newvalue');
   gs.log("********** " + auditValue);
</g2:evaluate>
```

### copyToPhase2="true"

フェーズ 1 での評価結果を取得してフェーズ 2 に伝播する必要がある場合は、copyToPhase2="true" を使用します。この使い方をする場合、エスケープに対する保護がいくつかあります。例：

```
<g:evaluate var="jvar_has_special_inc" copyToPhase2="true">
  var specialInc = gs.tableExists("special_incident");
  specialInc;
</g:evaluate>
$[jvar_has_special_inc]
```

何も評価する必要がない場合は、より直接的に行うことができます。この時、エスケープの問題に注意してください (この例では、jvar_rows 内の二重引用符で問題が発生します)。

```
<j2:set var="jvar_rows" value="${jvar_rows}"/>
```

#### <g:breakpoint/>

このタグを使用して、現在の Jelly 変数とその値をログに表示できます。

本番環境に移行する前に、このタグを必ず削除してください。

#### <g:ui_form/>

このタグは、UI ページのフォームを定義します。

たとえば、フォームに `application_sys_id` フィールドが含まれている場合、g:ui_form には処理スクリプトのメリットがあります。

```
<g:ui_form>
   <p>Click OK to run the processing script.</p>
   <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  <input type="hidden" name="application_sys_id"
value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da"/>
</g:ui_form>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

### <g:ui_input_field />

このタグを使用することで、ユーザーが情報を入力できるページに入力フィールドを作成する UI マクロへの参照を追加できます。ui_input_fieldは、ラベル、名前、値、およびサイズを UI マクロに渡します。

UI ページの例を次に示します。

```
<g:ui_input_field label="sys_id" name="sysid" value="9d385017c611228701d22104cc95c371"
size="50"/>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

### <g:ui_checkbox/>

このタグを使用することで、ユーザーが編集可能なチェックマークをページに配置することができます。名前と値は UI マクロに渡されます。

UI ページのテーブルの例を次に示します。

```
<table>
  <tr>
   <td nowrap="true">
      <label>Time Card Active:</label>
   </td>
   <td>
      <g:ui_checkbox name="timecard_active" value="${sysparm_timecard_active}"/>
   </td>
  </tr>
</table>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

### <g:dialog_buttons_ok_cancel/>

このタグを使用することで、タグが true を返した場合に、指定された処理スクリプトを実行するボタンを UI ページに配置することができます。

UI ページにフォームが含まれている (<g:form> タグを使用している) 場合は、フォームを送信して処理スクリプトを実行できます。処理スクリプトは、フォーム上のフィールドに自然にアクセスできます。たとえば、フォームに application_sys_id フィールドが含まれている場合は、次のようにします。

```
<g:ui_form>
  <p>Click OK to run the processing script.</p>
  <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
  <input type="hidden" name="application_sys_id"
value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da"/>
</g:ui_form>
```

### <g:ui_reference/>

このタグは、処理スクリプトで参照できるページへの参照を追加します。

次の例では、タグ内の名前、ID、およびテーブルパラメーターによって定義された参照を作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
<g:ui_reference name="QUERY:active=true^roles=itil" id="assigned_to" table="sys_user" />
```

次に、処理スクリプトで、次のように [名前] フィールドを参照します。

```
newTask.assigned_to = request.getParameter("QUERY:active=true^roles=itil");
```

参照修飾子を指定して、「name」属性を一意にすることができます。次の例では、タグの名前、ID、およびテーブルパラメーターで定義された参照を作成します。

**注:**
「columns」属性はオートコンプリーターにのみ適用されます。

```
<g:ui_reference name="parent_id" id="parent_id" table="pm_project" query="active=true"
 completer="AJAXTableCompleter"
columns="project_manager;short_description"/>
```

### アンパサンド

Jelly は XML であるため、Jelly でアンパサンドを使用すると問題が発生する可能性があります。

Jelly でアンパサンドを挿入するには、${AMP} を使用します。実際にブラウザーで実行される UI ページや UI マクロなどの HTML 部分に表示される JavaScript を記述する場合は、このコードを [クライアントスクリプト] フィールドに入力することをお勧めします。そうすることで、エスケープの問題を回避できます。ただし、どうしても [HTML] フィールドに入力する必要がある場合は、次のようにする必要があります。

```
ta = ta[1].split('$[AMP]');
```

### AND

${AND} を使用して、Jelly で JavaScript を挿入します。

例：

```
if (d ${AND} e)
  var color = d.value;
```

または、Jelly の test では「&amp&amp」を使用します。例：

```
<j:if test="${jvar_form_name == 'sys_form_template' && !RP.isDialog()}">
```

### 次の値未満

アンパサンドと同様に、Jelly は XML であるため、小なり記号 (「<」) でも問題が発生する可能性があります。これは、test が不要になるように変更するか、小なり記号の代わりに ${AMP}lt; を使用することで解決できます。

```
<g2:evaluate var="jvar_text">
    var days = "";
    var selectedDays = '$[${ref}]';
    for (var i = 1; i ${AMP}lt;= 7; i++) {
      if (selectedDays.indexOf(i.toString()) >= 0) {
        days += gs.getMessage("dow" + i);
        days += " ";
      }
    }
    days;
 </g2:evaluate>
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

多くの場合、エスケープの問題がない「次の値に等しくない」演算子を使用するだけで、「次の値未満」演算子をまとめて回避できます。例：

```
for (var i=0; i != ta.length; i++) {
}
```

### whitespace

通常、空白は Jelly によって削除されます。保持するには、トリミングされないように指定する必要があります。

たとえば、次の例では、コロンの後にスペースが保持されます。

```
<j2:whitespace trim="false">${gs.getMessage('Did you mean')}: </j2:whitespace>
```

#### スペース

改行なしスペース ( ) をエンコードするには、 `$[SP]` を使用できます。

例：

```
<span id="gsft_domain" style="display: inline">
   ${gs.getMessage('Domain')}:$[SP]
   <span id="domainDD" class="drop_down_element" style="text-decoration: none; color:
 white">
      ${gs.getMessage("Loading...")}
  </span>
</span>
```

### Jelly のトレース

ServiceNow には、Jelly の評価をトレースできる機能があります。

トレースがログに送信されます。多くのログが生成されるため、これはデバッグ中にのみオンにしてください。トレースをオンにするには、プロパティ glide.ui.template.trace を true に設定します。たとえば、次のスクリプトを実行してこれを行うことができます。

```
GlideProperties.set ( 'glide.ui.template.trace' , true ) ;
```

各ページの下部にある Web ブラウザーでログエントリを表示するには、次の場所に移動します。 システム診断 > デバッグログ.

#### スクリプトのデバッグ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

## サーバーサイドスクリプトのデバッグ

スクリプトデバッガーとセッションログを使用して、サーバーサイドのコードをデバッグします。詳細については、「スクリプトデバッガ および セッションログ」を参照してください。

セッションデバッグを使用して、クライアントサイドの変更の結果として実行されるサーバーサイドのスクリプトに関連するエラーメッセージを表示することもできます。詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。

GSLog は、呼び出し元ごとに識別される sys_properties 値によって選択可能なログ出力のレベルを実装することで、スクリプトのログ記録とデバッグを簡素化するスクリプトインクルードです。詳細については、「GSLog API」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## クライアントサイドスクリプトのデバッグ

セッションデバッグを使用して、ユーザーインターフェイスにデバッグメッセージを表示します。詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。セッションログを使用して、エージェントワークスペース などのスクリプトインクルードおよびカスタム UI のログ情報を表示します。

ブラウザーベースの開発者ツールを使用して、クライアントサイドのスクリプトをデバッグすることもできます。

## アプリケーションとスコープのデバッグ

アプリケーションデバッグオプションを使用して、スクリプトのアプリケーションスコープがアプリケーション、テーブル、またはレコードにどのように影響するかを理解してください。スコープアクセスの問題をトラブルシューティングするには、クロススコープ権限を更新することが必要になる場合があります。「アプリケーションのデバッグ」を参照してください。

### スクリプトデバッガ および セッションログ

スクリプトデバッガを使用して、script_debugger ロールを持つユーザーはサーバーサイドの JavaScript をデバッグできます。また、セッションログを使用して、必要なログを表示およびダウンロードできます。

script_debugger ロールを持つユーザーは、スクリプトデバッガを使用して次のアクションを実行できます。

- 現在のセッションにのみ適用される専用のデバッグトランザクションがあります。
- ブレークポイントの設定および削除
- ブレークポイントでの現在のセッションの一時停止
- ランタイム中の式の評価
- コードの行ごとのステップ実行
- 関数へのステップイン、ステップアウトとメソッド呼び出し
- ローカル変数とグローバル変数の値の表示
- 関数クロージャからのプライベート変数の値の表示
- コールスタックの表示
- システムが処理しているトランザクションの表示
- スクリプトデバッガーをオフにして、一時停止したスクリプトの実行を再開

[セッションログ] タブを使用して、ビジネスルール、スクリプトインクルード、および GraphQL コンポーネントを持つ ServiceNow　エージェントワークスペース などのカスタム UI を取得します。script_debugger ロールを持つユーザーは次のことができます。

- 別のタブへのセッションログの表示
- ログのダウンロード
- エージェントワークスペース のログの表示
- デバッグオプションを指定して、必要なログのみを表示またはダウンロード

デフォルトでは、100 件のトランザクションと 10,000 件のメッセージが [セッションログ] タブに表示されます。トランザクション数またはメッセージ数がデフォルト値を超えると、セッションログはクリアされ、次のトランザクションまたはメッセージが表示されます。このトランザクション数とメッセージ数は、それぞれ *glide.debugger.log.transaction.count* および *glide.debugger.log_messages_limit*

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のユーザー初期設定を使用して設定できます。*glide.debugger.log.transaction.count* および *glide.debugger.log_messages_limit* のユーザー初期設定の詳細については、「ユーザー初期設定」を参照してください。

**注:**
*glide.debugger.log.ui* システムプロパティを使用して、セッションログをスクリプトデバッガ付きの別のタブとして有効にします。

- [ページ] オプションでは、フォームとリストの下、および [セッションログ] タブにログが表示されます。
- [セッション] オプションでは、[セッションログ] タブにのみログが表示されます。

*glide.debugger.log.ui* システムプロパティの詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

コンソールでステートメントを実行すると、実行されたステートメントはブラウザーのキャッシュに格納されます。上向き矢印キーを使用すれば前のステートメントを、下向き矢印キーを使用すれば次のステートメントを、ブラウザーのキャッシュから取得できます。ユーザー初期設定 *glide.debugger.console.cached_stmt_limit* は、ブラウザーセッションにキャッシュされるステートメントの数を定義します。デフォルトのステートメントキャッシュ値は 20 で、最大値は 100 です。ユーザー初期設定からのステートメントキャッシュ値を設定できます。

**注:**
ブラウザーのキャッシュがクリアされた場合、または別のブラウザーや別のコンピューターからログインした場合は、キャッシュされたステートメントを使用できません。

スクリプトデバッガでは、続行のために応答を必要とする対話型トランザクション (ビジネスルール、スクリプトインクルード、スクリプトアクション、UI アクションなど) で実行されているサーバーサイドスクリプトを一時停止することができます。コンテキストでスクリプトを実行したときに GlideSystem メソッドの *isInteractive()* が **True** を返す場合、スクリプトデバッガでスクリプトを一時停止できます。

**注:**
スクリプトインクルードなどの一部のスクリプトオブジェクトは、複数のコンテキストから呼び出すことができます。例：

- ビジネスルールがフォーム送信の際に、フォームデータの変更を待機してから続行するインタラクティブトランザクションであるスクリプトインクルードを実行する場合。
- スケジュール設定済みジョブが、他のスクリプトを同時に実行できる非インタラクティブなバックグラウンドトランザクションである同じスクリプトインクルードを実行する場合。

クライアントサイドスクリプトをデバッグするには、ブラウザーベースの開発者ツールを使用できます。

ユーザーセッションが有効である限り、デバッガートランザクションは開いたままです。ユーザーがログアウトするか、セッションがタイムアウトすると、システムはデバッガートランザクションをクローズします。

デバッグログを表示するには、「デバッグログの表示」を参照してください。

**注:**
スクリプトデバッガを有効にすると、コードは解釈済みモードで実行されます。スクリプトの一部が Strict モードで実行されるように設定されている場合、デバッガーは正しいオブジェクトを見つけることができず、失敗します。スクリプトデバッガは、Strict モード以外のスクリプトで実行する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

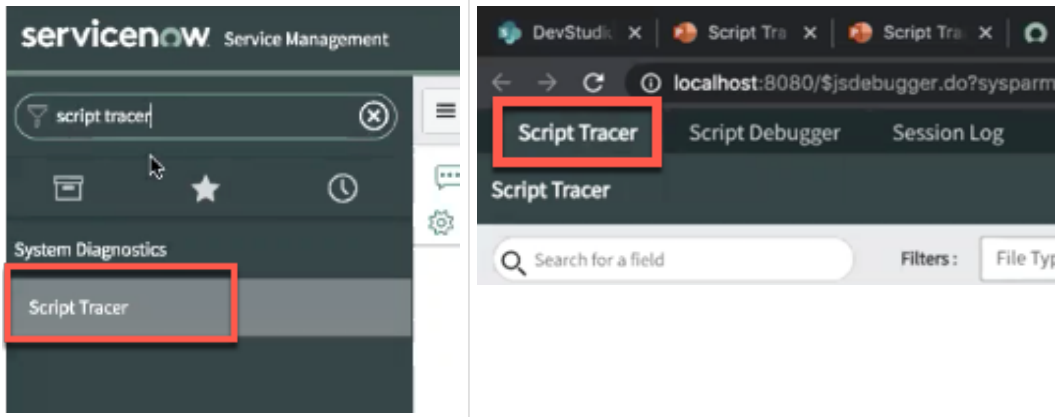
## スクリプトトレーサーとデバッグスクリプト

スクリプトトレーサーは、デバッグ検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を絞り込む際に役立ちます。Glide レコードの中で、実行時に変更が加えられたスクリプトの行を特定することができます。広範囲に検索するのではなく、このような特定の行を見つけることで、時間を節約し、生産性を向上させることが可能です。

### 概要

スクリプトとビジネスルールをより効率的にデバッグできるように、スクリプトトレーサーを使用して検索を絞り込みます。スクリプトトレーサーは、左側のナビゲーションペインで検索して見つけることができます。

**注:**
スクリプトトレーサーを使用するには、ロールが admin である必要があります。




スクリプトトレーサーを有効にして UI トランザクションを実行すると、トレーサーによって実行中のすべてのスクリプトに対して検索が行われます。次のフィルターを使用できます。

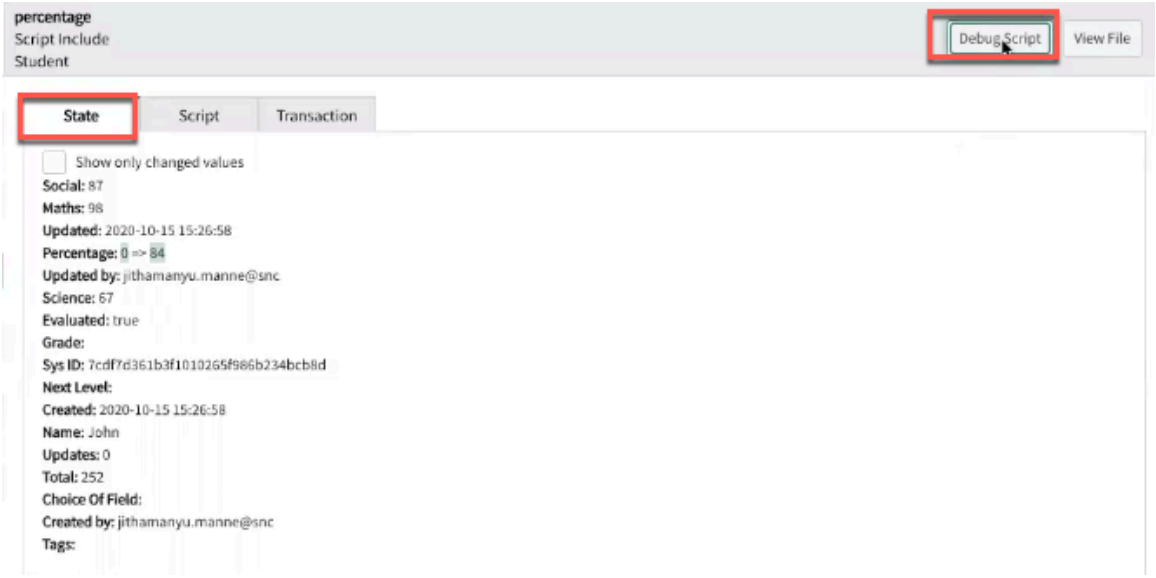
- [ファイルタイプ]：特定のファイルタイプを検索します
- [テーブル]：特定のテーブルで、実行中のスクリプトを検索します

Script Tracer により、実行時のスクリプトの変更点が検索され、一覧で表示されます。ユーザーはこれを確認することができます。[トレーサーを開始] をクリックすると、Glide レコード内で変更点の検索が開始されます。い

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

つでも [デバッグスクリプト] ボタンをクリックしてスクリプトを確認できま




す。

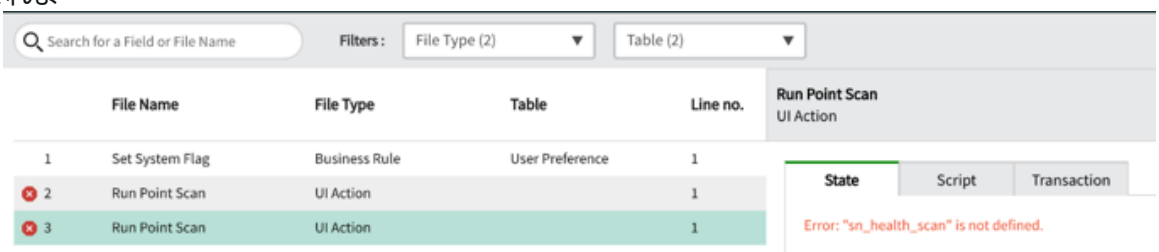
トレーサーから特定の情報を表示するには、以下のタブを使用します。

[状態] タブは、古いスクリプトと新しいスクリプトの差異を表示します。

- デフォルトでは、[変更された値のみを表示] チェックボックスがオンになっているため、変更されていないフィールドは表示されません。
- 変更されていないものも含めてすべてのフィールドを表示するには、このチェックボックスをオフにします。

**注:**
ファイルがトレースステートメントに反映されない場合は、Glide レコードの変更がシステムによって認識されていないことを意味します。

エラーがある場合は、[状態] タブの上部に表示され、行番号とエラーメッセージが発生順に表示されま




す。

- [スクリプト]：実行時に Glide レコードで変更されたスクリプトの行を表示します。[スクリプトを表示] ボタンをクリックすると、スクリプトの全体行を表示できます。
- [トランザクション]：トレースのすべてのトランザクションレコードを表示します
- [デバッグスクリプト]：スクリプトをデバッグするためにデバッガーでスクリプトを開きます
- [ファイルを表示]： ServiceNow プラットフォームで編集のためにスクリプトを開きます
- [トレースをクリア]：終了したときにトレースをクリアします。

## トレーサーの制限

生成されるリターンが多すぎないように、トレースに制限を設定することができます。デフォルトでは、最大 1,000 行のスクリプトがトレースされます。この数に達すると、トレースをク

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リアしてトレースを再開する必要があります。トレースの最大行数を変更するには、プロパティ *glide.debug.trace.trace_line_limit* を使用して制限を構成できます。

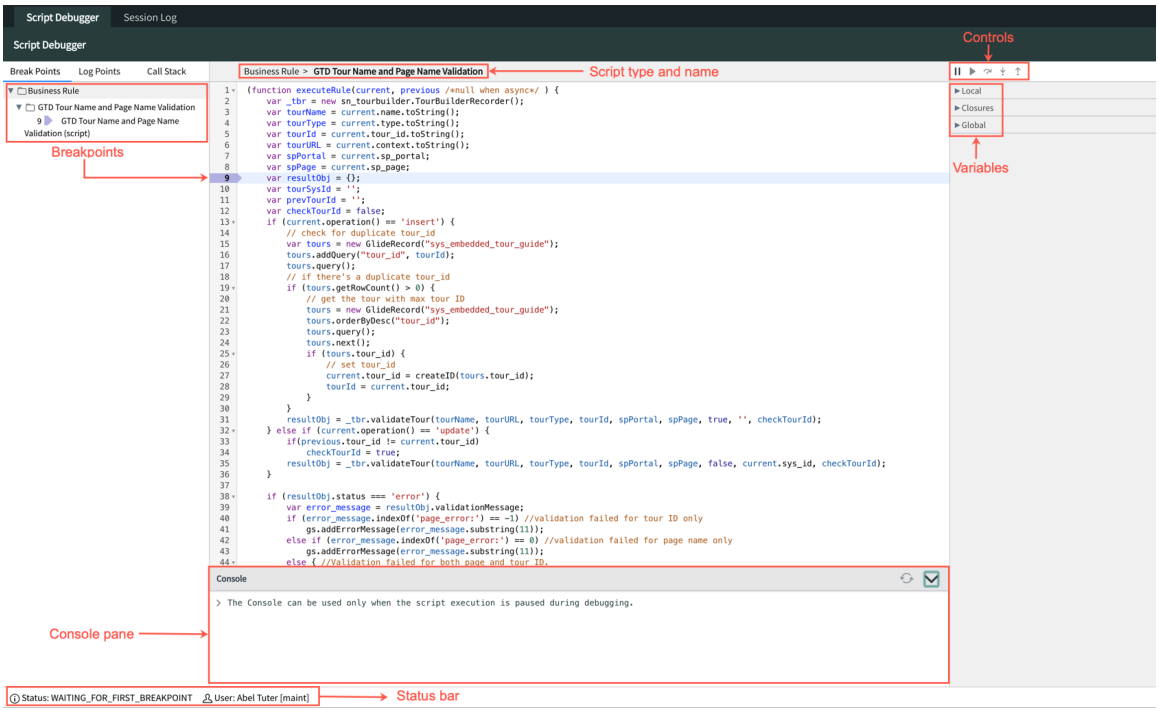
実行する各トレースは新規であるため、1 つのトレースの結果を読み終えてから、それをクリアして別のトレースを開始してください。

詳細については、「スクリプトのデバッグ」を参照してください。

### ユーザーインターフェイスの構成要素

スクリプトデバッガインターフェイスには、設定されたブレークポイント、現在実行中のスクリプト行のコールスタックと行番号、変数とトランザクションに関する詳細、およびコンソールのステータスが表示されます。

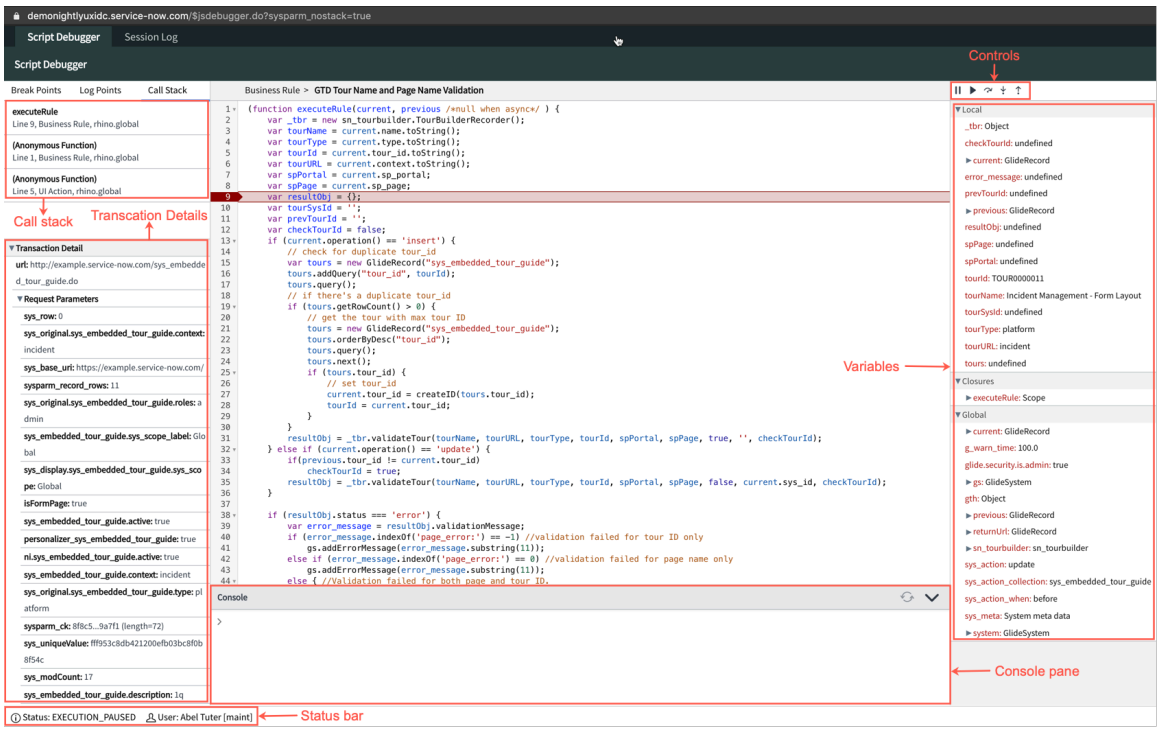
スクリプトデバッガーが一時停止していない




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトデバッガーが一時停止している




スクリプトデバッガーの構成要素

| ユーザーインターフェイス要素 | 説明 |
| --- | --- |
| ブレークポイント | スクリプトタイプ、スクリプト名、および行番号で設定されたブレークポイントのリストを表示します。ブレークポイントが追加されたり削除されたりすると、デバッガーによってこのリストが更新されます。 |
| コールスタック | 現在の行番号に先行する、または現在の行番号を呼び出したスクリプトコールのリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。 |
| トランザクションの詳細 | 現在のトランザクションに関する情報を表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。 |
| ステータス | デバッガーがブレークポイントを待機しているのか、ブレークポイントで一時停止しているのか、それとも例外が発生したのかを表示します。 |
| ユーザー | 現在のデバッガーセッションを実行しているユーザーの名前を表示します。 |
| コーディングペインヘッダー | コーディングペインにあるスクリプトのタイプと名前が表示されます。 |
| ブレークポイントアイコン | 現在のスクリプトを評価するときにデバッガーが一時停止する行番号を示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

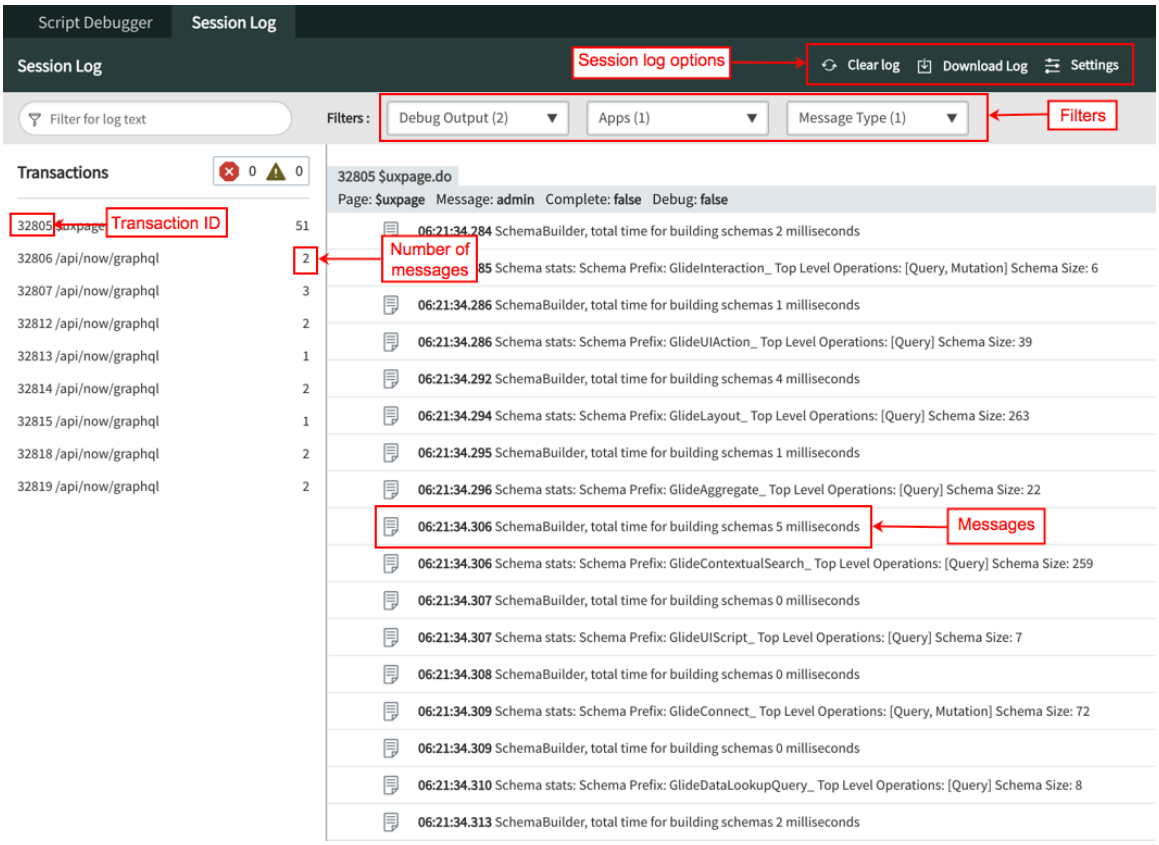
スクリプトデバッガーの構成要素 (続く)

| ユーザーインターフェイス要素 | 説明 |
| --- | --- |
| [デバッグの一時停止 (Pause debugging)]ボタン | 現在のデバッグセッションを停止し、現在のユーザーのスクリプトデバッガを無効にします。スクリプトデバッガは、再開するまで現在のユーザーのブレークポイントで一時停止しません。 |
| コンソール | 実行時に式を評価するために使用されるコマンドラインインターフェイスを表示します。コンソールは、スクリプトの実行が一時停止されている場合にのみ使用できます。 |
| [スクリプト実行を再開] ボタン | 現在のブレークポイントから次のブレークポイントに進みます。他のブレークポイントがない場合、スクリプトは完了するまで実行されます。 |
| [次の関数呼び出しをステップオーバー (Step over next function call)] ボタン | 呼び出そうとしているメソッドを通り越し、メソッドを単一のステップとして実行します。 |
| 次の関数呼び出しにステップイン | メソッド呼び出し内の実行されたコードの最初の行に進みます。メソッドにステップインすると、コールスタック内の現在の位置が更新されます。ユーザーがメソッド呼び出しの読み取りアクセス権を持たない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。 |
| 現在の関数をステップアウト | 現在のメソッド呼び出しを終了し、コールスタックから呼び出し元スクリプトに戻ります。ユーザーがメソッド呼び出し内にいない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。 |
| ローカル | ローカルスコープの JavaScript 変数名とその値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。 |
| クローズ | 関数クロージャによって設定されたグローバルスコープの JavaScript 変数名と値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。 |
| グローバル | グローバルスコープの JavaScript 変数名とその値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## セッションログ




### セッションログ ユーザーインターフェイス要素

| ユーザーインターフェイス要素 | 説明 |
|---|---|
| トランザクション | トランザクション ID。現在のトランザクションに関する情報を表示します。 |
| ログテキストのフィルター | 特定のテキストを含むログをフィルタリングするテキストを入力するフィールド。 |
| デバッグ出力 | 動的にロードされたデバッグ出力タイプに基づいてログをフィルタリングするオプション。例： セキュリティルール。 |
| アプリケーション | 動的にロードされたアプリに基づいてログをフィルタリングするオプション。例： サービスマネジメント統合。 |
| メッセージタイプ | 動的なログレベルに基づいてログをフィルタリングするオプション。たとえば、**Info** などです。 |
| ログを消去 | すべてのログをクリアします。 |
| ログをダウンロード | ログを HTML ファイル形式でダウンロードします。 |
| 設定 | セッションのデバッグオプション。デバッグオプションの詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール

スクリプトデバッガ がスクリプトを一時停止した後、ステップスルーコントロールを使用してスクリプト行間を移動し、コールスタック内のスクリプト間を移動します。コンソールの展開、コンソールの折りたたみ、コンソールのクリア、式の再実行を行うには、コンソールコントロールを使用します。

### ステップスルーコントロール

| コントロール | アイコン | 説明 |
|---|---|---|
| デバッグを停止 SHIFT +F2 |  | 現在のデバッグセッションを停止し、現在のユーザーのスクリプトデバッガを無効にします。スクリプトデバッガが再開されるまで、現在のユーザーのブレークポイントでは一時停止しません。 |
| デバッガーを起動 - F2 | | 現在のユーザーのスクリプトデバッガを有効にします。スクリプトデバッガはブレークポイントで一時停止します。 |
| スクリプト実行を再開 - F9 | | 現在のブレークポイントから次のブレークポイントに進みます。他のブレークポイントがない場合、スクリプトは完了するまで実行されます。 |
| 次の関数呼び出しをステップオーバー - OPTION +F9 |  | 現在の条件に基づいて次の評価済みスクリプト行に進みます。条件が満たされないために実行する必要がないコードのすべての行は、スクリプトデバッガでスキップされます。たとえば、if ステートメントの条件が true でない場合、デバッガーはその条件のコードブロックをスキップします。 |
| 次の関数呼び出しにステップイン - OPTION +F10 | | スクリプトデバッガがメソッド呼び出しで一時停止した際に、このコントロールにより、ユーザーはメソッド呼び出し内で実行されたコードの最初の行に進むことができます。メソッドにステップインすると、コールスタック内の現在の位置が更新されます。ユーザーがメソッド呼び出しの読み取りアクセス権を持たない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。 |
| 現在の関数をステップアウト - OPTION +F11 | | スクリプトデバッガがメソッド呼び出し内で一時停止した際に、ユーザーはこのコントロールを使用して現在のメソッド呼び出しを終了し、コールスタックから呼び出しスクリプトに戻ることができます。ユーザーがメソッド呼び出し内にいない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。 |

### コンソールコントロール

| コントロール | アイコン | 説明 |
|---|---|---|
| コンソールを開く |  | コンソールを展開します。 |
| コンソールを閉じる | | コンソールを折りたたみます。 |
| 式をクリア | | コンソールのすべての式をクリアします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンソールコントロール (続く)

| コントロール | アイコン | 説明 |
|---|---|---|
| 式を再実行 | | 既に実行されている式を再実行します。 |

関連情報

ブレークポイントの設定または削除

コンソールを使用したランタイムでの式の評価

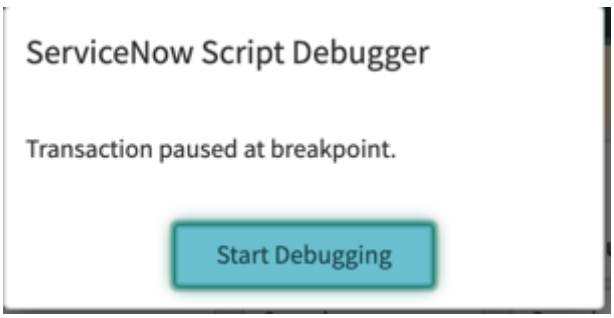
コンソールを使用してランタイムにスクリプトをデバッグするときに、新しい変数と関数を定義、宣言、および検証します。コンソールを使用するには、スクリプトの実行を一時停止する必要があります。

始める前に

- コンソールの使用に関する制限 のレビュー
- 必要なロール：script_debugger、admin

手順

1. 次のいずれかの方法でスクリプトデバッガーを起動します。
   スクリプトデバッガーのモーダルが表示されます。
2. スクリプトをトリガーします。
   たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。
   スクリプトデバッガーは、ブレークポイントを含む最初の行でスクリプトを一時停止します。そうなると、ServiceNow スクリプトデバッガーの確認ウィンドウが表示されます。




3. [デバッグを開始] をクリックします。
   フォーカスが [スクリプトデバッガー] ウィンドウに移動し、最初のブレークポイントで一時停止したターゲットスクリプトが表示されます。

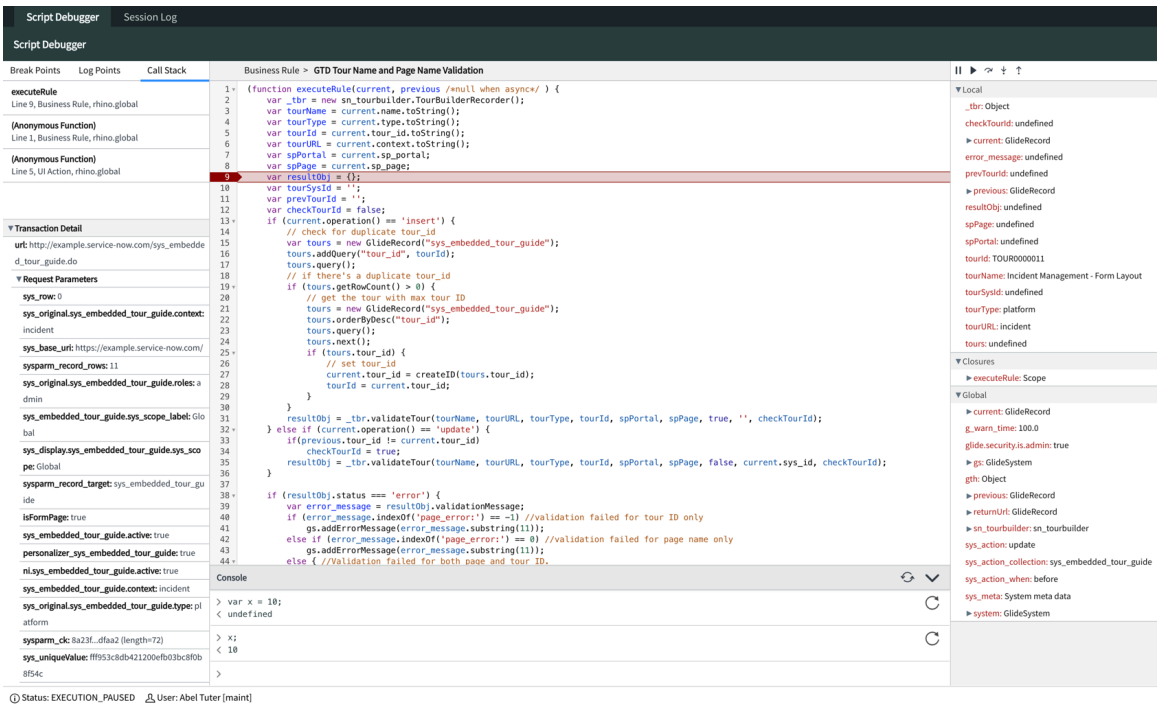
   注:
   スクリプトデバッガーのステータスが EXECUTION_PAUSED であることを確認します。コンソールは、スクリプトの実行がデバッグ中に一時停止された場合にのみ使用できます。

4. [コンソールを開く] アイコンをクリックして、コンソールペインを展開します。
   式の評価を開始するには、コンソールに 1 つ以上の式を入力して Enter キーを押します。たとえば、「var x = 10;」と入力して Enter キーを押します。複数行の式を入力するには、各行の後に Shift+Enter を押し、最後の式の後に Enter キーを押します。コンソール内のすべての式をクリアするには、[コンソールをクリア (Clear console)] アイコンをクリックします。コンソール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のコントロールの詳細については、「スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール」を参照してください。




ステートメントが実行されると、ブラウザーのキャッシュに格納されます。上向き矢印キーを使用すれば前のステートメントを、下向き矢印キーを使用すれば次のステートメントを、ブラウザーのキャッシュから取得できます。ユーザー初期設定で、セッションでキャッシュされるステートメントの数を設定できます。ユーザー初期設定の詳細については、「スクリプトデバッガーとセッションログ」を参照してください。

関連情報

コンソールの使用に関する制限

## コンソールの使用に関する制限

ランタイムにスクリプトをデバッグする際にコンソールを使用して式を評価する場合には、いくつかの制限に注意する必要があります。

- オブジェクトのプロパティと値はコンソールに表示されません。オブジェクトをコンソールに表示しようとすると、オブジェクトの文字列のみが表示されます。
- コンソールでは、info() や print() などの GlideSystem 印刷メソッドはサポートされていません。
- コンソールでは *this* キーワードは使用できません。
- コンソールでの式の評価中にスクリプトデバッガーのタイムアウトが発生します。
- 長いスクリプトの実行時に「Awaiting response from server」という応答があった場合、再開コントロールや停止コントロールを使用したデバッグの再開や停止ができなくなります。

## スクリプトデバッガ の起動

開発者は、アプリケーションナビゲーター、スタジオ、またはシンタックスエディターから スクリプトデバッガ を起動できます。

始める前に
必要なロール：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- admin
- script_debugger

手順

開始点に基づいてパスを選択します。
新しいウィンドウで スクリプトデバッガ が開きます。

### ブレークポイントの設定または削除

ブレークポイントまたは条件付きブレークポイントを設定して、特定の行でスクリプトを一時停止し、デバッグが完了したらブレークポイントを削除します。

始める前に
必要なロール：

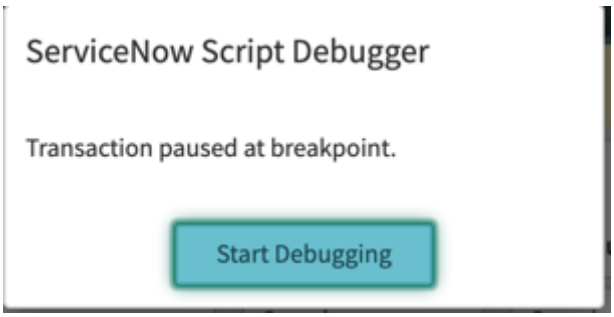
- admin
- script_debugger

このタスクについて
ブレークポイントは、それを設定した開発者に属します。開発者が各自のブレークポイントを設定および削除する必要があります。

**注:**
特定の行にログポイントまたはブレークポイントのいずれかを設定できますが、両方を設定することはできません。

手順

1. デバッグするサーバースクリプトに移動します。
   たとえば、次の場所に移動します。 すべて > システム定義 > ビジネスルール.
2. シンタックスエディターで、スクリプト行の横にあるガターをクリックします。
3. シンタックスエディターのツールバーから、[スクリプトデバッガーを開く] アイコンをクリックします。
   スクリプトデバッガ ウィンドウが開きます。
4. スクリプトをトリガーします。
   たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。
   スクリプトデバッガは、ブレークポイントを含む最初の行でスクリプトを一時停止します。確認ウィンドウが表示されます。




5. [デバッグを開始] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトデバッガウィンドウにフォーカスが切り替わり、最初のブレークポイントで一時停止したターゲットスクリプトが表示されます。 コンソールペインが有効になります。

6. デバッグが完了したら、スクリプトからブレークポイントを削除します。

関連情報

スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール

## ログポイントの設定または削除

ブレークポイントまたは条件付きログポイントを設定して、特定の行でコンソールにメッセージを記録し、デバッグが完了したらログポイントを削除します。

### 始める前に

- *glide.debug.log_point* システムプロパティを [true] に設定します。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。
- 必要なロールは admin または script_debugger です。

### このタスクについて

ログポイントは、それを設定した開発者に属します。開発者が各自のログポイントを設定および削除する必要があります。

注:
特定の行にログポイントまたはブレークポイントのいずれかを設定できますが、両方を設定することはできません。

### 手順

1. デバッグするサーバースクリプトに移動します。
たとえば、次の場所に移動します。 すべて > システム定義 > ビジネスルール.
2. シンタックスエディターで、スクリプト行の横にあるガターをクリックします。

注:
ログポイントに入力するスクリプトは、GSLog および GSInfo スクリプトインクルードのスクリプトと同じ形式にする必要があります。

3. シンタックスエディターツールバーから、[スクリプトデバッガーを開く] アイコン ( ) をクリックします。
4. [スクリプトデバッガ] ウィンドウで、スクリプトをトリガーします。
たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。

注:
[スクリプトデバッガ] ウィンドウでログポイントを追加することもできます。

5. [スクリプトデバッガー] ウィンドウで、[セッションログ] をクリックしてログポイントを表示します。
6. デバッグが完了したら、スクリプトからログポイントを削除します。

## スクリプトデバッガのステータス

スクリプトデバッガのステータスによって、利用可能なデバッグアクションと表示できる情報が決まります。

スクリプトデバッガでは、ユーザーインターフェイスの左下にステータスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルのスクリプトデバッガステータス

可能な スクリプトデバッガ ステータス値

| ステータス | 発生するタイミング | 説明 | 利用可能なアクション |
| --- | --- | --- | --- |
| WAITING_FOR_FIRST_BREAKPOINT | [スクリプトデバッガ] ウィンドウまたはタブを開いたとき。 | スクリプトデバッガはスクリプトを一時停止してデバッグ情報を表示する準備ができています。 | コールスタックの最初のブレークポイントでスクリプトを一時停止します。 |
| EXECUTION_PAUSED | • スクリプトデバッガがブレークポイントで一時停止したとき。<br>• ユーザーが、評価されたコードの次の行にステップオーバー、ステップイン、またはステップアウトしたとき。 | スクリプトデバッガはコードの行で一時停止し、ユーザーはスクリプトをデバッグできます。コンソールが有効になります。 | • スクリプトデバッガは次のブレークポイントに達するまで処理を再開します。<br>• スクリプトをステップスルーします。<br>• コールスタックを表示します。<br>• トランザクション情報を表示します。<br>• 変数値を表示します。<br>• ランタイム中にコンソールで式を評価します。 |
| WAITING_FOR_BREAKPOINT | • ユーザーが処理を再開し、スクリプトデバッガが次のブレークポイントに達するまで。<br>• ユーザーがスクリプトをステップスルーし、評価する次のコード行にスクリプトデバッガが到達するか、トランザクションが完了するまで。 | スクリプトデバッガは、一時停止する次のコード行を検索しています。スクリプトデバッガは評価する次のブレークポイントまたはスクリプト行を見つけた後にステータスを変更するため、通常はこのステータスがユーザーに表示されることはありません。 | • 次のブレークポイントでスクリプトを一時停止します。<br>• 評価が必要な次のスクリプト行でスクリプトを一時停止します。 |
| OFF | • ユーザーがスクリプトデバッガを一時停止したとき。<br>• ユーザーがスクリプトデバッガウィンドウまたはタブを閉じたとき。 | スクリプトデバッガは非アクティブになっていて、スクリプトを一時停止したり、デバッグ情報を表示したりすることはありません。 | • スクリプトデバッガを開始します。<br>• [スクリプトデバッガ] ウィンドウまたはタブを開きます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

可能な スクリプトデバッガ ステータス値 (続く)

| ステータス | 発生するタイミング | 説明 | 利用可能なアクション |
|---|---|---|---|
| | • 何らかの理由でユーザーセッションが終了されたとき。<br>• 管理者が、[debugger_reset.do] ページに移動して、すべてのスクリプトデバッガインスタンスをリセットしたとき。 | | |

## ログエントリ

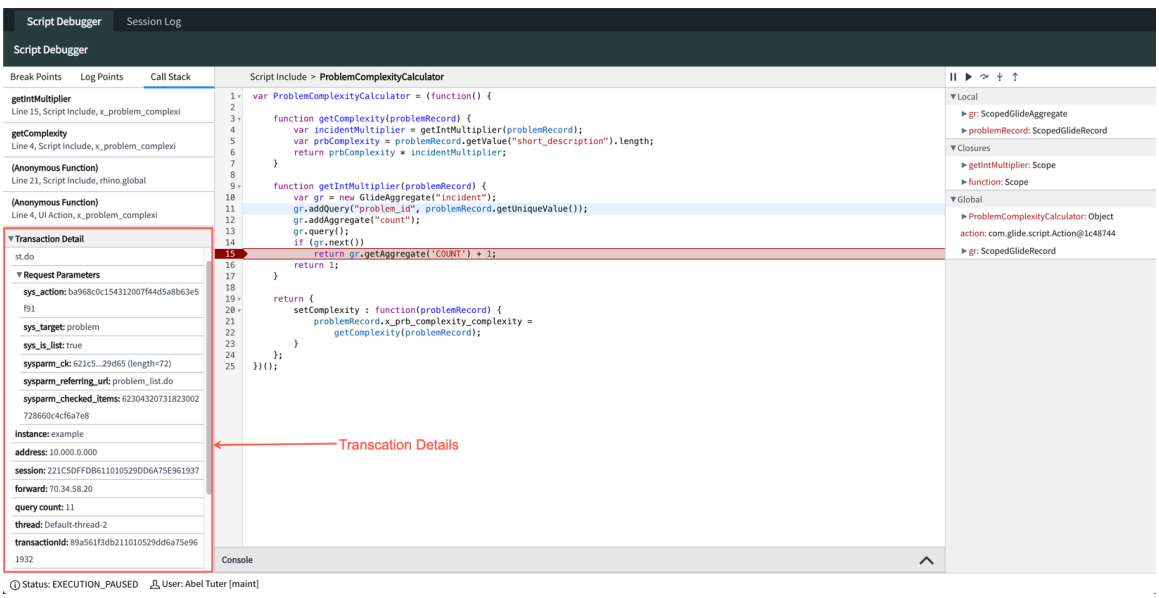
デバッグトランザクションの実行が終了するたびに、DEBUGGED プリフィックスが付いたログエントリが作成されます。例：

```
2016-08-15 15:57:32 (197) Default-thread-3 900F510167112200C4098C7942415A75 *** End #39, path: /my-app.do, user: admin, DEBUGGED total transaction time: 0:00:11.010, transaction processing time: 0:00:11.010, network: 0:00:00.000, chars: 6,058, uncompressed chars: 20,731, SQL time: 50 (count: 34), business rule: 0 (count: 0), phase 1
form length 56,464, largest chunk written: 10,428, request parms size: 40, largest input read: 0
```

### トランザクションの詳細

スクリプトデバッガには、現在一時停止されているユーザーセッションのトランザクションの詳細が表示されます。

トランザクションの詳細は、スクリプトデバッガの左下にある、[呼び出しスタック] の下部にあるサイズ変更可能な専用セクションで確認できます。




スクリプトデバッガは、スクリプトで一時停止した場合にのみ、トランザクションの詳細を表示します。開発者は、トランザクションの詳細を次の目的に使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 現在一時停止されているトランザクションの URL の調査
- 現在一時停止されているトランザクションの要求パラメーターの調査
- 現在のトランザクションに関するネットワーク情報の調査
- デバッグトランザクションを開始したユーザーとセッション ID の調査

関連情報

使用可能なトランザクションの詳細

使用可能なトランザクションの詳細

スクリプトデバッガは、開発者がスクリプトをデバッグおよびトラブルシューティングするためのトランザクションの詳細の標準セットを提供します。

使用可能なトランザクションの詳細

| トランザクション要素 | 説明 |
|---|---|
| **url** | 現在一時停止されているトランザクションの URL。 |
| 要求パラメーター | このトランザクションの要求パラメーターのリスト。各トランザクションには独自の要求パラメーターのリストがありますが、レコードトランザクションには通常、レコードの挿入、更新、または削除に使用されるフィールド値が含まれています。 |
| **instance** | インスタンス名。 |
| **address** | エンドユーザーのクライアントシステムの IP アドレス。 |
| **session** | ユーザーセッション ID。 |
| **forward** | ロードバランサーの IP アドレス。 |
| **query count** | スクリプトデバッガが行ったデータベースクエリの数。 |
| **thread** | スクリプトデバッガインスタンスを実行しているスレッドの名前。 |
| **transactionid** | 現在のトランザクションの Sys ID。 |
| **token** | 現在一時停止されているトランザクションのスクリプトデバッガトークン。システムはこのトークンを使用して、各種のスクリプトデバッガインスタンスを識別します。 |
| **name** | 現在一時停止されているトランザクションの名前。この名前を使用して、ログ内のトランザクションを識別できます。 |
| **processor** | 現在のトランザクションを処理しているプロセッサーの名前 (存在する場合)。 |
| **method** | 現在一時停止しているトランザクションが使用する HTTP 要求メソッド。 |
| **startTime** | スクリプトデバッガインスタンスが開始された日時スタンプ。 |
| **page** | トランザクションに関連付けられている現在のテーブルまたは UI ページ。 |
| **user** | デバッグトランザクションをトリガーしたユーザー。 |
| **nodeid** | スクリプトデバッガインスタンスを実行しているノードの Sys ID。 |

関連情報

トランザクションの詳細

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### スクリプトデバッガの複数開発者のサポート

スクリプトデバッガでは、複数の開発者が互いに影響を与えることなく、各自のトランザクションをデバッグすることができます。

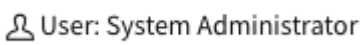
スクリプトデバッガでは、各開発者は現在デバッグしているセッションに関連する次のようなアイテムの確認と操作のみを行うことができます。

- ブレークポイント
- コールスタック
- コンソール
- トランザクション
- ステータス

開発者がスクリプトデバッガを使用して別のデバッグセッションを表示したり、変更したりすることはできません。ただし、管理者は、別のユーザーとしてスクリプトデバッガを開き、代理で操作しているユーザーが生成したトランザクションをデバッグすることができます。

デバッグセッションのユーザーは、スクリプトデバッガのユーザーインターフェイスの左下部に表示されます。

サンプルのスクリプトデバッガユーザー




## スクリプトデバッガの同時使用

デフォルトでは、システムにより [(インスタンス上のセマフォの数)/4] 件の同時実行トランザクションのデバッグがサポートされています。管理者は、*glide.debugger.config.max_node_concurrency* システムプロパティを設定することにより、システムがデバッグできる同時実行トランザクションの数を指定できます。システムは最大で [(インスタンス上のセマフォの数) - 2] 件の同時実行トランザクションをデバッグできます。

## デバッグセッションの管理

デバッグセッションは、次の状態になるまで (EXECUTION_PAUSED または WAITING_FOR_BREAKPOINT ステータスで) アクティブにデバッグを続行できます。

- ユーザーがスクリプトデバッガを一時停止したとき。
- ユーザーがスクリプトデバッガを閉じたとき。
- ユーザーセッションが終了したとき。

管理者は、xmlstats.do ページに移動して、現在実行中のデバッガーセッションを表示できます。

管理者は、debugger_reset.do ページに移動して、現在実行中のすべてのデバッグセッションを停止できます。admin ロールを持つユーザーのみが、このページにアクセスできます。

関連情報

スクリプトデバッガの代理操作サポート

### スクリプトデバッガの代理操作サポート

別のユーザーで代理操作を行っているときにスクリプトデバッガを使用できます。ただし、代理で操作しているユーザーが script_debugger ロールを持ち、ターゲットスクリプトの読み取りアクセス権を持っている場合に限ります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別のユーザーとして操作している間に、次の操作を実行できます。

- 操作されたユーザーに属するブレークポイントの表示と変更
- 操作されたユーザーが読み取りアクセス権を持つスクリプトの表示と一時停止
- 代理操作しているユーザーに代わってコンソールで式を評価

スクリプトデバッガのステップスルーコントロールでも、代理操作をしているユーザーの読み取りアクセス権が使用されます。たとえば、代理操作しているユーザーに呼び出しスタック内の関数への読み取りアクセス権がない場合、ステップインアクションは代わりにステップオーバーアクションになります。

操作されたデバッグセッションは、次の場合に終了します。

- ユーザーとしての操作を停止した場合
- ログアウトするか、またはユーザーセッションを終了した場合
- スクリプトデバッガを一時停止した場合
- スクリプトデバッガを閉じた場合

関連情報

スクリプトデバッガの複数開発者のサポート

### スクリプトデバッガのスクリプト - バックグラウンドサポート

スクリプト - バックグラウンドモジュールは、スクリプトフィールドでの直接のブレークポイントの設定をサポートしていません。ただし、スクリプト - バックグラウンドモジュールによって呼び出される、またはトリガーされるスクリプトオブジェクトにブレークポイントを設定できます。

スクリプト - バックグラウンドモジュールで任意の JavaScript コードを実行している間、スクリプトデバッガは次の場合にのみスクリプトを一時停止できます。

- ブレークポイントを含むスクリプトインクルードを呼び出した場合。
- ブレークポイントを含むビジネスルールをトリガーした場合。
- ブレークポイントを含むスクリプトアクションをトリガーした場合。

### ドメイン分離と スクリプトデバッガ

ドメイン分離は スクリプトデバッガ でサポートされています。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

## サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、Domain Separation を完全にサポートしています。ドメイン分離には、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

## スクリプトデバッガにおけるドメイン分離の仕組み

スクリプトデバッガは完全なアプリケーションではなく、プラットフォームスイートの一機能です。つまり、ドメイン分離を含む他の機能と連携して機能します。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### セッションのデバッグ

セッションデバッグを有効にして、ユーザーインターフェイスにデバッグメッセージを表示します。

各ページロードの下部の豊富なログ記録は、すべての領域を有効にすることができます。また、各モジュールを 1 つずつ有効にして、このセッション中、特に前のトランザクションで起きたことについてより詳細な情報を得ることもできます。でセッションのデバッグオプションを選択 システム診断 > セッションのデバッグ. 有効にすると、セッションデバッグはユーザーセッション中または無効になるまでアクティブになります。デバッグログを表示するには、「デバッグログの表示」を参照してください。

システムには、次のセッションデバッグオプションがあります。

セッションデバッグオプション

| デバッグオプション | 説明 |
|---|---|
| すべて有効化 | 利用可能なすべてのデバッグメッセージを表示します。 |
| すべて無効化 | すべてのデバッグメッセージの表示を停止します。 |
| ビジネスルールのデバッグ | ビジネスルールのデバッグメッセージを表示します。複数のアプリケーションからのビジネスルールがテーブルまたはレコードに影響を与える場合、ビジネスルールがどのアプリケーションからのものであるかが表示されます。 |
| アップグレードのデバッグ | 前回のファミリ間またはパッチバージョンのアップグレードセッション中に処理されたレコードの詳細情報を表示します。「アップグレードのデバッグ」を参照してください。 |
| デバッグビジネスルール(詳細) | ビジネスルールのデバッグメッセージと、ビジネスルールによって加えられた変更を表示します。複数のアプリケーションからのビジネスルールがテーブルまたはレコードに影響を与える場合、ビジネスルールがどのアプリケーションからのものであるかが表示されます。 |
| デバッグログ | すべてのログエントリを表示します。 |
| NLQ をデバッグ | 自然言語クエリ (NLQ) クエリのデバッグメッセージを表示します。 |
| デバッグ日時 | 要求されている形式と入力が一致しない場合に、日付/時刻のエラーを表示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションデバッグオプション (続く)

| デバッグオプション | 説明 |
|---|---|
| SQL のデバッグ | SQL クエリのデバッグメッセージを表示します。 |
| SQL のデバッグ (詳細) | SQL ステートメントのデバッグメッセージと、SQL ステートメントによって行われた変更を表示します。 |
| セキュリティのデバッグ | アクセス制御のデバッグメッセージを表示します。複数のアプリケーションからのアクセス制御がテーブルまたはレコードに影響を与える場合、どのアプリケーションからのアクセス制御であるかが表示されます。 |
| エスカレーションのデバッグ | SLA および SLO のエスカレーションのデバッグメッセージを表示します。 |
| AI 検索をデバッグ | AI 検索 のデバッグメッセージを表示します。 |
| 測定基準の統計情報のデバッグ | パフォーマンスデータの集計ビュー (遅いトランザクション、スクリプト、クエリ、イベント、ミューテックス) を表示します。これらの集計測定基準は、ページのパフォーマンスに影響を与えるアイテムを識別するために、トランザクション別にソートされます。 |
| テキスト検索のデバッグ | 検索結果の関連性とインデックス作成のデバッグメッセージを表示します。 |
| UI ポリシーのデバッグ | UI ポリシーのデバッグメッセージを表示します。 |
| UI ポリシーデバッグの無効化 | UI ポリシーのデバッグメッセージの表示を中止します。 |
| UI マクロのデバッグ | DOM 内の UI マクロの開始と終了を HTML コメントとして表示します。コメントは、テーブル名と UI マクロ名で構成されます。 |
| UI マクロのデバッグの無効化 | DOM 内の UI マクロの開始と終了を HTML コメントとして表示することを停止します。 |
| データポリシーのデバッグ | データポリシーのデバッグメッセージを表示します。 |
| クォータのデバッグ | トランザクションクォータのデバッグメッセージを表示します。 |
| ホームページレ | ホームページのデバッグメッセージを表示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションデバッグオプション (続く)

| デバッグオプション | 説明 |
| --- | --- |
| ンダラのデバッグ | |
| スコープのデバッグ | スクリプトオブジェクトの実行時にアプリケーションスコープを開始または終了するためのデバッグメッセージを表示します。 |

### デバッグ用のログの表示

セッションデバッグログを表示して、スクリプトとアプリケーションの問題を診断します。

#### 始める前に

必要なロール：なし

#### 手順

1. 移動先 すべて > セッションのデバッグ をクリックし、[ すべて有効化] を選択します。
2. [セッションのデバッグ] で、[デバッグログ] を選択します。
   デバッグログが表示されます。

### アプリケーションのデバッグ

アプリケーション開発者は、設定レコードに関するデバッグメッセージを表示して、問題のトラブルシューティングに役立てることができます。デバッグスコープモジュールは、サーバーサイドスクリプトを実行するカスタムアプリケーション間のシステム切り替えに関する情報を提供します。

システムには、アプリケーションが設定レコードに与える影響をアプリケーション開発者が判断する際に役立つ、次のデバッグオプションがあります。

アプリケーションデバッグオプション

| デバッグオプション | 説明 |
| --- | --- |
| ビジネスルールのデバッグ | このモジュールを使用して、どのアプリケーションのビジネスルールがテーブルに対して実行されているかを判断します。異なるアプリケーションスコープのビジネスルールが同じテーブルで実行されている場合にのみ、アプリケーション情報が表示されます。 |
| デバッグビジネスルール (詳細) | このモジュールを使用して、テーブルに対するビジネスルールの実行の結果を判断します。異なるアプリケーションスコープのビジネスルールが同じテーブルで実行されている場合にのみ、アプリケーション情報が表示されます。 |
| セキュリティのデバッグ | このモジュールを使用して、指定されたテーブルまたはレコードに適用されるアプリケーションのアクセス制御を決定します。 |
| スコープのデバッグ | このモジュールを使用して、スクリプトが実行されるアプリケーションスコープコンテキストを決定します。あるスクリプトが別のスクリプトを呼び出すことがあるため、一連のスクリプトの実行中にアプリケーションスコープコンテキストが複数回変更される可能性があります。 |

自動翻訳

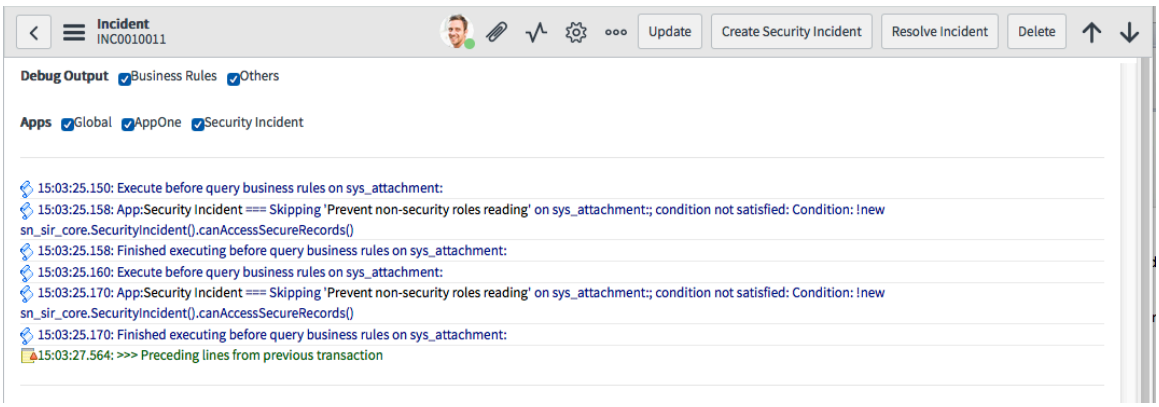
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションデバッグオプション (続く)

| デバッグオプション | 説明 |
| --- | --- |
| セッションのデバッグを有効化 | この関連リンクを使用して、特定のアプリケーションのログメッセージの生成を有効にします。GlideSystem ログ記録メソッドを使用するアプリケーションスクリプトは、指定された詳細レベルでログに出力を生成します。 |

複数のアプリケーションがデバッグ出力に寄与する場合、システムは [アプリ] と呼ばれる新しいセクションを追加して、セッションログに書き込むアプリケーションのリストを表示します。アプリケーション名の横にあるチェックボックスをクリックすると、アプリケーションの関連デバッグメッセージの表示/非表示が切り替わります。

ビジネスルールのサンプルアプリケーションデバッグ出力

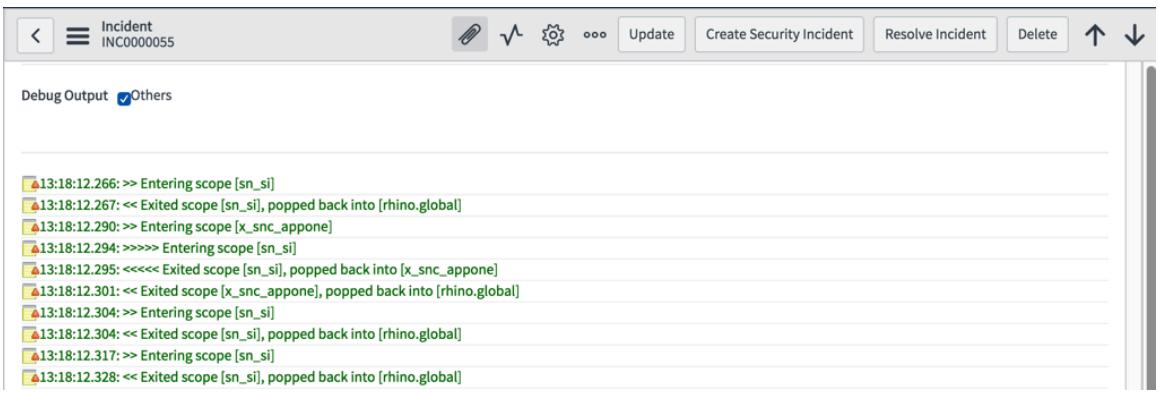



## スコープのデバッグ

アプリケーション開発者は、デバッグスコープモジュールを使用して、サーバーサイドスクリプトを実行するカスタムアプリケーション間のシステム切り替えに関する情報を表示します。

有効にすると、システムがカスタムアプリケーションに切り替えてサーバーサイドスクリプトを実行するたびにメッセージが表示されます。

インシデントテーブルからのサンプルデバッグスコープ出力




システムがサーバーサイドスクリプトオブジェクトを実行するたびに、スクリプトのスコープコンテキストに入ります。スクリプトの実行が終了すると、スクリプトはスコープコンテキストを終了します。デバッグメッセージは、スクリプトスコープコンテキストの変更を追跡します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デバッグメッセージは、システムがスクリプトオブジェクトのコンテキストに入るたびに大なり記号「>」を表示し、システムがスクリプトオブジェクトのコンテキストを終了するたびに小なり記号「<」を表示します。あるスクリプトが別のスクリプトを呼び出す場合は、各呼び出しのパスに、デバッグメッセージでさらに大なり記号が追加されます。たとえば、ビジネスルールがスクリプトインクルードを呼び出し、さらに別のスクリプトオブジェクトを呼び出す場合、パスには次のように 3 つの記号が含まれることになります。

```
> Entering scope [x_app_one]
>> Entering scope [x_app_two]
>>> Entering scope [x_app_three]
```

**注:**
グローバルスコープ内のスクリプトオブジェクトの開始メッセージまたは終了メッセージは表示されません。

アプリケーション開発者は、このオプションとともに他のデバッグオプションを有効にして、デバッグビジネスルールなどのサーバーサイドスクリプトの選択可能なソースに関する情報を表示できます。

ビジネスルールのデバッグ

デバッグビジネスルールは、ServiceNow 製品で使用可能なリソースをで実施できます。

### 1. ツール

このプロセスの最初のステップは、問題の把握に役立つツールを特定することです。

デバッグツール

| デバッグツール | 説明 |
|---|---|
| システム辞書 | 移動先 システム定義 > ディクショナリ. 辞書は、インスタンス内のすべてのテーブルのリストを提供し、情報を見つける際に非常に役立ちます。 |
| システムログ | 移動先 システムログ > システムログ. ログに情報を書き込むことができるビジネスルール内にアラートステートメントを配置できます。 |
| デバッグビジネスルール (詳細) | 移動先 システム診断 > セッションのデバッグ > デバッグビジネスルール (詳細). このデバッグモジュールは、結果のビジネスルールを表示します。このモジュールを使用して、条件が満たされ、値が想定どおりに設定されているかどうかを確認します。 |
| アラートメッセージ | ページ、フィールド、またはログファイルにメッセージを出力できるようにする、いくつかのシステム機能があります。「アラート、情報、およびエラーメッセージのスクリプティング」を参照してください。 |
| ビジネスルールの例 | ビジネスルールのエラーメッセージなど、他のユーザーが記述したスクリプトの中から目的のものが見つかることも、OR クエリを構築することで見つかることもあります。 |
| GlideRecord 情報 | これは、データベースに対して情報のクエリを実行するために使用される基本構文です。「スクリプトでのテーブルのクエリ」を参照してください。GlideRecord には集計サポートも含まれます。 |

### 2. 変数

次のステップでは、ビジネスルールの動作についてのインサイトを得ることができます。挿入を除くすべてのアクションでは、クエリを使用してレコードを取得する可能性が高くなります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
while (rec.next()) {
 gs.print(rec.number + ' exists');
 }
```

クエリが実際にレコードを返すかどうかを確認するには、*gs.addInfoMessage* を使用して画面の上部に情報を表示します。

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
gs.addInfoMessage("This is rec.next: " + rec.next());
while (rec.next()) {
 gs.print(rec.number + ' exists');
 }
```

クエリがレコードを返さない場合は、次のように表示されます。

```
This is rec.next: false
```

この手法を使用して、ビジネスルール内のすべての変数に想定される値が含まれていることを確認します。

ヒント:
必要に応じて、スクリプトを個々の部分に分割し、各部分が全体から切り離されても機能することを確認してから、一度に 1 ステップずつ元に戻します。

### 3. 情報の検索

最後のステップは、ルールが探している情報がどこで見つかるかを確認することです。

ServiceNow アプリケーションでは、テーブルが別のテーブルを拡張できます。これは、情報を検索するときに、探している情報を見つけるために、拡張テーブルの sys_id を親テーブルに照会する必要があることを意味します。

良い例は、タスクテーブルを拡張する sc_task テーブルです。次のスクリプトは、現在の sys_id の拡張テーブル (sc_task) を照会し、一致する sys_id を持つレコードの親テーブル (task) を照会して、[作業メモ] フィールドを出力します。

```
var kids = new GlideRecord('sc_task');
kids.query();

gs.addInfoMessage("This is requested item number: " + current.number);
gs.print("This is the requested item number: " + current.number);

while (kids.next()) {
 var parents = new GlideRecord('task');
 parents.addQuery('sys_id', '=', kids.sys_id);
 parents.query();

 while(parents.next()) {
  gs.addInfoMessage("This is task number: " + parents.number);
  gs.print("This is task number: " + parents.number);
  gs.addInfoMessage("These are the work notes: " + parents.work_notes);
  gs.print("These are the work notes: " + parents.work_notes);
  }
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
}
```

### 分類のデバッグ

分類のデバッグを有効にするには、システムプロパティを追加する必要があります。

## 分類のデバッグ

結果のログエントリーには、分類子の基準に使用できるすべての名前と値とともに、実行されている各分類子の名前が一覧表示されます。分類に関するデバッグ情報を記録するには、次のシステムプロパティを追加します。

| システムのプロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| *glide.discovery.debug.ci_identification* | プロセス分類のデバッグ情報を有効にします。<br>• タイプ：true \| false<br>• デフォルト値: false<br>• 場所：システムのプロパティ [sys_properties] テーブルに追加 |

### フィールド監視

フィールド監視ツールは、選択したフォームフィールドで実行されるすべてのアクションを追跡して表示します。

> **注:**
> フィールド監視は、Utah の Next Experience ではサポートされていません。Next Experience でサポートされている機能の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

管理者は、フィールド監視を使用して、ビジネスルールの発動やデータポリシーの適用などのイベントが発生したときに、フィールドで何が起こるか、フィールドの値がどのように変化するかを把握できます。管理者は、非管理者ユーザーの代理操作を行い、それらのユーザーがインスタンスを変更した場合に発生する事柄をデバッグすることもできます。一度に監視できるフィールドは 1 つだけです。代理操作ロールを持つ非管理者ユーザーは、フィールド監視機能にアクセスできます。

## フィールド監視の仕組み

フィールド監視ツールは、フィールドで次のいずれかのイベントが発生したときにアクティビティを記録します。

- デフォルト値がフィールドに設定された。
- ACL または辞書設定により、フィールドのユーザーアクセス権が変更された。
- データポリシーによって、値の設定が防がれた。
- フィールド値の参照修飾子クエリが実行された。
- UI ポリシーによって、フィールドが読み取り専用、表示、必須、または編集可能に変更された。
- 別のフィールド内の依存値によって、フィールドの選択肢が制限された。
- フィールドの値が、以下に基づいて設定または変更された。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アサインルール
- ワークフローエンジンなどのエンジンからのアクション
- ビジネスルール
- ユーザーエントリー
- クライアントスクリプト
- UI アクション

**注:**
フィールド監視はフォームフィールドでのみ機能します。リストフィールドでは使用できません。また、フィールド監視は、パスワードで保護されたフィールドまたは暗号化されたフィールドでは使用できません。フィールド監視は UI フレーム内でのみ使用できます。新しいタブなど、UI フレームの外部でレコードを開いた場合、フィールドを監視するオプションはコンテキストメニューに表示されません。

### フィールド監視の使用

フィールド監視を使用して、フィールドレベルのデバッグ情報にアクセスします。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. フィールドレベルのデバッグ情報を表示するフォームに移動します。
2. フォーム上の任意のフィールドラベルを右クリックしてフィールド監視を有効にし、[監視 **- <field name>]** を選択します。

   フィールドラベルの横にデバッグアイコン ( ) が表示されます。この時点から、フィールド監視は選択したフィールドで実行されるすべてのアクションを記録します。たとえば、[優先度] フィールドを監視している場合、優先度が [中] から [低] に変更され、レコードが更新されると、フィールド監視はその変更に関する情報を表示します。
3. デバッグアイコンをクリックして、フィールド監視ログを表示します。
   画面の下部に新しいペインが開き、[フィールド監視] タブが表示されます。JavaScript ログ記録と JavaScript デバッガー用のタブも表示されます。
4. 必要に応じて [フィールド監視] タブをクリックします。
5. フィールドの監視を停止するには、フィールドを右クリックし、[監視を解除 **- <field name>]** を選択します。
   別のフィールドを監視するには、そのフィールドを右クリックして、[監視 **- <field name>]** を選択します。
6. [ログを消去] ボタン ( ) をクリックして、フィールド監視ログを消去します。
7. スプリッターバーを上下にドラッグして、フィールド監視ペインのサイズを変更します。
   スプリッターバーを画面の下部にドラッグすると、フィールド監視ペインが閉じます。デバッグアイコンを再度クリックして、ペインを再度開きます。

### [フィールド監視] タブの詳細

フィールド監視には、フィールド情報と構成オプションが表示されます。

[フィールド監視] タブの左側には、監視対象フィールドに関する次の情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブル：フィールドが属するテーブル。
- 要素：フィールドラベル。
- タイプ：フィールドに格納されるデータのタイプ。
- 依存：現在のフィールドが依存するフィールド。
- 参照：フィールドの値の発生元のテーブル (該当する場合)。
- 参照修飾子：フィールドのデータを制限する可能性がある参照修飾子。
- 属性：そのフィールドのディクショナリーエントリーで指定されているフィールドの属性。

[フィールド監視] タブの右側で、選択したフィールドについて表示するアクティビティ情報のタイプを選択します。不要な情報タイプのチェックボックスはオフにしてください。

### 非表示のフィールドの監視

管理者は、非表示のフィールドを監視する必要があります。

#### 手順

1. 辞書を使用してフィールドの列名を決定します。
2. 特権を security_admin ロールに昇格させます。
3. 移動先 システム定義 > スクリプトバックグラウンド.
4. [スクリプトを実行 (サーバー上で実行される *JavaScript)]* で、次のコマンドを入力します。

```
gs.getSession ( ). setWatchField ( "hidden_field" ) ;
```

   hidden_field を非表示フィールドの列名に置き換えます。

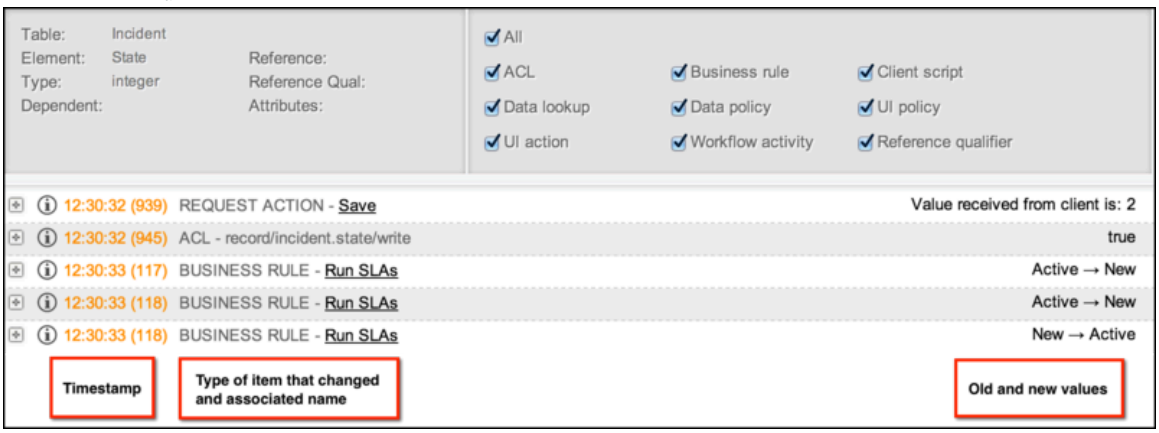
5. 欠落しているフィールドを含むフォームに移動します。

   [フィールド監視] タブの出力には、非表示のフィールドに関する情報が含まれています。

### 監視対象フィールドの情報の表示

監視対象フィールドの情報が変更され、レコードが更新されると、[フィールド監視] タブの下部に関連情報が表示されます。

フィールド監視表示データ




フィールド監視情報には次のものが含まれます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- タイムスタンプ：HH:MM:SS (ミリ秒) 形式を使用した、フィールドが変更された時刻。
  - オレンジ色のテキスト：ACL などのサーバーサイドの変更。
  - 青色のテキスト：クライアントスクリプトなどのクライアントサイドの変更。
- フィールドを変更したオブジェクトのタイプとその関連名：フィールドで変更されたアイテムのタイプ。たとえば、クライアントスクリプト、ビジネスルール、**ACL** などです。スクリプト、ビジネスルール、またはその他の構成タイプのフィールドの場合、フィールド監視はフィールドを変更したスクリプトまたはビジネスルールがあれば、その名前を表示します。名前をクリックすると、そのアイテムのレコードに直接移動します。
- 古い値と新しい値：フィールドの古い値と新しい値 (値が変更された場合) レコードの作成時にデフォルトで値がフォームに挿入された場合、フィールド監視はその値を記録しません。
- 追加情報：フィールドを変更したスクリプトエンジンまたはワークフローの名前などのコールトレース情報。選択を展開するには、プラスアイコンをクリックします。
  - オレンジ色のテキスト：サーバーサイドのアクティビティを示します。
  - 青色のテキスト：クライアントサイドのアクティビティを示します。

### 例：インシデントの優先度の監視

次の例は、[影響度] と [緊急度] の両方のフィールドが変更された場合に、インシデントフォームの [優先度] フィールドに起きる事柄を示しています。

インシデントフォームには、優先度を変更する 2 つのクライアントサイドデータルックアップがあります。また、レコードが保存されると、サーバーサイド ACL とデータルックアップエンジンが起動します。最後に、クライアントサイドの UI ポリシーにより、[優先度] フィールドがデフォルト設定の読み取り専用に戻されます。

インシデントの優先度の監視

| 元の値 |
| --- |
| • 優先度：1 - 重大<br>• 影響：1 - 高<br>• 緊急度：1 - 高 |
| 最初の変更 |
| **1.** ユーザーが [影響度] の値を **[3 -** 低] に変更します。<br>**2.** ServiceNow インシデントでデフォルトで使用される [優先度ルックアップ] データルックアップ定義に基づいて、優先度が自動的に **[3 -** 中] に変更されます。<br>**注:**<br>この時点では、レコードは保存されていません。 |
| 2 番目の変更 |

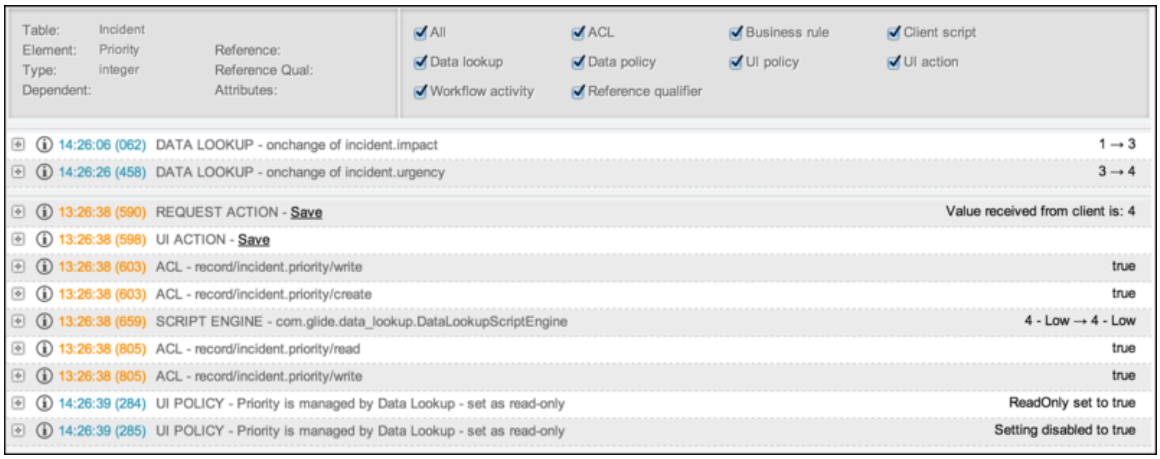
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インシデントの優先度の監視 (続く)

| 元の値 |
| --- |
| **1.** ユーザーが [緊急度] の値を **[2 -** 中] に変更します。<br>**2.** 優先度は、同じ [優先度ルックアップ] データルックアップ定義に基づいて、自動的に **[4 -** 低] に変更されます。<br>**3.** ユーザーは、フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択してレコードを保存します。 |

フィールド監視の例




**注:**
1 から 3 へ、さらに 3 から 4 へと変化する値は、選択リスト内の数値を参照します。

### デバッグログへの書き込み

クライアントサイドの JavaScript または UI ポリシーでデバッグログに書き込むには、グローバル関数 jslog() を呼び出します。

JavaScript で `jslog()` を使用する例：

```
function logData (r ) {
   lastLogDate  = r. responseXML. documentElement. getAttribute ( "last_log_entry" ) ; var
 items  = r. responseXML. getElementsByTagName ( "log" ) ;
   jslog ( "response=" + r. responseText ) ; }
```

また、 クライアントスクリプトが実行されると、クライアントスクリプトの名前とタイミング情報が表示されます。これは、どの スクリプトが実行中であるか、およびそれらがパフォーマンスに影響しているかどうかの判断に役立ちます。

### UI ポリシーのデバッグ

*glide.ui.ui_policy_debug* プロパティを有効にすると、UI アクションの処理を監視できます。

以下は、incident_state がクローズされている場合にフィールドを読み取り専用に設定する、インシデントポリシーのログイベントの例です。

```
GlideFieldPolicy: Evaluating condition
GlideFieldPolicy:    incident_state (7) = 7 -> true
GlideFieldPolicy: --->>> TRUE
GlideFieldPolicy:   Setting opened_at disabled to true
GlideFieldPolicy:   Setting opened_by disabled to true
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
GlideFieldPolicy:   Setting closed_at disabled to true
GlideFieldPolicy:   Setting closed_by disabled to true
GlideFieldPolicy:   Setting company disabled to true
```

### JavaScript ログへのアクセス

ブラウザーで実行される JavaScript (クライアントスクリプトなど) には、情報を JavaScript ログに送信するための jslog() への呼び出しを含めることができます。admin ロールを持つユーザーが、このログにアクセスできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
JavaScript デバッグウィンドウにアクセスする手順は、使用している UI バージョンによって異なります。

> **注:**
> Utah の Next Experience では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。Next Experience でサポートされている機能の詳細については、「Considerations for activating Next Experience」を参照してください。

手順

1. 使用している UI のバージョンの適切な場所に移動して、JavaScript ログを開きます。

| | |
|---|---|
| コア UI | **a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。<br>**b.** [開発者] セクションをクリックします。<br>**c.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] スイッチをオンにします。 |
| UI15 | **a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。<br>**b.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] をクリックします。 |
| UI11 | バナーフレームのデバッグアイコン ( ) をクリックします。 |

画面の下部で新しいペインが開きます。[JavaScript ログ] タブが表示されます。[フィールド監視] タブも表示される場合があります。

2. 必要に応じて、**[JavaScript** ログ] タブを選択します。
3. 必要に応じて、[クリア] アイコン ( ) をクリックして、ログの内容をクリアします。

### JavaScript デバッグウィンドウ

管理者がデバッグをオンにすると、ユーザーインターフェイスの下部ペインに JavaScript デバッグウィンドウが表示されます。

> **注:**
> Utah の Next Experience では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。Next Experience でサポートされている機能の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

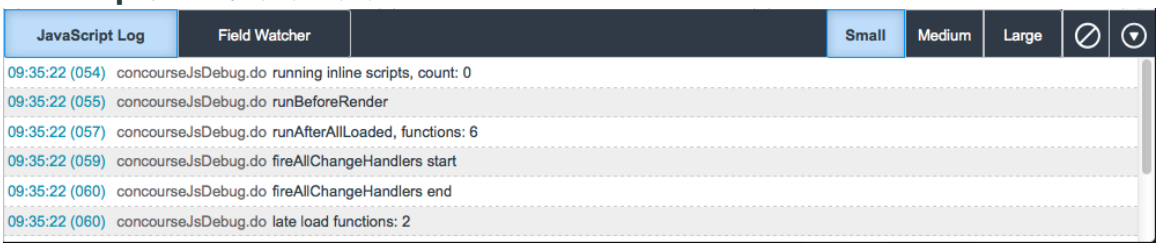
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのツールにアクセスするには、デバッグウィンドウを使用します。

- JavaScript ログ：ブラウザーで実行される JavaScript (クライアントスクリプトなど) には、情報を JavaScript ログに送信するための `jslog()` への呼び出しを含めることができます。
- フィールド監視：選択したフォームフィールドで実行されるすべてのアクションを追跡して表示するツールです。

**JavaScript** デバッグウィンドウ




## **JavaScript** デバッグウィンドウの使用

JavaScript デバッグウィンドウでは、JavaScript ログとフィールド監視ツールにアクセスできます。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### このタスクについて

JavaScript デバッグウィンドウにアクセスする手順は、使用している UI バージョンによって異なります。

> **注:**
> Utah の Next Experience では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。Next Experience でサポートされている機能の詳細については、「Considerations for activating Next Experience」を参照してください。

### 手順

1. UI のバージョンに適した場所に移動して、JavaScript デバッグウィンドウを開きます。

| | |
|---|---|
| コア UI | **a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。<br>**b.** [開発者] セクションをクリックします。<br>**c.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] スイッチをオンにします。 |
| UI15 | **a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。<br>**b.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] をクリックします。 |
| UI11 | バナーフレームのデバッグアイコン ( ) をクリックします。 |

画面の下部に JavaScript デバッグウィンドウが開きます。ウィンドウを閉じたときに最後にアクティブだったタブが、ウィンドウを開いたときにアクティブなタブになります。

2. タブをクリックして、いずれかのデバッグウィンドウ機能を使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- JavaScript ログ
- フィールド監視

関連情報

デバッグログへの書き込み

フィールド監視

### JS Code Coverage Debug

JS Code Coverage Debug アプリケーションを使用すると、管理者とアプリケーション開発者は、ユーザーセッション中にトリガーされたスクリプトを記録し、システムが実行したコードの行を確認できます。

js_coverage_debugger ロールを持つユーザーは、ブレークポイントを設定したり画面上のデバッグメッセージを確認したりすることなく、スクリプトをデバッグできます。代わりに、スクリプト使用データは JavaScript コードカバレッジ [sys_js_code_coverage] テーブルに保存されます。各 JavaScript コードカバレッジレコードには、次のものが含まれます。

- スクリプトを呼び出したユーザーセッション。
- テーブル、sys_id、およびスクリプトフィールドで識別される、システムが呼び出したスクリプトレコード。
- タイプと名前で識別される、システムが呼び出したスクリプトレコード。
- スクリプトを呼び出したトランザクション。
- トランザクションの開始時間。
- システムが実行した行を示すためにハイライト表示されたスクリプトフィールドの内容。

サンプルコード範囲のハイライト表示

Script

```
1  var build = gs.getProperty("glide.buildname");
2  if (GlideStringUtil.notNil(build))
3      build = build.substring(0,1).toLowerCase();
4
5  var collision = new GlideRecord("sys_embedded_help_content");
6  collision.addActiveQuery();
7  collision.addQuery("page", current.page);
8  collision.addQuery("modifier", current.modifier);
9  collision.addQuery("product", current.product);
10 if (current.isValidRecord() && GlideStringUtil.notNil(current.sys_id))
11     collision.addQuery("sys_id", "!=", current.sys_id);
12
13 if (GlideStringUtil.notNil(current.qualifier))
14     collision.addQuery("qualifier", current.qualifier);
15 else
16     collision.addNullQuery("qualifier");
17
18 if (current.version == "all" && GlideStringUtil.notNil(build))
19     collision.addQuery("version", build).addOrCondition("version", "all");
20 else
21     collision.addQuery("version", current.version);
22
23 collision.query();
24 if (collision.next()) {
25     if (collision.canWrite())
26         gs.addErrorMessage(gs.getMessage("Embedded Help Composite Key
Validation"));
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### JS コード範囲のハイライト表示

JS コードカバレッジアプリケーションは、システムが各行を実行したかスキップしたかを示すために、スクリプトフィールドをハイライト表示します。

サンプルコードのハイライト表示

Script

```
1  var build = gs.getProperty("glide.buildname");
2  if (GlideStringUtil.notNil(build))
3      build = build.substring(0,1).toLowerCase();
4
5  var collision = new GlideRecord("sys_embedded_help_content");
6  collision.addActiveQuery();
7  collision.addQuery("page", current.page);
8  collision.addQuery("modifier", current.modifier);
9  collision.addQuery("product", current.product);
10 if (current.isValidRecord() && GlideStringUtil.notNil(current.sys_id))
11     collision.addQuery("sys_id", "!=", current.sys_id);
12
13 if (GlideStringUtil.notNil(current.qualifier))
14     collision.addQuery("qualifier", current.qualifier);
15 else
16     collision.addNullQuery("qualifier");
17
18 if (current.version == "all" && GlideStringUtil.notNil(build))
19     collision.addQuery("version", build).addOrCondition("version", "all");
20 else
21     collision.addQuery("version", current.version);
22
23 collision.query();
24 if (collision.next()) {
25     if (collision.canWrite())
26         gs.addErrorMessage(gs.getMessage("Embedded Help Composite Key
Validation"));
```

ハイライト表示の色は、システムがコード行をどのように評価したかを示します。

コードのハイライト表示の意味

| ハイライト表示の色 | 意味 |
|---|---|
| 緑 | これは、セッション中にシステムが実行した実行可能なコード行です。 |
| 赤 | これは、何らかの理由でシステムがスキップした実行可能なコード行です。必要なスクリプト条件が満たされていないか、スクリプト関数が一度も呼び出されていないために、システムが実行可能なコード行をスキップした可能性があります。スクリプトデバッガ を使用して、システムが実行可能なコード行をスキップした理由を特定できます。 |
| グレイ | これは、空白、コードコメント、または単独では実行できない複数の行にまたがる式の一部など、実行不可能なコード行です。 |

管理者とアプリケーション開発者は、この情報を使用して、スクリプトデバッガ を使用してスクリプト条件が満たされていない理由を特定するなど、よりターゲットを絞ったデバッグアクティビティを行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### JS Code Coverage Debug のアクティブ化

admin ロールを持っている場合は、JS Code Coverage Debug プラグイン (com.glide.js.coverage) をアクティブ化できます。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

   **注:**
   ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

#### 次のタスク
プラグインがインストールしたコンポーネントを表示するには、プラグインフォームを更新して [プラグインファイル] 関連リストを選択します。

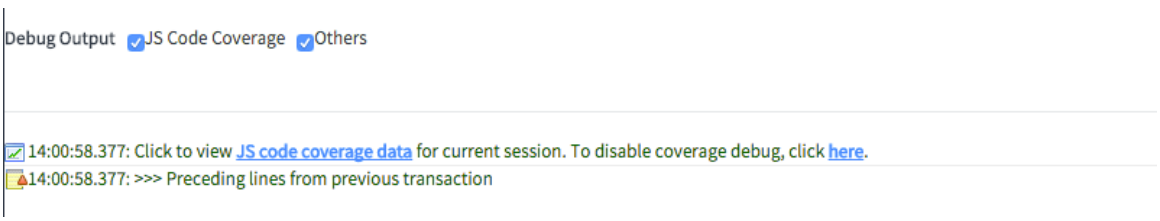
### JS Code Coverage Debug を使用したデバッグ

JS Code Coverage Debug を使用してユーザーセッションを記録し、システムが実行したスクリプトとコード行を確認します。

#### 始める前に
必要なロール：admin または js_coverage_debugger

#### 手順

1. 移動先 すべて > **JS** コードカバレッジのデバッグ > 補償の有効化.
   システムは、システムが実行するスクリプトとコード行をログに記録し、JS コードカバレッジ名前空間にセッションデバッグメッセージを表示します。




2. ロジックをテストするテーブルまたはページに移動します。

   **Example**
   たとえば、次の場所に移動します。 インシデント > 新規作成.
3. テストするスクリプトをトリガーします。

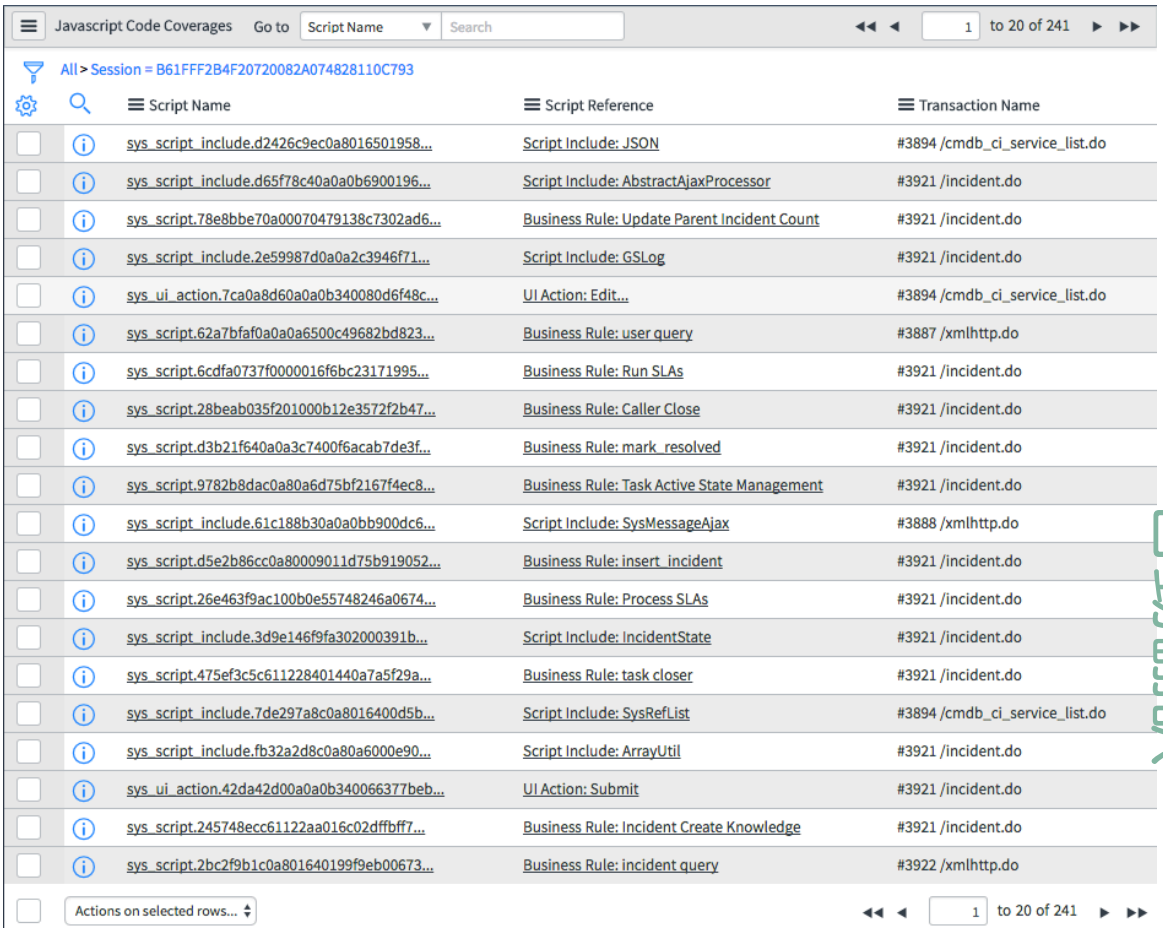
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**
たとえば、関連付けられた CI アイテムを使用してインシデントを作成し、複数のビジネスルールをテストします。

4. テストが完了したら、次に移動します。 **JS** コードカバレッジのデバッグ > 補償の無効化.
ログスクリプトとコード行の実行が停止します。

5. 移動先 **JS** コードカバレッジのデバッグ > 補償データ.
現在のユーザーセッションに関連付けられているカバレッジデータのリストが表示されます。



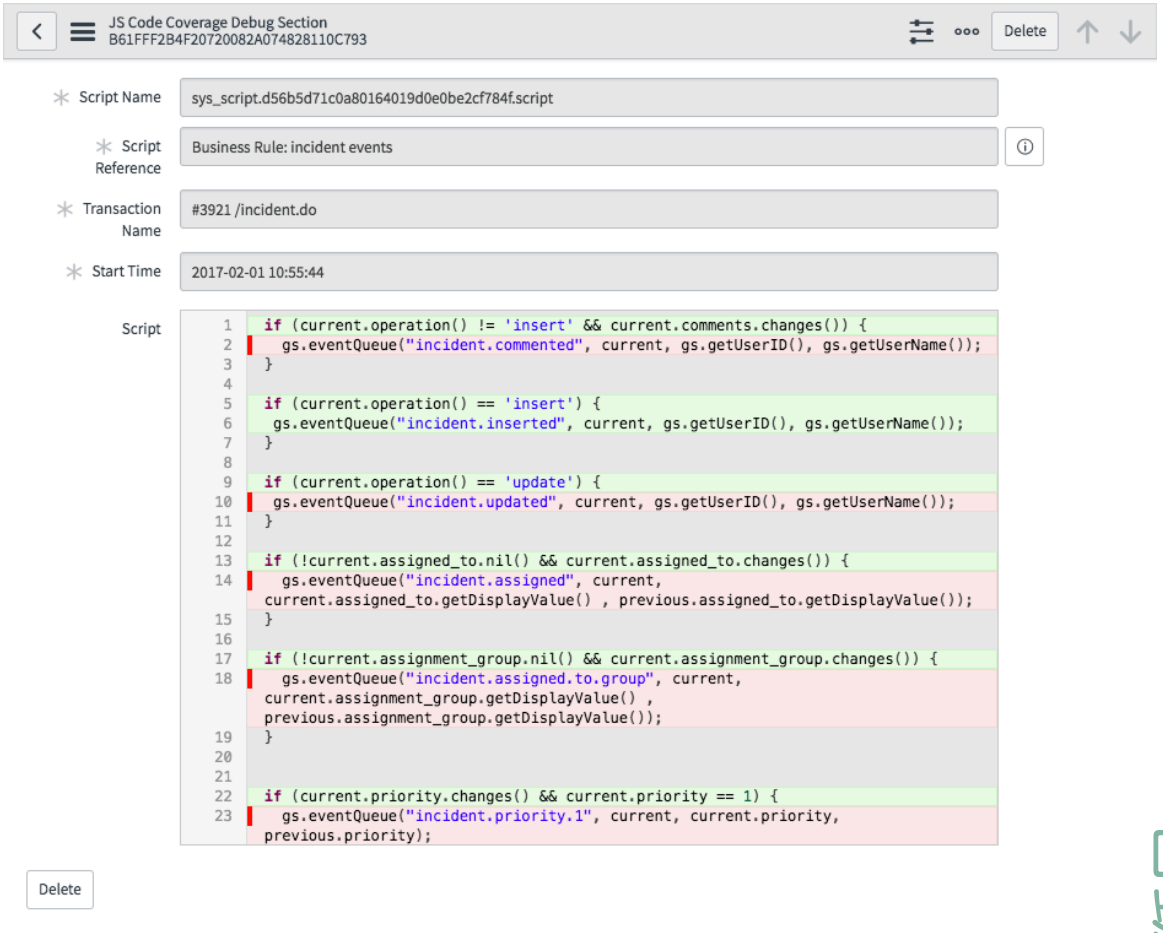

6. レビューするスクリプトまたはトランザクションを選択します。

**JavaScript** コードカバレッジのフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| スクリプト名 | スクリプト実行をテーブル名、sys_id 値、およびスクリプトフィールドで表示します。 |
| スクリプト参照 | スクリプト実行をスクリプトのタイプと名前で表示します。 |
| トランザクション名 | スクリプトを呼び出したトランザクションをスレッド ID と URI で表示します。 |

**Example**
たとえば、「スクリプト参照ビジネスルール：インシデントイベント」を選択します。
JS Code Coverage Debugレコードが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**7.** [スクリプト] フィールドを確認して、システムが実行したコード行を特定します。

**Example**
たとえば、ビジネスルールによって incident.inserted イベントがイベントキューに追加されたとします。

タスクの結果
システムが実行したコード行を特定します。

次のタスク
コードカバレッジ情報を使用して、スクリプトデバッガ によってブレークポイントの設定や変数値の確認など、よりターゲットを絞ったデバッグアクティビティを実行します。

### パッケージコール削除ツール

パッケージコール削除ツールには、スクリプトが含まれている可能性があるフィールドを識別し、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを含むスクリプトを検索し、それらのパッケージコールを排除するための提案されたスクリプト変更を調べるモジュールが用意されています。

**注:**
このツールはデフォルトでは有効になっておらず、admin ロールを持つユーザーのみが使用できます。

ServiceNow Java クラスへのパッケージコールは、将来のリリースでは利用できなくなります。パッケージコール削除ツールは、インスタンスで新しい API を使用するための準備に役立ちます。このツールには、次のスクリプトとページが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- パッケージフィールドを探すスクリプトは、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールのスクリプトをスキャンします。
- パッケージコールを探すスクリプトは、パッケージコールを削除するか、それらを GlideScriptable 名に置き換える変更を提案します。
- [パッケージコールアイテム] ページには、スクリプトに対する提案された変更が一覧表示され、作業することができます。

このツールでは、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールに対する優先的でスクリプト可能な代替手段を生成しようとするときに、エラーが生成される場合があります。

**注:**
パッケージコール削除ツールの実行による変更を移行する前に、更新セットを作成します。詳細については、「更新セットでスタートする」を参照してください。

### パッケージコール削除ツールを有効にする

ツールにアクセスするには、Packages Call Removal Tool プラグインをアクティブにする必要があります。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して Packages Call Removal Tool プラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

   **注:**
   ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

### パッケージコールを探す

パッケージフィールドを探すスクリプトを実行してパッケージコールを検索するフィールドのリストを定義した後、パッケージコールを探すスクリプトを実行して、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを含むフィールドのリストを生成します。スクリプトは変更の提案も行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[(3)** パッケージコールを探す (スクリプト)] をクリックして、パッケージコールに対するフィールドを検索するスクリプトを実行し、パッケージコールアイテムリストに提案された変更を入力します。

   **Example**

   パッケージコールを探す

   [0:00:01.349] Script completed: (3) Find Packages Calls (script)

   ```
   *** Script: Searching Packages Call Fields for Packages calls in script, populating Packages Call Items
   *** Script: Next, go to the 'Packages Call Items' module
   *** Script: Script output below is only relevant to interested admins
   *** Script: ____________________________________________
   *** Script: Searching alm_asset.acquisition_method for Packages calls in script
   *** Script: Searching alm_license.assigned_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching alm_license.entitlement_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching ast_contract.terms_and_conditions for Packages calls in script
   *** Script: Searching catalog_ui_policy.catalog_conditions for Packages calls in script
   *** Script: Searching ci_identifier.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching clm_condition_checker.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching clm_contract_history.terms_and_conditions for Packages calls in script
   *** Script: Searching clone_cleanup_script.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching clone_data_preserver.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmdb_baseline.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmdb_depreciation.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmdb_sw_license_calculation.calculation for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_map_page.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_notif_message.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_notif_service_provider.construction_script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_notif_service_provider.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_relative_duration.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_schedule_condition.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_schedule_page.client_script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_schedule_page.server_script for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_timeline_page.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching cmn_timeline_page_style.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_block.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_block_detail.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_block_lists.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_block_programmatic.programmatic_content for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_page_rule.advanced_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_page_rule.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_type.detail for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_type.summary for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_type_detail.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching content_type_detail.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching contract_sla.pause_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching contract_sla.reset_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching contract_sla.start_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching contract_sla.stop_condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching diagrammer_action.condition for Packages calls in script
   *** Script: Searching diagrammer_action.script for Packages calls in script
   *** Script: Searching discovery_classy_script for Packages calls in script
   ```

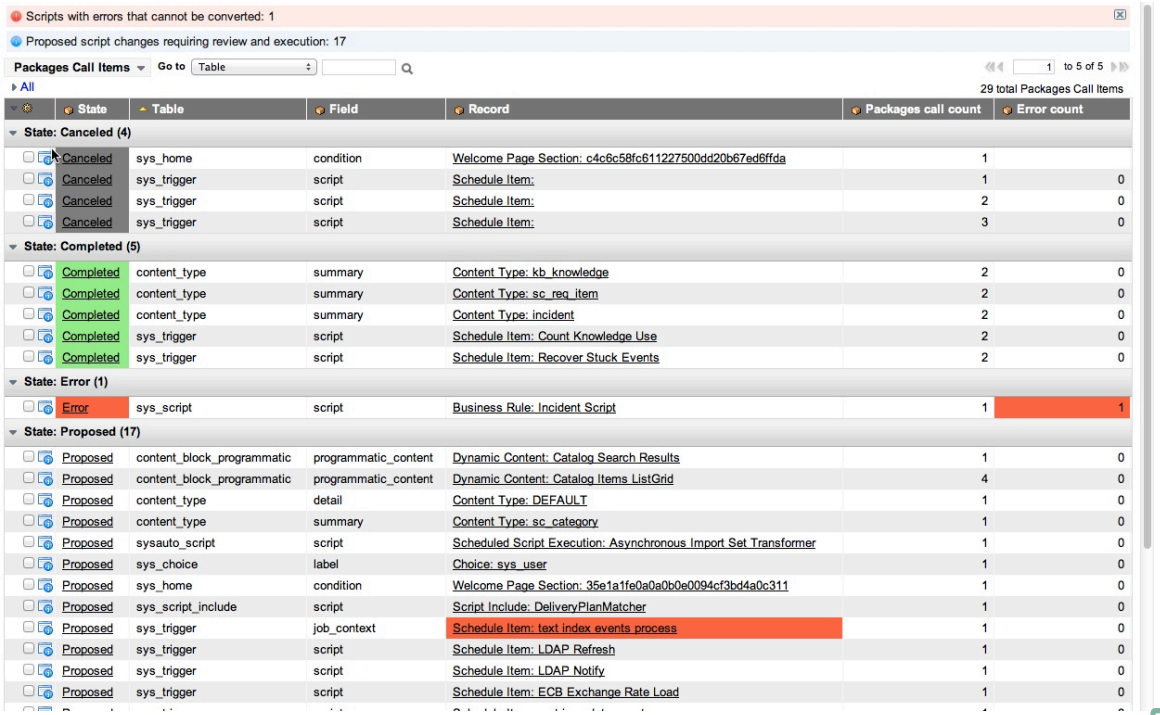
2. **[(4)** パッケージコールアイテム] をクリックすると、影響を受けるフィールドのリストが [パッケージコールアイテム] ページに表示されます。
   [パッケージコールアイテム] ページには、パッケージコールを含むアイテムが一覧表示され、各アイテムの現在のステータス、フィールドを含むテーブル、影響を受けるレコード、フィールドのスクリプトに含まれるパッケージコールの数、および提案されたスクリプトの生成時に発生したエラーの数が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

パッケージコールアイテム




3. [パッケージコールアイテム] ページで、リストされているアイテムのレコードをクリックしてフォームを開き、「パッケージコールの置き換え」の説明に従って変更します。

   リストの処理を行うと、アイテムのステータスが更新され、アイテムが次のステータス別にグループ化されます。

   - 提案済み：フィールドに提案されたリビジョンが存在します。
   - エラー (赤)：提案されたスクリプトの生成時に 1 つ以上のエラーが発生しました。
   - 却下 (グレイ)：提案された変更は却下されました。
   - 完了 (緑)：ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを削除するよう、フィールドが正常に変更されました。
   - キャンセル済み (グレイ)：提案された変更が生成された後に、元のスクリプトが変更されて変更が不要になったか、元のレコードが存在しなくなりました。

### Glide オブジェクト名

パッケージコールを置き換える新しい Glide オブジェクトの名前は、パッケージコールで使用される Java パッケージ名から派生します。

このタスクについて
ツールは、検出された各パッケージコールを自動的に新しいスクリプト可能な名前に置き換えますが、パッケージコールを同等の新しいスクリプト可能オブジェクトに手動で置き換える方法を知っておくと便利な場合もあります。以下の手順を使用して、パッケージコール名から新しいスクリプトオブジェクト名を決定します。置換オブジェクトには、置き換えるオブジェクトと同じメソッドとプロパティが含まれます。

新しいオブジェクト名を決定するには：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. Java パッケージ名の 3 番目の用語に注意してください。
   この用語は、通常は glide ですが、snc または glideapp の場合もあります。
2. すべてのプリフィックス用語を削除し、最後の用語のみを残します。
   たとえば、`Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector` は AbstractBucketCollector になります。
3. 上記の最初のステップで言及した用語の最初の文字を大文字にし、ステップ 2 で定義した用語の前に追加します。
   たとえば、`Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector` は GlideAbstractBucketCollector に、`Packages.com.snc.cmdb.BaselineCMDB` は SncBaselineCMDB になります。
4. スクリプトバックグラウンドで、引用符なしで名前のみを指定して gs.print() コマンドを実行し、名前が有効であることを確認します。
   例：

   ```
   gs.print( SncBaselineCMDB );
   ```

   *** スクリプト：[JavaClass com.snc.cmdb.BaselineCMDB]

   このルールには例外があります。たとえば、「Packages.com.glide.Glide」に代わる「Glide」、「Packages.com.glide.junit.misc.TestExtension」に代わる「TestExtension」、「Packages.com.glide.ui.UINotification」に代わる「UINotification」などです。

### Glide オブジェクト置換リスト

次の表は、Glide クラスとそれらが置き換えるパッケージコールを示しています。

> **注:**
> このリストの公開は、これらのスクリプト可能オブジェクトが顧客、コンサルタント、およびパートナーによって使用されることを意味するものではありません。Glide プリフィックスの使用は、これらのスクリプト可能オブジェクトが GlideRecord などのオブジェクトと同じカテゴリにあるか、同じステータスであることを意味しません。「API リファレンス」でドキュメントが提供されている場合を除き、これらの文書化されていない API は一般的な使用を意図しておらず、ServiceNow, Inc., はそれらを文書化したり、それらに関する質問に回答したり、現在の形式で無期限に維持したりする確約を一切行いません。ServiceNow, Inc. は、今後これらのオブジェクトによって表される機能のサブセットを文書化された API に移行し、それ以外は削除する予定です。

### GlideScriptable オブジェクト置換リスト

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| Glide | Packages.com.glide.Glide |
| GlideAbstractBucketCollector | Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector |
| GlideAbstractDomainProvider | Packages.com.glide.db.domain.AbstractDomainProvider |
| GlideAbstractExecutionPlan | Packages.com.glide.execution_plan.AbstractExecutionPlan |
| GlideAbstractListener | Packages.com.glide.listener.AbstractListener |
| GlideAbstractRenderer | Packages.com.glide.ui.portal.AbstractRenderer |
| GlideAction | Packages.com.glide.script.Action |
| GlideActionManager | Packages.com.glide.ui.action.ActionManager |
| GlideAJAXScheduleItem | Packages.com.glide.schedules.AJAXScheduleItem |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideAJAXSchedulePage | Packages.com.glide.schedules.AJAXSchedulePage |
| GlideAlertActions | Packages.com.glide.alerts.AlertActions |
| GlideappAbstractChoiceListQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.AbstractChoiceListQues |
| GlideappADSILoader | Packages.com.glideapp.ecc.ADSILoader |
| GlideappAJAXMapPage | Packages.com.glideapp.google_maps.AJAXMapPage |
| GlideappCalculationHelper | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CalculationHelper |
| GlideappCart | Packages.com.glideapp.servicecatalog.Cart |
| GlideappCartItem | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CartItem |
| GlideappCatalogCategoryBatcher | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatalogCategoryBatc |
| GlideappCatalogItem | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatalogItem |
| GlideappCategory | Packages.com.glideapp.servicecatalog.Category |
| GlideappCategoryPopper | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CategoryPopper |
| GlideappCatItemPopper | Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatItemPopper |
| GlideappChartParameters | Packages.com.glideapp.chart.ChartParameters |
| GlideappChatRoom | Packages.com.glideapp.live.db.ChatRoom |
| GlideappChatRoom$Error | Packages.com.glideapp.live.db.ChatRoom.Error |
| GlideappCheckBoxQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.CheckBoxQuestion |
| GlideappCMDBHelper | Packages.com.glideapp.ecc.CMDBHelper |
| GlideappCMDBSoftwareHelper | Packages.com.glideapp.ecc.CMDBSoftwareHelper |
| GlideappContainerAwareQuestionSet | Packages.com.glideapp.questionset.ContainerAwareQuestio |
| GlideappContextDiagramProcessor | Packages.com.glideapp.workflow.ui.ContextDiagramProcess |
| GlideappDateQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.DateQuestion |
| GlideappDateTimeQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.DateTimeQuestion |
| GlideappDeliveryPlan | Packages.com.glideapp.servicecatalog.DeliveryPlan |
| GlideappECCInputMessage | Packages.com.glideapp.ecc.ECCInputMessage |
| GlideappECCOutputMessage | Packages.com.glideapp.ecc.ECCOutputMessage |
| Glideapp ECCQueueConnector | Packages.com.glideapp.ecc.ECCQueueConnector |
| GlideappECCQueueProcessor | Packages.com.glideapp.ecc.ECCQueueProcessor |
| GlideappECCResponseMessage | Packages.com.glideapp.ecc.ECCResponseMessage |
| GlideappExpandableText | Packages.com.glideapp.live_feed.HTMLTransformers.Expand |
| GlideappExpertPanelCatalogOrder | Packages.com.glideapp.servicecatalog.ExpertPanelCatalogO |
| GlideappFixes | Packages.com.glideapp.servicecatalog.Fixes |
| GlideappHome | Packages.com.glideapp.home.Home |
| GlideappHomePage | Packages.com.glideapp.home.HomePage |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideappHomePageFactory | Packages.com.glideapp.home.HomePageFactory |
| GlideappIECC | Packages.com.glideapp.ecc.IECC |
| GlideappIOUpgrade | Packages.com.glideapp.servicecatalog.IOUpgrade |
| GlideappItemOptionsQuestionSet | Packages.com.glideapp.servicecatalog.ItemOptionsQuestion |
| GlideappJMSECCReceiver | Packages.com.glideapp.jms.JMSECCReceiver |
| GlideappJMSECCSender | Packages.com.glideapp.jms.JMSECCSender |
| GlideappKBIncludes | Packages.com.glideapp.knowledge.KBIncludes |
| GlideApplication | Packages.com.glide.sys.Application |
| GlideApplicationModule | Packages.com.glide.processors.ApplicationModule |
| GlideappListCollectorQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.ListCollectorQuestion |
| GlideappLiveFeedEventHandler | Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedEventHandler |
| GlideappLiveFeedJournalWriter | Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedJournalWriter |
| GlideappLiveFeedUIAction | Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedUIAction |
| GlideappLiveProfile | Packages.com.glideapp.live_common.LiveProfile |
| GlideappLiveUtils | Packages.com.glideapp.live.LiveUtils |
| GlideappLookupSelectQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.LookupSelectQuestion |
| GlideappMessageTag | Packages.com.glideapp.live_feed.MessageTag |
| GlideappOrderGuide | Packages.com.glideapp.servicecatalog.OrderGuide |
| GlideappProcessQueue | Packages.com.glideapp.ecc.ccmdb.ProcessQueue |
| GlideappQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.Question |
| GlideappQuestionChoice | Packages.com.glideapp.questionset.QuestionChoice |
| GlideappQueueHelper | Packages.com.glideapp.ecc.QueueHelper |
| GlideappQueueReader | Packages.com.glideapp.ecc.QueueReader |
| GlideappReferenceQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.ReferenceQuestion |
| GlideappRequestItemWorkflow | Packages.com.glideapp.servicecatalog.RequestItemWorkflow |
| GlideappRequestNew | Packages.com.glideapp.servicecatalog.RequestNew |
| GlideappScriptHelper | Packages.com.glideapp.servicecatalog.ScriptHelper |
| GlideappSecurityMask | Packages.com.glideapp.servicecatalog.SecurityMask |
| GlideappSequencedQuestionSet | Packages.com.glideapp.questionset.SequencedQuestionSet |
| GlideappTaskApprovalHelper | Packages.com.glideapp.servicecatalog.TaskApprovalHelper |
| GlideappTimeAgo | Packages.com.glideapp.live_feed.TimeAgo |
| GlideappUpdateVersion | Packages.com.glideapp.version.UpdateVersion |
| GlideappUpgradeQuestions | Packages.com.glideapp.survey.UpgradeQuestions |
| GlideappValveProcessor | Packages.com.glideapp.servicecatalog.valve.ValveProcessor |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideappVariable | Packages.com.glideapp.servicecatalog.variables.Variable |
| GlideappVariablePoolQuestionSet | Packages.com.glideapp.servicecatalog.variables.VariablePoo |
| GlideappWizardIntercept | Packages.com.glideapp.wizard.WizardIntercept |
| GlideappWMILoader | Packages.com.glideapp.ecc.WMILoader |
| GlideappWorkflow | Packages.com.glideapp.workflow.Workflow |
| GlideappWorkflowHelper | Packages.com.glideapp.workflow.WorkflowHelper |
| GlideappYesNoQuestion | Packages.com.glideapp.questionset.YesNoQuestion |
| GlideAQueryExplanation | Packages.com.glide.db.explain.AQueryExplanation |
| GlideArchiver | Packages.com.glide.db.auxiliary.Archiver |
| GlideArchiver | Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveRecord |
| GlideArchiveRestore | Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveRestore |
| GlideArchiveStatus | Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveStatus |
| GlideArchiveTable | Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveTable |
| GlideARecurrence | Packages.com.glide.schedule.recurrence.ARecurrence |
| GlideAttachmentIndexDocument | Packages.com.glide.lucene.attachments.AttachmentIndexDo |
| GlideAttachmentIndexTypes | Packages.com.glide.lucene.attachments.AttachmentIndexTyp |
| GlideAttributes | Packages.com.glide.util.GlideAttributes |
| GlideAuditDelete | Packages.com.glide.audit.AuditDelete |
| GlideAuditor | Packages.com.glide.script.Auditor |
| GlideAutomationEncrypter | Packages.com.glide.util.AutomationEncrypter |
| GlideBaseTag | Packages.com.glide.ui.jelly.tags.BaseTag |
| GlideBootstrap | Packages.com.glide.db.impex.Bootstrap |
| GlideBoundedIntProperty | Packages.com.glide.util.BoundedIntProperty |
| GlideCacheManager | Packages.com.glide.sys.cache.CacheManager |
| GlideCalendar | Packages.com.glide.schedule.GlideCalendar |
| GlideCalendarWeekEntry | Packages.com.glide.calendar.GlideCalendarWeekEntry |
| GlideCanceledUITransaction | Packages.com.glide.ui.CanceledUITransaction |
| GlideCascadeFromDelete | Packages.com.glide.db.CascadeFromDelete |
| GlideCatalogCloneWorker | Packages.com.glide.catalog.cloner.CatalogCloneWorker |
| GlideChannel | Packages.com.glide.channel.Channel |
| GlideChannelManager | Packages.com.glide.channel.ChannelManager |
| GlideChannelMessage | Packages.com.glide.channel.ChannelMessage |
| GlideChartFieldColors | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartFieldColors |
| GlideChartGeneratorFactory | Packages.com.glide.ui.chart.ChartGeneratorFactory |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideChartUtil | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartUtil |
| GlideChartValue | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartValue |
| GlideChecksum | Packages.com.glide.util.Checksum |
| GlideChoice | Packages.com.glide.choice.Choice |
| GlideChoiceList | Packages.com.glide.choice.ChoiceList |
| GlideChoiceListGenerator | Packages.com.glide.choice.ChoiceListGenerator |
| GlideChoiceListSet | Packages.com.glide.choice.ChoiceListSet |
| GlideChoiceListUpdateSaver | Packages.com.glide.update.saver.ChoiceListUpdateSaver |
| GlideClientBrowserTimes | Packages.com.glide.client_transaction.ClientBrowserTimes |
| GlideClientNetworkTimes | Packages.com.glide.client_transaction.ClientNetworkTimes |
| GlideClusterMessage | Packages.com.glide.cluster.ClusterMessage |
| GlideClusterState | Packages.com.glide.cluster.ClusterState |
| GlideClusterSynchronizer | Packages.com.glide.cluster.ClusterSynchronizer |
| GlideCMSLinkHelper | Packages.com.glide.cms.CMSLinkHelper |
| GlideCMSPageLink | Packages.com.glide.cms.CMSPageLink |
| GlideCollectionEnumerator | Packages.com.glide.util.CollectionEnumerator |
| GlideCollectionQueryCalculator | Packages.com.glide.ui.CollectionQueryCalculator |
| GlideCollisionDetector | Packages.com.glide.update.collisions.CollisionDetector |
| GlideColumnAttributes | Packages.com.glide.db.impex.ColumnAttributes |
| GlideCompanyResolver | Packages.com.glide.misc.CompanyResolver |
| GlideCompiler | Packages.com.glide.script.Compiler |
| GlideCompositeElement | Packages.com.glide.db.CompositeElement |
| GlideConfiguration | Packages.com.glide.notification.Configuration |
| GlideContentConfig | Packages.com.glide.cms.ContentConfig |
| GlideContentPage | Packages.com.glide.cms.ContentPage |
| GlideContentSite | Packages.com.glide.cms.ContentSite |
| GlideContentType | Packages.com.glide.cms.ContentType |
| GlideContextMenu | Packages.com.glide.db_context_menu.ContextMenu |
| GlideContextMenuItem | Packages.com.glide.db_context_menu.ContextMenuItem |
| GlideContextualSecurityManager | Packages.com.glide.sys.security.ContextualSecurityManager |
| GlideController | Packages.com.glide.script.GlideController |
| GlideConverter | Packages.com.glide.currency.Converter |
| GlideCookieMan | Packages.com.glide.ui.CookieMan |
| GlideCounter | Packages.com.glide.util.Counter |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideCredentials | Packages.com.glide.communications.crypto.Credentials |
| GlideCryptoService | Packages.com.glide.security.CryptoService |
| GlideCSVExporter | Packages.com.glide.generators.CSVExporter |
| GlideCustomerScriptFixer | Packages.com.glide.script.api.CustomerScriptFixer |
| GlideDatabaseVerifier | Packages.com.glide.db.DatabaseVerifier |
| GlideDatabaseViewLink | Packages.com.glide.database_views.DatabaseViewLink |
| GlideDataSource | Packages.com.glide.db.impex.datasource.DataSource |
| GlideDate | Packages.com.glide.glideobject.GlideDate |
| GlideDateTime | Packages.com.glide.glideobject.GlideDateTime |
| GlideDateUtil | Packages.com.glide.util.DateUtil |
| GlideDBAction | Packages.com.glide.db.DBAction |
| GlideDBAggregateQuery | Packages.com.glide.db.DBAggregateQuery |
| GlideDBAggregateUtil | Packages.com.glide.db.DBAggregateUtil |
| GlideDBCategoryDebug | Packages.com.glide.secondary_db_pools.DBCategoryDebug |
| GlideDBChangeManager | Packages.com.glide.db.change.DBChangeManager |
| GlideDBCompositeAction | Packages.com.glide.db.DBCompositeAction |
| GlideDBConfiguration | Packages.com.glide.db.DBConfiguration |
| GlideDBConfigurationManager | Packages.com.glide.db.DBConfigurationManager |
| GlideDBConfigurationManagerEventHandler | Packages.com.glide.db.DBConfigurationManagerEventHandl |
| GlideDBConfigurationParms | Packages.com.glide.db.DBConfigurationParms |
| GlideDBConfigurationV2Migrator | Packages.com.glide.db.DBConfigurationV2Migrator |
| GlideDBConnection | Packages.com.glide.db.pool.DBConnection |
| GlideDBConnectionPool | Packages.com.glide.db.pool.DBConnectionPool |
| GlideDBConnectionPooler | Packages.com.glide.db.pool.DBConnectionPooler |
| GlideDBDelete | Packages.com.glide.db.DBDelete |
| GlideDBI | Packages.com.glide.db.DBI |
| GlideDBImageProvider | Packages.com.glide.db_image.DBImageProvider |
| GlideDBIMySQL | Packages.com.glide.db.rdbms.mysql.DBIMySQL |
| GlideDBIndex | Packages.com.glide.db.DBIndex |
| GlideDBKeyStoreFactory | Packages.com.glide.certificates.DBKeyStoreFactory |
| GlideDBMacro | Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.DBMacro |
| GlideDBMicroStats | Packages.com.glide.db.DBMicroStats |
| GlideDBMultiTargetAction | Packages.com.glide.db.DBMultiTargetAction |
| GlideDBObjectManager | Packages.com.glide.db.DBObjectManager |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideDBObjectToken | Packages.com.glide.db.DBObjectToken |
| GlideDBPoolTest | Packages.com.glide.secondary_db_pools.DBPoolTest |
| GlideDBPropertiesConfig | Packages.com.glide.db.DBPropertiesConfig |
| GlideDBQuery | Packages.com.glide.db.DBQuery |
| GlideDBTypes | Packages.com.glide.db.DBTypes |
| GlideDBUpdate | Packages.com.glide.db.DBUpdate |
| GlideDBUtil | Packages.com.glide.db.DBUtil |
| GlideDBView | Packages.com.glide.db.DBView |
| GlideDebugEvaluator | Packages.com.glide.jsdebug.DebugEvaluator |
| GlideDefaultUpdateSaver | Packages.com.glide.update.saver.DefaultUpdateSaver |
| GlideDiagram | Packages.com.glide.diagrammer.Diagram |
| GlideDiagramAction | Packages.com.glide.diagrammer.DiagramAction |
| GlideDiagramEdge | Packages.com.glide.diagrammer.DiagramEdge |
| GlideDiagramElement | Packages.com.glide.diagrammer.DiagramElement |
| GlideDiagramNode | Packages.com.glide.diagrammer.DiagramNode |
| GlideDistUpgradeRunner | Packages.com.glide.dist.upgrade.runner.DistUpgradeRunner |
| GlideDocument | Packages.com.glide.util.GlideDocument |
| GlideDomain | Packages.com.glide.db.domain.Domain |
| GlideDomainDisplay | Packages.com.glide.db.domain.DomainDisplay |
| GlideDomainHierarchy | Packages.com.glide.db.domain.DomainHierarchy |
| GlideDomainNumberProvider | Packages.com.glide.db.domain.DomainNumberProvider |
| GlideDomainPathDisplay | Packages.com.glide.db.domain.DomainPathDisplay |
| GlideDomainPathProvider | Packages.com.glide.db.domain.DomainPathProvider |
| GlideDomainSpoolProvider | Packages.com.glide.db.domain.DomainSpoolProvider |
| GlideDomainSupport | Packages.com.glide.db.domain.DomainSupport |
| GlideDomainTree | Packages.com.glide.db.domain.DomainTree |
| GlideDomainUtil | Packages.com.glide.db.domain.DomainUtil |
| GlideDomainValidator | Packages.com.glide.db.domain.DomainValidator |
| GlideDuration | Packages.com.glide.glideobject.GlideDuration |
| GlideECBDownloader | Packages.com.glide.currency.ECBDownloader |
| GlideECCQueueTransformer | Packages.com.glide.db.impex.ECCQueueTransformer |
| GlideElement | Packages.com.glide.script.GlideElement |
| GlideElementDescriptor | Packages.com.glide.db.ElementDescriptor |
| GlideElementIterator | Packages.com.glide.util.ElementIterator |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideElementUserImage | Packages.com.glide.script.glide_elements.GlideElementUserI |
| GlideElementXMLSerializer | Packages.com.glide.script.GlideElementXMLSerializer |
| GlideEmail | Packages.com.glide.notification.Email |
| GlideEmailAction | Packages.com.glide.notification.outbound.EmailAction |
| GlideEmailFormatter | Packages.com.glide.notification.outbound.EmailFormatter |
| GlideEmailInbound | Packages.com.glide.notification.inbound.EmailInbound |
| GlideEmailOutbound | Packages.com.glide.notification.outbound.EmailOutbound |
| GlideEmailReader | Packages.com.glide.notification.inbound.EmailReader |
| GlideEmailSender | Packages.com.glide.notification.outbound.EmailSender |
| GlideEmailWatermark | Packages.com.glide.notification.EmailWatermark |
| GlideEmitter | Packages.com.glide.ui.jelly.Emitter |
| GlideEncrypter | Packages.com.glide.util.Encrypter |
| GlideEncryptionContext | Packages.com.glide.sys.EncryptionContext |
| GlideEncryptionContextCipher | Packages.com.glide.sys.security.EncryptionContextCipher |
| GlideEncryptionWrapperDB | Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperDB |
| GlideEncryptionWrapperDBAdmin | Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperDBAdm |
| GlideEncryptionWrapperNAE | Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperNAE |
| GlideEncryptionWrapperNAEAdmin | Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperNAEAdr |
| GlideEscalationManager | Packages.com.glide.escalation.EscalationManager |
| GlideEscalationTimerJobMarkII | Packages.com.glide.job.EscalationTimerJobMarkII |
| GlideEvaluator | Packages.com.glide.script.Evaluator |
| GlideEvent | Packages.com.glide.policy.Event |
| GlideEventManager | Packages.com.glide.policy.EventManager |
| GlideExcelExporter | Packages.com.glide.generators.ExcelExporter |
| GlideExcelLoader2 | Packages.com.glide.db.impex.ExcelLoader2 |
| GlideExecutionPlan | Packages.com.glide.execution_plan.ExecutionPlan |
| GlideExpressionWrapper | Packages.com.glide.ui.jelly.GlideExpressionWrapper |
| GlideExtensionPoint | Packages.com.glide.sys.ExtensionPoint |
| GlideFieldList | Packages.com.glide.processors.FieldList |
| GlideFile | Packages.com.glide.script.proxy.File |
| GlideFileUtil | Packages.com.glide.util.FileUtil |
| GlideFilter | Packages.com.glide.script.Filter |
| GlideFilterList | Packages.com.glide.script.FilterList |
| GlideFixCatalogPlans | Packages.com.glide.fixes.FixCatalogPlans |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideFixDeliveryPlans | Packages.com.glide.fixes.FixDeliveryPlans |
| GlideFixGroups | Packages.com.glide.fixes.FixGroups |
| GlideFixItemOptionsAgain | Packages.com.glide.fixes.FixItemOptionsAgain |
| GlideFixRules | Packages.com.glide.fixes.FixRules |
| GlideFixSpellCheck | Packages.com.glide.fixes.FixSpellCheck |
| GlideFixStuff | Packages.com.glide.fixes.FixStuff |
| GlideFixUsers | Packages.com.glide.fixes.FixUsers |
| GlideForm | Packages.com.glide.ui.GlideForm |
| GlideFormCommon | Packages.com.glide.ui.GlideFormCommon |
| GlideFormulator | Packages.com.glide.ui.GlideFormulator |
| GlideGauge | Packages.com.glide.report.Gauge |
| GlideGovernor | Packages.com.glide.sys.util.Governor |
| GlideGregorianCalendar | Packages.com.glide.util.GlideGregorianCalendar |
| GlideGroup | Packages.com.glide.sys.Group |
| GlideGroupByListTag | Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.GroupByListTag |
| GlideGuid | Packages.com.glide.util.Guid |
| GlideHierarchicalReference | Packages.com.glide.glideobject.HierarchicalReference |
| GlideHistorySet | Packages.com.glide.audit.HistorySet |
| GlideHistoryTag2 | Packages.com.glide.ui.jelly.tags.mergedata.HistoryTag2 |
| GlideHostUtil | Packages.com.glide.util.HostUtil |
| GlideHTTPClient | https://www.youtube.com/watch?feature=player_detailpage |
| GlideHTTPRequest | Packages.com.glide.communications.HTTPRequest |
| GlideHTTPResponse | Packages.com.glide.communications.HTTPResponse |
| GlideI18NStyle | Packages.com.glide.ui.I18NStyle |
| GlideICALUtil | Packages.com.glide.policy.ICALUtil |
| GlideIConstants | Packages.com.glide.util.IConstants |
| GlideIGlideRecord | Packages.com.glide.util.IGlideRecord |
| GlideImageLoader | Packages.com.glide.script.ImageLoader |
| GlideImpersonate | Packages.com.glide.sys.Impersonate |
| GlideImportLog | Packages.com.glide.db.impex.ImportLog |
| GlideImportMap | Packages.com.glide.db.impex.ImportMap |
| GlideImportMapField | Packages.com.glide.db.impex.ImportMapField |
| GlideImportSet | Packages.com.glide.system_import_set.ImportSet |
| GlideImportSetLoader | Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetLoader |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideImportSetRun | Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetRun |
| GlideImportSetTransformer | Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetTransforme |
| GlideImportSetTransformerWorker | Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetTransforme |
| GlideIndexDescriptor | Packages.com.glide.db.IndexDescriptor |
| GlideIndexUtils | Packages.com.glide.db.IndexUtils |
| GlideIntegerTime | Packages.com.glide.glideobject.IntegerTime |
| GlideInternalElementTypeChoiceList | Packages.com.glide.script.InternalElementTypeChoiceList |
| GlideInternalMonitor | Packages.com.glide.ui.monitor.InternalMonitor |
| GlideIOMonitor | Packages.com.glide.ui.monitor.IOMonitor |
| GlideIOStats | Packages.com.glide.db.IOStats |
| GlideIPAddressUtil | Packages.com.glide.util.IPAddressUtil |
| GlideIQueryCondition | Packages.com.glide.util.IQueryCondition |
| GlideIRow | Packages.com.glide.db.meta.IRow |
| GlideIRQuerySummary | Packages.com.glide.db.ir.IRQuerySummary |
| GlideIRQuerySummarySimple | Packages.com.glide.db.ir.IRQuerySummarySimple |
| GlideISecurityManager | Packages.com.glide.sys.security.ISecurityManager |
| GlideITableIterator | Packages.com.glide.db.access.ITableIterator |
| GlideJDBCLoader | Packages.com.glide.db.impex.JDBCLoader |
| GlideJDBCProbeTestWorker | Packages.com.glide.db.impex.JDBCProbeTestWorker |
| GlideJellyContext | Packages.com.glide.ui.jelly.GlideJellyContext |
| GlideJellyRunner | Packages.com.glide.ui.jelly.JellyRunner |
| GlideJID | Packages.com.glide.xmpp.JID |
| GlideJSTestUtil | Packages.com.glide.autotester.JSTestUtil |
| GlideJSUtil | Packages.com.glide.script.JSUtil |
| GlideLabelEventHandler | Packages.com.glide.labels.LabelEventHandler |
| GlideLabelGenerator | Packages.com.glide.db.LabelGenerator |
| GlideLabelUtil | Packages.com.glide.labels.LabelUtil |
| GlideLDAP | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAP |
| GlideLDAPConfig | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPConfig |
| GlideLDAPConfigurations | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPConfigurations |
| GlideLDAPErrorAnalyzer | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPErrorAnalyzer |
| GlideLDAPGroups | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPGroups |
| GlideLDAPRefresh | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPRefresh |
| GlideLDAPResult | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPResult |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideLDAPTarget | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPTarget |
| GlideLDAPTransformQueue | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPTransformQueue |
| GlideLDAPUsers | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPUsers |
| GlideLDAPUserUpdate | Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPUserUpdate |
| GlideList | Packages.com.glide.glideobject.GlideList |
| GlideListGroupProperties | Packages.com.glide.list_v2.ListGroupProperties |
| GlideListLabel | Packages.com.glide.ui.ListLabel |
| GlideListM2MBacking | Packages.com.glide.glideobject.GlideListM2MBacking |
| GlideListProperties | Packages.com.glide.list_v2.ListProperties |
| GlideListSearchQuery | Packages.com.glide.ui.ListSearchQuery |
| GlideLoader | Packages.com.glide.db.impex.Loader |
| GlideLoadTestDirector | Packages.com.glide.load_test.LoadTestDirector |
| GlideLocale | Packages.com.glide.sys.GlideLocale |
| GlideLocaleLoader | Packages.com.glide.currency.LocaleLoader |
| GlideLock | Packages.com.glide.script.Lock |
| GlideLog | Packages.com.glide.util.Log |
| GlideLogCleanup | Packages.com.glide.util.LogCleanup |
| GlideLogFileReader | Packages.com.glide.log_file.LogFileReader |
| GlideLRUCache | Packages.com.glide.sys.cache.LRUCache |
| GlideLuceneTextIndexEvent | Packages.com.glide.lucene.TextIndexEvent |
| GlideMarkupWriter | Packages.com.glide.util.MarkupWriter |
| GlideMemoryActive | Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryActive |
| GlideMemoryCache | Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryCache |
| GlideMemoryRecord | Packages.com.glide.script.GlideMemoryRecord |
| GlideMemorySwap | Packages.com.glide.ui.monitor.MemorySwap |
| GlideMemoryTable | Packages.com.glide.util.MemoryTable |
| GlideMemoryTotal | Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryTotal |
| GlideMetaData | Packages.com.glide.script.MetaData |
| GlideMIDServerInfoAccessor | Packages.com.glide.script.MIDServerInfoAccessor |
| GlideMobileExtensions | Packages.com.glide.ui.MobileExtensions |
| GlideModule | Packages.com.glide.sys.Module |
| GlideMultipleAction | Packages.com.glide.db.MultipleAction |
| GlideMultipleDelete | Packages.com.glide.db.MultipleDelete |
| GlideMultipleInsert | Packages.com.glide.db.MultipleInsert |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideMultipleUpdate | Packages.com.glide.db.MultipleUpdate |
| GlideMutex | Packages.com.glide.sys.lock.Mutex |
| GlideMySQLWatch | Packages.com.glide.sys.stats.MySQLWatch |
| GlideNumber | Packages.com.glide.script.glide_elements.GlideNumber |
| GlideNumberManager | Packages.com.glide.db.NumberManager |
| GlideObjectManager | Packages.com.glide.glideobject.GlideObjectManager |
| GlideObjectUtil | Packages.com.glide.util.ObjectUtil |
| GlideOrderingDefinitionCreator | Packages.com.glide.sorting.OrderingDefinitionCreator |
| GlideOrderingManager | Packages.com.glide.sorting.OrderingManager |
| GlideOutputWriter | Packages.com.glide.ui.io.GlideOutputWriter |
| GlideOutputWriterFactory | Packages.com.glide.ui.io.GlideOutputWriterFactory |
| GlideOverLoadedChoices | Packages.com.glide.script.OverLoadedChoices |
| GlidePartitionMonitor | Packages.com.glide.ui.monitor.PartitionMonitor |
| GlidePivotTableSummaryTableWriter | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.PivotTableSummaryTab |
| GlidePlugin | Packages.com.glide.sys.Plugin |
| GlidePluginManager | Packages.com.glide.sys.PluginManager |
| GlidePluginManagerWorker | Packages.com.glide.sys.PluginManagerWorker |
| GlidePluginUtils | Packages.com.glide.sys.PluginUtils |
| GlidePOP3Reader | Packages.com.glide.notification.inbound.POP3Reader |
| GlidePOP3ReaderJob | Packages.com.glide.job.POP3ReaderJob |
| GlidePopup | Packages.com.glide.ui.Popup |
| GlidePriceGenerator | Packages.com.glide.currency.PriceGenerator |
| GlidePriceLoader | Packages.com.glide.currency.PriceLoader |
| GlideProcessor | Packages.com.glide.processors.Processor |
| GlideProcessRunner | Packages.com.glide.util.ProcessRunner |
| GlideProgressMonitor | Packages.com.glide.worker.ProgressMonitor |
| GlideProgressWorker | Packages.com.glide.worker.ProgressWorker |
| GlideProperties | Packages.com.glide.util.GlideProperties |
| GlidePropertiesDB | Packages.com.glide.util.GlidePropertiesDB |
| GlideProperty | Packages.com.glide.util.GlideProperty |
| GlidePublicPage | Packages.com.glide.ui.PublicPage |
| GlideQueryBreadcrumbs | Packages.com.glide.misc.QueryBreadcrumbs |
| GlideQueryCondition | Packages.com.glide.db.conditions.QueryCondition |
| GlideQueryFormatter | Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.QueryFormatter |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideQueryString | Packages.com.glide.db.QueryString |
| GlideQueryTerm | Packages.com.glide.db.QueryTerm |
| GlideRecord | Packages.com.glide.script.GlideRecord |
| GlideRecordCache | Packages.com.glide.sys.RecordCache |
| GlideRecordEnsurer | Packages.com.glide.misc.RecordEnsurer |
| GlideRecordFactory | Packages.com.glide.script.GlideRecordFactory |
| GlideRecordKeySetLoader | Packages.com.glide.script.GlideRecordKeySetLoader |
| GlideRecordLock | Packages.com.glide.script.RecordLock |
| GlideRecordPopupGenerator | Packages.com.glide.calendar.RecordPopupGenerator |
| GlideRecordRollback | Packages.com.glide.script.GlideRecordRollback |
| GlideRecordSet | Packages.com.glide.script.GlideRecordSet |
| GlideRecordSimpleSerializer | Packages.com.glide.script.GlideRecordSimpleSerializer |
| GlideRecordXMLSerializer | Packages.com.glide.script.GlideRecordXMLSerializer |
| GlideReferenceField | Packages.com.glide.script.ReferenceField |
| GlideRegexUtil | Packages.com.glide.util.RegexUtil |
| GlideRegisterEscalationEvents | Packages.com.glide.fixes.RegisterEscalationEvents |
| GlideRelatedListReconciler | Packages.com.glide.misc.RelatedListReconciler |
| GlideRelationship | Packages.com.glide.sys.Relationship |
| GlideRelationships | Packages.com.glide.db.Relationships |
| GlideRelationshipUtil | Packages.com.glide.sys.RelationshipUtil |
| GlideRemoteGlideRecord | Packages.com.glide.communications.RemoteGlideRecord |
| GlideRenderProperties | Packages.com.glide.ui.RenderProperties |
| GlideReplaceUpdateFiles | Packages.com.glide.util.ReplaceUpdateFiles |
| GlideReplicationEngine | Packages.com.glide.replicator.ReplicationEngine |
| GlideReport | Packages.com.glide.report.Report |
| GlideReportChoiceList | Packages.com.glide.script.ReportChoiceList |
| GlideReportViewManagement | Packages.com.glide.report.ReportViewManagement |
| GlideRequestMap | Packages.com.glide.util.RequestMap |
| GlideRevertToOutOfBox | Packages.com.glide.update.RevertToOutOfBox |
| GlideRhinoEnvironment | Packages.com.glide.script.GlideRhinoEnvironment |
| GlideRhinoHelper | Packages.com.glide.script.GlideRhinoHelper |
| GlideRhinoScope | Packages.com.glide.script.RhinoScope |
| GlideRhinoScopeHandler | Packages.com.glide.script.GlideRhinoScopeHandler |
| GlideRhinoTestCase | Packages.com.glide.autotester.RhinoTestCase |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideRRDBAlertProcessor | Packages.com.glide.rrdb.alerts.RRDBAlertProcessor |
| GlideRRDBDefinition | Packages.com.glide.rrdb.RRDBDefinition |
| GlideRunScriptJob | Packages.com.glide.job.RunScriptJob |
| GlideSchedule | • Packages.com.glide.schedules.Schedule<br>• Packages.java.util.TimeZone |
| GlideScheduleDateTime | Packages.com.glide.glideobject.ScheduleDateTime |
| GlideScheduleDateTimeSpan | Packages.com.glide.schedules.ScheduleDateTimeSpan |
| GlideScheduleItem | Packages.com.glide.schedules.ScheduleItem |
| GlideScheduler | Packages.com.glide.schedule.GlideScheduler |
| GlideScheduleTimeMap | Packages.com.glide.schedules.ScheduleTimeMap |
| GlideScheduleTimeSpan | Packages.com.glide.schedules.ScheduleTimeSpan |
| GlideScriptChoiceList | Packages.com.glide.script.ChoiceList |
| GlideScriptedProgressWorker | Packages.com.glide.worker.ScriptedProgressWorker |
| GlideScriptEvaluator | Packages.com.glide.script.ScriptEvaluator |
| GlideScriptGlobals | Packages.com.glide.script.GlideScriptGlobals |
| GlideScriptListener | Packages.com.glide.listener.ScriptListener |
| GlideScriptProcessor | Packages.com.glide.processors.ScriptProcessor |
| GlideScriptRecordUtil | Packages.com.glide.script.GlideRecordUtil |
| GlideScriptSystemUtilDB | Packages.com.glide.script.GlideSystemUtilDB |
| GlideScriptViewManager | Packages.com.glide.ui.ViewManager |
| GlideScriptWriter | Packages.com.glide.script.ScriptWriter |
| GlideSearchQueryFormatter | Packages.com.glide.text_search.SearchQueryFormatter |
| GlideSecondaryDatabaseBehindnessChecker | Packages.com.glide.secondary_db_pools.SecondaryDatabas |
| GlideSecondaryDatabaseConfiguration | Packages.com.glide.secondary_db_pools.SecondaryDatabas |
| GlideSecurityManager | Packages.com.glide.sys.security.GlideSecurityManager |
| GlideSecurityQueryCalculator | Packages.com.glide.sys.security.SecurityQueryCalculator |
| GlideSecurityUtils | Packages.com.glide.util.SecurityUtils |
| GlideSelfCleaningMutex | Packages.com.glide.sys.lock.SelfCleaningMutex |
| GlideServiceAPIWrapper | Packages.com.glide.service_api.ServiceAPIWrapper |
| GlideServlet | Packages.com.glide.ui.GlideServlet |
| GlideServletRequest | Packages.com.glide.ui.GlideServletRequest |
| GlideServletResponse | Packages.com.glide.ui.GlideServletResponse |
| GlideServletStatus | Packages.com.glide.ui.ServletStatus |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideSession | Packages.com.glide.sys.GlideSession |
| GlideSessionDebug | Packages.com.glide.sys.SessionDebug |
| GlideSessions | Packages.com.glide.ui.Sessions |
| GlideSessionSandbox | Packages.com.glide.script.GlideSessionSandbox |
| GlideShellCommand | Packages.com.glide.util.ShellCommand |
| GlideSimmerDown | Packages.com.glide.db.change.command.SimmerDown |
| GlideSimmerUp | Packages.com.glide.db.change.command.SimmerUp |
| GlideSimpleDateFormatEx | • Packages.com.glide.util.SimpleDateFormatEx<br>• Packages.com.glide.util.SimpleDateFormat<br>注:<br>Packages.com.glide.util.SimpleDateFormatEx パッケージ<br>は、Packages.com.glide.util.SimpleDateFormat パッケージ<br>す。 |
| GlideSimpleHTTPClient | Packages.com.glide.communications.SimpleHTTPClient |
| GlideSimpleScriptListener | Packages.com.glide.listener.SimpleScriptListener |
| GlideSMTPConnection | Packages.com.glide.notification.outbound.SMTPConnection |
| GlideSMTPSender | Packages.com.glide.notification.outbound.SMTPSender |
| GlideSMTPSenderJob | Packages.com.glide.job.SMTPSenderJob |
| GlideSOAPDocument | Packages.com.glide.communications.soap.SOAPDocument |
| GlideSOAPRequest | Packages.com.glide.communications.soap.SOAPRequest |
| GlideSOAPResponse | Packages.com.glide.communications.soap.SOAPResponse |
| GlideSOAPSecurity | Packages.com.glide.processors.soap.SOAPSecurity |
| GlideSOAPSigner | Packages.com.glide.communications.soap.SOAPSigner |
| GlideSocket | Packages.com.glide.script.proxy.Socket |
| GlidesoftGlideAttributesImpl | Packages.com.glidesoft.util.xml.GlideAttributesImpl |
| GlidesoftXMLMemoryTable | Packages.com.glidesoft.util.xml.XMLMemoryTable |
| GlideSQLChildMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLChildMonitor |
| GlideSQLDebug | Packages.com.glide.ui.diagnostics.SQLDebug |
| GlideSQLDeleteMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLDeleteMonitor |
| GlideSQLInsertMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLInsertMonitor |
| GlideSQLResponseMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLResponseMonitor |
| GlideSQLSelectMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLSelectMonitor |
| GlideSQLUpdateMonitor | Packages.com.glide.monitor.sql.SQLUpdateMonitor |
| GlideSSHClient | Packages.com.glide.communications.SSHClient |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideStack | Packages.com.glide.sys.GlideStack |
| GlideStatistician | Packages.com.glide.sys.stats.Statistician |
| GlideStatsInfo | Packages.com.glide.monitor.StatsInfo |
| GlideStatus | Packages.com.glide.util.GlideStatus |
| GlideStopWatch | Packages.com.glide.util.StopWatch |
| GlideStorageUtils | Packages.com.glide.db.meta.StorageUtils |
| GlideStringCache | Packages.com.glide.sys.cache.StringCache |
| GlideStringInputStream | Packages.com.glide.util.StringInputStream |
| GlideStringList | Packages.com.glide.collections.StringList |
| GlideStringUtil | Packages.com.glide.util.StringUtil |
| GlideSubQuery | Packages.com.glide.db.conditions.SubQuery |
| GlideSubstituteURL | Packages.com.glide.notification.substitution.SubstituteURL |
| GlideSummaryTableGroupReader | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableGroupRe |
| GlideSummaryTableOrderedReader | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableOrderedR |
| GlideSummaryTableReader | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableReader |
| GlideSummaryTableWriter | Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableWriter |
| GlideSynchronizedLRUCache | Packages.com.glide.sys.cache.SynchronizedLRUCache |
| GlideSysAttachment | Packages.com.glide.ui.SysAttachment |
| GlideSysAttachmentInputStream | Packages.com.glide.ui.SysAttachmentInputStream |
| GlideSysBRThreadMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysBRThreadMonitor |
| GlideSysChoice | Packages.com.glide.script.SysChoice |
| GlideSysConcurrencyMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysConcurrencyMonito |
| GlideSysCPUThreadMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysCPUThreadMonitor |
| GlideSysDateUtil | Packages.com.glide.sys.util.SysDateUtil |
| GlideSysDBThreadMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysDBThreadMonitor |
| GlideSysField | Packages.com.glide.db.SysField |
| GlideSysFileUtil | Packages.com.glide.sys.util.SysFileUtil |
| GlideSysForm | Packages.com.glide.ui.SysForm |
| GlideSysForms | Packages.com.glide.ui.SysForms |
| GlideSysList | Packages.com.glide.ui.SysList |
| GlideSysListControl | Packages.com.glide.ui.SysListControl |
| GlideSysLog | Packages.com.glide.sys.SysLog |
| GlideSYSMany2Many | Packages.com.glide.db.SYSMany2Many |
| GlideSysMessage | Packages.com.glide.ui.SysMessage |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideSysNetThreadMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysNetThreadMonitor |
| GlideSysRelatedList | Packages.com.glide.ui.SysRelatedList |
| GlideSysSection | Packages.com.glide.ui.SysSection |
| GlideSysSemaphore | Packages.com.glide.sys.util.SysSemaphore |
| GlideSystem | Packages.com.glide.script.GlideSystem |
| GlideSystemDateUtil | Packages.com.glide.script.system.GlideSystemDateUtil |
| GlideSystemUtil | Packages.com.glide.util.SystemUtil |
| GlideSystemUtilDB | Packages.com.glide.script.system.GlideSystemUtilDB |
| GlideSystemUtilScript | Packages.com.glide.script.system.GlideSystemUtilScript |
| GlideSysThreadMonitor | Packages.com.glide.monitor.threads.SysThreadMonitor |
| GlideSysUserList | Packages.com.glide.ui.SysUserList |
| GlideTable | Packages.com.glide.db.meta.Table |
| GlideTableChoiceList | Packages.com.glide.script.TableChoiceList |
| GlideTableCleaner | Packages.com.glide.misc.TableCleaner |
| GlideTableCleanerJob | Packages.com.glide.job.TableCleanerJob |
| GlideTableCreator | Packages.com.glide.db.impex.TableCreator |
| GlideTableDescriptor | Packages.com.glide.db.TableDescriptor |
| GlideTableGroupMover | Packages.com.glide.db.auxiliary.TableGroupMover |
| GlideTableManager | Packages.com.glide.db.TableManager |
| GlideTableMover | Packages.com.glide.db.auxiliary.TableMover |
| GlideTableParentChange | Packages.com.glide.db.table.TableParentChange |
| GlideTableParentColumnChange | Packages.com.glide.db.table.TableParentColumnChange |
| GlideTaskToken | Packages.com.glide.execution_plan.TaskToken |
| GlideTemplate | Packages.com.glide.script.Template |
| GlideTestAgent | Packages.com.glide.autotester.GlideTestAgent |
| GlideTextIndexEvent | Packages.com.glide.ts.event.TextIndexEvent |
| GlideThreadAttributes | Packages.com.glide.ui.GlideThreadAttributes |
| GlideThreadUtil | Packages.com.glide.util.ThreadUtil |
| GlideTime | Packages.com.glide.glideobject.GlideTime |
| GlideTimelineFrameSeparator | Packages.com.glide.schedules.TimelineFrameSeparator |
| GlideTimelineItem | Packages.com.glide.schedules.TimelineItem |
| GlideTimelineSpan | Packages.com.glide.schedules.TimelineSpan |
| GlideTomcatHelper | Packages.com.glide.startup.TomcatHelper |
| GlideTransaction | Packages.com.glide.sys.Transaction |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideTransactionManager | Packages.com.glide.sys.TransactionManager |
| GlideTransferAuditDataHelper | Packages.com.glide.audit.TransferAuditDataHelper |
| GlideTransformer | Packages.com.glide.db.impex.transformer.Transformer |
| GlideTreePicker | Packages.com.glide.ui.TreePicker |
| GlideTSAnalysisViewer | Packages.com.glide.ts.cluster.TSAnalysisViewer |
| GlideTSAnalyticsProcessor | Packages.com.glide.ts.cluster.TSAnalyticsProcessor |
| GlideTSChainsHandler | Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsHandler |
| GlideTSChainsLoader | Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsLoader |
| GlideTSChainsPusher | Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsPusher |
| GlideTSChainsSummarizer | Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsSummarizer |
| GlideTSClusterDefinitions | Packages.com.glide.ts.cluster.TSClusterDefinitions |
| GlideTSDebug | Packages.com.glide.ts.util.TSDebug |
| GlideTSDidYouMean | Packages.com.glide.ts.util.TSDidYouMean |
| GlideTSGlobalKeywordSummarizer | Packages.com.glide.ts.trends.TSGlobalKeywordSummarizer |
| GlideTSIndexStatistician | Packages.com.glide.ts.stats.TSIndexStatistician |
| GlideTSIndexStopGenerator | Packages.com.glide.ts.stats.TSIndexStopGenerator |
| GlideTSIndexTables | Packages.com.glide.ts.indexer.TSIndexTables |
| GlideTSKeywordHandler | Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordHandler |
| GlideTSKeywordLoader | Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordLoader |
| GlideTSKeywordPusher | Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordPusher |
| GlideTSMoversViewer | Packages.com.glide.ts.cluster.TSMoversViewer |
| GlideTSSearchStatistician | Packages.com.glide.ts.stats.TSSearchStatistician |
| GlideTSSearchSummary | Packages.com.glide.ts.trends.TSSearchSummary |
| GlideTSTopSearches | Packages.com.glide.ts.util.TSTopSearches |
| GlideTSUtil | Packages.com.glide.ts.util.TSUtil |
| GlideTSVersion | Packages.com.glide.ts.TSVersion |
| GlideUIAction | Packages.com.glide.ui.action.UIAction |
| GlideUISession | Packages.com.glide.ui.Session |
| GlideUnloader | Packages.com.glide.db.impex.Unloader |
| GlideUpdateManager2 | Packages.com.glide.update.UpdateManager2 |
| GlideUpdateSet | Packages.com.glide.update.UpdateSet |
| GlideUpdateSetController | Packages.com.glide.system_update_set.UpdateSetController |
| GlideUpdateSetPreviewer | Packages.com.glide.update.UpdateSetPreviewer |
| GlideUpdateSetWorker | Packages.com.glide.update.UpdateSetWorker |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| GlideUpdateSyncher | Packages.com.glide.policy.UpdateSyncher |
| GlideUpdateTableChoiceList | Packages.com.glide.script.UpdateTableChoiceList |
| GlideUpgrade | Packages.com.glide.sys.Upgrade |
| GlideUpgradeArtifactManager | Packages.com.glide.misc.UpgradeArtifactManager |
| GlideUpgradeLog | Packages.com.glide.update.UpgradeLog |
| GlideUpgradeMonitor | Packages.com.glide.update.UpgradeMonitor |
| GlideURI | Packages.com.glide.ui.GlideURI |
| GlideURL | Packages.com.glide.util.GlideURL |
| GlideURLUTF8Encoder | Packages.com.glide.util.URLUTF8Encoder |
| GlideURLUtil | Packages.com.glide.util.URLUtil |
| GlideUser | Packages.com.glide.sys.User |
| GlideUserAuthenticator | Packages.com.glide.sys.UserAuthenticator |
| GlideUserGroup | Packages.com.glide.sys.UserGroup |
| GlideUtil | Packages.com.glide.util.GlideUtil |
| GlideViewRuleNavigator | Packages.com.glide.ui.ViewRuleNavigator |
| GlideWarDeleter | Packages.com.glide.misc.WarDeleter |
| GlideWarDownloader | Packages.com.glide.misc.WarDownloader |
| GlideWhiteListManager | Packages.com.glide.script.api.GlideWhiteListManager |
| GlideWikiModel | Packages.com.glide.wiki.GlideWikiModel |
| GlideWorkerThread | Packages.com.glide.worker.WorkerThread |
| GlideWorkerThreadManager | Packages.com.glide.sys.WorkerThreadManager |
| GlideWSClient | Packages.com.glide.util.WSClient |
| GlideWSDefinition | Packages.com.glide.wsdlreader.WSDefinition |
| GlideWSDLReader | Packages.com.glide.wsdlreader.GlideWSDLReader |
| GlideXMLChoiceListSerializer | Packages.com.glide.choice.XMLChoiceListSerializer |
| GlideXMLDocument | Packages.com.glide.util.XMLDocument |
| GlideXMLElementIterator | Packages.com.glide.util.XMLElementIterator |
| GlideXMLGlideRecordSerializer | Packages.com.glide.processors.xmlhttp.XMLGlideRecordSer |
| GlideXMLParameters | Packages.com.glide.util.XMLParameters |
| GlideXMLStats | Packages.com.glide.ui.XMLStats |
| GlideXMLSysMetaSerializer | Packages.com.glide.processors.xmlhttp.XMLSysMetaSerializ |
| GlideXMLUtil | Packages.com.glide.util.XMLUtil |
| GlideZipUtil | Packages.com.glide.util.ZipUtil |
| RhinoEnvironment | Packages.com.glide.script.RhinoEnvironment |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| RhinoHelper | Packages.com.glide.script.RhinoHelper |
| SecurelyAccess | Packages.com.glide.sys.util.SecurelyAccess |
| ServiceAPI | Packages.com.glide.service_api.ServiceAPI |
| SncAddress32Bit | Packages.com.snc.commons.networks.Address32Bit |
| SncAliasApplier | Packages.com.snc.field_normalization.AliasApplier |
| SncAppFiles | Packages.com.snc.apps.api.AppFiles |
| SncApplicationFileListener | Packages.com.snc.apps.db.ApplicationFileListener |
| SncAppsAccess | Packages.com.snc.apps.api.AppsAccess |
| SncAppsUI | Packages.com.snc.apps.api.AppsUI |
| SncASensor | Packages.com.snc.discovery.sensor.ASensor |
| SncAuthentication | Packages.com.snc.authentication.digest.Authentication |
| SncBaselineCMDB | Packages.com.snc.cmdb.BaselineCMDB |
| SncBulkCopy | Packages.com.snc.ha.clone.BulkCopy |
| SncClassifiedProcess | Packages.com.snc.discovery.sensor.ClassifiedProcess |
| SncClassify | Packages.com.snc.discovery.sensor.snmp.Classify |
| SncCloneController | Packages.com.snc.ha.clone.CloneController |
| SncCloneInstance | Packages.com.snc.ha.clone.instance.Instance |
| SncCloneLogger | Packages.com.snc.ha.clone.CloneLogger |
| SncCloneTask | Packages.com.snc.ha.clone.CloneTask |
| SncCloneUtils | Packages.com.snc.ha.clone.CloneUtils |
| SncConfiguration | Packages.com.snc.field_normalization.db.Configuration |
| SncConfigurations | Packages.com.snc.field_normalization.Configurations |
| SncConnectionTest | Packages.com.snc.ha.connectivity.ConnectionTest |
| SncDBChangeManagerFactoryHA | Packages.com.snc.db.clone.change.DBChangeManagerFact |
| SncDeviceHistory | Packages.com.snc.discovery.logging.DeviceHistory |
| SncDiscoveryCancel | Packages.com.snc.discovery.DiscoveryCancel |
| SncDiscoveryClassification | Packages.com.snc.discovery.DiscoveryClassification |
| SncDiscoveryLog | Packages.com.snc.discovery.logging.DiscoveryLog |
| SncDiscoveryRanges | Packages.com.snc.commons.networks.DiscoveryRanges |
| SncDiscoveryRangesDB | Packages.com.snc.discovery.DiscoveryRangesDB |
| SncDiscoveryReconciler | Packages.com.snc.discovery.database.DiscoveryReconciler |
| SncDiscoverySNMPClassification | Packages.com.snc.discovery.sensor.snmp.DiscoverySNMPC |
| SncDiscoveryUtils | Packages.com.snc.discovery.DiscoveryUtils |
| SncDropBackupTablesTask | Packages.com.snc.ha.clone.instance.DropBackupTablesTask |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| SncDropTablesTask | Packages.com.snc.ha.clone.DropTablesTask |
| SncEC2Properties | Packages.com.snc.ec2.EC2Properties |
| SncECMDBUtil | Packages.com.snc.cmdb.ECMDBUtil |
| SncElrondClient | Packages.com.snc.customer_logon.ElrondClient |
| SncExpert | Packages.com.snc.expert.Expert |
| SncExpertInstance | Packages.com.snc.expert.ExpertInstance |
| SncExpertPanel | Packages.com.snc.expert.ExpertPanel |
| SncExtantDataJob | Packages.com.snc.field_normalization.db.ExtantDataJob |
| SncExtantDataJobState | Packages.com.snc.field_normalization.ExtantDataJobState |
| SncFailoverController | Packages.com.snc.da.gateway.replication.FailoverController |
| SncFileTree | Packages.com.snc.apps.file.FileTree |
| SncGatewayCache | Packages.com.snc.da.gateway.GatewayCache |
| SncGatewayClone | Packages.com.snc.da.gateway.clone.GatewayClone |
| SncGatewayConnectivity | Packages.com.snc.da.gateway.GatewayConnectivity |
| SncGatewayPluginStartup | Packages.com.snc.da.gateway.replication.GatewayPluginSta |
| SncGatewayTruncateHierarchy | Packages.com.snc.da.gateway.clone.GatewayTruncateHiera |
| SncGlideGateways | Packages.com.snc.da.gateway.GlideGateways |
| SncHAClone | Packages.com.snc.ha.clone.HAClone |
| SncHAConnectionTest | Packages.com.snc.ha.connectivity.HAConnectionTest |
| SncHADatabaseCheck | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HADatabaseCheck |
| SncHAPairingUtils | Packages.com.snc.ha.HAPairingUtils |
| SncHAReplicationController | Packages.com.snc.ha.HAReplicationController |
| SncHAReplicationQueueSnapshotBuilder | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HAReplicationQueueSnaps |
| SncHATableCheck | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableCheck |
| SncHATableCheckThread | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableCheckThread |
| SncHATableQuickCheck | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableQuickCheck |
| SncHATableRepair | Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableRepair |
| SncHAUtils | Packages.com.snc.ha.HAUtils |
| SncHostname | Packages.com.snc.discovery.utils.Hostname |
| SncInstanceClone | Packages.com.snc.ha.clone.instance.InstanceClone |
| SncInstanceConnectionTest | Packages.com.snc.ha.connectivity.InstanceConnectionTest |
| SncInstanceRollback | Packages.com.snc.ha.clone.instance.InstanceRollback |
| SncIPAddressV4 | Packages.com.snc.commons.networks.IPAddressV4 |
| SncIPAddressV6 | Packages.com.snc.commons.networks.IPAddressV6 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| SncIPAuthenticator | Packages.com.snc.ipauthenticator.IPAuthenticator |
| SncIPIterator | Packages.com.snc.commons.networks.IPIterator |
| SncIPList | Packages.com.snc.commons.networks.IPList |
| SncIPMetaCollection | Packages.com.snc.commons.networks.IPMetaCollection |
| SncIPNetmaskV4 | Packages.com.snc.commons.networks.IPNetmaskV4 |
| SncIPNetworkV4 | Packages.com.snc.commons.networks.IPNetworkV4 |
| SncIPRangeV4 | Packages.com.snc.commons.networks.IPRangeV4 |
| SncJRobinGraphDef | Packages.com.snc.jrobin.JRobinGraphDef |
| SncLayer7Connections | Packages.com.snc.discovery.Layer7Connections |
| SncMACAddress | Packages.com.snc.commons.networks.MACAddress |
| SncMACAddressMfr | Packages.com.snc.commons.networks.MACAddressMfr |
| SncMakeAndModel | Packages.com.snc.cmdb.MakeAndModel |
| SncMIDConfigParameter | Packages.com.snc.commons.MIDConfigParameter |
| SncMIDServerRangesDB | Packages.com.snc.discovery.MIDServerRangesDB |
| SncNormalCoalescer | Packages.com.snc.field_normalization.NormalCoalescer |
| SncNormalizer | Packages.com.snc.field_normalization.Normalizer |
| SncNormalValueChanger | Packages.com.snc.field_normalization.NormalValueChanger |
| SncNotifySNC | Packages.com.snc.system.NotifySNC |
| SncOnCallRotation | Packages.com.snc.on_call_rotation.OnCallRotation |
| SncPendingValueCollector | Packages.com.snc.field_normalization.PendingValueCollector |
| SncPreferences | Packages.com.snc.field_normalization.Preferences |
| SncPrintServerHelper | Packages.com.snc.discovery.database.PrintServerHelper |
| SncProbe | Packages.com.snc.discovery.Probe |
| SncProbeRunTime | Packages.com.snc.discovery.perfmon.ProbeRunTime |
| SncRBSensorProcessor | Packages.com.snc.discovery_automation.RBSensorProcessor |
| SncReadTest | Packages.com.snc.ha.ReadTest |
| SncReclassifyCI | Packages.com.snc.cmdb.ReclassifyCI |
| SncRelationships | Packages.com.snc.cmdb.Relationships |
| SncReplicationAdvisor | Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationAdvisor |
| SncReplicationEngine | Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationEngine |
| SncReplicationQueue | Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationQueue |
| SncRequestCredentials | Packages.com.snc.customer_logon.RequestCredentials |
| SncRrdGlideBackendFactory | Packages.com.snc.jrobin.RrdGlideBackendFactory |
| SncRuleApplier | Packages.com.snc.field_normalization.RuleApplier |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GlideScriptable** オブジェクト置換リスト (続く)

| GlideScriptable クラス | パッケージコール |
|---|---|
| SncRuleToPending | Packages.com.snc.field_normalization.RuleToPending |
| SncSAMCounter | Packages.com.snc.software_asset_management.SAMCounte |
| SncScheduleDropBackupTablesTask | Packages.com.snc.ha.clone.instance.ScheduleDropBackupTa |
| SncScrapeIANAEnterpriseNumbers | Packages.com.snc.discovery.database.ScrapeIANAEnterpris |
| SncScrapeIEEENICCodes | Packages.com.snc.discovery.database.ScrapeIEEENICCodes |
| SncSendNotificationTask | Packages.com.snc.ha.clone.instance.SendNotificationTask |
| SncSensorProcessor | Packages.com.snc.discovery.SensorProcessor |
| SncSerialNumber | Packages.com.snc.discovery.SerialNumber |
| SncSerialNumberList | Packages.com.snc.discovery.SerialNumberList |
| SncSessionMate | Packages.com.snc.discovery.SessionMate |
| SncSimmerControl | Packages.com.snc.ha.clone.instance.SimmerControl |
| SncTableEditor | Packages.com.snc.apps.api.TableEditor |
| SncTableRotation | Packages.com.snc.db.replicate.TableRotation |
| SncTableRotationExtension | Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationExtension |
| SncTableRotationExtensions | Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationExtensions |
| SncTableRotationWatcher | Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationWatcher |
| SncTransformApplier | Packages.com.snc.field_normalization.TransformApplier |
| SncTreeBuilder | Packages.com.snc.apps.tree.TreeBuilder |
| SncTriggerSynchronizer | Packages.com.snc.automation.TriggerSynchronizer |
| SncValue | Packages.com.snc.field_normalization.db.Value |
| TestExtension | Packages.com.glide.junit.misc.TestExtension |
| UINotification | Packages.com.glide.ui.UINotification |

### パッケージコール削除ツールのエラータイプ

パッケージコール削除ツールによって生成される可能性のあるエラータイプを次に示します。

エラー タイプ

| エラーメッセージ | 説明 | ソリューション |
|---|---|---|
| クラス名を解析できませんでした | スクリプトの行にパッケージコールのような記述 (Packages.com.glide を含む行など) が含まれていますが、調べたところ、スクリプト可能オブジェクト名に対応するクラス名を解析するためのテキストが不十分です。 | 通常、このエラータイプは問題になりませんが、何らかの理由でパーサーが解析できない有効なクラスをスクリプトが参照している場合は、エラーとしてフラグが付けられます。 |
| クラスが存在 | スクリプトの行に、存在しない Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあり | このエラータイプは通常、作成者が意図したことをかつては実行していたとしても、 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラー タイプ (続く)

| エラーメッセージ | 説明 | ソリューション |
| --- | --- | --- |
| しません | ます。これは、誤って入力されたか、Java クラスが存在しなくなったことが原因である可能性があります。いずれの場合も、スクリプトの行は現在何も実行しておらず、実行されると常にエラーが生成される可能性があります。 | 現在は実行していないスクリプトを示します。元のスクリプトを再確認し、無効なパッケージコールを削除する必要があります。 |
| クラスがスクリプト可能クラスではありません | スクリプトの行に、現在スクリプト可能とマークされていない既存の ServiceNow Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあります。現在、対応するスクリプト可能な名前がないため、コールを置き換えることはできません。 | このスクリプトを変換するには、Java クラスを使用しないようにスクリプトを書き換えるか、ServiceNow, Inc., がクラスにスクリプト可能な名前を提供するまで待ちます。 |
| クラスにスクリプト可能な名前がありません | スクリプトの行に、現在スクリプト可能な名前のない既存の ServiceNow Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあります。 | このエラーは「クラスがスクリプト可能クラスではありません」エラーよりも発生する可能性は低いですが、そのエラーと同様、このスクリプトを変換するには、Java クラスを使用しないようにスクリプトを書き換えるか、ServiceNow, Inc., がクラスにスクリプト可能な名前を提供するまで待ちます。 |
| アサインされる変数名がスクリプト可能な名前と競合しています | 変数名がスクリプト可能な名前と同じです。たとえば、変数名 GlideSession が GlideSession Java クラスのスクリプト可能な名前と同じであるため、`var GlideSession = Packages.com.glide.sys.GlideSession.get();` でこのエラーが生成されます。 | このスクリプトを変換するには、その変数名をスクリプト内のすべての出現箇所で変更する必要があります。この例では、該当行を `var gsession = Packages.com.glide.sys.GlideSession.get();` に変更して、競合を解消できます。また、スクリプト内で使用されている他のすべての場所でも、必ず変数名を変更します。 |
| 内部エラー - 置換する文字列が見つかりません | ツールで、パッケージコールの置換を現在評価しているスクリプトテキストを見つけることができません。 | このエラータイプが発生することはほとんどありません。発生した場合は、コードを調べてエラーを修正します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、テクニカルサポートでインシデントを開きます。 |

## Service Creator

Service Creator は、HR 部門が今後の教育のための授業料払い戻しを提供するといったサービスカタログを通じて部門がカスタムサービスを提供するのを可能にします。

発行された各サービスには、関連するレコードプロデューサのカタログアイテムがあります。管理者として指定されたユーザーとエディターは、これらのカタログアイテムを生成し設計します。エンドユーザーは、カタログアイテムを注文することによってサービスを要求できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのサービスは、関連するアプリケーションとモジュールがある発行されているサービスカテゴリに属しています。ユーザーがサービスのカタログアイテムを注文すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリのアプリケーション内に新しいタスクレコードを作成します。部門のサービス実行者として指定されたユーザーは、これらのサービス要求を満たすためのタスクを完了します。

### Service Creator のプロセス

Service Creator プロセスには、サービスカテゴリの要求と発行、エディターとサービス履行者の指定、サービスの作成と発行、サービス要求の提出と実行が含まれます。

#### サービスカテゴリを要求して発行する

ユーザー (通常は部門管理者) は、部門のサービスカテゴリを要求できます。このユーザーは、サービスカテゴリに関する名前、部署、管理者などのサービスカテゴリに関する高度な情報を提供します。

カタログ管理者は、サービスカテゴリを発行する要求を承認し、ServiceNowカテゴリに関連付けられたサービス要求を管理するためのアプリケーションを作成し、アプリケーションのシステムコンポーネントを作成することができます。

#### エディターとサービス履行者を指定する

サービスカテゴリが発行されると、関連付けられた管理者はエディターとサービス履行者を指定します。エディターは、そのサービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。サービス提供者は、サービス要求によって生成されたタスクを完了できます。

管理者、エディター、およびサービス履行者は、サービスカテゴリが属する部門のメンバーとします。

#### サービスの作成と発行

管理者とエディターは、サービスカテゴリ内でサービスを作成します。サービスデザインインターフェイスは、サービスの作成および変更のための作業領域を提供します。

サービスが完了すると、管理者はサービスをサービスカタログに発行します。

#### サービス要求を提出し、履行する

エンドユーザーは、サービスカタログ要求を提出することで、発行されたサービスを要求できます。この要求によって、サービスカテゴリアプリケーション内に新しいタスクレコードが作成されます。サービス履行者は、サービス要求を満たすためのタスクを完了する。

関連情報

Service Creator

### Service Creator をアクティブ化する

Service Creator プラグインがまだ有効になっていない場合、管理者はアクティブにしてアプリケーションにアクセスする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

> **注:**
> ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

### Service Creator と共にインストール

いくつかのタイプのコンポーネントが Service Creator ともにインストールされています。

デモデータは Service Creator とともに入手できます。デモデータは部門サービスのサービスカタログカテゴリを提供します。

新しいサービスカテゴリを作成すると、そのサービスカテゴリのコンポーネントも作成されます。

以下のコンポーネントが Service Creator に追加されます：

## テーブル

**Service Creator**

| テーブル | 説明 |
|---|---|
| サービスカテゴリー [catalog_category_request] | すべてのサービスカテゴリを保存します。 |
| サービスカテゴリ要求ユーザー [catalog_category_request_user] | サービスカテゴリの履行者を追跡します。これらのレコードを使用して、必要に応じてロールを付与または削除します。 |
| サービス [sc_cat_item_producer_service] | すべてのサービスを保存します。 |
| サービスカテゴリーア プリケーションメニュー [service_category_app_menu] | 各サービスカテゴリのアプリケーションメニューを保存します。 |
| サービスカテゴリーのユーザーロール [service_category_user_role] | サービスカテゴリのエディターであるためにロールを付与されたユーザーを追跡します。 |

## UI アクション

| UI アクション | 説明 |
|---|---|
| カテゴリとテーブルの作成 | 要求されたサービスカテゴリを承認し、そのカテゴリのシステムコンポーネントを作成します。 |
| カテゴリの公開を要求 | Service Creator がカテゴリを発行するように要求します。 |
| 新規サービスを作成 | このサービスカテゴリに新しいサービスを作成します。 |
| テーブル定義を表示 | サービスカテゴリーのタスクテーブル定義[sys_db_object]を開きます。 |
| タスクリストを表示 | このサービスカテゴリに関連付けられたタスクのリストを表示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ポリシー

| UI ポリシー | 説明 |
|---|---|
| 期限を隠す | 要求ありの状態または期限日が空の場合、サービスカテゴリフォームの期限日フィールドを非表示にします。 |
| 空白の場合カテゴリを非表示にする | サービスカテゴリフォームでカテゴリフィールドが空白の場合は非表示にします。 |
| 発行済みの表示 | 状態が作成済みだが未発行または発行準備が整っている場合は、[サービスカテゴリー]フォームの[発行済み] フォームのチェックボックスを表示します。 |
| テーブル名を非表示にする | テーブルが値を持つ場合、サービスカテゴリフォームでテーブルを表示し、テーブル名を非表示にします。 |
| カテゴリ名を隠す | 状態が要求ありまたは拒否されている場合、サービスカテゴリフォームに名前を表示しません。 |
| テーブル名読み取り専用 | サービスカテゴリフォームで状態が要求無しの場合部門とテーブルの名前を読取りのみにします。 |
| エディターを隠す | 状態が要求有りまたは拒否の場合、サービスカテゴリフォームのエディターフィールドを非表示にします。 |

## プロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| glide.citizen_developer.category.auto_publish | 新しいサービスカテゴリを作成すると、部門サービスカテゴリのサブカテゴリとしてサービスカタログに自動的に追加されます。<br>• タイプ：true\|false<br>• デフォルト値：true<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |
| glide.citizen_developer.set_category_roles | 新しいサービスのカテゴリを設定できるロールのリスト (コンマ区切り形式)<br>• タイプ：文字列<br>• デフォルト値：admin および catalog_admin<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |
| glide.service_creator.auto_add_to_category | 新しいサービスは部門固有のカテゴリに加えて部門サービスカタログカテゴリに自動的に追加します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| | • タイプ：true\|false<br>• デフォルト値：true<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |

## スクリプトインクルード

| スクリプトインクルード | 説明 |
| --- | --- |
| serviceCategoryIsUnpublished | サービスカテゴリが未発行の場合に true を返すグローバル関数です。 |
| getMyCatalogCategories | 現在のユーザーが管理者またはエディターであるカテゴリのリストを返すグローバル関数です。 |

## クライアントスクリプト

| クライアントスクリプト | 説明 |
| --- | --- |
| 重複カテゴリ名の確認 | 要求されたサービスカテゴリが既存のサービスカテゴリと同じ名前である場合に、サービスカテゴリ要求フォームに警告を表示します。 |
| テーブル名を修正 | サービスカテゴリ要求フォームで有効なテーブル名を保証します。 |
| ドラフトサービスを非表示 | 必要に応じて、サービスカテゴリ要求フォームのドラフトサービス関連リストを非表示にします。 |
| テーブル名を提案する | サービスカテゴリ要求フォームで新しいサービスカテゴリ要求に有効なテーブル名を提案します。 |
| カテゴリ発行済み | サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]を選択すると、ヘルプメッセージを表示します。 |
| 履行者を非表示にする | 必要に応じて、サービスカテゴリリクエストフォームで履行者関連リストを非表示にします。 |
| エディター メッセージ | 適切な場合、フィールドのヘルプメッセージを表示します。 |
| その他のテーブルメッセージ | 選択した部門の既存のサービスカテゴリテーブルに関する情報を提供します。 |
| 状態メッセージ | フィールドのヘルプメッセージを表示します。 |

## ビジネスルール

| ビジネスルール | 説明 |
| --- | --- |
| サービス問合せ | catalog_adminロールを持たないユーザが、管理者またはエディターのサービスカテゴリー内でサービスレコードを見るのを制限します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ビジネスルール | 説明 |
| --- | --- |
| 新規サービス | 新しいsc_cat_item_producer_serviceレコードが作成されたときにメッセージを表示します。 |
| テーブル名は必須 | サービスカテゴリ要求が承認前に有効なテーブル名を持つことを保証します。 |
| 履行者のロールを削除する | あるカテゴリからサービスを削除したときに、サービス履行者から関連するロールを削除します。 |
| カテゴリ要求問合せ | catalog_adminロールを持たないユーザを、管理者やエディターのサービスカテゴリーレコードを表示することを制限します。 |
| エディターのロール | サービスカテゴリエディターから関連するロールを追加および削除します。 |
| すべてのユーザーロールを削除 | 適切な時にサービスカテゴリエディターから関連するロールを削除します。 |
| カテゴリ発行済み | サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]チェックボックスがオンになっているときに、状態をカタログに発行済みに設定します。 |
| 空白の場合はサービス名を追加する | 何も提供されていない場合は、サービス名を埋めます。 |
| 部門サービスカテゴリを追加 | 部門サービスサービスカタログカテゴリに新しいサービスを追加します。 |
| デフォルトの遂行ユーザー | 受託人が指定されていない場合、カテゴリ管理者をサービスタスクの受託人とします。 |
| 抹消されたドラフトサービスの数 | フィールドヘルプメッセージを生成します。 |
| カタログカテゴリ要求認可済み | 新しいサービスカテゴリを使用するために必要なコンポーネントを作成します。 |
| 管理者ロール | カテゴリ管理者に関連するロールを付与します。 |
| 新しいサービスの処方 | 新しいサービスの処方を入力して、アサイン先グループまたはユーザーを設定します。 |
| getDepartmentUsers | 部門のユーザーを返します。 |
| 項目問合せの草稿 | catalog_adminロールを持たないユーザを、その者が管理者またはエディターであるドラフトサービスレコードを表示することを制限します。 |
| 履行者ロールの付与 | サービス実施者に関連するロールを付与します。 |
| 部門名称をスクラッチパッド | フィールドヘルプメッセージを生成します。 |
| スクラッチパッド | フィールドヘルプメッセージを生成します。 |
| 部門の他のテーブル | フィールドヘルプメッセージを生成します。 |
| 単一カテゴリから単一カタログを設定する | 新しいサービスの既定のカタログを作成します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## メール通知

### Service Creator の電子メール通知

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| 発行されたサービスカテゴリ | カテゴリの要求が承認されたときにサービスカテゴリの管理者に通知します。 |
| 拒否されたサービスカテゴリ | カテゴリの要求が拒否されたときにサービスカテゴリの管理者に通知します。 |
| サービスカテゴリ要求挿入済み | 新しいカテゴリ要求が作成されたときにカタログ管理者に通知します。 |
| サービスカテゴリ作成済み | カテゴリが作成されると、サービスカテゴリの管理者に通知します。 |
| サービスカテゴリの発行が要求された | カテゴリの発行が要求されたときにカタログ管理者に通知します。 |
| サービスカテゴリの要求 | 新しいカテゴリ要求が作成されたときに、サービスカテゴリの管理者に通知する。 |

### 新しいサービスカテゴリと共に作成されたコンポーネント

Service Creator アプリケーションを使用して新しいサービスカテゴリを発行すると、ServiceNowシステムは、そのカテゴリのサービスのコンポーネントを作成します。

これらのコンポーネントは、Service Creator アプリケーションとともにインストールされるコンポーネントとは区別されます。新しいサービスカテゴリごとに、次のコンポーネントが追加されます。

### 新しいサービスカテゴリで作成されたテーブル

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <部門名>タスク[<サービスカテゴリーテーブル名>] | サービスカテゴリの要求タスクレコードを格納するテーブル。このテーブルはタスクテーブルを拡張します。このテーブルの名前は、サービスカテゴリが関連付けられている部門およびサービスカテゴリレコードのそのテーブル名フィールドによって定義します。ユーザーがこのテーブルのレコードにアクセスできるように、新しいアプリケーションメニューとモジュールが作成されます。このテーブルのレコードは、新しい番号[sys_numbers]レコードを使用して番号が付けられます。 |

### 新しいサービスカテゴリで作成されたユーザーロール

| ロール | 説明 |
|---|---|
| <service category table name>_user | サービスカテゴリの要求レコードにアクセスするために必要なユーザーロールです。サービスカテゴリのテーブル名によりロールの名前が決まります。サービスカテゴリの管理者、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。このロールを持つユーザーだけがサービスカテゴリのタスクレコードを割り当てられます。ACLは、このロールを持つユーザーが関連するサービスタスクテーブルにアクセスできるように作成します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサービスカテゴリで作成された電子メール通知

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| グループにコメントされたタスク | ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。 |
| 受託人に対してコメントされたタスク | ユーザーがコメントを追加したときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。 |
| グループに対して閉じられたタスク | レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。 |
| 受託人のために注意されたタスク | ユーザーが作業メモを追加したときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。 |
| グループに割り当てられたタスク | レコードがそのグループに割り当てられたときに、サービスタスクレコードが割り当てられていることをグループに通知します。 |
| 受託人に割り当てられたタスク | レコードがそのユーザーに割り当てられたときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。 |
| グループに対して注意されたタスク | ユーザーが作業メモを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。 |
| 受託人に閉じられたタスク | レコードが閉じられたときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。 |
| ユーザー用に開かれたタスク | レコードが作成されたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。 |
| ユーザーに対して閉じられたタスク | レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。 |
| ユーザー宛てコメントされたタスク | ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。 |

自動翻訳

新しいサービスカテゴリで作成されたフォーム

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <部門名>タスク | サービスカテゴリの要求タスクレコードを表示するためのフォーム。デフォルトでは、このフォームはサービスに関する質問と要求ユーザーが提供する回答を表示するためのフォーマッタを含むレイアウトを用います。 |

サービスカタログカテゴリー

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| <サービスカテゴリー名> | サービスカテゴリ内で作成された新しいサービスのデフォルトのサービスカタログカテゴリです。 |

### **Service Creator** のロール

Service Creatorアプリケーションは、特定のロールを使用します。

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール

| ロール名 [名前] | 説明 |
| --- | --- |
| <サービスカテゴリー> ユーザー[ <サービスカテゴリーテーブル名> _ユーザー | サービスカテゴリの要求レコードにアクセスします。サービスカテゴリのテーブル名により、ロールの名前が決まります。サービスカテゴリの管理者、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。 |
| カタログ管理者 [catalog_admin] | サービスカテゴリとサービスを作成、編集、発行し、テンプレート通知などの通知を作成および編集します。カタログ管理者は、主にサービスカテゴリ要求の承認を担当します。 |
| カタログマネージャー [catalog_manager] | サービスを作成、編集、発行し、エディターとサービス履行者を指定します。サービスカテゴリの管理者として指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。 |
| カタログ エディター [catalog_editor] | サービスを作成および編集します。サービスカテゴリのエディターとして指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。 |

## サービスを管理する

部門管理者は、Service Creatorを使用して、新しいサービスカテゴリを要求し、そのカテゴリのエディターとサービス提供者を指定し、サービスを作成し発行できます。

### このタスクについて

エディターはサービスを作成して変更します。サービス履行者は、サービス要求から生成されたタスクを完了します。

サービスカテゴリの要求には、通常、要求を行う部門管理者であるサービスカテゴリ管理者を割り当てる必要があります。要求が提出された後、カタログ管理者はサービスカテゴリの発行要求を承認します。カテゴリが発行されると、サービスカテゴリ管理者はサービスカテゴリエディターおよびサービス履行者を割り当て、サービスカタログで提供するサービスを作成できます。

新しいサービスカテゴリを要求するには：

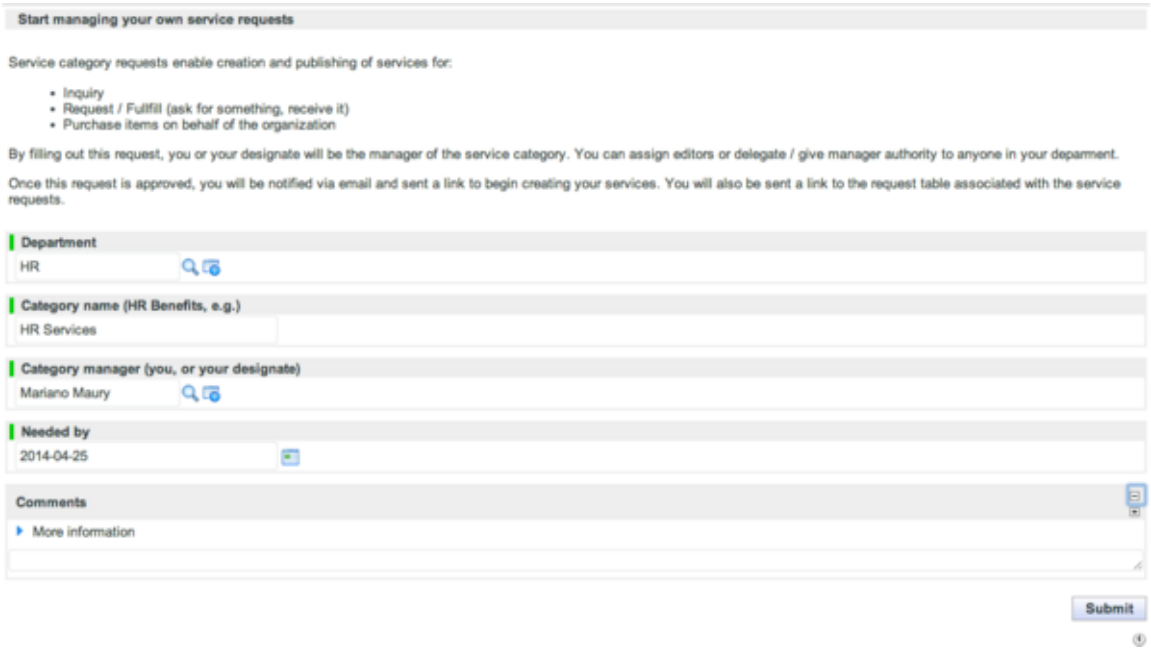
### 手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サービスカタログ.
2. 部門サービスカテゴリをを選択します。

   部門サービスカテゴリは Service Creator が利用できるデモデータの一部です。このカテゴリが存在しない場合、カタログ管理者はサービスカテゴリリクエストカタログアイテムを既存のカテゴリに追加します。
3. サービスカテゴリリクエスト項目を選択します。
4. 必要に応じてデフォルト値を変更します(テーブルを参照ください)。
5. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




サービスの管理

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 部門 | このカテゴリ要求する部門。デフォルトでは、この値は現ユーザーの部門です。この値を変更すると、種別名そしてカテゴリ管理者の値も変更します。 |
| カテゴリ名 | 新しいサービスカテゴリの名前。デフォルトでは、ServiceNowは部門値に基づいた名前を用います。 |
| カテゴリ管理者 | 新しいサービスカテゴリに指定された管理者。デフォルトでは、ServiceNowは選択した部門の管理者を使用します。 |
| 要求者： | 新しいサービスカテゴリが利用可能になる日付。 |
| コメント | サービスカテゴリを説明する追加のコメント。この情報は、サービスカテゴリフォームのレコード入力として表示されます。 |

自動翻訳

### 設計サービス

Service Creator は、サービスを設計するためのインターフェイスを含みます。

このインターフェイスを使用すると、サービスカテゴリ管理者とエディターは、サービスの作成と発行、およびサービスの詳細の編集を行えます。

すべてのサービスは、サービスカテゴリに属している必要があります。部門またはグループに既存のサービスカテゴリがない場合は、そのカテゴリのサービスを設計する前に新しいサービスカテゴリを作成する必要があります。

### 通知テンプレートを追加

テンプレート通知を追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > 通知テンプレート.
2. [新規] をクリックします。
3. 提出時フィールドで、イベントが起動を選択します。
4. イベント名フィールドで、 **ccr**テンプレート を選択します。
5. その他の通知の詳細を入力します。
6. [送信] をクリックします。

   新しいテンプレート通知によって、その時点以降に発行されたすべてのサービスカテゴリの通知が作成される。

### 通知設定

すべてのサービスカテゴリは、サービス要求を満たすタスクが割り当てられたときの通知など、一連の関連する通知から始まります。

で定義されている通知 サービスクリエーター > 通知テンプレート ユーザーが新しいサービスカテゴリを作成すると、モジュールがコピーされます。

テンプレート通知は、新しいサービスカテゴリが承認または拒否されたときの通知など、Service Creator アプリケーション自体の通知とは区別されます。Service Creator アプリケーションの通知は、 サービスクリエーター > 通知.

システム管理者は、テンプレート通知を追加および削除できます。

### カテゴリとテーブルの作成

要求が提出された後、カタログ管理者は要求を承認または拒否できます。

このタスクについて
要求を承認すると、サービスカテゴリ用の新しいテーブルが作成され、カテゴリ名をアプリケーションラベルとして用い、アプリケーションナビゲーターにアプリケーションが追加され、そしてサービスカテゴリの 状態をカタログに発行と設定します。

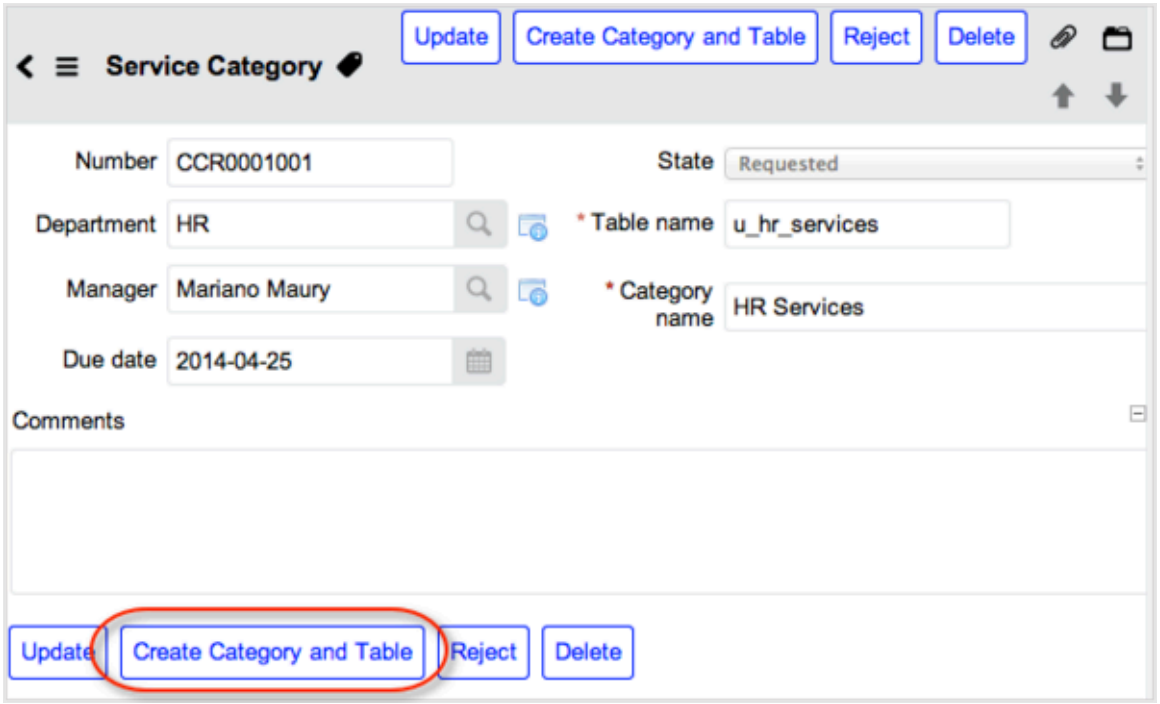
手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > カテゴリ要求.
2. *State* の値が *Requested* のレコードを開きます。
3. 要求されたサービスカテゴリを確認します。ServiceNow は *Department* に基づいて提案された *Table name* を提供します。
   - 指定したカテゴリ名またはテーブル名を持つサービスカテゴリが存在する場合は、そのフィールドの下にメッセージが表示されます。これらのフィールドには一意の値を使用します。
4. カテゴリとテーブルを作成するをクリックして要求を承認するまたは拒否します。

   インスタンスに対して通知が有効になっている場合、サービスカテゴリ *Manager* に対して承認または却下が通知されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




サービスカテゴリを発行した後、新しいテーブルにアクセスするには、アプリケーションナビゲーターで新しいアプリケーションに移動するか、サービスカテゴリフォームの [タスクリストを表示] 関連リンクをクリックします。

関連情報

サービスを管理する

### テンプレート通知を削除する

テンプレート通知を削除すると、新しいサービスカテゴリで通知が使えなくなりますが、すでに作成されたサービスカテゴリの通知は削除されません。

手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > 通知テンプレート.
2. 通知レコードを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. **OK**をクリックして確認する。

### エディターを指定

エディターは、サービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。

このタスクについて
エディターは自動的にcatalog_editorロールを受け取ります。

サービスカテゴリ管理者は、発行されたサービスカテゴリのエディターを指定できます。

手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > 自分のサービスカテゴリ.
2. `State` の値が `Published to Catalog` のレコードを選択します。

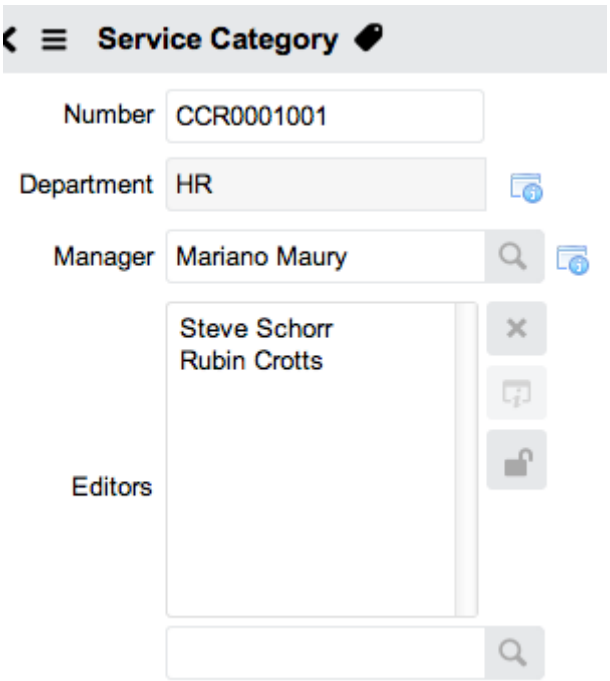
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. *Editors* フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。
4. 参照ルックアップアイコンを使用してエディターとして指定するユーザーを選択します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。
5. すべてのエディターを追加すると、更新をクリックします。

   エディターはカタログ エディターのロールを受け取ります。




自動翻訳

## サービス履行者を指定する

サービス履行者は、サービスカテゴリに対して提出されたサービスリクエストを完了できます。

### このタスクについて

サービス提供者は、割り当てられたサービスカテゴリのアプリケーションにアクセスできますが、*Service Creator* アプリケーションにはアクセスできません。

サービスカテゴリフォームのサービスの遂行関連リストは、そのサービスカテゴリの履行者として割り当てられたすべてのユーザーが表示されます。サービスカテゴリ管理者は、サービスカテゴリのサービス履行者を指定できます。

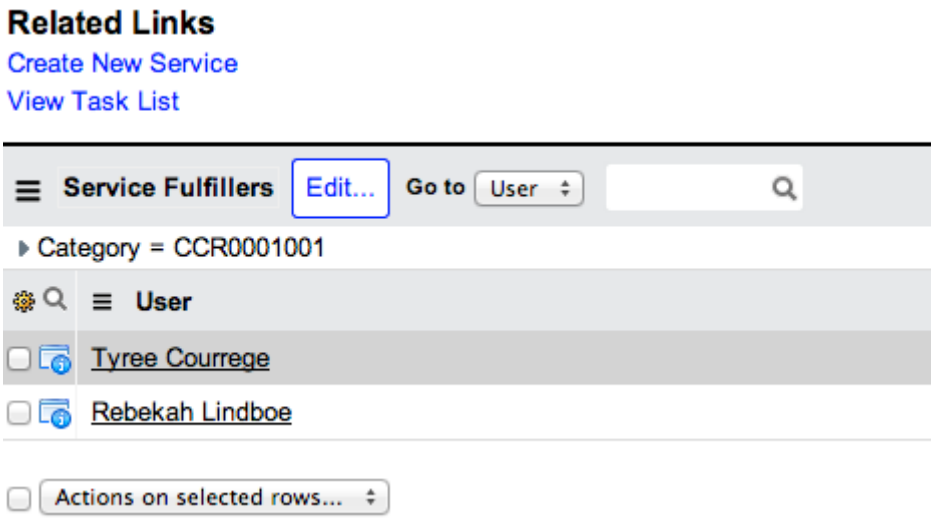
### 手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > 自分のサービスカテゴリ.
2. *State* が *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。
3. *Service Fulfillers* 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. スラッシュバケットを使用して、適切なサービス履行者を追加します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [保存] をクリックします。




### サービス要求を履行する

エンドユーザーは、サービスカタログを通じて発行されたサービスを要求できます。

#### このタスクについて

ユーザーがサービスを要求すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリの新しいタスクを作成します。サービス履行者は、要求を遂行するためにこれらのタスクを完了します。

新しい要求タスクは、*Fulfillment Group* または *Fulfillment User* サービス設定で指定されたグループまたはユーザーに自動的にアサインされます。遂行グループまたはユーザーが設定されていない場合、新しいレコードがサービスカテゴリ管理者に割り当てられます。

特定のサービスに関する質問と要求元ユーザーが入力した回答は、実行タスクレコードの *Variables* セクションに表示されます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **<**サービス アプリケーション**>** > 自分にアサイン済み.
2. レコードを選択します。
3. 提示された情報を確認します。
4. 部門の方針と手順に従ってタスクを完了します。
5. サービス要求レコードの *State* を *Closed Complete* に設定します。
6. [更新] をクリックします。

### サービスを発行する

サービスは、サービスカタログに表示されるように発行する必要があります。最初に作成されると、サービスカテゴリのドラフトサービス関連リストに新しいサービスが表示されます。発行されたサービスは、サービスカテゴリのサービス関連リストに表示されます。サービスカテゴリの管理者は、サービスのドラフトを発行できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > サービスクリエーター > 自分のサービスカテゴリ.
2. ステータスが *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. サービスカテゴリフォームで、ドラフトサービス関連リストにあるサービスを右クリックします。
4. [公開] を選択します。

## ServiceNow Studio

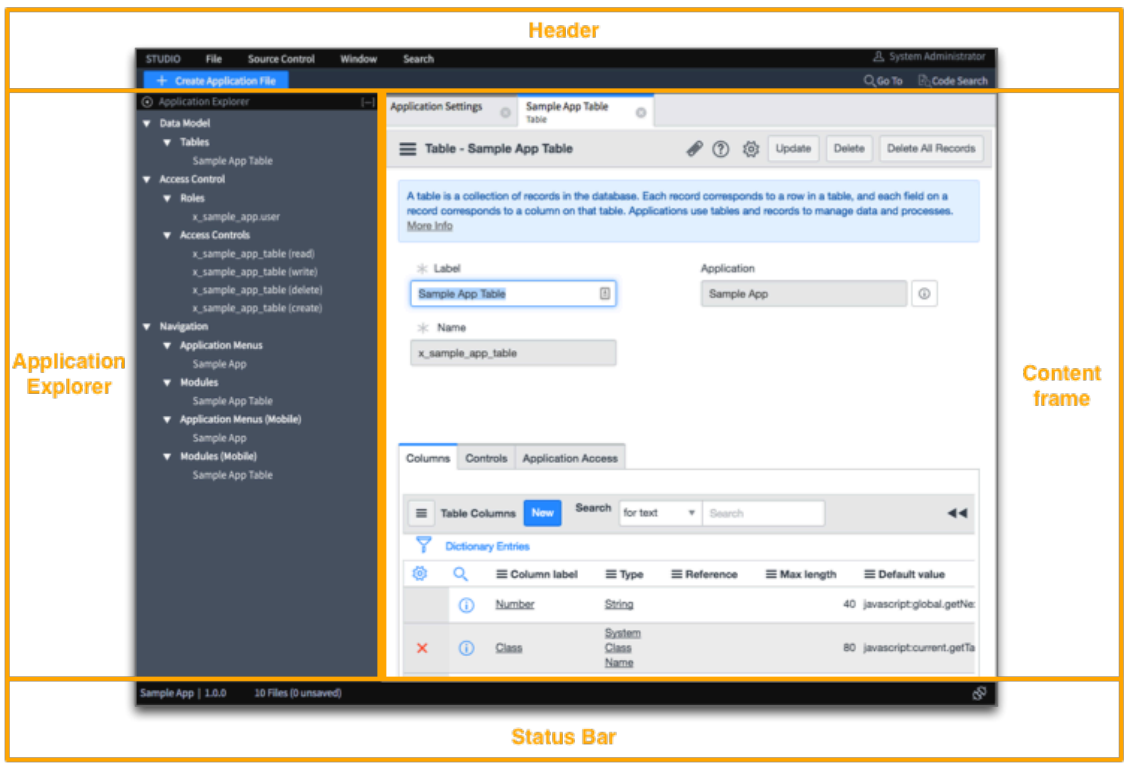
ServiceNow スタジオ は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを一元化された場所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

カスタムアプリケーションを編集すると、スタジオ が開きます。

### 機能

- アプリケーションとアプリケーションアーティファクトを作成します。
- コード検索を実行します。
- ソースコントロールと連携する
- 他の組織に属するアプリケーションを保存するために、会社用のカスタマイズを作成します。
- 仮想エージェントデザイナーを使用して、仮想エージェントとユーザー間の会話の詳細計画であるトピックを作成および管理します。ユーザーが一般的な作業の問題を解決するのに役立つトピックを設計したり、セルフサービスのタスクを通してサポートしたりできます。

スタジオ




スタジオによって、アプリケーション開発者は次のことができます。

- アプリケーションエクスプローラでアプリケーションにどのファイルが含まれているかを正確に確認する。
- アプリケーションファイルの作成インターフェイスだけを用いてアプリケーションに新しいファイルを追加する。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 行くダイアログで使い慣れた検索名またはタイプ別の動作を使用してファイルにナビゲートする。
- コード検索ツールを用いてアプリケーションの内部と外部の両方のコードを捜す。
- タブ付きインターフェイスを使用して複数のファイルを一度に操作する。
- 複数のスタジオウィンドウを使用して複数のアプリケーションを一度に操作する。
- 会社のインスタンスまたは ServiceNow Store にアプリケーションを公開します。
- 現在のアプリケーションに関する情報を [ステータスバー] に表示します。

スタジオ **UI** の構成要素

| **UI** 要素 | 説明 |
|---|---|
| ヘッダー | メニューとコントロールを表示します。 |
| ファイルメニュー | アプリケーション固有のオプションのリストを含みます。<br>• ファイルを作成<br>• ソースコントロールからインポート<br>• アプリケーションを作成<br>• 発行<br>• 設定<br>• スイッチ<br>• 開発者を管理<br>• スクリプトデバッガーを起動 |
| ソースコントロールメニュー | ソースコントロールオプションのリストを含みます。<br>• ソースコントロールにリンク<br>• リポジトリ構成を編集<br>• リモート変更を適用<br>• 変更を収容<br>• ローカルな変更を隠す<br>• 分岐を切り替え<br>• 分岐を作成<br>• タグを作成<br>• しまいこみを管理<br>• 履歴を表示 |
| ウィンドウメニュー | タブ管理オプションのリストを含みます。<br>• 現在のタブを閉じる<br>• すべてのタブを閉じる |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ **UI** の構成要素 (続く)

| UI 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| | • 他のタブを閉じる<br>• 未変更のタブを閉じる |
| 検索メニュー | 検索オプションのリストを含みます。<br>• 移動<br>• コード検索 |
| ユーザー名 | ヘッダーには現在のユーザー名が表示されます。 |
| アプリケーションファイルを作成 | 開発者はアプリケーションファイルをアプリケーションに追加できます。 |
| 移動 | アプリケーションファイルを名前またはタイプで検索します。 |
| コード検索 | アプリケーションファイル内でテキスト文字列を検索します。検索オプションは次のとおりです。<br>• 検索を特定のテーブルに制限<br>• 全てのアプリケーションを含める |
| アプリケーションエクスプローラー | アプリケーションファイルのリストをタイプ別に表示します。アプリケーションエクスプローラのサイズを変更すると、アプリケーションファイルの詳細を表示したり、コンテンツフレームのスペースを増やしたりできます。 |
| すべて折りたたむ | アプリケーションエクスプローラ内のすべてのノードを折りたたみます。 |
| すべて展開 | アプリケーションエクスプローラ内のすべてのノードを展開します。 |
| データモデル > テーブル | アプリケーション表のリスト<br>テーブル名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。 |
| アクセス制御 | 次のようなアプリケーションアクセス要素のリスト<br>• ロール<br>• アクセスコントロール<br>レコード名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。 |
| ナビゲーション | 次のようなアプリケーションのナビゲーション要素のリスト：<br>• アプリケーションメニュー<br>• モジュール |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ **UI** の構成要素 (続く)

| UI 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| | • アプリケーションメニュー **(Mobile)**<br>• モジュール **(Mobile)**<br><br>レコード名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。 |
| コンテンツフレーム | 各レコードの詳細フォームを独自のタブに表示します。 |
| スタジオ にようこそ | キーボードショートカットのリスト。 |
| タブ | 各タブには、レコード名とファイルタイプで特定される特定のアプリケーションファイルレコードが含まれています。<br><br>タブをクリックすると、レコードの表示および編集ができます。<br><br>青い丸のアイコンのタブは、そのレコードに未保存の変更があることを示します。 |
| ステータスバー | アプリケーションとソースコントロールのデータ連携についての情報を表示 |
| アプリケーション名 | ステータスバーは 現在のアプリケーション の名前を表示します。 |
| アプリケーションのバージョン | ステータスバーは現在のアプリケーションのバージョンを表示します。 |
| 総ファイル数 | ステータスバーは、アプリケーションファイルの総数を表示します。 |
| 未保存のファイル | ステータスバーは、保存されていない変更のあるアプリケーションファイルの現在数を表示します。 |
| ソースコントロールのデータ連携ステータス | ステータスバーは、ソースコントロールの統合の現状を示すアイコンを表示する。 |

関連情報

コンテキスト開発環境

### ServiceNow Studio へのアクセス

アプリケーション開発者は、ServiceNow スタジオ にアクセスしてアプリケーションを作成、インポート、または開きます。

始める前に
必要なロール：管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

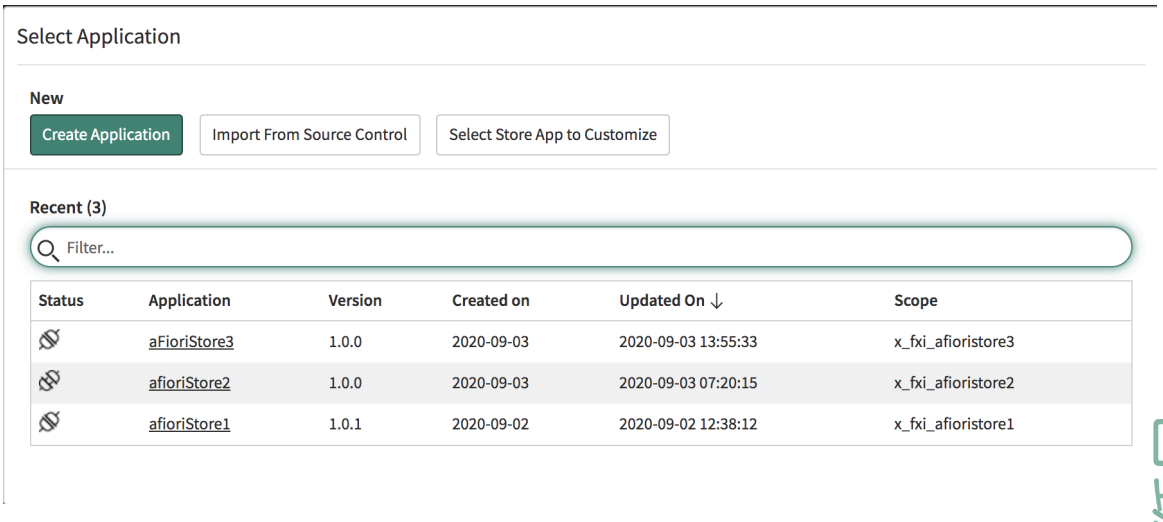
手順

1. あなたのロールで利用可能なパスを選択します。

スタジオへのパス

| ユーザーロール | スタジオを開くためのアクション |
|---|---|
| アドミン | 移動先 すべて > システムアプリケーション > **Studio**. |

スタジオ が新しいブラウザータブで開き、[アプリケーションを選択] モーダルダイアログが表示されます。




2. アプリケーションを作成するには、アプリケーションの作成をクリックします。
アプリケーション作成オプションのリストが表示されます。
3. 既存のアプリケーションをソースコントロールからインポートするには、ソースコントロールリストからインポートをクリックします。
スタジオ で [ソースコントロールからインポート] ページが開きます。
4. 既存のアプリケーションを表示するには、アプリケーションリストからそのアプリケーション名をクリックします。

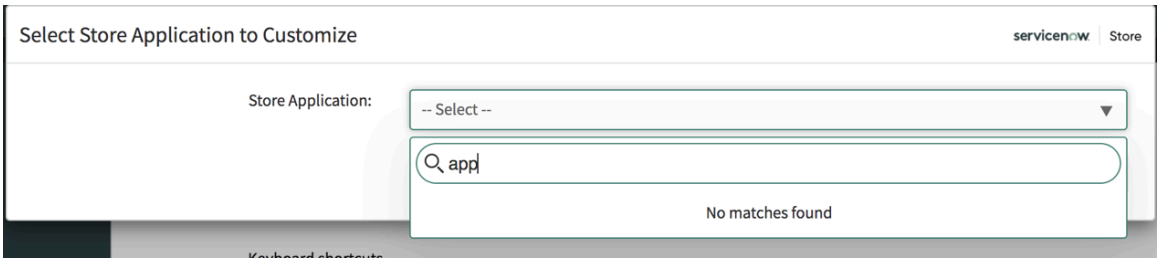
   このリストには、カスタマイズされたプラグインを介してインストールされたストアアプリケーションやスコープ対象アプリケーションも含まれます。

   **注:**
   プラグインを介してインストールされたスコープ対象アプリケーションのいくつかのシナリオでは、ストアアプリケーション (sys_store_app) テーブルの [名前] フィールドがプラグイン名と一致しません。正しいアプリケーションを選択していることを確認するには、[ストアアプリケーションを選択] リストピッカーで、sys_store_app に示された [名前] を検索します。たとえば、プラグイン **Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe** は、「SAFe」という名前の sys_store_app レコードを作成します。したがって、「SAFe」という単語を [ストアアプリケーションを選択] リストピッカーで検索します。

5. インストールされたストアアプリケーションを開いて、会社のアプリケーションカスタマイズを作成するには、[ストアアプリケーションを選択] をクリックし、リストピッカー表示からストアアプリケーションを選択します。

自動翻訳

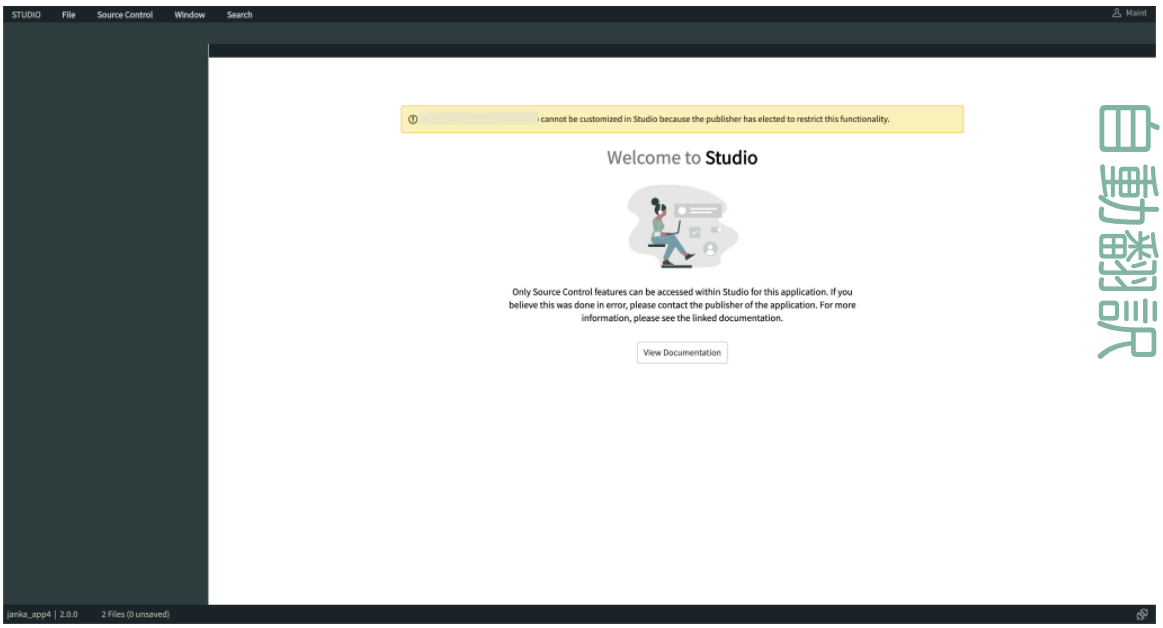
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




スタジオ 選択したアプリケーションが開く。

**注:**

[リンク済み] アイコン は、アプリケーションにコミットされていないローカル変更が含まれていることを示します。開発中の会社のアプリケーションでは、このプロパティは無視されます。ストアアプリケーションの **[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティによって、Studio でアプリケーションを編集できるかどうかが決まります。[false] に設定すると、Studio でアプリケーションを編集できないという警告が表示されます。ただし、Studio でアプリケーションを開いて、ソースコントロール機能を使用したり、そのカスタマイズをアプリケーションリポジトリに公開したりできます。新しいアプリケーションの場合、デフォルトは [true] です。アプリケーションの所有者は、新しいバージョンをリリースする前にプロパティ値を変更できます。




自動翻訳

## **ServiceNow** スタジオ キーボードショートカット

ServiceNowスタジオアプリケーションファイルを管理および編集するためのさまざまなキーボードショートカットが使えます。

### スタジオ キーボード ショートカット

| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Windows： Ctrl + Shift + O | 移動。アプリケーションで任意のファイルを開きます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ キーボード ショートカット (続く)

| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Mac： Command + Shift+ O | |
| Windows： Ctrl + Shift + C<br><br>Mac： Command + Shift + C | 新規作成。アプリケーションファイルを作成します。 |
| Windows： Ctrl + Shift + F<br><br>Mac： Command + Shift + F | コード検索。任意のファイルまたは値を検索します。 |
| Windows： Ctrl + Shift + X<br><br>Mac： Command + Shift + X | タブを閉じる。現在のタブを閉じます。保存されていない変更がタブにある場合、システムは保存するよう求めます。 |

関連情報

ServiceNow Studio

アプリケーションファイルをアプリケーションに追加する

スタジオ アプリケーション開発者は新しいアプリケーションファイルをタイプ別に追加できます。

## 始める前に

必要なロール：管理者
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

## このタスクについて

アプリケーションファイルを追加して、カスタムアプリケーションの機能を更新できます。

## 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
   システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. コンテンツフレームから、アプリケーションファイルの作成をクリックします。
   スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

スタジオ キーボード ショートカット

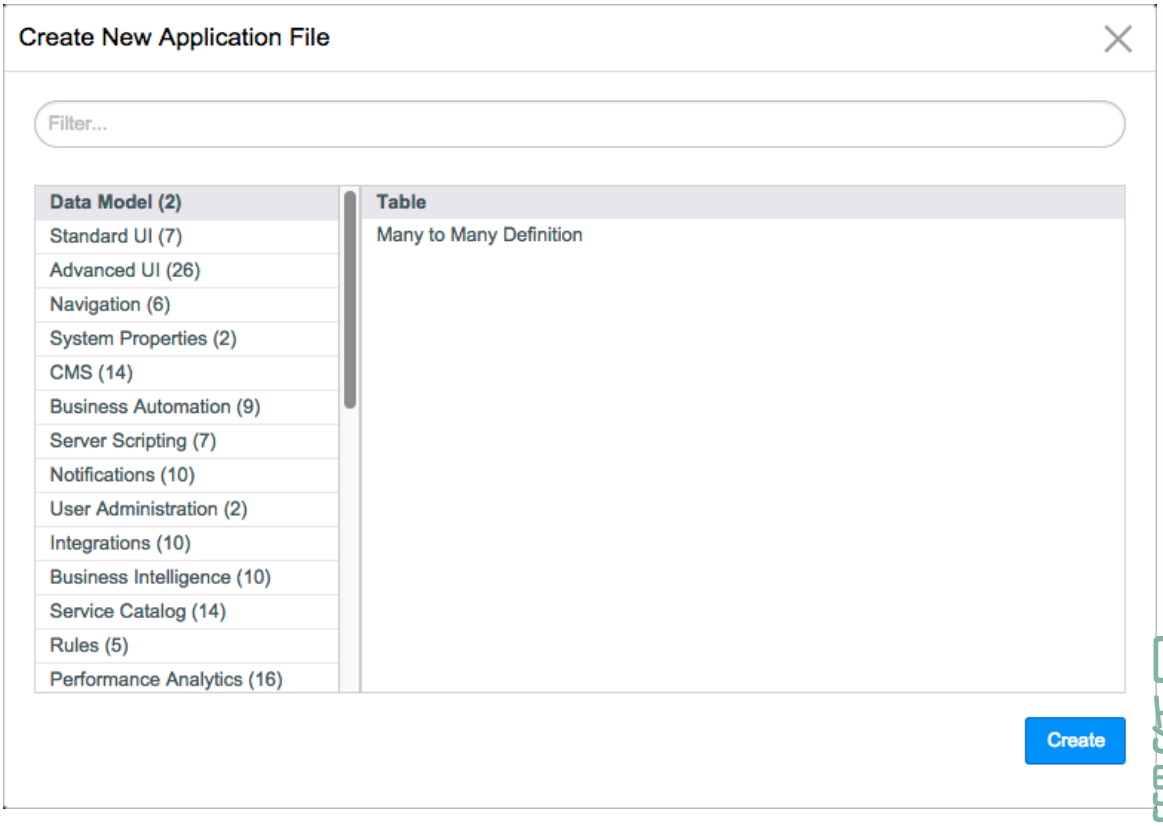
| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Windows： Ctrl + Shift + C | 新規作成。アプリケーションファイルを作成します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Mac： Command + Shift + C | |

スタジオ 新規アプリケーションファイルの作成ポップアップ ウィンドウを開きます。




**注:**
すべてのアプリケーションファイルタイプが Studio に表示されるわけではありません。ダッシュボードなど一部のタイプのアプリケーションファイルは、それが sys_metadata テーブルを拡張する場合でも、Studio の外部で作成する必要があります。

4. 作成したいアプリケーションファイルの種類を探します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーションファイル名で検索 | フィルタ入力フィールドに、アプリケーションファイルの名前を入力します。 |
| カテゴリから探す | 左ペインで、カテゴリ名を選択します。 |

5. 結果ペインから、作成したいアプリケーションファイルタイプを選択します。
6. [作成] をクリックします。
システムは新しいスタジオタブにアプリケーションファイルタイプの空白のフォームを表示します。

次のタスク
選択した特定のアプリケーションファイルタイプに必要なフィールドを入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

アプリケーションファイル

## ServiceNow スタジオ からのアプリケーションの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)

ソースコントロールにリンクされている場合、ServiceNow スタジオ からカスタムアプリケーションを公開できます。

### 始める前に

必要なロール：admin

### このタスクについて

ソースコントロールにリンクされている ServiceNow Studio からアプリケーションを公開すると、sys_app または sys_store_app の [公開] 関連リンクを介して公開する場合とは異なる結果になります。

### 手順

1. [公開] を選択すると、アプリケーションの sys_app レコードまたは sys_app_customization レコードが新しいバージョンで更新されます。
2. 追跡されていない変更やコミットされていない変更を含む、アプリケーションの現在のステータスがソースコントロールにコミットされます。
   **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値は無視されます。
   これは、アプリケーションが公開されるときに、追跡されない変更やコミットされない変更もすべて公開されるために発生します。したがって、Git リポジトリ内のアプリケーションのステータスは、公開されているものと一致します。**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの詳細については、「変更を収容」のトピックを参照してください。
3. 新しいバージョンのソースコントロールタグが作成され、アプリケーションが公開されます。
   必要に応じて、sys_app レコードが新しいストア相関 ID で更新されます。

   **注:**
   アプリケーションがソースコントロールにリンクされ、Studio の外部で新しいバージョンを公開すると、ソースコントロールのコミットとタグが作成されません。

## アプリケーションファイルを名前またはタイプで検索する

アプリケーション開発者はスタジオを用いてアプリケーションファイルを検索できます。

### 始める前に

必要なロール：管理者
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

### このタスクについて

アプリケーションファイルを検索して、カスタムアプリケーションの機能を追加、削除、または更新できます。

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション.
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
   システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. ヘッダーから 移動をクリックします。
   スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

自動翻訳

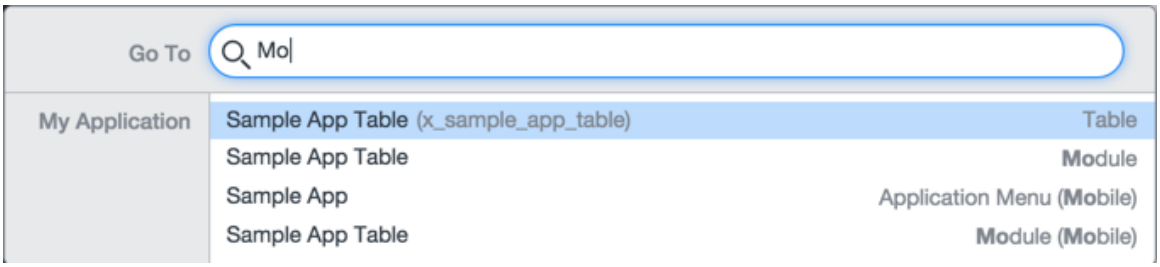
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ キーボード ショートカット

| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Windows： Ctrl + Shift + O<br><br>Mac： Command + Shift+ O | 移動。アプリケーションで任意のファイルを開きます。 |

スタジオ ウィンドウが開きます。

4. 検索文字列を入力します。




スタジオ 入力すると一致するアプリケーションファイルのリストが表示されます。

5. 検索結果のリストから、レコード名をクリックします。
スタジオ はコンテンツフレーム内の新しいタブにアプリケーションファイルレコードを開きます。

### アプリケーションファイル内で検索する

スタジオ アプリケーション開発者は、アプリケーションファイル内で一致するレコード値を検索できます。

#### 始める前に

必要なロール：管理者
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

#### このタスクについて

アプリケーションファイル内で検索して、アプリケーションファイルの値を追加、削除、または更新できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション.
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. ヘッダーから、コード検索をクリックします。
スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

スタジオ キーボード ショートカット

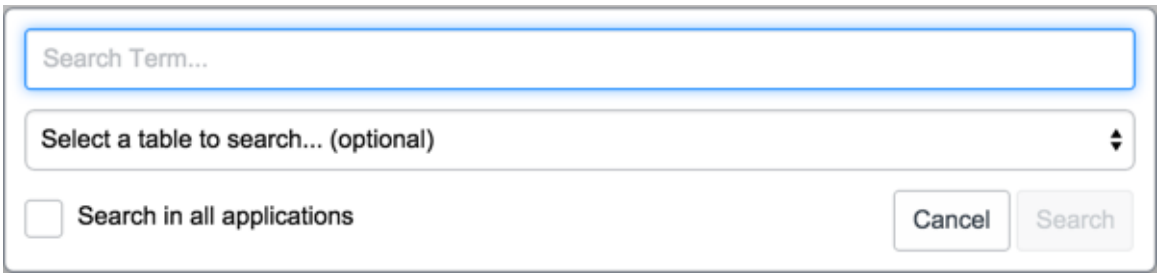
| キーボードの組合せ | 説明 |
| --- | --- |
| Windows： Ctrl + Shift + F<br><br>Mac： Command + Shift + F | コード検索。任意のファイルまたは値を検索します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ 検索ポップアップ ウィンドウが開きます。

4. 検索語に検索文字列を入力します。




5. オプション: 追加の検索条件を選択します。

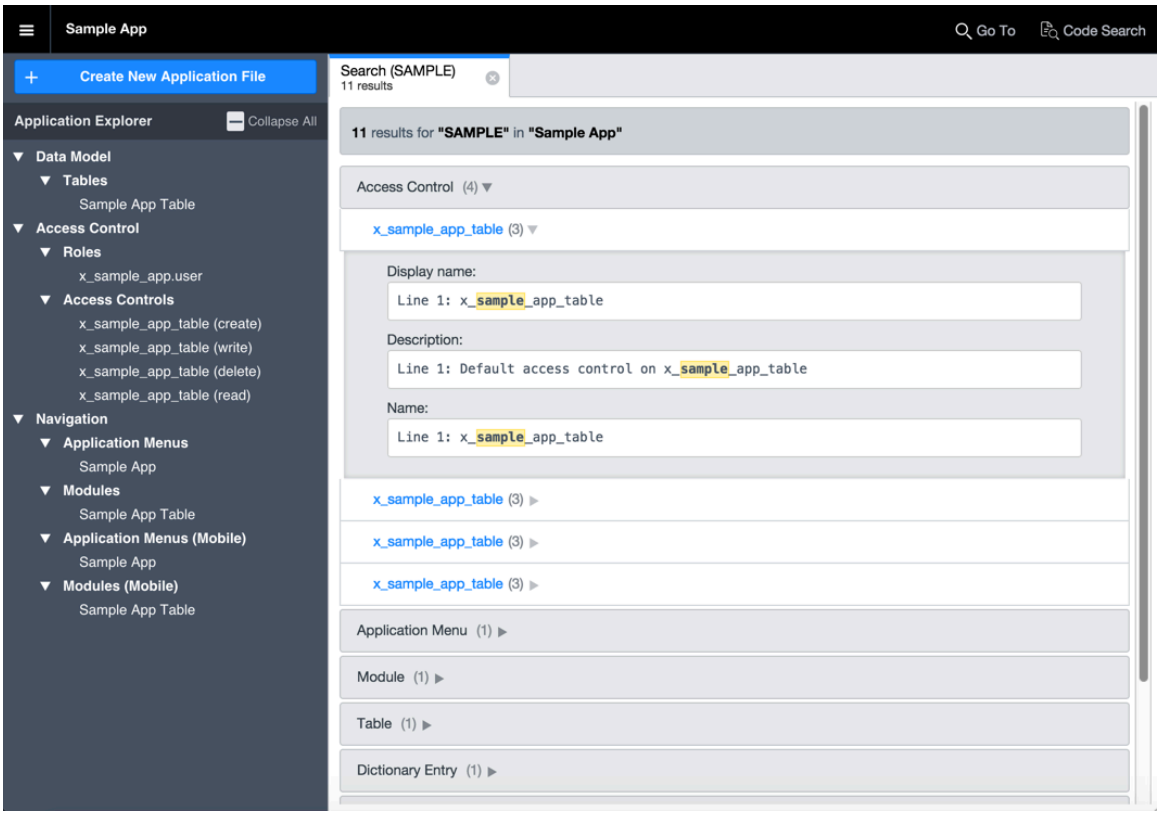
| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 検索するテーブルを選択 | 選択したファイル タイプ内でのみ一致するものを検索します。 |
| すべてのアプリケーションで検索 | 現アプリケーション内だけでなく、インスタンス全体で一致を検索します。 |

**注:**
すべてのアプリケーションの検索には長い時間がかかります。

6. [検索] をクリックします。
スタジオは選択したアプリケーションファイルの大文字と小文字を区別しない検索を行います。検索が実行されている間、スタジオは検索進行状況インジケータを表示します。キャンセルアイコンをクリックすると、検索を停止できます。検索が完了すると、システムはコンテンツフレームに新しいタブを開き、アプリケーションファイルタイプ別に検索結果を表示します。各アプリケーションファイルタイプは、一致する検索結果の数を表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




7. 検索結果タブから、アプリケーションファイルタイプを展開し、レコード名をクリックします。
   スタジオ はコンテンツフレーム内の新しいタブにアプリケーションファイルレコードを開きます。

## カスタムアプリケーションレコードを更新する

新しい機能を追加したり、アプリケーションの機能を変更したりするために、カスタムアプリケーションレコードを更新できます。

### 始める前に
必要なロール：フルアクセスを許可する管理者または委任された開発者ロール

### このタスクについて
ローカルインスタンスで開発中のアプリケーションの更新のみできます。会社のアプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeからダウンロードしたアプリケーションは編集できません。

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション > 開発.
2. 更新したいアプリケーション名またはそのアプリケーションの編集ボタンをクリックします。
   システムは、スタジオにあるアプリケーションおよびアプリケーションファイルを表示します。
3. クリック ファイル > 設定.
   スタジオは現アプリケーションのカスタムアプリケーションレコードを含むタブを開きます。
4. 必要に応じてフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムアプリケーションフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | [必須]アプリケーションのラベルを入力します。名前を変更しても、アプリケーション名から派生した範囲、メニュー、またはユーザーロールのような他のどのフィールド値も変更されません。 |
| バージョン | アプリケーションのバージョン情報を入力します。ServiceNowアプリケーションリポジトリとストアのどちらも、この値を使用して、ユーザーがアプリケーションの更新を使用できるかどうかを判別します。<br><br>**注:**<br>アプリケーションをServiceNow Storeで発行するには、バージョンはアプリケーション認定基準に準拠している必要があります。 |
| アプリケーションスコーピング | |
| スコープ | [読み取り専用]作成プロセス中に設定された一意のアプリケーションスコープを表示します。この値は、削除して新しい値でアプリケーションを再作成することによってのみ変更できます。提供される保護の詳細については、アプリケーションスコープ を参照してください。 |
| アプリケーション管理 | ユーザーがアプリケーション固有のロールを取得する方法を制限することにより、機密アプリケーションデータを保護するかどうかを選択します。「アプリケーション管理」を参照してください。 |
| デザインとランタイム | |
| JavaScriptモード | アプリケーションがサポートするJavaScript標準を選択します。**ECMAScript 2021 (ES12)** を選択して ECMAScript 12th エディションの機能をサポートするか、**ES5 Standards Mode** を選択して ECMAScript 5th エディションの機能をサポートします。互換モードを選択すると初期の ECMAScript エディションをサポートします。 |
| 実行環境アクセス追跡 | アプリケーションが他のアプリケーションのリソースへのスクリプトアクセス要求をどのように処理するかを選択します。無しを選択するとログインなしで全てのクロススコープリソースにアクセスする権限を与えます。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するすべてのアクセス要求をログに記録して許可します。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するアクセス要求をログに記録しますが、管理者が各要求を許可する必要があります。 |
| テーブル選択を制限 | そのオプションをクリアすると、アプリケーションが他のアプリケーションスコープからテーブルを見ることを許します。そのオプションを選択すると設計の選択を同じアプリケーション内のテーブルのみに限定します。 |
| Subscription Management | |
| ライセンス可能 | そのアプリケーションがそのサブスクリプション管理アプリケーションによって追跡されるかどうかを指定します。 |
| サブスクリプション要件 | 独自の用途のためにカスタムアプリケーションを構築するServiceNow顧客には適用しません。ServiceNow Storeの転売可能なアプリケーションの使用を販売および監視しているパートナーのみが使用します。<br><br>そのアプリケーションは個別のサブスクリプションが必要( 必須 )かまたは監視だけとするかを指定します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| サブスクリプションモデル | 独自の用途のためにカスタムアプリケーションを構築するServiceNow顧客には適用しません。ServiceNow Storeの転売可能なアプリケーションの使用を販売および監視しているパートナーのみが使用します。<br><br>どのようにサブスクリプション管理アプリケーション追跡を使用するかを指定します。「サブスクリプションのタイプ」を参照してください。 |
| プライマリメニュー | |
| メニュー | モジュールを表示したいアプリケーションメニューを選択します。メニューとモジュールの詳細については、「アプリケーションメニューの作成」を参照してください。 |
| エンドユーザーによるアクセス | |
| ユーザーロール | アプリケーションメニューにアクセスするために必要なユーザーロールを選択します。ユーザーロールの詳細については、「ロールを作成する ロールを作成する 」を参照してください。 |
| 簡単な説明 | アプリケーションの目的や使用方法の説明を入力します。 |
| ロゴ | システムがアプリケーションリストとServiceNow Storeに表示するイメージを選択します。 |
| アプリケーションファイル | このアプリケーションに関連付けられた設定レコードをプラットフォーム機能テーブルで表示します。 |
| 依存関係 | このアプリケーションが依存するテーブルまたはアプリケーションを表示または追加します。テーブルを拡張するときや、別のアプリケーションがこのアプリケーションのアプリケーションファイルを作成するときに、システムは自動的にこのリストにレコードを追加します。スクリプトに基づく依存関係を追加します。「カスタムアプリケーションの依存関係」を参照してください。 |
| クロススコープ権限 | クロススコープ権限レコードを表示または作成して、システムが実行できるスクリプト操作とターゲットを特定します。「クロススコープ特権レコード」を参照してください。 |
| デザインアクセス | このアプリケーションのテーブルまたはレコードへの設計アクセス権を持つ他のアプリケーションを表示または指定します。「アプリケーション設計時アクセス レコード」を参照してください。 |

5. [更新] をクリックします。

### アプリケーション間の切り替え

アプリケーション開発者は、スタジオ環境を離れることなくアプリケーション間のスイッチができます。

#### 始める前に

この手順を開始する前に、独自のアプリケーションスコープを持つ少なくとも 1 つのカスタムアプリケーションを作成する必要があります。
必要なロール：admin

#### このタスクについて

状況依存開発環境は、アプリケーションファイルが別のアプリケーションに属している場合、いくつかの変更を制限します。アプリケーションファイルを所有するアプリケーションに切り替えると、適切なアプリケーションを確実に変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > アプリのオプションメニュー > アプリケーションの切り替え.
   システムはアプリケーションのリストを表示します。
2. 切り替え先のアプリケーションをクリックします。
   システムがスタジオをリロードすると選択したアプリケーションを表示する。

### グローバルなアプリケーションファイルの管理

ServiceNow スタジオ でグローバルなスコープ対象のアプリケーションを作成すると、既存のグローバルスコープのファイルをそれに追加したり、それからファイルを削除したり、グローバルアプリケーション間でアプリケーションファイルを移動したりできます。

### ファイルをグローバルスコープからグローバルアプリケーションへ追加する

既存のグローバルスコープファイルを選択されているグローバルアプリケーションに追加します。更新セット名、テーブル、またはファイル名によって、グローバルにスコープ対象となっている別のアプリケーション内のファイルを検索できます。

始める前に
Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。
ロールが必要：管理者またはアプリケーションへのフルアクセスを許可する delegated_developer(委任開発者)のロール。

このタスクについて
アプリケーションピッカーでアプリケーションを選択すると、アプリケーションファイルが自動的に割り当てられます。アプリケーションファイルをスコープ対象のアプリケーションとの間で移動することはできません。「アプリケーションスコープ」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション > 開発中.
2. アプリケーション名の右側で、**[Studio** で編集] をクリックします。
3. スタジオ で、[ファイル] をクリックしてから、[既存のファイルを追加] を選択します。
4. 現在グローバルなスコープ対象のアプリケーションに追加できる既存のグローバルなスコープ対象のアプリケーションを見つけるには、次のいずれかのオプションを使用します。

   **注:**
   一度に 250 ファイルまで表示できます。もっとファイルを見るには、より具体的な検索基準で別の検索を行います。

5. [持続する] をクリックすると選択した更新セット、テーブル、または名前に関連付けられたアプリケーションファイルをリストします。
   必要に応じて結果をフィルタリングできます。
   システムはフィルタリングされた結果を表示しますが、既に現在のグローバルアプリケーションに関連付けられているファイルはすべて省略します。システムはファイルの種類、アプリケーション、いつファイルが最後に更新されたか、それがカスタマイズされたファイルかどうかを表示します。
6. 追加するファイルを選択して [追加]をクリックします。
   [変更を確認] ダイアログが表示され、移動中のファイルはカスタマイズ可能なファイルと見なされ、アップグレード中にスキップリストに表示される場合があることが示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [続行] をクリックして選択したファイルを追加します。

> **注:**
> グローバルスコープ対象のアプリケーションにグローバルスコープ対象のファイルを追加する機能により、辞書コレクションのエントリをカスタムグローバルスコープに移動することもできます。このアクションによって **sys_db_object** テーブルとコレクションが同じスコープ内になくなるため、予期しないクロススコープエラーが発生する可能性があります。このアクションは、CRUD 操作 (sys_db_object アプリケーションアクセスと既存のクロススコープ特権に基づいて許可される) が明確な理由なしでは許可されないことを意味します。

### タスクの結果
システムは選択したファイルをグローバルスコープから選択したアプリケーションに移動し、それらをカスタマイズ可能ファイルとしてフラグを設定します。たとえば、sys_ui_policy ファイルを選択すると、関連付けられた sys_ui_policy_actions ファイルも選択したアプリケーションに追加され、カスタマイズ可能としてフラグが設定されます。追加プロセスでエラーが発生したときにエラーメッセージが表示されるか、またはファイルがグローバルなスコープ対象のアプリケーションに正常に追加されたときに確認メッセージが表示されます。

## グローバルアプリケーションからのファイルを削除する

選択したグローバルアプリケーションから選択したファイルを削除し、そのファイルを所有していた以前のグローバルアプリケーションに戻します。前の所有者がいない場合、ファイルはグローバルスコープに戻されます。削除されるファイルは、依然としてカスタマイズされたファイルと見なされます。

### 始める前に
このオプションは、Global Application File Management プラグインがアクティブな場合にのみ使用できます。
必要とされるロール：admin または完全なアクセスを許可された delegated_developer ロール。

### 手順
1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション > 開発中.
2. アプリケーション名の右側の **[Studio** で編集] をクリックします。
3. で スタジオ、 を選択します。 ファイル > 複数ファイルを削除.
   このグローバルアプリケーションのファイルのリストが表示されます。
4. このアプリケーションから削除するファイルを選択します。
5. [削除] をクリックします。

## グローバルアプリケーション間でアプリケーションファイルを移動する

選択したアプリケーションファイルとそれらの子孫ファイルを、選択したグローバルアプリケーションに移動します。グローバルアプリケーションを選択すると、選択したアプリケーションファイルが自動的にそれに割り当てられます。アプリケーションファイルをスコープ対象のアプリケーションとの間で移動することはできません。

### 始める前に
必要とされるロール：admin または完全なアクセスを許可された delegated_developer ロール。

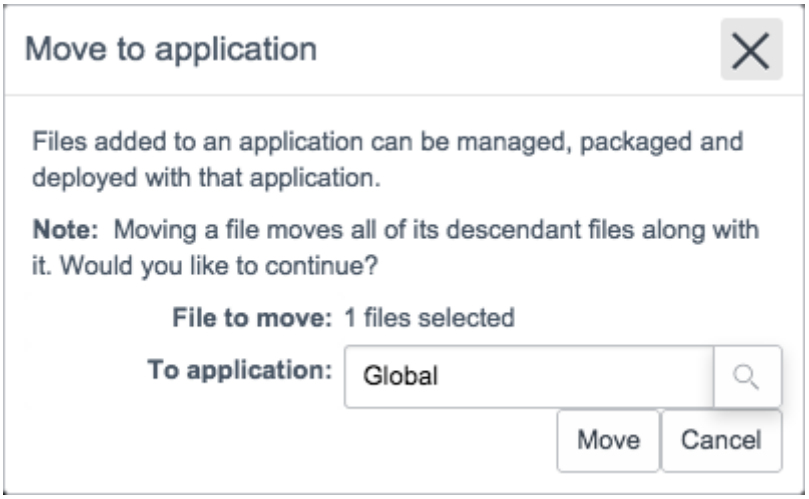
このオプションは、Global App File Management プラグインがアクティブな場合にのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. リストまたはフォームビューでアプリケーションファイルに移動します。
   たとえば、次の場所に移動します。 すべて > システム **UI** > **UI** ポリシー をクリックして、移動する UI ポリシーファイルを選択します。
2. 移動する各ファイルの横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] 選択リストにある [アプリケーションに移動] を選択します。
3. グローバルアプリケーションを選択します。




4. 移動 をクリックします。
   選択したアプリケーションファイルとその子孫ファイルが、選択したグローバルアプリケーションに移動されます。

### グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加

1 つ以上のグローバル更新セットから新規または既存のグローバルアプリケーションに、一度に複数のグローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを追加します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。

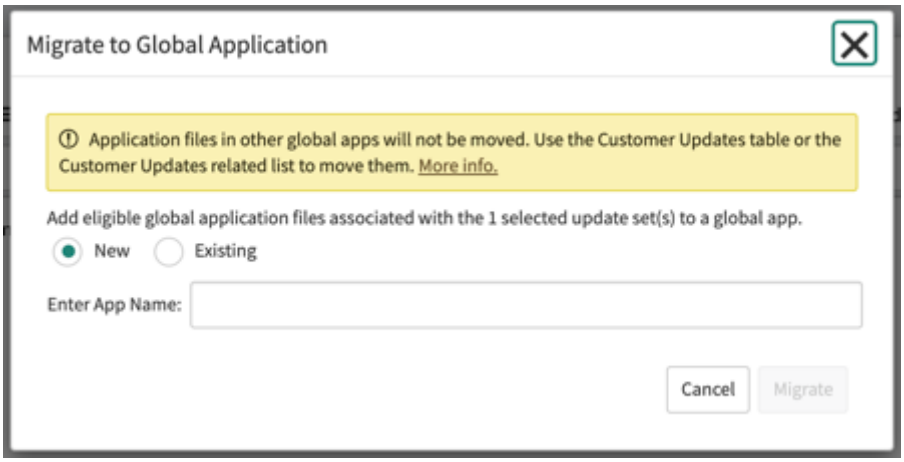
#### このタスクについて
この機能は、更新セットを介してグローバルスコープ対象のファイルのカスタマイズを管理する顧客向けです。これらのファイルは、新規または既存のグローバルアプリケーションに一括で移行できます。これでグローバルアプリケーションは、アプリケーションのみをサポートする ServiceNow CICD ツールを活用できます。複数の更新セットを選択して、グローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを新規または既存のグローバルアプリケーションに移動します。これらの更新セット内の顧客アップデートに関連付けられたすべての対象アプリケーションファイルが移動されます。この操作では、インスタンスにロードされているアプリケーションファイルのみが移動されます。同じファイルに対する別の顧客アップデートのペイロードは無視されます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. 移動する各更新セットの横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] リストの [グローバルアプリケーションに移行] を選択します。
3. 新しいグローバルアプリケーションの名前を入力するか、既存のグローバルアプリケーションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**4.** [移行]を選択します。

> **注:**
> 移行する更新セットを選択しても、他のグローバルアプリケーションの一部であるアプリケーションファイルは移動されません。グローバルスコープ内のファイルのみが移動されます。他のグローバルアプリケーションの一部であるファイルを追加するには、「顧客アップデートからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加」を参照してください。

**Trouble?**

更新に関連付けられたアプリケーションファイルが移動されない場合は、次の理由が考えられます。

- アプリケーションファイルがグローバルではない。
- アプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションの一部である。
- アプリケーションファイルが削除されている。
- アプリケーションファイルには別のグローバルアプリケーションに移動する資格がない。たとえば、sys_app ファイルです。
- アプリケーションファイルが読み取り専用である。

## 顧客アップデートからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加

1 つ以上の顧客アップデートから新規または既存のグローバルアプリケーションに、一度に複数のグローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを追加します。

### 始める前に
必要なロール：admin

Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。

他のグローバルアプリケーションの一部であるグローバルファイルを追加するには、glide.source_control.customize_files_in_other_global_apps を [true] にする必要があります。

### このタスクについて
この機能は、更新セットを介してグローバルスコープ対象のファイルのカスタマイズを管理する顧客向けです。これらのファイルは、新規または既存のグローバルアプリケーションに一括で移行できます。これでグローバルアプリケーションは、アプリケーションのみをサポートする ServiceNow CICD ツールを活用できます。複数の顧客アップデートを選択して、グローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを新規または既存のグローバルアプリケーションに追加します。顧客アップデートに関連付けられたすべての対象アプリケーションファイルが移動されます。この操作では、イ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

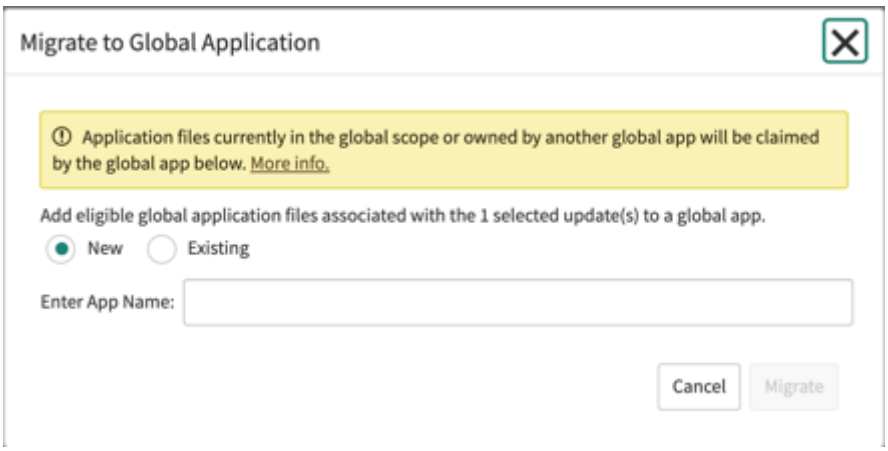
ンスタンスにロードされているアプリケーションファイルのみが移動されます。同じファイルに対する別の顧客アップデートのペイロードは無視されます。

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セットをクリックし、フォームビューで更新セットを開き、その顧客アップデート関連リストに移動します。
   または

   移動先 システムのメンテナンス > カスタマーアップデート **[sys_update_xml]** テーブルを作成し、複数の更新セットから更新を追加します。
2. 移動する各更新の横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] リストの [グローバルアプリケーションに移行] を選択します。
3. [移行]を選択します。

   注:
   グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加方法の詳細は、「グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加」を参照してください。
4. 新しいグローバルアプリケーションの名前を入力するか、既存のグローバルアプリケーションを選択します。




**Trouble?**

更新に関連付けられたアプリケーションファイルが移動されない場合は、次の理由が考えられます。

- アプリケーションファイルがグローバルではない。
- アプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションの一部である。
- アプリケーションファイルが削除されている。
- アプリケーションファイルには別のグローバルアプリケーションに移動する資格がない。たとえば、sys_app ファイルです。
- アプリケーションファイルが読み取り専用である。
- アプリケーションファイルは、移行先のグローバルアプリケーションに既に関連付けられています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 要求またはスキップされたグローバルファイルのレビュー

このトピックでは、1 つ以上のファイルが別のアプリケーションによってスキップまたは要求された場合の対処方法について説明します。

グローバルアプリケーションの開発中に、スキップまたは要求されたファイルに関する警告が、さまざまな進捗状況画面に表示される場合があります。スキップまたは要求されたファイルは、あるアプリケーションのファイルが他のアプリケーションによって要求されたときに発生する可能性があります。

これらの警告は、アプリケーションリポジトリまたは Git リポジトリからアプリケーションをインストールするとき、または自分のアプリケーションを公開するときに、表示されます。アプリケーションファイルが別のアプリケーションによってスキップまたは要求されていることを確認した場合は、その別のアプリケーションを所有するチームに連絡して、両方のチームにとって最善の措置を決定してください。

### どんな選択肢がありますか？

本番環境にロードできるのは 1 つのバージョンのみであるため、オプションは次のようになります。

- 1 つのファイルのみが本番環境にロードされるように、どちらのアプリケーションからファイルを削除するか他のチームと決定します。
- 結合ツールを使用します。本番環境で両方のアプリのファイルを変更する必要がある場合は、結合ツールを使用して、両者を効果的に機能させる新しい共通アプリケーションにファイルをプルします。

詳細は、トピック「競合の解決」を参照してください。

### 下書きレコードの自動リカバリ

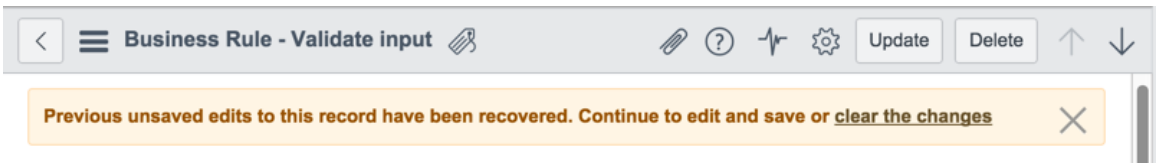
スタジオ 保存されていない変更がある既存の任意のレコードについてもバージョンを保持できます。ユーザーは、ネットワーク待ち時間、セッションタイムアウト、またはサービスの中断のために、ユーザー セッションが予期せず終了した場合にも、未保存の変更を復元できます。

自動リカバリは次のものに適用されます。

- スタジオ で開いたレコード。すべての下書きレコードが保存されるわけではありません。
- デスクトップ(非モバイル)ブラウザで行われた変更。モバイルブラウザの下書きレコードは保存されません。
- 既存のレコードに対する変更。新しいレコードへの変更の下書きは保存されません。
- レコードへの最新の更新である未保存の変更を含むレコード。別のユーザーが同じレコードを更新した場合、システムは下書きの変更を破棄します。
- アプリケーションファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブルのレコード。

ユーザーがセッションを再確立した後、スタジオ はリカバリされた変更を含む各レコードのメッセージを表示します。

自動リカバリメッセージ




リカバリしたレコードごとに、ユーザーは次をできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- レコードの編集と保存を続ける。
- リカバリキャッシュから変更をクリアする。

ユーザーが次の操作を行うと、システムはリカバリキャッシュからの変更を自動的に消去します。

- レコードを保存します。システムは、保存されたレコードをリカバリキャッシュから削除する。
- 変更を保存せずにレコードから離脱することを確認する。放棄されたレコードは、リカバリキャッシュから削除する。
- リカバリキャッシュの5MBの変更の上限に到達。システムは最も古い更新日時スタンプのレコードを削除する。

デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。

管理者は、自動リカバリのプロパティを次のように構成できます。

- 自動リカバリを無効または再度有効にする。
- 自動リカバリから除外するフィールドのタイプを指定する。

ユーザーは、ユーザーの設定として自動リカバリを有効または無効にすることができます。

関連情報

ユーザー初期設定

### 自動リカバリプロパティ

管理者は、次の場所に移動して下書きレコードのリカバリの処理方法を設定できますスタジオ システム自動復旧 > プロパティ.

自動リカバリプロパティ

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| 自動リカバリを有効化<br><br>*glide.ui.auto.recovery* | デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。レコードの自動リカバリを無効にするようにこのプロパティを設定します。 |
| 自動リカバリはカンマ区切りリストテーブルをサポートしない<br><br>*glide.ui.auto.recovery.unsupported.tables* | デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。特定のテーブルを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定します。 |
| 自動リカバリはカンマ区切りリストフィールドタイプをサポートしない<br><br>*glide.ui.auto.recovery.unsupported.field.types* | デフォルトでは、自動リカバリはすべてのフィールドタイプをサポートします。特定のフィールドタイプを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定する。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動リカバリプロパティ (続く)

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| カンマ区切りリストのフィールドタイプは自動リカバリから除外しない<br><br>*glide.ui.auto.recovery.exclude.field.types* | デフォルトでは、すべてのフィールドタイプに対して自動リカバリが有効になっています。特定のフィールドタイプを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定する。 |

### 自動リカバリディクショナリーの属性

管理者は、スタジオディクショナリー属性を持つドラフトレコードのリカバリをどう扱うかを設定できます。

自動リカバリプロパティ

| 辞書属性 | 説明 |
| --- | --- |
| 自動リカバリを除外<br><br>*exclude_auto_recovery* | このテーブルのドラフトレコードの自動リカバリを無効にします。 |

関連情報

ディクショナリー属性

### ソースコントロールの統合

アプリケーション開発者が Git ソースコントロールリポジトリと統合できるようにします。非本番インスタンスから、アプリケーションの複数のバージョンを保存および管理します。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスですべてのアプリケーション開発者が次の操作を実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

## 統合の要件

アプリケーションをソースコントロールにリンクするには

- ユーザーには管理者ロールが必要です。
- 非本番インスタンスには、Git リポジトリへのネットワークアクセスが必要です。
- 各アプリケーションは、それ自体の Git リポジトリ内に存在する必要があります。
- リポジトリユーザーの資格情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 組の資格情報を共有します。

## ServiceNow スタジオ で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は、ServiceNow スタジオ をリポジトリ管理に使用できます。開発者は スタジオ から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの資格情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

ソースコントロールを使用して本番インスタンスでアプリケーションを管理することはお勧めしません。本番環境に展開すると、予期しない結果が生じる可能性があります。「本番展開のヒント」を参照してください。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

## Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- ServiceNow スタジオ の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、sn_source_control.properties と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *path* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを src/app サブフォルダーに移動した場合は、*path* を path=src/app に設定します。

システムは、スタジオ の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに checksum.txt ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。
- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロール統合は、sn_source_control.properties ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

## MID Server のサポート

既存の MID Server を使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID Server を介してアプリケーションとリンクまたはインポートすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

### ソースコントロール統合のための MID Server の構成

ソースコントロール統合のために MID Server を構成すると、ServiceNow インスタンスと外部のアプリケーション、データソース、サービスの間の通信やデータの移動が可能になります。

- glide.attachement.extensions プロパティに「bundle」拡張を追加します。
- MID Server がプロキシを経由してリモートの Git リポジトリにアクセスする必要がある場合は、次の手順を実行します。
  - agent\conf\wrapper-override.conf ファイルに次の行を追加します。
  - wrapper.java.additionial.3=-Dhttps.proxyHost=<proxyHost>
  - wrapper.java.additionial.4=-Dhttps.proxyPort=<proxyPort>
  - MID を再起動します。
  - 「MID セキュリティポリシー」に新しいエントリを追加します。
  - 名前：<プロキシホスト名>
  - [アクティブ (Active)] のみをオンにします。

### ソースコントロールのコミットのノイズ除去

ソースコントロールのメタデータレコードについて、ノイズを含む更新フィールドの XML ファイルにアンロードすることをスキップします。

#### 本番展開のヒント

ServiceNow® プラットフォームでアプリケーションのカスタマイズを開発する場合は、アプリケーションリポジトリを介してそれを本番インスタンスに展開します。このトピックでは、アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストールと、ソースコントロールを使用した Git リポジトリからのインストールのトレードオフについて検討し、注意事項を示します。

## 概要

技術的には、ソースコントロールを使用して、Git リポジトリから本番インスタンスにアプリケーションを「展開」できます。これにより、意図しない結果が生じる可能性があります。

## 用語集

| 用語 | 定義 |
| --- | --- |
| メタデータまたはアプリケーションファイル | sys_metadata レコードは ServiceNow 内の構成を定義し、アプリケーションにパッケージ化されています。これらのレコードは、インスタンスの動作を変更しますが、インシデントや |

自動翻訳

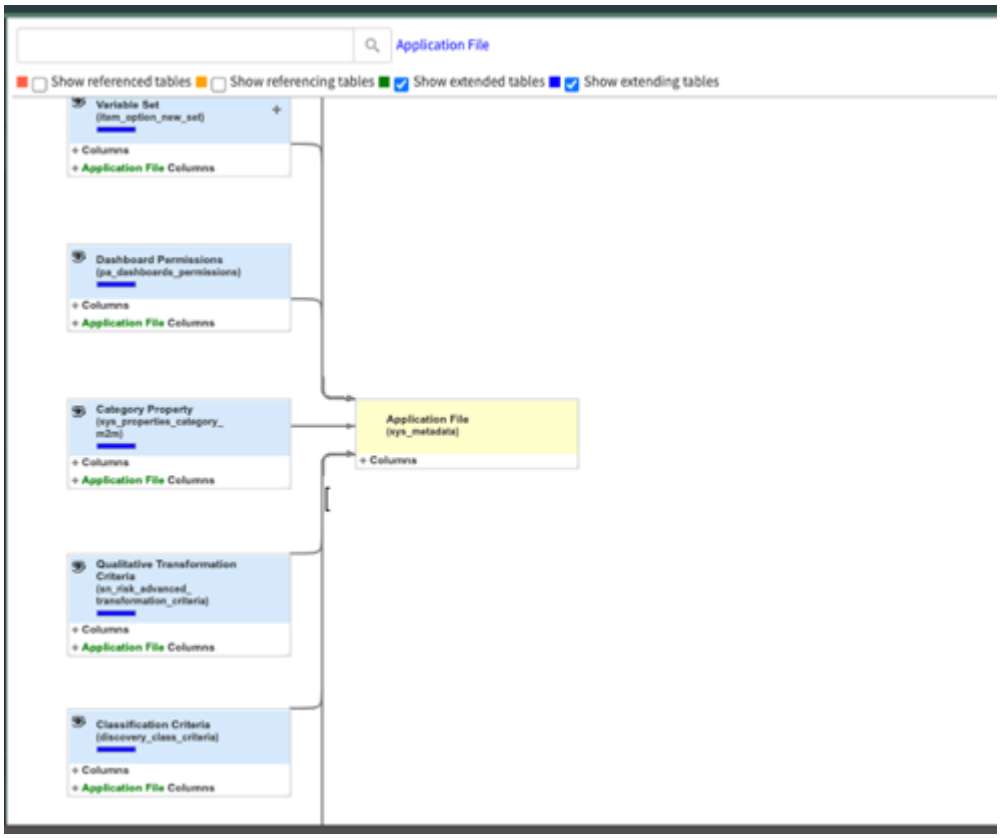
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

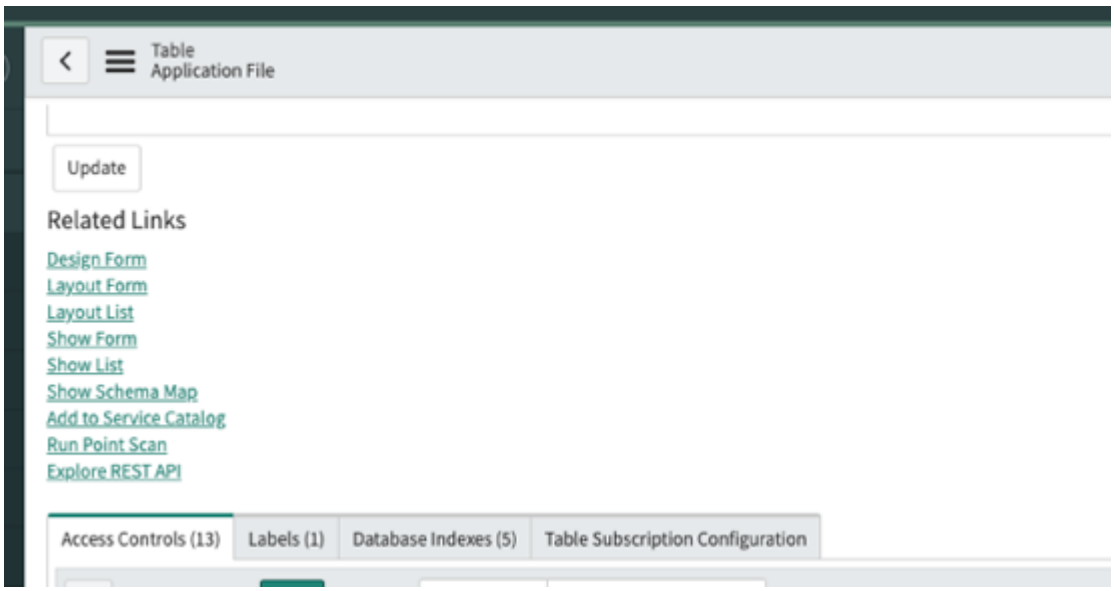
| 用語 | 定義 |
| --- | --- |
| | CMDB レコードなどのデータは含まれません。(以下の注意を参照) |
| スコープ対象のアプリケーション | ServiceNow アプリケーションで、制限によってスコープ境界内の更新と操作のみを許可します。このメカニズムは、ほとんどの新規開発に使用されます。 |
| グローバルアプリケーション | グローバルアプリケーションは、従来のグローバルスコープで開発されます。多くの場合、このスコープでの作業は、IT Service Management (ITSM) などの既存の ServiceNow アプリケーションのカスタマイズです。 |
| アプリケーションリポジトリ | アプリケーションは通常、本番インスタンスでの展開のためにここで公開されます。アプリケーションリポジトリには個別のエンタイトルメントルールがありますが、ServiceNow Store と同様に動作します。 |
| ServiceNow ストア | サードパーティ (ベンダー) アプリケーションおよび ServiceNow の公開済みアプリケーションのリポジトリです。ほとんどの顧客は Store に公開しませんが、そこからアプリケーションをインストールすることがよくあります。 |
| 更新セット | 連続する各インスタンスでの展開用にカスタマイズをパッケージ化する標準的な方法です。挿入、更新、および削除の増分コレクションが含まれます。 |
| デルタロード | 以前のアンインストール/再インストールの方法ではなく、ソースコントロールからのみ変更されるため、ロードの最も効率的な方法です。 |
| スキーマ | テーブルとテーブルの列の定義です。 |
| ロールバック | 管理者は、選択したアプリケーションの最後のインストールをロールバックできます。ロールバックすると、初期インストールからすべてのコード、テーブル、ファイルの更新が削除されます。 |

注:
**sys_metadata** テーブルは、テーブル継承モデルを使用する ServiceNow プラットフォーム内のすべてのアプリケーションファイルの親テーブルです。メタデータのサマリ情報を表示するには、テーブル (sys_db_object レコード) の拡張テーブル (super_class) フィールドで示される方法で直接的または間接的に拡張される親テーブルやテーブルにアクセスします。**sys_metadata** テーブルのテーブル (sys_db_object) フォームにアクセスして、フォームの下部にある [スキーママップを表示] 関連リンクを選択することで、スキーマ全体を表示することもできます。スキーマが大きいため、レンダリングに時間がかかります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




自動翻訳

## インストールの場所

ソースコントロールをインストールすると、進行中のカスタムアプリケーションの開発が容易になります。したがって、そのアプリケーションは、ストアアプリケーション [sys_store_app] テーブルの「インストール済み」アプリケーションとしてではなく、カスタムアプリケーション [sys_app] テーブルの「開発中」アプリケーションとして管理されます。どちらのテーブルも sys_scope の拡張であるため、どちらもスコープと同じ保護と制限を提供します。したがって、ソースコントロールの展開済みアプリケーションのインストールを検索するときは、システムアプリケーション [sys_app] テーブルと [アプリケーションマネージャー] ページの [開発中] セクションを参照してください。

ServiceNow ストアまたはアプリケーションリポジトリからアプリケーションを展開するときに、インスタンスに同じアプリケーションの sys_app レコードを含めることはできません。2 つの展開モ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デルは相互に排他的です。どの時点でも展開モデルが変更された場合は、まず sys_app レコードを sys_store_app レコードに変換する必要があります。この操作の実行については、ServiceNow サポートにお問い合わせください。

## デルタロード

ServiceNow Paris リリースより前は、ソースコントロールからのアプリケーションインストールがトリガーされると、「リモート変更の適用」機能を含むアプリケーション全体が常に削除されて再インストールされていました。デルタロード では変更のみが更新されるため、プロセスが大幅に簡素化されます。

デルタロードのプロセスは、ソースコントロールからの変更を増分としてロードします。リモート変更を適用する場合、既存のテーブルや列は、リポジトリから削除されない限り削除されません。これにより、存在し続けているテーブルとフィールドのデータが保持されます。

注:
**glide.source_control.allow_delta_loading_in_scopedapp** プロパティを使用すると、Paris でデルタロードを無効にできます。ただし、これにより、アプリケーションを削除して再インストールする、より破壊的な動作に戻ります。Paris のグローバルアプリケーションでは、常にデルタロードが使用されます。

次の表に、デルタロードを使用するインスタンスで予想されるさまざまな結果を示します。

| アプリケーションタイプ | インストールソース | パッケージにスキーマが存在するか | スキーマにデータが含まれるか | 他のアプリからの要求 (グローバル) | データとスキーマの予想される結果 |
|---|---|---|---|---|---|
| スコープ対象 | アプリケーションリポジトリまたはストア | あり | はい/いいえ | 適用外 | 保持 |
| スコープ対象 | アプリケーションリポジトリまたはストア | なし | はい/いいえ | 適用外 | 保持 |
| スコープ対象 | ソースコントロール | あり | はい/いいえ | 適用外 | 保持 |
| スコープ対象 | ソースコントロール | なし | はい/いいえ | 適用外 | 削除 |
| グローバル | ソースコントロール、アプリケーションリポジトリ、またはストア | あり | はい/いいえ | はい/いいえ | 保持 |
| | | なし | はい | なし | 保持 (1) |
| | | なし | いいえ | あり | 保持 (2) |
| | ソースコントロール | なし | いいえ | なし | 削除 (3) |
| | アプリケーションリポジトリ | なし | いいえ | なし | 保持 |

注:
1：データベーススキーマとデータは保持されますが、デフォルトのグローバルアプリケーションに移動されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**注:**
2：データベーススキーマとデータは保持されますが、以前にこれらのファイルに対する要求を保持していたグローバルアプリケーションがインストールされている場合、そこに移動されます。それ以外の場合は、デフォルトのグローバルアプリケーションに移動されます。

**注:**
3：**u_** プリフィックス付きのカスタム列にのみ適用されます。ServiceNow プラットフォームで作成された列は削除されません。

スコープ対象のアプリケーションのソースコントロールで分岐を切り替える場合は、本番環境で十分に注意してください。現在の分岐で見つかるスキーマ要素がターゲットの分岐にない場合、関連するスキーマは削除され、含まれているデータはすべて破棄されます(データが存在する場合、グローバルアプリケーションはスキーマを削除しません)。

更新セットの場合と同様に、デルタロードでは増分変更のサブセットのみを適用する必要があります。更新セットとは異なり、アプリケーションパッケージは完全なアプリケーションを表します。新しいパッケージに存在しないファイルは削除されます。これにより、機能が変更され、データが削除される可能性があります。アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store からアップグレードされた更新セットとアプリケーションには、ファイルやスキーマを削除するための明示的な削除ペイロードが必要です。

アプリケーションファイルが何らかの方法で動的に生成されている場合、アプリケーションに対する次のインストール/リモート変更の適用操作で、これらのレコードは削除されます。それらは、受信したアプリケーションパッケージには存在しないと見なされます。ローカルの変更をスタッシュすると、スタッシュコミットによってアプリケーションファイルを復旧できる場合がありますが、変更の結果としてデータが失われた場合、そのデータは復旧されません。

**注:**
sys_update_xml レコードを削除または抑制すると、動的生成ファイルはデルタロードによって削除されなくなります。ただし、このアクションは他の重大な結果や望ましくない結果をもたらす可能性があります。

リポジトリを直接編集する (特にファイルを削除する) と、データの損失やカスケード削除などの重大な影響が生じる可能性があります。このアクションは注意して実行してください。

### 作成者の選択的更新と顧客アップデート

アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow® ストアからアプリケーションをインストールする場合、一連のプロパティを設定して、削除と選択処理の動作を定義できます。このような選択は「作成者の選択的」機能と呼ばれます。

## 概要

これらのプロパティの詳細については、「アプリケーションのインストール中に発生するスキップされたレコード」トピックを参照してください。これらのプロパティを使用すると、独自のアプリケーションを使用しているか、サードパーティのアプリケーションを使用しているかに応じて、削除や選択の更新をオプトインまたはオプトアウトできます。

ただし、ソースコントロールからインストールする場合、グローバルアプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションによって要求されている場合を除き、これらのレコードはスキップされません。author_elective_update フォルダー全体の処理を無効にする **com.glide.apps.include_my_deletes** および **com.glide.apps.include_global_deletes** を除き、これらのプロパティはソースインストール済みアプリには有効ではありません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> ソースコントロールのデルタロードで検出された「不在」ファイルは、author_elective_update フォルダー内に格納されている削除ペイロードとは大きく異なります。author_elective_update プロパティでは、ソースコントロールでデルタロードした場合に、ファイルが削除されることがあります。

同様に、更新セットは、受信した変更がプレビューの決定を強制しても、インスタンスで行ったカスタマイズを保護します。更新セットをコミットする前に、プレビューを実行して衝突を検出する必要があります。変更をコミットする前に、すべてのプレビューの問題に対処する必要があります。ソースコントロールではローカルの変更をスタッシュするように指示されることがありますが、インストールすると、(ローカルで変更が行われた場合でも) ソースに存在するものがロードされます。

インストールのターゲットに基づいてプロパティのバージョンが異なる必要がある場合、ソースに存在するものをロードするのは困難です。たとえば、統合 URL を含むプロパティがインスタンスの本番ロールに基づいて異なる場合、解決は困難です。**is_private** フラグはソースコントロールインストールで有効であり、プロパティが設定されている場合は上書きしないため、この問題を軽減できます。

### ロールバック、切り戻し、アンインストール

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションインストールは、ロールバック用に記録されます。つまり、管理者は、選択したアプリケーションの前回のインストールをロールバックできます。アプリケーションをロールバックすると、初期インストールからすべてのコード、テーブル、およびファイルの更新が削除されます。

ソースコントロールのインストールはロールバック用に記録されません。つまり、アプリケーションリポジトリ、ストアのインストール、またはファミリ内のアップグレードを元に戻すロールバック機能は、ソースコントロールのインストールでは使用できません。また、ServiceNow Store アプリケーションと同じ意味で (つまり、テーブルと列を保持するオプションを使用して) アンインストールすることもできません。それらは、**sys_app** レコードを削除することで削除できます。ただし、スコープ対象のアプリケーションでは、これにより基礎となるスキーマとそのデータが破棄されます。

グローバルアプリケーションは、すべてのアプリケーションファイルを別のグローバルアプリケーションに移動するまで削除できません。アプリケーションの **sys_app** レコードを削除すると、削除ペイロードを含む **sys_update_xml** レコードも作成されます。同じアプリケーションがアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を介してインストールされている場合、これらのペイロードはスキップを生成する可能性があります。

これらのスキップを回避するには、アプリケーションリポジトリからアプリケーションをインストールする前に、**sys_update_xml** レコードを手動で削除する必要があります。また、ソースコントロールからのインストールでは、Update Sets に含まれる、新しい変更のサブセットを削除する [切り戻し] オプションはありません。つまり、このモデルで復旧できるのは、現在のバージョンのアプリケーションの上に修正された (新旧の) バージョンをインストールする場合に限定されます。このアクションでは、メタデータまたは構成のみが復元されます。インストール失敗の結果として失われたデータは、データベースの復元から復旧する必要があります。

### アップグレード履歴

アップグレード履歴レコードと履歴行の処分は、インストールレコードを提供するソースコントロールインストールの一部として生成されます。

ソースコントロールのインストールはよりアグレッシブであり、プロパティにグローバル要求または **is_private** 保護がない限り、通常はスキップされません。グローバルアプリケーションは、データを含む列、または ServiceNow ベースでインストールされた列も削除されないように保護します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 開発に関する考慮事項

コードを開発するときは、パフォーマンスを最も効率化するために、次の提案のいくつかを検討してください。

本番インスタンスは Git リポジトリに公開すべきではありません

本番環境の完全性を保護するため、本番環境から変更をプッシュして Git リポジトリに公開しないでください。技術的には ServiceNow スタジオ でアプリケーションの変更を開いてコミットできる場合でも同様です。[Studio でアプリケーションの編集が可能] オプションは、本番環境では **sys_app** レコードで無効にできます。ただし、更新をトリガーする次のソースコード操作 (つまり、リモート変更を適用するか分岐を切り替えるとき) でリセットされます。

Git リポジトリからアプリケーションをインストールするときには依存関係がインストールされません

ソースがコントロールするアプリケーションは、自分のアプリケーションの依存関係としてリストされている場合でも、自動的にインストールまたはアップグレードされません。代わりに、顧客が自分でソースがコントロールするアプリケーションをインストールまたはアップグレードする必要があります。顧客は、正しい順序でアプリケーションをインストールおよびアップグレードする責任も負います。

本番環境ではソースコントロール権限を厳格に管理します。

ソースコード操作は、通常、そのインスタンスの開発権限を持つユーザーが利用できます。本番環境では開発を続ける必要がないため、データの損失やその他の重大な結果を避けるために、管理者権限と委任開発権限を厳密に管理してください。

### 利用可能なソースコントロール操作

ソースコントロールの統合は、主に、スタジオからの操作をサポートしますが、GIT リポジトリから直接の操作をサポートすることもできます。

#### 利用可能なソースコントロール操作

| 操作 | 説明 | 入手先 |
|---|---|---|
| ソースコントロールからインポート | アプリケーションをリポジトリからローカルインスタンスにインポートします。 | スタジオ |
| ソースコントロールにリンク | 開発者はGITリポジトリからアプリケーションの変更を管理できます。 | スタジオ |
| リポジトリ構成を編集 | GIT リポジトリのユーザー資格情報を更新します。 | スタジオ |
| リモート変更を適用 | リポジトリのバージョンと一致するようにアプリケーションのローカルバージョンを更新します。 | スタジオ |
| 変更を収容 | ローカルバージョンと一致するように、アプリケーションのリポジトリバージョンを更新します。 | スタジオ |
| ローカルな変更を隠す | 後で作業するためにローカルの変更を削除して保存します。 | スタジオ |
| 分岐を切り替え | アプリケーションのローカルバージョンを更新して、リポジトリ分岐バージョンと一致させます。 | スタジオ |
| 分岐を作成 | リポジトリに分岐を作成して、異なるバージョンのアプリケーションを保存します。 | • スタジオ<br>• GITリポジトリ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

| 操作 | 説明 | 入手先 |
| --- | --- | --- |
| タグを作成 | 特定のアプリケーションバージョンにリンクするようタグをリポジトリに作成します。 | • スタジオ<br>• GITリポジトリ |
| しまいこみを管理 | 開発者がしまい込んだ変更を適用または削除できるようにします。 | スタジオ |
| リポジトリを作成する | アプリケーションの変更を保存するリポジトリを作成します。 | GITリポジトリ |
| 資格情報の作成 | リポジトリへの資格情報を作成します。 | GITリポジトリ |
| リポジトリへのアクセスを許可する | 特定の資格情報セットに関連付けられたリポジトリへの読み書きアクセスを提供します。 | GITリポジトリ |
| ソースコントロールリポジトリの同期 | 管理者がソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用し、インスタンスと再同期できるようにします。<br>**注:**<br>この操作は、リポジトリに対してデルタロードが使用されている場合にのみ使用できます。「デルタロード」を参照してください。 | リポジトリ構成フォーム |

## アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート

ソースコントロールリポジトリからアプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをインポートして、このインスタンスで開発を続行します。

### 始める前に

- 必要なロール：admin または source_control
  - アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセスを許可します。
  - リポジトリユーザーの資格情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

  詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- リポジトリに有効なアプリケーションが含まれていることを確認する。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- アプリケーションのカスタマイズの詳細については、「アプリケーションカスタマイズの管理 (Managing application-customizations)」を参照してください。

### このタスクについて

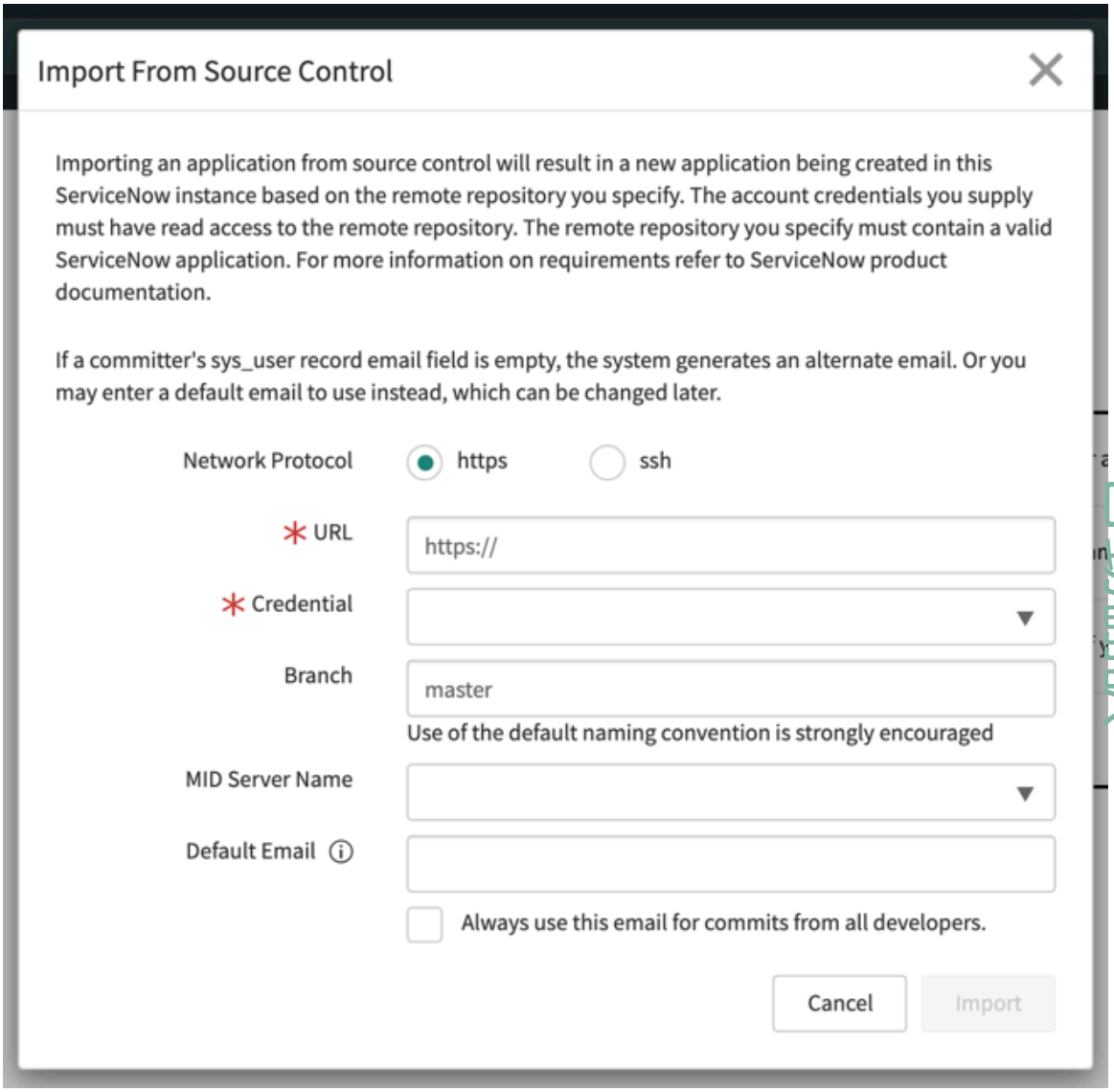
ソースコントロール統合では、制作インスタンス上のアプリケーションのインポートはサポートされていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store から制作インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > **Studio**.
   スタジオページに歓迎画面が表示されます。
2. クリック **Studio** を開く > 移動.
   システムがスタジオとアプリケーションの切り替えウィンドウを開きます。
3. ソースコントロールからインポートをクリックします。
   スタジオ ソースコントロールフィールドからインポートを表示します。




4. 次のフィールド値を入力します。

ソースコントロールフィールドからのインポート

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ネットワークプロトコル | セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする https または ssh 資格情報タイプ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| URL | アプリケーションファイルが存在する Git リポジトリの URL。<br>**注:**<br>Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。 |
| 資格情報 | Git リポジトリの資格情報を選択します(「資格情報の開始」を参照)。<br>**注:**<br>ssh ネットワークプロトコルを選択した場合は、[SSH プライベートキー] タイプの有効な資格情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証資格情報タイプの有効な資格情報を入力します。 |
| 分岐 | アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。<br>**注:**<br>デフォルトの分岐には、インスタンスの名前が付けられます。名前を選択しない場合、分岐はデフォルトで [マスター] になります。 |
| MID Server 名 | 既存の MID Server を選択して、企業ファイアウォールの背後に格納されている Git リポジトリにリンクします。<br>**注:**<br>ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID Server を使用します。 |
| デフォルトのメール | コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |

**注:**
インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための資格情報を共有します。

5. [インポート] をクリックします。
checksum.txt ファイル内のチェックサムが、現在のチェックサムと比較されます。チェックサム値が一致すると、統合は検証をスキップしてアプリケーションをインポートします。チェックサム値が一致しない場合、統合は最初にアプリケーションファイルを検証してサニタイズしてから、それらをインポートします。
6. アプリケーションの選択をクリックします。
スタジオ アプリケーションをウィンドウに新しい選択肢として表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 次のタスク

- インポート中にアプリケーションファイルに適用されたサニタイズのアップグレードログを確認します。
- インポートしたアプリケーションを選択して編集する。

### 関連情報

MID Server

資格情報の開始

## アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをソースコントロールにリンクすると、アプリケーション開発者は Git リポジトリから変更を管理できます。

### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- 詳細については、「アプリケーションカスタマイズの管理 (Managing application-customizations)」を参照してください。
- アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。セキュリティを強化するには、Git リポジトリに対するマルチファクター認証を有効にします。
- パスワードと複数要素認証パスキーの代わりにソースコントロール統合で使用できるアクセストークンを生成する。個人アクセストークンを GitHub または GitLab で検索する。
- アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセス権を付与します。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- 詳細を見る： 完了した更新セット履歴のソースコントロールへの移行

### このタスクについて

ソースコントロール統合は、本番インスタンス上のアプリケーションまたはカスタマイズへのリンクをサポートしません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store から本番インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

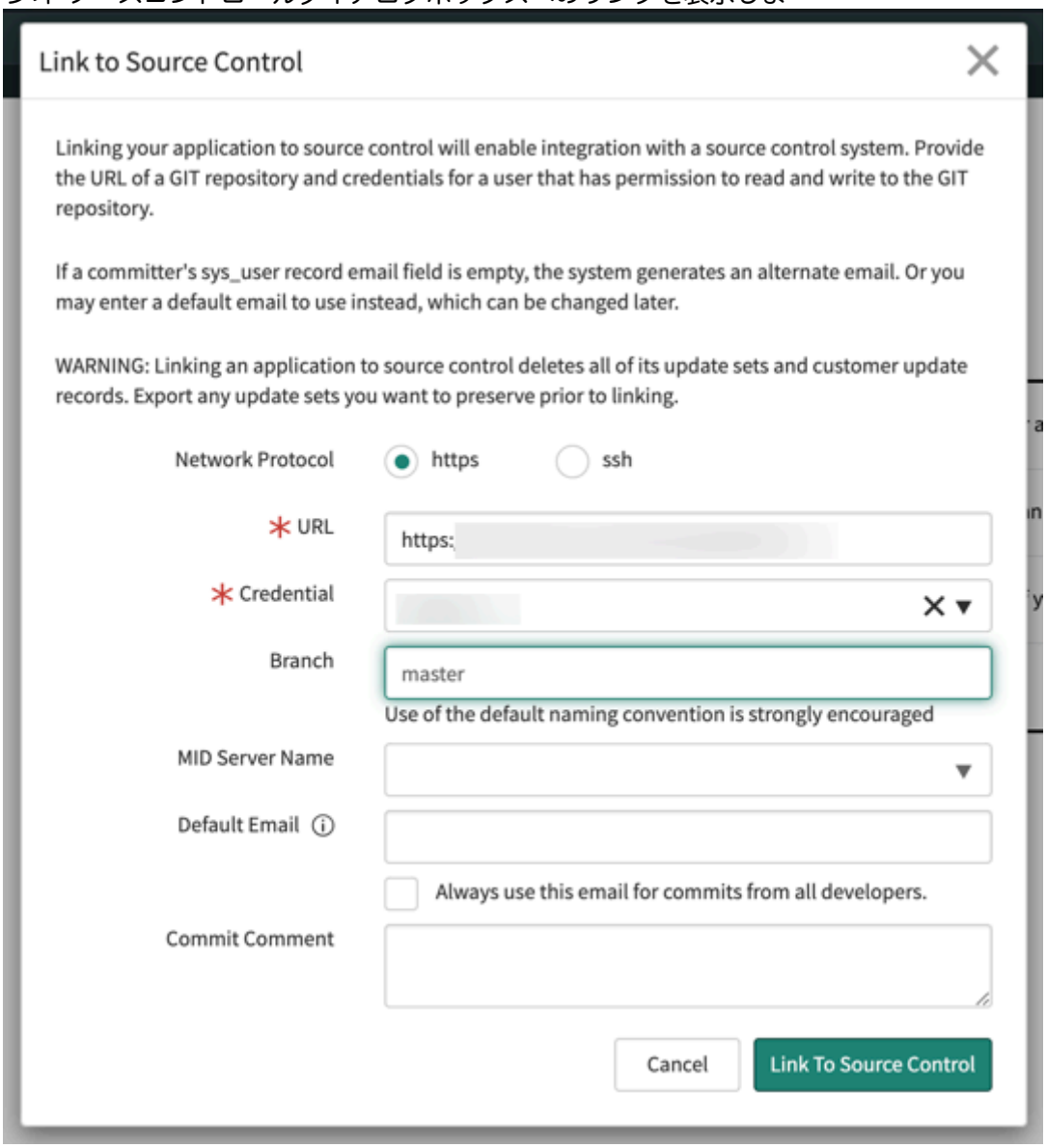
### 手順

1. ソースコントロールにリンクしたいアプリケーションをスタジオに開きます。
2. 移動先 ソースコントロール > ソースコントロールにリンク.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ ソースコントロールダイアログボックスへのリンクを表示しま




す。

**3.** Git リポジトリの接続の詳細を入力します。

ソースコントロール接続の詳細

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ネットワークプロトコル | セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする HTTPS または SSH 資格情報タイプ。 |
| URL | アプリケーションファイルを保存する Git リポジトリの URL。SSH プロトコルの場合は、コマンドを使用して秘密キー `ssh-keygen -t rsa -m PEM -b 4096 -C "email@address"` を生成します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。 |
| 資格情報 | 選択したプロトコルで使用する資格情報。資格情報の作成の詳細については、「資格情報の開始」を参照してください。<br><br>**注:**<br>SSH ネットワークプロトコルを選択した場合は、SSH 秘密キータイプの有効な資格情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証資格情報タイプの有効な資格情報を入力します。 |
| 分岐 | アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。 |
| MID Server 名 | リンクが経由する既存の MID Server の名前。<br><br>**注:**<br>ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID Server を使用します。<br><br>MID Server のユーザーが sys_attachment テーブルにファイルを作成でき、そのテーブルが「バンドル」タイプのファイルを受け入れることができることを確認してください。<br><br>MID Server を介してアプリケーションとリンクまたはインポートすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。詳細については、「ソースコントロールでの MID Server の使用」および「MID Server」のトピックを参照してください。 |
| デフォルトのメール | コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| コミットのコメント | リポジトリまたはアプリケーションの付随的説明 |

**注:**
インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、1 組のリポジトリ資格情報を共有します。

4. [送信] をクリックします。
システムは接続とユーザーの資格情報を検証し、成功メッセージを表示します。

インスタンスのすべてのアプリケーション開発者は、リンクされた Git リポジトリを使用して変更を管理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

資格情報の開始

### ソースコントロールでの **MID Server** の使用

ServiceNow® MID Server は、ServiceNow インスタンスと外部のアプリケーション、データソース、サービスの間のデータの通信や移動を支援します。

## バンドルファイルの **MID Server** での機能

**.bundle** ファイルは、MID Server でのソースコントロール機能に役立ちます。バンドルファイルは、Git がローカルリポジトリを 1 つのファイルにパッケージ化する方法です。これにより、リポジトリの共有または移動がより簡単に、合理化されます。その後ファイルは MID Server に送信され、リモートリポジトリに渡されます。

outgoing.bundle (コミット操作) と incoming.bundle (リモート変更の適用) は、MID Server に送信されるすべての要求について、MID Server 添付ファイルテーブル [ecc_agent_attachment] に添付されます。outgoing.bundle は インスタンスで作成され、incoming.bundle は MID Server で作成されます。

操作が正常に完了すると、バンドルファイルはリポジトリ構成テーブル [sys_repo_config] に添付される golden.bundle に「昇格」されます。これは、まだソースコントロール操作を実行していないノードでリポジトリを初期化するために使用されます。

自動クローズツール [sys_auto_flush] は、30 日以上経過したすべての ecc_agent_attachment レコードを削除する「テーブルクリーナー」です。このアクションにより、対応する添付ファイルも削除されます。

バンドルファイルは MID Server に保持されて、MID Server の Import ディレクトリに保存されます。

MID Server では、バンドルファイルは Import フォルダーに保存されます。このフォルダーは、ユーザーが構成できるシステムプロパティ (user.dir) によって定義されたユーザーディレクトリの下にあります。バンドルファイルは、いつでも操作の最後のシステムフラッシュの一部として削除されます。

## **MID Server** の操作

> **注:**
> エクスポート後にアプリ全体がバンドルされ、アプリのサイズに依存するため、MID Server を使用しているときは、大規模なアプリケーションではソースコントロール操作に時間がかかる場合があります。

- Discovery との競合を回避し、システム添付ファイル [sys_attachment] テーブルのファイルを作成します (MID Server)
- システムのプロパティの制限について学習します (添付ファイルのシステムプロパティの構成)

### 完了した更新セット履歴のソースコントロールへの移行

ソースコントロールにリンクすると、この機能により、アプリケーション開発者は完了した更新セット内の情報をソースコントロール履歴に移行することもできます。

### 移行前

更新セットを移行してみる前に、次の基準を満たしていることを確認してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



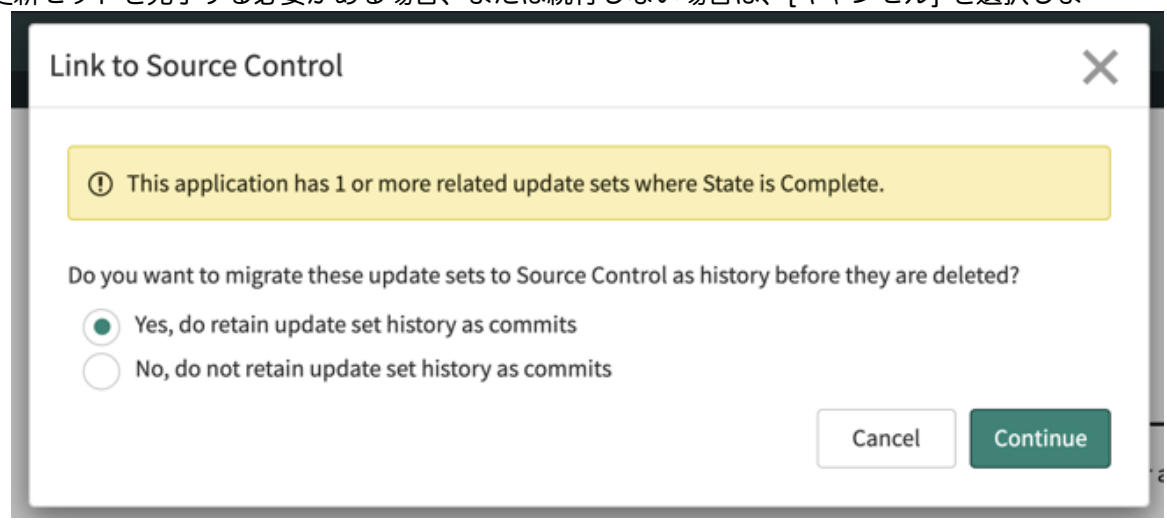
自動翻訳

- 必要なロール：admin
- 「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」トピックを読みます。
- ソースコントロール履歴としてエクスポートする、アプリケーションの更新セットを完了します。
- 保持する必要がある場合は、完了した更新セットをエクスポートします。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、更新セットと顧客更新レコードが削除されます。ソースコントロールにリンクした後、アプリケーションに完了した更新セットがある場合は、下のダイアログボックスで選択を求められます。

- [はい、更新セット履歴をコミットとして保持します] を選択した場合、更新セット履歴はソースコントロールのコミットとして保持されます。
- [いいえ、更新セット履歴をコミットとして保持しません] を選択すると、コミットとして保持されません。

選択したオプションに関係なく、[続行] を選択すると、[ソースコントロールにリンク] 操作が開始され、完了したすべての更新セットとすべての顧客更新レコードが削除されます。追加の更新セットを完了する必要がある場合、または続行しない場合は、[キャンセル] を選択します。




ソースコントロールにリンクしている、アプリケーションの更新を含む完了した更新セットごとに、更新セットの sys_update_xml レコードに基づいてコミットが自動的に生成されます。コミットは **sys_recorded_at** タイムスタンプ順に並べられます。グローバルアプリケーションの場合：アプリケーションに属し、完了したグローバル更新セットの一部である **sys_update_xml** レコードは、履歴コミットとしてキャプチャされます。

[ソースコントロールにリンク] 操作が完了すると、最新のコミットがアプリケーション全体の状態になります。Git リポジトリでコミットの履歴を表示するか、 [ソースコントロール] メニューオプションをクリックして [履歴を表示] を選択します。更新は複数のコミットに分離されます。

- 異なる更新セット間でファイルの更新が順序通りでない場合。
- 更新セットに 1 つのファイルの複数の更新レコードが含まれている場合。

1 つの更新セットに対するコミットは、複数のコミット ([過去のコミット 1]、[過去のコミット 2]...) に分割されて各更新を表します。これにより、各ファイルの更新の履歴が順序付けされます。

**⚠ 警告:**
[過去のコミット] のプリフィックスが付いたコミットは、その履歴を表示するためだけに生成されます。これらのコミットがアプリケーションの安定したスナップショットを表すとは限らないため、開発プロセスではこれらをチェックアウトしないでください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

最初のコミットまで、**author_elective_update** フォルダーは作成されません。つまり、最初のコミットでは、**sys_choice** ファイルなどのファイルの名前が変更され、update フォルダーから **author_elective_update** フォルダーに移動されている可能性があります。履歴コミットで更新セットから削除されたファイルは削除され、実際のコミットの場合とは異なり、**author_elective_update** フォルダーに移動されません。最初のコミット中に、完了した更新セットの一部として削除された DELETE sys_update_xml レコードに対しても削除ペイロードが作成されます。

コミットメッセージの例：

```
[Historical Commit 1] <Name of update set that this commit belongs to>
Description: <Description of update set that this commit belongs to>
Update Set was completed on / installed on <date>
Update Set was completed by <sys_user user_name > <sys_user email>
{
```

sys_update_set レコードから追加される値 (下の「カスタマイズ」セクションを参照)

```
}
{
```

バッチ更新セットの情報 (下の「バッチ更新セット」セクションを参照)

## バッチ更新セット

更新セットがバッチ更新セットの一部である場合、その情報は次の形式でコミットメッセージに追加されます (最大番号がバッチベース)。

```
{
"1": {
"parent": "<name of parent update set>",
"description": "<description of parent update set>"
},
"2": {
"parent": " <name of parent 1's parent update set> ",
"description": " <description of parent 1's parent update set> "
}
}
```

## カスタマイズ

コミットメッセージに含めるフィールドを追加するには、**glide.source_control.historical_commit_fields** プロパティを追加します。値は、ユーザーが sys_update_set XML フィールドから含めるフィールドの、カンマ区切りリストです。スペース、無効なフィールド名、またはスペルミスのあるフィールド名は無視されます。コミット担当者が更新セット履歴を保持することを選択した場合、このプロパティは、インスタンスからソースコントロールにリンクされているすべてのアプリケーションで使用されます。

**注:**
フィールドの値が別のテーブルまたは sys_id を参照する場合、フィールドの値のみが追加されます。たとえば、ユーザーの名前の代わりにそのユーザーの sys_id が追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**XML** の例

```
▼<xml>
  ▼<sys_update_set>
      <application
      display_value="test_app2">a388a8735be720107c7899b8b681c7d8</application>
      <base_update_set/>
      <completed_by display_value="System
      Administrator">6816f79cc0a8016401c5a33be04be441</completed_by>
      <completed_on>2021-04-22 22:14:38</completed_on>
      <description>added a script include</description>
      <install_date/>
      <installed_from/>
      <is_default>false</is_default>
      <merged_to/>
      <name>update set 1</name>
      <origin_sys_id/>
      <parent/>
      <release_date/>
      <remote_sys_id/>
      <state>complete</state>
      <sys_created_by>admin</sys_created_by>
      <sys_created_on>2021-04-22 22:13:45</sys_created_on>
      <sys_id>6961f0f75be720107c7899b8b681c71f</sys_id>
      <sys_mod_count>1</sys_mod_count>
      <sys_updated_by>admin</sys_updated_by>
      <sys_updated_on>2021-04-22 22:14:38</sys_updated_on>
    </sys_update_set>
  </xml>
```

プロパティの値

コミットメッセージの結果

```
[Historical Commit 1] update set 1
Description: added a script include
Update Set was completed on 2021-04-22 18:56:06
Update Set was completed by admin admin@example.com
{
  "sys_id": "5d278db35b2320107c7899b8b681c73d",
  "is_default": "false",
  "sys_created_by": "admin"
}
```

**Git** リポジトリ構成の編集

Git リポジトリを編集して、ネットワークプロトコルの選択、資格情報、またはその他のフィールドエントリを変更できます。

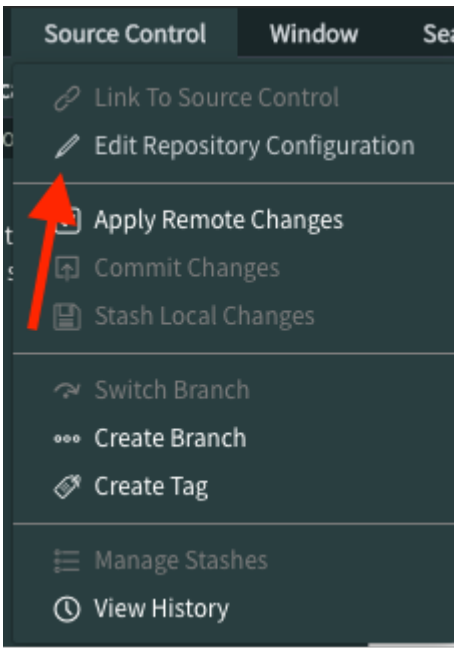
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

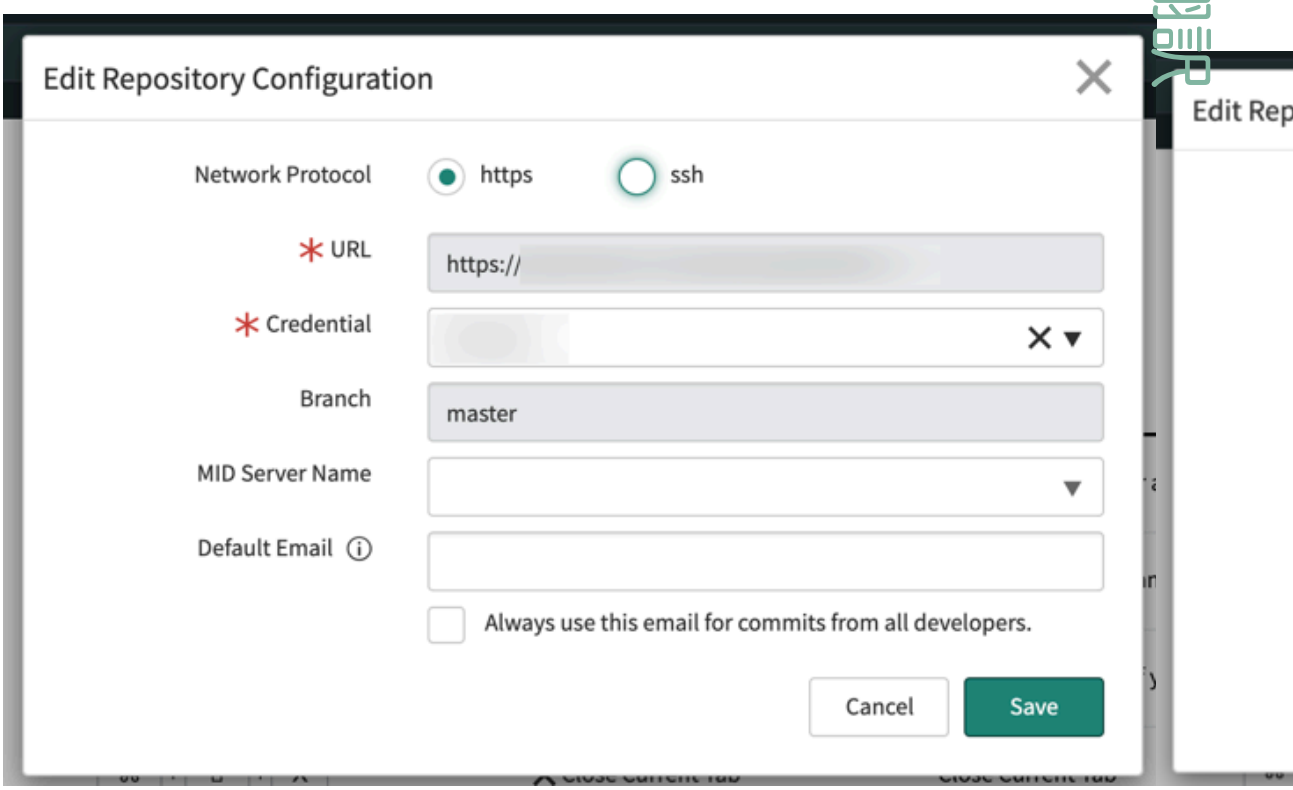
始める前に
必要なロール：管理者

手順

**1.** Studio で、以下を選択します。 リポジトリ構成を編集.




**2. [https]** または **[ssh]** ネットワークプロトコルを選択して、リポジトリの URL アドレスを入力します。




**3.** 必要に応じて、資格情報または MID Server 名を変更します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> MID Server 名がない場合は、ドロップダウンリストから新しい名前を選択できます。新しい MID Server を選択する場合は、[ソースコントロール] メニューでリモートの変更を適用してからその後のソースコントロール操作を行って、エラーを回避します。

デフォルトのメールフィールドでは、コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

4. [保存] をクリックします。

### リモートの変更を適用

アプリケーション開発者は、リンクされたGITリポジトリから変更を引出して、ローカルインスタンスにリモート変更を適用できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

#### 手順

移動先 すべて > ソースコントロール > リモート変更を適用.
次の操作が行われます：

- システムは、リモートリポジトリから最新の変更を取ってくる。
- システムは、リモート変更をインスタンスに適用する。
- システムは解決を必要とする変更の競合を特定する。

競合が発生した場合、システムは競合を解決するためのウインドウを表示します。

システムプロパティのデフォルトでデルタロードがアクティブ化されているため、データは削除されません。データを自動的に削除する場合は、この機能を無効にします。

> **注:**
> ソースコントロールでの [リモート変更を適用] やその他の操作の後に、次のエラーメッセージが表示される場合があり ます：Skipped loading file *.xml, cannot parse the xml document, found git merge conflicts tokens (*.xml ファイルのロードをスキップしました。xml ドキュメントを解析できません。Git の結合競合トークンが見つかりました)。アプリケーションのファイルに、Git リポジトリが結合競合トークンとして解釈する値が含まれていないことを確認してください。これらは実際の競合ではありませんが、いずれにしても削除する必要があります。そのような値の例：
>
> `>>>>>>>`
>
> `=======`
>
> `<<<<<<<`

#### 次のタスク
変更の競合を解決します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変更を収容

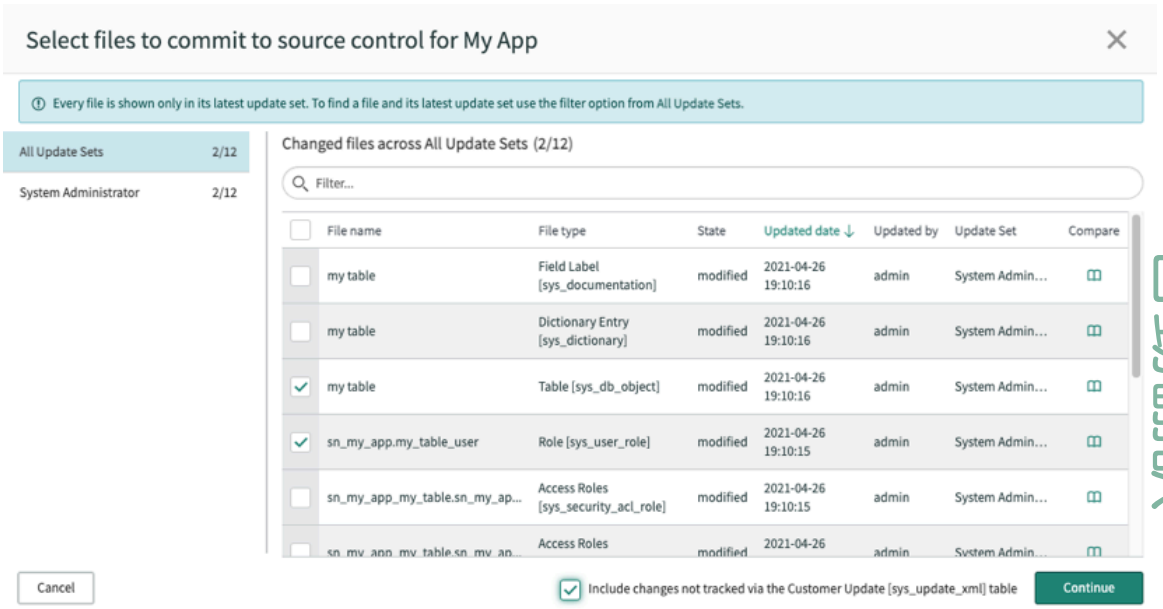
アプリケーション開発者は、インスタンスの変更をリンクされた Git リポジトリにコミットできます。変更をいくつか選択してコミットすることも、インスタンスに対するすべての変更を一度にコミットすることもできます。

## 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

## 手順

1. 移動先 すべて > ソースコントロール > 変更を収容.
   [ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ウィンドウが表示されます。すべての更新セットからのファイル変更が表示されます。デフォルトでは、現在の更新セットからのファイル変更が表示されます。




2. コミットするファイル変更を選択します。
3. 追跡されていない変更を含めるには、[顧客アップデート **[sys_update_xml]** テーブルを介して追跡されない変更を含める] チェックボックスをオンにします。
   - このチェックボックスのデフォルトは、**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティを介して設定されます。
     - プロパティは、**[include_untracked]** または **[exclude_untracked]** に設定できます。
     - **[include_untracked]** モードは、sys_update_xml レコードを生成しないアプリケーションに対する更新とともに、ユーザーが選択した更新をコミットします。
     - **[exclude_untracked]** モードでは、[ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ダイアログでユーザーが選択した更新のみがコミットされます。
   - プロパティのベースシステム設定は **[exclude_untracked]** です。
   - ServiceNow Rome より前のリリースでは、**include_untracked** モードのみが使用されます。

   チェックボックスを非表示にして **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値を使用するには、**[sn_devstudio.vcs.allow_commit_mode_selection]** プロパティを作成して

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[false] に設定します。このチェックボックスをオンにすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

注:

次の場合、コミットは常に **[include_untracked]** モードで発生します。

- 初めてソースコントロールにリンクするとき (詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください)。
- ServiceNow Studio からソースコントロールにリンクされたアプリケーションを公開するとき (詳細については、「ServiceNow スタジオ からのアプリケーションの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)」を参照してください)。
- 選択的コミットモードが無効のとき。

4. [続行] をクリックします。
5. [コメントをコミット] に、変更のコメントを入力します。
6. [コミットファイル] をクリックします。
   次の操作が行われます：
   - システムは全てのローカルな変更を識別します。
   - システムは、リモートリポジトリにすべてのローカル変更を収容します。

注:
顧客更新レコードがなく、追跡もされていない既知のファイルのリストについては、「Customer Updates table」を参照してください。

### ローカル変更をスタッシュ

アプリケーション開発者は、変更をローカルで削除して保存し、後で適用できます。

#### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- 1つまたは複数のアプリケーションファイルを変更する。

#### このタスクについて

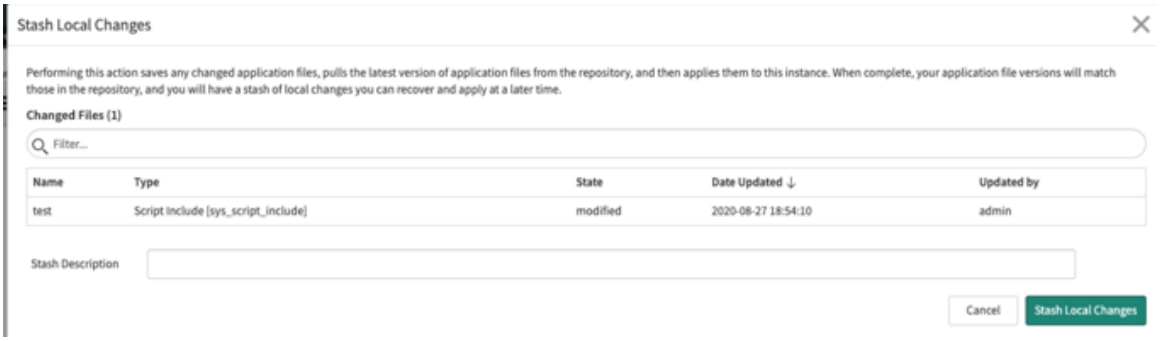
変更をしまい込むと、現アプリケーションからその変更が除去され、後ほど開発者が適用または削除するために保存します。

#### 手順

1. 、 スタジオ移動先 ソースコントロール > ローカル変更をスタッシュ.
   システムがローカルで変更されたファイルのリストを表示します。
2. 説明を入力します。
3. ローカル変更をしまい込むをクリックします。
   システムは現在の変更を保存し、成功メッセージを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
San Diego 以降のリリースでは、スタッシュ中の更新のたびにユーザー情報が保持されます。スタッシュが適用されると、各更新はそれぞれのユーザーの進行中のローカル更新セットに復元されます。

### 次のタスク

- ダイアログを閉じる
- スタッシュを管理

詳細については、「資格情報の開始」を参照してください。

## 分岐を切り替え

アプリケーション開発者は別のリポジトリブランチに切り替えて、別のバージョンのアプリケーションで作業できます。

### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- 1つ以上の利用可能なブランチを持つGITリポジトリ

### 手順

1. 移動先 すべて > ソースコントロール > 分岐を切り替え.
   [分岐を切り替え] ウィンドウが表示されます。
2. オプション: インスタンスにローカルで変更があった場合は、それらを保存または破棄できます。

   **注:**
   ローカルな変更を破棄するときは注意します。すべてのアプリケーション開発者はリポジトリの資格情報を共有するため、1 組のユーザー変更だけを破棄する方法はありません。後で破棄した変更を回復することはできません。

3. 切り替え先の分岐を選択します。
4. ブランチ切り替えをクリックします。
   スタジオ ではリポジトリからの分岐バージョンと一致するようにローカルアプリケーションが更新されます。

## ブランチを作成

アプリケーション開発者は、既存のアプリケーションの新しいバージョンで作業するブランチを作成できます。

自動翻訳

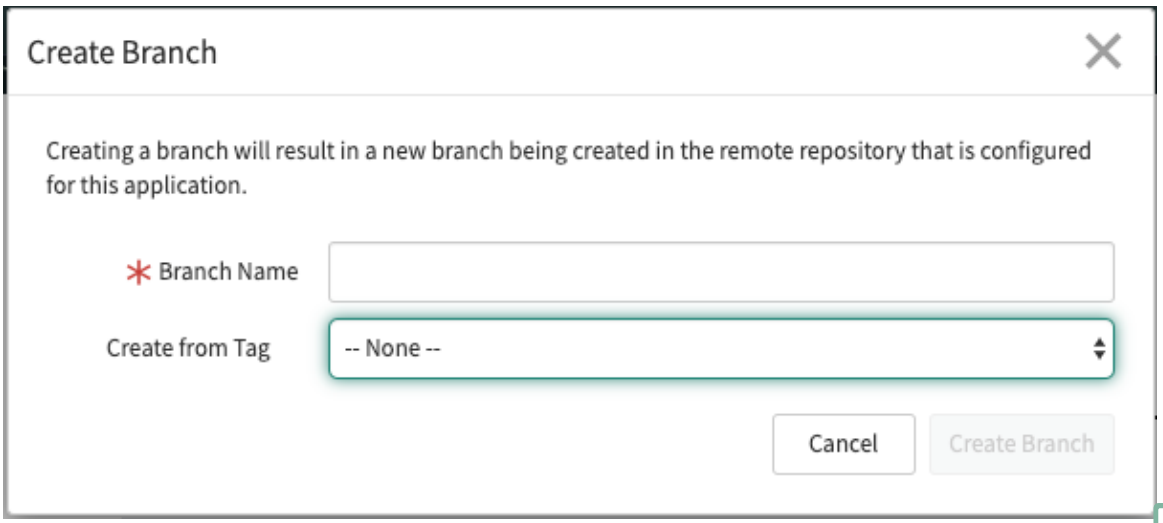
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

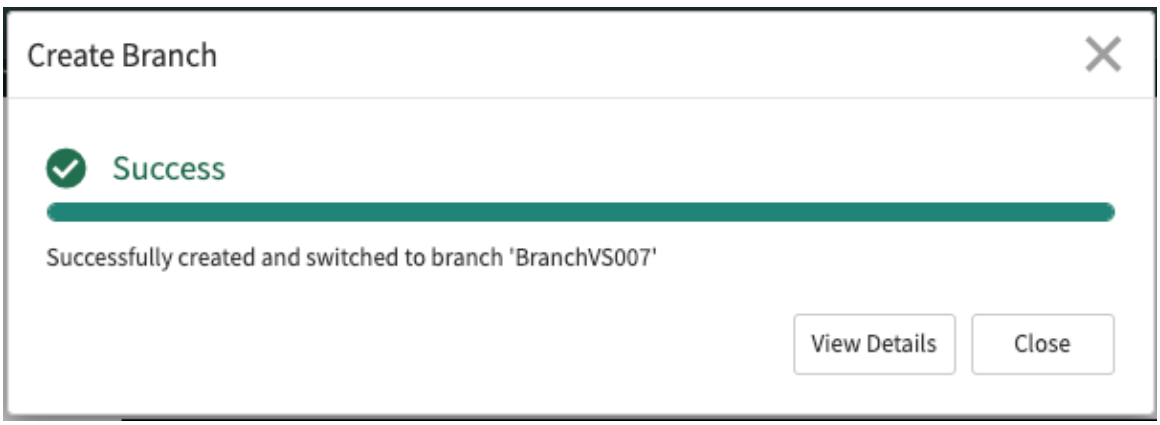
- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. 移動先 すべて > ソースコントロール > 分岐を作成.
   スタジオ で分岐作成ウィンドウが開きます。




2. [分岐名] を入入します。
3. オプション: タグから分岐を作成するには、[タグから作成] ドロップダウンリストをクリックして、既存のタグを選択します。
4. [分岐を作成] をクリックします。
   スタジオ で分岐が作成されます。




5. [クローズ] をクリックします。

次のタスク
新しい分岐への変更をコミットします。

デフォルト分岐の設定

新しい変更またはメインの開発リポジトリとしてメイン以外の分岐を使用する場合は、デフォルト分岐を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

### 手順

1. 「 システムプロパティを追加する 」の手順に従います。
2. **[glide.source_control.default_branch_name]** プロパティを追加し、(プル要求、コードコミットなどの) 作業をする Git ソースコントロールリポジトリのデフォルト分岐の名前を指定します。

### タスクの結果

アプリケーション開発者の作業は、特に指定されていない限り、デフォルトの分岐から管理され、そこに保存されます。変更されない限り、この値のデフォルトは「sn_instances/<instance_name>」に設定されます。

## スタッシュを管理

アプリケーション開発者は、スタジオからしまい込んだ変更を適用または削除できます。

### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする。
- １つまたは複数のアプリケーションファイルの変更をしまい込む。

### 手順

1. 、 スタジオ移動先 ソースコントロール > スタッシュを管理.
   システムはローカルにしまい込まれた変更のリストを表示します。
2. 管理したいしまい込みの横にある操作をクリックします。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 適用 | アプリケーションにしまい込まれた変更を収容し、競合をチェックします。 |
| 削除 | しまい込まれた変更を削除する。 |
| 表示 | スタッシュされた変更のリストを表示します。 |

## 競合の解決

アプリケーション開発者は、リモートまたはしまい込まれた変更を適用するときに使用するアプリケーションファイルのバージョンを選択できます。

### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- しまい込んだ変更の適用

### このタスクについて

競合は、同じアプリケーションファイルの複数の変更バージョンがある場合に発生します。１つはリモートまたはしまい込みバージョンの変更セットで、もう1つはローカルバージョンの変更セットで

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。 スタジオ開発者は、リモートまたはしまい込みの変更を適用する前に競合を解決する必要があります。

### 手順

1. スタジオからリモートまたはしまい込み変更を適用します。
   システムが競合を識別すると、[競合の解決] ダイアログを表示します。
2. 競合を解決する方法を選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクションを選択 | すべてのしまい込み変更を適用または破棄します。ステップ3 に行きます。 |
| 変更を手動で合併 | 適用する変更を個別に選択します。ステップ 6 に行きます。 |

3. 全てのしまい込まれた変更を適用または破棄したい場合には、アクションを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| しまい込んだ変更を取得 | しまい込んだ変更からアプリケーションファイルのバージョンを適用します。 |
| しまい込んだ変更を破棄 | リポジトリから最新引出したものからアプリケーションファイルのバージョンを適用します。 |

4. しまい込んだ変更を適用をクリックします。
   選択した変更が適用されます。
5. ダイアログを閉じるをクリックします。
6. 競合する変更を合併する場合は、手動で適用するをクリックします。
   バージョン差異のリストをフィールド毎に表示します。
7. 合併されたアプリケーションファイルに含めたいフィールドの値を選択します。
8. 結合を保存をクリックします。
   選択した変更が適用されます。

## 収容の履歴を表示

アプリケーション開発者は、ソースコントロールリポジトリにリンクされているアプリケーションの収容履歴を表示できます。

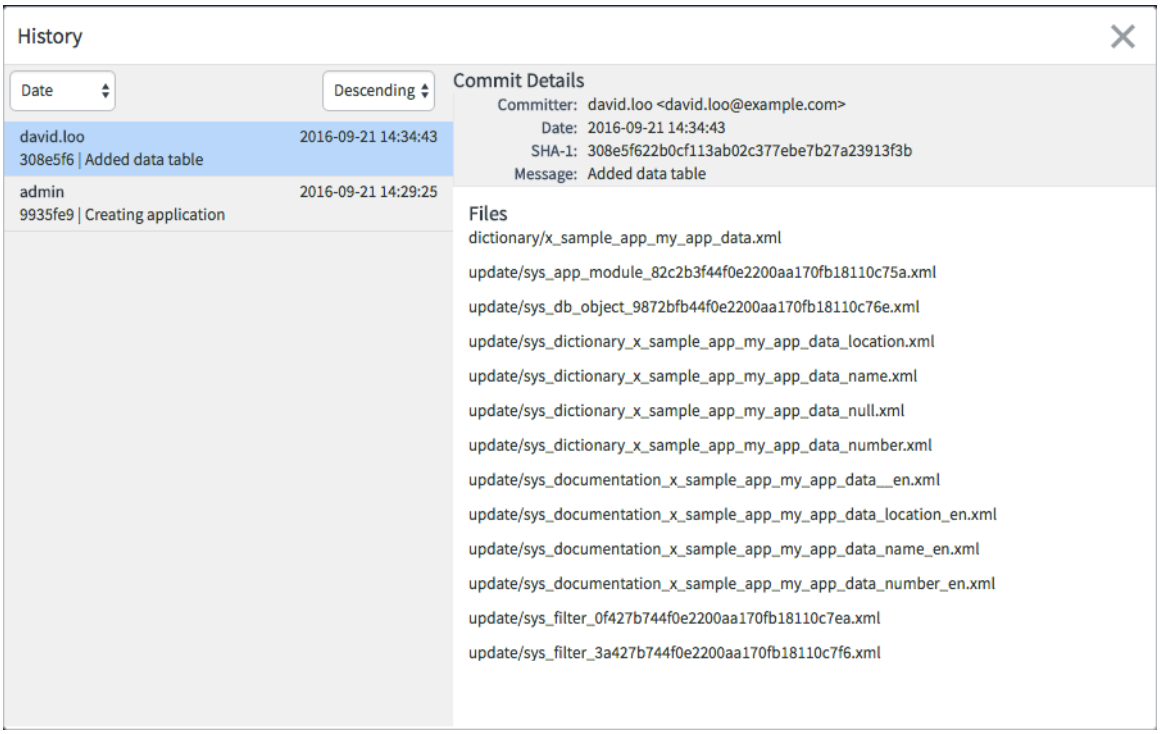
### 始める前に

- 必要なロール：管理者
- GITリポジトリへの既存のリンク

### 手順

1. 移動先 すべて > ソースコントロール > 履歴を表示.
   履歴ウィンドウを表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




2. ソートの注文タイプの収容を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 日付 | 収容日付でソートします。 |
| コミット担当者 | ユーザー名でソートします。 |

3. ソート順の方向を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 降順 | 最も新しい日付から最も古い日付までにソートします。ユーザー名を逆アルファベット順でZからAに並べ替えます。 |
| 昇順 | 最も古い日付から最新の日付までにソートします。アルファベット順でAからZにユーザー名をソートします。 |

システムは、選択したソート順で収容をソートします。

4. 収容を選択します。
選択した収容の収容の詳細が表示されます。

5. 収容の詳細を確認します。

収容の詳細

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| コミット担当者 | 変更を収容したユーザー |
| 日付 | 収容の日時スタンプ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| SHA-1 | リポジトリ内のこの収容を識別する確実なハッシュ値 |
| メッセージ | この収容に関連する収容メッセージ |
| ファイル | この収容で変更されたアプリケーションファイルのリスト |

6. 履歴ウィンドウを閉じます。

### Git リポジトリのアプリケーションファイルの移動

ソースコントロールにリンクされたアプリケーションファイルをリポジトリの任意のフォルダーに移動します。アプリケーション開発者は、サポートするアプリケーションと同じリポジトリに自動テストなどのサポートコンテンツを保存できます。

#### 始める前に

- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク
- 必要なロール：書き込みアクセス権を持つソースコントロール資格情報

#### このタスクについて

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、リポジトリのルートレベルで、sn_source_control.properties と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。そのプロパティファイルは、アプリケーションファイルを含むフォルダーを指定します。統合は checksum.txt ファイルを生成することで、これらのアプリケーションファイルに対する変更を追跡します。チェックサムが一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサムが一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。統合は、アプリケーションパス外のすべてのリポジトリコンテンツを無視します。

> **注:**
> システムのプロパティ **[glide.source_control.checksum_required]** を設定すると、オプションのチェックサムの検証とサニタイズが有効になり、**[glide.source_control.checksum_quick_install]** を設定すると、チェックサムが一致したときにサニタイズのステップをバイパスできます。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

#### 手順

1. アプリケーションにリンクされたソースコントロールリポジトリにログインします。
2. アプリケーションファイルの移動先フォルダーを作成します。

   **Example**
   たとえば、src/app フォルダーを作成します。
3. アプリケーションファイルを含むフォルダーを移動先フォルダーに移動します。

   **Example**
   たとえば、demo_my_app フォルダーを src/app に移動します。
4. リポジトリのルートレベルに移動します。
5. テキストエディターで sn_source_control.properties テキストファイルを開きます。
6. `path=` プロパティには、アプリケーションファイルを移動したフォルダーパスを入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**
たとえば、「path=src/app」と入力します。

7. プロパティファイルを保存します。

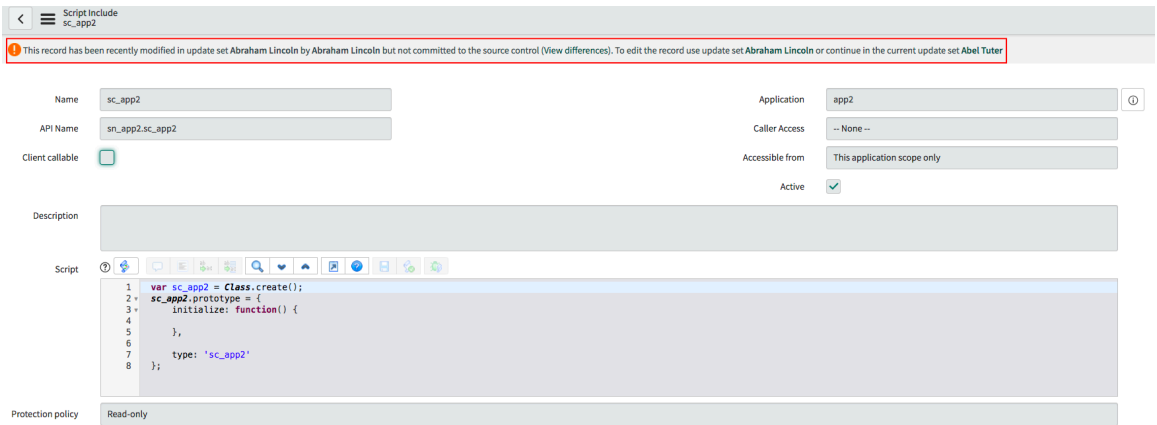
次のタスク
インスタンスにログインし、スタジオ からソースコントロール操作を実行します。

### 衝突回避

コミットプロセス中にシームレスなエクスペリエンスを確保するために、異なる更新セット間でアプリケーションファイルを変更しないでください。

ログインしているユーザーが、対応するアプリケーションの現在の更新セットとは異なる更新セットで変更されたアプリケーションファイルを開くと、次のように動作します。

- アプリケーションファイルで衝突が検出され、警告メッセージが表示されます。
- ログインユーザーは更新セットを選択するよう指示されます。
- 読み取り専用の保護ポリシーがそのアプリケーションファイルに適用されます。




ユーザーは、必要な更新セットを選択した後にのみ、アプリケーションファイルを変更できます。

**注:**
この機能は、Git にリンクされているアプリケーションにのみ適用されます。

システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.vcs.collision_avoidance* プロパティを使用して、衝突回避機能を有効または無効にします。この機能はデフォルトで有効になっています。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

この機能が有効になっている場合、ユーザーはアプリケーションのデフォルトの更新セットでは作業できません。ユーザーにデフォルトの更新セットがアサインされている場合、衝突回避機能が有効になった後に初めてアプリケーションにログインしたときに、一意の更新セットが作成されます。この新しい更新セットは、現在のアプリケーションのユーザーに固有です。

ログインしているユーザーに固有の更新セットの名前は、システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.vcs.updateset_identifier* プロパティに指定された値に基づくユーザー ID またはユーザー名です。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。デフォルトでは、更新セット名はログインしているユーザーのユーザー名に設定されます。ただし、ユーザーは更新セットの名前を変更できます。

### デルタロード

「デルタロード」は、Git リポジトリからアプリケーションをロードするための最適な方法です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

分岐を切り替えてリモート変更を適用すると、変更された更新のみがデルタロード機能によってロードされます。アプリケーションの完全なアンインストールと再インストールを実行する必要はなく、変更された更新のみが実行されます。これにより、開発者のプロセスが迅速化され、容易になり、開発中にすべての分岐を使用する必要がなくなります。テーブルに格納されているデータはこれらの操作中に保持されるため、再インストールまたは分岐変更の操作後にアプリケーションにデモデータをロードし直す必要はありません。

## デルタロードのメリット

時間削減

通常、アプリケーションのアンインストールまたは再インストールの最も時間がかかる部分は、テーブルの削除と作成です。デルタロードでは、それが発生しません。アプリケーションのサイズによっては、テーブルを削除または作成する必要がないため、操作の実行時間が大幅に短縮されます。

テストデータとデモデータの保持

テストデータとデモデータを含むテーブルは削除されないため、データは失われません。毎回デモデータを再インポートする必要がなければ、開発者は時間を節約できます。

クロススコープ依存参照の保持

クロススコープで参照を共有するアイテムは、変更を適用しても失われなくなりました。これは、スコープ B のアイテムがスコープ A の親アイテムに関連付けられるときに発生していました。スコープ A にリモート変更を適用すると、親アイテムが削除されて再インストールされ、両アイテム間の参照が壊れ、その関係は復元されません。デルタロードによってアンインストールが防止されるため、参照は失われません。

推奨されるプラクティス

ServiceNow Paris リリース以降のすべてのインスタンスでは、デルタロードがデフォルトで有効になっています。この機能は、アプリケーション開発に役立つように設計されており、継続的なサポートとアップグレードが提供されます。

### ソースコントロールのコミットのノイズ除去

ソースコントロールの開発者は、システムによって自動更新されるフィールドからノイズを受けることなく、Git 分岐を結合できます。

## 概要

スタジオ では、ソースコントロール機能はアプリケーションファイルが Git リポジトリにエクスポートされるときに XML ペイロードとしてパッケージ化します。ユーザーがアプリケーション開発ワークフローの一部として Git リポジトリで Git 分岐を結合する場合、そのユーザーは XML ファイル内の競合を解決する必要があります。これらの競合は通常、sys_updated_by などのシステム生成フィールドにあり、ユーザー生成ではない変更を表します。このプロセスではより多くのノイズが発生する可能性があるため、ユーザーはこれらのフィールドの競合を解決するときに注意する必要があります。

## セーバー免除属性

ソースコントロールに XML ペイロードのノイズを除去する機能が追加され、Git 分岐が結合されたときにユーザーが競合を解決できるようになりました。

デフォルトでは、システムによって値が自動生成されるテーブル内の特定のフィールドに対して saver_exempt 属性が設定されます。saver_exempt 属性の詳細については、「辞書の属性」を参照してください。

次のテーブルには、saver_exempt の値が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セーバー免除属性テーブル

| フィールド | システムテーブル | **saver_exempt** の値 | 予想される結果 |
|---|---|---|---|
| • sys_updated_on<br>• sys_updated_by<br>• sys_mod_count | • sys_metadata<br>• sys_choice<br>• sys_package<br>• sys_app_customization<br>• sys_claim<br>• sys_package_dependency_m2m | exempt_vcs_only | Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、フィールドはテーブルのレコードの対応する XML 表現に書き込まれません。 |
| Sys_id | • sys_dictionary<br>• sys_documentation<br>• sys_choice | exempt_vcs_only | Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、sys_id フィールドは 3 つのテーブルのレコードの XML 表現に書き込まれません。 |
| loader_exempt = true のフィールド | | exempt_always | loader_exempt が **[True]** に設定されているフィールドは、インスタンスにロードされません。Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、これらはテーブルのレコードの XML 表現に書き込まれません。 |

自動翻訳

## トラッキングプロパティの無効化

管理者は glide.source_control.disable_tracking_of_update_fields を無効にして、ユーザーが生成した値がフィールドに表示されないようにすることができます。

**注:**
次のフィールドは、ソースコントロールのコミット中に XML に書き込まれず、インスタンスの値が Git コミットからロードされます。管理者がこれらのフィールドを XML に書き込み、システム生成の値をこれらのフィールドで使用するように設定する場合、管理者はプロパティ glide.source_control.disable_tracking_of_update_fields を **[False]** に設定できます。

次のフィールドは、管理者に表示されるシステム生成値です。

- sys_updated_by = コミットユーザー
- sys_updated_on = コミット時間
- sys_mod_count = ゼロ

## テーブルの **sys_id** フィールド

テーブルの sys_id フィールドは、対応する「dictionary/<tablename>.xml」に保存され、テーブルの作成時を除いてインスタンスへのインストール中に再生成されないようにします。結果として、

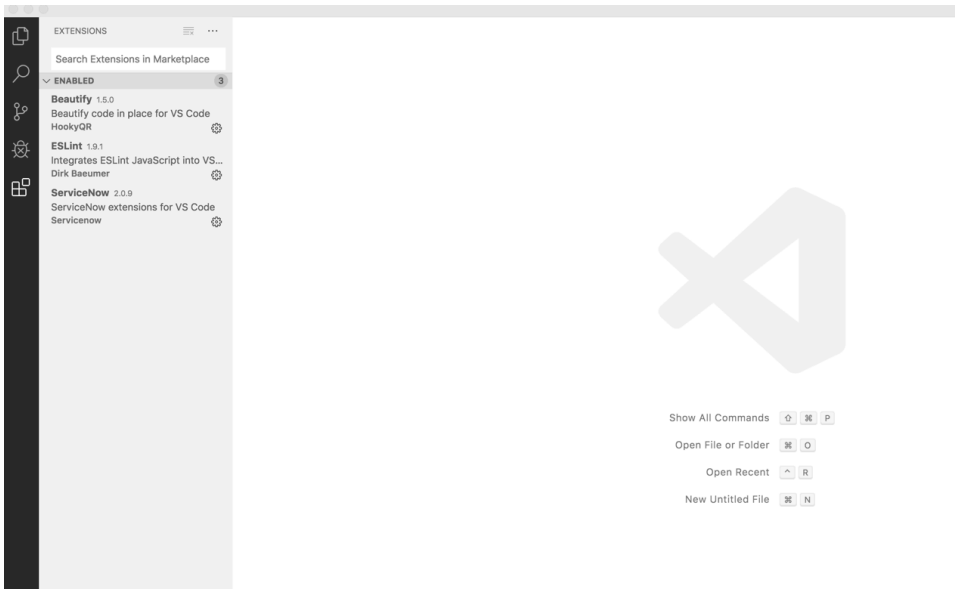
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルの sys_id を参照する、またはこのテーブルの sys_db_object レコードを表すすべての XML ファイルから、ノイズが低減されます。

## Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張

VS Code 向け ServiceNow 拡張を活用して、Visual Studio Code で ServiceNow アプリケーションを編集します。

VS Code エディターの ServiceNow 拡張を使用すると、ServiceNow インスタンス内のアプリケーションを編集できます。




## Visual Studio Code を使用する利点

アプリケーションをオフラインで編集する

Visual Studio Code を使用して、アプリケーションのローカルコピーをダウンロードして編集します。アプリケーションをオフラインで編集し、インスタンスが利用可能になったときに再度同期できます。

Visual Studio Code JavaScript 機能を使用すると、開発時間が短縮され、コードの品質が向上します。

Visual Studio Code IntelliSens には、コード補完、コード提案、クイック情報などの編集機能が含まれています。これらのツールを使用すると、コーディングタスクを迅速に完了し、エラーを減らすことができます。アプリケーションで IntelliSens を使用する方法の詳細については、「VS Code の IntelliSens」を参照してください。拡張は、ESLint を使用したリンティングもサポートしています。ServiceNow インスタンスで使用されているものと同じ標準 ESLint ルールを使用できます。

### VS Code 向け ServiceNow 拡張の機能

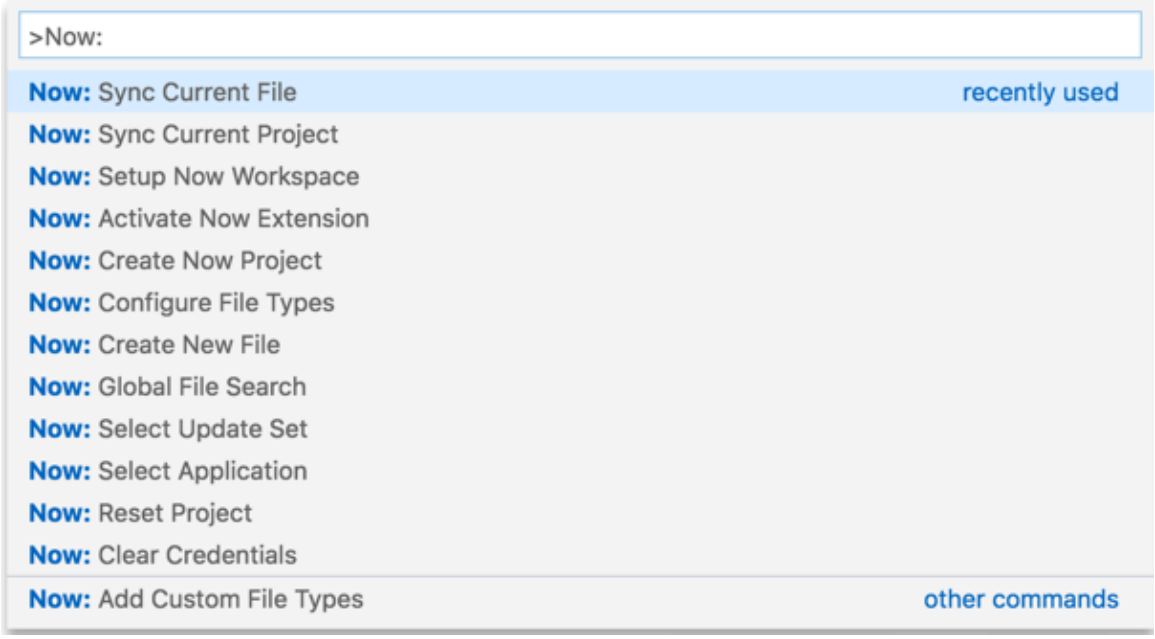
VS Code 拡張の ServiceNow 拡張には、Now Platform で開発するためのツールが含まれています。

この拡張により、Visual Studio Code (VS Code) の実装にいくつかの機能が追加されます。これらの機能にはコマンドパレットからアクセスします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Visual Studio Code** コマンドパレット




**VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張で利用可能な機能

| 機能 | 説明 |
| --- | --- |
| Now Workspace のセットアップ | ServiceNow アプリケーションを操作するプロジェクトフォルダーを作成します。このワークスペースの作成方法の詳細については、「VS Code でのワークスペースの設定」を参照してください。 |
| Now 拡張のアクティブ化 | ServiceNow 拡張をアクティブ化します。「VS Code 向け ServiceNow 拡張のアクティブ化」を参照してください。 |
| Now プロジェクトの作成 | 既存の ServiceNow アプリケーションを Visual Studio Code プロジェクトにインポートします。「VS Code でのプロジェクトの作成」を参照してください。 |
| 現在のプロジェクトの同期 | 開発中に、VS Code とインスタンス間ですべてのファイルを同期します。「Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のプロジェクトの同期」を参照してください。 |
| 現在のファイルの同期 | 作業している現在のファイルを同期します。「Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のファイルの同期」を参照してください。 |
| 資格情報のクリア | [設定] ページで入力された資格情報を削除します。「Visual Studio Code でのインスタンス資格情報のクリア」を参照してください。 |
| プロジェクトのリセット | プロジェクトを元のステータスに設定します。「Visual Studio Code でのプロジェクトのリセット」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張で利用可能な機能 (続く)

| 機能 | 説明 |
| --- | --- |
| ファイルタイプの設定 | メタデータで選択されたオプションを変更します。メタデータは、VS Code と同期するアプリケーションの要素を決定します。「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。 |
| カスタムファイルタイプの追加 | カスタムファイルタイプウィザードを使用して、プロジェクトにファイルタイプを追加します。「Visual Studio Code でのカスタムファイルタイプの追加」を参照してください。 |
| アプリケーションの選択 | VS Code でワークスペース内のアプリケーションを切り替えます。「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。 |
| 更新セットの選択 | 更新セットを選択します。インスタンスに同期された変更は、選択した更新セットに適用されます。更新セットの詳細については、「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。 |
| 新しいファイルの作成 | アプリケーションでレコードを作成します。詳細については、「VS Code でのファイルの作成」を参照してください。 |
| グローバルファイル検索 | インスタンス内のファイルを検索します。「VS Code でのインスタンス上のファイルの検索」を参照してください。 |
| バックグラウンドスクリプトの実行 | インスタンスでバックグラウンドスクリプトを実行します。「VS Code を使用したバックグラウンドスクリプトの実行」を参照してください。 |
| IntelliSence | Glide API で利用可能な IntelliSens コード補完サポート。「VS Code の IntelliSens」を参照してください。 |

## **VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張のインストール

ServiceNow 拡張をダウンロードしてインストールし、VS Code でアプリケーションの編集を開始します。

### 始める前に

必要なロール：なし
Visual Studio Code の ServiceNow 拡張をインストールするには、VS Code バージョン 1.38.0 以降がインストールされている必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. VS Code を開き、[拡張] タブアイコン ( ) をクリックして [拡張] タブに移動するか、Windows では Control+Shift+X を、MacOS では Command+Shift+X を押します。
2. Visual Studio Code マーケットプレイスで、**[Visual Studio Code** 拡張機能を検索 **(Search Visual Studio Code Extensions)]** 検索ボックスに「ServiceNow」または「ServiceNow Extensions」と入力します。
3. 検索結果で **[VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張 **(ServiceNow Extensions for VS Code)]** を選択し、 [インストール] をクリックしてインストールを続行します。
4. インストールプロセスが完了したら、Visual Studio Code を再起動します。
5. 移動先 ビュー > コマンド パレット で。Visual Studio Code キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
6. リストから [開発者：ウィンドウのリロード **(Developer: Reload Window)]** を選択します。

次のタスク
VS Code をリロードしたら、ServiceNow 拡張をアクティブ化します。

### **VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張のアクティブ化

VS Code 向け ServiceNow 拡張をアクティブ化して、ServiceNow インスタンス内でアプリケーションを編集できるようにします。

始める前に
VS Code 向け ServiceNow 拡張をインストールし、拡張をアクティブ化して、VS Code でアプリケーションの編集を開始します。

このタスクについて
拡張のインストール後にその機能にアクセスするには、まず拡張をアクティブ化する必要があります。

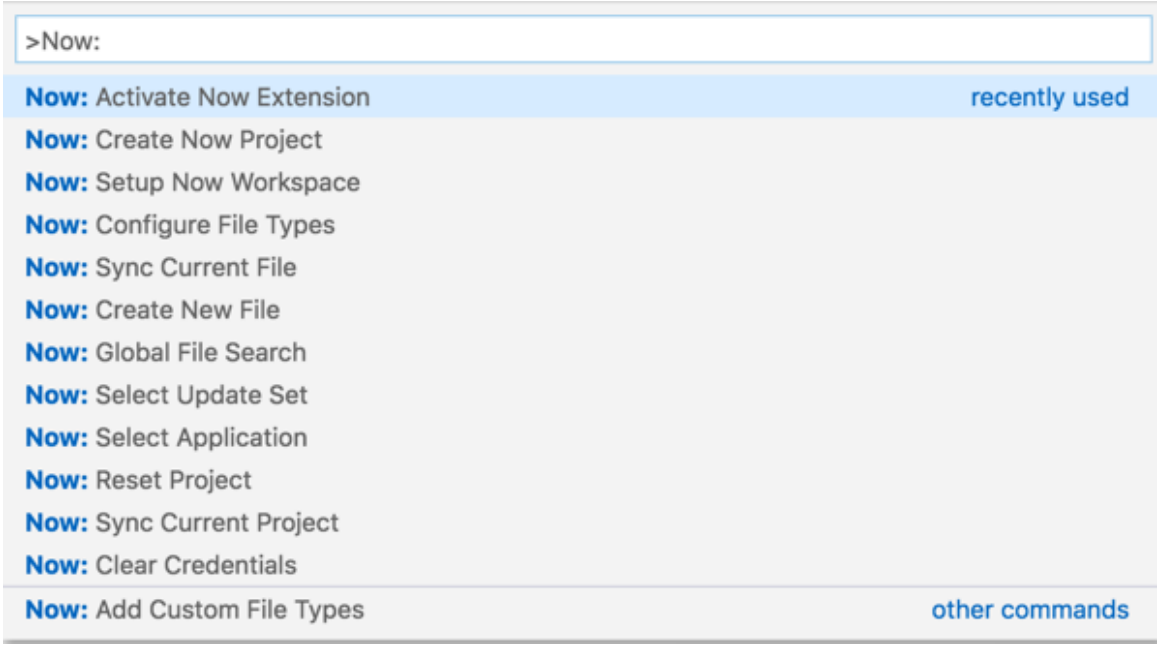
手順

1. 移動先 すべて > ビュー > コマンド パレット をクリックしてコマンドパレットを開きます。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
2. リストから [Now：**Now** 拡張のアクティブ化 **(Now: Activate Now Extension)]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Now** 拡張のアクティブ化




[ワークスペースのセットアップ] リンクが VS Code IDE の下部に表示されます。拡張をアクティブ化した後、VS Code でワークスペースを設定して ServiceNow アプリケーションの編集を開始します。

### **VS Code** でのワークスペースの設定

VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、ServiceNow アプリケーションのワークスペースとして使用するプロジェクト作業フォルダーを作成します。

始める前に
ワークスペースをアクティブ化して、VS Code 向け ServiceNow 拡張の機能にアクセスします。必要なロール：admin

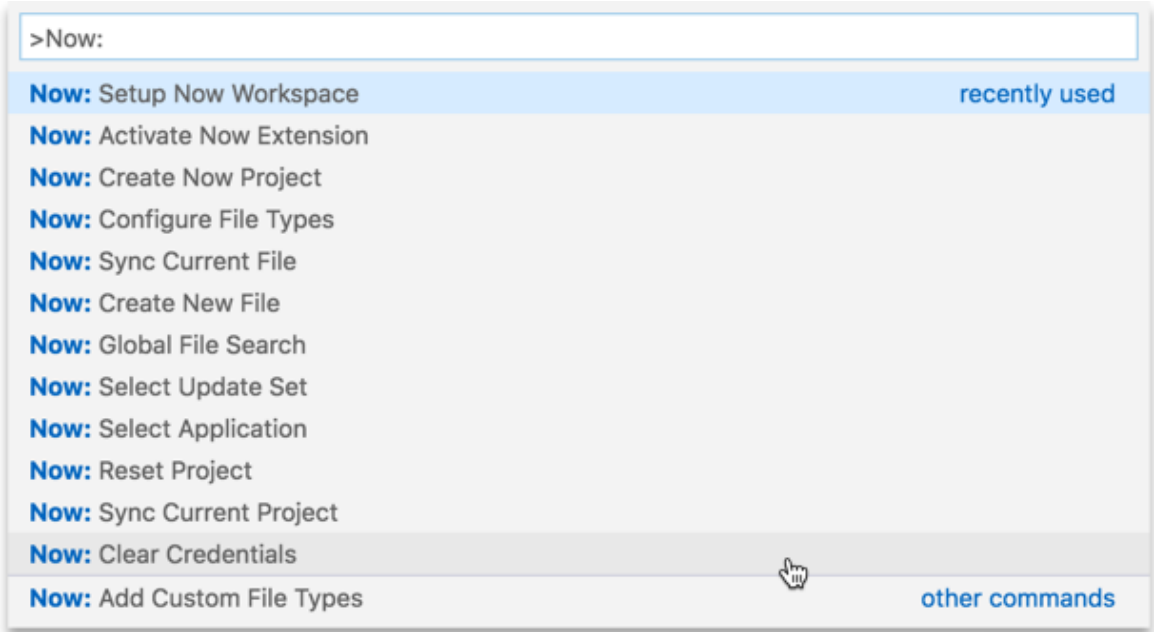
手順

1. VS Code IDE の下部にあるステータスバーの [ワークスペースのセットアップ] をクリックします。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：**Now Workspace** のセットアップ] を選択することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Now Workspace** のセットアップコマンド




2. 次のいずれかのアクションを実行します。
   選択したフォルダーからワークスペースが作成されます。

次のタスク
ワークスペースでプロジェクトを作成します。ワークスペース内に異なるプロジェクトタイプの複数のプロジェクトを作成できます。

**VS Code** でのプロジェクトの作成

ServiceNow アプリケーションは、VS Code IDE のプロジェクト内に含まれています。 VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、ServiceNow インスタンスからアプリケーションをインポートします。

始める前に
ワークスペースをセットアップしてプロジェクトを作成し、ServiceNow アプリケーションの編集を開始します。

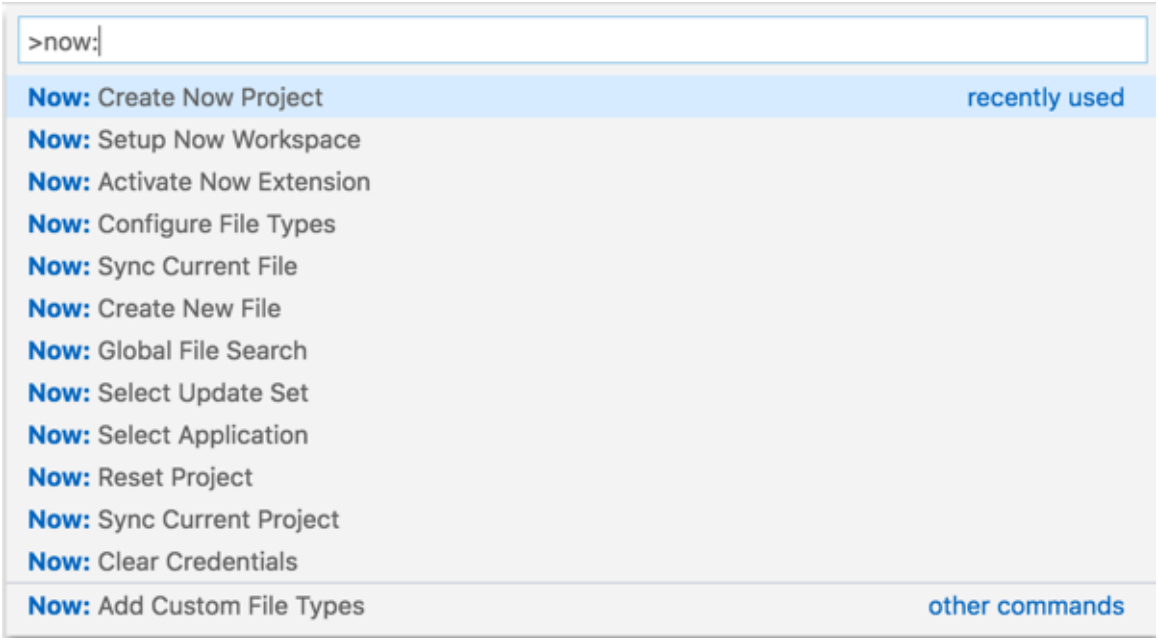
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

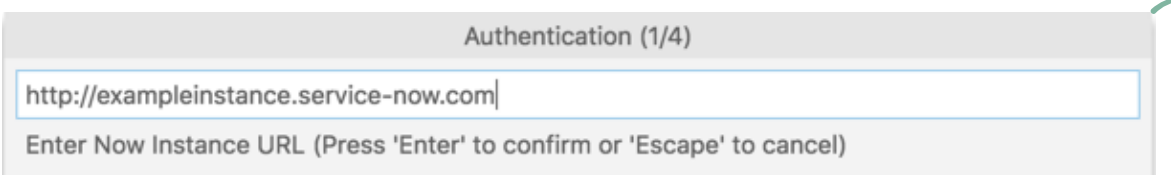
1. VS Code IDE の下部にあるステータスバーの [プロジェクト作成] をクリックします。

プロジェクト作成



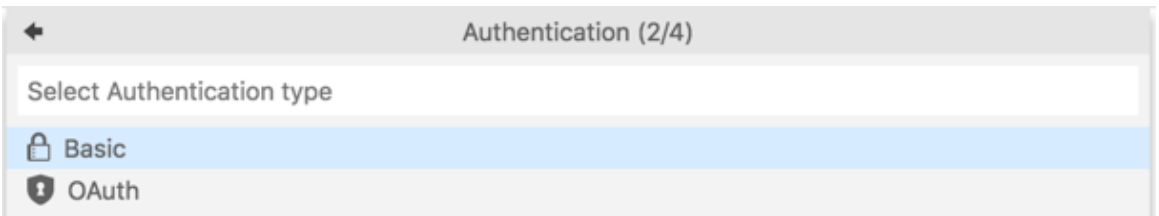

キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift +P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：**Now** プロジェクトの作成 **(Now: Create Now Project)]** を選択することもできます。
[プロジェクト作成] ウィザードが開きます。

2. ServiceNow インスタンスの URL を入力し、Enter を押して確定します。
インスタンスの完全な URL を含めます (例：https://example.service-now.com)




3. プロンプトが表示されたら、[認証タイプ] を選択します。

認証タイプ




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 基本的なアプリケーションを作成するには、[基本] を選択し、プロンプトが表示されたら次のフィールドに入力します。

  基本的なアプリケーション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー名 | ServiceNow インスタンス URL のユーザー名を入力します。 |
| パスワード | ServiceNow インスタンス URL のパスワードを入力します。 |

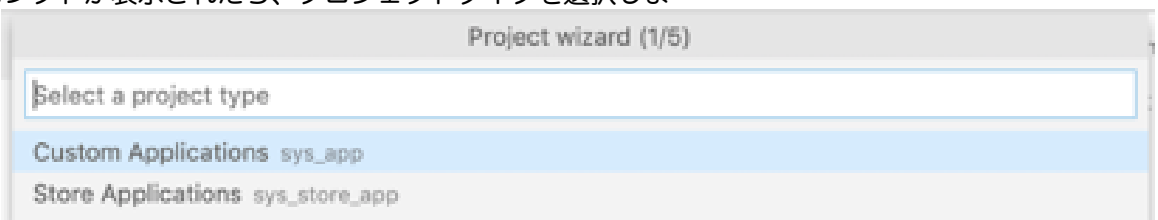
  プロジェクトタイプ

- OAuth アプリケーションを作成するには、**OAuth** アプリケーションを選択し、プロンプトが表示されたら、次のフィールドに入力します。

  **OAuth** アプリケーション

| | |
| --- | --- |
| ユーザー名 | ServiceNow インスタンス URL のユーザー名を入力します。 |
| パスワード | ServiceNow インスタンス URL のパスワードを入力します。 |
| クライアント **ID** | クライアント ID は、ServiceNow OAuth サーバーによって自動的に生成されます。 |
| クライアントシークレット | OAuth アプリケーションの TClient シークレット。 |

**4.** プロンプトが表示されたら、プロジェクトタイプを選択します。




> **注:**
> [パッケージ] および [プラグイン] プロジェクトタイプを有効にするには、 [設定] からそれらを有効にします。移動先 設定 > 設定 > 拡張 > 今 > プロジェクト設定 それらを有効にします。

**5.** [既存をインポート **(Import Existing)]** を選択します。

アプリケーションの **Visual Studio Code** へのインポート

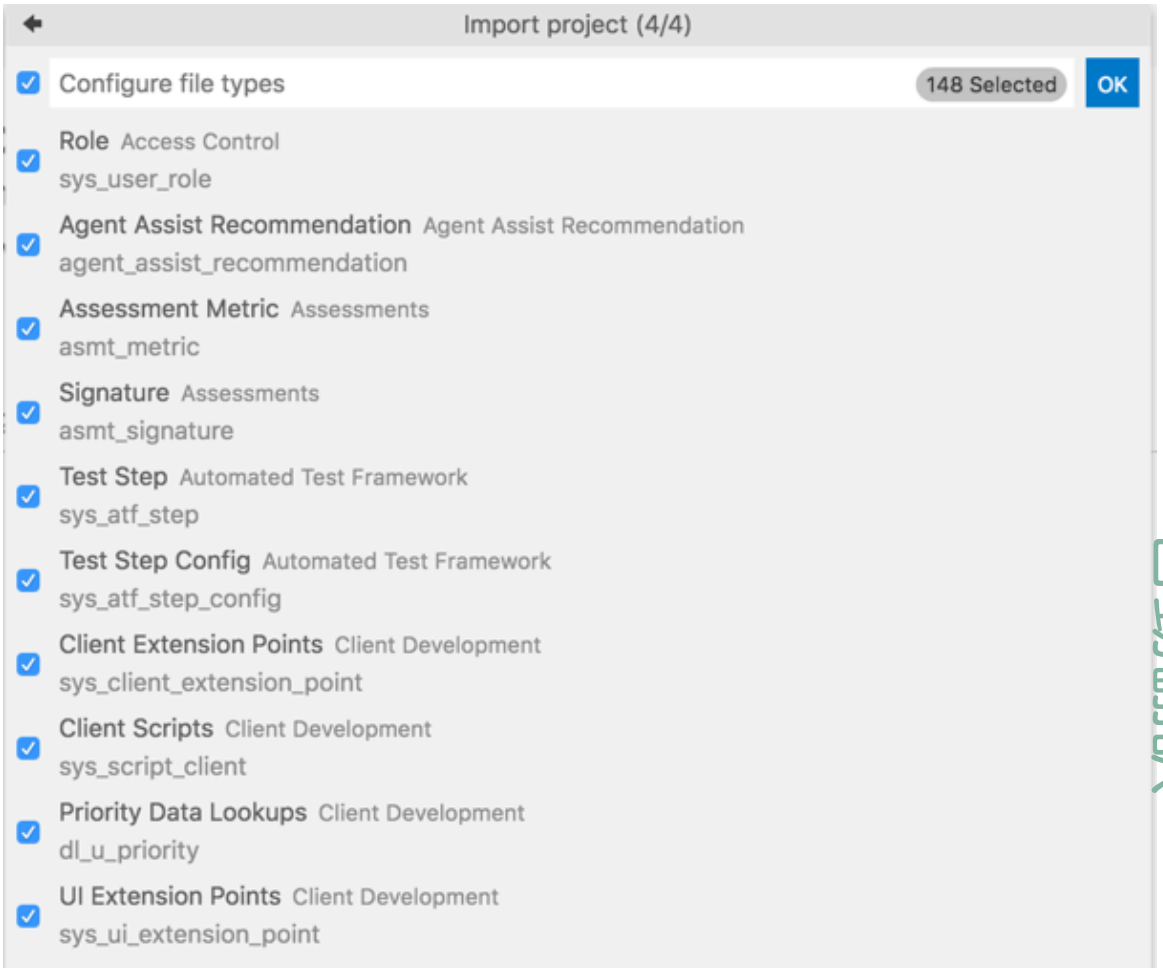
プロジェクトを作成したら、インスタンスからプロジェクトにアプリケーションをインポートして編集を開始します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Visual Studio Code に、選択したアプリケーションタイプのインスタンスで利用可能なアプリケーションのリストが表示されます。
2. アプリケーションを選択します。
3. [ファイルタイプの設定] プロンプトで、**[OK]** をクリックしてすべてのファイルタイプを選択します。




デフォルトでは、Visual Studio Code はアプリケーションのすべてのファイルタイプをインポートします。コマンドパレットから [Now：ファイルタイプの設定] を選択し、リストからファイルタイプを選択することで、アプリケーションの編集中にファイルタイプの選択を変更できます。ServiceNow アプリケーションがワークスペースにインポートされます。

> **注:**
> アプリケーションがインスタンスに存在する場合でも、そのプロジェクトを Visual Studio Code に作成する必要があります。

ワークスペース内でアプリケーションを切り替えるには、VS Code IDE の下部にあるステータスバーでアプリケーションの名前 (この場合は EmployeeApp) をクリックするか、コマンドパレットから [Now：アプリケーションの選択] を選択してリストからアプリケーション名を選択します。同様に、更新セットを変更するには、VS Code IDE の下部にあるステータスバーで現在の更新セットアイコン (この場合は [EmployeeApp]) をクリックするか、コマンドパレットから [Now：更新セットの選択] を選択して、更新セットの名前を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Visual Studio Code と ServiceNow インスタンス間の同期

Visual Studio Code と ServiceNow インスタンス間でアプリケーションを同期できます。

#### 同期

Visual Studio Code でアプリケーションに加えられた変更は、インスタンスと同期するまでローカルファイルシステムにのみ保存されます。

同期には、次の変更内容が含まれます。

- インスタンスまたはローカルファイルシステムのファイルの変更
- インスタンスまたはローカルファイルシステムでのファイルの作成
- インスタンスまたはローカルファイルシステムでのファイルの削除

現在選択されているレコードまたは現在のアプリケーションのすべてのレコードを同期できます。

### Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のファイルの同期

Visual Studio Code ワークスペース内の現在のファイルとインスタンスの間で競合するファイルを特定し、変更を結合または上書きします。

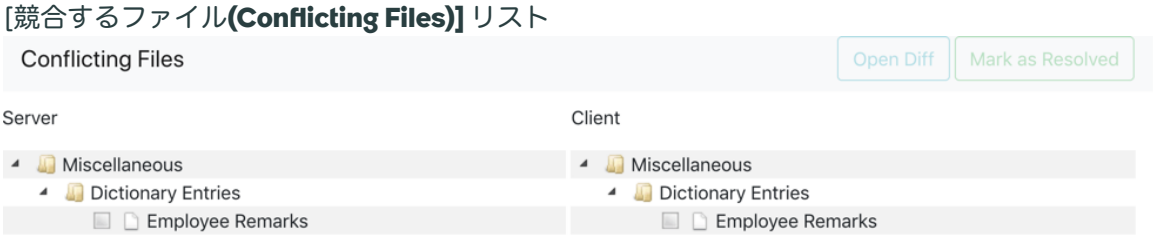
#### 始める前に

必要なロール：admin

#### 手順

1. Visual Studio Code IDE の右上隅にあるメニューから [同期] アイコン ( ) をクリックします。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift +P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：現在のファイルを同期] を選択することもできます。
   - サーバーまたはクライアントのいずれかで変更が生じた場合、拡張はエラーを表示することなくファイルを正常に同期します。
   - ローカルバージョンとサーバーバージョンの間に相違がない場合は、「変更が検出されませんでした」というメッセージがページの下部に表示されます。
   - クライアントとサーバーの両方で同じファイルが変更された場合、[競合するファイル **(Conflicting Files)]** ダイアログボックスに競合が表示されます。
2. [競合するファイル **(Conflicting Files)]** ダイアログボックスに競合リストが表示された場合は、競合を確認します。
   - [差分] ウィンドウを使用して [サーバー] と [クライアント] のバージョンを比較し、変更を評価します。
   - [サーバー] または [クライアント] の変更を上書きします。

[競合するファイル**(Conflicting Files)]** リスト

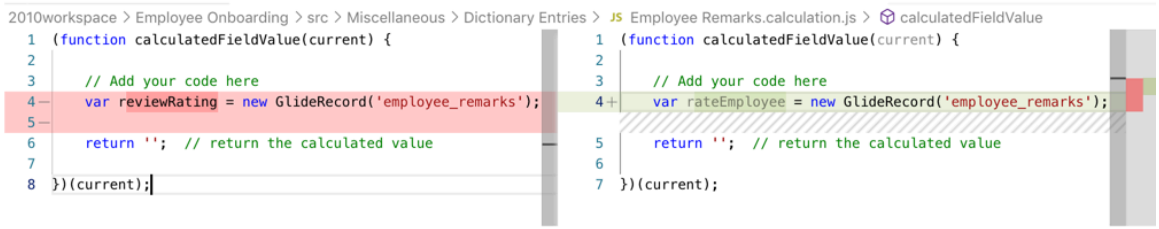



3. [競合するファイル **(Conflicting Files)]** リストで違いを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

競合する変更の表示




ダイアログボックスには、次のオプションが表示されます。

- 差分を開く (Open Diff)：2 つのバージョンの相違を確認し、必要な変更を行います。
- 解決済みをマーク (Mark Resolved)：相違を解決し、バージョンを同期します。
- サーバーを上書き (Overwrite Server)：サーバーのバージョンをクライアントのバージョンで上書きする場合に選択します。
- ローカルを上書き (Override Local)：ローカルバージョンをサーバーバージョンで上書きするには、[ローカルを上書き **(Override Local)**] を選択します。

4. [差分を開く **(Open Diff)**] をクリックします。
相違が強調表示された 2 つのバージョンのファイルが表示されます。

クライアントとサーバーの相違

5. クライアントバージョンからサーバーバージョンに変更を加え、ファイルを保存します。
6. [競合するファイル **(Conflicting Files)**] の下の [解決済みとしてマーク] をクリックします。
変更は、次の同期時に正常に同期されます。変更が正常に結合されると、「同期が正常に完了しました **(Sync completed successfully)**」というメッセージがページの下部に表示されます。

## **Visual Studio Code** ワークスペースと **ServiceNow** インスタンス間での現在のプロジェクトの同期

Visual Studio Code ワークスペース (クライアント/ローカル) とインスタンス (サーバー) の間で双方向にファイルを同期します。

### 始める前に

プロジェクトを作成し、アプリケーションの編集を開始します。

### このタスクについて

Visual Studio Code ワークスペース内のアプリケーションファイルに加えられた変更は、最初はローカルファイルシステムに保存されます。[同期] コマンドを実行すると、アプリケーションファイルに加えられたローカルの変更がサーバーに送信され、永続化されます。

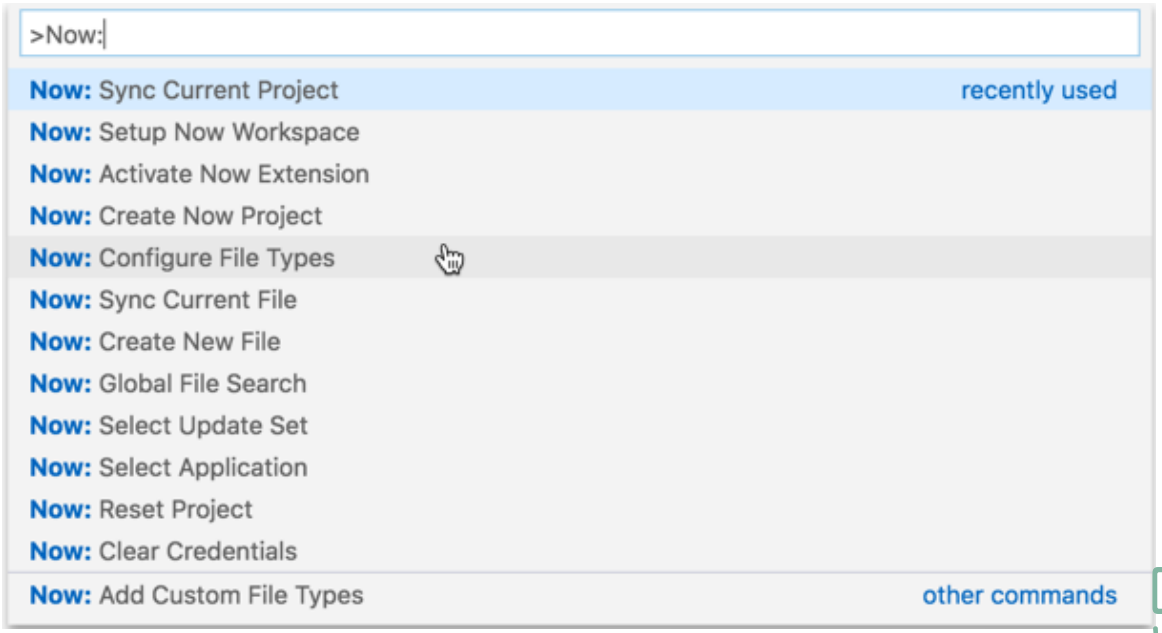
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Visual Studio Code IDE の下部にあるステータスバーで [同期] をクリックします。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift +P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：現在のプロジェクトを同期] を選択することもできます。

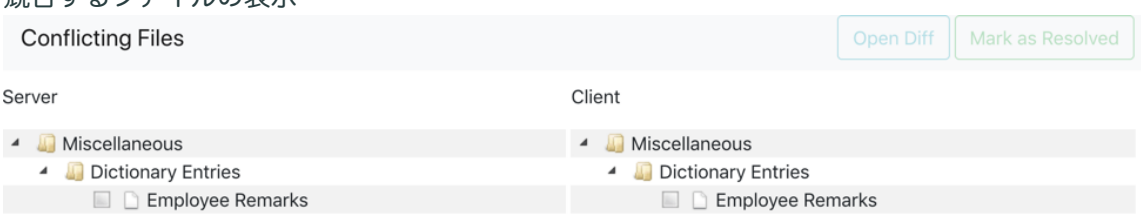
   現在のプロジェクトを同期

   - サーバーまたはクライアントのいずれかで変更が生じた場合、拡張はエラーを表示することなくファイルを正常に同期します。
   - ローカルバージョンとサーバーバージョンの間に相違がない場合は、「変更が検出されませんでした」というメッセージがページの下部に表示されます。
   - クライアントとサーバーの両方で同じファイルが変更された場合、システムは競合を示します。

2. 競合リストが表示された場合は、競合するファイルを右クリックしてコンテキストメニューを開き、コンテキストメニューから選択します。
   または、ファイルを選択し、ページの上部にある [差分を開く **(Open Diff)]** メニューをクリックします。

   競合するファイルの表示

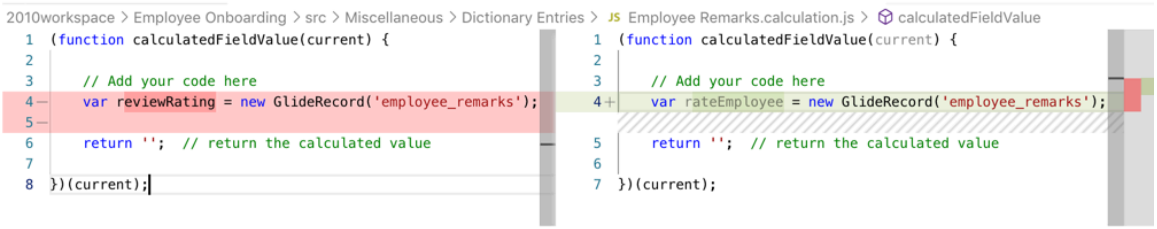
   - サーバーバージョンをクライアントバージョンで上書きする場合は、[サーバーを上書き **(Override Server)]** を選択します。
   - クライアントバージョンをサーバーバージョンで上書きする場合は、[ローカルを上書き **(Override Local)]** を選択します。
   - 競合を示すフラグを削除するには、[解決済みとしてマーク] を選択します。サーバーバージョンは次の同期で上書きされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

クライアントバージョンとサーバーバージョンの相違




3. 必要な変更をクライアントファイルに保持して保存します。
4. すべてのファイルの競合を解決したら、[競合するファイル **(Conflicting Files)**] の下にある [解決済みとしてマーク] をクリックします。
   変更は次の同期時に同期されます。変更が正常に結合されると、「同期が正常に完了しました **(Sync completed successfully)**」というメッセージがページの下部に表示されます。

> **注:**
> 同期プロセスの開始時に、ファイルに構文エラーがないか確認されます。見つかったエラーは、画面の下部にある [問題] タブに表示されます。

次のタスク
すべての変更は、ステータスバーの更新セットにタグ付けされます。プロジェクトがロードまたは選択されると、デフォルトの更新セットがステータスバーに表示されます。更新セットピッカーをクリックして、現在の更新セットを選択します (IDE またはプロジェクトがクローズされるまで有効)。更新セットを明示的に選択しない場合、すべての書き込みはデフォルトの更新セットに対して行われます。

### **Visual Studio Code** でのインスタンス資格情報のクリア

現在のプロジェクトの保存された資格情報をシステムからクリアします。プロジェクトのユーザー資格情報 (インスタンス URL、ユーザー名、パスワード) は、ユーザーが毎回ログインする必要がないように、オペレーティングシステムの資格情報ボールトに保存されます。

このタスクについて
現在のインスタンスから資格情報をクリアすると、次に VS Code を開いたときに Visual Studio Code 拡張向け ServiceNow 拡張によって認証が要求されます。現在のセッションで作業を続行できます。

> **注:**
> パスワードは Visual Studio Code 設定に保存されません。

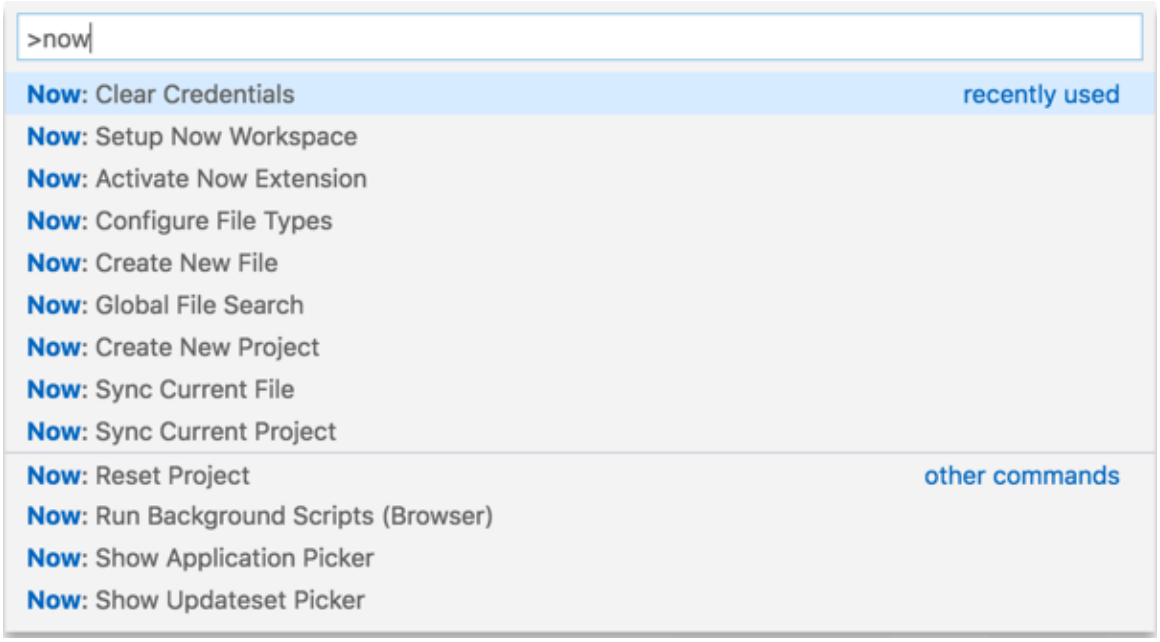
手順

1. 移動先 すべて > ビュー > コマンド パレット.
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
2. コマンドパレットから [Now：資格情報のクリア **(Now: Clear Credentials)**] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Now：資格情報のクリア **(Now: Clear Credentials)]** コマンド



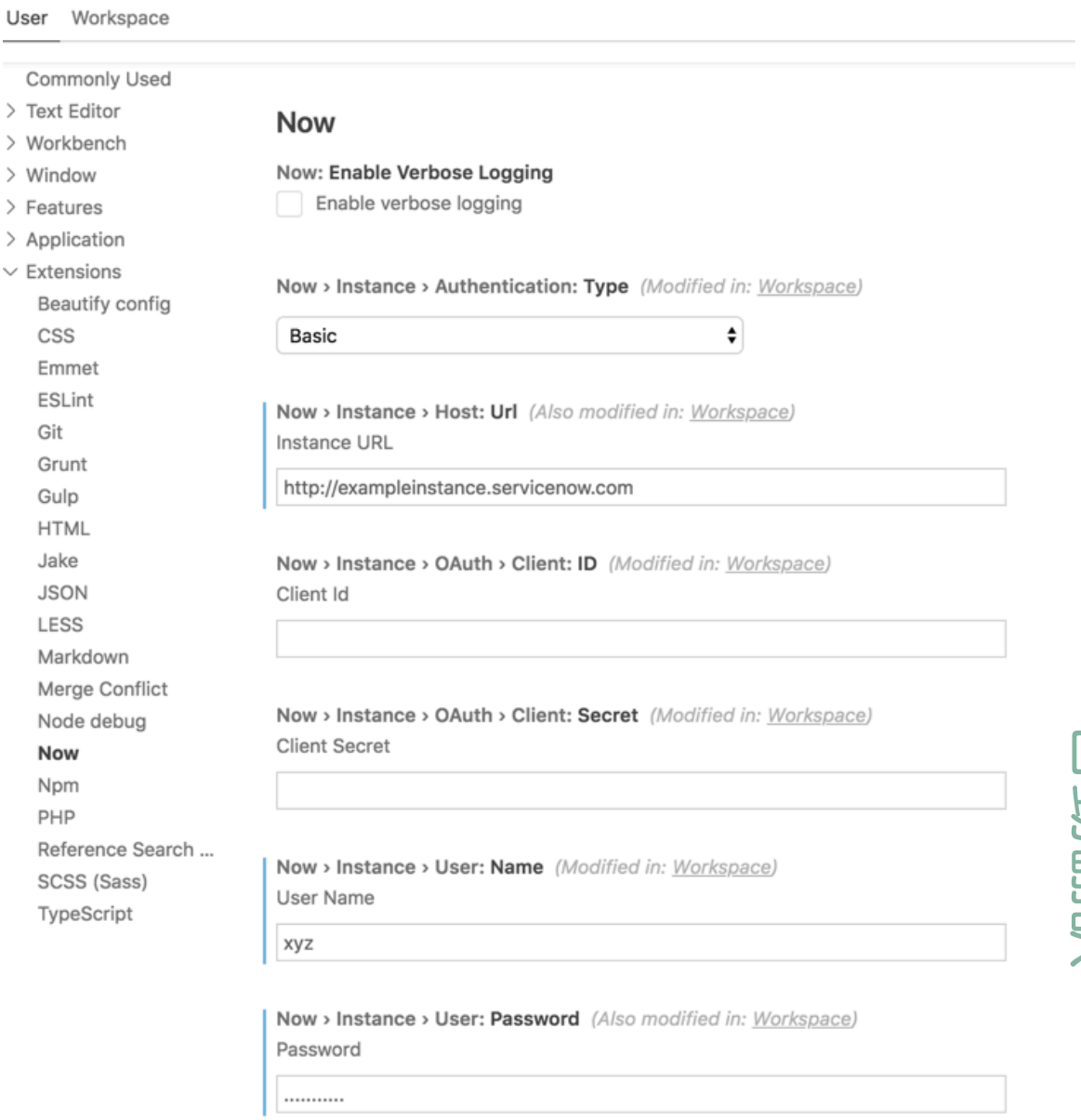

現在のプロジェクトの資格情報がクリアされます。

3. オプション: 移動先 コード > 設定 > 設定 > ワークスペース > 拡張 > **ServiceNow** を使用して、資格情報とインスタンス URL が削除されているかどうかを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

資格情報のクリア




自動翻訳

**注:**
資格情報を再入力するには、[コード] [環境設定] [設定] [ワークスペース] [拡張] **[Now]** に移動します。 [ユーザー名] と [パスワード] のフィールドに資格情報を入力します。

### **Visual Studio Code** でのプロジェクトのリセット

重大な同期の問題が発生した場合は、すべてのローカルの変更を破棄して、プロジェクトをサーバー上のステータスにリセットします。

このタスクについて
プロジェクトをサーバーステータスにリセットすると、同期されていない変更はすべて失われます。

手順

1. 移動先 すべて > ビュー > コマンド パレット 画像を配置できます
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. ドロップダウンリストから [Now：プロジェクトのリセット] を選択します。
3. ダイアログボックスで [はい] をクリックします。

タスクの結果
プロジェクトは元のステータスにリセットされます。

注:
このオプションは、プロジェクトが破損している場合や同期の問題に直面している場合など、問題が発生した場合にのみ使用してください。

関連情報

VS Code でのプロジェクトの作成

## Visual Studio Code でのカスタムファイルタイプの追加

指定されたデフォルトタイプ以外のファイルタイプで作業する場合は、ファイルタイプをインスタンスに追加し、Visual Studio Code 向け ServiceNow 拡張で編集できます。

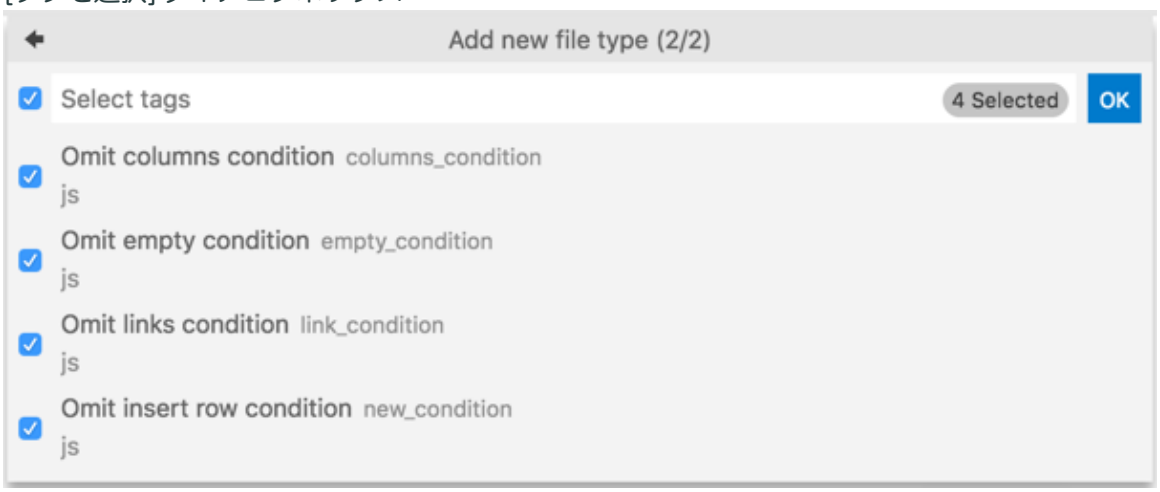
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスに新しいファイルタイプを作成し、アプリケーションファイルからそれを継承します。
2. *Script* および *String* タイプのカスタム列を追加し、データを入力します。
3. 移動先 ビュー > コマンド パレット で。Visual Studio Code キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
4. コマンドパレットから [Now：カスタムファイルタイプの追加 **(Now: Add Custom File Types)**] を選択します。
   このコマンドは、現在のアプリケーションのすべての既存のテーブルをフェッチし、[新しいファイルタイプを追加 **(Add new file type)**] ウィザードを開きます。
5. リストから ServiceNow インスタンスで作成したファイルタイプを選択します。
6. [タグを選択] プロンプトで、インスタンスで作成したタグを選択します。

   デフォルトでは、すべてのタグが選択されています。選択を解除するには、タグのチェックボックスをクリックします。

[タグを選択] ダイアログボックス




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいファイルタイプが app.config.json ファイルに正常に追加されます。プロジェクトの下にある app.config.json ファイルに目的のファイルタイプを手動で追加することもできます。次の例を参照してください。

7. コマンドパレットから [Now：ファイルタイプの設定 **(Now: Configure File Types)]** コマンドを使用して、この新しいファイルタイプを現在のプロジェクトに取り入れます。
8. ファイルタイプのリストから作成したファイルタイプを選択し、**[OK]** をクリックします。
選択したファイルタイプは、Visual Studio Code 拡張向け ServiceNow 拡張でいつでも編集できます。

**Example:**
app.config.json の例を以下に示します

```
"CustomFileTypes": {
      "sc_ic_aprvl_type_defn": {
         "superCoverName": "Miscellaneous",
         "coverName": "Approval Type Definition",
         "tags": {
            "approver_script": "js",
            "approver_html": "html",
         }
      }
   }
}
```

- superCoverName は、スーパー親ディレクトリの名前です (常に [その他] を指している必要があります)。
- coverName はテーブルの記述名です。
- sc_ic_aprvl_type_defn はテーブル識別子です。
- タグはテーブル内のスクリプト可能な列のセットを表します
- approver_script はテーブル列 / xml タグの名前です
- js はファイルの拡張子です (js | html | css | json)

### **VS Code** でのファイルの作成

ServiceNow 拡張を使用して、プロジェクトとともにアプリケーションの新しいファイルを作成します。

始める前に
VS Code プロジェクトにアプリケーションをインポートして、プロジェクト内にファイルを作成します。

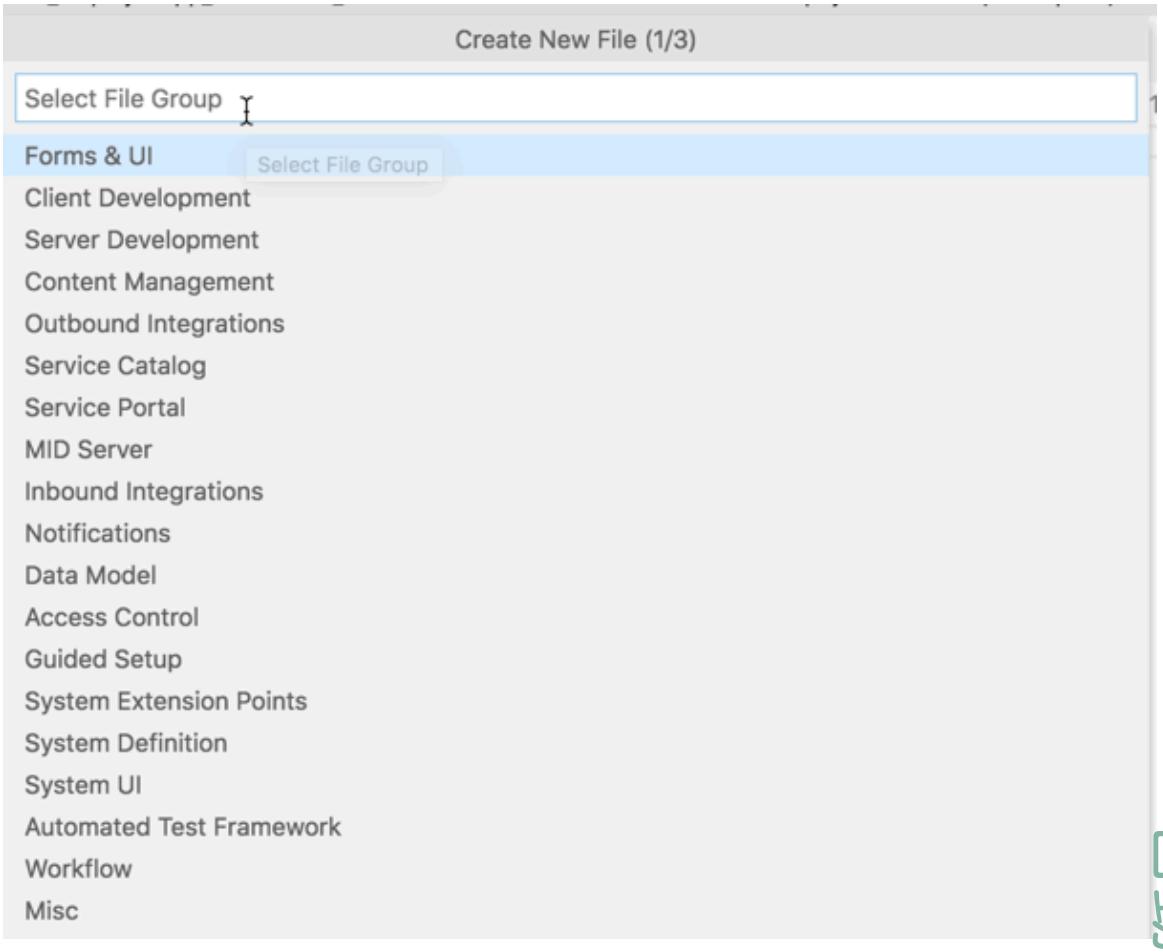
手順

1. アプリケーションを含む VS Code プロジェクトを開きます。
2. VSCode IDE の下部にあるステータスバーで [ファイルを作成] (

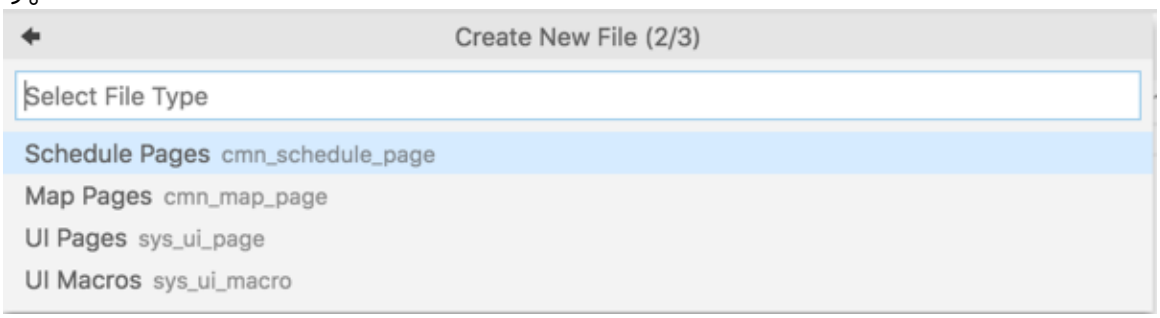
) をクリックします。
キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：新しいファイルの作成 **(Now: Create New File)]** を選択することもできます。
3. [ファイルグループを選択 (Select File Group)] リストからファイルグループを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. 画面上部のコマンドパレットの [ファイルタイプを選択] リストからファイルタイプを選択します。




5. [新しいファイルを作成 (Create New File)] ダイアログボックスにファイルの名前を入力します。拡張によって、ローカルファイルシステム上のアプリケーションにファイルが作成されます。ワークスペースを同期すると、新しいファイルがインスタンスに追加されます。

### VS Code でのインスタンス上のファイルの検索

VS Code 拡張向け ServiceNow 拡張を使用して、インスタンス上のスクリプトファイルを検索してダウンロードします。

始める前に
必要なロール：なし

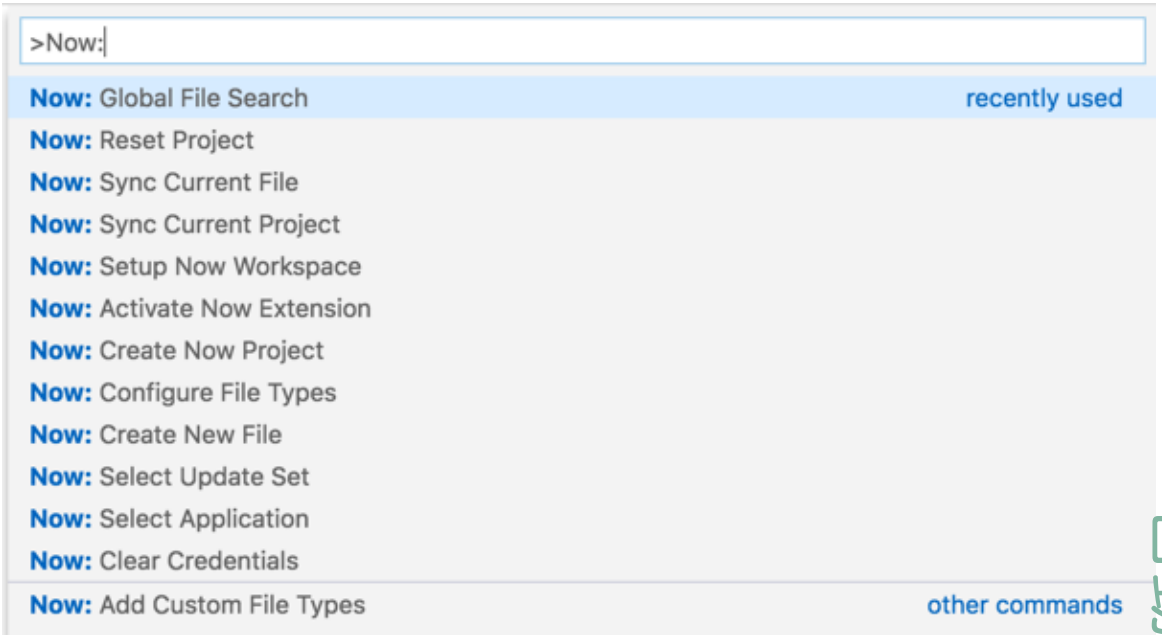
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アプリケーションを含む VS Code でプロジェクトを開きます。
2. VSCode IDE の下部にあるステータスバーで [ファイル検索 **(File Search)]** をクリックします。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift +P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：グローバル検索] を選択することもできます。

グローバルファイル検索コマンド

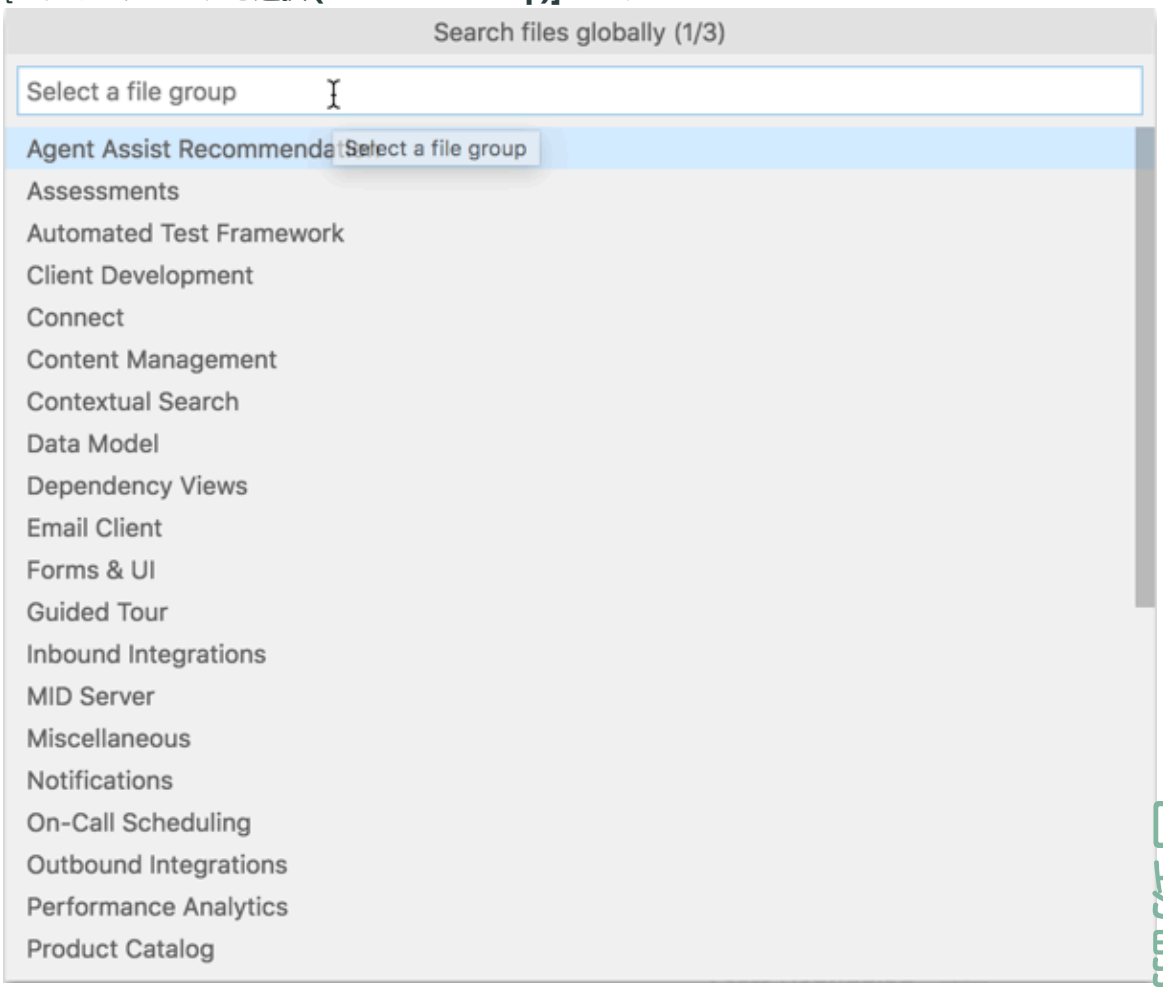



3. 画面上部のコマンドパレットの [ファイルグループを選択 **(Select File Group)]** リストからファイルグループを選択します。

自動翻訳

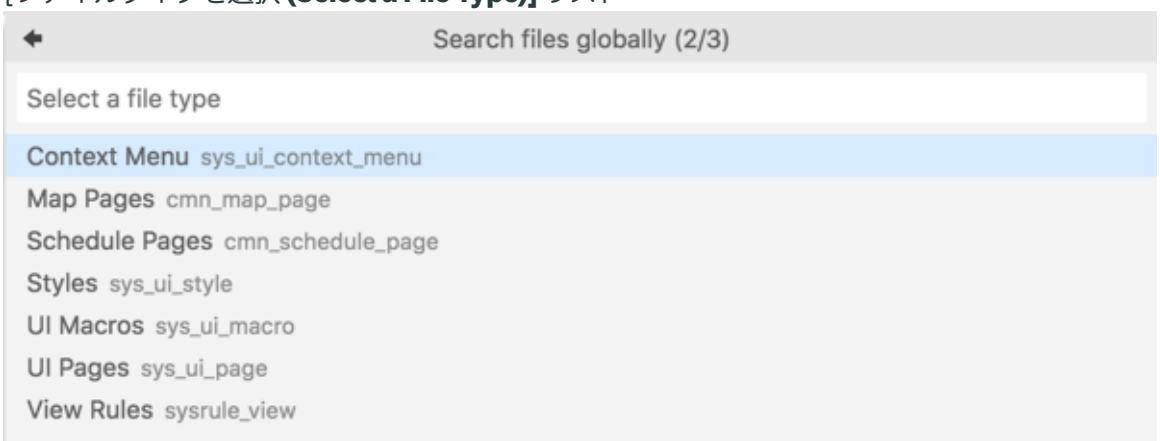
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルグループを選択 **(Select File Group)]** リスト




**4.** 画面上部のコマンドパレットの [ファイルタイプを選択 (Select a File Type)] リストからファイルタイプを選択します。

[ファイルタイプを選択 **(Select a File Type)]** リスト

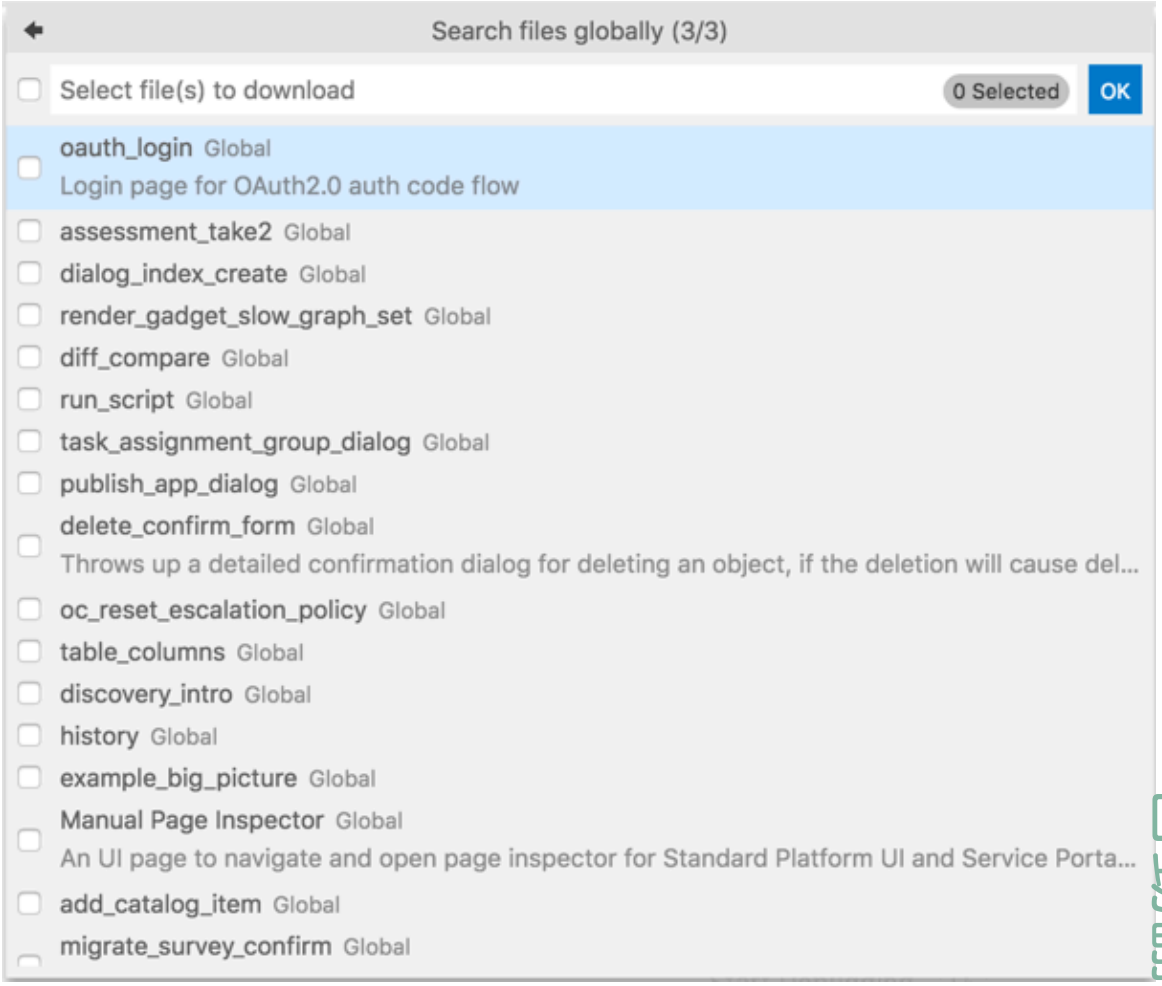



**5.** [ダウンロードするファイルを選択 **(Select files to download)]** リストからファイルを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ダウンロードするファイルを選択 **(Select files to download)**] リスト




一度に複数のファイルを選択してダウンロードできます。

選択したファイルがアプリケーションのスクラッチフォルダーにダウンロードされます。選択したファイルを編集できます。

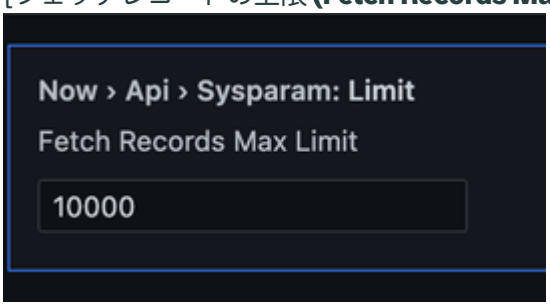
**6.** 検索結果 10,000 件以上を表示します。

**a.** Windows では Control+、MacOS では Command+ を選択して設定を開きます。

**b.** 検索バーに「now」と入力します。

**c.** [フェッチレコードの上限 (Fetch Records Max Limit)] 設定に表示するレコードの数を入力します。

[フェッチレコードの上限 **(Fetch Records Max Limit)**] 設定




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

VS Code でのファイルの作成

### VS Code を使用したバックグラウンドスクリプトの実行

VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、VS Code で ServiceNow インスタンスからスクリプトを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

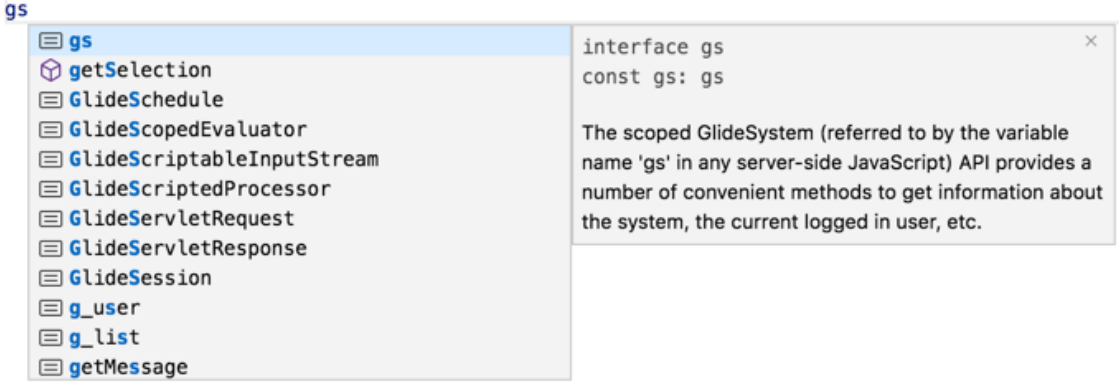
1. VS Code IDE でスクリプトを記述しているときに、テキストファイル内のスクリプトを選択し、スクリプトを右クリックします。
2. コンテキストメニューから、[バックグラウンドスクリプトの実行- 現在 **(Run Background Script-Current)]** または [バックグラウンドスクリプトの実行- グローバル **(Run Background Script-Global)]** を選択します。
   VS Code でバックグラウンドスクリプトランナータブが開き、サーバー内でスクリプトが実行される場所が表示されます。

### VS Code の IntelliSens

VS Code 拡張向け ServiceNow 拡張の IntelliSens コード編集機能は、コードをより迅速かつ効率的に記述するためのオートコンプリートオプションを備えたインテリジェントコード補完を提供します。

VS Code でスクリプティングを開始すると、IntelliSense 機能がコードコンテキストに適したオートコンプリートオプションをリストの上部に表示します。

**GlideSystem 向け IntelliSens**




利用可能なオートコンプリートオプションは次のとおりです。

- クライアントおよびサーバースクリプトのメソッドとプロパティのオートコンプリート。
- 標準 JS API のメソッドとプロパティのオートコンプリート。
- Jelly タグと属性のオートコンプリート。
- 一般的に使用される標準でのコード補完。

拡張は、一般的に使用されるコードパターンのスニペット (テンプレート) をサポートし、ユーザーがインスタンスのシンタックスエディターのマクロテーブルで定義したスニペットをロードします。他の提案とともに #Space を入力すると、IntelliSens にスニペットが表示されます。または、VS Code のコマンドパレットから [スニペットの挿入] コマンドを使用してスニペットを挿入することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### VS Code 向け ServiceNow 拡張のテレメトリ

ServiceNow VS Code 用拡張機能は、Now テレメトリを使用して実行されるコマンドなど、さまざまな使用パターンに関する情報を収集します。

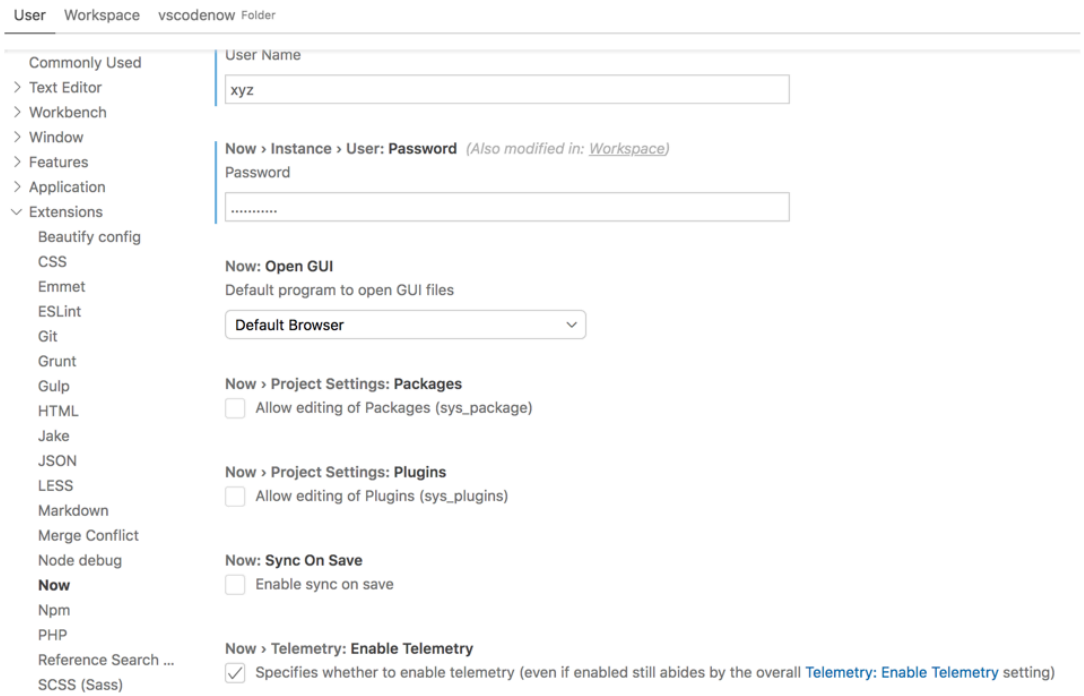
Now テレメトリは以下で役立ちます

- 問題のデバッグ
- 最もよく使用される関数や機能の分析
- ユーザーアクションのキャプチャ
- 拡張の改善

**注:**
テレメトリは、使用状況に関連する匿名情報を収集し、ユーザーの名前やメール ID などの個人情報はキャプチャしません。データは誰にもアクセス可能で、誰 ServiceNow とも共有されません

ServiceNow 拡張では、デフォルトでテレメトリが有効になっています。使用状況データの送信を希望しない場合は、now.telemetry.enableTelemetry ユーザー設定を false に設定できます。または、[ ファイル ] (Windows) または [コード ] (Mac) を選択して、次の場所に移動します。 設定 > 設定 > 拡張 > 今 をクリックし、[ **Now** テレメトリー ] チェックボックスをオフにして機能を無効にします。

テレメトリの設定




**注:**
使用状況データは、設定を無効にするまで送信されます。拡張は、グローバルテレメトリ設定 telemetry.enableTelemetry に従います。false に設定すると、Now テレメトリは無効になります。

## 専門能力開発の探索

ServiceNow は、デジタルトランスフォーメーションを強化するビジネスアプリケーションを迅速に構築するための単一のモバイルおよび Web アプリケーション開発プラットフォームを提供します。Now Platform を使用して、企業全体でデジタルワークフローアプリを自動化、拡張、構築する方法について説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このコンテンツでは、開発者が Now Platform でアプリケーションを簡単に構築できるように、アプリケーション開発ステージについて説明します。

- アプリケーション開発の計画：アプリケーションを構築する前によく検討してください。
- アプリケーションの構築：アプリケーションとそのコンポーネントを作成して構成します。
- アプリの機能の検証：機能テストを実行し、テストケースを記述します。
- アプリの展開：アプリケーションを本番環境に移行します。

### アプリケーション開発の計画

計画プロセスは、アプリケーションを構築する上で最も重要なステップです。構築する前に設計と構成をよく検討することで、アプリケーションにとっての短期的なメリットと長期的なメリットの両方を得ることができます。

#### Now Platform に適合

すべてのアプリケーションのアイデアが Now Platform に適合しているわけではありません。計画段階では、アプリケーションが Now Platform に適合しているかどうかを検討します。アプリケーションを計画するときは、適合する特性を念頭に置いてください。

| 適合性が高い場合 | 適合性が低い場合 |
| --- | --- |
| • 簡易フォーム<br>• タスク管理<br>• Request Management<br>• スプレッドシート駆動のプロセス<br>• 繰り返し可能なプロセス<br>• サードパーティ統合<br>• 複数のシステムのオーケストレーション<br>• 複数のシステムの機能からの単一のエクスペリエンス<br>• 同じアプリとデータへの Web およびモバイルアクセス | • 非構造化データ<br>• 繰り返し不可能なプロセス<br>• グラフィック処理が必要なコンテンツ<br>• ストリーミングオーディオまたはビデオ<br>• 高度にカスタマイズされたユーザーインターフェイス |

### 構築前の計画

基本的に、アプリケーションはユーザーのタスクをサポートするデジタルプログラムです。アプリケーションの構築時に実行する一部のアクションは、取り消すことができません。そういったアクションを意識して事前に計画してください。

## アプリケーションスコープ

アプリケーションを作成するときに最初に行う主要な決定の 1 つは、アプリケーションをプライベートスコープまたはグローバルスコープのどちらにするかということです。

デフォルトでは、アプリケーションは専用のプライベートアプリケーションスコープで作成されます。プライベートアプリケーションスコープ内のアプリケーションは、アプリケーションアーティファクトへのアクセスを制限するため、同じスコープ内のアプリケーションアーティファクトのみが、アプリケーションデータを作成、変更、削除、または実行するためのフルアクセス権を持ちます。スコープ対象のアプリケーションは、ソースコントロール統合と Delegated Development を

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用できます。グローバルスコープ対象のアプリケーションは、Delegated Development を使用できません。

次の場合を除き、スコープ内のカスタムビジネスアプリケーションを作成します。

- アプリケーションがグローバルデータを削除する必要がある。
- アプリケーションが機能するために、複数のデフォルトテーブルのアプリケーションアクセス設定を変更する必要がある。
- アプリケーションが、グローバルスコープでのみ利用可能な API にアクセスする必要がある。グローバルスコープパススルースクリプトインクルードを作成するだけでは、この要件を満たすことはできません。

> **注:**
> グローバルスコープパススルーは、プライベートスコープからアクセス可能なグローバルスコープで作成されるスクリプトインクルードです。パススルーは、プライベートアプリケーションスコープからデフォルトではアクセスできないグローバル API へのアクセスを提供します。

詳細については、「アプリケーションスコープ」および「Now Platform のアプリケーションスコープの理解 (Understanding Application Scope on the Now Platform) (ホワイトペーパー)」を参照してください。

## インスタンスの選択

概念実証 (PoC) アプリケーションビルドは、通常の開発インスタンスとは別のインスタンスで構築できます。このインスタンスは、開発者サイトのサンドボックスインスタンスまたは個人開発者インスタンス (PDI) にすることができます。PDI の命名形式は **dev12345.service-now.com** です。

スコープの名前空間が異なるインスタンスを使用する場合は、組織の開発インスタンスで PoC アプリケーションを再構築します。アプリケーションを組織の開発インスタンスにインポートしないでください。アプリケーションのスコープ対象の名前空間は、会社の開発インスタンスのスコープ対象の名前空間と一致しません。

組織が使用する予定のアプリケーション (本番アプリなど) は、組織のテストおよび展開プロセスに従うことができるように、組織の開発者インスタンスで作成する必要があります。

## 命名の決定

アプリケーション名は重要です。ServiceNow は、アプリケーションの名前に基づいてスコープを提案します。インスタンス内のアプリケーションリソースを一意に識別するために、アプリケーションファイル名がスコープに追加されます。スコープの形式は *x_[company code]_[application_name]* で、最大 18 文字です。たとえば、**Legal Request** というアプリケーション名の提案スコープは **x_acme_legal_reque** です。

アプリケーション内のすべてのアプリケーションファイルはスコープを継承するため、値を慎重に検討してください。アプリケーション名はいつでも変更できます。

### アプリ開発の管理

Now Platform でのアプリ開発を管理します。

## ソースコントロール

アプリケーションのシンプルで将来を想定したコラボレーションを実現するには、ソースコントロール統合を使用します。ソースコントロールを使用すると、組織は最新のアプリケーション開発とチーム管理のパラダイムに従いながら、業界標準のツールセットを採用できます。詳細については、ソースコントロール統合に関するドキュメントを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GitLab や GitHub などのソースコントロールプラットフォームは、ServiceNow アプリケーションの開発と管理において、現在および将来のベストプラクティスのトレンドに組織を適合させます。ただし、組織によっては、最新のソースコントロール統合を採用する準備ができていない場合があります。

- 分岐の結合は現在サポートされていません。
- ファイアウォールの背後にある企業 Git リポジトリは、追加のファイアウォール構成なしで直接統合することはできません。

## Delegated Development

Delegated Development により、管理者のロールを持たない指定されたユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールを持つユーザーは、アプリケーションレベルで指定された開発者にアプリケーション開発を委任することができます。委任開発者ロールは、admin ロールよりも権限が少なくなりますが、アプリケーションの開発は許可されています。

> **注:**
> Delegated Development は、プライベートスコープ対象のアプリケーションでのみ使用できます。

アプリケーションの構築の詳細については、「最初のアプリケーションの構築」を参照してください。

### アプリケーションの構築

アプリケーションを構成するデータ、設計要素、およびロジックを構築および定義します。

### データモデルの定義および構築

計画が完了したら、データモデルを定義して構築します。フィールドを含む 1 つ以上のテーブルを作成し、デモデータを含むテーブルをロードして、データへのアクセス制御を確認します。

## アプリケーションを作成

アプリケーションレコードを作成するか開きます。

- 作成：アプリケーションを直接作成する場合は、Guided App Creator を使用してアプリケーションを作成します。Guided App Creator を使用すると、スプレッドシート、ロール、およびセキュリティルールからテーブルを作成できます。設計オプションも利用できます。
- オープン：開発者に admin ロールがない場合、ServiceNow システム管理者はアプリケーションを作成し、開発者に委任開発ロールを付与する必要があります。その後、開発者は Studio を使用してアプリケーションを編集用に開きます。

> **注:**
> アプリケーションスコープとテーブル名は、これらのオブジェクトの内部名と呼ばれることがあり、作成後に変更することはできません。ただし、アプリケーション名とテーブルラベルは変更できます。アプリケーションユーザーには、URL の内部名のみが表示されます。可能であれば、内部名は常にユーザーに表示されるものと一致している必要があります。

### データモデルの構築

アプリケーションのデータモデルをサポートするテーブルとテーブル上のフィールドを作成します。

ServiceNow は、新しいテーブルごとに 5 つのフィールドを自動的に追加します。新しいフィールドには、テーブルに関する自動入力された情報が含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのテーブルに追加されるフィールド

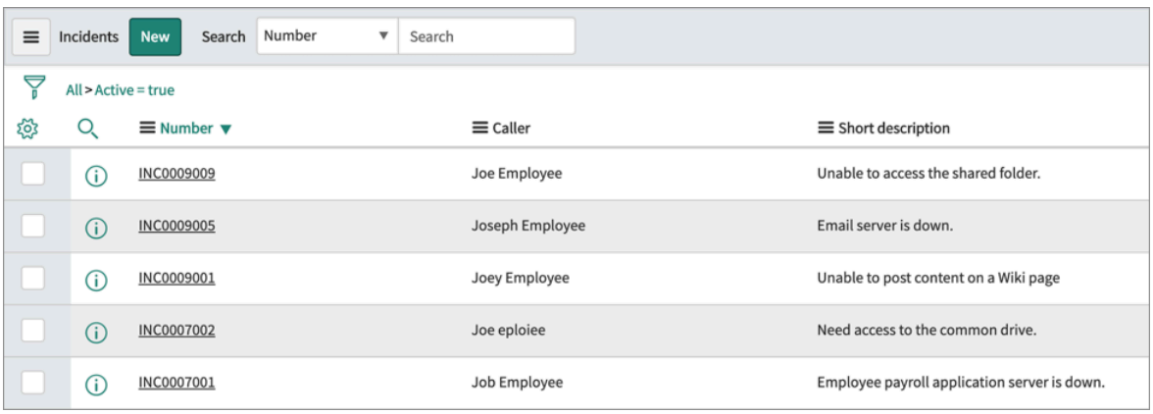
| フィールド名 | データベース名 | 説明 |
|---|---|---|
| 作成者 | sys_created_by | このレコードを作成したユーザー |
| 作成済み | sys_created_on | レコードが作成された日時。 |
| 更新者 | sys_updated_by | レコードを最後に更新したユーザー。 |
| Sys ID | sys_id | レコードの一意の識別子。インスタンス全体で一意です。 |
| 更新 | sys_mod_count | レコード作成以降のレコードの更新回数をカウントする数値フィールド。 |

新しいテーブルは、既存のテーブルを拡張して、拡張されるテーブルからフィールドと機能を継承できます。拡張されるテーブルのコンポーネントを追加および変更します。最も一般的に拡張される ServiceNow テーブルは、タスクテーブルです。詳細については、「When to create a new table vs. when to extend (新しいテーブルを作成するタイミングと拡張するタイミング)」および「」を参照してください。

アプリケーションに必要なデータモデルをサポートするフィールドをテーブルに追加します。ServiceNow には、検証が組み込まれたさまざまなフィールドタイプがあります。フィールドのデータに最適なフィールドタイプを選択します。

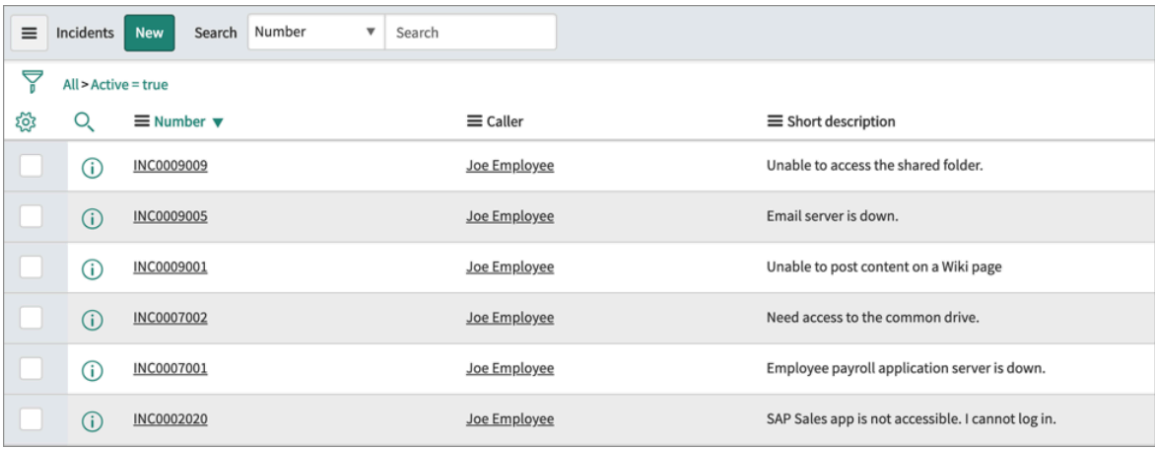
**注:**
文字列 (プレーンテキスト) フィールドは、設定が最も簡単です。ただし、ユーザーは何でも入力できるため、文字列フィールドでは、使用が困難な不適切な一貫性のないデータが生成される可能性があります。

この例では、文字列フィールドタイプがユーザーの名前に使用されています。[Caller] フィールドはインシデントレコードごとに異なりますが、問い合わせユーザーは同じ人物である可能性があります。テーブルのユーザー名に文字列フィールドタイプを使用しないでください。




文字列フィールドの代わりにユーザーテーブルを参照する参照フィールドタイプを使用します。ユーザーは、[Caller] フィールドで一貫性のあるレコードを 1 つ選択する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




参照フィールドは、ServiceNow の別のテーブルの日付を正規化することで、データの一貫性を確保します。ServiceNow には、2000 を超える参照可能なベースラインテーブルがあります。付録には、アプリを構築するためによく使用されるテーブルがいくつかリストされています。

参照フィールドはデータを正規化できますが、他のフィールドは特定のタイプのデータに使用できます。ServiceNow ドキュメントサイトには、すべてのフィールドタイプのリストがあります。一般的なフィールドタイプの一部を次に示します。

| フィールドタイプ | 説明 |
|---|---|
| 整数 | 数値を格納し、計算で使用できます。 |
| 通貨 | 通貨値を保持し、ログインしているユーザーの通貨で値を表示します。 |
| 電話番号 | E164 準拠の電話番号に対する検証と書式設定を含めます。 |
| 参照 | 別のテーブルのレコードを表示し、データの正規化に役立ちます。 |
| 選択肢 | 事前定義された選択肢のリストを含む選択ボックスを表示します。選択リストに含めるアイテムは 10 未満にする必要があります。 |
| 日付 | 日付ピッカーで選択された日付値を保存します。特定の時刻が必要ない場合は、[日付] を使用します。 |
| 日付/時刻 | 日付と時刻ピッカーで選択された日付と時刻の値を保存します。特定の時刻を比較する場合、または正確な時刻が重要な場合は、日付/時刻を使用します。 |
| 文字列 | 自由形式テキストを保持します。フィールドに格納されている値と一致するフィールドタイプが他にない場合は、文字列を使用します。 |

**注:**
フィールドの作成後にフィールドタイプを変更しないでください。

## 選択リストまたは参照フィールド

選択リストと参照フィールドはどちらも、ユーザーがリストから値を選択する方法を提供します。選択リストは、名前と値のペアです。ユーザーが名前から選択すると、選択した選択肢の値がフィール

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ドに保存されます。スクリプトはこの値を使用します。選択肢の名前/値のペアを追加および削除して、オプションのリストを管理します。

参照フィールドはテーブルを指します。テーブルの選択肢を管理します。参照フィールドに格納される値は、参照されるレコードの *sys_id* です。

選択リストは参照テーブルを必要とせず、参照フィールドよりも設定が簡単です。フィールドのオプションが 10 個以下で、オプションが変更されない場合は、選択リストを使用します。次の場合は、参照フィールドとテーブルの使用を検討してください。

- このフィールドに 10 を超える選択肢が必要。
- 選択肢が定期的に変更される。
- 管理者以外のユーザーが選択肢を管理する必要がある。
- フィールドの値は、意思決定ロジックに影響する。たとえば、Flow Designer の意思決定テーブルなどです。
- データには、さまざまなフィールド間に複数レベルの依存関係があり、複雑で扱いにくい選択肢フィールドの組み合わせにつながる可能性がある。
- 選択肢に、複数の名前/値のペアが必要。たとえば、ユーザーレコードを参照すると、参照元のテーブルにメールや部門などの他のユーザーの詳細へのアクセス権が付与されます。
- フィールドに必要なデータを含むテーブルが既に存在する。

参照フィールドを使用する場合は、テーブルを作成する前に、参照するインスタンスで利用可能なテーブルを確認してください。新しいテーブルを作成する場合は、「カスタムテーブルガイド」のセクション 2 で除外テーブルのリストを確認してください。必要に応じて、これらのいずれかから新しいテーブルを拡張します。

> **注:**
> 拡張されるテーブルに新しいフィールドを作成する前に、ベーステーブルから継承された同様の目的を持つ既存のフィールドを確認します。フィールドが見つかった場合は、拡張されるテーブルのラベルを上書きします。

### 安全なデータ

データセキュリティは、アプリケーションを作成する上で最も重要でありながら見落とされがちな要素の 1 つです。ServiceNow は、テーブルの作成プロセス中に、新規のロールまたは選択されたロールのアクセス制御を自動的に構成します。ロールを持つユーザーのみが、テーブルにアクセスして読み取り、作成、書き込み、削除を行うことができます。

Now Platform では、アクセス制御ルールを使用して、テーブルレベルおよび列レベルのセキュリティを構成します。アプリケーションへのアクセスを適切に構成するために、開発者は、アクセス制御の仕組みとアクセス制御が評価される順序を理解する必要があります。複数のアクセス制御を適用し、それらを組み合わせてアクセス制御リスト (ACL) が構成されます。

自分のペースで進められるトレーニング：Securing Applications (アプリケーションの保護)

ドキュメント：アクセス制御リストのルール

セキュリティを考慮するタイミング：

- 適切なアクセス制御とロールを使用して、テーブル、UI ページ、プロパティページ、およびその他のコンテンツを保護します。
- アクセス制御スクリプトでの GlideRecord クエリの使用を制限します。GlideRecord クエリはパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

Orlando Platform Subscription モデル以降、ユーザーがテーブルにアクセスするかどうかに関係なく、ユーザーがアクセスできるテーブルの数によって顧客に課金されます。テーブルへのアクセスを

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

制限するように ACL を構成し、テーブルへのアクセスを必要とするユーザーのみがテーブルにアクセスできるようにします。

> **注:**
> 自動入力されるフィールドを読み取り専用にすることを検討してください。システムによってデータが入力されている場合、ユーザーは入力できません。

または、クエリ前ビジネスルールを使用して、Now Platform 上のデータを保護します。クエリ前ビジネスルールは、データベースクエリの前に実行され、レコードへの読み取りアクセスの制御に制限されます。必要な場合にのみ、クエリ前ビジネスルールを使用します。アクセス制御またはクエリ前ビジネスルールの使用を決定する際の考慮事項：

- GlideRecord クエリは、テーブルの読み取りアクセス制御をバイパスし、テーブルのクエリ前ビジネスルールによって制限されます。
- アクセス制御によってリスト内のレコードへの読み取りアクセスが制限されている場合、ServiceNow では、レコードのアクセスが制限されていることを示すメッセージが表示されます。クエリ前ビジネスルールでは、リストの合計レコード数は、ユーザーに表示されるレコードの数と一致します。一部のレコードがリストで非表示になったとき、ユーザーはそのことを示す通知を受け取りません。

参照用に、ユーザー [sys_user] テーブルのユーザークエリビジネスルールを確認してください。

> **注:**
> クエリ前ビジネスルールは ACL の代わりにはなりません。クエリ前ビジネスルールを使用してユーザーのテーブルへのアクセスを拒否しても、サブスクリプションモデルに対してテーブルがカウントされます。プラットフォームサブスクリプションモデルのユーザーに対してテーブルがカウントされないようにするには、アクセス制御を使用します。

## 暗号化

Now Platform は、アプリケーション層、データベース層、およびハードウェア層でさまざまな暗号化ソリューションも提供します。詳細については、データ暗号化に関するホワイトペーパーを参照してください。

> **注:**
> インターフェイスまたはビジネスロジックを構成する前に、セキュリティを設定します。セキュリティはインターフェイスやビジネスロジックで利用可能なデータに影響するため、アプリケーション構築プロセスを終了するまで待つと、やり直しや問題が発生する可能性があります。

### データの管理

データモデル (テーブルとフィールド) を作成し、セキュリティを設定したら、アプリケーションのテーブルにデータを追加します。

## インポートセット

外部プラットフォームから ServiceNow のテーブルに入力するには、Import Sets と変換マップを使用します。外部ソースから定期的にデータを取得するには、インポートスケジュールを使用します。

自分のペースで進められるトレーニング：Importing Data into ServiceNow (ServiceNow へのデータのインポート)

Import Sets パフォーマンスのガイドライン：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- インポートを高速化するために、大量のデータを小さなセットに分割します。100,000 行をベースラインと見なし、それより大きい行は 100,000 行に分割します。たとえば、100,000 レコードを 10 セットインポートする方が、1,000,000 レコードを 1 セットインポートするよりも早く終了します。また、多数のレコードで同時インポートを使用することも検討してください。
- 大きなデータセットを同時にインポートすると、インスタンスに負荷がかかる可能性があります。インポートが重複しないように、大規模なインポートを交互に実行します。
- 可能な場合は、変換マップテーブルの [ビジネスルールを実行] チェックボックスをオフにして、インポート中にビジネスルールやその他のロジックが実行されないようにします。ビジネスルールのように各レコードで計算などのビジネスロジックをインポートの最後に実行するのではなく、onComplete 変換スクリプトを使用することを検討してください。
- インポートにデフォルトの機能を使用します。可能な限り、カスタムスクリプトを記述しないでください。たとえば、カスタム結合スクリプトを記述するのではなく、結合機能を使用します。
- インポートセットでは GlideRecord クエリを使用しないでください。
- 結合するように構成されたすべてのフィールドにインデックスが付けられていることを確認します。
- 履歴データをインポートする必要があるシステムを置き換える場合は、アプリケーションに必要な履歴データのみをインポートします。履歴データをデータレイクに保存することを検討してください。

## 受信統合

Import Sets に加えて、ServiceNow には外部プラットフォームからデータを受け入れるための API が含まれています。

別のシステムからアプリケーションテーブルにデータを直接プッシュするには、REST Table API または SOAP API を使用してアプリケーションテーブルに直接書き込むのではなく、*Web* サービスインポートセットを使用します。

添付ファイルの送信やカタログアイテムの注文など、テーブルへのデータの書き込みよりも複雑なデータトランザクションを処理するには、利用可能な API を確認して、必要なロジックをサポートする API が存在するかどうかを確認します。

Scripted REST API または Scripted SOAP Web Service を使用して、それぞれ REST または SOAP エンドポイントを構築します。Scripted REST API および Scripted SOAP Web Service エンドポイントは、エンドポイントが外部システムによって消費されるときに ServiceNow サーバーサイドコードを実行できます。

自分のペースで進めることができるトレーニング：REST Integrations (REST 統合)

### 設計要素の作成

アプリケーションのデータモデルが作成され、保護され、データが入力されたら、そのデータにアクセスするための設計要素を作成します。

### プライマリインターフェイス

ユーザーがデータモデルを操作する主な方法は、フォームとリスト、またはモバイルを使用することです。

## フォームとリスト

ServiceNow のデータにアクセスする標準的な方法は、デフォルトのフォームとリストを使用することです。フォームにはデータテーブルの 1 つのレコードの情報が表示され、リストにはテーブルの一連のレコードが表示されます。フォームとリストを構成する場合：

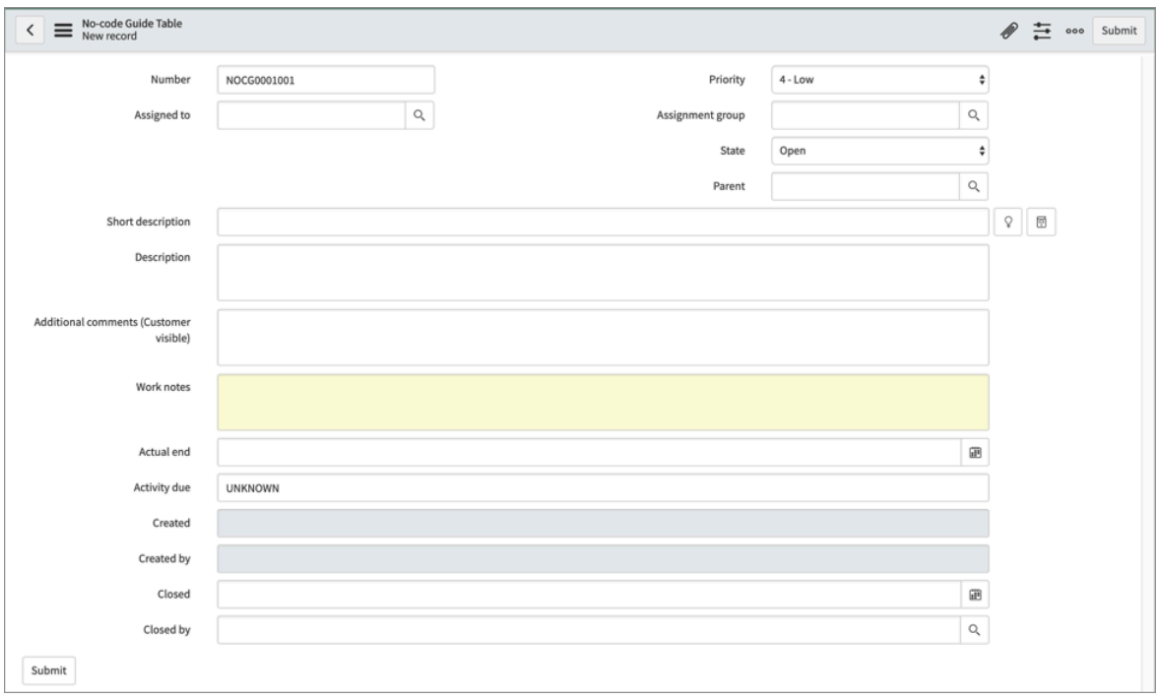
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. フォームのフィールド数は最小限に抑えます。フォームのフィールドが多いほど、フォームのロードに時間がかかり、ユーザーエクスペリエンスが低下します。フォームビューを使用して、さまざまな状況に合わせてさまざまなフィールドのセットを作成します。
2. フォームセクションを使用して、フィールドを論理的にグループ化し、ユーザーがスクロールする必要がないようにします。フォームの上部セクションには常に必要なフィールドまたは使用されるフィールドを含め、他のフォームセクションには使用頻度の低いフィールドを含めるようにします。
3. フィールドが正しい順序で表示されていることを確認します。たとえば、開始日フィールドは常に終了日フィールドの直前にする必要があります。
4. デフォルトのリストでは 7 つ以下の列を使用します。ユーザーは、リストをカスタマイズしてさらに列を追加できます。
5. 参照フィールドはハイパーリンク付きテキストとして表示されるため、リストビューの最初のアイテムとして使用しないでください。参照フィールドをクリックすると、ユーザーはリストレコードではなく参照レコードにリダイレクトされるため、ユーザーエクスペリエンスが低下します。

この例は、適切に設計されていないフォームを示しています。

- フォームにセクションがありません。ユーザーがすべてのフィールドを表示するには、フォーム全体をスクロールする必要があります。
- 類似のフィールドがグループ化されていません。たとえば、[アサイン先グループ] と [アサイン先] がフォームの異なる側にあります。

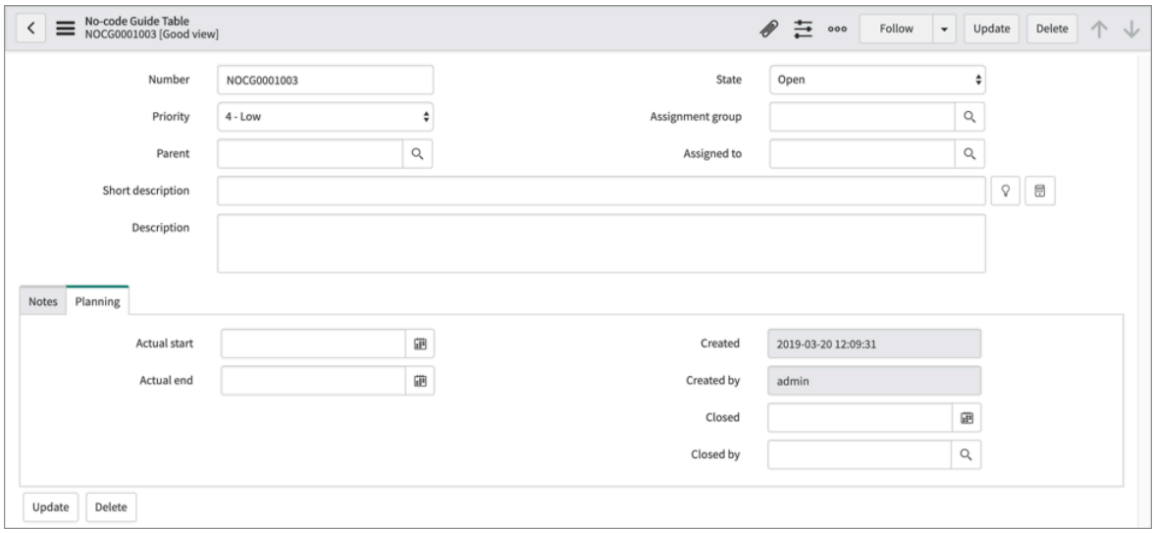



この例は、適切に設計されているフォームを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フィールドは論理的にグループ化されます。
- フォームは、表示とデータ入力を容易にするためにセクションに分割されています。




### モバイル

ユーザーがモバイルデバイスでアプリケーションを操作し、位置情報管理やアプリケーションデータへのオフラインアクセスなどの iOS または Android のネイティブ機能を必要とする場合は、ServiceNow Agent アプリを使用します。Studio を使用して、アプリケーションのモバイルアプリケーションを作成します。

モバイルアプリケーションでアプレットを作成します。アプレットは、アプリケーション内のタイルです。マップやリストなどのメイン画面と、アクティビティストリームや関連リストなどのさまざまな詳細画面を含めます。アプレットには、重点を置くエクスペリエンスが必要です。

> **注:**
> 個々のアプレットは、ロール別に保護することも、オフラインモードで使用できるようにすることもできます。

自分のペースで進められるトレーニング：Mobile Applications (モバイルアプリケーション)

その他のリソース：Mobile Resources (モバイルリソース)

### セルフサービス

アプリケーションには、エンドユーザーがデータモデルにアクセスできるようにする方法が必要な場合があるため、セルフサービスオプションを利用できます。

#### Service Portal

アプリケーションに要求者ユーザーまたはセルフサービスユーザーがいる場合は、サービスポータルを使用して使いやすい Web エクスペリエンスを提供します。

セルフサービスユーザーがサービスポータルからアプリケーションレコードを簡単に作成できるようにするには、レコードプロデューサーを作成します。レコードプロデューサーは、通常のフォームよりも優れたエンドユーザーエクスペリエンスを提供できます。サービスポータルを介してレコードプロデューサーにアクセスできるようにするための適切なカタログと分類については、ServiceNow 管理者にお問い合わせください。

または、次の条件に当てはまる場合は、アプリのサービスポータルを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションが、組織の現在のサービスポータルとは異なるブランディング、ナビゲーション、またはユーザーエクスペリエンスを必要としている。

**OR**

組織に既存のサービスポータルがない。

**AND**

アプリケーションは、デフォルトのポータルが提供するよりも多くの機能を必要としている。

**AND**

アプリケーションに、デフォルトのフォームやリストが提供できるものよりも多くのカスタマイズされたユーザーエクスペリエンスが必要。

**OR**

アプリケーションでは、デフォルトのインターフェイスが提供するよりも、ブランディングとテーマをより詳細に制御する必要がある。

ヒント:
アプリケーションで既存のサービスポータルページを再利用しないでください。新しいページを作成し、ページ内のコンポーネント (ウィジェットやヘッダーなど) を再利用します。

## ウィジェット

ウィジェットは、ポータルのコンテンツを定義するものです。サービスポータルで提供されるベースシステムウィジェットを使用することも、開発者がビジネスニーズに合わせてカスタムウィジェットを構築することもできます。

アプリケーションのカスタムサービスポータルウィジェットを作成する際の考慮事項：

- ウィジェットを新規に作成するのではなく、既存のウィジェットから開始します。既存のウィジェットを誤って変更しないように保護するために、すべてのベースラインウィジェットは読み取り専用になっています。
- ウィジェットを開発するときは、プレビューペインを使用してウィジェットの動作を簡単にテストします。ウィジェットを本番環境にリリースする前に、必ずポータルページでウィジェットをテストしてください。
- ブラウザーベースのアプリケーションをデバッグするときは、サードパーティのデバッグツールを使用します。たとえば、Angular JS の ng-inspector Chrome 拡張機能を使用します。
- *$rootScope.$broadcast()* の使用は避けてください。代わりに、*$rootScope.$emit()* を使用してイベントをルートスコープに公開します。
- ウィジェットのオプションを使用して、ウィジェットをより簡単に再利用できるようにします。ウィジェットオプションスキーマは、ユーザーが構成可能なフィールドを定義します。
- オプションスキーマでサポートされていない他のフィールドタイプを使用するには、カスタムウィジェットオプションスキーマを格納する拡張テーブルを作成します。
- Angular プロバイダーは、複数のウィジェットに挿入できる再利用可能なコンポーネントです。ウィジェットのすばやいロードとポータルの高いパフォーマンスを確保するため、永続データと追加ロジックを使用してクライアントコントローラーをオーバーロードする代わりに Angular プロバイダーを作成します。Angular プロバイダーを使用すると、サービスポータルを使用する全期間データを維持し、複数のウィジェット間でコンポーネントとデータオブジェクトを再利用することができます。

詳細については、サービスポータルのトレーニングを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 仮想エージェント

ServiceNow の会話型ボットプラットフォームである仮想エージェントについて考えてみましょう。ServiceNow 仮想エージェント (VA) を使用して、ボットの会話を設計して構築し、ユーザーが迅速に情報を入手し、意思決定を行い、一般的な作業を実行できるようにします。

VA の会話トピックを構築する際の考慮事項：

- ポータルに VA を追加する場合は、広範なトピックではなく特定のユースケースに焦点を当てたトピックを作成します。
- トピックを大声で読み上げて、トピックがロボットのようになりすぎたり冗長すぎたりしないようにします。
- 対話全体を一度に設計しようとしないでください。代わりに、ボットを構築するときに反復アプローチを採用し、会話を頻繁にテストします。

詳細については、「仮想エージェント」を参照してください。

### Notifications

データモデルが定義され、ユーザーがアプリケーションとやり取りできるようになったら、アプリケーションがユーザーと通信する方法を決定します。通知を構成して、重要なアプリケーション関連イベントをユーザーに警告し、ナレッジベースでアプリケーション情報を共有し、ユーザーが母国語でアプリケーションを操作できるようにするための翻訳を追加します。

Now Platform は、メール、SMS テキストメッセージ、またはプッシュ通知によってユーザーに通知することができます。

## トリガー：イベント駆動型通知とテーブルの更新

テーブルの更新またはイベントに基づいてトリガーするように通知を構成します。トリガー要件を通知条件に簡単に実装できない場合、または通知がワークフローからトリガーされる場合は、イベントベースのトリガーを使用します。特定のイベントを作成すると、通知のデバッグが容易になります。

単純な通知のユースケースでは、ワークフロー内の通知アクティビティまたは Flow Designer の [メール送信] アクションを使用します。複雑な通知や重要な通知の場合は、ワークフローまたは Flow Designer フローからイベントをトリガーし、そのイベントを起動するように通知を設定します。

## 通知コンテンツ

ServiceNow 通知は、メールテンプレート、メールスクリプト、および通知変数を使用した静的コンテンツと動的コンテンツをサポートしています。

通知変数は、ベースレコードのフィールド値など、通知の本文に動的な情報を追加します。変数はドット連結もサポートしているため、関連レコードのフィールド値をスクリプティングなしでコンテンツに含めることができます。

たとえば、*URI_REF* 変数を使用して、メールの発信元レコードをポイントします。

メールスクリプトまたはベースレコードからのドット連結を使用して、そのレコードで利用できない動的コンテンツを含めます。メールスクリプト API を使用して、受信者や送信者のアドレスなどの通知の詳細を設定します。

> **注:**
> <mail_script> タグを使用して通知本文に入力されたスクリプトは、常に正しく機能するとは限りません。常に [システム通知] > [メール] > [通知メールスクリプト] でメールスクリプトを作成し、${mail_script:script_name} を使用して通知本文に含めます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数の通知で使用されるコンテンツのメールテンプレートを作成します。メールテンプレートにコンテンツを追加すると、管理者はメール通知の件名およびメッセージ本文で再利用可能なコンテンツを作成できます。

### 受信者の構成

ServiceNow のメールは、ユーザー、グループ、または個々のメールアドレスに送信できます。グループに送信する場合は、グループメールに加えてグループのすべてのメンバーに通知が送信されるように、グループレコードの [含めるメンバー] フィールドをオンにします。

サブスクリプションベースの通知：受信者が受信するメールを選択できるようにするには、通知の [登録可能] オプションを選択します。

サブスクリプションベースの通知では、受信者が個々の設定に関係なく通知を受信できるように、[必須] オプションを true に設定できます。必要に応じて、送信メールに登録解除リンクを設定して、ユーザーが通知から自分自身を削除できるようにします。

ServiceNow では、メールのウォーターマークを使用して、通知に対するユーザーの応答を正しく処理します。メール通知には、通知で [ウォーターマークを省略] オプションが選択されていない限り、自動的にウォーターマークが含まれます。受信者からのメール応答が想定されていない場合にのみ、ウォーターマークを省略します。

「送信メールのトラブルシューティング」ナレッジベース記事には、最も一般的な通知の問題のトラブルシューティング手順が記載されています。記事を参照するには、HI ポータル (https://hi.service-now.com) にログインしてください。

### 翻訳

いずれかの Internationalization プラグインを使用すると、インスタンス内のほとんどのフィールドが自動的に翻訳されます。ただし、カスタマイズは自動的に翻訳されないため、手動で翻訳する必要があります。この場合、個々の翻訳されていない文字列を探して翻訳し、それらの翻訳を手動で挿入するのが最も効果的です。

新しい言語を実装するには、新しい言語のプラグインを有効にします。次に、いずれかの翻訳テーブルから既存の値をエクスポートします。

たとえば、すべての **sys_choice** レコードをエクスポートします。提供されたファイルの [ラベル] フィールドの翻訳を提供するために、翻訳者にエクスポートを提供します。[値] フィールドは変更しないでください。[言語] の値を新しい言語に更新します。次に、翻訳された値を **sys_choice** テーブルに再びアップロードします。

> **注:**
> 値を挿入するには、必要なすべてのフィールド (テーブル、要素、言語、ラベル、値、シーケンス) を設定していることを確認してください。必要に応じて、依存値とヒントを設定します。このロジックは、すべての翻訳テーブルで同じです。

詳細については、「言語の国際化のサポート」を参照してください。

### レポートとダッシュボード

ほとんどのアプリケーションには、ある程度のレポート要件があります。レポートは、変更を促進するためにアクション可能である必要があります。

レポートを構築するときは、次のガイドラインに従ってください。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 大きなテーブルに関するレポートは、ServiceNow インスタンスのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。テーブルのすべてのレコードを表示するのではなく、日付範囲またはその他の制限基準でフィルタリングしてください。
- 多くの値が含まれる可能性があるフィールドでレコードをグループ化すると、パフォーマンスを低下させる可能性があります。
- レポートの実行中に [長時間実行トランザクションタイマー *(Long running transaction timer)]* メッセージが表示される場合は、データフィルターをさらに追加してレポートの実行時間を短縮することを検討してください。
- 定期的に必要なレポートをメールで送信するようにスケジュールします。

ダッシュボードを使用して、1 つのページに複数のレポートを表示します。ダッシュボード上のレポートの数には注意してください。ダッシュボードのレポートが多すぎたり、複数のユーザーがダッシュボードを使用したりすると、インスタンスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

詳細については、「分析およびレポート」を参照してください。

### フォームとビジネスロジックの構築

アプリケーション設計の次のステップは、ロジックの構築です。ロジックには、フォームロジック (フォームで表示/使用できるものとできないもの) とビジネスロジック (データが入力されたときの処理方法を制御するルール) が含まれます。

## スクリプティングと変更

コードを記述する前に、アップグレードと ServiceNow の新機能の採用への影響に注意してください。ベースラインのアーティファクトとプロセスを変更する場合は、特に注意する必要があります。

スクリプトを作成する前に、次の点を考慮してください。

- 要件を評価します。ロジックはアプリの機能にとって重要ですか？
- コードなしで要件を満たすように ServiceNow を構成できるかどうかを判断します。
- Flow Designer、仮想エージェント、UI ポリシーなどのオプションを活用して、コードを記述せずにプラットフォーム機能を活用します。
- ロジックに対するローコードおよびノーコードアプローチにより、デバッグとアップグレードが簡単になります。

スクリプティングが適切な場合の例：

- Flow Designer アクションの構築
- Scripted REST API の作成
- スクリプトインクルードでのスコープ対象アプリケーションのロジックの作成
- サービスポータルのウィジェットのカスタマイズと作成

スクリプト化されたソリューションを使用する前に、ビジネス要件を評価し、ノーコードルートを検討してください。

ServiceNow の機能拡張に注意してください。たとえば、orlando リリースでは、仮想エージェントの会話に London よりも多くのノーコードオプションがあります。リリースノートやその他の公開資料を読んでください。認定を取得し、認定を最新の状態に維持してください。

カスタマイズするタイミングをよりよく理解するには、Customer Success Center の「Innovate at Scale Success Playbook (大規模な革新を成功させるためのプレイブック)」を確認してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### デフォルト動作の変更

以前は、アーティファクトをコピーして更新し、元のアーティファクトを非アクティブ化するという戦略が使用されていました。コピー/非アクティブ化のアプローチは、次の問題により推奨されなくなりました。

- 開発者は、調査しないと、非アクティブ化されたアーティファクトがアップグレードされたかどうかを判断できません。
- オリジナルとコピーという 2 つのファイルをメンテナンスする必要があります。カスタマイズした部分はメンテナンス量が 2 倍になります。
- 新しいリリースが出るたびにカスタマイズしたレコードが古くなり、
  - 新リリースに含まれる機能強化を活用できなくなります。
  - 新リリースがオリジナルレコードの更新に依存することもあります。
  - オリジナルレコードの無効化を埋め合わせるために、開発者はさらに多くの変更を余儀なくされる場合があります。

[アクティブ] フラグのみが変更されたスクリプトは更新されますが、スキップされたリストにはスクリプトは表示されません。コピーと非アクティブ化の戦略では、開発者はカスタマイズの可視性が低く、ベースラインバージョンを簡単に評価したり元に戻したりすることはできません。

元のアーティファクトをコピーして非アクティブ化するのではなく、アーティファクトを直接編集します。ServiceNow Upgrade Engine は、最新バージョンをバージョン履歴に追加し、アーティファクトがスキップされたことを報告します。開発者は、アップグレードで新しいバージョンが利用可能であることを確認できます。

### フォームロジック

ユーザーがフォームにアクセスしたときに表示される内容を制御することで、生産性と応答性を向上させることができます。たとえば、ユーザーは自分にとって有用なフィールドのみを表示する必要があります。ユーザーは、フォームの構成に基づいて特定のフィールドのみを表示する必要がある場合があります。フォームロジックを適用して、フォーム上の表示可能、読み取り専用、および必須の内容を制御します。

次の質問は、情報へのユーザーアクセスを制御するタイミングを適切に判断するのに役立ちます。これは提案ですか？それとも強制ですか？提案はフォームの入力を容易にしますが、強制はフォームに入力するためにユーザーに何らかの操作を強制します。

UI ポリシーは、フィールドの表示/非表示や別のフィールドの値に基づくフィールドメッセージの追加などの条件付き提案に役立ちますが、データポリシーとビジネスルールは、フィールドを必須にするなどの条件付きの強制に適しています。

最高のユーザーエクスペリエンスは、提案と強制の両方を一緒に利用することです。

詳細については、クライアントサイドスクリプトモジュールの UI ポリシーの記事を参照してください。

クライアントサイドのロジックをスクリプティングする前に、クライアントサイドのアクティビティを処理する UI ポリシーとデータポリシーを作成します。クライアントスクリプトを使用して、ユーザーがフォームに入力しているときにユーザー入力を検証し、フィードバックを提供します。

クライアントスクリプティングの一般的なプラクティスは次のとおりです。

- クライアントサイドの *GlideRecord* または複数の *getReference()* 呼び出しに対して非同期 *GlideAjax* を使用して、パフォーマンスを最適化します。
- *onChange* クライアントスクリプトで *isLoading* チェックを維持します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- *newValue* チェックを維持し、*newValue != oldValue* チェックを追加します。
- *GlideAjax* でサーバー呼び出しを行う前に、可能な限りすべてのクライアントサイドスクリプトを使用します。サーバーの往復はパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

クライアントスクリプティングの回避すべきプラクティスは次のとおりです。

- グローバルクライアントスクリプトまたはグローバル UI スクリプト：グローバルスクリプトはページがロードされるたびに実行され、ブラウザーのロード遅延が発生します。
- DOM 操作：デフォルトの UI 要素に対してドキュメントオブジェクトモデル操作を使用すると、アップグレードのリスクと保守性の問題が発生します。例外は、UI ページやサービスポータルウィジェットなど、同じスコープ対象のアプリケーションで作成されたページの DOM に対して DOM 操作を使用する場合です。

### ビジネスルールおよびスクリプトインクルード

ビジネスルールは、インスタンスレコードの CRUD (作成、読み取り、更新、削除) 操作中に実行できるサーバーサイドのアクションです。

ビジネスルールを使用する際の推奨プラクティスは次のとおりです。

- ビジネスルールは小規模で具体的にします。
- ベースシステムのビジネスルールは変更しないでください。
- グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用します。
- スクリプティングは必要な場合にのみ使用します。
- 再利用可能なスクリプトロジックをスクリプトインクルードに保存します。
- クエリを使用して、ビジネスルール内で処理されるレコードを制限します。
- クライアントスクリプトを実行する際の効率を向上させるために、クライアントコール可能ビジネスルールを使用しないでください。
- ビジネスルールをいつ実行するかを制御するには、常にビジネスルールで条件を使用します。条件付きでビジネスルールを実行することもデバッグに役立ちます。ビジネスルールが条件なしで実行されることはほとんどありません。

ビジネスルールは、データベース操作の前または後に実行するように構成できます。また、非同期で実行するように構成することも、フォームの表示前やクエリの実行前にも実行することもできます。

| 値 | 実行 | 使用するタイミング | 例 |
|---|---|---|---|
| 前 | データベース操作の前に同期的に実行 | 保存操作の一環として、現在のオブジェクトの値を設定または更新します。実行を検証し、必要に応じて中止します。 | 開発者は、そのレコードの別の入力に基づいて現在のレコードのステータスを設定したいと考えています。 |
| 後 | データベース操作の後に同期的に実行 | データベースの更新後にイベントと通知をトリガーして、前のオブジェクトにアクセスしたり、何かを順番に発生させたりします。更新されているベーステーブル以外の関連レコードを更新して、前のオブジェクトにアクセスしたり、何かを順番に発生させたりします。 | 開発者は、現在のレコードから子レコードに値をカスケードしたいと考えています。 |
| 非同期 | データベース操作が完了した後、別のプロセ | ルールによってトリガーされるプロセスの実行には、時間がかかる場合があります。操作をトリガーしたユーザーがすぐに出力を必要としない場合。レコードの以前の値または特定の順序のアクションに | 開発者は、時間がかかる可能性がある外部プロセスをトリガーしたり、多数のレコード |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 値 | 実行 | 使用するタイミング | 例 |
| --- | --- | --- | --- |
| | スとして非同期で実行される | アクセスする必要がない場合に、イベント、通知、または関連レコードの更新をトリガーします。 | を更新したりする必要があります。 |
| 表示 | 対応するフォームが表示されるたびに実行される | サーバーサイドのオブジェクトをクライアントサイドのスクリプトで使用できるようにするために使用されます。 | 開発者は、現在のレコードに関連付けられたユーザーに関する情報を g_scratchpad オブジェクトに書き込み、クライアントサイドスクリプトで使用したいと考えています。 |

**注:**
*current.update()* は、ビジネスルールでは使用しないでください。*current.update()* を使用すると、追加のデータベース操作がトリガーされ、通知の重複や再帰ループなどが発生する可能性があります。

スクリプトインクルードを使用して、サーバースクリプトで使用できるように JavaScript の関数およびクラスを格納します。各スクリプトインクルードは、任意のサーバーサイドスクリプトで再利用できるオブジェクトクラスまたは関数を定義します。

スクリプトインクルードの他の場所で使用する必要があるコードを保存します。ビジネスルール、UI アクション、ワークフロースクリプト、Scripted REST APIs などからスクリプトインクルードを呼び出します。UI アクションからビジネスルールを呼び出すか、Scripted REST APIs から UI アクションを呼び出す代わりに、スクリプトインクルードにコードを配置し、両方の場所からスクリプトインクルードを呼び出します。

関数をスクリプトインクルードに保持すると、関数を他のスクリプト領域に展開する前に関数をテストできるため、全体的な開発とテストの時間を短縮できます。

詳細については、「ビジネスルール」を参照してください。

### Flow Designer

Flow Designer は、統合的な設計環境で豊富なプロセス自動化機能を実現する Now Platform の機能です。Flow Designer を使用すると、プロセス所有者が自然言語を使用して、コードを書かずに承認、タスク、通知、レコード操作を自動化できます。

## Flow Designer と IntegrationHub

新しいプロセスフロー要件がある場合、ServiceNow では、ほとんどすべての状況で従来のワークフローではなく Flow Designer を使用することをお勧めします。

## Flow Designer とビジネスルール

次の場合を除き、ビジネスルールの代わりに Flow Designer を使用する必要があります。

- ビジネスロジックを他のビジネスルールとともに特定の順序で実行する必要がある。たとえば、新しいビジネスロジックは、あるビジネスルールの後、別のビジネスルールの前に実行する必要があります。
- ロジックを同じスレッドでデータベースへの書き込みの直前または直後に実行する必要がある。
- ロジックがスクリプトインクルードのみを呼び出す。

フローを設計するときは、次の設計の原則に従ってください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 単一の目的：各フローには単一の目標が必要です。
- 再利用性：再利用可能なサブフローを念頭に置いて設計します (承認が良い例です)。
- 明確性：フローの言語とレイアウトは、各アクションの目的を明確にする必要があります。

ビジネスフローのホワイトボード設計から開始します。次に、プロセスに合わせてアクションごとにフローを構築します。単一のプロセスが設計原則に従うためには、複数のフローが必要になる場合があります。

Flow Designer を使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- SysID ではなくレコードを使用します。インラインドキュメントでガイド付きエクスペリエンスを提供します。
- テンプレートオブジェクトを使用して静的入力と動的入力の両方を操作する方法について説明します。
- 絶対に必要な場合を除き、データの BLOB を渡すことは避けてください。
- フローが使用するフローにのみ情報を渡します。

Flow Designer アクションを使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- 該当する場合は、常にアプリケーションのスポークのスコープの下でアクションを作成します。
- 将来、他のアプリやスコープ間でアクションを再利用できるようにするには、アクションですべてのスコープからアクセス可能にアクセス権を設定します。
- ユーザーによるアクションの不要な編集を防ぐには、[保護] を読み取り専用に設定します。
- 入力に特定のタイプがあることを確認してください。
- 必要に応じて [必須] が選択されていることを確認します。
- 選択肢の入力タイプを使用する場合は、デフォルト値を使用します。

IntegrationHub アクションを使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- 統合システムごとに 1 つのスポークを作成します。スポークには単一システムのアクションのみを配置します。
- スポークのスコープ対象アプリを作成するときは、意味がわかるバージョン命名規則を使用します。
- インライン接続の代わりに、接続エイリアスを使用します。ベース URL は自動的に抽出されます。
- エイリアスの接続属性を使用して、REST ステップでバージョンを渡し、リソースパスでのバージョニングの柔軟性を向上させます。
- 別のステップを作成してデータを保存する代わりに、[添付ファイルとして保存] を使用して応答のコンテンツを保存します。
- エイリアスが動的である場合は、エイリアスを入力の 1 つにし、データピルを使用してエイリアスを指定します。

エラー処理には、Flow Designer と IntegrationHub で次のプラクティスを使用します。

- エラーを処理するスクリプトインクルードを作成します。
- 短くてわかりやすいエラーメッセージを記述します。
- API が返す可能性のあるエラーメッセージをすべて組み込みます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 使用する前に、統合ステップの出力が検証されていることを確認します。
- 早期失敗：入力が利用できない場合は、統合を呼び出さないでください。

自分のペースで進めることができるトレーニング： Flow Designer

自分のペースで進めることができるトレーニング： IntegrationHub

### アプリの機能の検証

アプリケーションを構築したら、期待どおりに機能することを検証します。

## 単体テスト

単体/ストーリーテストでは、ストーリーをクローズする前に、ストーリーで指定された要件が検証されていることを確認します。ストーリー/単体は、システムまたはアプリケーションのテスト可能な最小部分であり、構成して実行することができる部分です。

ストーリーの構成が完了したら、開発者はその特定のストーリーのコンテキストだけでなく、現在のストーリーとコンポーネントを共有する他の関連ストーリーでも機能を単体テストする必要があります。

ストーリーをクローズする前に、開発者はストーリーをプロセスオーナーまたは指定されたステークホルダーにアサインして、ストーリーの構成が期待される結果を満たしていることを検証することをお勧めします。

ServiceNow の Automated Test Framework (ATF) は、主にアプリケーションの機能テストを自動化することを目的としていますが、スクリプトインクルードとビジネスルールを含む構成の単体テストを自動化するために使用できることはあまりありません。

## システムテスト

システムテストは、開発が完了したときに完全なシステムで実行されます。コンポーネントの全体的なインタラクションと、スコープ内の他のアプリケーションとの統合をテストします。システムテストは QA/テストチームによって実行されますが、開発者は QA チームおよびプロセスオーナーと協力して、テストケースがすべてをカバーしていることを確認する必要があります。開発者は、システムテスト中に見つかった問題の修正に対して責任を負います。

### Automated Test Framework

Automated Test Framework (ATF) を活用して ServiceNow アプリケーションの機能システムテストを自動化し、テストの時間とコストを削減して、UI に依存しない再現可能なテストにする必要があります。テストケースを作成するときは、次のガイドラインに従ってください。

テストを作成するとき：

- パラメーター化されたテストを使用して、テストケースの重複を回避します。
- テストの命名基準に従います。
  - `<アプリのイニシャル>：<テストされている機能>`
  - CSM：ケースの解決
- 説明に各テストのユースケースを記述します。例：ユースケースをテストするサンプル。
- 開発インスタンスでテストを開発し、テストインスタンスでテストを昇格/実行します。
- クローンするとテストはワイプされます。テストを保持するには、次のいずれかのオプションを使用します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- スコープ対象のアプリにテストをバンドルし、アプリを GIT にアップロードします。
- クローンの前にテストを保存します。
- テストを本番インスタンスに昇格させますが、本番環境ではテストを実行しないでください。

- 自己完結型のテストを作成します。
- テストステップが欠落している新しいサーバーサイドテストステップまたは REST テストステップを作成します。例：メール本文の検証。
- スクリーンショットが重要でない場合は、可能な限りサーバーサイドテストステップを使用します。
- 代理操作ステップから開始します。
- ブラウザースロットリングに注意してください。
- テストログとテストトランザクションを使用して、テストエラーのトラブルシューティングを行います。

テストスイートを作成するとき：

- テストスイートの命名基準に従います。例：ITSM INT：ユースケース。
- スイートについて説明します。
  - テストスイートの説明：「これは、プラグイン/アプリケーションをテストするためのサンプルテストスイートです」。
  - 説明に使用可能な追加情報を入力します。
- テストスイートを機能領域別に整理します。

### ユーザー受け入れテスト

ユーザー受け入れテスト (UAT) は、アプリケーションのビジネス要件へのコンプライアンスを評価し、アプリケーションが提供可能かどうかを評価するために実施されるテストです。ユーザー、顧客、またはその他の権限を持つステークホルダーが受け入れテストを実行します。開発者は、システムテスト中に見つかった問題の修正に対して責任を負います。

#### アプリの展開

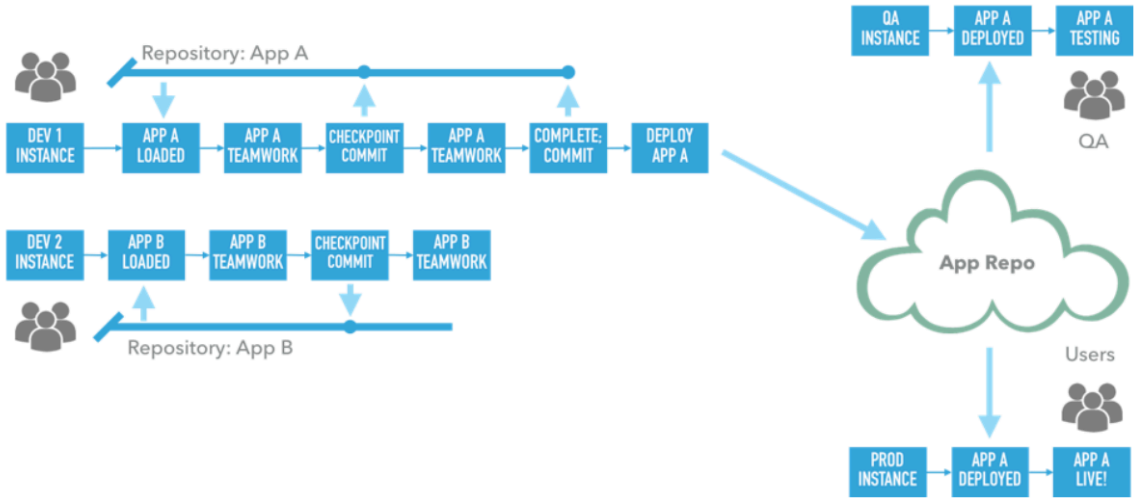
アプリケーションを構築して検証したら、アプリケーションを本番環境に移行する必要があります。アプリケーションは、アプリケーションリポジトリを介して、または Update Sets を使用して移動できます。本番環境に移行する前に、アプリケーションをテスト環境に展開する必要があります。

## Application Repository (App Repo)

アプリケーションをアプリリポジトリに公開すると、組織のすべての ServiceNow インスタンスでこのバージョンのアプリケーションを使用できるようになります。アプリリポジトリを使用して、アプリケーションを QA/テストインスタンス (テスト用) に展開し、最終的に本番 (Prod) インスタンスに展開します。

自動翻訳

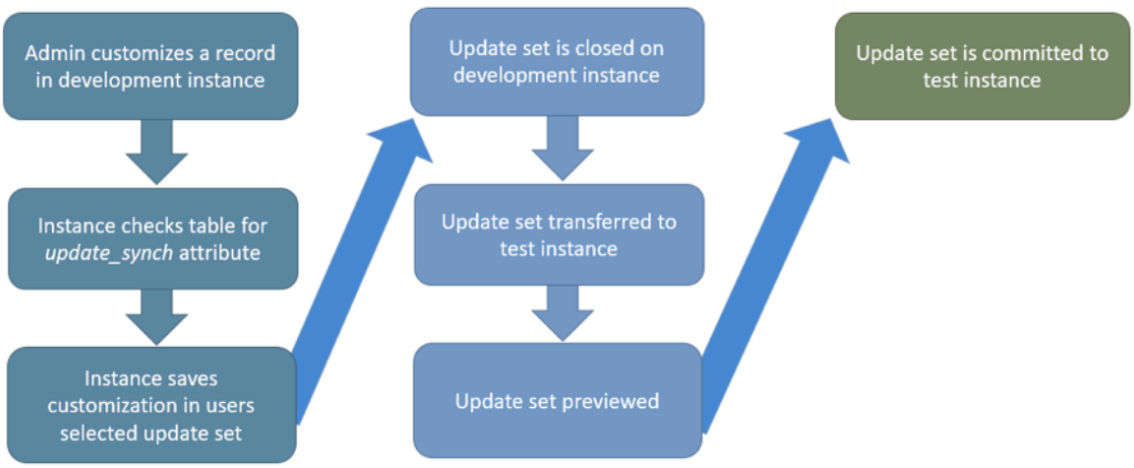
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




詳細については、「アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開アプリケーションのインストール」を参照してください。

## 更新セット

アプリケーションリポジトリを使用してアプリケーションを展開できない場合は、代わりに更新セットを使用します。この図は、開発インスタンスからテストインスタンスにカスタマイズを展開するための更新セットのベストプラクティスライフサイクルを示しています。




品質の高い開発およびリリースプロセスを実現するためのプラクティス：

- カスタマイズは常にスタックの一番下から上に移動します。
  - ダウンスタックインスタンスがアップスタックインスタンスと一致するようにします。
  - スタックの途中で導入されたカスタマイズは、将来のダウンスタックからのプッシュで上書きされる可能性があります。
  - 一般的なシナリオは次のとおりです。
    - テストまたは本番環境での修正の必要性 – 常に開発から上にプッシュ
    - 選択リストなどの一般的な本番管理者のカスタマイズ – 常に開発から上に更新をプッシュ
- 転送する前に、更新セットに含まれる更新を必ず確認してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 他の開発作業に関連する更新とテストに関連する更新を探します。
- システムプロパティと統合エンドポイントの変更を監視します。例：すべてのメールをテストメールアカウントに送信する sys_properties の変更をプッシュする
- 更新を削除するのではなく、「スクラップ」更新セットに更新を移動します。

- プッシュ後は必ずテストを行い、必要なすべてのカスタマイズがキャプチャされ、期待どおりに適用されていることを確認します。
- 複数の並行リリースがある状況では、開発チーム間のコミュニケーションと調整を確実に行います。
- カスタマイズを誤ってキャプチャして他のチームメンバーが移行する可能性があるため、開発インスタンスでの実験は避けてください。
- デフォルトの更新セットで開発をキャプチャしないでください。

更新セットの [説明] フィールドにすべてのユーザーストーリー番号と簡単な説明を一覧表示します。更新セットを展開するために必要なすべての手動の手順を含めます。

更新セットにキャプチャされない展開に必要な手動の手順の一般的な例をいくつか示します。

- プラグインのアクティブ化。
- 更新セットで追跡されないテーブルの転送 (通常は先頭が「x_」または「u_」)。
- テーブルのデータベースインデックスの作成。インデックスの作成は更新セットを介して追跡されず、手動で行う必要があります。

## 更新セットの管理

ストーリーまたは欠陥に取り組むときは、正しい更新セットが選択されていることを確認し、更新セットのレコードを毎日確認してください。

更新セット間で *sys_update_xml* レコードを手動で移動しないでください。唯一の例外は、レコードをデフォルトの更新セットに移動することです。

更新セットは構成情報を取得しますが、タスクまたはプロセスのデータは取得しません。たとえば、更新セットは、サービスカタログアイテムの定義と、変数や変数の選択などの関連する構成データを追跡します。ただし、テストで行われた注文 (要求、アイテム、カタログタスク) は、更新セットによって追跡されません。

更新セットの推奨事項と禁止事項に注意してください。

- 現在の更新セットから特定の *sys_update_xml* レコードを削除するには、レコードをデフォルトの更新セットに移動し、レコードをデフォルトの更新セットに移動する理由をレコードの **sys_update_set.comments** フィールドに入力します。
- 1 つの更新セットから別の更新セットにカスタマイズレコードを移動しないでください。
- 更新セットが新しい更新セットに正常に結合されている場合を除いて、更新セットを削除しないでください。
- あるインスタンスから別のインスタンスにデータを移動するには、常にデータ抽出またはインポートセットを使用します (更新セットは使用しません)。

## 更新セットのバッチ

更新セットのバッチにより、更新セットを一括でプレビューおよびコミットできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

複数の更新セットがあると、問題が発生する場合があります。たとえば、更新セットを正しくない順序でコミットしたり、1 つまたは複数の更新セットを誤って除外してしまったりする可能性があります。完了した更新セットをバッチにグループ化することで、これらの問題を回避できます。

更新セットのバッチを階層に編成します。1 つの更新セットは、複数の子更新セットの親として機能することができます。与えられたセットは子と親の両方になれるので、複数レベルの階層を可能にします。階層の最上位にある 1 つの更新セットは、更新セットのベースとして機能します。

基本更新セットをプレビューまたはコミットすると、バッチ全体がプレビューまたはコミットされます。システムは処理の順序を決定し、変更が記録された日付とその逐次祖先に基づいて競合をチェックします。これら祖先は、更新セットの変更が行われた特定のインスタンスです。

更新セットのバッチ処理は、リリースに適用され、これにより、リリースの空の親更新セットが作成され、実際の更新セットが子としてリリースに含まれます。

更新セットのバッチ処理を使用する利点は次のとおりです。

- 個々の更新セットは、直前にリリースから削除できます。
- バッチ処理は、更新を削除できることを除いて、結合に似ています。
- バッチ更新セットは簡単に展開できます。親更新セットのみを処理する必要があります。

詳細については、「System Update Sets」を参照してください。

### 次に行うこと

アプリが展開されたので、アプリを改善および拡張する方法について考えます。次に行う処理を決定するためのいくつかの提案を以下に示します。

- アプリケーションを日常的に使用しているユーザーは、フィードバックの最良の提供元になります。希望する新機能や変更点について、ユーザーと話し合ってください。
- 追加の関連プロセスフローを Flow Designer で自動化できるかどうかを判断します。
- 新しい IntegrationHub スポークを新しい統合に利用できるかどうかを判断します。

## ビルダーライブラリ

Now Platform は、組織のアプリケーションを迅速に開発できるようにする一連の強力なビルダーツールを提供します。

次のビルダーツールを使用すると、Now Platform でアプリケーションを開発するときに、ユーザーエクスペリエンス、インターフェイスコンポーネント、データモデルなどを迅速に設計および構築できます。

### カスタムコンポーネントビルダー

Next Experience UI フレームワーク と UI コンポーネントエクステンション を使用してカスタムコンポーネントを開発します。

コンポーネントは、カスタムユーザーインターフェイスの作成に使用する再利用可能な構成要素です。Next Experience Design System には、カスタム UI にドラッグできる一連のカスタマイズ可能なコンポーネントが付属しています。Next Experience Design System ライブラリで必要なコンポーネントが見つからない場合は、独自のコンポーネントを開発します。

図書館を見る Next Experience Design System には、 ServiceNow® 開発者サイト.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## カスタムコンポーネントを作成するメリット

カスタムコンポーネントを開発すると、次のことができます。

- エージェント、お客様、会社のニーズに応じて UI をカスタマイズします。
- 重要なデータや情報にすばやくアクセスすることで、従業員の効率を高め、コンテキストの切り替えを減らすことができます。
- API を使用して会社独自のオムニチャネル環境に対応し、データを統合します。

たとえば、SLA に関連付けられたケースを表示したり、特定のキュー内のアクティブなチャットを追跡したりするコンポーネントを作成できます。Next Experience UI フレームワーク と UI コンポーネントエクステンション を使用して必要なコンポーネントを開発し、[HTTP 効果 API (Http Effect API)] を使用して自分のプラットフォームからデータにアクセスできます。カスタムスキーマを作成することで、GraphQL を使用してプラットフォームデータをクエリすることもできます。詳細については、「スクリプト化された GraphQL」を参照してください。

## 使用前の注意事項

コンポーネントの設計と構築を開始する前に、次のことを確認してください。

- Web コンポーネントの概念、開発、設計に関する一般的な知識。
- コンポーネントの動作を定義するための JavaScript の知識。
- ノードパッケージマネージャー (npm) のナレッジ。
- 最新バージョンの Node.js がローカルマシンにインストールされている。詳細については、「Node.js」を参照してください。
- ServiceNow CLI がマシンにインストールされている。

## **Next Experience UI** フレームワーク

Next Experience UI フレームワーク は、アプリを拡張し、アプリケーション全体で再利用可能な Web コンポーネントを構築できるようにする JavaScript フレームワークです。Next Experience UI フレームワーク を使用すると、次のことができます。

- アプリケーション全体の複数の場所で使用する単一のコンポーネントを作成します。
- 他のコードとの競合を防ぐために、コンポーネントのスコープをカプセル化します。
- プロパティ、スロット、アクションをコンポーネントに追加し、ユーザーが ワークスペース でコンポーネントを使用するたびにカスタマイズできるようにします。

詳細については、 ServiceNow® 開発者サイト.

## **UI** コンポーネントエクステンション および開発フロー

UI コンポーネントエクステンション は ServiceNow CLI の拡張であり、Next Experience UI フレームワーク を使用してカスタムコンポーネントを開発できます。UI コンポーネントエクステンション を使用すると、次のことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンポーネントまたはプロジェクトのスキャフォールディングの開発に必要なファイルのセットを作成します。
- ローカル開発サーバーを起動してコンポーネントをテストします。
- コンポーネントプロジェクトを構築し、ServiceNow インスタンスに展開します。

## アプリケーションスコープ

Next Experience UI フレームワーク コンポーネントを展開すると、インスタンスのスコープ対象のアプリケーションに展開されます。名前空間識別子として使用するコンポーネントのアプリケーションスコープを指定できます。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

アプリケーションスコープを予約するときは、次の要件に従います。

- 最大：18 文字。
- ケース：スネークケース。
- 形式：`x_customerprefix_componentname`、ここでは：
  - `customerprefix` は、インスタンスの *`glide.appcreator.company.code`* システムのプロパティの値です。
  - `componentname` は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの `name` パラメーターで指定された値です。

コンポーネントプロジェクトの作成時にアプリケーションスコープを指定しない場合、Now CLI によって作成されます。

または、now-ui.json ファイルで `scopeName` パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。

## 参照ガイド

Now CLI のリファレンスガイドを表示するには、開発者サイトにアクセスしてください。

### 環境の設定

Node.js JavaScript ランタイム環境、ノードパッケージマネージャー (npm)、および UI コンポーネントエクステンション をインストールして、ローカル環境を準備します。これらのツールを使用すると、コンポーネントをローカルで開発および構築し、インスタンスに展開できます。

始める前に
UI コンポーネントエクステンション はこれらのオペレーティングシステムのみをサポートしています。

- Windows 10
- MacOS Yosemite 以降
- Linux CentOS v7.5

必要なロール：なし

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Node.js バージョン 12.16.1 以降をインストールします。
   npm は Node.js パッケージの一部として自動的にインストールされます。Node.js は、JavaScript をローカルで実行できるようにする JavaScript ランタイム環境です。npm は Node.js のデフォルトの JavaScript パッケージマネージャーです。詳細については、「Node.js」および「npmjs.com」を参照してください。
2. UI コンポーネントエクステンション を ServiceNow CLI に追加します。

   a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc extension add --name ui-component
   ```

3. --help 引数を指定して拡張コマンドを実行し、インストールを確認します。

   ```
   $ snc ui-component --help
   ```

   CLI に使用可能なコマンドのリストが表示されます。「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

次のタスク
プロジェクトの設定。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

ServiceNow CLI

## プロジェクトの設定

コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントの開発に必要なファイルのセットを作成します。インスタンスに接続してコンポーネントのアプリケーションスコープを作成するか、後で検証するためにスコープを予約することができます。

始める前に
環境の設定。

手順

1. プロジェクトのフォルダーを作成し、システムのコマンドラインツールでそのフォルダーを指定します。
2. コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントの構築に必要なすべてのファイルを作成します。

   a. 作成したフォルダーから、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc ui-component project [--name name --description description --scope scope
    --offline]
   ```

   これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| name | 必須です。プロジェクト名。有効な一意の npm パッケージ名である必要があります。 |
| 説明 | npm レジストリとインスタンスのプラグインリストで使用できるプロジェクトの説明。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| scope | このプロジェクトとそのコンポーネントにアサインする提案されたアプリケーションスコープ。指定されている場合、インスタンスは名前を検証します。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。<br><br>最大：18 文字。<br><br>ケース：スネークケース。<br><br>デフォルト：x_customerprefix_componentname、ここで：<br>▪ customerprefix は、インスタンスの *glide.appcreator.company.code* システムのプロパティの値です。<br>▪ componentname は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの name パラメーターで指定された値です。<br><br>または、now-ui.json ファイルで scopeName パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。 |
| offline | true の場合、インスタンスから切断されている間にコンポーネントを作成してスキャフォールディングします。指定されたスコープ名の検証をスキップします。<br><br>デフォルト値：false。 |

**Example**

```
$ snc ui-component project --name @myorg/movie-quotes --description 'A web component that prints movie quotes.'
```

**Example**

```
$ snc ui-component project --name @myorg/hello-world --scope x_myorg_helloworld --offline
```

3. 次のコマンドを実行して、npm の依存関係をインストールします。

```
npm install
```

次のタスク
コンポーネントの開発。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

**UI** コンポーネントエクステンション でのプロキシサーバーの使用

Now CLI でプロキシサーバーを使用して、コンポーネントの個別のデータソースを定義します。プロキシサーバーを使用すると、インスタンスは Now CLI 要求をプロキシサーバーに転送します。

始める前に
環境の設定。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. コンポーネントディレクトリで、 now- CLI.json ファイルを開きます。
2. [プロキシ] オブジェクトを更新します。

```
{
 development: {
  proxy: {
   headers: {
    Authorization: "Basic <username:password>"
   },
   origin: "http://myinstance.servicenow.com",
   port: 3000,
   proxies: []
  }
 }
}
```

次のパラメーターをプロキシ情報で更新します。

| パラメーター | 説明 |
| --- | --- |
| development.proxy.headers | プロキシ化された要求に追加するヘッダー。 |
| development.proxy.headers.Authorization | プロキシ化された要求に追加する認証ヘッダー。ここに Base 64 でエンコードされた username:password を入力します。 |
| development.proxy.origin | (インスタンスのホストアドレス) を使用してプロキシを開くホスト。 |
| development.proxy.port | プロキシが実行されるポート。 |
| development.proxy.proxies | プロキシサーバーに渡す URL の glob パターン。 |

3. ファイルを保存します。

## 次のタスク

コンポーネントの開発。

## 関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

コンポーネントの開発

コンポーネントコードを追加し、ローカルの開発サーバーを使用してテストします。

## 始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定

## このタスクについて

カウンターコンポーネントの開発のチュートリアルについては、開発者サイトにアクセスしてください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. プロジェクトディレクトリで、src/<component-name>/index.js に移動します。
   これはコンポーネントのプライマリコードファイルです。
2. コンポーネントコードを追加します。

   **Example**

   この例は、Hello World コンポーネントのサンプルを示しています。

```
import {createCustomElement} from '@servicenow/ui-core';
import snabbdom from '@servicenow/ui-renderer-snabbdom';
import styles from './styles.scss';

const view = (state, {updateState}) => {
 return (
  <div>Hello World!</div>
 );
};

createCustomElement('hello-world', {
 renderer: {type: snabbdom},
 view,
 styles
});
```

   仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。 詳細については、「 仮想エージェント のコンポーネントの開発 」を参照してください。
3. オプション: 内部コンポーネントを追加します。
   内部コンポーネントは、別のコンポーネントに含まれるコンポーネントです。たとえば、カードコンポーネントに個別のボタンコンポーネントが含まれている場合があります。ボタンコンポーネントは、カードコンポーネントプロジェクトでインポート、インストール、および定義する必要がある内部コンポーネントになります。

   a. システムのコマンドラインツールを使用してインストールコマンドを実行し、内部コンポーネントパッケージをインストールします。

```
npm install @servicenow/<now-inner-button>
```

   b. index.js ファイルの先頭にインポートステートメントを追加します。

```
import '@servicenow/<now-inner-button>';
```

   c. index.js ファイルで内部コンポーネントを使用します。

```
<now-inner-button label="Click Me" />
```

   d. now-ui.json 構成ファイルの components.[component-name].innerComponents アレイに内部コンポーネントをリストします。

   **Example**

```
{
 "components": {
  "now-chart-timeseries": {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  "innerComponents": [
    "now-inner-button"
  ],
```

4. 開発サーバーコマンドを実行して、テストブラウザーでコンポーネントを表示します。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port --host host]
```

これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| エントリー | コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。<br><br>デフォルト： example/index.js。 |
| open | デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。<br><br>デフォルト値：false。 |
| port | 開発サーバーが実行されているポート。<br><br>デフォルト：8081。 |
| host | ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は 0.0.0.0 に設定します |

**Example**

```
$ snc ui-component develop --entry example/hello.js --open --port 3000
```

次のタスク
インスタンスへのコンポーネントの展開。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

仮想エージェント のコンポーネントの開発

仮想エージェント クライアントインターフェイスで入力を収集したり、情報を表示したりするカスタム 仮想エージェントコンポーネントを作成します。

## 仮想エージェント コンポーネントのタイプ

仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。

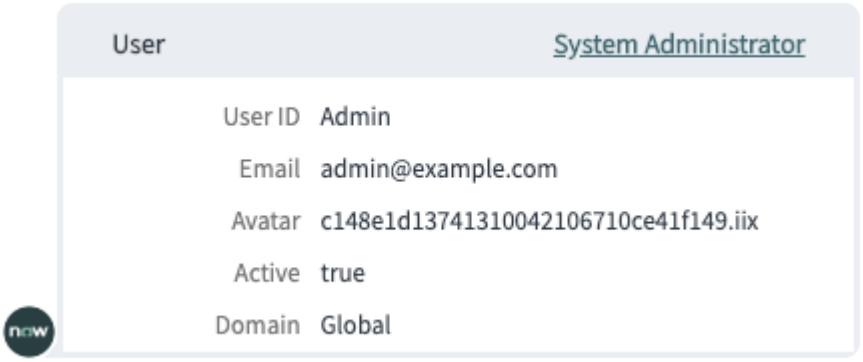
応答コンポーネント

応答コンポーネントは、ユーザーに情報を提供するだけで、入力を収集したり、ユーザーインタラクションを処理したりすることはありません。たとえば、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー入力を必要とせず、一度だけ会話に含まれるカードコントロールなどで




す。

応答コンポーネントにプロパティを追加して、仮想エージェント サーバーから送信されるデータを処理します。

出力コンポーネントのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| controlData | トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |

入力コンポーネント

入力コンポーネントは、情報を表示したり、ユーザー入力を収集したりします。これには、サーバーから送信されるデータを処理するための出力コンポーネントと同じプロパティが含まれていますが、より多くのステータスがあり、ユーザーのインタラクションが必要です。

入力コンポーネントのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| controlData | トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |
| responseValue | ユーザーの応答からコンポーネントに送信されるデータ。クライアントから直接、または更新がある場合はサーバーから送信されます。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |
| forceCloseControl | コンポーネントが入力を受け入れることができるかどうかを示すフラグ。true の場合、コントロールは閉じられ、ユーザーは操作できません。クライアントの変更を監視して、この値を更新します。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。<br><br>データタイプ：ブール |

このアクションを使用して、ユーザーのインタラクションからデータを発行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力コンポーネントのアクション

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| VA_CONTROL#VALUE_SUBMIT | 送信するクライアントからの応答データ。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |

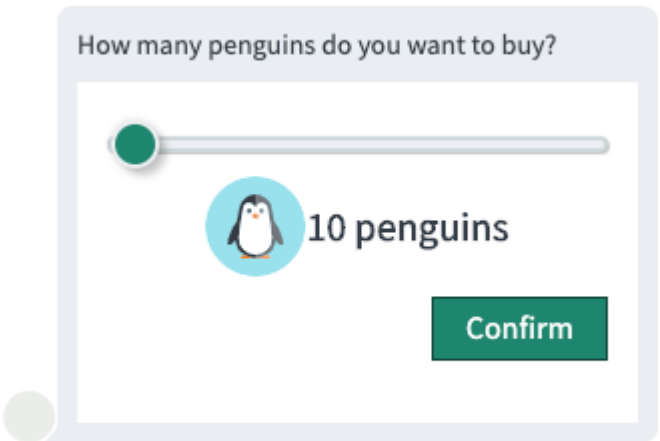
## 入力コンポーネントのステータス

入力コンポーネントはデータを受け入れるため、複数のステータスを処理する必要があります。ステータスフローは一般に次のとおりです。

1. 仮想エージェント は入力待ちステータスのカスタムコンポーネントを表示します。
2. ユーザーはコンポーネントとやり取りして入力します。
3. コンポーネントは、 responseValue プロパティを閉じてサーバーに送信します。
4. サーバーはサーバー側のロジックを実行し、ユーザーの入力とともにコンポーネントをクライアントに送り返します。

### 入力待ち

ユーザーのインタラクションを待機しているコンポーネントの初期ステータス。controlData プロパティは設定されていますが、forceControlClosed プロパティが false です。この例は、入力待ちステータスのスライダーコンポーネントを示しています。




この例では、ユーザーが responseValue を指定せず、コントロールがクローズされていない場合、スライダーと入力ボタンが表示されます。

```
const {controlClosed, sliderVal, sliderMin, sliderMax} = state;
return (<div class={{"slider-chat": true}}>
   {responseValue ? null :  <Fragment>
   <div class={{"slider-label": true}}>{label}</div>
   {controlClosed ? null : <Fragment>
      <div class={{"slider-container": true}}>
               <input on-change={onSliderChange} type="range" min={sliderMin}
 max={sliderMax} value={sliderVal} class={{"slider": true}} />
         <div class={{"slider-value": true}}>
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                {unitIcon &&
                 <div class={{"unit-icon": true}}><img src={unitIcon} /></div>
                 }
                 {sliderVal} {unitName}
              </div>
        <div class={{"button-container":true}}>
           <now-button variant="primary" label={buttonText || 'Confirm'} />
         </div></div></Fragment>}
```

入力の処理

前の例では、スライダーは now-button コンポーネントを使用しています。このボタンをユーザーがクリックすると、入力が確定され、サーバーに送信されます。ユーザーがボタンをクリックすると、responseValue ペイロードを使用して VA_CONTROL#VALUE_SENT アクションが開始されます。

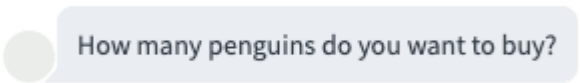
```
'NOW_BUTTON#CLICKED': (data) => {
   const {updateState, dispatch, state: {sliderVal}} = data;
   updateState({controlClosed: true});
   dispatch('VA_CONTROL#VALUE_SENT', {
      value: {
         sliderVal
      }
   });
}
```

クローズ済み

クローズされたコンポーネントは、ユーザー入力を受け入れることができなくなります。通常、コンポーネントは次の理由でクローズされます。

- ユーザーがコンポーネントに応答した。コンポーネントがクローズし、会話が続行される。
- ユーザーがチャットを終了した。サーバーが応答を待機していない。

たとえば、スライダーコンポーネントは、クローズ済みステータスのときにのみ元のプロンプトを表示します。




応答の送信

ユーザーが応答すると、responseValue プロパティの値を使用して、コントロールが会話のユーザー側に再度表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、スライダーコントロールはこのスニペットを使用して応答を表示します。

```
{responseValue && <div className="response-container slider-value">
  {unitIcon &&
  <div className="unit-icon"><img src={unitIcon} /></div>
  }
  {returnVal} {unitName}
</div>}
```

## 仮想エージェントデザイナー へのコンポーネントの追加

コンポーネントを開発してインスタンスに展開した後、カスタムコントロールと定義を使用して 仮想エージェントデザイナー に追加します。詳細については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

### 仮想エージェント と通信するためのプロパティの追加

仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。

#### 始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

#### 手順

1. コンポーネントコードで、仮想エージェント プロパティを追加して 仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りします。

仮想エージェント コンポーネントのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| controlData | トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |
| responseValue | ユーザーの応答からコンポーネントに送信されるデータ。クライアントから直接、または更新がある場合はサーバーから送信されます。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| | データタイプ：JSON オブジェクト |
| forceCloseControl | コンポーネントが入力を受け入れることができるかどうかを示すフラグ。true の場合、コントロールは閉じられ、ユーザーは操作できません。クライアントの変更を監視して、この値を更新します。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。<br><br>データタイプ：ブール |

2. 入力コンポーネントを作成する場合は、`VA_CONTROL#VALUE_SENT` アクションを使用してユーザー値をサーバーに送信します。

仮想エージェント コンポーネントのアクション

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| VA_CONTROL#VALUE_SENT | 送信するクライアントからの応答データ。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。<br><br>データタイプ：JSON オブジェクト |

次のタスク
「仮想エージェント のコンポーネントのテスト」および「インスタンスへのコンポーネントの展開」。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

## 仮想エージェント のコンポーネントのテスト

仮想エージェント カスタムコンポーネントをインスタンスに展開する前にテストします。

### 始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発
- 仮想エージェント と通信するためのプロパティの追加

必要なロール：virtual_agent_admin または admin

### このタスクについて

仮想エージェント コンポーネントを 仮想エージェント クライアントチャット内でテストし、コンポーネントがユーザー入力に正しく応答することを確認する必要があります。コンポーネントプロジェクトのプロパティを設定して、モック 仮想エージェントテストクライアントツールでコンポーネントをテストできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テストクライアントツールの依存関係をコンポーネントプロジェクトに追加します。
   a. コンポーネントプロジェクトで <component-name>/package.json ファイルを開きます。
   b. "@servicenow/sdk-ci": "1.0.8" と "@servicenow/library-translate": "^18.0.0" を devDependencies オブジェクトに追加します。

   **Example**
   正しい依存関係を含む package.json ファイルの例を次に示します。

```
"dependencies": {
   "@servicenow/ui-renderer-snabbdom": "washingtondc",
   "@servicenow/library-translate": "^18.0.0",
   "@servicenow/now-button": "washingtondc",
   "@servicenow/now-dropdown": "washingtondc",
   "@servicenow/sass-generic": "washingtondc",
   "@servicenow/cli-archetype": "washingtondc",
   "@servicenow/sdk-ci": "1.0.8"
}
```

2. テストでコンポーネントの初期ステータスとして使用するサンプルプロパティを追加します。
   a. <component-name>/example/sampleProps.json ファイルに、テスト内で表示する初期プロパティを追加します。

   **Example**
   以下は、スライダーコンポーネントに初期プロパティが設定された sampleProps.json ファイルの例です。

```
{
 "label": "How many penguins do you want to buy?",
 "defaultValue": 10,
 "sliderMin": 20,
 "sliderMax": 80,
 "unitName": "penguins",
 "unitIcon": "https://image.flaticon.com/icons/svg/141/141836.svg"
}
```

3. example.js ファイルを更新し、作成したサンプルプロパティを使用して、テストクライアントツールでコンポーネントを開きます。
   a. コンポーネントプロジェクトで <component-name>/example/element.js ファイルを開きます。
   b. @servicenow/sdk-ci と作成したサンプルプロパティファイルをインポートするステートメントを追加します。
   c. <component-name> を、サンプルプロパティの初期データを使用してテストツールを作成するためのコンポーネント名で置き換えて、次のステートメントを追加します。

```
const el = document.createElement('tool-ci-custom-control-tester');
el.componentTagName="<component-name>";
el.initialExampleData=sampleProps;
document.body.appendChild(el);
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**
以下は、テストクライアントツールを使用してコンポーネントを開く example.js ファイルの例です。

```
import '../src/now-chat-control-slider';

import '@servicenow/sdk-ci';

import sampleProps from './sampleProps.json';

const el = document.createElement('tool-ci-custom-control-tester');
el.componentTagName="<component-name>";
el.initialExampleData=sampleProps;
document.body.appendChild(el);
```

4. 開発サーバーコマンドを実行して、テストブラウザーでコンポーネントを表示します。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port --host host]
```

これらのパラメーターに値を渡します。

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| エントリー | コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。<br><br>デフォルト： example/index.js。 |
| open | デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。<br><br>デフォルト値：false。 |
| port | 開発サーバーが実行されているポート。<br><br>デフォルト：8081。 |
| host | ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は 0.0.0.0 に設定します |

**Example**

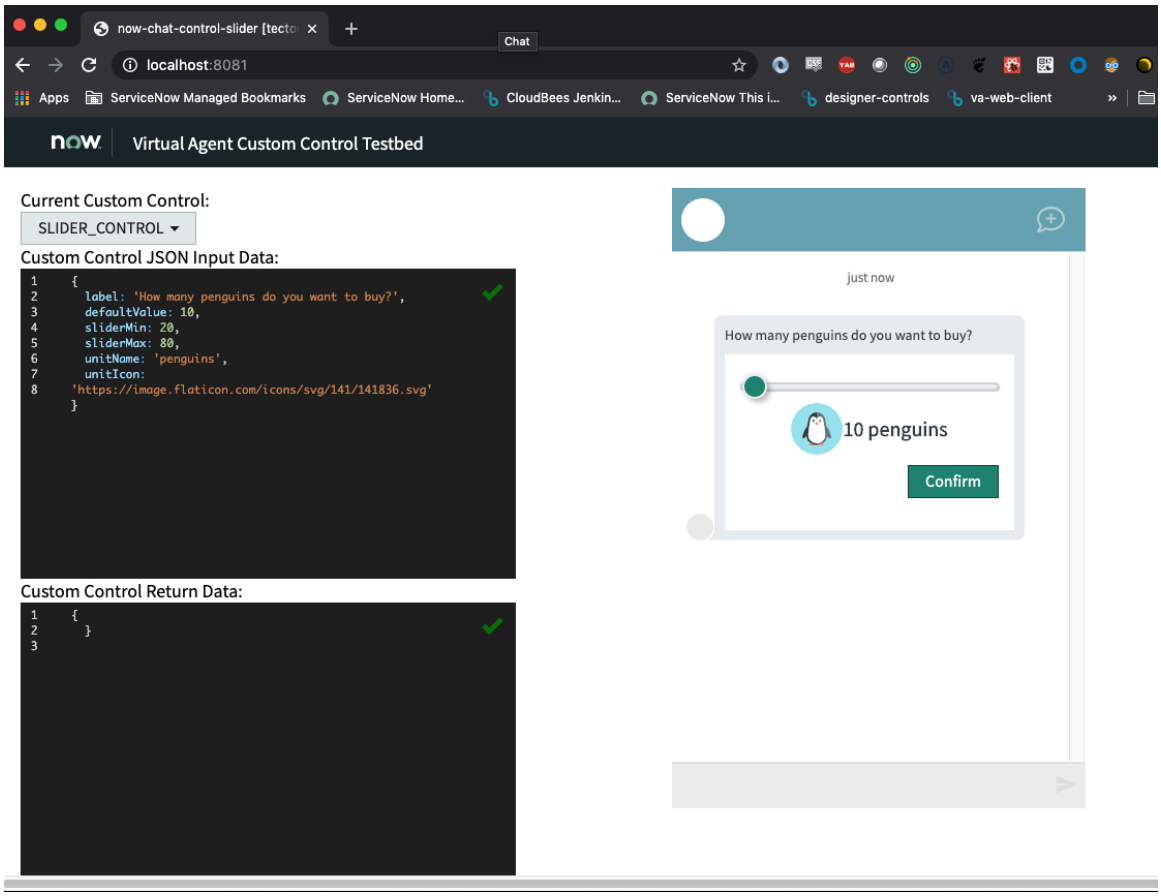
```
$ snc ui-component develop --entry example/hello.js --open --port 3000
```

コンポーネントがテストクライアントツールで開きます。[カスタムコントロールの **JSON** 入力データ **(Custom Control JSON Input Data)]** フィールドで指定された初期データを、[カスタムコ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ントロールの戻りデータ **(Custom Control Return Data)]** フィールドでコンポーネントの出力を確認できます。




次のタスク
コンポーネントが予想どおりに機能している場合は、インスタンスに展開します。「インスタンスへのコンポーネントの展開」を参照してください。

コンポーネントを開発してインスタンスに展開した後、カスタムコントロールと定義を使用して 仮想エージェントデザイナー に追加します。詳細については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

## エージェントワークスペース へのコンポーネントの追加

カスタムコンポーネントを使用して、会社のエージェントの特定のニーズを満たすカスタム ワークスペース インターフェイスを作成します。

複数のチャネルを介した顧客とのコミュニケーションには時間がかかります。これらのオムニチャネルインタラクションを効率的に行うには、複数のツール間でのコンテキストの切り替えを減らすために、エージェントが顧客情報を一元的に表示できる必要があります。ワークスペース のカスタムコンポーネントを開発することで、チームは、 1 つのインターフェイスで複数のチャネルとのコミュニケーションを行うことができます。

## ワークスペース へのコンポーネントの追加

コンポーネントをインスタンスに展開したら、次の方法で ワークスペース に追加できます。

ワークスペース モーダルにコンポーネントを追加する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI アクションを使用してモーダルでカスタムコンポーネントを起動するため、エージェントはタスクを遂行するために別の画面に移動する必要がありません。詳細については、「モーダルでのコンポーネントの表示」を参照してください。

UI Builder を使用して ワークスペース ランディングページにコンポーネントを追加する

UI ビルダー を使用して、エージェントのカスタムランディングページを作成します。UI ビルダー は、ワークスペースコンポーネントを視覚的に配置できるドラッグアンドドロップツールです。詳細については、「ワークスペースのカスタムランディングページの作成」を参照してください。

UI Builder で展開されたコンポーネントを使用するには、now-ui.json ファイルのプロパティを設定します。「UI ビルダー へのコンポーネントの追加」を参照してください。

ワークスペース レコードビューにコンポーネントを追加する

ワークスペース レコードビューのコンポーネント領域にカスタムコンポーネントまたは標準コンポーネントを追加できます。詳細については、「ワークスペースのレコードビューの設定」を参照してください。

## UI ビルダー へのコンポーネントの追加

構成ファイルのプロパティを設定して、コンポーネントをインスタンスの UI ビルダー に追加します。

### 始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

### 手順

1. プロジェクトディレクトリで、now-ui.json を開きます。
2. components.[component-name].uiBuilder オブジェクトをファイルに追加します。
   このオブジェクトは、コンポーネントを UI ビルダーに追加します。

   このオブジェクトには、次のキーと値のペアが含まれています。

| キー | データタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| components.[component-name].uiBuilder | オブジェクト | コンポーネントを UI Builder に追加するオブジェクト。 |
| components.[component-name].uiBuilder.label | 文字列 | 必須です。UI Builder のコンポーネントの表示名。 |
| components.[component-name].uiBuilder.icon | 文字列 | 必須です。UI Builder に表示されるアイコンの名前。 |
| components.[component-name].uiBuilder.description | 文字列 | 必須です。コンポーネントの機能の簡単な説明。 |

**Example**

```
{
  "components": {
    "card": {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "uiBuilder": {
      "label" : "Card",
      "icon" : "chat-fill",
      "description" : "A visual card format for a record.",
      "associatedTypes": ["global.core"]
    },
```

3. コンポーネントにプロパティが含まれている場合は、components.[component-name].properties アレイをファイルに追加します。
これにより、UI ビルダー のコンポーネントの構成オプションとしてプロパティが追加されます。

   このオブジェクトには、次のキーと値のペアが含まれています。

| キー | データタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| components.[component-name].properties | アレイ <Object> | コンポーネントのすべてのプロパティとそれらのプロパティに関するすべての関連情報を含むオブジェクトのアレイ。 |
| components.[component-name].properties[].name | 文字列 | コンポーネントのコード内のプロパティの名前。 |
| components.[component-name].properties[].label | 文字列 | UI ビルダー に表示するプロパティの表示名 (該当する場合)。 |
| components.[component-name].properties[].description | 文字列 | プロパティの機能または使用方法の簡単な説明。 |
| components.[component-name].properties[].readOnly | ブーリアン | true の場合、ユーザーは UI Builder でプロパティを設定できません。<br><br>デフォルト値：false。 |
| components.[component-name].properties[].required | ブーリアン | true の場合、ユーザーはプロパティを設定する必要があります。<br><br>デフォルト値：false。 |
| components.[component-name].properties[].defaultValue | 文字列 | ユーザーが指定しない場合のデフォルト値。 |
| components.[component-name].properties[].associatedTypes | アレイ | UI Builder ツールボックス内でコンポーネントが表示される場所を説明します。値は "global.core" である必要があります。 |
| components.[component-name].properties[].typeMetadata | オブジェクト | 参照プロパティや選択リストなど、一部のデータタイプに必要な追加の構成データ。 |

**Example**

```
{
  "components": {
    "properties": [
      {
   "name": "backgroundColor",
   "label": "Background Color",
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
  "description": "Background Color",
  "readOnly": false,
  "required": false,
  "defaultValue": "lightgray"
    },
    {
      "name": "cardType",
  "label": "Type of card",
  "description": "Type of card",
  "readOnly": false,
  "required": false,
  "defaultValue": ""
    }
  ]
```

**4.** ファイルを保存します。

次のタスク
インスタンスへのコンポーネントの展開。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

インスタンスへのコンポーネントの展開

アプリケーションプラグインとしてインスタンスに表示するコンポーネントを展開します。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

手順

コンポーネントをインスタンスに展開します。

**a.** システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc ui-component deploy [--open --force]
```

これらの引数に値を渡します。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| open | true の場合、デフォルトのブラウザーが開き、インスタンスの UI ビルダー に移動します。<br><br>デフォルト値：false |
| force | コンポーネントの変更を展開し、既存のコンポーネントレコードを上書きします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | デフォルト値：false。 |

**Example**

```
$ snc ui-component deploy --open
```

次のタスク
インスタンスに移動し、エージェントワークスペース または 仮想エージェント のモーダルまたはランディングページにコンポーネントを追加します。エージェントワークスペース については、「モーダルでの Now コンポーネントのレンダリング」または「ワークスペースのカスタムランディングページの作成」を参照してください。仮想エージェント については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

### コンポーネントのアプリケーションスコープの変更

コンポーネントをインスタンスに展開するときにスコープの問題が発生した場合は、コンポーネントのアプリケーションスコープを変更します。たとえば、オフラインモードでコンポーネントを作成しているときに、すでに使用されているか、無効なアプリケーションスコープを設定してしまう可能性があります。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- 必要なロール：なし

このタスクについて

手順

1. プロジェクトディレクトリで、now-ui.json を開きます。
2. scopeName キーを目的のスコープ名で更新します。

   インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

   アプリケーションスコープを予約するときは、次の要件に従います。

   - 最大：18 文字。
   - ケース：スネークケース。

   **Example**

   ```
   "scopeName": "x_customerprefix_componentname"
   ```

3. コンポーネントを展開します。
   「インスタンスへのコンポーネントの展開」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

## ディシジョンビルダー

ディシジョンビルダー を使用すると、開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。

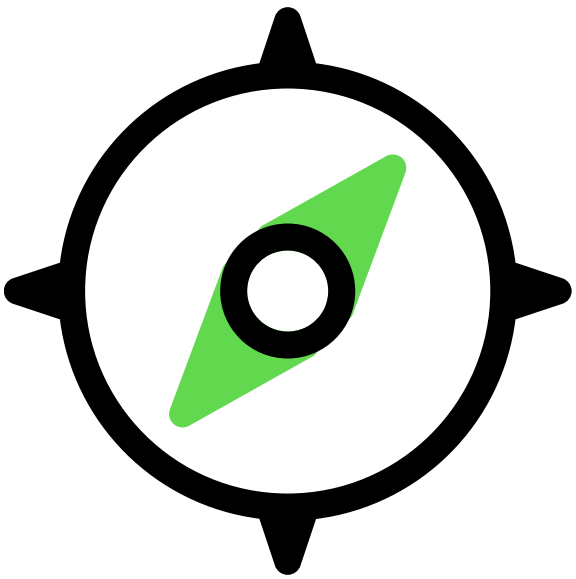
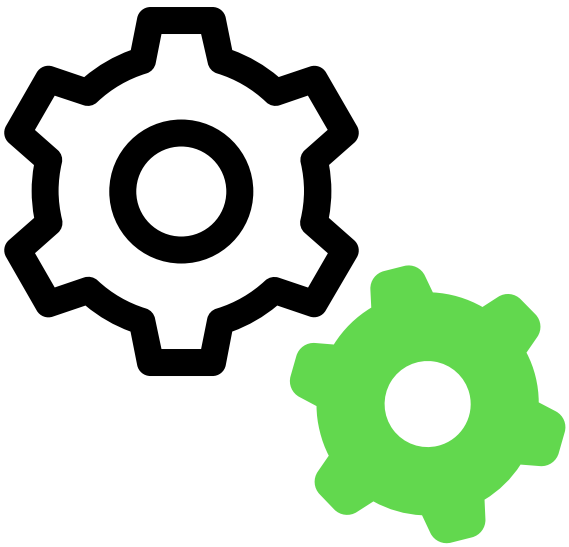
## 概要

ディシジョンビルダー の機能と利点の詳細な確認とデモについては、「Decision Builder のテストと公開 | クリエーターツールボックス - ServiceNow」を参照してください。

## お知らせ

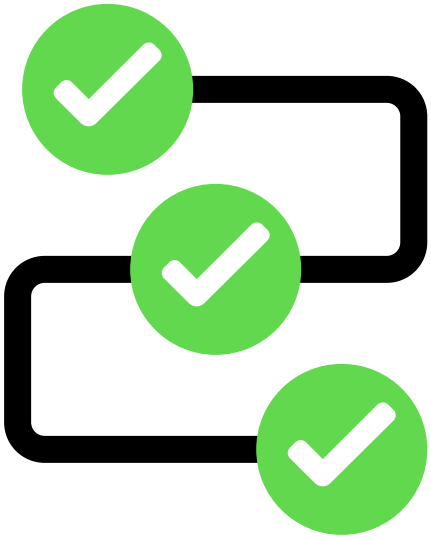
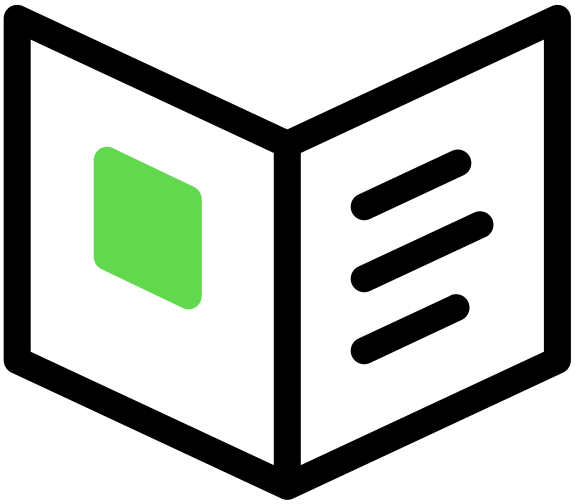
- ディシジョンビルダーは の一部になりましたワークフロースタジオ。 を使用すると、プロセス、フロー、サブフロー、アクション、および意思決定テーブルを 1 か所で作成、構成、および監視するための簡素化された方法が提供されます。 ワークフロースタジオ
- コアディシジョンビルダー機能はデフォルトで引き続き使用できますNow Platform® が、最新のアップデートはのServiceNow　Storeアプリケーションからディシジョンビルダーダウンロードできます。
- 最新の更新の詳細については、 ワシントンDC意思決定ビルダーのリリースノートを参照してください。

## 開始

| 探索 | 構成 |
| --- | --- |
|  |  |
| 概念と機能について学ぶディシジョンビルダー | の環境、ツール、およびユーザーアクセスを構成する ディシジョンビルダー |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 使用方法 | 参照 |
| --- | --- |
|  |  |
| での意思決定テーブルの構築 ディシジョンビルダー | プロパティとドメイン分離の詳細 ディシジョンビルダー を取得する |

## 機能

**注:**
ディシジョンビルダー をインストールした後は、ディシジョンビルダー を介してのみ、以前にクラシック環境で作成された意思決定テーブルにアクセスできます。クラシック環境で意思決定テーブルを作成または変更することはできなくなりました。

ディシジョンビルダー には ワークフロースタジオ 、意思決定ルールのセットを格納する意思決定テーブルを作成および管理するための直感的なインターフェイスが用意されています。

ワークフロースタジオ の意思決定テーブルは、ビジネスロジックを一連の [if-then] 意思決定ルールに埋め込みます。意思決定テーブルは、入力からデータを読み取り、指定された条件に従ってデータを評価します。意思決定ルールのすべての条件が満たされると、意思決定テーブルは 1 つ以上の結果を返します。

管理者は、委任開発機能を使用して開発者または非管理者ユーザーに委任開発ロールを割り当てることで、作業負荷を効率的に管理できます。委任開発者が持つ権限は、ユーザーよりも多いですが、管理者よりは少なくなります。指定された非管理者ユーザーは、アプリケーションレベルで意思決定テーブルを作成および管理できます。詳細については、「Delegated Development」を参照してください。

の ワークフロースタジオ 意思決定テーブルを使用すると、次のことができます。

- 既存のレコード、外部データソース、またはハードコードされた値から実行時にデータを読み取る入力を作成する。
- 意思決定ルールを作成および変更する。
- 評価基準の順序を変更して結果を最適化する。

## メリット

の ワークフロースタジオ 意思決定テーブルには、次の利点があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 意思決定テーブルを使用して、複雑な意思決定を簡単に構築できます。
- アプリケーションコードではなく意思決定ロジックのみを変更することで、変化するビジネス要件に対応し、意思決定を迅速に更新します。
- 複数のアプリケーション間で意思決定ロジックを再利用することで、効率を向上させることができます。
- 既存の ServiceNow レコードや外部ソースからのデータといった複数のソースから、実行時にデータを評価します。

## ディシジョンビルダー と他のアプリケーションとの統合

スイート内のアプリケーションNow Platform® と統合することで、 ワークフロースタジオ の意思決定テーブルの機能を拡張します。

ディシジョンビルダー の統合

| アプリケーション | 説明 | 参照 |
| --- | --- | --- |
| App Engine Studio | • App Engine Studio (AES) は、組織のブランドとアプリケーション開発の標準を維持しつつ、アプリ開発者が一元的にカスタムアプリケーションを構築するための、統合開発環境 (IDE) アプリケーションのようなインターフェイスです。<br>• AES ユーザーは、AES ウィザードを使用して意思決定テーブルを作成し、AES を離れることなくアプリケーションの既存の意思決定テーブルにアクセスできます。 | App Engine Studio で「意思決定の追加」を参照してください。 |

## トラブルシューティングとヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

  会社の顧客管理者にお問い合わせください

- ServiceNow コミュニティの Decision Builder
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

### ディシジョンビルダー の詳細

フロー、サブフロー、およびコードを記述する場所のNow Platformその他の場所で使用するための意思決定テーブルワークフロースタジオを作成および管理する方法について説明します。

で ワークフロースタジオ 意思決定テーブルを使用すると、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。つまり、で ワークフロースタジオ 意思決定テーブルを作成し、その意思決定テーブルを参照して、フローやスクリプトなどの他の場所でロジックを実行できます。この分離により、より効率的なフローとスクリプトを作成でき、関連するビジネス分野の専門家が意思決定ロジックを直接管理できるようになります。

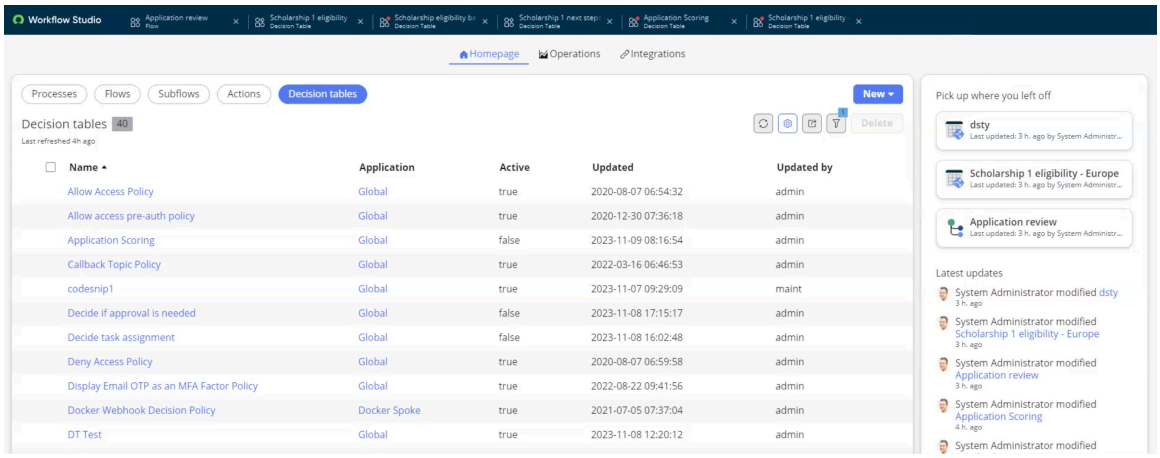
### ディシジョンビルダー ユーザーインターフェイス

意思決定テーブルのユーザーインターフェイスの詳細については、「」を参照してください ワークフロースタジオ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

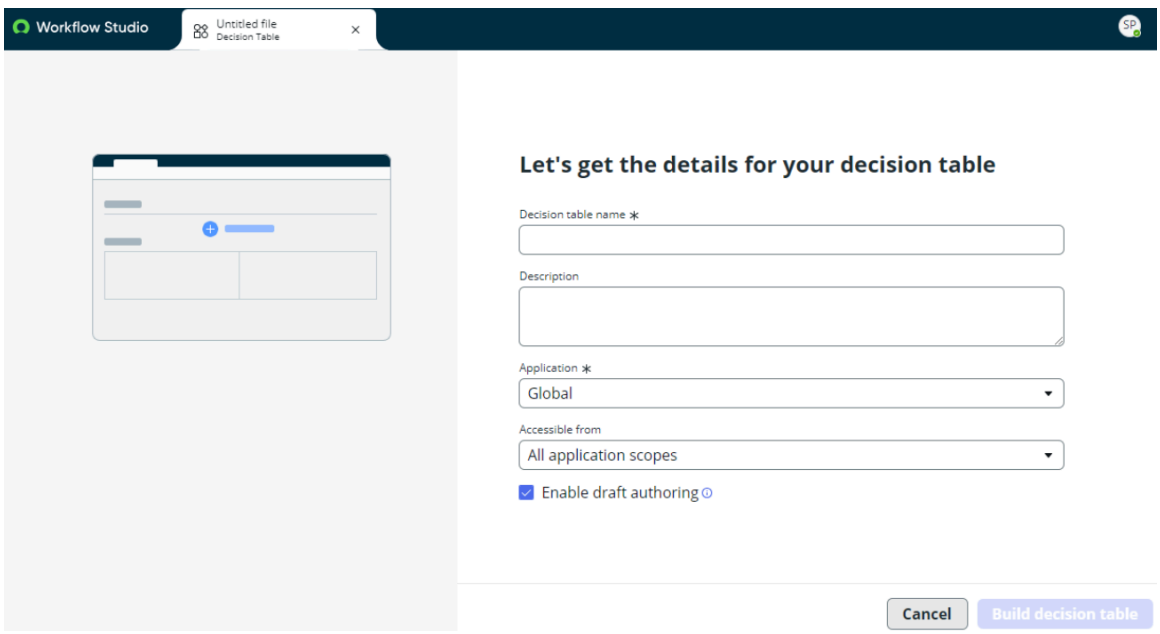
の意思決定テーブルホームページ ワークフロースタジオ




の ワークフロースタジオ意思決定テーブルのホームページでは、次の操作を実行できます。

- [ 新規 ] を選択し、[ 意思決定テーブル] を選択してテーブルを作成します。
- 作成済みのテーブルを開きます。
- 意思決定テーブルのリストをソートおよびフィルタリングします。
- [リストアクション] アイコン (⚙) を選択して、使用可能な列を編集します。
- 選択した意思決定テーブルを削除します。

新しい意思決定テーブル



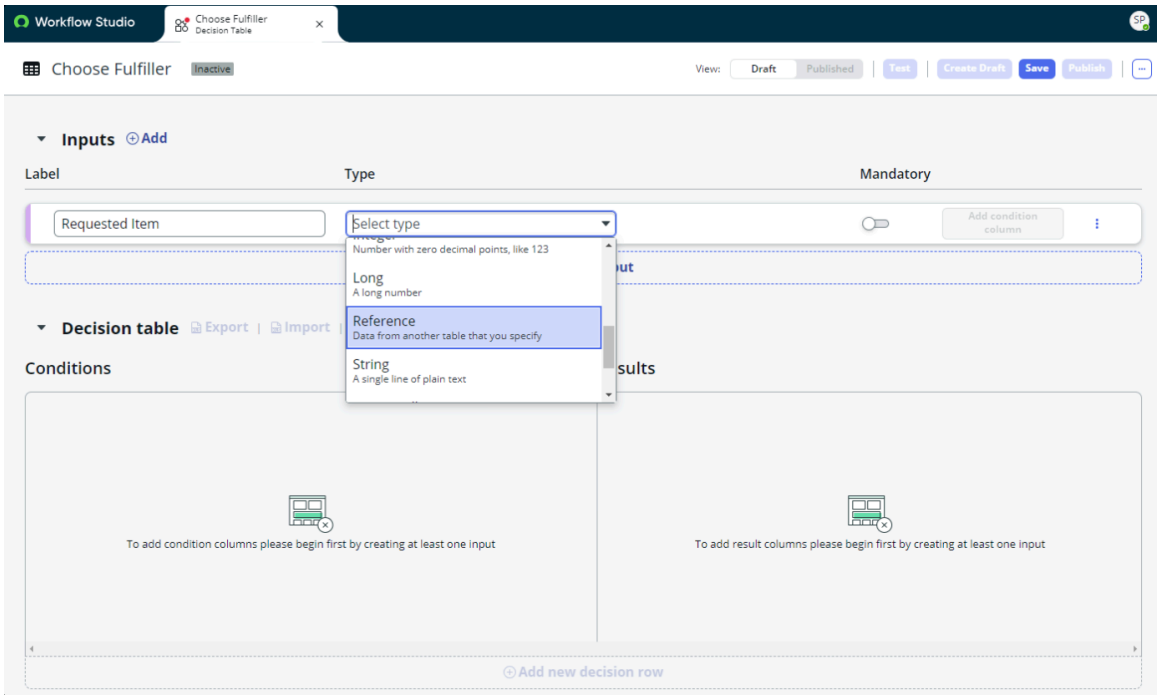

新しい意思決定テーブルでは、次の操作を実行できます。

- 意思決定テーブルに名前を付け、説明を入力します。
- 意思決定テーブルを関連付けるアプリケーションを選択します。
- 意思決定テーブルにアクセスできるようにするスコープを選択します。
- ドラフトの作成を有効にするかどうかを選択します。これにより、公開前にドラフトモードで意思決定テーブルを作成してロックしてから使用可能にすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

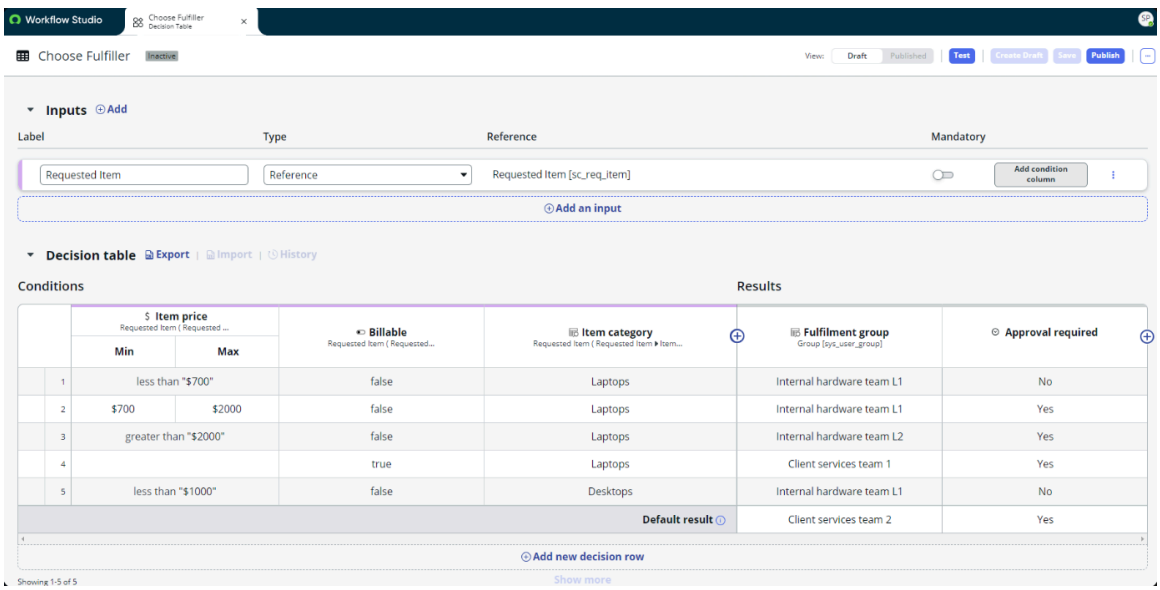
## 意思決定テーブル




意思決定テーブルを初めて作成するときは、次の操作を実行できます。

- 入力、条件列、および結果列を追加します。
- 意思決定行を追加します。
- 意思決定テーブルを保存します。
- テーブルを Microsoft Excel にエクスポートし、ディシジョンビルダー にインポートし直します。テーブルを保存した後にのみ、エクスポートとインポートを行うことができます。
- 意思決定テーブルのプロパティを編集します。
- 意思決定テーブルを削除します。

## 意思決定テーブルを完了




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

保存された意思決定テーブルでは、次の操作を実行できます。

- 意思決定テーブルを公開します。
- ディシジョンビルダー インターフェイスで意思決定行を再度編集します 。
- 入力、条件列、および結果列を編集します。
- Excel にエクスポートし、意思決定行を再度編集して、ディシジョンビルダー にインポートして意思決定テーブルを更新します。
- 意思決定テーブルをテストして、ルールによって所定の入力データのセットに期待される結果が出ることを確認します。

### ディシジョンビルダー の構成

ディシジョンビルダー は、ファミリーをアップグレードするたびに自動的にインストールされます。ディシジョンビルダー の最新バージョンに更新し、必要な権限レベルに基づいてスタッフにロールを割り当てます。

### ディシジョンビルダー の最新バージョンの更新

ディシジョンビルダー はインスタンスに自動でインストールされます。ただし、 ディシジョンビルダー は ServiceNow Store アプリケーションであるため、最新の機能を取得するには、バージョンを最新バージョンに更新する必要があります。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、 ディシジョンビルダー  アプリケーション (sn_decision_design) を検索します。
3. 右側のバージョンリストを使用して、ディシジョンビルダー の最新バージョンを選択します。
4. [更新] を選択します。

### ディシジョンビルダー ペルソナとロール

スタッフの責任は、各メンバーにアサインされるロールによって制御されます。ペルソナは明示的にの ワークフロースタジオ意思決定テーブルの一部ではありませんが、管理者はロールをアサインして、意思決定テーブルを構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

## ペルソナとロール

ディシジョンビルダー で使用されているペルソナとロールを確認します。

意思決定テーブル管理者

意思決定テーブル管理者は、意思決定テーブルの任意の部分を作成および編集できます。管理者は、意思決定テーブルがいつ必要になるかについて大まかな決定を行い、テーブルを作成してから、テーブルのルールの作成作業を他のユーザーに任せることができます。意思決定テーブル管理者は、入力および意思決定テーブルの列と値を作成できる唯一のペルソナです。

意思決定テーブルリーダー

意思決定テーブルリーダーには、意思決定テーブルに対する読み取り専用アクセス権があります。入力、条件、または結果を追加または削除することはできませんが、意思決定テーブルを Excel にエクスポートすることはできます。

意思決定ルール作成者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定ルール作成者は、意思決定テーブルを更新するためのアクセス権を意思決定テーブル管理者に次いで最も多く持っています。管理者は、入力とテーブル列を含むテーブルを作成し、残りの作業を意思決定ルール作成者に任せることができます。意思決定ルール作成者は、意思決定行を追加、再配置、削除し、すべての行と列の条件と結果の値を編集できます。

意思決定結果編集者

意思決定結果編集者は、既存の意思決定行の結果値のみを編集できます。意思決定結果編集者は、新しいビジネス上の意思決定またはポリシーに基づいて値を変更できます。

### ディシジョンビルダー のユーザーロールおよび権限

| ロール | タスク |
| --- | --- |
| admin および decision_table_admin | 入力および意思決定テーブルの列と値を作成、読み取り、編集、および削除します。 |
| decision_table_reader | 入力および意思決定テーブルの列および値への読み取り専用アクセス。<br><br>意思決定テーブルでは、このロールを持つユーザーは意思決定テーブルを Excel にエクスポートできます。 |
| decision_rule_author | 入力および意思決定テーブルの列への読み取り専用アクセス。<br><br>意思決定テーブルで、このロールを持つユーザーは次の操作を実行できます。<br>• 新しい意思決定行を追加する<br>• 意思決定行を再配置する<br>• 意思決定行を削除する<br>• すべての行と列の条件と結果の値を編集する |
| decision_result_editor | 入力、意思決定テーブルの列および条件への読み取り専用アクセス。<br><br>意思決定テーブルでは、このロールを持つユーザーは既存の意思決定行の結果値を編集できます。 |

### ディシジョンビルダー の使用

を使用して ディシジョンビルダー、ワークフローおよびアプリケーションで使用する意思決定テーブルを作成、変更、テスト、および更新できます。意思決定テーブル ワークフロースタジオ を作成し、Excel で変更することもできます。

### ディシジョンビルダー に意思決定テーブルを作成

ワークフロースタジオ に意思決定テーブルを作成し、ビジネスロジックを一連の [if-then] 意思決定ルールに埋め込みます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. [新規] を選択します。
3. 意思決定テーブルを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

プロパティフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 決定表名 | 意思決定テーブルの名前。 |
| 説明 | 意思決定テーブルの説明。 |
| アプリケーション | 意思決定テーブルのアプリケーションスコープ。 |
| アクセス可能 | 意思決定テーブルを使用できるスコープ。使用可能な値は、[アプリケーションスコープのみ] または [すべてのアプリケーションスコープ] です。 |
| ドラフト作成を有効にする | 公開前にドラフトモードで意思決定テーブルを作成して、使用可能にするオプション。この機能を使用すると、公開後に意思決定テーブルをドラフトモードで変更し、変更を加えて公開しなおすこともできます。 |

5. [ 意思決定テーブルの構築] を選択します。
6. [入力を追加] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

入力定義

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | 入力のヘッダー。 |
| タイプ | 入力に使用されるデータのタイプ。<br><br>入力タイプが [参照] の場合、「参照」というタイトルの新しい列が入力セクションに表示され、参照テーブルが表示されます。この入力タイプを使用すると、意思決定テーブルに複数の条件列を追加できます。<br><br>利用可能な入力タイプは次のとおりです。<br><br>○ 選択<br><br>○ 通貨 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ 日付<br>○ 日付/時刻<br>○ 10 進数<br>○ 期日<br>○ 整数<br>○ 長<br>○ 参照<br>○ 文字列<br>○ 文字列 (完全な UTF-8)<br>○ True/False |
| 必須 | テーブルを使用するときに入力フィールドを必須にするためのオプション。 |
| 参照フィルターを追加 | 入力タイプが [参照] で、[評価するデータ] が [参照レコード] になっているリンクされた条件列で、参照レコードのリストをフィルタリングするオプション。このフィールドを使用して、フィルター条件ステートメントを作成します。詳細については、「意思決定テーブルでの参照入力と結果のフィルタリング」を参照してください。 |

**注:**
選択入力タイプの場合、既存の選択リストを選択できるかどうかは、意思決定テーブルと同じアプリケーションスコープ内のテーブルに存在する選択リストによって異なります。たとえば、グローバルスコープ内に意思決定テーブルを作成する場合は、グローバルスコープのテーブルにある既存の選択リストを使用できます。ただし、カスタムスコープで意思決定テーブルを作成する場合は、同じカスタムスコープ内のテーブルにある既存の選択リストのみが使用可能です。

8. [条件列の追加] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

新しい条件列フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 条件列ラベル | 条件列のラベル。 |
| 説明 | 条件列の簡単な概要。 |
| 入力 | 条件列にリンクされた入力。<br><br>複数のフィールドを評価するために、[参照] 入力タイプで複数の条件を追加できます。 |
| テーブル | データタイプが [参照] の場合、参照テーブルの名前が表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 評価するデータ | 入力タイプが [参照] の条件列の場合は、条件列が参照レコードを評価するのか、参照テーブルのフィールドを評価するのかを指定します。 |
| 条件タイプ | 条件列に対して選択されたデータタイプ。 |
| デフォルトの演算子 | 条件列の各行がユーザー指定の値を評価する際の方法。[True] または [False] を除くすべての入力データタイプには、デフォルトの演算子が必要です。 |

10. オプション: 条件列をさらに追加します。
    a. 最後の条件列に移動し、プラスアイコン (+) を選択して、[条件列を追加]を選択します。
    b. 条件列をポイントし、プラスアイコン (+) を選択します。
    c. 入力の右側にある [条件列を追加] ボタンを選択します。
11. [結果列を追加] を選択します。
12. フォームのフィールドに入力します。

[新しい結果列 **(New result column)]** フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 結果列ラベル (Result column label) | 結果列のラベル。 |
| 説明 | 結果列の簡単な概要。 |
| 結果タイプ | 結果列に使用されるデータのタイプ。<br>利用可能な結果タイプは次のとおりです。<br>○ 選択<br>○ 通貨<br>○ 日付<br>○ 日付/時刻<br>○ 10 進数<br>○ 期日<br>○ 期間<br>○ 整数<br>○ 長<br>○ 参照<br>○ 文字列<br>○ 文字列 (完全な UTF-8)<br>○ True/False |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 参照フィルターを追加 | 結果タイプが [参照] の場合に、結果列の参照レコードのリストをフィルタリングするオプション。このフィールドを使用して、フィルター条件ステートメントを作成します。詳細については、「意思決定テーブルでの参照入力と結果のフィルタリング」を参照してください。 |

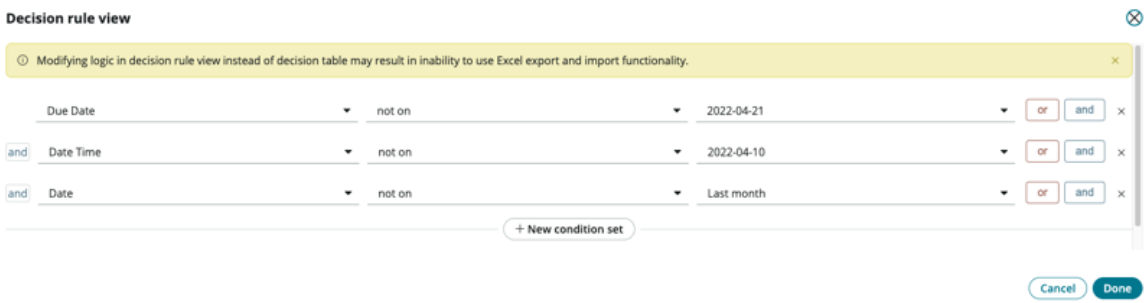
**注:**
[通貨] および [True/False] の結果タイプには、いくつかの重要な例外があります。

- 代替となる結果が指定されていない場合 (通貨タイプの場合は 0.00、true/false タイプの場合は false)、通貨タイプおよび true/false タイプの結果列のセルはデフォルト値を返します。
- 複数通貨モードを使用するインスタンスでは、使用可能なインスタンス通貨を使用して通貨の結果を指定できます。ただし、結果値は保存時に必ずセッション通貨に変換されます。
- 単一通貨モードを使用するインスタンスでは、単一インスタンス通貨を使用して通貨の結果のみを指定できます。

13. オプション: 次のいずれかの方法を使用して、結果列を追加して、意思決定テーブルで複数の結果を有効にします。
    - 最初の結果列に移動し、プラスアイコン (+) を選択して、[結果列を追加]を選択します。
    - 最後の結果列に移動し、プラスアイコン (+) を選択します。
    - 結果列をポイントし、プラスアイコン (+) を選択します。
14. 条件ごとに演算子を選択して、値を入力します。
15. オプション: 意思決定ルールビューで意思決定テーブルの条件を変更するには、行番号の左側にある [意思決定ルールの行メニューオプション] アイコン ( ⋮ ) を選択し、[意思決定ルールビューで開く] を選択します。

    (Optional) 意思決定ルールビューは、テーブル構造に適合しない可能性がある複雑な条件をサポートします。

    意思決定ルールビュー

**注:**
意思決定ルールビューを使用すると、Excel にエクスポートするときにサポートされない複雑な条件が作成される可能性があります (「Excel での意思決定テーブルの管理」を参照)。可能な場合は、複雑な意思決定を複数の簡素化された意思決定ルール行に分割します。

    a. オプション: 必要に応じて条件を編集します。
    b. オプション: [完了] を選択して変更をコミットします。
16. 結果ごとに結果値を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. オプション: [新しい意思決定行を追加] を選択し、条件と目的の結果を入力して、意思決定ルールを追加します。
18. [保存] を選択します。
19. [公開] を選択します。
公開するかどうかを確認するモーダルが表示されます。公開してからこのテーブルを編集したい場合は、テーブルのドラフトを作成する必要があります。公開済みの意思決定テーブルの編集の詳細については、「ドラフト作成を使用した意思決定テーブルの編集」を参照してください。
20. [公開] を選択します。

### 意思決定テーブルの複製

既存のテーブルを複製することで、類似の意思決定テーブルを作成する時間を節約できます。

#### 始める前に

必要なロール：admin または decision_table_admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 複製する意思決定テーブルを開きます。
3. 意思決定テーブルのメニューオプションアイコン ( ) を選択し、[ 意思決定テーブルを複製] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

このテーブルを複製フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 新しい意思決定テーブル名 | 意思決定テーブルの名前。このフィールドには、[ 重複] <元のテーブル名> が事前に入力されています。 |
| アプリケーション | 意思決定テーブルのアプリケーションスコープ。 |
| 複製するバージョン | 複製するテーブルのバージョン。このフィールドは、元のテーブルでドラフトの作成が有効になっていて、ドラフトと公開バージョンがある場合にのみ使用できます。[ドラフト] または [公開済み] を選択できます。 |
| 意思決定行を含める | 意思決定行と元のテーブルの構造を含めるオプション。<br><br>このオプションは、300 行以下のテーブルに制限されます。テーブルの行数が 300 を超える場合、この機能は使用できず、構造のみを複製でき、行を複製することはできません。 |

5. [複製] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ドラフト作成を使用した意思決定テーブルの編集

ワークフロースタジオ で公開された意思決定テーブルの編集は、ドラフトの作成が有効になっているときに行います。ドラフトの作成が有効でないと、意思決定テーブルはアクティブになり、作成後すぐに使用可能になります。

#### 始める前に

必要なロール：admin、decision_table_admin、decision_rule_author、または decision_result_editor

#### このタスクについて

公開済みの意思決定テーブルを変更するには、ドラフトを作成し、必要な変更を加えて、ドラフトを公開する必要があります。

> **重要:**
> 意思決定テーブルの古いバージョンは保持されないため、ドラフトを公開すると、以前に公開されたバージョンに戻って再度アクセスすることはできません。この新しい公開バージョンがライブバージョンです。

ドラフトの作成は、すべての新しい意思決定テーブルではデフォルトで有効になっています。既存のテーブルでは、ドラフトの作成は可能ですが、デフォルトで有効になっていません。

既存のテーブルのドラフト作成を有効にするには、意思決定テーブルに未保存の変更がないことを確認し、意思決定テーブルのプロパティを開いて、[ドラフト作成を有効にする] を選択します。この変更を行うと、意思決定テーブルは公開済みステータスに移行するため、さらに変更を加えるには新しいドラフトを作成する必要があります。

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 公開済みの意思決定テーブルを選択します。
3. [ドラフトを作成] を選択します。
   この操作により、必要に応じて編集して再公開可能なドラフトバージョンのテーブルが作成されます。公開済みのバージョンが利用可能で、意思決定を実行するときに使用されるバージョンスクリプトやその他のツール (フローデザイナー など) となります。

   [ビュー] トグルを切り替えることで、テーブルのドラフトバージョンと公開済みバージョンの両方を表示できます。
4. 意思決定テーブルを変更します。
5. [保存] を選択します。
6. このバージョンを新しい公開済みバージョンにし、元の公開済みバージョンに置き換えて元に戻せないようにするには、[公開] を選択します。
7. [公開] を選択します。

### ディシジョンビルダー での意思決定テーブル構造の変更

意思決定テーブルの入力や列を変更して、ビジネスロジックを進化させます。

### 意思決定テーブルの入力を変更

ラベルを変更し、タイプと関連プロパティを変更し、必須のトグルを切り替えて、入力を変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 変更する入力を選択します。
4. 入力を変更します。
   - ラベルを変更するには、その [ラベル] を選択して新しい名前を入力し、**Enter** キーを押します。
   - 入力タイプを変更するには、[タイプ] リストから別の入力タイプを選択します。

     注:
     入力タイプを変更できるのは、入力が条件列にリンクされていない場合のみです。

   - 入力タイプのプロパティを変更するには、当該のプロパティのフィールドを選択して値を更新します。
5. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルでの参照入力と結果のフィルタリング

結果のリストを絞り込み、ディシジョンビルダー の [参照タイプの入力 (Reference type input)] フィールドと結果フィールドに表示する必要がある情報のみを表示します。

始める前に
必要なロール：admin または decision_table_admin

手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 入力または結果のフィルターを作成します。
4. [参照フィルターを追加] を選択します。
5. フィールド、演算子、および値を含む条件を追加して、フィルターを作成します。
   [新しい条件セット **(New condition set)]** を選択し、**[or]** または **[and]** で他の条件を追加して条件同士をつなぐことで、より複雑なフィルターを作成することができます。
6. [完了] を選択します。
7. オプション: [参照入力] 行の [条件列を追加] を選択して、作成したフィルターが適用された状態でリンクされた参照条件列を追加します。
8. オプション: [評価するデータ] セクションで、[参照レコード] を選択します。
   フィルタリングされた入力によって、[評価するデータ] が [参照レコード] になっているリンクされた条件列のセル内のレコードのリストがフィルタリングされます。フィルタリングされた結果列によって、対応する結果列のセル内のレコードのリストがフィルタリングされます。
9. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 既存の参照フィルターを更新する

ディシジョンビルダー で、参照タイプの入力または結果に対する既存のフィルターを変更します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 変更する入力または結果を選択します。
4. 結果列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。
5. [参照フィルターを変更] を選択します。
6. 変更を行い、[完了] を選択します。
7. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルから入力を削除

不要になった入力を削除します。入力を削除すると、関連するすべての条件列も削除されます。

#### 始める前に
意思決定テーブルから入力を削除すると、その入力を通してデータをやり取りするフローやスクリプトが壊れる可能性があります。このため、意思決定テーブルから何か削除する前に、意思決定テーブルがどこで使用されているかを把握しておく必要があります。

必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 入力行の最後で、[入力メニューオプション] アイコン ( ) を選択し、[削除] を選択します。
4. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルの条件列の変更

条件列を変更するには、ラベルの名前を変更するか、説明を編集するか、入力タイプまたはデフォルトの演算子を更新します。

#### 始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 条件列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 変更を行い、[完了] を選択します。

   注:
   *Choice* タイプの入力があり、入力タイプを他のタイプに切り替えた場合、そのアクションによって条件列からすべての値が削除されます。

5. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルの結果列の変更

ワークフロースタジオ で意思決定テーブルのソーステーブルを変更して、意思決定で評価されるデータを変更します。

#### 始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 結果列ヘッダーをポイントし、[列プロパティを編集] アイコン ( ) を選択します。
4. 既存の結果テーブルを新しいソーステーブルに置き換えます。

   注:
   結果テーブルを変更すると、現在の意思決定テーブルの結果値が削除されます。

5. [完了] を選択します。
6. [保存] を選択します。

### ディシジョンビルダー での意思決定テーブルルールの変更

意思決定テーブルの行、デフォルトの結果の値、またはコンテンツを変更して、ビジネスロジックを進化させます。

### デフォルトの結果値の定義

意思決定テーブルでデフォルトの結果値を定義して、ビジネスロジックの変更を考慮します。デフォルトの結果を定義すると、入力データが意思決定ルールに適合しない場合のシナリオが考慮されます。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
[デフォルトの結果 (Default result)] 行に値が定義されていない場合、または行の値を消去した場合は、デフォルトの結果は返されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> Decision Builder バージョン 4 より前に作成された意思決定テーブルにはデフォルトの結果を設定できますが、値は自動的に設定されません。[デフォルトの結果 (Default result)] 行は、デフォルトの回答が指定された Decision Builder の外部で作成された意思決定テーブルと互換性があります。decision_result_editor ロールを持っている場合、Decision Builder の以前のバージョンで作成された意思決定テーブルの初期のデフォルト結果を設定するには、管理者またはより高いレベルの権限を持つユーザーが必要です。

手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 意思決定テーブルに少なくとも 1 つの結果列を定義します。
   結果列が定義されると、[デフォルトの結果 (Default result)] 行がテーブルの下部に表示されます。
4. 結果が必要な列にデフォルトの結果を定義します。

   > **注:**
   > 列にデフォルトの結果値があり、通貨または true/false の結果タイプを持つ他の結果列がある場合、それらの結果列は自動的にデフォルトの結果を指定します。行の省略記号メニューを使用して、すべてのデフォルトの結果値をクリアできます。ただし、別の列にデフォルト値を追加すると、通貨と true/false の結果タイプの列にデフォルト値が自動入力されます。

5. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルでの意思決定ルールの変更

条件と結果を変更して、意思決定テーブルの意思決定ルールを更新します。

始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

手順

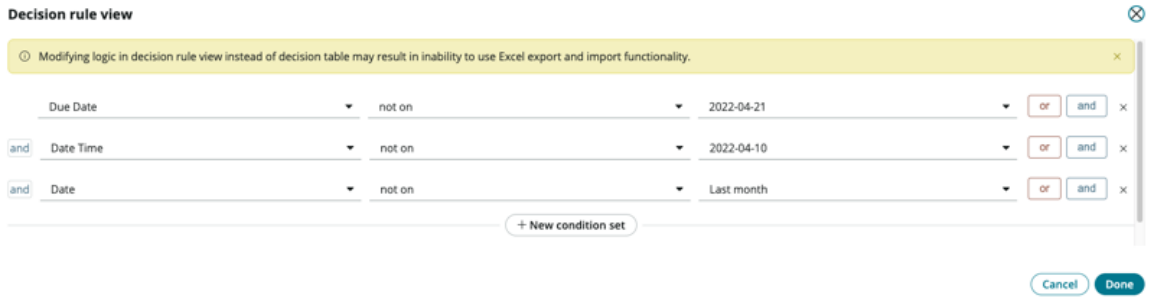
1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. 編集するセルを選択します。
   - 条件を次のいずれかの方法で変更します。
     - 演算子を選択し、別の演算子に置き換えます。
     - 条件値を選択し、新しい値を入力します。
     - 演算子と条件値の両方を更新します。
   - 結果を変更するには、結果値を選択して、新しい値を入力します。
4. オプション: 意思決定ルールビューで意思決定テーブルの条件を変更するには、行番号の左側にある [意思決定ルールの行メニューオプション] アイコン ( ⋮ ) を選択し、[意思決定ルールビューで開く] を選択します。

   (Optional) 意思決定ルールビューは、テーブル構造に適合しない可能性がある複雑な条件をサポートします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定ルールビュー




**注:**
意思決定ルールビューを使用すると、Excel にエクスポートするときにサポートされない複雑な条件が作成される可能性があります (「Excel での意思決定テーブルの管理」を参照)。可能な場合は、複雑な意思決定を複数の簡素化された意思決定ルール行に分割します。

**a.** オプション: 必要に応じて条件を編集します。

**b.** オプション: **[**完了] を選択して変更をコミットします。

**5.** [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルの重複行

意思決定テーブルの行を戦略的に複製することで、意思決定ルールを作成する時間と労力を節約できます。

#### 始める前に
必要なロール:admin、decision_table_admin、または decision_rule_author

#### このタスクについて
意思決定テーブルの作成効率を最大化し、時間を節約するために、行を複製する最適な方法を計画します。たとえば、最初の条件が同じ行が 5 つある場合は、最初の行に条件を入力し、行を複製します。行は、完全性の任意の時点でいつでも複製できます。

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.

**2.** 意思決定テーブルを開きます。

**3.** 複製する行の左端にある、この行の下にある重複意思決定行アイコン () を選択します。

### 意思決定テーブルの意思決定行を並べ替え

意思決定テーブルの意思決定行を並べ替えて、意思決定ルールが評価される順序を決定または変更します。

#### 始める前に
必要なロール：admin、decision_table_admin、または委任開発者権限。詳細については、「Delegate developers using App Engine Studio (App Engine Studio を使用して開発者を委任する)」を参照してください。

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.

**2.** 意思決定テーブルを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 意思決定行をポイントし、左端にある行ドラッグアンドドロップグリッパーアイコン ( ⠿ ) を選択します。
4. 行を新しい場所にドラッグして並べ替えます。
5. [保存] を選択します。

### 意思決定テーブルの使用

に組み込まれている ワークフロースタジオ 意思決定テーブルは、フローロジックを使用したフローで、または API 呼び出しを使用したスクリプトで実行されます。

意思決定テーブルは ワークフロースタジオ に組み込まれていますが、実際の意思決定は他のアプリケーションで行われます。意思決定アクションをこれらのアプリケーションから分離しておくと、必要に応じて意思決定を呼び出して再利用することができます。

## フロー内の意思決定テーブル

では フローデザイナー、意思決定は **Make a decision** フローロジックの一部として実行されます。詳細については、「Make a decision flow logic」を参照してください。

## API の意思決定テーブル

スクリプトでは、意思決定テーブルは、DecisionTableAPI の GetDecision() または GetDecisions() メソッドによる意思決定テーブルへの API 呼び出しを使用して実行されます。詳細については、「DecisionTableAPI - Scoped, Global」を参照してください。

### Excel での意思決定テーブルの管理

構築する意思決定テーブルが大きい場合、または Now Platform の外部で意思決定テーブルを拡張する場合は、それらを Excel で管理します。意思決定テーブルを Excel ファイルにエクスポートし、ダウンロードしたファイルを編集して行を追加および編集してから、そのファイルを にインポートし直ディシジョンビルダーワークフロースタジオします。

## 意思決定テーブルの Excel へのエクスポート

入力、条件列、および結果列を作成して保存した後、[エクスポート] を選択して、意思決定テーブルを .xlsx 形式で Excel にエクスポートします。エクスポートされたファイルには 2 つのワークシートが含まれています。1 つは意思決定テーブルで、もう 1 つは意思決定行を構築してインポートエラーを防ぐ方法が記載されています。

Excel で意思決定テーブルを編集すると、大きなテーブルをより迅速に構築できます。また、構造的なセットアップを開発者にアサインし、ルールの作成を Excel で入力できる他のユーザーに委任することもできます。

> **注:**
> Excel にエクスポートする際に意思決定テーブルに詳細な行がある場合、これらの行は読み取り専用であり、Excel で編集することはできません。テーブルの残りの部分を Excel で編集し、ディシジョンビルダー にインポートし直すことができます。

## Excel での意思決定テーブルの変更

意思決定テーブルを Excel にエクスポートすると、意思決定ルールを追加、削除、編集、または並べ替えることができます。意思決定テーブルを構築するには、次の指示に従います。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 演算子と値の列を使用して条件を構築します。
  - [演算子] セルごとに、ドロップダウンリストから関連する演算子を選択します。演算子リストは、条件列のフィールドタイプに固有です。
  - [値] セルごとに、手順シートの形式ガイダンスに従って条件値を入力または選択します。
  - 日付、期日、日付/時刻、参照、または選択条件を作成する場合は、ドロップダウンリストから値を選択できます。
- 結果値を指定します。
  - [結果] セルごとに、結果値を入力します。
  - 参照または選択結果については、ドロップダウンリストから結果値を選択します。

Excel で意思決定テーブルを変更するときは、次の制限を考慮します。

- 意思決定ルールの追加、削除、編集には Excel を使用しますが、Excel を使用して条件列や結果列を追加または変更しないでください。
- 条件 列と 結果 列のセルのみを編集します。インポート中、これらの列の右側に入力されているデータは無視されます。
- エクスポートされたファイル内のヘッダーは保持し、決して変更しないでください。
- エクスポートされた元のファイルのみを Excel で変更します。エクスポートされたファイルの内容をコピーして新しい Excel ファイルに貼り付けないでください。ただし、元のファイルの名前は変更できます。
- 空の行がないことを確認します。空の行が 5 行連続した後のエントリは無視されます。

自動翻訳

## ディシジョンビルダー への **Excel** ファイルのインポート

> **注:**
> インポートオプションは、意思決定テーブルを Excel にエクスポートした後でのみ使用できます。

インポートプロセスでは、Excel ファイルのすべての変更が検証されてから、変更が ディシジョンビルダー にインポートされます。インポートすると、次の結果が生じる可能性があります。

- インポート成功:Excel ファイルのインポートに成功しました。[インポート] ウィンドウが自動的に閉じ、インポートされたデータで意思決定テーブルが更新されます。続行する前に変更内容を保存します。
- インポートに失敗しました:Excel ファイルのインポートに失敗しました。エラーの詳細と修正方法が含まれている Error.xlsx ファイルをダウンロードします。エラーの修正後、インポートプロセスに従い、エラー修正済みファイルをインポートします。

## エクスポートおよびインポート履歴の表示

[履歴] サイドバーで意思決定テーブルのエクスポートおよびインポート履歴を表示します。各エントリには、ファイルをインポートまたはエクスポートしたユーザーの名前とタイムスタンプが表示されます。

履歴タイプに基づいて、次の関連する Excel ファイルをダウンロードできます。エクスポートされたファイル (エクスポート成功)、インポートされたファイル (インポート成功)、またはエラーファイル (インポート失敗) です。インポートウィンドウで [キャンセル] を選択すると、履歴レコードは作成されません。

## 制限事項

Excel で意思決定テーブルを変更できない場合のシナリオは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 意思決定テーブルに条件列が含まれていない場合。
- 意思決定テーブルに未保存の変更がある場合。
- 意思決定テーブルにサポートされていないフィールドタイプを含む条件列がある場合。
- 意思決定テーブルに非アクティブな入力に関連する条件列がある場合。

### 意思決定テーブルでの関連オブジェクトの表示

意思決定テーブルに関連するオブジェクト (フローやサブフローなど) を表示して開きます。

#### 始める前に

表示される関連オブジェクトは、セキュリティ制約によって決まります。関連するオブジェクトが表示されるはずなのに表示されない場合は、管理者に連絡してサポートを受けてください。

必要なロール：なし

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを開きます。
3. [意思決定テーブルのメニューオプション] アイコン ( ) を選択し、[ 関連オブジェクトを表示] を選択します。
   関連オブジェクトのリストが開き、[意思決定] アクションを使用するフローおよびサブフローで意思決定テーブルが使用されている場所が示されます。ロールによっては、[ セキュリティ上の制約により非表示になっているオブジェクトの数] の横に数字の付いた空の (または完全ではない) リストが表示される場合があります。
4. オプション:  関連オブジェクトを選択して開きます ワークフロースタジオ。

### ディシジョンビルダー での意思決定テーブルのテスト

公開する前に意思決定テーブルをテストして、ルールが特定の入力データのセットに望ましい結果をもたらすことを確認します。

#### 始める前に

テストできるのは保存された意思決定テーブルのみです。1 つ以上の入力と結果を含むテーブルを作成し、それを保存してテストするか、保存されている既存のテーブルをテストすることができます。

必要なロール：admin、decision_table_admin、decision_rule_author、または decision_result_editor

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 意思決定テーブルを選択します。
3. [テスト] を選択します。
4. テーブルでドラフトの作成が有効で、テーブルが既に公開されている場合は、[テスト対象] ドロップダウンリストから、ドラフトバージョンをテストするか公開済みバージョンをテストするかを選択します。
5. [実行方法] ドロップダウンリストから、入力が条件に一致する最初の意思決定のみを返すか、入力が条件に一致するすべての意思決定を返すかを選択します。
6. テストする入力データを入力します。
7. [テスト] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
テストの結果が表示されます。結果が 1 つも表示されない場合もあれば、入力データが条件に一致する 1 つまたはすべての意思決定が表示される場合もあります。テストパラメーターと入力を変更し、もう一度 [テスト] を選択することで、テーブルで追加のテストを実行できます。

### 意思決定テーブルのコードスニペットの作成

任意のスクリプトから意思決定テーブルを実行するために、公開された意思決定テーブルの ワークフロースタジオ コードスニペットを作成し、ハードコードされたロジックを意思決定に簡単に置き換えられるようにします。

始める前に
ドラフト作成を有効にしている場合、テーブルのコードスニペットをコピーできるようにするには、意思決定テーブルを公開する必要があります。ドラフト作成が有効になっていない場合は、この機能にアクセスするには意思決定テーブルを保存してください。

意思決定テーブルのコードスニペットをコピーする機能により、API ドキュメントを使用してコードを作成しなくても、テーブルをスクリプトにすばやく挿入できます。意思決定テーブル API の詳細については、次を参照してください DecisionTableAPI - Scoped, Global。

必要なロール：なし

手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. 公開済みの意思決定テーブルを開きます。
3. [意思決定テーブルのメニューオプション] アイコン (…) を選択し、[ コードスニペットを作成] を選択します。
   2 つのコード スニペットが生成されます。最初のコードスニペットは、意思決定テーブルの入力と仕様に一致する最初の結果のみを返す GetDecision() API を呼び出します。2 番目のコードスニペットは、入力に一致するすべての結果のリストを返す GetDecisions() API を呼び出します。
4. [一致する最初の意思決定を返す] または [一致するすべての意思決定を返す] を選択し、[コードのコピー] を選択します。
5. オプション: 他のコード スニペットをコピーする場合は、 [ **OK** ] を選択して確認メッセージを閉じ、もう一方のオプションからコードをコピーします。
6. 意思決定テーブルを呼び出すスクリプトにコードスニペットを挿入し、各入力変数に使用するデータを定義します。

### クラシック環境で作成された意思決定テーブルおよび複合型ロジックを含む意思決定の変更

ディシジョンビルダー は、クラシック環境で作成された意思決定テーブルをサポートします。ただし、クラシック環境の一部のデータタイプと条件は、ディシジョンビルダー では完全にはサポートされていません。サポート対象外のフィールドタイプや複合型の条件ロジックを含む意思決定の場合は、意思決定ルールビューを使用してこれらの条件式を変更します。

クラシック環境で作成された意思決定テーブルを初めて開くと、ディシジョンビルダー により、条件基準で評価されたすべての一意のフィールドの条件列が自動的に作成されます。

- テーブルと互換性のある意思決定ルールがテーブルに含まれている場合、セルごとに 1 つの条件が表示されます。
- 意思決定ルールにサポート対象外のフィールドタイプや複合型のロジックが含まれている場合、条件列のすべての条件が単一の条件式に結合されます。この式は、意思決定ルールの条件を変更す

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

るために使用できる Condition Builder へのハイパーリンクです。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。

- 意思決定を複合型として定義している条件式の要素を削除すると、サポートされる形式で意思決定が表示されます。

次のセクションでは、複合型の条件付きロジックの概要を説明します。

## 複合型ロジックを含む意思決定

一部の意思決定ルールは ディシジョンビルダー でサポートされていない場合があります。そのような意思決定は、次のとおりです。

- 条件式に OR 条件を含む意思決定
- 同じ非参照入力を評価する複数の基準を含む意思決定
- 同じ参照フィールドやレコードを評価する複数の基準を含む意思決定
- サポートされていない入力データタイプを評価する意思決定
- 非アクティブな入力を評価する意思決定

## サポートされていない入力データタイプを持つ意思決定テーブル

入力にサポートされていないデータタイプがある場合、入力ラベルと [必須] トグルスイッチのみを変更できます。入力データタイプは読み取り専用であり、新しい条件列を追加することはできません。

## サポートされていない条件を含む意思決定テーブル

条件列にサポートされていないデータタイプがある場合でも、ラベルと説明は変更できます。入力とデフォルト演算子は読み取り専用です。

- サポートされていない条件列では、値のないセルは非アクティブになります。ユーザーは意思決定ルールビューを使用して値を入力する必要があります。
- サポートされていない条件列に値が入力された場合、その結果生じる意思決定行はサポートされていない意思決定になります。

### 意思決定テーブルの削除

の ワークフロースタジオ意思決定テーブルのリストから不要になった意思決定テーブルを削除します。

#### 始める前に

必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > 意思決定管理 > 意思決定ビルダー.
2. ワークフロースタジオホームページで、[意思決定テーブル] フィルターピルを選択します。
3. 意思決定テーブルがある行の左端をポイントし、チェックボックスをオンにして 、[削除] を選択します。
4. [削除] を選択します。

### ディシジョンビルダー の参照

参照トピックには、ディシジョンビルダー プロパティや管理に関する追加情報が記載されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ディシジョンビルダー のシステムプロパティ

システムプロパティを使用して、ディシジョンビルダー で作成された意思決定テーブルの入力および意思決定の最大数に関する制限を設定します。

ディシジョンビルダー の意思決定テーブルではこれらのプロパティを利用できます。

**注:**
これらのプロパティが入っているシステムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力します。

#### 意思決定テーブルのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| com.glide.decision_table.excel_hide_references | true に設定すると、Excel にエクスポートされた意思決定テーブルには、タイプが参照の条件または結果列のレコードのドロップダウンリストは含まれません。<br>• タイプ：true/false<br>• デフォルト値：False |
| com.glide.decision_table.max_inputs | モデル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定入力の最大数。<br>• タイプ：整数<br>• デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。 |
| com.glide.decision_table.max_questions | 意思決定テーブル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定質問の最大数。<br>• タイプ：整数<br>• デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。 |

**注:**

- 入力または意思決定が管理者によって設定された上限を超えると、警告メッセージが表示されます。
- デフォルトでは、ディシジョンビルダー の意思決定テーブルには最初の 20 行が表示されます。さらに 20 行を表示するには、[さらに表示] を選択します。

### ドメイン分離と ディシジョンビルダー

ここでは、ディシジョンビルダー に関するドメイン分離の概要を説明します。ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。その後、どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### サポートレベル：標準

- ベーシックレベルサポートを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスのオーナーは、特定のアプリケーションで想定されているテナントあたりの最小実行可能製品 (MVP) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

サンプルユースケース：管理者は、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にできる必要があります。

### ディシジョンビルダーのドメイン分離

- 意思決定テーブルは、テーブルを作成したユーザーのドメインに属します。たとえば、TOP ドメインの顧客が意思決定テーブルを作成すると、その意思決定テーブルは TOP ドメインに属します。
- 親ドメインのユーザーは子ドメインの意思決定テーブルを見ることはできますが、そのテーブルの編集はテーブルが属するドメインで行う必要があります。たとえば、TOP ドメインの管理者は ACME ドメインの意思決定テーブルを見ることはできますが、そのテーブルを編集するには ACME ドメインに切り替える必要があります。

### ディシジョンテーブル

意思決定テーブルを使用して、複数の要因に依存している複雑な意思決定を解決できます。

意思決定テーブルを使用して、複数の要因に依存している結果に達することができます。これらのテーブルでは、各要因が意思決定入力です。たとえば、自動車保険の補償に関する意思決定を行う場合は、入力には、被保険者の住所、年齢、事故歴、自動車メーカー、車種、製造年などが含まれます。このロジックは時間を節約でき、スクリプトを使用するよりも体系化され、読みやすい形式を提示できます。意思決定テーブルは、意思決定を作成、表示、および変更できる単一ポイントを提供します。

スクリプトで ディシジョンテーブル とやり取りするには、 DecisionTableAPI - Scoped, Global を使用します。

### 意思決定のコンポーネント

意思決定テーブル [sys_decision] レコード

意思決定テーブルレコードは、単一の意思決定を表します。このレコードでは、回答に使用するテーブルを指定します。このレコードには、意思決定入力と意思決定を作成できる関連リストも含まれています。

意思決定入力 [sys_decision_input] レコード

意思決定入力レコードは、意思決定の回答を取得するために使用される入力を表します。これらの入力には、文字列、参照、true/false 入力、日付を含むさまざまなタイプがあります。各意思決定入力には指定された入力タイプがあり、デフォルト値を割り当てることができます。

意思決定 [sys_decision_question] レコード

各意思決定レコードは、入力に基づいた意思決定を表します。意思決定レコードフォームで条件ビルダーを使用して、この意思決定の入力に基づいた条件を作成します。次に、この意思決定の回答レコードを選択できます。回答レコードは、意思決定テーブルのレコードで定義したテーブルの任意のレコードにすることができます。複数の意思決定に対して同じ回答レコードを選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

回答レコード

回答レコードは、さまざまな意思決定入力値を使用して到達した回答を表します。回答レコードには任意のテーブルのレコードを使用できますが、そのテーブルは意思決定テーブルレコードを作成するときに選択する必要があります。たとえば、sys_choice テーブルを使用して、既存の選択肢レコードを使用できます。保険の補償についての例では、各レコードに保険の補償レベルの詳細が含まれるテーブルを作成できます。

### **Example:** 意思決定テーブルを使用して、割引率を決定します。

次の例は、意思決定テーブルを示しています。この例では、2 つの入力「注文単位数」と「代金引き換え」があります。2 つの質問に対する回答に応じて、考えられる 2 つ回答「はい」と「いいえ」に到達します。たとえば、50 アイテムより多く注文するか現金払いの場合は、顧客をシルバー割引にし、両方の場合はゴールド割引にします。

意思決定の入力：

- 注文個数、type=integer
- 代金引換、type=choice (はい、いいえ)

サンプルの意思決定テーブル - 割引率

| 条件列 | | 結果列 |
|---|---|---|
| 注文個数 | 現金 | 割引 |
| 50 未満 | はい | シルバー割引 |
| 50 未満 | いいえ | ブロンズ割引 |
| 50 を超える | はい | ゴールド割引 |
| 50 を超える | いいえ | シルバー割引 |

自動翻訳

### 意思決定テーブルのプロパティ

意思決定テーブルのプロパティを使用して、意思決定レコードで使用可能な入力および質問の最大数に関する制限を設定します。

意思決定テーブルではこれらのプロパティを利用できます。

**注:**
システムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力します。

意思決定テーブルのプロパティ

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| com.glide.decision_table.max_inputs | モデル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定入力の最大数。<br>• タイプ：整数<br>• デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定テーブルのプロパティ (続く)

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| com.glide.decision_table.max_questions | 意思決定テーブル (sys_decision) レコードに定義できる意思決定質問の最大数。<br>• タイプ：整数<br>• デフォルト値：空。このプロパティが空のままである場合、入力の制限はありません。<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |

### クラシック環境の意思決定テーブル

クラシック環境では、意思決定回答レコードに使用するテーブルを作成できます。その後、意思決定テーブルの各意思決定に回答レコードを関連付けます。入力に基づいてその意思決定に到達すると、この回答レコードが返されます。

**注:**
ディシジョンビルダー は、意思決定テーブルを作成するための新しい直感的なインターフェイスを提供します。詳細については、「ディシジョンビルダー」を参照してください。

### 意思決定テーブルを作成して複雑な意思決定を解決する

意思決定テーブルを作成して、複数の要因に依存している複雑な意思決定を解決できます。

#### 始める前に

必要なロール：decision_table_admin

#### 手順

1. 意思決定回答レコードに使用するテーブルを作成または選択します。
   後の手順で、意思決定テーブルの各意思決定に回答レコードを関連付けます。入力に基づいてその意思決定に到達すると、この回答レコードが返されます。テーブルの作成については、「テーブルの作成」を参照してください。
2. 意思決定レコードに使用するテーブルの 1 つのフィールドが表示値として設定されていることを確認します。

   意思決定回答を フローデザイナー で表示する場合は、このフィールドがラベルとして使用されます。

   既存のテーブルを使用することも、意思決定レコードに使用する新しいテーブルを作成することもできます。
3. 意思決定の各回答に対するレコードをこのテーブルで作成します。
   既存のテーブルを変更した場合は、追加した新しいフィールドを表示するために、フォームのカスタマイズが必要になることがあります。
4. 意思決定テーブルレコードを作成します。

   a. 移動先 システム定義 > 意思決定テーブルをクリックし、 新規 を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定テーブルフォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | この意思決定を説明するラベル。 |
| アプリケーション | この意思決定のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。 |
| 回答のテーブル | この意思決定で回答レコードに使用するテーブル。前の手順で作成したテーブルを選択します。 |
| アクセス可能 | この意思決定の可用性を現在のスコープに制限するオプション。[すべてのアプリケーションスコープ] または [このアプリケーションスコープのみ] を選択します。 |

**c.** フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
[意思決定の入力] および [意思決定] 関連リストでフォームを更新します。

**5.** 意思決定入力レコードを作成します。

**a.** [意思決定の入力] 関連リストで [新規] をクリックします。

**b.** フォームのフィールドに入力します。

意思決定入力フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | この意思決定入力に関連付けられている意思決定の名前。このフィールドは、自動的に入力されます。 |
| アプリケーション | この意思決定入力のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。 |
| タイプ | この入力に使用されるデータのタイプ。フローでこの意思決定を使用する場合は、このタイプと一致するデータピルのみ使用できます。 |
| 有効 | この入力を有効にするためのチェックボックス。デフォルトでは、このフィールドが選択されます。 |
| ラベル | この入力を説明するラベル。 |
| 読み込み専用 | この意思決定入力を読み込み専用にするチェックボックス。 |
| 列名 | この入力の列名。[ラベル] フィールドの値を指定した場合、このフィールドは自動入力されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 必須 | この意思決定入力を必須にするチェックボックス。 |
| 表示 | この意思決定入力が参照フィールドの表示値 であることを示すチェックボックスです。 |
| 選択肢 | ユーザーに推奨値のリストを表示する方法を選択します。<br>▪ [-- なし --] のないリストメニュー<br>▪ [-- なし --] のあるリストメニュー<br>▪ 提案フィールドタイプ<br>選択肢を使用する場合に、フォームの下部にある [選択肢] 関連リストの選択肢を定義します。 |
| デフォルト値 | この入力のデフォルト値。 |

**c.** [送信] を選択します。
変更が保存され、意思決定テーブルレコードが再度開きます。

**6.** 意思決定レコードを作成します。

**a.** [意思決定] 関連リストで [新規] をクリックします。

**b.** フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | この意思決定テーブルを説明するラベル。 |
| アプリケーション | この意思決定のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。 |
| 順番 | フローで意思決定を評価する順番。[一致する最初の意思決定] オプションを使用し、最初の一致が見つかった後に終了するフローでは、順番が重要になることがあります。 |
| 回答 | この意思決定の条件が満たされたときに使用される回答。 |
| デフォルトの回答 | この意思決定を意思決定テーブルのデフォルトとして有効にするチェックボックス。 |
| 条件 | この意思決定に到達する必要のある条件。条件で利用可能なフィールドは、この意思決定テーブルに関連付けられている意思決定入力です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [送信] を選択します。
変更が保存され、意思決定テーブルレコードが再度開きます。

次のタスク
フローデザイナー では、独自の意思決定を [意志決定] フローロジックに追加できます。意思決定フローロジックの詳細については、「Make a decision flow logic」を参照してください。

## テーブルビルダー

テーブルビルダー を使用すると、単一のユーザーインターフェイスからテーブルとフォームを視覚的に作成、設計、管理できます。

テーブルビルダー概要

### お知らせ

アプリケーションは App Engine のテーブルビルダー スタンドアロン テーブルビルダー アプリケーションと結合されています。スキーマビュー、スプレッドシートビュー、フロー、PDF エクストラクターなど、以前はアプリケーションでしか利用 App Engine のテーブルビルダー できなかった一部の機能が、 で利用できるようになりました テーブルビルダー。

### 開始するには

| 探索 | 使用方法 | 参照 |
| --- | --- | --- |
| 概念と機能について説明します テーブルビルダー 。 | を使用して テーブルビルダーテーブル、フォーム、および関連するポリシーとルールを管理します。 | フィールドプロパティやポリシーとルールのプロパティなどのコンポーネントに関する詳細 テーブルビルダー を取得します。 |

### テーブルビルダー のヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社の顧客管理者にお問い合わせください。

  会社の顧客管理者にお問い合わせください
- で質問や回答をする テーブルビルダー コミュニティフォーラム
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

### テーブルビルダー の詳細

単一のユーザーインターフェイスを使用してテーブル、フォーム、フローを視覚的に設計できるようにする テーブルビルダー 機能について説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| テーブルビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| テーブルビルダー を使用して、レイアウト、フィールド、フィールド構成、UI ポリシーなどのフォーム要素を設定できます。 | <br>Table Builder の概要 |
| | <br>Table Builder ：カスタム注文フォームの作成 |

## 主な機能

テーブルビルダー には、次の主要な機能が含まれています。

- 特定のアプリケーションまたはグローバルにフィールドを追加したり、既存のフィールドプロパティを変更したりして、テーブルを編集します。
- シンプルなドラッグアンドドロップのエディターインターフェイスを使用して、フォームビューを視覚的にカスタマイズします。必要に応じて、選択したテーブルからセクション、フィールド、注釈を追加および配置できます。
- 1 つのインターフェイスからフォームの UI ポリシーを設定するか、次のその他の関連するポリシーやルールを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アクセス制御ルール
- クライアントスクリプト
- ビジネスルール
- ワークスペースビュールール

- 編集プロセス全体でフォームをプレビューすることで、変更が環境内で正常に機能することを確認できます。
- App Engine Studio と統合して、フォームの設計とデータの管理における統一されたエクスペリエンスを促進します。

## Table Builder の機能と Table Builder for App Engine の機能

次の表は、テーブルビルダー と App Engine のテーブルビルダー で利用可能な機能を比較したものです。

> **注:**
> App Engine のテーブルビルダー は、「専用ローコード機能」がライセンスされている場合にのみインストールできます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

**Table Builder の機能と Table Builder for App Engine**

| - | テーブルビルダー | App Engine のテーブルビルダー |
|---|---|---|
| [データ] タブ | 包含済み | 包含済み |
| [フォーム] タブ | 包含済み | 包含済み |
| [ポリシーとルール] タブ | 包含済み | 包含済み |
| 計算式ビルダー | 包含済み | 包含済み |
| [フロー] タブ | 含まれていない | 包含済み |
| PDF エクストラクター | 含まれていない | 包含済み |
| スキーマビュー | 含まれていない | 包含済み |
| スプレッドシートビュー | 含まれていない | 包含済み |

### テーブルビルダー へのアクセス

テーブルビルダー にはいくつかの方法でアクセスできます。

## App Engine Studio から テーブルビルダー を起動

テーブルビルダー は現在 App Engine Studio 内からアクセスできます。

アプリケーションデータの編集手順については、「App Engine Studio でのデータの編集」を参照してください。

1. App Engine Studio でアプリケーションを開きます。

> **注:**
> テーブルビルダー にアクセスするには、事前にアプリケーションにデータテーブルが存在している必要があります。

自動翻訳

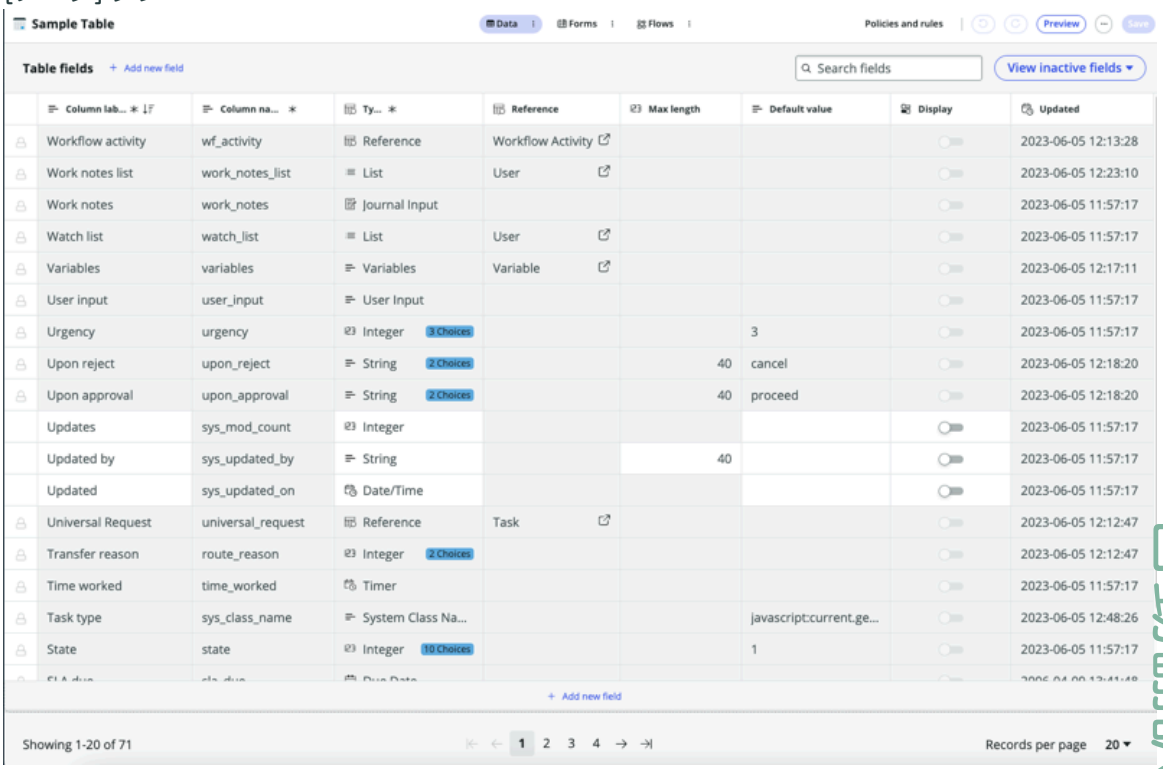
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. アプリケーションホームで、テーブルの横にあるメニューアイコン ( ••• アイコン) を選択し、[編集] を選択します。

   次の例のように、[データ] タブが選択された状態で テーブルビルダー が開きます。

   > **注:**
   > 選択したデータテーブルのフォームビューを編集するには、[フォーム] タブに移動します。

   [データ] タブ




## UI ビルダー から テーブルビルダー を起動

選択したフォームオブジェクトの [構成] パネルの下部にある [フォームビューの編集 **(Edit form view)]** をクリックして、UI ビルダー 内から テーブルビルダー にアクセスできます。

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダーをクリックし、ページ上のフォームコンポーネントを選択します。

   コンポーネントの追加方法の詳細については、「UI Builder でのコンポーネントの操作」を参照してください。

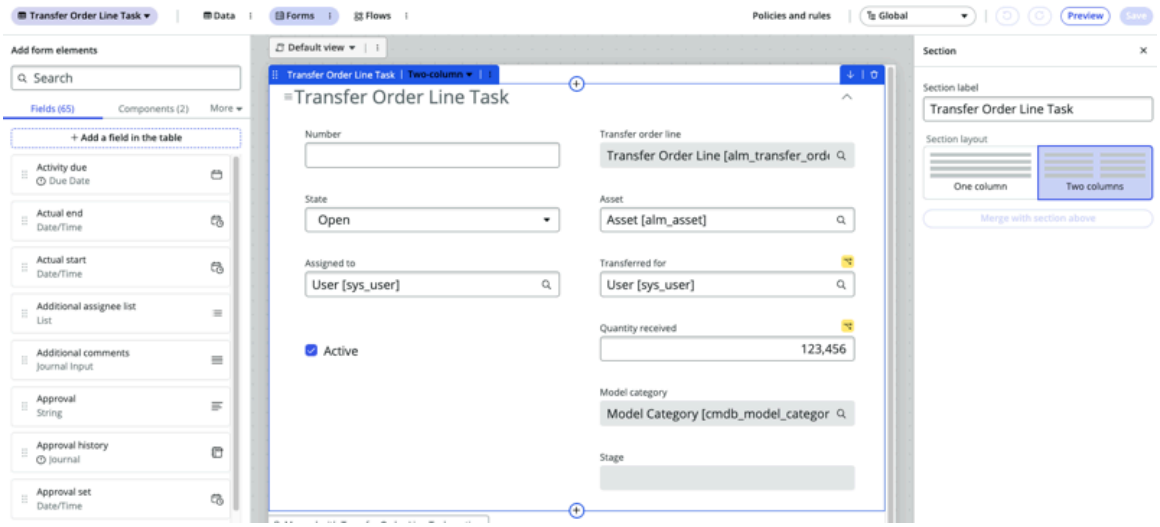
2. [構成] ペインの下部にある [フォームビューの編集 **(Edit form view)]** をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フォーム] タブが選択された状態で テーブルビルダー が開き、選択したテーブルのフォームビューをカスタマイズできます。テーブルデータを編集するには、次の例のように [データ] タブに移動します。

[フォーム] タブ




## テーブルビルダー の権限

テーブルビルダー を使用するには、管理者であるか、 Now Platform で次のロール権限を持っているか、または関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限を持っている必要があります。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

テーブルビルダー の権限

| 権限 | アクセス |
| --- | --- |
| フォームをカスタマイズ<br><br>(personalize_form) | • [フォーム] タブにアクセスするために必要です。<br>• フォームのフィールドをカスタマイズするために必要です。<br>• 辞書へのアクセスを許可しません。<br>• ポリシーとルールへのアクセスを許可しません。<br>• テーブルへのアクセスを許可しません。 |
| 辞書のカスタマイズ<br><br>(personalize_dictionary) | • [データ] タブにアクセスするために必要です。<br>• フィールド構成にアクセスするために必要です。<br>• 辞書フィールドを変更するために必要です。<br>• ポリシーとルールへのアクセスを許可しません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー の権限 (続く)

| 権限 | アクセス |
| --- | --- |
| ルールのカスタマイズ<br><br>(personalize_rules) | [ポリシーとルール **(Policies and Rules)]** タブへのアクセスを有効にします。 |
| 選択肢のカスタマイズ<br><br>(personalize_choices) | ユーザーがフィールドの選択肢を設定できるようにします。 |
| Flow Designer<br><br>(flow_designer) | [フロー] タブにアクセスするために必要です。<br><br>ユーザーがフローを設定できるようにします。テーブルビルダーフローを操作するには、personalize_form および personalize_dictionary 権限 (または関連する委任開発者権限) も必要です。 |

### **Form Builder** へのアクセス

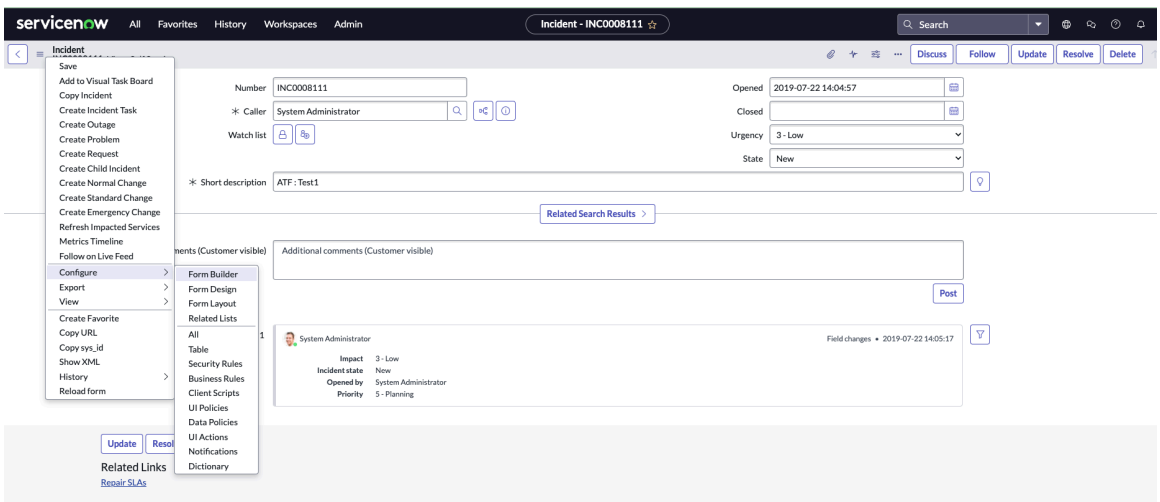
Form Builderは、[フォーム] タブからテーブルビルダー最も頻繁にアクセスされるアプリケーションです。任意のテーブルの および [関連リンク] セクションからもNow Platform アクセスできますForm Builder。

## アクセス元**Form Builder**テーブルビルダー

でテーブルビルダー、[フォーム] タブでアクセスForm Builderします。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

## からのアクセス**Form BuilderNow Platform**

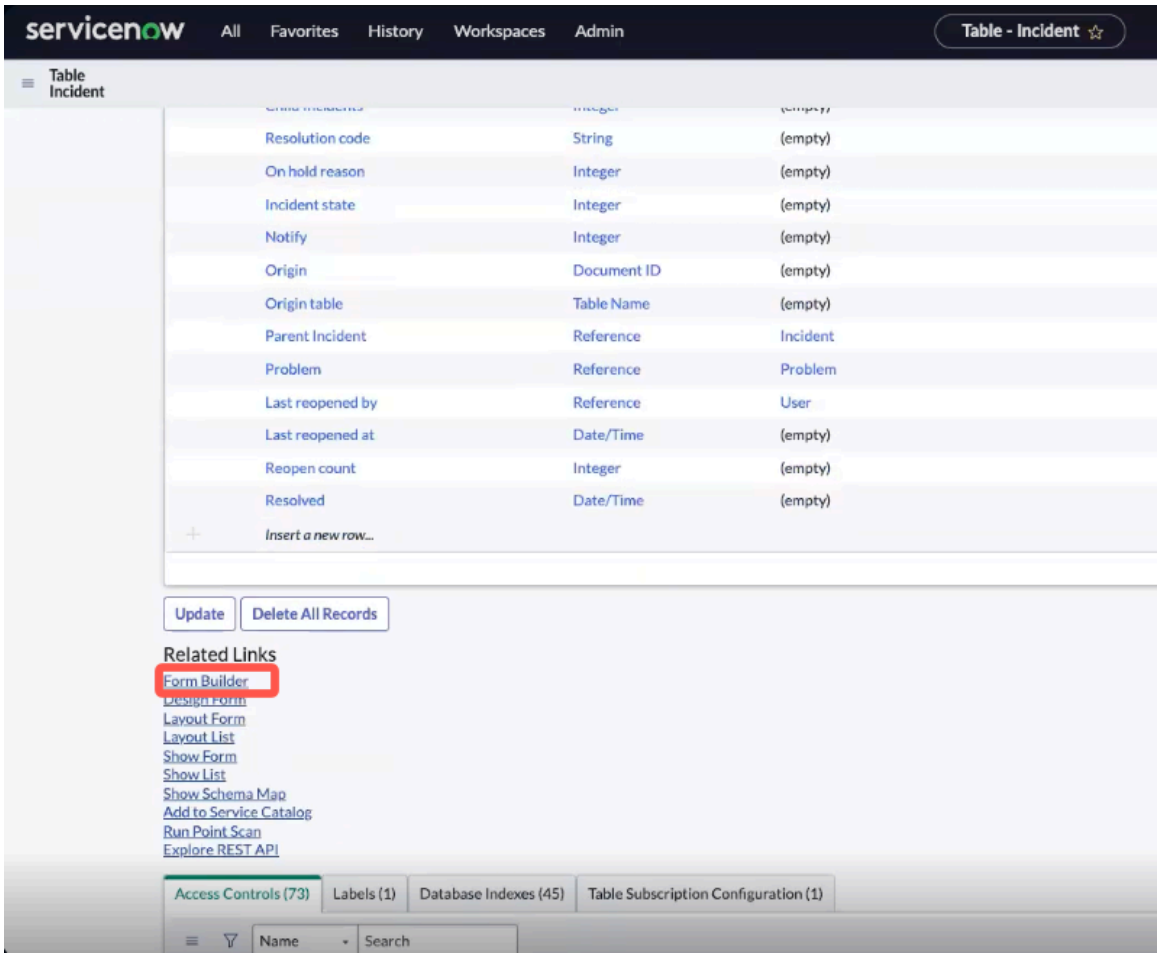
を使用してForm BuilderレコードまたはフォームをカスタマイズしますNow Platform。フォームのコンテキスト メニューで、 構成 を選択し、 フォーム ビルダー を選択します。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 関連リンクからのアクセス**Form Builder**

任意のテーブルの [関連リンク] セクションからもアクセスできます Form Builder 。開いて Form Builder 、そのテーブルのレコードの入力に使用するフォームを編集します。

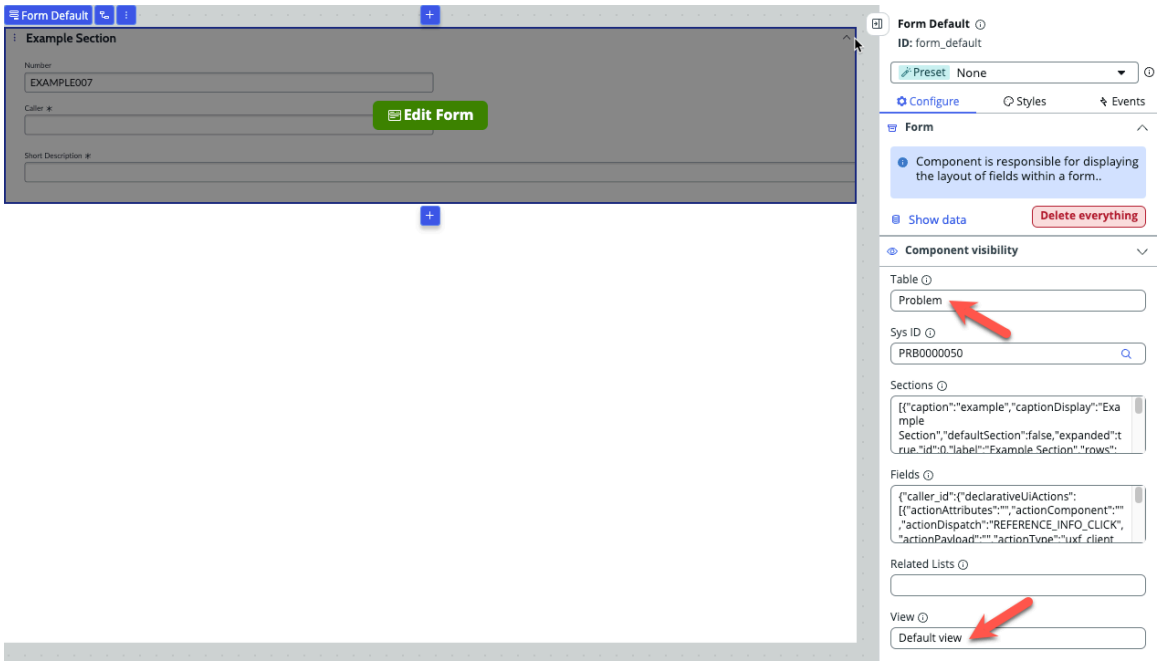



## アクセス元**Form BuilderUI** ビルダー

ステージから直接UI ビルダーアクセスできますForm Builder。[テーブル値] と [ビュー値] が設定されているフォームコンポーネントにカーソルを移動し、[フォームの編集] ボタンを選択します。変更内容は、 を閉じる Form Builderとフォームに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション

この上位レベルのワークフローを確認することで、テーブルビルダー の使用を開始してデータテーブル、フォーム、またはフローを管理できます。

テーブルビルダー を使用するときに実行する上位レベルのアクションについて説明します。

## 基本的なワークフロー

次の表は、テーブルビルダー で作業するときに実行する基本的なアクションの概要を示しています。

基本的なワークフロー

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| 作業するテーブルまたはフォームの選択 | 作業するデータテーブルまたはフォームを選択するには、「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動し、作業するテーブルまたはフォームを選択します。<br>**注:**<br>App Engine Studio で テーブルビルダー を使用している場合、アプリでテーブルをクリックすると、ここで選択したテーブルが選択されます。ただし、テーブルビルダー が UI ビルダー から起動されている場合は、現在選択されているテーブルの名前が表示されているドロップダウンリストから、作業する新しいテーブルを選択できます。 |
| ドメインとアプリケーションスコープの選択 | テーブルビルダー ナビゲーションから、作業するドメインとアプリケーションスコープを選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本的なワークフロー (続く)

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>App Engine Studio で テーブルビルダー を使用している間、選択されているアプリケーションスコープは作業中のアプリになります。ただし、テーブルビルダー が UI ビルダーから起動されている場合は、画面の右上にあるドロップダウンリストから、作業するアプリケーションスコープを選択できます (グローバルなど)。<br><br>「ドメイン分離と テーブルビルダー」および「テーブルビルダーでのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。 |
| テーブルプロパティの変更 | テーブルプロパティを直接編集するには、[データ] タブを選択します。<br><br>詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。 |
| フォームビューのカスタマイズ | [フォーム] タブを選択し、新しいビューを作成してカスタマイズしたり、選択したビューのフォーム要素を構成したりします。<br><br>詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。 |
| ポリシーとルールの設定 | [ポリシーとルール] タブを選択して、フォームビューでのデータの表示方法を設定および制御します。<br><br>詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルール」を参照してください。 |
| フォームのプレビューと変更の管理 | プロセスのどの時点でも、[プレビュー] を選択して加えた変更をプレビューできます。詳細については、「フォームのプレビュー」を参照してください。<br><br>プロセスの任意の時点で [保存] をクリックして、フォームビューの変更を保存します。フォームビューの準備が整い、 Now Platform の他のアプリケーションからアクセスできます。<br><br>**注:**<br>加えた変更を元に戻す ( ) か、再適用する ( ) には、画面の上部にある [元に戻す] または [やり直し] アイコンを選択します。 |

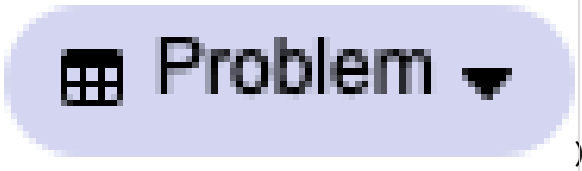
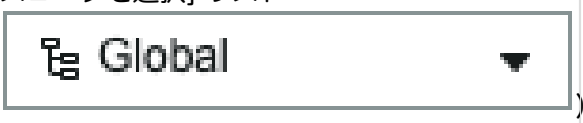
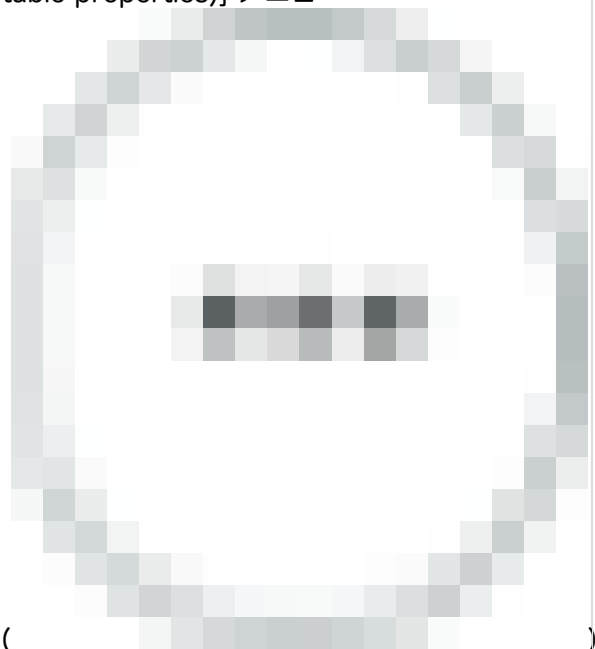
## ナビゲーション要素

次の表では、テーブルビルダー に示されている基本的なナビゲーション要素を示して説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本的なナビゲーション要素

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル選択リスト<br>(   ) | 選択したテーブルのポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。 |
| [ドメインを選択] リスト<br>( ) | 選択したドメイン (たとえば、グローバルドメイン) 内のポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。 |
| [スコープを選択] リスト<br>(   ) | 選択したアプリケーションスコープ (たとえば、グローバルアプリケーションスコープ) 内のポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。 |
| 元に戻す ( )<br>やり直し ( ) | 以前の編集ステータスに戻すには、ナビゲーションバーの [元に戻す] ( アイコン) または [やり直し] ( ) を選択します。 |
| [詳細テーブルプロパティ (Advanced table properties)] メニュー<br>(  ) | オプションを選択します。<br>• 詳細ビュー：選択したテーブルの詳細プロパティを管理します。詳細については、「Table Administration」を参照してください。<br>• フォームデザイナー：選択したテーブルをフォームデザイナーで起動します。詳細については、「フォームデザイナーの使用」を参照してください。<br>• テーブルを削除：選択したテーブルを削除します。<br>**注:**<br>このオプションは [データ] タブにのみ表示されます。 |
| プレビュー<br>( ) | [プレビュー] を選択して、選択したフォームが Now Platform でどのように表示されるかを確認します。プレビューの詳細については、「フォームのプレビュー」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本的なナビゲーション要素 (続く)

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 保存 (Save) | [保存] を選択して、選択内容への変更をコミットします。 |
| 検索フィールドとフィルターオプション<br>( ) | 検索ボックスを使用してフィールド列のリストをキーワードでフィルタリングするか、[フィルターオプション] リストを使用して非アクティブなフィールドを表示したり、拡張フィールドをリストから非表示にしたりします (テーブルが既存のテーブルから拡張されている場合)。 |
| PDF エクストラクター<br>( ) | 選択したデータテーブルに PDF が関連付けられている場合は、この要素を選択して PDF エクストラクターツールを起動し、PDF を表示します。「PDF を使用してデータテーブルを作成する」を参照してください。 |

### ドメイン分離と テーブルビルダー

ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

### サポートレベル：標準*

サポートレベルは標準ですが、いくつかの例外または特別な条件があります。

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスオーナーは、MVP (minimum viable product) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。この構成は、特定のアプリケーションで前提とされているように、テナントごとに行います。

サンプルユースケース：管理者は、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

### 概要

開発者は テーブルビルダー を使用して、アプリケーション内のテーブルの各フォームビューのレイアウトとロジックを設定できます。UI ビルダー から起動すると、テーブルビルダー はドメイン分離、つまり ServiceNow インスタンス全体のマルチテナントアーキテクチャをサポートします。

**注:**
テーブルビルダー が UI ビルダー から起動された場合は、ドメイン分離がサポートされます。App Engine Studio から テーブルビルダー を起動する場合、ドメイン分離はサポートされません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー を使用すると、ドメイン分離された環境内の開発者は、同じブラウザーウィンドウ内でフォームを作成できます。テーブルビルダー のドメイン分離はアプリケーションスコープと同様に機能するため、管理者がマルチテナント環境で作成または編集するのに役立ちます。

標準化は、ドメイン分離がインストールされている安定した正常な拡張性の高い ServiceNow インスタンスを維持するための重要な仕組みです。標準化により、ほとんどのインスタンスを共通の構成によって動作させることができます。インスタンスに数百または数千のドメインがある場合、それらを正常に管理するには厳格なガバナンスが必要です。ドメイン固有の構成は、インスタンス所有者が必要と判断した場合にのみ行う必要があります。ほとんどのインスタンスは、インスタンス全体でより統一されたエクスペリエンスを提供するために、共通のインスタンス構成に従う必要があります。また、インスタンス所有者は、リリースアップグレードの一部として含まれる新しい ServiceNow 機能の導入を遅らせるコードの無秩序な増加を最小限に抑えることができます。

## テーブルビルダー におけるドメイン分離の仕組み

テーブルビルダー を使用すると、開発者は、セッションドメインを切り替えて、フォームレイアウト、セクションレイアウト、フォームロジックに対するドメイン上書きを作成できます。システム辞書レコードの変更 (フィールドラベルのフィールドメタデータなど) にはドメイン上書きは必要ありません。フォームレイアウトの変更では、変更が下位のドメインで実行される場合は、フォームレコードとセクションの両方に対するドメイン上書きが必要です。ドメイン上書きを作成する場合、上書きを保存する前にセクションラベルを編集することはできません。

**注:**
UI ポリシーは、下位のドメインでも上書きできます。上書きインジケーターが UI ポリシーに表示されます。

グローバルドメインでは、開発者はドメインスコープを拡張して、異なるドメインからすべてのフォームビューを表示できます。開発者は、アイコンで示される上書きとともにすべてのフォームビューとビューを表示できます。

**注:**
単一のセクションフォームレコードには *sys_ui_forms* レコードが添付されていません。代わりに、これらのレコードには、2 番目のセクションが作成されるまで *sys_ui_section* レコードのみが添付されます。単一のセクションフォームに既存のドメイン上書きがあり、開発者が別のセクションをフォームに追加すると、既存のドメイン上書きは破棄されます。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用

テーブルビルダー のアプリケーションスコープリストからアプリケーションを選択すると、Now Platform で選択したアプリケーションのユーザーのフォームビューをカスタマイズできます。

アプリケーションスコープは、アプリケーションファイルやデータに対するアクセスを識別して制限することによって、アプリケーションを保護します。管理者は、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるかを指定できます。これは、データとアプリケーションファイルを保護するために役立ちます。テーブルビルダー では、テーブルまたはフォームを操作するときに、管理者と開発者がアプリケーションスコープを設定できます。

テーブルビルダー のスコープを変更すると Now Platform® のスコープも変更され、Now Platform のスコープを変更すると テーブルビルダー のスコープが変更されます。

フォームを作成するときは、作業するスコープに注意する必要があります。テーブル、フォーム、またはポリシーの正しいアプリケーションスコープを選択します。 [スコープを選択] リストは [ドメインを選択] リストの近くにあります。スコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform 内で存在しているスコープです。ユーザーがページ内で別のスコープに変更すると、フォームが作成されたものとは異なるアプリケーションスコープ内にいることが通知されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### テーブルビルダー の使用

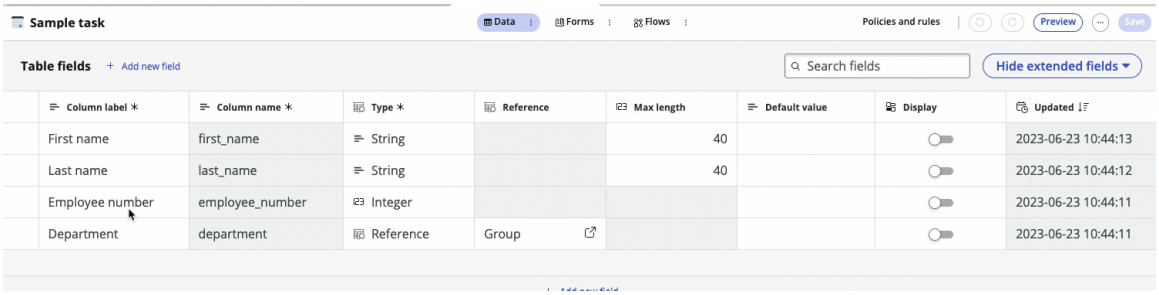
テーブルビルダー を使用すると、既存の Now Platform ツール間を移動せずに、単一のインターフェイスからユーザーのテーブル、フォーム、およびフォーム要素を設計およびカスタマイズできます。

### テーブルビルダー 内のデータ

テーブルビルダー を使用すると、テーブルプロパティを変更し、選択したデータテーブルで使用可能なフィールドを管理できます。

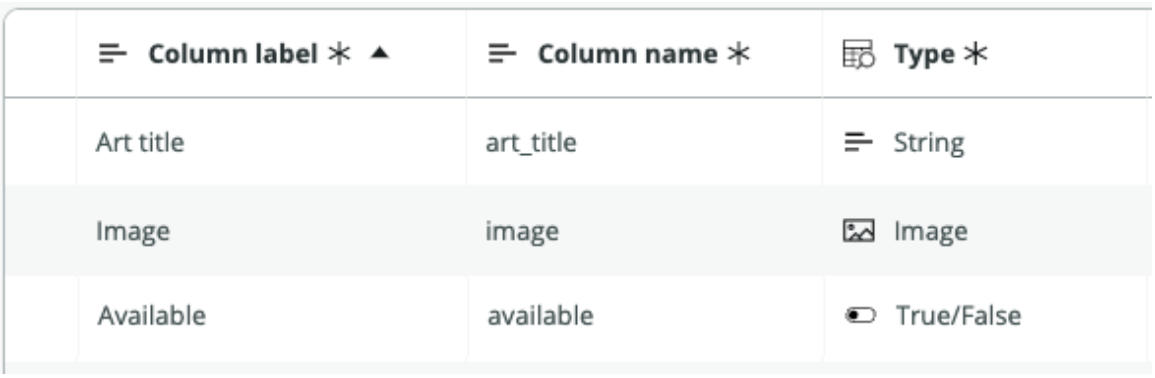
テーブルビルダー はデータテーブルを編集するためのツールです。テーブルの列を編集して、[データ] タブでテーブルを編集します。

テーブルビルダー




テーブルビルダー では、テーブルの各列が行として表されます。たとえば、「Art title」、「Image」、および「Available」は実際のテーブルでは列のヘッダーとして表示されます。しかし、テーブルビルダー で列を編集するときには、行として表示されます。

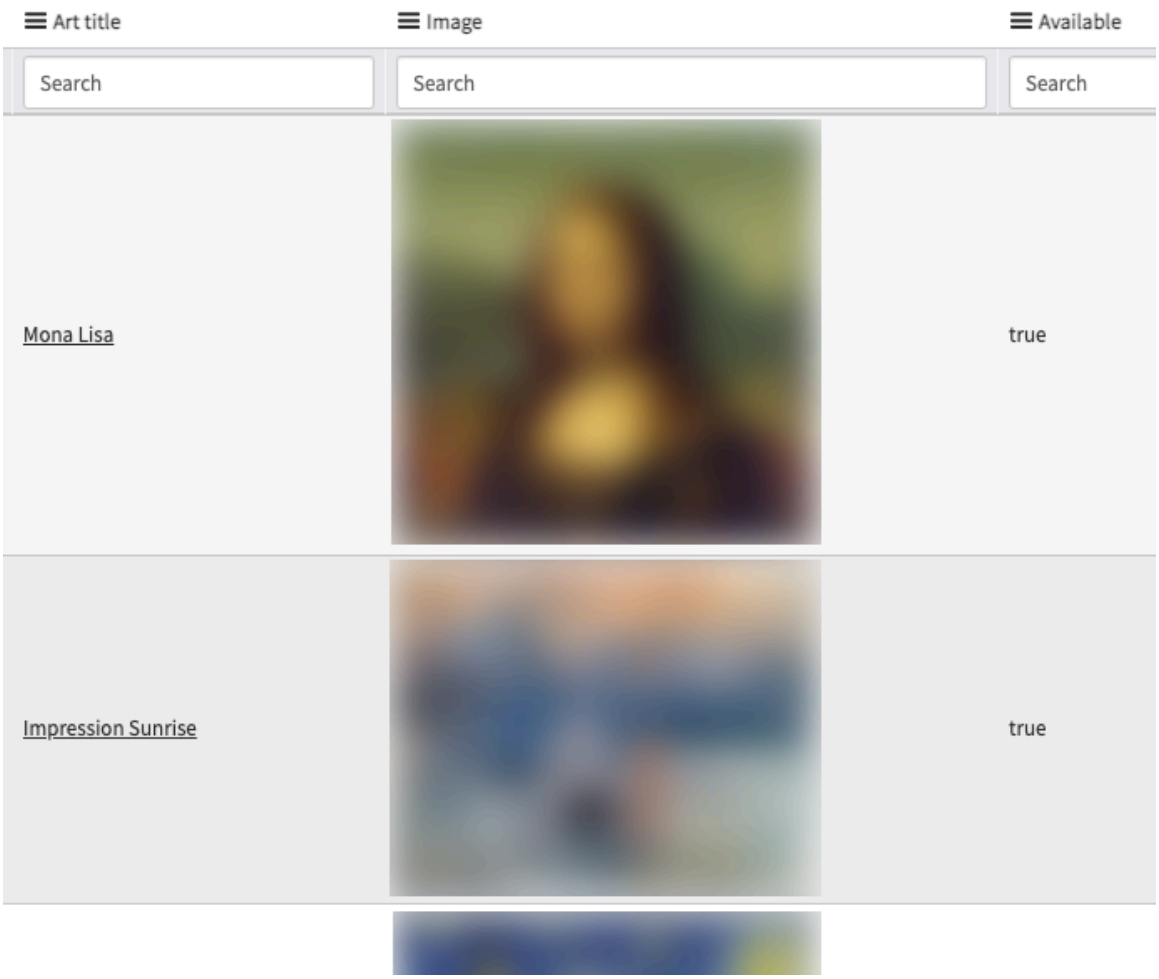
例： テーブルビルダー での列




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

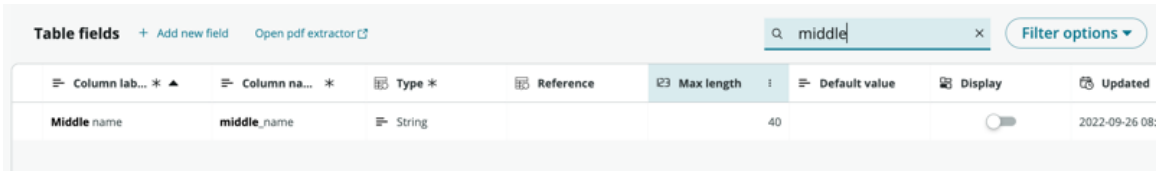
例：**2** つのレコードが表示された実際のデータテーブル




デフォルトの [フィールド] ビューで編集する特定のテーブル列を簡単に見つけるには、右上の検索ボックスに列名を入力します。入力すると、入力したキーワードに一致するように、以下の列のリストがフィルタリングされます。

**注:**
[フィルターオプション] リストを使用して非アクティブ化されているフィールドを表示したり、拡張フィールドをリストから非表示にしたりします (テーブルが既存のテーブルから拡張されている場合)。

テーブルの列の検索




テーブルビルダー でテーブル列を編集するときは、各行がフォーム上のフィールドであると考えてください。たとえば、列ラベルを変更する場合は、ユーザーがフォームフィールドに入力することが予想されるデータを説明するラベルを使用します。この種類のフォームエントリーをサポートするように列タイプを変更します。

フィールドビューでテーブルのプロパティとテーブル構造を変更します。このビューでは、次のアクションを実行できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブルに新しい列を追加する。「テーブルビルダー でのテーブル列の追加」を参照してください。
- テーブルの列を削除する。「テーブルビルダー でのテーブル列の削除」を参照してください。
- テーブルのプロパティを編集する。「テーブルビルダー でのテーブルプロパティの編集」を参照してください。
- 列ラベルを変更する。「テーブルビルダー での列ラベルの変更」を参照してください。
- 列名を変更する。「テーブルビルダー でのテーブル列名の変更」を参照してください。
- 列タイプを変更する。「テーブルビルダー での列タイプの変更」を参照してください。
- テーブルにデフォルト値を追加する。「テーブルビルダー でのデフォルト値のテーブル列への追加」を参照してください。
- テーブルの表示名として列を選択する。「テーブルビルダー でのテーブル表示値としての列の選択」を参照してください。
- テーブルを削除する。「テーブルビルダー でのテーブルの削除」を参照してください。

スプレッドシートビュー内で、テーブル構造とスプレッドシート形式のデータレコードを操作します。ここでは、次のアクションを実行できます。

**注:**
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

- 新しいデータレコードを追加する。「新しいデータレコードの追加」を参照してください。
- 個々のデータレコードを編集する。「個々のデータレコードの編集」を参照してください。
- データレコードをソートする。「データレコードのソート」を参照してください。
- データレコードをフィルタリングする。「データレコードのフィルタリング」を参照してください。
- 列フィールドのプロパティを編集する。「列フィールドのプロパティの編集」を参照してください。
- 新しい列を追加する。「新しい列の追加」を参照してください。
- 既存の列を複製する。「既存の列の複製」を参照してください。
- 列を並べ替える。「列の並べ替え」を参照してください。
- 列の可視性を設定する。「列の可視性の設定」を参照してください。
- 複数列を固定する。「複数列の固定」を参照してください。
- テーブルの列を削除する。「列の削除」を参照してください。

スキーマビューを使用して、テーブルのテーブル関係を表示することもできます。「テーブルビルダー のスキーマビュー」を参照してください。

**注:**
この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー のスプレッドシートビュー

テーブルビルダー の [スプレッドシート] ビューを使用して、アプリケーションデータレコードとデータ構造をスプレッドシート形式で操作します。

## 概要

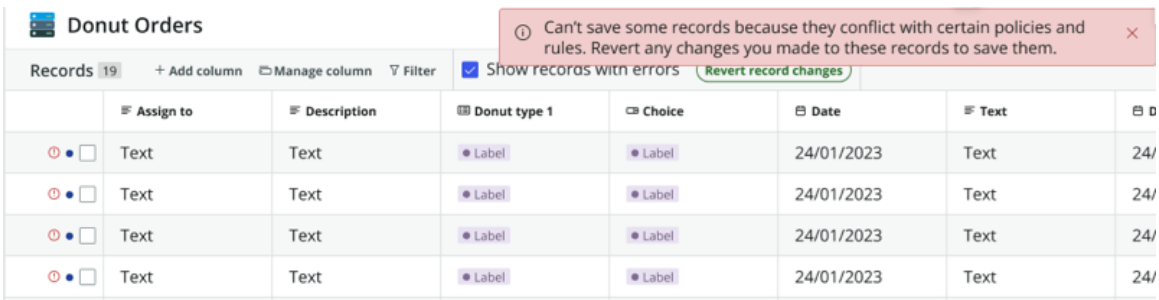
テーブルビルダー のスプレッドシートビューを使用すると、使い慣れたスプレッドシート形式でアプリケーションテーブルとそれに伴うデータを確認できます。単一の画面から、列の追加、列の削除、列プロパティの変更、およびそれらの列内の個々のデータレコードの確認と更新を行うことができます。

## スプレッドシートビューでのデータレコードの保存

データレコードを保存しようとすると、エラーが発生することがあります (適用可能なポリシーまたはビジネスルールとデータが競合する場合など)。これが発生すると、エラーが発生したデータレコードのフィルター済みリストとともに警告ポップアップが表示されます。

各レコードのデータを個別に修正するか、[レコードの変更を元に戻す] を選択して、エラーが発生したレコードに加えた変更を元に戻します。

スプレッドシートビューのエラー




テーブルビルダー の [スプレッドシート] ビューを使用して、選択したテーブルのテーブルフィールド構造とインポートされたデータレコードを編集するには、次の手順を使用します。

### 新しいデータレコードの追加

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内に新しいデータレコードを追加します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

**1.** [データ] タブに移動します。

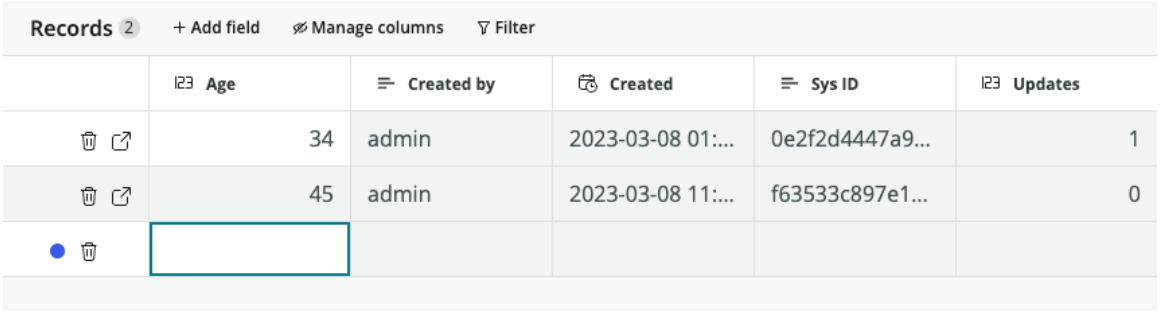
> **注:**
> デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ]) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

**2.** [新規レコードを追加] アイコン ( ) を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいレコードを追加




3. データレコードに変更を加えます。
4. [保存] を選択します。
   エラーのトラブルシューティングの詳細については、「スプレッドシートビューでのデータレコードの保存」を参照してください。

### 個々のデータレコードの編集

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で個々のデータレコードを編集します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

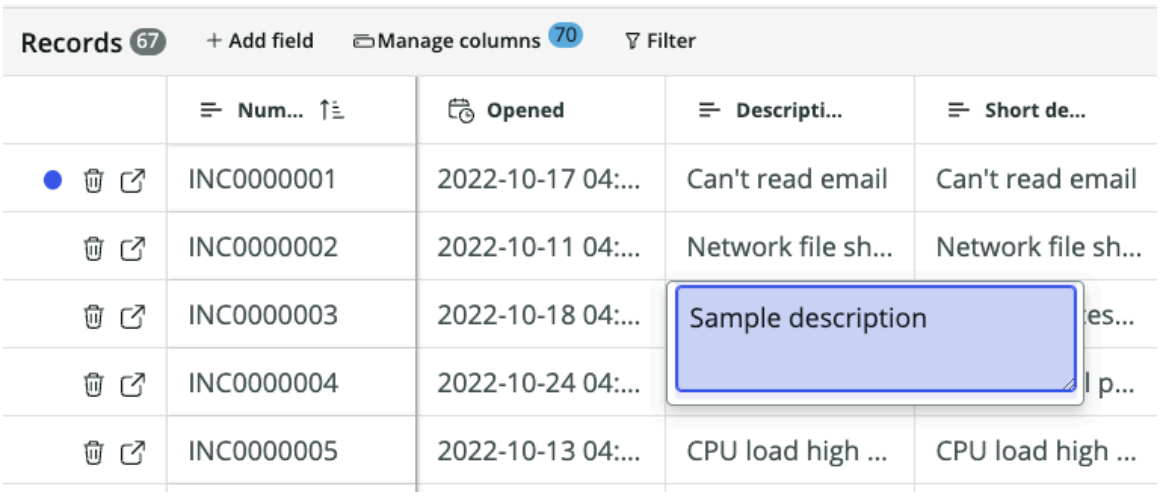
#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. 編集可能なデータレコードフィールドをクリックして、編集するデータを起動します。

フィールドを編集




3. データに変更を加えます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [保存] を選択します。
   エラーのトラブルシューティングの詳細については、「スプレッドシートビューでのデータレコードの保存」を参照してください。

### データレコードのソート

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の特定のフィールド列でデータレコードをソートします。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

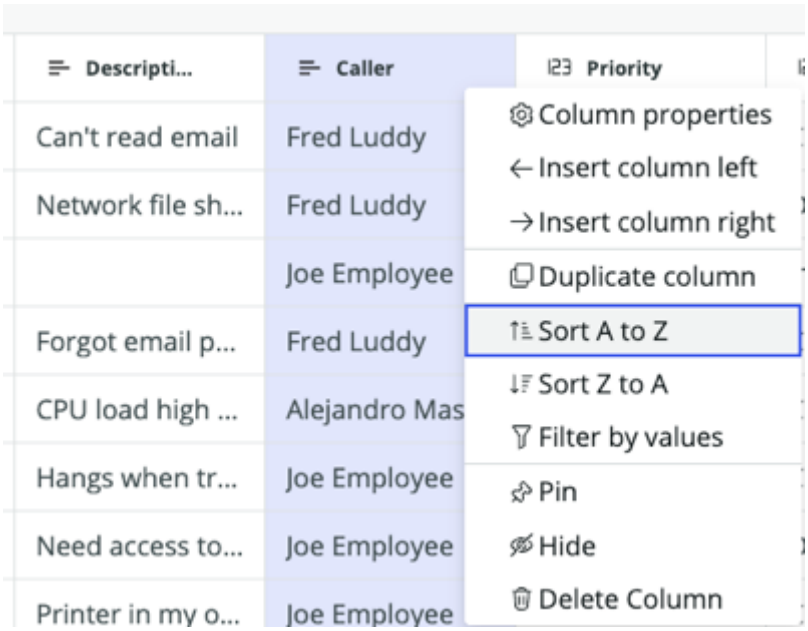
#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. レコードリストをソートする基準となるデータを含む列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します (レコードを承認日で昇順にソートするなど)。
3. 次のオプションから選択して、列のデータを昇順または降順のどちらでソートするかを選択します。
   - 昇順でソートまたは古い順にソート (昇順)
   - 降順でソートまたは新しい順にソート (降順)

   承認日でのソート




   選択した順序でレコードリストが表示されます。

### 一致するデータレコードを表示

テーブルビルダー スプレッドシートビュー内の選択したフィールドに一致するデータを含むデータレコードのフィルター済みリストを表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

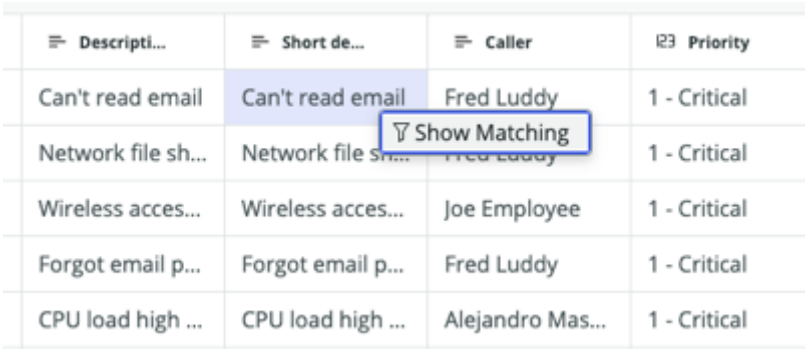
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. セル内のデータレコードを選択したままにすると (または右クリックすると)、一致するデータを含むレコードのフィルター済みリストが作成されます (たとえば、[簡単な説明] が「Can't read email」であるすべてのレコードを表示します)。

   一致するデータレコードを表示

   グリッドの上部にある [フィルター] ボタンをクリックすると、一致するデータを含むレコードのフィルター済みリストが表示され、新しいフィルタークエリが追加されてアクセスできます。

   注:
   追加したフィルタリングを削除するには、[フィルター] ボタンを選択し、リストから新しいフィルター条件を削除します。「データレコードのフィルタリング」を参照してください。

データレコードのフィルタリング

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で条件付きクエリを設定して、リストに表示するデータレコードのみを表示します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. スプレッドシートの上にある [フィルター] を選択して、フィルタークエリを起動します。
   特定の列の [他のアクション] メニュー ( ) から [値でフィルタリング **(Filter by value)]** を選択して、クエリのその列のデータを事前に選択することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[フィルター] ボタンの右側に数字が表示されている場合は、ビューに既存のフィルターが設定されていることを意味します。

[フィルター] ウィンドウが (既に設定されているフィルター基準とともに) 表示されます。この場合、既存のフィルターは、[経過時間] が 35 のレコードを表示するように設定されています。

データのフィルター

3. フィルタリングクエリを入力して、表示するデータレコードを指定します。
   - [新しい条件セット] ボタンを選択して、OR ステートメントで接続された新しいフィルター条件を入力します。
   - [または] ボタンまたは [および] ボタンを選択して、既存のフィルターセットを目的のブール値で拡張します。
   - フィルター条件の行を削除するには、[削除] アイコンを選択します。
4. [適用] を選択して、フィルター条件をビューに適用します。
   選択した条件でフィルタリングされたレコードリストが表示されます。

## 列フィールドのプロパティの編集

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビューで、フィールドのラベル、タイプ、属性、デフォルト値などのフィールドプロパティを編集します。

### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ]) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

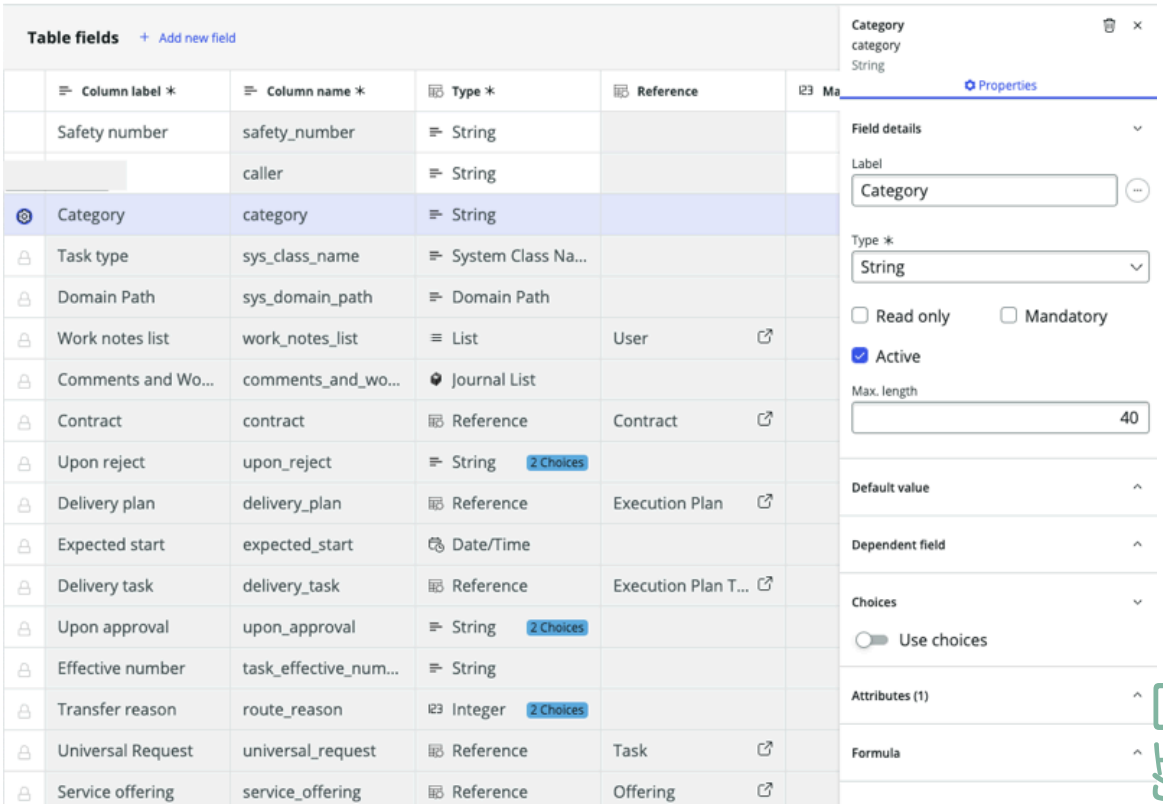
2. 目的の列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [列プロパティ] を選択します。
   選択したフィールド列の [プロパティ] ペインが表示されます。

[プロパティ] ペイン




4. 列の目的のフィールドプロパティを編集します。
   フィールドプロパティの詳細については、「テーブルビルダー のフィールド構成」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

## 新しい列の追加

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の選択したテーブルに新しいフィールド列を追加します。

### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. **[+** フィールドを追加] ボタンを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

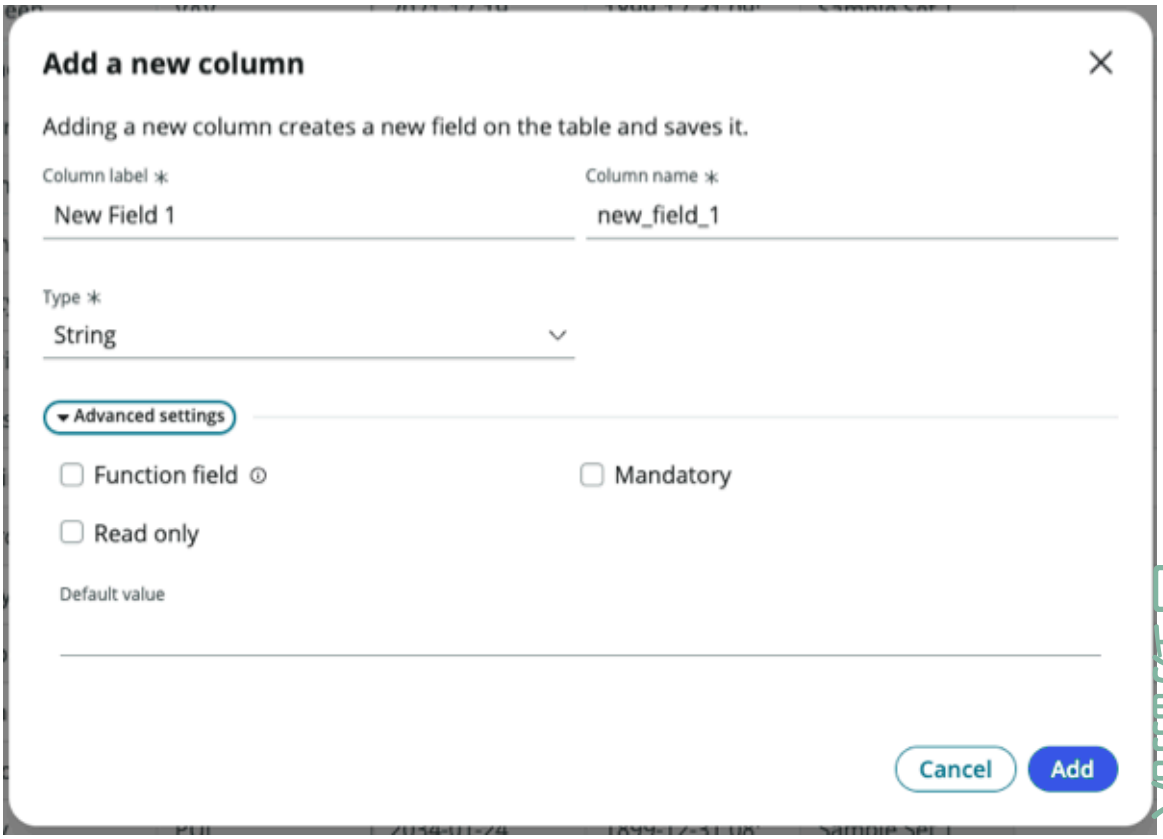


自動翻訳

**注:**
[他のアクション] アイコン (⋮) を選択して、列固有のアクションのリストを起動し、[列を左に挿入] または [列を右に挿入] を選択して、テーブル内の特定の場所に新しい列を挿入することもできます。

[新しい列を追加] ウィンドウが表示されます。

新しい列を追加




**3.** 新しいフィールド列に次の情報を入力します。

**4.** オプション: [詳細設定] を選択して展開し、新しいフィールド列の追加プロパティを入力します。

**5.** テーブルに新しいフィールド列を追加するには、[追加] を選択します。

### 既存の列の複製

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビューに表示されるテーブル内の既存のフィールド列を複製します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

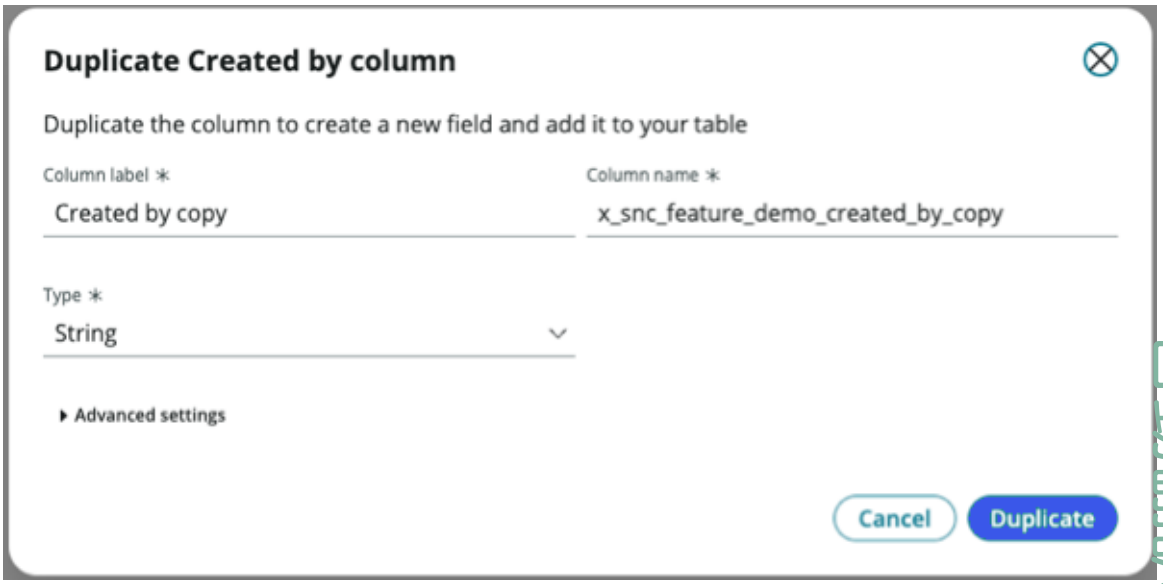
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. 複製する列のヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します。
3. メニューから [重複した列] を選択します。
   テキスト「copy」が既存の列ラベルに自動的に追加されます。

   重複した列




4. [列ラベル] を、複製されたフィールド列の目的の表示名に編集します。
5. 必要に応じてフィールド列の [タイプ] を編集します。

   「フィールドタイプ」を参照してください。

6. [複製] を選択します。
   ビューに新しい列が表示されます。

列の並べ替え

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で列が表示される順序を変更します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

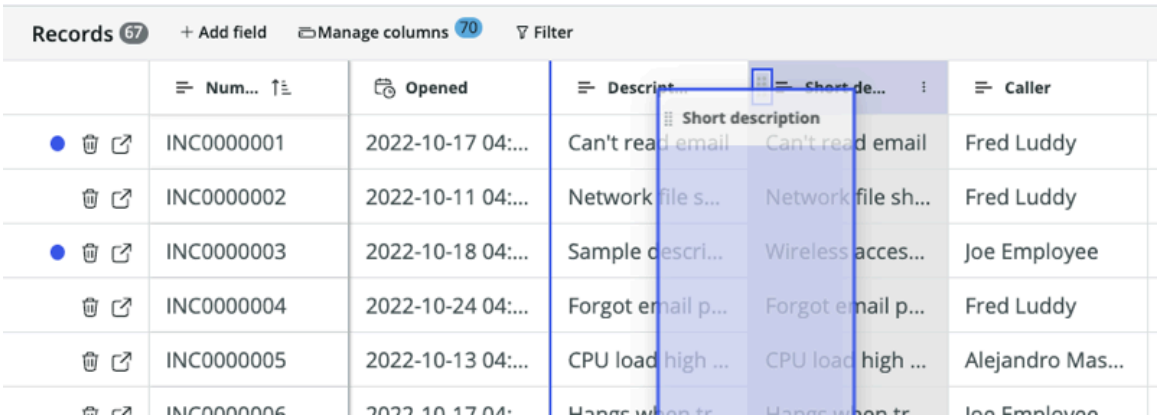
   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 列の [列ハンドル **(Column handle)**] アイコン ( ) をクリックして選択し、その列をテーブル内の目的の場所にドラッグします。

列のドラッグアンドドロップ




> **注:**
> テーブルに多数のテーブル列が含まれている場合は、[列を管理 **(Manage columns)**] メニューを選択して列名のコンパクトなリストを表示し、このリスト内で視覚的にドラッグアンドドロップしてテーブルの列を並べ替えます。

### 列の可視性の設定

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の特定のフィールド列を非表示にするか表示するかを選択します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

> **注:**
> デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. 次のいずれかのオプションを選択します。

> **注:**
> [列を管理] ボタンの右側に、ビューでアクティブになっている列の数を示す数字が表示されます。

### 複数列の固定

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で多数のフィールド列があるテーブルで右にスクロールしたときに常に左側に表示されるように特定の列を固定します。固定された列は、グローバルではなく個々のユーザーに対して保存されます。ユーザーが次回ログインしたときに、固定した列が表示されます。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. フィールド列を固定または固定解除するには、次のいずれかのオプションを選択します。

   注:
   [列を管理] ボタンをクリックして、ビューに固定されている列を表示することもできます。固定された列には、リストされた列の右側に [固定] アイコンが表示されます。

### 列の削除

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の選択したテーブルのフィールド列を削除します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ([ ) からスプレッドシートビューにアクセスすることもできます。

2. 削除する列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します (レコードを承認日で昇順にソートするなど)。
3. [列を削除] を選択します。
   確認ウィンドウが表示されます。
4. テーブルからフィールド列を削除するには、[削除] を選択します。

   注:
   削除する列に保存されているデータレコードがある場合、このフィールドに保存されているレコードを削除するまで、列を削除することはできません。

### テーブルビルダー のフィールドビュー

テーブルビルダー の [データ] タブにあるデフォルトの [フィールド] ビューを使用して、テーブルプロパティを変更し、テーブルフィールドを管理します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

テーブルビルダー で [フィールド] ビューを使用してテーブルを編集するには、次の手順を使用します。

### テーブルビルダー でのテーブル列の追加

テーブル列を追加して、テーブルレコードにより多くの情報を保存します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

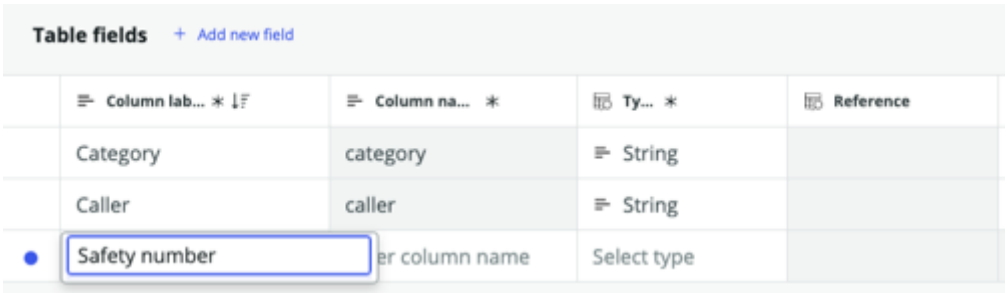
手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. **[+** 新しいフィールドを追加] を選択します。
3. 結果の空白行で、新しいデータテーブル列の目的のプロパティを入力します。

   テーブルへの新しいフィールドの追加




4. [保存] を選択します。

タスクの結果
テーブルをプレビューすると、テーブルに追加された新しい列を表示できます。テーブルのプレビューの詳細については、「テーブルビルダー でのデータのプレビュー」を参照してください。

### テーブルビルダー でのテーブル列の削除

テーブルビルダー を使用して、テーブルから列を削除します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 削除するテーブルフィールド行の横にある左端の列にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン ( ) を選択します。

3. サイドパネルの右上隅にあるゴミ箱アイコン ( ) を選択して、フィールドを削除します。

   注:
   テーブルには、削除できないいくつかのデフォルト列が含まれています ([作成日時] や [更新日時] など)。また、別のテーブルから拡張された列や、データレコードがすでに存在する列は削除できません。列を削除するには、まず既存のデータを削除する必要があります。

4. 確認ダイアログで、[削除] を選択します。

タスクの結果
テーブルをプレビューすると、テーブル列がそのテーブルでもう使用されていないことがわかります。テーブルのプレビューの詳細については、「テーブルビルダー でのデータのプレビュー」を参照してください。

## テーブルビルダー での列ラベルの変更

保存されているデータをユーザーが一意に特定できるラベルを変更します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
列ラベルは、ユーザーがアプリケーションデータを読み取ったり更新したりするときに、ユーザーに表示されるテキストです。たとえば、要求者が入力するフォームを作成すると、各列ラベルがフォームフィールドラベルとして表示されます。

ユーザーに入力してほしい特定の情報を説明する列ラベルを使用します。たとえば、ユーザーにコメントを追加するように求めるには、「テキスト」ではなく「コメント」という列ラベルを使用します。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行のテキストを更新して、[列ラベル] 列の列ラベルを変更します。

   たとえば、「オフィスの場所」列のラベルを変更するには、「オフィスの場所」と表示されているセルを選択し、別のラベルを入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別のセルを選択すると、列ラベルは自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー でのテーブル列名の変更

列のデータベース名を変更します。レビュー担当者が、テスト中にデータベース内の列名が原因で問題が生じていることを発見した場合は、列名を手動で変更できます。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### このタスクについて

**注:**
情報が既に保存されている既存のフィールドの列名は変更できません。

列名は、管理者がデータベース内の列データを追跡するために使用するテキストです。列ラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。テーブルビルダー で、列ラベルを変更すると、列名も自動的に変更されます。

#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行のテキストを更新して、[列名] 列の列名を変更します。

   たとえば、「オフィスの場所」列の名前を変更するには、u_office_location と表示されているセルを選択して、別の名前を入力します。

   別のセルを選択すると、列名が自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー での列タイプの変更

テーブル列に行に関する情報を保存するフィールドのタイプを変更します。たとえば、テーブルが日付をトラッキングしている場合は、[日付] 列タイプを選択します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   **注:**
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. セルを選択し、[タイプ] 列からテキストをクリアします。
3. リストから列タイプを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいテキストを入力してリストを検索できます。たとえば、すべての文字列タイプを検索するには、「文字列」と入力します。

4. 必要に応じて、より多くの情報を使用して列タイプを定義します。

   たとえば、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢のリストを定義します。

   別のセルを選択すると、列タイプが自動的に更新されます。

5. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー でのフィールドプロパティの編集

テーブルビルダー で、フィールドのラベル、タイプ、デフォルト値などのフィールドプロパティを編集します。

#### 始める前に

テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. [データ] タブに移動します。

   > **注:**
   > デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. テーブル内の変更するフィールドを選択します。

   基本的なフィールドプロパティの詳細については、「 フィールドの構成」を参照してください。

3. 編集するフィールドの横にある左端の列にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン ( ) を選択します。
4. フィールドプロパティを変更します。

   フィールドの UI ポリシーの変更方法については、「テーブルビルダー での UI ポリシーの変更」を参照してください。

   > **注:**
   > [データ] タブと [フォーム] タブを切り替えても、右側の [構成] タブは開いたままになります。

5. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー でのデフォルト値のテーブル列への追加

ユーザーがレコードを作成した後、テーブル列に自動的に入力されるデフォルト値を定義します。

#### 始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行の内容を更新して [デフォルト値] 列に列のデフォルト値を追加します。

   デフォルト値を定義するには、セルを選択してから値を入力します。入力する値は列タイプによって異なります。たとえば、列に選択肢が必要な場合は、[タイプ] 列で定義した選択肢のいずれかを選択します。

   別のセルを選択すると、列名が自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー でのテーブル表示値としての列の選択

他のテーブルの参照フィールドに表示される列の値を選択します。たとえば、タスクテーブルの [開始者] 列は、ユーザーテーブルの特定の列を参照して、ユーザー名を表示できます。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 (Opened by)] 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「Beth Anglin」や「Joe Employee」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。

テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注:
   デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. [表示] 列のすべての選択がクリアされていることを確認します。
   選択をクリアするには、次の例に示すようにスイッチをオフに切り替えます。

   オフへの切り替え

3. [表示] 列から、テーブル表示値として機能する行を 1 つ選択します。
   行を選択するには、次の例に示すようにスイッチをオンに切り替えます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [保存] を選択します。

## テーブルビルダー のスキーマビュー

テーブルビルダー の [スキーマ] ビューを使用して、アプリケーションデータのデータ関係を探索します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. [データ] タブに移動します。

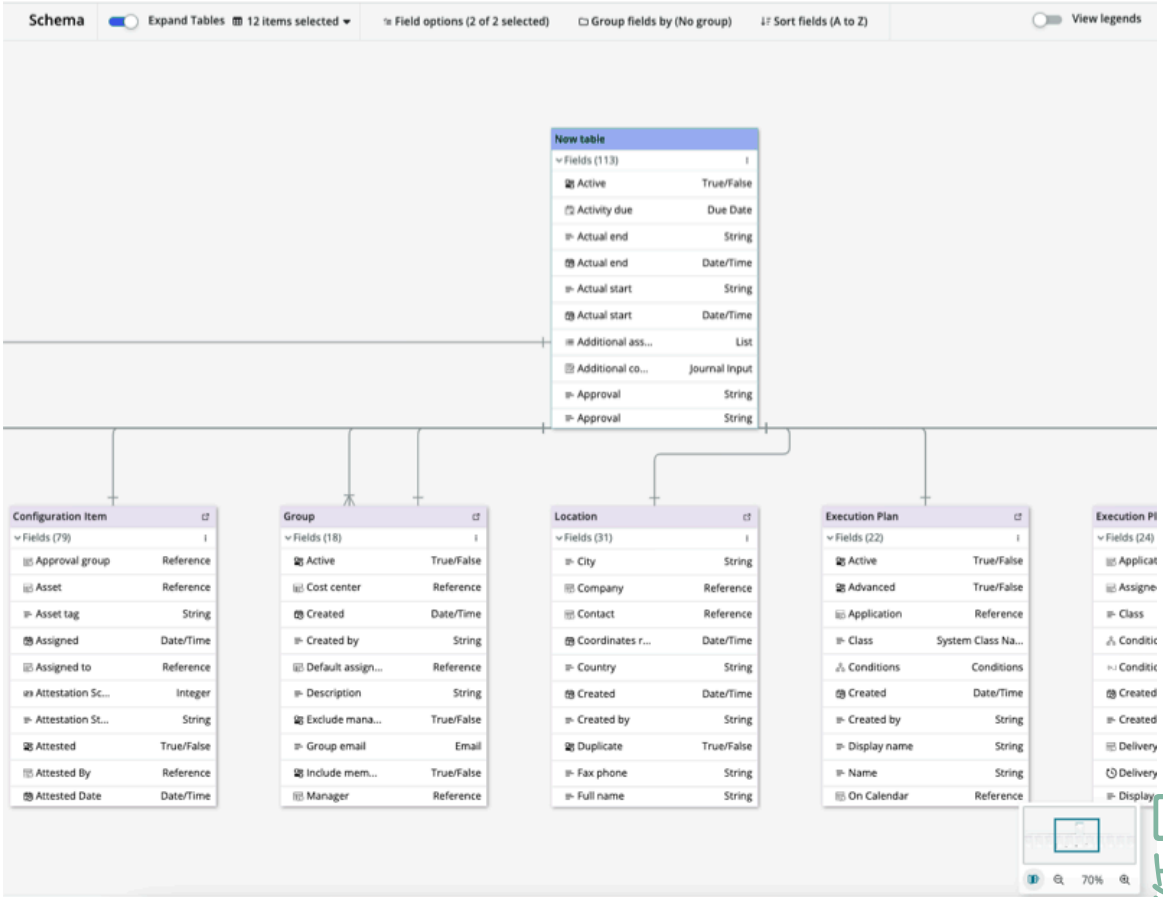
   **注:**
   デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。

2. オプション: [他のアクション] メニュー ([ Data ]) から [スキーマ] を選択して、[スキーマ] ビューにアクセスします。
   テーブルと他のテーブルとの関係が画面に表示されます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキーマビュー




3. マウスでキャンバスをドラッグして、スキーマ図内を移動します。
4. この読み取り専用画面では次の他のアクションを実行できます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ナビゲーションの概要コントロール | 右下隅にある [概要トグル] アイコン ( アイコン) を選択して、ナビゲーションの概要コントロールのオンとオフを切り替えます。このナビゲーションコントロールでは、次のアクションを実行できます。<br>○ スキーマ図がズームインされている場合は、ビューを表示する四角形をクリックしてドラッグし、図の確認したい部分に焦点を当てることができます。<br>○ [ズームイン] アイコン ( ) を選択してズームインします。<br>○ [ズームアウト] アイコン ( ) を選択してズームアウトします。 |
| テーブルフィールドの表示/非表示 | [テーブルを展開 **(Expand tables)**] トグルはデフォルトでオンになっており、表示されているスキーマテーブル内のすべてのフィールドが表示されます。表示されているスキーマテーブル内のフィールドを非表示にするには、[テーブル |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | を展開 **(Expand tables)]** を選択してオフに切り替えます。 |
| テーブルの表示/非表示 | [選択済みアイテム **(Items selected)]** メニューを使用して、スキーマ図に表示されるアプリケーションテーブルと非アプリケーションテーブルのリストを表示します。テーブル名を選択して選択チェックマークを削除すると、テーブルが図に表示されなくなります。テーブルを表示するには、テーブル名をもう一度選択してチェックマークをオンに戻します。 |
| フィールドオプションの設定 | [フィールドオプション **(Field options)]** メニューを使用して、スキーマ図でのフィールドの表示方法を制御します。<br>○ スキーマテーブル内の拡張フィールドを表示するには、[拡張フィールド] を選択します。<br>○ スキーマテーブルに表示される各フィールドのフィールドタイプを表示するには、[フィールドタイプ] を選択します。 |
| グループフィールド | 表示されているテーブル内のフィールドをグループ化するには、[フィールドのグループ化 **(Group fields by)]** メニューを使用します (タイプ別にフィールドをグループ化するなど)。次のグループ化オプションから選択します。<br>○ グループなし<br>○ 拡張済み<br>○ 参照<br>○ タイプ |
| ソートフィールド | 表示されているテーブル内のフィールドをソートするには、[フィールドのソート **(Sort fields)]** メニューを使用します。次のソートオプションから選択します。<br>○ アルファベット順 (A ~ Z)<br>○ アルファベット順 (Z ~ A) |
| 凡例を表示 | [凡例を表示 **(View legends)]** を選択して、表示されたスキーマ図を解釈するための情報を表示します。 |
| テーブル固有のオプション | テーブルの [他のオプション] アイコン (⋮) を選択して、上記のトップレベルのオプションと同様に、選択したテーブルのフィールドの表示、グループ化、またはソートの方法を制御します。 |
| テーブルビルダー で表示 | [ビューテーブル] アイコン (↗) を選択して、選択したテーブルを テーブルビルダー で表示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## テーブルビルダー でのデータのプレビュー

テーブル列を編集した後のテーブルの外観を確認します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：なし

### このタスクについて

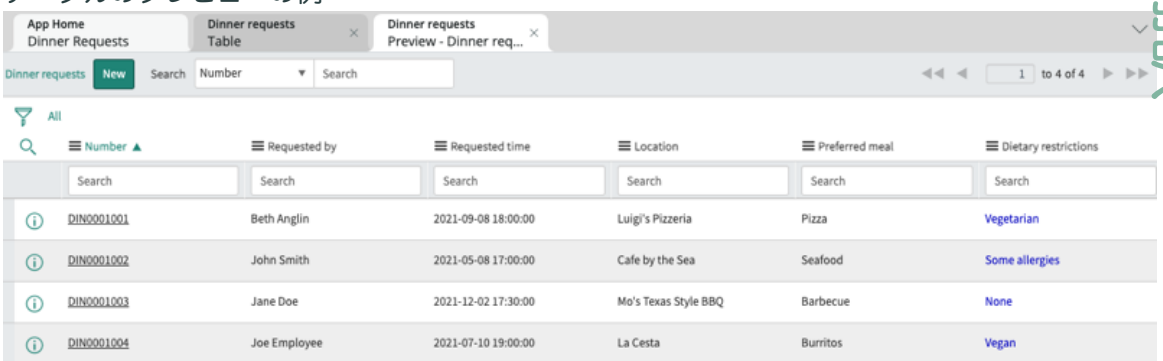
テーブルビルダー 内の各行はテーブルの列を表します。テーブルをプレビューすると、列が適切な場所でどのように表示されるかを確認できます。テーブルでのレコード作成のエクスペリエンスをテストすることもできます。

> **注:**
> 編集しているテーブルには、1 つ以上の関連付けられているロールが必要です。そうでない場合は、プレビューが無効となります。

### 手順

1. [データ] タブで、[プレビュー] を選択します。
2. 新しいタブで、次の例のようにテーブルのプレビューを確認します。

テーブルのプレビューの例




### 次のタスク

テーブルが予想どおりに機能しない場合は、テーブルビルダー で編集を続行します。その後、テーブルを再度プレビューします。

## テーブルビルダー でのテーブルの削除

アプリケーションからテーブルを削除して、それ以降アプリダッシュボードに表示されないようにします。

### 始める前に

> **注:**
> 既存の子テーブルをすべて削除するまで、親テーブルを削除することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：ユーザーには **sys_db_object** に対する canDelete アクセス権、または AES ユーザーロールと委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. [データ] タブに移動します。
2. [メニュー] アイコン (•••) を選択し、[テーブルを削除] を選択します。
3. ダイアログボックスに、「削除」と入力してから、[削除] を選択します。
4. [保存] を選択します。

### タスクの結果

このテーブルは、アプリダッシュボードで使用できなくなります。

## テーブルビルダー でのテーブルプロパティの編集

テーブルビルダー を使用してテーブルを拡張可能にしたり、レコード数を追加したりできるように、テーブルラベルなどのテーブルプロパティやその他の設定を変更します。

### 始める前に

必要なロール：なし

> **注:**
> ユーザーには *sys_db_object* への canWrite アクセス権、または AES ユーザーロールと委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

テーブルプロパティを編集すると、テーブルのラベルを変更したり、テーブルを拡張可能にしたり、レコード番号を追加したりすることができます。アプリケーションのアクセス設定を設定することもできます。

テーブルを拡張可能にすると、新しいテーブルを有効にして自分のテーブルから列を共有できます。たとえば、テーブルに「オフィスの場所」列を作成した場合、新しいテーブルでも「オフィスの場所」列を使用できます。テーブル拡張の詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

レコード番号を追加すると、新しいテーブルエントリごとにトラッキング番号が自動的に作成されます。たとえば、出張要求テーブルへの新しいエントリは、TRV1234567 のようなレコード番号を取得します。この番号を使用すると、テーブルレコードをより簡単に検索できます。

アプリケーションのアクセス設定によって、あるアプリケーションのスクリプトオブジェクトが別のアプリケーションのテーブルにアクセスできるかどうかが決まります。これらのスクリプトオブジェクトに、テーブルのレコードを読み取り、 作成、 更新、または削除するためのアクセス権を付与できます。または、他のアプリケーションからのテーブルへのアクセスを無効にすることもできます。アプリケーションのアクセス制御の詳細については、「テーブルの設計時と実行時の設定」を参照してください。

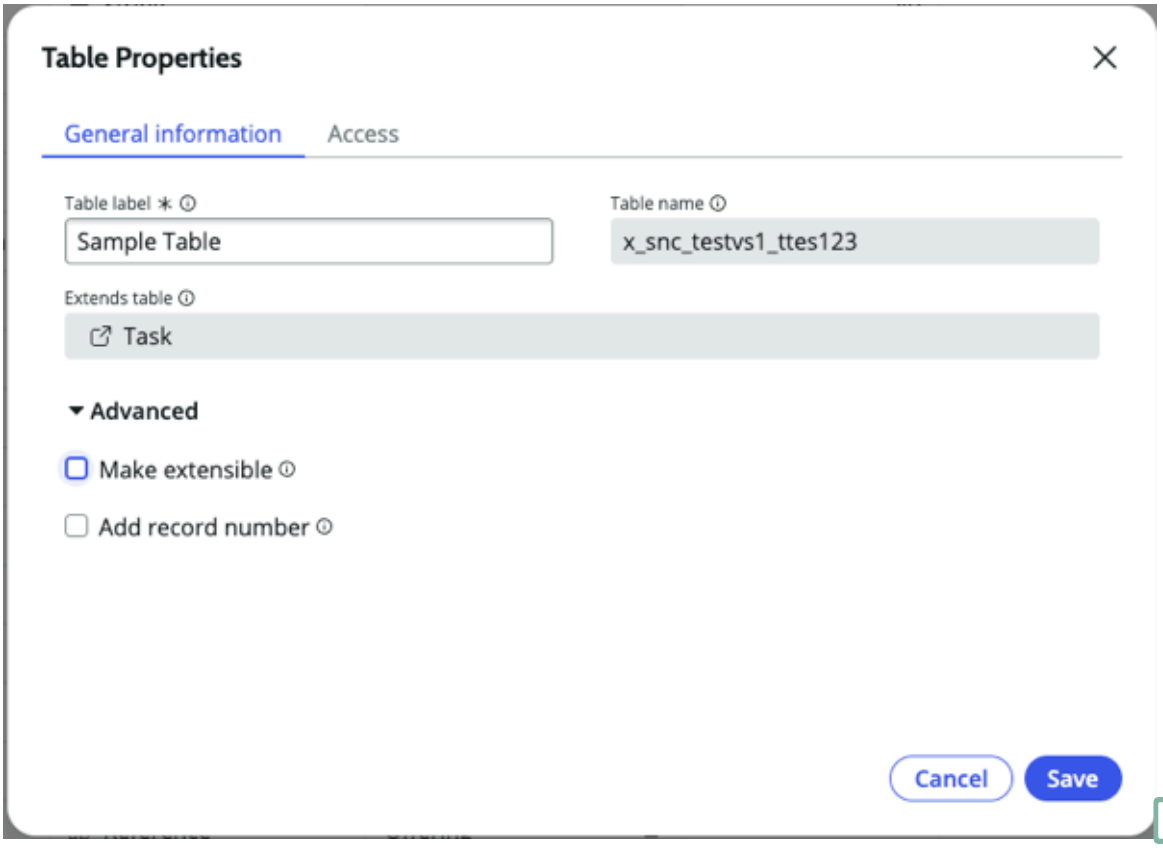
### 手順

1. [データ] タブに移動します。
2. [プロパティ] を選択します。
3. 次の例のように、表示されたダイアログボックスで、テーブルプロパティを更新します。
   これらのプロパティの詳細については、「テーブルのプロパティ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルプロパティの編集




4. ダイアログボックスを閉じるには、[保存] を選択します。
5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー のフォーム

テーブルビルダー の [フォーム] タブでは、フォームエディターを使用して、ユーザーのさまざまなフォームビューを視覚的に作成、設定、カスタマイズできます。定義したビューには、ユーザーがそのフォームまたはリストを開いたときに表示される要素が含まれます。

## 概要

フォームビューは、ユーザーがフォームまたはリストを開いたときにユーザーに表示される要素を定義します。各フォームにはデフォルトビューがありますが、ユーザーのグループごとに複数の異なるフォームビューを作成する必要が生じることもあります。

テーブルビルダー では、データを入力したりフォームを表示したりするさまざまなユーザー向けに、フォームの複数のビューをカスタマイズできます。どのユーザーのデフォルトのフォームビューもカスタマイズできます。

フォームまたはリストを構成するときは、次の主要な領域を探索します。

- フォームビューの選択
- すべてのフォームビューリスト
- フォームレイアウト
- フォームのフィールド
- フォーム注釈

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フォーマッター
- 埋め込みリスト

## 基本的なフォームのナビゲーション

[フォーム] タブは、次の 4 つの主要な領域で構成されています。

- 上部ナビゲーションメニュー
- [フォーム要素を追加] パネル
- フォームエディター
- 構成パネル

次の表は、テーブルビルダー の [フォーム] タブ内のその他の基本的なナビゲーション要素の一部のリストを示しています。

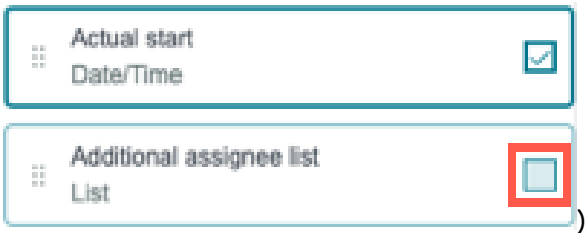
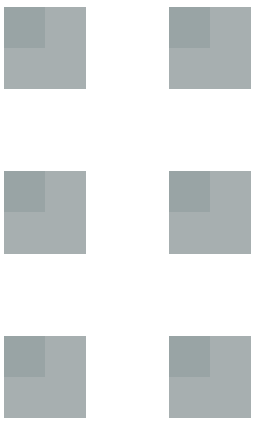
[フォーム] タブのナビゲーション要素

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| フォームの [他のアクション] リスト<br>( ) | [フォーム] タブの [他のアクション] リスト (垂直の省略記号) を使用すると、次のアクションをすばやく実行できます。<br>• 新しいフォームビューを追加<br>• 選択したフォームビューを複製<br>• 関連リストを構成<br>• UI アクションを構成<br>• [すべてのフォームビュー] を選択して、すべてのフォームビューのフィルター可能でソート可能なリストに移動します。「すべてのフォームビューリスト」を参照してください。<br><br>エディターで加えられたフォームへの変更は、選択したビューにコミットされます。 |
| フォームビューリスト<br>( ) | このリストからフォームビューを選択するか、[他のアクション] メニュー (垂直の省略記号) を使用してビューを追加します。エディターで加えられたフォームへの変更は、選択したビューにコミットされます。 |
| PDF エクストラクター<br>( ) | 選択したデータテーブルに PDF が関連付けられている場合は、この要素を選択して PDF エクストラクターツールを起動し、PDF を表示します。「PDF を使用してデータテーブルを作成する」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

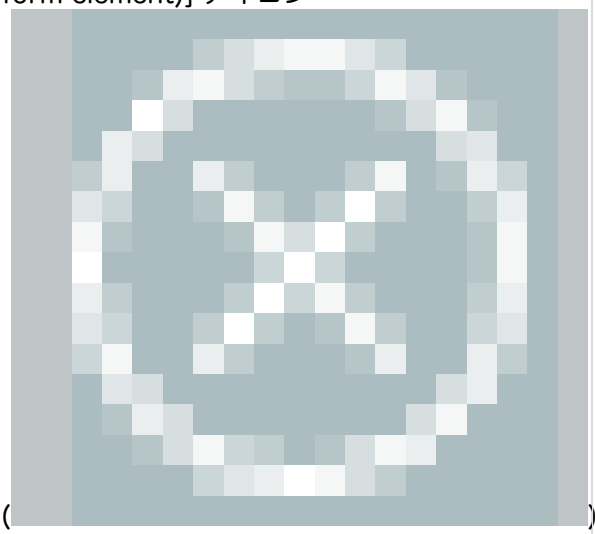
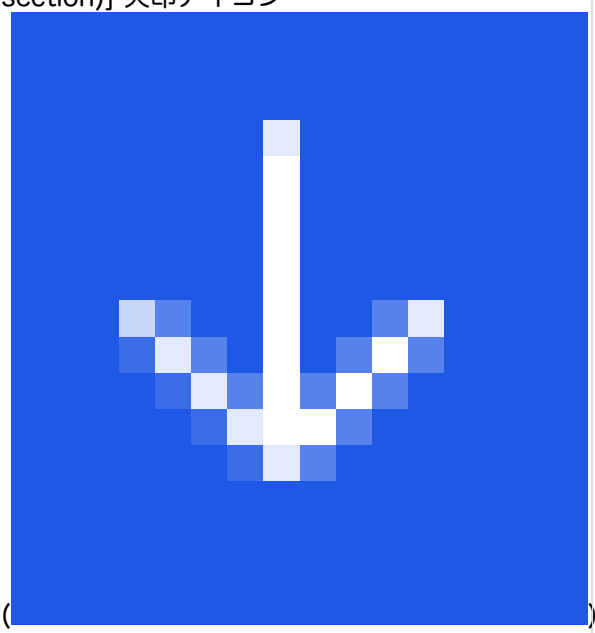
[フォーム] タブのナビゲーション要素 (続く)

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。 |
| フォーム要素検索バー<br>( ) | フォーム要素のリストをフィルタリングするには、ここにキーワードを入力します。 |
| 複数選択チェックボックス<br>(  ) | [フォーム要素を追加] パネルでフォーム要素をポイントしたときに、複数のフィールドを一度に選択してフォームエディターにドラッグしたい場合は、このオプションを選択できます。 |
| [フォーム要素を追加] アイコン ( ) | フォーム要素やセクションをポイントするときにこのアイコンを選択すると、既存の要素の上または下に新しいセクションや要素を追加できます。 |
| [要素移動] アイコン<br>  <br>( ) | フォーム要素をポイントすると、このアイコンが左端に表示されます。このアイコンを選択し、要素をドラッグして目的の場所に移動します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フォーム] タブのナビゲーション要素 (続く)

| ナビゲーション要素 | 説明 |
| --- | --- |
| [フォーム要素の削除 (Delete form element)] アイコン<br>(  ) | エディターでフォーム要素をポイントするときにこのアイコンを選択すると、フォームビューからそのフォーム要素を削除できます。 |
| [セクションを移動 (Move section)] 矢印アイコン<br>(  ) | フォームセクションを選択すると、上向き矢印または下向き矢印を選択して、フォームビュー上で上下に移動できます。 |
| [セクションを削除] アイコン ( ) | フォームセクションを選択するときにこのアイコンを選択すると、フォームビューからセクションを削除できます。 |
| [パネルを開く (Open panel)] アイコン ( )<br>[パネルを閉じる] アイコン ( ✕ ) | [パネルを開く (Open panel)] アイコンを選択すると、パネルが右側に展開されます。[パネルを閉じる] アイコンを選択すると、パネルが折りたたまれます。 |

## フォームビューの選択

フォームエディターのフォームビューリストから、作業するフォームビューを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[フォーム] タブの [他のアクション] メニューからフォームビューを選択することもできます。

「テーブルビルダー でのフォームビューの選択」を参照してください。

## すべてのフォームビューリスト

[フォーム] タブの右側にある [他のアクション] メニューから [すべてのフォームビュー] を選択して、フォームビューカードのフィルタリング可能なリスト (垂直の省略記号) を参照します。このページでは、移動するフォームビューが多数ある場合に、複雑なフィルタリングとソートを作成できます。

目的のフォームビューのリストが大きい場合は、次のオプションがあります。

すべてのフォームビューリスト

| オプション | ステップ |
| --- | --- |
| 検索 | [検索] ボックスにキーワードを入力します。入力すると、カードのリストがフィルタリングされます。 |
| フォームビューをソート | ソートリストからオプションを選択して、フォームビューカードをソートします。<br>• フォーム名 (昇順)<br>• フォーム名 (降順)<br>• 更新者 (昇順)<br>• 更新者 (降順)<br>• 更新日時 (最近から最後)：デフォルトのオプション<br>• 更新済み (最後から最近) |
| フィルター基準を設定してフォームをフィルターする | **1.** [フィルター] アイコン (▽) を選択します。<br>**2.** AND/OR ロジックを含むフィルター条件基準を追加します。<br>**3.** 条件を追加するには、**[+** 新しい条件セット] を選択します。<br>**4.** [適用] を選択します。 |

## フォームレイアウト (セクション)

ビューは、表示するデータ要素をグループ化するセクションで構成されています。

複数のセクションを追加し、各セクションのレイアウトを 1 列または 2 列に変更できます。セクションでは、フォームビューに表示するデータ要素をグループ化できます。これらの要素には、フォームフィールド、注釈、フォーマッター、埋め込みリストが含まれます。

「テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### フォームのフィールド

テーブルビルダー でテーブルを選択すると、利用可能なフィールドがフォーム要素パネルに表示されます。テーブルのフィールドを作成したり、フィールドとそのプロパティを設定したりすることができます。

これらのフィールドをフォームエディターにドラッグすると、選択したフォームビューにこれらのフィールドを視覚的に配置できます。

「テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加」を参照してください。

「テーブルビルダー フォームエディターでのフィールドプロパティの変更」を参照してください。

### フォーム注釈

フォーム注釈は、テキストの行や段落など、フォームに関する追加情報です。

たとえば、フォームの特定のセクションに説明テキストを追加する必要が生じる場合があります。テーブルビルダー を使用すると、情報の入力方法に関する説明を画面上に表示するビューに、フォーム注釈を追加できます。

「テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成」を参照してください。

### フォーマッター

フォーマッターは、選択したテーブルレコード内のフィールドではなく、情報を表示するために使用されるフォーム要素です。たとえば、ユーザーが表示されたフォームにコメントを追加できる [コメント] フィールドを表示したい場合があります。

テーブルビルダー を使用すると、表示されているフォーマッターをフォームエディターに視覚的にドラッグして配置できます。

「テーブルビルダー でのフォーマッターの追加」を参照してください。

### 埋め込みリスト

埋め込みリストを使用して、選択した関連リストのデータをフォームに表示できます。関連リストは、現在のレコードと関係のあるテーブル内のレコードを表示します。たとえば、[問題] テーブルを参照するフォームビューで、選択した問題によって影響を受ける場所のリストを表示したい場合があります。

テーブルビルダー を使用すると、フォーム要素パネルの [埋め込みリスト] タブから、フォームエディターにリストを視覚的にドラッグして配置できます。

埋め込みリストをフォームに追加すると、ユーザーはフォームから移動せずに、関連リストを表示または編集できます。リスト内のデータの変更は、ユーザーがフォームを保存するときに保存されます。

「テーブルビルダー での埋め込みリストの追加」を参照してください。

#### テーブルビルダー でのフォームビューの選択

テーブルビルダー でフォームユーザーの既存のビューを選択するか、ビューを複製するか、まったく新しいビューを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

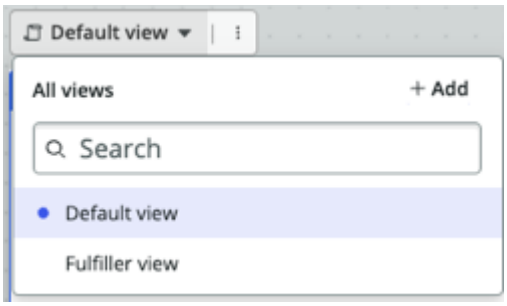
**注:**
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

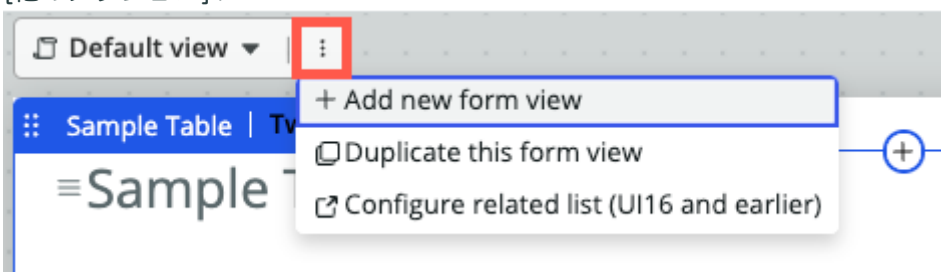
1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
   [デフォルトビュー] が選択されています。

   ビューリスト

2. ビューリストを使用して選択したデフォルトのビューを変更するか、別のビューを選択できます。ビューを追加するか、[他のアクション] メニューから他のフォームビューアクションを選択することもできます。

   [他のアクション] メニュー

   - ビューリストから [新しいフォームビューを追加] をクリックするか、[他のアクション] ( ⋮ ) メニューからオプションを選択して、カスタマイズする新しいビューを追加します。
   - 既存のビューを複製してカスタマイズするには、ビューを選択し、[他のアクション] ( ⋮ ) メニューから [このフォームビューを複製] を選択します。
   - [他のアクション] ( ⋮ ) メニューからこのオプションを選択して、選択したフォームビューの関連リストを設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> [フォーム] タブの右側にある [他のアクション] リストからビューを選択するか、[すべてのフォームビュー] リストに移動して、フォームビューの大きなリストをフィルタリングしてソートすることもできます。「すべてのフォームビューリスト」を参照してください。

3. ビューを選択すると、次の方法でフォームビューを変更できます。
   - フォームにフィールドを追加します。「テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加」を参照してください。
   - フォーム (セクション) のレイアウトをカスタマイズします。詳細については、「テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。
   - フォームにデータを表示するフィールド以外の要素を追加します。詳細については、「テーブルビルダー でのフォーマッターの追加」を参照してください。
   - 説明テキストまたはその他のテキストをフォームに追加します。詳細については、「テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成」を参照してください。
   - フォームに関連リストを追加します。詳細については、「テーブルビルダー での埋め込みリストの追加」を参照してください。

> **注:**
> フォームに表示される要素をカスタマイズするには、「テーブルビルダー のフォーム 」を参照してください。

## テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ

テーブルビルダー でフォームビューをカスタマイズして、ユーザーに表示されるフォームの外観を視覚的に設計します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

> **注:**
> フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. 次のアクションを実行して、フォームエディターに表示されるフォームレイアウトをカスタマイズします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. フォーム内のセクションを再配置するには、セクションヘッダーでセクションを選択してフォーム上の目的の場所にドラッグするか、上下の矢印アイコンを使用します。
5. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加

テーブルビルダー を使用して、フォームレイアウト内でフィールドを視覚的に追加および配置して、要件に合うフォームを作成します。

#### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

**注:**
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### このタスクについて

#### 手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. 選択したテーブルの既存のフィールドのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [フィールド] を選択します。

   **注:**
   フォームエディターの既存の要素の上にある [追加] (⊕) アイコンを選択して、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. 次のいずれかのアクションを実行して、選択したフォームビューに表示されるフィールドをカスタマイズします。

   **注:**
   特定のフィールドタイプは コア UI でのみサポートされています。フィールドには、サポートされていないタイプを示すための感嘆符アイコン (!) フラグが表示されます。

5. **[Save** (保存)] を選択します。

### テーブルビルダー フォームエディターでのフィールドプロパティの変更

テーブルビルダー の [フォーム] タブ内からフォームビューでユーザーに表示するフィールドの基本的なフィールドプロパティを変更します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

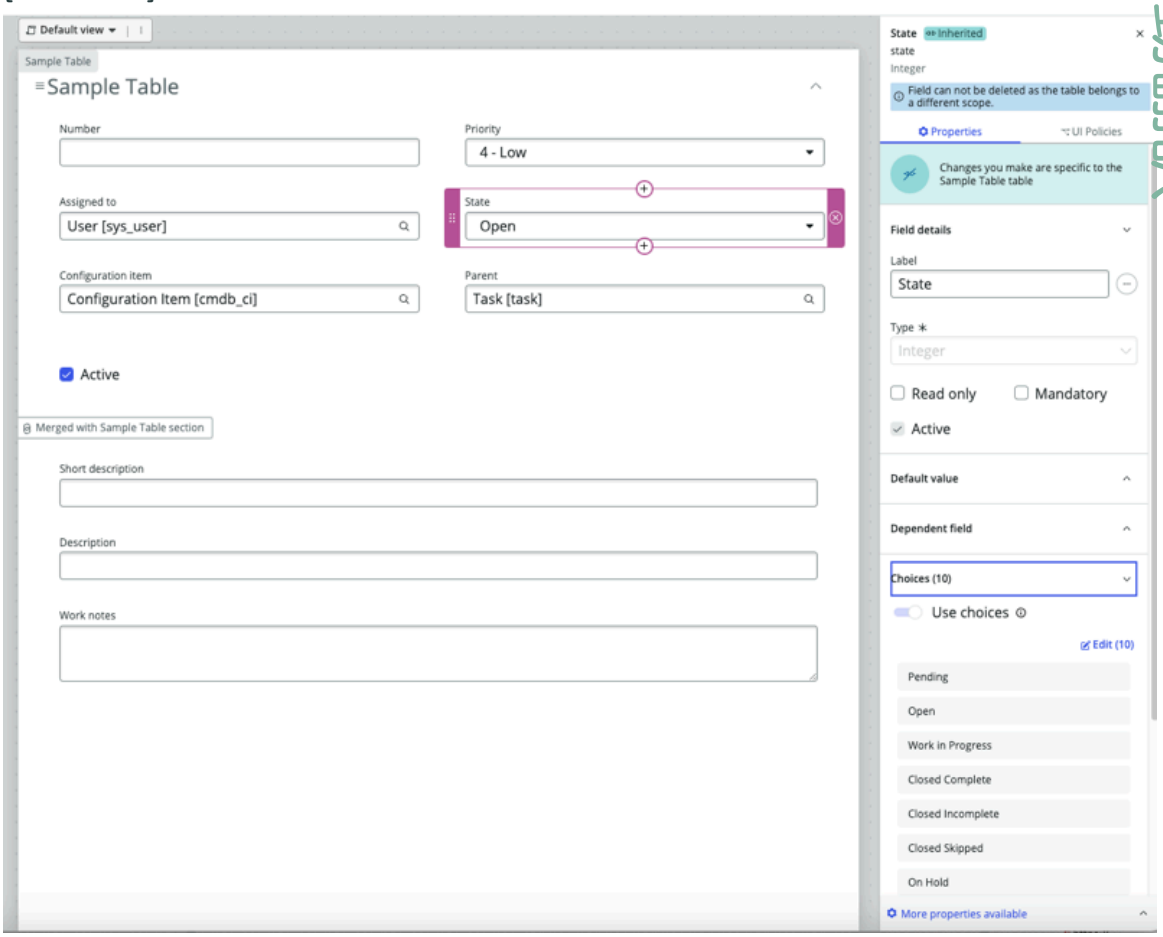
> **注:**
> フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [フォーム] タブで、作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
2. フォームエディターで、フィールドを選択してハイライト表示します。
   次の例では、右側のパネルに [プロパティ] タブが表示されています。このタブには、選択したフィールドの基本プロパティが表示されます。

[プロパティ] タブ




3. 必要に応じて、選択したフィールドの基本的なフィールドプロパティを編集します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示されるセクションは、フィールドタイプによって異なります。これらのフィールドの説明については、「テーブルビルダー のフィールド構成」を参照してください。

注:
[プロパティ] タブで、[その他のプロパティを使用] を選択して、選択したフィールドの完全な辞書エントリを起動します。

4. 選択したフィールドに設定されている UI ポリシーを表示してそのフィールドを編集するには、**[UI ポリシー]** タブを選択します。
ポリシーとプロパティの詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

## テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成

テーブルビルダー で、フォーム注釈を使用して、フォームに説明テキストやその他の設計要素を追加します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注:
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. フォームビューに追加できる使用可能なコンポーネントのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [コンポーネント] を選択します。

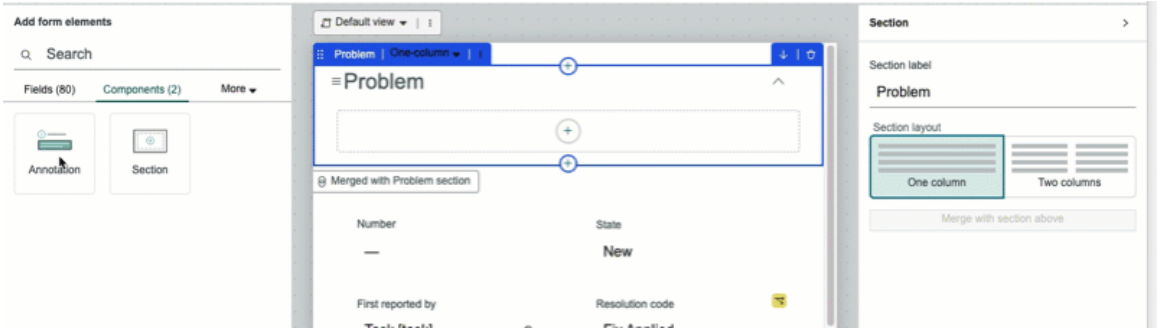
注:
また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] (⊕) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. 次の例のように、[注釈] 要素を選択し、フォームエディター内の注釈テキストを配置する場所にそれをドラッグします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注釈の追加




**5.** [注釈タイプ] を選択します。

**6.** [注釈テキスト] のオプションを選択します。

**7.** [注釈] パネルに表示するフィールドに、任意の注釈テキストを入力します。

**8.** [保存] を選択します。

## テーブルビルダー でのフォーマッターの追加

テーブルビルダー にフォーマッターを追加することで、フィールド以外の情報を表示するフォーム要素を追加できます。たとえば、ユーザーが表示されたフォームにコメントを追加できる [コメント] フィールドを表示したい場合があります。

### 始める前に

**注:**
フォーマッターは コア UI 以前でのみサポートされています。

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

**注:**
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

**1.** テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。

**2.** 作業するビューを選択します。
フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。

**3.** フォームビューに追加できる利用可能なコンポーネントのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [フォーマッター] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] (⊕) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. フォーマッターを選択し、フォームエディター内の配置場所にドラッグします。

注:
フォーム内のフォーマッターは コア UI 以前のインターフェイスでのみサポートされています。

フォーマッターをフォームに追加する方法については、「フォーマッター」を参照してください。

5. [保存] を選択します。

### テーブルビルダー での埋め込みリストの追加

テーブルビルダー を使用して埋め込みリストを追加して、フォーム上の選択した関連リストのデータを表示します。関連リストは、現在のレコードと関係のあるテーブル内のレコードを表示します。たとえば、[問題] テーブルを参照するフォームビューで、選択した問題によって影響を受ける場所のリストを表示したい場合があります。

#### 始める前に

注:
埋め込みリストは、コア UI 以前でのみサポートされています。

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注:
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. フォームビューに追加できる埋め込みリストのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで、[埋め込みリスト] を選択します。

注:
また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] (⊕) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 埋め込みリストを選択してから、それをフォームエディター内の配置場所にドラッグします。

   **注:**
   フォーム内の埋め込みリストは、コア UI 以前のインターフェイスでのみサポートされています。

   埋め込みリストをフォームに追加する方法については、「フォーム内へのリストの埋め込み」を参照してください。

5. [保存] を選択します。

### フォームのプレビュー

テーブルビルダー でフォームをプレビューして保存します。

#### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

**注:**
フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. テーブルビルダー にアクセスします。
   - フォームの表示については、「UI ビルダー から テーブルビルダー を起動」を参照してください。
2. [フォーム] タブを選択します。
3. フォームビューを選択します。
4. 必要に応じてフォームビューをカスタマイズします。
5. [保存] を選択して変更を保存します。

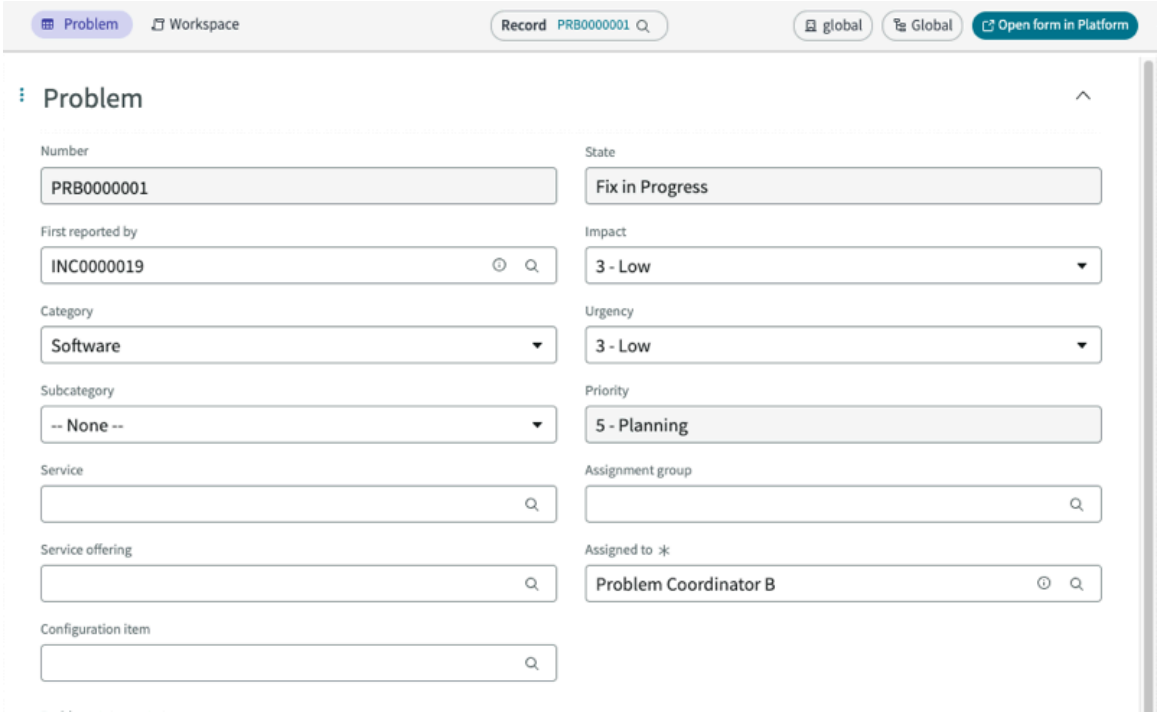
   **注:**
   変更を保存すると、[元に戻す] 機能を使用して元に戻すことはできません。[元に戻す] アイコン ( ) はグレー表示されます。

6. [プレビュー] を選択して、保存した変更を確認します。
   [プレビュー] ウィンドウにフォームのレコードが表示されます。例では、ワークスペースフォームビューが表示されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースフォームビューのプレビュー




7. 変更を確認するときに、次のいずれかのアクションを実行すると、フォームがユーザーにどのように表示されるかを理解しやすくなります。
   - フォームのプレビュー時に、[新規レコード] アイコン ( ) をクリックして、フォームに入力する新しいレコードを検索できます。これにより、レコードが存在しない場合は新しいレコードを追加できるため、フォームの外観を実際に確認できます。
   - フォームのプレビュー時に、[プラットフォームでフォームを開く] アイコン ( Open form in Platform ) をクリックすると、Now Platform でフォームを開くことができます。
8. 確認が完了したら、ブラウザーウィンドウを閉じます。

### テーブルビルダー でのポリシーとルール

ポリシーとルールは、ロールとエントリに基づくユーザーへの情報の表示方法と、テーブルビルダーで構築されたテーブルとフォームにアクセスできるユーザーを定義します。

## ポリシーとルールを操作するためのセクション

テーブルビルダー の [ポリシーとルール] タブにはいくつかのセクションがありますが、テーブルビルダー 内の UI ポリシーのみを編集できます。他のセクションは読み取り専用で、Now Platform の他の部分でコンテンツを管理するためのリンクが含まれています。

管理 **UI** のポリシーおよびルールセクション

| セクション | 説明 | テーブルビルダー 内で編集可能 |
|---|---|---|
| UI ポリシー | フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。 | はい。 |
| アクセス制御ルール | 適合するロール、条件、スクリプト基準に基づいて、指定され | なし。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理 **UI** のポリシーおよびルールセクション (続く)

| セクション | 説明 | テーブルビルダー 内で編集可能 |
|---|---|---|
| | たリソースへのアクセスを制御します。 | |
| クライアント スクリプト | 定義された基準に基づいてフォームフィールドの表示方法を制御するスクリプトを作成します。 | なし。 |
| ビジネスルール | ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。 | なし。 |
| ワークスペースビュールール | ユーザーが基準に基づいてワークスペースを表示する方法を制御するルールを定義します。 | なし。 |

テーブルビルダー の外部でルールまたはポリシースクリプトを管理するには、エントリの を選択します。または、[ポリシーとルール] タブの各セクションの [完全なリスト] リンクを選択することで、テーブルビルダー の外部でルールとスクリプトの完全なリストを表示できます。

- 完全な **ACL** リスト
- 完全なクライアントスクリプトリスト
- 完全なビジネスルールリスト
- 完全なワークスペースビュールールリスト

## テーブルとフォームの **UI** ポリシー

UI ポリシーを設定し、ロールとユーザー入力に基づいてフォームのビジュアル化を調整します。

たとえば、UI ポリシーを使用して、ユーザーのロールに応じてフォームのフィールドを読み取り専用または必須にしたり、特定のフィールドを非表示にしたりできます。基本的な UI ポリシーではスクリプティングは不要です。より高度なアクションの場合は、[スクリプトを実行] オプションを使用します。

クライアントスクリプトを使用してこれらすべてのアクションを実行することもできますが、ロード時間を短縮するために、可能であれば UI ポリシーを使用してください。

### テーブルビルダー での **UI** ポリシーの作成

テーブルビルダー で UI ポリシーを設定し、ロールとユーザー入力に基づいてフォームの表示方法を調整します。

#### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

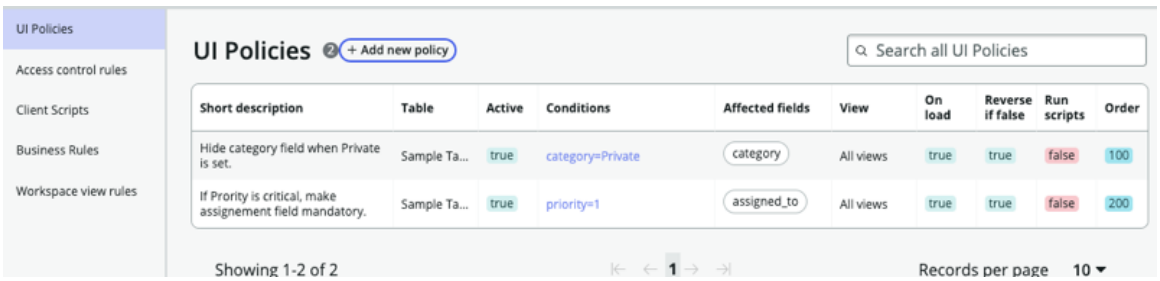
必要なロール：personalize_rules または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

自分が所有するアプリケーションについてのみ UI ポリシーを作成および編集できます。アプリケーションスコープの詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。

### 手順

1. テーブルビルダー 画面で、作業するテーブルを選択します。
2. [ポリシーとルール] タブを選択します。
   または、フィールドを選択すると表示される右ペインの テーブルビルダー の [フォーム] タブで、フィールドの UI ポリシーを直接追加することもできます。
3. [UI ポリシー] セクションを選択して、UI ポリシーのリストを表示します。
4. [新規ポリシーを追加] リンクを選択して、ポリシーの詳細を表示します。
   - リンクが非アクティブな場合は、[フォーム] タブで作業しているスコープを変更する必要があります。
   - フィールドにポリシーがあり、ビューに表示される場合は、次の例のようにフィールドの上隅にアクティブなアイコンが表示されます。




5. フォームの [ポリシーの詳細] セクションのフィールドに入力します。
   フィールド定義の詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
6. [これらの条件が満たされている場合] セクションで、満たされた場合に Condition Builder を使用して UI ポリシーが適用される条件を指定します。
   複数の条件セットを追加するには、[新しい条件セット] を選択します。
7. [以下を実行 (Do the following)] セクションで、条件が満たされたときに実行する必要があるフィールドアクションを作成します。
8. ポリシーの追加を終了するには、**[UI** ポリシーの追加] を選択します。

### タスクの結果

UI ポリシーを追加した後、スクリプトとその関連リストアクションを設定できます。クライアントスクリプトと UI ポリシーの詳細については、「UI ポリシーのクライアントスクリプト」を参照してください。

## テーブルビルダー での **UI** ポリシーの変更

UI ポリシーを編集して、テーブルビルダー でのロールとユーザー入力に基づくフォームの表示方法を変更します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_rules または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
自分が所有するアプリケーションについてのみ UI ポリシーを作成および編集できます。アプリケーションスコープの詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。

手順

1. [UI ポリシー] セクションの [ポリシーおよびルール] タブで、編集するポリシーを選択します。
   フィールドを選択すると表示される右側のペインの **[UI** ポリシー] タブでフォーム内のフィールドの UI ポリシーを選択し、直接編集することもできます。
2. 必要に応じて UI ポリシーのフィールドと属性を変更します。
   フィールド定義の詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
3. **[UI** ポリシーの更新] をクリックします。

## テーブルビルダー のフロー

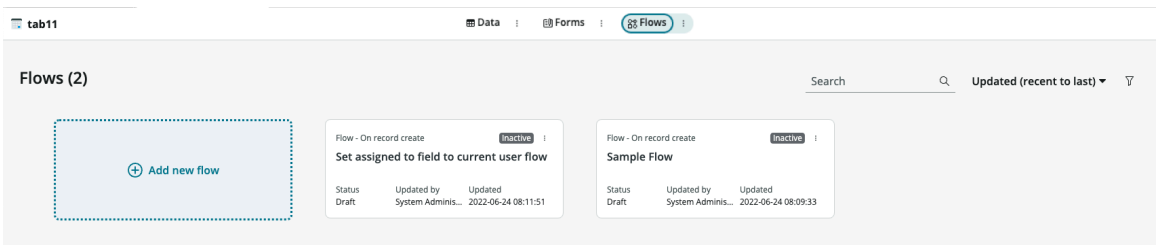
テーブルビルダー 内に統合されている フローデザイナー 機能を使用して、テーブルのレコードベースのフローを管理できます。これらのフローは、[フロー] タブを使用して管理できます。

フローデザイナー は、プロセスオーナーが作業を自動化できる Now Platform® 機能です。コード化することなく、再利用可能なコンポーネントから複数手順のフローを構築します。

テーブルビルダー 内の [フロー] タブでは、選択したデータテーブルのレコードベースのフロー (テーブルレコードの作成/更新のいずれかまたは両方が実行されたときにトリガーされるアクション) を表示して操作できます。

### [フロー] タブ

次の図は、テーブルビルダー のフローカードを示しています。




## レコードベースのフローの検索

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、選択したテーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローのリストを検索およびフィルタリングします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

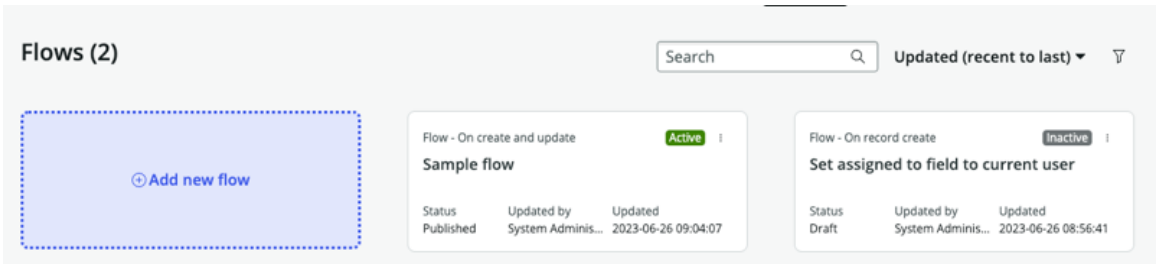
- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   選択したテーブルによってトリガーされたフローがフローカードとしてリストされます。

フローカードリスト




3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。

目的のフローカードの検索

| オプション | ステップ |
|---|---|
| 検索テキスト | [検索] ボックスにキーワードを入力します。入力すると、カードのリストがフィルタリングされます。 |
| フローのソート | リストのソートからオプションを選択して、フローカードをソートします。<br>**a.** フロー名 (昇順)<br>**b.** フロー名 (降順)<br>**c.** 更新者 (昇順)<br>**d.** 更新者 (降順)<br>**e.** 更新日時 (最近から最後)：デフォルトのオプション<br>**f.** 更新済み (最後から最近) |
| フィルター基準を設定してフローをフィルターする | **a.** フィルターアイコン (▽) を選択します。<br>**b.** AND/OR ロジックを含むフィルター条件基準を追加します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | ステップ |
| --- | --- |
| | **c.** 条件を追加するには、**[+** 新しい条件セット] を選択します。<br>**d.** [適用] を選択します。 |

### 次のタスク

- フローカードを選択し、フローデザイナー を使用して新しいフローを編集します。「レコードベースのフローの変更」を参照してください。
- 既存のフローから新しいレコードベースのフローを作成します。「レコードベースのフローのコピー」を参照してください。
- フローを削除します。「レコードベースのフローの削除」を参照してください。

## レコードベースのフローの追加

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、テーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローを追加します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
3. [新しいフローを追加] ボタンを選択します。
4. [新しいフロー] フォームで、新しいフローの次のフィールドに入力します。

[新しいフロー] フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | フローを一意に識別する名前です。この名前からフローの内部名が計算されます。 |
| 説明 | フローの説明です。 |

5. オプション: フローの詳細オプションを入力するには、 [新しいフロー] フォームで [詳細オプションを表示します] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細オプション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 保護 | フローが読み取り専用の場合に選択できるオプション。自分が所有するアプリケーションスコープでフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。 |
| 実行方法 | (Optional) そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。<br><br>個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「OAuth 2.0 資格情報」を参照してください。<br><br>セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、ユーザーのアクセス制御リスト (ACL) 制限によりフローアクションが制限されます。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。また、開始ユーザーによって実行されるフローは、日時形式などのユーザー固有の設定にも従います。<br><br>**注:**<br>受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。 |
| ロールを使用して実行 | フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。 |

6. [続行] を選択します。
7. フローをトリガーするイベントを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| レコードが作成されたとき | 選択したテーブル内でレコードが作成されたときにトリガーされるフローを作成します。 |
| レコードが更新されたとき | 選択したテーブル内のレコードが更新されたときにトリガーされるフローを作成します。 |
| レコードが作成または更新されたとき | 選択したテーブル内でレコードが作成または更新されたときにトリガーされるフローを作成します。 |

作成したフローがフロー図作成ビューに表示されます。「フロー図作成ビュー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [ノードを追加] を選択し、次のいずれかのオプションを選択してフローを変更します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクション | 目的のアクションを選択します。フローデザイナー には、フローとサブフローで使用可能な Flow Designer actions が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加するアクションを作成できます。Integration Hub プラグインと Spokes プラグインは、追加のアクションをインストールします。<br><br>[その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。<br><br>ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。<br><br>**注:**<br>[スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や フローデザイナー のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。 |
| フローロジック | 条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。 |
| サブフロー | 公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。 |

**注:**
または、ビューセレクターから フローデザイナー デフォルトビューを切り替えて、フローデザイナー のそのビューで [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択することもできます。詳細については、「フロー図作成ビュー」を参照してください。

9. フローデザイナー でフローの変更を続行します。

**注:**
アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。

10. [保存] を選択します。
フローデザイナー によって、フロー、トリガー、およびアクションのドラフトが保存されます。

次のタスク
フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

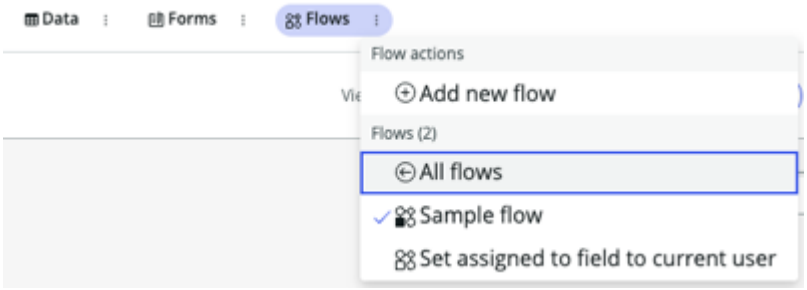
**注:**
アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。アプリケーションのフローを設計、テスト、アクティブ化する方法の詳細については、「Flow Designer」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローの編集後に選択したテーブルに関連するフローの包括的なリストに戻るには、次の例のように、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

すべてのフロー




## レコードベースのフローの変更

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、選択するテーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローを編集します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### このタスクについて

テーブルビルダー の [フロー] タブには、テーブルへのレコードの変更によってトリガーされるフローのリストが表示され、ワークフローをトリガーするレコードテーブルからフローを管理できます。

### 手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。
4. フローカードを選択して、編集するフローを開きます。
5. フローデザイナー を使用してレコードベースのフローを編集します。
   アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> テーブルに関連するフローカードのリストに戻るには、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

6. [保存] を選択します。

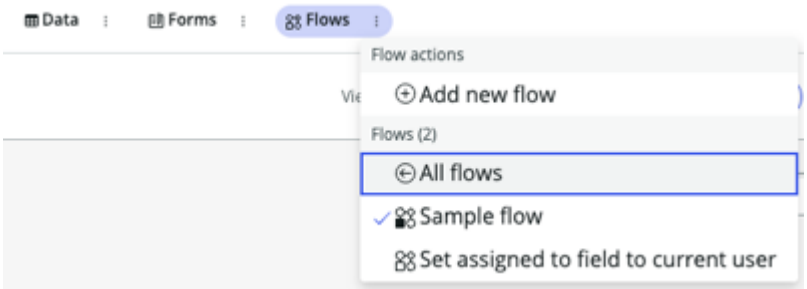
### 次のタスク

フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

> **注:**
> アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。アプリケーションのフローを設計、テスト、アクティブ化する方法の詳細については、「Flow Designer」を参照してください。

フローの編集後に選択したテーブルに関連するフローのリストに戻るには、次の例のように、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

すべてのフロー




## レコードベースのフローの削除

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、レコードベースのフローを削除します。

### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

### 手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 削除するフローの右上隅にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、オプションのリストから [削除] を選択します。
5. 削除の確認ウィンドウで、「DELETE」と入力し、[削除] を選択します。
6. [保存] を選択します。

### レコードベースのフローのコピー

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、既存のフローから新しいレコードベースのフローを作成します。

#### 始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメイン分離と テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

#### 手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。
4. 削除するフローの右上隅にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、オプションのリストから [コピー] を選択します。
5. [このフローのコピーを作成] ウィンドウが表示されたら、既存のフローから作成する新しいフローの名前を入力し、[コピー] を選択します。
6. フローデザイナー を使用して新しいフローを編集します。
   アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。
7. [保存] を選択します。

> **注:**
> フローの編集後にフローのリストに戻るには、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] ( ⋮ ) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

### テーブルビルダー 参照

参照トピックには、テーブルビルダー を使用して設定できるフォームとテーブルの要素に関する追加情報が記載されています。

### テーブルビルダー のテーブルのプロパティ

テーブルビルダー を使用すると、さまざまなテーブルおよびテーブル列のプロパティを変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## テーブル列のプロパティ

次の表は、データテーブルの列で変更できるプロパティの説明を示しています。

テーブル列のプロパティ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 列ラベル | 列の一意のラベル。 |
| 列名 | 列のデータベース名。 |
| タイプ | 列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。<br><br>選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。<br><br>「フィールドタイプ」を参照してください。 |
| 参照 | 列に関連付けられているテーブル。このフィールドは、列タイプが [参照] の場合にのみ適用されます。 |
| 最大長 | ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数。 |
| デフォルト値 | 新しいレコードが作成された後にフィールドに自動的に入力される値。 |
| 表示 | その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)]** 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。<br><br>テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。 |

## テーブルのプロパティ

次の表は、選択したデータテーブルの列で変更できるプロパティの説明を示しています。

テーブルのプロパティ

| オプション | 手順 |
| --- | --- |
| テーブルラベルの変更 | [一般情報] タブで、[テーブルラベル] フィールドを更新します。 |
| テーブルの拡張性を高める | **1.** [一般情報] タブで、 [詳細] を選択します。<br>**2.** [拡張性を高める] チェックボックスをオンにします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルのプロパティ (続く)

| オプション | 手順 |
| --- | --- |
| レコード番号を追加 | **1.** [一般情報] タブで、 [詳細] を選択します。<br>**2.** [レコード番号を追加] チェックボックスをオンにします。<br>**3.** [プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] フィールドを更新して、レコード番号を定義します。 |
| アクセス可能 | **1.** [アクセス] タブを開きます。<br>**2.** [アクセス可能] フィールドで、[すべてのアプリケーションスコープ] または [このアプリケーションスコープのみ] を選択します。 |
| アプリケーションのアクセス制御 | **1.** [アクセス] タブを開きます。<br>**2.** [アプリケーションのアクセス制御] フィールドで、[読み取り]、[作成]、[更新]、または [削除] 選択ボックスを選択して、テーブルに必要なアクセスレベルを指定します。 |

### テーブルビルダー のフィールド構成

テーブルビルダー 内の任意のフィールドの基本的なフィールドプロパティを設定できます。

## フィールドの詳細

[フィールドの詳細] セクションでは、フォームエディターで選択したフィールドの基本的なフィールド要素を設定できます。

フィールドタイプの説明と、使用できるフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

基本的なフィールド プロパティを理解し、テーブルのフィールドの追加とカスタマイズの詳細については、「 テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする」を参照してください。

次の表は、[フィールドの詳細] セクションのフィールドの説明を示しています。

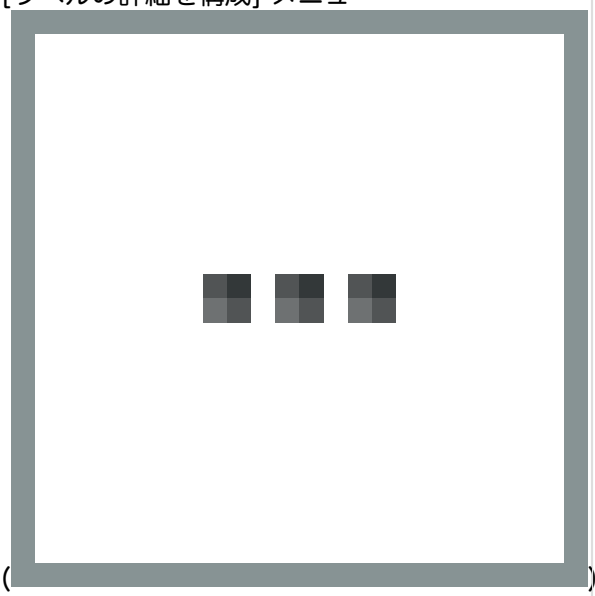
フィールドの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | フォームユーザーに表示されるフィールドの名前。 |
| 有効 | フィールドをアクティブにしてフォームユーザーが表示できるようにするオプション。<br>[アクティブ] を選択解除すると、フィールドが非アクティブ化されます。[アクティブ] が選 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 択されていない場合、フィールドはフォームエディターに表示されません。<br><br>フィールドを再度アクティブ化するには、[データ] タブのフィールド列の左側にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン [⚙] を選択します。[アクティブ] を選択して変更を保存します。 |
| 読み込み専用 | フォームユーザーがフィールドを編集できないようにするために選択できるオプション。 |
| 必須 | ユーザーがフォームへの変更を保存する前にフィールドへのデータ入力を要求するために選択できるオプション。 |
| [ラベルの詳細を構成] メニュー<br>  <br>( ) | フィールドラベルのプロパティ：<br>• ユーザーがフィールドをポイントすると表示される [ツールヒント] プロパティ。<br>• フィールドの複数のインスタンスが存在する場合に、ユーザーがラベルの複数形を入力する必要があることを示す [複数形] プロパティ<br>• フィールドラベルが他の場所にリンクする場合、ユーザーがここに URL を入力する必要があることを示す **[URL]** プロパティ。 |

## デフォルト値

デフォルト値は、新しいレコードの空のフォームのフィールドに自動的に入力されます。または、後からユーザーが新しいレコードを送信するときにフィールドに入力されます (フィールドが空の場合)。デフォルト値は定数として指定するか、スクリプトを使用して生成できます。

フィールドのデフォルト値を定義する方法については、「デフォルトのフィールド値を指定する」を参照してください。

以下の表は、[デフォルト値] セクションのフィールドの説明を示しています。

デフォルト値

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ダイナミックデフォルトを使用 | フィールドに表示されるデフォルト値を設定できる [ダイナミックデフォルト値] フィールドを表示するプロパティ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルト値 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| デフォルト値 | フィールドのデフォルト値を表す文字列または数値。 |
| ダイナミックデフォルト値 | 検索フィールドに入力できるキーワード。その後、ユーザーは、フィールドの目的のデフォルト値を含むフィールドを選択できます。 |

## 関数の定義

関数フィールドは、他のフィールドと定数の単純な計算に基づいて値を生成します。

このセクションは、フィールドを作成しているときに [詳細プロパティ] セクションで [関数フィールド] を選択するとエディターに表示されます。

関数フィールドの定義については、「関数フィールド」を参照してください。

次の表は、[関数の定義] セクションのフィールドの説明を示しています。

関数の定義

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 関数の定義 | フィールドの目的の値を生成する関数式。 |

## 参照

参照修飾子は、参照フィールドで使用可能なレコードを制限します。

参照フィールドの定義については、「参照フィールドタイプ」を参照してください。

次の表は、[参照] セクションのフィールドの説明を示しています。

参照フィールド

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 参照 | 選択したフィールドが参照するデータテーブル。 |
| 参照修飾子を使用 | 修飾子オプション：<br>• ユーザーがシンプルな条件式を構築できるようにする [簡易] オプション。ユーザーは、[参照修飾子] フィールドの下にある [条件を編集] ボタンを選択できます。<br>• ユーザーが [参照修飾子] フィールドを使用して詳細な条件式を構築できるようにする [詳細] オプション。詳細参照修飾子を使用すると、[参照修飾子] フィールドで、インライン暗号化クエリ文字列または JavaScript (実際のコード、または既存のスクリプトインクルードまたはビジネスルールの名前) フィルターを定義できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照フィールド (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • ユーザーが [参照修飾子] フィールドを使用して選択した参照フィールドの条件式を構築できるようにする [動的] オプション。動的参照修飾子を使用すると、ユーザーは動的フィルターを使用して、参照フィールドに対してクエリを実行し、返されたデータセットをフィルタリングできます。 |
| 参照修飾子 | [参照修飾子を使用] フィールドでのユーザーの選択に基づく参照修飾子。 |
| 条件を編集 | ユーザーが [参照修飾子] フィールドにシンプルな条件式を入力できるポップアップウィンドウを起動するためのハイパーリンク。 |

## 依存フィールド

選択肢または参照フィールドは、同じテーブルの別のフィールドに依存して宣言することができます。依存フィールドは、依存フィールドの値に基づいて使用可能な値を制限します。

依存フィールドを使用すると、選択肢がオンになります。フィールドで使用可能な選択肢は、ユーザーが依存フィールドに選択する値によって異なります。

フィールドの依存関係の定義については、「フィールドに依存する」を参照してください。

次の表は、[依存フィールド] セクションのフィールドの説明を示しています。

依存フィールド

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 依存フィールドを使用 | 選択したフィールドでアクティブ化できるフィールドの依存関係。 |
| 依存フィールドを選択 | フォーム上の別のフィールドを選択するリスト。これを使用して、設定するフォームフィールドでユーザーに表示する選択肢を制御できます。 |

## 選択肢

選択リストは、ユーザーが事前定義された選択肢のセットから選択できるフィールドのタイプです。利用可能な選択肢を定義し、任意のリストの動作と外観をカスタマイズできます。選択リストの構成については、「選択リストフィールドタイプ」を参照してください。

[構成] パネルの [選択肢] セクションで [選択肢を使用] を選択し、[編集] または [+追加] アイコンを選択して、選択したフィールドで利用可能な選択肢をカスタマイズします。

次の表は、[選択肢] セクションのフィールドの説明を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢のプロパティ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | リスト内の選択肢についてユーザーに表示されるテキスト。 |
| 値 | 選択肢フィールドの値。 |
| 依存値 | 選択した [依存] フィールドで入力した選択肢にマッピングする値。 |
| ドメイン | 選択肢が存在するドメイン。 |
| 有効 | 選択肢を選択対象として表示するオプション。非アクティブな選択肢はユーザーに表示されません。 |
| オプション | [別のフィールドの選択肢を使用] を選択して、このフィールドに表示される選択肢を別の選択したフィールドの選択肢から複製できるようにするオプション。 |
| 選択肢を次のように表示 | フォームのユーザーに対する選択肢のリストの表示方法を制御するオプション。<br>• [ドロップダウン] オプション。フィールドのデフォルト値を設定する必要があります。<br>**注:** デフォルトが設定されていない場合、[なし] が自動的にデフォルト値になり、ユーザーの選択リストに表示されます。<br>• [「-- なし --」選択のあるドロップダウン] オプション。[なし] がデフォルト値になります。<br>• [提案 (コア **UI** のみ)] オプション。選択肢は提案として表示されます。 |
| フィルター | 選択リストをフィルタリングするオプション。すべての選択肢 (非アクティブな選択肢を含む) を表示するには、[非アクティブな選択肢を表示] を選択します。 |

## 属性

辞書属性は、辞書レコードが記述するテーブルまたは要素の動作を変更します。辞書属性を追加または変更できます。辞書属性については、「辞書属性」を参照してください。

[構成] パネルの [属性] セクションで、[編集] または [+追加] を選択して、選択したフィールドの利用可能な属性をカスタマイズできます。

次の表は、[属性] セクションのフィールドの説明を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

属性プロパティ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 属性 | 利用可能な属性のオプションリスト。利用可能な属性のリストからオプションを選択します。<br><br>使用可能な属性のリストを確認するには、「辞書属性」を参照してください。 |
| 値 | 辞書レコードによって記述されたフィールドの動作を変更するために設定できる属性値。 |

## 計算式

式を使用すると、スクリプトを記述せずに列の値を計算できます。事前定義された式のいずれかを使用するか、2 つ以上の式を組み合わせて列の値を計算できます。事前定義された計算式と例については、「計算式」を参照してください。

[式] セクションで、[編集] または **[+** 追加] を選択して式を編集または追加します。

式のプロパティ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 式エディター | 式を入力および編集できるインターフェイスのようなテキストエディター。 |

### テーブルビルダー の列値の式

事前定義された関数を使用して、スクリプトを記述せずに列の値を計算する式を作成します。事前定義された関数を使用するか、事前定義された既存の関数を使用してネストされた計算式を作成し、列の値タイプを計算します。

## サポートされている演算子

次の比較演算子は、数値タイプの値の場合のみサポートされています。

- = (次の値に等しい)
- <> (次の値と等しくない)
- > (次の値を超える)
- < (次の値未満)
- >= (次の値以上)
- <= (次の値以下)

### 単純な数式関数

単純な数式関数を使用して、数値列に対して基本的な数学計算を実行します。

## 平均

引数の平均値を返します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| AVERAGE(argument 1, argument 2, … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：AVERAGE(1,2,3)

  結果は 2 です。

- 式：AVERAGE(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列と last_name 列の文字数の平均値です。

### DIVIDE

関数が最後の引数に達するまで、最初の引数を次の引数で連続的に除算した後、最終的な商値を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| DIVIDE(argument 1, argument 2 … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：DIVIDE(10,20, 0.25, 10)

  結果は 0.2 です。

- 式：DIVIDE(LENGTH(full_name),2)

  結果は、full_name 列の文字数を 2 で割ったものです。

### INDEXMATCH

指定された引数のセットから最初の非 null 値を取得します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| INDEXMATCH(argument 1, argument 2 , … argument n) | 文字列、数値、関数呼び出し、または変数。 | 数値 |

例：

関数：INDEXMATCH("","," ",2,"string")

結果は 2 です。

### MAX

指定された引数の最大値を返します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| MAX(argument 1, argument 2, … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：MAX(1, -5, 20, 6)

  結果は 20 です。

- 式：MAX(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列または last_name 列のいずれか大きい方の文字数になります。

### 最小

指定された引数の最小値を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| MIN(argument 1, argument 2, … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：MIN(1, -5, 20, 6)

  結果は -5 です。

- 式：MIN(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列または last_name 列のいずれか小さい方の文字数です。

## MULTIPLY

引数の乗算値の合計を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| MULTIPLY (argument 1, argument 2, … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：MULTIPLY(12, 4)

  結果は 48 です。

- 式：MULTIPLY(order, 2)

  結果は、order 列の値を 2 倍したものです。

### 権限

基底値を指数値でべき乗した結果を返します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| POWER(argument 1, argument 2) | 引数 1 が基底値で、引数 2 が指数です。<br>• 基底値：数値または変数<br>• 指数：数値または変数 | 番号 |

例：

- 関数：POWER(3,2)

  結果は 9 です。

- 式： POWER(LENGTH(full_name),2)

  結果は、full_name 列の文字数の 2 乗です。

### SUBTRACT

関数が最後の引数に達するまで、前の引数から次の使用可能な引数を連続的に減算した結果の値を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| SUBTRACT(argument 1, argument 2 … argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数: SUBTRACT(1.15, 0.02, 0.45, -0.85)

  結果は 1.53 です。

- 式: SUBTRACT(LENGTH(full_name), LENGTH(first_name))

  結果は、full_name 列の文字数から first_name 列の文字数を引いたものです。

### 合計

すべての引数の合計を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| SUM(argument 1,argument 2, ... argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：SUM(0.03, -0.02, 1)

  結果は 1.01 です。

- 式：SUM(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列の合計文字数と last_name 列の合計文字数を加算したものです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## COUNTIF

指定された引数セット内の指定された基準に一致する引数の数を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| COUNTIF(argument 1, argument 2, argument n-1, criteria) | • argument 1 … argument n：文字列、数値、関数呼び出し、または変数。<br>• criteria：指定された引数のセットを評価する基準。文字列、数値、関数呼び出し、または変数。 | 数値 |

例：

関数：COUNTIF(2,3,2,"string",2)

結果は 2 です。

## MODE

指定された引数のセットで最も頻繁に繰り返される値を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| MODE(argument 1,argument 2, ... argument n) | 数値、関数呼び出し、または変数 | 数値 |

例：

関数：MODE(1, 2, 2, 3, 3, 3)

結果は 3 です。

### 文字列関数

文字列関数を使用して、文字列列値の再フォーマットまたは計算を実行します。

## CONCATENATE

1 つ以上の入力文字列を単一の文字列に結合します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| CONCATENATE(string 1, string 2, … string n) | 文字列、関数呼び出し、または変数 | 文字列 |

例：

- 関数: CONCATENATE(first_name, ".", last_name, "@", LOWERCASE(example), ".com")

  結果は連結された値 <first_name_value>.<last_name_value>@example.com です。この例では、<first_name_value> と <last_name_value> はプレースホルダーです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：CONCATENATE (first_name, " ", last_name)

  結果は、first_name 列の値と last_name 列の値が空白で区切られた連結された文字列です。

### ISBLANK

文字列内の空白または空の値を検索し、存在する場合は true を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| ISBLANK(argument) | 文字列または値 | true または false |

例：

- 関数：ISBLANK(“example_string”)

  結果は false です。

- 関数：ISBLANK (full_name)

  結果は、full_name 列に空のスペースがある場合にのみ true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

### LENGTH

入力文字列内の合計文字数を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| LENGTH(argument) | 文字列値、関数コール、または変数 | 数値 |

例：

- 関数：LENGTH("example_string")

  結果は 14 です。

- 関数：LENGTH(full_name)

  結果は、full_name 列の値の合計文字数です。

### LOWERCASE

入力文字列をすべて小文字に変換します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| LOWERCASE(argument) | 文字列、関数呼び出し、または変数 | 小文字の文字列 |

例：

- 関数：LOWERCASE(“ExamPle inpuT stRing”)

  結果は、example input string です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：LOWERCASE (sys_created_by)

  結果は sys_created_by 列の値の小文字の文字列です。

### REPLACE

ソース文字列の文字をターゲット文字列の文字で置き換えます。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| REPLACE(source_string, target_string, replacement_string) | • source_string：文字列、関数呼び出し、または変数<br>• target_string：文字列、関数呼び出し、または変数<br>• replacement_string：文字列、関数呼び出し、または変数 | 文字列 |

例：

- 関数：REPLACE(“Pepperoni Pizza”, “Pepperoni”, “Cheese”)

  結果の文字列は、Cheese Pizza です。

- 関数：REPLACE("abe.tuter@example.com", "example", company_name)

  結果の文字列は、abe.tuter@<company_name>.com です。この例では、<company_name> はプレースホルダーです。

### TITLECASE

入力文字列の最初の文字をすべて大文字に変換します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| TITLECASE(argument) | 文字列、関数呼び出し、または変数 | タイトルケースの文字列 |

例：

- 関数：TITLECASE("example string")

  結果は、Example String です。

- 関数：TITLECASE (full_name)

  結果は、最初の文字がすべて大文字になった full_name 列の値です。

### UPPERCASE

入力文字列をすべて大文字に変換します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| UPPERCASE(argument) | 文字列値、関数コール、または変数 | 大文字の文字列 |

例：

- 関数：UPPERCASE("eXamPle sTring")

  結果は、EXAMPLE STRING です。

- 関数：UPPERCASE(state)

  結果は、大文字の state 列の値です。

### FIND

文字列内で最初に見つかった部分文字列を検索し、最初に見つかった位置を返します。

**注:**
この関数は大文字と小文字を区別します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| FIND(search_string, source_string, from_index) | • search_string：文字列、関数呼び出し、または変数。<br>• source_string：メイン文字列、関数呼び出し、または変数。<br>• from_index：検索を開始するメイン文字列内のインデックス位置。数値、関数呼び出し、または変数。 | 数値 (整数)。サブ文字列がメイン文字列に存在しない場合は、-1 が返されます。 |

例：

関数：FIND("morning", "Good morning")

結果は 5 です。

### SEARCH

文字列内で部分文字列を検索し、部分文字列が最初に出現した位置を返します。

**注:**
この関数は大文字と小文字を区別しません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| SEARCH(search_string, source_string, from_index) | • search_string：文字列、関数呼び出し、または変数。<br>• source_string：メイン文字列、関数呼び出し、または変数。<br>• from_index：検索を開始するメイン文字列内のインデックス位置。数値、関数呼び出し、または変数。 | 数値 (整数)。サブ文字列がメイン文字列に存在しない場合は、-1 が返されます。 |

例：

- SEARCH("Morning", "Good morning")

  結果は 5 です。

- SEARCH("World","Hello world!")

  結果は -1 です。

### SUBSTRING

指定されたインデックス位置にある文字列から指定された長さのサブ文字列を取得します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| SUBSTRING(source_string, start_index, length) | • source_string：文字列、関数呼び出し、または変数。<br>• start_index：サブ文字列が抽出される文字列内の位置。数値、関数呼び出し、または変数。<br>• length：抽出する必要があるサブ文字列の長さ。 | 文字列 |

例：

SUBSTRING("Hello, Good Morning", 7, 4)

結果のサブ文字列は「Good」です。

#### 日付と時刻の関数

日付と時刻の関数を使用して、日付と時刻の列の値を計算します。

### NOW

インスタンスの現在の日付と時刻を ISO 形式 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss) で返します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| NOW() | この関数に引数は必要ありません | 現在の日付と時刻の ISO 形式 |

例：

関数：NOW()

結果は ISO 形式の現在の日付と時刻です。

### TODAY

現在の日付を、UTC タイムゾーンの ISO 形式で、その日の始まりまでの時間オフセットと共に返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| TODAY() | この関数に引数は必要ありません | ISO 形式でのその日の始まりまでの時間オフセットを含む現在の日付。 |

例：

関数：TODAY()

結果は、ISO 形式の現在の日付とその日の開始時刻です。

### TIMEDIFF

2 つの日付の期間差を評価します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| TIMEDIFF(argument1, argument2) | 文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss) | 期間 |

例：

- 関数：TIMEDIFF("2021-05-02 9:10:12", "2021-04-07 6:2:23")

  結果は、25 03:07:49 です。

- 式：TIMEDIFF(sys_created_on, NOW())

  結果は、sys_created_on 日付とシステムの現在の日付との期間差です。

### DATEDIF

2 つの日付の差を日数、月数、または年数で評価します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| DATEDIF(start_date, end_date, date_difference_unit) | • start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• end_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• date_difference_unit：文字列で、小文字または大文字の「Y」、「M」、または「D」のいずれかです。デフォルトは「D」です。 | 指定された日付の差異単位に基づく数値の期間値。 |

例：

関数：DATEDIF("2021-05-02 9:10:12", "2021-05-05 6:2:23 ","d")

結果は 3 です。

### DATE

指定された個々の年、月、日の値から日付を作成します。作成日は世界標準時 (UTC) タイムゾーンです。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| DATE(year,month,day) | • year：数値、変数、または関数。<br>• month：数値、変数、または関数。<br>• day：数値、変数、または関数。 | ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss) |

例：

関数：DATE(2021,5,2)

結果は 2021-05-02 00:00:00 です。

### DAY

指定された日付から数字の日コンポーネントを取得します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| DAY(date) | 文字列、変数、または関数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 | 数値 (整数)。値の範囲は 1 ～ 31 です。 |

例：

- 関数：DAY("2021-05-029:10:12")

  結果は 2 です。

- 関数：DAY(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の日コンポーネントになります。

### MONTH

指定された日付から数値の月コンポーネントを取得します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| MONTH(date) | date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 | 数値 (整数)。値の範囲は 1 (1 月) から 12 (12 月) です。 |

例：

- 関数：MONTH("2021-05-02 9:10:12")

  結果は 5 です。

- 関数：DAY(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の月コンポーネントになります。

### YEAR

指定された日付から年コンポーネントを取得します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| YEAR(date) | 文字列、変数、または関数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 | 数値 (整数) |

例：

- 関数：YEAR("2021-05-02 9:10:12")

  結果は 2021 です。

- 関数：YEAR(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の年コンポーネントになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### WEEKDAY

指定された日付の曜日を数値で返します。日の範囲は 1 (日曜日) から 7 (土曜日) です。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| WEEKDAY(date) | date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 | 数値 (整数) |

例：

関数：WEEKDAY("2021-05-02 9:10:12")

結果は 1 です。

### TEXT

特定の日付コンポーネントを文字列形式で取得します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| TEXT(date, format_text) | • date：文字列、変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• format_text：抽出される文字列または変数としての日付コンポーネント。 | 文字列 |

例：

TEXT("2022-08-17 9:10:12","yyyy-MM")

結果は 2022-08 です。

### DATEVALUE

テキスト形式の日付を ISO 形式の日付に変換します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| DATEVALUE(date_text) | date_text：テキストとして保存される日付は、YYYY-MM-DD 形式である必要があります。 | 文字列としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 |

例：

関数：DATEVALUE("2021-05-02")

結果は 2021-05-02 00:00:00 です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## WORKDAY

指定された n 日間の前後の指定された休日および週末を除外することによって、指定された入力日の最も近い作業日を返します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| WORKDAY(start_date, days, holiday 1,holiday 2, ..., holiday n) | • start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• days：数値、文字列、または関数としての日数。<br>• holiday 1...holiday n (オプション)：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 | 文字列としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 |

例：

関数：WORKDAY("2022-08-17 9:10:12",2)

結果は 2022-08-19 00:00:00 です。

## NETWORKDAYS

週末と指定された休日の日付を除外して、2 つの日付間の作業日数を計算します。作業日数には開始日と終了日が含まれます。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| NETWORKDAYS(start_date,end_date,holiday 1,holiday 2, ... holiday n) | • start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• end_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。<br>• holiday 1、holiday 2、... holiday n (オプション)：営業日の計算時に除外する必要がある休日のリスト。 | 数値 (整数) |

例：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数：NETWORKDAYS("2022-08-17 20:10:12","2022-08-19 9: 10:12")

結果は 3 です。

論理関数

論理関数を使用して、列の値に対して論理操作を実行します。

### AND

引数に対して論理 AND 演算を実行します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| AND(argument 1, argument 2) | 文字列、関数呼び出し、または変数 | true または false |

例：

- 関数：AND(2>3, 4<5)

  結果は false です。

- 式：AND(LENGTH(sys_created_by)>25, LENGTH(sys_updated_by)>25)

  sys_created_by 列と sys_updated_by 列の両方の文字数が 25 より大きい場合にのみ、結果は true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

### IF

条件式のブール出力に基づいて、指定されたステートメントを実行します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| IF(<conditional_expression>, <do_this_when_true>, <do this_when_false>) | • conditional_expression：論理条件式、関数呼び出し、または変数<br>**注:** 条件式では、文字列の論理比較はサポートされていません。<br>• do_this_when_true：条件が true と評価された場合に返される文字列、数値、関数呼び出し、または変数<br>• do_this_when_false：条件が false と評価された場合に返される文字列 、数値、関数呼び出し、または変数 | 条件式のブール出力に基づく文字列、数値、関数呼び出し、または変数。 |

例：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：IF(number_of_incidents >= 5, "High", "Medium")

  インシデントの数が 5 より大きい場合、文字列「High」が返されます。それ以外の場合は、文字列「Medium」が返されます。

- 関数：IF(LENGTH(full_name) > 100, "Number of characters exceed the limit", "Number of characters within the limit")

  full_name 列の文字数が 100 を超える場合、文字列「Number of characters exceed the limit」が返されます。それ以外の場合は、文字列「Number of characters within the limit」が返されます。

## OR

引数に対して論理 OR 演算を実行します。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| OR(argument 1, argument 2) | 条件式、関数呼び出し、または変数 | true または false |

例：

- 関数：OR(2>3,4<5)

  結果は true です。

- 式：OR(LENGTH(first_name)>25, LENGTH(last_name)<25)

  first_name 列の文字数が 25 を超えるか、last_name 列の文字数が 25 未満の場合に、結果は true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

## IFERROR

expression 1 を評価し、expression 1 にエラーがない場合は expression 1 の値を返します。expression 1 の評価中にエラーが発生した場合、expression 2 が評価され、expression 2 の値が返されます。

| 構文 | 入力 | 出力 |
| --- | --- | --- |
| IFERROR(expression 1, expression 2) | • expression 1：演算、論理式、関数呼び出し、文字列、数値、または変数。<br>• expression 2：演算、論理式、関数呼び出し、文字列、数値、または変数。 | expression 1 にエラーがない場合は expression 1 の結果。それ以外の場合は expression 2 の結果です。 |

例：

関数：IFERROR( MULTIPLY(snr_factor, signal)、MULTIPLY( default_factor, signal))

snr_factor 値が有効な数値の場合、snr_factor と信号の乗算値が返されます。snr_factor 値が有効な数値でない場合、default_factor 値と信号の乗算値が返されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー で列に式を追加する

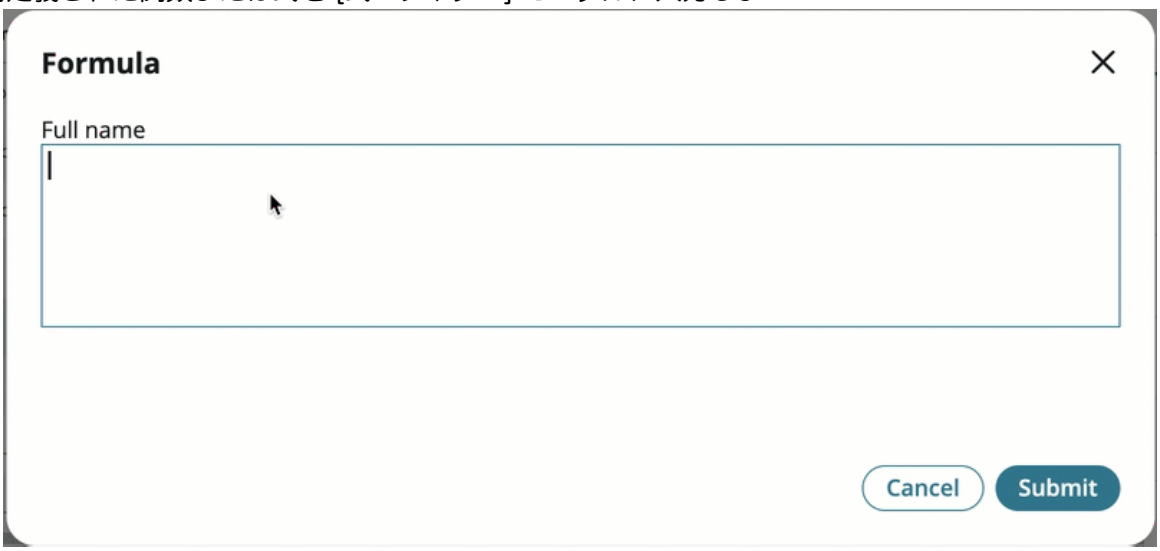
テーブルビルダー で、事前定義された関数を使用するか式を作成して、スクリプトを記述せずに列の値を計算します。複数の関数を使用して、要件に応じて式を作成できます。

## 始める前に

- テーブルのスコープはアプリケーションのスコープ内にある必要があります。それ以外の場合、アプリのスコープ外のテーブルの列に式を追加することはできません。
- 必要なロール：personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

## 手順

1. [データ] または [フォーム] タブで、列の [開く] サイドパネルアイコン ( ) をクリックします。
2. [式] セクションの [構成] タブで、**[+** 追加] をクリックします。
3. 事前定義された関数または式を [式エディター] モーダルに入力します。




自動翻訳

たとえば、[名] 列の値と [姓] 列の値を連結して [フルネーム] 列の値を入力するには、CONCATENATE(first_name,last_name) と入力します。利用可能な事前定義された関数と式の例の詳細については、「テーブルビルダー の列値の式」を参照してください。

構文のガイダンスと例については、入力開始時に表示される自動提案の機能をクリックしてください。

> **注:**
> サポートされていない列、関数フィールドである列、すでに計算値タイプとしてスクリプトが含まれている列には式を追加できません。

4. [送信] をクリックします。

## タスクの結果

式が検証され、エラーがない場合は列に追加されます。

テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ

テーブルビルダー で、作業しているフィールドの基本的なフィールドポリシーとルールを設定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ポリシー

[UI ポリシー] セクションを使用すると、ロールとユーザー入力に基づいて、フォームの表示方法を設定できます。

基本的なフィールドプロパティを理解するには、「テーブルビルダー での UI ポリシーの作成」を参照してください。

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [ポリシーの詳細] セクションのフィールドの説明を示しています。

### ポリシーの詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 簡単な説明 | UI ポリシーの簡単な要約。 |
| テーブル | ポリシーが適用されるデータテーブル。 |
| ドメイン | 選択肢が存在するドメイン。 |
| 順番 | 処理のシーケンス (最小値から最大値まで)。2 つのポリシーが競合する場合は、数値の大きい UI ポリシーが実行されます。<br><br>継承された UI ポリシーについては、拡張 (子) テーブルの UI ポリシーが最初に実行されます。次に、ベーステーブルの UI ポリシーが実行されます。どちらも、指定された値が最も小さいものから最も大きいものの順序で実行されます。 |
| アクティブ | UI ポリシーのステータス。アクティブ化されている UI ポリシーのみが適用されます。 |
| すべてのビューに適用/ビューに適用 [詳細設定] | UI ポリシーをすべてのフォームビューまたは特定のビューのどちらに適用するかを指定するオプション。フォームビューの詳細については、「ビュー管理」を参照してください。 |
| ロード時 [詳細設定] | フォームの変更時に UI ポリシーの動作を OnLoad で実行するように指定するためのオプション。<br><br>UI ポリシーの [ロード時] チェックボックスをオンまたはオフにして、フォームがロードされ、条件が満たされるたびにそれを実行するかどうかを制御できます。次の例では、管理者は、ユーザーが顧客に説明を提供しない限り、インシデントが [ユーザー情報待ち] ステータスにならないようにします。管理者は、次の設定で UI ポリシーを作成します。<br><br>• [これらの条件が満たされている場合] セクションで、条件 [ステータス][は次の値に等しい ]][ユーザー情報待ち] を追加し、[ロード時] チェックボックスをオフにします。ステータ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーの詳細 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | スが [ユーザー情報待ち] に変更された場合にのみ UI ポリシーが適用されます。<br>• **[UI** ポリシーアクション] リストで、条件が満たされたときに [追加コメント] フィールドを必須にするレコードを作成します。 |
| False の場合は取り消し [詳細設定] | ポリシーの条件が false と評価された場合に UI ポリシーアクションを取り消す必要があることを指定するためのオプション。条件が true の場合はアクションが実行され、false に変更されるとアクションが取り消されます (元に戻されます)。 |
| 継承 [詳細設定] | 拡張テーブルがこの UI ポリシーを継承するかどうかを指定するオプション。<br><br>子テーブルに親テーブルから継承された UI ポリシーがある場合、UI ポリシーの順序に関係なく、子テーブルの UI ポリシーが常に最初に実行されます。次に例を示します。<br>• 子テーブルには、条件が満たされたときに [緊急度] フィールドを表示する、[順序] 値 **500** の UI ポリシーがあります。<br>• その親テーブルには、[緊急度] フィールドを非表示にする同じ条件の UI ポリシーがあります。親テーブルの UI ポリシーの [順序] 値は **100**です。<br>• 親テーブルの [順序] フィールドの値の方が小さい値ですが、最初に子 UI ポリシーが実行され、次に親 UI ポリシーが実行されます。条件が満たされると、[緊急度] フィールドは非表示になります。 |

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [これらの条件が満たされている場合] セクションのフィールドの説明を示しています。

これらの条件が満たされている場合

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 条件セット | 条件を満たすと UI ポリシーが適用されることになる条件。条件は、条件ビルダーでロジックステートメントを使用して構築します。スクリプトを使用して条件を設定するには、代わりにクライアントスクリプトを使用します。<br><br>ユーザーが手動でフォームのフィールドを変更した場合のみ、条件が再度確認されます。UI アクション、コンテキストメニューアクション、 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの条件が満たされている場合 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | リストエディターによる変更は、評価されません。 |

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [次を実行 (Do the following)] セクションのフィールドの説明を示しています。

必要な操作

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フィールド名 | 条件を満たしている場合に UI ポリシーがアクションを実行する対象となる、選択したテーブルのフィールド。<br>**注:**<br>指定したフィールドがフォーム上にない場合、UI ポリシーは同じ名前の変数に対してアクションを実行します。 |
| 必須 | UI ポリシーがフィールドの必須ステータスに与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。<br>• 放置する<br>• **True**<br>• **False** |
| 表示 | UI ポリシーがフィールドの表示ステータス (つまり表示されるかどうか) に与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。<br>• 放置する<br>• **True**<br>• **False** |
| 読み取り専用 | UI ポリシーがフィールドの読み取り専用状態に与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。<br>• 放置する<br>• **True**<br>• **False** |
| フィールド値をクリア | 条件が満たされた場合に指定されたフィールドをクリアするオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アクセス制御ルール

[アクセス制御ルール] セクションを使用すると、適合するロール、条件、スクリプト基準に基づく、指定されたリソースへのアクセスを設定できます。

次の表は、[アクセス制御ルール] セクションのフィールドの説明を示しています。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | フォームまたはデータにアクセスする権限を持つ各ユーザーを指定します。<br>• 名前を小文字の firstname.lastname として、ピリオドで区切って入力します (例：john.smith)。各名前には、*hi.servicenow.com* で対応するユーザーレコードが必要です。<br>• 複数のユーザーがフォームまたはデータにアクセスする権限を持っている場合は、複数の名前をカンマで区切って入力します。<br>• すべてのユーザーがフォームまたはデータにアクセスできるようにするには、名前としてアスタリスク (*) を入力します。 |
| 説明 | アクセス制御ルールによって制限または有効化される内容の概要。 |
| タイプ | アクセスが制御されるオブジェクトのタイプ。次が含まれます。<br>• クライアントコール可能スクリプトインクルード<br>• プロセッサ<br>• レコード<br>• UI ページ<br>• UX ルート<br><br>オブジェクトタイプの詳細については、「オブジェクトの ACL 一致要件」を参照してください。 |
| 運用 | 指定されたオブジェクトに対してシステムが実行できるアクションのタイプ (削除や実行など)。レコードなどの一部のオブジェクトは複数の操作をサポートしますが、REST_Endpoint などの他のオブジェクトは 1 つの操作のみをサポートします。アクションタイプの詳細については、「ACL ルールのタイプ」を参照してください。 |
| アクティブ | ルールのアクティブステータス：<br><br>true |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ルールがアクティブで利用可能になります。<br>false<br>ルールは非アクティブで利用できません。 |
| 条件 | ルールに適用される条件。 |
| ロール | ルールが適用されるロール。 |
| 管理者優先 | アクセスレベルで管理者優先のルールの評価を強制するオプション。管理者優先の詳細については、「アクセスレベルで管理者優先を評価する」を参照してください。 |
| 詳細 | スクリプトをルールに関連付けるオプション。 |

## クライアント スクリプト

[クライアントスクリプトルール] セクションを使用すると、定義済みの基準に基づいてフォームフィールドの表示方法を制御するスクリプトを作成できます。

クライアントスクリプトフィールドの値の全リストについては、「クライアントスクリプトフォーム」を参照してください。

次の表は、[クライアントスクリプトルール] セクションのフィールドの説明を示しています。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | スクリプトの名前。 |
| 説明 | スクリプトの機能と目的の概要。 |
| テーブル | スクリプトが利用可能なテーブルまたはフォーム。 |
| 有効 | スクリプトのアクティブステータス：<br>true<br>スクリプトがアクティブで、利用可能になります。<br>false<br>ルールは非アクティブで利用できません。 |
| UI タイプ | スクリプトが利用可能なアプリケーションのタイプ (デスクトップやモバイルなど)。 |
| タイプ | 次を含むテーブルまたはフォームでスクリプトが実行される場合：<br>• onCellEdit<br>• onChange<br>• onLoad<br>• onSubmit |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フィールド名 | スクリプトが実行されるフィールド。 |
| 表示 | クライアントスクリプトが実行されるビュー (グローバルスクリプトには適用されません)。 |
| 継承 | クライアントスクリプトが拡張テーブルに適用されるかどうかを示します。 |

## ビジネスルール

[ビジネスルール] セクションを使用すると、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを遂行するためのビジネスルールを作成できます。

ビジネスルールの値の全リストについては、「ビジネスルールの作成」を参照してください。

次の表は、[ビジネスルール] ルールセクションのフィールドの説明を示しています。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ビジネスルールの名前。 |
| テーブル | ビジネスルールが実行されるテーブルまたはフォーム。 |
| 有効 | ビジネスルールのアクティブステータス：<br>true<br>ビジネスルールがアクティブで利用可能になります。<br>false<br>ビジネスルールは非アクティブで利用できません。 |
| 時期 | ビジネスルールの実行タイミング：データベース操作の完了に関連して、[表示]、[次の前]、[非同期]、または [次の後] から選択します。 |
| フィルター条件 | 選択したテーブルのフィールド値に基づいてビジネスルールを実行する必要があるタイミングを決定するために、Condition Builder を使用して作成された条件。 |
| ロールの条件 | テーブルまたはフォーム内のレコードを変更するユーザーが実行するビジネスルールに対して保持している必要があるロール。 |
| アクション | 指定されたフィールドでビジネスルールによって実行されるアクション (挿入、更新、削除など)。 |
| フィールド値の設定 | アクションが実行されるテーブルまたはフォームフィールド。 |
| メッセージの追加 | このビジネスルールの実行時にメッセージを表示するかどうか：<br>true |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ビジネスルールの実行時にメッセージが表示されます。<br>false<br>ビジネスルールの実行時にメッセージは表示されません。 |
| アクションの中止 | ビジネスルールが現在のデータベーストランザクションを中止するかどうか：<br>true<br>ビジネスルールは、実行時に現在のデータベーストランザクションを中止します。<br>false<br>ビジネスルールは、実行時に現在のデータベーストランザクションを中止しません。<br>たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。 |
| 順番 | このビジネスルールを実行する順序を示します。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールは指定された順序 (昇順) で実行されます。 |

## ワークスペースビュールール

[ワークスペースビュー] セクションを使用すると、基準に基づいてユーザーがワークスペースを表示する方法を制御するルールを定義できます。

次の表は、[ワークスペースビュールール] セクションのフィールドの説明を示しています。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ワークスペースビュールールの名前。 |
| テーブル | ワークスペースビュールールが利用可能なテーブルまたはフォーム。 |
| 表示 | フォームの表示に使用されるビュー。このフィールドが空のままであるか、無効な値が含まれている場合は、デフォルトのビューが使用されます。 |
| ロール | ルールが適用されるロール。 |
| 条件 | ルールに適用される条件。 |
| セクションのナビゲーションを非表示 | セクションナビゲーションを有効または無効にするオプション。 |
| セクションの折りたたみを無効にする | セクションの折りたたみを有効または無効にするオプション。 |
| デフォルトタブの順序 | デフォルトでフォームタブが表示される順序。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ビルダー

UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用して、App Engine Studio の生成されたワークスペース、または Next Experience コンポーネントとカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのためのページを構築します。

## UI ビルダー の概要

UI Builder の概要

## UI ビルダー クイックスタート

UI Builder クイックスタートビデオ

## 開始するには

| 探索 | 使用方法 |
| --- | --- |
| 概念と機能について説明します UI ビルダー 。 | UI Builder でページを構築する方法を学習します。 |

**注:**
UI ビルダー には、従業員センター などの ServiceNow ベースシステムのサービスポータルの構築や構成を行う機能はまだありません。サービスポータルについては、引き続きサービスポータルデザイナーを使用してください。

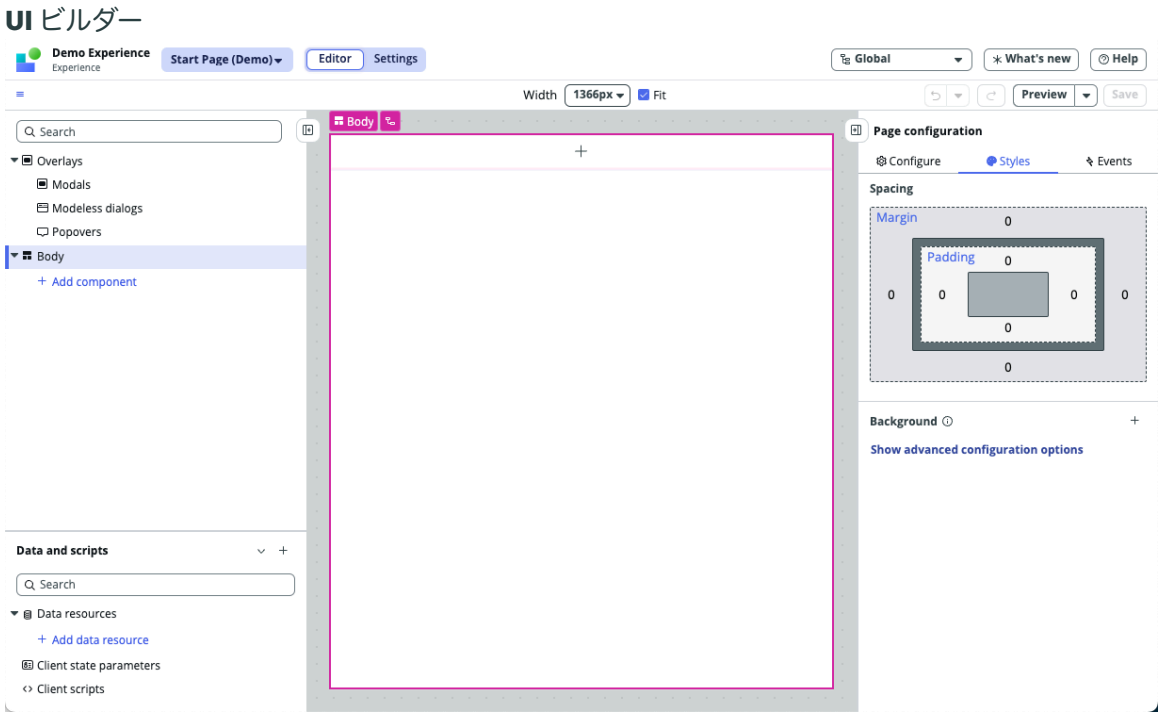
## 主な機能

ワークスペースまたはポータルエクスペリエンス用にページを作成またはカスタマイズします。ページは、ワークスペースまたはポータル UI を構成するコンポーネントのコレクションです。

**注:**
で UI ビルダータスクを完了するには、ui_builder_adminロールが必要です。

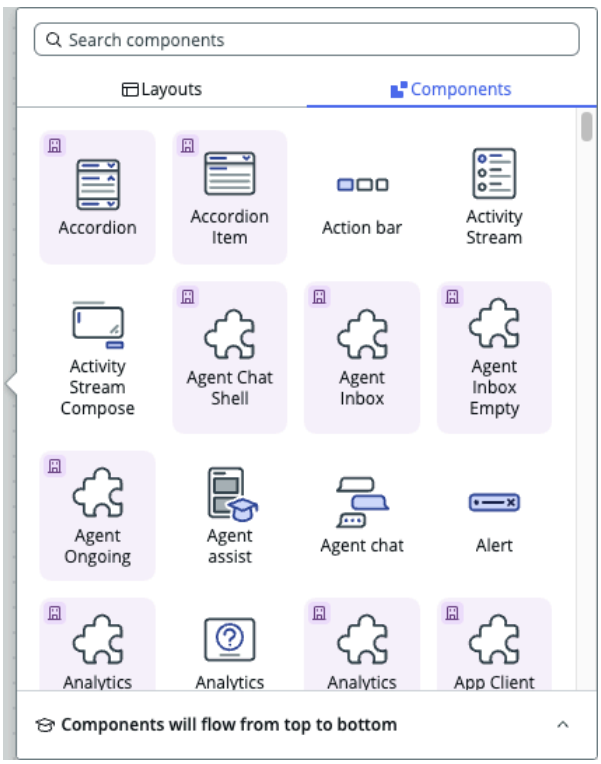
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




さまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットとするページのバリアントを作成します。たとえば、エージェント用のホームページとマネージャ用のバリアントを同じ URL で作成できます。

コンポーネントの UI ビルダー ライブラリを使用してページを構築します。それらをページに追加できます。必要に応じてそれらのコンポーネントを構成し、会社のデータを接続します。

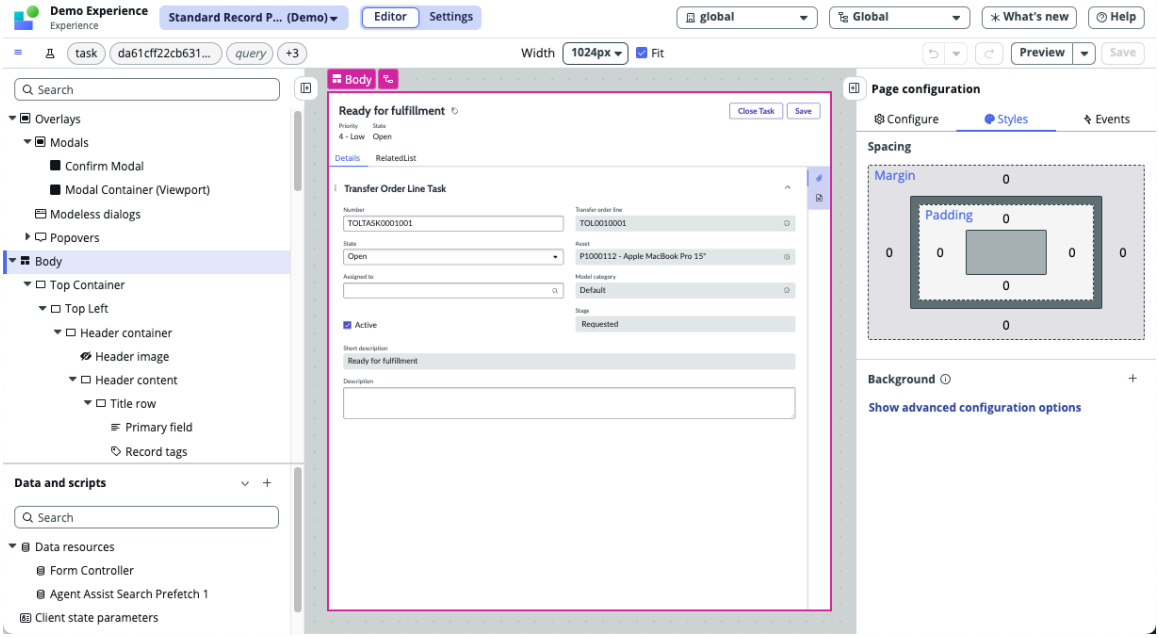



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースを使用してデータをコンポーネントにバインドし、ページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。データリソースによりコンポーネントを再利用できます。

ページのレイアウトを変更して、任意のタイプのページデザインを作成しま

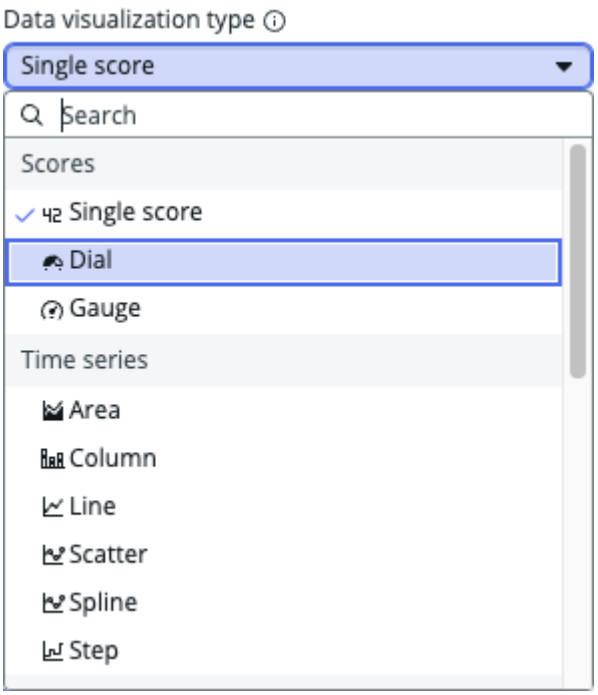



す。

CSS を使用して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスのコンポーネントの表示スタイルを変更します。たとえば、コンテナコンポーネントに背景色を追加できます。

## UI ビルダー でのデータ表示方法の変更

構成パネルのドロップダウンを使用してデータ表示方法タイプを変更し、さまざまなデータ表示方法のタイプをプレビューできます。それぞれのデータ表示方法は、エクスペリエンスを使用するユーザーごとに異なるデータを表示するように構成できます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ビルダー の探索

UI ビルダー のファセットを調べて、ページをすばやく作成できるようにします。

| UI ビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイス ビルダーです。UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio の生成されたワークスペースとポータル、または Next Experience コンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのためのページを構築します。 | <br>ServiceNow 開発プログラム YouTube チャンネル<br> <br>コミュニティ YouTube チャンネル |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| UI ビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| | <br>ServiceNow コミュニティサイト |
| | <br>ServiceNow Developer サイト |

「UI Builder クイックスタート」を参照して、UI ビルダー の基本を理解してください。UI ビルダーの理解を深めたい場合は、チュートリアルを実行して最初のページを作成する方法を学習してください。

UI ビルダー の対象者、アプリケーションスコープやドメイン分離などのセキュリティとロールの設定、およびエクスペリエンス設定に関連する情報をお調べください。

UI ビルダー を CSM ワークスペースとポータルエクスペリエンスで使用する方法を確認してください。

### **UI Builder** クイックスタート

このクイックスタートでは、UI ビルダー で最初のページを作成する手順を説明します。最初のページを作成することは、ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのユーザーインターフェイスページを構築する方法を理解するための、最初のステップとなります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

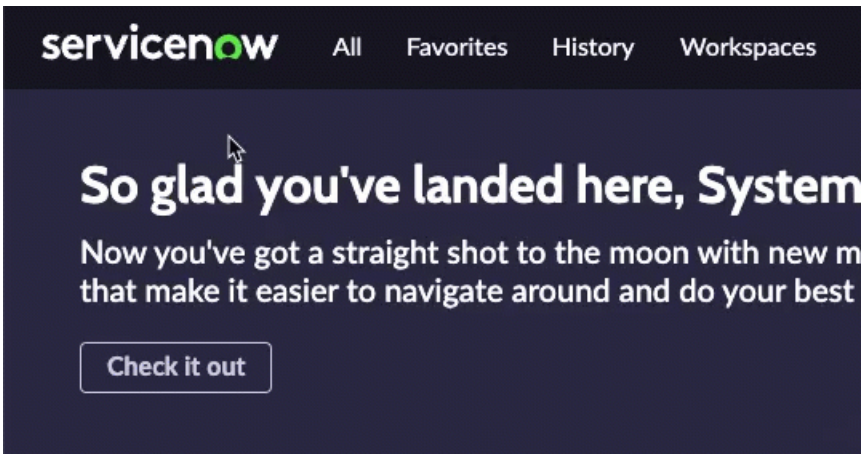
この UI ビルダー クイックスタートでは、UI ビルダー で最初のページを構築するために次のタスクを実行します。

- UI ビルダー を起動します。
- ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成します。ページの作成の詳細については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
- コンポーネントを追加してページを構築します。コンポーネントの詳細ついては、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
- ページを保存します。
- ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。

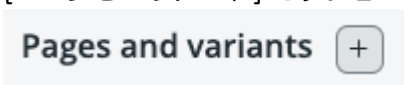
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.

**UI** ビルダー の起動



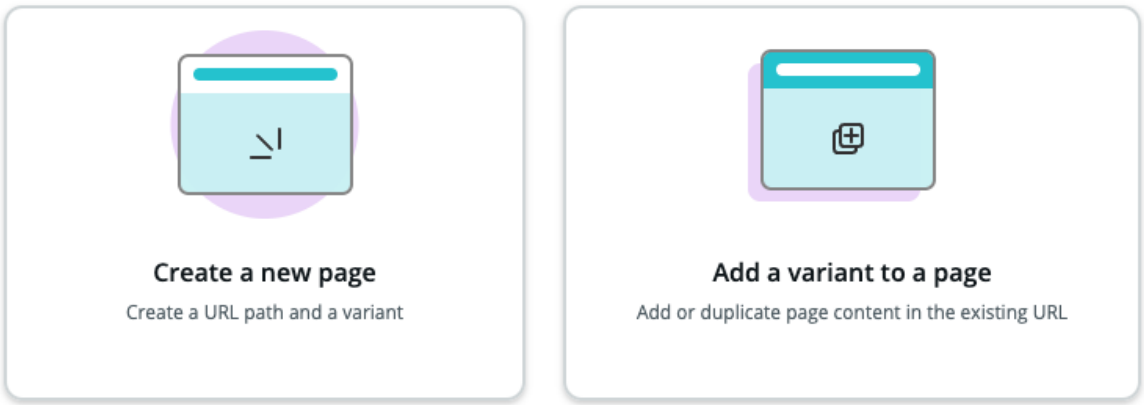

2. UI ビルダー ホームページから、作業するエクスペリエンスを選択します。
作業対象のエクスペリエンスが一覧表示されない場合は、管理者に連絡してエクスペリエンスへのアクセス権を取得するか、エクスペリエンスを作成します。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成します。
   a. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。



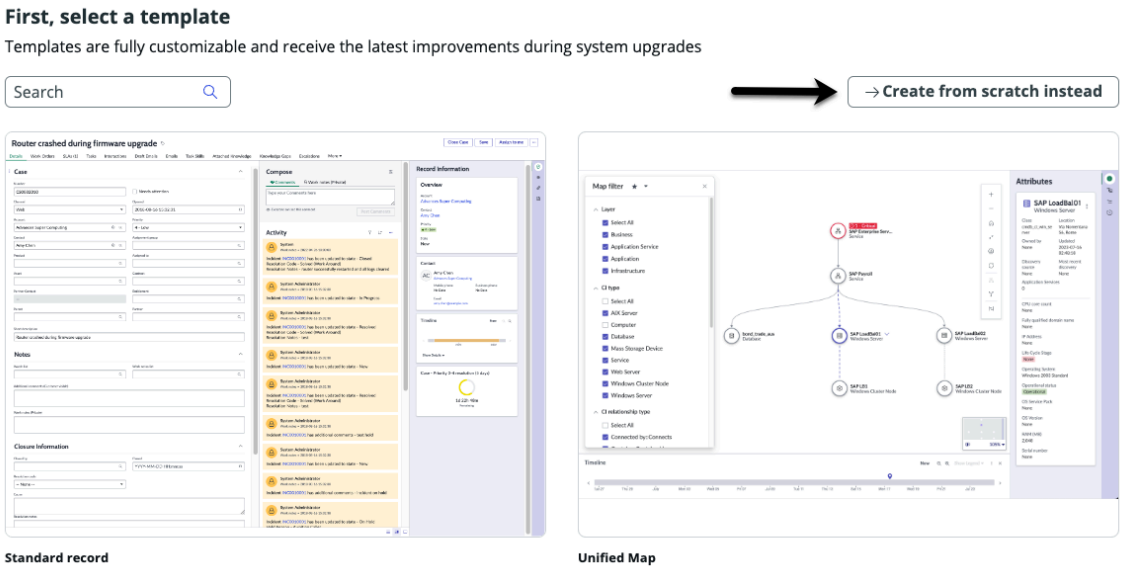

   b. [新規ページの作成] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**c.** [代わりに最初から作成します] を選択します。




ページテンプレートを使用してページを作成することもできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

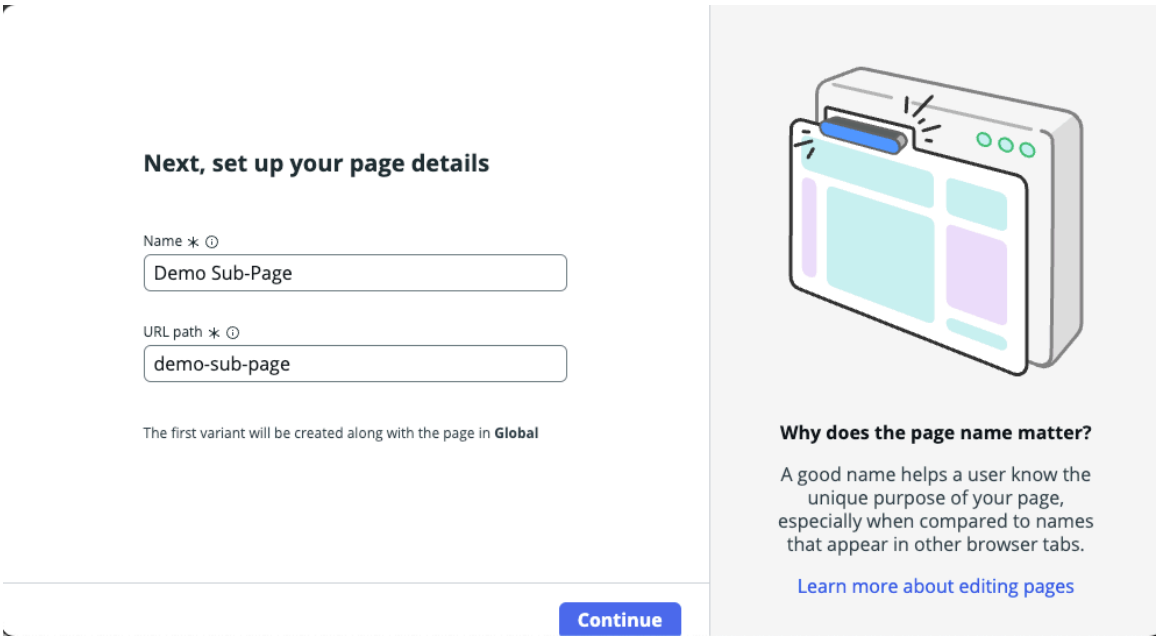
**d.** [名前] フィールドに、ページの一意の名前として [開始ページ] を入力します。

**e.** **[URL** パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、最後のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

**f.** [続行] を選択します。

**g.** オプション: **[+** 追加] を選択して、パラメーターをページ URL に追加します。
詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

**h.** [よさそうです]を選択します。

**i.** ページバリアントの名前として「Manager Start Page」と入力します。

**j.** オプション: このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。

**k.** オプション: エンコードされたクエリ文字列を入力して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を追加します。

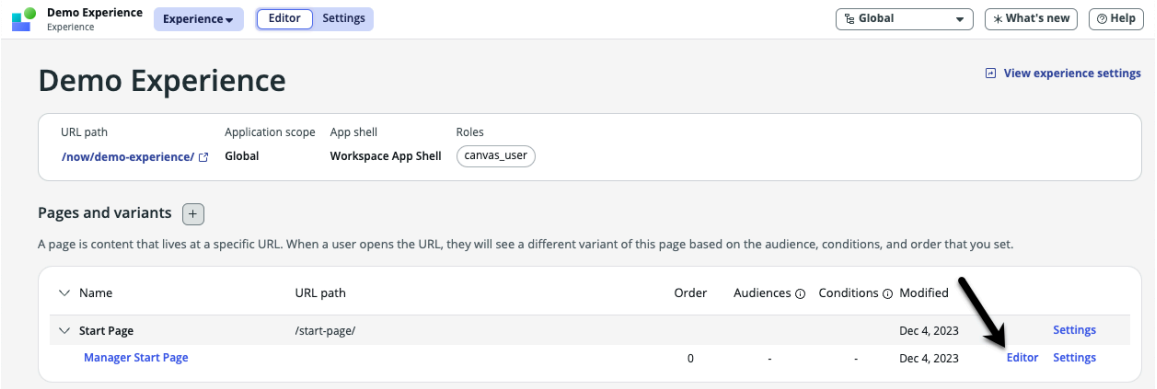
**l.** [作成] を選択して空白のページを作成します。

おめでとうございます! 最初のページが作成されました。このページにはコンテンツがありません。ページにコンポーネントを追加して機能を構築します。コンポーネントはページの構成要素です。UI ビルダー には、ページに追加できる多くのコンポーネントが用意されています。コンポーネントは、ヘッダーのようにシンプルにすることも、 リストのように複雑にすることもできます。

**4.** [エディター] を選択してページのカスタマイズを開始します。

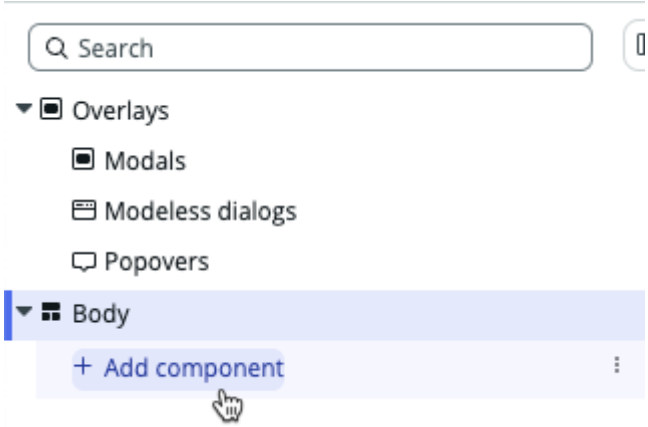
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



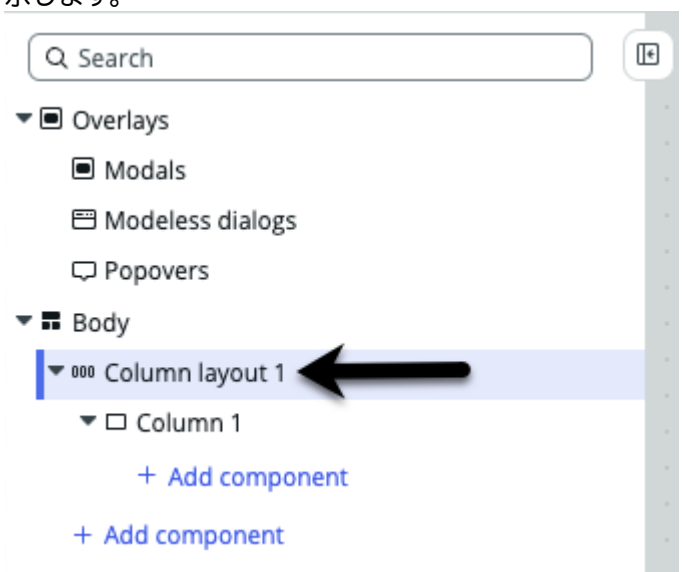

**5.** ページにコンテナコンポーネントを追加します。
コンテナはコンポーネントを保持するためのものです。コンテナは、情報、画像、または機能 (コンポーネント) を追加するページの領域と考えてください。ページには必要な数のコンテナを、コンテナ内には必要な数のコンテナを、さらにコンテナ内には必要な数のコンポーネントを配置することができます。

**a.** コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。




**b.** ツールボックスで [単一列] レイアウトを選択します。

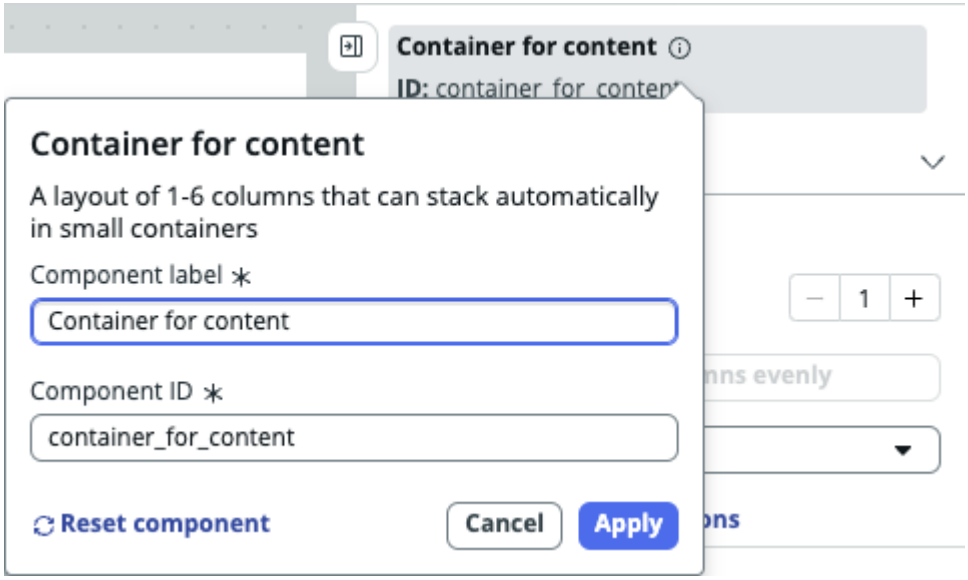
**c.** コンテンツツリーで [列レイアウト **1 (Column layout 1)]** を選択して、コンテナをハイライト表示します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**d.** 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

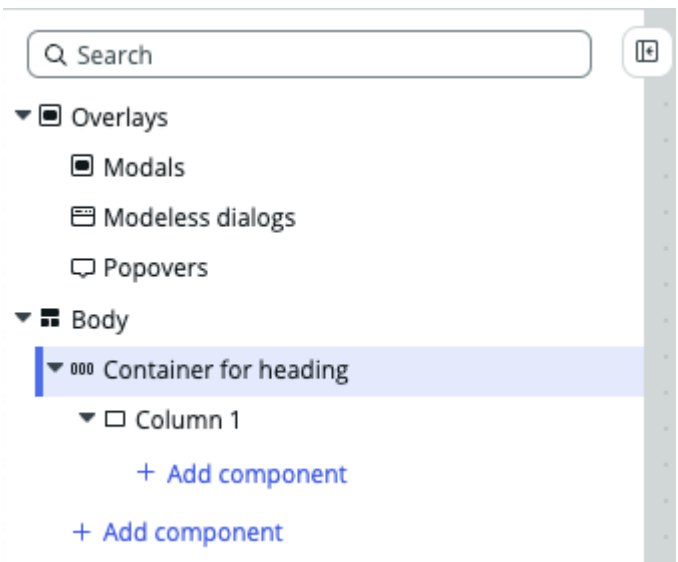



**e.** [コンポーネントラベル] フィールドに、「見出し用のコンテナ」と入力します。

**f.** [コンポーネント **ID**] フィールドに、「container_for_heading」と入力します。

**g.** [適用] を選択します。

コンテンツツリーで列レイアウト名が「見出し用のコンテナ」に変更されていることを確認します。コンテンツツリーは重要な概念です。コンテンツツリーは、ページの構造化されたレイアウトを表示する簡単な方法です。コンテンツツリーは、ページ上に複数のコンポーネントがある場合に特に重要です。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してページ上のコンポーネントをハイライト表示すると、ページを簡単に構築できます。コンポーネントのテキスト検索を実行できます。




コンポーネント ID の詳細ついては、「コンポーネント ID」を参照してください。

最初の列レイアウトがページに正常に追加されました。

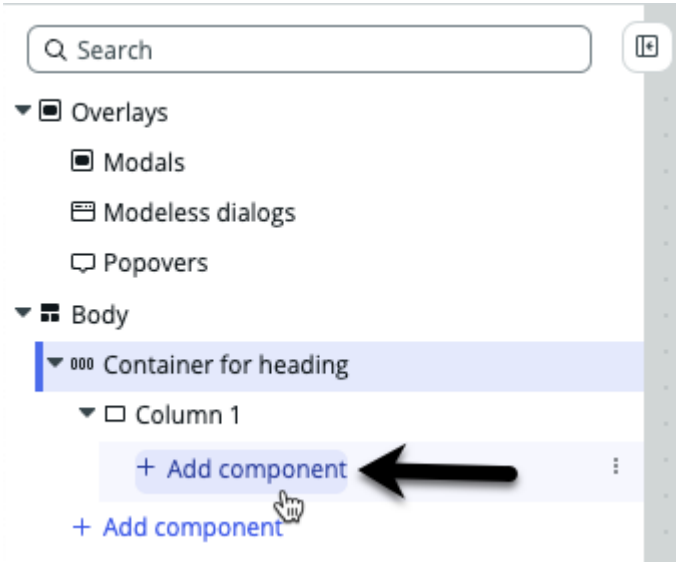
**6.** 見出しコンポーネントを列レイアウトに追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントはさまざまな方法でページに追加できます。コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

**a.** ステップ 5 で作成した列レイアウトの下にあるコンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。




**b.** 検索に「見出し」と入力し、見出しコンポーネントを選択します。

**c.** コンテンツツリーで新しい見出しコンポーネントを選択して、ハイライト表示します。

**d.** 構成パネルで [なし] を選択します。

**e.** 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

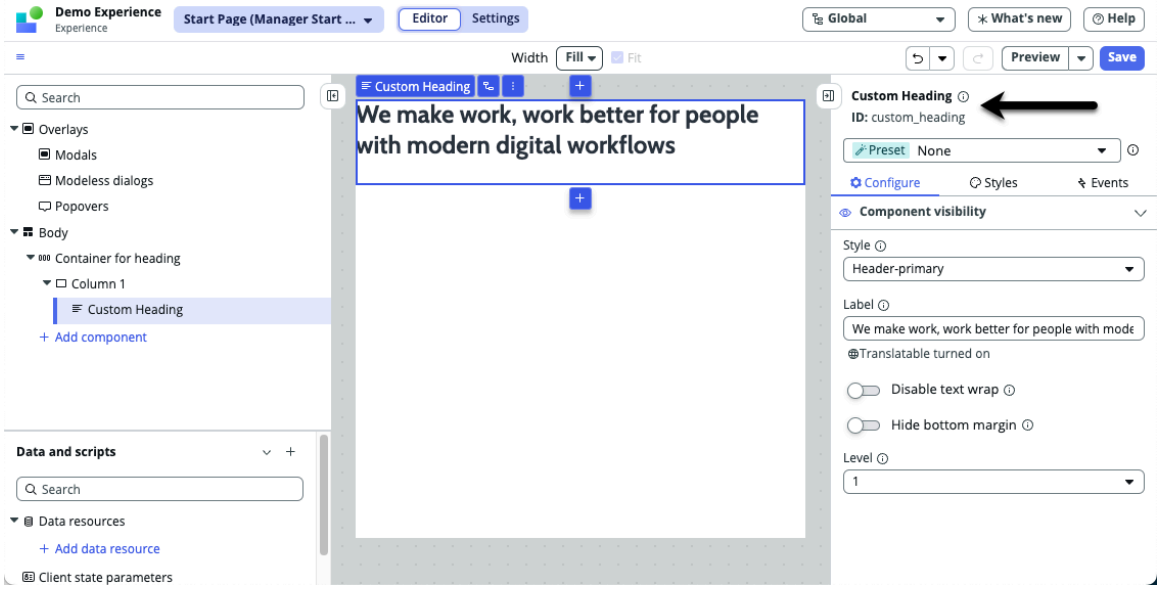
**f.** [コンポーネントラベル] フィールドに、見出しコンポーネントの一意のラベルとして「カスタム見出し」と入力します。

**g.** [コンポーネント **ID]** フィールドに、見出しコンポーネントの一意のラベルとして「custom_heading」と入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**h.** [適用] をクリックします。




**7.** 見出しコンポーネントをカスタマイズします。

**a.** コンテンツツリーで見出しコンポーネントを選択します。

**b.** 構成パネルで [ 構成 ] タブを選択します。

**c.** [ラベル] フィールドに、「新しいヘッダー」などのヘッダーのテキストを入力します。

**d.** [スタイル] はヘッダーテキストのサイズを変更します。
たとえば、[ヘッダー (セカンダリ)] を選択すると、テキストが小さくなります。ヘッダーが 2 つあり、セカンダリのヘッダーをプライマリのヘッダーよりも小さくする場合は、異なるサイズのヘッダーが役に立ちます。コンポーネントの構成の詳細については、「コンポーネントの構成」を参照してください。

**e.** [レベル] は **1** のままにします。

**f.** [保存] を選択します。

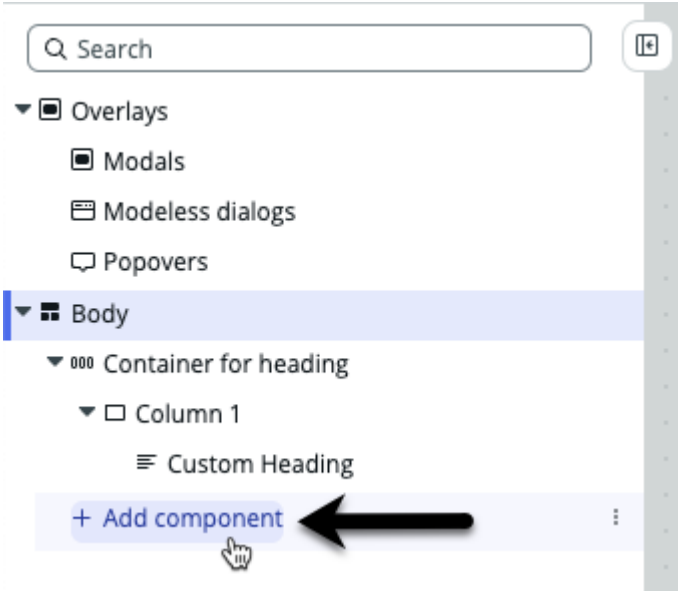
ページに見出しコンポーネントが追加されカスタマイズされました。

**8.** ページに 2 番目の列レイアウトを追加します。

自動翻訳

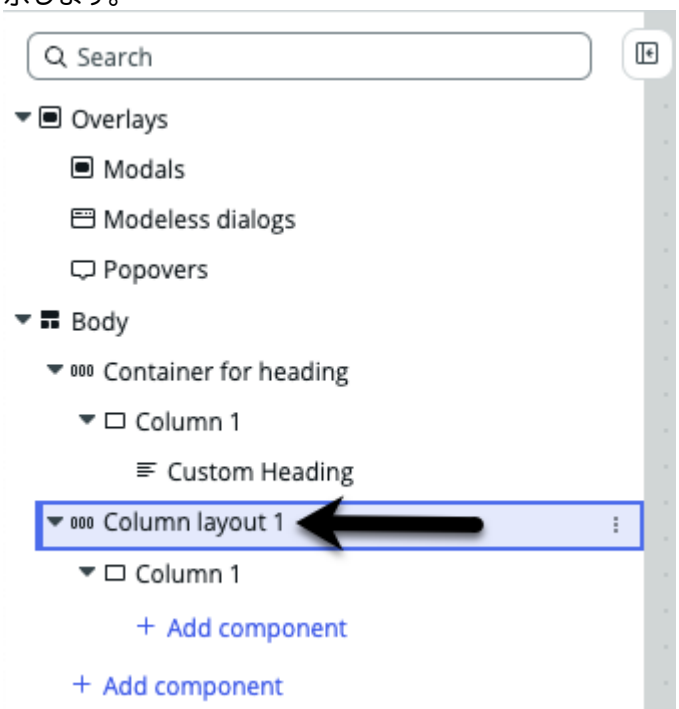
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** 前と同様に、コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。




**b.** ツールボックスで [単一列] レイアウトを選択します。

**c.** コンテンツツリーで [列レイアウト **1 (Column layout 1)]** を選択して、コンテナをハイライト表示します。




**d.** 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

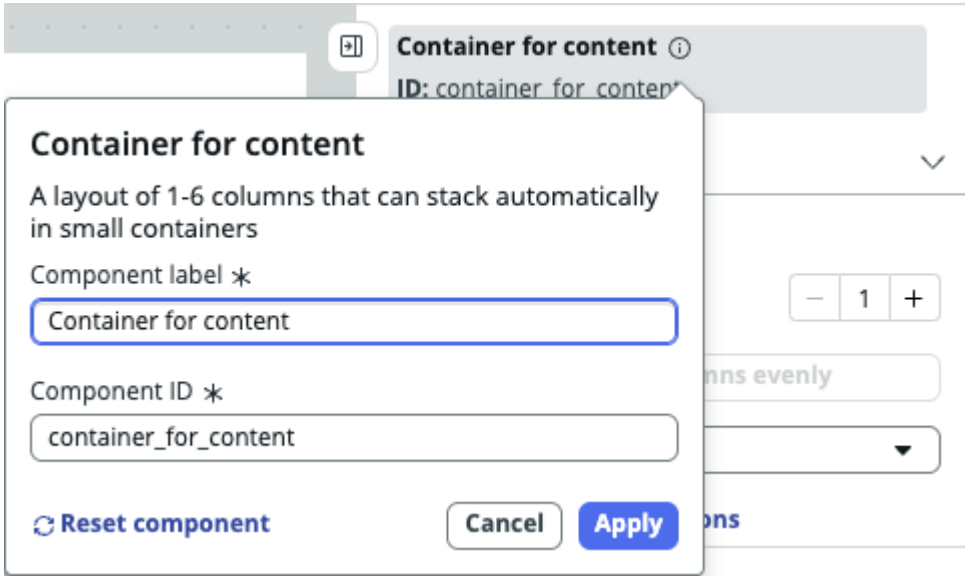
**e.** [コンポーネントラベル] フィールドに、「コンテンツ用のコンテナ」と入力します。

**f.** [コンポーネント **ID]** フィールドに、「container_for_content」と入力します。

**g. [Apply** (適用)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**h.** [保存] を選択します。

2 つ目のコンテナコンポーネントがページに正常に追加されました。

**9.** ページに画像コンポーネントを追加します。
画像は、ページに視覚要素を追加するのに適した方法です。このクイックスタートでは、UI ビルダー に付属のストック写真を追加します。ただし、利用可能な画像は追加できます。

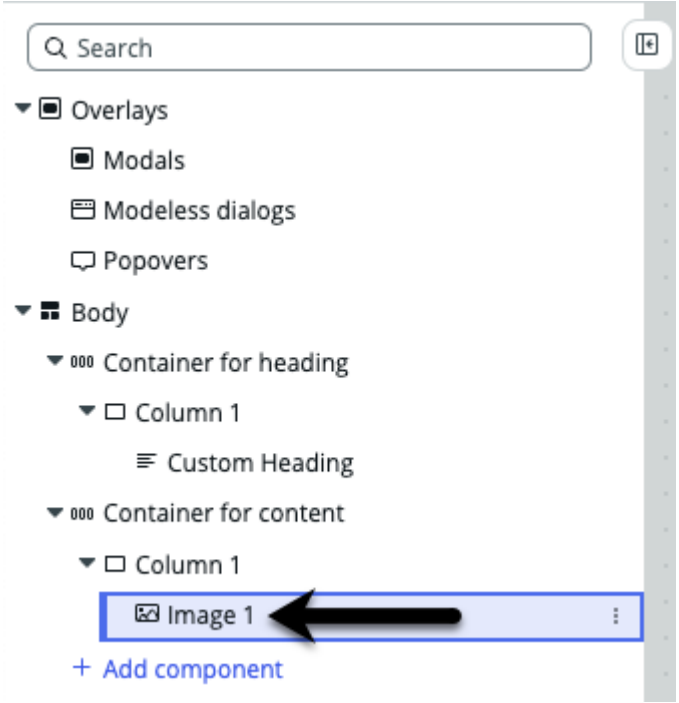
**a.** ステップ 8 で作成したコンテナの下にあるコンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。

**b.** 検索に「画像」と入力し、画像コンポーネントを選択します。
デフォルト画像が画像コンポーネントにロードされます。URL を画像に追加することで、独自の画像を追加できます。インターネットでホストされている画像または Now Platform の画像を使用できます。外部サイトでホストされている画像を使用する場合は、セキュリティのために https プロトコルを使用する必要があります。

**c.** [コンテンツ] ツリーで [画像 **1]** コンポーネントを選択して、画像を強調表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



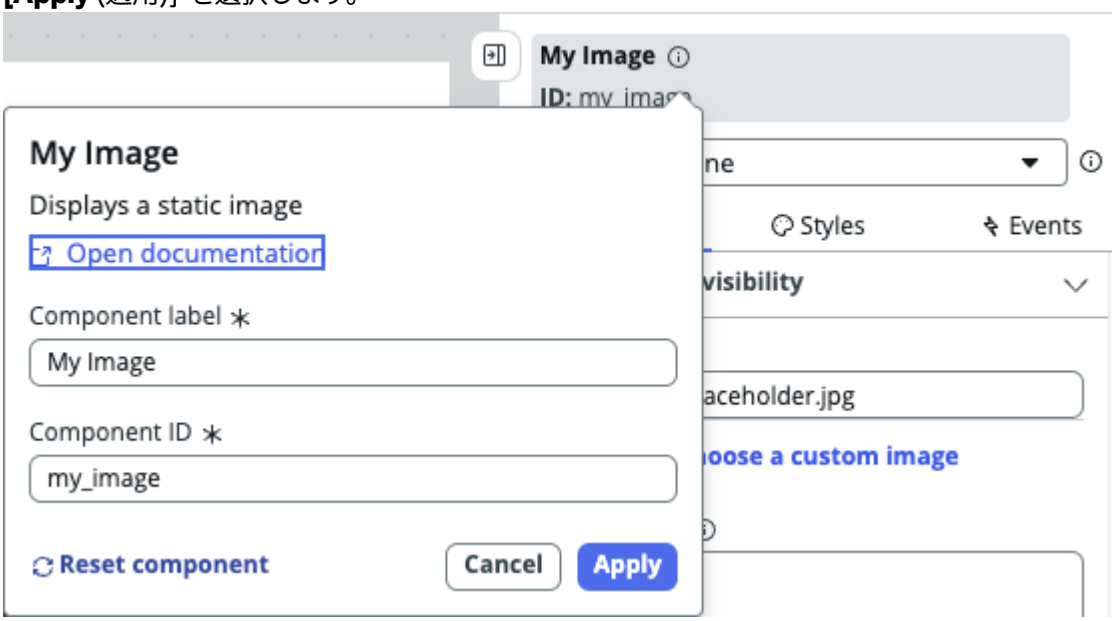

**d.** 構成パネルで [なし] を選択します。

**e.** 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

**f.** [コンポーネントラベル] フィールドに「My 画像」と入力します。

**g.** [コンポーネント **ID**] フィールドに「my_image」と入力します。

**h.** **[Apply** (適用)] を選択します。

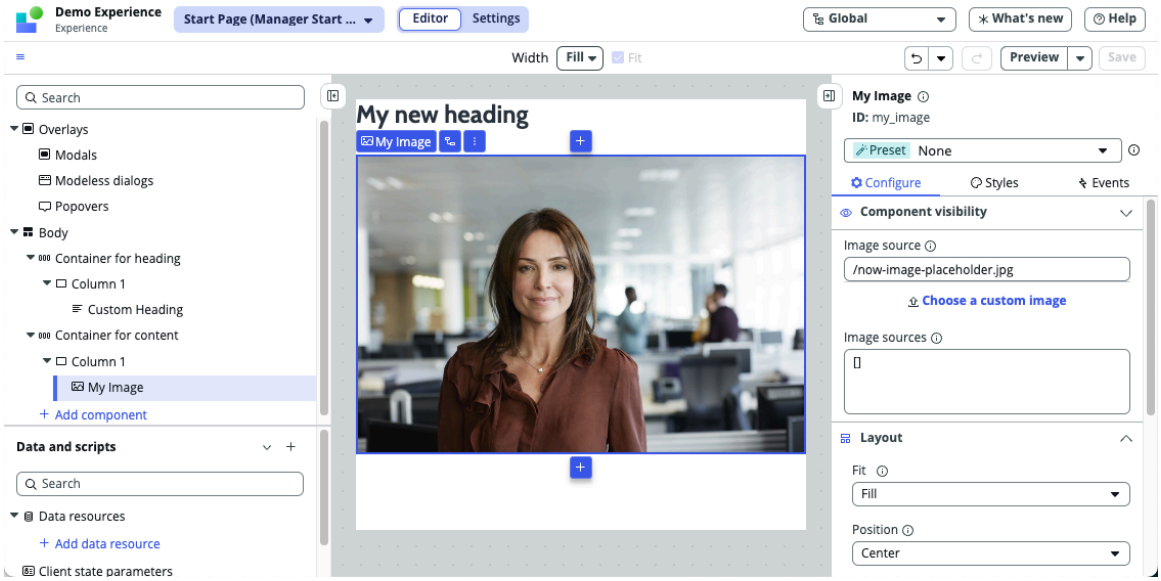



**i.** [保存] を選択します。

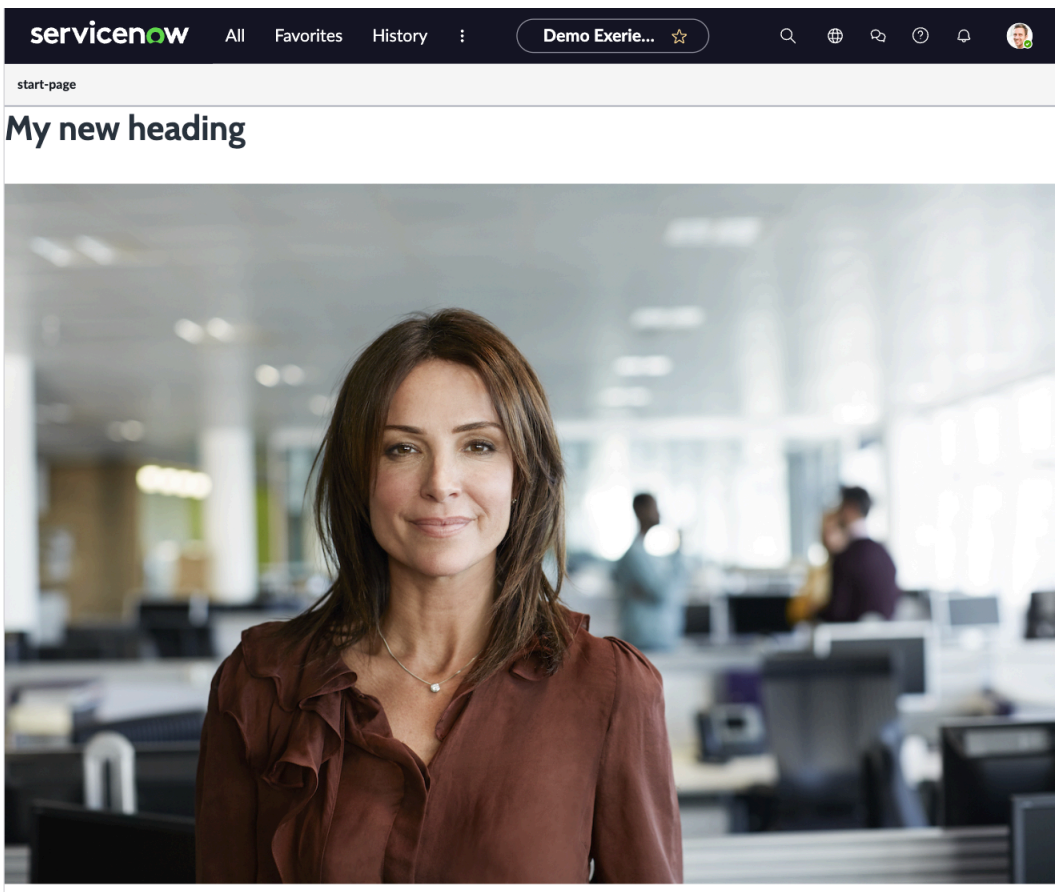
ページに画像コンポーネントを追加しました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**10.** UI ビルダー ヘッダーで [プレビュー] を選択してページをプレビューします。
おめでとうございます!UI ビルダー クイックスタートを完了しました。ページでは、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスでの表示を示すプレビューが生成されます。




タスクの結果

1. UI ビルダー に最初のページを作成しました。
2. ページに最初のコンテナコンポーネントを追加しました。コンテナのラベルを変更しました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 見出しコンポーネントをタイトルとしてコンテナに追加しました。ヘッダーのテキストを変更しました。ラベルも変更しました。
4. ページに 2 つ目のコンテナコンポーネントを追加しました。コンテナのラベルを変更しました。
5. 画像 コンポーネントを追加しました。画像コンポーネントのラベルを変更しました。
6. 新しいページを保存しました。
7. ブラウザーでページをプレビューしました。

UI ビルダー クイックスタートを正常に完了しました。

### **UI Builder** のチュートリアル

UI ビルダー の基本を使用して、「My チュートリアル」と呼ばれるページを作成する方法を学びます。

#### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

この UI ビルダー チュートリアルでは、UI ビルダー でページを構築するために次のタスクを実行します。

- UI ビルダー を起動します。
- ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成します。ページの作成の詳細については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
- ページのレイアウトを 2 列に変更します。詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
- 2 つのコンテナコンポーネントを追加してページを構築します。
- コンテンツツリーでコンテナコンポーネントの名前を変更します。
- 最初のコンテナにヘッダーコンポーネントとボタンコンポーネントを追加します。データビジュアル化コンポーネントを 2 番目のコンテナに追加します。コンポーネントの詳細ついては、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
- コンポーネントは次のように構成できます。
  - ボタンを ServiceNow® Web サイトにリンクします。
  - データビジュアル化コンポーネントをデータソースに接続して、タスクデータを表示します。データリソースの詳細については、「UI Builder ページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
- ページは頻繁に保存してください。
- ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。

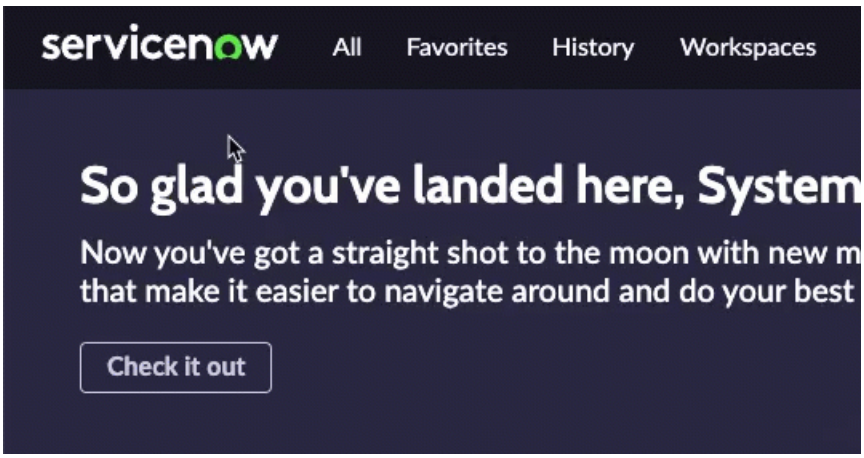
#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
   フィルターナビゲーターに直接「UI Builder」と入力することもできます。

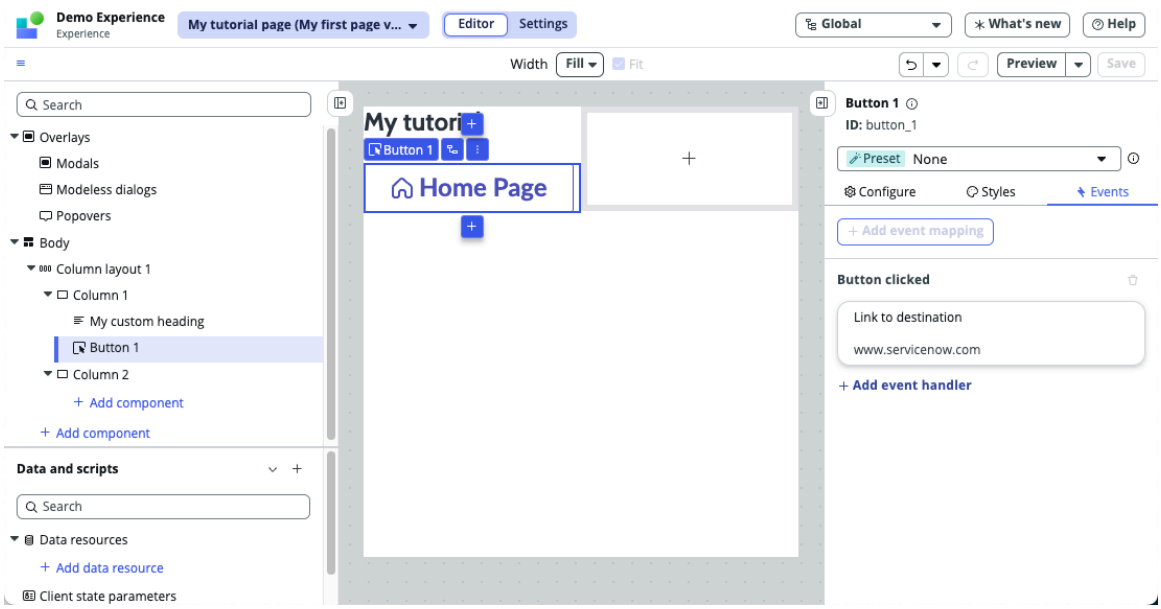
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**UI** ビルダー の起動




2. UI ビルダー ホームページから、作業するエクスペリエンスを選択します。
作業対象のエクスペリエンスが一覧表示されない場合は、管理者に連絡してエクスペリエンスへのアクセス権を取得するか、エクスペリエンスを作成します。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成します。
おめでとうございます! チュートリアルページが作成されました。このページにはコンテンツがありません。ページにコンポーネントを追加して機能を構築します。コンポーネントはページの構成要素です。UI ビルダー には、ページに追加できる多くのコンポーネントが用意されています。コンポーネントは、ヘッダーのようにシンプルにすることも、 リストのように複雑にすることもできます。
4. ページのレイアウトを 2 列レイアウトに変更します。
レイアウトの詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
5. ヘッダーコンポーネントと、ボタンコンポーネントを、左の列に追加します。
ページのヘッダーとボタンコンポーネントを追加して構成しました。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. データビジュアル化コンポーネントをそのコンテナに追加します。
   データビジュアル化コンポーネントには、視覚的に表示するデータが含まれています。データビジュアル化コンポーネントのパラメーターを構成します。次に、それにデータリソースを追加します。
   データビジュアル化コンポーネントを右側の列に追加して構成しました。顧客アカウントデータを取り込むデータリソースも追加しました。
7. 新しいページを最後に 1 回保存します。

8. ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。
   おめでとうございます!UI ビルダー チュートリアルを完了しました。

### タスクの結果

1. UI ビルダー にページを作成しました。
2. ページのレイアウトを 2 列に変更します。
3. 左側の列にヘッダーコンポーネントがタイトルとして追加されました。
   - ヘッダーのテキストを変更しました。
   - ヘッダーのラベルを変更しました。
4. ヘッダーコンポーネントの下にボタンコンポーネントを追加しました。
   - ボタンが構成されました。
   - ボタンのイベントハンドラーを追加しました。
   - Web ページへのリンクを設定するイベントハンドラーを追加しました。ボタンをクリックすると、Web ページが開きます。
5. 右側の列のラベルを変更しました。
6. データビジュアル化コンポーネントを追加しました。
   - データビジュアル化コンポーネントを構成しました。
   - タスクデータを取り込むデータリソースを追加しました。
7. 新しいページを保存しました。
8. ページをプレビューします。

## UI ビルダー および構成可能なワークスペース

UI ビルダー を使用して、構成可能なワークスペースエクスペリエンスのページを作成します。

ワークスペースは、タスクとワークフローの集約的な作業領域です。この領域により、ユーザーはジョブ全体を効率的に完了できます。このワークスペースには複数のツールがあり、ユーザーはこれらのツールにより、迅速かつ簡単に顧客を支援し、質問や問題を解決することができます。複数のケースを管理するマルチタブインターフェイスや、現在のタスクに関して迅速に情報を伝えるコンテキスト表示など、ワークスペースには、ユーザーの効率を高める機能も含まれています。

UI ビルダー を使用してワークスペースエクスペリエンスのページを作成できます。UI ビルダーは、ワークスペースページの構築に使用できるベースシステムコンポーネントを提供します。

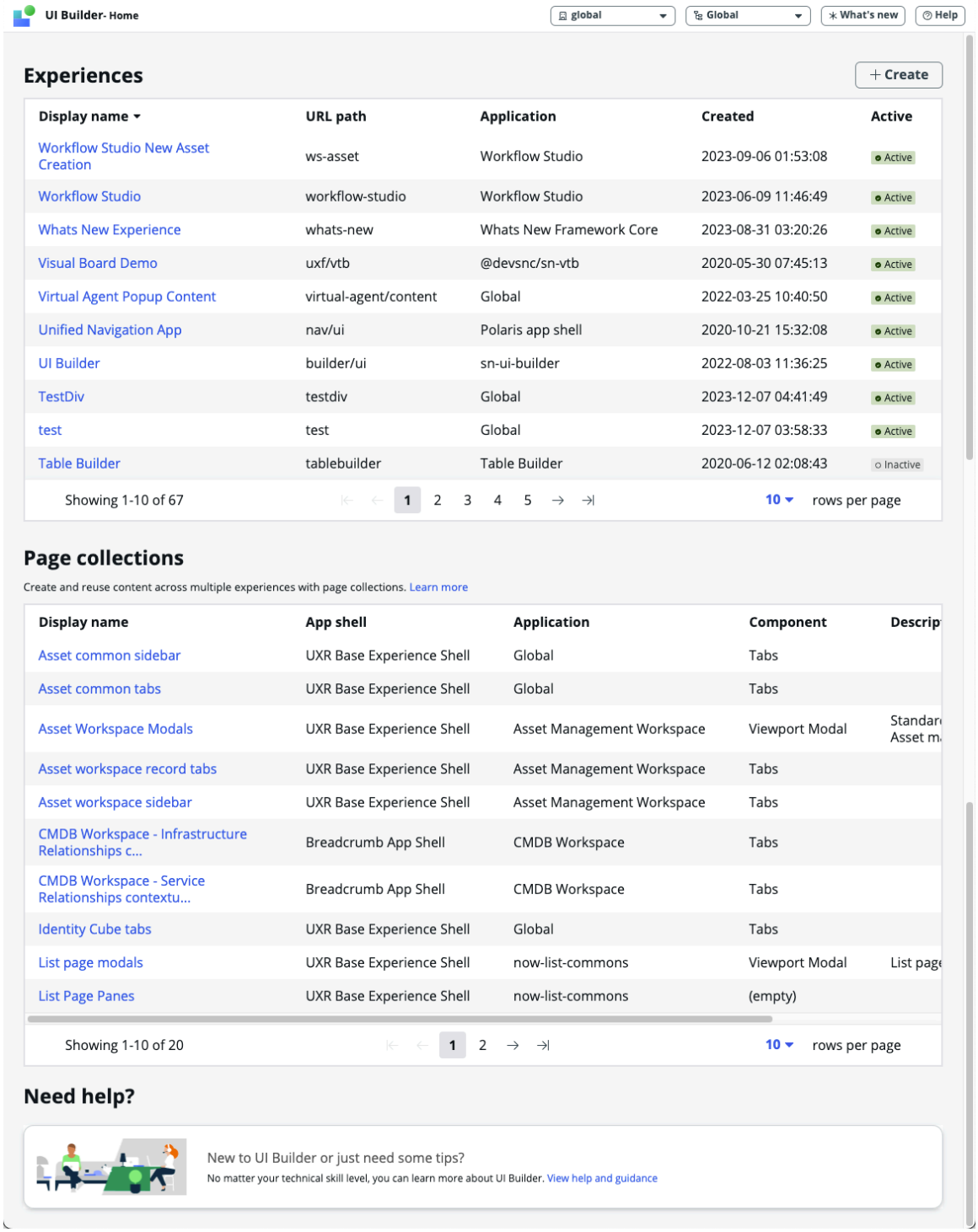
ワークスペースエクスペリエンスの UI ビルダー ページを作成するには、次の場所に移動します すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー を開きます UI ビルダー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー ホームでは、[自分のエクスペリエンス] の下に利用可能なエクスペリエンスが表示されます。ワークスペースエクスペリエンスで作業している場合は、ここにエクスペリエンスが一覧表示されます。

**UI** ビルダー ホーム




## **UI** ビルダー のエクスペリエンスの設定

独自のワークスペースとカスタムポータルエクスペリエンスを構築するための UI ビルダー のエクスペリエンスの設定について説明します。

作業しているワークスペースまたはポータルエクスペリエンスの設定を変更すると、ユーザーがエクスペリエンスとやり取りする方法、エクスペリエンスの外観、およびユーザーがエクスペリエンス間を移動する方法に影響が及ぶことがあります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

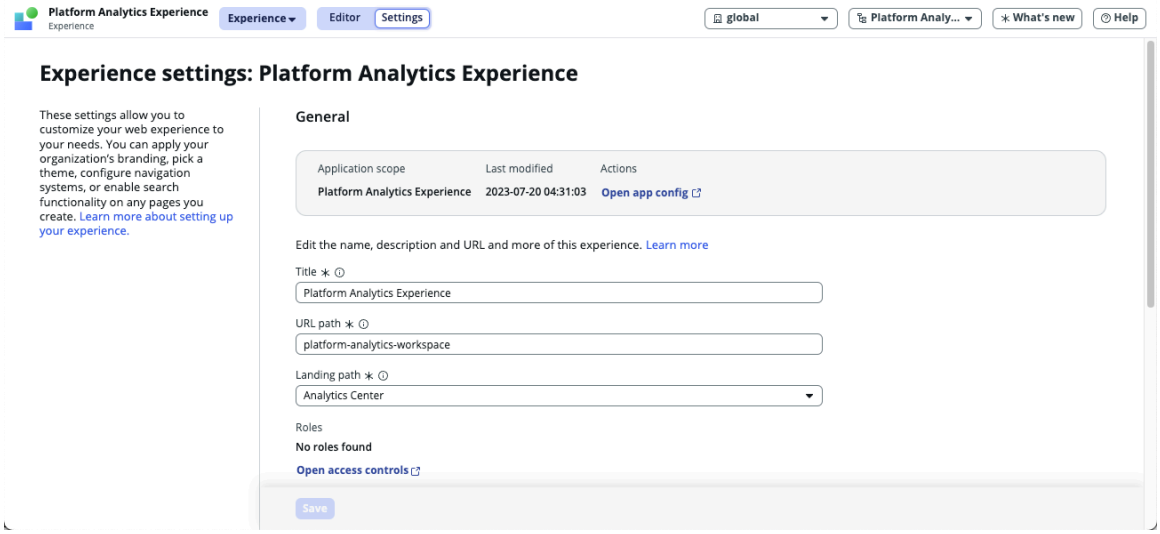
エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( Global ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

## ワークスペースエクスペリエンスの設定

ワークスペースエクスペリエンスの次の設定を変更できます。

- エクスペリエンスの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースまたはポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンス内のすべてのページまたはエクスペリエンス内の 1 つのページに組織のブランディングを適用します。
- サイドナビゲーション設定を構成して、エクスペリエンスのサイドナビゲーションにページを追加します。
- エクスペリエンスの通知をオンまたはオフにします。
- エクスペリエンスのグローバル検索設定を変更できます。たとえば、エクスペリエンスで検索バーを表示または非表示にすることや、検索結果の取得元を決定する検索ソースを変更することなどを選択できます。

ワークスペース [エクスペリエンスの設定を編集] 画面




ワークスペースエクスペリエンスの設定の詳細については、「UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスを構成する」を参照してください。

## ポータルエクスペリエンスの設定

ポータルエクスペリエンスの次の設定を変更できます。

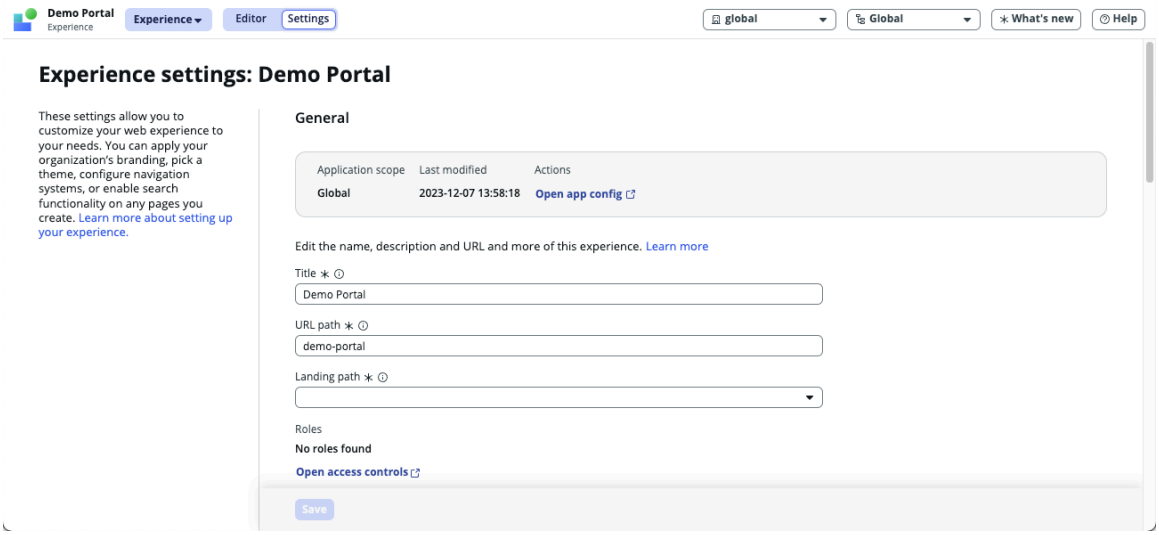
- エクスペリエンスの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースまたはポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンス内のすべてのページまたはエクスペリエンス内の 1 つのページに組織のブランディングを適用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ポータルエクスペリエンスのアプリシェルでナビゲーションとメニューの設定を行います。ポータルコンテンツのラッパーであるアプリシェルは、Web ページに似ています Google Chrome 。
- グローバル検索機能をポータルエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御します。たとえば、公開ページまたはプライベートページのグローバル検索を有効または無効にすることができます。

[エクスペリエンスの設定を編集] 画面




ポータルエクスペリエンスの設定の詳細については、「UI ビルダー ポータルエクスペリエンスを構成する」を参照してください。

## UI Builder の用語集

UI Builder (UIB) に関する専門用語や概念について説明します。

アクション

アクションは ServiceNow® プラットフォームの一部です。UI Builder のアクションは、具体的にはページまたはページコンポーネント内のアクティビティです。イベントとイベントハンドラーは、アクションを追加するために使用されます。たとえば、ボタンコンポーネントをページに追加してから、Web ページを開くなどのボタンのアクションを適用するイベントハンドラーを追加します。

アプリシェル

アプリシェルは、Web エクスペリエンスの静的要素 (ヘッダー、フッター、メニューナビゲーションなど) であり、エンドユーザーがすべてのエクスペリエンスを操作するときに常に表示されます。アプリシェルは、主にワークスペースとポータルエクスペリエンスで使用およびサポートされています。

バインド

「データバインディング」を参照してください。

自社用カスタム設定

「テーマ」を参照してください。

カスケーディングスタイルシート (CSS)

カスケーディングスタイルシートは、Web の標準スタイルシート言語です。UI Builder では、CSS を使用して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスのコンポーネントの表示スタイルを変更します。たとえば、ページやコンテナコンポーネントに背景色を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「CSS カスタムプロパティ」も参照してください。

クライアントスクリプト

ページ上のコンポーネントおよびクライアントステータスパラメーターとやり取りするクライアントサイド JavaScript。クライアントスクリプトは、UI Builder のイベントとイベントハンドラーにマッピングされます。たとえば、リストコンポーネントに、リスト内のレコードの開いたレコードと閉じたレコードを切り替えるクライアントスクリプトを含むボタンを追加します。UI Builder に統合されている Now コードエディターを使用して、クライアントスクリプトを追加します。

クライアントステータスパラメーター

そのページのデータ (クライアントステータス) のみを格納するためにページに対して定義されたページ変数。たとえば、3 つのクライアントステータスパラメーターを作成して、レコードの作成に必要な入力を保存し、リストを更新するタイミングを指定します。クライアントスクリプトとイベントを使用してページ変数が更新されるようにし、ページを動的にすることができます。

コンポーネント

コンポーネントの UI Builder ライブラリを使用してページを構築します。コンポーネントには、エンドユーザーが表示して操作できるインターフェイスがあります。コンポーネントは、イベントとプロパティを介して相互に通信できます。一般的に使用されるコンポーネントには、見出し、画像、リスト、フォーム、ボタンなどがあります。

コンポーネント式エディター

式をバインドまたは変更するために使用します。テキスト、データバインディング、または式を入力します。エディターは、論理、算術、比較、否定、および関数型の変換タイプをサポートしています。

コンポーネント ID

スクリプトを追加するとき、またはコンポーネントにデータをバインドするときに、コンポーネントを参照するために使用されます。コンポーネントをページに追加すると、コンポーネントラベルに基づいたコンポーネント ID が自動的に作成されますが、コンポーネント ID は編集できます。

コンポーネントのプリセット

事前定義された構成値とイベントマッピングをコンポーネントに適用するために使用します。プリセットは、事前に構築済みの構成をコンポーネントプロパティとイベントハンドラーに適用します。プリセットは、特定のコンポーネントでのみ使用できます。

コンポーネントプロパティ

[構成] パネルで利用でき、コンポーネントの構成に使用されます。各コンポーネントには一意のプロパティがあります。コンポーネントのプロパティは、[構成] パネルの [構成]、[スタイル]、および [イベント] の各タブ内で指定されます。一部のコンポーネントには、利用可能なプリセットがあります。コンポーネントのプロパティを自動的に設定するには、コンポーネントプリセットを使用します。

複合データリソース

GraphQL や Transform などの複数のデータリソースを、単一の再利用可能なデータリソースに結合します。

構成可能なワークスペース

従来の環境のフォームとリストに代わる新しい作業方法。構成可能なワークスペースは、Next Experience UI の前に導入されましたが、別のブラウザータブで開かれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントローラー

データとイベントロジックを含み、コンポーネントのプリセットを有効にするデータリソースのタイプ。ページテンプレートを使用すると、コントローラーが自動的に追加されます。コントローラーには次の 2 つのタイプがあります。

- データコントローラーにはデータリソースが含まれ、手動でページに追加できます。
- UI コントローラーは、ページテンプレートを使用するときにページに追加され、手動で追加することはできません。現在、コントローラーの作成はサポートされていません。

CSS

「カスケーディングスタイルシート」を参照してください。

CSS カスタムプロパティ

テーマ設定に使用できる Next Experience の顧客 CSS プロパティ。

データバインディング

(テーブル、レコード、またはページ上の他の要素からの) データを、情報を表示する UI 要素に関連付けるプロセス。

データリソース

ページとサーバーの間の仲介者として機能します。データリソースはデータをフェッチしてコンポーネントに入力し、ユーザーのインタラクションに基づいてサーバーデータを更新します。データリソースタイプには、コントローラー (データコントローラーと UI コントローラー)、GraphQL、変換、クライアントステータス、複合、REST があります。

データの表示方法

データを表示するためのチャートまたはグラフ (単一スコアや縦棒グラフなど)。データの可視化は、ビューアーに応じて異なるデータを表示するように構成できます。

Entity View Action Mapper (EVAM)

多様なデータソースをカードやリストにレコードを表示する方法を標準化するアプリケーションです。UI Builder は EVAM データソースを使用して、コンポーネント内の情報をカードグリッドビューまたは情報のリストとして表示します。

イベント

「UI Builder イベント」を参照してください。

イベントハンドラー

コンポーネント、ページ、またはデータリソースでイベントがトリガーされたときに実行されるアクション。

イベントマッピング

イベントが発生したときに実行するイベントハンドラーを識別するプロセス。単一または複数のイベントハンドラーをコンポーネント、ページ、またはデータリソースイベントに追加します。

Flexbox

UI Builder の 1 次元ページレイアウトシステム。コンテンツまたはコンポーネントを、ページの行 (左から右または右から左) または列 (上から下または下から上) に追加できます。

GraphQL

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API のオープンソースクエリ言語。UI Builder では、GraphQL データリソースが GraphQL クエリとミューテーションを実行します。

iFrame

ドキュメント内に別の HTML ページをロードする HTML 要素。

レイアウト

(Vancouver より前のリリース) コンテナ内でのコンポーネントの配置方法を制御します。コンポーネントをコンテナに追加した後、グリッドを使用するなどのより高度な方法でレイアウトを構成できます (Flexbox がデフォルトのレイアウトです)。

(Vancouver 以降のリリース) コンポーネントを配置するためにページに追加できる要素。

Macroponent

UI Builder ページを制御するコアデータ構造。フィールドには、ページを構築する JSON が含まれます。

マップイベント

「イベントマッピング」を参照してください。

モーダル

アクションが実行されるまで、ユーザーがページの残りの部分を使用できないようにするページオーバーレイ。たとえば、ユーザーがレコードを削除するボタンコンポーネントを選択した場合、アクションの確認を求めるモーダルを追加できます。

通知

何かが発生したことをユーザーに通知するために ServiceNow インスタンスから送信される通信 (メール、ショートメッセージサービス、通知、またはプッシュ通知)。

Now コードエディター

CSS、HTML、JavaScript、XML、および JSON をサポートするリッチテキストエディター。Now コードエディターを使用して、Next Experience UI Builder コンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアントサイドスクリプト、サーバーサイドスクリプトを変更します。

ページ

「UI Builder ページ」を参照してください。

ページコレクション

タブまたはモーダル内のエクスペリエンスで再利用できるページのグループ。

ポップオーバー

ユーザーがページの残りの部分を引き続き使用できるようにするページオーバーレイ。ポップオーバーは、テキスト、コンポーネント、画像、フィールド、およびメニューアイテムを含む UI Builder ページと同様に構成できます。

プリセット

「コンポーネントのプリセット」を参照してください。

リピーター

複数のコンポーネントに提供するデータを繰り返す基本ループとして機能するコンポーネント。リピーターは、アレイ、またはオブジェクトのアレイを使用します。リピー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターは、データアレイプロパティに値をバインドします。たとえば、[{"task": "A"}, {"task": "B"}] は、その中のコンテンツを 2 回繰り返します。

タブ

異なるデータセット間を移動するための水平または垂直タブメニューを表示するコンポーネント。

テンプレート (ページ)

UI Builder ページに入力する事前定義された値。テンプレートを使用すると、ページをより迅速に構築できます。

テーマ

プライマリ色、セカンダリ色、ロゴ、フォントなど、エクスペリエンス内のすべての UI Builder ページの表示スタイル。

変換

スクリプトを使用して入力データを別の形式に変換するデータリソースのタイプ。プロパティを JSON 形式で指定します。

UI Builder

Web ユーザーインターフェイスビルダーであり、これを使用すると、開発者は、Next Experience UI フレームワークコンポーネントを使用して、新しいページを構築したり、既存のページをカスタマイズしたりできます。

UI Builder イベント

ユーザーが実行するアクション (ボタンの選択など) またはページで発生するアクション。ほとんどの UI Builder コンポーネント、ページ、およびデータリソースには、デフォルトの関連イベントがあります。イベントでイベントハンドラーを使用して、ページにアクションを追加します。

UI Builder ページ

列レイアウト、列、およびコンポーネントのコレクション。ワークスペースまたはポータルエクスペリエンス用に複数の UI Builder ページを作成またはカスタマイズします。

バリアント

ロールまたは条件によってアクセスが制御される UI Builder ページのバージョン。さまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットとするページのバリアントを作成します。たとえば、エージェント用のホームページとマネージャー用のバリアントを同じ URL で作成します。または、さまざまな条件でユーザーに表示されるページバリアントを作成します。

ビューポート

UI Builder で親ページを所有しなくてもエクスペリエンスを拡張できるようにする特殊なコンポーネント。次の 3 つの方法でビューポートを使用できます。ビューポートコンポーネントをページに追加するか、ビューポート対応タブをページに追加するか、ビューポートをコンテキストサイドバーコンポーネントに追加します。

ワークスペース

アプリケーションユーザーのタイプのターゲットエクスペリエンス。ユーザーがアプリケーションとやり取りできるようにするコンポーネントが含まれています。

### UI ビルダー の学習

UI ビルダー 内を移動し、いくつかの一般的なユースケースを例で確認する方法を学びます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



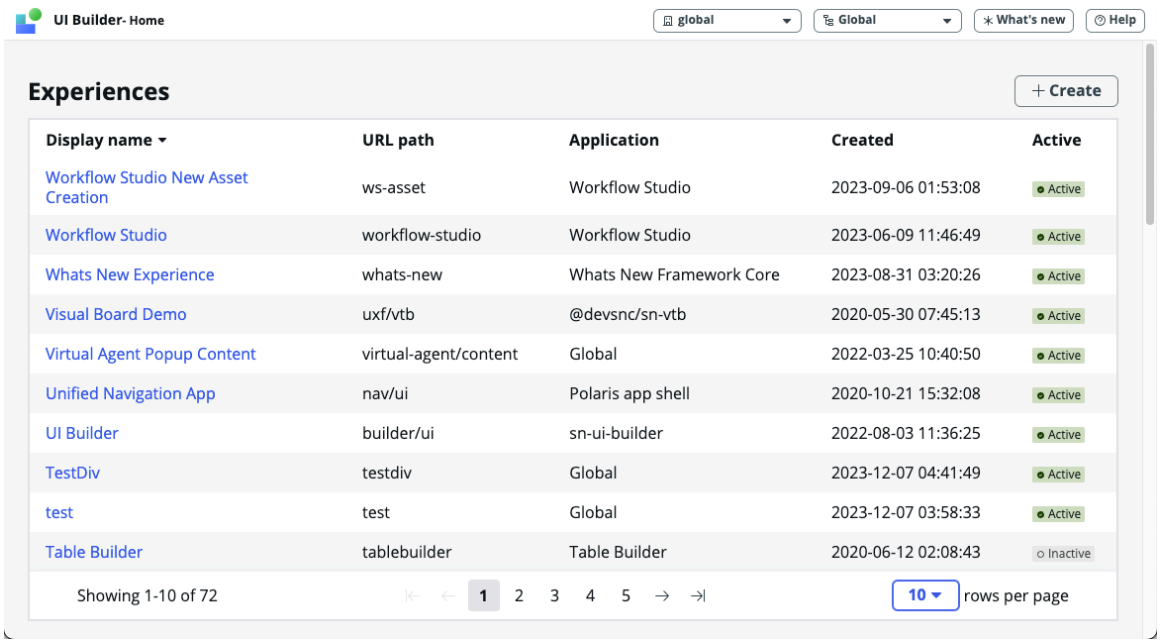
自動翻訳

## UI ビルダー アプリケーションの中で移動する

UI ビルダー の中で移動する方法を学びます。

## UI ビルダー ホーム

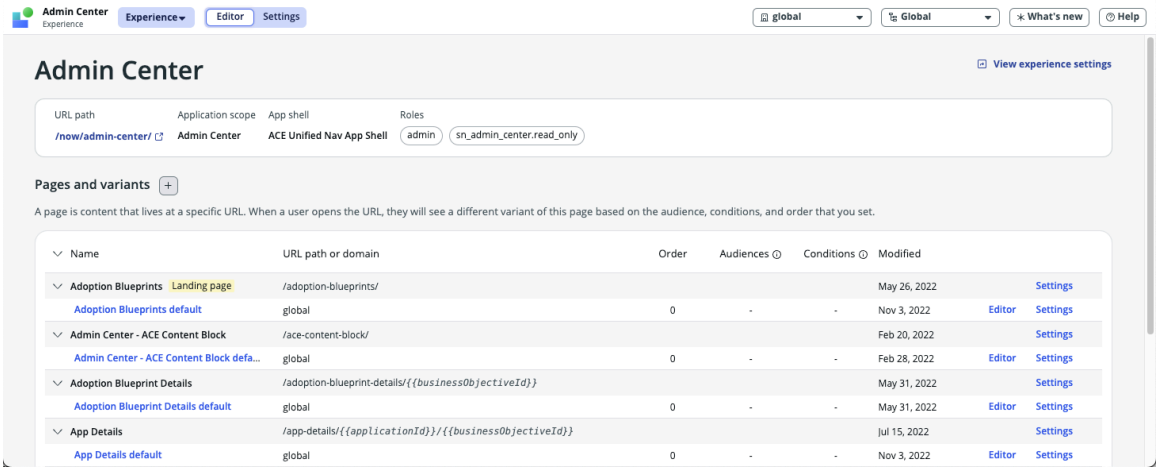
UI ビルダー ホームページから、すぐに利用可能なカスタムエクスペリエンスに簡単にアクセスできます。




## UI ビルダー エクスペリエンスビュー

UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。[ ページとバリアント] リストを使用して、編集するページを選択します。

### UI ビルダー エクスペリエンスビュー



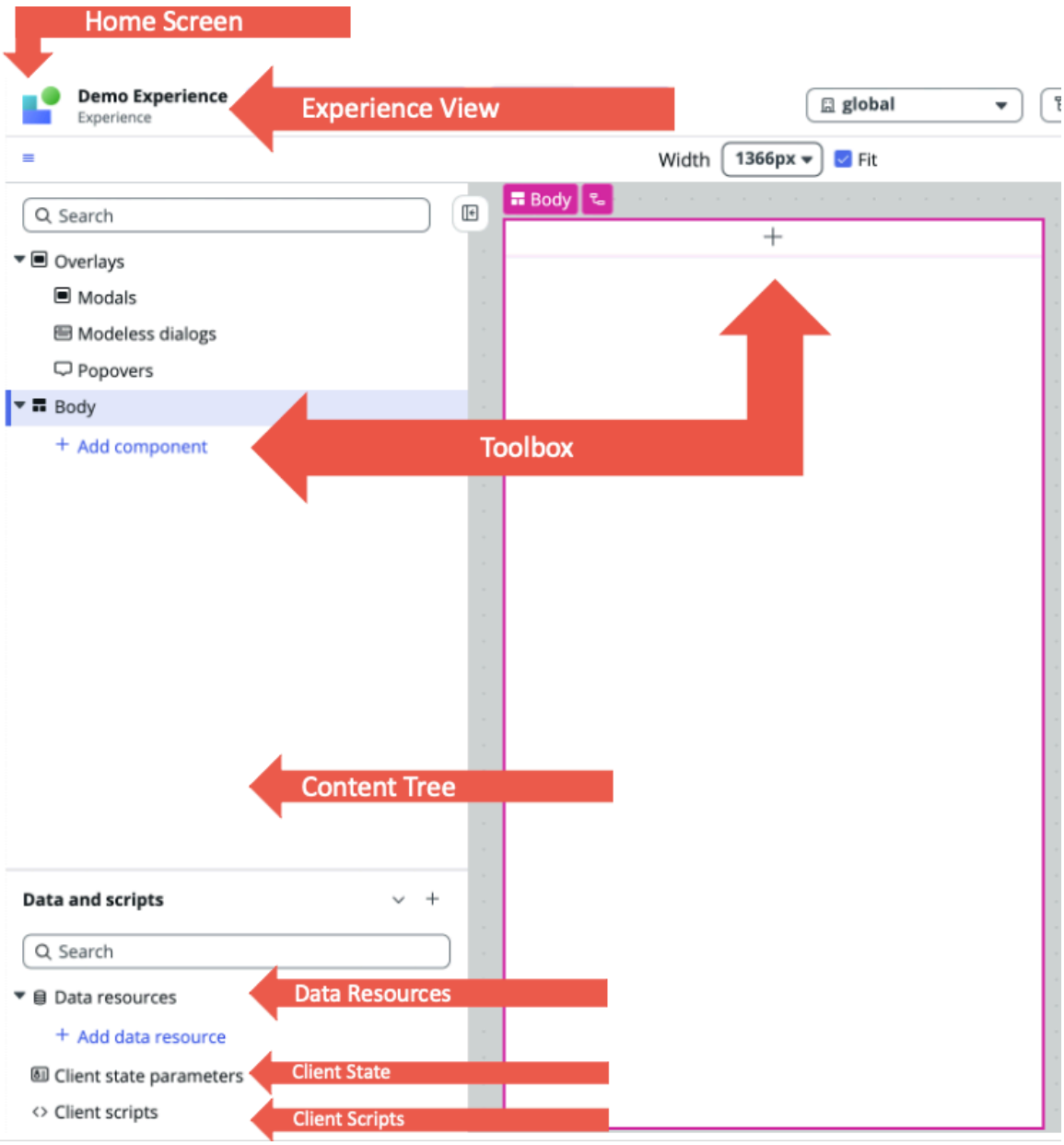

## UI ビルダー の構造

UI Builder は次の領域に分かれています。

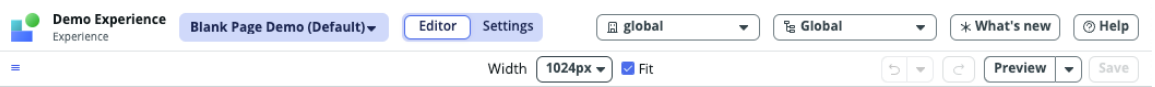
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- UI ビルダー の以下の項目にアクセスするには、左側の垂直バーを使用します。



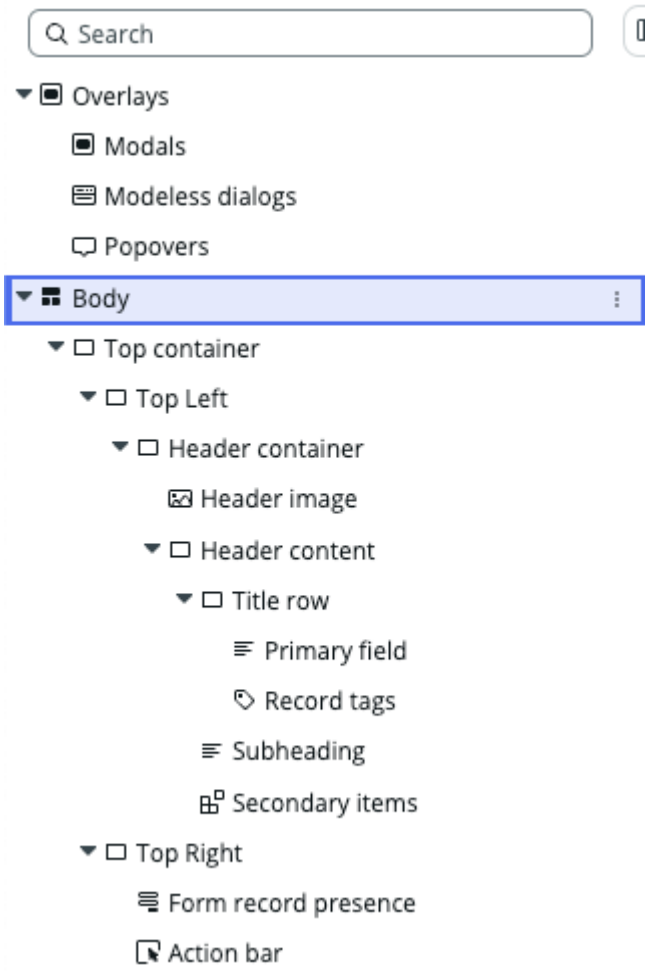

- トップバーを使用して、エクスペリエンスのページにアクセスし、ヘルプを表示します。可用性、順序、対象者などのページ設定を変更します。編集中のページの URL パスをプレビューして開き、ページがユーザーにどのように表示されるかを確認します。ドメインを選択してアプリケーションスコープを設定することもできます。最後に、[保存] ボタンを頻繁にクリックしてページを保存します。



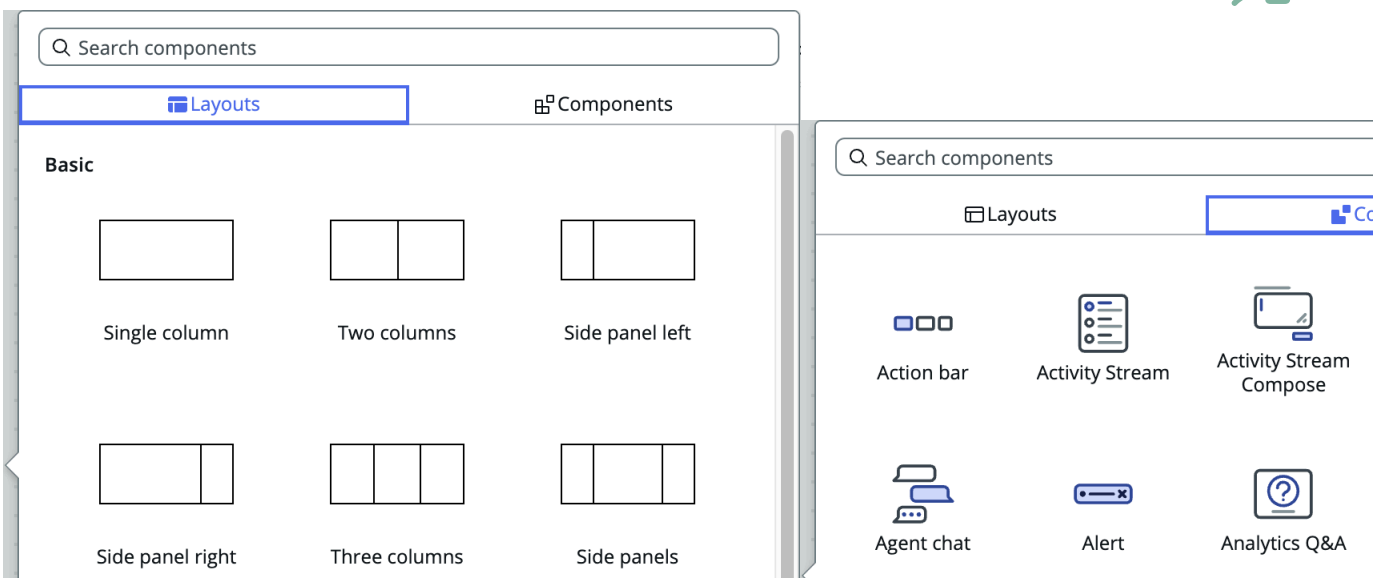

- コンテンツツリーを使用して、ページ上の列レイアウト、列、コンポーネントを表示および編集します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



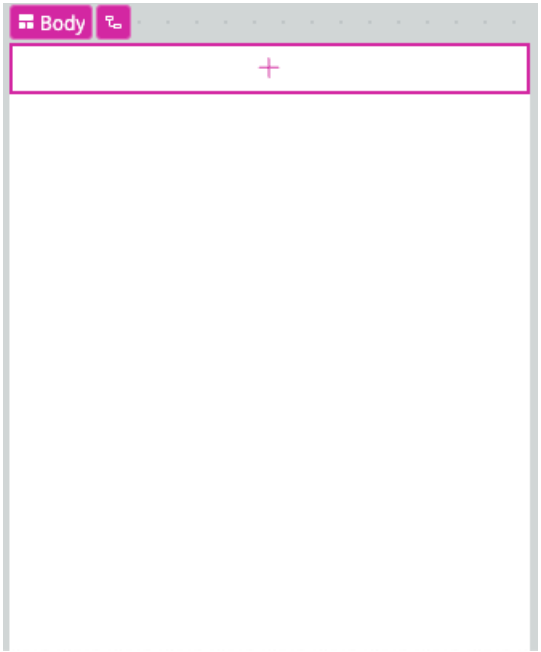

- UI ビルダー ツールボックスを使用して、列レイアウトとコンポーネントをページに追加します。



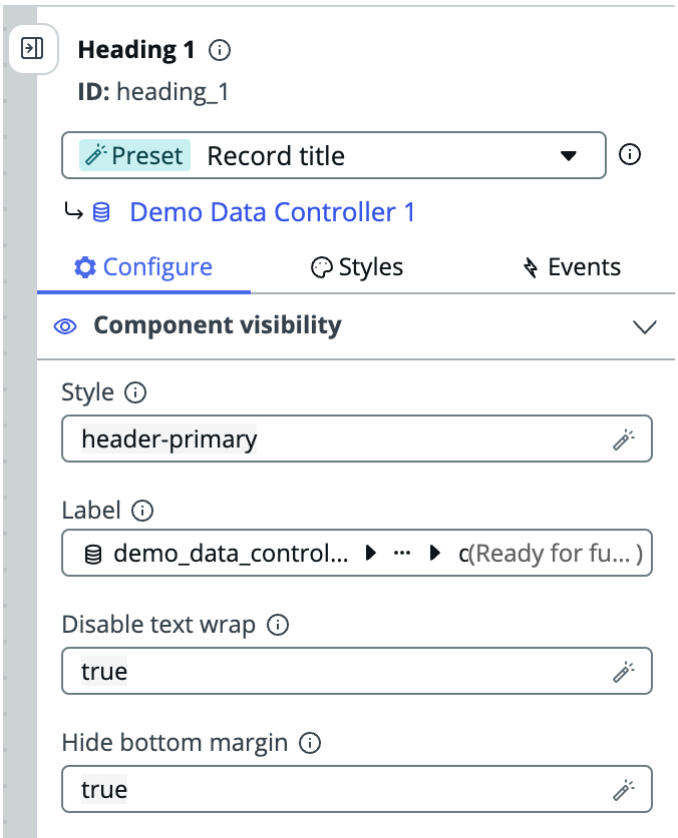

- UI ビルダー ステージング領域で作業して、ページを構築および変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



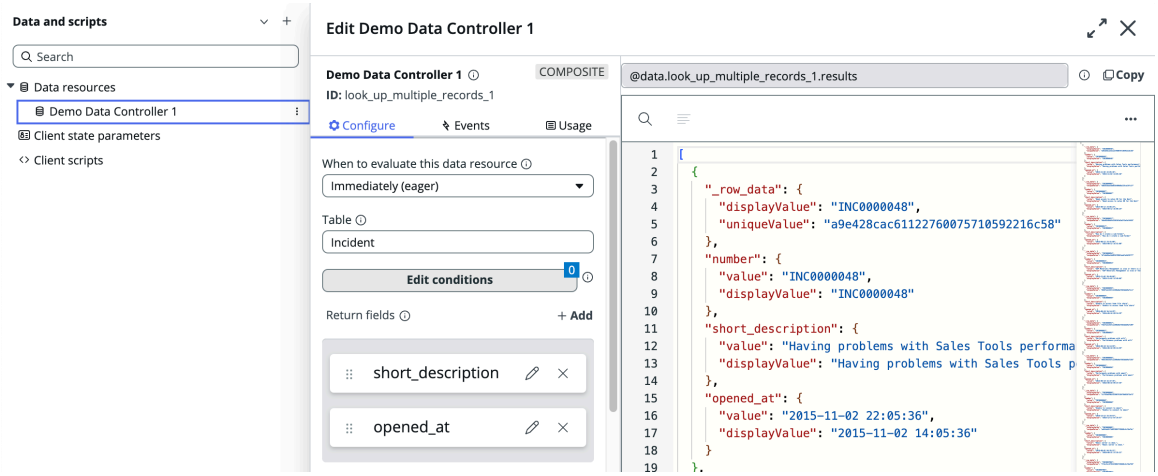

- 構成パネルに移動して、列レイアウト、列、コンポーネント、スタイリング、およびイベントを変更します。



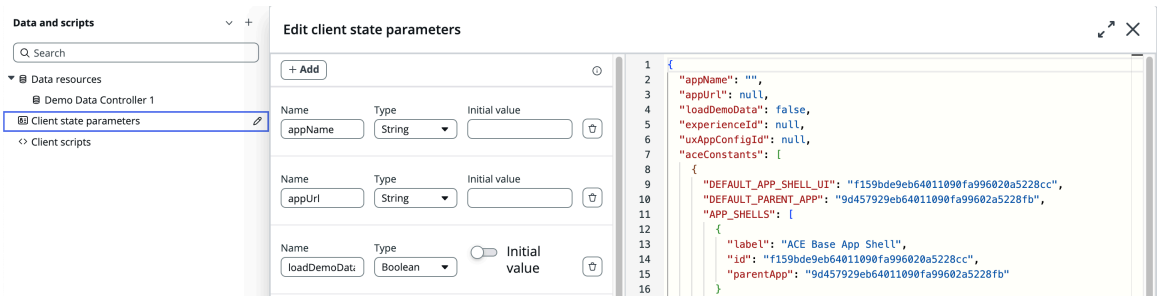

- データリソース：データリソースを使用してデータをコンポーネントにバインドし、ページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。データリソースを使用すると、コンポーネントを再利用できます。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

自動翻訳

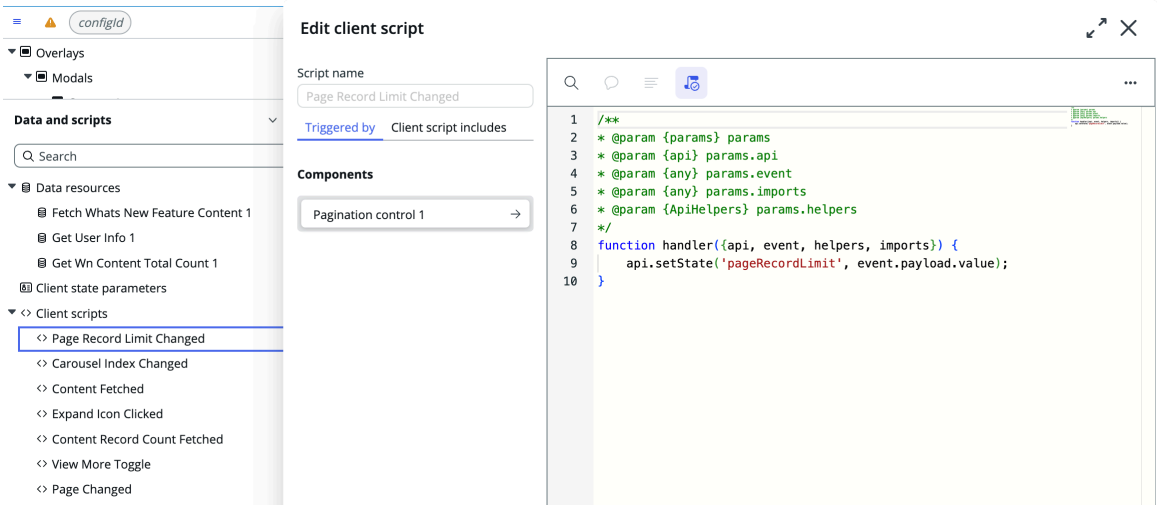
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




- クライアントステータス：ページのクライアントステータスのパラメーターを設定します。クライアントステータスパラメーターは、名前、タイプ、および初期値で構成されます。クライアントステータスパラメーターのプレビューを表示できます。




- クライアントスクリプト: スクリプティングにより、イベント処理などのページの側面が自動化されます。




## UI ビルダー を例で学ぶ

一般的なユースケースを調べることは、UI ビルダー の使い方を学ぶ良い方法です。このセクションの各タスクを記載されている順序で実行することを検討してください。

ここでは、次のユースケースについて説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

デモエクスペリエンスを作成して **UI** ビルダー を調べる

UI ビルダー のエクスペリエンスは、ユーザーがアプリケーションを操作するための Web ページのコレクションです。このエクスペリエンスには、ルート、ページのバリアント、各バリアントに必要な対象者と条件、およびエクスペリエンスの設定が含まれます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

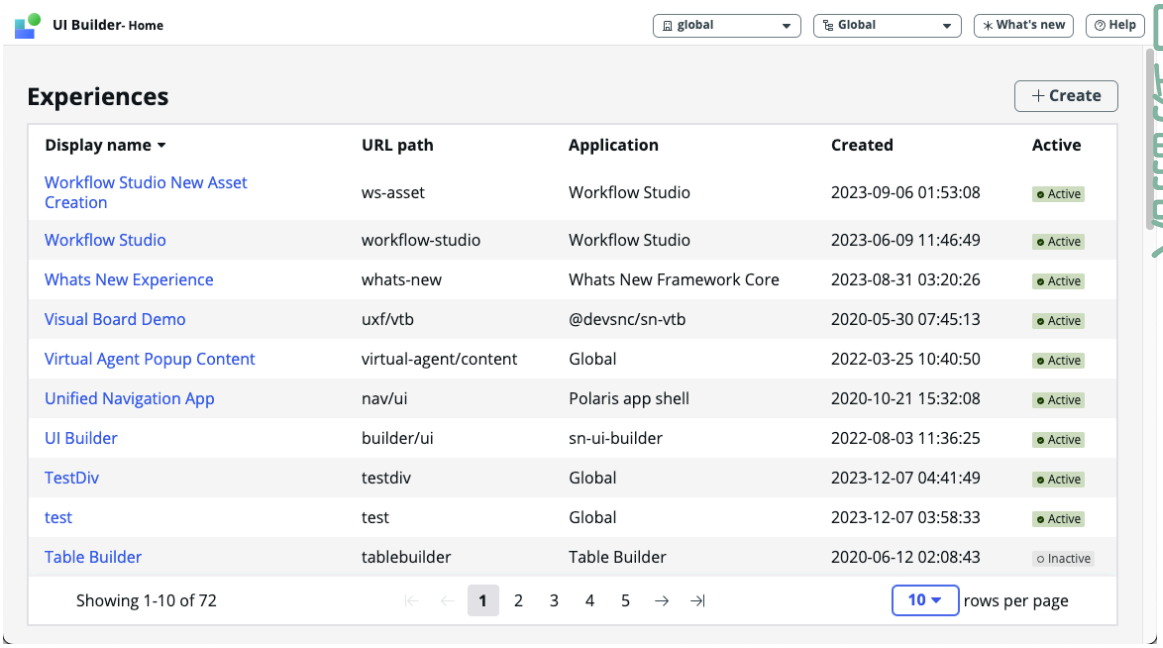
このタスクについて
UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。エクスペリエンスビューを使用して、エクスペリエンスの構造と階層を確認します。UI ビルダー エクスペリエンスビューにアクセスするには、ここで説明されているように、UI ビルダー ホーム画面から既存のエクスペリエンスを選択するか、デモエクスペリエンスを作成します。

**注:**
UI ビルダー には、Employee Center などの ServiceNow ベースシステムのサービスポータルを構築または構成する機能はまだありません。サービスポータルについては、引き続きサービスポータルデザイナーを使用してください。

手順

**1.** 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.

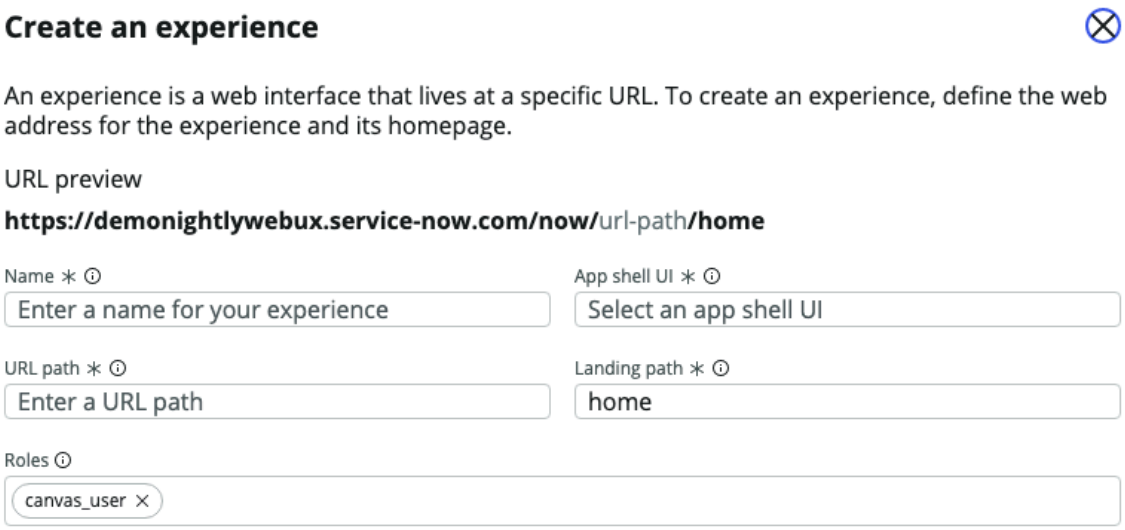
**UI** ビルダー ホームページ




**2.** UI ビルダー のホームページから **[+** 作成] を選択します。

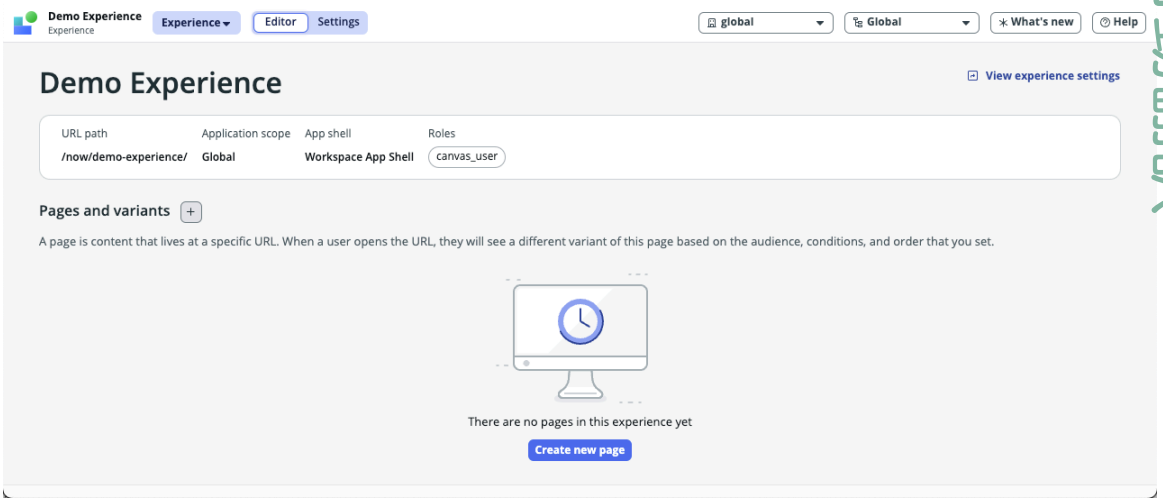
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エクスペリエンスを作成] ダイアログボックス




3. [名前] を入力します (例：デモエクスペリエンス **(Demo Experience)**)。
4. [アプリシェル **UI]** を選択します (例：ワークスペースアプリシェル)。
5. [作成] を選択します。
6. [エクスペリエンスを開く] を選択して、エクスペリエンスのメインページを表示します。

新しいエクスペリエンスのメインページ




**注:**
画面には、新しいエクスペリエンスの名前に加え、URL、アプリケーションスコープ、管理者パネル、およびエクスペリエンスを表示できるユーザーのロールが含まれています。エクスペリエンス用に作成したページまたはバリアントは、[ページとバリアント] セクションに表示されます。

次のタスク
このエクスペリエンスの空白ページを作成する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

## 空白ページの作成

デモエクスペリエンスを作成した後、エクスペリエンスでユーザーに提供するものを定義するのに構築できる、空白のページを作成できます。

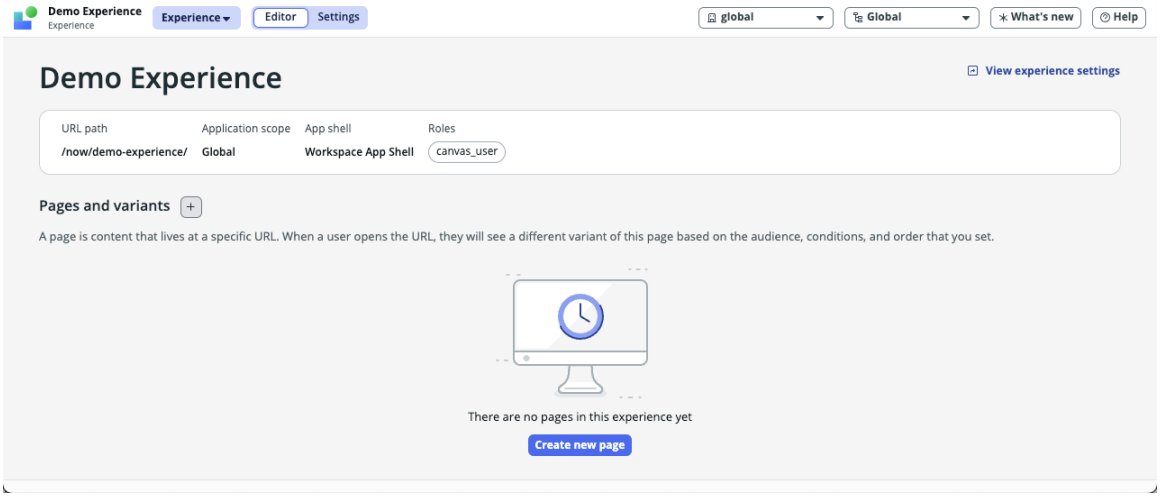
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

手順

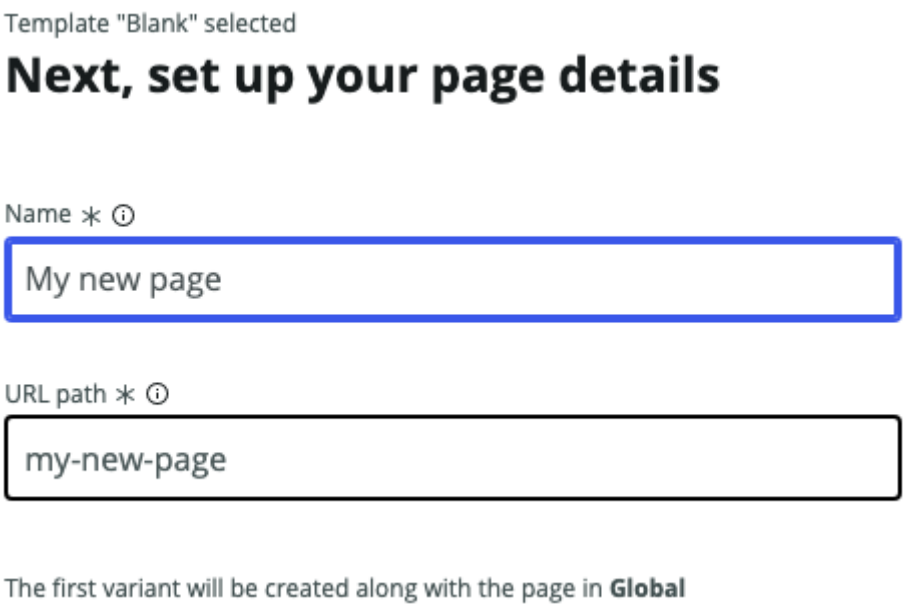
1. 前の手順で作成したエクスペリエンスをまだ表示していない場合は、 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダーをクリックし、作成したエクスペリエンスを選択します。

新しいエクスペリエンスのメインページ




2. エクスペリエンスのメインページから、[新規ページの作成] を選択するか、[ページとバリアント] の横にあるプラス (**+**) 記号を選択します。
3. [最初にテンプレートを選択してください] 画面で、[代わりに最初から作成します] を選択します。使用できるテンプレートもありますが、ページを最初から作成します。

ページの詳細



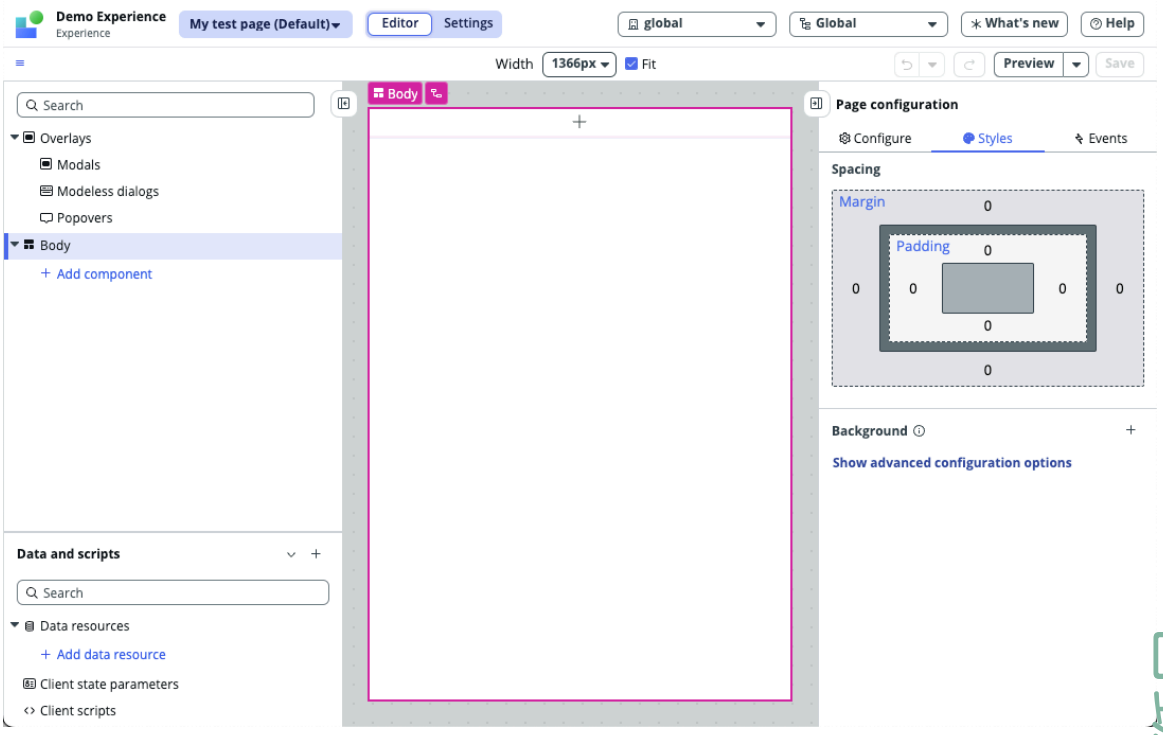

4. [名前] フィールドに「**My test page**」と入力し、[続行] を選択します。

> **注:**
> **[URL** パス] には、ユーザーがページにアクセスするのに使用できる URL が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 次の画面で [よさそうです] を選択します。
6. [バリアントについて教えてください] 画面で、[作成] を選択します。
   ビジュアルエディターが開きます。ここで、新しいページの編集を開始できます。

UI ビルダー ビジュアルエディター




次のタスク
モーダルを開くボタンの作成方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

## テンプレートを使用したレコードページの作成

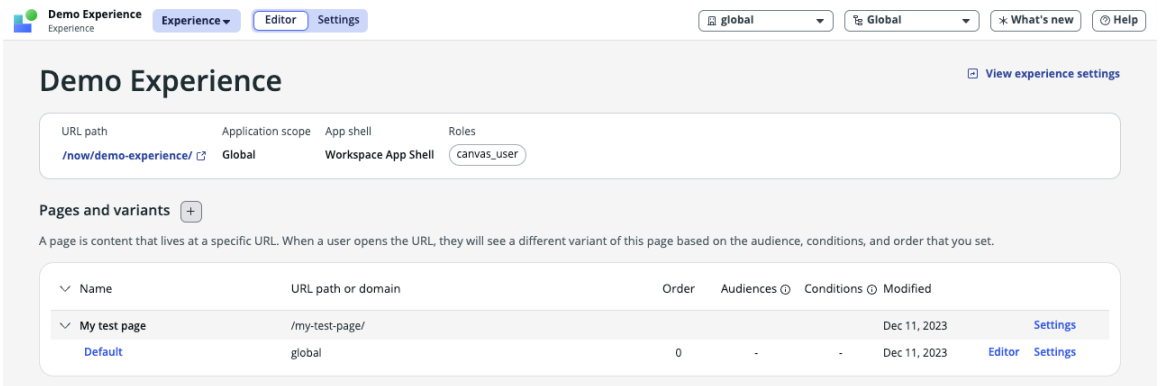
デモエクスペリエンスを作成したら、テンプレートからレコードページを作成できます。レコードページには、テーブルのデータが表示されます。

### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

### 手順

1. デモエクスペリエンスのメインページを開きます。

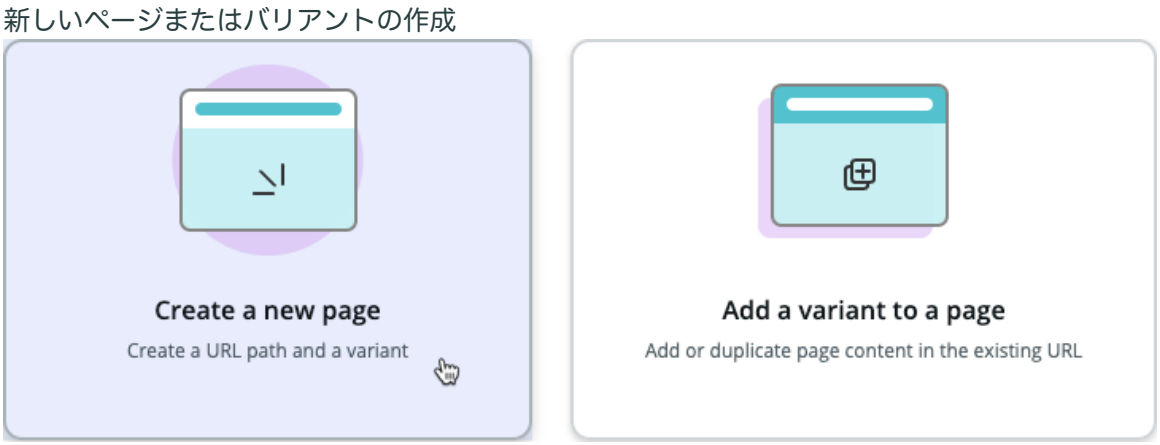
デモエクスペリエンス




自動翻訳

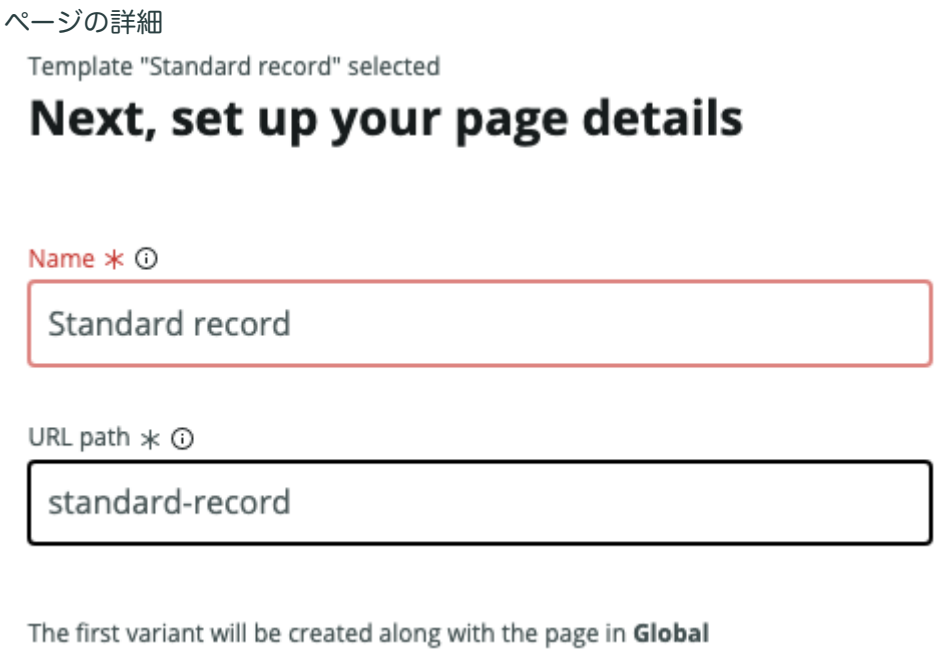
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. エクスペリエンスのメインページから、[ページとバリアント] の横にあるプラス (+) 記号を選択します。




3. 別の URL に存在するページを作成するには、[新規ページの作成] を選択します。
4. [最初にテンプレートを選択してください] 画面で、[標準レコード] テンプレートを見つけて、[テンプレートを使用] を選択します。

> **注:**
> 必要に応じて、[詳細] を選択することで、テンプレートについて選択前に確認することができます。

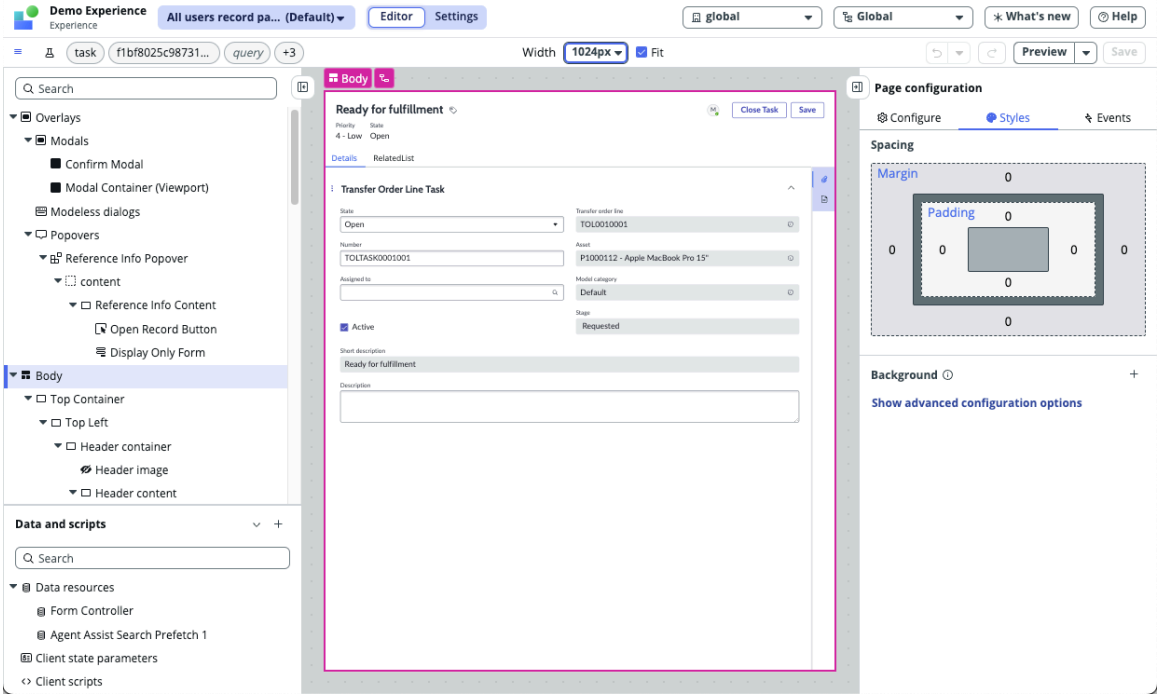



5. [ページの詳細] 画面の [名前] フィールドに、「すべてのユーザーレコードページ **(All users record page)**」と入力し、[続行] を選択します。
6. 次の画面で [よさそうです] を選択します。
7. [バリアントについて教えてください] 画面で、[作成] を選択します。
ビジュアルエディターが開きます。ここで、新しいページの編集を開始できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準レコードテンプレートから作成された新しいページ

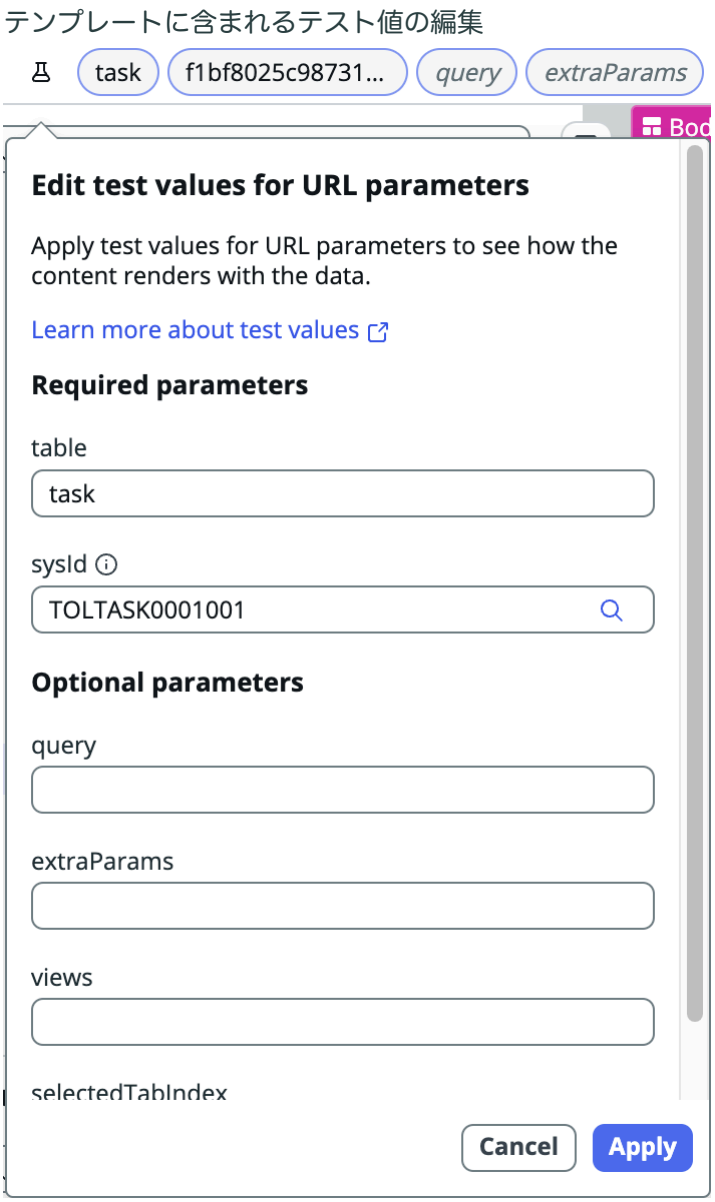



**注:**
新しいページには、多くのレイアウト、事前設定されたコンポーネント、データ、およびモーダルが含まれています。さらに、独自の特定のユースケースに合わせて変更できるテスト値も含まれています。テンプレートを使用すると、新しいページを作成するときに時間を大幅に節約できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [ページのコンテンツ] ペインの上にある領域を選択すると、テンプレートに含まれるテスト値に関する情報を表示できます。




次のタスク
UI ビルダー でページを表示できる対象者を定義する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

## モーダルを開くボタンの作成

デモエクスペリエンスを作成して空白ページを追加したら、必要に応じてページバリアントを編集できます。このデモでは、ボタンとモーダルを作成し、モーダルを開くボタンを構成できます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

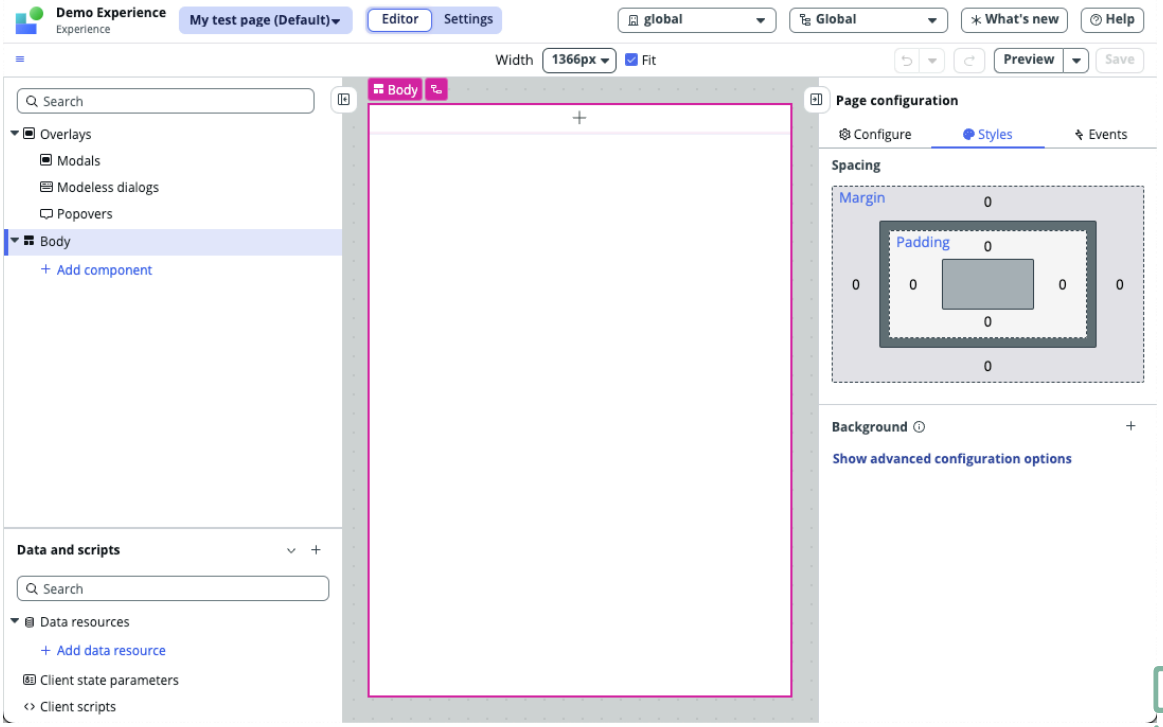
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

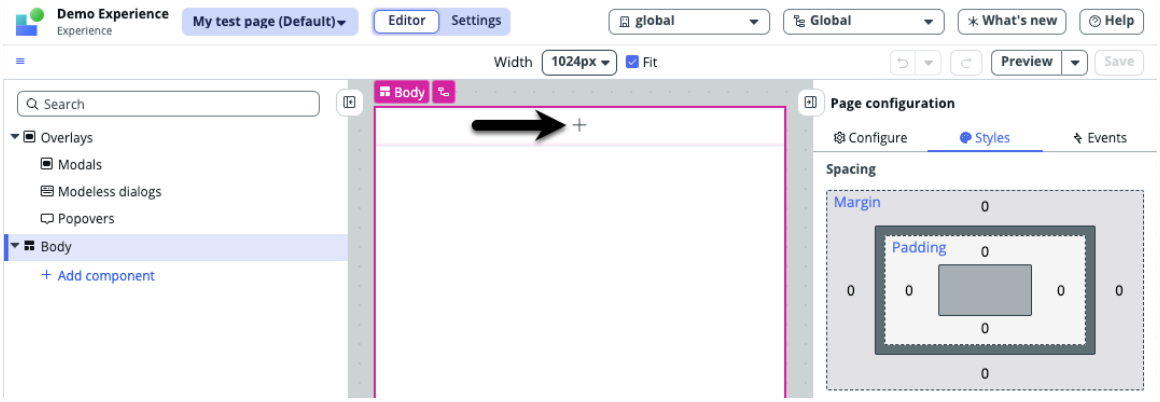
手順

**1.** デモエクスペリエンスの UI Builder ページを開きます。

**UI** ビルダー ビジュアルエディター




**2.** ステージの **[+]** アイコンをクリックしてツールボックスを開きます。




**3.** **1** 列のレイアウトを選択します。

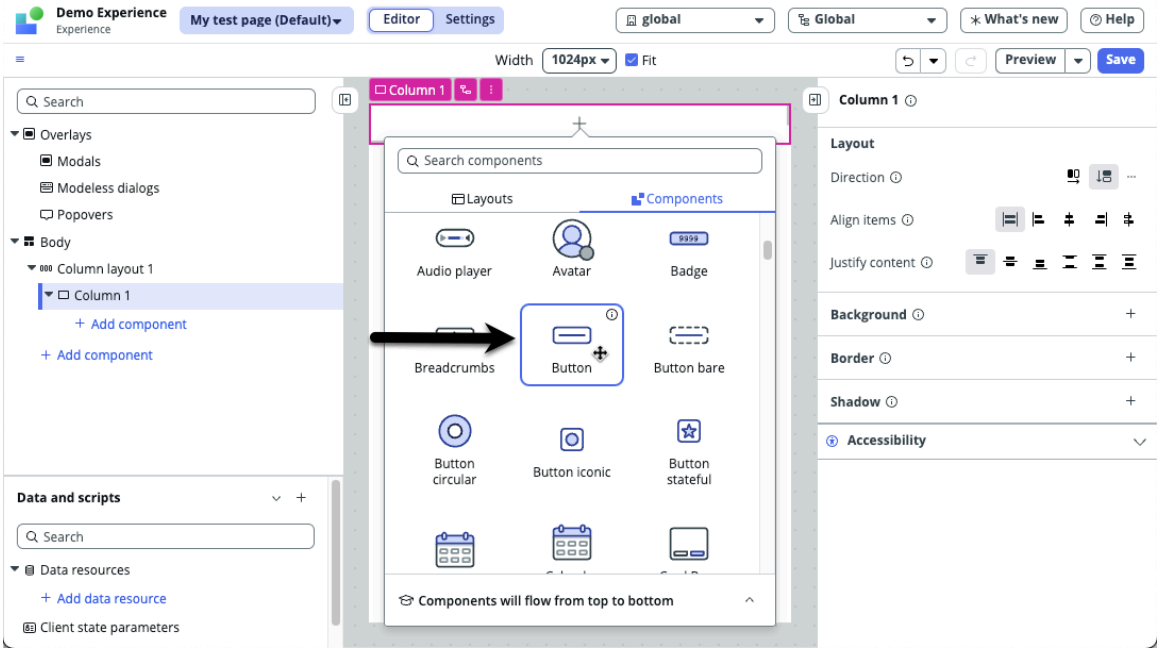
**4.** 次に、列の **[+]** アイコンをクリックしてツールボックスを開きます。

**5.** ボタンコンポーネントを選択してステージに追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

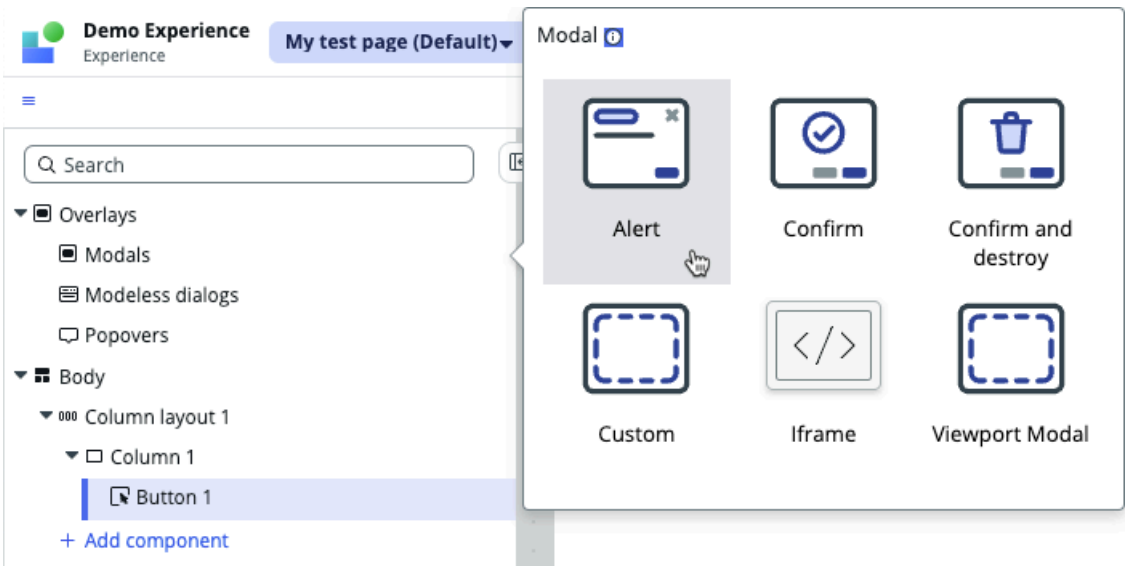
ボタンの追加




**注:**
コンポーネントを選択すると、[ページ構成] ペインには、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成するために使用できるプリセットがいくつか表示されます。ただし、この演習では、コンポーネントを手動で構成します。プリセットの詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

6. [ページ構成] ペインで、[コンポーネントを手動構成します] を選択します。
7. [ページのコンテンツ] ペインで [ボタン **1**] を選択し、[構成] ペインでボタンラベルを [モーダルを開く] に変更します。
8. [保存] を選択します。
9. [ページのコンテンツ] ペインで、[モーダル] の横にある [プラス] アイコンをクリックし、[アラート] モーダルを選択します。

アラートモーダルの追加

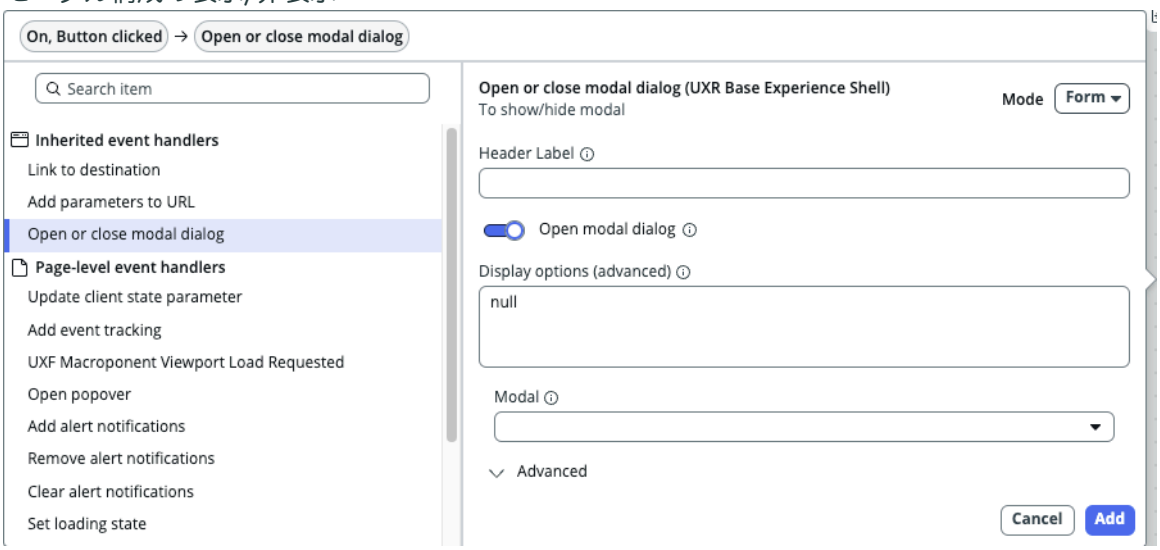



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

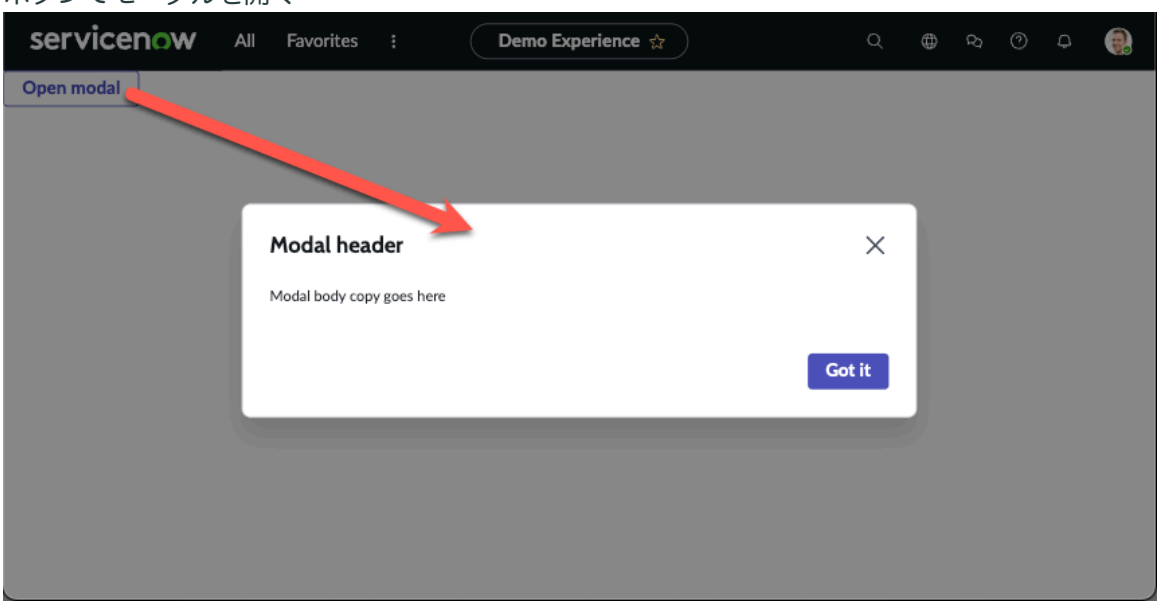
10. [保存] を選択します。
11. [ページのコンテンツ] ペインで [ボタン **1**] を選択し、[構成] ペインで [イベント] タブを選択します。
12. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択し、[継承されたイベントハンドラー **(Inherited event handlers)]** で [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。

モーダル構成の表示/非表示




13. [モーダルダイアログを開く] をアクティブ化し、[モーダル **]** フィールドで [アラート **1]** を選択し、[追加] を選択します。
14. [保存] を選択します。
15. [プレビュー] を選択します。
16. プレビューが開いたら、[モーダルを開く] を選択します。
定義したモーダルが開きます。

ボタンでモーダルを開く




17. モーダルで [了解] を選択し、ブラウザーの戻るボタンを選択してエクスペリエンスのメイン画面に戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
テンプレートを使用してページを作成する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

## バリアントの対象者の定義

対象者は、組織内のユーザーのグループを表します。1 人以上の事前定義された対象者を追加することで、このページバリアントにアクセスできるユーザーを定義できます。

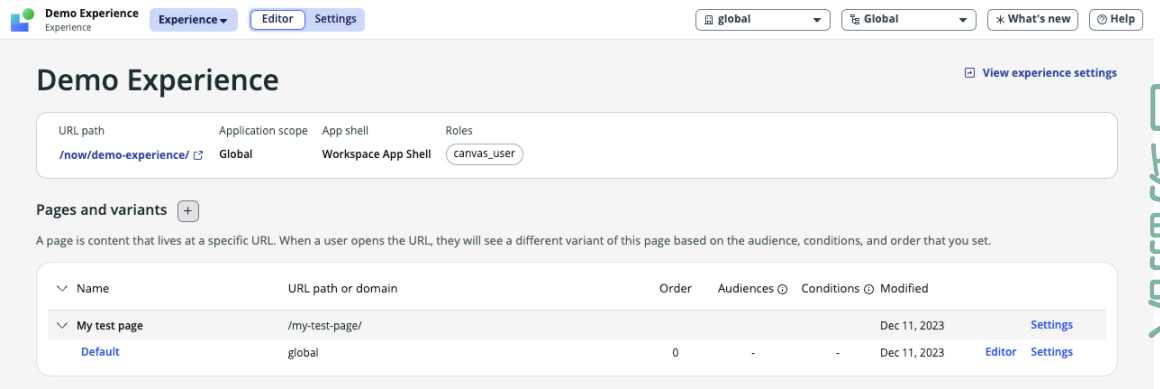
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
前の手順では、エクスペリエンスにアクセスできるすべてのユーザーが表示できるページバリアントを作成しました。この手順では、バリアントを複製し、管理者ロールを持つ対象者のみがアクセスできるように構成します。

手順

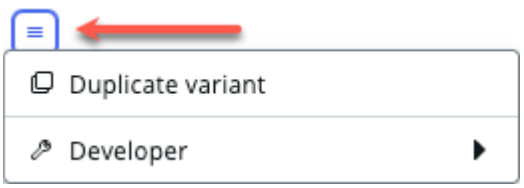
1. デモエクスペリエンスのメインページを開きます。
2. 作成したエクスペリエンスを選択し、[デフォルト] を選択します。

デモエクスペリエンス




3. [メニューを開く] アイコンを選択します。

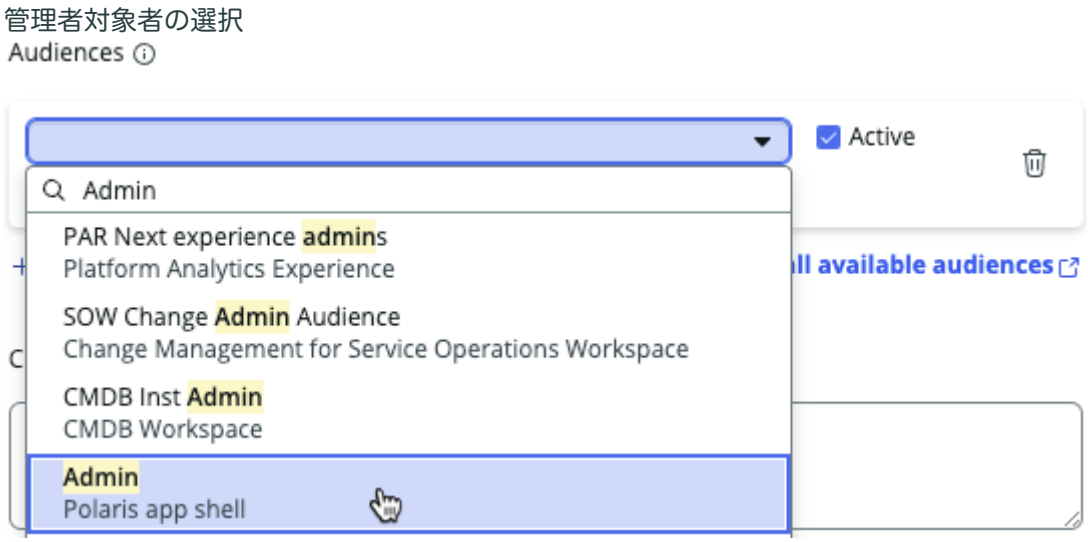
メニューを開く




4. [バリアントの複製] を選択します。
5. [バリアントについて教えてください] 画面で、[名前] フィールドに「管理者のみ」と入力します。
6. [対象者] の横にある **[ +** 追加] を選択し、[管理者] 対象者を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**7.** [作成] を選択します。
バリアントが複製され、管理者ロールを持つユーザーのみがこのページを表示できます。

## 次のタスク

「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択して、バリアントに条件を適用して、定義された条件が満たされた場合にのみバリアントが表示されるようにする方法について学習します。

### バリアントの条件の定義

条件を定義して、ページのバリアントを表示するタイミングを決定できます。条件は、順序の設定、およびページのバリアントを表示するために満たす必要がある基準を設定するクエリ文字列の追加に基づいたものになります。

## 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

## このタスクについて

すべてが同じ条件を持つ複数のページバリアントがある場合、バリアントはこの順序設定に従います。

## 手順

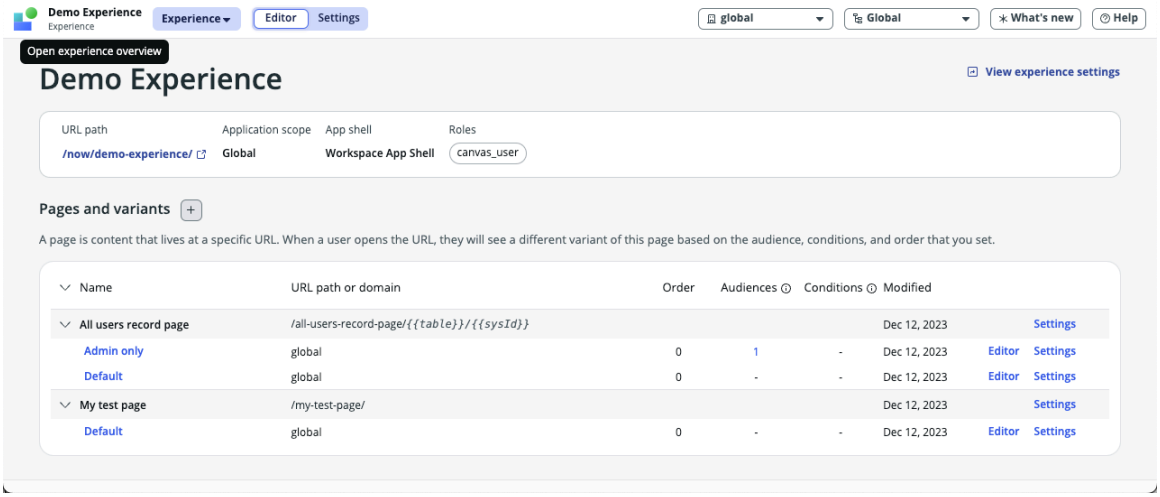
**1.** デモエクスペリエンスのメインページを開きます。

**2.** 作成したエクスペリエンスを選択し、[デフォルト] を選択します。

自動翻訳

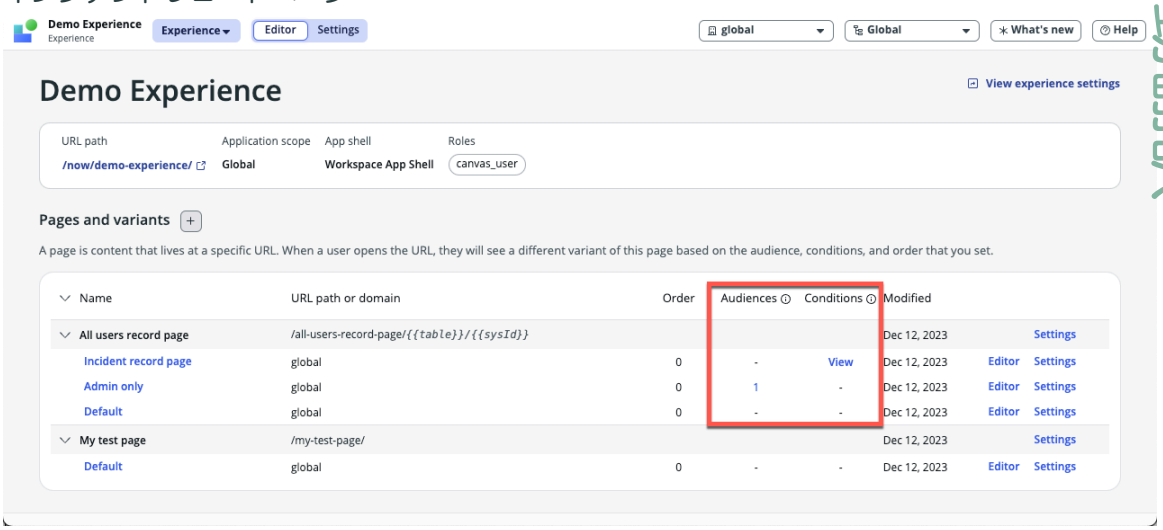
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デモエクスペリエンス




3. すべてのユーザーレコードページのデフォルトバリアントで、メニューアイコン (メニュー ⋮ ) を選択し、バリアントの複製 を選択します。
4. [バリアントについて教えてください] 画面で、[名前] フィールドに「インシデントレコードページ **(Incident record page)**」と入力します。
5. このタスクの目的は、インシデントテーブルのレコードを開くユーザーにこのサイトを制限することであるため、[条件] フィールドに「table=incident」と入力し、[作成] を選択します。

インシデントレコードページ




**注:**
このエクスペリエンスでは、ページとバリアントの構造を表示できます。[条件] 列には、[インシデントレコード] ページの [ビュー] が表示されます。[ビュー] を選択すると、そのバリアントの条件 (table=incident) を表示できます。[管理者のみ] バリアントの [対象者] 列には [1] と表示されます。**[1]** を選択すると、そのバリアントを表示するために必要なロールを確認できます。

## フォームコンポーネント内のフォームのカスタマイズ

にアクセスしUI ビルダー、Form Builderフォームコンポーネントをカスタマイズします。

### 始める前に

必要なロール：admin

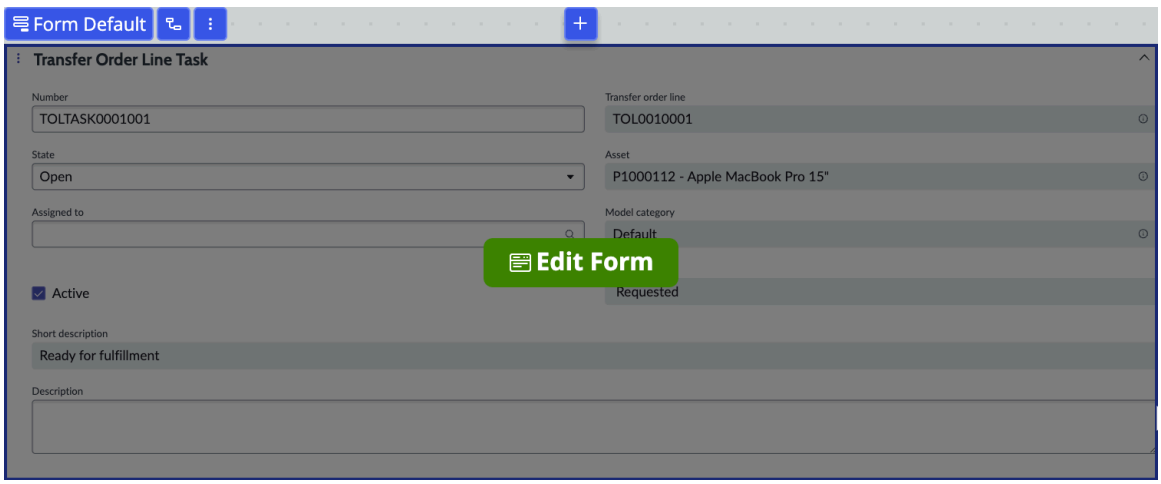
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

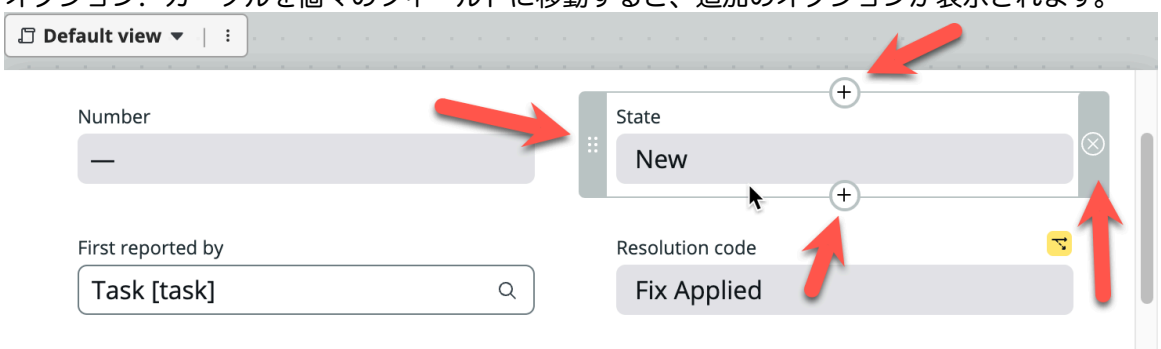
このタスクについて
を離れることなくフォームコンポーネントを編集できます UI ビルダー。ステージ上のUI ビルダーフォームコンポーネント内からのアクセスForm Builder。フォームを保存した後も編集内容は保持され、フォームを表示したすべてのユーザーに変更されたバージョンが表示されます。で Form Builder 加えられた変更はステージに反映されます。

手順

1. フォームコンポーネントをページに追加します。
   a. コンテンツ ツリーで、 [ + コンポーネントの追加] を選択します。
   b. [ フォーム] を選択します。
2. 構成パネルの [ テーブル ] フィールドに、テーブル名を入力します。
   たとえば、「 問題」と入力します。
3. 「ビュー」フィールドに「デフォルト・ビュー」と入力して、「フォームの編集」ボタンを表示します。
   [ フォームの編集 ] ボタンを表示するには、これらのフィールドの両方を設定する必要があります。
4. ステージで、フォームコンポーネントにカーソルを移動して [ フォームの編集 ] ボタンを表示します。




5. [ フォームの編集 ] ボタンを選択します。
   Form Builder が全画面モーダルで開きます。
6. オプション: カーソルを個々のフィールドに移動すると、追加のオプションが表示されます。




7. オプション: フィールドを挿入するには、カーソルを [+] ボタンに移動して [+ 追加] ボタンを表示し、+ [追加] を選択します。
   [ フィールド ] 列から追加のフィールドをフォームにドラッグすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**
たとえば、[構成アイテム] フィールドの下に [期日] フィールドを追加し、[保存してプレビュー] を選択してフォームを保存およびプレビューできます。

8. オプション: フィールドを移動するには、フィールドの端をフォーム内の別の場所にドラッグし、[ 保存] を選択します。

**Example**
たとえば、 状態 フィールドを選択し、 重複 フィールドの下に配置して、 保存 を選択します。

9. オプション: フィールドの **[X]** ボタンを選択して、フィールドを削除します。
10. [保存] を選択します。
11. 閉じる Form Builder と、編集内容がステージに表示されます。

次のタスク
追加機能を構成することで、カスタムフォームの機能を拡張できます。詳細については、「テーブル ビルダー のフォーム」を参照してください。

他の **ServiceNow** リソースを使用して学習する

製品外のリソースを使用する UI ビルダー の詳細をご覧ください。

| UI ビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイス ビルダーです。UI ビルダー を使用して、構成可能なワークスペース、App Engine Studio によって生成されたワークスペースとポータル、または Next Experience コンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用したカスタム Web エクスペリエンスのページを構築します。 | ServiceNow 開発プログラム YouTube チャンネル |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| UI ビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| | <br>コミュニティ YouTube チャンネル |
| | <br>ServiceNow コミュニティサイト |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| UI ビルダー に関する詳細 | その他の **ServiceNow** リソース |
| --- | --- |
| | ServiceNow Developer サイト |

対象者について学習する

正しい対象者を UI ビルダー ページに適用する方法を学びます。

## 対象者

UI ビルダー の対象者について理解することは、ページ作成において重要な部分です。「対象者」は、ページを表示できるユーザーを定義します。エージェントやマネージャーなどの対象者やロールに合わせた、ターゲットを絞ったエクスペリエンスのページを作成します。たとえば、エージェントが従業員の問題を解決するためのページを作成できます。このページは、エージェントロールを持つユーザーのみが表示できるようにする必要があります。

対象者は通常、ロールとドメインに基づいた許可/拒否リストで構成されます。また、以下をターゲットにすることもできます。

- ロール
- グループ
- ユーザー
- 会社
- 部門
- ロケーション
- スクリプト

対象者を、1 つ以上の基準に基づいて特定のロールに適合するように設定できます。たとえば、Europe で、マネージャーではない ITSM ユーザーの対象者を作成できます。

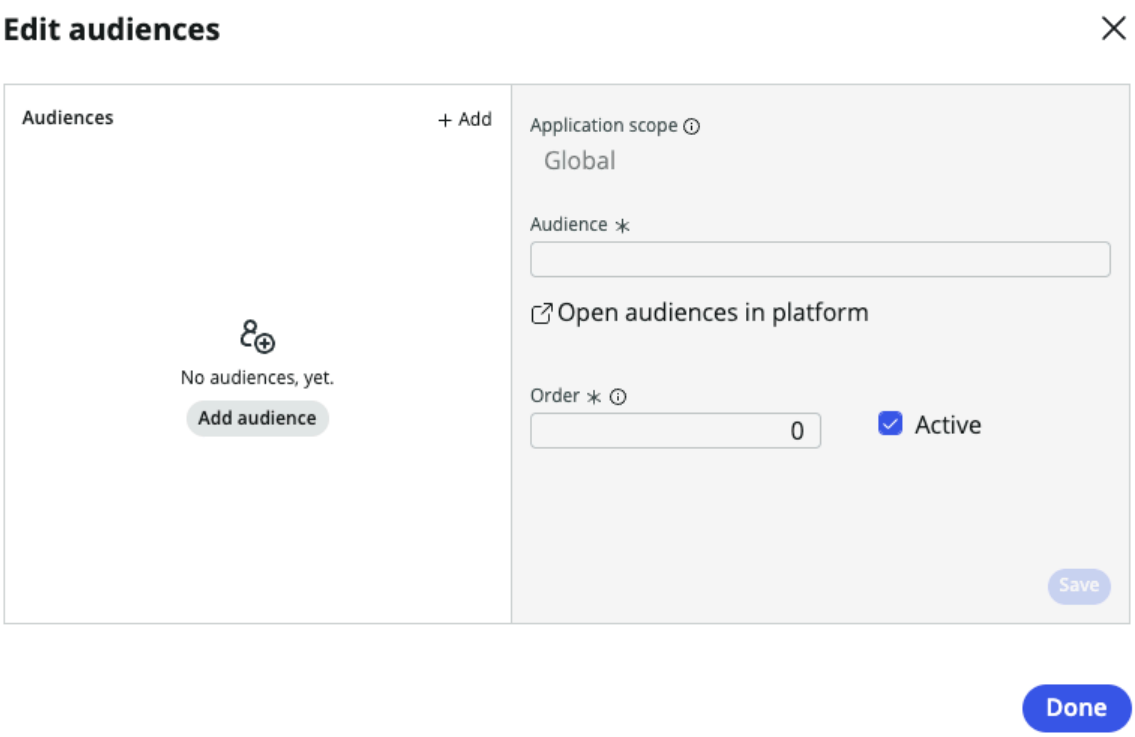
ロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、*glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを **true** に設定する必要があります。詳細については、「ユーザー基準プロパティの有効化」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページまたはページのバリアントを作成するときに、UI ビルダー に対象者を設定します。対象者レコードの優先度を設定することもできます。数値が小さいほど、優先度は高くなります。このページをアクティブにするには、[アクティブ] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

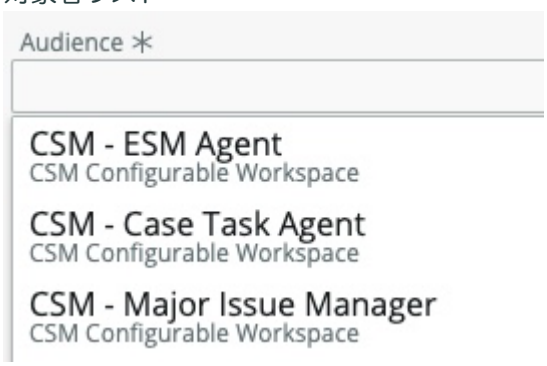
[対象者を追加] モーダル




必要な対象者が表示されない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] をクリックして、Now Platform® で対象者を定義します。

- [対象者] フィールドのリストから対象者を選択します。

対象者リスト




- [プラットフォームで対象者を開く] を選択して、Now Platform® で対象者レコードを編集または作成します。
- 複数の対象者がある場合は、各対象者レコードの順番を定義します。順番は、各対象者レコードの重要性を定義します。たとえば、CSM マネージャーは CSM コンシューマーエージェントよりも高い優先度を持つことができます。ある対象者の優先度を高くするには、低い数値を入力します。
- このページをアクティブにするには、[アクティブ] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティとロールについて学習する

UI Builder インスタンスのセキュリティとロールを設定します。

UI ビルダー のセキュリティとロールは、アプリケーションスコープ、ドメイン分離、および保護ポリシーの設定によって制御されます。

## ロール

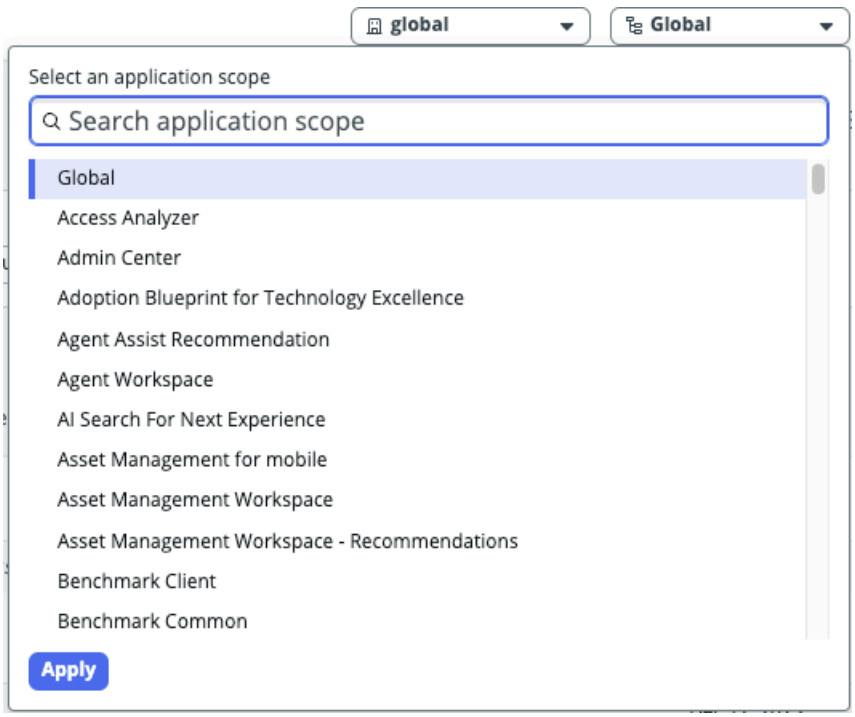
ロールは、UI ビルダー の機能へのアクセス権を制御します。admin ロールは、すべての機能へのアクセスを提供します。ロールにアクセス権を与えると、そのロールにアサインされたすべてのグループまたはユーザーがアクセスを許可されます。ロールに他のロールを含めることができます。他のロールを含むロールでは、他のロールに許可されているすべてのアクセスが許可されます。詳細については、「Managing roles」を参照してください。

## アプリケーションスコープ

アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。管理者は、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるかを指定できます。これは、データとアプリケーションファイルを保護するために役立ちます。UI ビルダー では、システム管理者と開発者がページの作成時にアプリケーションスコープを設定します。ページの作成後にアプリケーションスコープを変更することはできないため、スコープは慎重に選択してください。

UI ビルダー のスコープを変更すると、Now Platform® のスコープも変更されます。その逆も同様です。

ページを作成する場合、管理者と開発者は、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスの現在のスコープを認識することが重要です。エクスペリエンスの正しいアプリケーションスコープを選択します。スコープピッカーは [URL] フィールドの右側にあります。スコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform 内で現在存在しているスコープです。




ページ内で別のスコープに変更すると、ページが作成されたスコープとは異なるアプリケーションスコープ内にいることが通知されます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### UI Builder の委任開発者

アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールがある場合は、UI ビルダー アプリケーションレベルで指定された開発者に ServiceNow スタジオ でのアプリケーション開発を委任することができます。

### 保護ポリシー

保護ポリシーは、アプリケーションファイルまたはその関連レコードが変更されたりコピーされたりしないようにします。保護ポリシーは、通常、アプリケーションの作成者がアプリケーションを使用する会社と異なる場合に使用されます。UI ビルダー は、保護されたレコードを変更しようとすると通知を出します。詳細については、「アプリケーションファイル保護ポリシー」を参照してください。

### ドメイン分離について学習する

UI ビルダー ではドメイン分離がサポートされています。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

### サポートレベル：標準

- ベーシックレベルサポートを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスのオーナーは、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

サンプルユースケース：管理者は、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

### 概要

UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用すると、開発者は Next Experience コンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用して、Web ベースのワークスペースエクスペリエンス向けに新しいページを構築したり、既存のページをカスタマイズしたりできます。さらに、UI ビルダー はドメイン分離、つまり ServiceNow インスタンス全体のマルチテナントアーキテクチャをサポートします。

開発者またはダッシュボードビルダーが、ドメイン分離された環境内で、同じブラウザーウィンドウで UI アプリケーション画面またはダッシュボードを安全に作成できるようにします。UI ビルダー のドメイン分離はアプリケーションスコープと同様に機能するため、管理者がマルチテナント環境で安全に作成または編集できるようになります。

標準化は、Domain Separation がインストールされている安定した健全な拡張性の高い ServiceNow インスタンスを維持するための重要な仕組みであると理解することが大切です。主要な原則は標準化です。標準化とは、ほとんどのインスタンスを動作させることができる共通の構成のことです。インスタンスに数百または数千のドメインがある場合、それらを正常に管理するには厳格なガバナンスが必要です。ドメイン固有の構成は、インスタンス所有者が必要と判断した場合にのみ使用する必要があります。一般に、ほとんどのインスタンスは、一般的なインスタンス構成に従う必要があります。これにより、インスタンス全体でより統一されているエクスペリエンスが提

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

供されます。また、インスタンス所有者は、リリースアップグレードの一部として含まれる新しい ServiceNow 機能の導入を遅らせる、コードの無秩序な増加を最小限に抑えることができます。

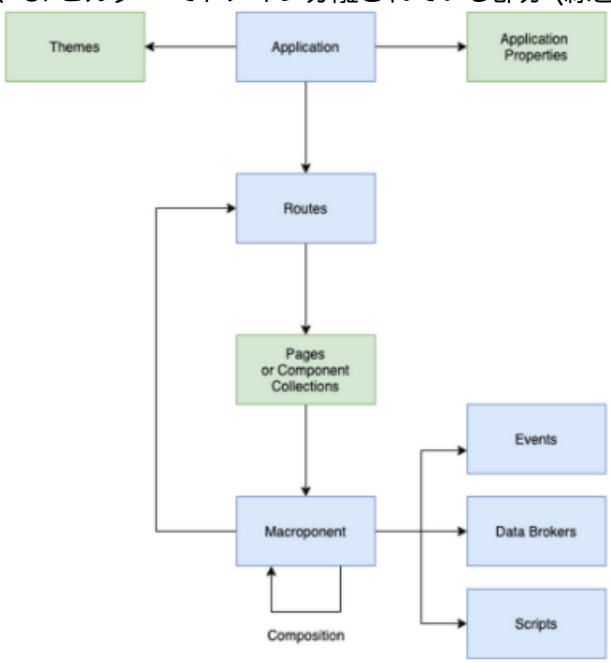
## UI ビルダー におけるドメイン分離の仕組み

UI ビルダー のドメイン分離はアプリケーションスコープと同様に機能するため、管理者がマルチテナント環境で安全に作成または編集できるようになります。

UI ビルダー は、Web ベースのワークスペース、ダッシュボード、またはポータルを作成するために使用する連動コンポーネントのフレームワークで構成されています。アプリケーションはドメイン分離をサポートしていますが、すべてのコンポーネントまたはテーブルがドメイン分離されていることを意味するわけではありません。このことをインスタンスオーナーは理解しておくことが重要です。

現在のドメインがバリアントまたはダッシュボードのドメインと一致しない場合、レコードは読み取り専用になります。ユーザーがドメインにアクセスできる場合は、ドメインをレコードのドメインに切り替えることを選択できます。または、ユーザーがレコードを編集することもできます。レコードを編集すると、ユーザーセッションが一時的にそのレコードのドメインに入ります。その後は、誤って上書きを作成してしまうことを心配せずに編集できます。

次の図は、UI ビルダー でドメイン分離されている部分 (緑色) とされていない部分 (青色) を示しています。




ビューポート、宣言アクション、および画面適用性は図には示されていませんが、それらはプロセスとしてサポートされているドメインです。

ドメイン分離アーキテクチャを検討する場合、データとプロセス/UI の分離が重要です。UI ビルダーは、データとプロセス/UI の分離、および Web ベースのワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスに表示されるデータ (レコード) を完全にサポートしています。

たとえば、Acme のドメインに属する変更要求は、UI ビルダー を使用して構築されたエクスペリエンスで Acme のドメインにアクセスできるユーザーに対してのみ表示されます。逆に、アプリケーションがデータ分離をサポートしていない場合、そのレコードはワークスペースまたはポータルエクスペリエンスによってドメイン分離されません。

UI ビルダー の基盤フレームワークを形成するプロセス/UI 分離テーブルはプロセス分離されており、それらのテーブルには sys_override 列が存在します。たとえば、ページがグローバルで作成された場合、サブドメインで作成および保存されたロジックへの変更内容は上書きになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドメイン分離されていないアイテムの場合、ロジックの変更はそのコンテンツを参照するページまたはダッシュボードにグローバルに影響します。これらの要素を操作する場合は、ドメイン分離を理解することが重要です。

## [ドメイン選択] メニュー、メッセージ、および上書きの管理

UI ビルダー (ダッシュボードビルダーを含む) を使用してワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスを設計する場合、システム管理者または ui_builder_admin は UI ビルダー の [ドメイン選択] メニューにアクセスできます。システム管理者または ui_builder_admin は、バリアントまたはダッシュボードページを作成、編集、または上書きする前に、適切なドメインに切り替える必要があります。

デフォルトでは、ui_builder_admin ロールにはドメイン選択メニューへのアクセス権がありません。ドメイン選択メニューは、ITIL などのアクセス権を付与するロールと組み合わせる必要があります。そうしない場合は、システムプロパティを介して追加できます。詳細については、「Enable domain selection menus in Core UI」を参照してください。

さらに、ドメイン選択メニューには、システム管理者または ui_builder_admin がグローバルであるときに表示される [ドメインスコープの展開/折りたたみ] も表示されます。[展開] を選択すると、上書きされた、またはサブドメインにスタンドアロンとして存在するバリアントまたはダッシュボードが表示されます。グローバルで作成されたバリアントまたはダッシュボードのみを表示するには、[折りたたみ] を選択します。

最後に、ドメイン階層はドメイン選択メニューから利用できます。ドメイン階層が深い場合、ユーザーはドメイン階層の分岐を折りたたんでドメインを物理的に選択する必要があります。これらの環境では、検索を実行してドメインを見つけます。

UI ビルダー には、アプリケーションスコープの処理方法と同様に、バリアントまたはダッシュボードを編集および上書きするためのガバナンスコントロールがあります。アプリケーションスコープとドメインスコープの両方が UI ビルダーで同時に処理されます。

たとえば、バリアントがグローバルで作成されても、システム管理者の現在のドメインが Acme に設定されている場合、そのバリアントは読み取り専用です。その画面が編集不可のプライベートスコープでない限り、システム管理者または ui_builder_admin には 2 つのオプションがあります。グローバルへのアクセス権があれば、グローバルドメインで一時的にトランザクションを行うことができます。そうでない場合は、上書きを作成できます。

ドメイン分離を編集して、バリアントまたはダッシュボードとそのコンテンツをすばやく変更できます。ドメインを編集すると、バリアントまたはダッシュボードと同じドメインスコープで一時的にトランザクションを行うことができます。同じスコープにすると、バリアントに関連付けられた特定の設定 (名前、順序、イベントマッピング、ページ定義構成など) を変更するときに、誤って上書きすることを防ぐことができます。編集モードでは、ページ管理ですべての設定を使用できるわけではありません。すべての機能を使用するには、レコードを編集する前に正しいドメインに切り替えます。

[上書きを作成] を使用すると、システム管理者または ui_builder_admin は、既存のバリアントまたはダッシュボードの上書きを作成できます。バリアントまたはダッシュボードの上書きを作成して、ページ定義コンテンツの広範なコピーを実行します。ただしユーザーが現在選択しているドメインの画面条件と対象者は除きます。sys_override 列が適切に更新されます。

ビューポートはそれ自体がバリアントであり、ドメイン分離されており、通常はページ定義コンテンツ内にネストされています。一部のビューポートはコピーされない場合があります。たとえば、グローバルビューポートのドメインで上書きとして作成されたビューポート (タブセットとして表示) は、上書きの作成プロセス中にページ定義コンテンツに組み込まれません。

画面条件と対象者はドメインに固有である可能性があるため、このコンテンツは上書きの作成プロセス中に引き継がれません。画面で、システム管理者または ui_builder_admin に画面条件と対象者の作成が要求されます。

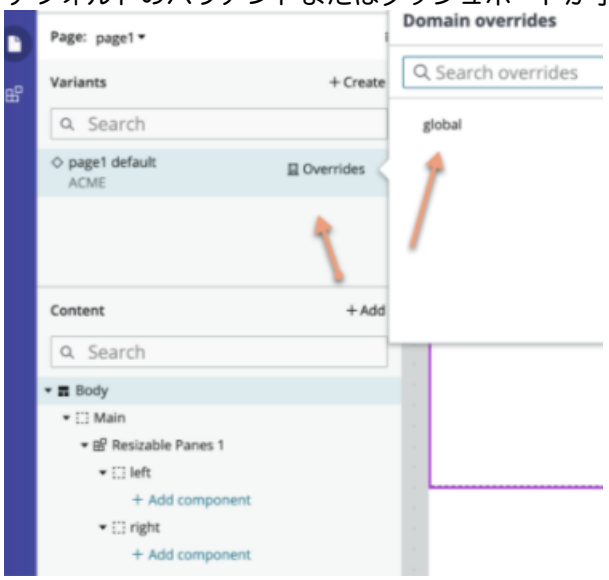
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテムがサブドメインに存在する場合、または同じサブドメインにそのバリアントまたはダッシュボードの上書きが存在する場合、ユーザーはグローバルではバリアントまたはダッシュボードの上書きを作成できません。

上書きと条件と対象者を設定した後に、必要に応じてそのコンテンツと構成を設定できます。ドメイン分離の標準として、上書きは元のバリアントまたはダッシュボードに加えられた変更の影響を受けなくなります。ユーザーの現在のドメインセッションが、この上書きが作成された影響を受けるドメインまたはサブドメイン内にある場合、ワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスにこれらの上書きされた構成が表示されます。対象者によって、ユーザーに表示される内容と表示されない内容が決まります。

さらに、ユーザーはドメイン階層にアクセスして、上位のドメインからの既存の上書きを表示できます。たとえば、 グローバル <- トップ <- Acme <- 現在のドメインといった階層となります。上書きが存在しない場合は、デフォルトのバリアントまたはダッシュボードが表示されます。例外は、デフォルトのバリアントまたはダッシュボードが子ドメインまたはピアドメインにある場合です。




グローバルの状態で [ドメインスコープを展開] を選択すると、前述のようにサブドメイン内のすべてのバリアントと上書きが表示されます。

システム管理者と ui_builder_admin は、ServiceNow® プラットフォームで作成されたものを確認できます。

## ビューポートとドメイン分離

ビューポートは、ページ定義コンテンツでネストできるバリアントです。グローバルで共通の構成として作成することも、サブドメインごとに上書きすることもできます。

## 宣言アクションとドメイン分離

宣言アクションは、ドメインごとに上書きすることもできます。システム管理者または ui_builder_admin は、ドメイン固有の宣言アクションの上書きを作成する前に、適切なドメインを選択する必要があります。

## テーマとドメイン分離

テーマは、ドメインに基づいて、UI ビルダー [エクスペリエンスの設定] でワークスペースまたはポータルエクスペリエンスに適用できます。ただし、システム管理者または ui_builder_admin として [エクスペリエンスの設定] を開始する前に、まず適切なドメインが選択されていることを確認してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正しいドメインを選択したら、[エクスペリエンスの設定] に移動し、適用するテーマを選択します。上書きされない限り、すべてのサブドメインにこのテーマが適用されます。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

### UI ビルダー での作業

UI ビルダー でワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成するときに実行できるすべてのことを、十分に把握しておきましょう。

## UI ビルダー クイックスタート

UI Builder のクイックスタート

## UI ビルダー リソースの使用

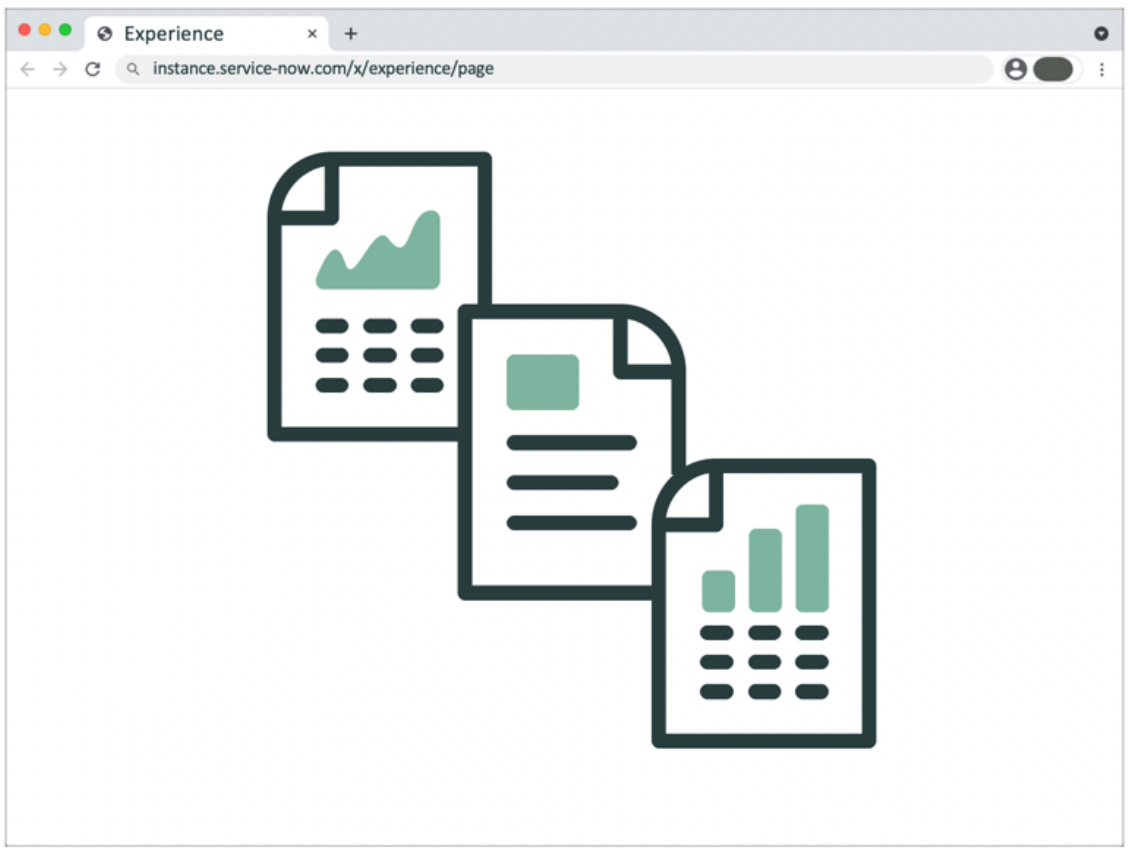
以下の情報は UI ビルダー を使用する際に役立ちます。

### UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する

UI ビルダー でのエクスペリエンスについて説明します。エクスペリエンスの内容を理解します。

## エクスペリエンスとは

UI ビルダー のエクスペリエンスは、ユーザーがアプリケーションを操作するための Web ページのコレクションです。




多くの Web サイトでは、すべてのページで同じ基本構造が使用されています。たとえば、すべてのページに同じヘッダー、同じフッター、および同じメニューが含まれています。これらの共通ページ要素はシェルと呼ばれます。エクスペリエンスには、エクスペリエンス内の各ページのシェルまたは

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

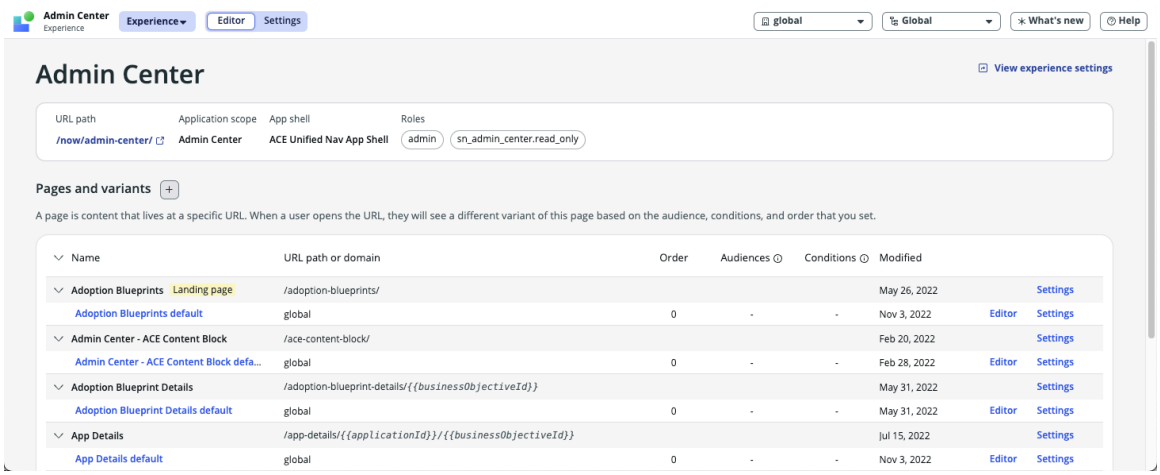
ラッパーを設定できます。シェルは、ユーザーがページ間を移動するときに一貫した外観と使用感を提供します。シェルを使用することをお勧めしますが、必須ではありません。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。

## エクスペリエンスビュー

UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。これには、ルート、ページのバリアント、各バリアントに必要な対象者と条件、およびエクスペリエンスの設定が含まれます。エクスペリエンスビューを使用して、エクスペリエンスの構造と階層を確認します。

- エクスペリエンスの URL、アプリケーションスコープ、アプリシェル、およびロールを表示します。
- エクスペリエンスの設定を編集します。
- バリアントをすばやく表示して比較します。
- ページとページのバリアントを作成します。
- ページコレクションのリストを表示します。
- ページとページバリアントの設定を編集します。
- ページのバリアントを複製します。

**UI** ビルダー エクスペリエンスビュー




### **UI** ビルダー ワークスペースエクスペリエンスを構成する

UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスの設定は、会社の目標に合わせて変更できます。

エクスペリエンスの設定を変更すると、ユーザーがワークスペースエクスペリエンスとやり取りする方法、ワークスペースの外観、およびユーザーがワークスペース内を移動する方法に影響が及ぶことがあります。

エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。



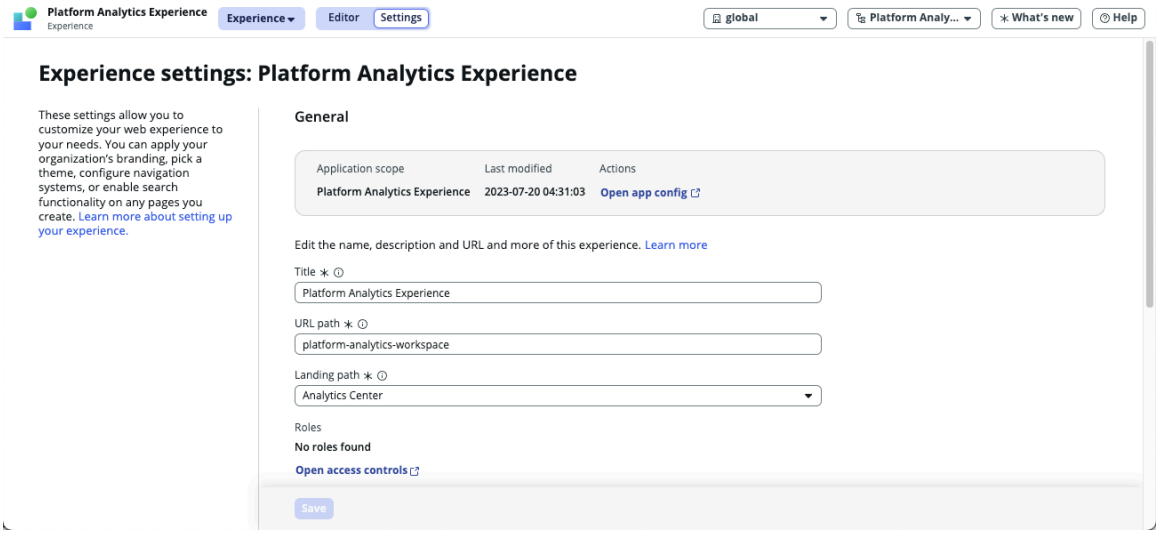
ワークスペースエクスペリエンスの次の設定を変更する方法を説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ワークスペースエクスペリエンスのワークスペースの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- ワークスペースのブランディングとテーマ作成設定を操作して、ワークスペースエクスペリエンスのすべてのページまたはワークスペースエクスペリエンス内の特定のページに組織のブランディングを適用します。
- ワークスペースサイドナビゲーションの設定を変更して、ワークスペースエクスペリエンスのサイドナビゲーションにページを追加します。
- ワークスペースユーティリティの設定を変更して、ワークスペースエクスペリエンスの通知をオンまたはオフにします。ワークスペースエクスペリエンスのグローバル検索設定を変更できます。たとえば、ワークスペースエクスペリエンスで検索バーを表示または非表示にすることや、検索結果の取得元を決定する検索ソースを変更することなどを選択できます。

ワークスペースのエクスペリエンスの設定




## ワークスペースエクスペリエンスの一般的な設定の変更

UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの一般的な設定を、組織のニーズに合わせて変更します。たとえば、ワークスペースエクスペリエンスのタイトル、説明、およびパスを変更できます。

### 始める前に

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

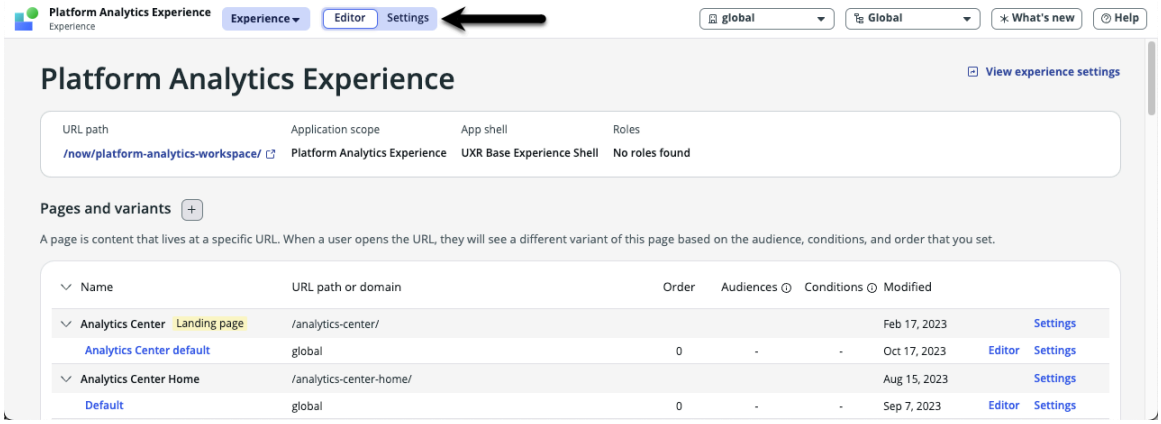

必要なロール：ui_builder_admin

### 手順

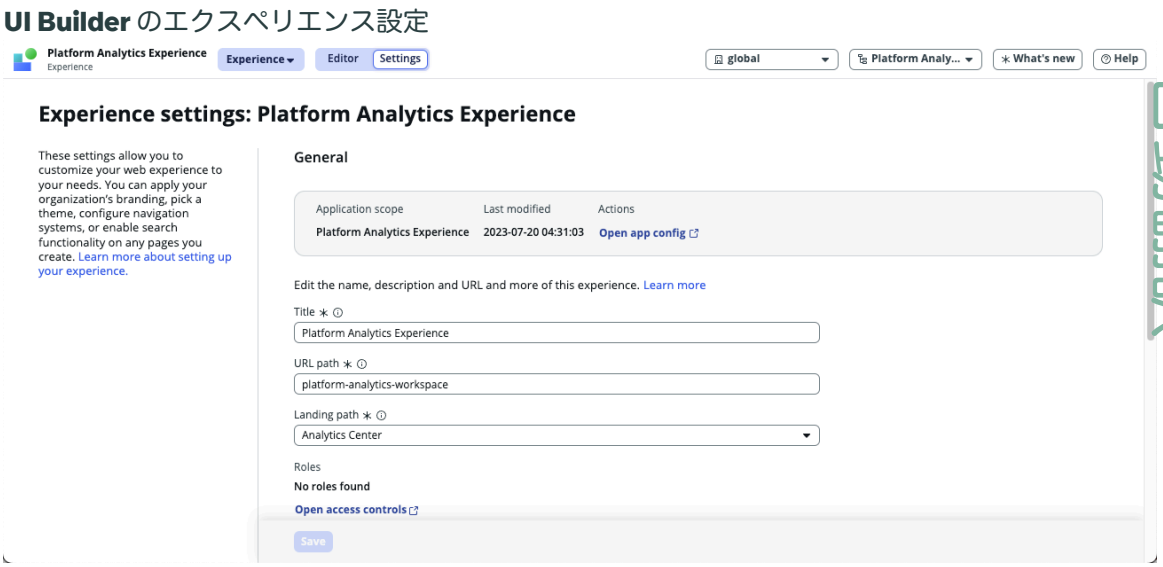
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. ワークスペースエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. ワークスペースエクスペリエンスのタイトル、説明、パスを変更します。
   - タイトルによって、ワークスペースの名前を全員に知らせることができます。ワークスペースの名前を選択するときは注意してください。
   - 説明により、ユーザーはワークスペースの詳細を知ることができます。
   - パスは一意になっている必要があります。パスには、数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、単語はスラッシュまたはハイフンで区切ることができます。




5. オプション: Now Platform でワークスペースレコードを編集するには、[詳細設定] を選択します。

   a. 終了したら、プラットフォームのレコードを更新します。
   UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

6. [保存] をクリックします。

## ワークスペースエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の変更

UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスのブランドとテーマの設定を変更して、ユーザーがすべてのページで一貫したルックアンドフィールを表示できるようにします。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

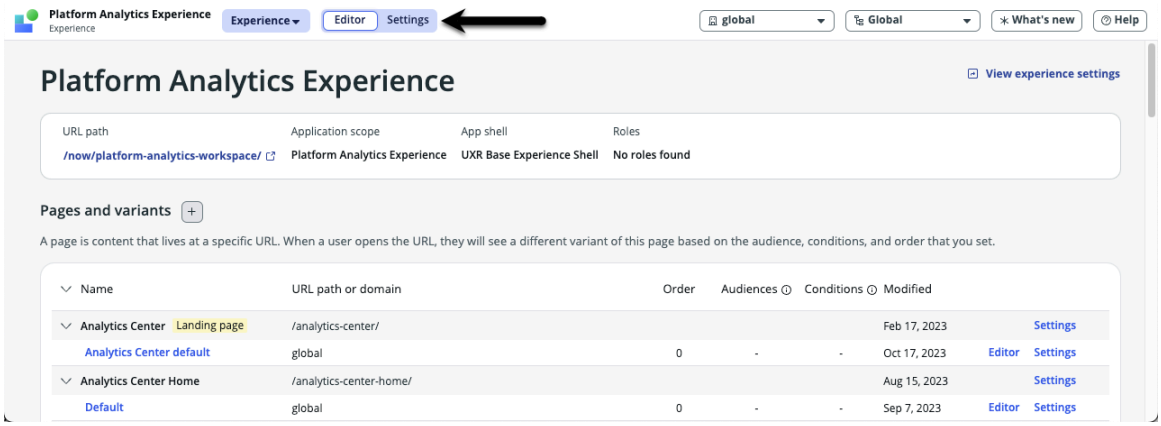
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

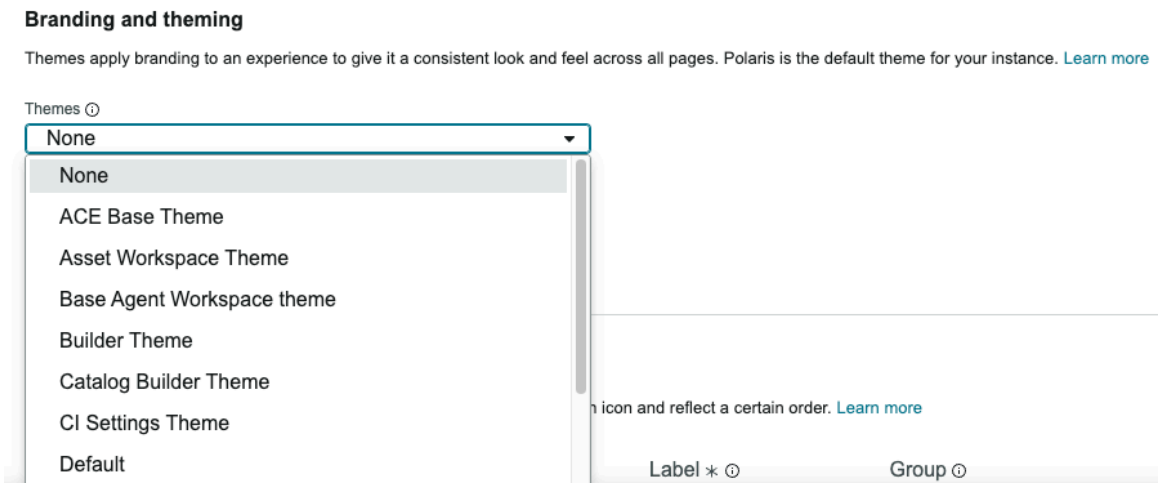
デフォルトのコンポーネントスタイルを上書きするカスタムテーマを作成できます。テーマレコードで独自のスタイルプロパティを定義できます。詳細については、「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. ワークスペースエクスペリエンスを開いて作業するか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. [テーマ] ドロップダウンをクリックします。
5. 適用できるテーマをリストから選択します。




6. [保存] をクリックします。
7. UI ビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ポータルエクスペリエンスのナビゲーションとメニューの設定の変更

ワークスペースエクスペリエンスのサイドナビゲーションのためのページを選択します。ワークスペースエクスペリエンスのどのページからでも、選択したページに移動できます。

## 始める前に

このタスクには次の前提条件があります。

- UI ビルダー に既存のワークスペースエクスペリエンスがあります。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
- このワークスペースエクスペリエンスには、少なくとも 2 つのページが含まれています。
- あるページから、指定した他のページにユーザーが移動できるようにします。

必要なロール：ui_builder_admin

## このタスクについて

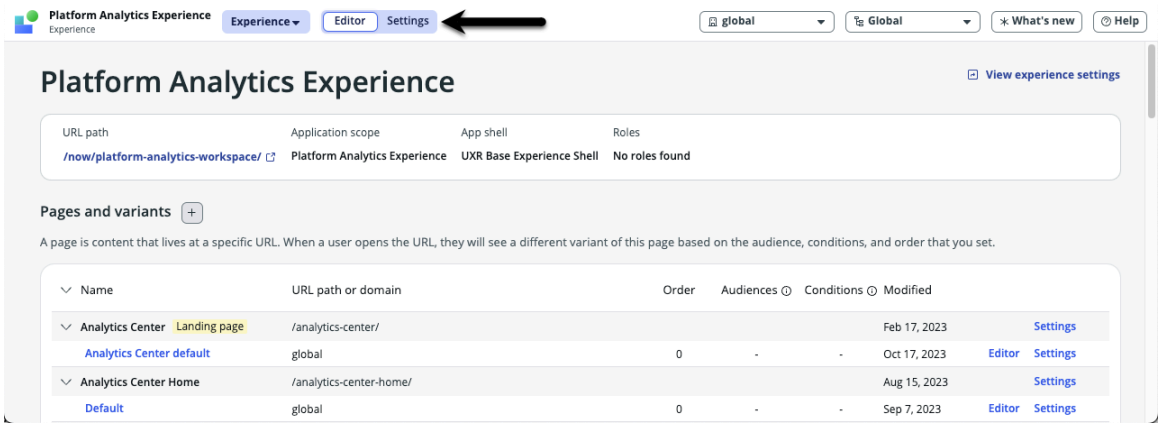
サイドナビゲーションには最大 7 ページを追加できます。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。



## 手順

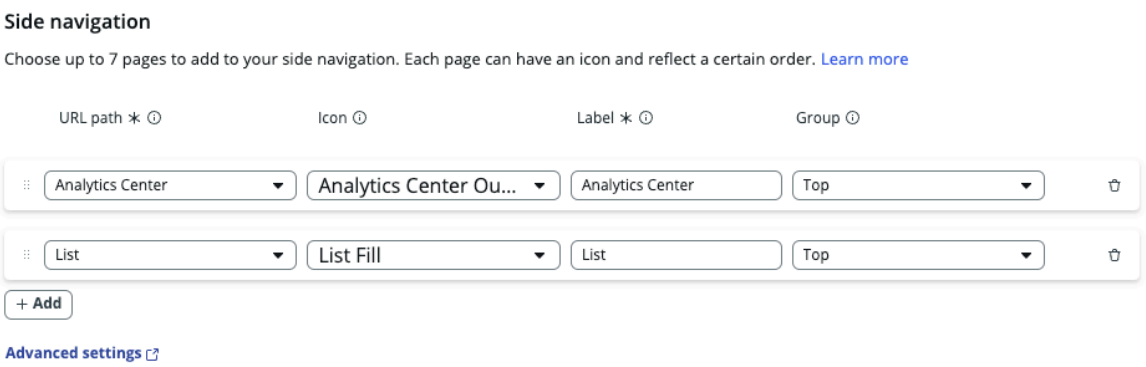
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. UI ビルダー でワークスペースエクスペリエンスを開きます。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. [サイドナビゲーション] まで下にスクロールします。
5. **[+** 追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. 次のフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| URL パス (必須) | 移動先のページを選択します。<br>ヒント:<br>通常、ランディングページは、リンクする最初のページです。 |
| アイコン | リンクのアイコンを選択します。<br>デフォルト：アイコンなし |
| ラベル (必須) | リンクのツールヒントに表示されるページの名前を入力します。 |
| グループ | サイドナビゲーションパネルの上部または下部のグループにリンクを配置します。<br>デフォルト：トップ (Top) |

7. 必要に応じてページを追加します。
8. [保存] を選択します。
9. UI ビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。

ヒント:
サイドナビゲーションが期待どおりに機能しない場合は、サイドナビゲーションの基礎となる UX ページプロパティ [sys_ux_page_property] レコードの確認を検討してください。ステップ 3 ～ 4 の説明に従って、サイドナビゲーションエクスペリエンスの設定を再度開きます。[詳細サイドナビゲーション設定] を選択してレコードを開きます。フィールドの値が正しいことを確認します (例：Type=json)。

## ワークスペースユーティリティ設定での通知の設定

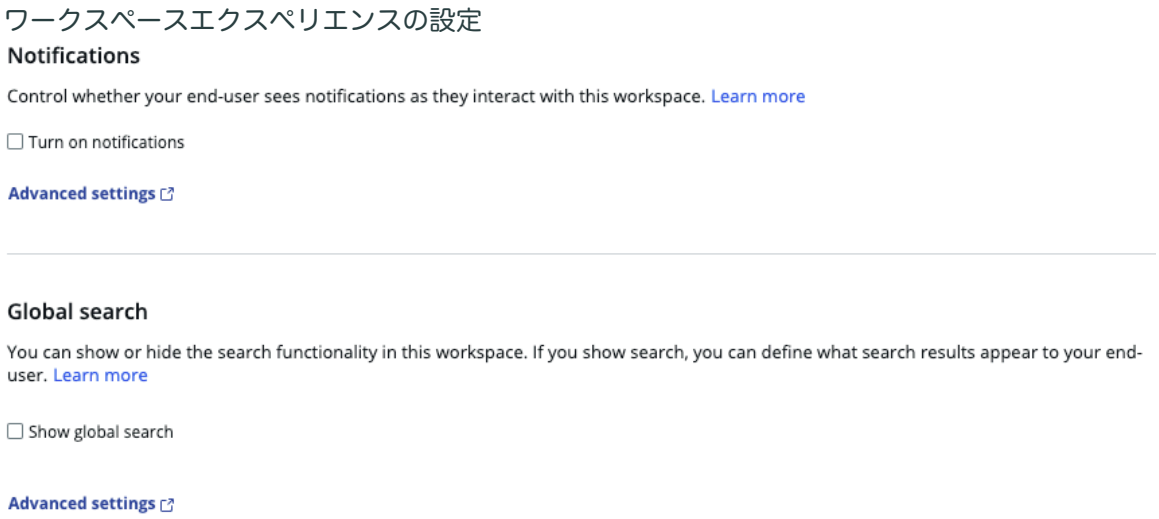
ワークスペースエクスペリエンスで通知と検索の詳細設定を行うと、ユーザーへの通知と検索オプションの表示方法を制御できます。

### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて
ワークスペースエクスペリエンスで詳細な通知と検索を設定します。通知をオンまたはオフにして、ワークスペースエクスペリエンスでの通知の表示方法を制御できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



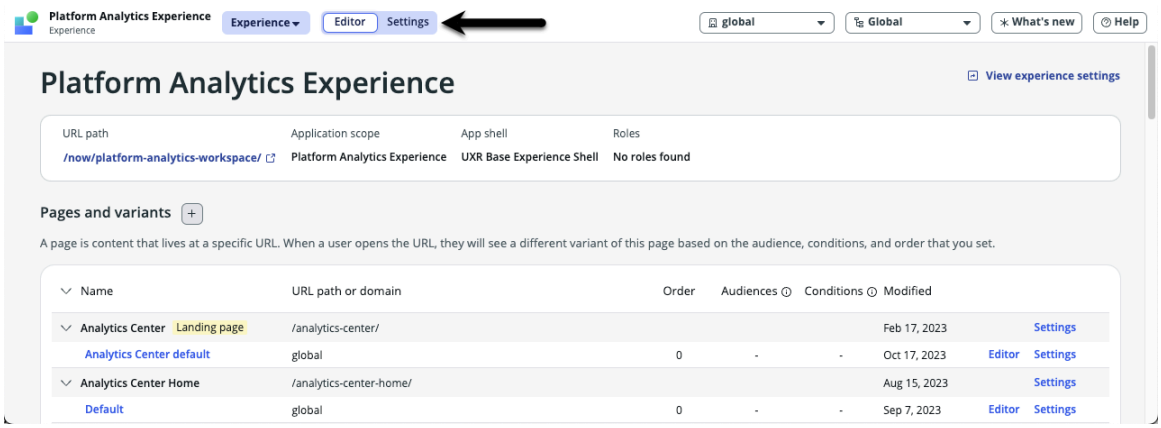

検索機能をワークスペースエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。検索オプションの表示を選択する場合は、検索のソースを選択して返される検索結果を定義できます。

エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。



手順

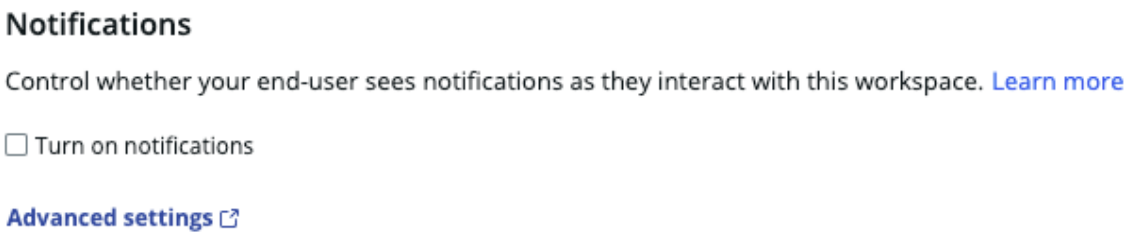
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するワークスペースエクスペリエンスを開くか、または **[+** エクスペリエンスを作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ワークスペースエクスペリエンスでページを開くか、またはページを作成します。
4. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




5. [通知] まで下にスクロールします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



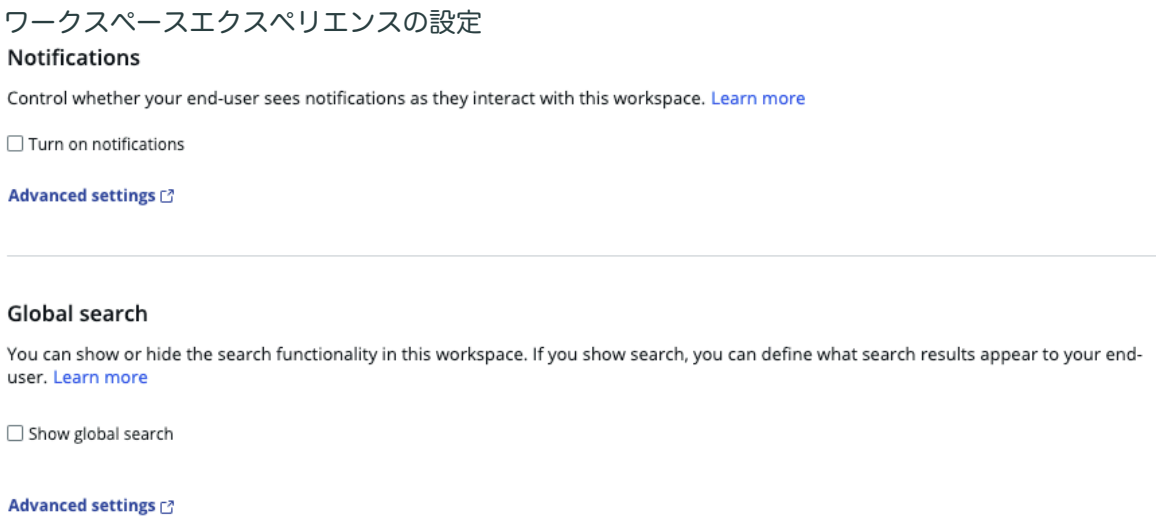

6. [通知をオンにする] オプションを選択します。
7. [保存] をクリックします。
8. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform® に移動し、レコードの JSON 値を編集します。

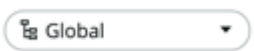
## ワークスペースエクスペリエンスでのグローバル検索の表示

ワークスペースで検索機能を表示または非表示にします。

### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて
検索機能をワークスペースエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。検索オプションの表示を選択する場合は、検索のソースを選択して返される検索結果を定義できます。




エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (  ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

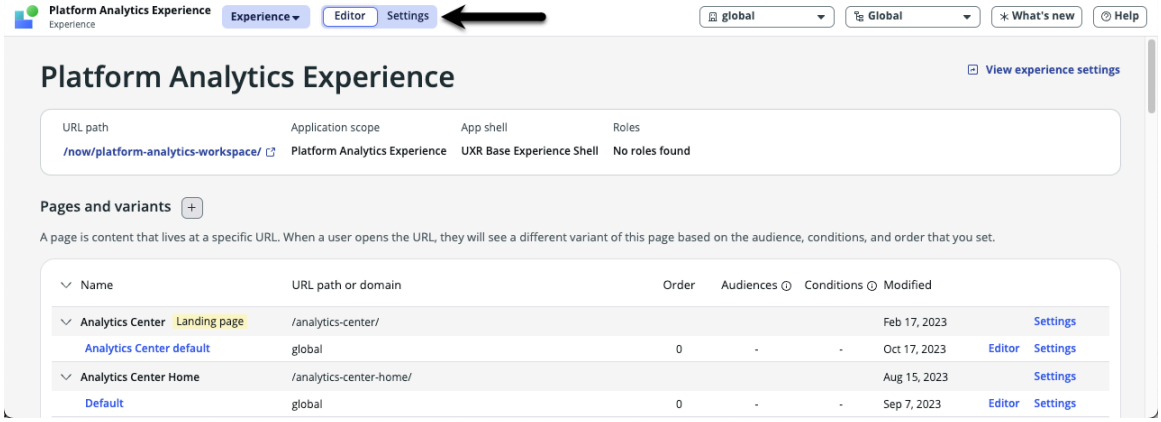

### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するワークスペースエクスペリエンスを開くか、または **[+** エクスペリエンスを作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ワークスペースエクスペリエンスでページを開くか、またはページを作成します。

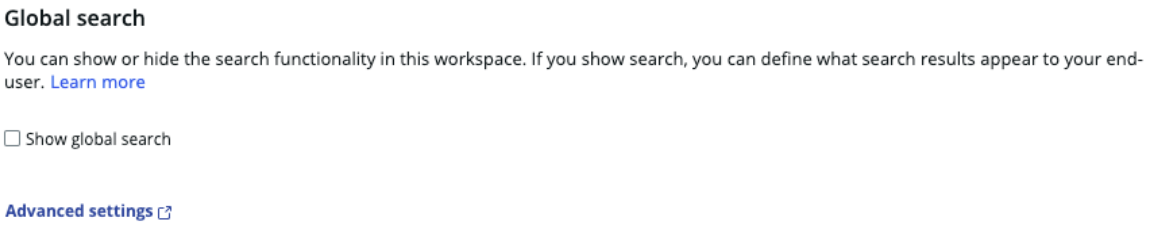
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




5. [グローバル検索] まで下にスクロールします。




6. [グローバル検索を表示] オプションを選択します。
7. [保存] をクリックします。
8. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform® に移動し、レコードの JSON 値を編集します。

## UI ビルダー ポータルエクスペリエンスを構成する

UI ビルダー カスタムポータルエクスペリエンス設定を変更すると、ユーザーがポータルエクスペリエンスを操作する方法に影響が及ぶ可能性があります。

作業しているカスタムポータルエクスペリエンスの設定を変更するには、エクスペリエンスの設定を使用します。これらの設定は、ユーザーがポータルエクスペリエンスとやり取りする方法、ポータルの外観、およびユーザーがポータル内を移動する方法に影響を与えます。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。


次に示すポータルエクスペリエンス設定を変更する方法について説明します。

- ポータルエクスペリエンスのポータルの一般的な設定を変更または追加します。ポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- ポータルのブランディングとテーマを操作して、既存のテーマを適用するか、ポータルエクスペリエンスのテーマを作成します。テーマを使用して、ポータルエクスペリエンス内のすべてのページまたはポータルエクスペリエンス内の特定のページに、組織のブランディングを追加します。
- ポータルナビゲーションとメニューの設定を使用して、ポータルエクスペリエンスのアプリシェルでナビゲーションとメニューの設定を行います。アプリシェルはポータルコンテンツのラッパーです。たとえば、アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー初期設定、検索アイコン、構成アイコ

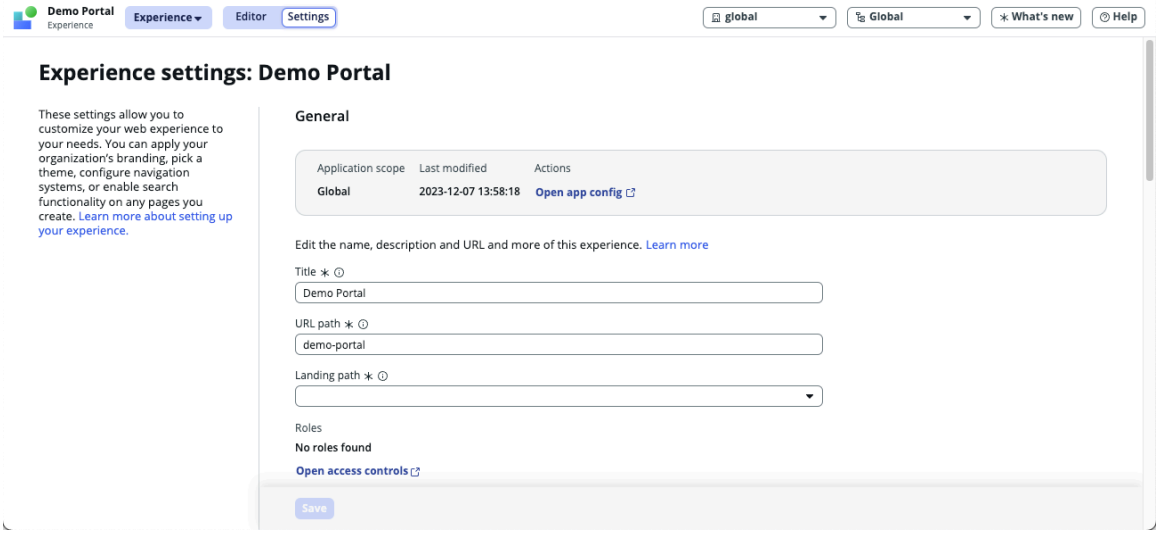
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ン、ユーザーメニューなどを表示できます。アプリシェルの詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。

- ポータル検索設定を変更して、ポータルエクスペリエンスの公開ページまたはプライベートページでグローバル検索機能を表示または非表示にします。

ポータルのエクスペリエンスの設定




## ポータルエクスペリエンスの一般的な設定の変更

UI ビルダー でのカスタムポータルエクスペリエンスの一般的な設定の変更たとえば、ポータルエクスペリエンスのタイトル、説明、およびパスを変更できます。

### 始める前に

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

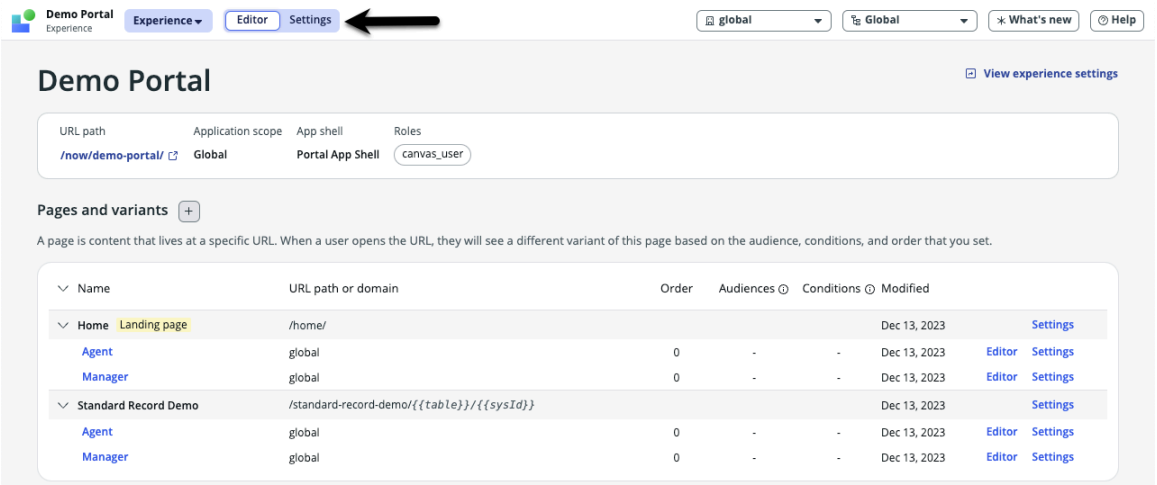

必要なロール：ui_builder_admin

### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。

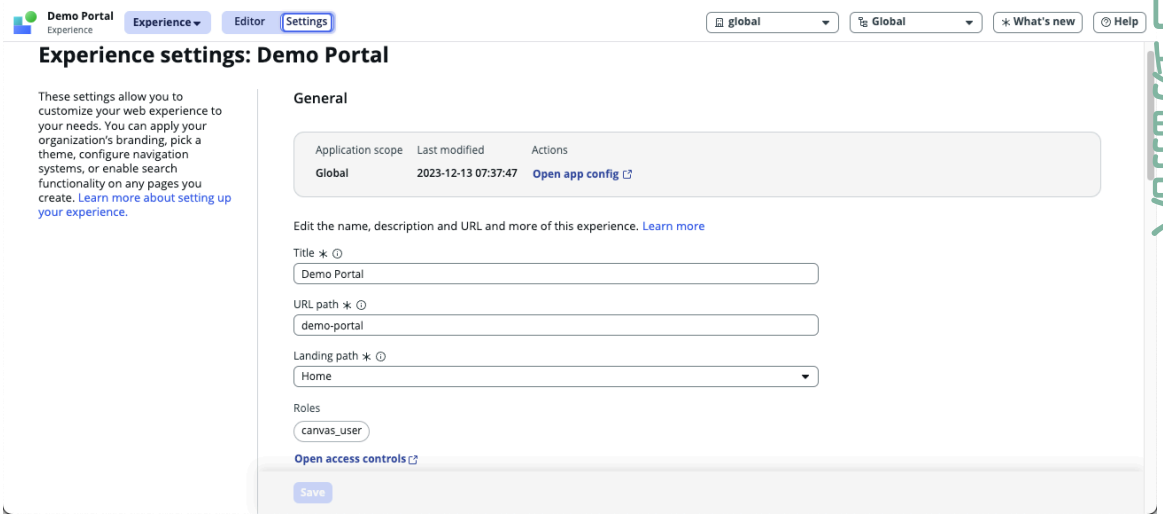
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. ポータルエクスペリエンスのタイトル、説明、パスを変更します。
   - タイトルによって、ワークスペースの名前を全員に知らせることができます。ワークスペースの名前を選択するときは注意してください。
   - 説明により、ユーザーはワークスペースの詳細を知ることができます。
   - パスは一意になっている必要があります。パスには、数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、単語はスラッシュまたはハイフンで区切ることができます。

**UI Builder** のエクスペリエンス設定




5. オプション: Now Platform でワークスペースレコードを編集するには、[詳細設定] を選択します。

   a. 終了したら、プラットフォームのレコードを更新します。
   UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

6. [保存] をクリックします。

タスクの結果
UI ビルダー のポータルエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ポータルエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の変更

UI ビルダー のカスタムポータルエクスペリエンスのブランドとテーマの設定を変更して、ユーザーがすべてのページで一貫したルックアンドフィールを表示できるようにします。

### 始める前に

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

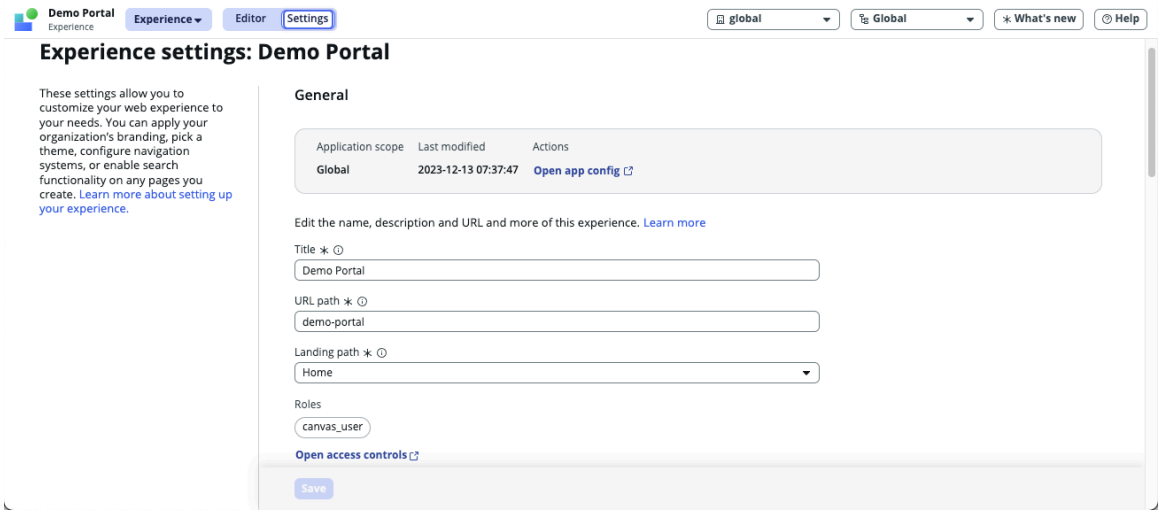


デフォルトのコンポーネントスタイルを上書きするカスタムテーマを作成できます。テーマレコードで独自のスタイルプロパティを定義できます。詳細については、「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」を参照してください。

必要なロール：ui_builder_admin

### 手順

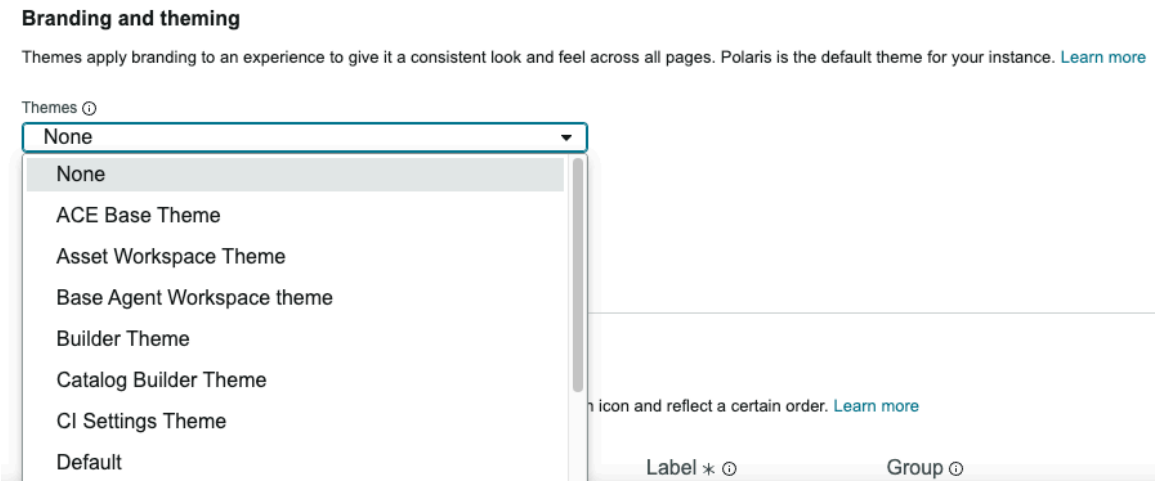
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. [テーマ] ドロップダウンをクリックします。
5. 適用できるテーマをリストから選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. [保存] をクリックします。

## ポータルエクスペリエンスのナビゲーションとメニューの設定の変更

UI ビルダー のカスタムポータルエクスペリエンスのヘッダー、フッター、およびメニューの設定を、組織のニーズに合わせて変更します。

### 始める前に

このタスクには次の前提条件があります。

- UI ビルダー に既存のポータルエクスペリエンスがあります。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
- このワークスペースエクスペリエンスには少なくとも 2 つのページが含まれています。
- あるページから、指定した他のページにユーザーが移動できるようにします。

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

ポータルエクスペリエンスのアプリシェルでナビゲーションとメニューの設定を行います。アプリシェルはポータルコンテンツのラッパーです。たとえば、アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー初期設定、検索アイコン、構成アイコン、ユーザーメニューなどを表示できます。このアプリシェルは Now Platformで構成できます。アプリシェルの詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー ( Global ) を選択して、アプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

> **注:**
> JSON の例を含む UX ページのプロパティの詳細については、「https://www.servicenow.com/community/next-experience-articles/workspace-app-shell-ux-page-properties/ta-p/2331956」を参照してください 。

### 手順

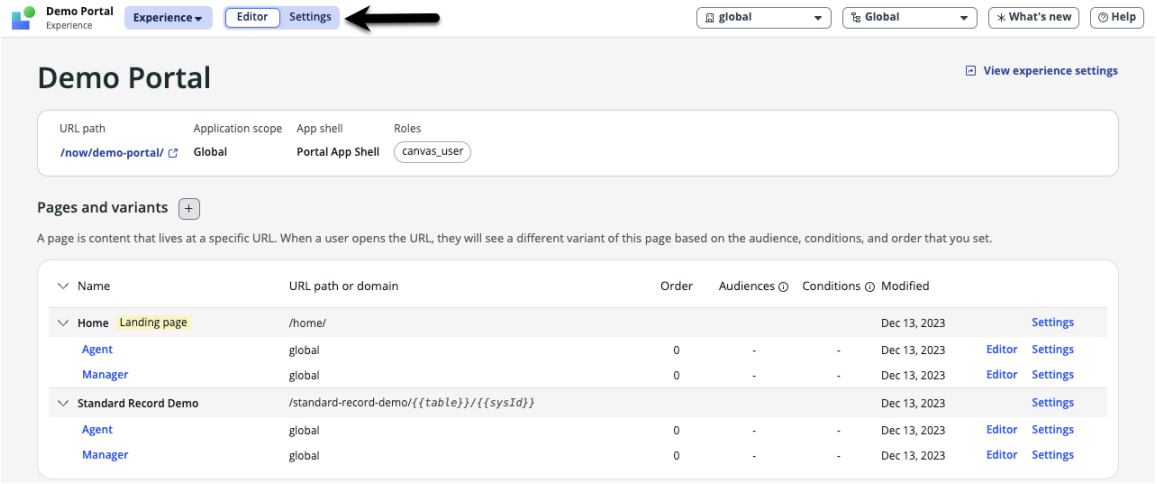
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してポータルエクスペリエンスを作成します。

自動翻訳

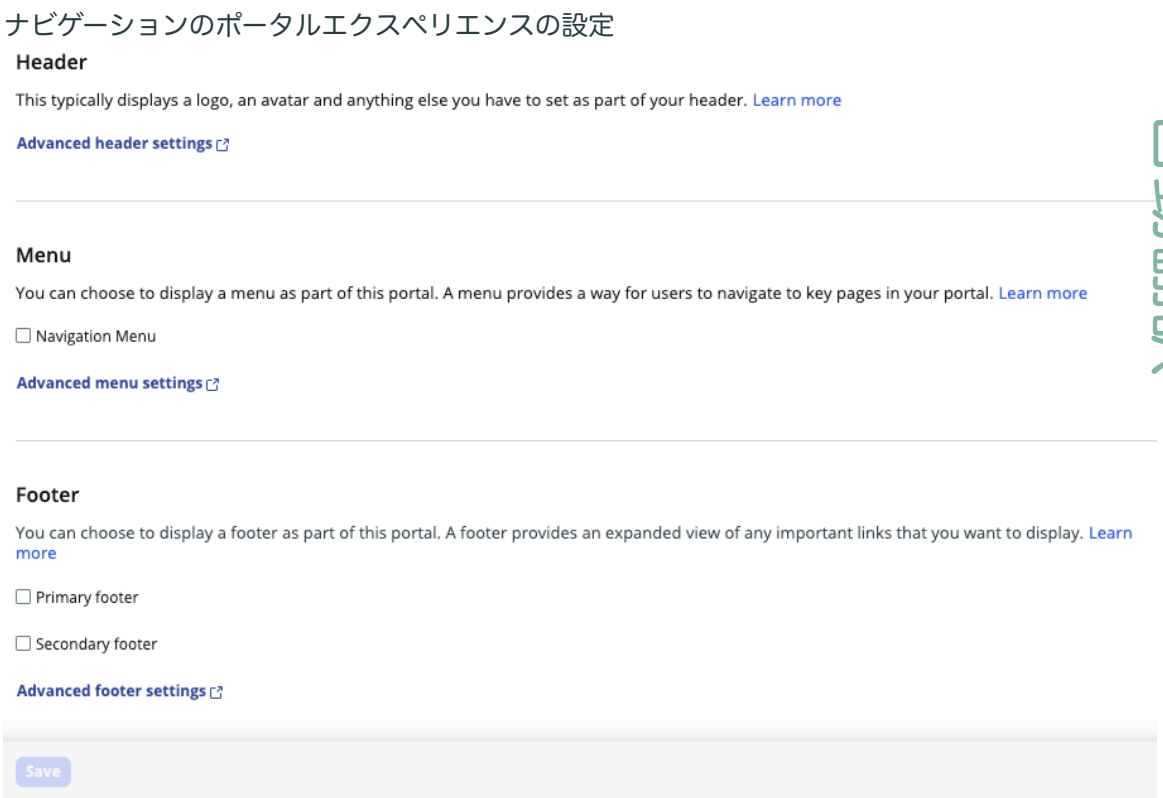
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. 作業中のポータルエクスペリエンスのアプリシェルのヘッダー、フッター、およびナビゲーションメニューの設定を変更するには、詳細設定のリンクを選択します。




| アクション | 手順 |
| --- | --- |
| ヘッダーの変更 | Now Platform® に移動するには、[詳細ヘッダー設定] をクリックします。<br><br>ここでは、ポータルエクスペリエンスのヘッダーに表示する情報を変更できます。会社のロ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アクション | 手順 |
| --- | --- |
| | ゴ、ユーザー初期設定、検索アイコン、構成アイコンなどを変更できます。 |
| メニューの表示 | **a.** ポータルエクスペリエンスにメニューを追加するには、 [ナビゲーションメニュー] を選択します。<br>**b.** ナビゲーションメニューを削除するには、[ナビゲーションメニュー] を選択解除します。<br>**c.** Now Platform に移動するには、[詳細ナビゲーションメニュー設定] を選択します。ここでは、ナビゲーションメニューに表示されるメニューとメニューアイテムを変更できます。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。 |
| フッターの表示 | **a.** ポータルエクスペリエンスにプライマリフッターを追加するには、[プライマリフッター] を選択します。フッターには、フッターのロゴ、コンテンツ、およびポータルのその他の重要なリンクを表示できます。<br>**b.** Now Platform に移動するには、[詳細ナビゲーションメニュー設定] をクリックします。<br>**c.** 2 つ目のフッターをポータルエクスペリエンスに追加するには、[セカンダリフッター] を選択します。セカンダリフッターには、追加のテキストリンク、ソーシャルメディア要素、および著作権情報が含まれています。 |

**5.** [保存] をクリックします。

### ポータルエクスペリエンスの検索設定の表示または非表示

UI ビルダー でカスタムポータルエクスペリエンスの公開ページまたはプライベートページでグローバル検索機能を表示または非表示にして、ユーザーがポータルを検索できるようにします。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

グローバル検索機能をポータルエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。公開ページまたはプライベートページのグローバル検索を有効または無効にすることができます。

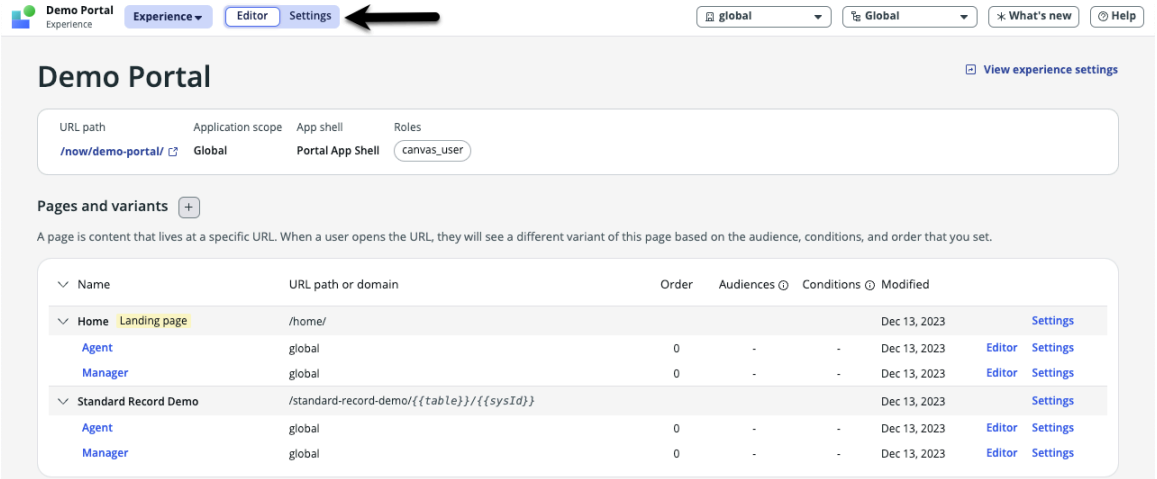
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、アプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

自動翻訳

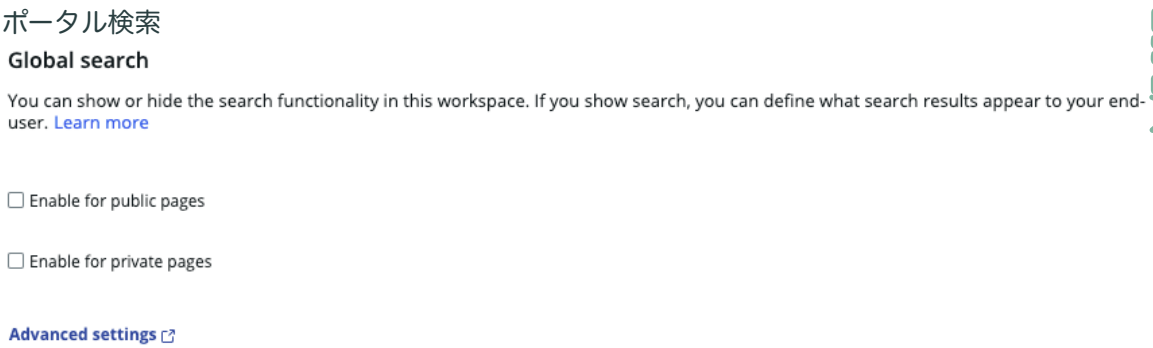
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してポータルエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. [グローバル検索] まで下にスクロールします。
5. [公開ページで有効にする] または [プライベートページで有効にする] を選択して、公開ページまたはプライベートページでグローバル検索を表示または非表示にします。




6. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform に移動し、Now Platform® のアプリケーションレコードを変更します。
   ページの検索を有効または無効にするには、個別の [ユーザーエクスペリエンスページ] プロパティを作成する必要があります。[ユーザーエクスペリエンスページ] プロパティは、グローバル検索設定を上書きします。
7. [保存] をクリックします。

### アプリシェルを使用した **UI** エクスペリエンスの定義

アプリシェルとは何か、どのアプリシェルが UI ビルダー で使用できるか、また特定のアプリシェルをどのような理由から選択するかを考慮します。

### アプリシェル

アプリシェルは、エクスペリエンスページのコンテンツのラッパーです。アプリシェルには、Web ページと同様の機能が含まれています。たとえば、アプリシェルは、会社のロゴ、ユーザー初期設

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

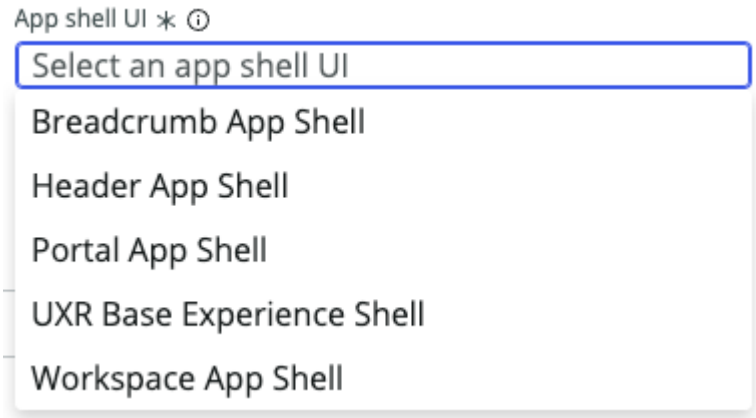
定、検索アイコン、構成アイコン、ユーザーメニューなどを、エクスペリエンスのヘッダーまたはフッターに表示できます。

UI ビルダー にはアプリシェルが必要です。

アプリシェルは、エクスペリエンスにワークスペースまたはポータルデザインがあるかどうかを定義します。ワークスペースは、ユーザーからの要求を処理するために複数のツールを 1 ページに配置したグラフィカルユーザーインターフェイスです。ポータルは、ユーザーがアイテムの注文やチケットの追跡などの要求を追加できるページです。

ServiceNow® プラットフォームでエクスペリエンスを作成するときに、エクスペリエンスに適用するアプリシェルを選択します。エクスペリエンスの作成方法の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

エクスペリエンスを作成するときに、さまざまなアプリシェルから選択できます。




エージェントワークスペース およびポータルアプリシェルの説明

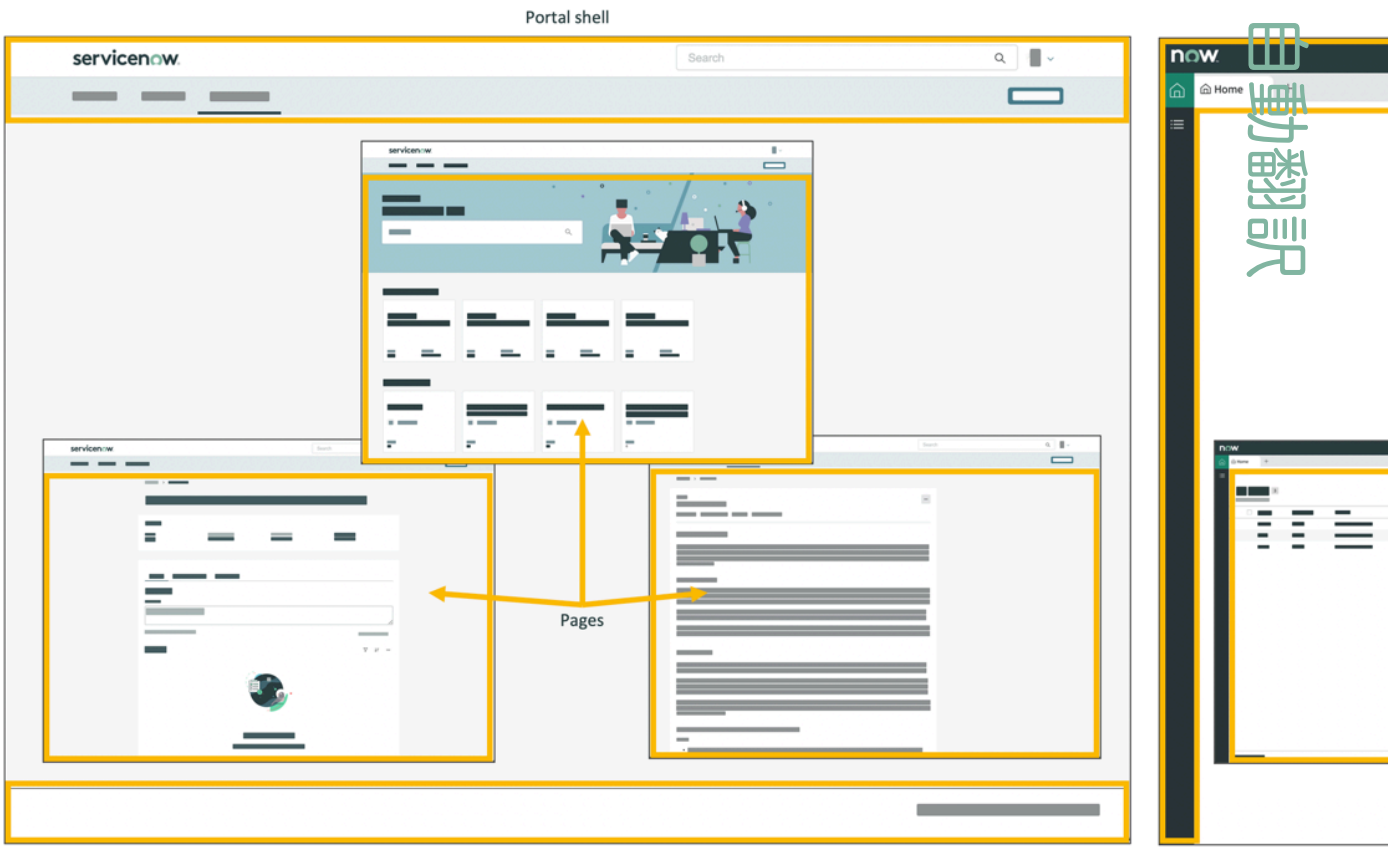
| アプリシェル | 説明 |
| --- | --- |
| ブレッドクラムアプリシェル | ブレッドクラムアプリシェルには、ヘッダー、ブレッドクラムスタイルのナビゲーション、およびワークスペースエクスペリエンスのプライマリナビゲーションバーが含まれています。ブレッドクラムアプリシェルは、マルチタスクを必要としない集中的なワークフローとウィザードフローに使用します。 |
| ヘッダーアプリシェル | ヘッダーアプリシェルには、ワークスペースエクスペリエンスのヘッダーとユーザーメニューが含まれています。ヘッダーに最小限のナビゲーションといくつかのアクション可能なアイテムを必要とするエクスペリエンスには、ヘッダーアプリシェルを使用します。 |
| ワークスペースアプリシェル | ワークスペースアプリシェルには、ワークスペースエクスペリエンスのヘッダーとフッターが含まれています。ワークスペースアプリシェルを使用して、ユーザーが問題を検索、調査、解決するために必要なツールを提供します。 |
| ポータルアプリシェル | ポータルアプリシェルには、ポータルエクスペリエンスのヘッダーとフッターが含まれています。ポータルアプリシェルレコードは、ポータ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エージェントワークスペース およびポータルアプリシェルの説明 (続く)

| アプリシェル | 説明 |
| --- | --- |
| | ルエクスペリエンス用にメニュー、ユーティリティ、ロゴ、およびログインを構成する方法の参照実装です。 |
| UXR Base Experience シェル | UXR Base Experience シェルは、Next Experience バナーを使用してエクスペリエンスを作成します。UXR Base Experience シェルは、エクスペリエンスの構成、コンテキストバインディング、ルーティング、画面のロード、キャッシュなど、親アプリ内で構成されたエクスペリエンスの基本機能のサポートを提供します。UXR Base Experience シェルには、ビジュアルコンポーネントやエクスペリエンス固有のコンポーネントはありません。UXR Base Experience シェルは、シェルがカスタマイズされていないエクスペリエンスにも使用できます。たとえば、ID センターは UXR Base Experience シェルをアプリシェルとして直接使用します。 |




## UI ビルダー ページとページのバリアントを管理

UI ビルダー のページについて説明します。列レイアウトやコンポーネントなどの UI ビルダー ページの構成ブロックを理解します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ビルダー クイックスタート

UI Builder クイックスタートビデオ

UI ビルダー でページをワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスの一部として作成します。UI ビルダー ページは レイアウトとコンポーネントで構成されます。列レイアウトとコンポーネントを使用してページを構築し、ユーザーにエクスペリエンスをガイドします。たとえば、従業員の出張要求を管理するページを構築できます。ページには、送信および承認されたすべての出張要求のリストを含む列レイアウトとコンポーネントを含めることができます。ユーザーが出張要求を追加および送信できるようにするボタンを追加できます。ページはさまざまな方法で構築できます。

**注:**
一度に 1 人の開発者が 1 つのバリアントを操作する必要があります。

### 列レイアウトとコンポーネント

列レイアウトとコンポーネントは UI ビルダー ページの構成要素です。列レイアウトとコンポーネントをページに追加して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスを構築またはカスタマイズします。たとえば、列レイアウトを追加し、列内にユーザーが要求を送信できるボタンコンポーネントを配置します。

ステージまたはコンテンツツリーから、列レイアウト、列、およびコンポーネントを追加したり、それらの間を移動したりすることができます。

列レイアウトには、1 つ以上の列を含めることができます。列にはコンポーネントを含めることができます。列レイアウト、列、コンポーネントの表示スタイルを変更して、独自のエクスペリエンスを作成します。

ページレイアウト要素のタイプ

| タイプ | 説明 |
|---|---|
| 列レイアウト | 1 ～ 6 列の柔軟性に優れたコンテナ。列レイアウトを追加して、ページの構造とフレームワークを提供します。 |
| 列 | 列にコンポーネントを入力します。 |
| コンポーネント | ボタン、リスト、フォームなどのページの基本要素。 |
| モーダル | モーダルを使用して、ページの上部にレンダリングされ、アクションを必要とする UI ビルダーのページタイプを作成します。 |
| ポップオーバー | ポップオーバーは、イベントによってトリガーされたときに UI ビルダー ページの上に表示されるコンテナの一種です。ポップオーバーコンポーネントを使用して、ページに関連する追加情報またはアクションを表示します。 |

詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

## UI Builder ページの作成

UI ビルダー ページを作成して、ページエクスペリエンスを最初から、またはページテンプレートを使用して構築します。 一度に 1 つのページコンポーネントを構築します。事前定義されたページテ

自動翻訳

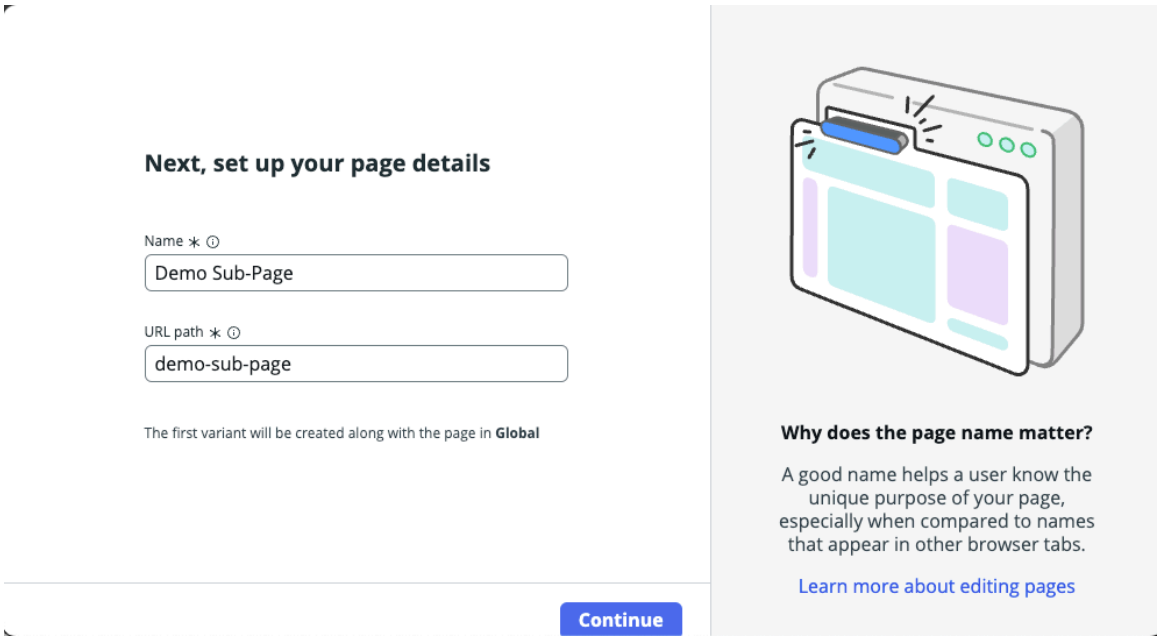
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ンプレートのいずれかを使用する場合は、基本構造から開始し、ニーズに合わせてカスタマイズできます。

UI ビルダー ページに名前を付けます。パスを設定します (またはページ名に基づいて自動的に追加されるデフォルトのパスを維持します)。デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできますが、パスは一意である必要があります。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

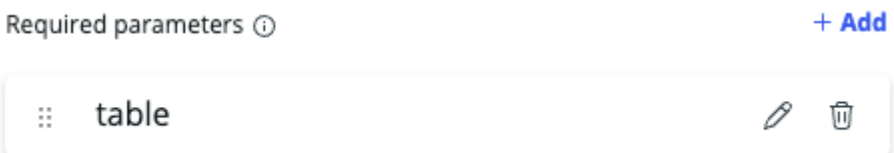
アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

UI ビルダー ページテンプレートを使用して、事前定義されたページテンプレートに基づいてページを作成し、そのページをニーズに合わせてカスタマイズします。ページテンプレートは参照またはコピーできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。




## UI Builder ページの作成：詳細設定

UI ビルダー ページに必須パラメーターを追加します。必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。たとえば、[URL] フィールドにテーブルパラメーターを追加し、そのテーブルにデータをバインドできます。テーブルが参照されると、テーブルデータがページ上のコンポーネントに公開されます。必須パラメーターは、ページに追加すると URL に表示されます。次の例では、table という必須パラメーターが追加されています。URL に追加されていることに注意してください。

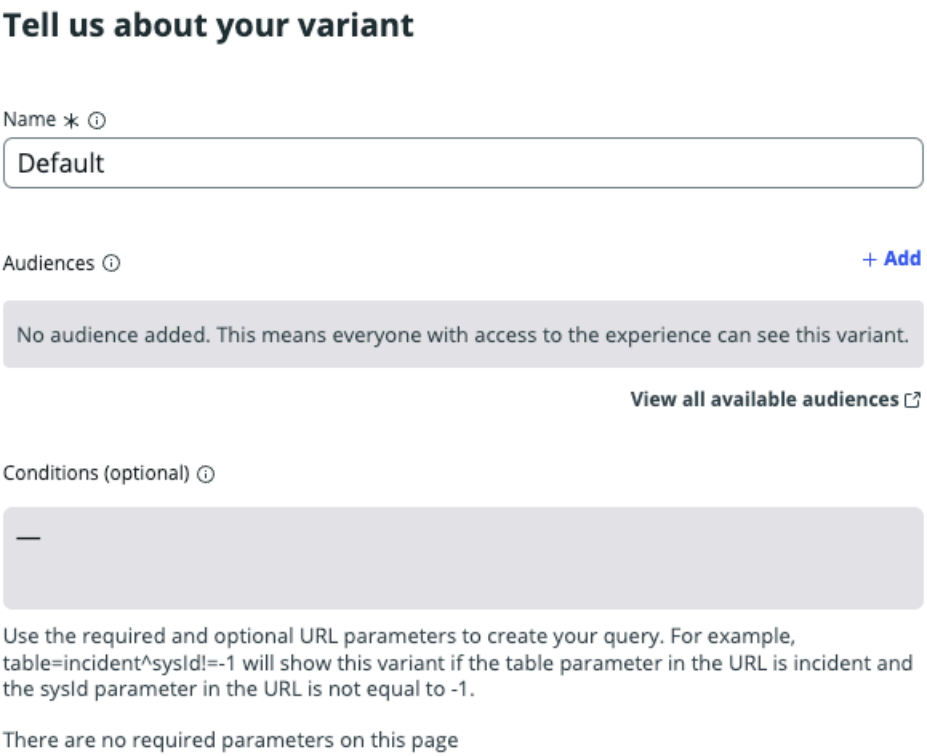



UI ビルダー ページにオプションのパラメーターを追加します。オプションのパラメーターは、ページの URL に追加できるオプションのデータです。必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは常に名前と値のペアで、指定された順序に関係なく機能します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー ページバリアントの対象者と条件を設定します。ページを作成すると、UI ビルダー によってページのバリアントもデフォルトで作成されます。ページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットにできる、同じパスのページのバリエーションのことです。たとえば、マネージャー用のページと、そのマネージャーの直属の部下用のページのバリアントなどです。バリアントの作成の詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。



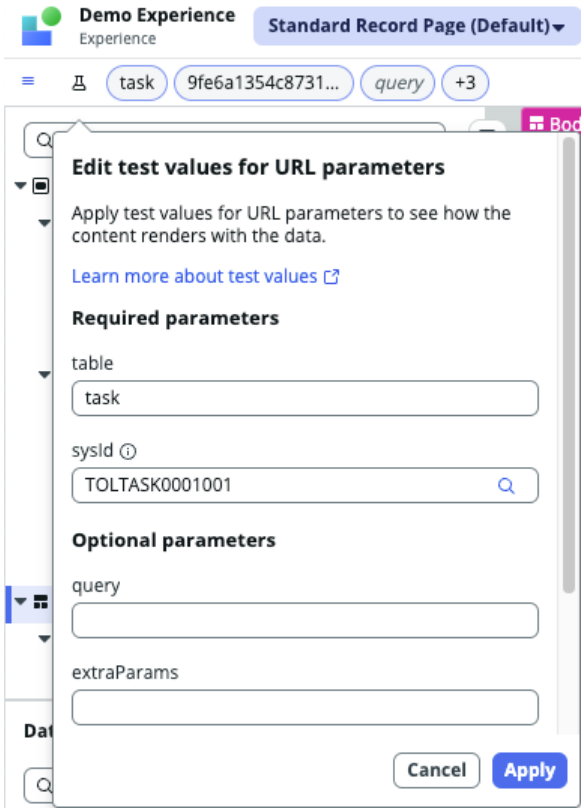

対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

## テスト値

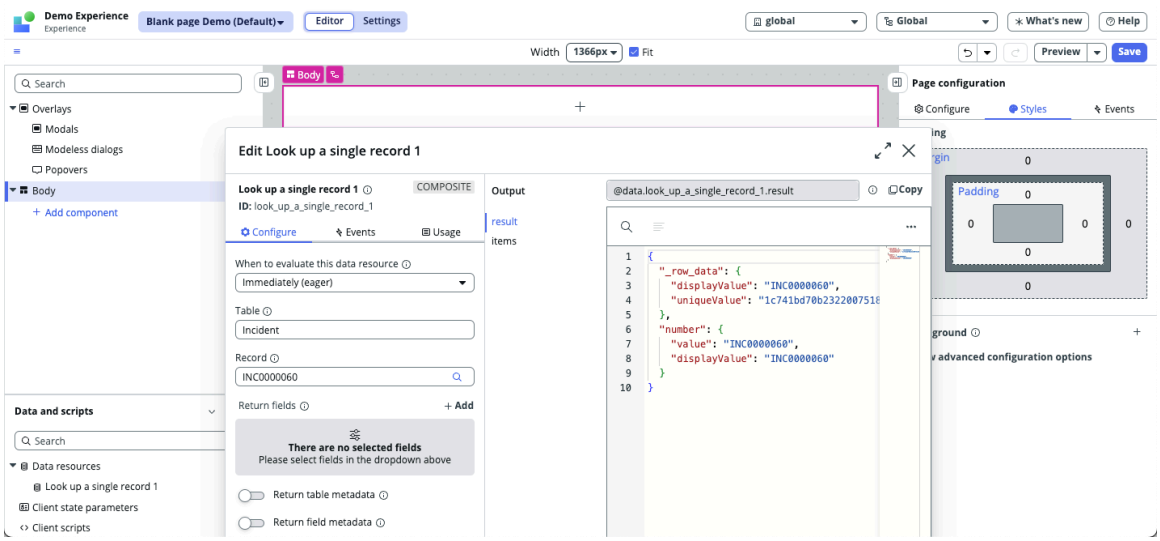
テスト目的でテストデータを UI ビルダー ページに取り込む方法として、ページにテスト値を追加します。たとえば、必須パラメーターとしてテーブルを追加する場合は、インシデントのテスト値を追加し、それにデータリソースをバインドして、そのテーブルのインシデントに関するテストデータを取り込むことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



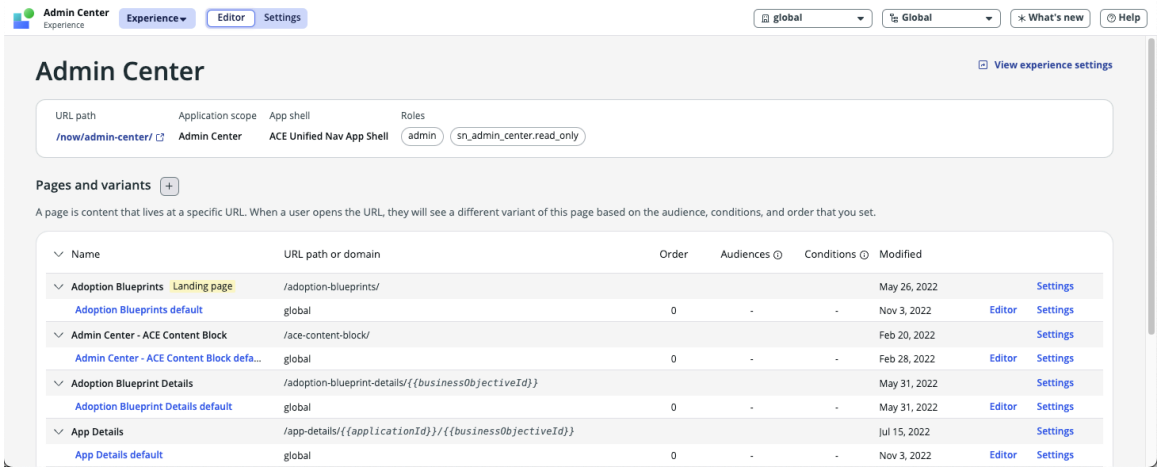

テスト値を取得してデータを表示するには、データリソースを追加してから、レコードを URL のテスト値にバインドするようにデータリソースを構成します。たとえば、incident をテスト値として追加できます。次に、「 単一レコードを検索」という名前のデータリソースを追加します。[テーブル] フィールドで、次の画像に示すように、インシデントテスト値を context.props.table テーブルに動的にバインドします。



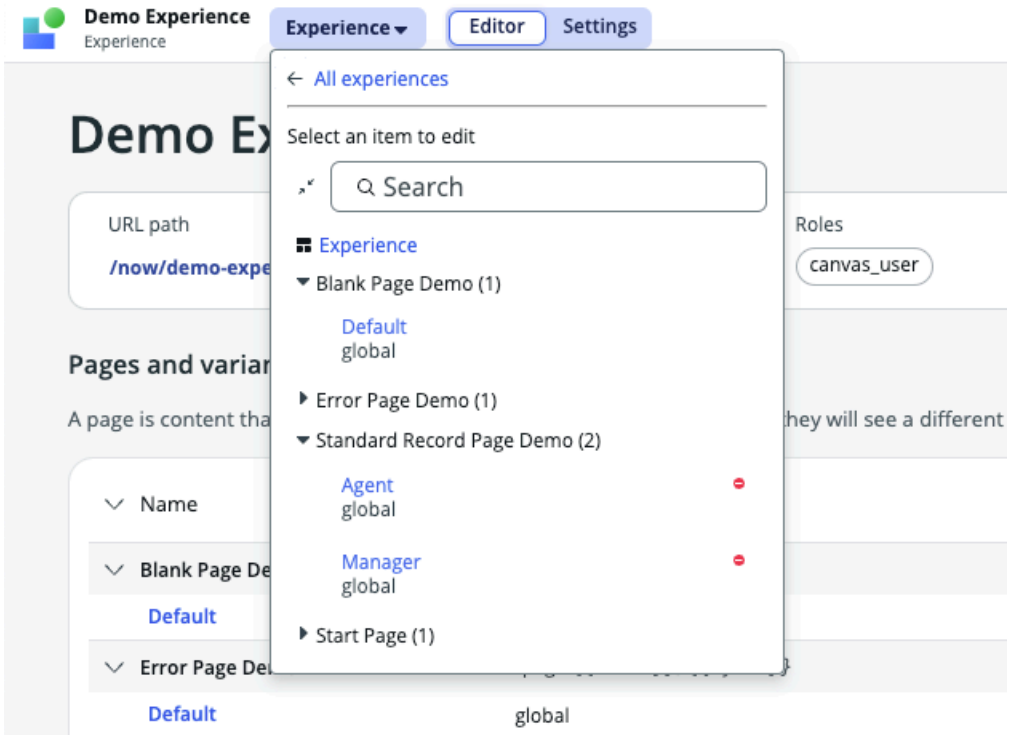

## 既存の **UI Builder** ページの表示

ロール設定に基づいて、エクスペリエンスの任意の UI ビルダー ページで作業できます。エクスペリエンスのエクスペリエンスビューで、作業するページの名前をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ページエディターで、ヘッダーのドロップダウンを選択して、異なるページバリアント を開きます。




## UI Builder ページバリアントの作成

バリアントでは、ユーザー基準を使用して、さまざまな対象者をさまざまなコンテンツのターゲットにすることができます。たとえば、エージェント用のホームページと、同じ URL パスに存在するマネージャー向けのページのバリアントを作成できます。

UI ビルダー ページバリアントごとに対象者を設定します。ページバリアントを使用するユーザーは、対象者で決まります。たとえば、出張要求ページを作成する場合は、マネージャーが従業員の出張要求を管理できる、ページのバリアントを作成します。マネージャーロールを持つすべてのユーザーのために、マネージャーページの対象者を設定します。従業員はそのバリアントを表示できません。対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

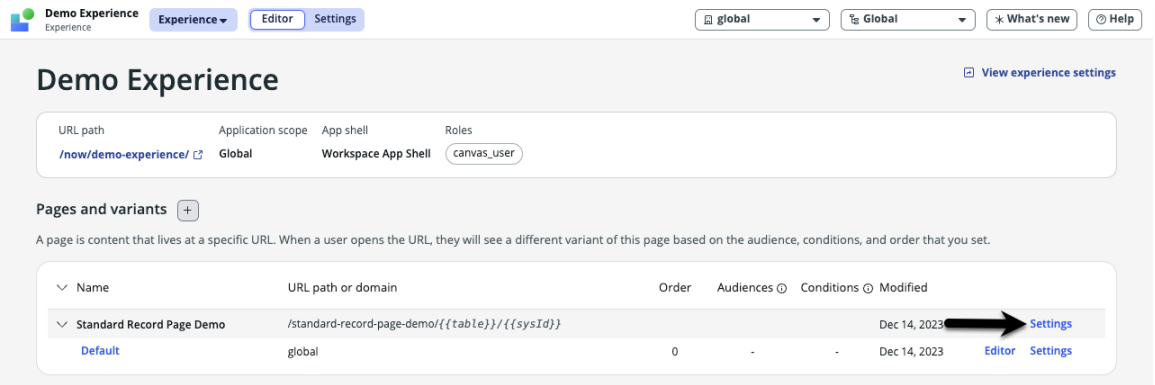
詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI Builder のページ設定を編集

UI ビルダー エクスペリエンスビューで [設定] を選択すると、いつでも UI ビルダー ページの設定を変更できます。ページを作成した後で、ページの名前、パス、およびパラメーターを変更できます。

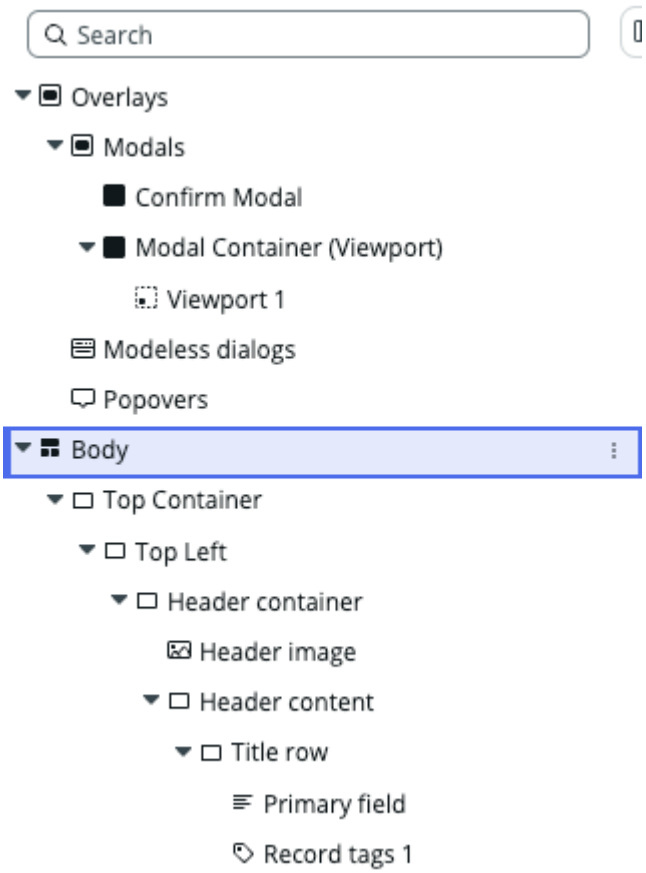



詳細については、「ページの編集」を参照してください。

### コンテンツツリー

ページ管理パネルのコンテンツツリーは重要です。これは、UI ビルダー ページ上のすべての列レイアウト、列、コンポーネントを表示するだけでなく、コンポーネントを簡単に見つけて操作できるようになります。コンテンツツリーは、ページ上に複数のコンポーネントがある場合に特に重要です。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してページ上のコンポーネントをハイライト表示すると、ページを簡単に構築できます。

コンポーネントがあるコンテンツツリー

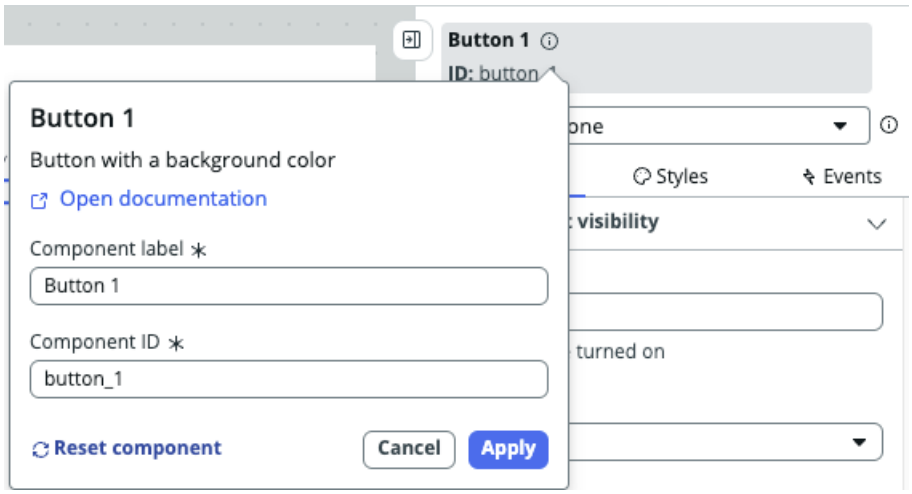



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテンツツリーでコンポーネントをクリックすると、ステージ上のコンポーネントがハイライト表示され、スタイリング、イベント、データなどを追加できます。 コンテンツツリーにアイテムをドラッグして、ページを再編成できます。

コンポーネントをページに追加するときは、コンポーネントラベルを追加することが重要です。コンポーネントラベルは、コンテンツツリー内の各コンポーネントにラベルと ID を適用するために使用されます。適切にラベルを付けると、コンテンツツリーのコンポーネントの識別がはるかに簡単になります。

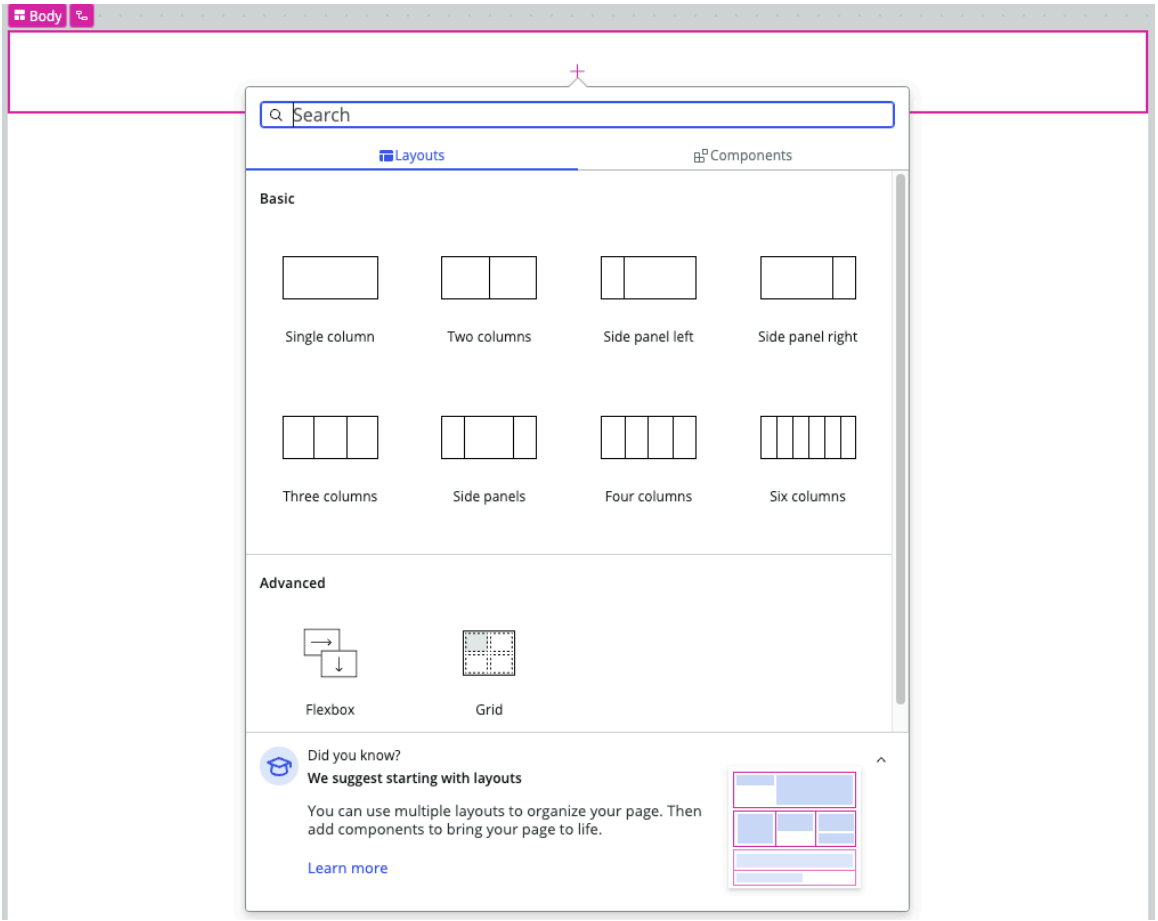



## ツールボックス

UI ビルダー ツールボックスを使用して、レイアウトとコンポーネントをページに追加します。UI ビルダー ツールボックスにアクセスするには、**[+** コンポーネントを追加] またはステージの **[+]** アイコンを選択します。

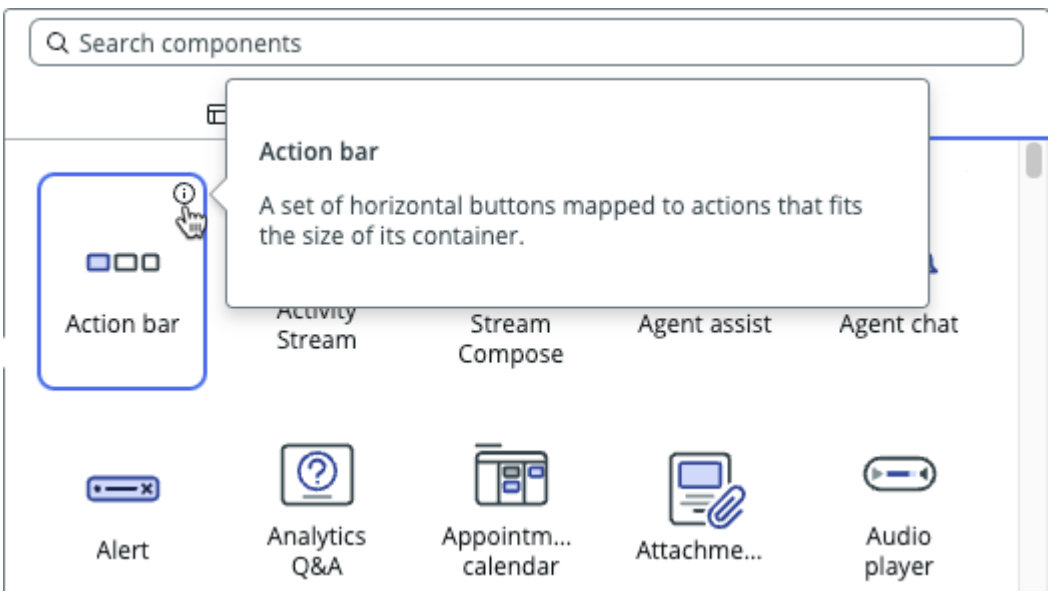
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ツールボックスを検索して、UI ビルダー ページに追加するレイアウトとコンポーネントを見つけます。

情報アイコンⓘを選択してツールヒントを表示し、レイアウトまたはコンポーネントの簡単な説明を表示します。コンポーネントがプリセットを使用できる場合、または複数のコンポーネントにバンドルされている場合は、[コンポーネント] タブに異なる色が表示されます。

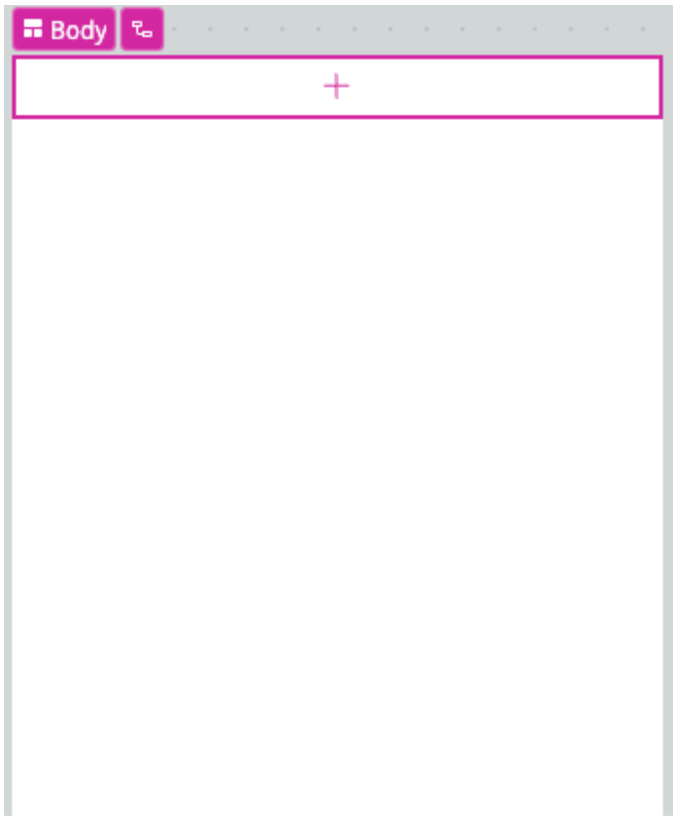



自動翻訳

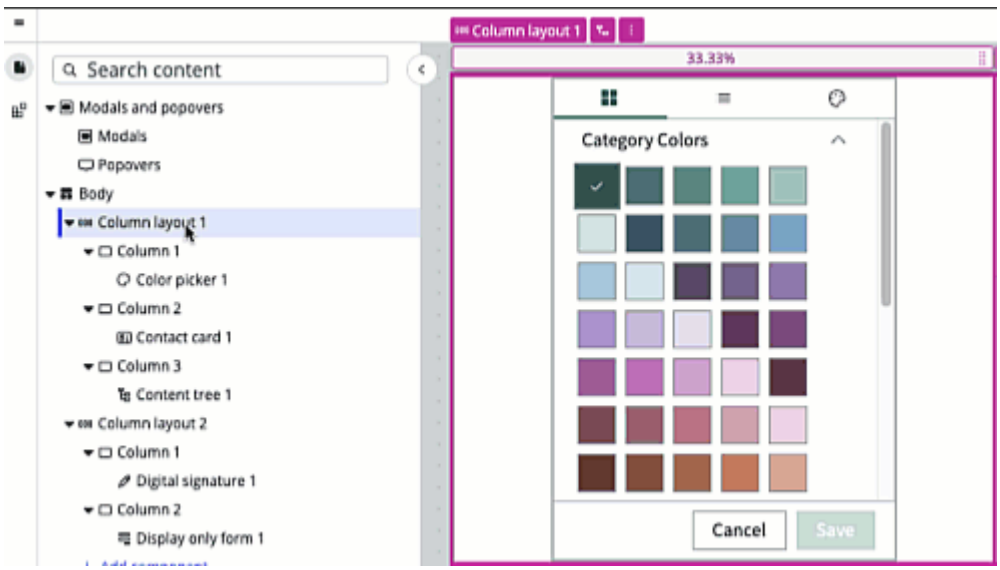
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ステージ

ステージは、UI ビルダー エディターの最大の領域であり、ページの構築に使用されます。列レイアウトとコンポーネントをここに追加するには、[+] ボタンをクリックするか、[コンポーネント] ペインからページにドラッグします。



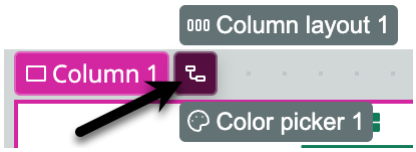

ステージでは、本文、列レイアウト、および列の輪郭がマゼンタで表示されます。コンポーネントは青色で囲まれています。



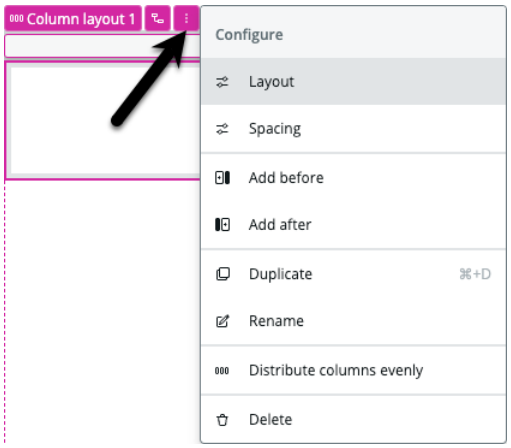

ツリーアイテムアイコンを使用して、コンテンツの別のレイヤーに移動します。たとえば、列が選択されている場合は、親の列レイアウトまたは列内のコンポーネントに簡単に移動できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



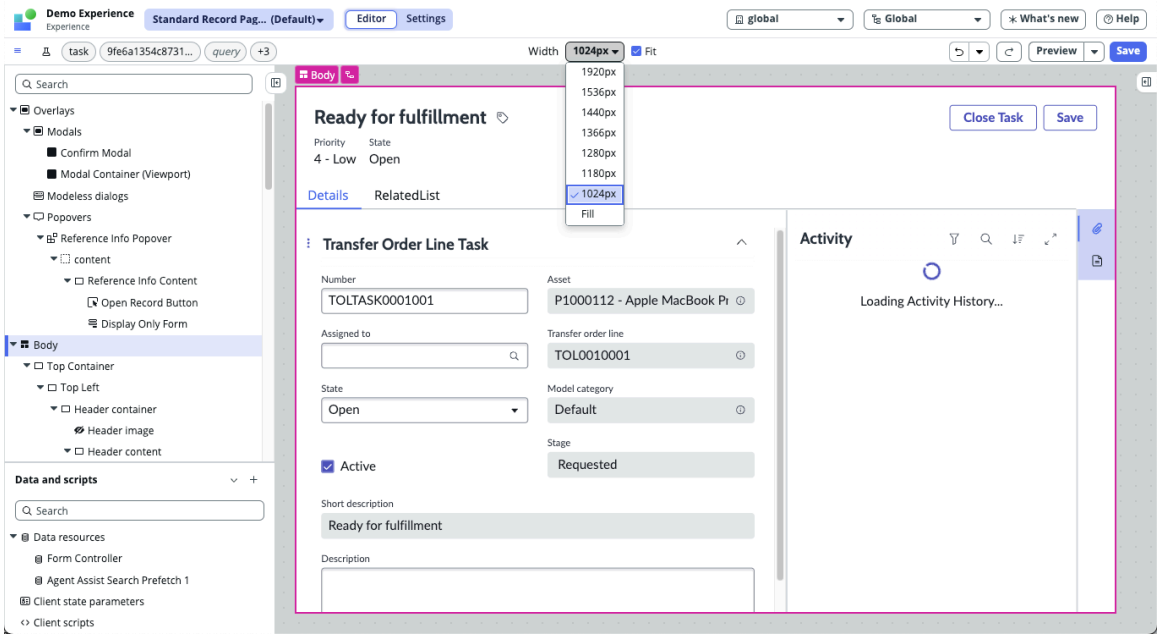

列レイアウトまたはコンポーネントの複製、削除などのオプションのメニューアイコンを選択します。




ステージで行われた変更は、右側の [スタイル] パネルに反映されます。[スタイル] パネルで変更を加えると、ステージ上の要素がすぐに更新されます。

## ステージのサイズを変更する

UI ビルダー エディターで [幅] ドロップダウンを選択して、ステージのサイズを調整します。




## 元に戻す/やり直す

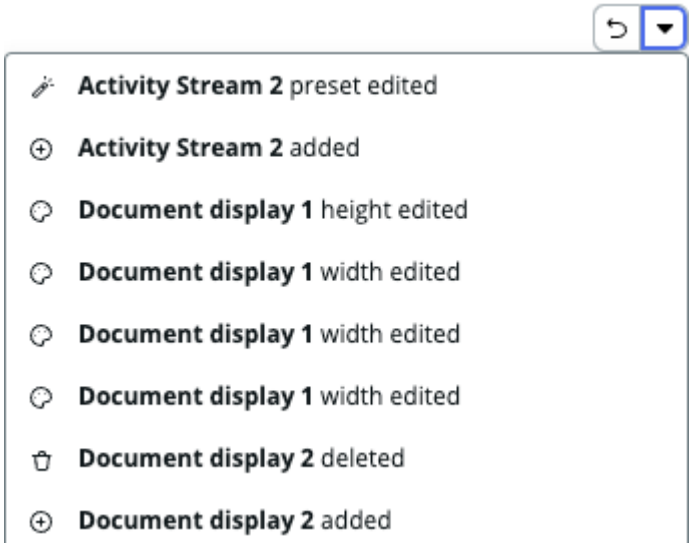
UI ビルダー ページに加えた変更を元に戻し、やり直します。ページレイアウト、コンポーネント、スタイル、またはレイアウトに対して行ったアクションを元に戻します。

元に戻す機能とやり直し機能は、ヘッダーツールバーにあります。[元に戻す] ( ) または [やり直し] ( ) ボタンを選択して、アクションを元に戻すことができます。[元に戻す] ドロップダウンを

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリックして、複数のステップを戻ることもできます。データシェルフで行われた変更を元に戻したり、やり直したりすることはできません。

[元に戻す] ドロップダウンを選択すると、前の 20 のアクションを元に戻すことができます。



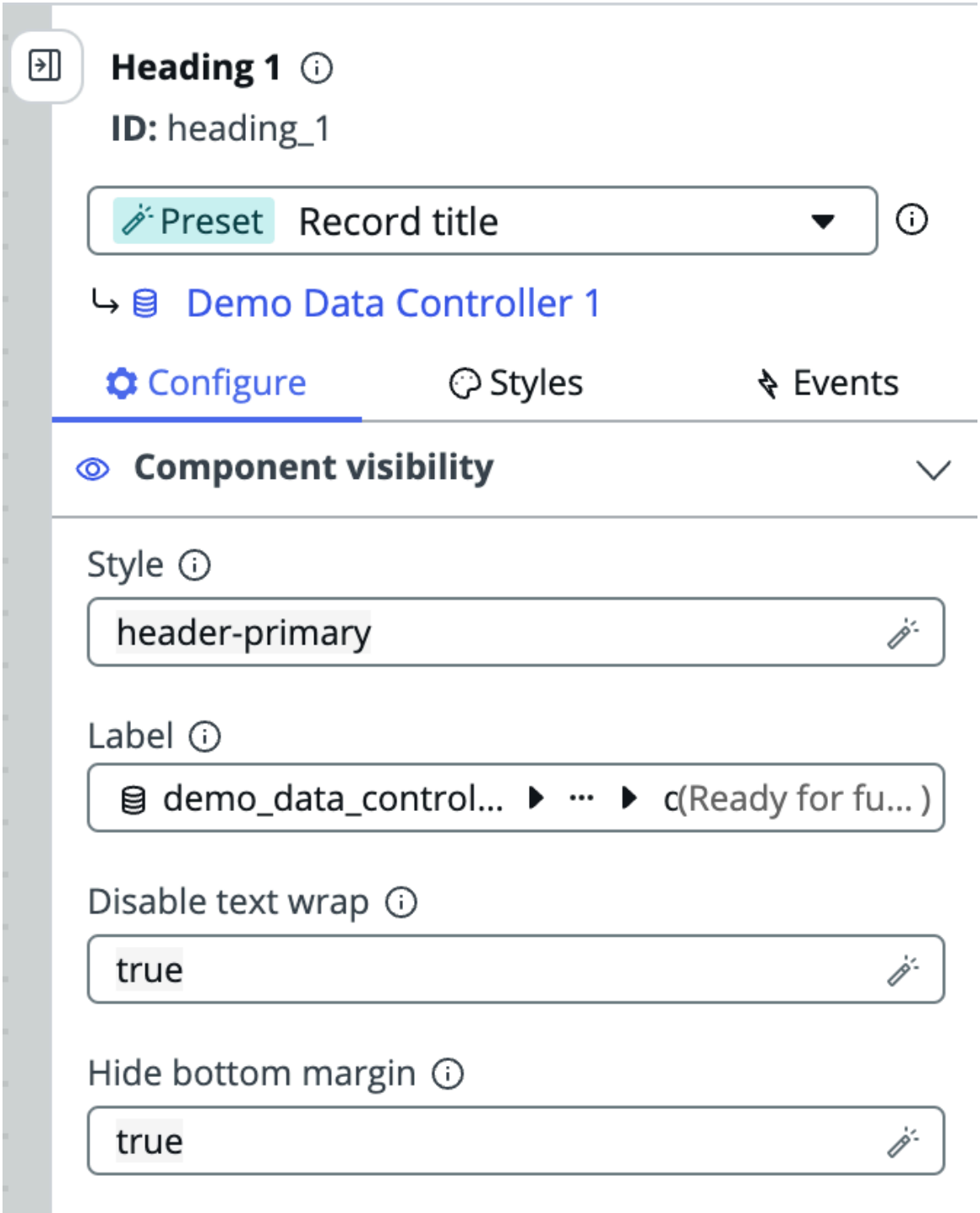

## 構成パネル

構成パネルを使用して、配置、スタイリング、イベントハンドラーの設定などの、コンポーネントの操作を行います。

- [構成] タブを選択してコンポーネントを構成します。各コンポーネントには、コンポーネントの必要な部分を制御できるさまざまな構成オプションがあります。たとえば、ボタンコンポーネントはシンプルで、外観、ラベル、および一部のプロパティのみを構成できます。リストコンポーネントはより複雑で、多数の編集可能なリストパラメーターが含まれています。

自動翻訳

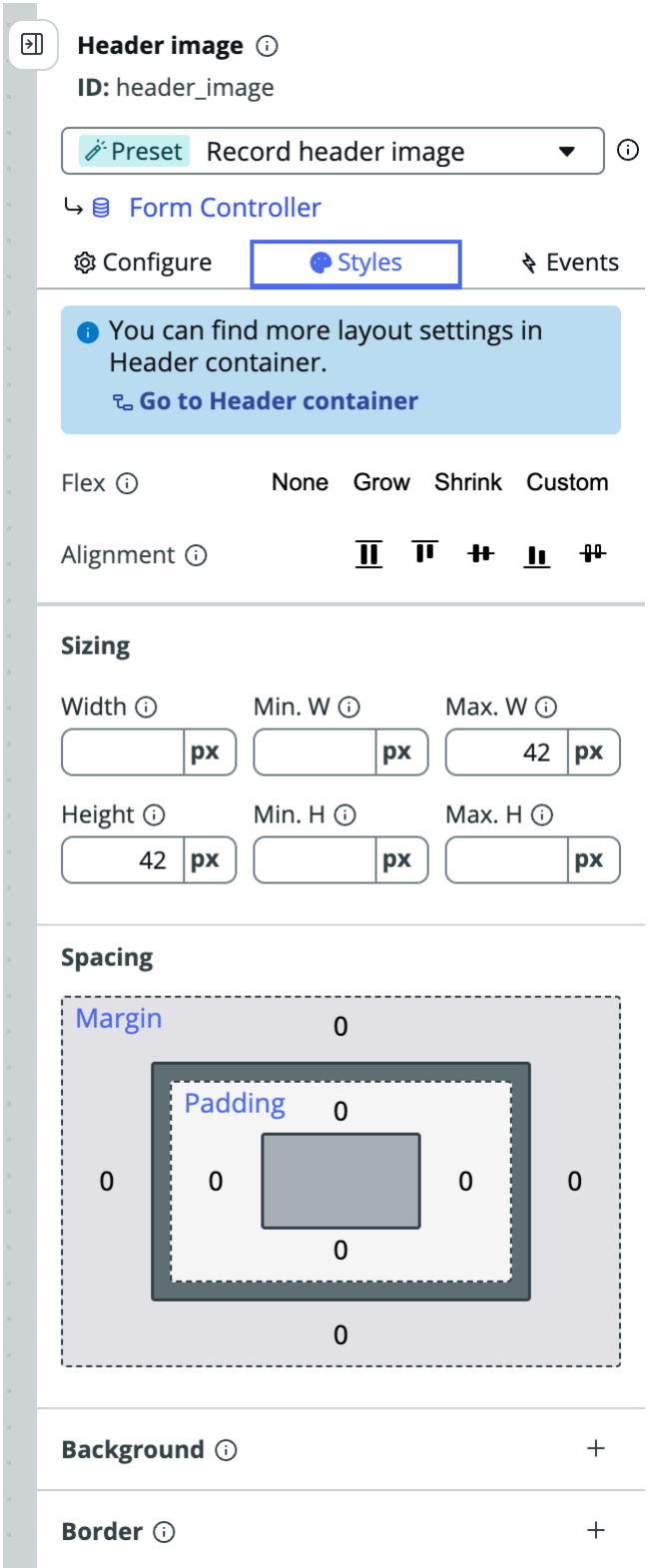
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




- 構成パネルの [スタイル] タブを選択して、コンポーネントにスタイリングを追加します。標準ベースのカスケードスタイルシート (CSS) を使用して、コンポーネントの表示スタイルを変更できます。たとえば、背景色、境界線、またはその他の CSS スタイルを追加または変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

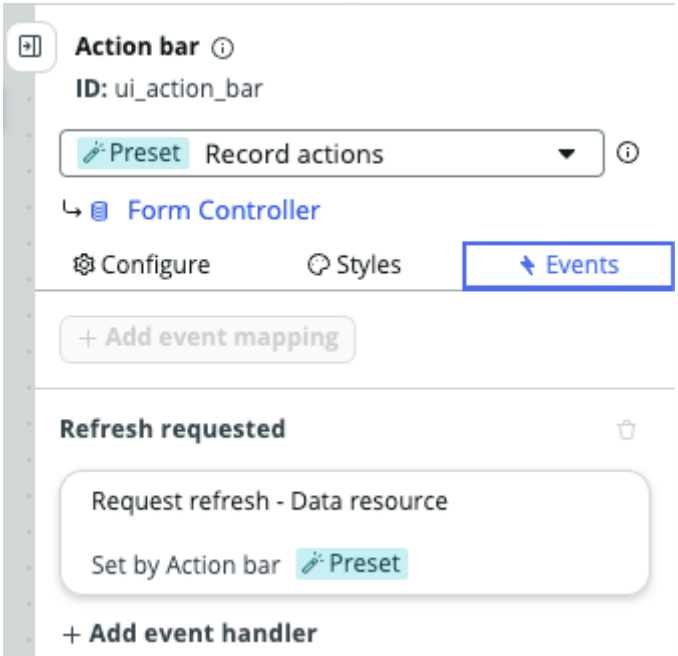



詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。

- [イベント] タブを選択して、イベントを構成し、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにアクションを追加します。コンポーネントを UI ビルダー ページに追加したときには、アクションを実行するようには構成されません。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの削除など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

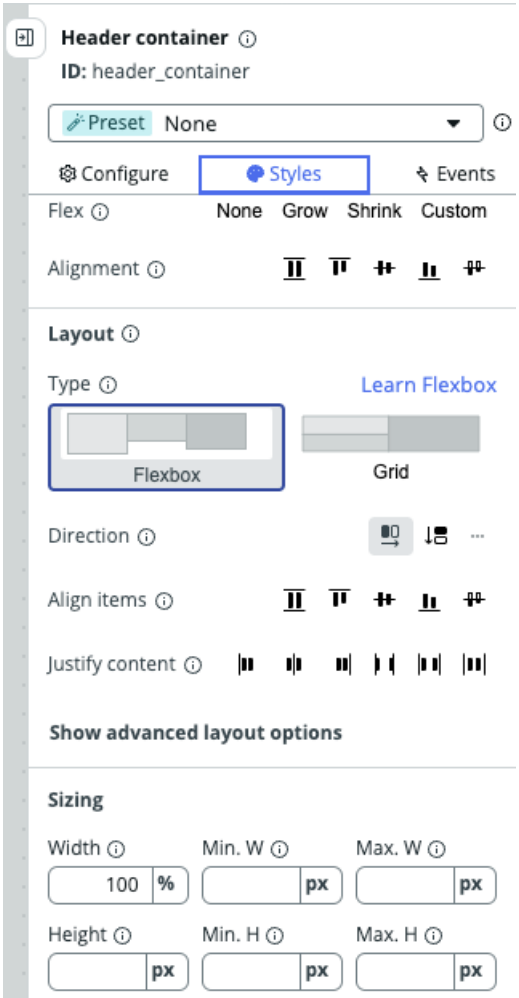



詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

- 列レイアウトは、コンポーネントがページ上でどのように配置されるかを制御します。列レイアウトを UI ビルダー ページに追加すると、レイアウトデザインを構成できます。レイアウトの列にコンポーネントを追加すると、より高度な方法で要素を構成できます。たとえば、コンテンツの両端揃え、アイテムの配置、さらに列レイアウト、列、およびコンポーネントの高さ、幅、マージン、背景、境界線、およびパディングの設定を行うことができます。CSS グリッドは最も強力なレイアウトシステムです。CSS グリッドは 2 次元グリッド上に構築されているので、ページの作成方法を自由に選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

## UI Builder ページを開いてプレビューする

UI ビルダー ページをプレビューして、ページが Web ページとしてどのように表示されるかを確認します。

Preview ボタンを選択し、モーダル、ビューポート、コンポーネント、データリソース、動的データなどの現在作業しているバリアントをテストします。ページバリアントをプレビューすると、エクスペリエンスの構築中にその外観と機能を確認するのに役立ちます。

ページをプレビューするもう 1 つの方法は、サーバーから URL パスを要求することです。ユーザーがページを開いたときにバリアントが表示される場合は、この方法を使用してテストします。[プレビュー] の横にあるドロップダウン矢印を選択し、**[URL** パスを開く] を選択して、Preview Open URL path または [プレビュー] **> [URL** パスを開く] を選択して、Open URL path

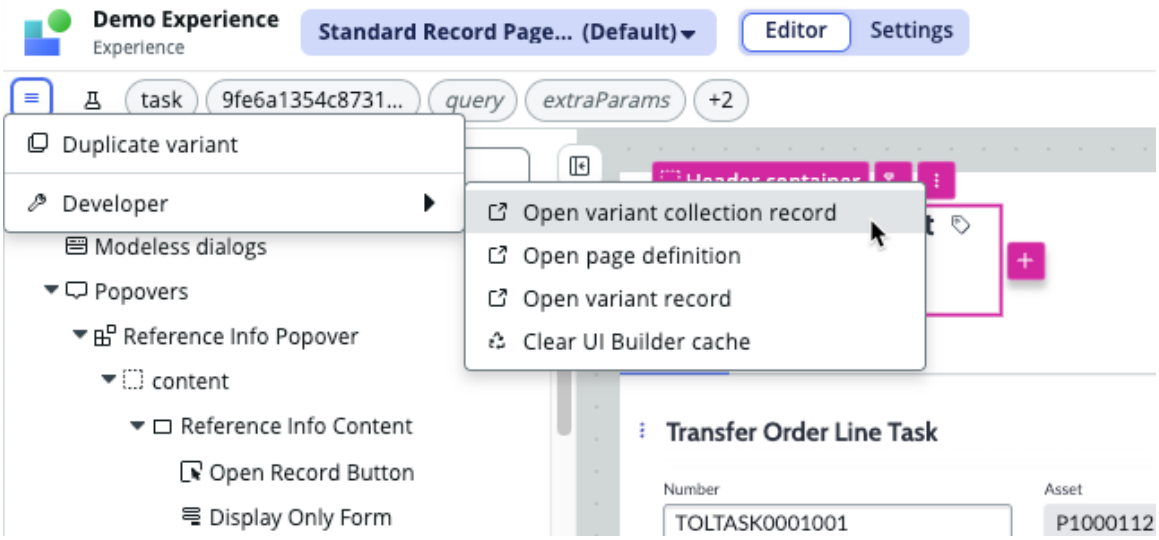
詳細については、「UI ビルダー エクスペリエンスを表示およびテストする方法を学ぶ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 開発者による編集

メニューから、プラットフォームの開発者として UI ビルダー ページを編集します。このオプションを使用すると、ページのプラットフォームレベルの詳細を変更し、UI ビルダー から出ることができます。開発者としての適切なロールが必要です。

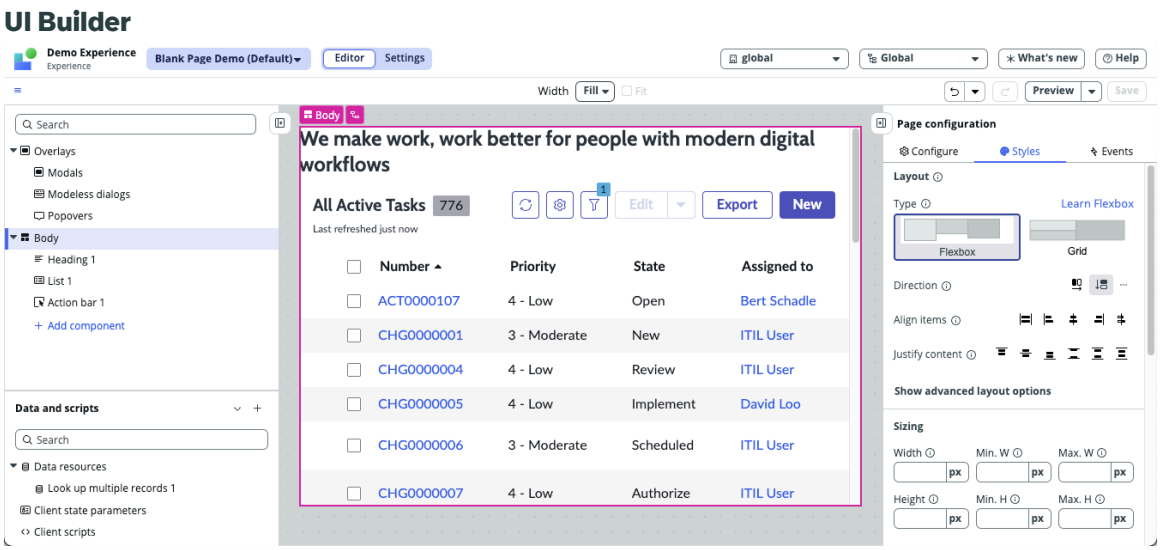



### UI ビルダー でのページの作成

ポータル、ワークスペース、またはカスタムアプリケーションのページを UI ビルダー で作成して、ユーザーの Web エクスペリエンスを構築します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
ページには、ワークスペース、ポータル、またはカスタムアプリケーションユーザーインターフェイス (UI) を構成するコンポーネントのコレクションがあります。




### 手順

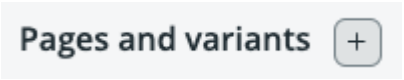
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。

自動翻訳

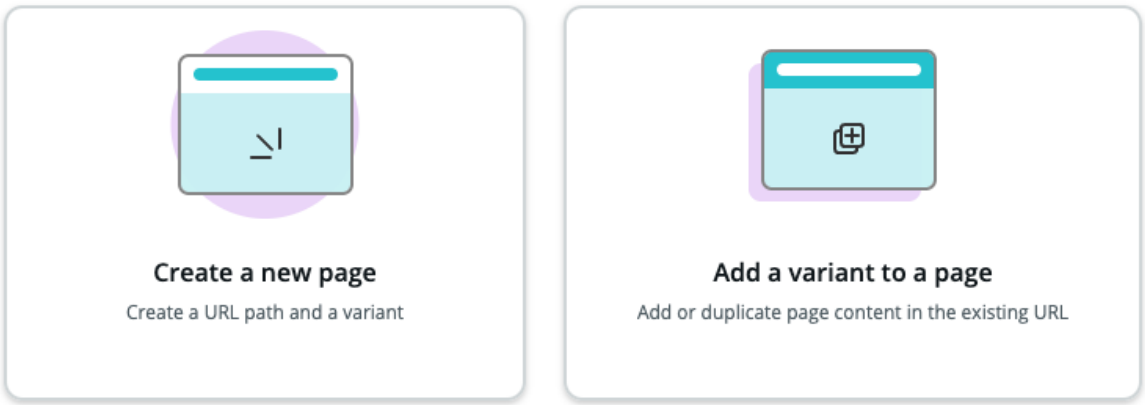
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

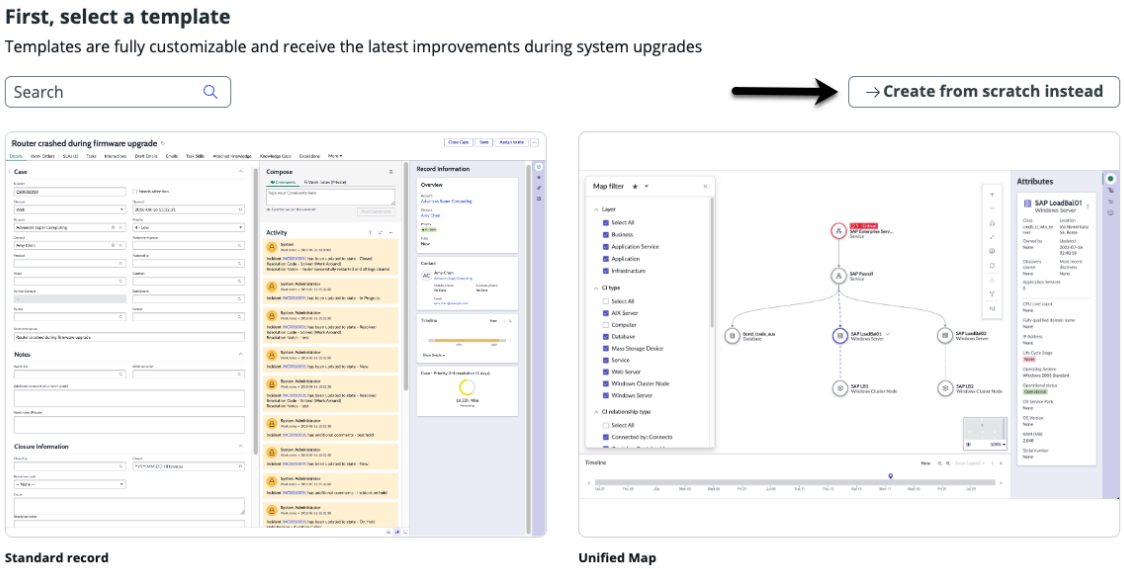
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。




4. [新規ページの作成] を選択します。




5. [代わりに最初から作成します] を選択します。



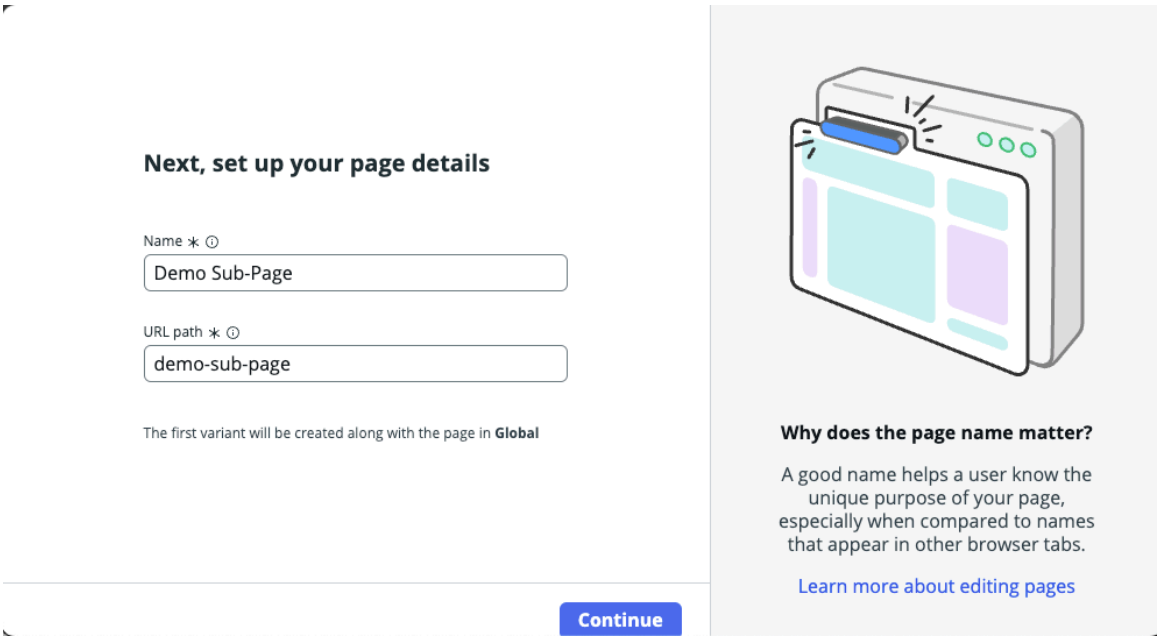

ページテンプレートを使用してページを作成することもできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

6. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
7. **[URL** パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

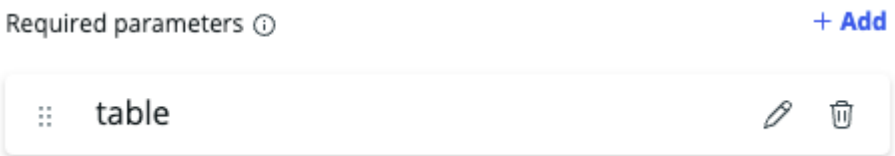
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. [続行] を選択します。
9. オプション: ページの URL に必須パラメーターを追加します。
   a. **[+** 追加] をクリックします。
   b. ページの必須パラメーターを入力します。
   必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。




   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。
10. オプション: ページの URL にオプションのパラメーターを追加します。
   a. **[+** 追加] をクリックします。
   b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
   必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

11. [よさそうです]を選択します。
12. ページバリアントの名前を入力します。
フォームのページ名に、[デフォルト] が自動的に追加されます。
13. このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
14. オプション: エンコードされたクエリー文字列を入力して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を追加します。
15. [作成] を選択して空白のページを作成します。
作成したページは、エクスペリエンスの [ページとバリアント] セクションに表示されます。

> **注:**
> 新しいバリアントは、UX 画面 [sys_ux_screen] テーブルに保存されます。

16. [エディター] を選択して、ページへのコンポーネントの追加を開始します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

### テンプレートからのページの作成

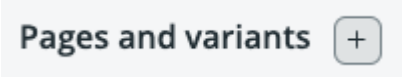
テンプレートを使用して、事前定義されたページテンプレートに基づいてページを作成します。ページテンプレートには、コンポーネント、データリソース、およびレイアウトを含めることができます。

#### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

#### このタスクについて
エクスペリエンスでページを作成するときに、ページテンプレートを選択します。テンプレートからページを作成した後に、必要に応じてページをカスタマイズできます。ページテンプレートには、コンポーネントプリセットで使用できるコントローラーが含まれています。詳細については、「コントローラーを使用した UI Builder ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

#### 手順

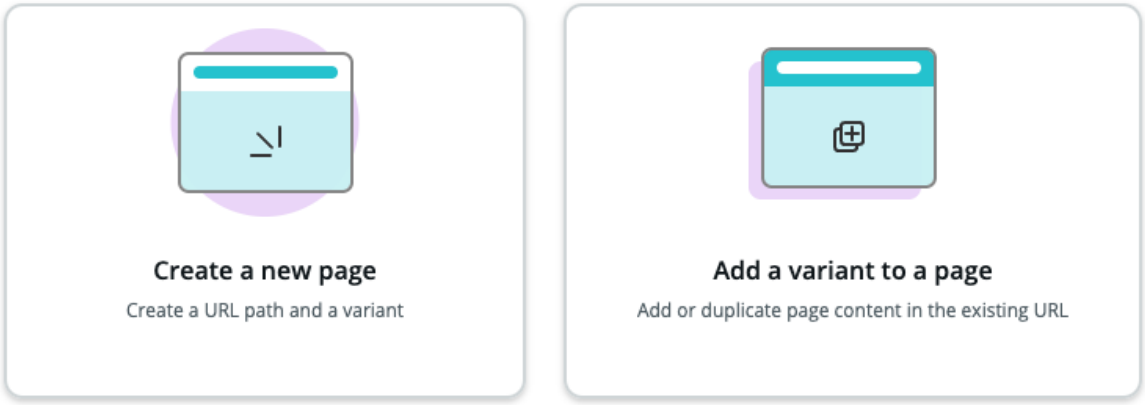
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。



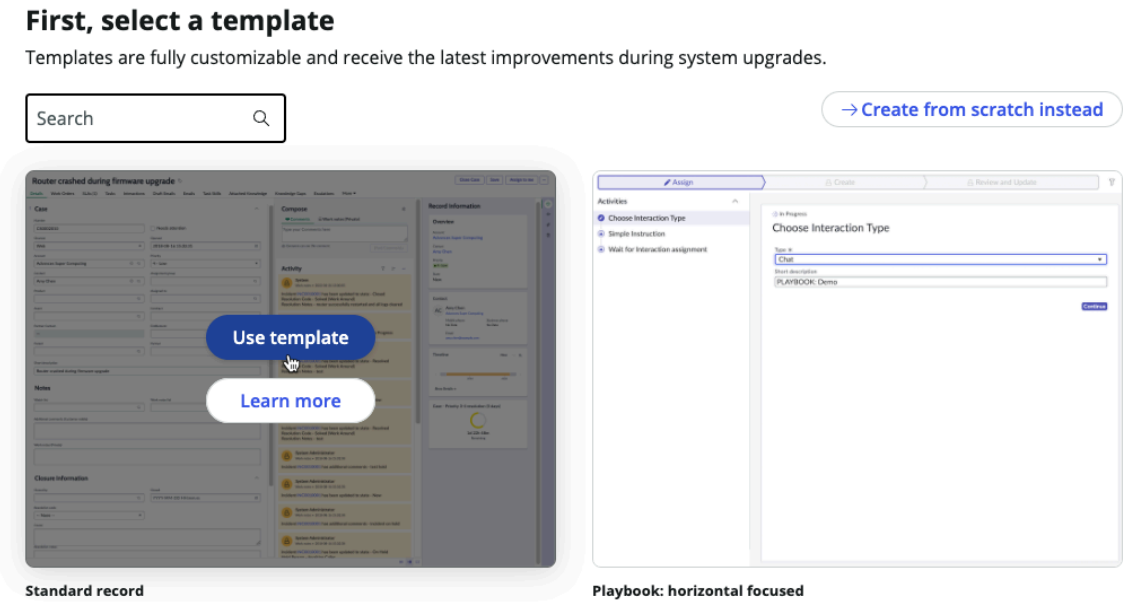

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [新規ページの作成] を選択します。




5. 使用するテンプレートを指定する際は、[テンプレートを使用] を選択します。



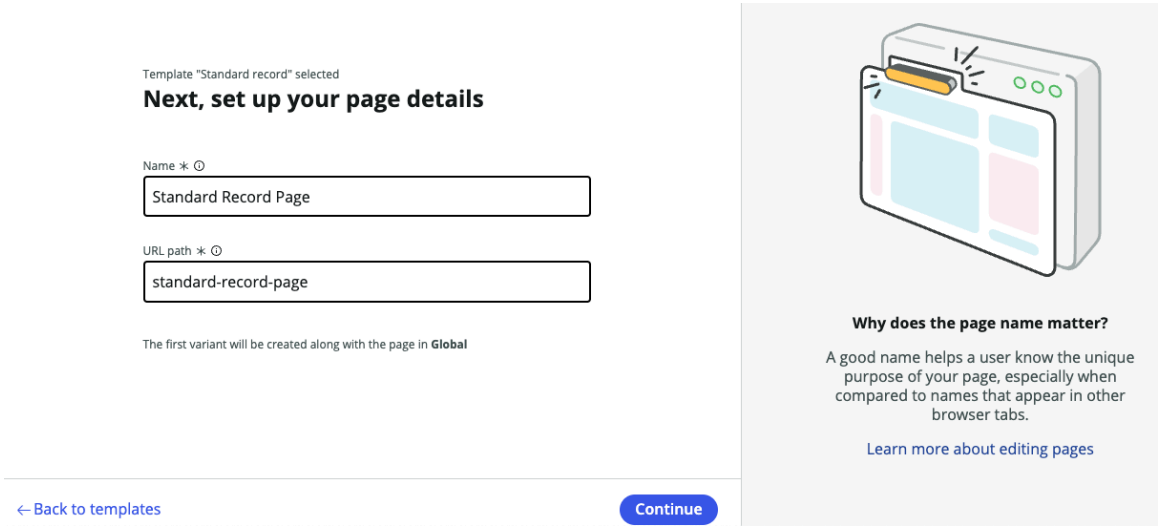

6. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。

7. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. [続行] を選択します。
9. テンプレートに記載されているページのパラメーターを確認します。
10. [よさそうです]を選択します。
11. ページバリアントの名前を入力します。
フォームのページ名に、[デフォルト] が自動的に追加されます。
12. このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
13. オプション: エンコードされたクエリー文字列を入力して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を追加します。
14. [作成] を選択して、テンプレートからページを作成します。
作成したページは、エクスペリエンスの [ページとバリアント] セクションに表示されます。[エディター] を選択して、ページへのコンポーネントの追加を開始します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

### 従来のテンプレートからのページの作成

従来のページテンプレートを使用して、ワークスペースまたはポータルのページに対して、ページ定義 (レコード、リストページなど) を再利用します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

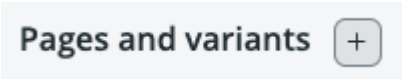
#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

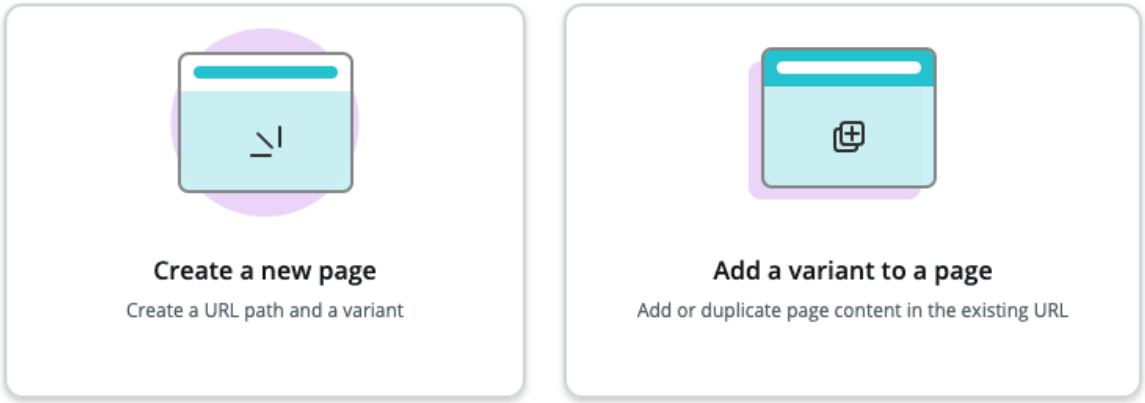
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

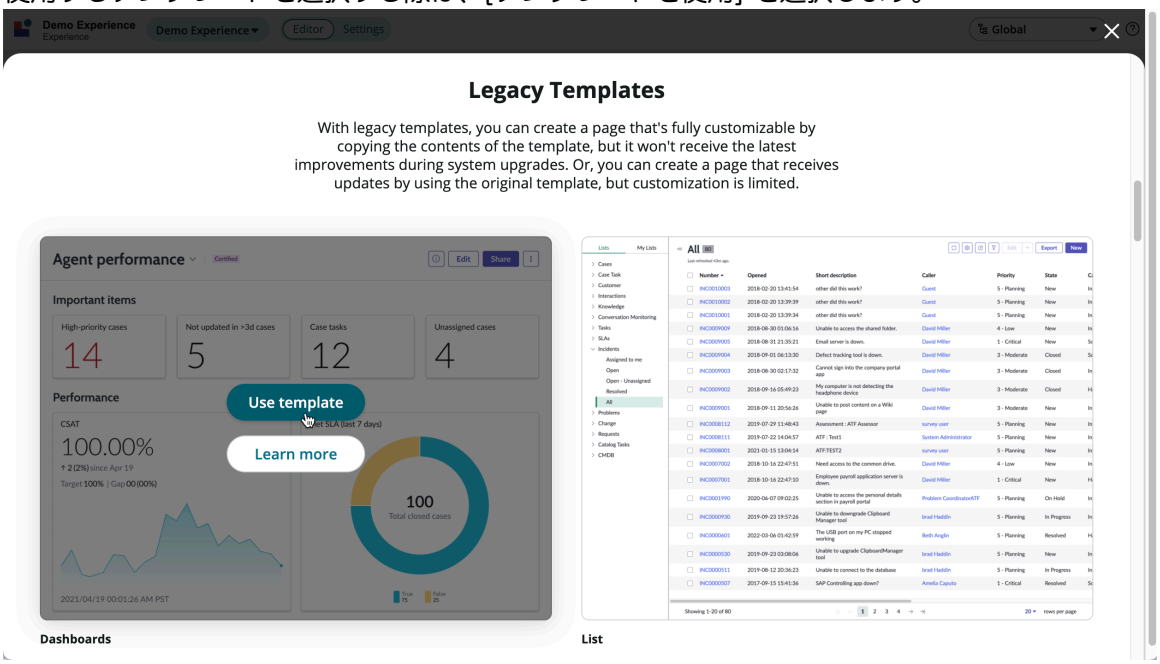
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。




4. [新規ページの作成] を選択します。




5. 使用するテンプレートを選択する際は、[テンプレートを使用] を選択します。



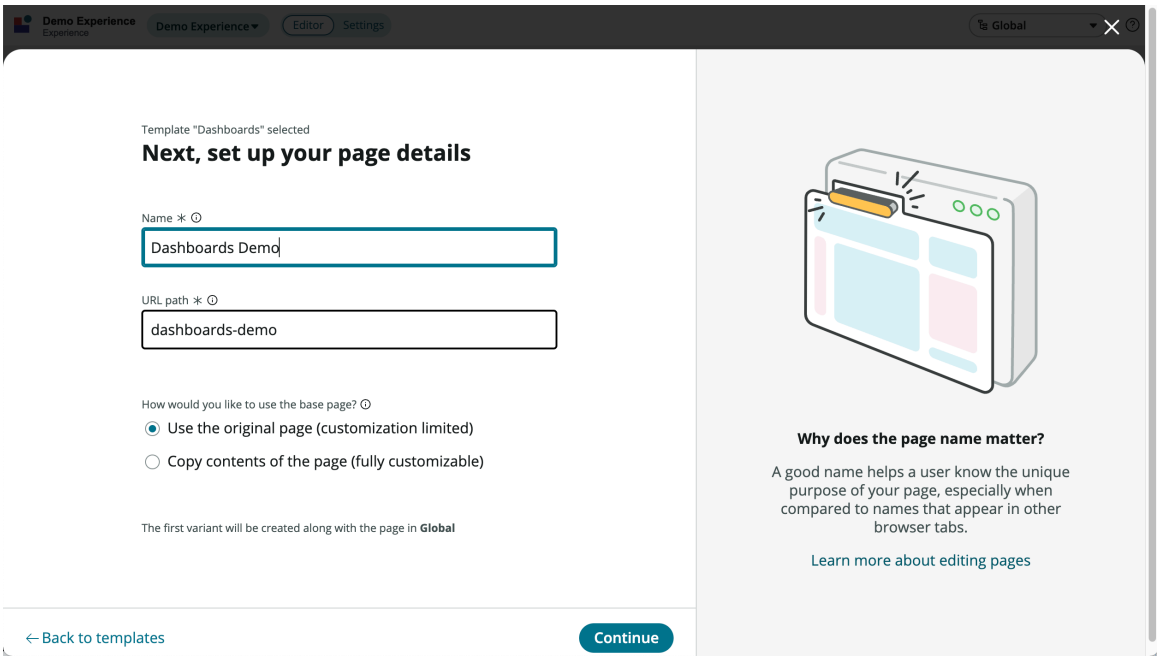

6. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。

7. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. 使用する基本のページテンプレートを選択します。
   テンプレートとそのデータを参照する場合は、[元のページを使用 (カスタマイズ制限あり)] を選択します。[ページのコンテンツをコピー (完全カスタマイズ済み)] を選択して、ページテンプレートのコンテンツをコピーします。ページテンプレートを参照すると、新しいリリースにアップグレードしたときにページが自動的に更新されます。ページテンプレートをコピーすると、アップグレード後にページが更新されません。
9. [続行] を選択します。
10. オプション: ページの URL に必須パラメーターを追加します。
    a. **[+** 追加] をクリックします。
    b. ページの必須パラメーターを入力します。
       必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

11. オプション: ページの URL に追加したいオプションのデータを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **[+** 追加] をクリックします。

b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

12. [よさそうです]を選択します。
13. ページバリアントの名前を入力します。
フォームのページ名に、[デフォルト] が自動的に追加されます。
14. このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
15. オプション: エンコードされたクエリー文字列を入力して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を追加します。
16. [作成] を選択して空白のページを作成します。
作成したページは、エクスペリエンスの [ページとバリアント] セクションに表示されます。[エディター] を選択して、ページへのコンポーネントの追加を開始します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

## ページの編集

ページを編集して、ページ名、パス、およびパラメーターを変更します。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

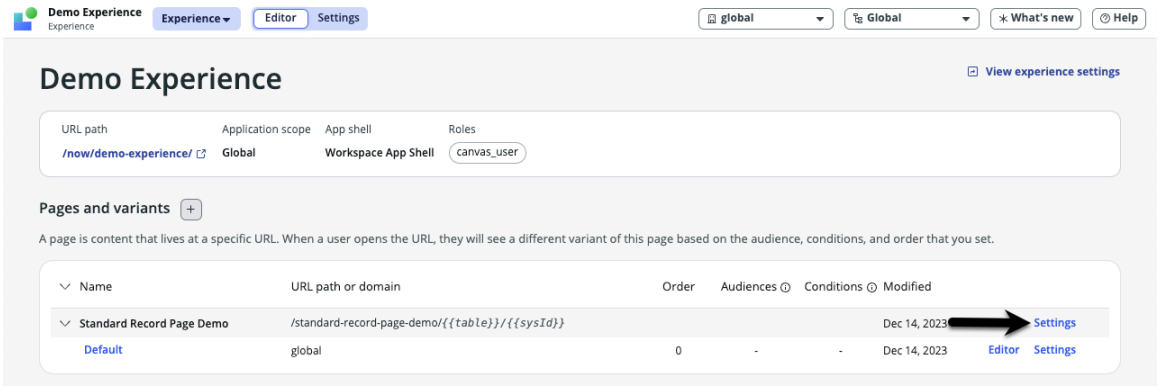
ページ設定を編集して、ページの名前とパスを変更します。これは、ページの作成後に名前またはパスを変更する必要がある場合に役立ちます。ページが別のアプリケーションスコープにある場合は、元のスコープで編集できます。

### 手順

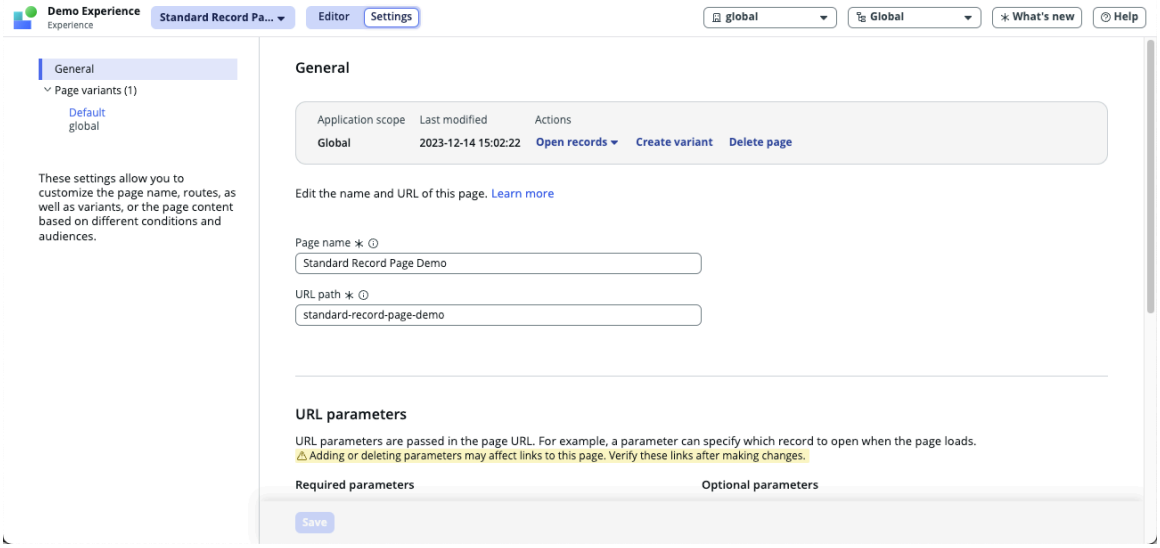
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 編集するページを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページの横にある [設定] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



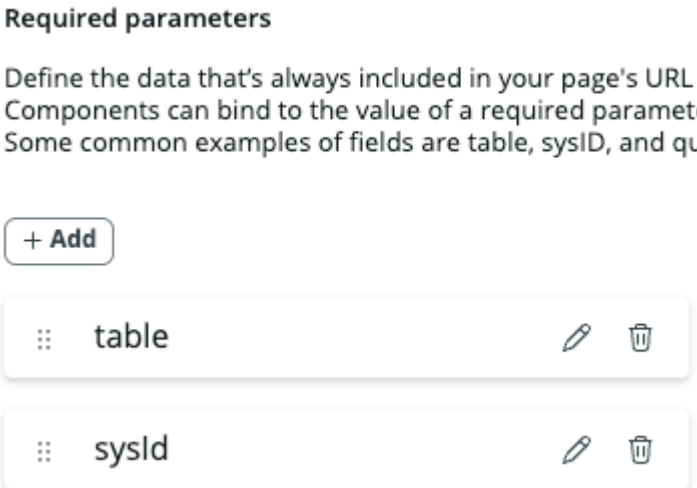

**4.** ページ設定ウィンドウでは、ページの名前、パス、およびパラメーターを変更できます。




**5.** オプション: ページの URL に必須パラメーターを追加します。

**a.** **[+** 追加] をクリックします。

**b.** ページの必須パラメーターを入力します。
必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。




(Optional)

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

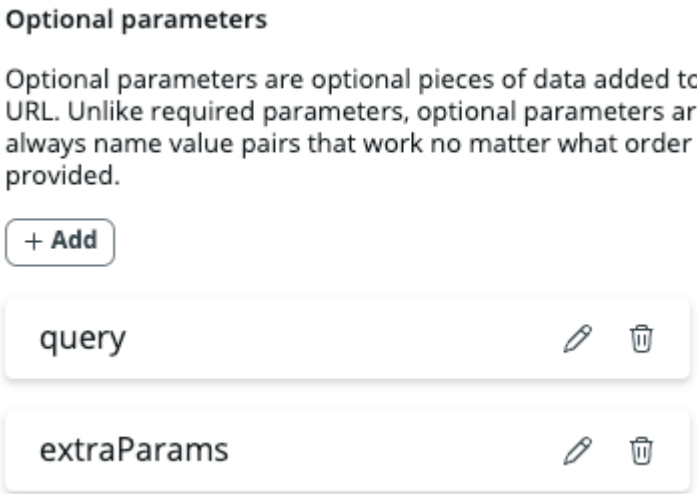


自動翻訳

6. オプション: ページの URL に追加したいオプションのデータを追加します。

   a. **[+** 追加] をクリックします。

   b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
   必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。




   (Optional)
   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

7. [保存] をクリックします。

## UI ビルダー ページの対象者を追加

ページまたはページバリアントに 1 つ以上の対象者を追加します。

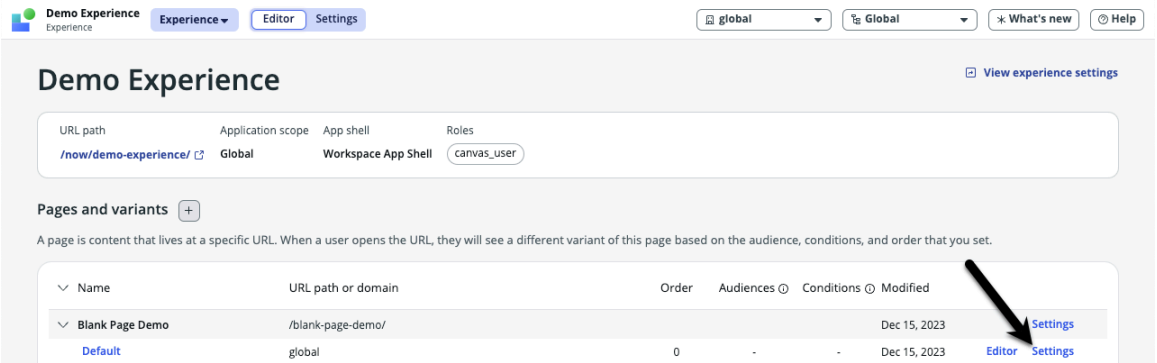
### 始める前に

必要なロール：admin

ロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、*glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを **true** に設定する必要があります。詳細については、「ユーザー基準プロパティの有効化」を参照してください。

### 手順

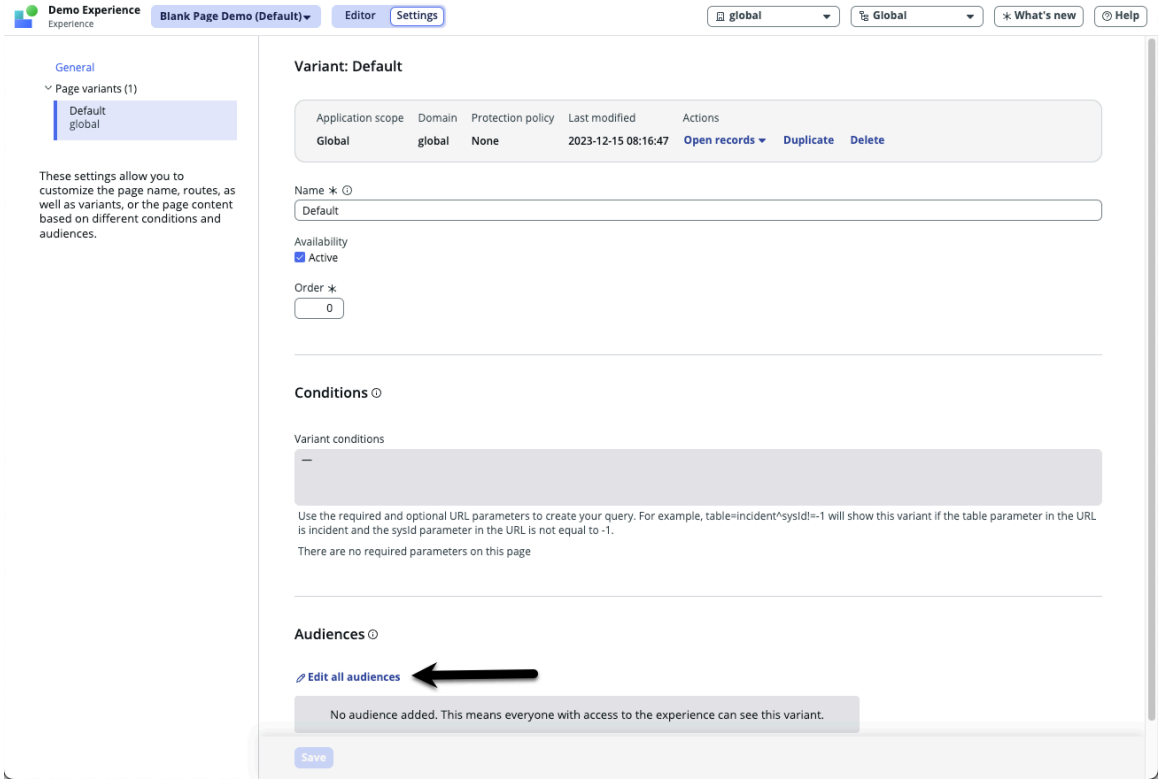
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 編集するページを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページバリアントの横にある [設定] を選択します。



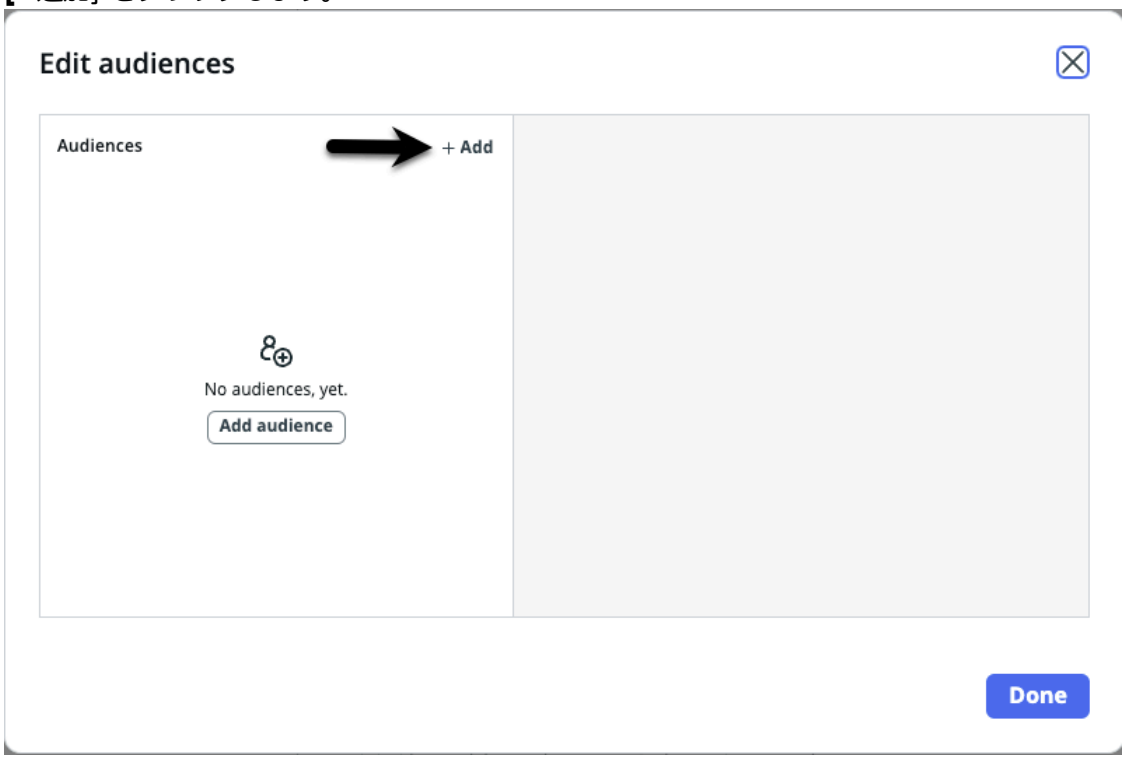

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ページバリアント設定ウィンドウで、[すべての対象者を編集] を選択します。



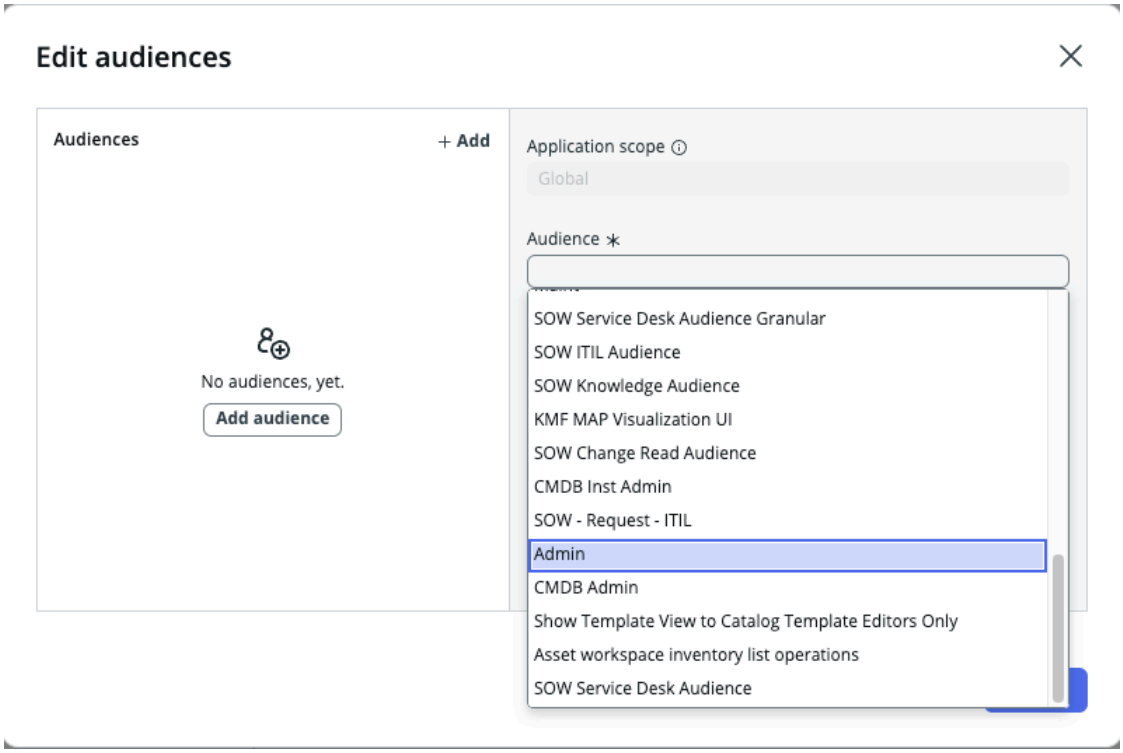

5. **[+** 追加] をクリックします。




6. [対象者] フィールドで対象者を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。

**7.** 対象者の順番を設定します。

**注:**
ある対象者の優先度を高くするには、低い数値を入力します。ユーザーが複数の対象者の 1 人である場合、優先度が最も高い対象者が採用されます。

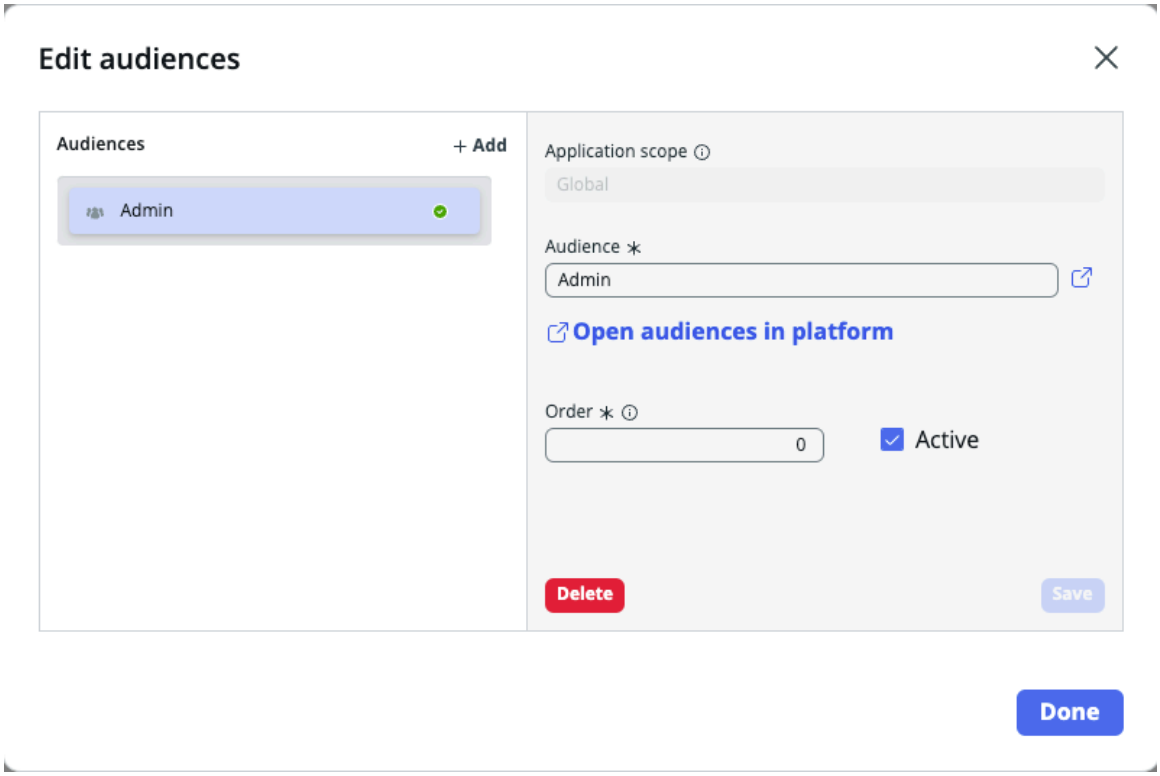
**8.** 対象者がページを表示できるようにする場合は、[有効] をオンにします。

**9.** [保存] をクリックします。

タスクの結果
対象者が [対象者] リストに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ユーザー基準プロパティの有効化

UI ビルダー でロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、ユーザー基準プロパティを有効にします。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **sys_properties.**リスト.
2. *glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを選択します。
3. [値] フィールドで **true** を指定します。
4. [更新] をクリックします。

次のタスク
UI ビルダー でページに対象者を追加します。詳細については、「UI ビルダー ページの対象者を追加」を参照してください。

ページ内の値をテスト

テストデータをページに取り込む方法として、テスト値を URL に追加します。

実際のデータでページをテストする方法として、テスト値を使用して必須およびオプションの URL パラメーターの値を指定します。

テスト値は、ページが URL から必須またはオプションのパラメーターを取得するときの動作をシミュレートするために使用できるため、重要です。UI ビルダー URL は、ページをプレビューするときの URL と同じではありません。したがって、UI ビルダー には、プレビュー URL のさまざまな状況で、ページに何が起きるかをシミュレートする方法が必要です。

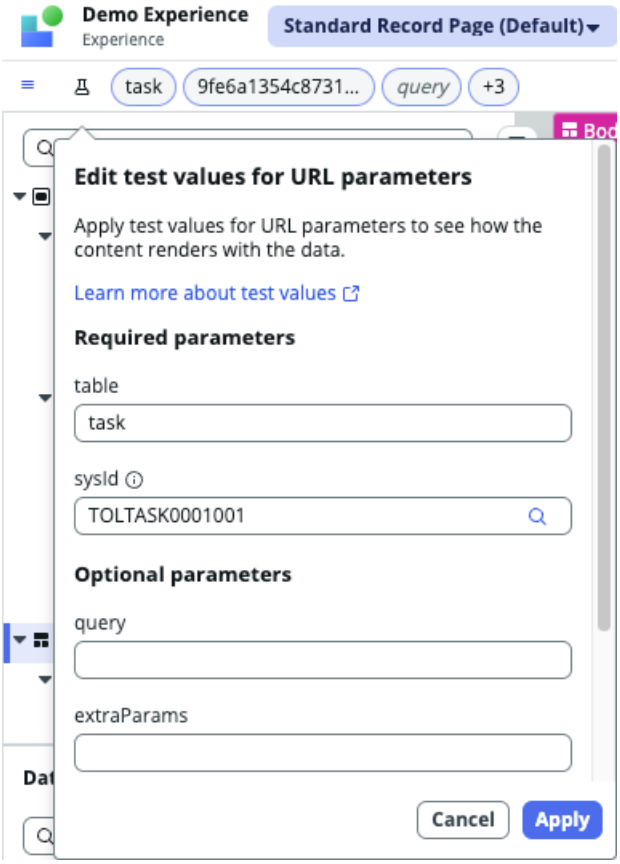
たとえば、単一レコードのフォームを表示するレコードページを構築しているとします。レコードページをロードするには、適切なレコードを取得して表示できるように、ページの URL に <table>

自動翻訳

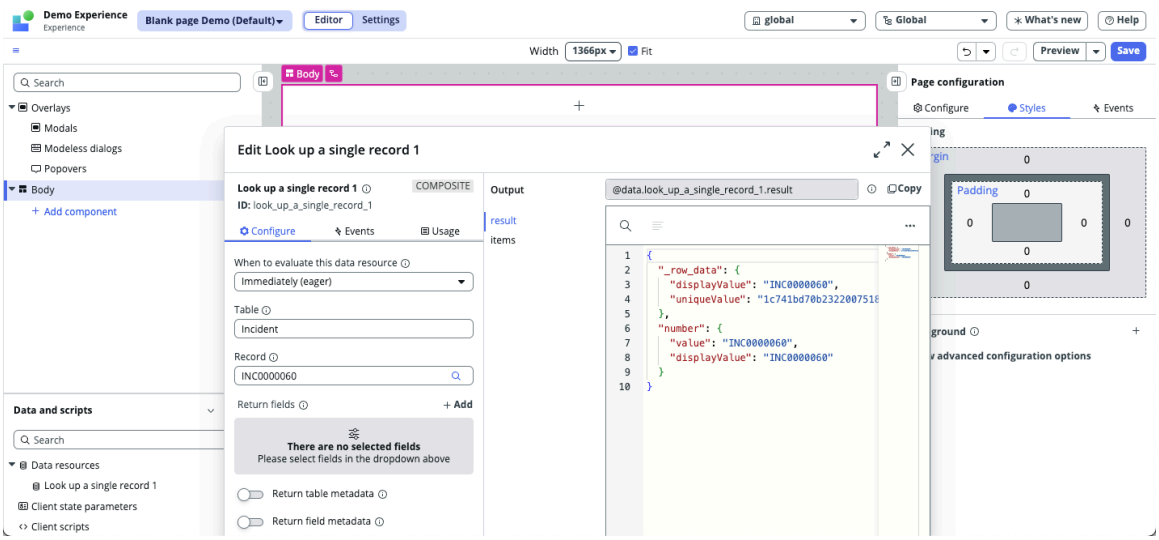
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

および <sysId> が必要です。この UI ビルダー では、ページをプレビューしたときにページがどのように表示されるかを確認できるように、table と sys_id のテスト値を指定する必要があります。

テスト値を取得してデータを表示するには、データリソースを追加してから、レコードを URL のテスト値にバインドするようにデータリソースを構成します。たとえば、incident をテスト値として追加できます。




次に、**Look Up Record** という名前のデータリソースを追加します。[テーブル] フィールドで、次の画像に示すように、インシデントテスト値を context.props.table テーブルに動的にバインドします。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページバリアントの作成

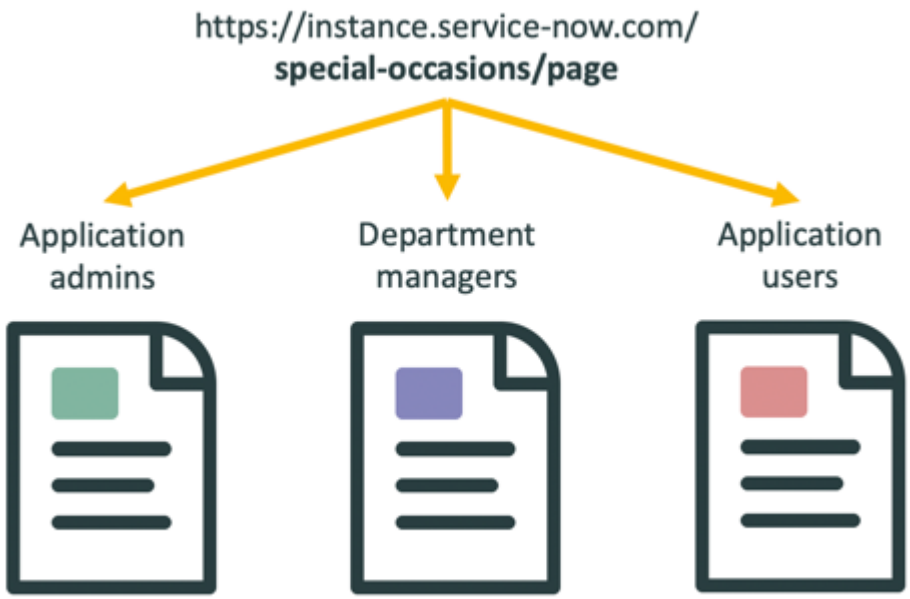
UI ビルダー のページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者をターゲットにできる、同じパスにあるページのバリエーションのことです。

## 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

## このタスクについて

UI ビルダー でページのバリアントを作成する方法を学習します。ページのバリアントは、さまざまな対象者をターゲットとしたコンテンツを含むページに基づいています。たとえば、エージェント用のホームページと、それらのエージェントのマネージャー用のページのバリアントを作成できます。このバリアントは同じ URL に存在します。




自動翻訳

- アプリケーション管理者の対象者の一部であるユーザーがページ URL にアクセスすると、アプリケーション測定基準や使用状況の詳細など、アプリケーション管理者固有の詳細を含むバージョンのページが表示されます。特別な機会アプリケーションの場合、このページには、誕生日と仕事の記念日があるユーザーの数と持っていないユーザーの数が表示されます。このページには、特別な機会に報告された問題の数も表示されます。

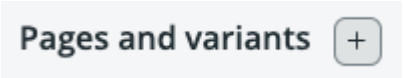
- 部門マネージャー対象者の一部であるユーザーがページ URL にアクセスすると、アプリケーションの部門関連情報 (誕生日や仕事の記念日が近づいている部門のユーザーや、それらのユーザーが特別な行事を共有しても問題ないかどうかなど) が表示されます。

- アプリケーションユーザーオーディエンスの一部であるユーザーがページ URL にアクセスすると、特別な機会を含むページのユーザー固有のバージョンが表示され、他のユーザーに特別な機会を表示するかどうかを構成できます。

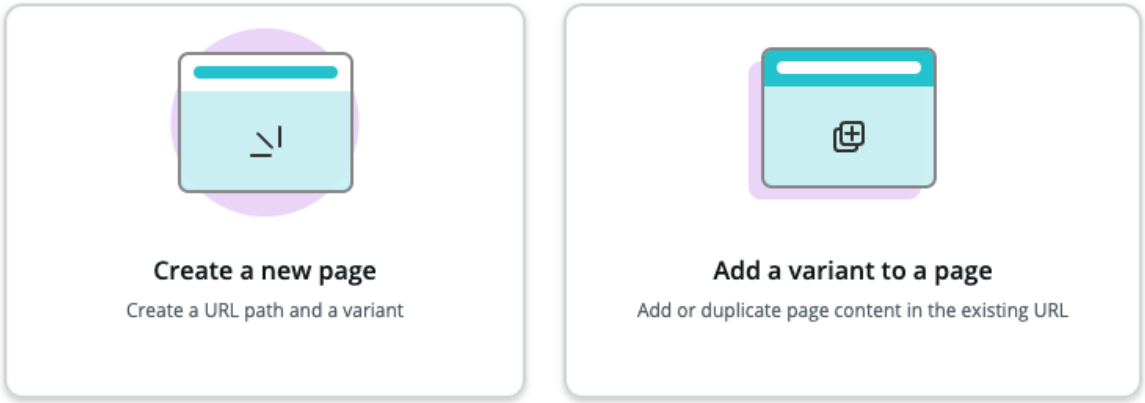
## 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. バリアントを作成するページのエクスペリエンスを開きます。
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. [バリアントをページに追加] を選択します。




5. [+ バリアントを追加] をクリックします。

6. [代わりにゼロから構築する] をクリックするか、使用するテンプレートをポイントして [テンプレートを使用] を選択します。
7. バリアントページの名前を入力します。

   名前は、ページ名と同じ名前にも、任意の名前にもすることができます。

   **注:**
   アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. [対象者を追加] を選択して、バリアントページの対象者を 1 つ以上指定します。
   対象者は、それによってページバリアントを特定のロールやグループに割り当てることができるため、重要です。必要な対象者がリストにない場合は、 [利用可能なすべての対象者を表示]を選択し、[新規] を選択して対象者を作成します。
9. エンコードされたクエリ文字列を入力して、ページを表示するタイミングに関する条件を追加します。
10. [作成] をクリックしてページバリアントを作成します。

### ページバリアントの設定を編集

ページバリアント設定を編集して、ページバリアントをユーザーに表示するタイミングを決定する条件を追加します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
ページバリアント設定をカスタマイズして、ページバリアントを表示するユーザーを設定します。対象者を追加および削除したり、条件を編集してページのバリアントを表示するタイミングを決定したりすることができます。条件が評価できるのは、リストされたパラメーターのみです。条件は、順序

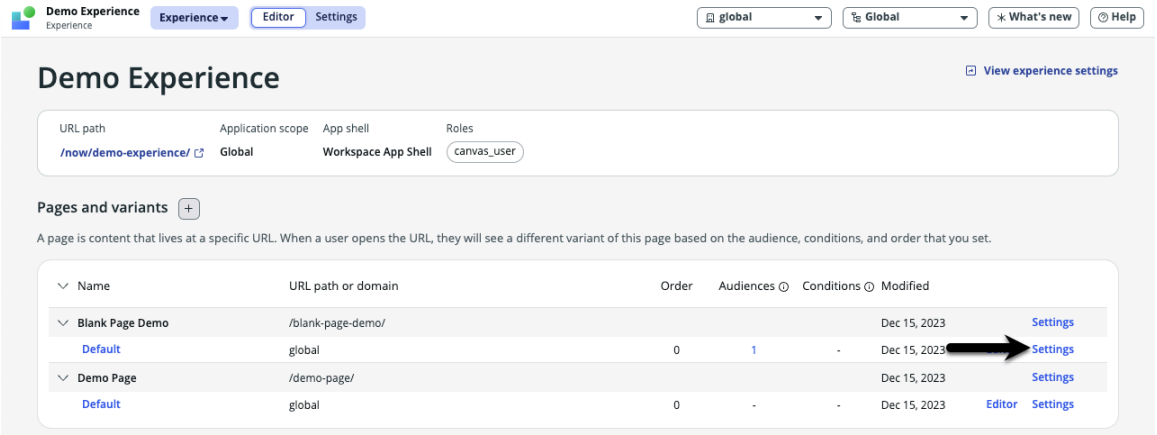
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

の設定、およびページのバリアントを表示するために満たす必要がある基準を設定するクエリ文字列の追加に基づいたものになります。すべてが同じ条件を持つ複数のページバリアントがある場合、バリアントはこの順序設定に従います。次のタスクは、バリアントの条件と順序を設定する方法を示しています。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 編集するページバリアントを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページの横にある [設定] を選択します。

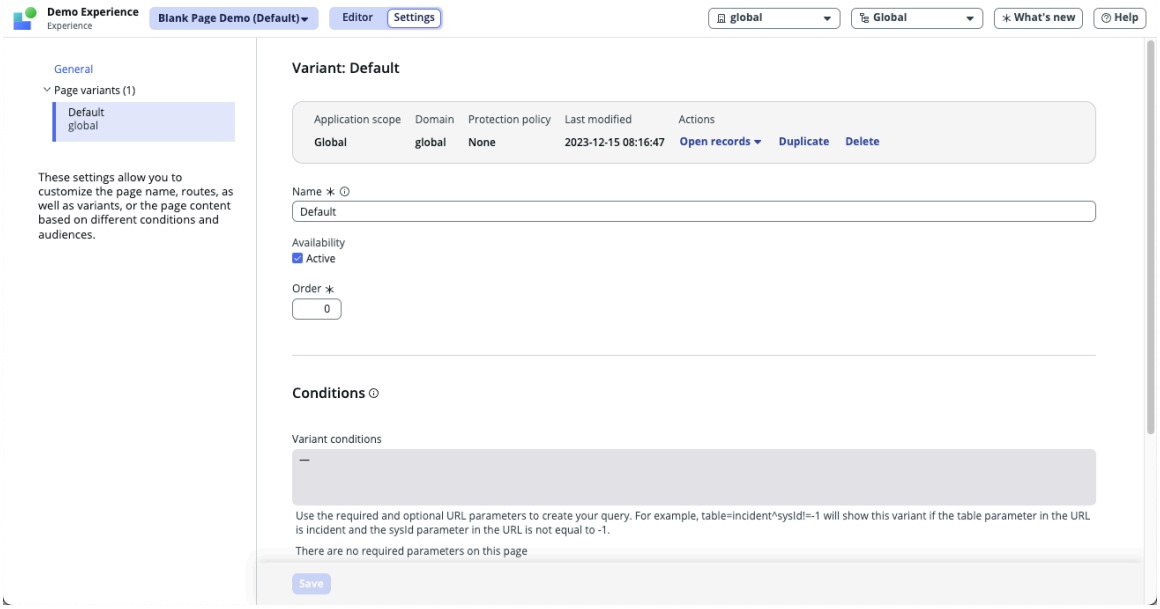



4. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | ページのバリアントの名前を入力します。 |
| 可用性 | 選択した対象者がページのバリアントを表示できるようにするには、[有効] を選択します。 |
| 順番 | [順番] フィールドに条件の順番を追加します。特定の条件の優先度を他よりも高くしたい場合があります。数値が小さいほど、優先度は高くなります。 |
| 条件 | [バリアント条件] フィールドに、エンコードされたクエリ文字列を追加します。クエリ文字列は、「table=incident^sys_id!=-1」のようになります。このクエリ文字列は、table フィールドがインシデントで、sys_id フィールドが -1 でない場合にのみ、このバリアントを表示しますエンコードされたクエリ文字列の詳細については、「Encoded query strings」を参照してください。 |
| 対象者 | ページバリアントの対象者を追加または削除します。詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**5.** [保存] をクリックします。

### UI ビルダー エクスペリエンスを表示およびテストする方法を学ぶ

エクスペリエンスをプレビューして UI ビルダー 、エクスペリエンスの構築中に外観と機能を確認します。プレビューは、エクスペリエンスが期待どおりに機能すること、データリソースが利用可能なこと、レイアウトが正しく設定されていることを確認するのに役立ちます。

開発者はページをテストしたり、エンドユーザーに表示される内容を確認したりできます。プレビューでは、最初に保存する必要はありません。

> **注:**
> 非アクティブなバリアントとページコレクション (サブページ) のプレビューは現在サポートされていません。

### ページをテストする

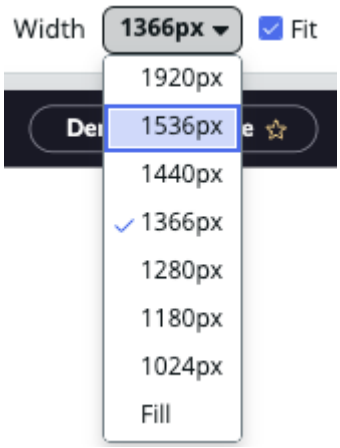
ページのさまざまな側面をテストできます。

- [プレビュー] ボタンを選択してオーバーレイを開き、モーダル、ビューポート、動的データなどの現在作業しているバリアントをテストします。
- テスト値を変更し、[適用]を選択して、さまざまなデータでテストします。詳細については、「ページ内の値をテスト」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [幅] ドロップダウンリストから値を選択して、さまざまな画面幅でバリアントがどのように表示されるかを確認します。




**注:**
プレビュー時にテスト値または幅を編集すると、エディターでページバリアントを表示したときに新しいテスト値と幅が保持されます。たとえば、プレビュー中に幅を大きなサイズに変更した場合、ページのバリアントは新しい大きなサイズでエディターに表示されます。

テストが完了したら、右上の **[X** ] を選択してオーバーレイを閉じます。

## エンドユーザーとしてページをテストする

URL パスを開いて、どのバリアントユーザーに表示されるかをテストします。[ プレビュー ] ボタンの横にある矢印を選択し、ドロップダウン リストで [ **URL** パスを開く] を選択します。 UI ビルダー対象者、条件、および条件の順序をチェックし、新しいブラウザータブで適切なバリアントを開きます。テストが完了したら、タブを閉じます。

### **UI Builder** ページでコンポーネントを整理する

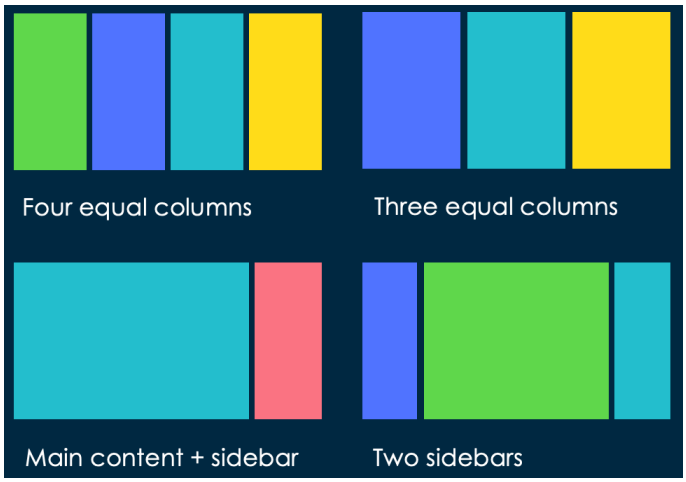
列レイアウトでは、UI ビルダー ページでコンポーネントを整理します。列レイアウトの使用方法については、「UI ビルダー」を参照してください。

列レイアウトを使用して、エクスペリエンスで役に立つ視覚的に魅力あるページを作成することができます。列レイアウトはコンポーネントを保持できる柔軟性に優れたコンテナの一種です。列レイアウトでは同じ幅または異なる幅の列を使用できます。列レイアウト全体を構成し、レイアウト内の個々の列も構成できます。たとえば、列レイアウトとレイアウト内の個々の列に異なる境界線の幅と色を設定します。列レイアウトでは、空白を作成するために UI ビルダー ページに空の列を含めることができます。1 つのページで複数列のレイアウトを使用します。たとえば、2 列のレイアウトにはヘッダーと画像を含めることができ、その下の 3 列のレイアウトにはリストやフォームなどのコンポーネントを含めることができます。

構築を開始する前に、ページのレイアウトについて検討します。何を達成する必要があるのか、ページレイアウトをどの程度複雑にする必要があるのかについて分析してください。これらの質問により、使用する列レイアウトまたはレイアウトのタイプが決まります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




UI ビルダー の列レイアウトでは、Flexbox、CSS グリッド、絶対位置などの標準ベースのカスケードスタイルシート (CSS) ルールと Web レイアウト技術を使用します。CSS でできることはすべて、ここで実行できます。CSS の詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

**注:**
以前のリリース (Utah または Tokyo) で作成された既存の UI ビルダー ページがある場合は、Vancouver にアップグレードして、ページに列レイアウトを追加できます。

次のものは現在列レイアウトでサポートされていません。

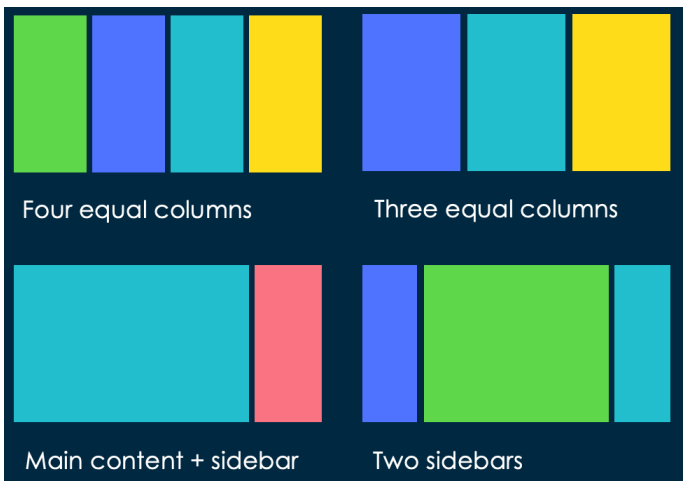
- 条件に基づく列の非表示/表示。
- レイアウトの列をドラッグして並べ変えます。
- 列の名前の変更 (列レイアウトの名前は変更できます)。

### 列レイアウト

列レイアウトは、UI ビルダー ページを設計および整理するために使用されます。

列レイアウトを使用して、エクスペリエンスで役に立つ視覚的に魅力あるページを作成することができます。列レイアウトはコンポーネントを保持できる柔軟性に優れたコンテナの一種です。列レイアウトは事前設定されたシンプルなレイアウトであり、効率的で魅力的なページをすばやく設計できます。コンポーネントを追加する前に、列レイアウトを使用してページの構造を定義して設定すると便利です。

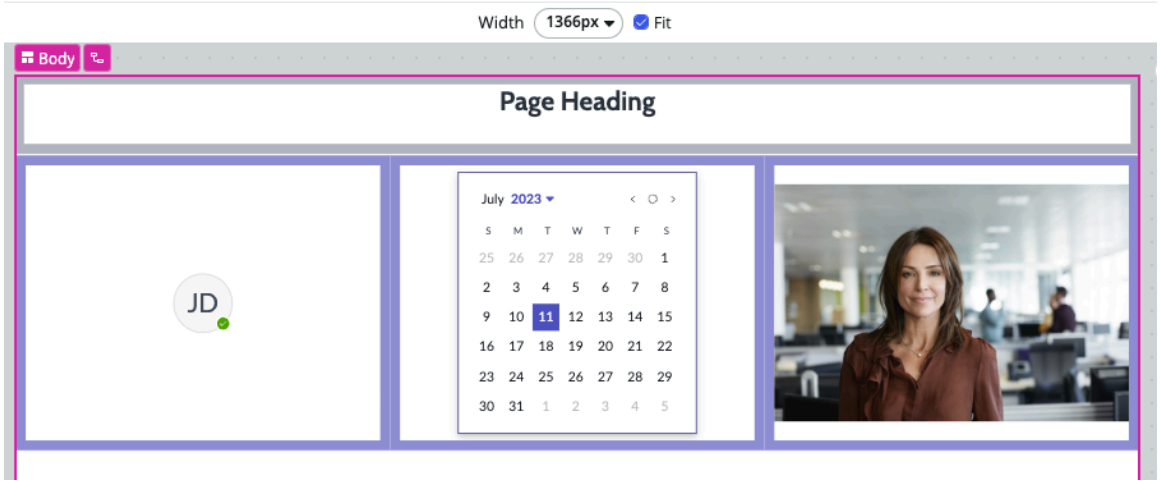
列レイアウトでは同じ幅または異なる幅の列を使用できます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列レイアウト全体を構成し、レイアウト内の個々の列も構成できます。たとえば、列レイアウトとレイアウト内の個々の列に異なる境界線の幅と色を設定します。




**注:**
現在、条件に基づく列レイアウトでの列の非表示/表示はサポートされていません。

## 列レイアウトの追加

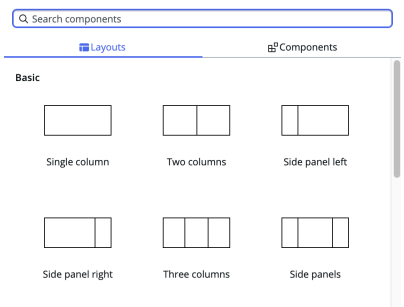
列レイアウト UI ビルダー を追加して、エクスペリエンスページ上で構造を構築し、コンポーネントを整理します。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

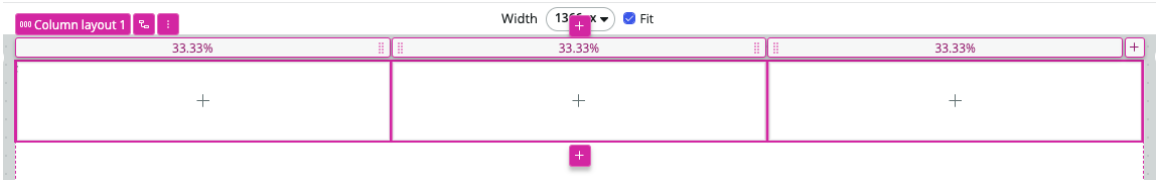
### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。
5. [レイアウト] タブで [基本] オプションのいずれかを選択します。

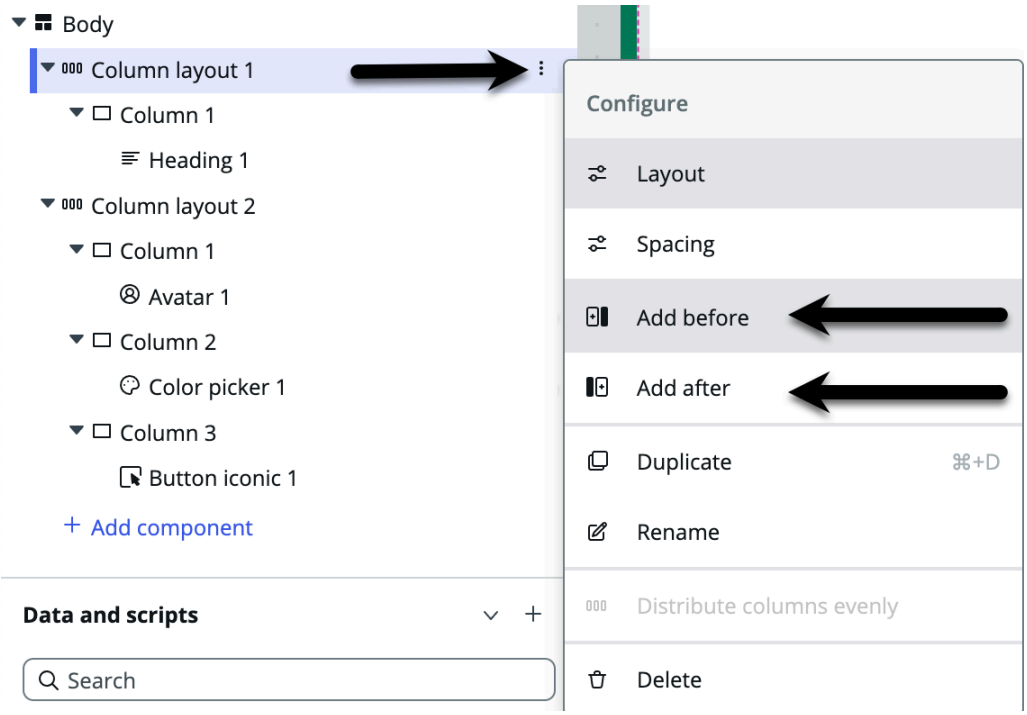



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

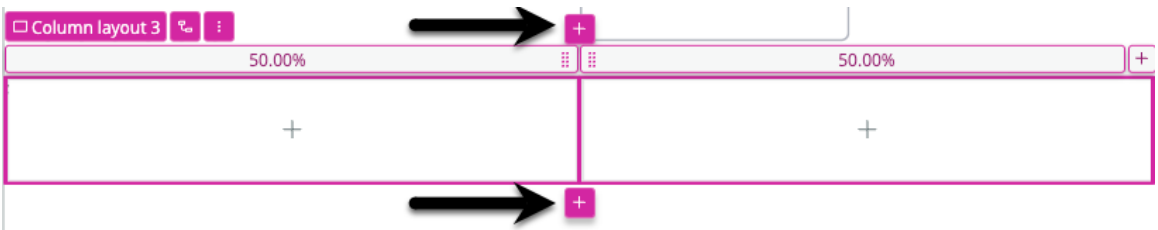
列レイアウトはステージに表示されるため、コンポーネントを列に追加できます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。




6. 上または下に列レイアウトを追加します。
   - コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトのメニューアイコンを選択します。次に、一覧から [前に追加 ] または [ 後に追加 ] を選択し、レイアウトを選択します。




   - ステージで列レイアウトを選択し、上部または下部のプラス記号を選択します。




## 列レイアウトの構成

UI ビルダー で列レイアウトを構成して、エクスペリエンスページに必要な適切な数の列と外観を追加します。

### 始める前に

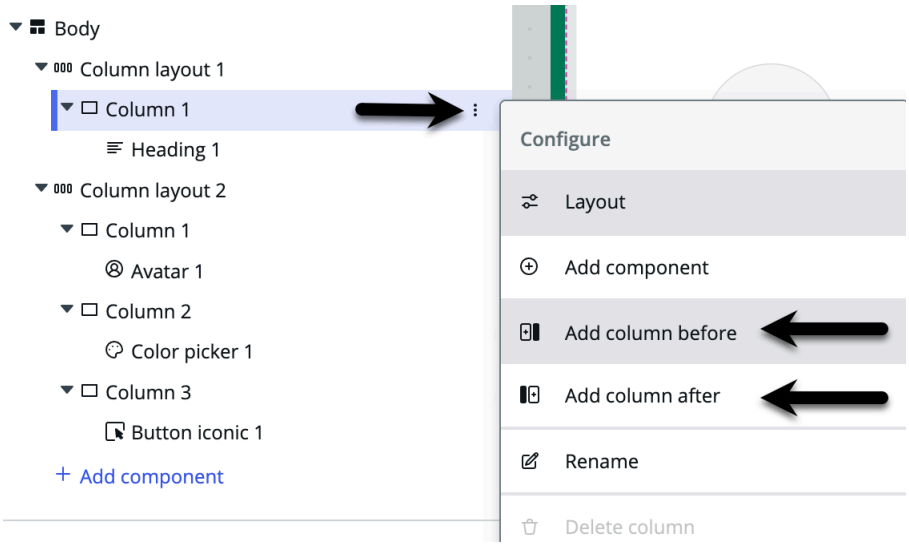
必要なロール：ui_builder_admin

自動翻訳

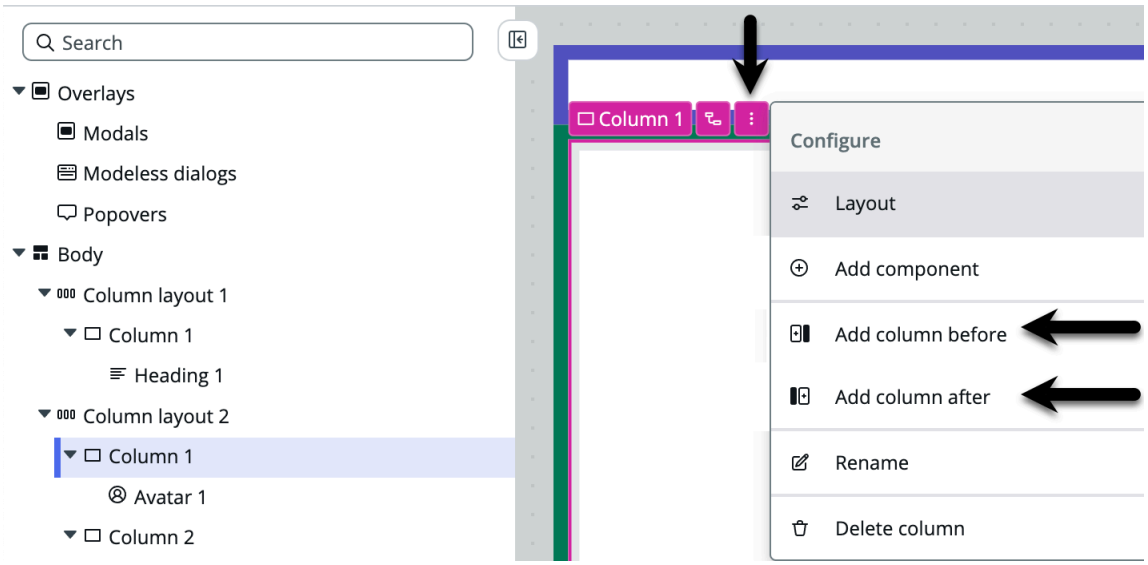
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. ページに列レイアウトがまだ含まれていない場合は、列レイアウトの追加。
5. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルを使用して列を追加します (最大 6 つ)。
   - コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列の [メニュー] アイコンを選択して、リストから [ 前に 列を追加] または [ 後に列を追加 ] を選択します。



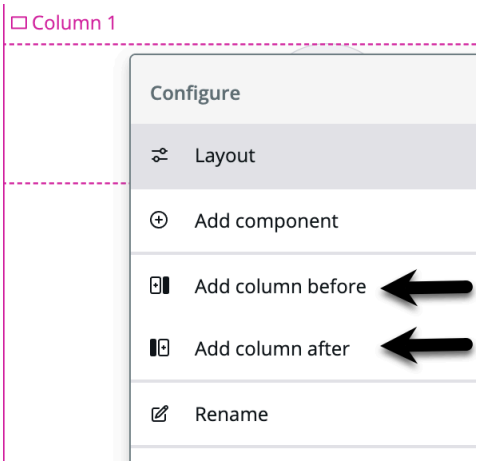

   - ステージで 1 つの列を選択し、列名の横にある [メニュー] アイコンを選択して、リストから [ 前に 列を追加] または [ 後に列を追加 ] を選択します。



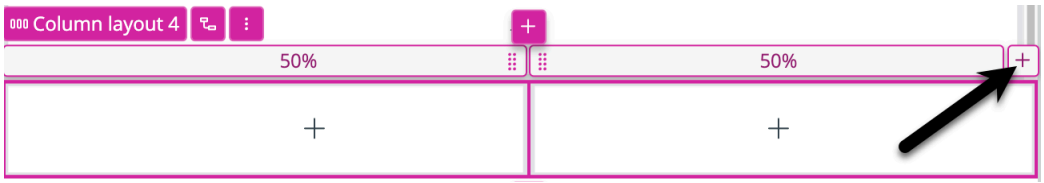

   - ステージで、列を長押し (または右クリック) し、リストから [ 前に 列を追加] または [ 後に列を追加 ] を選択します。

自動翻訳

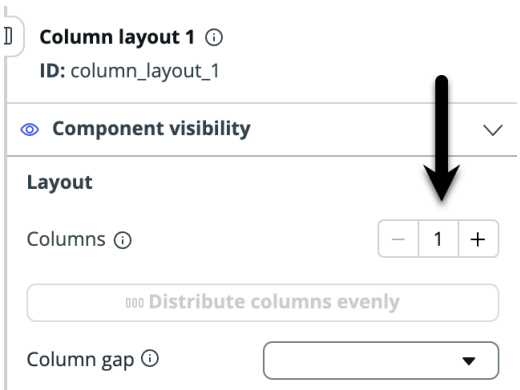
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




- コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、ステージで [+] プラスアイコンを選択して列レイアウトの右側に列を追加します。




- コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列 ] の横にある [+] プラスアイコンを使用して、列レイアウトの右側に列を追加します。



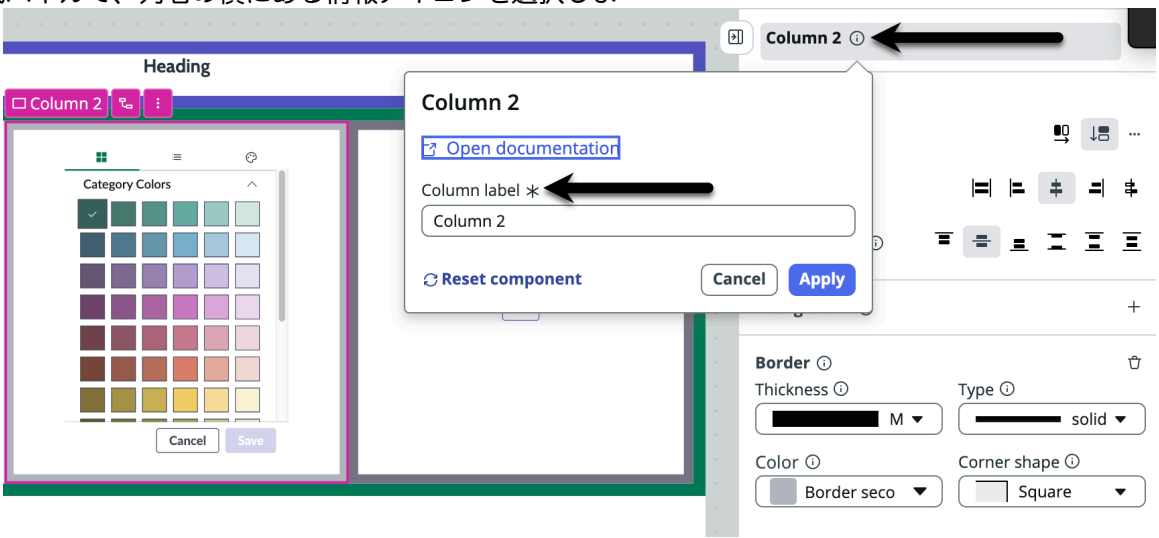

**注:**
列は相互にネストできますが、多くの場合、ページではこのレベルの複雑さは必要ありません。

6. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルから列ラベルを編集して、列の名前を変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

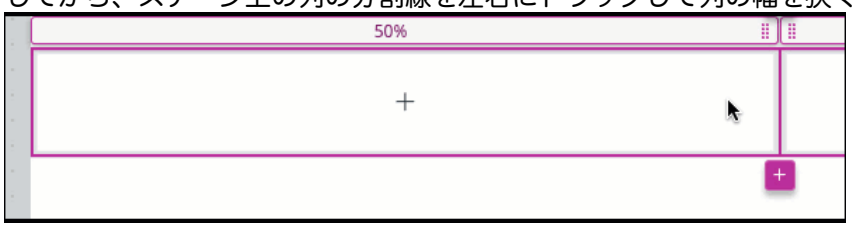
- コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列の [メニュー] アイコンを選択して、[ 名前の変更] を選択します。
- ステージで、列名の横にある [メニュー] アイコンを選択し、[ 名前の変更] を選択します。
- 構成パネルで、列名の横にある情報アイコンを選択しま




す。

列の名前を変更すると、ステージとコンテンツツリーの異なる列を区別するのに役立ちます。多数の列レイアウトと列を含む複雑なページがある場合は、列の名前を変更すると便利です。

7. レイアウト内の列の幅を変更するには、(コンテンツツリーまたはステージで) 列レイアウトを選択してから、ステージ上の列の分割線を左右にドラッグして列の幅を狭くしたり広くしたりします。



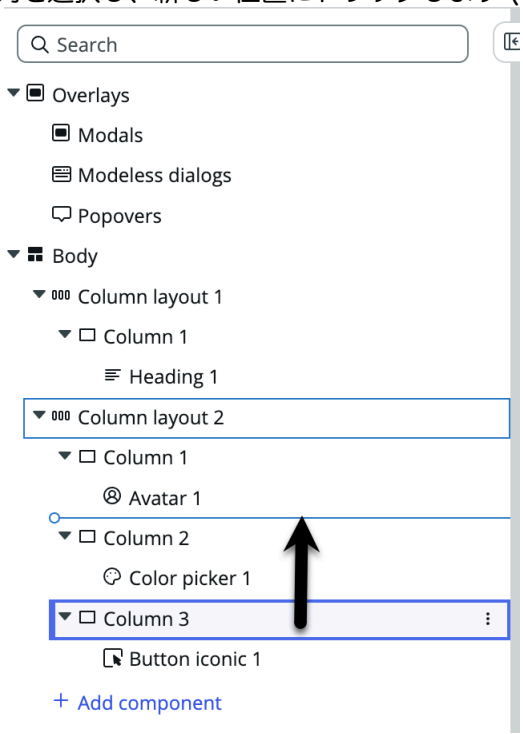

列分割線をドラッグすると、列の上部の幅のパーセンテージが自動的に変更されます。パーセンテージの合計は 100% になります。列のサイズを変更するときは、列内のコンポーネントに必要なスペースに注意してください。たとえば、リストおよびフォームコンポーネントは通常、幅の狭い列では適切に表示されません。

8. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルを使用して、レイアウト内の列を水平方向に均等に配置します。
   - コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトのメニューアイコンを選択して、リストから [列を均等に配分 ] を選択します。
   - ステージで列レイアウトを選択し、列レイアウト名の横にあるメニューアイコンを選択して、リストから [列を均等に配分 ] を選択します。
   - コンテンツツリーまたはステージで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列を均等に配分] を選択します。
9. コンテンツツリーまたはステージを使用して、列レイアウト内の列 (その内容を含む) を並べ替えます。

自動翻訳

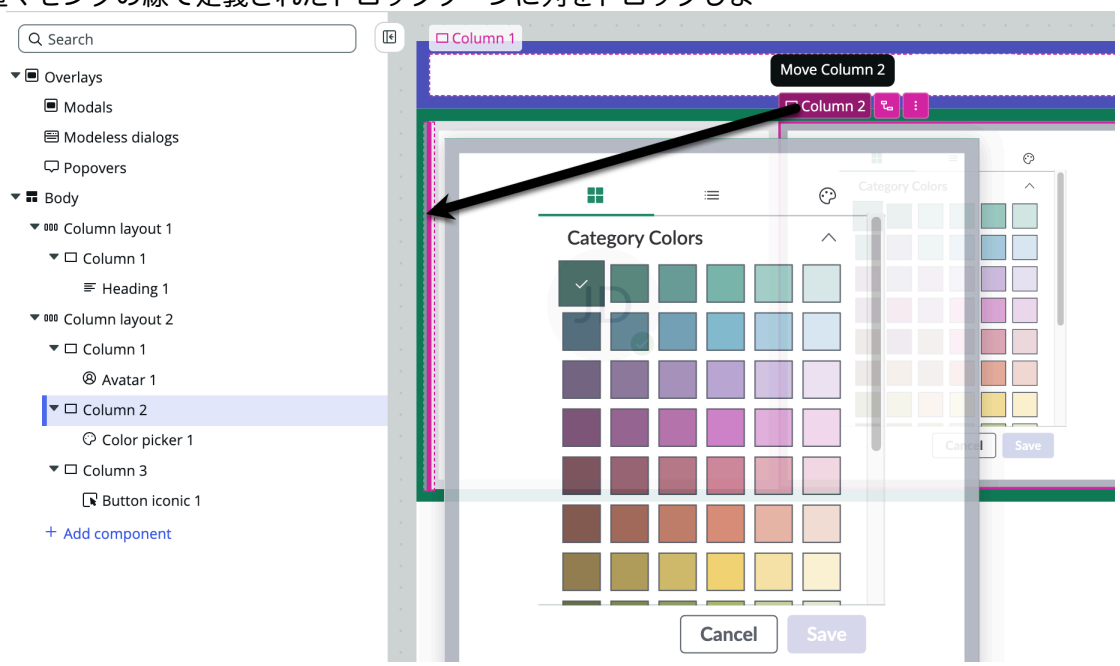
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンテンツツリーで、列を選択し、新しい位置にドラッグします (青い横線は、列をドロップで




きる場所を示します)。

- ステージで列ヘッダーを選択し、列を新しい位置にドラッグして、垂直マゼンタの線で定義されたドロップゾーンに列をドロップしま




す。

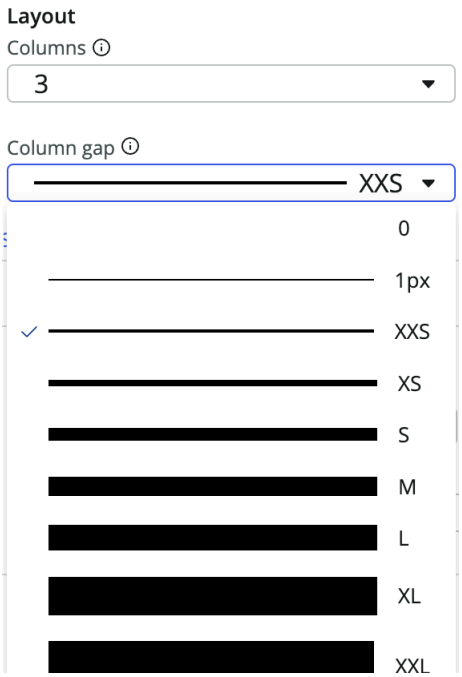
コンテンツツリーで列を並べ替えるとステージが更新され、ステージで並べ替えるとコンテンツツリーが更新されます。

10. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルの列間のスペースを指定します。

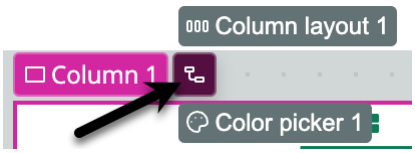
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトの [メニュー] アイコンを選択してリストから [ レイアウト ] を選択し、[ 列ギャップ] でサイズオプションを選択します。
- ステージで列レイアウトを選択し、列レイアウト名の横にあるメニューアイコンを選択し、リストから レイアウト を選択して、[ 列ギャップ] でサイズオプションを選択します。
- コンテンツツリーまたはステージで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列ギャップ] でサイズオプションを選択します。




11. ツリーアイコンを選択して、コンテンツの別のレイヤーに移動します。たとえば、列から親の列レイアウトや子コンポーネント移動します。




12. コンテンツツリーまたはステージから列を削除します。
    - コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列の [メニュー] アイコンを選択して、リストから [ 列を削除 ] を選択します。
    - ステージで 1 つの列を選択し、列名の横にある [メニュー] アイコンを選択して、リストから [ 列の削除 ] を選択します。
    - コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列] の横にある - マイナスアイコンを使用して、列レイアウトの右側から列を削除します。

### 詳細な列レイアウトオプションの設定

スタック幅と列レイアウトの高さを含む詳細な列レイアウトオプション UI ビルダー を設定します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。

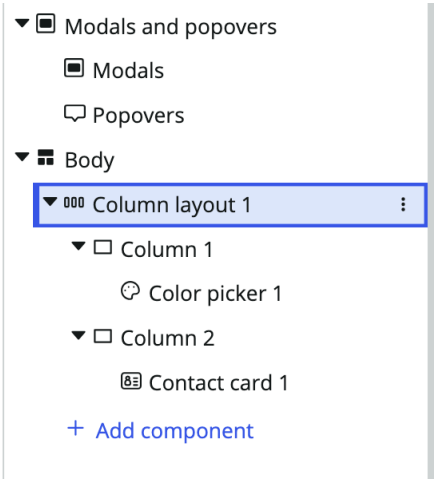
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

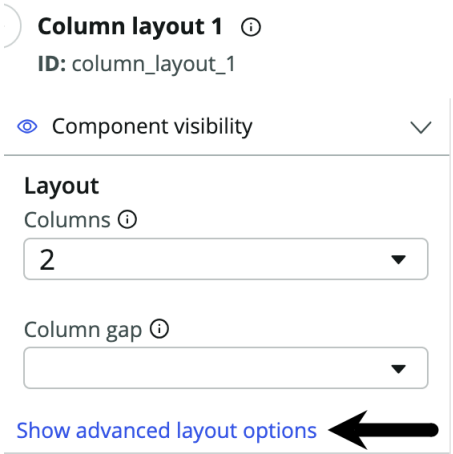
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. ページに列レイアウトがまだ含まれていない場合は、列レイアウトの追加。
5. コンテンツツリーで少なくとも 2 列を含む列レイアウトを選択します。




6. スタック幅を設定するには、レイアウト>構成パネルに移動し、[高度なレイアウトオプションを表示]を選択します。

> **注:**
> スタック幅を設定すると、幅の狭いブラウザーウィンドウ、タブレット、またはモバイルデバイスでの列レイアウトを含むページの外観を制御できます。



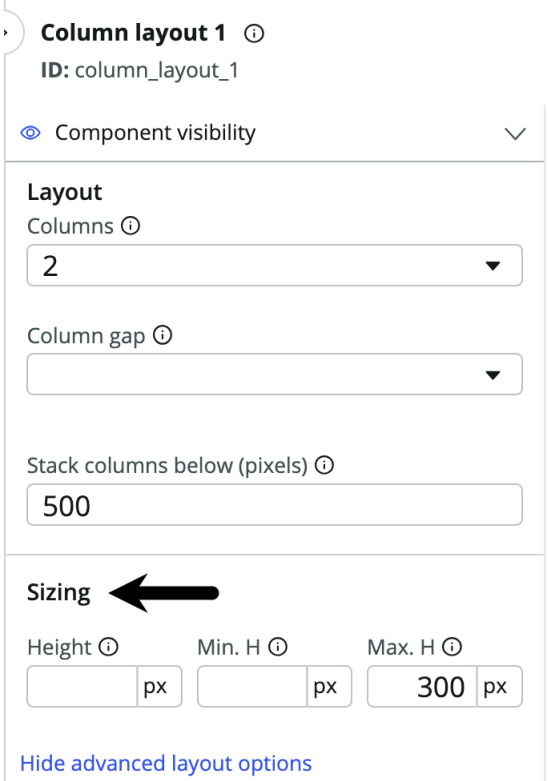

7. 下の [スタック列] に幅を入力します。
8. [保存] を選択します。
9. 新しいスタック幅をテストするには、[ プレビュー ] の横にある矢印を選択し、[ **URL** パスを開く] を選択します。
10. ブラウザー ウィンドウの幅を指定したスタック幅より小さくして、右側の列が最初の列より下に移動することを確認します。
11. URL パスで開いたブラウザータブを閉じます。
12. 列レイアウトの高さを制御するには、コンテンツツリーで少なくとも 2 列を含む列レイアウトを選択し、[ レイアウト] > [構成パネル] に移動して、[ 詳細レイアウトオプションを表示] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
高さの設定は、リストコンポーネントなどの高さを設定できるコンポーネントが列レイアウトに含まれている場合に便利です。

13. [ サイズ設定] で、1 つ以上のオプションに数値を入力します ([高さ]、[ 最小] **H**、および 最大。H)、サイズ単位 ( **px**、 **%**、 **em** など) を設定します。




14. [保存] を選択します。
15. 新しいサイズ設定をテストするには、 [ プレビュー ] の横にある矢印を選択し、 [ **URL** パスを開く] を選択します。
16. ブラウザー ウィンドウの高さを小さくしたり広げたりして、指定した値をテストします。
17. URL パスで開いたブラウザータブを閉じます。

### UI ビルダー のレイアウトのアップグレード

Quebec および Rome で作成されたレイアウトを新しいレイアウトシステムにアップグレードします。

UI ビルダー レイアウトシステムは San Diego リリースで拡張および更新されました。この新しいレイアウトシステムは、簡素化されたコンテンツツリー、およびレイアウト構成とコンポーネントのスタイリングのための新しいスタイリングパネルを備えています。新しく作成されるすべてのページバリアントは、新しいレイアウトシステムを使用します。既存のページとカスタムページを新しいレイアウトシステムにアップグレードすることを選択できます。

新しいレイアウトシステムには以下が含まれます。

- 簡素化されたコンテンツツリー
- レイアウト構成とコンポーネントのスタイリング用の改善されたスタイリングパネル
- CSS Flexbox および グリッド レイアウトを構成するためのローコード UI

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンポーネントのスタイリング用の拡張 UI
- スロットを必要としない更新されたレイアウト

## レイアウトのアップグレード後の確認事項

バリアントとページは個別にアップグレードされます。

ページ/バリアントは、レイアウトと、データリソース、イベントバインディング、および構成があるレイアウト内でコンテナにラップされたコンポーネントおよびサブコンポーネントで構成されます。新しいレイアウトシステムにアップグレードすると、ページのレイアウトのみがアップグレードされるため、データ、コンポーネント、またはコンポーネントのスタイリングに影響はありません。

古いレイアウトシステムのすべてのスロットは、アップグレードプロセス中に新しいレイアウトに移行されます。アップグレードプロセスにより、ページ上でのコンポーネントコンテナの構造が変更されます。

コンポーネントのスタイリングは影響を受けませんが、コンポーネントの配置方法が 1 対 1 のスタイルで移行されない場合があります。複雑なページでは、スタイルがスロットからコンテナにマージされるため、アップグレードプロセスによって視覚的な不整合が発生する可能性があります。一部の問題は手動で解決する必要があります。

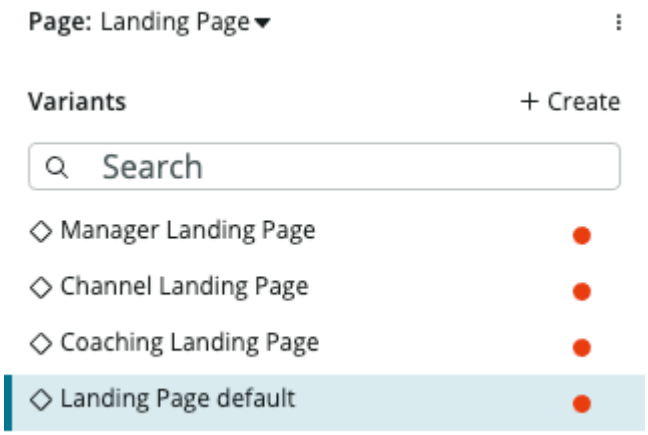
### 新しいレイアウトシステムへのアップグレード

UI ビルダー ページを新しいレイアウトシステムにアップグレードします。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. アップグレードするページでエクスペリエンスを開きます。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. アップグレードするページを選択します。



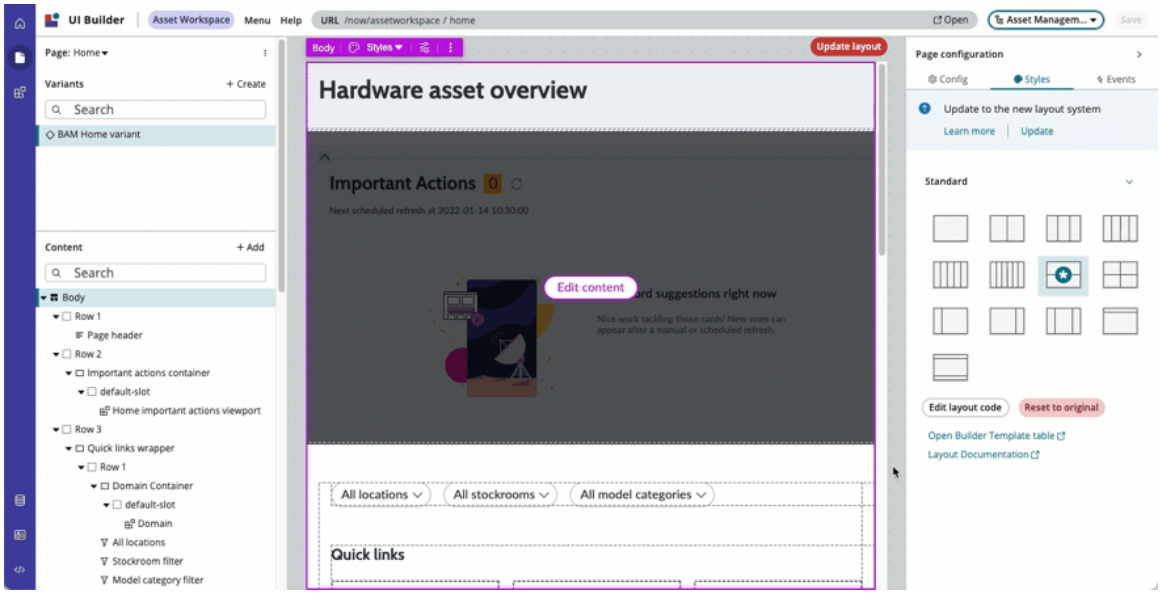

新しいレイアウトシステムにアップグレードできるページバリアントは、赤い点でタグ付けされます。

> **注:**
> Quebec より前の行/列レイアウトシステムを使用して作成された従来のページはアップグレードできません。新しいレイアウトシステムで再構築する必要があります。

自動翻訳

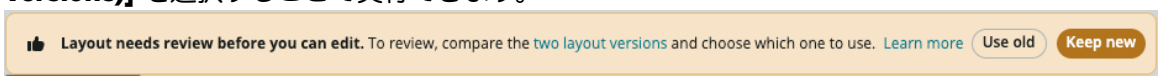
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [レイアウトの更新] ボタンを選択します。




UI ビルダー がページレイアウトの新しいレイアウトシステムへの更新を開始します。プロセスが完了すると、通知が表示されます。

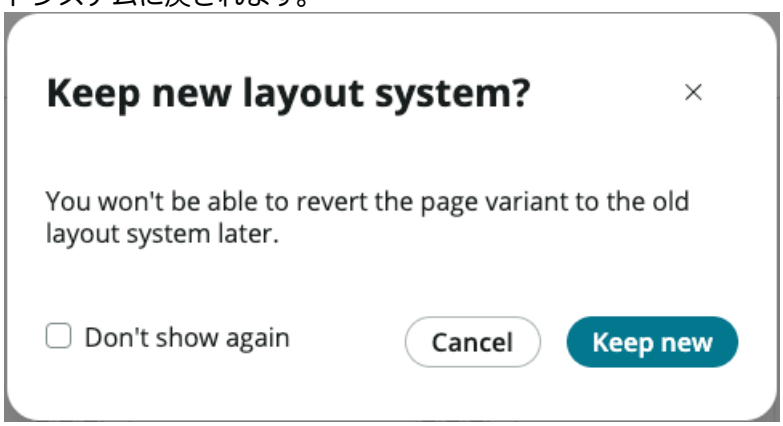
5. 古いレイアウトとアップグレードされたレイアウトの比較は、[レイアウトを編集するには、レビューが必要です] 通知で **[2 つのレイアウトバージョンを比較 (compare the two layout versions)]** を選択することで実行できます。




2 つのブラウザータブが開かれ、1 つには現在のレイアウトが表示され、もう 1 つにはアップグレードされたレイアウトが表示されます。

6. ページを新しいレイアウトシステムに更新する場合は、[新規を保持] を選択します。元のページレイアウトを維持する場合は、[古いものを使用] を選択します。
選択を確認することを求めるモーダルが表示されます。

7. [新規を保持] を選択すると、新しいレイアウトシステムへのアップグレードが実行されます。[古いものを使用] を選択すると、アップグレードプロセスは取り消され、ページは今までのレイアウトシステムに戻されます。




8. 変更が適用されてページが再ロードされます。

9. を選択し、ページを表示してテストします。

### UI ビルダー での Flexbox レイアウトの使用

UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズすることで、パフォーマンスを向上させることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

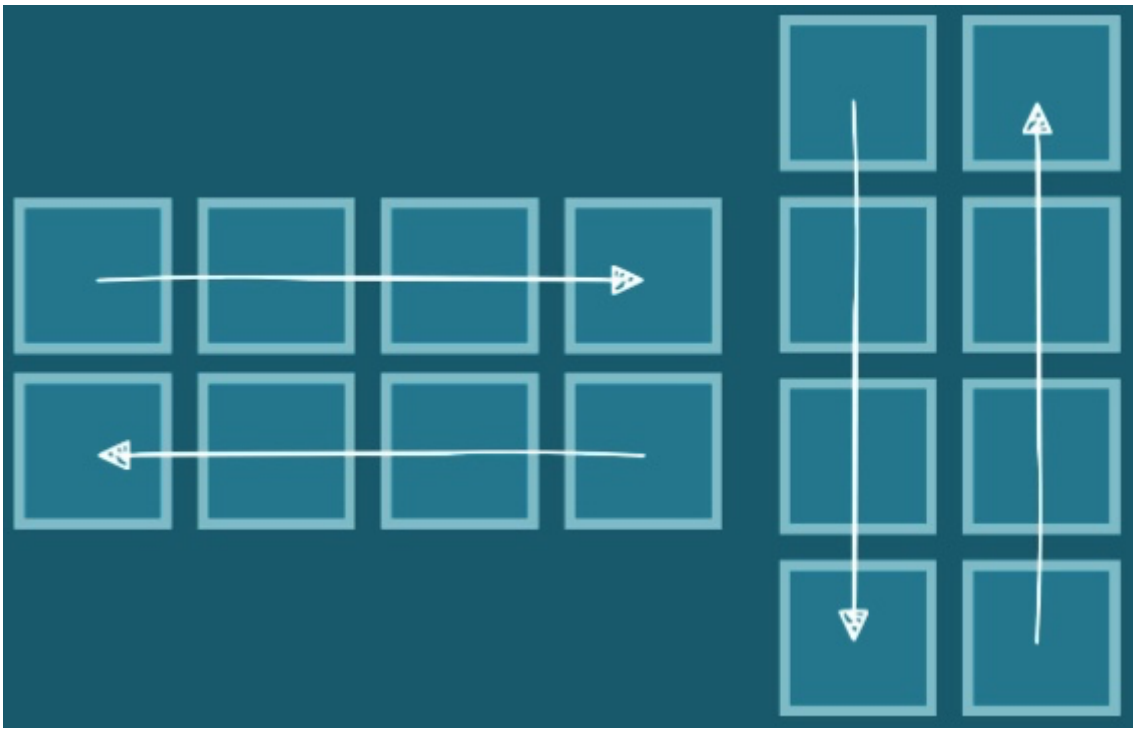
UI ビルダーで Flexbox レイアウトを使用してカスタムページを簡単に構築できます。ページのレイアウトをカスタマイズすると、Flexbox を最大限に活用してページ全体を設計できます。詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

Flexbox は、CSS の 1 次元レイアウトシステムです。Flexbox は本質的に柔軟であるため、コンテンツのサイズがわからない場合に便利です。複雑なページを構築する予定の場合は、構成パネルの [スタイル] タブまたは CSS を使用してページのレイアウトをカスタマイズできます。Flexbox の詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

レイアウト内のコンテンツの向きは、次の方法で変更できます。

- 行：行は、ブラウザーのデフォルト言語の向きに応じて、「左から右」または「右から左」に編成されます。英語のブラウザーの場合は「左から右」です。
- 行を逆にする：行は、ブラウザーのデフォルト言語の逆向きに、「右から左」または「左から右」に編成されます。
- 列：「上から下」または「下から上」
- 列を逆にする：「下から上」

**Flexbox** の行と列の向き



- コンテンツの両端揃え：主軸に沿って配置を定義します。選択肢は次のとおりです。
  - フレックス開始：アイテムは、左揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで先頭位置に置かれます。これは、デフォルトの設定です。
  - フレックス終了：アイテムは、右揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで末尾位置に置かれます。
  - 間にスペースを配置：アイテムは均等に配置されます。
  - 外側にスペースを配置：アイテムは周囲に均等な間隔を置いて均等に配置されます。
  - 均等にスペースを配置：アイテム間の間隔は均等になります。
- アイテムの整列：交差軸に沿ってフレックスコンテンツを表示する方法を定義します。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ストレッチ (Stretch)：コンテンツを引き延ばしてコンテナ全体に収まるようにします。これは、デフォルトの設定です
- フレックス開始：交差軸の先頭位置にコンテンツを配置します。
- フレックス終了：交差軸の末尾位置にコンテンツを配置します。
- 中央：コンテンツを交差軸の中央に配置します。
- ベースシステム：コンテンツをベースライン配置と同じように配置します。

- 高さ：高さを自動または手動で設定します。
- 幅：Flexbox のアイテムの高さを自動または手動で設定します。
- マージン：Flexbox のアイテム間の最小距離を設定します。
- パディング (Padding)：Flexbox のアイテムの各側のパディングを設定します。

### 新しいレイアウトシステムでの **Flexbox** レイアウトの作成

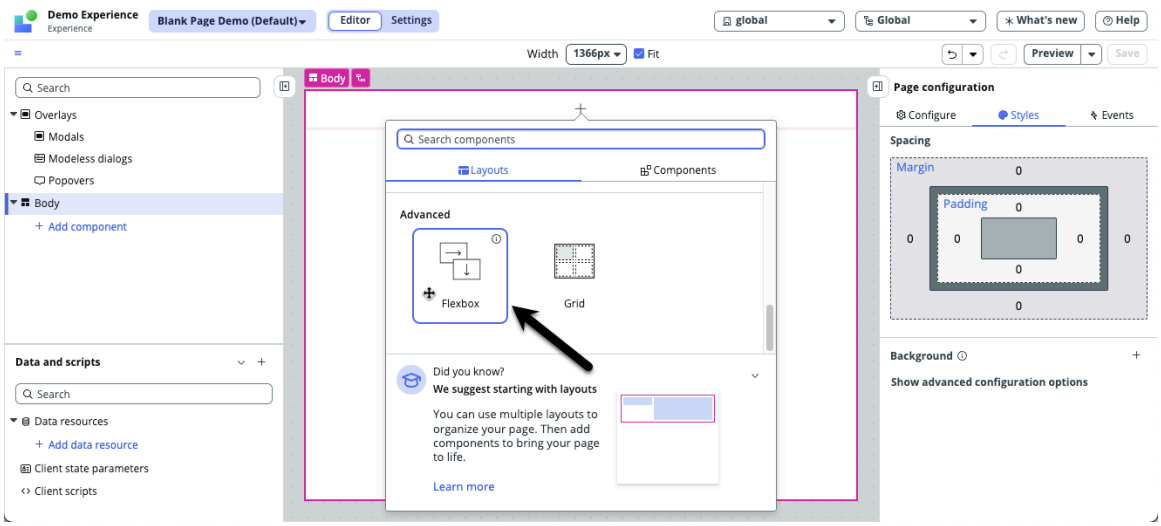
UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、ローコード環境で強力なページを構築します。

#### 始める前に

必要なロール：管理者

#### 手順

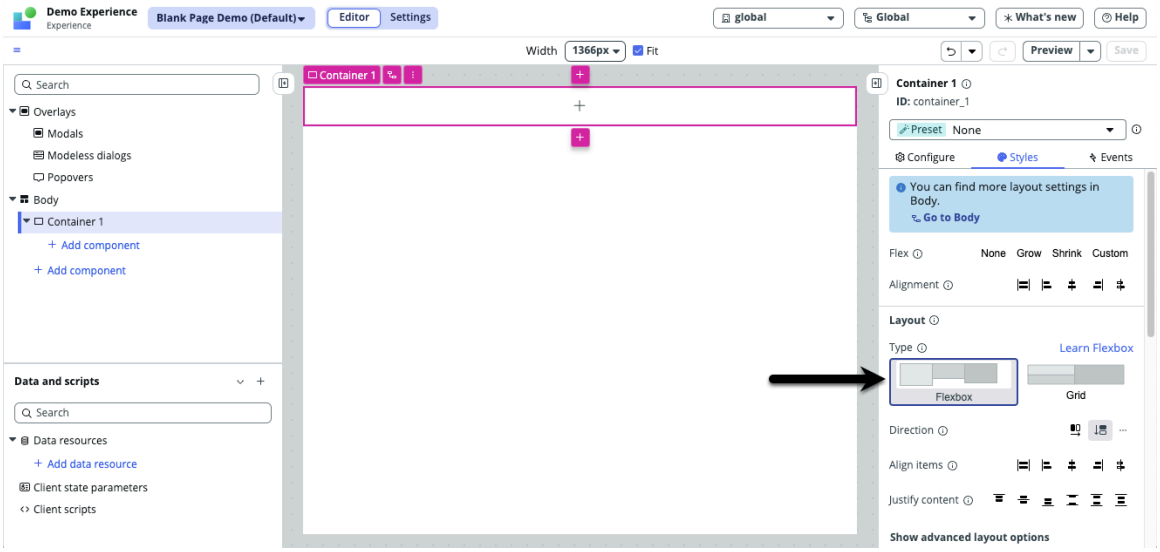
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー でのページの作成。
4. UI ビルダー ステージの **[+]** アイコンを選択します。
5. [レイアウト] タブの **[Flexbox]** を選択します。




6. 構成パネルで [スタイル] タブを選択します。
7. [レイアウト] セクションで、**Flexbox** がハイライト表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




8. [スタイル] タブの [レイアウト] セクションで、以下を変更できます。

   方向

   コンポーネントを水平に重ねるか、垂直に重ねるかを定義します。

   アイテムの整列

   コンテナ内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。

   コンテンツの両端揃え

   コンテナ内のコンポーネントをパックする方法または間隔を空ける方法を定義します。

   > **注:**
   > [詳細レイアウトオプションを表示 **(Show advanced layout options)**] を選択し、次の 2 つのオプションを表示します。

   ギャップ

   行と列の間のギャップのサイズを設定します。

   子要素を複数の行に折り返す

   コンポーネントを強制的に 1 行に表示するか、オーバーフローさせて複数行に表示するかを設定します。

   Flexbox のレイアウト構成については、Mozilla のホームページを参照してください。

9. オプション: CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある [詳細設定オプションを表示 **(Show advanced configuration options)**] を選択した後で **[CSS** の表示と編集] オプションを選択します。
10. [保存] を選択します。
    ページが更新され、レイアウトに加えられた変更が表示されます。
11. コンポーネントをページに追加します。
    詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
12. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

### 古いレイアウトシステムでの **Flexbox** レイアウトの作成

UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズすることで、パフォーマンスを向上させることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

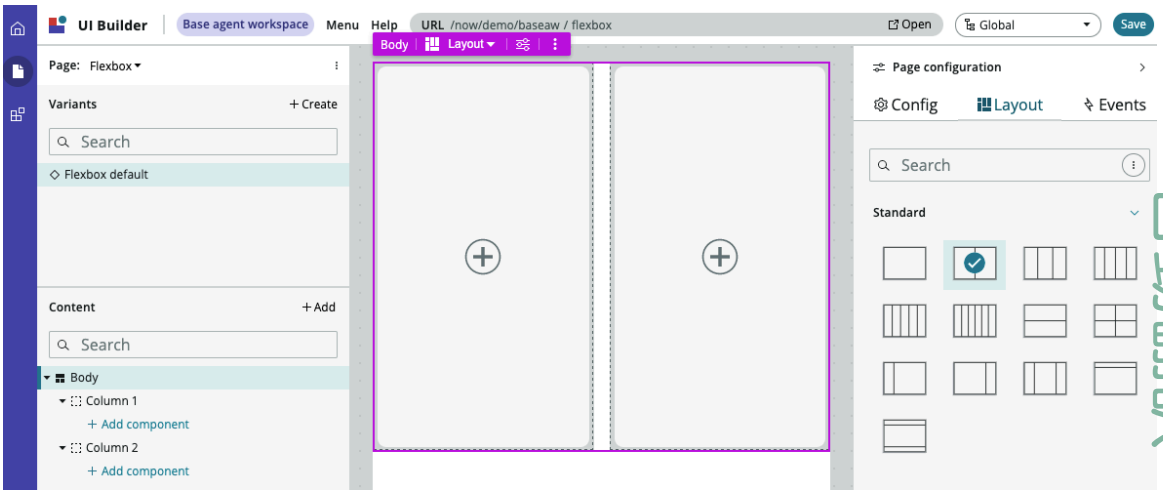
始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
次の手順では、Flexbox を使用して CSS コードを変更し、ページのレイアウトをカスタマイズする方法を学習します。

手順

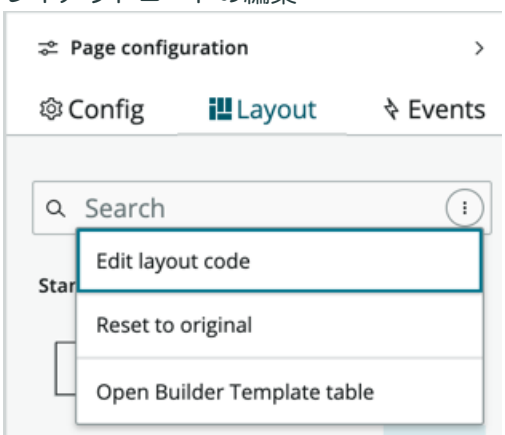
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. [レイアウト] タブをクリックし、2 列のレイアウトを選択します。

標準の **2** 列レイアウト




5. [レイアウトコードを編集] をクリックします。

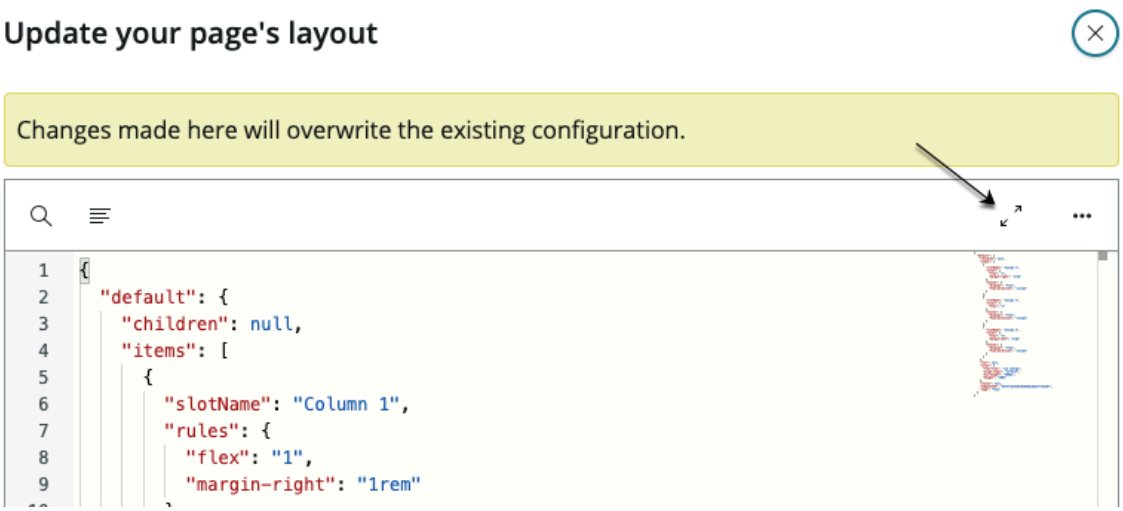
レイアウトコードの編集




6. コードエディターを展開して、CSS コードを簡単に確認できるようにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードエディターの展開




**7.** 既存のスロットの CSS コードをコピーして、レイアウトに別のスロットを追加します。

コードをコピーする方が、レイアウトに入力するよりも簡単です。

スロットの **CSS** コードをコピーする

**8.** コピーしたコードの下にカンマを配置し、次の CSS コードを貼り付けます。

**a.** *"slotName"* プロパティを "Column 3",に変更します。

**b.** *"flex"* プロパティを "2" に変更します。

**c.** "margin-left": "1rem" を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

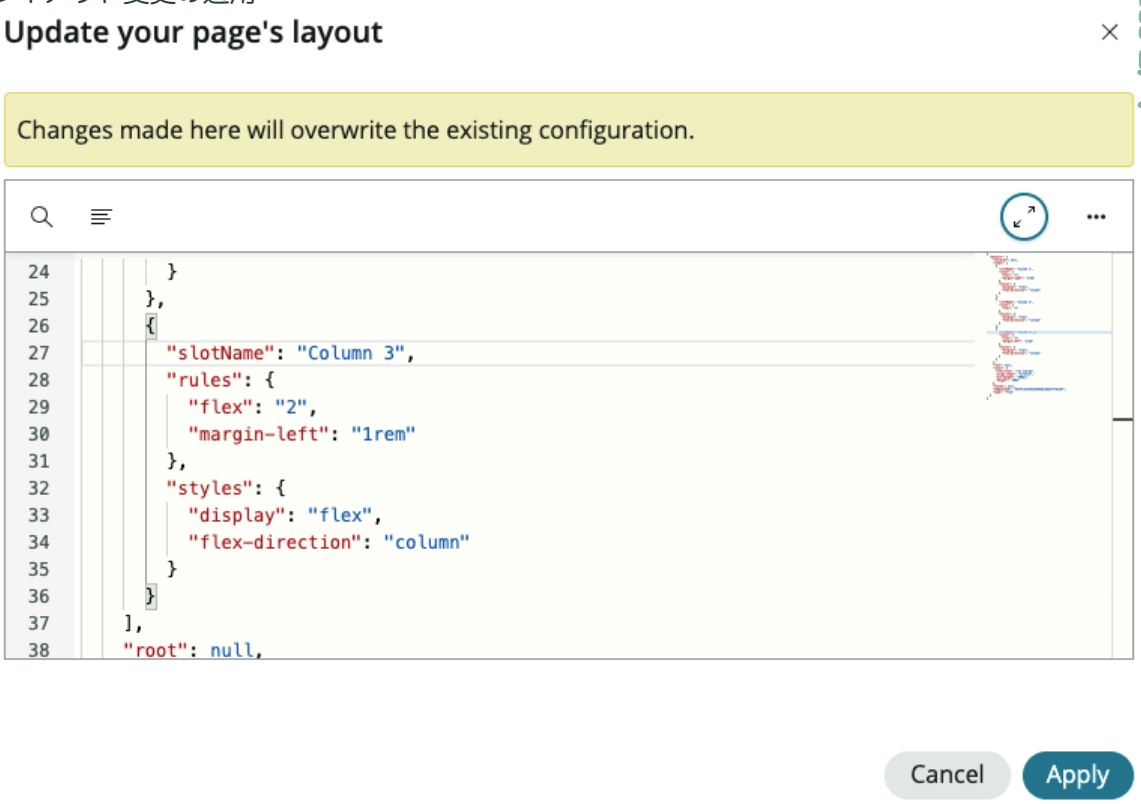
CSS コードを貼り付ける

```
        "flex": "1"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    },
    {
      "slotName": "Column 3",
      "rules": {
        "flex": "2",
        "margin-left": "1rem"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    }
  ],
  "root": null,
  "rules": {
    "flex-flow": "row nowrap",
    "align-items": "stretch",
    "min-height": "400px",
    "height": "100%"
```

*"flex"* プロパティを変更すると、列のサイズが大きくなります。*"margin-left"* を使用すると、前の列との間にスペースが追加されます。

**9.** 展開されたビューを折りたたんで、[適用] をクリックします。

レイアウト変更の適用



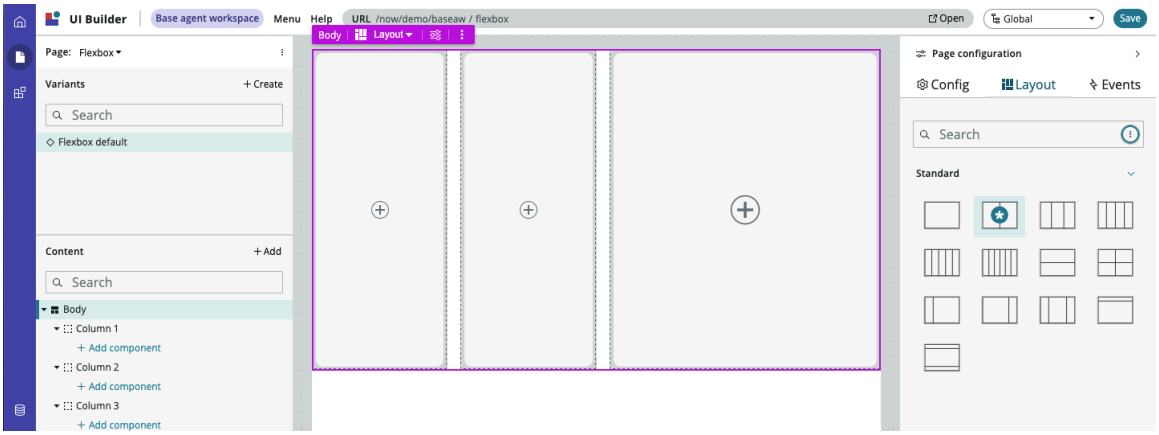

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果

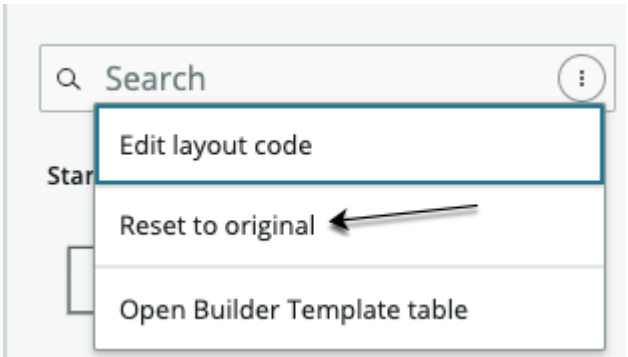
作成した新しい Flexbox レイアウトには、元の 2 列のレイアウトに追加した新しいスロットが表示されます。

新しいカスタムレイアウト




[元の状態にリセット] をクリックすると、レイアウトの変更が元の状態にリセットされます。

レイアウトのリセット




関連情報

古いレイアウトシステムでの CSS グリッドレイアウトの作成

## CSS グリッドレイアウトを使用したページの構築

UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズして、パフォーマンスを向上させることができます。

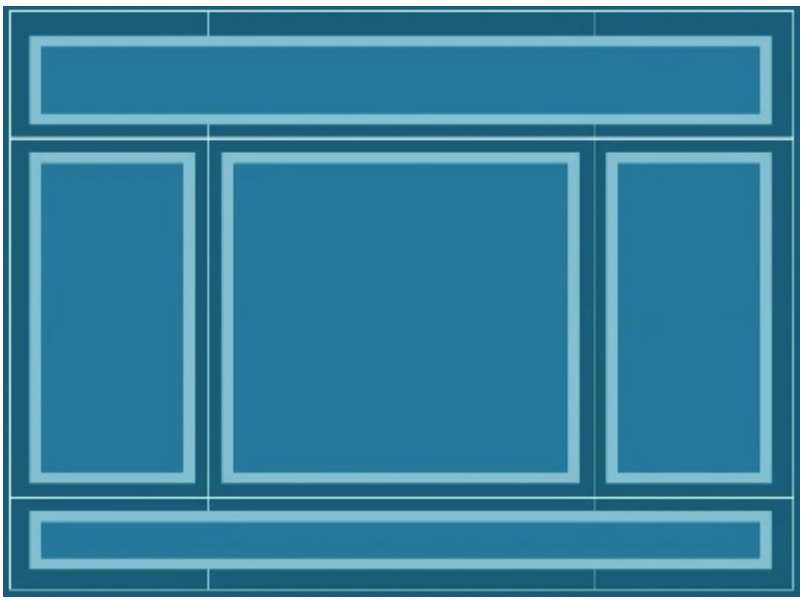
CSS グリッドは CSS の最も強力なレイアウトシステムです。CSS グリッドは、2 次元グリッド上に構築されます。CSS グリッドを使用して、ページの作成方法を制御できます。UI ビルダー を使用し、ローコードレイアウト構成プロパティを使用して CSS グリッドレイアウトを実装します。高度なレイアウトでは、CSS コードを表示および編集してレイアウトをカスタマイズできます。CSS グリッドの詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

たとえば、3 列 3 行のグリッドで 9 つのセルを作成できます。これらのセル内にコンポーネントを配置することも、コンポーネントを複数のセルにまたがらせることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CSS** グリッドレイアウト



ページのレイアウトをカスタマイズすると、CSS グリッドを最大限に活用してページ全体を設計できます。詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

UI ビルダー インスタンス内の CSS レイアウトの詳細については、[sys_uib_template] テーブルで検索できます。

## 新しいレイアウトシステムでの **CSS** グリッドレイアウトの作成

UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、ローコード環境で強力なページを構築します。

### 始める前に

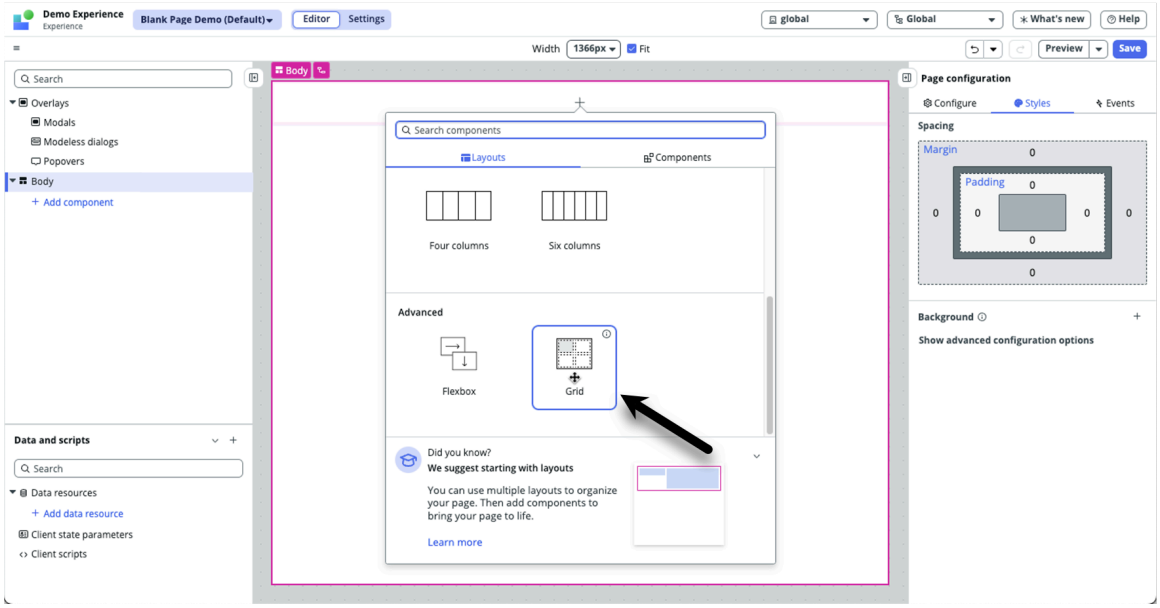
必要なロール：管理者

### 手順

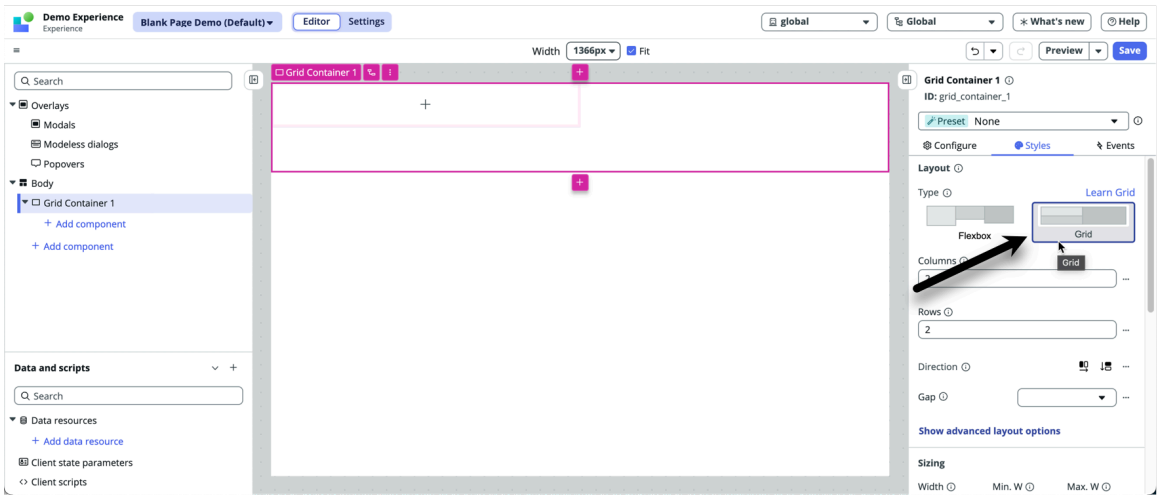
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー でのページの作成。
4. UI ビルダー ステージの **[+]** アイコンを選択します。
5. [レイアウト] タブの [グリッド] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. 構成パネルで [スタイル] タブを選択します。
7. [レイアウト] セクションで、[グリッド] がハイライト表示されます。




8. [スタイル] タブの [レイアウト] セクションで、以下を変更できます。

列

グリッド列の数、順序、および幅を定義します。

行

グリッド行の数、順序、および幅を定義します。

方向

新しく追加されたコンポーネントを水平方向と垂直方向のどちらに積み重ねるかを設定します。

ギャップ

行と列の間のギャップのサイズを設定します。

> **注:**
> [詳細レイアウトオプションを表示 **(Show advanced layout options)**] を選択し、次の 4 つのオプションを表示します。

アイテムの整列

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテナ内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。

アイテムの両端揃え

グリッドコンテナのインライン軸に沿って、ブラウザーがコンテンツアイテムの間および周囲にスペースを配置する方法を定義します。

コンテンツの整列

グリッドのブロック軸に沿って、コンテンツアイテムの間および周囲のスペースの配置を設定します。

コンテンツの両端揃え

コンテナ内のコンポーネントをパックする方法または間隔を空ける方法を定義します。

CSS グリッドのレイアウト構成については、Mozilla のホームページを参照してください。

9. オプション: CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある [詳細設定オプションを表示 **(Show advanced configuration options)]** を選択した後で **[CSS** の表示と編集] オプションを選択します。
10. [保存] を選択します。
ページが更新され、レイアウトに加えられた変更が表示されます。
11. コンポーネントをページに追加します。
詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
12. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

### 古いレイアウトシステムでの **CSS** グリッドレイアウトの作成

UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズして、パフォーマンスを向上させることができます。

#### 始める前に

必要なロール：admin

#### このタスクについて

次の手順では、CSS グリッドを使用して CSS を変更し、ページのレイアウトをカスタマイズする方法を学習します。

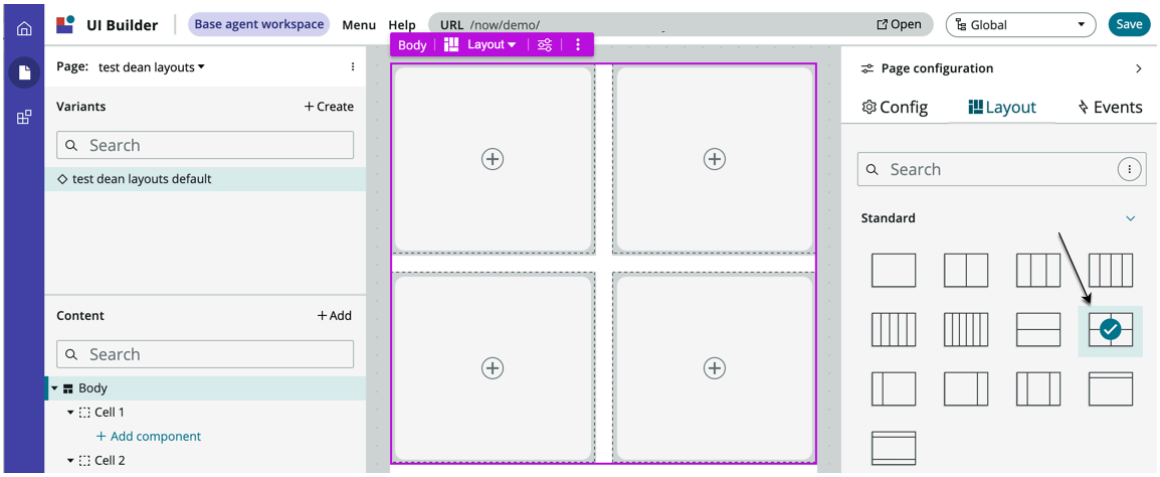
#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. [レイアウト] タブをクリックし、2 行 2 列のレイアウトを選択します。

自動翻訳

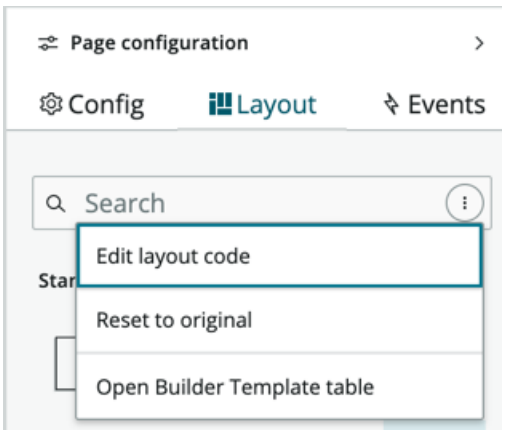
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準の 2 行 2 列のレイアウト




**5.** [レイアウトコードを編集] をクリックします。

レイアウトコードの編集

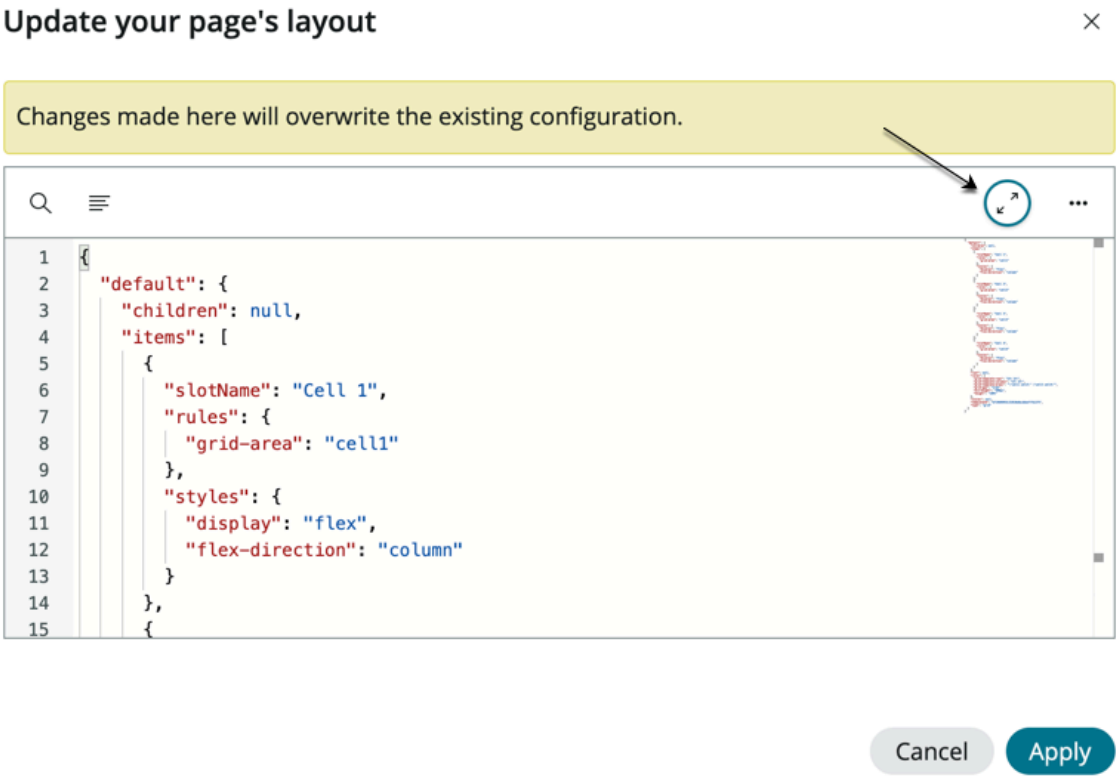



**6.** コードエディターを展開して、CSS コードを簡単に確認できるようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードエディターの展開




**7.** 既存のスロットの CSS コードをコピーして、レイアウトに別のスロットを追加します。

CSS コードをコピーする方が、レイアウトに入力するよりも簡単です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スロットの **CSS** コードをコピーする

```
      }
    },
    {
      "slotName": "Cell 3",
      "rules": {
        "grid-area": "cell3"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    },
    {
      "slotName": "Cell 4",
      "rules": {
        "grid-area": "cell4"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    }
  ],
  "root": null,
  "rules": {
    "grid-template-rows": "1fr 1fr",
    "grid-template-columns": "1fr 1fr",
    "grid-template-areas": "\"cell1 cell2\" \"cell3 cell4\"",
    "grid-gap": "1rem",
    "min-height": "400px",
    "height": "100%"
  },
  "styles": null,
  "templateId": "b719698953c31010e6bcddeeff7b1275",
  "type": "grid"
 }
}
```

8. コピーしたコードの下に CSS コードを貼り付け、*slotName* と *grid-area* を一意の値に変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CSS** コードを貼り付ける

```
{
  "slotName": "Cell 4",
  "rules": {
    "grid-area": "cell4"
  },
  "styles": {
    "display": "flex",
    "flex-direction": "column"
  }
},
{
  "slotName": "Cell 5",
  "rules": {
    "grid-area": "cell5"
  },
  "styles": {
    "display": "flex",
    "flex-direction": "column"
  }
}
```

**9.** 新しい列とテンプレート領域を含むように、次のようにレイアウトルールを変更します。

**a.** "Grid-template-columns": "1fr 1fr", 行を削除します。

**b.** 2 番目の cell1 を cell1 の後に追加し、cell5 を cell4 の後に追加します。

レイアウトルールの変更

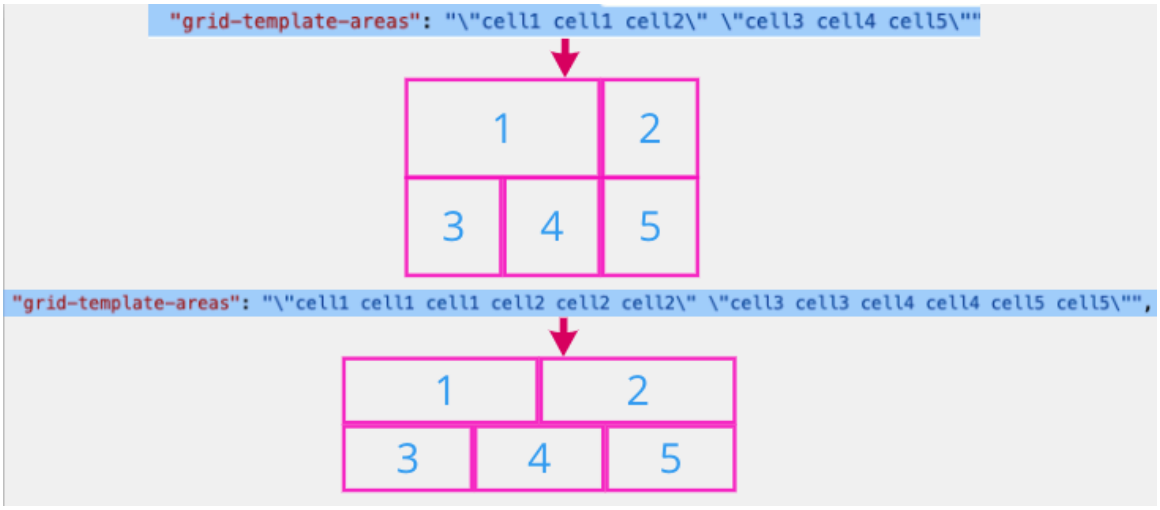
```
],
"root": null,
"rules": {
  "grid-template-rows": "1fr 1fr",
  "grid-template-columns": "1fr 1fr",
  "grid-template-areas": "\"cell1 cell1 cell2\" \"cell3 cell4 cell5\"",
  "grid-gap": "1rem",
  "min-height": "400px",
  "height": "100%"
},
"styles": null,
"templateId": "b719698953c31010e6bcddeeff7b1275",
"type": "grid"
}
```

多くのさまざまな構成を設定できます。この例には、2 つの異なるグリッドテンプレート領域から作成された 2 つのグリッドがあります。変更される *"grid-template-areas"* プロパティは、同じ名前の CSS プロパティを設定しています。詳細については、「MDN grid-templates-areas」を参照してください。

自動翻訳

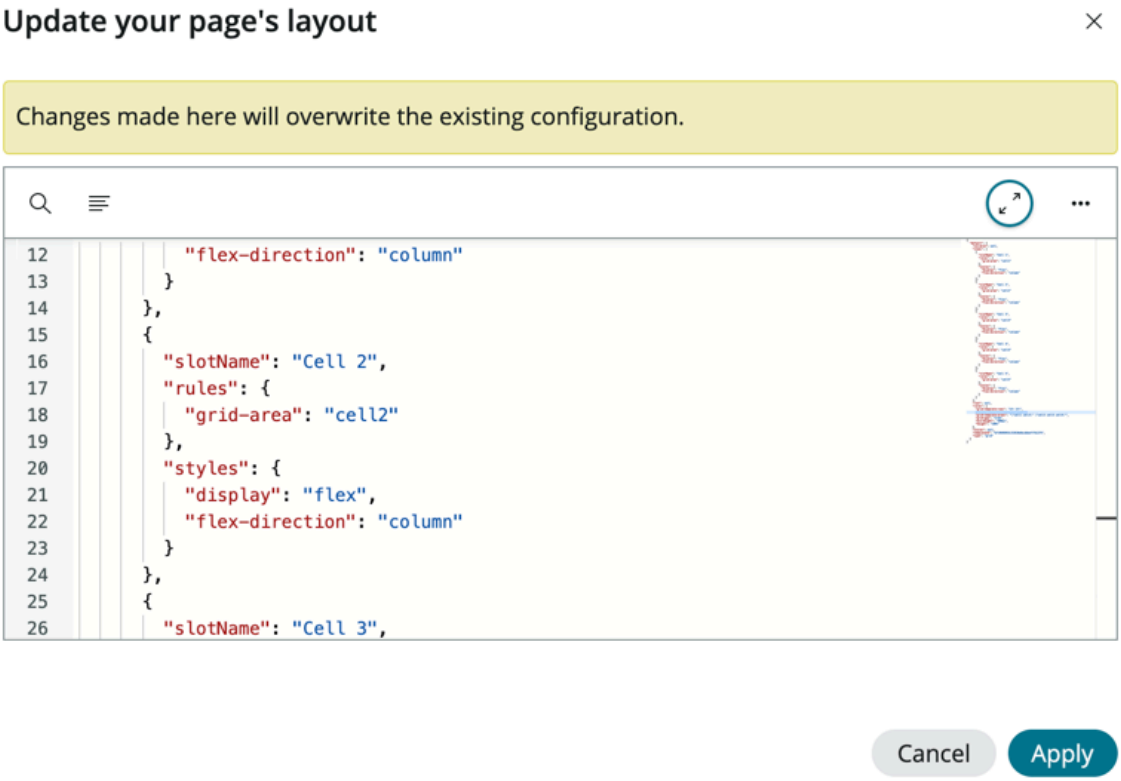
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グリッドテンプレート領域




**10.** 展開されたビューを折りたたんで、[適用] をクリックします。

レイアウト変更の適用

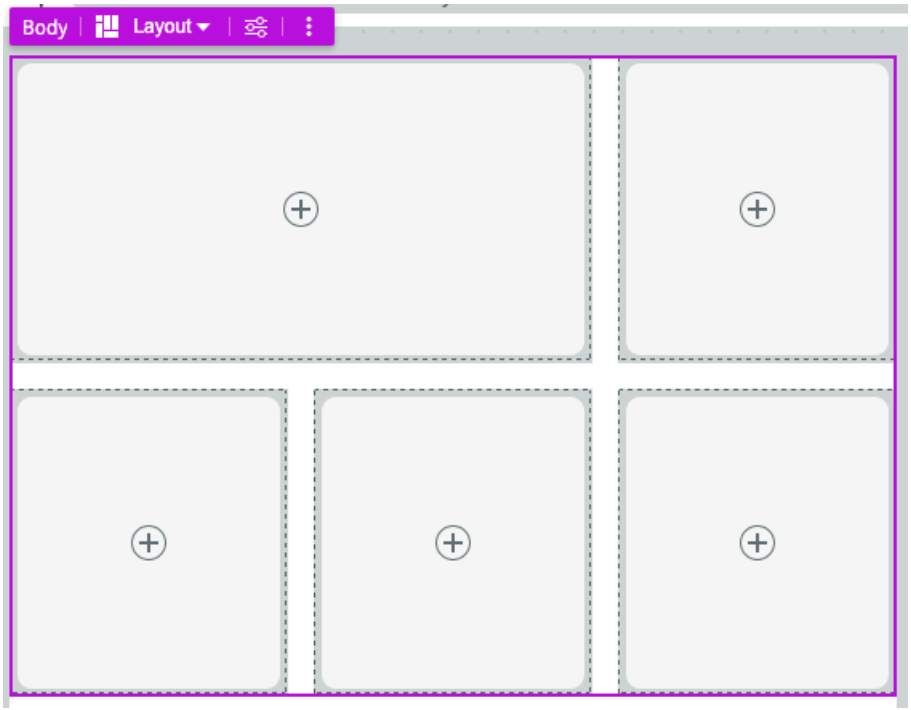



タスクの結果

新しい CSS グリッドレイアウトは、新しいスロットが元の 2 行 2 列レイアウトに追加されたことを示します。

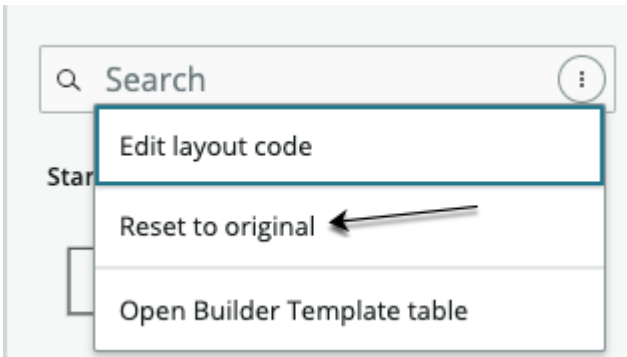
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいカスタムレイアウト




[元の状態にリセット] をクリックすると、いつでもレイアウトの変更を元の状態にリセットできます。

レイアウトのリセット




関連情報

古いレイアウトシステムでの Flexbox レイアウトの作成

**Quebec** または **Rome**で作成されたページのレイアウトの変更

レイアウトデザインを追加および変更して、ページの外観を変更します。Flexbox や CSS グリッドなどのカスケードスタイルシート (CSS) Web レイアウトテクノロジーを使用して、コンポーネントをページに表示する方法を選択します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
レイアウトは、ページで利用可能なコンテナとコンポーネントとそれらの配置を制御します。レイアウトには CSS ルールが適用されます。レイアウトは次のように変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

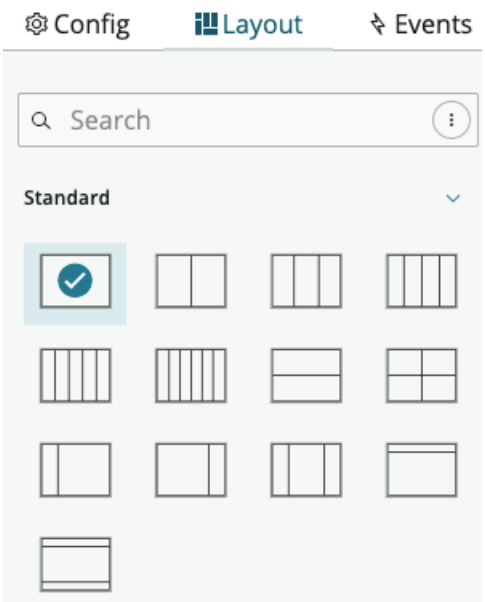
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. [レイアウト] タブを選択します。
5. ページのタイプに応じて、次のいずれかを実行し、更新するコンテナを選択します。
   新しいページを開始する場合は、レイアウトをページレベルで選択し、その後にコンテナレベルで選択することができます。既存のページの所有者でない場合は、ページレベルでレイアウトを変更することによる影響に注意してください。
6. コンテナのレイアウトを変更します。

   a. [ページ構成] ペインで、[レイアウト] タブを選択して、使用するレイアウトを選択します。

      既存のページの現在のレイアウトを新しいレイアウトに変更できます。たとえば、3 列のレイアウトで、4 列のレイアウトをクリックしてレイアウトを変更できます。

      コンテナのレイアウトを設定することもできます。次の画像は、UI Builder のレイアウトオプションを示しています。




   b. ページを作成する場合は、レイアウトの新しい領域にコンポーネントを追加します。

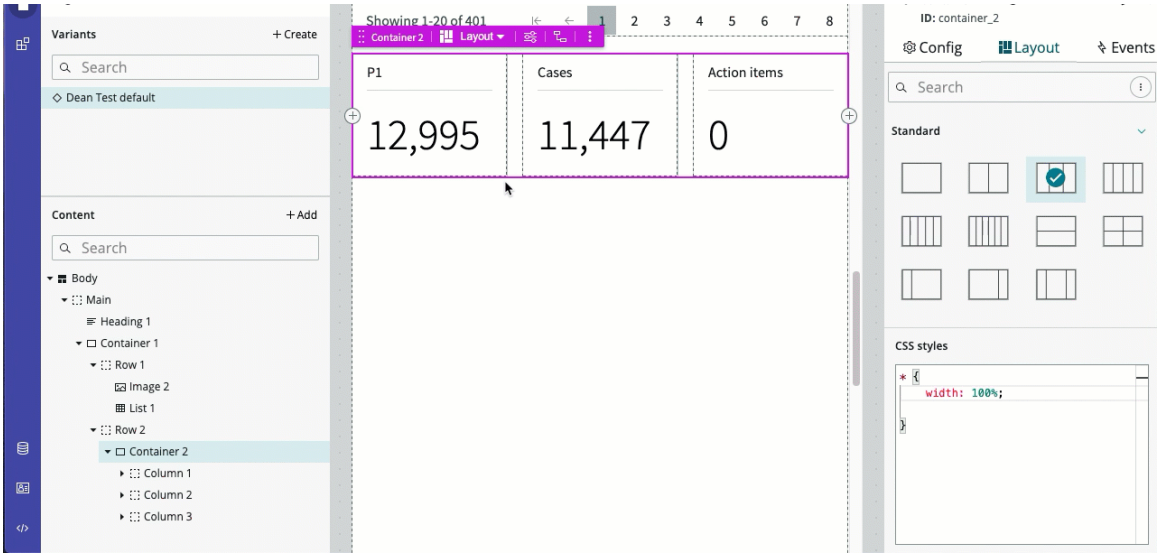
   c. [保存] をクリックします。

   d. [プレビュー] ボタンを選択してページをテストします。

**Example**
次のビデオでは、既存のページを変更するために、コンテナのレイアウトを 3 列から 4 列に変更し、4 列目に新しいコンポーネントを追加する方法を示します。

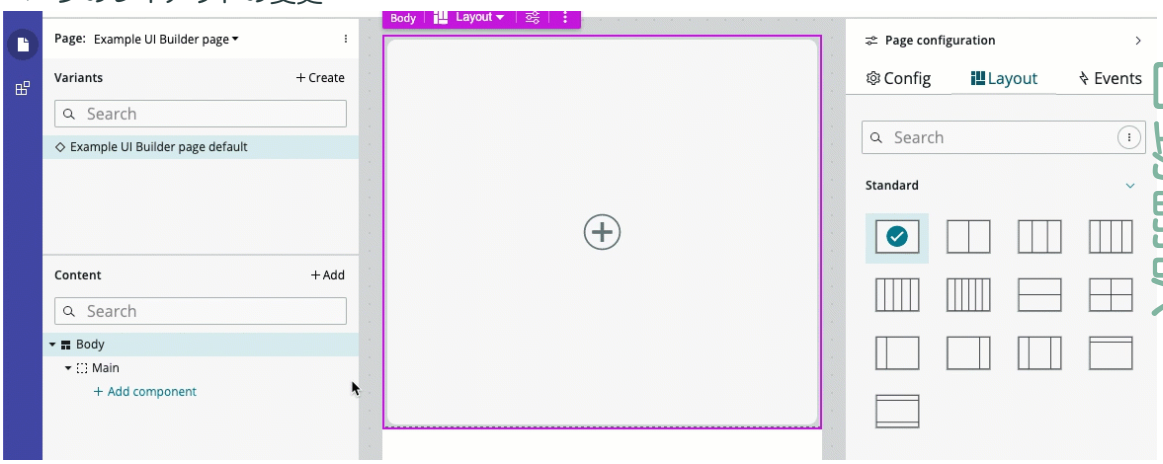
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




次のビデオでは、新しいページのレイアウトを設定するために、ページに必要なレイアウトを設定する方法を示します。たとえば、ページに 2 つのスロットまたは列を設定できます。次に、各スロットにコンテナを追加し、各コンテナのレイアウトを変更できます。ページにコンテナを追加した後、コンテナレベルでレイアウトを設定することもできます。

ページのレイアウトの変更




**7.** スロットにコンポーネントを追加します。
コンテナコンポーネントを使用してページを構築します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

コンポーネントは以下のいずれかの方法でページに追加できます。

**8.** 次のいずれかの方法でレイアウトのスタイリングオプションを変更します。

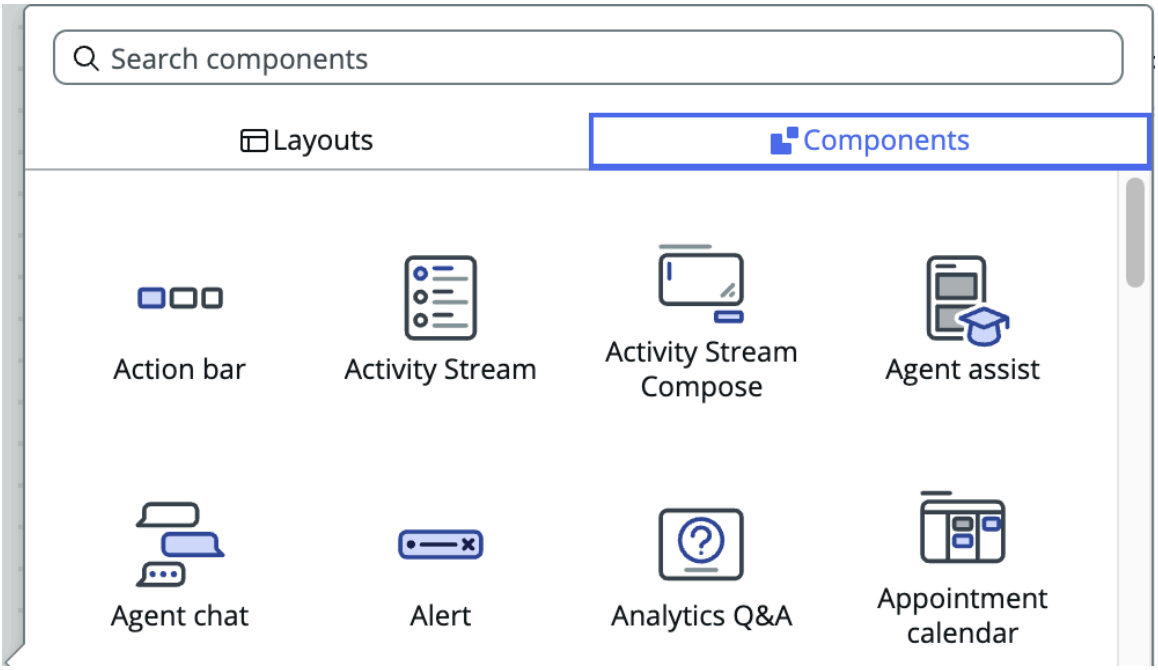
## コンポーネントを使用した **UI** ビルダー ページのカスタマイズ

UI ビルダー のコンポーネントについて説明します。また、UI Builder 内でコンポーネントがどのように機能するかを確認します。

コンポーネントは、UI ビルダー ページの基本要素です。コンポーネントは、ボタンやラベルなどのコア要素から、リストやフォームなどのより複雑なエクスペリエンスコンポーネントまで多岐にわたります。

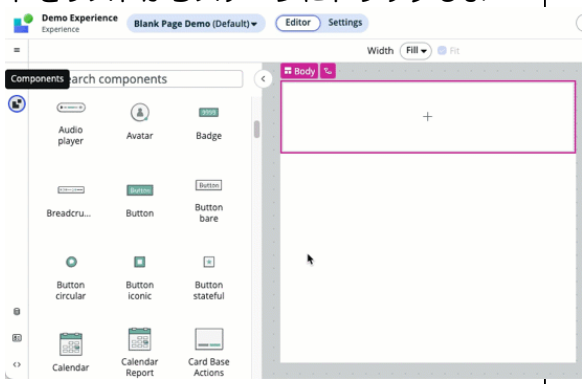
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのコンポーネントを UI ビルダー ページに追加して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスを構築またはカスタマイズできます。たとえば、アクティビティストリームコンポーネントをページに追加して、ユーザーが出張要求アクティビティを表示できるようにします。




コンポーネントは以下の方法で UI ビルダー ページに追加できます。

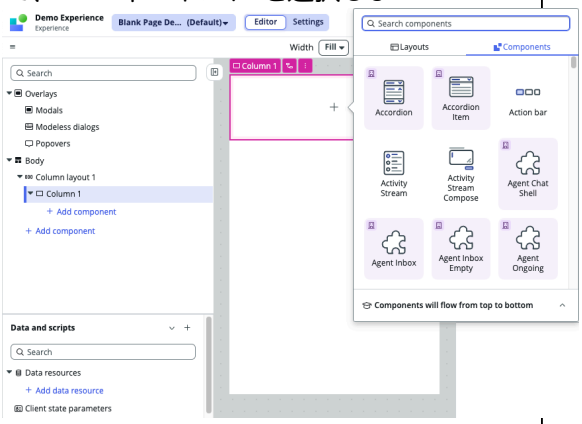
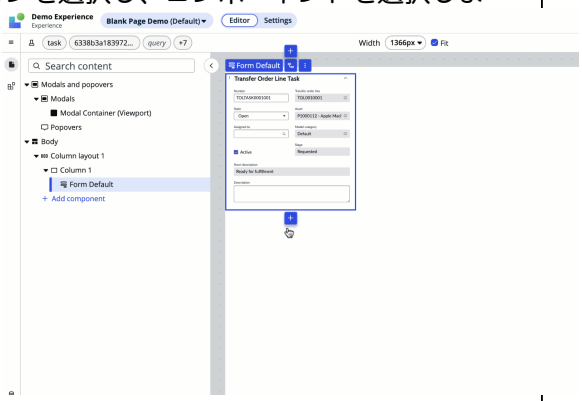
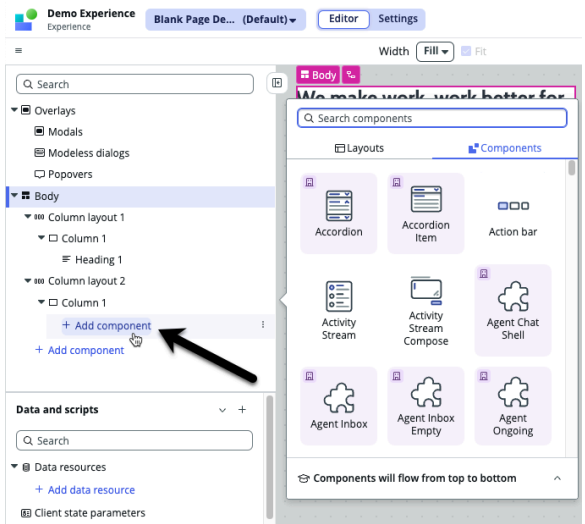
コンポーネントをページに追加する方法

| ロケーション | 例 |
| --- | --- |
| UI ビルダー の [コンポーネント] リストから | コンポーネントアイコンを選択し、コンポーネントをリストからステージにドラッグします。  |
| UI ビルダー のページから直接 (オプション 1) | [コンテンツの追加] (プラスアイコン) を選択し、[コンポーネント] タブを選 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

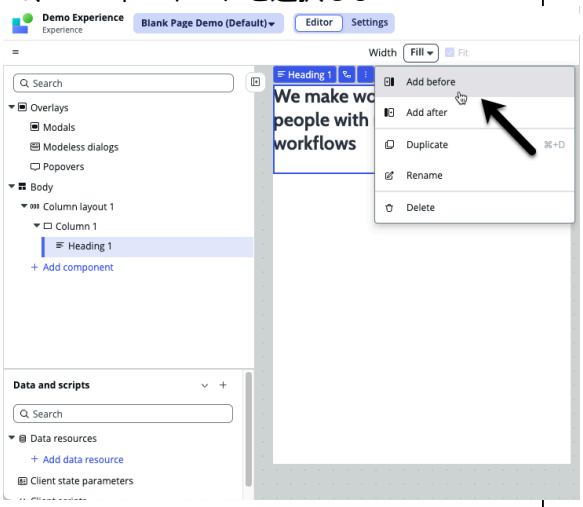
コンポーネントをページに追加する方法 (続く)

| ロケーション | 例 |
| --- | --- |
| | 択して、 コンポーネント を選択しま<br>  <br><br>す。 |
| UI ビルダー のページから直接 (オプション 2) | 列レイアウトまたはコンポーネントで、[前に追加] (プラス) または [後に追加] (プラス) アイコンを選択し、コンポーネントを選択しま<br>  <br><br>す。 |
| UI ビルダー のコンテンツツリーから | コンテンツツリーで、**[+** コンポーネントの追加] を選択して、コンポーネントを選択します。<br>  <br> |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

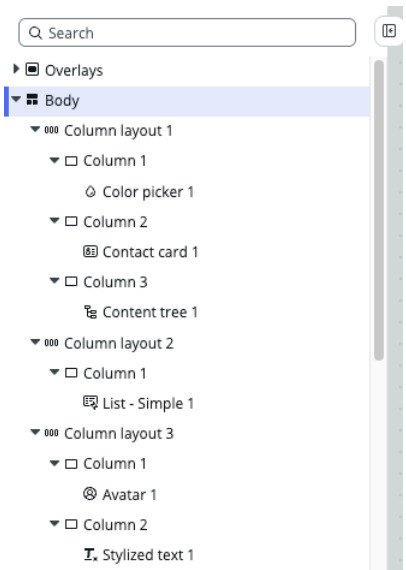
コンポーネントをページに追加する方法 (続く)

| ロケーション | 例 |
| --- | --- |
| UI ビルダー のページの上にあるフローティング メニューから | 列レイアウトまたはコンポーネント で、[メニュー] アイコンを選択し、 [ 前に追加 ] または [ 後に追加] を選択して、コンポーネントを選択します。  |



## 列レイアウト

最初に UI ビルダー ページに列レイアウトを追加します。次に、列レイアウトの列にコンポーネントを追加して、ページを構築およびカスタマイズします。列レイアウトは、リストや見出しなどのコンポーネントを追加する画面の定義された部分と考えてください。UI ビルダー ページには、必要な数の列レイアウトを使用できます。任意の列レイアウトで最大 6 つの列を使用できます。1 つの列に複数のコンポーネントを追加できます。コンテンツツリーでページの構造を表示します。



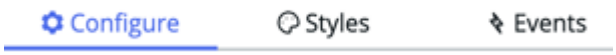

## コンポーネントの構成

構成パネルでコンポーネントを構成する方法は 3 とおりあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

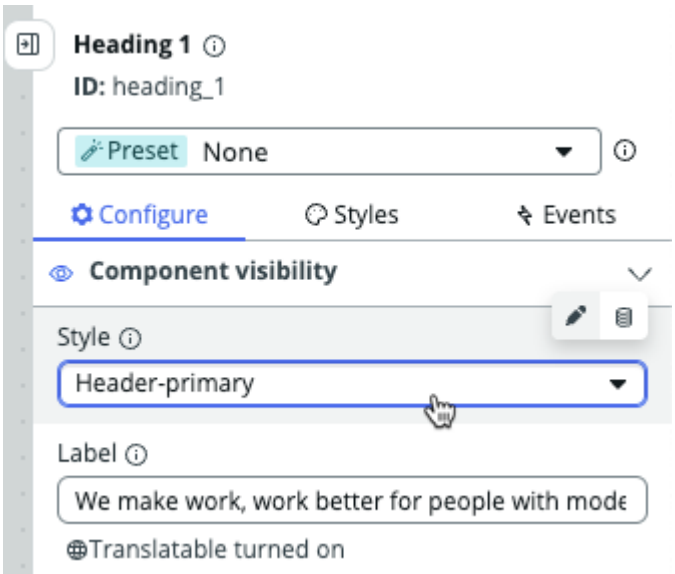
- コンポーネントのプロパティを構成します。
- CSS スタイルの上書きを追加します。
- コンポーネントのイベントハンドラーを設定します。




[設定] タブ

コンポーネントのプロパティは、各コンポーネントによって異なります。ボタン、見出し、ラベルなどのシンプルな要素の場合と同様に、コンポーネントの構成は簡単です。リストやフォームなどのコンポーネントには、多くの構成が必要です。アイコンおよび画像コンポーネントの場合は、さまざまなオプションから選択するか、カスタムアイコンまたは画像を使用します。UI ビルダー のローコード JSON エディターを使用して、コンポーネントのプロパティを変更できます。コンポーネントの構成の詳細については、以下を参照してください。 Next Experience コンポーネント.

コンポーネント構成タブの各プロパティについて、次のオプションから選択できます。




- 静的：リストのデータを使用するか、独自のデータを入力します。データは外部データソースに接続されません。
- 動的データバインディング：コンポーネントプロパティをデータリソース、ページプロパティ、またはクライアントステータスにバインドする方法です。
- スクリプト：プロパティ値を入力する JavaScript コードを入力します。

[スタイル] タブ

個々のコンポーネントのカスケードスタイルシート (CSS) スタイルを変更できます。色の境界線、フォントサイズなどを変更します。

[イベント] タブ

ページレベルおよびバリアントレベルのイベントマッピングを構成します。ディスパッチされたイベントと処理済みイベントもバリアントに追加します。より複雑なエクスペリエンスコンポーネントは、データリソースによって提供される動的データに大きく依存します。動的データからコンポーネントへのバインディングは重要な機能です。ページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。データを公開することで、コンポーネントの再利用が可能になります。また、構成フィール

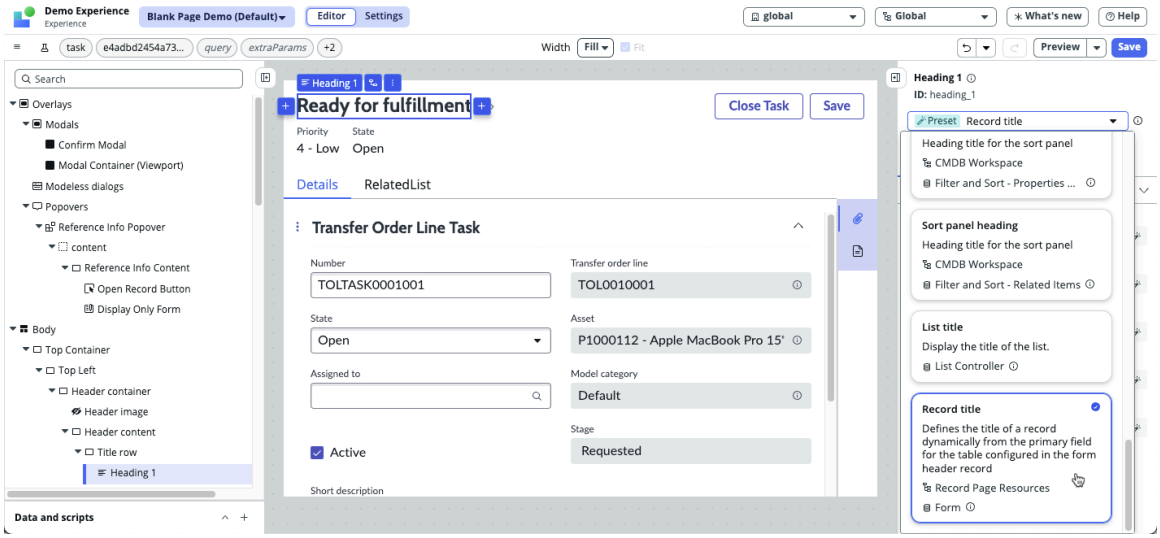
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドをポイントすると、各フィールドのアイコンデータまたはスクリプトオプションが表示されます。

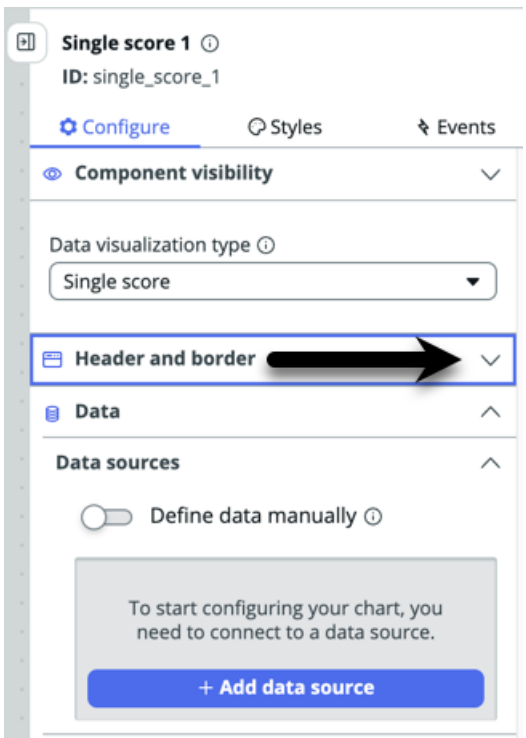
## コンポーネントのプリセット

プリセットを使用して、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成します。UI ビルダーページテンプレートには、プリセットがコンポーネント構成値を定義する際に使用するコントローラーが含まれています。詳細については、「プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する」を参照してください。




## コンポーネントプロパティのセクション

コンポーネントプロパティは、類似したプロパティのセクションにグループ化されています。セクションを開閉するには、プロパティの見出しの右側にある矢印を選択します。UI Builder 管理者は、UI ポリシーに基づいて表示または非表示にするコンポーネント構成プロパティを選択できます。

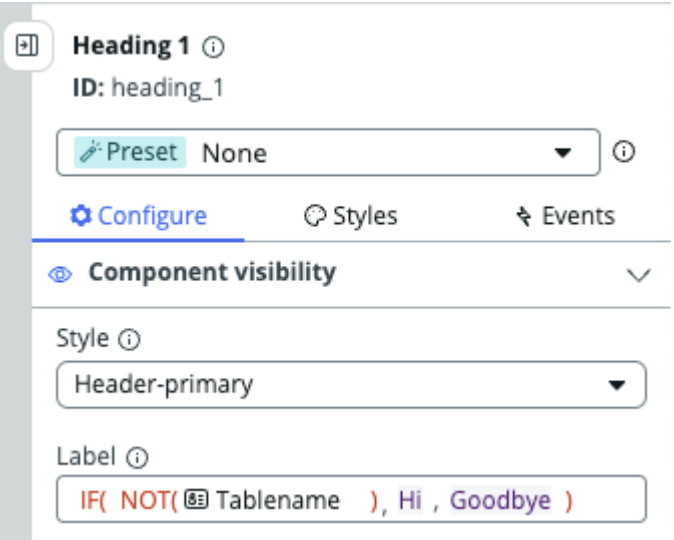



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コンポーネント式エディター

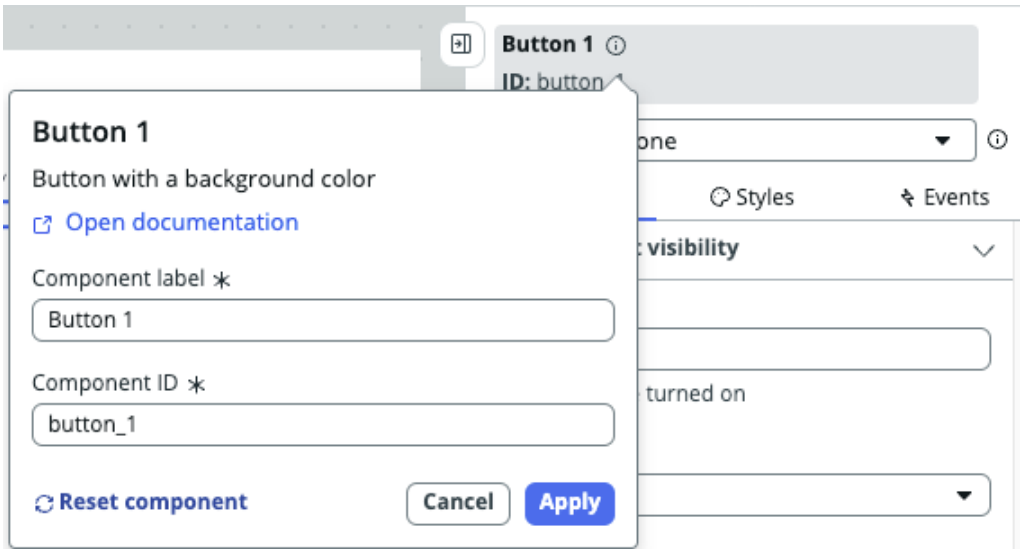
構成パネルの UI ビルダー コンポーネント式エディターを使用して、式をバインドまたは変更します。テキスト、データバインディング、または式を入力できます。式は、3 つの入力タイプの任意の組み合わせで構成できます。コンポーネント式エディターは、論理、算術、比較、否定、および関数型の変換タイプをサポートしています。




コンポーネント式エディターに追加される各関数はオートコンプリートされます。コンポーネント式エディターには、関数の各入力にラベルが表示されるため、各関数に必要なパラメーターがわかります。コンポーネント式エディターでサポートされている関数の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。

## コンポーネント ID

スクリプトを追加するか、コンポーネントを参照する方法としてコンポーネントにデータをバインドする場合は、コンポーネント ID を使用します。コンポーネントをページに追加すると、コンポーネントラベルに基づいたコンポーネント ID が自動的に作成されます。コンポーネント ID は、一意である限り、任意のものに変更できます。構成パネルでコンポーネントの名前を選択すると、コンポーネント ID が表示されます。




自動翻訳

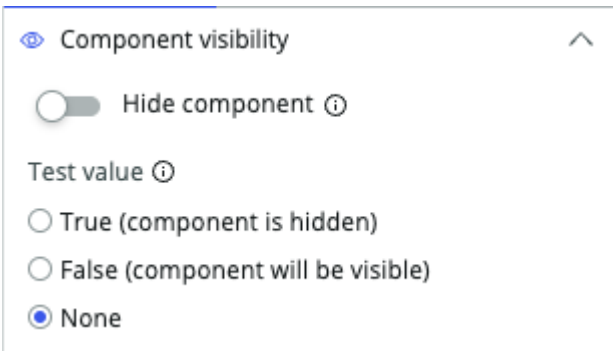
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コンポーネント可視性

構成パネルで目のアイコンを選択して、コンポーネントの表示を設定します。コンポーネントの可視性は、コンポーネントを表示しているユーザーではなく、コンポーネント自体のプロパティに基づきます。条件に基づいてコンポーネントを表示または非表示にすることができます。たとえば、壊れたリンクがある場合にその画像を非表示にします。

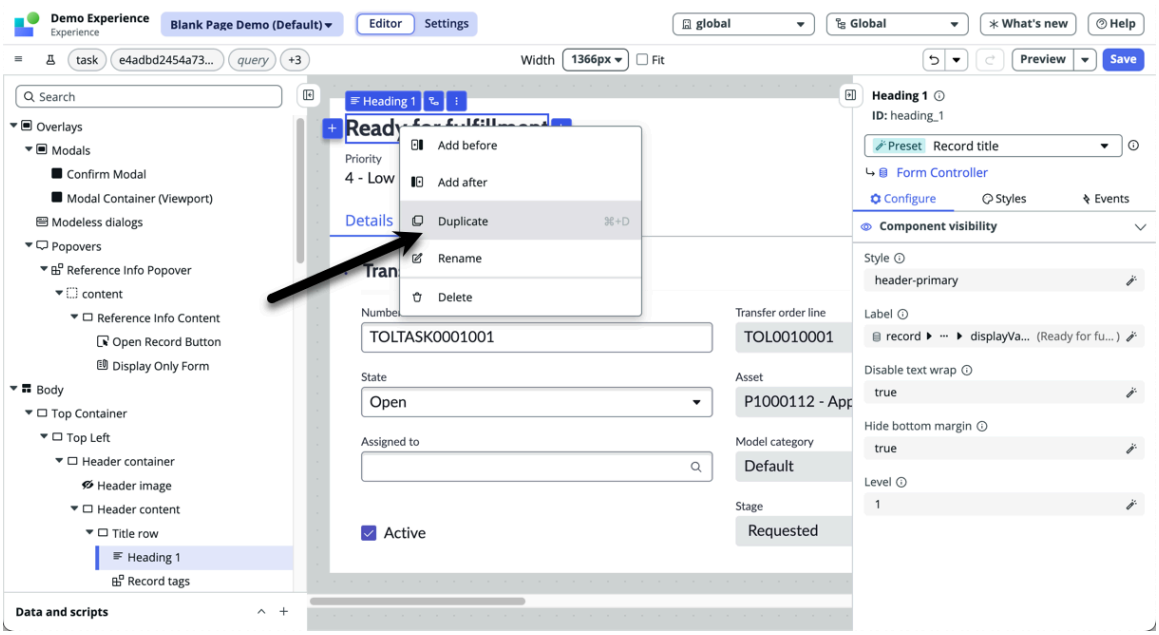
動的なデータバインディングに基づいて、またはスクリプト化されたプロパティ値を編集して、可視性を設定できます。

[テスト値] を設定して、可視性が true、false、または none に設定されるとどうなるかをテストします。




## コンポーネントの複製

名前と ID を除いて、UI ビルダー ページに構成されたコンポーネントの正確なコピーを作成します。複製されたコンポーネントは、すべてのプロパティ、バインディング、およびイベントをコピーします。詳細については、「コンポーネントの複製」を参照してください。




### プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する

コンポーネントプリセットを使用して、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成します。

コンポーネントのプリセットを使用して、事前定義された構成値とイベントマッピングをコンポーネントに適用します。UI ビルダー ページテンプレートには、プリセットがコンポーネント構成値を定義するために使用するコントローラーが含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

プリセットは、事前に構築済みの構成をコンポーネントプロパティとイベントハンドラーに適用します。これらは、特定のコンポーネントでのみ使用できます。これらは、通常はレコードページに含まれているフィールドを使用してフォームコンポーネントを構成するなど、コンポーネントの一般的なユースケースに基づいています。

プリセットを適用すると、コンポーネントがすぐに動作するように自動的に構成され、ページ作成者のページ作成とメンテナンスが簡素化されます。

プリセットは、ページ作成者に次のようなメリットがあります。

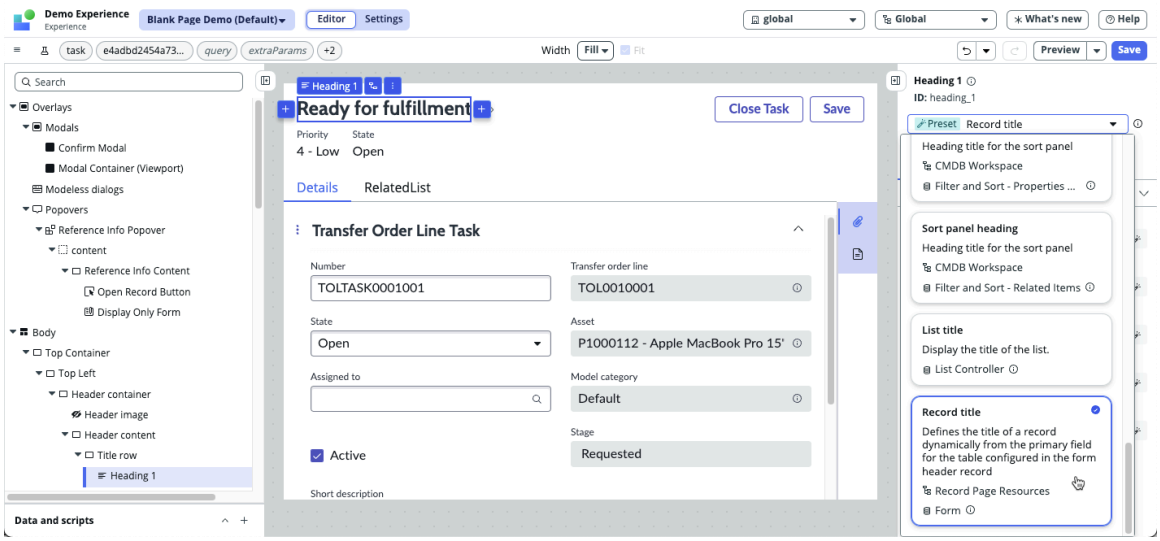
- コンポーネントの複合データとイベントバインディングの処理
- ページの外部で定義されることによる所有コストとメンテナンスの削減

[構成] ペインで、選択したコンポーネントにプリセットを適用するか、代わりに手動で構成するかを選択できます。デフォルトのプリセットは、テンプレートからページが作成された場合、またはプリセットに必要なコントローラーが既にページに追加されている場合に、コンポーネントに自動的に適用されます。プリセットが適用されると、プリセットによって構成されたプロパティまたはイベントが読み取り専用として表示されます。

プリセットによって構成された値は上書きできますが、そうするとコンポーネントの構成とメンテナンスの所有権を引き受けることになります。

サブページはコントローラーを継承しないため、Washington DC のプリセットを使用できません。

### コンポーネントに適用されるプリセット




### データとイベントのバインディング

プリセットには、次へのバインディングを含めることができます。

- コントローラー出力プロパティ (@data)
- イベントペイロード (@payload)
- セッションコンテキスト (@context.session)
- 複雑な式 (クライアント変換)

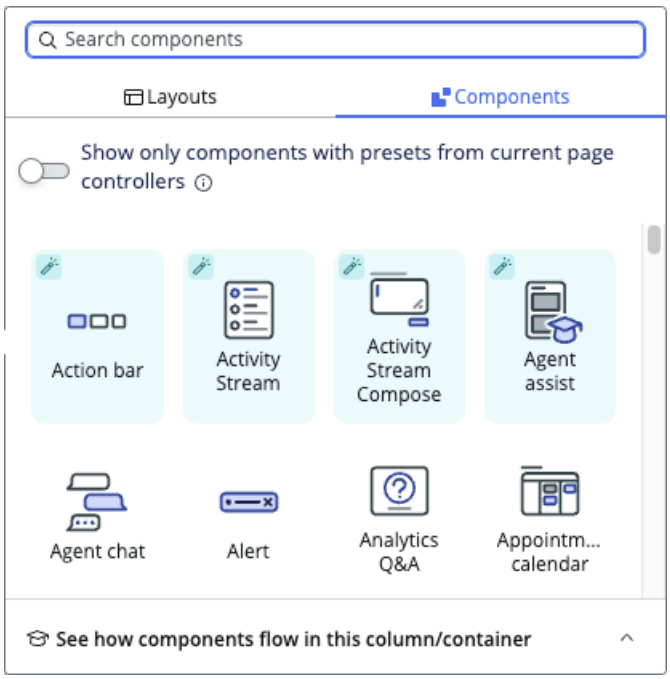
プリセットには、コントローラーの処理済みイベントへのイベントマッピングを含めることもできます。詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コントローラー

プリセットは、コントローラーを使用してコンポーネントをデータおよびイベントマッピングに接続します。プリセットに必要なコントローラーがまだページにない場合、プリセットは、コントローラーの必要なプロパティを構成してコントローラーを追加することを求めます。コントローラーがページに追加されると、コントローラーに関連付けられたプリセットを持つコンポーネントが、コンポーネントリストでハイライト表示されます。詳細については、「コントローラーを使用した UI Builder ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

プリセットを持つコンポーネント




### コンポーネントプリセットの選択

コンポーネントをページに追加するときに、コンポーネントプリセットを選択します。

#### 始める前に

必要なロール：管理者

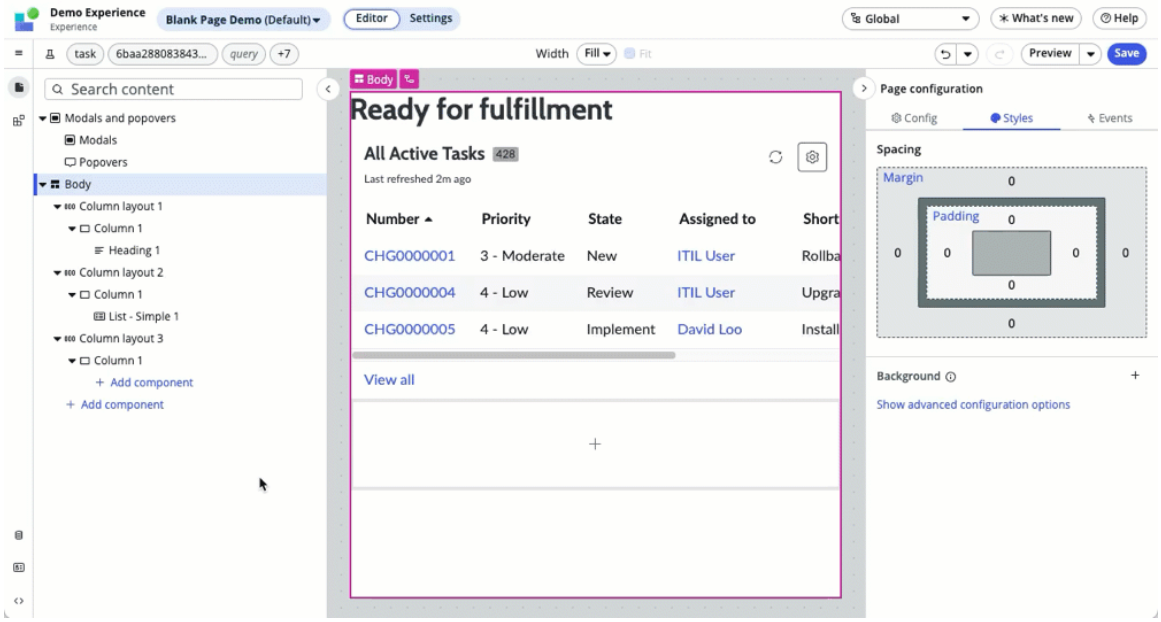
#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI Builder でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でページを作成する」を参照してください。
4. ツールボックスを開きます。
5. 緑色でハイライト表示されたコンポーネントをページに追加します。

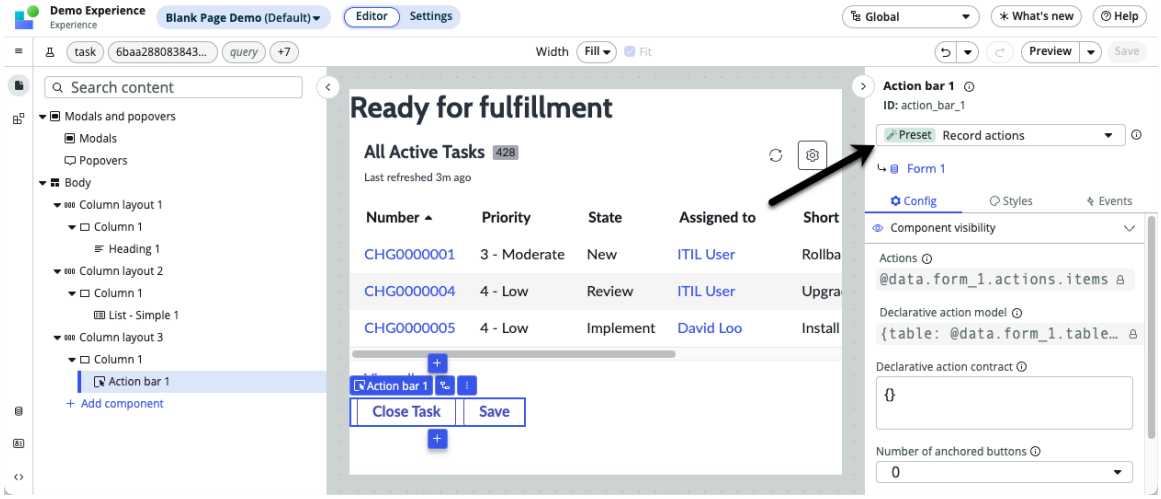
   緑色でハイライト表示されたコンポーネントには、利用可能なプリセットがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




6. コンポーネントは、デフォルトのプリセットを使用して自動的に構成されます。

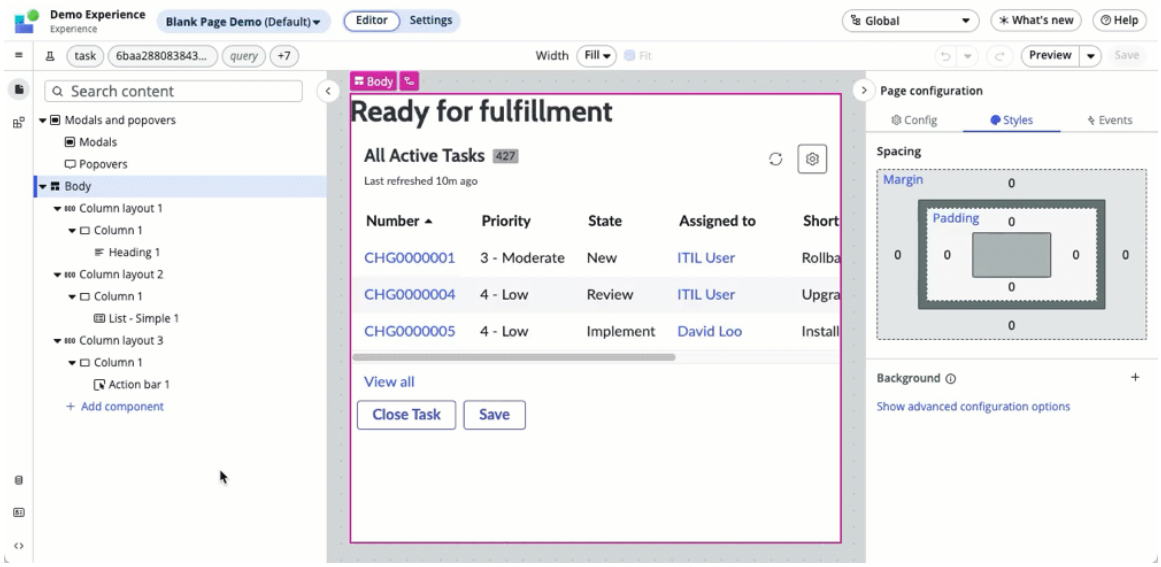



7. オプション: 構成パネルのリストから別のプリセットを選択します。
[削除] を選択すると、プリセットを使用しないようにコンポーネントを構成できます。

   a. 既存のプリセットを置き換えるには、[続行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**8.** [保存] をクリックします。

## コンポーネントプリセットの上書き

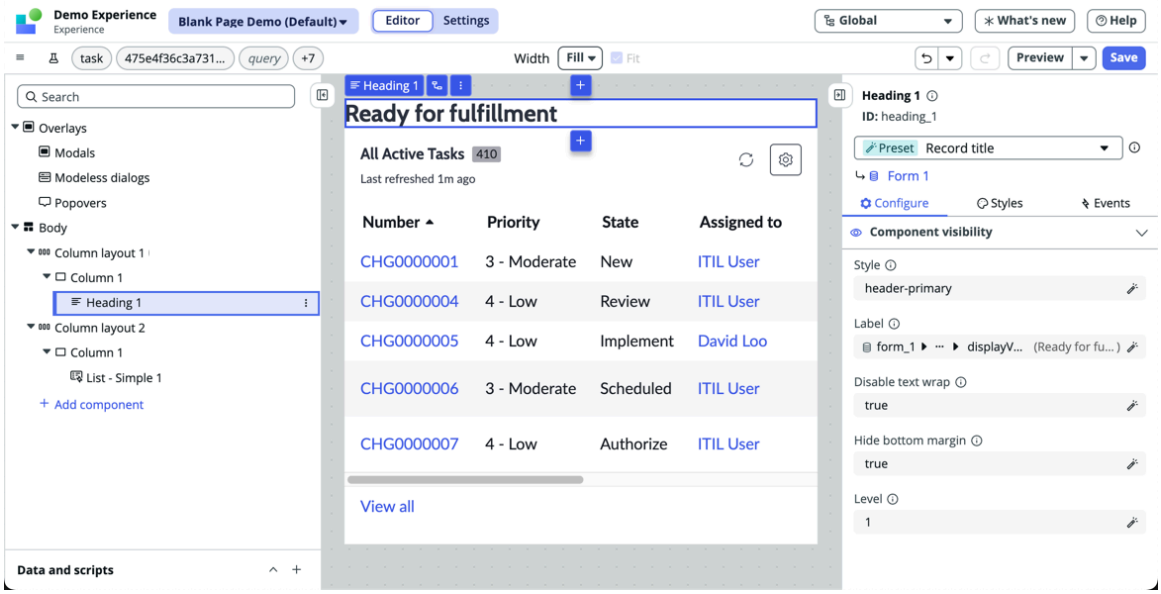
コンポーネントプリセットを上書きして、独自のカスタム値を入力します。

### 始める前に

必要なロール：admin

### 手順

**1.** プリセットを含むコンポーネンを選択します。




**2.** 構成パネルで上書きするデータ値を見つけます。

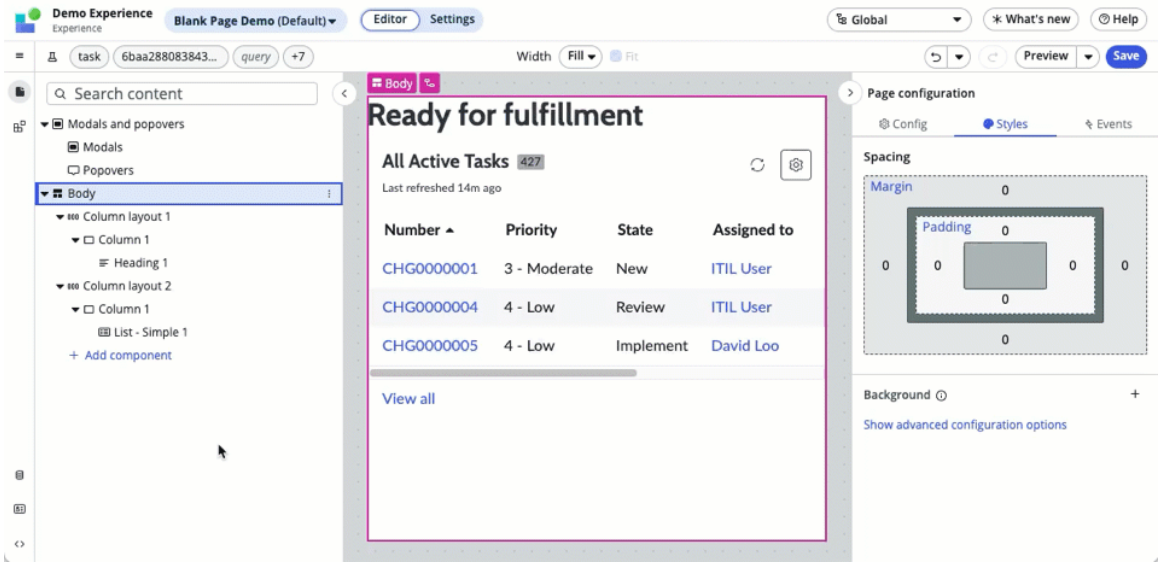
**3.** データフィールドでロックアイコンをクリックします。

**4.** プリセット値を上書きするデータ値を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**5.** [保存] を選択します。




タスクの結果
構成パネルのフィールドにカスタム値が表示されます。

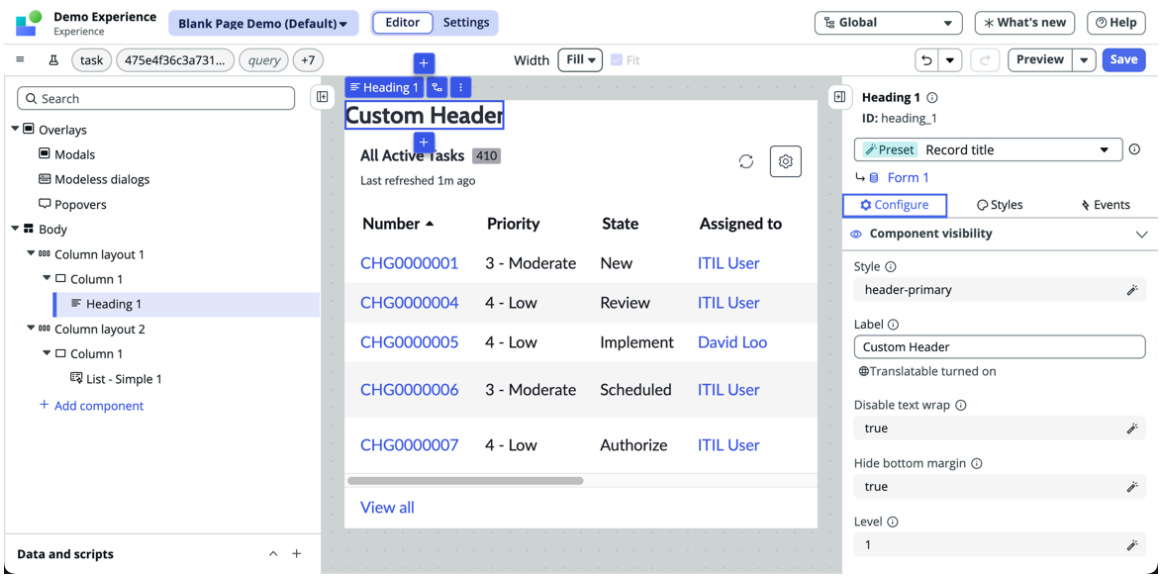
## コンポーネントのリセット

コンポーネントプリセットをデフォルト値にリセットします。

### 始める前に
必要なロール：admin

### 手順

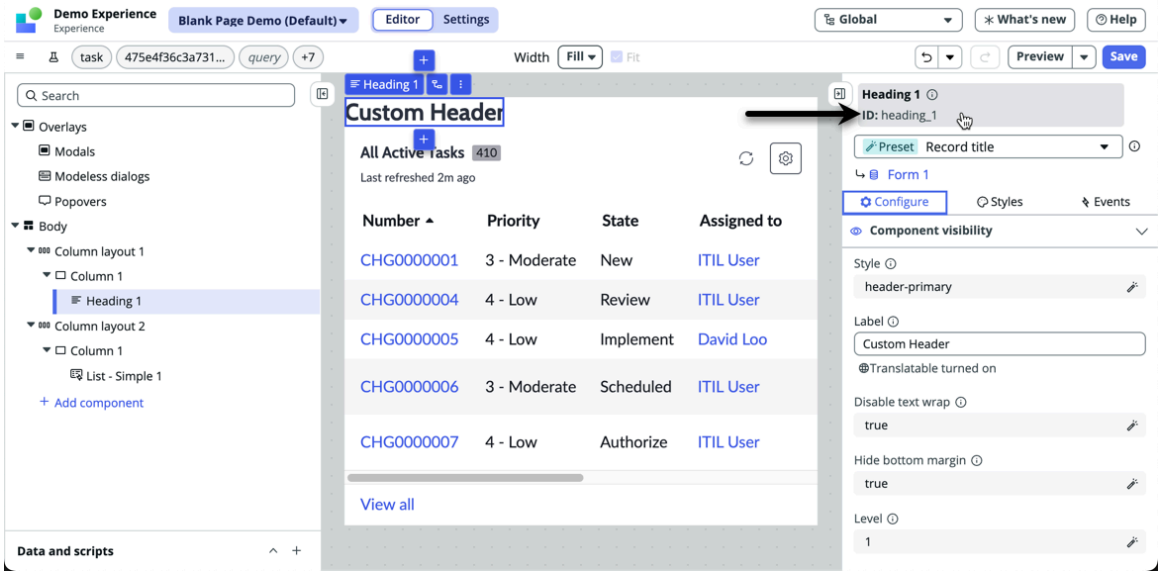
**1.** コンテンツツリーでリセットするコンポーネントを選択します。



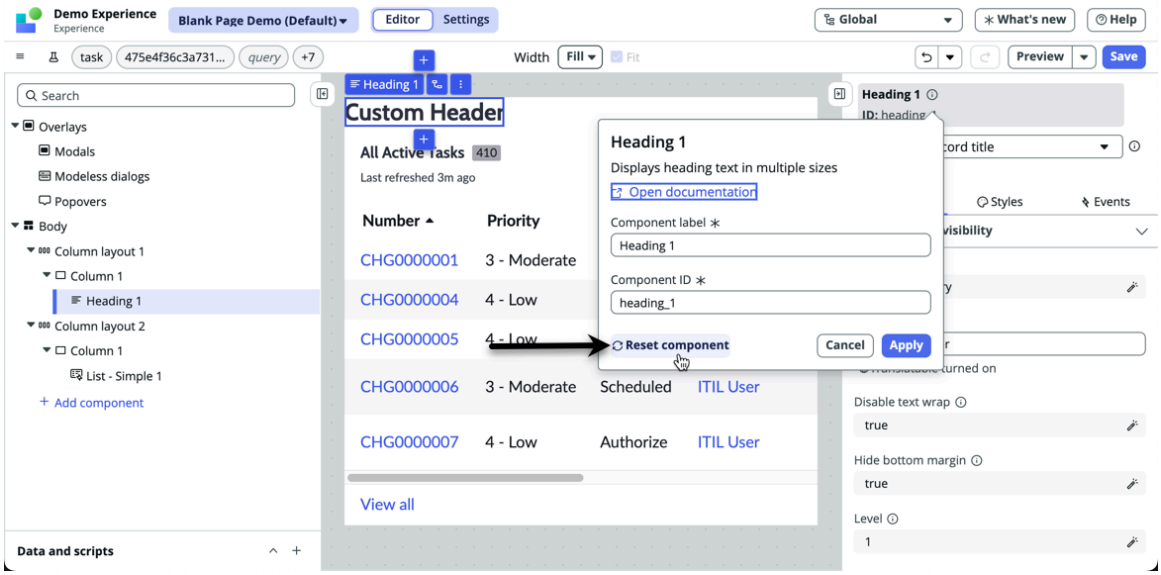

**2.** 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**3.** [コンポーネントをリセット] をクリックします。




**4.** [リセット] をクリックします。

タスクの結果
コンポーネントプリセットをデフォルト値にリセットします。

## コンポーネントのデフォルトの外観を変更する

コンポーネントとラッパーのスタイルを設定して、デフォルトの外観を変更します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
このタスクでは、コンポーネントとコンポーネントを含むラッパー (本文、列レイアウト、列など) にスタイルを追加する方法について説明します。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してコンポーネントのスタイリングをカスタマイズするか、コンポーネントをラッパー内に配置して複数のコンポーネントにスタイルを適用します。

エクスペリエンス全体にスタイリングを追加するには、「エクスペリエンスへのテーマの適用」の手順を実行する必要があります。

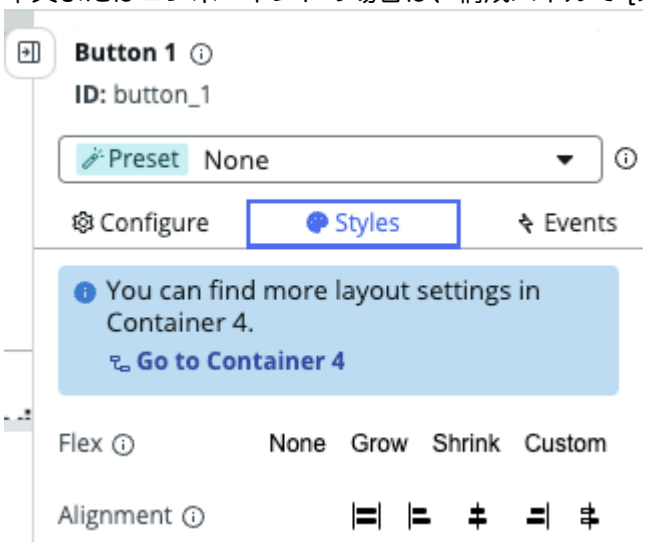
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクは、Washington DC で導入された新しいレイアウトシステムに適用されます。ページで古いレイアウトシステムを使用している場合は、詳細について「古いレイアウトシステムを使用したコンポーネントへのスタイリングの追加」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI Builder でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でページを作成する」を参照してください。
4. コンテンツパネルで、スタイリングを追加するコンポーネントまたはラッパー (本文、列レイアウト、列など) を選択します。
5. 本文またはコンポーネントの場合は、構成パネルで [スタイル] タブを選択します。




6. [スタイル] タブの視覚的表現を使用して、ページの外観に最適なものを決定します。

   アクセシビリティ (列レイアウトと列)

   ARIA リージョン名、ARIA リージョン見出しレベル、ARIA ロール、ARIA 見出しの包含などのアクセシビリティ設定を指定します。詳細については、developer.servicenow.com の ARIA ドキュメントを参照してください。

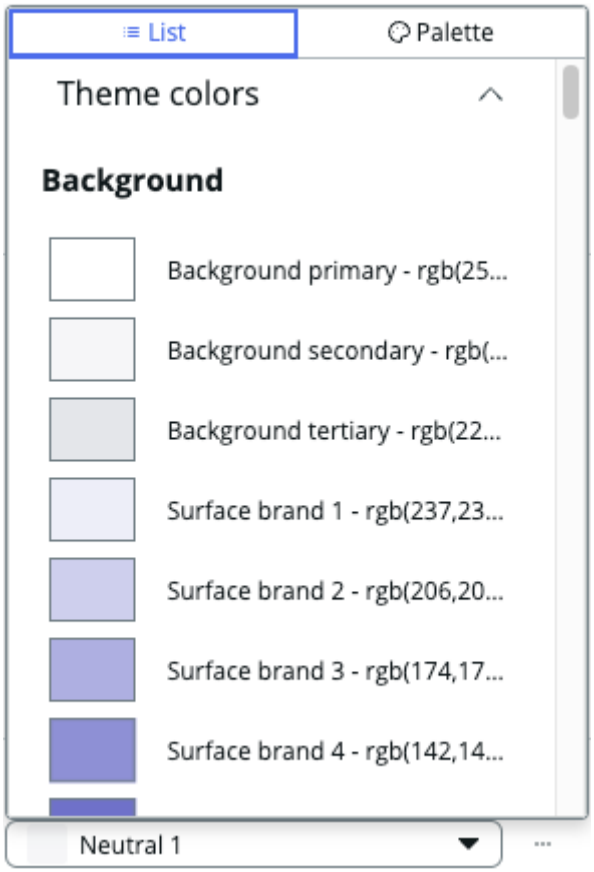
   配置 (列とコンポーネント)

   列の場合、列内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。コンポーネントの場合、列や列レイアウトなど、親レイアウト要素内でのコンポーネントの配置方法を定義します。

   背景 (本文、列レイアウト、列、およびコンポーネント)

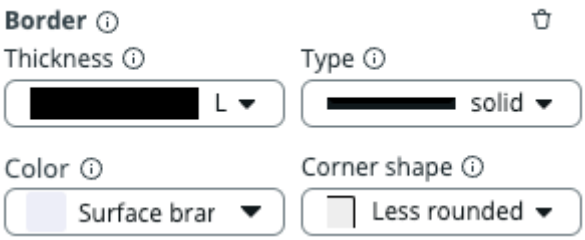
   レイアウト要素の背景色を設定します。テーマの色を含む [リスト] タブ、または HEX または RGBA で任意の色を指定できる [パレット] タブから色を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




境界線 (列レイアウト、列、およびコンポーネント)

コンテンツの周囲に境界線を追加します。この境界線は、余白のすぐ内側とパディングのすぐ外側に配置されます。境界線の太さ、タイプ、色、およびコーナー形状を指定します。コンポーネントの場合、境界線にカスタム CSS を使用するオプションがあります。




レイアウト (本文、列レイアウト、および列)

本文と列の場合は、方向、配置、およびコンテンツの両端揃えを指定します。列レイアウトの場合は、列数と列ギャップ (列間のスペース) を指定します。

シャドー (列レイアウト、列、およびコンポーネント)

コンテンツの周囲にシャドー効果を追加します。カスタム CSS を使用するオプションがあります。

サイジング (コンポーネント)

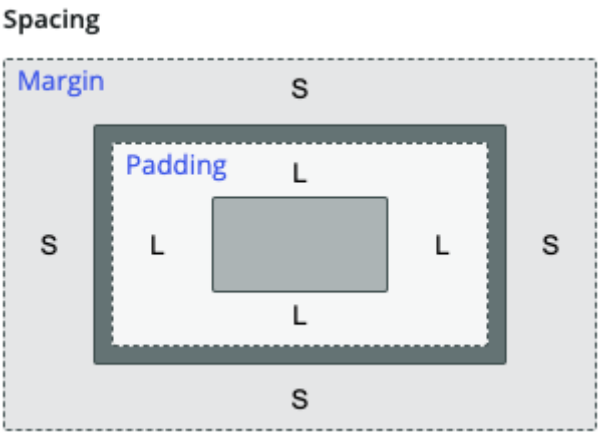
該当するコンポーネントについて、コンポーネントのデフォルト、最小、最大の高さと幅を設定します (px、%、em、rem、またはカスタム値)。この値は、ユーザーがブラウザーウィンドウのサイズを変更した際に適用されます。

自動翻訳

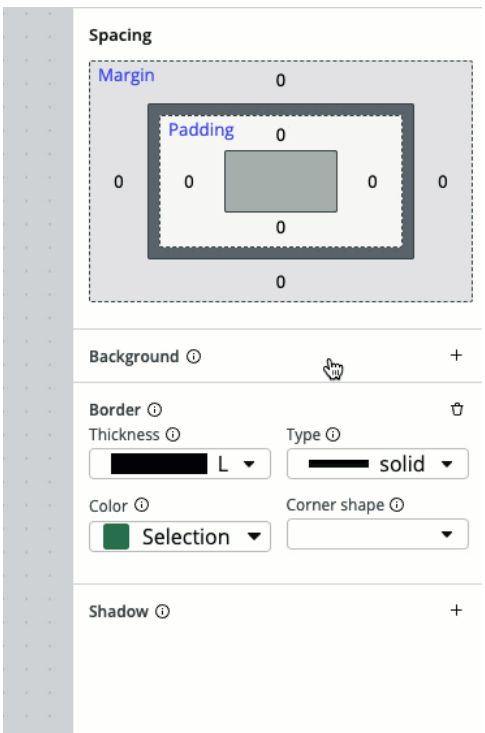
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スペース (本文、列レイアウト、およびコンポーネント)

マージンは、本文、列レイアウト、またはコンポーネントのすぐ内側のスペースのサイズを設定します。パディングは、本文、列レイアウト、またはコンポーネントのすぐ外側のスペースのサイズを設定します。4 つのサイドのすべてに同じサイズを設定するには、[マージン] または [パディング] を選択します。




現在の設定を選択してからオプションを選択することで、各マージンまたはパディングのサイドのサイズを設定できます。

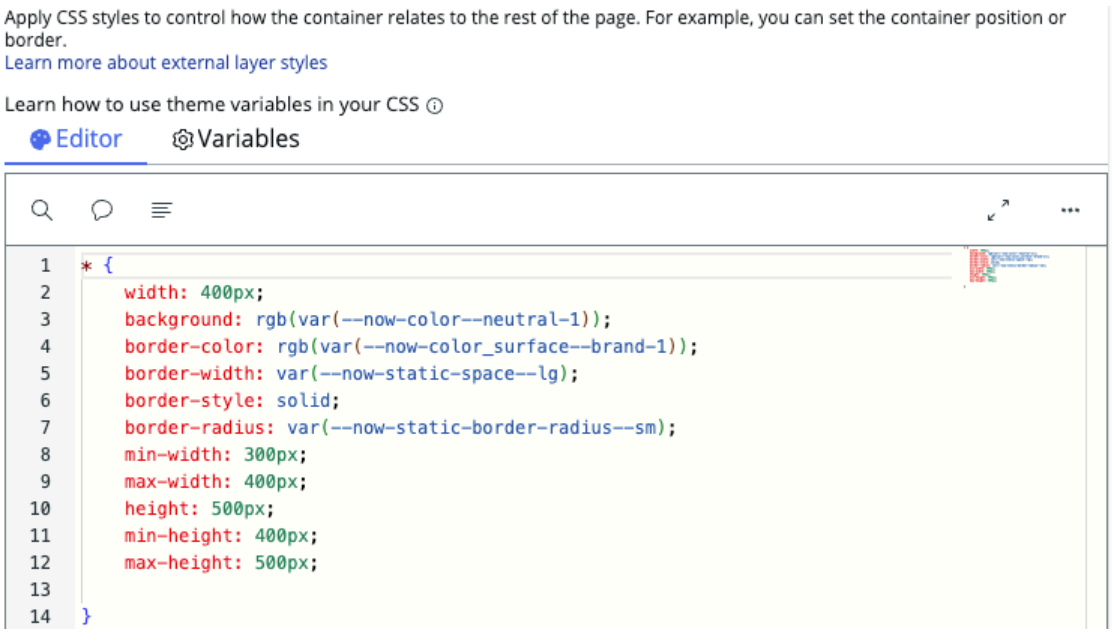



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

7. オプション: 本文およびコンポーネントの場合、CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある **[CSS** の表示と編集] リンクを選択します。
   [スタイル] タブに **CSS** スタイルコードエディターが表示されます。最も一般的に使用される CSS プロパティは次のとおりです。
   - background-color
   - background-image
   - border-style
   - border-width
   - border-color
   - border-radius
   - box-shadow
   - height
   - min-height
   - max-height
   - margin
   - overflow
   - padding
   - width
   - min-width
   - max-width
   - z-index




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **重要:**
> 一部のコンポーネントには、UI ビルダー の CSS で上書きできないビルトインのスタイリング構成が含まれています。これらのスタイル構成を上書きするには、「エクスペリエンスへのテーマの適用」の手順を実行する必要があります。

8. メインヘッダーで、[保存] を選択して変更を保存します。

### 古いレイアウトシステムを使用したコンポーネントへのスタイリングの追加

コンポーネントの CSS スタイルを設定して、デフォルトの外観を変更します。

#### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

#### このタスクについて
このタスクでは、コンポーネントを含むラッパーにスタイルを追加する方法について説明します。通常は、コンポーネントにスタイルを直接適用するのではなく、この方法をお勧めします。スタイルを定義するコンポーネントがコンテナコンポーネント内に配置され、コンポーネントがラッパーに配置されていることを確認します。コンポーネントのラッパーはコンテンツ階層内のコンポーネントより 1 レベル高く、デフォルトでは「メイン」というラベルが付けられています。

ページ全体にスタイリングを追加するには、ページのラッパーで標準ベースの CSS を使用できます。エクスペリエンス全体にスタイリングを追加するには、「エクスペリエンスへのテーマの適用」の手順を実行する必要があります。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI Builder でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でページを作成する」を参照してください。

   > **注:**
   > コンポーネントにスタイルを追加する前に、コンポーネントをコンテナに配置する必要があります。

4. スタイルを追加するコンポーネントを保持するコンテナを選択します。
   通常、コンテナはコンテンツツリー内のコンポーネントよりも 1 つ上のレベルにあります。
   構成パネルに [スタイル] タブが表示されます。
5. [CSS スタイル] ウィンドウで、標準ベースの CSS プロパティと値を入力します。
   次の CSS プロパティは、コンテナ内のコンポーネントにスタイルを適用するために最も一般的に使用されます。
   - background-color
   - background-image
   - border-style
   - border-width
   - border-color
   - border-radius

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



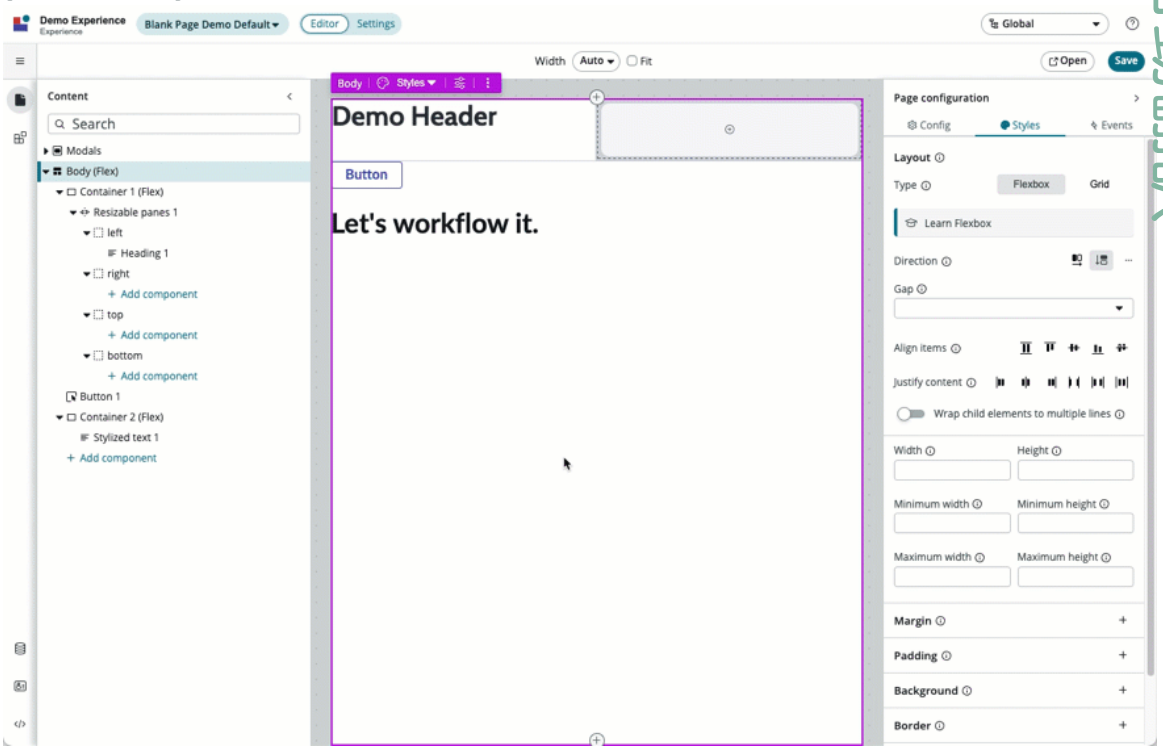
自動翻訳

- box-shadow
- height
- min-height
- max-height
- margin
- overflow
- padding
- width
- min-width
- max-width
- z-index

> **重要:**
> 一部のコンポーネントには、UI ビルダー の CSS で上書きできないビルトインのスタイリング構成が含まれています。これらのスタイル構成を上書きするには、「エクスペリエンスへのテーマの適用」の手順を実行する必要があります。

**6.** メインヘッダーで、[保存] を選択して変更を保存します。

[スタイル構成] パネルでコンポーネントにスタイルを追加する




## コンポーネントの複製

ページで再利用する構成済みコンポーネントを複製します。

### 始める前に

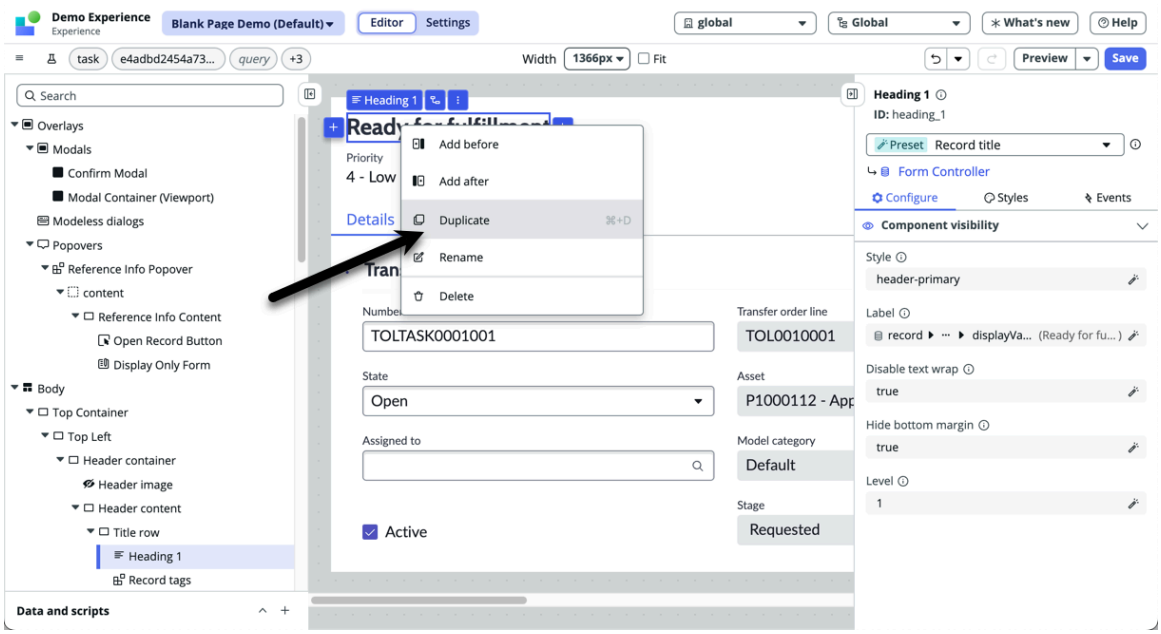
必要なロール：ui_builder_admin または admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
名前と ID を除いて、ページに構成されたコンポーネントの正確なコピーを作成します。複製されたコンポーネントは、すべてのプロパティ、バインディング、およびイベントをコピーします。複製されたコンポーネントは、コピーされたコンポーネントの直後に表示されます。タブコンポーネントが複製されると、すべてのタブとその子がコピーされ、その名前と ID が一意になります。

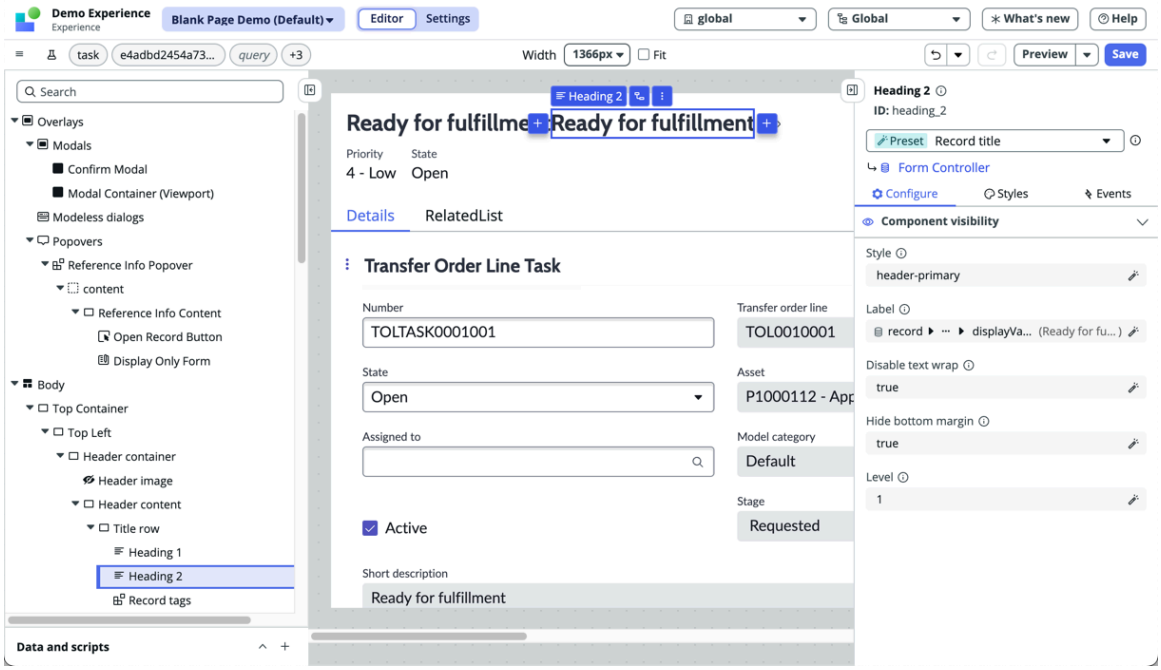
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 複製するコンポーネントを含むページバリアントを開きます。
4. 複製するコンポーネントを選択します。
5. コンポーネントを右クリックします。
6. [複製] を選択します。
   キーボードショートカットの **cmd + D** (Mac) または **ctrl + D** (Windows) を使用することもできます。




複製されたコンポーネントは、コンテンツツリーでコピーされたコンポーネントの下に表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

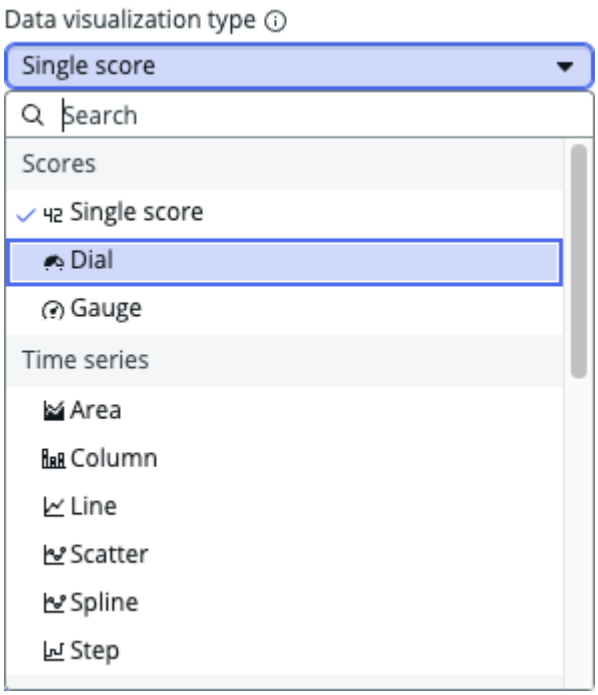



**7.** [保存] を選択します。

## UI ビルダー でのデータ表示方法の変更

ドロップダウンリストを使用してデータ表示方法をリアルタイムで変更し、エクスペリエンスでデータをプレビューします。

構成パネルのドロップダウンを使用してデータ表示方法タイプを変更し、さまざまなデータ表示方法タイプをプレビューできます。それぞれのデータ表示方法は、エクスペリエンスを使用するユーザーごとに異なるデータを表示するように構成できます。[データ表示方法タイプ] にあるドロップダウンを選択して、さまざまなタイプのデータ表示方法をプレビューします。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

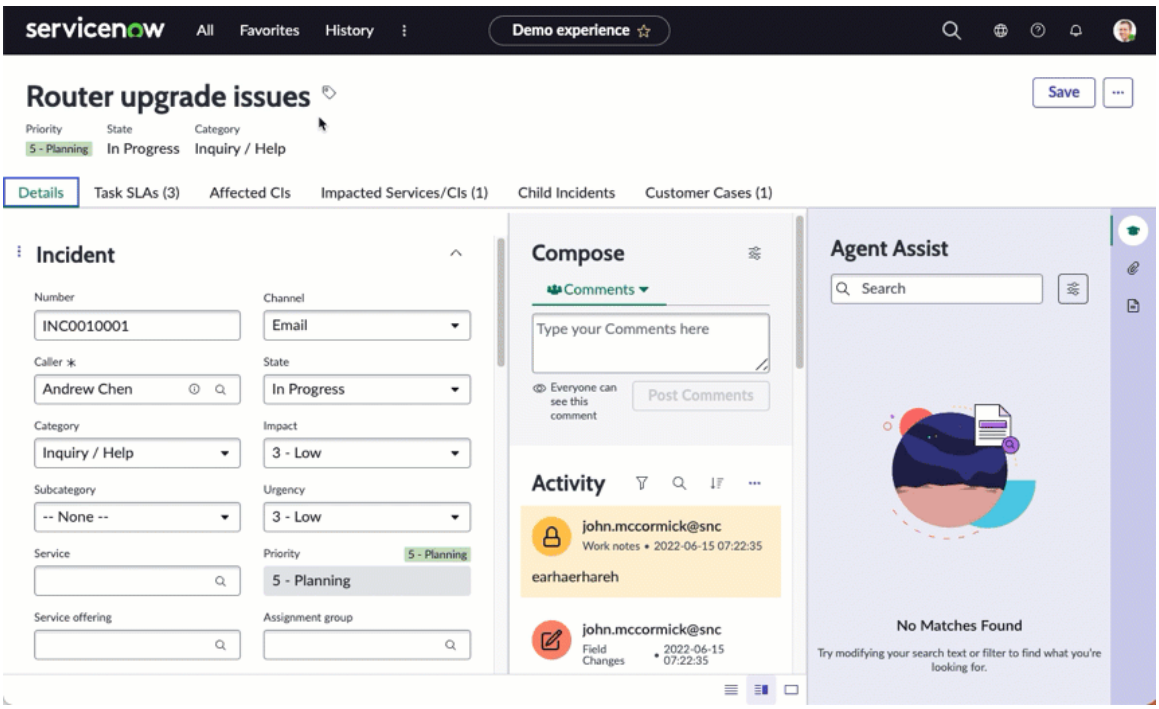
選択したデータ表示方法のプレビューがページに表示されます。データビジュアル化コンポーネントをエクスペリエンスに追加する方法については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

### UI Builder ページにタブ付きコンテンツを追加

タブコンポーネントを使用して、UI ビルダー のページにタブ付きコンテンツを追加します。

タブコンポーネントをページに追加して、UI ビルダー ページに追加のナビゲーションを作成します。タブコンポーネントを使用して、ページ上のタブ内でコンポーネントをネストします。タブは、コンテンツの上部の水平タブとして、またはコンテンツの左側か右側の垂直タブとして構成できます。

タブコンポーネントの例




タブは構成パネルで整理して、UI ビルダー ページでの表示順序を並べ替えることができます。カスタムラベルとアイコンをタブに追加して、タブ間を移動するための一意の視覚的識別子を提供します。

次のいずれかのタイプのタブを UI ビルダー ページに追加できます。

- 空のコンテナタブ
- リピータータブ
- 関連リストタブ
- ページコレクションタブ

タブコンポーネントは、静的なタブ、リピーターのタブ、関連リストのタブ、およびページコレクションのタブの任意の組み合わせをサポートします。さらに、ビューポートタブモードを使用して一連のビューポートを追加することもできます。

#### 空のコンテナタブの追加

空のコンテナタブを使用して、ページ上に静的なタブのセットを手動で作成します。

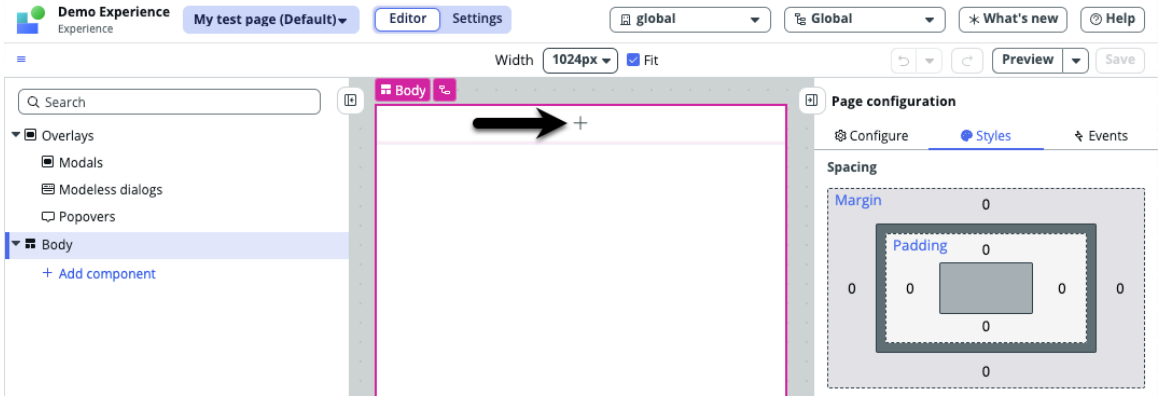
始める前に
必要なロール：管理者

自動翻訳

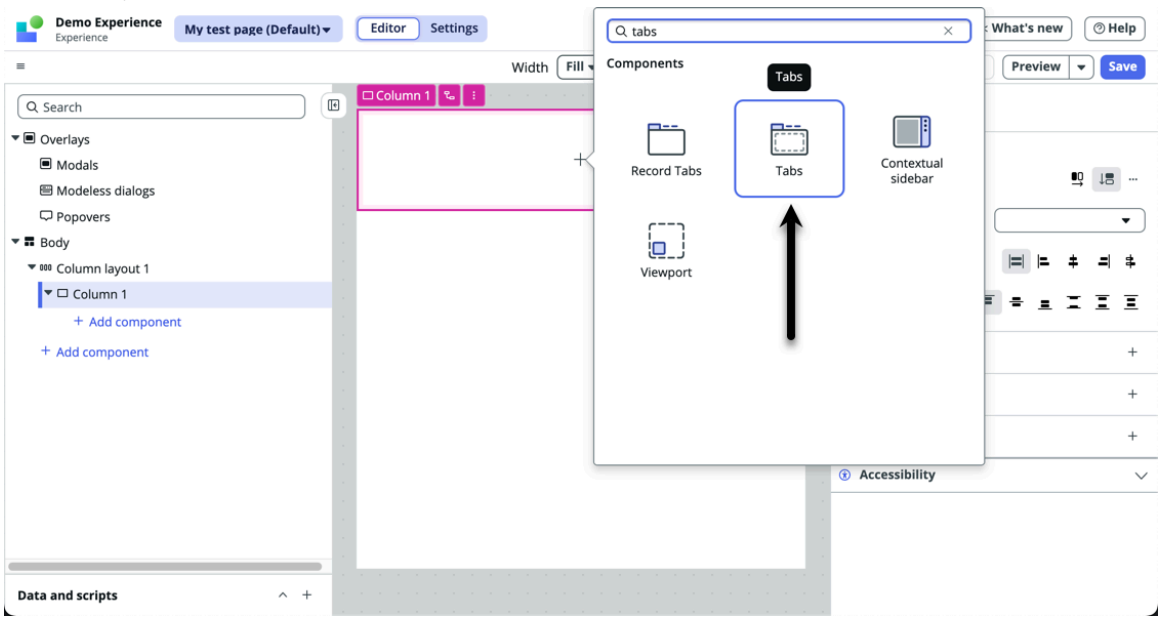
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ステージの **[+]** アイコンを選択して、ツールボックスを開きます。




5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。

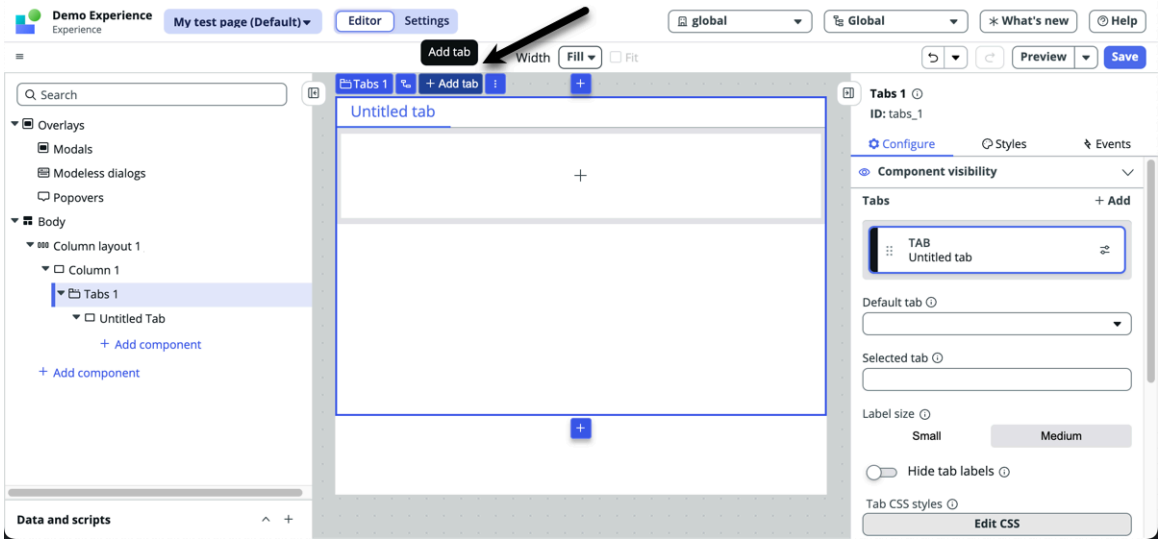



コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

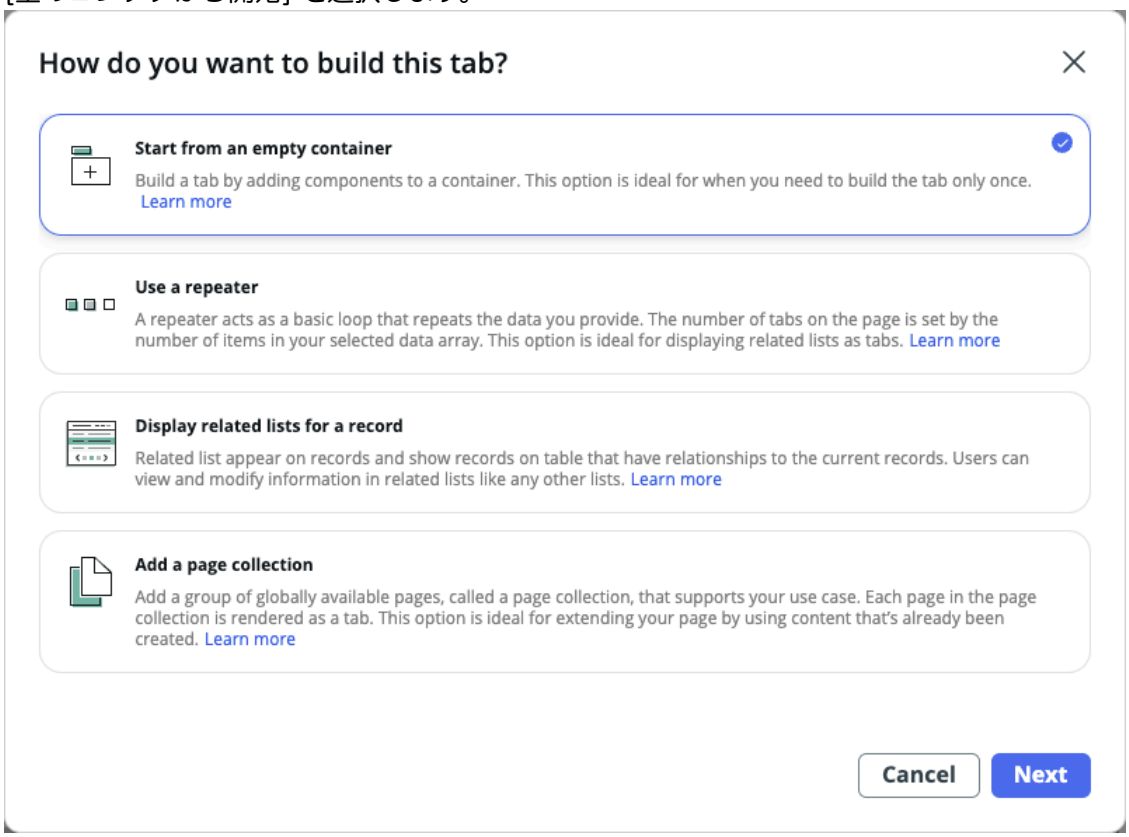
8. ステージで **[+** タブを追加 ] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




9. [空のコンテナから開始] を選択します。




10. [次へ] を選択します。
11. フォームのフィールドに入力します。

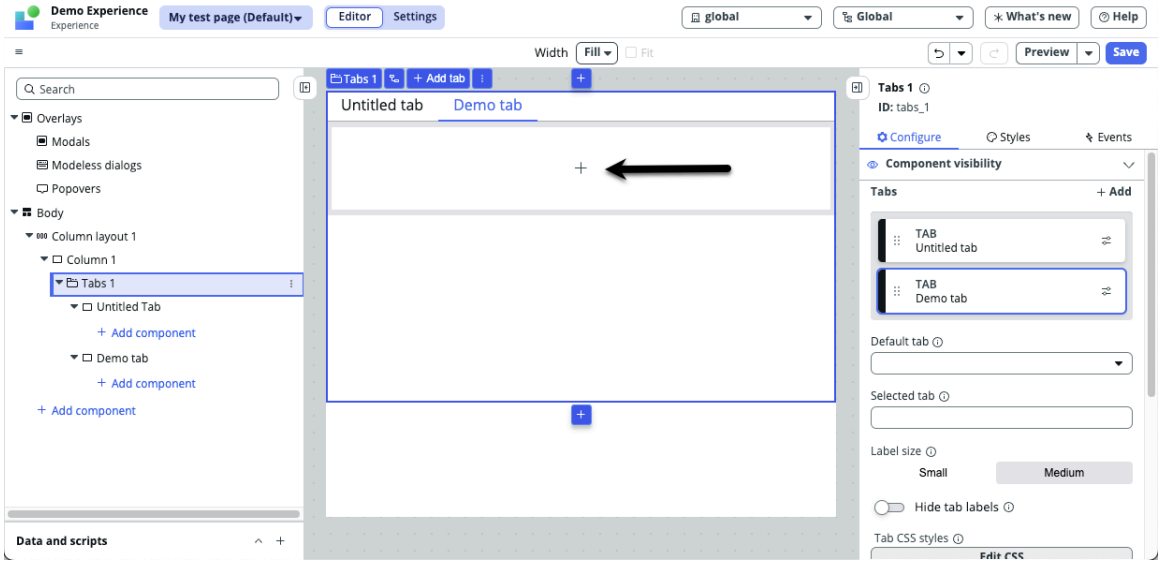
タブの設定フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タブラベル | ページに表示するタブのラベル。 |
| アイコン | タブラベルの横に表示されるアイコン。アイコンは必須ではありません。 |
| タブを非表示 | タブを表示するか非表示にするか。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [作成] を選択します。
    新しいタブがタブコンポーネントに表示されます。
13. 新しいタブを選択します。
14. **[+]** アイコンを選択します。




15. タブに追加するコンポーネントを選択します。
    コンポーネントは、コンテンツツリーでネストされているタブの下に表示されます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

### タスクの結果

ページには、作成した 2 つのタブが表示されます。各タブを選択して、さらに構成したり、スタイリングを追加したり、イベントハンドラーを追加したりします。スタイリングの詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。イベントハンドラーの追加の詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

## リピータータブの追加

タブコンポーネントを使用して、タブをデータアレイにリンクして、一連のリピータータブを作成します。

### 始める前に

必要なロール：admin

### このタスクについて

リピータータブを使用して、指定したデータアレイに基づいて複数のタブを作成できます。オブジェクトのキーとして、アイコン、ラベル、カウント、およびフィールドを渡すことができます。ラベルキーを使用して、タブに名前を追加します。フィールドキーを使用して、情報をリピータータブに渡します。データブローカー、クライアントステータス、またはクライアントスクリプトをデータアレイプロバイダーにバインドして、正しいスキーマを持つオブジェクトのアレイを返すことができます。

### 手順

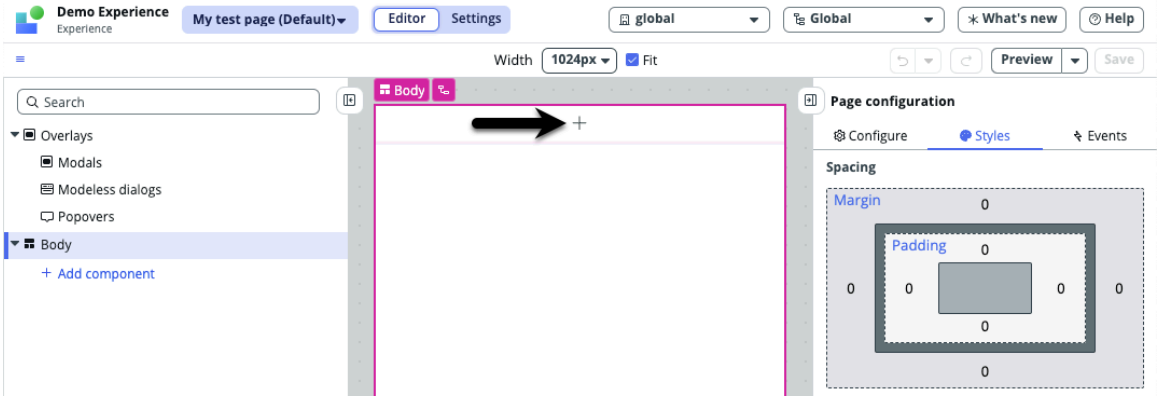
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

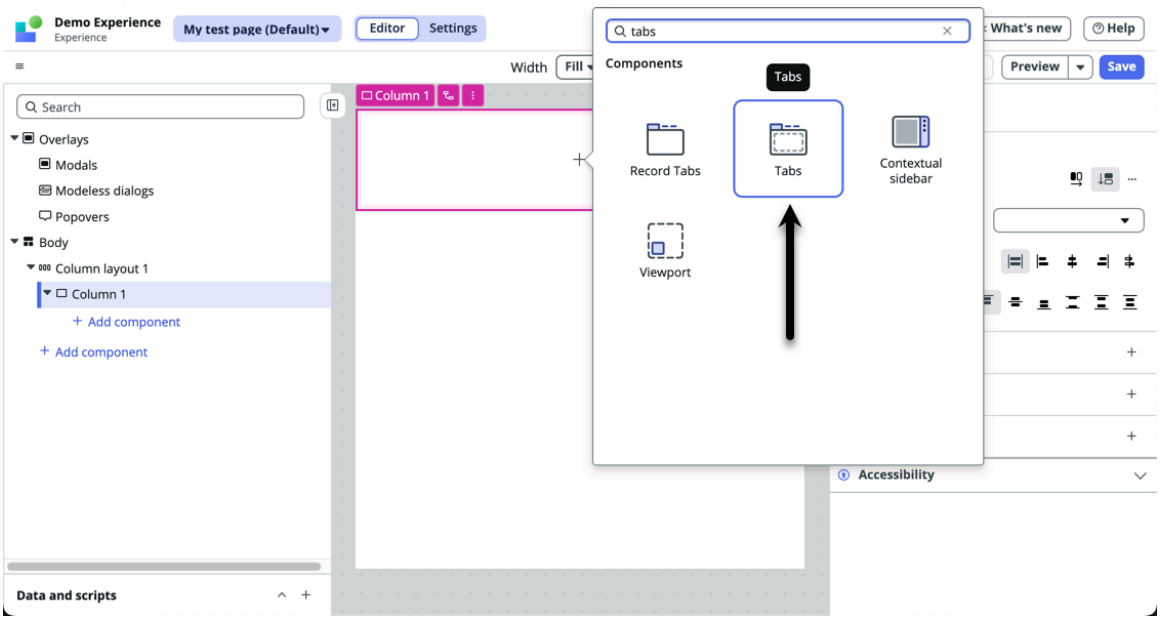


自動翻訳

3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ステージの **[+]** アイコンを選択して、ツールボックスを開きます。




5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。

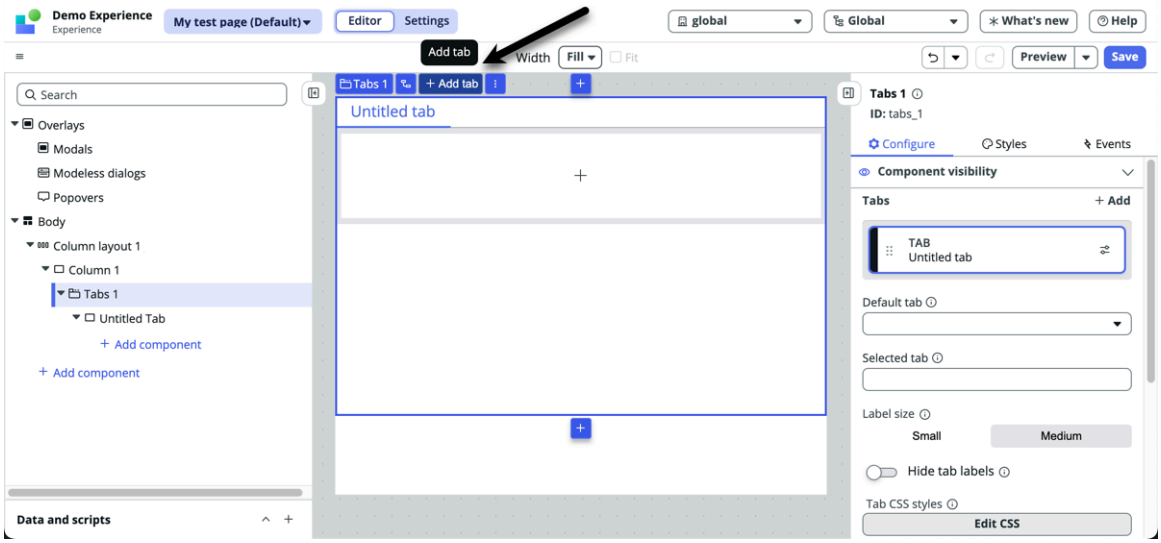



コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

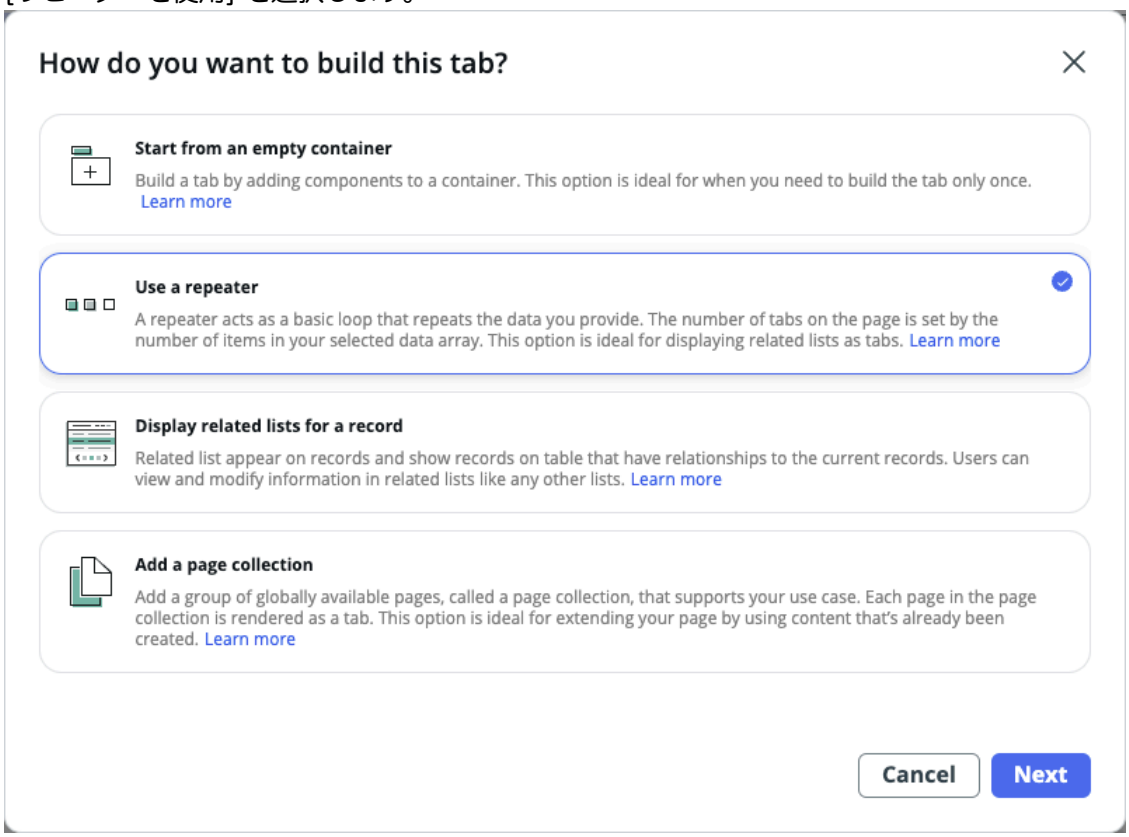
8. ステージで **[+** タブを追加 ] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



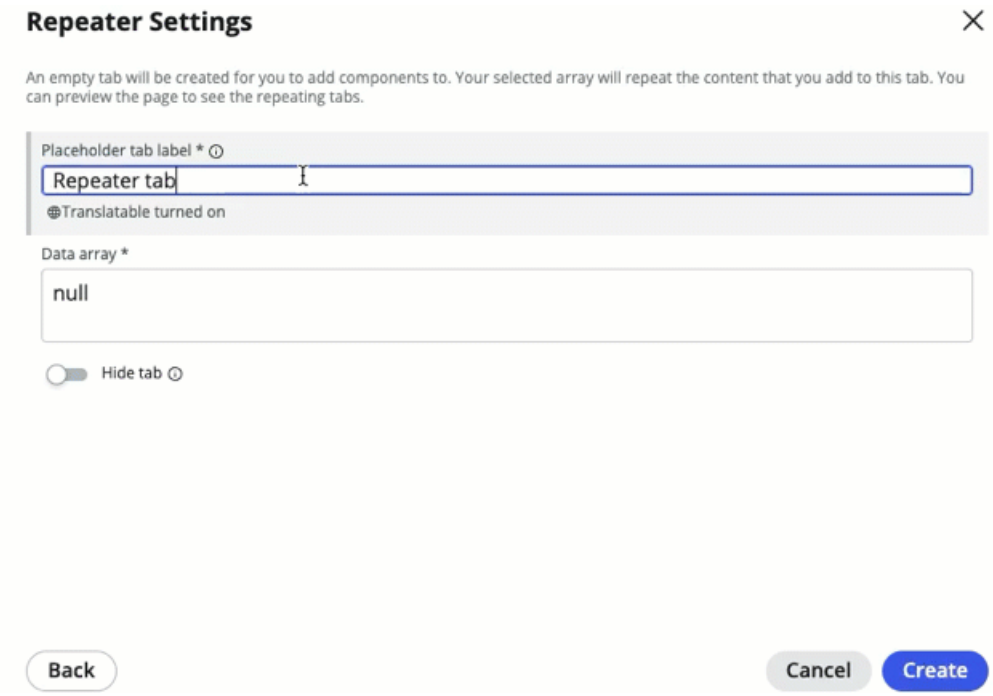

9. [リピーターを使用] を選択します。




10. [次へ] を選択します。
11. [プレースホルダータブラベル] フィールドにリピータータブのラベルを入力します。
このラベルは最初のリピータータブにアサインされ、ページプレビューに表示される唯一のタブです。
12. [データ配列] フィールドで [編集] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



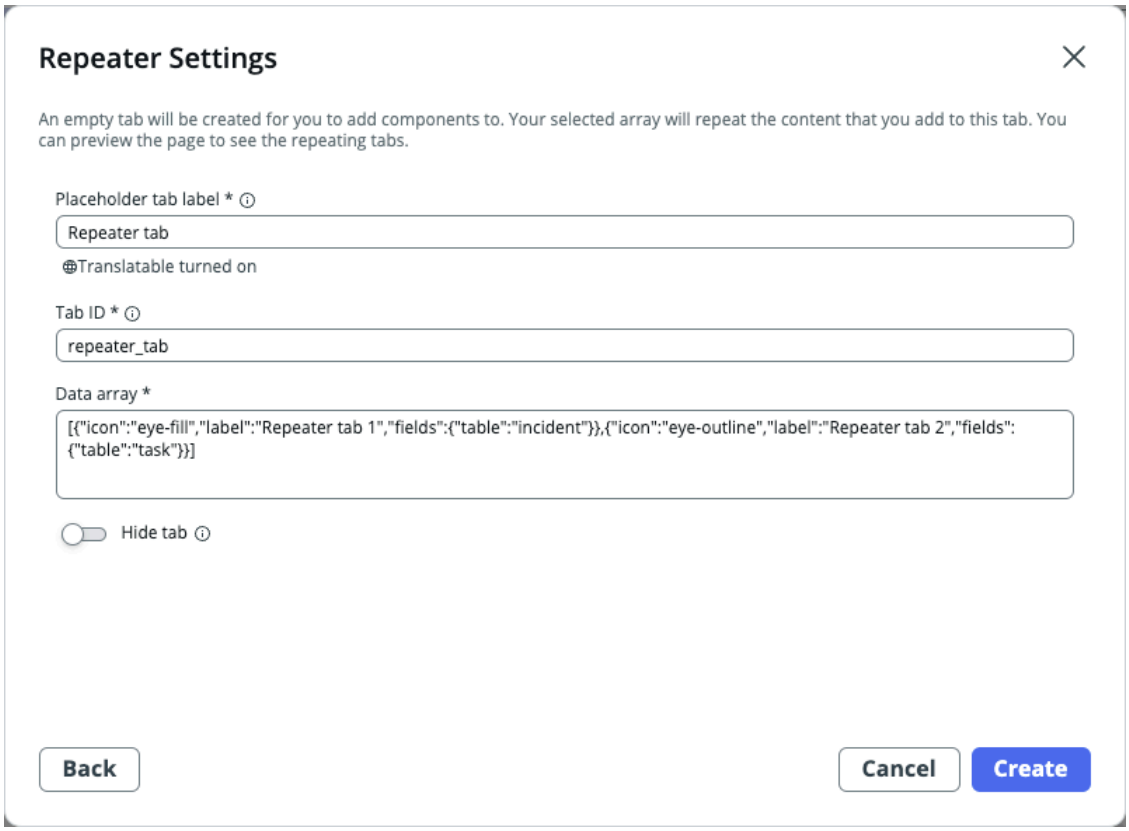

**13.** JSON エディターでデータアレイを構成します。

| キー | データタイプ | 説明 |
|---|---|---|
| アイコン | 文字列 | UI ビルダー に表示されるアイコンの名前。 |
| ラベル | 文字列 | 必須。UI ビルダー でのタブの表示名。 |
| カウント | 番号 | タブラベルに指定する値。ラベルに表示されるデータブローカーまたはクライアントスクリプトに動的にバインドします。 |
| フィールド | オブジェクト | 情報を格納し、タブ内のコンポーネントに渡すために使用できるオブジェクト。 |

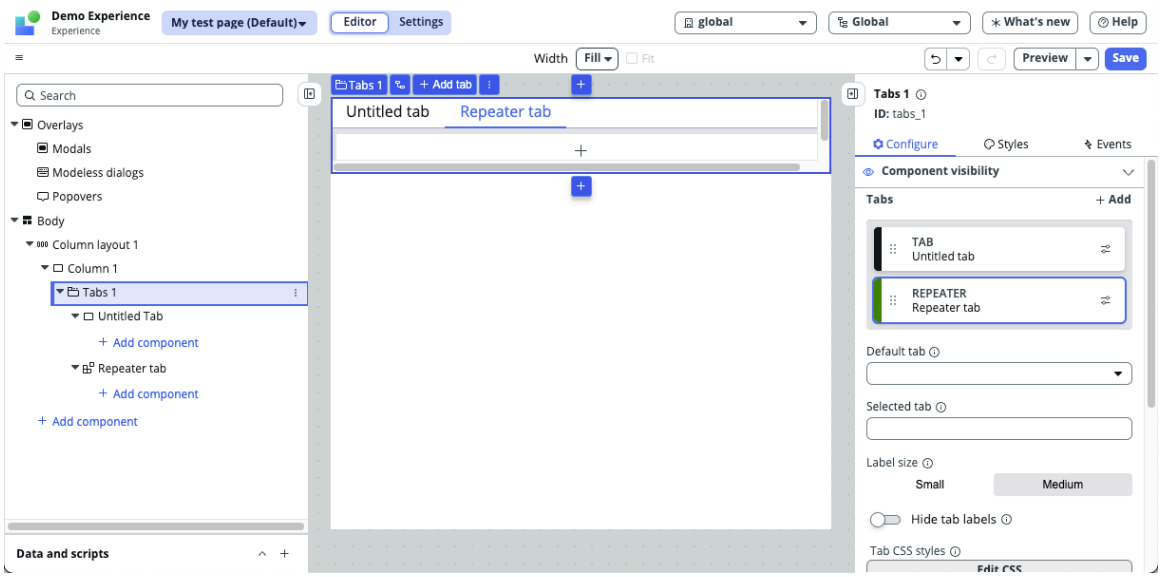
**14.** [適用] を選択します。
データアレイフィールドには、データアレイの構成が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**15.** [作成] を選択します。
新しいリピータータブが、ページとコンテンツツリーに表示されます。プレースホルダータブのみがページを編集するときに表示されます。




**16.** [保存] を選択します。

**17.** [プレビュー] ボタンを選択してページをランタイムで開きます。

## 関連リストタブの追加

関連リストにリンクすることで、ページ上に一連のタブを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



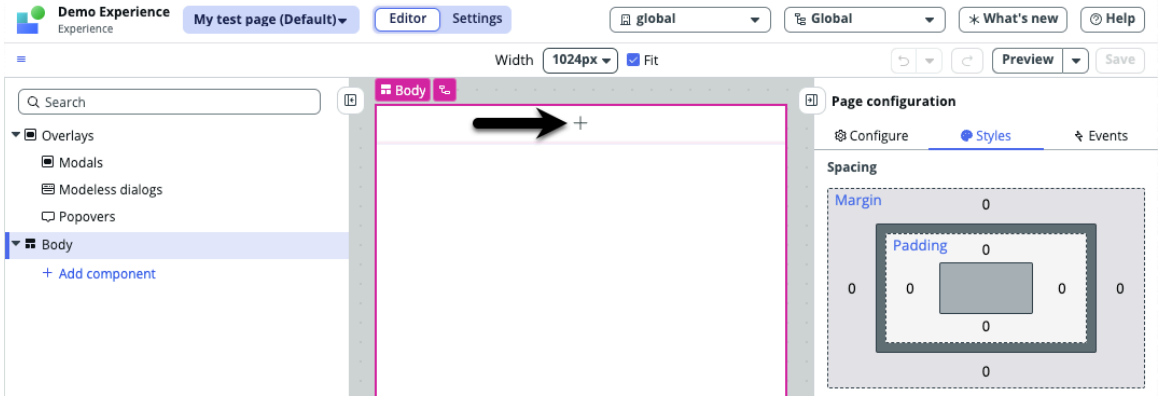
自動翻訳

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
関連リストタブは、ページに表示されているレコードに基づいて自動的に入力されます。たとえば、デフォルトでは、ユーザーテーブルの関連リストは、[ロール]、[グループ]、[代理人]、および [可視性ドメイン] です。ページにユーザーレコードが表示されている場合、関連リストタブを作成すると、これらの 4 つの関連リストがすべてページに追加されます。ページをプレビューすると、追加された関連リストを確認できます。関連リストタブを作成するには、レコードコントローラーが必要です。コントローラーをページに追加する方法の詳細については、「コントローラーを使用した UI Builder ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

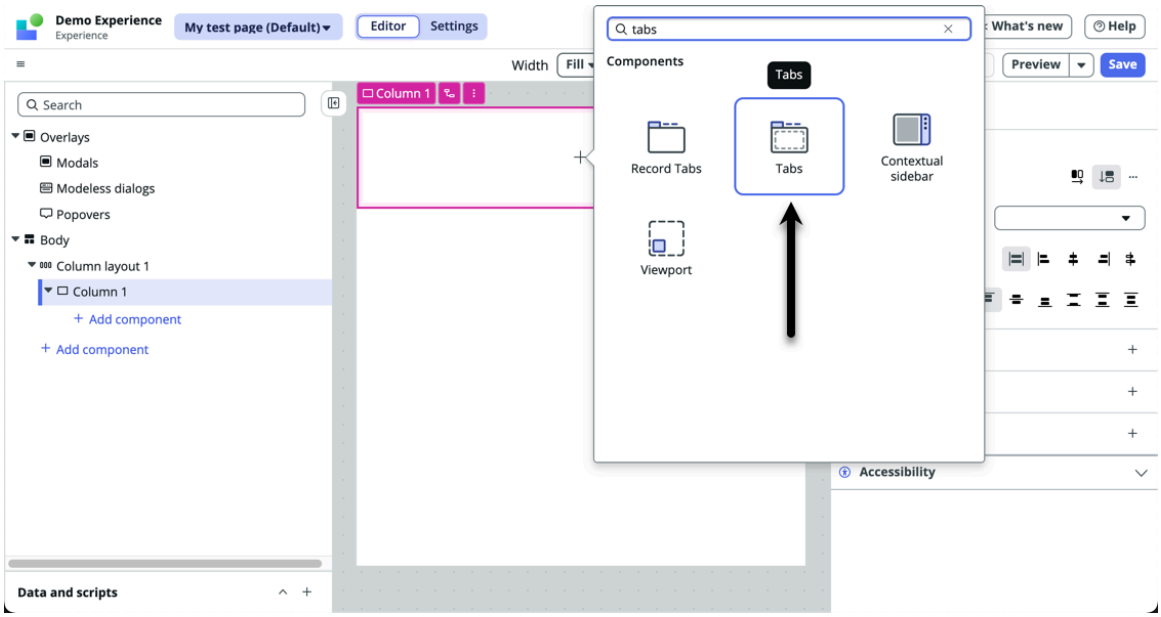
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** エクスペリエンスを作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ステージの **[+]** アイコンを選択して、ツールボックスを開きます。



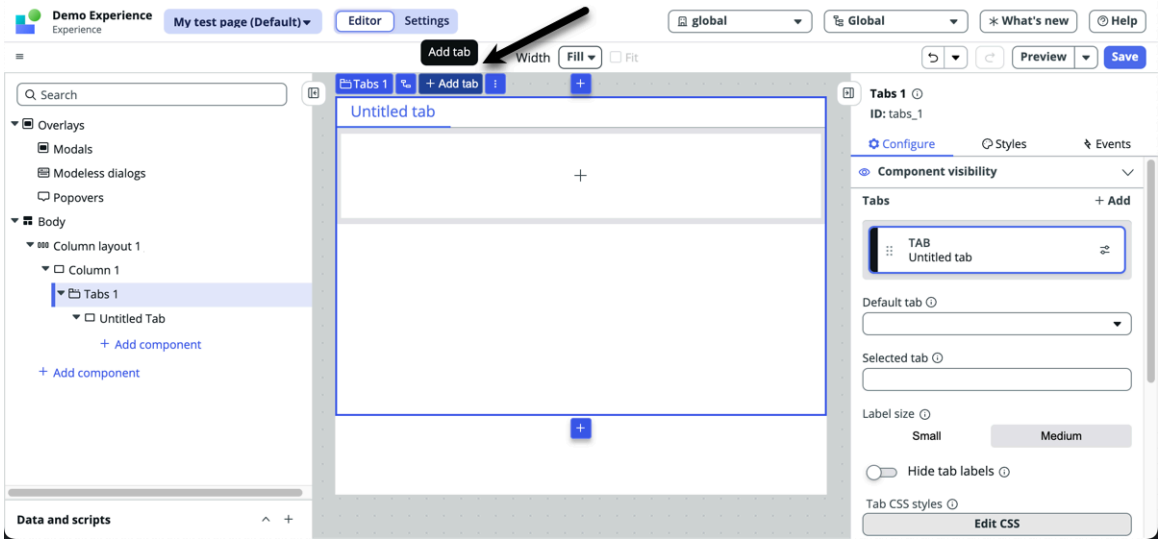

5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



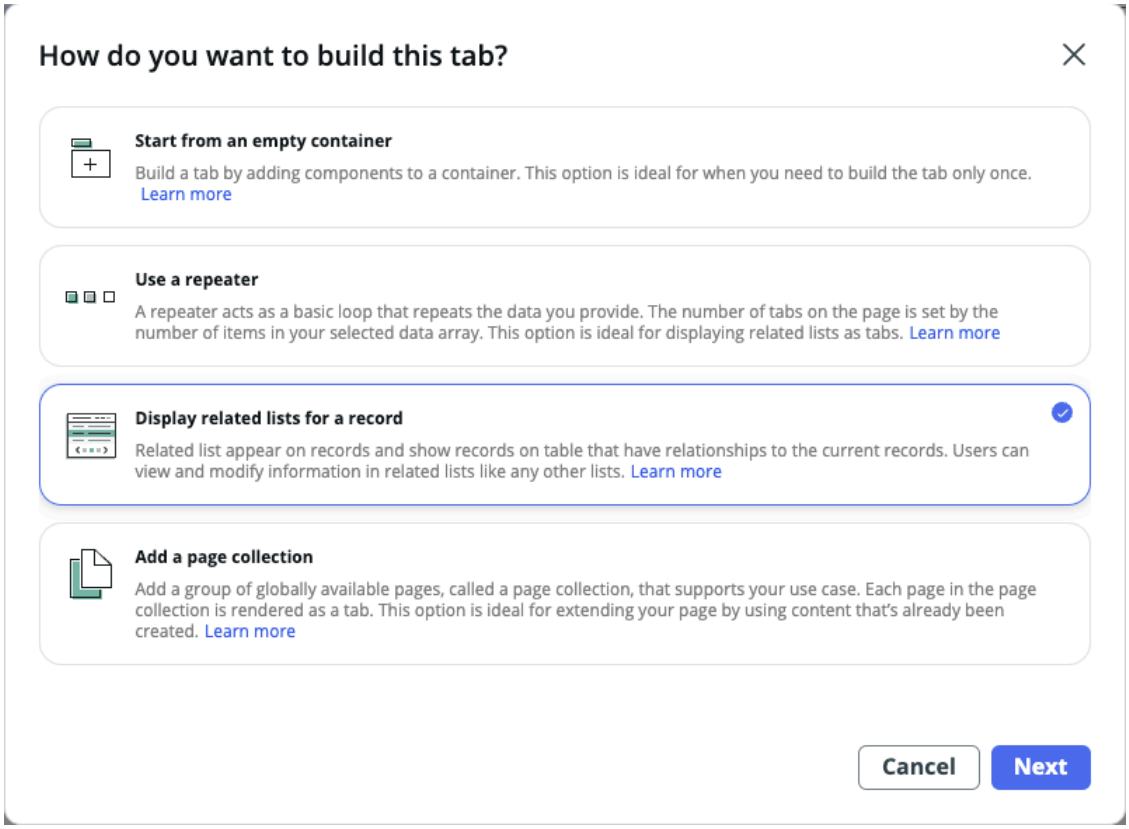

コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加 ] を選択します。




9. [レコードの関連リストを表示] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




10. [次へ] を選択します。
11. フォームのフィールドに入力します。

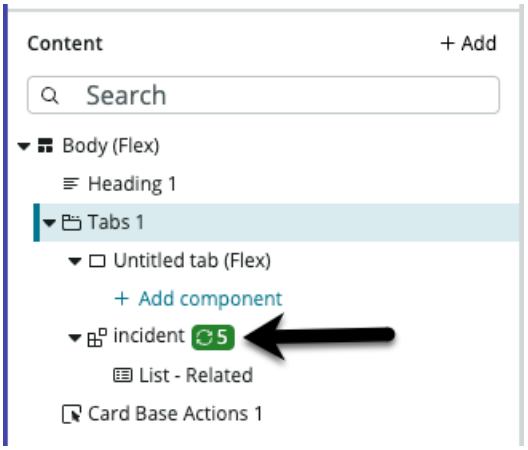
タブの設定フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| プレースホルダータブラベル | ページのプレビュータブに表示されるプレースホルダーラベル。 |
| タブを非表示 | タブを表示するか非表示にするかを指定します。 |
| レコードコントローラー | 関連リストがあるレコードコントローラー。 |

12. [作成] を選択します。
新しい関連リストタブが、構成パネルの [タブ] セクションに表示されます。1 つのプレースホルダータブのみがページプレビューに表示されます。コンテンツツリーの関連リストタブの横にある緑色のアイコンは、ページに表示されるタブの数を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




13. [保存] を選択します。
14. [プレビュー] ボタンを選択してページをテストします。

## ページコレクションタブの追加

UI ビルダー の複数のページにまたがって同じタブを再作成するには、ページコレクションタブを使用します。

### 始める前に

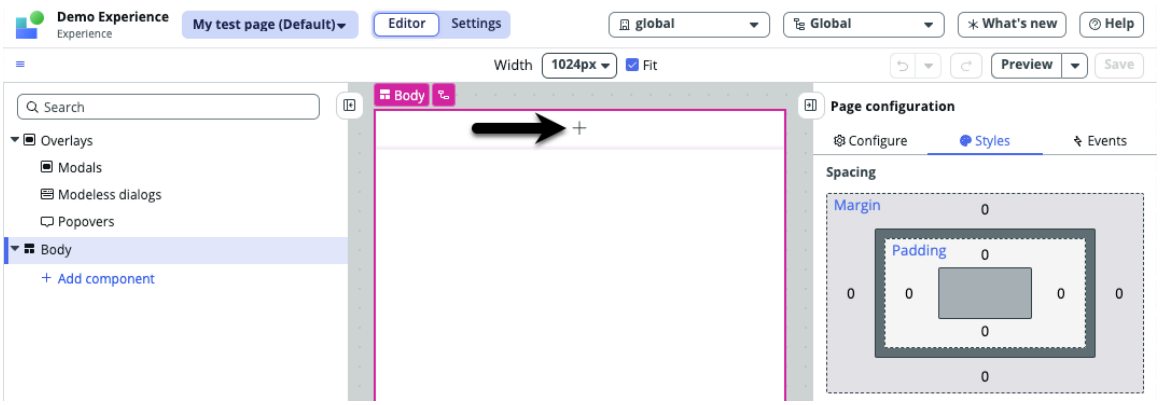
必要なロール：admin

### このタスクについて

ページコレクションは、構築済みの、グローバルに利用可能なページのグループです。ページコレクションタブを使用して、ページコレクション内の各ページをタブとして表示します。既存のページコレクションを選択することも、独自のページコレクションを作成することもできます。ページコレクションを追加するには、コントローラーが必要です。

### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ステージの **[+]** アイコンを選択して、ツールボックスを開きます。

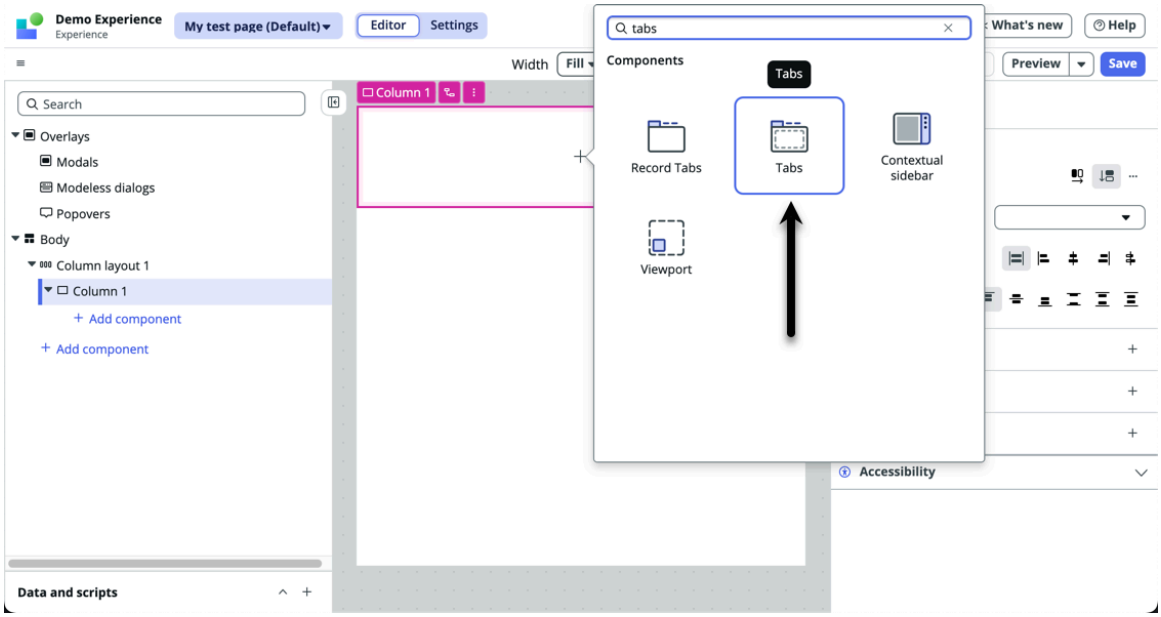



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



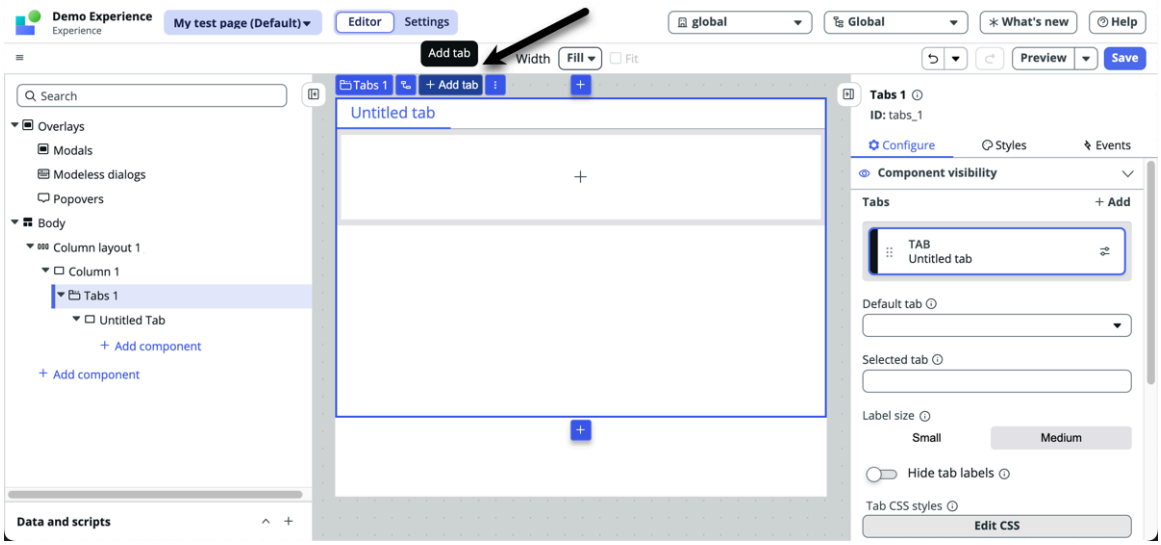
自動翻訳

5. 1列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。



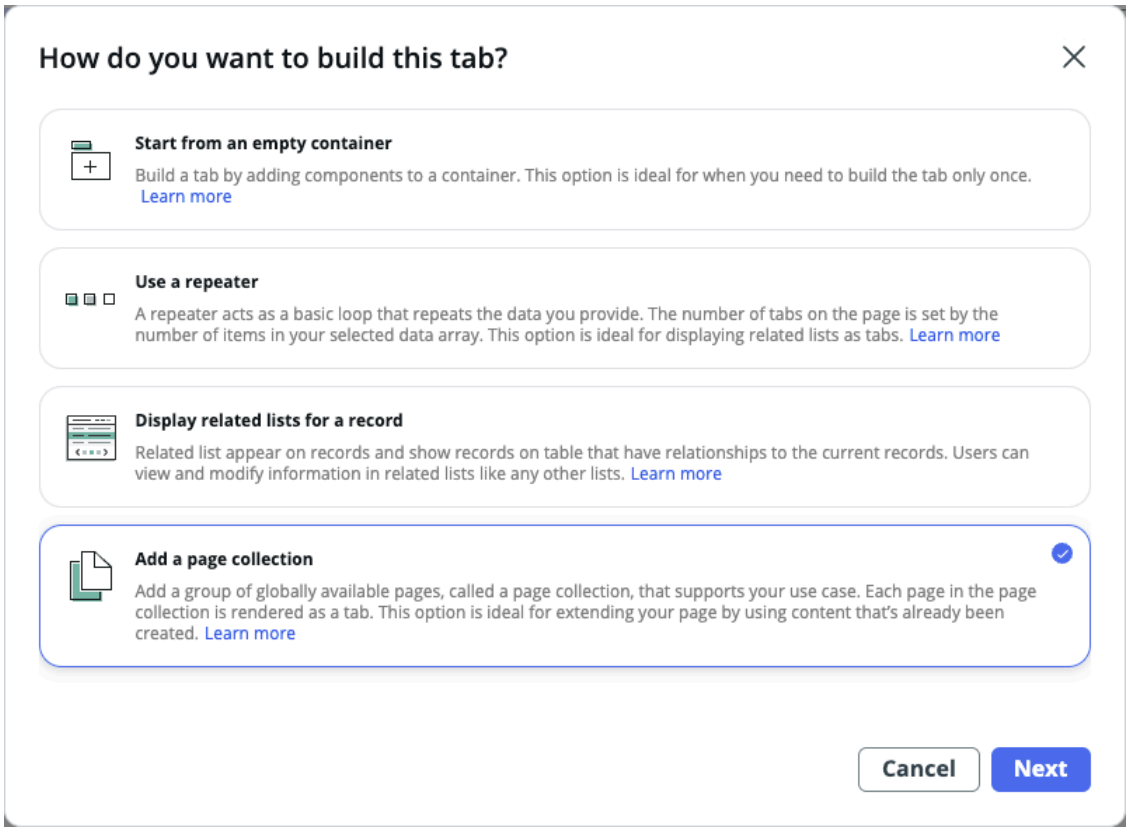

コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加 ] を選択します。

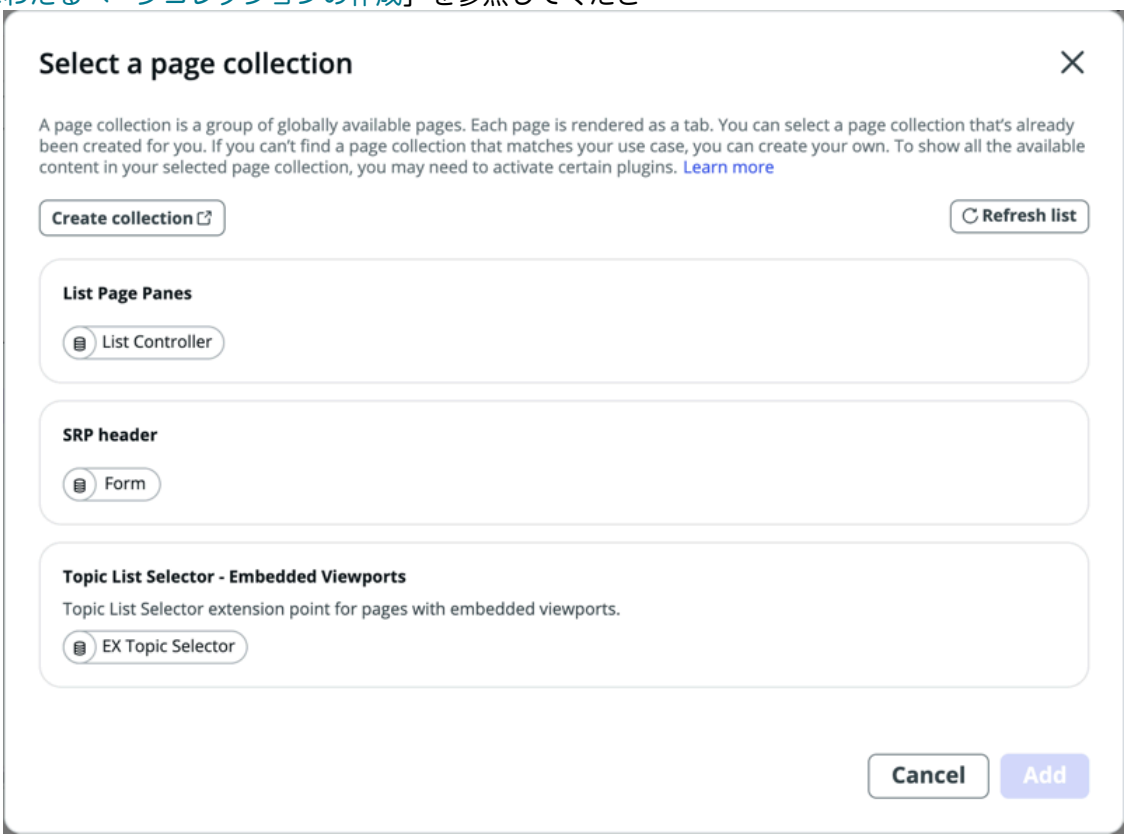



9. [ページコレクションを追加] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



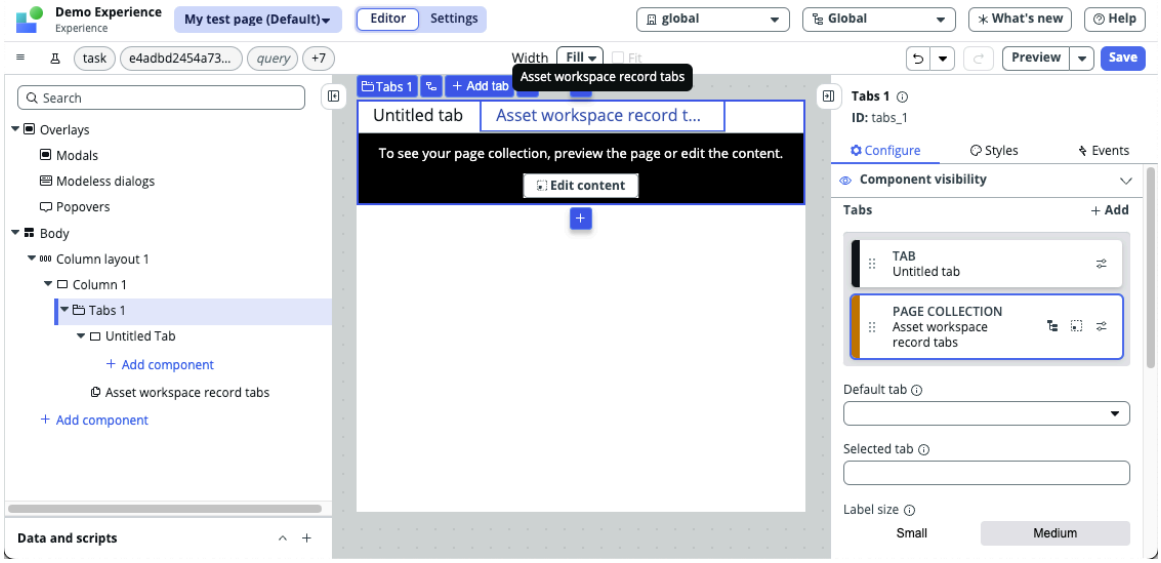

10. [次へ] を選択します。
11. リストからページコレクションを選択するか、**[+** コレクションを作成] を選択してコレクションを作成します。
    独自のページコレクションを作成するには、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してください。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [追加] を選択します。
新しいページコレクションが構成パネルの [タブ] セクションに表示されます。1 つのプレースホルダータブのみがページプレビューに表示されます。




13. [保存] を選択します。

14. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

## 複数の UI ページにわたるページコレクションの作成

エクスペリエンス全体で使用できるタブ付きコンテンツに対応するページコレクションを作成します。

### 始める前に
必要なロール：admin

### このタスクについて
ページコレクションを使用して、 UI ビルダーのタブコンポーネントでエクスペリエンスにタブ付きコンテンツを作成します。

ページコレクション内のページは、親ページの URL パラメーターまたはデータリソースにアクセスできません。ページコレクション内のページに条件を設定して、特定の対象者に表示するページを定義できます。ページコレクション内ではページテンプレートはサポートされません。

### 手順

1. **[+** コレクションを作成] をクリックします。
2. フォームのフィールドに入力します。

[ページコレクションを作成] フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | ページコレクションを内部で追跡するための名前。 |
| コントローラー | ページコレクションのデータを定義するコントローラー。 |
| アプリシェル UI | ページコレクションで使用するアプリシェル UI のタイプ。アプリシェルはページコンテンツ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | のラッパーであり、Web ページの機能に似ています。アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー初期設定、検索アイコンなどを表示できます。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。 |
| 説明 | ページコレクションを見つける際に役立つ簡単な説明。ページを構築しているユーザーが、ページコレクションに含まれるコンテンツを理解する際に役立つ説明を記述します。 |
| アプリケーションスコープ | アプリケーションスコープは、ページコレクションがどのアプリケーションに含まれるかを定義します。別のアプリケーションスコープでページコレクションを作成するには、プラットフォームでアプリケーションスコープを変更してから、UI ビルダー でページコレクションを作成します。 |

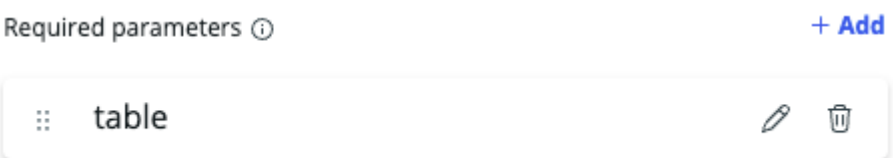
3. [作成] をクリックします。
4. [ページコレクションを編集] をクリックします。
   ページコレクションを編集する画面に新しいタブが開きます。
5. [編集を開始します] をクリックします。
6. [ページを作成] をクリックします。
7. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
8. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   **注:**
   アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが属するスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

9. [作成] をクリックします。
10. オプション: 必須パラメーターやオプションのパラメーターなどの詳細設定や、バリアントの設定を行います。

    a. [必須パラメーターを追加] を選択して、任意の必須パラメーターをページ URL に追加します。

    必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。




詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

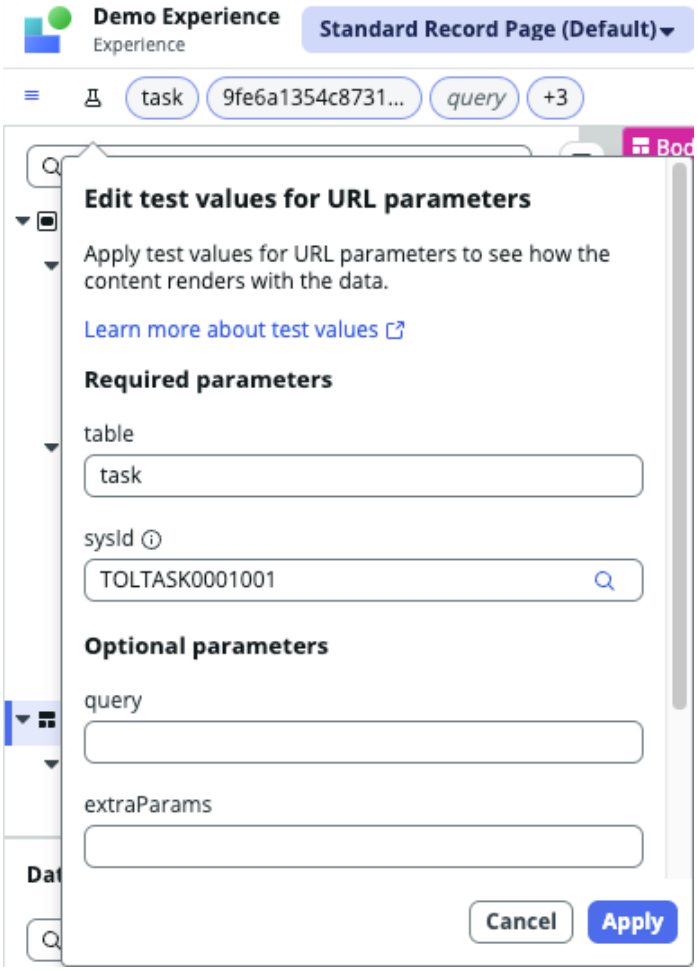
**b.** [オプションのパラメーターを追加] を選択して、ページの URL に追加したい任意のオプションのデータを追加します。

必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

**c.** URL の必須またはオプションのパラメーターをクリックし、[テスト値] フィールドで値 (「incident」など) を入力します。

ページにテスト値を追加して、テスト方法としてページにデータを入力します。たとえば、必須パラメーターとしてテーブルを追加する場合は、インシデントのテスト値を追加し、そのテーブルのインシデントに関するテストデータを取り込むことができます。




テスト値の詳細については、「ページ内の値をテスト」を参照してください。

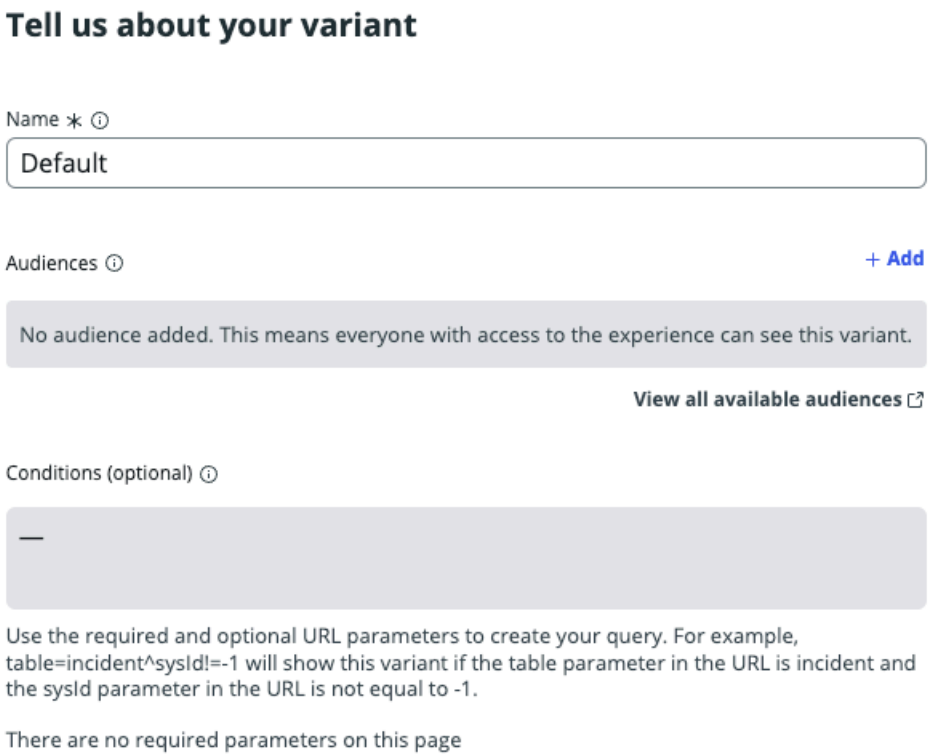
**d.** [バリアント] タブを選択して、ページの対象者と条件を設定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

(Optional) ページを作成すると、UI ビルダー によってページのバリアントもデフォルトで作成されます。ページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットにできる、同じパスのページのバリエーションのことです。たとえば、マネージャー用のページと、そのマネージャーの直属の部下用のページのバリアントなどです。バリアントの作成の詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。




対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

e. [完了] をクリックします。

11. [完了] をクリックします。
12. 「コンポーネントの追加と構成」の手順をページで行います。
13. [保存] をクリックします。
14. オプション: ページコレクションにページをさらに追加します。
    a. [メニュー] をクリックします。
    b. [ページを作成] を選択します。
    c. 6 から 13 のステップを繰り返します。
15. ページコレクションウィンドウを閉じます。

### UI ビルダー でのモーダルの作成

UI ビルダー のモーダルをコンポーネントとともに使用して、ユーザーにアラートまたはアクションの呼び出しを提供します。UI ビルダー には時間と労力を節約するモーダルが付属しています。

#### モーダルとは何ですか?

モーダルはダイアログとも呼ばれ、別のコンテンツウィンドウをオーバーレイするウィンドウです。モーダルはユーザーエクスペリエンスを制御します。モーダルが閉じられるまで、ユーザーはオー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バーレイされたウィンドウを操作できません。モーダルには、次のようなさまざまなタイプのコンテンツを含めることができます。

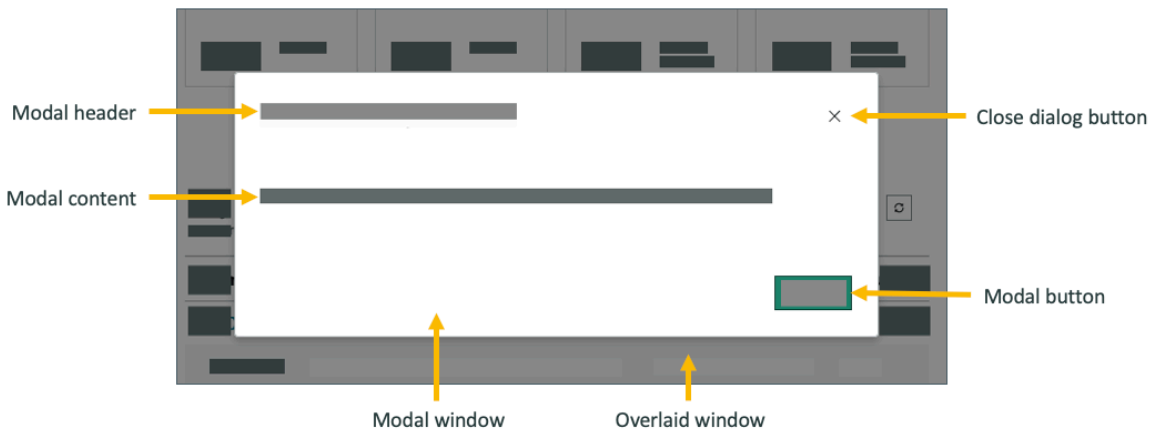
- 静的テキスト
- ダイナミック テキスト
- Forms
- イメージ
- ボタン

UI ビルダー には、事前構成されたモーダルが用意されています。 コンポーネントにモーダルを追加できます。次に、モーダルのコンテンツと、それを画面に表示する方法を構成します。モーダルにイベントハンドラーを追加して、ユーザーが選択したときにアクションを実行します。このアクションでは、ユーザーにアラートを出したり、アクションの確認を求めたりすることができます。モーダルは、起きている事柄をユーザーに通知する手段です。たとえば、モーダルによって、ユーザーがメインページで実行しているアクションを続行する前に、選択内容を確認するようにユーザーに求めることができます。

## モーダル解剖学

の UI ビルダー モーダルは次のものを持つことができます。

- モーダルヘッダー
- モーダルコンテンツ
- [ダイアログを閉じる] ボタン (モーダルによるアクションは実行されません)
- 少なくとも 1 つのモーダルボタン (アクションはモーダルで実行可能)




## モーダルのタイプ

次の表に示すように、さまざまなタイプのモーダルを UI ビルダーで使用できます。

| モーダルのタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| アラート | アラートモーダルは、コンポーネントアクションに関連する情報を提供します。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押したときに、削除アクションは元に戻すことができないことを知らせるアラートポップアップが表示されます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダルのタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| 確認 | 確認モーダルは、ユーザーにコンポーネントアクションを確認することを求めます。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押すと、ユーザーはデータの削除を確認することになります。[はい] や [キャンセル] など、プライマリ/セカンダリボタンのラベルフィールドから確認オプションを選択できます。 |
| 確認して破棄 | [確認して破棄] モーダルはよりディレクティブであり、通常はコンテンツの削除または消去に関連しています。ユーザーにアクションの重大度を知らせ、アクションを続行するかどうかを尋ねます。 |
| カスタム | カスタムモーダルは、標準のモーダルを使用して処理されないシナリオに対処します。カスタムモーダルは、モーダルのコンテナコンポーネントと考えることができます。カスタムレイアウト、コンポーネント、イベント、およびデータリソースを、ページの場合と同じように追加できます。カスタムモーダルでは、レイアウトを使用して、モーダルに必要とされる情報を十分に設計できます。レイアウトでは、モーダル画面内の情報を配置することもできます。カスケードスタイルシート (CSS) スタイリングを使用して、モーダルの外観を変更できます。 |
| iframe | iframe を使用して、URL とデータからの既存の iframe コンテンツをモーダルに取り込みます。 |
| モーダルビューポート | クライアントスクリプトを使用して、イベントバインディングを介してビューポートモーダルにコンテンツを動的に渡します。 |

自動翻訳

## イベントハンドラーとモーダル

イベントをモーダルに公開して、アクションへのコールイベントを処理します。たとえば、プライマリアクション、セカンダリアクションなどです。データを構成するには、イベントハンドラーを追加し、データリソースを呼び出します。これは、モーダルを持つコンポーネントに新しいイベントハンドラーを追加するのと同じくらい簡単です。モーダル自体にイベントハンドラーを追加することもできます。コンポーネントまたはモーダルに関連付けるイベントを選択して追加します。詳細な手順については、「コンポーネントへのモーダルの追加」を参照してください。

### コンポーネントへのモーダルの追加

UI ビルダー でモーダルを追加する方法を学習します。モーダルは、コンポーネントをクリックすると表示されるウィンドウです。たとえば、削除ボタンコンポーネントがクリックされるとモーダルが表示され、レコードの削除を確認するように求められます。

#### 始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

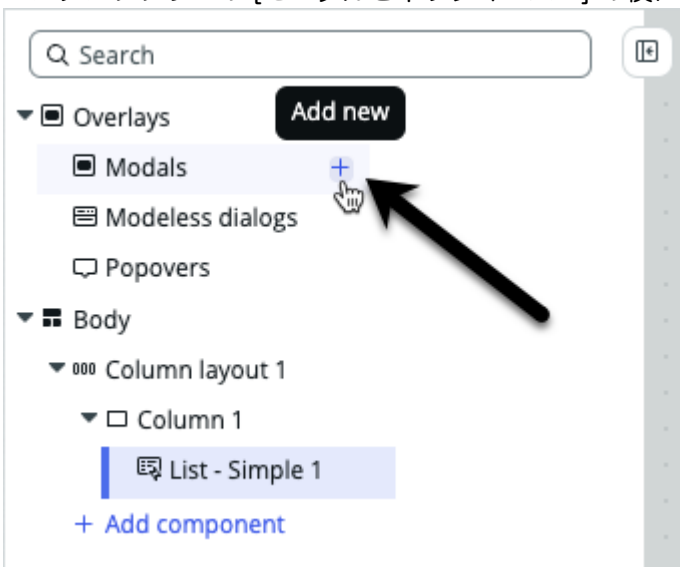
#### このタスクについて
モーダルは、ボタンのクリックなどによってイベントハンドラーがトリガーされると表示される画面です。次の手順は、確認モーダルと関連するイベントハンドラーをボタンコンポーネントに追加する方法の例を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

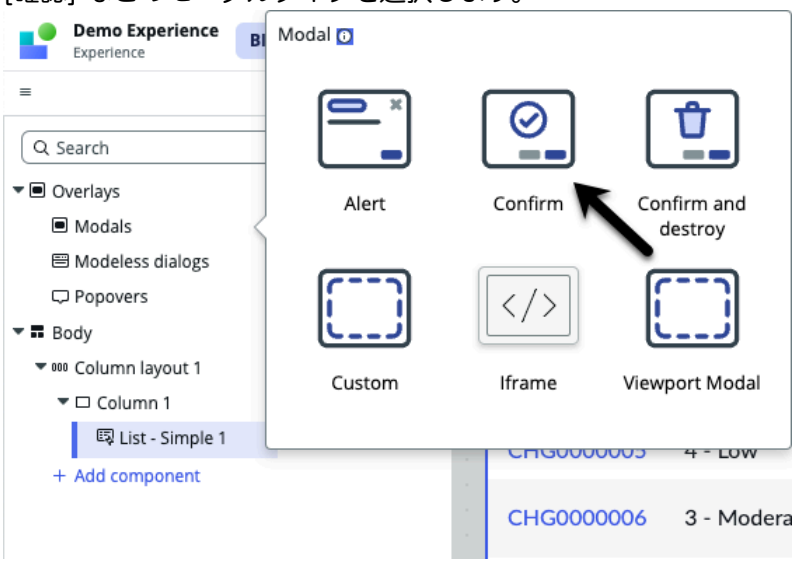
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ページにモーダルを追加します。

   a. コンテンツツリーの [モーダルとポップオーバー] の横にある **[+]** アイコンを選択します。




   b. [確認] などのモーダルタイプを選択します。




| モーダルのタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| アラート | アラートモーダルは、コンポーネントアクションに関連する情報を提供します。たとえ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| モーダルのタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | ば、ユーザーが削除ボタンを押したときに、削除アクションは元に戻すことができないことを知らせるアラートポップアップが表示されます。 |
| 確認 | 確認モーダルは、ユーザーにコンポーネントアクションを確認することを求めます。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押すと、ユーザーはデータの削除を確認することになります。[はい] や [キャンセル] など、プライマリ/セカンダリボタンのラベルフィールドから確認オプションを選択できます。 |
| 確認して破棄 | [確認して破棄] モーダルはよりディレクティブであり、通常はコンテンツの削除または消去に関連しています。ユーザーにアクションの重大度を知らせ、アクションを続行するかどうかを尋ねます。 |
| カスタム | カスタムモーダルでは、レイアウトを使用して、モーダルに必要とされる情報を十分に設計できます。レイアウトでは、モーダル画面内の情報を配置することもできます。カスケードスタイルシート (CSS) スタイリングを使用して、背景色などのモーダルの外観を変更できます。 |
| iframe | iframe を使用して、URL とデータから既存の iframe コンテンツを使用してコンテンツをモーダルに取り込みます。 |
| モーダルビューポート | クライアントスクリプトを使用して、イベントバインディングを介してビューポートモーダルにコンテンツを動的に渡します。コンポーネントへのイベントのバインドの詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。 |

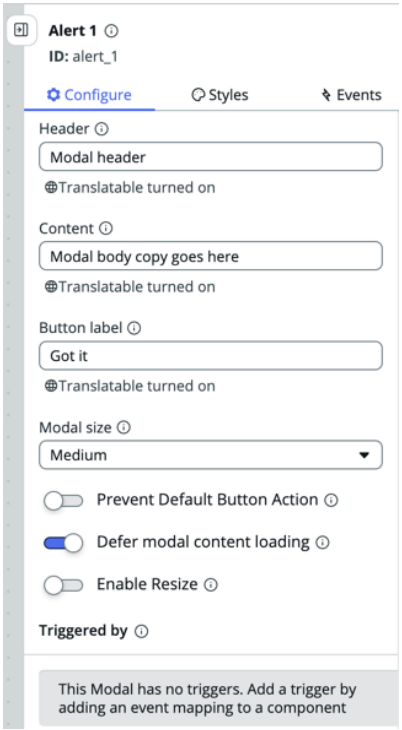
**c.** 次の表に示すようにモーダルを構成します。

モーダルに必要なものに応じて、各モーダルを異なる方法で構成します。モーダルに入力する情報、モーダルのサイズ、およびその外観を変更します。モーダルのオープンやクローズなど、モーダルのアクションを実行するイベントハンドラーをモーダルに追加できます。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
| アラート | ▪ モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。<br>▪ モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。<br>▪ ボタンラベルのテキストを追加します。**[OK]**、[はい] など、任意のテキストを指定できます。 |

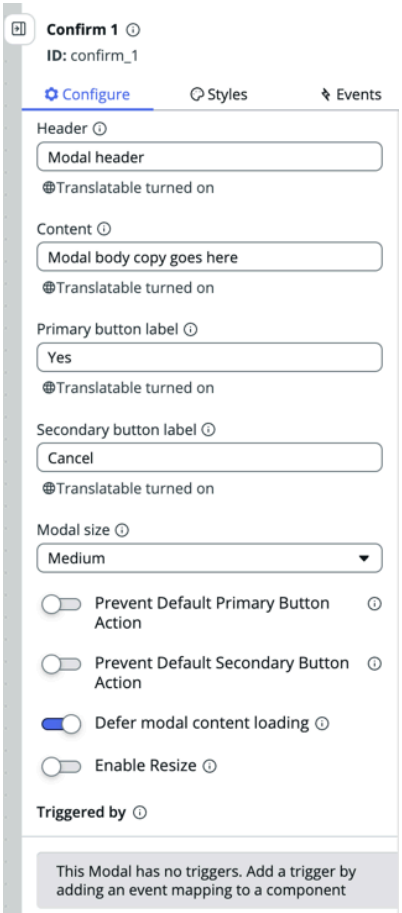
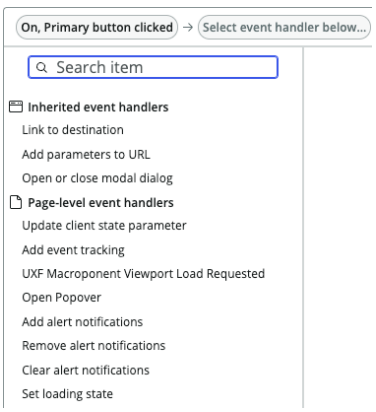
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | ▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。<br>▪ デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのボタンアクションを防止] を有効または無効にします。<br>▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。<br>▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択し、[追加] を選択してページに追加します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。 |
| 確認 | ▪ モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。<br>▪ モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。<br>▪ プライマリボタンのテキストを追加します。プライマリボタンは、[はい]、[追加] などのユーザーのメインアクションボタンです。<br>▪ セカンダリボタンのテキストを追加します。通常、[キャンセル] や [いいえ] などのセカンダリボタンは選択できません。<br>▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。<br>▪ デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのプライマリボタンアクションを防止] を有効または無効にします。<br>▪ デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのセカンダリアクションを防止] を有効または無効にします。 |

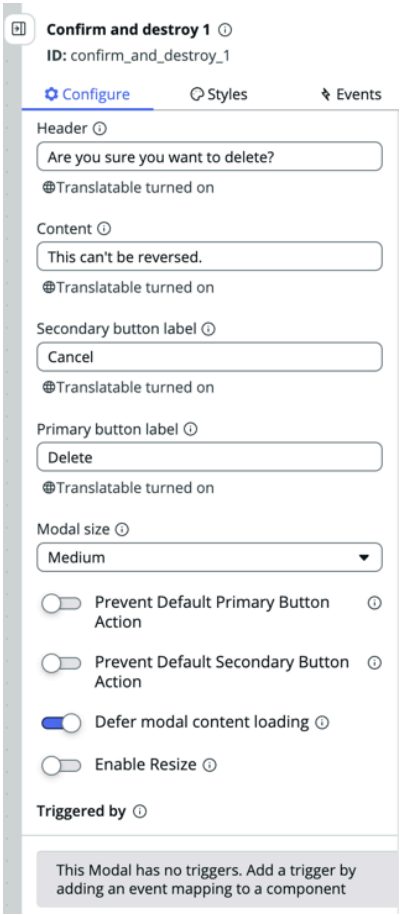
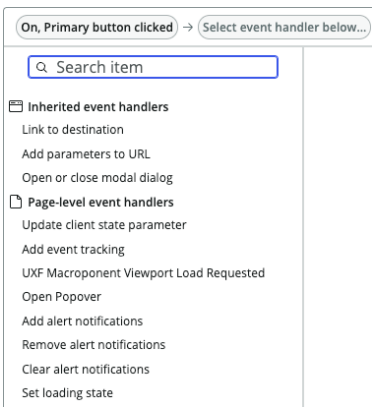
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | ▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。<br>▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。<br>  |
| 確認または破棄 | ▪ モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。<br>▪ モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。<br>▪ プライマリボタンのテキストを追加します。プライマリは、[削除] や [消去] などのユーザーのメインアクションボタンです。<br>▪ セカンダリボタンのテキストを追加します。通常、[キャンセル] や [いいえ] などのセカンダリボタンは選択できません。<br>▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。<br>▪ デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのプライマリボタンアクションを防止] を有効または無効にします。 |

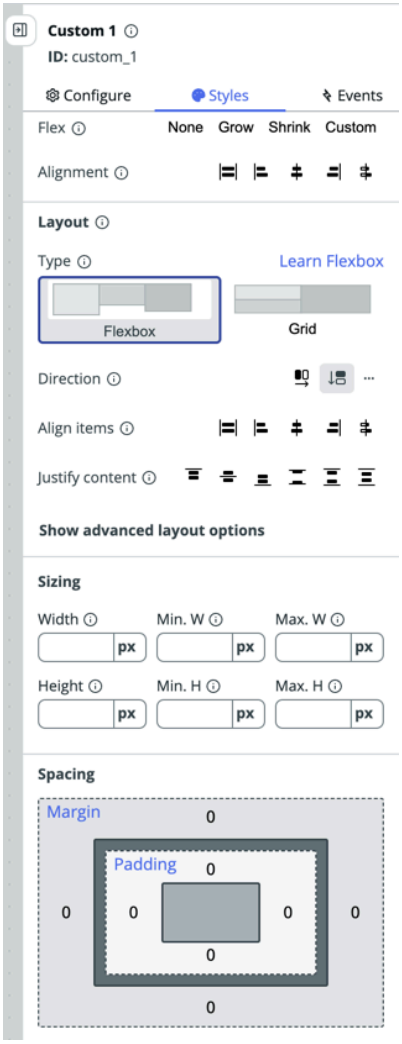
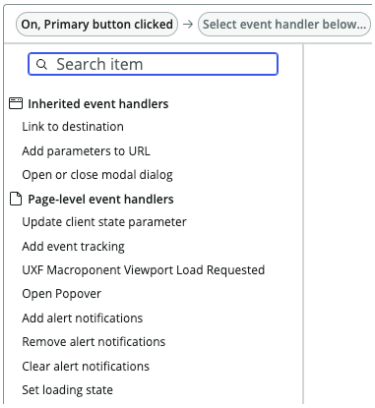
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | ▪ デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのセカンダリアクションを防止] を有効または無効にします。<br>▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。<br>▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。<br>  |
| カスタム | ▪ モーダルのレイアウトを選択します。フレックスボックスまたは CSS グリッドレイアウトを使用できます。これらのレイアウトでは、必要に応じてモーダルにコンテンツを追加できます。<br>▪ スタイリングオプションを使用して、モーダルの外観を変更します。背景色やパディングなどの標準的な CSS スタイリングをモーダルに適用できます。スタイリングの詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。<br>▪ カスタムモーダル内のコンテナにコンポーネントを追加します。 |

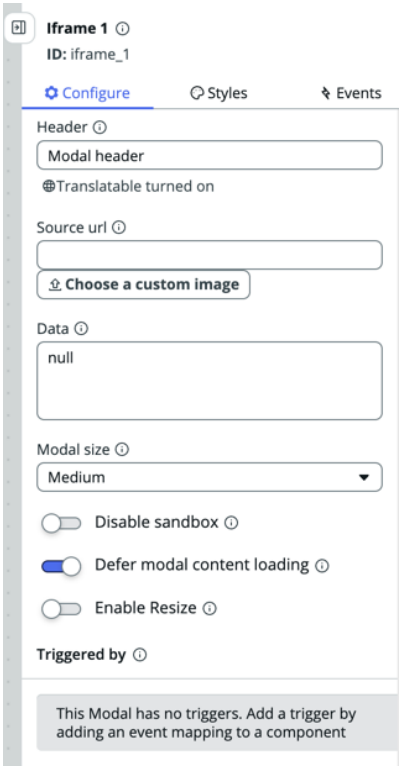
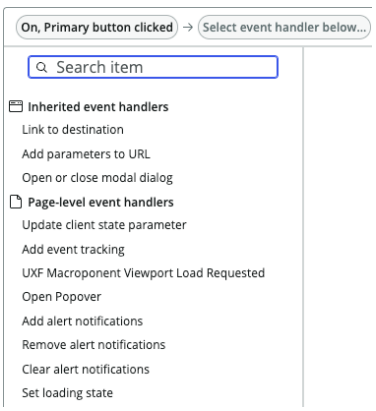
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | ▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加 をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。<br>  |
| iframe | ▪ モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。<br>▪ 既存の iframe コンテンツをポイントするソース URL を追加します。<br>▪ iframe のパラメーターと初期データを設定します。<br>▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。<br>▪ [サンドボックスを無効にします] をオンにすると、allow-forms、allow-modals、allow-popups、allow-presentation、allow-same-origin、allow-scripts、allow-downloads の各オプションの制限が解除されます。[サンドボックスを無効にします] をオフにして、allow-scripts オプションのみを解除します。<br>▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、 |

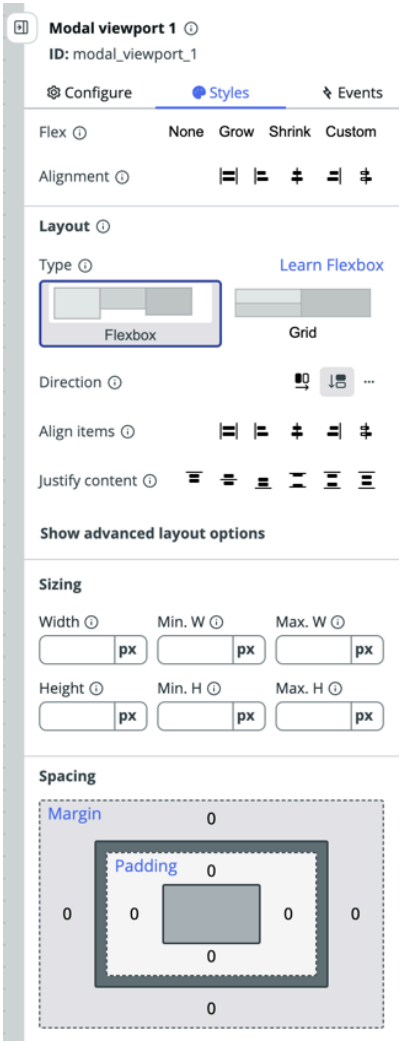
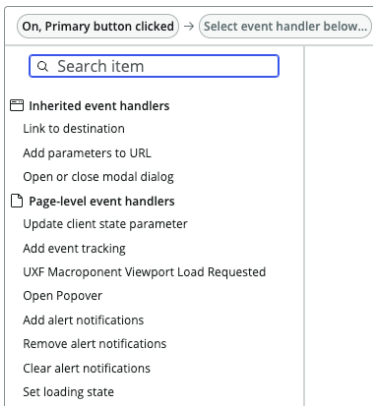
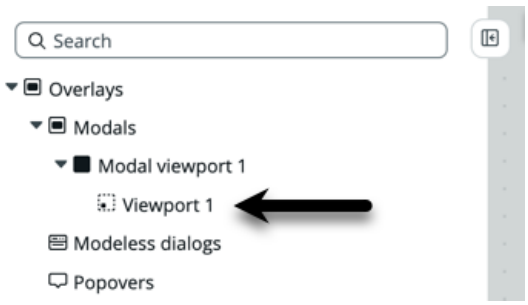
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。<br>▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。<br>  |
| モーダルビューポート | ▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。<br>▪ [パディングを非表示] を有効または無効にします。<br>▪ [閉じるボタンを非表示] を有効または無効にします。有効にすると、[閉じる] ボタンはモーダルに表示されません。<br>▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。<br>▪ 選択 イベント > イベントマッピングを追加をクリックしてモーダルにイベントハンドラーを追加します。<br>▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのア |

自動翻訳

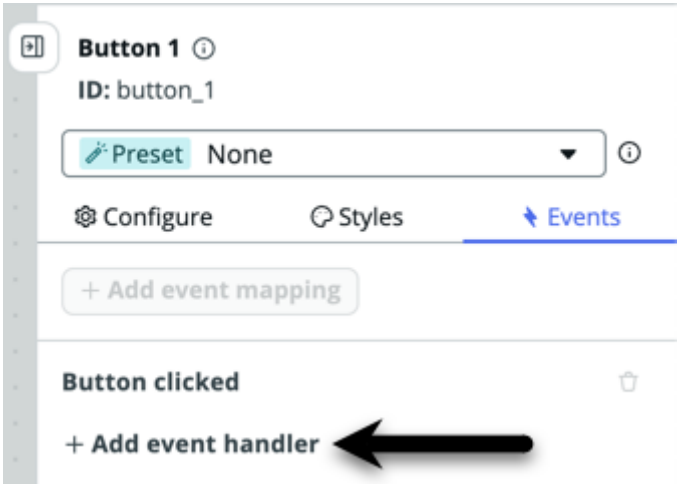
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| モーダル | 設定 |
| --- | --- |
|  | クションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。<br>  <br>▪ モーダルビューポート内のビューポートコンポーネントを選択します。<br>  <br>▪ [構成] タブで **[+** 追加 ] を選択して、ページコレクションをビューポートに追加します。<br>▪ リストからページコレクションを選択し、[追加] をクリックします。 |

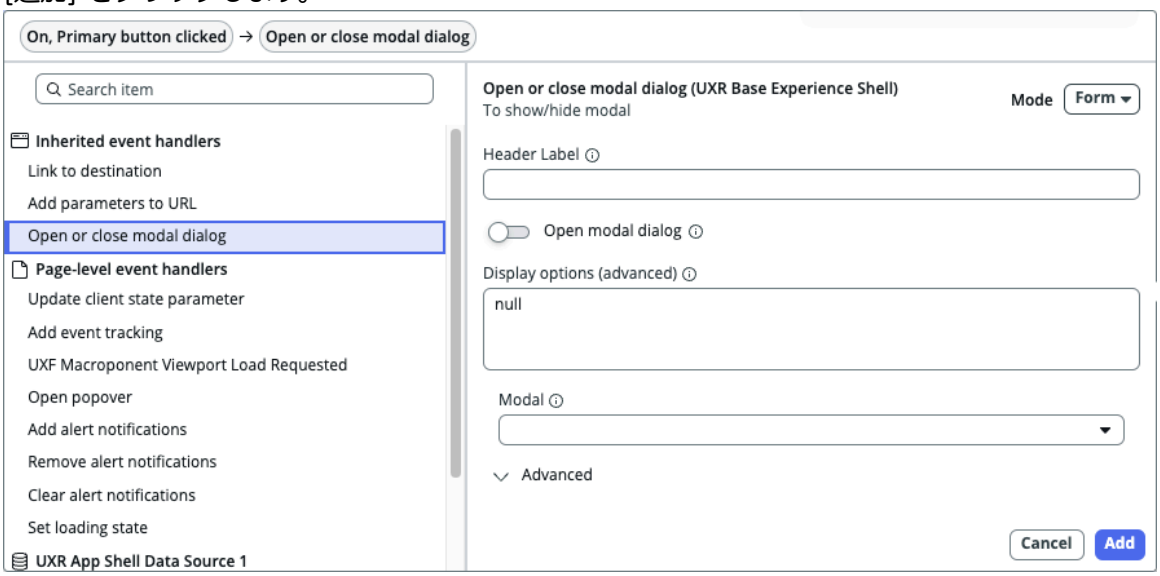
5. コンポーネントをページに追加して、追加したばかりのモーダル (ボタンコンポーネントなど) をトリガーします。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
6. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
7. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




8. [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。
9. [モーダル] ドロップダウンを使用して、前のステップで作成したモーダルを選択します。
10. [追加] をクリックします。

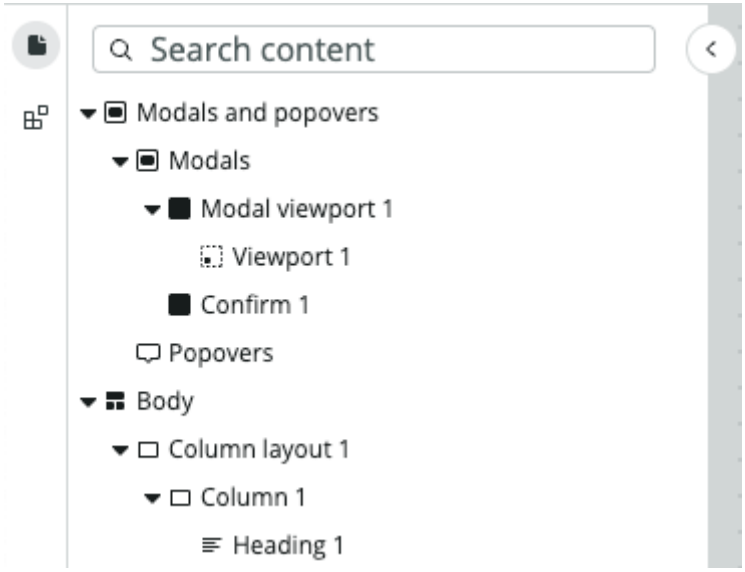



11. モーダルの構成が完了したら、閉じます。

コンテンツツリーで、作成したモーダルがページ構造の本文の上にあることに注意してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**12.** [保存] をクリックします。

### ビューポートコンポーネントによる **UI** エクスペリエンスの拡張

ビューポートは、UI ビルダー の親ページを所有しなくてもエクスペリエンスを拡張できるようにする特殊なコンポーネントです。ビューポートは 3 とおりの方法で操作できます。ビューポートコンポーネントまたはビューポート対応タブをページに追加することも、ビューポートをコンテキストサイドバーコンポーネントに追加することもできます。

ページ自体のコンテンツを所有していない場合でも、ビューポートコンポーネントをページに追加することで、別のコンテンツを作成できます。サブページを作成し、対象者を指定するか、さまざまなデータ、ルート、画面でコンテンツをカスタマイズします。ビューポートコンポーネントの詳細ついては、「ビューポートコンポーネントをページに追加する」を参照してください。

サードパーティのカスタムデータを表示し、対象者をアサインし、バリアントを作成する方法として、タブコンポーネントをビューポート対応のタブに置き換えることができます。ビューポート対応のタブの詳細については、「ビューポート対応のタブでのタブの置き換え」を参照してください。

UI ビルダー の [コンテンツの編集]モードを使用して、ビューポートまたはタブセットをページまたはコンテキストサイドバーコンポーネントに追加します。コンテキストサイドバーコンポーネントのタブの編集は、[構成] パネルを使用するページの場合と同じように行うことができます。主な違いは、タブの [コンテンツの編集] モードでは、ページ管理領域が [タブ管理 **(Tab management)]** に変わることです。

メニューアイコン ⋮ を選択してタブ設定を編集するか、必須またはオプションのパラメーターを変更します。コンテキストサイドバーコンポーネントでのビューポートの使用の詳細については、「コンテキストサイドバーコンポーネントへのビューポートの追加」を参照してください。

ビューポートモーダルをエクスペリエンスに追加して、親ページ/エクスペリエンスのモーダル内にサブページまたは他のエクスペリエンスを埋め込みます。ビューポートモーダルをエクスペリエンスに追加する方法の詳細については、「エクスペリエンスにビューポートモーダルを追加する」を参照してください。

### ビューポートコンポーネントをページに追加する

ビューポートコンポーネントをページに追加し、ページ上に個別のコンテンツを作成するためのサブページを作成します。

#### 始める前に

必要なロール：admin

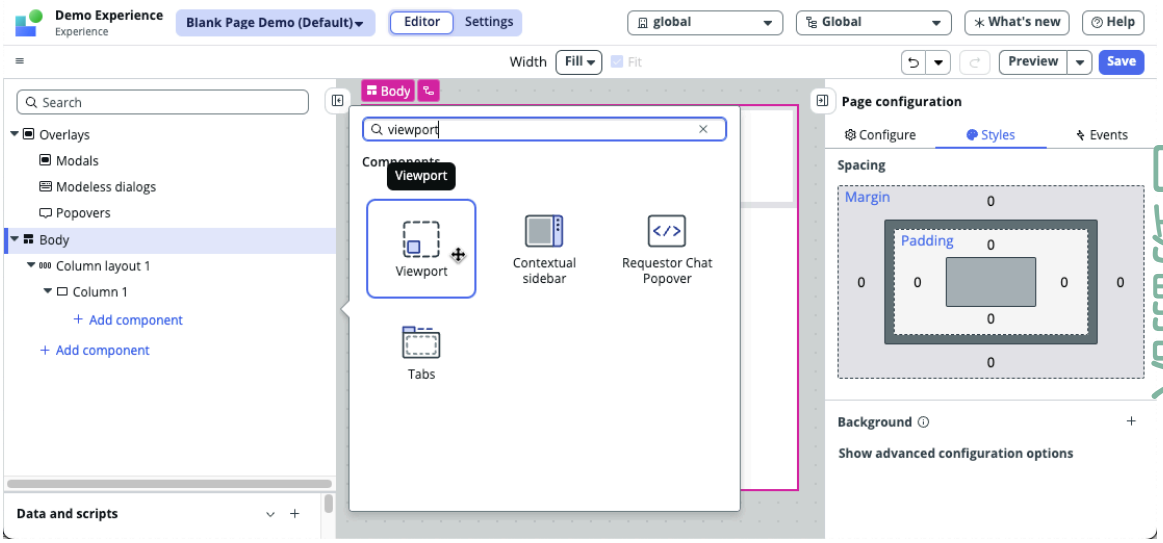
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

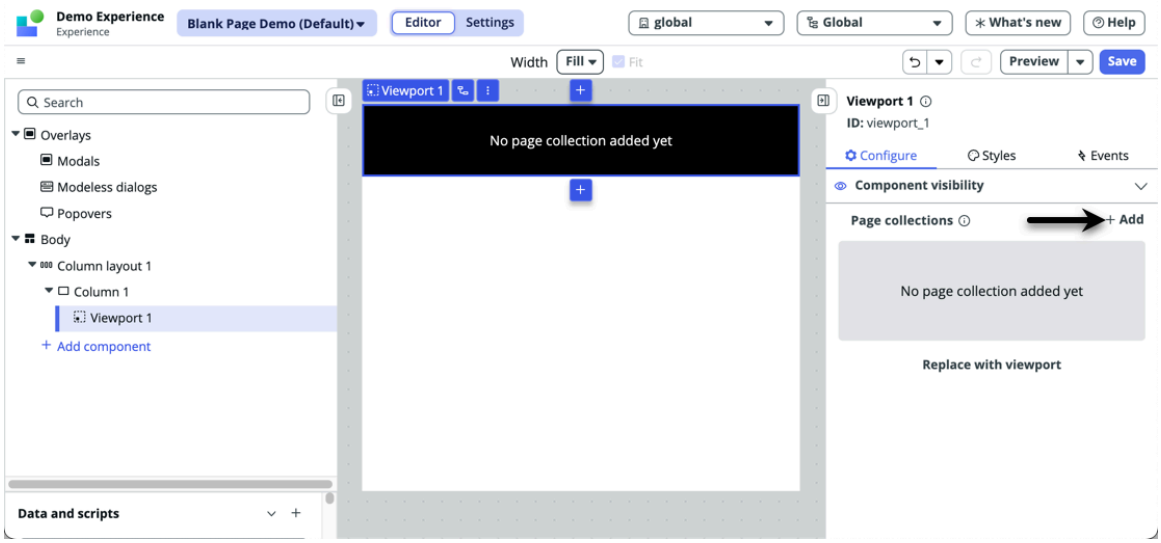
手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ビューポートを追加するページバリアントのエディターを開きます。
   エクスペリエンスのページを作成していない場合は、「UI ビルダー でのページの作成」の手順に従ってください。
4. コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。
5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. 検索ボックスに「ビューポート」と入力します。
8. [ビューポート] を選択します。

ビューポートコンポーネント

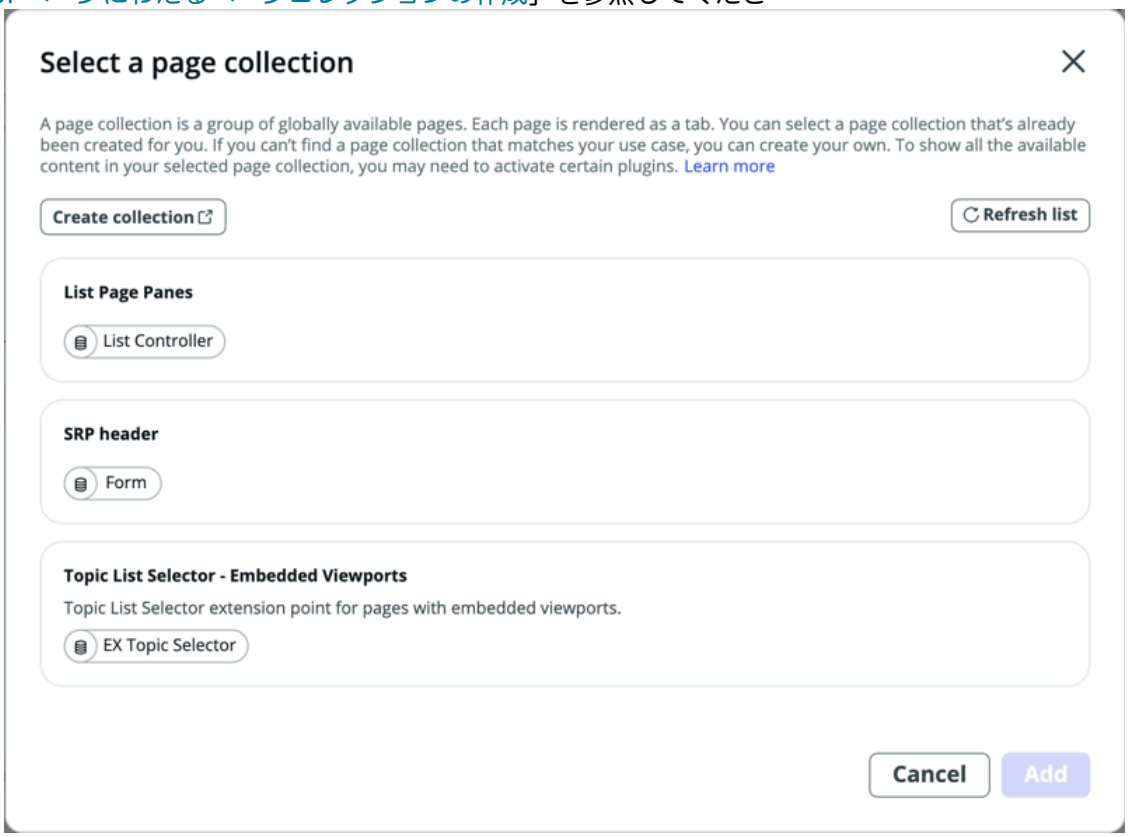



9. コンテンツツリーでビューポートコンポーネントを選択します。
10. 構成パネルで **[+** 追加] を選択します。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

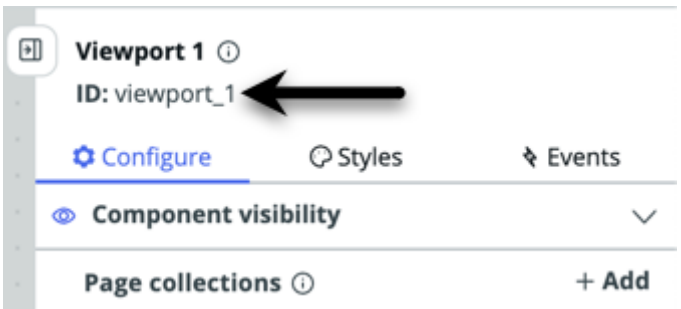
11. リストからページコレクションを選択するか、**[+** コレクションを作成] を選択してコレクションを作成します。
    独自のページコレクションを作成する方法の詳細については、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してくださ




い。

12. [追加] を選択します。
    ページコレクションは、構成パネルの [ページコレクション] セクションに表示されます。ステージング領域には、ページ コレクションの 1 ページのみが表示されます。
13. [保存] を選択します。
14. ビューポート ID とルートを特定します。

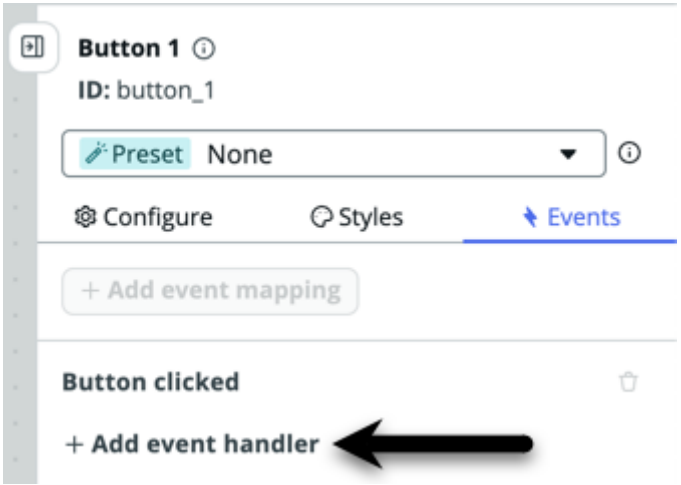
    次の図に示すように、[構成] パネルに ID とルートが表示されます。



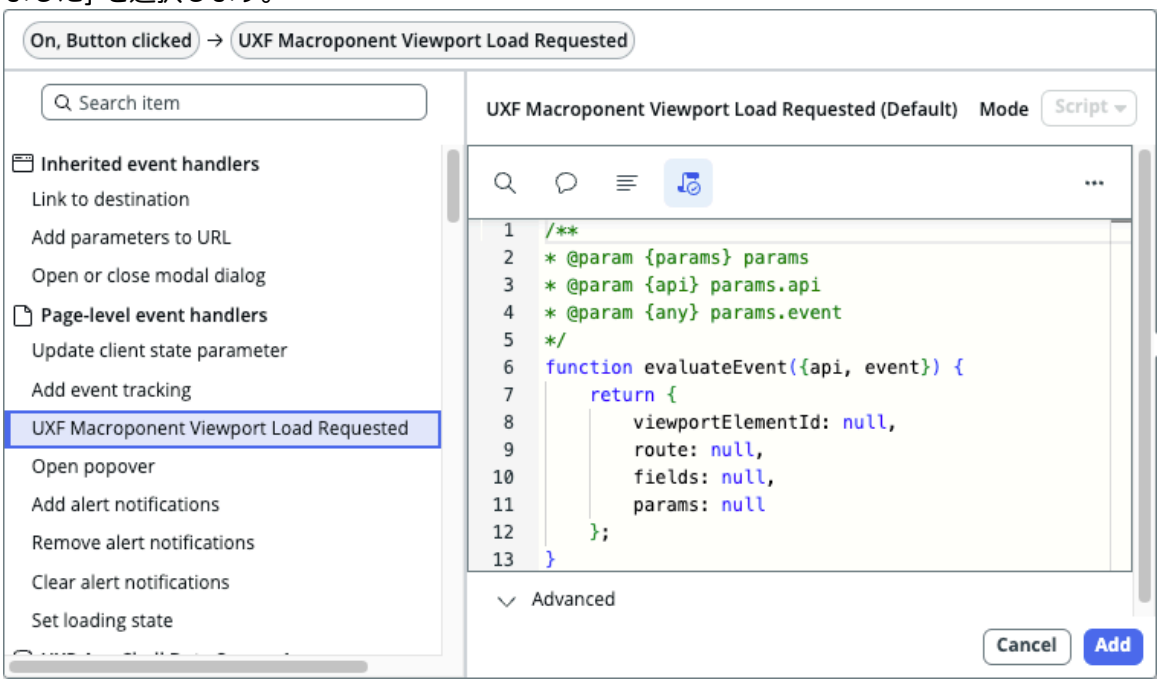

15. コンポーネントをページに追加して、追加したばかりのビューポート (ボタンコンポーネントなど) を開きます。
    詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
16. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
17. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択してビューポートを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




18. [ページレベルのイベントハンドラー] から、**[UXF Macroponent** ビューポートロードが要求されました] を選択します。

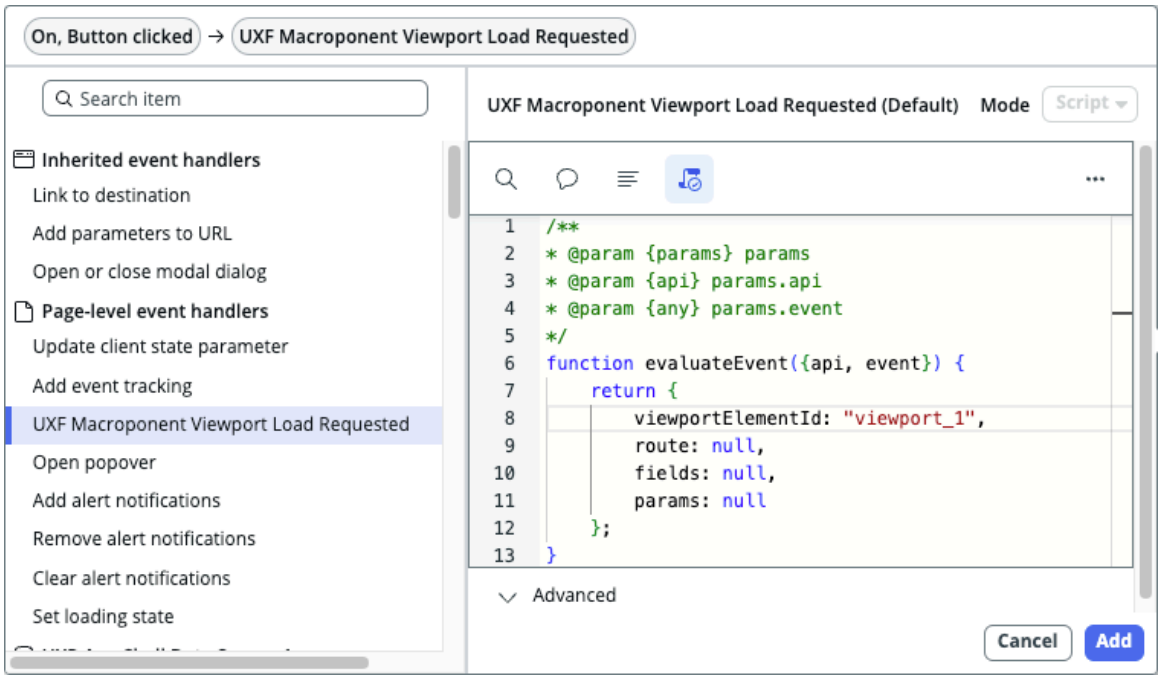



19. **[viewportElementID]** 要素で、null 値を前の手順で見つけたビューポート ID に置き換えます。この例では、「viewport_1」です。

20. [追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




21. [保存] を選択します。
22. を選択し、ページを表示してテストします。

エクスペリエンスにビューポートモーダルを追加する

エクスペリエンスのモーダル内にビューポートを追加します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
ビューポートモーダルを使用して、親ページまたはエクスペリエンスのモーダル内にサブページまたは他のエクスペリエンスを埋め込みます。ビューポートモーダルは、イベントまたはスクリプトを介して開くことができます。ビューポートモーダルは、ビューポートモーダルごとに 1 つのサブルートに制限されています。追加のルート用に追加のビューポートモーダルを作成できます。

注:
従来のビューポートモーダルはアップグレードできないため、新しい機能を利用するには再作成する必要があります。

手順

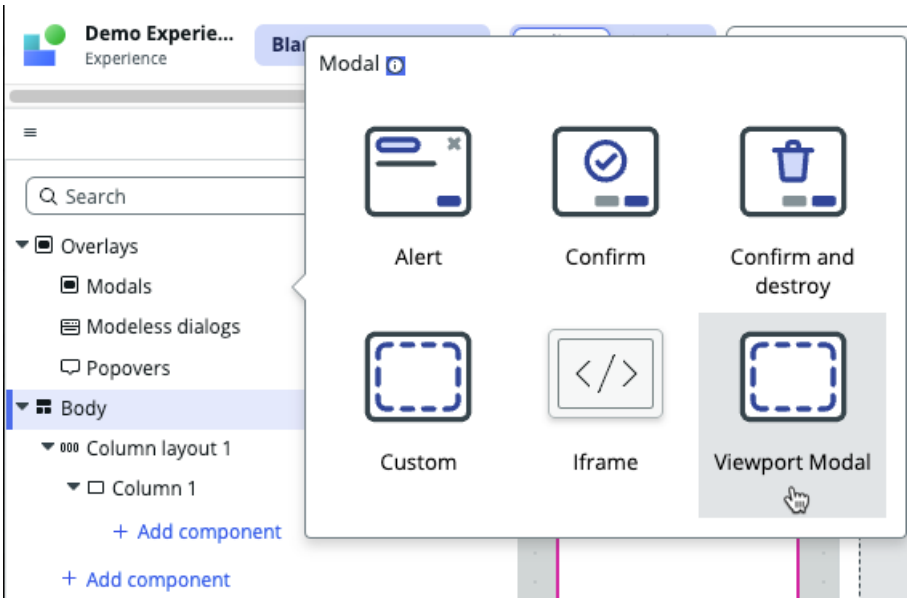
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** エクスペリエンスを作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
既存のページを開く場合は、元のページと同じスコープ内にあることを確認してください。そうでない場合は、ページの編集を開始する前にスコープを変更します。アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。管理者は、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるようにするのかを指定するスコープを設定できます。アプリケーションスコープは、データとアプリケーションファイルを保護します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

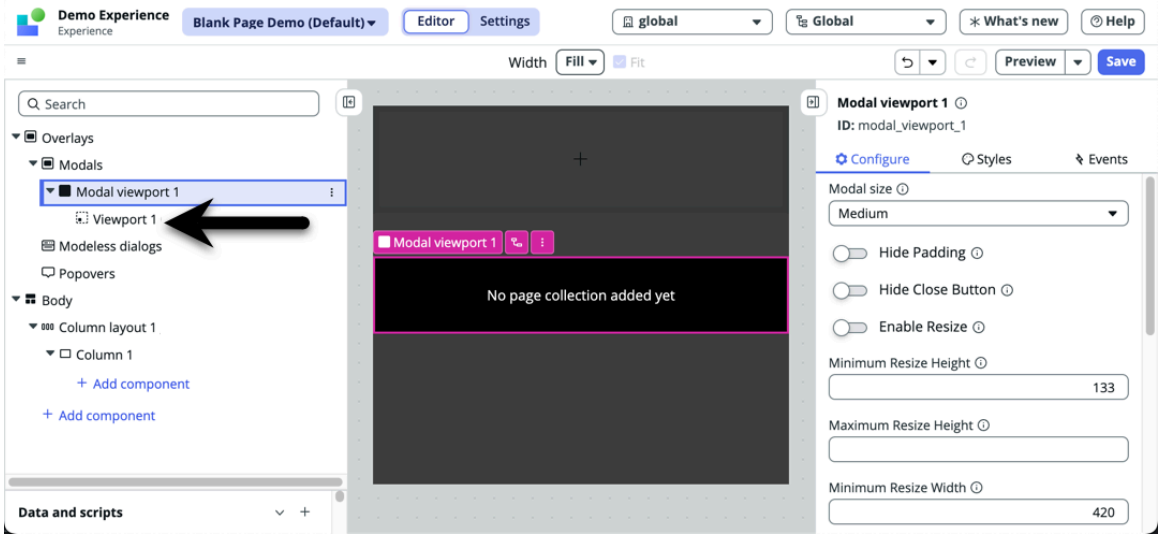
4. コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。
5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. コンテンツツリーの [モーダル] の横にある **[+]** を選択します。
7. リストで [ビューポートモーダル] を選択します。

ビューポートモーダル




ビューポートモーダルがページの上に表示されます。

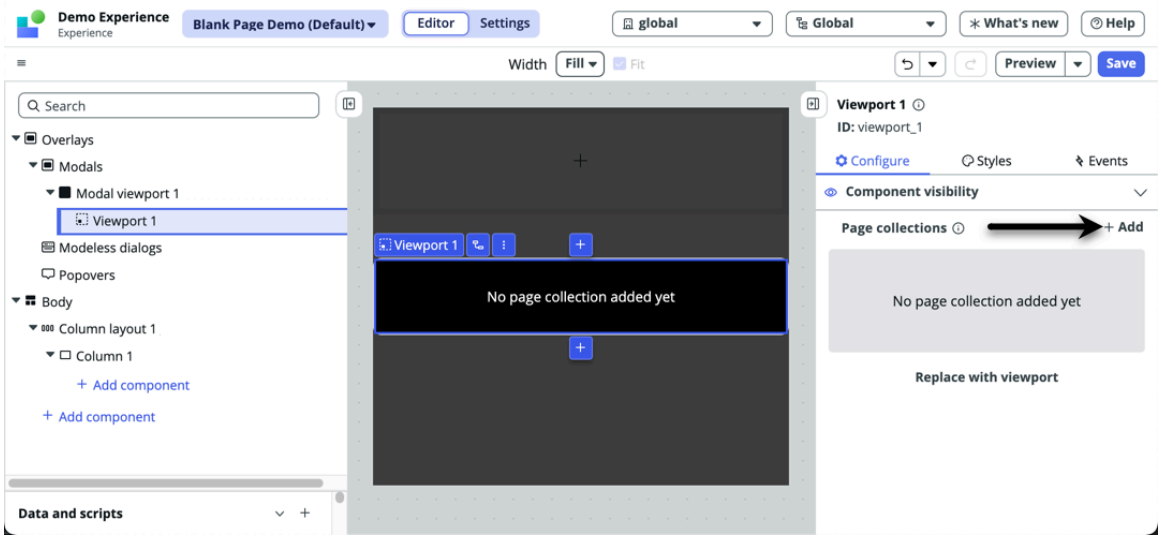
8. [保存] をクリックします。
9. コンテンツツリーでビューポートを選択します。



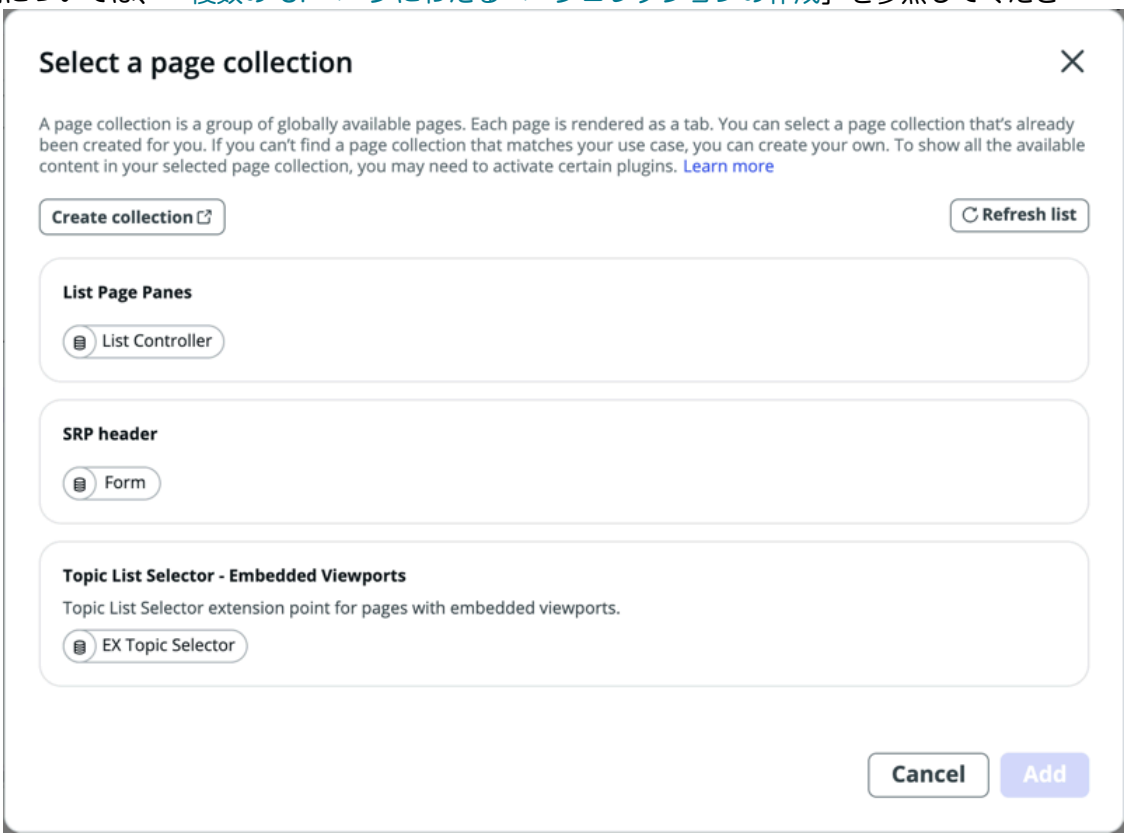

10. [構成] タブの [ページ コレクション] の横にある **[+** 追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




11. ページコレクションを選択するか、新しいページコレクションを作成します。
詳細については、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してくださ

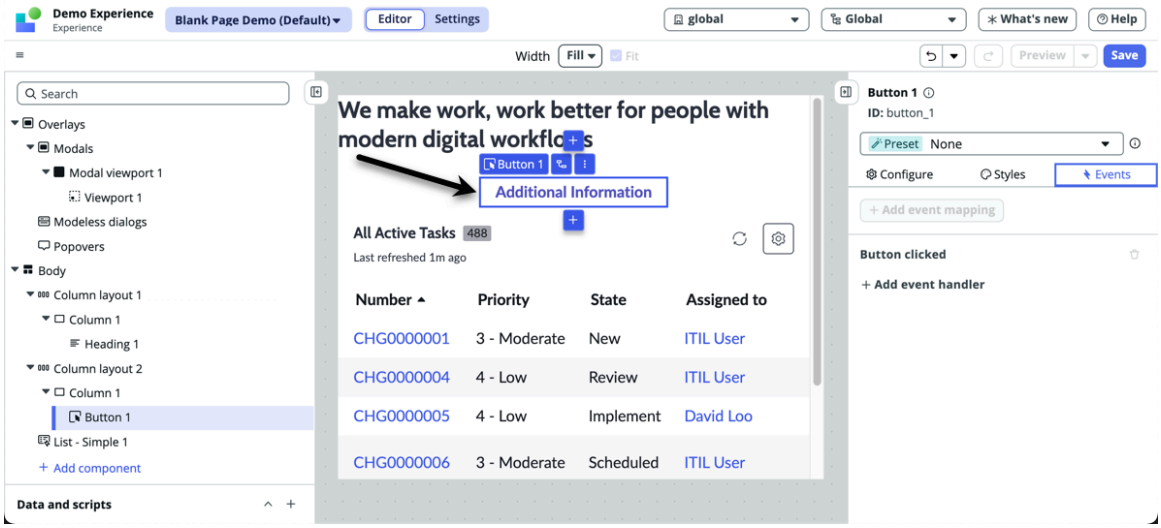



い。

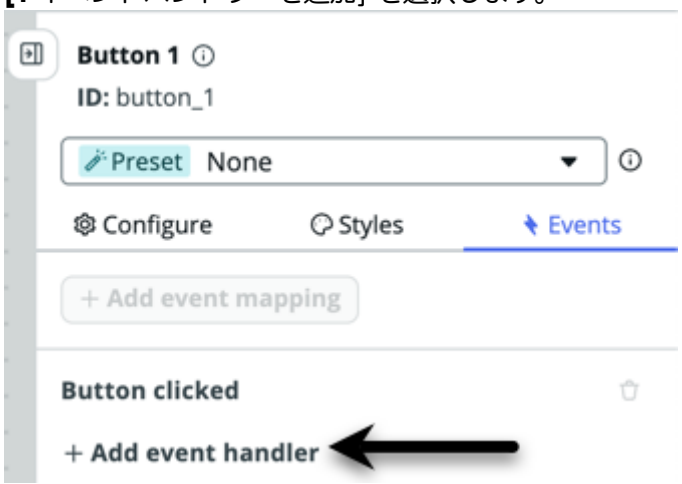
12. [追加] をクリックします。
13. [保存] をクリックします。
14. ビューポートモーダルを開くコンポーネントを追加します。

    次の例では、ボタンを使用してビューポートモーダルを開きます。

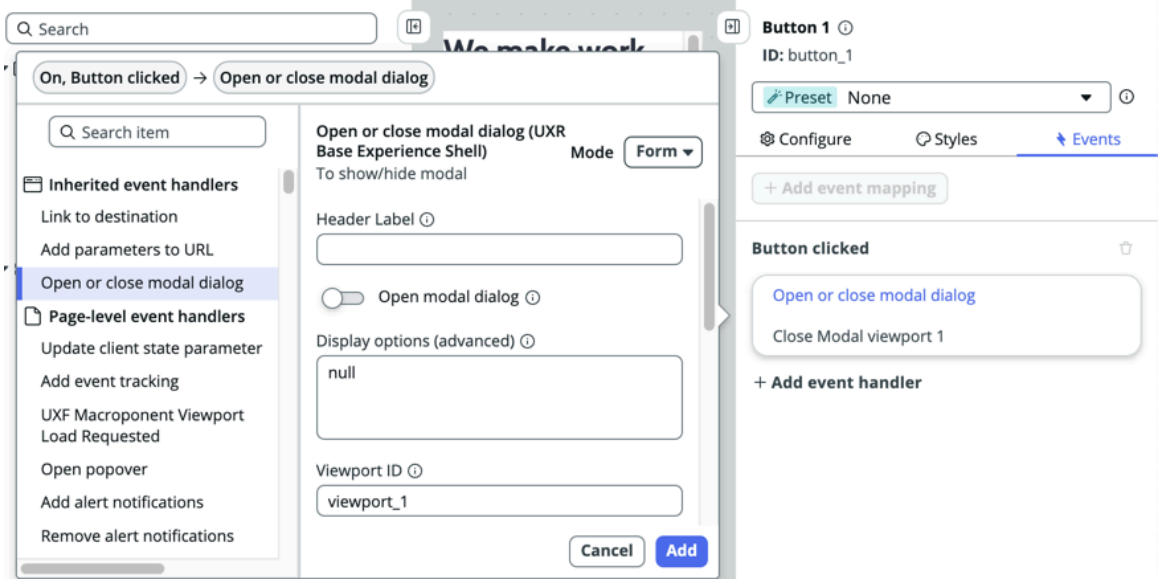
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




15. [イベント] タブを選択します。
16. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。




17. [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。
18. [モーダルダイアログを開く] を有効にします。
19. [モーダル] ドロップダウンで作成したビューポートモーダルを選択します。




[ビューポート **ID]** は自動入力されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

20. [追加] を選択します。
21. [保存] を選択します。
22. を選択し、ページを表示してテストします。

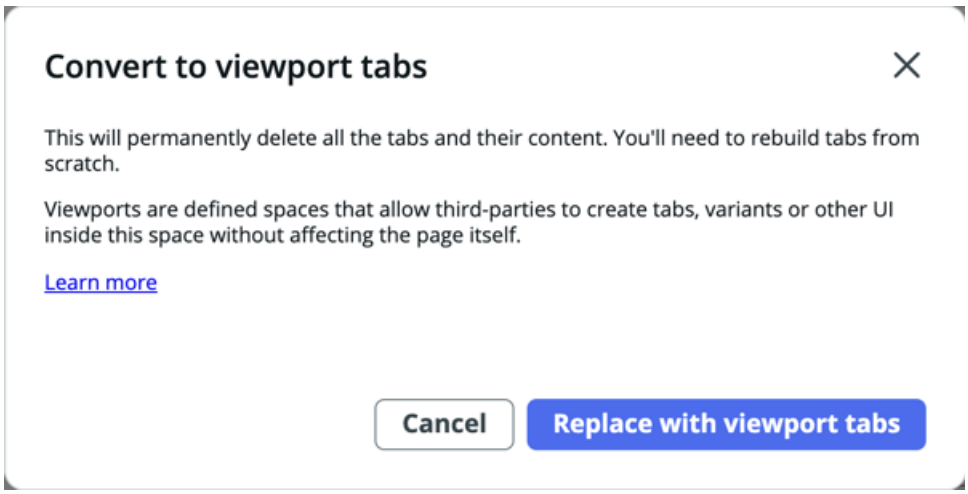
### ビューポート対応のタブでのタブの置き換え

ページ上のタブをビューポート対応のタブに変換します。ビューポート対応のタブを使用して、サードパーティのカスタムデータを表示し、対象者をアサインして、バリアントを作成できます。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
タブをビューポート対応のタブに置き換えます。

> **注:**
> タブをビューポート対応のタブに置き換えるのは、永続的な一方向のプロセスです。既存のタブのコンテンツはすべて失われるため、ビューポートのタブのコンテンツを再作成する必要があります。



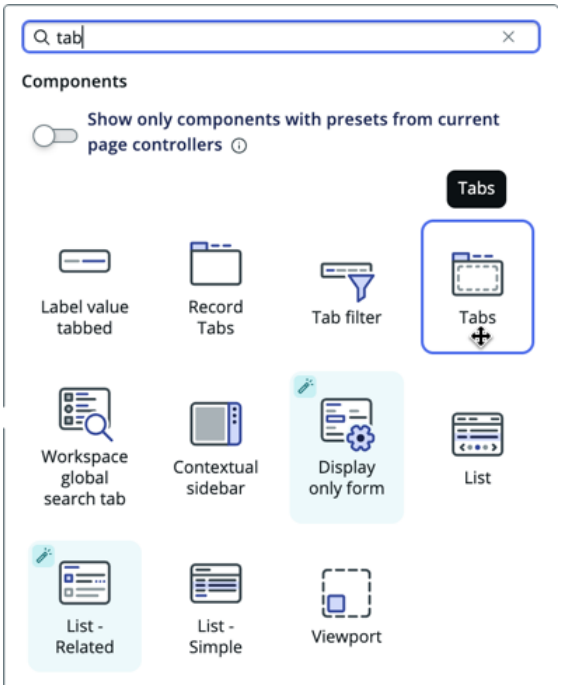

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 既存のタブがあるページを開くか、またはページを作成してタブコンポーネントを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タブコンポーネント



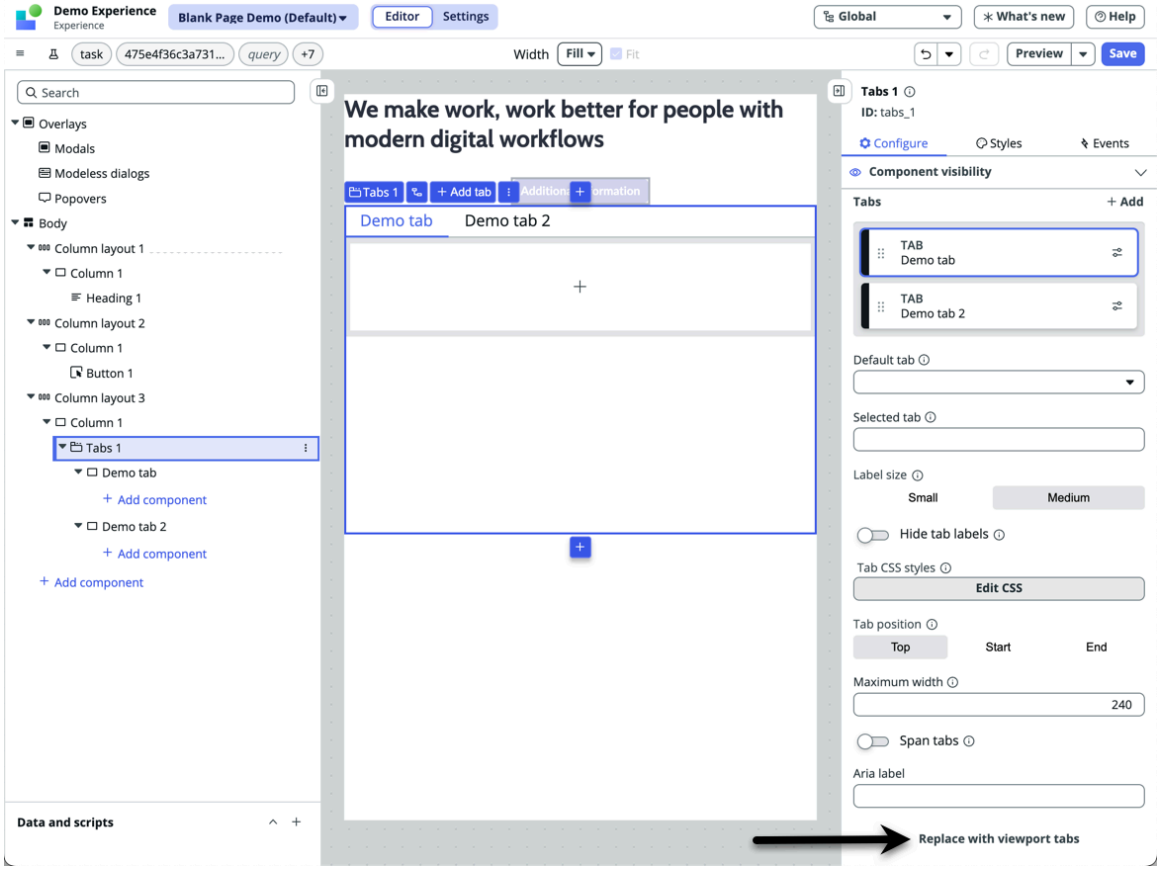

タブコンポーネントのページへの追加方法の詳細については、「UI Builder ページにタブ付きコンテンツを追加」を参照してください。

4. コンテンツツリーで、ビューポートのタブに置き換えるタブコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [ビューポートタブに置き換える] を選択します。

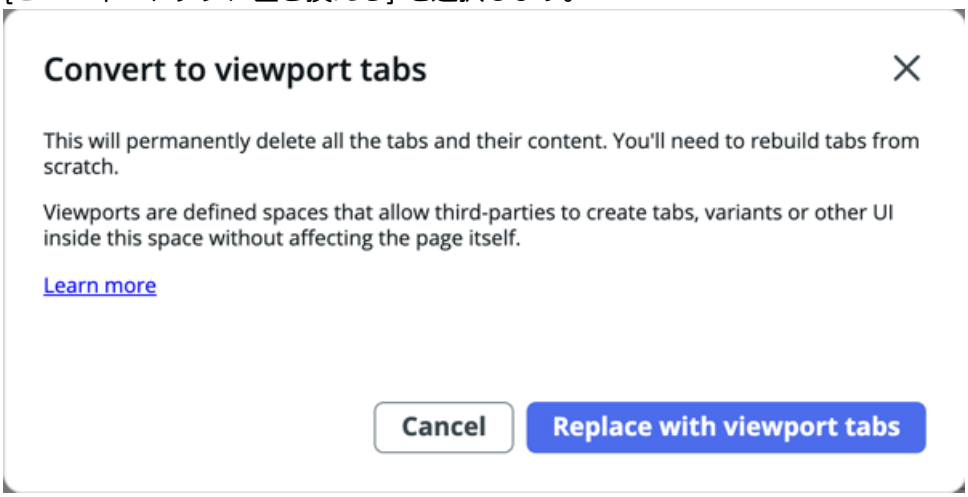
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
タブをビューポート対応のタブに置き換えるのは、永続的な一方向のプロセスです。既存のタブのコンテンツはすべて失われるため、ビューポートのタブのコンテンツを再作成する必要があります。




6. [ビューポートタブに置き換える] を選択します。

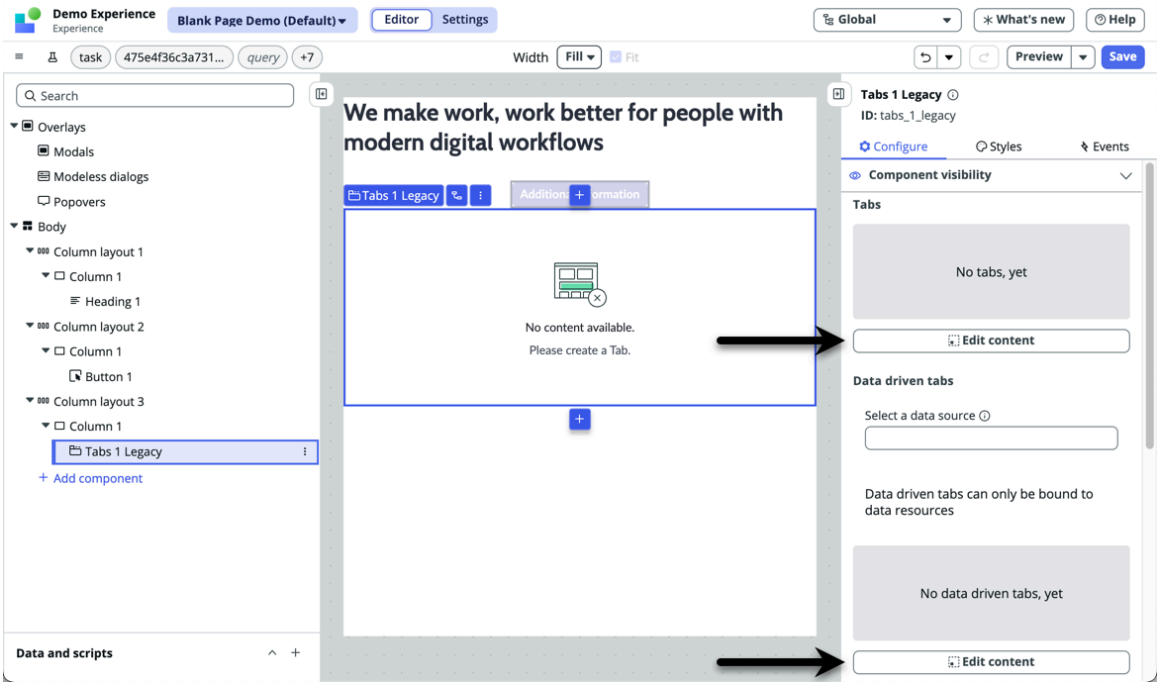



7. [コンテンツを編集] をクリックして、ビューポートが有効なタブを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテンツの編集

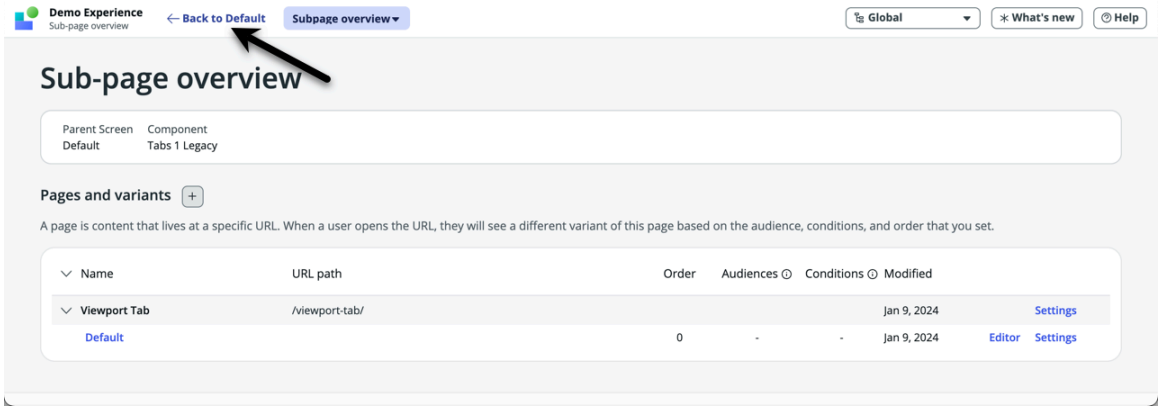



ビューポートコンポーネントの詳細ついては、「ビューポートコンポーネントをページに追加する」を参照してください。

8. [保存して続行] を選択します。
   サブページの概要ページが表示されます。
9. [新規ページの作成] を選択します。
10. [名前] フィールドに、ビューポート対応のタブの名前を入力します。
11. デフォルトのパスをそのまま使用するか、必要に応じて変更します。
12. [続行] を選択します。
13. [名前] フィールドに、ページバリアントの名前を入力するか、デフォルトのままにします。
14. このページの対象者を 1 人以上追加します。
    必要な対象者がリストにない場合は、[利用可能なすべての対象者を表示 **(View all available audiences)]** を選択して作成できます。
15. オプション: エンコードされたクエリ文字列を入力して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を追加します。
16. [エディターで開く] を選択します。
17. ページの場合と同様に、タブにコンポーネントを追加します。
18. 任意のコンポーネントにイベントハンドラーを追加して、ページコンテンツのロードなどのアクションを実行できるようにします。
    イベントハンドラーの詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。
19. 元のページに戻るには、[←(ページの名前) に戻る] を選択します。

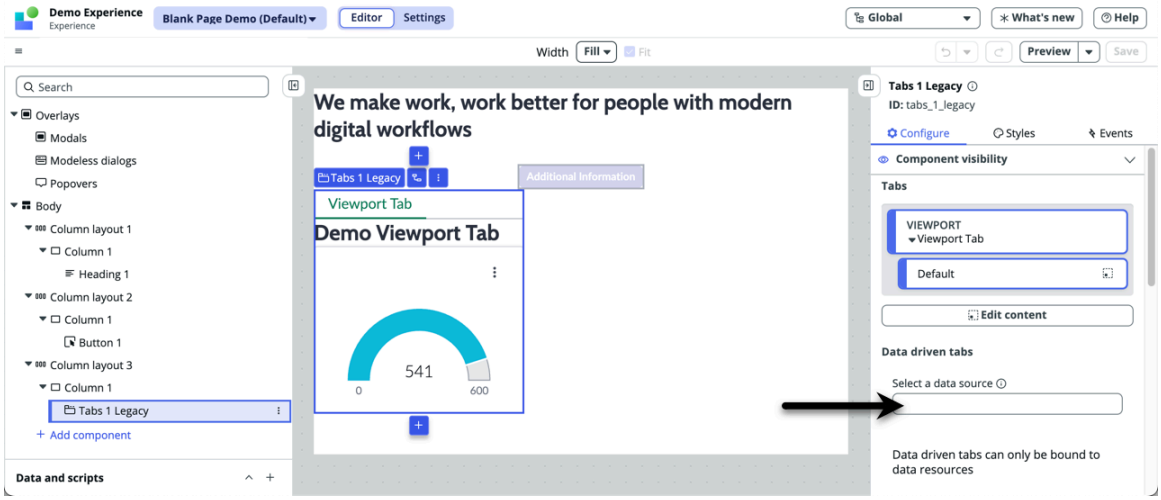
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**20.** [データ駆動型タブ] でデータソースを選択し、データリソースを使用してビューポート対応のタブにデータをバインドして、テーブルとレコードからデータを動的に公開します。

次に、これらのデータプロパティをタブのコンポーネントにバインドします。データリソースの使用の詳細については、「UI Builder ページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。




**21.** ビューポートが有効になっているタブのラベルをページ上で表示する場所を選択し、タブのラベルを非表示にしてアイコンのみを表示するかどうかを決定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コンテキストサイドバーコンポーネントへのビューポートの追加

ページにビューポートを追加すると、ページ上のタブをクリックしたときに表示される個別のコンテンツを作成できます。コンポーネント内にタブを作成します。これらのタブ内で、カスタムページやサードパーティのカスタムユーザーインターフェイスも作成できます。

### 始める前に

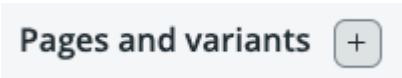
必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

ページのコンテキストサイドバーコンポーネントにタブを追加して、ビューポートを作成します。次に、タブのコンテンツを作成します。

### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. コンテキストサイドバーコンポーネントをページに追加します。
5. コンテンツツリーでコンテキストサイドバーコンポーネントを選択します。
6. [コンテンツの編集] をクリックします。
7. [保存して続行] をクリックします。
8. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。

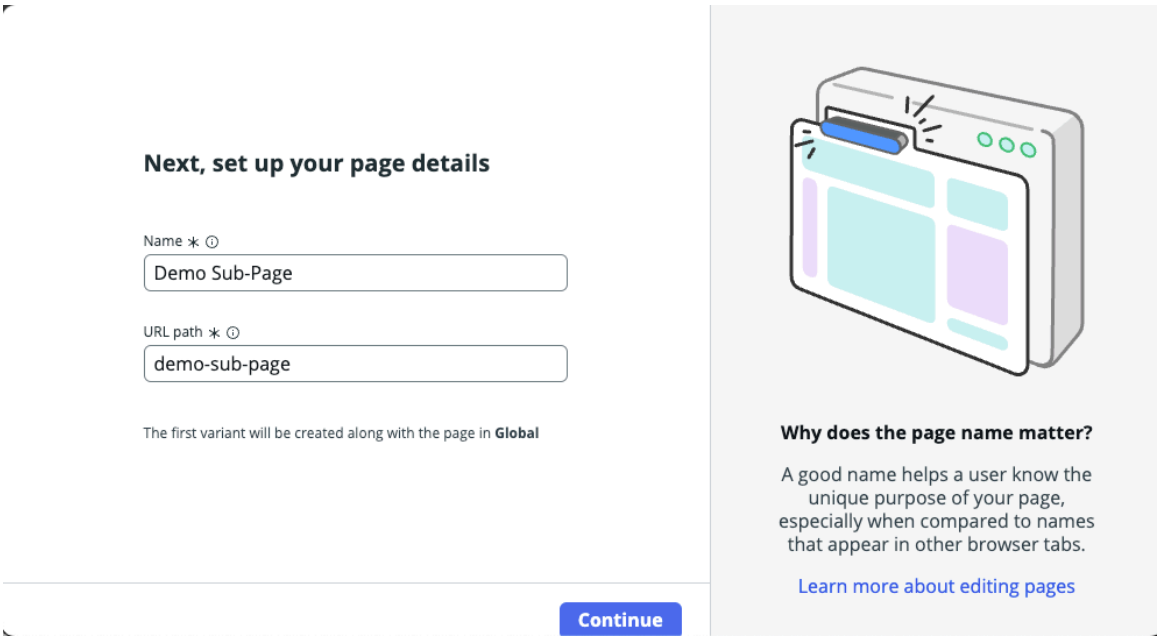
   
   

9. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
10. **[URL** パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

    デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



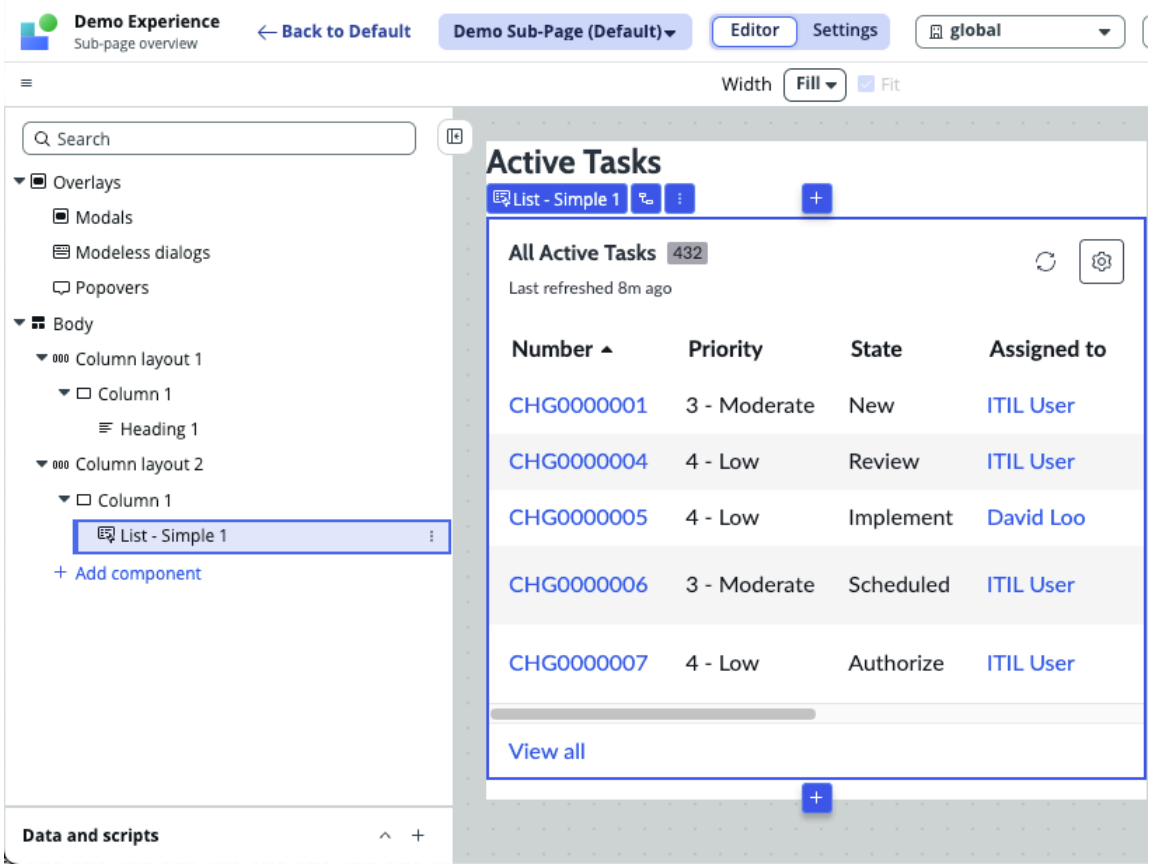

**注:**
アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

11. 作成したページの横にある [エディター] を選択します。
12. タブのコンテンツを設計します。

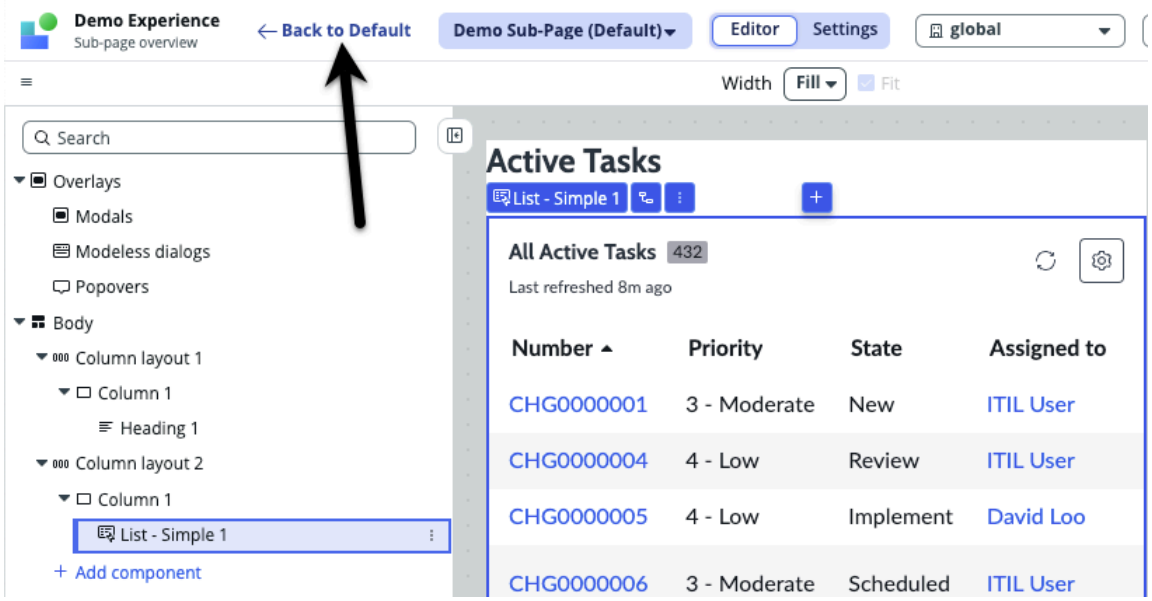
    ページ自体ではなく、UI ビルダー のサブページ編集モードで設計していることに注意してください。 ページを構築する際と同じようにタブを構築できます。コンポーネントの追加、レイアウトの変更などを行うことができます。この例では、コンテキストサイドバーコンポーネントにタブを追加しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




13. [保存] をクリックします。
14. **[←** 親ページに戻る] を選択します。




15. オプション: [ 構成 ] パネルをクリックして、作成したタブを編集します。
    の UI ビルダーコンポーネントにビューポートタブを追加すると、[構成] パネルが変更され、タブ構成が表示されます。[構成] パネルのタブをクリックすると、ページ上の対応するコンポーネントのタブ情報が変更されます。
16. [保存] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## UI ビルダー でのポップオーバーの作成

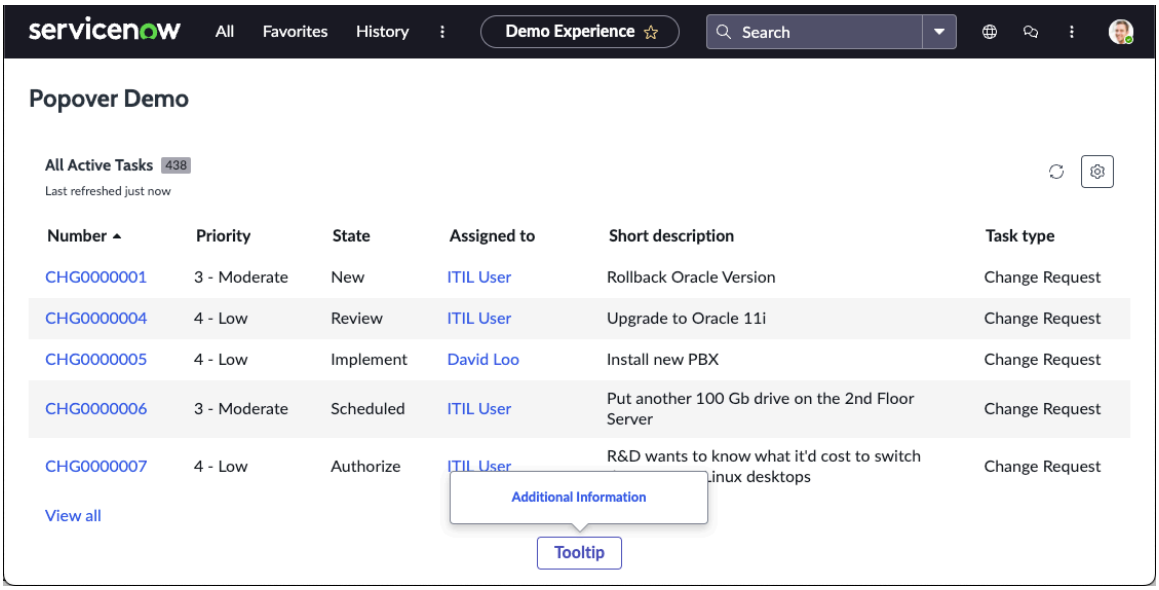
UI Builder ページでポップオーバーを使用して、コンテキスト情報または機能をオーバーレイして、ユーザーがタスクを完了できるようにします。

ポップオーバーは、UI ビルダー ページの上に表示される小さなウィンドウまたはダイアログボックスであり、処理中のコンテンツまたはタスクに関連する追加情報、オプション、またはアクションが含まれています。ページにモーダルを追加するのと同じ方法で、コンポーネントをポップオーバーに追加します。

追加情報がユーザーに役立つと思われる UI ビルダー ページ上の任意の場所にポップオーバーを配置できます。ポップオーバーは、小さな情報や関連コンテンツへのリンクを提供することを目的としており、ポップオーバーはユーザーが操作しているときにのみ表示されるため、ポップオーバー内の情報や機能の量を制限する必要があります。

ボタンを選択したり、ページの一部をポイントしたりしたときにポップオーバーの表示をトリガーするなど、イベントマッピングを使用してポップオーバーを表示または非表示にすることができます。詳細については、「マップイベントの定義」を参照してください。

情報ポップオーバー




## UI ビルダー ページにポップオーバーを追加する

ポップオーバーを追加する方法については、「UI ビルダー」を参照してください。ポップオーバーは、コンポーネントをクリックしたときにページの上に表示されるコンテナです。たとえば、リスト内の人の名前を選択すると、連絡先情報がポップオーバーに表示される場合があります。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### 手順

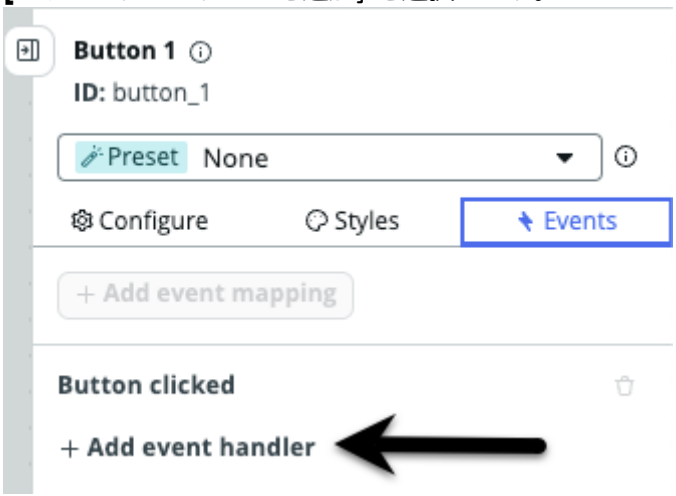
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

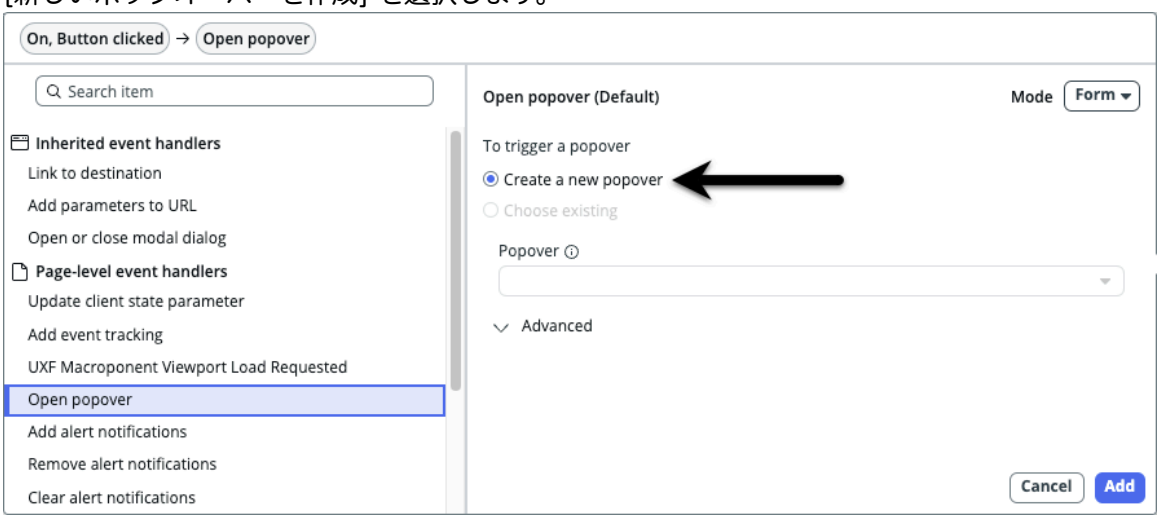


自動翻訳

4. ポップオーバーをトリガーしたいコンポーネント (ボタンコンポーネントなど) をページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
6. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。



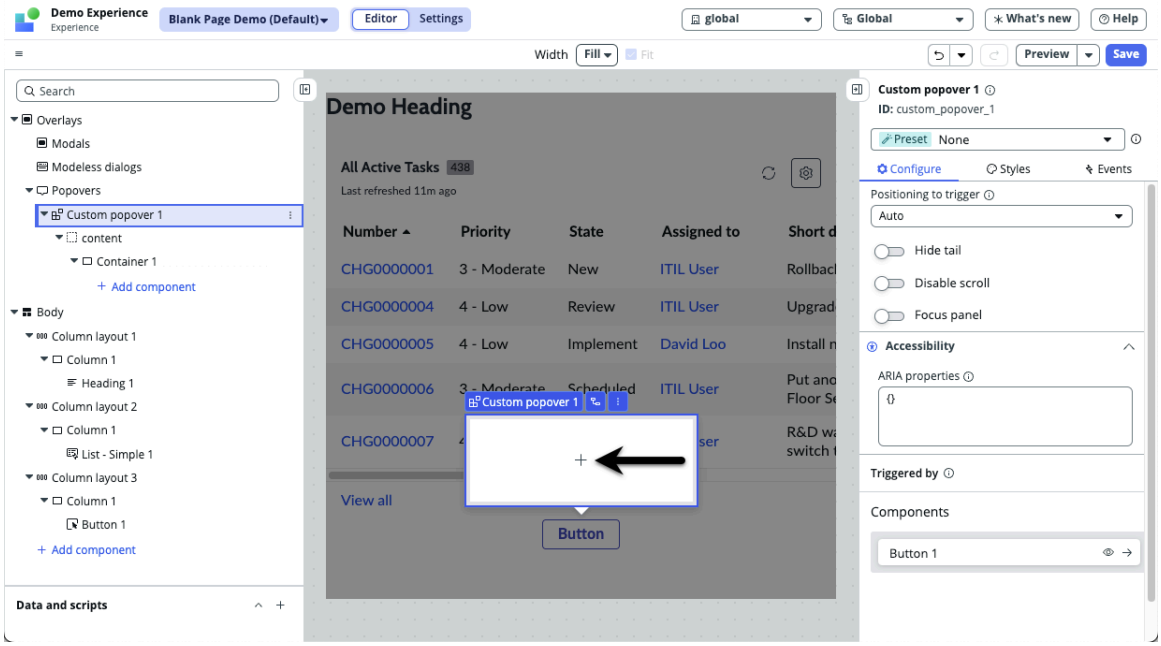

7. [ポップオーバーを開く] を選択します。
8. [新しいポップオーバーを作成] を選択します。




9. [追加] を選択します。
   ポップオーバーがステージの上に表示されます。
10. **[+]** アイコンを選択して、コンポーネントをポップオーバーに追加します。

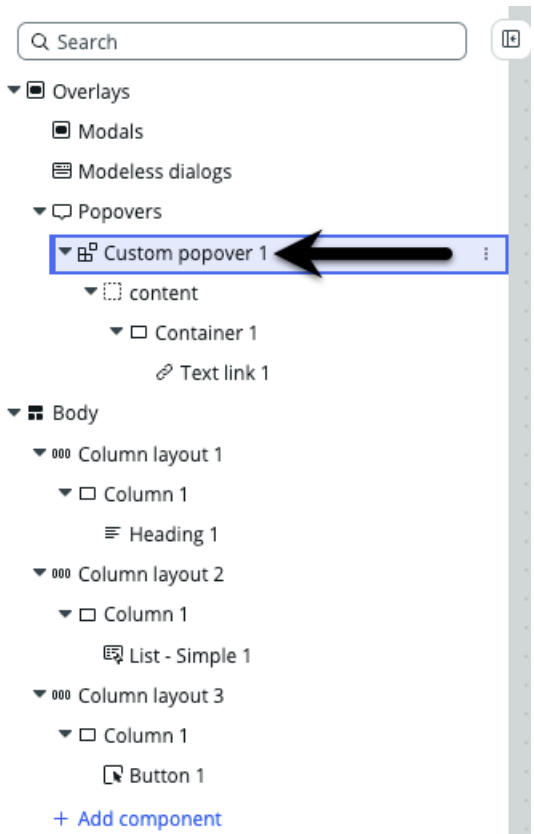
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**11.** ポップオーバーの構成が完了したら、閉じます。

コンテンツツリーで、作成したポップオーバーがページ構造の本文の上にあることに注意してください。




**12.** [保存] をクリックします。

**13.** UI ビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。

**14.** ボタンをクリックしてポップオーバーをテストします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

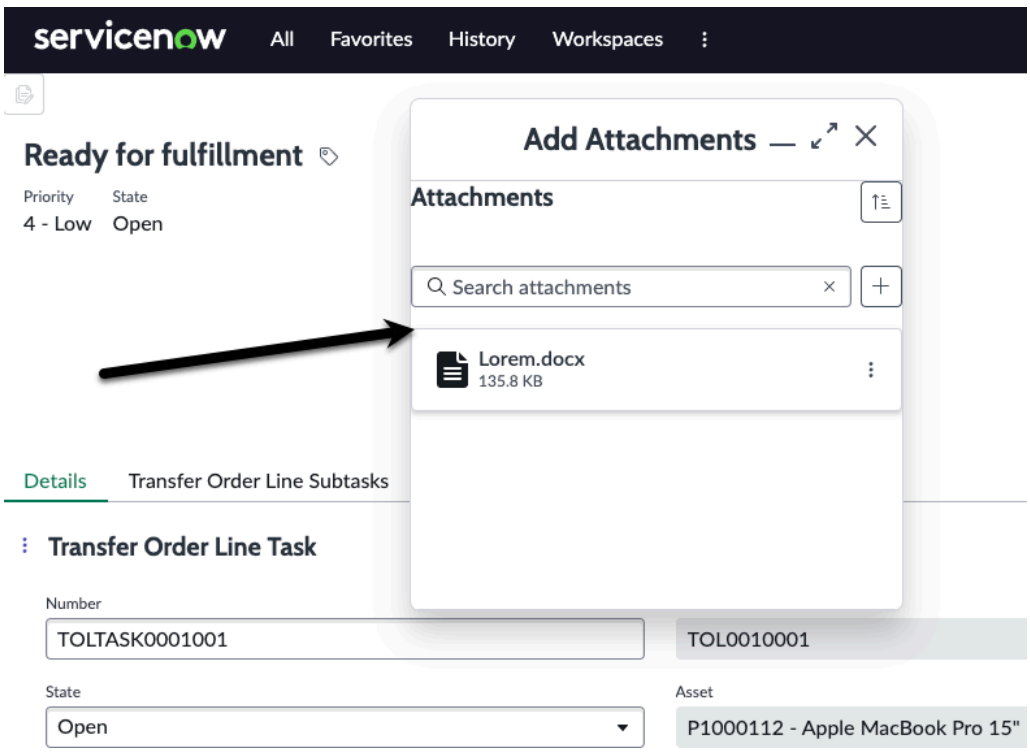
でのモードレスダイアログの作成 **UI** ビルダー

UI Builder ページでモードレスダイアログを使用して、ウィンドウコンテンツと以下のページコンテンツの両方を操作できるフローティングウィンドウを追加します。

モードレスダイアログコンポーネントは、ページ上に表示されるコンポーネントとコンテンツを含むフローティングウィンドウです UI ビルダー 。以下のページを表示して操作しながら、モードレスダイアログでアクションを実行できます。1 つのページに複数のモードレス ダイアログ ウィンドウを追加できます。モードレスダイアログは、サイズを変更したり、ページ上の新しい位置に移動したり、最小化したりできます。

モードレスダイアログはモーダルとは異なり、ポップアップするが、モーダルが閉じられるまでページとのインタラクションをブロックする。モードレスダイアログは、ポップオーバーの外側をクリックすると閉じるポップオーバーとも異なります。

一般的なモードレス ダイアログのユース ケースには、レコードの作成、メールの作成、チャットの使用、作業メモまたはコメントの追加、ヘルプ情報の読み取り、モードレス ダイアログでの添付ファイルの追加/表示などがあります。



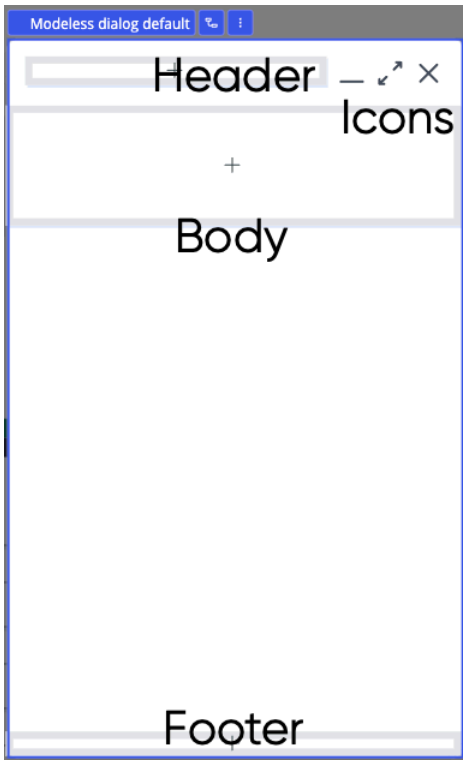

## モードレスダイアログの構造

モードレス ダイアログは、次の 3 つの部分で構成されます。

- モードレスダイアログをページに追加すると、ヘッダーには事前設定された最小化アイコン、展開アイコン、および閉じるアイコンが含まれます。必要に応じて、他のアクションを構成できます。たとえば、ボタンでアクションを構成して、新しいタブでモードレスダイアログを開きます。
- メールコンポーザー、添付ファイル、エージェントチャットなど、UI Builder ツールボックスの任意のコンポーネントを本文に追加します。コンポーネントをページに追加する場合と同様に、レイアウトを適用してコンポーネントを構成できます。
- 必要に応じて、モードレス ダイアログの下部にあるフッターに追加のボタンまたはコンテンツを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




モードレスダイアログを **UI** ビルダー ページに追加する

でモードレス ダイアログ UI ビルダーを追加する方法について説明します。モードレスダイアログは、ページの上のコンテンツを含むフローティングウィンドウです。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

次の手順では、添付ファイルコンポーネントを含むモードレスダイアログを開くボタンを構成するプロセスについて説明します。

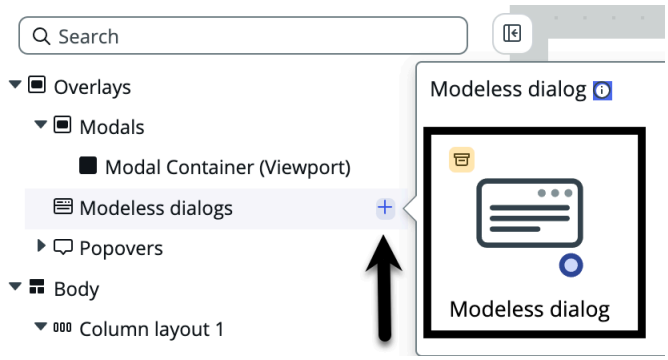
**注:**
ここで説明する手順は、モードレス ダイアログの使用方法の一例にすぎません。無限の可能性があります。ビジネス ニーズに合わせてモードレス ダイアログを追加および構成します。

手順

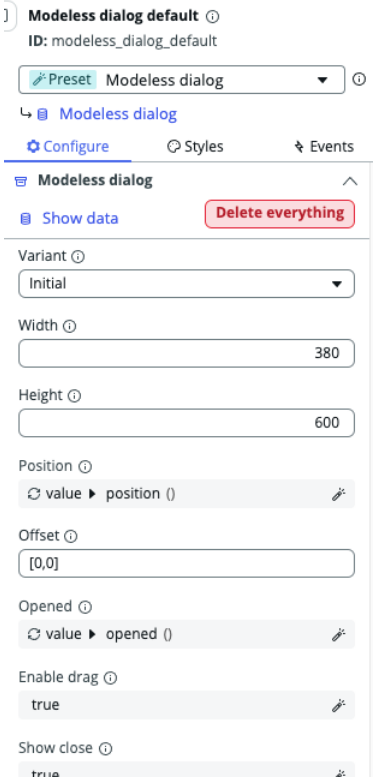
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. コンテンツツリーで、マウスを [モードレスダイアログ] に移動し、[+] アイコンを選択して、[モードレス] ダイアログ コンポーネントを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




5. モードレスダイアログがステージに自動的に表示されない場合は、コンテンツツリーで [ モードレスダイアログのデフォルト ] という名前の新しいモードレスダイアログを選択します。
6. 構成パネルの [ 構成 ] タブで、モードレスダイアログで自動的に追加されたプリセット (幅、高さ、位置、ドラッグの有効化設定など) を表示します。



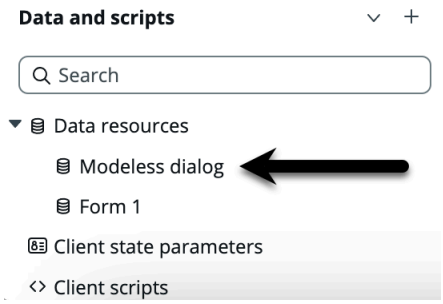

これらのプリセットプロパティはすべて、必要に応じて編集できます。

> **注:**
> モードレスダイアログの詳細プロパティの詳細については、 ServiceNow 開発者サイトを参照してください。

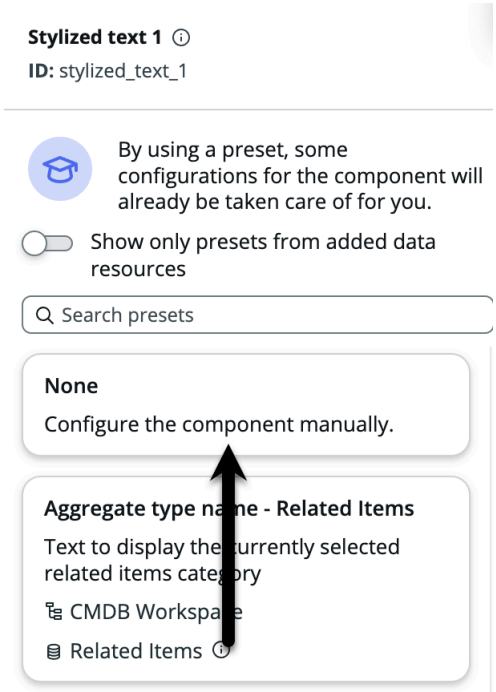
7. データリソースドロワーに、 モードレスダイアログ コントローラーが自動的に追加されました。

自動翻訳

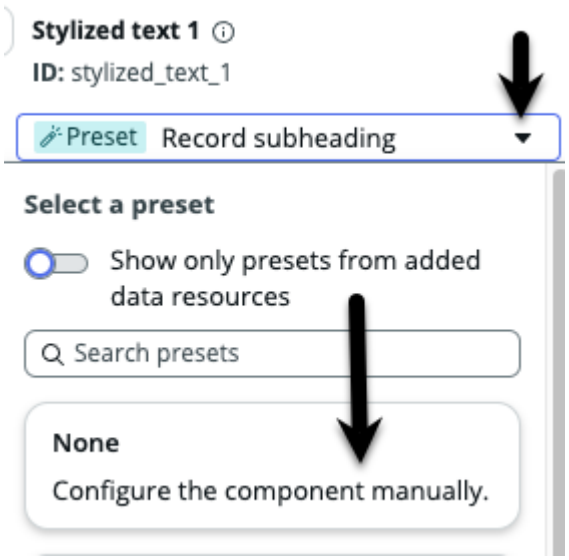
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




8. コンテンツ ツリーで、[モードレス ダイアログの既定の> アクション] で **[+** コンポーネントの追加 ] を選択して、 モードレス ダイアログ ヘッダーにコンテンツを追加します。
9. 定型化されたテキストコンポーネントを検索して選択します。
10. [ 定型テキスト 構成] パネルで、[ なし] を選択してコンポーネントを手動で構成します。



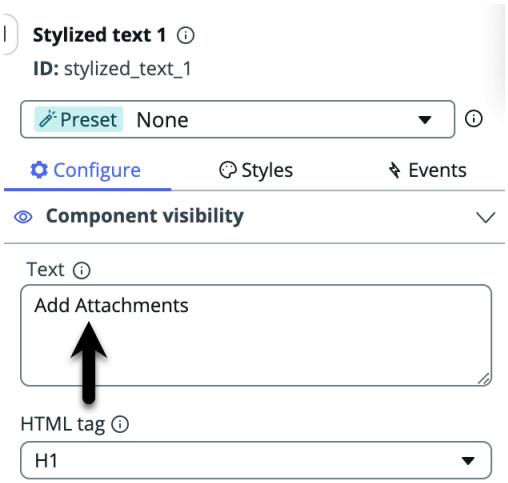

レコード サブ見出し プリセット が自動的に追加された場合は、ドロップダウン矢印を選択し、なし を選択して、構成 タブで 削除 を選択します。



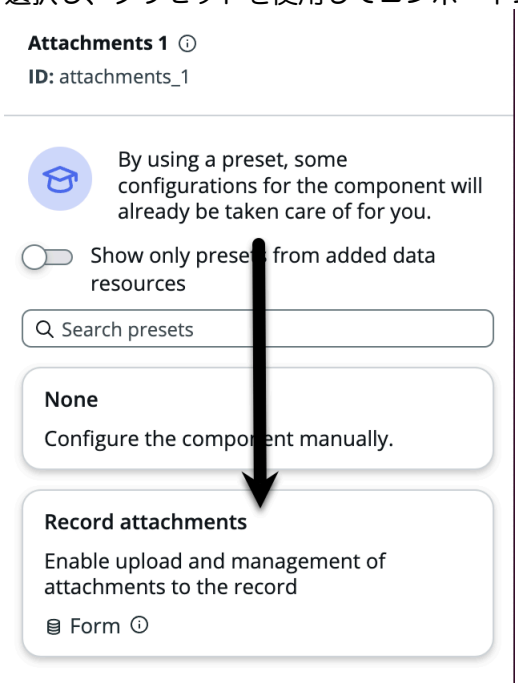

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. まだ開いていない場合は、 [ 構成 ] を選択して [構成] タブを開きます。
12. [テキスト] にサンプル テキストを削除し、「添付ファイルの追加」と入力します。




13. UI Builder ヘッダーで [ 保存 ] を選択します。
14. コンテンツ ツリーで、[モードレス ダイアログの既定値] > [コンテンツ > コンテナー] の下にある **[+** コンポーネントの追加 ] を選択して 、モードレス ダイアログ 本体にコンテンツを追加します。
15. 添付ファイルコンポーネントを選択します。
16. [添付ファイル] 構成パネルで、まだ選択されていない場合は、[添付ファイルの記録] と [適用] を選択し、プリセットを使用してコンポーネントを構成します。




添付ファイルコンポーネントの構成の詳細については、 ServiceNow 開発者サイトを参照してください。

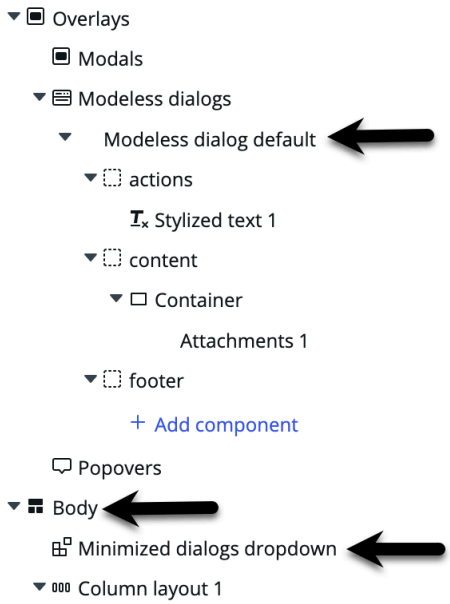
17. モードレス ダイアログ フッターにコンテンツを追加できますが、この例ではフッターを空のままにします。
18. **[Save** (保存)] を選択します。
コンテンツツリーで、モードレスダイアログとそのすべてのコンポーネントがページ構造の 本文の上にリストされていることを確認します。また、[ 最小化されたダイアログ] ドロップダウン コ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ンポーネントがページに自動的に追加され (コンテンツツリーの [本文 ] の下に一覧表示されます)、モードレスダイアログヘッダーの最小化アイコン機能を提供します。

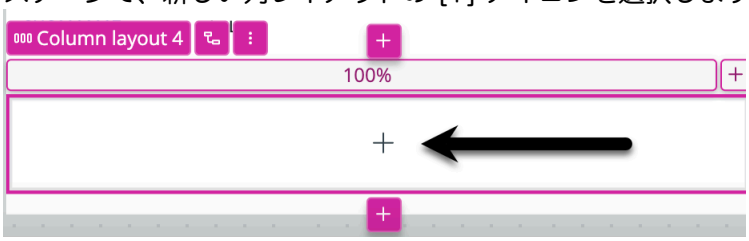



19. コンテンツツリーで、[ 本文] を選択します。
20. ボタンコンポーネントを追加し、モードレスダイアログを開くように構成します。

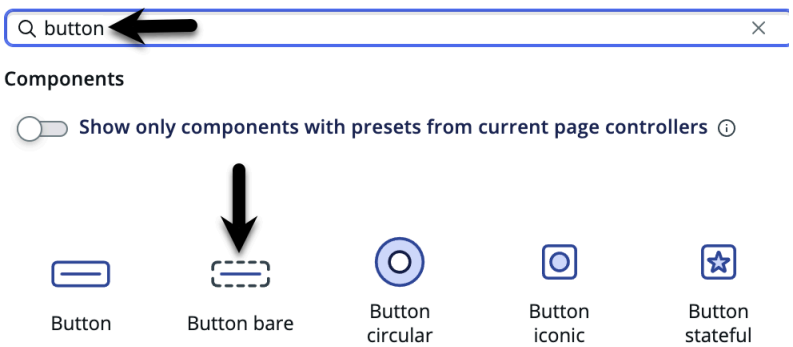
    a. コンテンツ ツリーで、[本文] の横にある [メニュー] アイコンを選択し、[コンポーネントの追加] を選択します。

    b. レイアウト タブで、単一列 を選択します。
    単一の列を含む新しい列レイアウトがページの下部に追加されます。

    c. ステージで、新しい列レイアウトの [+] アイコンを選択します。




    d. ベアボタンコンポーネントを検索して選択します。



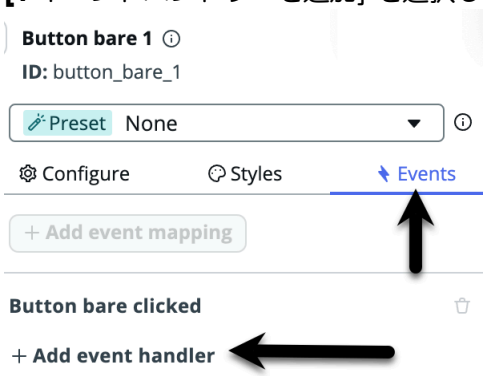

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. 構成パネルの [ 構成 ] タブで、[ なし ] を選択してコンポーネントを手動で構成します。

f. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

g. [+ イベントハンドラーを追加] を選択します。

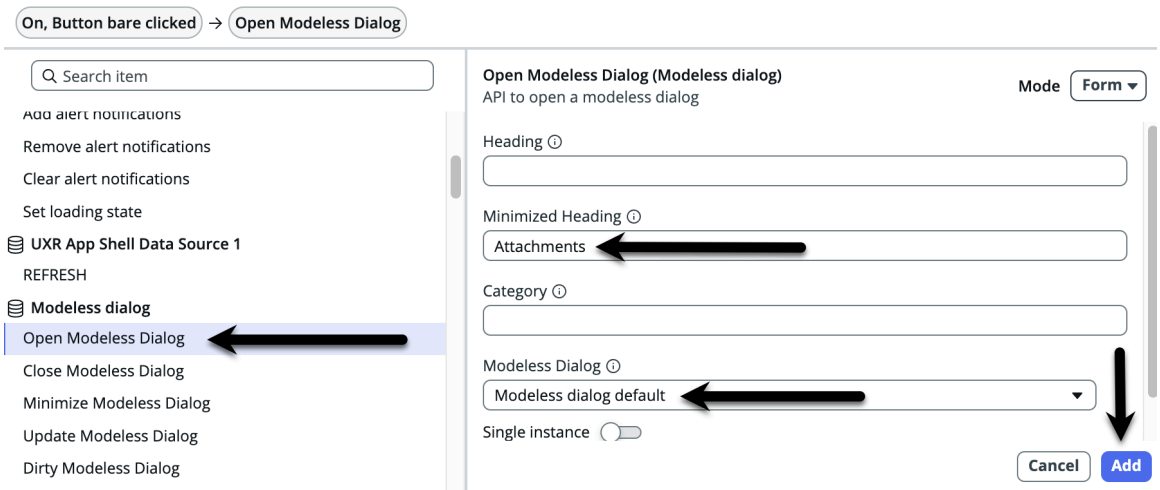



h. 左側のリストで、[ モードレスダイアログを開く ]を選択します(リスト内を下にスクロールする必要がある場合があります)。

i. 最小化された見出しに添付ファイルを入力します。

j. モードレスダイアログでデフォルトのモードレスダイアログを選択します。
見出しやカテゴリなど、ここで設定できる他のオプションがあります。

k. [追加] を選択します。

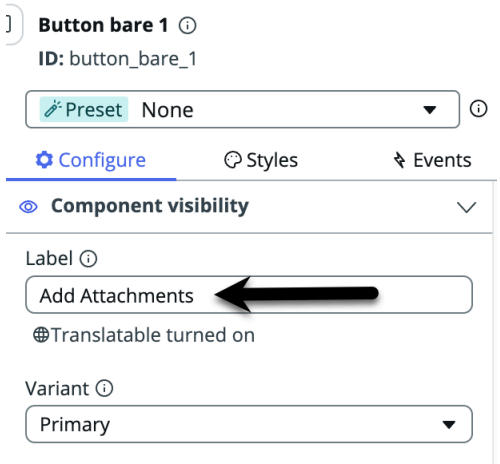



l. [ 構成 ] タブを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

m. 「ラベルに添付ファイルの追加」と入力します。




21. **[Save** (保存)] を選択します。
22. ヘッダーの UI ビルダー [プレビュー] の横にあるドロップダウン矢印を選択し、一覧で [**URL** パスを開く] を選択します。
23. [ 添付ファイルの追加] ボタンを選択して、モードレス ダイアログをテストします。
モードレスダイアログがメインページの上に開き、上部に見出し、下に添付ファイルコンポーネントが表示されます。
24. 最小化機能をテストするには、モードレス ダイアログの最小化アイコンを選択します。

モードレス ダイアログは最小化され、[最小化されたダイアログ] ドロップダウンからアクセスできます。
25. 最小化されたダイアログ アイコンを選択し、[ 添付ファイル ] を選択して、モードレス ダイアログ ウィンドウを再度開きます。

### **UI Builder** ページの表示スタイルの管理

テーマを使用すると、エクスペリエンスの視覚的なスタイルを変更し、ブランドのルックアンドフィールを表現できます。

> **注:**
> テーマは、CSM の構成可能ワークスペースおよび App Engine Studio の ワークスペース とポータルのエクスペリエンスのみに適用できます。モバイルアプリのテーマを作成するには、「Legacy mobile theming」を参照してください。

#### テーマの開始

エクスペリエンスに適用するテーマを作成する前に、ユーザーが操作するすべてのエクスペリエンスのテーマ作成計画を作成します。テーマ作成計画では、次の質問を考慮することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザーはどのような種類のエクスペリエンスを操作しますか？
- これらのエクスペリエンスの表示スタイルにはどのような類似点や相違点があるべきですか？

たとえば、すべてのエクスペリエンスを通じて単一のルックアンドフィールを表す 1 つのテーマを作成する場合は、メインテーマのみを作成することができます。ただし、全体的なブランドスタイルに基づく複数のブランディングバリエーションが必要な場合は、メインテーマを作成し、そのテーマを拡張してテーマのバリエーションを作成できます。

### メインテーマの作成

メインテーマは、組織のブランドの全体的なルックアンドフィールを表します。メインテーマを作成するときは、次の点を考慮してください。

- 次のタイプの要素について、ユーザーに表示するブランド色はどれですか？
  1. プライマリ、または最も重要なアクション。
  2. セカンダリ、または補足アクション。
  3. [store-future: BEGIN review]背景、分割線、境界線など、画面上の中立の要素。[End]
- [store-future: BEGIN review]ユーザーに表示するブランドのフォントは何ですか？[End]

ブランド色を選択したら、テーマの次の Next Experience CSS カスタムプロパティに色値を RGB トリプレットとしてアサインすることができます。

テーマの **Next Experience CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | アサインする **RGB** 色値 |
|---|---|
| --now-color_brand--primary | プライマリブランド色。<br>**注:** この色は明るい背景に頻繁に表示されるため、彩度の高いより暗い色が最適です。暗い背景は現在サポートされていません。 |
| --now-color--primary-1 | 前記と同じです。プライマリブランド色。<br>**注:** この色は明るい背景に頻繁に表示されるため、彩度の高いより暗い色が最適です。暗い背景は現在サポートされていません。 |
| --now-color--primary-0 | プライマリブランド色のやや明るいバリエーション。 |
| --now-color--primary-2 | プライマリブランド色のやや暗いバリエーション。 |
| --now-color--primary-3 | プライマリブランド色の最も暗いバリエーション。 |
| --now-color_brand--secondary | セカンダリブランド色。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーマの **Next Experience CSS** カスタムプロパティ (続く)

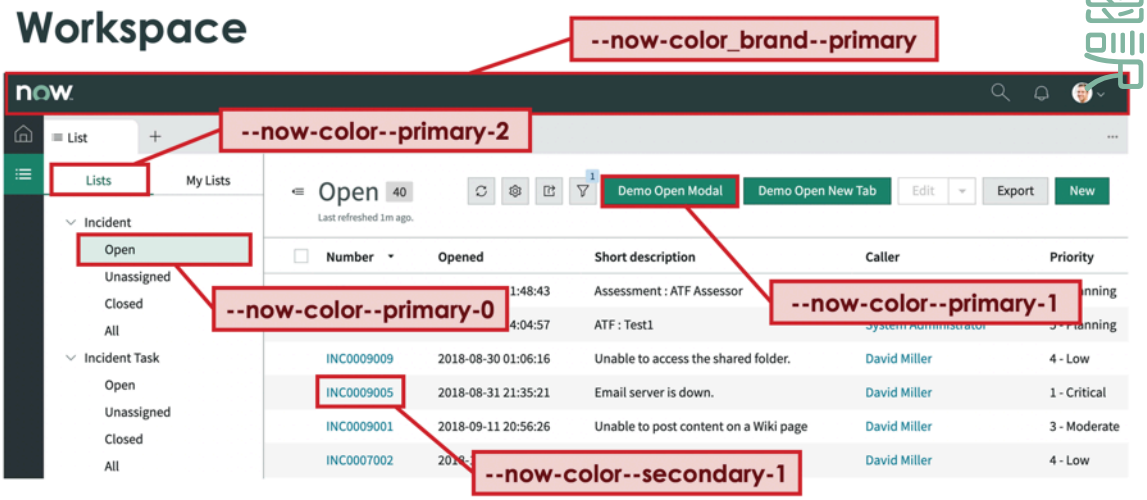
| **CSS** カスタムプロパティ | アサインする **RGB** 色値 |
|---|---|
| --now-color--secondary-1 | 前記と同じです。セカンダリブランド色。 |
| --now-color--secondary-0 | セカンダリブランド色のやや明るいバリエーション。 |
| --now-color--secondary-2 | セカンダリブランド色のやや暗いバリエーション。 |
| --now-color--secondary-3 | セカンダリブランド色の最も暗いバリエーション。 |

これらの CSS カスタムプロパティは、テーマ [sys_ux_theme] レコードで「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」の手順を実行するために使用できます。

**注:**
インスタンスで、すべてのエクスペリエンスにメインテーマが自動的に適用されるわけではありません。メインテーマをエクスペリエンスに適用する方法の詳細については、「エクスペリエンスへのテーマの適用」を参照してください。

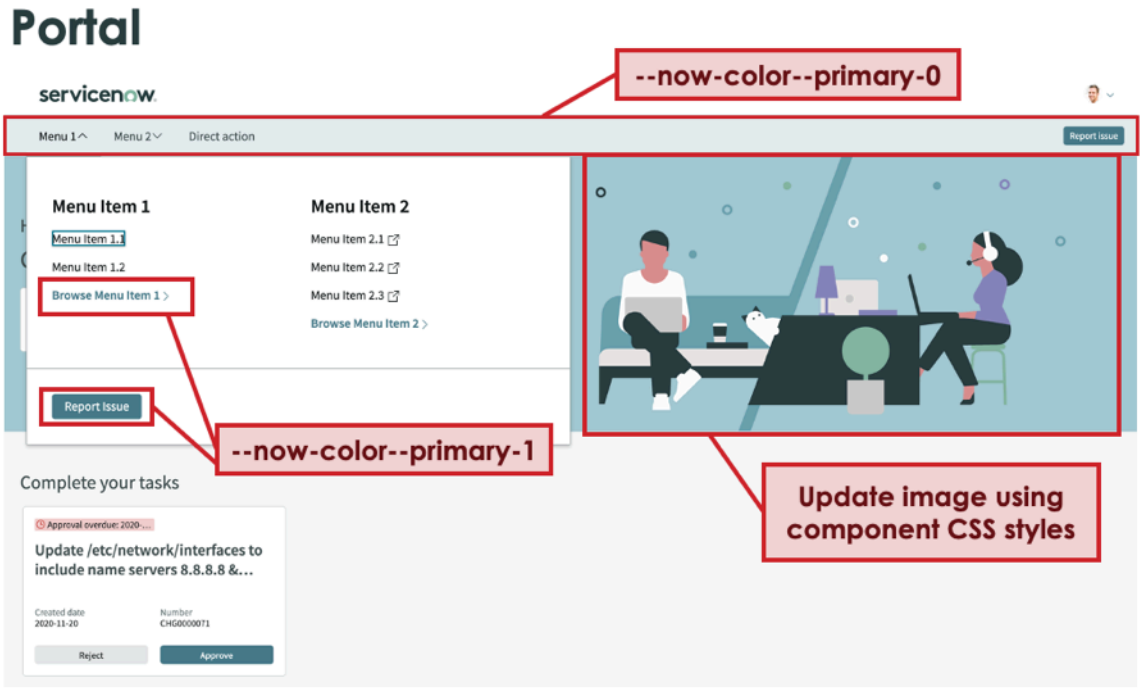
次の画像は、ワークスペース およびポータルで Next Experience CSS カスタムプロパティが表示される場所を示しています。テーマで使用する CSS カスタムプロパティを決定するときは、これらの画像を参照してください。

ワークスペース エクスペリエンスで **CSS** カスタムプロパティが表示される場所




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポータルエクスペリエンスで **CSS** カスタムプロパティが表示される場所




## メインテーマのバリエーションの作成

ユーザー向けに構築しているエクスペリエンスのタイプに応じて、メインテーマのバリエーションを作成できます。メインテーマのバリエーションを作成してエクスペリエンスに適用する場合は、次の質問を考慮してください。

- このエクスペリエンスでユーザーが持っているロールは何ですか？
- このエクスペリエンスでユーザーが最も重視しているタスクはどれですか？
- このエクスペリエンスで作業するときに、ユーザーはどのように感じるでしょうか？

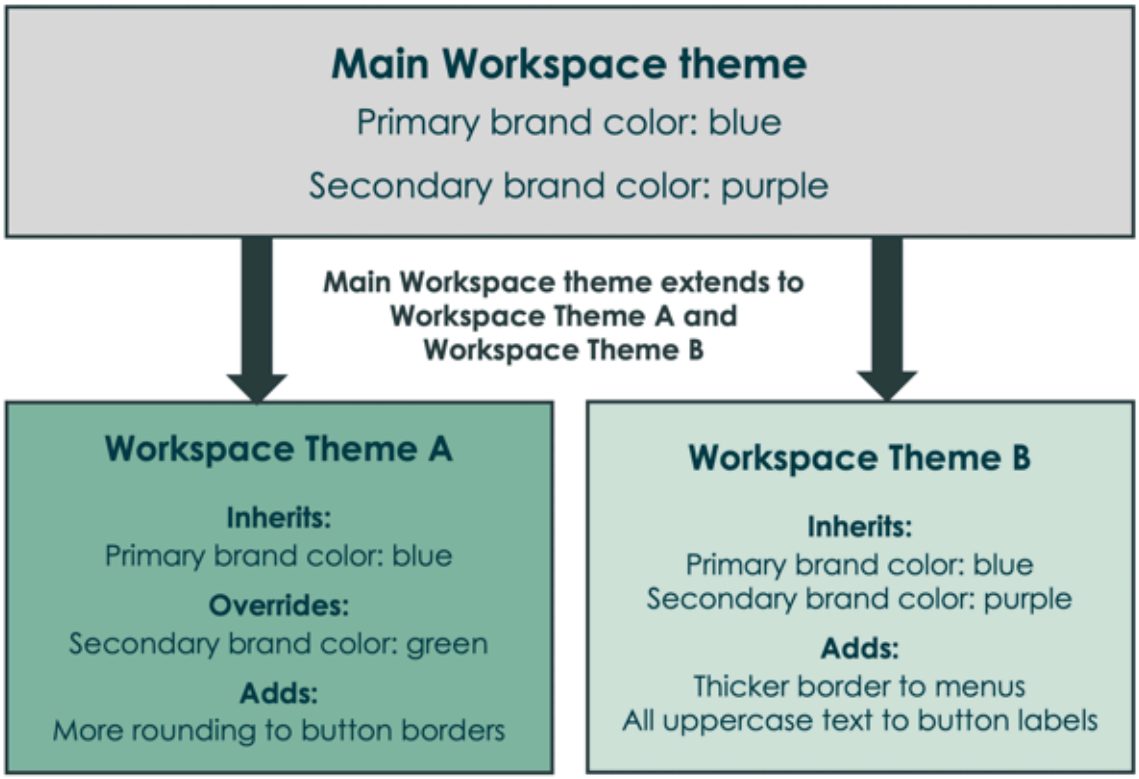
チームにこれらの質問を問いかけることで、メインテーマのバリエーションを作成するアプローチをよりよく理解できます。たとえば、ワークスペース でアクションを完了するための厳格なサービスレベルアグリーメント (SLA) を持つ履行者向けのテーマのバリエーションを作成しているとします。このような場合は、すべてのボタンテキストを大文字に変換して、ワークスペース のプライマリアクションとセカンダリアクションにさらに注意を喚起することを検討すべきです。

メインテーマとその 2 つのバリエーションをスタイル設定する方法の例を次に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メインのワークスペーステーマ




**注:**
インスタンスでは、エクスペリエンスにメインテーマとテーマのバリエーションが自動的に適用されるわけではありません。メインテーマとそのバリエーションの作成のステップ実行例については、「UI ビルダー のテーマの拡張」を参照してください。

[store-future: BEGIN review]

## CSS カスタムプロパティ

エクスペリエンス全体ですべてのコンポーネントの表示スタイルを変更するには、テーマ [sys_ux_theme] レコードで CSS カスタムプロパティの値を設定する必要があります。詳細については、「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」を参照してください。

CSS カスタムプロパティは、次の並びのいずれかの階層に分類されます。

1. `System`：システム CSS カスタムプロパティは、これらのプロパティを自動的に継承するすべてのコンポーネントに適用されます。
2. `Category`：カテゴリ CSS カスタムプロパティは、同様の機能を実行する複数のコンポーネントに適用されます。これらのコンポーネントは、これらのプロパティを自動的に継承します。
3. `Component`：コンポーネント CSS カスタムプロパティは、1 つのコンポーネントのすべてのインスタンスに適用されます。

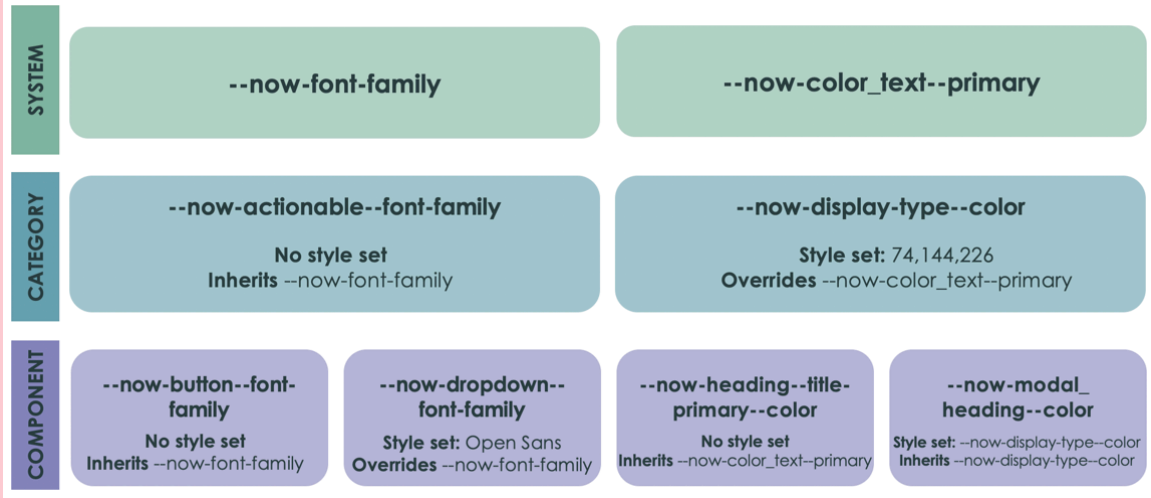
下位の階層は上位の階層から継承します。デフォルトでは、特定のカテゴリ CSS プロパティは、カテゴリレベルで上書き値を設定しない限り、システム CSS プロパティから値を自動的に継承します。さらに、特定のコンポーネント CSS プロパティは、コンポーネントレベルで上書き値を設定しない限り、システムまたはカテゴリ CSS プロパティから値を自動的に継承します。

次の画像は、CSS カスタムプロパティの階層間でプロパティがどのように継承されるかを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSS カスタムプロパティの継承と上書き




[End]

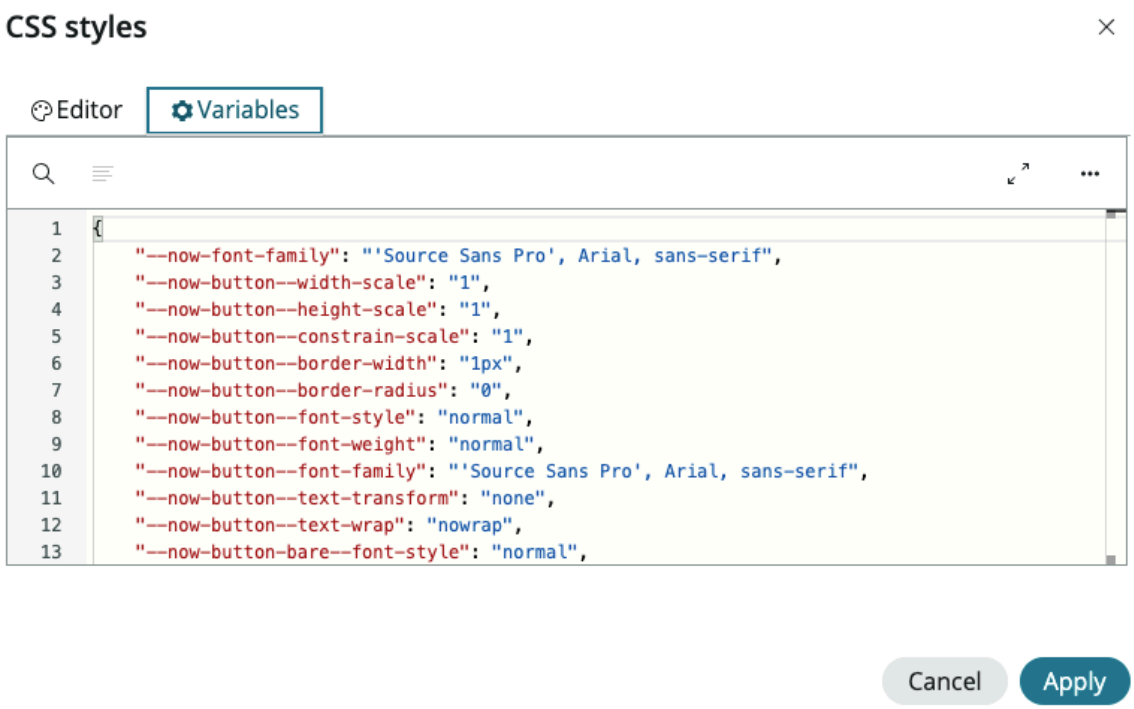
## CSS エディターのテーマ変数

[sys_ux_theme] テーブルでテーマ変数を定義している場合は、それらを UI ビルダー スタイル CSS エディターで直接使用してページにスタイリングを追加できます。

UI ビルダー は、テーマで定義したテーマ変数と、CSS 構成を入力する CSS プロパティと値をインテリジェントに予測または提案します。

[開く] アイコン ( ) を使用して、モーダルで CSS スタイルエディターを展開します。展開されたモーダルには検索オプションがあり、より広い作業スペースで変数を完全に表示できます。展開されたエディターには 2 つのタブも表示されます。[エディター] タブには、CSS コードの完全なビューが表示されます。[変数] タブには、ユーザーのテーマによって定義された変数が表示されます。

スタイルの編集



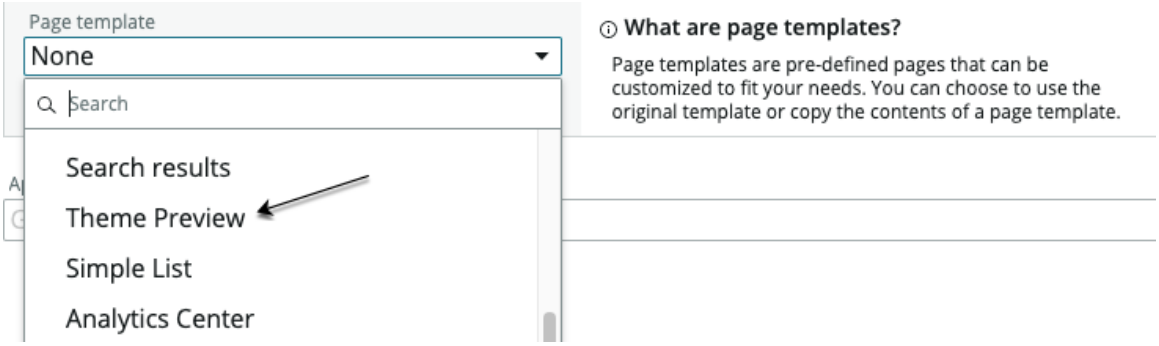

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### テーマプレビューテンプレート

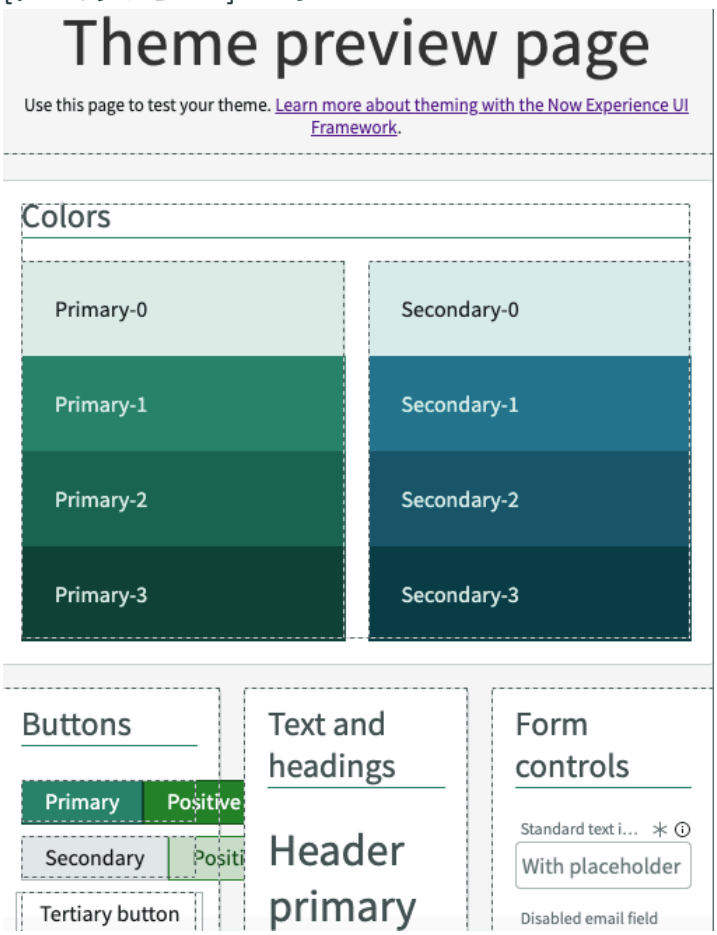
UI ビルダー ページを作成し、[テーマプレビュー] ページテンプレートを適用して、適用されたテーマがページでどのように表示されるかを確認します。

テーマプレビューテンプレート




[テーマプレビュー] ページには、テーマが適用されたときに共通のコンポーネントがどのように表示されるかが示されます。たとえば、定義したテーマに応じて、[テーマプレビュー] ページは次のように表示されます。

[テーマプレビュー] ページ




[store-future: BEGIN review]

### システム CSS カスタムプロパティ

システム CSS カスタムプロパティは、色とフォントにのみ関連しています。システムの CSS カスタムプロパティを使用して、テーマの基本色とフォントを定義できます。デフォルトでは、これらの

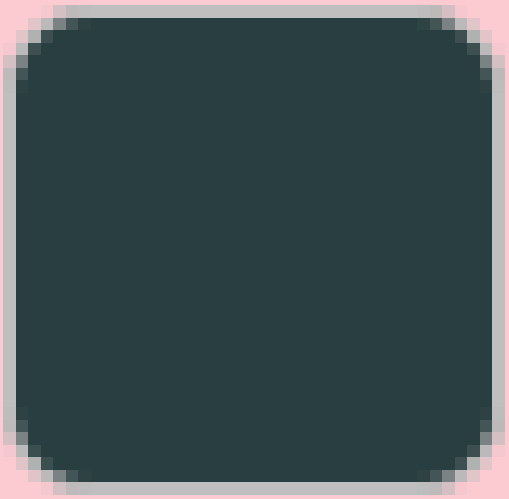
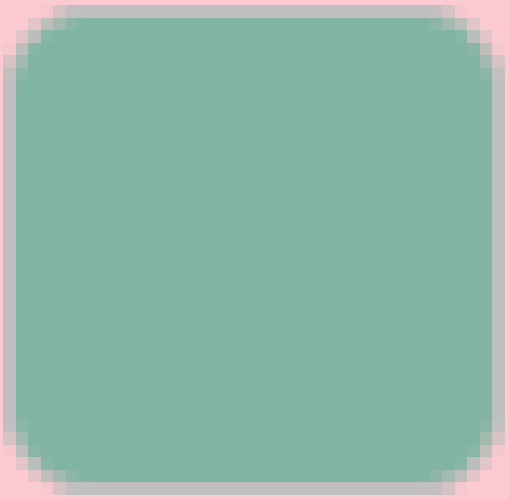
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本色とフォントは、エクスペリエンス内のこれらのスタイルを継承するすべてのコンポーネントに適用されます。

### ブランド色

ブランド色は、ブランドの全体的なルックアンドフィールを表す基本色です。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color_brand--primary | 41,62,64  |
| --now-color_brand--secondary | 129,181,161  |

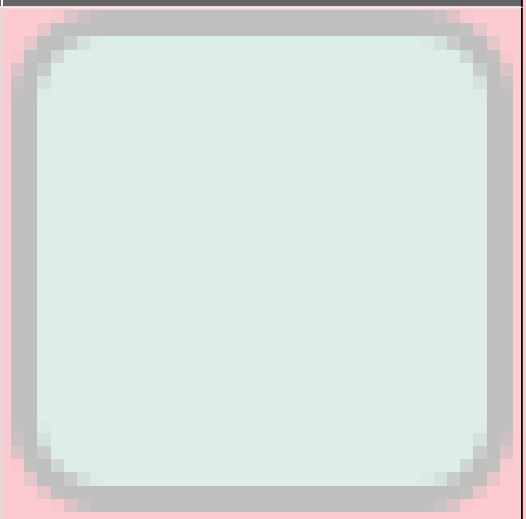
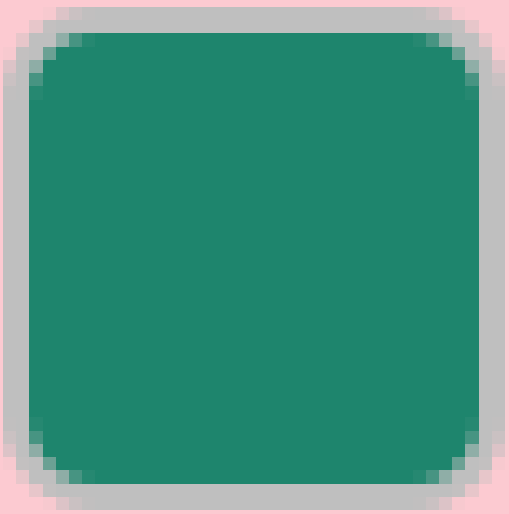
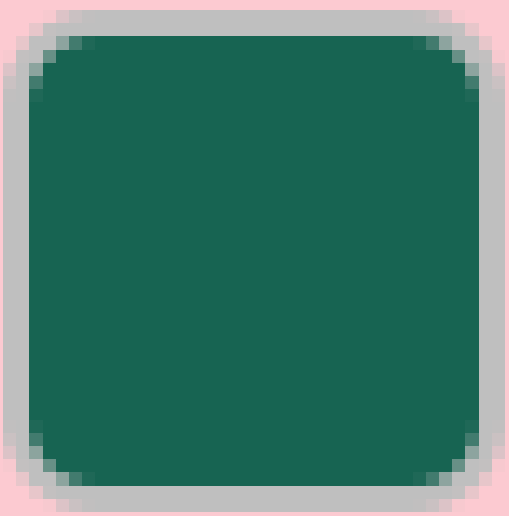
### プライマリ色

プライマリ色は、ユーザーがエクスペリエンスで実行する必要がある最も重要なアクションを示します。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color--primary-0 | 221,237,233 |

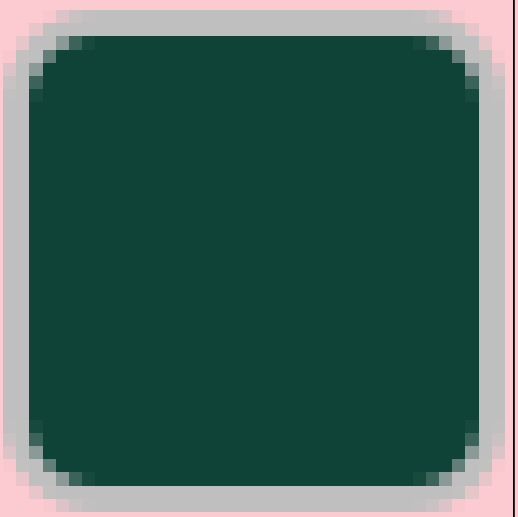
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| |  |
| --now-color--primary-1 | 30,133,109<br>  |
| --now-color--primary-2 | 23,100,82<br>  |

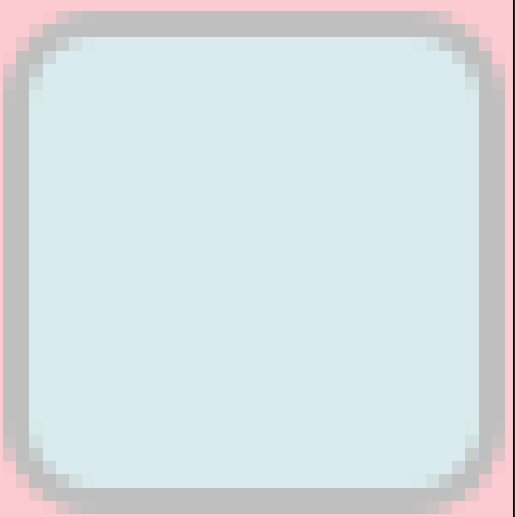
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color--primary-3 | 15,67,55  |

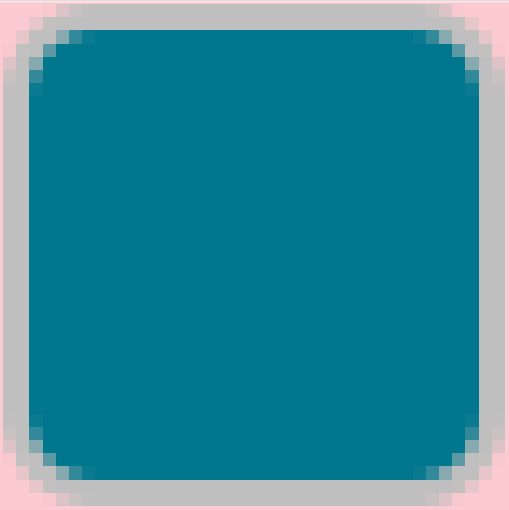
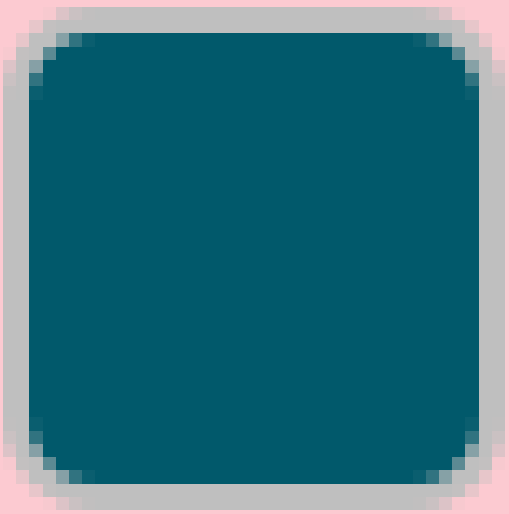
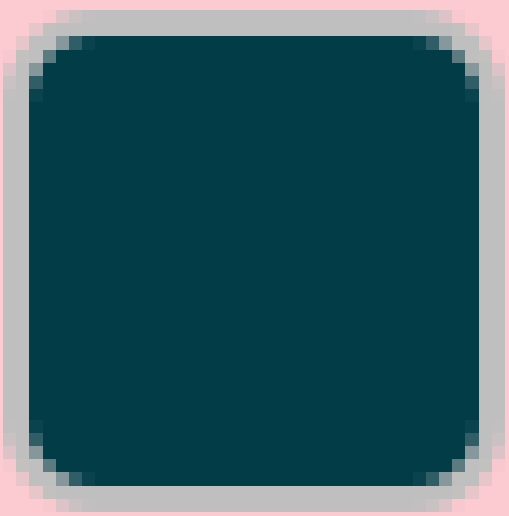
セカンダリ色

セカンダリ色は、プライマリアクションを補完するアクションを示します。たとえば、[作成] がプライマリボタンであれば、[編集] ボタンはセカンダリ色になります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color--secondary-0 | 217,235,238  |
| --now-color--secondary-1 | 1,119,142 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

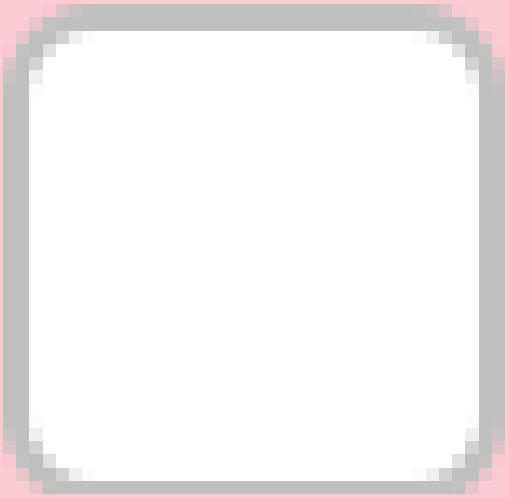
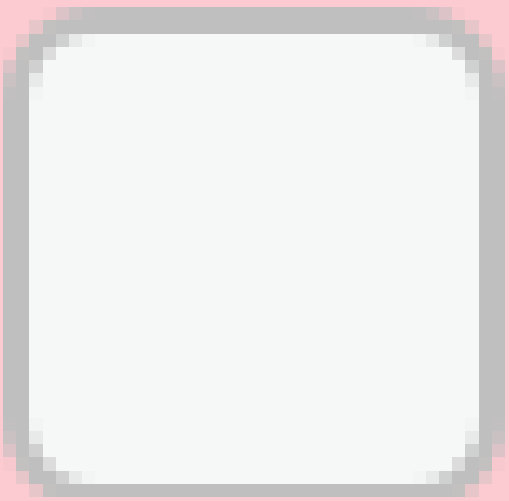
| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| |  |
| --now-color--secondary-2 | 1,89,107  |
| --now-color--secondary-3 | 1,60,71  |

中間色

自動翻訳

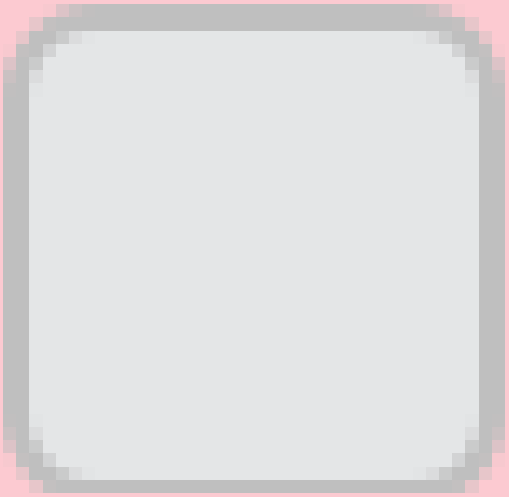
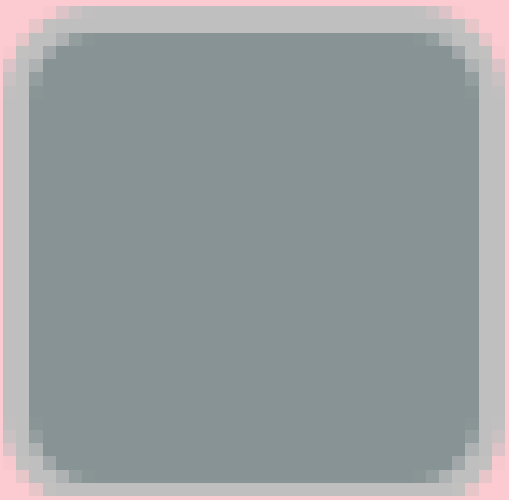
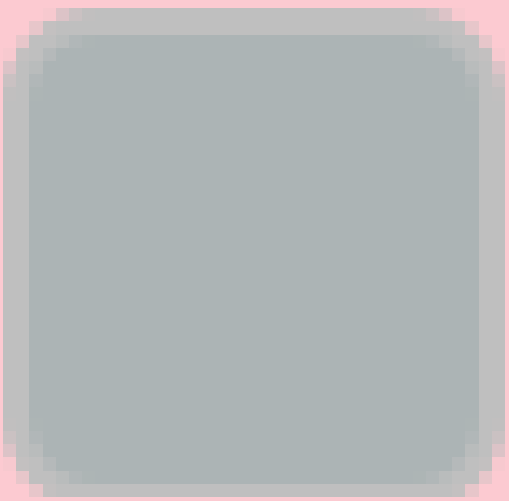
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

中間色は、プライマリ色とセカンダリ色の両方を強調するのに役立つ単色のパレットです。たとえば、メニューのボタンなどのプライマリアクションがあるメニューの背景は中間色となります。中間色は主に、背景、分割線、タイポグラフ、およびコンポーネントの境界に利用されます。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color_background--primary | 255,255,255  |
| --now-color_background--secondary | 246,247,247  |
| --now-color_background--tertiary | 228,230,231 |

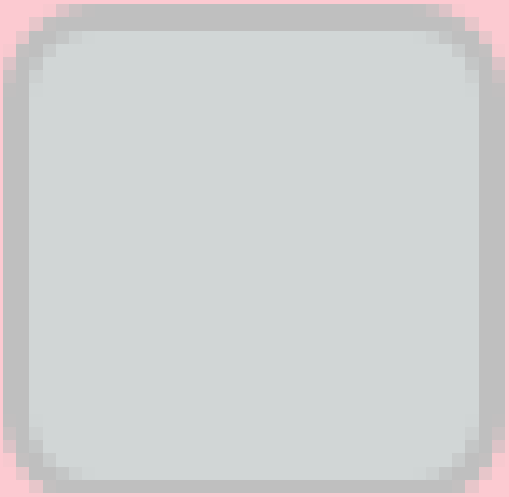
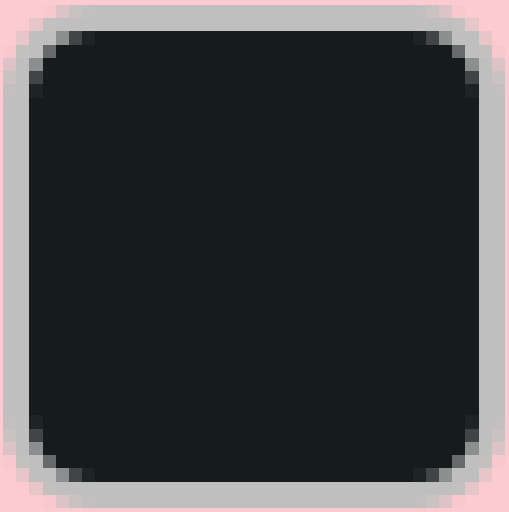
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| |  |
| --now-color_divider--primary | 135,147,148<br>  |
| --now-color_divider--secondary | 172,180,181<br>  |

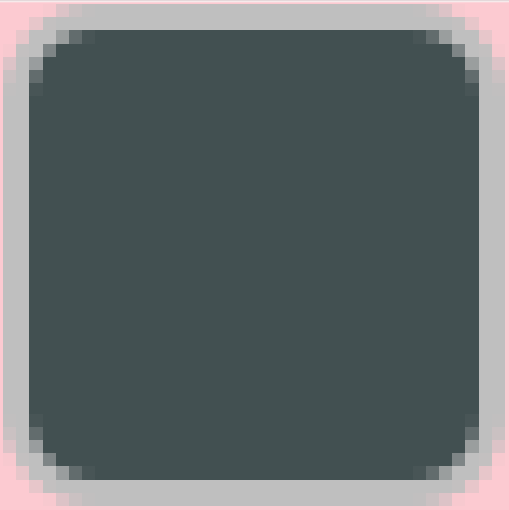
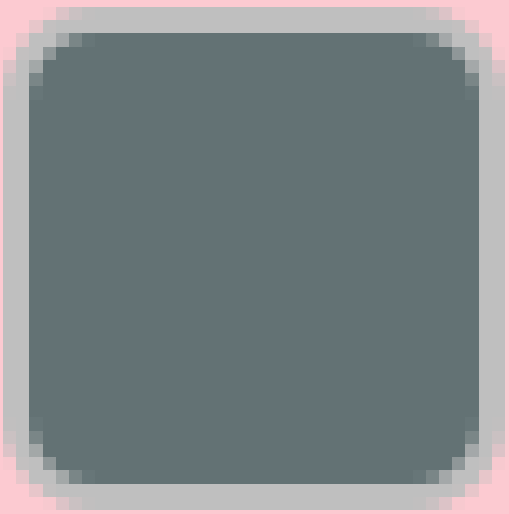
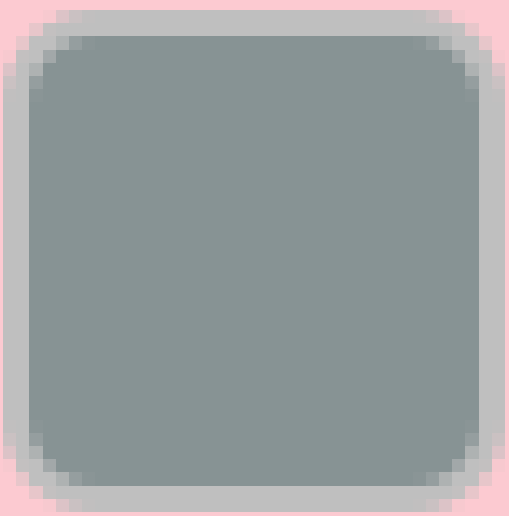
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-color_divider--tertiary | 209,214,214  |
| --now-color_text--primary | 22,27,28  |
| -now-color_text--secondary | 66,80,81 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| |  |
| -now-color_text--tertiary | 99,114,116<br>  |
| -now-color_border--primary | 135,147,148<br>  |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| -now-color_border--secondary | 172,180,181 |
| -now-color_border--tertiary | 209,214,214 |

フォントファミリ

now-font-family カスタム CSS プロパティに設定した値は、エクスペリエンス全体ですべてのコンポーネントにデフォルトで表示されるフォントを定義します。標準の Web フォントのみがサポートされています。

| CSS カスタムプロパティ | デフォルト値 |
| --- | --- |
| --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |

[End]

[store-future: BEGIN review]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## カテゴリ CSS カスタムプロパティ

カテゴリ CSS カスタムプロパティは、同様の機能を実行する複数のコンポーネントに適用されます。これらのコンポーネントは、これらのプロパティを自動的に継承します。 カテゴリ CSS カスタムプロパティのテーマに値を設定して、エクスペリエンス内のコンポーネントのグループに視覚的なスタイリングを適用できます。たとえば、--now-window--background-color のデフォルト値を上書きして、エクスペリエンス内のすべてのモーダルの背景色を変更できます。

カテゴリ CSS カスタムプロパティには、関連するサブカテゴリ CSS カスタムプロパティも含まれています。たとえば、メニューカテゴリには、メニューの見出しに影響する CSS カスタムプロパティが含まれています。通常、これらのサブカテゴリ CSS カスタムプロパティは、関連するカテゴリ CSS カスタムプロパティからデフォルト値を継承します。たとえば、--now-menu_heading--font-style プロパティは、デフォルトで --now-menu--font-style プロパティの値を継承します。

### メニュー

メニューコンポーネントは、オプションまたはコンテキスト情報をユーザーに表示します。 メニュー CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-popover
- now-tooltip
- now-dropdown-list
- now-select
- now-typeahead

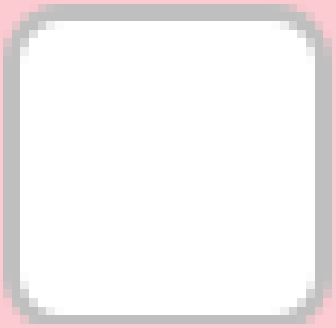
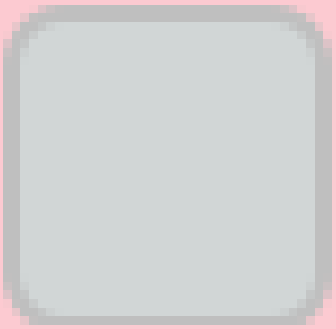
#### メニュー CSS カスタムプロパティ

| CSS カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-menu--font-style | | 標準 |
| --now-menu--font-weight | | 標準 |
| --now-menu--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-menu--text-transform | | なし |
| --now-menu--border-width | | 1px |
| --now-menu--border-color | --now-color_border--secondary | 172,180,181 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メニュー **CSS** カスタムプロパティ (続く)

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-menu--border-radius | | 2px |
| --now-menu--background-color | --now-color_background--primary | 255,255,255  |
| --now-menu--divider-width | | 1px |
| --now-menu--divider-color | --now-color_divider--tertiary | 209,214,214  |

アクション可能

アクション可能コンポーネントは、コマンドを実行するかイベントをトリガーします。アクション可能 CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-button
- now-button-bare
- now-button-iconic
- now-button-circular
- now-button-stateful
- now-split-button
- now-dropdown
- now-breadcrumbs
- now-text-link

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション可能 **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-actionable--font-style | | 標準 |
| --now-actionable--font-weight | | 標準 |
| --now-actionable--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-actionable--text-transform | | なし |
| --now-actionable--border-width | | 1px |
| --now-actionable--border-radius | | 0px |

フォームコントロール

フォームコントロールコンポーネントは、フォームに提供するデータをフェッチする入力をユーザーに提供します。 フォームコントロール CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-checkbox
- now-pill
- now-radio-buttons
- now-toggle

フォームコントロール **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-form-control--font-style | | 標準 |
| --now-form-control--font-weight | | 標準 |
| --now-form-control--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-form-control--text-transform | | なし |
| --now-form-control--border-width | | 1px |
| --now-form-control--border-radius | | 2px |

表示タイプ

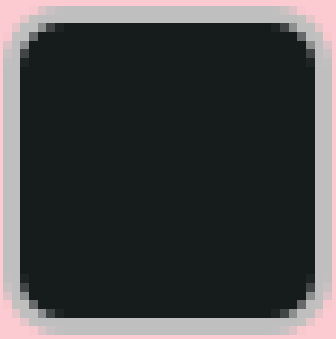
表示タイプコンポーネントは、タイポグラフィカルなスタイリングを通じてユーザーに情報を表示します。 表示タイプ CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- now-heading
- now-label-value-inline
- now-label-value-stacked
- now-label-value-tabbed
- now-modal
- now-card-header

表示タイプ **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-display-type--font-style | | 標準 |
| --now-display-type--font-weight | | 標準 |
| --now-display-type--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-display-type--text-transform | | なし |
| --now-display-type--color | --now-color_text--primary | 22,27,28  |

Windows

ウィンドウコンポーネントは、メイン画面にオーバーレイとして表示されるコンテナです。 ウィンドウ CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-modal
- now-modeless-dialog

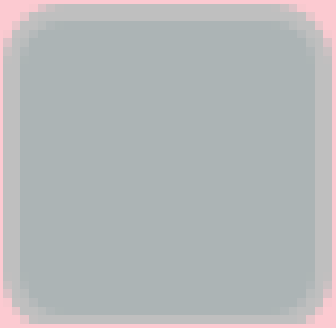
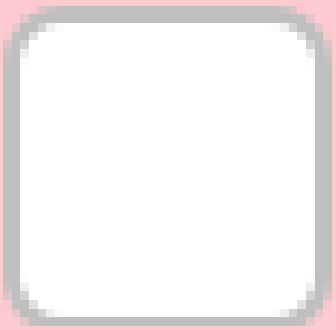
ウィンドウ **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-window--font-style | | 標準 |
| --now-window--font-weight | | 標準 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ウィンドウ **CSS** カスタムプロパティ (続く)

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-window--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-window--text-transform | | なし |
| --now-window--border-color | --now-color_divider--secondary | 172,180,181  |
| --now-window--border-radius | | 4px |
| --now-window--background-color | --now-color_background--primary | 255,255,255  |

識別子

識別子コンポーネントは、オブジェクトまたは要素を表す図像として表示されます。識別子 CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-avatar
- now-icon
- now-icon-presence

識別子 **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-identifier--font-style | | 標準 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

識別子 **CSS** カスタムプロパティ (続く)

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-identifier--font-weight | | 標準 |
| --now-identifier--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-identifier--text-transform | | なし |
| --now-identifier--border-width | | 1px |
| --now-identifier--border-radius | | 0px |

インジケーター

インジケーターコンポーネントは、別のコンポーネントに追加のコンテキスト情報を提供します。 インジケーター CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-badge
- now-highlighted-value

インジケーター **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-indicator--font-style | | 標準 |
| --now-indicator--font-weight | | 標準 |
| --now-indicator--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-indicator--text-transform | | なし |
| --now-indicator--border-width | | 0px |
| --now-indicator--border-radius | | 2px |

ロード中

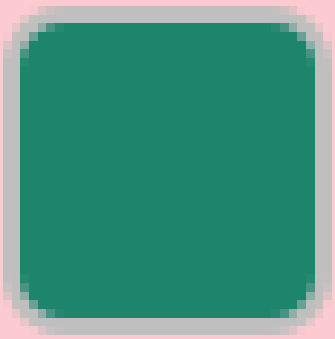
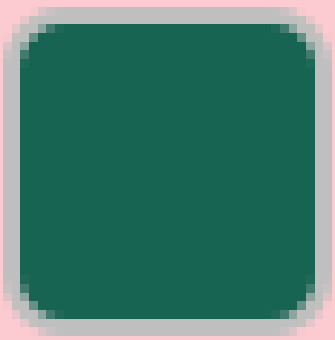
ロードコンポーネントは、進行中のシステム作業をユーザーに通知します。 ローディング CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-loader
- now-progress-bar

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロード **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-loading--font-style | | 標準 |
| --now-loading--font-weight | | 標準 |
| --now-loading--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-loading--text-transform | | なし |
| --now-loading--border-width | | 0px |
| --now-loading-border-radius | | 0px |
| --now-loading--initial--background-color | --now-color--primary-1 | 30,133,109  |
| --now-loading--initial--border-color | --now-color--primary-2 | 23,100,82  |

ナビゲーション

ナビゲーションコンポーネントは、ユーザーがインターフェイス内で情報を見つけるのに役立ちます。 ナビゲーション CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-content-tree
- now-stepper
- now-tabs

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナビゲーション **CSS** カスタムプロパティ

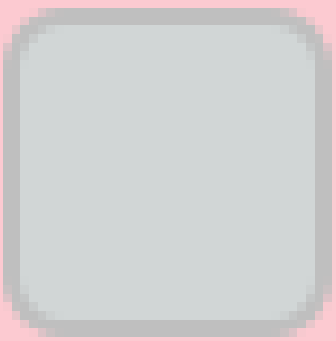
| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-navigation--font-style | | 標準 |
| --now-navigation--font-weight | | 標準 |
| --now-navigation--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-navigation--text-transform | | なし |

コンテナ

コンテナコンポーネントは、他のコンポーネントおよび要素の中にありますが、それらとは分離されています。 コンテナ CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-card
- 今後のコンテナコンポーネントはここにリストされます。

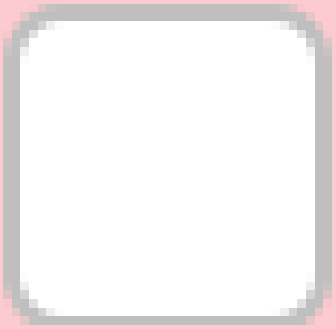
コンテナ **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-container--font-style | | 標準 |
| --now-container--font-weight | | 標準 |
| --now-container--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-container--text-transform | | なし |
| --now-container--border-width | | 1px |
| --now-container--border-color | --now-color_border--tertiary | 209,214,214  |
| --now-container-background-color | --now-color_background--primary | 255,255,255 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテナ **CSS** カスタムプロパティ (続く)

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| | |  |

ビューコントロール

ビューコントロールコンポーネントは、インターフェイスでのコンテンツのビジュアル化を管理します。 ビューコントロール CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-accordion
- now-pagination-control

ビューコントロール **CSS** カスタムプロパティ

| **CSS** カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-view-control--font-style | | 標準 |
| --now-view-control--font-weight | | 標準 |
| --now-view-control--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-view-control--text-transform | | なし |
| --now-view-control--border-width | | 0px |
| --now-view-control--border-radius | | 0px |

メッセージング

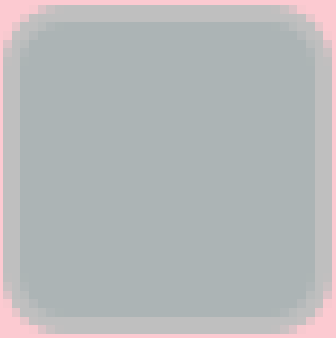
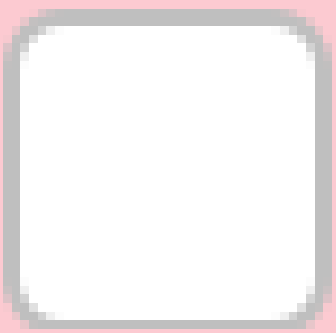
メッセージングコンポーネントは、ユーザーに重要な情報を通知します。 メッセージング CSS カスタムプロパティを継承するコンポーネントには、次のものがあります。

- now-alert
- now-alert-list

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メッセージング CSS カスタムプロパティ

| CSS カスタムプロパティ | デフォルトの継承元 | デフォルト値 |
|---|---|---|
| --now-messaging--font-style | | 標準 |
| --now-messaging--font-weight | | 標準 |
| --now-messaging--font-family | --now-font-family | 'Source Sans Pro', sans-serif |
| --now-messaging--text-transform | | なし |
| --now-messaging--border-width | | 1px |
| --now-messaging--border-color | --now-color_border--secondary | 172,180,181  |
| --now-messaging--border-radius | | 4px |
| --now-messaging--background-color | --now-color_background--primary | 255,255,255  |

[End]

エクスペリエンスへのテーマの適用

テーマを適用してエクスペリエンスの表示スタイルを変更し、すべてのページで一貫したルックアンドフィールを提供します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin または admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
テーマを使用すると、フォントや色などのデフォルトのコンポーネントスタイルを上書きできます。エクスペリエンス全体で一貫したルックアンドフィールを作成できます。

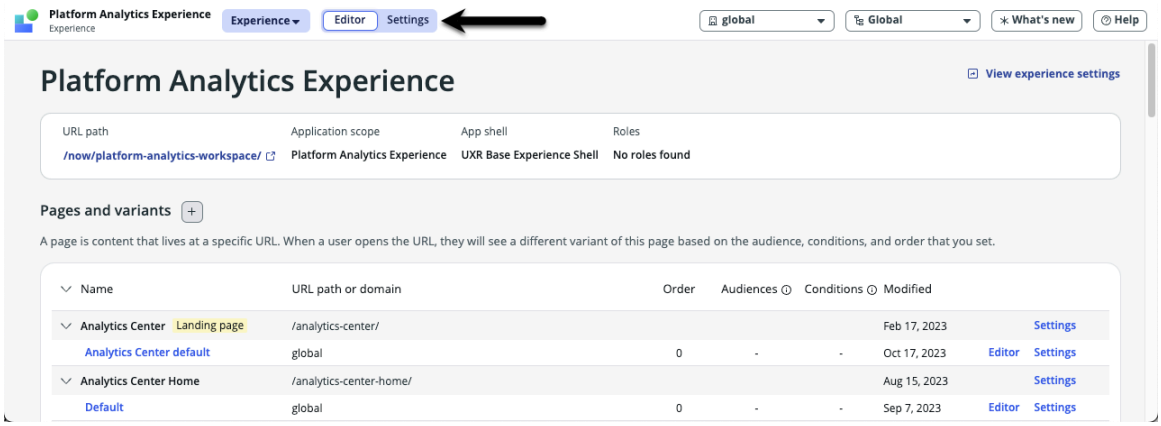
テーマ [sys_ux_theme] レコードを使用すると、コンポーネントを最初から再構築しなくても、エクスペリエンス内のすべての視覚要素に渡されるスタイルプロパティを設定できます。独自のテーマの作成の詳細については、「UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)」を参照してください。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー ( ) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

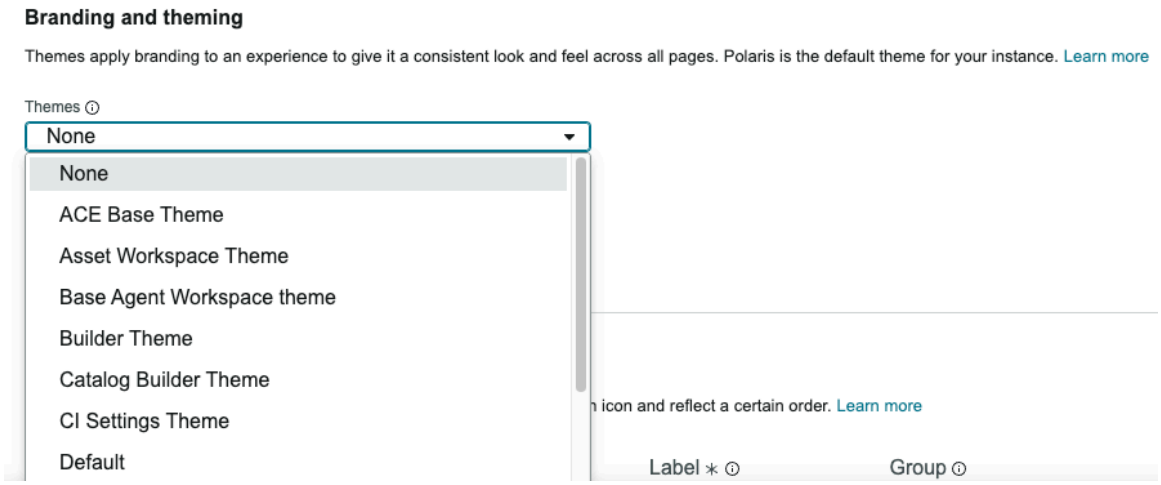


手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. ワークスペースエクスペリエンスを開いて作業するか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。




4. [テーマ] ドロップダウンをクリックします。
5. 適用できるテーマをリストから選択します。




6. [保存] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

高度な **UI** ビルダー

UI ビルダー は、さまざまなスキルレベルを持つアプリケーション開発者に使用できます。このセクションの手順は、高度な経験を持つ開発者 (プロコーダーとも呼ばれます) が実行することをお勧めします。

コンポーネントとリピーターの設定 (高度な機能)

UI ビルダー でページを構築するときに、コンポーネントを追加および設定できます。リピーターを使用すると、データリソースからコンポーネントまたは結果のある複数のコンポーネントを繰り返すこともできます。

コンポーネントの追加と構成

UI ビルダー でページにコンポーネントを追加する方法を学習します。ページはコンポーネントを追加することで構築されます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
コンポーネントは、 で UI ビルダーカスタムページを作成するために使用される構成要素です。 コンポーネントをページに追加する方法を学習します。ページにコンポーネントを追加した後、コンポーネントを構成する必要があります。コンポーネントの構成の詳細については、開発者サイトのコンポーネント ドキュメントServiceNowを参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   既存のページを開く場合は、元のページと同じスコープ内にあることを確認してください。そうでない場合は、ページの編集を開始する前にスコープを変更します。アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。管理者は、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるようにするのかを指定するスコープを設定できます。アプリケーションスコープは、データとアプリケーションファイルを保護します。アプリケーションスコープの詳細については、「」を参照してください セキュリティとロールについて学習する 。
4. 既存のコンテナを選択するか、列レイアウトを作成します。
   詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
5. コンポーネントをページに追加します。
   UI ビルダー には、選択可能なコンポーネントのライブラリが付属しています。コンポーネントはページの構成要素として追加します。たとえば、見出しやデータ表示方法などを追加できます。次の表は、コンポーネントをページに追加するさまざまな方法を示しています。
6. 追加したコンポーネントのプロパティを構成します。
   コンポーネントを構成することは、ニーズに合わせてそれらをカスタマイズすることを意味します。コンポーネントの構成の詳細については、 以下を参照してください。 Next Experience コンポーネント.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** 構成するコンポーネントを選択します。

**b.** の構成UI ビルダーパネルから [構成] タブを選択します。

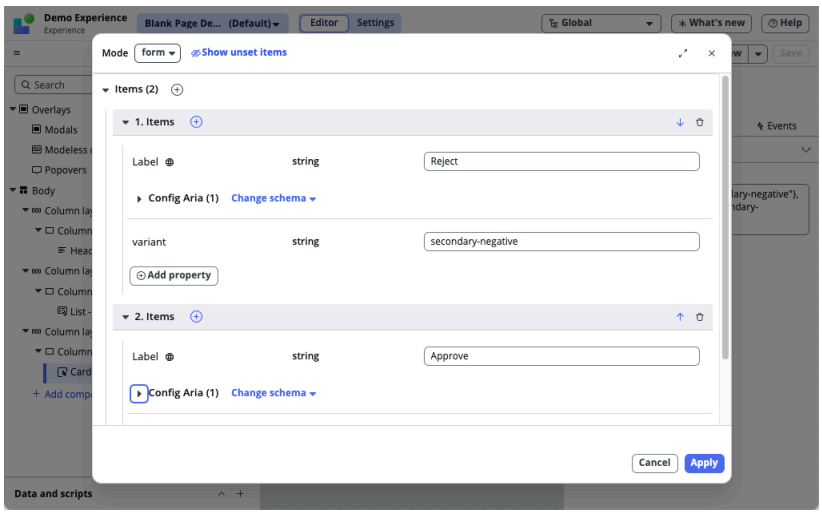
**c.** コンポーネントのコンポーネントプロパティをカスタマイズします。
たとえば、ボタンコンポーネントの名前を追加できます。データビジュアル化などの一部のコンポーネントでは、プロパティを構成する前にデータソースが必要です。各コンポーネントには、各コンポーネントの要件とオプションに基づくさまざまな構成プロパティがあります。たとえば、ボタンコンポーネントの構成はシンプルですが、リストコンポーネントにはより多くの構成が必要です。

**d.** 構成可能な JSON プロパティがあるコンポーネントの場合は、UI ビルダー のローコード JSON エディターを使用すれば、JSON コードを編集せずにコンポーネントのプロパティを編集できます。

JSON エディターの UI には、ダミーデータや定義済みの値で定義されていないプロパティも含め、使用可能なすべてのプロパティが表示されます。JSON エディター内でプロパティを更新するか、または独自のカスタムプロパティを追加できます。コンポーネントの構成の詳細については、「Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)」を参照してください。

> **注:**
> ローコード JSON エディターは、スキーマを持ちかつ JSON 入力がそのスキーマと一致するプロパティでのみ使用できます。

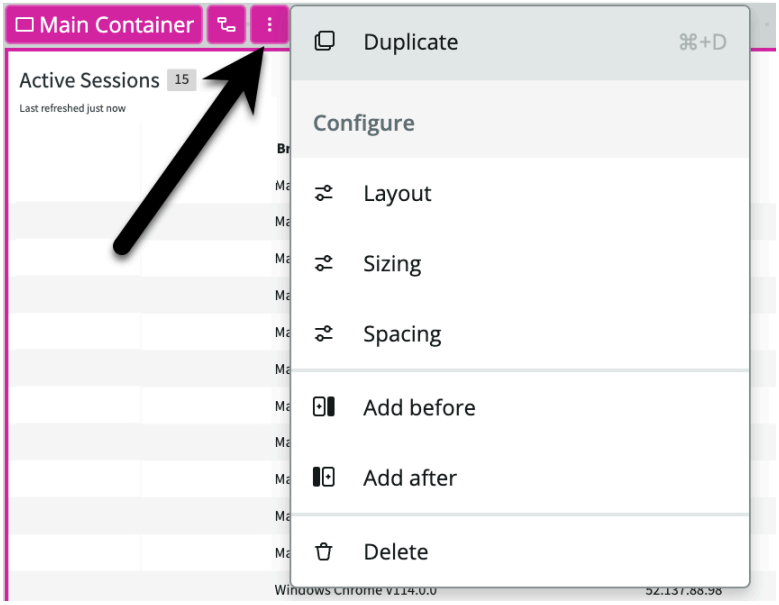
ローコード JSON エディターは、単純なオブジェクト、単純なアレイプロパティ、複雑なアレイ、オブジェクトのアレイをサポートし、複雑なオブジェクトも部分的にサポートします。複雑なアレイでは、アレイアイテムの位置を追加、削除、または移動できます。[未設定のアイテムを非表示] を選択して、値が空または null のオブジェクトを非表示にして、編集エクスペリエンスを簡素化することもできます。



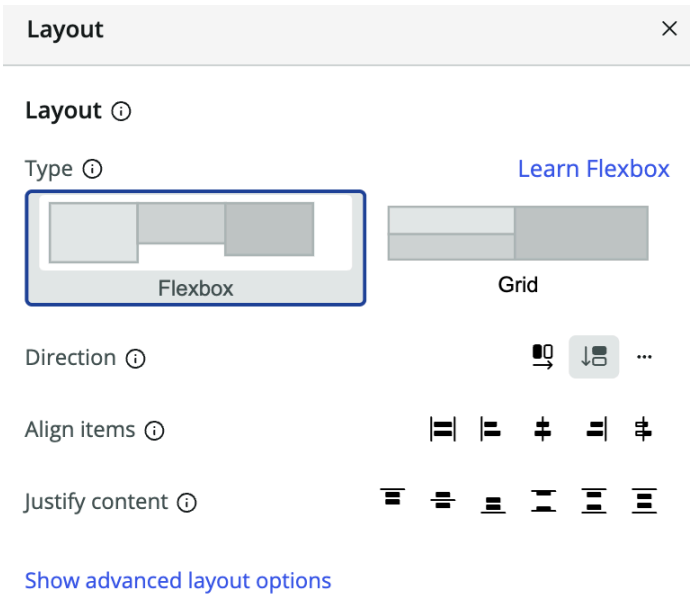

**e.** コンテナコンポーネントを操作するときは、フローティングパネルを使用して一部のスタイルを編集できます。

メニューアイコンを選択して メニュー を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




[レイアウト]、[サイジング]、または [スペース] オプションを選択して、最も一般的なオプションが表示されたフローティングパネルを開きます。必要に応じて、フローティングパネルを別の場所にドラッグします。一度に開くことができるフローティングパネルは 1 つだけです。




コンポーネントの構成の詳細については、以下を参照してください。 Next Experience コンポーネント.

7. オプション: [イベント] タブを選択して、コンポーネントにイベントハンドラーを追加します。
イベントハンドラーを追加して、ページ上のコンポーネントにアクションを追加します。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの保存など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。見出しコンポーネントなど、一部のコンポーネントにはイベントアクションが適用されません。ただし、多くのコンポーネントでは、実際にアクションを実行するためにイベントをコンポーネントにマッピングする必要があります。コンポーネントにイベントハンドラーを追加する方法の詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。
8. オプション: [スタイル] タブで CSS スタイリングを追加することで、コンポーネントのスタイルを上書きできます。
詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> スタイルの変更は、一度に 1 つのコンポーネントにのみ影響します。エクスペリエンス内のすべてのコンポーネントの表示スタイルを変更するには、エクスペリエンスにテーマを適用する必要があります。詳細については、「エクスペリエンスへのテーマの適用」を参照してください。

9. オプション: ページにコンテナを追加して、コンポーネントを整理して表示できます。
   たとえば、1 つのコンテナに見出しコンポーネントを追加します。その下の別のコンテナには、リストコンポーネント、ボタンコンポーネントなどを含めることができます。
   a. コンテナの上部にある + を選択して既存のコンポーネントの前にコンテナコンポーネントを追加し、コンポーネントの下部にある **+** を選択してコンテナコンポーネントをその後に挿入します。
   b. コンテナコンポーネントを [コンポーネント] リストからページ上の既存のコンテナにドラッグします。コンテナの一番上の行にカーソルを合わせて新しいコンテナを既存のコンテナの前に挿入するか、既存のコンテナの下行の上にカーソルを合わせて後に追加します。
10. オプション: ページのコンポーネントの上部または下部にある **[+]** を選択して、ページにコンポーネントを追加します ([+] が **[+** 追加] に変わります)。

   a. コンポーネントの上部にある **[+** ] を選択して既存のコンポーネントの前にコンポーネントを追加するか、コンポーネントの下部にある **[+** ] を選択してコンポーネントの後にコンポーネントを挿入します。
   b. コンポーネントをコンポーネントリストからドラッグして、既存のコンポーネントの前または後に挿入します。
11. オプション: ボタンなどのコンポーネントを選択したときにモーダルを表示するには、最初にコンポーネントにモーダルを追加する必要があります。
    モーダルは、コンポーネントを選択すると表示される確認ポップアップです。たとえば、レコードを削除するボタンコンポーネントを追加する場合に、レコードを削除してよいかユーザーに確認を求めるモーダルを追加します。詳細については、「UI ビルダー でのモーダルの作成」を参照してください。
12. 作業時には頻繁にページの [保存] を選択します。
13. [ プレビュー ] ボタンを選択して、ページを表示してテストします。

### 次のタスク

ページにコンポーネントを追加して構成しました。詳細については、「UI Builder ページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。UI ビルダー 内のデータリソースは、コンポーネントにコンテンツを表示するためにページがフェッチするデータです。コンポーネントは、さまざまなエクスペリエンス間でデータと構成を再利用し、コンポーネントをページ上で動的なものにする方法としてデータリソースを使用します。

### UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数

UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされているさまざまな関数について学習します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表は、 UI ビルダー コンポーネント式エディターで使用できる関数を一覧表示しています。コンポーネント式エディターの詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

条件ビルダーで利用可能な演算子

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| 空であるものすべて (All empty) | [Short description] [ALL_EMPTY] | ALL_EMPTY | short_descriptionALL_EMPTY | **[Short description]** フィールドに値がないすべてのレコード。 |
| 次の値に等しいすべて (All equal) | [Short description] [ALL_EQ] [Network storage unavailable] | ALL_EQ | short_description=Network storage unavailable | **[Short description]** フィールドの値が「Network storage is unavailable」と等しいすべてのレコード。 |
| 次の値より大きいすべて (All greater than) | [Impact] [ALL_GT][2 - Medium] | > | impact>2 | **[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるすべてのレコード |
| 次の値以上のすべて (All greater than or equal) | [影響度] [ALL_GTE][2 - 中] | >= | impact>=2 | **[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[3 - Low]** であるすべてのレコード |
| 次の値未満のすべて (All less than) | [Reassignment count][ALL_LT] [2] | < | reassignment_count<2 | **[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満のすべてのレコード。 |
| 次の値以下のすべて (All less than or equal) | [Reassignment count][ALL_LTE] [2] | <= | reassignment_count<=2 | **[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれかであるすべてのレコード。<br>• 2 未満の数<br>• 2 |
| 次の値と等しくないすべて (All not equal to) | [Impact] [ALL_NEQ][1 - High] | != | impact!=1 | **[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のすべてのレコード。 |
| 空でないものすべて (All not empty) | [Impact] [ALL_NOTEMPTY] | ALL_NOTEMPTY | impactALL_NOTEMPTY | **[Impact]** フィールドに何らかの値 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | があるすべてのレコード。 |
| 次のいずれでもないすべて (All not one of) | [Impact] [ALL_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | ALL_NOTONEOF | impactALL_NOTONEOF1,2 | **[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているすべてのレコード。<br>• **1 - High**<br>• **2 - Medium** |
| 次のいずれかであるすべて (All one of) | [Impact] [ALL_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | ALL_ONEOF | impactALL_ONEOF1,2 | **[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているすべてのレコード。<br>• **1 - High**<br>• **2 - Medium** |
| 空であるもののいずれか (Any empty) | [Short description] [ANY_EMPTY] | ANY_EMPTY | short_descriptionANY_EMPTY | **[Short description]** フィールドに値がないいずれかのレコード。 |
| 次の値に等しいいずれか (Any equal) | [Short description] [ANY_EQ] [Network storage unavailable] | ANY_EQ | short_description=Network storage unavailable | **[Short description]** フィールドの値が「Network storage is unavailable」と等しいいずれかのレコード。 |
| 次の値より大きいいずれか (Any greater than) | [Impact] [ANY_GT][2 - Medium] | ANY_GT | impactANY_GT2 | **[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるいずれかのレコード。 |
| 次の値以上のいずれか (Any greater than or equal) | [Impact] [ANY_GTE][2 - Medium] | ANY_GTE | impactANY_GTE2 | **[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[3 - Low]** であるいずれかのレコード。 |
| 次の値未満であるいずれか (Any less than) | [再アサイン回数] [ANY_LT][2] | ANY_LT | reassignment_countANY_LT2 | **[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満の |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | いずれかのレコード。 |
| 次の値以下であるいずれか (Any less than or equal) | [Reassignment count] [ANY_LTE][2] | ANY_LTE | reassignment_count**ANY_LTE**2 | **[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれかであるいずれかのレコード。<br>• 2 未満の数<br>• 2 |
| 次の値に等しくないいずれか (Any not equal) | [Impact] [ANY_NEQ][1 - High] | ANY_NEQ | impact**ANY_NEQ**1 | **[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のいずれかのレコード。 |
| 空でないもののいずれか (Any not empty) | [Impact] [ANY_NOTEMPTY] | ANY_NOTEMPTY | impact**ANY_NOTEMPTY** | **[Impact]** フィールドに何らかの値があるいずれかのレコード。 |
| 次のいずれでもないいずれか (Any not one of) | [Impact] [ANY_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | ANY_NOTONEOF | impact**ANY_NOTONEOF**1^ | **[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているいずれかのレコード。<br>• **1 - High**<br>• **2 - Medium** |
| 次のいずれか (Any one of) | [Impact] [ANY_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | ANY_ONEOF | impact**ANY_ONEOF**1^ | **[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているいずれかのレコード。<br>• **1 - High**<br>• **2 - Medium** |
| CONCAT | CONCAT(value) | CONCAT | CONCAT("Welcome, ",@context.session.user.firstName) | 指定されたすべての文字列を、firstName) に結合した新しい文字列を作成します |
| EMPTY | EMPTY(value) | EMPTY | EMPTY(@context.session.user.roles) | 値が null または未定義の場合は true を返します |
| IF | IF(if, then, else) | IF | IF(@context.props."glide.basic.home.page","ho | 条件が true の場合は値 then を返 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| | | | bare page") | します。条件が false の場合、値 else を返します。 |
| LEN | LEN(list) | LEN | LEN([1,2,3]) | アレイ内のアイテムの数を返します |
| Pick | PICK(array, field) | Pick | PICK(@context.session.user_preferences,"nam | アレイ内の各アイテムのフィールドから各アイテムが選択された新しいアレイを作成します。フィールドが存在しない場合、新しいアレイのアイテムは空になります |
| Range | RANGE(from, to) | 範囲 | 範囲(1,10) | from から to までの、段階的に増分される数値のアレイを作成します |
| 合計 | SUM(array) | 合計 | SUM([1,2,3]) | 0 から開始し、アレイ内の各アイテムの数値を加算して、結果の合計を返します |
| Translate | TRANSLATE(text) | 翻訳 | TRANSLATE("おかえりなさい") | 2 番目の引数で指定された文字が 3 番目の引数で指定された文字に変換された後、最初の引数の文字列を返します。 |
| 空の場合 (Where empty) | [Short description] [WHERE_EMPTY] | WHERE_EMPTY | short_descriptionWHERE_EMPTY | **[Short description]** フィールドに値がないレコードを抽出します。 |
| 等しい場合 (Where equal) | [Short description] [WHERE_EQ] [Network storage unavailable] | WHERE_EQ | short_descriptionWHERE_EQ[Network storage unavailable | **[Short description]** フィールドが「Network storage is unavailable」と等しいすべてのレコードを抽出します。 |
| 次の値より大きい (Where greater than) | [Impact] [WHERE_GT][2 - Medium] | WHERE_GT | impactWHERE_GT[2 | **[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるレ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | コードを抽出します。 |
| 次の値以上である (Where greater than or equal) | [Impact] [WHERE_GTE][2 - Medium] | WHERE_GTE | impactWHERE_GTE[2 | **[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[2 - Low]** であるレコードを抽出します。 |
| 次の値未満である (Where less than) | [Reassignment count] [WHERE_LT][2] | WHERE_LT | reassignment_count | **[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満のレコードを抽出します。 |
| 次の値以下である (Where less than or equal ) | [Reassignment count] [WHERE_LTE] [2] | WHERE_LTE | reassignment_count | **[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれかであるレコードを抽出します。<br>• 2 未満の数<br>• 2 |
| 等しくない (Where not equal) | [Impact] [WHERE_NEQ] [1 - High] | WHERE_NEQ | impactWHERE_NEQ[1 | **[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のレコードを抽出します。 |
| 空でない (Where not empty) | [Impact] [WHERE_NOTEMPTY] | WHERE_NOTEMPTY | impactWHERE_NOTEMPTY | **[Impact]** フィールドに何らかの値を持つレコードを抽出します。 |
| 次のいずれでもない (Where not one of) | [Impact] [WHERE_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | WHERE_NOTONEOF | impactWHERE_NOTONEOF[1,2 | **[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているレコードを抽出します。<br>• **1 - High**<br>• **2 - Medium** |
| 次のいずれかである (Where one of) | [Impact] [WHERE_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium] | WHERE_ONEOF | impactWHERE_ONEOF[1,2 | **[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているレコードを抽出します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

| 演算子ラベル | 条件の例 | 同等のクエリ演算子 | サンプルクエリ | 出力例 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | • **1 - High**<br>• **2 - Medium** |

コンポーネントへのリピーターの追加

リピーターを使用して、データリソースからの結果を含む 1 つ以上のコンポーネントを繰り返します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
リピーターコンポーネントは、複数のコンポーネントに提供するデータを繰り返す基本ループとして機能します。リピーターは、アレイ、またはオブジェクトのアレイを使用します。たとえば、配列 [{"task": "A"},{"task": "B"}] は、その中のコンテンツを 2 回繰り返します。リピーターを使用すると、データアレイプロパティに値をバインドできます。@item.value。{property_name} 値をリピーター内のコンポーネントにバインドします。タスクをバインドする場合は、@item.value.task としてバインドでき、リピーターに正しい値が表示されます。

リピーター内のコンポーネントは、コンポーネント出力が動的かどうかに関係なく、データソース内のアイテム数を繰り返します。たとえば、3 つのデータ要素を持つリピーター内にヘッダーコンポーネントを配置しても、[ラベル] フィールドは変更しないとします。 次に 、 同じ出力ラベルを持つヘッダーの3つのインスタンスが表示されます。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. エクスペリエンス を開くか、 **+** 作成 を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. リピーターを追加するページのエディターを開きます。
   エクスペリエンスのページを作成していない場合は、ページの作成方法の詳細を参照してください UI ビルダー でのページの作成。
4. データリソースをページに接続します。

   たとえば、複数のレコードの検索データリソースをページに追加します。データリソースの接続の詳細については、「」を参照してください ページへのデータリソースの追加と構成 。

   a. [ 複数のレコードの検索] データリソースを選択します。

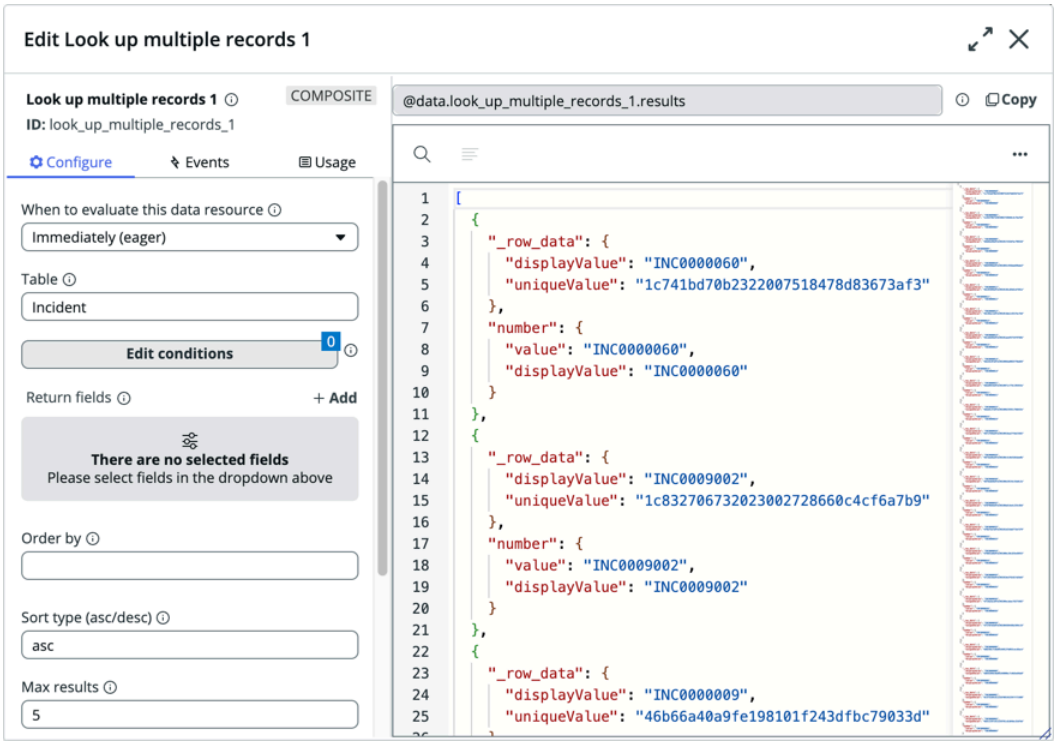
   b. インシデントテーブルを使用するようにデータリソースを構成します。

   c. 結果の最大数 フィールドに「5」と入力します。

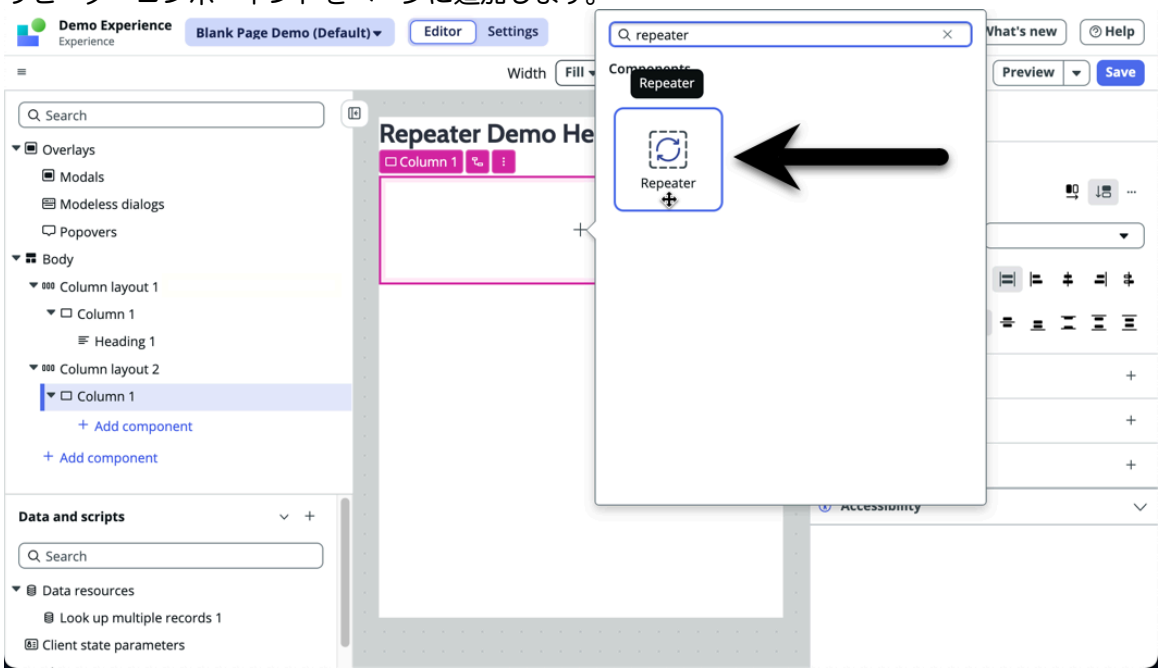
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[複数のレコードの検索] データリソースが構成済みである。




5. 既存のコンテナを選択するか、列レイアウトを作成します。
詳細については、「UI Builder ページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
6. リピーターコンポーネントをページに追加します。




コンポーネントの追加の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

7. [ 構成 ] タブで、[ なし] を選択してコンポーネントを手動で構成します。
8. [ 構成] タブで、繰り返されるコンポーネントのデータを定義する配列。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** [データ配列] をポイントし、[データのバインド] アイコン ( ) を選択します。

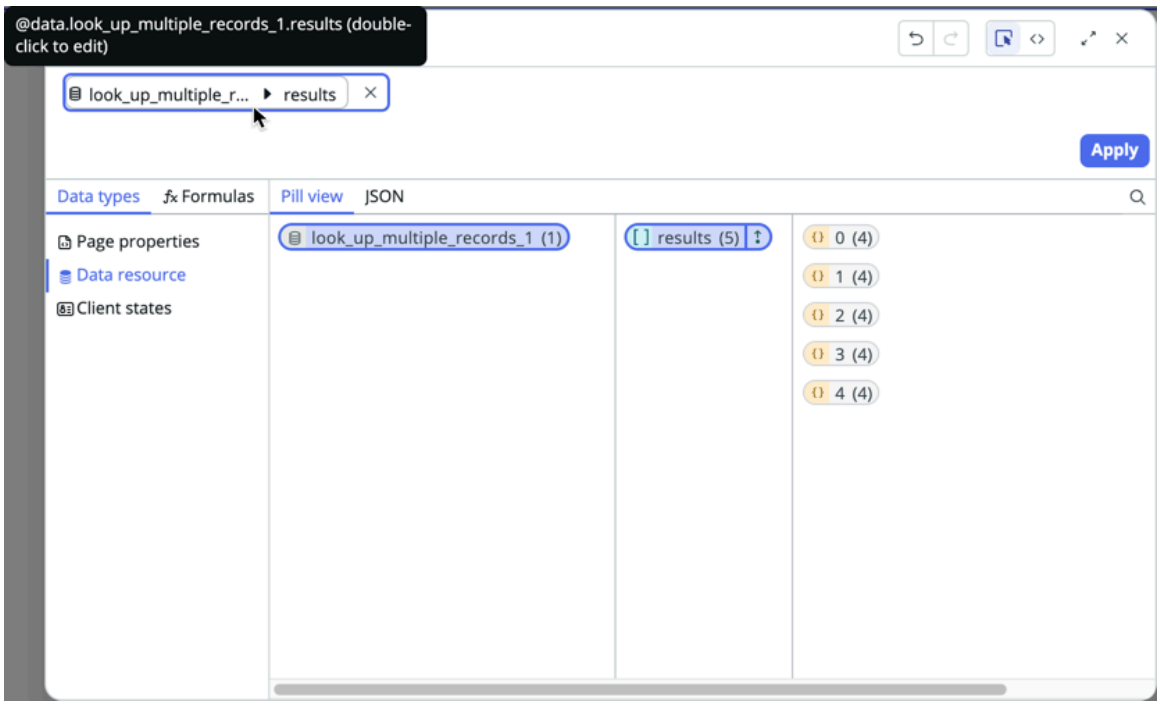
**b.** [データタイプ] で、[データリソース] を選択します。

**c.** ピルビューで、**look_up_multiple_records_1**ピルを選択します。

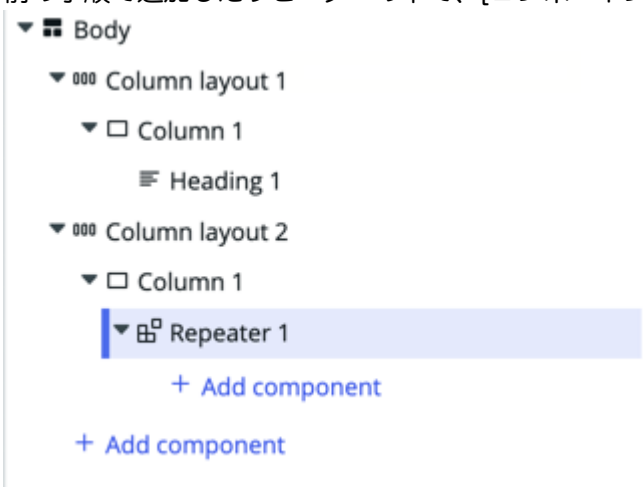
**d.** 次の列で、結果をダブルクリックまたはドラッグして、**@data.look_up_multiple_records_1.results** 出力を追加します。

**e. [Apply** (適用)] を選択します。

データリソースの 結果は、リピーターコンポーネントにバインドされます。リピーター内では、1 つのコンポーネントが結果を表します。




**9.** 前の手順で追加したリピーターの下で、[コンポーネントの追加] を選択します。




**10.** この例では、 見出し コンポーネントを追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

11. [ 構成 ] タブで、[ なし] を選択して見出しコンポーネントを手動で構成します。
12. リピーターでネストしたコンポーネントを構成します。

    たとえば、**displayValue** をコンポーネントにバインドします。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

    a. カーソルを [ラベル] に移動し、[データのバインド] アイコン ( ) を選択します。

    b. [データ型] で [リピーター] を選択します。

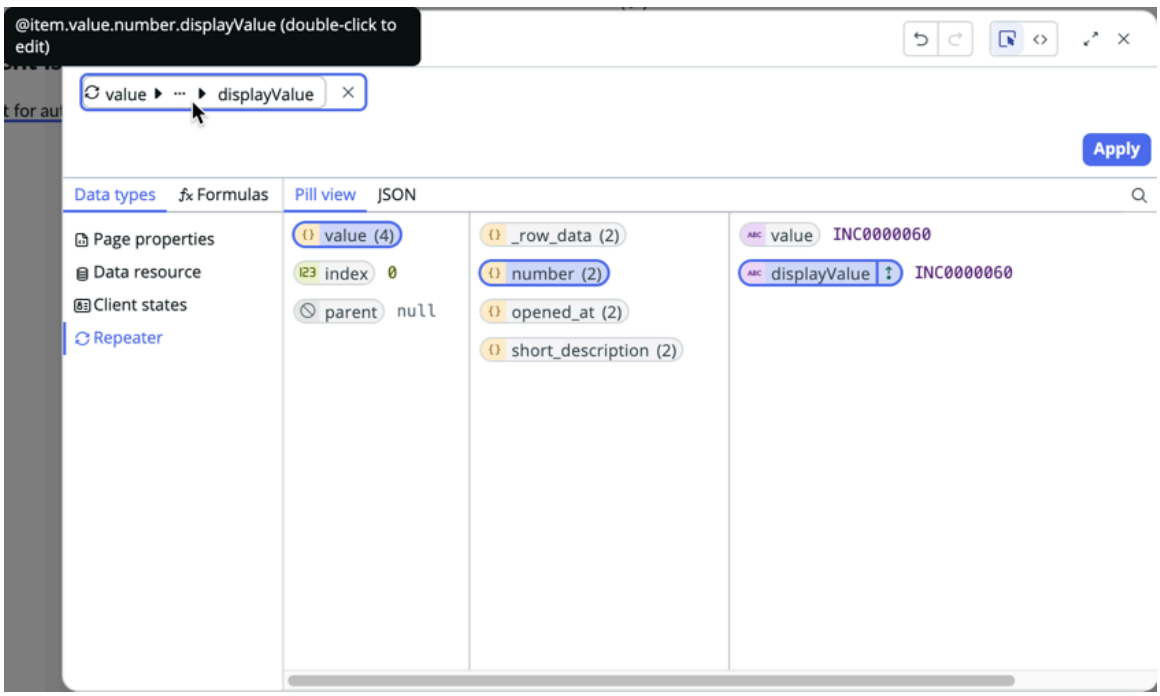
    c. ピルビューで、値ピルを選択します。

    d. 次の列で、 数値 ピルを選択します。

    e. 次の列で、**displayValue** をダブルクリックまたはドラッグして、**@item.value.number.displayValue** 出力を追加します。

    f. **[Apply** (適用)] を選択します。

    **displayValue** は Heading コンポーネントにバインドされます。

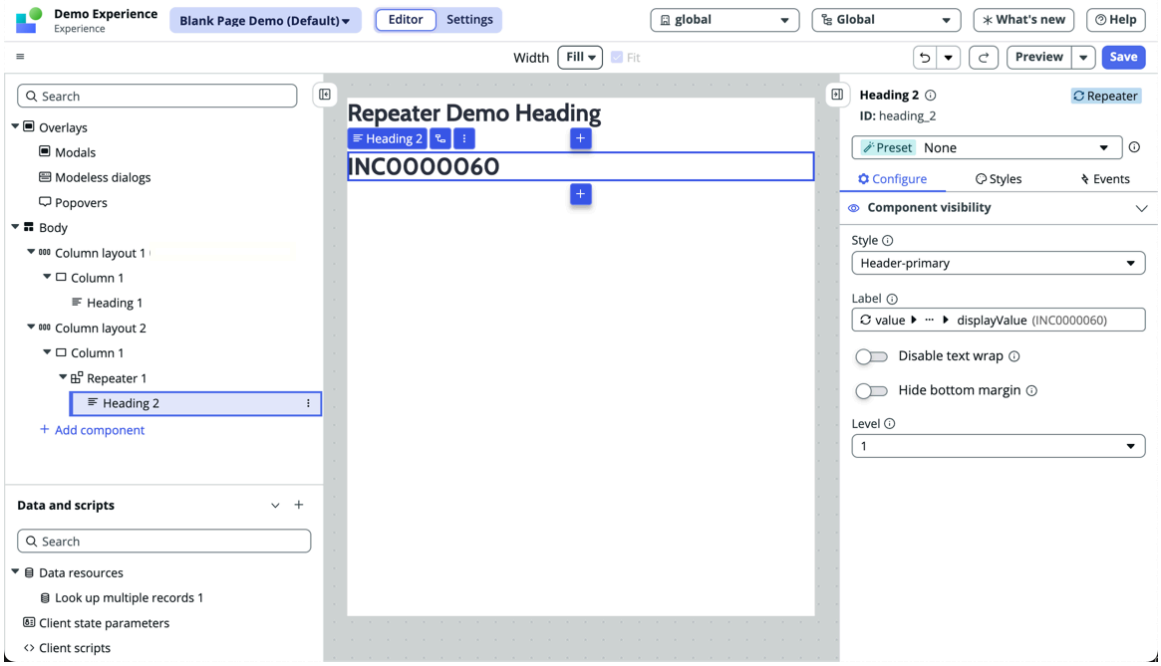



13. [保存] を選択します。

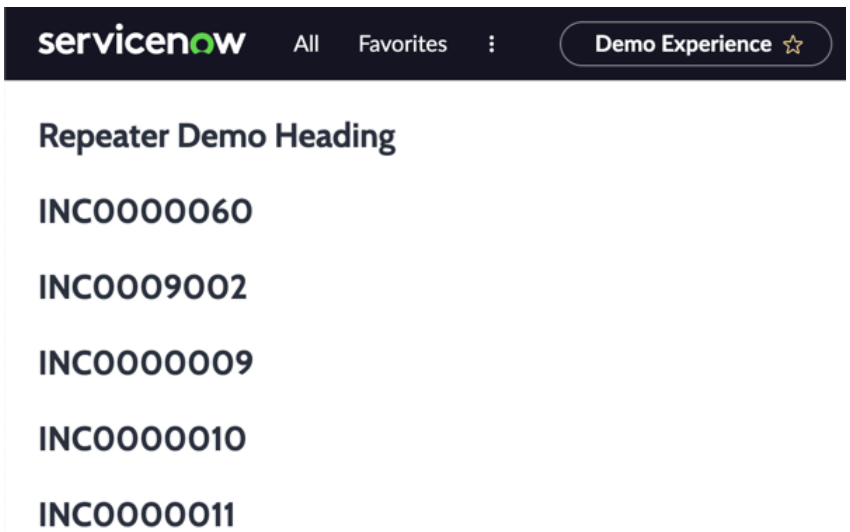
    データ・セットの最初の値のみがステージに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**14.** [ プレビュー ] ボタンを選択して、ページを表示してテストします。
タブが開き、繰り返されるデータがあるページプレビューが表示されます。




自動翻訳

### **UI Builder** ページでデータを動的に公開する (高度な機能)

テーブル間でServiceNow データを同期し、 を使用して構築UI ビルダーしたページとデータを同期します。ページは同期されたデータをリアルタイムで表示し、ユーザーが情報を入力するとデータ/テーブルを更新します。

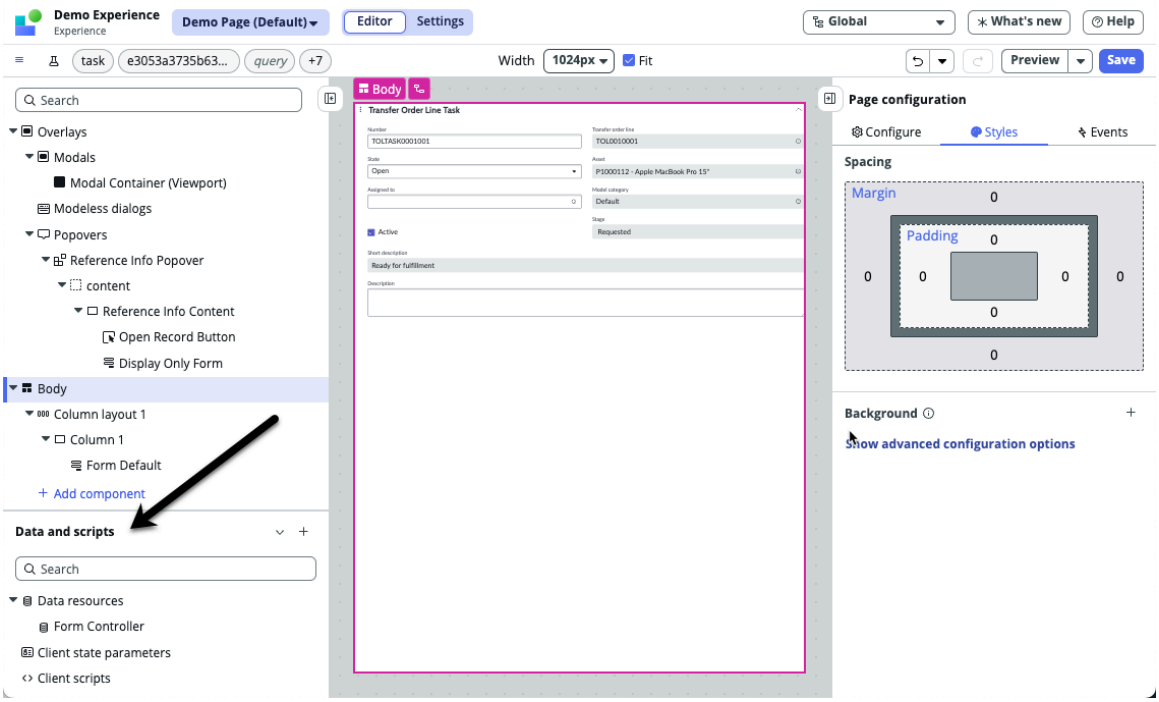
### データリソースの説明

UI ビルダーは、データリソースを使用してテーブル/データを同期しますServiceNow。データリソースは、UI Builder がコンポーネントに情報を表示するために使用するデータをフェッチします。UI ビルダー コンポーネントはデータリソースを使用して、さまざまなエクスペリエンス間でデータを同期します。データリソースはコンポーネントのデータを動的なものにします。つまり、ページごとにデータを再作成する必要はありません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースはデータリソースドロワーにあります。データリソースドロワーでは、ページのデータリソースを追加および構成できます。データリソースを構成した後、ページ上のコンポーネントと ServiceNow テーブル/データの間でデータを同期できます。

データリソース ドロワー




データリソースシェルフには、次の 3 つのセクションがあります。

- データリソース:エクスペリエンスの一部であるデータリソース
- 構成/イベント:エクスペリエンス用に構成されたデータリソースとイベント
- プレビュー:データリソースによって返される情報の JSON

コンポーネント、その他のデータリソース、クライアントスクリプト、クライアントステータス、およびイベントの構成プロパティをこれらのデータリソースにバインドできます。

データリソースのフィルターの条件を設定します。詳細については、「 コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## データリソースの仕組み

データリソースは、Glide、GraphQL、および REST API からデータをフェッチし、ページ上の UI ビルダー コンポーネントで使用するために変換します。

コンポーネントは、継承されたデータリソースインスタンスとローカルデータリソースインスタンスの両方を使用します。継承されたデータリソースは自動的にページにロード UI ビルダー され、ローカルデータリソースインスタンスを追加して構成できます。データリソースは指定された入力値に基づいて評価され、正しいデータが取得されていることを確認します。継承されたデータリソースとローカルデータリソースの詳細については、「継承されたデータリソースとローカルデータリソースの比較」を参照してください。

データリソースの例

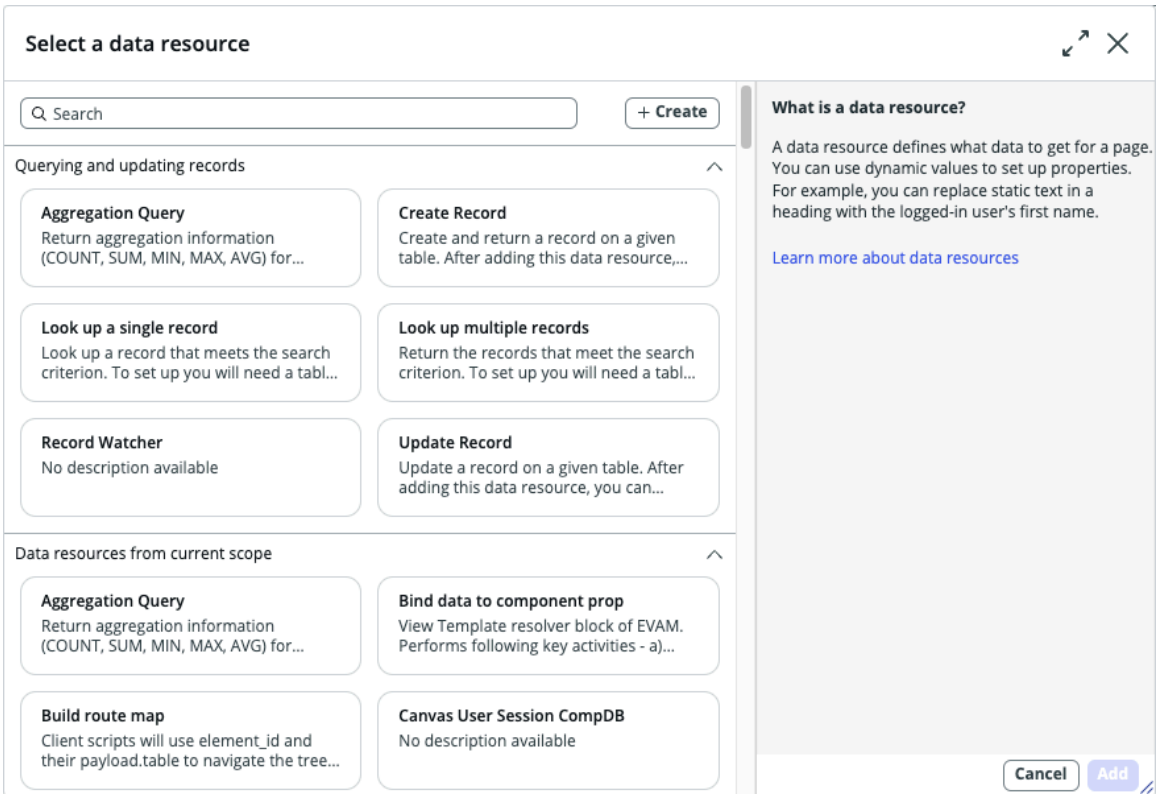
## ローカルデータリソース

サーバーデータ、操作、変換、または gForm API のようなクライアントデータなどのローカルデータリソースを選択して、データを UI ビルダー ページに取り込むことができます。

**注:**
UI ビルダー のページごとに 1 つの GlideForm のみがサポートされます。GlideForm の詳細については、 ServiceNow 開発者サイトを参照してください。

データリソースは、アプリケーション別にデータリソースシェルフに整理されます。さらに、サーバーデータや変換などのデータリソースタイプによって分類されます。たとえば、グローバルアプリケーションにはいくつものデータリソースがありますが、 カスタマーサービス管理 (CSM) ワークスペースアプリケーションには少数のデータリソースしかありません。

データリソース




使用しているアプリケーションに応じて、さまざまなデータリソースが表示されます。グローバルアプリケーションを選択した場合、[サーバーデータ] には、構成可能ワークスペースアプリケーションを選択した場合 CSM とは異なるデータリソースが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## データバインディングの使用

データバインディングを使用すると、ページとコンポーネントをデータリソースに同期することで、動的ページを作成できます。データをコンポーネントにバインドしてバックエンドからデータを取得し、フィールドパラメーターを使用して URL からプロパティを取得できます。URL パラメーターを変更すると、パラメーターに応じて異なるデータを表示する動的ページを作成できます。

次の方法でデータをコンポーネントにバインドできます。

コンテキストのバインディング

URL パラメーターを使用して、URL の一部をページのプロパティに接続します。たとえば、 @context.props.table のように @context 構文を使用して、URL からコンポーネントにテーブル名をリンクできます。

table という名前の必須フィールドを持つページがあるとUI ビルダーします。ページの URL は、/demo/page/<table-name> のようになります。<table-name> は インシデントのようなものになります。データは、親データリソースから取得することも、ページに固有のローカルプロパティにすることもできます。

コンポーネントのプロパティ、その他のデータリソースのプロパティ、またはイベントの詳細をページプロパティにリンクするには、 @context.props.table バインディングを使用します。コンテキストバインディングを使用している場合は、URL にテスト値を指定するか、ページの構成でそのプロパティの固定値を設定してください。

データリソースのバインディング

データリソースを使用して、クライアントステータス、GraphQL、REST API などのインスタンスのバックエンドからデータをフェッチします。これらのデータ ソースには、 UI ビルダー ページ上の要素にリンクできるプロパティがあります。

たとえば、ルックアップレコードデータリソースを使用している場合は、ボタンコンポーネントで利用できます。「label」プロパティでは、@data.lookup_record_1.result.number.displayValue のようなデータ式を使用できます。

コンポーネントのバインディング

コンポーネントのバインディングを使用して、あるコンポーネントを別のコンポーネントに接続します。UI ビルダー ページにリストメニューコンポーネントがあるとします。リストメニューは、現在選択されているリストを同じページ上の他のコンポーネントに表示します。これらの他のコンポーネントは、@elements.list_menu_1.selectedListId などの式を使用してデータにリンクすることで、データにアクセスできます。

クライアントステータスパラメーターのバインディング

クライアントステータスパラメーターのバインディングを使用して、クライアント側アプリケーションと UI ビルダー コンポーネントの間でデータを接続して同期します。パラメーターのバインドを使用すると、クライアント状態はコンポーネント内のデータを自動的に更新できます (その逆も同様です)。@state 構文を使用して、ステータスプロパティをクライアントステータスパラメーターにバインドします。

## UI ビルダー で利用可能なデータソースのタイプ

次の表に示すデータリソースタイプを使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースタイプ

| データリソースタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| コントローラー | データとイベントロジックをカプセル化し、コンポーネントのプリセットを有効にします。 |
| GraphQL | 実行される GraphQL クエリとミューテーション。 |
| 変換 | 入力データを別の形式に変換するスクリプト。 |
| クライアントステータス | クライアント情報、ドメイン固有のステータスまたはロジック、ユーザー初期設定などを含むクライアントサイドのデータリソース。 |
| 総合 | 複数のデータリソースを含む単一の再利用可能なデータリソース。 |
| REST | REST API 要求を介して作成されたデータリソース。 |

## 継承されたデータリソースとローカルデータリソースの比較

継承されたデータリソースは、 UI ビルダー アプリケーションなどのページの周辺部分の情報を共有します。あなたのページが大きなフレームにあり、フレームまたはその周りの他の部分から何らかの情報を取得していると想像してください。この情報は、パズルのピースをリンクするように、ページのプロパティに接続することで使用できます。フレームからこの情報を取得する場合は、自分で再度取得する必要はありません。

ローカルデータリソースは、自分でページに追加する UI ビルダー アイテムです。出張要求のページを作成しているとします。従業員データをリストコンポーネントに同期して、従業員が自分の情報にリンクされた配車を要求できるようにすることができます。

これらのデータリソースを使用するには、アプリから取り込むか、プラットフォームで作成しますServiceNow 。次に、 で、 UI ビルダーこれらのリソースをコンポーネントで使用できるようにします。次に、データをコンポーネントに関連付けて、操作できるようにします。たとえば、一連のレコードを UI Builder で公開して、コンポーネントにリンクすることができます。そこから、新しいレコードの保存など、データで処理を行うようにコンポーネントを構成します。

ページでデータを同期したら、コンポーネントなど、ページ内のデータを必要とする部分に接続します。これは、適切なパズルのピースが適切な場所に収まることを確認するようなものです。次に、ページのその部分にデータをどうするかを伝えることができます。たとえば、従業員の新しい出張計画を追加するために使用できます。

## データリソースのプロパティ

にデータ リソース UI ビルダーを追加するのは、どこから情報を取得するかを把握しているツールを追加するようなものです。データリソースプロパティは、データを UI ビルダー ページに取り込む方法をデータリソースに指示する指示です。これらのプロパティは、取得するデータ、その編成方法、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

および従う条件をデータリソースに指示します。たとえば、これらのプロパティを使用して、検索するテーブル、データの並べ替え方法などを指定できます。これらのプロパティは、データリソースを正しく動作させ、必要なデータを提供するものです。

## データリソースのスクリプト

データリソーススクリプトは、特定のデータを返すための特別な指示 UI ビルダー です。たとえば、製品のリストを処理している場合、スクリプトは、在庫のある製品のみを表示するか、特定の順序で配置するようにデータリソースに指示できます。データリソーススクリプトを使用すると、ルールやアクションを追加するなど、情報をどのように処理するか UI ビルダー をカスタマイズできます。

### ページへのデータリソースの追加と構成

データリソースを追加して、UI ビルダー のページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。

#### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

#### このタスクについて

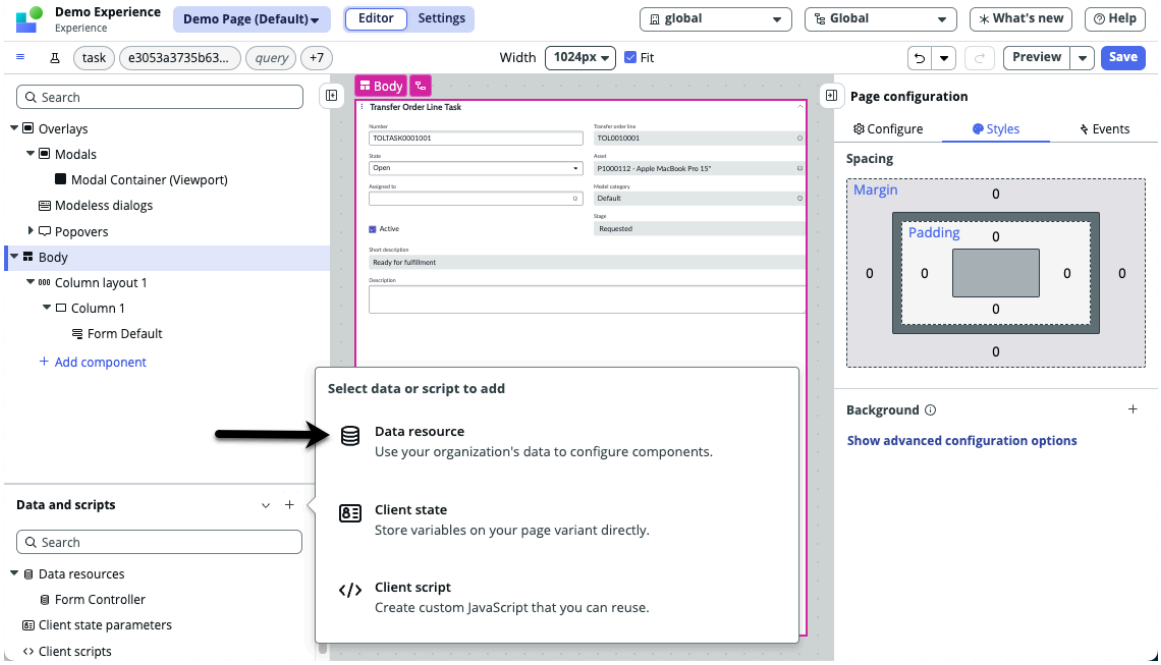
UI ビルダー のデータリソースセクションでは、ページのローカルデータリソースインスタンスを追加および構成できます。ローカルデータリソースインスタンスは、データをコンポーネントに動的に公開します。継承されたデータリソースがある場合、[継承されたデータリソース (inherited data resource)] ペインに一覧表示されますが、読み取り専用です。では UI ビルダー、継承されたデータは構成しません。セキュリティ権限で制限されていない限り、任意のアプリケーションのデータリソースを任意のページに追加できます。ページに同じデータリソースの異なる構成が必要な場合に、同じデータリソースの複数のローカルインスタンスを追加できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. コンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントにデータリソースをバインドするには、ページにコンポーネントが必要です。
5. データリソースドロワーで **[+** ] アイコンを選択します。
6. [ データ リソース] を選択します。

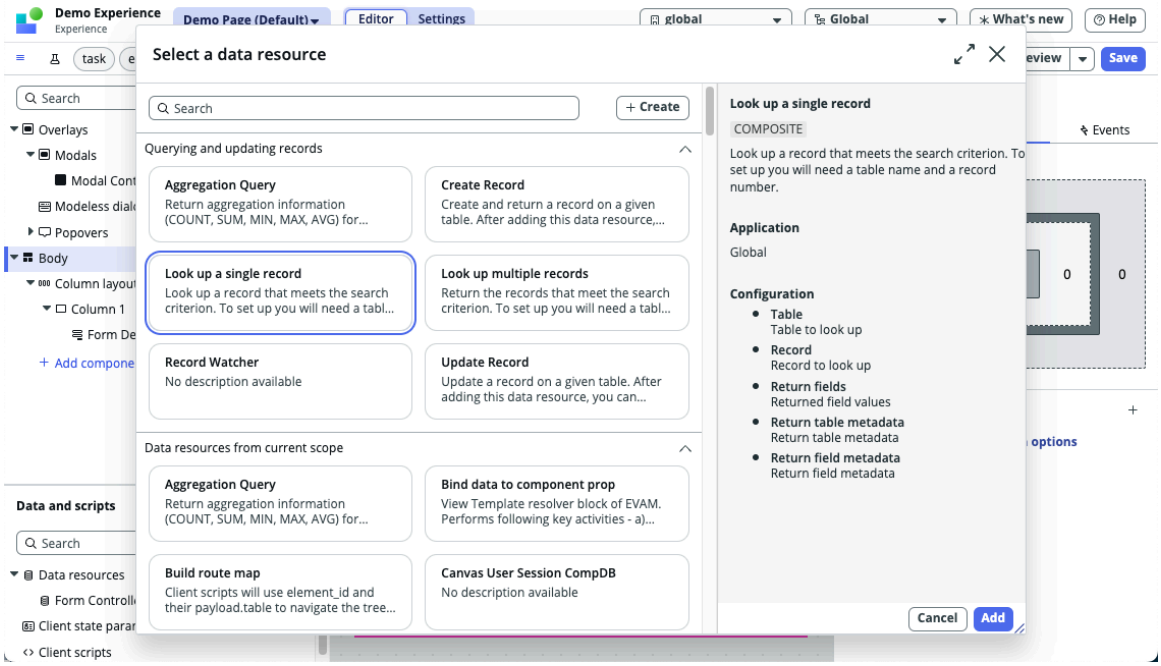
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



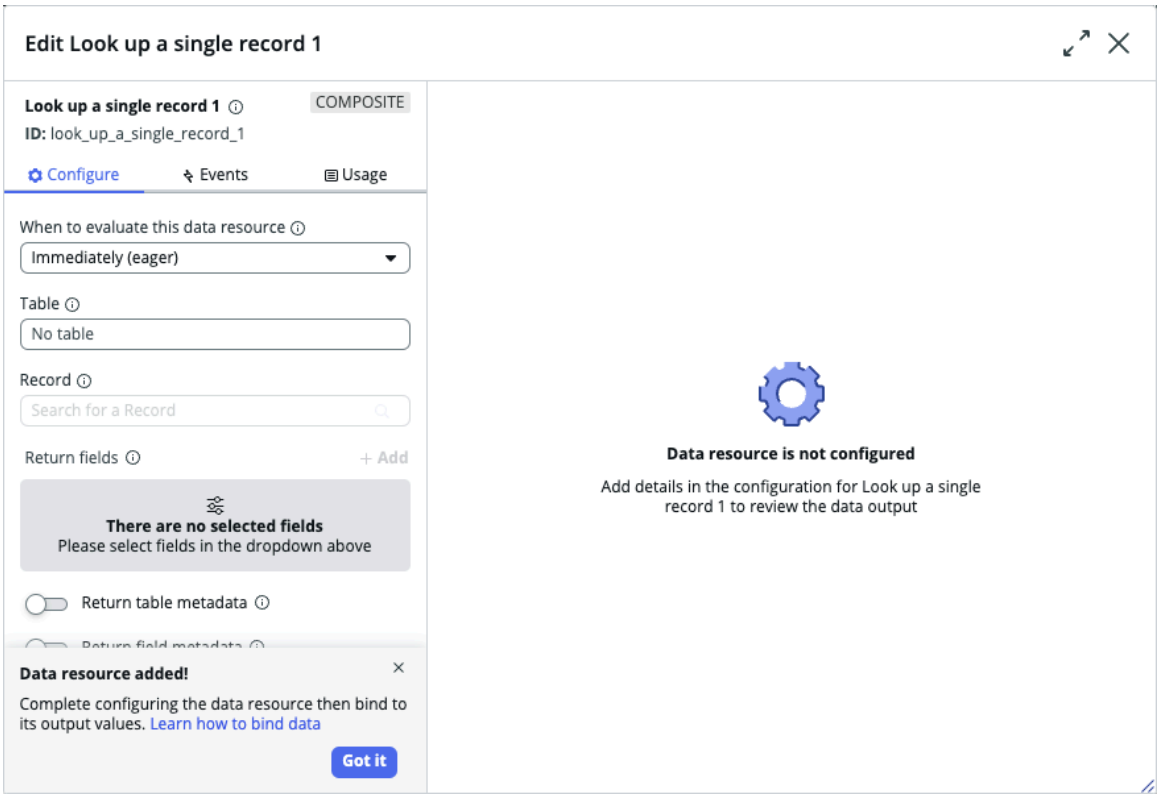

**7.** データリソースを選択するアプリケーションを選択します。
グローバルアプリケーションには、最も一般的なデータリソースが含まれています。データリソースは、サーバーデータ、操作、および変換に関連しています。ルックアップレコード、テーブルルートマップ、GlideRecord クエリなどのデータリソースを追加できます。

**8.** ページに追加するデータリソースを選択します。
たとえば、[ **1** つのレコードを検索] を選択できます。

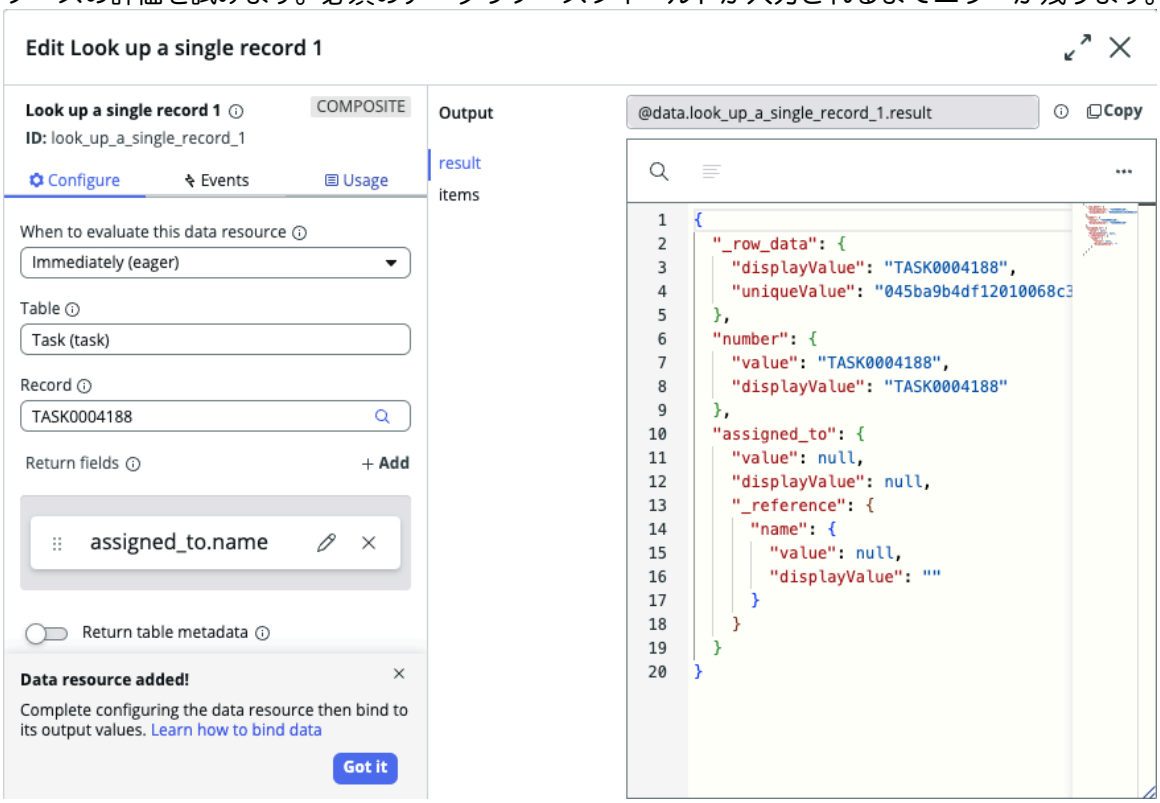



**9.** [ 追加 ] を選択して、データ リソースをページに追加します。
データリソース構成モーダルが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

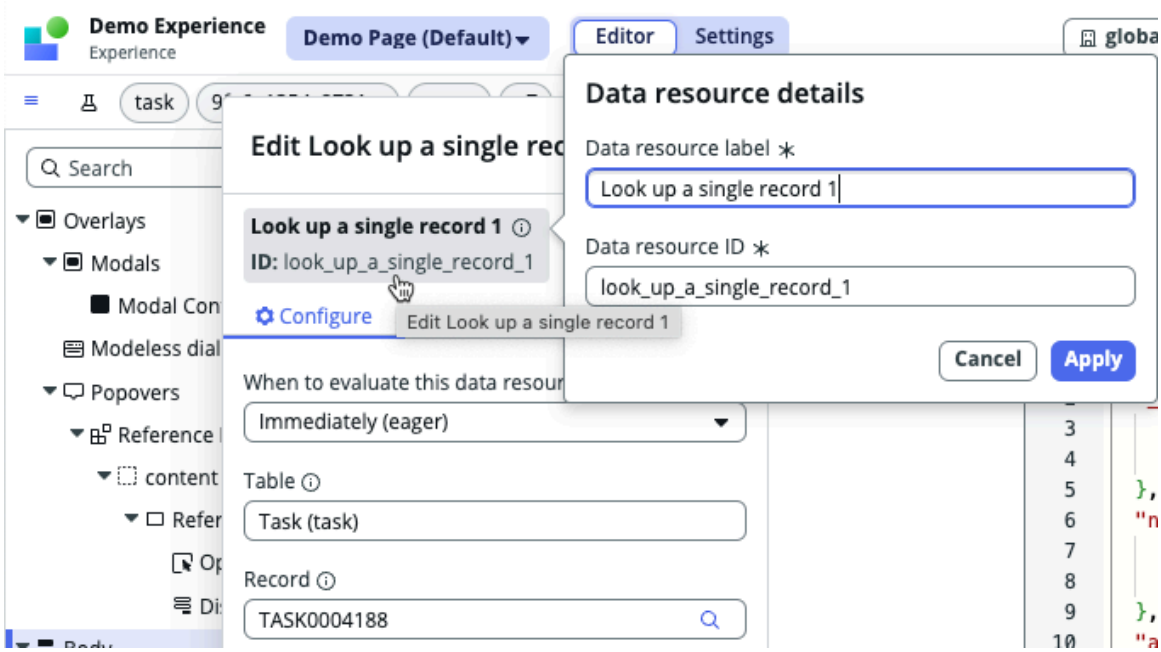



**10.** [ 構成 ] タブにデータリソースに必要な情報を入力して、必要なデータを公開します。構成フィールドは、選択されているデータリソースインスタンスに応じて異なるものになります。データリソースがページに追加されると、[ 構成 ] パネルとプレビューウィンドウにエラーが表示される場合があります。 UI ビルダー データリソースがページに追加されたときに、そのリソースの評価を試みます。必須のデータリソースフィールドが入力されるまでエラーが残ります。




**11.** デフォルトのラベルを選択して、カスタムラベルと ID 値を指定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




データリソースがデータおよびスクリプトドロワーに表示されます。

**12.** ヘッダーで [保存] UI ビルダー を選択します。

次のタスク

データリソースがページに接続されたので、データをコンポーネントにバインドしたり、イベントをデータリソースにバインドしたりできます。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」と「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。

## コントローラーを使用した **UI Builder** ページへのデータのバインド (高度な機能)

コントローラーは、データとイベントロジックのリンクを簡素化して、コンポーネントのプリセットを有効にします。

コントローラーを使用すると、ページ ビルダーは のデータ UI ビルダーやスクリプトに簡単に接続して、 のページに添付できます。コントローラーは、コンポーネントプリセットがデータをコンポーネントにバインドするために使用する一種のデータリソースです。コントローラーは、コンポーネントのプリセットを有効にするデータとイベントロジックが含まれている点で、他のデータリソースとは異なります。コントローラーはサーバーからコンポーネントにデータを取り込み、コンポーネントとのやり取りに基づいて、更新されたデータをサーバーに戻します。コンポーネントのプリセットの詳細については、「プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する」を参照してください。

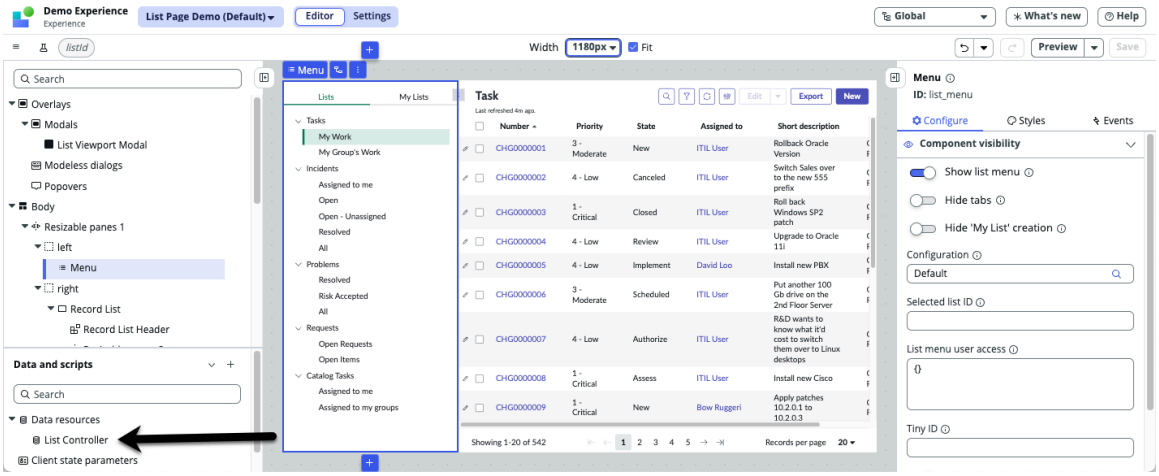
> **注:**
> Washington DC では、コントローラーの作成はサポートされていません。

コントローラーは、UI ビルダー ページテンプレートを使用するとデフォルトで追加されます。コントローラーは、データリソースドロワー内にコントローラーがないページに追加 UI ビルダー できます。またはコントローラーは、コンポーネントをページに追加した後にコンポーネントプリセットを選択することで追加できます。データリソースドロワーを開くと、ページに構成されているコントローラーを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースドロワーのコントローラー




## データ管理者の種類

### データ管理者

データ管理者は、ページに表示する UI ビルダー 情報を決定します。データコントローラーは、データリソースを使用してリアルタイムで情報を同期し、ユーザーが情報を入力するとデータ/テーブルを更新します。データ コントローラーをページに手動で追加できます。

### UI コントローラ

UI コントローラーは、UI ビルダー ページテンプレートを使用するときにページに追加され、手動で追加することはできません。

## プリセットでのコントローラーの使用

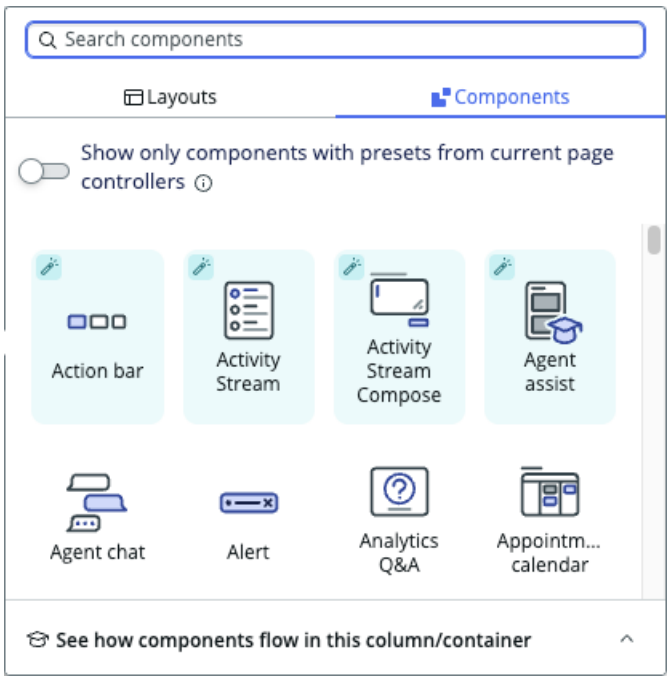
1 つの UI ビルダー ページに複数のコントローラーを追加できますが、同じコントローラーを 2 回使用することはできません。コントローラーを必要とするコンポーネントプリセットを使用しようとすると、 UI ビルダー 追加を求めるプロンプトが表示されます。

すべてのコンポーネントがコントローラで動作するわけではありませんが、コンポーネントライブラリでどのコンポーネントが動作するかを簡単に確認できます。UI ビルダー ページにコントローラーが構成されている場合は、コンポーネントライブラリを開いて、どのコンポーネントにプリセットがあるかを確認できます。プリセットが利用可能なコンポーネントは、コンポーネントライブラリでハイライト表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プリセットを持つコンポーネント




コントローラーの追加

コンポーネントのプリセットを使用するには、データコントローラーをページに追加します。

始める前に
必要なロール：admin

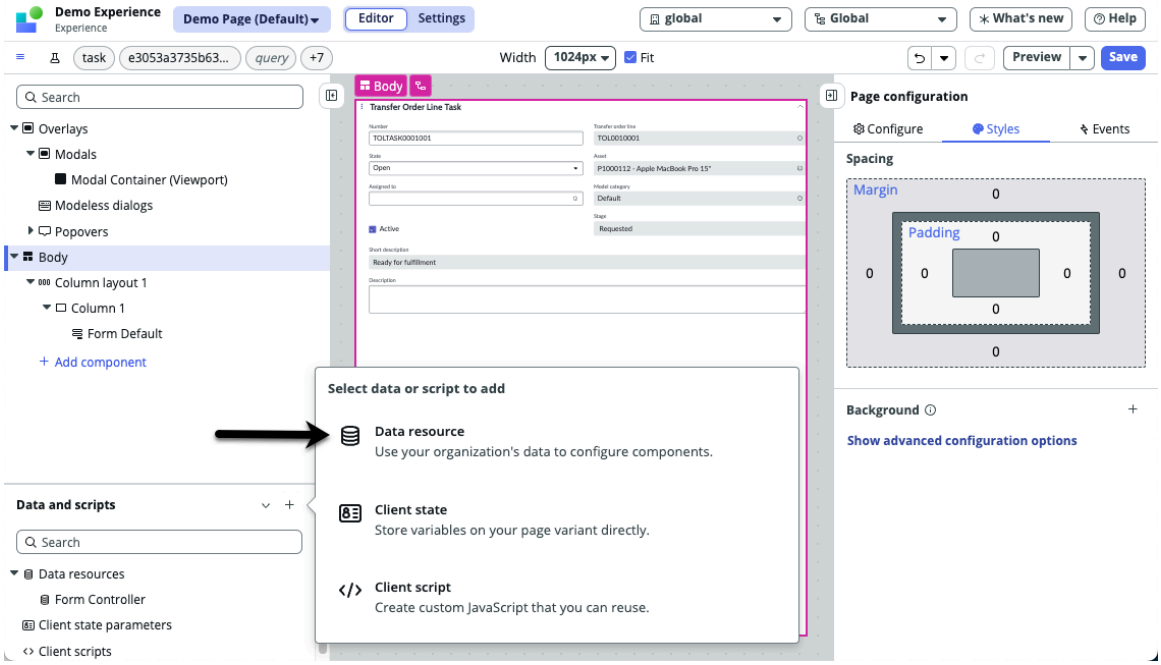
このタスクについて
レコードコントローラーは、Washington DC のページに追加できる唯一のコントローラーです。

手順

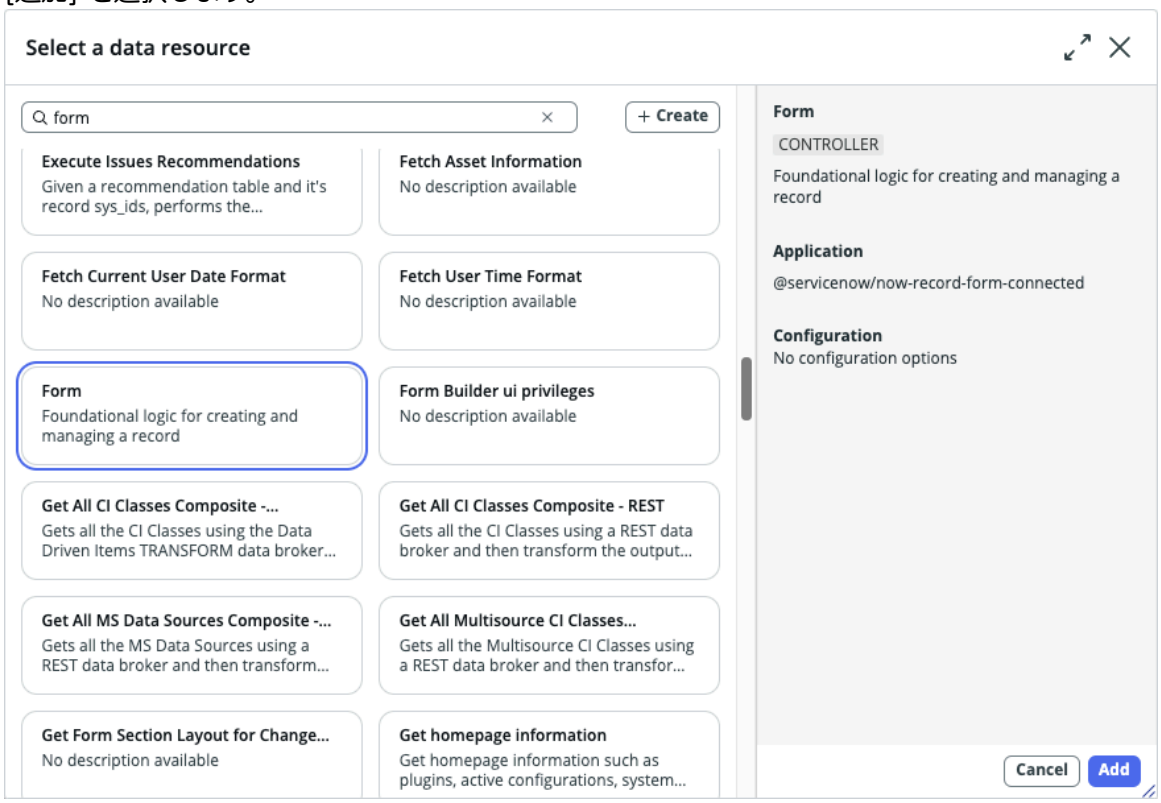
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. データリソースドロワーで **[+** ] アイコンを選択します。
5. [ データ リソース] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



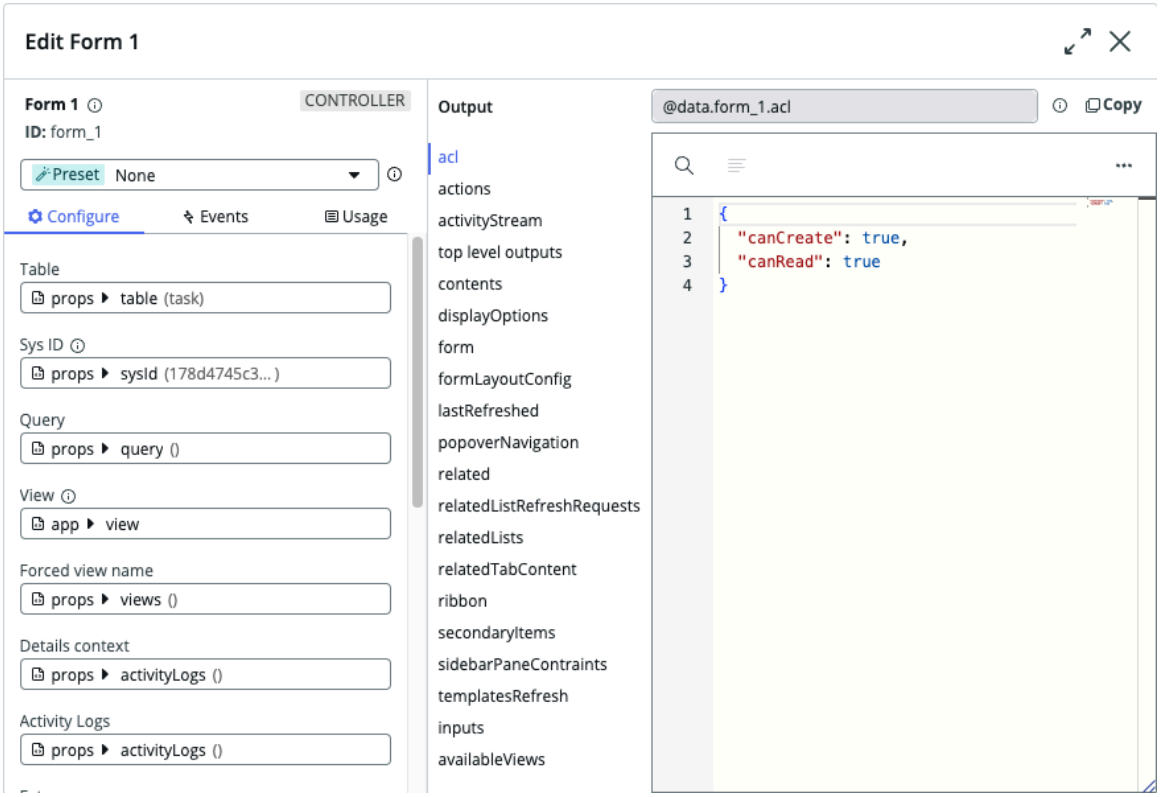

6. 検索フィールドに 「フォーム」 と入力します。
7. ページに追加するコントローラーを選択します。
8. [追加] を選択します。



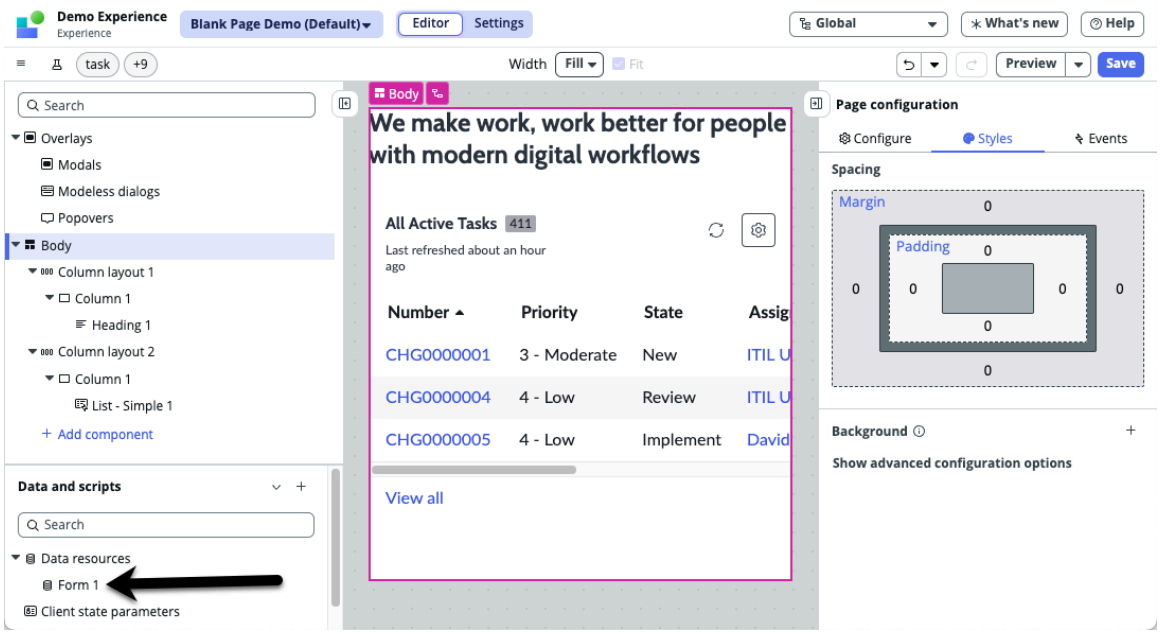

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**9.** フィールドに入力して、コントローラーを構成します。




タスクの結果
フォームコントローラーが [ データリソース ] セクションに表示されます。




## コントローラーの編集

テーブルからデータをプルするようにコントローラーを構成します。

### 始める前に

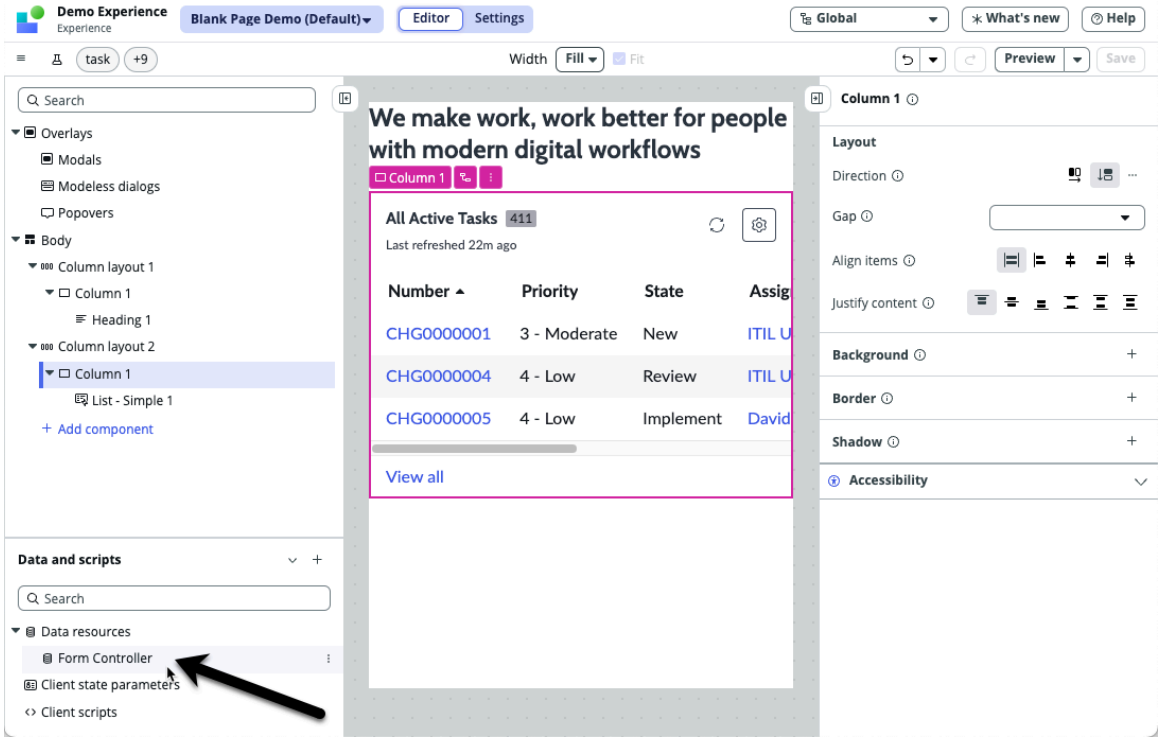
必要なロール：管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. [データとスクリプト] ドロワーで編集するコントローラーを選択します。




5. フォームのフィールドに入力します。

フォームコントローラーフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タイプ | コントローラーは、すべてのコントローラーのタイプとして事前定義されています。 |
| テーブル | コントローラーがデータをプルするテーブルを追加します。 |
| Sys ID | レコードに対する一意の識別子を入力します。値を指定するか、または -1 を使用して新しい値を生成します。 |

6. コントローラーの編集モーダルを閉じます。
7. **[Save** (保存)] を選択します。

### コントローラーの削除

UI ビルダー で不要になったコントローラーを削除します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



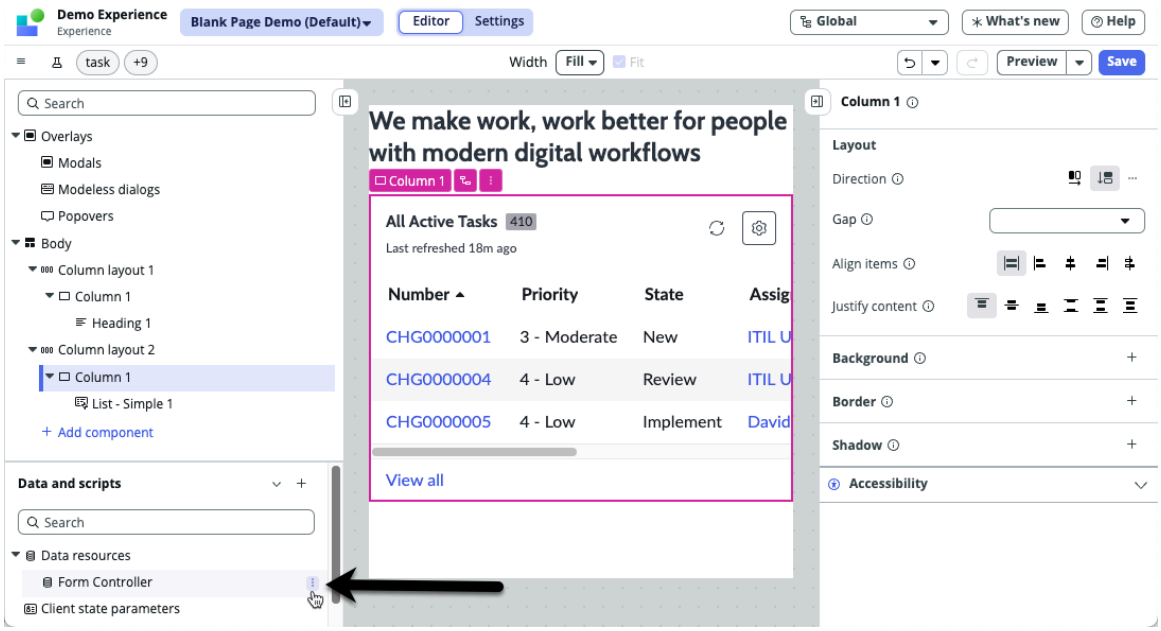
自動翻訳

始める前に
必要なロール：admin

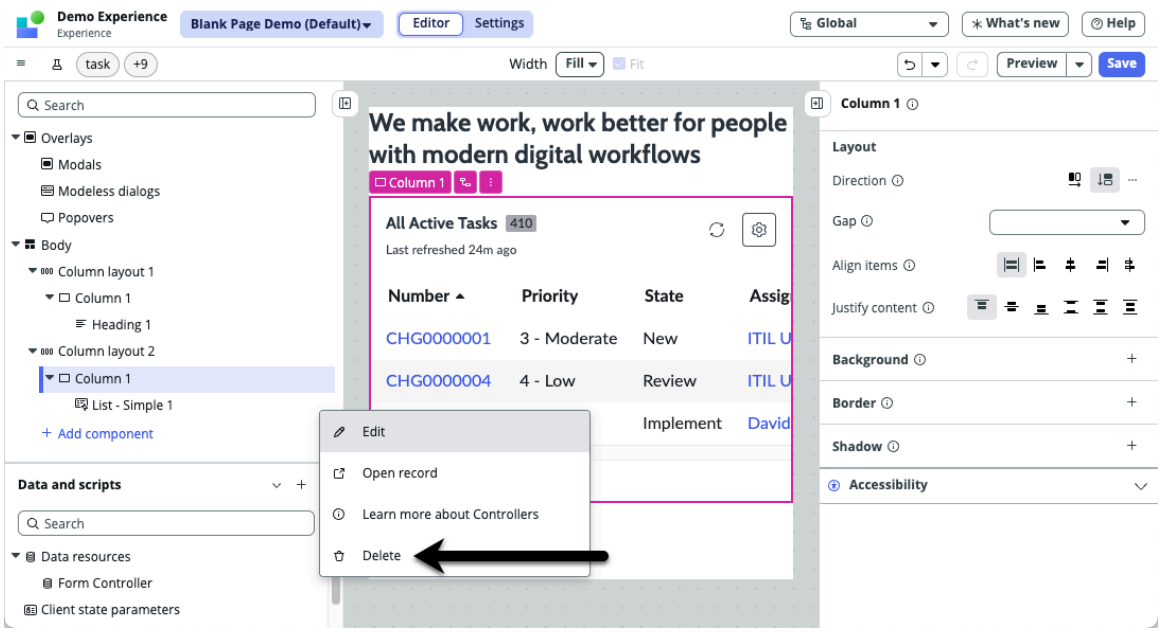
このタスクについて
ページテンプレートで作成されたページからは、コントローラーを削除できません。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 削除するコントローラーのページを開きます。
4. 削除するコントローラの横にあるメニューアイコン( )を選択します。




5. [削除] を選択します。




コントローラーがローカルデータリソースインスタンスから削除されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### コントローラー API でのプロパティとイベントの表示

コントローラーのパブリック API は、コントローラーがプリセットに提供する出力データを定義します。これには、プリセットが選択されたときにコンポーネントによって使用されるプロパティ値と処理済みイベントが含まれます。プロパティとイベントの情報は UI Builder で表示できます。

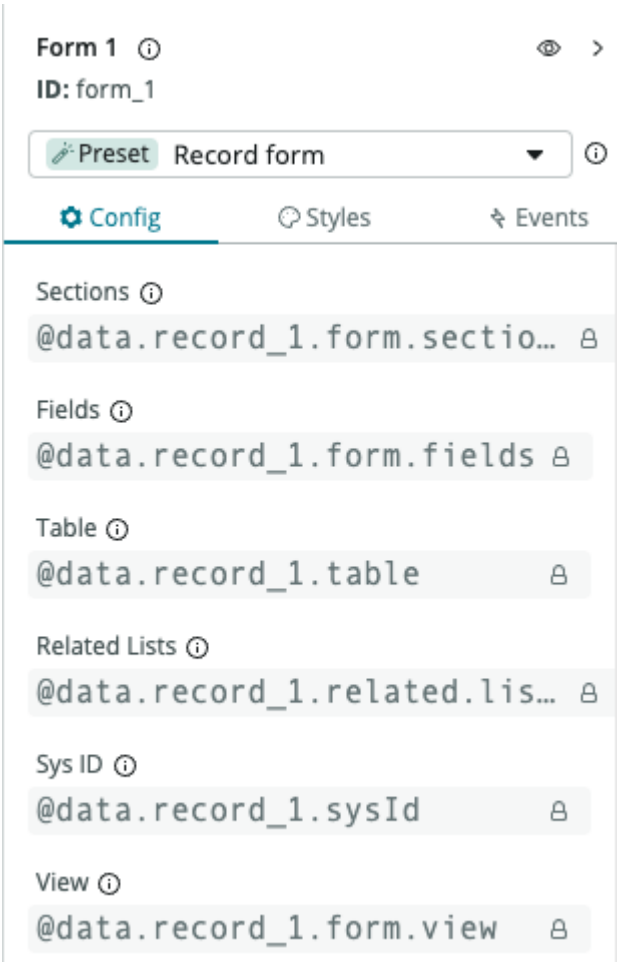
プリセットのコンポーネントプロパティ値は、静的な値またはコントローラー出力データのパスにすることができます。UI Builder のデータリソースインスペクターを使用して、プリセットで使用されるコントローラーデータ構造からの値を表示できます。プリセット内のイベントによって伝達されるペイロードを表示するには、そのイベントのイベントハンドラーピッカーを確認することができます。

## コントローラー API でのプロパティの表示

事前設定されたプロパティは UIB データインスペクターで表示できます。使用可能な値を把握しておくと、コンポーネントが設計内でどのように動作するかを理解し、上書きできるプリセットプロパティを特定する際に役立ちます。

この手順は、プリセットがあるコンポーネントをページに配置し、コントローラーが構成済みであることを前提としています。手順については、「コントローラーの追加」を参照してください。

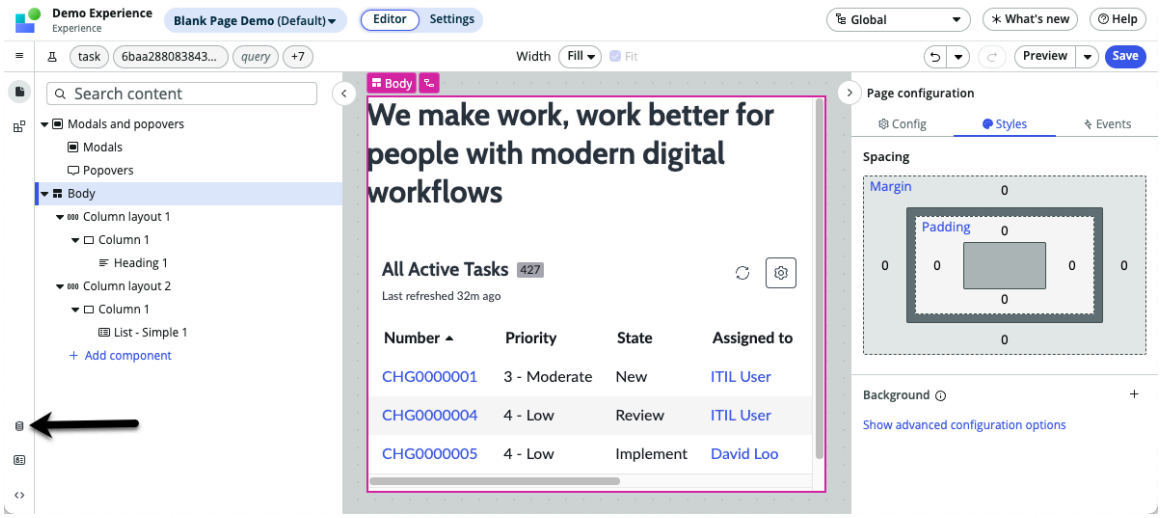
[構成] タブには、事前設定されたプロパティ値がコントローラー出力へのパスとして表示されます。基本のデータパスは @data.<controller_name> と表されます。パスの残りの部分は、コントローラーデータ階層内のカテゴリの内容を使用して構築されます。このパスを使用して、コントローラーが構成されているレコードの現在の値を表示できます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. コンポーネントのデータリソースを表示するには、左下のサイドバーでデータアイコンを選択します。




3 列の UIB データインスペクターが表示されます。

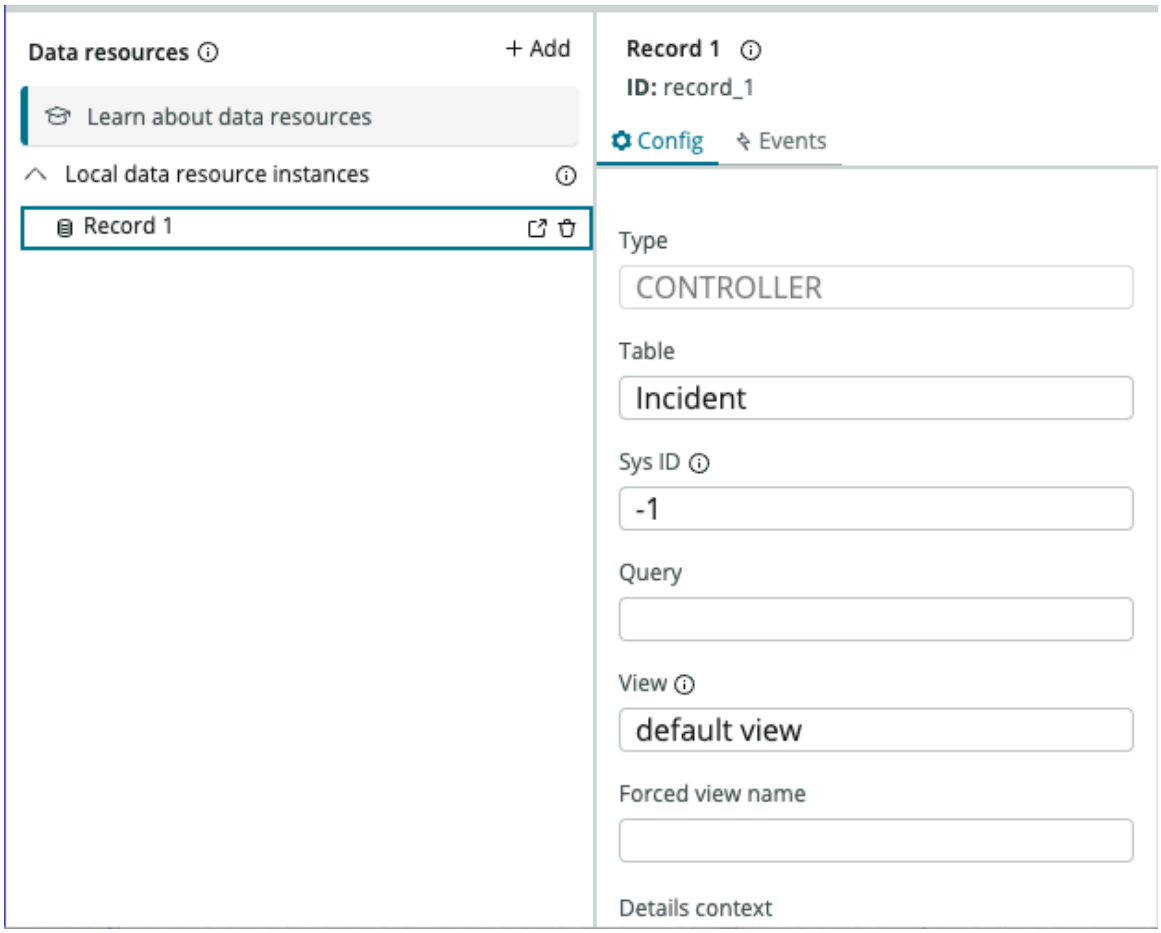
2. データリソースがリストされている最初の列で、出力を表示するコントローラーを選択します。

選択したコントローラーの構成データが 2 列目の [構成] タブに表示されます。これらは、ページに配置したプリセットを使用して最初のコンポーネントのコントローラーを構成したときに入力した入力プロパティです。必要に応じて、これらの接続値を編集できます。

> **注:**
> **[Sys ID]** フィールドの値として **-1** を設定すると、新しいレコードのコントローラーが構成されます。次にコントローラーは、完全な GUID を生成します。これは、レコードを保存する前に、レコードに対するデータを格納するために使用できます。これにより、添付ファイルの保存など、新しく作成されたレコードでアクションを実行できます。

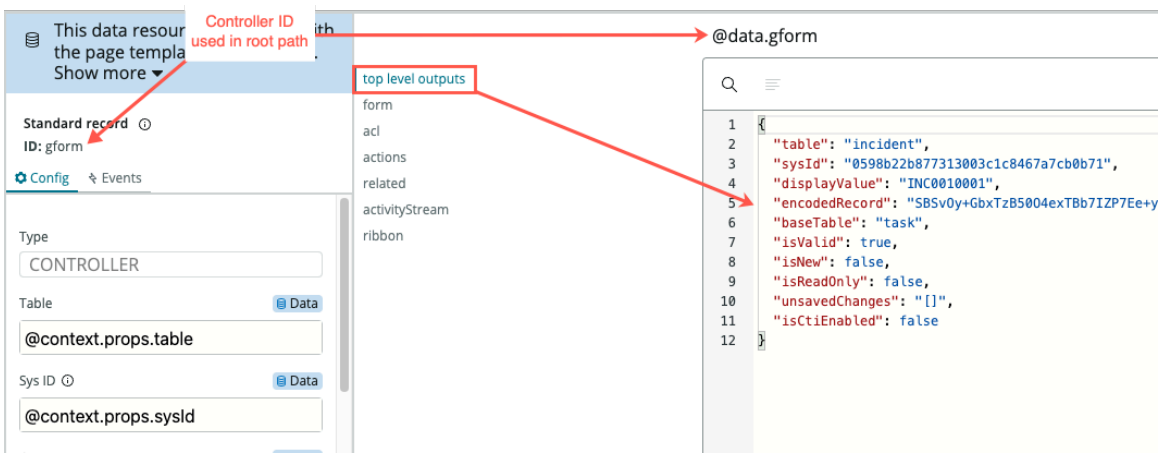
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**3.** 3 列目で [トップレベルの出力 **(top level outputs)]** を選択します。

これは、コントローラーデータ階層の親レベルであり、プリフィックス @data.、それに続くコントローラー ID で示されます。この組み合わせにより、データへのルートパスが形成されます。トップレベルの出力に含まれるデータは、隣接するコードフィールドに表示されます。これらは、プリセットとスクリプトで使用できます。そのレベルの他のプロパティは、すべてのレコードに適用される共通プロパティです。



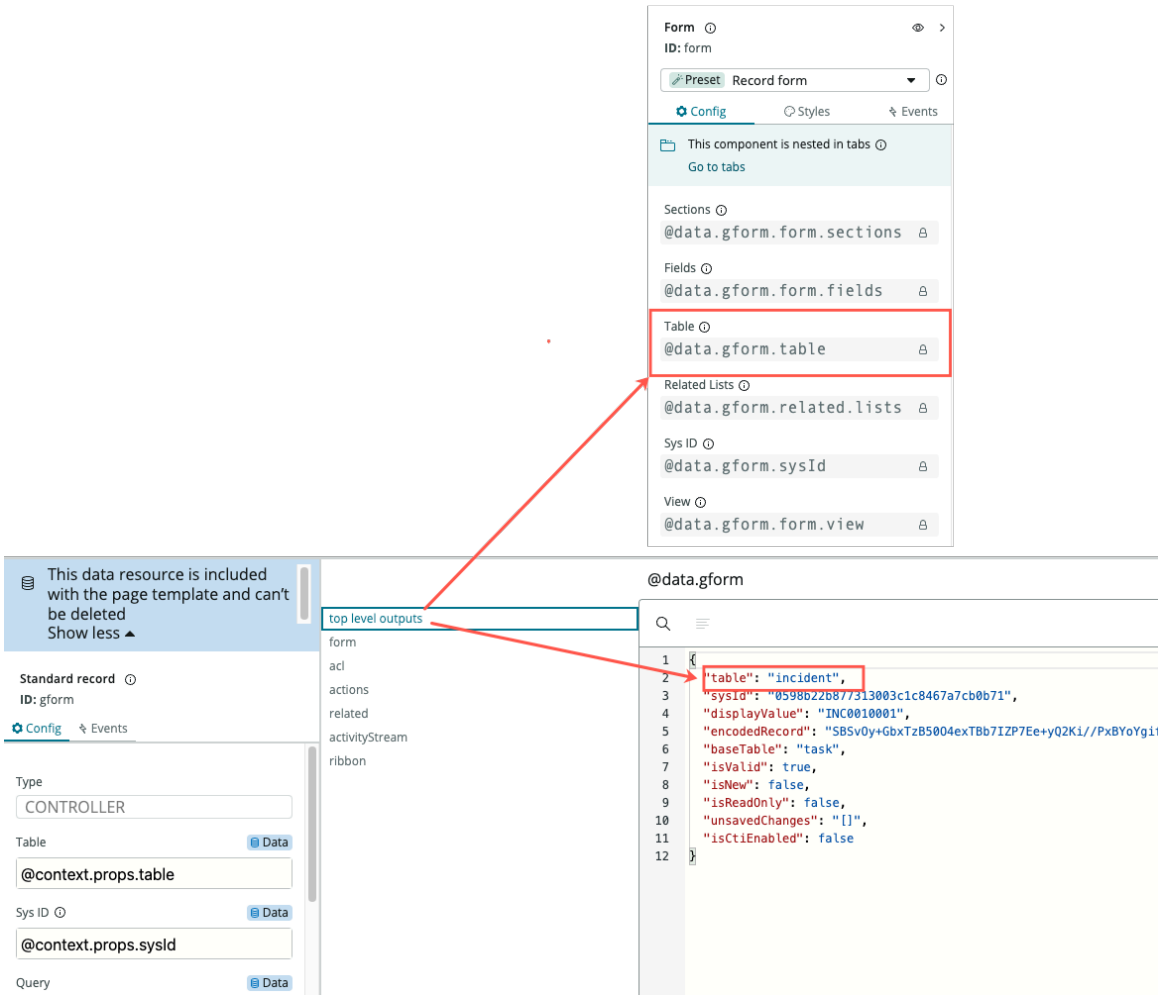

プリセットがコンポーネントプロパティをコントローラー出力にマップすると、値の代わりに出力へのパスが表示されます。パスは **@data.<**コントローラー *ID*>.<トップレベルから出力プロパティへのパス> として示されます。これを値として、または式の一部として使用できます。

この例では、プリセットのマッピングによって @data.gform.table へのパスが得られます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

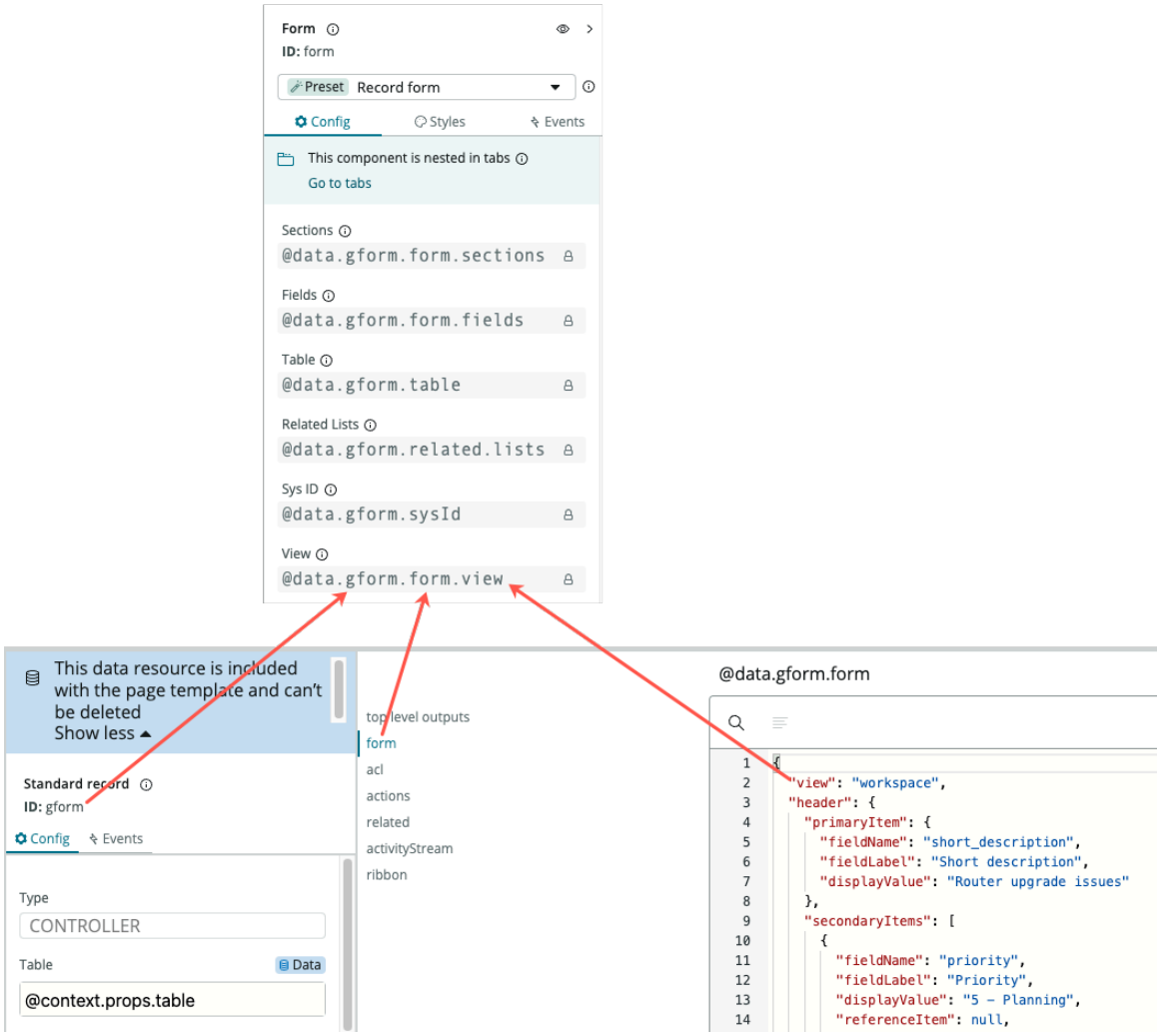



4. トップレベルの下のデータを表示するには、プリセットプロパティ値のパスで示される子カテゴリを選択します。

   子カテゴリの名前は `@data.<controller ID>.<category>` としてパスに表示されます。そのカテゴリのデータが当該パスに追加されます。コードフィールドの上にあるルートパスは、使用されている子カテゴリを示します。この例では、`form` カテゴリの **view** プロパティへのパスは `@data.gform.form.view` として表されます。そのプリセット値は、**workspace** ビューにフォームを表示します。

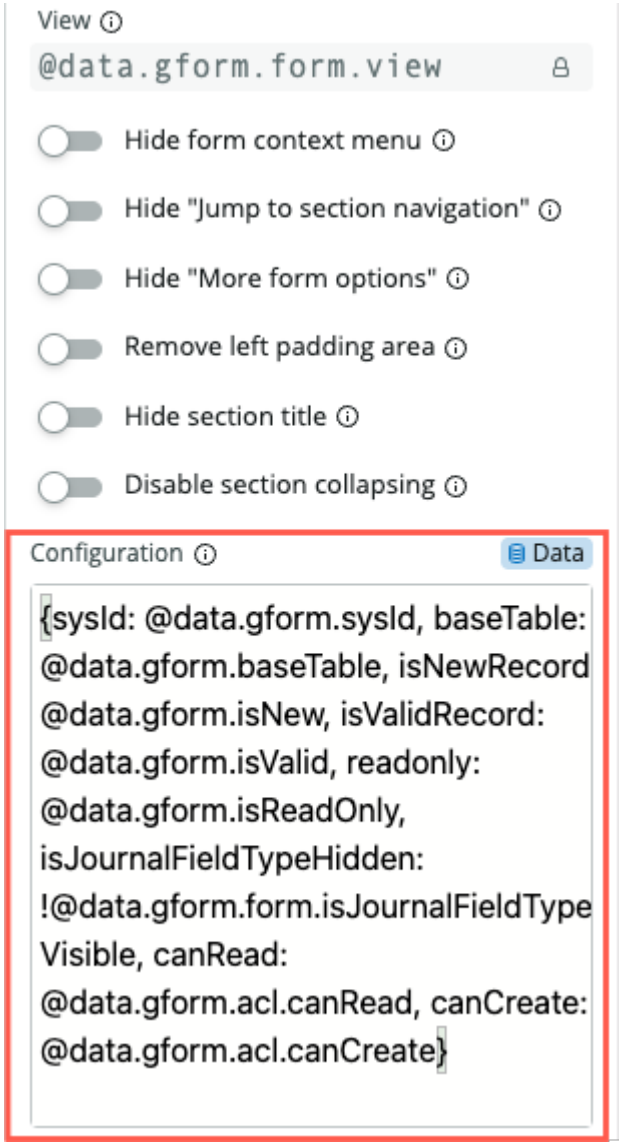
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




この例では、複数のコントローラー出力プロパティを式で使用してオブジェクトを構築しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

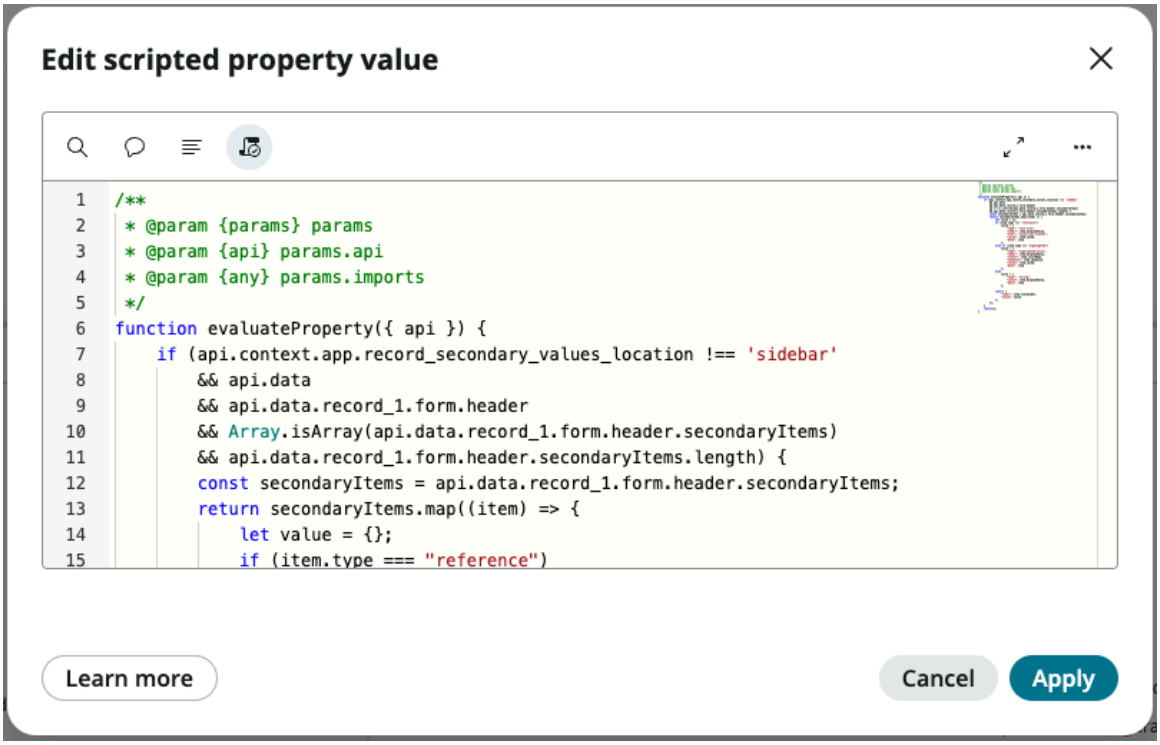



5. スクリプト化されたプロパティ値を表示するには、プロパティの横にあるロックアイコンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これにより、プロパティが編集モードになり、スクリプトを編集するためのモーダルが開きます。




## コントローラー **API** でのイベントの表示

プリセットとそのペイロードによってコンポーネントにマッピングされた処理済みイベントは、UI Builder 構成パネルの [イベント] タブで表示できます。イベントのデータマッピングがユースケースに適していない場合は、さらにデータハンドラーを追加できます。

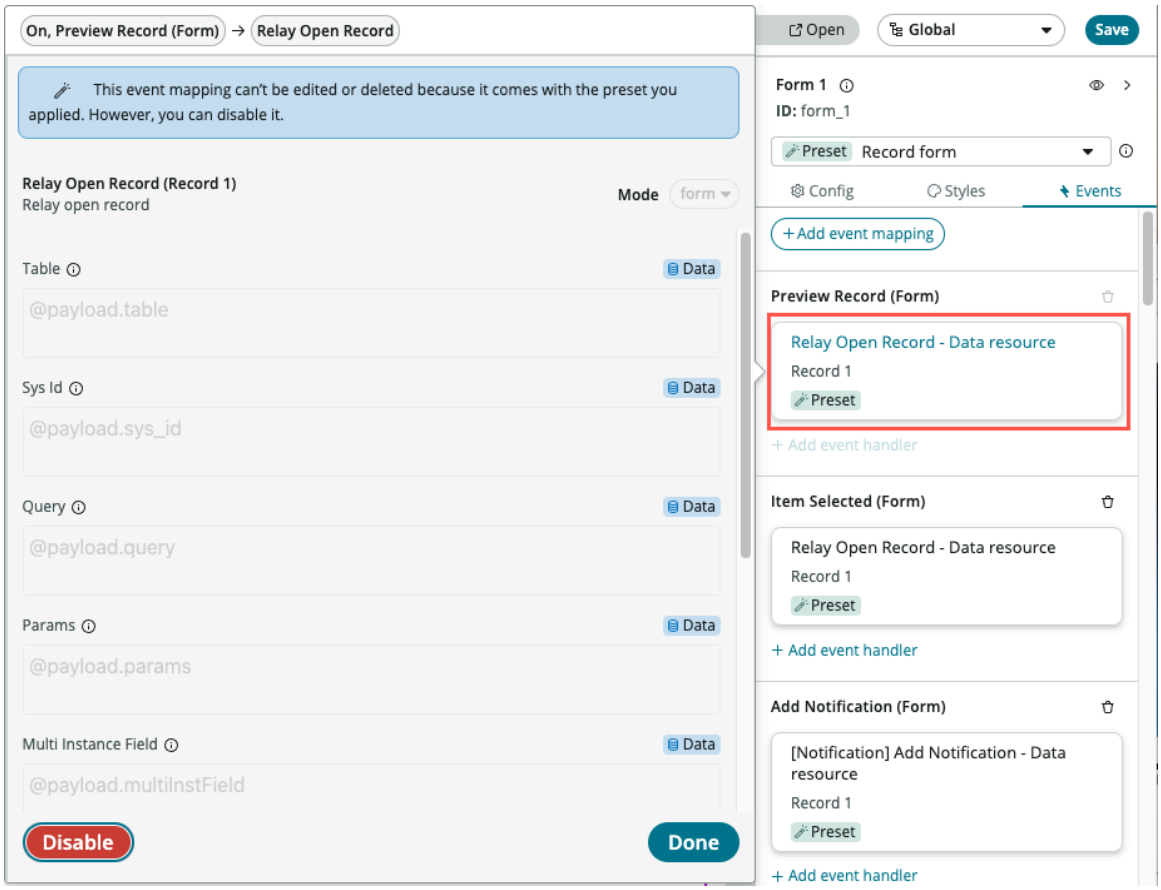
**注:**
プリセットで提供されているデータハンドラーマッピングは編集できません。

1. UI Builder で [イベント] タブを選択します。
2. プリセットイベントのマッピングを表示するには、イベントタイルを選択します。

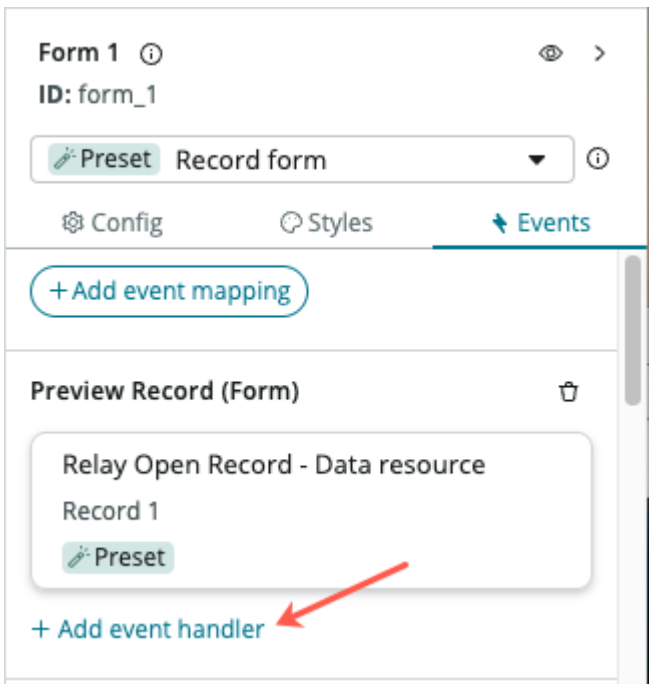
   プリセットイベントのペイロードプロパティを示すモーダルが表示されます。このモーダルでイベントを無効にすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




3. イベントにイベントハンドラーを追加するには、イベントタイルの下にある **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。




利用可能な処理済みイベントのリストを示すモーダルが表示されます。リストから、リストされているいずれかのコントローラーのイベントハンドラーを含む任意のアクションを選択できます。

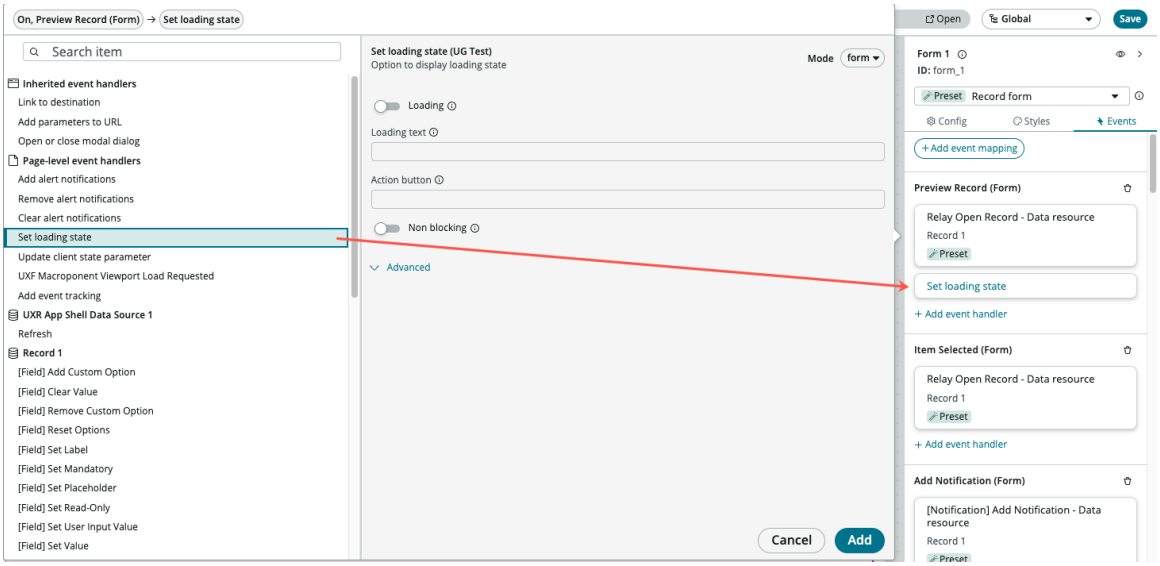
4. リストからイベントハンドラーを選択し、[追加] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

新しいハンドラーがイベントタイルの下に一覧表示されます。




## コンポーネントへのデータ接続

ローカルデータリソースによって公開されたデータを、ページ上のコンポーネントにバインドします。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

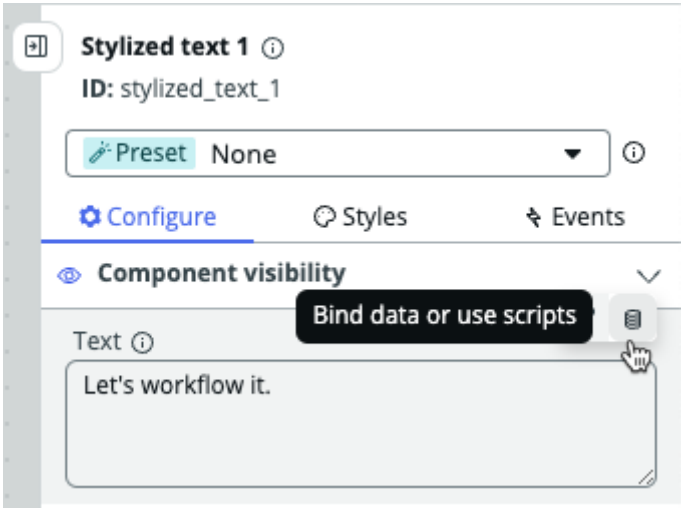
データバインディングとは、情報を表示する UI 要素にデータを関連付けるプロセスのことです。データをコンポーネントにバインドする前に、データリソースをページに追加する必要があります。詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。

### 手順

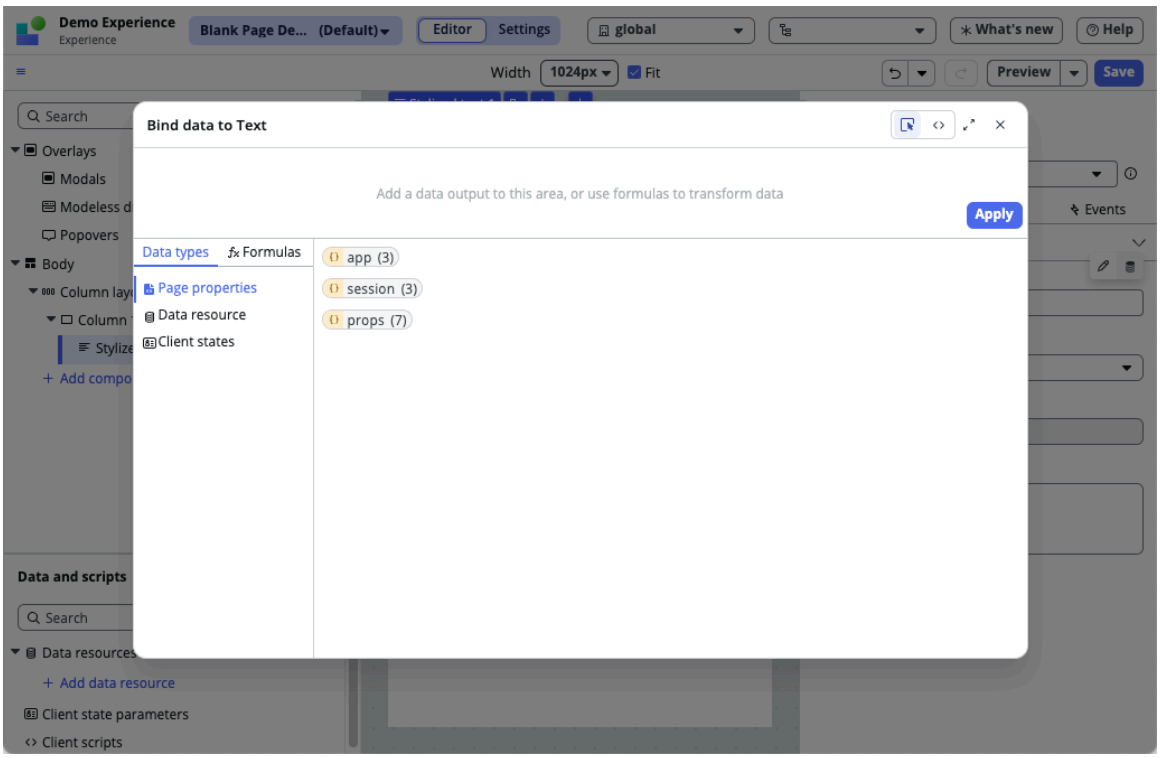
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. データリソースをページに追加します。
   詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントにデータリソースをバインドするには、ページにコンポーネントが必要です。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
6. の構成UI ビルダーパネルから [構成] タブを選択します。
7. データをバインドするフィールドをポイントし、[動的なデータバインディング] アイコン ( ) を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



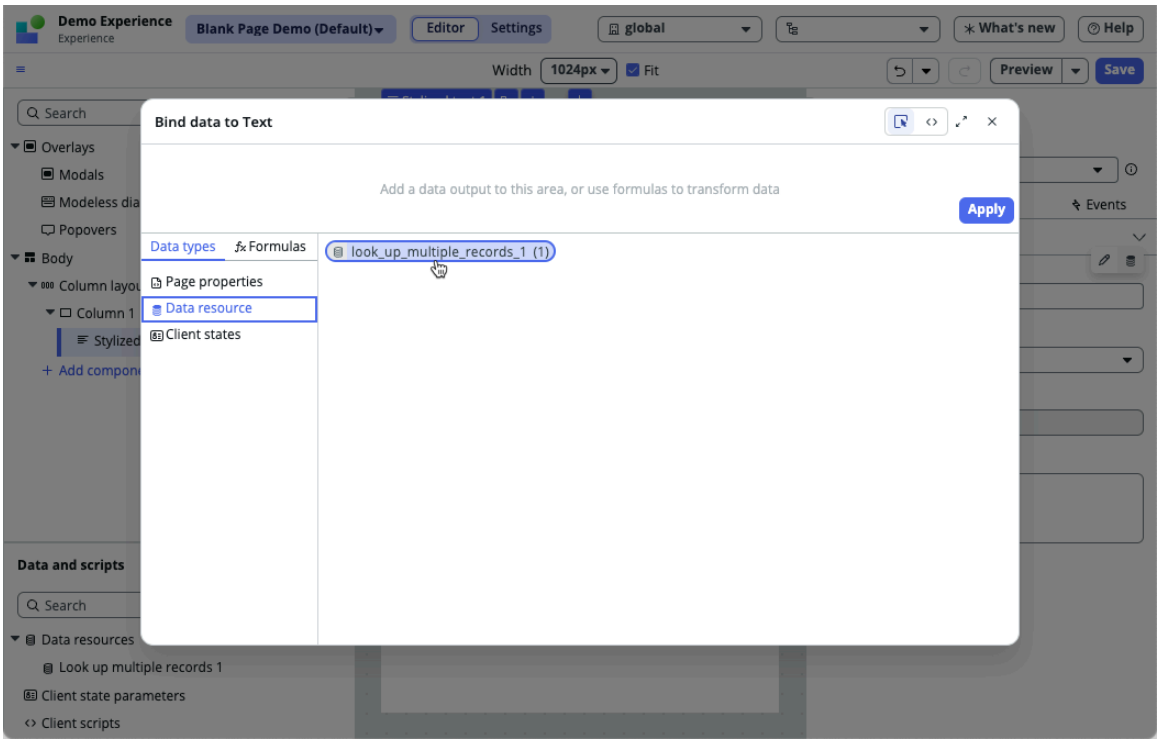

データバインディングモーダルが表示されます。




8. [データ型] タブで [データ リソース] を選択します。
9. コンポーネントにバインドするデータリソースを選択します。

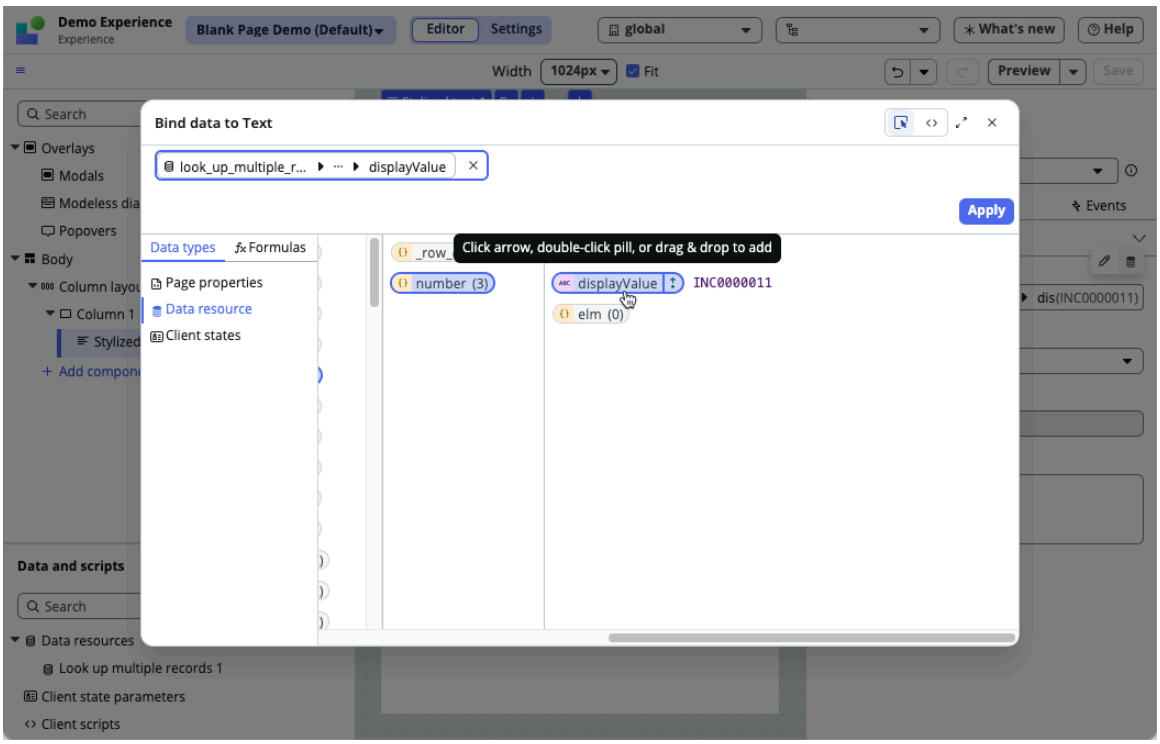
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**10.** コンポーネントにバインドするデータを選択し、上のフィールドにドラッグします。

特定のプロパティ値または表示値を取得するには、複数のピルを選択する必要があります。

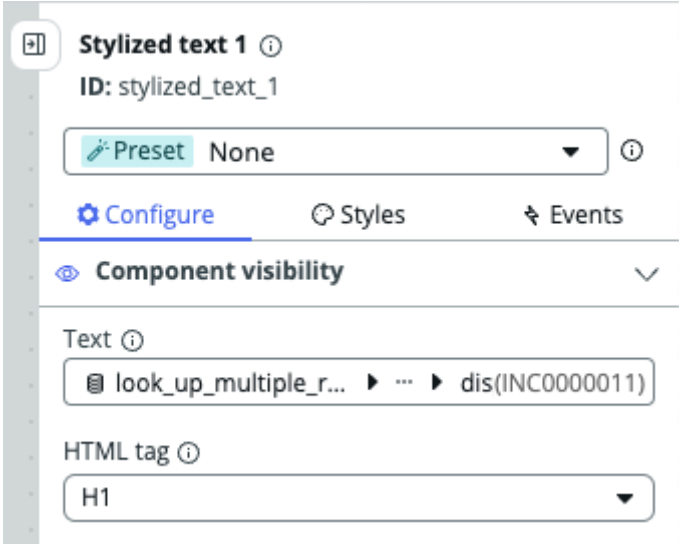



**11.** **[Apply** (適用)] を選択します。

コンポーネントには、選択したプロパティ値または表示値が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




12. ヘッダーで [保存]UI ビルダー を選択します。

## クライアントステータスパラメーターを作成してコンポーネントにバインドする (高度な機能)

UI ビルダー でクライアントステータスパラメーター値を作成して、コンポーネントにバインドします。コンポーネントにカスタム値を追加することで、これらのコンポーネントをスクリプトによって自動的に更新できます。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

2 つのコンポーネントをページに追加し、クライアントステータスパラメーターとスクリプトを使用して接続することができます。まず、クライアントステータスパラメーターを作成し、次にクライアントステータスパラメーターをラベルなどのコンポーネントの 1 つにバインドします。次に、クライアントスクリプトを作成し、それをイベントハンドラーを使用してボタンなどの 2 番目のコンポーネントにバインドします。イベントハンドラーを作成するときは、それにクライアントステータスパラメーターの値をバインドして、2 つのコンポーネントを接続します。1 つのコンポーネントをクリックすると、他のコンポーネントのステータスが変更されます。クライアントステータスは、スクリプトによって自動的に更新されるカスタム値をコンポーネントに追加できるので便利です。クライアントステータスは、ページに固有の情報を格納するバケットと考えてください。

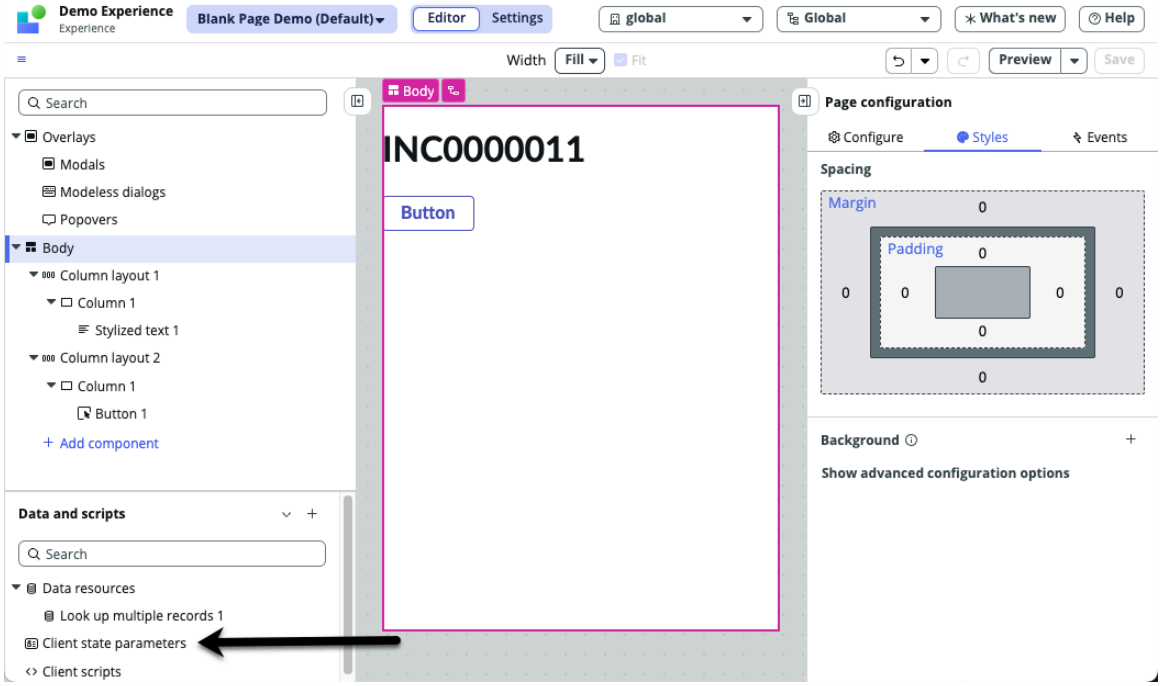
たとえば、ボタンとラベルコンポーネントをページに追加できます。ボタンは、テキストの色を変更するなど、ラベルの値を変更します。

### 手順

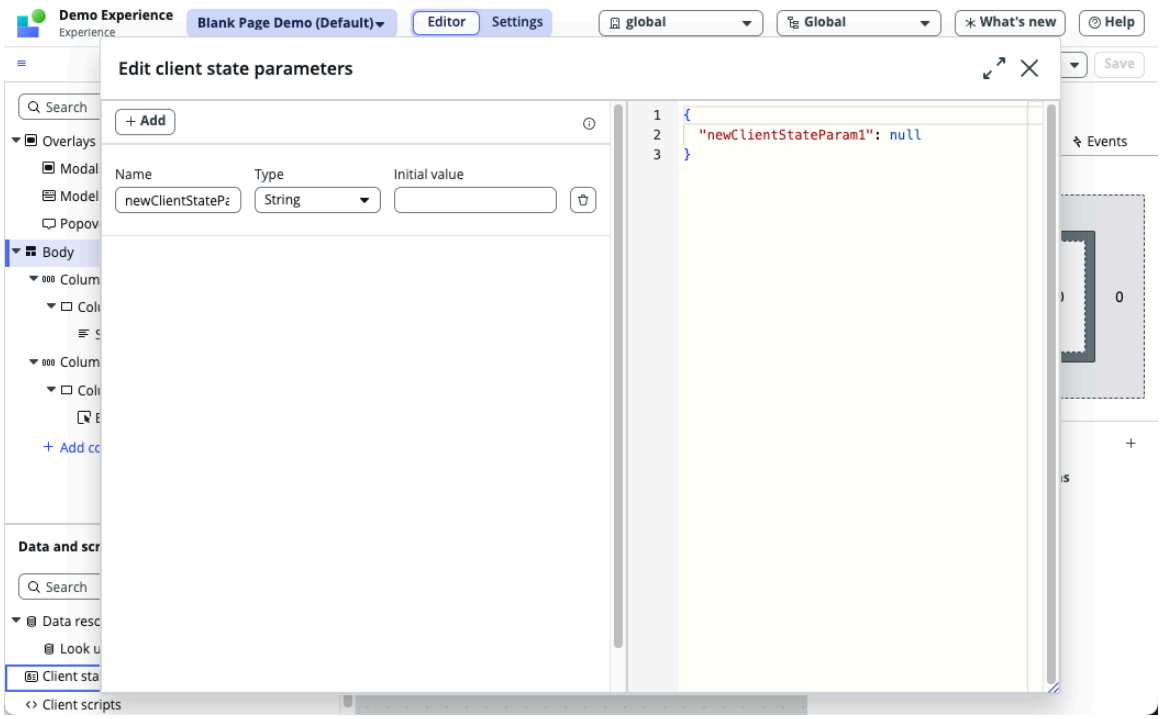
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。
4. 2 つのコンポーネントをページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. 関連する値を使用してクライアントステータスパラメーターを定義するには、左下のパネルで [クライアントステータスパラメーター] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



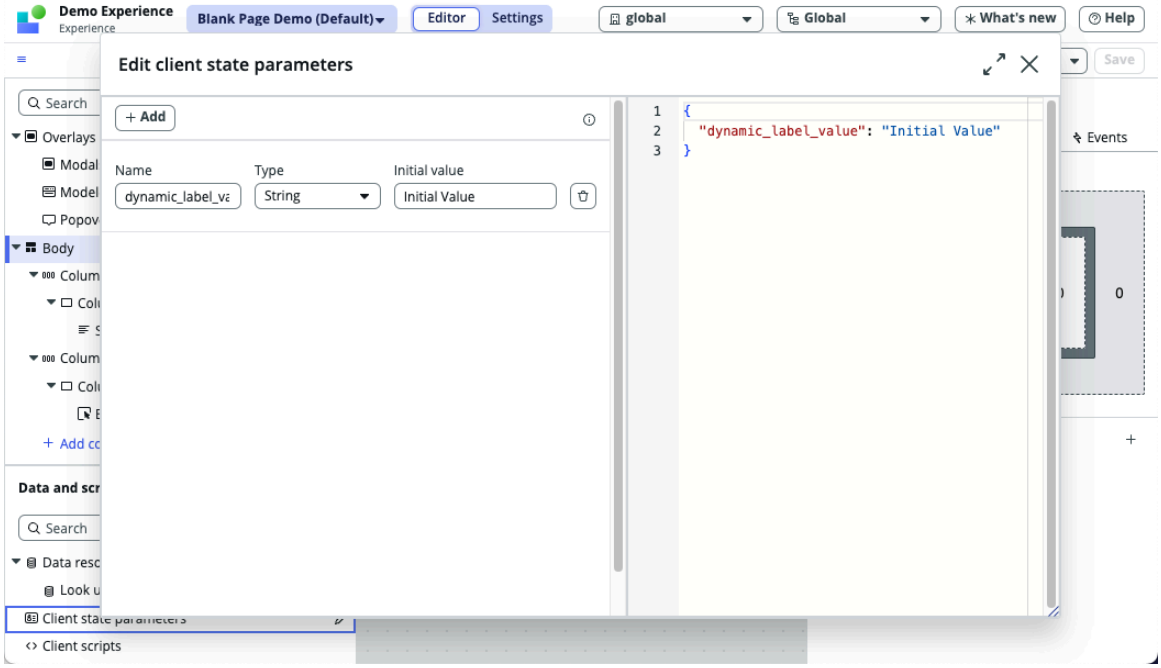

6. [ + Add 。




7. クライアントステータスの名前、タイプ、および初期値を入力します。

クライアントステータスは、文字列、数値、ブール、および JSON をサポートします。たとえば、名前を「dynamic_label_value」、タイプを「String」、初期値を「Initial Value」として入力できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

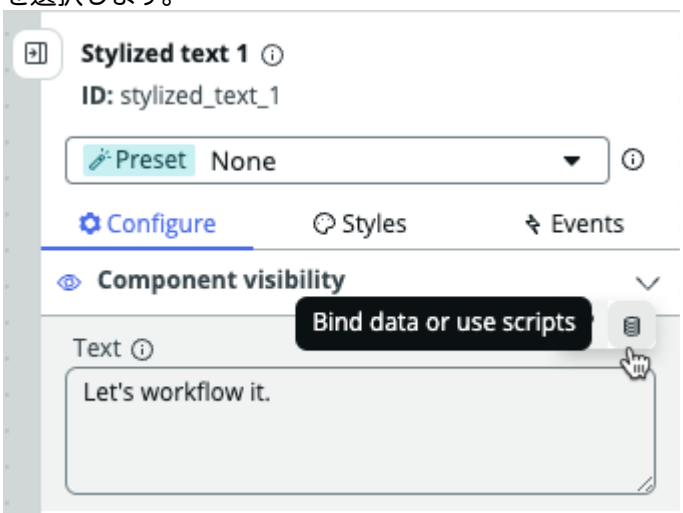



8. クライアントステータスパラメーターの値をコンポーネントにバインドします。

   a. クライアントステータスパラメーターのバインド先にするコンポーネントを選択します。

   b. 構成パネルを開き、[ 構成 ] タブを選択します。

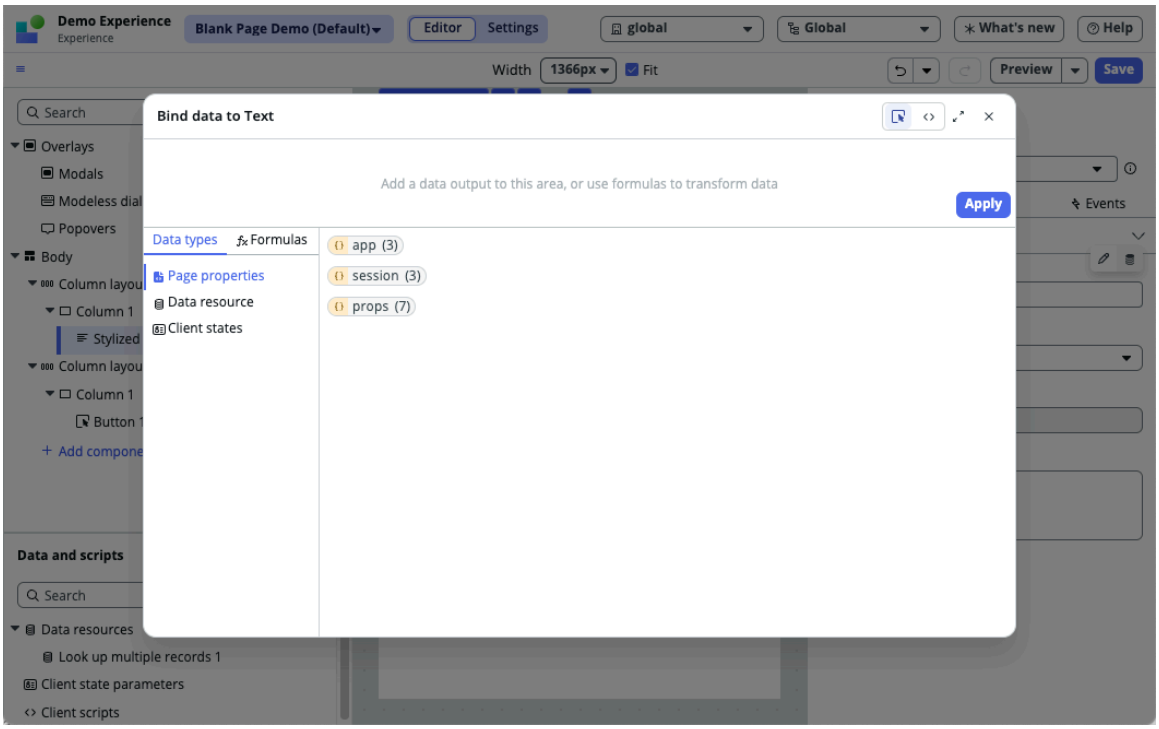
   c. データをバインドするフィールドをポイントし、[動的なデータバインディング] アイコン ( ) を選択します。




   データバインディングモーダルが表示されます。

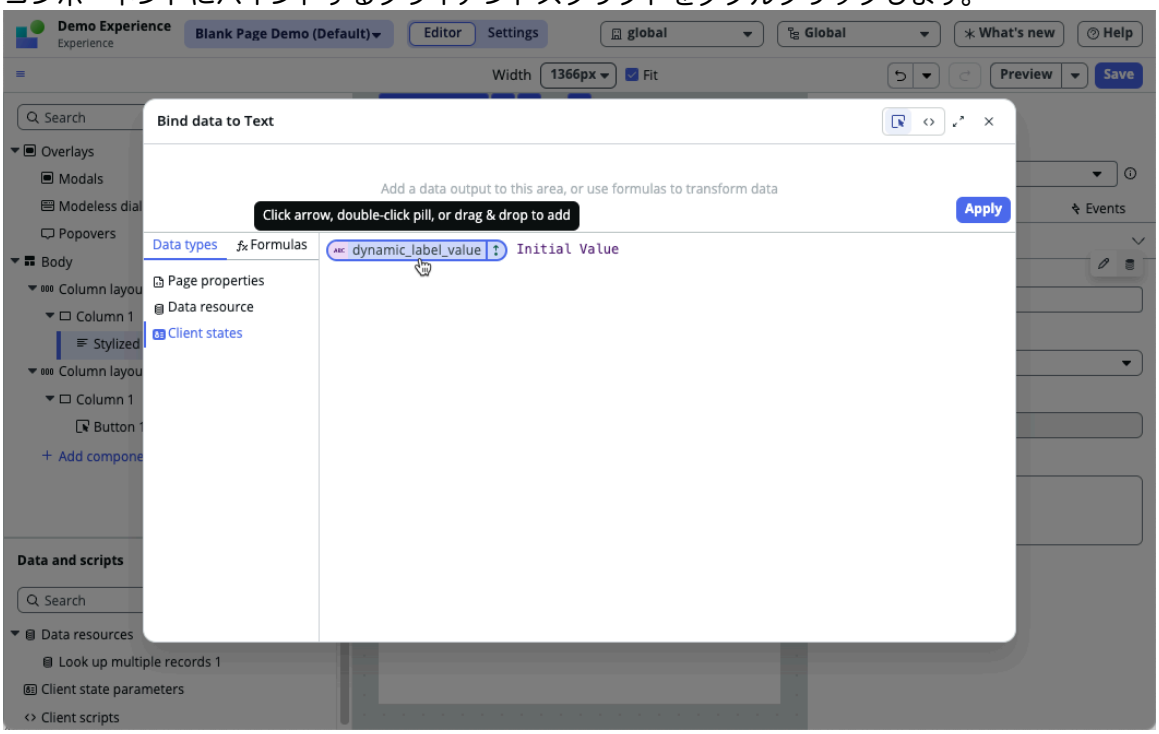
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**d.** [データ型] タブで [クライアントの状態] を選択します。

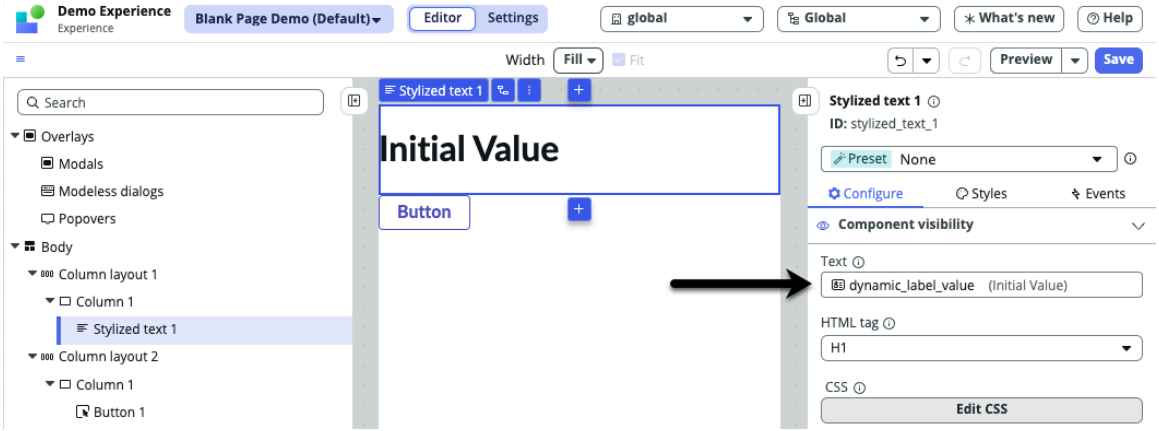
**e.** コンポーネントにバインドするクライアントスクリプトをダブルクリックします。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

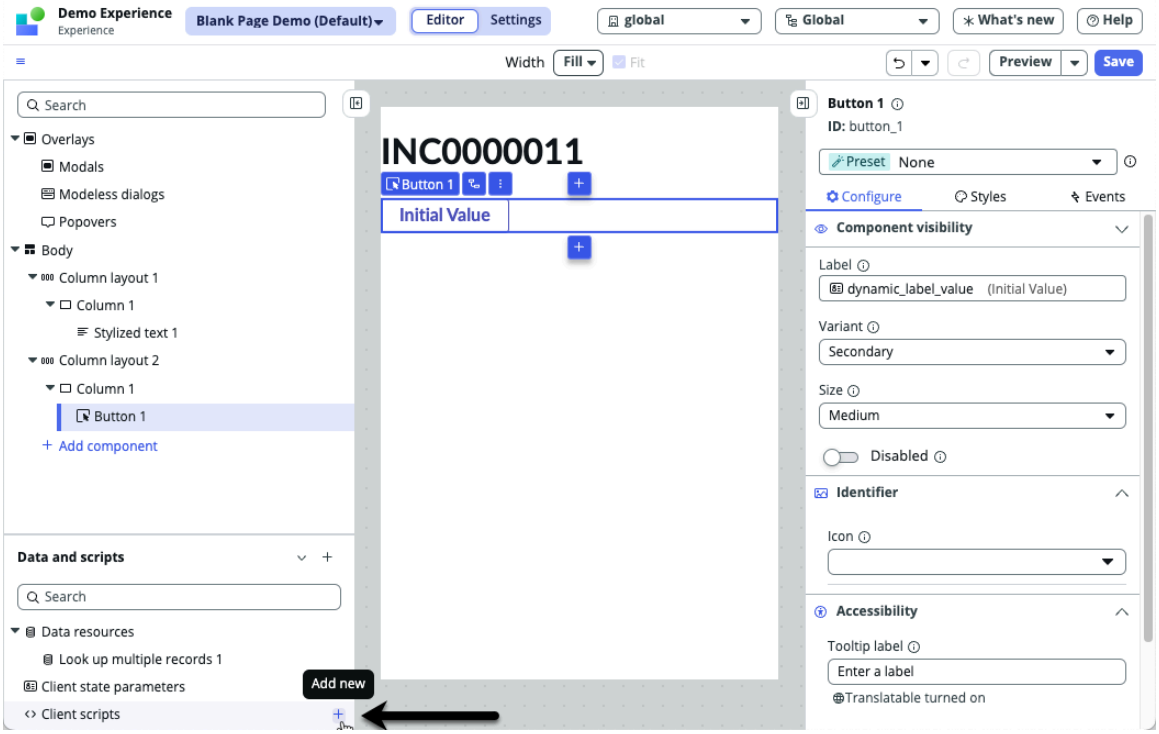
**f.** **[Apply** (適用)] を選択します。




**9.** 保存 を選択し、開く を選択します。

**10.** クライアントステータス値を 1 つのコンポーネントにバインドし、2 番目のコンポーネントを最初のコンポーネントに接続するスクリプトを作成します。

**a.** 左側のウィンドウで、[クライアント スクリプト] の横にある **[+]** アイコンを選択します。



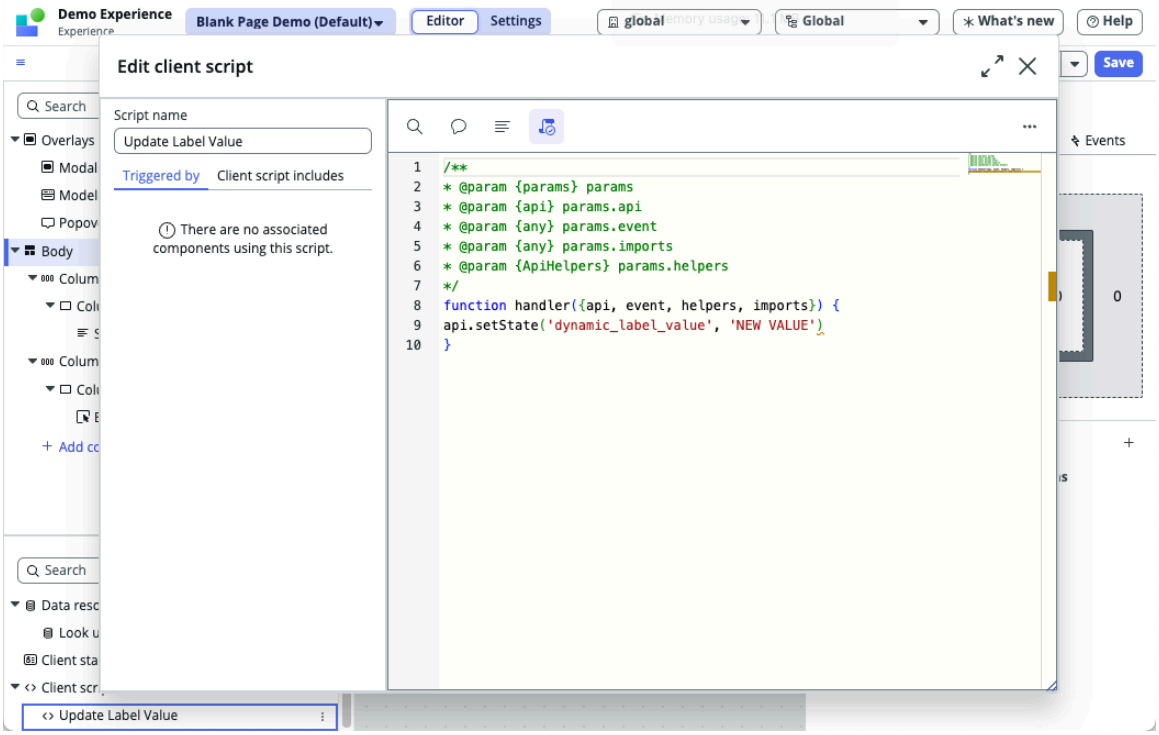

**b.** タスクを説明するスクリプト名を入力します。
たとえば、スクリプトで実行する内容を示す「Update Label Value」と入力します。

**c.** Now コードエディターで、スクリプトを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

呼び出す API と、ステータスや値などの API のパラメーターを選択するとします。たとえば、api.setState を呼び出して、最初のパラメーターとして dynamic_label_value を、2 番目のパラメーターとして NEW VALUE を含めることができます。



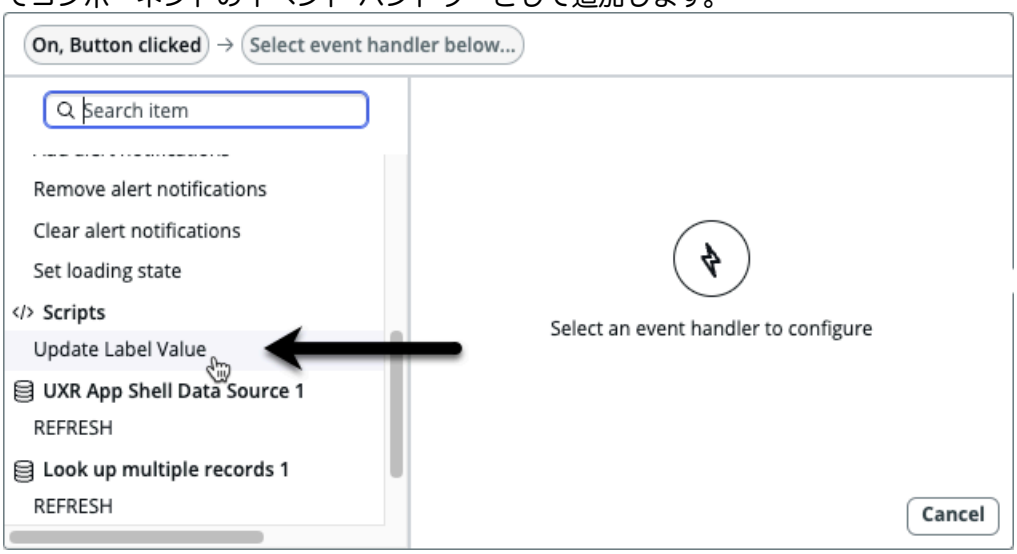

11. 作成した新しいクライアントスクリプトを呼び出すイベントハンドラーを、2 番目のコンポーネントに追加します。

    a. スクリプトのバインド先にする、ページ上のコンポーネントを選択します。

    b. [イベント] タブを選択します。

    c. **[+** 新しいイベントハンドラーを追加] を選択します。

    d. イベント ハンドラーの [スクリプト] セクションで、作成したスクリプトを選択し、 **+** を選択してコンポーネントのイベント ハンドラーとして追加します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [保存] を選択します。
13. ページをプレビューし、コンポーネントをテストして接続されていることを確認するには、[ プレビュー] を選択します。
    1 つのコンポーネントを選択すると、2 番目のコンポーネントのステータスが変更されるはずです。たとえば、 ボタン コンポーネントを選択して、 ラベル 値コンポーネントのテキストを 初期値から 新しい値に変更します。

### タスクの結果

この手順で実行した事柄：

- ページに 2 つのコンポーネントを追加しました。
- 初期値を持つクライアントステータスパラメーターを定義しました。
- クライアントステータスパラメーターを最初のコンポーネントにバインドしました。
- クライアントステータスパラメーターによって定義された値を更新するクライアントスクリプトを作成しました。
- 2 番目のコンポーネントに、作成した新しいクライアントスクリプトを呼び出すイベントハンドラーを作成しました。
- 2 番目のコンポーネントを選択し、最初のコンポーネントのステータスが変更されるようにしました。

## クライアントスクリプトを定義してコンポーネントにバインドする

UI ビルダー のクライアントスクリプトを追加および編集して、イベントを通じてクライアントステータスを更新できるようにします。イベントハンドラーを使用して、これらのスクリプトを任意のコンポーネントにバインドできます。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

Now コードエディターを使用して、UI ビルダー で JavaScript クライアントスクリプトを作成できます。次に、クライアントスクリプトをイベントハンドラーとして追加して、クライアントのステータスを更新したり、ページの処理済みイベントを発行したり、データリソース操作を実行したりできます。たとえば、日付またはカウンターをインクリメントするスクリプトを作成し、そのスクリプトをボタンのクリックなどのコンポーネントイベントにバインドできます。Now コードエディターの詳細については、「Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)」を参照してください。

これらのスクリプトを使用して、次のアクションを実行できます。

- 利用可能なデータを取得し、データを操作して、クライアントステータスに格納します。
- データリソースの結果にアクセスします。
- データリソース操作を実行します。
- イベントをディスパッチします。

### 手順

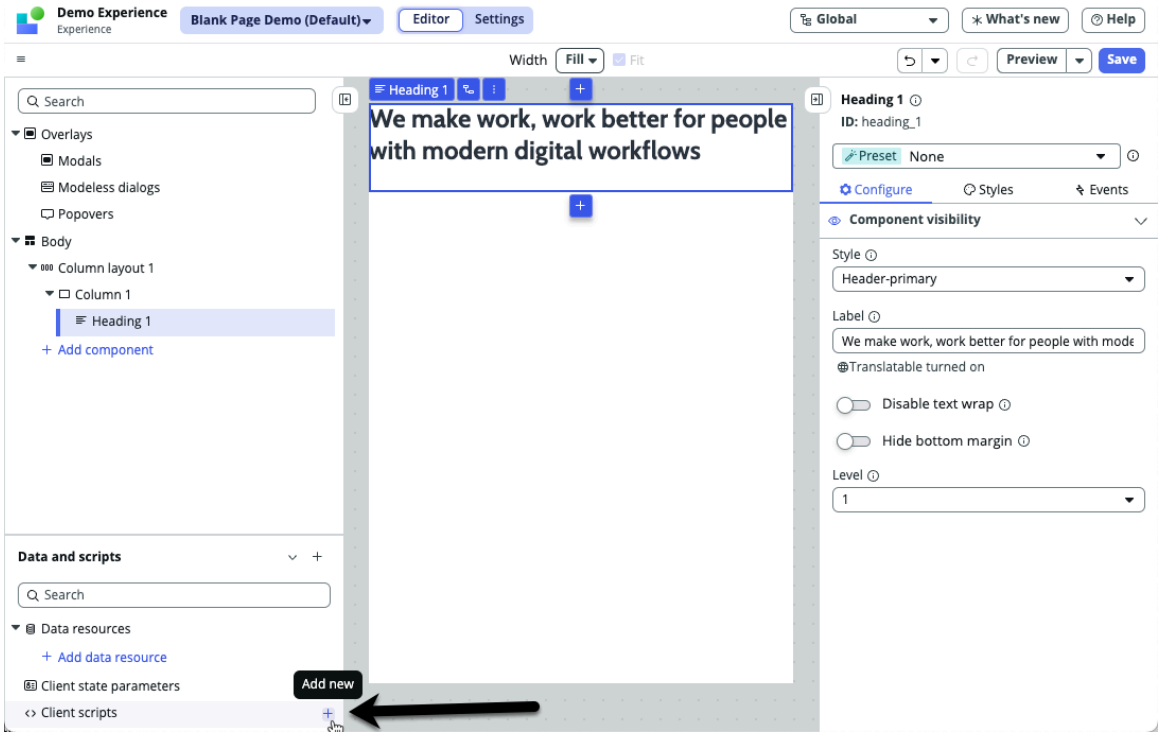
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

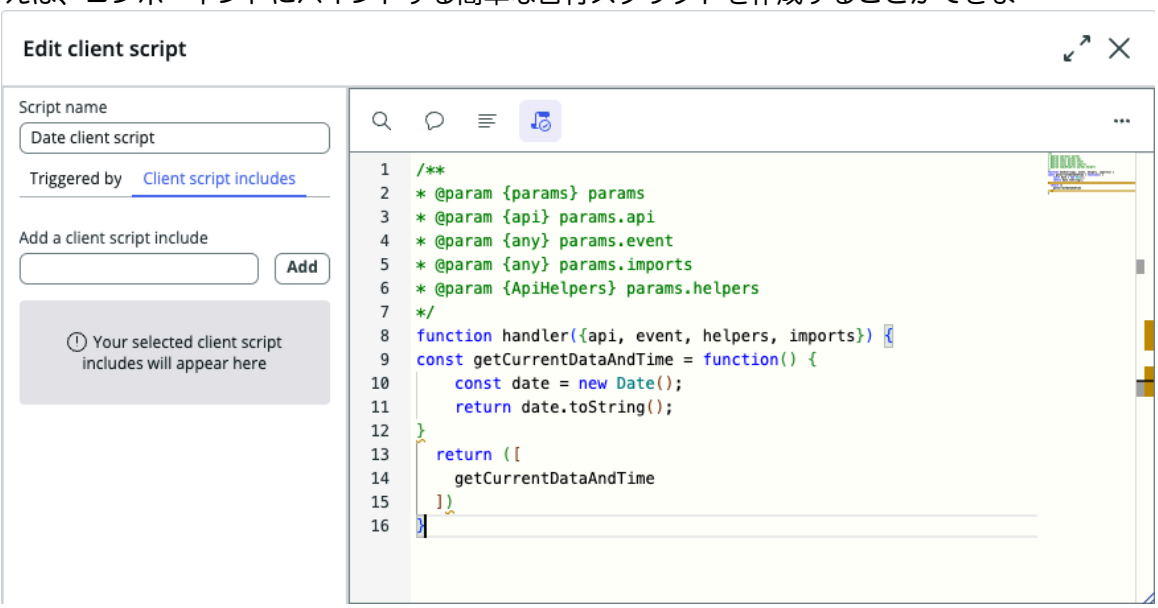
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページにコンポーネントを追加します。
   たとえば、見出しコンポーネントを追加できます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. [クライアント スクリプト] の横にある **[+]** を選択します。




6. スクリプトに名前を付けます。

   説明的な名前を付けると、スクリプトの実行内容を把握しやすくなります。また、後でイベントハンドラーに追加するときにスクリプトを見つけやすくなります。次の例は、単純な日付クライアントスクリプトを示しています。

7. アクションを実行するスクリプトを作成します。
   たとえば、コンポーネントにバインドする簡単な日付スクリプトを作成することができます。

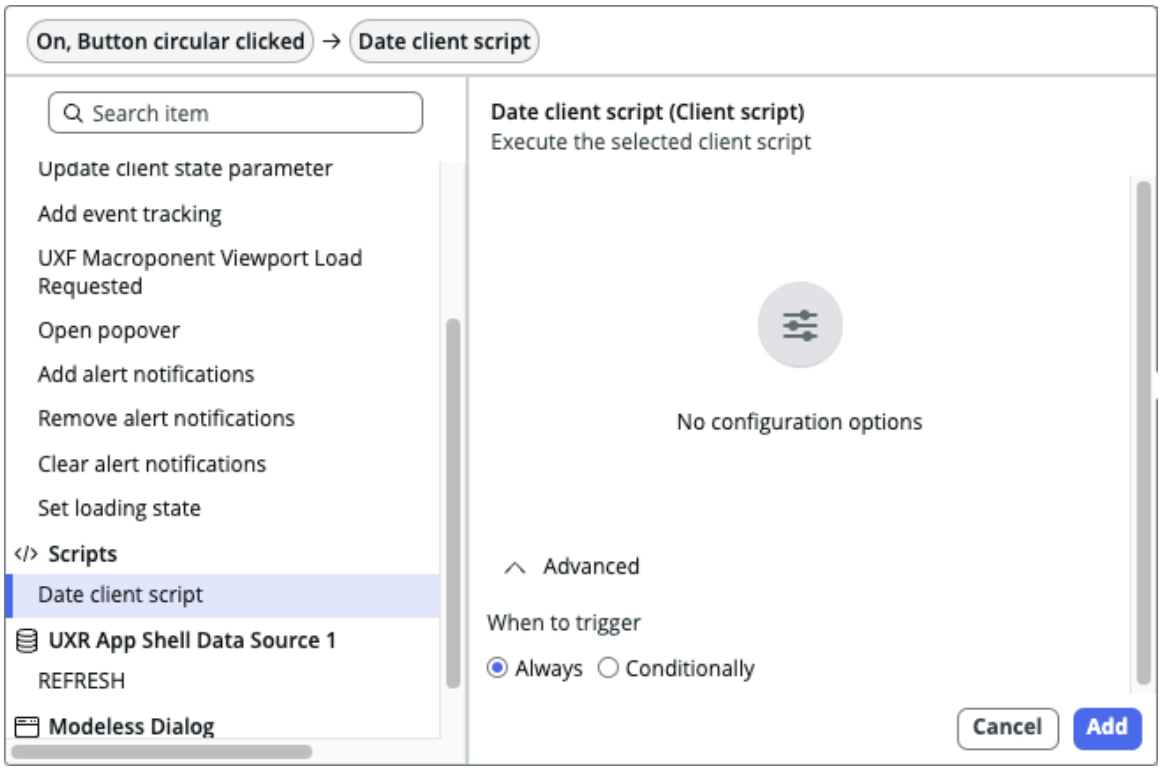



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. オプション: [スクリプトインクルード] または [関連コンポーネント] を追加します。これは、クライアントスクリプト関数の `imports` パラメーターに表示されます。
9. スクリプトをバインドするページ上のコンポーネントを選択し、[ イベント] を選択します。
10. [ + 新しいイベント ハンドラーの追加] を選択し、[スクリプト] で作成した スクリプトを選択して、[ 追加] を選択します。

    次の例は、日付クライアントスクリプトを示しています。




11. **[Save** (保存)] を選択します。
12. スクリプト化されたコンポーネントをプレビューするには、[Preview] を選択します。

### UI ビルダー の Entity View Action Mapper の操作

UI ビルダー では、Entity View Action Mapper (EVAM) アプリケーションを使用して、コンポーネント内のデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化できます。

## EVAM の概要

Entity View Action Mapper (EVAM) は、さまざまなデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化するアプリケーションです。UI ビルダー は EVAM データソースを使用して、コンポーネント内の情報をカードグリッドビューまたは情報のリストとして表示します。コンポーネントにトグルを追加して、カードグリッドビューとリストビューを切り替えられるようにできます。

EVAM は、次のコンポーネントで構成されています。

- エンティティ (データソース)。コミュニティの投稿やユーザーなど、表示する関連データ。
- ビュー。カードでのデータおよびアクションの表示方法。
- Actions (アクション)。カードに対して実行するアクション。たとえば、システムに対してユーザーを有効化できます。
- マップ。カードに表示される汎用フィールドにデータソースをマップするプロセス。カードビューからトリガーされるアクションを関連付けることもできます。

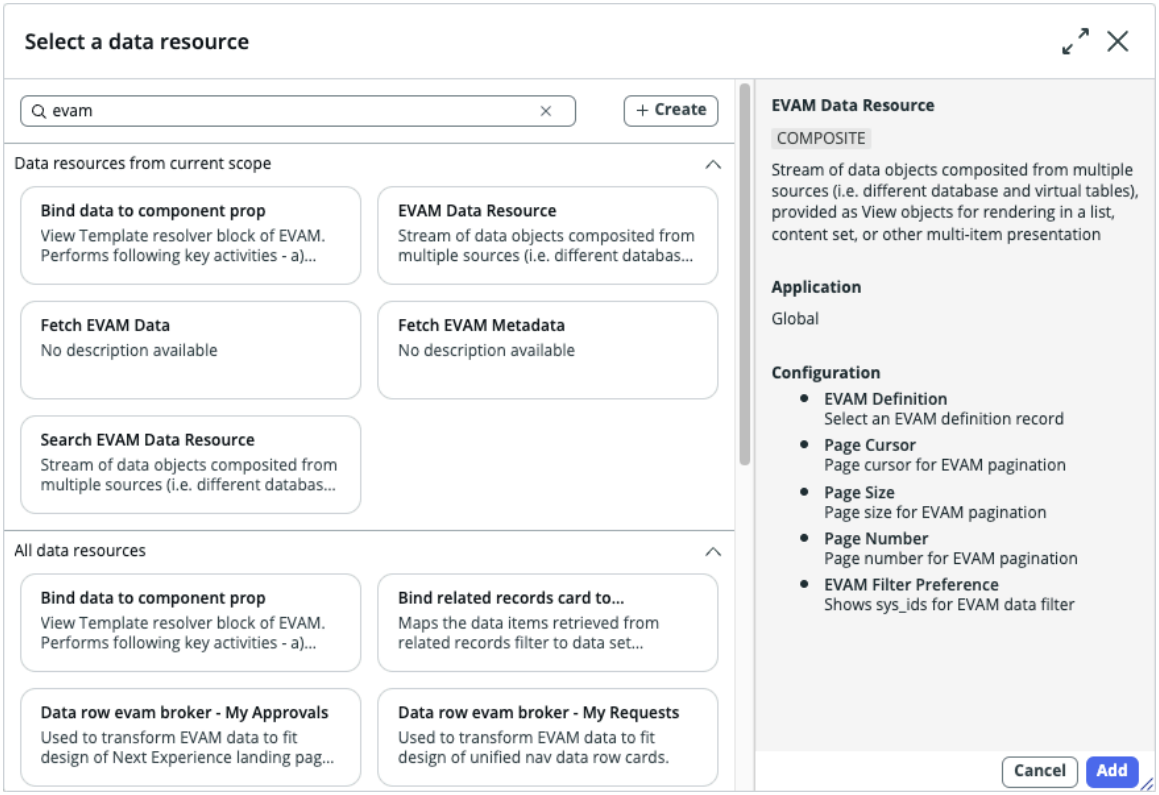
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## EVAM データソース

UI ビルダー に EVAM データソースを追加し、コンポーネントにバインドします。

### EVAM データリソース



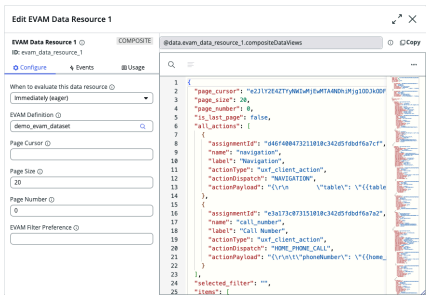

### EVAM データソース

| EVAM データソース | 説明 |
|---|---|
| EVAM データリソース | データソースに関する EVAM 定義とその他の情報を追加します。<br>• タイプ：複合。<br>• 評価するタイミング:[ このデータリソースを評価するタイミング] で、[ 即時] を選択してページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するか、[ 呼び出された場合のみ ] を選択してイベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価します。<br>• EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。<br>• ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。<br>• ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

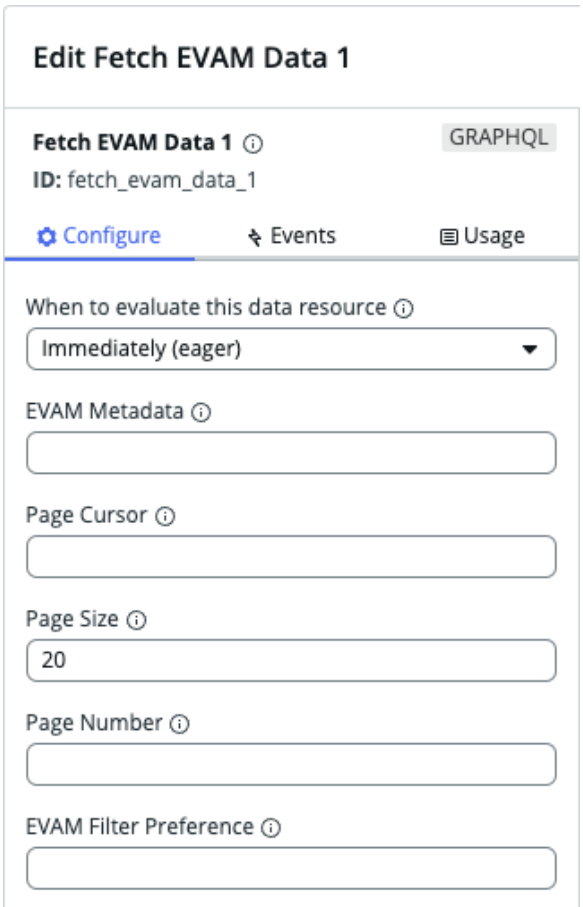
**EVAM** データソース (続く)

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | • ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。<br>• EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を入力します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの横にある **[Now** コードエディター ] セクションで、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。<br><br>**EVAM** データリソース構成<br>  |
| EVAM データをフェッチ | EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。<br>• タイプ：GRAPHQL<br>• 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>• EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを入力します。<br>• ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを入力します。<br>• ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを入力します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

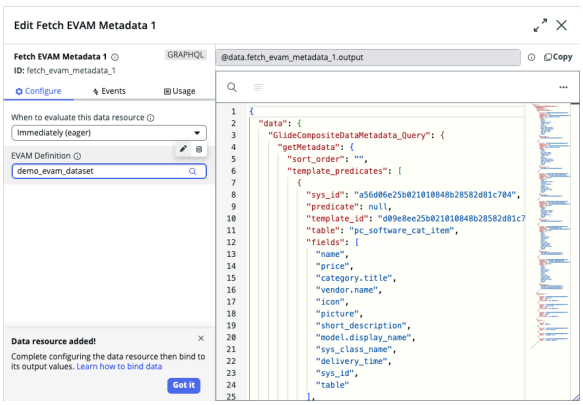
**EVAM** データソース (続く)

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | • ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を入力します。<br>• EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を入力します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。<br><br>  |
| EVAM メタデータをフェッチ | EVAM データリソースを評価して EVAM 定義を追加するタイミングを選択するには、[構成] を選択します。<br>• タイプ：GRAPHQL<br>• 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハン |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

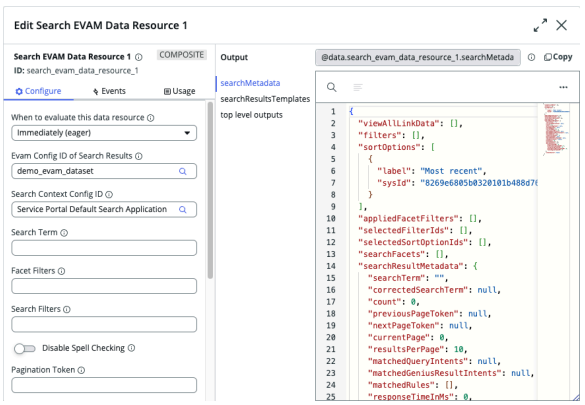
**EVAM** データソース (続く)

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | ドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>• EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを入力します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。<br><br>  |
| EVAM データリソースを検索 | EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。<br>• タイプ：複合。<br>• 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>• EVAM 構成 ID：**[EVAM** 構成 **ID (EVAM Config ID)]** フィールドに、データレコードに関連付けられている **EVAM** 構成 **ID** を追加します。<br>• 検索コンテキスト構成 ID:[ 検索コンテキスト構成 **ID** ] フィールドに、検索する 検索コンテキスト構成 **ID** を追加します。<br>• 検索用語：[検索用語] フィールドに、検索する検索用語を追加します。<br>• ファセットフィルター：[ファセットフィルター] フィールドに、検索の定義に役立つファセットフィルターを追加します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**EVAM** データソース (続く)

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | • 検索フィルター：[検索フィルター] フィールドに、検索の定義に役立つ検索フィルターを追加します。<br>• スペルチェックを無効にする：[スペルチェックを無効にする] フィールドで、検索時にスペルチェックをオンにするかオフにするかを選択します。<br>• ページネーショントークン：[ページネーショントークン] フィールドに、必要に応じてページネーショントークンを入力します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。<br><br>  |

## ページへの **Entity View Action Mapper** のデータリソースの追加

UI ビルダー で Entity View Action Mapper (EVAM) データリソースをページに追加して、コンポーネント内のデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化できます。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### 手順

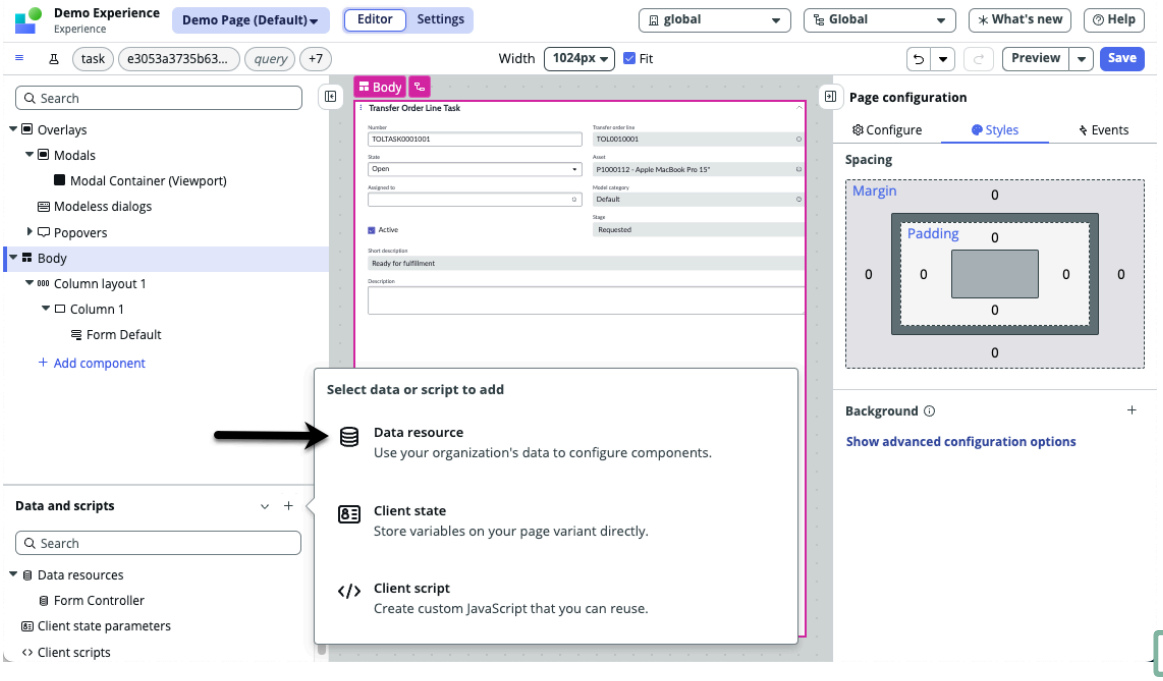
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

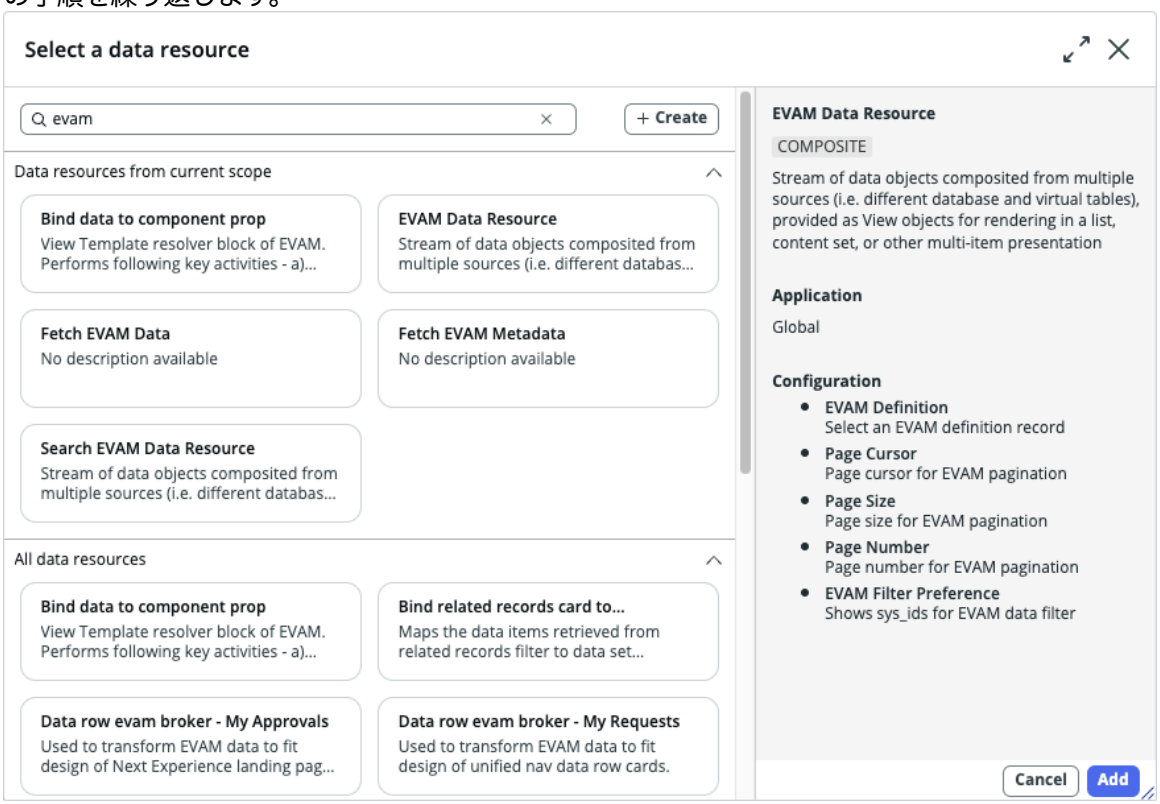


自動翻訳

4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページにデータセットコンポーネントを追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. [データとスクリプト] パネルで、[+] アイコンを選択し、[データ リソース] を選択します。




6. 検索フィールドに 「evam 」と入力します。
7. 追加する EVAM データリソースを選択し、ページのすべての EVAM データリソースに対してこの手順を繰り返します。

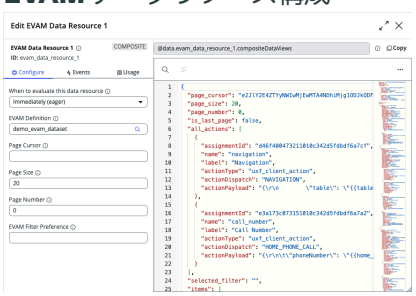



8. 各 EVAM データリソースを構成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**EVAM** データソース

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| EVAM データリソース | データソースに関する EVAM 定義とその他の情報を追加します。<br>○ タイプ：複合。<br>○ 評価するタイミング：[このデータリソースを評価するタイミング] リストで、[即時] を選択してページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するか、[呼び出された場合のみ] を選択してイベントハンドラーで EVAM データリソースを評価します。<br>○ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。<br>○ ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。<br>○ ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。<br>○ ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。<br>○ EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を追加します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの横にある **[Now** コードエディター ] セクションで、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。<br><br>**EVAM** データリソース構成<br>  |
| EVAM データをフェッチ | EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。 |

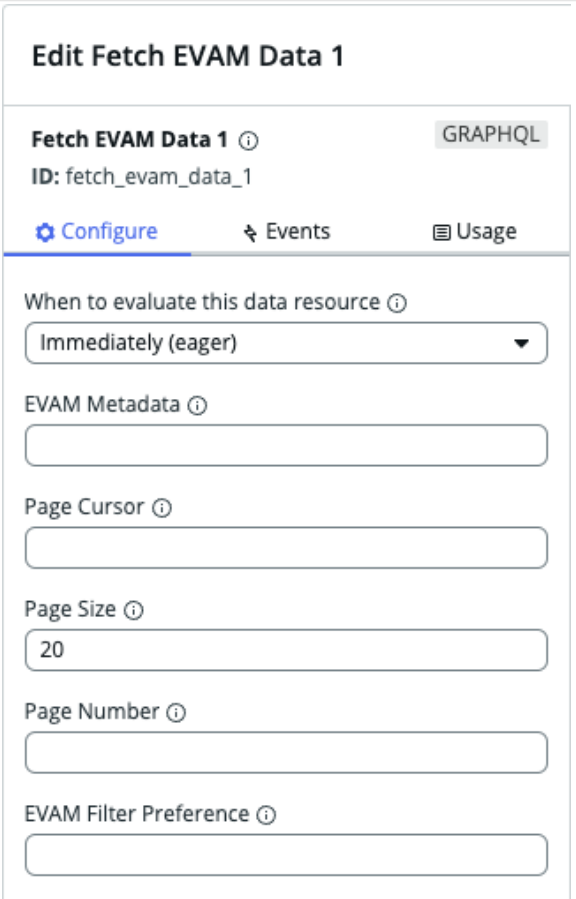
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| **EVAM** データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ タイプ：GRAPHQL<br>○ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>○ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。<br>○ ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。<br>○ ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。<br>○ ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。<br>○ EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を追加します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br><br>[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 |

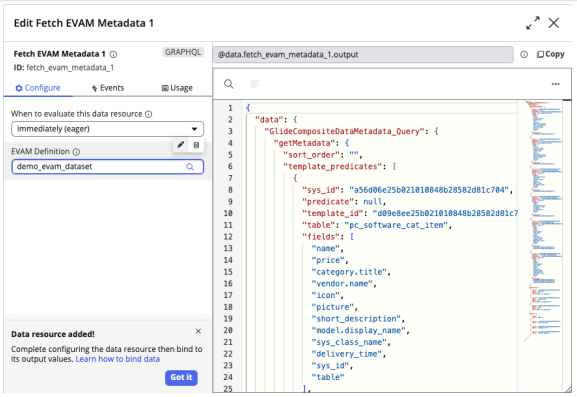
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| EVAM データソース | 説明 |
| --- | --- |
| |  |
| EVAM メタデータをフェッチ | EVAM データリソースを評価して EVAM 定義を追加するタイミングを選択するには、[構成] を選択します。<br>○ タイプ：GRAPHQL<br>○ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>○ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。<br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。<br>[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 |

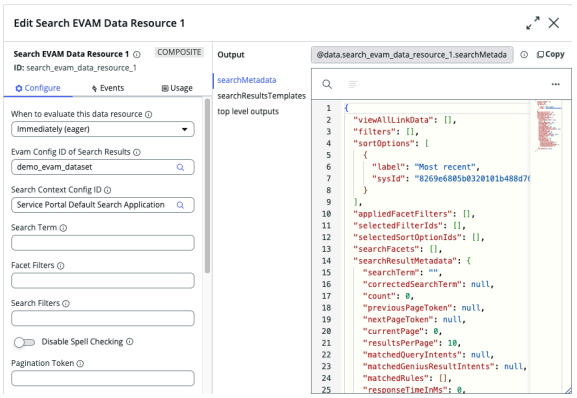
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| EVAM データソース | 説明 |
| --- | --- |
| |  |
| EVAM データリソースを検索 | EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。<br>○ タイプ：複合。<br>○ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。<br>○ EVAM 構成 ID：**[EVAM 構成 ID (EVAM Config ID)]** フィールドに、データレコードに関連付けられている **EVAM 構成 ID** を追加します。<br>○ 検索コンテキスト構成 ID：[検索コンテキスト構成 **ID]** フィールドに、検索する検索コンテキスト構成 ID を追加します。<br>○ 検索用語：[検索用語] フィールドに、検索する検索用語を追加します。<br>○ ファセットフィルター：[ファセットフィルター] フィールドに、検索の定義に役立つファセットフィルターを追加します。<br>○ 検索フィルター：[検索フィルター] フィールドに、検索の定義に役立つ検索フィルターを追加します。<br>○ スペルチェックを無効にする：[スペルチェックを無効にする] フィールドで、検索時にスペルチェックをオンにするかオフにするかを選択します。<br>○ ページネーショントークン：[ページネーショントークン] フィールドに、必要に応じてページネーショントークンを追加します。<br><br>データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 |

自動翻訳

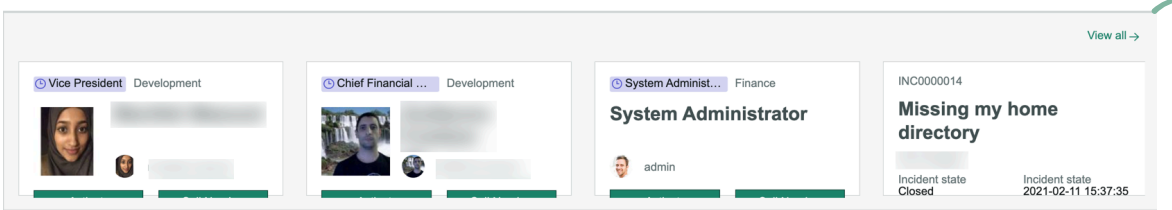
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| EVAM データソース | 説明 |
| --- | --- |
| | [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。  |



9. データセットコンポーネントを次のように構成します。
   - EVAM データリソースをコンポーネントにバインドします。
   - [グリッド/リストトグルを表示] をオンにすると、ページ上の EVAM 情報をグリッドビューで表示するかリストビューで表示するかを選択できます。
   - ページ上のカードのその他の構成設定を行います。
10. **[Save** (保存)] を選択します。
11. [ プレビュー ] ボタンを選択して、ページを表示してテストします。

### EVAM の完了ステータス




## UI ビルダー でのカスタムテーマの作成 (高度な機能)

デフォルトのコンポーネントスタイルを上書きできるように、カスタムテーマを作成します。テーマレコードで独自のスタイルプロパティを定義できます。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin または admin

### このタスクについて

テーマを使用すると、エクスペリエンスの視覚的なスタイルを変更し、ブランドのルックアンドフィールを表現できます。1 つのエクスペリエンス専用にカスタムテーマを作成する前に、アプリのテーマ作成計画を作成することを検討してください。詳細については、「UI Builder ページの表示スタイルの管理」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テーマを適用するには、次のいずれかの操作を行います。
   - エクスペリエンスへのテーマの適用 の手順に従ってください。
     a. 移動先 メニュー > エクスペリエンスの設定を編集 > ブランディングとテーマ.
     b. [テーマ] の [ブランディングとテーマ] の設定画面で、 [テーマを作成] を選択します。
   - 移動先 **Now Experience** フレームワーク > テーマ.

   テーマリストビューが表示されます。
2. テーマを作成するには、[ 新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | テーマを説明する名前。この名前は、[UI ビルダー エクスペリエンスの設定] メニューの選択可能なテーマのリストに表示されます。 |
| 説明 | テーマの詳細な説明。 |
| 拡張 | スタイリング構成から継承する別の テーマレコード。デフォルトの ServiceNow フォントとコンポーネントの間隔を継承するには、[リストから参照] アイコン ( ) を選択し、リストから [デフォルト] テーマを選択します。<br><br>メインのカスタムテーマからテーマを拡張する方法の詳細については、「テーマの拡張」を参照してください。 |
| アプリケーション | エクスペリエンスを含むアプリケーション。 |
| アクティブ | 選択したままにします。 |
| ドメイン | テーマに関連付けられているドメイン。 |
| 上書き | このフィールドは空のままにする必要があります。 |
| テーマ | テーマの Next Experience CSS カスタムプロパティと値を JSON オブジェクトとして書式設定して入力します。<br><br>このフィールドでテーマを構成する際には、次の質問を考慮してください。<br>○ 次のタイプの要素について、ユーザーに表示するブランド色はどれですか？<br>a. プライマリ、または最も重要なアクション。<br>b. セカンダリ、または補足アクション。<br>c. [store-future: BEGIN review]背景、分割線、境界線など、画面上の中立の要素。[End]<br>○ [store-future: BEGIN review]ユーザーに表示するブランドのフォントは何ですか？[End]<br><br>ブランド色を選択したら、テーマの次の Next Experience CSS カスタムプロパティに色値を RGB トリプレットとしてアサインすることができます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

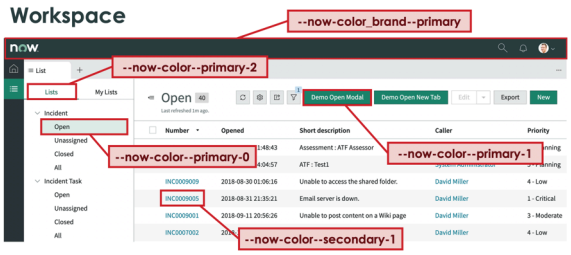
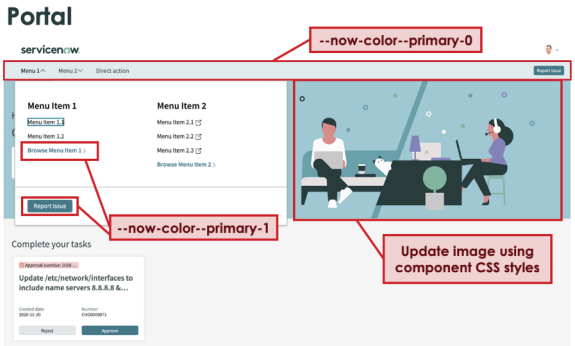
| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | テーマの **Next Experience CSS** カスタムプロパティ |

| **CSS** カスタムプロパティ | アサインする **RGB** 色値 |
| --- | --- |
| --now-color_brand--primary | プライマリブランド色。<br>**注:**<br>この色は明るい背景に頻繁に表示されるため、彩度の高いより暗い色が最適です。暗い背景は現在サポートされていません。 |
| --now-color--primary-1 | 前記と同じです。プライマリブランド色。<br>**注:**<br>この色は明るい背景に頻繁に表示されるため、彩度の高いより暗い色が最適です。暗い背景は現在サポートされていません。 |
| --now-color--primary-0 | プライマリブランド色のやや明るいバリエーション。 |
| --now-color--primary-2 | プライマリブランド色のやや暗いバリエーション。 |
| --now-color--primary-3 | プライマリブランド色の最も暗いバリエーション。 |
| --now-color_brand--secondary | セカンダリブランド色。 |
| --now-color--secondary-1 | 前記と同じです。セカンダリブランド色。 |
| --now-color--secondary-0 | セカンダリブランド色のやや明るいバリエーション。 |
| --now-color--secondary-2 | セカンダリブランド色のやや暗いバリエーション。 |
| --now-color--secondary-3 | セカンダリブランド色の最も暗いバリエーション。 |

次の画像は、ワークスペース およびポータルで Next Experience CSS カスタムプロパティが表示される場所を示しています。テーマで使用する CSS カスタムプロパティを決定するときは、これらの画像を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ワークスペース エクスペリエンスで **CSS** カスタムプロパティが表示される場所<br>  <br><br>ポータルエクスペリエンスで **CSS** カスタムプロパティが表示される場所<br>  <br><br>テーマ構成のスニペットの例を次に示します。<br>`{ "--now-color_brand--primary": "23,64,139", "--now-color--primary-1": "23,64,139", "--now-color--primary-0": "220,226,238", "--now-color--primary-2": "18,48,105", "--now-color--primary-3": "12,32,70", "--now-color_brand--secondary": "201,8,42", "--now-color--secondary-1": "201,8,42", "--now-color--secondary-0": "247,218,223", "--now-color--secondary-2": "151,6,32", "--now-color--secondary-3": "151,6,32" }`<br>**注:**<br>テーマ [sys_ux_theme] レコードでは 16 進数の色値はサポートされていません。すべての色値は RGB トリプレットである必要があります。 |

**4.** テーマの作成を終了するには、[送信] を選択します。

次のタスク
エクスペリエンスにテーマを適用して、カスタムスタイルがアプリ内のすべての視覚要素に適用されるようにします。詳細については、「エクスペリエンスへのテーマの適用」を参照してください。

### UI ビルダー のテーマの拡張

メインテーマのバリエーションを、別のテーマに拡張して作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin または admin

このタスクについて
テーマ [sys_ux_theme] レコードを別のテーマレコードに拡張すると、特定のエクスペリエンスのメインテーマのバリエーションを作成できます。テーマの拡張後に、拡張されたテーマのバリエーションでより具体的なスタイルを設定することで、メインテーマから継承されたスタイルを上書きできます。 たとえば、組織のメインのブランディングテーマを作成できます。そのテーマを ワークスペース に固有のカスタマイズされたスタイルを持つ ワークスペース テーマに拡張できます。

次の手順では、メインテーマを作成し、ワークスペース 向けにそのテーマを拡張してスタイル構成をカスタマイズする方法の例を示します。Next Experience CSS カスタムプロパティを使用してテーマを作成および拡張する方法の詳細については、「UI Builder ページの表示スタイルの管理」を参照してください。

手順

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - エクスペリエンスへのテーマの適用 の手順に従ってください。
     a. 移動先 メニュー > エクスペリエンスの設定を編集 > ブランディングとテーマ.
     b. [テーマ] の [ブランディングとテーマ] の設定画面で、 [テーマを作成] を選択します。
   - 移動先 **Now Experience** フレームワーク > テーマ.
     テーマリストビューが表示されます。
2. [新規] を選択します。
3. フォームで、次のフィールドを入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | テーマ拡張の名前 (「My Main Theme」など) を入力します。 |
| 説明 | テーマ拡張について説明します。 |
| 拡張 | リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [デフォルト] レコードを選択します。 |
| テーマ | 次のように入力します。<br>`{ "--now-color_brand--primary": "23,64,139", "--now-color--primary-1": "23,64,139", "--now-color--primary-0": "220,226,238", "--now-color--primary-2": "18,48,105", "--now-color--primary-3": "12,32,70", "--now-color_brand--secondary": "201,8,42", "--now-color--secondary-1": "201,8,42", "--now-color--secondary-0": "247,218,223", "--now-color--secondary-2": "151,6,32", "--now-color--secondary-3": "151,6,32" }`<br>**注:** テーマ [sys_ux_theme] レコードでは 16 進数の色値はサポートされていません。すべての色値は RGB トリプレットである必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アクティブ | このテーマ拡張を有効にする場合に選択します。 |
| 上書き | このフィールドは空のままにします。 |

4. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択し、メインテーマの作成を終了します。
テーマリストビューが再度表示されます。
5. コンテキスト ヘッダーで、 新規 を選択して別のテーマ レコードを作成します。
6. フォームで次のフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 「My Workspace Theme」と入力します。 |
| 説明 | テーマ拡張について説明します。 |
| 拡張 | リストから参照アイコン (リスト 参照アイコン) を選択し、リストから [自分のメインテーマ] レコードを選択します。 |
| テーマ | 次のコードを入力します。<br>{<br>"--now-actionable--text-transform": "uppercase",<br>"--now-actionable--border-radius": "30px",<br>"--now-actionable--border-width": "5px",<br>"--now-window--border-radius": "30px",<br>"--now-window--border-width": "5px"<br>}<br>**注:**<br>テーマ [sys_ux_theme] レコードでは 16 進数の色値はサポートされていません。すべての色値は RGB トリプレットである必要があります。 |
| アクティブ | このテーマ拡張を有効にする場合に選択します。 |
| 上書き | このフィールドは空のままにします。 |

7. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択し、ワークスペース テーマの作成を終了します。
メインテーマが ワークスペース テーマに拡張されました。継承されたスタイルが、ワークスペース テーマのより具体的なスタイルによって上書きされない限り、メインテーマのスタイルセットは ワークスペース テーマによって継承されます。

次のタスク
メインテーマと拡張テーマのバリエーションを作成したので、エクスペリエンスにテーマを適用してみます。

**UI Builder** ページでのアクションの管理 (高度な機能)

UI ビルダー のコンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにアクションを追加できるように、イベントを操作する方法について学習します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## のアクション UI ビルダー

UI アクションは、イベントがトリガーされたときに実行される処理を指定します UI ビルダー 。イベントは、ユーザーが実行するアクション、またはページで発生する発生です。UI アクションを使用して、ユーザーがタスクを完了するのに役立つ、インタラクティブで分かりやすいインターフェイスを作成します。各コンポーネントには、独自のイベントが関連付けられています。イベントには次のものが含まれます。

- ユーザーがデータの表示方法をクリックします
- ページがデータを正常にフェッチしました
- ユーザーがラジオボタンを選択する
- ページのロード

## イベント

イベントを使用して、コンポーネント、ページ、およびデータリソースにアクションを追加します。

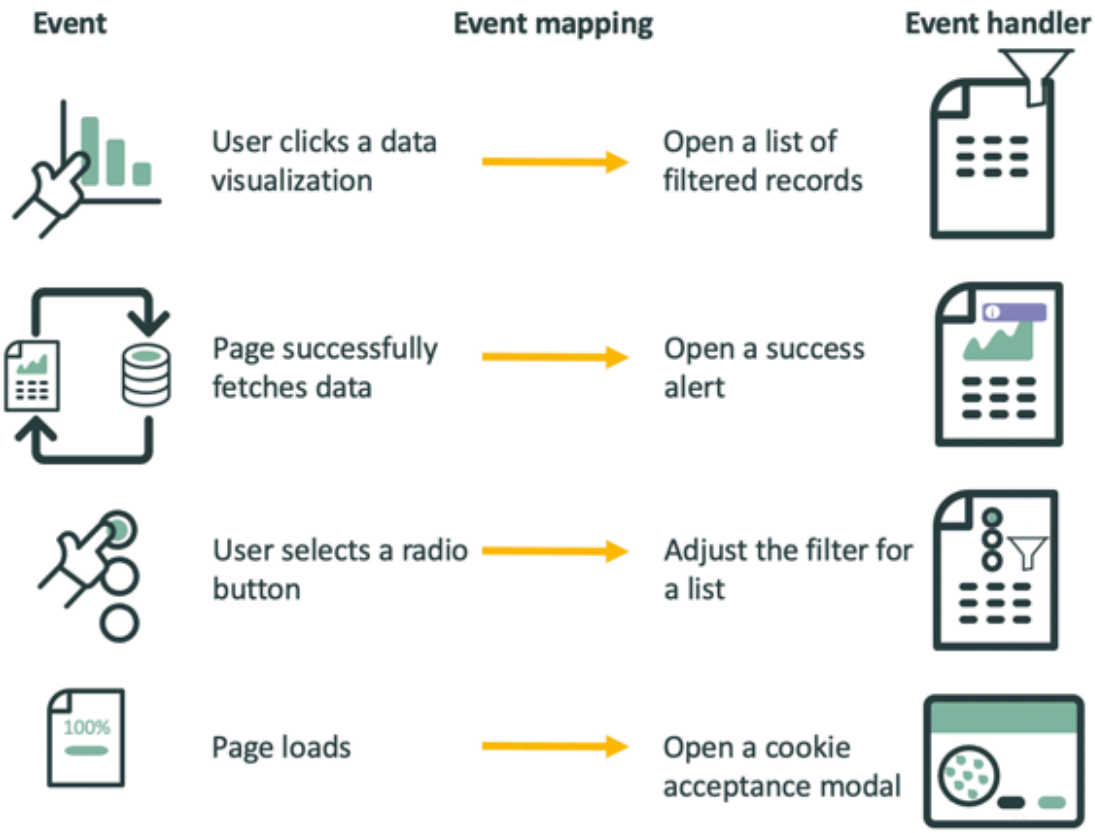
- コンポーネントイベントは、コンポーネントに対してセットアップするアクションです。そのコンポーネントアクションを構成するイベントハンドラーを設定します。たとえば、ボタンコンポーネントを UI ビルダー ページに追加できます。次に、Web ページへの移動など、そのボタンのアクションを適用するイベントハンドラーを追加できます。
- ページイベントは、ページ全体に対してアクションを実行します。次のページイベントを構成できます。
  - ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
  - バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。
- 処理済みイベント。処理済みイベントとは、他のユーザーが公開して使用できるイベントのことです。処理済みイベントを作成すると、*Page event mappings* で他のユーザーも使用できるようになります。手動で作成するペイロードフィールドを設定したり、モーダルダイアログのオープンやクローズなどの、処理済みイベントのテンプレートを選択したりすることもできます。

- データリソースイベントは、データリソースをマッピングして、データがフェッチされるタイミングについての情報を通知します。
- ページまたはコンポーネントのイベントは、イベントが 1 つ以上のイベントハンドラーにマップされるまで何も実行しません。




## イベントマッピング

アクションをボタンのクリックやフィールドの入力などのイベントにマッピングします。イベントマッピングとは、イベントのペイロードまたはコンテキスト値を、そのイベントを操作するオブジェクトまたはハンドラーにマッピングするプロセスのことです。

イベントマッピングの詳細については、「マップイベントの定義」を参照してください。

## イベントハンドラー

イベントハンドラーは、イベントが発生したときに実行されるアクションです。イベントハンドラーをイベントにマッピングすることで、イベントが発生したときに実行するアクションを指定します。イベントハンドラーを使用して、UI ビルダー ページまたはページ上のコンポーネントのアクションを構成します。例：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- データの可視化をクリックすると、その可視化で表されるレコードのリストが開きます
- リストのデータを正常にフェッチすると、データフェッチが成功したことを示すアラートが開きます
- ラジオボタンを選択すると、ページ上のリストのフィルターが調整されます
- ページをロードすると、続行する前に Cookie の受け入れを確認するモーダルが開きます

UI ビルダー ページまたはコンポーネントにイベントハンドラーを追加する際に、さまざまなタイプのイベントハンドラーを選択できます。たとえば、ボタンコンポーネントには次のタイプのイベントハンドラーを含めることができます。

- 継承されたイベントハンドラー。継承されたイベントハンドラーは、作業しているページから公開されます。親 UI ビルダー ページにいる場合は、継承されたイベントハンドラーをアプリシェルから公開することができます。次の表に、使用できるさまざまなタイプの継承されたイベントハンドラーと、それらを使用してできることを一覧表示します。

継承されたイベントハンドラー

| イベントハンドラー | 説明 |
|---|---|
| ブレッドクラム URL が変更されました | |
| 宛先にリンク | 宛先に移動します。<br>○ アプリルート：ホーム画面など、アプリ内の別のページへのリンク。<br>○ 外部 URL：Web サイトまたは任意の外部 URL へのリンク。<br>サンプルスクリプト<br>`return { route: null, /* Page route, e.g. 'record' */ fields: null, /* Required params, e.g. {"table":"incident","sysId":"X"} */ params: null, /* Optional params, e.g. {"selectedIndex" : 1} */ ☒☒redirect: null, /* ??? True/false? */ ☒☒passiveNavigation: null, /* Load in background, e.g. 'false' */ title: null, multiInstField: null, ☒☒targetRoute: null, /* ??? */ ☒☒external: null /* ??? True/false? */ };` |
| URL にパラメーターを追加 | パラメーターを URL にさらに追加します。<br>サンプルスクリプト<br>`{ “selectedTabIndex” : 0 }` |
| モーダルダイアログを開くまたは閉じる | モーダルを作成したら、*`Open or close modal dialog`* を使用してモーダルをトリガーします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ページレベルのイベントハンドラー。このタイプのイベントハンドラーはすべてのページに共通であり、このハンドラータイプは、ページレベルのアラート通知を追加またはクリアする場合に使用します。次の表に、使用できるさまざまなタイプのページレベルのイベントハンドラーと、それらを使用してできることを一覧表示します。

ページレベルのイベントハンドラー

| イベントハンドラー | 説明 |
| --- | --- |
| アラート通知を追加 | アラート通知を送信するコードスニペットを追加します。例：<br>`return { items: [{"type" : "info", "message" : "Info message", "id" : "optionalID"}] /* Types: info, warning, error */ };` |
| アラート通知の削除 | 破棄するアラート通知の ID を呼び出すコードを追加します。たとえば、ボタンをクリックしてページロードアラート通知を削除します。 |
| アラート通知のクリア | 破棄するすべてのアラート通知の ID を呼び出すコードを追加します。たとえば、ボタンをクリックしてすべてのアラート通知を削除します。 |
| ロード中ステータスを設定 | ロードのオン/オフを切り替えます。たとえば、ロードのオン/オフを切り替えて、ボタンをクリックしたときにページをロードする/しないようにできます。 |
| クライアントステータスパラメーターを更新 | クライアントステータスパラメーターを宣言的に設定します。値を指定して設定したクライアントステータスパラメーターがあるとします。クライアントステータスパラメーターを新しい値で更新するようにイベントハンドラーを構成できます *`Update client state parameter`* 。たとえば、「**Greeting**」と呼ばれるクライアントステータスパラメーターがあり、初期値として「Hello」が設定されているとします。イベントハンドラーを追加し *`Update client state parameter`* 、[ 挨拶] クライアントステータスパラメーターを選択して、「 さようなら」などの新しい値を入力できます。ボタンをクリックすると、ページ上の「**Hello**」が「**Goodbye**」に置き換えられます。 |
| UXF Macroponent ビューポートのロードが要求されました | |

- データリソースハンドラー。このタイプのイベントハンドラーは、サーバーへのデータのフェッチまたは書き込みをトリガーします。

  ボタンをクリックして、UI ビルダー ページ上のアプリシェルデータソースデータを更新できます。たとえば、データリソースハンドラーを使用して、次のアクションを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- インシデントレコードの説明にデータをバインドします。
- インシデントの説明の値を変更します。
- ボタンコンポーネントをページに追加します。
- ボタンに「`インシデントをリフレッシュ`」というラベルを付けます。
- ボタンの *`Look Up Record`* イベントハンドラーを追加します。
- ページを保存します。
- インシデントレコードの説明が変更された場合は、[リフレッシュ] をクリックしてページの説明を更新します。

- クライアントスクリプト。コンポーネントでイベントがトリガーされたときに実行されるスクリプト。これらのスクリプトは、UI ビルダー の [クライアントスクリプト] セクションで作成します。詳細については、「クライアントスクリプトを定義してコンポーネントにバインドする」を参照してください。

### コンポーネントへのイベントのバインディング

イベントハンドラーをコンポーネントのイベントにバインドします。コンポーネントを UI ビルダー ページに追加したときには、コンポーネントがページでアクションを実行するようには構成されません。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの削除など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。一部のコンポーネントには、イベントハンドラーをアサインできる複数のイベントがあります。たとえば、リストコンポーネントでは、ナビゲーションハンドラーを *`Row clicked`* イベントに割り当てることができます。*`Data fetch failed`* イベントにオープンモーダルをアサインすることもできます。詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。

### **UI Builder** ページへのイベントのバインド

ページレベルのイベントをバインドして、ページでイベントハンドラーを実行します。たとえばページレベルのイベントは、ページ通知、ページロード、またはページのプロパティの変更時に使用します。ページレベルのイベントへのイベントハンドラーのアサインは、コンポーネントからのイベントへのハンドラーのアサインに似ています。

イベントマッピングは、次の方法でバインドできます。

- ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。
- 処理済みイベント。他のユーザーが公開して使用できるイベントである処理済みイベントを追加します。

詳細については、「ページへのイベントのバインド」を参照してください。

### データリソースへのイベントのバインディング

UI ビルダー ページ上の個々のデータリソースにイベントハンドラーをバインドします。たとえば、データリソースが新しいデータを正常にフェッチすると、ナビゲーションなどのイベントハンドラーが実行され、ユーザーはフロー内の次のステップに移動します。データリソースがテーブルにレコードを正常に追加すると、モーダル表示イベントハンドラーを使用する成功モーダルが表示されます。詳細については、「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。

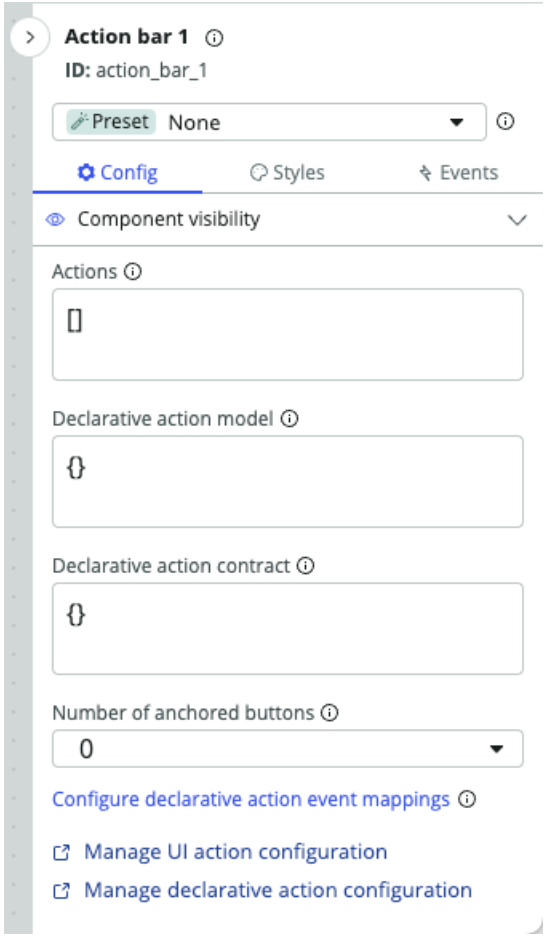
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 宣言アクションへのイベントのバインディング

データ要素をバインドして、イベントアクションを Now Platform® の [アクション & コンポーネント] の宣言アクション定義に追加します。たとえば、データ要素をバインドして、テーブルでの作業を実行するイベントアクションを追加できます。

宣言アクションがある UI ビルダー ページにコンポーネントを追加する場合は、それを処理済みイベントにバインドする必要があります。処理済みイベントは、ユーザーがコンポーネントを選択したときに実行されるアクションを作成します。[宣言アクションイベントマッピングの設定] を選択し、新しいイベントハンドラーを追加して、ページでの宣言アクションの動作を定義します。




詳細については、「宣言アクションへのイベントのバインド」を参照してください。

### マップイベントの定義

UI ビルダー のイベントマッピングとは、イベントのペイロードまたはコンテキスト値を、そのイベントを操作するオブジェクトまたはハンドラーにマッピングするプロセスのことです。4 つのイベントタイプは、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションです。

イベントマッピングは UI ビルダー の重要なプロセスです。コンポーネントを使用してページを構築する場合は、ユーザー向けのアクションを実行するためのコンポーネントが必要です。たとえば、ボタンコンポーネントをページに追加する場合は、ボタンクリックイベントをイベントハンドラーにマッピングする必要があります。このイベントハンドラーは、ユーザーが選択したときにボタンクリックアクションを実行します。たとえば、フォームなどのデータリソースを追加した際に、フォームが正常にロードされたときにイベントハンドラーでユーザーに通知するなどです。

## イベントタイプ

利用可能なイベントタイプは、コンポーネントに基づいています。たとえば、宣言アクションイベントは、アクションバーやリストコンポーネントなどの特定のコンポーネントで使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページで実行するアクションに基づいて、イベントのタイプを選択します。たとえば、Web ページをロードするボタンなど、アクションをコンポーネントにバインドする場合は、コンポーネントイベントを使用します。ページにアラート通知を追加するなど、ページ全体にイベントを適用する場合は、ページイベントを使用します。次の表では、UI ビルダー で利用可能な各イベントタイプについて説明し、イベントの使用方法の例を示します。

イベントタイプと説明

| イベントタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| コンポーネントイベント | コンポーネントをセットアップするアクション。そのコンポーネントアクションを構成するイベントハンドラーを設定します。たとえば、Web ページへの移動など、ボタンのアクションを適用するイベントハンドラーを追加します。コンポーネントへのイベントのバインドの詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。 |
| ページイベント | ページ全体に対してアクションを実行するページイベント。次のページイベントを構成できます。<br>• ページイベントマッピング。<br>◦ これらのイベントマッピングは、[sys_ux_macroponent] テーブルにあるページ定義レコードに保存されます。<br>◦ これらのイベントマッピングのソースイベントは、ページ準備完了とページプロパティです。これらはページに対して定義されます。<br>◦ これらのイベントマッピングに使用できるハンドラーは次のとおりです。<br>▪ ユーザーセッションイベント<br>▪ ページレベルイベント<br>▪ UXR アプリシェルデータソース<br>▪ ページで定義されているクライアントスクリプト<br>▪ ローカルおよび継承されたデータリソースからの操作<br>• バリアントイベントマッピング。<br>◦ これらのイベントマッピングは、[sys_ux_screen] テーブルにあるバリアントレコードに保存されます。<br>◦ これらのイベントマッピングのソースイベントは、ページに対して定義されたディスパッチイベントです。<br>◦ これらのイベントマッピングに使用できるハンドラーは、キャンバスレベルのイベント、UXR アプリシェルデータソース、および継承されたデータリソースからの操作です。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

| イベントタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ バリアントイベントマッピングは、ページ上のコンポーネントからディスパッチされるイベントをユーザーセッションイベントハンドラーにリレーできるように、リレーとして使用されます。<br>○ コンポーネントのディスパッチされたイベントをユーザーセッションハンドラーにマッピングすると、ページの保存時にマッピングが自動的に作成されます。たとえば、[クリックしたボタン] イベントをキャンバスレベルの [宛先にリンク] イベントにマッピングすると、そのイベントによって、ページの保存時に、ディスパッチされたリレーイベントとバリアントイベントのマッピングが作成されます。<br>• ディスパッチされるイベント。<br>○ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブルに保存されます。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。<br>○ これらのイベントは、バリアントイベントマッピングのソースイベントとして機能します。<br>○ **[+** 追加] を選択して、ページの新しいディスパッチイベントを作成できます。新しい sys_ux_event のイベント名とペイロードフィールドを自動入力するようにイベントラベルを構成します。<br>○ これらのイベントは、リレーイベントマッピングを作成するために使用されます。[ターゲットの親イベントハンドラー] を選択して、選択したイベント後のペイロードフィールドをモデル化します。ディスパッチされたイベントのペイロードフィールドを手動で作成することもできます。<br>• 処理済みイベント。<br>○ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブルに保存されます。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

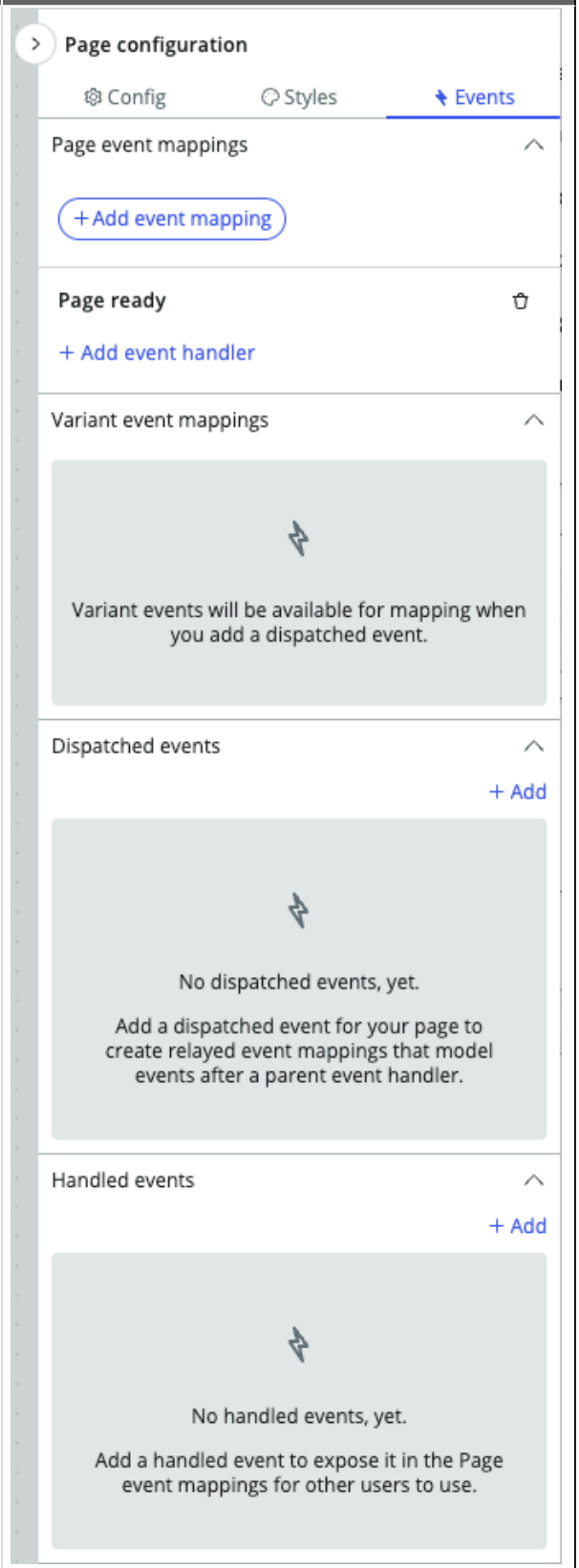
イベントタイプと説明 (続く)

| イベントタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ これらのイベントは、ページイベントマッピングのソースイベントとして機能します。<br><br>○ **[+** 追加] を選択して、ページの新しいディスパッチイベントを作成できます。処理されるイベントが、親イベントハンドラーを基にモデル化されることはありません。処理済みイベントのペイロードフィールドは手動で作成されます。既存のハンドラーのペイロードフィールドをテンプレートとして使用するには、テンプレートを選択し、必要に応じてフィールドを編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

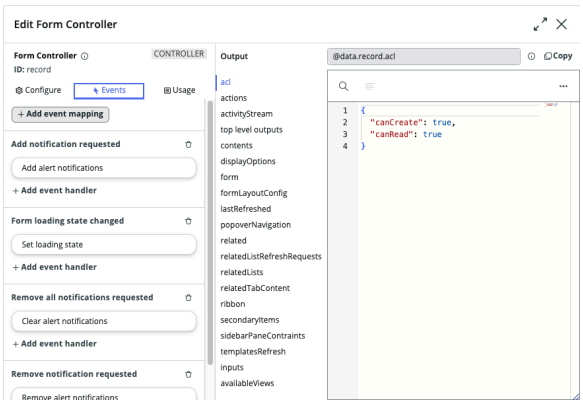
イベントタイプと説明 (続く)

| イベントタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| |  <br>ページへのイベントのバインディングの詳細については、「ページへのイベントのバインド」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

| イベントタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| データリソースイベント | データがフェッチされたときに通知を出すデータリソースにマッピングされるイベント。<br>• データフェッチが開始されました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーがデータフェッチプロセスを実行します。<br>• データのフェッチに成功しました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーはデータフェッチが正常に完了した場合のユーザーへの通知プロセスを実行します。<br>• データのフェッチに失敗しました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーはデータフェッチが失敗した場合のユーザーへの通知プロセスを実行します。<br>  <br>データリソースへのイベントのバインディングの詳細については、「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。 |
| 宣言アクションイベント | データ要素を UI ビルダー 内でバインドして、イベントアクションを宣言アクションに追加します。<br>Now Platform® 宣言アクションアサインテーブルで、宣言アクションイベントマッピングを構成します。例については、次に移動します。 フィルターナビゲーター > **sys_declarative_action_assignment.**リスト 次に、既存の宣言アクションを検索して開きます。<br>UI ビルダー で、イベントを宣言アクションにバインドします。宣言アクションイベントの使用方法の詳細については、「宣言アクションへのイベントのバインド」を参照してください。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントハンドラーの構成

UI ビルダー 内のページ、コンポーネント、データリソース、または宣言アクションにイベントハンドラーを追加して、ユーザーがアクションをトリガーできるようにします。

## 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

## このタスクについて

イベントハンドラーを使用すると、ページ上にアクション、コンポーネント、データリソース、または宣言アクションを構成できます。たとえば、イベントをページにマップして、ページが正常にロードされたときにアラート通知を追加したり、ボタンコンポーネントのイベントハンドラーを追加して、ユーザーがクリックしたときにアクションを実行したりできます。イベントハンドラーは、レコードを削除してよいかをユーザーに確認する、ページ上のモーダルにもなります。詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

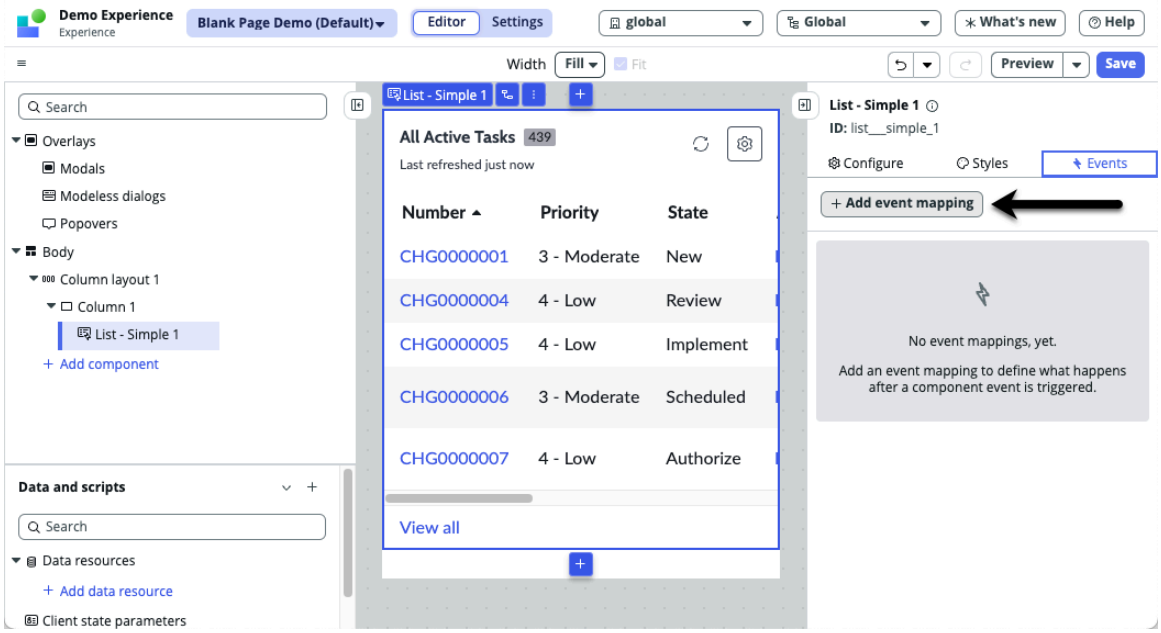
## 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ボタンなどのコンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントのページへの追加に関する詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントのイベントにイベントハンドラーを追加するには、構成パネルに移動して [ イベント] を選択します。
   イベントハンドラーを使用すると、イベントをコンポーネントに割り当てることができます。たとえば、ページにボタンコンポーネントを追加する場合、そのクリック時にアクションが実行されるようにする必要があります。
6. イベントをコンポーネントに割り当てるプロセスを開始するには、 [ **+** イベント マッピングの追加] を選択します。

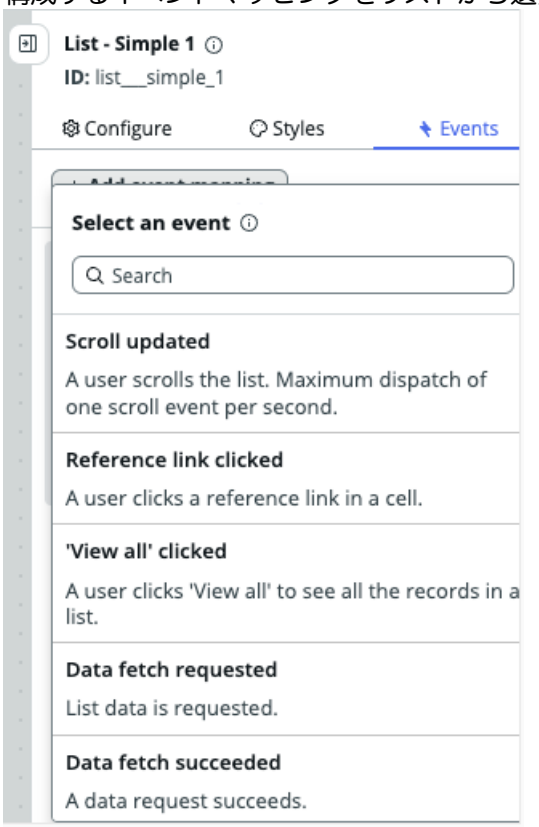
   ボタンコンポーネントなどの一部のコンポーネントには、イベントマッピングが 1 つしかありません。他のコンポーネントは多くのイベントを持つことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



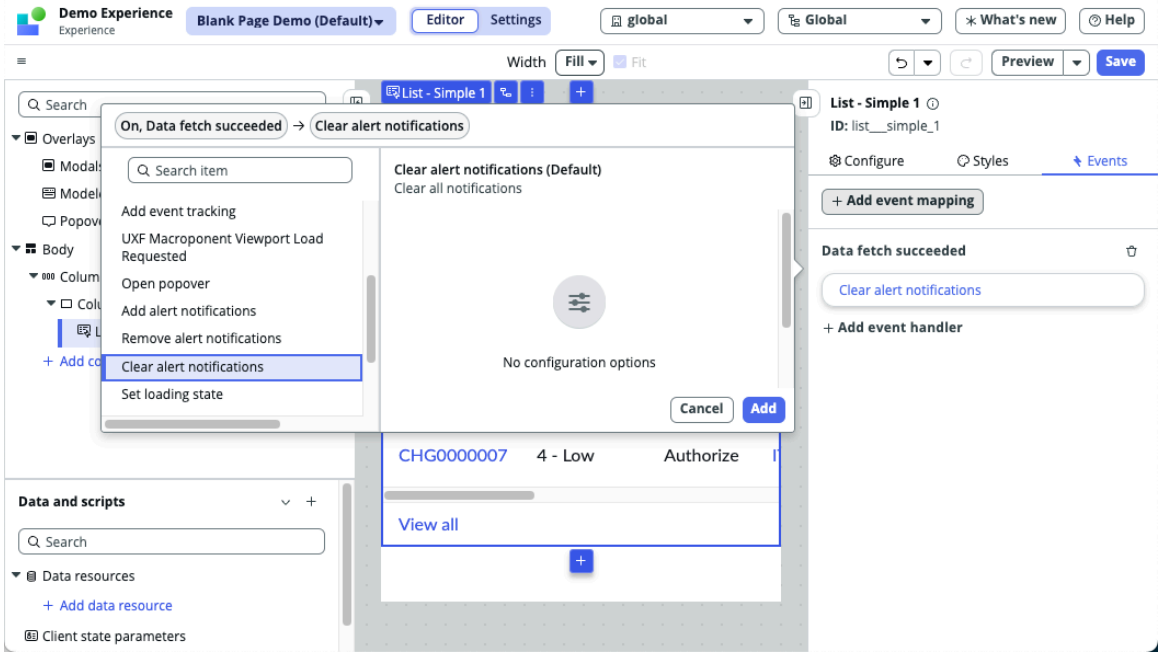

**7.** 構成するイベントマッピングをリストから選択します。




**8.** [イベントハンドラープレビュー] 画面から、コンポーネントにアサインするアクションを選択します。

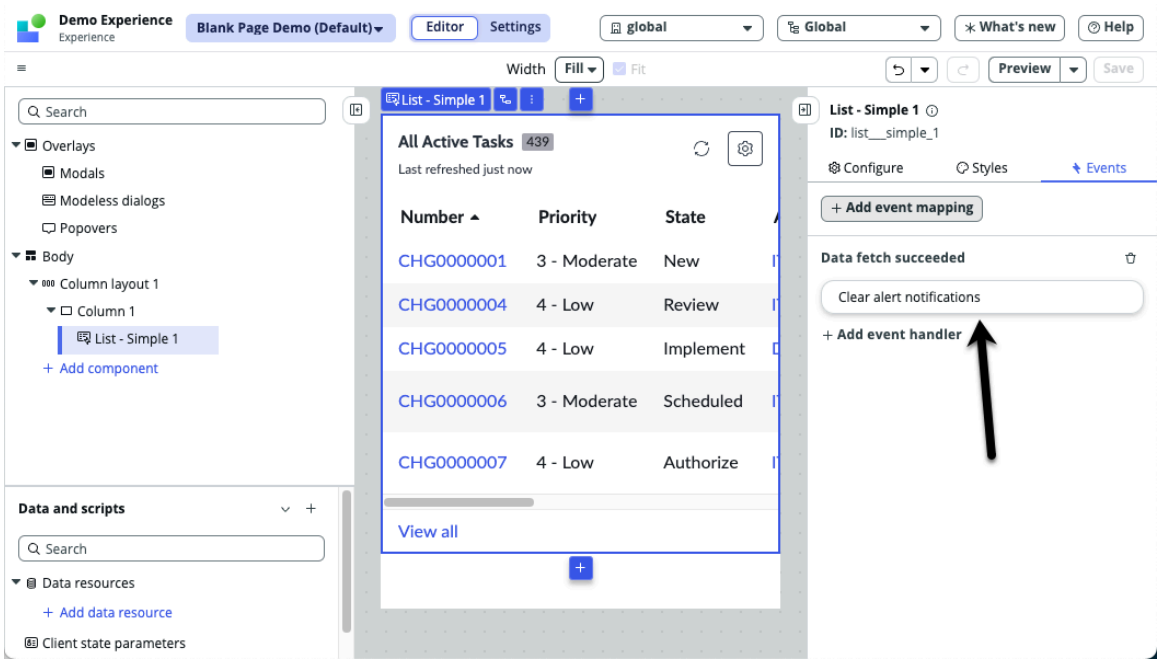
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




9. [追加] を選択します。
10. **[Save** (保存)] を選択します。

タスクの結果
構成されたイベントハンドラーは、構成パネルの [イベント] タブに表示されます。




## イベントをバインドしてアクションを追加

イベントを作成したら、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにイベントをバインドできます。

### コンポーネントへのイベントのバインド

UI ビルダー 内のデータ要素をバインドして、イベントアクションをコンポーネントに追加できるようにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
各コンポーネントには、バインド先となる特定のイベントがあります。たとえば、ボタンコンポーネントにはボタンクリックイベントしかありませんが、複数のイベントを関連付けることができるコンポーネントもあります。

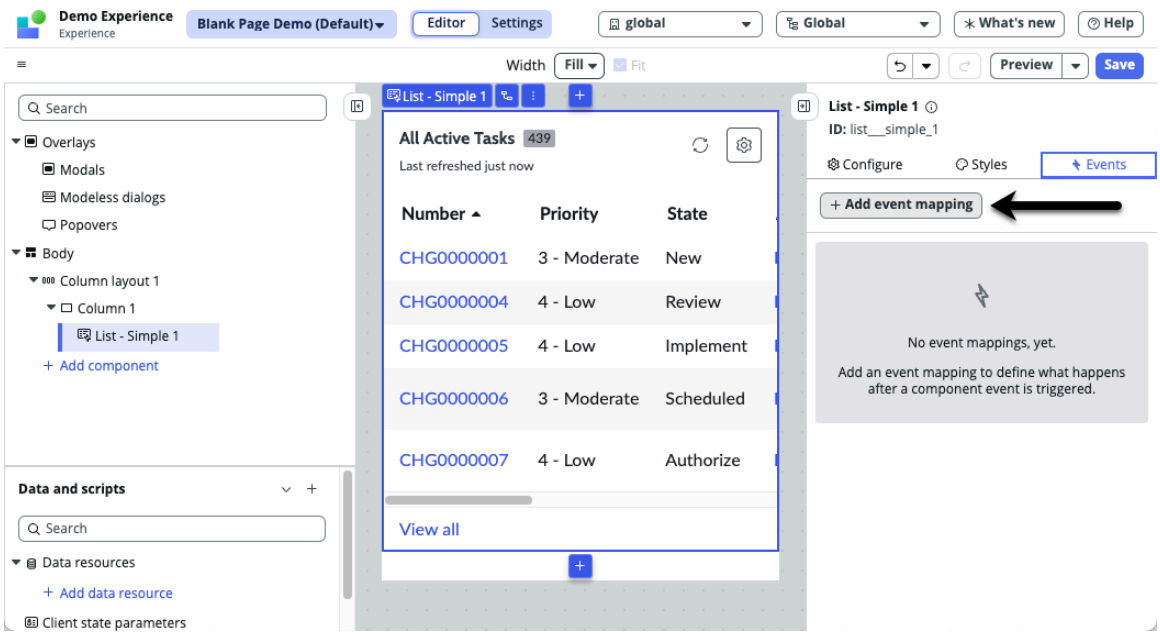
一部のコンポーネントには、適用されるイベントアクションがありません。見出しコンポーネントはその一例です。多くのコンポーネントでは、データをロードするなどのアクションを実行させるために、イベントをコンポーネントにマッピングする必要があります。

ページのコンポーネント、ページ、およびデータリソースにアクションを追加するために、イベントハンドラーを追加できます。ページに追加するボタンコンポーネントは静的です。イベントアクションをボタンにバインドすると、ボタンを Web ページにリンクできます。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. ボタンなどのコンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントのページへの追加に関する詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントにイベントハンドラーを追加するには、[イベント] タブを選択します。
   コンポーネントにイベントハンドラーを追加する方法の詳細については、「UI Builder ページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

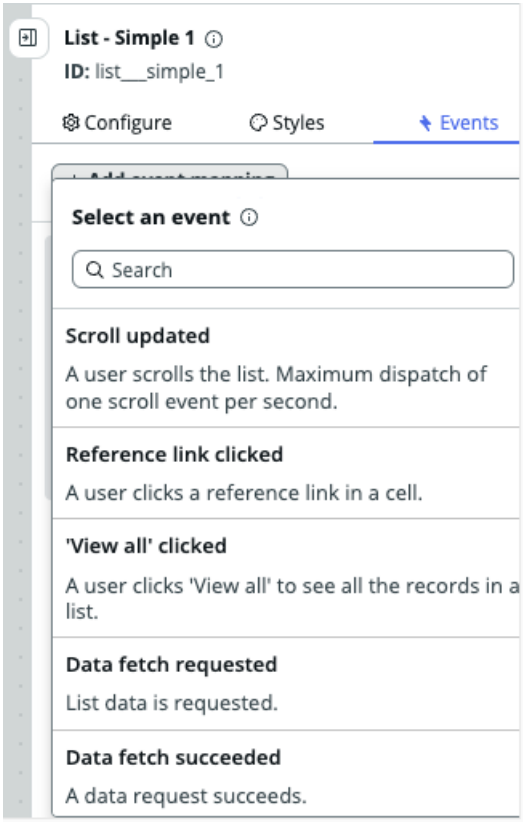
   a. イベントハンドラーをコンポーネントに設定するプロセスを開始するには、**[+** イベントマッピングを追加] をクリックします。



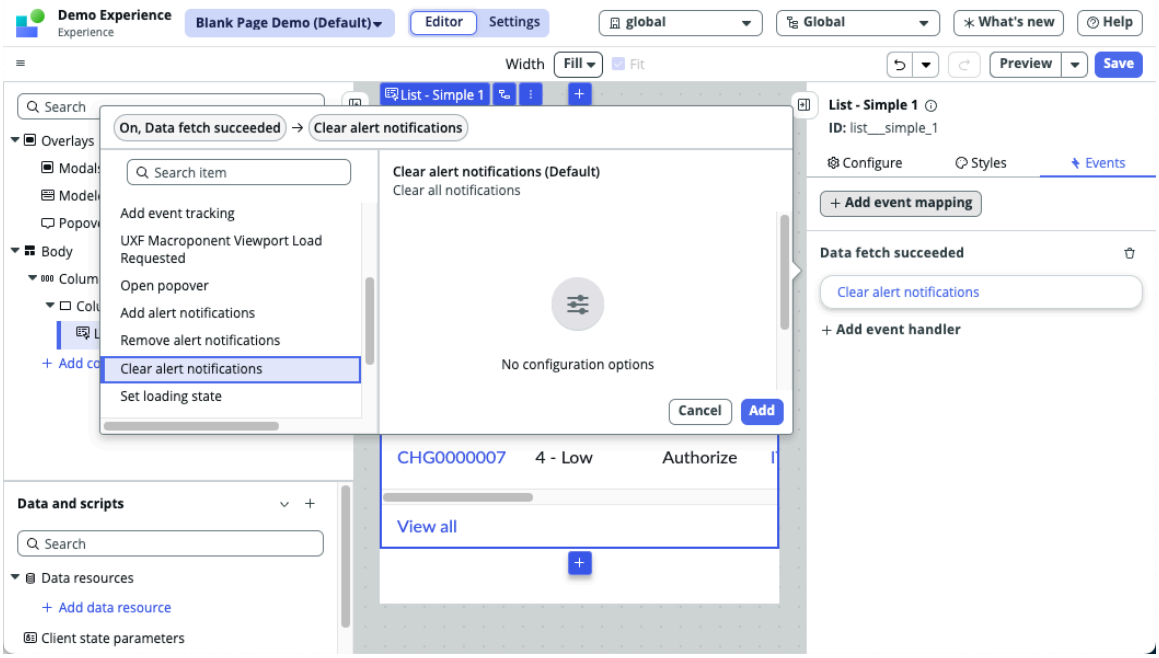

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**b.** 構成するイベントマッピングをリストから選択します。




**c.** [イベントハンドラープレビュー] セクションで、コンポーネントにバインドするイベントハンドラーを選択します。



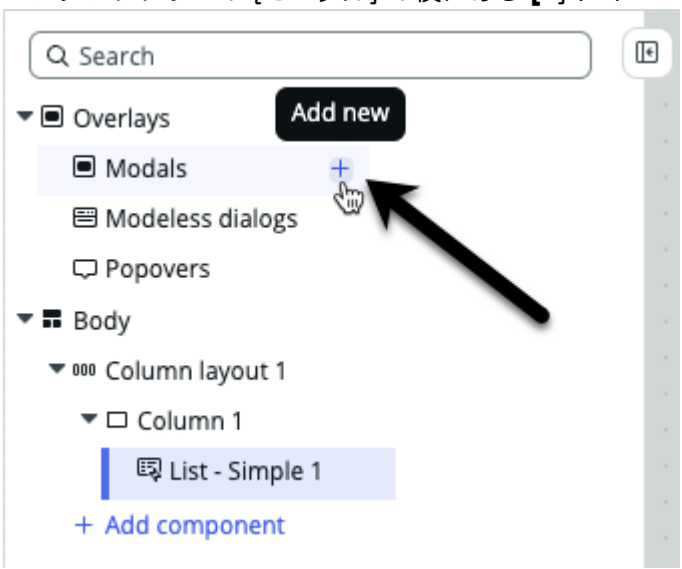

**d.** イベントハンドラーを構成し、完了したら [追加] をクリックします。
各イベントハンドラーは、イベントのアクションに応じて異なる方法で構成します。たとえば、ボタンコンポーネントにイベントハンドラーを追加する場合は、そのボタンアクションが実行する内容を選択できます。

自動翻訳

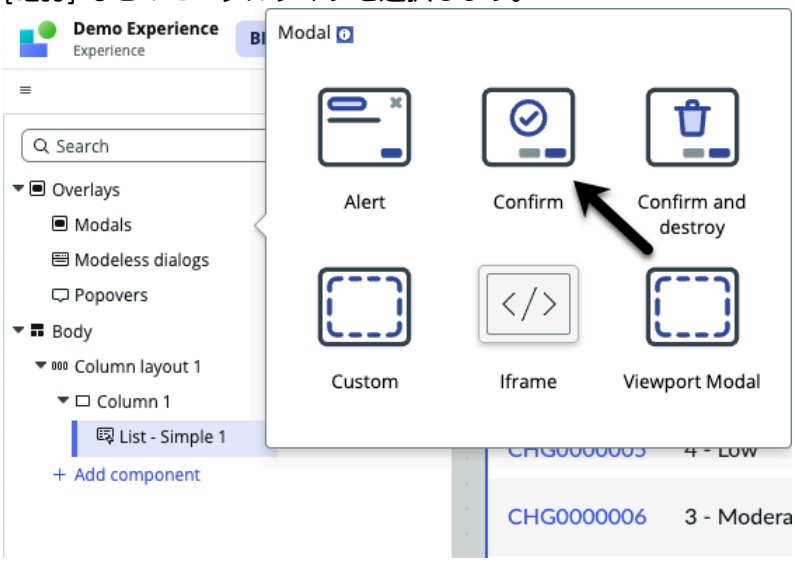
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. オプション: イベントのモーダルをポップアップ表示する場合は、イベントをコンポーネントにバインドする前にモーダルをページに追加します。
   モーダルは、コンポーネントをクリックすると表示される確認ポップアップです。たとえば、レコードを削除するボタンコンポーネントを追加する場合は、レコードを削除してよいかユーザーに確認を求めるモーダルを追加します。詳細については、「コンポーネントへのモーダルの追加」を参照してください。

   a. コンテンツツリーの [モーダル] の横にある **[+]** アイコンを選択します。




   b. [確認] などのモーダルタイプを選択します。




   c. モーダルを構成します。
   モーダルのテキスト、モーダルのボタンの名前、およびモーダル画面のサイズを変更できます。モーダルのアクションも設定できます。モーダルの構成が完了したら、閉じます。コンテンツツリーでは、作成したモーダルがページ構造の本文の上にあることに注意してください。

7. ボタンコンポーネントにイベントをバインドします。
   イベントをボタンにバインドしてアクションをトリガーします。コンテンツツリーまたはページでハイライト表示するボタンコンポーネントを再度選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

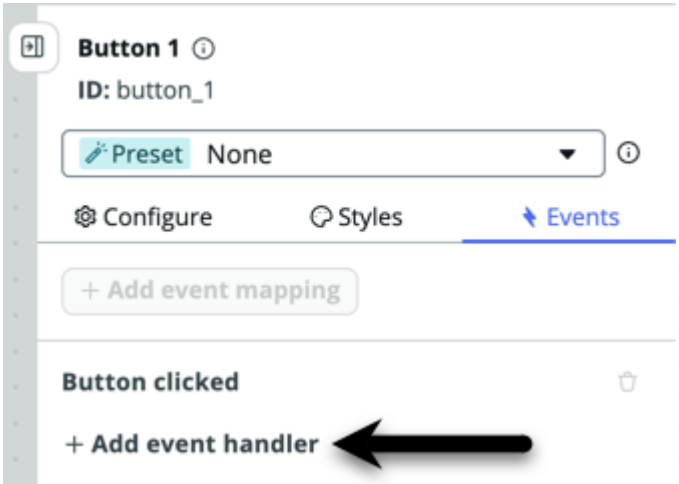
**a.** コンテンツツリーで **[+** コンポーネントを追加] を選択します。

**b.** ツールボックスで ボタン コンポーネントを選択します。

**c.** プリセットを選択するように求められたら、[ なし ]を選択します。

**d.** [構成] ペインで、[イベント] をクリックします。

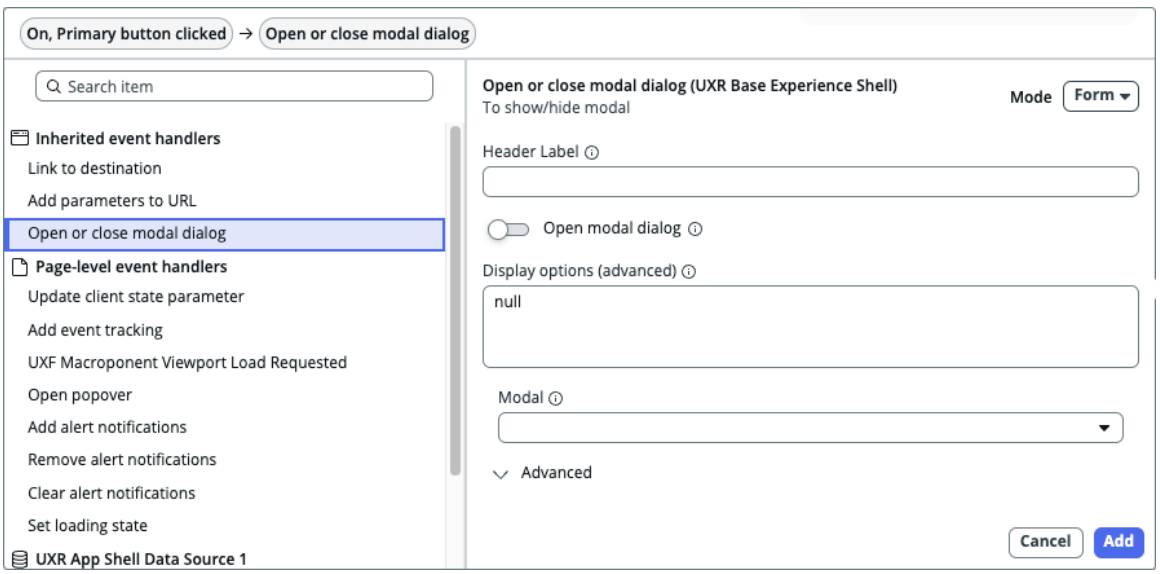
**e. [+** イベントハンドラーを追加] を選択します。




ボタンコンポーネントには、ボタンクリックイベントのみが関連付けられています。複数のイベントを持つことができるコンポーネントもあります。

**f.** コンポーネントにアサインするアクションを選択します。

たとえば、ボタンコンポーネントのイベントハンドラーを追加するには、別の宛先にリンクしてアラート通知を追加することができます。この例では、[モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択して、前に作成したモーダルを開くようにボタンを設定できます。このボタンのシナリオでは、前に作成した [確認して破棄] モーダルダイアログイベントハンドラーを選択します。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. [モーダルダイアログを開く] セレクターをオンにして、ユーザーがボタンコンポーネントをクリックしたときにモーダルが開くようにします。

h. モーダルイベントハンドラーをコンポーネントに追加するには、[追加] をクリックします。

8. [保存] をクリックします。
9. [プレビュー] を選択してモーダルをテストします。
10. 作成したモーダルをトリガーするには、ページ上のボタンをクリックします。

## ページへのイベントのバインド

ページイベントマッピングを使用して UI ビルダー 内でデータ要素をバインドし、イベントアクションをページに追加できるようにします。

### 始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

### このタスクについて

次のタイプのイベントを使用して、イベントをページにバインドできます。

- ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。
- 処理済みイベント。処理済みイベントとは、他のユーザーが公開して使用できるイベントのことです。処理済みイベントを作成すると、*Page event mappings* で他のユーザーも使用できるようになります。手動で作成するペイロードフィールドを設定したり、モーダルダイアログのオープンやクローズなどの、処理済みイベントのテンプレートを選択したりすることもできます。

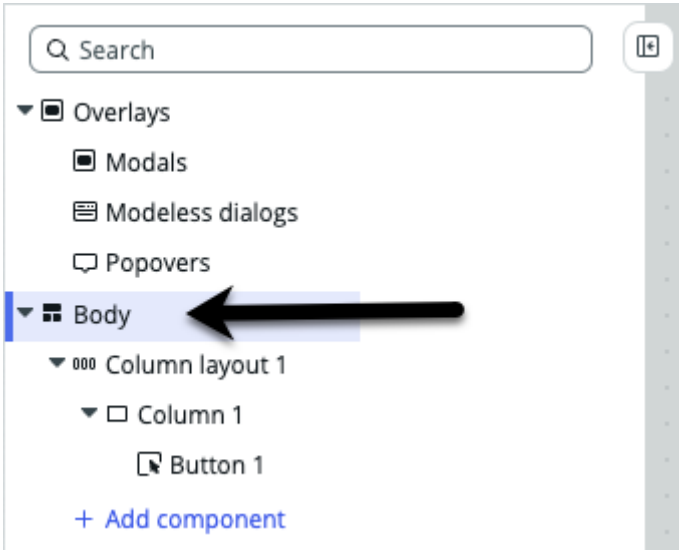
### 手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. コンテンツツリーでページ本文をハイライト表示します。

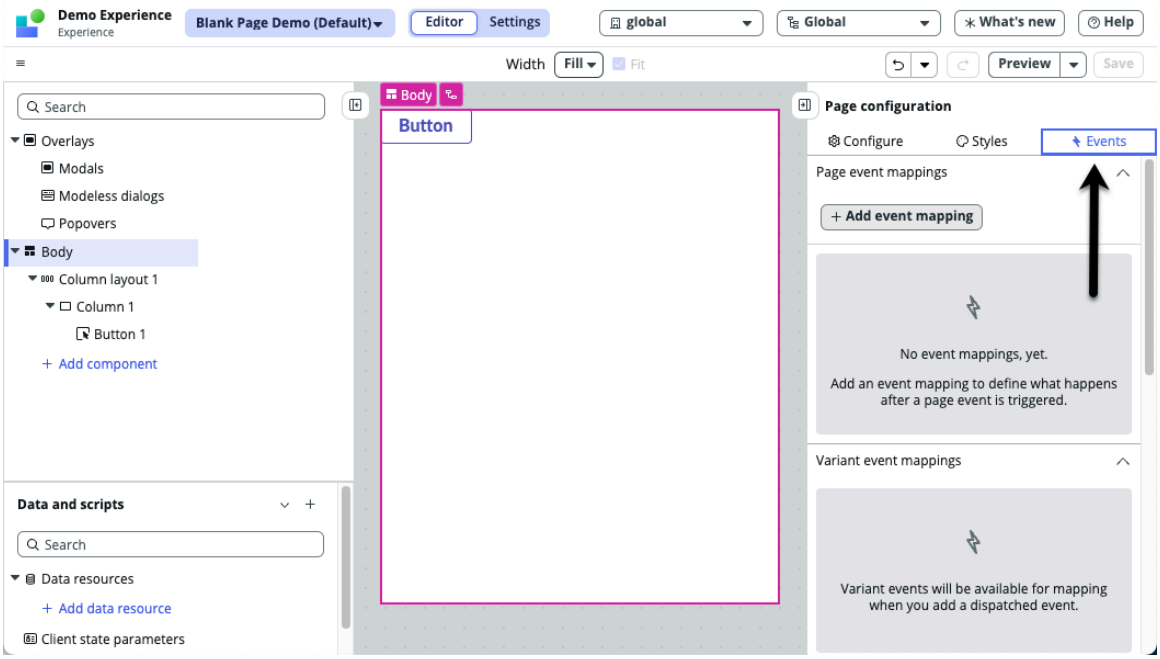
   本文はコンテンツツリーの最上位の行です。ページ全体をハイライト表示すると、ページレベルのイベントを追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




5. 構成パネルで、[ イベント ] タブを選択します。




6. 次のいずれかの方法でイベントハンドラーを追加します。

7. **[Save** (保存)] を選択します。

8. ページをプレビューして、設定したデータリソースイベントをテストするには、[ Preview

## データリソースへのイベントのバインド

ページ上の個々のデータリソースに UI ビルダー 内のイベントハンドラーをアサインします。データリソースが新しいデータを正常にフェッチすると、イベントハンドラーが実行され、ユーザーはフロー内の次のステップに移動します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

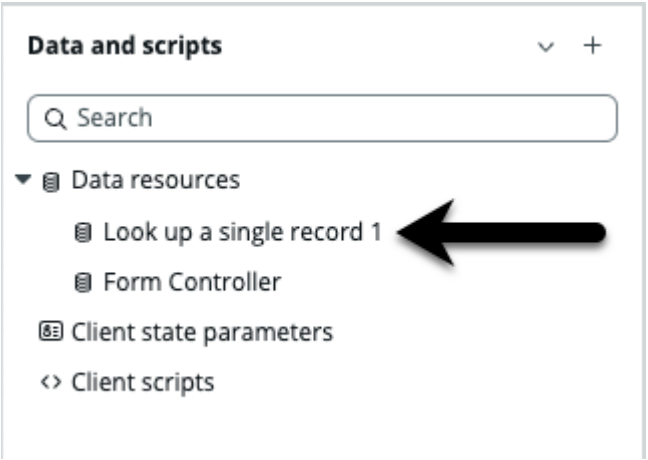
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
イベントをデータリソースにバインドして、ページでデータ関連アクションを実行します。たとえば、初期時にデータがページにロードされない場合に、再ロードするためのボタンを追加できます。データリソースイベントを設定して、ページのバックグラウンドでデータを再ロードすることもできます。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. データリソースをページに追加します。
   詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。
6. データリソースインスタンスを選択します。



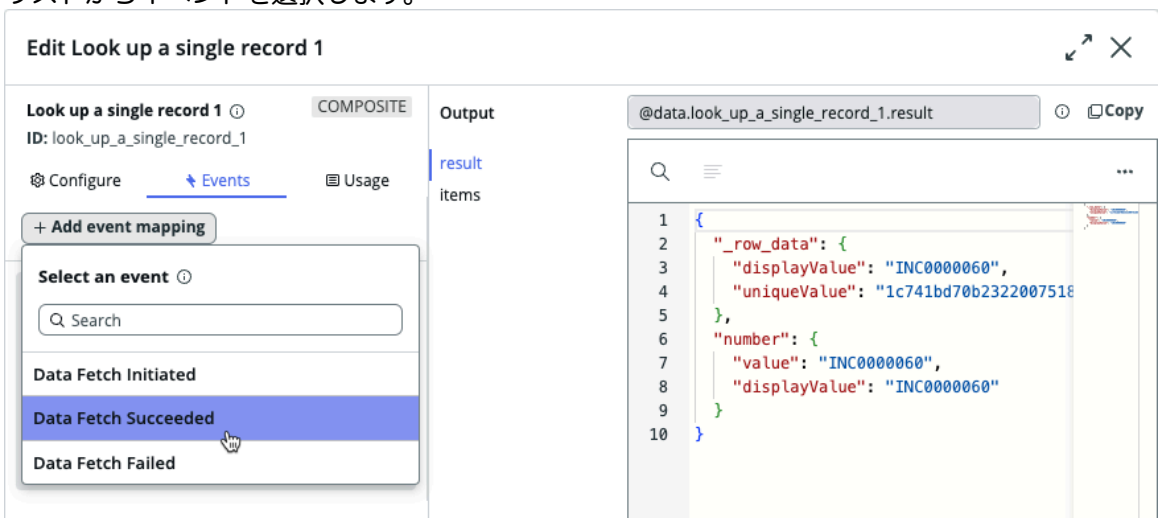

7. データリソースにイベントハンドラーを追加するには、データリソースの構成パネルで [ イベント ] タブを選択します。

   データリソースにイベントハンドラーを追加して、[操作が開始されました (Operation Initiated)]、[操作が正常に完了しました (Operation Succeeded)]、および [操作に失敗しました] のアクションを処理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

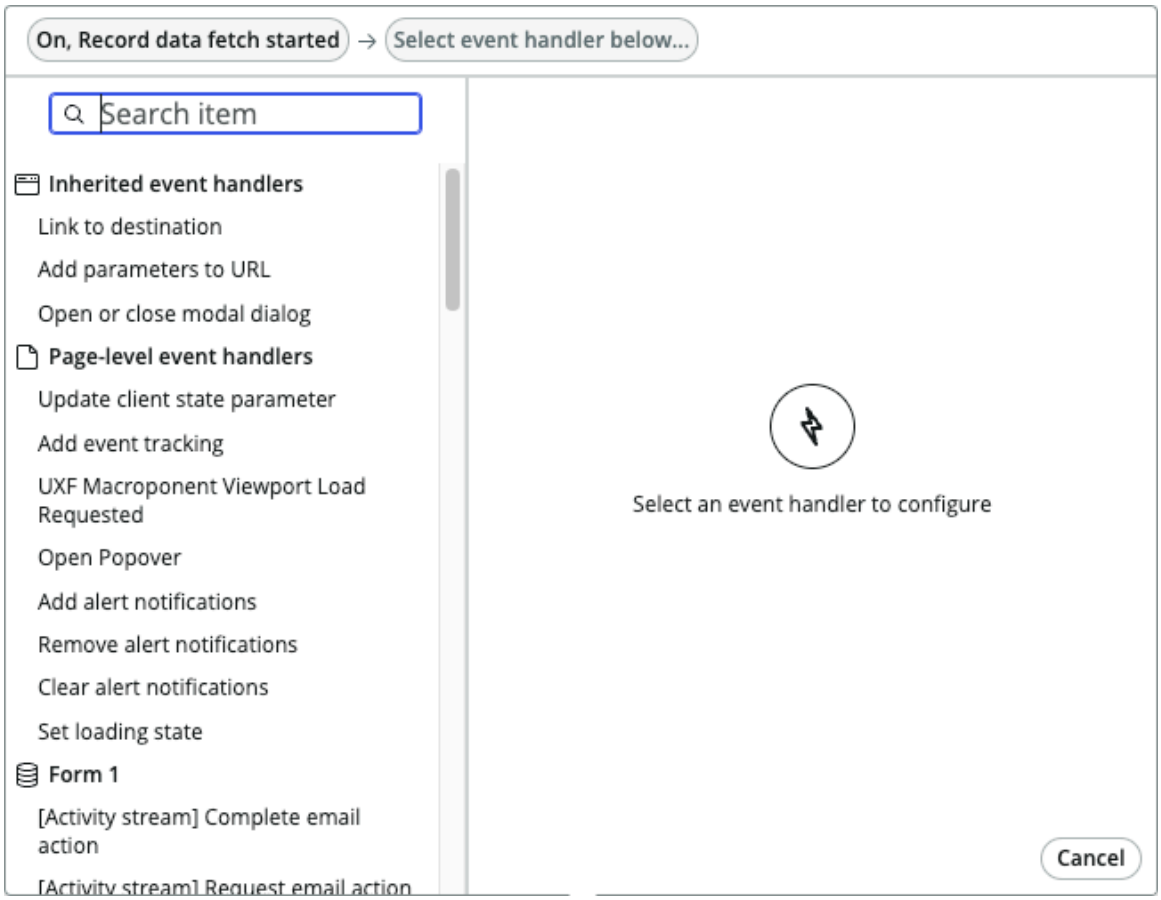
8. **[+** イベントマッピングを追加] を選択します。
9. リストからイベントを選択します。




10. [ **+** イベント ハンドラーの追加] を選択します。
11. リストからイベントハンドラーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




12. イベントハンドラーに必要な情報を入力します。
構成は、選択されているイベントハンドラーによって異なります。
13. [追加] を選択します。
14. **[Save** (保存)] を選択します。
15. ページをプレビューし、設定したデータリソースイベントをテストするには、ヘッダーの UI ビルダー [Preview] を選択します。

### イベントの別のページへのリンク

UI ビルダー 内の宛先イベントハンドラーへのリンクを追加して、イベントアクションで別のページを開くことができるようにします。イベントハンドラーを、目的のページへのアプリルートをたどるように構成することもできます。

#### 始める前に

クリックしたときに別のページを開くコンポーネントがあるワークスペースページが必要です。ダッシュボードの概要は、このようなコンポーネントの一例です。[宛先へのリンク] などのコンポーネントは、宛先イベントハンドルへのリンクをサポートしていません。コンポーネントリンクプロパティは、宛先イベントハンドラーへのリンクよりも優先されます。

必要なロール：ui_builder_admin

#### このタスクについて

別のページを開くイベントアクションを構成するには、開くページ、そのページの必須パラメーターとオプションのパラメーター、および必要なパラメーターを宛先ページに渡すためにイベントハンドラーに設定するペイロード値を把握する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

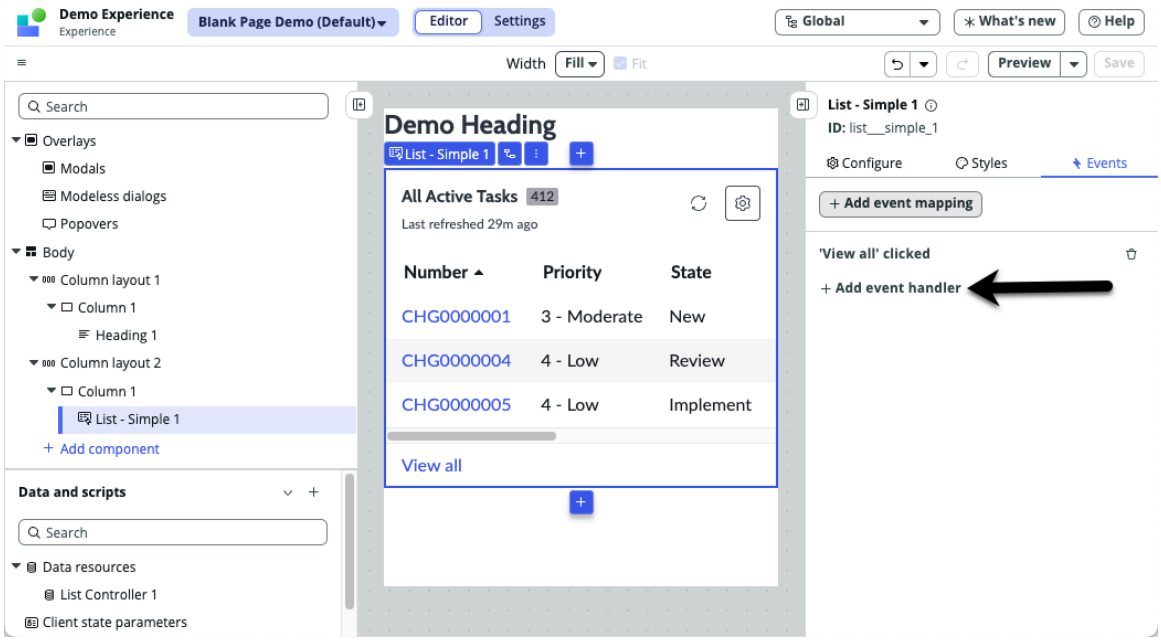
ヒント:
リンク元のコンポーネントとリンク先の宛先ページの両方の例を、Base Agent Workspace エクスペリエンスで見つけることができます。この Next Experience はベースシステムで提供されます。ページテンプレートからページを作成する場合は、テンプレートのコンテンツのコピーのみを実行してください。それに対する参照は実行しないでください。ページテンプレートのコピーと参照の違いの詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

手順

1. UI ビルダー でエクスペリエンスを開きます。
2. オプション: 宛先ページがエクスペリエンスに存在しない場合は、作成します。
   ページの作成については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。ページを宛先として使用できるように、必ず必須パラメーターとオプションのパラメーターを設定します。ページ内の特定のコンポーネントが宛先である場合は、そのコンポーネントを含める必要があります。また、`@context.props.<parameter-name>` 値が指定されたページパラメーターを使用するように、コンポーネントのプロパティを構成する必要があります。

   ページテンプレートからページを作成することも検討できます。Base Agent Workspace エクスペリエンスには、他のコンポーネントの宛先として事前に構成されている複数のページテンプレートがあります。テンプレートから宛先ページを作成する場合、コンポーネントは事前に正しいプロパティで構成されています。必要なステータスパラメーターまたはクライアントスクリプトもコピーされます。ページパラメーターを追加する必要があります。これらのパラメーターは、ページテンプレートを含むエクスペリエンスのエージェントアプリ構成 [sys_ux_app_config] レコードにある、UX アプリルート関連リストからコピーできます。

   作成するページをエクスペリエンス内の宛先として確実に機能させるには、エクスペリエンスにページテンプレートを使用したエクスペリエンスと同じアプリシェル UI が必要です。
3. 宛先ページにリンクするページに切り替えます。
4. 関連するコンポーネントに移動して選択します。
5. [イベント] タブを選択します。
6. **[+** イベントマッピングを追加] を選択します。
7. 使用するイベントを選択します。
8. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

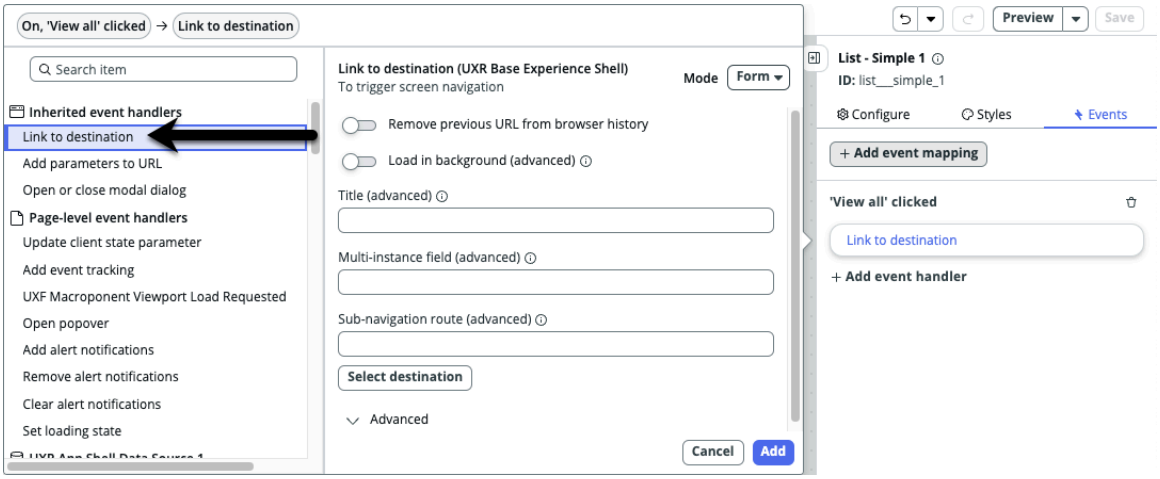



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

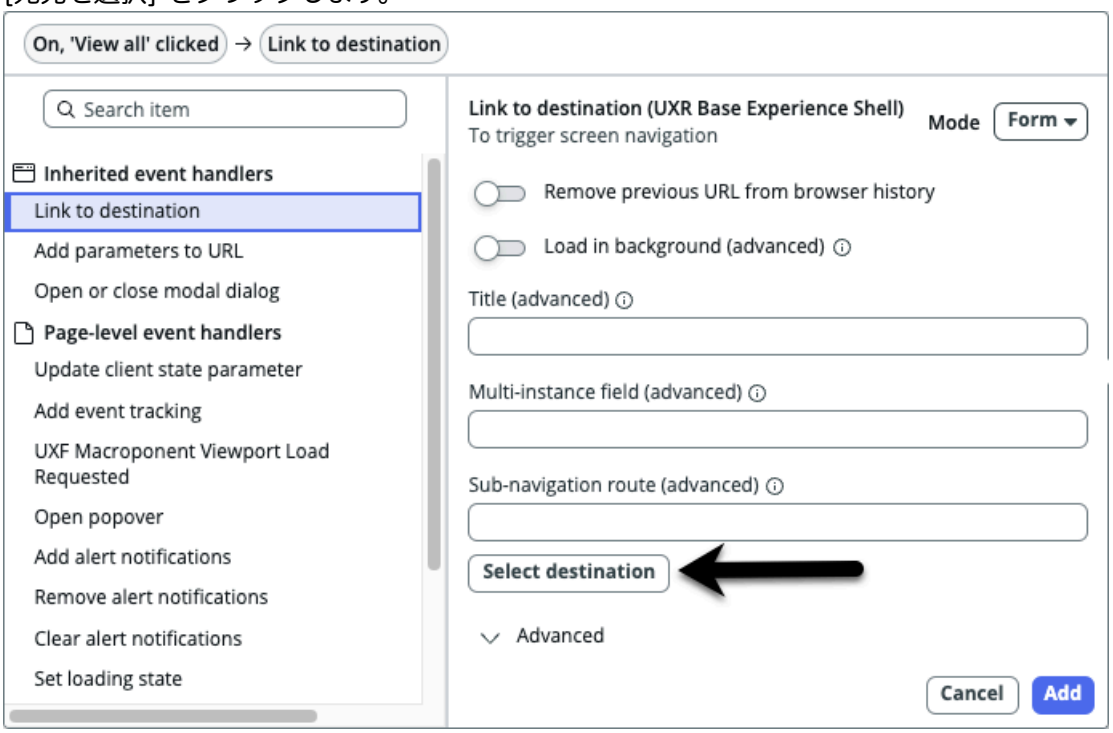


自動翻訳

9. [継承されたイベントハンドラー] セクションで、[宛先へのリンク] を選択します。




10. [宛先を選択] をクリックします。

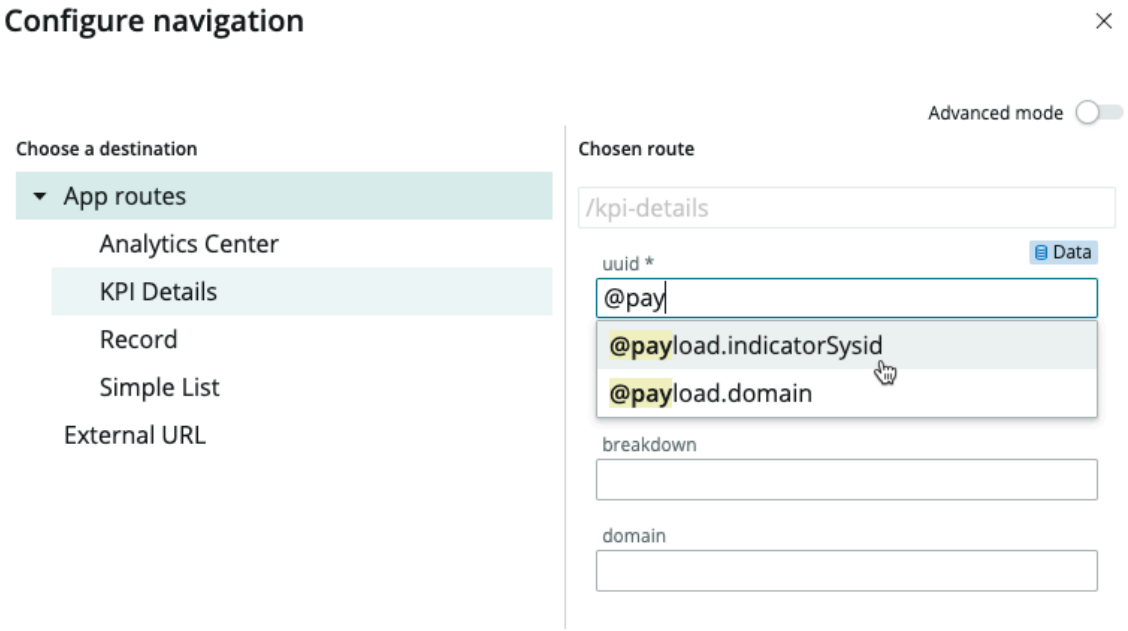



11. [ページ] を展開し、リンクするエクスペリエンスのページを選択します。
ルートの先にある宛先ページの各パラメーターのフィールドが表示されます。必須パラメーターにはアスタリスク (*) が付いています。

12. 必須パラメーターフィールドと該当するパラメーターフィールドのそれぞれに、適切な `@payload.*` 値を入力します。
コンポーネントの開発者がイベントにデフォルトのペイロード値を含めた場合、その値はオートコンプリート機能を介して選択できます。次の例に示すように、ペイロード値がパラメーター名と一致しない場合があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



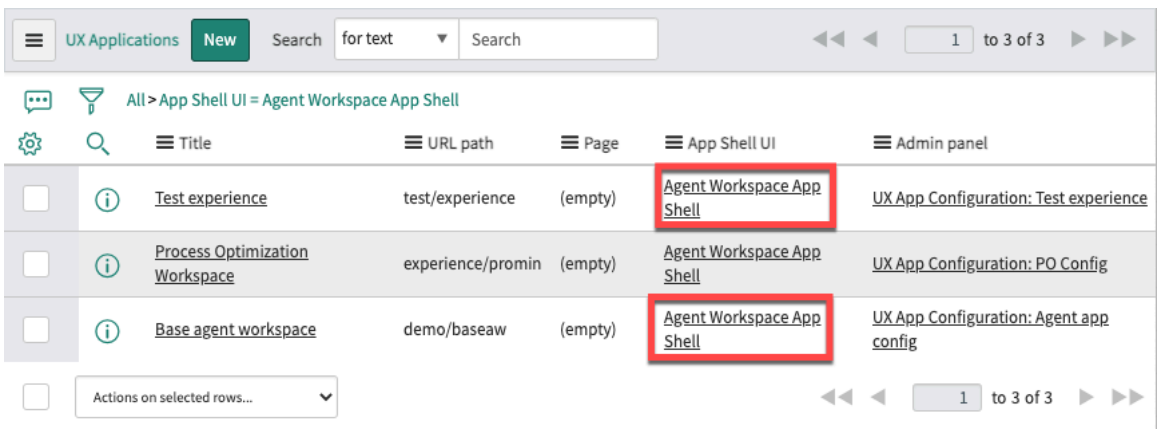

デフォルト値が提供されていない場合、または一部のフィールドで指定すべき正しい値がわからない場合は、*ServiceNow*® 開発者サイト のコンポーネントの構成と API のドキュメントを参照してください。それでも必要な `@payload.*` 値が見つからない場合は、カスタマーサービス & サポート にお問い合わせください。

> **ヒント:**
> Base Agent Workspace ページテンプレートからページを作成してリンクコンポーネントを作成する場合、コンポーネントには [宛先にリンク] リレーイベントハンドラーが含まれます。これらのイベントハンドラーは機能しません。ただし、パラメーターに適用可能な `@payload.*` 値が含まれています。

## **Example:** 分析 **Q&A** コンポーネントのイベントハンドラーの構成

新しい Next Experience を取得し、分析 Q&A コンポーネントがあるページを追加するとします。最初に、Base Agent Workspace エクスペリエンスで提供される分析センターページテンプレートからページを作成します。次に、分析 Q&A の 3 つのイベントの最初のターゲットページを作成し、そのイベントのイベントハンドラーを構成します。

に移動することによって **Now Experiences** フレームワーク > エクスペリエンスに、テストエクスペリエンス UX アプリケーションが表示されます。Base Agent Workspace と同じ Agent Workspace アプリシェル UI を使用するため、Base Agent Workspace からページテンプレートを使用できます。



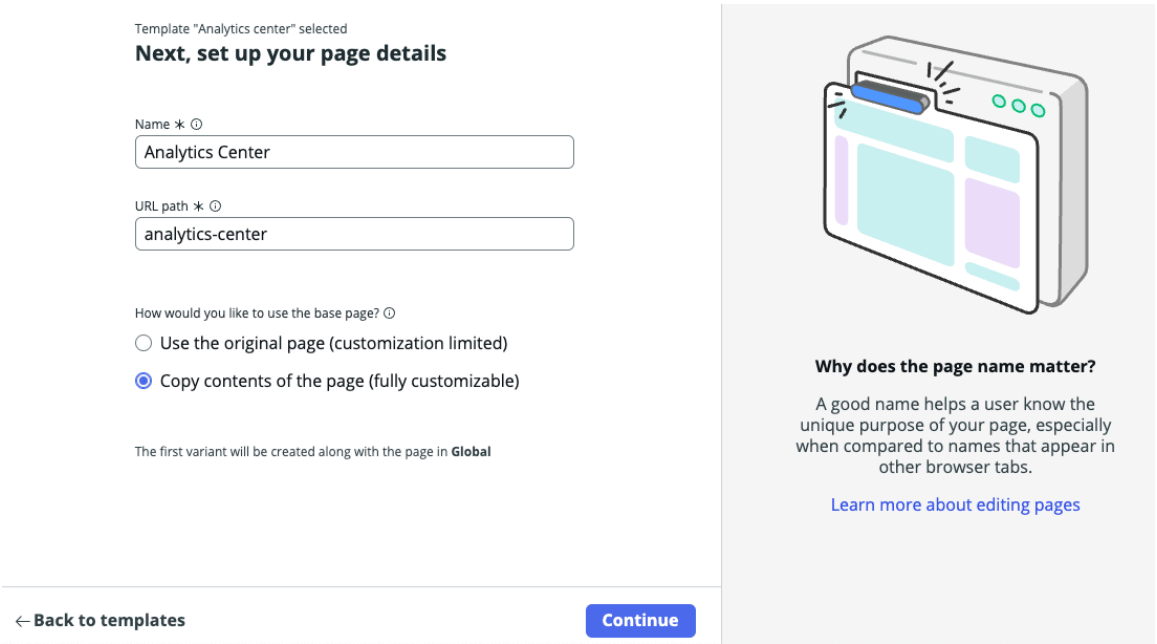

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

次に、[テストワークスペース (Test Workspace)] 管理パネルを選択し、UX アプリルートまたはページがない UX アプリ構成レコードを見つけて、[開く] をクリックします。

例に示すように、UI ビルダー で、Base Agent Workspace の [分析センター] ページテンプレートに基づいて、「分析センター」という名前のページを作成しました。次に、ページテンプレートのコンテンツのみをコピーするオプションを選択します。



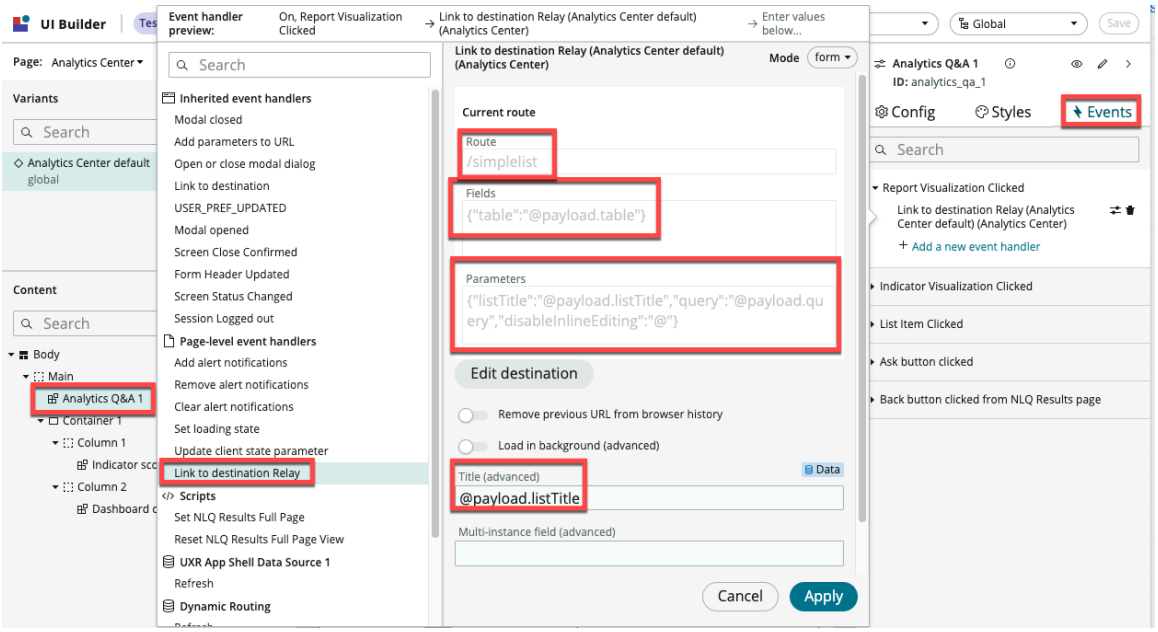

[分析 Q&A 1] コンポーネントを選択し、[イベント] タブを開きます。ここから、[レポートの視覚化がクリックされました **(Report Visualization Clicked)**] イベントの[宛先にリンク] リレーイベントハンドラーを開くことができます。分析 Q&A の質問がレポートを返す場合、レポート内の値をクリックしてこのイベントをトリガーできます。値をクリックすると、この値に寄与するレコードリストも表示されます。[ ルート ] フィールドに、宛先が [簡易リスト] ページ テンプレートに基づくページであることが想定されていることがわかります。`@payload.*` 値が対応する、[タイトル] フィールドに `@payload.listTitle` を入力できるページのパラメーターも表示されます。

提案された [簡易リスト] 宛先ページのパラメーターと、対応するペイロード

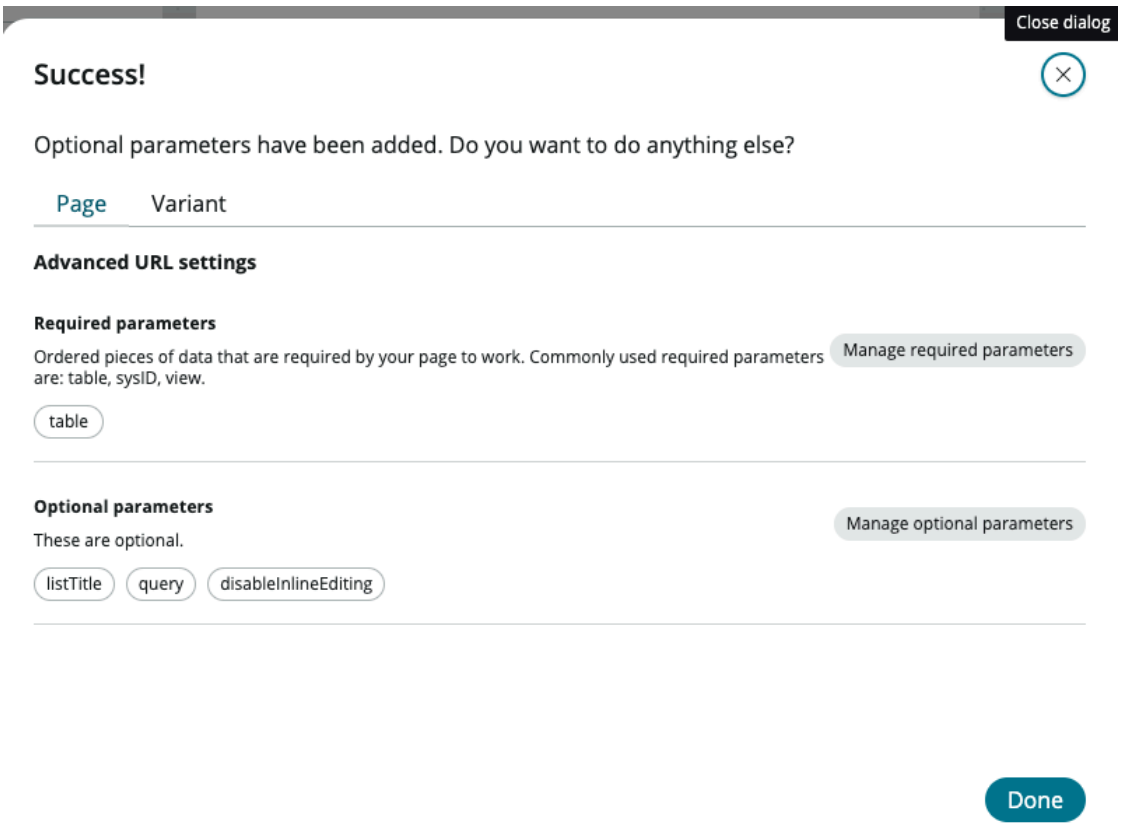
| パラメーター | **@payload.*** 値 |
|---|---|
| table (必須) | @payload.table |
| listTitle | @payload.listTitle |
| query | @payload.query |
| disableInlineEditing | なし |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

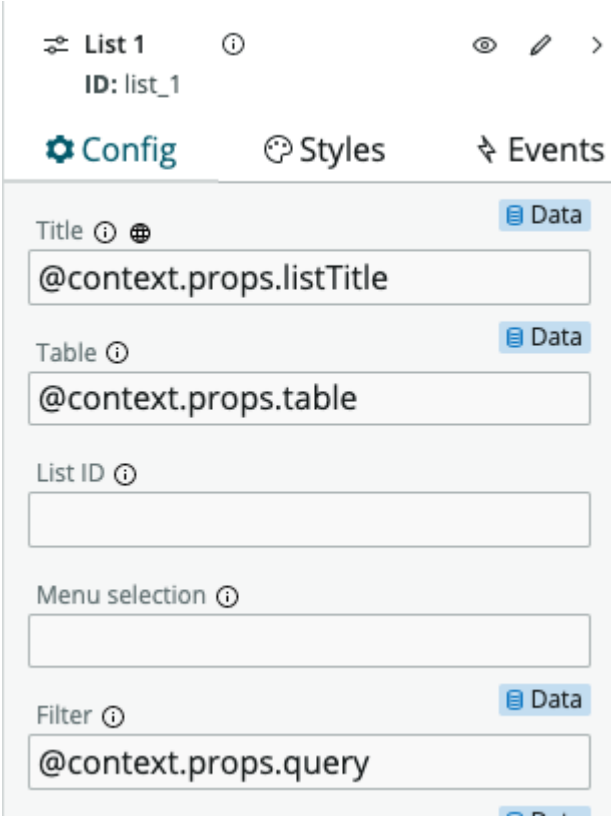



次に、次の場所に移動します。 メニュー > ページの作成 をクリックし、簡易リスト テンプレートに基づくページを作成します。たとえば、ページの名前を「レコードリスト」とします。次に、「分析センター」ページを作成したときと同様のプロセスに従います。今回は、プロセスの最後のステップで、 必須 パラメーターとして table を追加し、オプションのパラメーターとして listTitle、query、および disableInlineEditing を追加します。

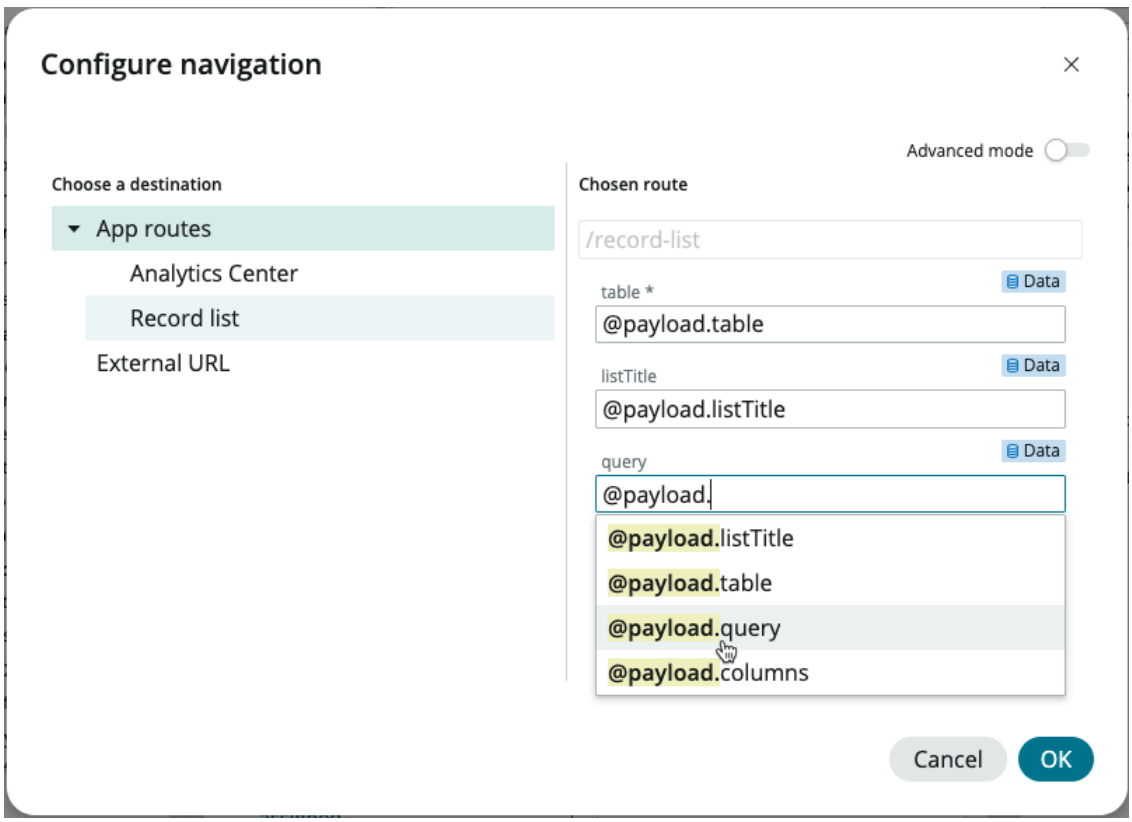



このページには既にリストコンポーネントが含まれているため、このコンポーネントの [構成] タブを開くと、パラメーターが @context.props.* 値に既に渡されていることがわかります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ここで「分析センター」ページに戻ります。[レポートの視覚化がクリックされました **(Report Visualization Clicked)**] イベントで、新しいイベント ハンドラーを追加します。次に、作成したレコードリストページを選択し、[宛先にリンク] リレーイベントハンドラーから取得した情報に従って、テーブル、**listTitle**、およびクエリフィールドに `@payload.*` 値を追加します。これらのフィールドに入力する際に、予測入力が役立ちます。

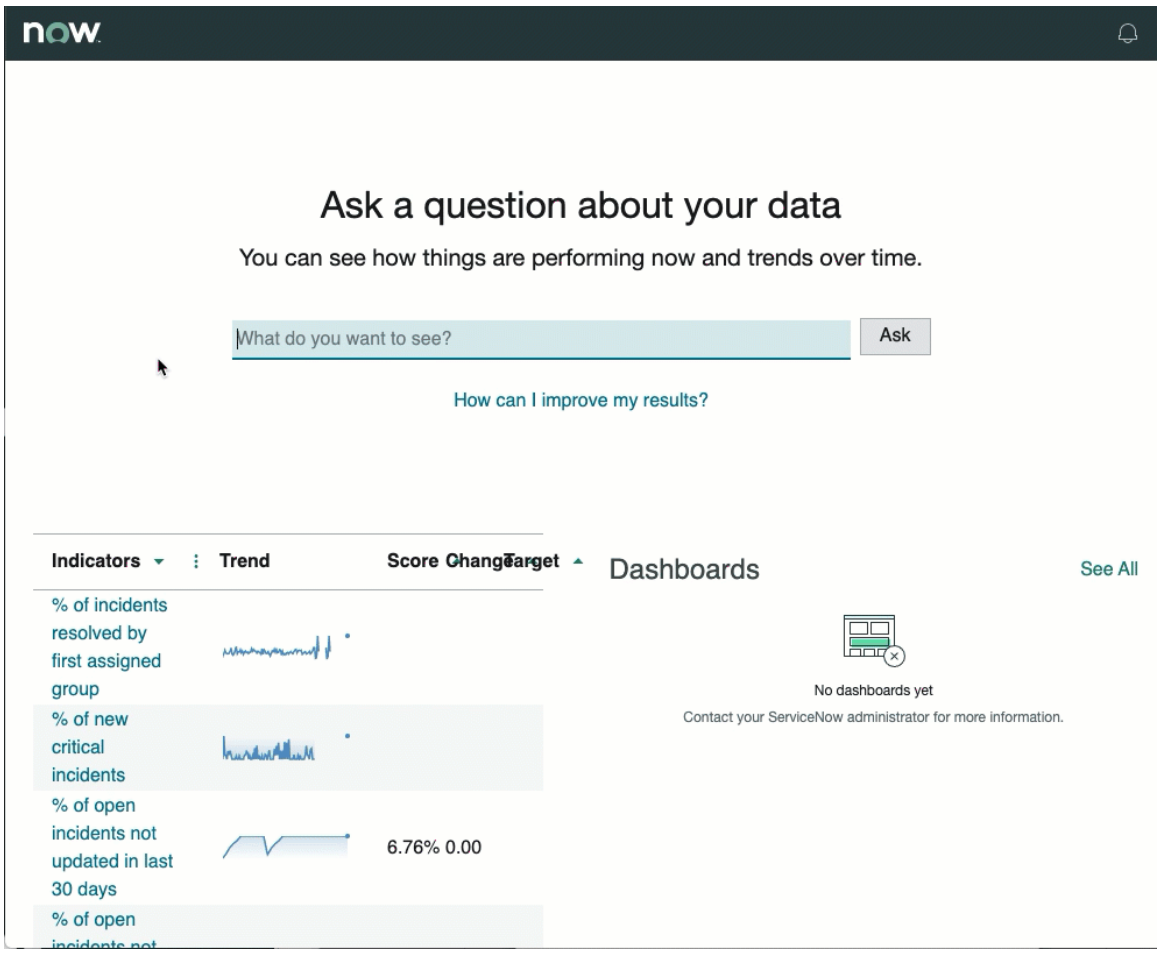



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**[OK]** をクリックし、[タイトル] として @payload.listTitle を追加すると、イベントハンドラーが完了します。これで、このイベントの[宛先にリンク] リレー イベントハンドラーを削除できます。

次の例は、「分析センター」ページを示しています。このページでは、[優先度別のインシデント] のクエリを入力し、結果のレポートを取得できます。また、列をクリックすると、[ レポートの視覚化がクリックされました **(Report Visualization Clicked** )] イベントがトリガーされます。イベントハンドラーを使用すると、レポート内のインシデントの簡単なリストを表示できます。

構成された [レポートの視覚化がクリックされました **(Report Visualization Clicked)**] イベントのトリガー




宣言アクションへのイベントのバインド

データ要素を UI ビルダー 内でバインドして、イベントアクションを宣言アクションに追加することができます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
処理済みイベントをコンポーネントにバインドして、ユーザーがコンポーネントを選択したときにアクションが実行されるようにします。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。

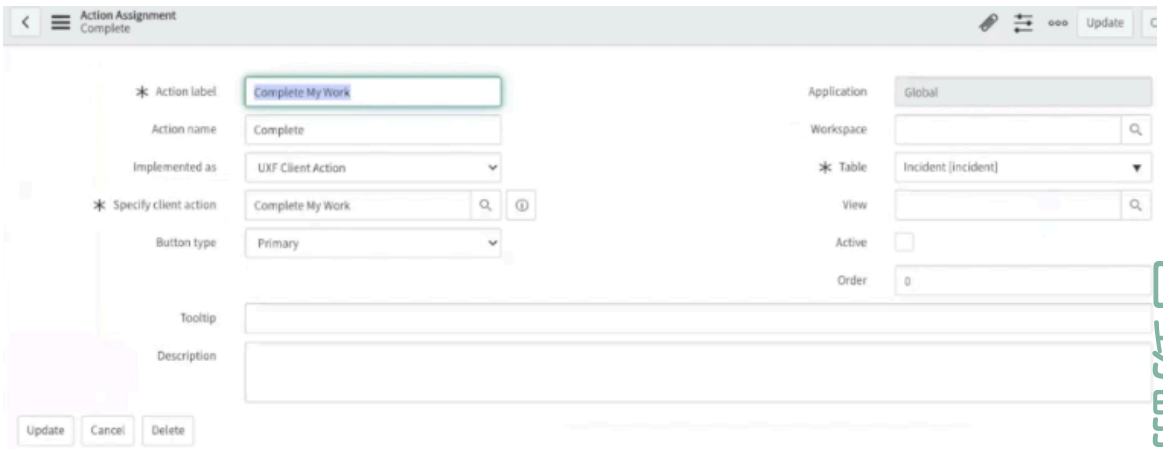
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. コンポーネントを、アクションバーや関連リストなどの宣言アクションを持つことができるページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. の Now Platform テーブルに宣言アクション定義を作成するには、次に移動します。 ワークスペースエクスペリエンス > アクション & コンポーネント > リストアクション.

   宣言アクションを利用可能にするテーブルを選択します。たとえば、インシデントテーブルに [自分の作業を実行 (Complete my work)] アクションを作成したり、既存の宣言アクション定義レコードを使用したりできます。

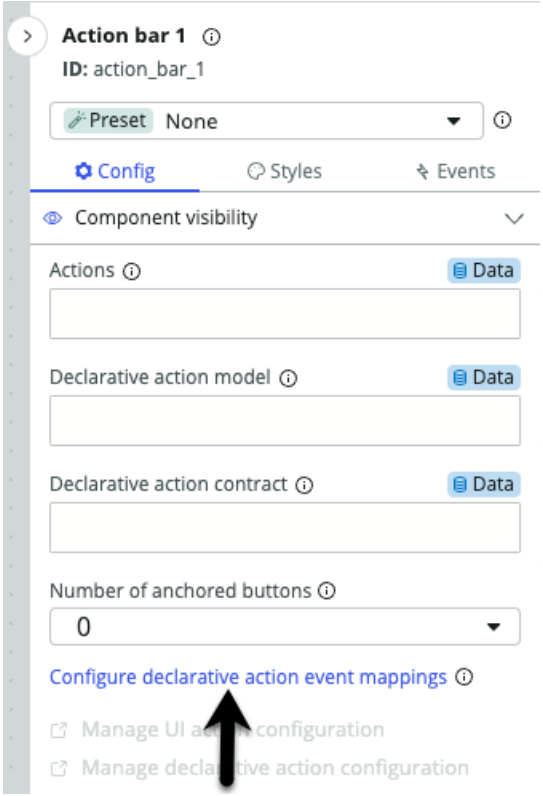
   プラットフォーム宣言アクション定義レコード




6. [アクティブ] チェックボックスをオンにして、レコードを保存または更新します。
7. UI ビルダー に戻ります。
8. 宣言アクションの処理済みイベントを呼び出すには、「構成」パネルに移動し、「 宣言アクション・イベント・マッピングの構成」をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




9. 以前に作成した宣言アクションを選択します。
   ステップ 5 の例を続行する場合、宣言アクションは [自分の作業を実行 **(Complete my work)]** のようになります。
10. ページでの宣言アクションの実行内容を定義するには、**[+** イベントハンドラーを追加] をクリックします。

    **a.** イベントハンドラーに名前を付けます。
    名前は、イベントハンドラーで実行するアクションを説明するものとしてください。

    **b.** オプション: イベントハンドラーの説明を入力します。

    **c.** 呼び出す処理済みイベントを選択します。

    **d.** オプション: イベントハンドラーのペイロード値を追加します。

    **e.** [保存] を選択します。

11. [完了] を選択します。
12. [保存] を選択し、 Preview を選択します。
13. [自分の作業を実行 **(Complete my work)]** をクリックして、ページで宣言アクションをテストし、それが機能するかどうかを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コンポーネントプリセットイベントマッピングの無効化

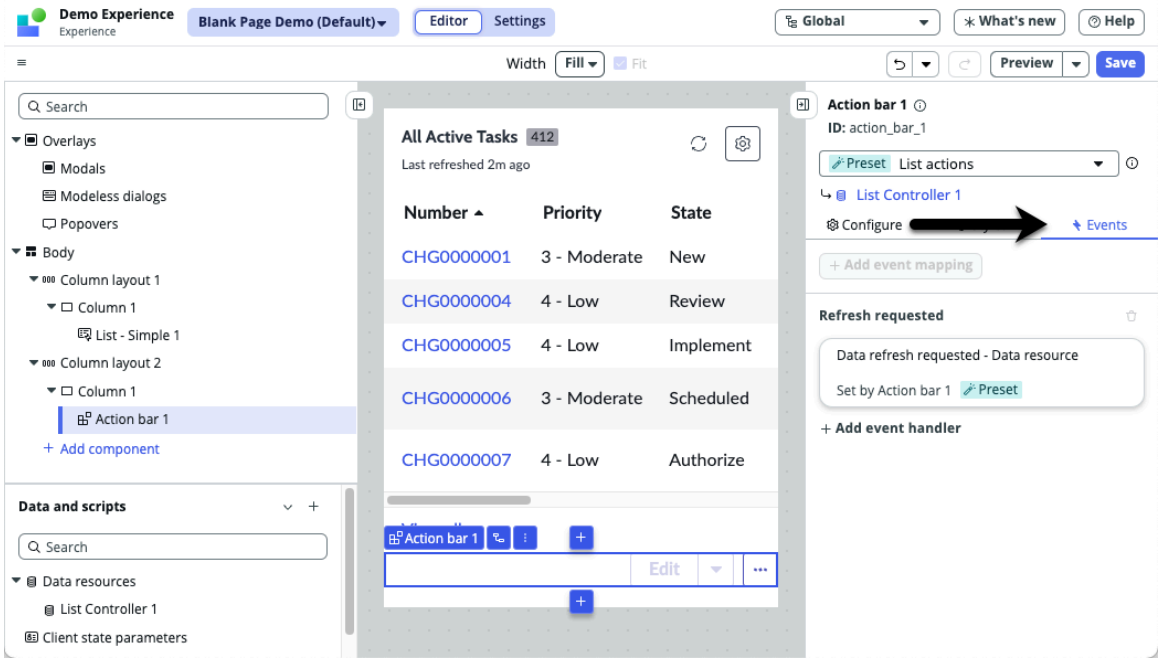
コンポーネントプリセットによって自動的に作成されるイベントマッピングを無効にすることができます。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### 手順

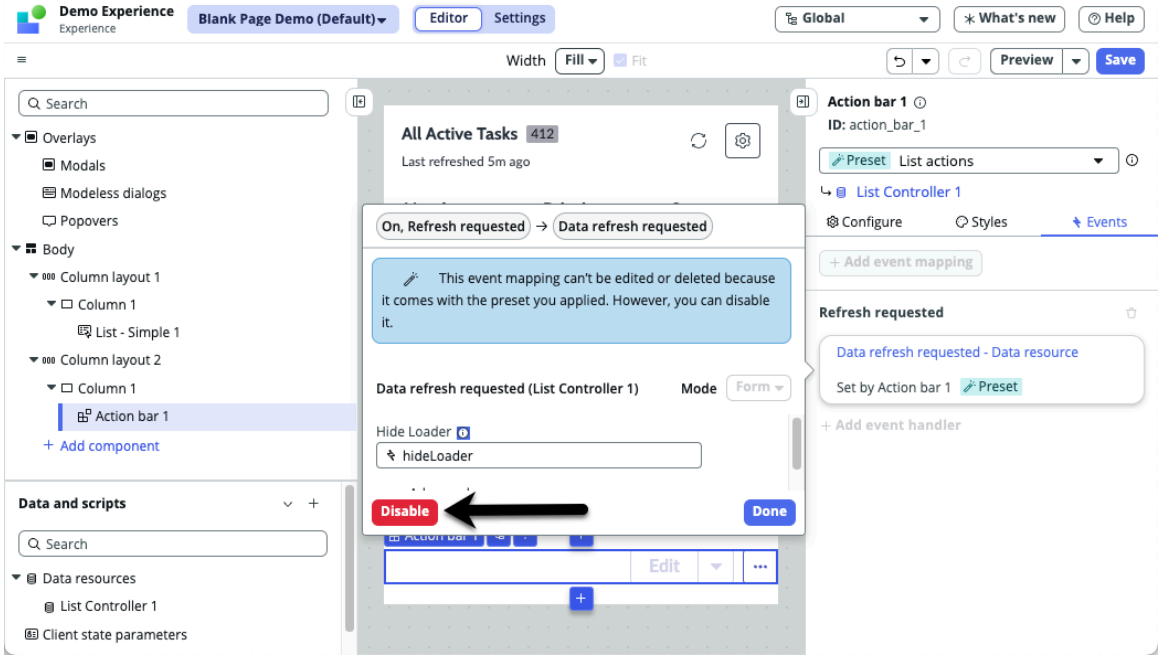
1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. コンポーネントプリセットが構成されているコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。




6. 無効にするイベントを選択します。
7. [ 無効にする] を選択します。

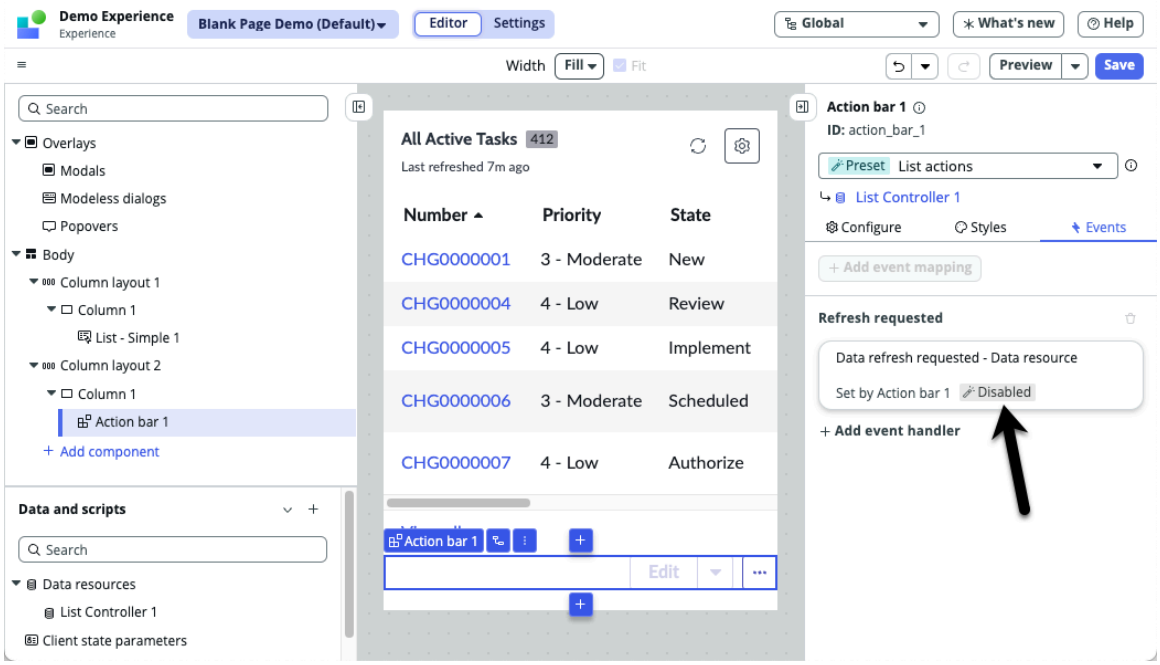
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**8. [Done** (完了)] を選択します。

タスクの結果
コンポーネントプリセットイベントは、構成パネルの [イベント] タブに [無効] と表示されます。




## イベントハンドラーの削除

UI ビルダー で不要になったイベントハンドラーを削除します。

### 始める前に

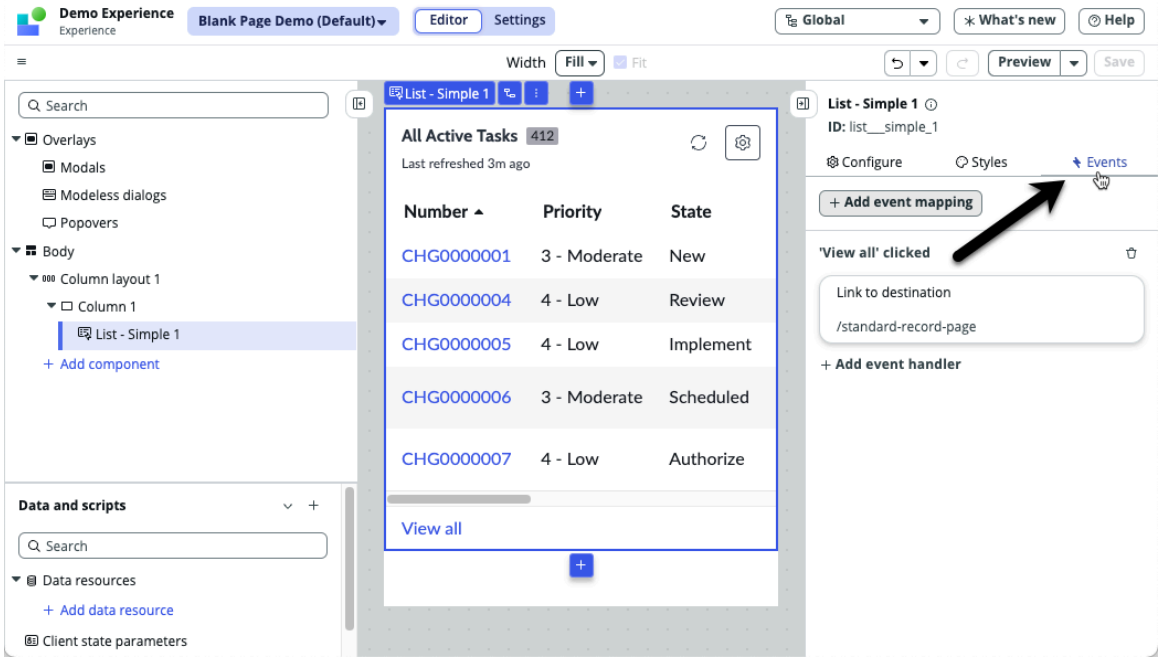
必要なロール：管理者

自動翻訳

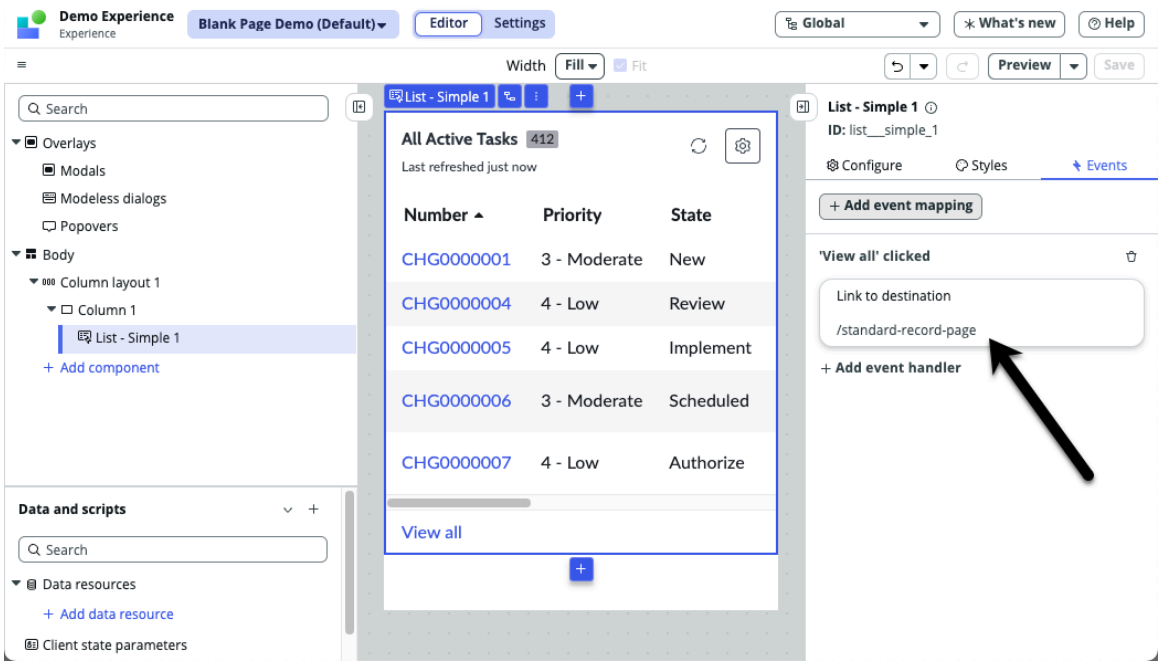
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. プリセットが構成されたコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。




6. 削除するイベントハンドラーを選択します。

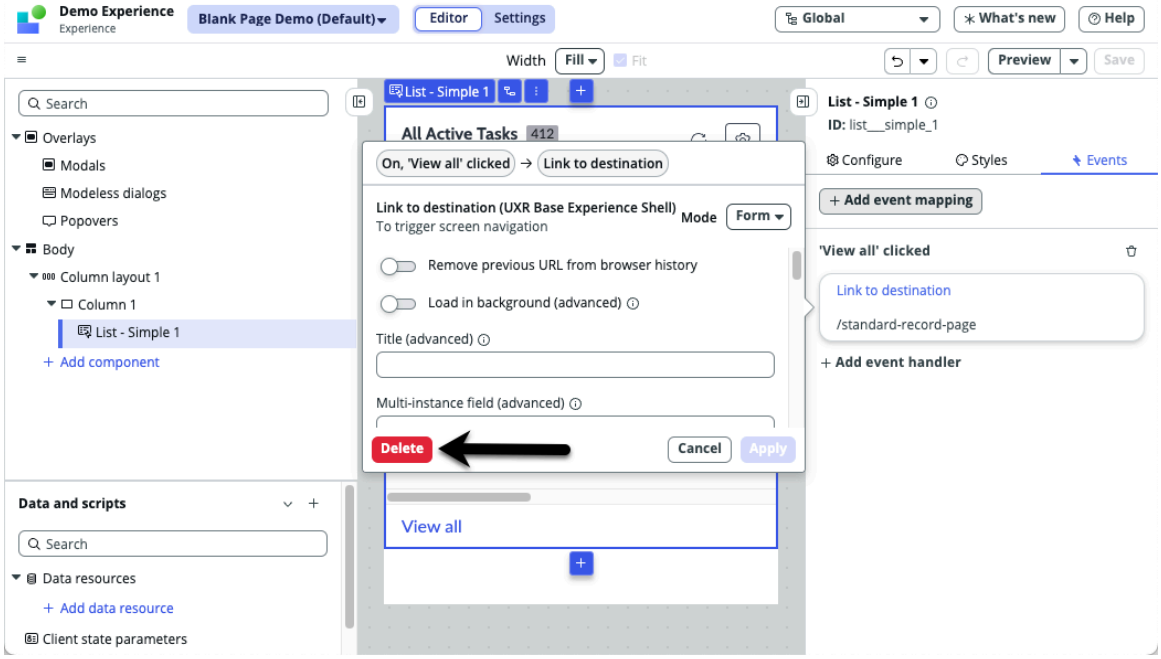



7. [削除] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

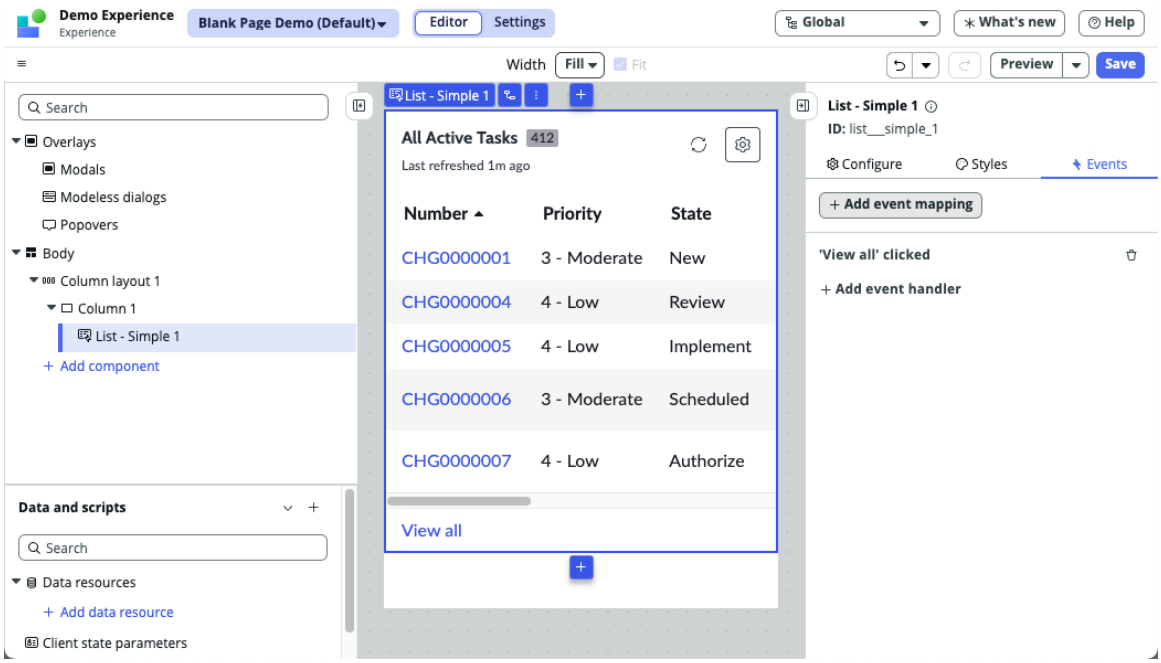


自動翻訳




8. 確認モーダルで [ 削除 ] を選択します。
9. イベントハンドラーが、関連するイベントマッピングから削除されます。

   イベントマッピングを削除する場合は、「イベントマッピングの削除」を参照してください。




自動翻訳

## イベントマッピングの削除

UI ビルダー で不要になったイベントマッピングを削除します。

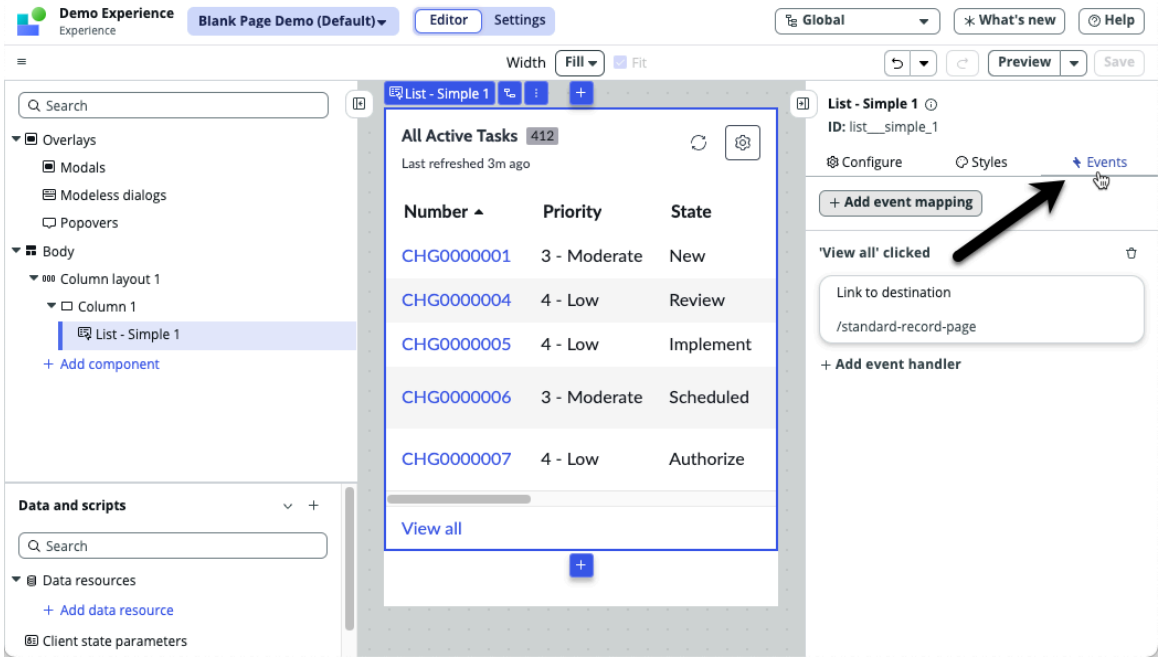
### 始める前に

必要なロール：管理者

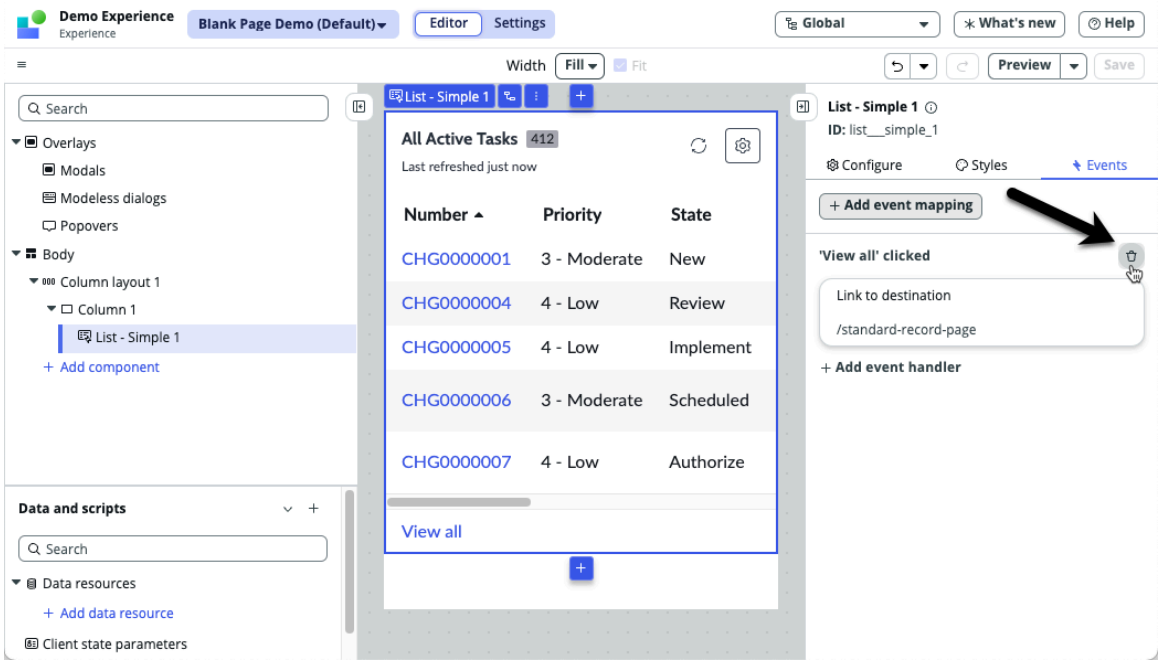
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または **[+** 作成] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI Builder でのページの作成」を参照してください。
4. プリセットが構成されたコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。



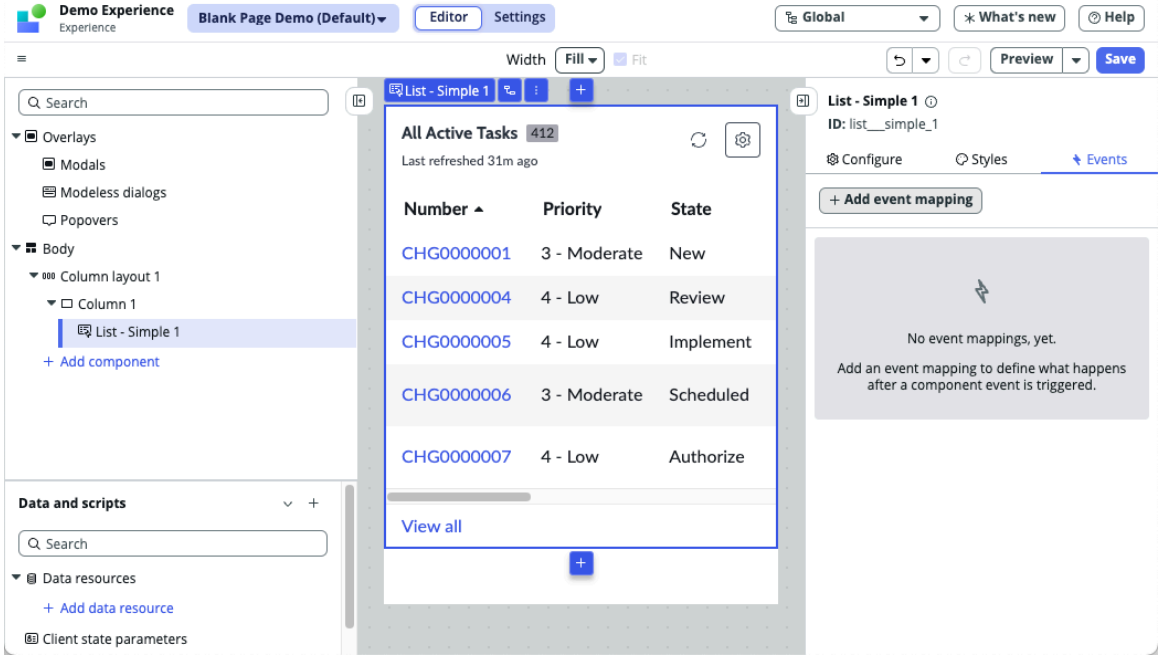

6. 削除するイベントの横にある [すべて削除] アイコン ( ) を選択します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. イベントマッピングが、関連するコンポーネントから削除されます。




## Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)

Now コードエディターは、カスケードスタイルシート (CSS)、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML)、JavaScript、拡張マークアップ言語 (XML)、および JavaScript Object Notation (JSON) をサポートするリッチテキストエディターです。Now コードエディターを使用して、Next Experience UI Builder コンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアントサイドおよびサーバーサイドのスクリプトを変更します。

Now コードエディターは次の機能をサポートしています。

- 基本編集
- デバッグ
- コマンドパレット
- コードの書式設定
- 構文のチェックとハイライト表示
- 自動提案
- 共通コードのスクリプトマクロ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 基本編集

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| コードの書式設<br> <br>定 | スクリプトに適切なインデントを適用します。<br>キーボードショートカット：<br>• Windows：Shift+Alt+F<br>• Mac：Shift+Option+F |
| 構文のハイライト表示 | コードの構文をハイライト表示します。 |
| 構文のチェック | 書式設定エラーをチェックし、構文エラーをハイライト表示します。<br>• Windows：Shift+Alt+C<br>• Mac：Shit+Option+C |
| 提案を表示 | 挿入ポイントに次のような有効な要素のリストを表示します。<br>• クラス名<br>• 関数名<br>• オブジェクト名<br>• 変数名<br>エントリーを選択してクリックし、スクリプトに追加します。<br>キーボードショートカット：<br>• Windows：Control+Space<br>• Mac：Control+Space<br>[構文のハイライト表示] は [設定] メニューで有効と無効を切り替えることができます。 |
| コメントの切り替え | 2 つの連続するスラッシュ // を使用して、1 行以上のコードをコメント化します。<br>キーボードショートカット：<br>• Windows：Control+/<br>• Mac：Command+/ |
| ミニマップを表示 | コードスニペットのミニマップを表示します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アクション | 説明 |
| --- | --- |
| | ミニマップオプションは [設定] メニューで表示と非表示を切り替えることができます。 |
| ワードラップを有効にする | エディター領域でワードラップ機能を有効にします。<br><br>[ワードラップを有効にする] オプションは [設定] メニューで切り替えることができます。 |
| コマンドパレットを表示 | 一般的な操作に使用できるコマンドのリストを表示します。同じインタラクティブウィンドウを使用して、エディターコマンドの実行、テキストの検索と置換、コードブロックの折りたたみと展開、コメントの切り替えなど、多くのタスクを実行できます。<br><br>キーボードショートカット<br>• Windows：F1<br>• Mac：F1 |
| エディターを展開 またはエディターを折りたたむ | エディターの展開と折りたたみを切り替えます。<br><br>キーボードショートカット<br>• Windows：Control+M<br>• Mac：Control+M |

## デバッグ

スクリプトデバッガーを起動するには、ツールバーの [スクリプトデバッガー] アイコン をクリックします。

**注:**
デバッグが有効になっていて、言語が JavaScript である場合にのみ、ブレークポイント、条件付きブレークポイント、またはログポイントを追加できます。

| タスク | 操作 |
| --- | --- |
| ブレークポイントを追加 | ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[ブレークポイントを追加] を選択します。 |
| 条件付きブレークポイントを追加 | **1.** ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[条件付きブレークポイントを追加] を選択します。<br>**2.** エディターにブレーク条件を入力します。 |
| ログポイントを追加 | ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[ログポイントを追加] を選択します。 |
| 差分モードでテキストを比較 | 並列表示ビューアイコン とインラインビューアイコン を使用して、ビューを切り替えます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コードエディターマクロ

### for

- 説明：サンプルのアレイを使用して標準の for ループを挿入します。
- 出力：

```
for (var i=0; i< myArray.length; i++) {
 //myArray[i];

}
```

### method

- 説明：空の JavaScript 関数テンプレートを挿入します。
- 出力：

```
/*_____________________________________________________________
  * Description:
  * Parameters:
  * Returns:
  _____________________________________________________________*/
  : function() {

  },
```

### info

- 説明： *GlideSystem* 情報メッセージを挿入します。
- 出力：

```
gs.addInfoMessage(gs.getMessage(""));
```

### doc

- 説明：関数またはパラメーターを説明するためのコメントブロックを挿入します。
- 出力：

```
/**

* Description:

* Parameters:

* Returns:
*/
```

### vargror

- 説明：OR 条件で 2 つの値の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var gr = new GlideRecord('');

var qc = gr.addQuery('field', 'value1');
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
qc.addOrCondition('field', 'value2');
gr.query();

while (gr.next()) {



}
```

vargr

- 説明：単一の値に対する標準の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var gr = new GlideRecord("");
gr.addQuery("name", "value");
gr.query();
if (gr.next()) {

}
```

# アプリケーションのテストとデバッグ

アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。テストでは、レコード操作 (作成、読み取り、更新、削除など)、ユーザーインターフェイス要素 (ビューや UI ポリシーなど)、ランタイム操作 (ビジネスルールなど)、およびイベントスクリプトアクションを対象とする必要があります。

## コア **UI** のテストとデバッグ

### Automated Test Framework

自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。失敗したテストの結果を確認して、失敗の原因となった変更と、レビューする必要がある変更を特定します。

### スクリプトのデバッグ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

### スクリプトデバッガ および セッションログ

スクリプトデバッガ を使用して、script_debugger ロールを持つユーザーはサーバー側の JavaScript をデバッグできます。また、セッションログ を使用して、必要なログを表示およびダウンロードできます。

### スクリプトトレーサーとデバッグスクリプト

スクリプトトレーサーを使用して、デバッグ検索をフィルタリングし、スクリプトの問題をすばやく絞り込みます。広範囲に検索するのではなく、スクリプトの特定の行を見つけることで、時間を節約し、生産性を向上させることが可能です。

## 関連 **ServiceNow** アプリケーションと機能

### Test Management 2.0

ServiceNow® の Test Management 2.0 アプリケーションは、テストプロセスの管理を簡素化することで、エラーを少なく抑えながら効率よくソフトウェア製品を提供できるようにします。テストの複数のバージョンを作成して、Agile Development 2.0 と統合することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Impersonate a user

管理者は、テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。別のユーザーの代理操作を行う場合、管理者は、そのユーザーがシステム内でアクセスできるメニューやモジュールなどとまったく同じものにアクセスできます。

## ATF を使用したアプリのテスト

自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) では、変更を行った後にインスタンスが動作することを確認するための自動テストを作成して実行することができます。たとえば、アップグレード後、アプリケーション開発中、または更新セットを使用してインスタンス構成を展開する場合です。失敗したテストの結果を確認して、失敗の原因となった変更と、レビューする必要がある変更を特定します。

**注:**
デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは無効になっており、本番システムで誤って実行されないようになっています。データの破損や機能停止を避けるため、テストは、開発、テスト、およびその他の非本番インスタンスでのみ実行してください。詳細については、ATF の概要に関するこちらの動画をご覧ください。

開発者トレーニングについては、 の使用 自動テストフレームワーク (ATF) の ServiceNow 開発者サイト.

### 福利厚生

自動テストフレームワーク (ATF) は、変更マネージャーおよび開発者にこれらのメリットを提供します。

- 手動テストを自動テストに置き換えることで、アップグレードと開発時間を短縮します。
- テストを一度設計し、さまざまなコンテキストおよびさまざまなテストデータセットでそれらを再利用します。
- テストデータと各テスト実行後に行われた変更をロールバックすることで、テストインスタンスをクリーンに保ちます。
- テストスイートを作成して、テストをひとまとまりの数量に整理し、実行します。
- テストスイートの実行をスケジュールします。
- 技術者以外のテストデザイナーが標準 Now Platform 機能のテストを作成できるようにします。
- クイックスタートテストとテストスイートをコピーして、テスト設計時間を短縮します。
- テスト範囲を拡大するためのカスタムテストステップを作成します。

### 自動テストフレームワーク (ATF) レコードとコンポーネント

自動テストフレームワーク (ATF) は、これらのレコードとコンポーネントで構成されています。

### テスト

テストは、機能の何らかの機能性を検証する自動化された関連テストステップの論理的なグループです。各テストはテスト [sys_atf_test] テーブルのレコードです。テストデザイナーは通常、1 つの機能または関連機能のグループを検証するためのテストを作成します。たとえば、CSM：製品ケースの作成テストは、製品ケースレコードの作成を検証します。各テストには、テストステップとテスト結果の関連リストがあります。

### テストスイート

テストスイートは、特定の順序で実行されるテストの集まりです。テストデザイナーは通常、アプリケーションまたは関連機能のグループをテストするためのテストスイートを作成します。たとえ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ば、CSM：ケースマネジメントテストスイートは、Customer Service Management アプリケーションの機能を検証します。テスト設計者は、テストスイートの実行および必要なクライアントテストランナーの起動をスケジュールできます。

## クイックスタートテスト

クイックスタートテストとは、アプリケーションのデモデータと共にインストールされるテストやテストスイートのことです。クイックスタートテストをテンプレートとして使用して、独自のテストとテストスイートを構築します。詳細については、クイックスタートテストの概要に関するこちらの動画を参照してください。

## テストステップ

テストステップは、ステップを実行するために必要な実行時テストデータとステップ構成を組み合わせます。テストステップは常に、テストで実行される順序を指定します。テストステップには、ステップ結果の独自の関連リストがあります。各テストステップは、テストアクション、ステップ構成、および実行順序を指定するテストステップ [sys_atf_step] テーブル内のレコードです。テスト設計者は、機能を検証するテストにテストステップを追加します。たとえば、CSM：製品ケースの作成テストの最初のテストステップは、ケースマネジメントの権限が与えられているデモユーザー John Jason に偽装することです。

## ステップ構成

ステップ構成は、自動テストフレームワーク (ATF) が実行できる特定のテストアクションです。ステップ構成にはランタイムテストデータは含まれず、テスト設計者がそれらをテストステップの一部として追加するときにのみ実行できます。各ステップ構成は、ステップ構成の実行に使用される入力変数と他のステップ構成で使用可能な出力変数を指定するテストステップ設定 [sys_atf_step_config] テーブル内のレコードです。たとえば、偽装ステップ構成では、テストは別のユーザーに偽装できます。

自動テストフレームワーク (ATF) は、ほとんどのユースケースについてのステップ構成のデフォルトリストを提供し、テスト設計者が独自のカスタムステップ構成を作成できるようにします。

## ステップ変数

ステップ変数は、ステップ固有の入力と出力の値を保存します。たとえば、新しいフォームを開くステップ構成には、テーブルおよびフォームのビュー名を指定するための変数があります。ステップ変数を使用して、特定のテストステップターゲットを指定したり、他のテストステップに情報を渡したりします。

## テスト結果

テスト結果は、テストまたはテストスイートの実行の出力を保存します。各テスト結果は、テスト実行の期間、テストのステータス、および利用可能な場合はスクリーンショットを指定するテスト結果 [sys_atf_test_result] テーブル内のレコードです。テスト結果を使用して不合格のテストまたは実行されていないテストを識別し、テストログを使用してテスト結果に関する詳細を確認します。デフォルトでは、テスト結果を無期限に保持するオプションを有効にしない限り、システムは作成後 30 日でテストおよびテストスイートの結果を削除します。

## ステップ結果

ステップ結果は、テストステップの実行の出力を保存します。各ステップ結果は、テストステップのステータス、出力の要約、および、テストステップによって生成された出力の完全なログを指定する、ステップ結果 [sys_atf_test_result_step] テーブル内のレコードです。ステップ結果を使用して、レビューが必要な障害と機能を識別します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アサーションタイプ

[アサーションタイプ] フィールドは、テストに合格するために満たす必要がある条件を指定します。テスト設計者はアサーションを使用して、操作の結果が期待されるものか期待しないものかを指定できます。たとえば、レコードを更新できないことをテストしたいとします。この場合は、レコード挿入テストステップを追加し、[アサーションタイプ] フィールドを [レコードが挿入されませんでした] に設定します。レコードの挿入が失敗したときにテストに合格します。

[アサーションタイプ] フィールドがあるステップを含むいくつかのテストステップカテゴリには以下が含まれます。

- サーバーカテゴリ：どの CRUD 操作によってテストに合格または不合格になるかをアサートします。
- カスタム UI カテゴリ：どのコンポーネント状態によってテストに合格または不合格になるか、および可視テキストによってテストに合格または不合格になるかどうかをアサートします。
- サービスポータル のフォームカテゴリ：検証エラーのためにブラウザーでフォームがキャンセルされたのか、それともフォームがサーバーに正常に送信されたためテストに合格したのかをアサートします。

## クライアントテストランナー

クライアントテストランナーは、Now Platform ユーザーインターフェース内のクライアント側のテストステップを実行するブラウザータブです。クライアントテストランナーが機能するにはブラウザータブが必要です。テストを実行するときにクライアントテストランナーが利用できない場合、システムはユーザーがクライアントテストランナーを 1 つ開くように求めます。テスターは、手動でクライアントテストランナーを起動するか、または既存のクライアントテストランナーを選択することができます。テスト設計者は、テストスイートの実行をスケジュールするときにクライアントテストランナーの開始をスケジュールできます。

## ユーザーロール

自動テストフレームワーク (ATF) 権限を定義するロールを割り当てます。

| ロールタイトル [名前] | ロールの説明 |
|---|---|
| atf_test_admin | Automated Test Framework プロパティを作成または編集します。次の権限があります：<br>• テストページの表示<br>• テストの作成/編集/削除<br>• テスト ステップの作成/編集/削除<br>• ステップ設定ページの表示<br>• テスト ランナーページの表示<br>• テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示<br>• ユーザーテストの実行<br>• テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行<br>• ステップ設定レコードの作成/編集<br>• 自動テストフレームワーク (ATF) プロパティの作成/編集 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| ロールタイトル [名前] | ロールの説明 |
| --- | --- |
| atf_test_designer | 自動テストフレームワークのプロパティを表示するだけです (プロパティの作成および編集はできません)。次の権限があります：<br>• テストページの表示<br>• テストの作成/編集/削除<br>• テスト ステップの作成/編集/削除<br>• ステップ設定ページの表示<br>• テスト ランナーページの表示<br>• テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示<br>• ユーザーテストの実行<br>• テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行<br>• 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティの表示 |
| atf_ws_designer | 認証を必要とする REST エンドポイントに必要な基本認証プロファイルを表示または設定します。詳細については、「REST カテゴリ」を参照してください。 |

ATF は、UI ビルダーで構築されたフォームコンポーネントをサポートするようになりました。詳細については、「フォームカテゴリ」を参照してください。ATF は Next Experience の次の要素をサポートしていませんが、将来のリリースでこれらの機能のサポートが予定されています。

- UI ビルダー で構築されたページ (リストとフォームコンポーネントを含むページを含む)。
- ランディングページ

**注:**
ATF は、クラシック環境 (クラシックリストやフォームなど) を含む コア UI を引き続きサポートします。

## Automated Test Framework を使い始める

自動テストフレームワーク (ATF) にまだ慣れていない場合は、この概要を読んで、このフレームワークが何を実行できるかを理解してください。次に、チュートリアルにしたがって、最も基本的なATF機能を使用するテストを作成して実行します。基本に慣れたら、ATFが提供するより高度な機能を試してみます。

ATF 機能は、インスタンスのテスト方法に柔軟性をもたらします。

### テストステップ構成カテゴリ

| カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| サービスポータルのサービスカタログ | サービスポータル でカタログアイテムのエンドツーエンドテストを実行します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| | • レコードプロデューサ、カタログアイテム、または注文ガイドを開きます。<br>• 変数の値とカタログアイテムの数量を設定します。<br>• 注文ガイドに含まれている変数値、状態、価格、およびアイテムを検証します。<br>• 注文ガイドで移動します。<br>• 注文ガイドでカタログアイテムを開くか、または切り替えます。<br>• アイテムまたは注文ガイドを買い物かごに追加します。<br>• カタログアイテムまたは注文ガイドを注文します。<br>• レコードプロデューサを送信します。 |
| Application Navigator | ナビゲーション機能を確認するためのテストを作成します。<br>• アプリケーションメニューが左側のナビゲーションバーに表示されていることを確認します。<br>• アプリケーションモジュールが左側のナビゲーションバーに表示されていることを確認します。<br>• ユーザーが左側のナビゲーションバーでモジュールをクリックしたかのように、モジュールに移動します。 |
| カスタム UI | スクリプティングなしでユーザーアクションを模倣する単純なテストを作成します。<br>• コンポーネント値を設定します。<br>• 指定されたテキストがページ上にあるか、またはないかをアサートします。<br>• コンポーネント値を検証します。<br>• コンポーネントをクリックします。<br>• コンポーネントの状態を検証します (読み取り専用または非読み取り専用)。 |
| フォーム | フォームのテストを作成します。<br>• 新しいフォームまたは既存のレコードを開きます。<br>• フィールド値を設定します。<br>• フィールド値またはフィールド状態 (必須、任意、読み取り専用、非読み取り専用、表示、非表示など) を検証します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| | • UI アクションが表示されているかどうかを検証します。<br>• モーダルページのボタンをクリックします。<br>• UI アクションをクリックします。<br>• フォームを送信します。 |
| サービスカタログ | カタログアイテムのエンドツーエンドテストを実行します。<br>• カタログアイテムまたはレコードプロデューサのオープン<br>• カタログアイテムの検索<br>• 変数の値とカタログアイテムの数量を設定します。<br>• 変数値、状態、および価格を検証します。<br>• 買い物かごにアイテムを追加します。<br>• カタログアイテムを注文します。<br>• レコードプロデューサを送信します。 |
| Service Portal のフォーム | サービスポータル でフォームのテストを作成します。<br>• フォームを開きます。<br>• フィールド値を設定します。<br>• フィールド値またはフィールド状態 (必須、任意、読み取り専用、非読み取り専用、表示、非表示など) を検証します。<br>• UI アクションが表示されているかどうかを検証します。<br>• UI アクションをクリックします。<br>• フォームを送信します。 |
| REST | インバウンド REST 要求を作成して送信し、対応を検証します。<br>• インスタンス上の REST エンドポイントのテスト<br>• 以前のテストステップで作成されたレコードまたはインスタンスに既に存在したレコードの検索、更新、または削除だけでなく、REST 要求を使用してレコードを作成します。<br>• 応答ステータスコード、応答ヘッダー、応答時間、および応答ペイロードの検証 |
| サーバー | 以下を含む、より複雑な操作を実行します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| | • Jasmine テストフレームワークを使用したテストを含め、JavaScript を使用して単体テストの実行<br>• ビジネスルール、スクリプトインクルード、その他のスクリプトのテスト<br>• 定義したデータを操作するテストの作成 |

### 出力変数

多くのテスト ステップでは出力変数が戻るので、その値を後のステップへの入力として使用できます。たとえば、出力変数を使用すると、次のタスクを実行できます。

- 以前に挿入したレコードに対するサーバー側の確認を実行します。
- あるユーザーとしてレコードを作成した後、別のユーザーとしてのそのフォームを再オープンします。

### カスタムテストステップ構成

自動テストフレームワーク (ATF) に組み込まれたステップに加えて、カスタムのテストステップ構成を作成できます。これらのカスタム ステップでは、入力変数を取込み、定義した出力変数を返せます。

**注:**
サーバー上で実行されるカスタムテスト ステップのみを定義できます。自動テストフレームワーク (ATF) は、ブラウザーで実行されるカスタムステップ構成の作成をサポートしていません。

### データ保存

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストの実行によって作成されたすべてのデータを自動的に追跡して削除し、テスト後に自動的に変更をロールバックします。

### テストスイート

テストスイートを使用すると、指定した順序で一連のテストを実行できます。さらに、テストスイートは階層化することができ、スイートは他のスイートにネストします。テストスイートを実行するタイミングを決定するスケジュールに、テストスイートを関連付けることができます。

#### 最初の自動テストを構築して実行する

これらのステップバイステップの手順に従って、最初の自動テストを作成し実行します。このテストでは、新しいユーザーレコードが作成されます。

#### 始める前に

- 自動テストフレームワーク (ATF) (com.glide.automated_testing_framework) プラグインを有効にする必要があります。これは、zBoot またはアップグレードではデフォルトでアクティブ化されます。
- 必要であれば、テスト実行を有効にします。手順については、「自動テストフレームワーク (ATF) テストの実行を有効または無効にする」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

- 必要なロール：admin

### テストの新規作成

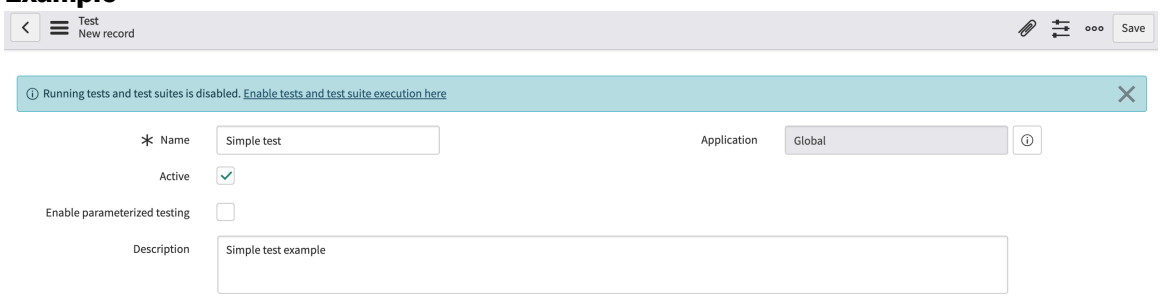
新しい自動テスト レコードを作成します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. [新規] をクリックします。
3. 新しいレコードテストフォームで、[名] フィールドにテストの名前を入力します。
   システムは、(テストモジュールの下など) テストのリストを表示する場合はいつでも、この名前でこのテストを識別します。

**Example**




4. 説明フィールドの中に、テストの説明を入力します。
5. [保存] をクリックします。

#### タスクの結果
新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。新しい自動テストの作成の詳細については、「自動化された新しいテストの作成」を参照してください。

### 新しいテストに最初のステップを追加

最初の3つのステップを自動テストに追加します。

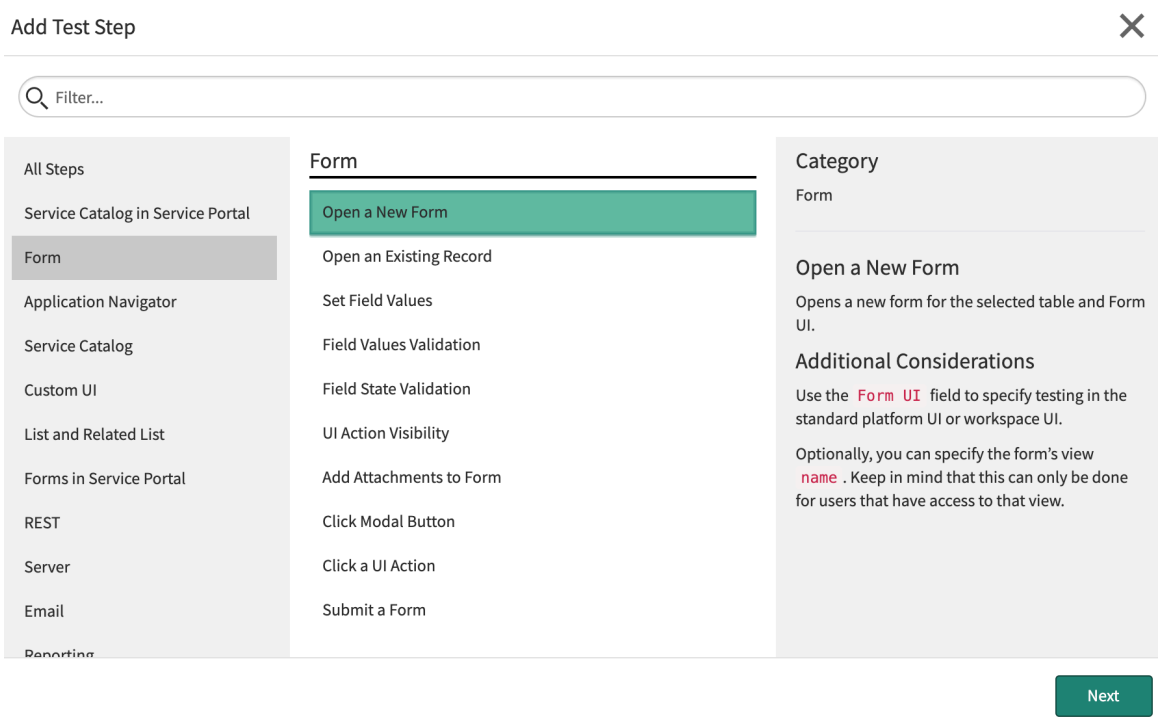
#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
3. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
4. 中央の列で、ステップ タイプ 新しい フォームを開く の行をクリックし、 次へ を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

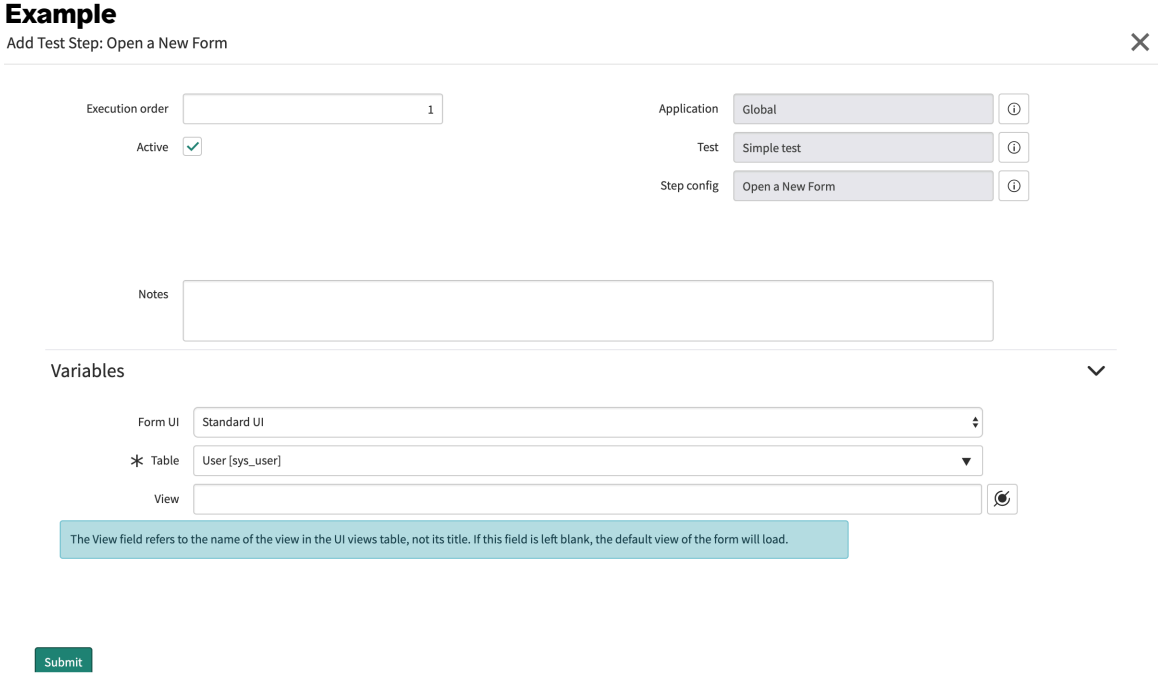
**Example**




システムは、新しいフォームを開くステップのための テスト ステップを追加するフォームを表示します。

5. [ テーブル ] フィールドから ユーザー **[sys_user]** テーブルを選択し、[ 送信] をクリックします。

**Example**




新しいステップが作成され、テスト レコードに戻ります。

6. [更新] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

次のタスク
自動テストフレームワーク (ATF)についてどのように学習を継続するかについてのいくつかのアイデアについては、自動テストフレームワーク (ATF) での次のステップを参照してください。

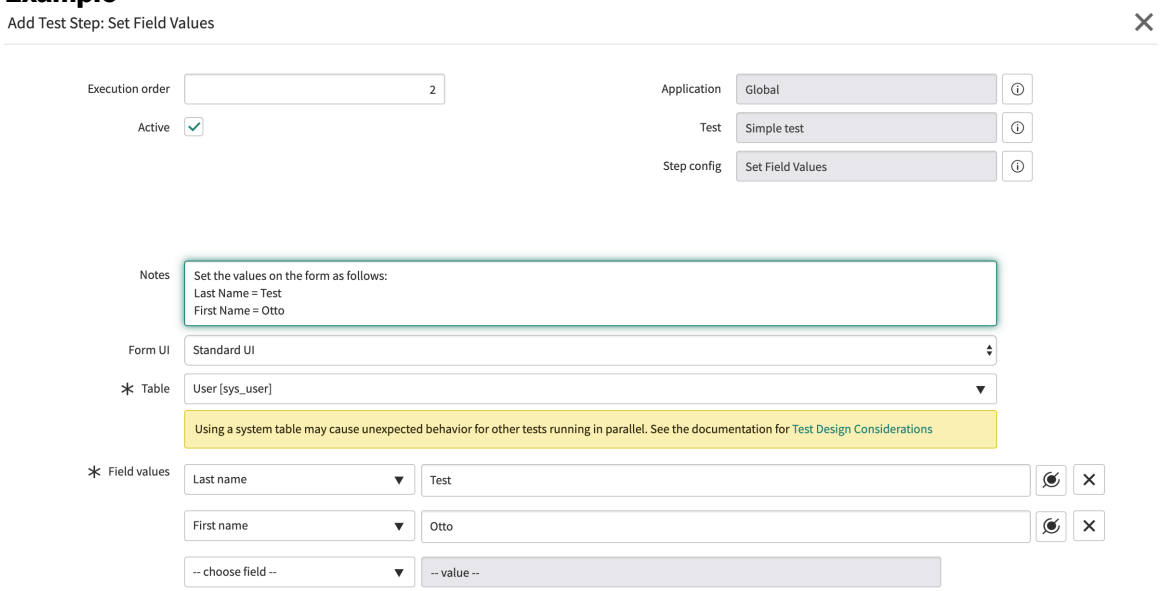
## 自動テストに 2 番目のステップを追加する

3つのステップのうちの2つ目を自動テストに追加します。

### 手順

1. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
2. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
3. 中央の列で、フィールド値の設定をクリックし、そして次をクリックします。
   システムは、テスト ステップを追加するフォームで値を設定するステップを表示します。
4. フィールド値セクションで、苗字にテストそしてファーストネームにオットー (または任意の他の名前)を設定します。

**Example**




5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
新しいステップが作成され、テスト レコードに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

## テストに 3 番目のステップを追加する

３つの内最後のステップを自動テストに追加します。

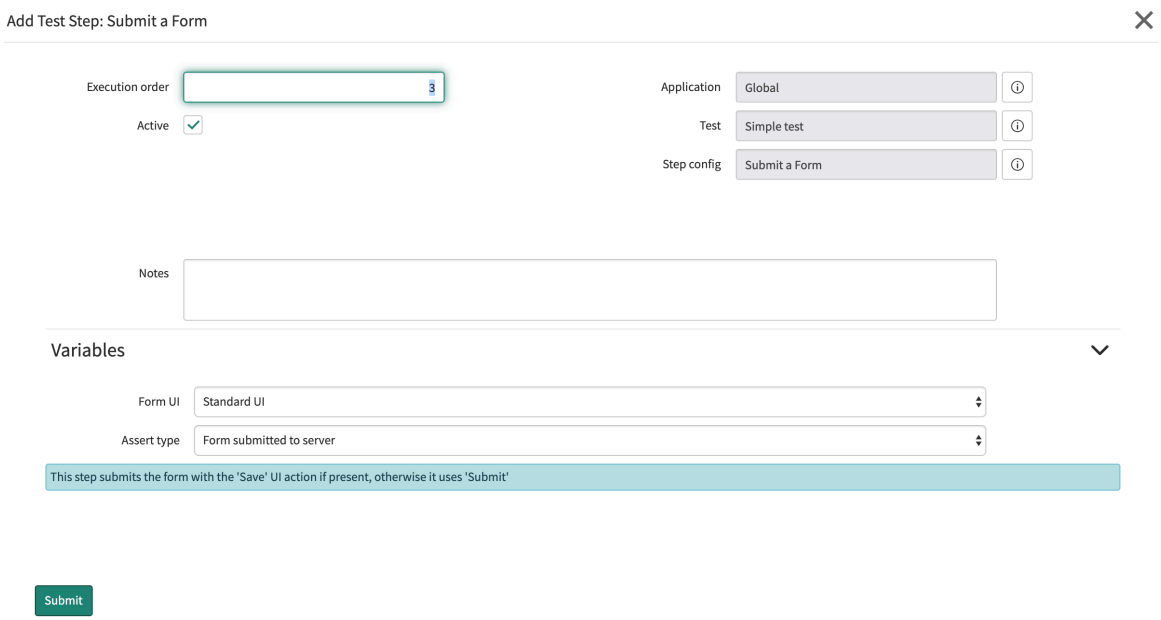
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

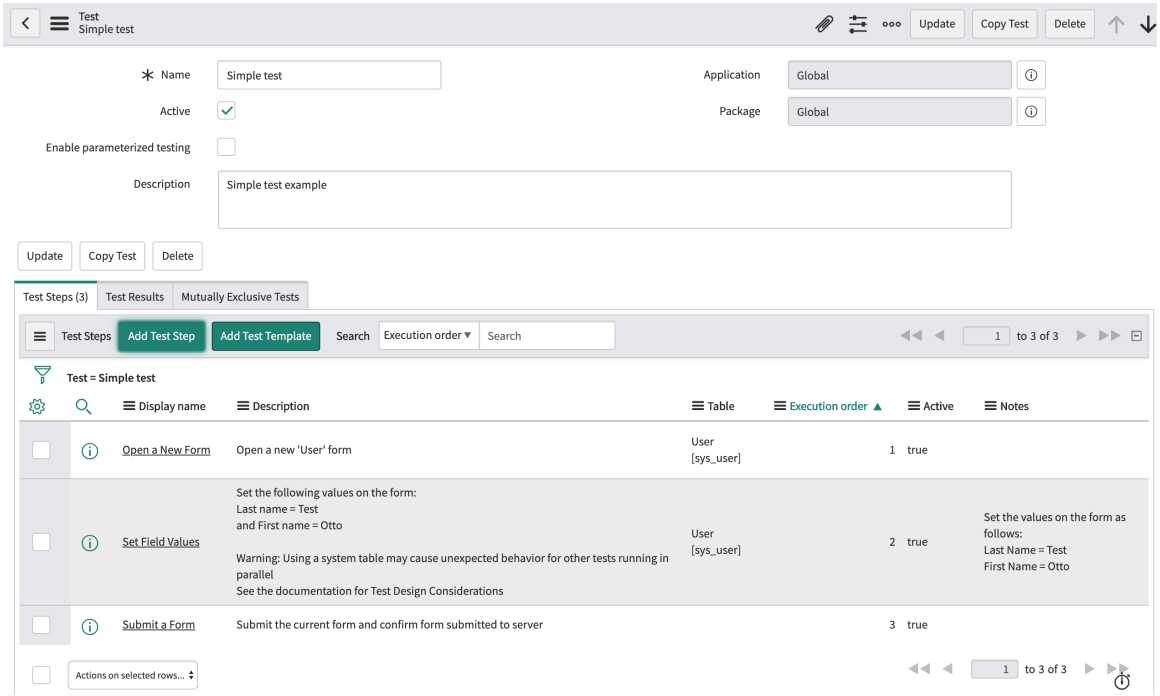
1. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
2. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
3. 中央の列で、[フォームを送信] をクリックして、[次へ] をクリックします。
   システムは、フォームを提出するステップのためのテスト ステップを追加するフォームを表示します。
4. すべての値をデフォルトで設定されたままにしておき、提出するをクリックします。

**Example**




新しいステップが作成され、テスト レコードに戻ります。テスト レコードに、今追加した３つのステップが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**5.** [更新] をクリックします。

### タスクの結果

システムはテストのリストに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

## テストを実行

テストステップを追加した後、実行し、自動テストの進行状況を監視します。

### 手順

**1.** 必要に応じてテストリストを表示するには、[テスト] をクリックします。

**2.** 作成したテストが含まれている行をクリックします。
システムは、[テスト] フォームを表示します。

**3.** [テストを実行] をクリックします。
このテストにはフォームステップ (UI関連のステップ) が含まれているため、現在実行中のテスト クライアントの中から選択するか、新しいテスト ランナーを開始するかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。続行するには、新しいテスト ランナーを開始するを選択し、そしてテストを実行する をクリックします。

### タスクの結果

実行テスト進行ダイアログが表示されます。自動テストの実行の詳細については、自動テストを実行するを参照してください。

## テストの進捗状況を監視し、テスト結果を見る

自動テストの進行状況を監視し、テスト結果をみます。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin または admin

### このタスクについて

必要に応じて、テストの実行中でも テストをキャンセルできます。詳細については、「自動テストとテストスイートのキャンセル」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. テスト実行状況ダイアログでテストの進行を監視します。

   注:
   テストがデータを生成すると、システムはテストの全てのステップの後でそのデータを元に戻す。

2. 完了すると、実行テスト進行ダイアログで 結果に進むをクリックし、試験結果リストを表示し結果を表示して分析できます。

### 自動テストフレームワーク (ATF) での次のステップ

簡単なテストの作成と実行に慣れたら、自動テストフレームワーク (ATF) のより高度な機能を試してみてください。

### テストスイートと共にバッチテスト

一般的に一連のテストを一緒に実行する場合は、テストスイートを使用してテストをグループ化できます。テストスイートについては、自動テストスイートの構築と実行を参照してください。

### 1つのテスト ステップから別のテスト ステップに入力変数と出力変数を使用してデータを渡す

あるテスト ステップから別のテスト ステップにデータを渡すには、入力変数そして出力変数を用います。詳細については、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す」を参照してください。

### 共通のシーケンスのステップをテンプレートで再利用

同じ手順をテストに頻繁に追加する場合は、テンプレートを作成して時間を節約します。テンプレートの詳細については、 自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

### Domain Separation と Automated Test Framework

ドメイン分離は 自動テストフレームワーク (ATF) でサポートされています。 ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

### サポートレベル：標準*

サポートレベルは標準ですが、いくつかの例外または特別な条件があります。

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスオーナーは、MVP (minimum viable product) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。この構成は、特定のアプリケーションで前提とされているように、テナントごとに行います。

サンプルユースケース：管理者は、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ATF のユースケース

Automated Test Framework の設計とランタイムアクセスは、インスタンスの所有者がドメイン固有のプロセスを検証するためのものです。顧客のためにテストを設計することで、テナントごとの結果を確認します。

### テスト

ATF のテストステップ中に Domain Separation をテストする場合は、最初にドメインを設定する必要があります。各 ATF テストステップが設定中のドメインに依存する場合、これはその最初の代理操作ステップの一部になります。Domain Separation の推奨プラクティスの詳細については、「サービスプロバイダー向けの Domain Separation の推奨プラクティス」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメイン分離

## 自動テストフレームワーク (ATF) のヘッドレスブラウザー

Rome リリースで、ServiceNow® は、Automated Test Framework (ATF) ユーザーインターフェイス (UI) テストを処理するブラウザーの作成を自動化することで、UI テストを改善しました。この機能はヘッドレスブラウザーと呼ばれ、ローカルブラウザーで UI テストを処理するクライアントテストランナーのためにブラウザーを手動で開かなくても、UI 機能をテストできます。

### バックグラウンド

ServiceNow の顧客は、自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を使用してアプリケーションとインスタンスをテストします。ServiceNow プラットフォームで開発する場合、ATF は変更がユーザーの予想どおりに動作し、既存の機能を損なわないようにします。

ServiceNow Orlando リリース以降、顧客はアプリケーションのテストと展開を自動化するために、継続的統合/継続的デリバリ (CI/CD) API を使用できるようになっています。

### 概要

ServiceNow の ATF 用ヘッドレスブラウザーによって提供される自動化では、テスト中にブラウザーを手動で開く手順がスキップされます。1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。Linux と Windows の両方のセットアップ手順を以下に示します。

#### Linux® 用のヘッドレスブラウザーのセットアップ

ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーによって自動化が提供されて、テスト中にブラウザーを手動で開く手順がスキップされます。ヘッドレス ブラウザーのセットアップは、Linux と Microsoft Windows の両方で使用できます。このトピックでは、Linux のセットアップについて説明します。

1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。

### 必須条件

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

- Docker アプリケーションをインストールします。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.8 をインストールします (keytool ユーティリティに必要)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> バージョンは Java 1.8 である必要があります。そうでない場合、keytool ユーティリティで作成された証明書を検証しようとすると ServiceNow インスタンスでエラーが発生します。詳細については、「Java KeyStore keytool を使用して暗号化キーを作成する」を参照してください。

- OpenSSL をインストールします。
- 双方向通信
  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。アドレスまたはホスト名が ServiceNow インスタンスで表示されることを確認します。

> **注:**
> ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

- ポート：この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。このポートのファイアウォールルールで、ServiceNow インスタンスと Linux ホスト自体の両方からの受信要求が許可されていることを確認してください。

## Linux 用のヘッドレスブラウザーの設定手順

Linux 用のヘッドレスブラウザーを設定するには、次の 6 つの手順 (および検証) に従います。

### Linux 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成

TLS/SSL 証明書を生成して Docker REST API を保護し、HTTP 要求を認証します。

始める前に
「Linux 用のヘッドレスブラウザーのセットアップ」トピックに記載されている前提条件を満たしてください。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

このタスクについて

> **警告:**
> 信頼できる認証局から認証局キーを取得します。

デフォルトでは、Docker API を公開すると要求が認証されないため、ホストマシンが攻撃に対して脆弱になる可能性があります。ただし、Docker API は、HTTPS 暗号化で提供される公開鍵と秘密鍵に対して要求が検証される TLS 認証をサポートしています。この手順では、サーバーとクライアントに対して鍵を作成します。

> **ヒント:**
> これらを覚えやすくするには、Linux ターミナルで次のコマンドを入力します。注意：これらの環境変数をターミナルのプロファイルに追加しないでください。セキュリティ上の理由から、それらは現在のセッション中にのみ存在する必要があります。
>
> - `export PASSWORD="<証明書を生成するためのパスワード>"`
> - `export SERVERIP="<このサーバーの IP アドレス>"`
> - `export HOSTNAME="<このサーバーのホスト名>"`

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

手順

1. コマンドラインを開きます。
2. 自己署名認証局のキーを生成するか、信頼できる認証局からキーペアを取得します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -aes256 -passout pass:$PASSWORD -out ca-key.pem 4096`
   - `openssl req -passin pass:$PASSWORD -new -x509 -days 365 -key ca-key.pem -sha256 -out ca.pem`
   - `chmod 0400 ca-key.pem`
   - `chmod 0444 ca.pem`
3. 認証局キーを使用してサーバーのキーペアを生成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -out server-key.pem 4096`
   - `openssl req -subj "/CN=$HOSTNAME" -new -key server-key.pem -out server.csr`
   - `echo "subjectAltName = DNS:$HOSTNAME,IP:$SERVERIP,IP:127.0.0.1" > extfile.cnf`
   - `openssl x509 -passin pass:$PASSWORD -req -days 365 -in server.csr -CA ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out server-cert.pem -extfile extfile.cnf`
4. 認証局キーを使用してクライアントのキーペアを作成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -out client-key.pem 4096`
   - `openssl req -subj "/CN=$HOSTNAME" -new -key client-key.pem -out client.csr`
   - `echo "extendedKeyUsage = clientAuth" > extfile.cnf`
   - `openssl x509 -passin pass:$PASSWORD -req -days 365 -in client.csr -CA ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out client-cert.pem -extfile extfile.cnf`

   これで、すべての暗号化キーが作成されました。
5. CA 公開鍵とクライアントのキーペアを Java キーストアにインポートします。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

   キーストアファイルを作成し、そのパスワードを作成します (後で使用するために保存します)：`keytool -genkey -keyalg RSA -alias dse -keystore my.keystore`

   キーストアファイルからデフォルトのエントリを削除します：`keytool -delete -alias dse -keystore my.keystore`

   CA 公開鍵をキーストアにインポートします：`keytool -import -keystore my.keystore -trustcacerts -alias ca -file ca.pem`

   クライアントのキーペアをインポートします。

   **注:**
   新しい pkcs12 キーストアファイルを作成し、そのファイルにキーペアをインポートします。次に、その内容を元のキーストアファイルにコピーします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- openssl pkcs12 -export -name clientkeypair -in client-cert.pem -inkey client-key.pem -out clientkeypair.p12
- keytool -importkeystore -destkeystore my.keystore -srckeystore clientkeypair.p12 -srcstoretype pkcs12 -alias clientkeypair

これで、すべての証明書をキーストアファイルに追加したので、後で ServiceNow インスタンスにアップロードするためにファイル **my.keystore** を保存します。また、キーストアファイルの作成を要求されたときに入力したパスワードを覚えておいてください。ServiceNow インスタンスのフォームに、そのパスワードを入力する必要があります。

### Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker を構成する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 2：すべての要求を認証するように Docker サーバーを構成します。

始める前に
ステップ 1：Linux 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成 を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

このタスクでは、ステップ 1 の指示に従ってクライアントキーとサーバーキーを作成した後、これらのキーを使用してすべての要求を認証し、ポート 2376 で Docker API を公開するように、Docker サーバーを構成します。

手順

1. ステップ 1 で生成した証明書を使用するように Docker を構成します。
   a. /etc/docker/daemon.json ファイルを検索または作成します。次を実行できます：touch /etc/docker/daemon.json
   b. daemon.json ファイルを編集し、次の JSON 値を追加します。自分の証明書への正しいパスに置き換えてください。

```
{
"debug": true,
"tlscacert": "<path to your certificates>/ca.pem",
"tlscert": "<path to your certificates>/server-cert.pem",
"tlskey": "<path to your certificates>/server-key.pem",
"tlsverify": true
}
```

   詳細については、「Docker デーモンの構成 (Configure the Docker daemon)」を参照してください。
2. ポートでリモート API を公開するように Docker を構成します (ポート 2376 を推奨)。
   最新バージョンの RedHat、CentOS、Ubuntu、SLE などの **systemd** を使用する Linux ディストリビューションでは、docker.service systemd ユニットファイルを使用してリモート接続を受け入れるように Docker を構成できます。また、daemon.json ファイルを使用してリモート接続を受け入れるようにも構成できますが、これは systemd を使用しない Linux ディストリビューションで推奨されます。

   **systemd (systemctl)** を使用する場合：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. sudo systemctl edit docker.service コマンドを使用して、docker.service の上書きファイルをテキストエディターで開きます。

b. 次の行を追加または変更します。ポート 2376 を使用していない場合は、自分のポートで置き換えます。

```
[Service]
ExecStart=
ExecStart=/usr/bin/dockerd -H tcp://0.0.0.0:2376
```

c. ファイルを保存します。

d. systemctl 構成を再ロードします。

```
sudo systemctl daemon-reload
```

e. Docker を再起動します。

```
sudo systemctl restart docker.service
```

3. 現在のユーザーがコマンドラインで Docker にアクセスできるようにするには、ユーザーの Docker ホームディレクトリに証明書をコピーします。
   - mkdir -pv ~/.docker
   - cp ca.pem ~/.docker
   - cp client-key.pem ~/.docker/key.pem
   - cp client-cert.pem ~/.docker/cert.pem
4. ユーザーの DOCKER_HOST および DOCKER_TLS_VERIFY 環境変数を設定します。
   - echo "export DOCKER_HOST=tcp://${SERVERIP}:2376 DOCKER_TLS_VERIFY=1" >> ~/.bash_profile
   - source ~/.bash_profile

   詳細については、「非ルートユーザーとして Docker を管理 (Manage Docker as a non-root user)」を参照してください。

### Linux でのヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成

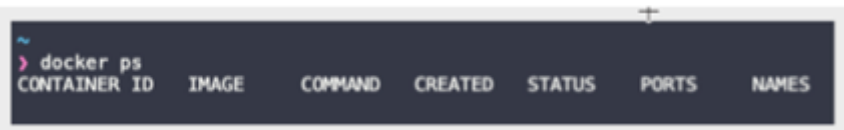
公開レジストリから Docker イメージをプルします。

始める前に
ステップ 2：Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

手順

1. コマンドラインで docker ps を実行して、Docker が機能していることを確認します。
   結果は次のようになります。




2. GitHub リポジトリの ATF ヘッドレスランナーから、最新の Docker イメージをプルします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのイメージは変更される可能性があるため、このコマンドは一例です。
docker pull ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:lin-1.0.0

> **注:**
> インスタンスとイメージの互換性により、Docker イメージ内の自動化スクリプトはインスタンスコードと互換性があることになります。ユーザーインターフェイスなどの要素は、時間の経過とともに、新しい機能やアップグレードをサポートするために変更される可能性があります。

### Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する

テストを実行するためにインスタンスにログインするユーザーのパスワード ServiceNow を格納する Docker シークレットを作成します。Docker シークレットは、コンテナで使用されるパスワードを安全に保存するための機能 ServiceNow® です。

#### 始める前に
ステップ 3：Linux でのヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成を完了します。

#### このタスクについて
Docker コンテナの内部には、Web ブラウザーを開き、インスタンスにログインして、[クライアントテストランナー] ページを開く自動化スクリプトがあります。ServiceNow インスタンスにログインするには、ユーザーパスワードが必要です。この手順では、パスワードを安全に保存できるように、 **Docker** シークレットと呼ばれる **Docker** 機能を使用します。コンテナを実行すると、パスワードを使用して自動的にインスタンスにログインできるようになります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

#### 手順
1. コマンドラインで、「`docker swarm init`」と入力します
2. 「`echo "<your user's password>" | docker secret create sn_password -`」と入力します。

> **注:**
> `<your user's password>` をそのユーザーの ServiceNow パスワードで置き換えます。

結果は次のようになります。

```
[$
[$ echo "<your user's password>" | docker secret create sn_password -
uumlhjvx8ej65gweh6xjywxl2
$
```

#### タスクの結果
結果はシークレット ID であり、後で使用するために保存する必要があります。シークレット ID は、**sys_property** `sn_atf.headless.secret_id` のインスタンスに追加されます。ServiceNow

### Linux でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 5： ヘッドレスブラウザーをサポートできるようにインスタンスを設定します。

#### 始める前に
ステップ 5：Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加するを完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクでは、インスタンスを設定し、ホストマシンと正常に通信して認証されるようにします。

手順

1. ユーザーを作成します。
   a. 移動先 ユーザー管理 > ユーザー をクリックし、[ 新規] を選択します。
   b. ユーザーを作成します。ユーザー ID (任意の ID) とユーザー名、パスワードを指定します。パスワードは、Docker シークレットコンテナ用に作成したものと同じにする必要があります。
   c. このユーザーに **atf_test_designer** ロールを追加します(詳細については、「ATF を使用したアプリのテスト」トピックの「ユーザーロール」セクションを参照してください)。
2. 証明書を作成します。
   a. 移動先 システム定義 > 証明書 をクリックして、sys_証明書テーブルを開きます。新しい証明書を作成します (任意の名前を指定できます)。
      - [タイプ]：Java キーストア
      - [パスワード]：ステップ 1 (Linux 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成) で作成したキーストアのパスワード。
   b. [添付] (ペーパー クリップ) アイコンを選択して、以前に保存したキーストアファイルをこのレコードに添付します。
   c. [送信] を選択します。
   d. [証明書を検証 **(Validate certificate)**] をクリックし、成功メッセージが表示されることを確認します。
3. プロトコルプロファイルを作成します。
   a. 移動先 システムセキュリティ > プロトコルプロファイル をクリックして **sys_protocol_profile** テーブルを開きます。新しいプロトコルプロファイルレコードを作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| プロトコル | 1 単語 (小文字)：「docker」 |
| デフォルトポート | 2376 (または使用するために選択したポート) |
| キーストア | Docker ホストのキーストア |

   b. [送信] を選択します。
4. Docker スポーク接続を作成します。
   a. 移動先 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス をクリックして **sys_alias** テーブルを開きます。
   b. **Docker** という名前のエイリアスを選択します。
   c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。
   d. フィールドに入力します。
      - [名前]：任意のテキスト
      - [資格情報フィールド]：空白のまま
   e. **[URL** ビルダー **(URL Builder)]** チェックボックスをオンにします。
   f. [相互認証] チェックボックスをオンにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. [プロトコルプロファイル] フィールドで、以前に作成したプロトコルプロファイルを選択します。

h. [ホスト] フィールドに、サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

i. [送信] を選択します。
接続 URL がシステムによって自動的に作成されます。

5. プロパティを変更します。

> **警告:**
> デフォルトでは、*com.glide.communications.trustmanager_trust_all* プロパティは **false** に設定されています。Now Platform は、JVM 証明書ストアに対して検証できる証明書のみを信頼します。自己署名証明書およびエンタープライズ署名証明書は信頼されません。詳細については、「証明書の信頼 (インスタンスセキュリティ強化)」トピックを参照してください。

> **注:**
> これは、自己署名証明書を使用する場合にのみ必要です。詳細については、「Linux 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成」を参照してください。

- com.glide.communications.httpclient.verify_hostname：false
- com.glide.communications.trustmanager_trust_all：true

### Linux でヘッドレスブラウザーの ATF を構成する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 6：プロパティを使用して ATF を構成します。

#### 始める前に

ステップ 5：Linux でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

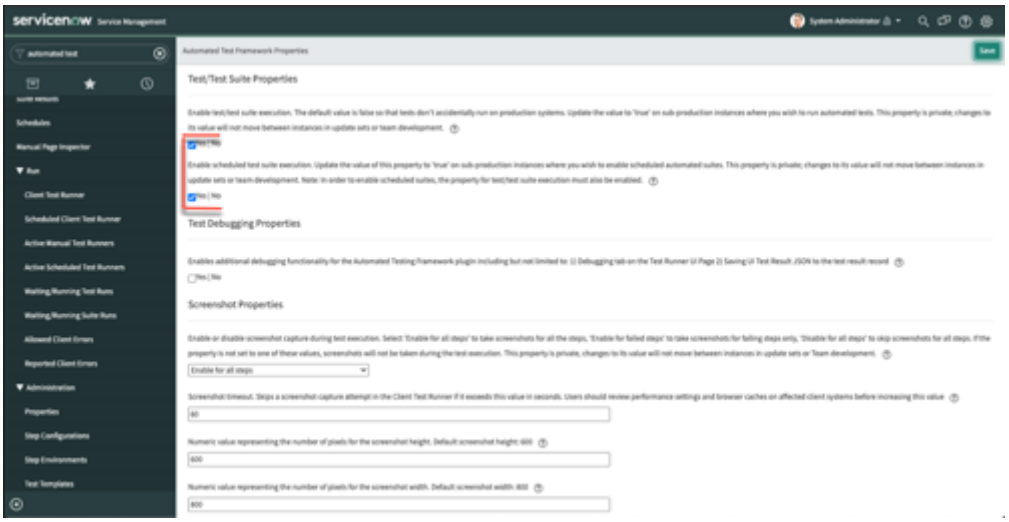
接続と認証を設定したので、このタスクでは、いくつかのプロパティを使用して ATF を構成し、ホストマシンでコンテナを正常に起動できるようにします。

#### 手順

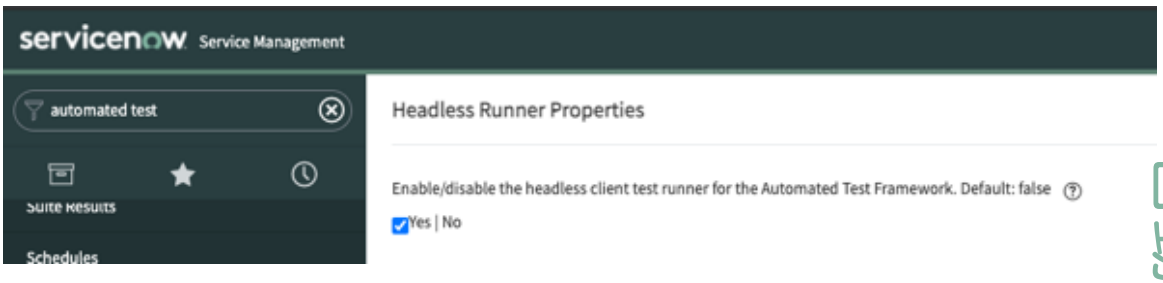
1. インスタンスで、次の場所に移動します。 **ATF** > 管理 > プロパティ.
2. 上の 2 つのプロパティ、[テストまたはテストスイートの実行を有効にします] と [スケジュール設定されたテストスイートの実行を有効化します] を有効にします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [ヘッドレスランナーのプロパティ] セクションまで下にスクロールします。
4. 上にあるチェックボックスをオンにします。




5. [ヘッドレスランナーのプロパティ] フォームに次の値を入力します。

| フォームラベル | プロパティ名 | 入力する値 |
|---|---|---|
| ヘッドレスクライアントテストランナーからログインしてテストを開始するために使用されるユーザーアカウント | sn_atf.headless.username | Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する で作成した統合ユーザーのユーザー名 |
| ユーザーアカウントのパスワードが格納されている Docker シークレット ID | sn_atf.headless.secret_id | 以前に取得した Docker の「シークレット ID」と、Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する の手順のステップ 2 で作成した Docker シークレット名。 |
| ヘッドレスクライアントテストランナーに使用される Docker イメージ。 | sn_atf.headless.docker_image_name | ダウンロードしたタグ付きのイメージ名：ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:<tagname> |

**注:**
シークレット ID を忘れた場合は、Docker ホストに移動してコマンド `docker secret list` を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 残りのフィールドはそのままにします。
7. [保存] を選択します。

### Linux でのヘッドレスブラウザーの手順の検証

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 7 (最後のステップ)： ヘッドレスブラウザーのセットアップ手順が正常に終了したことを確認します。

始める前に
必要なロール：admin

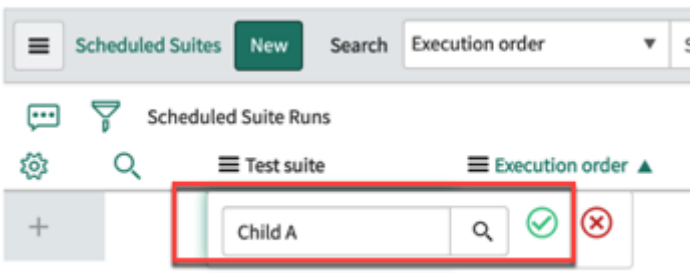
ステップ 6：Linux でヘッドレスブラウザーの ATF を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

このタスクでは、ヘッドレスブラウザーのセットアップ手順のステップ 1 ～ 6 が正常に終了したことを確認します。

手順

1. **[ATF** のスケジュール **(ATF Schedules)]** に移動し、 [スイートスケジュール] リンクの横にある [新規] を選択します。
2. [実行] ボックスで、[オンデマンド]を選択します。
3. [保存] を選択します。
4. [スケジュール済みスイート] 関連リストで、**[+]** 記号をダブルクリックしてテストスイートの新しいレコードを追加し、使用するブラウザー名 (**[Chrome]** または **[Firefox]**) を選択します。
   実行する適切な例として、**[Child A]** を使用します。




5. OS 名を Linux に設定します。
6. [今すぐ実行] を選択します。
7. テストに合格したことを検証します。
   検証に成功すると、スケジュール済みスイートまたは CICD 経由で UI テストが実行されるスイートでは、[スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページを手動で開かなくても、自動的にヘッドレステストランナーが作成されるようになりました。

### Microsoft Windows® 用のヘッドレスブラウザのセットアップ

ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) 用ヘッドレスブラウザによる自動化によって、テスト中にブラウザを手動で開く必要がなくなります。ヘッドレス ブラウザのセットアップは、Linux と Microsoft Windows の両方で使用できます。このトピックでは、Windows のセットアップについて説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。Microsoft Windows のセットアップ手順を以下に示します。

### 必須条件

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

**⚠ 警告:**
ホストとして Microsoft Windows がサポートするバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

- Windows サーバーに次のプログラムがインストールされていることを確認します。
  - Docker：Microsoft Windows のヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker をインストールする
  - Java keytool：javaruntime 用の Chocolatey ツール
  - OpenSSL：openssl 用の Chocolatey ツール
- 双方向通信
  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。アドレスまたはホスト名が ServiceNow インスタンスで表示されることを確認します。

    **ℹ 注:**
    ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

- ポート：この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。このポートのファイアウォールルールで、受信要求が許可されていることを確認してください。このポートのファイアウォールルールで、ServiceNow インスタンスと Windows ホスト自体の両方からの受信要求が許可されていることを確認してください。
- 詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

## Windows 用のヘッドレスブラウザの設定手順

Windows 用のヘッドレスブラウザを設定するには、次の 7 つの手順 (および検証) に従います。

### Microsoft Windows のヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker をインストールする

ServiceNow の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーを Windows 用にセットアップするステップ 1：Docker をインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 「Microsoft Windows 用のヘッドレスブラウザのセットアップ」トピックの「前提条件」を参照してください。

- ヒント:
  これらを覚えやすくするには、次の環境変数を設定します。
  - set PASSWORD=<password>
  - set SERVERIP=<server ip>
  - set HOSTNAME=<hostname>

⚠ 警告:
ホストとして Microsoft Windows がサポートするバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

手順

1. 昇格された PowerShell セッションを開き、PowerShell ギャラリーから Docker-Microsoft PackageManagement プロバイダーをインストールします。
   PowerShell

   ```
   Install-Module -Name DockerMsftProvider -Repository PSGallery -Force
   ```

   NuGet プロバイダーのインストールを求められた場合は、「Y」と入力してインストールします。

2. PackageManagement PowerShell モジュールを使用して、最新バージョンの Docker をインストールします。
   PowerShell

   ```
   Install-Package -Name docker -ProviderName DockerMsftProvider
   ```

   PowerShell でパッケージソース「DockerDefault」を信頼するかどうかを尋ねられたら、「A」と入力してインストールを続行します。

3. インストールが完了したら、コンピューターを再起動します。
   PowerShell

   ```
   Restart-Computer -Force
   ```

### Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成

TLS/SSL 証明書を生成して Docker REST API を保護し、HTTP 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

⚠ 警告:
ホストとして ServiceNow でサポートされている Microsoft Windows のバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 「Microsoft Windows 用のヘッドレスブラウザのセットアップ」トピックに記載されている前提条件を満たしてください。Windows サーバーに次のプログラムがインストールされていることを確認します。
  - Docker：Windows 用 Docker アプリケーション
  - Java keytool：javaruntime 用の Chocolatey ツール
  - OpenSSL：openssl 用の Chocolatey ツール

次の要件に注意してください。

- 双方向通信

> **警告:**
> 信頼できる認証局から認証局キーを取得してください。

  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。

> **注:**
> ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

> **ヒント:**
> これらを覚えやすくするには、次の環境変数を設定します。
>
> - `export PASSWORD="<証明書を生成するためのパスワード>"`
> - `export SERVERIP="<このサーバーの IP アドレス>"`
> - `export HOSTNAME="<このサーバーのホスト名>"`

- ポート：この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。

> **注:**
> このポートのファイアウォールルールで、受信要求が許可されていることを確認してください。

- 詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

### このタスクについて

デフォルトでは、Docker API を公開すると要求が認証されないため、ホストマシンが攻撃に対して脆弱になる可能性があります。ただし、Docker API は、HTTPS 暗号化で提供される公開鍵と秘密鍵に対して要求が検証される TLS 認証をサポートしています。この手順では、サーバーとクライアントに対して鍵を作成します。

### 手順

1. コマンドラインを開きます。
2. 自己署名認証局のキーを生成するか、信頼できる認証局からキーペアを取得します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
openssl genrsa -aes256 -passout pass:%PASSWORD% -out ca-key.pem 4096
openssl req -passin pass:%PASSWORD% -new -x509 -days 365 -key ca-key.pem -sha256
 -out ca.pem
```

3. 認証局キーを使用してサーバーのキーペアを生成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

```
openssl genrsa -out server-key.pem 4096
openssl req -subj /CN=%HOSTNAME% -new -key server-key.pem -out server.csr
echo extendedKeyUsage = clientAuth > extfile.cnf
openssl x509 -passin pass:%PASSWORD% -req -days 365 -in server.csr -CA ca.pem -CAkey
 ca-key.pem -CAcreateserial -out server-cert.pem -extfile extfile.cnf
```

4. 認証局キーを使用してクライアントのキーペアを作成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

```
openssl genrsa -out client-key.pem 4096
openssl req -subj /CN=%HOSTNAME% -new -key client-key.pem -out client.csr
echo subjectAltName = DNS:%HOSTNAME%,IP:%SERVERIP%,IP:127.0.0.1 > extfile.cnf
openssl x509 -passin pass:%PASSWORD% -req -days 365 -in client.csr -CA ca.pem -CAkey
 ca-key.pem -CAcreateserial -out client-cert.pem -extfile extfile.cnf
```

5. CA 公開鍵とクライアントのキーペアを Java キーストアにインポートします。
   この手順は一例であり、構成によって異なる場合があります。

   キーストアファイルを作成し、そのパスワードを作成します (後で使用するために保存します)：`keytool -genkey -keyalg RSA -alias dse -keystore my.keystore`

   キーストアファイルからデフォルトのエントリを削除します：`keytool -delete -alias dse -keystore my.keystore`

   > **注:**
   > このエントリは自動生成されるため、必要ありません。

   CA 公開鍵をキーストアにインポートします：`keytool -import -keystore my.keystore -trustcacerts -alias ca -file ca.pem`

   クライアントのキーペアをインポートします。

   > **注:**
   > 新しい pkcs12 キーストアファイルを作成し、そのファイルにキーペアをインポートします。次に、その内容を元のキーストアファイルにコピーします。

   - `openssl pkcs12 -export -name clientkeypair -in client-cert.pem -inkey client-key.pem -out clientkeypair.p12`
   - `keytool -importkeystore -destkeystore my.keystore -srckeystore clientkeypair.p12 -srcstoretype pkcs12 -alias clientkeypair`

   これで、すべての証明書をキーストアファイルに追加したので、後で ServiceNow インスタンスにアップロードするためにファイル **my.keystore** を保存します。また、キーストアファイルの作成を要求されたときに入力したパスワードを覚えておいてください。ServiceNow インスタンスのフォームに、そのパスワードを入力する必要があります。

### **Microsoft Windows** でヘッドレスブラウザーセットアップ用に **Docker** を構成する

すべての要求を認証するように Docker サーバーを構成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
ステップ 2：Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成 を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

このタスクについて
クライアントキーとサーバーキーを作成したら、これらのキーを使用してすべての要求を認証し、ポート 2376 で Docker API を公開するように Docker サーバーを構成します。

手順

1. ステップ 2 で生成した証明書を使用するように Docker を構成します。
2. C:\ProgramData\docker\config\daemon.json ファイルを検索または作成します。
3. 次のプロパティを daemon.json ファイルに追加します。
   次のコマンドの項目を、証明書への正しいパスに置き換えてください。

   **注:**
   二重スラッシュは正確にコピーすることが重要です。

```
{
"tlscacert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\ca.pem",
"tlscert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-cert.pem",
"tlscert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-cert.pem",
"tlskey": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-key.pem",
"tlsverify": true,
"hosts": ["tcp://0.0.0.0:2376", "npipe://"]
}
```

   詳細については、「Docker デーモンの構成 (Configure the Docker daemon)」を参照してください。
4. 管理者 PowerShell で、restart-service *docker* を実行します

**Microsoft Windows** でのヘッドレスブラウザーセットアップ用の **Docker** イメージとコンテナの作成

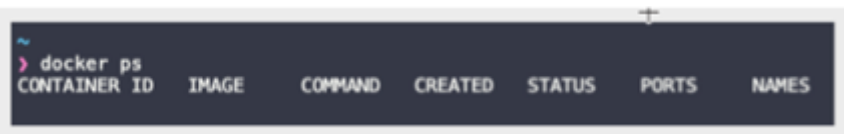
公開レジストリから Docker イメージをプルします。

始める前に
ステップ 3：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

手順

1. 管理者コマンドラインで docker ps を実行して、Docker が機能していることを確認します。
   結果は次のようになります。




2. GitHub リポジトリの ATF ヘッドレスランナーから、最新の Docker イメージをプルします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このコマンドは一例であり、これらのイメージは変更される可能性があるためです。
docker pull ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:win-1.0.0

> **注:**
> インスタンスとイメージの互換性により、Docker イメージ内の自動化スクリプトはインスタンスコードと互換性があることになります。ユーザーインターフェイスなどの要素は、時間の経過とともに、新しい機能やアップグレードをサポートするために変更される可能性があります。

## Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する

テストを実行するためにインスタンスにログインするユーザーのパスワード ServiceNow を格納する Docker シークレットを作成します。Docker シークレットは、コンテナで使用されるパスワードを安全に保存するための機能 ServiceNow　です。

### 始める前に

ステップ 4：Microsoft Windows でのヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成 を完了します。

必要なロール：ServiceNow インスタンスに移動して、Docker コンテナがログインに使用する新しいユーザーを作成します。このユーザーに **admin** または **atf_test_admin** のロールを付与します。次の手順のステップ 2 で使用するパスワードを保存します。

### このタスクについて

Docker コンテナの内部には、Web ブラウザーを開き、インスタンスにログインして、[クライアントテストランナー] ページを開く自動化スクリプトがあります。ServiceNow インスタンスにログインするには、ユーザーパスワードが必要です。このステップでは、[Docker シークレット (Docker Secrets)] と呼ばれる Docker 機能を使用して、パスワードを安全に保存できるようにします。それによって、コンテナを実行すると、パスワードを使用して自動的にインスタンスにログインできるようになります。

### 手順

1. 管理者コマンドラインに次のように入力します：`docker swarm init`
2. 管理者コマンドラインに次のように入力します：`echo <your user's password> | docker secret create sn_password -`

   > **注:**
   > `<your user's password>` をそのユーザーの ServiceNow パスワードで置き換えます。

   結果は次のようになります。

```
$
$ echo "<your user's password>" | docker secret create sn_password -
uuml1hjvx8ej65gweh6xjywx12
$
```

### タスクの結果

結果はシークレット ID であり、後で使用するために保存する必要があります。シークレット ID は、sys_property sn_atf.headless.secret_id のインスタンスに追加されますServiceNow。

## Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する

ServiceNow　の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Microsoft Windows 用にセットアップするステップ 6： ヘッドレスブラウザーをサポートできるようにインスタンスをセットアップします。

### 始める前に

ステップ 5：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する を完了します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

ホストマシンを構成したので、このタスクではインスタンスを設定して、ホストマシンと正常に通信して認証できるようにします。

手順

1. ユーザーを作成します。
   a. 移動先 ユーザー管理 > ユーザー をクリックし、[ 新規] を選択します。
   b. ユーザーを作成します。ユーザー ID (任意の ID) とユーザー名、パスワードを指定します。パスワードは、Docker シークレットコンテナ用に作成したものと同じにする必要があります。
   c. このユーザーに **atf_test_designer** ロールを追加します(詳細については、「ATF を使用したアプリのテスト」トピックの「ユーザーロール」セクションを参照してください)。
2. 証明書を作成します。
   a. 移動先 システム定義 > 証明書 をクリックして、sys_証明書テーブルを開きます。新しい証明書を作成します (任意の名前を指定できます)。
      - [タイプ]：Java キーストア
      - [パスワード]：ステップ 2 (Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成) で作成したキーストアのパスワード。
   b. [添付] (ペーパー クリップ) アイコンを選択して、以前に保存したキーストアファイルをこのレコードに添付します。
   c. [送信] を選択します。
   d. [証明書を検証 **(Validate certificate)**] をクリックし、成功メッセージが表示されることを確認します。
3. プロトコルプロファイルを作成します。
   a. 移動先 システムセキュリティ > プロトコルプロファイル をクリックして **sys_protocol_profile** テーブルを開きます。新しいプロトコルプロファイルレコードを作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| プロトコル | 1 単語 (小文字)：「docker」 |
| デフォルトポート | 2376 (または使用するために選択したポート) |
| キーストア | Docker ホストのキーストア |

   b. [送信] を選択します。
4. Docker スポーク接続を作成します。
   a. 移動先 接続 **&** 認証情報 > 接続 **&** 資格情報エイリアス をクリックして **sys_alias** テーブルを開きます。
   b. **Docker** という名前のエイリアスを選択します。
   c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。
   d. フィールドに入力します。
      - [名前]：任意のテキスト
      - [資格情報フィールド]：空白のまま
   e. **[URL** ビルダー **(URL Builder)]** チェックボックスをオンにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

f. [相互認証] チェックボックスをオンにします。

g. [プロトコルプロファイル] フィールドで、以前に作成したプロトコルプロファイルを選択します。

h. [ホスト] フィールドに、サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

i. [送信] を選択します。
接続 URL がシステムによって自動的に作成されます。

5. プロパティを変更します。

> **警告:**
> デフォルトでは、*com.glide.communications.trustmanager_trust_all* プロパティは **false** に設定されています。Now Platform は、JVM 証明書ストアに対して検証できる証明書のみを信頼します。自己署名証明書およびエンタープライズ署名証明書は信頼されません。詳細については、「証明書の信頼 (インスタンスセキュリティ強化)」トピックを参照してください。

> **注:**
> これは、自己署名証明書を使用する場合にのみ必要です。詳細については、「Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザーをセットアップするための証明書の生成」を参照してください。

- com.glide.communications.httpclient.verify_hostname：false
- com.glide.communications.trustmanager_trust_all：true

## Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーの 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を構成する

ServiceNow の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Microsoft Windows 用にセットアップするステップ 7：プロパティを使用して ATF を構成します。

### 始める前に

ステップ 6：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカル管理者。

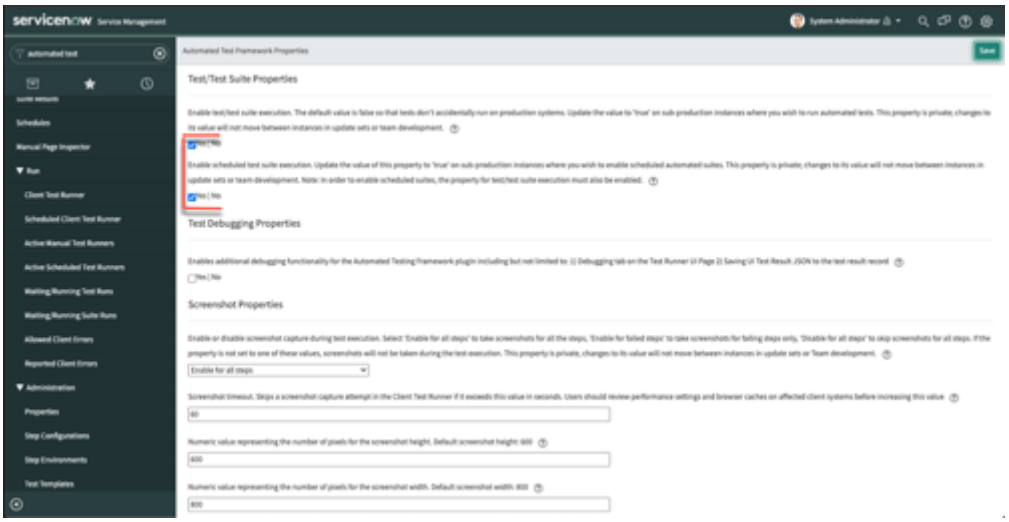
接続と認証が設定されたので、いくつかのプロパティを使用して ATF を構成し、ホストマシンでコンテナを正常に起動できるようにします。

### 手順

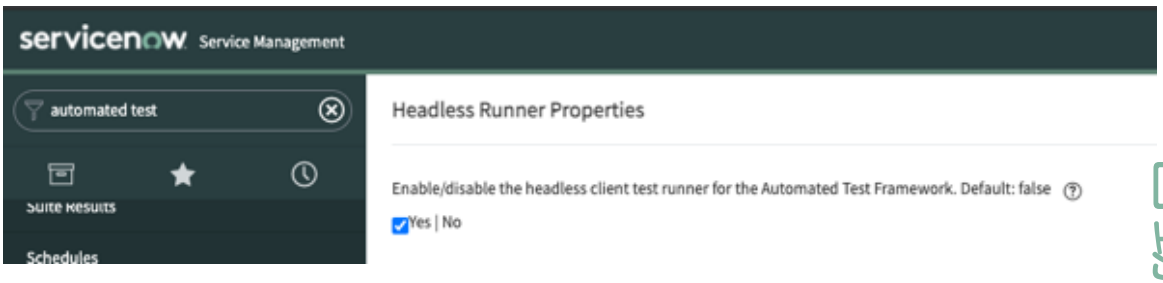
1. インスタンスで、次の場所に移動します。 **ATF** > 管理 > プロパティ.
2. 上の 2 つのプロパティ、[テストまたはテストスイートの実行を有効にします] と [スケジュール設定されたテストスイートの実行を有効化します] を有効にします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [ヘッドレスランナーのプロパティ] セクションまで下にスクロールします。
4. 上にあるチェックボックスをオンにします。




5. [ヘッドレスランナーのプロパティ] フォームに次の値を入力します。

| フォームラベル | プロパティ名 | 入力する値 |
| --- | --- | --- |
| ヘッドレスクライアントテストランナーからログインしてテストを開始するために使用されるユーザーアカウント | sn_atf.headless.username | Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する で作成した統合ユーザーのユーザー名 |
| ユーザーアカウントのパスワードが格納されている Docker シークレット ID | sn_atf.headless.secret_id | 以前に取得した Docker の「シークレット ID」と、Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する の手順のステップ 2 で作成した Docker シークレット名。 |
| ヘッドレスクライアントテストランナーに使用される Docker イメージ。 | sn_atf.headless.docker_image_name | ダウンロードしたタグ付きのイメージ名：ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:<tagname> |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
シークレット ID を忘れた場合は、Windows ホストに移動してコマンド「docker secret list」を実行します。

6. **[Docker** コンテナ上のシークレットファイルの絶対パス] フィールドに、「C:\ProgramData\Docker\secrets\<ユーザーのシークレット名>」と入力します。
7. 残りのフィールドはそのままにします。
8. [保存] を選択します。

### **Microsoft Windows** での **ATF** 用ヘッドレスブラウザーの手順の確認

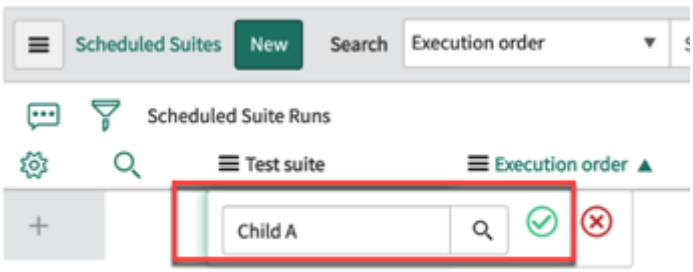
ヘッドレスブラウザーのセットアップ手順が成功したことを確認します。

始める前に
ステップ 7：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーの 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を構成する を完了します。

必要なロール：admin

手順

1. **[ATF** のスケジュール **(ATF Schedules)]** に移動し、 [スイートスケジュール] リンクの横にある [新規] を選択します。
2. [実行] ボックスで、[オンデマンド]を選択します。
3. [保存] を選択します。
4. [スケジュール済みスイート] 関連リストで、**[+]** 記号をダブルクリックしてテストスイートの新しいレコードを追加し、使用するブラウザー名 (**[Chrome]** または **[Firefox]**) を選択します。
実行する適切な例として、**[Child A]** を使用します。




5. OS 名を Windows に設定します。
6. [今すぐ実行] を選択します。
7. テストに合格したことを検証します。
検証に成功すると、スケジュール済みスイートまたは CICD 経由で UI テストが実行されるスイートでは、[スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページを手動で開かなくても、自動的にヘッドレステストランナーが作成されるようになりました。

### ヘッドレスブラウザーのシステムプロパティ

次の表に、ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーを設定するときに必要なプロパティを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ

| プロパティ名 | タイプ | デフォルト値 | 目的 |
| --- | --- | --- | --- |
| sn_atf.headless.browser_options | 文字列 | "--no-sandbox,--disable-gpu" | CLI オプションは起動時にブラウザーに渡されます |
| sn_atf.headless.default_browser | 文字列 | Chrome | ヘッドレス要求を開始するときに使用されるデフォルトのブラウザー |
| sn_atf.headless.default_os | 文字列 | Linux | ホストマシンのオペレーティングシステム |
| sn_atf.headless.docker_image | 文字列 | image_name | 名前：ホストマシン上の Docker イメージのタグ |
| sn_atf.headless.docker_window | 整数 | 60 | Docker コンテナがこの時間内に 2 回起動に失敗した場合、サービスは再起動を試行しません |
| sn_atf.headless.enabled | True/False | false | スケジュール設定された UI テスト実行に対して、インスタンスがヘッドレスクライアントテストランナーの作成を試行するかどうかを決定します |
| sn_atf.headless.heartbeat_enabled | True/False | true | プロパティが true の場合、Docker コンテナはインスタンスに REST API 要求を毎分送信して sys_atf_agent がまだオンラインであることを確認し、レコードステータスが「オフライン」である場合、またはレコードが存在しなくなった場合は、そのコンテナを停止します。 |
| sn_atf.headless.heartbeat_url | 文字列 | /api/now/atf_agent/online | ハートビートエンドポイントの URL で、ブラウザーがまだ応答することをコンテナが確認できるようにします。 |
| sn_atf.headless.images_cached | True/False | false | このプロパティが true の場合、テスト実行の前に、インスタンスは要求された Docker |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ (続く)

| プロパティ名 | タイプ | デフォルト値 | 目的 |
|---|---|---|---|
| | | | image:tag がホストに存在することを確認します。 |
| sn_atf.headless.login_button_id | 文字列 | sysverb_login | ログインページの [送信/ログイン] ボタンの HTML ID。 |
| sn_atf.headless.login_page | 文字列 | login.do | ブラウザーが移動するログインページの URL |
| sn_atf.headless.password_field_id | 文字列 | user_password | ログインページのパスワードの入力フィールドの HTML ID |
| sn_atf.headless.request_timeout_sec | 整数 | 200 | Docker ホストに送信される HTTP 要求がタイムアウトするまでの秒数 |
| sn_atf.headless.retry_count | 整数 | 10 | テスト実行をキャンセルする前に、エージェントがオンラインになるかどうかをインスタンスがチェックする回数 |
| sn_atf.headless.runner_banner_id | 文字列 | test_runner_banner | [クライアントテストランナー] ページが正しくロードされたことを確認する要素の ID |
| sn_atf.headless.runner_url | 文字列 | atf_test_runner.do?sysparm_nostack=true&sysparm_scheduled_tests_only=true | [スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページの URL とそのクエリパラメーター |
| sn_atf.headless.secret_gid | 文字列 | 1000 | Docker コンテナのデフォルトユーザーの GID |
| sn_atf.headless.secret_id | 文字列 | | ホストマシン上の Docker シークレットの ID |
| sn_atf.headless.secret_name | 文字列 | | ホストマシン上の Docker シークレットの名前 |
| sn_atf.headless.secret_path | 文字列 | /run/secrets/<secret_name> | Docker シークレットファイルが存在するパス：(詳細：https://docs.docker.com/engine/swarm/secrets/#how- |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ (続く)

| プロパティ名 | タイプ | デフォルト値 | 目的 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | docker-manages-secrets) |
| sn_atf.headless.secret_uid | 文字列 | 1000 | Docker コンテナのデフォルトユーザーの UID |
| sn_atf.headless.service_clean_exclude_list | 文字列 | | インスタンスサービスのクリーンアップジョブ中に削除すべきでないサービス ID の例外。このジョブは毎晩実行され、ホスト上にあって有効期限が過ぎているサービスを削除します。 |
| sn_atf.headless.service_stop_deletes | true/false | false | テスト実行の完了時に、このプロパティが true の場合、インスタンスはサービス削除要求を送信しないため、サービスとコンテナはホスト上に保持されます。デバッグに役立ちます。 |
| sn_atf.headless.timeout_mins | 整数 | 1440 | Docker サービスが自動的にシャットダウンするまでの時間 (分) |
| sn_atf.headless.user_field_id | 文字列 | user_name | ログインページのユーザー名の入力フィールドの HTML ID |
| sn_atf.headless.username | 文字列 | | インスタンスにログインするユーザー名 |
| sn_atf.headless.validation_id | 文字列 | headless_vp_validation | 検証ページがロードされたことを確認する要素の ID |
| sn_atf.headless.validation_page | 文字列 | atf_headless_validation_page | インスタンスの検証ページの URL |
| sn_atf.headless.vp_has_role_id | 文字列 | headless_vp_has_role | ユーザーが正しいロールを持っていることを検証する要素の ID |
| sn_atf.headless.vp_success_id | 文字列 | headless_vp_success | ページ全体が正常にロードされたことを示す要素の ID |

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) のヘッドレスブラウザー

ATF を使用したアプリのテスト

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ヘッドレスブラウザーのトラブルシューティング

これらのヒントは、ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーの Linux または Microsoft Windows セットアップのトラブルシューティングに役立ちます。

ヘッドレスブラウザーのセットアップのトラブルシューティングでは、次の 3 つの基本的な項目を確認します。

## Docker コンテナ

エラーログ：ヘッドレステストが完了したとき、エラーがある場合は Docker コンテナに生成されます。操作が失敗するか成功するかにかかわらず、コンテナの **stdout/stderr** ログは **sn_atf_docker_service** テーブルに格納されます。

[ヘッドレスクライアントテストランナーが割り当てられた時間に開始されませんでした]：このメッセージは、通常、Docker コンテナの初期化中または起動中にエラーが発生したことを意味します。これは、Docker コンテナのセットアップに何か問題があることを示している可能性があります。**sn_atf_docker_service** テーブルに移動してログを読み取り、エラーメッセージを確認します。

## インスタンス

ATF テストの開始時のメッセージ **[Docker** フローの実行中にエラーが発生しました]：URL アドレスをたどって、エラーログを含むフローコンテキストを見つけます。たとえば、上記のエラーメッセージは、インスタンスが Docker ホストにアクセスできない場合に表示されます。

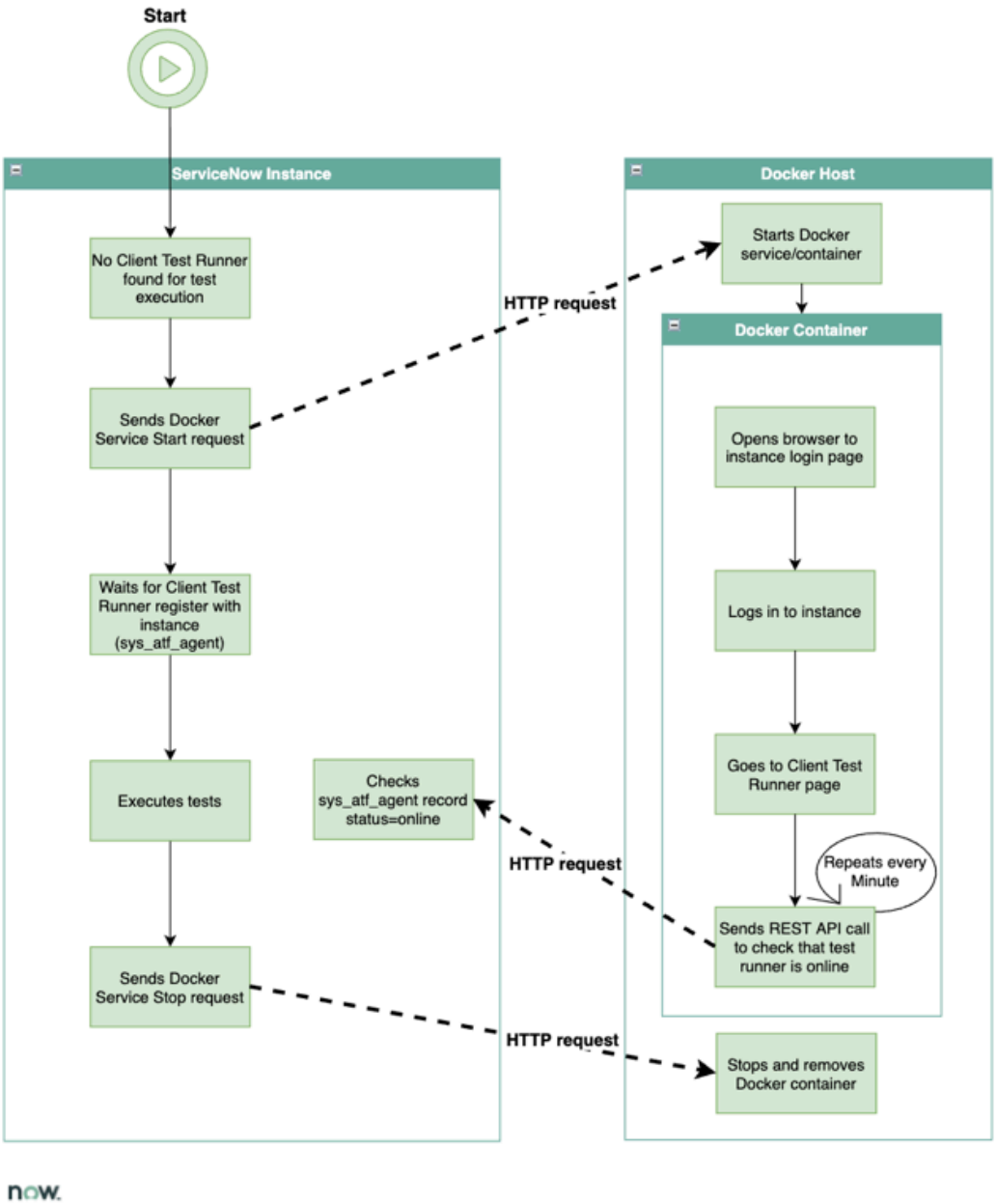
## ネットワークエラー

ファイアウォール：ファイアウォールがセットアップされ、インスタンスがホストとポートにアクセスでき、サーバーがインスタンスにアクセスできることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヘッドレスブラウザーのアクションフロー図




## 自動テストフレームワーク **(ATF)** による自動テストの構築と実行

自動テストフレームワーク (ATF) での基本タスク。

テストを構築して実行するには、常に特定の操作を実行します。

- 自動化された新しいテストの作成
- 自動テストにステップを追加する
- 自動テストを実行する
- 自動テストの進行状況の表示
- テスト結果と自動テスト結果の表示

他の操作は頻繁に行うが、必ずしもすべてのテストに必要ではありません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- フォームステップを含むテストの場合、自動化されたテストから結果のスクリーンショットを見る必要がある場合があります。
- テストによっては、１つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す について知っておく必要がある場合があります。
- ステップの中には、多くの異なるテストで同じ順序で頻繁に行われるものもあるので、自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する できます。

### 自動化された新しいテストの作成

実行する一連のステップを含む名前付き自動テストを作成します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. [新規] をクリックします。
3. 新しいレコードテストフォームで、テストの [名前] を入力します。
   システムは、(テストモジュールの下など) テストのリストを表示する場合はいつでも、この名前でこのテストを識別します。
4. オプション: 実行ごとに異なるテストデータでテストを複数回実行するためのパラメータ化されたテストを有効にします。
   詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。
5. テストの [説明] を入力します。
6. [保存] をクリックします。
   新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。

#### 次のタスク
自動テストにステップを追加する。

### 自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

テストテンプレートを使用すると、定義済みのステップリストをテストに追加できます。設定されたパターンに従うステップのリストは、テンプレートの好適な候補になります。

#### 始める前に
ステップを追加したいテストを作成しておく必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### このタスクについて
多くのテストが同様のパターンを踏襲します。よくあるパターンの１つは、例えば、フォームを開き、あるフィールドの値を設定し、あるフィールドの値を検証し、UI アクションをクリックし、そして現状のフォームを提出することです。これらのステップを含むテンプレートが存在する場合、それらを全て一度にテストに追加できます。自動テストフレームワーク (ATF)にはデフォルトのテンプレートが付属しています。カスタムテストテンプレートを作成することもできます。

#### 手順

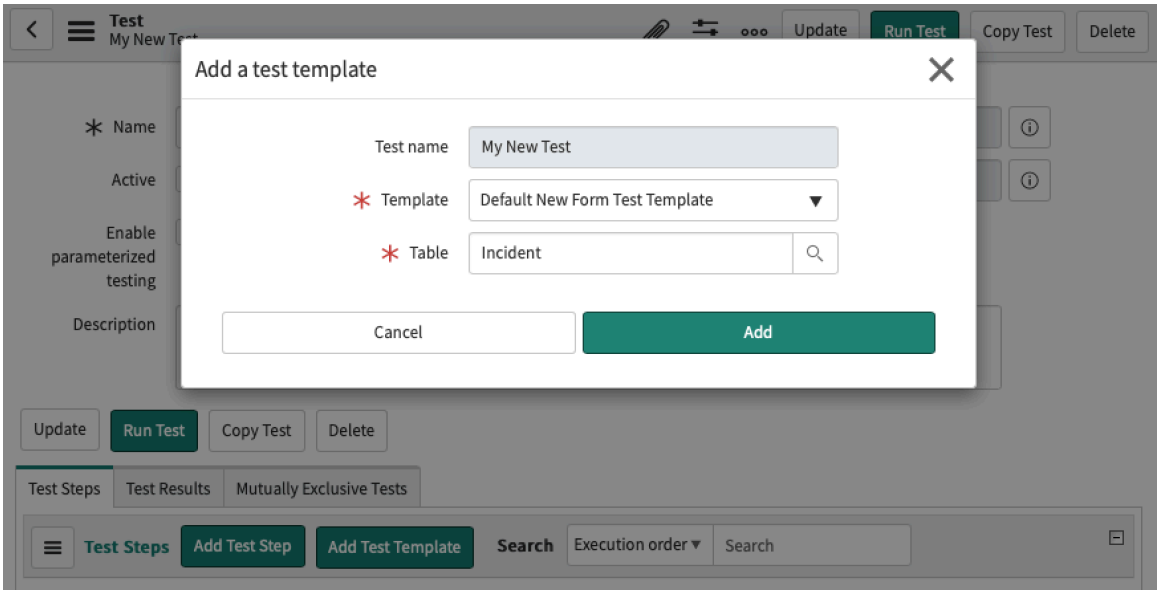
1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. ステップを追加したいテストの行をクリックします。
   システムは、テストフォームを表示します。
3. [テストステップ] 関連リストで、[テンプレートを追加] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

システムは、 テストテンプレートを追加するダイアログを表示します。




4. 表フィールドで、これらの手順でテストしたいテーブルを選択します。
5. テンプレートフィールドで、追加したいステップが含まれているテンプレートを選択します。
6. [追加] をクリックします。
   システムがテンプレートステップをテストに追加します。また、このテンプレートからテストを完了する方法に関する一連の指示をテスト記述に追加します。
7. テスト記述の指示に従って、テンプレートによって追加された各ステップを編集し、必要な情報を追加します。

### 次のタスク
通常どおりにテストを編集または保存します。

### 関連情報
自動テストステップテンプレートの作成

## 自動テストにステップを追加する
自動テストを指定された順序で実行するための一連のステップを作成します。

### 始める前に
テストにステップを追加する前に、テストを作成する必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### このタスクについて
この手順では、ステップを 1 ステップずつ追加できます。ステップのバッチを一度に追加することもできます。詳細については、「自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する」を参照してください。

### 手順
1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
3. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [テストステップを追加] フォームの左側のパネルから、テストステップカテゴリを選択するか、または [すべてのステップ] を選択し、すべてのテストカテゴリで利用可能なすべてのテストステップを表示します。
   たとえば、特定のテストステップカテゴリを選択する場合、 フォーム関連のテストステップについては、フォームを選択し、アプリケーションメニューまたはモジュールの可視性をテストするには アプリケーションナビゲーターを、またサーバー上で実行するテストにはサーバーを選択します。

   **注:**
   特定のタイプのサーバーテストを選択する際に、正または負のテスト結果がテスト結果を成功させるかどうかを指定できます。詳細については、ATF を使用したアプリのテスト で「アサーションタイプ」を参照してください。

5. 選択するテストステップのタイプをクリックします。
   たとえば、フォームカテゴリを選択した場合、[フィールド値の設定] を選択してフィールド値をフォームに設定します。

   フォームを使用して作業する一連の手順のいずれかを新しいフォームを開くまたは既存のフォームを開くステップで開始します。フォームを提出するステップで閉じます。

6. 該当する場合は、[後に挿入] ドロップダウンリストから、このステップに先行させるステップを選択します。
   これがテストの最初のステップである場合、[後に挿入] ドロップダウンリストは表示されません。
7. [次へ **]** をクリックします。
8. [テストステップを追加] フォームの テーブルリストから、この手順でテストする表を選択します。
9. オプション: [実行命令] フィールドで、テストでこのステップを実行する順序を表す整数を入力します。
   実行命令の詳細については、自動テストステップ順序の編集を参照してください。
10. このステップに適用するフィールドに記入します。

    手順については、「テストステップのカテゴリ」を参照してください。

    いくつかのステップは、後続のステップの入力に渡したい出力値を戻します。詳細については、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」を参照してください。

11. [送信] をクリックします。
    ステップが作成され、テスト レコードが表示されます。
12. ステップ 3～11 を繰り返して、このテストに追加ステップを追加します。

### 次のタスク
自動テストを実行する。

### 関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケースの例

### 自動テストステップの変更

必要に応じて、作成後にテスト ステップを編集します。

### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. 編集したいテストが含まれる行をクリックします。
3. [テストステップ] 関連リストで、編集したいステップが含まれる行をクリックします。
   システムは、フィールド値の設定フォームを表示します。
4. 変更したいフィールドを編集します。
5. [更新] をクリックします。

### 自動テストステップ順序の編集

デフォルトでは、ステップは作成した順に実行します。この順序を変更するには、実行命令フィールドを編集します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
デフォルトでは、システムによってテスト用に作成された最初のステップに実行順の値 1 が割り当てられます。ステップを追加すると、使用可能な次の整数値が割り当てられます。言い換えると、テストの任意のステップの最も高い実行順が値 7 を持つ場合、システムは 8 を新しいステップに割り当てます。これらの値を編集することで、テストがステップを実行する順序を変更できます。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. 編集したいテストが含まれる行をクリックします。
   [テスト] フォームが表示されます。
3. テスト ステップ関連するリストで、実行順の列の値を編集すしてステップの新しい順序を決定します。
4. [更新] をクリックします。

### 自動テストをコピーする

既存のテストをコピーし、名前を付け直して変更できます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. コピーするテストを含む行をクリックします。
   テスト レコードフォームが開きます。
3. テスト レコードフォームの右上にあるコピーテストをクリックします。
   システムがテストをコピーしたことを確認する注釈が表示されます。この注釈を確認すると、コピーしたレコードと名だけが異なる新しいテストレコードが表示されます。
4. 名フィールドで、この新しいテストに割り当てる名前を入力します。
5. 必要に応じてテスト ステップを編集し、新しいテストと同じように進めます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 変数の追加が完了したら、更新]をクリックする。

> **注:**
> ATF テストのスコープ管理は、他のスコープ内のテストのコピーを特定して制限するのに役立ちます。テストをコピーする場合は、テストと同じスコープ内で操作する必要があります。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

### 自動テストを実行する

自動化されたテストを作成すると、非本番インスタンスを実行します。

#### 始める前に

実行するテストを作成しておく必要があります。
テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、adminまたはatf_test_admin ロールが必要です。

> **注:**
> 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. 必要に応じてテストリストを表示するには、テストをクリックします。
3. 実行するテストが含まれる行をクリックします。
   [テスト] フォームが表示されます。
4. [テストを実行] をクリックします。

> **注:**
> テスト実行プロパティが有効でない場合、[テストを実行] ボタンが表示されません。このケースでは、フォーム上部の注釈を参照し、リンクをクリックして、テスト実行を有効にします。

5. テストにフォームステップ (UI を含むステップ) またはその他の種類のUI テストステップ が含まれる場合、テストを実行する前に ブラウザの選択ダイアログが表示されます。現在実行中のテストクライアントの中から選択するのにそれを使うか、あるいは新しいランナーを起動します。

   詳細についてはすべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨を参照してください。

   テストにサーバテスト ステップのみを含んでいる場合、システムは「ブラウザを選択」ダイアログを表示せずにテストを実行します。

#### 次のタスク

テスト実行状況ダイアログでテストの進行を監視します。完了すると、(テスト実行の進行ダイアログにある)結果に進むをクリックしてテスト結果リストを表示し、テスト結果の表示と分析ができます。

> **注:**
> テストがデータを生成すると、システムはテストの全てのステップの後でそのデータを元に戻す。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

自動テストとテストスイートのキャンセル

### ブレークポイントの実装

ブレークポイントを使用すると、テスト実行の任意のステップでテストを一時停止して、トラブルシューティングとテスト作成を行うことができます。

ブレークポイントは、テストが失敗した場合に役立ちます。テストをデバッグするために、テストステップにブレークポイントを追加できます。テストステップを再度確認して、テスト失敗の理由を見つけることもできます。

> **注:**
> ブレークポイントはユーザー固有です。自分で作成したブレークポイントのみを表示できます。

## テストデータのロールバック

テストデータのロールバックの直前にテスト実行を一時停止することもできます。[ロールバック前に一時停止] オプションをオンにすると、テストの完了後にテストデータのロールバックが発生する直前に、テストが一時停止します。テスト実行でのロールバックオプションの使用の詳細については、「ブレークポイントを使用した自動テストのデバッグ」を参照してください。

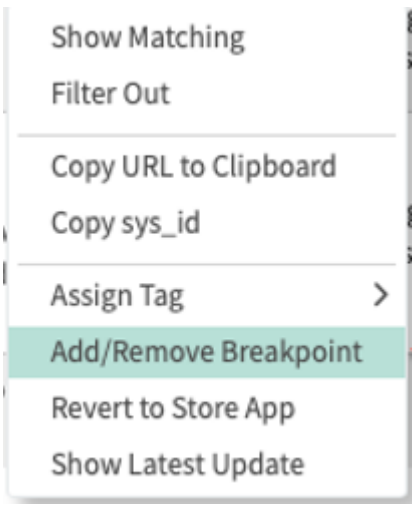
### ブレークポイントを使用した自動テストのデバッグ

特定のテストステップにブレークポイントを追加して、失敗または予期しない動作をトラブルシューティングするためにテストを一時停止します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > テスト.
2. 実行するテストを選択します。
3. [テストステップ] 関連リストを選択すると、選択したテストのすべてのテストステップが一覧表示されます。
4. ブレークポイントを追加または削除するテストステップを右クリックします。
5. リストから [ブレークポイントを追加/削除] を選択します。



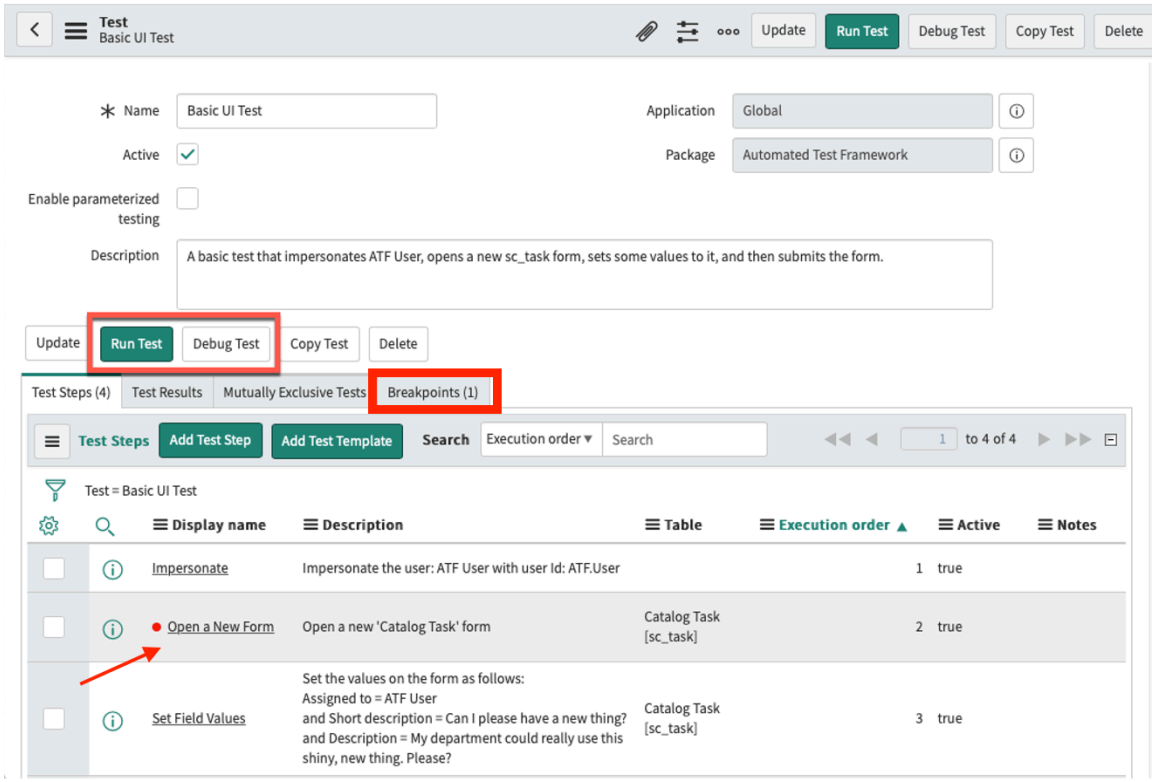

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変更されたブレークポイントがテストステップにマークされます。

**注:**
ステップのブレークポイントのマークは、ブレークポイントがアクティブで、[デバッグテスト] を使用してテストが実行されると、そのブレークポイントテストステップの直前でテストが一時停止することを示します。[テストを実行] をクリックしてテストを実行すると、ブレークポイントは考慮されません。

**注:**
テストに設定するブレークポイントはユーザー固有です。他のユーザーがテストのブレークポイントを表示したり変更したりすることはできません。



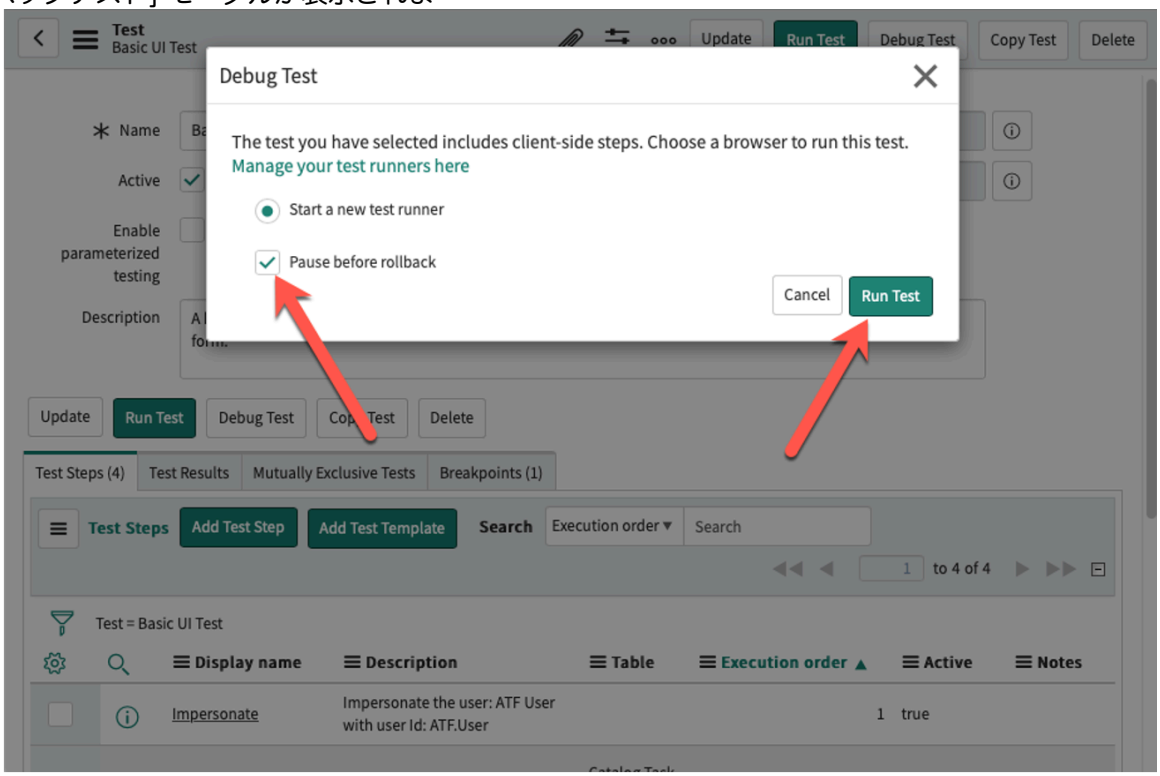

**注:**
1 つのテストに複数のブレークポイントを設定できますが、テストステップごとに 1 つのブレークポイントしか設定できません。

6. オプション: [ブレークポイント] 関連リストをクリックすると、テスト内のブレークポイントを持つすべてのテストステップが表示されます。
7. [デバッグテスト] をクリックして、ブレークポイントを使用してテストを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

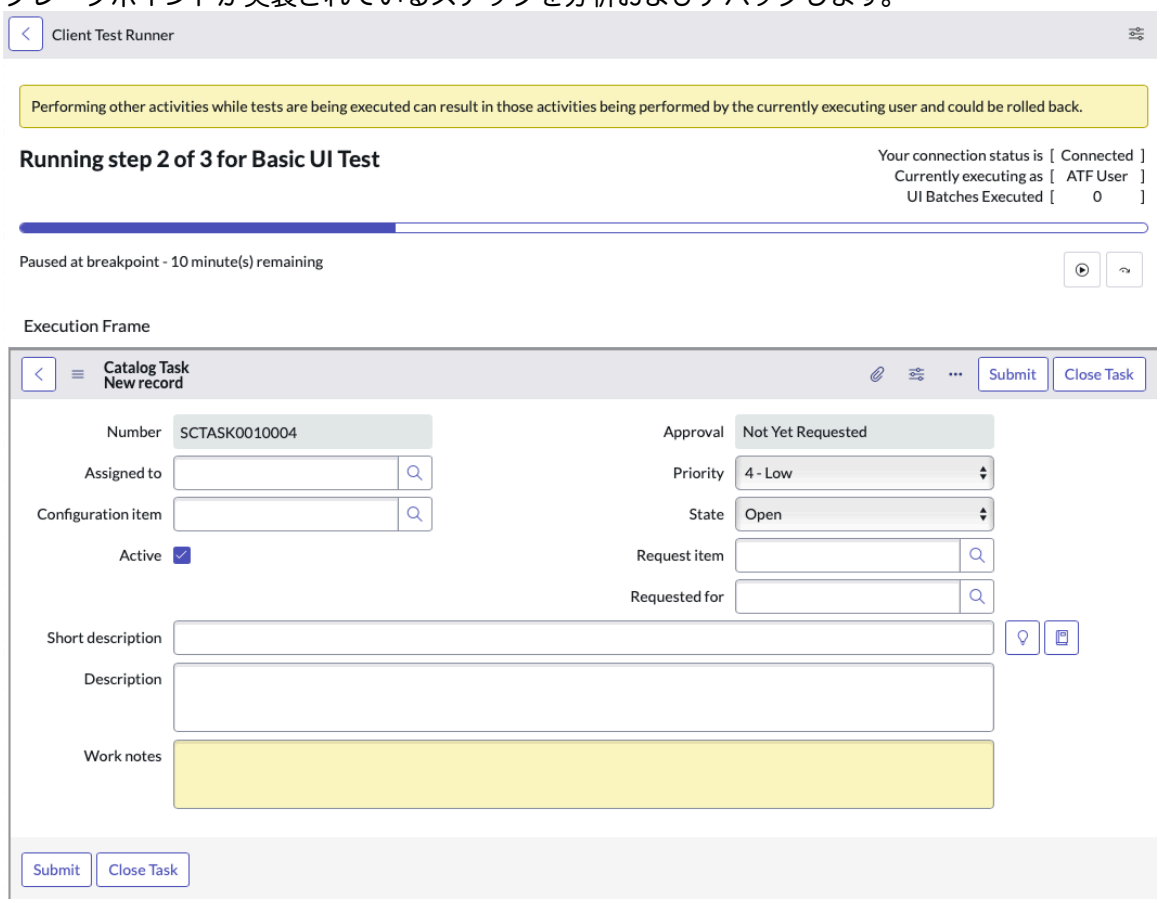
[デバッグテスト] モーダルが表示されま




す。

- Safari – 選択したテストのクライアント側ステップの実行に使用されるブラウザー
- [ロールバック前に一時停止] – テストの完了後にロールバックが発生する直前に、テストを一時停止するオプション

**8.** ブレークポイントが実装されているステップを分析およびデバッグします。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
次の 2 つのオプションは、テストがブレークポイントで一時停止されている場合にのみ表示されます。

- 続行：次のブレークポイントまでテストの実行を続行します。
- ステップオーバー：すべてのステップでテストが一時停止します。現在のステップで一時停止しない場合は、[ステップオーバー] オプションを選択して次のステップにジャンプします。

**注:**
すべてのブレークポイントで、テストの実行が 10 分間一時停止します。割り当てられた 10 分以内にテストステップをデバッグし、テストを再開して次のブレークポイントに達するまで実行できます。

## テスト結果と自動テスト結果の表示

完成したテストおよびテストスイートの実行結果を表示します。自動テスト実行の結果を慎重に検討し、明らかになった問題を解決するために必要な修正措置を実行します。

### 始める前に
必要なロール：なし

### このタスクについて
テストおよびテストスイートの結果は、システムがテストを実行するのにかかった時間と失敗したステップを示します。フォームステップのスクリーンショットを含めることができます。また、同じテストスイートの異なる実行を比較するレポートを表示することもできます。

ユーザーインターフェイスのどこにあるかに応じて、テスト結果に移動するための複数のオプションがあります。たとえば、[テストの実行] 進行状況ダイアログが表示された場合は、[ 結果に移動] を選択できます。この手順では、ユーザーインターフェイスの任意の場所からテスト結果を表示できます。

### 手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > テスト結果.
2. 行をクリックすると、特定のテストの結果にアクセスできます。
   システムは、テスト結果レコードを表示します。
3. 選択したテストのステップ結果を表示します。
   a. [ステップ結果] 関連リストをクリックします。
   b. 下にスクロールして、表示するステップ結果の行をクリックします。
      システムは、ステップ結果レコードを表示します。
4. このテスト結果のテストログを表示します。
   a. [テストログ] 関連リストをクリックします。
   b. スクロールダウンして、表示するテストログの行をクリックします。
      システムは、テストログレコードを表示します。

## 自動テスト結果の表示

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

**注:**
テスト結果、ステップ結果、またはテストログを表示するときに、[許可されたクライアントエラー] テーブルでクライアントエラーを無視または警告エントリとして許可できます。これにより、将来のテストでクライアントのエラーが発生しても、テストの実行が継続します。

### 自動テストの結果スクリーンショットを表示する

テストに UI コンポーネントがある場合、システムは UI のスクリーンショットを取得します。これらのスクリーンショットを見ると、テスト結果をさらに詳しく知ることができます。

始める前に

結果を表示したいテストが実行されている必要があります。

**注:**
最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > テスト結果.
2. 結果を表示するテストが含まれる行をクリックします。
   [テスト結果] フォームが表示されます。
3. 添付ファイルリストで必要なスクリーンショットを見つけて、テスト中に撮影したスクリーンショットを表示します。
   スクリーンショットにはスクリーンショットの単語が付いておりシステムがショットを記録したときのタイムスタンプ (常に UTC 時間) がそれに続きます。ステップとスクリーンショットのタイムスタンプを比較することで、スクリーンショットをテスト ステップに一致させることができます。

### テストスイート結果の自動表示

自動テストスイートの結果を表示します。

このタスクについて

**注:**
ユーザーインターフェイスのどこにあるかに応じて、テストスイートの結果に移動するための複数のオプションがあります。たとえば、テスト実行進行ダイアログが表示された場合は、代わりに結果に進むをクリックできます。ここで説明する手順を使用すると、ユーザーインターフェイスの任意の場所からテストスイートの結果を表示できます。

手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > スイート結果.
2. 結果を表示するテストが含まれる行をクリックします。
   システムは、テストスイート結果レコードを表示します。

関連情報

- クライアントエラーの特定と解決
- テスト結果からクライアントエラーを許可
- ステップ結果からクライアントエラーを許可
- テストログからクライアントエラーを許可

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## クライアントエラーの特定と解決

クライアントエラーを特定し、クライアント側スクリプトで解決します。

### 始める前に
必要なロール：admin

### このタスクについて
クライアントエラーが発生すると、自動テストフレームワーク (ATF)はエラーが発生したときに実行中のステップでテストに失敗する。手順の実行中に JavaScript エラーが発生するとクライアント側スクリプトがサイレントで失敗する可能性がありますが、それでもエラーはデータおよび実行中の手順に影響を与える可能性があります。Automated Test Framework では、これらのエラーを検証エラーとみなします。

### 手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > **Automated Test Framework** > テスト フォームを操作する Automated Test Framework テストを実行します。
2. このテストのテスト結果では、次の要約でステップの結果を確認します。

   テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 (Add all client errors to warning/ignored list)] リンクを使用します。

   このステップの結果は、UI と対話するステップでのみ表示します。

3. これらのスクリプトエラーを特定して解決するには、クライアントテスト ランナーページ上の開発者ツールのブラウザコンソールを開きます。

   **注:**
   ブラウザコンソールを開く方法については、 http://webmasters.stackexchange.com/questions/8525/how-to-open-the-javascript-console-in-different-browsers を参照

4. エラーが表示される場合は、次のいずれかのベースシステムテーブルにある可能性がある、問題のあるクライアント側スクリプトを特定してトラブルシューティングしてください。
   - ServiceNow クライアントスクリプト
   - UI アクション
   - UIマクロ (HTMLスクリプト)
   - UIページ (HTMLスクリプト)
   - UI ポリシー
   - UI スクリプト
   - 上記のベースシステムテーブルを拡張するテーブル
5. スクリプトにエラーがないか確認し、修正したらテストを再度実行します。

### 次のタスク
スクリプトのバージョン履歴を確認して、クライアントエラーの原因を特定します。ベースシステムスクリプトをカスタマイズした場合は、アップグレード中にスキップされた新しいバージョンがスクリプトに含まれている可能性があります。

## クライアントエラーの例

一般的なクライアントエラーにはいくつかの種類があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### クライアントのJavaScriptエラー

クライアントスクリプトでエラーが発生すると、ブラウザコンソールに次の例のようなエラーが表示します。

```
************************************************
A script has encountered an error in render events
TypeError: Cannot read property 'id' of undefined
Script ends. Continuing happily
************************************************
[00:00:00.002] onLoad Modify Comments Label
```

この例では、クライアントスクリプトコメントラベルの変更が原因でエラーが発生しました。

### その他のクライアントスクリプトエラー

その他のタイプのスクリプトエラーは、発生時に任意のフォーマットでブラウザコンソールに直接報告します。

TypeError：コールバック (id) が定義されていません

### Sys ID によるスクリプトリソースリンク

場合によっては、コンソールエラーは Sys ID を使用してスクリプトリソースファイルへのリンクを提供します。このリンクの後には、スクリプトがそれを実行したコンテキストを与えることができます。

```
Uncaught ReferenceError: myobj is not defined
    at incident.do?sys_id=12345678901234567890123456789012
(anonymous) @ incident.do?sys_id=12345678901234567890123456789012  <---- LINK
```

### スクリプトのアクセス許可

問題のあるスクリプトを特定しながら、スクリプトにデータへのアクセス権があることを確認します。以下をチェックしてください。

- テーブルとフィールドのアクセスコントロールルールのアクセスを許可します。
- スクリプトがプライベートスコープ内のアプリケーションにアクセスする場合のアプリケーションアクセスを許可します。
- ドメイン分離が設定されている場合は、ドメイン分離を許可します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

**UI** テストステップ

ユーザーのアクションを模倣し、ページの表示されるコンポーネントを操作することで、ユーザーインターフェイスをテストします。

### クライアントテストランナーの依存関係

UI テストステップでは、アクティブなクライアントテストランナーがページの表示コンポーネントに直接作用する必要があります。テスト担当者は、UI テストのために 1 つ以上のクライアントテストランナーを手動で起動する必要があります。テスト設計者は、テストスイートからオープンクライアントのテストランナーを選択することをスケジュールできます。「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## インテリジェント待機メカニズム

UI テストステップには、コンポーネントのクリックや値の設定などの UI 変更によってトリガーされるインテリジェントな待機メカニズムがあります。待機メカニズムでは、次の UI テストステップに進む前に UI 変更が完了する必要があります。テスト設計者は、UI テストステップ間に手動で待機メカニズムを追加する必要はありません。

### カスタム **UI** テストステップ

HTML および JavaScript ページコンポーネントを取得し、それらがサポートするテストアクションを特定することによって、UI ページや UI マクロなどのカスタマイズされたユーザーインターフェイスをテストします。

カスタム UI テストステップでは、自動テストフレームワーク (ATF) はターゲット Web ページからテスト可能なコンポーネントを取得して識別する必要があります。

**注:**
Now UI は、カスタム UI テストステップではサポートされていません。

## テスト可能なコンポーネント

テスト可能なページコンポーネントは、これらの特性を備えた標準の HTML と JavaScript で構成されています。

ユーザーの操作によって設定またはクリックされる

テスト可能なページコンポーネントを使用すると、ユーザーは値を設定したりクリックしたりできます。

DOM (Document Object Model) からアクセス可能

テスト可能なページコンポーネントは DOM からアクセスでき、DOM の JavaScript 操作をサポートします。カスタム UI テストステップは、シャドウ DOM 内のページコンポーネントにアクセスできません。

JavaScript にアクセスできる

テスト可能ページコンポーネントは JavaScript でアクセスできます。カスタム UI テストステップは、ファイルフィールドなどのオペレーティングシステムと直接やり取りするページコンポーネントにアクセスしたり、Excel ファイルや PDF ファイルなどの非 HTML コンテンツを表示したりすることはできません。

新しいブラウザータブまたはウィンドウは、カスタム UI テストステップではサポートされていません。

カスタム UI テストから除外されない

テスト可能なページコンポーネントは、カスタム UI テストから除外されません。自動テストフレームワーク (ATF) は、他のテストステップカテゴリで既にテスト可能なページコンポーネントを除外し、Now Platform 機能に関連づけられたページコンポーネントも除外します。

ページインスペクターにアクセス可能

テスト可能なページコンポーネントは、ページインスペクター から表示したときに結果を返さなければなりません。テスト設計者は、ページのテスト可能なコンポーネントを識別するためにページインスペクターを使用できます。

テスト可能なページコンポーネントの例には、これらの UI 要素があります。

- ボタン
- リンク
- ページテキスト

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- UI コントロール
- UI マクロ
  - ui_date
  - ui_date_time
  - ui_reference
- UI ページ
- ウィザード

テスト不可能なページコンポーネントの例としては、これらの UI 要素があります。

テスト不可能なページコンポーネントの例

| テスト不可能な理由 | テスト不可能なページコンポーネント |
|---|---|
| 設定またはクリックできない | 非表示のコントロール |
| | HTML コメント |
| | div、section、span などの HTML レイアウト要素 |
| | HTML スクリプト要素 |
| DOM からアクセスできない | ダッシュボード |
| | イメージ |
| | リスト |
| | レポート |
| | シャドウ DOM |
| JavaScript でアクセスできる | Excel ファイル |
| | ファイルフィールド |
| | PDF ファイル |
| Now Platform の機能である | Flow Designer |
| | Studio |
| | アップグレードモニター |
| 他のテストステップカテゴリでテスト可能 | フォームフィールドラベル |
| | フォームフィールド値 |
| | サービスカタログ |
| | ワークスペース |

## 設定可能なページコンポーネント

設定可能コンポーネントは、テキスト入力フィールドなどの動的な値を持つ UI 要素です。設定可能コンポーネントは、これらのテストアクションとテストステップをサポートします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定可能コンポーネントのテストオプション

| ページインスペクターのアクション | カスタム **UI** テストステップ |
|---|---|
| コンポーネント値を設定 | コンポーネント値 (カスタムUI) の設定 |
| コンポーネント値を取得 | ページ (カスタムUI) のテキストをアサートする |
| | コンポーネント値の検証 (カスタム UI) |
| コンポーネントが無効 | コンポーネント ステータスの検証 (カスタム UI) |

設定可能なコンポーネントには、カスタム UI テストステップで設定できる値を決定するデータタイプがあります。たとえば、特定のレコードへの参照を表示するためのページコンポーネントは、システム ID 値のみを表示するための参照データタイプを持つことができます。

自動テストフレームワーク (ATF) では、UI 開発者は、カスタム UI テスト中に使用するデータタイプを指定できます。UI 開発者は、ページコンポーネントにデータタイプをアサインして、テストステップで有効な値が設定されるように確保できます。次のデータタイプがサポートされています。

- 日付
- 日時
- 参照

詳細については、「コンポーネントデータタイプを上書きする」を参照してください。

## クリック可能なページコンポーネント

クリック可能なコンポーネントとは、チェックボックスやラジオの入力など、ユーザーがクリックすることで操作できる UI 要素のことです。クリック可能なコンポーネントはこれらのテストアクションをサポートします。

クリック可能なコンポーネントのテストオプション

| ページインスペクターのアクション | カスタム **UI** テストステップ |
|---|---|
| コンポーネントをクリック | [コンポーネント (カスタム UI)] をクリックします |
| コンポーネント値を取得 | ページ (カスタムUI) のテキストをアサートする |
| | コンポーネント値の検証 (カスタム UI) |
| コンポーネントが無効 | コンポーネント ステータスの検証 (カスタム UI) |

クリック可能なコンポーネントは動的な値を持たないのでデータ型を持ちません。

## 取得されたページコンポーネント

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストするカスタム UI ページごとに取得したページコンポーネントのリストを格納します。カスタム UI テストステップは、[コンポーネント] と [コンポーネント値 **(Component values)**] フィールドから取得したコンポーネントのリストを表示します。

デフォルトでは、ページコンポーネントのリストは静的であり、テスト設計者が手動で [コンポーネントの取得] をクリックしたときにのみ更新されます。管理者は、システムプロパティ *sn_atf.page_data_capture.enabled* を有効にして、カスタム UI テストステップが実行されるたびにページコンポーネントのリストを更新できます。テスト設計時にこのプロパティを有効にすると、テスト設計者は常に最新のページコンポーネントリストにアクセスできるようになります。テ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スト設計が完了した後にこのプロパティを無効にすると、テストステップは以前に取得したページコンポーネントのリストを使用できるため、テストの実行速度が向上します。

Now Platform は、取得したページコンポーネントのリストをデータとして扱い、それらを更新セットまたはアプリケーションファイルに含めません。あるインスタンスから別のインスタンスにテストを転送するとき、テスト設計者は手動でページコンポーネントを再度取得する必要があります。

## 設計上の考慮事項

カスタム UI ページとページコンポーネントをテストするときは、これらの設計上の考慮事項に従ってください。

ページインスペクターを使用してテスト可能なページコンポーネントを識別する

ページインスペクターは、どのページコンポーネントがカスタム UI テストに使用できるかを決定します。ページインスペクターに利用できないページコンポーネントは、カスタム UI テストには利用できません。

テストするカスタム UI に移動する

ターゲットのカスタム UI に移動するには、既存のテストステップを使用します。たとえば、ナレッジベース記事をテストするには、既存のテストステップを使用してモジュールに移動するか、既存のレコードを開きます。ほとんどのカスタム UI テストでは、テストの一部として既存のテストステップカテゴリを使用する必要があります。

コンポーネント領域を使用してページコンポーネントを識別します

コンポーネント領域は、`<div>` または `<section>` 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素を表します。この領域は、テストデザイナーがページレイアウト内の場所を指定することによってコンポーネントを区別するのに役立ちます。

Now Platform UI ではなくカスタム UI をテストする

自動テストフレームワーク (ATF) は、Now Platform 機能のカスタム UI テストを回避します。たとえば、ダッシュボードやグラフィカルデザイナーをテストすることはできません。代わりに、カスタム UI ページと要素を検証するためのテストを構築します。これらのユーザーインターフェイスは直接制御できるからです。

HTML 属性を使用してページコンポーネントのテストプロパティを上書きする

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。 「コンポーネントテストアクションを上書きする」を参照してください。

テストを別のインスタンスに移動するときはページコンポーネントを再度取得する

カスタム UI テストステップは、UI コンポーネントをメタデータとして格納しません。テスト担当者がインスタンス間でテストを移動するときは、ページコンポーネントを手動で再度取得する必要があります。

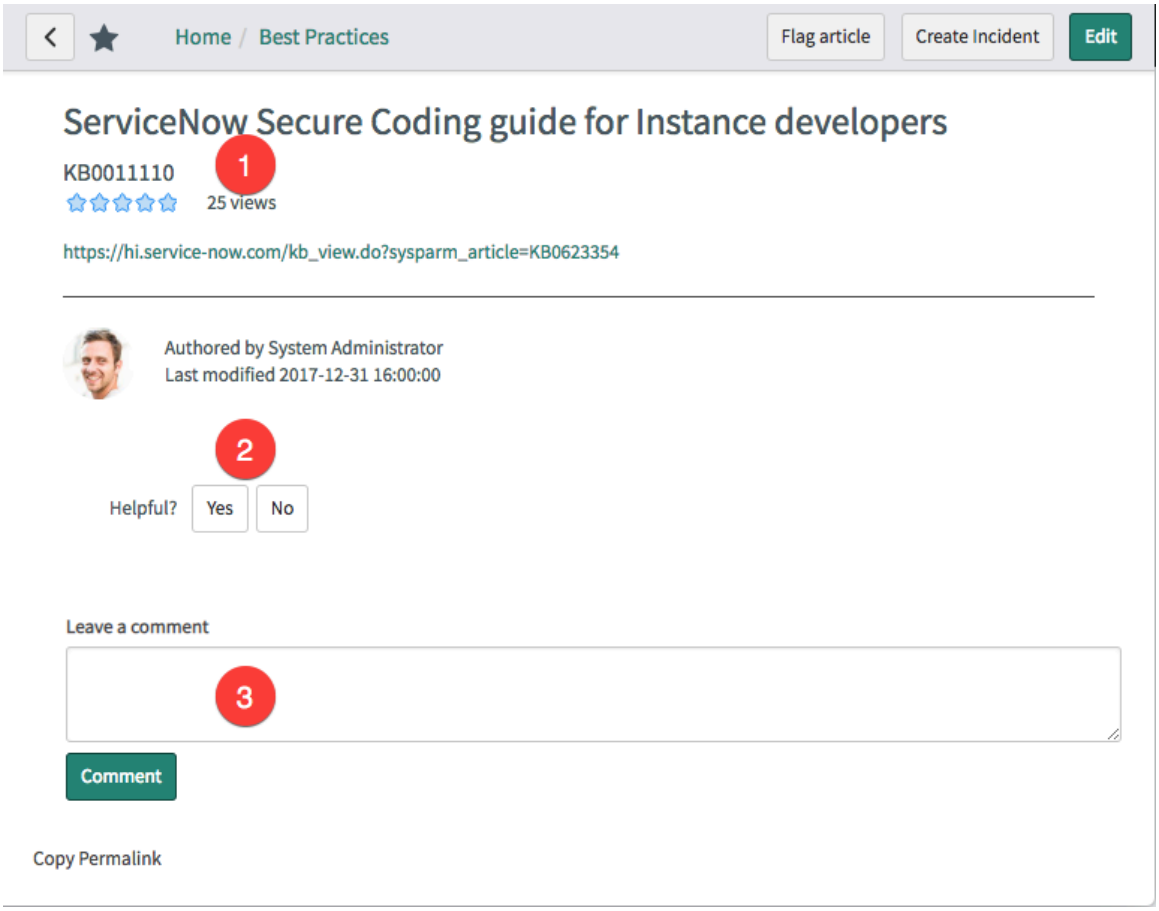
## カスタム **UI** テストの例

取得したコンポーネントのリストを使用して、カスタム UI テストステップを設計できます。たとえば、ナレッジベース記事のレビューとコメントをテストしたいとします。ナレッジベース記事には、カスタム UI 手順がテストする必要があるページコンポーネントがいくつか含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナレッジ記事ページの例




自動翻訳

たとえば、これらのページコンポーネントはカスタム UI テストステップが必要です。

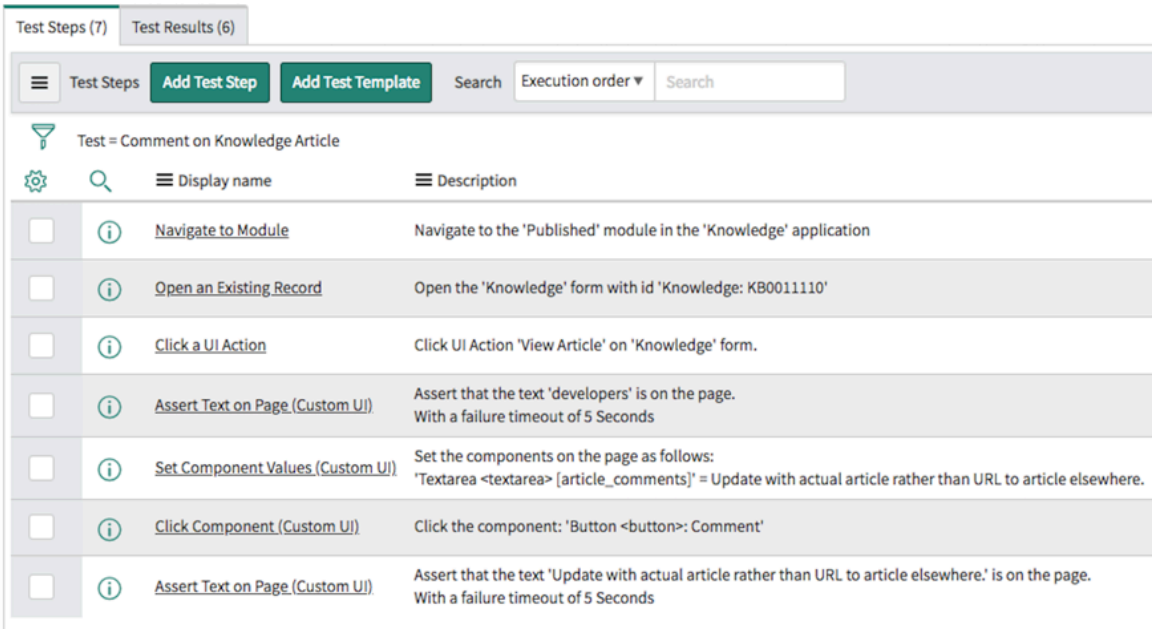
1. 記事の閲覧数。
2. 記事を役に立ったとしてマークするボタン。
3. コメントを残すテキスト領域。

これらのステップは、ナレッジベース記事へのカスタム UI テストを示しています。サンプルテストは、これらの既存の UI テストステップとカスタム UI テストステップで構成されています。

1. モジュールに移動。「ナレッジ」アプリケーションの「発行済み」モジュールに移動します。
2. 既存のレコードを開く。ID が「Knowledge：KB0011110」の「ナレッジ」フォームを開きます。
3. **UI** アクションをクリックします。「ナレッジ」フォームの UI アクション「記事の表示」をクリックします。
4. ページ (カスタム **UI)** のテキストをアサートする。「開発者」というテキストがページにあることをアサートします。
5. コンポーネント値を設定（カスタムUI）。次のようにページ上のコンポーネントを設定します。'Textarea <textarea>[article_comments]‘ = 他の場所の記事への URL ではなく実際の記事で更新する。
6. コンポーネント (カスタム **UI)** をクリック。「ボタン <button>：コメント」コンポーネントをクリックします。
7. ページ (カスタム **UI)** のテキストをアサートする。「他の場所の記事への URL ではなく実際の記事で更新する。」というテキストがページ上にあることをアサートします。

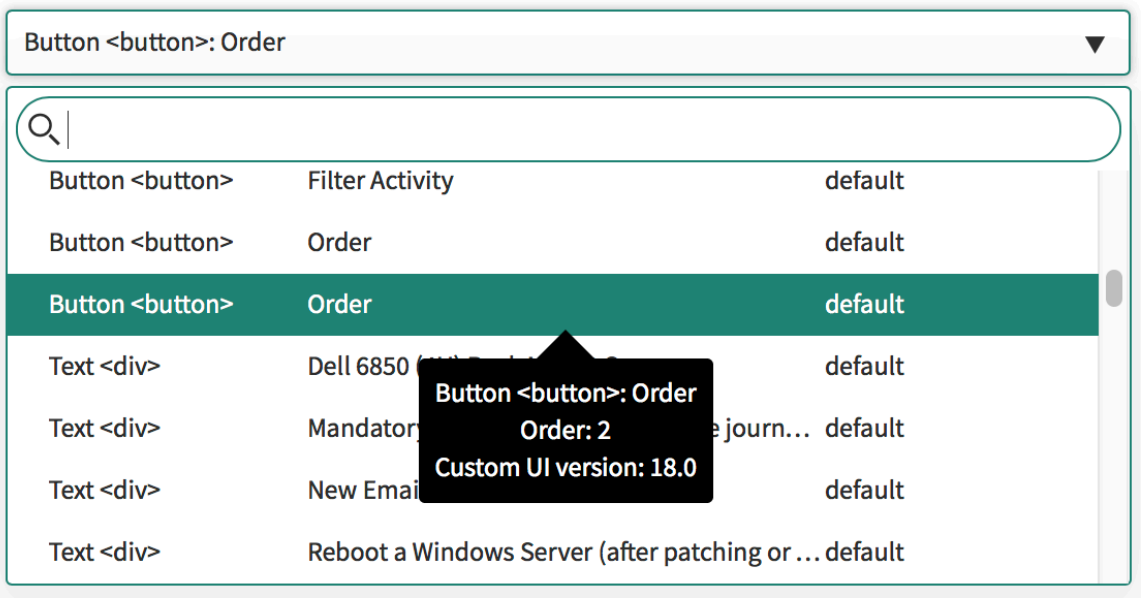
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナレッジベース記事テストのテストステップの例




## カスタム **UI** コンポーネントのバージョンと順序

カスタム UI テストステップのいずれかでコンポーネントを選択すると、カスタム UI バージョンが表示される場合があります。複数の重複するコンポーネントがある場合は、コンポーネントの順序が表示されます。




**注:**
カスタム UI バージョンは、カスタム UI バージョンが異なるコンポーネントが少なくとも 2 つある場合にのみ表示されます。

**注:**
順序は、コンポーネントのドロップダウンメニューに重複するコンポーネントがある場合にのみ表示されます。表示された順序に従って、それらを明確にすることができます。

**注:**
異なる複数の重複コンポーネントがある場合は、[カスタム UI バージョン] と [順序] の両方が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## コンポーネントの識別

sn-atf-id 属性を使用して、コンポーネントを識別する代替方法を実装します。これは、コンポーネントの名前または ID 属性が動的で、テストが実行されるたびに変わる場合に便利です。一貫した値を持つ sn-atf-id 属性を追加して、テストの実行時に ATF がコンポーネントを識別できるようにします。また、テストを構築するときにコンポーネントを識別することもできます。たとえば、ボタンコンポーネントで

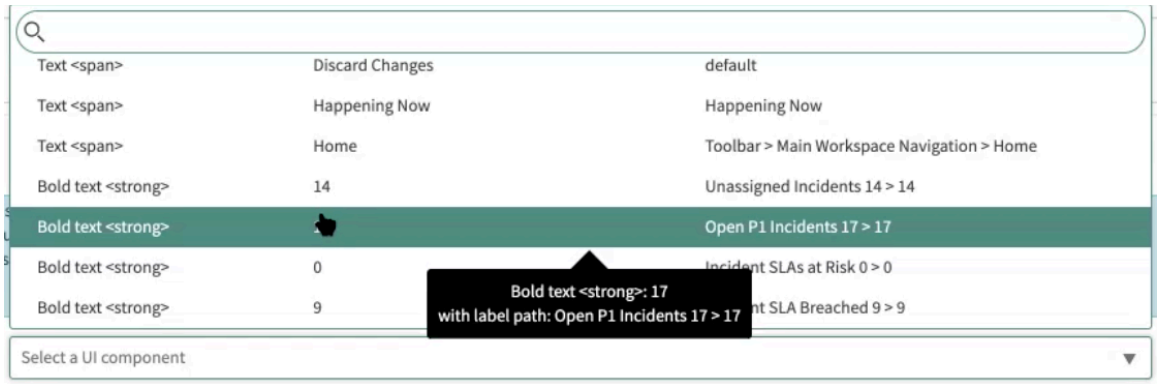
```
<button sn-atf-id="consistentValue">Test</button>
```

**注:**
Rome リリース以降、sn-atf-id 属性を持つコンポーネントがページ上に 1 つだけある場合、ATF はそのコンポーネントの他の属性に関係なくそのコンポーネントを検索します。

## ATF コンポーネントの識別の改善

[ページ領域] 列に含まれるラベルパスを使用して、コンポーネントを識別します。Rome リリース以降、 sn_atf.element.use_label_path プロパティはデフォルトで true に設定されています。

コンポーネントに sn-atf-area 属性がある場合、[ページ領域] 列には sn-atf-area 値が表示されます。 sn-atf-area 属性が存在しない場合、そのコンポーネントのラベルパスが [ページ領域] 列に表示されます。



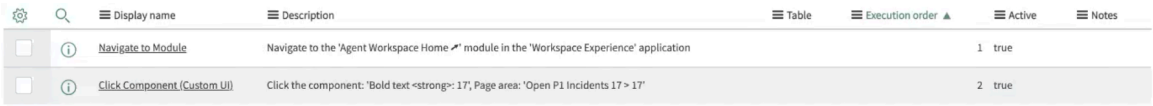

**注:**
同じ名前の [ラベル] 値が複数ある場合、ラベルパスは正しいコンポーネントを識別するのに役立ちます。

**注:**
コンポーネントに sn-atf-area 属性またはラベルパスがない場合は、デフォルトとして表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストから必要なコンポーネントを選択して [送信] をクリックすると、テストステップの説明も詳細な情報で更新されます。

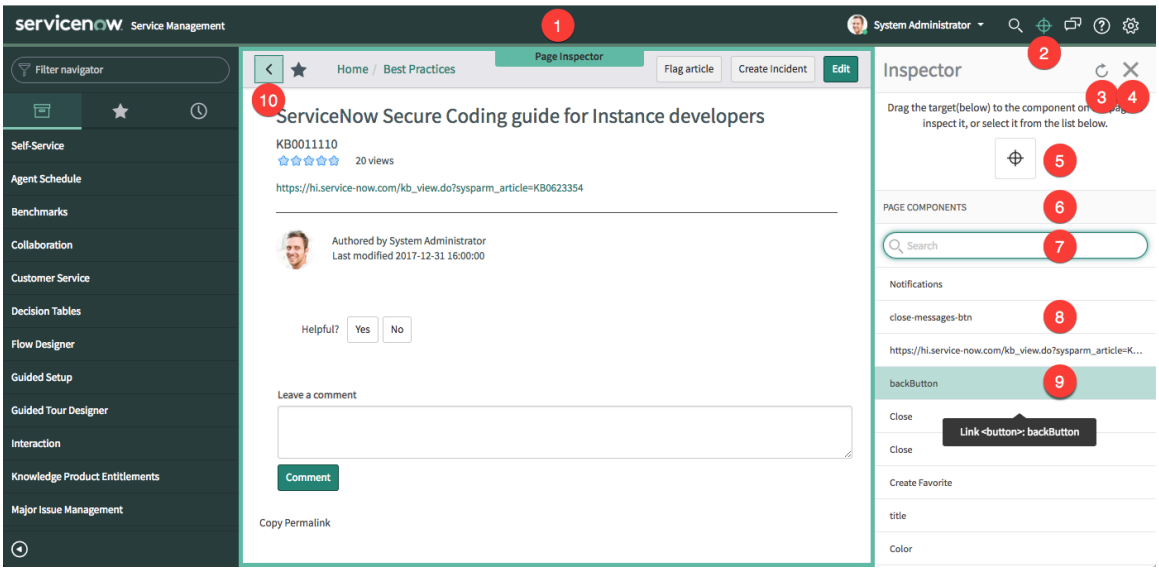



## ページインスペクター

カスタム UI テストに使用できるユーザーインターフェイスの HTML および JavaScript ページコンポーネントを特定します。ユーザーインターフェイスにテスト可能なページコンポーネントのみが含まれていることを確認して、自動テストを有効にします。

ページインスペクターは、現在表示されている Now Platform ページの横に新しいペインを開く開発者設定です。

ナレッジベース記事 **KB0011110** のページインスペクタービュー




ページインスペクターはこれらの機能を提供します。

1. 現在検査されているページを識別する強調表示されたフレーム。
2. インスペクターペインを表示または非表示にするバナーアイコン。
3. ページコンポーネントのリストを更新するボタン。
4. インスペクターペインを非表示にするボタン。
5. ページ上の特定のコンポーネントを識別するインスペクターボタン。
6. カスタム UI テストに使用できるページコンポーネントのリスト。
7. ページコンポーネント検索フィルター。
8. ページコンポーネントに関する詳細情報を表示する場合にクリックする行。
9. 現在検査されているコンポーネントに関する情報をプレビューするためのハイライト表示された行とツールヒント。
10. ページ上で現在検査されているコンポーネントを識別するために強調表示されたページコンポーネント。
11. ページコンポーネントのリストに戻るためのコンポーネントラベルと戻るボタン。
12. 現在のページコンポーネントに対して実行するアクションのリスト。
13. 現在のページコンポーネントの属性情報のリスト。

自動翻訳

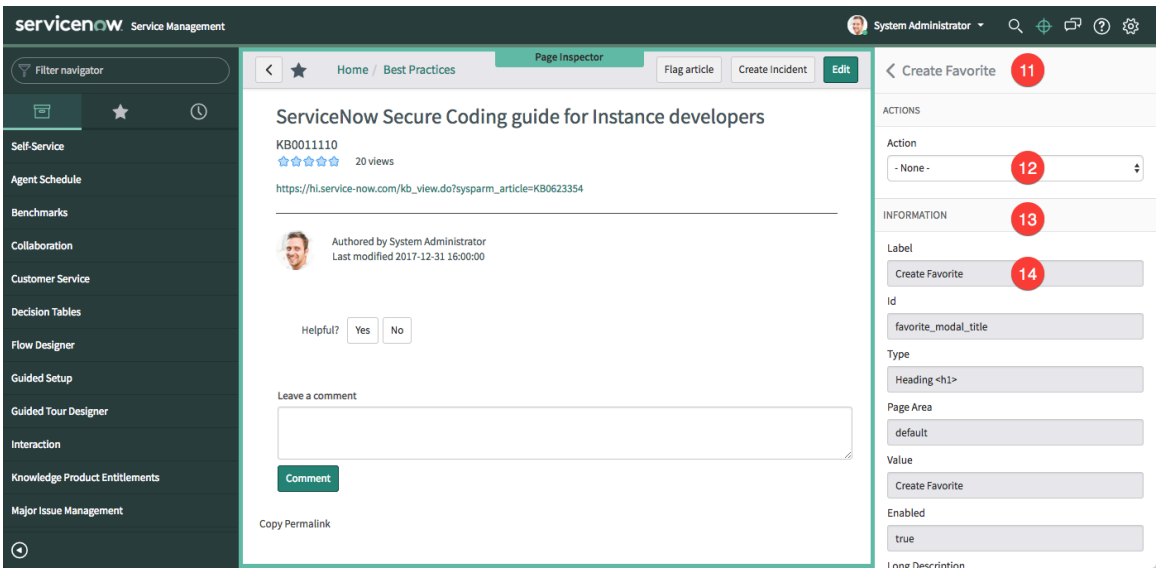
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**14.** ページコンポーネントの属性名と値のペア。

> **注:**
> [ラベルパス] フィールドを使用して、ページ上のコンポーネントを検査するときに、要素の周囲の階層ページコンテキストを表示できます。要素の「先祖」ラベルパスが多い場合、表示できるのは 3 つだけです。各ラベルパス要素は > で区切られます。これは外観が似ている 2 つのコンポーネントを区別するために使用できます。

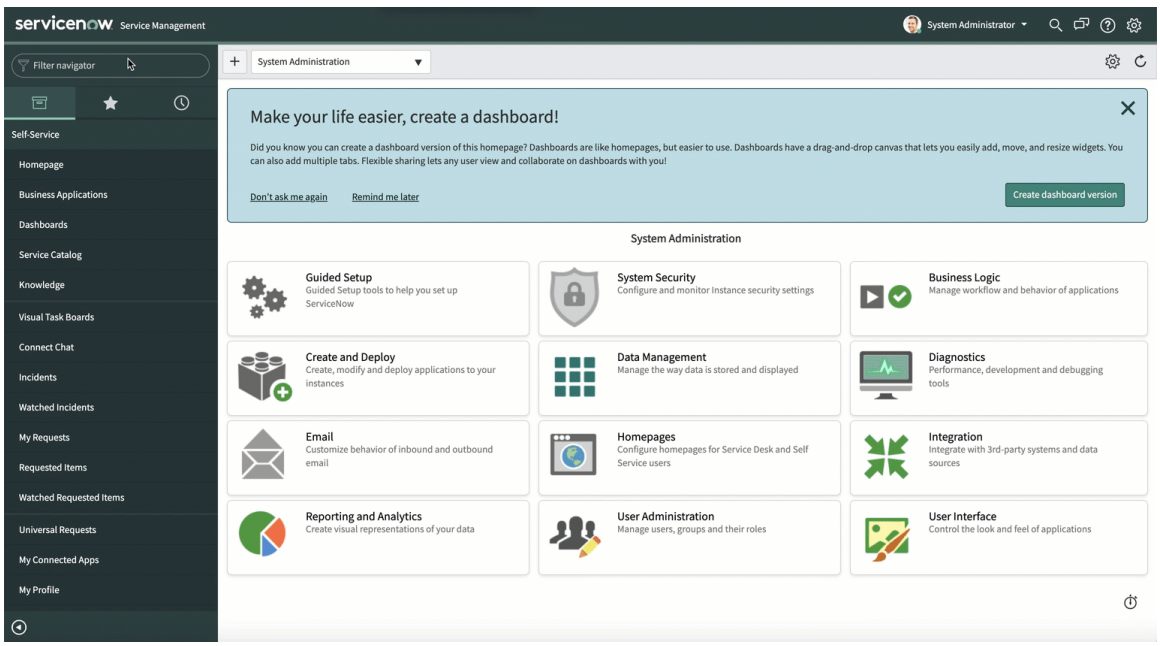
> **注:**
> アイコン付きの UI ボタンがページインスペクターに表示されるようになりました。

コンポーネント詳細のページインスペクタービュー




## ページインスペクターランチャー

ページインスペクターランチャーは、ページインスペクター内の特定のページを選択して起動するのに役立ちます。詳細については、「さまざまなページタイプの検査」を参照してください。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## テスト可能なページコンポーネント

ページを最初にロードしたときに、ページインスペクターがテスト可能なページコンポーネントのリストを取得します。テスト可能なコンポーネントは、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能な標準の HTML と JavaScript で構成されています。テストデザイナーは、これらのコンポーネントをカスタム UI テストの一部として使用できます。

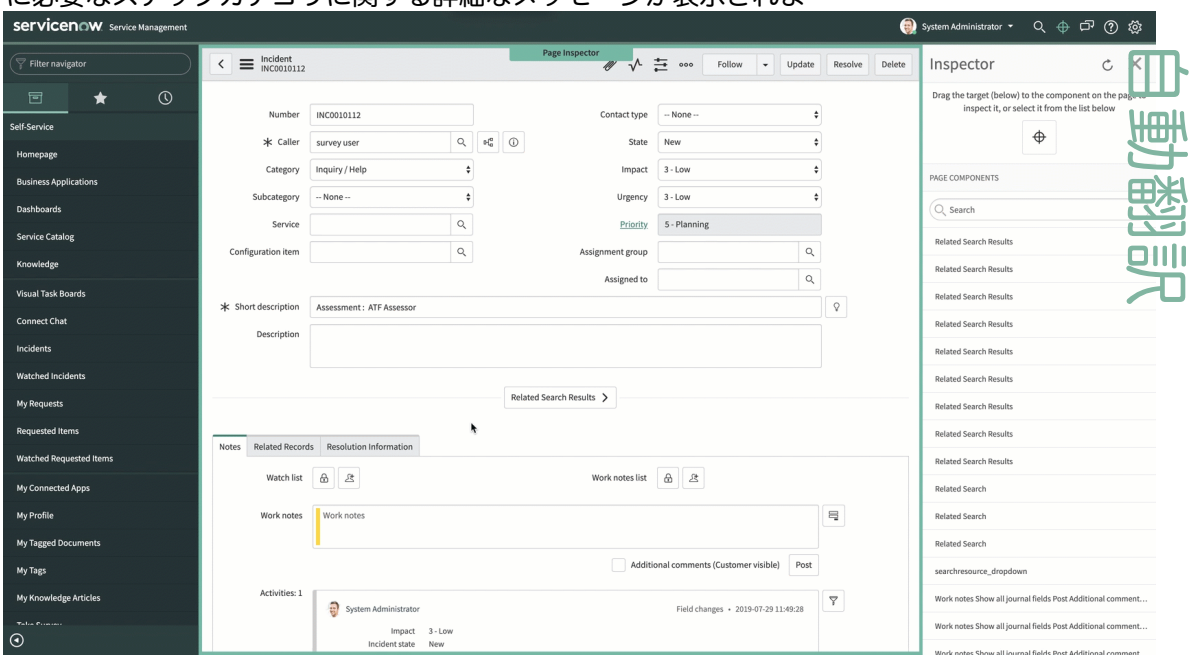
## テスト不可能なページコンポーネント

ページインスペクターは、このタイプのテスト不可能なページコンポーネントを識別します。

除外リスト

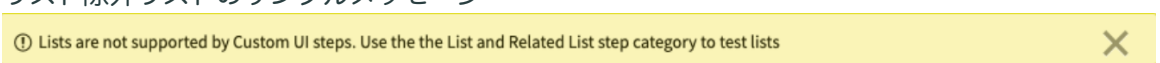
[除外リスト] ページコンポーネントは、カスタム **UI** テストステップを使用してテストすることはできません。[除外リスト] ページコンポーネントには、通常、特殊な Now Platform ユーザーインターフェイスと、他の方法ですでにテスト可能なコンポーネントが含まれています。テストデザイナーは、[除外リスト] ページコンポーネントのカスタム UI テストを作成できません。これらのコンポーネントをテストするには、フォームや サービスカタログ などのサポートされている別のテストカテゴリを使用する必要があります。

ページインスペクターで、検査アイコンを除外リストインターフェイスの上にドラッグすると、背景が灰色で表示されます。除外リストコンポーネントに検査アイコンをドロップすると、これらのコンポーネントのテストに必要なステップカテゴリに関する詳細なメッセージが表示されます。



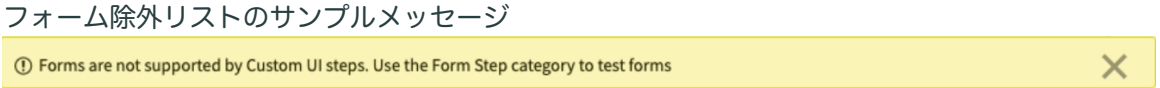

- リストをカスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。リストをテストするには、リストと関連リスト テストステップカテゴリを使用します。

  リスト除外リストのサンプルメッセージ

- カスタム UI テストステップを使用してフォームをテストすることはできません。フォームをテストするには、フォームカテゴリ テストステップを使用します。

  フォーム除外リストのサンプルメッセージ

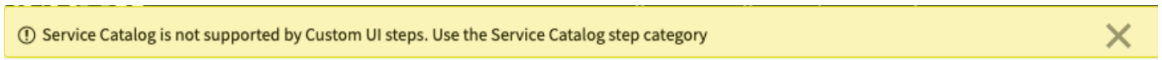
  
  

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
フォーム内の UI フォーマッターは、カスタム UI テストステップを使用してアクセスしてテストできます。詳細については、「カスタム UI テストの作成」を参照してください。

- サービスカタログアイテムは、カスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。カタログアイテムをテストするには、サービスカタログ カテゴリ テストステップを使用します。

  カタログアイテム除外リストのサンプルメッセージ

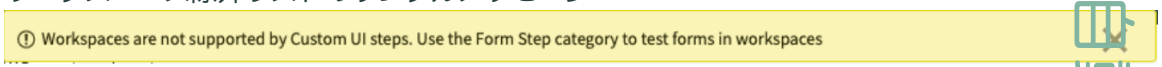
- 特定のコンポーネントはカスタム UI ページから除外され、テストすることはできません。

  コンポーネント除外リストのサンプルメッセージ

- ワークスペースをカスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。利用可能なワークスペースでフォームをテストするには、 フォームカテゴリ テストステップを使用します。

  ワークスペース除外リストのサンプルメッセージ

アクセス不可能

アクセス不可能ページコンポーネントは、構成上の問題のため、自動テストフレームワーク (ATF) が識別できないか、またはテストする権限を持っていない要素です。アクセス不可能ページコンポーネントには、通常、第三者 JavaScript ライブラリまたは Shadow DOM を含む要素が含まれます。テスト設計者は、アクセス不可能ページコンポーネントに対するカスタム UI テストを作成することはできませんが、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能なコンポーネントを使用するようにページを再設計できる場合があります。

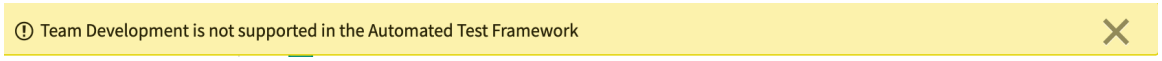
- 特定のコンポーネントは 自動テストフレームワーク (ATF) ではアクセスできません

  アクセスできないコンポーネントのサンプルメッセージ

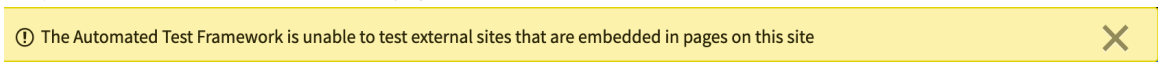
- Team Development は 自動テストフレームワーク (ATF) ではサポートされていません

  サポートされていないコンポーネントのサンプルメッセージ

- プラットフォームページに埋め込まれた外部サイトのテストは、自動テストフレームワーク (ATF) ではサポートされていません

  サポートされていない埋め込み外部サイトのサンプルメッセージ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### さまざまなページタイプの検査

ページインスペクターを使用して、**UI** ページ、サービスポータル、標準 **UI**、カスタム **URL** などのさまざまなページタイプの機能を調べてトラブルシューティングを行います。

#### 始める前に
必要なロール：admin、atf_test_designer、atf_test_admin

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > ページ インスペクター > 手動ページ インスペクター.

**2.** 検査する [ページタイプ] を選択します。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| UI ページ | 既存の UI ページ。利用可能リストから開始ページを選択します。 |
| 標準 UI | 標準プラットフォームのフォーム、リスト、一部の UI ページ。[開始ページ] フィールドで、フォーム、リスト、または UI ページを選択します。<br>**注:** オプションの [レコード] フィールドは、[開始ページ] フィールドでフォームを選択した場合にのみ表示されます。 |
| Service Portal | インスタンス内の利用可能なポータル。利用可能なポータルと検査する開始ページを選択します。<br>**注:** [ポータル] フィールドは、[サービスポータル] を [ページタイプ] として選択した場合にのみ表示されます。 |
| カスタム | 検査するカスタムプラットフォーム URL。<br>**注:** 完全な URL を [開始ページの URL] フィールドにコピーして貼り付けないでください。たとえば、https://instance.service-now.com/home.do を検査する場合は、入力として /home.do のみを含めます。 |

**3.** [検査] をクリックします。

### ページインスペクターを有効にして使用する

開発者設定を有効にして、プラットフォーム内で開く UI ページを検査します。手動ページインスペクターを使用して、サービスポータル ページなどの新しいタブで開くページを検査します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
カスタム UI テストに使用できるユーザーインターフェイスの HTML および JavaScript ページコンポーネントを特定します。ユーザーインターフェイスにテスト可能なページコンポーネントのみが含まれていることを確認して、自動テストを有効にします。

手順

1. 検査する必要があるカスタム UI ページの種類に応じて、ページインスペクターを有効にします。一部のカスタム UI ページは新しいタブで開き、手動でのみ検査できることに注意してください。

2. 検査するコンポーネントを選択します。
   - 検査アイコン ( ) をページインスペクターペインからページ上のコンポーネントまでドラッグします。
   - [ページインスペクター] ペインから使用可能なコンポーネントを選択します。

   ページを最初にロードしたときに、ページインスペクターがテスト可能なページコンポーネントのリストを取得します。テスト可能なコンポーネントは、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能な標準の HTML と JavaScript で構成されています。テストデザイナーは、これらのコンポーネントをカスタム UI テストの一部として使用できます。
3. コンポーネント情報を表示して、[アクション] フィールドで使用可能なアクションを実行します。使用可能なアクションを実行すると、コンポーネントに利用可能なテストステップを手動で確認できます。たとえば、[コンポーネントをクリック] を選択すると、ページインスペクターはコンポーネントを選択し、結果のページを表示します。

次のタスク
カスタム UI テストの作成

## カスタム **UI** テストの作成

カスタム UI ページでコンポーネントをテストします。

始める前に

- ページインスペクターを使用してテスト可能なカスタム UI コンポーネントを識別します。「ページインスペクターを有効にして使用する」を参照してください。
- 必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. [新規] をクリックします。
3. テストの名前と説明を入力します。
4. [保存] をクリックします。
5. [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
6. ターゲットのカスタム UI に移動するには、テストステップを追加します。

   **Example**
   [モジュールに移動] を使用して、アプリケーションナビゲーターモジュールがあるページを開きます。 **[Service Portal** ページを開く] ステップを使用して、ポータルページを開きます。
   UI ページを開くには、次のテストステップを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

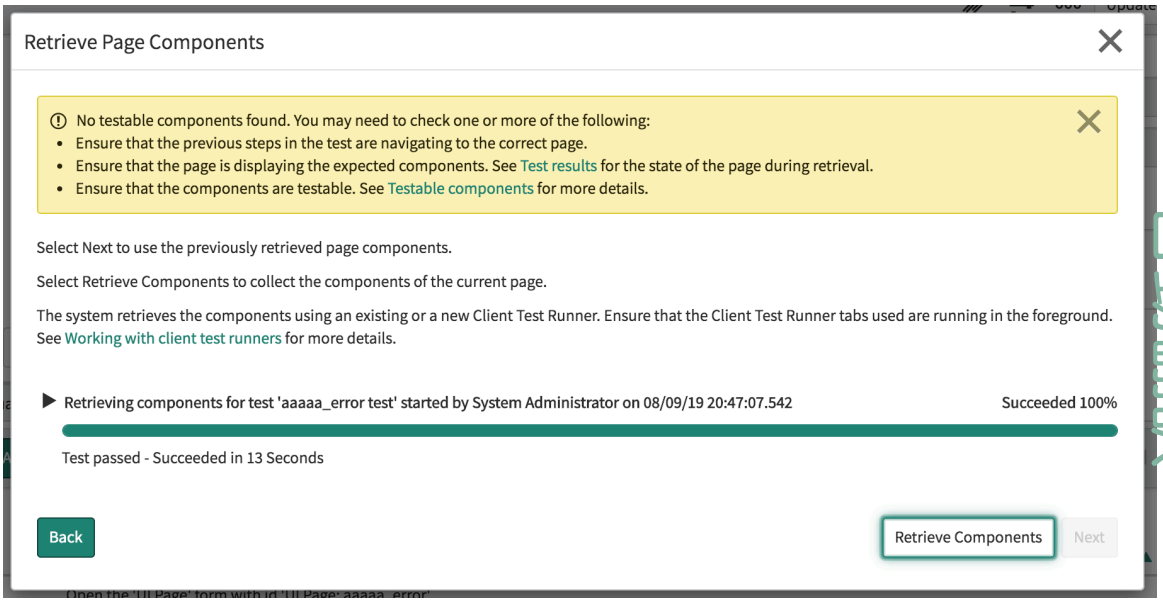
**a.** [既存のレコードを開く]：ページのレコードを開きます。

**b. [UI** アクションをクリック]：[試す **(Try It)]** UI アクションをクリックしてページを開きます。

7. カスタム UI コンポーネントの動作を検証するために、カスタム UI カテゴリからテストステップを追加します。
利用可能なカスタム UI テストステップのリストについては、「カスタム UI カテゴリ」を参照してください。
8. テストステップを追加するときに UI コンポーネントを取得します。

   テストステップの UI コンポーネントのリストを取得して、カスタム UI ページのテスト可能なページコンポーネントを識別します。[コンポーネントを取得] を選択して、現在のページのコンポーネントを収集します。

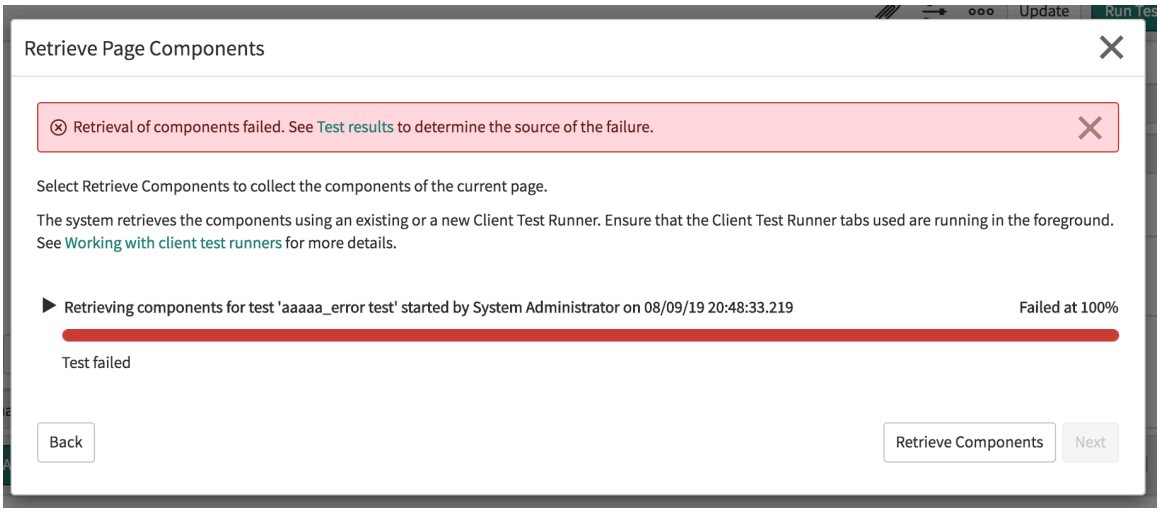
   既存または新しいクライアントテストランナーを使用して、コンポーネントが取得されます。取得プロセスで使用されるクライアントテストランナータブがフォアグラウンドで実行されていることを確認します。[コンポーネントを取得] を選択してもコンポーネントが生成されないテストの場合は、次の警告メッセージが表示され、[次へ] ボタンが無効になります。



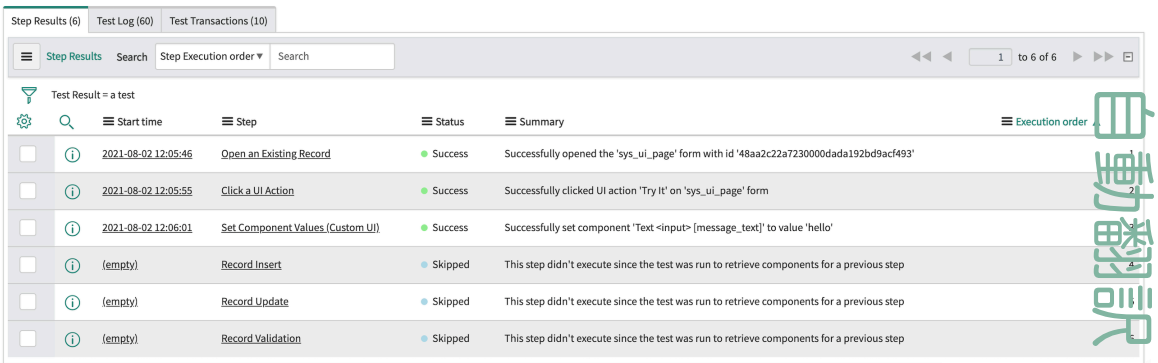

   ページコンポーネントのリストを既に取得している場合は、[次へ] をクリックして、以前に取得したリストを使用します。[コンポーネントを取得] をクリックして、現在のステップを再実行し、テスト可能なページコンポーネントのリストをリフレッシュすることもできます。コンポーネントの取得中にテストが失敗した場合は、次の警告通知が表示されます。通知のリンクをクリックすると、テスト結果を確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
テストのステップを更新する必要がある場合は、そのステップの [コンポーネントを取得] をクリックすると、その特定のステップまでのみテストが実行されます。選択したステップ以降のステップに対するテストは実行されません。更新されたすべてのステップが失敗なしで合格すると、テストは合格です。




自動テストフレームワーク (ATF) はページコンポーネントのリストを保存し、テストステップフォームの [コンポーネント値] または [コンポーネント] フィールドにリストを表示します。フィールドには、各コンポーネントに関する次の情報が表示されます。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タイプ | HTML 要素の説明とタグ。たとえば、Text<input>。 |
| ラベル | HTML コンポーネントラベル。 |
| 値 | コンポーネントの値。たとえば、コンポーネントが検索入力の場合、値は **Search** のようになります。 |
| ページエリア |  や <section> 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素。 |

カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

次のタスク
テストスイートにテストを追加することを検討してください。詳細については、「自動テストスイートの構築と実行」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### コンポーネントテストアクションを上書きする

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF) がコンポーネントを取得するとき、それが設定可能なコンポーネントかクリック可能なコンポーネントかなど、サポートする対話式操作を決定します。コンポーネントが設定可能な場合、自動テストフレームワーク (ATF) は設定できるフィールドタイプを決定します。自動テストフレームワーク (ATF) がカスタムコンポーネントのアクションまたはフィールドタイプを誤って決定する場合、またはコンポーネントに 1 つのエンティティとして扱う必要がある複数の DOM 要素が含まれている場合は、自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用してそれらを明示的に設定します。

### **sn-atf-clickable** 属性と **sn-atf-settable** 属性の使用

sn-atf-clickable 属性と sn-atf-settable 属性を使用して、要素とその子要素をカスタムのクリック可能コンポーネントまたはカスタム設定可能なコンポーネントとして扱う必要があることを指定します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

#### 手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. sn-atf-clickable または sn-atf-settable 属性をテスト対象の要素に追加します。

   **Example**

   ```
   <div sn-atf-clickable="true" sn-atf-disabled id="customClickable">
    <button id="customButton">Click me</button>
   </div>
   ```

   ```
   <div sn-atf-settable="true" id="customSettable" sn-atf-component-value="A default value">
    <input id="customInput" value="A default value"></input>
   </div>
   ```

   **注:**
   sn-atf-clickable 属性または sn-atf-settable 属性のいずれかを使用して、要素をカスタムのクリック可能コンポーネントまたはカスタム設定可能なコンポーネントとして扱う必要があるかどうかを指定します。同じ要素で両方の属性を使用することはできません。

3. sn-atf-clickable 属性または sn-atf-settable 属性のいずれかを使用します。

   - sn-atf-clickable： sn-atf-clickable 属性を追加した場合、ATF は sn-atf-clickable 属性を持つ DOM 要素に sn-atf-click イベントを送信することによってコンポーネントをクリックします。この DOM 要素にイベントリスナーを追加し (たとえば、addEventListener を使用)、コンポーネントのカスタムクリックロジックを実装する必要があります。[コンポーネントをクリック] テストステップを使用して、クリック可能なカスタムコンポーネントを操作できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリック可能なコンポーネント属性

| 属性の名前 | 説明 |
| --- | --- |
| sn-atf-disabled | このオプションの属性が存在すると、(その値に関係なく) このコンポーネントが無効であることを ATF が認識します<br>**注:** この属性が指定されていない場合、ATF はこのコンポーネントがデフォルトで有効になっていると見なします。 |
| sn-atf-component-value | このコンポーネントの現在の値を ATF に通知する文字列または JSON オブジェクト |

- sn-atf-settable： sn-atf-settable 属性を追加した場合、ATF は sn-atf-settable 属性を持つ DOM 要素に sn-atf-setvalue イベントを送信することによってコンポーネント値を設定します。この DOM 要素にイベントリスナーを追加し (たとえば、addEventListener を使用)、コンポーネントのカスタム設定値ロジックを実装する必要があります。設定する必要がある値には、event.detail.newvalue を使用してアクセスできます。イベント引数がイベントハンドラーに渡されます。[コンポーネント値の設定] テストステップを使用して、設定可能なカスタムコンポーネントを操作できます。

設定可能なコンポーネント属性

| 属性の名前 | 説明 |
| --- | --- |
| *sn-atf-disabled* | このオプションの属性の存在は (値に関係なく)、このコンポーネントが無効であることを ATF に通知します。<br>**注:** この属性が指定されていない場合、ATF はこのコンポーネントがデフォルトで有効になっていると見なします。 |
| *sn-atf-component-value* | このコンポーネントの現在の値を ATF に通知する文字列または JSON オブジェクト。 |
| *sn-atf-data-type* | ステップを構築するときにユーザーに表示するオプションのフィールドタイプ。デフォルトは文字列です。たとえば、glide_date_time、reference、boolean などです。 |
| *sn-atf-data-type-params* | データタイプの詳細を含む JSON オブジェクト。 |

**Example:**

```
//A custom clickable component

<div sn-atf-clickable="true" sn-atf-disabled id="customClickable">
 <button id="customButton">Click me</button>
</div>
<script>
 var customClickableDiv = document.getElementById("customClickable");
 customClickableDiv.addEventListener('sn-atf-click', function() {
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 document.getElementById('customButton').click();
});
</script>
```

```
//A custom settable component

<div sn-atf-settable="true" id="customSettable" sn-atf-component-value="A default value">
 <input id="customInput" value="A default value"></input>
</div>
<script>
 var customSettableDiv = document.getElementById("customSettable");
 customSettableDiv.addEventListener('sn-atf-setvalue', function(event) {
  var newValue = event.detail.newValue;
  document.getElementById("customInput").value = newValue;
 });
</script>
```

### sn-atf-class 属性の使用

カスタムのクリック可能または設定可能コンポーネントをテストするときに使用する JavaScript オブジェクトを指定するには、sn-atf-class 属性を使用します。カスタム JavaScript オブジェクトを書いて、カスタムコンポーネントに使用できるテストアクションを指定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
テスト設計者は、カスタムの JavaScript オブジェクトを書き、コンポーネントに sn-atf-class 属性を割り当てることで、カスタムコンポーネントに使用できるテストアクションを手動で指定できます。属性の値を、コンポーネントテストアクションを含む JavaScript オブジェクトの名前に設定します。テスト可能なカスタムコンポーネントはクリック可能か設定可能のいずれかである必要があります。この分類によって、JavaScript オブジェクトに必要な機能とプロパティが決まります。テスト可能なページコンポーネントの要件については、「カスタム UI テストステップ」を参照してください。

手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. テスト対象の要素に sn-atf-class 属性を追加し、getValue()、setValue()、click()、または isDisabled() 関数を処理するページに埋め込まれた JavaScript オブジェクトの名前に値を設定します。

   **Example**

   ```
   <div sn-atf-class="MyClickableComponent">
      <label for="a_clickable_checkbox">MyClickableComponent</label>
      <input type="checkbox" id="a_clickable_checkbox" checked="true"/>
   </div>
   ```

3. sn-atf-class 属性で指定された JavaScript オブジェクトを作成し、カスタムページコンポーネントをクリック可能または設定可能ページコンポーネントとして識別するために必要な関数と属性を追加します。

   A

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリック可能なコンポーネント関数

| 関数名 | 説明 |
| --- | --- |
| `initialize()` | コンポーネントの初期値を取得します。次のように入力します。<br>`$super(element, area)` |
| `click()` | コンポーネントを選択します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。<br>成功：コンポーネントをクリックできる場合は true です。<br>**注:** UI テストステップのインテリジェント待機メカニズムをトリガーします。 |
| `getValue()` | 要素の値を取得します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。<br>○ 成功：値が取得された場合は true です。<br>○ 結果：コンポーネントの値。 |
| `isDisabled()` | コンポーネントが無効かどうか。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。<br>○ 成功：コンポーネントが無効の場合は true です。<br>○ 結果：コンポーネントが無効の場合は true です。 |

設定可能なコンポーネント関数

| 関数名 | 説明 |
| --- | --- |
| `initialize()` | コンポーネントの初期値を取得します。次のように入力します。<br>`$super(element, area)` |
| `setValue(newValue)` | コンポーネントの値を設定します。下記の 2 番目の例を参照してください。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。<br>成功：値が設定されている場合は true です。<br>**注:** UI テストステップのインテリジェント待機メカニズムをトリガーします。 |
| `getValue()` | 要素の値を取得します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。<br>○ 成功：値が取得された場合は true です。<br>○ 結果：コンポーネントの値。 |
| `isDisabled()` | コンポーネントが無効かどうか。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 関数名 | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ 成功：コンポーネントが無効の場合は true です。<br>○ 結果：コンポーネントが無効の場合は true です。 |

設定可能なコンポーネント属性

| 属性の名前 | 説明 |
| --- | --- |
| `isSettable: true` | 設定可能なページコンポーネントとしてコンポーネントを識別します。 |

4. Jelly でカスタムコンポーネントを作成するときは、sn-atf-class 属性で指定された JavaScript オブジェクトの周囲に <g2:atf_only> タグを追加します。
これらのタグにより、自動テスト中にのみ JavaScript オブジェクトが実行されます。

**Example:**

```
//A custom clickable component

<form>
    <div sn-atf-class="MyClickableComponent">
        <label for="a_clickable_checkbox">MyClickableComponent</label>
        <input type="checkbox" id="a_clickable_checkbox" checked="true"/>
    </div>
</form>
<script>
var MyClickableComponent = {

    // The constructor must have this signature, but you can perform additional setup after the
 $super(element, area) call
    initialize: function($super, element, area) {
        $super(element, area);
    },

    click: function() {
        document.getElementById('a_clickable_checkbox').click();
        return {success: true};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type String
    getValue: function() {
        var isChecked = document.getElementById('a_clickable_checkbox').checked ? "true" :
 "false";
        return {success: true, result: isChecked};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type Boolean
    isDisabled: function() {
        if (document.getElementById('a_clickable_checkbox').disabled)
            return {success: true, result: true};

        return {success: true, result: false};
    },
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
};
</script>
```

```
//A custom settable component

<form>
   <div sn-atf-class="MySettableComponent">
      <label for="a_settable_checkbox">MySettableComponent</label>
      <input type="checkbox" id="a_settable_checkbox" checked="true"/>
   </div>
</form>
<script>
var MySettableComponent = {

   // This attribute is required for settable components
   isSettable: true,

   // The constructor must have this signature, but you can perform additional setup after the
 $super(element, area) call
   initialize: function($super, element, area) {
      $super(element, area);
   },

   // The value parameter is a string
   setValue: function(value) {
      document.getElementById('a_settable_checkbox').checked = (value == "true");
      return {success: true};
   },

   // The function returns an object with a result attribute of type String
   getValue: function() {
      var isChecked = document.getElementById('a_settable_checkbox').checked ? "true" :
 "false";
      return {success: true, result: isChecked};
   },

   // The function returns an object with a result attribute of type Boolean
   isDisabled: function() {
      if (document.getElementById('a_settable_checkbox').disabled)
         return {success: true, result: true};

      return {success: true, result: false};
   },

};
</script>
```

### 参照とレコードピッカー

カスタム UI ステップを使用して、sn-reference-picker および sn-record-picker 角度ディレクティブの値を操作します。参照ピッカーの値は、選択されたレコードの sys_id を返します。レコードピッカーの値は、そのレコードピッカーに対して選択された値フィールドを返します。値として設定するレコードを選択することで、両方の要素を設定できます。

### コンポーネントデータタイプを上書きする

コンポーネント値を設定テストステップに表示されるフィールドのタイプを上書きするには、sn-atf-data-type 属性と sn-atf-data-type-params 属性を使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
設定可能なコンポーネントには、カスタム UI テストステップで設定できる値を決定するデータタイプがあります。たとえば、特定のレコードへの参照を表示するためのページコンポーネントは、システム ID 値のみを表示するための参照データタイプを持つことができます。

手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. sn-atf-data-type 属性を設定可能コンポーネントに追加し、コンポーネント値を設定テストステップに表示するフィールドタイプに値を設定します。

   この属性には、テスト可能なデータタイプの文字列が含まれます。使用可能な値には、次の表に示す値が含まれます。

| 属性値 | 説明 |
|---|---|
| glide_date | 特定の日を指定する文字列を含みます。 |
| glide_date_time | 特定の日時を指定する文字列を含みます。 |
| 参照 | 関連レコードへの Sys ID が含まれています。このデータタイプでは追加情報を sn-atf-data-type-params 属性に指定する必要があります。 |

3. sn-atf-data-type の値が reference のときに追加情報を提供するには、sn-atf-data-type-params 属性を追加します。

   この属性には、JSON 形式のキーと値のペアが含まれます。使用可能なキーと値のペアには、次の表に示すものが含まれます。

| キー | 値 |
|---|---|
| 参照 | 参照フィールドに表示するレコードが含まれているテーブルの名前。たとえば、インシデントテーブルのレコードを表示するには、"reference":"incident" を追加します。 |
| reference_qual | クエリーに適用するフィルター。たとえば、アクティブなインシデントレコードのみを表示するには、"reference_qual":"active=true" を追加します。「参照修飾子」を参照してください。 |

**Example:**

```
<input id="someTextField" value="someSysId" sn-atf-data-type="reference"
sn-atf-data-type-params='{"reference":"incident","reference_qual":"active=true"}'/>
```

### ATF の Select2 機能

Select2 コンポーネントを使用すると、ドロップダウンメニューからオプションを簡単に検索して選択できます。

select2 の値をテストで設定できます。次に、Select2 の検索バーで値を検索します。コンポーネントのドロップダウンで最初の有効な結果が選択されます。

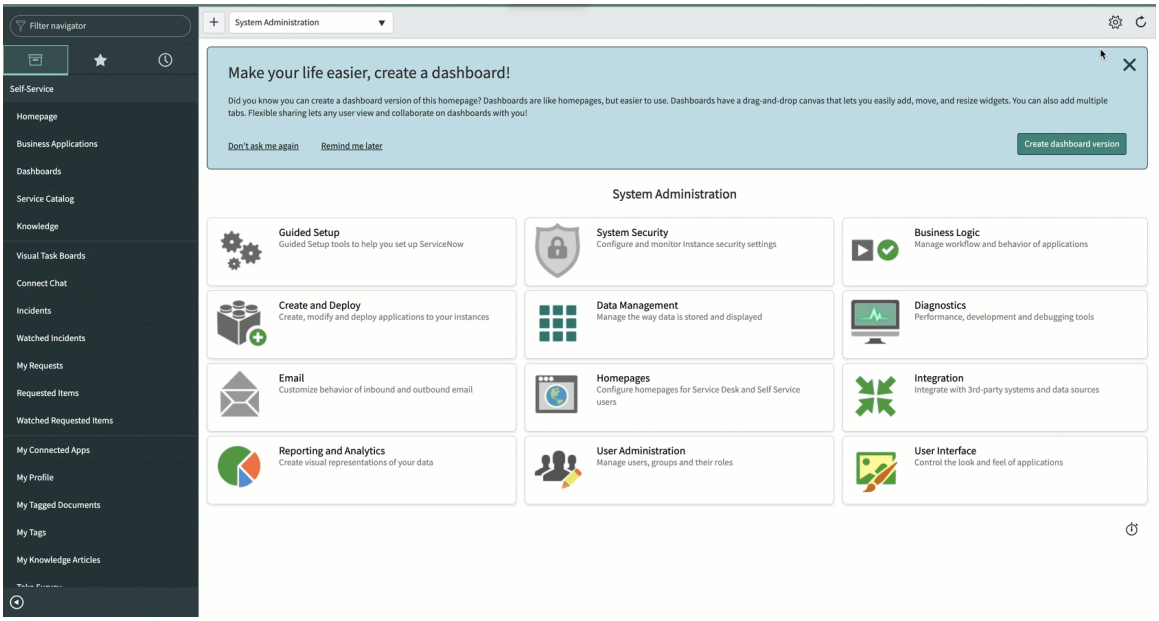
ページインスペクターを必要なドロップダウンメニューにドラッグアンドドロップします。選択したコンポーネントの右側のパネルが開きます。ページインスペクター内のコンポーネント値設定ステップで、検索するテキストを指定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アクション] の [コンポーネント値を設定] オプションを選択して、コンポーネントを検索します。右側のパネルにテキストを入力し、[送信] をクリックします。これにより、コードで select2 を開いてそのコンポーネントを検索し、表示される最初のオプションを選択できます。

**注:**
同じような名前のコンポーネントオプションが複数表示された場合は、最初のオプションのみが選択されます。




## select2 サポートの制限

- select2 ライブラリの特定のバージョン (3.5.1-3.5.4 および 4.0.0-4.0.13) のみがサポートされています。
- select2 のサポートは、jquery ライブラリに依存します。そのため、 select2 の値を設定しようとして、jquery ライブラリの名前が変更された場合、テストは失敗します。
- 検索バーがない場合、Select2 による検索は機能しません。

## 設計上の考慮事項

オプションを効率的に検索して選択するには、次の設計上の考慮事項を検討します。

- 一意に検索可能なテストデータを使用する (推奨)
- 現在の要素が設定されるのを待ってから、[コンポーネント値 (カスタム UI) の設定] テストステップで [Select2] の値を設定しながら次の要素の設定に進みます。
- jquery ライブラリ名の変更を回避してテストの失敗を防ぐ
- Select2 のアダプターおよびデコレーター機能はサポートされていません

### 自動テストフレームワーク (ATF) のブラウザーの推奨事項

自動テストを実行するようにクライアントテストランナーのブラウザーを設定し、パフォーマンスの低下を回避します。

### 定期的なブラウザーの再起動

これらのブラウザーには、クライアントテストランナーを実行しているときに時折ブラウザーを閉じて再起動することが必要になるメモリ管理制限があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Internet Explorer
- エッジ
- 古いバージョンの Firefox

ブラウザを閉じる頻度は、ブラウザアプリケーションのメモリ割り当てによって決まります。

### ブラウザーの CPU 調整

一部のブラウザーは、焦点がはずれているウィンドウの CPU 使用率を調整します。CPU 調整の問題を回避するには、次のガイドラインに従ってください。

- 独自のブラウザーウィンドウで各クライアントテストランナーを実行します。
- クライアントテストランナーのブラウザーウィンドウの一部が常に画面に表示されるようにします。
- システム画面がロックやシャットオフされていないことを確認します。

### ブラウザーのズームレベル

クライアントテストランナーは、テストの実行時にスクリーンショットを取得します。 最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

### OS X の CPU 調整

Chrome または Safari でクライアントテストランナーを使用する OS X の場合：システムがテストスイートを実行しようとしたときに、画面がロックされるかクライアントテストランナータブがオクルージョンされた場合、テストの実行速度が非常に遅くなり、タイムアウトになることがあります。最高のパフォーマンスを得るには、画面がロックされたり無効になったりすることがない仮想マシン (VM) 環境でスケジュール済みスイートに対してクライアントテストランナーを実行します。

### ブラウザーセッションでのロールバック

セッション cookie は、テスト中に行われたすべての変更をロールバックします。テストの実行中は、そのセッションで実行されたすべての処理がロールバック用に記録されます。同じブラウザーセッションでテストが実行されている場合は、インスタンスを変更しないでください。たとえば、同じセッションでテストを実行しながらレコードを変更した場合は、テストが完了した後に変更がロールバックされます。 同じセッション内で他のタブに移動すると、作業がロールバックされ、暗黙的なナビゲーションに依存するテストが妨げられる可能性があります。

### 並列テスト

複数のテストを並列で実行する場合は、問題を避けるために次のガイドラインに従ってください。

シークレットウィンドウまたはプライベートウィンドウで各クライアントテストランナーを実行する

並列テストでは、同じブラウザーセッションに関連付けられたすべての変更がロールバックされるため、別のブラウザータブで行われた正当な変更が、並列テスト中にロールバックされる可能性があります。不要な変更のロールバックを防ぐために、常に別個のブラウザーセッションでクライアントテストランナーを実行してください。シークレットウィンドウまたはプライベートウィンドウでクライアントテストランナーを開くと、常に別個のブラウザーセッションが実行されます。

テストが完了したら、クライアントテストランナーウィンドウを閉じる

不要な変更のロールバックを防ぐために、テストの完了後は必ずクライアントテストランナーを閉じてください。ブラウザーウィンドウを閉じると、別のブラウザータブで行われた正当な変更が、テストロールバックによって元に戻ることはなくなります。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### クライアントテストランナーでの作業

自動テストにフォームやその他のユーザーインターフェイス (UI) 要素が絡むステップが含まれている場合は、テスト ランナーまたはクライアントテスト ランナー と呼ぶブラウザ タブまたはウィンドウでこれらのステップを実行します。Automated Test Framework は、手動で開始したテスト用のクライアントテストランナーとスケジュールによって開始されたテスト用のクライアントテストランナーの 2 つのタイプのクライアントテストランナーをサポートします。

テスト実行が有効になっているときに、クライアントテスト ランナーモジュールをクリックすると、現在のブラウザーセッションにあるクライアントテスト ランナーが開きます。テストが実行待ちの場合、クライアントテスト ランナーは待機テストを実行します。テストが実行されていない場合、テストの実行を待機中のメッセージがクライアントテスト ランナーに表示されます。

クライアントテスト ランナーがアイドル状態の間、待機テストの開始を5秒ごとにチェックします。これにより、適切な構成のクライアントが利用できなかったためにシステムが起動できなかった可能性のあるテストを実行するのを確実にします。

**注:**
クライアントテスト ランナーは、現在のセッションからテストを監視し、それらのテストをログインユーザーとして実行する (偽装ユーザーステップを実行しない限り)。クライアントテスト ランナーを起動した場合、現在のセッションからログアウトしてから再度ログインすると、クライアントテスト ランナーは新しいセッションを使用して実行します。

クライアントランナーがアクティブになると、現在実行中のテストのアクティビティーを実行フレームに表示します。

**注:**
これで、一度に複数のテストを実行できるようになりました。

### テスト実行プロパティ

クライアントテスト ランナーモジュールを使用するには、テスト実行プロパティを有効にする必要があります。

**注:**
デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

このモジュールを選択したときにテスト実行プロパティが無効になっていると、メッセージとAutomated Test Framework のプロパティページへのリンクが表示され、そこでプロパティを有効にすることができます。

### 追加のデバッグ機能

追加のデバッグ機能を有効にしている場合、クライアントテスト ランナーモジュールには実行フレームおよびデバッグ情報の 2 つのタブが表示されます。実行フレームはクライアントテスト ランナーによって通常表示される情報を表示し デバッグ情報は追加のデバッグ情報を表示します。

[実行フレーム] タブのテストからスクリーンショットが取得され、テスト結果レコードに記録されます。

### すべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨

- 一部のブラウザにはメモリ管理上の制限があり、クライアントテスト ランナーを実行するときにブラウザを閉じて再起動する必要があります。これらのブラウザには、Internet Explorer、Edge、および古いバージョンのFirefoxが含まれます。ブラウザを閉じる頻度は、ブラウザアプリケーションのメモリ割り当てによって決まります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- いくつかのブラウザには、CPU時間を調整する機能があります。問題を回避するには、次のガイドラインに従ってください。
  - 独自のブラウザウィンドウでクライアントテスト ランナーを実行します。
  - クライアントテスト ランナーを少なくとも部分的に画面に表示しておきます。
  - 画面がロックされたり閉鎖されたりしていないことを確認します。
- クライアントテストランナーは、テストが実行されるときにスクリーンショットを取得します。最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

### スケジュールされたスイートのブラウザ推奨

スケジュールされたスイートのクライアントテスト ランナーには、追加のブラウザー要件があります。

- Chrome または Safari でクライアントテストランナーを使用する OS X の場合：システムがテストスイートを実行しようとしたときに、画面がロックされるかクライアントテストランナータブがオクルージョンされた場合、テストの実行速度が非常に遅くなり、タイムアウトになることがあります。最高のパフォーマンスを得るには、画面がロックされたり無効になったりすることがない仮想マシン (VM) 環境でスケジュール済みスイートに対してクライアントテストランナーを実行します。
- ブラウザは、スケジュール済みのスイート実行レコードで指定した条件を満たす必要があります。
- スケジュール済みのスイート実行レコードで指定した基準を満たすクライアントテストランナーはスケジュールされた時間にテストスイートを実行するために利用可能でなければなりません。システムは自動的にクライアントテスト ランナーセッションを開くことができません。

### **Javascript** ウィンドウコマンドインターセプト

クライアントテスト ランナーは、console.log、console.error、alert、confirm、および prompt を含むウィンドウオブジェクトコマンドを取得し、必要に応じてデフォルトの応答を取得します。

- **window.confirm** を呼び出すスクリプトはいずれもブーリアン **true** の応答を受け取ります。
- **window.prompt** を呼び出すスクリプトはいずれも文字列応答 **test value** を受け取ります。
- アラートへのスクリプト呼び出しは無視されます。

### アクティブなテスト ランナー

クライアントテスト ランナーを起動すると、システムはそのランナーをアクティブテスト ランナーテーブルに登録します。あなたはこのテーブルをアクティブな手動テスト ランナーモジュールとアクティブスケジュールテスト ランナーモジュールで見ることができます。これらの2つのモジュールは、手動またはスケジュールされたテスト ランナーのみを表示するようにフィルタリングされた同じテーブルのビューを提供します。

アクティブでスケジュールされたテスト ランナーモジュールは、スケジュールあれたスイートの実行を作成するときに便利です。スケジュールされたスイートの実行では、使用するブラウザを指定できます。使用するブラウザの名前とバージョンを決定するには、スケジュール済みのテスト ランナーをそのブラウザで開始し、次にスケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュール内のそのランナーのレコードを調べます。

このテーブルのデータは一時的です。ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。[Automated Test

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

Framework のプロパティ (Automated Test Framework properties)] ページでこれらの間隔を変更できます。

関連情報

- クライアントテストランナー
- スケジュール済みのクライアントテスト ランナー
- 許可されたクライアントエラー

ブラウザの選択

実行しているテストまたはテストスイートフォームにフォーム (UI を含むステップ) を使用するステップ、またはその他の UI テストステップ要素 (自動サービスカタログのテストステップなど) が含まれている場合、[テストを実行] または [テストスイートを実行] をクリックした後に、[ブラウザを選択] ダイアログが表示されます。ダイアログは現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいテストランナーを起動するかを尋ねます。

始める前に
実行するテストを作成しておく必要があります。

テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、adminまたはatf_test_adminロールが必要です。

> **注:**
> 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

手順

1. テストまたはテストスイートを実行するブラウザーを選択するか、テストが失敗した場合に再実行します。
   現在アクティブな登録済みのクライアントテスト ランナーが、ブラウザの選択ダイアログに表示されます。(現在のセッション) は、ブラウザが現在実行中であることを示します。「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。
2. 必要に応じてテスト ランナーをここで管理するをクリックし現在のユーザーに登録されているすべてのクライアントテスト ランナーを表示します。
   「アクティブ手動テストランナー」を参照してください。
3. このブラウザセッションでクライアントテスト ランナーを開く場合は、現在のユーザーの他のブラウザでのみクライアントテスト ランナーが使用可能な場合に表示される 、新しいテスト ランナーの開始をクリックします。
4. 適切なボタンをクリックしてテストを実行します。
   - 1 つのテストを実行している場合は、[ テストの実行] をクリックします。
   - テスト スイートを実行している場合は、[ テスト スイートの実行] をクリックします。
   - 失敗したテストを再度実行する場合は、[ 失敗したテストを再実行] をクリックします。

タスクの結果
テスト、テストスイート、または失敗したテストは、選択したブラウザまたはクライアントテストランナーで実行します。テスト実行の進行状況を監視するために、進行状況ビューアーが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドランナーブラウザー

テストまたはテストスイートを実行する場合は、[クラウドランナー] ブラウザーオプションを選択して、クラウドブラウザーでテストを実行します。

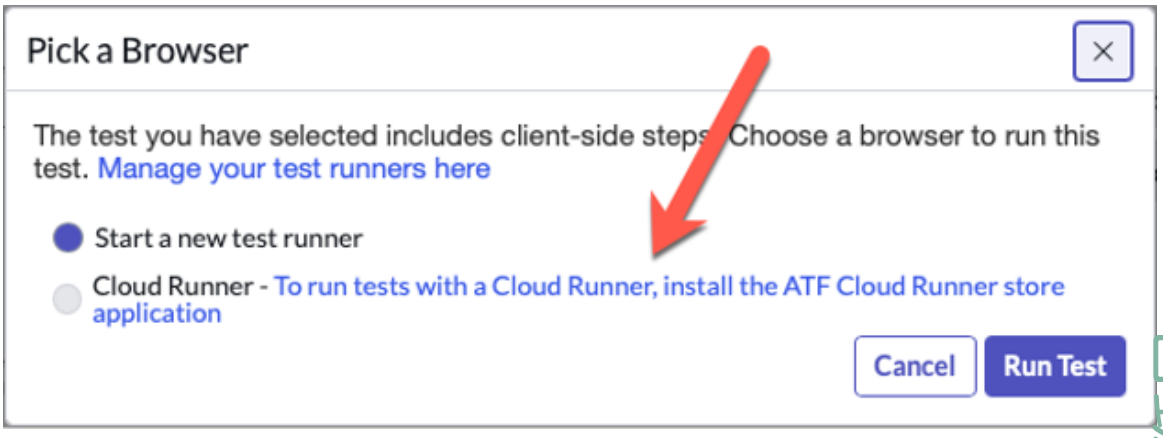
[クラウドランナー] ブラウザーオプションを使用する場合は、以下を完了する必要があります。

- ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリケーションをインストールします。
- テストを実行して生成するユーザーを構成します。

## クラウドランナーブラウザーのユースケース

- ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリケーションをインストールしていない場合

  **ATF Test Generator and Cloud Runner** ストアアプリケーションをインストールします




- テストを実行して生成するようにユーザーを構成していない場合
  - 管理者の場合

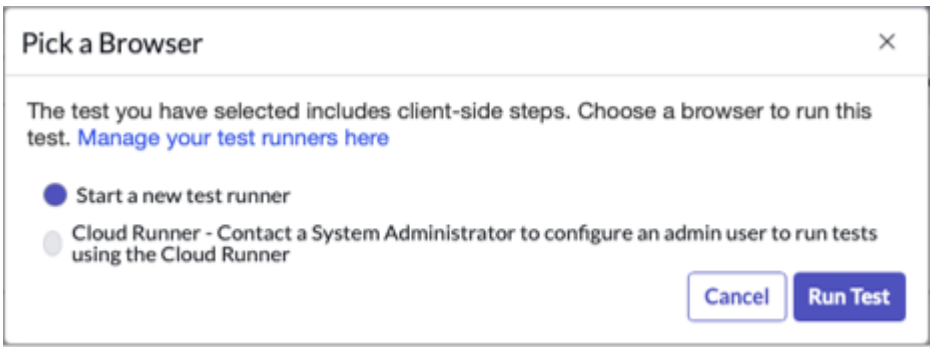
    管理者の場合は、ユーザーを構成します

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

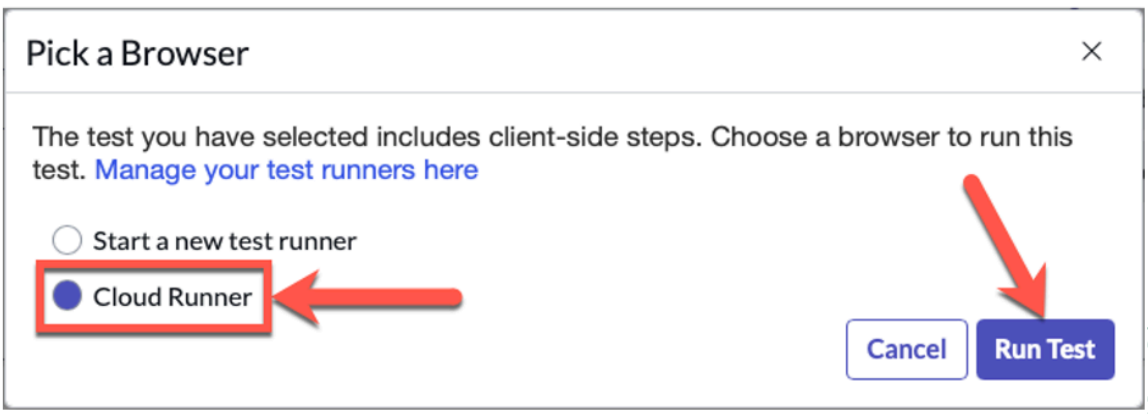
- 管理者でない場合

  管理者でない場合は、ユーザーを構成します




- アプリケーションがインストールされ、ユーザーが構成されている場合

  クラウドランナーオプションの使用




自動翻訳

### サーバーのテストステップ

サーバーで操作を実行して、ビジネスロジックとバックグラウンドプロセスをテストします。

サーバーのテストステップは、ユーザーの偽装、レコードの送信または保存、サーバー側スクリプトの実行、または REST コールの実行など、非インタラクティブアクションを模倣します。サーバーのテストステップはサーバー上で直接実行されるため、クライアントテストランナーは必要ありません。サーバーのテストステップの詳細については、「サーバーカテゴリ」を参照してください。

### **REST** テストステップ

REST 呼び出しを行って、カスタム受信 Web サービスと下位互換性をテストします。

REST 要求は現在のインスタンスのみに送信可能です。別のインスタンスまたはリモートアドレスの第三者に要求を送信することはできません。

REST テスト構成では、XML および JSON 応答形式のみがサポートされています。バイナリ形式はサポートされていません。

各テストステップ設定カテゴリのステップを含むテストを作成できます。REST テスト構成カテゴリには、REST 要求の送信 - 受信、および確認テスト構成が含まれています。アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。 REST テストステップの詳細については、「REST カテゴリ」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 認証

Automated Test Framework の一部として、REST 要求を送信する状況には 2 つあります。

- REST API エクスプローラーを使用して要求を作成してテストする場合
- **REST** 要求の送信 - インバウンドステップが含まれているテストを実行する場合

REST API エクスプローラーを使用して要求を作成およびテストし、その要求に認証が必要な場合、REST API エクスプローラーはユーザーの認証情報を使用します。ATF がテストを実行すると、REST API エクスプローラーはテストをスケジュールしたユーザーの資格情報を使用します。これは、テストを作成したユーザーとテストを実行しているユーザーの権限の違いにより、テストが意図せず失敗する可能性があることを意味します。

ユーザー資格情報の問題に対処するには、テストユーザー用の基本認証プロファイルを作成し、次に **[REST** 要求の送信 - 受信] フォームで、テストの実行時にそのプロファイルを使用するように指定します。

### 添付ファイルのテストステップ

フォームまたはサーバー側 API 呼び出しから添付ファイルをアップロードすることにより、添付ファイルに依存するビジネスルールをテストします。たとえば、スクリーンショットなどの添付ファイルがないとインシデントをクローズできないビジネスルールを使用できます。

フォームからアップロード

UI テストステップとして、添付ファイルのアップロードステップでは、フォームへのナビゲーションが必要です。このフォームは、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかを使用して開くことができます。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでフォームに追加する添付ファイルを選択します。フォームに追加する添付ファイルを選択すると、システムは次のテストステップに進む前に添付ファイルのロードを待機します。UI テストの依存関係と待機メカニズムの詳細については、「UI テストステップ」を参照してください。

サーバー API からアップロード

サーバーのテストステップとして、添付ファイルのアップロードステップに UI 依存関係はありません。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでレコードに追加する添付ファイルを選択します。フォームに追加する添付ファイルを選択すると、システムは次のテストステップに進む前に添付ファイルのロードを待機します。詳細については、「サーバーのテストステップ」を参照してください。

## 設計上の考慮事項

添付ファイルのテストステップでは、次の設計上の考慮事項に従ってください。

- すべての添付ファイルのステップで、1 つ以上の添付ファイルを追加する必要があります。
- テストの完了後、ステップごとに添付ファイルがロールバックされます。
- テストの完了後に、システムが既存の添付ファイルをロールバックすることはできません。
- データの依存関係を排除するため、既存の添付ファイルを使用してレコードをテストすることは避けてください。
- UI テストが関係している場合は、添付ファイルをフォームに追加します。
- UI テストが関係していない場合は、添付ファイルをサーバー API に追加します。

### リストの **UI** アクションのテストステップ

リストから UI アクションを選択して、リストまたは関連リストに対してさまざまなアクションを実行します。

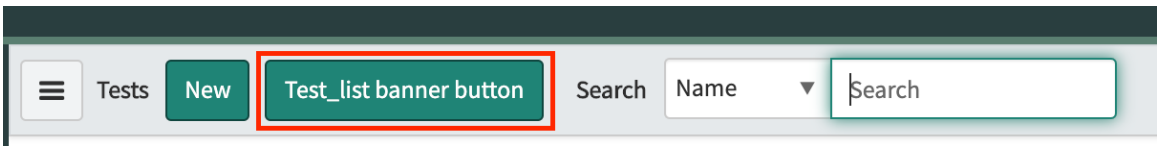
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

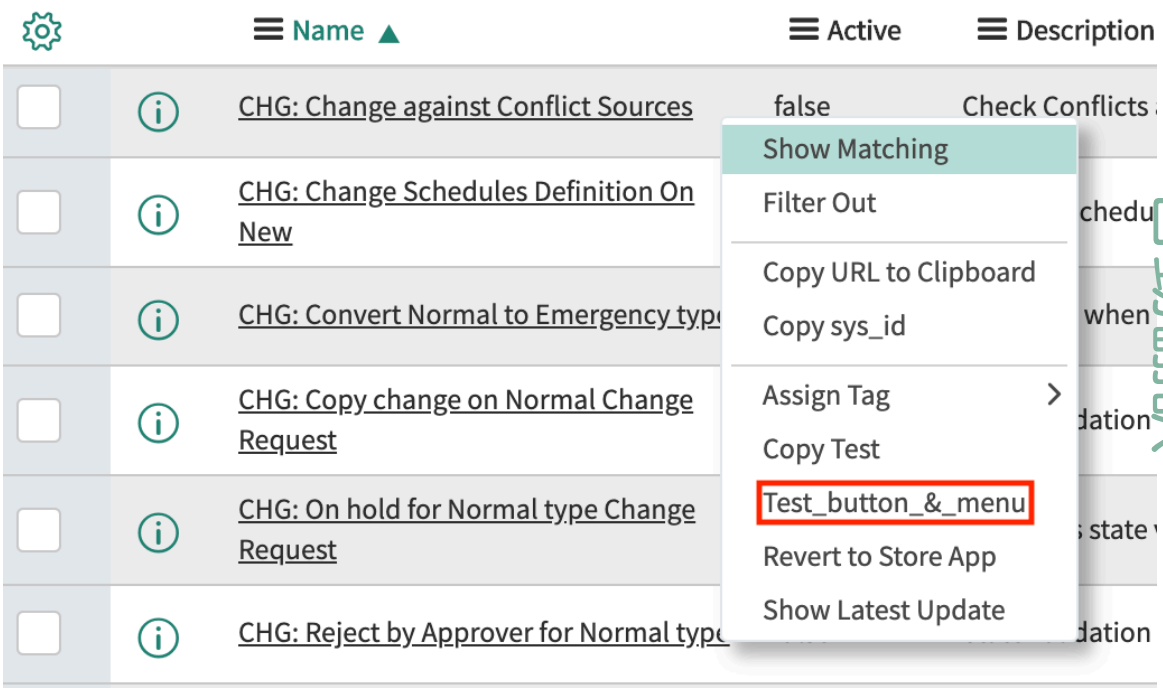
次のタイプの新しい UI アクションを作成できます。詳細については、「UI アクションの作成」を参照してください。

- [リストバナーボタン]：リストのバナーにボタンを作成します。

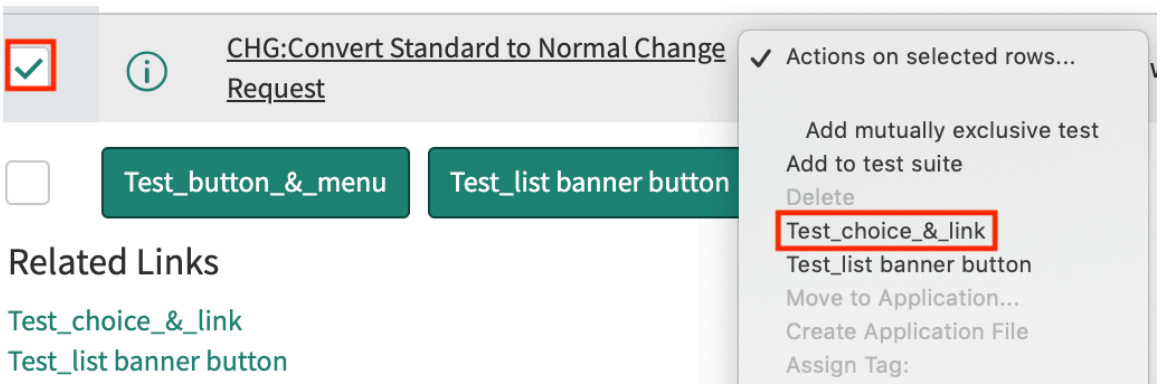



- [リスト下部ボタン]：リストの下部にボタンを作成します。

- [リストコンテキストメニュー]：リストのコンテキストメニューにオプションを追加します。

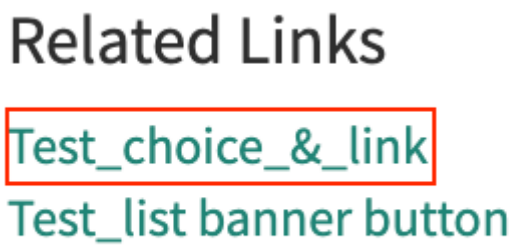



- [リスト選択肢]：リストの下部にあるリストの選択肢にオプションを追加します。最近追加されたリストの選択肢を有効にするには、1 つ以上のテストを選択する必要があります。




© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [リストリンク]： [関連リンク] リストにリンクを追加します。




## 設計上の考慮事項

- [リスト **UI** アクションをクリック] テストステップを使用するには、テストの最初に UI アクションを含むリストまたは関連リストがあるフォームに移動する必要があります。
- [関連リスト] フィールドは、[リストタイプ] として [関連リスト] を選択した場合にのみ表示されます。
- [アクションタイプ] は、選択した [リストアクション] に応じてほぼ自動フィルタリングされます。
- [レコード] フィールドは、適用する UI アクションに [単一レコード] を選択した場合にのみ表示されます。
- [単一レコード] を選択して UI アクションを適用した場合は、特定のレコードを識別します。
- [タイムアウト] フィールドを表示するには、[アサーションタイプ] として [ページのリロードまたはリダイレクト] を選択します。

### パラメーター化されたテスト

実行ごとに異なるテストデータを使用して、テストを複数回実行します。各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。

パラメーター化テストはテスト設計者にこれらの利点を提供します。

- ただテストデータを変更するためだけにテストステップを複製する必要がありません。
- テストアクションをテストデータから分離することでテストの再利用を拡大します。
- データセットごとに個別のテスト結果を生成します。

テストが実行されると、自動テストフレームワーク (ATF) はパラメーターをデータセット値で置き換えます。たとえば、サブカテゴリフィールドと優先順位フィールドにパラメーター値を使用するインシデントフォームのテストを作成できます。1 つのデータセットを使用して、ウイルス対策カテゴリが優先順位の高いインシデントを生成することをテストし、別のデータセットを使用して、メールカテゴリが優先順位が低いインシデントを生成することをテストすることができます。

**注:**
[サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、パラメーター化されたテストではサポートされません。

## パラメーター化されたテストのコンポーネント

パラメーター化テストは、これらのコンポーネントで構成されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター

パラメーターは、特定のタイプのテストデータを格納する変数です。各パラメーターには、一意のラベルとデータタイプがあります。たとえば、参照フィールドのシステム ID または選択フィールドの整数値を格納するパラメーターを作成できます。 テスト設計中にパラメーターを定義します。

パラメーターは共有または排他にすることができます。共有パラメーターは、すべてのパラメーター化されたテストで使用できます。排他パラメーターは、それらが作成されたテストでのみ使用できます。各共有パラメーターは、データセットのテスト実行 [sys_atf_parameter_set] テーブルの列です。各排他パラメーターは、パラメーター変数 [sys_atf_parameter_variable] テーブルのレコードです。

データ セット

データセットは、テスト実行データセットとも呼ばれ、テストの実行時に使用されるランタイムデータが含まれています。現在のテストで使用可能なすべてのパラメーターの値を設定できます。データセットは、テスト実行中のパラメーター値を指定します。 テスト用のデータセットを手動で作成することも、ファイルからデータをインポートすることもできます。各データセットは、データセットのテスト実行 [sys_atf_parameter_set] テーブルのレコードです。

データセットが定義されていないと、パラメーター化テストは失敗します。

## 設計上の考慮事項

パラメーター化テストを作成するときは、これらの設計に関する考慮事項に従ってください。

- パラメーター化テストは、レポート、テストスイート、およびデータロールバックなどの標準 自動テストフレームワーク (ATF) 機能をサポートします。パラメーター化テストをコピーすると、すべてのパラメーター、テスト実行データセット、およびテストステップがコピーされます。
- カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

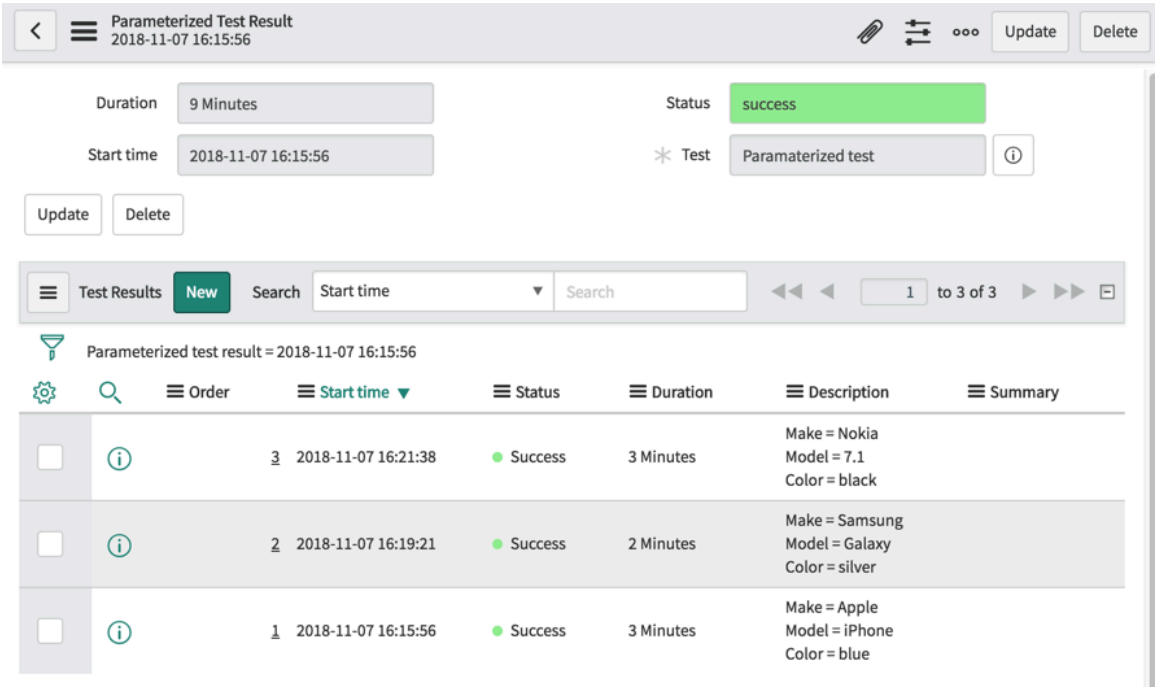
## パラメーター化されたテストの実行

自動テストフレームワーク (ATF) は、同じテストステップと実行順序を使用して、パラメーター化された各テストをデータセットごとに 1 回実行します。たとえば、パラメーター化されたテストに 5 つのデータセットがある場合、自動テストフレームワーク (ATF) はデータセットごとに 1 回ずつ、全部で 5 回のテストを実行します。

## パラメーター化されたテスト結果

パラメーター化されたテストでは、データセットの実行順序でテスト結果が表示されます。テストの詳細を表示するには、各テスト結果レコードを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




パラメーター化されたテスト結果レコードの [説明] フィールドには、テスト実行で使用されたパラメーターとデータセットがリストされます。

## パラメーター化されたテストの作成

テストデータを格納する変数を使用するテストを構築します。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. [新規] をクリックします。
   空白のテストレコードが開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | テストの名前を入力します。 |
| 有効 | 有効化 |
| パラメーター化テストの有効化 | 有効化 |
| 説明 | テストの説明を入力します。 |

4. [保存] をクリックします。
   パラメーター化されたテスト関連リストが表示されます。
5. テスト実行データを保持するパラメーターを作成します。
   パラメーターは、特定のタイプのテストデータを格納する変数です。各パラメーターには、一意のラベルとデータタイプがあります。たとえば、参照フィールドのシステム ID または選択フィールドの整数値を格納するパラメーターを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**a.** [パラメーター定義] 関連リストに、パラメーターを追加します。

- [排他的パラメーターを追加 **(Add Exclusive Parameters)**]：このテストでのみ利用可能なパラメーターを追加します。
- [共有パラメーターを追加 **(Add Shared Parameters)**]：任意のパラメーター化されたテストに使用可能なパラメーターを追加します。

**b.** 変数とデータタイプの名前を定義します。
フォームのパラメーターを作成するときは、パラメーターのデータタイプはフィールドのデータタイプと一致する必要があります。たとえば、フォーム上の参照フィールドをテストするパラメーターを作成している場合は、Reference タイプのパラメーターを作成する必要があります。Now Platform データタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

**c.** [送信] をクリックします。

次のタスク
テストステップへのパラメーターの追加

テストステップへのパラメーターの追加

テスト実行時に特定のタイプのデータを保持するために、テストステップに変数を追加します。

始める前に

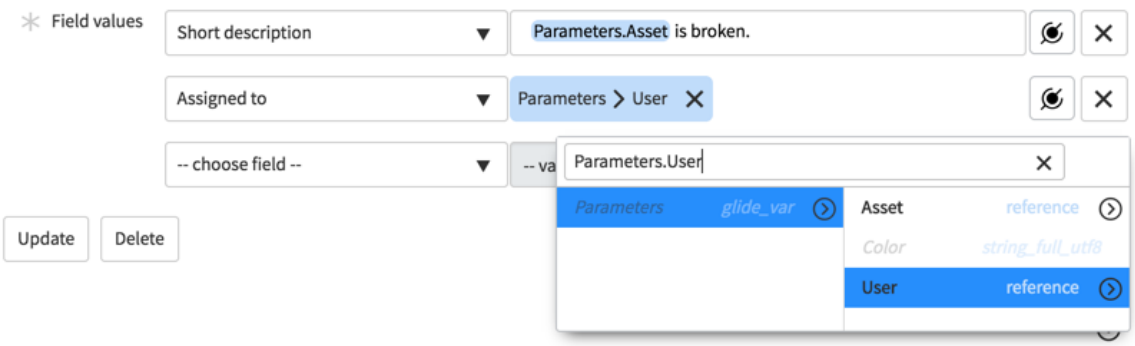
- パラメーター化されたテストの作成
- 必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

注:
[サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、パラメーター化されたテストではサポートされません。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. パラメーター化されたテストを開きます。
3. [ストステップ] 関連リストで、テストステップを作成するか、既存のステップを開きます。
4. をクリックし、パラメーターを選択してフィールドに追加します。
パラメーターがフィールドに表示されます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
テストが実行されるときに、自動テストフレームワーク (ATF) はパラメーターをテスト実行データに置き換えます。

次のタスク
パラメーター化されたデータセットの追加。

### パラメーター化されたデータセットの追加

テストデータを追加またはインポートして、パラメーターのランタイム値を指定します。

始める前に

- パラメーター化されたテストの作成
- テストステップへのパラメーターの追加
- 必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて
データセットは、テスト実行データセットとも呼ばれ、テストの実行時に使用されるランタイムデータが含まれています。現在のテストで使用可能なすべてのパラメーターの値を設定できます。データセットは、テスト実行中のパラメーター値を指定します。

テスト設計者は、データセットを手動で追加するか、またはファイルからデータをインポートすることができます。

> **注:**
> カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. パラメーター化されたテストを開きます。
3. [テスト実行データセット] 関連リストで、データセットを追加またはインポートします。

次のタスク
[テストを実行] をクリックします。 自動テストフレームワーク (ATF) は、同じテストステップと実行順序を使用して、パラメーター化された各テストをデータセットごとに 1 回実行します。たとえば、パラメーター化されたテストに 5 つのデータセットがある場合、自動テストフレームワーク (ATF) はデータセットごとに 1 回ずつ、全部で 5 回のテストを実行します。

パラメーター化されたテストでは、データセットの実行順序でテスト結果が表示されます。テストの詳細を表示するには、各テスト結果レコードを開きます。

### 許可されたクライアントエラー

既知のクライアントエラーを許可されたクライアントエラーリストに追加して、特定のエラーが発生したときにテストとステップを引き続き実行できるようにします。レポートレベルを設定して、今後のテストでエラーが発生したときの 自動テストフレームワーク (ATF) の動作を指定します。

## クライアントエラーを許可するシナリオ

テスト設計者と開発者は、通常、クライアント側の JavaScript エラーを許可して、特定のタイプの既知の障害がテストの設計と結果に影響を与えないようにします。クライアントエラーが許可されるシナリオには、次のようなものがあります。

時間の制約

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

開発者が問題を調査して解決するまで、クライアントエラーを一時的に許可します。たとえば、長期にわたるバグを含む古いフォームをテストする場合などです。

古いライブラリの影響を最小限に抑える

修正することができない、または将来のテスト実行への影響を排除するために操作に重要でないクライアントエラーを無視します。たとえば、古いライブラリーのバグを見つけたときなどです。

テストデザインの時間

テストを作成してエラーを調査するまで、一時的にクライアントエラーを許可します。たとえば、開発者の 1 人がUIポリシーを変更し、その変更によってエラーが発生します。

プラットフォームのバグの可能性

修正が利用可能になるまで、一時的にクライアントエラーを許可します。プラットフォームのバグをServiceNowテクニカルサポートにレポートする前に、エラーを調査し、カスタマイズエラーではないことを確認し、関連するプラットフォームのバグの種類を特定します。たとえば、UIポリシーはテスト中にエラーを生成します。調査では、問題がカスタマイズエラーではないことが確認され、UIポリシーでプラットフォームの問題が特定されています。

**注:**
許可されたクライアントエラーリストにクライアントエラーを追加すると、テストフレームワークはテストを続行できますが、テストの合格は保証されません。 テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。

## 許可されたクライアントエラーのレポートレベル

レポートレベルは、テストフレームワークが将来のエラーの発生を警告として報告するのか、それとも無視するのかを示します。許可されたエラーのレポートレベルはいつでも変更できます。たとえば、最初に警告としてエラーを追加した場合、後でレポートレベルを無視して変更するできます。

| レポートレベル | 説明 |
|---|---|
| Warning | 許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。 |
| 無視 | 許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。 |

## 合わせ手続き

自動テストフレームワーク (ATF) は、完全な文字列一致ではなく、包含検索を使用して、許可されたクライアントエラーを特定します。許可されたクライアントエラー [sys_atf_whitelist] レコードからのメッセージがクライアントエラーに含まれている場合、一致となります。たとえば、エラーメッセージ「テストメッセージ」に対して [無視] のレポートレベルで [許可されたクライアントエラー] レコードを作成すると、この文字列を含むすべてのクライアントエラーは無視されます。

**注:**
許可されたクライアントエラーレコードを作成または変更すると、クライアントテストランナーは自動的に更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## クライアントエラーの特定と解決

クライアントエラーが発生すると、自動テストフレームワーク (ATF) はエラーが発生したときに実行されていたステップでテストに失敗します。

### テスト結果からクライアントエラーを許可

テスト結果を確認してクライアントエラーを許可します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

#### このタスクについて
複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト結果.
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。
   - [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このテストのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。
   - [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このテストのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。

   自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

#### 関連情報

許可されたクライアントエラー

### ステップ結果からクライアントエラーを許可

ステップ結果を確認してクライアントエラーを許可します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

#### このタスクについて
複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト結果.
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 許可するクライアントエラーを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ結果関連リストの具体的なステップ結果 | **a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含むステップ結果を右クリックします。<br>**b.** コンテキストメニューから、次のいずれかのオプションを選択します：<br>▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 |
| ステップ結果関連リストからの複数ステップ結果 | **a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含む各ステップ結果の最初の列にあるチェックボックスをオンにします。<br>**b.** 必要に応じて、リストから次のいずれかのオプションを選択します。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 |
| ステップ結果レコードの具体的なステップ結果 | **a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含む [ステップ結果] レコードを選択します。<br>**b.** 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 |

自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

## テストログからクライアントエラーを許可

テストログを確認してクライアントエラーを許可します。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

### このタスクについて

複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト結果.
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 許可するクライアントエラーを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| テストログ関連リストからの特定のテストログ | **a.** [テストログ] 関連リストで、許可するテストログのクライアントエラーを右クリックします。<br>**b.** コンテキストメニューから、次のいずれかのオプションを選択します：<br>▪ [クライアントエラーを無視リストに追加]：クライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [クライアントエラーを警告リストに追加]：クライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 |
| テストログ関連リストからの複数のテストログ | **a.** [テストログ] 関連リストで、許可する各テストログクライアントエラーの最初の列にあるチェックボックスをオンにします。<br>**b.** 必要に応じて、 リストから次のいずれかのオプションを選択します：<br>▪ [クライアントエラーを無視リストに追加]：クライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [クライアントエラーを警告リストに追加]：クライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 |
| テスト結果アイテムレコードからの特定のテストログ | **a.** [テストログ] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含むテストログ ([テスト結果] アイテムレコード) を選択します。<br>**b.** 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。<br>▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 |

自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

クライアントエラーを手動で許可

必要に応じて、[許可されたクライアントエラー] テーブルで、許可されるクライアントエラーエントリを手動で作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：atf_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて
通常は、テスト結果、ステップ結果、またはテストログから直接クライアントエラーを許可しますが、手動で許可することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 実行 > 許可されたクライアントエラー.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[許可されたクライアントエラー] フォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| レポートレベル | クライアントエラーが発生した場合に実行するレポートアクション。次のオプションが含まれます。<br>○ 警告 - ステップおよびテストが成功 (警告あり) を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。<br>○ 無視 - ステップおよびテストの成功を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。 |
| アクティブ | クライアントエラーの許可を有効または無効にするチェックボックス。 |
| エラーメッセージ | 許可するクライアントエラーのメッセージ。 |
| 説明 | 許可するエラーの説明。このクライアントエラーがテスト結果、ステップ結果、またはテストログから許可された場合、テストログの説明がこのフィールドにコピーされます。 |

4. [送信] をクリックします。

関連情報

許可されたクライアントエラー

## 自動テストの進行状況の表示

自動化されたテストが実行されているときは、テストの進行状況ダイアログで進行状況を確認します。

始める前に
システムはテストを実行している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
テストまたはテストスイートを実行すると、テスト実行の進行状況ダイアログが自動的に表示されます。このダイアログを閉じると、現在実行中のテストまたはテストスイートの結果リストまたは結果ページから再表示できます。

手順

1. 必要に応じて、現在実行中のテストまたはテストスイートのテスト結果リストまたはテスト結果ページに移動します。
   - システムが現在テストスイートを実行している場合は、次に移動します **Automated Test Framework** > スイート結果. 必要に応じて、実行中のテストスイートの行をクリックすると、そのテストスイートのスイート結果ページが表示します。
   - システムが現在テストスイートに含まれていないテストを実行している場合は、次に移動します。 **Automated Test Framework** > テスト結果. 必要に応じて、実行中のテストの行をクリックすると、そのテストのテスト結果ページが表示されます。
2. テストの実行ダイアログを表示します。
   - 現在、テスト結果ページまたはスイート結果ページが表示されている場合は、関連リンクの下にある 進行状況を表示をクリックします。
   - 現在、[テスト結果] リストまたは [スイート結果] リストを表示している場合は、実行中のテストまたはテストスイートの行を右クリックしてから、[進行状況の表示] をクリックします。

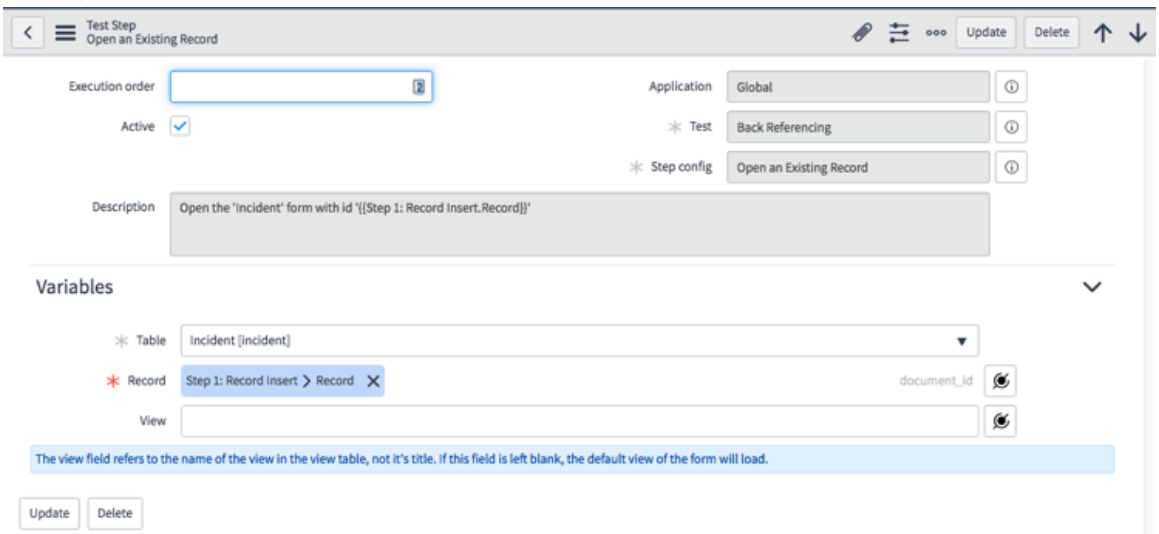
### １つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す

いくつかの自動テスト ステップでは、後続のステップへの入力として使用できるデータを作成します。

あるテスト ステップから別のテスト ステップにデータを渡すには、入力変数そして出力変数を用います。

用語入力変数はステップに関連付けられたフィールド値の別の名前です。これらの値は、ステップがそのタスクを完了するために必要な入力を提供するため、入力変数です。たとえば、[フォームを開く (Open Form)] ステップには、[テーブル]、[レコード]、[表示] の入力変数があります。

入力変数を示すテスト ステップの例




一部のステップタイプには出力変数もあります。これらは、同じテストの後のステップで入力として使用できる値です。たとえば、レコードの挿入ステップには、新しく作成されたレコードの sys_id を含むレコードと呼ばれる出力変数があります。

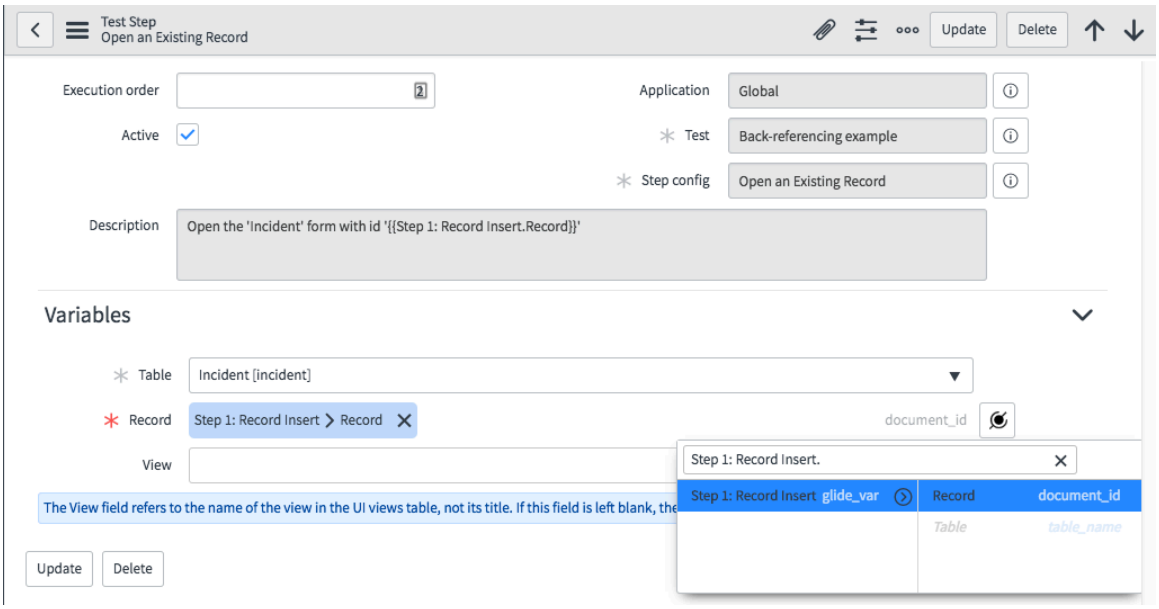
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
入力データは、.csv ファイルなどの外部ソースから自動テストケースに渡すこともできます。

テストステップフォームは、テストステップに出力変数があるかどうかを示しません。指定された入力変数に値を提供できる出力変数があるかどうかは、簡単に判断できます。あるステップの出力変数の値を現在のステップの入力変数にマッピングできる場合は、その入力フィールドの右側に、マッピングアイコン ( ) が表示されます。変数マッピングアイコンをクリックすると、前の手順で使用可能な出力変数にアクセスするためのツリーが表示されます。

出力変数を示すテストステップの例




出力変数の値を別のステップの入力変数に割り当てる方法については、1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡すを参照してください。

入力変数と出力変数を使用して変数を渡すテストの例については、「自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：前のステップの値の参照」を参照してください。

## 1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す

フォームフィールドに前のステップから戻った出力変数の値を割り当てます。

### 始める前に

適切な出力変数を返す前のテスト ステップが必要です。

必要なロール：admin、atf_test_admin、atf_test_designer

### 手順

1. 値をアサインするフィールドの右側にある 入力値アイコン ( ) をクリックします。
   マッピングコントロールは、 入力値 を作成する前のステップ 出力変数 を一覧表示します。前のステップで 出力変数 が作成されていない場合、コントロールには 表示する要素がありません というメッセージが表示されます。
2. 入力として使いたいと思う出力変数を含むステップの行をクリックします。
3. 使いたい出力変数をクリックします。
   出力変数が Glide レコードの ID である場合、コントロールはこのレコードのフィールドへのアクセスを提供するツリーピッカーを表示します。
4. ツリーピッカー階層を移動し、目的の値を見つけて選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：前のステップの値の参照

## 自動テストスイートの構築と実行

特定の順序でテストのグループを実行して、アプリケーションまたは関連する機能のグループをテストします。

テストスイートには個々のテストやその他のテストスイートを含むことができます。別のテストスイートを含むテストスイートは親と呼ばれ、親の中に含まれているテストスイートは子と呼ばれます。テストスイートは個々のテストとテストスイートの両方を子として持つことができますが、テストはその他のテストを子として持つことはできません。テストにはテストステップのみを含めることができます。

### 利点

テストをテストスイートにグループ化すると、これらの利点が得られます。

- テスト担当者はテストスイート内のすべてのテストを 1 回のアクションで実行できます。
- テスト担当者は親テストスイート内のすべての子テストスイートを実行できます。
- テスト担当者はテストスイート内のすべてのテストのテスト結果を確認できます。
- テスト設計者とテスト担当者はテストスイートを実行するタイミングをスケジュールできます。
- テスト設計者とテスト担当者は、テスト実行をサポートするクライアントテストランナーの開始をスケジュールできます。

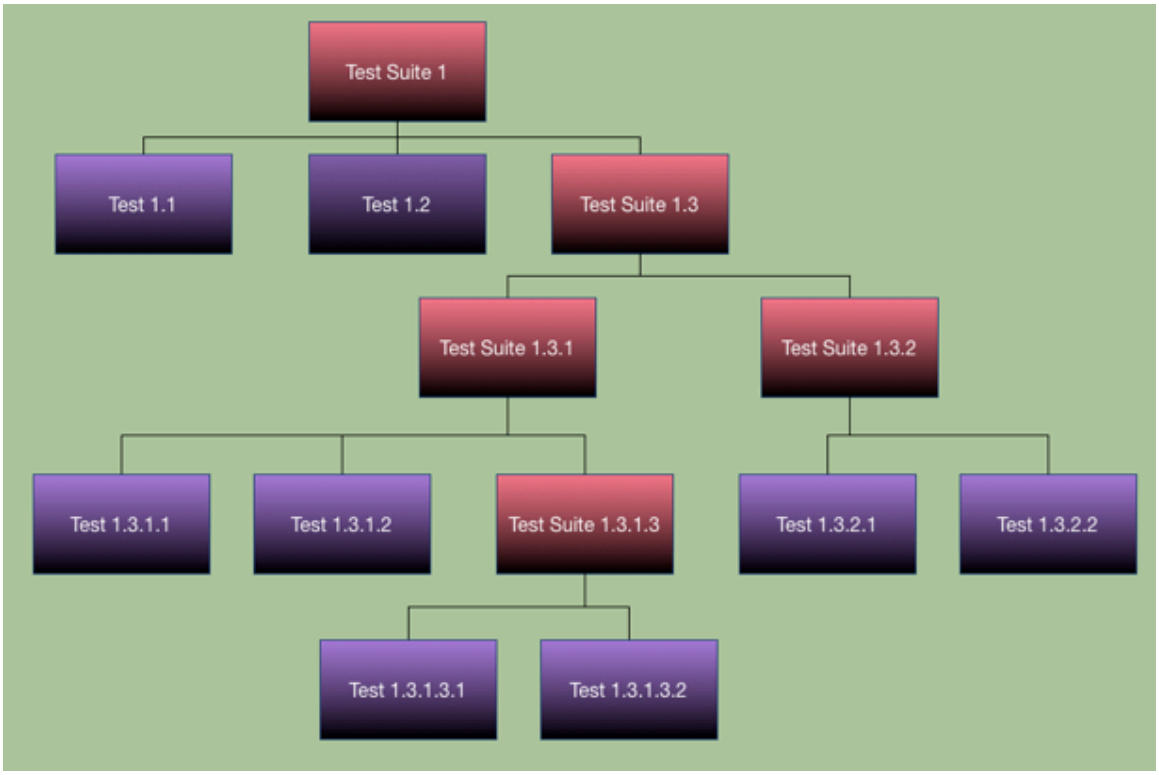
### 階層

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストスイートが親と子の両方になることができる複数レベルの階層の構築をサポートします。たとえば、この図は階層の最上位の親としての Test Suite 1 を示しています。Test Suite 1.3 は Test Suite 1 の子であり、Test Suite 1.3.1 および Test Suite 1.3.2 の親でもあります。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストスイート階層の例




## スケジュール

テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

このモデルでは、さまざまなテストスイートにスケジュールを関連付けることができます。

**注:**
スケジュールできるのは、個々のテストではなくテストスイートのみです。スケジュール済みのテストは、スケジュール済みのスイートのブラウザー条件に一致するスケジュール済みのクライアントテストランナーページが開いている場合にのみ実行されます。スケジュール済みのテストは、ロックされている、電源が切れている、またはブラウザが開いていないマシンでは実行できません。

テストスイート実行レコードのウォッチリストでは、システムがテストスイート実行を完了したときに、ユーザーが電子メールを受け取るように指定することもできます。

テストスイートに 1 つ以上のフォームステップ(ユーザーインターフェイスを含むステップ)が含まれている場合は、スケジュールでスイートを実行する時に、スケジュール済みのクライアントテストランナーがブラウザでアクティブに実行されていることを保証する必要があります。

**注:**
クライアントテスト ランナーを実行するための推奨事項と要件については、ブラウザの推奨事項と要件を参照してください。

テストスイートをスケジュールする方法のステップについては、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## フィルター

フィルターを使用して、テストがフィルター条件に一致したときにテストをテストスイートに動的に追加することで、テストスイートの作成を自動化します。テストデザイナーが手動でテストスイートを作成して維持するために費やす時間を短縮します。

関連情報

スイート

ステップ結果レコード

### 自動テストスイートの作成

自動テストをバッチとして実行できるスイートにグループ化します。

始める前に
テストスイートに含めるテストは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト スイートの新しいレコードフォームを表示します。
3. 名フィールドで、このスイートの名前を入力します。
4. このスイートに含めるテストを選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| フィルター | フィルターを使用してテストを動的に追加します。<br>**a.** [フィルター] フィールドで、条件ビルダーを使用して、テストスイートに含めるためにテストが一致する必要がある条件を作成します。<br>**b.** [保存] をクリックします。<br>フィルター条件に一致するすべてのテストが [テストスイートテスト] 関連リストに表示されます。スイートは動的なので、条件に一致する新しいテストがあれば自動的にスイートに追加されます。 |
| テストスイートテスト | 手動でテストを追加します。<br>**a.** [テストスイートテスト] 関連リストで、[新しい行を挿入する...] をクリックします。<br>**b.** テストフィールドで、このテストスイートに追加するテストの名前を入力します。 |

5. 説明フィールドで、このテストスイートの説明を入力します。
6. [テストスイートテスト] 関連リストで、テストに対するオプションを指定します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | このテストがテストスイート内で実行される順序を指定する値を入力します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 失敗時に中止 | このテストが失敗した場合にテストスイートを停止するか続行するかを示す値を入力します。<br>○ デフォルトでは、システムがこのフィールドに**false**値を割り当てます。このテストが失敗しても、システムはテストスイート内でそれ以降のテストを実行します。<br>○ このテストが失敗した場合にテストスイートを停止するには、値を **true** に設定します。 |

7. このテストスイートに含めるすべてのテストについて、手順 4 ～ 6 を繰り返します。
8. [送信] をクリックします。

### 自動テストスイートのコピー

テストスイート全体をコピーすることで、テストの作成時間を短縮します。コピー後にテストスイートの名前を変更し、さらに変更を加えます。テストスイートフォームの [テストスイートをコピー] ボタンは、テストスイート内のすべてのネストされたテストと子テストスイートをコピーします。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. コピーするテストスイートを含む行を選択します。
   テストスイートフォームが開きます。
3. テストスイートフォームの右上隅付近にある [テストスイートをコピー] をクリックします。
   ステータスを確認するための進捗状況トラッカーが表示されます。[コピーに移動 **(Go to Copy)**] をクリックすると、[名前] 以外はコピーしたレコードと同じ新しいテストスイートレコードが表示されます。

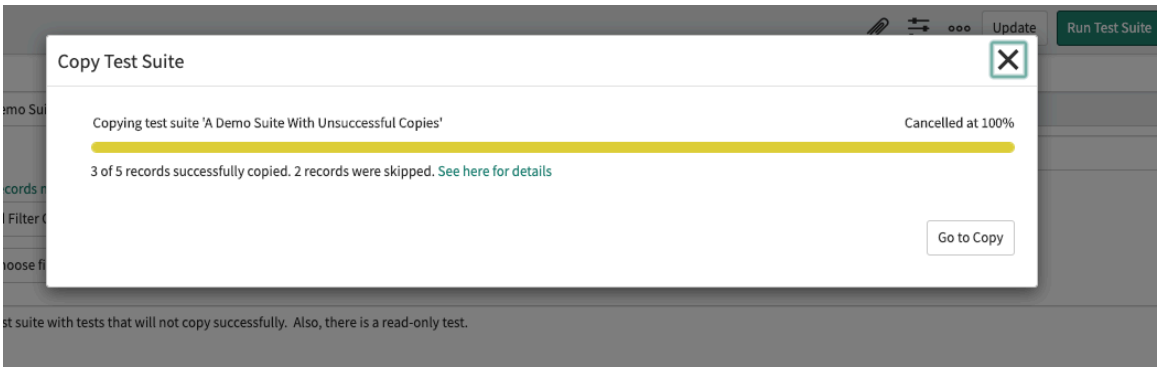
   **注:**
   フィルター条件を適用すると、条件が満たされた場合に、コピーされたテストがテストスイートに追加されます。

   テストまたは子テストスイートがコピーに失敗すると、それらはスキップされ、残りのテストと子のテストスイートのコピーが続行されます。部分的に成功したことを示す警告メッセージが進捗状況バーの下に表示されます。

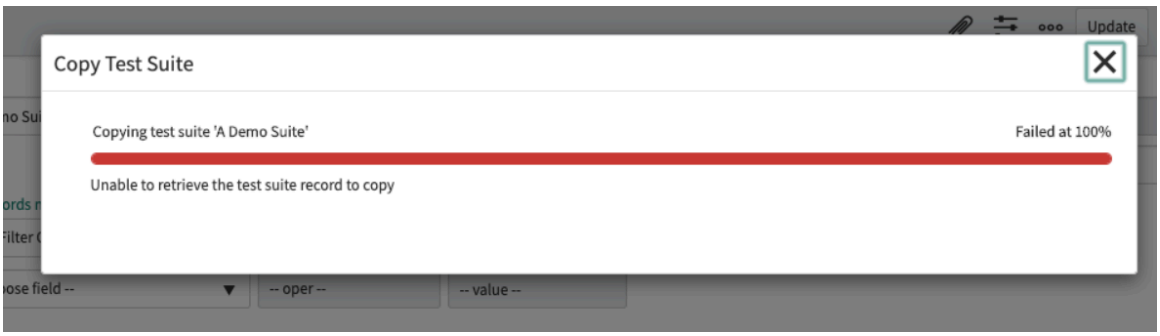
   **注:**
   テストスイートは、現在のスコープと同じスコープ内にある場合にのみコピーできます。[テストスイートをコピー] ボタンは、テストスイートが同じスコープ内にある場合にのみ表示されます。スイート内のテストのスコープは、テストスイートをコピーするときに保持されます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




コピー操作に失敗した場合は、進捗状況バーの下にエラーメッセージが表示されます。




4. [名前] フィールドで、この新しいテストスイートにアサインする名前を入力します。
5. コピーしたテストスイート内のテストとテストスイートを編集します。
6. 変数の追加が完了したら、更新]をクリックする。

### タスクの結果

すべてのネストされたテストおよび子テストスイートとともに、テストスイートのコピーが作成されます。

## フィルターを使用したスイートへのテストの追加

フィルターを使用して、テストがフィルター条件に一致したときにテストをテストスイートに動的に追加することで、テストスイートの作成を自動化します。テストデザイナーが手動でテストスイートを作成して維持するために費やす時間を短縮します。

### 始める前に

テストスイートに含めるテストは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト スイートの新しいレコードフォームを表示します。
3. 名フィールドで、このスイートの名前を入力します。
4. [フィルター] に対して、条件ビルダーを使用して、テストスイートに追加するためにテストが満たす必要がある条件を指定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> フィルター条件が設定されていない場合は無視され、スイートを手動で構築できます。

5. [保存] をクリックします。

### タスクの結果

フィルター条件に一致するすべてのテストが [テストスイートテスト] 関連リストに表示されます。
スイートは動的なので、条件に一致する新しいテストがあれば自動的にスイートに追加されます。

## 既存の自動テストスイートへのテストの追加

すでに存在するテストスイートにテストを追加します。

### 始める前に

テストスイートに含めるテストとテストスイートは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. テストスイートが含まれている行をクリックします。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
3. [テストスイートテスト] 関連リストで、[新しい行を挿入する...] をクリックします。
4. テストフィールドで、このテストスイートに追加するテストの名前を入力します。
5. 注文フィールドで、このテストがテストスイート内で実行される順序を決定する値を入力します。
   デフォルトでは、テストを追加する順序に従ってこのフィールドに値が割り当てられます。
6. この行の失敗時の中止フィールドで、この個別テストが失敗した場合にテストスイートを停止するか続行するかを示す値を入力します。
   デフォルトでは、システムがこのフィールドに**false**値を割り当てます。**false**はこのテストが失敗しても、システムはテストスイート内でそれ以降のテストを実行することを意味します。
7. このテストスイートに含めるすべてのテストについて、手順 3 ～ 6 を繰り返します。
8. [送信] をクリックします。

## 親テストスイートへの子テストスイートの追加

親テストスイート内に子テストスイートを組み込んで、複数レベルのテストスイートを追加します。

### 始める前に

親のテストスイートは存在していなければなりません。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. 子テストスイートにアクセスします。
   - 子テストスイートが存在する場合は、編集のために子テストスイートフォームを開きます。
   - 子テストスイートがまだ存在しない場合はそれを作成します。
3. [親スイート] フィールドのテストスイートに、この子の親として機能させるテストスイートの名前を入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

4. 必要に応じて、1つまたは複数のテストを子テストスイートに追加します。
5. [送信] をクリックします。

### 自動テストスイートの実行

自動化されたテストスイートを作成した後、非本番インスタンスで実行します。

#### 始める前に

実行したいテストスイートを作成しておく必要があります。
テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、adminまたはatf_test_adminロールが必要です。

> **注:**
> 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

#### このタスクについて

この手順では、テストスイートを手動で開始する方法を概説します。テストスイートを後で実行するようにスケジュールすることもできます。詳細については、「スケジュール済みのテストスイートの操作」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スイート.
2. テストスイートリストを表示する必要がある場合は、テストスイート をクリックします。
3. 実行するテストスイートを含む行をクリックします。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
4. テストスイートの実行をクリックします。

   > **注:**
   > テスト実行プロパティが有効でない場合、[実行スイート] ボタンが表示されません。このケースでは、フォーム上部の注釈を参照し、リンクをクリックして、テスト実行を有効にします。

   テストスイートに関連するテストにフォームステップ (UI を含む任意のステップ) が含まれる場合、または他の種類のUI テストステップ が絡む場合、テストを実行する前にブラウザを選ぶダイアログが表示されます。

5. 現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいランナーを起動します。

   詳細についてはすべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨を参照してください。

   テストスイートがサーバーテストステップのみを含むテストスイートに関連する場合、システムは [ブラウザを選択] ダイアログを表示せずにテストを実行します。

#### 次のタスク

テストの進捗状況を監視します。完了したら、進捗ダイアログウィンドウで [結果に移動 **(Go to results)]** をクリックして [テスト結果] リストを表示し、そこで結果を表示して分析できます。

### 自動テストスイートのスケジュール

1 つまたは複数のテストスイートを特定の日時に実行するようにスケジュールします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
スケジュールを設定するテストスイートを作成しておく必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

スケジュールされたテストスイートの機能と要件の詳細については、スケジュール済みのテストスイートの操作を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > スケジュール.
   既存のテストスイートスケジュールのリストが表示されます。
2. 新規のスケジュールを作成するには、新規をクリックします。
   スイートスケジュールレコードフォームが表示されます。
3. スイートスケジュールレコードフォーム上で、スケジュールの名前、関連するスイートを実行する頻度、関連するスイートを実行する時間、およびこのスケジュールのタイムゾーンを入力します。
4. オプション: 「条件付き」を選択して、関連するテストスイートを実行するために満たす必要がある条件を指定し、「条件」テキストボックスに適切なスクリプトを入力します。
5. 実行するテストスイートを追加するには、[スケジュール済みスイート] 関連リストに移動し、[ 新規] をクリックします。
   スケジュール済みのスイート実行レコードフォームが表示されます。
6. スケジュールされたスイートランレコードフォームに適切なデータを入力します。

   a. 実行するテストスイートを入力します。

   b. スイートにUI手順が含まれている場合は、適用するクライアント制約(ブラウザの使用など)を入力します。
   クライアントの制約の詳細については、スケジュールされたスイートランを参照してください。

   c. スケジュールされたスイートが終了したときに、システムに (メールで) 通知するユーザーをレコードのウォッチリストに追加します。

   d. **[Submit** (送信)] をクリックします。

7. オプション: 手順 5 と 6 を繰り返して、このスケジュールにさらにテストスイートを追加します。
8. **[Update** (更新)] をクリックします。
9. スイートにフォームまたはクライアント側の他の要素で動作するテスト ステップが含まれている場合は、スケジュールされたテストのクライアント部分を実行するためのブラウザー ウィンドウを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ブラウザーの推奨事項と要件をすべてのテストとスイート、およびスケジュールされたスイートランにのみ適用されるテストに関してレビューします。
b. ナビゲーターで、[スケジュールされたクライアントテストランナー] を右クリックしてから、必要に応じて別のタブまたはウィンドウで開くオプションをクリックします。
c. クライアントテストランナーを実行しているブラウザーウィンドウを開いたままにして、[ナビゲーター] を含むブラウザーウィンドウに戻ります。

### スクリプトを使用したスケジュール済みテストスイートの実行

スケジュール済み UI テストスイートを、スケジュールされた時間を待つ必要なく、スクリプトを使用して即座に実行します。この方法は、テストの実行のプロセスを自動化する際に使用できます。

#### 始める前に

実行するテストスイートを作成してスケジュールを設定しました。詳細については、「自動テストスイートの作成」および「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### このタスクについて

次のステップは、ソフトウェア構成と一致しない場合があります。

#### 手順

1. 必要なブラウザーを備えたオペレーティングシステム上で仮想マシン (VM) を起動します。
2. インスタンスでブラウザーを開き、スケジュール済みのクライアントテストランナーに移動します。
3. スクリプト可能メソッド `new sn_atf.ScheduledRunsExecutor().setScheduleSysId("SYS_ATF_SCHEDULE_SYS_ID_HERE").start();` を呼び出して、スケジュール済みスイートをすぐに実行します。

   **注:**
   start() メソッドは、進捗ワーカーの sys_progress_worker.sys_id を返します。

   スクリプトが呼び出されたときにのみテストを実行するには、スケジュールフォームで [実行] フィールドを [オンデマンド] に設定します。

### 自動テストスイートでの失敗したテストの再実行

スイート全体を再実行せずに、不合格になったテストをテストスイート内で再実行します。

#### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

#### このタスクについて

失敗したテストを含むスイートが完了した後に、[スイート結果] フォームとスイート実行進捗状況ビューアーに [不合格になったテストを再実行] ボタンが表示されます。テスト実行が無効になっている場合、スイートが非アクティブ化されている場合、スイートが合格した場合、またはユーザーが必要なロールのいずれかを持っていない場合は表示されません。

[失敗したテストを再実行] ボタンをクリックすると、キャンセル、スキップ、失敗、およびエラーの状態のテストを含む、すべての不合格のテストが再実行されます。それには警告のある成功状態を持つ結果が含まれません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テストに失敗したスイートのスイート結果フォームまたはスイート実行進捗ビューアのいずれかに移動します。
2. 不合格になったテストを再実行をクリックします。
   再実行テストにフォーム ステップ (UI を含む任意のステップ) またはその他の種類の UI テストステップが含まれている場合は、テストを実行する前に [ ブラウザーの選択 ] ダイアログが表示されます。
3. ダイアログボックスで、現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいランナーを開始します。
   再実行テストにサーバーテスト ステップのみが含まれている場合、システムは [ブラウザを選択] ダイアログを表示せずにテストを実行します。詳細については、「」および「」を参照してくださいすべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨サーバーのテストステップ。

タスクの結果
システムは、失敗したテストを再実行します。

- システムは、再実行テスト用の新しいスイート結果階層を作成します。進行中の作業者、テスト結果、およびテストスイートの結果フォームは、以前のテストスイートと同じスイート階層を示します。以前実行したテストやスイートは含まれていません。
- 失敗した子スイートまたはテストを削除または無効化してから再実行すると、再実行時にそのスイートまたはテストが実行されません。
- 失敗したテストのスイートに子スイートまたはテストを追加してから再実行すると、システムは追加されたスイートまたはテストを再実行しません。

次のタスク
テストまたはスイートの前回の実行結果を表示するには、テスト結果フォームの [前回のテスト結果] またはテストスイート結果フォームの [前回のスイートの結果] をクリックします。これらのフィールドは、再実行されたテストとスイートについてのみ表示されます。

## ATF テストを自動生成

テストを自動生成モジュールまたはテスト/スイートモジュールのいずれかから自動生成オプションを選択して、ATF テストを自動生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、テストの自動生成機能にアクセスします。

2. オプション:  ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリをインストールします。

   注:
   この手順は、ストアアプリがインスタンスにインストールされていない場合にのみ適用されます。ストアアプリをインストールするためにリダイレクトされます。

## 並列テスト

複数のテストとテストスイートを並列で実行することで、テストの設計時間を短縮します。リソースの競合とデータの依存関係を回避することで、並列で実行されるテストを設計します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**注:**
複数のユーザーが同時にテストを開発している場合、並列テストによりテストの設計時間を短縮できます。テスト設計が完了したら、テストを単一の階層スイート構造に整理し、テストを単一の基本スイートとして実行することをお勧めします。

## 並列テストの制限

並列テストでは、複数の自動テストを同時に実行できます。このプロセスは、並列実行テストの数が次の式に従うまで続行されます。

```
Number of parallel tests = max(1, number of worker threads - 2)
```

**注:**
インスタンスのワーカースレッドが 2 つ以下の場合は、構成の改善の見直しをお勧めします。

非本番インスタンスがサポートできる並列テストの実際の数は、インスタンスがプロビジョニングされたときのシステムリソースによって異なります。並列テストの制限により、インスタンスは常に他の非テストタスクが利用できるシステムリソースを確保できます。

## テスト待機キュー

システムが並列テストの上限に達すると、テストは後で実行するように再スケジュールされます。これによりテストは、ワーカースレッドがテストを取得できるようになるまで、自動的に sys_trigger に戻されます。待機キュー内の各テストには、次回のテスト実行時のスケジュールが設定されます。

## 設計上の考慮事項

複数のテストとテストスイートを並列で実行して、テストの設計時間を短縮します。並列実行テストを設計することで、リソースの競合とデータの依存関係を回避します。新しく生成されたデータまたは自己作成したデータのみに依存するテストを設計するか、リソースを共有するテスト間で相互除外ルールを定義することで、リソースの競合とデータの依存関係を回避します。

### 並列テスト間のリソース競合の防止

独自のデータを作成するテストを実行して、リソースの競合を防止します。既存のデータを使用して実行するテストでは、同じデータを必要とする他のテストは並列で実行できません。

**注:**
リソースの競合があるテストが複数ある場合は、「テストを相互に排他的としてマーク」を参照して、テストが並列に実行されないようにする相互除外ルールを作成します。

## パフォーマンスプロファイリング

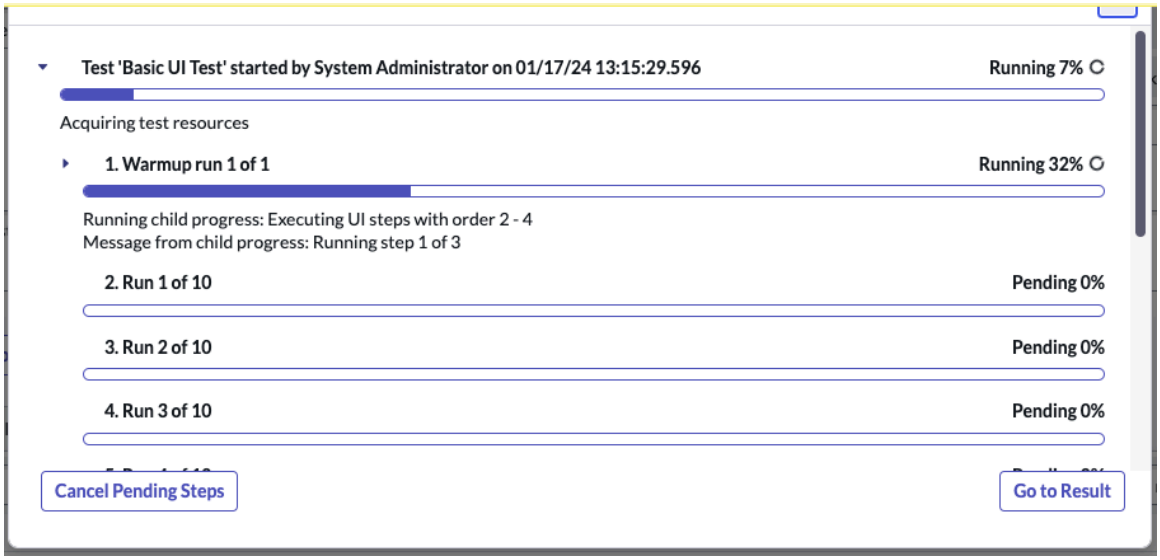
パフォーマンスプロファイリングを使用すると、インスタンスでパフォーマンステストを実行できます。

ATF は、インスタンスに変更が加えられたときに破損がないことを確認する機能テスト用のメディアであるだけでなく、アップグレード中のパフォーマンス低下を検出することもできます。原因を知り、調査し、パフォーマンスの問題を修正できます。

任意の ATF テストまたはスイートでパフォーマンスプロファイリングを実行できます。各テストまたはスイートの既定のテスト実行は 10 です。スイートでは、各テストが 10 回連続で実行されます。最初の実行は、キャッシュ値のウォームアップに役立つウォームアップであり、テストまたはスイートの 10 回のテスト実行にはカウントされません。

**注:**
パフォーマンスプロファイリングは、複数のテストで同時に実行することはできません。並列パフォーマンス評価はサポートされていません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**注:**
パフォーマンス テストの実行を実行すると、システムは一時停止し、進行中のジョブが完了するまで待機してからテストの実行を開始します。これは、インスタンスの速度低下を回避するのに役立ちます。

### パフォーマンスプロファイリングを実行

テストまたはインスタンスでのパフォーマンステストスイートに対して、パフォーマンスプロファイリングを実行します。また、インスタンスをアップグレードするときにパフォーマンスの低下を検出し、問題を調査して修正することもできます。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

**1.** 移動先 すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > テスト.

**注:**
スイートでパフォーマンスプロファイリングを実行する場合は、スイートモジュールを選択することもできます。

テストまたはスイートのリストが表示されます。

**2.** パフォーマンスプロファイリングを実行するテストを選択します。

**3.** [テスト] フォームで [ パフォーマンステストの実行 ] を選択します。
[ テストを実行 ] モーダルが表示されます。モーダルには、選択したテストまたはスイートのウォームアップ実行と、10 回すべてのテスト実行が表示されます。実行を開始するすべてのテスト実行を追跡できます。

**注:**
パフォーマンスプロファイリング用のスイートを選択した場合は、[ パフォーマンススイートを実行 ] を選択できます。

**4.** 下にスクロールして、[ パフォーマンステスト結果 ] 関連リストを選択します。

**5.** 選択したパフォーマンス テスト内のすべてのテスト実行の結果を表示するために必要なパフォーマンス数値を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[パフォーマンス実行] フォームが表示されます。に直接移動することもできます すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > テスト > パフォーマンスプロファイリング > パフォーマンス実行 パフォーマンス実行フォームを表示します。スクリーンショットを追加

> **注:**
> テスト名、テスト実行の状態、およびテストの実行時間を表示できます。[ ウォームアップ] の値が true の場合、キャッシュ値をウォームアップするために実行される最初のテスト実行です。残りのテスト実行では、[ ウォームアップ] の値が false に設定されます。ウォームアップテストは、各テストまたはスイートの 10 回のテスト実行の 1 つとしてカウントされません。

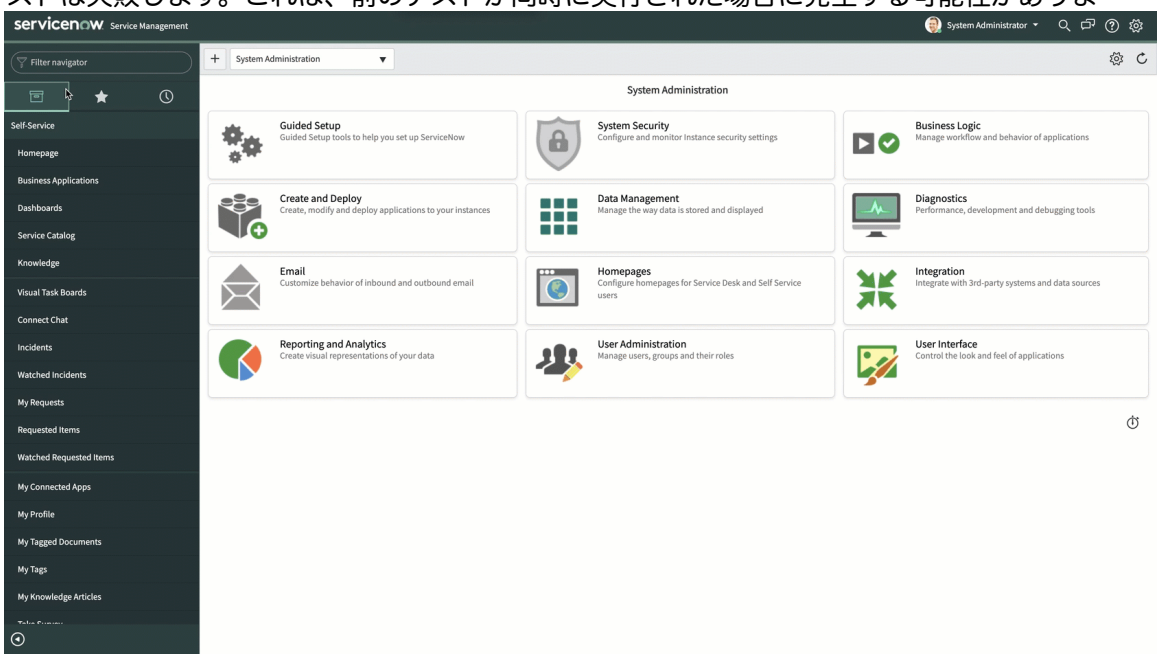
6. 移動先 すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > テスト > パフォーマンスプロファイリング > パフォーマンスの比較.
   [パフォーマンス比較] フォームが表示されます。<フォームのスクリーンショットを追加します >
7. 1 回目と 2 回目の実行を選択して、比較結果を表示します。
   完全なスクリーンショットを追加します。パフォーマンス平均やデルタ平均値などの情報を表示できます。

> **注:**
> 一度に比較できるテスト実行は 2 つだけです。次の比較では、前のテスト実行の 1 つを次のテスト実行と比較するベースラインと見なすことができます。

## 相互に排他的なテスト

相互に排他的としてマークすることにより、競合するテストが並列で実行されないようにします。たとえば、同じレコードを変更するテストが識別されると、システムはこれらのテストを相互に排他的になるようにします。テストを相互に排他的として手動でマークすることもできます。

潜在的なリソースの競合がある場合、テストは相互に排他的であるとマークされます。システムがリソースの競合を自動的に検出できない場合は、独自の相互除外ルールを作成して、競合するテストが並列で実行されないようにすることができます。たとえば、テストで sys_properties レコードが変更された場合、そのレコードはそのテストの [変更されたレコード] の下に表示されます。別のテストの検証パスが変更なしで同じ sys_properties レコードに依存している場合、そのテストは失敗します。これは、前のテストが同時に実行された場合に発生する可能性がありま




す。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストフォームの [相互に排他的なテスト] 関連リストで、相互に排他的なテストを表示できます。この関連リストには、現在のテストと並列で実行されないすべてのテストとその理由が表示されます。複数の理由がある場合、同じテストがリストに複数回表示されることがあります。

### 相互に排他的なテストの理由

テストは、次の理由で相互に排他的であるとマークされます。

- 2 つ以上のテストが同じレコードを変更する。
- それ自体と並列で実行するテストがある。
- システムがリソースの競合を自動的に検出できない場合、独自の相互除外ルールを作成できます。

### テストを相互に排他的としてマーク

次のいずれかの方法を使用して、テストを相互に排他的としてマークできます。

[相互に排他的なテスト] タブ

[テスト] リストからテストを選択し、次に移動します。 相互に排他的なテスト > 相互排他を追加 選択したテストを別のテストと相互に排他的にします。

[テスト] リスト

[テスト] リストから 1 つ以上のテストを選択し、選択した行のコンテキストメニューの [アクション] から [相互に排他的なテストを追加] を選択します。[相互に排他的なテストを追加] ダイアログボックスに 1 つのテストを入力して、選択したテストを現在のテストと相互に排他的にします。

[並列テストの実行] タブ

2 つ以上のテストを並列で実行する場合は、次に移動します。 テスト結果 > 並列テストの実行. 1 つ以上のテストを選択し、選択した行のコンテキストメニューの [アクション] から [相互に排他的なテストを追加] を選択し、選択したテストを相互に排他的とマークします。

> **注:**
> [並列テストの実行] タブは、テストが 1 つ以上のテストと並列で実行される場合にのみ表示されます。

## Automated Test Framework の設計上の考慮事項

次の設計上の考慮事項に従って、信頼性が高くスケーラブルで効率的なテストを作成します。

### 一般的なテスト

システムの動作を変更する可能性のある ServiceNow システムテーブル、またはアプリケーションファイル [sys_metadata] を拡張するテーブルの変更は避けてください。テスト間の予期しない結果を防ぐために、既存のレコードを使用したり変更したりしないでください。予期しない結果を引き起こす可能性のあるシステムデータ変更の、いくつかの一般的な例を次に示します。

- 既存のアカウントを代理操作する
- 既存のレコードを削除する
- ビジネスルールまたはシステムのプロパティを無効にするテストを実行する
- 既存のレコードを使用して検証する



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 並列テスト

複数のテストとテストスイートを並列で実行することで、テストの設計時間を短縮します。リソースの競合とデータの依存関係を回避することで、並列で実行されるテストを設計します。

並列テスト間のリソース競合の防止

独自のデータを作成するテストを実行して、リソースの競合を防止します。既存のデータを使用して実行するテストでは、同じデータを必要とする他のテストは並列で実行できません。

> **注:**
> リソースの競合があるテストが複数ある場合は、「テストを相互に排他的としてマーク」を参照して、それらのテストが並列に実行されないようにする相互除外ルールを作成します。

## パラメーター化されたテスト

実行ごとに異なるテストデータを使用して、テストを複数回実行します。各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。詳細については、「パラメーター化されたテストのコンポーネント」を参照してください。

- 各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。
- パラメーター化されたテストが、レポート、テストスイート、およびデータロールバックなどの標準自動テストフレームワーク (ATF) 機能をサポートしていることを確認します。パラメーター化テストをコピーすると、すべてのパラメーター、テスト実行データセット、およびテストステップがコピーされます。

> **注:**
> カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

## カスタム **UI** テスト

HTML および JavaScript ページコンポーネントを取得し、それらがサポートするテストアクションを特定することによって、UI ページや UI マクロなどのカスタマイズされたユーザーインターフェイスをテストします。

ページインスペクターを使用してテスト可能なページコンポーネントを識別する

ページインスペクターは、どのページコンポーネントがカスタム UI テストに使用できるかを決定します。ページインスペクターに利用できないページコンポーネントは、カスタム UI テストには利用できません。

テストするカスタム UI に移動する

ターゲットのカスタム UI に移動するには、既存のテストステップを使用します。たとえば、ナレッジベース記事をテストするには、既存のテストステップを使用してモジュールに移動するか、既存のレコードを開きます。ほとんどのカスタム UI テストでは、テストの一部として既存のテストステップカテゴリを使用する必要があります。

コンポーネント領域を使用してページコンポーネントを識別します

コンポーネント領域は、`<div>` または `<section>` 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素を表します。この領域は、テストデザイナーがページレイアウト内の場所を指定することによってコンポーネントを区別するのに役立ちます。

Now Platform UI ではなくカスタム UI をテストする

自動テストフレームワーク (ATF) は、Now Platform 機能のカスタム UI テストを回避します。たとえば、ダッシュボードやグラフィカルデザイナーをテストすることはできません。代わりに、カスタム UI ページと要素を検証するためのテストを構築します。これらのユーザーインターフェイスは直接制御できるからです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML 属性を使用してページコンポーネントのテストプロパティを上書きする

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。 「コンポーネントテストアクションを上書きする」を参照してください。

テストを別のインスタンスに移動するときはページコンポーネントを再度取得する

カスタム UI テストステップは、UI コンポーネントをメタデータとして格納しません。テスト担当者がインスタンス間でテストを移動するときは、ページコンポーネントを手動で再度取得する必要があります。

## 本番システムからテストをクローン

テストを本番システムに移動して、テスト用に最新のインスタンスをクローン作成します。本番システムから準本番インスタンスにテストを直接コピーまたはクローン作成することで、テスト時間を短縮します。

**注:**
デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

## すべてのテストの警告メッセージ

| 警告メッセージ | 設計上の考慮事項 |
| --- | --- |
| 既存のユーザーを代理操作すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。代わりに「ユーザーを作成」ステップを追加することで、潜在的な問題を回避します。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | 新しいユーザーを作成して適切なロールとグループを確保し、既存のレコードを使用しないようにします。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。 |
| アプリケーションファイル [sys_metadata] を拡張するテーブルを使用すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | 他のテストに影響を与える可能性があるため、アプリケーションファイルを拡張するテーブルを使用してテストを実行しないでください。詳細については、「並列テスト」を参照してください。 |
| システムテーブルを使用すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | 並列で実行されている他のテストに影響を与える可能性があるため、システムテーブルの使用は避けてください。詳細については、「並列テスト」を参照してください。 |
| 既存のレコードを使用すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | 既存のレコードは使用しないでください。これらのレコードには、テストで想定されるステータスと値が含まれていない可能性があります。テスト中に作成されたレコードを使用して、適切なステータスと値を確認します。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。 |
| 既存のレコードを変更すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | 他のテストに影響を与える可能性があるため、既存のレコードは使用しないでください。テスト中に作成されたレコードを使用します。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 警告メッセージ | 設計上の考慮事項 |
| --- | --- |
| アサーションタイプ「--なし--」を使用すると、サーバー UI アクションで予期しない動作が発生する可能性があります。アサーションタイプを設定し、タイムアウトを使用することで、潜在的な問題を回避します。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。 | サーバー UI アクションにより、現在のフォームが送信され、ページが再ロードされます。サーバー UI アクションの予期しない動作を回避するには、[なし] 以外のアサーションタイプを選択します。タイムアウトを設定して、次のステップに進む前に、テストがフォームの送信または未送信を必ず待機するようにします。サーバー UI アクションをテストする場合、アサーションタイプ [なし] は自動的に [サーバーにフォームを送信] に設定されます。 |

## ドメイン分離テスト

ドメイン分離をテストする場合は、最初にドメインを設定する必要があります。各 ATF テストステップが設定中のドメインに依存する場合、これはその最初の代理操作ステップの一部になります。Domain Separation の推奨プラクティスの詳細については、「サービスプロバイダー向けの Domain Separation の推奨プラクティス」を参照してください。

## 自動テストとテストスイートのキャンセル

実行中または実行待ちの自動テストおよび自動テストスイートを取り消すことができます。

自動テストまたは自動テストスイートをキャンセルする方法は、テストまたはテストスイートが現在実行されているか、または実行するためにキューに入れられているかに応じて異なります。

### キューに入れられた自動テストスイートのキャンセル

キューに入れられているがまだ実行されていない自動テストスイートを取り消すことができます。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 実行 > テストランの待機中/実行中.
2. キャンセルするテストスイートのアクションチェックボックスを選択します。
3. アクション選択リストから、[削除] を選択します。

### 自動テストスイートで実行中および処理待ちのテストのキャンセル

実行中のスイートテストで実行中および処理待ちのテストをキャンセルします。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

#### 手順

1. 必要であれば、テストの実行の進行状況ダイアログを表示します。
2. 処理待ちの手順をキャンセルするをクリックします。
   このテストの実行をキャンセルすることを確認するダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで、はいをクリックします。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### タスクの結果
このテストスイート内の実行中および処理待ちのテストはすべてキャンセルされ、テストスイート内のテストが変更した可能性のあるデータはすべてロールバックされます。

#### 自動テストの実行のキャンセル

実行テスト進行状況ダイアログから実行中のテストを取り消すことができます。

### 始める前に
システムはテストを実行している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 手順

1. 必要であれば、テストの実行の進行状況ダイアログを表示します。
2. 処理待ちの手順をキャンセルするをクリックします。
   このテストの実行をキャンセルすることを確認するダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで、はいをクリックします。

### タスクの結果
実行中のテストがキャンセルされ、テストによるデータ変更がロールバックされます。

#### 待機中の自動テストのキャンセル

待機/実行中テスト実行モジュールから待機中の自動テストを取り消すことができます。

### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 実行 > テストランの待機中/実行中.
2. キャンセルするテストのアクションチェックボックスを選択します。
3. アクション選択リストから、[削除] を選択します。

## 自動テストフレームワーク (ATF) の管理

自動テストフレームワーク (ATF) を有効または無効にし、リテンションポリシーの変更、インスタンス間のテストの移動、Automated Test Framework へのユーザーアクセスの制御、およびカスタムテストステップ構成とステップ環境の作成を行います。

自動テストフレームワーク (ATF) の動作を制御する各プロパティの詳細については、「プロパティ」を参照してください。

#### カスタムテストステップ構成の作成

ステップ設定レコード (またはステップ設定) は各ステップ タイプの振る舞いを定義します。サーバー上で実行されるカスタム ステップを定義する新しいステップ構成を作成できます。

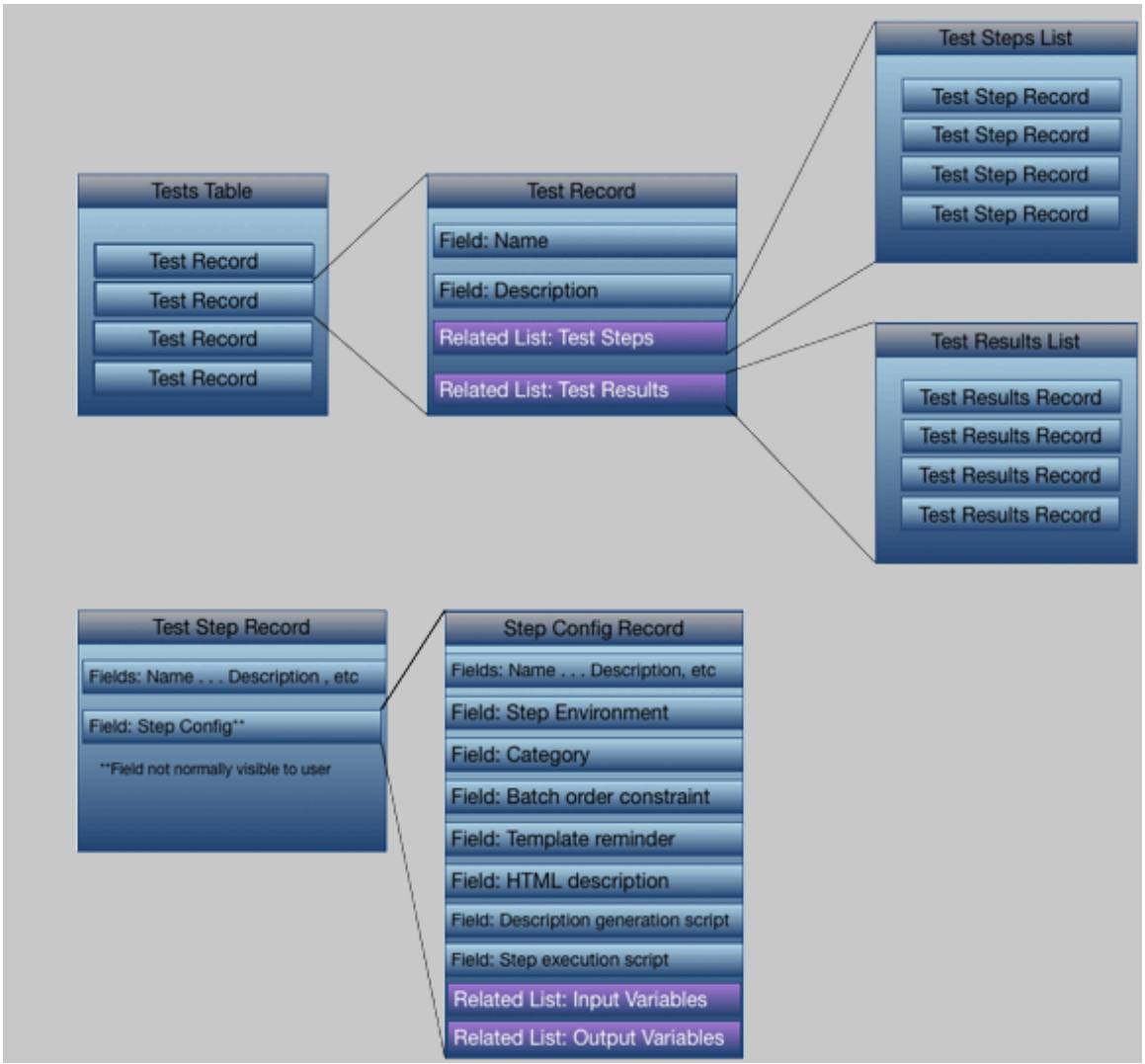
自動テストにステップを追加すると、そのステップにはフィールド値の設定、またはレコード挿入のような定義済みのタイプがあります。各ステップ構成には、必要な入力、実行されたアクションなど、そのタイプのステップがどのように振る舞うかに影響する多くの特性があります。

これらの特性は、ステップ設定レコードのステップで定義されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テスト ステップアーキテクチャ




[ステップ実行スクリプト] フィールドは、この構成でステップが実行されたときにシステムが実行するアクションを決定します。

関連情報

- ステップ構成
- ステップ実行スクリプト

## カスタムステップ構成の作成

サーバー上で実行される新しいステップの基礎を形成できるカスタム ステップ構成を作成します。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin

### このタスクについて

自動テストフレームワーク (ATF)は フォームを開く、値を設定、値を確認などの特定のタイプのステップが含まれています。ステップ構成モジュールでは、指定したアクションを実行するステップを作成できます。サーバー上で実行されるステップの構成のみ作成できます。ブラウザで実行されるステップの設定は作成できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > ステップ設定.
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト ステップ設定フォームを表示します。
3. 名フィールドで、ステップ タイプの名前を入力します。
4. アクティブチェック済みで残します。
5. ステップ環境設定をサーバーに依存しないで残します。
   サーバー上で実行されるステップ構成のみを定義できます。ブラウザーで実行されるステップ構成は定義できません。
6. オプション: カテゴリフィールドで、このステップを割り当てるカテゴリを選択します。
   カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。
7. オプション: バッチ注文制約フィールドで、次のいずれかの値を選択します。
   - [なし]：この構成に基づくステップはテストの任意の場所に現れることがあります。
   - [一括実行を開始]：このテストでこのステップのバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最初のものでなければなりません。
   - [実行中に実行する]：テストにこのステップを含むバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最初のステップの後と最後のステップの前に現れなければなりません。
   - [実行を停止する]：テストにこのステップを含むバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最後のステップでなければなりません。
8. 順序フィールドで、この構成を持つステップがテスト ステップの追加ダイアログのステップリストに表示される場所を指定する整数を入力します。
   詳細については、「」順番フィールドの例の [順序] フィールドの使用例を参照してください。
9. [テンプレートリマインダー]フィールドに、このステップがテンプレートの一部としてテストに含まれている場合に表示する指示を入力します。
   詳細については、[ テンプレートリマインダー (Template reminder)] フィールドの使用例を参照してください。
10. **[HTML** の説明] フィールドで、[新規ステップの作成 (Create New Step)] ダイアログでカーソルがこのステップを強調表示したときに表示するテキストを入力します。

    詳細については、「」の HTML 説明フィールドの使用例を参照してください 。

    > **注:**
    > 次の 2 つのステップではスクリプトを記述しますが、入力変数と出力変数を追加するまでスクリプトの完了を待つ必要があります。

11. 記述生成スクリプトフィールドで、このタイプのステップがテストに含まれている場合は、テストステップレコードに割り当てられた説明を生成するために、提供されたテンプレートにコードを追加します。
    このスクリプトの作成の詳細については、ステップ説明生成スクリプトを参照してください。システムがこの説明を表示する場所の例を表示するには、説明生成スクリプトの例を参照してください。
12. ステップ実行スクリプトフィールドで、このタイプのステップが実行されるときに実行されるスクリプトを定義するために、提供されたテンプレートにコードを追加します。
    スクリプトテンプレートには、ステップの入力、出力、およびステップの結果を処理するための手順と例が示されています。ステップ実行スクリプトの詳細については、ステップ実行スクリプトを参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

13. [送信] をクリックします。
    新しいテスト ステップ構成が作成され、テスト構成のリストに戻ります。
14. オプション: このステップ設定に入力変数を追加します。
    a. ステップ設定レコードにアクセスします。
    b. [入力変数] タブまでスクロールし、[ 新規] をクリックします。
    c. 新しい変数の必須フィールドに入力します。
    d. **[Submit** (送信)] をクリックします。
    e. 必要なすべての入力変数を追加するまで、これらの手順を繰り返します。
    f. オプション: [入力変数] 関連リストの [順序] 列の値を編集して、入力変数が新しいステップ フォームに表示される 順序 を制御します。
15. オプション: このステップ設定に出力変数を追加します。
    a. [出力変数] タブまでスクロールし、[ 新規] をクリックします。
    b. 新しい変数の必須フィールドに入力します。
    c. [送信] をクリックします。
    d. 必要なすべての出力変数を追加するまで、これらの手順を繰り返します。

関連情報

ステップ実行スクリプト

ステップ構成

自動テストフレームワーク (ATF) ステップ構成レコード

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

## カスタムステップ構成カテゴリの作成

カスタムステップ設定カテゴリを作成します。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin

### このタスクについて

カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。

### 手順

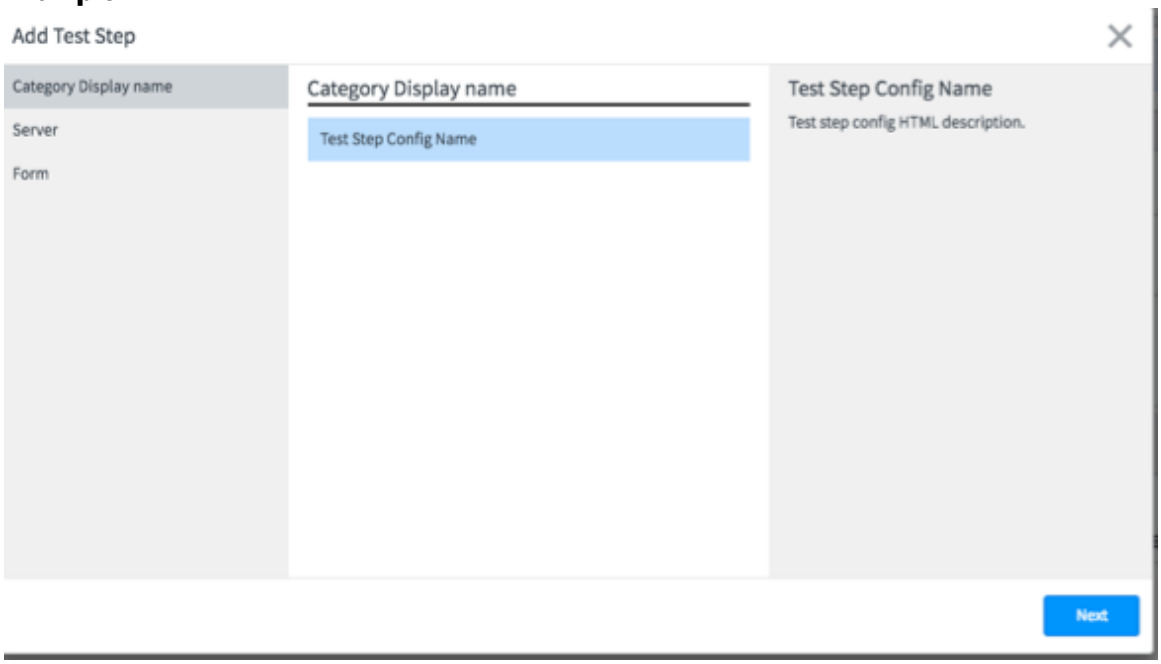
1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > ステップ構成カテゴリ.
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト ステップ設定カテゴリーフォームを示します。
3. 名フィールドで、ステップカテゴリの名前を入力します。
4. ステップ環境フィールドで、このカテゴリのステップが実行するステップ環境を入力します。
   - サーバー独立型：このカテゴリにサーバー上で実行されるステップが含まれるようにする場合。
   - UI：このカテゴリにブラウザで実行されるステップを含める場合。
   - サーバー - REST：インスタンスに受信 REST メッセージを提出するステップをこのカテゴリに含める場合。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 表示名フィールドで、このカテゴリが選択されている場合は、[テストステップの追加] ダイアログの中央の列に表示するカテゴリ名を入力します。

**Example**




6. [送信] をクリックします。
システムはテストステップカテゴリを作成し、テストステップ環境のリストに戻ります。

### テストステップテンプレートの操作

テスト ステップテンプレートには、一度に自動テストに追加するステップのリストが含まれています。

#### 関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

### 自動テストステップテンプレートの作成

自動テストに一度に追加するステップのリストを含むテンプレートを作成することで、テスト時間を短縮します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin

#### このタスクについて
多くのテストが同様のパターンを踏襲します。よくあるパターンの 1 つは、たとえばフォームを開き、フィールドの値を設定し、フィールドの値を検証し、UI アクションをクリックし、レコードプロデューサーを開き、カタログアイテムを開き、現在のフォームを送信することです。これらのステップを含むテンプレートが存在する場合、それらを全て一度にテストに追加できます。自動テストフレームワーク (ATF) にはベースシステムにデフォルトのテンプレートが付属します。この手順では、独自のテンプレートを作成します。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > テストテンプレート.
システムはテストテンプレートリストを表示します。
2. [新規] をクリックします。
テストテンプレートフォームが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 名フィールドで、テンプレートの名前を入力します。
4. テストテンプレートフィールドで、ロックアイコン( )をクリックします。
   [テストテンプレート] フィールドはロック解除されて拡張され、編集可能となります。
5. テストテンプレートフィールドで、このテンプレートに追加する最初のテスト ステップの名前を入力します。
   テストステップがテストテンプレートリストに追加されます。
6. リストに含めるすべてのステップの追加が完了するまで、表示する順序でテストステップの追加を続行します。

   注:
   テストテンプレートは、テーブル、カタログアイテム、レコードプロデューサーをサポートしています。

7. [説明] フィールドで、このテンプレートの説明を入力します。
8. [送信] をクリックします。

関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

## 自動テストステップテンプレートの編集

既存のテストテンプレートを編集します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > テストテンプレート.
   システムはテストテンプレートリストを表示します。
2. 編集するテストテンプレートの行をクリックします。
   テストテンプレートフォームが表示されます。
3. テストテンプレートフィールドで、ロックアイコン( )をクリックします。
   テストtンプレートフィールドは編集を可能とするためにロックが解除され編集可能となります。
4. 注:
   リスト内の任意の場所でステップを削除できますが、リストの最後にのみステップを追加できます。テンプレートを使用してテストを追加した後にステップを並べ替えることができますが、テンプレート自体のステップを並べ替えることはできません。

   ステップをテンプレートに追加または削除します。
   - ステップを削除するには、そのステップを選択し、バツ**(X)**アイコンをクリックします。
   - ステップを追加するには、テストテンプレートフィールドに、追加するステップの名前を入力します。
5. テスト ステップが必要なステップを含むまで、テスト ステップの追加と削除を続けます。
6. [送信] をクリックします。

関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### 自動テストフレームワーク (ATF) テストの実行を有効または無効にする

このインスタンスでテストおよびテストスイートを実行することを許可または禁止します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin

#### このタスクについて
デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > プロパティ.
2. テスト実行プロパティを設定します。
   - テストおよびテストスイートの実行を有効にするには、 [テストまたはテストスイートの実行を有効にします] を選択します。
   - テストおよびテストスイートの実行を無効にするには、 [テストまたはテストスイートの実行を有効にします] を選択します。
3. [保存] を選択します。

### ATF テスト結果のデータ保持ポリシーの変更

自動フラッシュデータ保存ポリシーを変更します。これは、システムがデータを保持する期間と、データを参照することにより、テストおよびテストスイートの結果を指定します。sys_atf_test_resultまたはsys_atf_test_suite_result基本表のフラッシュ回数を変更できます。この設定では、テスト結果データが利用可能な時間を調整します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin

#### このタスクについて
システムは、sys_atf_test_resultおよびsys_atf_test_suite_resultのベーステーブル (およびオプションでデータ参照) のデータを定期的にフラッシュします。 デフォルトでは、テストおよびテストスイートの結果のデータは作成から 30 日後に削除されます。 このタスクでは、特定のベーステーブル (sys_atf_test_resultまたはsys_atf_test_suite_result) に格納されているデータの自動フラッシュ保持ポリシーを変更できます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > テーブルのクリーンアップ.
   自動テスト結果表のために保持する保持ポリシー(自動フラッシュ)のリストが表示されます。
2. 変更する保持ポリシー(sys_atf_test_resultまたはsys_atf_test_suite_result)を選択します。
   この保存ポリシーのレコードが表示されます。

   **注:**
   タブ名フィールドには、選択した自動フラッシュ保持ポリシーが適用されるテーブルの名前が表示されます。このフィールドの別のタブ名を選択すると、自動フラッシュhレコードの整合性が損なわれます。既存のATFポリシーのtablenameをATFデータ保持動作に悪影響を及ぼさないように、基本システム(デフォルト)の値にしておきます。

3. システムがデータを保持してデータを参照する時間を決定する方法を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **Matchfield** フィールドで、システムが継続時間を監視するために使用するフィールドを入力します。たとえば、データを削除するように指定するにはバツシステムがそれを作成した後の時間、 **Matchfield** セットを **sys_created_on** のデフォルト値に残します。

b. 年齢フィールドで、関連するデータを削除してデータを参照するまでにシステムが待機する時間(秒)を入力します。

4. 指定したデータ(たとえば、sys_atf_test_result)にポリシーを適用し、そのポリシーを参照するデータを選択する場合は、 カスケード削除 (デフォルト値) を選択します。
影響を受ける参照データは、sys_atf_test_result_item、sys_atf_test_result_step、および sys_attachment (table_name = sys_atf_test_resultの場合) のテーブルに格納します。ポリシーで選択したテーブル(sys_atf_test_resultなど)のデータを単純にフラッシュし、参照元データのフラッシュをスキップしてから、カスケード削除を消去します。

5. 条件フィールドで、この自動フラッシュ保持ポリシーのデータ選択(および、オプションでデータの参照)に使用するフィルタ条件を指定します。
デフォルトは無限に保持するのは偽で、なぜならテスト結果レコードはまた、特定のテスト結果の自動フラッシュを無効にできる 無期限に保持するチェックボックスを含んでいるからです。

6. [更新] をクリックします。

## 自動テストクライアントランナーのステータスと保持ポリシーの管理

アクティブなクライアントテスト ランナーがシステムに報告する頻度と、システムが非アクティブなクライアントテスト ランナーのレコードを保持する期間を変更します。

### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin

### このタスクについて
クライアントテストランナーを開始すると、そのランナーがアクティブとして登録されます。これは、テストを実行しているか、テストを実行するために使用できることを意味します。 ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。このタスクにより、これらの間隔を制御する Automated Test Framework のプロパティを変更するできるようになります。

### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > プロパティ.
2. テスト ランナーのプロパティセクションに移動します。
3. アクティブなクライアントテストランナーがシステムにレポートする間隔を設定するには、[テストランナーのハートビート間隔] フィールドで、レポート間隔を秒単位で入力します。
4. システムがテストランナーを削除する前にテストランナーが非アクティブのままにできる期間を設定するには、[テストランナーのタイムアウト] フィールドで、時間を秒単位で入力します。
5. [保存] をクリックします。

### 関連情報

クライアントテストランナーでの作業

アクティブ手動テストランナー

スケジュール済みのアクティブテストランナー

## あるインスタンスから別のインスタンスへの自動テストの移動

更新セットの通常のプロセスを使用して、自動テストをあるインスタンスから別のインスタンスに移動します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
更新セットを使用して、自動化されたテスト、自動化されたテストスイート、および関連するデータを移動できます。詳細については、「System Update Sets」を参照してください。

### さまざまな自動テストおよびスイート結果の結果と実行時間の比較

自動化されたテストまたは自動化されたテストスイートの異なる実行の実行時間を比較できます。 1 つの自動化されたテストスイートの結果を時間の経過と共に比較することもできます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

### 自動テストのさまざまな実行の実行時間を比較する

同じテストの異なる実行でシステムが各テスト ステップを実行するのにかかった時間を比較します。

手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > テスト.
2. 結果を比較するテストの行を選択します。
   システムは、テストフォームを表示します。
3. テスト結果関連リストに行きます。
4. 比較するテスト結果の行を確認します。
5. 選択した行に対するアクションコントロールから、テスト ステップの結果を比較する をクリックします。
   テスト結果の実行時間の棒グラフの比較が表示されます。

### 同じ自動テストスイートの異なる実行の実行時間を比較する

同じテストスイートの異なる実行間でシステムが各テストを実行するのにかかった時間を比較します。

手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > スイート.
2. 結果を比較するテストスイートの行を選択します。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
3. テストスイートの結果関連リストに行きます。
4. 比較したいテストスイートの結果がある行を確認します。
5. 選択した行に対するアクションコントロールから、テスト結果の比較をクリックします。
   テスト結果の実行時間の棒グラフの比較が表示されます。

### テストスイートの自動実行の結果を比較する(エージングレポート)

同じテストスイートの異なるランで合格したテスト数と失敗したテスト数を比較します。

手順

1. 移動先 **Automated Test Framework** > スイート.
2. 結果を比較するテストスイートの行を選択します。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 関連リンクで、 エージングレポートを表示するをクリックします。
   テストスイートエージングレポートが表示されます。

### REST テストステップ構成の管理

要求と応答のペイロードサイズ、フィルタ要求と応答ヘッダーを設定し、基本認証プロファイルを作成します。

### Automated Test Framework を使用した基本認証プロファイルの作成

基本認証プロファイルを作成して、提出要求 - 受信テスト ステップの基本認証情報を指定します。

#### 始める前に
必要なロール：web_service_admin

#### このタスクについて
ユーザー名とパスワードは、プロファイルを使用するテストが実行されるインスタンスで有効な認証情報でなければなりません。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > テスト.
2. Send Request - Inbound ステップを使用するテストを選択します。
3. 送付要求 - 受信ステップを選択します。
4. 基本認証フィールドで、使用可能なプロファイルを 調べる砂時計を選択します。
5. 基本認証構成フォームで、新規を 選択します。
6. 名フィールドで、このプロファイルの名前を入力します。
7. ユーザー名フィールドで、ユーザー名を入力します。
8. パスワードフィールドに、パスワードを入力します。
9. [送信] をクリックします。

### REST 要求ヘッダーと応答ヘッダーのフィルタリング

ステップ結果レコードに保存されないREST要求ヘッダーと応答ヘッダーのリストを追加できます。認証情報またはその他の機密情報が含まれているヘッダーをフィルタリングできます。代わりに、「セキュリティのために編集されたヘッダー」というフレーズが保存されます。

フィルタリングするヘッダを指定するには、フィルターに掛けるヘッダー名のコンマ区切りのリストとしてシステムプロパティ glide.atf.rest.log.header_blacklist を作成します。プロパティの追加については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。

### Automated Test Framework の REST プロパティ

これらのプロパティは、ATF RESTとともにインストールします。

> **注:**
> システムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「sys_properties.list」と入力します。

| プロパティ | 使用法 |
| --- | --- |
| glide.atf.rest.log.header_blacklist | その内容をログに追加しないか、フォームに表示するヘッダーのリスト。代わりに、「セキュ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| プロパティ | 使用法 |
| --- | --- |
| | リティのために編集されたヘッダー」というフレーズが保存されます。<br>• タイプ：文字列<br>• デフォルト値：空<br>• その他の可能な値 ：コンマで区切られたヘッダー名のリスト。<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |
| glide.atf.rest.request_payload_max_size | 要求ペイロードの最大サイズ。<br>• タイプ：文字列<br>• デフォルト値：100<br>• 最大値：1024 Kb<br>• 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |
| glide.atf.rest.response_payload_max_size | 応答ペイロードの最大サイズ。<br>• タイプ：文字列<br>• デフォルト値：100<br>• 最大値：5120 Kb<br>• 最大値：システムプロパティ [sys_properties] テーブル |

自動翻訳

### 自動テストパフォーマンスの最適化

自動テストでスクリーンショットをキャプチャする頻度を調整することで、システムトランザクションログレコードを調べたり、実行時間を短縮したりすることで、自動テストパフォーマンスのトラブルシューティングを行うことができます。

### 自動テストのスクリーンショット設定の管理

多くのスクリーンショットをキャプチャすると、テストのパフォーマンスが低下する可能性があります。この影響を最小限に抑えるために、システムがキャプチャするスクリーンショットの種類をコントロールできます。

デフォルトでは、フォームテスト ステップを実行するたびにスクリーンショットがキャプチャします。この情報は、テスト結果の理解に役立ちますが、システムがテストを実行する速度を遅くする可能性があります。

Automated Test Framework の設定を変更して、システムがすべてのスクリーンショットをキャプチャするようにしたり (デフォルト)、スクリーンショットをキャプチャしないようにしたり、または失敗したテストステップのスクリーンショットのみをキャプチャするようにしたりすることができます。

これらの設定を変更して、このインスタンスで実行されるすべてのテストに影響を与えたり、現在のクライアントテスト ランナーセッションだけに影響を与えることができます。このインスタンスで実行されるすべてのテストに反映するには、Automated Test Framework のプロパティを Automated Test Framework のプロパティページから設定します。現在のクライアントテストラン

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナーセッションだけに影響を与えるには、クライアントテストランナーブラウザーウィンドウからスクリーンショットモードを設定します。

### システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク **(ATF)** がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する

このインスタンスがフォームテストステップのスクリーンショットをキャプチャする頻度を制御するには、Automated Test Framework のプロパティページでスクリーンショットキャプチャモードを設定します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

#### このタスクについて
Automated Test Framework プロパティページからのスクリーンショットモードの設定は、このインスタンスで開始された新しいクライアントテストランナーに反映されます。この設定は、現在実行中のテスト ランナーには影響しません。

#### 手順

1. 移動先 すべて > **Automated Test Framework** > 管理 > プロパティ.
2. スクリーンショットのキャプチャを有効または無効にするプロパティをセットします。ドロップダウンメニューから
   - すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。
   - 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。
   - スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。
3. スクリーンショットのタイムアウト時間間隔を秒でセットします。
   試行の長さがこの値を超える場合、クライアントテスト実行ではスクリーンショットキャプチャが実行されません。この値を増やす前に、影響を受けるクライアントシステムのパフォーマンス設定とブラウザのキャッシュを確認してください
4. [保存] をクリックします。

### クライアントテストランナープロパティを設定して、自動テストフレームワーク **(ATF)** がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する

現在のクライアントテストランナーがフォームテストステップのスクリーンショットをキャプチャする頻度をコントロールするには、クライアントテストランナーブラウザウィンドウでスクリーンショットキャプチャモードを設定します。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

#### このタスクについて
クライアントテスト ランナーのブラウザウィンドウからのスクリーンショットモードの設定は、このクライアントテスト ランナーのみに影響し、このテスト ランナーセッションが終了するまで続きます。この設定は、実行中の他のテスト ランナーや今後のテスト ランナーには影響しません。

#### 手順

1. クライアントのテスト ランナーのブラウザウィンドウで、フォーム設定アイコン( )をクリックします。
2. スクリーンショットモードオプションをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。
- 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。
- スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。

3. [保存] をクリックします。

### 自動テスト結果のトランザクションデータの表示

自動テストでパフォーマンスの問題をトラブルシューティングするために、トランザクションログエントリ [syslog_transaction] テーブルから関連レコードを検査できます。

#### 始める前に
必要なロール：test_admin または admin

#### このタスクについて
**注:**
システムでは、短時間の一部のトランザクションをログに記録できない場合があります。

#### 手順

システムトランザクションログの関連するトランザクションレコードに移動します。

- ステップ結果レコードから、ステップトランザクション関連リスト内のトランザクションを表示します。
- テスト結果レコードから、[テストトランザクション] 関連リスト内のトランザクションを表示します。

### スケジュール済みのテストスイートの操作

指定した日時にテストスイートを実行するようにスケジュールすることができます。

テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

このモデルでは、さまざまなテストスイートにスケジュールを関連付けることができます。

**注:**
スケジュールできるのは、個々のテストではなくテストスイートのみです。スケジュール済みのテストは、スケジュール済みのスイートのブラウザ条件に一致するスケジュール済みのクライアントテスト ランナーページが開いている場合にのみ実行されます。スケジュール済みのテストは、ロックされている、電源が切れている、またはブラウザが開いていないマシンでは実行できません。

テストスイート実行レコードのウォッチリストでは、システムがテストスイート実行を完了したときに、ユーザーが電子メールを受け取るように指定することもできます。

テストスイートに 1 つ以上のフォームステップ(ユーザーインターフェイスを含むステップ)が含まれている場合は、スケジュールでスイートを実行する時に、スケジュール済みのクライアントテストランナーがブラウザでアクティブに実行されていることを保証する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

> **注:**
> クライアントテスト ランナーを実行するための推奨事項と要件については、ブラウザの推奨事項と要件を参照してください。

テストスイートをスケジュールするための段階的な手順については、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

### スケジュール済みのテストスイートの実行完了時にメールを受け取るユーザーの指定

スケジュール済みのテストスイートの実行が終了したときに、通知を受けるユーザーを指定できます。

#### 始める前に
必要なロール：atf_test_admin

#### 手順

1. スケジュール済みのテストスイートの実行レコードに移動します。
2. このスケジュール済みのテストスイートの実行完了時に通知するすべてのユーザーを、レコードのウォッチリストに追加します。

### **Automated Test Framework** のスケジュール済みテストスイートの完了通知メール

システムがスケジュール済みのテストスイートの実行を完了すると、スケジュール済みのテストスイート実行レコードウォッチリストのユーザーに電子メールが送信されます。この電子メールには、スケジュール済みのスイート実行およびその結果に関する詳細情報へのリンクと情報が含まれています。

> **注:**
> メールを送信するには、メール機能を有効にする必要があります。

### スイート統計情報

電子メールの「スイート統計」セクションには、スイート数および結果のステータス (失敗 (F)、エラー (E)、スキップ (S)、キャンセル (C)、合格 (P)) 別の詳細が示されています。各ステータスの意味については、「テストスイート結果レコード」を参照してください。

### テストスイート結果

電子メールの「テストスイートの結果」セクションでは、時間の経過とともにテストスイートの結果がレポートされます。

> **注:**
> デフォルトでは、このレポートには失敗したテストのあるスイートのみが含まれていますが、この設定はプロパティページのメールプロパティフィールドで変更できます。デフォルトに設定すると、テストスイート内の失敗したテストのみが報告されます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メールレポートのプレビュー

Preview Email

**注:**
ATF は、最近のテスト結果のみをメールレポートで報告します。設定された保持時間制限内であれば、以前のテスト結果はすべて存在しています。ATF テスト結果の保持ポリシーの詳細については、「テーブルクリーンアップ」を参照してください。

テスト結果キー

| 文字 | 色 | 説明 |
|---|---|---|
| F | 赤 | 不合格のテスト |
| P | 緑 | 合格したテスト |
| S | 白 | スキップされたテスト |
| C | 白 | キャンセルされたテスト |
| E | オレンジ | テストにエラーがあります |

各エントリは、その実行の結果レコードへのリンクとして機能します。これらの項目のいずれかにマウスを合わせると、親スイート番号、親スイート終了時刻、およびテスト結果出力が表示されます。

## 電子メールの内容に影響するプロパティ

[Automated Test Framework のプロパティ (Automated Test Framework Properties)]フォームでは、メールの形式と内容に影響するオプションを設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# 自動テストフレームワーク (ATF) ユースケースの例

ユースケースは、一般的なシナリオのテストを構築するのに役立ちます。

## 自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：基本的なフォーム操作のテスト

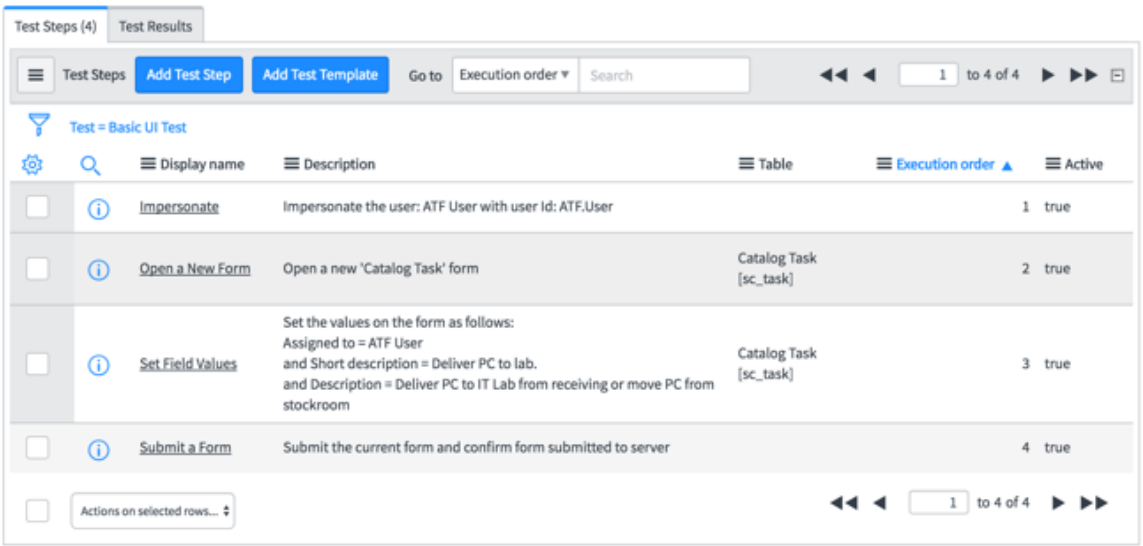
このユースケースは次のことを説明します は基本的なフォーム操作　を 自動テストフレームワーク (ATF) をテストします。

### 始める前に

必要なロール：atf_test_admin

### このタスクについて

テストのステップ

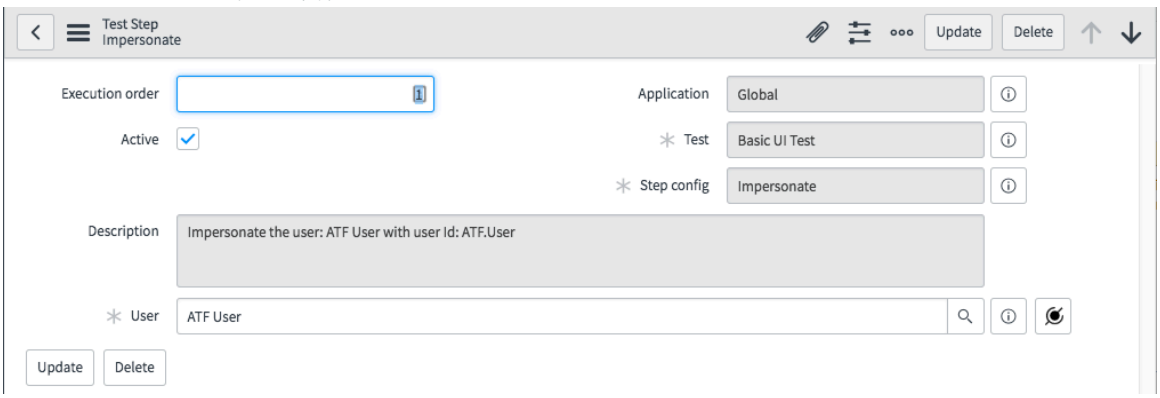



### 手順

1. これらのステップを実行するために必要なアクセス許可(この例では ATF.User)で代理操作します。

   **Example**

   テスト ステップ **1 -** 代理操作



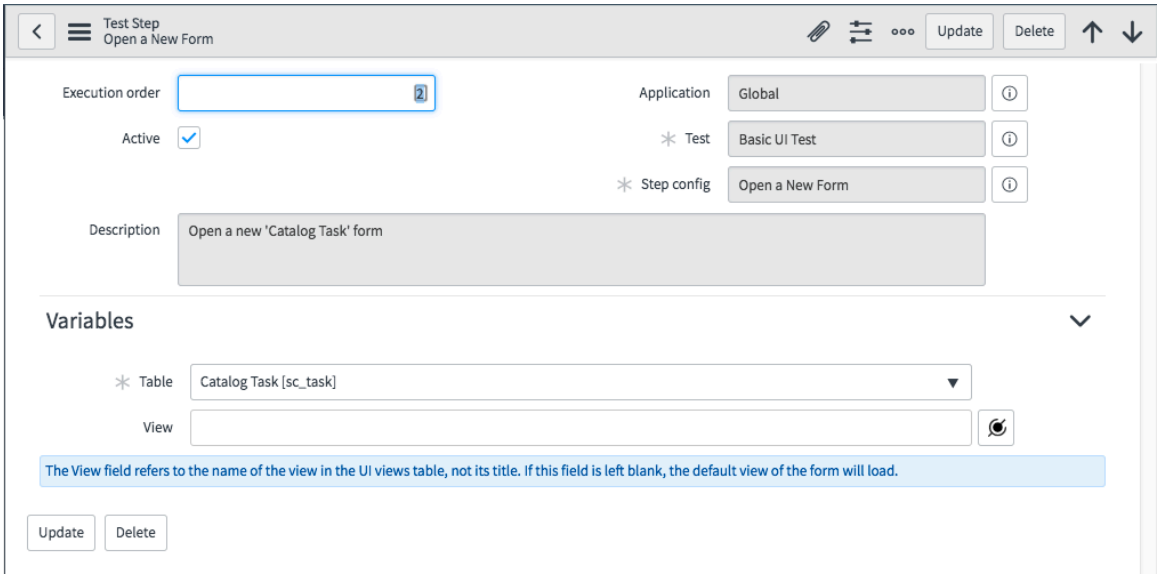

2. フォーム(この例ではカタログタスクフォーム)を開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

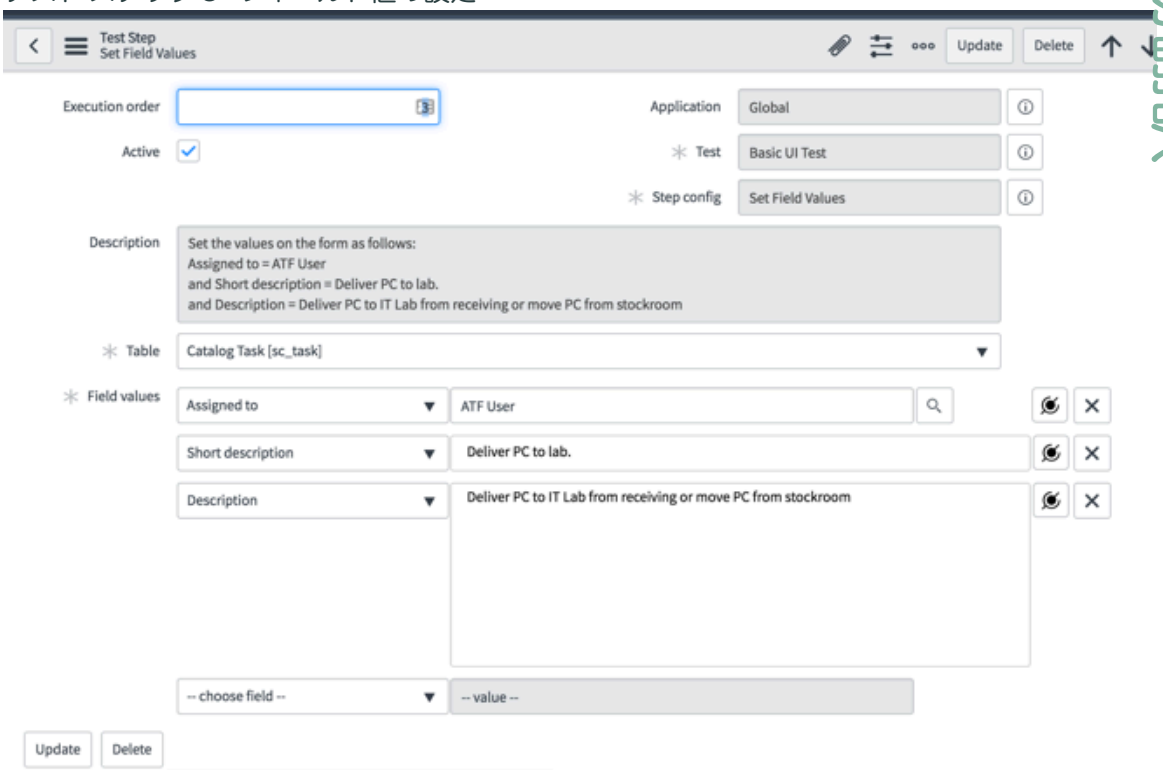
テスト ステップ **2 -** 新しいフォームを開く




3. 開いているフォームで、任意の必須フィールドを含むフィールド値を設定します。
この例では、担当者、簡単な説明、および説明のフィールド値を設定します。

**Example**

テスト ステップ **3 -** フィールド値の設定



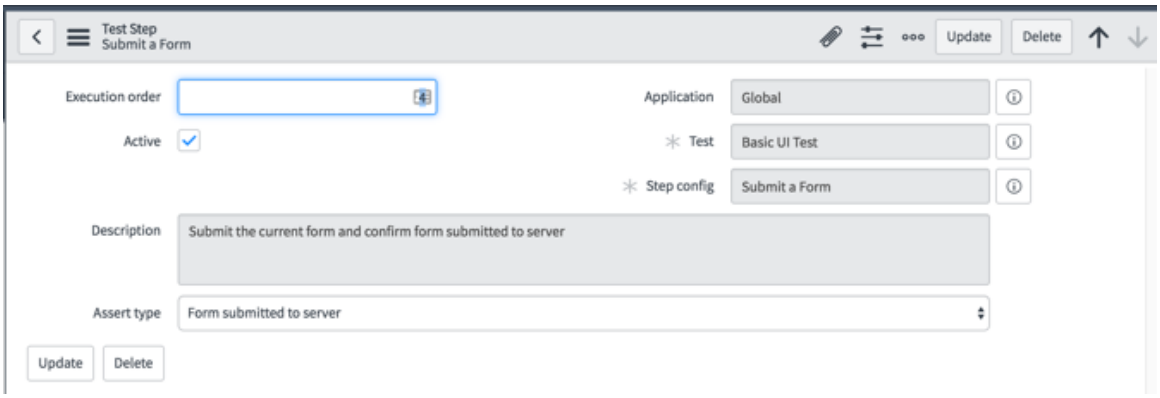

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 開いているフォームを送信します。

**Example**

テスト ステップ **4 -** フォームを送信

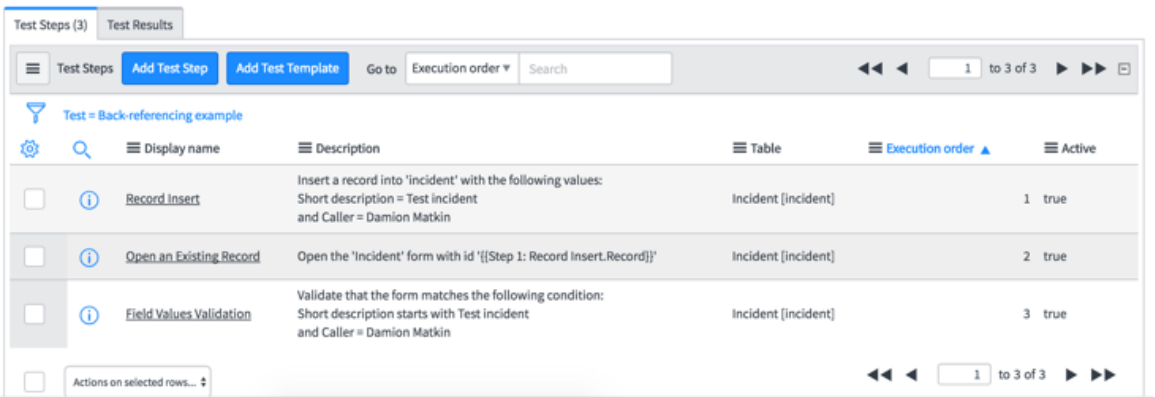



自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：前のステップの値の参照

このユースケースは次のことを説明します前のステップからの出力変数の値をフォームフィールドに割り当てます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF)：この例では、2 番目のステップが最初のステップの出力値を参照しています。あるステップからの値を別の例に渡します。




手順

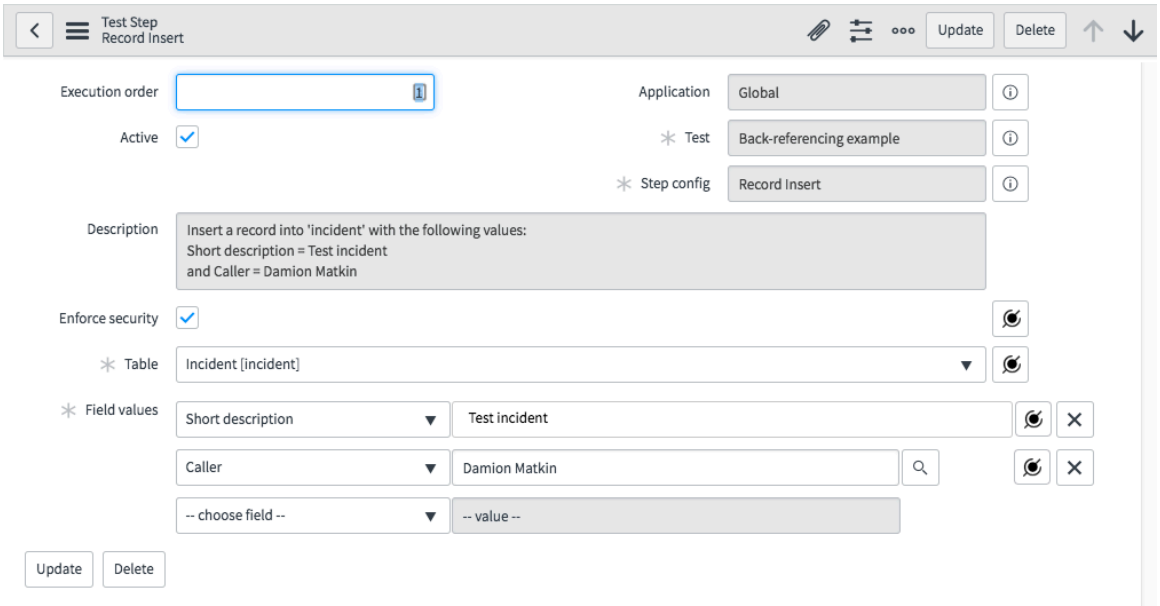
1. レコードをインシデントテーブルに挿入します。
   この例では、インシデントテーブルにレコードを挿入します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

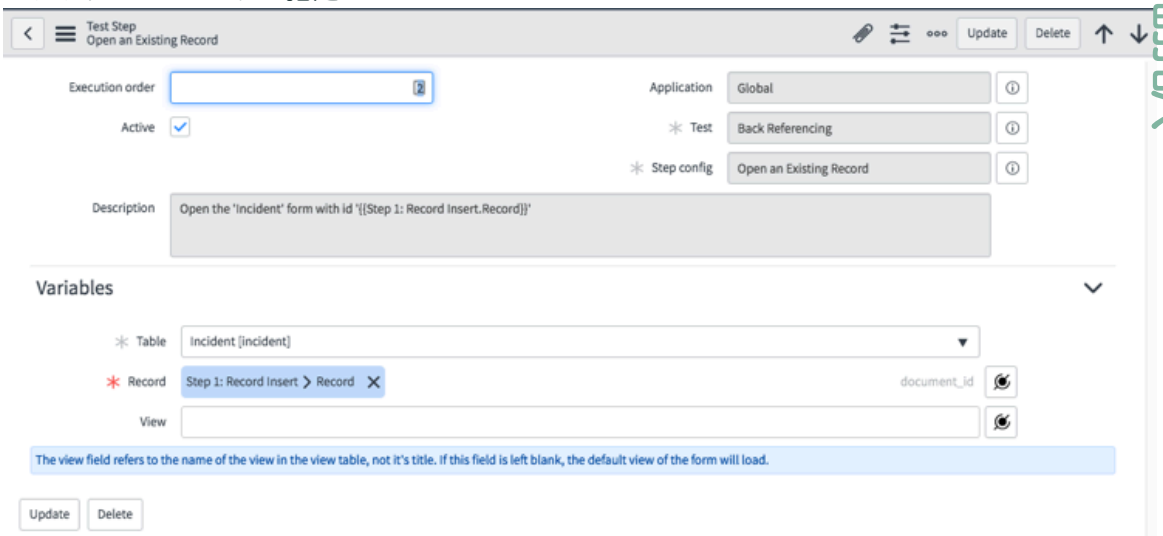
ステップ **1** - レコードの挿入




2. ステップ 1 の出力変数を *Record* フィールドに割り当てて、挿入したばかりのレコードを開きます。

**Example**

ステップ **2** - レコードの指定



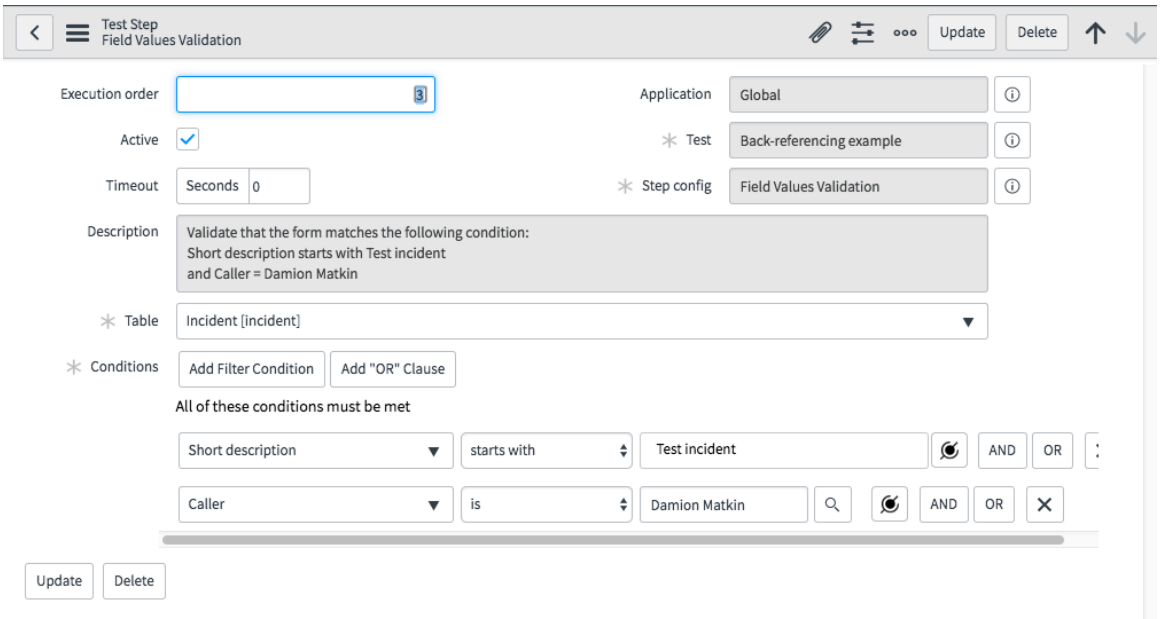

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 開いているレコードのフィールドに、想定される値があることを検証します。

**Example**

ステップ **3** - フィールド値の検証




関連情報

1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す

自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：ビジネスルールのテスト

このユースケースは次のことを説明します ビジネスルール を 自動テストフレームワーク (ATF) のテスト

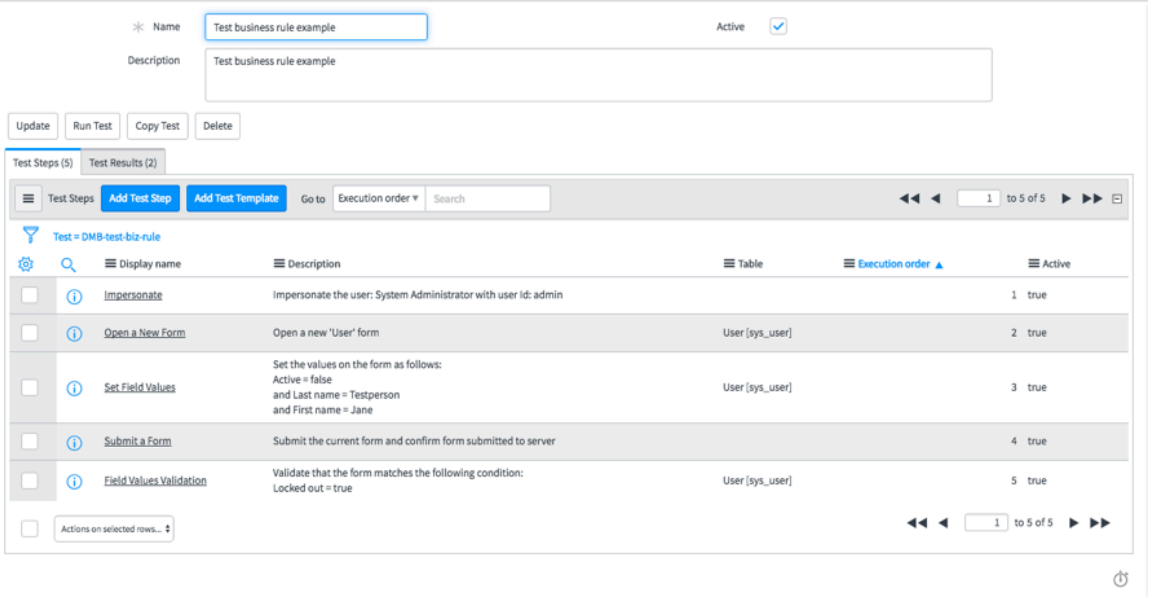
始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
この例では、**active** が **false** に設定されている場合に、**Locked out** の値を **true** に設定するビジネスルールをテストします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク **(ATF):** ビジネスルールの例

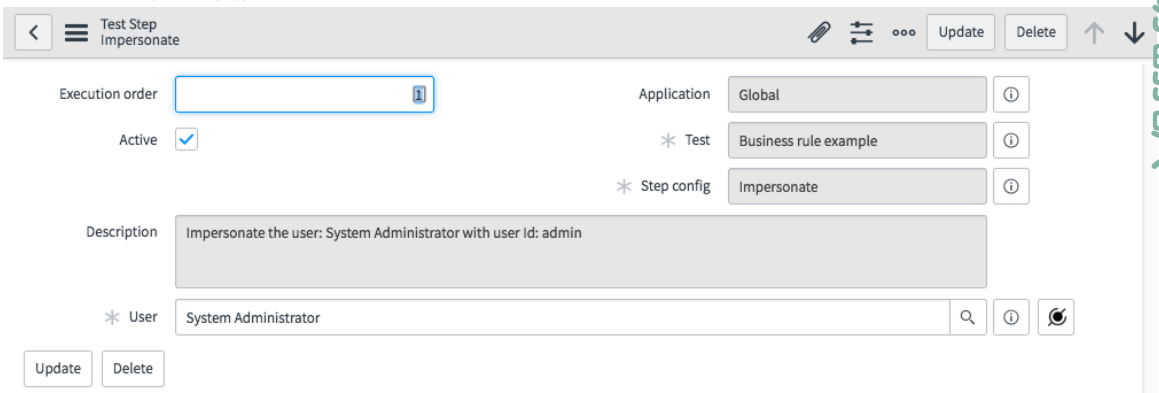



手順

1. 必要な権限を持つユーザーの代理操作を実行します。
   この例では、ステップは管理ユーザーの代理操作を実行します。

   **Example**

   ステップ **1 -** 代理操作

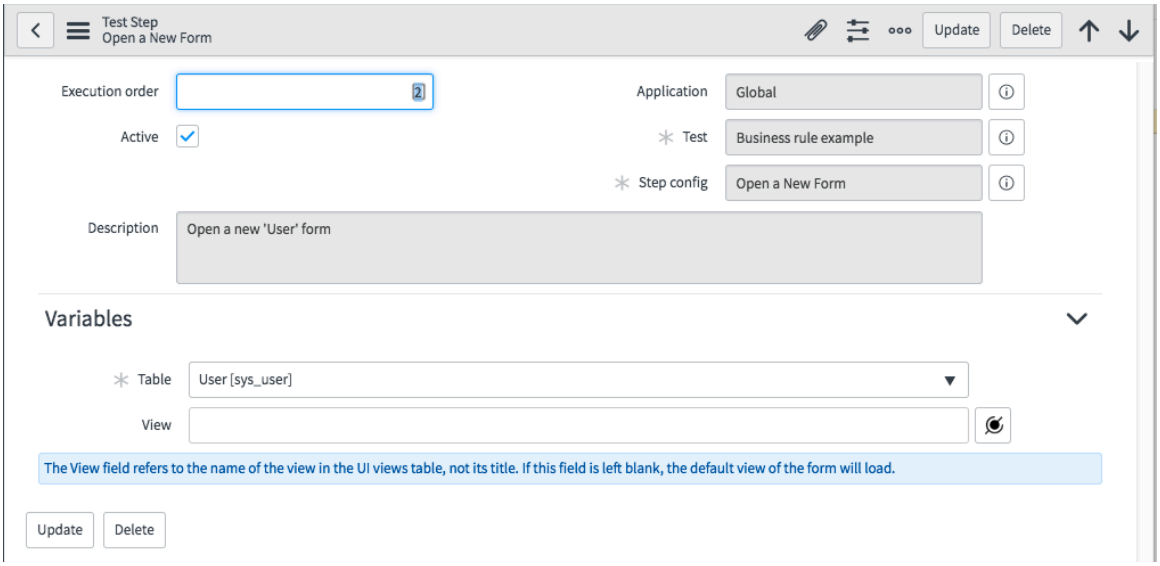
   
   

2. このビジネスルールが適用されるテーブルのフォームを開きます。
   この例では、新しいユーザーフォームを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

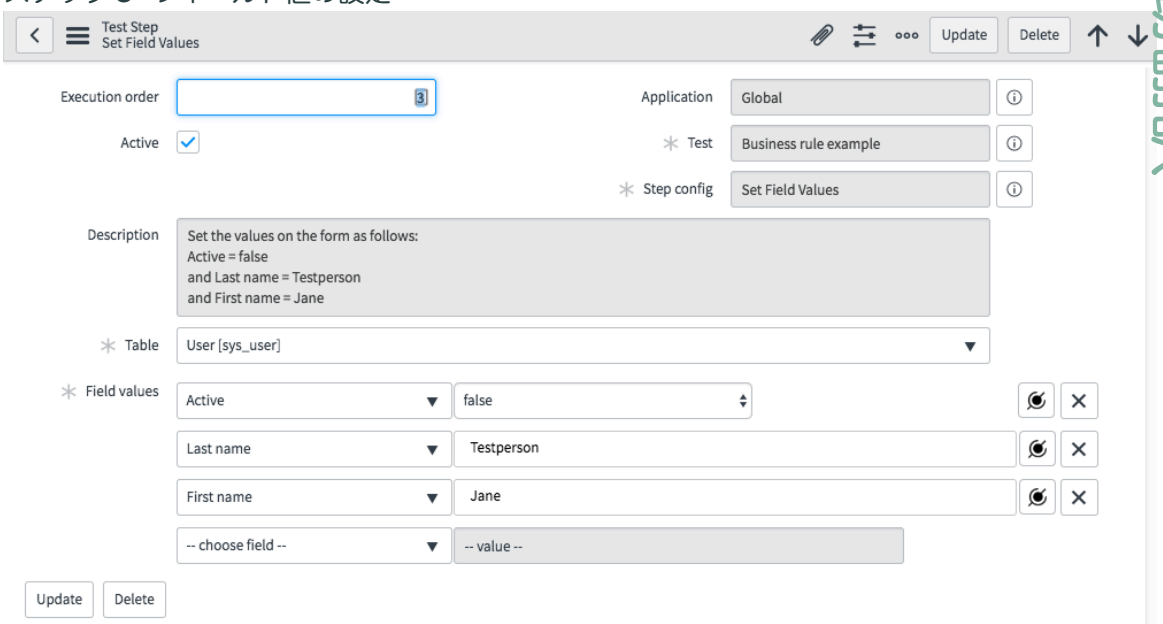
ステップ 2 - 新しいフォームを開く




3. フォーム送信およびビジネスルールのトリガーの要件を満たす値をフォームに設定します。
この例では、[アクティブ]、[姓]、[名] フィールドの値を設定します。

**Example**

ステップ **3** - フィールド値の設定

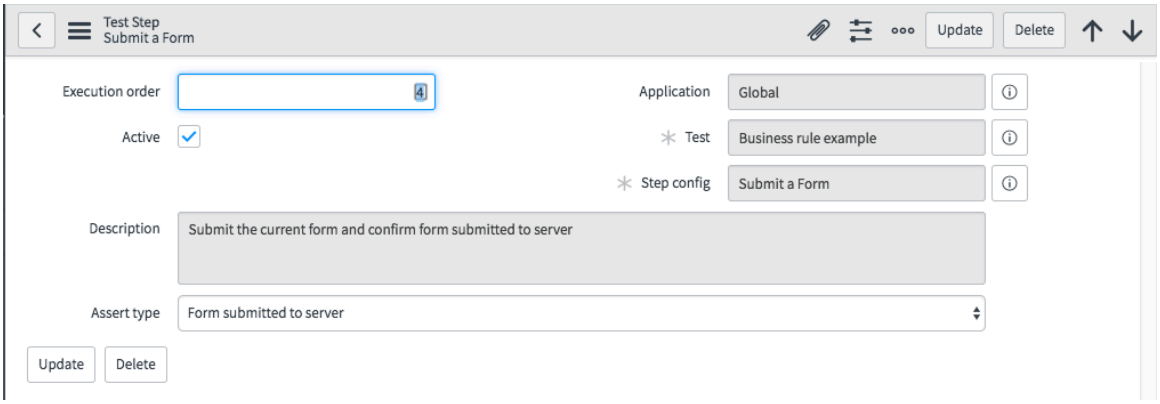



4. フォームを送信します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

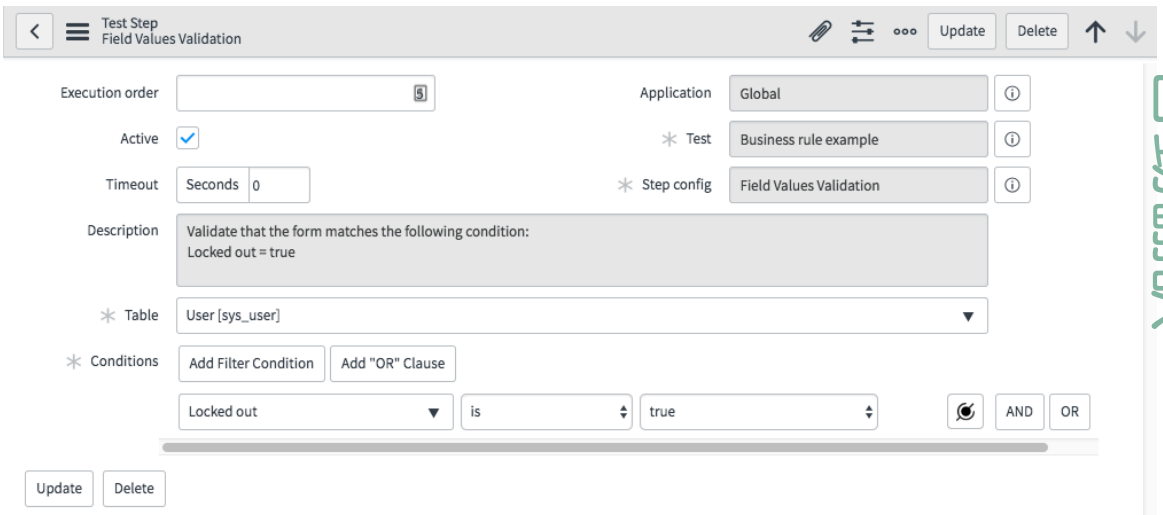
ステップ **4 -** フォームを送信する




5. ビジネスルールが実行されたことを検証します。この例では、テストされるビジネスルールは、アクティブが**false**に設定されるとロックアウトに**true**をセットします。

**Example**

ステップ **5 -** フィールド値の検証




自動翻訳

自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：データポリシーのテスト

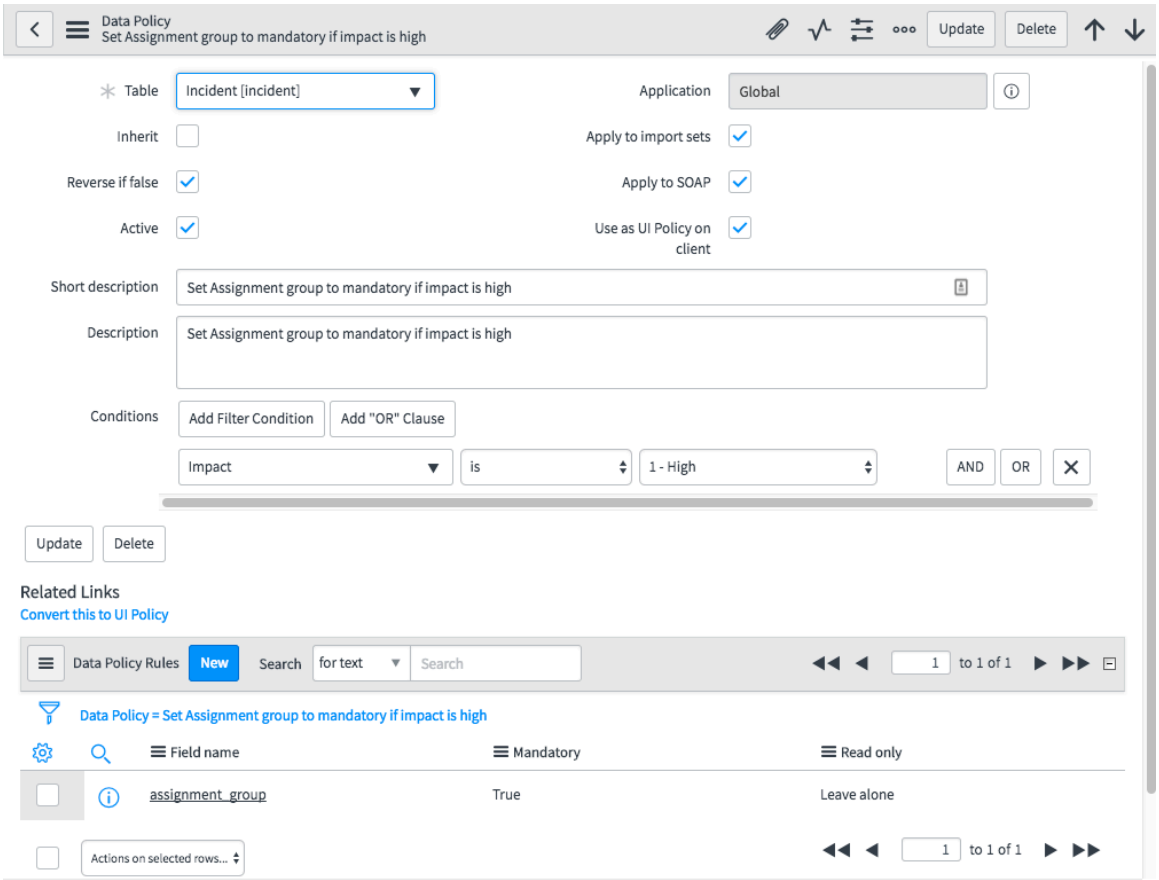
このユースケースは次のことを説明します はデータポリシー を 自動テストフレームワーク (ATF) をテストします。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

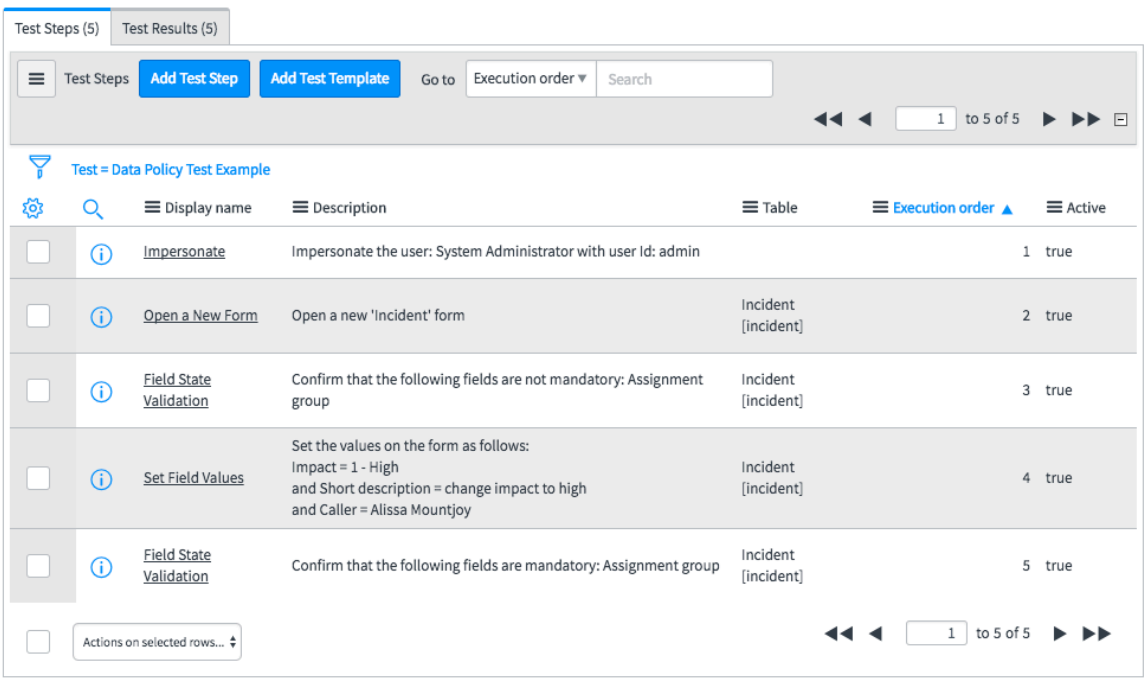
このタスクについて
この例では、影響が高い場合に [アサイン先グループ] フィールドを [必須] に設定するデータポリシーをテストします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Automated Test** Framework：テスト対象のデータポリシー




自動テストフレームワーク **(ATF)**：データポリシーの例




自動翻訳

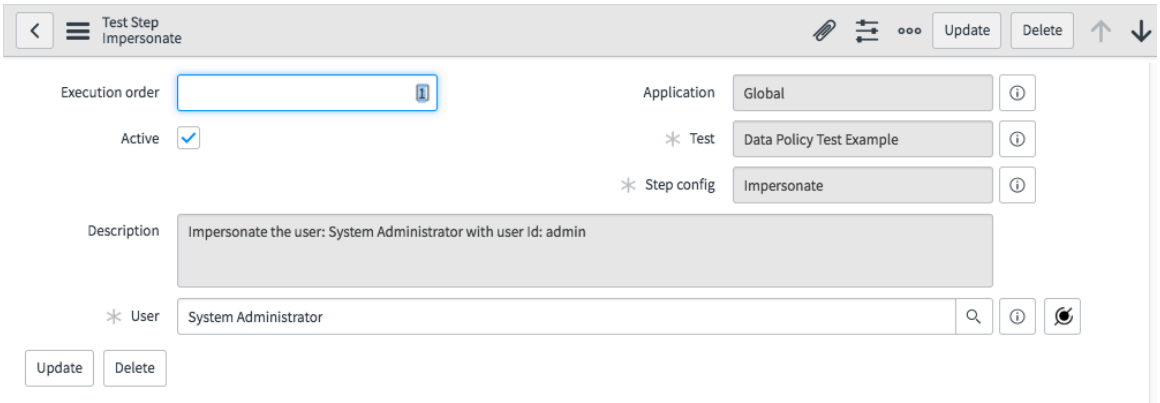
## 手順

1. 必要な権限を持つユーザーの代理操作を実行します。
   この例では、ステップは管理ユーザーの代理操作を実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

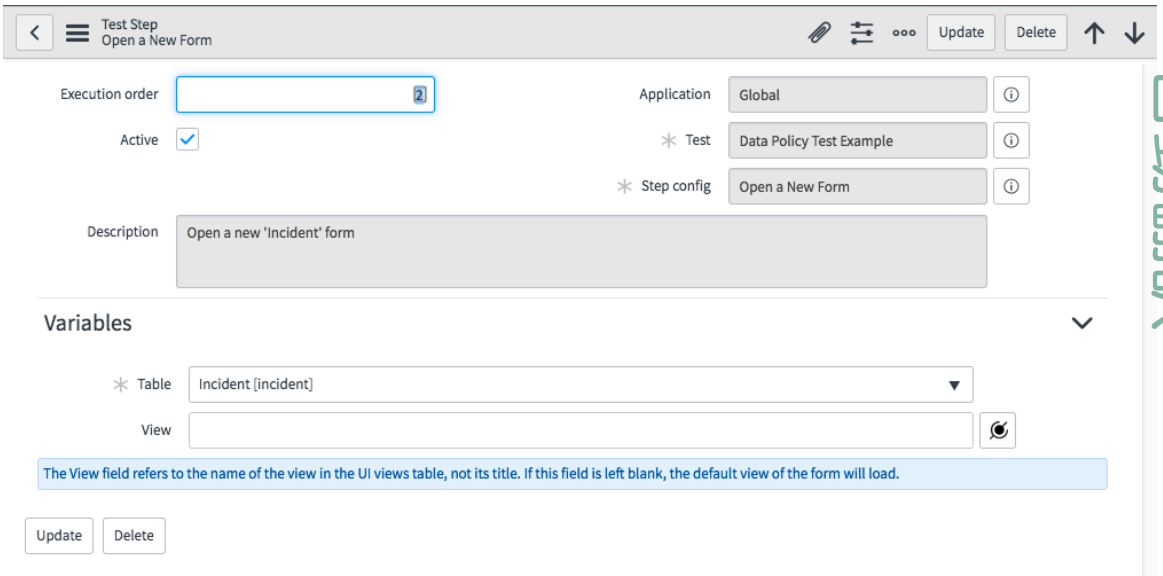
ステップ **1** - 代理操作




**2.** このデータポリシーが適用されるテーブルのフォームを開きます。
この例では、新しいインシデントフォームを開きます。

**Example**

ステップ 2 - 新しいフォームを開く



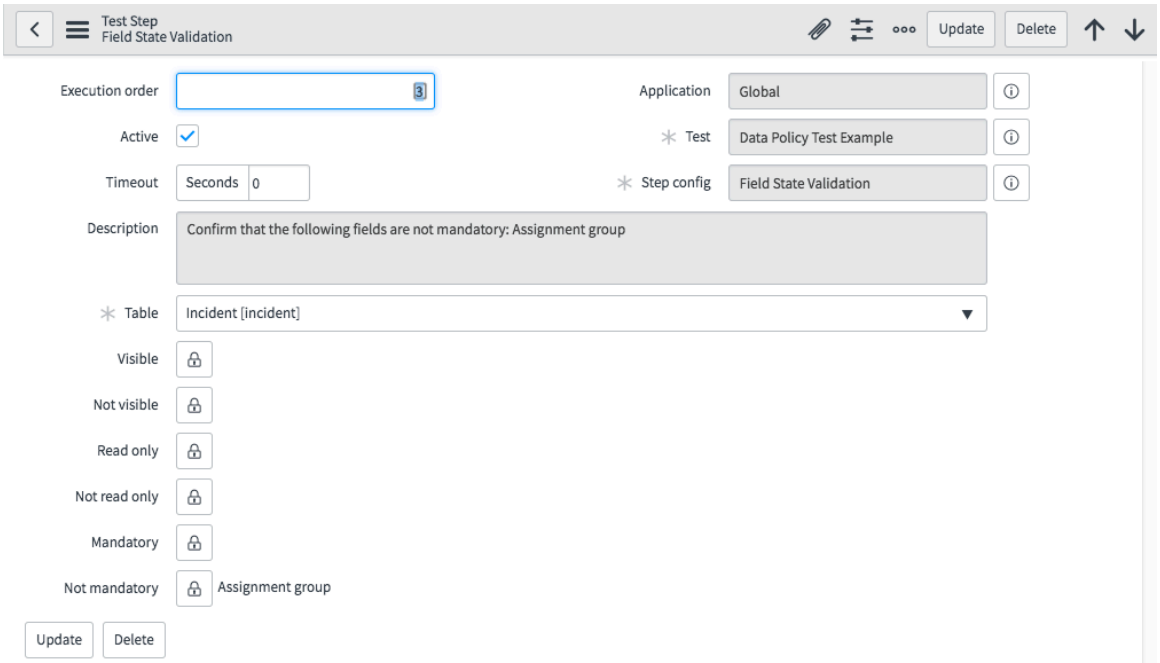

**3.** データポリシーがまだトリガーされていないことを確認してください。この例では、ステップは、アサイン先グループが必須でないことを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

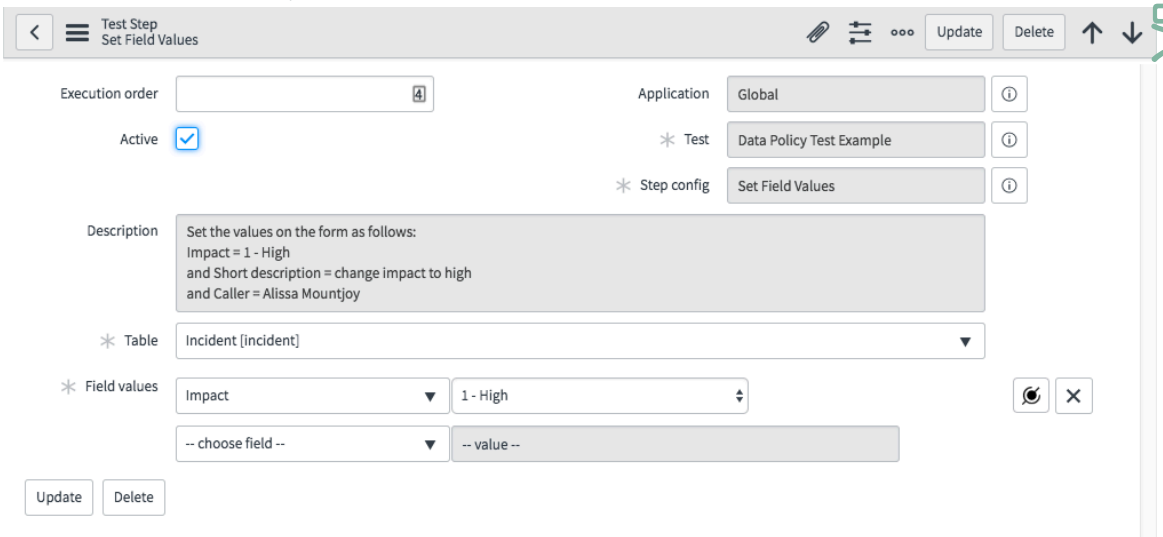
ステップ **3 -** フィールド状態の検証




4. 該当する場合は、データポリシーをトリガーする条件を設定します。この例では、影響度を高に設定します。

**Example**

ステップ **4 -** フィールド値の設定



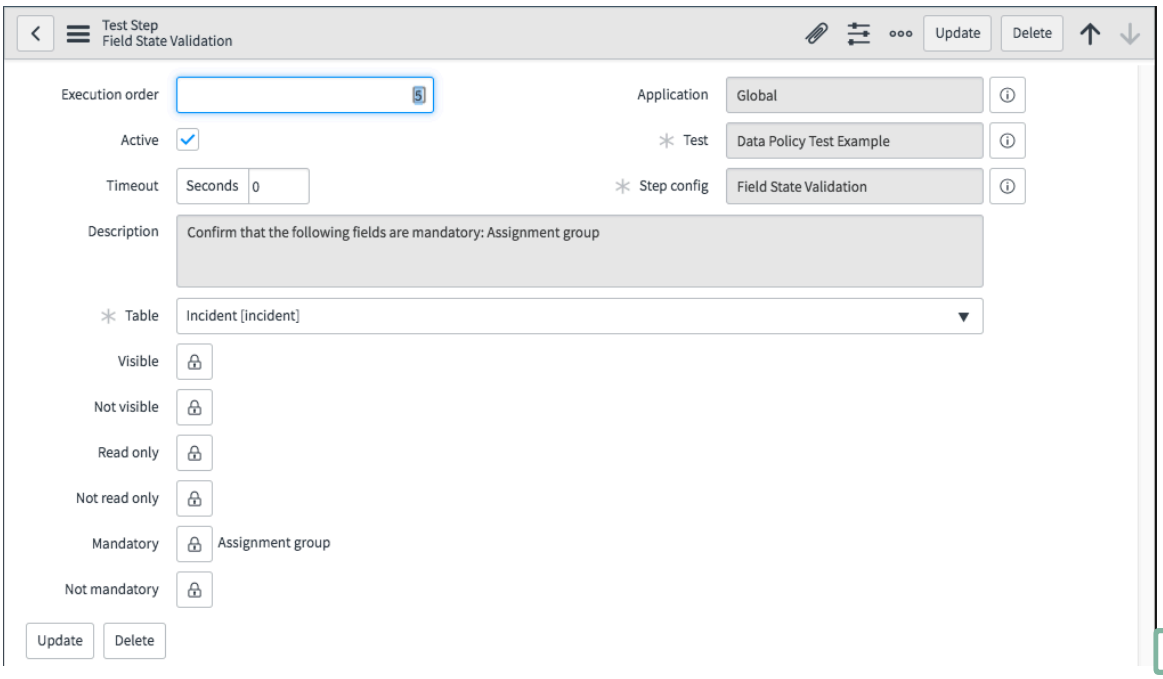

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. データポリシーが適用されていることを検証します。この例では、データポリシーが、前のステップで影響度を高に設定した後、アサイン先グループに高をセットすることをテストで確認します。

**Example**

ステップ **5 -** フィールド状態の検証




自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：スクリプトインクルードのテスト

このユースケースは次のことを説明します はスクリプトインクルードを 自動テストフレームワーク (ATF) でテストします。

自動テストフレームワーク (ATF)を使用してスクリプトインクルードをテストするには、 次のステップを実行するテストを作成します。

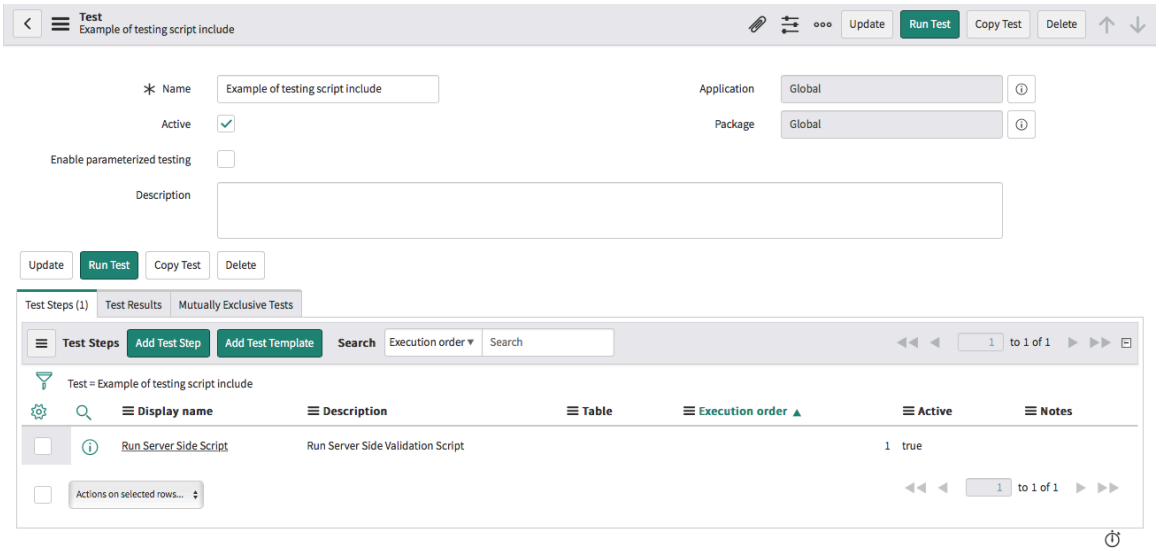
- スクリプトインクルードをシステムに実行させるステップ。例：
  - スクリプトインクルードを呼び出す [サーバー側スクリプトを実行] テストステップ。
  - スクリプトインクルードを起動する、フォームを開く、フォームを送信する、またはフィールド値を設定するなどのフォームアクションステップスクリプト。
- スクリプトインクルードが想定されるアクションを取ったことを検証するステップ。この検証の具体的なテスト ステップは、スクリプトインクルードが何を実行するように設計されているかによって異なります。例：
  - スクリプトがフィールド値を設定する場合、フィールド値の検証
  - スクリプトがフィールドの状態を変更する場合、フィールド状態の検証
  - スクリプトが新しいレコードを生成する場合、レコードのクエリー

この例では、1 つのテストステップ、サーバー側スクリプトの実行を使用したテストを示しています。このテスト ステップに関連付けられたスクリプトは、引数の値に 3 を加えたスクリプトインクルードを呼び出します。スクリプトインクルードから返された値が *8* の場合、スクリプトインクルードは意図したとおりに動作し、テストは合格です。

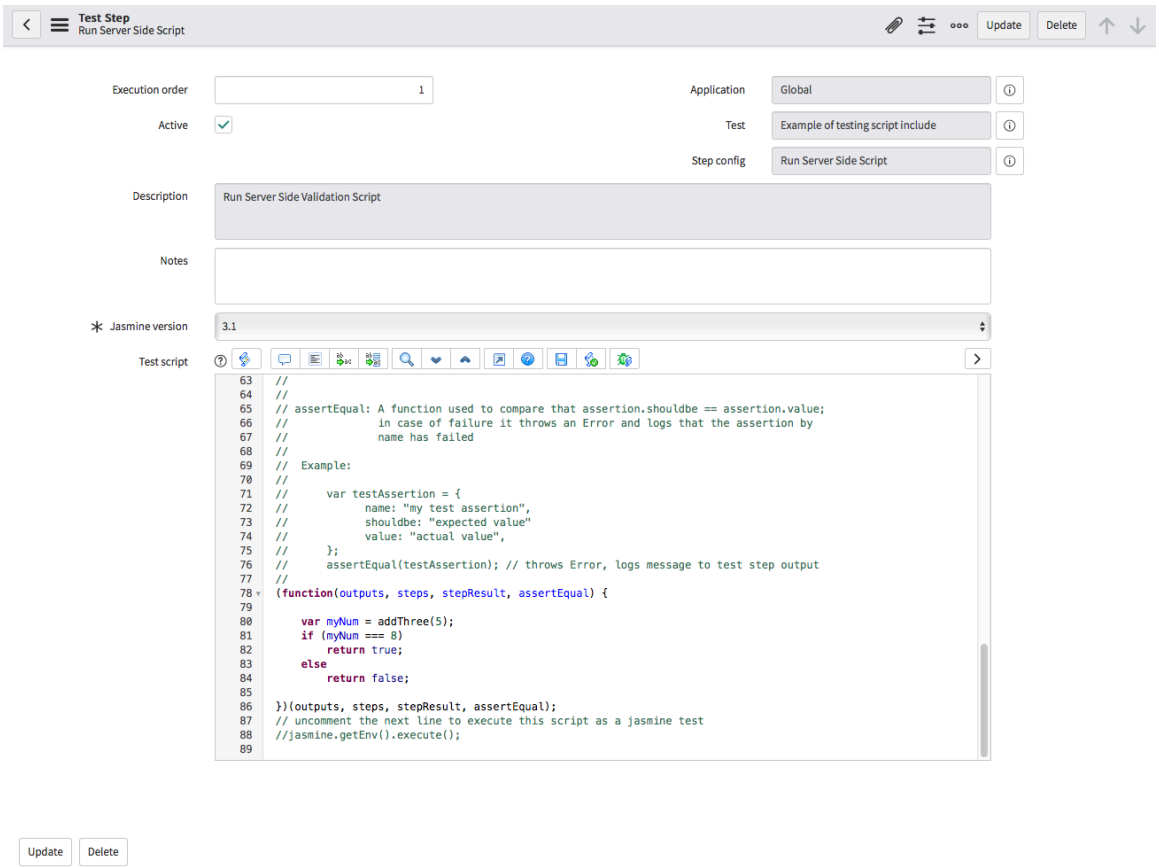
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## スクリプトインクルードをテストする自動テスト



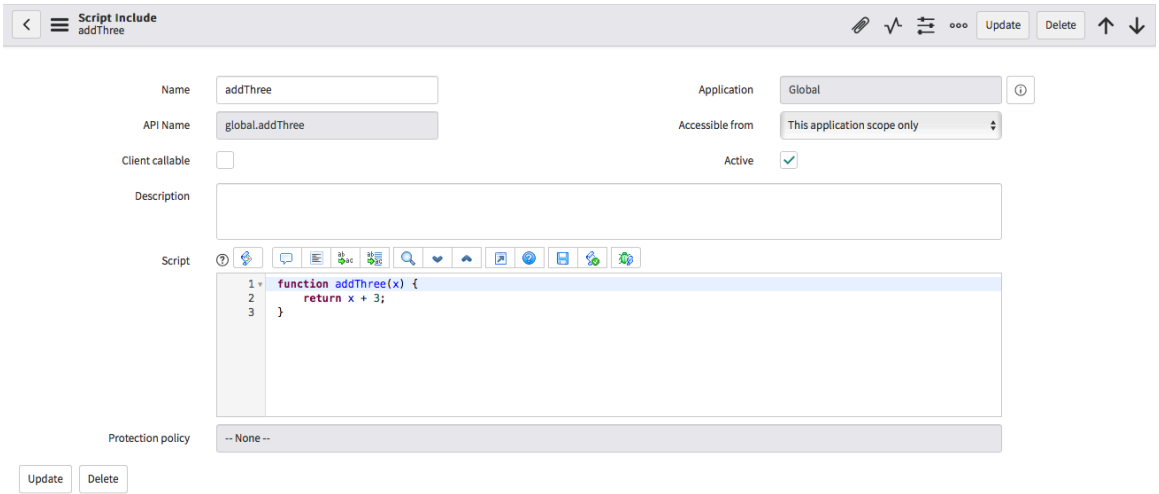

## スクリプトインクルードをテストするための自動テスト ステップ




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストするスクリプトインクルード 自動テストフレームワーク **(ATF)**




自動テストフレームワーク **(ATF)**ユースケース：サービスカタログ要求のテスト

このユースケースは次のことを説明します はサービスカタログ要求　を 自動テストフレームワーク (ATF) をテストします。

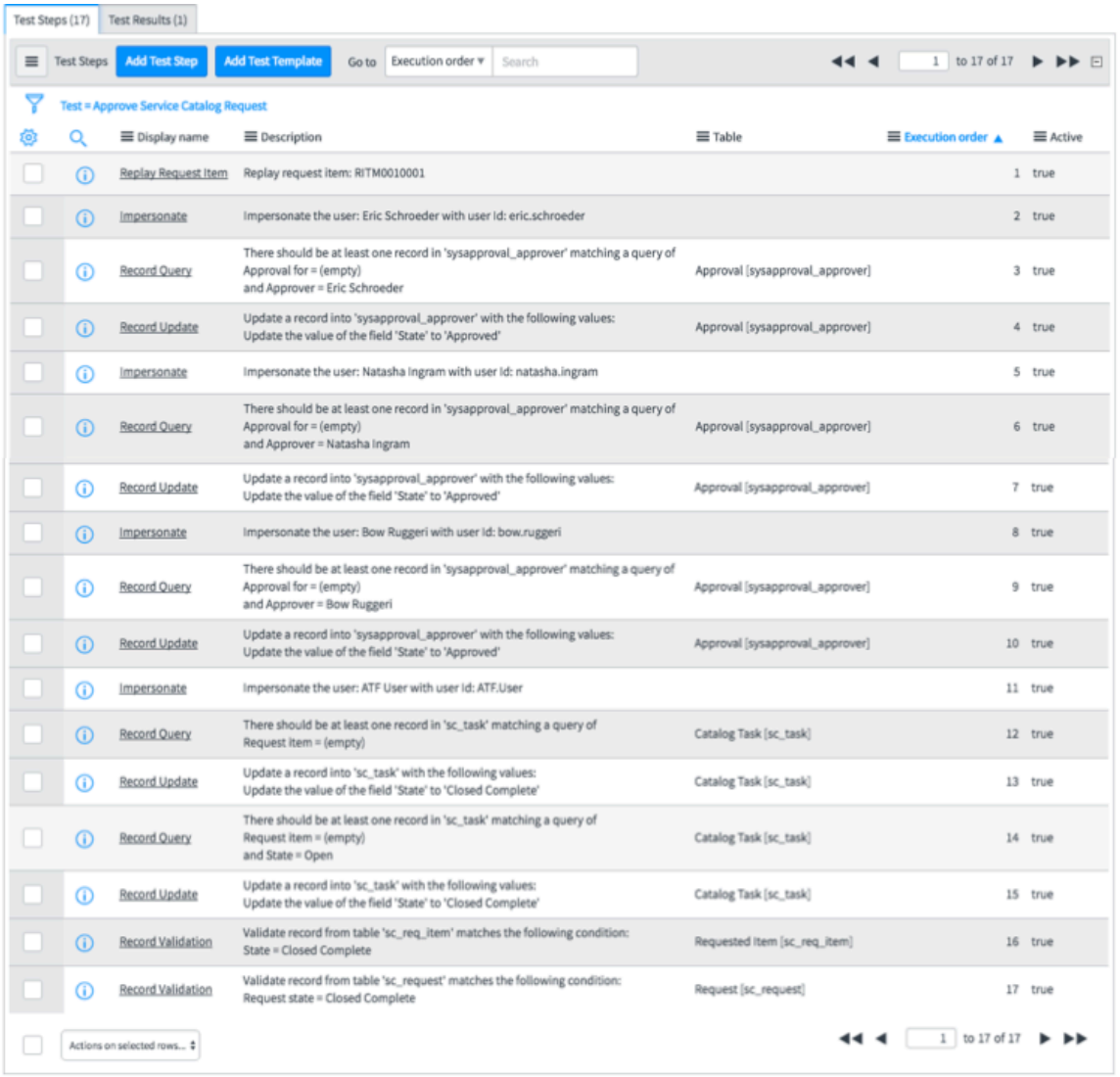
始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
要求アイテムを再現テストステップでは、要求が存在し、要求アイテムテーブルにレコードがある場合に、サービスカタログの注文プロセスをテストできます。Washington DCリリースでは、ユーザーが新しい要求を作成するプロセスの自動テストを作成することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク **(ATF):** サービスカタログの例




自動翻訳

## 手順

1. 既存のサービスカタログ要求アイテムの再現。

   このテスト ステップは、カタログ要求アイテムRITM0010001に対して [sc_request] テーブルに新しいレコードを挿入します。

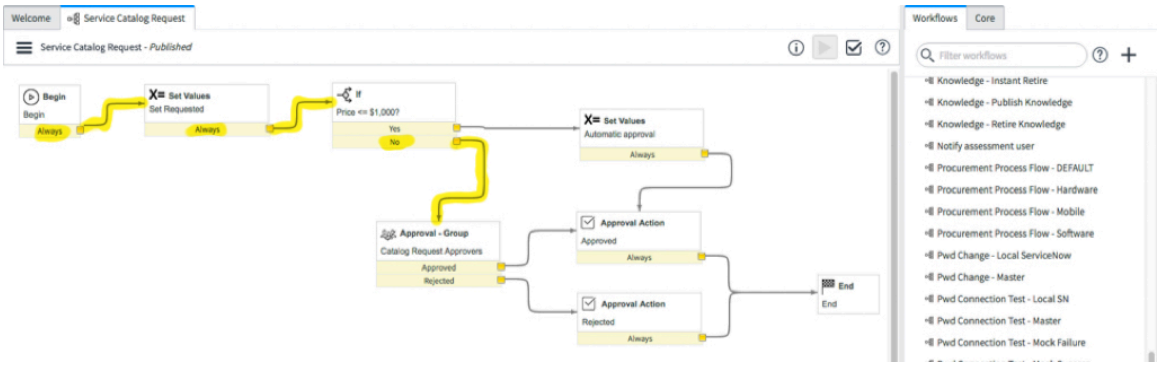
   **Example**

   サービスカタログテストステップ **1**の詳細：要求アイテムを再現

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この挿入によりサービスカタログ要求ワークフローがトリガーされ、アイテムの価格をチェックして $1000.00 を超えていると判断されるため、カタログ要求承認グループに属するユーザーの承認レコードが生成されます。この例では、1 人のユーザー(Eric Schroeder)のみがこのグループに属しています。

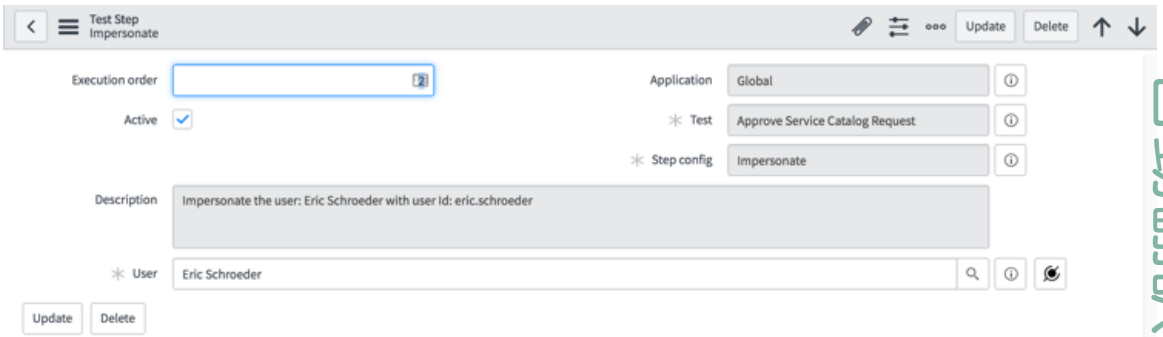
トリガーされたサービスカタログ要求ワークフローのスクリーンショット




2. このサービスカタログ要求を承認する必要があるユーザー Eric Schroeder の代理操作をします。

**Example**

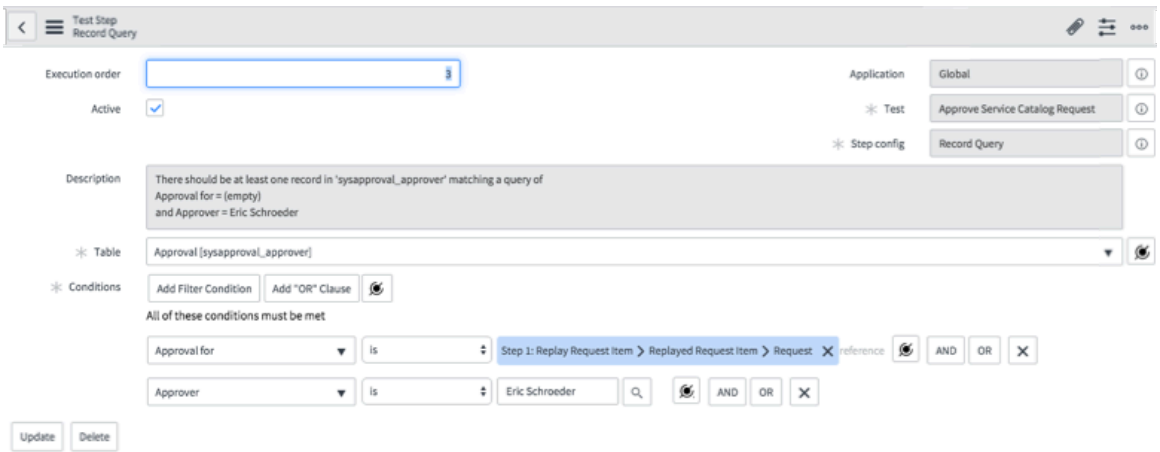
テスト ステップ - **Eric Schroder** の代理操作




3. システムが Eric Schroede rの承認レコードとこの要求を作成したことを確認します。
[承認対象] フィールドには、ステップ 1 の出力値を割り当てることに注意してください。

**Example**

ステップ **3**の詳細：承認レコードのレコードのクエリー



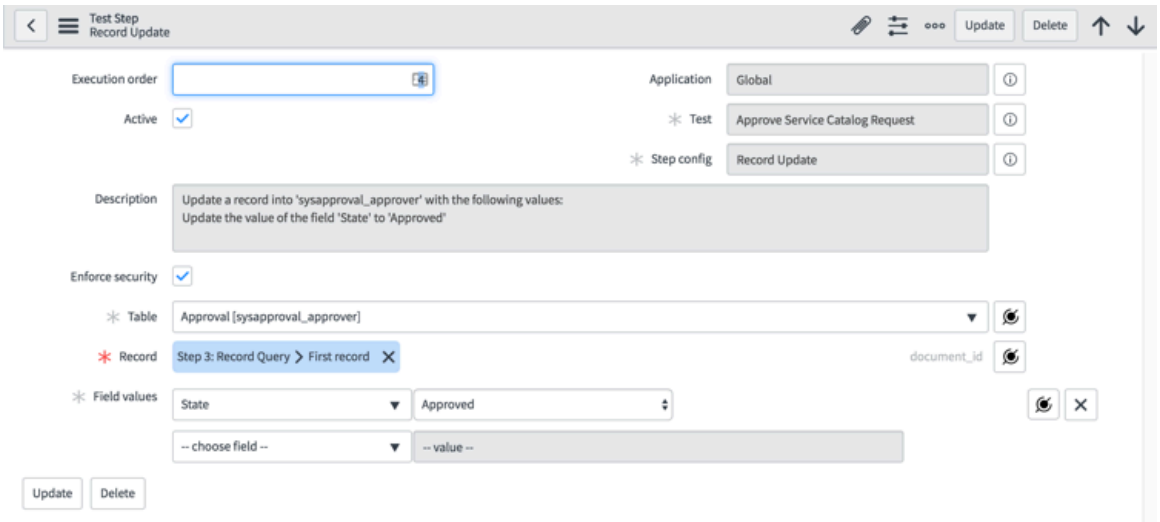

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. この承認レコードのステータスを [承認済み] に設定します。

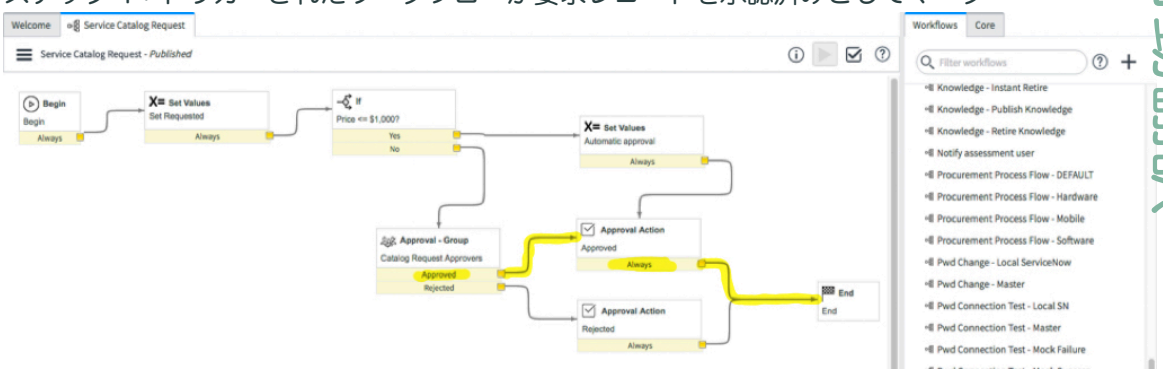
**Example**

ステップ 4の詳細：承認レコードを承認済みに設定する




サービスカタログ要求ワークフローでは、必要なすべての承認レコードのステータスが承認済みであることを確認して、要求レコード [sc_request] を承認済みとしてマークする承認アクションに移行します。

ステップ 4：トリガーされたワークフローが要求レコードを承認済みとしてマーク

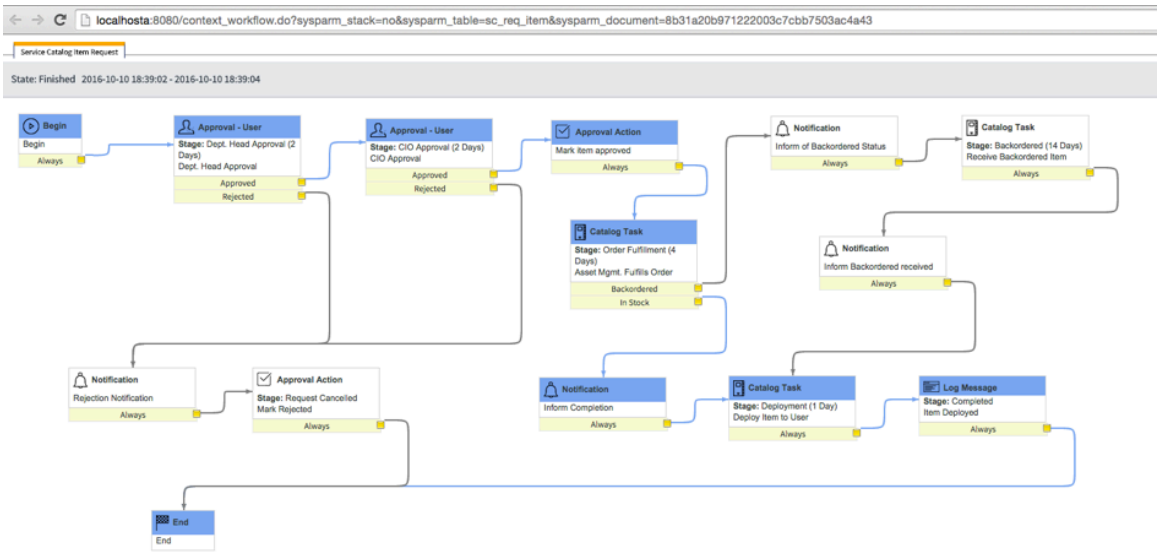



[sc_request] 内のレコードが承認済み状態に変わると、関連付けられたビジネス ルールは要求内の各アイテムに対して要求アイテム [sc_request_item] を生成します。この例では、要求には 1 つの項目しか含まれていないため、ビジネス ルールは [sc_request_item] テーブルにレコードを 1 つ挿入します。この挿入により、サービスカタログアイテム要求ワークフローがトリガーされます。

自動翻訳

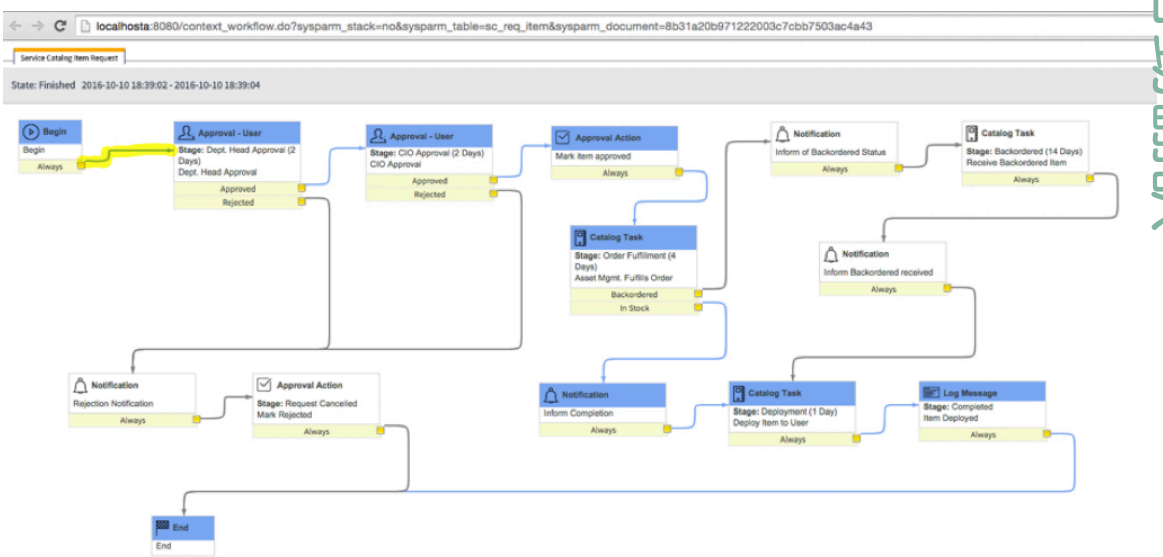
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスカタログアイテムワークフロー




サービスカタログアイテム要求ワークフローの最初のアクティビティでは、要求元のユーザーが所属する部門の責任者の承認レコードが生成されます。この例では、部長は Natasha Ingram です。

サービスカタログアイテムワークフロー：ステップ **4**

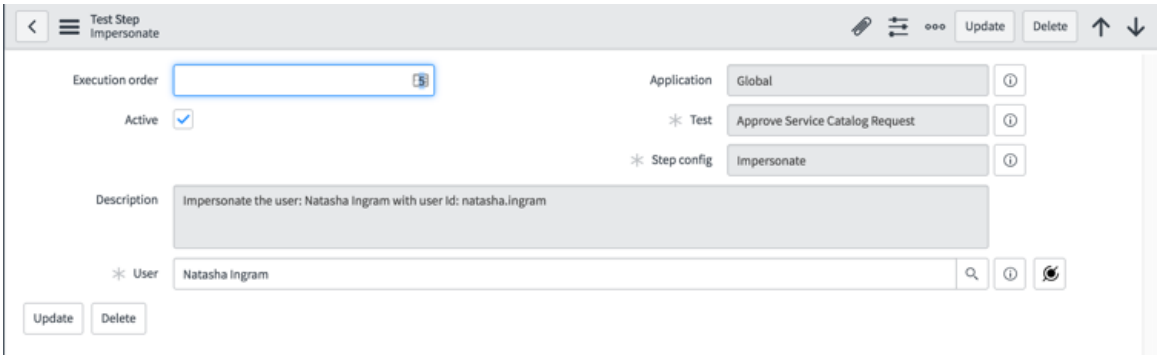



**5.** 部門長が承認するまでワークフローは続行されないので、次のテスト ステップは Natasha Ingram の代理操作をします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

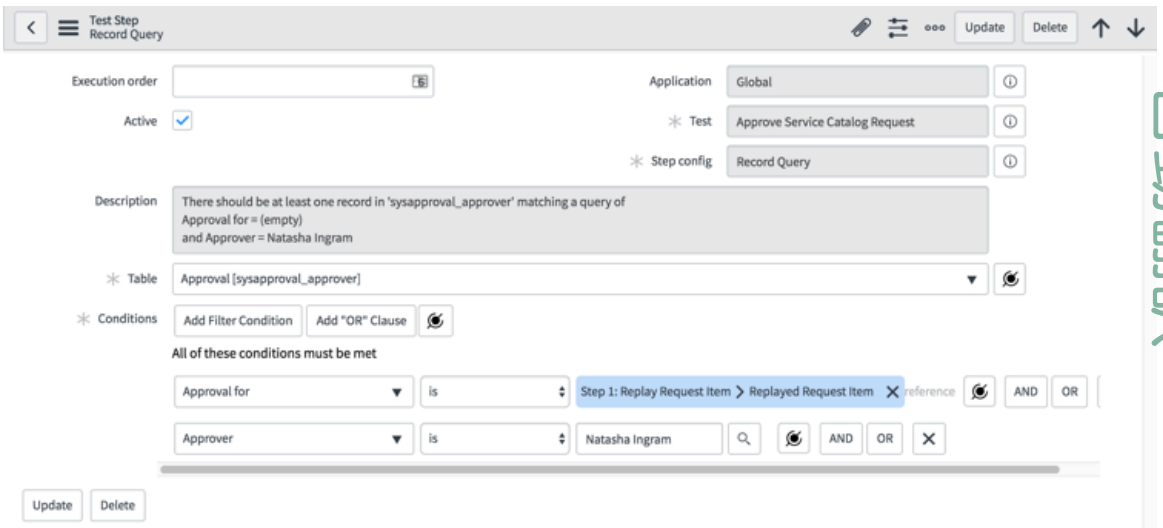
ステップ **5 -** 代理操作ユーザー




6. レコードのクエリーステップを使用して、新しい承認レコードの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を作成します。

**Example**

ステップ **6 -** レコードのクエリーテスト ステップ



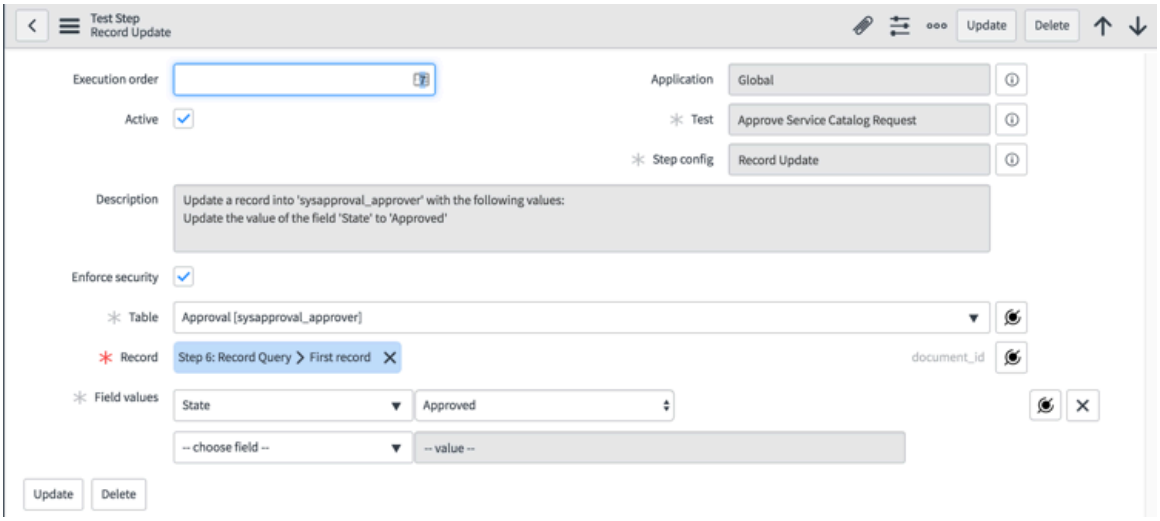

7. 承認レコードを [承認済み] に設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

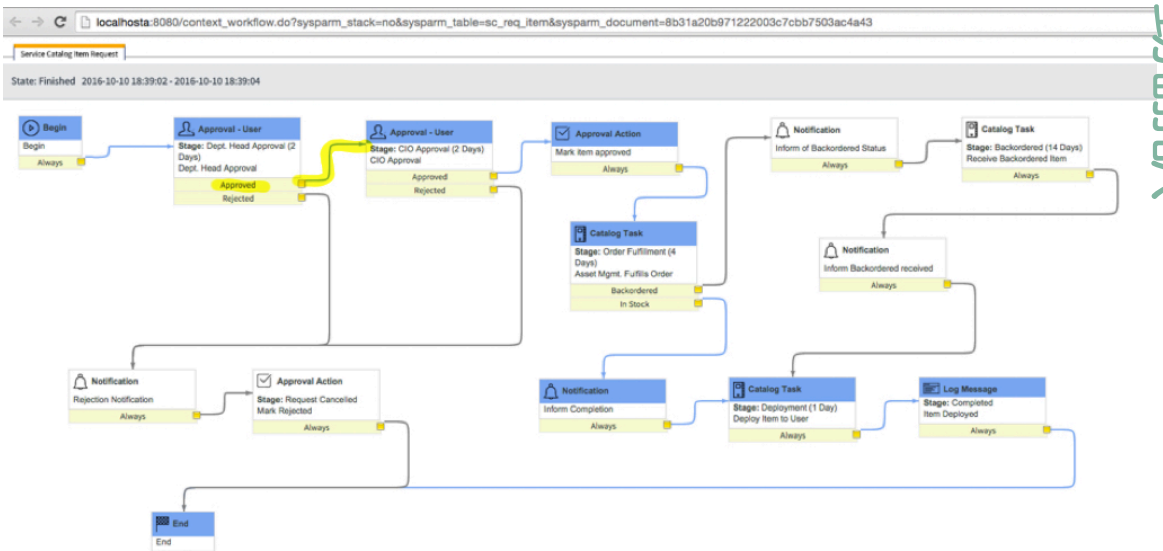
**Example**

ステップ **7** - 承認ユーザーテスト ステップ




ステップ 7 での、ステップ 6 の *First record* 出力変数を参照して、承認するレコードを指定する方法に注意してください。レコードが承認されると、ワークフローは次の承認 - ユーザーアクティビティに移行し、CIO の承認レコードが生成されます。この例では、CIO は Bow Ruggeri です。

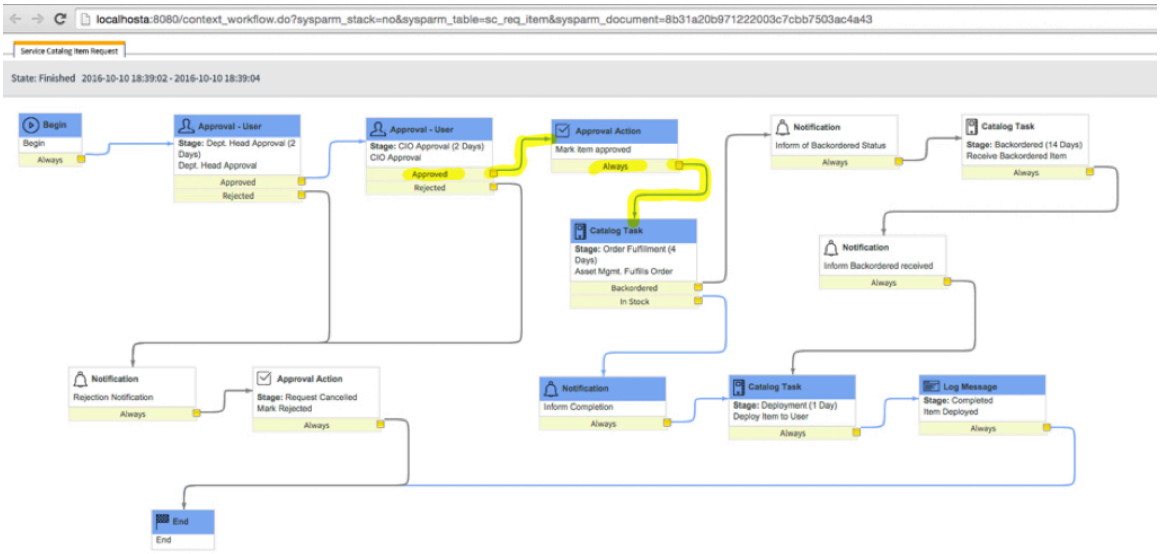
ステップ **7** の詳細 - サービスカタログアイテムのワークフロー




8. Bow Ruggeri の代理操作をします。
9. Bow Ruggeri の承認レコードの sys_id を取得します。
10. 承認レコードを [承認済み] に設定します。
    レコードが承認されると、ワークフローは [sc_request_item] テーブル内のこのアイテムのレコードを *Approved* に設定する [承認アクション] アクティビティに移行します。ワークフローは、資産管理注文処理というラベルのカタログタスクアクティビティに遷移します。このカタログタスクアクティビティでは、実行グループのユーザーにアイテムの注文を指示する新しいレコードが、[sc_task] テーブルに生成されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

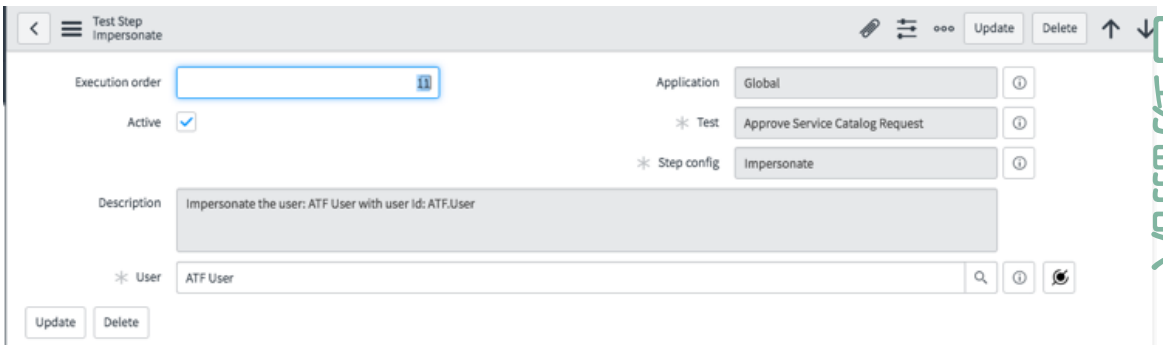
ステップ **10 -** サービスカタログアイテムワークフロー




**11.** 実行グループのユーザー(この例では ATF.User)の代理操作をします。

**Example**

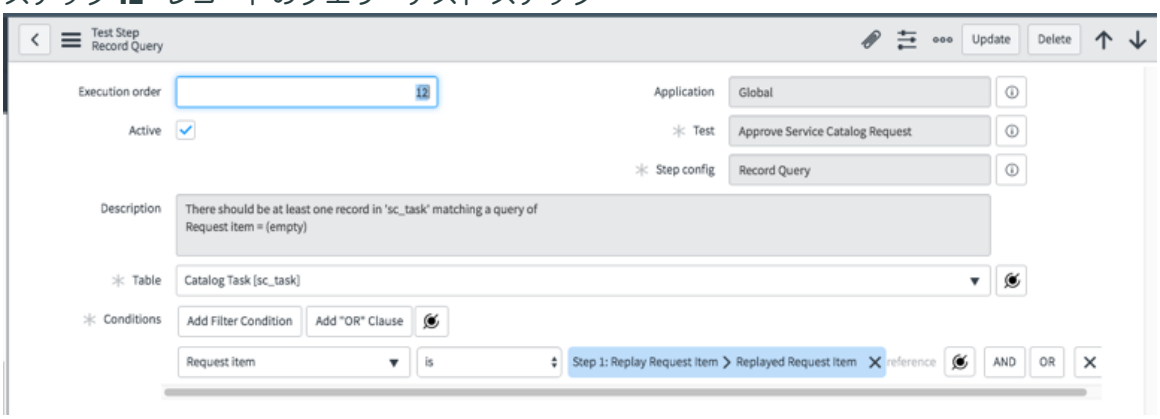
ステップ **11 -** 代理操作ユーザーテストステップ




**12.** レコードのクエリーステップを使用して、新しいカタログタスクの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を作成します。

**Example**

ステップ **12 -** レコードのクエリーテスト ステップ



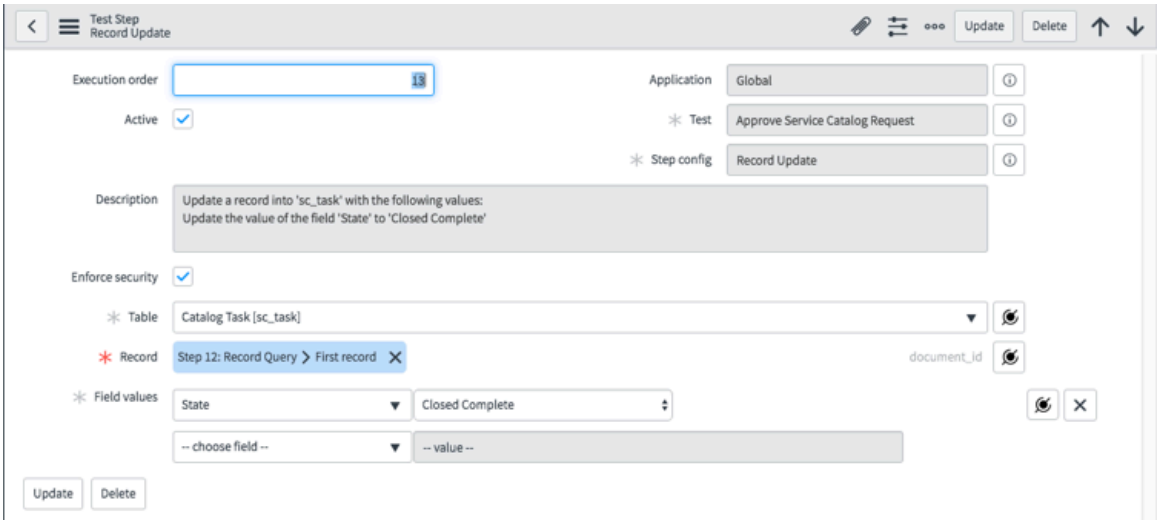

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**13.** [sc_task] レコードを *Closed Complete* とマークします。

**Example**

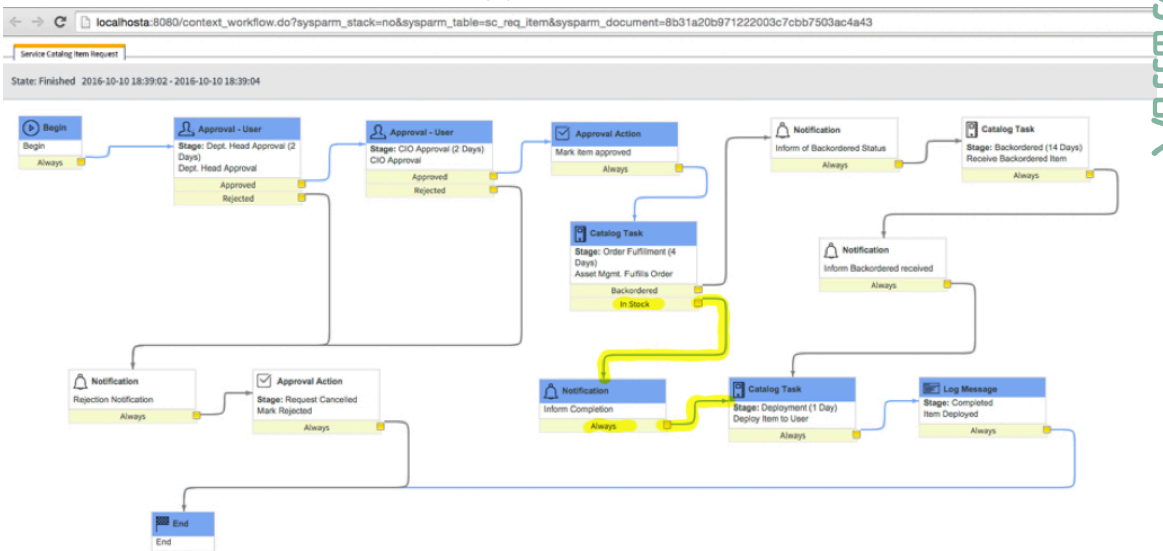
ステップ **13 -** レコード更新テスト ステップ




ステップ 13 で、ステップ 12 の *First record* 出力変数をどのように使用して、どのレコードを *Closed Complete* とマークするかに注意してください。

レコードが *Closed Complete* とマークされると、ワークフローは [在庫あり] 終了パスに沿ってカタログタスクアクティビティを終了します。

ステップ **13 -** サービスカタログアイテム要求ワークフロー



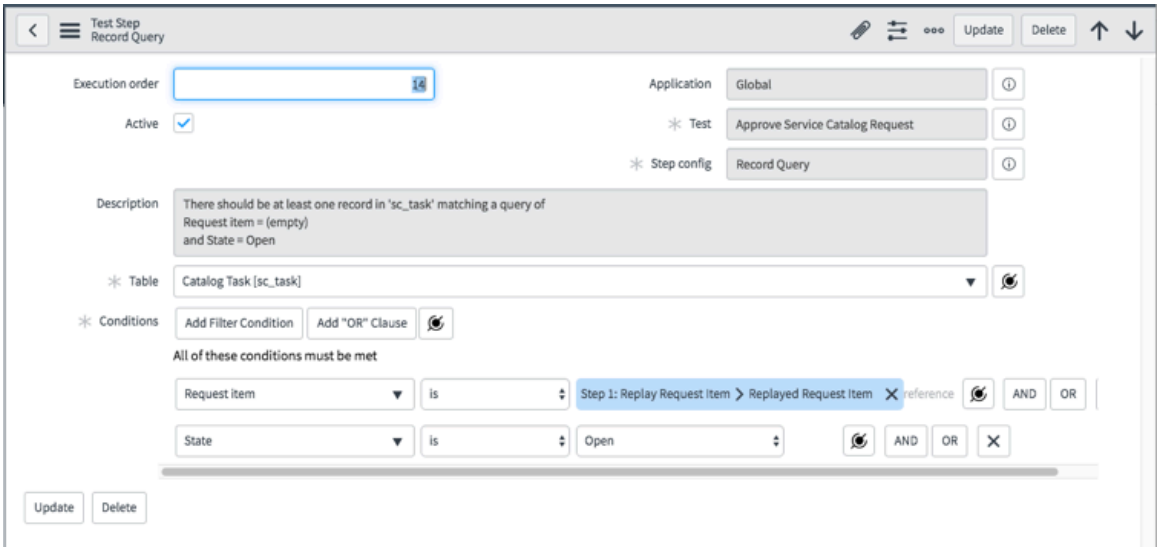

ワークフローは通知アクティビティに移行し、その後ユーザーにアイテムを展開カタログタスクアクティビティに移行します。ユーザーにアイテムを展開タスクアクティビティでは、展開グループ内のユーザーにアイテムの配信を指示する新しいレコードが、[sc_task] テーブルに挿入されます。

**14.** レコードのクエリーステップを使用して、新しいカタログタスクの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を返します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Example**

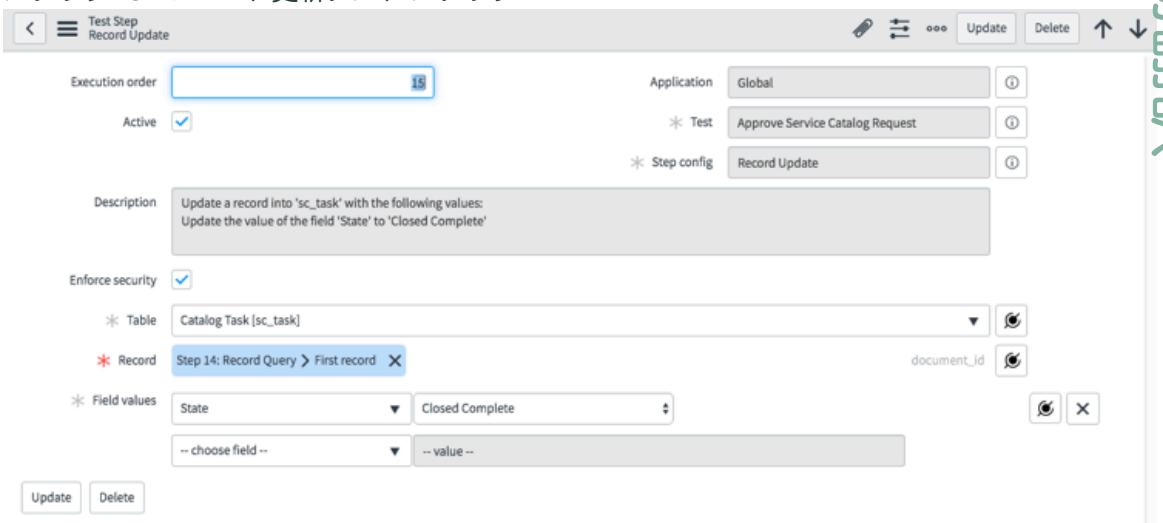
ステップ **14 -** レコードのクエリーテスト ステップ




**15.** [sc_task] レコードを完了してクローズとマークします。
ステップ 15 でステップ 14 の出力変数を使用して *`First record`* 、完了してクローズとしてマークするレコードを指定する方法に注意してください。

**Example**

ステップ **15 -** レコード更新テスト ステップ

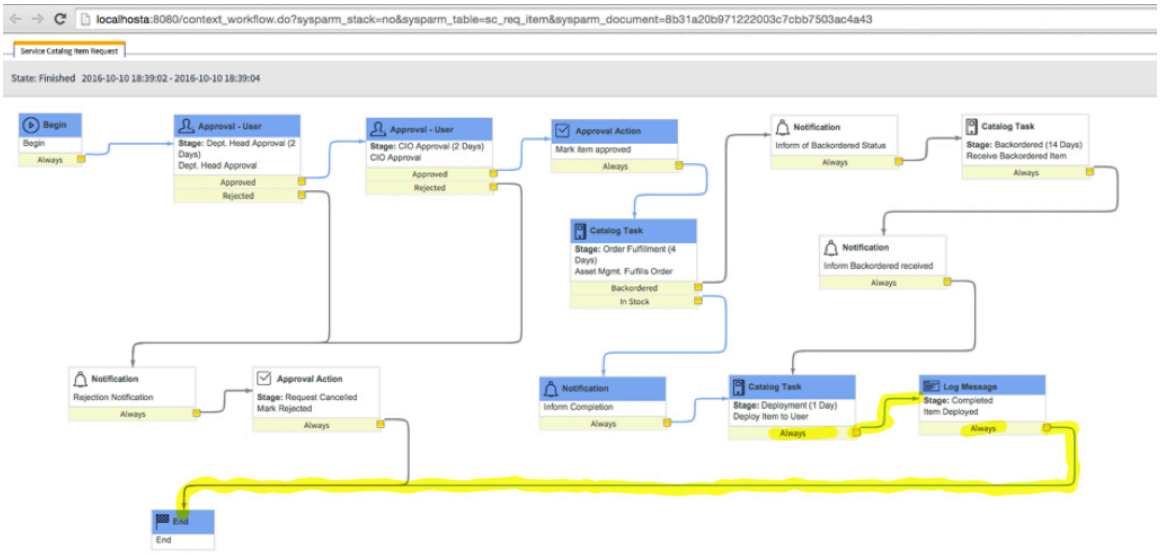



レコードが「完了してクローズ」とマークされると、ワークフローはカタログタスクアクティビティを終了し、メッセージを記録して終了します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

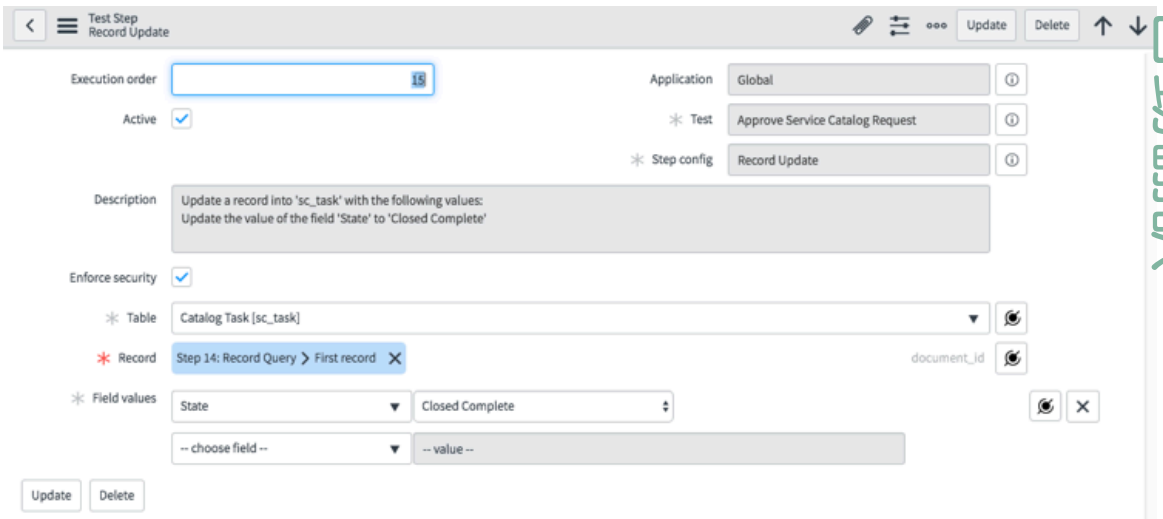
ステップ **15** - サービスカタログアイテム要求ワークフロー




**16.** [sc_request_item] 内の要求アイテムの状態が完了してクローズであることを確認します。

**Example**

ステップ **15** の詳細 - レコードの妥当性確認



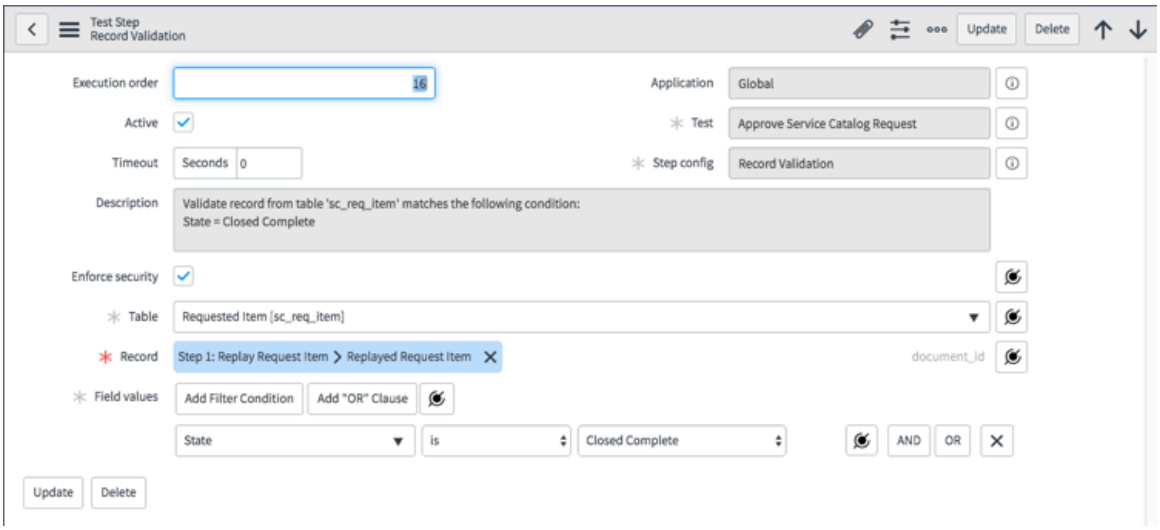

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. 要求 [sc_request_item] の状態が完了してクローズであることを確認します。

**Example**

ステップ **16 -** レコードの妥当性確認テスト ステップ




関連情報

要求アイテムを再現

**Automated Test Framework** ユースケース：**REST** 受信を使用したインシデントの取得

**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得テストには自動テストフレームワーク (ATF)があり、REST 受信と確認のステップを使用します。

始める前に
このテストを作成する前に、「REST APIs」と「REST 要求の送信 - 受信 - REST API エクスプローラー」の構成ステップ情報を確認してください。

必要なロール：atf_ws_designer

このタスクについて
このテストではインシデント レコードを作成し、REST 受信ステップを使用してレコードを取得し、次に確認ステップを使用して要求が成功したかどうかを判別します。
REST 要求送信 - 受信 REST API エクスプローラーステップを使用して、要求を構築してテストするか、または REST 要求送信 - 受信ステップを使用して手動で要求を作成することができます。いずれのケースでも、REST 要求-受信ステップフォームで基本認証情報を指定する必要があります。

テストを作成するときは、まず REST API を起動し、検証する動作を判断します。次に、作成するテストデータを決定します。他のテストステップ設定カテゴリを使用してレコードを作成、更新、または削除した後、REST 受信送信ステップを使用してテストデータを取得、更新、または削除することができます。逆に、REST受信ステップを使用してレコードを作成し、他のテストステップ設定カテゴリを使用して、レコードが正しく作成されたことを検証できます。

このタスクでは、**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得テストの作成を順を追って説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テストを作成します。

   a. 移動先 **Automated Test Framework** > テストをクリックし、[ 新規] をクリックします。
   新規レコードのテストフォームが表示されます。

   b. テスト名と説明を入力し、送信をクリックします。

   c. 前のステップで作成したテストをクリックします。
   テストフォームが表示されます。

2. テストデータを作成します。

   a. テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
   テスト ステップの追加フォームが表示されます。

   b. テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
   **[REST API** 経由で新しく作成されたリソースを取得] テストを複製するには、次をクリックします サーバー > レコードの挿入をクリックし、[ 次へ] をクリックします。
   選択したテスト構成フォームが表示されます。

   c. 選択したテスト構成に必要な情報を入力します。
   **REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、レコードの挿入フォームでインシデントテーブルを指定し、簡単な説明 フィールドに値を追加してから送信をクリックします。

3. REST 要求を作成します。

   a. テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
   テスト ステップの追加フォームが表示されます。

   b. テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
   **[REST API** 経由で新しく作成されたリソースを取得] テストを複製するには、次をクリックします **REST** > **REST** 要求の送信 **-** 受信 **REST API** エクスプローラーをクリックし、[ 次へ] をクリックします。
   **REST API** エクスプローラー が表示されます。

   c. REST 要求に必要な情報を入力し、送信をクリックします。
   **REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、フィールドに記入します。

| 名前 | 値 |
|---|---|
| 名前空間 | 今 |
| API 名 | テーブル API |
| API バージョン | 最新 |
| tableName | incident |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本認証を指定しなかった場合、REST API エクスプローラーはユーザーの認証情報を使用します。

送信をクリックすると、自動テスト ステップの作成が表示されます。

**d.** 準備ができたら、自動テスト ステップを作成をクリックします。
REST 要求送信 - 受信テスト ステップが作成されます。

**e.** [REST 要求送信 - 受信] ステップをクリックします。 基本認証フィールドに基本認証設定を指定します。
構成が利用できない場合は、基本認証構成フォームの新規をクリックして基本認証設定を作成できます。

**f.** 「 **REST API** テストを介して新しく作成されたリソースを取得」テスト を複製するには、「 パス 」フィールドで Contextual Search ボタンをクリックし、 レコードの挿入 > レコード.

**g.** [更新] をクリックします。

**4.** 確認ステップを作成して、REST 応答を検証します。

**a.** テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
テスト ステップの追加フォームが表示されます。

**b.** テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
**[REST API** 経由で新しく作成されたリソースを取得] テストを複製するには、次をクリックします **REST** > ステータスコードのアサートをクリックし、[ 次へ] をクリックします。
確認状態コードフォームが表示されます。

**c.** フォームに必要な情報を入力し、送信をクリックします。
**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、[運用] フィールドで [は] を選択し、[状態コード] フィールドに **200** を入力します。

「**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得する」テストを複製するには、このステップを繰り返して、「**JSON** 応答ペイロードが有効であることを確認」および「**JSON** 応答ペイロード要素を確認」テストステップを作成します。

## クイックスタートテスト

構成変更を行った後に、Now Platform® によって提供されたクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンスが機能することを検証します。たとえば、アップグレードを適用するか、アプリケーションを開発する場合です。

テストでは、アプリケーションまたは機能プラグインで提供されているデフォルトのデモデータを使用して実行した場合にのみ、「合格」の結果が生成されます。

**注:**
QST が失敗する場合は、テストがインスタンスのカスタマイズと一致していない可能性があります。各テストステップの [メモ] フィールドを使用して、テストをデータで更新して「合格」にします。テストに関連付けられたビジネスプロセスをカスタマイズした場合は、カスタマイズに合わせてテストを改訂します。

インスタンス固有のデータにクイックスタートテストを適用するには、クイックスタートテストをコピーしてカスタムデータを追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
個々のクイックスタートテストまたはクイックスタートテストスイート全体のいずれかをコピーできます。

詳細については、「https://www.youtube.com/watch?v=wV0SjY5gq8M」を参照してください。

### アクティベーション

各アプリケーションまたは機能には、クイックスタートテストを有効にするための独自のプラグインアクティブ化要件があります。アクティブ化情報については、「アプリケーションまたは機能別に利用可能なクイックスタートテスト」を参照してください。

### コピーの管理

テストをコピーすると、自動テストフレームワーク (ATF) は [コピー元] フィールドをコピーしたテストの名前で入力します。アップグレードによってクイックスタートテストが変更されると、自動テストフレームワーク (ATF) はテスト設計者にテストフォーム上の通知で変更を通知します。テストデザイナーは、ベースシステムへのコピーを戻す UI アクションで、コピーしたテストをアップグレードされたバージョンに戻すことができます。

ヒント:
QST が更新されると、以前にコピーされたバージョンの QST には最新の変更が反映されません。関連する警告メッセージがあるすべてのテストについて、[レビューするコピー] を使用して古いコピーを確認します。

#### アプリケーションまたは機能別に利用可能なクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、インスタンスが変わらず正常に動作するかを検証します。ServiceNow によって提供されたクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。

危険:
デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。「Automated Test Framework テストの実行を有効または無効にする」を参照してください。

## Agile Development 2.0

Agile Development 2.0 クイックスタートテストには、Agile Development 2.0 プラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0) および Agile Development 2.0 - ATF テストプラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0.atf) を有効にする必要があります。

**Agile Development 2.0** クイックスタートテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| ストーリーの作成時にグローバルランクが追加されていることの確認 | 作成後にストーリーのグローバルランクを確認します。 | Madrid |
| アクティブなストーリーでスプリントの終結が防止されていることの確認 | アクティブなストーリーを含むスプリントを閉じることができないことを確認します。 | Madrid |
| スプリントが同じグループ内で重ならないことの確認 | 同じグループ内のスプリントが重ならないことを確認します。 | Madrid |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

**Agile Development 2.0** クイックスタートテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| スプリントポイントが更新されることの確認 | ストーリーへの変更が正確なスプリントポイント合計を生成することを確認します。 | Madrid |
| 現在のステータスを保持できるのはグループ内の 1 スプリントのみであることの確認 | スプリントのステータスを確認します。 | Madrid |
| スプリント終了日がスプリント開始日より後であることの確認 | スプリントの開始日と終了日を確認します。 | Madrid |
| ストーリーの更新がエピックにロールアップしていることの確認 | ストーリーの追加、推定、削除、消去、更新、またはキャンセルによって、エピックレベルのロールアップが正しく更新されることを確認します。 | Orlando |
| 現在のスプリントのスコープを変更しても、コミットポイント合計の値が変わらないことの確認 | スプリントのスコープの状態が [現在] に変更されても、[コミットポイント合計] の値が変わらないことを確認します。 | Orlando |
| Agile ストーリーの状態が [完了]/[キャンセル] に変更されたときに、アクティブフラグが false に設定されることの確認 | Agile ストーリーのアクティブフラグが次のように設定されることを確認します。<br>• ステータスが [完了] または [キャンセル] に変更された場合は false<br>• その他すべてのステータスの場合は true | Orlando |
| チーム/グループキャパシティを更新すると、将来のすべてのスプリントのキャパシティが上書きされることを確認する | アサイン先グループの [グループキャパシティ] フィールドが更新されると、このアサイン先グループに関連付けられているさまざまなスプリントの [グループキャパシティ] フィールドに以下の変更があることを確認してください。<br>• ドラフトおよび計画ステータスのスプリントの場合:<br>  ○ グループキャパシティが新しい値に更新されます。<br>  ○ [グループキャパシティ] フィールドは編集可能です。<br>• 現在、完了、またはキャンセル済みの各ステータスのスプリントの場合: | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Agile Development 2.0** クイックスタートテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | ○ グループキャパシティは古い値のままです。<br>○ [グループキャパシティ] フィールドは読み込み専用です。<br><br>[ドラフト] または [計画] ステータスのスプリントについては、後でいつでもスプリントのグループキャパシティを個別に編集できます。これにより、このスプリントに関連付けられているアサイン先グループのグループキャパシティが変更されることはありません。 | |
| スクラムプログラムのバックログのエピックの作成および編集機能を確認する | • Agile ボードの [バックログ] タブでスクラムプログラムのバックログのエピックを作成できることを確認します。<br>• Agile ボードの [バックログ] タブから、スクラムプログラムの既存のバックログのエピックを更新できることを確認します。<br>• バックログにリストされているエピックは、選択したバックログのエピックに属している必要があります。 | Quebec |
| デマンドがスクラムストーリーに変換されていることを確認する | PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの [ストーリーの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを Agile 2.0 ストーリーに変換できることを確認してください。<br><br>Agile 2.0 ストーリーをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。 | Quebec |
| デマンドがスクラムエピックに変換されていることを確認する | PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの [エピックの作成] 関連リンクを使用して、デマン | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Agile Development 2.0** クイックスタートテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | ドを Agile 2.0 エピックに変換できることを確認してください。<br><br>Agile 2.0 エピックをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。 | |

Agile Development 2.0 の詳細については、「Agile 開発 2.0」を参照してください。

## アプリケーションポートフォリオ管理

アプリケーションポートフォリオ管理 クイックスタートテストでは、アプリケーションポートフォリオ管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.apm.atf) を有効にする必要があります。

APM：ビジネスアプリケーションおよび機能テストスイートの作成

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| APM：ビジネスアプリケーションの作成 | アプリケーションカテゴリの作成、apm_user ロールを持つユーザーのビジネスアプリケーションの作成の順に確認します。 | Madrid |
| APM: ビジネス機能を作成 | 親と子のビジネス機能の作成、そのフィールド値の順に確認します。 | Madrid |
| APM: ビジネスサービス、ビジネスアプリケーション、ソフトウェアモデルに関連するテスト | 既存のソフトウェアモデルを使用したビジネスアプリケーションおよびビジネスサービスの作成と、それらの関係を確認します。 | Orlando |
| APM: インジケータースコアとアプリケーションスコア生成のテスト | インジケーターの作成、採点プロファイル、インジケータースコアとアプリケーションスコアの生成を確認します。 | Paris |
| APM：情報オブジェクトおよびデータドメインを使用するビジネスアプリケーション | 関係属性で、ビジネスアプリケーション、情報オブジェクト、および CRUD 操作の追加を作成していることを確認します。 | Quebec |

Application Portfolio Management の詳細については、「Application Portfolio Management」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アセスメントとサーベイ

アセスメントとサーベイ クイックスタートテストでは、Automated Test Framework 調査プラグイン (com.glide.automated_testing_impl. サーベイ) を有効にする必要があります。

### 調査用のテストスイート

| 名前 | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| サーベイ：基本的なプラットフォームベースのテスト | プラットフォーム UI アクションを使用して調査を作成します。 | Madrid |
| サーベイ：動的検証のためのプラットフォームテスト | サーベイを動的に検証します。 | Madrid |
| サーベイ：クローンアクション | サーベイのクローンを作成し、元のサーベイとクローンされたサーベイのレコードを検証します。 | New York |
| サーベイ：質問集フロー | サーベイに対する質問集の追加を確認します。 | New York |
| サーベイ：サーベイクリエーター作業フロー | サーベイクリエーターは、サーベイを作成し、実施と送信を行えるユーザーにサーベイを割り当てることができます。 | New York |
| アセスメント：アセスメントの査定人へのアサイン | アセスメントを査定人にアサインし、査定人にインスタンスが作成されたことを確認します。 | Orlando |
| アセスメント：サーベイの作成者としてアセスメントを作成 | サーベイの作成者としてアサインを作成します。 | Orlando |
| アセスメント：スケールとテンプレートのサポート | アセスメントを作成、公開、およびアサインします。次に、アセスメントを実施します。 | Rome |
| アセスメント：基本テストフロー | アセスメントの基本フローを確認します。 | Orlando |

アセスメントとサーベイの詳細については、「サービス管理」を参照してください。

## 変更管理

変更管理 クイックスタートテストでは、変更管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.change_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

### **CHG**：緊急タイプの変更の要求テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 緊急タイプの変更の要求ワークフロー | 緊急の変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。 | Madrid |
| 緊急タイプの変更の要求の保留 | 保留中の緊急の変更の要求の承認ステータスを検証します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CHG**：緊急タイプの変更の要求テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 緊急タイプの変更の要求の変更のコピー | コピーした緊急の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 緊急タイプの承認者による拒否 | 拒否された緊急の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 緊急タイプを新規に戻す | [新規に戻す] UI アクションを使用した後、緊急の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 緊急から通常タイプへの変換 | 緊急の変更の要求から通常の変更の要求への変換を検証します。 | Madrid |
| 緊急タイプの変更の要求のキャンセル | キャンセルされた緊急の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |

CHG：通常タイプの変更の要求テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 通常タイプの変更の要求ワークフロー | 通常の変更の要求を新規からクローズ済みに変更します。 | Madrid |
| 通常から緊急タイプへの変換 | 通常の変更の要求から緊急の変更の要求への変換を検証します。 | Madrid |
| 通常の変更の要求の変更をコピーする | コピーした通常の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 通常タイプの変更の要求の保留 | 保留中の通常の変更の要求の承認ステータスを検証します。 | Madrid |
| 承認者による通常タイプの変更の要求拒否時のステータス検証 | 拒否された通常の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 通常タイプの変更の要求を新しい機能に戻す | [新規に戻す] UI アクションを使用した後、通常の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |
| 通常タイプの変更の要求のキャンセル | キャンセルされた通常の変更の要求のステータスを検証します。 | Madrid |

CHG：標準的な変更提案テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 標準的な変更提案 | ユーザーが標準的な変更提案の作成、承認、テンプレート公開プロセスを正常に実行できるかどうかを検証します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### CHG：標準タイプの変更の要求テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 標準的な変更の要求ワークフロー | 標準的な変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。 | Madrid |
| 標準から緊急の変更の要求への変換 | 標準的な変更の要求から緊急の変更の要求への変換を検証します。 | Madrid |
| 標準から通常の変更の要求への変換 | 標準的な変更の要求から通常の変更の要求への変換を検証します。 | Madrid |

### CHG：許可されてない変更の要求と機能停止テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 許可されていない変更の要求ワークフロー | 許可されていない変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。 | Orlando |
| 変更の要求から予定されている機能停止タイプの機能停止を作成 | 変更の要求から予定されている機能停止タイプの機能停止が作成されたことを検証します。 | Orlando |
| 変更の要求から機能停止タイプの機能停止を作成 | 変更の要求から機能停止タイプの機能停止が作成されたことを検証します。 | Orlando |

### CHG：ベストプラクティスプラグインのリスク条件テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 中リスクを UI アクションプロパティで | 中リスクを UI アクションプロパティで処理します。 | Orlando |
| 低リスクを UI アクションプロパティで | 低リスクを UI アクションプロパティで処理します。 | Orlando |
| 放置リスクを UI アクションプロパティで | 放置リスクを UI アクションプロパティで処理します。 | Orlando |
| 高リスクを UI アクションプロパティで | 高リスクを UI アクションプロパティで処理します。 | Orlando |
| 高リスクをビジネスルールプロパティで | 高リスクをビジネスルールプロパティで処理します。 | Orlando |
| 中リスクをビジネスルールプロパティで | 中リスクをビジネスルールプロパティで処理します。 | Orlando |

### CHG：競合ソースに対する変更の要求テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| ブラックアウト期間に対する変更 | ブラックアウト期間に対する変更の要求を処理します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CHG：競合ソースに対する変更の要求テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 既にスケジュールされている CI の競合のチェック | 既にスケジュールされている CI の競合を検証します。 | Orlando |
| 競合ソースに対する変更 | 競合ソースに対する変更の要求を検証します。 | Orlando |

CHG：変更スケジュール定義と共有テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 新規の変更スケジュール定義の変更 | [変更スケジュール] ランディングページの [新規] ボタンからの変更スケジュール定義の作成を処理します。 | Orlando |
| 変更スケジュール定義のパネルを共有 | 変更スケジュール定義の共有パネルを検証します。 | Orlando |
| 変更スケジュール定義の共有 | 変更スケジュール定義の共有を検証します。 | Orlando |
| サービスポータルを使用して標準的な変更を作成する | サービスポータルから標準変更を作成する | Washington DC |

Change Management の詳細については、「Change Management」を参照してください。

## Cloud Provisioning and Governance

Cloud Provisioning and Governance クイックスタートテストでは、次の Cloud Provisioning and Governance プラグインをアクティブ化する必要があります。

- Cloud Provisioning and Governance (com.snc.cloud.mgmt)
- ドメインサポート：ドメイン拡張インストーラープラグイン (com.glide.domain.msp_extensions.installer)
- Service Catalog：Domain Separation プラグイン (glideapp.servicecatalog.domain_separation)

### Cloud Provisioning and Governance: Azure テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMP：Azure 資格情報の追加 | [資格情報] テーブルにフィールドを挿入して、Azure 資格情報を追加します。 | Orlando |
| CMP：Azure サービスアカウント | サービスアカウントテーブルにフィールドを挿入して、Azure サービスアカウントを追加します。 | Orlando |
| CMP：データセンタータイプの更新 | データセンタータイプでクラウドサービスアカウントを更新します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Cloud Provisioning and Governance: Azure** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMP：リソースグループの作成 | ARM テンプレートを使用して、Azure スタックをプロビジョニングするリソースグループを作成します。 | Orlando |
| CMP：Azure 論理データセンターの作成 | リソースをプロビジョニングするための Azure 論理データセンターを作成します。 | Orlando |
| CMP：「Contains：Contained by」関係の作成 | リソースグループと Azure データセンターの間に「Contains：Contained by」関係を作成します。 | Orlando |
| CMP：「Hosted on」関係の作成 | 論理データセンターとクラウドサービスアカウントの間に「Hosted on」関係を作成します。 | Orlando |
| CMP：クラウドアカウントの作成 | クラウドアカウントテーブルにフィールドを挿入して、クラウドアカウントを作成します。 | Orlando |
| CMP：クラウドアカウントと論理データセンターの関連付け | CMP クラウドアカウントと論理データセンターの間に関連付けを作成します。 | Orlando |
| CMP：カタログアイテムの作成 | ARM テンプレートを使用してクラウドカタログアイテムを作成します。 | Orlando |
| CMP：テンプレートバージョンの作成 | クラウドカタログアイテムのクラウドテンプレートバージョンを作成します。 | Orlando |
| CMP：ARM テンプレート本文 | クラウドテンプレートバージョンを ARM テンプレート本文で更新します。 | Orlando |
| CMP：[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] を開く | [ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] GUI ページを開きます。 | Orlando |
| CMP：クラウドテンプレートバージョンのアクティブ化 | リソースブロック、詳細計画、およびカタログを作成するために、クラウドテンプレートバージョンを有効にします。 | Orlando |
| CMP：クラウドテンプレートのバージョンの確認 | アクティベーション操作後、クラウドテンプレートバージョンでステータスが成功、アクティブになっているかどうかを検証します。 | Orlando |
| CMP：クラウドカタログアイテムのアクティブ化 | クラウドカタログアイテムを有効にし、カタログ注文フォーム | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Cloud Provisioning and Governance: Azure** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | をクラウドユーザーに表示します。 | |
| CMP：カタログアイテムへのスタックとリソースグループ名の追加 | カタログアイテムのスタック名とリソースグループのデフォルト値を設定します。 | Orlando |
| CMP：スタックが存在するかどうかの確認 | 「ATFARMStack」という名前でスタックが利用可能かどうかを検証します。 | Orlando |
| CMP：クラウドカタログアイテムページを開く | Service Portal の [クラウドカタログアイテム] ページを開きます。 | Orlando |
| CMP：カタログフォームの送信 | カタログフォームを送信して、ARM スタックのプロビジョニングを開始します。 | Orlando |
| CMP：スタックステータスがアクティブかどうかの確認 | スタックのプロビジョニング後にスタックのステータスを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 停止操作 | 停止操作後に、スタックのステータスが「オン」から「オフ」に変更されたことを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 開始操作 | 開始操作後に、スタックのステータスが「オフ」から「オン」に変更されたことを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - プロビジョニング解除操作 | プロビジョニング解除操作後に、スタックのステータスが「オン」から「終了」に変更されたことを検証します。 | Orlando |

**Cloud Provisioning and Governance: AWS** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMP：AWS 資格情報の追加 | [資格情報] テーブルにフィールドを挿入して、AWS 資格情報を追加します。 | Orlando |
| CMP：AWS サービスアカウント | サービスアカウントテーブルにフィールドを挿入して、AWS サービスアカウントを追加します。 | Orlando |
| CMP：データセンタータイプの更新 | データセンタータイプでクラウドサービスアカウントを更新します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Cloud Provisioning and Governance: AWS** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMP：論理データセンターの作成 | リソースをプロビジョニングするための論理データセンターを作成します。 | Orlando |
| CMP：「Hosted on」関係の作成 | 論理データセンターとクラウドサービスアカウントの間に「Hosted on」関係を作成します。 | Orlando |
| CMP：クラウドアカウントの作成 | クラウドアカウントテーブルにフィールドを挿入して、クラウドアカウントを作成します。 | Orlando |
| CMP：クラウドアカウントと論理データセンターの関連付け | CMP クラウドアカウントと論理データセンターの間に関連付けを作成します。 | Orlando |
| CMP：カタログアイテムの作成 | CFT テンプレートを使用してクラウドカタログアイテムを作成します。 | Orlando |
| CMP：テンプレートバージョンの作成 | クラウドカタログアイテムのクラウドテンプレートバージョンを作成します。 | Orlando |
| CMP：CFT テンプレート本文 | クラウドテンプレートバージョンを CFT テンプレート本文で更新します。 | Orlando |
| CMP：[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] を開く | [ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] GUI ページを開きます。 | Orlando |
| CMP：クラウドテンプレートバージョンのアクティブ化 | リソースブロック、詳細計画、およびカタログを作成するために、クラウドテンプレートバージョンを有効にします。 | Orlando |
| CMP：クラウドテンプレートのバージョンの確認 | アクティベーション操作後、ステータスが成功でアクティブになっているかどうか、クラウドテンプレートバージョンを検証します。 | Orlando |
| CMP：クラウドカタログアイテムのアクティブ化 | クラウドカタログアイテムを有効にし、カタログ注文フォームをクラウドユーザーに表示します。 | Orlando |
| CMP：カタログアイテムへのスタック名の追加 | カタログアイテムのスタック名のデフォルト値を設定します。 | Orlando |
| CMP：スタックが存在するかどうかの確認 | 「ATFCFTStack」という名前のスタックがあるかどうかを検証します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Cloud Provisioning and Governance: AWS** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMP：クラウドカタログアイテムページを開く | Service Portal の [クラウドカタログアイテム] ページを開きます。 | Orlando |
| CMP：カタログフォームの送信 | カタログフォームを送信して CFT スタックのプロビジョニングを開始します。 | Orlando |
| CMP：スタックステータスがアクティブかどうかの確認 | スタックのプロビジョニング後にスタックのステータスを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 停止操作 | 停止操作後に、スタックのステータスが「オン」から「オフ」に変更されたことを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 開始操作 | 開始操作後に、スタックのステータスが「オフ」から「オン」に変更されたことを検証します。 | Orlando |
| CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - プロビジョニング解除操作 | プロビジョニング解除操作後に、スタックのステータスが「オン」から「終了」に変更されたことを検証します。 | Orlando |

Cloud Provisioning and Governance の詳細については、「Cloud Provisioning and Governance」を参照してください。

## コーチング

コーチング クイックスタートテストでは、コーチング プラグイン (com sn_coaching) をアクティブ化する必要があります。

**Coaching** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| Coaching：コーチとしてログインしているときにアセスメントを手動で作成する | コーチとして、アセスメントを作成し、研修生にアサインできることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：機会にスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する | コーチング機会にスキルを追加し、研修生がアセスメントを完了した後に、これらのスキルが付与されていることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：仮想コーチとしてアセスメントを完了する | 仮想コーチが機会に関連付けられている場合に、仮想コーチがアセスメントを完了し、研修生にフィードバックを提供することを確認します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Coaching** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| Coaching：アセスメントにスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する | Coaching アセスメントにスキルを追加し、アセスメントを完了した後に、これらのスキルが研修生に付与されていることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：推奨事項にスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する | Coaching 推奨事項にスキルを追加し、研修生がアセスメントを完了した後に、これらのスキルが付与されていることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：コーチとしてログインしているときに、アセスメントをあるステータスから別のステータスに変更する | コーチとして、アセスメントをあるステータスから別のステータスに変更できることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：推奨される学習をアセスメントに添付する | アセスメントを生成するときに、機会について推奨される学習がアセスメントに追加されることを確認します。 | Orlando |
| Coaching：コーチング機会が非アクティブである場合、アセスメントは生成されない | Coaching 機会が非アクティブのステータスになっている場合、アセスメントは生成されないことを確認します。 | Orlando |
| Coaching：コーチユーザーとして Coaching のサーベイを送信します。 | コーチが研修生のサーベイを送信できることを確認します。 | Quebec |
| Coaching：研修生ユーザーとして Coaching のサーベイを送信します。 | 研修生がコーチのサーベイを送信できることを確認します。 | Quebec |

Coaching の詳細については、「Coaching」を参照してください。

## Communities

Communities クイックスタートテストでは、カスタマー Communities プラグイン (com.sn_customer_communities) および Communities デモデータプラグイン (com.sn_communities_demo) をアクティブ化する必要があります。

Communities：コミュニティテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 質問の投稿およびフィードの検証 | コミュニティに質問が投稿されたことを確認し、その質問がコンテンツフィードに表示されるかどうかを検証します。 | Madrid |
| ビデオの投稿 | ビデオがコミュニティに投稿されたことを確認します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Communities：コミュニティテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| フォーラムメンバーシップの承認 | フォーラムへのメンバーシップ要求が承認されたことを確認します。 | Madrid |
| フォーラムメンバーシップの拒否 | フォーラムへのメンバーシップ要求が却下されたことを確認します。 | Madrid |
| モデレートタスクの承認 | モデレートタスクが承認されていることを確認します。 | Madrid |
| モデレートタスクの拒否 | モデレートタスクが却下されたことを確認します。 | Madrid |
| トピックのサブスクリプションとアクティビティフィードの検証 | トピックがに登録されていることと、トピックアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。 | New York |
| 質問に対するコンテンツ承認ワークフロータスクの承認 | 質問のコンテンツ承認ワークフローを確認します。 | New York |
| 質問の自動サブスクリプションとアクティビティフィードの検証 | 作成者が自動的に質問に登録され、質問のアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。 | New York |
| ユーザーをフォロー | コミュニティユーザーが別のコミュニティユーザーをフォローできることを確認します。 | New York |
| 質問に対するコンテンツ承認ワークフロータスクを却下 | コンテンツが却下された場合の質問のコンテンツ承認ワークフローを確認します。 | New York |
| ビデオ投稿のゲーミフィケーション | ビデオの投稿時に得られたゲーミフィケーションポイントを確認します。 | New York |
| フォーラムのサブスクリプションとアクティビティフィードの検証 | フォーラムが登録されおり、フォーラムのアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。 | New York |
| 質問のサブスクリプションとアクティビティフィードの検証 | 質問が登録されおり、質問のアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。 | New York |
| [コメントの無効化] オプションを使用してビデオを投稿 | [コメントを無効化] オプションが選択された状態でビデオが投稿されることを確認します。 | Orlando |
| ビデオを特集として固定 | フォーラムおよびコミュニティのホームページで、コミュニティ管理者がビデオを特集とし | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Communities：コミュニティテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | てマークしていることを確認します。 | |

Communities の詳細については、「Communities」を参照してください。

## コンフィグレーションコンプライアンス

コンフィグレーションコンプライアンス クイックスタートテストでは、コンフィグレーションコンプライアンス アプリケーション (sn_vulc) をアクティブ化してデモデータをロードする必要があります。

コンフィグレーションコンプライアンス クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| Configuration Compliance アサインルール | アサインルールを作成します。 | Washington DC |
| Configuration Compliance - グループルールを最適用 | テスト結果グループルールを再適用します。 | Washington DC |
| Configuration Compliance - グループルールを削除 | テスト結果グループルールを削除します。 | Washington DC |

Configuration Compliance の詳細については、「Configuration Compliance」を参照してください。

## 構成管理データベース (CMDB)

構成管理データベース (CMDB) クイックスタートテストでは、構成管理 (CMDB) プラグイン (com.snc.cmdb) と CMDB ATF テストプラグイン (com.snc.cmdb.atf) をアクティブ化する必要があります。

**CMDB BSM: Dependency Views** テストスイート
***Dependency Views API*** の機能をチェックするテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CMDB BSM: Dependency Views | Dependency Views API の機能をテストします。これらの API は、指定された CI sys_id に対して、また itil ユーザーロールを使用して、Dependency Views および関連マップアイテム (コンテキストメニューアイテムなど) を取得します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CMDB** 健全性: **CI** 健全性ダッシュボードテストスイート
基本的なレベルで *CMDB CI* 健全性ダッシュボードが機能しているかどうかを確認するテストスイート。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CMDB 健全性: 健全性ジョブステータス | 30 日以上前に開始された CMDB 健全性ダッシュボードジョブが、まだ処理中かどうかを確認します。 | New York |
| CMDB 健全性: CMDB 健全性の完全性/推奨 | CI ダッシュボードが推奨評価指標に対して機能しているかどうかを確認します (CMDB 健全性完全性 KPI に含まれています)。<br><br>このテストの検証対象：<br>• 推奨評価指標の健全性包含ルールの作成。<br>• 健全性包含ルールを満たす推奨フィールドを作成します。<br>• 推奨フィールドにデータが欠落しているテストレコードに対して、健全性包含ルールが正しく適用されていることを検証します。 | New York |

**CMDB IRE:** 識別調整エンジンテストスイート
識別および調整エンジン *(IRE)* 機能を確認するためのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CMDB IRE: IRE 検証 | CI ID および調整の定義を検証し、CI ID のインデックスをチェックします。 | Madrid |
| CMDB IRE: 調整ルール | 調整ルールの操作を、itil と itil_admin の各ロールを使用して CI クラスマネージャーで確認します。操作には、調整ルールの作成、編集、削除が含まれます。<br><br>また、アクティブまたは非アクティブな設定と派生したルールを確認します。 | Paris |
| CMDB IRE: 識別ルール | 識別ルールの操作を、itil と itil_admin の各ロールを使用して CI クラスマネージャーで確認します。操作には、識別ルー | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CMDB IRE:** 識別調整エンジンテストスイート
識別および調整エンジン *(IRE)* 機能を確認するためのテストスイート

(続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | ルの作成、編集、削除が含まれます。<br><br>また、アクティブまたは非アクティブな設定と派生したルールを確認します。 | |

**CMDB QB:** クエリービルダーテストスイート
*2*つの関連するユーザーロール - ***cmdb_query_builder*** と ***cmdb_query_builder_read*** を使用して、クエリーの作成、クエリーの読み込み、クエリーの実行などの ***CMDB*** クエリービルダー機能を検証するためのテストスイート。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CMDB QB: クエリービルダー - cmdb_query_builder ロール | cmdb_query_builder ユーザーロールが、CMDB クエリービルダーでクエリーを保存し、保存されたすべてのクエリーにアクセスして実行できることを確認します。 | New York |
| CMDB QB: クエリービルダー - cmdb_query_builder_read ロール | cmdb_query_builder ユーザーロールが、CMDB クエリービルダーで保存されたクエリーにアクセスして実行でき、クエリーの保存はできないことを確認します。 | New York |

**CMDB REL:** 関係エディターとフォーマッターのテストスイート
関係エディターと関係フォーマッターの機能を確認するためのテストスイート。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CMDB REL EDITOR: 関係エディター | itil ユーザーロールを使用して、CI への関係の追加と CI からの関係の削除を確認します。 | New York |
| CMDB REL FORMATTER: 関連フォーマッター | itil ユーザーロールを使用して、関係フォーマッターの特定の CI に対して表示される CI 情報、関係性タイプ、関係性、変更チケットなどの関連レコード、および CMDB ビュー (関係フィルター) などの設定が正しいかどうかを確認します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CMDB SDK: SDK REST API** テストスイート
*CMDB SDK REST APIs* の機能を検証するためのテストスイート。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMDB SDK: CMDB メタデータのクエリー | CMDB メタデータのクエリーをテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST APIs を使用した CI に対する関係性の作成 | CMDB REST APIs を使用して、CMDB 内の CI に対する関係性の作成をテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST APIs を使用した CI に対する関係性の削除 | CMDB REST APIs を使用して、CI に対する関係性の削除をテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST API を使用した CI の作成 | CMDB REST APIs を使用して CI の作成をテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST APIs を使用した CMDB のクエリー | CMDB REST APIs を使用して CMDB のクエリーをテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST APIs を使用した CI の更新 | CMDB REST APIs を使用して CI の更新をテストします。 | New York |
| CMDB SDK: REST APIs を使用した CI のクエリー | CMDB REST APIs を使用して CI のクエリをテストします。 | New York |

Configuration Management Database の詳細については、「Configuration Management Database」を参照してください。

## 継続的改善管理

継続的改善管理 クイックスタートテストでは、継続的改善管理 自動テストプラグイン (com.sn_cim.atf) をアクティブ化する必要があります。

### 継続的改善管理 テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CIM：アセスメントからのインバウンド統合 | アセスメントから改善のイニシアティブを作成します。 | Paris |
| CIM：Incident Management からのインバウンド統合 | インシデントから改善のイニシアティブを作成します。 | Paris |
| CIM：Problem Management からのインバウンド統合 | 問題から改善のイニシアティブを作成します。 | Paris |
| CIM：Survey Management からのインバウンド統合 | サーベイから改善のイニシアティブを作成します。 | Paris |

Continual Improvement Management の詳細については、「Continual Improvement Management」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## カスタマーサービス管理 (CSM)

カスタマーサービス管理 (CSM) のクイックスタートテストでは、常にカスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグイン (com.snc.customerservice.demo) をアクティブ化する必要があります。一部のクイックスタートテストでは、次のプラグインをアクティブにする必要があります。

- 事業所 (com.snc.business_location)
- Case Playbook for Complaints (sn_complaint)
- Case Playbook for Onboarding (sn_onboarding)
- 消費者サービスポータルプラグイン (com.glide.service-portal.consumer-portal) をアクティブにします。
- CSM 貢献者ユーザー (com.snc_csm_contributor_user)
- プロキシ連絡先の CSM 拡張 (com.snc.csm_proxy_contacts)
- カスタマーサービス世帯 (com.snc.household)
- 注文のカスタマーサービス管理 (CSM) (com.snc.csm.order)
- カスタマーサービスポータル (com.glide.service-portal.customer-portal)
- 要求管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm_request)
- サービス管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm)
- 解決ガイドエクスペリエンス - com.snc.guided_decisions_playbook_experience
- 解決ガイド - ネクストベストアクション (com.snc.next_best_action)
- Major Issue Management (com.sn_majorissue_mgt)
- イベント管理によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションプラグイン (com.snc.proactive_cs_ops)
- スキル決定 (com.snc.skill_determination)
- CSM 向け Walk-Up (com.snc.walkup_for_csm)

### CSM：ケースマネジメントのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CSM: 製品ケースを作成 | 製品に対してケースを作成します。 | Madrid |
| CSM：エージェントにケースをアサイン | ケースを作成して、カスタマーサービスエージェントに割り当てます。 | Madrid |
| CSM：ケースに資産を割り当てる | ケースに資産を割り当てます。 | Madrid |
| CSM：エンタイトルメント割り当て | ケースにエンタイトルメントを割り当てます。 | Madrid |
| CSM：アカウントをエスカレート | アカウントをエスカレートします。 | Madrid |
| CSM：ケースをエスカレート | ケースをエスカレートします。 | Madrid |
| CSM：特別処理メモを作成 | ケースに特別処理メモを作成します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CSM：ケースをクローズ | ケースをクローズします。 | Madrid |
| CSM：時間記録 | ケースに取り組んだ時間を記録します。 | Madrid |
| CSM：ケースから CHG を作成する | ケースから変更レコードを作成します。 | Madrid |
| CSM：ケースからインシデントを作成する | ケースからインシデントレコードを作成します。 | Madrid |
| CSM：オーダーケースを作成 | 注文に対してケースを作成します。<br>**注:** 注文のカスタマーサービス管理 (CSM) が必要です。 | Madrid |
| CSM：CSM ポータルから顧客としてオーダーケースを作成 | カスタマーサービスポータルから顧客として注文ケースを作成します。<br>**注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、管理者としてテストを実行する必要があります。 | Madrid |
| CSM：ケースから問題を作成する | ケースから問題レコードを作成します。 | Madrid |
| CSM：NOC オペレーターによるプロアクティブケースの作成 | プロアクティブケースが作成されているかどうかを確認します。<br>**注:** Event Management によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションが必要です。 | New York |
| CSM：ケース OBO 顧客を作成する社員 | プロキシの連絡先ロール (sn_customerservice_proxy_contact) を持つ社員として、顧客の代わりにセルフサービスポータルからケースを作成します。<br>**注:** プロキシ連絡先の CSM 拡張が必要です。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM：ルックアップタイプのスキル決定ルールテスト | ルックアップタイプのスキル決定ルールを作成します。<br>**注:** スキルを決定する必要があります。 | New York |
| CSM：CSM ポータルから要求 OBO 顧客を作成するマネージャー | ケースマネージャーロールを持つユーザーとして、カスタマーサービスポータルから顧客の代わりにケースを作成します。<br>**注:** カスタマーサービス要求のデータ連携が必要です。 | New York |
| CSM：単純なタイプのスキル決定ルールテスト | 単純なタイプのスキル決定ルールを作成します。<br>**注:** スキルを決定する必要があります。 | New York |
| CSM： 新しいケースタイプの登録 | ケースタイプを登録し、レコードが作成されたことを確認します。 | Orlando |
| CSM： プロジェクトマネージャーがアカウントのプロジェクトを作成 | プロジェクトマネージャーがアカウントのプロジェクトを作成します。<br>**注:** 顧客プロジェクト管理が必要です。 | Orlando |
| CSM：プロジェクトマネージャーがプロジェクトの連絡先を特定 | プロジェクトマネージャーがプロジェクトの顧客を特定します。<br>**注:** 顧客プロジェクト管理が必要です。 | Orlando |
| CSM：プロジェクトマネージャーがプロジェクトタスクを作成して顧客にアサイン | プロジェクトマネージャーがプロジェクトタスクを作成して、顧客にアサインします。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 注:<br>顧客プロジェクト管理が必要です。 | |
| CSM：プロジェクトからケースを作成 | プロジェクトからケースを作成します。 | Orlando |
| CSM：プロジェクトタスクからケースを作成 | プロジェクトタスクからケースを作成します。 | Orlando |
| CSM：ケースからタスクを作成 | ケースからケースタスクを作成します。 | Orlando |
| CSM：顧客の要求を作成するエージェント | カスタマーサービスエージェントとして、顧客の要求を作成します。<br>注:<br>カスタマーサービス要求のデータ連携が必要です。 | Orlando |
| CSM：エージェントがプロジェクトからケースを作成 | カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトからケースを作成します。<br>注:<br>顧客プロジェクト管理が必要です。 | Orlando |
| CSM：エージェントがプロジェクトタスクからケースを作成 | カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトタスクからケースを作成します。<br>注:<br>顧客プロジェクト管理が必要です。 | Orlando |
| CSM：エージェントがプロジェクトの変更の要求を作成 | カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトの変更の要求を作成します。 | Orlando |
| CSM：重大なケースとその子ケースの作成 | 受信者リスト内の顧客アカウントに対して、重大なケースと関連する子ケースを作成します。<br>注:<br>重大な問題の管理が必要です。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM：高度なタイプのスキル決定ルールテスト | 高度なタイプのスキル決定ルールを作成します。<br>注:<br>スキルを決定する必要があります。 | Orlando |
| CSM：販売済み製品の対象のサービス契約 | 販売済み製品とサービス契約を作成し、サービス契約を販売済み製品に関連付けます。アクティブな契約と販売済み製品の間の関連性を確認します。<br>注:<br>カスタマーサービスインストールベース管理が必要です。 | Orlando |
| AWA：新規サービスチャネルの作成 | Advanced Work Assignment アプリケーションで新しいサービスチャネルを作成します。<br>注:<br>CSM 向け Advanced Work Assignment が必要です。 | Orlando |
| CSM-ITOM：積極的な重大なケースの子ケースを作成 | 受信者リストを使用して、プロアクティブで重大なケースの子ケースを作成します。<br>注:<br>Event Management によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションが必要です。 | Orlando |
| CSM - 機能停止を ケースから作成 | 新規作成した機能停止がケースにリンクされているかどうかを検証します。 | Paris |
| CSM：世帯での販売済み製品の作成 | 世帯とそのメンバーに販売された製品を作成します。 | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 注:<br>[デモデータのロード] が有効になっているカスタマーサービスインストールベース管理とカスタマーサービスの世帯が必要です。 | |
| CSM：[アカウント] および [ケース] ページからインストールベースアイテムの健全性ステータスを表示する | [アカウント] および [ケースレコード] ページの [インストールベースの健全性をリフレッシュ] ボタンの機能を検証します。 | Quebec |
| CSM：ケースタスクエージェントにケースタスクをアサイン | カスタマーサービスエージェントは、ケースタスクを作成してケースタスクエージェントにアサインします。 | Rome |
| CSM：アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが表示 | アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが表示できることを確認します。 | Rome |
| CSM：アサインされたタスクをケースタスクエージェントが完了 | アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが完了します。 | Rome |
| CSM：Agent Workspace のケースからナレッジギャップを報告 | ケースに関連するナレッジギャップが Agent Workspace で報告されたことを確認します。 | Rome |
| CSM：「ケースの作成 (POST)」API を使用してケースを作成 | 「ケースの作成 (POST)」API を使用してケースを作成します。<br>注:<br>ATF のステップ 1 で [基本認証] フィールドにアサインされたユーザー認証レコードが必要です。 | Rome |
| CSM：「ケースのクエリー (GET)」API を使用してケースをクエリー | 「ケースのクエリー (GET)」API を使用してケースをクエリーします。<br>注:<br>ATF のステップ 1 で [基本認証] フィールドにアサインされたユーザー認証レコードが必要です。 | Rome |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケースマネジメントのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CSM：OCS マネージャーが新しい OSP を作成 | 新しいアウトソーシングサービスプロバイダー (OSP) が OCS 内部マネージャーによって作成されていることを確認します。<br>**注:** カスタマーサービスのアウトソーシングが必要です。 | Rome |
| CSM：OCS エージェントによるケースの作成 | カスタマーサービスのアウトソーシングエージェントがケースを作成できることを確認します。<br>**注:** カスタマーサービスのアウトソーシングが必要です。 | Rome |
| CSM：消費者プロファイルの場所の管理 | 消費者の場所を作成して管理し、消費者プロファイルにマッピングします。 | Washington DC |
| CSM：アカウント間での住所の共有 | アカウントに再利用可能な住所を実装して、複雑なカスタマーオペレーションとビジネスモデルをサポートします。 | Washington DC |

自動翻訳

**CSM:** ケースタイプ **-** 苦情

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 苦情ケース を作成 | ユーザーがタイプ「苦情」のケースを sn_complaint_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。 | Paris |
| 苦情ケース をエスカレート | ユーザーがタイプ「苦情」のケースを sn_complaint_case テーブルでエスカレートできるかどうかをテストします。 | Paris |

**CSM:** ケースタイプ **-** オンボーディング

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| オンボーディングケース を作成 | ユーザーがタイプ「オンボーディング」のケースを sn_onboarding_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。 | Paris |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CSM:** ケースタイプ - オンボーディング (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| オンボーディングケース をエスカレート | ユーザーがタイプ「オンボーディング」のケースを sn_onboarding_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。 | Paris |

CSM：運用ダッシュボードテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| awa_admin_operations_dashboard | ロール awa_admin を持つユーザーが、運用ダッシュボードの [高度なワークアサインメント] メニュー、未アサインのインタラクションモジュール、および未アサインのタスク作業アイテムモジュールを表示できることを確認します。 | Orlando |
| awa_manager_operations_dashboard | ロール awa_manager を持つユーザーが、運用ダッシュボードの [高度なワークアサインメント] メニュー、未アサインのインタラクションモジュールおよびタスク作業アイテムモジュールを表示できることを確認します。 | Orlando |

CSM：ポータルテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM：CSM ポータルから顧客として製品ケースを作成 | カスタマーサービスポータルから顧客として製品ケースを作成します。<br>**注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、管理者としてテストを実行する必要があります。 | Madrid |
| CSM：CSM ポータルからパートナーとして製品ケースを作成 | カスタマーサービスポータルからパートナーとして製品ケースを作成します。<br>**注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、管理者としてテストを実行する必要があります。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ポータルテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM：ホームページの検索 | カスタマーサービスポータルから情報を検索します。検索には、ケース、ナレッジ記事、およびコミュニティスレッドが含まれます。 | New York |
| CSM ：サポートプロファイルの更新 | カスタマーサービスポータルから連絡先のプロファイルを更新します。 | New York |
| CSM ：ケースに関して要求された情報を提供 | カスタマーサービスポータルから、連絡先はエージェントによって要求されたケースの情報を提供できます。 | New York |
| CSM ：ケースに提案されたソリューションを承認 | カスタマーサービスポータルから、ケースに提案されたソリューションを承認します。 | New York |
| CSM：サーベイについてのフィードバックを提供 | カスタマーサービスポータルからケースがクローズされた後、サーベイについてのフィードバックを提供します。 | New York |
| CSM：すべてのデスクトップ通知を表示 | すべてのカスタマーサービス管理 (CSM) 固有のデスクトップ通知を表示します。 | Orlando |
| CSM：CSM ポータルの公開物を表示 | カスタマーサービス管理 (CSM) ポータルの公開物を表示します。 | Orlando |
| CSM：CSM ポータルで連絡先を作成 | カスタマーサービス管理 (CSM) ポータルで連絡先を作成します。 | Orlando |
| CSM：CSM ポータルの機能停止ウィジェットを検証 | さまざまなタイプの機能停止と、カスタマーサービスポータルのホームページおよびインストールベースページに表示される対応するウィジェットを検証します。 | Quebec |
| CSM - コンシューマ貢献者としてポータルからケースを作成 | コンシューマ貢献者ユーザーロール (sn_customerservice.consumer_contributor) を持つユーザーによってポータルから顧客ケースを作成します。<br>**注:** 事業所、カスタマーサービス世帯、および CSM 貢献者ユーザーが必要です。 | Rome |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ポータルテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM - アカウント貢献者としてポータルからケースを作成 | アカウント貢献者ユーザーロール (sn_customerservice.account_contributor) を持つユーザーによってポータルから顧客ケースを作成します。<br>**注:** 事業所、カスタマーサービス世帯、および CSM 貢献者ユーザーが必要です。 | Rome |
| CSM：ケースに関係者を追加し、関係者としてケースのアクションを実行 | ケースに関係者を追加し、CSM ポータルを介して関係者としてケースに対してアクションを実行できることを確認します。 | Rome |

CSP：ポータルテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSP：CSP ポータルから消費者として製品ケースを作成 | 消費者サービスポータルから消費者として製品ケースを作成します。<br>**注:** 消費者サービスポータルが必要です。また、管理者としてテストを実行する必要があります。 | Madrid |
| CSP：ホームページの検索 | 消費者サービスポータルから情報を検索します。検索には、ケース、ナレッジ記事、およびコミュニティスレッドが含まれます。 | New York |
| CSP：サポートプロファイルの更新 | Consumer Service Portal から消費者プロファイルを更新します。 | New York |
| CSP：製品を登録 | Consumer Service Portal から製品を登録します。 | New York |
| CSP ：ケースに関して要求された情報を提供 | Consumer Service Portal から、消費者はエージェントによって要求されたケースの情報を提供できます。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSP：ポータルテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSP ：ケースに提案されたソリューションを承認 | Consumer Service Portal から、ケースに対して提案されたソリューションを承認します。 | New York |
| CSP：サーベイについてのフィードバックを提供 | Consumer Service Portalからケースがクローズされた後、サーベイについてのフィードバックを提供します。 | New York |
| CSP：CSP ポータルの公開物を表示 | カスタマーサービスポータルの公開物を表示します。 | Orlando |

解決ガイド - ネクストベストアクションのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| ネクストベストアクションリストの検証 - 解決ガイド | 構成されたルールに基づいて推奨されるネクストベストアクションのリストを検証します。 | San Diego |
| 次のベストアクションランキングの検証 - 解決ガイド | 構成されたルールに基づいて推奨されるネクストベストアクションのリストを検証します。 | San Diego |

TC：ターゲットコミュニケーションテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| TC：受信者リストの作成 | 必要なパラメーターを使用して受信者リストを作成します。[受信者] 関連リスト内の新しい受信者リストを確認します。 | Orlando |
| TC：公開物の作成 | 公開物を作成します。公開物は公開日に基づいて公開されます。受信者リストのユーザーが公開物を取得したかどうかを確認します。 | Orlando |

**CSM Agent Workspace test suite**

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| CSM：ワークスペースでケースから問題を作成する | CSM Agent Workspace のカスタマーサービスエージェントによるケースからの問題レコードの作成をテストします。 | Quebec |
| CSM：Agent Workspace からケースをエスカレート | CSM Agent Workspace からカスタマーサービスケースをエスカレートします。 | Quebec |
| CSM：ケースを作成し、ソリューションを提案 | カスタマーサービスケースを作成し、CSM Agent | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CSM Agent Workspace test suite** (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | Workspace からケースのソリューションを提案します。 | |
| CSM：ケースを作成し、Agent Workspace からエージェントにこのケースをアサイン | カスタマーサービスケースを作成して、CSM Agent Workspace のエージェントにケースをアサインする機能を検証します。 | Quebec |
| CSM：Agent Workspace から重大なケース候補を承認 | CSM Agent Workspace からケースの重大なケース候補を承認する機能を検証します。 | Quebec |
| CSM：Agent Workspace から重大なケースの子ケースを作成 | CSM Agent Workspace の受信者リストを使用して、重大なケースから子ケースを作成する機能を検証します。 | Quebec |
| CSM：Agent Workspace から事業所を作成 | Agent Workspace に新しい事業所を作成します。<br>**注:** 事業所が必要です。 | Rome |
| CSM：Workspace に世帯を作成 | Agent Workspace に新しい世帯を作成します。<br>**注:** カスタマーサービス世帯が必要です。 | Rome |
| CSM：ケースからナレッジギャップを作成 | Agent Workspace のケースからナレッジギャップを作成します。 | Rome |

**CSM WalkUp Experience** テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CSM Walkup：ウォークアップユーザーとしてチェックインし、キューを確認してサーベイを送信 | ウォークアップユーザーとして、チェックインを実行し、キューを確認して、サーベイを通じてフィードバックを送信します。<br>**注:** このテストは、デモデータで利用可能なシアトルの場所が利用可能な場合に機能します。 | Rome |

カスタマーサービス管理 (CSM) の詳細については、「カスタマーサービス管理 (CSM)」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## ダッシュボード

ダッシュボード クイックスタートテストでは、Automated Test Framework - レスポンシブダッシュボードプラグイン (com.glide.automated_testing_impl.dashboards) を有効にする必要があります。このプラグインはインスタンスの zBoot で有効になります。

### ダッシュボード クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| レスポンシブダッシュボードの共有 | 代理操作をしているユーザーによるダッシュボードの共有を確認します。 | Madrid |
| レスポンシブダッシュボードの可視性 | 代理操作をしているユーザーによるダッシュボードの可視性を確認します。 | Madrid |

ダッシュボードの詳細については、「ダッシュボード」を参照してください。

## DevOps

DevOps クイックスタートテストは、ServiceNow アプリケーションを DevOps ストアからインストールするときに利用できます。

### DevOps テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| DevOps コードツールフロー | DevOps コーディングツールのフローデザイナーフローを確認します。 | Madrid |
| CR による DevOps オーケストレーションフロー | 変更の要求を含む DevOps オーケストレーションツールのフローデザイナーフローを確認します。 | Madrid |
| DevOps オーケストレーションツールフロー | DevOps オーケストレーションツールのフローデザイナーフローを確認します。 | Madrid |
| DevOps 計画立案ツールフロー | DevOps 計画立案ツールのフローデザイナーフローを確認します。 | Madrid |

DevOps の詳細については、「DevOps」を参照してください。

## 従業員センター および 従業員センタープロ

### 従業員センター クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 承認タスクのアドホック委任を作成する | 従業員センター で [自分のタスク (My Tasks)] フォームから承認タスクのアドホック委任を作成できることを確認します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター クイックスタートテスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| HR タスクのアドホック委任を作成する | 従業員センター で [自分のタスク] フォームから HR タスクのアドホック委任を作成できることを確認します。 | San Diego |
| Employee Center - お気に入り | 従業員センター のお気に入り機能を検証します。KB 記事またはカタログアイテムがお気に入りウィジェットに追加された場合も確認します。 | San Diego |
| Employee Center - Approval Hub 承認要求 | 従業員センター の承認機能を検証します。また、要求が承認されたときに、ユーザーの [完了] 列に表示されることも確認します。 | San Diego |
| Employee Center - Approval Hub 却下要求 | 却下機能を確認します。また、要求が却下されたときに、ユーザーの [完了] 列に表示されることも確認します。 | San Diego |
| Employee Center - トピックページ | KB 記事またはカタログアイテムをトピックに関連付け、トピックページに表示されることを確認します。 | San Diego |
| Employee Center： ホームページウィジェットを検証 | 従業員センター ホームページに次のウィジェットが存在することを検証します。<br>• 関連分野<br>• 人気のトピック<br>• 自分のアクティブなアイテム<br>• クイックタスク<br>• ホームページ検索 | San Diego |
| 従業員センタープロ - アプリランチャー | [自分のアプリケーション] ページで次を検証します。<br>• アプリケーションを作成し、アプリケーションページに表示されることを確認します。<br>• トピック/カテゴリを作成し、アプリケーションを関連付けて、トピックとカテゴリの下に表示されることを検証します。 | San Diego |
| 従業員センタープロ - ホームページウィジェットを検証 | 従業員センタープロ ホームページに次のウィジェットが存在することを検証します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター クイックスタートテスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | • コンテンツエクスペリエンス<br>• おすすめ<br>• 人気のトピック<br>• 予定されているイベント<br>• 自分のアクティブなアイテム<br>• ビデオ<br>• アプリランチャー<br>• ホームページ検索 | |
| ESC：従業員はチケットの更新を表示できる | 従業員はチケットの更新を表示できます。 | Quebec |
| ESC：人事に関する一般的な問い合わせの質問を ESC ポータルに投稿 | 人事の従業員が一般的な問い合わせケースを作成し、人事に関する一般的な問い合わせの質問を ESC に投稿できることを確認します。 | Quebec |
| ESC：Universal Request および人事ケースを作成するレコードプロデューサーを送信 | ユーザーが Universal Request を作成する人事カタログアイテムを送信できることを確認します。また、Universal Request および人事ケースが作成およびリンクされていることを確認します。 | Quebec |
| ESC：人事ケースに関する ESC の標準チケットページを確認 | サービスポータルから一般的な問い合わせケースを作成し、標準チケットページに表示されていることを確認します。 | Quebec |
| ESC：カタログアイテムのウィジェットのコンテンツの確認 | カタログページのウィジェットコンテンツを確認します。 | Orlando |
| ESC：ナレッジページのウィジェットコンテンツの確認 | ナレッジページのウィジェットコンテンツを確認します。 | Orlando |
| HR：ESC でのカタログアイテムと KB の検索 | ESC の検索機能を検証します。 | Quebec |
| 分類とトピックの作成 | 分類とトピックを作成し、トピックにコンテンツを追加します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- Employee Center Core [app-ex-employee-center-core]
- Employee Center [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- Content Publishing [app-content-publishing]
- Content Experiences [app-content-experiences]

コンテンツエクスペリエンス

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| コンテンツエクスペリエンス：キャンペーンの作成と公開 | ポータルコンテンツを含むキャンペーンを作成して公開し、コンテンツエクスペリエンスポータルに対して検証します。 | Orlando |
| コンテンツエクスペリエンス：ポータルプレビュー | キャンペーンマネージャーがポータルプレビューを使用してポータルコンテンツをプレビューできることを確認します。 | Rome |
| コンテンツエクスペリエンス：キャンペーンを公開する前の個々のコンテンツのプレビュー | キャンペーンマネージャーがキャンペーンの個々のコンテンツをプレビューできることを確認します。 | San Diego |

注:
以下のプラグインのアクティブ化が必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- Employee Center Core [app-ex-employee-center-core]
- Employee Center [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- Content Experiences [app-content-experiences]

### Content Governance

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| Content Governance - 新規コンテンツ要求 E2E ワークフロー | コンテンツ要求の作成からコンテンツの公開までのエンドツーエンドのテストを提供します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
以下のプラグインのアクティブ化が必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- Employee Center Core [app-ex-employee-center-core]
- Employee Center [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- Content Publishing [app-content-publishing]
- Content Experiences [app-content-experiences]
- Content Governance [app-content-governance]

### Content Publishing

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| Content Publishing：対象者 | コンテンツ公開の対象者の構成をテストします。 | Orlando |
| Content Publishing：SCA でのバナータイプのコンテンツの作成 | Content Publishing モジュールで Streamlined Content Authoring (SCA) を使用するときに [バナーを作成] タイプを作成できるようにします。 | Rome |
| Content Publishing：SCA でのスタイルコンテンツ (ビデオ) タイプのコンテンツの作成 | 管理者がコンテンツ公開を使用してビデオタイプであるスタイルコンテンツを作成できることを確認します。 | Rome |
| Content Publishing：ポータルコンテンツのスケジュール | Content Publishing デモポータルのテストコンテンツを作成してスケジュールします。 | Orlando |

注:
以下のプラグインのアクティブ化が必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- Employee Center Core [app-ex-employee-center-core]
- Employee Center [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- Content Publishing [app-content-publishing]
- Content Experiences [app-content-experiences]

## Essential SAFe

Essential SAFe クイックスタートテストには、Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe プラグイン (com.snc.sdlc.safe) と Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe - ATF テストプラグイン (com.snc.sdlc.safe.atf) を有効にする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Essential SAFe テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| Essential SAFe：機能テスト | 機能のグローバルランクの更新を確認します。 | Madrid |
| | SAFe 機能について以下を確認します。<br>• 実際の開始日は、ステータスが [実装]、[ステージング時の検証]、または [展開] に変更された後に入力されます。<br>• 実際の終了日は、ステータスが [リリース済み] または [キャンセル] に変更された後に入力されます。<br>• アクティブフラグが次の適切な値に設定されています。<br>○ ステータスが [リリース済み] または [キャンセル] に変更された場合は **false**、<br>○ その他すべての状態の場合は **true** です。 | Orlando |
| | PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** 機能の作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe 機能に変換できることを確認してください。<br><br>SAFe 機能をデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。 | Quebec |
| Essential SAFe：プログラム増分テスト | プログラムの増分の日付が重複していることを確認してください。 | Madrid |
| Essential SAFe：スプリントテスト | ART スプリントとチームスプリントの生成、およびスプリントポイントと日付の更新を確認します。 | Madrid |
| | アサイン先グループの [グループキャパシティ] フィールドが更新されると、このアサイン先グループに関連付けられてい | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Essential SAFe** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | るさまざまなスプリントの [グループキャパシティ] フィールドに以下の変更があることを確認してください。<br>• [ドラフト] または [計画] ステータスのスプリントの場合：<br>◦ グループキャパシティが新しい値に更新されます。<br>◦ [グループキャパシティ] フィールドは編集可能です。<br>• [現在]、[完了]、または [キャンセル] のステータスのスプリントの場合：<br>◦ グループキャパシティは古い値のままです。<br>◦ [グループキャパシティ] フィールドは読み込み専用です。<br><br>[ドラフト] または [計画] ステータスのスプリントについては、後でいつでもスプリントのグループキャパシティを個別に編集できます。これにより、このスプリントに関連付けられているアサイン先グループのグループキャパシティが変更されることはありません。 | |
| Essential SAFe：ストーリーテスト | ストーリーのグローバルランクの更新を確認します。 | Madrid |
| | SAFe ストーリーのアクティブフラグが次のように適切な値に設定されることを確認します。<br>• ステータスが [完了] または [キャンセル] に変更された場合、**False**。<br>• その他すべてのステータスの場合は true です。 | Orlando |
| | SAFe ストーリーの追加、評価、削除、削除、更新、またはキャンセルによって、SAFe | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Essential SAFe** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 機能レベルとエピックレベルのロールアップが正しく更新されることを確認します。 | |
| | SAFe ストーリーへの機能の追加、更新、または削除によって、[SAFe ストーリー] フォームの [エピック] フィールドが更新されることを確認します。 | |
| | PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** ストーリーの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe ストーリーに変換できることを確認してください。<br><br>SAFe ストーリーをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。 | Quebec |
| Essential SAFe：チームテスト | ART とチームの関連付けを確認します。 | Madrid |
| Essential SAFe：エピックテスト | SAFe エピックについて以下を確認します。<br>• 実際の開始日は、ステータスが [実装] に変更された後に入力されます。<br>• 実際の終了日は、ステータスが [完了] に変更された後に入力されます。<br>• アクティブフラグが次の適切な値に設定されています。<br>○ ステータスが [リリース済み] または [キャンセル] に変更された場合は、**false**。<br>○ その他すべての状態の場合は **true** です。 | Orlando |
| | PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** エピックの | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Essential SAFe** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe エピックに変換できることを確認してください。<br><br>SAFe エピックをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。 | |
| Essential SAFe：プログラム PI 目標テスト | PI 目標の作成と更新の機能を確認します。<br>• プログラムインクリメントレベルの目標を作成できることを確認します。<br>• 作成された PI 目標を計画されたビジネス価値 (PBV) と実際のビジネス価値 (ABV) で更新できることを確認します。<br>• PI のプログラムの PBV と比較して、達成されたビジネス価値のパーセンテージが、コミットされた PI 目標のみを対象とした ABV 完了率として計算されていることを確認します。 | Rome |
| Essential SAFe：チーム PI 目標テスト | チーム PI 目標を作成および更新する機能を確認します。<br>• チームレベル PI 目標を作成できることを確認します。<br>• 作成された PI 目標を計画されたビジネス価値 (PBV) と実際のビジネス価値 (ABV) で更新できることを確認します。<br>• PI のチームの PBV と比較して、達成されたビジネス価値のパーセンテージが、コミットされた PI 目標のみを対象とした ABV 完了率として計算されていることを確認します。 | Rome |

Essential SAFe の詳細については、「Essential SAFe」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## イベント管理

イベント管理 クイックスタートテストでは イベント管理 プラグイン (com.glideapp.itom.snac) をアクティブ化する必要があります。

### イベント管理 クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| EMSelfMonitoring | アップグレード後に、イベント管理 プラグインで問題を追跡します。検出された問題の詳細を理解するには、すべてのアラートのリストを開き、EMSelfMonitoring がソースになっていて、アップグレード後に開かれたか再び開かれた、失敗したアラートを検索します。フィルタリングの正確な時間はエラーメッセージで見つけることができます。 | Madrid |

Event Management の詳細については、「Event Management」を参照してください。

## フィールドサービス管理 **(FSM)**

フィールドサービス管理 (FSM) のクイックスタートテストは、フィールドサービス管理 (FSM) プラグイン (com.snc.work_management) を有効にすると実施できます。非本番インスタンスでデモデータプラグイン (com.snc.work_management.demo) を有効にして、アプリケーションで使用できるクイックスタートテストを開始します。フィールドサービス請負会社管理プラグイン (com.snc.fsm_contractor_management) を有効にして、外部請負会社関連のテストを実行します。また、既存のデータを変更してカスタマイズし、クイックテストを実行することもできます。

### FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| FSM：認定ディスパッチの開始および作業指示書タスクの割り当て | • 作業指示書を作成します。<br>• 作業指示書を開始して認定します。<br>• 作業指示書をディスパッチします。<br>• 作業指示書タスクをエージェントに割り当てます。 | Madrid |
| FSM：部品調達 | • 作業指示書タスクからエージェントのストックルームに任意の部品を調達します。<br>• 部品調達の転送注文明細を作成します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | • この部品を任意の作業指示書に使用し、部品使用率アクションを使用して消費します。 | |
| FSM：部品使用率 | • 作業指示書タスクからエージェントのストックルームに任意の部品を調達します。<br>• この部品を任意の作業指示書に使用し、部品使用率アクションを使用して消費します。 | Madrid |
| FSM：アンケート | アンケートを作成し、作業指示書タスクに関連付けます。 | Madrid |
| FSM：フィールドサービス構成 | タスクアサイン方法、認定要件、PDF サマリー、エージェントがタスクを承認または却下する機能など、デフォルト設定が保持されていることを確認します。 | New York |
| FSM：計画メインテナンス | 印刷メインテナンスの週次間隔で予定されているメインテナンス作業指示を作成します。 | New York |
| FSM：予約の設定 | 予約のデフォルト設定が保持されていることと、POS サービスとカタログアイテムがシステムに存在することを確認します。 | New York |
| FSM：作業またはパーソナルスケジュールを作成 | エージェントのパーソナルまたは作業スケジュールを作成します。 | Orlando |
| FSM：フィールドサービスプロパティ設定 | フィールドサービスシステムのプロパティに必要な値が保存されていることを確認します。 | Orlando |
| FSM：ワークグループ | フィールドサービスエージェントをワークグループに追加できることを確認します。 | Orlando |
| FSM: 動的スケジューリング - 必須部品の予約を含む優先技術者のアサイン | 動的スケジューリングでは以下を行えます。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | • 優先技術者はタスクのアサインに選択する必要があります。<br>• 必須部品はエージェントストックルームで予約する必要があります。<br><br>**注:** カスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグインをアクティブ化 | |
| FSM：タイムカードの作成 | 作業指示タスクでエージェントのタイムカードが作成されていることを確認します。 | Quebec |
| FSM：雑費を作成 | 作業指示タスクでエージェントの雑費が作成されていることを確認します。 | Quebec |
| FSM：請負会社のオンボーディング | 請負会社がアサイン先グループ、外部マネージャー、および外部エージェントにオンボーディングされていることを確認します。<br><br>**注:** フィールドサービス請負会社管理プラグインを有効にします。 | Quebec |
| FSM：外部マネージャーによる請負会社のオンボーディング | 外部請負会社マネージャーがフィールドサービス 請負会社管理ポータルから外部エージェントをオンボーディングできることを確認します。 | Quebec |
| FSM：外部請負会社マネージャーが作業指示タスクを履行 | 請負会社マネージャーまたはエージェントが、アサインされた作業指示タスクを履行できることを確認します。 | Quebec |
| FSM：ベンダーグループに作業指示タスクをアサイン | タスクの場所、設定パラメーターなど、定義された基準に基づいて作業指示タスクが外部アサイン先グループにアサインされていることを確認します。 | Quebec |
| FSM：作業指示タスクの一時停止と再開 | エージェントが作業指示タスクの作業を一時停止および再開できることを確認します。 | Rome |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| FSM：動的スケジューリング - 一致するスキルを持つ技術者にアサイン | 動的スケジューリングの場合：作業指示タスクが、タスクで言及されているすべての必須スキルを持つ技術者にアサインされていることを確認します。 | Rome |
| FSM：外部マネージャーによる請負会社エージェントのオフボーディング | 外部請負会社マネージャーがフィールドサービス 請負会社管理ポータルから外部エージェントをオフボーディングできることを確認します。 | Rome |
| FSM：外部請負会社マネージャーの資産の調達と使用 | 外部請負会社マネージャーが次のアクションを実行できることを検証します。<br>• 倉庫に部品を要求します。<br>• 部品を選択します。<br>• 転送オーダーをクローズします。<br>• 部品を使用して作業を実行します。 | San Diego |
| FSM：外部請負会社エージェントが作業指示タスクを履行 | 請負会社エージェントが、外部請負会社外マネージャーからアサインされた作業指示タスクを履行できることを確認します。 | San Diego |
| FSM：キャパシティスケジューリング - キャパシティに基づいてフィールドサービスエージェントに作業をアサイン | キャパシティ定義およびキャパシティアサインモジュールに記載されているルールと値が評価され、キャパシティに基づいてエージェントに作業がアサインされていることを確認します。 | Tokyo |
| FSM：外部アサイン先グループの追加マネージャーとしての外部請負会社エージェントのオンボーディング | 請負会社の外部エージェントをオンボーディングするときに、追加のマネージャーロールをエージェントにアサインできることを確認します。 | Tokyo |
| FSM：ディスパッチャワークスペース - タスクを実行するエージェントのグループを必要とする作業指示書タスクにクルーをアサイン | • クルーモデレーターロールを持つディスパッチャーがディスパッチャワークスペースでクルーを作成できることを確認します。<br>• クルーモデレーターロールを持つディスパッチャーがディスパッチャワークスペースで | Tokyo |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 予定されているクルーに作業指示タスクを割り当て可能であることを確認します。 | |
| FSM：作業指書示タスクは複数日タスクのスケジューリングをサポート | 複数日タスクスケジューリング機能を検証します。<br>• 作業指示、作業指示タスク、およびエージェントのスケジュールレコードを作成します。<br>• 作業指示タスクで [複数のスケジュールエントリでアサイン] オプションを選択します。<br>• タスク期間が 1 日を超える作業指示タスクにエージェントをアサインします。<br>• 作業指示タスクがエージェントに正常にアサインされ、予定終了時間が正しく設定されていることを確認します。 | Tokyo |

## ファイナンスクローズオートメーション

ファイナンスクローズオートメーション クイックスタートテストは、ServiceNow アプリケーションを ファイナンスクローズオートメーション ストアからインストールするときに利用できます。

**FCA** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| FCA：該当する月のサブセットテスト | 適用される月が、機能しているワークブックのサブセットのみであることを確認します。 | New York |
| FCA：日付の検証 | 日付に関連する計算が正しいことを確認します。 | New York |
| FCA：タスクリレーションシップ | 関係があるタスクについて、日付とステータスが正常に更新されていることを確認します。 | New York |
| FCA：親タスクとの関係 | 親タスクとの関係を持つタスクの日付とステータスが正しく更新されていることを確認します。 | New York |
| FCA：タスクのリセット | タスクがリセットされたときに、FCA ワークフローを確認します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**FCA** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| FCA：タスクの却下 | タスクが却下されたときに、FCA ワークフローを確認します。 | New York |
| FCA：JE タスクを作成 | ジャーナルエントリータスクタイプに対して ERP ソースが利用できることを確認します。 | New York |
| FCA：クローズ日としての負の値 | クローズ日に正の値と負の値の両方が許容されることと、予定日が正しく計算されていることを確認します。 | New York |
| FCA：日次決算チェックリストのクローズ日チェック | 日次決算ワークブックのクローズ日を検証します。 | New York |
| FCA：日次決算の予定終了日チェック | 日次決算ワークブックの予定終了日を確認します。 | New York |
| FCA：キックスタートエラー | キックスタート検証がすべて実行されていることを確認します。 | New York |
| FCA：最終タスク 1 件の検証 | 各職務ワークブックに最終タスクが 1 件だけ存在することを確認します。 | New York |
| FCA：機密タスク | 機密タスクの所有者、レビュー担当者、承認者のみがタスクを表示できることを確認します。 | New York |
| FCA：チェックリストの一意検証 | 特定の日または期間に対して、ワークブックが 1 件だけ作成されていることを確認します。 | New York |
| FCA：マイルストーンと JE の検証 | マイルストーンとジャーナルエントリータスクに子タスクが含まれていないことを確認します。 | New York |

## ファイナンシャルマネジメント

ファイナンシャルマネジメント クイックスタートテストでは ファイナンシャルマネジメント Core - ATF テストプラグイン (com.snc.financial_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

ITFM：**Financial Modeling** フローテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| FM コスト割り当てフローの確認 | Financial Modeling におけるコスト割り当てフローを確認します。 | Madrid |

ファイナンシャルマネジメントの詳細については、「ファイナンシャルマネジメント」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## Granular Delegation

Granular Delegation クイックスタートテストには、Granular Delegation (com.glide.granular_service_delegation) プラグインのアクティブ化が必要です。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| [委任] 管理者 - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加 | 代理人または委任者が HR タスクにアサインされたユーザー基準を遵守するようにします。 | Washington DC |

## GRC Audit Management

GRC: Audit Management クイックスタートテストでは Audit Management プラグイン (com.sn_audit) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

### GRC: Audit Management テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| GRC: 監査エンゲージメントを作成し、監査タスクを生成 | 監査エンゲージメントの作成を検証し、エンティティを関連付けてコントロールとテスト計画を生成します。テスト計画に関連付けられた監査タスクを生成します。 | Paris |
| GRC：マイルストーンを作成して処理 | エンゲージメントにマイルストーンを作成します。なお、期限日を過去の、完了日を未来の日付することはできません。オープン状態のマイルストーンの場合、完了率は 0 で、マイルストーンのステータスの変化に応じて変わります。 | Paris |
| GRC：コストとリソースプランのロールアップ | 監査プランを作成し、それにエンゲージメントを関連付けます。このエンゲージメントにコストプランとリソース計画を追加すると、これらのコストがプランにロールアップされる点に注意してください。エンゲージメントにおけるこれらのコストに対するすべての編集は、プランに反映されます。 | Paris |
| GRC：エンゲージメントプロジェクトマニュアルの作成および自動作成 | 検証ステータスのエンゲージメントについては、[詳細計画を有効にする] UI アクションが実行されている場合、エンゲージメントプロジェクトが作成され、「詳細計画機能」を持つ監査計画に関連付けられたエ | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GRC: Audit Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | ンゲージメントのステータスが [検証] に変更されると、エンゲージメントプロジェクトが自動的に作成されます。 | |
| GRC：詳細なリスクアセスメントを含む監査可能ユニット | 「詳細なリスクアセスメント」としてメソッドを含む監査可能ユニットを作成し、査定人を追加してリスクアセスメントを評価することを要求します。査定人が応答し、コントロールアセスメントと残存アセスメントを実行してアセスメントを完了としてマークした後、リスクアセスメントフィールドが自動的に更新される必要があります。 | Paris |

Audit Management の詳細については、「Audit Management」を参照してください。

## GRC Continuous Authorization and Monitoring

GRC：Continuous Authorization and Monitoring クイックスタートテストでは Continuous Authorization and Monitoring プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

**GRC: Continuous Authorization and Monitoring** クイックスタートテストテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| GRC：システム所有者による AB および AP の責任とロールの作成と検証 | システム所有者は、認証境界と認証パッケージの責任とロールを作成および検証します。<br><br>情報所有者とシステムユーザーは、認証境界を選択したときにあらかじめ設定されています。 | Quebec (Paris および Orlando と互換性がある) |
| GRC：システム所有者によるアプリモジュールの可視性の検証 | システム所有者ペルソナが [継続的な承認と監視] アプリケーションメニューを表示することでき、そのメニューに次のモジュールを表示できることを確認します。<br>• すべての認証境界<br>• すべての認証パッケージ<br>• 情報タイプライブラリー<br>• コントロールオーバーレイ<br>• コントロール目標 | Quebec (Paris および Orlando と互換性がある) |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GRC: Continuous Authorization and Monitoring** クイックスタートテストテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | • コントロール<br>• すべてのエンゲージメント | |
| GRC：システム所有者による要求の最初の認証と自分の認証モジュール | システム所有者が承認を要求します。 | Quebec (Paris および Orlando と互換性がある) |
| SO：AB および AP の責任とロールの作成と検証 | システム所有者が認証境界フォームのフィールドに入力して認証境界を作成できるかどうかを検証します。<br><br>また、同じ SO がフォームビューから認証パッケージを作成できるかどうかも検証します。 | Quebec (Paris および Orlando と互換性がある) |

Continuous Authorization and Monitoring の詳細については、「Continuous Authorization and Monitoring」を参照してください。

## GRC ポリシーとコンプライアンス管理

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストでは ポリシーとコンプライアンス管理 プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

**GRC:** ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| GRC：コントロールの作成 | コントロールの作成を検証します。 | Madrid |
| GRC: ポリシー例外とフローを作成 | ポリシー例外を作成して、そのステータス内を移動します。 | Paris |
| GRC: ポリシーライフサイクル | ポリシーを作成して、そのステータス内を移動します。 | Paris |

Policy and Compliance Management の詳細については、「Policy and Compliance Management」を参照してください。

## GRC リスク管理

GRC：リスク管理 クイックスタートテストでは リスク管理 プラグイン (com.sn_risk) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GRC:** リスク管理 クイックスタートテストテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| GRC：プロファイルの作成 | プロファイルの作成を検証します。 | Madrid |
| GRC：リスクの作成 | リスクの作成を検証します。 | Madrid |
| GRC：コントロールの作成 | コントロールの作成を検証します。 | New York |
| GRC：コントロール目標の作成とコントロールの生成 | コントロール目標の作成を検証し、プロファイルを関連付けてコントロールを生成します。 | New York |
| GRC：問題の作成 | 問題の作成を検証 | New York |
| GRC：問題を承認 | 問題の受け入れによってクローズされるまで、問題のすべてのステータスを検証します。 | New York |
| GRC：問題を修復 | 未解決の修正タスクを使用して、検証の問題をクローズすることはできません。 | New York |
| GRC：インジケーター向け ATF フロー (マニュアル)： | Type manual を使用してインジケーターテンプレートを作成し、コントロール目標をそれに関連付けます。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。クローズ済みとして作成されたインジケータータスクのステータスをマークし、失敗として結果を示します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。 | New York |
| GRC：インジケーター向け ATF フロー (ベーシック) | タイプが「基本」で、結果が「失敗」であるインジケーターテンプレートを作成します。コントロール目標をそれに関連付け、サポートデータを提供します。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。 | New York |
| GRC：インジケーター向け ATF フロー (スクリプト) | タイプスクリプトを使用してインジケーターテンプレートを作成し、スクリプトを入力し、結果の値を設定します。渡します。結果の値。コントロール目標を関連付けます。インジケーターの 1 つを実行します。関連コントロールは非適合となり、問題が生成されます。 | New York |

リスク管理の詳細については、「リスク管理」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ハードウェア資産管理

ハードウェア資産管理クイックスタートテストは、ハードウェア資産管理 (HAM) アプリケーションを ServiceNow Store からインストールするときに利用できます 。

### ハードウェア資産管理 テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| HAM - ハードウェア正規化 | 正規化されたメーカー、製品、およびモデルに基づいて、さまざまな正規化ステータス値を検証します。 | Orlando |
| HAM - ハードウェア資産処分ワークフロー | 資産処分ワークフローを検証します。 | Paris |
| HAM - 資産展開の自動化ワークフロー | 資産展開ワークフローを検証します。 | Paris |
| HAM - 資産スワップワークフローの自動化 | 資産の交換/スワップワークフローを検証します。<br>注:<br>デモデータが必要です。 | Paris |
| HAM - 標準ハードウェア資産要求フロー | ハードウェア資産管理 アプリケーションの一部である標準ハードウェア資産要求フローを検証します。 | Paris |
| HAM - ハードウェア資産のリフレッシュフロー | 資産リフレッシュワークフローを検証します。 | Quebec |
| HAM - 貸与資産の割り当てフロー | 貸与資産ワークフローを検証します。 | Quebec |
| HAM - リース契約資産有効期限 | リース契約資産有効期限のエンドツーエンドワークフローを検証し、リース契約の対象となる資産の返却または延長を実行します。 | Quebec |
| HAM - 資産 RMA フロー | インベントリユーザーで資産返品許可 (RMA) ワークフローを検証します。 | Rome |
| HAM：資産 RMA フロー (SP) | サービスポータルからの資産返品承認 (RMA) ワークフローを検証します。 | Rome |
| HAM - リース資産の返却 | インベントリ管理者ユーザーで貸与資産割り当てワークフローを検証します。 | Rome |
| HAM - 契約更改フロー | 契約マネージャーユーザーとの契約更改フローを検証します。 | Tokyo |

ハードウェア資産管理の詳細については、「ハードウェア資産管理」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

# HR サービスデリバリ (HRSD)

## HR サービスデリバリ (HRSD)ケーステスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| ケース作成の構成 | HR サービスにケース作成構成があり、その HR サービスの HR ケースを作成するときに [人事ケース] フォームに入力されることを検証します。 | Washington DC |
| ドキュメントテンプレートのブロックおよびブロックコンテンツの作成 | ドキュメントテンプレートのブロックとドキュメントテンプレートのコンテンツがブロックコンテンツ用に作成されていることを確認します。 | Washington DC |
| HR 従業員ドキュメントの作成 | 従業員ドキュメントを作成し、添付ファイル [sys_attachment] テーブルが従業員ドキュメント [sn_hr_ef_employee_document] テーブル内のレコードをポイントしていることを確認します。<br><br>従業員ドキュメントが、従業員人事プロファイルを介して 従業員センター または 従業員センタープロ からアクセス可能であることを確認します。 | |
| アクティブ化されているドキュメントタイプで従業員ドキュメントを作成 | 次のアイテムの作成を検証します。<br>• 1 つのアクティブなドキュメントタイプ<br>• 1 つの非アクティブなドキュメントタイプ<br>• アクティブなドキュメントタイプを持つ従業員ファイル<br><br>**注:** ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core (com.sn_hr_core) および Employee Document Management (com.sn_employee_document_management) をアクティブ化する必要があります。 | Washington DC |
| [委任] 管理者 - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加 | 委任ルールのユーザー基準が正しく機能していることを確認します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**HR** サービスデリバリ **(HRSD)**ケーステスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 一括ケース作成の E2E テスト | 特定のユーザーセグメントの選択したユーザーに対して一括ケースを作成できることを確認します。 | San Diego |
| ER：ケースの制限 | 制限付きケースを表示できるのは、sn_hr_er.confidential ロールを持つユーザーのみであることを検証します。 | San Diego |
| 人事：従業員に表示されるケースの更新 | 人事エージェントによって作成され、更新されたケースは、依頼者または対象者に表示されます。 | Quebec |
| 人事：ポータルからの 401k 登録ケースの作成 | 従業員センター または 従業員センタープロ から 401(k) 登録ケースを作成します。<br><br>ケースが正常に作成されたことを確認します。 | Madrid |
| 人事：ESC ポータルから Employee Relations ケースを作成 | 従業員センター または 従業員センタープロ から懲戒対象問題ケースを作成します。<br><br>ケースが正常に作成されたことを確認します。 | New York |
| 人事： ESC ポータルから雇用検証レターケースを作成 | 従業員センター または 従業員センタープロ から雇用確認レターケースを作成します。<br><br>ケースが正常に作成されたことを確認します。 | Madrid |
| 人事：ESC ポータルから給与ケースを作成 | 従業員センター または 従業員センタープロ から給与口座セットアップケースを作成します。<br><br>ケースが正常に作成されたことを確認します。 | New York |
| 人事：ポータルからの授業料払い戻し要求の作成 | 従業員センター または 従業員センタープロ から、奨学金制度のリクエストケースを作成します。<br><br>ケースが正常に作成されたことを確認します。 | Madrid |
| HR：実行手順 | オープン対象ユーザーの特定の条件に対して、実行手順が作成されることを確認します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**HR** サービスデリバリ **(HRSD)**ケーステスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | また、ケースの詳細が変更されたときに、実行手順が変更されることを確認します。 | |
| 人事：CoE 固有のフィールドの作業手順条件 | CoE 固有の作業手順の条件を確認します。<br><br>作業手順は、作業手順で定義された条件に基づいて人事ケースで更新します。 | Quebec |
| 人事：一般的な利点問い合わせケースの作成 | ネイティブ UI を使用して一般的な福利厚生ケースを作成します。<br><br>また、ケースの作成後にケースが開き、更新できることも確認します。 | Madrid |
| 人事：給与不一致ケースの作成 | ネイティブ UI を使用して給与不一致ケースを作成します。<br><br>また、ケースの作成後にケースが開き、更新できることも確認します。 | Madrid |
| HR：ケース転送の再分類 | 再分類手法を使用して (人事ケース番号は不変)、人事ケースがある COE (人事サービス) から別の COE に転送されることをテストします。 | Orlando |
| 人事：応答テンプレート構成 | 給与ケースの応答テンプレートを作成し、作業メモに応答を貼り付けます。 | Quebec |
| HR：ESC でのカタログアイテムと KB の検索 | 従業員センター または 従業員センタープロ の検索機能を検証します。 | Orlando |
| HR：標準ケースの転送 | 標準ケース転送を使用して (人事ケース番号を作成し、古い番号を削除)、人事ケースがある COE (人事サービス) から別の COE に転送されることをテストします 。 | Orlando |
| 人事：ケースフローの一時停止 | 人事ケースを一時停止し、後でそのケースを再開する機能をテストします。 | Rome |
| HR：奨学金制度ケースの作成 | 奨学金制度人事ケースをを作成します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**HR** サービスデリバリ **(HRSD)**ケーステスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| HR：人員管理ケースの作成 | 人員管理ケースを作成し、雇用証明書に署名し、書類を生成します。 | Orlando |
| JA：計画詳細の公開および編集 | アクションプランの既存のタスクを削除できるかどうかを確認します。 | San Diego |
| Journey Designer：ステージの作成とステージの編集 | ユーザーが新しいステージの作成、ステージへのタスクテンプレートの追加、ステージ名の編集、ステージの削除を実行できることを確認します。 | Vancouver |
| Journey Designer：タスクテンプレートのゼロからの追加と編集 | ユーザーが [ゼロから構築します] オプションを使用してタスクテンプレートを追加でき、その後で編集できることを確認します。 | Vancouver |
| Journey Designer：既存のタスクテンプレートの追加と削除 | [テンプレートを使用] オプションを使用してタスクテンプレートを Journey テンプレートに追加でき、その後で削除できることを確認します。 | Vancouver |
| Learning コアタスクのアサイン | 学習カタログの学習タスクをユーザーにアサインできることを確認します。 | San Diego |

**注:**
以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員サービスセンター (ESC) [com.sn_hr_service_portal]

ライフサイクルイベント：ライフサイクルイベントの確認テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 自動ケースクローズ用に人事サービスを設定 | ライフサイクルイベントケースが自動的にクローズされることを確認します。 | Orlando |
| 従業員リクエストを作成し、LE ケースに関連付ける | 従業員リクエストを作成し、ライフサイクルイベントケースのアクションリストに表示されることを検証します。 | Rome |
| 古いチケットページの従業員リクエストを作成 | 従来のチケットページから従業員リクエストを作成できるかどうかを検証します。 | Washington DC |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライフサイクルイベント：ライフサイクルイベントの確認テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| [委任] 管理者 - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加 | 委任者および委任ユーザーの委任ルールに対してユーザー基準が機能していることを確認します。 | Washington DC |
| 人事ライフサイクル：従業員サービスセンター (ESC) の NewHire オンボーディングケースのチケットページにアクセス | 新規雇用の作成と、従業員サービスセンター (ESC) のチケットページにアクセスできることを確認します。 | Orlando |
| HR ライフサイクル：ESC チケットページおよびタスクページにアクセスしてアサインされたタスクを完了 | 従業員サービスセンター (ESC) から奨学金の要求ケースを作成し、対象者から完全な NDA タスクを作成します。 | Orlando |
| 人事 LifeCycle ：新入社員研修依頼ケースの作成 | ネイティブ UI を使用して新入社員研修依頼ケースを作成し、作成後にケースを更新します。 | Madrid |
| 人事ライフサイクル：取り消しトリガーワークフロー | 新規雇用オンボーディングライフサイクルイベントケースの取り消しワークフローをトリガーします。 | Quebec |
| HR ライフサイクル：オープンおよびクローズ済みケースの要求ページを確認 | [要求] ページでオープンケースとクローズ済みケースを確認します。 | Orlando |
| HR ライフサイクル：[要求] ページで検索を確認 | [要求] ページでオープンケースとクローズ済みケースの検索機能を確認します。 | Orlando |
| [LE]：アドホックタスクを追加 | ライフサイクルイベントケースのアドホックタスクを追加できることを確認します。 | Washington DC |

**注:**
以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：ライフサイクルイベント [com.sn_hr_lifecycle_events]
- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Lifecycle Events for Enterprise プラグイン [com.sn_hr_lifecycle_ent]
- 従業員サービスセンター (ESC) [com.sn_hr_service_portal]

KB：ナレッジブロックテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| ナレッジブロックを作成し、ブロックを記事に添付 | ナレッジブロックを作成し、ブロックを公開し、ブロックをナレッジ記事に添付します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KB：ナレッジブロックテスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| ナレッジ記事とナレッジブロックのプレビュー | ナレッジブロックを含むナレッジ記事のプレビューをテストします。 | New York |

**注:**
ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリのプラグインのアクティブ化が必要です：コアプラグイン (com.sn_hr_core)

HR サービスデリバリ (HRSD) の詳細については、「HR サービスデリバリ (HRSD)」を参照してください。

## インシデント管理

インシデント管理 クイックスタートテストでは インシデント管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.incident.atf) をアクティブ化する必要があります。

**Incident Management** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| INCIDENT MGMT：インシデント解決 SLA | インシデント解決 SLA ベースライン機能を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデント応答 SLA | インシデント応答 SLA ベースライン機能を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントのコピー | 元のインシデントのフィールドが新しいインシデントに正しくコピーされているかどうかを確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：クローズ済みインシデントからインシデントをコピーします。 | クローズ済みインシデントに対して [インシデントのコピー] UI アクションが表示されることを確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからの標準的な変更の作成 | インシデントからの標準的な変更の作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからの緊急の変更の作成 | インシデントからの緊急の変更の作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからの通常の変更の作成 | インシデントからの通常の変更の作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからの問題の作成 | インシデントからの問題の作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからのナレッジの作成 | インシデントからのナレッジの作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントステータスフロー | インシデントのステータスフローを確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントの再開 | インシデントの再開機能を確認するテスト | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Incident Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| INCIDENT MGMT：インシデント割り当て | インシデント割り当て機能を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：UI アクションを使用して子インシデントを作成し、そのフィールドを確認します。 | [子インシデントを作成] UI アクションを使用して、インシデントからの子インシデントの作成を確認するテスト。このテストは、子インシデントのフィールドが親インシデントから子インシデントに正しくコピーされたことも確認します。 | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントの作成 - セルフサービス | [インシデントの作成] カタログアイテムを使用して、インシデントの作成を確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：親と子のインシデントのステータスの同期 | 子インシデントが作成されたときに、子インシデントのステータスが親インシデントと同期されていることを確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントを再開した後に、親と子のインシデントのステータスが同期されます。 | 親インシデントが再開されたときに、子インシデントのステータスが親インシデントと同期されていることを確認するテスト | Madrid |
| INCIDENT MGMT：インシデントからのナレッジ記事の作成の確認 | インシデントフォームで [ナレッジの作成] UI アクションを使用して、インシデントからナレッジ記事を作成できることを確認するテスト。UI アクションは、Incident Management プラグイン (com.snc.incident.knowledge) の KCS 統合をアクティブ化すると表示されます。 | Orlando |

Incident Management の詳細については、「Incident Management」を参照してください。

## CMDB 共通統合

### CMDB INT：CMDB 統合検証テストスイート

複数のテストを使用して統合の整合性を検証するためのテストスイート。

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMDB INT：テストセッションアプリケーションを設定 | サーバー側スクリプトを変更して、1 つのデータ連携のみをテストできるようにアプリケーション名を設定します。それ以外の場合は、すべての統合がテストされます。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**CMDB** INT：**CMDB** 統合検証テストスイート
複数のテストを使用して統合の整合性を検証するためのテストスイート。

(続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| CMDB INT：ソース分析に対するテスト | CMDB データ連携ソース分析 (sn_cmdb_int_util_cmdb_integration_source_analysis) テーブルの値とのデータ連携をテストします。 | Paris |
| CMDB INT：アプリケーションフィードを検証 | データ連携内のすべてのアプリケーションフィードを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：検出ソースを検証 | 検出ソースが存在することを検証します。 | Paris |
| CMDB INT: エンティティマッピングを検証 | データ連携のすべてのエンティティマッピングを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：フィールドを検証 | CMDB 統合のフィールドを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：ルックアップを検証 | CMDB データ連携ルックアップを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：必須操作を検証 | マップされたフィールドに必須操作のすべての統合が存在することを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：操作を検証 | データ連携のすべての操作を検証します。 | Paris |
| CMDB INT：参照を検証します | CMDB データ連携リファレンスを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：関連エントリを検証します | 関連するエントリーのデータディクショナリに対して、関連するすべてのクラスを検証します。 | Paris |
| CMDB INT：リレーションシップを検証 | CMDB 統合リレーションシップを検証します。 | Paris |

CMDB 共通統合 の詳細については、「CMDB 共通統合」を参照してください。

## 投資枠管理

投資枠管理 クイックスタートテストでは 投資枠管理 - ATF Tests プラグイン (com.snc.investment_planning.atf) をアクティブ化する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

投資枠管理 クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| トップダウンの資金提供と資金回収の検証 | • 資金提供時に、上位投資から子投資に正確な金額が割り当てられていることを確認します。<br>• 資金回収時に、子投資から上位投資に正確な金額が回収されていることを確認します。 | Orlando |
| ボトムアップ資金調達の検証 | • 子投資から親投資に正確な金額が要求されていることを確認します。<br>• 子投資から親投資に正確な金額が分配されていることを確認します。 | Paris |

Investment Funding の詳細については、「Investment Funding」を参照してください。

## ナレッジ管理

ナレッジ管理クイックスタートテストでは、Knowledge Management コアプラグイン (com.glideapp.knowledge)、Knowledge Management Advanced Installer プラグイン (com.snc.knowledge_advanced.installer)、ナレッジブロックプラグイン (com.snc.knowledge_blocks)、カスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグイン (com.snc.customerservice.demo) のアクティブ化が必要です。

**KM ：Knowledge Management** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| KM：承認公開ワークフローを使用して KCS テンプレート記事を作成する | 承認公開ワークフローを使用して、KCS テンプレート記事の作成を確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Madrid |
| KM：承認公開ワークフローを使用してマルチバージョンの標準記事を作成する | 承認公開ワークフローを使用して、マルチバージョン管理された標準記事の作成を確認します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**KM ：Knowledge Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | |
| KM：記事レベルのサブスクリプション | ユーザーがナレッジ記事に登録できることを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | New York |
| KM：ナレッジベースの canRead と canContribute および記事レベルでの canRead をカバーするユーザー基準 | ナレッジベースに対して canRead および canContribute ユーザー基準が作成され、記事に対して canRead ユーザー基準が作成されていることを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management コアプラグインが必要です。 | Madrid |
| KM：ケースから KCS 記事を作成する | ケースから KCS 記事が作成されたことを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer およびカスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグインが必要です。 | Madrid |
| KM：ナレッジベースレベルのサブスクリプション | ユーザーが ナレッジベース に登録できることを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | New York |
| KM：AQI | AQI チェックリストの作成、アサイン、レビューを確認します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**KM** ：**Knowledge Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | |
| KM：要求者が検索を実行して、記事を表示し、フィードバックを提供 (フィードバックタスクには役立たない) | 検索リクエスト、レビュー、役に立たないというフィードバックのプロビジョン、ナレッジ管理 サービスポータル での記事へのフィードバックタスクの作成を確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | New York |
| KM：フィードバックタスクフォームから記事を作成および編集する | [記事の作成] および [記事の編集] ボタンが [ナレッジフィードバックタスク] フォームで利用できることを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | New York |
| KM：固定記事を検索し、最高クリックランクを確認 | 検索要求を検証して、ナレッジ検索 (ts_query_kb) テーブルに固定記事のクリックランク値が追加されていることを確認します。<br>注:<br>Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | New York |
| KM：所有グループを作成し、編集権限およびサブスクリプションを確認 | 所有権グループに記事をアサインしたことを確認し、その所有権グループのメンバー全員が記事に登録され、編集権限が割り当てられていることを確認します。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**KM ：Knowledge Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | **注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | |
| KM：ナレッジ記事とナレッジブロックの作成、検索、および表示 | ナレッジブロックの作成とナレッジ記事への追加を確認します。また、ナレッジブロックコンテンツが検索可能であることを確認します。<br>**注:** ナレッジブロックプラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：ナレッジ - 廃止承認ワークフローの検証 | 公開されたナレッジ記事を廃止して、ナレッジ - 承認の廃止ワークフローが成功することを確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：所有グループマネージャーへのフィードバックタスクアサインの検証 | ナレッジ記事の所有権グループマネージャーへのフィードバックタスクのアサインを確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：記事テンプレートセレクターにナレッジベースと記事テンプレートが含まれていることの検証 | 記事テンプレートセレクターに、寄稿アクセス権のあるすべてのナレッジベースと各ナレッジベースに適用可能な記事テンプレートが含まれていることを確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer が必要です。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**KM** ：**Knowledge Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| KM：公開承認ワークフローの検証 | 承認プロセスを通じて、ナレッジ記事を取り消し、却下してから承認することで、ナレッジ - 承認公開ワークフローが成功することを確認します。<br>注: Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：古いバージョンの記事を最新バージョンにする | 古いバージョンのナレッジ記事が最新バージョンになることを確認します。<br>注: Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：関連記事ウィジェットにマップされた関連記事が表示されることの検証 | ナレッジ記事にマップされた関連記事が、 ナレッジ記事ビューページの関連記事ウィジェットに表示されることを確認します。<br>注: Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：マップされた関連カタログアイテムが関連アイテムウィジェットに表示されることの検証 | ナレッジ記事にマップされた関連カタログアイテムが、ナレッジ記事ビューページの関連アイテムウィジェットに表示されることを確認します。<br>注: Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Orlando |
| KM：バージョンニングされた記事が作成、公開、チェックアウト、および廃止されたことを検証 | エージェントワークスペース でナレッジ記事を作成、公開、更新、および廃止することで、バージョニングされたナレッジ | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**KM ：Knowledge Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 記事での UI アクションの成功を確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | |
| KM：ナレッジ記事のスケジュール済みの公開機能を確認 | 公開承認ワークフローで記事を作成し、その記事を公開するためにスケジュールを設定し、ステータスが[公開予定] から [公開済み] に変更することを確認することで、ナレッジ記事のスケジュール済みの公開機能を確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Quebec |
| KM：Agent Workspace でのナレッジ - 廃止承認ワークフローの検証 | Agent Workspace での承認プロセスを通じて、ナレッジ記事を取り消してから承認することで、ナレッジ - 承認公開ワークフローが成功することを確認します。<br>**注:** Knowledge Management Advanced Installer プラグインが必要です。 | Quebec |

Knowledge Management の詳細については、「Knowledge Management」を参照してください。

## 法務要求管理

法務要求管理 クイックスタートテストでは、次のアプリをインストールする必要があります。

- 法務要求管理 (sn_lg_ops)
- 法務顧問センター (sn_lg_workspace)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

法務要求テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| LRM：プライバシー要求テスト | プライバシーに関する法務要求の送信と履行を検証するテスト | Utah |

の詳細については 法務要求管理、次を参照してください。 法務要求管理.

## 重大なインシデント 重大インシデント管理

重大インシデント管理 クイックスタートテストでは、Incident Management - Major Incident Management プラグイン (com.snc.incident.mim) をアクティブ化する必要があります。

MIM：重大なインシデントの管理テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| MIM：重大なインシデントの作成 | アプリケーションナビゲーションモジュールから重大なインシデントを作成できることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデント候補の作成 | ナビゲーションメニューから [重大なインシデント候補の作成] モジュールを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデント候補からの重大なインシデントの作成 | 重大なインシデント候補から重大なインシデントを作成できることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデントの管理トリガールールに一致したときに重大なインシデント候補を作成 | 重大なインシデントを作成する条件が重大なインシデントの管理トリガールールに一致したときに、重大なインシデント候補が作成されることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデントの提案 (アサイン先グループが空のとき) | インシデントが重大なインシデントとして提案されたときに [アサイン先グループ] フィールドと [担当者] フィールドが空の場合に、重大なインシデント候補が自動アサインされることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデントの提案 (アサイン先グループが空でないとき) | インシデントが重大なインシデントとして提案されたときに [アサイン先グループ] フィールドと [担当者] フィールドが空でない場合に、重大なインシデントが自動アサインされることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：候補を重大なインシデントに昇格 (アサイン先グループが空のとき) | 候補が重大なインシデントに昇格したときに [アサイン先グループ] が空の場合に、重大な | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MIM：重大なインシデントの管理テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | インシデントが自動アサインされることを確認するテスト | |
| MIM：候補を重大なインシデントに昇格 (アサイン先グループが空でないとき) | 候補が重大なインシデントに昇格したときに [アサイン先グループ] が空でない場合に、重大なインシデントが自動アサインされることを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデント候補の却下 | 重大なインシデント候補の却下を確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデントの降格 | 重大なインシデントがインシデントに降格したかどうかを確認するテスト | Orlando |
| MIM：重大なインシデントのクローズ | 重大なインシデントのクローズ機能を検証するテスト | Orlando |
| MIM：ICP および ICT とのステータス同期 | インシデントコミュニケーション計画およびインシデントコミュニケーションタスクとのステータスの同期を確認するテストです。 | Orlando |
| MIM：条件に基づいてインシデントが ICP に添付され、ステータスが ICT と同期される | 定義された条件に基づいてインシデントコミュニケーション計画がインシデントに関連付けられることを確認するテストです。 | Orlando |
| MIM：MI と PIR の解決 | 重大なインシデントの解決とインシデントの事後レポートを確認するテストです。 | Orlando |
| MIM：重大なインシデントワークベンチレイアウト確認 | 重大なインシデントワークベンチレイアウトを確認するテストです。 | Orlando |
| MIM：MI ワークベンチからのコミュニケーションタスクの確認 | MI ワークベンチからのコミュニケーションタスクを確認するテストです。 | Orlando |

Major Incident Management の詳細については、「Major Incident Management」を参照してください。

## オンコールスケジューリング

On-Call Scheduling プラグイン (com.snc.on_call_rotation) をアクティブ化して、オンコールスケジューリング クイックスタートテストを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オンコール：**On-Call Scheduling ATF** スイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| オンコール：PTO 承認設定が許可されていない場合の休暇の要求の確認 | PTO 承認設定が [許可されていません] に設定されている場合に休暇を要求できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：テンプレートを選択せずに重複するシフトを作成 | テンプレートを選択せずに、重複するシフトを作成できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：シフトの重複を許可する設定が [いいえ] に設定されている場合の重複するシフトの作成 | [重複を許可 **(Allow overlap)**] が [いいえ] に設定されている場合に、重複するシフトを作成できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：PTO 承認設定が [承認あり] の場合の休暇の要求 | PTO 承認設定が [承認あり] に設定されている場合に休暇を要求できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：オンコールスケジュールを維持するシフトマネージャーのアサイン | シフトマネージャーがオンコールスケジュールを維持できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：ユーザー名でオンコールスケジュールを検索 | ユーザー名でオンコールスケジュールを検索できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：グループ名またはスケジュール名でオンコールスケジュールを検索 | グループ名またはスケジュール名でオンコールスケジュールを検索できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：エスカレーションルールが「着信シフトにエスカレート」の重複シフトの勤務表詳細 | エスカレーションルールが [着信シフトにエスカレート] に設定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。 | Orlando |
| オンコール：タイムゾーンオプションを使えるカレンダープレビュー | カレンダープレビューでタイムゾーンオプションを利用できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：テンプレートを選択して重複するシフトを作成 | 重複するシフトをテンプレートを選択して作成できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：アクティブなシフトを表示 | | Orlando |
| オンコール：シフトフォームからシフトのドラフトを作成/公開 | シフトを公開/公開中止できるかどうか、勤務表のステータスを [ドラフト] と [公開] でフォームから切り替えられるかどうかを確認します。 | Orlando |
| オンコール：エスカレーションルールが「送信シフトにエスカ | エスカレーションルールが [送信シフトにエスカレート] に設 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オンコール：**On-Call Scheduling ATF** スイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| レート」の重複シフトの勤務表詳細 | 定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。 | |
| オンコール：エスカレーションルールが「すべてのシフトにエスカレート」の重複シフトの勤務表詳細 | エスカレーションルールが [すべてのシフトにエスカレート] に設定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。 | Orlando |
| オンコール：オンコールワークベンチの確認 | オンコールワークベンチのレイアウトを確認するテスト | Orlando |
| オンコール：シフトを非表示または表示 | オンコールカレンダーからシフトを非表示または表示にできるかどうかを確認します。 | Orlando |

On-Call Scheduling の詳細については、「On-Call Scheduling」を参照してください。

## 測定基準インテリジェンス

測定基準インテリジェンス クイックスタートテストでは 測定基準インテリジェンス プラグイン (com.snc.sa.metric) をアクティブ化する必要があります。

測定基準インテリジェンス クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| OI：健全性評価指標の収集 | 以下を検証する個別のテストです。<br>• 実行中の 測定基準インテリジェンス メトリック拡張機能が少なくとも 1 つあること。<br>• メトリックから CI テーブルに「健全性評価指標」のエントリーがあること。<br>• 現在実行中の各 測定基準インテリジェンス メトリック拡張機能について、MetricBase にデータが格納されていること。<br><br>テストが最初に失敗した場合は、測定基準インテリジェンス メトリック拡張機能が少なくとも 10 ～ 15 分間実行されるまで待ちます。それからもう一度やり直してください。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

測定基準インテリジェンス の詳細については、「測定基準インテリジェンス」を参照してください。

## 予測インテリジェンス

予測インテリジェンスクイックスタートテストでは、予測インテリジェンス [com.glide.platform_ml] プラグインを有効にする必要があります。既存の機械学習ソリューションで重要なアップグレードテストを実行するには、基本認証設定テーブル (sys_auth_profile_basic.list) で *ml_atf* という名前の基本認証プロファイルを作成する必要があります。テストを正常に実行するには、 *ml_atf* 認証プロファイルに添付されたユーザーに ml_admin ロールを割り当てる必要があります。

予測インテリジェンス：分類と類似ソリューションの予測テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| PI ： ML モデルのアーティファクトの存在を Glide に保持 | ML の予測呼び出しを正常に完了させるため、モデルトレーニング/インスタンスのクローン後に、トレーニング済み ML モデルアーティファクトがすべて Glide (sys_attachments テーブル) に保存されていることを確認します。 | New York |
| PI ： Glide 内の ML ユーザー (sharedservice. worker) の設定が有効 | モデルトレーニングを成功させるため、Glide 内の ML ユーザー (sharedservice.worker) がアクティブであり、ログアウトしていないことを検証します。 | New York |
| PI ：分類ソリューションのための Glide アップグレードテスト | Glide アップグレード後に、既存のアクティブなモデルでの分類モデル予測が、クラスメンバーシップと信頼値に関して同じ結果を生成していることを検証します。 | New York |
| PI ：類似ソリューションのための Glide アップグレードテスト | Glide アップグレード後に、アクティブなモデルで類似性モデル予測 API が正しく呼び出されることを検証します。 | New York |

## 問題管理

問題管理 クイックスタートテストでは、問題管理ベストプラクティス - Madrid プラグイン (com.snc.best_practice.problem.madrid) および 問題管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.problem.atf) をアクティブ化する必要があります。すべてのステータスに関連するテストでは、Problem Management ステータスモデル (com.snc.best_practice.problem.madrid.state_model) プラグインがアクティブである必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**PRB MGMT** ： **Problem Management** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| PRB MGMT：問題のステータスが [評価] の場合に問題をキャンセルする | [評価] 状態の問題がキャンセルされたときに、問題の状態が[クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [キャンセル済み] になっていることを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のステータスが [根本原因分析] の場合に問題をキャンセル | 問題が [根本原因分析] 状態でキャンセルされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [キャンセル済み] になっていることを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のステータスが [評価] の場合に問題を重複としてマークする | 問題が [評価] 状態で、重複としてマークされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [重複] になっていることを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のステータスが [根本原因分析] の場合に問題を重複としてマークする | 問題が [根本原因分析] 状態で、重複としてマークされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [重複] になっていることを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed: true、状態：Work in Progress) | 問題の状態が [解決の進行中] で、リスクが受け入れられたときに、問題の状態が [解決済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。<br>**注:** 問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が false である場合にテストは有効です。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed: true、状態：解決の進行中) | 問題の状態が [解決の進行中]で、リスクが受け入れられたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**PRB MGMT ： Problem Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | **注:**<br>問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が true である場合にテストは有効です。 | |
| PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed: false、状態：根本原因分析) | 問題の状態が [根本原因分析] で、リスクが受け入れられたとき、問題の状態が [解決済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。<br>**注:**<br>問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が false である場合にテストは有効です。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed: true、状態：根本原因分析) | 問題の状態が [根本原因分析] で、リスクが受け入れられたとき、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。<br>**注:**<br>問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が true である場合にテストは有効です。 | Madrid |
| PRB MGMT：ステータスが [根本原因分析] から [クローズ済み] で [リスク受け入れ済み] の問題を再分析する | 問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [リスク受け入れ済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**PRB MGMT ： Problem Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | [根本原因分析] に変更されたことを確認します。 | |
| PRB MGMT：問題からの緊急の変更の作成 | 問題からの緊急の変更の作成を確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題からの通常の変更の作成 | 問題からの通常の変更の作成を確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題ステータス管理 | 問題ステータス管理を確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：完了からの問題の再分析 | 問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [修正適用済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：ステータス評価からキャンセルされた問題の再分析 | 問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [キャンセル済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：ステータスの根本原因分析からキャンセルされた問題を再分析する | 問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [キャンセル済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：解決の進行中ステータスからクローズ済みリスク受け入れ済みになった問題を再分析する | 問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [リスク受け入れ済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：問題からの既知のエラー記事の作成 | 問題から既知のエラー記事が作成されたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：インシデントのリスク受け入れの理由 | リスク受け入れ済みの理由が、問題の解決を待機しているインシデントにコピーされたことを確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：修正の連絡 | 修正の連絡機能を確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：ワークアラウンドの連絡 | ワークアラウンドの連絡機能を確認します。 | Madrid |
| PRB MGMT：インシデントの情報の修正 | 問題が解決されたときに、問題の解決を待機しているインシデントの状態が [解決済み] に変更されたことを確認します。問 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**PRB MGMT** ： **Problem Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | 題の修正メモがインシデントにコピーされます。 | |
| PRB MGMT：問題タスク (タイプ：全般) ステータス管理 | 全般タイプの問題の問題タスクステータス管理を確認します。 | Madrid |

Problem Management の詳細については、「Problem Management」を参照してください。

## プロジェクトポートフォリオ管理

プロジェクトポートフォリオ管理 クイックスタートテストでは、PPM 標準 - ATF テストプラグイン (com.snc.financial_planning_pmo.atf) をアクティブ化する必要があります。

### PMO：コストロールアップとプロジェクト変換テストスイートに対するデマンドを確認するための財務テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| PMO：プロジェクト/デマンドおよびプログラムへのコスト計画のロールアップを確認 | プロジェクトからの総計画コストのロールアップとプログラムへのデマンドを検証します。 | Madrid |
| PMO：プロジェクト/デマンド、プログラム、ポートフォリオへのコスト計画のロールアップを確認 | プロジェクトからの総計画コストのロールアップとポートフォリオへのデマンドを検証します。 | Madrid |
| PMO：デマンドから作成されたプロジェクトの財務を確認 - 単純な財務 | デマンドから作成されたプロジェクトの財務タブフィールドを検証します。 | Madrid |
| PMO：デマンドから作成されたプロジェクトの財務を確認 - 予算、コスト計画、利益計画を使用 | デマンドから作成されたプロジェクトの予算、コスト計画、利益計画を検証します。 | Madrid |
| PMO：コスト計画ブレークダウンとプロジェクトレベルで ETC/EAC を確認 | コスト計画ブレークダウンとプロジェクトレベルで EAC と ETC の値を確認します。 | Tokyo |

### PMO：アイデアのライフサイクルを検証するための **Innovation Management** テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| アイデアのステータス変更を検証 | アイデアが承認、却下、またはその他のタスクがアイデアから作成されたときに、アイデアのステータスが変更されることを検証します。 | San Diego |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するための **Project Management** テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| アイデアから、デマンド、プロジェクト終了までの PPM サイクルを検証する | アイデアを作成し、そのアイデアをデマンドに変換してから、そのデマンドをプロジェクトに変換するまでのフローを検証します。<br>**注:** PPM Standard Multicurrency (com.snc.ppm_multicurrency) プラグインが有効である場合、このテストは失敗します。 | Madrid |
| 自動プロジェクトのためのステータスおよび日付のロールアップの検証 | 自動タイプのプロジェクトのタスクから日付とステータスのロールアップを検証します。 | Madrid |
| 手動プロジェクトのためのステータスおよび日付のロールアップの検証 | 手動タイプのプロジェクトのタスクから日付とステータスのロールアップを検証します。 | Madrid |
| すべてのタスクが未完了でクローズされた場合のプロジェクト完了率の検証 | すべてのタスクが「未完了でクローズ」としてクローズされた場合に、プロジェクトの完了率を検証します。 | Orlando |
| 少なくとも 1 つのタスクが未完了でクローズされた場合にプロジェクトの完了率が 100% でないことを検証 | 少なくとも 1 つのタスクが「未完了でクローズ」またはタスク完了率が 100% でない「スキップしてクローズ」としてクローズされた場合に、タスクの完了率が 100% でないことを検証します。 | Orlando |
| ウォーターフォールプロジェクトにアジャイル計画ボードが表示されないことを検証 | ウォーターフォールプロジェクトが以下を使用できないことを検証します。<br>• ストーリーまたはエピックを追加<br>• アジャイルフェーズの追加<br>• プロジェクトからアジャイルボードにアクセス | Orlando |
| 検証日は既存のプロジェクトからプログラムにロールアップされます。 | プロジェクトの開始日と終了日が、プロジェクトが属するプログラムにロールアップされていることを検証します。 | Paris |
| 検証日は新しいプロジェクトからプログラムにロールアップされます。 | 新しいプロジェクトの開始日と終了日が、プロジェクトが属するプログラムにロールアップされていることを検証します。 | Paris |
| リスクまたは問題のあるプロジェクトとデマンドをプログラムに追加 | リスクまたは問題レコードが関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。 | Paris |
| 給付制度を含むプロジェクトとデマンドのプログラムへの追加 | 給付制度が関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するための **Project Management** テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| コスト計画を含むプロジェクトとデマンドのプログラムへの追加 | コスト計画が関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。 | Paris |
| 既存のデマンドの追加時に、プログラムの日付を検証 | 既存のデマンドの追加時に、プログラムの開始日と終了日が調整されていることを検証します。 | Paris |
| 新しいデマンドの追加時に、プログラムの日付を検証する | 新しいデマンドの追加時に、プログラムの開始日と終了日が調整されていることを検証します。 | Paris |
| プログラムのステータスのロールアップを検証 | プログラムのステータスが、プログラムにあるすべてのプロジェクトのステータスからロールアップされていることを検証します。 | Paris |
| デマンドタスクの期日列フィールド値が空であることを検証 | 新しいデマンドタスクの [期日] フィールドが空であることを検証します。 | Rome |
| デマンドがプロジェクトに変換されるときに、プロジェクトとデマンドにベースラインが作成されることを検証 | デマンドがプロジェクトに変換されるときに、プロジェクトとデマンドのベースラインが作成されることを検証します。 | Rome |
| タイムカードがデマンドタスクに対して送信されたときに、タイムカード財務情報がオンデマンドで表示されることを検証 | デマンドタスクのタイムカードが処理されるときに、デマンドの実際のコストが更新されることを検証します。 | Rome |
| デマンド承認日の検証 | デマンドとそのデマンドから作成されたプロジェクトの承認日が同じであることを検証します。 | Tokyo |
| プロジェクト設定「作業ステータスに移行したら、プロジェクトマイルストーンタスクを閉じる」を検証 | プロジェクト設定「作業ステータスに移行したら、プロジェクトマイルストーンタスクを閉じる」を設定した後に、ステータスが [対応中] に変更されたときにマイルストーンタスクが閉じることを検証します。 | Tokyo |
| プロジェクト設定「WIP プロジェクトのプロジェクトの移動を有効にする」を検証 | プロジェクト設定「WIP プロジェクトのプロジェクトの移動を有効にする」を設定した後に、プロジェクト開始日が変更されたときに、WIP ステータスのプロジェクトのプロジェクト開始日が適切に変更されることを検証します。 | Tokyo |
| プロジェクト設定「タスクに基づくプロジェクト開始日のロールアップ」を検証 | プロジェクト設定「タスクからプロジェクト開始日をロールアップ」を選択解除した後、プロジェクト予定日がプロジェクトタスク開始日と異なる場合に、プロジェクトタスクの開始日がプロジェクトにロールアップされないことを検証します。 | Tokyo |
| 子テストスイート：プロジェクト移動アクションの検証 | | |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するための **Project Management** テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| プロジェクト移動アクションを使用してプロジェクトの開始予定日をシフトできることを検証 | [プロジェクト移動] 関連リンクを使用して、ステータスが [計画] または [オープン] のプロジェクトの開始予定日を現在の開始予定日より前または後の日付に更新できることを検証します。 | Orlando |
| プロジェクトの実行が選択されているときに [プロジェクト移動] が無効であることを検証 | プロジェクトが実行フェーズである場合は、[プロジェクト移動] オプションが使用できないことを検証します。 | Orlando |
| アジャイルフェーズ用に入力されたスプリント日付で、プロジェクト移動機能を検証 | [プロジェクト移動] 関連リンクを使用してプロジェクトを移動したときに、スプリントの開始日と終了日がクリアされることを検証します。<br>**注:** このテストは、Agile Development 2.0 プラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0) がアクティブな場合にのみ利用できます。 | Orlando |
| 外部依存関係と関連エンティティを使用してプロジェクト移動機能を検証 | [プロジェクト移動] 関連リンクを使用してプロジェクトを移動した場合に、外部依存関係と関連するエンティティもシフトされ、再描画されることを検証します。 | Orlando |
| さまざまなプロジェクトステータスを使用して、プロジェクト移動機能を検証 | プロジェクトが [対応中] または [完了してクローズ] ステータスのときに、[プロジェクト移動] が動作しないことを検証します。 | Orlando |
| 子テストスイート：プロジェクトの RIDAC フローを検証 | | |
| リスクの RIDAC フローの確認 | プロジェクトに関連付けられたリスクの RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| 問題の RIDAC フローの確認 | プロジェクトに関連付けられた問題の RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| 決定の RIDAC フローの確認 | プロジェクトに関連付けられた決定の RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| アクションの RIDAC フローの確認 | プロジェクトに関連付けられたアクションの RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| リスクフォームのフィールドの変更を検証 | リスクのランク、リスク値、および可能性などのリスクフォームフィールドが送信時に正常に更新されているかどうかを検証します。 | Quebec |
| 子テストスイート：デマンドの RIDAC フローを確認する | | |
| リスクの RIDAC フローの確認 | デマンドに関連付けられたリスクの RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| 問題の RIDAC フローの確認 | デマンドに関連付けられた問題の RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| 決定の RIDAC フローの確認 | デマンドに関連付けられた決定の RIDAC フローを検証します。 | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するための **Project Management** テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| アクションの RIDAC フローの確認 | デマンドに関連付けられたアクションの RIDAC フローを検証します。 | Quebec |
| リスクフォームのフィールドの変更を検証 | リスクのランク、リスク値、および可能性などのリスクフォームフィールドが送信時に正常に更新されているかどうかを検証します。 | Quebec |

PMO：リソース計画フローテストスイートを確認するための **Resource Management** テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 計画済みからキャンセル済みステータスへのユーザーのリソース計画のフローを確認する | プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスからキャンセル済みステータスに移行できることを確認します。 | Madrid |
| 計画済みから完了ステータスへのグループのリソース計画のフローを確認する | プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスから完了ステータスに移行できることを確認します。 | Madrid |
| 計画済みから割り当て済みステータスへのロールのリソース計画のフローを確認する | プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスから割り当て済みステータスに移行できることを確認します。 | Madrid |
| 対応するプロジェクトまたはデマンドフィールドにロールアップするすべてのリソース計画の集計コストを確認 | プロジェクトまたは需要のすべてのリソース計画の集計コストが、[予定コスト] および [割り当てられたコスト] フィールド、それぞれプロジェクトおよびデマンドの [リソースコスト] セクションにロールアップされることを検証します。 | Orlando |
| [リソースプランをコピー] オプションの確認 | [リソース計画をコピー] オプションで、元のリソース計画の正確なコピーが [計画] ステータスで作成できることを検証します | Orlando |
| プロジェクト/デマンドからプログラムにリソース計画の集計がロールアップすることの確認 | プロジェクトまたはデマンドのすべてのリソース計画の集計コストが、関連するプログラムの総計画コストにロールアップされていることを検証します。 | Orlando |
| リソース計画の完了時のレコードを確認 | 完了時にリソース計画の以下の変更を検証します。<br>• リソース計画のステータスが [完了] に更新されます。<br>• 完了日がリソースプランの終了日よりも前の日付である場合、リソース計画の終了日が完了日で更新されます。入力された完了日がリソース計画の終了日より後の場合、リソース計画の終了日が保持されます。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：リソース計画フローテストスイートを確認するための **Resource Management** テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | • 完了日より後の期間のリソース計画の要求されたレコードと割り当てレコードは、すべて削除されます。割り当てに対して実際の時間が記録されている場合、その割り当ては削除されません。これらの割り当てレコードについては、割り当てられた時間はゼロになり、実際の時間は保持されます。<br>• リソースの利用可能な時間と割り当てられた時間が集計テーブルで更新されます。 | |
| 割り当てタイプが [計画された期間] のリソース計画の完了時にレコードを検証 | 割り当てタイプが [計画された期間] のリソース計画の完了時に以下を検証します。<br>• リソース計画のステータスが [完了] に更新されます。<br>• 割り当ては削除されません。<br>• 割り当ての終了日が完了日に更新されます。 | Orlando |
| RP 再計画機能の確認 | キャンセルされたリソース計画が再計画されたときに、リソース計画の状態が [計画] に変更されることを検証します。 | Orlando |
| リソース計画の変更が対応するコスト計画に反映されているかどうかを検証 | リソース計画が更新されると、対応するコスト計画がそれに応じて更新されることを検証します。たとえば、予定コストの合計が 500 USD で、予定時間が 10 の場合、予定時間を 20 に変更すると、予定コストの合計が 1000 USD に更新されます。 | Paris |
| リソース - リソース計画の開始日と終了日のデフォルト入力をテスト | デマンドの関連リストからユーザーまたはグループのリソース計画を作成するときに、以下を検証します。<br>• 開始日と終了日がないデマンドが作成された場合は、ユーザーまたはグループのリソース計画にはタスクがデマンドとしてあり、開始日と終了日はありません。<br>• 開始日と終了日を含むデマンドが作成された場合は、ユーザーのリソース計画にはタスクがデマンドとしてあり、開始日と終了日がデマンドに追加されます。 | Paris |
| 運用リソース計画とタイムカードの実際の時間が等しいことを検証 | タイムカードカテゴリが運用作業タイプにマップされている場合、その作業タイプに関連付けられた運用リソースプランのタイムカードを送信するときに、リソース計画の実際の時間とタイムカードが同じであることを検証します。 | Quebec |
| 運用リソースプランのリソースプラン自動入力を検証 | タイムカードに関連付けられた運用リソース計画が、時間が記録されたときにタイムカードで自動的に取得されることを検証します。 | Rome |
| 非運用リソース計画のリソースプラン自動入力を検証 | プロジェクト、プロジェクトタスク、またはタイムカードのデマンドに関連付けられたリソース計画が、時間が記録されたときにタイムカードで自動的に取得されることを検証します。 | Rome |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Project Portfolio Management の詳細については、「Project Portfolio Management」を参照してください。

## プロジェクト通貨テストスイート

プロジェクト通貨クイックスタートでは、PPM Standard Multicurrency – ATF Tests プラグイン (com.snc.ppm_multicurrency.atf) をアクティブ化する必要があります。

### プロジェクト通貨テストスイートのテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| コスト計画のプロジェクト通貨でコストを確認 | 予算参照レートを使用してコスト行ブレークダウンの計算を検証し、コスト計画へのロールアップを確認します。プロジェクト通貨でプロジェクトについても確認します。 | Orlando |
| プロジェクト通貨で利益計画の利益を確認 | 予算参照レートを使用して利益行ブレークダウンの計算を検証し、利益計画へのロールアップを確認します。プロジェクト通貨でプロジェクトについても確認します。 | Orlando |

PPM Standard の詳細については、「PPM Standard」を参照してください。

## レポート

レポート クイックスタートテスト Automated Test Framework - レポートプラグイン (com.glide.automated_testing_impl.report) は、デフォルトまたはインスタンスの再起動時にアクティブ化されます。

**注:**
レポート クイックスタートテストはダッシュボードからのレポートアクセスをテストしません。ダッシュボードをテストするには、「ダッシュボードのクイックスタートテスト」を参照してください。

### レポート クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| レポートの可視性 | レポートを共有しているユーザーにレポートが表示されるかどうかを確認します。 | Madrid |

## Software Asset Management Foundation プラグイン ソフトウェア資産管理

Software Asset Management Foundation プラグイン ソフトウェア資産管理 クイックスタートテストでは、ソフトウェア資産管理プロ プラグイン (com.snc.samp) をアクティブ化する必要があります。一部のクイックスタートテストでは、以下の追加プラグインをアクティブ化する必要があります。

- ソフトウェア資産管理 - 支出検出 (com sn_sam_spend)
- ソフトウェア資産管理プロ - Microsoft 向け (com.snc.samp.microsoft)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ソフトウェア資産管理プロ - SAP 向け (com.sn_samp_sap)
- Oracle 用の ソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.oracle)
- ソフトウェア資産管理 - SaaS License Management 統合 (com sn_sam_saas_int)

ソフトウェア資産管理 テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SAM - 新しく公開された PPN およびコンテンツへのカスタム PPN/DMAP のマッピング | カスタム公開者の部品番号 (PPN) が新しい ソフトウェア資産管理 コンテンツサービス PPN に置き換えられたことを検証します。 | San Diego |
| SAM：Oracle PaaS BYOL | • PaaS デバイスに関する情報を格納する新しいサーバーレスハードウェア [cmdb_ci_serverless_hardware] テーブルの追加を検証します。<br>• Amazon Web サービス (AWS) PaaS 環境の Oracle データベースサーバーのライセンスコンプライアンスを検証します。<br>注: ソフトウェア資産管理プロ for Oracle (com.snc.samp.oracle) プラグインと CMDB CI Class Models ストアアプリケーションが必要です。 | Rome |
| SAM：ソフトウェアモデルのソフトウェア製品ライフサイクルレコード | ソフトウェアモデルフォームの [ソフトウェアライフサイクル] タブにレコードが表示されていることを確認します。<br>注: デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | Quebec |
| SAM：BYOL | • ソフトウェアエンタイトルメントフォームの購入日を検証<br>• ライセンス測定基準の結果 [samp_license_metric_result] およびライセン | Quebec |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | スの位置レポート [samp_license_position_report] テーブルに、新しく追加された列 legacy_license の追加を検証します。<br>• ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] テーブルに、新しく追加された列、cloud_license_type および cloud_license _type_source を検証します。<br>**注:** Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | |
| SAM - CIS スイートを検証 | ダウングレード権限で、コアインフラストラクチャサーバー (CIS) スイートの調整を検証します。<br>**注:** デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | Paris |
| SAM - PerCoreForMSCluster | Microsoft の調整機能をクラスターのコアごとに検証します。<br>**注:** Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | Paris |
| SAM - アップグレード/ダウングレードを Microsoft Publisher の調整中に検証 | アップグレードとダウングレードの権限を、Microsoft 製品の調整中に検証します。<br>**注:** デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SAM - SaaS アプリケーションを統合するデマンドを生成 | SaaS アプリケーションでデマンドの生成と送信を検証します。<br>**注:** ソフトウェア資産管理 - Spend Detection (com.sn_sam_spend) プラグインと PPM standard (com.snc.financial_planning_pmo) プラグインが必要です。 | Paris |
| SAM - SAP エンジンのソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメント | 製品が SAP エンジンである場合、ソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメントの各フォームが変更されたことを確認します。<br>**注:** SAP 向けソフトウェア資産管理プロ (com.sn_samp_sap) プラグインが必要です。 | Paris |
| SAM：ソフトウェアモデルのダウングレード権限 | コンテンツサービスからプッシュされたダウングレード権限が、ソフトウェアモデルフォームの [ダウングレード権限] 関連リストで正しく設定されていることを検証します。 | Orlando |
| SAM：ソフトウェアエンタイトルメントに関するマルチコアパック検証 | ソフトウェアエンタイトルメントに関するマルチコアパックの新しいフィールドの機能を検証します。<br>**注:** Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。 | Orlando |
| SAM：ソフトウェアエンタイトルメントのダウングレード権限 | コンテンツサービスからプッシュされたダウングレード権限が、ソフトウェアエンタイトルメントフォームの [ダウングレード権限] 関連リストで正しく設定されていることを検証します。 | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SAM：ソフトウェア支出トランザクション | ソフトウェア消費トランザクションの作成を検証します。<br>注: ソフトウェア資産管理 - 支出検出 (com.sn_sam_spend) プラグインが必要です。 | Orlando |
| SAM：ソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメント | ユーザーがソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメントを作成し、それらのレコードを検証できることをテストします。 | New York |
| SAM：ソフトウェアのインストールと Discovery モデル | ユーザーがソフトウェアのインストールと検出モデルを作成し、それらのレコードを検証できることをテストします。 | New York |
| SAM - カスタム PPN を使用するソフトウェアエンタイトルメントの作成 | カスタムソフトウェア製品、カスタム製品のカスタム DMAP、カスタム DMAP のカスタム部品番号、カスタム部品番号を使用するソフトウェアエンタイトルメントを作成して、ソフトウェアモデルが自動で作成されていることを確認します。 | New York |
| SAM - SAP の名前付きユーザーのソフトウェアモデルチェック | 公開者が SAP で製品が名前付きユーザーである場合に、ソフトウェアモデルフォームが変更することをテストします。<br>注: SAP 向けソフトウェア資産管理プロ (com.sn_samp_sap) プラグインが必要です。 | New York |
| SAM：SaaS のソフトウェアモデルチェック | SaaS 製品が選択された際に、ソフトウェアモデルフォームが変更することをテストします。<br>注: ソフトウェア資産管理 - SaaS License Management Integrations (com.sn_sam_saas_int) プラグインが必要です。 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SAM：SaaS ソフトウェア製品のフィールドを検証 | [サブスクリプションソフトウェア] と [インストールを無視] フィールドがソフトウェア製品フォームに存在することをテストします。<br>**注:** ソフトウェア資産管理 - SaaS License Management Integrations (com.sn_sam_saas_int) プラグインが必要です。 | New York |

ソフトウェア資産管理の詳細については、「ソフトウェア資産管理」を参照してください。

## セキュリティインシデントレスポンス

セキュリティインシデントレスポンス クイックスタートテストでは Security Incident Response プラグイン (com.snc.security_incident) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SIR：セキュリティインシデントの作成 | ユーザーがセキュリティインシデントフォームからセキュリティインシデントを正常に作成できるかどうかを判断します。 | Washington DC |
| SIR：セキュリティインシデントカタログからセキュリティインシデントを作成する | ユーザーがカタログからセキュリティインシデントを正常に作成できるかどうかを判断します。 | Washington DC |
| SIR：セキュリティインシデントライフサイクル | ポリシー違反ワークフローの対応タスクを検証します。 | Washington DC |
| SIR：脅威のルックアップ | 脅威のルックアップ機能を検証します。 | Washington DC |
| SIR：PIR アセスメント OOTB 構成 | このテストを使用して、PIR アセスメントとベースシステム構成を検証します。 | Washington DC |
| SIR：PIR アセスメントの条件付き構成 | インシデントの事後アセスメントを完了せずに、必須の条件付きルールに一致するセキュリティインシデントがクローズされていないことを確認します。 | Washington DC |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | インシデントの事後アセスメントを完了せずに、オプションの条件付きルールに一致するセキュリティインシデントがクローズされていないことを確認します。<br><br>ルールに一致しないセキュリティインシデントに対してアセスメントが生成されていないことを確認します。 | |
| SIR：PIR 実行時間検証 | 新しい設計に従って PIR レポートが構成され、セキュリティインシデントに添付されていることを検証します。 | Washington DC |
| SIR：PIR デザイン時間セットアップ検証 | 管理者の構成に基づいて、セキュリティインシデントがレポートテンプレートにマップされていることを検証します。 | Washington DC |
| SIR：セキュリティインシデントを既存の重大なセキュリティインシデントにリンク | セキュリティインシデントを既存の重大なセキュリティインシデントにリンクし、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントからのデータを検証します。 | Washington DC |
| SIR：セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして昇格 | セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして昇格し、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントのデータを検証します。 | Washington DC |
| SIR：重大なセキュリティインシデントとしてセキュリティインシデントを提案 | セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして提案し、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントからのデータを検証します。 | Washington DC |
| [制限の適用] がオンになったら、許可されたメンバーのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します | [制限の適用 (Enforce Restriction)] が有効になったら、許可されたメンバーのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します。 | Washington DC |
| [制限の適用] がオンになったら、許可されたグループのみがセキュリティインシデントにアクセスできることの確認 | [制限の適用 (Enforce Restriction)] が有効になったら、許可されたグループのみがセキュリティインシデントに | Washington DC |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | アクセスできることを確認します。 | |
| 読み取りアクセスを検証 | 表示アクセスを検証します。 | Washington DC |
| 書き込みアクセスを検証 | 編集アクセス権を検証します。 | Washington DC |

Security Incident Response の詳細については、「Security Incident Response」を参照してください。

## サービスレベル管理

サービスレベル管理 クイックスタートテストでは、サービスレベル管理 - ATF Tests プラグイン (com.snc.service_level_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

サービスレベル管理 クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| SLM：Service Level Management タスク SLA の完了ワークフロー | ユーザーがタスク SLA を作成し、ワークフローを完了できることをテストします。 | Orlando |
| SLM：Service Level Management タスク SLA のキャンセルワークフロー | ユーザーがタスク SLA を作成し、ワークフローをキャンセルできることをテストします。 | Orlando |
| SLM: Service Level Management タスク SLA タイマー REST API | SLA タイマー API 応答が SLA タイマー重大コンポーネントで想定されているデータと一致することをテストします。 | Paris |

Service Level Management の詳細については、「Service Level Management」を参照してください。

## サービスマッピング

サービスマッピング クイックスタートテストでは Service Mapping (com.snc.service-mapping) プラグインをアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

サービスマッピング クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| SM OOTB：ロールによる SM アプリケーションの可視化をテストする | さまざまなロールの サービスマッピング アプリケーションとモジュールの可視化を検証します。たとえば、このテストでは、sm_user ロールでログインしたユーザーが、サービスマッピング で管理モジュールにアクセスできないことを確認します。 | Madrid |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスマッピング クイックスタートテスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| SM OOTB：サービスマップの確認 | このテストテンプレートを使用して、最も重要なサービスのトポロジが変更されていないことを確認するカスタムテストを作成します。<br><br>[データセットのテスト実行] の値を設定し、テストするサービスの名前と、このサービスで見つかると予期されるノードを識別します。<br><br>ノード名の値には、マップでそのまま表示されるノード属性を入力します (「Apache サーバー」など)。ノードの属性名が切り詰められている場合、またはノードが CI クラスターであることが示されている場合は、このノード名の値を、マップで表示される方法を反映するように設定します (11 台の Exchange FrontEnd サーバーのグループに対して「11x ExchangeF」など)。<br><br>**注:**<br>このテストを使用して、最上位より上の未展開レベルのサービスコンテンツを確認することはできません。 | Orlando、更新された Paris |
| SM OOTB：アップグレード後に UI アクセシビリティを確認 | このテストを実行して、アップグレード後に サービスマッピング の UI が完全に機能することを確認します。 | Orlando |

Service Mapping の詳細については、「Service Mapping」を参照してください。

## サービスポートフォリオ管理プレミアム

サービスポートフォリオ管理プレミアムクイックスタートテストでは、サービスポートフォリオ管理プレミアム プラグイン (com.snc.spm) をアクティブ化する必要があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - **ATF** テストのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| ポートフォリオエディター：ポートフォリオオーナーではなく、読み込み専用の分類アクセス | 関連付けられているが所有していないポートフォリオの分類に対し、ポートフォリオエディ | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - ATF テストのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | ターが読み取りしかできないことを確認します。 | |
| ポートフォリオエディター：新規ポートフォリオの作成不可 | ポートフォリオエディターが、ポートフォリオを新しく作成できないことを確認します。 | Orlando |
| ポートフォリオエディター：有効なポートフォリオ所有者の分類アクセス | ポートフォリオ所有者が、所有するポートフォリオ内部の分類にアクセスできることを確認します。 | Orlando |
| サービスエディター：アクセス | サービスエディターが、所有するサービスとオファリングのみを編集できることを確認してください。 | Orlando |
| ポートフォリオエディター：所有するポートフォリオを変更可能 | ポートフォリオエディターが、所有するポートフォリオの変更と更新を行えることを確認します。 | Orlando |
| ポートフォリオの作成 | ポートフォリオ管理者がポートフォリオを新しく作成できることを確認します。 | Orlando |
| ポートフォリオエディター：所有していないポートフォリオは変更不可 | ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオを変更できないことを確認します。 | Orlando |
| サービスワークフロー | サービスポートフォリオ、分類ノード、サービスオファリングが添付されていないと、サービスがカタログフェーズに進めないことを確認してください。<br><br>サービスをカタログフェーズからパイプラインフェーズに戻せないことを確認します。 | Orlando |
| サービスポートフォリオ (標準) | サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。 | Orlando |
| ポートフォリオ + 3 層の分類レイヤーを作成 | 3 つの分類レイヤーを含むサービスポートフォリオを作成します。 | Orlando |
| サービスポートフォリオ (例外) - 分類レイヤー定義セット 01 | サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。 | Orlando |
| SPM: ポートフォリオを作成 | サービスポートフォリオを作成します。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - **ATF** テストのテストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| SPM: ポートフォリオ + 3 層の分類レイヤーを作成 | 3 つの分類レイヤーを含むサービスポートフォリオを作成します。 | Paris |
| SPM: サービスポートフォリオ (標準) | サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。 | Paris |
| SPM: サービスポートフォリオ (例外) - 分類レイヤー定義セット 01 | サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。 | Paris |
| SPM: ポートフォリオエディター: 所有するポートフォリオを変更可能 | ポートフォリオエディターが、所有しているポートフォリオを変更できることを確認します。 | Paris |
| SPM: ポートフォリオエディター: 所有していないポートフォリオは変更不可 | ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオを変更できないことを確認します。 | Paris |
| SPM: ポートフォリオエディター: 新規ポートフォリオが作成不可 | ポートフォリオエディターが、新規ポートフォリオを作成できないことを確認します。 | Paris |
| SPM: ポートフォリオエディター: 有効なポートフォリオ所有者の分類アクセス | ポートフォリオ所有者が、所有する分類にアクセスできることを確認します。 | Paris |
| SPM: ポートフォリオエディター: ポートフォリオ所有者ではなく、読み込み専用の分類アクセス | ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオの分類の読み込みのみを許可されていることを確認します。 | Paris |
| SPM: サービスエディター: アクセス | サービスエディターが、所有するかまたは委任されているサービスとオファリングのみを編集できることを確認します。 | Paris |
| SPM: サービスビューアー: アクセス | サービスビューアーが、サービスを表示するためのアクセスを持っていることを確認します。 | Paris |
| SPM: サービスワークフロー | サービスポートフォリオ、分類ノード、サービスオファリングが添付されていないと、サービスがカタログフェーズに進めないことを確認してください。<br><br>サービスをカタログフェーズからパイプラインフェーズに戻せないことを確認します。 | Paris |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Service Portfolio Managementの詳細については、「Service Portfolio Management」を参照してください。

## スキル管理

スキル管理 のクイックスタートテストでは、Skills Management プラグイン (com.snc.skills_management) をアクティブ化する必要があります。

**Skills Management** テストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| Skills Management：ユーザーが複数のグループに属している場合のユーザースキルレベルの継承 | ユーザーが、異なるスキルレベルを持つ同じスキルを割り当てられた複数のグループに属する場合に、ユーザーが最も高いスキルレベルに割り当てられていることを確認します。 | New York |
| Skills Management ：最も低いレベルのカテゴリーにスキルを追加 | スキルを最低レベルのカテゴリに追加できることを確認します。 | New York |
| Skills Management ：親カテゴリの下に子カテゴリを作成 | 親カテゴリでフラグ [スキルを追加] がオフになっている場合に、下位レベルのカテゴリが作成できることを確認します。 | New York |
| Skills Management ：スキルカテゴリの作成 | [スキルカテゴリ] フォームでスキルカテゴリを作成できることを確認します。 | New York |
| Skills Management ：スキルレベルタイプとスキルレベルの作成 | タイプに対してスキルレベルタイプと異なるスキルレベルを定義します。 | New York |
| Skills Management ：グループからユーザーへのスキルレベルの継承 | スキルレベルをグループからグループのユーザーに継承でき、[継承] および [継承されたスキルレベル] フィールドが true に設定されることを確認します。 | New York |
| Skills Management ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスからスキルを作成 | IT スキルの管理ユーザーインターフェイスを使用してスキルを作成できることを確認します。 | Orlando |
| Skills Management ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルとスキルレベルをユーザーに追加 | [IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルと関連するスキルレベルをユーザーに追加できることを確認します。 | Orlando |
| Skills Management ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルを選択し、スキルにユーザーを追加します。 | [IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルと関連するスキルレベルを 1 名以上のユーザーに追加できることを確認します。 | Orlando |
| Skills Management ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルレベルの | [IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルレベルのないスキルを選択し、そのスキル | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**Skills Management** テストスイート (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| ないスキルを選択し、そのスキルにユーザーを追加 | を 1 名以上のユーザーに追加できることを確認します。 | |

スキル管理の詳細については、「Skills Management」を参照してください。

## テスト管理 2.0

テスト管理 2.0 クイックスタートテストでは、テスト管理 2.0 プラグイン (com.snc.test_management.2.0) および テスト管理 2.0 - ATF テストプラグイン (com.snc.test_management.2.0.atf) をアクティブ化する必要があります。

**Test Management** 2.0：テストバージョンテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| テストバージョンを作成するとテストが作成される | テストの作成とバージョンを検証します。 | Madrid |
| 検証手順が含まれている場合、テストバージョンを準備完了としてマークすることができる | テストに検証手順があるときにテストのステータスを検証します。 | Madrid |
| 検証手順が含まれていない場合、テストバージョンを準備完了としてマークすることができない | テストに検証手順がないときにテストのステータスを検証します。 | Madrid |
| テストバージョンを準備完了としてマークしたときに、準備完了ステータスの他のテストバージョンを廃止する | テストを準備完了としてマークしたときにテストのステータスを検証します。 | Madrid |

**Test Management** 2.0：テスト結果ロールアップテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| テスト実行が終了したときに実行スイートの進行状況を更新する | 実行ステータスの進行状況を検証します。 | Madrid |
| 準備完了ステータスではないテストを割り当てることができない | テストの割り当てを検証します。 | Madrid |
| テストの進行状況をテスト計画とテストサイクルのためにロールアップする | テスト計画とテストサイクルについてテストの進行状況を検証します。 | Madrid |

Test Management 2.0 の詳細については、「Test Management 2.0」を参照してください。

## ユニバーサル要求

ユニバーサル要求 クイックスタートテストでは ユニバーサル要求 (com.snc.universal_request)、Universal Request: Integration for Incident management (com.snc.incident.universal_request)、およびヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core (com.sn_hr_core) プラグインをアクティブ化する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユニバーサル要求 クイックスタートテスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| UR：人事ケースのインシデントへの転送 | 人事ケースがインシデントに転送され、インシデントが作成されたかどうかを検証します。 | Quebec |
| UR：Universal Request を制限または制限解除 | 以下を検証します。<br>• ルーティングエージェントが UR を制限すると、フィールドは制限されて非表示になります。<br>• *sensitiveinfo_agent* ロールを持つエージェントのみが要求の制限を解除できます。<br>• また、要求の制限が解除されると、すべてのフィールドが表示されます。<br>• エージェントは sys-audit ログアクセスを利用できます。 | Washington DC |
| UR：RITM を使用した Universal Request の作成 | Universal Request Certified が有効になっている場合に、セルフサービスの任意のアイテムのカタログ要求を作成できることを検証します。 | San Diego |

## ベンダー管理ワークスペース

ベンダー管理ワークスペース クイックスタートテストでは。ベンダー管理ワークスペース プラグイン (com.snc.vlm.vmw) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

ベンダー管理ワークスペース - テストのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| VLM：ベンダーの作成 | アップグレード後に、ベンダー管理ワークスペース プラグインで問題を追跡します。新しいベンダーを作成します。 | New York |

Vendor Manager Workspace の詳細については、「Vendor Management Workspace」を参照してください。

## ベンダー管理ワークスペース および サードパーティリスク管理

GRC: ベンダー管理ワークスペース および サードパーティリスク管理 クイックスタートテストでは、 ベンダー管理ワークスペース AND サードパーティリスク管理 プラグイン (com.sn_vdr_risk_asmt) をアクティブ化してデモデータをロードする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**GRC:** ベンダーリスク管理 および サードパーティリスク管理 クイックスタートテスト

| テスト | 説明 |
|---|---|
| GRC:エンゲージメントリスクアセスメントの作成 | エンゲージメントリスクアセスメントを作成し、エンゲージメントに送信します。 |
| GRC: ベンダーリスクスコアリング - エンゲージメントのアセスメントをキャンセル | エンゲージメントの 1 つのアセスメントがキャンセルされた後、リスク評価の再計算要求がエンゲージメントとサードパーティで自動的に作成されることを確認します。 |
| GRC:ベンダー問題 ATF | サードパーティリスクの問題フォームとサードパーティリスクタスクフォームを作成して送信します。 |
| GRC:ベンダーリスクアセスメントの作成 | ベンダーリスクアセスメントを作成し、ベンダーに送信します。 |
| GRC: Vendor Portal - アセスメントの回答および返送 | ベンダー連絡先が Service Vendor Portal でアセスメントに回答し、送信します。 |
| GRC：ベンダー階層アセスメント | 期間を変更した後、アセスメントを選択して各査定人に送信します。 |

アップグレードの適用やアプリケーションの開発などの構成変更を行った後も、TPRM が変わらず正常に動作することを検証します。クイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。

## 脆弱性対応

脆弱性対応 クイックスタートテストでは、脆弱性対応 アプリケーション (sn_vul) をアクティブ化してデモデータをロードする必要があります。

脆弱性対応 テスト

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| VR：修正ターゲットルールの作成 | 修正ターゲットルールを作成します。 | Madrid |
| VR：脆弱性グループルールの作成 | 脆弱性グループルールを作成します。 | Madrid |
| VR：フォームを介した脆弱性一致アイテムの作成 | ユーザーが脆弱性一致アイテムフォームから脆弱性一致アイテムを正常に作成できるかどうかを判断します。 | Madrid |
| VR：脆弱性グループのライフサイクル | ユーザーが脆弱性グループを正常に解決できるかどうかを判断します。 | Madrid |
| VR：脆弱性一致アイテムのライフサイクル | ユーザーがライフサイクルを通して脆弱なアイテムを正常に移動できるかどうかを判断し、クローズ済みの脆弱性一致アイテムを再度開くことができるかどうかを判断します。 | Madrid |
| VR：ロールアップ計算機 | ロールアップリスク計算機が、脆弱性グループのすべての脆 | New York |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

脆弱性対応 テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
| --- | --- | --- |
| | 弱なアイテムのスコアを使用して、脆弱なアイテムのグループ全体の全体的なリスクスコアを算出できるかどうかを判断します。 | |
| VR：Vulnerability Response アサインルール | アサインルールのサンプルセットが脆弱なアイテムをアサイングループに自動アサインして修復できるかどうかを確認します。 | New York |
| VR：脆弱性計算機 | 脆弱性計算機をテストします。 | New York |
| VR：CI ルックアップ - Qualys | 「field_matching」メソッドを使用して、Qualys 用の「ネットワークアダプターによるルックアップ」という名前の新しいルックアップルールを作成します。新しいルックアップルールを使用し、ネットワークアダプターおよび IP アダプターで、[検出されたアイテム] テーブルの構成アイテムに一致させることができるかどうかを確認します。 | Orlando |
| VR：通常および緊急の変更要求の作成 | ユーザーが脆弱性グループから通常および緊急の変更要求を作成できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| VR：脆弱性グループの分割 | ユーザーが脆弱性グループを分割できるかどうかを確認します。 | Orlando |
| VR：CHG がキャンセルされたときに VG ステータスを更新 | 脆弱性グループに関連付けられている変更要求がキャンセルされたときに、脆弱性グループの [ステータス] フィールドが正常に移行するかどうかを確認します。 | Orlando |
| VR：CHG が [レビュー] に移行したときに VG ステータスを更新 | 脆弱性グループに関連付けられている変更要求が [レビュー] ステータスに移行したときに、脆弱性グループの [ステータス] フィールドが正常に移行するかどうかを確認します。 | Orlando |
| VR：CI ルックアップ - Rapid7 | 既存の Rapid7 Vulnerability Integration ルックアップルール、 **IP** アドレスを使用して CI ルックアップをテストします。 | Orlando |
| VR：CI ルックアップ - Qualys | Qualys Vulnerability Integration に対する新しい | Orlando |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

脆弱性対応 テスト (続く)

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| | ルックアップルールを作成して CI ルックアップをテストします。 | |
| VR：VI の例外承認ワークフロー | 例外要求を作成し、承認プロセスが機能していることを確認します。 | Orlando |
| VR：VI の誤検出承認ワークフロー | 誤検出の例外要求を作成し、承認プロセスが機能していることを確認します。 | Orlando |
| VR: Application Vulnerability Response (AVR) | ルールと計算機が正しく機能しているかどうかを判定します。更新が機能していることを検証します。 | Orlando |
| 修正ターゲットルール：VI インポートテスト | インポート中に VR 修正ターゲットルールをテストします。 | Paris |
| VR：分類ルール | 脆弱性を自動的に分類するサンプル分類ルール | Tokyo |

Vulnerability Response の詳細については、「Vulnerability Response」を参照してください。

## ウォークアップエクスペリエンス

ウォークアップエクスペリエンス クイックスタートテストでは、ウォークアップエクスペリエンス プラグイン (com.snc.walkup) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

ウォークアップエクスペリエンス - テストのテストスイート

| テスト | 説明 | リリースバージョン |
|---|---|---|
| 場所の作成 | ウォークアップ管理者 [sn_walkup.walkup_admin] ロールを持つユーザーが既存のすべてのウォークアップキューにアクセスでき、新しいキューの場所を作成し、キューを適切に設定できることを確認します。 | Orlando |
| オンサイトチェックイン (ITIL ユーザー) | ITIL ロールを持つユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。 | Orlando |
| オンサイトチェックイン (ESS ユーザー) | ESS ロールを持つユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。 | Orlando |
| オンサイトチェックイン (ゲスト) | ゲストユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。 | Orlando |

自動翻訳

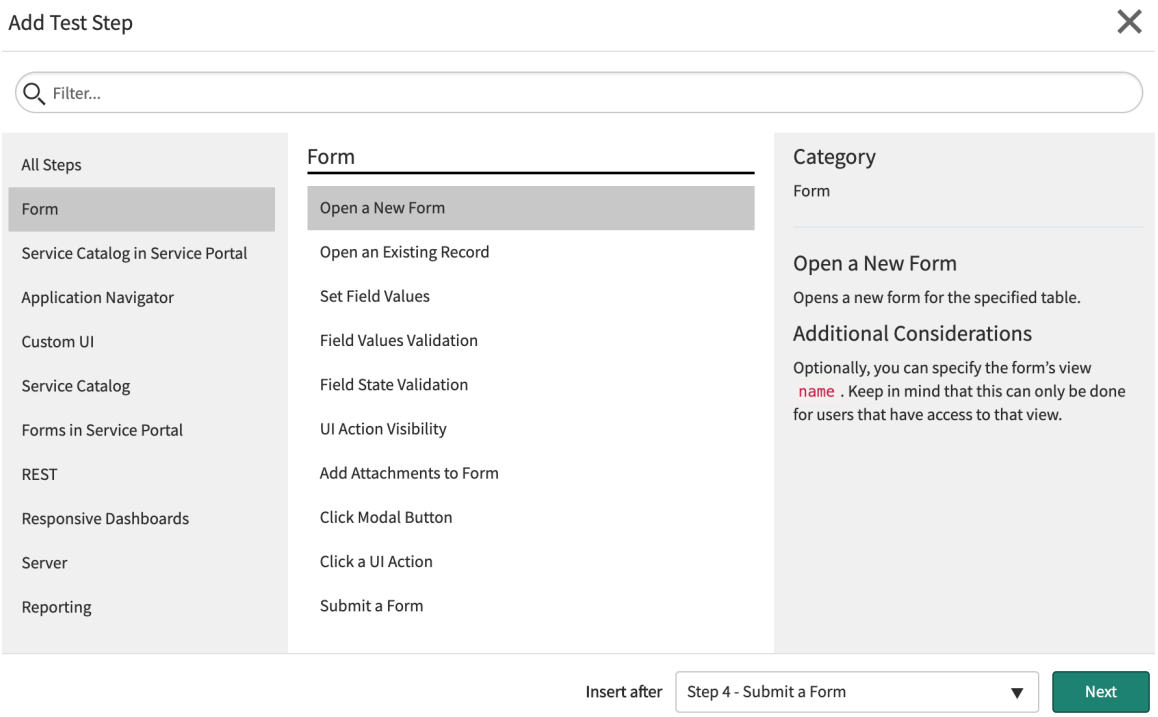
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Walk-up Experience の詳細については、「Walk-up Experience」を参照してください。

## テストステップのカテゴリ

特定のユーザーインターフェイスまたは Now Platform 機能のテストステップを見つけます。

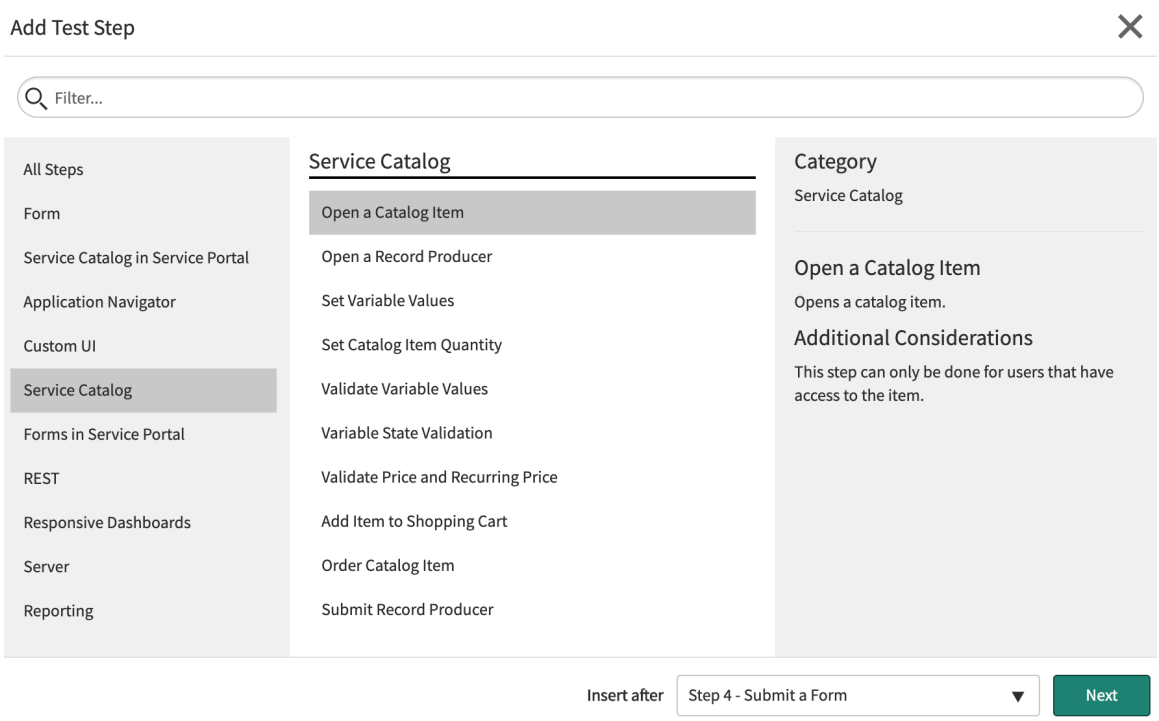
[テストステップを追加] パネルの左ペインにテストカテゴリがリストされます。パネルの上部にある検索フィールドで、特定のテストステップをその名前で直接検索できます。左ペインで [すべての手順] を選択して、使用可能なすべてのテストステップを中央ペインにリストすることもできます。選択したステップの説明が右ペインに表示されます。




特定のテストカテゴリを選択して、そのテストカテゴリで利用可能なテストステップのみを中央パネルに一覧表示できます。選択したステップの説明が右側のパネルに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




### **Service Portal** での **Service Catalog** カテゴリ

サービスポータル からのカタログアイテムトランザクションと要求者フローを検証します。

## **Service Portal** での **Service Catalog** の **Automated Test Framework** のアクティブ化

ATF テストステップでは、Automated Test Framework Service Catalog Service Portal (com.glide.automated_testing_impl.service_catalog_portal) プラグインのアクティブ化が必要です。これは新しいインスタンスでデフォルトでアクティブになっています。管理者は、以前のバージョンからアップグレードしたインスタンスでプラグインをアクティブにする必要がある場合があります。

## パラメーター化されたテストのサポート

Service Portal での Service Catalog ステップ構成は、パラメーター化されたテストをサポートしています。パラメーター化されたテストの詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。

### レコードプロデューサーを開く **(SP)**

サービスポータルでレコードプロデューサを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ポータル | このステップをテストするポータル。 |
| ページ | テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。 |
| レコードプロデューサー | 開くレコードプロデューサー。<br>注:<br>レコードプロデューサーへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| クエリパラメーター | ページの URL クエリパラメーター (*sys_id* など)。 |

### カタログアイテムを開く **(SP)**

サービスポータルでカタログアイテムを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| ポータル | このステップをテストするポータル。 |
| ページ | テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。 |
| カタログアイテム | 開くカタログアイテム。<br>**注:**<br>このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| クエリパラメーター | ページの URL クエリパラメーター (*sys_id* など)。 |

### 注文ガイド **(SP)** を開く

サービスポータルで注文ガイドを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ポータル | このステップをテストするポータル。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ページ | テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。 |
| 注文ガイド | 開く注文ガイド。<br>**注:** この注文ガイドへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| クエリパラメーター | ページの URL クエリパラメーター (*sys_id* など)。 |

### 複数行の変数セット **(SP)** に行を追加

サービスポータルの現在のカタログアイテムに含まれる複数行の変数セットに行を追加します。このステップ構成は、現在のカタログアイテムに複数行の変数セットが含まれている場合にのみ使用できます。このステップは、カタログアイテムを開く (SP) ステップ、レコードプロデューサを開く (SP) ステップ、または注文ガイドを開く (SP) ステップの後に使用します。カタログアイテムを開く (SP) ステップ、レコードプロデューサを開く (SP) ステップ、または注文ガイドを開く (SP) ステップにコンテキスト値が使用されている場合、このステップでカタログアイテムを設定します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| カタログアイテム | 複数行の変数セットに行を追加する必要があるカタログアイテム。アイテムがまだ選択されていない場合は、そのアイテムを検索するか、使用可能なパラメーターのリストからそのアイテムのコンテキスト値への参照を挿入できます。 |
| 複数行の変数セット | 行を追加する複数行の変数セット。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 複数行変数セット (SP) の現在の行を保存する

サービスポータルの現在のカタログアイテムに含まれる複数行の変数セットの現在の行を保存します。このステップ構成は、現在のカタログアイテムに複数行の変数セットが含まれている場合にのみ使用できます。複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップの後にこのステップを使用します。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>複数行の変数セットに行を正常に保存しました<br>複数行の変数の現在の行が保存された場合のみテストに合格します。<br>複数の行の変数セットに行を保存できません<br>複数行の変数の現在の行が保存されなかった場合のみテストに合格します。 |

### 変数値の設定 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムまたはレコードプロデューサの変数値を設定します。カタログ アイテムの場合、カタログ アイテムを開く (SP) ステップを使用した後、およびカタログ アイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。レコード プロデューサの場合は、レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、レコード プロデューサの送信 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アイテム | 変数値を設定するカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。 |
| 複数行の変数セット | 変数値を設定する複数行の変数セット。<br>**注:**<br>現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。 |
| 変数値 | 変数とそれらに設定する値のリスト。<br>**注:**<br>複数の変数の値を設定できます。 |

**注:**
[変数値の設定] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

### 変数値の検証 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムまたはレコードプロデューサの変数値を検証します。カタログアイテムの場合、カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、およびカタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。レコード プロデューサの場合は、レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、レコード プロデューサの送信 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アイテム | 変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。 |
| 複数行の変数セット | 変数値を検証する複数行の変数セット<br><br>**注:**<br>現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。 |
| カタログ状態 | 変数の検証の条件。条件を満たしている場合、テストは合格です。<br><br>**注:**<br>変数セットに関連付けられた変数のラベルは、変数セット名が反映されます。形式は *`variable_set_name » variable_name`* です。 |

**注:**
[変数値の検証] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 変数ステータスの検証 (SP)

サービスポータルの変数の状態を検証します。変数の状態は、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、表示、非表示です。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アイテム | 変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。 |
| 複数行の変数セット | 変数の状態を検証する複数行の変数セット。<br><br>**注:**<br>現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。 |
| 表示 | ステップが合格するために表示する必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 非表示 | ステップが合格するために非表示にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 読み取り専用 | ステップが合格するために読み取り専用にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 非読み取り専用 | ステップが合格するために読み取り専用にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。 |
| 必須 | ステップが合格するために必須にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 任意 | ステップが合格するために必須にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[変数値ステータスの検証] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

### 価格および繰り返し発生料金の検証 (SP)

サービスポータルでカタログアイテムの価格および繰り返し発生料金を検証します。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後で、カタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。このステップはレコード プロジューサには適用されません。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 価格 | ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。 |
| 繰り返し発生料金 | ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金。 |
| 繰り返し発生料金の頻度 | ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金の頻度。 |

### 注文ガイド (SP) 内を移動する

注文ガイド内を移動します。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ガイドステップ | ナビゲートする注文ガイドステップ：<br>• ニーズを説明<br>• オプションを選択<br>• サマリー |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>ナビゲーションに成功しました<br>ナビゲーションが成功した場合にのみ、テストに合格します。<br>ナビゲーションに失敗しました<br>ナビゲーションが失敗した場合にのみ、テストに合格します。 |

## カタログアイテム数量の設定 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムの数量を設定します。このステップはレコード プロジューサには適用されません。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後で、カタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 数量 | 注文するカタログアイテムの数量。 |

### 注文ガイドアイテム **(SP)** の検証

注文ガイドに含まれているアイテムを確認します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| カタログアイテム | 検証するカタログアイテム。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>これらのカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |

### 注文ガイドの概要のレビュー (SP)

サービスポータルで注文ガイドの概要をレビューします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| カタログアイテム | レビューするカタログアイテム。<br><br>注:<br>これらのカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| 価格 | ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。 |

### 注文ガイド (SP) のアイテムをレビューする

注文ガイドで個々のアイテムをレビューし、そのアイテムを含めるかどうかを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| カタログアイテム | レビューするカタログアイテム。<br><br>**注:**<br>このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| 包含済み | カタログアイテムを注文ガイドに含める必要がある場合に選択し、それ以外の場合は選択しません。 |

### 買い物かごへのアイテムの追加 **(SP)**

サービスポータルの買い物かごに現在のカタログアイテムを追加します。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、このステップを使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>買い物かごにアイテムを正常に追加しました<br>カタログアイテムが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。<br>買い物かごにアイテムを追加できません<br>カタログアイテムを買い物かごに追加できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| cart_item_id | 追加されたカタログアイテムの sys_id。 |

### 買い物かご **(SP)** に注文ガイドを追加する

買い物かごに注文ガイドを追加します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>買い物かごに注文ガイドを追加できません<br>注文ガイドを買い物かごに追加できない場合にのみ、テストに合格します。<br>買い物かごに注文ガイドを正常に追加しました<br>注文ガイドが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。 |
| | |

### カタログアイテムの注文 (SP)

サービスポータルで現在のカタログアイテムに対して [今すぐ注文] をクリックします。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。2 ステップチェックアウトが false の場合、カタログアイテムの要求が生成されます。2 ステップチェックアウトが true の場合、買い物かごプレビューページにリダイレクトされます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>カタログアイテムを正常に注文しました<br>カタログアイテムが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。<br>カタログアイテムを注文できません<br>カタログアイテムを注文できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 送信された要求が属するテーブル。 |
| record_id | 送信された要求の sys_id。 |

### 注文ガイド (SP) を送信する

[今すぐ注文] をクリックして注文ガイドを注文します。注文ガイドに複数のレコードプロデューサーを追加しないでください。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>注文ガイドを注文できません。<br>注文ガイドを注文できない場合にのみ、テストに合格します。<br>正常に注文ガイドを注文しました<br>注文ガイドが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 送信された注文ガイドを含むテーブル。 |
| record_id | 送信された注文ガイドの sys_id。 |

### レコードプロデューサーの送信 **(SP)**

サービスポータルで現在のレコードプロデューサを送信します。レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、このステップを使用します。このステップの後、レコード プロデューサで他のステップを使用することはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>レコードプロデューサーを正常に送信<br>レコードプロデューサーが正常に送信された場合にのみ、テストに合格します。<br>レコードプロデューサーを送信できません<br>レコードプロデューサーを送信できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | レコードプロデューサーのターゲットレコードを含むテーブル。 |

### アプリケーションナビゲーターカテゴリ

アプリケーションナビゲーターのメニューとモジュールの機能を確認します。

### アプリケーションメニューの表示

アプリケーションナビゲーター(左側のナビゲーションバー)で選択されたアプリケーションメニューの可視性または可視性の欠如を検証します。たとえば、まずユーザーの代理操作を実行してから、指定したアプリケーションメニュー(セルフサービスやレポートなど)がそのユーザーに表示されているかまたは表示されていないかを確認するテストを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ナビゲーター | アサートするナビゲーターバージョン<br>• コア UI (UI16)：新しいステップを作成する場合は、デフォルトで コア UI があります。<br>• Next Experience： Next Experience が有効になっている場合、Next Experience がデフォルトのナビゲーターです。無効になっている場合、コア UI がデフォルトのナビゲーターです。 |
| 表示されるアサーションタイプ | [表示されるアプリケーションメニュー] フィールドで選択されたアプリケーションメニューの可視性をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。<br>• 少なくともこれらのアプリケーションメニューは表示されます：最小限でも、選択したすべてのアプリケーションメニューがアプリケーションナビゲーターに表示されます。<br>• これらのアプリケーションメニューのみが表示されます：選択したアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。 |
| 表示されるアプリケーションメニュー | アプリケーションナビゲーターでの可視性が検証されているアプリケーションメニュー。 |
| 表示されないアサーションタイプ | [表示されないアプリケーションメニュー] フィールドで選択されたアプリケーションメニューの可視性の欠如をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。<br>• 少なくともこれらのアプリケーションメニューは表示されません：最小限でも、選択したすべてのアプリケーションメニューがアプリケーションナビゲーターに表示されません。<br>• これらのアプリケーションメニューのみが表示されません：選択したアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示されないアプリケーションメニュー | アプリケーションナビゲーターでの可視性の欠如が検証されているアプリケーションメニュー。 |

関連情報

アプリケーションメニューの作成

アプリケーションメニューの作成

アプリケーションメニューは、ユーザーがアプリケーションナビゲーターでアクセスできるメインコンテンツを定義します。アプリケーションナビゲーターに表示するアプリケーションを構成できます。

始める前に
必要なロール：管理者

このタスクについて
アプリケーションメニューを作成するときは、モジュールなどを統合アプリケーションメニューにグループ化することを検討してください。既存のメニューを編集するときは、アプリケーションメニューに有用なモジュールをさらに追加し、不要なモジュールを削除します。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > アプリケーションメニュー.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| タイトル | アプリケーションメニューの表示名を定義します。 |
| ロール | 指定されたロールにアクセスを制限します。アプリケーションメニューがアクティブな場合は、すべてのユーザーがそれを表示できます。 |
| カテゴリ | ナビゲーションメニューのスタイルを定義するメニューカテゴリを指定します (デフォルト値は [カスタムアプリケーション] です)。 |
| ヒント | ユーザーがこのアプリケーションメニューにカーソルを合わせたときにツールヒントに表示されるテキストを定義します。 |
| 有効 | アプリケーションメニューをアクティブ化するには、チェックボックスをオンにします。アクティブなアプリケーションメニューのみが、アプリケーションナビゲーターに表示されます。 |
| 説明 | このアプリケーションの機能について、より詳細な説明を提供します。 |
| その他のフィールド | |
| 順番 | アプリケーションナビゲーター内のアプリケーションメニューの相対位置を定義します。順序を指定しない場合は、メニューカテゴリのデフォルトの順序が使用されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| デフォルトのデバイスタイプ | このフィールドは使用されません。モバイルデバイス用のアプリケーションメニューは別のテーブルで定義できます。 |

**注:**
すべてのフィールドが表示されるようにフォームを設定する必要がある場合があります。

4. [送信] をクリックします。
5. アプリケーションメニューに表示されるモジュールを作成します。
   モジュールを含むアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。

### モジュールの作成

モジュールは子、つまりアプリケーションナビゲーター内のアプリケーションの第 2 階層のナビゲーションオプションです。多くの場合、モジュールはプラットフォーム内の他のページやレコードにリンクされています。アプリケーションナビゲーターにどのモジュールを表示するかを、アプリケーションメニューモジュールを使用して構成できます。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### このタスクについて
アプリケーションナビゲーターにアプリケーションメニューとモジュールを追加する方法については、この 5 分間のビデオをご覧ください。 アプリケーションナビゲーターにアプリケーションメニューとモジュールを追加する方法を示します

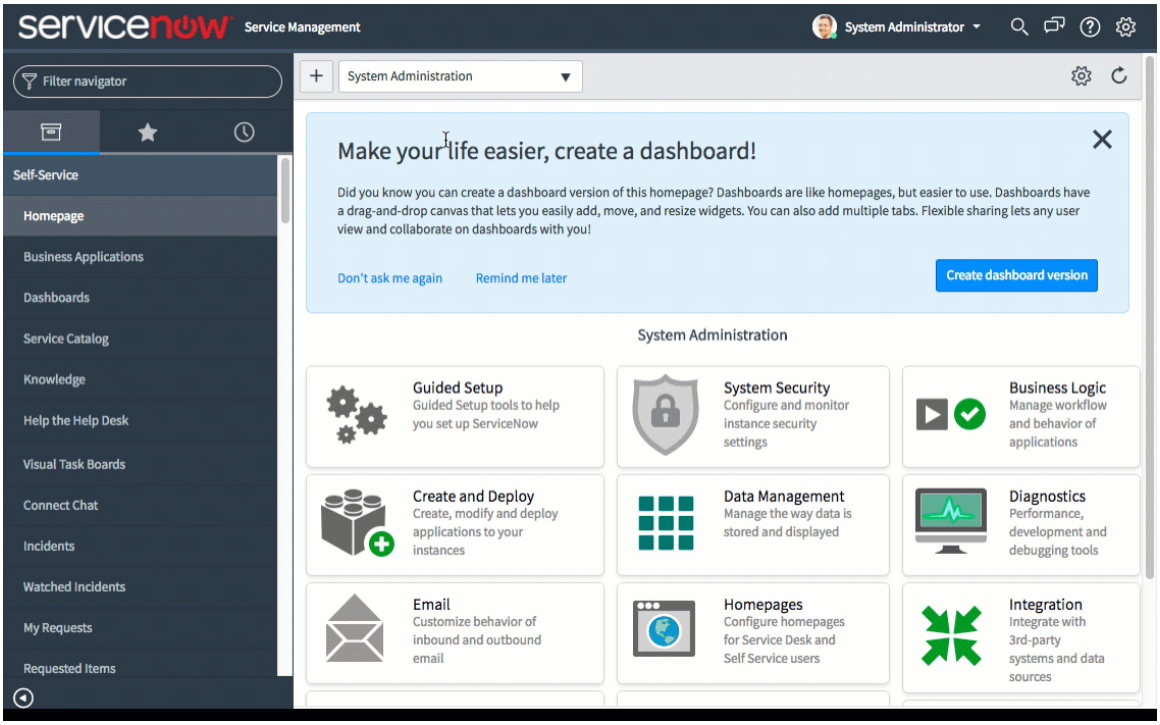
#### 手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、アプリケーションメニューレコードを開きます。
   - 移動先 システム定義 > アプリケーションメニュー をクリックし、リストからアプリケーションメニューを選択します。
   - アプリケーションメニューをポイントし、[アプリケーションの編集] (鉛筆) アイコンをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールを作成する **2** つの方法




**2.** [モジュール] 関連リストまで下にスクロールし、[新規] をクリックします。

**3.** [モジュール] フォームのフィールドに入力して、モジュールを定義します。

モジュールフォーム

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タイトル | モジュール名を定義します。モジュールを明確に識別するタイトルを選択します。 |
| アプリケーションメニュー | モジュールが表示されるアプリケーションメニューの名前を指定します。 |
| ヒント | ユーザーがモジュール名をポイントするときに表示されるツールヒントを定義します。<br>**注:**<br>モジュールヒントは コア UI で廃止されました |
| 順番 | 他のモジュールに関連してモジュールが表示される順序。 |

**4.** [可視性] タブで、フィールドに入力します。

[可視性] タブ

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ロール | モジュールのアクセスを指定されたロールに制限します。このフィールドを空白のままにすると、モジュールはアプリケーションメニューにアクセスできるすべてのユーザーに表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 有効 | モジュールがアプリケーションナビゲーターに表示されるようにするかどうかを定義します。 |
| アプリケーションメニューロールを上書き | 含まれているアプリケーションメニューを表示する権限がない場合でも、ユーザーにこのモジュールへのアクセスを許可します。ユーザーはこのモジュールのロール要件を満たしている必要があります。 |

5. [リストタイプ] タブで、フィールドに入力します。

表示されるフィールドは、選択した [リンクタイプ] によって異なります。すべてのモジュール URI をエンコードする必要があります。モジュール URI に引数を指定する場合は、ユーザー自身または ServiceNow のいずれかが指定します。モジュール URI をエンコードする方法の詳細については、「モジュール URI のエンコーディング」を参照してください。

[リストタイプ] タブ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| リンクタイプ | このモジュールで開かれる関連付けのタイプを指定します。リンクタイプに基づいて追加情報を指定する必要があります。「モジュールのリンクタイプ」を参照してください。 |
| テーブル | モジュールが使用するテーブルを指定します。<br>**注:**<br>このリストには、モジュールと同じスコープ内にあるテーブルビューとデータベースビューのみが表示されます。 |
| フィルター | モジュールに表示されるアイテムの条件。たとえば、「アクティブ = **true**」などです。 |
| Argument | モジュール URI を作成するために URI に追加される文字列。sysparm_query を指定できます。これらの値は、 ユーザー自身または ServiceNow がエンコードする必要があります。モジュール URI をエンコードする方法の詳細については、「モジュール URI のエンコーディング」を参照してください。 |
| 順番 | アプリケーションでモジュールが表示される順序を指定します。 |

### モジュールのリンクタイプ

[モジュール] フォームの [リンクタイプ] フィールドは、モジュールが開くリンクのタイプを指定します。

モジュールのリンクタイプ

| リンクタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| アセスメント | [アセスメント] 参照フィールドで選択したアセスメントベースのサーベイへのリンク。「サーベイモジュールの作成」を参照してください。 |
| コンテンツページ | [コンテンツページ] 参照フィールドで選択したコンテンツページを表示します。「コンテンツページの作成」を参照してください。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

モジュールのリンクタイプ (続く)

| リンクタイプ | 説明 |
|---|---|
| ドキュメントリンク | ドキュメントページにリンクし、新しいタブまたはウィンドウで開きます。このリンクタイプは、ドキュメントトピックの埋め込みメタデータとともに使用されます。モジュールから内部ドキュメントを開くには、**[URL ([引数] から)]** モジュールリンクタイプを使用します。 |
| ホームページ | [ホームページ] 参照フィールドで選択したホームページが表示されます。 |
| HTML (引数から) | アプリケーションナビゲーターに HTML を配置します。このリンクタイプは、フラット URL では十分にカスタマイズできない複雑なリンクに使用します。<br>注:<br>• **[HTML ([引数] から)]** リンクタイプは、従来の UI15 および UI11 インターフェイスでのみサポートされています。コア UI では、代わりに **[URL ([引数] から)]** リンクタイプを使用します。<br>• [引数] フィールドに値を入力します。 |
| リストフィルター | [テーブル] フィールドで選択したテーブルの未設定のリストビューを表示します。最初にリストをロードせずにユーザーがフィルターを指定できるようにします。[フィルター] フィールドを使用して、リストのデフォルトのフィルターを定義します。[ビュー名] フィールドを使用して、[ビュー管理] を指定します。 |
| レコードリスト | [テーブル] フィールドで選択したテーブルのリストビューを表示します。[フィルター] フィールドを使用して、リストのデフォルトのフィルターを定義します。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。 |
| マップページ | [マップページ] 参照フィールドで選択したマップページが表示されます。 |
| 新規レコード | [テーブル] フィールドで選択したテーブルにレコードを作成するためのフォームを表示します。<br>• [ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。<br>• [引数] フィールドを使用してテンプレートを適用します。「テンプレートのモジュールを作成する」を参照してください。 |
| レポートを実行 | [レポート] フィールドで選択した保存済みレポートを実行します。 |
| スクリプト (引数から) | [引数] フィールドで定義されているスクリプトを実行します。<br>注:<br>[引数] フィールドに値を入力します。 |
| 検索画面 | テーブル内のレコードを検索するための空白のフォームを表示するリンク。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールのリンクタイプ (続く)

| リンクタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>パラメーター *&sysparm_result_view=view_name* を使用して、結果がレンダリングされるビューを定義します。<br><br>すべての検索では、[は次の値で始まる] クエリを使用して、一致するテキストを検索します。他のクエリタイプは検索画面ではサポートされていません。 |
| セパレーター | モジュール間の分割を作成します。[タイトル] フィールドに名前を入力して、ユーザーが折りたたみまたは展開できるセクション名を追加します。 |
| 単一レコード | テーブル上の単一のレコードのフォームを表示します。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。 |
| サーベイ | [サーベイ] 参照フィールドで選択した旧サーベイへのリンク。[サーベイの上書き] チェックボックスを使用して、サーベイを複数回実施できるかどうかを決定します。<br><br>**注:**<br>[サーベイ] リンクタイプは旧サーベイでのみ使用され、アセスメントベースのサーベイに置き換えられます。モジュールをアセスメントベースのサーベイにリンクするには、[アセスメント] リンクタイプを選択します。 |
| タイムラインページ | [タイムラインページ] 参照フィールドで選択したタイムラインページが表示されます。「タイムラインページ」を参照してください。 |
| URL (引数から) | [引数] フィールドで定義されている URL を開きます。<br><br>オプション：[ウィンドウ名] フィールドを使用して、新しいウィンドウで開くリンクを定義します。<br><br>**注:**<br>• 内部リンクの場合は、./catalog_home.do?sysparm_view=catalog_default または catalog_home.do?sysparm_view=catalog_default などの相対リンクを常に使用します。ServiceNow インスタンスへの絶対リンクは使用しないでください。URL は引き続き開発インスタンスを参照しているため、更新セットを開発インスタンスから本番インスタンスに移動すると問題が発生します。<br>• [引数] フィールドに値を入力します。 |

### モジュール **URI** のエンコーディング

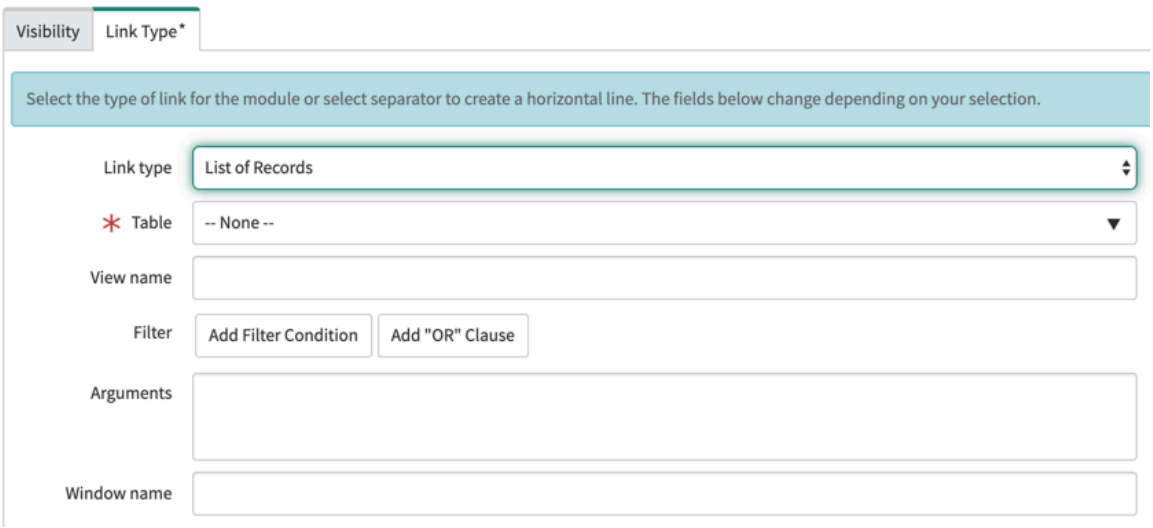
ナビゲーションペインでモジュール名をクリックすると、コンテンツペインでモジュールのページを開く URI が実行されます。モジュール URI のすべての文字を URL エンコードする必要があります。そうしないと、リンクは破損します。

**注:**
New York より前のリリースから New York リリース以降にアップグレードする場合に、このトピックに記載されている規則に従わないと、モジュール UI が破損する可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールを作成するときは、コンテンツペインに表示される結果の数をソートしたり減らしたりする引数条件とフィルター条件を追加できます。でモジュール名をクリックすると システム定義 > アプリケーション定義の場合、これらの条件と引数は [ リンクの種類 ] タブで確認できます。




[引数] の引数の定義と、[フィルター] で定義されたフィルター条件は、モジュールの URI の一部になり、URL エンコードする必要があります。ServiceNow はフィルター条件を自動的に URL エンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。たとえば、フィルター条件「アクティブ **= true**」を追加すると、sysparm_query=active%3Dtrue がモジュールの URI に追加されます。%3D は、等号 (=) の URL エンコーディングです。

次の表は、[引数] フィールドの引数を URL エンコードする必要がある場合と、ServiceNow で引数を URL エンコードする場合を示しています。

引数のエンコーディングのルール

| フィルター条件はありますか？ | 次で始まる引数の定義 | 誰が引数をエンコードしますか？ | 引数の処理方法 |
|---|---|---|---|
| なし | ^ | ServiceNow | 引数からキャレット (^) を削除してエンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。 |
| なし | & | あなた | 引数からアンパサンド (&) を削除し、モジュール URI に追加します。 |
| なし | その他 | ServiceNow | 引数をエンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。 |
| あり | ^ | ServiceNow | フィルター定義と引数を URL エンコードし、sysparm_query を使用して、この組み合わせをモジュール URI に追加します。 |
| あり | その他 | あなた | フィルター定義を URL エンコードし、sysparm_query を使用して、それと (未変更の) 引数をモジュール URI に追加します。 |

*glide.ui.encode_module_uri* プロパティを使用して、モジュール UI の URL エンコーディング要件をオン (デフォルト) またはオフにすることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### 例

次の例は、[引数] の引数定義を URL エンコードする必要がある状況を示しています。

- フィルター条件がなく、[引数] の引数定義がアンパサンドで始まる (&sysparm_fixed_query=assigned_to=javascript:gs.user_id() など)。

  等号とコロンが URL エンコードされておらず、アンパサンドによって ServiceNow が引数を URL エンコードできないため、この引数によりモジュール URI が破損します。引数を URL エンコードします： &sysparm_fixed_query=assigned_to%3Djavascript%3Ags.user_id()

- フィルター条件があり、[引数] の引数定義がキャレット (^) で始まっていない (sysparm_name=Barnes & Noble's など)。

  アンパサンドとスペースが URL エンコードされていないため、この引数によりモジュール URI が破損します。引数を URL エンコードします： sysparm_name=Barnes%20%26%20Nobel

### モジュールの可視性

アプリケーションナビゲーター (左側のナビゲーションバー) で選択されたモジュールの可視性または可視性の欠如を確認します。たとえば、まずユーザーの代理操作を実行してから、次に指定したモジュール (ホームページや自分の要求など) がそのユーザーに表示されているかまたは表示されていないかを確認するテストを作成します。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ナビゲーター | アサートするナビゲーターバージョン<br>• コア UI (UI16)：新しいステップを作成する場合は、デフォルトで コア UI があります。<br>• Next Experience： Next Experience が有効になっている場合、Next Experience がデフォルトのナビゲーターです。無効になっている場合、コア UI がデフォルトのナビゲーターです。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示されるアサーションタイプ | [表示されるモジュール] フィールドで選択されたモジュールの可視性をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。<br>• 少なくともこれらのモジュールが表示されます：最小限でも、[表示されるモジュール] フィールドで選択されたモジュールがアプリケーションナビゲーターに表示されます。<br>• これらのモジュールのみが表示されます：[表示されるモジュール] フィールドで選択された特定のモジュールのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。 |
| 表示されるモジュール | アプリケーションナビゲーターでの可視性が検証されているモジュール。 |
| 表示されないアサーションタイプ | [表示されないモジュール] フィールドで選択されたモジュールの可視性の欠如をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。<br>• 少なくともこれらのモジュールは表示されません：最小限でも、[表示されないモジュール] フィールドで選択されたモジュールはアプリケーションナビゲーターに表示されません。<br>• これらのモジュールのみが表示されません：[表示されないモジュール] フィールドで選択された特定のモジュールのみがアプリケーションナビゲーターに表示されません。 |
| 表示されないモジュール | アプリケーションナビゲーターでの可視性の欠如が検証されているモジュール。 |

関連情報

モジュールを作成

モジュールに移動

ユーザーがクリックしたかのように、アプリケーションナビゲーターからモジュールを開きます。モジュールに移動するには、現在実行中のユーザーにモジュールが表示されている必要があります。

**注:**
現在、テスト可能でないページがあります。モジュールからの移動先にかかわらず、自己責任で移動してください。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| モジュール | 開く必要があるモジュール。選択したモジュールに移動するには、アプリケーションナビゲーターで現在実行中のユーザーにモジュールが表示されている必要があります。<br><br>次のモジュールは、サポートされていないため、テストできません。<br>• セパレーターであるモジュール<br>• 特定のページにリンクしない代わりにクライアント側の JavaScript を実行するモジュール (Studio やスクリプトデバッガーなど)<br>• ServiceNow ドキュメントサイト (docs.servicenow.com) などの外部 Web サイトにリンクするモジュール<br>• ページ全体を再ロードまたはリダイレクトするモジュール |

関連情報

モジュールを作成

### カスタム **UI** カテゴリ

カスタムユーザーインターフェイスでのページコンポーネントの動作を検証します。

### コンポーネント値 (カスタム **UI)** の設定

カスタム UI ページにコンポーネント値を設定します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| コンポーネント値 | テストするページコンポーネントと、ステップを成功させるために各ページコンポーネントに必要な値。<br>注:<br>[値] フィールドのデフォルトは、選択したコンポーネントの最後に取得した値です。 |

### ページ (カスタム **UI)** のテキストをアサートする

指定されたテキストがカスタム UI ページ上にあるか、またはないかをアサートします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テキスト | ページ上のテキストと比較されるテキスト。 |

**注:**
検索対象テキストでは、大文字と小文字が区別されます。

**注:**
Rome リリース以降、このテストステップは新しいテストのワークスペースでも機能します。

**注:**
[ページのテキストをアサートする] テストステップでは、空白を含むテキストも受け入れられます。

### コンポーネント値の検証 (カスタム **UI)**

カスタム UI ページのコンポーネント値を検証します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コンポーネント値 | テストするページコンポーネントと、ステップを成功させるために各ページコンポーネントに必要な値。<br><br>注:<br>[値] フィールドのデフォルトは、選択したコンポーネントの最後に取得した値です。 |

### [コンポーネント (カスタム **UI)**] をクリックします

カスタム UI ページ上のコンポーネントをクリックします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| コンポーネント | このステップでテストするコンポーネント。 |

### コンポーネントステータスの検証 (カスタム **UI)**

カスタム UI ページ上の指定されたコンポーネントの状態を検証します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| コンポーネント | このステップでテストするコンポーネント。 |
| アサーションタイプ | アサーションのタイプ：<br>• 無効<br>• 有効 |

自動翻訳

### サービスポータルページを開く

ポータルページを開きます。テストデザイナーは、ページで UI コンポーネントをテストする前に、ポータルでページを開く必要があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ポータル | ポータルを選択します。 |
| ページ | 開くページを選択します。 |
| クエリパラメーター | ページに必要なクエリパラメーターを追加します。たとえば、フォームページでレコードを開くには、テーブルと sys_id パラメーターを入力します。サービスポータル クエリパラメーターの詳細については、「URL によるページナビゲーション」を参照してください。 |

フォームカテゴリ

フォームのフィールドと UI アクションの機能を検証します。

**注:**
[フォームの **UI]** フィールドを含むテストステップでは、利用可能な UI を選択できます。利用可能なワークスペースでは、タブ間のナビゲーションはサポートされていません。「新しいフォームを開く」または「既存のレコードを開く」のステップを使用して、フォームを再度開きます。

エージェントワークスペースなお、本プラットフォームから削除されている。テストまたはテストスイートがある場合 エージェントワークスペース 、それらは機能しなくなります。

新しいフォームを開く

指定されたテーブルと [フォームの **UI]** の新しいレコードにフォームを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 表示 | このフォームを開くビューの名前。テストユーザーは、そのビューへのアクセス権を持っている必要があります。名前が有効なフォームビューでない場合、フォームはデフォルトのビューで開かれます。<br>**注:**<br>このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択されたときに表示されます。 |

### 既存のレコードを開く

指定されたテーブルと [フォームの **UI**] の既存のレコードにフォームを開きます。

**注:**
既存のレコードを使用すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。詳細については、「Automated Test Framework の設計上の考慮事項」を参照してください。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| レコード | 開くレコードのレコード ID と開くドキュメントの名前。 |
| ビュー | このフォームを開くビューの名前。テストユーザーは、そのビューへのアクセス権を持っている必要があります。名前が有効なフォームビューでない場合、フォームはデフォルトのビューで開かれます。<br>**注:** このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択されたときに表示されます。 |

### フィールド値の設定

現在のフォームのフィールドを指定された値に設定します。

このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めし

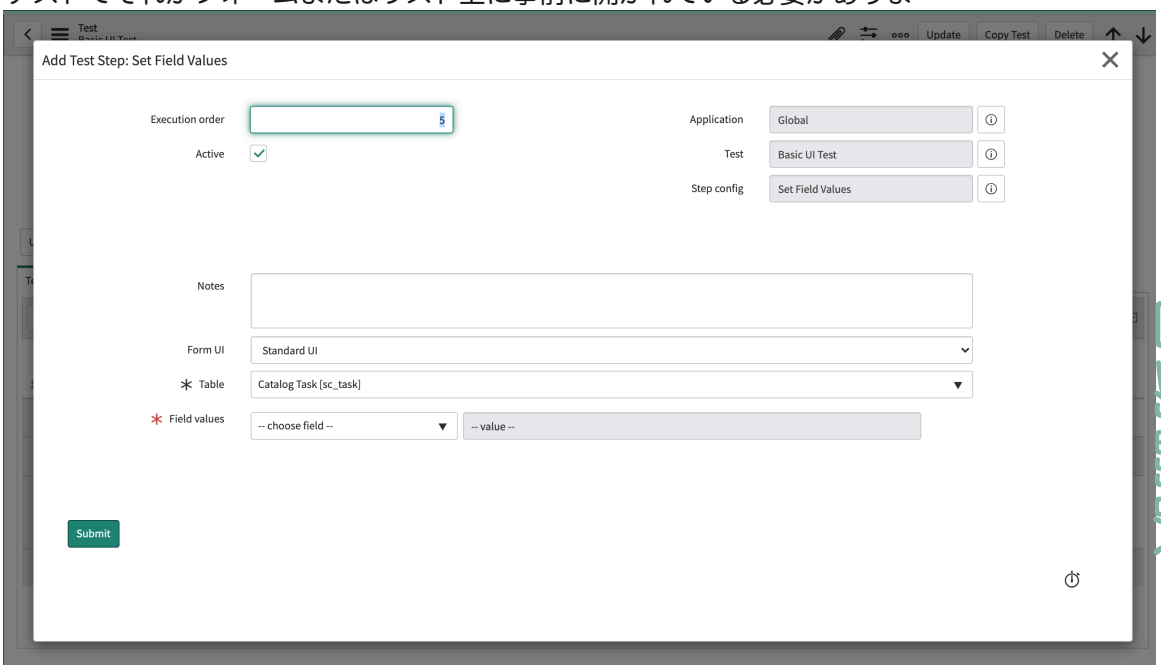
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ます。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

[フィールド値の検証]、[フィールド値の設定]、[フィールドステータスの検証]、**[UI** アクション可視性] の各ステップは、任意の順序で表示できます。

**注:**
このステップでは、フィールド値を設定する前にフォームが読み込まれるのを待ちます。このステップは、テスト設計時でもテスト実行時でも、参照修飾子をサポートしていません。モーダルフォームは、別のフォームまたはリストの上に表示されます。フィールド値を設定した後にモーダルフォームを送信するには、テストでそれがフォームまたはリスト上に事前に開かれている必要があります。




入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| フィールド値の設定 | 開いているフォームのフィールドに値を割り当てます。 |

### フィールド値の検証

現在のフォームのフィールド値を検証します。

このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

[フィールド値の検証]、[フィールド値の設定]、[フィールドステータスの検証]、**[UI** アクション可視性] の各ステップは、任意の順序で表示できます。

[フィールド値の検証] ステップでは、標準条件ビルダーを使用してテストする値を指定します。同じフィールドに対して複数の条件をテストできます。全体的な条件が満たされている場合、このステップは合格し、条件が満たされていない場合は失敗します。[条件] フィールドでは大文字と小文字が区別されます。フォームと同じ値を指定する必要があります。互いに独立して個々のフィールドの値をテストするには、テストする各値に対して個別の [フィールド値の検証] ステップを含めます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
[フィールド値の検証] ステップは、開いているフォームのレコードに属するフィールドでのみ機能します。たとえば、インシデントテーブルでは、[追加コメント]、[承認履歴]、[コメント]、または [作業メモ] フィールドは、このステップでは検証できません。これらの UI コントロールがインシデントレコードの実際のフィールドではないためです。これらの UI コントロールを使用すると、関連するテーブルを簡単に操作できます。これらのケースを検証するには、代わりにサーバーテストステップの [レコードの検証] を使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 条件 | 検証するフィールドと値。開いているフォームに表示されるフィールドのみが含まれます。このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。 |

### フィールドステータスの検証

指定されたフィールドの状態を検証します。検証される状態には、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、可視および非可視が含まれます。

フィールドの状態がこのステップの条件と一致するのを待つ最大時間を指定できます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br><br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 表示 | このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示されない場合、テストは失敗します。 |
| 非表示 | このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示される場合、テストは失敗します。 |
| 読み取り専用 | このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用ではない場合、テストは失敗します。 |
| 非読み取り専用 | このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用である場合、テストは失敗します。 |
| 必須 | このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須ではない場合、テストは失敗します。 |
| 任意 | このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須である場合、テストは失敗します。 |

### UI アクション可視性

現在のフォームに UI アクションが表示されるかどうかを検証します。このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。

デフォルトで表示される UI アクションは、現在代理操作しているユーザーによって異なります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 表示 | このフォームの UI アクションが表示されるかどうかを検証します。UI アクションが表示されない場合、テストは失敗します。 |
| 非表示 | このフォームの UI アクションが表示されるかどうかを検証します。UI アクションが表示される場合、テストは失敗します。 |

### 宣言アクションの可視性

現在のフォームに宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。

デフォルトで表示される宣言アクションは、現在代理操作しているユーザーによって異なります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br><br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 表示 | このフォームの宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。宣言アクションが表示されない場合、テストは失敗します。 |
| 非表示 | このフォームの宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。宣言アクションが表示される場合、テストは失敗します。 |

### 添付ファイルをフォームに追加

現在のフォームに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加します。テストステップでフォームに追加する添付ファイルを、[添付ファイルのアップロード] リストから選択します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| 添付ファイルをアップロード | フォームに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加するためのボタン。 |

**注:**
[添付ファイルをフォームに追加] テストステップでは、新しく追加された UI ワークスペースオプションにアクセスできません。

### モーダルボタンをクリック

指定された [フォームの **UI]** のモーダル内のボタンをクリックします。

[フォームの **UI]** フィールドから標準プラットフォーム UI またはワークスペース UI のいずれかを選択して、テストを指定します。標準プラットフォーム UI を選択すると、このテストステップは指定されたモーダルの ID でボタンを選択し、次の条件を検証します。

- UI ページがモーダルで開かれている。
- ボタンが表示され、有効になっている。

利用可能なワークスペース UI を選択すると、このテストステップで [確認] または [キャンセル] アクションが選択され、オプションでモーダル内のフィールド値が設定されます。このステップは、フォームでモーダルダイアログが開いていて、指定されたボタンがそのモーダルダイアログに存在する場合にのみ成功します。

次の g_modal 関数で開かれたモーダルのみがサポートされます。

- アラート
- confirm
- confirmDestroy
- showFields

**注:**
[モーダルボタンをクリック] で、グローバルおよびスコープ対象のアプリケーションモーダルがサポートされるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | モーダルとボタンが表示される秒数。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。<br><br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| UI ページ | テストする UI のモーダルダイアログ。<br><br>**注:**<br>このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択された場合にのみ表示されます。 |
| ボタン | ボタン要素の ID 属性。たとえば、**[OK]** ボタンの UI モーダルダイアログでの ID は OK_button です。<br><br>**注:**<br>このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択された場合にのみ表示されます。 |
| モーダルの値 | モーダルに設定するフィールド値。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 注:<br>このフィールドは、フォーム **UI** として ワークスペースが選択された場合にのみ表示されます。 |
| モーダルのアクション | モーダルで選択されるアクション。<br>注:<br>このフィールドは、フォーム **UI** として ワークスペースが選択された場合にのみ表示されます。 |
| アサーションタイプ | モーダルボタンをクリックしたときのテストへの影響。<br>• モーダルがクローズされ、ページがリロードまたはリダイレクトされました：モーダルがクローズされ、ページがリロードまたは別のページにリダイレクトされた場合にのみ、テストに合格します。<br>• モーダルがクローズし、ページはリロードまたはリダイレクトされませんでした：モーダルがクローズされ、ページがリロードまたは別のページにリダイレクトされなかった場合にのみ、テストに合格します。<br>• モーダルはクローズされませんでした：モーダルがまだ存在し、クローズされなかった場合にのみ、テストに合格します。 |
| アサーション タイムアウト | アサーションが失敗するまでの秒数。アサーションに失敗すると、タイムアウトの時間になるまでアサーションが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |

注:
モーダルボタンをクリックテストステップは、新しく追加された UI ワークスペースオプションにアクセスできません。

### **UI** アクションをクリック

現在のフォームの UI アクションをクリックします。

このステップが実行されると、システムはそのコントロールによって通常アクティブ化されるアクションを実行します。このテストステップでは、現在のフォームにコントロールが含まれていること、およびコントロールが表示されて有効になっていることも検証します。 このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

Washington DC リリースでは、このステップはフォームコンテキストメニュータイプの UI アクションをサポートします。

**注:**
[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップを実行した後の特定のページの表示をシステムに依存するテストを記述しないでください。これらのテストステップの後、システムはフォームを開く前に開いていたページに戻ります。テストではそのページが何であったかを特定できないため、特定のページを想定したテストを記述すると、予測できない結果が生じる可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br><br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| UI アクション | クリックする UI アクション。<br><br>**注:**<br>宣言アクションボタンと UI アクションボタンの外観はまったく同じです。選択したテストステップ ([UI アクションをクリック] または [宣言アクションをクリック]) に応じて、ボタンのタイプを識別できます。 |
| アサーションタイプ | UI アクションのクリックによるテストへの影響。<br>• ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。<br>• サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | この UI アクションを含むフォームのテーブル |
| record | アクションがクリックされたレコードの sys_id。 |

### 宣言アクションをクリック

現在のフォームの宣言アクションをクリックします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| テーブル | 新しいフォームのテーブルの名前。 |
| 宣言アクション | リストから宣言アクションを選択するオプション。<br>**注:** 宣言アクションボタンと UI アクションボタンの外観はまったく同じです。選択したテストステップ ([UI アクションをクリック] または [宣言アクションをクリック]) に応じて、ボタンのタイプを識別できます。 |
| アサーションタイプ | UI アクションのクリックによるテストへの影響。<br>• ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。<br>• サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。 |

### フォームを送信

現在のフォームを送信します。

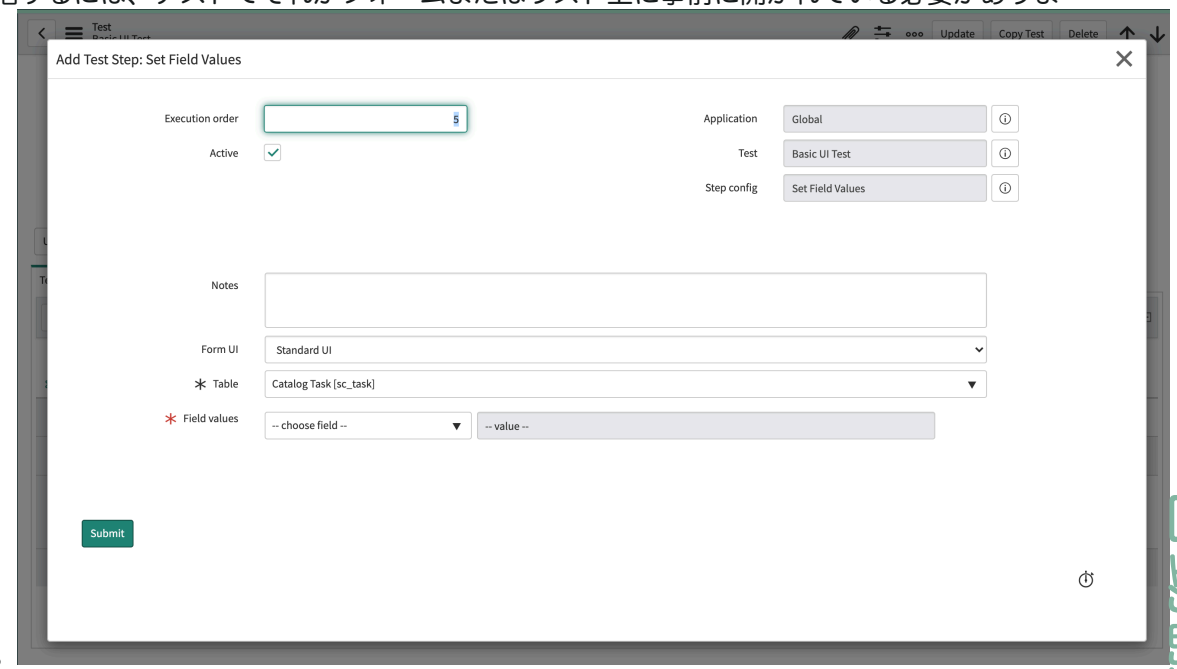
このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップを実行した後の特定のページの表示をシステムに依存するテストを記述しないでください。これらのテストステップの後、システムはフォームを開く前に開いていたページに戻ります。テストではそのページが何であったかを特定できないため、特定のページを想定したテストを記述すると、予測できない結果が生じる可能性があります。

**注:**
モーダルフォームは、別のフォームまたはリストの上に表示されます。モーダルフォームを送信するには、テストでそれがフォームまたはリスト上に事前に開かれている必要があります。




入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>このフィールドは、フォーム **UI** から利用可能なワークスペースが選択されたときに表示されます。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関する注意事項 |
| フォームの UI | 利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。<br>**注:**<br>ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。 |
| アサーションタイプ | フォームの送信時のテストへの影響。<br>• サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。<br>• ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。<br>• なし：フォームの送信時にアサーションを行いません。このアサーションタイプを使用する場合、フォームの送信の結果に関係なく、ステップは常に成功します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 提出されたレコードのテーブル。 |
| record | 送信されたレコードの sys_id。 |

### サービスカタログ カテゴリ

サービスカタログ での単一カタログアイテムトランザクションと要求者および履行者のフローを検証します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## Service Catalog の Automated Test Framework のアクティブ化

これらのテストステップでは、Automated Test Framework Service Catalog (com.glide.automated_testing_impl.service_catalog) プラグインのアクティブ化が必要です。これは新しいインスタンスでデフォルトでアクティブになっています。管理者は、以前のバージョンからアップグレードしたインスタンスでプラグインをアクティブにする必要がある場合があります。

### パラメーター化されたテストのサポート

サービスカタログステップ構成は、パラメーター化されたテストをサポートしています。パラメーター化されたテストの詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。

### 変数エディターのサポート

変数エディターをサポートするレコード (要求されたアイテム、カタログタスク、またはインシデント) を開いた後、ステップ構成を追加して、変数値を設定したり、変数の状態や値を検証したりできます。変数エディターをサポートするには、次の順序でステップ構成を使用します。

1. サービスカタログカテゴリでのカタログアイテムまたはレコードプロデューサを注文するステップ構成。
2. フォームカテゴリでの既存のレコードを開くステップ構成。
3. サービスカタログカテゴリでの変数値を設定する、変数値を検証する、または変数状態検証ステップ構成。

> **注:**
> [変数値の設定]、[変数値の検証]、[変数ステータスの検証] ステップの構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

#### カタログアイテムを開く

カタログアイテムを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| カタログアイテム | 開くカタログアイテム。<br>**注:**<br>このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |

### レコードプロデューサーを開く

レコードプロデューサを開きます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| レコードプロデューサー | 開くレコードプロデューサー。<br>**注:**<br>レコードプロデューサーへのアクセス権を持っている必要があります。 |

### 変数値の設定

現在のカタログアイテムまたはレコードプロデューサページに変数の値を設定しますカタログアイテムの場合は、カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。レコードプロデューサの場合は、レコードプロデューサを開くステップを使用してレコードプロデューサページを開いた後、レコードプロデューサの送信ステップを使用する前に、このステップを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アイテム | 変数値を設定するカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。 |
| 変数値 | 変数とそれらに設定する値のリスト。<br><br>**注:**<br>複数の変数の値を設定できます。 |

### カタログアイテム数量の設定

現在のカタログアイテムの数量を設定します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アイテム | 数量を設定するカタログアイテム。 |
| 数量 | カタログアイテムに設定する数量。 |

### 変数値の検証

現在のカタログアイテムまたはレコードプロデューサ変数の値を検証しますカタログアイテムの場合は、カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。レコードプロデューサの場合は、レコードプロデューサを開くステップを使用してレコードプロデューサページを開いた後、レコードプロデューサの送信ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケー | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ション | |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アイテム | 変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。 |
| カタログ状態 | 変数の検証の条件。条件を満たしている場合、テストは合格です。<br>**注:**<br>変数セットに関連付けられた変数のラベルは、変数セット名が反映されます。形式は *`variable_set_name » variable_name`* です。 |

自動翻訳

### 変数ステータスの検証

変数の状態を検証します。変数の状態は、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、表示、非表示です。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップ |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | が繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| カタログアイテム | ステータスを検証するカタログアイテム。<br>注:<br>このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。 |
| 表示 | ステップが合格するために表示する必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 非表示 | ステップが合格するために非表示にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 読み取り専用 | ステップが合格するために読み取り専用にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 非読み取り専用 | ステップが合格するために読み取り専用にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。 |
| 必須 | ステップが合格するために必須にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。 |
| 任意 | ステップが合格するために必須にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。 |

### 価格および反復課金の検証

カタログアイテムの価格および繰り返し発生料金を検証します。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 価格 | ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。 |
| 繰り返し発生料金 | ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金。 |
| 繰り返し発生料金の頻度 | ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金の頻度。 |

自動翻訳

### 買い物かごへのアイテムの追加

買い物かごにカタログアイテムを追加します。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いたら、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>買い物かごにアイテムを正常に追加しました<br>カタログアイテムが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。<br>買い物かごにアイテムを追加できません<br>カタログアイテムを買い物かごに追加できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| cart_item_id | 追加されたカタログアイテムの sys_id。 |

### カタログアイテムの注文

カタログアイテムの[今すぐ注文]をクリックします。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いたら、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。2 ステップチェックアウトが false の場合、カタログアイテムの要求が生成されます。2 ステップチェックアウトが true の場合、買い物かごプレビューページにリダイレクトされます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>カタログアイテムを正常に注文しました<br>カタログアイテムが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。<br>カタログアイテムを注文できません<br>カタログアイテムを注文できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| request_id | 作成されたカタログ要求の sys_id。 |
| 買い物かご | カタログアイテムが入っている買い物かごの sys_id。 |

### レコードプロデューサーの送信

現在のレコード プロデューサを送信します。レコードを開くプロデューサのステップを使用してレコード プロデューサを開いた後、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>レコードプロデューサーを正常に送信<br>レコードプロデューサーが正常に送信された場合にのみ、テストに合格します。<br>レコードプロデューサーを送信できません<br>レコードプロデューサーを送信できない場合にのみ、テストに合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| record_id | レコードプロデューサーのターゲットレコードの sys_id。 |

### サービスポータル のフォームカテゴリ

サービスポータル フォームウィジェットのフィールドと UI アクションの機能を検証します。

## サービスポータル 依存関係

自動 サービスポータルステップの作成には、ServiceNow データモデルおよび サービスポータル フォームとデータの構造の知識が必要です。

### フォームを開く **(SP)**

ポータルでフォームを開きます。

このステップは、ベースシステムのフォームページに使用します。カスタムフォームページの場合は、[カスタム UI] カテゴリの サービスポータルページを開く ステップを使用します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ポータル | 定義されたフォームが開くポータル。サービスポータル がデフォルトです。 |
| ページ | 定義されたポータルで開くページ。フォームページがデフォルトです。 |
| テーブル | 開くフォームを含むテーブル。 |
| sys_id | 開くレコードの sys_id。デフォルトは `-1` で、新しいレコードが開きます。 |
| 表示 | 開くフォームビュー。空白の場合は、デフォルトのビューが使用されます。 |
| クエリパラメーター | フォームの追加の URL クエリパラメーターと値。 |

### フィールド値の設定 **(SP)**

フォームのフィールドの値を設定します。この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| テーブル | フィールド値を設定するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)**] ステップのテーブルである必要があります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| フィールド値 | 値を設定するフィールドと、それらのフィールドに設定する値。 |

### フィールド値の検証 (SP)

定義された条件に基づいて、現在のフォームのフィールド値を検証します。この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| テーブル | フィールドを検証するフォームを含むテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。 |
| 条件 | フォーム上の 1 つ以上のフィールドを検証するために使用する条件。条件が true と評価された場合、ステップは合格します。 |

### フィールドステータスの検証 (SP)

サービスポータルのフォームのフィールド状態を検証します。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テーブル | フィールドのステータスを検証するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。 |
| 表示 | このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示されない場合、テストは失敗します。 |
| 非表示 | このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示される場合、テストは失敗します。 |
| 読み取り専用 | このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用ではない場合、テストは失敗します。 |
| 非読み取り専用 | このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用である場合、テストは失敗します。 |
| 必須 | このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須ではない場合、テストは失敗します。 |
| 任意 | このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須である場合、テストは失敗します。 |

### 添付ファイルをフォームに追加 **(SP)**

サービスポータル フォームウィジェットにファイルを添付する機能をテストします。

この手順を使用するには、[フォームを開く **(SP)]** テストステップまたは [サービスポータルページを開く] ステップを使用してフォームが事前に開かれている必要があります。このステップは、[フォームを送信] ステップまたは **[UI** アクションをクリック] ステップが使用された後には使用できません。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 添付ファイルをアップロード | フォームに 1 つ以上のファイルを添付するためのボタン。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### UI アクション可視性の検証 (SP)

現在のサービスポータルフォーム上に、UI アクションが表示されているかどうかを判定します。この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

サービスポータル サーバー UI アクションのみがサポートされています。setRedirectURL() メソッドおよびクライアント UI アクションはサポートされていません。UI アクション可視性は、現在ログイン中のユーザーまたは代理操作の対象であるユーザーによって異なる場合があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テーブル | UI アクション可視性を確認するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。 |
| 表示 | 可視性を確認する UI アクションテーブルのフィールド。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。現在ログインしているユーザーのフォームに UI アクションが表示されていない場合、テストは不合格になります。<br><br>**注:**<br>リストに同じ名前の UI アクションが含まれている場合は、フォームを確認して要素の sys_id を判別します。次に、UI アクションテーブルで sys_id でフィルタリングして、ステップで正しい要素を選択します。 |
| 非表示 | 可視性を確認する UI アクションテーブルのフィールド。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。現在ログインしているユーザーのフォームに UI アクションが表示されている場合、テストは不合格になります。<br><br>**注:**<br>リストに同じ名前の UI アクションが含まれている場合は、フォームを確認して要素の sys_id を判別します。次に、UI アクションテーブルで sys_id でフィルタリングして、ステップで正しい要素を選択します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### UI アクションのクリック (SP)

現在の サービスポータル フォームで UI アクションを選択し、アクションが選択されたレコードのテーブルと sys_id を出力します。

この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。このステップを使用した後、他のフォームステップは使用できません。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テーブル | UI アクションをクリックするフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。 |
| UI アクション | クリックする UI アクション。UI アクションテーブルから選択します。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。 |
| アサーションタイプ | UI アクションをクリックした後にフォームの送信を確認する場所を指定します。<br>• **[--**なし--]：必須フィールドまたはその他のフィールドを検証せずに UI アクションを選択します。<br>• ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：検証またはその他の問題のために、ブラウザーでフォームがキャンセルされて、サーバーに到達しなかったかどうかを確認します。<br>• サーバーにフォームを送信：フォームがサーバーに送信されたかどうかを確認します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| record_id | アクションがクリックされたレコードの sys_id。 |
| テーブル | クリックされた UI アクションを含むテーブル。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### フォームの送信 (SP)

サービスポータルページに現在のフォームを送信し、テーブルと送信されたレコードの sys_id を出力します。

この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。このステップを実行すると、ページが閉じます。現在のページで他のステップを使用することはできません。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | フォームの送信を確認する場所を指定します。<br>• **[--**なし--]：必須フィールドまたはその他のフィールドを検証せずにフォームを送信します。<br>• サーバーにフォームを送信：フォームがサーバーに送信されたかどうかを確認します。<br>• ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：検証またはその他の問題のために、ブラウザーでフォームがキャンセルされて、サーバーに到達しなかったかどうかを確認します。 |

#### 出力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| record_id | 送信されたレコードの sys_id。 |
| テーブル | 送信されたレコードのテーブル。 |

### リストと関連リスト

リストおよび関連リスト内のレコードと UI アクションの機能と可視性を検証します。

### 関連リストの可視性を検証

フォーム上の選択された関連リストの可視性を検証します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テーブル | 関連リストの可視性が検証される親フォームのテーブルの名前。 |
| 表示 | 表示としてアサートする関連リストのリスト。 |
| 非表示 | 非表示としてアサートする関連リストのリスト。 |

### フィルターをリストに適用

リストにフィルターを適用して、必要なレコードを見つけます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| リストタイプ | リストのタイプを選択するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • リスト<br>• 関連リスト |
| アサーションタイプ | テストステップ実行時のアサーションを指定します。<br>• 一致するレコードが少なくとも**1**件見つかりました：一致するレコードが少なくとも 1 件ある場合、ステップは成功します。<br>• 一致するレコードが見つかりません：一致するレコードがない場合、ステップは失敗します。<br>• 一致するレコードが**1**件見つかりました：一致するレコードが 1 件だけある場合、ステップは成功します。 |
| テーブル | [リストタイプ] が [リスト] の場合、このフィールドは開いているリストのテーブルです。<br>[リストタイプ] が [関連リスト] の場合、このフィールドはリストが属する親フォームのテーブルの名前を示します。 |
| 関連リスト | フィールターの適用先の関連リスト。<br>**注:**<br>このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。 |
| リストフィルター | リストに適用するフィルター条件。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| first_record | 指定されたフィルターを適用した後にリストで見つかった最初のレコード。 |

### リストに存在するレコードを検証

リスト内のレコードのプレゼンスを検証します。続行するには、有効なフォームを開き、レコードを含むリストを表示する必要があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| リストタイプ | リストのタイプを選択するオプション。<br>• リスト<br>• 関連リスト |
| アサーションタイプ | テストステップ実行時のアサーションを指定します。<br>• レコードがリストに存在します<br>• レコードがリストに存在しません |
| テーブル | リストが属する親テーブルの名前。 |
| 関連リスト | 検証するレコードを含む関連リスト。<br>**注:**<br>このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。 |
| レコード | プレゼンスが検証されたレコード。 |

### リスト内のレコードを開く

リスト内の特定のレコードを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| リストタイプ | リストのタイプを選択するオプション。<br>• リスト<br>• 関連リスト |
| テーブル | リストが属する親テーブルの名前。 |
| 関連リスト | 開くレコードを含む関連リスト。<br><br>**注:**<br>このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。 |
| レコード | 開くレコード。 |

### リスト **UI** アクションの可視性を検証

UI アクションがリストに表示されていることを検証します。ユーザーを代理操作している場合、UI アクションの可視性は、代理操作されているユーザーによって異なります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| リストタイプ | リストのタイプを選択するオプション。<br>• リスト<br>• 関連リスト |
| テーブル | 親フォームのテーブルの名前。 |
| 関連リスト | UI アクションを含む関連リスト。<br>**注:**<br>このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。 |
| 表示 | 表示としてアサートする UI アクションのリスト。 |
| 非表示 | 非表示としてアサートする UI アクションのリスト。 |

### リスト **UI** アクションをクリック

フォームのリストでリスト UI アクションを選択します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| リストタイプ | リストのタイプを選択するオプション。<br>• リスト<br>• 関連リスト |
| テーブル | UI アクションが属するテーブルの名前。 |
| 関連リスト | UI アクションを含む関連リスト。<br>注:<br>このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。 |
| リストアクション | クリックされるリスト UI アクション。 |
| アクションタイプ | クリックされる UI アクションのタイプ。 |
| 適用先 | UI アクションが適用されるレコード。 |
| アサーションタイプ | ステップの実行時に作成されたアサーション。<br>• なし：UI アクションをクリックし、アサーションを行わずに続行します。<br>• ページのリロードまたはリダイレクト：UI アクションをクリックし、ページがリロードまたはリダイレクトされたことをアサートします。このアサーションタイプはフォーム送信をアサートしません。 |
| レコード | UI アクションが適用されるレコード。<br>注:<br>このフィールドは、[適用先] フィールドで [単一レコード] を選択すると表示されます。 |

### **REST** カテゴリ

REST 呼び出しの機能を確認します。

### **REST** 要求の送信 **-** 受信 **- REST API** エクスプローラー

このテスト ステップは、REST API エクスプローラーから始まります。REST API エクスプローラーを使用して、現在のインスタンスへの REST 要求の HTTP メソッド、パス、クエリー パラメーター、要求ヘッダー、本文を作成して指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求をテストすると、[自動テストステップの作成] ボタンが表示されます。[自動テストステップの作成] をクリックしてテストステップを作成します。このボタンは、要求が送信されるまで表示されません。要求ペイロードが最大要求ペイロードサイズプロパティより大きい場合は、テスト ステップを作成できません。

このテストステップは、**REST** 要求送信 **-** インバウンドテストステップと同じテストレコードを作成します。テストステップを作成した後は、戻って REST API エクスプローラーを使用してテストを更新することはできません。すべての変更は、**REST** 要求の送信 **-** インバウンドテストステップ フォームで行う必要があります。

このステップの一部として HTTP 応答の検証が実行されることはありません。応答ペイロードのサイズが大きすぎる場合、要求パラメーターが無効な場合、または要求を送信できなかった場合、ステップは失敗します。アサーションステップを使用して応答を検証します。

このステップを使用して、別のインスタンスまたは第三者/リモートアドレスに要求を送信することはできません。

これらの入力は、REST API エクスプローラー用です。表示されるフィールドは、選択した API によって異なります。インスタンスで REST APIs を使用する方法の詳細については、「REST APIs」を参照してください。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前空間 | 要求の名前空間。リストから選択します。 |
| API 名 | 使用する API。リストから選択します。 |
| API バージョン | 使用する API バージョン。インスタンスで利用可能なバージョンをリストから選択します。 |
| パスパラメーター | API 名の後のパスの部分。パスパラメーターは通常、許容値がリスト内にある名前と値のペアです。 |
| クエリパラメーター | パスの後の URI に追加されるクエリパラメーターの名前と値のペア。<br><br>REST API エクスプローラーは URI をエンコードするため、クエリのパラメーターと値をエンコードする必要はありません。 |
| 要求ヘッダー | 要求ヘッダーに含まれる名前と値のペア。現在のユーザーの資格情報を使用するには、認証ヘッダーを [自分で送信 **(Send as me)]** に設定します。本番環境でテストステップを使用するには、**[REST** を送信 **-** 受信] テストステップの [基本認証]フィールドを変更する必要が生じる場合があります。<br><br>名前または値をエンコードしないでください。 |
| 要求本文 | 要求コンテンツ。一部の要求には本文がありません。 |

### **REST** 要求の送信 **-** 受信

現在のインスタンスに REST 要求を送信するテスト ステップを作成します。REST 要求の HTTP メソッド、パス、クエリー パラメーター、要求ヘッダー、および本文を指定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このステップの一部として HTTP 応答の検証が実行されることはありません。応答ペイロードのサイズが大きすぎる場合、要求パラメーターが無効な場合、または要求を送信できなかった場合、ステップは失敗します。アサーションステップを使用して応答を検証します。

この手順を使用して、別のインスタンスまたはサードパーティ/リモートアドレスに要求を送信することはできません。

REST APIs を使用する方法の詳細については、REST APIs を参照してください。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 基本認証 | パブリック API を使用している場合は、認証資格情報を入力する必要はありません。<br><br>非公開 API を使用している場合は、テストを実行するときに基本認証情報を入力する必要があります。このフィールドを空白のままにすると、予期しない結果が生じる可能性があります。たとえば、応答ステータスコードが「200 OK」ではなく「401 権限なし」になる場合があります。<br><br>テスト実行時の認証の問題を回避するために、テストステップに割り当てる基本認証プロファイルを作成または選択する必要があります。<br><br>REST テストステップを十分に活用するには、web_service_admin ロールが必要です。このロールがない場合、ユーザーは、認証を必要とするエンドポイントに必要な基本認証プロファイルを表示または設定することはできま |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | せん。このロールがなくても、ユーザーはパブリック API の REST テストステップと、非パブリック API への非認証アクセスを利用できます。REST テストステップへのフルアクセス権の場合は、atf_ws_designer ロールが利用可能であり、atf_test_designer ロールとともに web_service_admin ロールが含まれています。 |
| メソッド | 使用する HTTP メソッド：<br>• **GET**<br>• **POST**<br>• **PUT**<br>• 消去<br>• **PATCH** |
| パス | 使用するパス。このフィールドは、URI のインスタンス名の後の部分のみを受け入れます。https://<インスタンス名> を使用した場合、エラーが発生します。 |
| クエリパラメーター | クエリパラメーターの名前と値。パラメーター名または値をエンコードしないでください。 |
| ヘッダー | ヘッダーの名前と値。ヘッダー名または値をエンコードしないでください。 |
| 本文 | 要求の本文。 |

自動翻訳

### ステータスコードのアサート

HTTP 応答ステータスコードが、指定された値と指定された関係にあることを確認します。ステータスコードと関係には数値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値に等しい<br>• ではない<br>• 次の値未満 **(<)**<br>• **>**<br>• 次の値以下<br>• 以上 |
| ステータスコード | 応答コードに対してテストするステータスコード。 |

自動翻訳

### ステータスコード名のアサート

HTTP 応答ステータスコード名が、指定された値と指定された関係にあることを確認します。ステータスコード名と関係の値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値を含む<br>• 次の値を含まない<br>• 次の値に等しい<br>• ではない |
| ステータスコード名 | テストするステータスコード名。 |

### 応答時間のアサート

HTTP 応答応答時間が、指定された値と指定された関係にあることを確認します。応答時間と関係の値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 運用 | 入力された応答時間と実際の応答時間の間で実行される比較：<br>• 次の値未満 **(<)**<br>• **>** |
| 応答時間 (ミリ秒) | 実際の応答時間と比較する時間 (ミリ秒)。 |

## 応答ヘッダーのアサート

HTTP 応答ヘッダーが存在するか、ヘッダーが指定された値と指定された関係にあることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ヘッダー | ヘッダー名。 |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値を含む<br>• 次の値を含まない<br>• 次の値に等しい<br>• ではない<br>• は空でない |
| 値 | テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。 |

### 応答 **JSON** ペイロードのアサートが有効

応答ペイロードが有効な JSON 形式であることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |

### 応答 **XML** ペイロードのアサート形式が適切

応答のペイロードの形式が適切な XML であることを確認します

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |

### **XML** ペイロード要素のアサート

XML 応答のペイロード要素が存在するか、または指定された値と指定された関係にあることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 要素パス | 評価する要素への XML パス。例：/result/short_description<br><br>{<br>"result": {<br>"number": "INC0020001",<br>"short_description": "test"<br>}<br>} |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値を含む<br>• 次の値を含まない<br>• 次の値に等しい<br>• ではない<br>• は空でない |
| 値 | テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。 |

### JSON 応答ペイロード要素のアサート

JSON 応答のペイロード要素が存在するか、または指定された値と指定された関係にあることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 要素パス | 評価する要素への SNC パス。例：/result/short_description<br><br>`{ "result": { "number": "INC0020001", "short_description": "test" } }`<br><br>詳細については、「JSON ファイルをインポートする」を参照してください。 |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値を含む<br>• 次の値を含まない<br>• 次の値に等しい<br>• ではない<br>• は空でない |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 値 | テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。 |

### 応答ペイロードのアサート

HTTP 応答応答ペイロードが、指定された値と指定された関係にあることを確認します。値と関係を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

**注:**
一致を探すためにペイロード全体が使用されます。ペイロードが大きいとパフォーマンスに影響する可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 運用 | 値間で実行する比較：<br>• 次の値を含む<br>• 次の値を含まない<br>• 次の値に等しい |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • ではない<br>• は空でない |
| 応答本文 | テストで使用する応答本文の値。<br><br>応答ペイロードに表示されるときに比較される名前と値を含める必要があります。中括弧を含めることはできません。<br><br>[運用] が空でない場合は表示されません。 |

応答ペイロードの簡単な説明を確認するには

```
{"result":{"number":"INC0010040","short_description":"Test ATF Incident"}}
```

応答本文に以下のものが含まれなければなりません。

```
"short_description":"Test ATF Incident"
```

これらの形式は正しくないため、ステップは失敗します。

- `{"short_description":"ATF インシデントのテスト"}`
- `"{"short_description":"ATF インシデントのテスト"}"`
- `short_description: ATF インシデントのテスト`
- `short_description:"ATF インシデントのテスト"`

### メールのカテゴリ

自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を使用して、メール通知、送信メールフロー、および受信メール応答をテストします。

### 送信メールの検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。

このステップを使用して、フローによって生成された送信メールを検証 または 通知によって生成された送信メールを検証 のテストステップでキャプチャされないメール生成スクリプトをテストします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 条件 | 送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。 |
| テーブル | クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。 |

**注:**
テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

### フローによって生成された送信メールを検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。 このステップを使用して、フローが想定どおりにトリガーされることをテストします。

**注:**
このステップでは、フローの [メール送信] アクションによって作成されたメールのみが検索されます。フローで通知がトリガーされた後に送信されたメールを検索するには、代わりに 通知によって生成された送信メールを検証 ステップを使用します。カスタムスクリプトアクションなど、他のフローアクションで作成されたメールを検索するには、代わりに 送信メールの検証 ステップを使用します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ソースのフロー | 送信メールが作成されたフロー。 |
| 条件 | 送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。 |
| テーブル | クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。 |

**注:**
テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

### 通知によって生成された送信メールを検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。 このステップを使用して、メール通知が想定どおりにトリガーされることをテストします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ソースの通知 | 送信メールの作成元の通知。このフィールドは、通知 [sysevent_email_action] テーブルを参照します。 |
| 条件 | 送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。 |

**注:**
テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

### 受信メールを生成

受信メールレコードを作成して、受信メールフローまたは受信メールアクションをテストします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 送信元 | 送信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。 |
| 宛先 | 受信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。 |
| 件名 | メールの件名。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。 |
| 本文 | メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| output_email_record | メール [sys_email] テーブルのレコードです。<br><br>[受信タイプ] は [新規] で、[タイプ] は [送信 - 準備完了]です。これらのフィールドの意味の詳細については、「システムメールログおよびメールボックス」を参照してください。 |

受信返信メールを生成

返信メールレコードを作成して、メール通知に対するユーザーの応答がどのように処理されるかをテストします。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ターゲットテーブル | ターゲットレコードのテーブル。 |
| ターゲットレコード | 返信メールが更新されたことを記録します。ターゲットレコードを選択すると、返信メールにもウォーターマークが適用されます。 |
| 送信元 | 送信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。 |
| 宛先 | 受信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。 |
| 件名 | メールの件名。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 本文 | メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| output_reply_email_record | メール [sys_email] テーブルのレコードです。<br><br>[受信タイプ] は [返信] で、[タイプ] は [送信 - 準備完了]です。これらのフィールドの意味の詳細については、「システムメールログおよびメールボックス」を参照してください。 |

### ランダム文字列を生成

別のステップのテストデータとして使用できるランダムな英数字の文字列を生成します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 長さ | 生成される文字列の文字数。最大長は 10,000 文字です。このフィールドを空白のままにすると、文字列の長さはデフォルトで 10 文字になります。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| random_string | ランダムな英数字の文字列。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### サーバーカテゴリ

サーバー側の操作を実行します。たとえば、レコードのクエリと更新、ユーザーの代理操作、サーバー側スクリプトの実行などです。

### ユーザーを作成

テスト用に指定されたロールとグループを持つユーザーを作成します。ユーザーレコードはテスト完了後にロールバックされます。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 名 | ユーザーの名前 (名)。 |
| 姓 | ユーザーの名前 (姓)。 |
| ロール | ユーザーにアサインされたロール。 |
| グループ | ユーザーにアサインされたグループ。 |
| このユーザーを代理操作 | 新しいユーザーを代理操作するためのオプション。 |

#### 出力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ユーザー | 代理操作されるユーザーのユーザー ID。 |

### 代理操作

テスト用に、指定されたユーザーの代理操作をします。

代理操作では、このテストで後続のステップを実行するユーザーを指定します。サーバー側とブラウザ側の両方のステップで動作し、別の代理操作ステップで変更されるか、またはテストが終了するまで有効です。テストが終了すると、代理操作は自動的に終了します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- テスト作成者ロールを持つユーザーの代理操作は実行しないでください。実行すると、テストの実行を妨げる競合が発生する可能性があります。
- 存在しなくなった代理操作ユーザーが関与するテストは失敗します。

ヒント:
データの依存関係を避けるために、新しいユーザーを作成することをお勧めします。詳細については、「ユーザーを作成」を参照してください。

- 異なるインスタンス間でユーザー ID が一貫していることを前提としないでください。システムはユーザー ID を動的に割り当てるため、特定のユーザーの ID がインスタンスごとに異なることがよくあります。
- 自動テストをエクスポートしてインポートする場合、ユーザーフィールドは更新セットによって更新されないことに注意してください。
- テストは、snc_external ロールを持つユーザーに偽装できます。これにより、ログインアクセスを持たないユーザーをテストできます。snc_external ロールの要件については、「明示的なロール」を参照してください。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ユーザー | 代理操作するテストのユーザー ID。 |

出力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ユーザー | 代理操作されるユーザーのユーザー ID。 |

### カタログアイテムの検索

指定したカタログとカテゴリで、カタログアイテムまたはレコードプロデューサの検索を実行します。このステップは、プラットフォームとサービスポータルの両方で実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ポータル内のみを検索 | 検索がサービスポータルのみに制限されている場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。 |
| 検索用語 | カタログアイテムを検索するために使用される用語。 |
| カタログ | カタログアイテムを検索するカタログ。 |
| カテゴリ | カタログアイテムを検索するカテゴリ。 |
| アサーションアイテム | 検索結果で利用可能なカタログアイテム。 |
| アサーションタイプ | カタログアイテムの検索がテストにどのように影響するかを指定します。<br>• 検索結果にアサーションアイテムが存在する：アサーションアイテムが検索結果に存在する場合にのみ、テストは合格します。<br>• 検索結果にアサーションアイテムが存在しない：アサーションアイテムが検索結果に存在しない場合にのみ、テストは合格します。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| catalog_item_id | ユーザーが表示できる最初のカタログアイテムの sys_id。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### レコードのクエリー

データベースに対してクエリーを実行し、このステップで設定した条件に一致するレコードが存在することを確認します。

#### 入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| セキュリティを強制 | ACL を強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アサーションタイプ | レコードのクエリがテストにどのように影響するかを指定します。<br>• 少なくとも **1** つのレコードがクエリに一致します：クエリに一致するレコードがない場合、テストは不合格になります。<br>• クエリに一致するレコードはありません：クエリに一致するレコードがある場合、テストは不合格になります。 |
| テーブル | クエリされるテーブル。 |
| 条件 | クエリの実行に使用される条件。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | クエリーされたテーブル。 |
| first_record | クエリー結果の最初のレコード。 |

注:
レコードクエリテストステップを更新しない場合、元のレコードクエリテストステップは、(使用廃止) と示されているかどうかに関係なく、以前と同じように機能します。

レコードの挿入

指定したフィールド値を持つレコードをテーブルに挿入します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br><br>注:<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アサーションタイプ | レコードの挿入がテストにどのように影響するかを指定します。<br>• レコードが正常に挿入されました：レコードが正常に挿入されなかった場合、テストは不合格になります。<br>• レコードが挿入されませんでした：レコードが正常に挿入された場合、テストは不合格になります。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| セキュリティを強制 | ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。 |
| テーブル | レコードを挿入するテーブル。 |
| 条件 | テストでこのステップが実行されたときに設定する特定のフィールド値。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 新規レコードが属するテーブル。 |
| record_id | 新規レコードの sys_id。 |

### レコードの更新

サーバー上でレコードのフィールド値を変更します。

**注:**
変更が適用されたことを確認するため、このステップの後にレコードの検証のステップを実施してください。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アサーションタイプ | レコードの更新がテストにどのように影響するかを指定します。<br>• レコードが正常に更新されました：レコードが正常に更新されなかった場合、テストは不合格になります。<br>• レコードが更新されませんでした ：レコードが正常に更新された場合、テストは不合格になります。 |
| セキュリティを強制 | ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。 |
| テーブル | 更新するレコードを含むテーブル。 |
| レコード | 更新されるレコードの ID。 |
| フィールド値 | 値を設定するフィールドと、それらのフィールドに設定する値。<br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |

**注:**
レコードのフィールドが ACL によってブロックされている場合でも、[レコードの更新] ステップは成功します。[レコードの更新] 後に [レコードの検証] ステップを使用して、特定のフィールドが変更されたかどうかを確認するか、または [フォームのステップ] を使用して、レコードの個々のフィールドの ACL 条件を評価します。

### レコードの削除

テーブル内の指定されたレコードを削除します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | レコードの更新がテストにどのように影響するかを指定します。<br>• レコードが正常に削除されました：レコードが正常に削除されなかった場合、テストは不合格になります。<br>• レコードが削除されませんでした：レコードが正常に削除された場合、テストは不合格になります。 |
| セキュリティを強制 | ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。 |
| テーブル | 削除するレコードを含むテーブル。 |
| レコード | 削除されるレコードの ID。 |

自動翻訳

### レコードの検証

レコードが、サーバー側の指定された条件を満たすことを検証します。

レコードの妥当性確認ステップでは、標準条件ビルダーを使用してテストする値を指定します。同じフィールドに複数の条件を適用できます。

全体的な条件が満たされている場合、このステップは合格し、そうでない場合は失敗します。お互いに独立して個々のフィールドの値をテストする必要がある場合は、テストする各値に対して個別のレコードの妥当性確認ステップを追加します。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。<br>**注:**<br>条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。 |
| アサーションタイプ | レコードの検証がテストにどのように影響するかを指定します。<br>• レコードが正常に検証されました：レコードが条件と一致しない場合、テストは不合格になります。<br>• レコードが見つかりません：レコードが見つかった場合、テストは不合格になります。 |
| テーブル | 検証するフィールドを含むテーブル。 |
| レコード | 検証するフィールドを含むレコード。 |
| フィールド値 | テストでこのステップが実行されたときに検証される特定のフィールド。 |

### サーバー側スクリプトの実行

サーバーでスクリプトを実行します。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| Jasmine バージョン | サーバー側スクリプトの実行に使用する Jasmine テスティングフレームワークのバージョン。 作成する新しいスクリプトはすべて Jasmine バージョン 3.1 を使用します。既存のスクリプトで Jasmine バージョン 1.3 を引き続き使用することも、Jasmine バージョン 3.1 にアップグレードすることもできます。 |
| テストスクリプト | 実行するサーバーの javascript。Jasmine テスティングフレームワークをサポートします。<br><br>**注:**<br>ステップ (SYS_ID) は、テストで以前に実行されたステップから出力変数データを取得する機能として定義できます。<br><br>[サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、ステップ入力としてパラメーターをサポートするようになりました。 |

出力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| record_id | サーバー側スクリプトによる sys_id 出力。 |
| テーブル | サーバー側スクリプトによるテーブル出力。 |

**注:**
スクリプトでデータが作成された場合、テストのすべてのステップが終了した後、システムはそのデータをロールバックします。

**注:**
[サーバー側実行スクリプト] のテストステップの出力に、失敗の原因の行と行番号が表示されるようになりました。

- テストスクリプト

```
//  Test step 1 - add data
var now_GR = new GlideRecord('sc_task');
//  this sample step's Step config has Output variables named table and record_id
outputs.table = 'sc_task';
outputs.record_id = gr.insert();
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//  Test step 2 - access added data and validate
//  check that the record exists (or that business logic changed it)
var now_GR = new GlideRecord("sc_task");
gr.get(steps(PREVIOUS_STEP_SYS_ID).record_id);
assertEqual({name: "task gr exists", shouldbe: true, value: gr.isValidRecord()});
stepResult.setOutputMessage: Log a message to step results after step executes.
                        Can only be called once or will overwrite previous message
```

- テストスクリプトのスイートを作成します

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_task');
gr.setValue('short_description', 'verify task can be inserted');
var grSysId = gr.insert();
var justCreatedGR = new GlideRecord('sc_task');
if (justCreatedGR.get(grSysId)) {
stepResult.setOutputMessage("Successfully inserted task record");
return true; // pass the step
} else {
stepResult.setOutputMessage("Failed to insert task record");
return false; // fail the step
}
```

- Jasmine テスト

```
describe('my suite of script tests', function() {
it('should meet expectations', function() {
expect(true).not.toBe(false);
});
});
//  make sure to uncomment jasmine.getEnv().execute(); outside the function body
assertEqual: A function used to compare that assertion.shouldbe == assertion.value;
in case of failure it throws an Error and logs that the assertion by name has failed
```

**注:**
describe はグローバルスコープでのみサポートされています。describe を使用してテストスクリプトのスイートを作成し、it を使用してテストの期待値を定義します。

- メッセージをテストステップ出力に記録します

```
var testAssertion = {
name: "my test assertion",
shouldbe: "expected value"
value: "actual value",
};
assertEqual(testAssertion); // throws Error, logs message to test step output
```

- サーバー側実行スクリプトの例については、「ステップ実行スクリプト」を参照してください。

### 要求アイテムを再現

既存の要求アイテムからアイテムと依頼者を取得し、そのアイテムを新しい買い物かごに追加して、そのアイテムを注文します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| 元の要求アイテム | 再現される要求アイテム。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 再実行された要求アイテムが属するテーブル。 |
| 要求 | 再現された要求アイテム。 |

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF)ユースケース：サービスカタログ要求のテスト

ログ

メッセージをログに記録し、ステップの結果として保存します。

ログメッセージには、テストに関連する変数やその他の情報を含めることができます。メッセージはステップの結果として保存されます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| | ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ログ | 記録されるメッセージ。以前のステップの出力変数の値を含めるには、入力値アイコン( ) をクリックし、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」の手順に従います。 |

### 既存のレコードに添付ファイルを追加

指定されたレコードに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加します。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでレコードに追加する添付ファイルを選択します。

入力

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| テスト | ステップを追加するテストの名前。 |
| ステップ構成 | ステップの名前。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| テーブル | リストからの有効なテーブルの選択。 |
| レコード | テスト前の既存のレコード、またはテストの一部として挿入されたレコード。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 添付ファイルをアップロード | レコードに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加するためのボタン。 |

### 買い物かごのチェックアウト

買い物かごを送信して要求を生成します。このステップは、Now Platformおよびサービスポータルで実行できます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| タイムアウト | ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| アサーションタイプ | テストに合格するための基準。<br>空の買い物かご<br>買い物かごが空でない場合、テストは不合格になります。<br>買い物かごを正常にチェックアウトしました<br>買い物かごが正常にチェックアウトされない場合、テストは不合格になります。 |
| 要求元 | 要求が生成されたユーザー。 |
| 配送先 | 要求の配送先住所。 |
| 特別な指示 | 要求に関する特別な指示。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| request_id | 送信された要求の sys_id。 |

### カスタムスクリプト StepConfig

カスタム ステップ設定用のスクリプトの例を示します。

この例では、指定されたユーザー名が文字 *A* で始まるかどうかを確認します。このステップは、主に [atf_test_admin] ロールを持つユーザーに役立ちます。[atf_test_admin] ロールを持つユーザーは、このステップのレコードをステップ構成で開くことによって、スクリプトの例を表示できます。

入力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 実行順序 | テストのこのステップの実行順序を指定する整数。<br><br>ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。 |
| 有効 | このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。 |
| アプリケーション | システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テスト | ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。 |
| ステップ構成 | ステップの読み取り専用の名前。 |
| 説明 | テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。 |
| メモ | テストステップに関するメモ。 |
| ユーザー | 名前が **A** という文字で始まるかどうかがチェックされるユーザー。以前のステップの出力変数の値を含めるには、入力値アイコン( ) をクリックし、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」の手順に従います。 |

出力

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| value | ユーザーの名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- カスタムステップ構成の作成
- ステップ実行スクリプト
- ステップ説明生成スクリプト

## 自動テストフレームワーク (ATF) 参照

自動テストフレームワーク (ATF)のリファレンス情報。

ATF 機能を使用するためのヒントについては、「https://players.brightcove.net/6274575390001/nUx4EKfUz_default/index.html?videoId=6286204365001」をご覧ください。

### 自動テストの実行後にロールバックから除外されるテーブル

Automated Test Framework は、テストの実行によって作成されたデータを追跡し、テスト後に変更をロールバックします。システムは、テスト中に特定のテーブルが追跡されないようにします。

システムは、特定のテーブルを追跡またはロールバックから除外します。

- 履歴 [sys_history_line] テーブル
- ECC キューテーブル [ecc_queue]。
- メール [sys_email] メールログ [sys_email_log] テーブル
- レポート実行 [report_executions] テーブルと ReportStats [report_stats] テーブル。
- 実行トラッカー [sys_execution_tracker] テーブル
- 進捗ワーカー [sys_progress_worker] テーブル
- スキーマの変更 [sys_schema_change]
- アップグレード履歴 [sys_upgrade_history] テーブルとアップグレード履歴ログ [sys_upgrade_history_log] テーブル
- ミューテックス [sys_mutex] テーブル
- プラグインログ [sys_plugin_log] テーブル
- ステータス [sys_status] テーブル
- 数カウンタ [sys_number_counter] テーブル
- AMB チャネルプレゼンス [sys_amb_channel_presence] テーブル
- 除外テーブルを拡張するテーブル。
- 次のプリフィックスで始まるテーブルも除外されます。
  - syslog
  - sys_amb_message
  - sys_cluster
  - cmdb_metric
  - ts_
  - v_
  - sys_delete_recovery

除外されたテーブルのレコードがテスト実行によって変更 (挿入/更新/削除) された場合、システムはテスト後に変更をロールバックしません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

### テスト

テストモジュールは、テスト テーブルを開きます。ここから、テストを追加、編集、実行することができます。個々のテスト レコードを開くと、そのテストを構成するステップを表示および編集できます。

関連情報

自動テストスイートの構築と実行

### レコードのテストフォーム

テスト レコードフォームでは、テスト レコードのフィールドの値を表示および編集します。

#### フィールド

| フィールド/ **UI** 要素 | 説明 |
|---|---|
| 名前 | テスト名。 |
| 説明 | テストの説明。 |
| アクティブ | このテストがアクティブな場合、**true** です。そうでない場合は **false**。 |
| アプリケーション | システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 関連テスト ステップリスト | このテストが実行するステップ。 |
| 関連テスト結果リスト | このテストの個々の実行結果。 |
| サーバーエラーで失敗 | サーバーでの UI ステップの実行中に検出され、テストに失敗したエラー。 |

#### **UI** アクション

| 名前 | 説明 |
|---|---|
| 更新 | クリックしてテスト レコードを更新します。 |
| テストを実行 | クリックしてテストを実行します。 |
| テストをコピー | クリックしてテストをコピーします。 |
| 削除 | クリックしてこのテストを削除します。 |

### スイート

スイートモジュールは、テストスイートテーブルを開きます。このテーブルからテストスイートを作成、編集、実行することができます。

関連情報

自動テストスイートの構築と実行

### テストスイートフォーム

テストスイートフォームには、1 つのテストスイートに関する情報が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | テストスイートの名前 |
| 有効 | このテストスイートをアクティブにするには、このフィールドをオンにします。 |
| 説明 | (オプション) このテストスイートの目的を識別する説明を入力します。 |
| アプリケーション | システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。 |
| 親スイート | このテストスイートを別のテストスイートの子にするには、ここに親テストスイートの名前を入力します。 |
| テストスイートテスト (関連リスト) | このテストスイートに含まれるテスト |
| 子テストスイート (関連リスト) | このテストスイートの子であるすべてのテストスイート |
| テストスイートの結果 (関連リスト) | このテストスイートを実行した結果 |
| テストスイートのスケジュール (関連リスト) | このテストスイートを含むすべてのテストスイートスケジュール。 |

## テスト結果

テストを実行するたびに、Automated Test Framework によりテスト結果の記録が作成されます。テスト結果モジュールを使用して、個々のテストの結果とテスト内の個々のステップの詳細を表示します。テストでスクリーンショットが生成された場合は、テスト結果レコードに添付ファイルとして表示されます。

各テスト結果レコードには、1 回のテスト実行に関する詳細な結果情報が表示され、詳細なステップ結果とテストログへのリンクが含まれています。ステップ結果レコードにはテスト結果の 1ステップに関する情報が表示され、テストログ (テスト結果アイテム) レコードには詳細なコンソールログとテスト実行情報が含まれています。

デフォルトでは、テストおよびテストスイートの結果のデータは作成から 30 日後に削除されます。このデフォルト保持ポリシーは、必要に応じてテーブルクリーンアップモジュールで変更できます。

関連情報

- ATFテスト結果のデータ保持ポリシーの変更
- テーブルクリーンアップモジュール

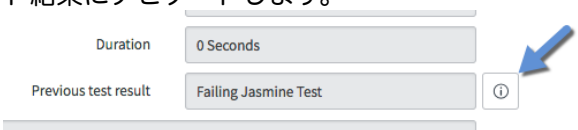
## テスト結果レコード

テスト結果レコードには、1 回のテスト実行に関する詳細な結果情報が含まれています。クライアントエラーの詳細と障害の詳細のセクションは、エラー状態によってテストが失敗した場合に表示され、トラブルシューティングの目的で使用できる詳細なエラー情報が含まれています。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テスト | テストの名前 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステータス | テスト実行の結果：<br>成功<br>テストは合格<br>失敗<br>テストは不合格<br>成功 (警告あり)<br>テスト実行は合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。<br>待機中<br>テストの開始を待っています。<br>実行中<br>テストが実行中です。<br>スキップ<br>スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。<br>エラー<br>テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラー メッセージは、エラーをスローしたステップに対するステップ結果レコードの [サマリー] フィールドに表示されます。<br>キャンセル<br>ユーザーがテストをキャンセルしました。 |
| 無期限保存 | 指定されたデータ保持期間が経過した後もこのレコードを保持するためのチェックボックス。詳細については、「テーブルのクリーンアップ」を参照してください。 |
| 開始時間 | このテストの実行が開始された日時 |
| 終了時間 | このテストの実行が終了した日時 |
| 期間 | このテストを実行するのにかかった時間 |
| 前回のテスト結果 | テストが成功したか失敗したかを含む、以前のテスト実行の結果。このテスト結果が、失敗したテストの再実行用で、admin、atf_test_admin、または atf_test_designer ロールでログオンしている場合にのみ表示されます。情報アイコン ( ⓘ ) をクリックして、元のテスト結果にナビゲートします。<br>  |

**注:**
このテストでスクリーンショットが作成された場合、添付ファイルを管理に添付ファイルとして表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## クライアントエラーの詳細

このセクションは、クライアントエラーのためにテストが失敗した場合にのみ表示されます。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 失敗したステップ | このテスト中に失敗した最初のテスト ステップの結果への参照してください。情報アイコン ( ⓘ ) をクリックして、ステップ結果フォームに詳細なステップ結果とエラー情報を表示します。 |
| サマリー | 次のテキストでは、クライアント エラーがこのステップで発生したことを詳細なエラーメッセージとともに表示します。<br><br>テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 (Add all client errors to warning/ignored list)] リンクを使用します。<br><br>テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。 |
| 最初の失敗時のクライアントエラー | テスト中に失敗した最初のクライアントエラーへの参照してください。情報アイコン ( ⓘ ) をクリックして、テストログフォームに詳細なテスト結果とエラー情報を表示します。<br><br>**注:**<br>クライアントエラーを無視または警告エントリとして許可する方法の詳細については、「許可されたクライアントエラー」を参照してください。 |
| 失敗したステップのスクリーンショット | 失敗したステップのスクリーンショット。 ⓘ をクリックして、スクリーンショットをダウンロードします。 |

## 障害の詳細

このセクションは、クライアントエラー以外の原因でテストが失敗した場合にのみ表示されます。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 失敗したステップ | このテスト中に失敗した最初のステップの結果を参照への参照してください。 ⓘ をクリックして、スクリーンショットをダウンロードします。 |
| サマリー | 失敗したステップの出力。 |
| 失敗のスクリーンショット | 失敗したステップのスクリーンショット。 |

## 追加情報

このセクションは、すべてのテスト結果で表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 出力 | テスト ステップ用に生成された出力。<br>• テスト結果 (多くの場合、合格または失敗)。<br>• 失敗したテストの場合、失敗した最初のテスト ステップの フィールドに表示されるエラーメッセージの詳細が表示されます。上記のクライアントエラーの詳細を参照してください。 |
| 関連するブラウザ | テストを実行したブラウザから返されたユーザーエージェント文字列。 |

関連リスト

| 関連リスト | 説明 |
| --- | --- |
| ステップ結果 | 各ステップ結果のレコードと、このテストのログエントリ。 |
| テストログ | このテスト結果レコードに関連する各テストログのレコード。 |
| テストトランザクション | このレコードに関連するシステムトランザクションログ [syslog_transaction] からの各トランザクションのレコード。<br>トランザクションに関連するステップ結果を表示するには、ステップ結果列の適切なリンクをクリックします。<br>トランザクションに関連するトランザクションログを表示するには、トランザクション列の適切なリンクをクリックします。<br>**注:**<br>システムでは、短時間の一部のトランザクションをログに記録できない場合があります。 |
| 警告 | 警告ステータスのクライアントエラーを含むテストログのリスト。[警告] 関連リストは、警告のあるテスト結果についてのみ表示されます。 |

関連情報

- テスト結果と自動テスト結果の表示
- テストログレコード
- ステップ結果レコード
- 許可されたクライアントエラー
- ステップ結果からクライアントエラーを許可
- テストログからクライアントエラーを許可

ステップ結果レコード

ステップ結果レコードには、テスト結果の 1ステップに関する情報が含まれています。特定のステップ結果には、テスト結果レコードのステップ結果関連リストからアクセスします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステータス | ステップの結果：<br>成功<br>テスト ステップは合格しました。<br>失敗<br>テスト ステップは不合格となりました。<br>成功 (警告あり)<br>テストステップは合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。<br>スキップ<br>スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。<br>エラー<br>テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。<br>キャンセル<br>ユーザーがテストまたはスイートをキャンセルしました。 |
| タイプ | テスト結果アイテムのタイプ：ステップ結果 |
| サマリー | 出力フィールドのサマリーバージョン。<br>テスト ステップでエラーが発生した場合、次のテキストは、このステップでクライアントエラーが発生したことを示し、詳細な例外/エラーメッセージが含まれています。<br>テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 (Add all client errors to warning/ignored list)] リンクを使用します。<br>テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。<br>[REST 要求の送信 - 受信] ステップの場合は、要求のエンドポイントの URL と応答コードです。例：<br>HTTP 要求がエンドポイント「https://demonightlyus.service-now.com/api/now/table/kb_knowledge」に送信されました |
| 出力 | テスト ステップ用に生成された出力<br>• ステップ結果の場合は、ステップが失敗またはスキップされた理由の説明を含んだステップからの出力です。<br>• [REST 要求の送信 - 受信] ステップの場合は、REST 要求と応答本文を含んだ応答です。出力フィールドは 4096 文字で切り捨てられます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ○ 機密情報がログに追加されないように、REST 要求と応答ヘッダーはフィルターリングされます。フィルターリングされたヘッダー テキストは、「セキュリティのためヘッダーが編集されました」というテキストに置き換えられます。<br>○ フィルターリングする REST 要求と応答ヘッダーのリストを追加する方法については、『REST 要求と応答ヘッダーをフィルターリングする』を参照してください。<br><br>テスト ステップのコンソール ログとテスト実行に関する追加情報は、 レコードを参照してください。 |
| ステップ | 実行されたステップの名前。 |
| テスト結果 | このステップの結果に関連付けられたテスト結果への参照してください。情報アイコン ( ) をクリックして、詳細なテスト結果情報を表示します。 |
| 説明 | このテスト ステップの実行される特定のアクションの説明 (たとえば、インシデントの作成レポートプロデューサを開く、フォームが次の条件に一致することを検証する、など) クライアントログの場合は、ブランク。 |
| 開始時間 | このステップまたはログエントリが開始された日時。 |
| 終了時間 | このステップまたはログエントリが終了された日時。 |
| 期間 | このテストを実行するのにかかった時間 |
| ステップトランザクション (関連リスト) | このステップ結果に関連するシステムトランザクションログ [syslog_transaction] からの各トランザクションのレコード。 |

関連情報

テスト結果レコード

テストログレコード

許可されたクライアントエラー

ステップ結果からクライアントエラーを許可

## テストログレコード

テスト結果アイテム (テストログ) レコードには、コンソールログとテスト実行情報が含まれています。

テストの実行中、環境に報告されたすべての情報は、テストログ (sys_atf_test_result_item) テーブルに記録されます。この情報には、ステップ環境で記録されたブラウザーコンソールのログ、結果、およびエラーメッセージが含まれています。特定のテストログには、テスト結果フォームのテストログ関連リストからアクセスします。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ステータス | テストログの結果：<br><br>成功<br><br>テスト ステップ実行は合格しました。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 失敗<br>テスト ステップ実行に失敗しました。<br>成功 (警告あり)<br>テストステップは合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。<br>無視<br>[無視] のレポートレベルで許可されたクライアントエラー。<br>Warning<br>[警告] のレポートレベルで許可されたクライアントエラー。<br>待機中<br>テストまたはスイートは開始を待機しています。<br>実行中<br>テストまたはスイートが実行されています。<br>スキップ<br>スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。<br>エラー<br>テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラーをスローしたステップのステップ結果レコードの フィールドに、エラーメッセージが表示されます。<br>キャンセル<br>ユーザーがテストまたはスイートをキャンセルしました。 |
| タイプ | テストログの種類：<br>• ステップ結果<br>• クライアントログ<br>• クライアントエラー<br>**注:**<br>クライアントエラーの場合、オプションでそれを [許可されたクライアントエラー] で無視または警告エントリとして追加できます。こうすることで、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行で再発した際に、ATF テストの実行に影響を与えなくなります。詳細については、「許可されたクライアントエラー」を参照してください。 |
| 出力 | テストログ用に生成された出力。<br>• ステップ結果については、ステップが失敗した理由またはスキップされた理由の説明を含む、コーンソールログとテスト実行の出力。<br>• クライアントログの場合は、ログエントリテキスト。<br>• クライアントエラーの場合、実際のクライアントエラーが表示されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| ステップ | 実行されたステップの名前。このフィールドは、クライアントログの場合は空白になることがあります。 |
| テスト結果 | このステップの結果に関連付けられたテスト結果への参照してください。 をクリックして、詳細なテスト結果情報を表示します。 |
| 説明 | ステップ結果の場合は、このテスト ステップで実行されたアクション。<br><br>クライアントログの場合は、ブランク。<br><br>クライアントの場合、このメッセージは次のように表示されます。 このクライアントエラーは、ブラウザタイプブラウザバージョンのページで発生しました (Chrome 62.0.3202.62など)。 |
| 開始時間 | このテスト ステップの実行が開始された時刻。 |
| 終了時間 | このテスト ステップの実行が終了された時刻。 |
| 期間 | このテスト ステップの実行に要した時間。 |
| 記録時間 | このステップまたはログエントリが記録された時刻。 |
| リストされたクライアントエラーを許可 | 許可されたクライアントエラーレコードへの参照 (存在する場合)。 をクリックして、このクライアントエラーの [許可されたクライアントエラー] レコードを表示します。 |

関連情報

- テスト結果レコード
- ステップ結果レコード
- テストログからクライアントエラーを許可
- 許可されたクライアントエラー

### スイート結果

スイート結果モジュールは、スイート結果テーブルを開きます。テスト結果レコードにドリルダウンして、個々のテストスイートの結果、それらのテストスイート内の個々のテスト、子テストスイート (ある場合) などの詳細を表示できます。

関連情報

- 自動テストスイートの構築と実行

### テストスイート結果レコード

テストスイート結果レコードは、1 つのテストスイートの 1 回の実行結果に関する情報を表示します。

#### フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
|---|---|
| 開始時間 | (レコードリストには表示されますが、デフォルトレコードフォームには表示されません)。このテストスイートが開始された時刻。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

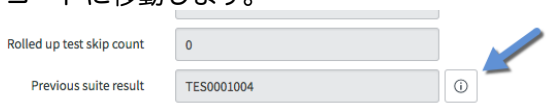
フィールド (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テストスイート | 実行されたテストスイート |
| 番号 | このテストスイート結果レコードの一意の ID |
| ベーステストスイートの結果 | このテストスイートがテストスイートの階層内の子である場合、ベーステストスイート結果は、階層の最上位レベルのスイートの結果レコードの一意の ID です。詳細については、「例：ベーステストスイートの結果」を参照してください。 |
| 親 | このテストスイートに親がある場合、これは親スイートのテスト結果レコードです。詳細については、「例：親テストスイートの結果」を参照してください。 |
| ステータス | テストまたはテストスイートの実行の結果：<br>• キャンセル済み：ユーザーがテストまたはテストスイートの実行をキャンセルしました。<br>• エラー ： テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラーメッセージは、エラーを含むテストステップに対するステップ結果フォームの [サマリー] フィールドに表示されます。<br>• 失敗：エラーのためにテスト、テストスイート、またはテストステップが失敗しました。<br>• 無視：テストステップは成功しましたが、[無視] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーが含まれています。<br>• 実行中：テストまたはテストスイートが実行中です。<br>• スキップ済み：スイート内の以前のテストが失敗し、[失敗時に中止] が **[true]** に設定されている場合に発生します。<br>• 成功：テスト、テストスイート、またはテストステップの実行が成功しました。<br>• 成功 (警告あり)：テストまたはテストスイートの実行は成功しましたが、[警告] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーがあるテストステップが含まれています。<br>• 待機中：テストまたはスイートの実行の開始が待機されています。<br>• 警告：テストまたはスイートに、[警告] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーが含まれています。 |
| 実行時間 | このテストスイートを実行するのに要した時間 |
| 無期限保存 | 指定されたデータ保持期間が経過した後もこのレコードを保持するためのチェックボックス。詳細については、「テーブルのクリーンアップ」を参照してください。 |
| テスト成功合計数 | 成功したテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。 |
| テスト失敗合計数 | 失敗したテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| | 他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。 |
| テストエラー合計数 | エラーとなったテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。 |
| テストスキップ合計数 | スキップされたテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。 |
| テスト結果 (関連リスト) | このテストスイートに含まれる個々のテストの結果 |
| 子テストスイート結果 (関連リスト) | このテストスイートの子であるテストスイートの結果 |
| すべてのテストスイートの結果 (関連リスト) | このテストスイートとすべての子孫テストスイートの結果 |
| スイート内の失敗したテスト (関連リスト) | このテストスイートに含まれる、失敗したテストの結果 |
| 前回のスイートの結果 | このスイート結果が、失敗したテストの再実行用で、atf_test_admin、atf_test_designer、または admin ロールでログオンしている場合にのみ表示されます。情報アイコンをクリックすると、「元」のスイート結果レコードに移動します。  |

関連情報

テスト結果

### テストスイート結果の例

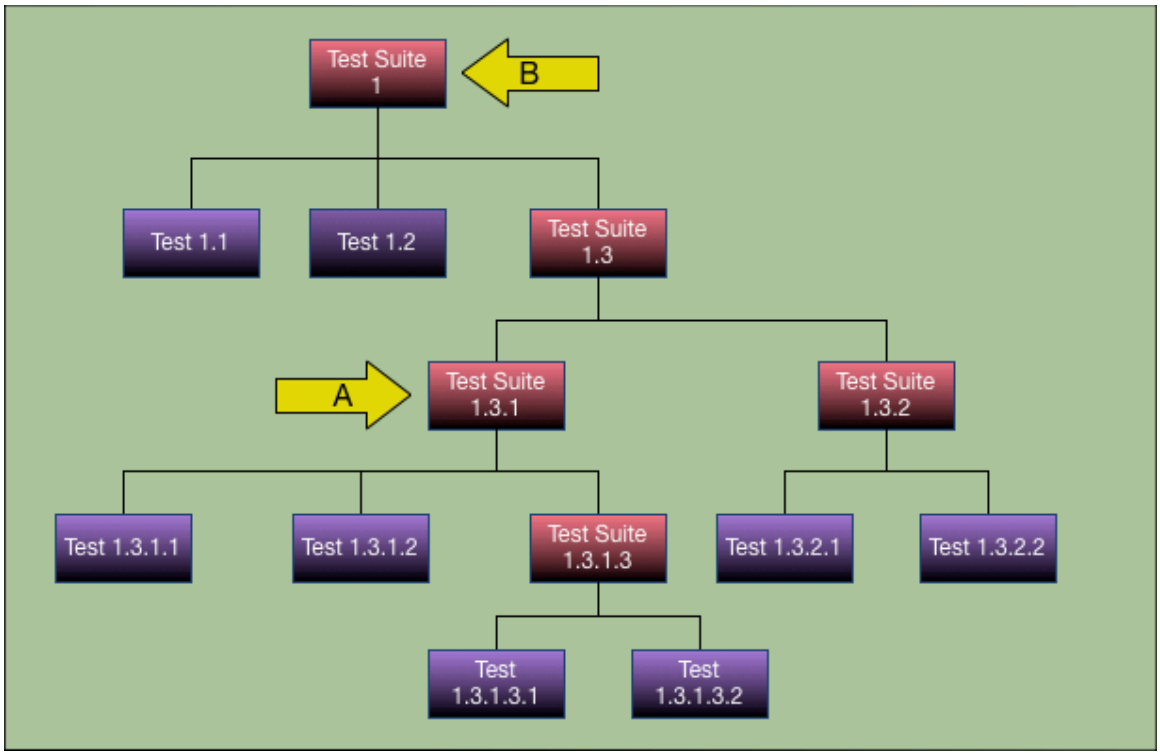
関係用語の例と、集計結果がテストスイート用にロールアップする仕組みです。

## 例：ベーステストスイートの結果

ベーステストスイートとは、階層内のトップレベルのテストスイートです。たとえば、(A) Test Suite 1.3.1のテストスイート結果レコードを表示している場合、ベーステストスイート結果フィールドは (B) Test Suite 1のテストスイート結果レコードにリンクします。

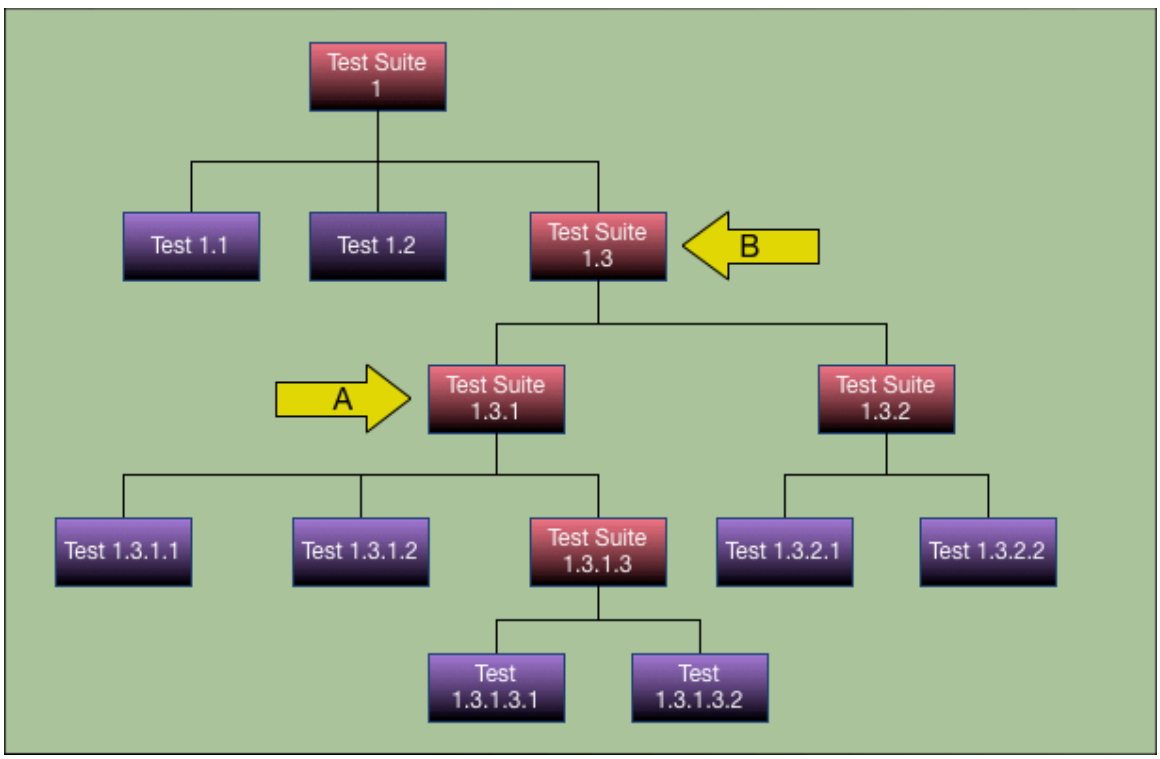
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




例：親テストスイートの結果

親テストスイートとは、現在表示しているテストスイートのすぐ上のテストスイートです。たとえば、(A) Test Suite 1.3.1のテストスイート結果レコードを表示している場合、親フィールドは (B) Test Suite 1.3のテストスイート結果レコードにリンクします。




自動翻訳

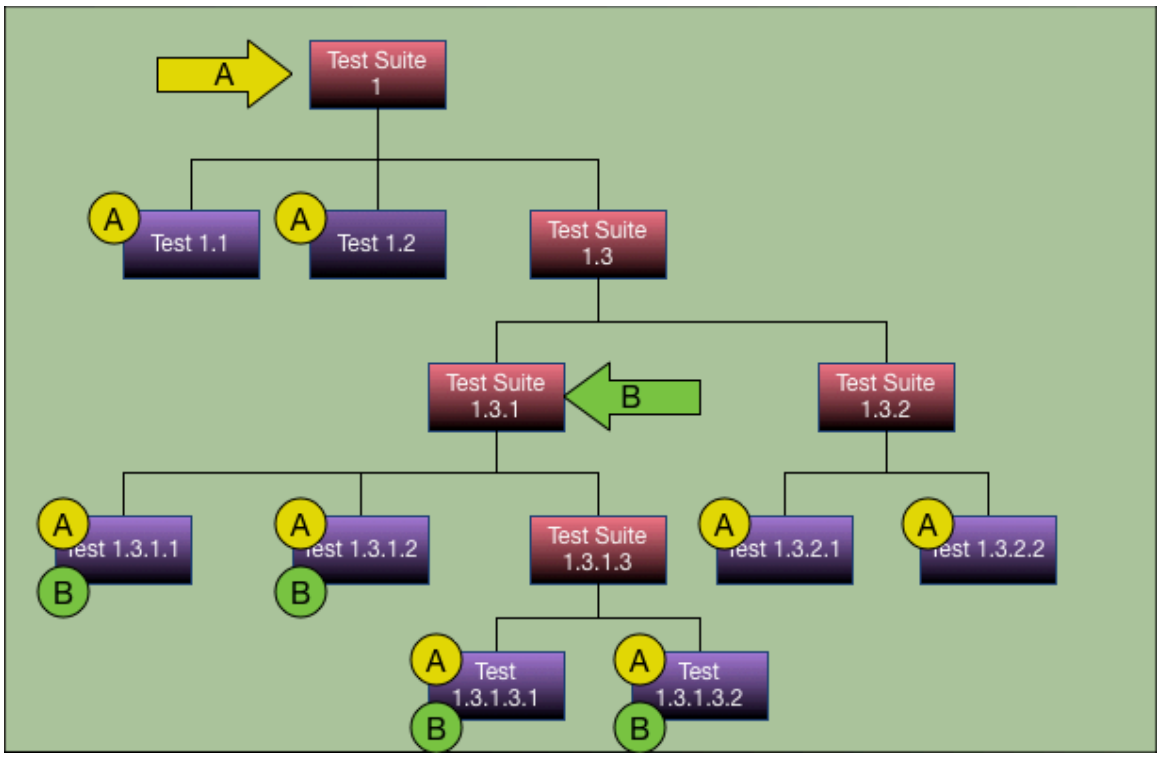
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## テストスイートの結果のロールアップ数

テスト成功、失敗、エラー、およびスキップの 4 つのメトリックについて、テストスイートのロールアップ数を表示できます。これらのそれぞれは、テストスイート内のすべてのテストのデータと、テストスイートの子孫のすべてのテストの合計データです。

たとえば、(A)Test Suite 1.3.1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、テスト成功合計数フィールドは、 *A* のラベルの付いたボックスで表されるすべてのテストの結果を数える成功回数の合計を示します。

(B) Test Suite 1.3.1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、テスト成功合計数フィールドは、 *B* のラベルの付いたボックスで表されるすべてのテストの結果を数える成功回数の合計を示します。

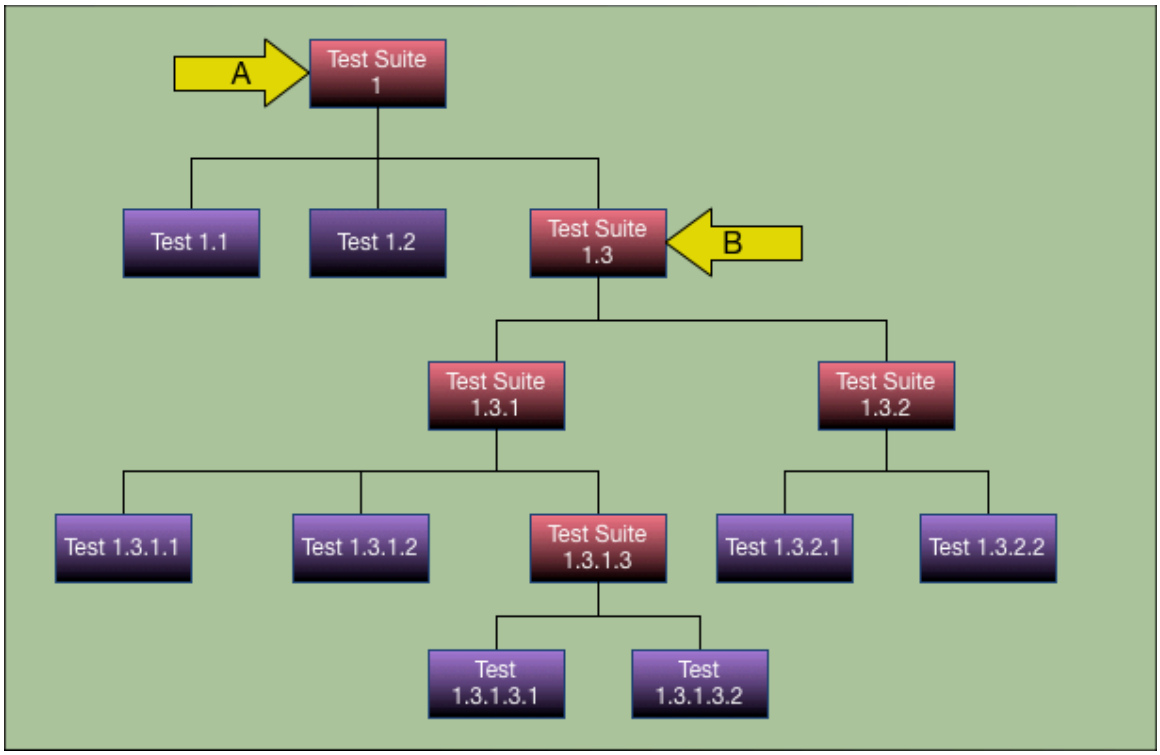



## 子テストスイート結果

(A) Test Suite 1のテストスイート結果レコードを表示している場合は、子テストスイート結果関連するリストには、Test Suite 1.3 (B) の結果レコードが表示されます。

自動翻訳

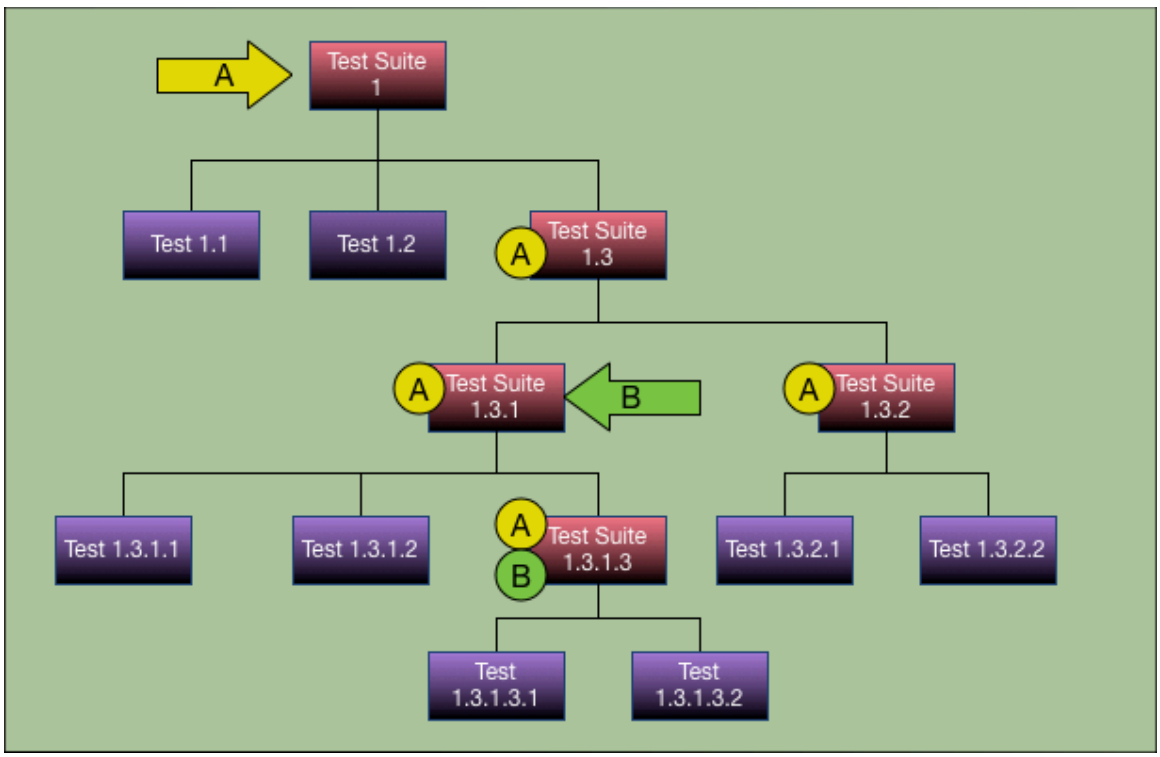
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## すべてのテストスイート結果

(A) Test Suite 1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、すべてのテストスイート結果関連するリストには、*A* というスラベルのボックで示されるすべてのテストスイートの結果レコードが表示されます。

(B) Test Suite 1.3 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、すべてのテストスイート結果関連するリストには、(*B* というスラベルのボックで示される) Test Suite 1.3.1 のみの結果レコードが表示されます。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### スイートスケジュール

スイートスケジュールテーブルを開きます。ドリルダウンして個々のスケジュールの結果に関する詳細を表示したり、新しいスケジュールを作成したりできます。

関連情報

自動テストスイートの構築と実行

### スイートスケジュールレコード

スイート結果レコードには、1 つのテストスイートスケジュールに関する情報が表示されます。

#### フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
|---|---|
| 名前 | このテストスイートスケジュールの名前 |
| 説明 | このテストスイートスケジュールの説明 |
| アクティブ | このスケジュールがアクティブな場合、**true**です。そうでない場合は**false**。 |
| アプリケーション | このテストスイートスケジュールのアプリケーションスコープ。 |
| 実行 | システムがこのスケジュールに属するテストスイートを実行する頻度 |
| 実行時のタイムゾーン | 時間フィールドに使用されるタイムゾーン |
| 時刻 | システムがこのスケジュールに属するテストスイートを実行する時刻 |
| 日 | 実行が に設定されている場合、システムがこのスケジュールに属するテスト スイートを実行する曜日。 が に設定されている場合は、日付。 |
| 繰り返し間隔 | [実行] が [定期的] に設定されている場合、このスケジュールで実行するスイートの繰り返し間隔を構成する日数と時間数。 |
| 条件付き | スクリプトがこのスケジュールでテストスイートを実行する条件を定義するには、このチェックボックスをオンにします。 |
| 条件 | 条件節がチェックされている場合、このスケジュールでシステムがテストスイートを実行する条件を決定するために実行されるスクリプト |
| スケジュール済みのスイートの実行 (関連リスト) | このスケジュールでシステムが実行するテストスイート。 |

関連情報

自動テストスイートのスケジュール

### スケジュール済みのスイート実行レコード

スケジュール済みのスイート実行レコードは、スイートスケジュールレコードをテストスイートに関連付けます。

#### フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
|---|---|
| スケジュール | 使用するスケジュール |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テストスイート | 実行するテストスイート |
| アプリケーション | このスケジュール済みのスイート実行のアプリケーションスコープ |
| ウォッチリスト | このスケジュール済みのスイートの実行が完了したときにシステムが通知するユーザー |
| ブラウザ名 | テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、使用する必要のあるブラウザ。このブラウザでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。 |
| 次で始まるブラウザバージョン | テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテストランナーのブラウザのバージョンは、この文字列で始まる必要があります。このブラウザのバージョンでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。 |
| OS 名 | テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテストランナーはこの OS で実行する必要があります。この OS でクライアントテストランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。 |
| 次で始まる OS バージョン | テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテスト ランナーの OS のバージョンは、この文字列で始まる必要があります。この OS バージョンでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。 |
| テストスイートの結果 (関連リスト) | このスケジュール済みの実行からのすべてのテストスイート結果 |

使用するブラウザーのブラウザー名とバージョンを特定するには、スケジュール済みのテストランナーをそのブラウザーで起動し、アクティブなスケジュール済みのテストランナーモジュール内のランナーのレコードを調べます。

関連情報

自動テストスイートのスケジュール

### 実行

クライアントテスト ランナーを開始し、テスト ランナーとテスト実行に関する情報を表示します。

テストランナーの操作方法については、「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。

### クライアントテストランナー

クライアントテスト ランナーは、手動で開始されたクライアント自動テストを実行するためのブラウザーウィンドウまたはタブを開きます。

クライアントテスト ランナーを手動テスト ランナーまたはスケジュール済みのクライアントテストランナーのいずれかに切り替えることができます。テストスイートのスケジュールの詳細については、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

クライアントランナーテストウィンドウのフィールド

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| フォーム設定アイコン( ) | クリックすると、フォーム設定パネルが表示されます。 |
| フォーム設定パネル：スクリーンショットモード | 次から選択：<br>• すべてのステップで有効にする<br>• 失敗したステップで有効にする<br>• すべてのステップで無効にする<br><br>詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する |
| フォーム設定パネル：スケジュール済みのテストのみを実行する | クリックすると次のように切り替わります：<br>• オン (緑色)：このクライアントテストランナーを使用して、スケジュール済みのテストおよびスイートのみを実行します。<br>• オフ (グレー)：このクライアントテストランナーを使用して、手動で開始したテストおよびスイートのみを実行します。 |

スケジュール済みのクライアントテスト ランナー

スケジュール済みのクライアントテスト実行は、スケジュール済みのクライアント自動テストを実行するためのブラウザウィンドウを開きます。

自動テストのスケジュール設定の詳細については、「自動テストスイートのスケジュール」および「スケジュール済みのテストスイートの操作」を参照してください。クライアントテスト ランナーを手動テスト ランナーまたはスケジュール済みのクライアントテスト ランナーのいずれかに切り替えることができます。

クライアントランナーテストウィンドウのフィールド

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| フォーム設定アイコン( ) | クリックすると、フォーム設定パネルが表示されます。 |
| フォーム設定パネル：スクリーンショットモード | 次から選択：<br>• すべてのステップで有効にする<br>• 失敗したステップで有効にする<br>• すべてのステップで無効にする<br><br>詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する |
| フォーム設定パネル：スケジュール済みのテストのみを実行する | クリックすると次のように切り替わります： |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントランナーテストウィンドウのフィールド (続く)

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
|---|---|
| | • オン (緑色) : このクライアントテストランナーを使用して、スケジュール済みのテストおよびスイートのみを実行します。<br>• オフ (グレー) : このクライアントテストランナーを使用して、手動で開始したテストおよびスイートのみを実行します。 |

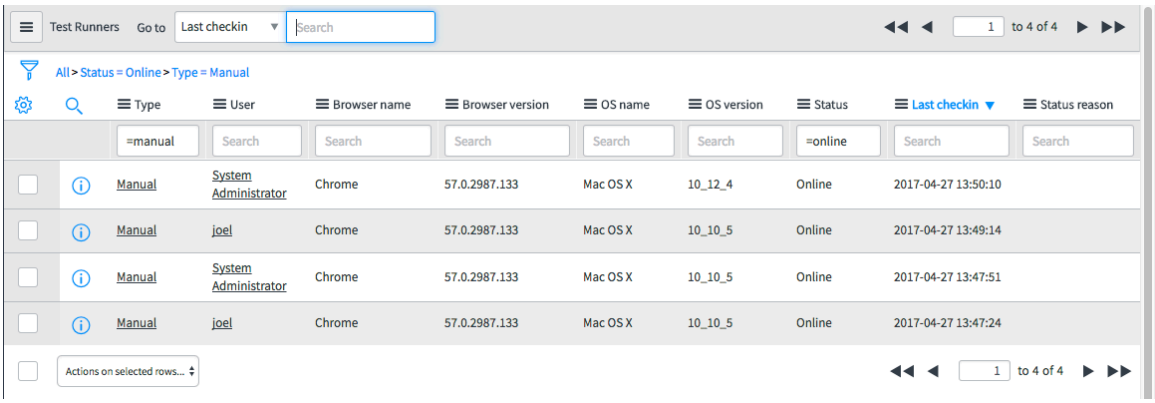
### アクティブ手動テストランナー

手動で開始したテストを実行できるランナーのみを表示するようにフィルターされたクライアントテスト ランナーテーブルを表示します。

手動クライアントテスト ランナーを起動すると、そのランナーはテスト ランナーテーブルに *active* として登録されます。

このテーブルのデータは一時的です。ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。[Automated Test Framework のプロパティ (Automated Test Framework properties)] ページでこれらの間隔を変更できます。

アクティブ手動クライアントランナーテスト テーブルの例




クライアントランナーテスト テーブルのフィールド

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
|---|---|
| タイプ | このテスト ランナーが手動テスト用かスケジュール済みのテスト用かを示します。アクティブ手動テスト ランナーモジュールでは、タイプは常にマニュアルです。 |
| ユーザー | ブラウザセッションにログインしたユーザー。 |
| ブラウザ名 | ブラウザ名。 |
| ブラウザバージョン | ブラウザバージョン。 |
| OS 名 | ブラウザを実行しているオペレーティングシステムの名前。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントランナーテスト テーブルのフィールド (続く)

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
|---|---|
| OS バージョン | ブラウザーを実行しているオペレーティングシステムのバージョン。 |
| ステータス | このランナーが現在オンラインかオフラインか。アクティブ手動テストランナーモジュールでは、ステータスは常にオンラインです。 |
| 前回のチェックイン | このランナーがシステムに最後に報告した日時。 |
| ステータスの理由 | ステータスがオフラインの場合は、その理由を示します。アクティブ手動テストランナーモジュールでは、[ステータスの理由] は常に空です。 |

### スケジュール済みのアクティブテストランナー

スケジュールにより開始されるテストを実行できるランナーのみを表示するようにフィルターされたクライアントテスト ランナーテーブルを表示します。

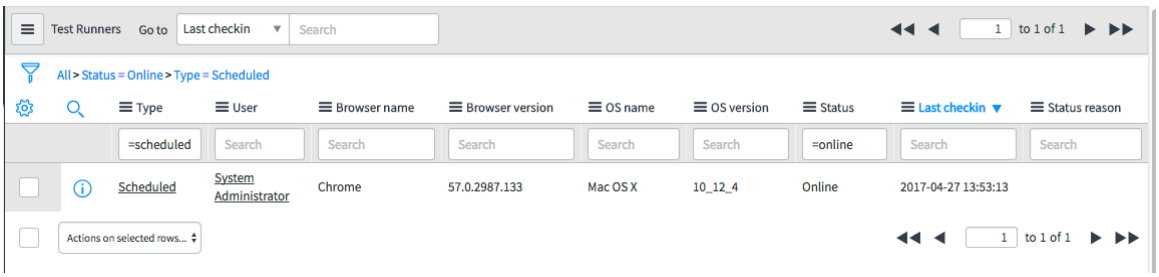
スケジュール済みのクライアントテスト ランナーを起動すると、そのランナーがアクティブテスト ランナーテーブルに登録されます。

アクティブでスケジュールされたテスト ランナーモジュールは、スケジュールあれたスイートの実行を作成するときに便利です。スケジュールされたスイートの実行では、使用するブラウザを指定できます。使用するブラウザの名前とバージョンを決定するには、スケジュール済みのテスト ランナーをそのブラウザで開始し、次にスケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュール内のそのランナーのレコードを調べます。

このテーブルのデータは一時的です。 ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。

Automated Test Framework のプロパティページで、これらの間隔を変更できます。

スケジュール済みのクライアントランナーテスト テーブルの例




クライアントランナーテスト テーブルのフィールド

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
|---|---|
| タイプ | このテスト ランナーが手動テスト用かスケジュール済みのテスト用かを示します。スケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュールでは、タイプは常にスケジュール済みです。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントランナーテスト テーブルのフィールド (続く)

| フィールド/ UI 要素 | 説明 |
|---|---|
| ユーザー | ブラウザセッションにログインしたユーザー。 |
| ブラウザ名 | ブラウザ名。 |
| ブラウザバージョン | ブラウザバージョン。 |
| OS 名 | ブラウザを実行しているオペレーティングシステムの名前。 |
| OS バージョン | ブラウザーを実行しているオペレーティングシステムのバージョン。 |
| ステータス | このランナーが現在オンラインかオフラインか。アクティブ手動テスト ランナーモジュールでは、ステータスは常にオンラインです。 |
| 前回のチェックイン | このランナーがシステムに最後に報告した日時。 |
| ステータスの理由 | ステータスがオフラインの場合は、その理由を示します。スケジュール済みのアクティブテストランナーモジュールでは、[ステータスの理由] は常に空です。 |

### 待機中/実行中のテスト実行

待機中/実行中のテスト実行モジュールは、実行待ちのテストを示すレコードリストを開きます。

> **注:**
> 競合を防ぐために、システムでは一度に 1 つのテストのみを実行できます。これは、複数のクライアントテストランナーウィンドウが開かれている場合でも同様です。別のテストが既に実行されているときに実行するテストを送信すると、システムは後で実行するために新しいテストをキューに保持します。テストが 10 分以上キューに残っている場合、システムはテストをキャンセルします。

待機中の自動テストの実行をキャンセルできます。

### 待機中/実行中のスイート実行

待機中/実行中のスイート実行モジュールは、実行を待機しているテストスイートを示すレコードリストを開きます。

### 許可されたクライアントエラーレコード

既存の許可されたクライアントエラー [sys_atf_whitelist] レコードリストを確認して、どのクライアントエラーが警告を生成し、どのクライアントエラーが無視されているかを確認します。必要に応じて既存の許可されたクライアントエラーレコードを変更するか、新しいレコードを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[許可されたクライアントエラー] フォーム

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| レポートレベル | クライアントエラーが発生した場合に実行するレポートアクション。次のオプションが含まれます。<br>• 警告 - ステップおよびテストが成功 (警告あり) を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功 (警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。<br>• 無視 - ステップおよびテストの成功を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。 |
| アクティブ | クライアントエラーの許可を有効または無効にするチェックボックス。 |
| エラーメッセージ | 許可するクライアントエラーのメッセージ。 |
| 説明 | 許可するエラーの説明。このクライアントエラーがテスト結果、ステップ結果、またはテストログから許可された場合、テストログの説明がこのフィールドにコピーされます。 |

関連情報

許可されたクライアントエラー

報告されたクライアントエラー

報告されたクライアントエラーモジュールには、クライアントエラーであり失敗したすべてのテストのテストログが一覧表示されます。個々のテストログレコードを確認し、必要に応じて、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行に悪影響を与えないようにすることができます。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 開始時間 | このテスト ステップの実行が開始された時刻。 |
| ステップ | 実行されたステップの名前。 |
| ステータス | テストログの結果：<br><br>失敗：テストステップ実行に失敗しました。 |
| 出力 | テストログ用に生成された出力。クライアントエラーの場合、実際のクライアントエラーが表示されます。 |
| 期間 | このテスト ステップの実行に要した時間。 |
| タイプ | テストログのタイプ：<br><br>クライアントエラー |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | **注:**<br>オプションでクライアントエラーを [許可されたクライアントエラー] で無視または警告エントリとして追加できます。こうすることで、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行で再発した際に、ATF テストの実行に影響を与えなくなります。詳細については、許可されたクライアントエラーを参照してください。 |
| 記録時間 | このステップまたはログエントリが記録された時刻。 |

関連情報

許可されたクライアントエラー

クライアントエラーを手動で許可

クライアントエラーの特定と解決

自動テストフレームワーク **(ATF)** ロール

自動テストフレームワーク (ATF) はこれらのロールに併せてインストールされます。

### ATF テスト管理者 [atf_test_admin]

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

Automated Test Framework プロパティを作成または編集します。次の権限があります：

- テストページの表示
- テストの作成/編集/削除
- テスト ステップの作成/編集/削除
- ステップ設定ページの表示
- テスト ランナーページの表示
- テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示
- ユーザーテストの実行
- テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行
- ステップ設定レコードの作成/編集
- Automated Test Framework プロパティの作成/編集

ロールを含む

ロール内に含まれるロールのリスト。

- impersonator
- personalize_dictionary

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

昇格

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「Elevate to a privileged role」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

## ATF テストデザイナー [atf_test_designer]

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

自動テストフレームワークのプロパティを表示するだけです (プロパティの作成および編集はできません)。次の権限があります：

- テストページの表示
- テストの作成/編集/削除
- テスト ステップの作成/編集/削除
- ステップ設定ページの表示
- テスト ランナーページの表示
- テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示
- ユーザーテストの実行
- テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行
- Automated Test Framework プロパティの表示

ロールを含む

ロール内に含まれるロールのリスト。

impersonator

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

サブスクリプション

このロールが、このロールを持つユーザーをサブスクリプションに割り当てる必要がある課金可能ユーザーロールかどうか。

昇格

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「Elevate to a privileged role」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ATF ワークスペースデザイナー [atf_ws_designer]

ユーザーごとのサブスクリプションの管理の詳細については、アカウント担当者に問い合わせ Managing per-user subscriptions in Subscription Management てください。

認証を必要とする REST エンドポイントに必要な基本認証プロファイルを表示または設定します。

ロールを含む

ロール内に含まれるロールのリスト。

- atf_test_designer
- web_service_admin

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

サブスクリプション

このロールが、このロールを持つユーザーをサブスクリプションに割り当てる必要がある課金可能ユーザーロールかどうか。

いいえ。

昇格

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「Elevate to a privileged role」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

### 管理

管理モジュールには、Automated Test Framework を設定および管理するためのフォームが含まれています。

### プロパティ

[プロパティ] フォームでは、自動テストおよびテストスイートの実行方法をコントロールするパラメーターを設定できます。

#### テストおよびテストスイートプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テスト/テストスイートの実行を有効にする<br><br>*sn_atf.runner.enabled* | オンにすると、このインスタンスでテストおよびテストスイートを実行できます。この設定は、ユーザーが本番インスタンスで意図せずにテストを実行しないように、デフォルトではオフになっています。 |
| スケジュール済みのテストスイートの実行を有効にする。 | オンにすると、このインスタンスのテストスイートをスケジュールできます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストおよびテストスイートプロパティ (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| sn_atf.schedule.enabled | |

テストデバッグプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 追加のデバック機能を有効にする<br><br>*sn_atf.debug* | クライアントテスト ランナー UI ページへのデバッグタブの追加、UI テスト結果 JSON のテスト結果レコードへの保存をはじめとする、追加のデバッグ機能を有効にします。 |

スクリーンショットプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テストの実行中にスクリーンショットキャプチャを有効または無効にします。<br><br>*sn_atf.screenshots.mode*<br><br>**注:**<br>詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する | • すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。<br>• 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。<br>• スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。 |
| GlideScreenshot 機能を有効にする<br><br>*sn_atf.screenshots.use_glide_screenshot* | ワークスペースやその他のインターフェイスのスクリーンショットの精度を向上させます。<br><br>**注:**<br>IE と Safari はこのプロパティをサポートしていません。<br><br>このプロパティが無効になっている場合、または現在のブラウザーでサポートされていない場合は、html2canvas を使用してスクリーンショットを取得します。<br><br>新しいリリースバージョンにアップグレードする場合、このプロパティはデフォルトで false に設定されます。 |
| スクリーンショットを撮るときにページ全体のキャプチャを有効にする | スクリーンショットを撮るときに、テストフレームの動的なサイズ変更と |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリーンショットプロパティ (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| *sn_atf.screenshots.capture_full_page* | ページ全体のキャプチャを有効にします。<br><br>**注:**<br>デフォルトでは、このプロパティは false に設定されています。テストの実行時間が大幅に延びる可能性があるためです。<br><br>このプロパティを無効にすると、テストフレームに表示されているページの部分のみがキャプチャされます。 |
| スクリーンショットのタイムアウト<br><br>*sn_atf.atf_test_runner.screenshot_timeout* | この値 (秒) を超えると、クライアントテスト ランナーでのスクリーンショットのキャプチャがスキップされます。この値を増やす前に、影響を受けるクライアントシステムのパフォーマンス設定とブラウザのキャッシュを確認してください |
| スクリーンショット高さのピクセル数<br><br>*sn_atf.atf_test_runner.testframe.min_height* | スクリーンショットの高さを表す数値 (ピクセル数)。<br><br>デフォルト値：600 |
| スクリーンショット幅のピクセル数<br><br>*sn_atf.atf_test_runner.testframe.min_width* | スクリーンショットの幅を表す数値 (ピクセル数)。<br><br>デフォルト値：800 |

カスタム **UI** ページのデータキャプチャプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| カスタム UI の手順でテストできるようにし、実行ごとにページデータをキャプチャします。<br><br>*sn_atf.page_data_capture.enabled* | true の場合、カスタム UI テストの手順は、テストが実行されるたびにページデータを取得します。常に最新のページバージョンでテストを実行するようにカスタム UI ページを開発しているときは、このプロパティを true に設定します。<br><br>false の場合、テスト設計者がテスト設計中に [コンポーネントの取得] を手動で選択しない限り、カスタム UI テストの手順はページデータを取得しません。より迅速なテスト実行を可能にする UI 開発が完了したら、このプロパティを false に設定してください。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### テスト ランナープロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テストランナータイムアウト<br><br>*sn_atf.runner.heartbeat.timeout* | この期間 (秒単位) 内にテストランナーからのハートビートがない場合、ステータスはオンラインからオフラインに変更されます。このプロパティの値は 120 ～ 1800 でなければなりません。<br><br>デフォルト値：120 |
| テスト ランナーのハートビート間隔<br><br>*sn_atf.runner.heartbeat.interval* | テストランナーからサーバーにハートビートを送信する時間間隔 (秒) |
| オフラインテスト ランナー保持期間<br><br>*sn_atf.runner.offline_retention.timeout* | オフラインテスト ランナーがこの日数の間システムと通信しなかった場合、そのテストランナーは削除されます。 |

### テストスイートレポートプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| テストスイートレポートプロパティ<br><br>*sn_atf.schedule.reports.suite.aging_threshold* | テストスイートエイジングレポートで表示するテストスイートの結果の数 |

### メールプロパティ

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| スケジュール済みのスイート結果の電子メールに表示される結果のブール値<br><br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.only_show_failed_results* | true の場合、スケジュール済みのスイートテスト結果の電子メールは、失敗した結果のみを表示します。false の場合、すべての結果が表示されます。 |
| スケジュールされたスイートの結果メールに表示される、テスト結果の最大数です。<br><br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.max_test_history* | スケジュールされたスイートの結果メールに表示される、テスト結果の最大数です。 |
| スイートの結果メールで結果を印刷する最大深度<br><br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.max_depth* | スイートの結果メールで結果を印刷する最大深度 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メールプロパティ (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| スケジュール済みスイートの結果メールで不合格だった ATF テストを示す色<br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.fail_color* | スケジュール済みスイートの結果メールで不合格だった ATF テストを示す 16 進コード |
| スケジュール済みスイートの結果メールでエラーだった ATF テストを示す色<br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.error_color* | スケジュール済みスイートの結果メールでエラーだった ATF テストを示す 16 進コード |
| スケジュール済みスイートの結果メールで合格した ATF テストを示す色<br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.pass_color* | スケジュール済みスイートの結果メールで合格した ATF テストを示す 16 進コード |
| スケジュール済みスイートの結果メールでスキップされた ATF テストを示す色<br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.skip_color* | スケジュール済みスイートの結果メールでスキップされた ATF テストを示す 16 進コード |
| スケジュール済みスイートの結果メールでキャンセルされた ATF テストを示す色<br>*sn_atf.schedule.suite_result_email.cancel_color* | スケジュール済みスイートの結果メールで、ATF テストがキャンセルされたことを示す色の 16 進コード |

## ステップ構成

ステップ設定レコードは、各タイプのステップのふるまいを定義します。

### 自動テストフレームワーク **(ATF)** ステップ構成レコード

ステップ設定レコードは、このタイプのテストステップがどのようにふるまうかをコントロールします。

フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | このテストステップ設定の名前。 |
| アクティブ | このステップ設定がアクティブな場合 **True**です。そうでない場合は **false**。 |
| ステップ環境 | この設定でステップを実行できるステップ環境 |
| カテゴリ | この設定でステップに割り当てられたカテゴリ |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | この設定でシステムがステップを実行するアプリケーションスコープ |
| バッチ順序の制約 | この設定のステップがテストに現れることができる場所に関する制約<br>• [なし]：この構成に基づくステップはテストの任意の場所に現れることがあります。<br>• [一括実行を開始]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、テストの最初のステップでなければなりません。<br>• [実行中に実行する]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、最初または最後のステップにすることはできません。<br>• [実行を停止する]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、テストの最後のステップでなければなりません。 |
| クラスタータイプ | カスタム ステップ設定では、このフィールドは常にスクリプトです。 |
| 順番 | この設定のステップが [テスト ステップを追加] ダイアログのステップリストに表示される場所を指定する整数。詳細は、「順序フィールドの使用例」を参照してください。 |
| テンプレートリマインダー | この設定のステップがテンプレートの一部としてテストに含まれる場合に表示される指示。詳細は、「テンプレートリマインダーフィールドの使用例」を参照してください。 |
| HTML の説明 | ダイアログで、この設定のステップをカーソルが強調表示したときに表示されるテキスト。詳細は、「HTML の説明フィールドの使用例」を参照してください。 |
| 説明生成スクリプト | テストに含まれるステップを記述するテキストを生成します。詳細については、「説明生成スクリプトの使用例」を参照してください。 |
| ステップ実行スクリプト | この設定でステップが実行されたときに実行されるスクリプト (javascript)。 |
| 入力変数関連リスト | この設定のステップで、入力として機能する変数。 |
| 出力変数関連リスト | この構成のステップで、出力として機能する変数。 |

### ステップ構成フィールド値の例

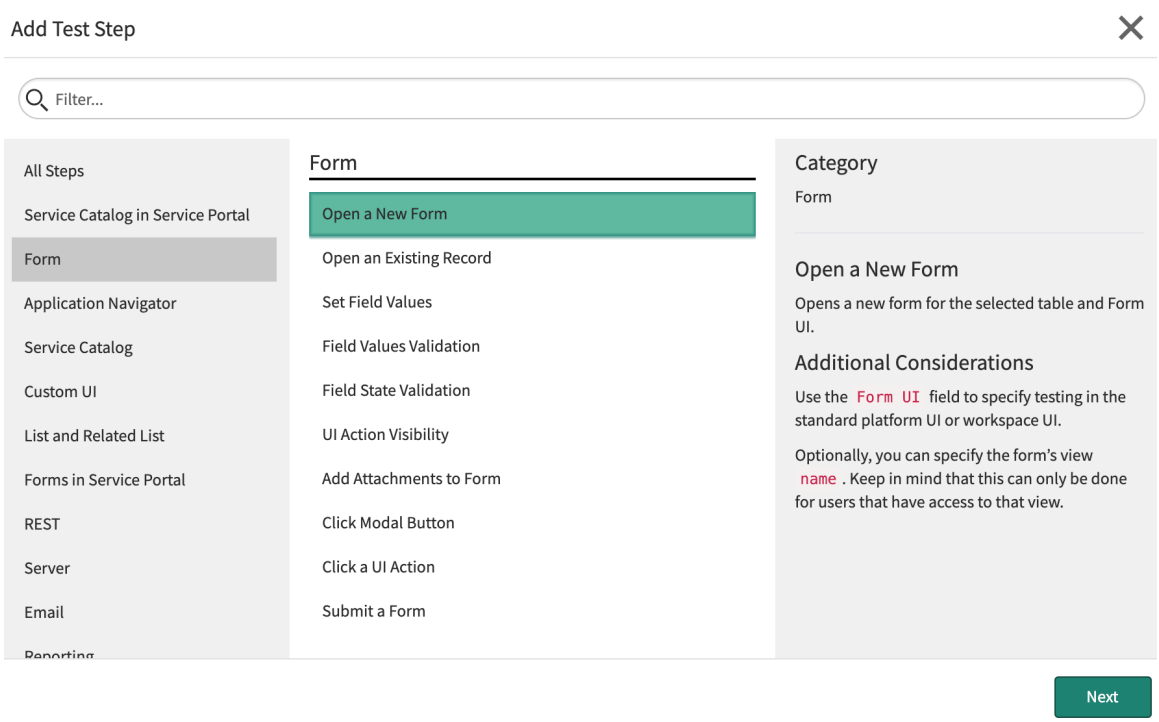
ステップ設定フィールドの一部に割り当てられた値が表示される例です。

### 順番フィールドの例

中央の列のステップは、順番フィールドの値に従ってソートされます。

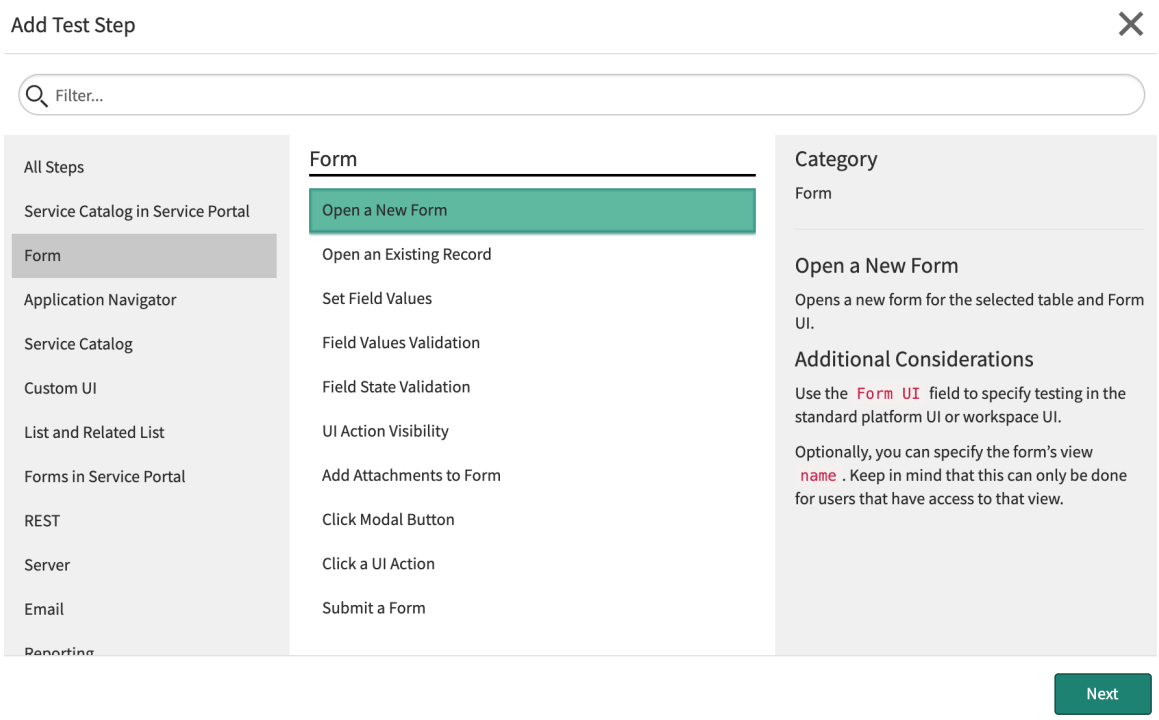
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## カテゴリフィールドの例

左側の列のラベルには、使用可能なステップのカテゴリが表示されています。左側の列でカテゴリを選択すると、中央の列のリストをフィルタリングできます。

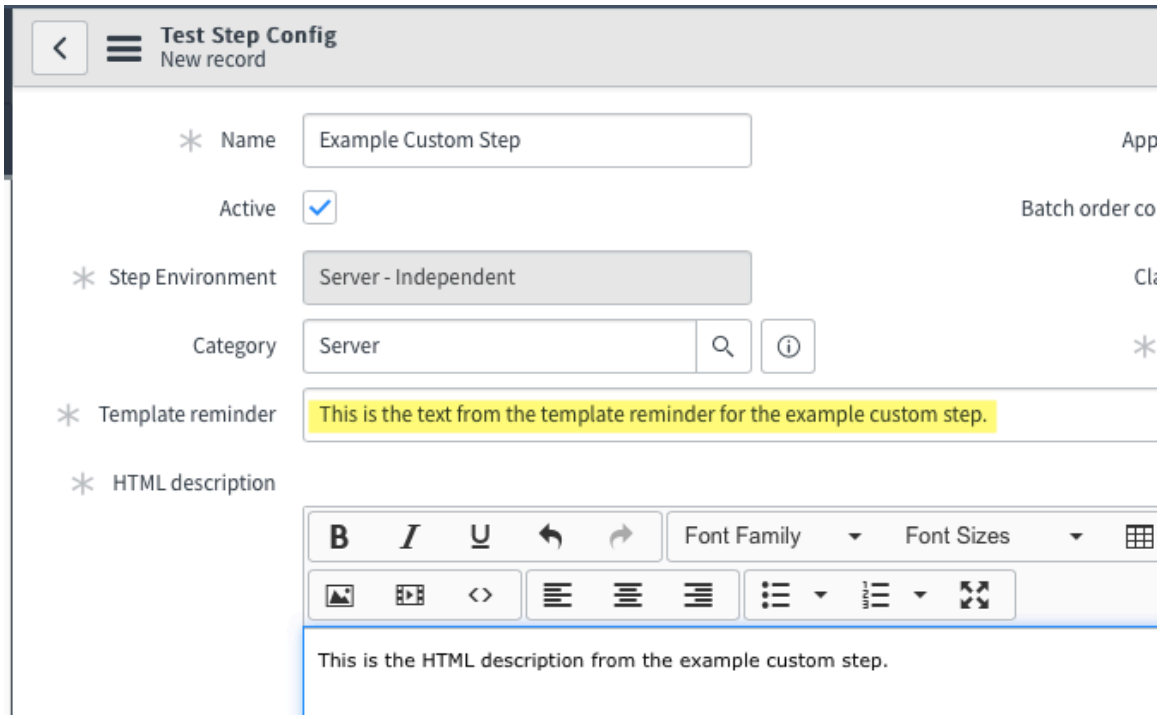



## テンプレートリマインダーの例

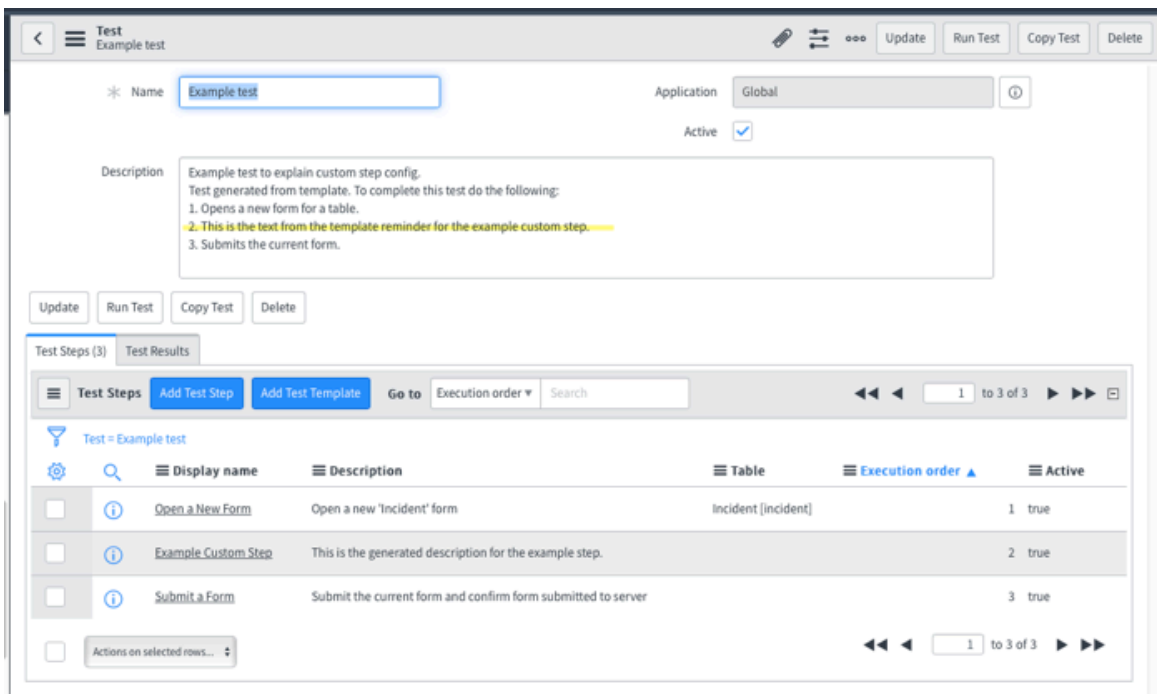
ここには、カスタム ステップの例のテスト ステップ設定の新しいレコードフォームの一部があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




テストにテンプレートを追加すると、テンプレートステップを完了するための一連の指示が生成され、テストの説明フィールドに保存されます。ステップ設定のテンプレートリマインダーフィールドのテキストは、対応するステップの指示として表示されます。

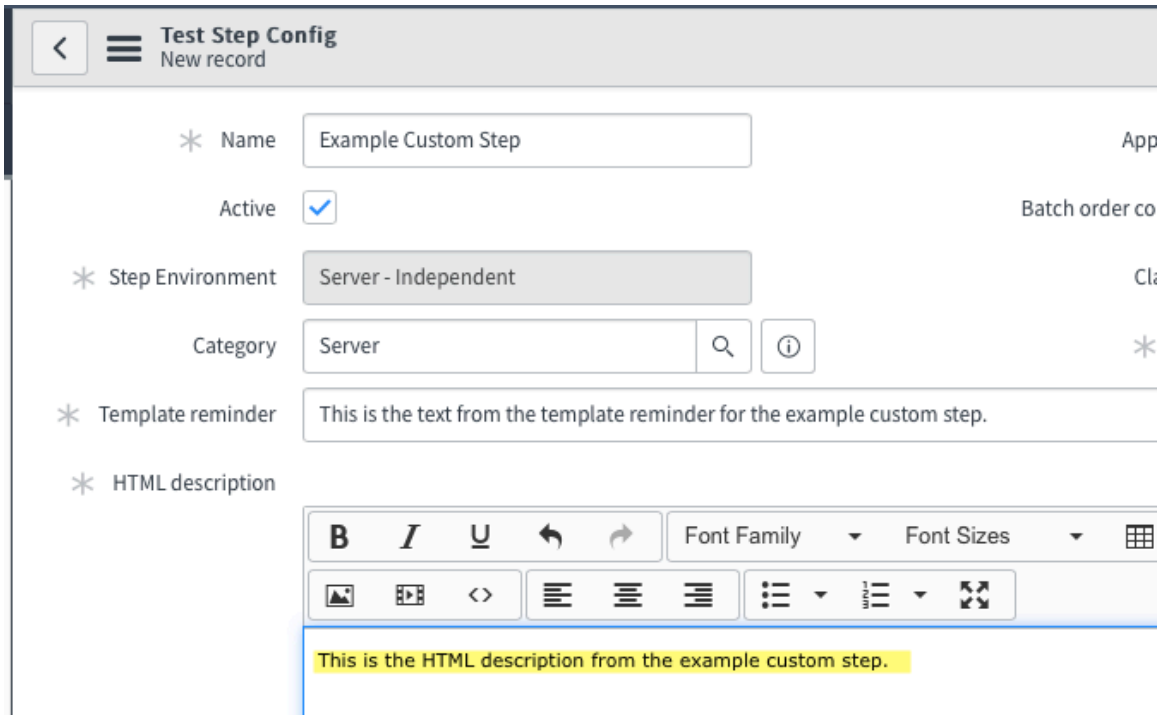



## HTML の説明の例

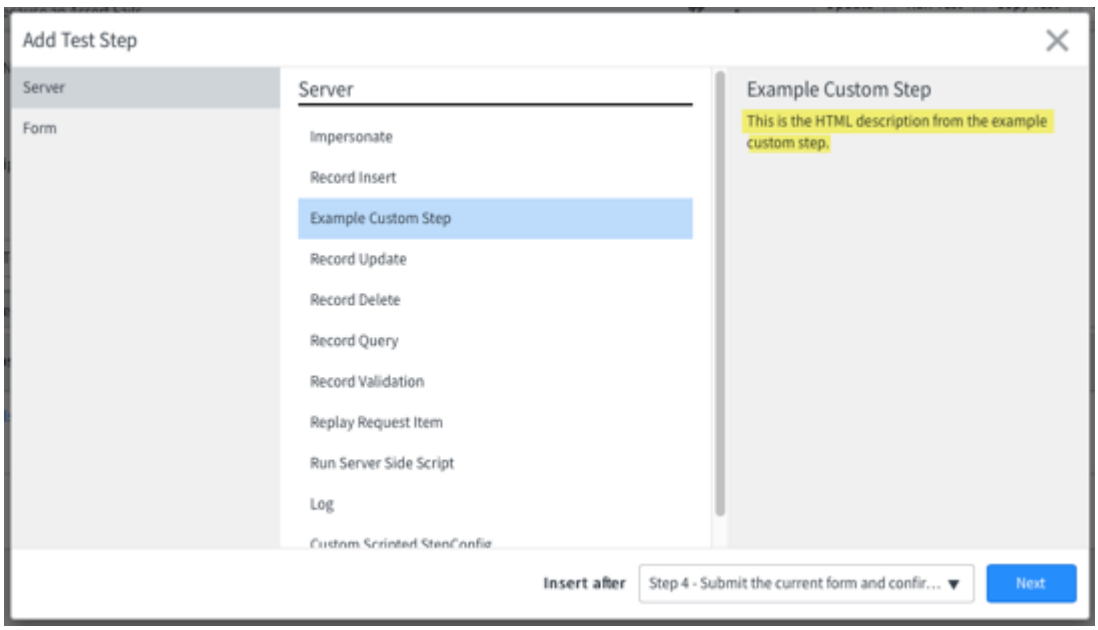
ここには、カスタム ステップの例という名前のカスタム ステップの新しいレコードフォームの一部があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



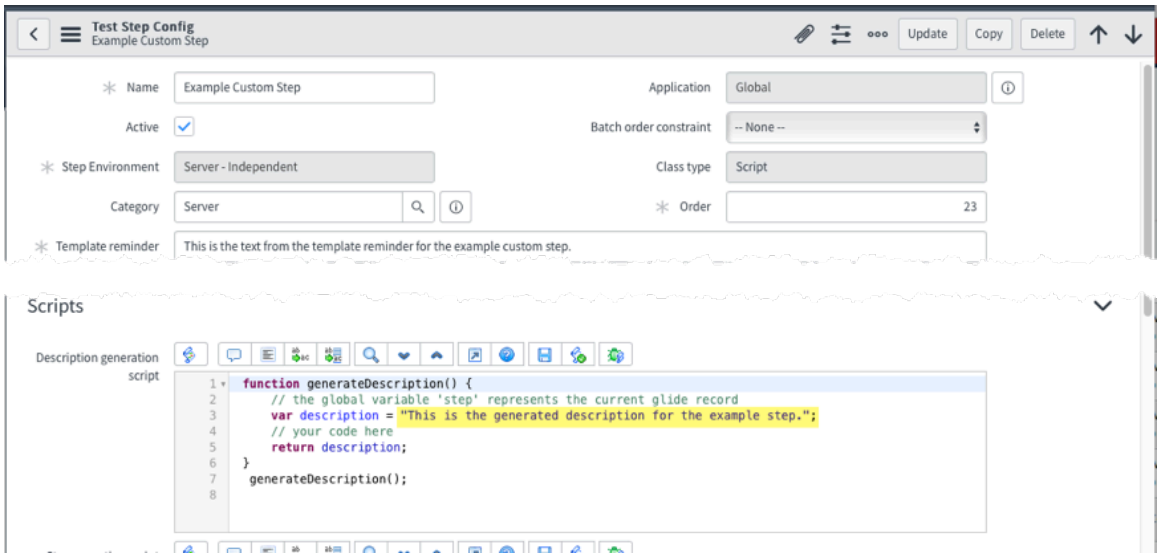

[テスト ステップの追加] ダイアログにステップが表示される方法は次のとおりです。



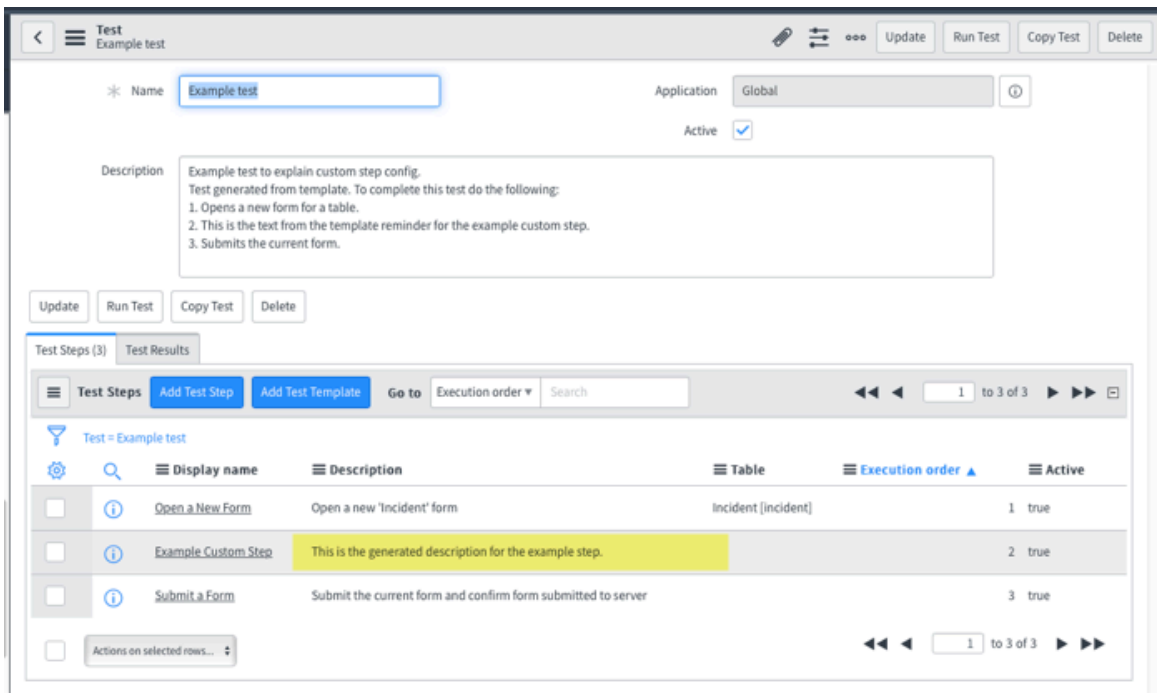

## 説明生成スクリプトの例

ここには、カスタム ステップの例という名前のカスタム ステップの新しいレコードフォームの一部があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




このタイプのステップがテストに含まれている場合、生成される説明がテスト ステップ関連リストに表示されます。




## ステップ実行スクリプト

ステップ設定レコードでは、ステップ実行スクリプトフィールドによって、この設定のステップが行う実行内容が決定します。

## ステップ入力

ステップへの入力変数は、ステップ設定レコード内の入力関連リストによって決定されます。executeScript() の *inputs* パラメーターにより、スクリプトはこれらの変数にアクセスできます。たとえば、入力関連リストに 2 つのレコード *var1* と *var2* が含まれる場合、スクリプトは inputs.var1 という表現で *var1* を、inputs.var2 で *var2* を参照できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### ステップ出力

ステップへの出力変数は、ステップ設定レコード内の出力関連リストによって決定されます。executeScript() の *outputs* パラメーターにより、スクリプトはこれらの変数にアクセスできます。たとえば、出力関連リストに 2 つのレコード *out1* と *out2* が含まれる場合、スクリプトは outputs.out1 という表現で *out1* を、outputs.out2 で *out2* を参照できます。

### ステップ結果

*stepResult* パラメーターは、ステップの成功/失敗を制御する API へのアクセスを提供します。また、ステップがログに書き込むメッセージも決定されます。

メソッド stepResult.setSuccess() はステップを成功させます。メソッド stepResult.setFailed() はステップを失敗させます。

メソッド stepResult.setOutputMessage() は、ステップが成功または失敗したときにログに書き込まれるメッセージを設定します。1 つのパラメーター、ログに書き込む文字列が必要です。スクリプトが stepResult.setOutputMessage() を複数回呼び出すと、最新の値セットで以前の値が上書きされます。

### **Example:** レコードのクエリーステップ実行スクリプト

```
(function executeStep(inputs, outputs, stepResult) {
    if (gs.nil(inputs.table)) {
      stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("The '{0}' input variable was not
specified",
          'table'));
    stepResult.setFailed();
     return;
}
var query = new GlideRecord(inputs.table);
query.addEncodedQuery(inputs.field_values);
query.query();
if (!query.next()) {
    stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("No records matching query:\n{0}",
       inputs.field_values));
     stepResult.setFailed();
} else {
    stepResult.setSuccess();
    outputs.table = inputs.table;
    outputs.first_record = query.getUniqueValue();
    stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("Found {0} {1} records matching
query:\n{2}",
                                      [query.getRowCount(),
                                       inputs.table,
                                       inputs.field_values]));
}
}(inputs, outputs, stepResult));
```

### **Example:** カスタムスクリプト化されたステップの構成

```
((function executeStep(inputs, outputs, stepResult, timeout) {
// Waits up to the timeout for some asynchronous logic to finish
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

```
// This script checks for completion once a second for up to 60 seconds
var counter = 1;
// Try for up to 60 seconds
while (counter <= timeout) {
 // If the asynchronous logic is finished, return "true" to pass the step
 // isMyAsyncLogicFinished() can be replaced with any asynchronous event that needs to be
tested
 if (isMyAsyncLogicFinished()) {
  stepResult.setOutputMessage("Success!");
  stepResult.setSuccess();
  return;
 }
 // Wait one second, and log the total number of seconds waited
 gs.info("Waited " + counter + " seconds for asynchronous logic to finish");
 sn_atf.AutomatedTestingFramework.waitOneSecond();
 counter++;
}
// If this point is reached, the retry loop ran out of tries; return false to fail the step
stepResult.setOutputMessage("FAILURE: Timed out after waiting for " + timeout + "
seconds");
stepResult.setFailed();
}(inputs, outputs, stepResult, timeout));
```

**注:**
上記の例は、サーバー側実行スクリプトで stepResult.setSuccess()" と stepResult.setFailed() を return true と return falseに置き換えて使用することもできます。

自動翻訳

### ステップ説明生成スクリプト

ステップ設定レコードでは、ステップの説明生成スクリプトフィールドによって、このタイプのステップがテストに追加されたときにシステムが生成するステップの説明が決定されます。

このスクリプトによって生成された説明がどこに表示されるかを示す例については、「説明生成スクリプトの例」を参照してください。

### ステップ

generateDescription() の *step* パラメーターは、スクリプトにステップオブジェクトへのアクセスを提供し、ステップ構成レコードで定義されている入力変数へのアクセスを提供します。(入力変数は関連リストに定義されています。)

たとえば、ステップ設定レコードで、入力関連リストに2つのレコード *var1* と *var2* が含まれる場合、スクリプトは step.inputs.var1 という表現で *var1* を、 step.inputs.var2 で *var2* を参照できます。

### **Example:** レコードクエリ説明生成スクリプト

```
(function generateDescription(step) {
var td = GlideTableDescriptor.get(step.inputs.table);
if (!td) {
    gs.log("Invalid table name in test step: " + step.inputs.table);
    return gs.getMessage("Set field values");
}
var descriptionGenerator = new ATFStepDescriptionGenerator();
var description = gs.getMessage("There should be at least one record in '{0}' matching " +
```

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                "a query of\n{1}",
                [step.inputs.table.getDisplayValue(),
                descriptionGenerator.getConditionDescription(step.inputs.table,
step.inputs.field_values)]);

  return description;
  })(step);
```

### スクリプト化されたステップへの出力変数の追加

次の手順を実行して、[サーバー側実行スクリプト] および [カスタムスクリプト StepConfig] テストステップに出力を追加します。

### [サーバー側実行スクリプト] テストステップへの出力の追加

[サーバー側実行スクリプト] テストステップのテストスクリプトを変更して、任意の追加出力を作成します。

始める前に
必要なロール: admin あたは atf_test_admin

手順

1. 移動先 すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > 管理 > ステップ設定.
2. [サーバー側実行スクリプト] を検索して選択します。
   読み取り専用の [テストステップ構成] フォームが表示されます。

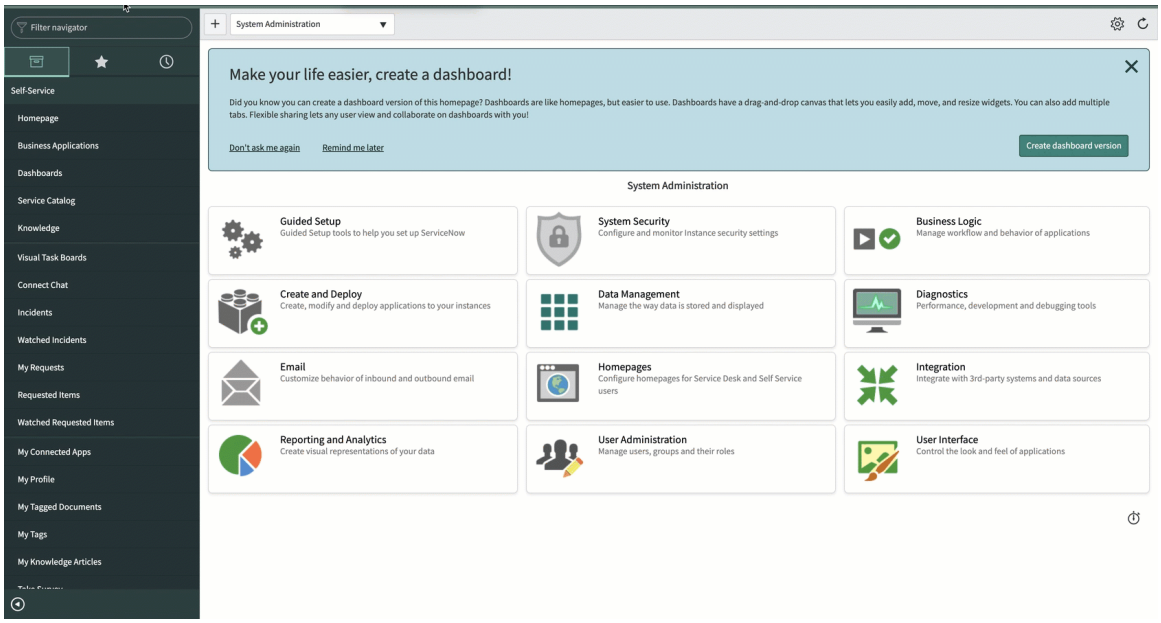
   **注:**
   フォームは読み取り専用ですが、新しい出力変数を作成できます。

3. [出力変数] 関連リストまで下にスクロールします。
   デフォルトの出力変数のリストが表示されます。
4. [新規] をクリックして新しい出力変数を作成します。

| フィールド | 入力値 |
| --- | --- |
| タイプ | 出力変数のタイプ |
| アプリケーション | ユーザーのスコープ |
| ラベル | ユーザーに表示される出力変数の名前 |
| 列名 | スクリプトで使用される変数名 |
| 最大長 | データタイプの長さ。<br>**注:**<br>このフィールドは、すべてのデータタイプに表示されるわけではありません。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




新しい出力変数が [出力変数] 関連リストに追加されます。

5. 移動先 自動テストフレームワーク **(ATF)** > テスト.
6. 新しい出力変数を実装するテストを選択します。
7. [テストステップを追加] をクリックします。
8. [サーバー側実行スクリプト] テストステップを検索して選択します。
9. 指示に従って、[テストスクリプト] に記載される出力を変更します。

```
outputs.<column_name> = "<desired value>";
```

10. [送信] をクリックします。
    これで、新しく作成された出力変数をテストの後続のステップで使用する準備ができました。

### [カスタムスクリプト **StepConfig**] テストステップでの出力の追加

[カスタムスクリプト StepConfig] テストステップをコピーし、コピーしたバージョンに出力を追加してカスタマイズします。

#### 始める前に

必要なロール: admin あたは atf_test_admin

#### 手順

1. 移動先 すべて > 自動テストフレームワーク **(ATF)** > 管理 > ステップ設定.
2. [カスタムスクリプト StepConfig] を検索して選択します。
   読み取り専用の [テストステップ構成] フォームが表示されます。

   **注:**
   フォームは読み取り専用であるため、テストステップをコピーし、それに出力変数を追加してカスタマイズする必要があります。

3. [コピー] をクリックして、テストステップのコピーを作成します。

   **注:**
   コピーされたバージョンは読み取り専用ではなくなります。

自動翻訳

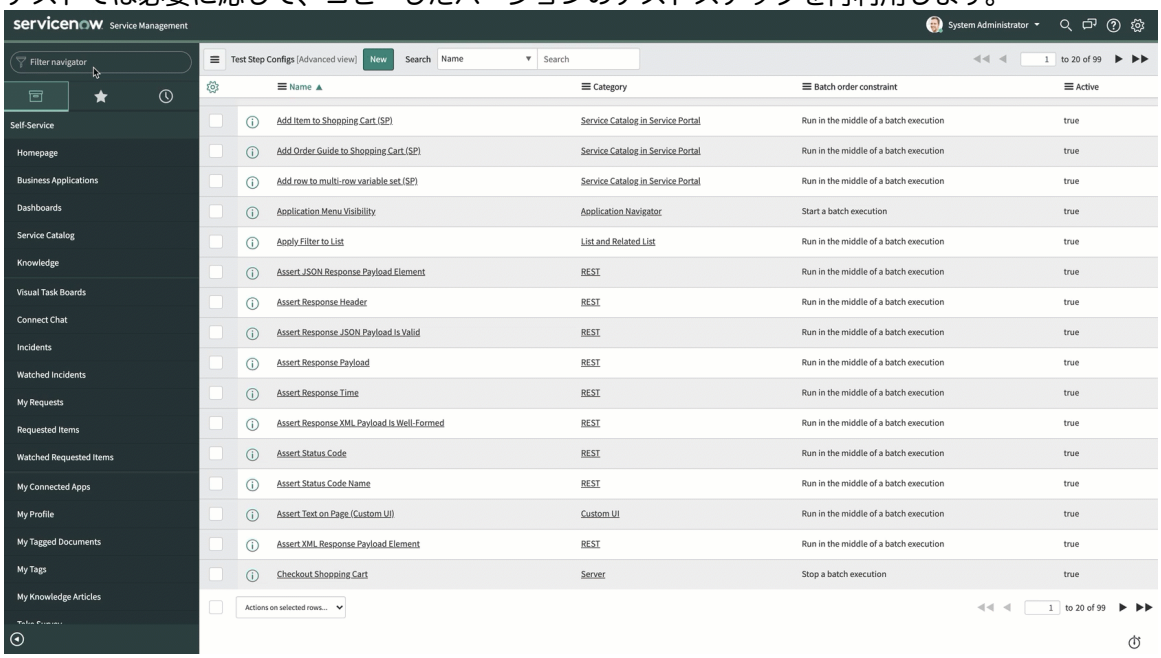
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 次の手順を実行して、コピーしたバージョンに出力変数を追加します。
   a. [出力変数] 関連リストで [新規] をクリックします。
   b. 出力変数を追加して [ステップ実行スクリプト]を変更します。

> **注:**
> 出力変数を追加するには、「[サーバー側実行スクリプト] テストステップへの出力の追加」を参照してください。

> **注:**
> コピーされたバージョンでのみ、これらの手順を使用してテストステップをカスタマイズできます。

5. テストでは必要に応じて、コピーしたバージョンのテストステップを再利用します。




### テストテンプレート

テストテンプレートモジュールは使用可能なテンプレートのリストを開きます。このモジュールから、テストテンプレートを作成、表示、および編集します。

テストテンプレートを表示または編集するには、目的のテンプレートの行をクリックします。詳細については、「自動テストステップテンプレートの編集」を参照してください。

新しいテンプレートを追加する方法については、「自動テストステップテンプレートの作成」を参照してください。テストの作成時にテンプレートを使用する方法については、「自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する」を参照してください。

### 自動テストテンプレートレコード

テストテンプレートレコードには、1 つのテストテンプレートに関する情報が含まれています。

#### フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
|---|---|
| 名前 | このテストテンプレートの名前。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

フィールド (続く)

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| アプリケーション | システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。 |
| テストテンプレート | このテンプレートに含めるテスト。 |
| 説明 | (オプション) このテストテンプレートの目的を識別するための説明を入力します。 |

### ステップ構成カテゴリ

ステップ設定カテゴリモジュールは、[ステップの追加] ダイアログでステップカテゴリを指定するレコードリストを開きます。このモジュールから、これらのカテゴリを追加、削除、および編集できます。

カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。

### テストステップ設定カテゴリフォーム

テストステップ設定カテゴリフォームでは、特定のテスト結果テーブルのレコードセットに対する保持ポリシーを指定します。

フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | このステップ設定カテゴリの名前。 |
| ステップ環境 | このステップの設定カテゴリのステップ環境。 |
| 表示名 | このカテゴリが選択されたときに、[テストステップの追加] ダイアログの中央の列に表示されるカテゴリ名。「ステップ設定カテゴリ表示名」の例を参照してください。 |
| アプリケーションスコープ | このポリシーが適用されるアプリケーションスコープ。 |

### テーブルクリーンアップ

テーブルのクリーンアップモジュールは、テスト結果テーブルおよびテストスイートの結果テーブル、およびその中のレコードの、保持ポリシーを指定するレコードリストをオープンします。このモジュールから、これらのポリシーを表示および変更できます。

デフォルトでは、テスト結果およびテストスイートの結果に関連するレコードは作成から 30 日後に削除されます。 テーブルとそのレコードの保持ポリシーを変更するには、ポリシーを変更するテーブルをクリックします。詳細についてはATF テスト結果のデータ保持ポリシーの変更 を参照してください。

**注:**
テーブルクリーンアップポリシーはプラットフォーム固有のポリシーです。詳細については、「テーブルクリーナー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動フラッシュフォーム

自動フラッシュフォームでは、特定のテスト結果表のレコードセットに対する保存ポリシーを指定します。

フィールド

| フィールド/要素 | 説明 |
|---|---|
| テーブル名 | ポリシーが適用されるレコードを含むテーブル。 |
| 一致フィールド | システムが期間を監視するフィールド。 |
| 経過時間(秒) | レコードを削除するまでにシステムが待機する時間(秒)。 |
| 有効 | このポリシーがアクティブな場合は **True**です。そうでない場合は **false**。 |
| アプリケーションスコープ | このポリシーが適用されるアプリケーションスコープ。 |
| カスケード削除 | オンにすると、一致するすべてのレコードとそれを参照するレコードがすべて削除されます。チェックを外すと、一致するレコードは削除されますが、それを参照するレコードは参照されません。 |
| 条件 | ポリシーが適用されるこのテーブルのレコードを定義するフィルター条件。 |

**注:**
テーブルクリーンアップポリシーはプラットフォーム固有のポリシーです。詳細については、「テーブルクリーナー」を参照してください。

ステップ環境

テストステップ環境は、ステップが実行される場所を指定します (サーバーかブラウザーか、など)。このリリースでは、カスタムステップ設定はサーバー独立環境のみを使用できます。

このリリースでは、カスタムテストステップ環境を追加することはできません。

# アプリケーションの展開

アプリケーションを本番環境に公開して、ユーザーに提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## **Next Experience** でのアプリケーションの展開

パイプラインと展開を使用したアプリケーション展開の管理

パイプラインと展開を使用して、App Engine Studio で構築されたアプリケーションをレビューおよび公開します。

**AEMC** を使用した展開の管理

App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードを使用して、複数のパイプラインを表示し、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理します。

自動翻訳

### パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理

パイプラインと展開を使用して、App Engine Studio で構築されたアプリケーションをレビューおよび公開します。

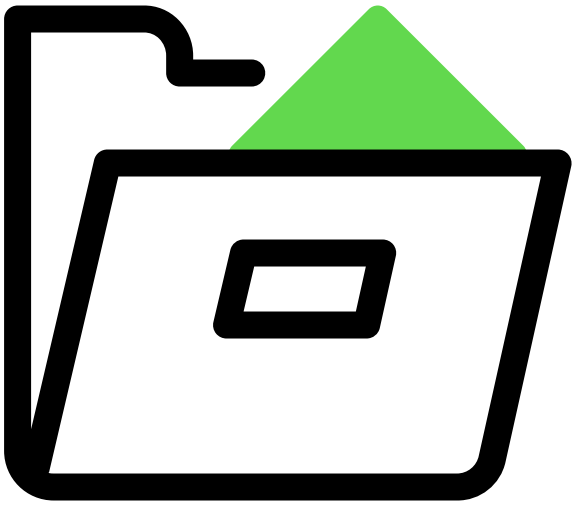
### AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理

App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードを使用して、複数のパイプラインを表示し、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

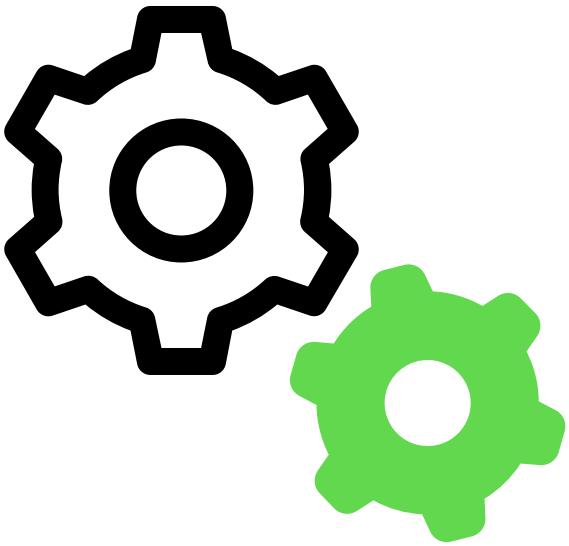
# コア UI でのアプリケーションの展開

ServiceNow アプリケーションリポジトリ



ServiceNow アプリケーションリポジトリは、ServiceNow のすべての顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象のアプリケーションの中心的な場所です。カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションをこのリポジトリに公開することで、会社のインスタンスでアプリケーションを使用できるようにすることができます。

システム更新セット



更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループであります。この機能により、管理者は一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたは展開のために別のシステムにユニットとして移動できます。

自動翻訳

### ServiceNow アプリケーションリポジトリ

ServiceNow アプリケーションリポジトリは、ServiceNow のすべての顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象のアプリケーションの中心的な場所です。カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションをこのリポジトリに公開することで、会社のインスタンスでアプリケーションを使用できるようにすることができます。

### システム更新セット

更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループであります。この機能により、管理者は一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたは展開のために別のシステムにユニットとして移動できます。

## システム更新セット

更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループであります。この機能により、管理者は一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

**注:**
更新セットが切り戻された場合、顧客更新の削除時に sys_upgrade_state レコードを削除する OOB ビジネスルールがあります。これは想定される動作です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットは、次を含む XML ファイルです:

- 更新セットを一意に識別するレコード詳細のセット。
- 構成変更のリスト。
- 別のインスタンスが構成変更を取得して適用できるかどうかを決定する状態。

更新セットは、アプリケーションおよびシステムプラットフォーム機能の変更を追跡します。これにより、開発者は非本番インスタンスで新しい機能を作成し、その変更を別のインスタンスに昇格させることができます。

**⚠ 警告:**
更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

## システムプロパティ

管理者は、システムプロパティを非公開にすることで更新セットから除外できます。システムプロパティを private にすると、あるインスタンスの設定が別のインスタンスの値を上書きすることをなくします。たとえば、本番インスタンスのシステムプロパティに開発インスタンスの特定の値を使用させたくない場合があります。「システムプロパティを追加する」を参照してください。

## アプリケーション

アプリケーション開発者には、次のような更新セットの追加オプションがあります。

- アプリケーションの特定のバージョンの更新セットを作成する。
- 更新セットで追跡するアプリケーションテーブルを指定する。

## 更新セットテーブル

各更新セットは、更新セット [sys_update_set] テーブル、および更新セットに関連付けられたカスタマイゼーション(Customer Updateのエントリ) [sys_update_xml] 更新セットレコードの関連リストとして表示されます。

追跡対象オブジェクトをカスタマイズすると、対応するレコードが顧客更新 [sys_update_xml] で追加または更新されユーザーの現在の更新セットに関連付けられます。関連するアプリケーションファイルのプロパティはカスタマイズされたオブジェクトとともに 1 つの更新レコードで追跡および転送します。対応するレコードもバージョン [sys_update_version] 表に追加されます。

カスタマーアップデートテーブルには、更新セットごとにカスタマイズされたオブジェクトごとに1つのレコードが含まれています。バージョンテーブルには、カスタマイズされたオブジェクトに対する変更ごとに 1 つのレコードが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 管理者は２つのバージョンを比較し、特定のバージョンのオブジェクトに戻せる。
- 管理者は特定のテーブルのバージョンを非表示にできる。
- 管理者は、レコードの残りの部分をスキップすることなく変更できる追跡対象テーブルのフィールドを指定できる(フィールドを更新から除外する。)。

**注:**
顧客の更新 [sys_update_xml] レコードを直接変更してはならない。

## 更新セットによって追跡されるカスタマイズ

更新セットは、アプリケーションテーブル、フィールド、およびレコードに対するカスタマイズを追跡できます。

更新セットでは、次の条件でカスタマイズを追跡します:

- テーブルが *update_synch* ディクショナリー属性を持つところ。
- 複数のテーブルに対する変更を追跡する特別なハンドラーがあるところ。
- 管理者が更新からフィールドを除外しなかったところ。

一般に、更新セットは構成情報を取得しますが、タスクまたはプロセスデータは取得しません。たとえば、更新セットは、サービスカタログアイテムの定義と、変数や変数の選択などの関連する構成データを追跡します。ただし、注文を出してサービスカタログをテストすると、更新セットは注文要求、アイテム、およびカタログタスクを追跡しません。

更新セットには、アプリケーションファイルとしてデータを転送するキャパシティが限られています。大規模なデータ転送の場合は、インポートセットまたはWebサービスでデータをエクスポートしまたはインポートします。

### update_synch属性

カスタマイズが追跡されているテーブルのリストを表示するには、次に移動します システム定義 > ディクショナリ 属性には*update_synch*が含まれています。

**警告:**
update_synch プロパティをディクショナリレコードに追加しません。不適切に使用された場合、この属性はパフォーマンス上の大きな問題を引き起こすか、インスタンスを使用不可能にする可能性があります。このため、顧客は update_synch 属性にアクセスできません。

デフォルトのルールでは、次の問題を避けるために、事前定義されていない表 update_synch プロパティの使用を閉鎖します。

- 一部のコアテーブルは、複数のテーブルの情報を表すため、特別な更新処理が必要。update_synch プロパティがこれらのテーブルに追加されると、重複した更新レコードが作成され、トラブルシューティングや修復が困難な重大な競合が発生する。
- update_synchプロパティを使用してインスタンス間でデータレコードを移行すると、パフォーマンス上の問題が発生する可能性がある。なぜならこれはこの目的を意図したものではない。データを移行するには、インスタンスからインスタンスへのインポートを使用する。

「Import Sets」を参照してください。

### 特別ハンドラー

いくつかの変更は、複数のテーブルに関する情報を表すため、特別なハンドラを必要とします。これらの変更は、カスタマイズが収容されたときにすべてのレコードが適切に更新されるように、１つの更新セットエントリにパッケージ化します。特別なハンドラでは、以下の変更が追跡されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ワークフロー
- フォームセクション
- リスト
- 関連リスト
- 選択リスト
- システムディクショナリーの入力
- フィールドラベル

**警告:**
フォームセクション、リスト、関連リスト、選択リスト、およびフィールドラベルの特別なハンドラーは、レコードを削除して再挿入します。これにより、テーブルを参照するフィールドがある場合は、予期しない結果が発生してデータが失われる可能性があります。

### 選択リスト

更新セットは、新規および更新された選択肢の両方のオプションを、更新バージョン [sys_update_version] および顧客の更新 [sys_update_xml] テーブルの分離されたレコードとして保存します。たとえば、タスクテーブルを拡張する新しいアクティビティ [u_activity] テーブルを作成します。次に、新しい選択肢オプションをタスク状態フィールドに追加します。これは、拡張テーブル(たとえば、私の状態 )に対してのみ表示されます。

これらの変更を更新セットとして発行すると、更新プログラムには、u_activity テーブルに追加した選択肢の更新レコードとバージョンレコードのみが含まれます。タスクテーブルの選択肢オプションは影響を受けません。

**警告:**
更新セットでは大きな選択リストを使用しないでください。使用すると、更新セットのコミットに非常に時間がかかるようになります。

### ディクショナリーの変更

通常、更新セットを使用すると、データが失われるディクショナリーの変更の適用を防止します。ブロックされたディクショナリーの変更には次を含みます：

- テーブルの削除
- 列データ型の変更

更新セットは、システムディクショナリーからのテーブルの削除を追跡しません。代わりに、顧客は手動でターゲットインスタンスからテーブルを削除する必要があります。更新セットはデータ型の変更を追跡しますが、ターゲットインスタンスはデータ損失の原因となる変更をスキップし、代わりにアクションに関するログメッセージを追加します。顧客は、ログを使用して、ターゲットインスタンス上で手動でデータタイプを変更できます。

**注:**
更新セットのプレビューでは、ターゲットインスタンスが変更をスキップしてデータが失われるため、タイプの不一致の問題はチェックされません。また、更新セットを使用してテーブルから列を削除すると、特定の状況でデータが失われる可能性があります。ターゲットインスタンスの列にデータがある場合、そのデータは、更新セットが収容されたときに、列自身と共に削除します。列を削除する更新セットを収容しようとすると、警告メッセージが表示されます。このメッセージには、データの削除を引き起こす1つ以上の削除更新が存在し、削除の更新内容が特定されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## ホームページとコンテンツページ

ホームページとコンテンツページは、デフォルトで更新セットに追加されません。現在の更新セットをアンロードしてページを追加します。

**重要:**

インスタンスからの情報を整理してデータに関するストーリーを伝える、ホームページの機能は、新しいインスタンスのダッシュボードにあります。Next Experience を有効にしてアップグレードされたインスタンスでは、ユーザーは直接 URL を持っている場合は既存のホームページを表示できますが、作成や編集はできません。レスポンシブダッシュボードと アナリティクスセンター ダッシュボードがホームページの機能を引き継ぎます。

ホームページ廃止ヘルプツールを使用して、インスタンスのホームページをレスポンシブダッシュボードに変換します。

詳細については、以下を参照してください。

- 分析センターでのダッシュボード
- レスポンシブダッシュボードの操作。

## アプリケーションの変更

システムは、アプリケーションに関連付けられた変更のみを含むアプリケーションごとに個別の更新セットを作成します。これにより、各アプリケーションのアクセス設定が適切に評価され、更新セットの変更を収容するときに確実に適用される。

## デフォルトの更新セット

アプリケーションスコープのデフォルトセットは、1つの更新セットだけです。

更新セットをデフォルトセットに設定するには、デフォルトセットフィールドを true に設定します。デフォルトセット= *true* と設定すると、次の操作が行われます。

- 更新セットは、そのスコープのデフォルトの更新セットになる。
- システムは同じスコープを持つ他のすべての更新セットに対してデフォルトセット= *false* と設定する。これにより、各スコープにデフォルトの更新セットが1つしかないことが保証される。

## グローバルデフォルトセット

グローバルなデフォルトの更新セットを使用して、ユーザーが作成した更新セットに変更を加えずにインスタンスを変更します。グローバルなデフォルトの更新セットは、デフォルトセット= *true* でありアプリケーションスコープがグローバル であるところのセットであります。グローバルなデフォルトセット(そのセットの 名に関わらず)はシステムの機能を与え、システム間で変更、削除、移動することはできません。この更新セットを使用して、どのユーザーが作成した更新セットにも変更を加えずにインスタンスを変更します。

## 自動生成されたデフォルトセット

インスタンスの更新が失われないように、システムは常に、ユーザーの現在のスコープのデフォルト設定があることを確認します。現スコープにデフォルトの更新セットが存在しないことが検知された場合(または無視されたまたは完了したとマークされている場合)、システムは更新セットを自動生成し、デフォルトセット= **true** と設定します。

これらは、システムがデフォルトの更新セットを自動生成するいくつかの一般的なケースであります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 管理者が初めてログインすると、システムはシステムのグローバルなデフォルトの更新セットを管理者の更新セットとして設定します。さらに、アプリケーションピッカーは管理者のアプリケーションスコープをグローバルと設定します。

  グローバルなデフォルトの更新セットが存在しない場合(または無視されたまたは完了したとマークされている場合)、システムはグローバルアプリケーションスコープの新しい更新セットを作成し、次のアクションを実行します。

  - システムは新しいセットのためにデフォルトセット= *true* と設定します。
  - システムは、新しい既定のセットの名前を元のデフォルトセットの名前で設定し、次の数字を追加します(SetName、SetName 1、SetName 2、...、SetName nの順序で)。
  - システムは、新しく作成されたセットを管理者の更新セットとして設定します。
- ユーザーがスコープのデフォルトセットを無視されたまたは完了した とマークした場合(推奨される方法ではない)、システムは直ちにスコープの新しいデフォルトセットを自動生成します。
- 次のすべての条件が発生した場合、スコープの新しいデフォルトの更新セットが自動的に生成されます。
  - アプリケーションスコープを変更した。
  - あなたの優先更新セットが完了したまたは無視された場合。
  - 新しいスコープに対して進行中のデフォルトの更新セットはありません。

## 更新セットでスタートする

更新セットはインスタンスを変更するため、この情報をレビューして、エラーやパフォーマンスの問題を回避します。更新プロセスを計画し、よくある間違いを避ける方法を学びます。

## 更新セットを使用するタイミング

| 展開オプション | 適する場面 | 今後の検討事項 |
|---|---|---|
| 更新セット | ベースラインまたはインストールされたアプリケーションに変更を保存する。<br><br>特定のバージョンのアプリケーションを保存して適用する。<br><br>エクスポート用のファイルを作成する。 | 特定のアプリケーションバージョンを格納する更新セットを手動で作成できます。<br><br>更新セットを使用して、インストールされているアプリケーションへのパッチまたは変更を展開します。<br><br>**注:**<br>アプリケーションをインストールするために更新セットを使用しません。代わりに、アプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeを使ってアプリケーションをインストールします。 |
| アプリケーションリポジトリ | すべての会社インスタンスでのアプリケーションのインストールと更新。<br><br>アプリケーション更新セットを自動的に管理する。 | アプリケーションを他のユーザーと共有するようServiceNow Storeにアップロードすることを検討します。<br><br>最新のアプリケーションバージョンのみのインストールと更新を許可します。<br><br>更新セットを使用して、以前のアプリケーションのバージョンを保存します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 展開オプション | 適する場面 | 今後の検討事項 |
| --- | --- | --- |
| | 同じ会社にアプリケーションへのアクセスを制限する。<br><br>完成したアプリケーションをエンドユーザーに展開します。 | **注:**<br>チーム開発と使用する場合は、親インスタンスからアプリケーションのみを発行します。 |

## 更新プロセスの計画

更新セットで作業する前に、このチェック リストを使用して、インスタンス間でカスタマイズを移動するための標準プロセスを作成します：

1. 両方のインスタンスが同じバージョンであることを確認します。バージョン間で変更されたコードに依存する場合、カスタマイズは機能しない可能性があります。
2. １つの更新セットで行う変更を決定します。小規模から中規模の作業を完了すると、更新セットを完成します。更新セットが大きくなるにつれて、それらをレビューすることが難しくなり、特定の変更を識別するのに時間がかかり、他の更新セットとの競合のリスクが高まり、プレビューや収容に時間がかかます。これは、更新セットにスキーマの変更や大きなワークフローのリビジョンが含まれている場合や、セットを取り消す必要がある場合に特に当てはまります。
3. すべての基本システムレコードがに合致するsys_idフィールドを持つことを確認します。一部の基本システムレコードは、プロビジョニング後のインスタンスで作成され、異なるインスタンス間で一致しないため、更新セットに問題が発生します。この問題を回避する最善の方法は次のとおりです：
   - 本番インスタンスと非本番インスタンスを使えるようにします。
   - 本番インスタンスを非本番インスタンスにクローンします。
4. 更新セットがインスタンスからインスタンスに移動し、そのモデルを維持するように共通パスを特定します。複数のソースから同じ更新セットを移行しません。更新セットをdevからtestに移動し、次にテストから運用に移動します。
5. 運用に更新セットを収容する時期を計画します。営業時間中に本番インスタンスに更新セットを収容することは避けます。更新セットが適用されると、インスタンスの効率が一時的に低下することがあります。
6. 更新セット名が明確であることを確認します。複数の開発者の変更を調整し、変更を別のインスタンスに収容するときに参照するための命名規則を作成します。
   - 更新セットが問題の修正として生成されている場合は、問題チケットを名前に含めることを検討します(たとえば、 **PR10005 -** 重複する電子メールの問題の修正 )。
   - 問題を解決するために複数の更新セットが必要な場合は、命名規則にシーケンス番号を含めて、更新セットが作成された順序で適用されるようにします。(たとえば、 **PR10005 -** 重複する電子メールの問題の修正そして **PR10005.2 -** 重複する電子メールの問題の修正 )。
7. 更新セットについて次のことを理解します。
   - どのレコードが生成されるか。
   - どのカスタマイズが追跡されるか。
   - 有効なディクショナリーの変更。
   - 一度適用されて、取り消す(元に戻す)ことができるカスタマイズ。
8. カスタマイズを行う前に、正しい更新セットが選択されていることを再度確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 更新セットで作業

エラーとパフォーマンスの問題を回避するには、この情報をレビューします。

- 更新セットを削除しません。更新セットが削除された場合、更新されたレコードは次の更新で上書きされる可能性があります。
- **system_id** フィールドを更新セットのldap_server_configレコードからインクルードしません。作業構成からの更新セットが、ターゲット インスタンスの間違ったsystem_idノードを指し示し、動作しません。
- デフォルトの更新セットを取り消せません。これにより、システムが損傷する可能性があります。
- 顧客更新レコード(sys_update_xml)中の更新セット フィールド値(update_set)を決して変更しません。誤った更新セットでカスタマイズを行った場合は、次のアクションを行います：

  1. 目的の更新セットに切り替えます。
  2. 最初に変更されたオブジェクト(レコード)を変更します。フィールドを追加するなど、簡単な変更を行えます。
  3. レコードを保存します。
  4. 実行したばかりの変更を取り消し、レコードを再度保存します。

     このアクションにより、オブジェクトの最新バージョンが目的の更新セットに含まれ、単一の更新セット内の同じオブジェクトの重複した更新が防止されます。

- 移行する準備が整うまで更新セットを完了とマークしません。更新セットが完了すると、それを元の進行中に戻さません。代わりに、残りの変更について別の更新セットを作成し、作成された順序で一緒に収容します。このケースでは、命名規則が役立ちます(たとえば、パフォーマンスの向上とパフォーマンスの向上2)。
- 手動で更新を更新セットに結合しません。常に更新セット結合モジュールを使用します。このツールは、更新セット間の重複ファイルを比較し、最新のバージョンを選択します。
- 収容された更新セットがテストインスタンスに問題がある場合は、開発インスタンスの別の更新セットに修正プログラムを作成します。このセットをテストインスタンスに収容してから、両方のセットが本番インスタンスにマイグレーションされ、作成された順序で収容されていることを確認します。
- 収容する前に常に更新セットをプレビューします。
- 本番インスタンスの完了した更新セットを無視する にセットします。この状態は、インスタンスのクローン作成時に更新セットが再適用されない事を確実にします。
- 更新セットが適用された後に完了する必要がある手動変更とデータロードのリストを作成します。
- 一度に多くの変更を加えません。正しい変更が段階的に行われたことを確認する。
- 単一の更新を複数のドメイン (グローバルドメインと TOP ドメイン) にまたがる更新に変更することはできません。この機能は Now Platform ではサポートされていません。

## セット管理を更新

更新セットでインスタンス間の構成変更を保存、取得、プレビュー、適用する方法を管理します。

管理者は、更新セットで次のオプションを使用できます。

- ローカル変更を格納する更新セットを作成します。
- ローカル変更を保存する現在の更新セットを選択します。
- 配布用に準備するため更新セットを収容します。
- 更新セットの内容に関するレポートです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 更新セットを比較して、それらが持つ違いを判断します。
- 複数の更新セットの更新を単一のセットに結合します。
- 更新セットから外部ファイルを作成します。
- リモートインスタンスから更新セットを取得します。
- 取得した更新セットを適用します。
- 更新セットから適用された変更を取り消します。
- 更新セットに関連するシステムプロパティを設定します。

## 更新セット ピッカーへのアクセスを許可する

更新セット ピッカーを使用すると、ユーザーはカスタマイズを作成および追跡するための更新セットを選択できます。既定では、管理者のみが更新セットの選択ツールを使用できます。あなたは追加ユーザーへのアクセスを許可することができます。

## 取得した更新セットを自動的にプレビューする

既定では、システムは更新セットを取得するとすぐに更新セットを自動的にプレビューします。この動作をオフにするには、システムプロパティ **glide.update_set.auto_**プレビュー に偽 を設定し：ナビゲータフィルタで次のように入力し **sys_properties.list** 、その後 **glide.update_set.auto_**プレビュー プロパティに行き値フィールドを編集します。

## アプリケーションテーブルを追跡する

アプリケーション開発者は、特定のバージョンのアプリケーションを保存または配布するための更新セット内のアプリケーションの変更を追跡できます。テーブルの作成中に、 テーブルを拡張をアプリケーション ファイル[sys_metadata]にセットします。

### 更新セット ピッカーへのアクセスを許可する

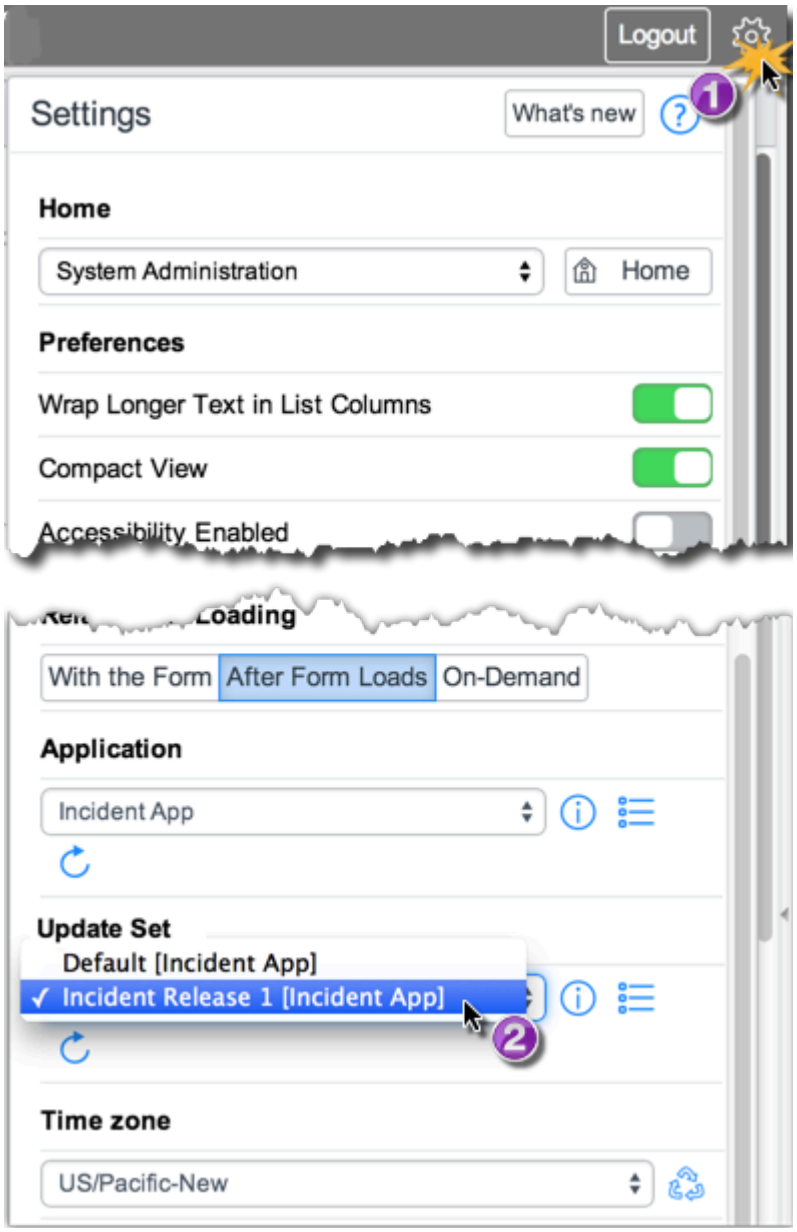
管理者以外のユーザーが更新セット ピッカーを使用できるようにします。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### このタスクについて
更新セットピッカーがパネルに現れます。ピッカーを使用すると、ユーザーはカスタマイズを作成および追跡するための更新セットを選択できます。既定では、管理者のみが更新セットの選択ツールを使用できます。あなたは追加ユーザーへのアクセスを許可することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




手順

1. ユーザーロールに、更新セットテーブル [sys_update_set] への読み取りアクセス権を付与します。
2. ユーザーが設定パネルで更新セットピッカーを表示できるようにします。
   a. [システムのプロパティ] テーブルにシステムのプロパティを追加 *glide.ui.update_set_picker.role*します。
   b. *glide.ui.update_set_picker.role* の値をアクセス権を付与したいロールに割り当てる。

## アップグレード中にカスタマイズを上書きする

次のアップグレード時に交換するカスタマイズ済みオブジェクトを指定します。デフォルトでは、アップグレードプロセスはカスタマイズ済みオブジェクトへの変更をスキップします。

### このタスクについて

システムは、テーブルやフィールドに対する辞書レコードの変更など、ユーザーが行った構成の変更を追跡します。構成の変更ごとに、対応するレコードが顧客アップデート [sys_update_xml] テーブ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ルにあり、そこでは [アップグレード時に交換] フィールドが [false] に設定されています。カスタマイズを次のソフトウェアバージョンで上書きできます。たとえば、スクリプトを変更して、次のバージョンで修正される問題の一時的なワークアラウンドを実装できます。スクリプトの将来の拡張機能を確実に受け取るために、次のバージョンにアップグレードする際にワークアラウンドを上書きする必要があります。

手順

1. カスタマイズされたオブジェクトを開きます(たとえば、 `ArrayUtil` スクリプトインクルード)。
2. ヘッダーを右クリックし、最近の更新を表示 を選択します。
3. 必要であれば、フォームをアップグレード時に交換フィールドを追加するよう設定します。
4. アップグレード時に交換チェックボックスをオンにして更新をクリック します。
   カスタマイズされたオブジェクトは、次回のアップグレード時に置き換えられます。

### カスタマイズの作成、テスト、および移動

これらの手順を使用して、開発システムから実動システムへのカスタマイズを作成、テスト、および移動します。

## 3 段階インポートプロセス

更新セットを使用してカスタマイズを開発する一般的なプロセスでは、変更を開発からテスト、本番インスタンスに移動します。

1. 開発インスタンスに更新セットを作成します。
2. 開発インスタンスのカスタマイズと変更を行います。
3. 更新セットを完了とマークします。
4. テストインスタンスにログインし、開発インスタンスから完成した更新セットを取得します。
5. テストインスタンスで更新セットを収容し、カスタマイズを完全にテストします。
6. 更新セットにテストインスタンスに問題がある場合は、ステップ1～5を繰り返して、別の更新セットを使用して開発インスタンス上で修正を開発します。
7. 本番インスタンスにログインし、開発インスタンスから完了した更新セットを取得します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを取得します。
8. 本番環境で更新セットを収容します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを作成順に収容します。

## 2段階インポートプロセス

開発環境が2つのインスタンスのみで構成されている場合は、開発インスタンスとテストインスタンスを1つのステージングインスタンスに結合できます。

1. ステージングインスタンスに更新セットを作成します。
2. ステージングインスタンスのカスタマイズと変更を行います。
3. 更新セットを完了とマークします。
4. ステージングインスタンスでカスタマイズを完全にテストします。
5. 更新セットに問題がある場合は、手順1～4を繰り返して、別の更新セットを使用してステージングインスタンスの修正を開発します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 本番インスタンスにログインし、完成した更新セットをステージング インスタンスから取得します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを取得します。
7. 本番環境で更新セットを収容します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを作成順に収容します。

## 更新セットの使用

これらの手順は、カスタマイズを管理し、潜在的な競合を別のインスタンスに移動する前に解決するのに役立ちます。

更新セットを使用する前に、更新セットでスタートするをレビューし、更新セットを使用する時期と使用しない時期、そして更新プロセスを計画してよくある間違いを回避する方法について学びます。次に、更新セットを作成し、それを使用して開発インスタンスを変更します。更新を報告し、更新セットを結合し、更新セットを比較して、希望の変更が移動する準備が整ったことを確認することができます。

更新セットが完了すると、テストプロセスに従って別のインスタンスに更新セットを転送できます。詳細については、「更新セットを転送」を参照してください。

### 更新セットを現在のセットとして作成し選択する

カスタマイズの変更を保存する更新セットを作成し、現在のセットとして選択します。

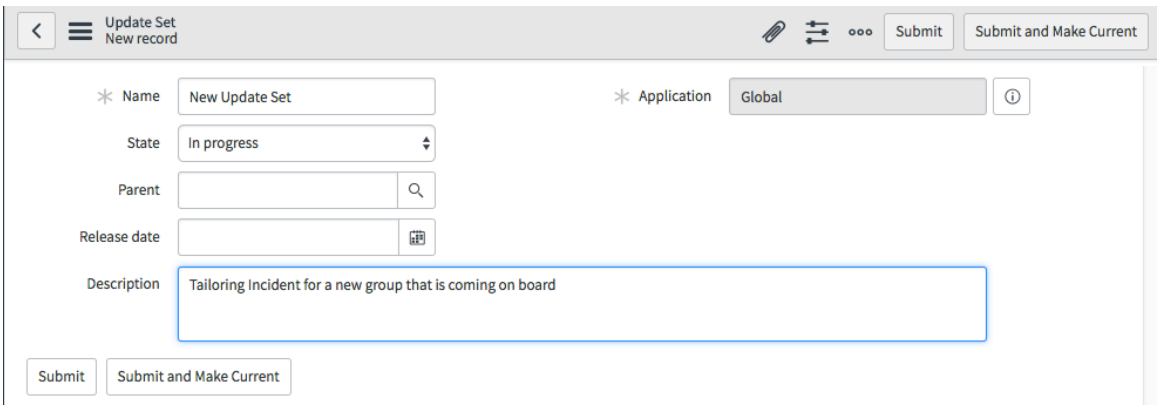
#### このタスクについて

更新セットは、作成したときに現在のセットとして選択することも、後で [設定] パネルから選択することもできます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット をクリックし、「 新規」をクリックします。
2. そのテーブルのフィールドからフォームを完成します。
3. 提出をクリックし、更新セットを作成します。
4. ピッカーが有効で更新セットが [処理中 *(in progress)]* ステータスの場合は、[送信して最新にする] をクリックして新しい更新セットを構成変更のターゲットとして選択します。

新しい更新セット




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットフィールド

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 更新セットに対してユニークな名前を入力します。命名規則を使用して更新セットを整理できます。たとえば、修正する更新の名前に問題番号を追加してアプリケーションスコープを識別するか、シーケンス番号を使用して収容する必要がある更新セットの順序を追跡します。 |
| ステータス | 新しい更新セットに対して進行中を選択します。進行中 更新セットを選択して更新セット内のカスタマイズを追跡します。更新セットピッカーは進行中更新セットを表示するのみであります。<br><br>更新セットが完了したことが確実な場合にのみ完了を選択します。完了したとマークされた後では、それを元の進行中に戻せません。代わりに、さらにカスタマイズされた新しい更新セットを作成し、確実に完了とマークされた順序で更新セットを収容します。完了更新セットを用いて、変更をあるインスタンスから別のインスタンスに移します。<br><br>ある更新セットをもはや使用していないがそれが別のインスタンスに転送されるのを望まない場合には、無視するを選択します。本番インスタンスのセットを無視するする際には常に完了としなければなりません。この状態は、インスタンスのクローン作成時に確実にその更新セットが再度収容されないようにします。<br>更新セットピッカーは進行中更新セットのみを表示します。「システム設定で現在の更新セットを選択する」を参照してください。<br><br>更新セットが完了したことが確実な場合にのみ完了を選択します。完了したとマークされた後では、それを元の進行中に戻せません。代わりに、さらにカスタマイズされた新しい更新セットを作成し、確実に完了とマークされた順序で更新セットを収容します。完了更新セットを用いて、変更をあるインスタンスから別のインスタンスに移します。<br><br>ある更新セットをもはや使用していないがそれが別のインスタンスに転送されるのを望まない場合には、無視するを選択します。本番インスタンスのセットを無視するする際には常に完了としなければなりません。この状態は、インスタンスのクローン作成時に確実にその更新セットが再度収容されないようにします。 |
| リリース日 | 更新セットをリリースする予定の日付を入力します。 |
| アプリケーション | アプリケーションピッカーで現在選択されているアプリケーションスコープを埋めます。更新セット内のすべての変更は、現在のスコープにのみ適用します。 |
| 説明 | 更新セットの説明を入力する。 |

## システム設定で現在の更新セットを選択する

現在の更新セットは、パネルの更新セットピッカーを使用していつでも変更できます。

### 始める前に

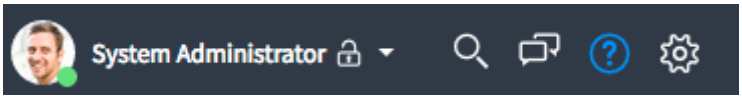
必要なロール：管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

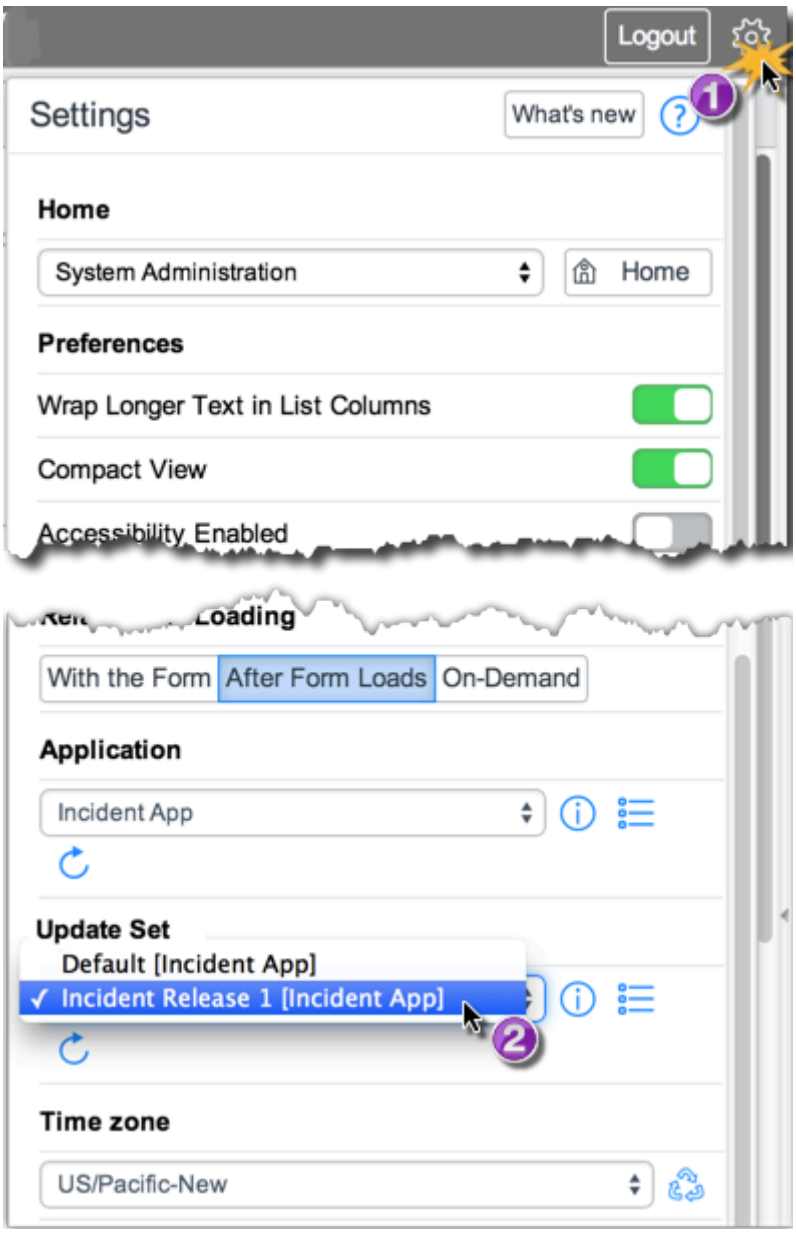
手順

1. ピッカーから更新セットを選択するには、ヘッダーバーの歯車アイコンをクリックしてシステム設定パネルを開きます。




2. パネルで、開発者を選択します。
3. 更新セットフィールドの選択リストからカレントにしたい更新セットを選択し、設定パネルを閉じます。

更新セットピッカー




カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

更新セットを構成するカスタマイズを表示し、更新を現バージョンと比較します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：管理者

このタスクについて
顧客アップデート *[sys_update_xml]* テーブルには、カスタマイズされたオブジェクトごとに 1 つのレコードが含まれています。

カスタマーアップデートレコードは次を指定します：

- カスタマイズされたオブジェクトを含む更新セット。
- カスタマイズされたオブジェクトに適用されるアクションのタイプ。
  - 挿入
  - INSERT_OR_UPDATE
  - 更新
  - 消去
- カスタマイズされたオブジェクトのタイプ。
- 更新の対象オブジェクト。
- カスタマイズされたオブジェクトのsys_id(特定のレコードへの変更の場合)。
- オブジェクトをカスタマイズしたユーザー。
- オブジェクトがカスタマイズされた日時。

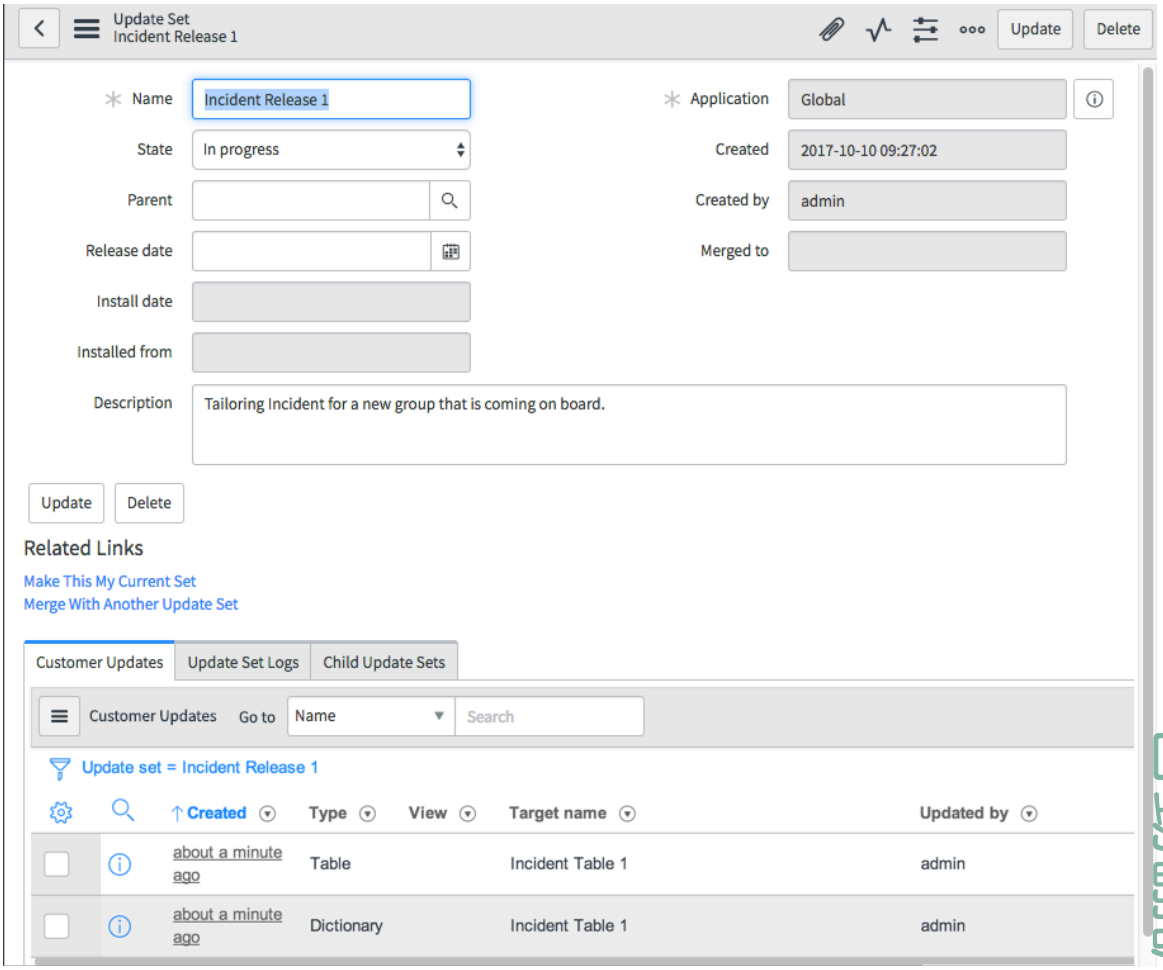
手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. 更新セット名をクリックします。
3. カスタマーアップデート関連リストを見ます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在のバージョンに対する更新があれば比較できます。更新レコードを右クリックし、現在と比較を選択します。




関連情報

記事の 2 つのバージョンの比較

個々のレコードの競合の解決

## レコード間のナビゲーション

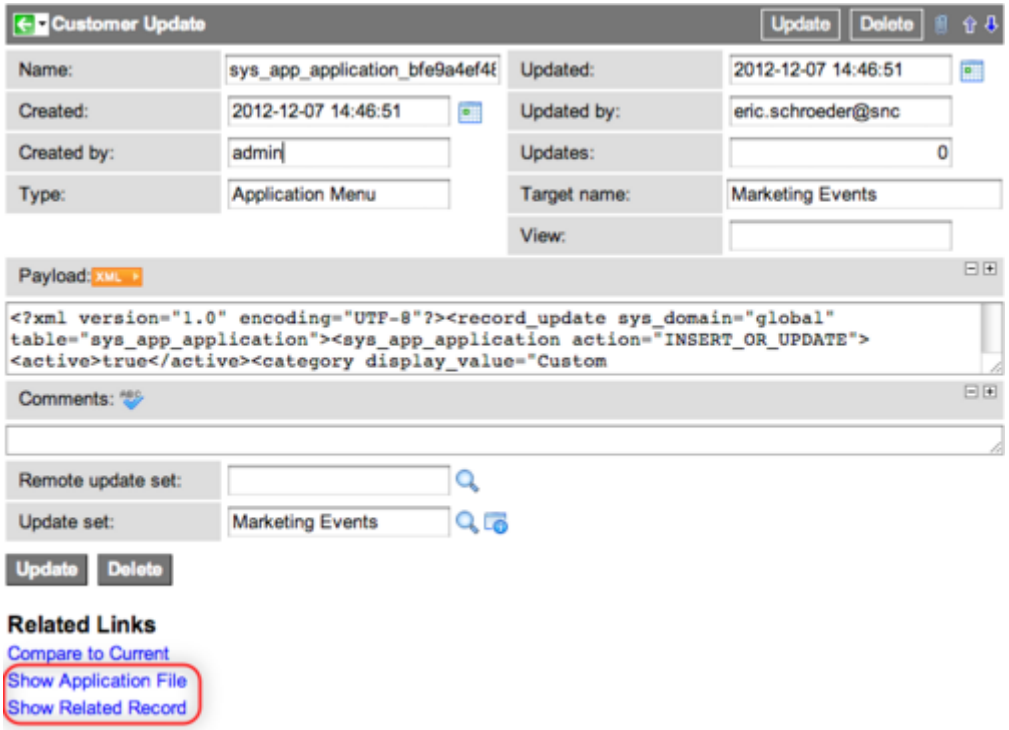
カスタマーアップデートレコードとカスタマイズされたオブジェクトまたはそのオブジェクトのアプリケーションファイルの中でナビゲートできます。

更新レコードから次の場所に移動します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

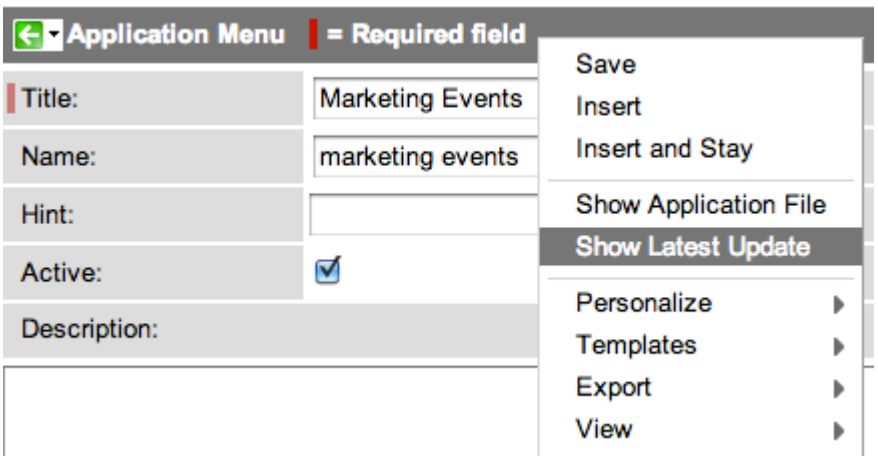
- アプリケーションメニューレコードなどのカスタマイズされたオブジェクトをカストマイズするには： 関連レコードを表示関連リンクをクリックします。
- オブジェクトのアプリケーションファイルレコード： アプリケーションファイルを表示する関連リンクをクリックする。

アプリケーションファイルへ行く




カスタマイズされたオブジェクトまたはアプリケーションファイルから現在のカスタマーアップデートレコードに行くには：フォームヘッダーをクリックし、最新の更新を表示を選択します。

カスタマーアップデート r レコードへ行く




カスタマイズと設定の変更に関するレポートを表示する

ベースシステムは、インシデントテーブルへの変更および現在のユーザーによる変更に関するレポートを提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > レポート > 表示/実行 [ *Customer Update* ]セクションを見つけます。
2. 使用可能なレポートを実行するかまたは新しいレポートを作成します。

   次のレポートを利用できます。

   - アプリケーションの変更(インシデント) ：インシデントテーブルに加えられたすべての変更を表示します。別のテーブルを選択し、レポートを再度実行して、別のアプリケーションのすべての変更を表示します。
   - 私の変更 ：現ユーザーが作成または更新したすべての変更をテーブル名でグループ化して表示する。

### 更新セットを結合

複数の更新セットの更新を単一のセットに結合します。この機能は、以前のServiceNow® プラットフォームのリリースとの逆方向互換性をサポートします。新しいバッチ更新セット機能はより予測可能で堅牢なソリューションで同じ結果を達成します。

始める前に

**注:**
更新セットが結合されると、更新セットを「結合を戻す」ことはできません。詳細については、「更新セットのバッチ処理 (Update Set Batching)」を参照してください。

手順

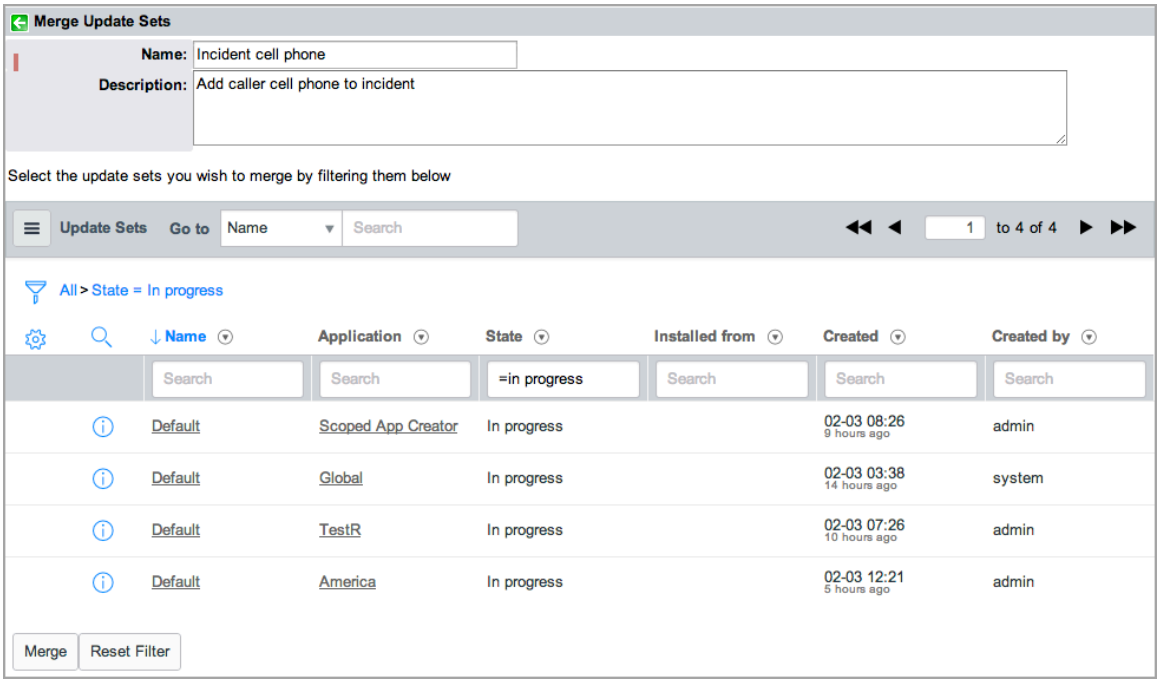
1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > 更新セットを結合.
   デフォルトでは、リストはフィルタリングされて、進行中である更新セットのみを表示します。

   または、次の場所に移動します。 システムアップデートセット > 完了セットを結合. デフォルトでは、そのリストはフィルタリングされて、完了状態にある更新セットのみを表示します。たとえば、変更をプッシュしたり開発セットからテストインスタンスに更新セットを転送したりした後に、このフィルタを使用したくなるかもしれません。
2. 結合したい更新セットのみを表示するようにリストをフィルタリングします。
   同じアプリケーションに属する更新セットのみを結合できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットを結合




3. 更新セットの名前を入力します。結合処理中にこの新しい更新セットに更新が移動します。
4. オプション: 更新セットの説明を入力します。
5. 結合をクリックします。
6. 確認ダイアログボックスで **OK**をクリックします。
   - 新しい更新セットが作成されます。
   - 各オブジェクトの最新の変更は、元のセットから新しいセットに移動します。新しいセットに結合されない変更のみが元のセットに残ります。移動した更新の数とスキップした更新の数を示すメッセージが表示します。たとえば、両方の更新セットがインシデントフォームを変更した場合は、最新の変更のみが新しい更新セットに移動します。他の変更は、移動されなかった変更のレコードを提供するように元の更新セットにとどまります。

     **注:**
     システムは、 **sys_updated_on** の値ではなく、 更新済みフィールドと比較してどのレコードが最新であるかを決めます。

7. [結合された更新セット *(Merged Update Sets)*] 関連リストまでスクロールダウンし、古い更新セットレコードを開いて、正しい変更が新しいセットに移動したことを確認します。
8. 誤って古い変更をコミットしないように、元の更新セットを削除または空にします。
   新しいセットに結合されなかった更新は削除しません。古いセットの「残された」更新を新しいセットに移動しないでください。

### ローカルな更新セットの比較

管理者は、ローカルおよびリモートの(取得した)更新セットをプレビューし、それらのセットを互いに比較して、競合する変更を解決するできます。

#### このタスクについて

ローカルの更新セットを比較して、競合を特定し、適切な変更が収容されていることを確認します。インスタンス間で更新セットを移動する前に、すべての競合を解決します。

自動翻訳

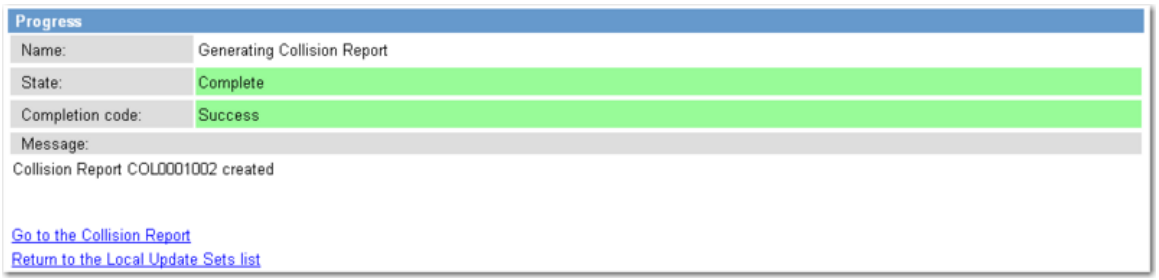
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. 比較する更新セットの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. アクション選択リストで 更新セットを比較を選択します。

   ServiceNowが競合レポートを生成すると進捗画面が現れます。

   競合レポート

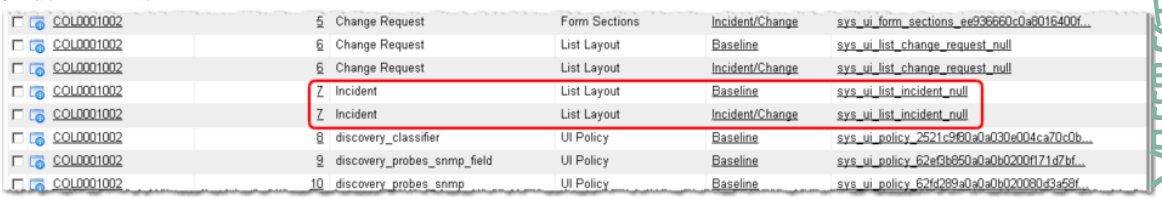
   
   

4. レポートが完了したとき競合レポートに行くをクリックします。

   更新セット競合リストが表示され、選択したセットのすべての変更が表示されます。

5. リストを調べ、別々の更新セットで同じ変更を示している重複した競合番号を探すこと競合を見つけます。

   更新セット競合

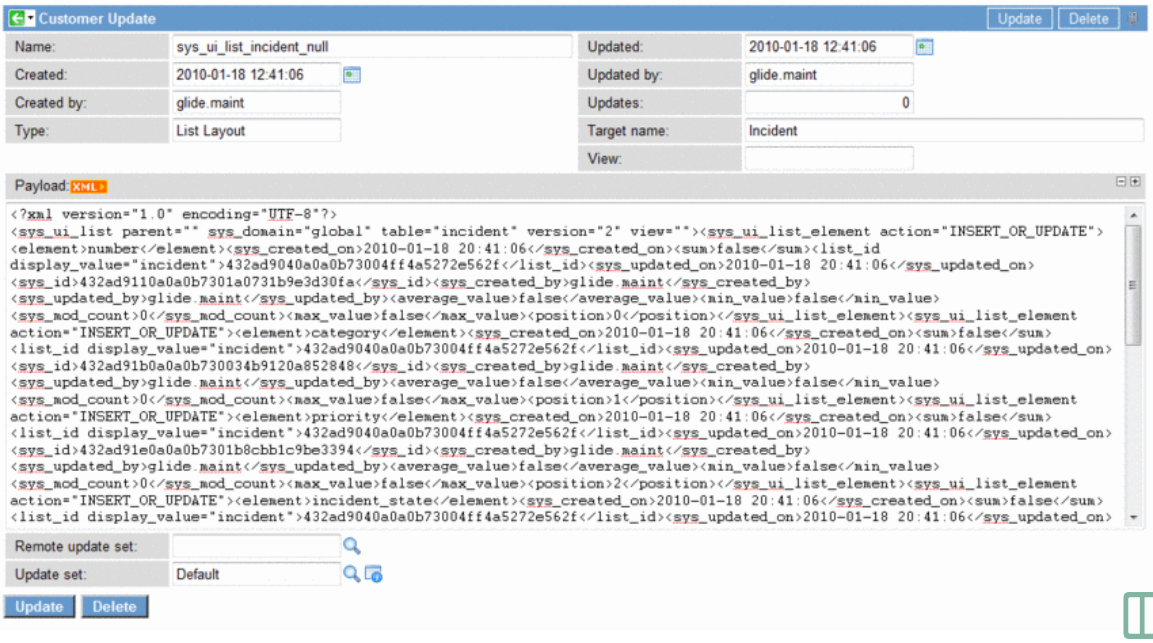
6. いずれかの更新セットから不要な更新レコードを削除して競合を解決します。
   a. 不要な更新に対する システム更新列にあるリンクをクリックします(この例では sys_ui_list_incident_null )。
   b. [削除] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
レコードを削除するには、更新レコードを開く必要があります。更新セット競合リストの項目のチェックボックスをオンにして削除アクションを用いることで更新を削除することはできません。更新レコードを削除すると、カスタマイズはインスタンスから取り消しされません。カスタマイズのレコードのみが削除されます。

カスタマーアップデート




**7.** 比較をもう一度実行して、すべての競合が解決されていることを確認する。

### 更新セット競合の解決

競合は新しいローカル更新を持つ更新です。

プラットフォームは各更新セットからのカスタマーアップデートレコードの名と更新済みフィールドの値を比較することで競合を検知します。名前が一致しても更新日の値が異なる場合は、競合が存在します。

カスタマーアップデートがあるインスタンスから別のインスタンスに移動されると、そのインスタンスはターゲットインスタンスと一致するように書き直される可能性があります。書き換えには、顧客の更新の名前の更新とその更新中の1つまたは複数の sys_id 変更が絡むことがあります。レコードまたは参照フィールドが合体戦略を使用するテーブルに対するものの場合再書き込みが行われます。これによりカスタマーアップデートが正しいレコードに確実に適用されます。たとえば、sys_dictionary ～のためのレコード tablename.fieldname がインスタンスAで sys_id 123456789 を持ちインスタンスBで sys_id 987654321 持つと、そのレコードを参照する顧客の更新がインスタンスAから取得され、インスタンスBのsys_update_xmlテーブルに記録されると、 123456789 への参照は 987654321 に更新されます。

### 合体戦略

更新セットは、別々のインスタンスで独立に作成する同一のレコード間の競合を検知できます。このような競合を検知するには、レコードは合体する列に基づく合体戦略が必要です。競合検出は表の一意性に依存するため、テーブルの合体する列を結合するときそのテーブルは一意でなければなりません。同じレコードが異なるインスタンスで別々に作成されている場合、ここにリストされていないレコードは競合しません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| タイプ | 列の合体 |
| --- | --- |
| sys_db_object | name |
| sys_dictionary | 名前、要素 |
| sys_choice_set | 名前、要素、言語 |
| sys_documentation | 名前、要素、言語 |
| sys_properties | name |
| sys_report_chart_color | 名前、要素、値 |
| sys_ui_form | 名前、表示、sys_domain |
| sys_ui_message | documentkey, language |
| sys_ui_list | 名前、ビュー、sys_domain、要素、関係、親 |
| sys_ui_section | 名前、表示、キャプション、sys_domain |
| sys_ui_related_list | 名前、表示、関連リスト、sys_domain |
| sys_ui_view | name |
| sys_user_role | name |
| sys_user_group | name |
| sys_wizard | name |

自動翻訳

## カスタマーアップデートレコード名が競合にどのように影響するか

合体を理解するには、合併しないレコードがどのように機能するかを理解することが役立ちます。ほとんどのレコードタイプでは、カスタマーアップデートを新しいインスタンスに移動すると、システムは次の理由で競合を検知しません：

- レコードを作成すると、一意のsys_idを受け取ります。ほとんどのレコードタイプでは、sys_idは顧客更新レコード名の一部になります。例えば：`sysevent_email_template_9e1998c078b71100a92ecacd80df1d39` 。
- 別のインスタンスの同じテーブルに同じレコードを作成すると、異なるsys_idを持つ顧客更新レコード名が生成されます。例えば：`sysevent_email_template_10b958c865331100584013457 2f8e020`

その結果、たとえレコードがそうでなければ同一かもしれませんが、レコードは異なる名前になり、システムは競合を検知しません。

対照的に、レコードの合体は、レコードの命名と競合の判定に次の方法を使用します：次の顧客更新レコードタイプは、名前にsys_idの代わりに合体列の一部またはすべてを使用します。

- sys_dictionary
- sys_documentation
- sys_choice_set
- sys_ui_list
- sys_ui_related_list

各インスタンスで結果として同一のレコード名を使用すると、レコードに異なる sys_id があってもシステムが衝突を識別するのに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタマーアップデートがあるインスタンスから別のインスタンスに移動されると、そのインスタンスはターゲットインスタンスと一致するように書き直される可能性があります。書き換えには、顧客更新の名前の更新とその更新中の1つまたは複数の sys_id 変更が絡むことがあります。レコードまたは参照フィールドが合体戦略を使用するテーブルに対するものの場合再書き込みが行われます。これによりカスタマーアップデートが正しいレコードに確実に適用されます。たとえば、tablename.fieldname の sys_dictionary レコードのインスタンス A に sys_id「123456789」、インスタンス B に sys_id「987654321」がある場合、そのレコードを参照する顧客の更新がインスタンス A から取得され、インスタンス B の sys_update_xml テーブルに記録されると、「123456789」への参照が更新されて「987654321」を読み取ります。

## 重複レコードの防止

- 別々のインスタンスで再作成するのではなく、更新セット を使ってデータを転送することで、レコードが同じ sys_id を持つようにします。
- レコードを XML ファイルとしてエクスポートおよびインポートし、レコードが同じ sys_id を持つようにします。「XML ファイルのエクスポートとインポート」を参照してください。
- システムディクショナリーからテーブルへのユニークなインデックスを有効にします。「Table Administration」を参照してください。

**注:**
ベースラインシステムに含まれるデフォルトレコードは、インスタンスのプロビジョニングの際にインスタンスが XML ファイルとしてレコードをインポートするため、常に同じ Sys ID を持ちます。

### 更新セットを完了としてマーク

カスタマイズを完了し、ローカル更新セットを比較して競合を解決すると、更新セットを完了とマークします。

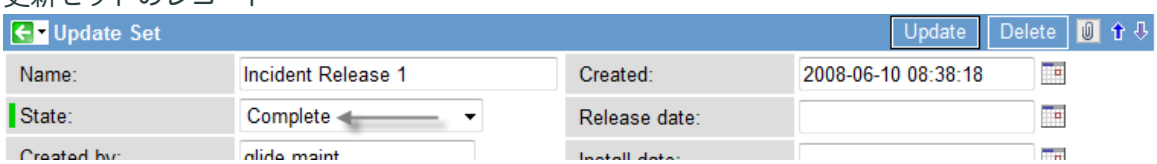
#### このタスクについて

移行の準備が整っている場合に限り更新セットを 完了とマークします。更新セットが完了すると、それを元の進行中に戻さません。代わりに、残りの変更のために別の更新セットを作成し、それらが作成された順に一緒に収容します。このケースでは、命名規則が役立ちます(たとえば、パフォーマンスの向上とパフォーマンスの向上2)。

#### 手順

1. 更新セットレコードを開きます。
2. 更新セットの状態を進行中から完了に変更します。
   - 更新セットは他のインスタンスを取り出すために使用できます。
   - 更新セットでは追加のカスタマイズは追跡されません。

更新セットのレコード




### 更新セットをローカルの **XML** ファイルとして保存する

管理者は、更新セットを XML ファイルとしてエクスポートして、特定のバージョンのアプリケーションまたは一連の変更を保存できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
通常、次のいずれかの条件が当てはまる場合、更新セットの XML ファイルを作成します。

- ２つのインスタンスにはネットワーク接続がないため、リモートインスタンスから更新セットを取得することも、ソースインスタンスから直接データをプルまたはインポートするためデータソースを作成することもできません。
- ソースインスタンスに管理者の認証情報を提供したくない場合 (たとえば、管理者パスワードを会社外のユーザーと共有したくない場合など)、更新セットを取得したり、データソースを作成したりすることができません。
- 重要なカスタマイズをローカルにバックアップする必要があります。

カスタマイズを XML ファイルとしてエクスポートおよびインポートする機能は、次の UI アクションによって提供されます。

- 更新セット [sys_update_set]テーブルを **XML**へのエクスポート
- 取得された更新セット[sys_remote_update_set]テーブルを **XML**へのエクスポート
- 取得された更新セット[sys_remote_update_set]テーブルに **XML**から更新セットをインポート

更新セット[sys_update_set]テーブルの **XML** へのエクスポートUIアクションは、`UnloadRetrievedUpdateSet` と呼ばれるプロセッサを呼び出し、それはローカル更新セットを取り出した更新セットに変換し、取り出した更新セットを関連リストとともにエクスポートし、必要に応じて一時更新セットを削除します。

どちらの **XML** へのエクスポート UIアクションも、`ExportWithRelatedLists`を含むスクリプトに依存し、それはレコードと手動で定義された関連リストを1つの XML ファイルにエクスポートします。

手順

1. システム更新セットに行き、ローカル更新セットまたは取得された更新セット のいずれかをクリックします。
2. 完了状態にある更新セットを選択します。
3. 更新セットフォームで、 **XML** へのエクスポート関連リンクをクリックします。
4. XML ファイルを保存します。
   XML ファイルが作成されます。ファイルが別のインスタンスにアップロードされると、ファイルが作成されたインスタンスでローカルであるか検索されたかにかかわらず、取得された更新セットとして表示される。

### 単一の **XML** ファイルからカスタマイズをロードする

管理者は、更新セットの XML ファイルをロードして、特定のバージョンのアプリケーションまたは変更セットを適用できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 特権を security_admin ロールに昇格させます。
2. 移動先 システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**.
3. リンク **[XML** から更新セットをインポート] をクリックします。
4. [ファイルを選択] をクリックし、XML ファイルを選択します。
5. [アップロード] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

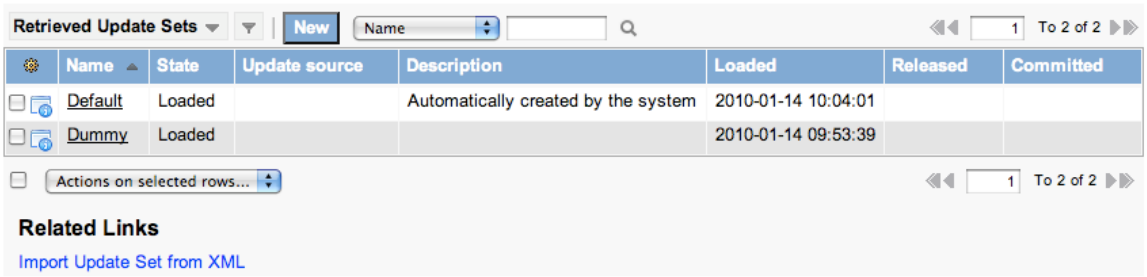


自動翻訳

このカスタマイズは、[ロード完了] 状態の取得済み更新セットとして利用できるようになりました。

6. 標準的な手順に従って、更新セットを収容します。

取得した更新セット




## 更新セットを転送

更新セットが完了すると、インスタンス間で転送して、カスタマイズを開発から、テストを通って、本番に移動できます。

**警告:**
更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

### IP アクセスコントロールによる転送

ソースインスタンスで IP アドレスアクセスコントロールが有効になっている場合、またはソースインスタンスがターゲットインスタンスとは異なるデータセンターにある場合は、更新セットを転送する前に次の作業を完了します。

1. カスタマーサービス & サポート に連絡して、インスタンスをサポートするすべてのアプリケーションノードの IP アドレスを確認してください。
2. ソースインスタンスで、システムセキュリティのIPアドレスのアクセス制御に移動します。ステップ 1 のIPアドレスを例外として追加します。

### 基本認証による転送

ソースインスタンスでSOAP要求に対して基本認証が有効になっている場合は、有効な認証情報を使用して更新セットを取得する必要があります。

### XML ファイルを使用した転送

更新セットを XML ファイルとしてアンロードし、別のインスタンスに転送できます。詳細については、「更新セットをローカルの XML ファイルとして保存する」を参照してください。

#### 更新セットを取得

完了した更新セットを別のインスタンスから取得します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このタスクについて

**⚠ 警告:**
更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

手順

1. ソースインスタンスで IP アドレスアクセスコントロールが有効になっている場合は、ターゲットインスタンスを例外として設定します。
2. ターゲットインスタンスで、次の場所に移動します。 システムアップデートセット > 更新ソースをクリックし、「 新規」をクリックします。
3. テーブルの説明に従って接続設定を指定します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | そのインスタンスにユニークな名前を入力します。 |
| タイプ | リモートインスタンスが開発、テスト、またはUATインスタンスのいずれであるかを指定します。 |
| 有効 | ローカルインスタンスが更新セットをリモートインスタンスに転送できるかどうかを指定します。更新セットはアクティブなリモートインスタンスにのみ転送できます。 |
| URL | 適切な転送プロトコルを使用してリモートインスタンスのURLを指定します。各リモートインスタンスレコードにはユニークなURLが必要です。同じURLを持つ重複レコードを作成すると、エラーが発生する可能性があります。リモートインスタンスは、ローカルインスタンスと同じリリースファミリにあるものとします。<br>**注:** システムが接続を確認した後で、URLを変更することはできません。アクティブフィールドを使用して、不要なリモートインスタンスを非アクティブにします。 |
| ユーザー名 | このインスタンスに更新セットを転送する権限を持つユーザーをリモートインスタンスに入力します。このユーザーアカウントには、リモートインスタンスに対して admin ユーザーロールが必要です。 |
| パスワード | 承認ユーザーのパスワードを入力します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 簡単な説明 | [オプション]リモートインスタンスに関するその他の関連情報を入力します。 |

4. [テスト接続] をクリックします。
   - 接続に成功すると、確認メッセージが表示されます。
   - 接続が失敗した場合、警告メッセージによって障害の原因が特定されます。
5. 接続が失敗した場合は、設定を変更して接続を確立します。
   - 接続設定を保存する前に接続を確立する必要があります。
   - ソースインスタンスを変更することができます(たとえば、パスワードを変更する)。
6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
7. 関連リンク の下で、完了した更新セットを取得するをクリックします。
   - 完了とマークされた更新セットはソースインスタンスからターゲットインスタンスに転送されます。ターゲットインスタンス上にすでに存在する更新セットはスキップされます。
   - 確認ページには、転送された更新セットの数とスキップされた更新セットの数に関する詳細なメッセージが表示されます。
   - 取得した更新セットを表示するには、次に移動します。 システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**.

### 次のタスク

システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview** が**true**に設定されていると、更新セットが取得された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。プレビュー処理の詳細については、リモート更新セットのプレビューを参照してください。

## リモート更新セットのプレビュー

プレビューによって、リモートインスタンスから取得した更新セットとローカルインスタンス上の更新が比較され、潜在的な問題が検出されます。更新セットをプレビューし、すべての問題を解決してから、更新セットを収容する必要があります。

### 手順

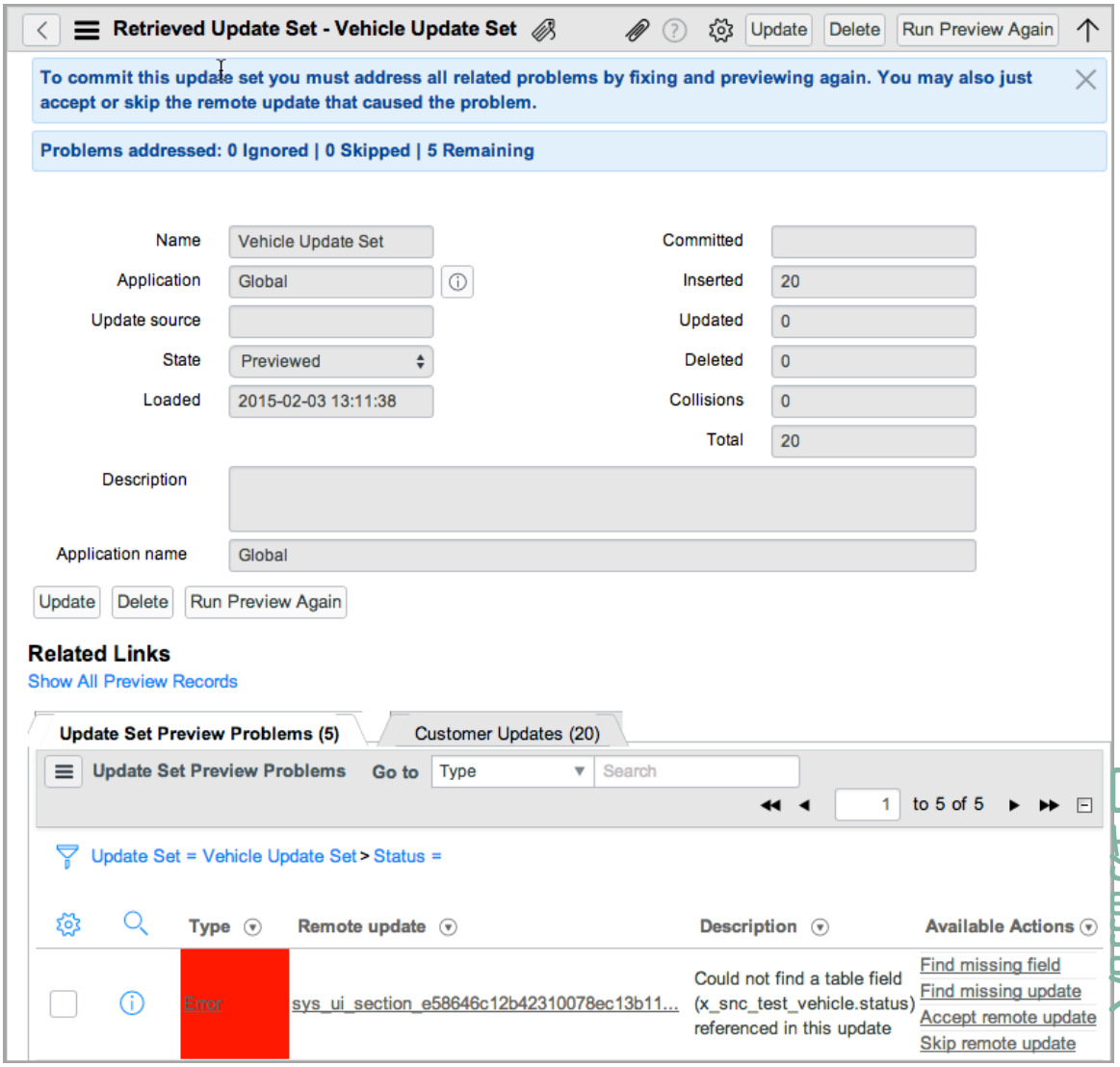
1. システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview** が**true**に設定されていると、更新セットが取得された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。
   このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。
   a. 移動先 システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**.
   b. 更新セットのプレビューをクリックします。
   大規模な更新セットの場合、プレビュー処理にかなりの時間がかかることがあります。必要に応じて、進捗状況ダイアログボックスのキャンセルボタンをクリックしてプレビュープロセスをキャンセルできます。
   更新セットプレビューページに結果が表示され、問題がリスト表示されます。情報を読んで閉じるをクリックします。
2. 取得された更新セットのフォームにおいて：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

取得された更新セットフォーム




3. オプション: レコードをプレビューします。
   a. 更新セットレコードを開き、すべてのプレビューレコードを表示するをクリックして、正しい更新が収容されていることを確認します。
   b. 更新セットレコードを開き、プレビューをもう一度実行するをクリックして比較を再度実行します。
   c. そのプレビューの問題関連リストをレビューし正しい更新が収容されていることを確認する。

## 更新セットのプレビューレコードをレビューする

更新セットをプレビューするプロセスでは、更新ごとにプレビューレコードを作成します。プレビューレコードを確認して、正しい更新が収容されていることを確認できます。

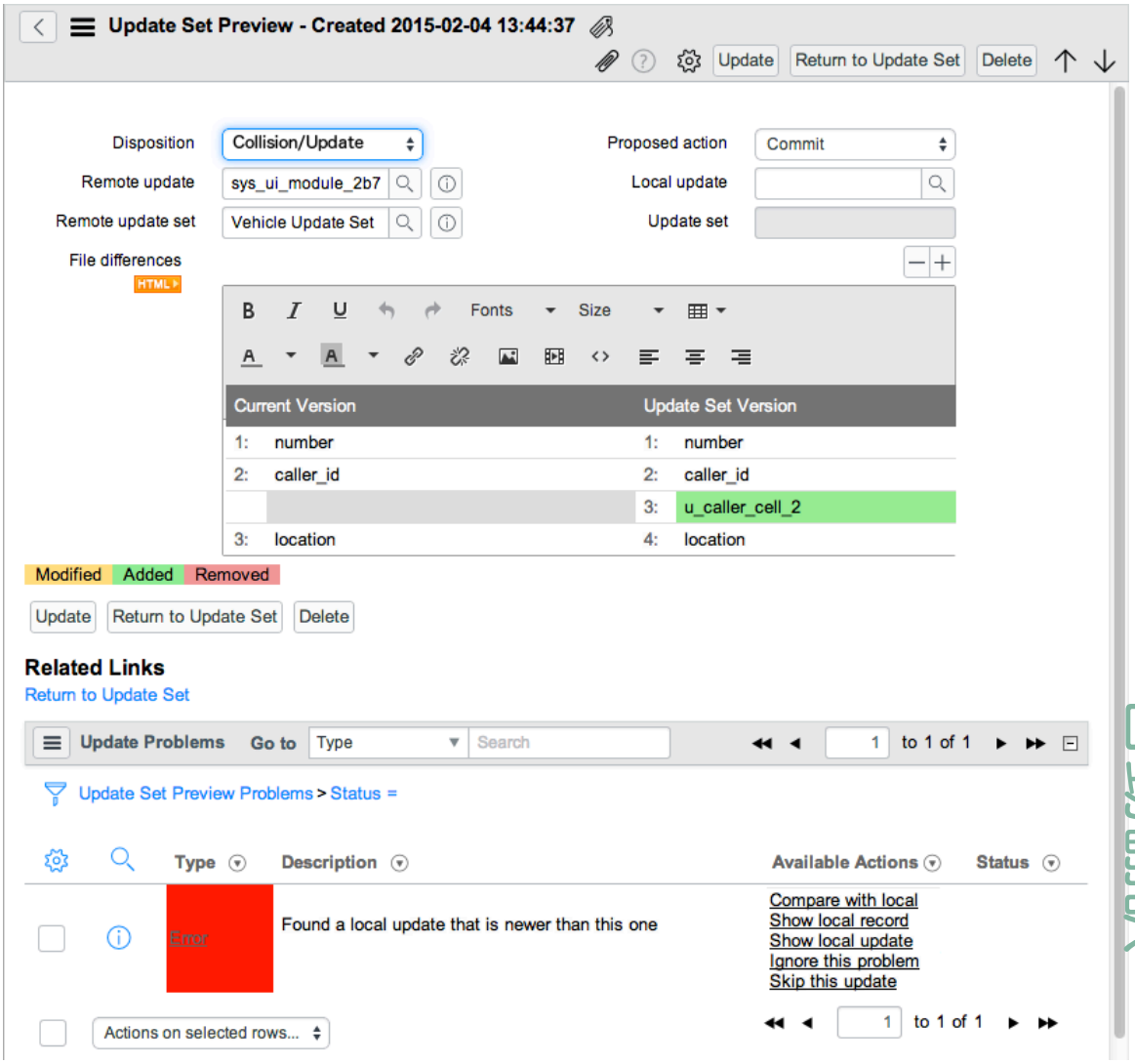
### 手順

1. 更新セットレコードを開き、更新セットをプレビューします。
2. すべてのプレビューレコードを表示する関連リンクをクリックします。
3. Disposition(整理)をクリックしてプレビューレコードを開き、情報を確認します(テーブルを参照)。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**4.** 必要に応じて、フォームのフィールドに入力します。

更新セット プレビュー




| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 処分 | 競合が検知されたときを示します：<br>○ 競合/更新、 競合/挿入、または競合/削除：その変更はローカルインスタンス上の同じオブジェクトへの変更より古いです。<br>○ 変更を更新、インサート、または削除することはローカルインスタンスの変更と競合しません。 |
| ファイルの差異 | ローカルインスタンス上のオブジェクトの最新バージョンと更新セット内のバージョンを比較します。違いにはカラーキーが付いています。削除は赤で、追加は緑で、そして変更は黄色で強調表示されます。 |
| 提案されたアクション | 更新セットが収容されたときの変更の処理方法を示します。<br>○ 収容：はリモート更新の変更を受け入れます。新しい更新がインスタンスに存在する場合でも、どのプレビューレコードに対してもデフォルトで提案されたアクションが収容です。<br>○ スキップ：変更を拒否します。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

5. 必要に応じて、更新の問題関連リストにリストされたいずれかの問題を解決します。
6. フィールドで、更新セットを収容するときに実行するアクションを選択します。
7. 更新をクリックしてアクションを保存します。
8. すべてのプレビューレコードに対してこのプロセスを繰り返する。

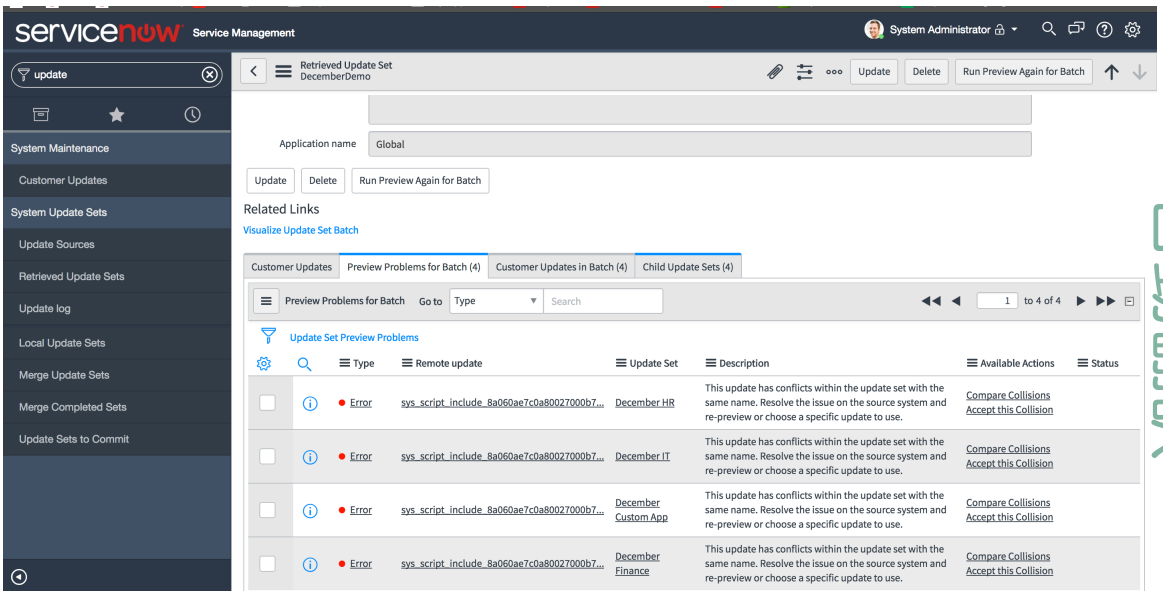
## 更新セットでプレビューの問題を解決する

更新セットをプレビューし、ローカルインスタンスで更新を収容する場合に発生する可能性のある問題を検知して解決します。

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**.
2. 更新セットレコードを開き、更新セットプレビューでの問題を修正する関連リストをスクロールして見ます。

更新セットプレビューでの問題




3. 各問題の説明をレビューして原因を判断し、問題を解決します。
   更新セットプレビューの問題

   オブジェクトが見つからない

   問題記述文の例：この更新で参照されている sys_ui_policy にレコードが見つかりません。

   説明：オブジェクトまたは参照されたオブジェクトがターゲットインスタンスに存在しません。例：

   - 更新はローカルインスタンスで作成されていないテーブルのフォームレイアウトを変更します。
   - UIポリシーアクションは更新セットに含まれているが、親 UI ポリシーは含まれていません。
   - 解決策：欠落しているオブジェクトをローカルインスタンスに転送するために、ソースインスタンスに別の更新セットを作成するか、ローカルインスタンスにオブジェクトを作成します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 不足しているフィールドを検索 **(Find missing field)** または 不足しているレコードを検索 **(Find missing record)**：新しいウィンドウを開き、不足しているフィールド (辞書エントリ) またはレコードのソースインスタンスを検索します。
- 不足している更新を検索 **(Find missing update)**：新しいウィンドウを開き、不足しているフィールドまたはレコードに対応する更新レコードのソースインスタンスを検索します。

衝突

問題記述文の例： この更新より新しいローカル更新が見つかりました

説明：更新セットの変更は、ローカルインスタンス上の同じオブジェクトへの変更より古いです。

解決策：2つの更新を比較し、どちらのバージョンを使用するかを決定します。ローカルインスタンスのバージョンを使用するには、リモート更新をスキップする を選択します。更新セット内のバージョンを使用するには、リモート更新を受け入れるを選択します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

- ローカルと比較:プレビューレコードを開きます。プレビューレコードは、ローカルバージョンと更新セット内のバージョンの差を比較します。
- ローカルフィールドを表示するまたはローカルレコードを表示します
- ローカルの更新を表示

収容されていない更新

問題記述文の例： この更新で参照されているテーブルフィールド (u_case.u_reference)が見つかりませんが、収容されていない別の更新セットが見つかりました。

説明：オブジェクトは収容されていない別のリモート更新セットに存在します。

解決策：最初に他のリモート更新セットを収容するか、この更新を別の更新セットに移動します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

- 収容されていない更新を表示する ：他のリモート更新セットに更新レコードを開きます。
- 収容されていない更新セットを表示する ：他のリモート更新セットレコードを開きます。

削除するテーブルにデータがある

問題記述文の例：その表の中に削除されるべき行が見つかりました

説明：テーブルの削除とその他のメタデータの削除の違いの 1 つは、テーブルが削除されるとテーブルのデータが失われることです。(テーブルが空の場合(行がない場合)、問題は発生しません。)

解決策：更新セットを収容する前に、この問題を無視(削除が行われる)またはスキップ(削除が行われない)する必要があります。テーブルを回復することはできますが、その回復によってデータは復元できません。

システムテーブル (ServiceNow テーブル) またはアプリケーションスコープ外のテーブルは削除できません。

アプリケーションスコープ検証の問題

説明：プレビューアは、次の状態の組み合わせを問題として識別します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 更新セットのスコープはグローバルではありません。
- アプリケーションがターゲットインスタンス上に見つかりません。
- アプリケーションは更新セットに含まれていません。
- アプリケーションがServiceNow Storeに見つかりません。

解決策：更新プログラムセットだけをアプリケーションスコープを含むインスタンスに転送するか、更新セットがアプリケーションを含むことを確認します。

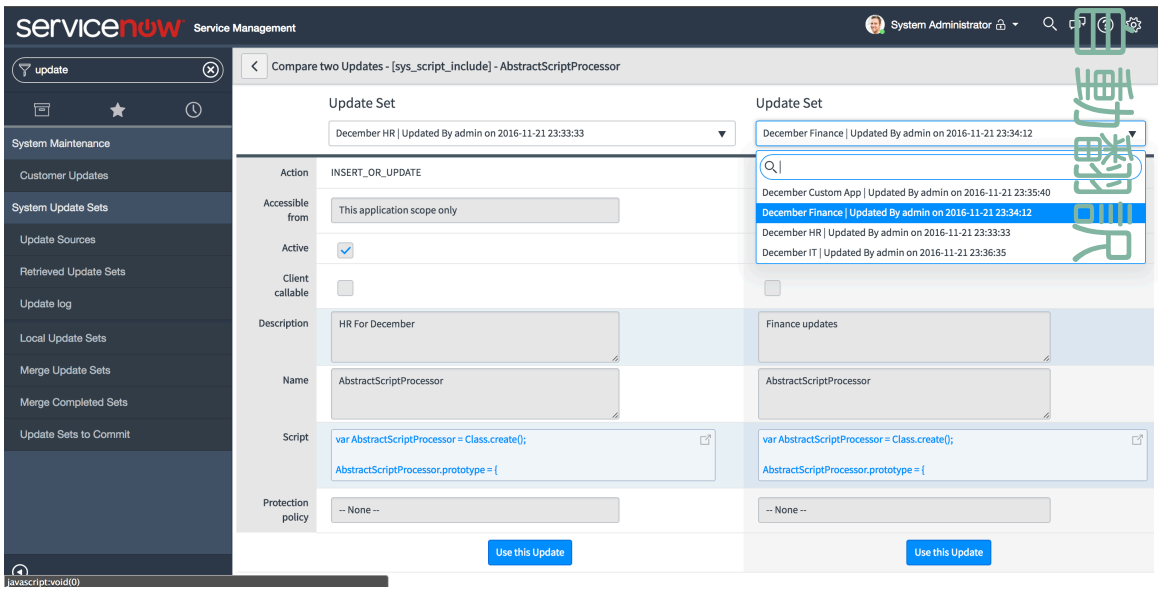
1 つのバッチ内の競合

問題記述文の例： この更新では、同じ名前の更新セット内で競合が発生しています。その問題をソースシステム上で解決し、再度プレビューするか使用すべき特定の更新を選んでください。

説明：同じバッチ内の 2 つ以上の更新セットに競合する変更があります。[更新セットプレビューの問題] リストには、競合する変更を含む各更新セットのレコードが含まれています。

解決策：競合する更新セットを比較し、使用するバージョンを決定します。どの更新セットを使用するのが正しいかどうかわかっている場合は、そのセットの行を選択して この競合を受け入れるをクリックします。それ以外の場合は、競合を比較するをクリックして競合する更新セットを比較します。

2 つの更新を比較します。




この画面では、競合する更新セットのいずれか 2 つを比較し、収容する更新セットを選択できる。

## 更新セットを収容

更新セットをプレビューして問題を解決すると、更新セットを収容します。更新セットをコミットすると、すべての変更がインスタンスに適用され、各変更の更新レコードを含んだ更新セットのローカルコピーが作成されます。

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets** 更新セットを開きます
2. 問題の解決
   すべての問題が解決されるまで、更新セットを収容することはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 更新セットの収容をクリックします。
   - キャンセルをクリックし、プレビューに戻って変更を再評価します。どの更新も収容されません。
   - **OK** をクリックし、変更をスキップし、収容とマークされた変更を収容します。
   スキーマの更新セットに1つ以上の消去が含まれていると、警告が表示されます。警告には、問題を含む可能性のある5つまでの更新がリスト表示されます。5つ以上の更新に潜在的な問題がある場合、システムはリンクを提供します。

   システムが更新セットを正常に収容すると、完了ページが表示されます。
4. 確認ページで [ログのコミット] をクリックするか、次の場所に移動します。 システムアップデートセット > 更新ログ 更新セット名をフィルタリングします
   - 安全でない編集のテキストを含む警告を探します。データが含まれているフィールドのタイプを変更するような、データが失われることになる変更は自動的にスキップします。必要に応じて、これらの変更を手動で行う必要があります。運用データに影響を与える変更を行う場合は注意が必要です。
   - 収容に失敗したレコードとその理由を示すエラーを探す。必要に応じて、これらの障害に対処するための新しい更新セットを作成します。
5. 更新セットで作業しなくなったが、別のインスタンスに転送しない場合は、次の場所に移動します。 システムアップデートセット > ローカル更新セット ローカル更新セットレコードを開きます。
   状態を無視するに変更します。

### 次のタスク
本番インスタンスで完了した更新セットに対しては、常に状態を無視に変更する必要があります。この状態は、確実にインスタンスのクローン作成時に更新セットが再度収容されないようにする。

## 更新セットを切り戻し

収容された更新セットの既存レコードの変更を取り消せます。

### 始める前に
必要なロール：管理者

### このタスクについて
更新セットを取り消すと、現在の更新セット内に削除更新が作成されます。リモート更新セットを収容、切り戻し、再適用すると、削除された更新がより最近の変更で競合が発生するとみなされるため、プレビューアにエラーが表示されます。

> ⚠ **警告:**
> デフォルトの更新セットを取り消してはなりません。このアクションは、そのインスタンスの構成を損なう可能性があります。

切り戻しプロセスは、レコードレベルの更新とディクショナリーへの変更の両方を元に戻します。切り戻しによって引き起こされるいくつかの変更は、データ損失を招く可能性があります。切り戻しプロセスで予想される結果は次のとおりです。

| 顧客アップデート | 切り戻しアクションの結果 |
|---|---|
| 新しいテーブル | そのテーブルはデータベースから削除され、そこからデータが削除されます。 |
| 新しいフィールド | そのフィールドはデータベースから削除され、そこからのいずれのデータも削除されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| 顧客アップデート | 切り戻しアクションの結果 |
|---|---|
| 削除された フィールド | フィールドはデータベースに回復されますが、元のデータは失われます。 |
| サイズ変更されたフィールド | フィールドのサイズ変更は戻されます。フィールドが増加した場合は、エラーを避けるためにデータが最初に切り捨てられます。 |
| 設定された フォーム | フォームは前の状態に戻ります。 |
| レコードが挿入されました。 | レコードは削除されました。(以下の注意を参照) |
| レコードは削除されました。 | レコードは元のデータで回復しました。 |

**警告:**
更新セットバッチに属する更新セットを取り消すと、バッチ内の他の更新セットに影響することがあります。詳細については、「バッチ更新セットの取り消し」を参照してください。

- sys_package がグローバルの場合は削除されます。
- sys_package がグローバルではなく、値が設定されている場合は、削除がないことを示す警告が表示されます。代わりに、sys_update_xml がデフォルトの更新セットに入れられ、レコードはそのまま残されます。

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. 更新セットレコードを開きます。
   それが完了していて [リリース日] フィールドに日付が設定されていることを確認します。

   **注:**
   現在選択されているアプリケーションは、更新セットで使用できるオプションに影響します。更新セットの内容に一致する(グローバルのような)アプリケーションを選択していることを確認します。

3. 更新セットの内容を慎重に確認し、取り消された場合に問題が発生するかどうかを検討します。
   更新セットを取り消すだけで十分でない場合、または問題を引き起こす場合は、カスタマイズを元に戻すように新しい更新セットを作成して収容します。
4. 取り消しをクリックします。
   進捗状況ページには、アクション、進捗状況、および問題が表示されます。問題は、取り消しされている更新セットに影響するより新しい更新セットの変更です。取り消しプレビュープロセスは、問題ごとに警告を生成します。
5. 取り消しを続行する前に、各問題を解決します。
   - 最新バージョンを使用するには、現在の状態を維持すると決定する をクリックします。
   - 以前のバージョンに戻すには、前の使用を決めるをクリックします。

   すべての変更はテーブルに記載されているように逆になります。現在の更新セットは、発生したすべての新しい変更を追跡します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットと関連するすべての更新レコードが削除されます。必要に応じて、取得した更新セットにナビゲートしてプレビューし、再度収容できます。

> **注:**
> リモート更新セットを収容し、取り消しそれから再適用すると、更新セットの取り消しは現在の更新セット内に削除更新を作成するため、更新エラーがプレビューアに表示されます。削除はより最近の変更とみなされ、衝突を引き起こします。

### 更新セットの削除に関する注意事項

更新セットを削除するのは悪い習慣です。カスタマイズを元に戻すには、削除するのではなく、更新セットを取り消してください。

管理者は、それが現在の更新セットでなく、空の場合(それに関連付けられた sys_update_xml エントリがない)にのみ更新セットを削除できます。たとえば、更新セットを結合した後、元のセットを削除できます。この機能は、更新セット [sys_update_set]テーブルのアクセス制御ルール(ACL)によって制限されます。

ServiceNowは、 sys_update_xml 項目を削除しないことを強くお勧めします。なぜならこのアクションは：

- 更新を元に戻せません。
- カスタマイズを適用したレコードを削除します。
- 更新セットに関連付けられた sys_update_xml 項目を除去する、するとインスタンスのアップグレード時にカスタマイズが上書きされます。

更新エントリを削除しようとすると、警告メッセージが表示されます。**[OK]** をクリックして削除を確認します。

## 更新セットの一括

バッチ 更新セットを使用すると、更新セットをグループ化できるので、一括でプレビューおよび収容ができます。

複数の更新セットを扱うと、間違った順序で更新セットを収容したり、誤って1つ以上のセットを残したりするなどの問題に繋がる可能性があります。完了した更新セットをバッチにすることで、これらの問題を回避できます。

> **注:**
> クローン作成中に更新セットのバッチ階層を保持するには、親の更新セットのみを「無視」ステータスに設定し、他のすべての更新セットを「完了」のままにします。これにより、バッチセットのクローン作成が防止され、バッチ更新セット階層が保持されます。

更新セットのバッチを階層に編成します。１つの更新セットは、複数の子更新セットに対する親として行動できます。与えられたセットは子と親の両方になれるので、複数レベルの階層を可能にします。階層の最上位にある1つの更新セットは、更新セットのベースとして働きます。

基本更新セットをプレビューまたは収容すると、バッチ全体をプレビューまたは収容することになります。システムは処理の順序を決定し、変更が記録された日付とその逐次祖先に基づいて競合をチェックします。彼らの祖先は、更新セットの変更が行われた特定のインスタンスです。

> **注:**
> 詳細については、「ローカルな更新セットの比較」と「カスタマイズを表示し現バージョンと比較する」を参照してください。

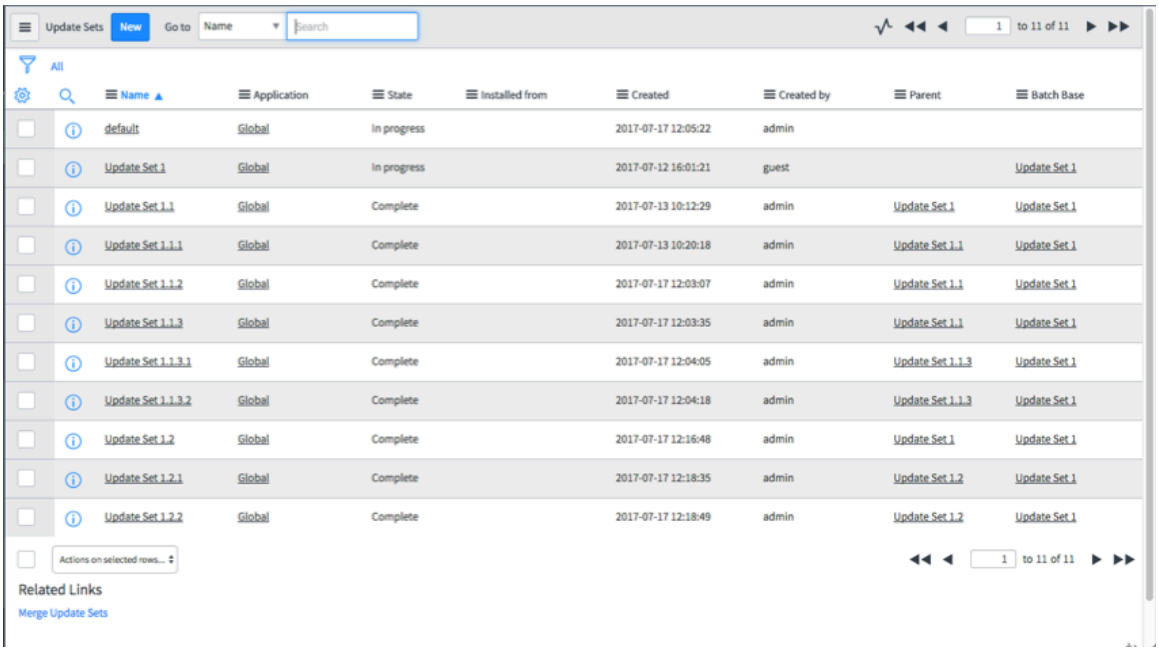
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

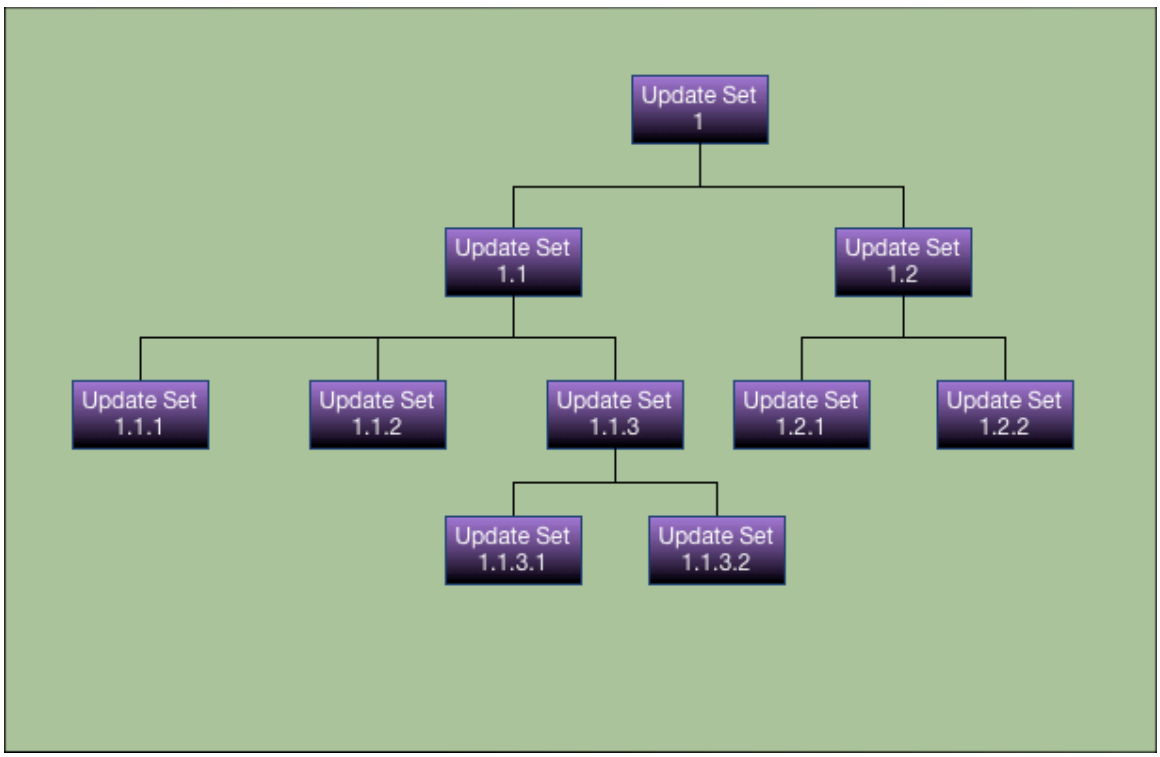
## バッチ更新セットの例

更新セットレコードリストは、[親] および [バッチベース] 列のバッチ階層を反映しています。

バッチ更新セットのリスト




バッチ更新セット階層の図




## バッチ 更新セットを作成する

その親として別の更新セットを指定することにより、更新セットをバッチに含めます。

### 始める前に

必要なロール：admin
完了したバッチにWIP更新セットを追加してバッチベースをWIPにリセットします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. バッチの子として含めたい更新セットに対するレコードを選択します。
3. 更新セットレコードで、親フィールドに行きそして親として機能するように更新セットを選択します。
4. [更新] をクリックします。
   システムは更新セットのリストに戻ります。親列が表示されている場合は、それは新しく作成された子の親を表示している。

### バッチ 更新セットを検索

個々の更新セットと同じプロセスを使用して更新セットのバッチを取得します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

検索するには個々の更新セットのバッチは、個別の更新セットに対するのと同じように、バッチベースに対しても同じプロセスを実行します。
システムはバッチ全体を一度に処理します。詳細については、「更新セットを取得」を参照してください。

### 更新セットの バッチ をプレビュー

一度にバッチに属するすべての更新セットをプレビューできます。

始める前に
必要なロール：admin
ソースインスタンスから更新セットを取得しておく必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**
2. 取得した更新セットのリストから、プレビューしたいそのバッチに対するバッチベースを選択します。
   バッチでの子の更新セットを個別にプレビューすることはできません。バッチベースをプレビューすることで、バッチ全体をプレビューする必要があります。必要に応じて、レコードの親フィールドを編集してバッチから子の更新セットを削除することができます。
3. プレビュー 更新セット **Batch**をクリックします。
4. システムが問題を検出した場合は、問題をプレビューします。
   a. [バッチの問題をプレビュー **(Preview Problems for Batch)**]をクリックし、通常の更新セットと同様に問題を解決します。
   b. すべての問題を解決すると、バッチのプレビューを再度実行するをクリックする。

### 更新セットのバッチを収容

バッチに属するすべての更新セットを一度に収容できます。

始める前に
必要なロール：admin
収容する前に、ソースインスタンスから更新セットをプレビューし、競合を解決しておく必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > 取得済み **Update Sets**
2. 取得した更新セットのリストから、プレビューするバッチのバッチベースを選択します。
   バッチの子の更新セットを個別にコミットすることはできません。バッチベースを収容することによってバッチ全体を収容する必要があります。必要に応じて、そのレコードの親フィールドを編集して、バッチから子の更新セットを削除することができます。
3. 全ての更新セットを収容するをクリックする。

### 更新セットのバッチを再編成する

個々の更新セットをバッチから削除するか、その親を変更できます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアップデートセット > ローカル更新セット.
2. バッチ内で子として移動または削除したい更新セットのレコードを選択します。
3. 更新セットレコードで、親フィールドに行き、親として機能する新しい更新セットを選択します。
4. バッチから更新セットを削除するには、親フィールドからいずれのテキストも消去しそれを空白のままにします。
5. [更新] をクリックします。
   システムは更新セットのリストに戻ります。もしバッチベース列が表示されている場合は、新しく作成された子の親を示します。

次のタスク
システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview**が**true**に設定されていると、レコードが新しい親で更新された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。プレビュー手続きの詳細は更新セットのバッチ をプレビューを参照してください。

### バッチ更新セットの取り消し

バッチのベース更新セットの切り戻し手順に従って、バッチ処理された更新セットを切り戻します。任意の子更新セットを個別に取り消すこともできます。

バッチに属する更新セットを取り消しするときは、次の規則が適用されます。

- 更新セットに親の値がある場合、システムは親の値をクリアし、更新セットを独立した更新セット、または子があれば新しいバッチベースとして扱います。
- システムは、選択した更新セットと、加えて削除された更新セットの子があれば取り消します。

詳細については、「更新セットの切り戻し (Back out an update set)」と「更新セットのバッチ処理 (Update Set Batching)」を参照してください。

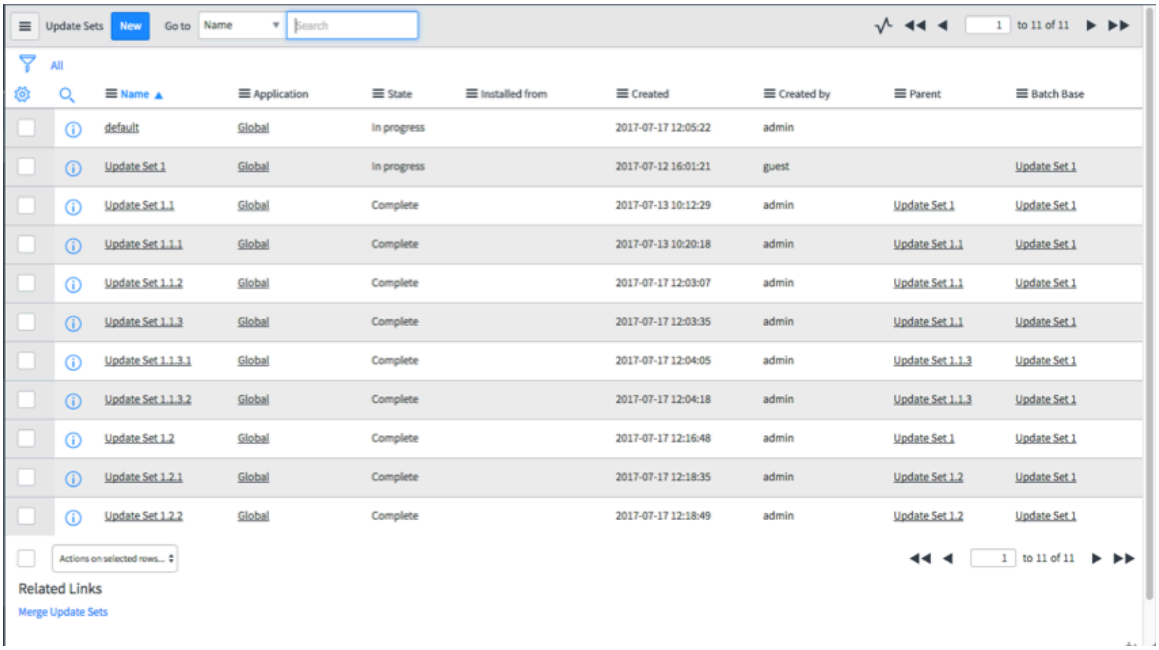
### バッチ更新セットを取り消しする例

更新セットを取り消しする前のバッチ更新セットのリスト。に示される更新セット 1.1 を次のバッチから削除した場合、結果は更新セット1.1を取り消しした後のバッチ更新セットのリストに示されるバッチになります。

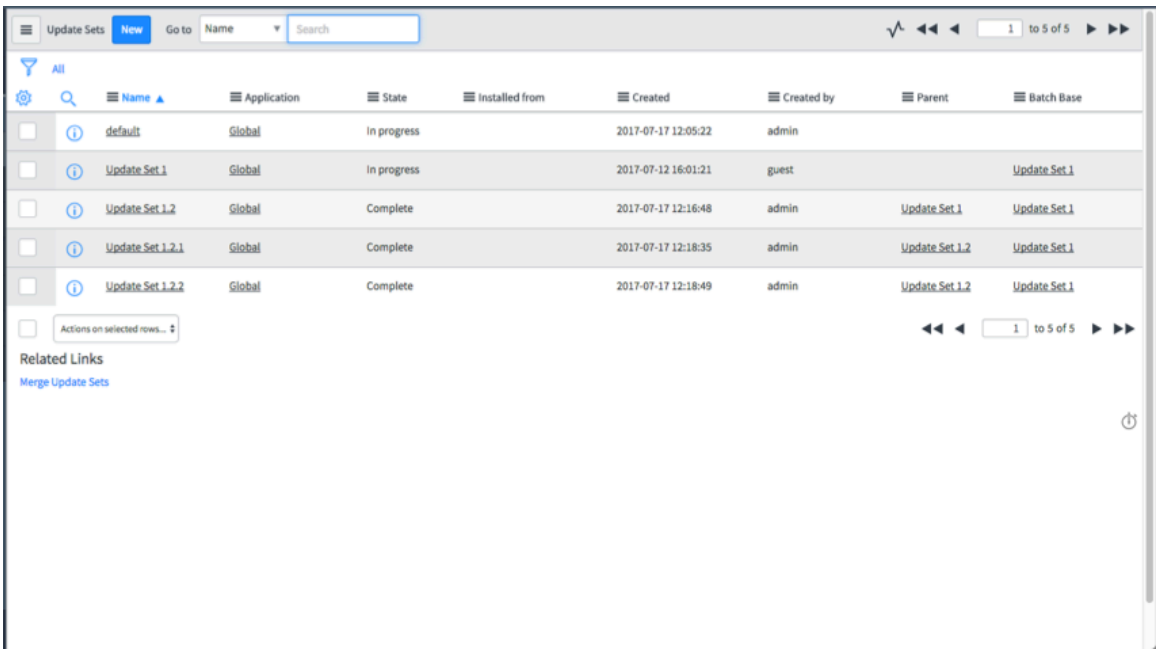
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットを取り消しする前のバッチ更新セットのリスト。




更新セット**1.1**を取り消しした後のバッチ更新セットのリスト

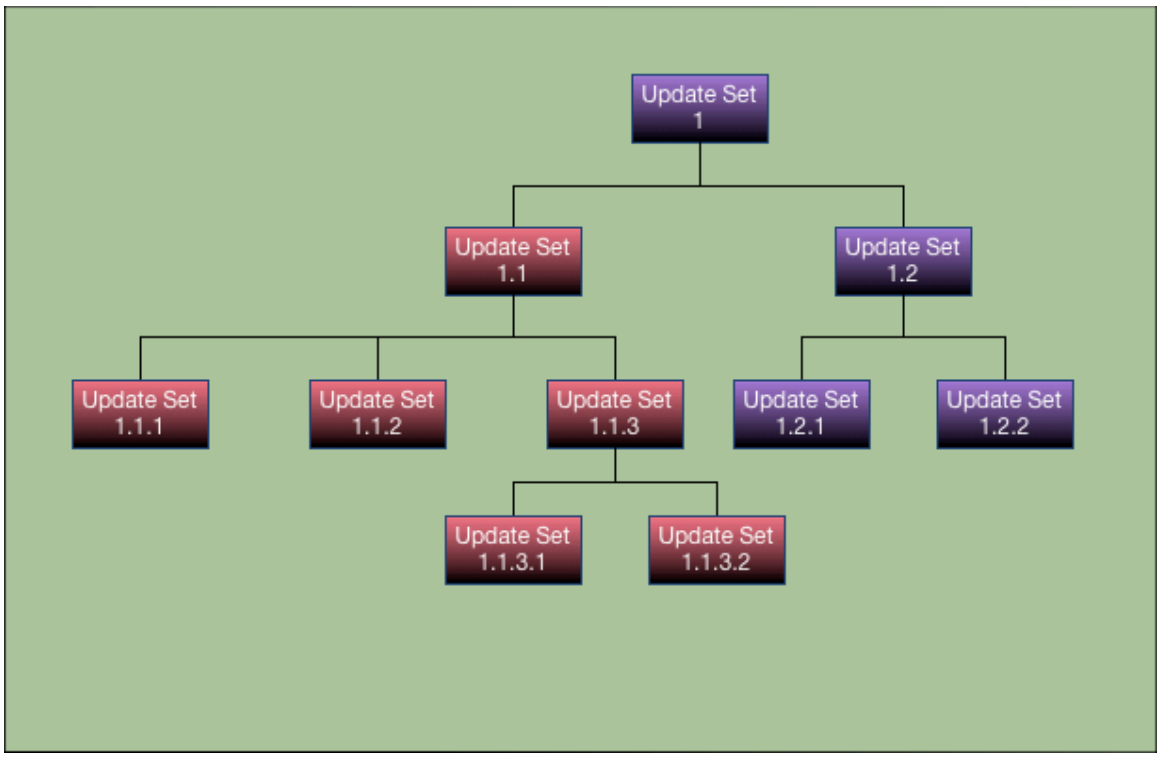



更新セットバッチの階層図 取り消しの前と後の両方の階層を示します。赤いボックスは更新セット1.1を取り消した場合にシステムが取り消す更新セットを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットバッチの階層図




## アプリケーションの管理

アプリケーションを管理する方法は複数用意されています。これらの手順を実行するには、admin ロールが必要です。

### 従来のアプリケーションマネージャー

従来のアプリケーションマネージャーは、インスタンスでアプリケーションを管理する方法に関する情報を提供します。アプリケーションのインストール、更新、または削除の詳細については、「」を参照してください 従来のアプリケーションマネージャー。

### アプリケーションマネージャー

新しい アプリケーションマネージャー エクスペリエンスが利用可能になりました。新しいエクスペリエンスでは、ライセンス済みアプリケーションを 1 つの便利な場所に統合し、すべてのライセンス済みアプリケーション、プラグイン、インストール済みアプリケーション、および利用可能な更新を表示することで、管理プロセスを簡素化します。詳細については、「アプリケーションマネージャー」を参照してください。

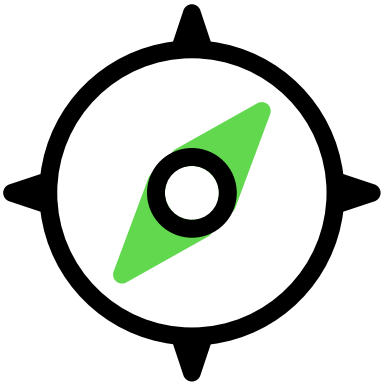
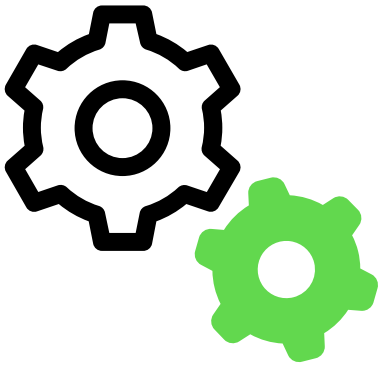
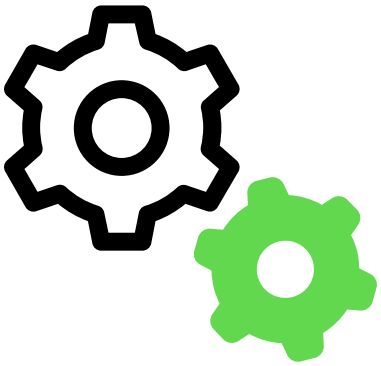
### アプリケーションマネージャー

アプリケーションマネージャー 管理者は、インスタンスのライセンス済みアプリケーションとプラグインをインストール、更新、管理する機能を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 開始するには

| 探索 | 使用方法 | 構成 |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
| アプリケーションマネージャーがライセンス済みアプリケーションを 1 つの便利な場所で管理するのにどのように役立つかをご覧ください。 | アプリケーションマネージャーを使用して、インスタンス内のアプリケーションを検索、インストール、および更新します。 | アプリケーションマネージャーでアプリケーションを修復またはアンインストールします。 |

## トラブルシューティングとヘルプ

- の「はじめに」の情報を確認する ServiceNow Community
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 担当者 カスタマーサービス & サポート

### アプリケーションマネージャー の詳細

アプリケーションマネージャー管理者は、インスタンスのライセンス済みアプリケーションとプラグインをインストール、更新、管理する機能を提供します。

## アプリケーションマネージャー の概要

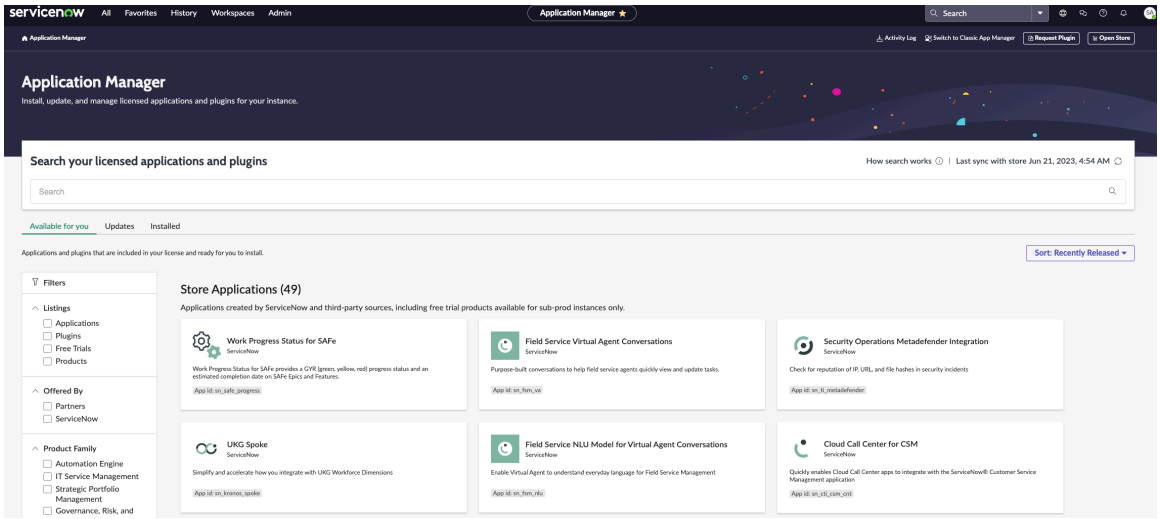
アプリケーションマネージャーメイン ページには、[利用可能]、[更新プログラム]、および [インストール済み] の 3 つのメイン タブがあります。

## 利用可能

[ 利用可能 ] タブには、ライセンスに含まれており、インストールする準備ができているアプリケーションとプラグインが表示されます。検索バーを使用して、インストールするアプリケーションまたはプラグインを検索できます。フィルターを適用して検索を絞り込んだり、ソートオプションを使用してアルファベット順または最近のリリースに基づいて表示したりすることもできます。

自動翻訳

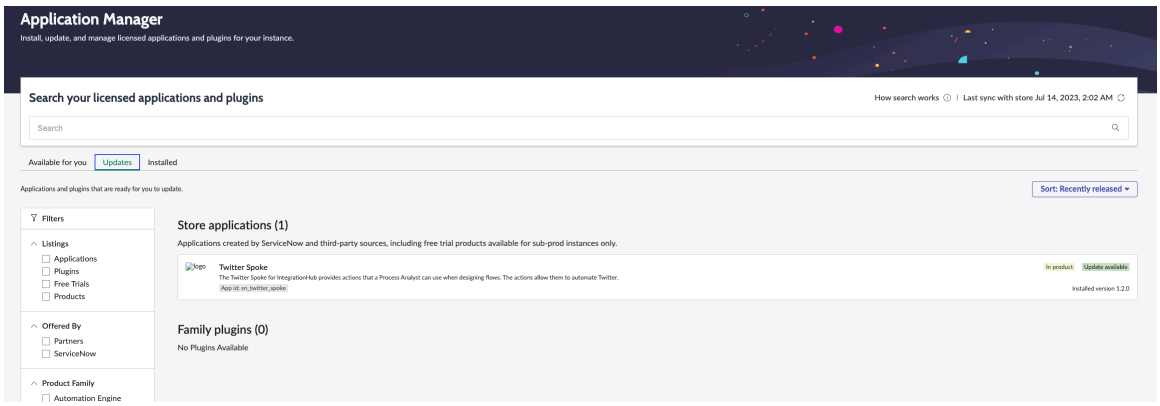
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




ストアとの自動同期は 24 時間ごとに行われます。資格のあるアプリが に表示されアプリケーションマネージャーない場合は、同期ボタンを使用して手動で同期できます。

## 更新回数

[ 更新] タブには、更新する準備ができているアプリケーションとプラグインが表示されます。利用可能な更新がある場合は表示され、緑色の更新が利用可能であることを示すメッセージがタイルに表示されます。フィルターを適用して検索を絞り込んだり、ソートオプションを使用してアルファベット順または最近のリリースに基づいて表示したりすることもできます。

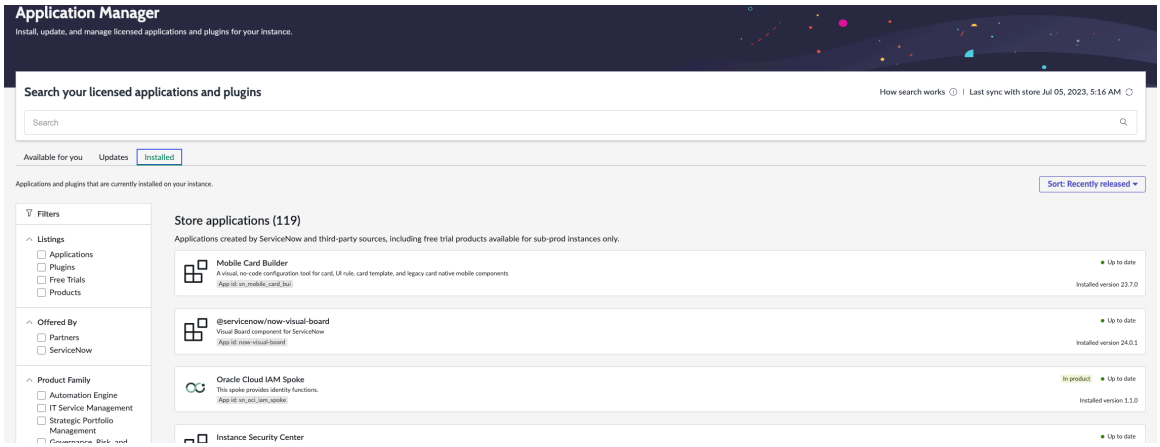



## インストール日

[インストール済み] タブには、現在インスタンスにインストールされているアプリケーションとプラグインが表示されます。インストールされているアプリケーションとプラグインには、現在のバージョンが表示されるだけでなく、バージョンが最新であることも通知されます。フィルターを適用して検索を絞り込んだり、ソートオプションを使用してアルファベット順または最近のリリースに基づいて表示したりすることもできます。

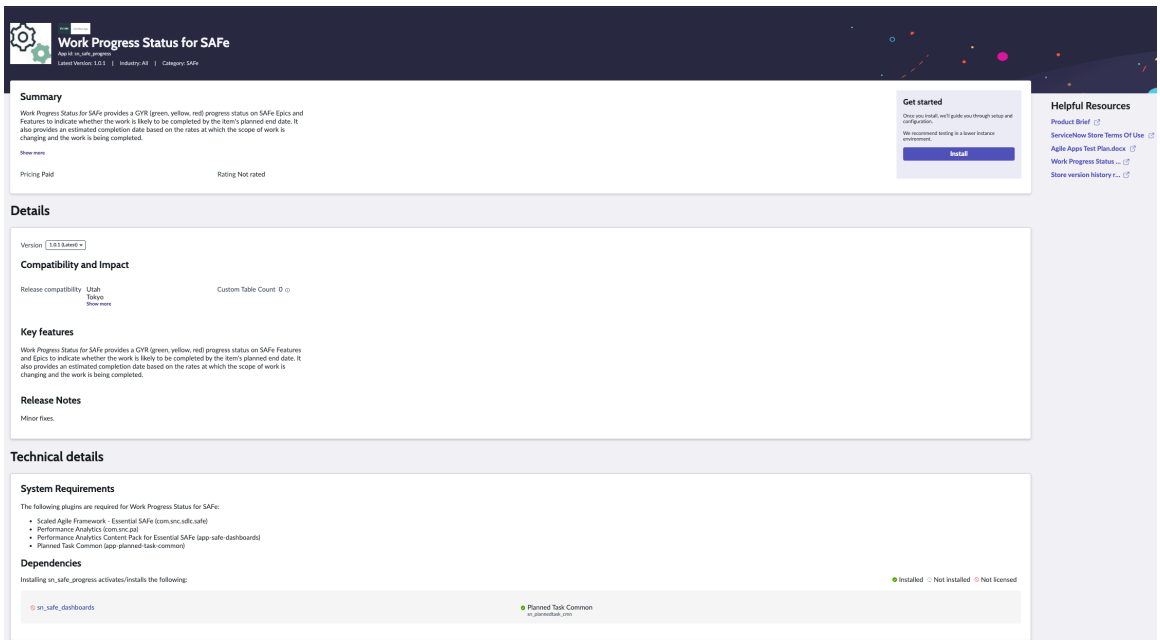
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




## 詳細ページ

アプリケーションまたはプラグインを選択すると、詳細ページが表示されます。このページには、アプリケーションを説明する概要に加えて、互換性、主な機能、リリースノート、現在のステータス、システム要件や依存関係などの技術的な詳細などの詳細情報が含まれています。




### アプリケーションマネージャーの使用

ServiceNow® アプリケーションマネージャーこのアプリケーションを使用して、インスタンス内のアプリケーションを管理します。

### アプリケーションのインストール

アプリケーションマネージャーを使用して、アプリケーションのインストール、アプリケーションの更新、またはインスタンスへの複数のアプリケーションのインストールのスケジュール設定を行います。詳細については、「アプリケーションマネージャーへのアプリケーションのインストール」を参照してください。

### アプリケーションの構成

アプリケーションマネージャーを使用して、インスタンスのアプリケーションを設定します。詳細については、「アプリケーションマネージャーを使用したアプリケーションの構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

## アクティビティログでのアプリケーションステータスの確認

アクティビティ ログでアプリケーションの状態を確認します。詳細については、「アクティビティー・ログでのアプリケーション状況の確認」を参照してください。

### アプリケーションマネージャーでアプリケーションに資格を付与する

ServiceNow インスタンスからアプリケーションに資格付与します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > アプリケーションマネージャー.
2. フィルターオプションから [資格付与されていないインスタンス **(Instance not entitled)]** インジケーターを選択します。

   注:
   [資格付与されていないインスタンス **(Instance not entitled)]** フィルターは、購入済みで資格付与されていないアプリケーションがインスタンスにある場合にのみ表示されます。

3. アプリケーションタイルのメニューアイコンを選択し、 [ このインスタンスに資格付与します] を選択します。
4. [アプリケーションエンタイトルメント] ダイアログボックスで、**[OK]** を選択します。

### アプリケーションマネージャーへのアプリケーションのインストール

アプリケーションマネージャーを使用して、インスタンスへの複数のアプリケーションのインストール、更新、またはスケジュール設定を行います。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > アプリケーションマネージャー.
2. ダッシュボードからインストールするアプリケーションを選択します。
3. アプリケーションの詳細ページで [ インストール ] ボタンを選択します。
4. [ インストール ] ボタンを選択します。
   a. [ 後でインストール] オプションを選択し、開始日時を選択してアプリケーションのインストールをスケジュールします。

      注:
      キューに格納されるインストールがサポートされるので、複数のインストールを同時にスケジュールできます。

5. インストールされているアプリケーションを更新するには、次の手順を実行します。
   a. ホームページの [ 更新 ] セクションを選択します。
   b. アップデートが利用可能なアプリケーションを選択します。
   c. 詳細ページで、 続行して更新 を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**d.** [ インストール ] を選択してアプリケーションを更新します。

**e.** 後で更新をスケジュールするには、[ 後でインストール] を選択し、更新の日時を選択して、[ スケジュール] を選択します。

### アクティビティー・ログでのアプリケーション状況の確認

アプリケーション・マネージャー・アクティビティー・ログでアプリケーションの状況を確認します。

#### 始める前に
必要なロール：admin

アクティビティログには、更新およびインストールされたアプリケーションの履歴とそのステータスが表示されます。インストールがスケジュールされているアプリケーションを確認したり、インストールされているアプリケーションの進捗状況を確認したり、正常にインストールされたアプリケーションまたはインストールエラーの詳細を表示したりすることができます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > アプリケーションマネージャー.
2. 上部のツールバーにある [ アクティビティ ログ ] ボタンを選択します。
3. [ フィルター ] ドロップダウンを選択して、アクティビティでフィルター処理します。
   - 最近追加
   - 対応中
   - スケジュール済み
   - 失敗
   - 完了

### アプリケーションマネージャーを使用したアプリケーションの構成

アプリケーションマネージャーを使用して、インスタンスのアプリケーションを構成します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > アプリケーションマネージャー.
2. 構成するアプリケーションを選択します。
3. 詳細ページの [クイックアクション ] セクションからオプションを選択します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 修理 | インスタンス内のアプリケーションを修復します。 |
| アンインストール | インスタンスからアプリケーションをアンインストールします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 従来のアプリケーションマネージャー

任意の ServiceNow を使用する前に、そのためのエンタイトルメントがあること、つまり使用するための有効なライセンスがあることを確認する必要があります。その後に、ServiceNow Store からアプリケーションとそのプラグインをインストールできます。

**注:**
このセクションの情報では、レガシーまたはクラシックアプリケーションマネージャーエクスペリエンスの使用について説明します。

新しい アプリケーションマネージャー エクスペリエンスが利用可能になりました。新しいエクスペリエンスでは、ライセンス済みアプリケーションを 1 つの便利な場所に統合し、すべてのライセンス済みアプリケーション、プラグイン、インストール済みアプリケーション、および利用可能な更新を表示することで、管理プロセスを簡素化します。詳細については、「アプリケーションマネージャー」を参照してください。

### アプリケーションマネージャーのアクション

| アクション | オプション | ユースケース |
|---|---|---|
| アプリケーションのインストール | • 新しいアプリケーションのインストール<br>• 更新のインストール | アプリケーションをテストします。 |
| 現在のアプリケーションの選択 | • アプリケーション リストからのアプリケーションの選択<br>• アプリケーション ピッカーからのアプリケーションの選択 | アプリケーションを編集します。 |
| アプリケーション レコードの更新 | • テーブルの追加<br>• ロールの追加<br>• メニューの追加<br>• 依存関係を追加<br>• 更新セットの追加 | アプリケーション ロジックを追加します。 |
| アプリケーションの状態の設定 | • アプリケーションの非アクティブ化<br>• アプリケーションのアクティブ化<br>• アプリケーションの削除 | レガシー アプリケーションを廃止します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションマネージャーのアクション (続く)

| アクション | オプション | ユースケース |
| --- | --- | --- |
| アプリケーションの共有 | • 別のインスタンスで利用可能にする<br>• 次の場所にアップロードする ServiceNow Store | 開発からテストにアプリケーションを移動します。 |
| アプリケーションの削除 | • 非アクティブ化<br>• 削除<br>• アンインストール | 古いアプリケーションまたはレガシー アプリケーションを廃止します。 |
| グローバルアプリケーションから別のグローバルアプリケーションへのアプリケーションファイルの移動 | なし | レガシー アプリケーションを編集します。 |

### ServiceNow Store 製品へのオプトイン

ServiceNow 製品モジュールに移動して、ServiceNow Store で利用可能な必要な製品にオプトインします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > **ServiceNow** 製品.
   ServiceNow Store で利用可能なServiceNow 製品が表示されます。製品は、属している製品ファミリに基づいて編成されています。
2. ServiceNow 製品にオプトインするには：

   a. 必要な製品のタイルで、[オプトイン] をクリックします。

   b. Now Support 資格情報を入力します。

   c. [オプトイン] をクリックします。
   確認メッセージが表示され、製品タイルに [オプトイン] ラベルが表示されます。

   d. 製品に属するアプリケーションを表示するには、製品タイルをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

製品に属するすべてのアプリケーションが [ライセンス済み] および [ライセンスなし] タブに表示されます。

注:

- アプリケーションが ServiceNow インスタンスですでに利用可能 (つまり、インストールされているか、更新可能) である場合は、[アプリケーションを管理] をクリックしてアプリケーションページに移動し、アプリケーションをインストール、アンインストール、または修理します。
- アプリケーションが ServiceNow インスタンスで利用できない場合は、[詳細を表示] をクリックしてアプリケーションリストページに移動し、アプリケーションの詳細と依存関係を表示して ServiceNow Store に移動します。

3. ServiceNow 製品ファミリにオプトインするには：

   a. [製品ファミリのオプトイン] をクリックします。

   b. Now Support 資格情報を入力します。

   c. [オプトイン] をクリックします。
   必要なファミリのすべての製品にオプトインしました。

### ServiceNow インスタンスからのエンタイトルメントの管理

ServiceNow インスタンスから ServiceNow Store で購入したアプリケーションと製品のエンタイトルメントを管理します。

始める前に
必要なロール：admin

### ServiceNow インスタンスからアプリケーションへの資格付与

ServiceNow インスタンスからアプリケーションのエンタイトルメントを管理します。

始める前に
ServiceNow Store でアプリケーションを購入します。

必要なロール：管理者

手順

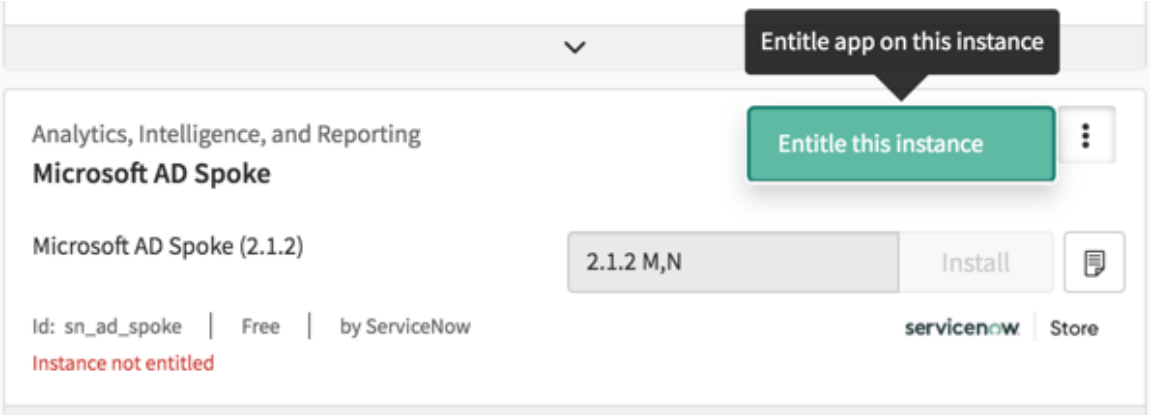
1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルターオプションから [資格付与されていないインスタンス **(Instance not entitled)]** インジケーターを選択します。
   購入したすべての資格付与されていないアプリが表示されます。

   注:
   [資格付与されていないインスタンス **(Instance not entitled)]** フィルターは、購入済みで資格付与されていないアプリケーションがインスタンスにある場合にのみ表示されます。

3. アプリケーションタイルでメニューアイコン (•••) を選択し、[このインスタンスに資格付与します] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




4. [アプリケーションエンタイトルメント] ダイアログボックスで、**[OK]** を選択します。

タスクの結果
アプリケーションエンタイトルメントが ServiceNow インスタンスに提供されます。

次のタスク
ServiceNow インスタンスのバージョンと互換性がある場合は、アプリケーションをインストールします。

## **ServiceNow** インスタンスから製品への資格付与

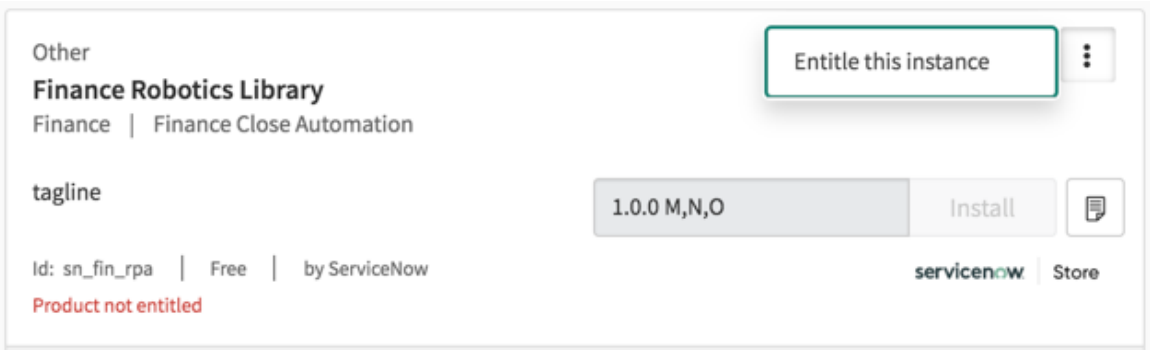
ServiceNow インスタンスから製品のエンタイトルメントを管理します。

始める前に
ServiceNow Store で製品を購入し、ServiceNow インスタンスからオプトインします。

必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルターオプションで、[資格付与されていない製品 **(Product not entitled)]** インジケーターを選択します。
   購入した資格付与されていない製品がすべて表示されます。
3. 製品タイルでメニューアイコン (•••) を選択し、[このインスタンスに資格付与します] を選択します。




4. [アプリケーションエンタイトルメント] ダイアログボックスで、**[OK]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
製品エンタイトルメントが ServiceNow インスタンスに提供されます。

次のタスク
ServiceNow インスタンスのバージョンと互換性がある場合は、製品をインストールします。

### ServiceNow Store での未購入の推奨アプリにアクセスする

管理者は、ServiceNow Store に移動しなくても、未購入の ServiceNow Store アプリのリストにアクセスし、推奨アプリを表示し、必要なアプリの詳細を表示できます。

未購入 ServiceNow Store のアプリのリストにアクセスするには、次に移動します システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能. 推奨アプリには、アプリケーションタイルで [推奨] インジケーターが付いています。[追加のフィルター] で利用可能なフィルターオプションを使用して、必要なアプリを入力することもできます。フィルターオプションは次のとおりです。

| フィルターオプション | 説明 |
|---|---|
| 無料試用版 | アプリは無料試用版で利用できます。 |
| Service Graph Connector | アプリタイプは、Service Graph Connector です。 |
| 購入の処理中 (Purchase In Process) | アプリの購入要求が処理中で、アプリはまだ ServiceNow Store で購入されていません。 |
| 要求を却下 (Rejected Request) | アプリの試用版または購入の要求が却下されました。 |
| 要求の処理中 | アプリの試用版または購入の要求が開始され、ベンダーからの応答を待機しています。 |

- ServiceNow Store で利用可能なアプリの詳細を表示するには、[詳細を表示] をクリックします。
- 必要なアプリを購入または試用するには、アプリの詳細ページで次をクリックします。
  - 無料アプリの場合は [取得]。
  - 有料アプリの場合は [購入]。
  - アプリを購入するためにベンダーからの承認が必要な無料または有料のアプリの場合は [アプリを要求]。
  - アプリを試用するためにベンダーからの承認が必要な無料または有料のアプリの場合は [試用版を要求]。
  - アプリケーションマネージャーから直接アプリケーションを調達する前は [試す **(Try)**]。

  アプリを購入できる場所から ServiceNow Store にリダイレクトされます。

### 無料アプリケーション試用版の要求とインストール

ServiceNow Store に移動せずに、ServiceNow インスタンスから直接アプリケーションを調達する前に、アプリケーションの無料アプリケーション試用版を要求してインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. オプション: ベンダーから承認を取得してアプリケーションを試用します。

   注:
   一部のアプリケーションでは、アプリケーションを試用するためにベンダーの承認が必要です。

   a. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能.
   b. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックします。
   c. [試用版を要求] をクリックします。
   d. Now Support 資格情報を入力します。
   e. [サインイン] をクリックします。
   試用版の要求がベンダーに送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。ベンダーが要求を承認すると、メールで通知されます。
2. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能.

   注:
   アプリケーションでベンダーの承認が必要な場合は、要求が承認されたことがメールで通知された後に次の手順を実行します。

3. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックします。
4. [試行] をクリックします。
5. ポップアップウィンドウで、次のタブの情報を確認し、[続行] をクリックします。
   - 利用状況分析と連絡先
   - プラットフォームライセンス
   - 契約条件

   注:
   [上記の利用規約を読み、同意します] チェックボックスをオンにします。

   契約条件ドキュメントをダウンロードできます。

   [確認] タブに、アプリケーションをインストールできることを示す確認メッセージが表示されます。

   アプリケーションの試用版は 30 日間利用できます。緑色のインジケーターは、試用版の有効期限を示しています。試用期間が期限切れになると、試用期間が期限切れになったことを示す赤色のインジケーターが表示されます。

6. [インストールに移動] をクリックします。

### 無料または有料のアプリケーションの要求

ベンダーからの承認が必要な無料または有料のアプリケーションを要求して、ServiceNow Store に移動することなく、ServiceNow インスタンスから直接アプリケーションを購入します。

始める前に
必要なロール：管理者

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能.
2. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックします。
3. [アプリを要求] をクリックします。
   要求がベンダーに送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。ベンダーが要求を承認すると、メールで通知されます。

### 無料アプリケーションの取得

ServiceNow Store に移動せずに ServiceNow インスタンスから無料アプリケーションを取得します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能.
2. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックします。
3. [取得] をクリックします。
4. ポップアップウィンドウで、次のタブの情報を確認し、[続行] をクリックします。
   - 利用状況分析と連絡先
   - プラットフォームライセンス
   - 契約条件

   **注:**
   [上記の利用規約を読み、同意します] チェックボックスをオンにします。

   契約条件ドキュメントをダウンロードできます。

   [確認] タブに、アプリケーションをインストールできることを示す確認メッセージが表示されます。
5. [インストールに移動] をクリックします。

### 有料アプリケーションの購入

ServiceNow Store に移動せずに ServiceNow インスタンスから見積もりを要求して有料アプリケーションを購入します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能.
2. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックします。
3. [購入] をクリックします。
4. ポップアップウィンドウで、次のタブの情報を確認し、[続行] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 利用状況分析と連絡先
- プラットフォームライセンス
- 契約条件

  **注:**
  [支払タイプ] が [発注書] の場合、表示された支払の詳細を含む見積もりが要求されます。見積もりはキャンセルまたは再送信できます。

  - 支払と税の詳細を確認します。
  - [上記の利用規約を読み、同意します] チェックボックスをオンにします。

  契約条件ドキュメントをダウンロードできます。

- [確認] タブに、見積もり要求が送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。要求が処理されるとメール通知が送信されます。
- ポップアップウィンドウを閉じると、アプリケーションページに次のボタンが表示されます。
  - 見積もりを再送信
  - 見積もりをキャンセル
  - PO で購入

5. オプション: 見積もりを再送信する場合は、[見積もりを再送信] をクリックします。
6. オプション: 見積もりをキャンセルする場合：
   a. [見積もりをキャンセル] ボタンをクリックします。
   b. キャンセル理由を入力します。
   c. [見積もりをキャンセル] をクリックします。
7. **[PO** で購入] をクリックしてアプリケーションを購入します。
   - 該当する場合は、**[ServiceNow** に発注書を受領せずに会社に請求することを承認します。このような権限を提供するには、会社を代表する権限があることを示しています] チェックボックスをオンにします。
   - それ以外の場合は、 [発注書番号] を入力し、**[PO** ドキュメントをアップロード] でファイルを選択します。
8. [注文する] をクリックします。
   PO 要求が確認され、承認されると、メール通知が送信されます。その後、アプリケーションをインストールできます。

### オフラインアプリケーション購入トランザクションを完了する

アプリケーションをオフラインで購入した後、ServiceNow Store に移動することなく、ServiceNow インスタンスからアプリケーション購入トランザクションを完了します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

#### 手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. 必要なアプリケーションを検索し、アプリケーションレコードをクリックして、[インストール] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

> **注:**
> アプリケーションをインストールするためのオプションは、アプリケーションをオフラインで購入した後に使用可能になります。また、 [インストールをクリックして購入を完了 **(Click install to complete purchase)]** インジケーターがアプリケーションタイルに表示されます。

3. Now Support 資格情報を入力します。
4. [サインイン] をクリックします。
5. [上記の利用規約を読み、同意します] チェックボックスをオンにします。
   契約条件ドキュメントをダウンロードできます。
6. [続行] をクリックします。
   アプリケーションが購入され、インストールする準備が整いました。

> **注:**
> アプリケーションが ServiceNow インスタンスのバージョンと互換性がない場合は、その旨を通知するエラーメッセージが表示されます。

7. [インストール]をクリックします。

### インストールをスケジュール

ServiceNow インスタンスから必要な時間にプラグイン、アプリケーション、または製品のインストールをスケジュールします。複数のインストールを同時にスケジュールできます。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

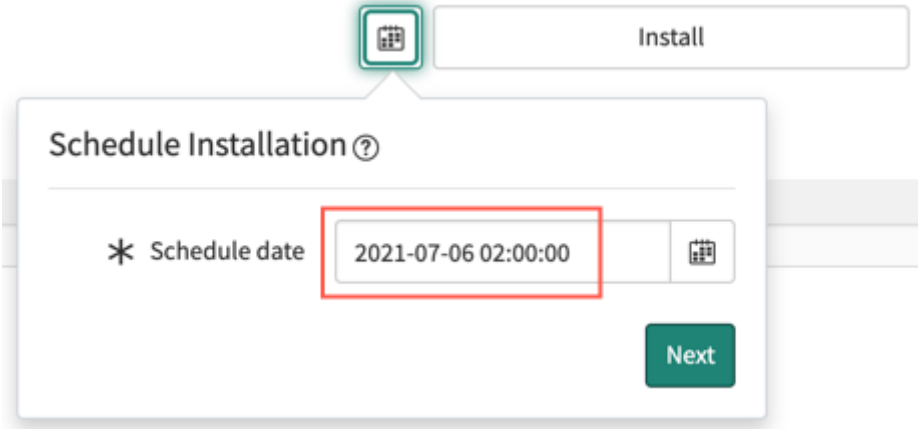
1. 移動先 すべて > システム定義 > プラグイン.
2. 必要なプラグイン、アプリケーション、または製品を検索します。
3. [インストールをスケジュール] アイコン ( ) をクリックします。

> **注:**
> - アプリのインストールがブロックされている場合、[インストール] アイコンと [インストールをスケジュール] アイコンは無効になります。
> - 開発中のプラグインのインストールをスケジュールすることはできません。

4. インストールをスケジュールする時間を指定します。

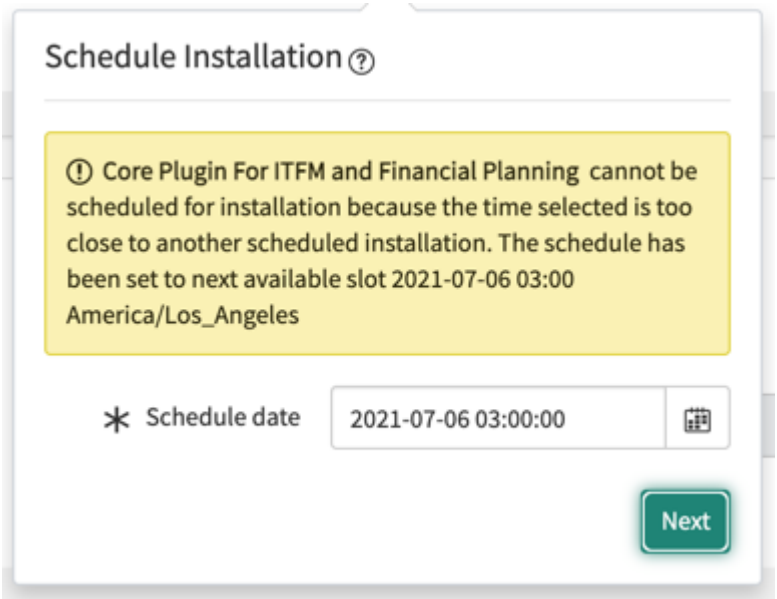
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




**5.** [次へ ] をクリックします。

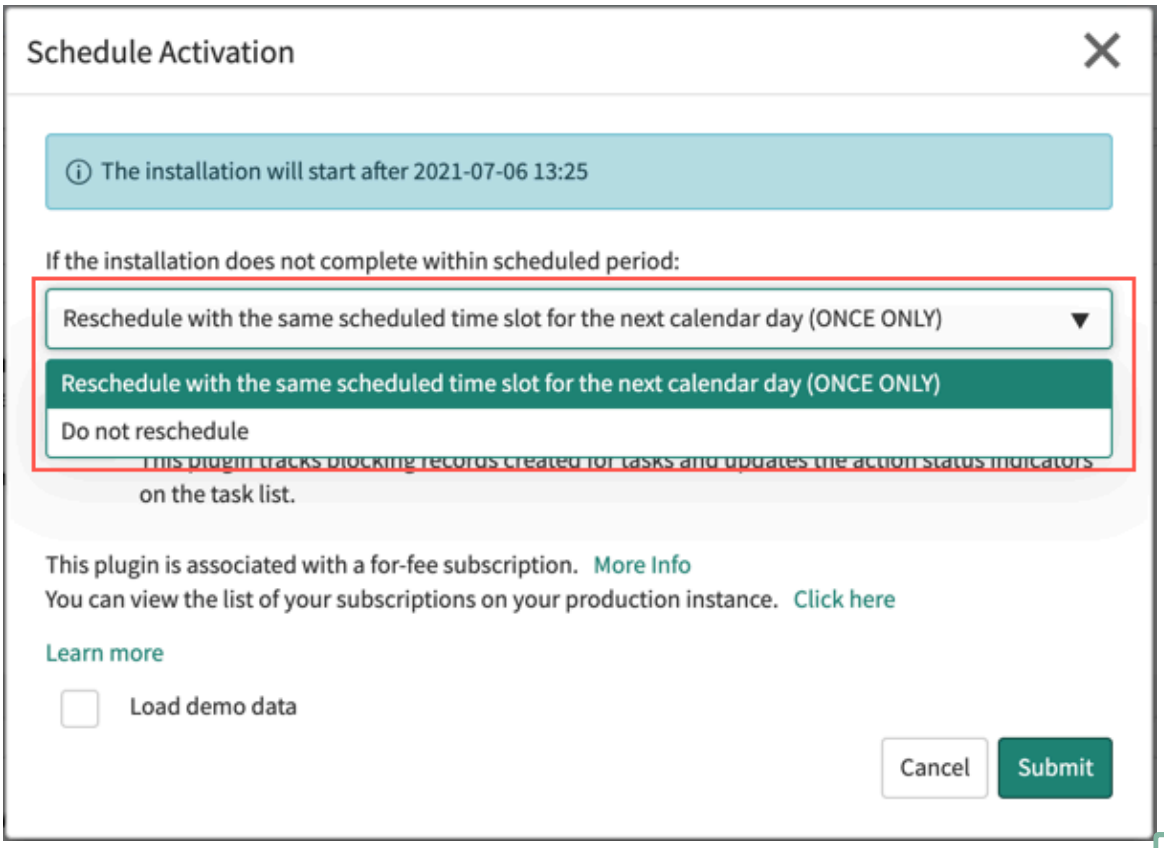
> **注:**
> 別のインストールが同じ時間にスケジュールされている場合は、指定された時間にはインストールをスケジュールできず、次の利用可能なスロットが自動入力されることを示すメッセージが表示されます。




**6.** スケジュール済みインストールが完了しない場合は、[スケジュールのアクティブ化] ウィンドウで、再スケジュールするオプションを選択します。
管理者はインストールを再試行するか、インストールを終了するかを選択できます。

自動翻訳

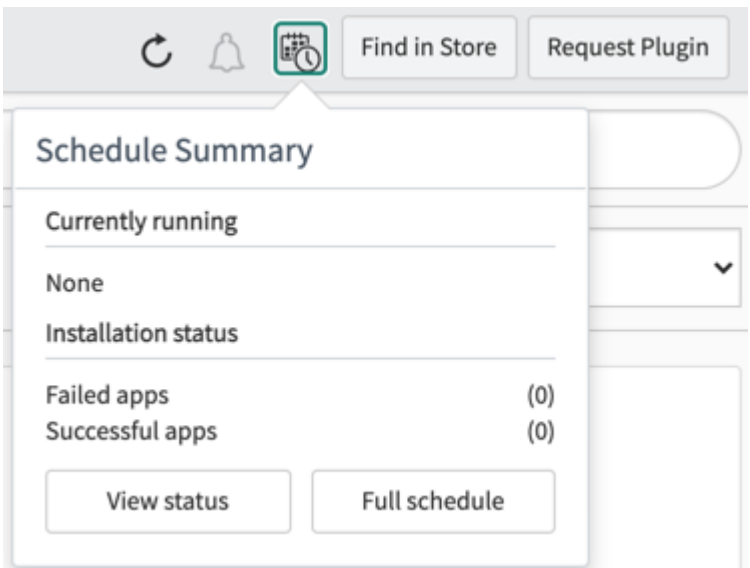
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




インストールがスケジュールされ、確認メッセージが表示されます。

次のタスク

[スケジュールの概要] アイコン ( ) をクリックして、インストールステータスとスケジュールカレンダーを表示します。

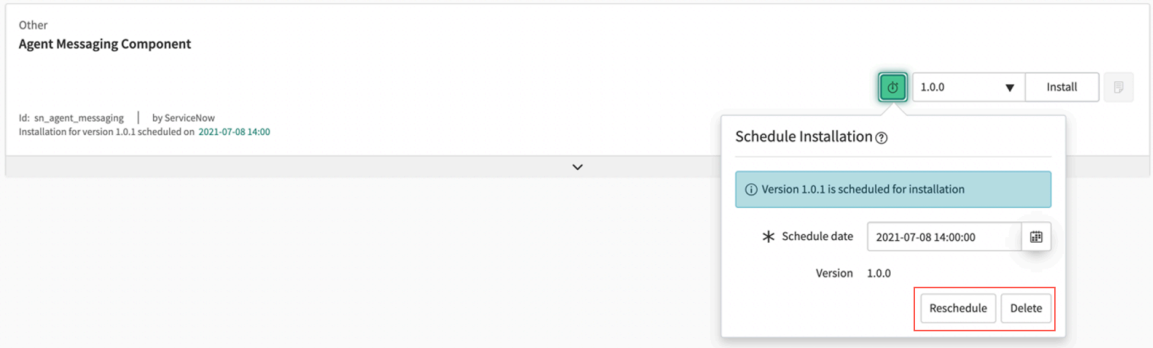



- インストールのステータスを表示するには、[ステータスを表示] をクリックします。
  - インストールが成功すると、プラグイン、アプリケーション、または製品の詳細が表示されます。
  - インストールに失敗した場合は、失敗の理由が他の詳細とともに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- スケジュール済みインストールを再スケジュールまたは削除するには、アプリタイルで [再スケジュール] または [削除] をクリックします。




> **注:**
> 製品のインストールをスケジュールした場合、製品内のすべてのアプリのインストールもスケジュールされます。ただし、個々のアプリのスケジュールを変更または削除することはできません。製品のスケジュールのみを変更または削除できます。

- インストールのスケジュールを表示するには、[フルスケジュール] をクリックします。カレンダーには、スケジュール済みインストールの詳細が表示されます。

### キューに格納されたアプリケーション操作

要求された操作を実行するために更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得する必要がある CICD API は、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が他の操作によって占有されている場合、却下されずにキューに格納されます。

Tokyo 以降、要求された操作を実行するために更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得する必要がある CICD API は、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が他の操作によって占有されている場合、却下されずにキューに格納されます。CICD 要求を受信すると、対応する CICD サービスはアプリケーション操作 NowMQ (Now Message Queue) メッセージを作成し、NowMQ API を使用してキューにメッセージを挿入します。キューに格納されたメッセージは、スケジュール設定されたジョブによってポーリングされ、1 つずつ処理されるか、または並列に処理されます (並列処理が有効で操作が必要な基準を満たしている場合)。

### アプリケーション操作の **NowMQ** メッセージ

アプリケーション操作の NowMQ メッセージの共通の件名は「sys.applifecycle.operation」です。アプリケーション操作 NowMQ メッセージのメッセージ本文には、実行トラッカーの sys_id (CICD API 応答で返される進捗 ID とも呼ばれる) を含む JSON オブジェクトが含まれています。操作タイプは、app_install、plugin_activation、batch_install、rollback、import_app、apply_changes のいずれかになります。また、プラグインをアクティブ化するためのプラグイン ID、アプリケーションをインストールするためのアプリ ID またはスコープなどの情報も含まれます。

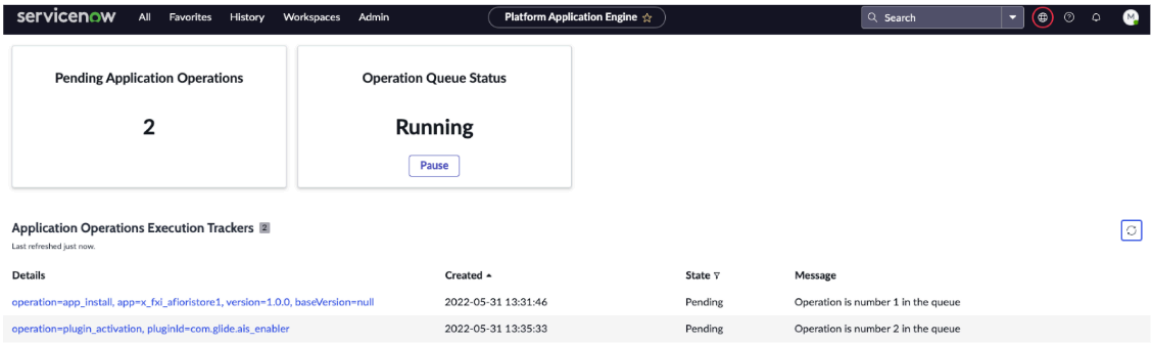
### アプリケーション操作の実行トラッカー

アプリケーション操作 NowMQ メッセージが作成されて挿入されると、対応する CICD 要求の実行トラッカーレコードが作成され、その sys_id が NowMQ メッセージの本文に追加されます。実行トラッカーは最初は [処理待ち] ステータスです。実行トラッカーの [詳細] 列には、操作のタイプに関する情報と CICD 要求の重要な入力パラメーターが含まれています。その [メッセージ] 列には、キューの位置に関する情報が含まれています。キューが一時停止されると、メッセージには「[アプリ操作キューが一時停止されました]」というプリフィックスが付加されます。

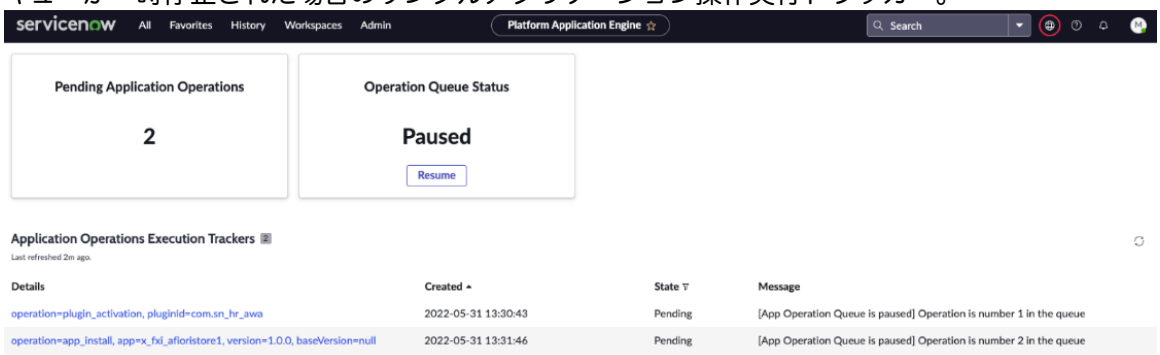
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キュー実行時のサンプルアプリケーション操作実行トラッカー。

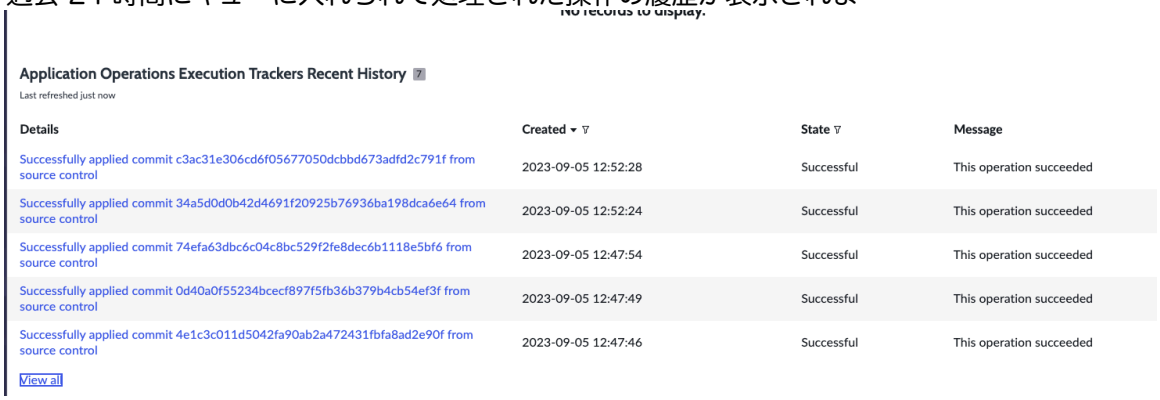



キューが一時停止された場合のサンプルアプリケーション操作実行トラッカー。




**注:**
保留中ステータスの操作は、最近の履歴には表示されません。

サンプルアプリケーション操作実行トラッカーの最近の履歴。[最近の履歴] には、過去 24 時間にキューに入れられて処理された操作の履歴が表示されます。




## アプリケーション操作キューの管理

[すべてのアプリケーション] からの製品の手動インストールはキューに格納されますが、 [すべてのアプリケーション] または [アプリケーションマネージャー] などの UI からのアプリケーションの手動インストールはキューに格納されません。

インスタンスが大量の CICD 要求を受信、キューに格納、および処理していると、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が不足し、UI からの手動インストールが必要になる場合があります。これが発生した場合、管理者はアプリケーション操作キューを一時的に停止できます。

管理者は、[システム診断] -> [アプリケーション操作キュー] UI ページでアプリケーション操作キューを管理できます。[操作キューのステータス] パネルで、管理者はキューを一時停止または再開できます。管理者は処理待ちの実行トラッカーをキャンセルすることもできます。これにより、アプ

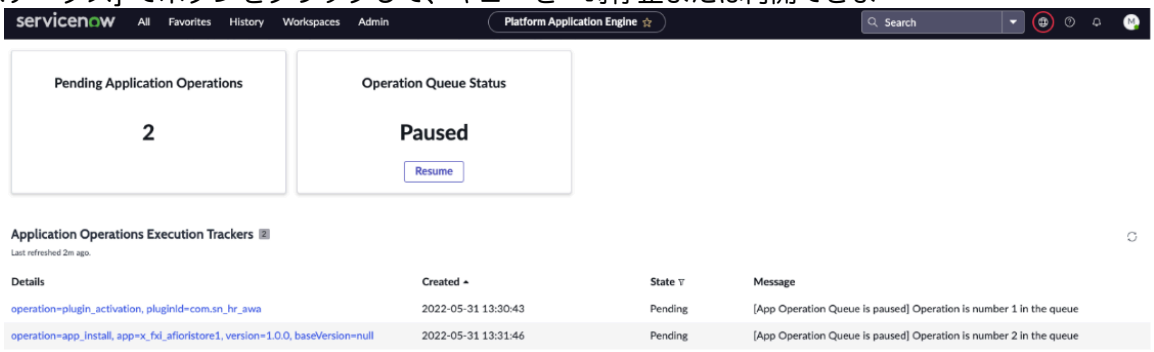
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

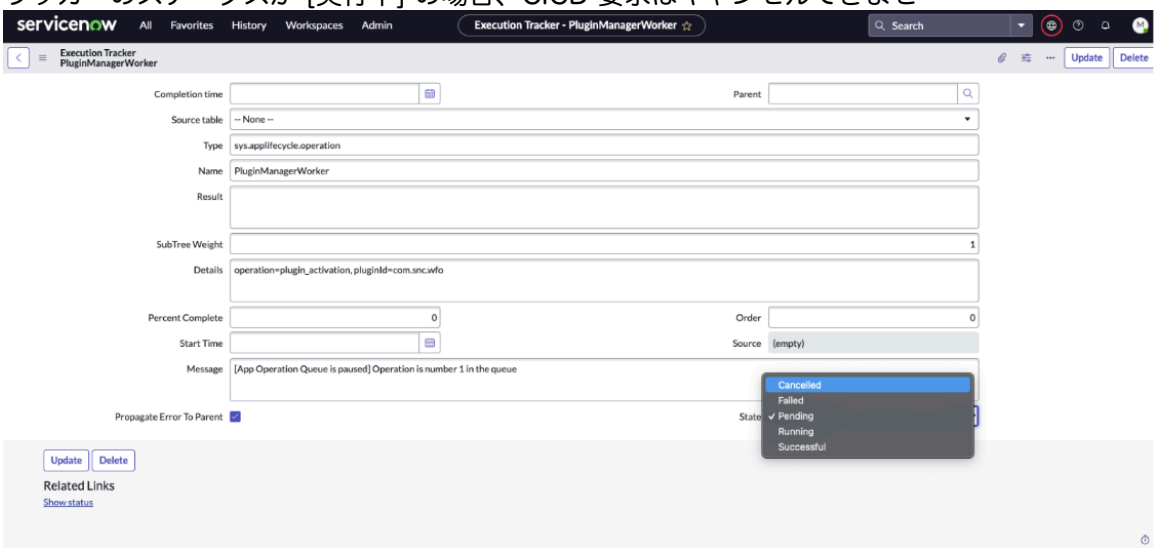
リ操作キュー健全性監視ジョブによって、対応するキューに格納されたメッセージが NowMQ から最終的に削除されます。

## [アプリケーション操作キュー] UI ページ

サンプル [アプリケーション操作キュー] UI ページ。管理者は、[操作キューのステータス] でボタンをクリックして、キューを一時停止または再開できます。




[アプリケーション操作実行トラッカー] リストアイテムをクリックすると、実行トラッカーフォームが開きます。キューに格納されたメッセージがキュー内で処理待ちの場合、実行トラッカーのステータスを [キャンセル] に更新して変更を保存すると、対応するキューに格納された CICD 要求がキャンセルされます。注意：実行トラッカーのステータスが [実行中] の場合、CICD 要求はキャンセルできません。




## アプリケーション操作キューとアップグレード期間

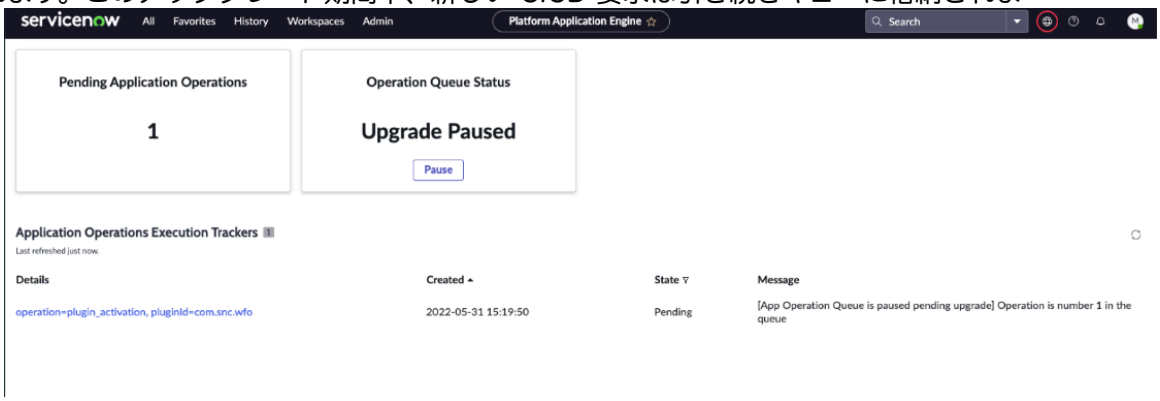
デフォルトでは、スケジュールされたアップグレードの 2 時間前に (sys プロパティ「com.glide.update_operation.queue_upgrade_window」でカスタマイズ可能)、アプリケーション操作キューはキューに格納されたメッセージの処理を停止します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

アプリケーション操作キューのステータスが [アップグレードが一時停止しました] に変更されます。このアップグレード期間中、新しい CICD 要求は引き続きキューに格納されます。




アップグレードが完了すると、アプリケーション操作キューはキューに格納されたメッセージの処理を自動的に再開します。

## CICD パイプラインへの影響

CICD API の既存の要求/応答契約は変更されません。Tokyo より前のリリースで見られた、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] の競合に起因する操作の失敗は、発生しなくなります。要求は、ジョブタイプに応じて 1 つずつ、または並行してキューに格納されて処理されます。

## キューへの格納をサポートする CICD API

次の CICD API が処理のためにキューに格納されます。

- api/sn_cicd/app_repo/install
- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/install
- api/sn_cicd/app_repo/rollback
- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/rollback
- api/sn_cicd/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/v1/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/v2/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/app/batch/install
- api/sn_cicd/sc/import
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/activate
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/rollback

## アプリケーションのインストールとプラグインのアクティブ化を並列化

Tokyo 以降、次の操作を他の操作と並行して実行できます。

- api/sn_cicd/app_repo/install
- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/install
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/activate

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのキュー処理は、[インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得し、キューに格納された操作が完了するまでこのミューテックスを保持します。このロックは [更新ミューテックス] と呼ばれ、そのステータスは **[sys_mutex]** テーブルで表示できます。この間、この同じロックを取得する操作 (アプリのインストール、プラグインのアクティブ化、ソースコントロール操作) は UI を介して実行できません。現在実行中のジョブが完了した後でも、[アプリケーション操作キュー] ページでキューを一時停止してロックを解除できます。

並列化はデフォルトで有効になっています。これはプロパティ com.glide.update_operation.parallel_operation_enabled を使用してオフにすることができます。この場合、すべての操作は以前のリリースと同様にキューから順番に実行されます。

### 並列化の制限

キュープロセッサーは、キューに格納されたジョブを実行できるかどうかを判断します。ジョブが実行可能な場合、最初に使用可能になった時点でインスタンスノードによって取得されるようにスケジュールされます。可能でない場合は、キューに戻され、プロセッサーは処理のためにキュー内の次のジョブを評価します。

並列実行できるジョブの最大数には制限があり、デフォルトは 2 です。このプロパティは glide.update.app_operation_queue.parallel.max で切り替えることができますが、利用可能なスレッド数に上限があることに注意してください。インストールを実行して並列化を増やすと、アクティブなユーザーのインスタンスが遅くなる可能性があります。

### リソースロックの取得

次のプラグインとアプリケーションは並行してインストールできません。

- カスタマイズを含む同じスコープを共有する 2 つの操作。
- スキーマを変更する 2 つの操作。
- 修正スクリプトを含む任意の 2 つの操作。

キューの処理は、キューに格納された操作がこれらの基準を満たしているかどうかを判断し、必要に応じて処理不可能なジョブを保留します。操作が適切なリソースロックの取得を待機しているかどうかを反映して、ジョブの進捗状況 ID が更新されます。実行中の操作は、sys_padlock テーブル内のリソース (スコープ、スキーマ、存在する修正スクリプト) のリストを維持します。これらのロックの挿入と解除は、進行 ID によって確認できます。リソースに対して必要なロックを取得できないためにキューに格納されたジョブが保留されると、他のメッセージを処理できるようになります。クールダウン期間は、プロパティ com.glide.update_operation.job_cancel_timeout_minutes で変更できます。ジョブはまだキューにあり、[アプリケーション操作キュー] ページに表示されます。

キューがアプリケーションパッケージをダウンロードできない場合、または取得する必要があるリソースを確認するプラグインが見つからない場合は、そのキューに格納された操作に対してエラーをログに記録します。指定された回数リソースのプレビューに失敗すると、トラッカーは失敗し、ジョブはキューから削除されます。最大回数はデフォルトで 3 に設定され、com.glide.update_operation.max_failure_count プロパティで変更できます。

**注:**
必要なロックの取得に失敗しても、失敗とは見なされません。AppRepo からアプリケーションパッケージをダウンロードできないなど、発生したエラーのみがカウントされます。

### ServiceNow 製品のすべてのアプリケーションのインストールまたは更新

ServiceNow 製品に属するすべてのアプリケーションを ServiceNow インスタンスから一度にインストールまたは更新します。

#### 始める前に
必要なロール：管理者

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. [リストタイプ] フィルターオプションで **[ServiceNow** 製品] オプションを選択します。
   ServiceNow 製品のリストが表示されます。
3. 必要な ServiceNow 製品を検索して、レコードを開きます。
   [ライセンス済み] および [ライセンスなし] タブを使用して、製品内のアプリケーションに関する詳細を表示します。
4. [すべてインストール/更新 **(Install/Update All)]** をクリックします。

   注:
   デフォルトでは、最新バージョンのアプリケーションがインストールされます。別のバージョンのアプリケーションをインストールする場合は、必要なバージョンを選択し、アプリケーションのチェックボックスをオンにします。

5. オプション: [デモデータのロード] チェックボックスをオンにすると、[インストール] ポップアップウィンドウに表示されているすべてのアプリケーションのデモデータがロードされます。
6. [インストール] をクリックします。
   - エラーまたは競合がある場合は、[インストール] ポップアップウィンドウに詳細が表示されます。インストールを続行するには、エラーに対処し、競合を解決する必要があります。
   - エラーや競合がない場合は、アプリケーションがインストールまたは更新され、確認メッセージが表示されます。
7. オプション: インストールの進行中に、[バックグラウンドで続行] をクリックすると、アプリケーションをバックグラウンドでインストールできます。
   ページを更新すると、「製品のインストールが進行中です。詳細を表示するには、ここをクリックしてください。(Product installation in progress, click here to view details.)」というメッセージが表示されます。リンクをクリックすると、インストールの進捗状況が表示されます。

タスクの結果
すべてのアプリケーションがインストールされると、確認メッセージが表示されます。それ以外の場合は、成功したインストールと失敗したインストールの数が表示されます。

### 複数アプリケーションのバッチインストール

バッチインストール機能は、複数のアプリケーション、プラグイン、またはアプリケーションのカスタマイズを 1 つずつ順番にインストールするのではなく、一括でインストールするために役立ちます。この機能には、3 つの新しいエンドポイントを介して 継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD) API からアクセスするか、 フローデザイナー サブフローとアクションを使用して 統合ハブ の CI/CD スポークを介してアクセスできます。

### 概要

多くのタイプのアプリケーションを管理する場合、アプリケーションごとに個別のパイプラインを用意し、それらが同じ環境に順次展開されるのを待つのは困難な場合があります。バッチインストール機能を使用すると、複数のアプリケーションを 1 つの JSON マニフェストファイルにバンドルしてまとめてインストールできます。これらのアプリケーションには、スコープ対象のアプリケーションまたはグローバルアプリケーション、プラグイン、およびアプリケーションのカスタマイズが含まれます。

バッチには、次のタイプの任意の組み合わせを含めることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow プラグイン
- アプリケーション：会社が所有していない ServiceNow Store 内のスコープ対象のアプリケーション、会社が所有するアプリケーションリポジトリ内のスコープ対象のアプリケーションまたはグローバルアプリケーション、およびアプリケーションリポジトリに格納されているストアアプリケーションのアプリケーションのカスタマイズ。

## バッチインストール方法

REST API を使用してアプリケーションをバッチインストールする方法の詳細については、「継続的統合/継続的デリバリ (CI/CD) API」を参照してください。

Flow Designer アプリケーションを使用してアプリケーションをバッチインストールする方法の詳細については、次を参照してください。 継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポーク.

### ServiceNow Store アプリケーションのインストール

ServiceNow Store から購入したアプリケーションをインストールして、インスタンスで利用できるようにします。

#### 始める前に

- ServiceNow Store からアプリケーションを購入します。
- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントの取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション.

必要なロール：admin、sn_appclient.app_client_company_installer (インスタンス会社に一致するアプリケーションのインストールのみ可能)、または sn_appclient.app_client_user

#### このタスクについて

ServiceNow Store から購入したアプリケーションは、自動的にアプリケーションマネージャーに追加されます。インスタンスでアクティブ化するには、アプリケーションマネージャーからアプリケーションをインストールする必要があります。

ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開したアプリケーションをインストールするには、代わりに「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール」のステップに従ってください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーションを検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることもあります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   **重要:**
   インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。
7. オプション: **[Subscription Management** に移動] をクリックして、インストールされているアプリケーションをサブスクリプションにマッピングします。

関連情報

アプリケーションリポジトリへのカスタマイズのインストール

システム管理の開発者ロールと展開ロール

## **ServiceNow Store** アプリケーションへの更新のインストール

ServiceNow Store から購入したアプリケーションに更新をインストールします。

### 始める前に

必要なロール：管理者

### 手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーションを検索します。
   利用可能な場合は、インストールするカスタマイズされたバージョンを選択できます。
3. アプリケーションリストの横で、インストールするバージョンを選択します。
4. [更新] をクリックします。

   **注:**
   お客様がアプリケーションのこの新しいバージョンにアップグレードすると、author_elective_update フォルダー内の「削除」が、このアプリケーションアップグレードのアップグレード履歴エントリに「スキップ」として書き込まれます。ユーザーは [スキップ] リストを参照して、ケースバイケースで変更を適用できます。お客様は、com.glide.apps.include_my_deletes を false に設定して、「スキップ」レコードの記述をスキップすることもできます。

関連情報

開発者権限と展開権限

システム管理の開発者ロールと展開ロール

## アプリケーションピッカーからのアプリケーションの選択

新しいレコードと更新が適用されるアプリケーションを選択するには、アプリケーション ピッカーを使用します。

### 始める前に

必要なロール：developer

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

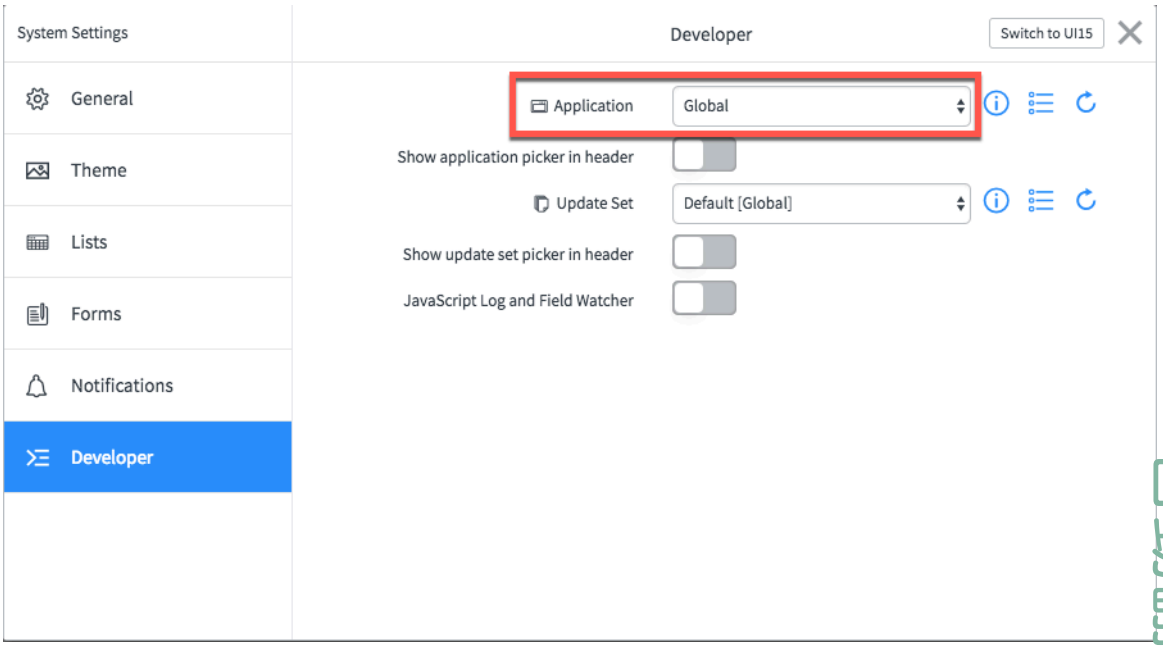


自動翻訳

このタスクについて
アプリケーション開発者は、現在のスコープ コンテキストとしてアプリケーションを選択する必要があります。新しいレコードはこのアプリケーションの一部になります。Now Platform は、現在のアプリケーションスコープを使用して、開発者が他のスコープコンテキストのレコードを表示または変更できるかどうかも判断します。

手順

1. バナーフレームから歯車アイコンをクリックします。
2. [アプリケーション] から、変更を保存するアプリケーションスコープを選択します。




自動翻訳

## ServiceNow アプリケーションの修復

ServiceNow アプリケーションを再インストールして修復します。

始める前に
必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルターオプションから、[インストール済み] インジケーターを選択します。
   インストールされているすべてのアプリが表示されます。
3. アプリケーションタイルのメニューアイコン (•••) をクリックし、[修理] をクリックします。
4. [プラグインをアクティブ化] ダイアログボックスで、[修理] をクリックします。

タスクの結果
アプリケーションとその依存関係が再インストールされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- カスタマイズされたアプリケーションを修復すると、ソースコントロールリポジトリにリンクされていない限り、カスタマイズも修復されます。
- アプリケーションのカスタマイズの完全なセットがアプリケーションのカスタマイズ内に存在していることが前提です。アプリのカスタマイズが関連付けられている基礎となるアプリケーションまたはプラグインを修復、インストール、またはアップグレードすると、そのアプリケーションのカスタマイズ以外で行われた変更が上書きされます。

  修復により、sys_update_xml レコードを含むすべてのファイルがリモート更新セットに追加されます。リモート更新セットの名前の形式："Repair/Upgrade app <app scope name> at <timestamp>"。

### システムクローン中の開発におけるアプリケーションとカスタマイズの保持

アプリケーションバージョンをターゲット (開発) インスタンスにクローンする前に、現在開発中の各アプリケーションとカスタマイズ内容のコピーを手動で保持します。

#### 始める前に

アプリケーションレコードに対する書き込みアクセス権があることを確認します。

ソースコントロールリポジトリへのアクセス権があることを確認します。

必要なロール：admin

#### このタスクについて

クローンプロセスでは、開発中のアプリケーションとアプリのカスタマイズのバージョンの差異は保存されません。代わりに、システムでは、ソースインスタンスにインストールされているアプリケーションとアプリのカスタマイズのバージョンのコピーのみを、ターゲットインスタンスにクローンします。ターゲットインスタンスに同じアプリケーションの開発バージョンがある場合、そのアプリケーションはクローン作成後に編集可能になりますが、そのバージョンはソースインスタンスにインストールされているものと同じになります。アプリケーションがソースインスタンスから失われていた場合は、クローン作成プロセスによりターゲットインスタンスからアプリケーションが削除されます。

#### 手順

1. 次のいずれかのアクションを行い、クローンターゲットインスタンスでアプリケーションを保持します。

   インスタンス間のバージョンの差異

| アプリケーションバージョンの状態 | 実行するアクション |
| --- | --- |
| クローンターゲットインスタンスのアプリケーションバージョンが、ソースインスタンスバージョンと異なります。 | クローンターゲットインスタンスから各アプリケーションをエクスポートします。次の選択肢があります。 |
| アプリケーションは、クローンターゲットインスタンスでのみ利用できます。 | ○ 各アプリケーションをソースコントロールリポジトリにリンクします。<br>注:<br>アプリケーションが既にソースコントロールリポジトリにリンクされている場合は、最新のバージョンをコミットします。<br>○ 各アプリケーションを更新セットに公開します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| アプリケーションバージョンの状態 | 実行するアクション |
| --- | --- |
| クローンターゲットインスタンスのアプリケーションバージョンは、ソースインスタンスと同じです。 | なし。システムクローン作成プロセスにより、クローン作成中にこのアプリケーションバージョンがターゲットインスタンスにコピーされます。 |

2. ターゲットインスタンスに対するソースインスタンスのシステムクローンを要求します。

   **Example**
   たとえば、開発インスタンスに対して本番インスタンスのクローンを作成します。
3. クローン作成プロセスが終了したら、クローンターゲットインスタンスにログインします。
4. 各アプリケーションをソースコントロールリポジトリに保存した場合は、次のいずれかのアクションを使用してソースコントロールリポジトリからアプリケーションを取得します。

   ソースコントロールリポジトリからのアプリケーションの取得

| アプリケーションのインストール状態 | クローンターゲットで実行するアクション |
| --- | --- |
| アプリケーションは以前にソースインスタンスにインストールされていました。 | ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用します。 |
| アプリケーションはソースインスタンスにインストールされていませんでした。 | ソースコントロールリポジトリからアプリケーションをインポートします。 |

5. 注:
   アプリケーションのカスタマイズのクローンの後に起こることについては、「アプリケーションのカスタマイズのクローン後の結果」を参照してください。

   アプリケーションのカスタマイズ内容については、以下のいずれかのアクションを使用してソースコントロールリポジトリから取得します。

   ソースコントロールリポジトリからのアプリケーションの取得

| アプリケーションとカスタマイズのインストール状態 | クローンターゲットで実行するアクション |
| --- | --- |
| アプリケーションとカスタマイズ内容は以前にソースインスタンスにインストールされていました。 | ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用します。 |
| アプリケーションは以前にソースインスタンスにインストールされていましたが、カスタマイズ内容はインストールされていませんでした。 | ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用します。 |
| ベースアプリケーションはソースインスタンスにインストールされていませんでした。 | リポジトリ構成 (sys_repo_config) を削除し、ソースコントロールリポジトリからカスタマイズをインポートします。 |

6. 各アプリケーションを更新セットに保存した場合は、次のいずれかのアクションを行って更新セットからアプリケーションを取得します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットからのアプリケーションの取得

| アプリケーションのインストール状態 | クローンターゲットで実行するアクション |
| --- | --- |
| アプリケーションは以前にソースインスタンスにインストールされていました。 | **a.** ソースインスタンスからクローンされたアプリケーションバージョンを削除します。<br>**b.** 現在のアプリケーションバージョンを含む更新セットをロードします。 |
| アプリケーションはソースインスタンスにインストールされていませんでした。 | 現在のアプリケーションバージョンを含む更新セットをロードします。 |

**7.** クローン後に、次のリモート変更を適用できます。

クローン後のリモート変更

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| glide.source_control.post_clone_import_enabled | リモート変更の適用の自動化を無効にするには、**False** に設定します。デフォルト値は **True** です。 |
| glide.source_control.post_clone_import_delay_time_sec | 自動処理を遅延させる遅延時間を指定するには、値を指定します。デフォルト値は 0 です。 |
| glide.source_control.post_clone_import_pause_refresh_time_sec | リポジトリのリフレッシュジョブを実行しない間隔を指定するには、値を指定します。デフォルトは 3 時間 (10800) です。 |

タスクの結果
以前に開発していたアプリケーションを利用して、クローンターゲットインスタンスでさらに開発を進めることができます。

## Example: Marketing Events アプリケーションの保存

あなたの会社が、以前に Marketing Events という名前のカスタムアプリケーションのバージョン 1.0 を作成していたとします。Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 をアプリケーションリポジトリに既に公開していて、本番インスタンスにインストールしています。

時間の経過とともに、ユーザーからアプリケーションの拡張の要求が提出され、この要求に対処するために、非本番インスタンスで Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 を開発することに決めました。開発が完了に近づくと、包括的なテストのために、非本番インスタンスを最新の本番環境のコピーに更新する必要が生じました。

以前にソースコントロール統合を使用して Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 を開発していたため、既に Marketing Events アプリケーションをソースコントロールリポジトリにリンクしています。Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 をソースコントロールリポジトリにコミットします。

開発インスタンスに対する本番インスタンスのクローン作成をスケジュール設定します。完了したら、開発インスタンスにログインし、Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 があることを確認します。このバージョンが、ソースインスタンスにインストールされたバージョンのためです。

アプリケーションが既にソースインスタンスにインストールされているため、ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用して、最新のアプリケーションバージョンを受信します。開発イン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタンスに、今後の開発とテストに利用できる Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 が追加されました。

### アプリケーションのカスタマイズのクローン後の結果

アプリケーションのカスタマイズのクローン後に予想される結果には、アプリケーションの状態に基づいて予想される動作と、アプリケーションのカスタマイズを復旧するアクションが表示されます。

アプリケーションのカスタマイズの状態に基づく予想と、カスタマイズを復旧するアクションは次のとおりです。

クローン後のアプリケーションのカスタマイズの予想

| ソースインスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン前のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズを復旧するためのアクション |
|---|---|---|---|
| ベースアプリケーションはインストールされていません | ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ベースアプリケーションはインストールされていません | ベースアプリケーションとアプリのカスタマイズの再インストール |
| ベースアプリケーションはインストールされていません | ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズ | ベースアプリケーションがインストールされておらず、sys_repo_config のアプリフィールドが空です。 | (アプリフィールドが空になっている) リポジトリ構成 (sys_repo_config) レコードを削除し、ソースコントロールから再度インポートして、ベースアプリケーションをインストールします。 |
| ベースアプリケーションバージョン 1.0 | ベースアプリケーションバージョン 1.0 アプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ベースアプリケーションバージョン 1.0 | アプリのカスタマイズの再インストール |
| ベースアプリケーションバージョン 1.0 | ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズ | ベースアプリケーションバージョン 1.0 の場合、repo_config は保持され、アプリのカスタマイズバージョンはすべてのアプリページで [なし] として表示されます。 | Git リポジトリからのリモート変更を適用します。 |
| ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 | ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | アプリのカスタマイズバージョン 2.0 とベースアプリケーションバージョン 2.0 の再インストール |
| ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 | ベース アプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0、sys_reconfig は保持されます | Git リポジトリからのリモート変更を適用します。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クローン後のアプリケーションのカスタマイズの予想 (続く)

| ソースインスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン前のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス | クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズを復旧するためのアクション |
|---|---|---|---|
| ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 | ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 がインストールされています。 | ベースとアプリのカスタマイズの両方が最新バージョンです。 |
| ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 | ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0 | ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 は repo_config を保持した状態でインストールされるため、分岐バージョンは 1.0 上になります | ベースとアプリのカスタマイズの両方が最新バージョンです。 |

### **ServiceNow Store** 製品のオプトアウト

[ServiceNow 製品] モジュールに移動して、ServiceNow Store で利用可能な必須の製品をオプトアウトします。

始める前に

- オプトインされた製品
- 必要なロール：管理者

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > **ServiceNow** 製品.
   ServiceNow Store で利用可能な ServiceNow 製品が表示されます。製品は、属している製品ファミリに基づいて編成されています。
2. ServiceNow 製品をオプトアウトするには：
   a. 必要な製品タイルをクリックします。
   b. [オプトアウト] をクリックします。
   c. Now Support 資格情報を入力します。
   d. [オプトアウト] をクリックします。

### インストールに関する考慮事項

アプリをインストールするときは、ここに示すオプションについてよく考えて行ってください。

### アプリケーションのインストール中に発生するスキップされたレコード

グローバルまたはスコープ対象のアプリケーションをローカルで更新すると、一部のレコードがスキップされる場合があります。スキップされたレコードは、展開先のインスタンスのメタデータレコードを変更したとき、または更新セットを適用したときに発生する可能性があります。使用する展開モデルと該当するプロパティの状態によっては、sys_upgrade_history_log に「スキップされた

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコード」が生成されるリスクが生じることがあります。さまざまな方法でアプリケーションをアップグレードする場合に、インスタンスで想定されることについて説明します。

## 一般的なユースケース

ほとんどの状況では、次の一般的なユースケースがアプリケーションのインストール中に発生します。

| 展開タイプ | アプリケーションタイプ | 期待される成果 |
|---|---|---|
| ソースコントロール | スコープ対象 | スキップなし。アプリケーションはソースコントロールからロードされます。ローカル更新 xml が存在する場合は、それらの変更をスタッシュするように求められます。 |
| ソースコントロール | グローバル | スキップなし。アプリケーションはソースコントロールからロードされます。ローカル更新 xml が存在する場合は、それらの変更をスタッシュするように求められます。 |
| アプリリポジトリ | スコープ対象 | スキップされたレコードが生成され、カスタマイズが保持されます。 |
| アプリリポジトリ | グローバル | アプリケーションの変更が適用され、スキップされたレコードは、上位の要求が見つかった場合にのみ生成されます。詳細については、「レビューする要求結果」関連リスト を参照してください。 |
| ストア | スコープ対象 | スキップされたレコードが生成され、カスタマイズの変更が適用されました。 |
| ソースコントロール | カスタマイズ | スキップなし。カスタマイズはソースコントロールからロードされます。ローカル更新 xml が存在する場合は、それらの変更をスタッシュするように求められます。 |
| アプリリポジトリ | カスタマイズ | スキップされたレコードは生成されません。カスタマイズの変更が適用されました。 |
| ストア/アプリリポジトリ | スコープ対象およびカスタマイズ | カスタマイズによってベースアプリケーションレコードが更新されない限り、スキップされたレコードは生成されません。この場合、ベースアプリケーションのスキップされた更新のログエントリが作成されます。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## 作成者の選択的更新

**author_elective_update** フォルダーの目的を理解することが重要です。

リポジトリ用またはソースコントロールへのコミット用に ServiceNow がアプリケーションをパッケージ化する場合、(以前は無視されていた可能性がある) 追加の要素が **author_elective_update** フォルダーにアンロードされます。(これらの削除された要素は通常、単に「削除」と呼ばれます)。アプリケーションが自分専用のインスタンスにインストールされると、削除されたファイルは、**author_elective_update** フォルダーから自動的にロードされます。

たとえば、テーブルまたは列を削除してアプリケーションのスキーマを変更した場合、それらのファイルはフォルダー内で追跡されますが、デフォルトでは適用されません。設定可能なプロパティに基づいて、変更可能な作成者の選択的更新に適用される特定のルールがあります。このフォルダーには、適用または無視できるスキーマの変更や選択セットのアンロードなど、メタデータが削除されたファイルが含まれています。それらを適用するか無視するか、および対応するスキップされたレコードが生成されるかどうかは、次のプロパティと処理フローの状態によって異なります。

| プロパティ名 | 動作 | デフォルト | ソースコントロールで使用されます |
|---|---|---|---|
| com.glide.apps.include_only_sys_choice | 削除された要素のみをロードし、author_elective_update から sys_choice フィールドを更新します | False | なし |
| com.glide.apps.include_my_schema | 削除された要素のみを author_elective_update からスキーマファイルにロードします。お客様のアプリケーションのインストールに適用され、サードパーティアプリには適用されません。 | False | なし |
| com.glide.apps.force_skips | すべての author_elective_update のスキップされたレコードを作成します | False | なし |
| com.glide.apps.include_my_deletes | my_app の author_elective_update を処理します | False | あり |
| com.glide.apps.include_global_deletes | グローバルユーザーアプリケーションの author_elective_update を処理します | False | あり |

**注:**

com.glide.apps.include_my_schema のプロパティがない場合は、デフォルトで False に設定されます。ただし、Orlando リリース以降、新しいインスタンスには True に設定するためのデフォルトのエントリがテーブル内にあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## クレーム

要求は、グローバルアプリケーションとアプリケーションのカスタマイズに適用されます。グローバルアプリケーションで、同じファイルが複数のアプリケーションに含まれている場合は、要求を使用すると、システムがレコードを確定的に選択できます。上位の要求が見つかった場合は、競合する要求のステータスを特定するために、スキップされたレコードのアップグレード履歴ログが作成されます。詳細については、「レビューする要求結果」関連リストを参照してください。

### アプリケーションのロールバックおよび削除

管理者は、不要なアプリケーションをロールバックおよび削除することができます。

### アプリケーションのロールバック

管理者は、選択したアプリケーションの最後のインストールをロールバックできます。アプリケーションをロールバックすると、初期インストールからすべてのコード、テーブル、およびファイルの更新が削除されます。

#### 始める前に

- 1 つ以上のアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開する。
- 選択したアプリケーションが、アプリケーションリポジトリまたはアプリケーションストアにインストールされている必要がある。「ServiceNow Store アプリケーションのインストール」を参照してください。

#### 必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アプリケーションストアまたはリポジトリからインストールされたすべてのアプリケーションの最後のインストールやアップグレードをロールバックできます。インストールをロールバックすると、アプリケーションを公開して再度インストールする前に、そのアプリケーションに関連するアーティファクトに必要な変更を行うことができます。

**注:**
このロールバックは、グローバル アプリケーション レコードには影響しません。グローバル アプリケーション レコードを削除するには、代わりにアプリケーションのアンインストールを実行する必要があります。「アプリケーションのアンインストール」を参照してください。

手順

1. インストールされたアプリケーションをロールバックするインスタンスにログインします。
2. 移動先 システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
3. ロールバックするアプリケーションの名前またはアイコンをクリックします。
4. カスタムアプリケーションレコードで、[ロールバック] 関連リンクをクリックします。

関連情報

アプリケーションのアンインストール

## アプリケーションの削除

管理者は、不要になったカスタムアプリケーションを削除することができます。通常は、他のインスタンスと共有されていないアプリケーションのみを削除します。

始める前に

- アプリケーションを後で再インストールできるようにするには、最初にアプリケーションのバックアップを ServiceNow アプリケーションリポジトリ、ServiceNow Store、または更新セットに公開します。「アプリケーションの共有」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
このプロセスにより、公開されたアプリケーションがシステムでサポートできるようになります。アプリケーションを削除すると、テーブル、ビジネスルール、メニューなど、アプリケーションに関連付けられているすべてのレコードも削除されます。

手順

1. インストールされたアプリケーションを削除するインスタンスにログインします。
2. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
3. 削除するアプリケーションを選択します。
4. アプリケーションレコードで、[削除] を選択します。
   削除するアプリケーションにアプリケーションファイルが関連付けられているかどうかを示す確認メッセージが表示されます。
5. 適切なオプションを選択します。
6. 確認メッセージボックスで、`delete` と入力し、**[OK]** を選択します。
   残りのメタデータファイルがアプリケーションレコードに関連付けられている場合、関連付けられているすべてのファイルが削除されるまでその削除が防止されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### タスクの結果

アプリケーションが他のアプリケーションを拡張していない、あるいはファイルがアプリケーションに関連付けられていない限り、アプリケーションが削除されます。

**注:**
アプリケーションがソースコントロール (つまり Git リポジトリ) にリンクされている場合は、リポジトリ構成 (sys_repo_config) テーブル内のアプリケーションの Git 構成レコードも削除する必要があります。このレコードを削除しないと、このインスタンスのソースコントロールからアプリケーションを再インポートできません。

## アプリケーションのアンインストール

管理者は、不要になったアプリケーションをアンインストールすることができます。通常は、他のインスタンスと共有されているアプリケーションをアンインストールして削除します。

### 始める前に

**注:**
グローバルスコープ対象のアプリケーションの場合は、アプリケーションレコードを削除する前に、関連するファイルをアプリケーションから削除する必要があります。これらのアクションは、グローバルスコープ内のファイルの誤った削除を防ぐことで、インスタンスの完全性を保護するために役立ちます。「グローバルアプリケーションからのファイルを削除する」および「グローバルアプリケーション間でアプリケーションファイルを移動する 」を参照してください。

必要なロール：管理者

### このタスクについて

アプリケーションをアンインストールすると、アプリケーションに関連付けられているすべてのアプリケーションファイルも削除されます。

### 手順

1. アプリケーションをアンインストールするインスタンスにログインします。
2. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
3. アンインストールするアプリケーションの名前またはアイコンをクリックします。

   **注:**
   [開発中 **(In Development)]** タブでアプリケーションをアンインストールすることはできませんが、削除することはできます。アプリケーションの削除を実行した場合に何が起こるかの詳細については、「アプリケーションの削除」を参照して ください。ベースシステムアプリケーションもアンインストールできません。

4. カスタムアプリケーションレコードで、[アンインストール] 関連リンクをクリックします。
   ポップアップウィンドウには、次の情報が表示されます。
   - 依存アプリケーションのリスト。
   - 開発中のアプリケーションのリスト。
   - 必要なアプリケーションのテーブルとレコード。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションテーブルとデータを保持するオプション。

  注:
  テーブルとデータを保持した後に依存アプリケーションのいずれかをアンインストールすると、[保持されているテーブルと共にアンインストールされたアプリケーション **(Uninstalled applications with retained tables)]** リストも表示されます。この場合、[テーブルとデータを保持] チェックボックスはデフォルトでオンになっており、オフにすることはできません。

  注:
  お客様がアプリケーションのこの新しいバージョンにアップグレードすると、author_elective_update フォルダー内の「削除」が、このアプリケーションアップグレードのアップグレード履歴エントリに「スキップ」として書き込まれます。ユーザーは [スキップ] リストを参照して、ケースバイケースで変更を適用できます。お客様は、com.glide.apps.include_my_deletes を false に設定して、「スキップ」レコードの記述をスキップすることもできます。

5. アプリケーションをアンインストールする前に、[アンインストール] 確認ダイアログボックスで、そのアプリケーションに関連付けられているテーブルおよびレコードをレビューします。
6. このアプリケーションに関連付けられているすべてのデータを削除するには、[テーブルとデータを保持] チェックボックスをオフにします。
   アプリケーションファイルのみを削除するには、このチェックボックスを選択したままにします。
7. **[OK]** をクリックします。
8. 確認ダイアログボックスで、`uninstall` と入力し、**[OK]** をクリックします。
9. [完了] をクリックします。

### ServiceNow Store アプリケーションのアップグレード履歴の表示

ServiceNow Store から購入してインストールしたアプリケーションのアップグレード履歴を表示します。

始める前に
必要なロール：admin、sn_appclient.app_client_company_installer (インスタンス会社に一致するアプリケーションのインストールのみ可能)、sn_appclient.app_client_user、unified_plugin_read_only

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーションを検索します。
3. アプリケーションタイルのメニューアイコン (•••) をクリックし、[アップグレード履歴を表示] をクリックします。

   注:
   お客様がアプリケーションのこの新しいバージョンにアップグレードすると、author_elective_update フォルダー内の「削除」が、このアプリケーションアップグレードのアップグレード履歴エントリに「スキップ」として書き込まれます。ユーザーは [スキップ] リストを参照して、ケースバイケースで変更を適用できます。お客様は、com.glide.apps.include_my_deletes を false に設定して、「スキップ」レコードの記述をスキップすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーションの共有

管理者は、完了して他のインスタンスで使用できるようになっているアプリケーションを共有できます。

アプリケーション開発者は、次のいずれか 1 つの方法でアプリケーションを共有できます。

アプリケーションの共有方法

| 共有方法 | に利用可能にする | 典型的なユースケース |
|---|---|---|
| アプリケーションリポジトリに公開する | 同じ会社に割り当てられているすべてのインスタンス | アプリケーションをテスト環境または本番環境に転送します。 |
| ServiceNow Store に公開する | 全てのServiceNow顧客 | アプリケーションを他の企業に共有または販売します。 |
| 更新セットに公開する | 更新セットファイルにアクセスする任意のインスタンス | コンプライアンスまたはバックアップの理由で、アプリケーションのバージョンを保存します。 |
| チーム開発インスタンスにプッシュする | チーム開発環境内の他のインスタンス | 開発者の変更を親インスタンスにプッシュする。 |

**注:**

「スキーマのトラッキング」:スコープ対象のアプリケーションのテーブルまたは列の削除は、新しく zBoot されたインスタンスではデフォルトで有効になっています。これを行うには、システムプロパティ com.glide.apps.include_my_schema を「true」に設定します。

アップグレードされたインスタンスの場合、カスタムアプリケーションがインストールされていないか開発中である場合、「スキーマの削除のトラッキング」がデフォルトで有効になります。それ以外の場合、このプロパティは「false」に設定されているため、お客様は、Paris 以前のリリースと同じエクスペリエンスで、アプリケーション内でスキーマを削除できます。詳細については、ServiceNow コミュニティサイトの「New York and Scoped Applications New Features (New York およびスコープ対象のアプリケーションの新機能)」の記事を参照してください。

## ISV アプリケーションのカスタムライセンス

共有しているアプリケーションの場合、アプリケーションの使用状況測定基準を追跡するための定義を作成できます。詳細については、「ISV アプリケーションのカスタムライセンス」を参照してください。

### ServiceNow アプリケーションリポジトリ

カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開することで、会社のインスタンスで使用できるようにすることができます。

ServiceNow アプリケーションリポジトリは、すべての ServiceNow の顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象アプリケーションの中央リポジトリです。

**注:**
ServiceNow アプリケーションリポジトリは、自己ホスト (オンプレミス) のお客様は利用できません。

アプリケーションリポジトリを使用すると、ServiceNow の顧客はインスタンス間でアプリケーションをアップロードして配布できます。アプリケーションリポジトリにアクセスした場合、自分の組

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

織が公開しているアプリケーションのみを表示および管理できます。他の組織が公開しているアプリケーションを表示または管理することはできません。

カスタムアプリケーションを設計、開発し、テストが成功したら、そのアプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。

## エンタイトルメント

エンタイトルメントは、アプリケーションリポジトリからスコープ対象アプリケーションをインストールするために、インスタンスに付与される権限です。インスタンスにアプリケーションをインストールするには、そのインスタンスにアプリケーションのエンタイトルメントが付与されている必要があります。

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。 アプリケーションエンタイトルメントが既に削除されている場合は、インスタンスに再度エンタイトルメントを付与することもできます。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」を参照してください。

## アプリケーションリポジトリの使用

アプリケーションリポジトリにアクセスするには、https://apprepo.service-now.com に移動します。

> **注:**
> Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

アプリケーションをアプリケーションリポジトリに発行すると、次の操作ができるようになります。

- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール
- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理
- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除
- アプリケーションリポジトリからのスコープの解放

### アプリケーションを管理する

ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションの管理方法を説明します。

カスタムアプリケーションを設計、開発し、テストが成功したら、そのアプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。自身の組織によって公開されたアプリケーション、または ServiceNow アプリケーションリポジトリを使用してプラグインを介してインストールされたスコープ対象のアプリケーションのみを表示、管理、カスタマイズできます。他の組織が公開しているアプリケーションを表示、管理、カスタマイズすることはできません。

## 概要

アプリケーションリポジトリは ServiceNow Store の一部です。ServiceNow の顧客インスタンスは、特定のストアインスタンス (商用または規制市場など) に接続されます。アプリケーションリポジトリに公開された顧客アプリケーションは、マルチテナントのアーティファクトストレージに保存されますが、顧客が他の顧客の公開アプリケーションを表示したりアクセスしたりすることはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリポジトリでは、特定のアプリケーションのバージョン数は最大 20 に制限されています。チームが同時に 20 を超える数のアプリケーションのビルドまたはバージョンを生成している場合は、最も古いものが削除されます。

アプリケーションリポジトリでは、アプリケーションのファイルサイズは 1 GB に制限されています。このファイルサイズを超えるアプリケーションは、公開プロセス時に受け入れられません。

### アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理

アプリケーションのエンタイトルメントを追加または削除して、アプリケーションをインストールできるインスタンスを制限します。

#### 始める前に

管理できるのは、アプリケーションリポジトリに公開したアプリケーションのみです。詳細については、「アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開」を参照してください。

必要なロール：なし

#### このタスクについて

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。 アプリケーションエンタイトルメントが既に削除されている場合は、インスタンスに再度エンタイトルメントを付与することもできます。

#### 手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 資格情報を使用してログインします。

   **注:**
   Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)]** をクリックします。
4. アプリケーションのエンタイトルメントタイプを選択します。
5. **[OK]** をクリックします。

### アプリケーションリポジトリからのスコープの解放

スコープを使用して新しいスコープ対象アプリケーションを作成できるように、アプリケーションリポジトリからスコープを解放します。

#### 始める前に

アプリケーションスコープを解放できるのは、スコープがアプリケーションによって使用されていない場合のみです。スコープがアプリケーションによって使用されている場合は、スコープを解放する前に「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除」の手順に従ってください。

必要なロール：アカウントのプライマリ顧客管理者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### このタスクについて

アプリケーションリポジトリには、すべてのカスタムアプリケーションのスコープが格納されます。アプリケーションリポジトリに格納されているスコープを使用して新しいアプリケーションを作成することはできません。スコープを解放するということは、アプリケーションリポジトリからスコープを解除し、そのスコープを使用する新しいアプリケーションを作成できるようになることを意味します。

### 手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 資格情報を使用してログインします。

> **注:**
> Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. [スコープ] タブを開きます。
4. スコープリストの横にあるごみ箱アイコン ( ) をクリックします。

## アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開

カスタムアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開して、組織内の他のインスタンスにインストールできるようにします。

### 始める前に

開発者がアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開できるようにするには、[アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を開発者に委任します。詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

必要なロール:管理者または [アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を有効にした delegated_developer

### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. [開発中] タブをクリックします。
3. アプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションレコードを開きます。
4. [ 自分のアプリケーションリポジトリに公開] 関連リンクを選択します。
5. [送信] を選択します。

### 次のタスク

会社のインスタンスにアプリケーションをインストールして、会社がその使用を開始できるようにします。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール」を参照してください。

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。

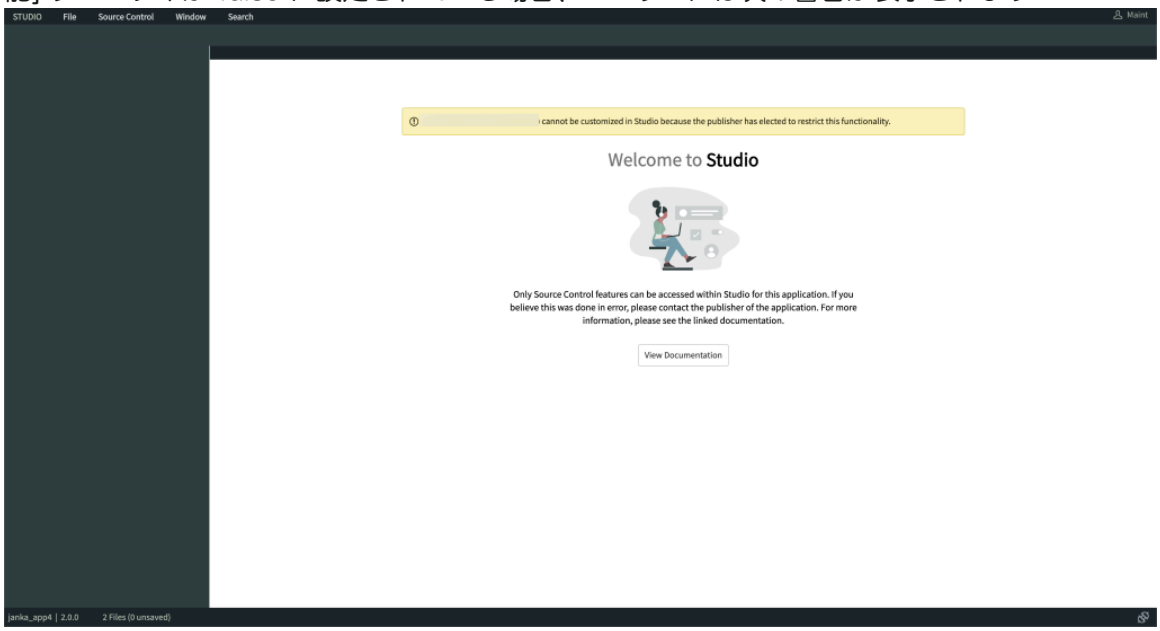
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

**[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティは、新しいアプリケーションの場合はデフォルトで true に設定されていますが、公開前に false に設定できます。

Studio で、アプリケーションのカスタマイズの **[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティが false に設定されている場合、ユーザーには次の警告が表示されます：




詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」と「ServiceNow Studio へのアクセス」を参照してください。

## アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール

インスタンスにアプリケーションをインストールし、開発したアプリケーションの使用を従業員が開始できるようにします。

### 始める前に

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開。
- アプリケーションのエンタイトルメントタイプを確認して、インスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが付与されていることを確認します。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」を参照してください。

必要なロール：管理者

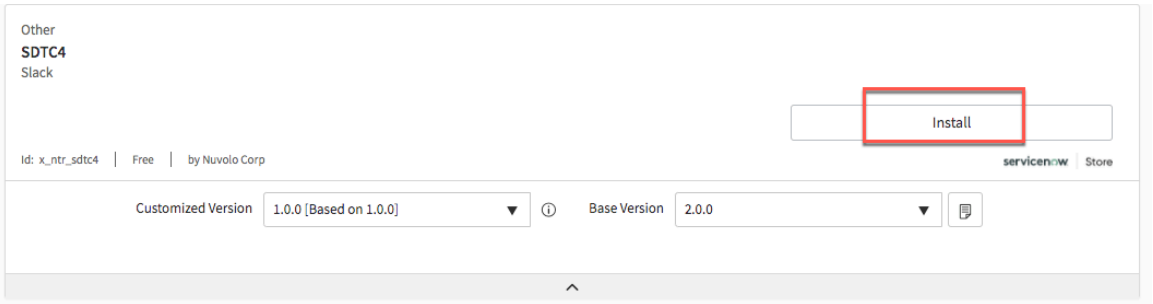
### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. アプリケーションを見つけます。
3. アプリケーションリストの横で、インストールするバージョンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [インストール]をクリックします。




## アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除

アプリケーションリポジトリからアプリケーションを削除して、会社のインスタンスで使用できないようにします。

### 始める前に

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開
- アプリケーションを削除できるのは、アプリケーションが会社のどのインスタンスにもインストールされていない場合のみです。アプリケーションをアプリケーションリポジトリから削除する前に、そのアプリケーションをすべてのインスタンス上でアンインストールしてください。

必要なロール：アカウントのプライマリ顧客管理者

### 手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 資格情報を使用してログインします。

> **注:**
> Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[削除フラグを設定 **(Flag for Deletion)]** をクリックします。
4. [確認] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
   アプリケーションに削除用のフラグを付けると、そのアプリケーションは 90 日後に自動的に削除されます。
5. アプリケーションをすぐに削除するには、次のようにします。
   a. [フラグ付きアプリ (Flagged Apps)] タブを開きます。
   b. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[今すぐ削除 **(Delete Immediately)]** をクリックします。

## アプリケーションのカスタマイズの管理

他の組織に属するアプリケーションまたはスコープ対象 ServiceNow プラグイン向けの、会社用のカスタマイズを管理できます。

### 始める前に

必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

会社のアプリケーションのカスタマイズのエンタイトルメントは、個々のストアまたはベンダーリリースのアプリケーションのエンタイトルメントによってのみ制御されます。アプリケーションのカスタマイズには個別のエンタイトルメントがないため、ベースストアアプリケーションに対するエンタイトルメントがないインスタンスはカスタマイズできません。

アプリケーションのカスタマイズの作成に使用する開発インスタンスには、個々のストア、またはエンタイトルメントが付与されてインストールされているプラグインアプリケーションが必要です。

**注:**
独自のアプリケーションをカスタマイズする ISV パートナーは、アプリケーションリポジトリを介してアプリケーションのカスタマイズを使用する前に、まずアプリケーションを ServiceNow Store に公開し、インスタンスにインストールする必要があります。これは、すべてのレコードが同じスコープ内にある場合でも同様です。インスタンスにインストールすると、ISV パートナーは、 ServiceNow Store アプリケーションに対して、独自の用途で社内使用する拡張機能とは異なる機能セットを公開できます。

## このタスクについて

他の組織に属する実際のアプリケーション (ストアから購入) または ServiceNow ベースシステムで提供されるグローバルプラグインは変更できません。ただし、ストアアプリケーション、または ServiceNow アプリケーションリポジトリを使用し、プラグインを介してインストールされたスコープ対象のアプリケーションに対しては、会社のカスタマイズを作成および管理できます。

アプリケーションのカスタマイズを作成する方法は 2 とおりあります。

- ServiceNow スタジオ からの作成
- ナビゲーションペインからの作成

**重要:**
アプリのカスタマイズ パッケージは、権限があり、その上に構築しているアプリケーションの必要な変更またはカスタマイズを完全に表すことを目的としています。このため、ローカルのカスタマイズ (通常はsys_update_xmlに関連付けられている) は適用されません。特定のフィールド (MID Server など) を永続化する必要がある場合は、Loader exempt 属性の使用を検討してください。「」を参照してください 辞書属性。特定のプロパティを設定する必要がある場合は、「プライベート」にすることを検討してください。「」を参照してください Available system properties。

## 手順

1. ServiceNow スタジオ からアプリケーションのカスタマイズを作成するには、次のステップに従います。

   a. ストアアプリケーションまたは ServiceNow スタジオ からプラグインを介してインストールされたアプリケーションを開きます
   詳細については、ServiceNow Studio へのアクセス を参照してください。
   アプリケーションが スタジオで開きます。

   b. スタジオ からアプリケーションを変更します。

2. ナビゲーションペインからアプリケーションのカスタマイズを作成するには、次のステップに従います。

   a. システムアプリケーションに移動します >すべて.

   b. カスタマイズするインストール済みアプリケーションを検索します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
アプリケーションは、Studio で開くか、ストアアプリケーションレコードから現在の作業アプリケーションとして選択できます。

**c.** スタジオ でこのアプリケーションを開くには、スタックメニューを選択し、**[Studio** で編集] を選択します。

アプリケーションが スタジオで開きます。アプリケーションは スタジオ で変更できます。

**d.** ストアアプリケーションレコードを編集するには、アプリケーションの名前を選択します。

**e.** ストアアプリケーションレコードの [関連リンク] セクションで、[このアプリケーションに切り替え] を選択します。
アプリケーションピッカーで、アプリケーションが現在の作業中アプリケーションになります。ストアアプリケーションレコードからアプリケーションを変更できます。

関連情報

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理

## アプリケーションリポジトリへのカスタマイズの公開

ストアアプリケーションまたはスコープ対象プラグインのカスタマイズを設計、開発し、テストが成功したら、それを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。

### 始める前に

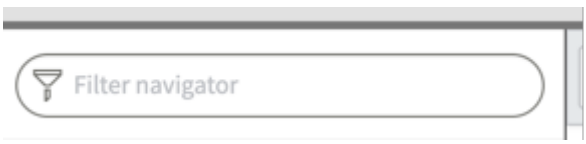
必要なロール：管理者、または [アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を有効にした delegated_developer

開発者がアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開できるようにするには、[アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を開発者に委任します。詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

### 手順

**1.** 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.

**2.** フィルターナビゲーションボックスに名前を入力して、アプリケーションを検索します。




**3.** カスタマイズをアプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションレコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [カスタマイズを自分のアプリリポジトリに公開 **(Publish Customizations to My App Repo)**] 関連リンクをクリックするかServiceNow スタジオ、 メニューアイテムを公開します。
5. **[Submit** (送信)] をクリックします。

### アプリケーションリポジトリでカスタムアプリケーションを変換してアップグレードする

アプリケーションがカスタムアプリケーションテーブル [sys_app] に配置されている場合、アプリケーションリポジトリを介して直接アップグレードすることはできません。この手順は、アプリケーションリポジトリを使用してアプリケーションの展開を移行する場合に、1 回限りの変換を行うのに役立ちます。

#### 始める前に

必要なロール：admin

更新セットで開始すると、すべてのインスタンスのすべてのアプリケーションがカスタムアプリケーションテーブル [sys_app] に配置されます。ただし、CI/CD パイプラインで Application Repository を使用するのに、推奨されるServiceNow 継続的統合/継続的デリバリ API/スポーク ガイダンスを使用しようとしても、アプリケーションがすでに [カスタムアプリケーション] テーブルに存在するため、アップグレードは許可されません。それらは ServiceNow ストアテーブル [sys_store_app] に移動して、アプリケーションリポジトリからインストールできるようになりますが、これが理由でそのインスタンス上では開発できなくなります。

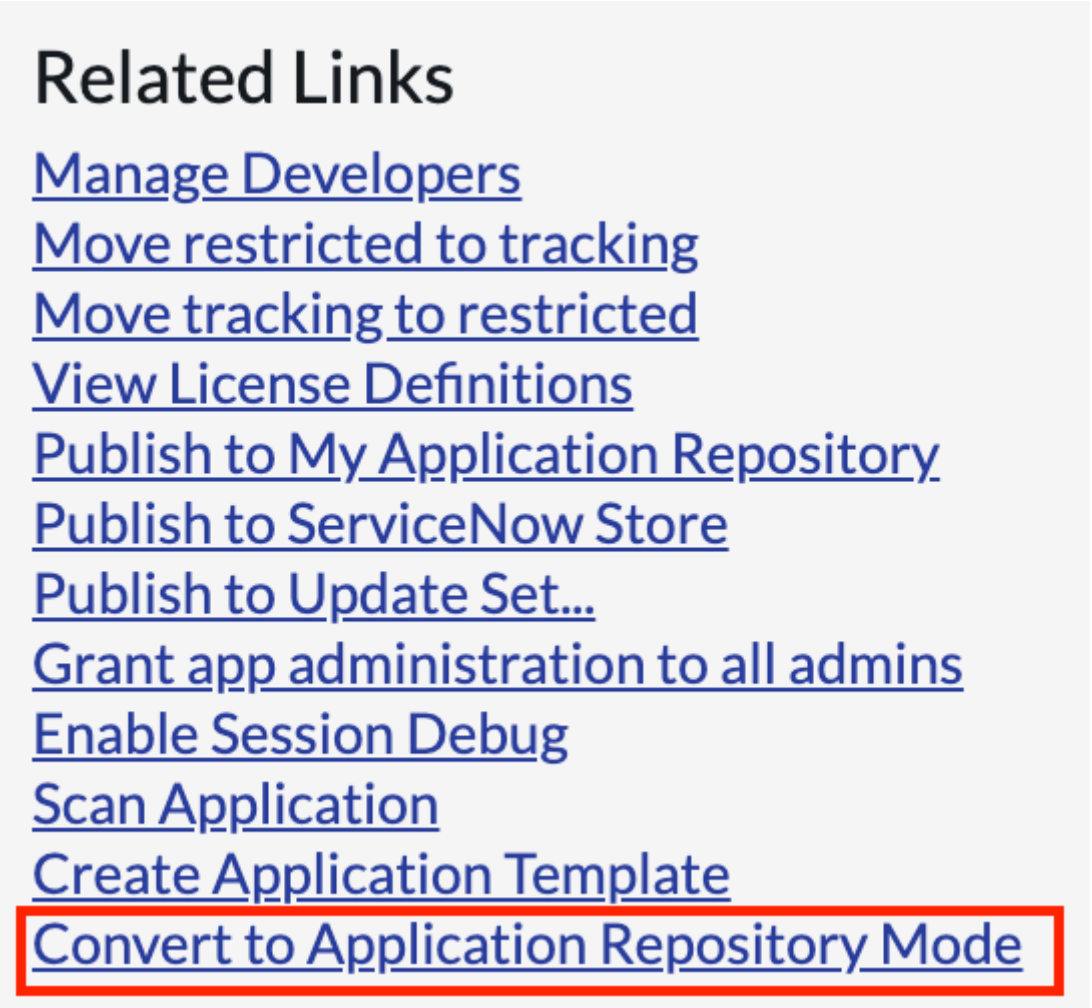
アプリケーションを変換すると、変換が実行されるインスタンス上では開発はできなくなります。スコープ対象のカスタムアプリケーションの場合、顧客アップデートテーブル内にある、このアプリケーションのすべての関連レコードが削除されます。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. [開発中] タブをクリックします。
3. 変換するアプリケーションレコードの名前をクリックします。
4. [アプリケーションリポジトリモードに変換] 関連リンクを選択します。

自動翻訳

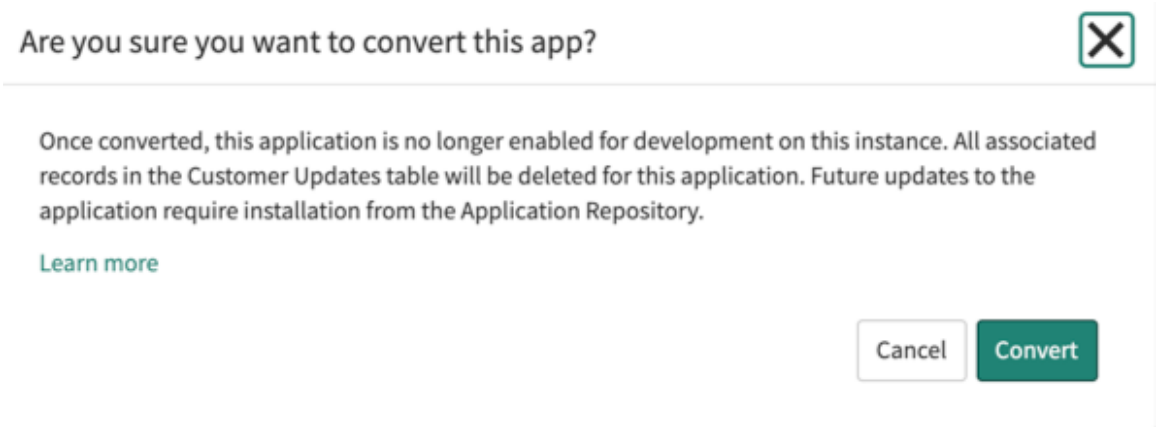
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




自動翻訳

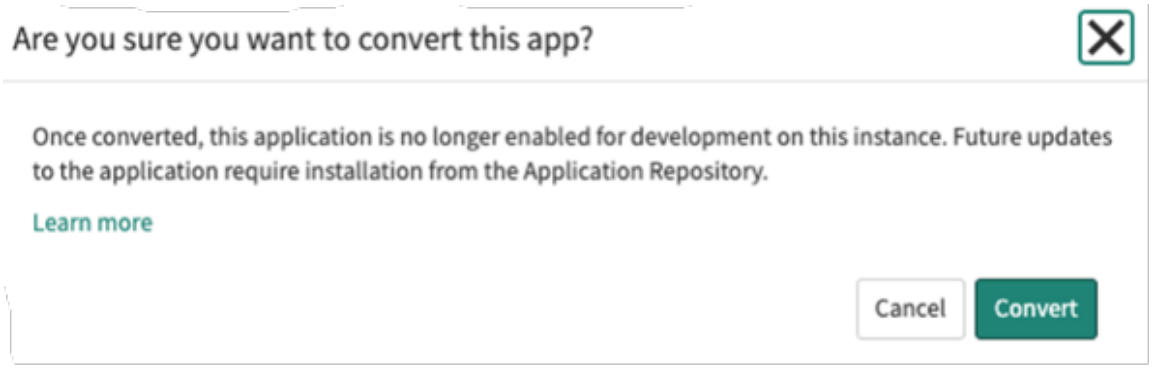
**5.** [変換] を選択します。

- スコープ対象カスタムアプリケーションで、次のメッセージが表示されます。

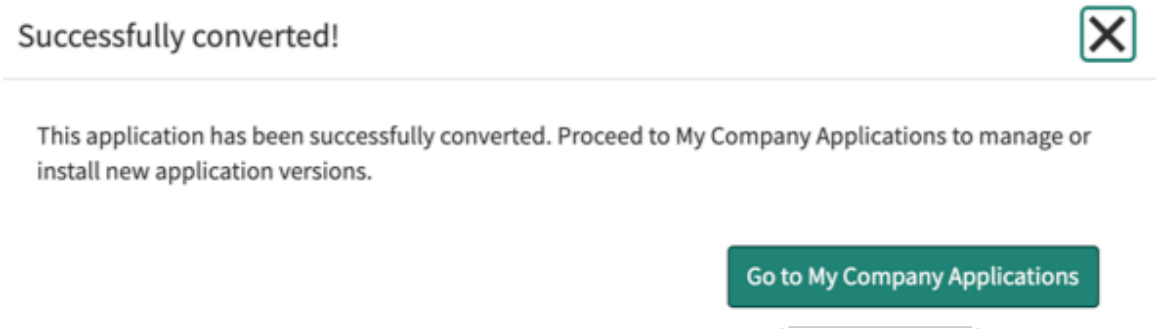



- グローバルカスタムアプリケーションで、次のメッセージが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




- 変換に成功すると、次のメッセージが表示されます。




自動翻訳

次のタスク
[システムアプリケーション] -> [会社のアプリケーション] に移動し、アプリケーションリポジトリからソフトウェアを使用してアプリケーションを更新します。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール」を参照してください。

### インストールされたアプリケーションの開発モードへの変換

アプリケーションを開発用に非本番インスタンスにインストールした後、または本番インスタンスを開発用に非本番インスタンスにクローンした後、会社で所有しているインストール済みのアプリケーションを開発モードに変換します。この変換により、新しいバージョンのアプリケーションを作成、コミット、公開できるようになります。

始める前に
インスタンススコープを目的のアプリケーションスコープに設定する必要があります。たとえば、Agent Workspace を変換する場合、アプリケーションスコープは Agent Workspace に設定されます。

必要なロール：admin

このタスクについて
システムプロパティ機能 [sn_appclient.store_app_convert_enabled] は、このアクションを制御します。この機能はデフォルトで有効になっています。sn_appclient.store_app_convert_enabled を false に設定することで、この機能を無効にできます。

変換できるのは、会社が所有しているアプリケーションのみです。アプリケーションスコープは、sn_appauthor.all_company_keys で設定されているキーと一致する必要があります。

**注:**
インストールされているグローバルアプリケーションは変換の対象となります。

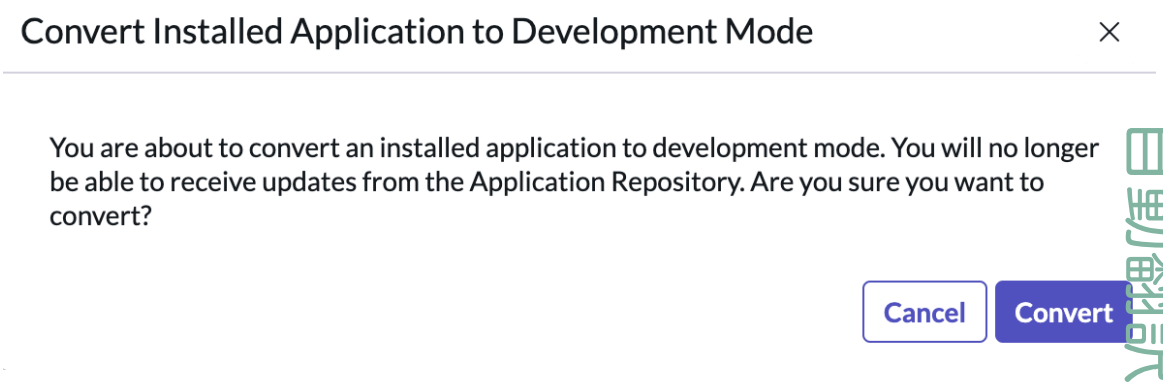
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションを変換すると、このインスタンスでアプリケーションリポジトリから更新を受け取ることができなくなります。インスタンスにインストールされているアプリケーションのバージョンが、新しいバージョンとして開発するバージョンであることを確認します。

> **注:**
> デモデータとともにインストールされたアプリケーションは、インストール時にそのデータを参照できなくなります。アプリケーションが変換された場合は、アプリケーションをソースコントロールにリンクするか新しいバージョンを公開する前に、デモデータに対する sys_metadata_link レコードを再作成する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. [インストール済み] タブで、変換するアプリケーションレコードの名前をクリックします。
3. [開発モードに変換] 関連リンクを選択します。
4. [変換] を選択します。
   - インストールされているアプリケーションのバージョンが、アプリケーションリポジトリに公開されている最新バージョンである場合、次のダイアログが表示されます。



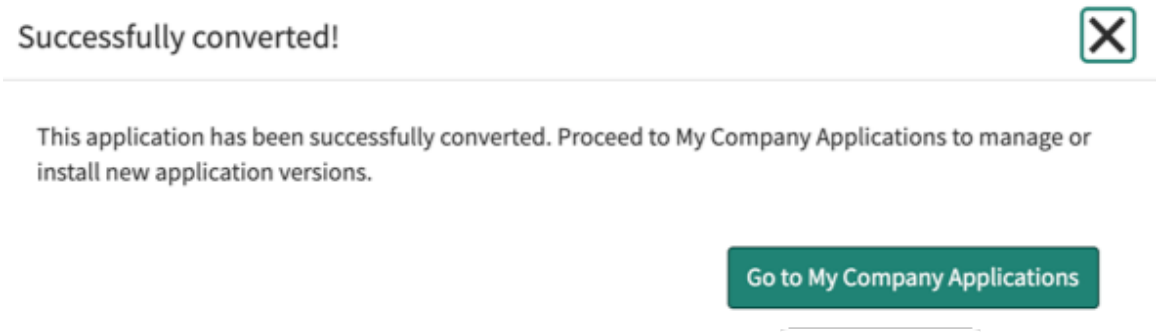

   - インストールされているアプリケーションのバージョンが、アプリケーションリポジトリに公開されている最新バージョンより前のバージョンである場合、次の警告が表示されます。

     ▪ The latest version of this application is not installed. Please ensure your application is updated to the intended version to use for development prior to conversion

     ▪ インスタンスが自己ホストアプリケーションリポジトリに接続されている場合、リポジトリ内のより新しいバージョンの使用可否に関係なく、この警告が表示されることがあります。この場合、リポジトリをチェックして、必要な開発バージョンがインストールされていることを確認してください。

   - 変換に成功すると、次のメッセージが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




- ウィンドウを閉じると、開発アプリケーションフォームにリダイレクトされます。

## アプリケーションリポジトリへのカスタマイズのインストール

インスタンスのストアアプリケーションにカスタマイズをインストールします。

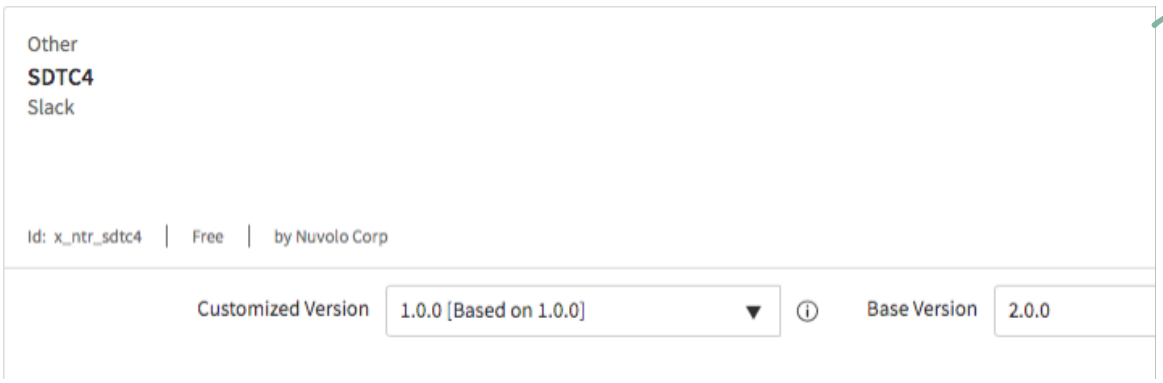
### 始める前に

必要なロール：admin

アプリケーションリポジトリにストアアプリケーションのカスタマイズを公開します。アプリケーションのエンタイトルメントタイプを確認して、インスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが付与されていることを確認します。

### 手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. アプリケーションを見つけます。
3. インストールするカスタマイズバージョンを選択します。




自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

**注:**
プラグインを介してインストールされたスコープ対象アプリケーションの場合、ベースシステムバージョンは、現在使用している ServiceNow リリースバージョン (Paris、Quebec、Rome など) です。

4. [インストール]をクリックします。

## 自己ホスト型でエアギャップの顧客向けのアプリケーションリポジトリ

このアプリケーション機能により、自己ホスト型の顧客は、クラウドの顧客と同じように独自の内部アプリケーションリポジトリを使用できます。これらの顧客は、 ServiceNow® Store別の方法を使用してアプリケーションリポジトリをインストールしません。

### 概要

インスタンスがクラウドで ServiceNow® ホストされている顧客は、デフォルトで public ServiceNow® Store経由でアプリケーションリポジトリにアクセスできます。ただし、自己ホスト型でエアギャップの顧客はそのようなアクセス権を持っていないため、高度なアプリケーション開発機能を利用できません。

**警告:**
ほとんどのお客様は、 ServiceNow® Storeからネットワーク経由でアプリケーションをインストールします。このトピックでは、ネットワーク ソースを使用していない顧客について説明します。

「エアギャップ」という用語は、コンピューターまたはネットワークに、有線/無線のどちらでも、外部ネットワークに接続されたネットワークインターフェイスがない状態を指します。あるソースから別のソースにデータを移動する場合は、別の方法を使用する必要があります。ネットワーク上にないソース間でデータを移動するには、このトピックで説明されているような代替手段を使用する必要があります。

ServiceNow® アプリケーションリポジトリは、顧客のインスタンスにインストールできるスコープ対象のアプリケーションです。外部ネットワークと通信せずに、独自のプライベートネットワーク内で最新のアプリケーション開発機能を使用できます。

### 推奨インストール

アプリケーションリポジトリは、その目的でのみ使用される専用インスタンスにインストールすることをお勧めします。この方法でインストールすると、他のトランザクションからの他のインスタンスの負荷が軽減され、他のストアアプリケーションのインストールエクスペリエンスが向上します。アプリケーションが正常にインストールされると、他のネットワーク接続されたクライアントインスタンスは、このインスタンスとの間でアプリケーションアーティファクトを公開およびインストールできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## アプリケーションの取得

アプリケーションをインストールする前に、ServiceNow の自己ホスト型で「エアギャップ」の顧客は、それぞれのアカウント担当者に連絡を取る必要があります。サポート担当者およびチームと協力して、インストールプロセスを設定します。詳細については、ナレッジベースの記事「Downloading applications from the ServiceNow Store for self-hosted instances without internet access (インターネットアクセスのない自己ホスト型インスタンスのための ServiceNow Store からのアプリケーションのダウンロード)」を参照してください。

## セットアッププロセスの仕組み

インスタンスは、サーバー側でインスタンス資格情報を格納する「ペアリング」プロセスを介してリポジトリで認証されます。このプロセスはインスタンスごとに 1 回だけ実行する必要があります。インスタンスをリポジトリと「ペアリング」すると、インスタンスはさまざまなアプリケーション開発機能を介してリポジトリとのやり取りを開始できます。

### エアギャップインスタンスへのアプリケーションリポジトリストアアプリのインストール

自己ホスト型でエアギャップの顧客は、インスタンスが外部ネットワークと通信することを許可していないため、ServiceNow® Store から直接アプリケーションリポジトリをインストールすることはありません。これらの顧客は、代わりに次の手順を実行する必要があります。

#### 始める前に

**注:**
アプリケーションリポジトリのカスタマイズは、サポートされていないか、推奨されていません。

必要なロール： インストールと構成には maint ロールが必要です。構成が完了すると、必要とされるのは admin ロールのみとなります。

**警告:**
インスタンスがすでにパブリック ServiceNow® Store に接続されている場合は、アプリケーションリポジトリをインストールしないでください。これを行うと、それらのインスタンスはアクセスできなくなります。この製品は、パブリックストアに接続できない顧客を対象としています。

**注:**
他のインスタンスとは別の専用 ServiceNow® インスタンスにインストールします。

#### 手順

1. ナレッジベース記事「 インターネットにアクセスできない自己ホスト型インスタンス用のアプリケーションを ServiceNow Store からダウンロードする」の指示に従って、アプリケーションリポジトリをインストールします。
2. インストール後、「」の手順 エアギャップインスタンス上でのアプリケーションリポジトリの構成を実行します。

### エアギャップインスタンス上でのアプリケーションリポジトリの構成

アプリケーションリポジトリをインストールしたら、次の手順を使用して構成する必要があります。

#### 始める前に

必要なロール: インストールと構成には maint ロールが必要であり、構成の完了後には admin ロールのみが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. インスタンスをアプリケーションリポジトリとペアリングします。

   a. アプリケーションリポジトリに接続するインスタンスにログインします。

   b. システムプロパティ *sn_appclient.repository_base_url* をアプリケーションリポジトリインスタンスの URL に設定します。
   たとえば、 http://localhost:8080/。

   c. *sn_appclient.upload_base_url* および *sn_appauthor.upload_base_url* プロパティの値をクリアします。

   d. グローバルスコープのプロパティの値を *sn_apprepo.credential* 、「secret」などの null 以外の値に設定します。

      i. インスタンスに SSH で接続します。

      ii. cd /root/instance/instance_<portno>/conf/overrides.d を使用して、ディレクトリーを /root/instance/instance_<portno>/conf/overrides.d に変更します。

      iii. glide.properties ファイルを開くか作成します。

      iv. 資格情報プロパティを最後に追加し、ファイル [sn_apprepo.credential=<value>] を保存します。

      v. (Shutdown.sh/Startup.sh) Glide を再起動するか、バックグラウンドスクリプトで Packages.com.glide.util.GlideProperties.loadPropertyFile(new Packages.java.io.File(gs.getProperty("glide.home.dist")+"/conf/overrides.d/glide.properties")); を実行して、インスタンスを再起動することなく、実行時にプロパティファイルを動的にロードします。

      vi. バックグラウンドスクリプト gs.info(gs.getProperty("sn_apprepo.credential")); でプロパティを出力して検証します。

   e. 値として **sn_repo.AppRepo** を含む *sn_appclient.repo_auth_name* を追加します。

   f. アプリケーションリポジトリインスタンスとクライアントインスタンスの両方で *glide.test_instance* プロパティを **false** に設定します。

   g. プロパティを *sn_appclient.client_calls_allowed***True** に設定します。

      注:
      スケジュール設定済みジョブでは、接続されていない場合にこのプロパティが **False** に設定されることがあります。

   h. クライアントインスタンスで *sn_appclient.app.install.offline* プロパティを **false** に設定します。

   i. [送信] を選択します。

2. アプリケーションリポジトリがインストールされているインスタンスにログインして、次の手順を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **core_company.list** テーブルに移動し、[プライマリ] フィールドが **True** に設定されているレコードがあることを確認するか、任意のユーザー定義名でレコードを作成します。

> **注:**
> このレコードの詳細は重要ではありません。

b. **sn_repo_instance.do** 画面にアクセスし、接続するクライアントインスタンスの新しいインスタンスレコードを作成します。

i. [ 状態 ] が [ペアリング] に設定されていることを確認します。

ii. 接続するインスタンスの名前を (そのインスタンスの **stats.do** 画面で) [ 名前 ] フィールドに入力します。

iii. その他のフィールドはすべて空のままにします。これらは自動的に入力されます。

c. 接続する追加のインスタンスについて、前のステップを繰り返します。

3. ステップ 1 で使用したインスタンス (アプリケーションリポジトリとペアリングするインスタンス) に再度ログインし 、[ スクリプト - バックグラウンド] モジュールに移動します。

a. ドロップダウン リストから **sn_appauthor** スコープ を選択します。

b. スクリプト「new ConfigChecker().checkForChanges()」を実行します。

4. オプション: インスタンスを削除するには、インスタンスレコード (sn_repo_instanceテーブル) に移動し、[ステータス] を [ブロック済み] に変更してインスタンスへのアクセスを一時的に制限するか、インスタンスを削除します。
インスタンスが再度必要な場合は、[ステータス] を [ペアリング済み] に再び変更できます。

> **警告:**
> ペアリングされたインスタンスのインスタンス名、インスタンス ID、または資格情報が変更された場合は、再度ペアリングする必要があります。インスタンスレコードのこれらの値を手動で更新することはお勧めしません。

次のタスク
インスタンスをペアリングすると、アプリケーションリポジトリを使用するように完全に設定されます。「」の説明 アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開に従ってスコープ対象のアプリケーションを公開することで、構成をテストできます。公開後、次の場所でアプリが正常に公開されたことを確認できます。 すべて > アプリケーションリポジトリ > アーティファクト > 内部アプリ.

### ServiceNow Store にアプリケーションを公開する

アプリケーションをServiceNow Store誰もが利用できるように発行します。

始める前に
アプリケーションをServiceNow Storeに発行するには：

- プライベート アプリケーションスコープ内でアプリケーションを作成する。
- テクノロジーパートナープログラムに参加する。
- アプリケーションの認定を受ける。

> **注:**
> グローバルスコープ内のアプリケーションは、ServiceNow Store へ公開できません。

必要なロール：管理者、またはPublish To App Store許可を有効にしたdelegated_developer

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



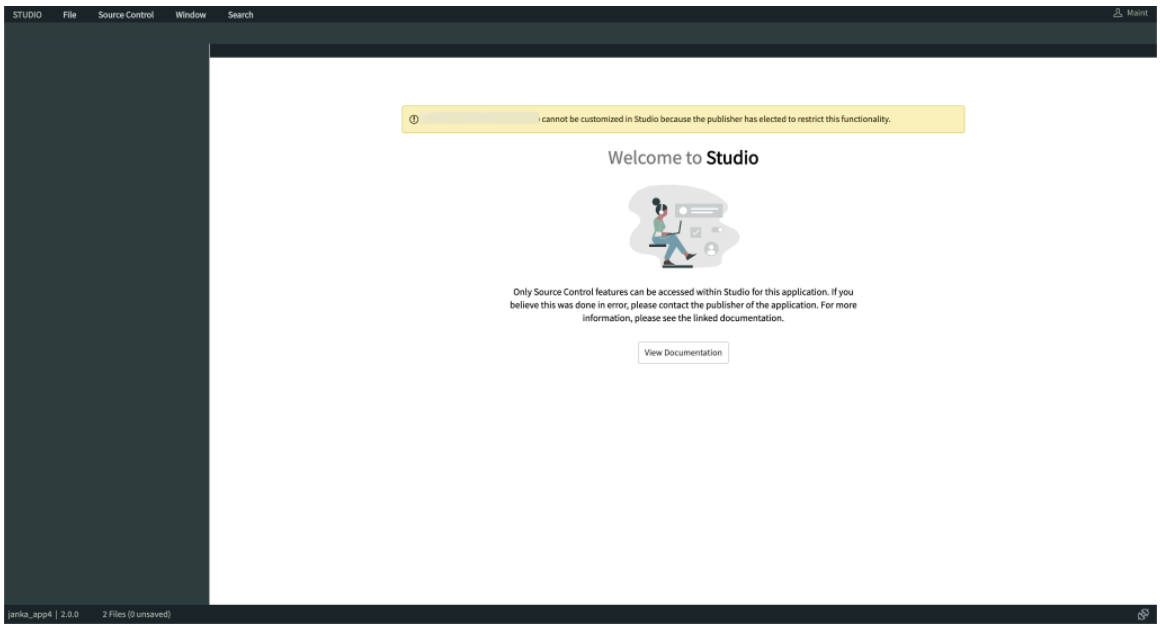
自動翻訳

このタスクについて
前提条件を満たした後、アプリケーションを ServiceNow Store に公開できます

注:

**[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティは、新しいアプリケーションの場合はデフォルトで true に設定されていますが、公開前に false に設定できます。

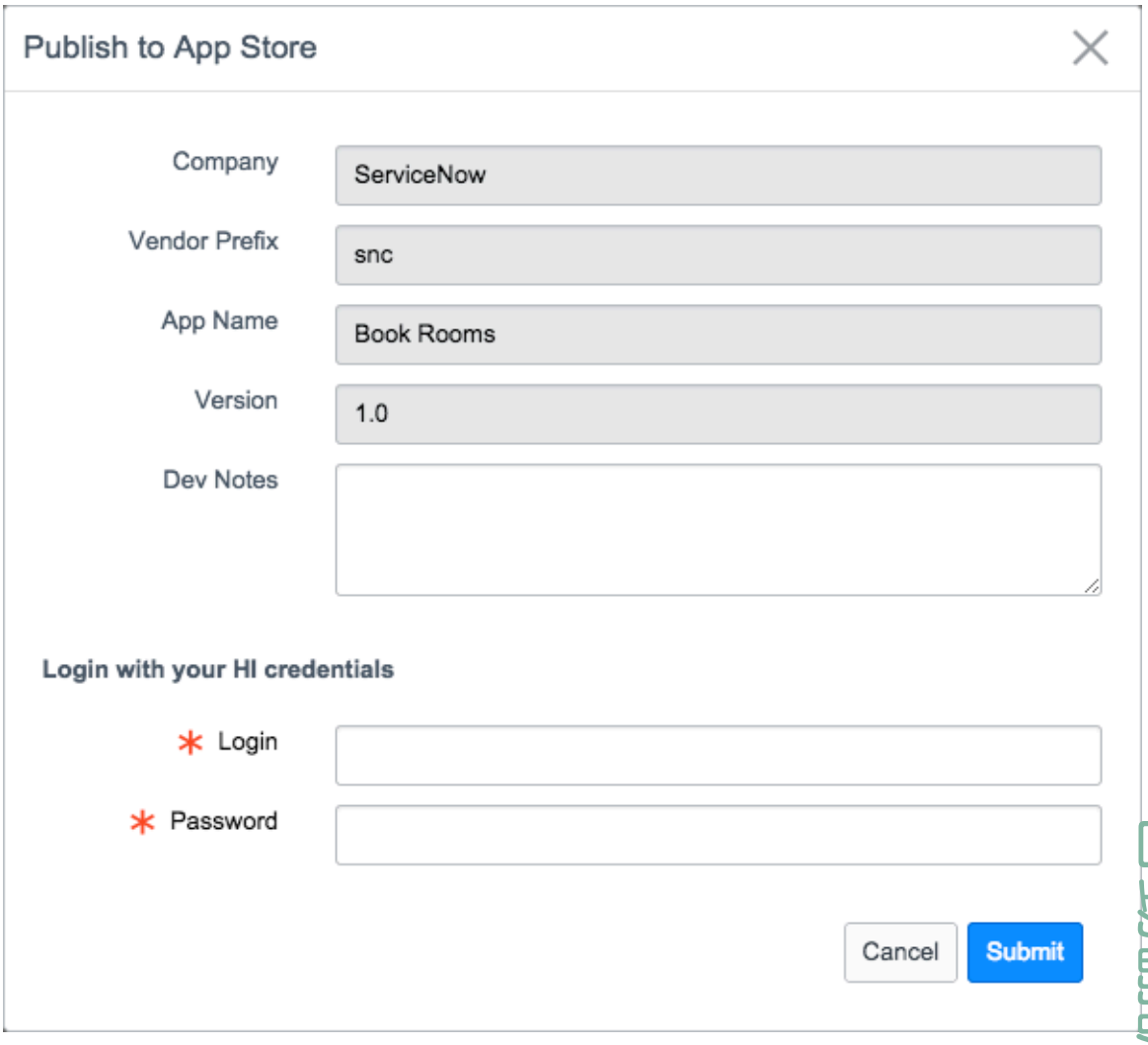
Studio のアプリケーションのカスタマイズで **[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティが false に設定されている場合、次の警告が表示されます。




手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > アプリケーション.
2. [開発中 **(In Development)]** タブをクリックします。
3. ServiceNow Storeに発行したいアプリケーションレコードを開きます。
4. ストアに発行に関連するリンクをクリックします。
5. オプション:  適切にそのフィールドに値を入力します (テーブルを参照ください)。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。




自動翻訳

6. あなたの HI 認証情報を入力します。
7. [送信] をクリックします。
   システムは最新バージョンのアプリケーションを ServiceNow Store にアップロードして、他のユーザーがダウンロードできるようにします。

関連情報

開発と展開の権限を担当者に委任する

## サンプルデータを含めるアプリケーションファイルを作成する

カスタムアプリケーションを共有するときにアプリケーションデータテーブルのサンプルレコードをインクルードします。

### このタスクについて

システムは、選択したレコードを、共有するときにアプリケーション更新セットの一部として含まれたアプリケーションファイルとしてエクスポートできます。更新セットにアプリケーションファイルを含めることは、インスタンス間で多数のレコードをエクスポートおよびインポートするためのものではありません。インスタンス間でデータを移動しようとしている場合は、「Import from another instance (別のインスタンスからインポート)」を参照してください。

アプリケーションデータには、レコードの共有時に存在していたレコードのバージョンのみをインクルードします。レコードが変更されると、システムはこのアプリケーションデータのスナップショットを更新しません。アプリケーション設計者は、テーブル単位でデータをインクルードできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

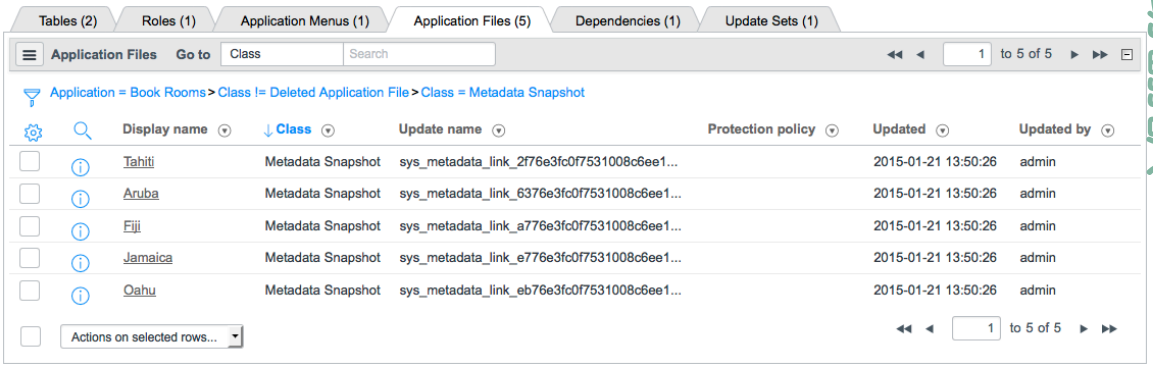
手順

1. アプリケーションデータテーブルのリストに移動します。
2. そのリストをフィルタリングして、インクルードしたいレコードを表示します。
3. リストのバージョンに合わせて適切なアクションを実行します。

4. いつロードに対して、アプリケーションレコードがアプリケーションデータをインクルードするときを選択します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しいインストールとアップグレード | アプリケーションがインストールまたはアップグレードされるたびにアプリケーションデータをインクルードします。 |
| 新規インストール | アプリケーションがインストールされている場合にのみアプリケーションデータをインクルードします。 |
| デモデータと共に新規インストール | アプリケーションデータがデモデータと共にインストールされている場合にのみ、アプリケーションデータをインクルードします。 |

5. **[OK]** をクリックします。
システムは、レコードをアプリケーションファイル関連リストに追加します。




6. 含めるアプリケーションデータテーブルごとに手順 1 ～ 5 を繰り返します。

## 更新セットにアプリケーションを公開する

アプリケーションを発行すると、すべてのアプリケーション構成レコードの現行バージョンを含む更新セットが作成されます。

### 始める前に

必要なロール：admin、または更新セットへの発行に有効な許可を持つdelegated_developer

### このタスクについて

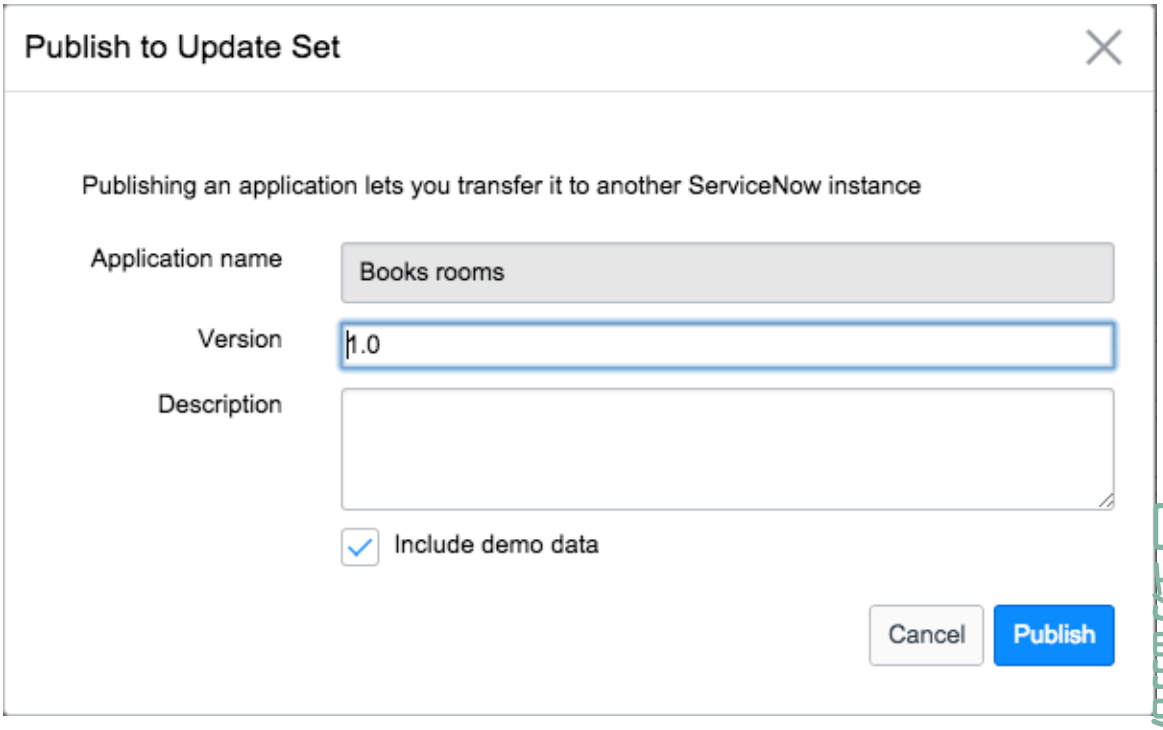
この更新セットは、監査目的またはアプリケーションを別のインスタンスに転送するためのバックアップファイルとして使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 自分の会社のアプリケーション.
2. [開発中 **(In Development)]** タブをクリックします。
3. 更新セットを作成するアプリケーションレコードを開きます。
4. 更新セットに発行する関連リンクをクリックします。
5. オプション: 必要に応じて、フィールドに値を入力します (表を参照)。




自動翻訳

更新セットに発行

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| アプリケーション名 | [読み取り専用]発行するアプリケーションの名前を表示します。 |
| バージョン | (Optional) 更新セット名に1.2.3のようにドット表記でバージョン情報を添付します。プラットフォームはここに入力した情報をアプリケーションバージョンフィールドに保存します。<br><br>更新セットの名前は<アプリケーション名> - <バージョン>です。このフィールドを空白のままにすると、最初の更新セットの名前は<アプリケーション名>になり、後続の更新セットの名前は<アプリケーション名> - <順次番号>になります。 |
| 説明 | 更新セットの説明を入力します。デフォルトでは、このフィールドはアプリケーションの簡単な説明を含みます。 |

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| データを含む | (Optional) このチェックボックスをオンにすると、アプリケーションの各テーブルのデータレコード数を制限します。この機能を使用して、サンプルデータをアプリケーションにパッケージします。<br><br>**⚠ 警告:**<br><br>(Optional) この機能を使用してインスタンス間で大量のデータレコードを移行すると、この目的には考慮していないため、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。データを移行するには、インスタンスからインスタンスへのインポートを使用する。管理者は、アプリケーションでインクルードするデータレコードの最大数を調整できます。<br><br>「Import Sets」を参照してください。<br><br>**ⓘ 注:**<br><br>○ サンプルデータにレコード番号の付いたテーブルが含まれている場合は、現在のカウンタの値も転送します。更新セットを別のインスタンスに適用すると、カウンタはサンプルデータまたはターゲットインスタンスカウンタのうち大きい方に設定されます。<br><br>○ 翻訳されたフィールドの場合、英語のレコードのみが転送される。 |

6. [公開] をクリックします。
   新しい更新セットが作成され、アプリケーション内の各アプリケーションファイルの最新の更新がアプリケーションにコピーされます。更新セットは完了とマークされます。
7. テスト手順に応じて更新セットを別のインスタンスに転送します。
   - ソースインスタンスから更新セットを取得します。
   - 更新セットをXMLファイルとして保存します。
8. アプリケーションに含まれる修正スクリプトを実行します。

関連情報

- 更新セットを取得
- 更新セットをローカルの XML ファイルとして保存する
- 修正スクリプトの実行
- 開発と展開の権限を担当者に委任する

## ISV アプリケーションのカスタムライセンス

サブスクリプション管理 を使用して ISV アプリケーションの使用状況を監視します。収集するメタデータを含むストアアプリケーションの定義を作成します。アプリケーションを定義と共にストアに公開すると、使用状況分析が実行され、定義した測定基準が集計されます。

### 概要

作成したアプリケーションは、ServiceNow Store に公開できます。カスタムライセンスを持つアプリケーションの使用状況を監視します。

次の基準を満たしている場合は、ServiceNow Store に公開する ISV アプリケーションでカスタムライセンスを使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションがライセンス可能である。
- アプリケーションが ServiceNow または Global でスコープ対象でない。
- アプリケーションにキャパシティサブスクリプションモデルがある。

カスタムライセンスは、使用状況分析 (com.glide.usageanalytics) およびスコープ対象のアプリ作成者 (com.sn_appauthorr) プラグインを介して機能します。これらのプラグインは、App Engine ではデフォルトでアクティブです。さらに、インスタンスはアプリケーションリポジトリまたはアプリケーションストアインスタンスに接続されている必要があります。

## カスタムライセンスの定義

カスタムライセンスは、定義を作成することで達成されます。定義は、アプリケーションについて収集する使用状況情報に基づいて定義する一連のライセンス測定基準です。ストアアプリケーションの定義の作成 を参照してください。

### ストアアプリケーションの定義の作成

ストアアプリの定義を作成して、収集するライセンス測定基準を定義します。

#### 始める前に
必要なロール：admin または developer

#### このタスクについて
開発中のアプリケーションまたは公開済みのアプリケーションの定義を作成します。ただし、公開されたアプリケーションに定義をアサインする場合は、新しい定義で再公開する必要があります。また、アプリケーションにアサインできる定義は 1 つだけです。

> **注:**
> キャパシティサブスクリプションの定義のみを作成できます。「サブスクリプションのタイプ」を参照してください。

#### 手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 会社のアプリケーション.
2. アプリケーションを選択します。
3. [サブスクリプション管理] セクションで、[サブスクリプションモデル] を [キャパシティ] に設定します。
4. [ライセンス定義] の横にある検索アイコンを選択します。
   [アプリケーションライセンス定義] ポップアップがロードされます。
5. [新規] を選択します。
6. [アプリケーションライセンス定義] レコードを入力します。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 定義の名前。 |
| 説明 | 定義の簡単なサマリー。 |
| 測定基準タイプ | 収集される測定基準のタイプ。 |
| 周期 | 測定基準の収集頻度。 |
| パフォーマンス検証済み | 定義のパフォーマンスをテスト済みの場合は、ボックスをオンにします。 |

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| テーブル | 使用状況の判別に使用されるテーブル。<br><br>**注:**<br>現在のアプリケーションに関連付けられているテーブルのみがリスト表示されます。 |
| クエリ | テーブルで使用する基準。 |
| 集計 | 集計のタイプ<br><br>○ すべてのレコードをカウントするには、[カウント] に設定します。<br>○ 一意のレコードのみをカウントするには、[個別のカウント] に設定します。 |
| 集計列 | 集計に使用されるテーブル列。<br><br>**注:**<br>集計するには列のインデックスを作成する必要があります。 |
| グループ | データをグループ化する基準となるテーブルの列。最大 3。<br><br>**警告:**<br>大文字と小文字を区別します。 |

7. [送信] を選択します。
   新しい定義が [アプリケーションライセンス定義] ポップアップに表示されます。
8. 定義を選択してアプリケーションに適用します。

### 次のタスク

アプリケーションの新しいバージョンを作成し、ServiceNow Store に公開します。アプリケーションのレビュー中に定義を変更すると、アプリケーションの後続のバージョンが却下される場合があります。アプリケーションが承認されて ServiceNow Store に公開されると、定義は読み取り専用になります。

既に ServiceNow Store にあるアプリケーションの定義を変更するには、新しい定義を作成し、新しいバージョンのアプリケーションを送信して、レビュープロセスを行う必要があります。

## ドメイン分離と **Creator Workflow** アプリ

ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

ドメイン分離は、Creator Workflow アプリではサポートされていません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### サポートレベル: サポートなし

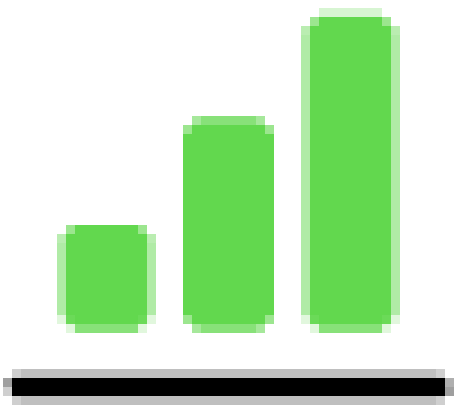
- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメイン分離のサポート)」を参照してください。

## アプリケーションのメンテナンス

アプリビルダーツールを使用して、アプリケーションを更新および変更します。テストツールを使用して、アプリケーションが引き続き正常に機能することを検証します。

### 分析とダッシュボード

| Performance Analytics レポート | 分析ハブ |
| --- | --- |
|  | |
| データの可視化と分析機能をワークスペースエクスペリエンスに統合します。 | このインジケーターの探索的ビューを使用して、より詳細な分析を行います。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示できます。 |

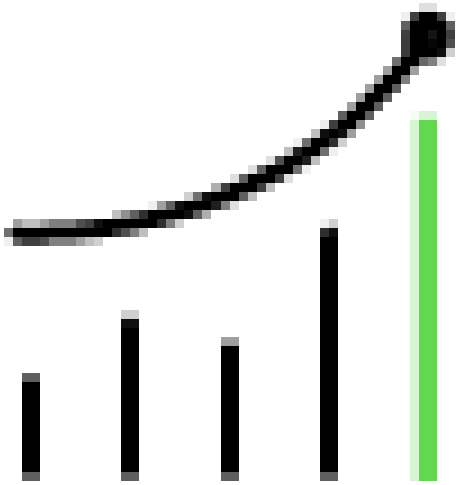
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### アナリティクスセンター

インスタンスのすべてのダッシュボード、ビジュアル化、分析回答、およびインサイトを 1 つのページで表示する Platform Analytics ワークスペースを使用します。

### Performance Analytics ダッシュボード



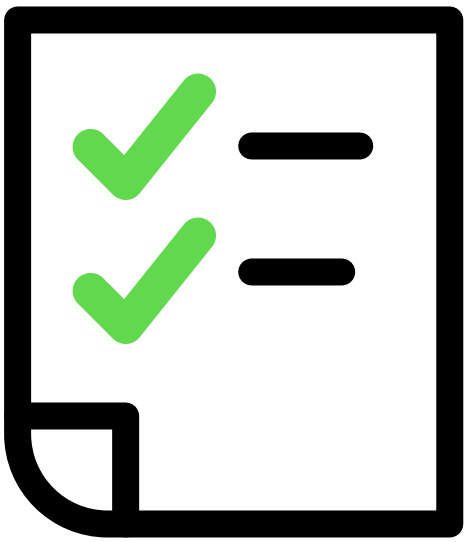
ロールベースのダッシュボードでリアルタイムのプロセスの健全性に関する統計情報の履歴を継続的に視覚化することで、個々のステークホルダーが情報に基づいた意思決定を行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

## **Security** (セキュリティ)

### ソフトウェア資産管理



ソフトウェアライセンス、コンプライアンス、最適化を体系的に追跡、評価、管理します。

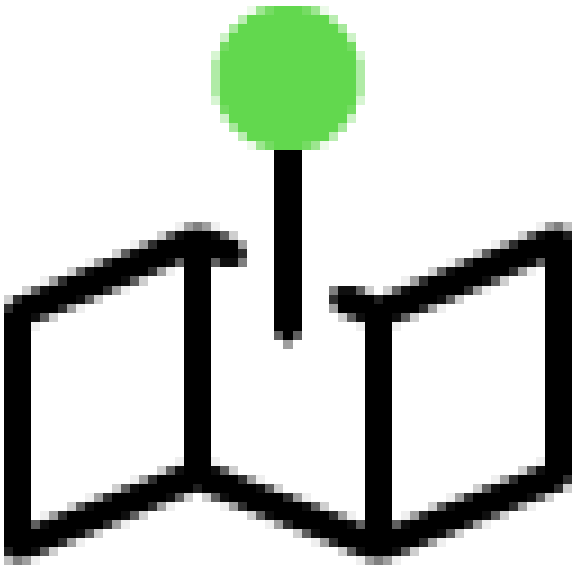
### Security Operations

インシデントデータをセキュリティツールから構造化された応答エンジンに取り込みます。このエンジンは、インテリジェントなワークフロー、自動化、IT との緊密な連携を使用して、脅威が組織に与える影響に基づいて、脅威の優先順位付けと解決を行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスマッピング



組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、これらのアプリケーションサービスで使用されるすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップを構築します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション健全性の監視

アプリケーションサービスダッシュボードを使用して、アプリケーションサービスの健全性ステータスを監視します。次に、不完全なアプリケーションサービスを設定し、不足している詳細を追加することで、不完全なアプリケーションサービスの数を減らすことができます。

## その他の情報について

App Engine Studio の分析センターページで新しいワークスペースを作成するか、分析センターページテンプレートからページを作成できます。いずれの方法でも、Platform Analytics ワークスペースの分析センターと同じ機能を使用できます。

### 分析ハブ

分析ハブで、データの集計、スコアの比較、経時変化の表示によってインジケータースコアを分析し、ブレークダウンでスコアをフィルタリングします。ターゲット、しきい値、トレンドライン、重要な変更に関する有用なコメントを追加して、分析ハブを拡張します。

### アプリケーション健全性の監視

アプリケーションサービスダッシュボードを使用して、アプリケーションサービスの健全性ステータスを表すカウントを監視します。次に、不完全なアプリケーションサービスを設定し、不足している詳細を追加することで、不完全なアプリケーションサービスの数を減らします。アプリケーションサービスを効果的に使用するために、アプリケーションサービスが完全に構成され、設定されていることを確認します。

### Performance Analytics ダッシュボード

従業員は、データベースやスプレッドシートからデータをエクスポートする代わりに、ボタンをクリックするだけで、関連するパーソナライズされたインサイトを得ることができます。すぐに古くなってしまうレポートを手動で作成する必要はありません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

### Performance Analytics レポート

KPI を確認し、分析に関する回答とインサイトを得ます。Platform Analytics ワークスペース内では、自然言語で質問し、関連する分析をその場でビジュアル化して表示したり、所有または共有している Next Experience ダッシュボードを表示したり、ワークスペースランタイムからダッシュボードやデータのビジュアル化を作成したりできます。

### Security Operations

ServiceNow® Security Incident Response アプリケーションは、検出と初期分析から、封じ込め、根絶、および最終的なインシデントの事後レビュー、ナレッジベース記事の作成、およびクローズに至るまで、セキュリティインシデントの進捗状況を追跡します。

### Service Mapping

Service Mapping では、 PaaS (Platform as a Service) を提供する企業、組織、クラウド企業の IT 部門が、インフラストラクチャのサービス認識型ビューを作成できるようにします。

### Software Asset Management

ServiceNow® Software Asset Management (SAM) アプリケーションは、ソフトウェアライセンス、コンプライアンス、および最適化を体系的に追跡、評価、および管理します。未使用のソフトウェア権限を再利用したり、新しいソフトウェア権限を購入したり、エンタイトルメントの割り当てを管理したりできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。